

RX140 グループ

ユーザーズマニュアル ハードウェア編

ルネサス 32ビットマイクロコンピュータ
RXファミリ/RX100シリーズ

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

- 当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。
7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限られません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレスト）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

SuperFlash® は、米国 Silicon Storage Technology, Inc. の米国、日本などの国における登録商標です。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレイやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れしないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違っていると、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ幅射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

このマニュアルの使い方

1. 目的と対象者

このマニュアルは、本マイコンのハードウェア機能と電気的特性をユーザに理解していただくためのマニュアルです。本マイコンを用いた応用システムを設計するユーザを対象にしています。このマニュアルを使用するには、電気回路、論理回路、マイクロコンピュータに関する基本的な知識が必要です。

このマニュアルは、大きく分類すると、製品の概要、CPU、システム制御機能、周辺機能、電気的特性、使用上の注意で構成されています。

本マイコンは、注意事項を十分確認の上、使用してください。注意事項は、各章の本文中、各章の最後、注意事項の章に記載しています。

改訂記録は旧版の記載内容に対して訂正または追加した主な箇所をまとめたものです。改訂内容すべてを記載したものではありません。詳細は、このマニュアルの本文でご確認ください。

RX140 グループでは次のドキュメントを用意しています。ドキュメントは最新版を使用してください。最新版はルネサス エレクトロニクス ホームページに掲載されています。

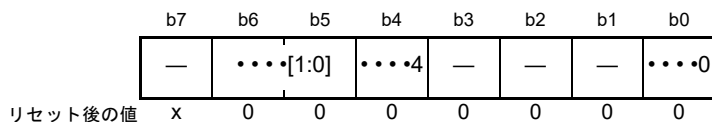
ドキュメントの種類	記載内容	資料名	資料番号
データシート	ハードウェアの概要と電気的特性	RX140グループ データシート	R01DS0379JJ
ユーザーズマニュアル ハードウェア編	ハードウェアの仕様(ピン配置、メモリマップ、周辺機能の仕様、電気的特性、タイミング)と動作説明 ※周辺機能の使用方法はアプリケーションノートを参照してください。	RX140グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編	本ユーザーズ マニュアル
ユーザーズマニュアル ソフトウェア編	CPU 命令セットの説明	RXファミリ RXv2命令セットアーキテクチャ ユーザーズマニュアル ソフトウェア編	R01US0071JJ
アプリケーション ノート	基板設計上の注意事項	RX ファミリ ハードウェアデザインガイド	R01AN1411JJ
	レジスタ初期設定例	RX140グループ 初期設定例	—
	周辺機能の使用手法、応用例 参考プログラム	ルネサス エレクトロニクス ホームページに掲載されています。	
RENESAS TECHNICAL UPDATE	製品の仕様、ドキュメント等に 関する速報		

2. レジスタの表記

各章において「レジスタの説明」には、ビットの並びを示すビット配置図とビットに設定する内容を説明するビット機能表があります。使用する記号、用語を以下に説明します。

X.X.X …… レジスタ

アドレス xxxx xxxxh



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W (1)
b0	……0	……ビット	0 : …… 1 : 設定しないでください (3)	R/W
b3-b1	—	予約ビット (2)	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	……4	……ビット	0 : …… 1 : ……	R
b6-b5	……[1:0]	……ビット	00 : …… 01 : …… 上記以外は設定しないでください (3)	R/(W) (注1)
b7	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書き込みは無効になります	R

- (1) R/W : 読み出し/書き込みともに有効です。
 R/(W) : 読み出し/書き込みともに有効ですが、書き込みには制限があります。制限の内容については、各レジスタの説明や注記を参照ください。
 R : 読み出しのみ有効です。書き込みは無効になります。
- (2) 予約ビットです。書き込みを行う場合には、指定された値を書き込んでください。指定外の値を書き込んだ場合の動作は保証されません。
- (3) 設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

3. 略語および略称の説明

略語/略称	フルスペル	備考
ACIA	Asynchronous Communications Interface Adapter	調歩同期式通信アダプタ
bps	bits per second	転送速度を表す単位、ビット/秒
CRC	Cyclic Redundancy Check	巡回冗長検査
DMA	Direct Memory Access	CPUの命令を介さずに直接データ転送を行う方式
DMAC	Direct Memory Access Controller	DMAを行うコントローラ
GSM	Global System for Mobile Communications	FDD-TDMAの第二世代携帯電話の方式
Hi-Z	High Impedance	回路が電氣的に接続されていない状態
IEBus	Inter Equipment Bus	—
I/O	Input / Output	入出力
IrDA	Infrared Data Association	赤外線通信の業界団体または規格
LSB	Least Significant Bit	最下位ビット
MSB	Most Significant Bit	最上位ビット
NC	Non-Connect	非接続
PLL	Phase Locked Loop	位相同期回路
PWM	Pulse Width Modulation	パルス幅変調
SFR	Special Function Registers	周辺機能を制御するためのレジスタ
SIM	Subscriber Identity Module	ISO/IEC 7816規格の接触型ICカード
UART	Universal Asynchronous Receiver / Transmitter	調歩同期式シリアルインタフェース
VCO	Voltage Controlled Oscillator	電圧制御発振器

注意：本製品はSilicon Storage Technology, Inc. からライセンスを受けたSuperFlash®を使用しています。

目次

特長	44
1. 概要	45
1.1 仕様概要	45
1.2 製品一覧	50
1.3 ブロック図	53
1.4 端子機能	54
1.5 ピン配置図	57
1.5.1 80ピン LFQFP	57
1.5.2 64ピン LFQFP、64ピン LQFP	58
1.5.3 48ピン LFQFP	59
1.5.4 48ピン HWQFN	59
1.5.5 32ピン LQFP	60
1.5.6 32ピン HWQFN	60
1.6 機能別端子一覧	61
1.6.1 80ピン LFQFP	61
1.6.2 64ピン LFQFP、64ピン LQFP	63
1.6.3 48ピン LFQFP、48ピン HWQFN	65
1.6.4 32ピン LQFP、32ピン HWQFN	67
2. CPU	69
2.1 特長	69
2.2 CPUレジスタセット	70
2.2.1 汎用レジスタ (R0 ~ R15)	71
2.2.2 制御レジスタ	71
2.2.2.1 割り込みスタックポインタ (ISP) / ユーザスタックポインタ (USP)	72
2.2.2.2 例外テーブルレジスタ (EXTB)	72
2.2.2.3 割り込みテーブルレジスタ (INTB)	72
2.2.2.4 プログラムカウンタ (PC)	72
2.2.2.5 プロセッサステータスワード (PSW)	73
2.2.2.6 バックアップ PC (BPC)	74
2.2.2.7 バックアップ PSW (BPSW)	75
2.2.2.8 高速割り込みベクタレジスタ (FINTV)	75
2.2.2.9 浮動小数点ステータスワード (FPSW)	76
2.2.3 アキュムレータ	78
2.3 プロセッサモード	79
2.3.1 スーパーバイザモード	79
2.3.2 ユーザモード	79
2.3.3 特権命令	79
2.3.4 プロセッサモード間の移行	79
2.4 データタイプ	80
2.4.1 整数	80

2.4.2	浮動小数点数	81
2.4.3	ビット	81
2.4.4	ストリング	82
2.5	エンディアン	83
2.5.1	エンディアンの設定	83
2.5.2	I/O レジスタアクセス	86
2.5.3	I/O レジスタアクセスの注意事項	86
2.5.4	データ配置	87
2.5.4.1	レジスタのデータ配置	87
2.5.4.2	メモリ上のデータ配置	87
2.6	ベクタテーブル	88
2.6.1	例外ベクタテーブル	88
2.6.2	割り込みベクタテーブル	89
2.7	命令動作	90
2.7.1	RMPA 命令、ストリング操作命令に関する制約事項	90
2.7.1.1	転送サイズとデータプリフェッチ	90
2.7.1.2	I/O レジスタへのアクセス	90
2.8	サイクル数	91
2.8.1	命令とサイクル数	91
2.8.2	割り込み応答サイクル数	95
3.	動作モード	96
3.1	動作モードの種類と選択	96
3.2	レジスタの説明	97
3.2.1	モードモニタレジスタ (MDMONR)	97
3.2.2	システムコントロールレジスタ 1 (SYSCR1)	98
3.3	動作モードの説明	99
3.3.1	シングルチップモード	99
3.3.2	ブートモード (SCI インタフェース)	99
3.3.3	ブートモード (FINE インタフェース)	99
3.4	動作モード遷移	99
3.4.1	モード設定端子のレベルと動作モード遷移	99
4.	アドレス空間	100
4.1	アドレス空間	100
5.	I/O レジスタ	102
5.1	I/O レジスタアドレス一覧 (アドレス順)	104
6.	リセット	129
6.1	概要	129
6.2	レジスタの説明	131
6.2.1	リセットステータスレジスタ 0 (RSTSR0)	131
6.2.2	リセットステータスレジスタ 1 (RSTSR1)	132

6.2.3	リセットステータスレジスタ 2 (RSTSR2)	133
6.2.4	ソフトウェアリセットレジスタ (SWRR)	133
6.3	動作説明	134
6.3.1	RES# 端子リセット	134
6.3.2	パワーオンリセット、電圧監視 0 リセット	134
6.3.3	電圧監視 1 リセット、電圧監視 2 リセット	136
6.3.4	独立ウォッチドッグタイマリセット	138
6.3.5	ソフトウェアリセット	138
6.3.6	コールドスタート / ウォームスタート判定機能	139
6.3.7	リセット発生要因の判定	140
7.	オプション設定メモリ (OFSM)	141
7.1	概要	141
7.2	レジスタの説明	142
7.2.1	オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)	142
7.2.2	オプション機能選択レジスタ 1 (OFS1)	144
7.2.3	エンディアン選択レジスタ (MDE)	145
7.3	使用上の注意事項	146
7.3.1	オプション設定メモリの設定例	146
8.	電圧検出回路 (LVDAb)	147
8.1	概要	147
8.2	レジスタの説明	150
8.2.1	電圧監視 1 回路制御レジスタ 1 (LVD1CR1)	150
8.2.2	電圧監視 1 回路ステータスレジスタ (LVD1SR)	151
8.2.3	電圧監視 2 回路制御レジスタ 1 (LVD2CR1)	152
8.2.4	電圧監視 2 回路ステータスレジスタ (LVD2SR)	153
8.2.5	電圧監視回路制御レジスタ (LVCMPCR)	154
8.2.6	電圧検出レベル選択レジスタ (LVDLVLR)	155
8.2.7	電圧監視 1 回路制御レジスタ 0 (LVD1CR0)	156
8.2.8	電圧監視 2 回路制御レジスタ 0 (LVD2CR0)	157
8.3	VCC 入力電圧のモニタ	158
8.3.1	Vdet0 のモニタ	158
8.3.2	Vdet1 のモニタ	158
8.3.3	Vdet2 のモニタ	158
8.4	電圧監視 0 リセット	159
8.5	電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット	160
8.6	電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット	162
8.7	イベントリンク出力機能	164
8.7.1	割り込み処理とイベントリンクの関係	164
9.	クロック発生回路	165
9.1	概要	165

9.2	レジスタの説明	167
9.2.1	システムクロックコントロールレジスタ (SCKCR)	167
9.2.2	システムクロックコントロールレジスタ 3 (SCKCR3)	169
9.2.3	PLL コントロールレジスタ (PLLCR)	170
9.2.4	PLL コントロールレジスタ 2 (PLLCR2)	171
9.2.5	メインクロック発振器コントロールレジスタ (MOSCCR)	172
9.2.6	サブクロック発振器コントロールレジスタ (SOSCCR)	173
9.2.7	低速オンチップオシレータコントロールレジスタ (LOCOCR)	174
9.2.8	IWDT 専用オンチップオシレータコントロールレジスタ (ILOCOCR)	175
9.2.9	高速オンチップオシレータコントロールレジスタ (HOCOCR)	176
9.2.10	発振安定フラグレジスタ (OSCOVFSR)	177
9.2.11	発振停止検出コントロールレジスタ (OSTDCR)	179
9.2.12	発振停止検出ステータスレジスタ (OSTDSR)	180
9.2.13	メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ (MOSCWTCR)	181
9.2.14	低速オンチップオシレータ強制発振コントロールレジスタ (LOFCR)	182
9.2.15	CLKOUT 出力コントロールレジスタ (CKOCR)	183
9.2.16	メインクロック発振器強制発振コントロールレジスタ (MOFCR)	184
9.2.17	低速オンチップオシレータトリミングレジスタ 2 (LOCOTRR2)	185
9.2.18	IWDT 専用オンチップオシレータトリミングレジスタ (ILOCOTRR)	185
9.2.19	高速オンチップオシレータトリミングレジスタ n (HOCOTRRn) (n = 0)	186
9.2.20	サブクロック発振器モードコントロールレジスタ (SOMCR)	187
9.3	メインクロック発振器	188
9.3.1	発振子を接続する方法	188
9.3.2	外部クロックを入力する方法	189
9.3.3	メインクロックを使用しない場合の端子処理	189
9.3.4	外部クロック入力に関する注意事項	189
9.4	サブクロック発振器	190
9.4.1	32.768kHz 水晶振動子を接続する方法	190
9.4.2	サブクロックを使用しない場合の端子処理	190
9.5	発振停止検出機能	191
9.5.1	発振停止検出と検出後の動作	191
9.5.2	発振停止検出割り込み	192
9.6	PLL 回路	193
9.7	内部クロック	193
9.7.1	システムクロック	193
9.7.2	周辺モジュールクロック	193
9.7.3	FlashIF クロック	193
9.7.4	CAC クロック	194
9.7.5	CAN クロック	194
9.7.6	RTC 専用クロック	194

9.7.7	IWDT 専用クロック	194
9.7.8	ローパワータイマクロック	194
9.8	使用上の注意事項	195
9.8.1	クロック発生回路に関する注意事項	195
9.8.2	SCKCR3 レジスタ書き換え時の注意事項	195
9.8.3	発振子に関する注意事項	195
9.8.4	ボード設計上の注意	196
9.8.5	低 CL 水晶振動子の使用に関する注意事項	196
9.8.6	発振子接続端子に関する注意事項	196
9.8.7	サブクロック発振器に関する注意事項	197
9.8.7.1	サブクロックを使用する場合	197
10.	クロック周波数精度測定回路 (CAC)	198
10.1	概要	198
10.2	レジスタの説明	200
10.2.1	CAC コントロールレジスタ 0 (CACR0)	200
10.2.2	CAC コントロールレジスタ 1 (CACR1)	201
10.2.3	CAC コントロールレジスタ 2 (CACR2)	202
10.2.4	CAC 割り込み要求許可レジスタ (CAICR)	203
10.2.5	CAC ステータスレジスタ (CASTR)	204
10.2.6	CAC 上限値設定レジスタ (CAULVR)	205
10.2.7	CAC 下限値設定レジスタ (CALLVR)	205
10.2.8	CAC カウンタバッファレジスタ (CACNTBR)	205
10.3	動作説明	206
10.3.1	クロック周波数測定	206
10.3.2	CACREF 端子のデジタルフィルタ機能	207
10.4	割り込み要求	207
10.5	使用上の注意事項	208
10.5.1	モジュールストップ機能の設定	208
11.	消費電力低減機能	209
11.1	概要	209
11.2	レジスタの説明	213
11.2.1	スタンバイコントロールレジスタ (SBYCR)	213
11.2.2	モジュールストップコントロールレジスタ A (MSTPCRA)	214
11.2.3	モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB)	215
11.2.4	モジュールストップコントロールレジスタ C (MSTPCRC)	216
11.2.5	モジュールストップコントロールレジスタ D (MSTPCRD)	217
11.2.6	動作電力コントロールレジスタ (OPCCR)	218
11.2.7	サブ動作電力コントロールレジスタ (SOPCCR)	220
11.2.8	スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ (RSTCKCR)	225
11.2.9	スヌーズコントロールレジスタ (SNZCR)	227

11.2.10	スヌーズコントロールレジスタ 2 (SNZCR2)	229
11.3	クロックの切り替えによる消費電力の低減	231
11.4	モジュールストップ機能	231
11.5	動作電力低減機能	231
11.5.1	動作電力制御モード設定方法	231
11.6	低消費電力状態	233
11.6.1	スリープモード	233
11.6.1.1	スリープモードへの移行	233
11.6.1.2	スリープモードの解除	234
11.6.1.3	スリープモード復帰クロックソース切り替え機能	234
11.6.2	ディープスリープモード	235
11.6.2.1	ディープスリープモードへの遷移	235
11.6.2.2	ディープスリープモードの解除	236
11.6.3	ソフトウェアスタンバイモード	237
11.6.3.1	ソフトウェアスタンバイモードへの移行	237
11.6.3.2	ソフトウェアスタンバイモードの解除	238
11.6.3.3	ソフトウェアスタンバイモードの応用例	239
11.6.4	スヌーズモード	240
11.6.4.1	スヌーズモードへの移行	240
11.6.4.2	スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの復帰	240
11.6.4.3	スヌーズモードの解除	240
11.6.4.4	スヌーズ解除割り込み	241
11.6.4.5	スヌーズモードでの SCI5 データ受信動作例	241
11.6.4.6	スヌーズモードでの AD 変換動作例	244
11.6.4.7	スヌーズモードでの CTSU 計測動作例	247
11.7	使用上の注意事項	250
11.7.1	I/O ポートの状態	250
11.7.2	DTC のモジュールストップ	250
11.7.3	内蔵周辺モジュールの割り込み	250
11.7.4	MSTPCRA、MSTPCRB、MSTPCRC、MSTPCRD レジスタの書き込み	250
11.7.5	WAIT 命令の実行タイミング	250
11.7.6	スリープモード中の DTC によるレジスタの書き換えについて	250
11.7.7	スヌーズモードでの DTC 転送について	251
11.7.8	スヌーズモードでの SCI5 データ受信動作について	251
11.7.9	スヌーズモードでの LPT 動作について	251
11.7.10	スヌーズモードでの AD 変換動作について	251
11.7.11	スヌーズモードでの CTSU 計測動作について	251
12.	レジスタライトプロテクション機能	252
12.1	レジスタの説明	253
12.1.1	プロテクトレジスタ (PRCR)	253

13.	例外処理	254
13.1	例外事象	254
13.1.1	未定義命令例外	255
13.1.2	特権命令例外	255
13.1.3	アクセス例外	255
13.1.4	浮動小数点例外	255
13.1.5	リセット	255
13.1.6	ノンマスカブル割り込み	255
13.1.7	割り込み	255
13.1.8	無条件トラップ	255
13.2	例外の処理手順	256
13.3	例外事象の受け付け	258
13.3.1	受け付けタイミングと退避される PC 値	258
13.3.2	ベクタと PC、PSW の退避場所	258
13.4	例外の受け付け / 復帰時のハードウェア処理	259
13.5	ハードウェア前処理	260
13.5.1	未定義命令例外	260
13.5.2	特権命令例外	260
13.5.3	アクセス例外	260
13.5.4	浮動小数点例外	260
13.5.5	リセット	260
13.5.6	ノンマスカブル割り込み	261
13.5.7	割り込み	261
13.5.8	無条件トラップ	261
13.6	例外処理ルーチンからの復帰	262
13.7	例外事象の優先順位	262
14.	割り込みコントローラ (ICUb)	263
14.1	概要	263
14.2	レジスタの説明	265
14.2.1	割り込み要求レジスタ n (IRn) (n = 割り込みベクタ番号)	265
14.2.2	割り込み要求許可レジスタ m (IERm) (m = 02h ~ 1Fh)	266
14.2.3	割り込み要因プライオリティレジスタ n (IPRn) (n = 割り込みベクタ番号)	267
14.2.4	高速割り込み設定レジスタ (FIR)	268
14.2.5	ソフトウェア割り込み起動レジスタ (SWINTR)	269
14.2.6	DTC 転送要求許可レジスタ n (DTCERn) (n = 割り込みベクタ番号)	270
14.2.7	IRQ コントロールレジスタ i (IRQCRi) (i = 0 ~ 7)	271
14.2.8	IRQ 端子デジタルフィルタ許可レジスタ 0 (IRQFLTE0)	272
14.2.9	IRQ 端子デジタルフィルタ設定レジスタ 0 (IRQFLTC0)	273
14.2.10	ノンマスカブル割り込みステータスレジスタ (NMISR)	274
14.2.11	ノンマスカブル割り込み許可レジスタ (NMIER)	276

14.2.12	ノンマスカブル割り込みステータスクリアレジスタ (NMICLR)	277
14.2.13	NMI 端子割り込みコントロールレジスタ (NMICR)	278
14.2.14	NMI 端子デジタルフィルタ許可レジスタ (NMIFLTE)	278
14.2.15	NMI 端子デジタルフィルタ設定レジスタ (NMIFLTC)	279
14.3	ベクタテーブル	280
14.3.1	割り込みのベクタテーブル	280
14.3.2	高速割り込みのベクタテーブル	286
14.3.3	ノンマスカブル割り込みのベクタ領域	286
14.4	割り込みの動作説明	287
14.4.1	割り込み検出	287
14.4.1.1	エッジ検出の割り込みステータスフラグ	287
14.4.1.2	レベル検出の割り込みステータスフラグ	289
14.4.2	割り込み要求の許可 / 禁止	290
14.4.3	割り込み要求先の選択	291
14.4.4	優先順位の判定	292
14.4.5	多重割り込み	292
14.4.6	高速割り込み	292
14.4.7	デジタルフィルタ	293
14.4.8	外部端子割り込み	294
14.5	ノンマスカブル割り込みの動作説明	295
14.6	低消費電力状態からの復帰	296
14.6.1	スリープモードおよびディープスリープモードからの復帰	296
14.6.2	ソフトウェアスタンバイモードからの復帰	296
14.6.3	スヌーズモードからの復帰	297
14.7	使用上の注意事項	297
14.7.1	ノンマスカブル割り込み使用時の WAIT 命令の注意事項	297
15.	バス	298
15.1	概要	298
15.2	バスの説明	300
15.2.1	CPU バス	300
15.2.2	メモリバス	300
15.2.3	内部メインバス	300
15.2.4	内部周辺バス	301
15.2.5	ライトバッファ機能 (内部周辺バス)	302
15.2.6	並列動作	303
15.2.7	制約事項	303
15.3	レジスタの説明	304
15.3.1	バスエラーステータスクリアレジスタ (BERCLR)	304
15.3.2	バスエラー監視許可レジスタ (BEREN)	304
15.3.3	バスエラーステータスレジスタ 1 (BERSR1)	305

15.3.4	バスエラーステータスレジスタ 2 (BERSR2)	305
15.3.5	バスプライオリティ制御レジスタ (BUSPRI)	306
15.4	バスエラー監視部	308
15.4.1	バスエラーの種類	308
15.4.1.1	不正アドレスアクセス	308
15.4.1.2	タイムアウト	308
15.4.2	バスエラー発生時の動作	308
15.4.3	バスエラーの発生条件	309
16.	データトランスファコントローラ (DTCb)	310
16.1	概要	310
16.2	レジスタの説明	312
16.2.1	DTC モードレジスタ A (MRA)	312
16.2.2	DTC モードレジスタ B (MRB)	314
16.2.3	DTC モードレジスタ C (MRC)	316
16.2.4	DTC 転送元レジスタ (SAR)	317
16.2.5	DTC 転送先レジスタ (DAR)	317
16.2.6	DTC 転送カウントレジスタ A (CRA)	318
16.2.7	DTC 転送カウントレジスタ B (CRB)	319
16.2.8	DTC コントロールレジスタ (DTCCR)	319
16.2.9	DTC ベクタベースレジスタ (DTCVBR)	320
16.2.10	DTC アドレスモードレジスタ (DTCADM)	320
16.2.11	DTC モジュール起動レジスタ (DTCST)	321
16.2.12	DTC ステータスレジスタ (DTCSTS)	322
16.2.13	DTC インデックステーブルベースレジスタ (DTCIBR)	323
16.2.14	DTC オペレーションレジスタ (DTCOR)	324
16.2.15	DTC シーケンス転送許可レジスタ (DTCSQE)	325
16.2.16	DTC アドレスディスプレイメントレジスタ (DTCDISP)	325
16.3	起動要因	326
16.3.1	転送情報の配置と DTC ベクタテーブル	326
16.4	動作説明	328
16.4.1	転送情報リードスキップ機能	330
16.4.2	転送情報ライトバックスキップ機能	331
16.4.2.1	アドレス固定によるライトバックスキップ	331
16.4.2.2	MRA.WBDIS ビットによるライトバックスキップ	331
16.4.3	ノーマル転送モード	332
16.4.4	リピート転送モード	333
16.4.5	ブロック転送モード	334
16.4.6	チェーン転送	335
16.4.7	動作タイミング	336
16.4.8	DTC の実行サイクル	339

16.4.9	DTC のバス権解放タイミング	339
16.4.10	シーケンス転送	340
16.4.11	DTC インデックステーブル	342
16.4.12	シーケンス転送の動作例	344
16.5	DTC の設定手順	350
16.6	DTC 使用例	351
16.6.1	ノーマル転送	351
16.6.2	カウンタが“0”のときのチェーン転送	352
16.6.3	シーケンス転送	353
16.7	割り込み要因	354
16.8	イベントリンク	354
16.9	消費電力低減機能	355
16.10	使用上の注意事項	356
16.10.1	転送情報先頭アドレス	356
16.10.2	転送情報の配置	356
16.10.3	シーケンス転送使用時の注意事項	357
17.	イベントリンクコントローラ (ELC)	358
17.1	概要	358
17.2	レジスタの説明	359
17.2.1	イベントリンクコントロールレジスタ (ELCR)	359
17.2.2	イベントリンク設定レジスタ n (ELSRn) (n = 1 ~ 4, 7, 8, 10, 12, 14 ~ 16, 18, 20, 22, 24, 25)	360
17.2.3	イベントリンクオプション設定レジスタ A (ELOPA)	363
17.2.4	イベントリンクオプション設定レジスタ B (ELOPB)	363
17.2.5	イベントリンクオプション設定レジスタ C (ELOPC)	364
17.2.6	イベントリンクオプション設定レジスタ D (ELOPD)	364
17.2.7	ポートグループ指定レジスタ 1 (PGR1)	365
17.2.8	ポートグループコントロールレジスタ 1 (PGC1)	366
17.2.9	ポートバッファレジスタ 1 (PDBF1)	367
17.2.10	イベント接続ポート指定レジスタ m (PELm) (m = 0, 1)	368
17.2.11	イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ (ELSEGR)	369
17.3	動作説明	370
17.3.1	割り込み処理とイベントリンクの関係	370
17.3.2	イベントのリンク	371
17.3.3	タイマ系周辺モジュールのイベント信号入力時の動作	372
17.3.4	CTSU のイベント信号入力時の動作	372
17.3.5	A/D コンバータ、D/A コンバータのイベント信号入力時の動作	372
17.3.6	I/O ポートのイベント信号入力時の動作とイベント生成	372
17.3.7	イベントリンクの動作設定手順例	376
17.4	使用上の注意事項	377

17.4.1	ELSRn レジスタの設定について	377
17.4.2	出力ポートグループのビットローテート動作の設定について	377
17.4.3	DTC 転送終了のイベント信号使用時の注意事項	377
17.4.4	クロック設定について	377
17.4.5	モジュールストップ機能の設定	377
18.	I/O ポート	378
18.1	概要	378
18.2	入出力ポートの構成	380
18.3	レジスタの説明	389
18.3.1	ポート方向レジスタ (PDR)	389
18.3.2	ポート出力データレジスタ (PODR)	390
18.3.3	ポート入力データレジスタ (PIDR)	391
18.3.4	ポートモードレジスタ (PMR)	392
18.3.5	オープンドレイン制御レジスタ 0 (ODR0)	393
18.3.6	オープンドレイン制御レジスタ 1 (ODR1)	394
18.3.7	プルアップ制御レジスタ (PCR)	395
18.3.8	ポート切り替えレジスタ A (PSRA)	396
18.3.9	ポート切り替えレジスタ B (PSRB)	397
18.3.10	ポートリードウェイト制御レジスタ (PRWCNTR)	398
18.4	ポート方向レジスタ (PDR) の初期化	399
18.5	未使用端子の処理	401
19.	マルチファンクションピンコントローラ (MPC)	402
19.1	概要	402
19.2	レジスタの説明	410
19.2.1	書き込みプロテクトレジスタ (PWPR)	410
19.2.2	P0n 端子機能制御レジスタ (P0nPFS) (n = 3, 5, 7)	411
19.2.3	P1n 端子機能制御レジスタ (P1nPFS) (n = 2 ~ 7)	412
19.2.4	P2n 端子機能制御レジスタ (P2nPFS) (n = 0, 1, 6, 7)	414
19.2.5	P3n 端子機能制御レジスタ (P3nPFS) (n = 0 ~ 2, 4, 6, 7)	415
19.2.6	P4n 端子機能制御レジスタ (P4nPFS) (n = 0 ~ 7)	417
19.2.7	P5n 端子機能制御レジスタ (P5nPFS) (n = 4, 5)	418
19.2.8	PAn 端子機能制御レジスタ (PAnPFS) (n = 0 ~ 6)	419
19.2.9	PBn 端子機能制御レジスタ (PBnPFS) (n = 0 ~ 7)	422
19.2.10	PCn 端子機能制御レジスタ (PCnPFS) (n = 2 ~ 7)	424
19.2.11	PDn 端子機能制御レジスタ (PDnPFS) (n = 0 ~ 2)	425
19.2.12	PEn 端子機能制御レジスタ (PEnPFS) (n = 0 ~ 5)	426
19.2.13	PHn 端子機能制御レジスタ (PHnPFS) (n = 0 ~ 3)	428
19.2.14	PJn 端子機能制御レジスタ (PJnPFS) (n = 1, 6, 7)	429
19.3	使用上の注意事項	430
19.3.1	端子入出力機能設定手順	430

19.3.2	MPC レジスタ設定する場合の注意事項	430
19.3.3	アナログ機能を使う場合の注意事項	431
19.3.4	静電容量式タッチセンサ CTSU 機能を使う場合の注意事項	431
20.	マルチファンクションタイマパルスユニット 2 (MTU2a)	432
20.1	概要	432
20.2	レジスタの説明	438
20.2.1	タイマコントロールレジスタ (TCR)	438
20.2.2	タイマモードレジスタ (TMDR)	441
20.2.3	タイマ I/O コントロールレジスタ (TIOR)	443
20.2.4	タイマコンペアマッチクリアレジスタ (TCNTCMPCLR)	454
20.2.5	タイマ割り込み許可レジスタ (TIER)	455
20.2.6	タイマステータスレジスタ (TSR)	458
20.2.7	タイマバッファ動作転送モードレジスタ (TBTM)	459
20.2.8	タイマインプットキャプチャコントロールレジスタ (TICCR)	460
20.2.9	タイマ A/D 変換開始要求コントロールレジスタ (TADCR)	461
20.2.10	タイマ A/D 変換開始要求周期設定レジスタ m (TADCORm) (m = A, B)	462
20.2.11	タイマ A/D 変換開始要求周期設定バッファレジスタ m (TADCOBRm) (m = A, B)	463
20.2.12	タイマカウンタ (TCNT)	463
20.2.13	タイマジェネラルレジスタ m (TGRm) (m = A, B, C, D, E, F, U, V, W)	464
20.2.14	タイマスタートレジスタ (TSTR)	465
20.2.15	タイマシンクロレジスタ (TSYR)	466
20.2.16	タイマリードライト許可レジスタ (TRWER)	467
20.2.17	タイマアウトプットマスタ許可レジスタ (TOER)	468
20.2.18	タイマアウトプットコントロールレジスタ 1 (TOCR1)	469
20.2.19	タイマアウトプットコントロールレジスタ 2 (TOCR2)	471
20.2.20	タイマアウトプットレベルバッファレジスタ (TOLBR)	473
20.2.21	タイマゲートコントロールレジスタ (TGCR)	474
20.2.22	タイマサブカウンタ (TCNTS)	475
20.2.23	タイマデッドタイムデータレジスタ (TDDR)	475
20.2.24	タイマ周期データレジスタ (TCDR)	476
20.2.25	タイマ周期バッファレジスタ (TCBR)	476
20.2.26	タイマ割り込み間引き設定レジスタ (TITCR)	477
20.2.27	タイマ割り込み間引き回数カウンタ (TITCNT)	478
20.2.28	タイマバッファ転送設定レジスタ (TBTER)	479
20.2.29	タイマデッドタイム許可レジスタ (TDER)	480
20.2.30	タイマ波形コントロールレジスタ (TWCR)	481
20.2.31	ノイズフィルタコントロールレジスタ (NFCR)	482
20.2.32	バスマスタとのインタフェース	485
20.3	動作説明	486
20.3.1	基本動作	486

20.3.2	同期動作	492
20.3.3	バッファ動作	494
20.3.4	カスケード接続動作	499
20.3.5	PWM モード	504
20.3.6	位相計数モード	508
20.3.7	リセット同期 PWM モード	514
20.3.8	相補 PWM モード	517
20.3.9	A/D 変換開始要求ディレイド機能	548
20.3.10	外部パルス幅測定機能	552
20.3.11	デッドタイム補償用機能	553
20.3.12	ノイズフィルタ機能	555
20.4	割り込み要因	556
20.4.1	割り込み要因と優先順位	556
20.4.2	DTC の起動	558
20.4.3	A/D コンバータの起動	558
20.5	動作タイミング	560
20.5.1	入出力タイミング	560
20.5.2	割り込み信号タイミング	566
20.6	使用上の注意事項	569
20.6.1	モジュールストップ機能の設定	569
20.6.2	カウントクロックの制限事項	569
20.6.3	周期設定上の注意事項	570
20.6.4	TCNT カウンタの書き込みとクリアの競合	570
20.6.5	TCNT カウンタの書き込みとカウントアップの競合	571
20.6.6	TGR レジスタの書き込みとコンペアマッチの競合	571
20.6.7	バッファレジスタの書き込みとコンペアマッチの競合	572
20.6.8	バッファレジスタの書き込みと TCNT カウンタクリアの競合	572
20.6.9	TGR レジスタの読み出しとインプットキャプチャの競合	573
20.6.10	TGR レジスタの書き込みとインプットキャプチャの競合	574
20.6.11	バッファレジスタの書き込みとインプットキャプチャの競合	575
20.6.12	カスケード接続における MTU2.TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー/ アンダフローの競合	576
20.6.13	相補 PWM モードでのカウント動作停止時のカウンタ値	577
20.6.14	相補 PWM モードでのバッファ動作の設定	577
20.6.15	リセット同期 PWM モードのバッファ動作とコンペアマッチフラグ	578
20.6.16	リセット同期 PWM モードのオーバフローフラグ	579
20.6.17	オーバフロー/アンダフローとカウンタクリアの競合	580
20.6.18	TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー/アンダフローの競合	580
20.6.19	ノーマルモードまたは PWM モード 1 からリセット同期 PWM モードへ 遷移する場合の注意事項	581
20.6.20	相補 PWM モード、リセット同期 PWM モードの出力レベル	581

20.6.21	モジュールストップ状態時の割り込み	581
20.6.22	カスケード接続における MTU1.TCNT、MTU2.TCNT カウンタ同時 インプットキャプチャ	581
20.6.23	相補 PWM モードの出力保護機能未使用時の注意事項	582
20.6.24	MTU5.TCNT カウンタと MTU5.TGR レジスタの注意事項	582
20.6.25	相補 PWM モード同期クリアするときの異常動作防止について	583
20.6.26	コンペアマッチによる割り込み信号の連続出力	585
20.6.27	相補 PWM モードにおける A/D 変換ディレイド機能の注意事項	585
20.7	MTU 出力端子の初期化方法	587
20.7.1	動作モード	587
20.7.2	動作中の異常などによる再設定時の動作	587
20.7.3	動作中の異常などによる端子の初期化手順、モード遷移の概要	588
20.8	ELC によるリンク動作	615
20.8.1	ELC へのイベント信号出力	615
20.8.2	ELC からのイベント信号受信による MTU の動作	615
20.8.3	ELC からのイベント信号受信による MTU の注意事項	616
21.	ポートアウトプットイネーブル 2 (POE2a)	617
21.1	概要	617
21.2	レジスタの説明	620
21.2.1	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 1 (ICSR1)	620
21.2.2	出力レベルコントロール/ステータスレジスタ 1 (OCSR1)	622
21.2.3	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 2 (ICSR2)	623
21.2.4	ソフトウェアポートアウトプットイネーブルレジスタ (SPOER)	624
21.2.5	ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 1 (POECR1)	625
21.2.6	ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 2 (POECR2)	626
21.2.7	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 3 (ICSR3)	627
21.3	動作説明	628
21.3.1	入力レベル検出動作	630
21.3.2	出力レベル比較動作	631
21.3.3	レジスタによるハイインピーダンス制御	632
21.3.4	発振停止検出によるハイインピーダンス制御	632
21.3.5	ハイインピーダンスからの解除	632
21.4	割り込み	633
21.5	使用上の注意事項	633
21.5.1	ソフトウェアスタンバイモードへの移行について	633
21.5.2	POE を使用しない場合について	633
21.5.3	端子の MTU 機能設定について	633
22.	8 ビットタイマ (TMRa)	634
22.1	概要	634
22.2	レジスタの説明	639

22.2.1	タイマカウンタ (TCNT)	639
22.2.2	タイムコンスタントレジスタ A (TCORA)	640
22.2.3	タイムコンスタントレジスタ B (TCORB)	640
22.2.4	タイマコントロールレジスタ (TCR)	641
22.2.5	タイマカウンタコントロールレジスタ (TCCR)	642
22.2.6	タイマコントロール/ステータスレジスタ (TCSR)	644
22.2.7	タイマカウンタスタートレジスタ (TCSTR)	646
22.3	動作説明	647
22.3.1	パルス出力	647
22.3.2	外部カウンタリセット入力	648
22.4	動作タイミング	649
22.4.1	TCNT カウンタのカウントタイミング	649
22.4.2	コンペアマッチ時の割り込みタイミング	650
22.4.3	コンペアマッチ時の出力信号タイミング	650
22.4.4	コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング	651
22.4.5	TCNT カウンタの外部リセットタイミング	651
22.4.6	オーバフローによる割り込みタイミング	652
22.5	カスケード接続時の動作	653
22.5.1	16 ビットカウントモード	653
22.5.2	コンペアマッチカウントモード	653
22.6	割り込み要因	654
22.6.1	割り込み要因と DTC 起動	654
22.7	ELC によるリンク動作	655
22.7.1	ELC へのイベント信号出力	655
22.7.2	ELC からのイベント信号受信による TMR 動作	655
22.7.3	ELC からのイベント信号受信による TMR の注意事項	656
22.8	使用上の注意事項	657
22.8.1	モジュールストップ機能の設定	657
22.8.2	周期設定上の注意	657
22.8.3	TCNT カウンタへの書き込みとカウンタクリアの競合	657
22.8.4	TCNT カウンタへの書き込みとカウントアップの競合	658
22.8.5	TCORA、TCORB レジスタへの書き込みとコンペアマッチの競合	658
22.8.6	コンペアマッチ A、B の競合	659
22.8.7	内部クロックの切り替えと TCNT カウンタの動作	659
22.8.8	カスケード接続時のクロックソース設定	661
22.8.9	コンペアマッチ割り込みの連続出力	661
23.	コンペアマッチタイマ (CMT)	662
23.1	概要	662
23.2	レジスタの説明	663
23.2.1	コンペアマッチタイマスタートレジスタ 0 (CMSTRO)	663

23.2.2	コンペアマッチタイマコントロールレジスタ (CMCR)	664
23.2.3	コンペアマッチタイマカウンタ (CMCNT)	665
23.2.4	コンペアマッチタイマコンスタントレジスタ (CMCOR)	665
23.3	動作説明	666
23.3.1	周期カウント動作	666
23.3.2	CMCNT カウンタのカウントタイミング	666
23.4	割り込み	667
23.4.1	割り込み要因	667
23.4.2	コンペアマッチ割り込みの発生タイミング	667
23.5	ELC によるリンク動作	668
23.5.1	ELC へのイベント信号出力	668
23.5.2	ELC からのイベント信号受信による CMT の動作	668
23.5.3	ELC からのイベント信号受信による CMT の注意事項	668
23.6	使用上の注意事項	669
23.6.1	モジュールストップ機能の設定	669
23.6.2	CMCNT カウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合	669
23.6.3	CMCNT カウンタへの書き込みとカウントアップの競合	669
24.	リアルタイムクロック (RTCB)	670
24.1	概要	670
24.2	レジスタの説明	672
24.2.1	64 Hz カウンタ (R64CNT)	672
24.2.2	秒カウンタ (RSECCNT)/ バイナリカウンタ 0 (BCNT0)	673
24.2.3	分カウンタ (RMINCNT)/ バイナリカウンタ 1 (BCNT1)	674
24.2.4	時カウンタ (RHRCNT)/ バイナリカウンタ 2 (BCNT2)	675
24.2.5	曜日カウンタ (RWKCNT)/ バイナリカウンタ 3 (BCNT3)	676
24.2.6	日カウンタ (RDAYCNT)	677
24.2.7	月カウンタ (RMONCNT)	678
24.2.8	年カウンタ (RYRCNT)	679
24.2.9	秒アラームレジスタ (RSECAR)/ バイナリカウンタ 0 アラームレジスタ (BCNT0AR)	680
24.2.10	分アラームレジスタ (RMINAR)/ バイナリカウンタ 1 アラームレジスタ (BCNT1AR)	681
24.2.11	時アラームレジスタ (RHRAR)/ バイナリカウンタ 2 アラームレジスタ (BCNT2AR)	682
24.2.12	曜日アラームレジスタ (RWKAR)/ バイナリカウンタ 3 アラームレジスタ (BCNT3AR)	684
24.2.13	日アラームレジスタ (RDAYAR)/ バイナリカウンタ 0 アラーム許可レジスタ (BCNT0AER)	685
24.2.14	月アラームレジスタ (RMONAR)/ バイナリカウンタ 1 アラーム許可レジスタ (BCNT1AER)	686
24.2.15	年アラームレジスタ (RYRAR)/ バイナリカウンタ 2 アラーム許可レジスタ (BCNT2AER)	687

24.2.16	年アラーム許可レジスタ (RYRAREN)/ バイナリカウンタ 3 アラーム許可レジスタ (BCNT3AER)	688
24.2.17	RTC コントロールレジスタ 1 (RCR1)	689
24.2.18	RTC コントロールレジスタ 2 (RCR2)	691
24.2.19	時間誤差補正レジスタ (RADJ)	694
24.3	動作説明	695
24.3.1	電源投入後のレジスタの初期設定概要	695
24.3.2	クロックとカウントモード設定手順	696
24.3.3	時刻設定手順	697
24.3.4	30 秒調整手順	698
24.3.5	64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順	699
24.3.6	アラーム機能	700
24.3.7	アラーム割り込み禁止手順	701
24.3.8	時計誤差補正機能	701
24.3.8.1	自動補正機能	702
24.3.8.2	ソフトウェアによる補正	703
24.3.8.3	補正モードの変更手順	703
24.3.8.4	補正機能の停止手順	703
24.4	割り込み要因	704
24.5	使用上の注意事項	706
24.5.1	カウント動作時のレジスタ書き込みについて	706
24.5.2	周期割り込みの使用について	706
24.5.3	RTCCOUT (1 Hz/64 Hz) 出力について	706
24.5.4	レジスタ設定後の低消費電力モード移行について	707
24.5.5	レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項	707
24.5.6	カウントモードの変更について	707
24.5.7	リアルタイムクロックを使用しない場合の初期化手順	708
25.	ローパワータイマ (LPTa)	709
25.1	概要	709
25.2	レジスタの説明	711
25.2.1	ローパワータイマコントロールレジスタ 1 (LPTCR1)	711
25.2.2	ローパワータイマコントロールレジスタ 2 (LPTCR2)	713
25.2.3	ローパワータイマコントロールレジスタ 3 (LPTCR3)	714
25.2.4	ローパワータイマ周期設定レジスタ (LPTPRD)	715
25.2.5	ローパワータイマコンペアレジスタ 0 (LPCMR0)	719
25.2.6	ローパワータイマコンペアレジスタ 1 (LPCMR1)	719
25.2.7	ローパワータイマスタンバイ復帰許可レジスタ (LPWUCR)	720
25.3	動作説明	721
25.3.1	周期カウント動作	721
25.3.2	PWM 動作	723

25.3.3	ローパワータイマカウンタのカウントタイミング	725
25.3.4	ローパワータイマカウンタのクリアタイミング	725
25.4	割り込み要因	726
25.5	イベントリンク機能 (出力)	726
25.6	スヌーズモードへの遷移要求	726
25.7	イベントリンクコントローラ (ELC) を介した割り込みによる ソフトウェアスタンバイモードの解除について	726
25.8	使用上の注意事項	726
25.8.1	ソフトウェアスタンバイモードへの遷移に関する注意事項について	726
26.	独立ウォッチドッグタイマ (IWDtA)	727
26.1	概要	727
26.2	レジスタの説明	729
26.2.1	IWDT リフレッシュレジスタ (IWDTRR)	729
26.2.2	IWDT コントロールレジスタ (IWDTCR)	730
26.2.3	IWDT ステータスレジスタ (IWDTSR)	733
26.2.4	IWDT リセットコントロールレジスタ (IWDTRCR)	734
26.2.5	IWDT カウント停止コントロールレジスタ (IWDTCSTPR)	735
26.2.6	オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)	735
26.3	動作説明	736
26.3.1	カウント開始条件別の各動作	736
26.3.1.1	レジスタスタートモード	736
26.3.1.2	オートスタートモード	738
26.3.2	リフレッシュ動作	739
26.3.3	ステータスフラグ	741
26.3.4	リセット出力	741
26.3.5	割り込み要因	741
26.3.6	カウンタ値の読み出し	742
26.3.7	オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応	743
26.4	使用上の注意事項	743
26.4.1	リフレッシュ動作について	743
26.4.2	クロック分周比の設定	743
27.	シリアルコミュニケーションインタフェース (SClG, SClk, SClh)	744
27.1	概要	744
27.2	レジスタの説明	753
27.2.1	レシーブシフトレジスタ (RSR)	753
27.2.2	レシーブデータレジスタ (RDR)	753
27.2.3	レシーブデータレジスタ H、L、HL (RDRH, RDRL, RDRHL)	754
27.2.4	トランスミットデータレジスタ (TDR)	755
27.2.5	トランスミットデータレジスタ H、L、HL (TDRH, TDRL, TDRHL)	756
27.2.6	トランスミットシフトレジスタ (TSR)	756

27.2.7	シリアルモードレジスタ (SMR)	757
27.2.8	シリアルコントロールレジスタ (SCR)	761
27.2.9	シリアルステータスレジスタ (SSR)	765
27.2.10	スマートカードモードレジスタ (SCMR)	770
27.2.11	ビットレートレジスタ (BRR)	772
27.2.12	モジュレーションデューティレジスタ (MDDR)	782
27.2.13	シリアル拡張モードレジスタ (SEMR)	784
27.2.14	ノイズフィルタ設定レジスタ (SNFR)	787
27.2.15	I ² C モードレジスタ 1 (SIMR1)	788
27.2.16	I ² C モードレジスタ 2 (SIMR2)	789
27.2.17	I ² C モードレジスタ 3 (SIMR3)	790
27.2.18	I ² C ステータスレジスタ (SISR)	792
27.2.19	SPI モードレジスタ (SPMR)	793
27.2.20	比較データレジスタ (CDR)	795
27.2.21	データ比較制御レジスタ (DCCR)	796
27.2.22	シリアルポートレジスタ (SPTR)	798
27.2.23	送受信タイミング選択レジスタ (TMGR)	800
27.2.24	拡張シリアルモード有効レジスタ (ESMER)	802
27.2.25	コントロールレジスタ 0 (CR0)	802
27.2.26	コントロールレジスタ 1 (CR1)	803
27.2.27	コントロールレジスタ 2 (CR2)	804
27.2.28	コントロールレジスタ 3 (CR3)	805
27.2.29	ポートコントロールレジスタ (PCR)	805
27.2.30	割り込みコントロールレジスタ (ICR)	806
27.2.31	ステータスレジスタ (STR)	807
27.2.32	ステータスクリアレジスタ (STCR)	808
27.2.33	Control Field 0 データレジスタ (CF0DR)	808
27.2.34	Control Field 0 コンペアイネーブルレジスタ (CF0CR)	809
27.2.35	Control Field 0 受信データレジスタ (CF0RR)	809
27.2.36	プライマリ Control Field 1 データレジスタ (PCF1DR)	809
27.2.37	セカンダリ Control Field 1 データレジスタ (SCF1DR)	810
27.2.38	Control Field 1 コンペアイネーブルレジスタ (CF1CR)	810
27.2.39	Control Field 1 受信データレジスタ (CF1RR)	810
27.2.40	タイマコントロールレジスタ (TCR)	811
27.2.41	タイマモードレジスタ (TMR)	811
27.2.42	タイマプリスケアラレジスタ (TPRE)	812
27.2.43	タイマカウントレジスタ (TCNT)	812
27.3	調歩同期式モードの動作	813
27.3.1	シリアル送信 / 受信フォーマット	813
27.3.2	調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン	815

27.3.2.1	受信データのサンプリングタイミング調整	816
27.3.2.2	送信データの変化タイミング調整	817
27.3.3	クロック	818
27.3.4	倍速モードと 6 分周モード	818
27.3.5	CTS、RTS 機能	819
27.3.6	データ一致検出機能	819
27.3.7	SCI の初期化 (調歩同期式モード)	822
27.3.8	シリアルデータの送信 (調歩同期式モード)	824
27.3.9	シリアルデータの受信 (調歩同期式モード)	828
27.4	マルチプロセッサ通信機能	832
27.4.1	マルチプロセッサシリアルデータ送信	833
27.4.2	マルチプロセッサシリアルデータ受信	834
27.5	クロック同期式モードの動作	837
27.5.1	クロック	837
27.5.2	CTS、RTS 機能	838
27.5.3	SCI の初期化 (クロック同期式モード)	839
27.5.4	シリアルデータの送信 (クロック同期式モード)	840
27.5.5	シリアルデータの受信 (クロック同期式モード)	844
27.5.6	シリアルデータの送受信同時動作 (クロック同期式モード)	847
27.6	スマートカードインタフェースモードの動作	848
27.6.1	接続例	848
27.6.2	データフォーマット (ブロック転送モード時を除く)	849
27.6.3	ブロック転送モード	850
27.6.4	受信データサンプリングタイミングと受信マージン	851
27.6.5	SCI の初期化 (スマートカードインタフェースモード)	852
27.6.6	シリアルデータの送信 (ブロック転送モードを除く)	854
27.6.7	シリアルデータの受信 (ブロック転送モードを除く)	857
27.6.8	クロック出力制御	859
27.7	簡易 I ² C モードの動作	860
27.7.1	開始条件、再開条件、停止条件の生成	861
27.7.2	クロック同期化	863
27.7.3	SSDA 出力遅延	864
27.7.4	SCI の初期化 (簡易 I ² C モード)	865
27.7.5	マスタ送信動作 (簡易 I ² C モード)	866
27.7.6	マスタ受信動作 (簡易 I ² C モード)	868
27.7.7	バスハングアップからの回復	870
27.8	簡易 SPI モードの動作	871
27.8.1	マスタモード、スレーブモードと各端子の状態	872
27.8.2	マスタモード時の SS 機能	872
27.8.3	スレーブモード時の SS 機能	872

27.8.4	クロックと送受信データの関係	873
27.8.5	SCI の初期化 (簡易 SPI モード)	873
27.8.6	シリアルデータの送受信 (簡易 SPI モード)	874
27.9	ビットレートモジュレーション機能	874
27.10	拡張シリアルモード制御部の動作説明	875
27.10.1	シリアル通信プロトコル	875
27.10.2	Start Frame 送信	875
27.10.3	Start Frame 受信	879
27.10.3.1	プライオリティインタラプトビット	884
27.10.4	バス衝突検出機能	885
27.10.5	RXDX12 端子入力デジタルフィルタ機能	886
27.10.6	ビットレート測定機能	887
27.10.7	RXDX12 受信データサンプリングタイミング選択機能	888
27.10.8	タイマ	889
27.11	ノイズ除去機能	891
27.12	割り込み要因	892
27.12.1	TXI 割り込みおよび RXI 割り込みバッファ動作	892
27.12.2	調歩同期式モード、クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける 割り込み	892
27.12.3	スマートカードインタフェースモードにおける割り込み	893
27.12.4	簡易 I ² C モードにおける割り込み	894
27.12.5	拡張シリアルモード制御部の割り込み要求	895
27.13	イベントリンク機能	896
27.14	使用上の注意事項	897
27.14.1	モジュールストップ機能の設定	897
27.14.2	ブレークの検出と処理について	897
27.14.3	マーク状態とブレークの送付	897
27.14.4	受信エラーフラグと送信動作について (クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード)	897
27.14.5	TDR レジスタへのライトについて	898
27.14.6	クロック同期送信時の制約事項 (クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード)	899
27.14.7	DTC 使用上の制約事項	900
27.14.8	通信の開始に関する注意事項	900
27.14.9	低消費電力状態時の動作について	900
27.14.10	クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける外部クロック入力	902
27.14.11	簡易 SPI モードの制約事項	903
27.14.12	拡張シリアルモード制御部の使用上の制約事項 1	904
27.14.13	拡張シリアルモード制御部の使用上の制約事項 2	904
27.14.14	トランスミットイネーブルビット (TE ビット) に関する注意事項	905
27.14.15	調歩同期式モードにおける RTS 機能使用時の受信停止に関する注意事項	905

28.	I ² C バスインタフェース (R1ICa)	906
28.1	概要	906
28.2	レジスタの説明	909
28.2.1	I ² C バスコントロールレジスタ 1 (ICCR1)	909
28.2.2	I ² C バスコントロールレジスタ 2 (ICCR2)	911
28.2.3	I ² C バスモードレジスタ 1 (ICMR1)	914
28.2.4	I ² C バスモードレジスタ 2 (ICMR2)	915
28.2.5	I ² C バスモードレジスタ 3 (ICMR3)	917
28.2.6	I ² C バスファンクション許可レジスタ (ICFER)	919
28.2.7	I ² C バスステータス許可レジスタ (ICSER)	921
28.2.8	I ² C バス割り込み許可レジスタ (ICIER)	923
28.2.9	I ² C バスステータスレジスタ 1 (ICSR1)	925
28.2.10	I ² C バスステータスレジスタ 2 (ICSR2)	927
28.2.11	スレーブアドレスレジスタ Ly (SARLy) (y = 0 ~ 2)	930
28.2.12	スレーブアドレスレジスタ Uy (SARUy) (y = 0 ~ 2)	931
28.2.13	I ² C バスビットレート Low レジスタ (ICBRL)	932
28.2.14	I ² C バスビットレート High レジスタ (ICBRH)	933
28.2.15	I ² C バス送信データレジスタ (ICDRT)	935
28.2.16	I ² C バス受信データレジスタ (ICDRR)	935
28.2.17	I ² C バスシフトレジスタ (ICDRS)	935
28.3	動作説明	936
28.3.1	通信データフォーマット	936
28.3.2	初期設定	937
28.3.3	マスタ送信動作	938
28.3.4	マスタ受信動作	941
28.3.5	スレーブ送信動作	947
28.3.6	スレーブ受信動作	950
28.4	SCL 同期回路	952
28.5	SDA 出力遅延機能	953
28.6	デジタルノイズフィルタ回路	954
28.7	アドレス一致検出機能	955
28.7.1	スレーブアドレス一致検出機能	955
28.7.2	ジェネラルコールアドレス検出機能	957
28.7.3	デバイス ID アドレス検出機能	958
28.7.4	ホストアドレス検出機能	960
28.8	SCL の自動 Low ホールド機能	961
28.8.1	送信データ誤送信防止機能	961
28.8.2	NACK 受信転送中断機能	962
28.8.3	受信データ取りこぼし防止機能	963
28.9	アービトレーションロスト検出機能	965

28.9.1	マスタアービトレーションロスト検出機能 (MALE ビット)	965
28.9.2	NACK 送信アービトレーションロスト検出機能 (NALE ビット)	967
28.9.3	スレーブアービトレーションロスト検出機能 (SALE ビット)	968
28.10	スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション 発行機能	969
28.10.1	スタートコンディション発行動作	969
28.10.2	リスタートコンディション発行動作	969
28.10.3	ストップコンディション発行動作	970
28.11	バスハングアップ	971
28.11.1	タイムアウト検出機能	971
28.11.2	SCL 追加出力機能	972
28.11.3	RIIC リセット、内部リセット	973
28.12	SMBus 動作	974
28.12.1	SMBus タイムアウト測定	974
28.12.2	パケットエラーコード (PEC)	975
28.12.3	SMBus ホスト通知プロトコル (Notify ARP master コマンド)	976
28.13	割り込み要因	977
28.13.1	TXI 割り込みおよび RXI 割り込みバッファ動作	977
28.14	リセット時/コンディション検出時のレジスタおよび機能の初期化	978
28.15	イベントリンク機能 (出力)	979
28.15.1	割り込み処理とイベントリンクの関係	979
28.16	使用上の注意事項	980
28.16.1	モジュールストップ機能の設定	980
28.16.2	通信の開始に関する注意事項	980
29.	CAN モジュール (RSCAN)	981
29.1	概要	981
29.2	レジスタの説明	984
29.2.1	ビットコンフィギュレーションレジスタ L (CFGL)	984
29.2.2	ビットコンフィギュレーションレジスタ H (CFGH)	985
29.2.3	制御レジスタ L (CTRL)	986
29.2.4	制御レジスタ H (CTRH)	988
29.2.5	ステータスレジスタ L (STSL)	990
29.2.6	ステータスレジスタ H (STSH)	991
29.2.7	エラーフラグレジスタ L (ERFLL)	992
29.2.8	エラーフラグレジスタ H (ERFLH)	994
29.2.9	グローバル設定レジスタ L (GCFGL)	995
29.2.10	グローバル設定レジスタ H (GCFGH)	996
29.2.11	グローバル制御レジスタ L (GCTRL)	997
29.2.12	グローバル制御レジスタ H (GCTRH)	998
29.2.13	グローバルステータスレジスタ (GSTS)	998

29.2.14	グローバルエラーフラグレジスタ (GERFLL)	999
29.2.15	グローバル送信割り込みステータスレジスタ (GTINTSTS)	1000
29.2.16	タイムスタンプレジスタ (GTSC)	1001
29.2.17	受信ルール数設定レジスタ (GAFLCFG)	1001
29.2.18	受信ルール登録レジスタ jAL (GAFLIDLj) (j = 0 ~ 15)	1002
29.2.19	受信ルール登録レジスタ jAH (GAFLIDHj) (j = 0 ~ 15)	1003
29.2.20	受信ルール登録レジスタ jBL (GAFLMLj) (j = 0 ~ 15)	1004
29.2.21	受信ルール登録レジスタ jBH (GAFLMHj) (j = 0 ~ 15)	1005
29.2.22	受信ルール登録レジスタ jCL (GAFLPLj) (j = 0 ~ 15)	1006
29.2.23	受信ルール登録レジスタ jCH (GAFLPHj) (j = 0 ~ 15)	1007
29.2.24	受信バッファ数設定レジスタ (RMNB)	1008
29.2.25	受信バッファ受信完了フラグレジスタ (RMND0)	1008
29.2.26	受信バッファレジスタ nAL (RMIDLn) (n = 0 ~ 15)	1009
29.2.27	受信バッファレジスタ nAH (RMIDHn) (n = 0 ~ 15)	1010
29.2.28	受信バッファレジスタ nBL (RMTSn) (n = 0 ~ 15)	1011
29.2.29	受信バッファレジスタ nBH (RMPTRn) (n = 0 ~ 15)	1012
29.2.30	受信バッファレジスタ nCL (RMDf0n) (n = 0 ~ 15)	1013
29.2.31	受信バッファレジスタ nCH (RMDf1n) (n = 0 ~ 15)	1013
29.2.32	受信バッファレジスタ nDL (RMDf2n) (n = 0 ~ 15)	1014
29.2.33	受信バッファレジスタ nDH (RMDf3n) (n = 0 ~ 15)	1014
29.2.34	受信 FIFO 制御レジスタ m (RFCCm) (m = 0, 1)	1015
29.2.35	受信 FIFO ステータスレジスタ m (RFSTSm) (m = 0, 1)	1016
29.2.36	受信 FIFO ポインタ制御レジスタ m (RFPCTRm) (m = 0, 1)	1017
29.2.37	受信 FIFO アクセスレジスタ mAL (RFIDLm) (m = 0, 1)	1018
29.2.38	受信 FIFO アクセスレジスタ mAH (RFIDHm) (m = 0, 1)	1018
29.2.39	受信 FIFO アクセスレジスタ mBL (RFTSm) (m = 0, 1)	1019
29.2.40	受信 FIFO アクセスレジスタ mBH (RFPTRm) (m = 0, 1)	1019
29.2.41	受信 FIFO アクセスレジスタ mCL (RFDF0m) (m = 0, 1)	1020
29.2.42	受信 FIFO アクセスレジスタ mCH (RFDF1m) (m = 0, 1)	1020
29.2.43	受信 FIFO アクセスレジスタ mDL (RFDF2m) (m = 0, 1)	1021
29.2.44	受信 FIFO アクセスレジスタ mDH (RFDF3m) (m = 0, 1)	1021
29.2.45	送受信 FIFO 制御レジスタ 0L (CFCCL0)	1022
29.2.46	送受信 FIFO 制御レジスタ 0H (CFCCH0)	1024
29.2.47	送受信 FIFO ステータスレジスタ 0 (CFSTS0)	1025
29.2.48	送受信 FIFO ポインタ制御レジスタ 0 (CFPCTR0)	1027
29.2.49	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0AL (CFIDL0)	1028
29.2.50	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0AH (CFIDH0)	1029
29.2.51	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0BL (CFTS0)	1030
29.2.52	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0BH (CFPTR0)	1031
29.2.53	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0CL (CFDF00)	1032

29.2.54	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0CH (CFDF10)	1032
29.2.55	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0DL (CFDF20)	1033
29.2.56	送受信 FIFO アクセスレジスタ 0DH (CFDF30)	1033
29.2.57	受信 FIFO メッセージロストステータスレジスタ (RFMSTS)	1034
29.2.58	送受信 FIFO メッセージロストステータスレジスタ (CFMSTS)	1034
29.2.59	受信 FIFO 割り込みステータスレジスタ (RFISTS)	1035
29.2.60	送受信 FIFO 受信割り込みステータスレジスタ (CFISTS)	1035
29.2.61	送信バッファ制御レジスタ p (TMCp) (p = 0 ~ 3)	1036
29.2.62	送信バッファステータスレジスタ p (TMSTSp) (p = 0 ~ 3)	1037
29.2.63	送信バッファ送信要求ステータスレジスタ (TMTRSTS)	1038
29.2.64	送信バッファ送信完了ステータスレジスタ (TMTCASTS)	1039
29.2.65	送信バッファ送信アボートステータスレジスタ (TMTASTS)	1040
29.2.66	送信バッファ割り込み許可レジスタ (TMIEC)	1041
29.2.67	送信バッファレジスタ pAL (TMIDLp) (p = 0 ~ 3)	1041
29.2.68	送信バッファレジスタ pAH (TMIDHp) (p = 0 ~ 3)	1042
29.2.69	送信バッファレジスタ pBH (TMPTRp) (p = 0 ~ 3)	1043
29.2.70	送信バッファレジスタ pCL (TMDf0p) (p = 0 ~ 3)	1044
29.2.71	送信バッファレジスタ pCH (TMDf1p) (p = 0 ~ 3)	1044
29.2.72	送信バッファレジスタ pDL (TMDf2p) (p = 0 ~ 3)	1045
29.2.73	送信バッファレジスタ pDH (TMDf3p) (p = 0 ~ 3)	1045
29.2.74	送信履歴バッファ制御レジスタ (THLCC0)	1046
29.2.75	送信履歴バッファステータスレジスタ (THLSTS0)	1047
29.2.76	送信履歴バッファアクセスレジスタ (THLACC0)	1048
29.2.77	送信履歴バッファポインタ制御レジスタ (THLPCTR0)	1049
29.2.78	グローバル RAM ウィンドウ制御レジスタ (GRWCR)	1050
29.2.79	グローバルテスト設定レジスタ (GTSTCFG)	1051
29.2.80	グローバルテスト制御レジスタ (GTSTCTRL)	1051
29.2.81	グローバルテストプロテクト解除レジスタ (GLOCKK)	1052
29.2.82	RAM テストレジスタ r (RPGACCr) (r = 0 ~ 127)	1052
29.3	CAN モード	1053
29.3.1	グローバルモード	1053
29.3.2	チャンネルモード	1055
29.4	受信機能	1059
29.4.1	受信ルールテーブルを用いたデータ処理	1059
29.4.2	タイムスタンプ	1061
29.5	送信機能	1062
29.5.1	送信の優先順位判定	1062
29.5.2	送信バッファを用いた送信	1063
29.5.3	FIFO バッファによる送信	1063
29.5.4	送信履歴機能	1066

29.6	テスト機能	1067
29.6.1	標準テストモード	1067
29.6.2	リッスンオンリモード	1067
29.6.3	セルフテストモード(ループバックモード)	1068
29.6.4	RAM テスト	1068
29.7	割り込み	1069
29.8	RAM ウィンドウ	1072
29.9	初期設定	1073
29.9.1	クロックの設定	1074
29.9.2	ビットタイミングの設定	1074
29.9.3	通信速度の設定	1075
29.9.4	受信ルールの設定	1076
29.9.5	バッファの設定	1077
29.10	受信手順	1078
29.10.1	受信バッファの読み出し手順	1078
29.10.2	FIFO バッファの読み出し手順	1080
29.11	送信手順	1082
29.11.1	送信バッファからの送信手順	1082
29.11.2	送受信 FIFO バッファからの送信手順	1085
29.11.3	送信履歴バッファの読み出し手順	1088
29.12	テスト設定	1089
29.12.1	セルフテストモードの設定手順	1089
29.12.2	プロテクト解除手順	1090
29.12.3	RAM テストの設定手順	1091
29.13	CAN モジュールの注意事項	1092
30.	シリアルペリフェラルインタフェース (RSPIc)	1093
30.1	概要	1093
30.2	レジスタの説明	1096
30.2.1	RSPI 制御レジスタ (SPCR)	1096
30.2.2	RSPI スレーブセレクト極性レジスタ (SSLP)	1098
30.2.3	RSPI 端子制御レジスタ (SPPCR)	1099
30.2.4	RSPI ステータスレジスタ (SPSR)	1100
30.2.5	RSPI データレジスタ (SPDR)	1103
30.2.6	RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR)	1107
30.2.7	RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR)	1108
30.2.8	RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)	1109
30.2.9	RSPI データコントロールレジスタ (SPDCR)	1110
30.2.10	RSPI クロック遅延レジスタ (SPCKD)	1112
30.2.11	RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)	1113
30.2.12	RSPI 次アクセス遅延レジスタ (SPND)	1114

30.2.13	RSPI 制御レジスタ 2 (SPCR2)	1115
30.2.14	RSPI コマンドレジスタ m (SPCMDm) (m = 0 ~ 7)	1116
30.2.15	RSPI データコントロールレジスタ 2 (SPDCR2)	1119
30.3	動作説明	1120
30.3.1	RSPI 動作の概要	1120
30.3.2	RSPI 端子の制御	1121
30.3.3	RSPI システム構成例	1122
30.3.3.1	シングルマスタ / シングルスレーブ (本 MCU = マスタ)	1122
30.3.3.2	シングルマスタ / シングルスレーブ (本 MCU = スレーブ)	1123
30.3.3.3	シングルマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = マスタ)	1124
30.3.3.4	シングルマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = スレーブ)	1125
30.3.3.5	マルチマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = マスタ)	1126
30.3.3.6	マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) (本 MCU = マスタ)	1127
30.3.3.7	マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) (本 MCU = スレーブ)	1127
30.3.4	データフォーマット	1128
30.3.4.1	パリティ機能無効時 (SPCR2.SPPE = 0)	1129
30.3.4.2	パリティ機能有効時 (SPCR2.SPPE = 1)	1133
30.3.4.3	バイトスワップ送信	1137
30.3.4.4	バイトスワップ受信	1138
30.3.5	転送フォーマット	1139
30.3.5.1	CPHA ビット = 0 の場合	1139
30.3.5.2	CPHA ビット = 1 の場合	1140
30.3.6	通信動作モード	1141
30.3.6.1	全二重通信 (SPCR.TXMD = 0)	1141
30.3.6.2	送信のみの単方向通信 (SPCR.TXMD = 1)	1142
30.3.7	送信バッファエンプティ / 受信バッファフル割り込み	1143
30.3.8	アイドル割り込み	1144
30.3.9	エラー検出	1145
30.3.9.1	オーバランエラー	1146
30.3.9.2	パリティエラー	1149
30.3.9.3	モードフォルトエラー	1150
30.3.9.4	アンダランエラー	1150
30.3.10	RSPI の初期化	1151
30.3.10.1	SPE ビットのクリアによる初期化	1151
30.3.10.2	システムリセット	1151
30.3.11	SPI 動作	1152
30.3.11.1	マスタモード動作	1152
30.3.11.2	スレーブモード動作	1162
30.3.12	クロック同期式動作	1166

30.3.12.1	マスタモード動作	1166
30.3.12.2	スレーブモード動作	1170
30.3.13	ループバックモード	1172
30.3.14	パリティビット機能の自己判断	1173
30.3.15	割り込み要因	1174
30.4	使用上の注意事項	1175
30.4.1	モジュールストップ機能の設定	1175
30.4.2	消費電力低減機能の注意事項	1175
30.4.3	通信の開始に関する注意事項	1175
30.4.4	SPRF/SPTEF フラグに関する注意事項	1175
31.	CRC 演算器 (CRC)	1176
31.1	概要	1176
31.2	レジスタの説明	1177
31.2.1	CRC コントロールレジスタ (CRCCR)	1177
31.2.2	CRC データ入力レジスタ (CRCDIR)	1177
31.2.3	CRC データ出力レジスタ (CRCDOR)	1178
31.3	CRC 演算器の動作説明	1179
31.4	使用上の注意事項	1182
31.4.1	モジュールストップ機能の設定	1182
31.4.2	転送時の注意事項	1182
32.	静電容量式タッチセンサ (CTSUSL, CTSU2L)	1183
32.1	概要	1184
32.2	レジスタの説明	1187
32.2.1	CTSUSL 制御レジスタ A (CTSUCRA)	1187
32.2.2	CTSUSL 制御レジスタ B (CTSUCRB)	1193
32.2.3	CTSUSL 計測チャネルレジスタ (CTSUSMCH)	1195
32.2.4	CTSUSL チャネル有効制御レジスタ A (CTSUSCHACA)	1197
32.2.5	CTSUSL チャネル有効制御レジスタ B (CTSUSCHACB)	1198
32.2.6	CTSUSL チャネル送受信制御レジスタ A (CTSUSCHTRCA)	1199
32.2.7	CTSUSL チャネル送受信制御レジスタ B (CTSUSCHTRCB)	1200
32.2.8	CTSUSL ステータスレジスタ (CTSUSUSR)	1201
32.2.9	CTSUSL センサオフセットレジスタ (CTSUSUSO)	1204
32.2.10	CTSUSL センサカウンタ (CTSUSCNT)	1206
32.2.11	CTSUSL キャリブレーションレジスタ (CTSUSCALIB)	1207
32.2.12	CTSUSL センサユニットクロック制御レジスタ A (CTSUSUCLKA)	1210
32.2.13	CTSUSL センサユニットクロック制御レジスタ B (CTSUSUCLKB)	1211
32.2.14	CTSUSL トリミングレジスタ A (CTSUSTRIMA)	1212
32.2.15	CTSUSL トリミングレジスタ B (CTSUSTRIMB)	1213
32.2.16	CTSUSL オプション設定レジスタ (CTSUSOPT)	1214
32.2.17	CTSUSL センサカウンタ自動補正テーブルアクセスレジスタ (CTSUSCNTACT)	1216

32.2.18	CTSU 自動判定制御レジスタ (CTSUAJCR)	1217
32.2.19	CTSU しきい値レジスタ (CTSUAJTHR)	1218
32.2.20	CTSU 移動平均結果レジスタ (CTSUAJMMAR)	1219
32.2.21	CTSU ベースライン平均中間結果レジスタ (CTSUAJBLACT)	1220
32.2.22	CTSU ベースライン平均結果レジスタ (CTSUAJBLAR)	1221
32.2.23	CTSU 自動判定結果レジスタ (CTSUAJRR)	1222
32.2.24	CTSU A/D コンバータ接続制御レジスタ (CTSUADCC)	1223
32.3	動作説明	1224
32.3.1	計測動作原理	1224
32.3.2	初期設定フロー	1226
32.3.3	計測ステート	1227
32.3.4	計測方式	1228
32.3.4.1	自己容量方式動作	1229
32.3.4.2	相互容量方式動作	1230
32.3.5	スキャンモード	1232
32.3.6	マルチクロック計測	1232
32.3.7	自動判定機能	1232
32.3.7.1	自動判定機能の動作	1234
32.3.7.2	自己容量方式動作	1235
32.3.7.3	相互容量方式動作	1237
32.3.8	複数電極接続機能	1239
32.4	割り込み	1240
32.4.1	レジスタ設定要求割り込み (CTSUWR)	1240
32.4.2	計測結果読み出し要求割り込み (CTSURD)	1241
32.4.3	測定終了割り込み (CTSUFN)	1241
32.5	スヌーズ終了要求	1242
32.6	使用上の注意事項	1242
32.6.1	モジュールストップ機能の設定	1242
32.6.2	計測結果データ (CTSUSCNT レジスタ)	1242
32.6.3	ソフトウェアトリガ	1242
32.6.4	外部トリガ	1243
32.6.5	強制停止の注意事項	1243
32.6.6	TSCAP 端子	1243
32.6.7	周波数拡散時のサンプリング周期設定	1243
32.6.8	計測動作中 (CTSUCRA.STRT ビット = 1) の注意事項	1243
32.6.9	自己容量方式の送信端子	1243
33.	AESA	1244
34.	RNGA	1245
35.	12 ビット A/D コンバータ (S12ADE)	1246
35.1	概要	1246

35.2	レジスタの説明	1250
35.2.1	A/D データレジスタ y (ADDRy) (y = 0 ~ 8, 16 ~ 21, 24 ~ 26)、 A/D データ二重化レジスタ (ADDBLDR)、 A/D 温度センサデータレジスタ (ADTSDR)、 A/D 内部基準電圧データレジスタ (ADOCDR)	1250
35.2.2	A/D 自己診断データレジスタ (ADRD)	1252
35.2.3	A/D コントロールレジスタ (ADCSR)	1253
35.2.4	A/D チャンネル選択レジスタ A0 (ADANSA0)	1257
35.2.5	A/D チャンネル選択レジスタ A1 (ADANSA1)	1258
35.2.6	A/D チャンネル選択レジスタ B0 (ADANSB0)	1259
35.2.7	A/D チャンネル選択レジスタ B1 (ADANSB1)	1260
35.2.8	A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタ 0 (ADADS0)	1261
35.2.9	A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタ 1 (ADADS1)	1262
35.2.10	A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタ (ADADC)	1264
35.2.11	A/D コントロール拡張レジスタ (ADCER)	1265
35.2.12	A/D 変換開始トリガ選択レジスタ (ADSTRGR)	1267
35.2.13	A/D 変換拡張入力コントロールレジスタ (ADEXICR)	1269
35.2.14	A/D サンプリングステートレジスタ n (ADSSTRn) (n = 0 ~ 8, L, T, O)	1271
35.2.15	A/D 断線検出コントロールレジスタ (ADDISCR)	1272
35.2.16	A/D イベントリンクコントロールレジスタ (ADELCCR)	1273
35.2.17	A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ (ADGSPCR)	1274
35.2.18	A/D コンペア機能コントロールレジスタ (ADCMPCR)	1275
35.2.19	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャンネル選択レジスタ 0 (ADCMPANSR0)	1277
35.2.20	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャンネル選択レジスタ 1 (ADCMPANSR1)	1278
35.2.21	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ (ADCMPANSER)	1279
35.2.22	A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 0 (ADCMPLR0)	1280
35.2.23	A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 1 (ADCMPLR1)	1282
35.2.24	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力比較条件設定レジスタ (ADCMPLER)	1283
35.2.25	A/D コンペア機能ウィンドウ A 下位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR0)	1284
35.2.26	A/D コンペア機能ウィンドウ A 上位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR1)	1286
35.2.27	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャンネルステータスレジスタ 0 (ADCMPSR0)	1287
35.2.28	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャンネルステータスレジスタ 1 (ADCMPSR1)	1288
35.2.29	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力チャンネルステータスレジスタ (ADCMPSER)	1289
35.2.30	A/D 高電位 / 低電位基準電圧コントロールレジスタ (ADHVREFCNT)	1290
35.2.31	A/D コンペア機能ウィンドウ A/B ステータスマニタレジスタ (ADWINMON)	1291
35.2.32	A/D コンペア機能ウィンドウ B チャンネル選択レジスタ (ADCMPBNSR)	1292
35.2.33	A/D コンペア機能ウィンドウ B 下位側レベル設定レジスタ (ADWINLLB)	1294
35.2.34	A/D コンペア機能ウィンドウ B 上位側レベル設定レジスタ (ADWINULB)	1296
35.2.35	A/D コンペア機能ウィンドウ B チャンネルステータスレジスタ (ADCMPBSR)	1297
35.2.36	A/D データ格納バッファレジスタ n (ADBUFn) (n = 0 ~ 15)	1298

35.2.37	A/D データ格納バッファイネーブルレジスタ (ADBUFEN)	1299
35.2.38	A/D データ格納バッファポインタレジスタ (ADBUFPTR)	1300
35.2.39	A/D 変換サイクル制御レジスタ (ADCCR)	1301
35.3	動作説明	1302
35.3.1	スキヤンの動作説明	1302
35.3.2	シングルスキヤンモード	1303
35.3.2.1	基本動作	1303
35.3.2.2	チャンネル選択と自己診断	1304
35.3.2.3	温度センサ出力 / 内部基準電圧選択時の A/D 変換動作	1305
35.3.2.4	ダブルトリガモード選択時の動作	1306
35.3.3	連続スキヤンモード	1307
35.3.3.1	基本動作	1307
35.3.3.2	チャンネル選択と自己診断	1308
35.3.4	グループスキヤンモード	1309
35.3.4.1	基本動作	1309
35.3.4.2	ダブルトリガモード選択時の動作	1310
35.3.4.3	グループ A 優先制御動作	1311
35.3.5	コンペア機能 (ウィンドウ A、ウィンドウ B)	1321
35.3.5.1	コンペア機能ウィンドウ A/B	1321
35.3.5.2	コンペア機能の ELC 出力	1323
35.3.5.3	データ格納バッファの使用方法	1325
35.3.5.4	コンペア機能制約	1326
35.3.6	アナログ入力のサンプリング時間とスキヤン変換時間	1326
35.3.7	A/D データレジスタの自動クリア機能の使用例	1329
35.3.8	A/D 変換値加算 / 平均機能	1329
35.3.9	断線検出アシスト機能	1329
35.3.10	非同期トリガによる A/D 変換の開始	1331
35.3.11	周辺モジュールからの同期トリガによる A/D 変換の開始	1331
35.4	割り込み要因と DTC 転送要求	1331
35.4.1	割り込み要求	1331
35.5	イベントリンク機能	1332
35.5.1	ELC へのイベント出力動作	1332
35.5.2	ELC からのイベントによる 12 ビット A/D コンバータの動作	1332
35.5.3	ELC からのイベントによる 12 ビット A/D コンバータの注意事項	1332
35.6	基準電圧の選択方法	1332
35.7	許容信号源インピーダンスについて	1333
35.8	使用上の注意事項	1334
35.8.1	データレジスタの読出し注意事項	1334
35.8.2	A/D 変換停止時の注意事項	1334
35.8.3	A/D 変換強制停止と開始時の動作タイミング	1335

35.8.4	スキャン終了割り込み処理の注意事項	1335
35.8.5	モジュールストップ機能の設定	1335
35.8.6	低消費電力状態への遷移時の注意	1335
35.8.7	ソフトウェアスタンバイモード解除時の注意	1335
35.8.8	12 ビット A/D コンバータを使用する場合の端子の設定	1335
35.8.9	断線検出アシスト機能使用時の絶対精度誤差	1336
35.8.10	ADHSC ビットの書き換え手順	1336
35.8.11	アナログ電源端子他の設定範囲	1337
35.8.12	ボード設計上の注意	1338
35.8.13	ノイズ対策上の注意	1338
36.	D/A コンバータ (DAa)	1339
36.1	概要	1339
36.2	レジスタの説明	1340
36.2.1	D/A データレジスタ m (DADRm) (m = 0, 1)	1340
36.2.2	D/A 制御レジスタ (DACR)	1341
36.2.3	データレジスタフォーマット選択レジスタ (DADPR)	1341
36.2.4	D/A A/D 同期スタート制御レジスタ (DAADSCR)	1342
36.3	動作説明	1343
36.3.1	D/A 変換と A/D 変換の干渉対策	1344
36.4	イベントリンクの動作設定手順	1346
36.5	イベントリンク動作における注意事項	1346
36.6	使用上の注意事項	1347
36.6.1	モジュールストップ機能の設定	1347
36.6.2	モジュールストップ時の D/A コンバータの動作	1347
36.6.3	ソフトウェアスタンバイモード時の D/A コンバータの動作	1347
36.6.4	D/A 変換と A/D 変換の干渉対策有効時の注意事項	1347
37.	温度センサ (TEMPSA)	1348
37.1	概要	1348
37.2	レジスタの説明	1349
37.2.1	温度センサ校正データレジスタ (TSCDR)	1349
37.3	温度センサの使用方法	1350
37.3.1	使用前の準備	1350
37.3.2	12 ビット A/D コンバータの設定	1351
38.	コンパレータ B (CMPBa)	1352
38.1	概要	1352
38.2	レジスタの説明	1355
38.2.1	コンパレータ B 制御レジスタ 1 (CPBCNT1)	1355
38.2.2	コンパレータ B 制御レジスタ 2 (CPBCNT2)	1355
38.2.3	コンパレータ B フラグレジスタ (CPBFLG)	1356
38.2.4	コンパレータ B 割り込み制御レジスタ (CPBINT)	1357

38.2.5	コンパレータ B フィルタ選択レジスタ (CPBF)	1358
38.2.6	コンパレータ B モード選択レジスタ (CPBMD)	1358
38.2.7	コンパレータ B リファレンス入力電圧選択レジスタ (CPBREF)	1359
38.2.8	コンパレータ B 出力制御レジスタ (CPBOCR)	1360
38.3	動作説明	1361
38.3.1	設定手順	1361
38.3.2	動作例	1363
38.3.3	コンパレータ B _n デジタルフィルタ (n = 0, 1)	1365
38.3.4	コンパレータ B _n 出力機能 (n = 0, 1)	1366
38.3.5	コンパレータ B を使用したソフトウェアスタンバイモード復帰例	1366
38.4	割り込み	1367
38.5	イベントリンク出力機能	1367
38.5.1	割り込み処理とイベントリンクの関係	1367
38.6	使用上の注意事項	1367
38.6.1	モジュールストップ機能の設定	1367
39.	データ演算回路 (DOC)	1368
39.1	概要	1368
39.2	レジスタの説明	1369
39.2.1	DOC コントロールレジスタ (DOCR)	1369
39.2.2	DOC データインプットレジスタ (DODIR)	1370
39.2.3	DOC データセッティングレジスタ (DODSR)	1370
39.3	動作説明	1371
39.3.1	データ比較モード	1371
39.3.2	データ加算モード	1372
39.3.3	データ減算モード	1373
39.4	割り込み要求	1373
39.5	イベントリンク出力機能	1374
39.5.1	割り込み処理とイベントリンクの関係	1374
39.6	使用上の注意事項	1374
39.6.1	モジュールストップ機能の設定	1374
40.	RAM	1375
40.1	概要	1375
40.2	使用上の注意事項	1375
40.2.1	消費電力低減機能	1375
40.2.2	RAM の自己診断に関する注意事項	1375
41.	フラッシュメモリ (FLASH)	1376
41.1	概要	1376
41.2	ROM の領域とブロックの構成	1377
41.3	E2 データフラッシュの領域とブロックの構成	1378
41.4	レジスタの説明	1379

41.4.1	E2 データフラッシュ制御レジスタ (DFLCTL)	1379
41.4.2	フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)	1380
41.4.3	メモリウェイトサイクル設定レジスタ (MEMWAITR)	1381
41.4.4	プロテクト解除レジスタ (FPR)	1382
41.4.5	プロテクト解除ステータスレジスタ (FPSR)	1382
41.4.6	フラッシュ P/E モード制御レジスタ (FPMCR)	1383
41.4.7	フラッシュ初期設定レジスタ (FISR)	1384
41.4.8	フラッシュリセットレジスタ (FRESETR)	1385
41.4.9	フラッシュ領域選択レジスタ (FASR)	1386
41.4.10	フラッシュ制御レジスタ (FCR)	1387
41.4.11	フラッシュエクストラ領域制御レジスタ (FEXCR)	1389
41.4.12	フラッシュ処理開始アドレスレジスタ H (FSARH)	1390
41.4.13	フラッシュ処理開始アドレスレジスタ L (FSARL)	1390
41.4.14	フラッシュ処理終了アドレスレジスタ H (FEARH)	1391
41.4.15	フラッシュ処理終了アドレスレジスタ L (FEARL)	1391
41.4.16	フラッシュライトバッファレジスタ n (FWBn) (n = 0 ~ 3)	1392
41.4.17	フラッシュステータスレジスタ 0 (FSTATR0)	1393
41.4.18	フラッシュステータスレジスタ 1 (FSTATR1)	1395
41.4.19	フラッシュエラーアドレスモニタレジスタ H (FEAMH)	1396
41.4.20	フラッシュエラーアドレスモニタレジスタ L (FEAML)	1396
41.4.21	フラッシュスタートアップ設定モニタレジスタ (FSCMR)	1397
41.4.22	フラッシュアクセスウィンドウ開始アドレスモニタレジスタ (FAWSMR)	1398
41.4.23	フラッシュアクセスウィンドウ終了アドレスモニタレジスタ (FAWEMR)	1398
41.4.24	ユニーク ID レジスタ n (UIDRn) (n = 0 ~ 3)	1398
41.5	スタートアッププログラム保護機能	1399
41.6	エリアプロテクション	1400
41.7	プログラム/イレーズ	1401
41.7.1	シーケンサのモード	1401
41.7.1.1	E2 データフラッシュアクセス禁止モード	1401
41.7.1.2	リードモード	1402
41.7.1.3	P/E モード	1402
41.7.2	モード遷移	1402
41.7.2.1	E2 データフラッシュアクセス禁止モードからリードモードへの遷移	1402
41.7.2.2	リードモードから P/E モードへの遷移	1403
41.7.2.3	P/E モードからリードモードへの遷移	1405
41.7.3	ソフトウェアコマンド一覧	1406
41.7.4	ソフトウェアコマンド使用方法	1407
41.7.4.1	プログラム	1407
41.7.4.2	ブロックイレーズ	1409
41.7.4.3	全ブロックイレーズ	1411

41.7.4.4	ブランクチェック	1413
41.7.4.5	スタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウプロテクト/ アクセスウィンドウ情報プログラム	1415
41.7.4.6	ソフトウェアコマンドの強制停止	1416
41.7.5	割り込み	1416
41.8	ブートモード	1417
41.8.1	ブートモード (SCI インタフェース)	1418
41.8.1.1	ブートモード (SCI インタフェース) の動作条件	1418
41.8.1.2	ブートモード (SCI インタフェース) の起動方法	1419
41.8.2	ブートモード (FINE インタフェース)	1420
41.8.2.1	ブートモード (FINE インタフェース) の動作条件	1420
41.9	フラッシュメモリプロテクト機能	1421
41.9.1	ID コードプロテクト	1421
41.9.1.1	ブートモード ID コードプロテクト	1422
41.9.1.2	オンチップデバ깅エミュレータ ID コードプロテクト	1423
41.10	通信プロトコル	1424
41.10.1	ブートモード (SCI インタフェース) の状態遷移	1424
41.10.2	コマンドとレスポンスの構成	1425
41.10.3	未定義コマンドに対するレスポンス	1425
41.10.4	ブートモードステータス問い合わせ	1426
41.10.5	問い合わせコマンド	1427
41.10.5.1	サポートデバイス問い合わせ	1427
41.10.5.2	データ領域有無問い合わせ	1428
41.10.5.3	ユーザ領域情報問い合わせ	1428
41.10.5.4	データ領域情報問い合わせ	1429
41.10.5.5	ブロック情報問い合わせ	1429
41.10.6	設定コマンド	1430
41.10.6.1	デバイス選択	1430
41.10.6.2	動作周波数選択	1431
41.10.6.3	プログラム/イレーズホストコマンド待ちステート遷移	1432
41.10.7	ID コード認証コマンド	1433
41.10.7.1	ID コードチェック	1433
41.10.8	プログラム/イレーズコマンド	1434
41.10.8.1	ユーザ/データ領域プログラム準備	1434
41.10.8.2	プログラム	1435
41.10.8.3	データ領域プログラム	1436
41.10.8.4	イレーズ準備	1437
41.10.8.5	ブロックイレーズ	1437
41.10.9	リードチェックコマンド	1438
41.10.9.1	メモリリード	1438
41.10.9.2	ユーザ領域チェックサム	1439

41.10.9.3	データ領域チェックサム	1440
41.10.9.4	ユーザ領域ブランクチェック	1440
41.10.9.5	データ領域ブランクチェック	1441
41.10.9.6	アクセスウィンドウ情報プログラム	1441
41.10.9.7	アクセスウィンドウリード	1442
41.10.9.8	アクセスウィンドウプロテクト	1443
41.10.9.9	アクセスウィンドウプロテクトフラグリード	1443
41.11	ブートモード (SCI インタフェース) でのシリアルプログラマ動作説明	1444
41.11.1	ビットレート自動調整	1445
41.11.2	MCU の情報取得	1446
41.11.3	デバイスの指定、ビットレートの変更	1447
41.11.4	プログラム / イレーズホストコマンド待ち状態への遷移	1448
41.11.5	ブートモード ID コードプロテクトの解除	1449
41.11.6	ユーザ領域、データ領域のイレーズ	1450
41.11.7	ユーザ領域、データ領域のプログラム	1451
41.11.8	ユーザ領域のデータ確認	1452
41.11.9	データ領域のデータ確認	1453
41.11.10	ユーザ領域のアクセスウィンドウ設定	1454
41.11.11	アクセスウィンドウの保護	1455
41.12	セルフプログラミングでの書き換え	1456
41.12.1	概要	1456
41.13	使用上の注意事項	1457
41.14	使用上の注意事項 (ブートモード)	1458
42.	電気的特性	1459
42.1	絶対最大定格	1459
42.2	推奨動作条件	1460
42.3	DC 特性	1461
42.4	標準 I/O 端子出力特性	1485
42.5	AC 特性	1487
42.5.1	クロックタイミング	1487
42.5.2	リセットタイミング	1493
42.5.3	低消費電力状態からの復帰タイミング	1494
42.5.4	制御信号タイミング	1500
42.5.5	内蔵周辺モジュールタイミング	1501
42.5.5.1	I/O ポート	1501
42.5.5.2	MTU2	1501
42.5.5.3	POE2	1502
42.5.5.4	TMR	1504
42.5.5.5	SCI	1505
42.5.5.6	RIIC	1512

42.5.5.7	RSPI	1514
42.5.5.8	A/D コンバータトリガ	1518
42.5.5.9	CAC	1518
42.5.5.10	CLKOUT	1519
42.6	A/D 変換特性	1520
42.7	D/A 変換特性	1528
42.8	温度センサ特性	1529
42.9	コンパレータ特性	1529
42.10	CTSU 特性	1531
42.11	パワーオンリセット回路、電圧検出回路特性	1531
42.12	発振停止検出タイミング	1535
42.13	ROM (コード格納用フラッシュメモリ) 特性	1536
42.14	E2 データフラッシュ (データ格納用フラッシュメモリ) 特性	1538
42.15	使用上の注意事項	1540
42.15.1	VCL コンデンサ、バイパスコンデンサ接続方法	1540
付録 1.	各処理状態におけるポートの状態	1545
付録 2.	外形寸法図	1547
改訂記録	1554

RX140 グループ

ルネサスマイクロコンピュータ

48MHz、32ビットRX MCU、FPU内蔵、204 Coremark、最大256Kバイトフラッシュメモリ、最大36端子の静電容量式タッチセンサ、最大9本の通信機能、12ビットA/D、D/A、RTC IEC60730対応機能、1.8~5.5V動作、暗号機能(オプション)

R01UH0905JJ0120

Rev.1.20

2024.11.22

特長

■ 32ビットRXv2 CPU コア内蔵

- 最高動作周波数 48MHz
204 Coremark の性能 (48MHz 動作時)
- DSP 強化: 32ビット積和、16ビット積差命令に対応
- FPU 搭載: 32ビット単精度浮動小数点 (IEEE754 に準拠)
- 除算器 (最速 2クロックで実行)
- 高速割り込み
- 5段パイプラインの CISC ハーバードアーキテクチャ
- 可変長命令形式: コードを大幅に短縮
- オンチップデバッグ回路内蔵

■ 消費電力低減機能

- 1.8V ~ 5.5V 動作の単一電源
- 4種類の低消費電力モード
- ソフトウェアスタンバイ中でも動作可能なローパワータイマを搭載
- 消費電流
高速動作モード: 58 μ A/MHz
ソフトウェアスタンバイモード: 0.25 μ A (typ.) (T_a = 25°C)
- ソフトウェアスタンバイからの復帰時間: 6.2 μ s (typ.)
(クロックソース: HOCO 32MHz 選択時、T_a = 25°C)

■ 内蔵コードフラッシュメモリ

- 64K/128K/256K バイトの容量
- オンボードによるユーザ書き込み
- 1.8V で書き換え可能
- 命令、オペランド用

■ 内蔵データフラッシュメモリ

- 4K/8K バイト (プログラム/イレーズ回数: 1,000,000 回 (typ))
- BGO (Back Ground Operation)

■ 内蔵 SRAM (ウェイトなし)

- 16K/32K/64K バイトの容量

■ DTC

- 5種類の転送モード

■ ELC

- 割り込みを介さず、イベント信号でモジュール動作が可能
- CPU スリープ状態でも、モジュール間のリンク動作が可能

■ リセットおよび電源電圧制御

- パワーオンリセット (POR) など 7種類のリセットに対応
- 低電圧検出機能 (LVD) の設定可能

■ クロック機能

- 外部クロック入力周波数: ~ 20MHz
- メインクロック発振子周波数: 1 ~ 20MHz
- サブクロック発振子周波数: 32.768kHz
- PLL 回路入力: 4MHz ~ 12MHz
- 低速オンチップオシレータ: 4MHz
- 高速オンチップオシレータ: 24/32/48MHz \pm 1%
- IWDT 専用オンチップオシレータ内蔵: 15kHz
- 32.768kHz RTC 専用クロックの生成
- クロック周波数精度測定回路 (CAC) 内蔵

■ リアルタイムクロック内蔵

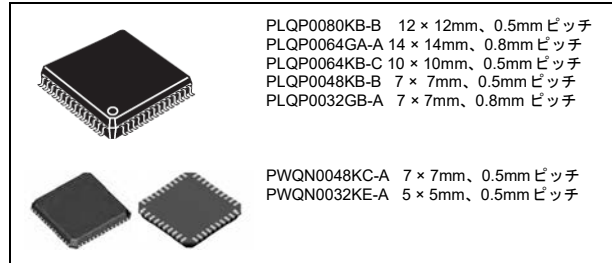
- 補正機能 (30秒、うるう年、誤差)
- カレンダーカウントモード/バイナリカウントモードを選択可能

■ 独立ウォッチドッグタイマ内蔵

- 15kHz IWDT 専用オンチップオシレータクロック動作

■ IEC60730 対応機能内蔵

- A/D コンバータ自己診断機能 / 断線検出アシスト機能、クロック周波数精度測定回路、独立ウォッチドッグタイマ、DOC による RAM テストアシスト機能など



PLQP0080KB-B 12 × 12mm、0.5mm ピッチ
PLQP0064GA-A 14 × 14mm、0.8mm ピッチ
PLQP0064KB-C 10 × 10mm、0.5mm ピッチ
PLQP0048KB-B 7 × 7mm、0.5mm ピッチ
PLQP0032GB-A 7 × 7mm、0.8mm ピッチ

PWQN0048KC-A 7 × 7mm、0.5mm ピッチ
PWQN0032KE-A 5 × 5mm、0.5mm ピッチ

■ MPC

- 周辺機能の入出力端子を複数個所から選択可能

■ 最大 9 本の通信機能を内蔵

- ISO11898-1 準拠の CAN (1 チャネル) 最大 1Mbps 転送
- 多彩な機能に対応した SCI (最大 6 チャネル) 調歩同期式モード (ボーレート 0 ~ 255/255 の微調整可能) / クロック同期式モード / スマートカードインタフェースモード
- I²C バスインタフェース 最大 400kbps 転送 SMBus に対応 (1 チャネル)
- RSPI (1 チャネル) 最大 16Mbps 転送

■ 最大 12 本の拡張タイマ機能

- 16ビット MTU: インプットキャプチャ、アウトプットコンペア、相補 PWM 出力、位相計数モード (6 チャネル)
- 8ビット TMR (4 チャネル)
- 16ビット CMT (2 チャネル)

■ 12ビット A/D コンバータ内蔵

- 最小 0.67 μ s 変換が可能
- 17 (外部端子入力) + 1 チャネル (内部入力)
- チャネルごとにサンプリング時間を設定可能
- 変換結果コンペア機能内蔵
- 自己診断機能 / アナログ入力断線検出アシスト機能内蔵
- モータ制御に適したダブルトリガ (データ二重化) 機能

■ D/A コンバータ内蔵

- 2 チャネル

■ 静電容量式タッチセンサ

- 自己容量方式: 1 端子 1 キー構成で最大 36 キーに対応
- 相互容量方式: 8 × 8 のマトリクス構成により最大 64 キーに対応

■ コンパレータ B

- 2 チャネル

■ 汎用入出力ポート内蔵

- 5V トレラント、オープンドレイン、入力プルアップ

■ 暗号機能 (オプション)

- AES (鍵長 128/256 ビット)
- RNG (真性乱数生成器)

■ 温度センサ内蔵

■ ユニーク ID

- マイコン個体ごとの 32 バイト長の ID コード

■ 動作周囲温度

- -40 ~ +85°C
- -40 ~ +105°C

■ 用途

- 一般産業、民生機器

1. 概要

1.1 仕様概要

表 1.1 に仕様概要を、表 1.2 に RX140 グループパッケージ別機能比較一覧を示します。

表 1.1 の仕様概要には最大仕様を掲載しており、周辺モジュールのチャンネル数はパッケージのピン数によって異なります。詳細は、「表 1.2 RX140 グループパッケージ別機能比較一覧」を参照してください。

表 1.1 仕様概要 (1/4)

分類	モジュール/機能	説明
CPU	中央演算処理装置	<ul style="list-style-type: none"> 最高動作周波数：48MHz 32ビットRX CPU (RXv2) 最小命令実行時間：1命令1クロック アドレス空間：4Gバイト・リニアアドレス レジスタ <ul style="list-style-type: none"> 汎用レジスタ：32ビット×16本 制御レジスタ：32ビット×10本 アキュムレータ：72ビット×2本 基本命令：75種類 可変長命令形式 浮動小数点演算命令：11種類 DSP機能命令：23種類 アドレッシングモード：11種類 データ配置 <ul style="list-style-type: none"> 命令：リトルエンディアン データ：リトルエンディアン/ビッグエンディアンを選択可能 32ビット乗算器：32ビット×32ビット→64ビット 除算器：32ビット÷32ビット→32ビット パレルシフタ：32ビット
	FPU	<ul style="list-style-type: none"> 単精度浮動小数点(32ビット) IEEE754に準拠したデータタイプ、および例外
メモリ	ROM	<ul style="list-style-type: none"> 容量：64K/128K/256Kバイト 32MHz以下：ウェイトなし 32MHz～48MHz：ウェイトあり 書き換え方法：シリアルライタープログラミング(調歩同期式シリアル通信)、セルフプログラミング
	RAM	<ul style="list-style-type: none"> 容量：16K/32K/64Kバイト ノーウェイトアクセス
	E2データフラッシュ	<ul style="list-style-type: none"> 容量：4K/8Kバイト プログラム/イレーズ回数：1,000,000回(typ)
MCU動作モード		シングルチップモード
クロック	クロック発生回路	<ul style="list-style-type: none"> メインクロック発振器、サブクロック発振器、低速および高速オンチップオシレータ、PLL周波数シンセサイザ、IWDTC専用オンチップオシレータ 発振停止検出：あり クロック周波数精度測定回路(CAC)：あり システムクロック(ICLK)、周辺モジュールクロック(PCLK)、FlashIFクロック(FCLK)を個別に設定可能 CPU、バスマスタなどのシステム系はICLK同期：Max 48MHz 周辺モジュールはPCLKB同期：Max 32MHz フラッシュ周辺回路はFCLK同期：Max 48MHz S12ADのADCLKはPCLKD同期：Max 48MHz ICLKの周波数は、FCLK、PCLKB、PCLKDのn倍(n：1, 2, 4, 8, 16, 32, 64)のみ設定可能
リセット		RES#端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、独立ウォッチドッグタイマリセット、ソフトウェアリセット
電圧検出	電圧検出回路(LVDAb)	<ul style="list-style-type: none"> VCCが電圧検出レベル以下になると、内部リセットまたは内部割り込みを発生 電圧検出0は検出電圧を4レベルから選択可能 電圧検出1は検出電圧を14レベルから選択可能 電圧検出2は検出電圧を4レベルから選択可能

表 1.1 仕様概要 (2/4)

分類	モジュール/機能	説明
低消費電力	消費電力低減機能	<ul style="list-style-type: none"> モジュールストップ機能 4種類の低消費電力モード スリープモード、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモード
	動作電力低減機能	<ul style="list-style-type: none"> 動作電力制御モード 高速動作モード、中速動作モード、中速動作モード2、低速動作モード
割り込み	割り込み コントローラ (ICUb)	<ul style="list-style-type: none"> 割り込みベクタ数：256 外部割り込み：要因数9 (NMI、IRQ0～IRQ7端子) ノンマスクابل割り込み：要因数5 (NMI端子、発振停止検出割り込み、電圧監視1割り込み、電圧監視2割り込み、IWDTC割り込み) 16レベルの割り込み優先順位を設定可能
DMA	データ転送ファ コントローラ (DTCb)	<ul style="list-style-type: none"> 転送モード：ノーマル転送モード、リポート転送モード、ブロック転送モード 起動要因：割り込み要因により起動 シーケンス転送が可能
I/Oポート	汎用入出力ポート	<p>80ピン/64ピン (ROM容量：128Kバイト以上の製品)/64ピン (ROM容量：64Kバイトの製品)/48ピン/32ピン</p> <ul style="list-style-type: none"> 入出力：69/53/53/39/23 入力：3/3/1/1/1 プルアップ抵抗：69/53/53/39/23 オープンドレイン出力：47/35/35/27/20 5Vトレラント：4/2/2/2/2
イベントリンクコントローラ (ELC)		<ul style="list-style-type: none"> 48種類のイベント信号を直接モジュールへリンク可能 タイマ系のモジュールはイベント入力時の動作の選択が可能 ポートBのイベントリンク動作が可能
マルチファンクションピン コントローラ (MPC)		入出力機能を複数の端子から選択可能
タイマ	マルチファンク ションタイマパルス ユニット2 (MTU2a)	<ul style="list-style-type: none"> (16ビット×6チャンネル)×1ユニット 16ビットタイマ6チャンネルをベースに最大16本のパルス入出力、および3本のパルス入力が可能 チャンネルごとにカウントクロック (PCLK/1, PCLK/4, PCLK/16, PCLK/64, PCLK/256, PCLK/1024, MTCLKA, MTCLKB, MTCLKC, MTCLKD)を8種類または7種類選択可能 (チャンネル5は4種類) インプットキャプチャ機能 21本のアウトプットコンペアレジスタ兼インプットキャプチャレジスタ パルス出力モード 相補PWM出力モード リセット同期PWMモード 位相計数モード A/Dコンバータの変換開始トリガを生成可能
	ポートアウト プットイネーブル2 (POE2a)	MTU波形出力端子のハイインピーダンス制御
	コンペアマッチ タイマ (CMT)	<ul style="list-style-type: none"> (16ビット×2チャンネル)×1ユニット 4種類のクロック (PCLK/8, PCLK/32, PCLK/128, PCLK/512)を選択可能
	独立ウォッチドッグ タイマ (IWDTCa)	<ul style="list-style-type: none"> 14ビット×1チャンネル カウントクロック：IWDTC専用低速クロック 1分周、16分周、32分周、64分周、128分周、256分周
	リアルタイム クロック (RTCB)	<ul style="list-style-type: none"> クロックソース：サブクロックにて動作 カレンダーカウントモード/バイナリカウントモードを選択可能 割り込み：アラーム割り込み、周期割り込み、桁上げ割り込み
	ローパワータイマ (LPTa)	<ul style="list-style-type: none"> 16ビット×1チャンネル クロックソース：サブクロック、LOCOの4分周クロック、IWDTC専用低速クロックから選択可能 クロック分周比：分周なし、2分周、4分周、8分周、16分周、32分周から選択可能 PWM出力モード
	8ビットタイマ (TMRa)	<ul style="list-style-type: none"> (8ビット×2チャンネル)×2ユニット 7種類の内部クロック (PCLK/1, PCLK/2, PCLK/8, PCLK/32, PCLK/64, PCLK/1024, PCLK/8192)と外部クロックを選択可能 任意のデューティのパルス出力やPWM出力が可能 2チャンネルをカスケード接続し16ビットタイマとして使用可能

表 1.1 仕様概要 (3/4)

分類	モジュール/機能	説明
通信機能	シリアルコミュニケーションインタフェース (SClg, SClh, SCIk)	<ul style="list-style-type: none"> 6チャンネル(チャンネル1、5 : SCIk、6、8、9 : SClg、チャンネル12 : SClh) SClg シリアル通信方式 : 調歩同期式/クロック同期式/スマートカードインタフェース マルチプロセッサ機能 内蔵ボーレートジェネレータで任意のビットレートを選択可能 LSBファースト/MSBファーストを選択可能 TMRからの平均転送レートクロック入力が可能(SCI5, SCI6, SCI12) スタートビット検出 : レベルおよびエッジを選択可能 簡易I ² Cサポート 簡易SPIサポート 7、8、9ビット転送モードをサポート ビットレートモジュレーション機能をサポート ELCによるイベントリンク機能をサポート(SCI5のみ) <ul style="list-style-type: none"> SCIk (SClgに以下の機能を追加) データ一致検出 調歩同期式RXDサンプリング調整機能 SClh (SClgに以下の機能を付加) スタートフレーム、インフォメーションフレームから構成されるシリアル通信プロトコルをサポート LINフォーマットをサポート
	I ² Cバスインタフェース (RllCa)	<ul style="list-style-type: none"> 1チャンネル 通信フォーマット : I²Cバスフォーマット/SMBusフォーマット マスタ/スレーブを選択可能 ファストモード対応
	シリアルペリフェラルインタフェース (RSPIC)	<ul style="list-style-type: none"> 1チャンネル 転送機能 MOSI (Master Out Slave In)、MISO (Master In Slave Out)、SSL (Slave Select)、RSPCK (RSPIC Clock)信号を使用して、SPI動作(4線式)/クロック同期式動作(3線式)でシリアル通信が可能 マスタ/スレーブモードを選択可能 データフォーマット LSBファースト/MSBファーストを選択可能 転送ビット長(8~16、20、24、32ビット)を選択可能 送信/受信バッファは128ビット 一度の送受信で最大4フレームを転送(1フレームは最大32ビット) 送信/受信データをバイト単位でスワップ可能 送信/受信バッファ構成はダブルバッファ マスタ受信時、RSPCKは受信バッファフルで自動停止可能
	CANモジュール (RSCAN)	<ul style="list-style-type: none"> 1チャンネル ISO11898-1仕様に準拠(標準フレーム/拡張フレーム) 16メッセージボックス
12ビットA/Dコンバータ (S12ADE)	<ul style="list-style-type: none"> 12ビット(1ユニット×18チャンネル(注1)) 分解能 : 12ビット 最小変換時間 : 1チャンネル当たり0.67μs (ADCLK = 48MHz動作時) 動作モード スキャンモード(シングルスキャンモード、連続スキャンモード、グループスキャンモード) グループA優先制御動作(グループスキャンモードのみ) サンプリング可変機能 チャンネル毎にサンプリング時間が設定可能 自己診断機能 ダブルトリガモード(A/D変換データ二重化機能) アナログ入力断線検出機能 変換結果コンペア機能 A/D変換開始条件 ソフトウェアトリガ、タイマ(MTU)のトリガ、外部トリガ、ELC ELCによるイベントリンク機能をサポート 	
温度センサ (TEMPSA)	<ul style="list-style-type: none"> 1チャンネル 温度を電圧に変換し12ビットA/Dコンバータでデジタル化 	
D/Aコンバータ (DA)	<ul style="list-style-type: none"> 2チャンネル 分解能 : 8ビット 出力電圧 : 0V~AVCC0 	

表 1.1 仕様概要 (4/4)

分類	モジュール/機能	説明
CRC演算器(CRC)		<ul style="list-style-type: none"> 8ビット単位の任意のデータ長に対してCRCコードを生成 3つの多項式から選択可能 $X^8 + X^2 + X + 1$, $X^{16} + X^{15} + X^2 + 1$, $X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$ LSBファースト/MSBファースト通信用CRCコード生成の選択が可能
コンパレータB (CMPBa)		<ul style="list-style-type: none"> 2チャンネル リファレンス電圧とアナログ入力電圧の比較機能 ウィンドウコンパレータ動作/基本コンパレータ動作の選択
静電容量式タッチセンサ (CTSUS2L, CTSU2L)		<ul style="list-style-type: none"> CTSUS2L 自己容量方式：1端子1キー構成で最大36キーに対応 相互容量方式：8×8のマトリクス構成により最大64キーに対応 CTSUS2L (CTSUS2Lに以下の機能を付加) 自動補正機能 自動判定機能
データ演算回路(DOC)		16ビットのデータを比較、加算、減算する機能
ユニークID		マイコン個体ごとの32バイト長のIDコード
暗号機能	AESハードウェアアクセラレータ (AESA)	<ul style="list-style-type: none"> 鍵長：128/256ビット ECB/CBC/CTRの動作モードをサポート 演算処理速度： 176サイクル@128ビット鍵長 240サイクル@256ビット鍵長 FIPS PUB 197準拠
	真性乱数生成器 (RNGA)	<ul style="list-style-type: none"> 乱数ビット長：32ビット 乱数生成後、乱数生成割り込みが発生
電源電圧/動作周波数		VCC = 1.8 ~ 5.5V : 48MHz
動作周囲温度		Dバージョン：-40 ~ +85°C、Gバージョン：-40 ~ +105°C
パッケージ		80ピンLFQFP (PLQP0080KB-B) 12 × 12mm、0.5mmピッチ 64ピンLFQFP (PLQP0064KB-C) 10 × 10mm、0.5mmピッチ 64ピンLQFP (PLQP0064GA-A) 14 × 14mm、0.8mmピッチ 48ピンLFQFP (PLQP0048KB-B) 7 × 7mm、0.5mmピッチ 48ピンHWQFN (PWQN0048KC-A) 7 × 7mm、0.5mmピッチ 32ピンLQFP (PLQP0032GB-A) 7 × 7mm、0.8mmピッチ 32ピンHWQFN (PWQN0032KE-A) 5 × 5mm、0.5mmピッチ
デバッグインタフェース		FINEインタフェース

注1. 12ビットA/Dコンバータには外部端子入力(17チャンネル)と内部入力(1チャンネル)があります。詳細は、「35. 12ビットA/Dコンバータ (S12ADE)」を参照してください。

表 1.2 RX140グループパッケージ別機能比較一覧

モジュール/機能		ROM容量が128Kバイト以上の製品			ROM容量が64Kバイトの製品		
		80ピン	64ピン	48ピン	64ピン	48ピン	32ピン
割り込み	外部割り込み	NMI, IRQ0 ~ 7	NMI, IRQ0 ~ IRQ2, IRQ4 ~ 7	NMI, IRQ0 ~ IRQ2, IRQ4 ~ 7	NMI, IRQ0 ~ IRQ2, IRQ4 ~ 7	NMI, IRQ0 ~ IRQ2, IRQ4 ~ 7	NMI, IRQ0 ~ IRQ2, IRQ5 ~ 7
DTC	データトランスファコントローラ	あり			あり		
タイマ	マルチファンクションタイマ パルスユニット2	6チャンネル			6チャンネル		
	ポートアウトプットイネーブル2	POE0# ~ POE3#, POE8#			POE0# ~ POE3#, POE8#		POE0#, POE8#
	8ビットタイマ	2チャンネル×2ユニット			2チャンネル×2ユニット		
	コンペアマッチタイマ	2チャンネル×1ユニット			2チャンネル×1ユニット		
	ローパワータイマ	1チャンネル			1チャンネル		
	リアルタイムクロック	あり	なし		あり	なし	
	独立ウォッチドックタイマ	あり			あり		
通信機能	シリアルコミュニケーションインタ フェース(SCIk)	2チャンネル (SCI1, 5)			2チャンネル (SCI1, 5)		
	シリアルコミュニケーションインタ フェース(SCIg)	3チャンネル (SCI6, 8, 9)		2チャンネル (SCI6, 8)	なし		
	シリアルコミュニケーション インタフェース(SCIh)	1チャンネル (SCI12)			1チャンネル (SCI12)		
	I2Cバスインタフェース	1チャンネル			1チャンネル		
	シリアルペリフェラルインタフェース	1チャンネル			1チャンネル		
	CANモジュール	1チャンネル			なし		
静電容量式タッチセンサ(CTSU2SL)		36チャンネル	32チャンネル	24チャンネル	なし		
静電容量式タッチセンサ(CTSU2L)		なし			12チャンネル	12チャンネル	12チャンネル
12ビットA/Dコンバータ		18チャンネル (注1)	15チャンネル (注1)	11チャンネル (注1)	15チャンネル (注1)	11チャンネル (注1)	8チャンネル (注1)
温度センサ		あり			あり		
D/Aコンバータ		2チャンネル		なし	2チャンネル	なし	
CRC演算器		あり			あり		
イベントリンクコントローラ		あり			あり		
コンパレータB		2チャンネル			2チャンネル		
暗号機能	AESハードウェアアクセラレータ (AES)	あり/なし			なし		
	真性乱数生成器(RNGA)	あり/なし			なし		
パッケージ		80ピン LQFP (0.5mm)	64ピン LQFP(0.8mm) 64ピン LQFP (0.5mm)	48ピン LQFP (0.5mm) 48ピン HWQFN (0.5mm)	64ピン LQFP(0.8mm) 64ピン LQFP (0.5mm)	48ピン LQFP (0.5mm) 48ピン HWQFN (0.5mm)	32ピン LQFP(0.8mm) 32ピン HWQFN (0.5mm)

注1. 内部入力(1チャンネル)を含みます。詳細は、「35. 12ビットA/Dコンバータ (S12ADE)」を参照してください。

1.2 製品一覧

表 1.3 に製品一覧表を、図 1.1 に型名とメモリサイズ・パッケージを示します。

表 1.3 製品一覧表 (1/2)

グループ	型名	発注型名	パッケージ	ROM 容量	RAM 容量	E2データ フラッシュ	動作周波数 (max)	暗号	動作周囲温度
RX140	R5F51406ADFN	R5F51406ADFN#30	PLQP0080KB-B	256Kバイト	64Kバイト				-40~+85°C
	R5F51406ADFM	R5F51406ADFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51406ADFK	R5F51406ADFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51406ADFL	R5F51406ADFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51406ADNE	R5F51406ADNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51406AGFN	R5F51406AGFN#30	PLQP0080KB-B						-40~+105°C
	R5F51406AGFM	R5F51406AGFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51406AGFK	R5F51406AGFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51406AGFL	R5F51406AGFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51406AGNE	R5F51406AGNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51405ADFN	R5F51405ADFN#30	PLQP0080KB-B	128Kバイト	32Kバイト	8Kバイト	48MHz	なし	-40~+85°C
	R5F51405ADFM	R5F51405ADFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51405ADFK	R5F51405ADFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51405ADFL	R5F51405ADFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51405ADNE	R5F51405ADNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51405AGFN	R5F51405AGFN#30	PLQP0080KB-B						-40~+105°C
	R5F51405AGFM	R5F51405AGFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51405AGFK	R5F51405AGFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51405AGFL	R5F51405AGFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51405AGNE	R5F51405AGNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51403ADFM	R5F51403ADFM#30	PLQP0064KB-C	64Kバイト	16Kバイト	4Kバイト			-40~+85°C
	R5F51403ADFK	R5F51403ADFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51403ADFL	R5F51403ADFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51403ADNE	R5F51403ADNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51403ADFJ	R5F51403ADFJ#30	PLQP0032GB-A						
	R5F51403ADNH	R5F51403ADNH#30	PWQN0032KE-A						-40~+105°C
	R5F51403AGFM	R5F51403AGFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51403AGFK	R5F51403AGFK#30	PLQP0064GA-A						
R5F51403AGFL	R5F51403AGFL#30	PLQP0048KB-B							
R5F51403AGNE	R5F51403AGNE#30	PWQN0048KC-A							
R5F51403AGFJ	R5F51403AGFJ#30	PLQP0032GB-A							
R5F51403AGNH	R5F51403AGNH#30	PWQN0032KE-A							

表 1.3 製品一覧表 (2/2)

グループ	型名	発注型名	パッケージ	ROM 容量	RAM 容量	E2データ フラッシュ	動作周波数 (max)	暗号	動作周囲温度
RX140	R5F51406BDFN	R5F51406BDFN#30	PLQP0080KB-B	256Kバイト	64Kバイト				-40~+85°C
	R5F51406BDFM	R5F51406BDFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51406BDFK	R5F51406BDFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51406BDFL	R5F51406BDFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51406BDNE	R5F51406BDNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51406BGFN	R5F51406BGFN#30	PLQP0080KB-B						
	R5F51406BGFM	R5F51406BGFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51406BGFK	R5F51406BGFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51406BGFL	R5F51406BGFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51406BGNE	R5F51406BGNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51405BDFN	R5F51405BDFN#30	PLQP0080KB-B	128Kバイト	32Kバイト	8Kバイト	48MHz	あり	-40~+105°C
	R5F51405BDFM	R5F51405BDFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51405BDFK	R5F51405BDFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51405BDFL	R5F51405BDFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51405BDNE	R5F51405BDNE#30	PWQN0048KC-A						
	R5F51405BGFN	R5F51405BGFN#30	PLQP0080KB-B						
	R5F51405BGFM	R5F51405BGFM#30	PLQP0064KB-C						
	R5F51405BGFK	R5F51405BGFK#30	PLQP0064GA-A						
	R5F51405BGFL	R5F51405BGFL#30	PLQP0048KB-B						
	R5F51405BGNE	R5F51405BGNE#30	PWQN0048KC-A						

注. 発注型名は、本マニュアル発行時に量産もしくは開発中のものです。
最新の発注型名は弊社ホームページでご確認ください。

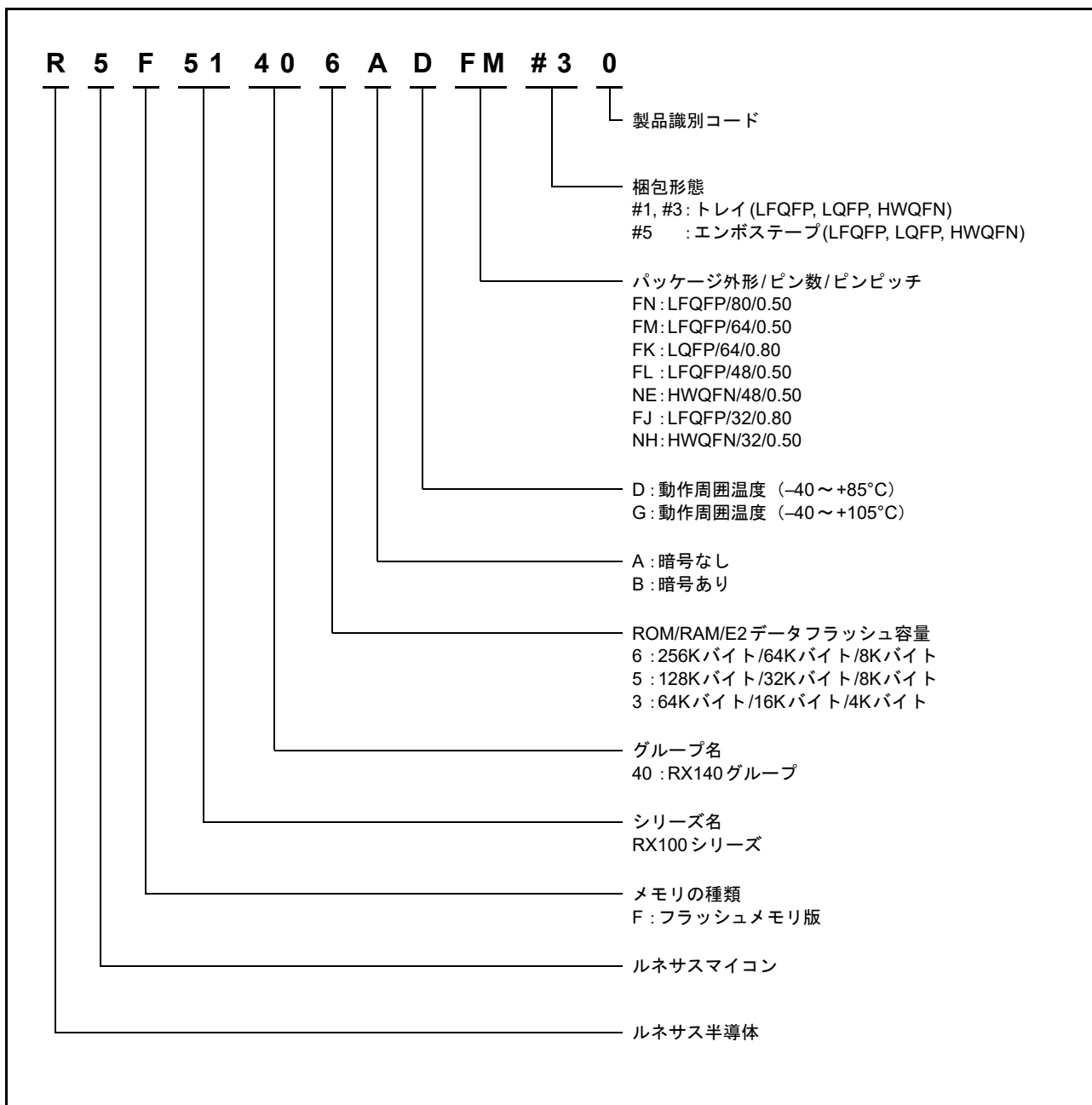


図 1.1 型名とメモリサイズ・パッケージ

1.3 ブロック図

図 1.2 にブロック図を示します。

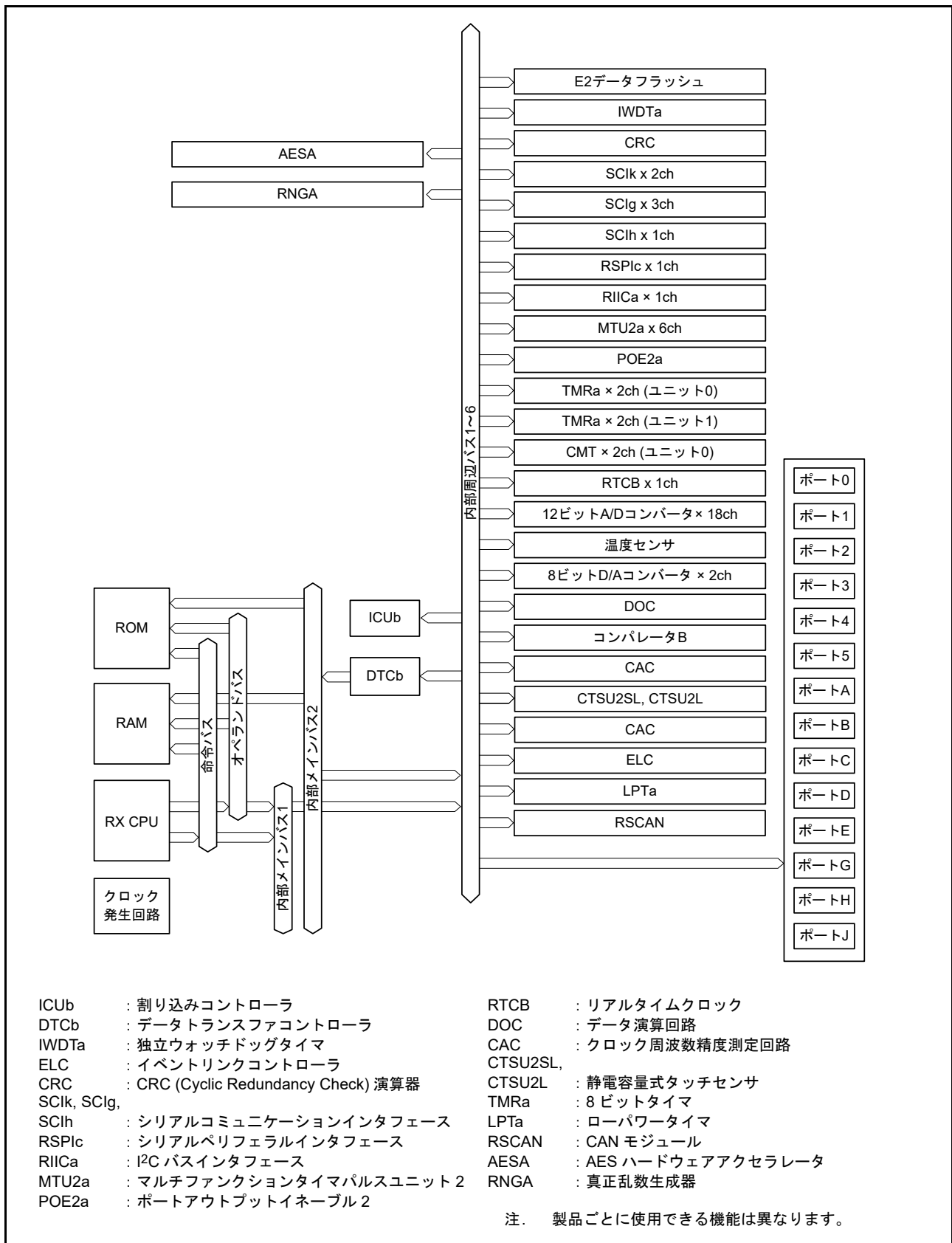


図 1.2 ブロック図

1.4 端子機能

表 1.4 に端子機能一覧を示します。

表 1.4 端子機能一覧 (1/3)

分類	端子名	入出力	機能
電源	VCC	入力	電源端子。システムの電源に接続してください
	VCL	—	内部電源安定用の平滑コンデンサ(4.7μF)を介してVSSに接続してください。コンデンサは端子近くに配置してください
	VSS	入力	グランド端子。システムの電源(0V)に接続してください
クロック	XTAL	出力	水晶発振子接続端子。また、EXTAL端子は外部クロックを入力することもできます
	EXTAL	入力	
	XCIN	入力	サブクロック発振器の入出力端子。XCINとXCOUTの間には、水晶発振子を接続してください
	XCOUT	出力	
	CLKOUT	出力	クロック出力端子
動作モードコントロール	MD	入力	動作モードを設定。使用方法は、「3.1 動作モードの種類と選択」を参照してください
システム制御	RES#	入力	リセット端子。この端子がLowになると、リセット状態となります
電圧検出回路	CMPA2	入力	電圧検出2用検出対象電圧端子
クロック周波数精度測定回路	CACREF	入力	クロック周波数精度測定回路の入力端子
オンチップエミュレータ	FINED	入出力	FINEインタフェース端子
割り込み	NMI	入力	ノンマスクブル割り込み要求端子
	IRQ0～IRQ7	入力	割り込み要求端子
マルチファンクション タイマパルスユニット2	MTIOC0A, MTIOC0B, MTIOC0C, MTIOC0D	入出力	TGRA0～TGRD0のインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC1A, MTIOC1B	入出力	TGRA1, TGRB1のインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC2A, MTIOC2B	入出力	TGRA2, TGRB2のインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC3A, MTIOC3B, MTIOC3C, MTIOC3D	入出力	TGRA3～TGRD3のインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC4A, MTIOC4B, MTIOC4C, MTIOC4D	入出力	TGRA4～TGRD4のインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIC5U, MTIC5V, MTIC5W	入力	TGRU5, TGRV5, TGRW5のインプットキャプチャ入力/外部パルス入力端子
	MTCLKA, MTCLKB, MTCLKC, MTCLKD	入力	外部クロックの入力端子
ポートアウトプット イネーブル2	POE0#～POE3#, POE8#	入力	MTU用の端子をハイインピーダンスにする要求信号の入力端子
リアルタイムクロック	RTCOUT	出力	1Hz/64Hzのクロックの出力端子
8ビットタイマ	TMO0～TMO3	出力	コンペアマッチ出力端子
	TMCI0～TMCI3	入力	カウンタに入力する外部クロックの入力端子
	TMRI0～TMRI3	入力	カウンタリセット入力端子
ローパワータイマ	LPTO	出力	PWMの出力端子

表 1.4 端子機能一覧 (2/3)

分類	端子名	入出力	機能
シリアル コミュニケーション インターフェース (SClg, SCIk)	• 調歩同期式モード/クロック同期式モード		
	SCK1, SCK5, SCK6, SCK8, SCK9	入出力	クロック入出力端子
	RXD1, RXD5, RXD6, RXD8, RXD9	入力	受信データ入力端子
	TXD1, TXD5, TXD6, TXD8, TXD9	出力	送信データ出力端子
	CTS1#, CTS5#, CTS6#, CTS8#, CTS9#	入力	送受信開始制御用入力端子
	RTS1#, RTS5#, RTS6#, RTS8#, RTS9#	出力	送受信開始制御用出力端子
	• 簡易I ² Cモード		
	SSCL1, SSCL5, SSCL6, SSCL8, SSCL9	入出力	I ² Cクロック入出力端子
	SSDA1, SSDA5, SSDA6, SSDA8, SSDA9	入出力	I ² Cデータ入出力端子
	• 簡易SPIモード		
	SCK1, SCK5, SCK6, SCK8, SCK9	入出力	クロック入出力端子
	SMISO1, SMISO5, SMISO6, SMISO8, SMISO9	入出力	スレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI1, SMOSI5, SMOSI6, SMOSI8, SMOSI9	入出力	マスタ送出データ入出力端子
	SS1#, SS5#, SS6#, SS8#, SS9#	入力	スレーブセレクト入力端子
シリアル コミュニケーション インターフェース (SClh)	• 調歩同期式モード/クロック同期式モード		
	SCK12	入出力	クロック入出力端子
	RXD12	入力	受信データ入力端子
	TXD12	出力	送信データ出力端子
	CTS12#	入力	送受信開始制御用入力端子
	RTS12#	出力	送受信開始制御用出力端子
	• 簡易I ² Cモード		
	SSCL12	入出力	I ² Cクロック入出力端子
	SSDA12	入出力	I ² Cデータ入出力端子
	• 簡易SPIモード		
	SCK12	入出力	クロック入出力端子
	SMISO12	入出力	スレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI12	入出力	マスタ送出データ入出力端子
	SS12#	入力	スレーブセレクト入力端子
	• 拡張シリアルモード		
	RXDX12	入力	SCIf受信データ入力端子
	TXDX12	出力	SCIf送信データ出力端子
SIOX12	入出力	SCIf送受信データ入出力端子	
I ² Cバスインターフェース	SCL0	入出力	I ² Cバスインターフェースのクロック入出力端子。Nチャンネルオープンドレインでバスを直接駆動できます
	SDA0	入出力	I ² Cバスインターフェースのデータ入出力端子。Nチャンネルオープンドレインでバスを直接駆動できます

表 1.4 端子機能一覧 (3/3)

分類	端子名	入出力	機能
シリアルペリフェラル インタフェース	RSPCKA	入出力	RSPIのクロック入出力端子
	MOSIA	入出力	RSPIのマスタ送出データ端子
	MISOA	入出力	RSPIのスレーブ送出データ端子
	SSLA0	入出力	RSPIのスレーブセレクト入出力端子
	SSLA1~SSLA3	出力	RSPIのスレーブセレクト出力端子
CANモジュール	CRXD0	入力	入力端子
	CTXD0	出力	出力端子
12ビットA/Dコンバータ	AN000~AN007, AN016 ~AN021, AN024~ AN026	入力	A/Dコンバータのアナログ入力端子
	ADTRG0#	入力	A/D変換開始のための外部トリガ入力端子
D/Aコンバータ	DA0, DA1	出力	D/Aコンバータのアナログ出力端子
コンパレータB	CMPB0, CMPB1	入力	コンパレータB用のアナログ端子
	CVREFB0, CVREFB1	入力	コンパレータB用のリファレンス電圧端子
	CMPOB0, CMPOB1	出力	コンパレータB用出力端子
静電容量式タッチセンサ	TS0~TS35	入出力	静電容量計測端子(タッチ端子)
	TSCAP	—	内部電源安定用の平滑コンデンサ(10nF)を介してVSSに接続してください。コンデンサは端子近くに配置してください
アナログ電源	AVCC0	入力	12ビットA/DコンバータとD/Aコンバータのアナログ電源端子。12ビットA/DコンバータとD/Aコンバータを使用しない場合は、VCCに接続してください
	AVSS0	入力	12ビットA/DコンバータとD/Aコンバータのアナロググランド端子。VSSに接続してください
	VREFH0	入力	12ビットA/Dコンバータの基準電源端子
	VREFL0	入力	12ビットA/Dコンバータの基準グランド端子
I/Oポート	P03~P07	入出力	5ビットの入出力端子
	P12~P17	入出力	6ビットの入出力端子
	P20, P21, P26, P27	入出力	4ビットの入出力端子
	P30~P32, P34~P37	入出力	7ビットの入出力端子(P35は入力端子)
	P40~P47	入出力	8ビットの入出力端子
	P54, P55	入出力	2ビットの入出力端子
	PA0~PA6	入出力	7ビットの入出力端子
	PB0~PB7	入出力	8ビットの入出力端子
	PC2~PC7	入出力	6ビットの入出力端子
	PD0~PD2	入出力	3ビットの入出力端子
	PE0~PE5	入出力	6ビットの入出力端子
	PG7	入出力	1ビットの入出力端子
	PH0~PH3, PH6(注1), PH7(注1)	入出力	6ビットの入出力端子(PH6、PH7は入力端子)
	PJ1, PJ6, PJ7	入出力	3ビットの入出力端子

注1. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

1.5 ピン配置図

1.5.1 80ピンLFQFP

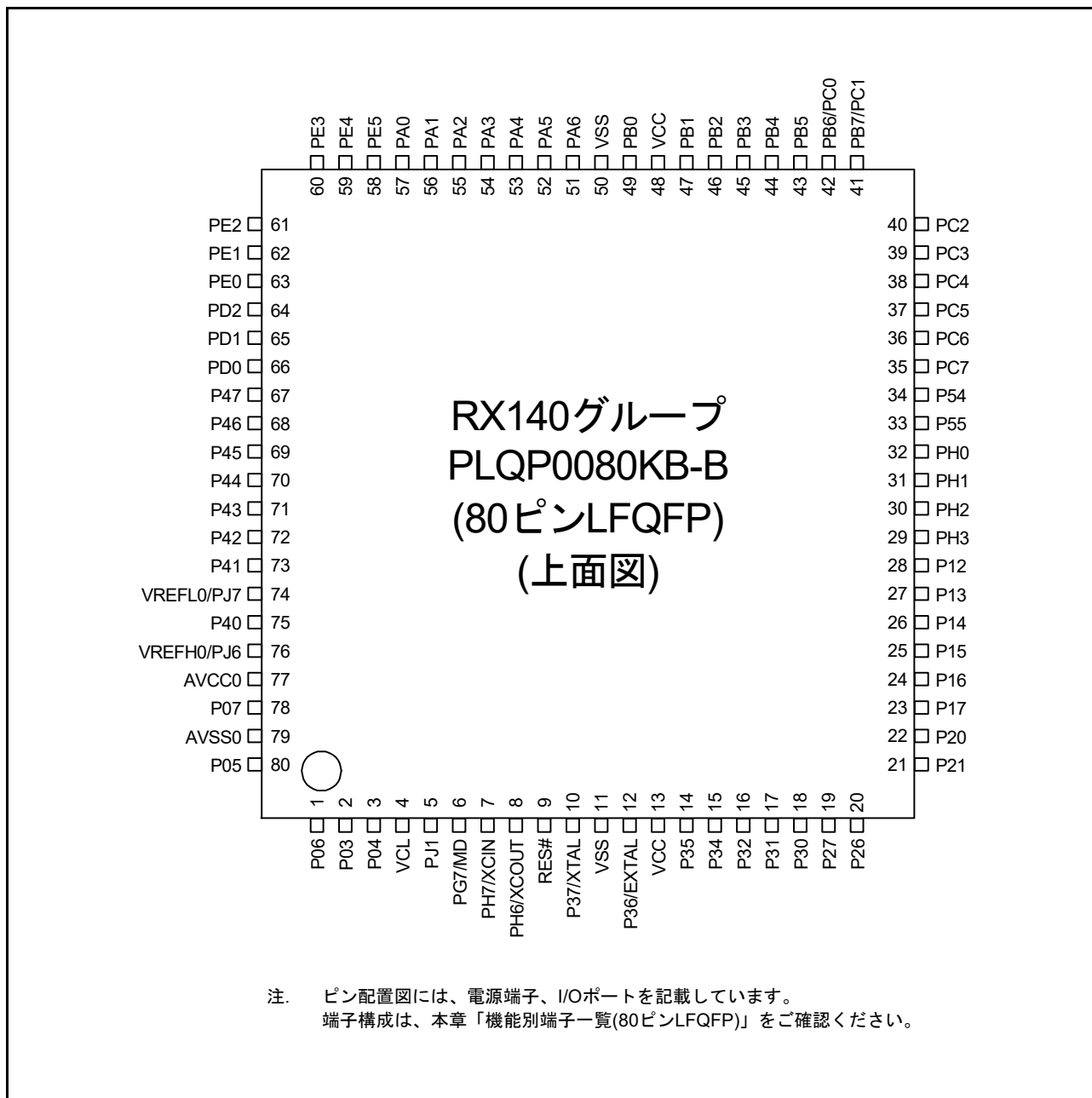


図 1.3 80ピンLFQFPピン配置図

1.5.2 64ピンLFQFP、64ピンLQFP

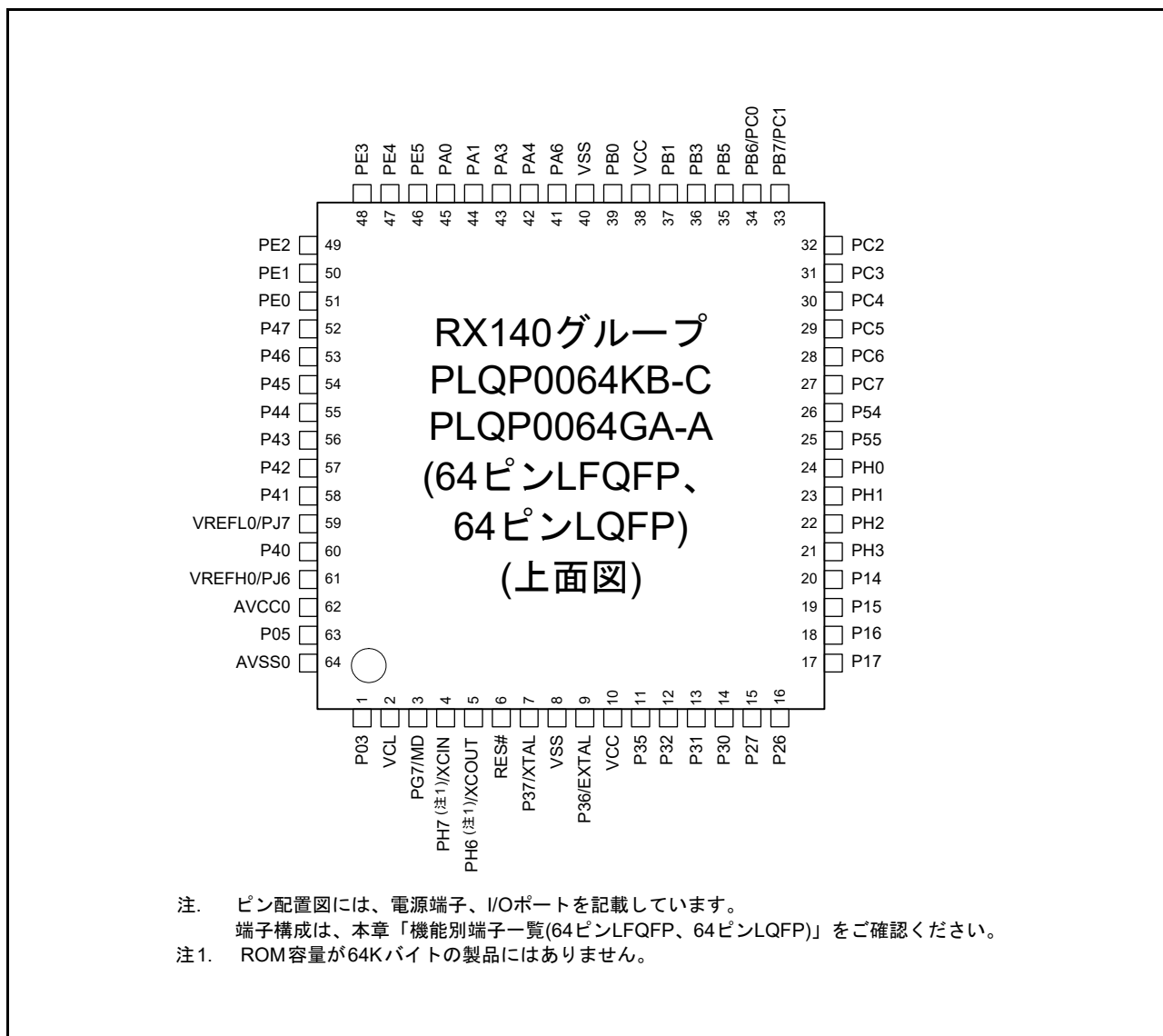


図 1.4 64ピンLFQFP、64ピンLQFPピン配置図

1.5.3 48ピン LQFP

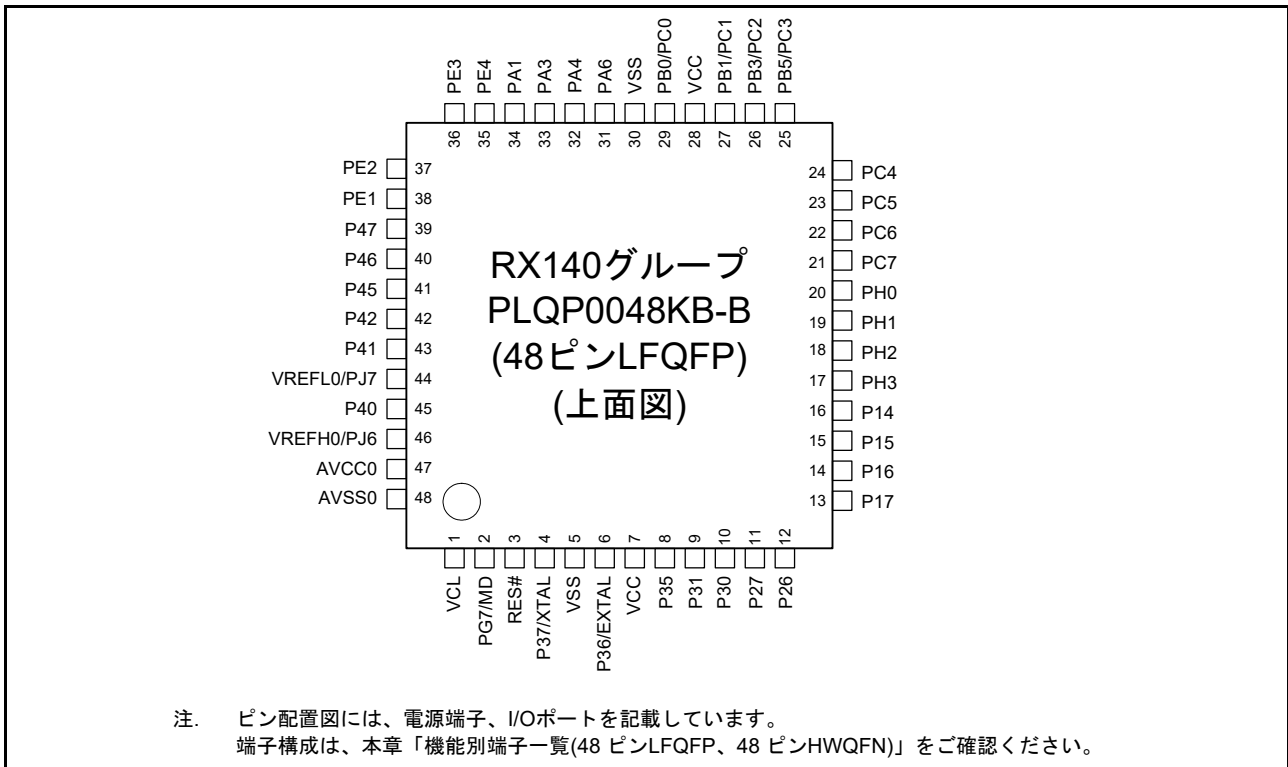


図 1.5 48ピン LQFP ピン配置図

1.5.4 48ピン HWQFN

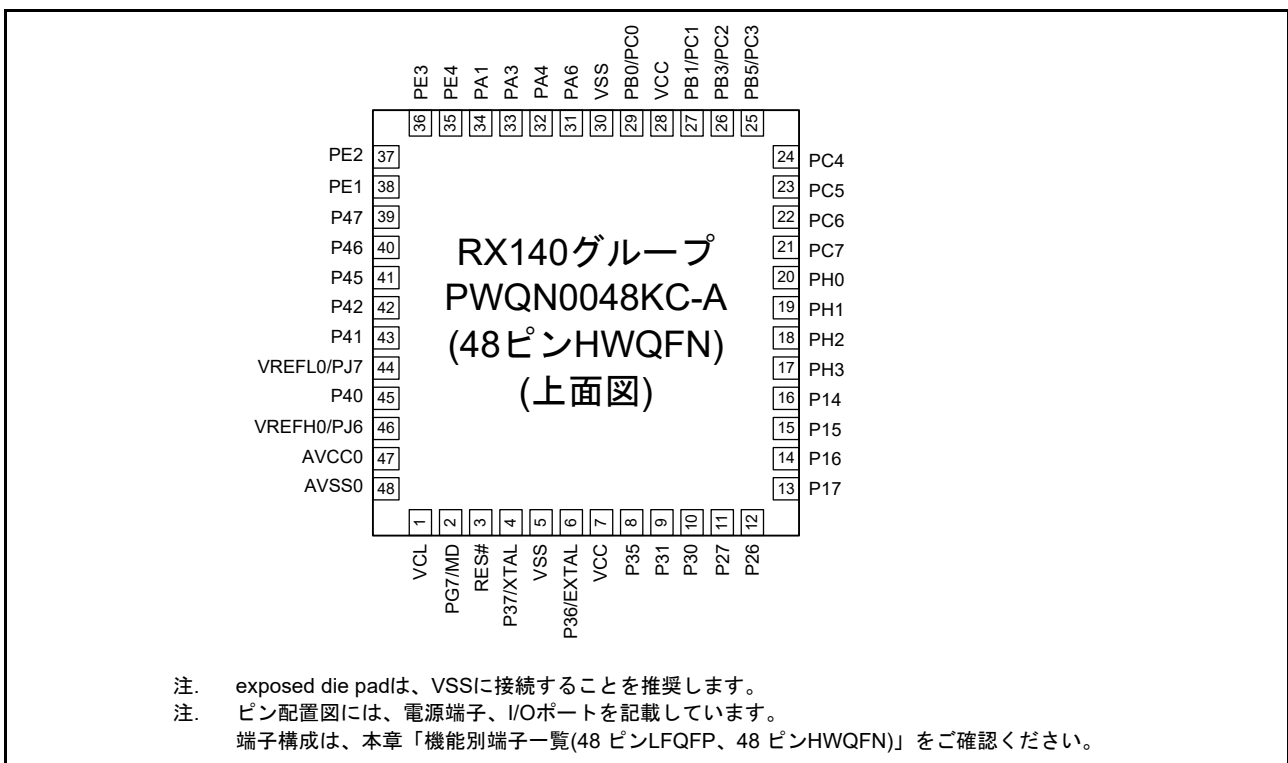


図 1.6 48ピン HWQFN ピン配置図

1.5.5 32ピンLQFP

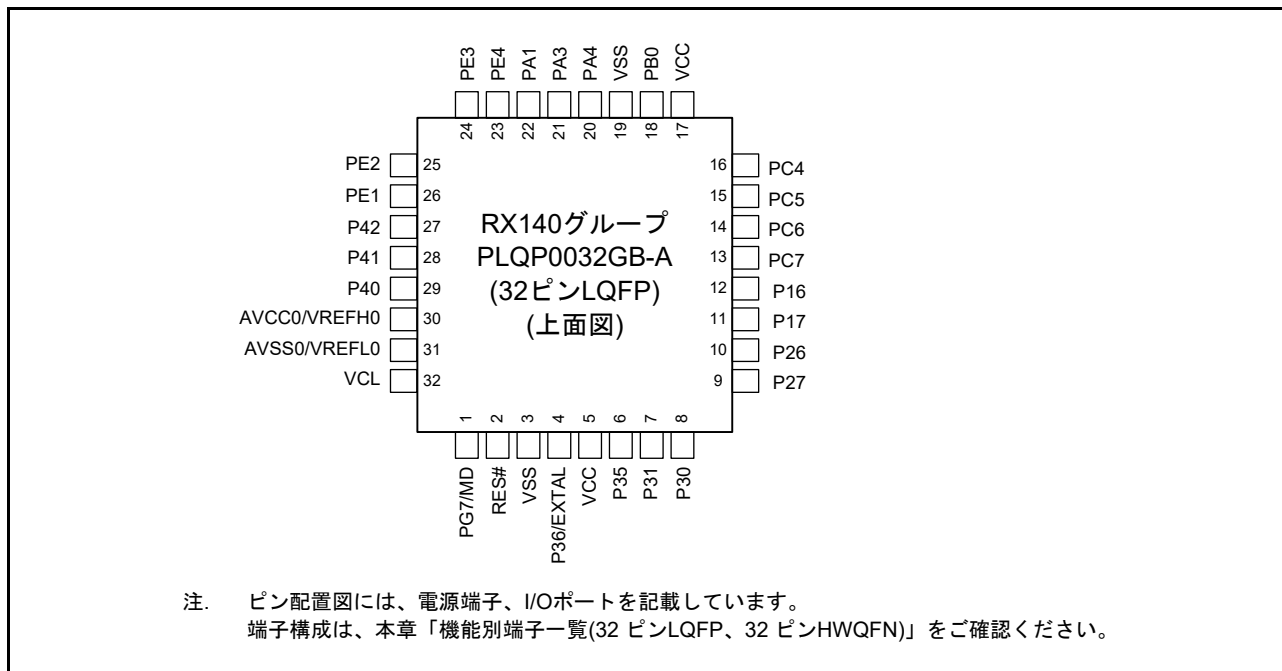


図 1.7 32ピンLQFPピン配置図

1.5.6 32ピンHWQFN

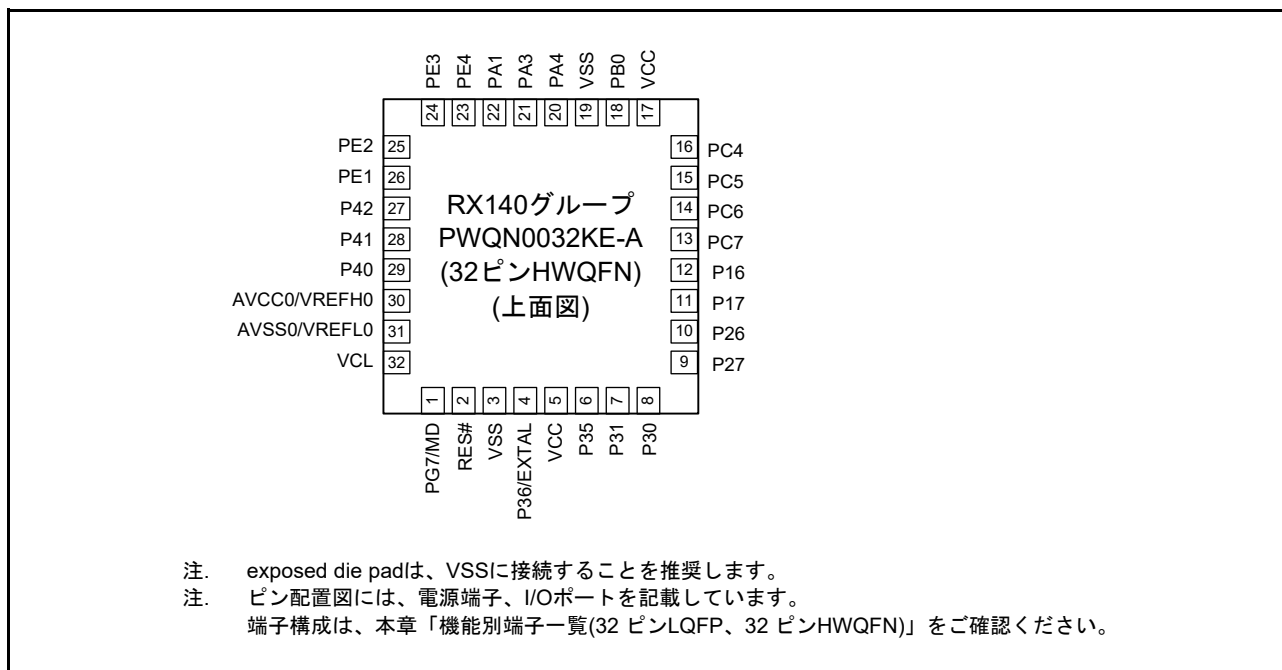


図 1.8 32ピンHWQFNピン配置図

1.6 機能別端子一覧

1.6.1 80ピンLFQFP

表 1.5 機能別端子一覧(80ピンLFQFP) (1/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SCIlh, SCIk, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
1		P06 (注1)				
2		P03 (注1)				DA0
3		P04 (注1)				
4	VCL					
5		PJ1	MTIOC3A			
6	MD	PG7				FINED
7	XCIN	PH7				
8	XCOUT	PH6				
9	RES#					
10	XTAL	P37				IRQ4
11	VSS					
12	EXTAL	P36				IRQ2
13	VCC					
14		P35				NMI
15		P34	MTIOC0A/TMCI3/POE2#	SCK6		IRQ4
16		P32	MTIOC0C/TMO3	TXD6/SMOSI6/SSDA6	TS0	IRQ2/RTCOUT
17		P31	MTIOC4D/TMCI2	CTS1#/RTS1#/SS1#	TS1	IRQ1
18		P30	MTIOC4B/TMRI3/POE8#	RXD1/SMISO1/SSCL1	TS2	IRQ0
19		P27	MTIOC2B/TMCI3	SCK1	TS3	
20		P26	MTIOC2A/TMO1/LPTO	TXD1/SMOSI1/SSDA1	TS4	
21		P21	MTIOC1B/TMCI0			
22		P20	MTIOC1A/TMRI0			
23	(5Vトレラント)	P17	MTIOC3A/MTIOC3B/TMO1/POE8#	SCK1/MISOA/SDA0		IRQ7
24	(5Vトレラント)	P16	MTIOC3C/MTIOC3D/TMO2	TXD1/SMOSI1/SSDA1/MOSIA/SCL0		IRQ6/RTCOUT/ ADTRG0#
25		P15	MTIOC0B/MTCLKB/TMCI2	RXD1/SMISO1/SSCL1/CRXD0	TS5	IRQ5
26		P14	MTIOC3A/MTCLKA/TMRI2	CTS1#/RTS1#/SS1#/CTXD0	TS6	IRQ4
27	(5Vトレラント)	P13	MTIOC0B/TMO3	SDA0		IRQ3
28	(5Vトレラント)	P12	TMCI1	SCL0		IRQ2
29		PH3	MTIOC4D/TMCI0		TS7	
30		PH2	MTIOC4C/TMRI0		TS8	IRQ1
31		PH1	MTIOC3D/TMO0		TS9	IRQ0
32		PH0	MTIOC3B		TS10	CACREF
33		P55	MTIOC4A/MTIOC4D/TMO3	CRXD0	TS11	
34		P54	MTIOC4B/TMCI1	CTXD0	TS12	
35		PC7	MTCLKB/MTIOC3A/TMO2/LPTO	MISOA/TXD8/SMOSI8/SSDA8	TS13	CACREF
36		PC6	MTIOC3C/MTCLKA/TMCI2	MOSIA/RXD8/SMOSI8/SSCL8	TS14	
37		PC5	MTIOC0C/MTIOC3B/MTCLKD/TMRI2	RSPCKA/SCK8	TS15	
38		PC4	MTIOC0A/MTIOC3D/MTCLKC/TMCI1/POE0#	SCK5/CTS8#/RTS8#/SS8#/SSLA0	TSCAP	
39		PC3	MTIOC4D	TXD5/SMOSI5/SSDA5	TS16	
40		PC2	MTIOC4B	RXD5/SMISO5/SSCL5/SSLA3	TS17	
41		PB7/PC1 (注2)	MTIOC3B	TXD9/SMOSI9/SSDA9	TS18	
42		PB6/PC0 (注2)	MTIOC3D	RXD9/SMISO9/SSCL9	TS19	

表 1.5 機能別端子一覧(80ピンLFQFP) (2/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SC1h, SC1k, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
43		PB5	MTIOC2A/MTIOC1B/ TMR11/POE1#	SCK9	TS20	
44		PB4		CTS9#/RTS9#/SS9#	TS21	
45		PB3	MTIOC0A/MTIOC4A/TMO0/ POE3#/LPTO	SCK6	TS22	
46		PB2		CTS6#/RTS6#/SS6#	TS23	
47		PB1	MTIOC0C/MTIOC4C/ TMC10	TXD6/SMOS16/SSDA6	TS24	IRQ4/CMPOB1
48	VCC					
49		PB0	MTIOC3D/MTIC5W	RXD6/SMISO6/SSCL6/RSPCKA	TS25	
50	VSS					
51		PA6	MTIOC3D/MTIC5V/ MTCLKB/TMC13/POE2#	CTS5#/RTS5#/SS5#/MOSIA	TS26	
52		PA5		RSPCKA	TS27	
53		PA4	MTIOC4C/MTIC5U/ MTCLKA/TMR10	TXD5/SMOS15/SSDA5/SSLA0	TS28	IRQ5/CVREFB1
54		PA3	MTIOC0D/MTIOC4D/ MTIC5V/MTCLKD	RXD5/SMISO5/SSCL5	TS29	IRQ6/CMPB1
55		PA2		RXD5/SMISO5/SSCL5/SSLA3	TS30	
56		PA1	MTIOC0B/MTIOC3B/ MTCLKC	SCK5/SSLA2	TS31	
57		PA0	MTIOC4A	SSLA1	TS32	CACREF
58		PE5	MTIOC4C/MTIOC2B			IRQ5/AN021/CMPOB0
59		PE4	MTIOC4D/MTIOC1A/ MTIOC4A		TS33	AN020/CMPA2/ CLKOUT
60		PE3	MTIOC1B/MTIOC4B/ POE8#	CTS12#/RTS12#/SS12#	TS34	AN019/CLKOUT
61		PE2	MTIOC4A	RXD12/RXDX12/SMISO12/SSCL12	TS35	IRQ7/AN018/CVREFB0
62		PE1	MTIOC4C	TXD12/TXDX12/SIOX12/SMOS112/ SSDA12		AN017/CMPB0
63		PE0		SCK12		AN016
64		PD2	MTIOC4D	SCK6		IRQ2/AN026
65		PD1	MTIOC4B	RXD6/SMISO6/SSCL6		IRQ1/AN025
66		PD0		TXD6/SMOS16/SSDA6		IRQ0/AN024
67		P47 (注1)				AN007
68		P46 (注1)				AN006
69		P45 (注1)				AN005
70		P44 (注1)				AN004
71		P43 (注1)				AN003
72		P42 (注1)				AN002
73		P41 (注1)				AN001
74	VREFL0	PJ7 (注1)				
75		P40 (注1)				AN000
76	VREFH0	PJ6 (注1)				
77	AVCC0					
78		P07 (注1)				ADTRG0#
79	AVSS0					
80		P05 (注1)				DA1

注1. これら端子の入出力バッファの電源はAVCC0です。

注2. PC0、PC1は、ポート切り替え機能選択時のみ有効です。

1.6.2 64ピンLFQFP、64ピンLQFP

表 1.6 機能別端子一覧(64ピンLFQFP、64ピンLQFP) (1/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SCiH, SCiK, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
1		P03 (注1)				DA0
2	VCL					
3	MD	PG7				FINED
4	XCIN	PH7 (注3)				
5	XCOUT	PH6 (注3)				
6	RES#					
7	XTAL	P37				IRQ4
8	VSS					
9	EXTAL	P36				IRQ2
10	VCC					
11		P35				NMI
12		P32	MTIOC0C/TMO3	TXD6 (注3)/SMOSI6 (注3)/SSDA6 (注3)	TS0 (注3)	IRQ2/RTCOUT
13		P31	MTIOC4D/TMCI2	CTS1#/RTS1#/SS1#	TS1 (注3)	IRQ1
14		P30	MTIOC4B/TMRI3/POE8#	RXD1/SMISO1/SSCL1	TS2 (注3)	IRQ0
15		P27	MTIOC2B/TMCI3	SCK1	TS3	
16		P26	MTIOC2A/TMO1/LPTO	TXD1/SMOSI1/SSDA1	TS4	
17	(5Vトレラント)	P17	MTIOC3A/MTIOC3B/TMO1/POE8#	SCK1/MISOA/SDA0		IRQ7
18	(5Vトレラント)	P16	MTIOC3C/MTIOC3D/TMO2	TXD1/SMOSI1/SSDA1/MOSIA/SCL0		IRQ6/RTCOUT/ ADTRG0#
19		P15	MTIOC0B/MTCLKB/TMCI2	RXD1/SMISO1/SSCL1/CRXD0	TS5 (注3)	IRQ5
20		P14	MTIOC3A/MTCLKA/TMRI2	CTS1#/RTS1#/SS1#/CTXD0	TS6 (注3)	IRQ4
21		PH3	MTIOC4D/TMCI0		TS7 (注3)	
22		PH2	MTIOC4C/TMRI0		TS8 (注3)	IRQ1
23		PH1	MTIOC3D/TMO0		TS9 (注3)	IRQ0
24		PH0	MTIOC3B		TS10 (注3)	CACREF
25		P55	MTIOC4A/MTIOC4D/TMO3	CRXD0 (注3)	TS11 (注3)	
26		P54	MTIOC4B/TMCI1	CTXD0 (注3)	TS12 (注3)	
27		PC7	MTIOC3A/MTCLKB/TMO2/ LPTO	TXD8 (注3)/SMOSI8 (注3)/SSDA8 (注3)/ MISOA	TS13	CACREF
28		PC6	MTIOC3C/MTCLKA/TMCI2	RXD8 (注3)/SMISO8 (注3)/SSCL8 (注3)/ MOSIA	TS14	
29		PC5	MTIOC0C/MTIOC3B/ MTCLKD/TMRI2	SCK8 (注3)/RSPCKA	TS15	
30		PC4	MTIOC0A/MTIOC3D/ MTCLKC/TMCI1/POE0#	SCK5/CTS8# (注3)/RTS8# (注3)/ SS8# (注3)/SSLA0	TSCAP	
31		PC3	MTIOC4D	TXD5/SMOSI5/SSDA5	TS16 (注3)	
32		PC2	MTIOC4B	RXD5/SMISO5/SSCL5/SSLA3	TS17 (注3)	
33		PB7/PC1 (注2)	MTIOC3B	TXD9 (注3)/SMOSI9 (注3)/SSDA9 (注3)	TS18 (注3)	
34		PB6/PC0 (注2)	MTIOC3D	RXD9 (注3)/SMISO9 (注3)/SSCL9 (注3)	TS19 (注3)	
35		PB5	MTIOC2A/MTIOC1B/ TMRI1/POE1#	SCK9 (注3)	TS20 (注3)	
36		PB3	MTIOC0A/MTIOC4A/TMO0/ POE3#/LPTO	SCK6 (注3)	TS22 (注3)	
37		PB1	MTIOC0C/MTIOC4C/ TMCI0	TXD6 (注3)/SMOSI6 (注3)/SSDA6 (注3)	TS24 (注3)	IRQ4/CMPOB1
38	VCC					
39		PB0	MTIOC3D/MTIC5W	RXD6 (注3)/SMISO6 (注3)/SSCL6 (注3)/ RSPCKA	TS25	
40	VSS					

表 1.6 機能別端子一覧(64ピンLFQFP、64ピンLQFP) (2/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SC1h, SC1k, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
41		PA6	MTIOC3D/MTIC5V/ MTCLKB/TMCI3/POE2#	CTS5#/RTS5#/SS5#/MOSIA	TS26 (注3)	
42		PA4	MTIOC4C/MTIC5U/ MTCLKA/TMRI0	TXD5/SMOSI5/SSDA5/SSLA0	TS28	IRQ5/CVREFB1
43		PA3	MTIOC0D/MTIOC4D/ MTIC5V/MTCLKD	RXD5/SMISO5/SSCL5	TS29	IRQ6/CMPB1
44		PA1	MTIOC0B/MTIOC3B/ MTCLKC	SCK5/SSLA2	TS31	
45		PA0	MTIOC4A	SSLA1	TS32 (注3)	CACREF
46		PE5	MTIOC4C/MTIOC2B			IRQ5/AN021/ CMPOB0
47		PE4	MTIOC4D/MTIOC1A/ MTIOC4A		TS33	AN020/CMPA2/ CLKOUT
48		PE3	MTIOC1B/MTIOC4B/ POE8#	CTS12#/RTS12#/SS12#	TS34	AN019/CLKOUT
49		PE2	MTIOC4A	RXD12/RXDX12/SMISO12/SSCL12	TS35	IRQ7/AN018/ CVREFB0
50		PE1	MTIOC4C	TXD12/TXDX12/SIOX12/SMOSI12/ SSDA12		AN017/CMPB0
51		PE0		SCK12		AN016
52		P47 (注1)				AN007
53		P46 (注1)				AN006
54		P45 (注1)				AN005
55		P44 (注1)				AN004
56		P43 (注1)				AN003
57		P42 (注1)				AN002
58		P41 (注1)				AN001
59	VREFL0	PJ7 (注1)				
60		P40 (注1)				AN000
61	VREFH0	PJ6 (注1)				
62	AVCC0					
63		P05 (注1)				DA1
64	AVSS0					

注1. これら端子の入出力バッファの電源はAVCC0です。

注2. PC0、PC1は、ポート切り替え機能選択時のみ有効です。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

1.6.3 48ピンLFQFP、48ピンHWQFN

表 1.7 機能別端子一覧(48ピンLFQFP、48ピンHWQFN) (1/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SCiH, SCiK, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
1	VCL					
2	MD	PG7				FINED
3	RES#					
4	XTAL	P37				IRQ4
5	VSS					
6	EXTAL	P36				IRQ2
7	VCC					
8		P35				NMI
9		P31	MTIOC4D/TMCI2	CTS1#/RTS1#/SS1#	TS1 (注3)	IRQ1
10		P30	MTIOC4B/TMRI3/POE8#	RXD1/SMISO1/SSCL1	TS2 (注3)	IRQ0
11		P27	MTIOC2B/TMCI3	SCK1	TS3	
12		P26	MTIOC2A/TMO1/LPTO	TXD1/SMOSI1/SSDA1	TS4	
13	(5Vトレラント)	P17	MTIOC3A/MTIOC3B/TMO1/POE8#	SCK1/MISOA/SDA0		IRQ7
14	(5Vトレラント)	P16	MTIOC3C/MTIOC3D/TMO2	TXD1/SMOSI1/SSDA1/MOSIA/SCL0		IRQ6/ADTRG0#/RTCOUT
15		P15	MTIOC0B/MTCLKB/TMCI2	RXD1/SMISO1/SSCL1/CRXD0 (注3)	TS5 (注3)	IRQ5
16		P14	MTIOC3A/MTCLKA/TMRI2	CTS1#/RTS1#/SS1#/CTXD0 (注3)	TS6 (注3)	IRQ4
17		PH3	MTIOC4D/TMCI0		TS7 (注3)	
18		PH2	MTIOC4C/TMRI0		TS8 (注3)	IRQ1
19		PH1	MTIOC3D/TMO0		TS9 (注3)	IRQ0
20		PH0	MTIOC3B		TS10 (注3)	CACREF
21		PC7	MTIOC3A/TMO2/MTCLKB/LPTO	TXD8 (注3)/SMOSI8 (注3)/SSDA8 (注3)/MISOA	TS13	CACREF
22		PC6	MTIOC3C/MTCLKA/TMCI2	RXD8 (注3)/SMISO8 (注3)/SSCL8 (注3)/MOSIA	TS14	
23		PC5	MTIOC0C/MTIOC3B/MTCLKD/TMRI2	SCK8 (注3)/RSPCKA	TS15	
24		PC4	MTIOC0A/MTIOC3D/MTCLKC/TMCI1/POE0#	SCK5/CTS8# (注3)/RTS8# (注3)/SS8# (注3)/SSLA0	TSCAP	
25		PB5/PC3 (注1)	MTIOC2A/MTIOC1B/TMRI1/POE1#		TS20 (注3)	
26		PB3/PC2 (注1)	MTIOC0A/MTIOC4A/TMO0/POE3#/LPTO	SCK6 (注3)	TS22 (注3)	
27		PB1/PC1 (注1)	MTIOC0C/MTIOC4C/TMCI0	TXD6 (注3)/SMOSI6 (注3)/SSDA6 (注3)	TS24 (注3)	IRQ4/CMPOB1
28	VCC					
29		PB0/PC0 (注1)	MTIOC3D/MTIC5W	RXD6 (注3)/SMISO6 (注3)/SSCL6 (注3)/RSPCKA	TS25	
30	VSS					
31		PA6	MTIOC3D/MTIC5V/MTCLKB/TMCI3/POE2#	CTS5#/RTS5#/SS5#/MOSIA	TS26 (注3)	
32		PA4	MTIOC4C/MTIC5U/MTCLKA/TMRI0	TXD5/SMOSI5/SSDA5/SSLA0	TS28	IRQ5/CVREFB1
33		PA3	MTIOC0D/MTIOC4D/MTIC5V/MTCLKD	RXD5/SMISO5/SSCL5	TS29	IRQ6/CMPB1
34		PA1	MTIOC0B/MTIOC3B/MTCLKC	SCK5/SSLA2	TS31	
35		PE4	MTIOC4D/MTIOC1A/MTIOC4A		TS33	AN020/CMPA2/CLKOUT
36		PE3	MTIOC1B/MTIOC4B/POE8#	CTS12#/RTS12#	TS34	AN019/CLKOUT
37		PE2	MTIOC4A	RXD12/RXD12/SSCL12	TS35	IRQ7/AN018/CVREFB0

表 1.7 機能別端子一覧(48ピンLFQFP、48ピンHWQFN) (2/2)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SCIg, SC1h, SC1k, RSPI, RIIC, RSCAN)	タッチ	その他
38		PE1	MTIOC4C	TXD12/TXDX12/SIOX12/SSDA12		AN017/CMPB0
39		P47 (注2)				AN007
40		P46 (注2)				AN006
41		P45 (注2)				AN005
42		P42 (注2)				AN002
43		P41 (注2)				AN001
44	VREFL0	PJ7 (注2)				
45		P40 (注2)				AN000
46	VREFH0	PJ6 (注2)				
47	AVCC0					
48	AVSS0					

注1. PC0～PC3は、ポート切り替え機能選択時のみ有効です。

注2. これら端子の入出力バッファの電源はAVCC0です。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

1.6.4 32ピンLQFP、32ピンHWQFN

表 1.8 機能別端子一覧(32ピンLQFP、32ピンHWQFN)

ピン番号	電源、クロック、システム制御	I/Oポート	タイマ (MTU, TMR, POE, LPT)	通信 (SClg, SClh, SClk, RSPI, RIIC)	タッチ	その他
1	MD	PG7				FINED
2	RES#					
3	VSS					
4	EXTAL	P36				IRQ2
5	VCC					
6		P35				NMI
7		P31	MTIOC4D/TMCI2	CTS1#/RTS1#/SS1#		IRQ1
8		P30	MTIOC4B/TMRI3/POE8#	RXD1/SMISO1/SSCL1		IRQ0
9		P27	MTIOC2B/TMCI3	SCK1	TS3	
10		P26	MTIOC2A/TMO1/LPT0	TXD1/SMOSI1/SSDA1	TS4	
11	(5Vトレラント)	P17	MTIOC3A/MTIOC3B/TMO1/POE8#	SCK1/MISOA/SDA0		IRQ7
12	(5Vトレラント)	P16	MTIOC3C/MTIOC3D/TMO2	TXD1/SMOSI1/SSDA1/MOSIA/SCL0		IRQ6/ADTRG0#/RTCOUT
13		PC7	MTIOC3A/MTCLKB/TMO2/LPT0	MISOA	TS13	CACREF
14		PC6	MTIOC3C/MTCLKA/TMCI2	MOSIA	TS14	
15		PC5	MTIOC0C/MTIOC3B/MTCLKD/TMRI2	RSPCKA	TS15	
16		PC4	MTIOC0A/MTIOC3D/MTCLKC/TMCI1/POE0#	SCK5/SSLA0	TSCAP	
17	VCC					
18		PB0	MTIOC3D/MTIC5W	RSPCKA	TS25	
19	VSS					
20		PA4	MTIOC4C/MTIC5U/MTCLKA/TMRI0	TXD5/SMOSI5/SSDA5/SSLA0	TS28	IRQ5/CVREFB1
21		PA3	MTIOC0D/MTIOC4D/MTIC5V/MTCLKD	RXD5/SMISO5/SSCL5	TS29	IRQ6/CMPB1
22		PA1	MTIOC0B/MTIOC3B/MTCLKC	SCK5/SSLA2	TS31	
23		PE4	MTIOC1A/MTIOC4A/MTIOC4D		TS33	AN020/CMPA2/CLKOUT
24		PE3	MTIOC1B/MTIOC4B/POE8#	CTS12#/RTS12#	TS34	AN019/CLKOUT
25		PE2	MTIOC4A	RXD12/SSCL12/RXDX12	TS35	IRQ7/AN018/CVREFB0
26		PE1	MTIOC4C	TXD12/SSDA12/TXDX12/SIOX12		AN017/CMPB0
27		P42 (注1)				AN002
28		P41 (注1)				AN001
29		P40 (注1)				AN000
30	AVCC0/VREFH0					
31	AVSS0/VREFL0					
32	VCL					

注1. これら端子の入出力バッファの電源はAVCC0です。

2. CPU

RXv2 命令セットアーキテクチャ (RXv2) は、RXv1 命令セットアーキテクチャ (RXv1) と上位互換性のある命令セットアーキテクチャです。

- 可変長命令方式の採用

RXv1 と同様に、可変長命令形式の採用により、使用頻度の高い命令をより短い命令長に割り付けていますので、コード効率の良いプログラムを開発できます。

- 強力な命令セット

RXv2 は厳選された 109 個の命令をサポートしています。DSP 機能命令や浮動小数点演算命令の拡充により、DSP に匹敵するデータ処理能力を発揮します。

- 豊富なアドレッシングモード

11 種類の豊富なアドレッシングモードを持ち、レジスター-レジスタ間、レジスター-メモリ間の演算や、ビットを対象とする演算ができます。また、メモリ-メモリ間の転送ができます。

2.1 特長

- 最短命令実行時間：1 サイクルで実行
- アドレス空間：4G バイト・リニアアドレス
- CPU レジスタセット
汎用レジスタ：32 ビット×16 本
制御レジスタ：32 ビット×10 本
アキュムレータ：72 ビット×2 本
- 可変長命令形式（1 バイト長～8 バイト長）
- 109 命令 / 11 種類アドレッシングモード
基本命令：75 種類
浮動小数点演算命令：11 種類
DSP 機能命令：23 種類
- プロセッサモード
スーパバイザモード、ユーザモード
- ベクタテーブル
例外ベクタテーブル、割り込みベクタテーブル
- データ配置
リトルエンディアン / ビッグエンディアン選択可能

2.2 CPU レジスタセット

RXv2 CPU のレジスタには、汎用レジスタ（16本）と、制御レジスタ（10本）、および DSP 機能命令で使用するアキュムレータ（2本）があります。

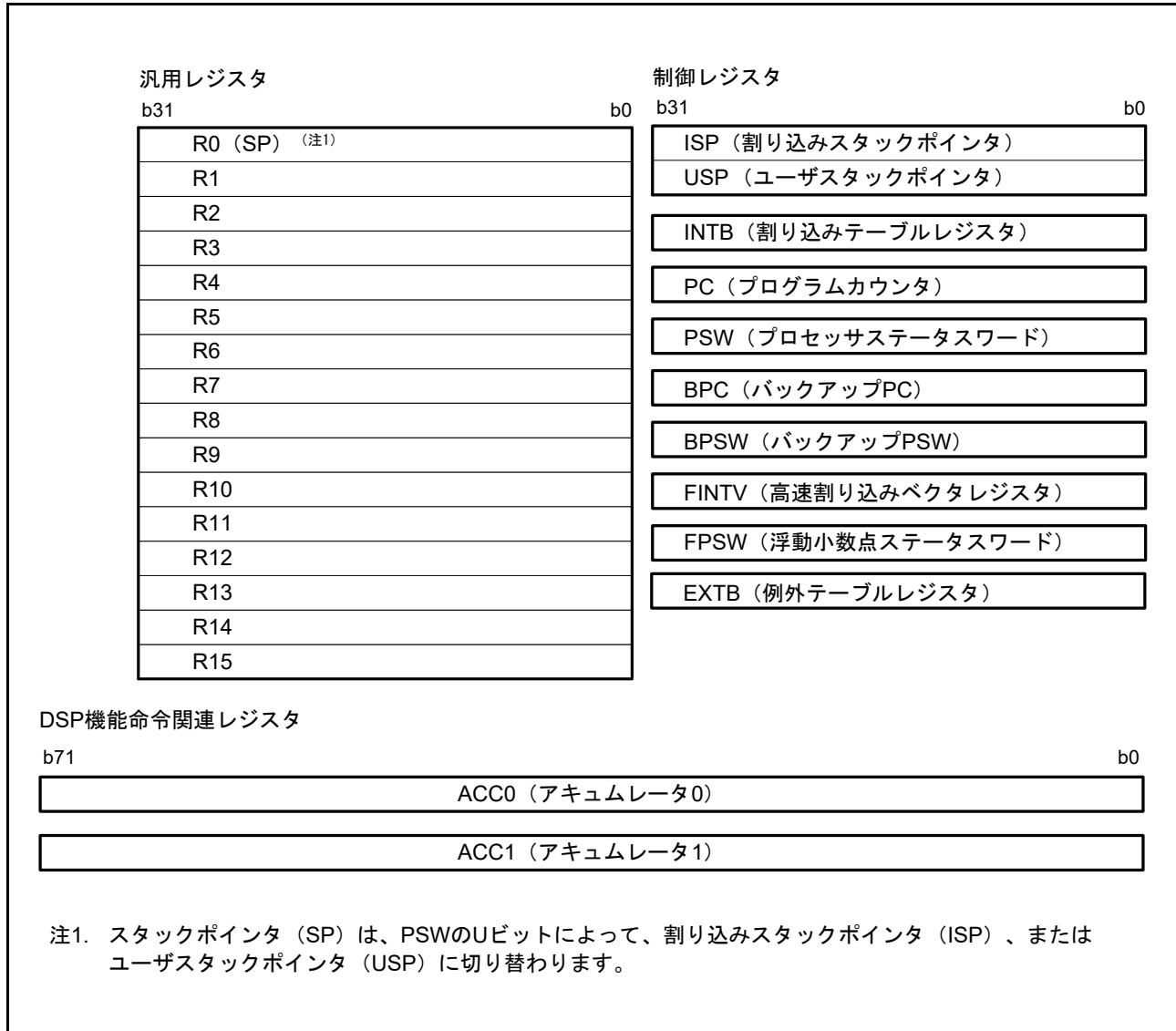


図 2.1 CPU レジスタセット

2.2.1 汎用レジスタ (R0 ~ R15)

汎用レジスタは、32ビット幅で16本 (R0 ~ R15) あります。汎用レジスタ R0 ~ R15 は、データレジスタやアドレスレジスタとして使用します。

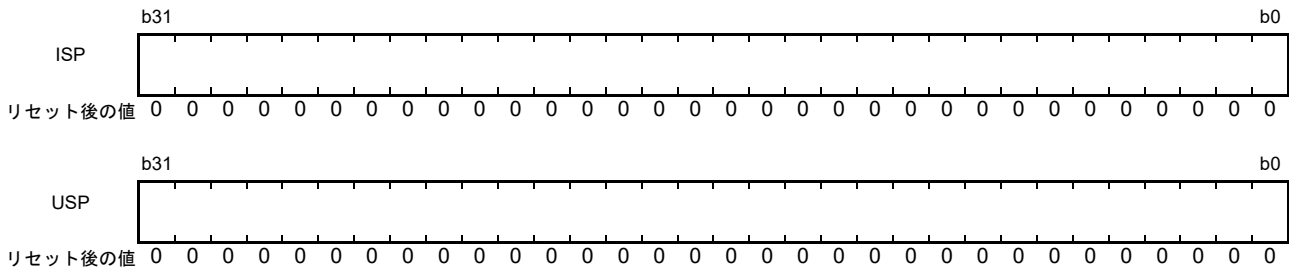
汎用レジスタ R0 には、汎用レジスタとしての機能に加えて、スタックポインタ (SP) としての機能が割り当てられています。SP は、プロセッサステータスワード (PSW) のスタックポインタ指定ビット (U) によって、割り込みスタックポインタ (ISP)、またはユーザスタックポインタ (USP) に切り替わります。

2.2.2 制御レジスタ

制御レジスタには、以下の10本のレジスタがあります。

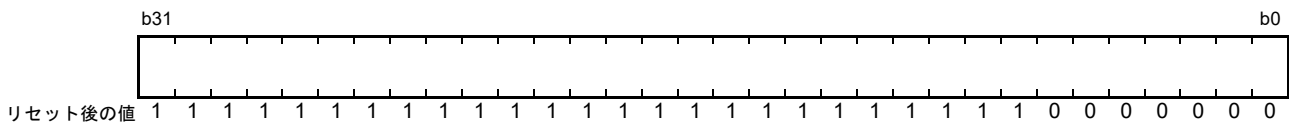
- 割り込みスタックポインタ (ISP)
- ユーザスタックポインタ (USP)
- 例外テーブルレジスタ (EXTB)
- 割り込みテーブルレジスタ (INTB)
- プログラムカウンタ (PC)
- プロセッサステータスワード (PSW)
- バックアップ PC (BPC)
- バックアップ PSW (BPSW)
- 高速割り込みベクタレジスタ (FINTV)
- 浮動小数点ステータスワード (FPSW)

2.2.2.1 割り込みスタックポインタ (ISP) / ユーザスタックポインタ (USP)



スタックポインタ (SP) には、割り込みスタックポインタ (ISP) と、ユーザスタックポインタ (USP) の2種類があります。使用するスタックポインタ (ISP/USP) は、プロセッサステータスワード (PSW) のスタックポインタ指定ビット (U) によって切り替えられます。ISP、USPに4の倍数を設定すると、スタック操作を伴う命令や、割り込みシーケンスのサイクル数が短くなります。

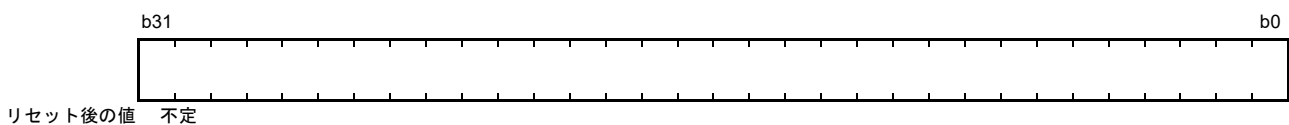
2.2.2.2 例外テーブルレジスタ (EXTB)



例外テーブルレジスタ (EXTB) には、例外ベクタテーブルの先頭番地を設定してください。

EXTBに4の倍数を設定すると、スタック操作を伴う命令や、割り込みシーケンスのサイクル数が短くなります。

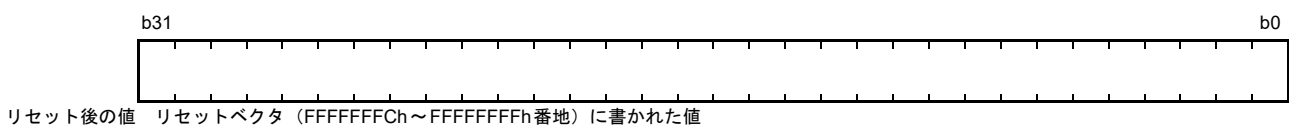
2.2.2.3 割り込みテーブルレジスタ (INTB)



割り込みテーブルレジスタ (INTB) には、割り込みベクタテーブルの先頭番地を設定してください。

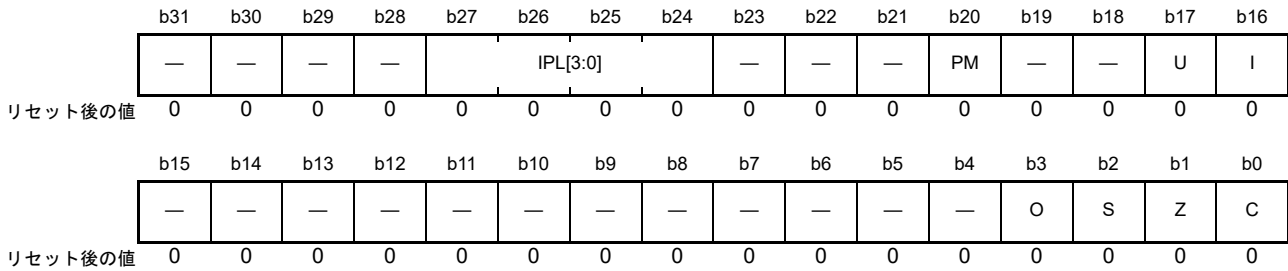
INTBに4の倍数を設定すると、スタック操作を伴う命令や、割り込みシーケンスのサイクル数が短くなります。

2.2.2.4 プログラムカウンタ (PC)



プログラムカウンタ (PC) は、実行中の命令の番地を示します。

2.2.2.5 プロセッサステータスワード (PSW)



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W																																		
b0	C	キャリフラグ	0: キャリの発生なし 1: キャリの発生あり	R/W																																		
b1	Z	ゼロフラグ	0: 演算結果は0でなかった 1: 演算結果は0であった	R/W																																		
b2	S	サインフラグ	0: 演算結果は正または0であった 1: 演算結果は負であった	R/W																																		
b3	O	オーバフローフラグ	0: オーバフローの発生なし 1: オーバフローの発生あり	R/W																																		
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W																																		
b16	I (注1)	割り込み許可ビット	0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可	R/W																																		
b17	U (注1)	スタックポインタ指定ビット	0: 割り込みスタックポインタ (ISP) を指定 1: ユーザスタックポインタ (USP) を指定	R/W																																		
b19-b18	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W																																		
b20	PM (注1、注2、注3)	プロセッサモード設定ビット	0: スーパーバイザモードに設定 1: ユーザモードに設定	R/W																																		
b23-b21	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W																																		
b27-b24	IPL[3:0] (注1)	プロセッサ割り込み優先レベル	<table border="0" style="font-size: small;"> <tr><td>b27</td><td>b24</td></tr> <tr><td>0 0 0 0</td><td>: 優先レベル0 (最低)</td></tr> <tr><td>0 0 0 1</td><td>: 優先レベル1</td></tr> <tr><td>0 0 1 0</td><td>: 優先レベル2</td></tr> <tr><td>0 0 1 1</td><td>: 優先レベル3</td></tr> <tr><td>0 1 0 0</td><td>: 優先レベル4</td></tr> <tr><td>0 1 0 1</td><td>: 優先レベル5</td></tr> <tr><td>0 1 1 0</td><td>: 優先レベル6</td></tr> <tr><td>0 1 1 1</td><td>: 優先レベル7</td></tr> <tr><td>1 0 0 0</td><td>: 優先レベル8</td></tr> <tr><td>1 0 0 1</td><td>: 優先レベル9</td></tr> <tr><td>1 0 1 0</td><td>: 優先レベル10</td></tr> <tr><td>1 0 1 1</td><td>: 優先レベル11</td></tr> <tr><td>1 1 0 0</td><td>: 優先レベル12</td></tr> <tr><td>1 1 0 1</td><td>: 優先レベル13</td></tr> <tr><td>1 1 1 0</td><td>: 優先レベル14</td></tr> <tr><td>1 1 1 1</td><td>: 優先レベル15 (最高)</td></tr> </table>	b27	b24	0 0 0 0	: 優先レベル0 (最低)	0 0 0 1	: 優先レベル1	0 0 1 0	: 優先レベル2	0 0 1 1	: 優先レベル3	0 1 0 0	: 優先レベル4	0 1 0 1	: 優先レベル5	0 1 1 0	: 優先レベル6	0 1 1 1	: 優先レベル7	1 0 0 0	: 優先レベル8	1 0 0 1	: 優先レベル9	1 0 1 0	: 優先レベル10	1 0 1 1	: 優先レベル11	1 1 0 0	: 優先レベル12	1 1 0 1	: 優先レベル13	1 1 1 0	: 優先レベル14	1 1 1 1	: 優先レベル15 (最高)	R/W
b27	b24																																					
0 0 0 0	: 優先レベル0 (最低)																																					
0 0 0 1	: 優先レベル1																																					
0 0 1 0	: 優先レベル2																																					
0 0 1 1	: 優先レベル3																																					
0 1 0 0	: 優先レベル4																																					
0 1 0 1	: 優先レベル5																																					
0 1 1 0	: 優先レベル6																																					
0 1 1 1	: 優先レベル7																																					
1 0 0 0	: 優先レベル8																																					
1 0 0 1	: 優先レベル9																																					
1 0 1 0	: 優先レベル10																																					
1 0 1 1	: 優先レベル11																																					
1 1 0 0	: 優先レベル12																																					
1 1 0 1	: 優先レベル13																																					
1 1 1 0	: 優先レベル14																																					
1 1 1 1	: 優先レベル15 (最高)																																					
b31-b28	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W																																		

- 注1. ユーザモードのときは、MVTC、POPC命令によるIPL[3:0]、PM、U、Iビットへの書き込みは無視されます。また、MVTIPL命令でIPL[3:0]ビットへの書き込みを行った場合は、特権命令例外が発生します。
- 注2. スーパーバイザモードのときは、MVTC、POPC命令によるPMビットへの書き込みは無視されます。それ以外のビットへの書き込みはできません。
- 注3. スーパーバイザモードからユーザモードに切り替える場合は、スタックに退避されたPSW.PMビットを“1”にした後、RTE命令を実行するか、BPSW.PMビットを“1”にした後、RTFI命令を実行してください。

プロセッサステータスワード (PSW) は、命令実行の結果や、CPU の状態を示します。

C フラグ (キャリフラグ)

キャリー、ボロー、シフトアウトしたビット等を保持します。

Z フラグ (ゼロフラグ)

演算の結果が0 のとき“1”になり、それ以外るとき“0”になります。

S フラグ (サインフラグ)

演算の結果が負のとき“1”になり、それ以外るとき“0”になります。

O フラグ (オーバフローフラグ)

演算の結果がオーバフローしたとき“1”になり、それ以外るとき“0”になります。

I ビット (割り込み許可ビット)

割り込み要求の受け付けを許可するビットです。例外を受け付けると、このビットは“0”になります。

U ビット (スタックポインタ指定ビット)

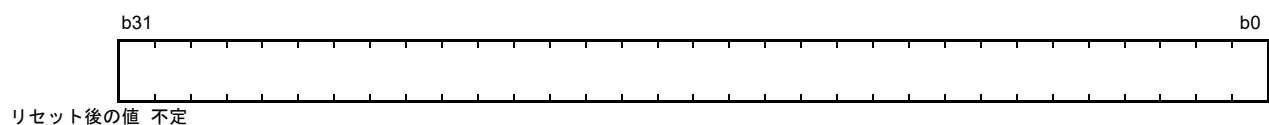
使用するスタックポインタ (ISP/USP) を指定するビットです。例外を受け付けると、このビットは“0”になります。スーパーバイザモードからユーザモードに移行すると、このビットは“1”になります。

PM ビット (プロセッサモード設定ビット)

プロセッサモードを設定するビットです。例外を受け付けると、このビットは“0”になります。

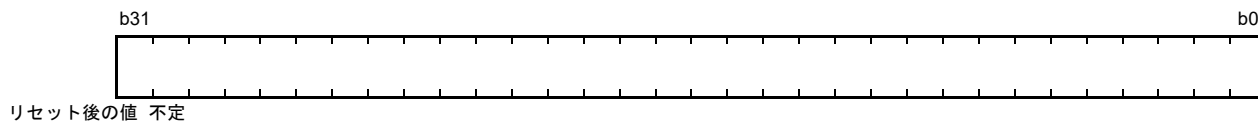
IPL[3:0] ビット (プロセッサ割り込み優先レベル)

IPL[3:0] ビットは、優先レベル 0 (最低) ~ 優先レベル 15 (最高) までの 16 段階のプロセッサ割り込み優先レベルを指定します。要求があった割り込みの優先レベルが、プロセッサ割り込み優先レベルより高い場合、その割り込みが許可されます。IPL[3:0] ビットをレベル 15 (Fh) に設定したとき、すべての割り込みが禁止されます。IPL[3:0] ビットは、ノンマスクابل割り込みが発生したとき、レベル 15 (Fh) になります。割り込みが発生したとき、受け付けた割り込みの優先レベルになります。

2.2.2.6 バックアップ PC (BPC)

バックアップ PC (BPC) は、割り込み応答を高速化するために設けられたレジスタです。高速割り込みが発生すると、プログラムカウンタ (PC) の内容が BPC に退避されます。

2.2.2.7 バックアップ PSW (BPSW)

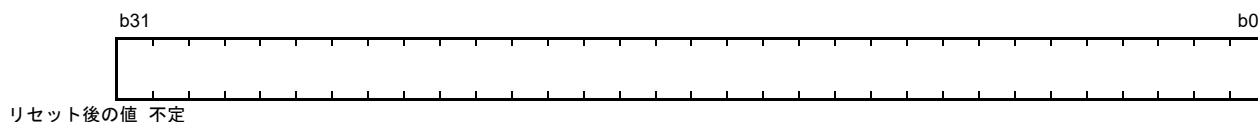


バックアップ PSW (BPSW) は、割り込み応答を高速化するために設けられたレジスタです。

高速割り込みが発生すると、プロセッサステータスワード (PSW) の内容が BPSW に退避されます。

BPSW のビットの割り当ては、PSW に対応しています。

2.2.2.8 高速割り込みベクタレジスタ (FINTV)



高速割り込みベクタレジスタ (FINTV) は、割り込み応答を高速化するために設けられたレジスタです。

高速割り込み発生時の分岐先番地を設定してください。

2.2.2.9 浮動小数点ステータスワード (FPSW)

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	FS	FX	FU	FZ	FO	FV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	EX	EU	EZ	EO	EV	—	DN	CE	CX	CU	CZ	CO	CV	RM[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	RM[1:0]	浮動小数点丸めモード設定ビット	b1 b0 0 0: 最近値への丸め 0 1: 0方向への丸め 1 0: +∞方向への丸め 1 1: -∞方向への丸め	R/W
b2	CV	無効演算要因フラグ	0: 無効演算の発生なし 1: 無効演算の発生あり	R/(W) (注1)
b3	CO	オーバフロー要因フラグ	0: オーバフローの発生なし 1: オーバフローの発生あり	R/(W) (注1)
b4	CZ	ゼロ除算要因フラグ	0: ゼロ除算の発生なし 1: ゼロ除算の発生あり	R/(W) (注1)
b5	CU	アンダフロー要因フラグ	0: アンダフローの発生なし 1: アンダフローの発生あり	R/(W) (注1)
b6	CX	精度異常要因フラグ	0: 精度異常の発生なし 1: 精度異常の発生あり	R/(W) (注1)
b7	CE	非実装処理要因フラグ	0: 非実装処理の発生なし 1: 非実装処理の発生あり	R/(W) (注1)
b8	DN	非正規化数の0フラッシュビット	0: 非正規化数を非正規化数として扱う 1: 非正規化数を0として扱う (注2)	R/W
b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b10	EV	無効演算例外処理許可ビット	0: 無効演算発生による例外処理を禁止 1: 無効演算発生による例外処理を許可	R/W
b11	EO	オーバフロー例外処理許可ビット	0: オーバフロー発生による例外処理を禁止 1: オーバフロー発生による例外処理を許可	R/W
b12	EZ	ゼロ除算例外処理許可ビット	0: ゼロ除算発生による例外処理を禁止 1: ゼロ除算発生による例外処理を許可	R/W
b13	EU	アンダフロー例外処理許可ビット	0: アンダフロー発生による例外処理を禁止 1: アンダフロー発生による例外処理を許可	R/W
b14	EX	精度異常例外処理許可ビット	0: 精度異常発生による例外処理を禁止 1: 精度異常発生による例外処理を許可	R/W
b25-b15	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b26	FV (注3)	無効演算フラグ	0: 無効演算の発生なし 1: 無効演算の発生あり (注8)	R/W
b27	FO (注4)	オーバフローフラグ	0: オーバフローの発生なし 1: オーバフローの発生あり (注8)	R/W
b28	FZ (注5)	ゼロ除算フラグ	0: ゼロ除算の発生なし 1: ゼロ除算の発生あり (注8)	R/W
b29	FU (注6)	アンダフローフラグ	0: アンダフローの発生なし 1: アンダフローの発生あり (注8)	R/W
b30	FX (注7)	精度異常フラグ	0: 精度異常の発生なし 1: 精度異常の発生あり (注8)	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b31	FS	浮動小数点エラーサマリフラグ	FU、FZ、FO、FVフラグの論理和を反映	R

- 注1. “0”を書いた場合、“0”になります。“1”を書いた場合、前の値を保持します。
 注2. 正の非正規化数は+0、負の非正規化数は-0として扱います。
 注3. EVビットが“0”のときに、FVフラグは有効となります。
 注4. EOビットが“0”のときに、FOフラグは有効となります。
 注5. EZビットが“0”のときに、FZフラグは有効となります。
 注6. EUビットが“0”のときに、FUフラグは有効となります。
 注7. EXビットが“0”のときに、FXフラグは有効となります。
 注8. 当該ビットが一度“1”になると、ソフトウェアで“0”にするまで“1”を保持します。

浮動小数点ステータスワード (FPSW) は、浮動小数点演算結果を示します。

例外処理許可ビット E_j で例外処理を許可 ($E_j = 1$) した場合は、例外処理ルーチンで該当する C_j フラグをチェックし、例外発生の要因を判断することができます。例外処理を禁止 ($E_j = 0$) した場合は、一連の処理の最後に F_j フラグをチェックし、例外発生の有無を確認することができます。 F_j フラグは蓄積フラグです。(j = X, U, Z, O, V)

RM[1:0] ビット (浮動小数点丸めモード設定ビット)

浮動小数点丸めモードを設定します。

【浮動小数点丸めモードの説明】

- 最近値への丸め (デフォルト) : 無限の有効桁を持つとして計算した場合の結果と近い方の値へ丸める
中間時は結果が偶数になる方向へ丸める
- 0方向への丸め : 結果の絶対値が小さくなる方向へ丸める (単純な切り捨て)
- $+\infty$ 方向への丸め : 結果の値が大きくなる方向へ丸める
- $-\infty$ 方向への丸め : 結果の値が小さくなる方向へ丸める

(1) 「最近値への丸め」はデフォルトのモードであり、最も正確な値を返します。

(2) 「0方向への丸め」、「 $+\infty$ 方向への丸め」、「 $-\infty$ 方向への丸め」は、区間演算 (Interval arithmetic) を使用した精度保証を行うときに使用します。

CV フラグ (無効演算要因フラグ)、CO フラグ (オーバフロー要因フラグ)

CZ フラグ (ゼロ除算要因フラグ)、CU フラグ (アンダフロー要因フラグ)

CX フラグ (精度異常要因フラグ)、CE フラグ (非実装処理要因フラグ)

IEEE754 規格で規定された5つの例外 (オーバフロー、アンダフロー、精度異常、ゼロ除算、無効演算) の他、非実装処理が発生した場合に該当するフラグが“1”になります。

- “1”の場合、FPU 演算命令実行時に“0”になります。
- MVTC、POPC 命令で“0”を書いた場合、“0”になります。“1”を書いた場合、前の値を保持します。

DN ビット (非正規化数の0フラッシュビット)

“0”のとき非正規化数を非正規化数として扱います。“1”のとき非正規化数を“0”として扱います。

EV ビット (無効演算例外処理許可ビット)、EO ビット (オーバフロー例外処理許可ビット)

EZ ビット (ゼロ除算例外処理許可ビット)、EU ビット (アンダフロー例外処理許可ビット)

EX ビット (精度異常例外処理許可ビット)

浮動小数点演算命令実行により、IEEE754 規格で規定された5つの例外が発生したときに、CPU が例外処理に移行するかどうかを制御します。

“0”の場合、例外処理は禁止されます。“1”の場合、例外処理が許可されます。

FV フラグ（無効演算フラグ）、FO フラグ（オーバフローフラグ）、FZ フラグ（ゼロ除算フラグ） FU フラグ（アンダフローフラグ）、FX フラグ（精度異常フラグ）

例外処理許可ビット E_j が“0”（例外処理を禁止）の場合、IEEE754 規格で規定された 5 つの例外が発生すると、該当するフラグが“1”になります。

- $E_j=1$ （例外処理を許可）のときは、このフラグは変化しません。
- 当該フラグが“1”になると、ソフトウェアで“0”にするまで“1”を保持します。（蓄積フラグ）

FS フラグ（浮動小数点エラーサマリフラグ）

FU、FZ、FO、FV フラグの論理和を反映します。

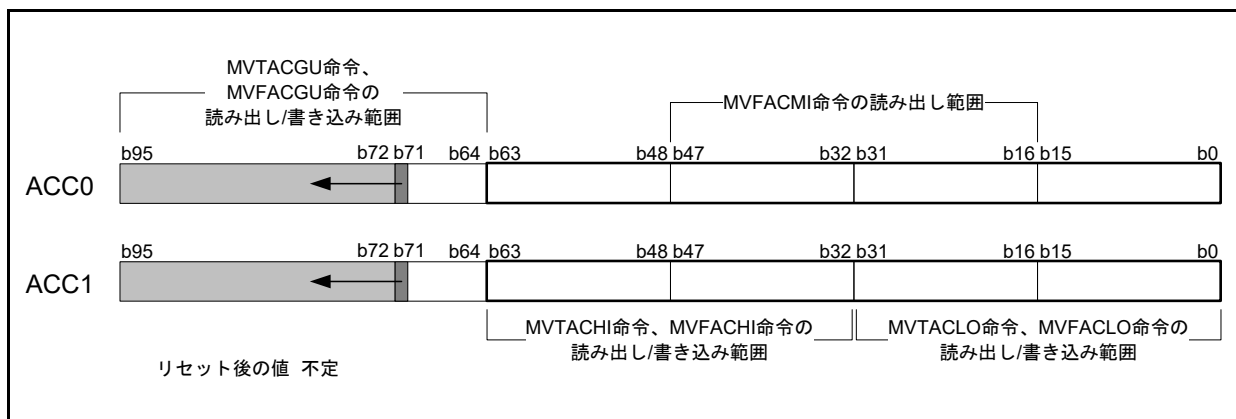
2.2.3 アキュムレータ

アキュムレータ（ACC0、ACC1）は、72 ビットのレジスタです。DSP 機能命令で使用されます。アキュムレータは、読み出し時や書き込み時は 96 ビットのレジスタとして扱われます。このとき、アキュムレータの b95 ~ b72 の扱いは、読み出し時に b71 の値を符号拡張し、書き込み時には無視します。また、ACC0 は乗算命令（EMUL、EMULU、FMUL、MUL）、積和演算命令（RMPA）でも使用され、これらの命令実行の際は ACC0 の値が変更されます。

ACC0、ACC1 への書き込みには、「MVTACGU 命令」、「MVTACHI 命令」と「MVTACLO 命令」を使用します。「MVTACGU 命令」は（b95 ~ b64）に、「MVTACHI 命令」は上位側 32 ビット（b63 ~ b32）に、「MVTACLO 命令」は下位側 32 ビット（b31 ~ b0）にデータを転送します。

読み出しには、「MVFACGU 命令」、「MVFACHI 命令」、「MVFACMI 命令」と「MVFACLO 命令」を使用します。

「MVFACGU 命令」でガードビット（b95 ~ b64）、「MVFACHI 命令」で上位側 32 ビット（b63 ~ b32）、「MVFACMI 命令」で中央の 32 ビット（b47 ~ b16）、「MVFACLO 命令」で下位側 32 ビット（b31 ~ b0）のデータをそれぞれ読み出します。



注． b95 ~ b72 は、b71 の値を符号拡張した値が読み出されます。この部分への書き込みは無視されます。

2.3 プロセッサモード

RXv2 CPUには、スーパーバイザモード、およびユーザモードの2つのプロセッサモードがあります。これらのプロセッサモードを使用して、CPUリソースやメモリに対する階層的な保護機構を実現することができます。各プロセッサモードには、メモリアクセスや実行可能な命令に対する権限を規定しており、スーパーバイザモードはユーザモードより高い権限を持っています。リセット後は、スーパーバイザモードで動作します。

2.3.1 スーパーバイザモード

スーパーバイザモードでは、すべてのCPUリソースにアクセスすることができ、また、すべての命令を実行することができます。ただし、MVTC、POPC命令によるプロセッサステータスワード (PSW) のプロセッサモード設定ビット (PM) への書き込みは無視されます。PMビットへの書き込み方法については、「2.2.2.5 プロセッサステータスワード (PSW)」を参照してください。

2.3.2 ユーザモード

ユーザモードでは、一部のCPUリソースへのライトアクセスが制限されます。ライトアクセスが制限されるCPUリソースは以下のとおりです。この制限はすべての命令からのアクセスが対象になります。

- プロセッサステータスワード (PSW) の一部のビット (IPL[3:0], PM, U, I)
- 割り込みスタックポインタ (ISP)
- 例外テーブルレジスタ (EXTB)
- 割り込みテーブルレジスタ (INTB)
- バックアップ PSW (BPSW)
- バックアップ PC (BPC)
- 高速割り込みベクタレジスタ (FINTV)

2.3.3 特権命令

特権命令は、スーパーバイザモードでのみ実行可能な命令です。ユーザモードで特権命令を実行すると、特権命令例外が発生します。特権命令には、RTFI、MVTIPL、RTE、WAIT命令があります。

2.3.4 プロセッサモード間の移行

プロセッサモードは、プロセッサステータスワード (PSW) のプロセッサモード設定ビット (PM) によって切り替えられます。ただし、MVTC、POPC命令によるPMビットの書き換えは無効です。以下に示す方法で切り替えてください。

(1) ユーザモードからスーパーバイザモードへの移行

例外が発生するとPSW.PMビットが“0”になり、CPUはスーパーバイザモードへ移行します。ハードウェア前処理は、スーパーバイザモードで実行されます。例外が発生する直前のプロセッサモードは、退避されたPSW.PMビットに保持されます。

(2) スーパーバイザモードからユーザモードへの移行

スタック上に退避されているPSW.PMビットを“1”にした後RTE命令を実行する、あるいはバックアップPSW (BPSW) に退避されているPSW.PMビットを“1”にした後RTFI命令を実行することにより、ユーザモードへ移行します。ユーザモードへ移行すると、PSWのスタックポインタ指定ビット (U) が“1”になります。

2.4 データタイプ

RXv2 CPU は、整数、浮動小数点数、ビット、ストリングの4種類のデータを扱うことができます。

詳細は「RXファミリ RXv2 命令セットアーキテクチャ ユーザーズマニュアル ソフトウェア編」を参照してください。

2.4.1 整数

整数には、符号付きと、符号なしがあります。符号付き整数の負の値は、2の補数で表現します。

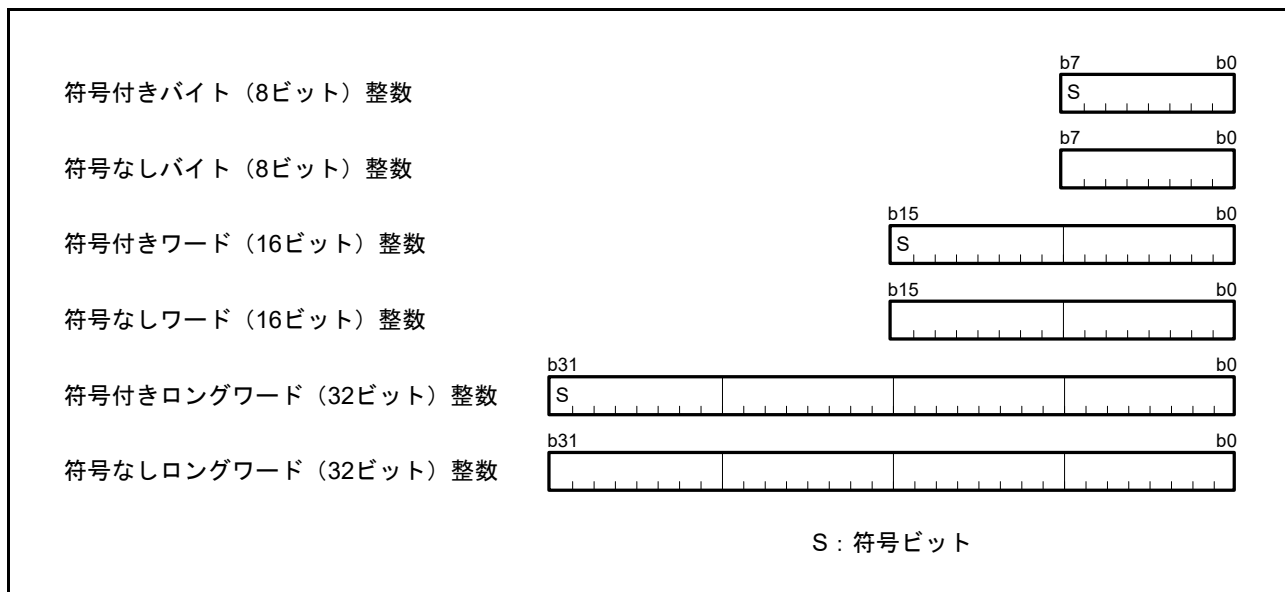


図 2.2 整数

2.4.2 浮動小数点数

浮動小数点数は、IEEE754 規格で規定されている単精度浮動小数点数に準拠しています。浮動小数点数は、浮動小数点演算命令 FADD、FCMP、FDIV、FMUL、FSQRT、FSUB、FTOI、FTOU、ITOF、ROUND、UTOF の 11 種類の命令で使用できます。

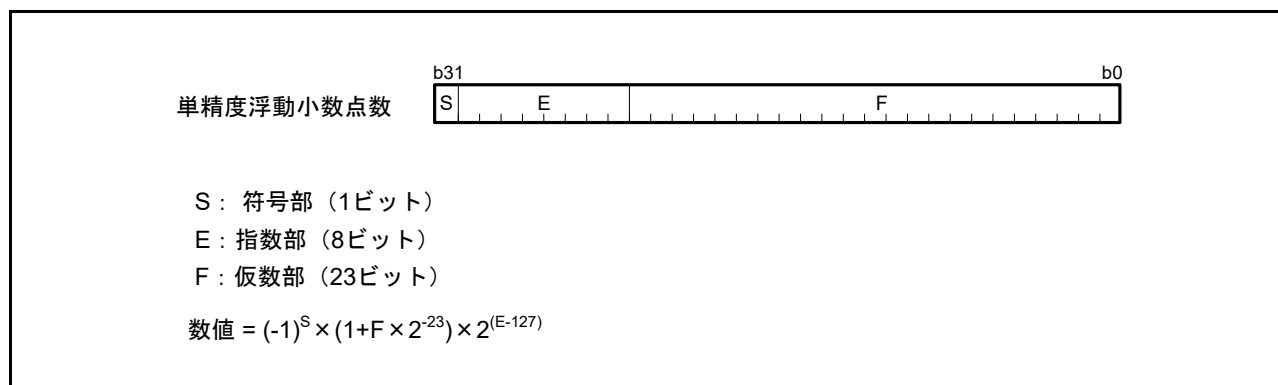


図 2.3 浮動小数点数

浮動小数点数は、以下の数値に対応しています。

0 < E < 255 (正規化数 - Normal Numbers)

E = 0 かつ F = 0 (ゼロ - Signed Zero)

E = 0 かつ F > 0 (非正規化数 - Subnormal Numbers) (注 1)

E = 255 かつ F = 0 (無限大 - Infinity)

E = 255 かつ F > 0 (非数 - NaN : Not a Number)

注 1. FPSW.DN ビットが“1”のときは、0として扱います。DN ビットが“0”のときは、非実装処理が発生します。

2.4.3 ビット

ビットは、ビット操作命令 BCLR、BMCnd、BNOT、BSET、BTST の 5 種類の命令で使用できます。

レジスタのビットは、対象とするレジスタと、31 ~ 0 のビット番号で指定します。

メモリのビットは、対象とするアドレスと、7 ~ 0 のビット番号で指定します。アドレス指定に使用できるアドレッシングモードは、レジスタ間接、レジスタ相対の 2 種類です。

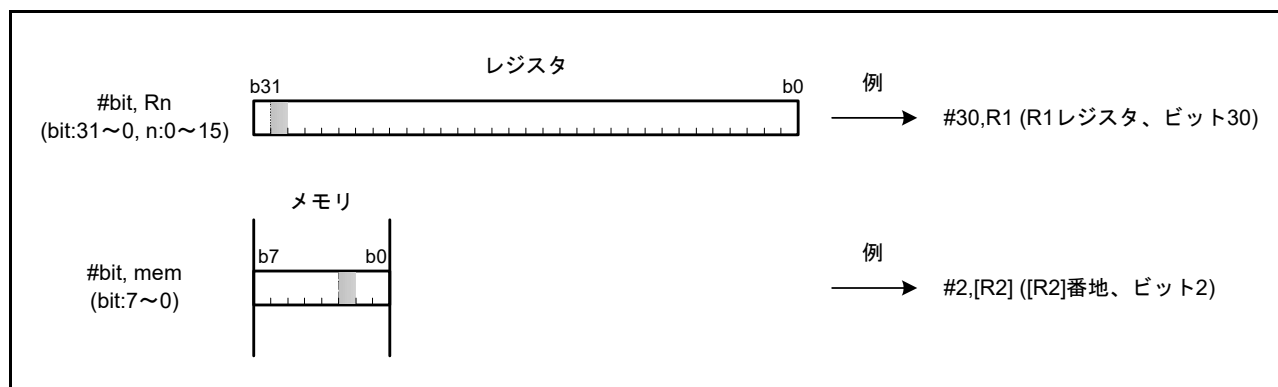


図 2.4 ビット

2.4.4 スtring

Stringとは、バイト（8ビット）、ワード（16ビット）、またはロングワード（32ビット）のデータを任意の数だけ連続して並べたデータタイプです。Stringは、String操作命令 SCMPU、SMOVB、SMOVF、SMOVU、SSTR、SUNTIL、S WHILE の7種類の命令で使用できます

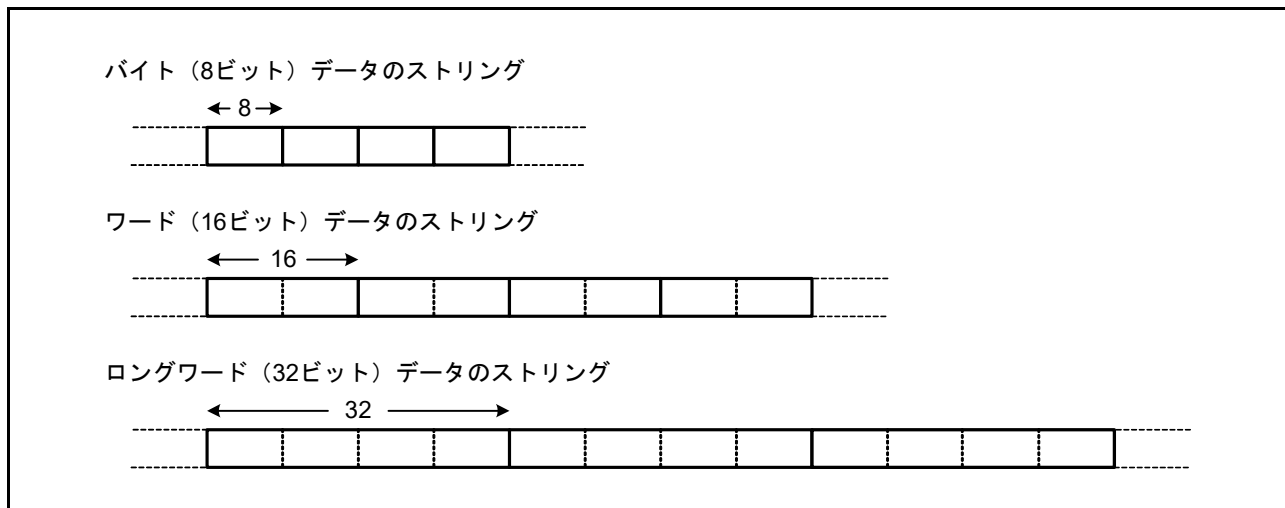


図 2.5 String

2.5 エンディアン

RXv2 CPU の命令は、リトルエンディアン固定です。

データ配置は、リトルエンディアンとビッグエンディアンから選択できます。

2.5.1 エンディアンの設定

本 MCU では、バイトデータの並び方を、上位バイト (MSB) が 0 番地になるビッグエンディアン、下位バイト (LSB) が 0 番地になるリトルエンディアンのいずれも使用できます。

エンディアンの設定については、「3. 動作モード」を参照してください。

命令によって 8/16/32 ビットアクセスが選択され、リトルエンディアン、ビッグエンディアンの設定によってアクセス動作が異なります。それぞれのアクセス動作を表 2.1 ~ 表 2.12 に示します。

表中の

LL は、汎用レジスタの D7 ~ D0

LH は、汎用レジスタの D15 ~ D8

HL は、汎用レジスタの D23 ~ D16

HH は、汎用レジスタの D31 ~ D24 を示します。

	D31 ~ D24	D23 ~ D16	D15 ~ D8	D7 ~ D0
汎用レジスタ Rm	HH	HL	LH	LL

表 2.1 リトルエンディアン設定時の 32 ビットリード動作

動作 src 番地	0 番地を 32 ビット でリード	1 番地を 32 ビットで リード	2 番地を 32 ビットで リード	3 番地を 32 ビットで リード	4 番地を 32 ビットで リード
0 番地	LL に転送	—	—	—	—
1 番地	LH に転送	LL に転送	—	—	—
2 番地	HL に転送	LH に転送	LL に転送	—	—
3 番地	HH に転送	HL に転送	LH に転送	LL に転送	—
4 番地	—	HH に転送	HL に転送	LH に転送	LL に転送
5 番地	—	—	HH に転送	HL に転送	LH に転送
6 番地	—	—	—	HH に転送	HL に転送
7 番地	—	—	—	—	HH に転送

表 2.2 ビッグエンディアン設定時の 32 ビットリード動作

動作 src 番地	0 番地を 32 ビットで リード	1 番地を 32 ビットで リード	2 番地を 32 ビットで リード	3 番地を 32 ビットで リード	4 番地を 32 ビットで リード
0 番地	HH に転送	—	—	—	—
1 番地	HL に転送	HH に転送	—	—	—
2 番地	LH に転送	HL に転送	HH に転送	—	—
3 番地	LL に転送	LH に転送	HL に転送	HH に転送	—
4 番地	—	LL に転送	LH に転送	HL に転送	HH に転送
5 番地	—	—	LL に転送	LH に転送	HL に転送
6 番地	—	—	—	LL に転送	LH に転送
7 番地	—	—	—	—	LL に転送

表2.3 リトルエンディアン設定時の32ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 32ビットで ライト	1番地に 32ビットで ライト	2番地に 32ビットで ライト	3番地に 32ビットで ライト	4番地に 32ビットで ライト
0番地	LLを転送	—	—	—	—
1番地	LHを転送	LLを転送	—	—	—
2番地	HLを転送	LHを転送	LLを転送	—	—
3番地	HHを転送	HLを転送	LHを転送	LLを転送	—
4番地	—	HHを転送	HLを転送	LHを転送	LLを転送
5番地	—	—	HHを転送	HLを転送	LHを転送
6番地	—	—	—	HHを転送	HLを転送
7番地	—	—	—	—	HHを転送

表2.4 ビッグエンディアン設定時の32ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 32ビットで ライト	1番地に 32ビットで ライト	2番地に 32ビットで ライト	3番地に 32ビットで ライト	4番地に 32ビットで ライト
0番地	HHを転送	—	—	—	—
1番地	HLを転送	HHを転送	—	—	—
2番地	LHを転送	HLを転送	HHを転送	—	—
3番地	LLを転送	LHを転送	HLを転送	HHを転送	—
4番地	—	LLを転送	LHを転送	HLを転送	HHを転送
5番地	—	—	LLを転送	LHを転送	HLを転送
6番地	—	—	—	LLを転送	LHを転送
7番地	—	—	—	—	LLを転送

表2.5 リトルエンディアン設定時の16ビットリード動作

動作 src番地	0番地を 16ビットで リード	1番地を 16ビットで リード	2番地を 16ビットで リード	3番地を 16ビットで リード	4番地を 16ビットで リード	5番地を 16ビットで リード	6番地を 16ビットで リード
0番地	LLに転送	—	—	—	—	—	—
1番地	LHに転送	LLに転送	—	—	—	—	—
2番地	—	LHに転送	LLに転送	—	—	—	—
3番地	—	—	LHに転送	LLに転送	—	—	—
4番地	—	—	—	LHに転送	LLに転送	—	—
5番地	—	—	—	—	LHに転送	LLに転送	—
6番地	—	—	—	—	—	LHに転送	LLに転送
7番地	—	—	—	—	—	—	LHに転送

表2.6 ビッグエンディアン設定時の16ビットリード動作

動作 src番地	0番地を 16ビットで リード	1番地を 16ビットで リード	2番地を 16ビットで リード	3番地を 16ビットで リード	4番地を 16ビットで リード	5番地を 16ビットで リード	6番地を 16ビットで リード
0番地	LHに転送	—	—	—	—	—	—
1番地	LLに転送	LHに転送	—	—	—	—	—
2番地	—	LLに転送	LHに転送	—	—	—	—
3番地	—	—	LLに転送	LHに転送	—	—	—
4番地	—	—	—	LLに転送	LHに転送	—	—
5番地	—	—	—	—	LLに転送	LHに転送	—
6番地	—	—	—	—	—	LLに転送	LHに転送
7番地	—	—	—	—	—	—	LLに転送

表2.7 リトルエンディアン設定時の16ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 16ビットで ライト	1番地に 16ビットで ライト	2番地に 16ビットで ライト	3番地に 16ビットで ライト	4番地に 16ビットで ライト	5番地に 16ビットで ライト	6番地に 16ビットで ライト
0番地	LLを転送	—	—	—	—	—	—
1番地	LHを転送	LLを転送	—	—	—	—	—
2番地	—	LHを転送	LLを転送	—	—	—	—
3番地	—	—	LHを転送	LLを転送	—	—	—
4番地	—	—	—	LHを転送	LLを転送	—	—
5番地	—	—	—	—	LHを転送	LLを転送	—
6番地	—	—	—	—	—	LHを転送	LLを転送
7番地	—	—	—	—	—	—	LHを転送

表2.8 ビッグエンディアン設定時の16ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 16ビットで ライト	1番地に 16ビットで ライト	2番地に 16ビットで ライト	3番地に 16ビットで ライト	4番地に 16ビットで ライト	5番地に 16ビットで ライト	6番地に 16ビットで ライト
0番地	LHを転送	—	—	—	—	—	—
1番地	LLを転送	LHを転送	—	—	—	—	—
2番地	—	LLを転送	LHを転送	—	—	—	—
3番地	—	—	LLを転送	LHを転送	—	—	—
4番地	—	—	—	LLを転送	LHを転送	—	—
5番地	—	—	—	—	LLを転送	LHを転送	—
6番地	—	—	—	—	—	LLを転送	LHを転送
7番地	—	—	—	—	—	—	LLを転送

表2.9 リトルエンディアン設定時の8ビットリード動作

動作 src番地	0番地を 8ビットでリード	1番地を 8ビットでリード	2番地を 8ビットでリード	3番地を 8ビットでリード
0番地	LLに転送	—	—	—
1番地	—	LLに転送	—	—
2番地	—	—	LLに転送	—
3番地	—	—	—	LLに転送

表2.10 ビッグエンディアン設定時の8ビットリード動作

動作 src番地	0番地を 8ビットでリード	1番地を 8ビットでリード	2番地を 8ビットでリード	3番地を 8ビットでリード
0番地	LLに転送	—	—	—
1番地	—	LLに転送	—	—
2番地	—	—	LLに転送	—
3番地	—	—	—	LLに転送

表2.11 リトルエンディアン設定時の8ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 8ビットでライト	1番地に 8ビットでライト	2番地に 8ビットでライト	3番地に 8ビットでライト
0番地	LLを転送	—	—	—
1番地	—	LLを転送	—	—
2番地	—	—	LLを転送	—
3番地	—	—	—	LLを転送

表2.12 ビッグエンディアン設定時の8ビットライト動作

動作 dest番地	0番地に 8ビットでライト	1番地に 8ビットでライト	2番地に 8ビットでライト	3番地に 8ビットでライト
0番地	LLを転送	—	—	—
1番地	—	LLを転送	—	—
2番地	—	—	LLを転送	—
3番地	—	—	—	LLを転送

2.5.2 I/O レジスタアクセス

I/O レジスタはビッグエンディアン、リトルエンディアン設定に関わらず、固定アドレスに配置されています。したがってI/O レジスタへのアクセスは、エンディアン変更の影響を受けません。I/O レジスタの配置については、各章のレジスタの説明を参照してください。

2.5.3 I/O レジスタアクセスの注意事項

I/O レジスタは、以下の規則に従ってアクセスしてください。

- 8ビットバス幅指定のI/O レジスタは、サイズ指定子 (.size) が .B であるか、サイズ拡張指定子 (.memex) が .B または .UB である命令を使用してアクセスしてください。
- 16ビットバス幅指定のI/O レジスタは、サイズ指定子 (.size) が .W であるか、サイズ拡張指定子 (.memex) が .W または .UW である命令を使用してアクセスしてください。
- 32ビットバス幅指定のI/O レジスタは、サイズ指定子 (.size) が .L であるか、サイズ拡張指定子 (.memex) が .L である命令を使用してアクセスしてください。

2.5.4 データ配置

2.5.4.1 レジスタのデータ配置

レジスタのデータサイズと、ビット番号の関係を図 2.6 に示します。

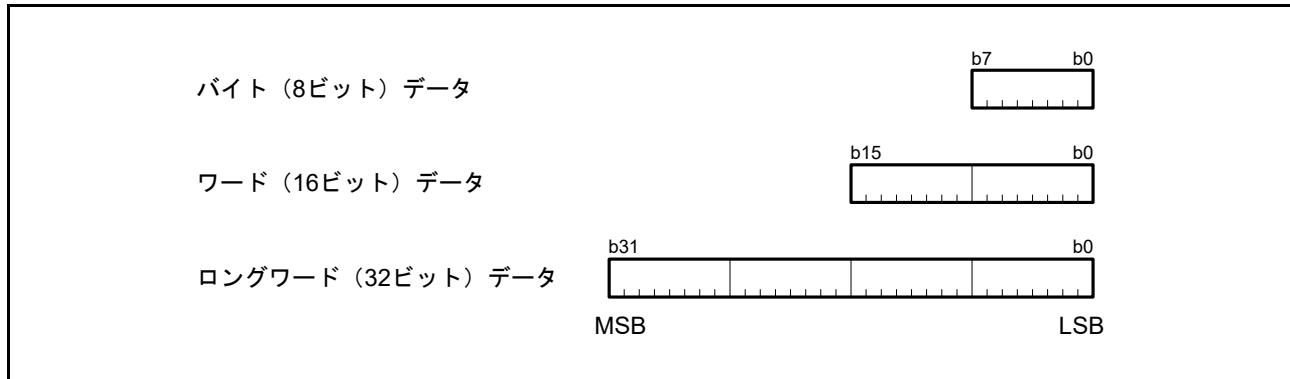


図 2.6 レジスタのデータ配置

2.5.4.2 メモリ上のデータ配置

メモリ上のデータサイズは、バイト (8 ビット)、ワード (16 ビット)、ロングワード (32 ビット) の 3 種類です。データ配置は、リトルエンディアンか、ビッグエンディアンかを選択することができます。メモリ上のデータ配置を図 2.7 に示します。

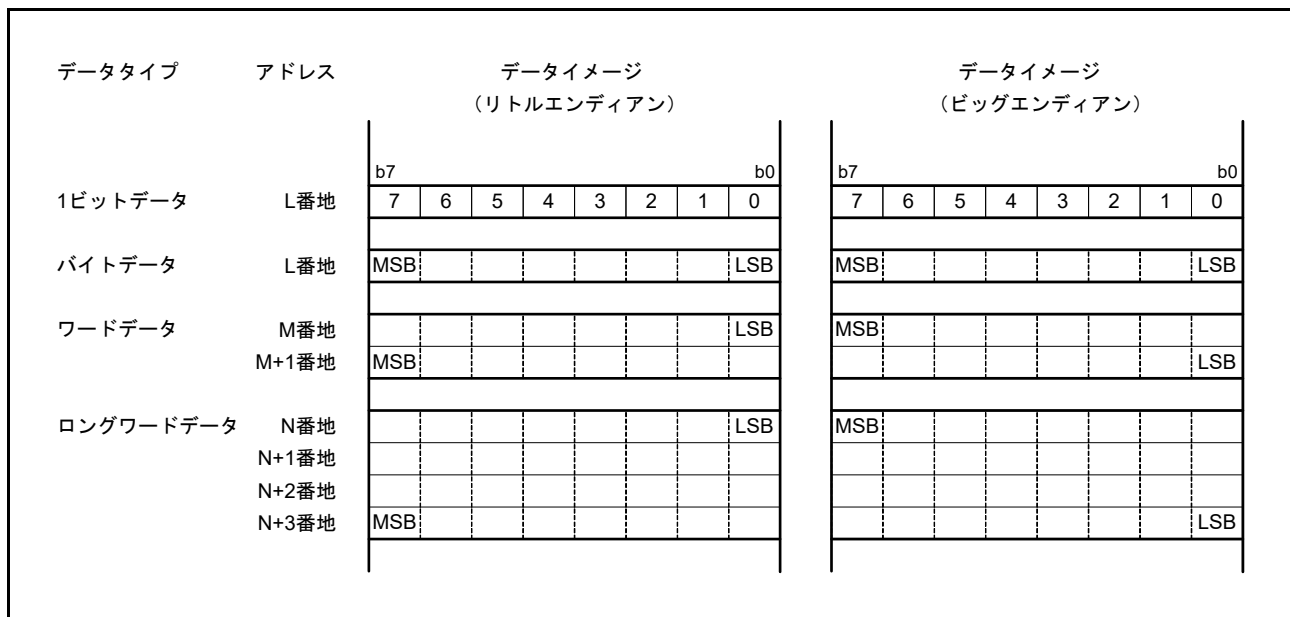


図 2.7 メモリ上のデータ配置

2.6 ベクタテーブル

ベクタテーブルには、例外ベクタテーブルと割り込みベクタテーブルがあります。ベクタテーブルは、1ベクタあたり4バイトで構成されており、各ベクタに対応する例外処理ルーチンの先頭アドレスを設定します。

2.6.1 例外ベクタテーブル

例外ベクタテーブルは、例外テーブルレジスタ (EXTB) の内容で示された値を先頭アドレス (ExtBase) とする 124 バイトの領域に、特権命令例外、アクセス例外、未定義命令例外、浮動小数点例外、ノンマスカブル割り込みの各ベクタを配置しています。リセットのベクタは例外ベクタテーブルの値に関係なく常に FFFFFFFCh 番地に配置されます。図 2.8 に例外ベクタテーブルを示します。

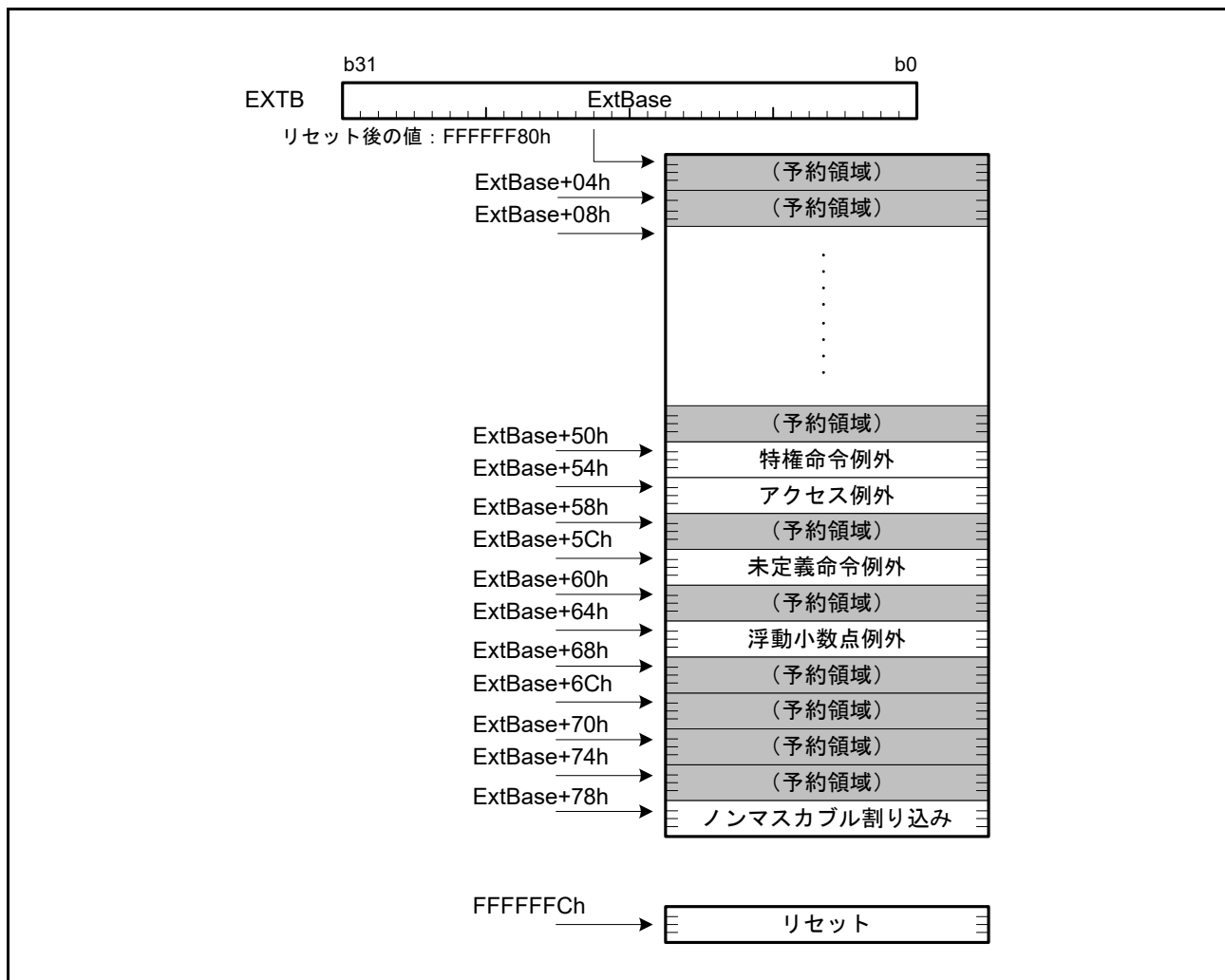


図 2.8 例外ベクタテーブル

2.6.2 割り込みベクタテーブル

割り込みベクタテーブルは、テーブルの配置アドレスを変えることができるベクタテーブルです。割り込みテーブルレジスタ (INTB) の内容で示された値を先頭アドレス (IntBase) とする 1,024 バイトの領域に、無条件トラップ、割り込みの各ベクタを配置しています。図 2.9 に割り込みベクタテーブルを示します。

割り込みベクタテーブルには、ベクタごとに番号 (0 ~ 255) が付けられています。無条件トラップ発生要因の INT 命令ではオペランドで指定した番号 (0 ~ 255) に対応したベクタが、BRK 命令では番号 0 のベクタが割り当てられています。また、割り込み要因では、製品ごとに決められたベクタ番号 (0 ~ 255) が割り当てられています。割り込みのベクタ番号については、「14.3.1 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

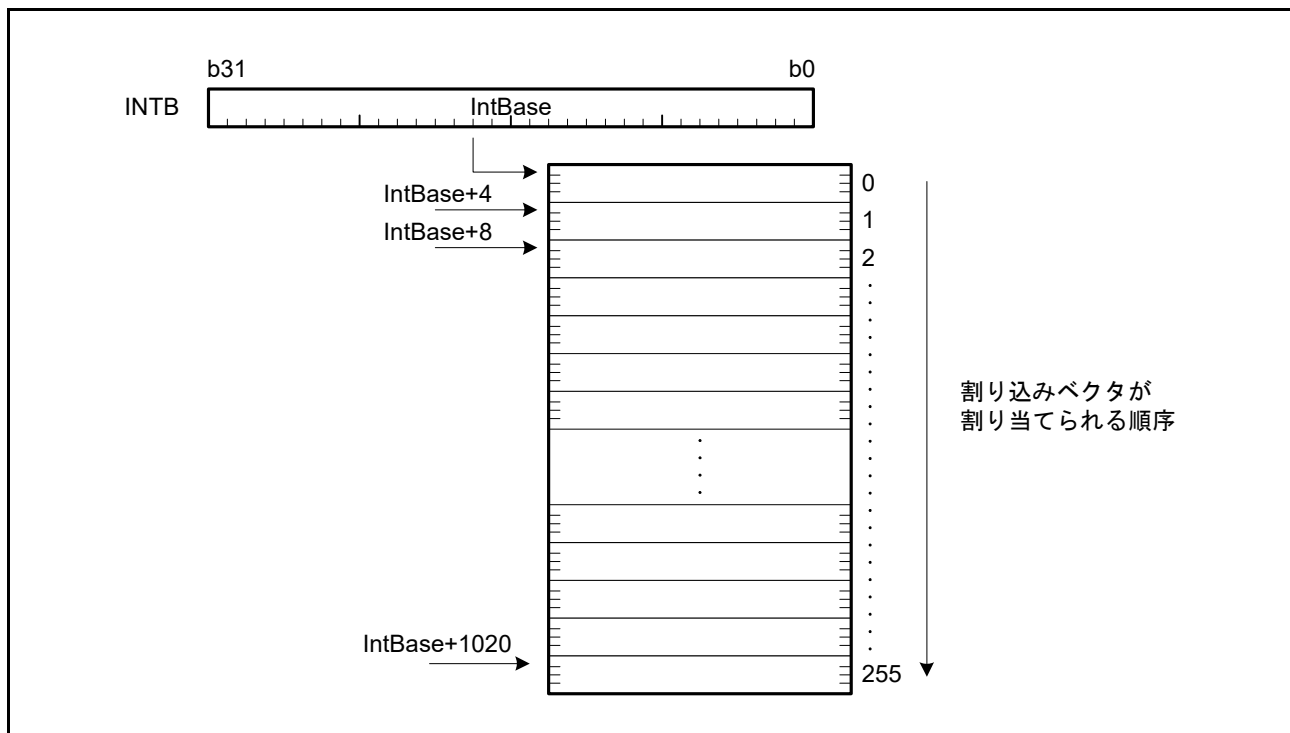


図 2.9 割り込みベクタテーブル

2.7 命令動作

2.7.1 RMPA 命令、ストリング操作命令に関する制約事項

2.7.1.1 転送サイズとデータプリフェッチ

RMPA 命令、およびストリング操作命令（SCMPU, SMOVB, SMOVF, SMOVU, SSTR, SUNTIL, SWHILE）は、メモリからのデータ読み出し、およびメモリへのデータ書き込みを高速に処理するため、ロングワード単位でデータ転送を行います。最後にロングワード未満のデータ処理が残った場合、以下のサイズでデータ転送を行います。

- RMPA、SSTR、SUNTIL、SWHILE 命令：サイズ指定子で指定したサイズ
- SCMPU、SMOVB、SMOVF、SMOVU 命令：バイト

また、上記の処理を行うため、RMPA 命令、および SSTR 命令を除くストリング操作命令（SCMPU, SMOVB, SMOVF, SMOVU, SUNTIL, SWHILE）は、メモリからのデータ読み出しにおいて、データプリフェッチを行います。データ読み出し位置に対して、最大で3バイト先までデータプリフェッチを行います。各命令のデータ読み出し位置は、以下のとおりです。

- RMPA 命令：R1 で指定される被乗数番地、および R2 で指定される乗数番地
- SCMPU 命令：R1 で指定される比較元番地、および R2 で指定される比較先番地
- SUNTIL、SWHILE 命令：R1 で指定される比較先番地
- SMOVB、SMOVF、SMOVU 命令：R2 で指定される転送元番地

2.7.1.2 I/O レジスタへのアクセス

RMPA 命令、ストリング操作命令（SCMPU, SMOVB, SMOVF, SMOVU, SSTR, SUNTIL, SWHILE）の操作対象データを I/O レジスタに配置することは禁止しており、その動作は保証していません。

2.8 サイクル数

2.8.1 命令とサイクル数

表 2.13 ～表 2.20 に各命令実行のサイクル数を示します。メモリアクセスを行う命令のサイクル数は、ノーウェイトメモリアクセス時のサイクル数です。また、表中のオペランド表記は、以下に従います。

#IMM : 即値

flag : ビット、フラグ

Rs, Rs2, Rd, Rd2, Ri, Rb : 汎用レジスタ

As, Ad : アキュムレータ

CR : 制御レジスタ

dsp : ディスプレースメント

pcdsp : ディスプレースメント

表 2.13 算術/論理演算命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
算術/論理演算命令 (レジスタ間、即値-レジスタ)	<ul style="list-style-type: none"> • {ABS, NEG, NOT} "Rd"/"Rs, Rd" • {ADC, MAX, MIN, ROTL, ROTR, XOR} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd" • ADD "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"/"#IMM, Rs, Rd"/"Rs, Rs2, Rd" • {AND, MUL, OR, SUB} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"/"Rs, Rs2, Rd" • {CMP, TST} "#IMM, Rs"/"Rs, Rs2" • NOP • {ROLC, RORC, SAT} "Rd" • SBB "Rs, Rd" • {SHAR, SHLL, SHLR} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"/"#IMM, Rs, Rd" 	1
	• DIV "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"	3 ~ 20 (注1)
	• DIVU "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"	2 ~ 18 (注1)
	• {EMUL, EMULU} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"	2
	• SATR	3
算術/論理演算命令 (メモリスソースオペランド)	<ul style="list-style-type: none"> • {ADC, ADD, AND, MAX, MIN, MUL, OR, SBB, SUB, XOR} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd" • {CMP, TST} "[Rs], Rs2"/"dsp[Rs], Rs2" 	3
	• DIV "[Rs], Rd / dsp[Rs], Rd"	5 ~ 22
	• DIVU "[Rs], Rd / dsp[Rs], Rd"	4 ~ 20
	• {EMUL, EMULU} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	4
	• RMPA.B	6+7×floor(n/4)+4×(n%4) nは処理バイト数 (注2)
	• RMPA.W	6+5×floor(n/2)+4×(n%2) nは処理ワード数 (注2)
• RMPA.L	6+4n nは処理ロングワード数 (注2)	

注1. 除算命令のサイクル数は、除数、被除数の値により変動します。

注2. floor(x) : x以下の最大の整数

表2.14 転送命令のサイクル数

命令	ニーモニック（サイズ省略時は、全サイズ共通の動作）	サイクル数
転送命令 （レジスタ間、即値-レジスタ）	<ul style="list-style-type: none"> MOV "#IMM, Rd"/"Rs, Rd" {MOVU, REVL, REVW} "Rs, Rd" SCCnd "Rd" {STNZ, STZ} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd" 	1
	<ul style="list-style-type: none"> XCHG "Rs, Rd" 	2
転送命令 （ロード動作）	<ul style="list-style-type: none"> {MOV, MOVU} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"/"[Rs+], Rd"/"[-Rs], Rd"/"[Ri, Rb], Rd" MOVLI "[Rs], Rd" POP "Rd" 	スループット：1 レイテンシ：2（注1）
	<ul style="list-style-type: none"> POPC "CR" 	スループット：3 レイテンシ：4（注1）
	<ul style="list-style-type: none"> POPM "Rd-Rd2" 	スループット：n レイテンシ：n+1 nはレジスタ数（注1、注2）
転送命令 （ストア動作）	<ul style="list-style-type: none"> MOV "Rs, [Rd]"/"Rs, dsp[Rd]"/"Rs, [Rd+]" / "Rs, [-Rd]"/"Rs, [Ri, Rb]"/"#IMM, dsp[Rd]"/"#IMM, [Rd]" PUSH "Rs" PUSHC "CR" SCCnd "[Rd]"/"dsp[Rd]" MOVCO "Rs, [Rd]" 	1
	<ul style="list-style-type: none"> PUSHM "Rs-Rs2" 	n nはレジスタ数（注3）
転送命令 （メモリーレジスタの交換）	<ul style="list-style-type: none"> XCHG "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd" 	2
転送命令（メモリ間転送）	<ul style="list-style-type: none"> MOV "[Rs], [Rd]"/"dsp[Rs], [Rd]"/"[Rs], dsp[Rd]"/"dsp[Rs], dsp[Rd]" PUSH "[Rs]"/"dsp[Rs]" 	3

注1. メモリロード結果を後続命令が参照する場合、メモリロードを行う命令のサイクル数は“レイテンシ”として記載されているサイクル数を参照してください。それ以外は“スループット”として記載されているサイクル数を参照してください。

注2. POPM命令は、複数のロード動作に変換されます。MOV命令のロード動作が、指定したレジスタ分繰り返されるのと同じ処理です。

注3. PUSHM命令は、複数のストア動作に変換されます。MOV命令のストア動作が、指定したレジスタ分繰り返されるのと同じ処理です。

表2.15 ビット操作命令のサイクル数

命令	ニーモニック（サイズ省略時は、全サイズ共通の動作）	サイクル数
ビット操作命令（レジスタ）	<ul style="list-style-type: none"> {BCLR, BNOT, BSET} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd" BMCnd "#IMM, Rd" BTST "#IMM, Rs"/"Rs, Rs2" 	1
ビット操作命令 （メモリスソースオペランド）	<ul style="list-style-type: none"> {BCLR, BNOT, BSET} "#IMM, [Rd]"/"#IMM, dsp[Rd]"/"Rs, [Rd]"/"Rs, dsp[Rd]" BMCnd "#IMM, [Rd]"/"#IMM, dsp[Rd]" BTST "#IMM, [Rs]"/"#IMM, dsp[Rs]"/"Rs, [Rs2]"/"Rs, dsp[Rs2]" 	3

表 2.16 分岐命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
分岐命令	<ul style="list-style-type: none"> • BCnd "pcdsp" • {BRA, BSR} "pcdsp"/"Rs" • {JMP, JSR} "Rs" 	分岐成立 : 3 分岐不成立 : 1
	• RTE	6
	• RTFI	3
	• RTS	5
	• RTSD "#IMM"	5
	• RTSD "#IMM, Rd-Rd2"	スループット : $n < 5? 5: 1+n$ レイテンシ : $n < 4? 5: 2+n$ nはレジスタ数 (注1)

?: 条件演算子

注1. メモリロード結果を後続命令が参照する場合、メモリロードを行う命令のサイクル数は“レイテンシ”として記載されているサイクル数を参照してください。それ以外は“スループット”として記載されているサイクル数を参照してください。

表 2.17 浮動小数点演算命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
浮動小数点演算命令 (レジスタ間、即値-レジスタ)	• {FADD, FSUB} "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"/"Rs, Rs2, Rd"	2
	• FCMP "#IMM, Rs"/"Rs, Rs2"	1
	• FDIV "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"	16
	• FMUL "#IMM, Rd"/"Rs, Rd"/"Rs, Rs2, Rd"	2
	• FSQRT "Rs, Rd"	16
	• {FTOI, ROUND, ITOF} "Rs, Rd"	2
	• {FTOU, UTOF} "Rs, Rd"	2
浮動小数点演算命令 (メモリスソースオペランド)	• {FADD, FSUB} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	4
	• FCMP "[Rs], Rs2"/"dsp[Rs], Rs2"	3
	• FDIV "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	18
	• FMUL "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	4
	• FSQRT "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	18
	• {FTOI, ROUND, ITOF} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	4
	• {FTOU, UTOF} "[Rs], Rd"/"dsp[Rs], Rd"	4

表 2.18 DSP機能命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
DSP機能命令	<ul style="list-style-type: none"> • {EMULA, EMACA, EMSBA, MULLH, MULHI, MULLO, MACLH, MACHI, MACLO, MSBLH, MSBHI, MSBLO} "Rs, Rs2, Ad" • {MVFACHI, MVFACMI, MVFACLO, MVFACGU} "#IMM, As, Rd" • {MVTACHI, MVTACLO, MVTACGU} "As, Rd" • {RDACW, RDA CL, RACW, RA CL} "#IMM, Ad" 	1

表2.19 スtring操作命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
String操作命令 (注1)	• SCMPU	$2+4 \times \text{floor}(n/4)+4 \times (n\%4)$ nは比較バイト数 (注2)
	• SMOVB	$n > 3 ? 6+3 \times \text{floor}(n/4)+3 \times (n\%4) : 2+3n$ nは転送バイト数 (注2)
	• SMOVF, SMOVU	$2+3 \times \text{floor}(n/4)+3 \times (n\%4)$ nは転送バイト数 (注2)
	• SSTR.B	$2+\text{floor}(n/4)+n\%4$ nは転送バイト数 (注2)
	• SSTR.W	$2+\text{floor}(n/2)+n\%2$ nは転送ワード数 (注2)
	• SSTR.L	$2+n$ nは転送ロングワード数
	• SUNTIL.B, SWHILE.B	$3+3 \times \text{floor}(n/4)+3 \times (n\%4)$ nは比較バイト数 (注2)
	• SUNTIL.W, SWHILE.W	$3+3 \times \text{floor}(n/2)+3 \times (n\%2)$ nは比較ワード数 (注2)
	• SUNTIL.L, SWHILE.L	$3+3 \times n$ nは比較ロングワード数

?: 条件演算子

注1. SCMPU、SMOVU、SWHILE、SUNTILの各命令は、実行中に終了条件を満たした場合は、記載サイクルによらず実行を終了します。

注2. floor(x) : x以下の最大の整数

表2.20 システム操作命令のサイクル数

命令	ニーモニック (サイズ省略時は、全サイズ共通の動作)	サイクル数
システム操作命令	• {CLRPSW, SETPSW}“flag” • MVTC “#IMM, CR”/“Rs, CR” • MVFC “CR, Rd” • MVTIPL “#IMM”	1
	• RTE	6
	• RTFI	3

2.8.2 割り込み応答サイクル数

表 2.21 に割り込み応答処理のサイクル数を示します。

表 2.21 割り込み応答サイクル数

割り込み要求の種類/処理内容	高速割り込み	高速割り込み以外の割り込み
ICU 優先順位判定	2サイクル	
CPU 割り込み要求通知から割り込み受け付けまでのサイクル数	Nサイクル (実行している命令によって異なる)	
CPU ハードウェア前処理 PC、PSWのRAMへの退避 (高速割り込みは、制御レジスタへ退避) ベクタの読み出し 例外処理ルーチンへ分岐	4サイクル	6サイクル

表 2.21 は、CPU からのメモリアクセスがすべてノーウェイトで処理をされた場合の割り込み応答時間です。本 MCU は、ノーウェイトアクセス可能なコードフラッシュメモリ、RAM を搭載しています。プログラム（含むベクタ）はコードフラッシュメモリ、スタック領域は RAM に配置することにより、割り込み応答サイクル数を最短にできます。また、例外処理ルーチンの先頭アドレスは、8 バイトアライメントを指定してください。

割り込み要求通知から割り込み受け付けまでのサイクル数 N は、表 2.13 ～表 2.20 を参照してください。

割り込み受け付けタイミングは命令の実行状態に依存します。割り込み受け付けタイミングについては、「13.3.1 受け付けタイミングと退避される PC 値」を参照してください。

3. 動作モード

3.1 動作モードの種類と選択

動作モードには、リセット (RES# 端子リセット、パワーオンリセット) 解除時のモード設定端子のレベルによって選択できるものと、リセット解除後にソフトウェアで選択できるものがあります。

リセット解除時のモード設定端子 (MD) のレベルと、そのとき選択される動作モードの関係を表 3.1 に示します。各動作モードの詳細は「3.3 動作モードの説明」を参照してください。

表3.1 モード設定端子による動作モードの選択

モード設定端子 MD (注1、注2)	動作モード
High	シングルチップモード
Low	ブートモード (SCI インタフェース)
Low→High (注3)	ブートモード (FINE インタフェース)

注1. リセット解除からリセット解除後待機時間またはパワーオンリセット解除後待機時間の期間中は動作モード遷移期間のため、MD端子の入力レベルは変化させないでください。リセット解除後待機時間、パワーオンリセット解除後待機時間の詳細は「42. 電気的特性」を参照してください。また、MD端子の入力プルアップ抵抗は、ブートモードの場合はリセット中から動作モード遷移が完了するまでの期間、シングルチップモードの場合はリセット中からプルアップ制御レジスタの設定で無効設定にするまで有効となっています。

注2. シングルチップモードで起動した後は、汎用ポートPG7としても使用可能です。

注3. MD端子をLowでリセット解除後、20～100 msecの間にHighへ切り替えてください。

シングルチップモードでは、エンディアンを選択することができます。エンディアンの設定は、オプション設定メモリの MDE.MDE[2:0] ビットで設定します。

設定値は表 3.2 を参照してください。

表3.2 シングルチップモードのエンディアンの設定

MDE.MDE[2:0] ビット	エンディアン
000b	ビッグエンディアン
111b	リトルエンディアン

3.2 レジスタの説明

3.2.1 モードモニタレジスタ (MDMONR)

アドレス 0008 0000h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	X	0	0	0	0	0	0	0	0/1 (注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MD	MD端子ステータスフラグ	0: MD端子は“Low” 1: MD端子は“High”	R
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b8	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定	R
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

注1. モード端子(MD端子)の設定によって異なります。MD端子がLowの場合は“0”、Highの場合は“1”になります。
PORTG.PMR.b7の設定で、PG7/MD端子を汎用入出力ポートに設定した場合、PG7/MD端子の状態に関わらず、読むと“0”が読めます。

3.2.2 システムコントロールレジスタ 1 (SYSCR1)

アドレス 0008 0008h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RAME
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RAME	RAM有効ビット	0 : RAM無効 1 : RAM有効	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

RAME ビット (RAM 有効ビット)

RAMの有効または無効を選択します。

RAMをアクセスしているときは、“0”にしないでください。また、RAMEビットを“0”から“1”に書き換えた後は、RAMEビットが“1”になったことを確認してからRAMをアクセスするようにしてください。

RAMEビットを“0”にしても、RAMの値は保持されます。ただし、「42. 電気的特性」に規定するRAMスタンバイ電圧 (VRAM) 以上の電圧を保持する必要があります。

3.3 動作モードの説明

3.3.1 シングルチップモード

シングルチップモードは、すべてのI/Oポートを汎用入出力ポート、周辺機能入出力、または割り込み入力端子として使用できるモードです。

MD端子をHighにしてリセットを解除すると、シングルチップモードで起動します。

3.3.2 ブートモード (SCI インタフェース)

MCU内部の専用領域に格納された、内蔵フラッシュメモリ書き換えプログラム(ブートプログラム)が動作するモードです。調歩同期式シリアルインタフェース(SCI1)を使用して、MCU外部から内蔵フラッシュメモリ(ROM、E2データフラッシュ)を書き換えることができます。詳細は、「41. フラッシュメモリ (FLASH)」を参照してください。

MD端子をLowにしてリセットを解除すると、ブートモード(SCIインタフェース)で起動します。ブートモード(SCIインタフェース)については、「41.8.1 ブートモード(SCIインタフェース)」を参照してください。

3.3.3 ブートモード (FINE インタフェース)

MCU内部の専用領域に格納された、フラッシュメモリ書き換えプログラム(ブートプログラム)が動作するモードです。FINEを使用して、MCU外部から内蔵フラッシュメモリ(ROM、E2データフラッシュ)を書き換えることができます。詳細は「41. フラッシュメモリ (FLASH)」を参照してください。

MD端子をLowにしてリセット解除後、20～100msecの間にHighへ切り替えると、ブートモード(FINEインタフェース)で起動します。

3.4 動作モード遷移

3.4.1 モード設定端子のレベルと動作モード遷移

MD端子の設定による動作モード遷移について、図3.1に状態遷移図を示します。

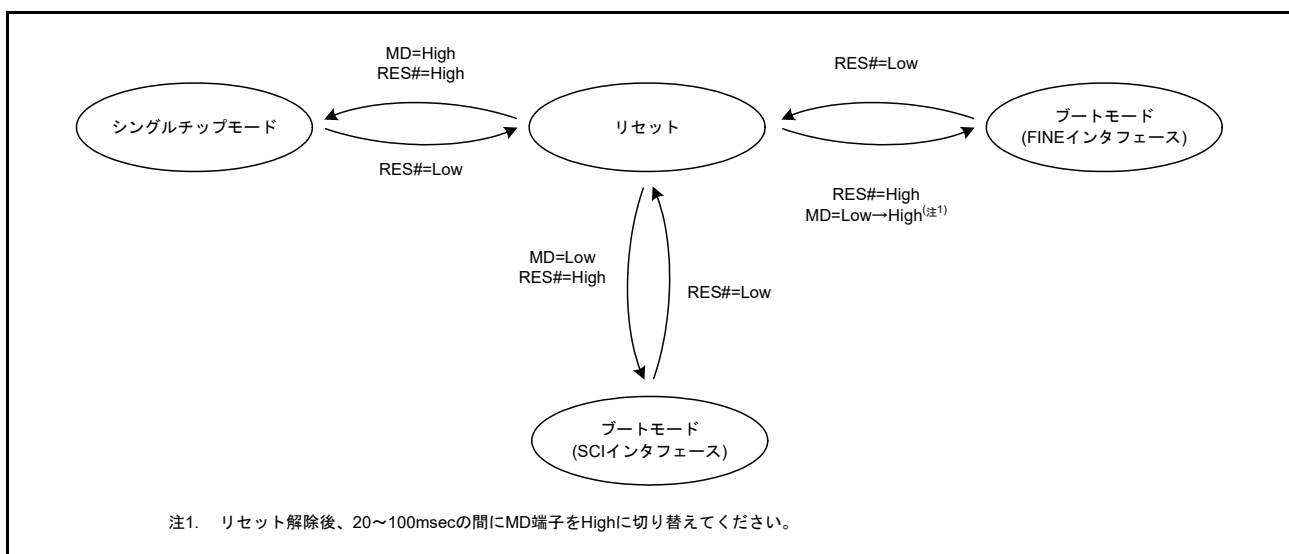


図 3.1 モード設定端子のレベルと動作モード

4. アドレス空間

4.1 アドレス空間

アドレス空間は、0000 0000h 番地から FFFF FFFFh 番地までの 4G バイトあります。プログラム領域およびデータ領域合計最大 4G バイトをリニアにアクセス可能です。

図 4.1 にメモリマップを示します。

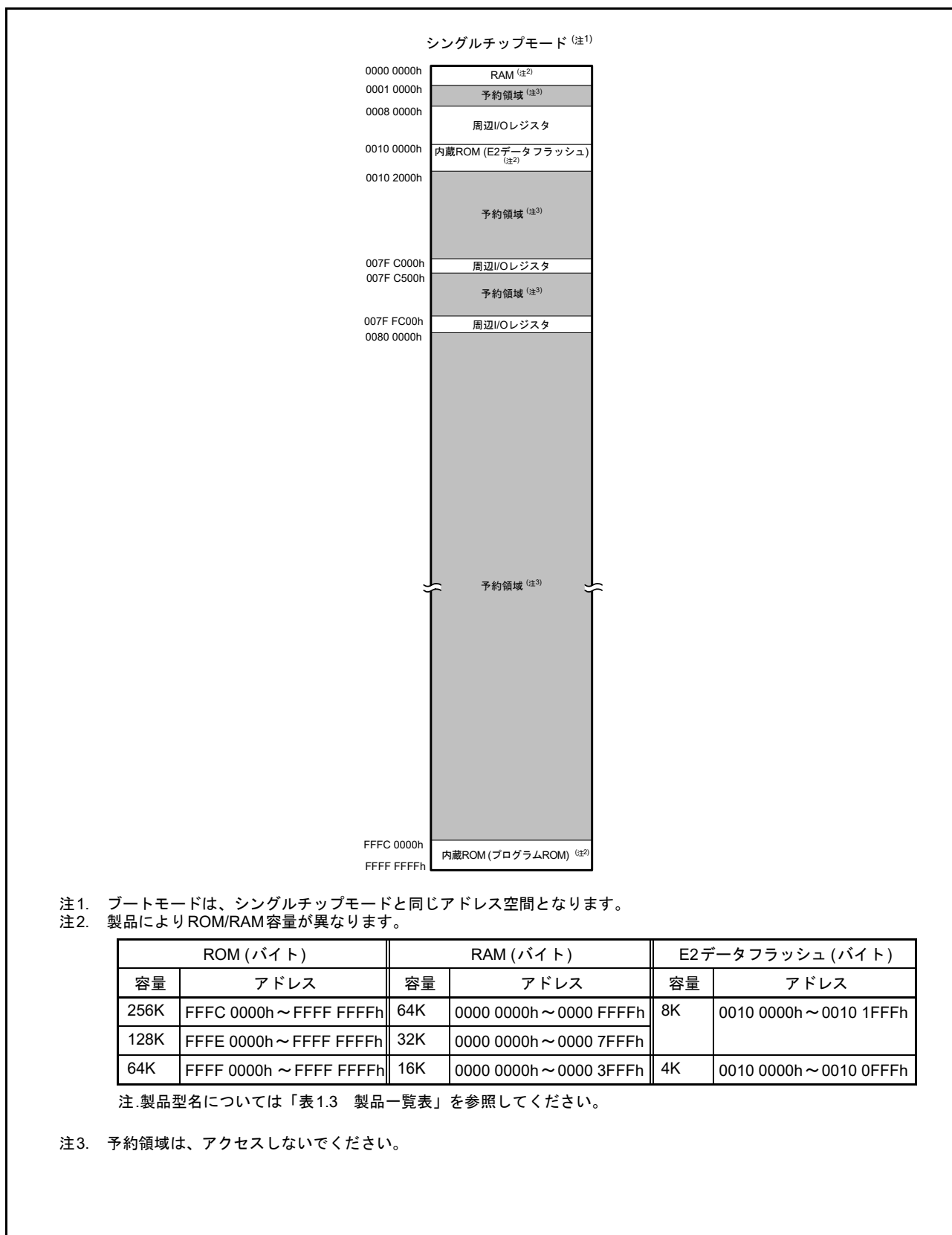


図 4.1 各動作モードのメモリマップ

5. I/Oレジスタ

I/Oレジスタ一覧では、内蔵レジスタのアドレス、およびビット構成に関する情報をまとめています。表記方法は以下のとおりです。また、レジスタ書き込み時の注意事項についても以下に示します。

(1) I/Oレジスタアドレス一覧(アドレス順)

- 割り付けアドレスの小さいレジスタから順に記載しています。
- モジュールシンボルによる分類をしています。
- アクセスサイクル数については、指定の基準クロックのサイクル数を示しています。
- 内部I/Oレジスタの領域で、レジスタ一覧に記載のないアドレスの領域は、予約領域です。予約領域のアクセスは禁止します。これらのレジスタをアクセスしたときの動作および継続する動作については保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

(2) I/Oレジスタ書き込み時の注意事項

CPUがI/Oレジスタに書き込む際、CPUは書き込み完了を待たずに後続の命令を実行します。そのため、I/Oレジスタ書き込みによる設定変更が、動作に反映されるより前に、後続の命令が実行されることがあります。

以下の例のように、I/Oレジスタの設定変更が反映された状態で後続の命令を実行させなければならないときには、注意が必要です。

[注意が必要な動作の例]

- 割り込み要求許可ビット(ICU.IERn.IENjビット)のクリアを行い、割り込み要求を禁止とした状態で後続の命令を実行させたい場合
- 低消費電力状態へ遷移するための前処理に続いてWAIT命令を実行する場合

このような場合には、I/Oレジスタの書き込みを行った後、以下の手順で書き込みの完了を待ってから、後続の命令を実行するようにしてください。

- (a) I/Oレジスタの書き込み
- (b) 書き込んだI/Oレジスタの値を汎用レジスタに読み出し
- (c) 読み出し値を使って演算を実行
- (d) 後続の命令を実行

[命令例]

- I/Oレジスタがバイトサイズの場合

```
MOV.L #SFR_ADDR, R1
MOV.B #SFR_DATA, [R1]
CMP [R1].UB, R1
;; 次処理
```

- I/Oレジスタがワードサイズの場合

```
MOV.L #SFR_ADDR, R1
MOV.W #SFR_DATA, [R1]
CMP [R1].W, R1
;; 次処理
```

- I/Oレジスタがロングワードサイズの場合

```
MOV.L #SFR_ADDR, R1
MOV.L #SFR_DATA, [R1]
CMP [R1].L, R1
;; 次処理
```

なお、複数のレジスタに書き込みを行った後、それら書き込みの完了を待ってから後続の命令を実行させたい場合は、最後に書き込みを行ったI/Oレジスタを対象に読み出しと演算を実行してください。書き込みを行ったすべてのレジスタを対象にして実行する必要はありません。

(3) I/Oレジスタアクセスサイクル数

I/Oレジスタアクセスサイクル数は、「表 5.1 I/Oレジスタアドレス一覧」を参照してください。

I/Oレジスタへアクセスした場合のアクセスサイクル数は、以下の計算式によって表されます。(注1)

$$\text{I/Oレジスタアクセスサイクル数} = \text{内部メインバス1のバスサイクル数} + \\ \text{分周クロック同期化サイクル数} + \\ \text{内部周辺バス1～3、6のバスサイクル数}$$

内部周辺バス1～3、6のバスサイクル数は、アクセス先のレジスタによって異なります。

内部周辺バス2、3、6に接続されている周辺機能のレジスタ(バリエーション関連のレジスタは除く)へアクセスする場合には、分周クロック同期化サイクルが追加されます。

分周クロック同期化サイクル数は、ICLKとPCLK(またはFCLK)の周波数比やバスアクセスのタイミングによって異なります。

周辺機能部では $\text{ICLK} \geq \text{PCLK}$ (または FCLK)の周波数関係の場合、内部メインバス1のバスサイクル数と分周クロック同期化サイクル数を合わせると、PCLK(またはFCLK)で最大1サイクルとなるため、表 5.1では1PCLK(またはFCLK)の幅を持たせて記載しています。

また、 $\text{ICLK} < \text{PCLK}$ (または FCLK)の周波数関係の場合、次のバスアクセスが周辺機能が終了した次のICLKサイクルから開始されるため、ICLK単位の記載となっています。

注1. CPUからのレジスタアクセスが、外部メモリへの命令フェッチや、異なるバスマスタ(DTC)のバスアクセスと競合せずに実行された場合のサイクル数です。

(4) RMPA命令、ストリング操作命令に関する制約事項

RMPA命令、ストリング操作命令の操作対象データをI/Oレジスタに配置することは禁止しており、その場合の動作は保証していません。

(5) スリープモード時およびモード遷移時の注意事項

スリープモード中、またはモード遷移中は、システム制御関連のレジスタ(「表 5.1 I/Oレジスタアドレス一覧」のモジュールシンボル欄にSYSTEMと記載のレジスタ)への書き込みは禁止です。

5.1 I/Oレジスタアドレス一覧(アドレス順)

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧(1/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 0000h	SYSTEM	モードモニタレジスタ	MDMONR	16	16	3ICLK	3章
0008 0008h	SYSTEM	システムコントロールレジスタ1	SYSCR1	16	16	3ICLK	3章
0008 000Ch	SYSTEM	スタンバイコントロールレジスタ	SBYCR	16	16	3ICLK	11章
0008 0010h	SYSTEM	モジュールストップコントロールレジスタA	MSTPCRA	32	32	3ICLK	11章
0008 0014h	SYSTEM	モジュールストップコントロールレジスタB	MSTPCRB	32	32	3ICLK	11章
0008 0018h	SYSTEM	モジュールストップコントロールレジスタC	MSTPCRC	32	32	3ICLK	11章
0008 001Ch	SYSTEM	モジュールストップコントロールレジスタD	MSTPCRD	32	32	3ICLK	11章
0008 0020h	SYSTEM	システムクロックコントロールレジスタ	SCKCR	32	32	3ICLK	9章
0008 0026h	SYSTEM	システムクロックコントロールレジスタ3	SCKCR3	16	16	3ICLK	9章
0008 0028h	SYSTEM	PLLコントロールレジスタ	PLLCR	16	16	3ICLK	9章
0008 002Ah	SYSTEM	PLLコントロールレジスタ2	PLLCR2	8	8	3ICLK	9章
0008 0032h	SYSTEM	メインクロック発振器コントロールレジスタ	MOSCCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0033h	SYSTEM	サブクロック発振器コントロールレジスタ	SOSCCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0034h	SYSTEM	低速オンチップオシレータコントロールレジスタ	LOCOCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0035h	SYSTEM	IWDT専用オンチップオシレータコントロールレジスタ	ILOCOCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0036h	SYSTEM	高速オンチップオシレータコントロールレジスタ	HOCOCR	8	8	3ICLK	9章
0008 003Ch	SYSTEM	発振安定フラグレジスタ	OSCOVFSR	8	8	3ICLK	9章
0008 003Eh	SYSTEM	CLKOUT出力コントロールレジスタ	CKOCR	16	16	3ICLK	9章
0008 0040h	SYSTEM	発振停止検出コントロールレジスタ	OSTDCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0041h	SYSTEM	発振停止検出ステータスレジスタ	OSTDSR	8	8	3ICLK	9章
0008 0043h	SYSTEM	低速オンチップオシレータ強制発振コントロールレジスタ	LOFCR	8	8	3ICLK	9章
0008 0061h	SYSTEM	低速オンチップオシレータトリミングレジスタ2	LOCOTRR2	8	8	3ICLK	9章
0008 0064h	SYSTEM	IWDT専用オンチップオシレータトリミングレジスタ	ILOCOTRR	8	8	3ICLK	9章
0008 0068h	SYSTEM	高速オンチップオシレータトリミングレジスタ0	HOCOTRR0	8	8	3ICLK	9章
0008 0083h	SYSTEM	サブクロック発振器モードコントロールレジスタ	SOMCR	8	8	3ICLK	9章
0008 00A0h	SYSTEM	動作電力コントロールレジスタ	OPCCR	8	8	3ICLK	11章
0008 00A1h	SYSTEM	スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ	RSTCKCR	8	8	3ICLK	11章
0008 00A2h	SYSTEM	メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ	MOSCWTCR	8	8	3ICLK	9章
0008 00AAh	SYSTEM	サブ動作電力コントロールレジスタ	SOPCCR	8	8	3ICLK	11章
0008 00ACh	SYSTEM	スヌーズコントロールレジスタ2	SNZCR2	16	16	3ICLK	11章
0008 00AEh	SYSTEM	スヌーズコントロールレジスタ	SNZCR	16	16	3ICLK	11章
0008 00B0h	LPT	ローパワータイマコントロールレジスタ1	LPTCR1	8	8	3ICLK	25章
0008 00B1h	LPT	ローパワータイマコントロールレジスタ2	LPTCR2	8	8	3ICLK	25章
0008 00B2h	LPT	ローパワータイマコントロールレジスタ3	LPTCR3	8	8	3ICLK	25章
0008 00B4h	LPT	ローパワータイマ周期設定レジスタ	LPTPRD	16	16	3ICLK	25章
0008 00B8h	LPT	ローパワータイマコンペアレジスタ0	LPCMR0	16	16	3ICLK	25章
0008 00BAh	LPT	ローパワータイマコンペアレジスタ1	LPCMR1	16	16	3ICLK	25章
0008 00BCh	LPT	ローパワータイマスタンバイ復帰許可レジスタ	LPWUCR	16	16	3ICLK	25章
0008 00C0h	SYSTEM	リセットステータスレジスタ2	RSTSR2	8	8	3ICLK	6章
0008 00C2h	SYSTEM	ソフトウェアリセットレジスタ	SWRR	16	16	3ICLK	6章
0008 00E0h	SYSTEM	電圧監視1回路制御レジスタ1	LVD1CR1	8	8	3ICLK	8章
0008 00E1h	SYSTEM	電圧監視1回路ステータスレジスタ	LVD1SR	8	8	3ICLK	8章
0008 00E2h	SYSTEM	電圧監視2回路制御レジスタ1	LVD2CR1	8	8	3ICLK	8章
0008 00E3h	SYSTEM	電圧監視2回路ステータスレジスタ	LVD2SR	8	8	3ICLK	8章
0008 03FEh	SYSTEM	プロテクトレジスタ	PRCR	16	16	3ICLK	12章
0008 1300h	BSC	バスエラーステータスクリアレジスタ	BERCLR	8	8	2ICLK	15章
0008 1304h	BSC	バスエラー監視許可レジスタ	BEREN	8	8	2ICLK	15章
0008 1308h	BSC	バスエラーステータスレジスタ1	BERSR1	8	8	2ICLK	15章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (2/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 130Ah	BSC	バスエラーステータスレジスタ2	BERSR2	16	16	2ICLK	15章
0008 1310h	BSC	バスプライオリティ制御レジスタ	BUSPRI	16	16	2ICLK	15章
0008 2400h	DTC	DTCコントロールレジスタ	DTCCR	8	8	2ICLK	16章
0008 2404h	DTC	DTCベクタベースレジスタ	DTCVBR	32	32	2ICLK	16章
0008 2408h	DTC	DTCアドレスモードレジスタ	DTCADMOD	8	8	2ICLK	16章
0008 240Ch	DTC	DTCモジュール起動レジスタ	DTCST	8	8	2ICLK	16章
0008 240Eh	DTC	DTCステータスレジスタ	DTCSTS	16	16	2ICLK	16章
0008 2410h	DTC	DTCインデックステーブルベースレジスタ	DTCIBR	32	32	2ICLK	16章
0008 2414h	DTC	DTCオペレーションレジスタ	DTCOR	8	8	2ICLK	16章
0008 2416h	DTC	DTCシーケンス転送許可レジスタ	DTCSEQ	16	16	2ICLK	16章
0008 2418h	DTC	DTCアドレスディスプレースメントレジスタ	DTCDISP	32	32	2ICLK	16章
0008 7010h~ 0008 70FFh	ICU	割り込み要求レジスタ016~割り込み要求レジスタ255	IR016~IR255	8	8	2ICLK	14章
0008 711Bh~ 0008 71FFh	ICU	DTC転送要求許可レジスタ027~DTC転送要求許可レジスタ255	DTCER027~ DTCER255	8	8	2ICLK	14章
0008 7202h~ 0008 721Fh	ICU	割り込み要求許可レジスタ02~割り込み要求許可レジスタ1F	IER02~IER1F	8	8	2ICLK	14章
0008 72E0h	ICU	ソフトウェア割り込み起動レジスタ	SWINTR	8	8	2ICLK	14章
0008 72F0h	ICU	高速割り込み設定レジスタ	FIR	16	16	2ICLK	14章
0008 7300h~ 0008 73FFh	ICU	割り込み要因プライオリティレジスタ000~割り込み要因プライオリティレジスタ255	IPR000~IPR255	8	8	2ICLK	14章
0008 7500h~ 0008 7507h	ICU	IRQコントロールレジスタ0~IRQコントロールレジスタ7	IRQCR0~ IRQCR7	8	8	2ICLK	14章
0008 7510h	ICU	IRQ端子デジタルフィルタ許可レジスタ0	IRQFTE0	8	8	2ICLK	14章
0008 7514h	ICU	IRQ端子デジタルフィルタ設定レジスタ0	IRQFTC0	16	16	2ICLK	14章
0008 7580h	ICU	ノンマスクابل割り込みステータスレジスタ	NMISR	8	8	2ICLK	14章
0008 7581h	ICU	ノンマスクابل割り込み許可レジスタ	NMIER	8	8	2ICLK	14章
0008 7582h	ICU	ノンマスクابل割り込みステータスクリアレジスタ	NMICLR	8	8	2ICLK	14章
0008 7583h	ICU	NMI端子割り込みコントロールレジスタ	NMICR	8	8	2ICLK	14章
0008 7590h	ICU	NMI端子デジタルフィルタ許可レジスタ	NMIFLTE	8	8	2ICLK	14章
0008 7594h	ICU	NMI端子デジタルフィルタ設定レジスタ	NMIFLTC	8	8	2ICLK	14章
0008 8000h	CMT	コンペアマッチタイマスタートレジスタ0	CMSTR0	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 8002h	CMT0	コンペアマッチタイマコントロールレジスタ	CMCR	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 8004h	CMT0	コンペアマッチタイマカウンタ	CMCNT	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 8006h	CMT0	コンペアマッチタイマコンスタントレジスタ	CMCOR	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 8008h	CMT1	コンペアマッチタイマコントロールレジスタ	CMCR	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 800Ah	CMT1	コンペアマッチタイマカウンタ	CMCNT	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 800Ch	CMT1	コンペアマッチタイマコンスタントレジスタ	CMCOR	16	16	2~3PCLKB	23章
0008 8030h	IWDT	IWDTリフレッシュレジスタ	IWDTRR	8	8	2~3PCLKB	26章
0008 8032h	IWDT	IWDTコントロールレジスタ	IWDTCR	16	16	2~3PCLKB	26章
0008 8034h	IWDT	IWDTステータスレジスタ	IWDTSR	16	16	2~3PCLKB	26章
0008 8036h	IWDT	IWDTリセットコントロールレジスタ	IWDTRCR	8	8	2~3PCLKB	26章
0008 8038h	IWDT	IWDTカウント停止コントロールレジスタ	IWDTCSTPR	8	8	2~3PCLKB	26章
0008 80C0h	DA	D/Aデータレジスタ0	DADR0	16	16	2~3PCLKB	36章
0008 80C2h	DA	D/Aデータレジスタ1	DADR1	16	16	2~3PCLKB	36章
0008 80C4h	DA	D/A制御レジスタ	DACR	8	8	2~3PCLKB	36章
0008 80C5h	DA	データレジスタフォーマット選択レジスタ	DADPR	8	8	2~3PCLKB	36章
0008 80C6h	DA	D/A AD同期スタート制御レジスタ	DAADSCR	8	8	2~3PCLKB	36章
0008 8200h	TMR0	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2~3PCLKB	22章
0008 8201h	TMR1	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2~3PCLKB	22章
0008 8202h	TMR0	タイマコントロール/ステータスレジスタ	TCSR	8	8	2~3PCLKB	22章
0008 8203h	TMR1	タイマコントロール/ステータスレジスタ	TCSR	8	8	2~3PCLKB	22章
0008 8204h	TMR0	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	8	8	2~3PCLKB	22章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (3/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 8204h	TMR01	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8205h	TMR1	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8206h	TMR0	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8206h	TMR01	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8207h	TMR1	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8208h	TMR0	タイマカウンタ	TCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8208h	TMR01	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8209h	TMR1	タイマカウンタ	TCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 820Ah	TMR0	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 820Ah	TMR01	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 820Bh	TMR1	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 820Ch	TMR0	タイマカウンタスタートレジスタ	TCSTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8210h	TMR2	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8211h	TMR3	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8212h	TMR2	タイマコントロール/ステータスレジスタ	TCSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8213h	TMR3	タイマコントロール/ステータスレジスタ	TCSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8214h	TMR2	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8214h	TMR23	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8215h	TMR3	タイムコンスタントレジスタA	TCORA	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8216h	TMR2	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8216h	TMR23	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8217h	TMR3	タイムコンスタントレジスタB	TCORB	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8218h	TMR2	タイマカウンタ	TCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8218h	TMR23	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8219h	TMR3	タイマカウンタ	TCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 821Ah	TMR2	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 821Ah	TMR23	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 821Bh	TMR3	タイマカウンタコントロールレジスタ	TCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 821Ch	TMR2	タイマカウンタスタートレジスタ	TCSTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	22章
0008 8280h	CRC	CRCコントロールレジスタ	CRCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	31章
0008 8281h	CRC	CRCデータ入力レジスタ	CRCDIR	8	8	2 ~ 3PCLKB	31章
0008 8282h	CRC	CRCデータ出力レジスタ	CRCDOR	16	16	2 ~ 3PCLKB	31章
0008 8300h	RIIC0	I ² Cバスコントロールレジスタ1	ICCR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8301h	RIIC0	I ² Cバスコントロールレジスタ2	ICCR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8302h	RIIC0	I ² Cバスモードレジスタ1	ICMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8303h	RIIC0	I ² Cバスモードレジスタ2	ICMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8304h	RIIC0	I ² Cバスモードレジスタ3	ICMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8305h	RIIC0	I ² Cバスファンクション許可レジスタ	ICFER	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8306h	RIIC0	I ² Cバスステータス許可レジスタ	ICSER	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8307h	RIIC0	I ² Cバス割り込み許可レジスタ	ICIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8308h	RIIC0	I ² Cバスステータスレジスタ1	ICSR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8309h	RIIC0	I ² Cバスステータスレジスタ2	ICSR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Ah	RIIC0	スレーブアドレスレジスタL0	SARL0	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Bh	RIIC0	スレーブアドレスレジスタU0	SARU0	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Ch	RIIC0	スレーブアドレスレジスタL1	SARL1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Dh	RIIC0	スレーブアドレスレジスタU1	SARU1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Eh	RIIC0	スレーブアドレスレジスタL2	SARL2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 830Fh	RIIC0	スレーブアドレスレジスタU2	SARU2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8310h	RIIC0	I ² CバスビットレートLowレジスタ	ICBRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8311h	RIIC0	I ² CバスビットレートHighレジスタ	ICBRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8312h	RIIC0	I ² Cバス送信データレジスタ	ICDRT	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (4/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 8313h	RIIC0	I ² Cバス受信データレジスタ	ICDRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
0008 8380h	RSPI0	RSPI制御レジスタ	SPCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8381h	RSPI0	RSPIスレーブセレクト極性レジスタ	SSLP	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8382h	RSPI0	RSPI端子制御レジスタ	SPPCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8383h	RSPI0	RSPIステータスレジスタ	SPSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8384h	RSPI0	RSPIデータレジスタ	SPDR	32	8, 16, 32	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8388h	RSPI0	RSPIシーケンス制御レジスタ	SPSCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8389h	RSPI0	RSPIシーケンスステータスレジスタ	SPSSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Ah	RSPI0	RSPIビットレートレジスタ	SPBR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Bh	RSPI0	RSPIデータコントロールレジスタ	SPDCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Ch	RSPI0	RSPIクロック遅延レジスタ	SPCKD	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Dh	RSPI0	RSPIスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ	SSLND	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Eh	RSPI0	RSPI次アクセス遅延レジスタ	SPND	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 838Fh	RSPI0	RSPI制御レジスタ2	SPCR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8390h	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ0	SPCMD0	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8392h	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ1	SPCMD1	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8394h	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ2	SPCMD2	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8396h	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ3	SPCMD3	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8398h	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ4	SPCMD4	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 839Ah	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ5	SPCMD5	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 839Ch	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ6	SPCMD6	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 839Eh	RSPI0	RSPIコマンドレジスタ7	SPCMD7	16	16	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 83A0h	RSPI0	RSPIデータコントロールレジスタ2	SPDCR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	30章
0008 8600h	MTU3	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8601h	MTU4	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8602h	MTU3	タイマモードレジスタ	TMDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8603h	MTU4	タイマモードレジスタ	TMDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8604h	MTU3	タイマI/OコントロールレジスタH	TIORH	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8605h	MTU3	タイマI/OコントロールレジスタL	TIORL	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8606h	MTU4	タイマI/OコントロールレジスタH	TIORH	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8607h	MTU4	タイマI/OコントロールレジスタL	TIORL	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8608h	MTU3	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8609h	MTU4	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 860Ah	MTU	タイマアウトプットマスタ許可レジスタ	TOER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 860Dh	MTU	タイマゲートコントロールレジスタ	TGCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 860Eh	MTU	タイマアウトプットコントロールレジスタ1	TOCR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 860Fh	MTU	タイマアウトプットコントロールレジスタ2	TOCR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8610h	MTU3	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8612h	MTU4	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8614h	MTU	タイマ周期データレジスタ	TCDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8616h	MTU	タイマデッドタイムデータレジスタ	TDDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8618h	MTU3	タイマジェネラルレジスタA	TGRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 861Ah	MTU3	タイマジェネラルレジスタB	TGRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 861Ch	MTU4	タイマジェネラルレジスタA	TGRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 861Eh	MTU4	タイマジェネラルレジスタB	TGRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8620h	MTU	タイマサブカウンタ	TCNTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8622h	MTU	タイマ周期バッファレジスタ	TCBR	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8624h	MTU3	タイマジェネラルレジスタC	TGRC	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8626h	MTU3	タイマジェネラルレジスタD	TGRD	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8628h	MTU4	タイマジェネラルレジスタC	TGRC	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 862Ah	MTU4	タイマジェネラルレジスタD	TGRD	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (5/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 862Ch	MTU3	タイマステータスレジスタ	TSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 862Dh	MTU4	タイマステータスレジスタ	TSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8630h	MTU	タイマ割り込み間引き設定レジスタ	TITCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8631h	MTU	タイマ割り込み間引き回数カウンタ	TITCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8632h	MTU	タイマバッファ転送設定レジスタ	TBTER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8634h	MTU	タイマデッドタイム許可レジスタ	TDER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8636h	MTU	タイマアウトプットレベルバッファレジスタ	TOLBR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8638h	MTU3	タイマバッファ動作転送モードレジスタ	TBTM	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8639h	MTU4	タイマバッファ動作転送モードレジスタ	TBTM	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8640h	MTU4	タイマA/D変換開始要求コントロールレジスタ	TADCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8644h	MTU4	タイマA/D変換開始要求周期設定レジスタA	TADCORA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8646h	MTU4	タイマA/D変換開始要求周期設定レジスタB	TADCORB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8648h	MTU4	タイマA/D変換開始要求周期設定バッファレジスタA	TADCOBRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 864Ah	MTU4	タイマA/D変換開始要求周期設定バッファレジスタB	TADCOBRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8660h	MTU	タイマ波形コントロールレジスタ	TWCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8680h	MTU	タイマスタートレジスタ	TSTR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8681h	MTU	タイマシンクロレジスタ	TSYR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8684h	MTU	タイマリードライト許可レジスタ	TRWER	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8690h	MTU0	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8691h	MTU1	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8692h	MTU2	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8693h	MTU3	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8694h	MTU4	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8695h	MTU5	ノイズフィルタコントロールレジスタ	NFCR	8	8、16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8700h	MTU0	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8701h	MTU0	タイマモードレジスタ	TMDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8702h	MTU0	タイマI/OコントロールレジスタH	TIORH	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8703h	MTU0	タイマI/OコントロールレジスタL	TIORL	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8704h	MTU0	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8705h	MTU0	タイマステータスレジスタ	TSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8706h	MTU0	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8708h	MTU0	タイマジェネラルレジスタA	TGRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 870Ah	MTU0	タイマジェネラルレジスタB	TGRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 870Ch	MTU0	タイマジェネラルレジスタC	TGRC	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 870Eh	MTU0	タイマジェネラルレジスタD	TGRD	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8720h	MTU0	タイマジェネラルレジスタE	TGRE	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8722h	MTU0	タイマジェネラルレジスタF	TGRF	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8724h	MTU0	タイマ割り込み許可レジスタ2	TIER2	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8726h	MTU0	タイマバッファ動作転送モードレジスタ	TBTM	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8780h	MTU1	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8781h	MTU1	タイマモードレジスタ	TMDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8782h	MTU1	タイマI/Oコントロールレジスタ	TIOR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8784h	MTU1	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8785h	MTU1	タイマステータスレジスタ	TSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8786h	MTU1	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8788h	MTU1	タイマジェネラルレジスタA	TGRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 878Ah	MTU1	タイマジェネラルレジスタB	TGRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8790h	MTU1	タイマインプットキャプチャコントロールレジスタ	TICCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8800h	MTU2	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8801h	MTU2	タイマモードレジスタ	TMDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8802h	MTU2	タイマI/Oコントロールレジスタ	TIOR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (6/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 8804h	MTU2	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8805h	MTU2	タイマステータスレジスタ	TSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8806h	MTU2	タイマカウンタ	TCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8808h	MTU2	タイマジェネラルレジスタA	TGRA	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 880Ah	MTU2	タイマジェネラルレジスタB	TGRB	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8880h	MTU5	タイマカウンタU	TCNTU	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8882h	MTU5	タイマジェネラルレジスタU	TGRU	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8884h	MTU5	タイマコントロールレジスタU	TCRU	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8886h	MTU5	タイマI/OコントロールレジスタU	TIORU	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8890h	MTU5	タイマカウンタV	TCNTV	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8892h	MTU5	タイマジェネラルレジスタV	TGRV	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8894h	MTU5	タイマコントロールレジスタV	TCRV	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8896h	MTU5	タイマI/OコントロールレジスタV	TIORV	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88A0h	MTU5	タイマカウンタW	TCNTW	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88A2h	MTU5	タイマジェネラルレジスタW	TGRW	16	16	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88A4h	MTU5	タイマコントロールレジスタW	TCRW	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88A6h	MTU5	タイマI/OコントロールレジスタW	TIORW	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88B2h	MTU5	タイマ割り込み許可レジスタ	TIER	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88B4h	MTU5	タイマスタートレジスタ	TSTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 88B6h	MTU5	タイマコンペアマッチクリアレジスタ	TCNTCMPCLR	8	8	2 ~ 3PCLKB	20章
0008 8900h	POE	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ1	ICSR1	16	8、16	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 8902h	POE	出力レベルコントロール/ステータスレジスタ1	OCSR1	16	8、16	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 8908h	POE	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ2	ICSR2	16	8、16	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 890Ah	POE	ソフトウェアポートアウトプットイネーブルレジスタ	SPOER	8	8	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 890Bh	POE	ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ1	POECR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 890Ch	POE	ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ2	POECR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 890Eh	POE	入力レベルコントロール/ステータスレジスタ3	ICSR3	16	8、16	2 ~ 3PCLKB	21章
0008 9000h	S12AD	A/Dコントロールレジスタ	ADCSR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9004h	S12AD	A/Dチャンネル選択レジスタA0	ADANSA0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9006h	S12AD	A/Dチャンネル選択レジスタA1	ADANSA1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9008h	S12AD	A/D変換値加算/平均機能チャンネル選択レジスタ0	ADADS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 900Ah	S12AD	A/D変換値加算/平均機能チャンネル選択レジスタ1	ADADS1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 900Ch	S12AD	A/D変換値加算/平均回数選択レジスタ	ADADC	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 900Eh	S12AD	A/Dコントロール拡張レジスタ	ADCER	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9010h	S12AD	A/D変換開始トリガ選択レジスタ	ADSTRGR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9012h	S12AD	A/D変換拡張入力コントロールレジスタ	ADEXICR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9014h	S12AD	A/Dチャンネル選択レジスタB0	ADANSB0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9016h	S12AD	A/Dチャンネル選択レジスタB1	ADANSB1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9018h	S12AD	A/Dデータ二重化レジスタ	ADBLDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 901Ah	S12AD	A/D温度センサデータレジスタ	ADTSDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 901Ch	S12AD	A/D内部基準電圧データレジスタ	ADOCDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 901Eh	S12AD	A/D自己診断データレジスタ	ADRD	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9020h	S12AD	A/Dデータレジスタ0	ADDR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9022h	S12AD	A/Dデータレジスタ1	ADDR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9024h	S12AD	A/Dデータレジスタ2	ADDR2	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9026h	S12AD	A/Dデータレジスタ3	ADDR3	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9028h	S12AD	A/Dデータレジスタ4	ADDR4	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 902Ah	S12AD	A/Dデータレジスタ5	ADDR5	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 902Ch	S12AD	A/Dデータレジスタ6	ADDR6	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 902Eh	S12AD	A/Dデータレジスタ7	ADDR7	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 9030h	S12AD	A/Dデータレジスタ8	ADDR8	16	16	2 ~ 3PCLKB	35章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (7/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 9040h	S12AD	A/D データレジスタ 16	ADDR16	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9042h	S12AD	A/D データレジスタ 17	ADDR17	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9044h	S12AD	A/D データレジスタ 18	ADDR18	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9046h	S12AD	A/D データレジスタ 19	ADDR19	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9048h	S12AD	A/D データレジスタ 20	ADDR20	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 904Ah	S12AD	A/D データレジスタ 21	ADDR21	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9050h	S12AD	A/D データレジスタ 24	ADDR24	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9052h	S12AD	A/D データレジスタ 25	ADDR25	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9054h	S12AD	A/D データレジスタ 26	ADDR26	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 907Ah	S12AD	A/D 断線検出コントロールレジスタ	ADDISCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 907Dh	S12AD	A/D イベントリンクコントロールレジスタ	ADELCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 907Eh	S12AD	A/D 変換サイクル制御レジスタ	ADCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9080h	S12AD	A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ	ADGSPCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 908Ah	S12AD	A/D 高電位/低電位基準電圧コントロールレジスタ	ADHVREFCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 908Ch	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A/B ステータスマニタレジスタ	ADWINMON	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9090h	S12AD	A/D コンペア機能コントロールレジスタ	ADCMPCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9092h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ	ADCMPANSER	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9093h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力比較条件設定レジスタ	ADCMPLER	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9094h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 0	ADCMPANSR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9096h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネル選択レジスタ 1	ADCMPANSR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 9098h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 0	ADCMPLR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 909Ah	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 比較条件設定レジスタ 1	ADCMPLR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 909Ch	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 下位側レベル設定レジスタ	ADCMPDR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 909Eh	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 上位側レベル設定レジスタ	ADCMPDR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90A0h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 0	ADCMPSR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90A2h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A チャネルステータスレジスタ 1	ADCMPSR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90A4h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力チャネルステータスレジスタ	ADCMPSER	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90A6h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ B チャネル選択レジスタ	ADCMPBNSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90A8h	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ B 下位側レベル設定レジスタ	ADWINLLB	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90AAh	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ B 上位側レベル設定レジスタ	ADWINULB	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90ACh	S12AD	A/D コンペア機能ウィンドウ B チャネルステータスレジスタ	ADCMPBSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90B0h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 0	ADBUF0	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90B2h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 1	ADBUF1	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90B4h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 2	ADBUF2	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90B6h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 3	ADBUF3	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90B8h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 4	ADBUF4	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90BAh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 5	ADBUF5	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90BCh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 6	ADBUF6	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90BEh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 7	ADBUF7	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90C0h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 8	ADBUF8	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90C2h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 9	ADBUF9	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90C4h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 10	ADBUF10	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90C6h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 11	ADBUF11	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90C8h	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 12	ADBUF12	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90CAh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 13	ADBUF13	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90CCh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 14	ADBUF14	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90CEh	S12AD	A/D データ格納バッファレジスタ 15	ADBUF15	16	16	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90D0h	S12AD	A/D データ格納バッファファイナブルレジスタ	ADBUFEN	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90D2h	S12AD	A/D データ格納バッファポインタレジスタ	ADBUFPTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90DDh	S12AD	A/D サンプリングステートレジスタ L	ADSSTRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章
0008 90DEh	S12AD	A/D サンプリングステートレジスタ T	ADSSTRT	8	8	2 ~ 3PCLKB	35 章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (8/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 90DFh	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ0	ADSSTRO	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E0h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ0	ADSSTR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E1h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ1	ADSSTR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E2h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ2	ADSSTR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E3h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ3	ADSSTR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E4h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ4	ADSSTR4	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E5h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ5	ADSSTR5	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E6h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ6	ADSSTR6	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E7h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ7	ADSSTR7	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 90E8h	S12AD	A/Dサンプリングステートレジスタ8	ADSSTR8	8	8	2 ~ 3PCLKB	35章
0008 A020h	SCI1	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A020h	SMCI1	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A021h	SCI1	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A022h	SCI1	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A022h	SMCI1	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A023h	SCI1	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A024h	SCI1	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A024h	SMCI1	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A025h	SCI1	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A026h	SCI1	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A026h	SMCI1	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A027h	SCI1	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A028h	SCI1	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A029h	SCI1	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Ah	SCI1	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Bh	SCI1	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Ch	SCI1	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Dh	SCI1	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Eh	SCI1	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Eh	SCI1	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A02Fh	SCI1	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A030h	SCI1	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A030h	SCI1	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A031h	SCI1	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A032h	SCI1	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A033h	SCI1	データ比較制御レジスタ	DCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A03Ah	SCI1	比較データレジスタ	CDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A03Ah	SCI1	比較データレジスタH	CDR.H	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A03Bh	SCI1	比較データレジスタL	CDR.L	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A03Ch	SCI1	シリアルポートレジスタ	SPTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A03Dh	SCI1	送受信タイミング選択レジスタ	TMGR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A0h	SCI5	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A0h	SMCI5	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A1h	SCI5	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A2h	SCI5	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A2h	SMCI5	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A3h	SCI5	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A4h	SCI5	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A4h	SMCI5	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A5h	SCI5	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A6h	SCI5	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (9/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 A0A6h	SMCI5	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A7h	SCI5	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A8h	SCI5	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0A9h	SCI5	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0AAh	SCI5	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0ABh	SCI5	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0ACh	SCI5	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0ADh	SCI5	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0AEh	SCI5	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0AEh	SCI5	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0AFh	SCI5	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0B0h	SCI5	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0B0h	SCI5	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0B1h	SCI5	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0B2h	SCI5	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0B3h	SCI5	データ比較制御レジスタ	DCCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0BAh	SCI5	比較データレジスタ	CDR	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0BAh	SCI5	比較データレジスタH	CDR.H	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0BBh	SCI5	比較データレジスタL	CDR.L	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0BCh	SCI5	シリアルポートレジスタ	SPTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0BDh	SCI5	送受信タイミング選択レジスタ	TMGR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C0h	SCI6	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C0h	SMCI6	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C1h	SCI6	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C2h	SCI6	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C2h	SMCI6	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C3h	SCI6	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C4h	SCI6	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C4h	SMCI6	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C5h	SCI6	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C6h	SCI6	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C6h	SMCI6	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C7h	SCI6	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C8h	SCI6	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0C9h	SCI6	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CAh	SCI6	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CBh	SCI6	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CCh	SCI6	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CDh	SCI6	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CEh	SCI6	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CEh	SCI6	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0CFh	SCI6	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0D0h	SCI6	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0D0h	SCI6	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0D1h	SCI6	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A0D2h	SCI6	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A100h	SCI8	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A100h	SMCI8	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A101h	SCI8	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A102h	SCI8	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A102h	SMCI8	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (10/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 A103h	SCI8	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A104h	SCI8	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A104h	SMCI8	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A105h	SCI8	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A106h	SCI8	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A106h	SMCI8	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A107h	SCI8	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A108h	SCI8	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A109h	SCI8	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Ah	SCI8	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Bh	SCI8	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Ch	SCI8	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Dh	SCI8	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Eh	SCI8	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Eh	SCI8	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A10Fh	SCI8	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A110h	SCI8	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A110h	SCI8	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A111h	SCI8	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A112h	SCI8	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A120h	SCI9	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A120h	SMCI9	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A121h	SCI9	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A122h	SCI9	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A122h	SMCI9	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A123h	SCI9	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A124h	SCI9	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A124h	SMCI9	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A125h	SCI9	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A126h	SCI9	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A126h	SMCI9	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A127h	SCI9	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A128h	SCI9	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A129h	SCI9	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Ah	SCI9	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Bh	SCI9	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Ch	SCI9	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Dh	SCI9	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Eh	SCI9	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Eh	SCI9	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A12Fh	SCI9	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A130h	SCI9	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A130h	SCI9	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A131h	SCI9	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 A132h	SCI9	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B000h	CAC	CACコントロールレジスタ0	CACR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	10章
0008 B001h	CAC	CACコントロールレジスタ1	CACR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	10章
0008 B002h	CAC	CACコントロールレジスタ2	CACR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	10章
0008 B003h	CAC	CAC割り込み要求許可レジスタ	CAICR	8	8	2 ~ 3PCLKB	10章
0008 B004h	CAC	CACステータスレジスタ	CASTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	10章
0008 B006h	CAC	CAC上限値設定レジスタ	CAULVR	16	16	2 ~ 3PCLKB	10章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (11/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 B008h	CAC	CAC下限値設定レジスタ	CALLVR	16	16	2～3PCLKB	10章
0008 B00Ah	CAC	CACカウンタバッファレジスタ	CACNTBR	16	16	2～3PCLKB	10章
0008 B080h	DOC	DOCコントロールレジスタ	DOCR	8	8	2～3PCLKB	39章
0008 B082h	DOC	DOCデータインプットレジスタ	DODIR	16	16	2～3PCLKB	39章
0008 B084h	DOC	DOCデータセッティングレジスタ	DODSR	16	16	2～3PCLKB	39章
0008 B100h	ELC	イベントリンクコントロールレジスタ	ELCR	8	8	2～3PCLKB	39章
0008 B102h	ELC	イベントリンク設定レジスタ1	ELSR1	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B103h	ELC	イベントリンク設定レジスタ2	ELSR2	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B104h	ELC	イベントリンク設定レジスタ3	ELSR3	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B105h	ELC	イベントリンク設定レジスタ4	ELSR4	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B108h	ELC	イベントリンク設定レジスタ7	ELSR7	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B109h	ELC	イベントリンク設定レジスタ8	ELSR8	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B10Bh	ELC	イベントリンク設定レジスタ10	ELSR10	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B10Dh	ELC	イベントリンク設定レジスタ12	ELSR12	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B10Fh	ELC	イベントリンク設定レジスタ14	ELSR14	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B110h	ELC	イベントリンク設定レジスタ15	ELSR15	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B111h	ELC	イベントリンク設定レジスタ16	ELSR16	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B113h	ELC	イベントリンク設定レジスタ18	ELSR18	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B115h	ELC	イベントリンク設定レジスタ20	ELSR20	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B117h	ELC	イベントリンク設定レジスタ22	ELSR22	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B119h	ELC	イベントリンク設定レジスタ24	ELSR24	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B11Ah	ELC	イベントリンク設定レジスタ25	ELSR25	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B11Fh	ELC	イベントリンクオプション設定レジスタA	ELOPA	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B120h	ELC	イベントリンクオプション設定レジスタB	ELOPB	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B121h	ELC	イベントリンクオプション設定レジスタC	ELOPC	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B122h	ELC	イベントリンクオプション設定レジスタD	ELOPD	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B123h	ELC	ポートグループ指定レジスタ1	PGR1	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B125h	ELC	ポートグループコントロールレジスタ1	PGC1	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B127h	ELC	ポートバッファレジスタ1	PDBF1	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B129h	ELC	イベント接続ポート指定レジスタ0	PEL0	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B12Ah	ELC	イベント接続ポート指定レジスタ1	PEL1	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B12Dh	ELC	イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ	ELSEGR	8	8	2～3PCLKB	17章
0008 B300h	SCI12	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B300h	SMCI12	シリアルモードレジスタ	SMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B301h	SCI12	ビットレートレジスタ	BRR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B302h	SCI12	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B302h	SMCI12	シリアルコントロールレジスタ	SCR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B303h	SCI12	トランスミットデータレジスタ	TDR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B304h	SCI12	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B304h	SMCI12	シリアルステータスレジスタ	SSR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B305h	SCI12	レシーブデータレジスタ	RDR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B306h	SCI12	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B306h	SMCI12	スマートカードモードレジスタ	SCMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B307h	SCI12	シリアル拡張モードレジスタ	SEMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B308h	SCI12	ノイズフィルタ設定レジスタ	SNFR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B309h	SCI12	I ² Cモードレジスタ1	SIMR1	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B30Ah	SCI12	I ² Cモードレジスタ2	SIMR2	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B30Bh	SCI12	I ² Cモードレジスタ3	SIMR3	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B30Ch	SCI12	I ² Cステータスレジスタ	SISR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B30Dh	SCI12	SPIモードレジスタ	SPMR	8	8	2～3PCLKB	27章
0008 B30Eh	SCI12	トランスミットデータレジスタHL	TDRHL	16	16	2～3PCLKB	27章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (12/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 B30Eh	SCI12	トランスミットデータレジスタH	TDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B30Fh	SCI12	トランスミットデータレジスタL	TDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B310h	SCI12	レシーブデータレジスタHL	RDRHL	16	16	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B310h	SCI12	レシーブデータレジスタH	RDRH	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B311h	SCI12	レシーブデータレジスタL	RDRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B312h	SCI12	モジュレーションデューティレジスタ	MDDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B320h	SCI12	拡張シリアルモード有効レジスタ	ESMER	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B321h	SCI12	コントロールレジスタ0	CR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B322h	SCI12	コントロールレジスタ1	CR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B323h	SCI12	コントロールレジスタ2	CR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B324h	SCI12	コントロールレジスタ3	CR3	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B325h	SCI12	ポートコントロールレジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B326h	SCI12	割り込みコントロールレジスタ	ICR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B327h	SCI12	ステータスレジスタ	STR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B328h	SCI12	ステータスクリアレジスタ	STCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B329h	SCI12	Control Field 0データレジスタ	CF0DR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Ah	SCI12	Control Field 0コンペイネーブルレジスタ	CF0CR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Bh	SCI12	Control Field 0受信データレジスタ	CF0RR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Ch	SCI12	プライマリControl Field 1データレジスタ	PCF1DR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Dh	SCI12	セカンダリControl Field 1データレジスタ	SCF1DR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Eh	SCI12	Control Field 1コンペイネーブルレジスタ	CF1CR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B32Fh	SCI12	Control Field 1受信データレジスタ	CF1RR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B330h	SCI12	タイマコントロールレジスタ	TCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B331h	SCI12	タイマモードレジスタ	TMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B332h	SCI12	タイマプリスケアラレジスタ	TPRE	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 B333h	SCI12	タイマカウントレジスタ	TCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	27章
0008 C000h	PORT0	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C001h	PORT1	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C002h	PORT2	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C003h	PORT3	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C004h	PORT4	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C005h	PORT5	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C00Ah	PORTA	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C00Bh	PORTB	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C00Ch	PORTC	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C00Dh	PORTD	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C00Eh	PORTE	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C010h	PORTG	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C011h	PORTH	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C012h	PORTJ	ポート方向レジスタ	PDR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C020h	PORT0	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C021h	PORT1	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C022h	PORT2	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C023h	PORT3	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C024h	PORT4	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C025h	PORT5	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C02Ah	PORTA	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C02Bh	PORTB	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C02Ch	PORTC	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C02Dh	PORTD	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C02Eh	PORTE	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (13/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 C030h	PORTG	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C031h	PORTH	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C032h	PORTJ	ポート出力データレジスタ	PODR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C040h	PORT0	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C041h	PORT1	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C042h	PORT2	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C043h	PORT3	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C044h	PORT4	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C045h	PORT5	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C04Ah	PORTA	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C04Bh	PORTB	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C04Ch	PORTC	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C04Dh	PORTD	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C04Eh	PORTE	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C050h	PORTG	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C051h	PORTH	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C052h	PORTJ	ポート入力データレジスタ	PIDR	8	8	リード時; 3 ~ 4PCLKB ライト時; 2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C060h	PORT0	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C061h	PORT1	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C062h	PORT2	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C063h	PORT3	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C064h	PORT4	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C065h	PORT5	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C06Ah	PORTA	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C06Bh	PORTB	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C06Ch	PORTC	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C06Dh	PORTD	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C06Eh	PORTE	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C070h	PORTG	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C071h	PORTH	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C072h	PORTJ	ポートモードレジスタ	PMR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C082h	PORT1	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C083h	PORT1	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C084h	PORT2	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C085h	PORT2	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C086h	PORT3	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C087h	PORT3	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C094h	PORTA	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C095h	PORTA	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C096h	PORTB	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C097h	PORTB	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C098h	PORTC	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C099h	PORTC	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (14/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 C09Ah	PORTD	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C09Ch	PORTE	オーブンドレイン制御レジスタ0	ODR0	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0A1h	PORTG	オーブンドレイン制御レジスタ1	ODR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C0h	PORT0	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C1h	PORT1	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C2h	PORT2	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C3h	PORT3	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C4h	PORT4	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0C5h	PORT5	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0CAh	PORTA	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0CBh	PORTB	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0CCh	PORTC	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0CDh	PORTD	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0CEh	PORTE	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0D0h	PORTG	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0D1h	PORTH	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C0D2h	PORTJ	ブルアップ制御レジスタ	PCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C11Fh	MPC	書き込みプロテクトレジスタ	PWPR	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C120h	PORT	ポート切り替えレジスタB	PSRB	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C121h	PORT	ポート切り替えレジスタA	PSRA	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C122h	PORT	ポートリードウェイト制御レジスタ	PRWCNTR	8	8	2 ~ 3PCLKB	18章
0008 C143h	MPC	P03端子機能制御レジスタ	P03PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C145h	MPC	P05端子機能制御レジスタ	P05PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C147h	MPC	P07端子機能制御レジスタ	P07PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Ah	MPC	P12端子機能制御レジスタ	P12PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Bh	MPC	P13端子機能制御レジスタ	P13PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Ch	MPC	P14端子機能制御レジスタ	P14PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Dh	MPC	P15端子機能制御レジスタ	P15PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Eh	MPC	P16端子機能制御レジスタ	P16PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C14Fh	MPC	P17端子機能制御レジスタ	P17PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C150h	MPC	P20端子機能制御レジスタ	P20PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C151h	MPC	P21端子機能制御レジスタ	P21PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C156h	MPC	P26端子機能制御レジスタ	P26PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C157h	MPC	P27端子機能制御レジスタ	P27PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C158h	MPC	P30端子機能制御レジスタ	P30PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C159h	MPC	P31端子機能制御レジスタ	P31PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C15Ah	MPC	P32端子機能制御レジスタ	P32PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C15Ch	MPC	P34端子機能制御レジスタ	P34PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C15Eh	MPC	P36端子機能制御レジスタ	P36PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C15Fh	MPC	P37端子機能制御レジスタ	P37PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C160h	MPC	P40端子機能制御レジスタ	P40PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C161h	MPC	P41端子機能制御レジスタ	P41PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C162h	MPC	P42端子機能制御レジスタ	P42PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C163h	MPC	P43端子機能制御レジスタ	P43PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C164h	MPC	P44端子機能制御レジスタ	P44PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C165h	MPC	P45端子機能制御レジスタ	P45PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C166h	MPC	P46端子機能制御レジスタ	P46PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C167h	MPC	P47端子機能制御レジスタ	P47PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C16Ch	MPC	P54端子機能制御レジスタ	P54PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C16Dh	MPC	P55端子機能制御レジスタ	P55PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C190h	MPC	PA0端子機能制御レジスタ	PA0PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (15/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 C191h	MPC	PA1端子機能制御レジスタ	PA1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C192h	MPC	PA2端子機能制御レジスタ	PA2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C193h	MPC	PA3端子機能制御レジスタ	PA3PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C194h	MPC	PA4端子機能制御レジスタ	PA4PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C195h	MPC	PA5端子機能制御レジスタ	PA5PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C196h	MPC	PA6端子機能制御レジスタ	PA6PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C198h	MPC	PB0端子機能制御レジスタ	PB0PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C199h	MPC	PB1端子機能制御レジスタ	PB1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Ah	MPC	PB2端子機能制御レジスタ	PB2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Bh	MPC	PB3端子機能制御レジスタ	PB3PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Ch	MPC	PB4端子機能制御レジスタ	PB4PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Dh	MPC	PB5端子機能制御レジスタ	PB5PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Eh	MPC	PB6端子機能制御レジスタ	PB6PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C19Fh	MPC	PB7端子機能制御レジスタ	PB7PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A2h	MPC	PC2端子機能制御レジスタ	PC2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A3h	MPC	PC3端子機能制御レジスタ	PC3PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A4h	MPC	PC4端子機能制御レジスタ	PC4PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A5h	MPC	PC5端子機能制御レジスタ	PC5PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A6h	MPC	PC6端子機能制御レジスタ	PC6PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A7h	MPC	PC7端子機能制御レジスタ	PC7PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A8h	MPC	PD0端子機能制御レジスタ	PD0PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1A9h	MPC	PD1端子機能制御レジスタ	PD1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1AAh	MPC	PD2端子機能制御レジスタ	PD2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B0h	MPC	PE0端子機能制御レジスタ	PE0PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B1h	MPC	PE1端子機能制御レジスタ	PE1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B2h	MPC	PE2端子機能制御レジスタ	PE2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B3h	MPC	PE3端子機能制御レジスタ	PE3PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B4h	MPC	PE4端子機能制御レジスタ	PE4PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1B5h	MPC	PE5端子機能制御レジスタ	PE5PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1C8h	MPC	PH0端子機能制御レジスタ	PH0PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1C9h	MPC	PH1端子機能制御レジスタ	PH1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1CAh	MPC	PH2端子機能制御レジスタ	PH2PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1CBh	MPC	PH3端子機能制御レジスタ	PH3PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1D1h	MPC	PJ1端子機能制御レジスタ	PJ1PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1D6h	MPC	PJ6端子機能制御レジスタ	PJ6PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C1D7h	MPC	PJ7端子機能制御レジスタ	PJ7PFS	8	8	2 ~ 3PCLKB	19章
0008 C290h	SYSTEM	リセットステータスレジスタ0	RSTSR0	8	8	4 ~ 5PCLKB	6章
0008 C291h	SYSTEM	リセットステータスレジスタ1	RSTSR1	8	8	4 ~ 5PCLKB	6章
0008 C293h	SYSTEM	メインクロック発振器強制発振コントロールレジスタ	MOFCR	8	8	4 ~ 5PCLKB	9章
0008 C297h	SYSTEM	電圧監視回路制御レジスタ	LVMPCR	8	8	4 ~ 5PCLKB	8章
0008 C298h	SYSTEM	電圧検出レベル選択レジスタ	LVDLVL	8	8	4 ~ 5PCLKB	8章
0008 C29Ah	SYSTEM	電圧監視1回路制御レジスタ0	LVD1CR0	8	8	4 ~ 5PCLKB	8章
0008 C29Bh	SYSTEM	電圧監視2回路制御レジスタ0	LVD2CR0	8	8	4 ~ 5PCLKB	8章
0008 C400h	RTC	64 Hzカウンタ	R64CNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C402h	RTC	秒カウンタ	RSECCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C402h	RTC	バイナリカウンタ0	BCNT0	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C404h	RTC	分カウンタ	RMINCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C404h	RTC	バイナリカウンタ1	BCNT1	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C406h	RTC	時カウンタ	RHRCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C406h	RTC	バイナリカウンタ2	BCNT2	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C408h	RTC	曜日カウンタ	RWKCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (16/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
0008 C408h	RTC	バイナリカウンタ3	BCNT3	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C40Ah	RTC	日カウンタ	RDAYCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C40Ch	RTC	月カウンタ	RMONCNT	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C40Eh	RTC	年カウンタ	RYRCNT	16	16	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C410h	RTC	秒アラームレジスタ	RSECAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C410h	RTC	バイナリカウンタ0アラームレジスタ	BCNT0AR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C412h	RTC	分アラームレジスタ	RMINAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C412h	RTC	バイナリカウンタ1アラームレジスタ	BCNT1AR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C414h	RTC	時アラームレジスタ	RHRAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C414h	RTC	バイナリカウンタ2アラームレジスタ	BCNT2AR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C416h	RTC	曜日アラームレジスタ	RWKAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C416h	RTC	バイナリカウンタ3アラームレジスタ	BCNT3AR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C418h	RTC	日アラームレジスタ	RDAYAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C418h	RTC	バイナリカウンタ0アラーム許可レジスタ	BCNT0AER	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Ah	RTC	月アラームレジスタ	RMONAR	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Ah	RTC	バイナリカウンタ1アラーム許可レジスタ	BCNT1AER	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Ch	RTC	年アラームレジスタ	RYRAR	16	16	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Ch	RTC	バイナリカウンタ2アラーム許可レジスタ	BCNT2AER	16	16	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Eh	RTC	年アラーム許可レジスタ	RYRAREN	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C41Eh	RTC	バイナリカウンタ3アラーム許可レジスタ	BCNT3AER	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C422h	RTC	RTCコントロールレジスタ1	RCR1	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C424h	RTC	RTCコントロールレジスタ2	RCR2	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C42Eh	RTC	時間誤差補正レジスタ	RADJ	8	8	2 ~ 3PCLKB	24章
0008 C580h	CMPB	コンパレータB制御レジスタ1	CPBCNT1	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C581h	CMPB	コンパレータB制御レジスタ2	CPBCNT2	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C582h	CMPB	コンパレータBフラグレジスタ	CPBFLG	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C583h	CMPB	コンパレータB割り込み制御レジスタ	CPBINT	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C584h	CMPB	コンパレータBフィルタ選択レジスタ	CPBF	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C585h	CMPB	コンパレータBモード選択レジスタ	CPBMD	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C586h	CMPB	コンパレータBリファレンス入力電圧選択レジスタ	CPBREF	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
0008 C587h	CMPB	コンパレータB出力制御レジスタ	CPBOCR	8	8	2 ~ 3PCLKB	38章
000A 0700h	CTSU	CTSU A/Dコンバータ接続制御レジスタ	CTSUADCC	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0900h	CTSU	CTSU制御レジスタA	CTSUCRA	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0904h	CTSU	CTSU制御レジスタB	CTSUCRB	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0908h	CTSU	CTSU計測チャンネルレジスタ	CTSUSUMCH	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 090Ch	CTSU	CTSUチャンネル有効制御レジスタA	CTSUSUCHACA	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0910h	CTSU	CTSUチャンネル有効制御レジスタB	CTSUSUCHACB	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0914h	CTSU	CTSUチャンネル送受信制御レジスタA	CTSUSUCHTRCA	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0918h	CTSU	CTSUチャンネル送受信制御レジスタB	CTSUSUCHTRCB	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 091Ch	CTSU	CTSUステータスレジスタ	CTSUSUSR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0920h	CTSU	CTSUセンサオフセットレジスタ	CTSUSUSO	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0924h	CTSU	CTSUセンサカウンタ	CTSUSUSCNT	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0928h	CTSU	CTSUキャリブレーションレジスタ	CTSUSUCALIB	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 092Ch	CTSU	CTSUセンサユニットクロック制御レジスタA	CTSUSUSUCLKA	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0930h	CTSU	CTSUセンサユニットクロック制御レジスタB	CTSUSUSUCLKB	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0940h	CTSU	CTSUオプション設定レジスタ	CTSUSUOPT	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0944h	CTSU	CTSUセンサカウンタ自動補正テーブルアクセスレジスタ	CTSUSUSCNTACT	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0958h	CTSU	CTSU自動判定制御レジスタ	CTSUSUAJCR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 095Ch	CTSU	CTSUしきい値レジスタ	CTSUSUAJTHR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0960h	CTSU	CTSU移動平均結果レジスタ	CTSUSUAJMMAR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章
000A 0964h	CTSU	CTSUベースライン平均中間結果レジスタ	CTSUSUAJBLACT	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (17/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 0968h	CTSU	CTSU ベースライン平均結果レジスタ	CTSUAJBLAR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32 章
000A 096Ch	CTSU	CTSU 自動判定結果レジスタ	CTSUAJRJR	32	16、32	2 ~ 3PCLKB	32 章
000A 8300h	RSCAN0	ビットコンフィギュレーションレジスタL	CFGL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8302h	RSCAN0	ビットコンフィギュレーションレジスタH	CFGH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8304h	RSCAN0	制御レジスタL	CTRL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8306h	RSCAN0	制御レジスタH	CTRH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8308h	RSCAN0	ステータスレジスタL	STSL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 830Ah	RSCAN0	ステータスレジスタH	STSH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 830Ch	RSCAN0	エラーフラグレジスタL	ERFLL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 830Eh	RSCAN0	エラーフラグレジスタH	ERFLH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8322h	RSCAN	グローバル設定レジスタL	GCFGL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8324h	RSCAN	グローバル設定レジスタH	GCFGH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8326h	RSCAN	グローバル制御レジスタL	GCTRL	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8328h	RSCAN	グローバル制御レジスタH	GCTRH	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 832Ah	RSCAN	グローバルステータスレジスタ	GSTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 832Ch	RSCAN	グローバルエラーフラグレジスタ	GERFLL	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 832Eh	RSCAN	タイムスタンプレジスタ	GTSC	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8330h	RSCAN	受信ルール数設定レジスタ	GAFLCFG	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8332h	RSCAN	受信バッファ数設定レジスタ	RMNB	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8334h	RSCAN	受信バッファ受信完了フラグレジスタ	RMND0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8338h	RSCAN	受信FIFO制御レジスタ0	RFCC0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 833Ah	RSCAN	受信FIFO制御レジスタ1	RFCC1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8340h	RSCAN	受信FIFOステータスレジスタ0	RFSTS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8342h	RSCAN	受信FIFOステータスレジスタ1	RFSTS1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8348h	RSCAN	受信FIFOポインタ制御レジスタ0	RFPCTR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 834Ah	RSCAN	受信FIFOポインタ制御レジスタ1	RFPCTR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8350h	RSCAN0	送受信FIFO制御レジスタ0L	CFCCLO	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8352h	RSCAN0	送受信FIFO制御レジスタ0H	CFCCHO	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8358h	RSCAN0	送受信FIFOステータスレジスタ0	CFSTS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 835Ch	RSCAN0	送受信FIFOポインタ制御レジスタ0	CFPCTR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8360h	RSCAN	受信FIFOメッセージロスステータスレジスタ	RFMSTS	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8361h	RSCAN0	送受信FIFOメッセージロスステータスレジスタ	CFMSTS	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8362h	RSCAN	受信FIFO割り込みステータスレジスタ	RFISTS	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8363h	RSCAN	送受信FIFO受信割り込みステータスレジスタ	CFISTS	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8364h	RSCAN0	送信バッファ制御レジスタ0	TMC0	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8365h	RSCAN0	送信バッファ制御レジスタ1	TMC1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8366h	RSCAN0	送信バッファ制御レジスタ2	TMC2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8367h	RSCAN0	送信バッファ制御レジスタ3	TMC3	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 836Ch	RSCAN0	送信バッファステータスレジスタ0	TMSTS0	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 836Dh	RSCAN0	送信バッファステータスレジスタ1	TMSTS1	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 836Eh	RSCAN0	送信バッファステータスレジスタ2	TMSTS2	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 836Fh	RSCAN0	送信バッファステータスレジスタ3	TMSTS3	8	8	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8374h	RSCAN0	送信バッファ送信要求ステータスレジスタ	TMTRSTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8376h	RSCAN0	送信バッファ送信完了ステータスレジスタ	TMTCSTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8378h	RSCAN0	送信バッファ送信アボートステータスレジスタ	TMTASTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 837Ah	RSCAN0	送信バッファ割り込み許可レジスタ	TMIEC	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 837Ch	RSCAN0	送信履歴バッファ制御レジスタ	THLCC0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8380h	RSCAN0	送信履歴バッファステータスレジスタ	THLSTS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8384h	RSCAN0	送信履歴バッファポインタ制御レジスタ	THLPCTR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 8388h	RSCAN	グローバル送信割り込みステータスレジスタ	GTINTSTS	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章
000A 838Ah	RSCAN	グローバルRAMウィンドウ制御レジスタ	GRWCR	16	16	2 ~ 3PCLKB	28 章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (18/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 838Ch	RSCAN	グローバルテスト設定レジスタ	GTSTCFG	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 838Eh	RSCAN	グローバルテスト制御レジスタ	GTSTCTRL	8	8	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8394h	RSCAN	グローバルテストプロテクト解除レジスタ	GLOCKK	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0AL	GAFLIDL0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A0h	RSCAN	受信バッファレジスタ0AL	RMIDL0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0AH	GAFLIDH0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A2h	RSCAN	受信バッファレジスタ0AH	RMIDH0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0BL	GAFLML0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A4h	RSCAN	受信バッファレジスタ0BL	RMTS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0BH	GAFLMH0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A6h	RSCAN	受信バッファレジスタ0BH	RMPTR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0CL	GAFLPL0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83A8h	RSCAN	受信バッファレジスタ0CL	RMDF00	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83AAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ0CH	GAFLPH0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83AAh	RSCAN	受信バッファレジスタ0CH	RMDF10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83ACh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1AL	GAFLIDL1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83ACh	RSCAN	受信バッファレジスタ0DL	RMDF20	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83AEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1AH	GAFLIDH1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83AEh	RSCAN	受信バッファレジスタ0DH	RMDF30	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1BL	GAFLML1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B0h	RSCAN	受信バッファレジスタ1AL	RMIDL1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1BH	GAFLMH1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B2h	RSCAN	受信バッファレジスタ1AH	RMIDH1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1CL	GAFLPL1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B4h	RSCAN	受信バッファレジスタ1BL	RMTS1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ1CH	GAFLPH1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B6h	RSCAN	受信バッファレジスタ1BH	RMPTR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2AL	GAFLIDL2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83B8h	RSCAN	受信バッファレジスタ1CL	RMDF01	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2AH	GAFLIDH2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BAh	RSCAN	受信バッファレジスタ1CH	RMDF11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BCh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2BL	GAFLML2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BCh	RSCAN	受信バッファレジスタ1DL	RMDF21	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2BH	GAFLMH2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83BEh	RSCAN	受信バッファレジスタ1DH	RMDF31	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2CL	GAFLPL2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C0h	RSCAN	受信バッファレジスタ2AL	RMIDL2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ2CH	GAFLPH2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C2h	RSCAN	受信バッファレジスタ2AH	RMIDH2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3AL	GAFLIDL3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C4h	RSCAN	受信バッファレジスタ2BL	RMTS2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3AH	GAFLIDH3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C6h	RSCAN	受信バッファレジスタ2BH	RMPTR2	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3BL	GAFLML3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83C8h	RSCAN	受信バッファレジスタ2CL	RMDF02	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3BH	GAFLMH3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CAh	RSCAN	受信バッファレジスタ2CH	RMDF12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CCh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3CL	GAFLPL3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CCh	RSCAN	受信バッファレジスタ2DL	RMDF22	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ3CH	GAFLPH3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83CEh	RSCAN	受信バッファレジスタ2DH	RMDF32	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (19/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 83D0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4AL	GAFLIDL4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D0h	RSCAN	受信バッファレジスタ 3AL	RMIDL3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4AH	GAFLIDH4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D2h	RSCAN	受信バッファレジスタ 3AH	RMIDH3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4BL	GAFLML4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D4h	RSCAN	受信バッファレジスタ 3BL	RMTS3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4BH	GAFLMH4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D6h	RSCAN	受信バッファレジスタ 3BH	RMPTR3	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4CL	GAFLPL4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83D8h	RSCAN	受信バッファレジスタ 3CL	RMDF03	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 4CH	GAFLPH4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DAh	RSCAN	受信バッファレジスタ 3CH	RMDF13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DCh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5AL	GAFLIDL5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DCh	RSCAN	受信バッファレジスタ 3DL	RMDF23	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5AH	GAFLIDH5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83DEh	RSCAN	受信バッファレジスタ 3DH	RMDF33	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5BL	GAFLML5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E0h	RSCAN	受信バッファレジスタ 4AL	RMIDL4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5BH	GAFLMH5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E2h	RSCAN	受信バッファレジスタ 4AH	RMIDH4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5CL	GAFLPL5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E4h	RSCAN	受信バッファレジスタ 4BL	RMTS4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 5CH	GAFLPH5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E6h	RSCAN	受信バッファレジスタ 4BH	RMPTR4	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6AL	GAFLIDL6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83E8h	RSCAN	受信バッファレジスタ 4CL	RMDF04	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83EAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6AH	GAFLIDH6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83EAh	RSCAN	受信バッファレジスタ 4CH	RMDF14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83ECh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6BL	GAFLML6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83ECh	RSCAN	受信バッファレジスタ 4DL	RMDF24	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83EEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6BH	GAFLMH6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83EEh	RSCAN	受信バッファレジスタ 4DH	RMDF34	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F0h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6CL	GAFLPL6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F0h	RSCAN	受信バッファレジスタ 5AL	RMIDL5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F2h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 6CH	GAFLPH6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F2h	RSCAN	受信バッファレジスタ 5AH	RMIDH5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F4h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7AL	GAFLIDL7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F4h	RSCAN	受信バッファレジスタ 5BL	RMTS5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F6h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7AH	GAFLIDH7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F6h	RSCAN	受信バッファレジスタ 5BH	RMPTR5	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F8h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7BL	GAFLML7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83F8h	RSCAN	受信バッファレジスタ 5CL	RMDF05	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FAh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7BH	GAFLMH7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FAh	RSCAN	受信バッファレジスタ 5CH	RMDF15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FCh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7CL	GAFLPL7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FCh	RSCAN	受信バッファレジスタ 5DL	RMDF25	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FEh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 7CH	GAFLPH7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 83FEh	RSCAN	受信バッファレジスタ 5DH	RMDF35	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8400h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8AL	GAFLIDL8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8400h	RSCAN	受信バッファレジスタ 6AL	RMIDL6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8402h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8AH	GAFLIDH8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (20/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 8402h	RSCAN	受信バッファレジスタ 6AH	RMIDH6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8404h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8BL	GAFLML8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8404h	RSCAN	受信バッファレジスタ 6BL	RMTS6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8406h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8BH	GAFLMH8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8406h	RSCAN	受信バッファレジスタ 6BH	RMPTR6	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8408h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8CL	GAFLPL8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8408h	RSCAN	受信バッファレジスタ 6CL	RMDF06	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 8CH	GAFLPH8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 6CH	RMDF16	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9AL	GAFLIDL9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 6DL	RMDF26	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9AH	GAFLIDH9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 840Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 6DH	RMDF36	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8410h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9BL	GAFLML9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8410h	RSCAN	受信バッファレジスタ 7AL	RMIDL7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8412h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9BH	GAFLMH9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8412h	RSCAN	受信バッファレジスタ 7AH	RMIDH7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8414h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9CL	GAFLPL9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8414h	RSCAN	受信バッファレジスタ 7BL	RMTS7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8416h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 9CH	GAFLPH9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8416h	RSCAN	受信バッファレジスタ 7BH	RMPTR7	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8418h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10AL	GAFLIDL10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8418h	RSCAN	受信バッファレジスタ 7CL	RMDF07	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10AH	GAFLIDH10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 7CH	RMDF17	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10BL	GAFLML10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 7DL	RMDF27	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10BH	GAFLMH10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 841Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 7DH	RMDF37	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8420h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10CL	GAFLPL10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8420h	RSCAN	受信バッファレジスタ 8AL	RMIDL8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8422h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 10CH	GAFLPH10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8422h	RSCAN	受信バッファレジスタ 8AH	RMIDH8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8424h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11AL	GAFLIDL11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8424h	RSCAN	受信バッファレジスタ 8BL	RMTS8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8426h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11AH	GAFLIDH11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8426h	RSCAN	受信バッファレジスタ 8BH	RMPTR8	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8428h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11BL	GAFLML11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8428h	RSCAN	受信バッファレジスタ 8CL	RMDF08	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11BH	GAFLMH11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 8CH	RMDF18	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11CL	GAFLPL11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 8DL	RMDF28	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 11CH	GAFLPH11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 842Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 8DH	RMDF38	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8430h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12AL	GAFLIDL12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8430h	RSCAN	受信バッファレジスタ 9AL	RMIDL9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8432h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12AH	GAFLIDH12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8432h	RSCAN	受信バッファレジスタ 9AH	RMIDH9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8434h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12BL	GAFLML12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8434h	RSCAN	受信バッファレジスタ 9BL	RMTS9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (21/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 8436h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12BH	GAFLMH12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8436h	RSCAN	受信バッファレジスタ 9BH	RMPTR9	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8438h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12CL	GAFLPL12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8438h	RSCAN	受信バッファレジスタ 9CL	RMDF09	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 12CH	GAFLPH12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 9CH	RMDF19	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13AL	GAFLIDL13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 9DL	RMDF29	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13AH	GAFLIDH13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 843Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 9DH	RMDF39	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8440h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13BL	GAFLML13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8440h	RSCAN	受信バッファレジスタ 10AL	RMIDL10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8442h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13BH	GAFLMH13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8442h	RSCAN	受信バッファレジスタ 10AH	RMIDH10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8444h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13CL	GAFLPL13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8444h	RSCAN	受信バッファレジスタ 10BL	RMTS10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8446h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 13CH	GAFLPH13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8446h	RSCAN	受信バッファレジスタ 10BH	RMPTR10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8448h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14AL	GAFLIDL14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8448h	RSCAN	受信バッファレジスタ 10CL	RMDF010	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14AH	GAFLIDH14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 10CH	RMDF110	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14BL	GAFLML14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 10DL	RMDF210	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14BH	GAFLMH14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 844Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 10DH	RMDF310	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8450h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14CL	GAFLPL14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8450h	RSCAN	受信バッファレジスタ 11AL	RMIDL11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8452h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 14CH	GAFLPH14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8452h	RSCAN	受信バッファレジスタ 11AH	RMIDH11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8454h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15AL	GAFLIDL15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8454h	RSCAN	受信バッファレジスタ 11BL	RMTS11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8456h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15AH	GAFLIDH15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8456h	RSCAN	受信バッファレジスタ 11BH	RMPTR11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8458h	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15BL	GAFLML15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8458h	RSCAN	受信バッファレジスタ 11CL	RMDF011	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Ah	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15BH	GAFLMH15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 11CH	RMDF111	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Ch	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15CL	GAFLPL15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 11DL	RMDF211	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Eh	RSCAN	受信ルール登録レジスタ 15CH	GAFLPH15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 845Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 11DH	RMDF311	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8460h	RSCAN	受信バッファレジスタ 12AL	RMIDL12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8462h	RSCAN	受信バッファレジスタ 12AH	RMIDH12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8464h	RSCAN	受信バッファレジスタ 12BL	RMTS12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8466h	RSCAN	受信バッファレジスタ 12BH	RMPTR12	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8468h	RSCAN	受信バッファレジスタ 12CL	RMDF012	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 846Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 12CH	RMDF112	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 846Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 12DL	RMDF212	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 846Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 12DH	RMDF312	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8470h	RSCAN	受信バッファレジスタ 13AL	RMIDL13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (22/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 8472h	RSCAN	受信バッファレジスタ 13AH	RMIDH13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8474h	RSCAN	受信バッファレジスタ 13BL	RMTS13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8476h	RSCAN	受信バッファレジスタ 13BH	RMPTR13	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8478h	RSCAN	受信バッファレジスタ 13CL	RMDF013	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 847Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 13CH	RMDF113	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 847Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 13DL	RMDF213	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 847Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 13DH	RMDF313	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8480h	RSCAN	受信バッファレジスタ 14AL	RMIDL14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8482h	RSCAN	受信バッファレジスタ 14AH	RMIDH14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8484h	RSCAN	受信バッファレジスタ 14BL	RMTS14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8486h	RSCAN	受信バッファレジスタ 14BH	RMPTR14	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8488h	RSCAN	受信バッファレジスタ 14CL	RMDF014	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 848Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 14CH	RMDF114	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 848Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 14DL	RMDF214	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 848Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 14DH	RMDF314	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8490h	RSCAN	受信バッファレジスタ 15AL	RMIDL15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8492h	RSCAN	受信バッファレジスタ 15AH	RMIDH15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8494h	RSCAN	受信バッファレジスタ 15BL	RMTS15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8496h	RSCAN	受信バッファレジスタ 15BH	RMPTR15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8498h	RSCAN	受信バッファレジスタ 15CL	RMDF015	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 849Ah	RSCAN	受信バッファレジスタ 15CH	RMDF115	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 849Ch	RSCAN	受信バッファレジスタ 15DL	RMDF215	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 849Eh	RSCAN	受信バッファレジスタ 15DH	RMDF315	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 8580h ~ 000A 859Fh	RSCAN	RAMテストレジスタ0 ~ RAMテストレジスタ15	RPGACC0 ~ RPGACC15	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A0h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0AL	RFIDL0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A0h	RSCAN	RAMテストレジスタ16	RPGACC16	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A2h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0AH	RFIDH0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A2h	RSCAN	RAMテストレジスタ17	RPGACC17	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A4h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0BL	RFTS0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A4h	RSCAN	RAMテストレジスタ18	RPGACC18	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A6h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0BH	RFPTR0	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A6h	RSCAN	RAMテストレジスタ19	RPGACC19	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A8h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0CL	RFDF00	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85A8h	RSCAN	RAMテストレジスタ20	RPGACC20	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85AAh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0CH	RFDF10	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85AAh	RSCAN	RAMテストレジスタ21	RPGACC21	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85ACh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0DL	RFDF20	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85ACh	RSCAN	RAMテストレジスタ22	RPGACC22	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85AEh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ0DH	RFDF30	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85AEh	RSCAN	RAMテストレジスタ23	RPGACC23	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B0h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1AL	RFIDL1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B0h	RSCAN	RAMテストレジスタ24	RPGACC24	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B2h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1AH	RFIDH1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B2h	RSCAN	RAMテストレジスタ25	RPGACC25	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B4h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1BL	RFTS1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B4h	RSCAN	RAMテストレジスタ26	RPGACC26	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B6h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1BH	RFPTR1	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B6h	RSCAN	RAMテストレジスタ27	RPGACC27	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B8h	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1CL	RFDF01	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85B8h	RSCAN	RAMテストレジスタ28	RPGACC28	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章
000A 85BAh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1CH	RFDF11	16	16	2 ~ 3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (23/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 85BAh	RSCAN	RAMテストレジスタ29	RPGACC29	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85BCh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1DL	RFDF21	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85BCh	RSCAN	RAMテストレジスタ30	RPGACC30	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85BEh	RSCAN	受信FIFOアクセスレジスタ1DH	RFDF31	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85BEh	RSCAN	RAMテストレジスタ31	RPGACC31	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85C0h～ 000A 85DEh	RSCAN	RAMテストレジスタ32～RAMテストレジスタ47	RPGACC32～ RPGACC47	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E0h	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0AL	CFIDL0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E0h	RSCAN	RAMテストレジスタ48	RPGACC48	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E2h	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0AH	CFIDH0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E2h	RSCAN	RAMテストレジスタ49	RPGACC49	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E4h	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0BL	CFTS0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E4h	RSCAN	RAMテストレジスタ50	RPGACC50	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E6h	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0BH	CFPTR0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E6h	RSCAN	RAMテストレジスタ51	RPGACC51	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E8h	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0CL	CFDF00	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85E8h	RSCAN	RAMテストレジスタ52	RPGACC52	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85EAh	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0CH	CFDF10	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85EAh	RSCAN	RAMテストレジスタ53	RPGACC53	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85ECh	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0DL	CFDF20	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85ECh	RSCAN	RAMテストレジスタ54	RPGACC54	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85EEh	RSCAN0	送受信FIFOアクセスレジスタ0DH	CFDF30	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85EEh	RSCAN	RAMテストレジスタ55	RPGACC55	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 85F0h～ 000A 85FEh	RSCAN	RAMテストレジスタ56～RAMテストレジスタ63	RPGACC56～ RPGACC63	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8600h	RSCAN0	送信バッファレジスタ0AL	TMIDL0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8600h	RSCAN	RAMテストレジスタ64	RPGACC64	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8602h	RSCAN0	送信バッファレジスタ0AH	TMIDH0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8602h	RSCAN	RAMテストレジスタ65	RPGACC65	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8604h	RSCAN	RAMテストレジスタ66	RPGACC66	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8606h	RSCAN0	送信バッファレジスタ0BH	TMPTR0	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8606h	RSCAN	RAMテストレジスタ67	RPGACC67	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8608h	RSCAN0	送信バッファレジスタ0CL	TMDF00	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8608h	RSCAN	RAMテストレジスタ68	RPGACC68	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Ah	RSCAN0	送信バッファレジスタ0CH	TMDF10	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Ah	RSCAN	RAMテストレジスタ69	RPGACC69	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Ch	RSCAN0	送信バッファレジスタ0DL	TMDF20	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Ch	RSCAN	RAMテストレジスタ70	RPGACC70	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Eh	RSCAN0	送信バッファレジスタ0DH	TMDF30	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 860Eh	RSCAN	RAMテストレジスタ71	RPGACC71	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8610h	RSCAN0	送信バッファレジスタ1AL	TMIDL1	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8610h	RSCAN	RAMテストレジスタ72	RPGACC72	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8612h	RSCAN0	送信バッファレジスタ1AH	TMIDH1	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8612h	RSCAN	RAMテストレジスタ73	RPGACC73	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8614h	RSCAN	RAMテストレジスタ74	RPGACC74	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8616h	RSCAN0	送信バッファレジスタ1BH	TMPTR1	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8616h	RSCAN	RAMテストレジスタ75	RPGACC75	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8618h	RSCAN0	送信バッファレジスタ1CL	TMDF01	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8618h	RSCAN	RAMテストレジスタ76	RPGACC76	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 861Ah	RSCAN0	送信バッファレジスタ1CH	TMDF11	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 861Ah	RSCAN	RAMテストレジスタ77	RPGACC77	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 861Ch	RSCAN0	送信バッファレジスタ1DL	TMDF21	16	16	2～3PCLKB	28章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (24/25)

アドレス	モジュールシンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット数	アクセスサイズ	アクセスサイクル数	参照章
000A 861Ch	RSCAN	RAMテストレジスタ78	RPGACC78	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 861Eh	RSCAN0	送信バッファレジスタ1DH	T MDF31	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 861Eh	RSCAN	RAMテストレジスタ79	RPGACC79	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8620h	RSCAN0	送信バッファレジスタ2AL	TMIDL2	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8620h	RSCAN	RAMテストレジスタ80	RPGACC80	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8622h	RSCAN0	送信バッファレジスタ2AH	TMIDH2	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8622h	RSCAN	RAMテストレジスタ81	RPGACC81	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8624h	RSCAN	RAMテストレジスタ82	RPGACC82	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8626h	RSCAN0	送信バッファレジスタ2BH	TMPTR2	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8626h	RSCAN	RAMテストレジスタ83	RPGACC83	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8628h	RSCAN0	送信バッファレジスタ2CL	T MDF02	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8628h	RSCAN	RAMテストレジスタ84	RPGACC84	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Ah	RSCAN0	送信バッファレジスタ2CH	T MDF12	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Ah	RSCAN	RAMテストレジスタ85	RPGACC85	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Ch	RSCAN0	送信バッファレジスタ2DL	T MDF22	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Ch	RSCAN	RAMテストレジスタ86	RPGACC86	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Eh	RSCAN0	送信バッファレジスタ2DH	T MDF32	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 862Eh	RSCAN	RAMテストレジスタ87	RPGACC87	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8630h	RSCAN0	送信バッファレジスタ3AL	TMIDL3	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8630h	RSCAN	RAMテストレジスタ88	RPGACC88	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8632h	RSCAN0	送信バッファレジスタ3AH	TMIDH3	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8632h	RSCAN	RAMテストレジスタ89	RPGACC89	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8634h	RSCAN	RAMテストレジスタ90	RPGACC90	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8636h	RSCAN0	送信バッファレジスタ3BH	TMPTR3	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8636h	RSCAN	RAMテストレジスタ91	RPGACC91	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8638h	RSCAN0	送信バッファレジスタ3CL	T MDF03	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8638h	RSCAN	RAMテストレジスタ92	RPGACC92	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Ah	RSCAN0	送信バッファレジスタ3CH	T MDF13	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Ah	RSCAN	RAMテストレジスタ93	RPGACC93	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Ch	RSCAN0	送信バッファレジスタ3DL	T MDF23	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Ch	RSCAN	RAMテストレジスタ94	RPGACC94	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Eh	RSCAN0	送信バッファレジスタ3DH	T MDF33	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 863Eh	RSCAN	RAMテストレジスタ95	RPGACC95	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8640h～ 000A 867Eh	RSCAN	RAMテストレジスタ96～RAMテストレジスタ127	RPGACC96～ RPGACC127	16	16	2～3PCLKB	28章
000A 8680h	RSCAN0	送信履歴バッファアクセスレジスタ	THLACC0	16	16	2～3PCLKB	28章
007F C090h	FLASH	E2データフラッシュ制御レジスタ	DFLCTL	8	8	2～3FCLK	41章
007F C228h	TEMPS	温度センサ校正データレジスタ	TSCDR	16	16	1～2PCLKB	37章
007F C100h	FLASH	フラッシュP/Eモード制御レジスタ	FPMCR	8	8	7ICLK	41章
007F C104h	FLASH	フラッシュ領域選択レジスタ	FASR	8	8	7ICLK	41章
007F C108h	FLASH	フラッシュ処理開始アドレスレジスタL	FSARL	16	16	7ICLK	41章
007F C110h	FLASH	フラッシュ処理開始アドレスレジスタH	FSARH	16	16	7ICLK	41章
007F C114h	FLASH	フラッシュ制御レジスタ	FCR	8	8	7ICLK	41章
007F C118h	FLASH	フラッシュ処理終了アドレスレジスタL	FEARL	16	16	7ICLK	41章
007F C120h	FLASH	フラッシュ処理終了アドレスレジスタH	FEARH	16	16	7ICLK	41章
007F C124h	FLASH	フラッシュリセットレジスタ	FRESETR	8	8	7ICLK	41章
007F C128h	FLASH	フラッシュステータスレジスタ0	FSTATR0	8	8	7ICLK	41章
007F C12Ch	FLASH	フラッシュステータスレジスタ1	FSTATR1	8	8	7ICLK	41章
007F C130h	FLASH	フラッシュライトバッファレジスタ0	FWB0	16	16	7ICLK	41章
007F C138h	FLASH	フラッシュライトバッファレジスタ1	FWB1	16	16	7ICLK	41章
007F C140h	FLASH	フラッシュライトバッファレジスタ2	FWB2	16	16	7ICLK	41章
007F C144h	FLASH	フラッシュライトバッファレジスタ3	FWB3	16	16	7ICLK	41章

表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (25/25)

アドレス	モジュール シンボル	レジスタ名	レジスタシンボル	ビット 数	アクセス サイズ	アクセスサイクル数	参照章
007F C180h	FLASH	プロテクト解除レジスタ	FPR	8	8	7ICLK	41章
007F C184h	FLASH	プロテクト解除ステータスレジスタ	FPSR	8	8	7ICLK	41章
007F C1C0h	FLASH	フラッシュスタートアップ設定モニタレジスタ	FSCMR	16	16	7ICLK	41章
007F C1C8h	FLASH	フラッシュアクセスウィンドウ開始アドレスモニタレジスタ	FAWSMR	16	16	7ICLK	41章
007F C1D0h	FLASH	フラッシュアクセスウィンドウ終了アドレスモニタレジスタ	FAWEMR	16	16	7ICLK	41章
007F C1D8h	FLASH	フラッシュ初期設定レジスタ	FISR	8	8	7ICLK	41章
007F C1DCh	FLASH	フラッシュエクストラ領域制御レジスタ	FEXCR	8	8	7ICLK	41章
007F C1E0h	FLASH	フラッシュエラーアドレスモニタレジスタL	FEAML	16	16	7ICLK	41章
007F C1E8h	FLASH	フラッシュエラーアドレスモニタレジスタH	FEAMH	16	16	7ICLK	41章
007F C350h	FLASH	ユニークIDレジスタ0	UIDR0	32	32	7ICLK	41章
007F C354h	FLASH	ユニークIDレジスタ1	UIDR1	32	32	7ICLK	41章
007F C358h	FLASH	ユニークIDレジスタ2	UIDR2	32	32	7ICLK	41章
007F C35Ch	FLASH	ユニークIDレジスタ3	UIDR3	32	32	7ICLK	41章
007F C3A4h	CTSU	CTSUトリミングレジスタA	CTSUTRIMA	32	32	7ICLK	32章
007F C3A8h	CTSU	CTSUトリミングレジスタB	CTSUTRIMB	32	32	7ICLK	32章
007F FFB0h	FLASH	フラッシュP/Eモードエントリレジスタ	FENTRYR	16	16	7ICLK	41章
007F FFC0h	FLASH	メモリウェイトサイクル設定レジスタ	MEMWAITR	16	16	7ICLK	41章
FFFF FF80h	OFSM	エンディアン選択レジスタ	MDE	32	32	1ICLK	7章
FFFF FF88h	OFSM	オプション機能選択レジスタ1	OFS1	32	32	1ICLK	7章
FFFF FF8Ch	OFSM	オプション機能選択レジスタ0	OFS0	32	32	1ICLK	7章

6. リセット

6.1 概要

リセットには、RES# 端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視 0 リセット、電圧監視 1 リセット、電圧監視 2 リセット、独立ウォッチドッグタイマリセット、ソフトウェアリセットがあります。

表 6.1 にリセットの名称と要因を示します。

表6.1 リセットの名称と要因

リセットの名称	要因
RES#端子リセット	RES#端子の入力電圧がLow
パワーオンリセット	VCCの上昇(監視電圧: VPOR)(注1)
電圧監視0リセット	VCCの下降(監視電圧: Vdet0)(注1)
電圧監視1リセット	VCCの下降(監視電圧: Vdet1)(注1)
電圧監視2リセット	VCCの下降(監視電圧: Vdet2)(注1)
独立ウォッチドッグタイマリセット	独立ウォッチドッグタイマのアンダフロー、またはリフレッシュエラー
ソフトウェアリセット	レジスタ設定

注1. 監視電圧(VPOR, Vdet0, Vdet1, Vdet2)については、「8. 電圧検出回路(LVDAb)」、「42. 電気的特性」を参照してください。

リセットによって内部状態は初期化され、端子は初期状態になります。

表 6.2 にリセット種別ごとの初期化対象を示します。

表6.2 リセット種別ごとの初期化対象

リセット対象	リセット要因						
	RES#端子 リセット	パワーオン リセット	電圧監視0 リセット	独立ウォッチ ドッグタイマ リセット	電圧監視1 リセット	電圧監視2 リセット	ソフトウェア リセット
パワーオンリセット検出フラグ (RSTSR0.PORF)	○	—	—	—	—	—	—
コールドスタート/ウォームスタート判別 フラグ (RSTSR1.CWSF)	— (注1)	○	—	—	—	—	—
電圧監視0リセット検出フラグ (RSTSR0.LVD0RF)	○	○	—	—	—	—	—
独立ウォッチドッグタイマリセット検出 フラグ (RSTSR2.IWDTRF)	○	○	○	—	—	—	—
独立ウォッチドッグタイマのレジスタ (IWDTRR, IWDTCR, IWDTSR, IWDTRCR, IWDTCSTPR, ILOCOCR)	○	○	○	—	—	—	—
電圧監視1リセット検出フラグ (RSTSR0.LVD1RF)	○	○	○	○	—	—	—
電圧監視機能1のレジスタ (LVD1CR0, LVCMPPCR.LVD1E, LVDLVLRLVD1LVL[3:0])	○	○	○	○	—	—	—
(LVD1CR1, LVD1SR)	○	○	○	○	—	—	—
電圧監視2リセット検出フラグ (RSTSR0.LVD2RF)	○	○	○	○	○	—	—
電圧監視機能2のレジスタ (LVD2CR0, LVCMPPCR.EXVCCINP2, LVD2E, LVDLVLRLVD2LVL[1:0])	○	○	○	○	○	—	—
(LVD2CR1, LVD2SR)	○	○	○	○	○	—	—
ソフトウェアリセット検出フラグ (RSTSR2.SWRF)	○	○	○	○	○	○	—
リアルタイムクロックのレジスタ(注2)	—	—	—	—	—	—	—
サブクロック発振器のレジスタ (SOSCCR, SOMCR)	—	○	—	—	—	—	—
動作モード(注3)	○	○	—	—	—	—	—
上記以外のレジスタ、CPUおよび内部状態	○	○	○	○	○	○	○

○：初期化されます。 —：変化しない

注1. 電源投入時は初期化されます。

注2. 一部の制御ビットは、すべてのリセットにより初期化されます。対象となる制御ビットについては、「24. リアルタイムクロック(RTCB)」を参照してください。

注3. リセット解除時のモード設定端子の状態によって動作モードが決定されます。詳細は「3. 動作モード」を参照してください。

リセットが解除されると、リセット例外処理を開始します。リセット例外処理については、「13. 例外処理」を参照してください。

表 6.3 にリセットに関連する入出力端子を示します。

表6.3 リセット関連の入出力端子

端子名	入出力	機能
RES#	入力	リセット端子

6.2 レジスタの説明

6.2.1 リセットステータスレジスタ 0 (RSTSR0)

アドレス 0008 C290h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	LVD2R F	LVD1R F	LVD0R F	PORF
リセット後の値	0	0	0	0	0 (注1)	0 (注1)	0 (注1)	0 (注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PORF	パワーオンリセット検出フラグ	0 : パワーオンリセット未検出 1 : パワーオンリセット検出	R/(W) (注2)
b1	LVD0RF	電圧監視0リセット検出フラグ	0 : 電圧監視0リセット未検出 1 : 電圧監視0リセット検出	R/(W) (注2)
b2	LVD1RF	電圧監視1リセット検出フラグ	0 : 電圧監視1リセット未検出 1 : 電圧監視1リセット検出	R/(W) (注2)
b3	LVD2RF	電圧監視2リセット検出フラグ	0 : 電圧監視2リセット未検出 1 : 電圧監視2リセット検出	R/(W) (注2)
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。

注2. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。

PORF フラグ (パワーオンリセット検出フラグ)

パワーオンリセットが発生したことを示します。

["1"になる条件]

- パワーオンリセットが発生したとき

["0"になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

LVD0RF フラグ (電圧監視0リセット検出フラグ)

VCC 電圧が Vdet0 レベル以下を検知したことを示します。

["1"になる条件]

- Vdet0 レベルの VCC 電圧を検知したとき

["0"になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

LVD1RF フラグ (電圧監視1リセット検出フラグ)

VCC 電圧が Vdet1 レベル以下を検知したことを示します。

["1"になる条件]

- Vdet1 レベルの VCC 電圧を検知したとき

["0"になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

LVD2RF フラグ (電圧監視 2 リセット検出フラグ)

VCC 電圧が Vdet2 レベル以下を検知したことを示します。

[“1”になる条件]

- Vdet2 レベルの VCC 電圧を検知したとき

[“0”になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

6.2.2 リセットステータスレジスタ 1 (RSTSR1)

アドレス 0008 C291h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	CWSF

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0/1
(注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CWSF	コールドスタート/ウォームスタート判別フラグ	0 : コールドスタート 1 : ウォームスタート	R/(W) (注2)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。

注2. フラグをセットするための“1”書き込みのみ可能です。

RSTSR1 レジスタは、電源が投入されたときのリセット処理 (コールドスタート) か、動作中にリセット信号が入力されたときのリセット処理 (ウォームスタート) かを判定するレジスタです。

CWSF フラグ (コールドスタート/ウォームスタート判別フラグ)

コールドスタートかウォームスタートかを示します。

CWSF フラグは、電源投入時に初期化されます。

[“1”になる条件]

- プログラムで“1”を書いたとき。“0”を書いても変化しません。

[“0”になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき

6.2.3 リセットステータスレジスタ 2 (RSTSR2)

アドレス 0008 00C0h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	SWRF	—	IWDTRF

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0
(注1) (注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IWDTRF	独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ	0: 独立ウォッチドッグタイマリセット未検出 1: 独立ウォッチドッグタイマリセット検出	R/(W) (注2)
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	SWRF	ソフトウェアリセット検出フラグ	0: ソフトウェアリセット未検出 1: ソフトウェアリセット検出	R/(W) (注2)
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後の値は、リセット要因で異なります。

注2. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。

IWDTRF フラグ (独立ウォッチドッグタイマリセット検出フラグ)

独立ウォッチドッグタイマリセットが発生したことを示します。

["1"になる条件]

- 独立ウォッチドッグタイマリセットが発生したとき

["0"になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

SWRF フラグ (ソフトウェアリセット検出フラグ)

ソフトウェアリセットが発生したことを示します。

["1"になる条件]

- ソフトウェアリセットを行なったとき

["0"になる条件]

- 表 6.2 に示すリセットを行ったとき
- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

6.2.4 ソフトウェアリセットレジスタ (SWRR)

アドレス 0008 00C2h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
[Empty box representing 16 bits]															

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

SWRR レジスタに“A501h”を書くとMCUがリセットされます。読むと“0000h”が読めます。このレジスタはPRCR.PRC1 ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

6.3 動作説明

6.3.1 RES# 端子リセット

RES# 端子によるリセットです。

RES# 端子が Low になると実行中の処理はすべて打ち切られ、リセット状態になります。

確実にリセットするために、電源投入時は規定の電源安定時間に従い、RES# 端子が Low を保持するようにしてください。

RES# 端子を Low から High にした後、RES# 解除後待機時間 (tRESWT) 経過後に内部リセットが解除され、CPU はリセット例外処理を開始します。

詳細は、「42. 電気的特性」を参照してください。

6.3.2 パワーオンリセット、電圧監視 0 リセット

パワーオンリセットは、パワーオンリセット回路による内部リセットです。

RES# 端子に抵抗を介して VCC に接続した状態で電源を投入すると、パワーオンリセットが発生します。RES# 端子にコンデンサを接続する場合も、RES# 端子の電圧が常に VIH 以上になるようにしてください。VIH は、「42. 電気的特性」を参照してください。VCC が VPOR を超えると、ある一定時間 (パワーオンリセット時間) が経過後、内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。パワーオンリセット時間は、外部電源および MCU が安定するための時間です。

また、パワーオンリセットが発生すると、RSTSR0.PORF フラグが“1”になります。PORF フラグは、RES# 端子リセットによって初期化されます。

電圧監視 0 リセットは、電圧監視回路による内部リセットです。

オプション機能選択レジスタ 1 (OFS1) の電圧検出 0 レベル選択ビット (LVDAS) が“0” (リセット後、電圧監視 0 リセット有効) の状態で、VCC が Vdet0 以下になると、RSTSR0.LVD0RF フラグが“1”になり、電圧検出回路は電圧監視 0 リセットを発生します。電圧監視 0 リセットを使用する場合は、OFS1.LVDAS ビットを“0”にしてください。VCC が Vdet0 を超えると、LVD0 リセット時間 (tLVD0) 経過後、内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

図 6.1 にパワーオンリセット、および電圧監視 0 リセットの動作例を示します。

電圧監視 0 リセットの詳細は、「8. 電圧検出回路 (LVDAb)」を参照してください。

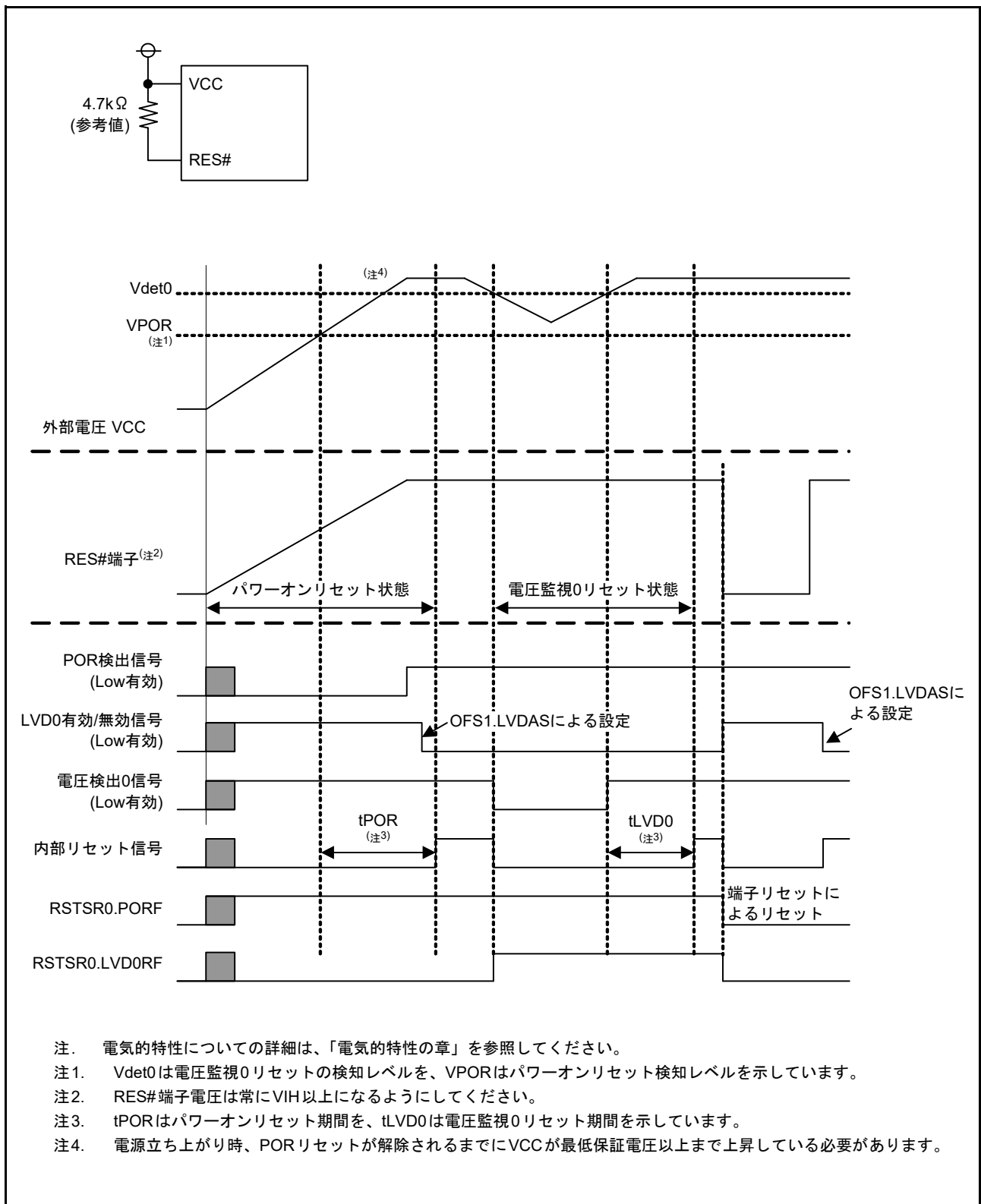


図 6.1 パワーオンリセット、電圧監視0リセット動作例

6.3.3 電圧監視 1 リセット、電圧監視 2 リセット

電圧監視回路による内部リセットです。

電圧監視 1 回路制御レジスタ 0 (LVD1CR0) の電圧監視 1 割り込み / リセット許可ビット (LVD1RIE) が “1” (電圧検出回路によるリセット / 割り込み有効) で、かつ電圧監視 1 回路モード選択ビット (LVD1RI) が “1” (低電圧検出時、リセット発生) の状態で、VCC が V_{det1} 以下になると、RSTSR0.LVD1RF フラグが “1” になり、電圧検出回路は電圧監視 1 リセットを発生します。

同様に、電圧監視 2 回路制御レジスタ 0 (LVD2CR0) の電圧監視 2 割り込み / リセット許可ビット (LVD2RIE) が “1” (電圧検出回路によるリセット / 割り込み有効) で、かつ電圧監視 2 回路モード選択ビット (LVD2RI) が “1” (低電圧検出時、リセット発生) の状態で、VCC が V_{det2} 以下になると、RSTSR0.LVD2RF フラグが “1” になり、電圧検出回路は電圧監視 2 リセットを発生します。

電圧監視 1 リセットの解除タイミングは、LVD1CR0 レジスタの電圧監視 1 リセットネゲート選択ビット (LVD1RN) で選択可能です。LVD1CR0.LVD1RN ビットが “0” のとき、VCC が V_{det1} 以下になり、その後 V_{det1} を超えてから LVD1 リセット時間 (t_{LVD1}) が経過すると内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。また、LVD1CR0.LVD1RN ビットが “1” のとき、VCC が V_{det1} 以下になってから LVD1 リセット時間 (t_{LVD1}) 経過後に内部リセットが解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

電圧監視 2 リセットの解除タイミングも同様で、LVD2CR0 レジスタの電圧監視 2 リセットネゲート選択ビット (LVD2RN) の設定により選択可能です。

V_{det1} 、および V_{det2} の電圧検出レベルは、電圧検出レベル選択レジスタ (LVDLVLR) の設定によって変更できます。

図 6.2 に電圧監視 1 リセット、および電圧監視 2 リセットの動作例を示します。

電圧監視 1 リセット、および電圧監視 2 リセットの詳細は、「8. 電圧検出回路 (LVDAb)」を参照してください。

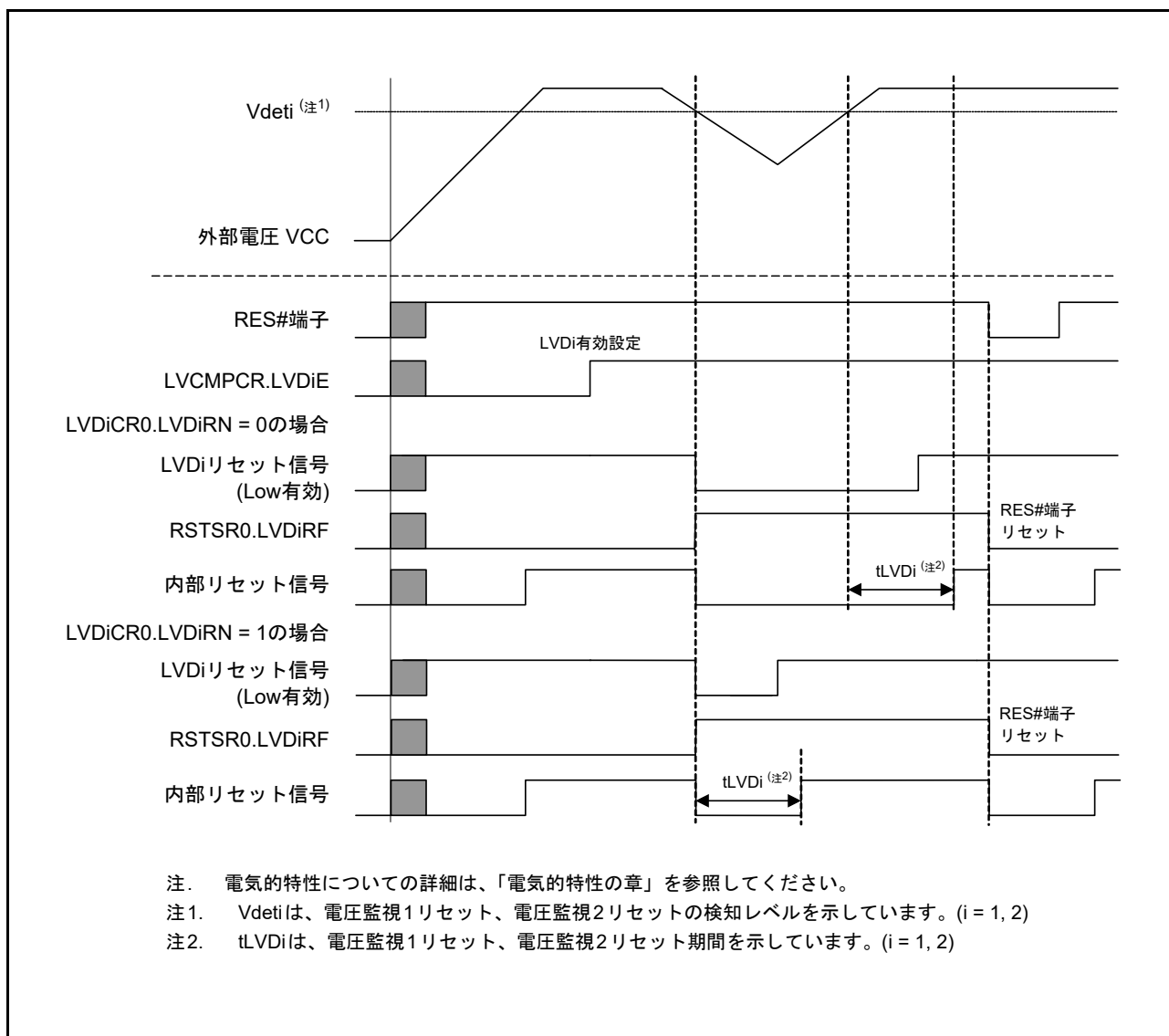


図 6.2 電圧監視 1 リセット、電圧監視 2 リセット動作例

6.3.4 独立ウォッチドッグタイマリセット

独立ウォッチドッグタイマによる内部リセットです。

IWDT リセットコントロールレジスタ (IWDTRCR)、あるいはオプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の設定により、独立ウォッチドッグタイマから独立ウォッチドッグタイマリセットを出力するかどうかを選択できます。

独立ウォッチドッグタイマリセット出力を選択した場合、独立ウォッチドッグタイマがアンダフローしたとき、あるいはリフレッシュ許可期間以外で書き込みを行った場合に、独立ウォッチドッグタイマリセットが発生します。独立ウォッチドッグタイマリセット発生後、内部リセット時間 (tRESW2) 経過後に内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

独立ウォッチドッグタイマリセットの詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

6.3.5 ソフトウェアリセット

ソフトウェアリセット回路による内部リセットです。

SWRR レジスタに“A501h”を書くと、ソフトウェアリセットが発生します。ソフトウェアリセット発生後、内部リセット時間 (tRESW2) 経過後に内部リセットは解除され、CPU がリセット例外処理を開始します。

6.3.6 コールドスタート/ウォームスタート判定機能

RSTSR1.CWSF フラグにより、電源が投入されたときのリセット処理 (コールドスタート) か、動作中にリセット信号が入力されたときのリセット処理 (ウォームスタート) かの判定をすることができます。

RSTSR1.CWSF フラグはパワーオンリセットが発生すると“0” (コールドスタート) になります。その他のリセットを行っても“0” になりません。また、プログラムで“1” を書くと、“1” になります。“0” を書いても変化しません。

図 6.3 にコールドスタート/ウォームスタート判定機能の動作例を示します。

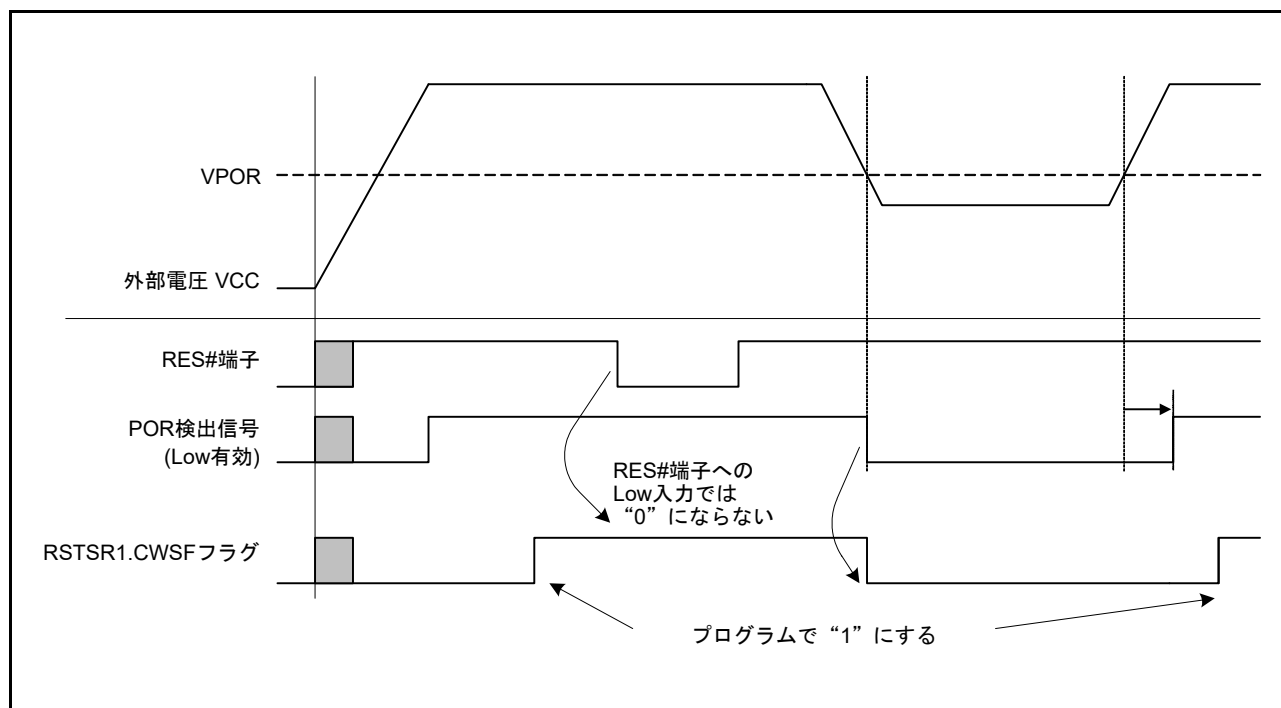


図 6.3 コールドスタート/ウォームスタート判定機能の動作例

6.3.7 リセット発生要因の判定

RSTSR0 レジスタと RSTSR2 レジスタを読むことで、いずれのリセット発生によってリセット例外処理が実行されたかを確認することができます。

図 6.4 にリセット発生要因判定フロー例を示します。

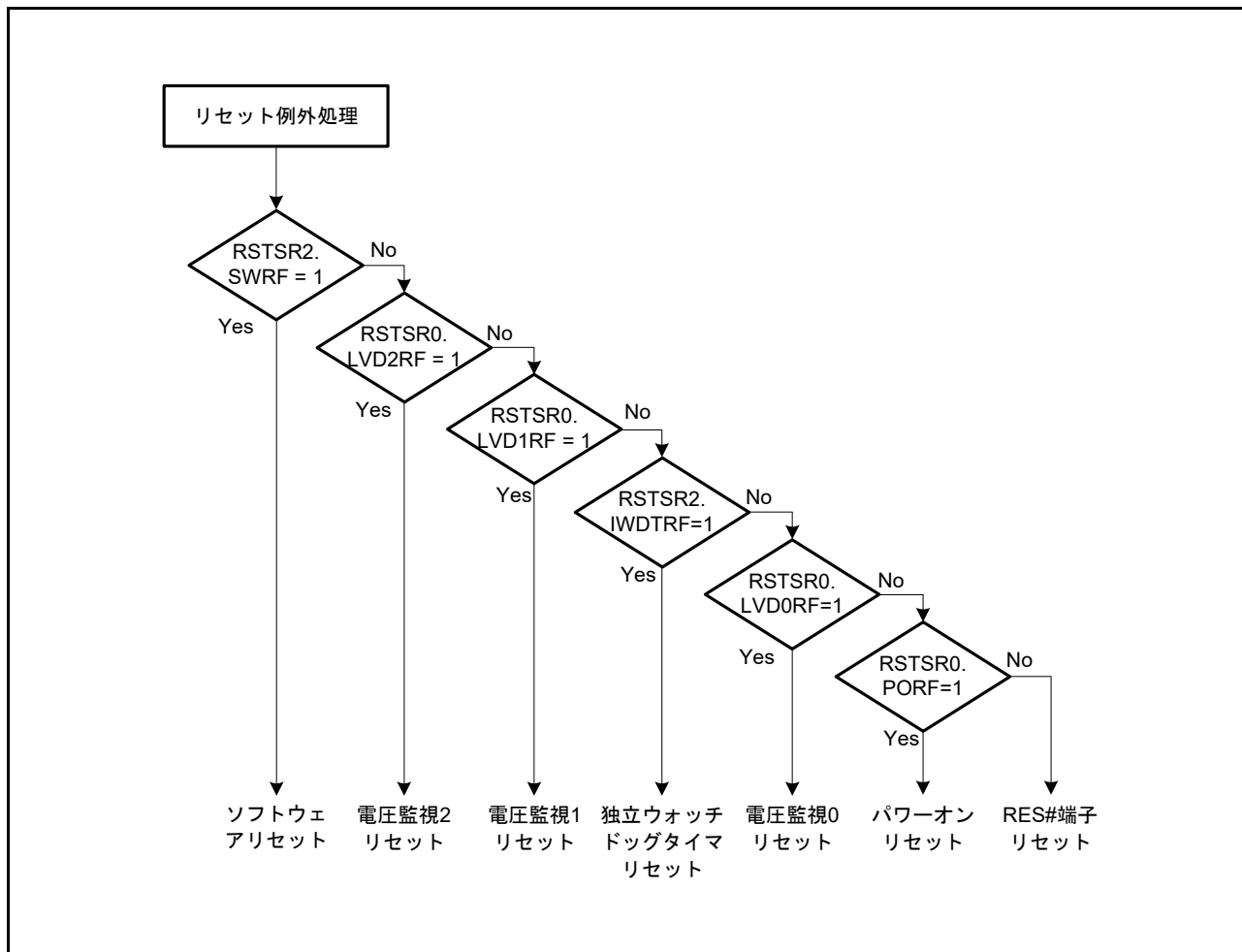


図 6.4 リセット発生要因判定フロー例

7. オプション設定メモリ (OFSM)

7.1 概要

オプション設定メモリ (OFSM) は、リセット後のマイコンの状態を選択するレジスタを備えています。オプション設定メモリは、ROM上にあります。

図 7.1 にオプション設定メモリ領域を示します。

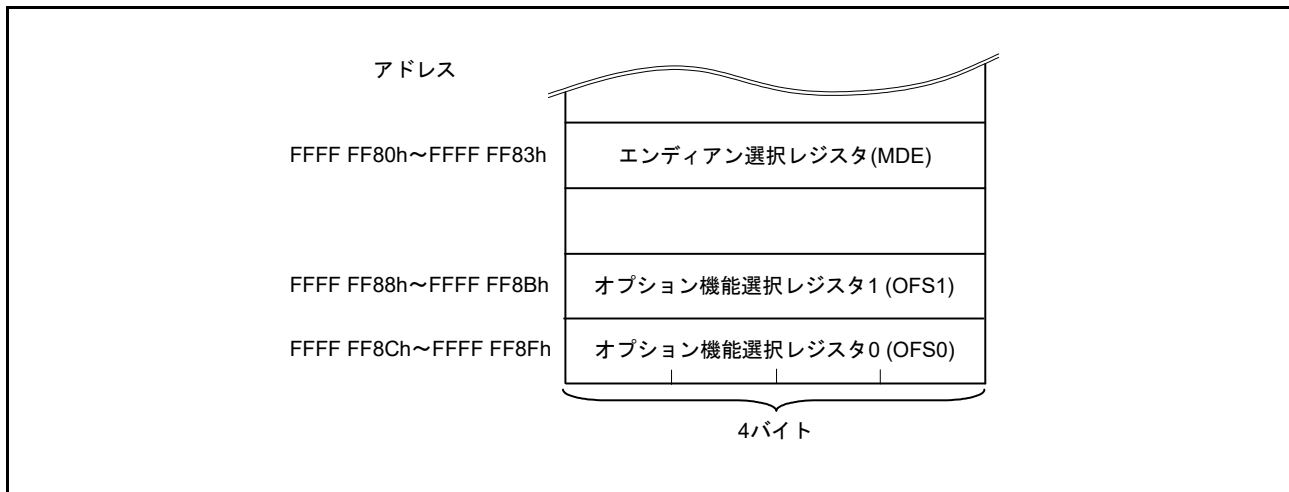


図 7.1 オプション設定メモリ領域

7.2 レジスタの説明

7.2.1 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)

アドレス OFSM.OFS0 FFFF FF8Ch

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値 ユーザの設定値(注1)															
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	IWDTS LCSTP	—	IWDTR STIRQS	IWDTRPSS[1:0]	IWDTRPES[1:0]	IWDTCKS[3:0]			IWDTTOPS[1:0]	IWDTS TRT	—				
リセット後の値 ユーザの設定値(注1)															

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R
b1	IWDSTRT	IWDTスタートモード選択ビット	0：リセット後、IWDTはオートスタートモードにて自動的に起動 1：リセット後、IWDTは停止状態	R
b3-b2	IWDTTOPS[1:0]	IWDTタイムアウト期間選択ビット	b3 b2 0 0：128サイクル(00FFh) 0 1：512サイクル(01FFh) 1 0：1024サイクル(03FFh) 1 1：2048サイクル(07FFh)	R
b7-b4	IWDTCKS[3:0]	IWDTクロック分周比選択ビット	b7 b4 0 0 0 0：分周なし 0 0 1 0：16分周 0 0 1 1：32分周 0 1 0 0：64分周 1 1 1 1：128分周 0 1 0 1：256分周 上記以外は設定しないでください	R
b9-b8	IWDTRPES[1:0]	IWDTウィンドウ終了位置選択ビット	b9 b8 0 0：75% 0 1：50% 1 0：25% 1 1：0% (ウィンドウの終了位置設定なし)	R
b11-b10	IWDTRPSS[1:0]	IWDTウィンドウ開始位置選択ビット	b11 b10 0 0：25% 0 1：50% 1 0：75% 1 1：100% (ウィンドウの開始位置設定なし)	R
b12	IWDTRSTIRQS	IWDTリセット割り込み要求選択ビット	0：ノンマスクابل割り込み要求を許可 1：リセットを許可	R
b13	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R
b14	IWDTS LCSTP	IWDTスリープモードカウント停止制御ビット	0：カウント停止無効 1：スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、およびディープスリープモード移行時のカウント停止有効	R
b31-b15	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R

注1. ブランク品では、“FFFF FFFFh”です。ユーザプログラムを書いた後は、設定した値になります。

OFS0 レジスタはROM上にあります。プログラムと一緒に書いてください。書いた後、OFS0 レジスタに追加書き込みをしないでください。

OFS0 レジスタを含むブロックを消去すると、OFS0 レジスタは“FFFF FFFFh”になります。

ブートモード時はOFS0 レジスタの値は無視され、“FFFF FFFFh”が設定されているときと同じ動作になります。

IWDTSTRT ビット (IWDT スタートモード選択ビット)

リセット後のIWDTの起動モード(停止状態、またはオートスタートモードでの起動)が選択できます。オートスタートモードでの起動の場合、IWDTの設定は、OFS0 レジスタの設定が有効となります。

IWDTTOPS[1:0] ビット (IWDT タイムアウト期間選択ビット)

ダウンカウンタがアンダフローするまでのタイムアウト期間をIWDTCKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを1サイクルとして、128サイクル/512サイクル/1024サイクル/2048サイクルから選択します。

リフレッシュ後、アンダフローするまでの時間(IWDT専用クロック数)は、IWDTCKS[3:0] ビットとIWDTTOPS[1:0] ビットの組み合わせにより決定します。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

IWDTCKS[3:0] ビット (IWDT クロック分周比選択ビット)

IWDT専用クロックを分周するプリスケーラの分周比設定を1分周/16分周/32分周/64分周/128分周/256分周から選択します。IWDTTOPS[1:0] ビットと組み合わせて、IWDTのカウント期間をIWDT専用クロックの128～524288クロックの間で設定できます。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

IWDRPES[1:0] ビット (IWDT ウィンドウ終了位置選択ビット)

ダウンカウンタのウィンドウ終了位置を、カウント期間の75%、50%、25%、0%から選択します。選択するウィンドウ終了位置は、ウィンドウ開始位置より小さい値を選択します(ウィンドウ開始位置>ウィンドウ終了位置)。ウィンドウ終了位置をウィンドウ開始位置よりも大きい値に設定した場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となります。

IWDRPSS[1:0]、IWDRPES[1:0] ビットで設定したウィンドウ開始/終了位置のカウント値は、IWDTTOPS[1:0] ビットの設定により変わります。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

IWDRPSS[1:0] ビット (IWDT ウィンドウ開始位置選択ビット)

ダウンカウンタのウィンドウ開始位置を、カウント期間(カウント開始を100%、アンダフロー発生時を0%)の100%、75%、50%、25%から選択します。ウィンドウ開始位置からウィンドウ終了位置までの期間がリフレッシュ許可期間となり、それ以外はリフレッシュ禁止期間となります。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

IWDRSTIRQS ビット (IWDT リセット割り込み要求選択ビット)

ダウンカウンタのアンダフロー、またはリフレッシュエラー発生時の動作を設定します。独立ウォッチドッグタイマリセットもしくは、ノンマスカブル割り込み要求のいずれかが選択できます。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

IWDTSLCSTP ビット (IWDT スリープモードカウント停止制御ビット)

スリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、およびディープスリープモード移行時のカウント停止を選択します。

詳細は「26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)」を参照してください。

7.2.2 オプション機能選択レジスタ 1 (OFS1)

アドレス OFSM.OFS1 FFFF FF88h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値 ユーザの設定値(注1)															
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	HOCOFRQ[1:0]	—	—	—	—	HOCOEN	—	—	—	—	FASTSTUP	LVDAS	VDSEL[1:0]	—
リセット後の値 ユーザの設定値(注1)															

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	VDSEL[1:0]	電圧検出0レベル選択ビット	b1 b0 0 0 : 3.85 Vを選択 0 1 : 2.85 Vを選択 1 0 : 2.53 Vを選択 1 1 : 1.90 Vを選択	R
b2	LVDAS	電圧検出0回路起動ビット	0 : リセット後、電圧監視0リセット有効 1 : リセット後、電圧監視0リセット無効	R
b3	FASTSTUP	電源立ち上げ時起動時間短縮ビット	0 : 電源立ち上げ時起動時間短縮 1 : 通常起動	R
b7-b4	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R
b8	HOCOEN	HOCO発振有効ビット	0 : リセット後、HOCO発振が有効 1 : リセット後、HOCO発振が無効	R
b11-b9	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R
b13-b12	HOCOFRQ[1:0]	HOCO周波数選択ビット	b13 b12 0 0 : 48 MHzを選択 0 1 : 48 MHzを選択 1 0 : 24 MHzを選択 1 1 : 32 MHzを選択	R
b31-b14	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R

注1. ブランク品では、“FFFF FFFFh”です。ユーザプログラムを書いた後は、設定した値になります。

OFS1 レジスタは ROM 上にあります。プログラムと一緒に書いてください。書いた後、OFS1 レジスタに追加書き込みをしないでください。

OFS1 レジスタを含むブロックを消去すると、OFS1 レジスタは“FFFF FFFFh”となります。

ブートモード時はOFS1レジスタの値は無視され、“FFFF FFFFh”が設定されているときと同じ動作になります。

VDSEL[1:0] ビット (電圧検出 0 レベル選択ビット)

電圧検出 0 回路の電圧検出レベルを選択します。

LVDAS ビット (電圧検出 0 回路起動ビット)

リセット後、電圧監視 0 リセットを有効にするか無効にするかを選択します。

電圧検出 0 回路で監視する Vdet0 電圧は、VDSEL[1:0] ビットで選択します。

FASTSTUP ビット (電源立ち上げ時起動時間短縮ビット)

電気的特性の電源投入時 VCC 立ち上がり勾配 (起動時間短縮時) を満たせる場合、本ビットを“0”(電源立ち上げ時起動時間短縮) に設定すると、起動時間を短縮することができます。電源投入時 VCC 立ち上がり勾配 (起動時間短縮時) を満たせない場合は、本ビットに“0”を設定しないでください。

HOCOEN ビット (HOCO 発振有効ビット)

リセット後、HOCO 用発振を有効にするか無効にするかを選択します。

HOCOEN ビットを“0”にすることにより、CPU が動作する前に HOCO の発振を開始することができ、発振安定の待ち時間を減らすことができます。

なお、HOCOEN ビットを“0”にしても、システムクロックソースは HOCO に切り替わりません。CPU からクロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) を書き換えることにより、切り替わります。

また、HOCOEN ビットに“0”を設定している場合、HOCO 発振安定時間 (tHOCO) はハードウェアで確保されているため、CPU リセット解除後から電気的特性に記載の HOCO 発振周波数 (fHOCO) の精度のクロックが供給されます。

7.2.3 エンディアン選択レジスタ (MDE)

アドレス OFSM.MDE FFFF FF80h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

リセット後の値 ユーザの設定値(注1)

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MDE[2:0]	—

リセット後の値 ユーザの設定値(注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	MDE[2:0]	エンディアン選択ビット	b2 b0 0 0 0: ビッグエンディアン 1 1 1: リトルエンディアン 上記以外は設定しないでください	R
b31-b3	—	予約ビット	読んだ場合は、プログラムした値が読めます。プログラムする場合は、“1”にしてください	R

注1. ブランク品では、“FFFF FFFFh”です。ユーザプログラムを書いた後は、設定した値になります。

MDE レジスタは、CPU のエンディアンを選択するレジスタです。

MDE レジスタは ROM 上にあります。プログラムと一緒に書いてください。書いた後、MDE レジスタに追加書き込みをしないでください。

MDE レジスタを含むブロックを消去すると、MDE レジスタは“FFFF FFFFh”になります。

MDE[2:0] ビット (エンディアン選択ビット)

リトルエンディアン/ビッグエンディアンを選択します。

7.3 使用上の注意事項

7.3.1 オプション設定メモリの設定例

オプション設定メモリはROM上にありますので、命令の実行では書き換えられません。プログラム作成時に適切な値を書いてください。以下に設定例を示します。

- OFS0レジスタに“FFFF FFF8h”を設定する場合

```
.ORG    0FFFFFF8CH
.LWORD  0FFFFFF8H
```

注. プログラムの書式はコンパイラによって異なります。コンパイラのマニュアルで確認してください。

8. 電圧検出回路 (LVDAb)

電圧検出回路は VCC 端子に入力する電圧を監視する回路です。VCC 入力電圧をプログラムで監視できます。

8.1 概要

電圧検出 0 はオプション機能選択レジスタ 1 (OFS1) で、検出電圧を 4 レベルから選択できます。

電圧検出 1 は、電圧検出レベル選択レジスタ (LVDLVLR) で、検出電圧を 14 レベルから選択できます。

電圧検出 2 は、VCC と CMPA2 端子入力電圧の切り替えで、LVDLVLR レジスタで検出電圧を 4 レベルから選択できます。

電圧監視 0 リセット、電圧監視 1 リセット/割り込み、電圧監視 2 リセット/割り込みを使用できます。

表 8.1 に電圧検出回路の仕様を示します。図 8.1 に電圧検出回路ブロック図を、図 8.2 に電圧監視 1 割り込み/リセット発生回路のブロック図を、図 8.3 に電圧監視 2 割り込み/リセット発生回路のブロック図を示します。

表 8.1 電圧検出回路の仕様

項目		電圧監視0	電圧監視1	電圧監視2
VCC監視	監視する電圧	Vdet0	Vdet1	Vdet2
	検出電圧	OFS1 レジスタで4レベルから選択可能	LVDLVLR.LVD1LVL[3:0]ビットで14レベルから選択可能	LVDLVLR.LVD2LVL[1:0]ビットで4レベルから選択可能
	モニタフラグ	なし	LVD1SR.LVD1MON フラグ： Vdet1より高いか低いかをモニタ	LVD2SR.LVD2MON フラグ： Vdet2より高いか低いかをモニタ
電圧検出時の処理	リセット	電圧監視0リセット	電圧監視1リセット	電圧監視2リセット
		Vdet0 > VCCでリセット： VCC > Vdet0の一定時間後にCPU動作再開	Vdet1 > VCCでリセット： VCC > Vdet1の一定時間後にCPU動作再開、またはVdet1 > VCCの一定時間後にCPU動作再開を選択可能	Vdet2 > VCCまたはCMPA2端子でリセット： VCCまたはCMPA2端子 > Vdet2の一定時間後にCPU動作再開、またはVdet2 > VCCまたはCMPA2端子の一定時間後にCPU動作再開を選択可能
	割り込み	なし	電圧監視1割り込み	電圧監視2割り込み
		なし	ノンマスクابلまたはマスクابلを選択可能	ノンマスクابلまたはマスクابلを選択可能
イベントリンク機能	なし	あり Vdet1通過検出イベント出力	なし	

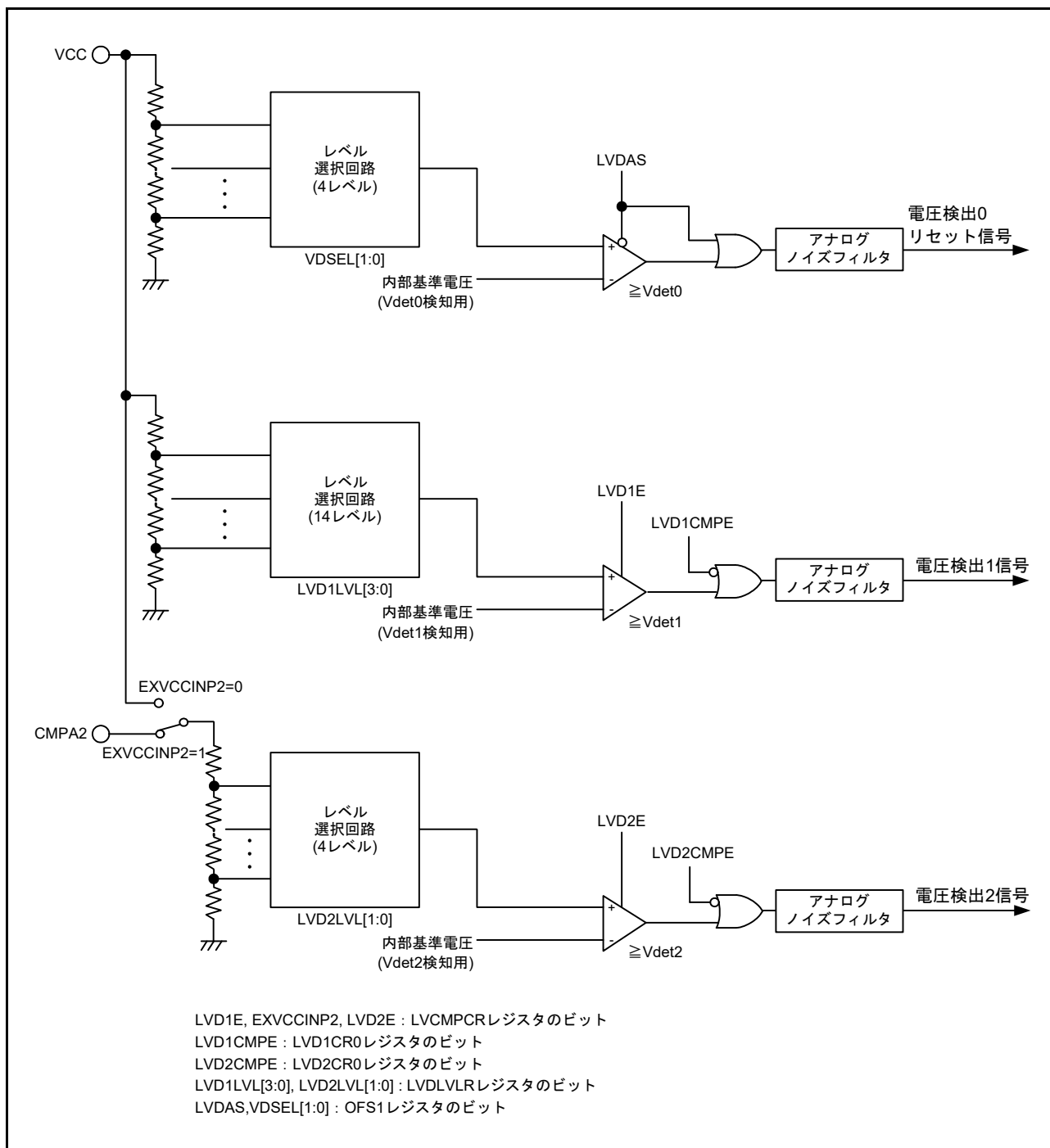


図 8.1 電圧検出回路ブロック図

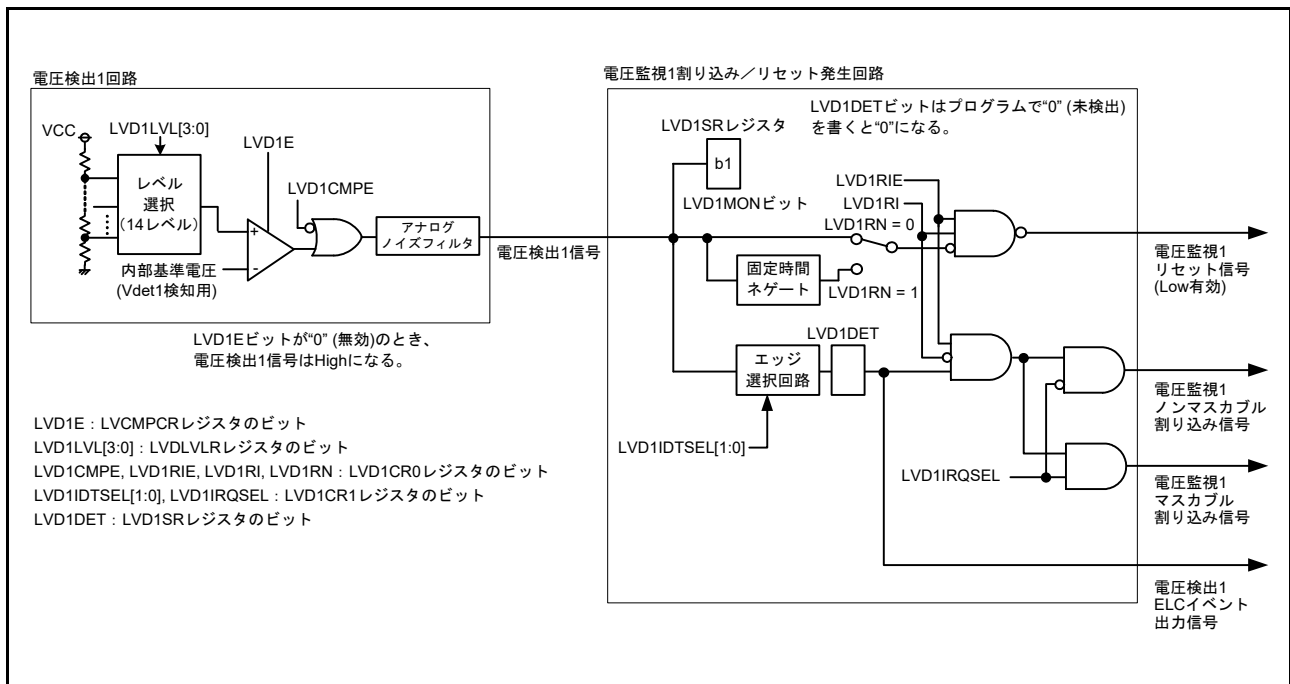


図 8.2 電圧監視 1 割り込み / リセット発生回路のブロック図

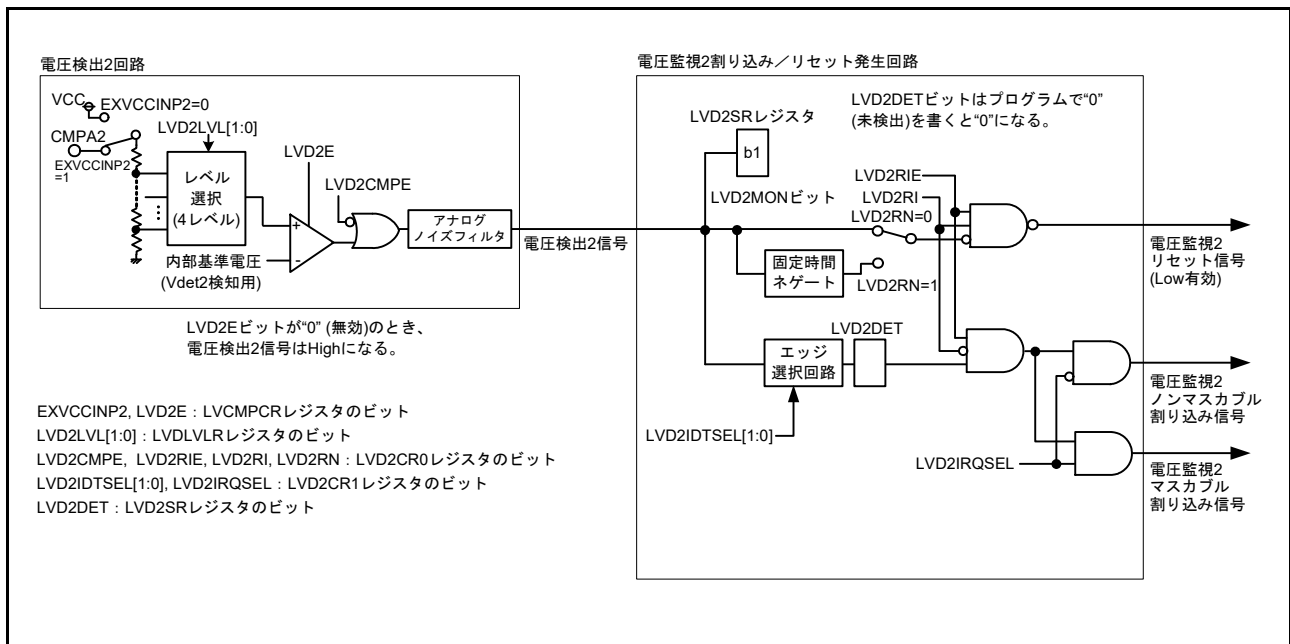


図 8.3 電圧監視 2 割り込み / リセット発生回路のブロック図

表 8.2 に電圧検出回路で使用する入出力端子を示します。

表 8.2 電圧検出回路の入出力端子

端子名	入出力	機能
CMPA2	入力	電圧検出 2 用検出対象電圧端子

8.2 レジスタの説明

8.2.1 電圧監視1回路制御レジスタ1 (LVD1CR1)

アドレス 0008 00E0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	LVD1IR QSEL	LVD1IDTSEL[1: 0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	LVD1IDTSEL [1:0]	電圧監視1割り込みELCイベント発生条件選択ビット	b1 b0 0 0 : VCC ≥ Vdet1 (上昇)検出時 0 1 : VCC < Vdet1 (下降)検出時 1 0 : 下降および上昇検出時 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	LVD1IRQSEL	電圧監視1割り込み種類選択ビット	0 : ノンマスクブル割り込み 1 : マスクブル割り込み	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

8.2.2 電圧監視 1 回路ステータスレジスタ (LVD1SR)

アドレス 0008 00E1h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	LVD1M ON	LVD1D ET
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LVD1DET	電圧監視 1 電圧変化検出フラグ	0 : 未検出 1 : Vdet1 通過検出	R/(W) (注1)
b1	LVD1MON	電圧監視 1 信号モニタフラグ	0 : VCC < Vdet1 1 : VCC ≥ Vdet1 または LVD1MON 無効	R
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. “0”のみ書けます。“0”を書いた後、LVD1DETビットの読み出し値に反映されるまでにシステムクロック2サイクルかかります。

LVD1DET フラグ (電圧監視 1 電圧変化検出フラグ)

LVD1DET フラグは、LVCMPCR.LVD1E ビットが“1”(電圧検出 1 回路有効)、かつ LVD1CR0.LVD1CMPE ビットが“1”(電圧監視 1 回路比較結果出力許可)のとき有効になります。

LVD1DET フラグを“0”にするときは、LVD1CR0.LVD1RIE を“0”(禁止)にしてから行ってください。再度、LVD1CR0.LVD1RIE を“1”(許可)にする場合は、PCLKB2 サイクル以上経過してから行ってください。

アクセスサイクル数が PCLKB で定義されている I/O レジスタを読み出すことによって、PCLKB2 サイクル以上の待ち時間を確保することが可能です。

LVD1MON フラグ (電圧監視 1 信号モニタフラグ)

LVD1MON フラグは、LVCMPCR.LVD1E ビットが“1”(電圧検出 1 回路有効)、かつ LVD1CR0.LVD1CMPE ビットが“1”(電圧監視 1 回路比較結果出力許可)のとき有効になります。

8.2.3 電圧監視2回路制御レジスタ1 (LVD2CR1)

アドレス 0008 00E2h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	LVD2IR QSEL	LVD2IDTSEL[1: 0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	LVD2IDTSEL [1:0]	電圧監視2割り込み発生条件選択ビット	b1 b0 0 0 : VCCまたはCMPA2端子 \geq Vdet2 (上昇)検出時 0 1 : VCCまたはCMPA2端子 $<$ Vdet2 (下降)検出時 1 0 : 下降および上昇検出時 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	LVD2IRQSEL	電圧監視2割り込み種類選択ビット	0 : ノンマスクブル割り込み 1 : マスクブル割り込み	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

8.2.4 電圧監視 2 回路ステータスレジスタ (LVD2SR)

アドレス 0008 00E3h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	LVD2MON	LVD2DET
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LVD2DET	電圧監視2電圧変化検出フラグ	0 : 未検出 1 : Vdet2通過検出	R/(W) (注1)
b1	LVD2MON	電圧監視2信号モニタフラグ	0 : VCCまたはCMPA2端子 < Vdet2 1 : VCCまたはCMPA2端子 ≥ Vdet2またはLVD2MON無効	R
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. “0”のみ書けます。“0”を書いた後、LVD2DETビットの読み出し値に反映されるまでにシステムクロック2サイクルかかります。

LVD2DET フラグ (電圧監視 2 電圧変化検出フラグ)

LVD2DET フラグは、LVCMPCR.LVD2E ビットが“1”(電圧検出 2 回路有効)、かつ LVD2CR0.LVD2CMPE ビットが“1”(電圧監視 2 回路比較結果出力許可)のとき有効になります。

LVD2DET フラグを“0”にするときは、LVD2CR0.LVD2RIE を“0”(禁止)にしてから行ってください。再度、LVD2CR0.LVD2RIE を“1”(許可)にする場合は、PCLKB2 サイクル以上経過してから行ってください。

アクセスサイクル数が PCLKB で定義されている I/O レジスタを読み出すことによって、PCLKB2 サイクル以上の待ち時間を確保することが可能です。

LVD2MON フラグ (電圧監視 2 信号モニタフラグ)

LVD2MON フラグは、LVCMPCR.LVD2E ビットが“1”(電圧検出 2 回路有効)、かつ LVD2CR0.LVD2CMPE ビットが“1”(電圧監視 2 回路比較結果出力許可)のとき有効になります。

8.2.5 電圧監視回路制御レジスタ (LVCMPCR)

アドレス 0008 C297h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	LVD2E	LVD1E	—	EXVCC INP2	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	EXVCCINP2	電圧検出2比較電圧外部入力 選択ビット(注1)	0: 電源電圧(VCC) 1: CMPA2端子入力電圧	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	LVD1E	電圧検出1許可ビット	0: 電圧検出1回路無効 1: 電圧検出1回路有効	R/W
b6	LVD2E	電圧検出2許可ビット	0: 電圧検出2回路無効 1: 電圧検出2回路有効	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. EXVCCINP2ビットは、LVD1EおよびLVD2Eビットが共に“0”(電圧検出1回路および電圧検出2回路無効)の場合にのみ変更可能です。

LVD1E ビット (電圧検出1許可ビット)

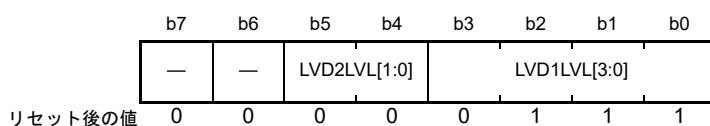
電圧検出1の割り込み/リセットを使用する場合、またはLVD1SR.LVD1MONフラグを使用する場合、LVD1Eビットを“1”にしてください。LVD1Eビットを“0”から“1”にした後、td(E-A)経過してから電圧検出1回路が動作します。

LVD2E ビット (電圧検出2許可ビット)

電圧検出2の割り込み/リセットを使用する場合、またはLVD2SR.LVD2MONフラグを使用する場合、LVD2Eビットを“1”にしてください。LVD2Eビットを“0”から“1”にした後、td(E-A)経過してから電圧検出2回路が動作します。

8.2.6 電圧検出レベル選択レジスタ (LVDLVLR)

アドレス 0008 C298h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W																																													
b3-b0	LVD1LVL[3:0]	電圧検出1レベル選択ビット (電圧下降時の標準電圧)	<table border="0"> <tr> <td>b3</td> <td>b0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0 0 0 0</td> <td>0</td> <td>: 4.29V</td> </tr> <tr> <td>0 0 0 1</td> <td>1</td> <td>: 4.16V</td> </tr> <tr> <td>0 0 1 0</td> <td>0</td> <td>: 4.03V</td> </tr> <tr> <td>0 0 1 1</td> <td>1</td> <td>: 3.86V</td> </tr> <tr> <td>0 1 0 0</td> <td>0</td> <td>: 3.10V</td> </tr> <tr> <td>0 1 0 1</td> <td>1</td> <td>: 3.00V</td> </tr> <tr> <td>0 1 1 0</td> <td>0</td> <td>: 2.90V</td> </tr> <tr> <td>0 1 1 1</td> <td>1</td> <td>: 2.80V</td> </tr> <tr> <td>1 0 0 0</td> <td>0</td> <td>: 2.68V</td> </tr> <tr> <td>1 0 0 1</td> <td>1</td> <td>: 2.59V</td> </tr> <tr> <td>1 0 1 0</td> <td>0</td> <td>: 2.48V</td> </tr> <tr> <td>1 0 1 1</td> <td>1</td> <td>: 2.20V</td> </tr> <tr> <td>1 1 0 0</td> <td>0</td> <td>: 1.96V</td> </tr> <tr> <td>1 1 0 1</td> <td>1</td> <td>: 1.86V</td> </tr> </table> 上記以外は設定しないでください	b3	b0		0 0 0 0	0	: 4.29V	0 0 0 1	1	: 4.16V	0 0 1 0	0	: 4.03V	0 0 1 1	1	: 3.86V	0 1 0 0	0	: 3.10V	0 1 0 1	1	: 3.00V	0 1 1 0	0	: 2.90V	0 1 1 1	1	: 2.80V	1 0 0 0	0	: 2.68V	1 0 0 1	1	: 2.59V	1 0 1 0	0	: 2.48V	1 0 1 1	1	: 2.20V	1 1 0 0	0	: 1.96V	1 1 0 1	1	: 1.86V	R/W
b3	b0																																																
0 0 0 0	0	: 4.29V																																															
0 0 0 1	1	: 4.16V																																															
0 0 1 0	0	: 4.03V																																															
0 0 1 1	1	: 3.86V																																															
0 1 0 0	0	: 3.10V																																															
0 1 0 1	1	: 3.00V																																															
0 1 1 0	0	: 2.90V																																															
0 1 1 1	1	: 2.80V																																															
1 0 0 0	0	: 2.68V																																															
1 0 0 1	1	: 2.59V																																															
1 0 1 0	0	: 2.48V																																															
1 0 1 1	1	: 2.20V																																															
1 1 0 0	0	: 1.96V																																															
1 1 0 1	1	: 1.86V																																															
b5-b4	LVD2LVL[1:0]	電圧検出2レベル選択ビット (電圧下降時の標準電圧)	<table border="0"> <tr> <td>b5</td> <td>b4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0 0</td> <td>0</td> <td>: 4.32V</td> </tr> <tr> <td>0 1</td> <td>1</td> <td>: 4.17V</td> </tr> <tr> <td>1 0</td> <td>0</td> <td>: 4.03V</td> </tr> <tr> <td>1 1</td> <td>1</td> <td>: 3.84V</td> </tr> </table>	b5	b4		0 0	0	: 4.32V	0 1	1	: 4.17V	1 0	0	: 4.03V	1 1	1	: 3.84V	R/W																														
b5	b4																																																
0 0	0	: 4.32V																																															
0 1	1	: 4.17V																																															
1 0	0	: 4.03V																																															
1 1	1	: 3.84V																																															
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W																																													

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LVDLVLR レジスタを変更するときは、LVCMPCR.LVD1E ビットおよび LVCMPCR.LVD2E ビットを共に“0”(電圧検出 n 回路無効) (n = 1, 2) にしてから行ってください。

また、LVD1LVL[3:0] ビットで設定の電圧検出レベルの範囲と LVD2LVL[1:0] ビットで設定の電圧検出レベルの範囲とがオーバーラップする設定をした場合、LVD1、LVD2 のどちらで電圧検出動作するかは特定できません。電圧検出レベルの範囲については、「42. 電気的特性」を参照してください。

LVD0 有効時、LVD1 の検出レベル設定は LVD0 の検出レベルより高い検出レベルに設定してください。また、LVD0 有効時、LVD1LVL[3:0] ビット設定での電圧検出レベル設定変更はリセット解除後 1 回のみとしてください。

8.2.7 電圧監視1回路制御レジスタ0 (LVD1CR0)

アドレス 0008 C29Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	LVD1RN	LVD1RI	—	—	—	LVD1CMPE	—	LVD1RIE
リセット後の値	1	0	0	0	x	0	0	0

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LVD1RIE	電圧監視1割り込み/リセット許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可	R/W
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	LVD1CMPE	電圧監視1回路比較結果出力許可ビット	0 : 電圧監視1回路比較結果出力禁止 1 : 電圧監視1回路比較結果出力許可	R/W
b3	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“0”としてください	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	LVD1RI	電圧監視1回路モード選択ビット	0 : Vdet1通過時に電圧監視1割り込み 1 : 下降してVdet1通過時に電圧監視1リセット	R/W
b7	LVD1RN	電圧監視1リセットネゲート選択ビット	0 : VCC > Vdet1検出から一定時間(tLVD1)経過後にネゲート 1 : 電圧監視1リセットアサートから一定時間(tLVD1)経過後にネゲート	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LVD1RN ビット (電圧監視1リセットネゲート選択ビット)

LVD1RN ビットを“1”(電圧監視1リセットアサートから一定時間経過後にネゲート)にする場合は、LOCOCR.LCSTP ビットは“0”(LOCO動作)にしてください。また、ソフトウェアスタンバイモードへ移行する場合は、LVD1RN ビットを“0”(VCC > Vdet1 検出から一定時間経過後にネゲート)にすることのみ可能です。LVD1RN ビットを“1”(電圧監視1リセットアサートから一定時間経過後にネゲート)にしないでください。

8.2.8 電圧監視 2 回路制御レジスタ 0 (LVD2CR0)

アドレス 0008 C29Bh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	LVD2RN	LVD2RI	—	—	—	LVD2CMPE	—	LVD2RIE
リセット後の値	1	0	0	0	x	0	0	0

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LVD2RIE	電圧監視2割り込み/リセット許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可	R/W
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	LVD2CMPE	電圧監視2回路比較結果出力許可ビット	0 : 電圧監視2回路比較結果出力禁止 1 : 電圧監視2回路比較結果出力許可	R/W
b3	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“0”としてください	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	LVD2RI	電圧監視2回路モード選択ビット	0 : Vdet2通過時に電圧監視2割り込み 1 : 下降してVdet2通過時に電圧監視2リセット	R/W
b7	LVD2RN	電圧監視2リセットネゲート選択ビット	0 : VCCまたはCMPA2端子 > Vdet2 検出から一定時間(tLVD2)経過後にネゲート 1 : 電圧監視2リセットアサートから一定時間(tLVD2)経過後にネゲート	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC3ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LVD2RN ビット (電圧監視 2 リセットネゲート選択ビット)

LVD2RN ビットを“1”(電圧監視 2 リセットアサートから一定時間経過後にネゲート)にする場合は、LOCOCR.LCSTP ビットは“0”(LOCO 動作)にしてください。また、ソフトウェアスタンバイモードへ移行する場合は、LVD2RN ビットを“0”(VCC または CMPA2 端子 > Vdet2 検出から一定時間経過後にネゲート)にすることのみ可能です。LVD2RN ビットを“1”(電圧監視 2 リセットアサートから一定時間経過後にネゲート)にしないでください。

8.3 VCC 入力電圧のモニタ

8.3.1 Vdet0 のモニタ

Vdet0 のモニタはできません。

8.3.2 Vdet1 のモニタ

以下の設定をした後、LVD1SR.LVD1MON フラグで電圧監視 1 の比較結果をモニタできます。

- (1) LVDLVLR.LVD1LVL[3:0] ビット (電圧検出 1 検出電圧) を設定する
- (2) LVCMPCR.LVD1E ビットを “1” (電圧検出 1 回路有効) にする
- (3) $t_d(E-A)$ 待ってから、LVD1CR0.LVD1CMPE ビットを “1” (電圧監視 1 回路比較結果出力許可) にする

8.3.3 Vdet2 のモニタ

以下の設定をした後、LVD2SR.LVD2MON フラグで電圧監視 2 の比較結果をモニタできます。

- (1) LVDLVLR.LVD2LVL[1:0] ビット (電圧検出 2 検出電圧) を設定する
- (2) LVCMPCR.EXVCCINP2 ビットを “0” (VCC 電圧) または “1” (CMPA2 端子入力電圧) にする
- (3) LVCMPCR.LVD2E ビットを “1” (電圧検出 2 回路有効) にする
- (4) $t_d(E-A)$ 待ってから、LVD2CR0.LVD2CMPE ビットを “1” (電圧監視 2 回路比較結果出力許可) にする

8.4 電圧監視0リセット

電圧監視0リセットを使用する場合は、OFS1.LVDAS ビットを“0”(リセット後、電圧監視0リセット有効)にしてください。

図 8.4 に電圧監視0リセット動作例を示します。

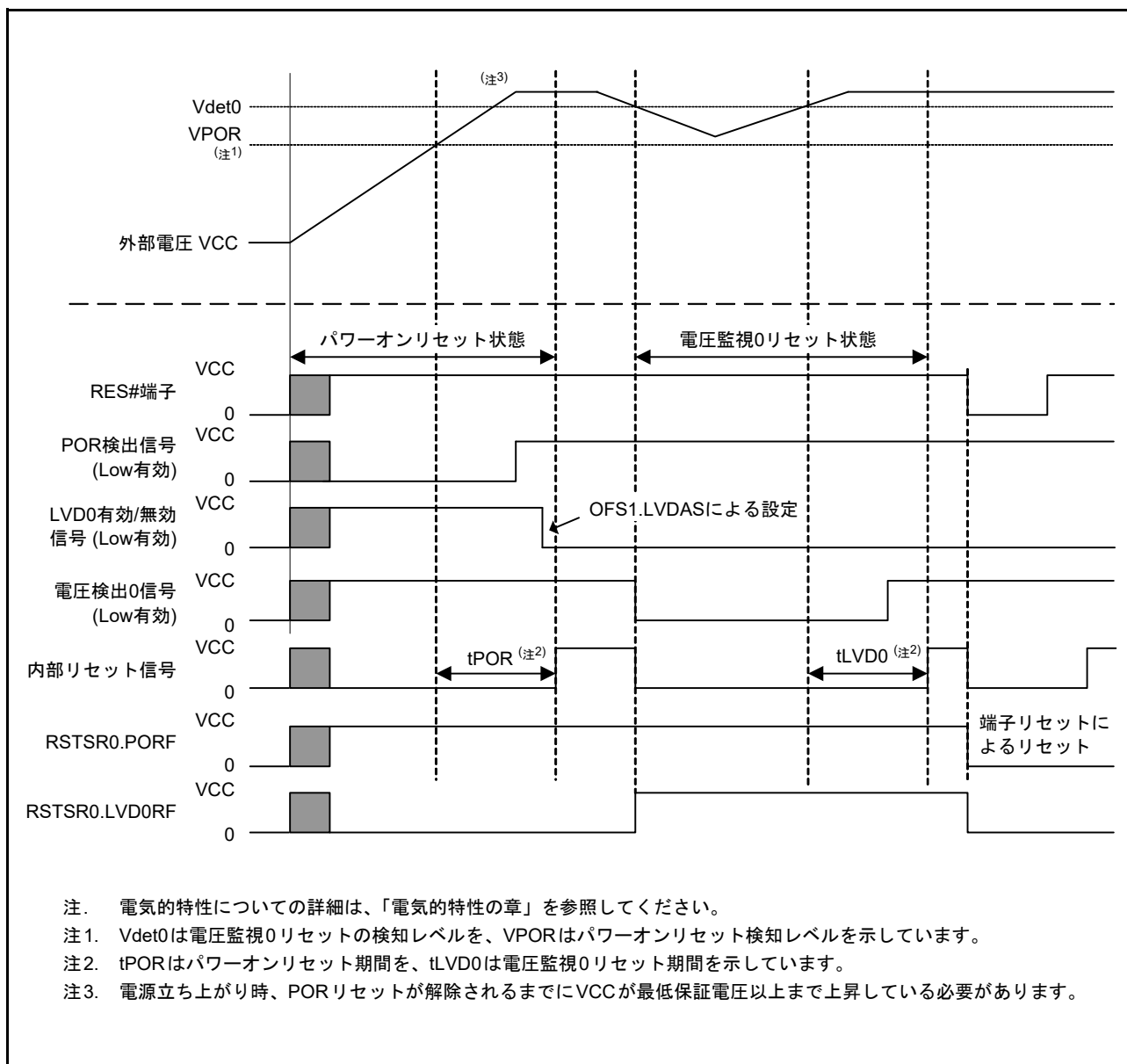


図 8.4 電圧監視0リセット動作例

8.5 電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット

表 8.3 に電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの動作設定手順を、表 8.4 に電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの停止設定手順を、図 8.5 に電圧監視 1 割り込み動作例を示します。電圧監視 1 リセットの動作例については、「6. リセット」の図 6.2 を参照してください。

表 8.3 電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの動作設定手順

手順	電圧監視 1 割り込み 電圧監視 1 ELC イベント出力	電圧監視 1 リセット
1(注1)	LVDLVLR.LVD1LVL[3:0] ビットで検出電圧を選択する	
2(注1)	LVD1CR0.LVD1RI ビットを“0” (電圧監視 1 割り込み)にする	LVD1CR0.LVD1RI ビットを“1” (電圧監視 1 リセット)にする。 LVD1CR0.LVD1RN ビットでリセットネゲートの種類を選択する
3	LVD1CR1.LVD1IDTSEL[1:0] ビットで割り込み要求のタイミングを選択する。 LVD1CR1.LVD1IRQSEL ビットで割り込みの種類を選択する。	—
4	—	LVD1CR0.LVD1RIE ビットを“1” (電圧監視 1 割り込み/リセット許可)にする。
5(注1)	LVCMPER.LVD1E ビットを“1” (電圧検出 1 回路有効)にする	
6(注1)	td(E-A) 以上待つ	
7	LVD1CR0.LVD1CMPE ビットを“1” (電圧監視 1 回路比較結果出力許可)にする	
8	2 μ s 以上待つ	—
9	LVD1SR.LVD1DET ビットを“0”にする	—
10	LVD1CR0.LVD1RIE ビットを“1” (電圧監視 1 割り込み/リセット許可)にする	—

注 1. 電圧監視 1 割り込み設定 (LVD1CR0.LVD1RI = 0) で動作させている場合で、停止後に LVD1CR1.LVD1IRQSEL、LVD1IDTSEL ビットの設定のみ変更して再動作させる場合、あるいは、停止後に電圧検出回路関連の設定を変更せずに再動作させる場合は、手順 1、2、5、6 は不要です。電圧監視 1 リセット設定 (LVD1CR0.LVD1RI = 1) で動作させている場合の変更は、上記手順 1 ~ 10 で設定してください。

表 8.4 電圧監視 1 割り込み、電圧監視 1 リセット関連ビットの停止設定手順

手順	電圧監視 1 割り込み 電圧監視 1 ELC イベント出力	電圧監視 1 リセット
1	LVD1CR0.LVD1RIE ビットを“0” (電圧監視 1 割り込み/リセット禁止)にする	—
2	LVD1CR0.LVD1CMPE ビットを“0” (電圧監視 1 回路比較結果出力禁止)にする	
3(注1)	LVCMPER.LVD1E ビットを“0” (電圧検出 1 回路無効)にする	
4	—	LVD1CR0.LVD1RIE ビットを“0” (電圧監視 1 割り込み/リセット禁止)にする
5	LVCMPER.LVD1E、LVD1CR0.LVD1RIE、LVD1CR0.LVD1CMPE を除く電圧検出回路関連レジスタの設定を変更する	

注 1. 電圧監視 1 割り込み設定 (LVD1CR0.LVD1RI = 0) で動作させている場合で、停止後に LVD1CR1.LVD1IRQSEL、LVD1IDTSEL ビットの設定のみ変更して再動作させる場合、あるいは、停止後に電圧検出回路関連の設定を変更せずに再動作させる場合は、手順 3 は不要です。電圧監視 1 リセット設定 (LVD1CR0.LVD1RI = 1) で動作させている場合の変更は、上記手順 1 ~ 5 で設定してください。

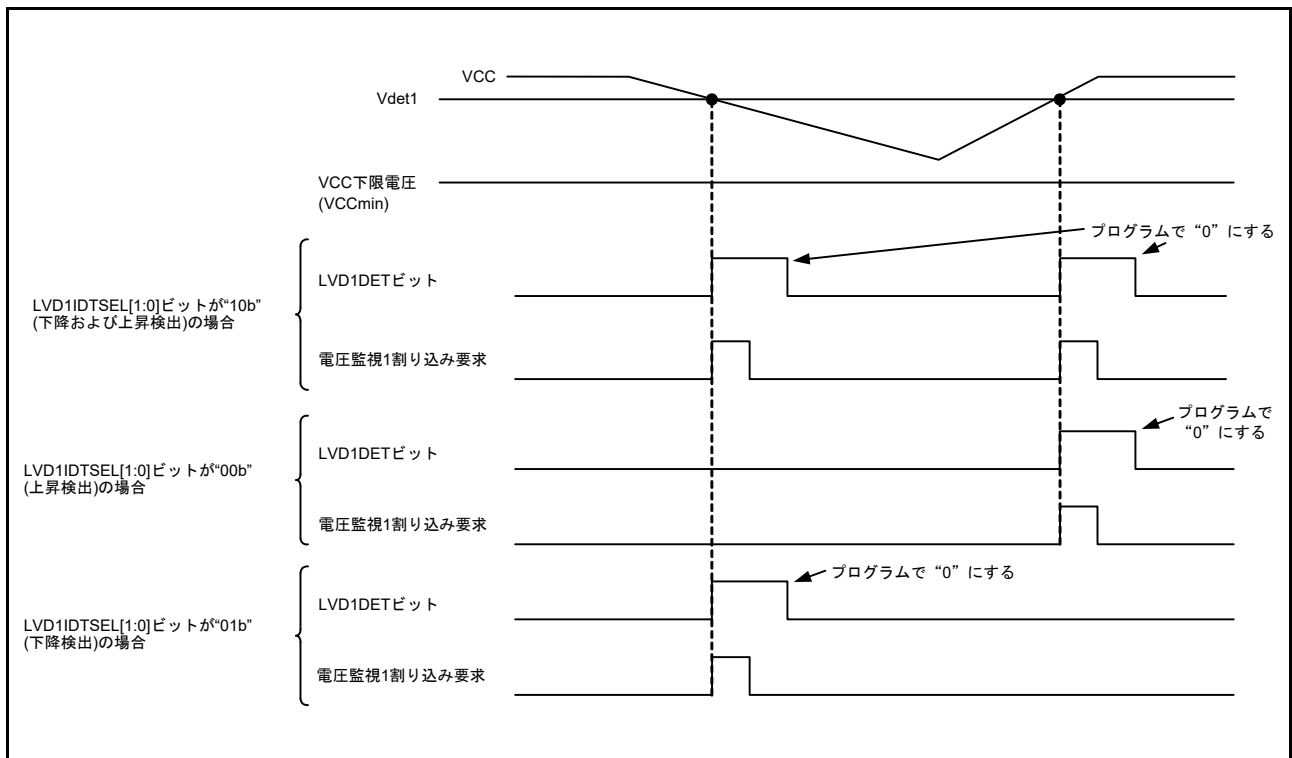


図 8.5 電圧監視 1 割り込み動作例

8.6 電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット

表 8.5 に電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの動作設定手順を、表 8.6 に電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの停止設定手順を、図 8.6 に電圧監視 2 割り込み動作例を示します。電圧監視 2 リセットの動作例については、「6. リセット」の図 6.2 を参照してください。

表 8.5 電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの動作設定手順

手順	電圧監視 2 割り込み	電圧監視 2 リセット
1(注1)	LVDLVLRLVD2LVL[1:0] ビットで検出電圧を選択する	
2(注1)	LVCMPCLR.EXVCCINP2 ビットを“0” (VCC 電圧) または“1” (CMPA2 端子入力電圧) にする	
3(注1)	LVD2CR0.LVD2RI ビットを“0” (電圧監視 2 割り込み) にする	LVD2CR0.LVD2RI ビットを“1” (電圧監視 2 リセット) にする。 LVD2CR0.LVD2RN ビットでリセットネゲートの種類を選択する。
4	LVD2CR1.LVD2IDTSEL[1:0] ビットで割り込み要求のタイミングを選択する。 LVD2CR1.LVD2IRQSEL ビットで割り込みの種類を選択する	—
5	—	LVD2CR0.LVD2RIE ビットを“1” (電圧監視 2 割り込み / リセット許可) にする
6(注1)	LVCMPCLR.LVD2E ビットを“1” (電圧検出 2 回路有効) にする	
7(注1)	td(E-A) 以上待つ	
8	LVD2CR0.LVD2CMPE ビットを“1” (電圧監視 2 回路比較結果出力許可) にする	
9	2 μ s 以上待つ	
10	LVD2SR.LVD2DET ビットを“0” にする	
11	LVD2CR0.LVD2RIE ビットを“1” (電圧監視 2 割り込み / リセット許可) にする	

注 1. 電圧監視 2 割り込み設定 (LVD2CR0.LVD2RI = 0) で動作させている場合で、停止後に LVD2CR1.LVD2IRQSEL、LVD2IDTSEL ビットの設定のみ変更して再動作させる場合、あるいは、停止後に電圧検出回路関連の設定を変更せずに再動作させる場合は、手順 1、2、3、6、7 は不要です。電圧監視 2 リセット設定 (LVD2CR0.LVD2RI = 1) で動作させている場合の変更は、上記手順 1～11 で設定してください。

表 8.6 電圧監視 2 割り込み、電圧監視 2 リセット関連ビットの停止設定手順

手順	電圧監視 2 割り込み	電圧監視 2 リセット
1	LVD2CR0.LVD2RIE ビットを“0” (電圧監視 2 割り込み / リセット禁止) にする	—
2	LVD2CR0.LVD2CMPE ビットを“0” (電圧監視 2 回路比較結果出力禁止) にする	
3(注1)	LVCMPCLR.LVD2E ビットを“0” (電圧検出 2 回路無効) にする	
4	—	LVD2CR0.LVD2RIE ビットを“0” (電圧監視 2 割り込み / リセット禁止) にする
5	LVCMPCLR.LVD2E、LVD2CR0.LVD2RIE、LVD2CR0.LVD2CMPE を除く電圧検出回路関連レジスタの設定を変更する	

注 1. 電圧監視 2 割り込み設定 (LVD2CR0.LVD2RI = 0) で動作させている場合で、停止後に LVD2CR1.LVD2IRQSEL、LVD2IDTSEL ビットの設定のみ変更して再動作させる場合、あるいは、停止後に電圧検出回路関連の設定を変更せずに再動作させる場合は、手順 3 は不要です。電圧監視 2 リセット設定 (LVD2CR0.LVD2RI = 1) で動作させている場合の変更は、上記手順 1～5 で設定してください。

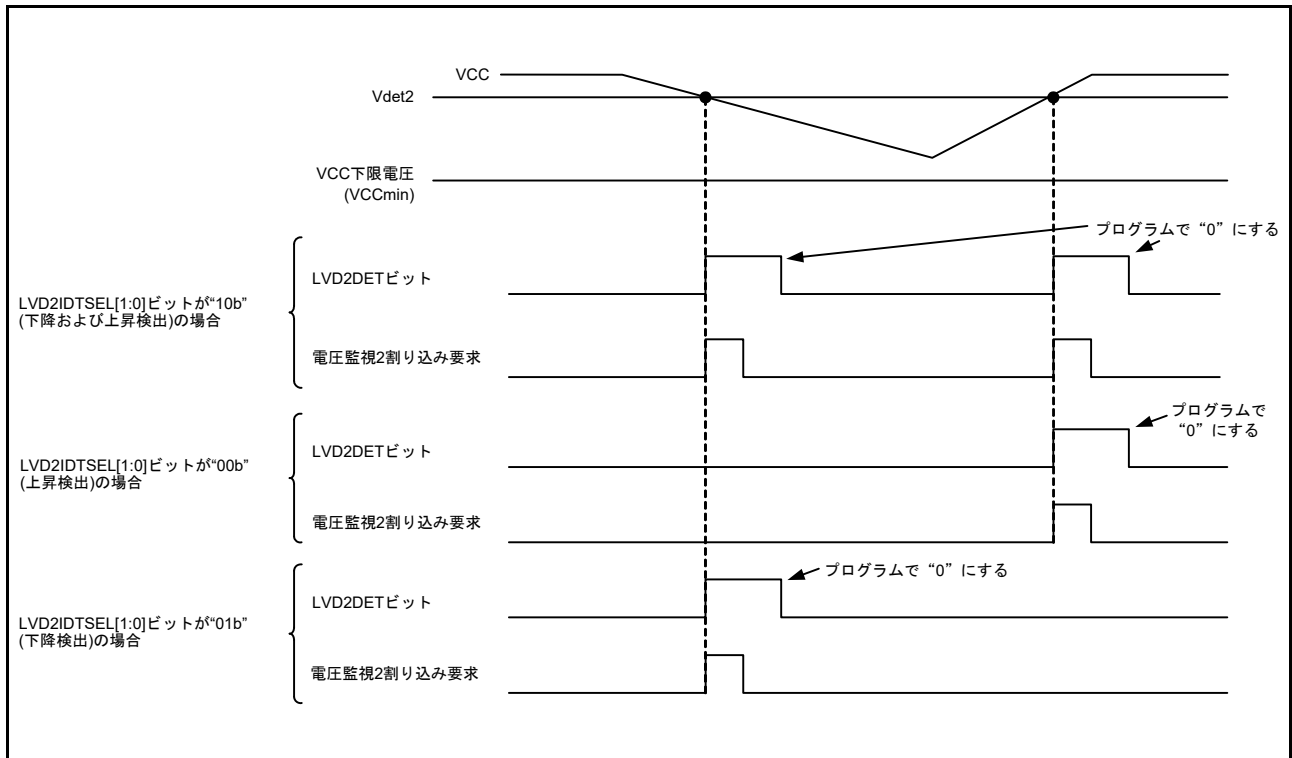


図 8.6 電圧監視 2 割り込み動作例

8.7 イベントリンク出力機能

イベントリンクコントローラ (ELC) に対して次のイベント出力を行う機能を持っています。

(1) Vdet1 通過検出イベント出力

電圧検出 1 回路有効かつ電圧検出 1 回路比較結果出力許可の状態において、Vdet1 通過を検出した場合にイベントを出力します。

LVD のイベントリンク出力機能を有効にする場合は、LVD の有効設定を行った後で、ELC 側の LVD イベントリンク機能を有効にしてください。また、LVD のイベントリンク出力機能を停止する場合は、LVD の停止設定を行う前に、ELC 側の LVD イベントリンク機能を無効にしてください。

8.7.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

電圧検出回路には、電圧監視 1 割り込み、電圧監視 2 割り込みそれぞれに割り込み許可 / 禁止を制御する許可ビットがあります。割り込み要因が発生すると割り込み許可ビットが許可の場合に CPU に対して割り込み要求信号を出力します。

これに対してイベントリンク出力信号は、割り込み要因が発生すると割り込み許可ビットに依存せず、ELC を介して他のモジュールにイベント信号として出力します。

ソフトウェアスタンバイ中でも電圧監視 1、電圧監視 2 割り込みを出力することができますが、ELC 用のイベント信号の出力については、以下の通りです。

- ソフトウェアスタンバイモード期間中に Vdet1 通過検出した場合、ソフトウェアスタンバイモード期間中はクロックが供給されていないため ELC 用のイベント信号は出力しません。ただし、Vdet1 通過検出フラグは保持されているため、ソフトウェアスタンバイモードから復帰してクロック供給が再開されると、Vdet1 通過検出フラグにしたがって ELC 用のイベント信号が出力されます。

9. クロック発生回路

9.1 概要

本 MCU には、クロック発生回路を内蔵しています。

表 9.1 にクロック発生回路の仕様を、図 9.1 にクロック発生回路のブロック図を示します。

表9.1 クロック発生回路の仕様

項目	仕様
用途	<ul style="list-style-type: none"> • CPU、DTC、ROMおよびRAMに供給されるシステムクロック (ICLK)の生成 • 周辺モジュールに供給される周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD)の生成 周辺モジュールクロック (PCLKD)はS12AD用、周辺モジュールクロック (PCLKB)は、S12AD以外の周辺モジュール用の動作クロックです。 • FlashIFに供給されるFlashIFクロック (FCLK)の生成 • CACに供給されるCACクロック (CACCLK)の生成 • CANに供給されるCANクロック (CANMCLK)の生成 • RTCに供給されるRTC専用サブクロック (RTCSCCLK)の生成 • IWDTCに供給されるIWDTC専用クロック (IWDTCCLK)の生成 • LPTに供給されるLPTクロック (LPTCLK)の生成
動作周波数 (注1)	<ul style="list-style-type: none"> • ICLK : 48MHz (max) (注2) • PCLKB : 32MHz (max) • PCLKD : 48MHz (max) • FCLK : 1MHz~48MHz (ROM、E2データフラッシュ P/E時) 48MHz (max) (E2データフラッシュ読み出し時) • CACCLK : 各発振器のクロックと同じ • CANMCLK : 20MHz (max) • RTCSCCLK : 32.768kHz • IWDTCCLK : 15kHz • LPTCLK : 選択した発振器のクロックと同じ
メインクロック発振器	<ul style="list-style-type: none"> • 発振器周波数 : 1MHz~20MHz • 外部クロック入力周波数 : 20MHz (max) • 接続できる発振器、または付加回路 : セラミック共振子、水晶振動子 • 接続端子 : EXTAL, XTAL • 発振停止検出機能 : メインクロックの発振停止検出時、LOCOに切り替える機能、MTUの端子をハイインピーダンスにする機能 • ドライブ能力を切り替える機能
サブクロック発振器	<ul style="list-style-type: none"> • 発振器周波数 : 32.768kHz • 接続できる発振器、または付加回路 : 水晶振動子 • 接続端子 : XCIN, XCOUT • ドライブ能力を切り替える機能
PLL回路	<ul style="list-style-type: none"> • 入力クロック源 : メインクロック • 入力分周比 : 1、2、4分周から選択可能 • 入力周波数 : 4MHz~12MHz • 逡倍比 : 4~12逡倍 (0.5刻み)から選択可能 • 発振周波数 : 24MHz~48MHz
高速オンチップオシレータ (HOCO)	発振周波数 : 24MHz, 32MHz, 48MHz
低速オンチップオシレータ (LOCO)	発振周波数 : 4MHz
IWDTC専用オンチップオシレータ	発振周波数 : 15kHz

注1. 高速動作モードでの最高動作周波数です。その他の動作電力モードにおける最高動作周波数については、「11.2.6 動作電力コントロールレジスタ (OPCCR)」を参照してください。

注2. ICLK:FCLK, PCLKB, PCLKD = 1:N (Nは整数)の分周比関係になるように設定してください。

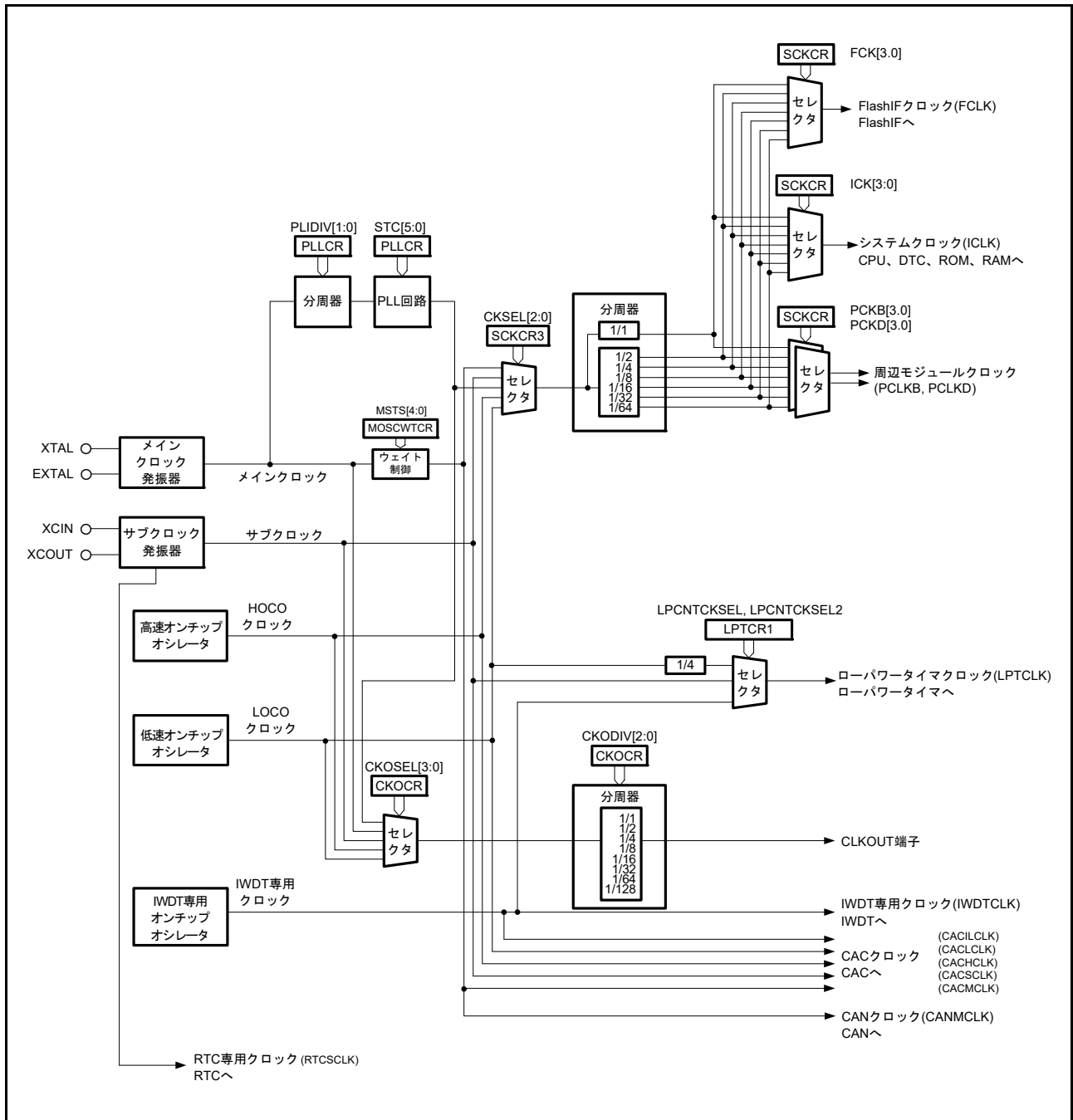


図 9.1 クロック発生回路のブロック図

表 9.2 にクロック発生回路の入出力端子を示します。

表 9.2 クロック発生回路の入出力端子

端子名	入出力	機能
XTAL	出力	発振子接続端子。また、EXTAL 端子は外部クロックを入力することもできます。詳細は、「9.3.2 外部クロックを入力する方法」参照
EXTAL	入力	
XCIN	入力	32.768kHz の水晶振動子を接続
XCOUT	出力	
CLKOUT	出力	クロック出力端子

9.2 レジスタの説明

9.2.1 システムクロックコントロールレジスタ (SCKCR)

アドレス 0008 0020h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
FCK[3:0]				ICK[3:0]				—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—				PCKB[3:0]				—	—	—	—	PCKD[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	PCKD[3:0]	周辺モジュールクロック D (PCLKD) 選択ビット	b3 b0 0000: 1分周 0001: 2分周 0010: 4分周 0011: 8分周 0100: 16分周 0101: 32分周 0110: 64分周 上記以外は設定しないでください	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11-b8	PCKB[3:0]	周辺モジュールクロック B (PCLKB) 選択ビット	b11 b8 0000: 1分周 0001: 2分周 0010: 4分周 0011: 8分周 0100: 16分周 0101: 32分周 0110: 64分周 上記以外は設定しないでください	R/W
b23-b12	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b27-b24	ICK[3:0]	システムクロック (ICLK) 選択ビット	b27 b24 0000: 1分周 0001: 2分周 0010: 4分周 0011: 8分周 0100: 16分周 0101: 32分周 0110: 64分周 上記以外は設定しないでください	R/W
b31-b28	FCK[3:0]	FlashIFクロック (FCLK) 選択ビット	b31 b28 0000: 1分周 0001: 2分周 0010: 4分周 0011: 8分周 0100: 16分周 0101: 32分周 0110: 64分周 上記以外は設定しないでください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

フラッシュメモリが P/E 中はこのレジスタへの書き込みができません。書き込みは無効になります。

SCKCR レジスタへの書き込み後、後続の命令で SCKCR レジスタ、SCKCR3 レジスタのいずれかのレジスタへ書き込みをする場合、以下の手順に従ってください。

1. SCKCR レジスタへの書き込み
2. SCKCR レジスタに値が書かれたことを確認する
3. 次のステップに進む

PCKD[3:0] ビット (周辺モジュールクロック D (PCLKD) 選択ビット)

周辺モジュールクロック D (PCLKD) の周波数を選択します。

PCKB[3:0] ビット (周辺モジュールクロック B (PCLKB) 選択ビット)

周辺モジュールクロック B (PCLKB) の周波数を選択します。

ICK[3:0] ビット (システムクロック (ICK) 選択ビット)

システムクロック (ICK) の周波数を選択します。

FCK[3:0] ビット (FlashIF クロック (FCLK) 選択ビット)

FlashIF クロック (FCLK) の周波数を選択します。

9.2.2 システムクロックコントロールレジスタ 3 (SCKCR3)

アドレス 0008 0026h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	CKSEL[2:0]		—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b10-b8	CKSEL[2:0]	クロックソース選択ビット	b10 b8 000 : LOCO選択 001 : HOCO選択 010 : メインクロック発振器選択 011 : サブクロック発振器選択 100 : PLL回路選択 上記以外は設定しないでください	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

フラッシュメモリが P/E 中はこのレジスタへの書き込みができません。書き込みは無効になります。

CKSEL[2:0] ビット (クロックソース選択ビット)

システムクロック (ICLK)、周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD)、FlashIF クロック (FCLK) のクロックソースを低速オンチップオシレータ (LOCO)、高速オンチップオシレータ (HOCO)、メインクロック発振器、サブクロック発振器、PLL 回路から選択します。

停止しているクロックソースへの切り替えは禁止です。

中速動作モード2ではクロックソースにメインクロック発振器を選択しないでください。

低速動作モードではクロックソースにサブクロック発振器のみ選択可能です。

9.2.3 PLL コントロールレジスタ (PLLCR)

アドレス 0008 0028h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	STC[5:0]					—	—	—	—	—	—	—	PLIDIV[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PLIDIV[1:0]	PLL入力分周比選択ビット	b1 b0 0 0 : 1分周 0 1 : 2分周 1 0 : 4分周 1 1 : 設定しないでください	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b13-b8	STC[5:0]	周波数逡倍率設定ビット	b13 b8 0 0 0 1 1 1 : ×4 0 0 1 0 0 0 : ×4.5 0 0 1 0 0 1 : ×5 0 0 1 0 1 0 : ×5.5 0 0 1 0 1 1 : ×6 0 0 1 1 0 0 : ×6.5 0 0 1 1 0 1 : ×7 0 0 1 1 1 0 : ×7.5 0 0 1 1 1 1 : ×8 0 1 0 0 0 0 : ×8.5 0 1 0 0 0 1 : ×9 0 1 0 0 1 0 : ×9.5 0 1 0 0 1 1 : ×10 0 1 0 1 0 0 : ×10.5 0 1 0 1 0 1 : ×11 0 1 0 1 1 0 : ×11.5 0 1 0 1 1 1 : ×12 上記以外は設定しないでください	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

PLLCR2.PLLEN ビットが“0”(PLL 動作) のとき、PLLCR レジスタへの書き込みは禁止です。

PLIDIV[1:0] ビット (PLL 入力分周比選択ビット)

PLL のクロックソースの入力分周比を選択します。

PLIDIV[1:0] ビットは、PLL の入力周波数 (4MHz ~ 12MHz) の範囲に入るように設定してください。

STC[5:0] ビット (周波数逡倍率設定ビット)

PLL の周波数逡倍率を設定します。

STC[5:0] ビットは、PLL の発振周波数 (24MHz ~ 48MHz) の範囲に入るように設定してください。

9.2.4 PLL コントロールレジスタ 2 (PLLCR2)

アドレス 0008 002Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	PLLEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PLLEN	PLL停止制御ビット	0 : PLL動作 1 : PLL停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”（書き込み許可）にした後で書き換えてください。

PLLEN ビット (PLL 停止制御ビット)

PLL の動作 / 停止を制御します。

PLLEN ビットで PLL を動作設定に変更後、OSCOVFSR.PLOVF フラグが“1”になっていることを確認してから、システムクロックを PLL クロックに切り替えてください。

PLL は、動作設定後発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、停止設定後も、発振が停止するまでに一定の時間を要します。そのため、動作の開始および停止に関して以下の制限がありますので注意してください。

- PLL を停止設定後、再度動作設定にする場合、OSCOVFSR.PLOVF フラグの“0”を確認してから設定してください。
- PLL の停止設定は、PLL 動作かつ OSCOVFSR.PLOVF フラグの“1”を確認してから設定してください。
- システムクロックとして選択しているかどうかに関わらず、PLL を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.PLOVF フラグの“1”を確認してから WAIT 命令を実行してください。
- PLL を停止設定後、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.PLOVF フラグの“0”を確認してから WAIT 命令を実行してください。

SCKCR3.CKSEL[2:0] ビットで PLL を選択しているときは、PLLEN ビットを“1”（PLL 停止）にする書き込みは禁止です。

SOPCCR.SOPCM ビットで低速動作モードを選択しているときは、PLLEN ビットを“0”（PLL 動作）にする書き込みは禁止です。

9.2.5 メインクロック発振器コントロールレジスタ (MOSCCR)

アドレス 0008 0032h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	MOSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MOSTP	メインクロック発振器停止ビット	0: メインクロック発振器動作 1: メインクロック発振器停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1” (書き込み許可)にした後で書き換えてください。

メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタを設定してから本レジスタを設定してください。

MOSTP ビット (メインクロック発振器停止ビット)

メインクロック発振器の動作 / 停止を制御します。

MOSTP ビットにてメインクロックを動作設定に変更後、OSCOVFSR.MOOVF フラグが“1”になっていることを確認してから、メインクロックの使用を開始してください。

メインクロック発振器は、動作設定後発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、停止設定後も、発振が停止するまでに一定の時間を要します。そのため、動作の開始および停止に関して以下の制限がありますので注意してください。

- メインクロック発振器を停止設定後、再度動作設定にする場合、OSCOVFSR.MOOVF フラグの“0”を確認してから設定してください。
- メインクロック発振器の停止設定は、メインクロック発振器動作かつ OSCOVFSR.MOOVF フラグの“1”を確認してから設定してください。
- システムクロックとして選択しているかどうかに関わらず、メインクロック発振器を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.MOOVF フラグの“1”を確認してから WAIT 命令を実行してください。
- メインクロック発振器を停止設定後、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.MOOVF フラグの“0”を確認してから WAIT 命令を実行してください。

以下のいずれかの条件を満たす場合、MOSTP ビットを“1”にしないでください。

- システムクロックのクロックソースにメインクロックを選択しているとき (SCKCR3.CKSEL[2:0] = 010b)
- システムクロックのクロックソースに PLL クロックを選択しているとき (SCKCR3.CKSEL[2:0] = 100b)
- PLL を動作させているとき (PLLCR2.PLEN = 0)

以下の条件を満たす場合、MOSTP ビットを“0”にしないでください。

- 低速動作モードを選択しているとき (SOPCCR.SOPCM = 1)

9.2.6 サブクロック発振器コントロールレジスタ (SOSCCR)

アドレス 0008 0033h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SOSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1(注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SOSTP	サブクロック発振器停止ビット	0: サブクロック発振器動作 1: サブクロック発振器停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. パワーオンリセット以外のリセット要因では初期化されません。

SOSTP ビット (サブクロック発振器停止ビット)

サブクロック発振器の動作/停止を制御します。

SOSTP ビットの書き換えを行う場合は、書き込み後、読み出して書き換わったのを確認してから、後続の命令を実行するようにしてください(「5. I/O レジスタ」の「(2) I/O レジスタ書き込み時の注意事項」を参照してください)。

サブクロックを使用する場合は、SOSTP ビットを“0”にする前に、サブクロック発振器モードコントロールレジスタ (SOMCR) を設定する必要があります。また、SOSTP ビットでサブクロック発振器を動作設定に変更後、サブクロック発振安定時間 (t_{SUBOSC}) が経過した後、サブクロックの使用を開始してください。

サブクロック発振器は、動作設定後発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、停止設定後も、発振が停止するまでに一定の時間を要します。そのため、動作の開始および停止に関して以下の制限がありますので注意してください。

- サブクロック発振器を停止設定後、再度動作設定にする場合、停止期間はサブクロックで5サイクル以上の時間となるようにしてください。
- サブクロック発振器の停止設定は、サブクロック発振器の発振が安定している状態で行ってください。
- システムクロックとして選択しているかどうかに関わらず、サブクロック発振器を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、発振が安定した状態で WAIT 命令を実行してください。
- サブクロック発振器を停止設定後、ソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、サブクロック発振器停止設定後、サブクロック 2 サイクル以上待ってから WAIT 命令を実行してください。

SCKCR3.CKSEL[2:0] ビットでサブクロック発振器を選択しているとき、SOSTP ビットを“1”(サブクロック発振器停止)にする書き込みは禁止です。

9.2.7 低速オンチップオシレータコントロールレジスタ (LOCOCR)

アドレス 0008 0034h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	LCSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LCSTP	LOCO停止ビット	0 : LOCO動作 1 : LOCO停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LCSTP ビット (LOCO 停止ビット)

LOCO の動作 / 停止を制御します。

LCSTP ビットにて LOCO を停止設定から動作設定に変更後、LOCO クロックを使用する場合は、LOCO クロック発振安定時間 (t_{LOCO}) が経過した後、使用開始してください。

LOCO は、動作設定後発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、停止設定後も、発振が停止するまでに一定の時間を要します。そのため、動作の開始および停止に関して以下の制限がありますので注意してください。

- LOCO を停止設定後、再度動作設定にする場合、停止期間は LOCO クロックで 5 サイクル以上の時間となるようにしてください。
- LOCO の停止設定は、LOCO の発振が安定している状態で行ってください。
- システムクロックとして選択しているかどうかに関わらず、LOCO を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、LOCO の発振が安定した状態で WAIT 命令を実行してください。
- LOCO を停止設定後、ソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、LOCO 停止設定後、LOCO クロック 3 サイクル以上待ってから WAIT 命令を実行してください。
- LCSTP ビットによる LOCO の発振開始、停止制御の変更は、LOCO 以外の各発振器が発振安定または停止状態で行ってください。

システムクロックコントロールレジスタ 3 のクロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) で LOCO を選択しているとき、LCSTP ビットを“1”(LOCO 停止)にする書き込みは禁止です。

SOPCCR.SOPCM ビットで低速動作モードを選択しているときは、LCSTP を“0”(LOCO 動作)にする書き込みは禁止です。

9.2.8 IWDT 専用オンチップオシレータコントロールレジスタ (ILOCOCR)

アドレス 0008 0035h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ILCSTP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ILCSTP	IWDT専用オンチップオシレータ停止ビット	0 : IWDT専用オンチップオシレータ動作 1 : IWDT専用オンチップオシレータ停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

オプション機能選択レジスタ 0 の IWDT スタートモード選択ビット (OFS0.IWDTSTRT) が “0” (IWDT 動作) のとき、ILOCOCR レジスタの設定は無効です。OFS0.IWDTSTRT ビットが “1” (IWDT 停止) のとき、ILOCOCR レジスタの設定は有効です。ILOCOCR レジスタが有効、かつ ILCSTP ビットが “0” (IWDT 専用オンチップオシレータ動作) の後、“1” (IWDT 専用オンチップオシレータ停止) に設定することはできません。

ILCSTP ビット (IWDT 専用オンチップオシレータ停止ビット)

IWDT 専用オンチップオシレータの動作 / 停止を制御します。

ILCSTP ビットで、IWDT 専用オンチップオシレータを停止設定から動作設定に変更した場合、IWDT 専用クロック発振安定時間 (t_{ILOCO}) に相当する一定時間経過後、MCU 内部にクロックが供給開始されます。IWDT 専用クロックを使用する場合は、この待ち時間が経過した後、使用開始してください。

IWDT 専用オンチップオシレータを動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、発振が安定した状態で WAIT 命令を実行してください。

9.2.9 高速オンチップオシレータコントロールレジスタ (HOCOOCR)

アドレス 0008 0036h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	HCSTP

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0/1
(注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	HCSTP	HOCO停止ビット	0 : HOCO動作 1 : HOCO停止	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”（書き込み許可）にした後で書き換えてください。

注1. オプション機能選択レジスタ1のHOCO発振有効ビット(OFS1.HOCOEN)が“0”のとき、HCSTPビットのリセット後の値は“0”になります。OFS1.HOCOENビットが“1”のとき、HCSTPビットのリセット後の値は“1”になります。

HCSTP ビット (HOCO 停止ビット)

HOCO の動作 / 停止を制御します。

HCSTP ビットで HOCO を停止設定から動作設定に変更した場合、OSCOVFSR.HCOVF フラグが“1”になっていることを確認してからシステムクロックを HOCO クロックに切り替えてください。

HOCO は、動作設定後発振が安定するまでに一定の時間を要します。また、停止設定後も、発振が停止するまでに一定の時間を要します。そのため、動作の開始および停止に関して以下の制限がありますので注意してください。

- HOCO を停止設定後、再度動作設定にする場合、OSCOVFSR.HCOVF フラグの“0”を確認してから設定してください。
- HOCO の停止設定は、HOCO 動作かつ OSCOVFSR.HCOVF フラグの“1”を確認してから設定してください。
- システムクロックとして選択しているかどうかに関わらず、HOCO を動作設定にしてソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.HCOVF フラグの“1”を確認してから WAIT 命令を実行してください。
- HOCO を停止設定後、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、OSCOVFSR.HCOVF フラグの“0”を確認してから WAIT 命令を実行してください。
- ROM、E2 データフラッシュの P/E モード中は、高速オンチップオシレータを動作させておく必要があります。

SCKCR3.CKSEL[2:0] ビットで HOCO を選択しているとき、HCSTP ビットを“1”（HOCO 停止）にする書き込みは禁止です。

SOPCCR.SOPCM ビットで低速動作モードを選択しているときは、HCSTP を“0”（HOCO 動作）にする書き込みは禁止です。

9.2.10 発振安定フラグレジスタ (OSCOVFSR)

アドレス 0008 003Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	HCOVF	PLOVF	—	MOOV F
リセット後の値	0	0	0	0	0/1	0	0	0

(注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MOOVF	メインクロック発振安定フラグ	0: メインクロック停止 1: 発振安定、システムクロックとして使用可能 (注2)	R
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	PLOVF	PLLクロック発振安定フラグ	0: PLL停止、または発振安定待ち中 1: 発振安定、システムクロックとして使用可能	R
b3	HCOVF	HOCOクロック発振安定フラグ	0: HOCO停止、または発振安定待ち中 1: 発振安定、システムクロックとして使用可能	R
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. オプション機能選択レジスタ1のHOCO発振有効ビット(OFS1.HOCOEN)が“0”のとき、HCOVFフラグのリセット後の値は“1”になります。OFS1.HOCOENビットが“1”のとき、HCOVFフラグのリセット後の値は“0”になります。

注2. 各発振器のウェイトコントロールレジスタに適切な値を設定した場合。設定値(待ち時間)が不足している場合は、発振が安定する前にクロックの供給が開始されます。

OSCOVFSR レジスタは各発振器の発振が安定したかどうかをモニタするレジスタです。

それぞれの発振器にウェイトコントロールレジスタがある場合は、発振回路の安定時間以上になるように待ち時間を設定してください。

MOOVF フラグ (メインクロック発振安定フラグ)

メインクロックの発振安定の状態を示します。

[“1”になる条件]

- MOSCCR.MOSTP ビットが“1”(メインクロック発振器停止)のときに、MOSTP ビットを“0”(メインクロック発振器動作)にした後、MOSCWTCR レジスタの設定値に応じた時間が経過し、MCU 内部にメインクロックの供給が開始されたとき

[“0”になる条件]

- MOSCCR.MOSTP ビットを“1”にした後、メインクロック発振器の発振停止処理が完了したとき

PLOVF フラグ (PLL クロック発振安定フラグ)

PLL クロックの発振安定の状態を示します。

[“1”になる条件]

- PLLCR2.PLEN ビットが“1”(PLL停止)のときに、PLEN ビットを“0”(PLL動作)にした後、MOOVF フラグが“1”になり、かつ PLL クロック発振安定時間 (tPLL) が経過し、MCU 内部に PLL クロックの供給が開始されたとき

[“0”になる条件]

- PLLCR2.PLEN ビットを“1”にした後、PLL の発振停止処理が完了したとき

HCOVF フラグ (HOCO クロック発振安定フラグ)

HOCO クロックの発振安定の状態を示します。

["1" になる条件]

- HOCO.CR.HCSTP ビットが“1” (HOCO 停止) のときに、HCSTP ビットを“0” (HOCO 動作) にした後、MCU 内部に HOCO クロックの供給が開始されたとき

["0" になる条件]

- HOCO.CR.HCSTP ビットを“1” にした後、HOCO の発振停止処理が完了したとき

9.2.11 発振停止検出コントロールレジスタ (OSTDCR)

アドレス 0008 0040h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OSTDE	—	—	—	—	—	—	OSTDIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OSTDIE	発振停止検出割り込み許可ビット	0: 発振停止検出割り込みを禁止、POEへの発振停止検出通知なし 1: 発振停止検出割り込みを許可、POEへの発振停止検出通知あり	R/W
b6-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	OSTDE	発振停止検出機能許可ビット	0: 発振停止検出機能は無効 1: 発振停止検出機能は有効	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

OSTDIE ビット (発振停止検出割り込み許可ビット)

発振停止検出ステータスレジスタの発振停止検出フラグ (OSTDSR.OSTDF) のクリアは、OSTDIE ビットを“0”にした後に行ってください。その後、OSTDIE ビットを再度“1”にする場合は、PCLKB で2サイクル以上待ってから行ってください。アクセスサイクル数がPCLKB で定義されている I/O レジスタを読み出すことによって、PCLKB の2サイクル以上の待ち時間を確保することが可能です。

OSTDE ビット (発振停止検出機能許可ビット)

発振停止検出機能の有効/無効を設定します。

OSTDE ビットを“1”(発振停止検出機能有効)にすると、LOCO 停止ビット (LOCOCR.LCSTP) も“0”となり、LOCO が動作します。発振停止検出機能が有効である間は、LOCO を停止させることはできません。LOCOCR.LCSTP ビットへ“1”(LOCO 停止)を書いても、その書き込みは無効になります。

発振停止検出ステータスレジスタの発振停止検出フラグ (OSTDSR.OSTDF) が“1”(メインクロック発振停止検出) のとき、OSTDE ビットへの“0”書き込みは無効になります。

OSTDE ビットが“1”の場合、ソフトウェアスタンバイモードに移行できません。ソフトウェアスタンバイモードへ移行する場合は、OSTDE ビットを“0”にして、WAIT 命令を実行してください。

9.2.12 発振停止検出ステータスレジスタ (OSTDSR)

アドレス 0008 0041h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	OSTDF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OSTDF	発振停止検出フラグ	0: メインクロックの発振停止を未検出 1: メインクロックの発振停止を検出	R/(W) (注1)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. “0”のみ書けます。

OSTDF フラグ (発振停止検出フラグ)

メインクロックの状態を示すステータスフラグです。OSTDF フラグが“1”のときメインクロックの発振停止を検出したことを示します。

メインクロックの発振停止を検出した後で、メインクロックの発振が再開しても、OSTDF フラグは“0”になりません。OSTDF フラグは“1”を読んだ後、“0”を書くことによって“0”になります。OSTDF = 0 が読み出し値に反映されるまで ICLK で 3 サイクル以上待つ必要があります。メインクロックの発振を停止している状態で OSTDF フラグを“0”にした場合、OSTDF フラグは一度“0”になった後、再度“1”になります。

また、システムクロックコントロールレジスタ 3 のクロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) でメインクロック発振器 (“010b”) または PLL (“100b”) を選択している場合は、OSTDF フラグを“0”にすることはできません。クロックソースをメインクロック発振器、PLL 以外に切り替えてから OSTDF フラグを“0”にしてください。

[“1”になる条件]

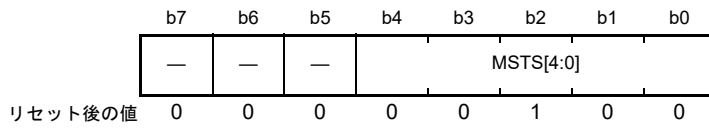
- OSTDCR.OSTDE ビットが“1”(発振停止検出機能有効)の状態、メインクロックの発振が停止したとき

[“0”になる条件]

- SCKCR3.CKSEL[2:0] ビットが“010b”、または“100b”以外の場合に、“1”を読んだ後、“0”を書いたとき

9.2.13 メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ (MOSCWTCR)

アドレス 0008 00A2h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	MSTS[4:0]	メインクロック発振器ウェイト時間設定ビット	b4 b0 0 0 0 0 : 待ち時間 = 0サイクル(0 μ s) 0 0 0 1 : 待ち時間 = 1024 サイクル(256 μ s) 0 0 1 0 : 待ち時間 = 2048 サイクル(512 μ s) 0 0 1 1 : 待ち時間 = 4096 サイクル(1.024ms) 0 0 1 0 0 : 待ち時間 = 8192 サイクル(2.048ms) 0 0 1 0 1 : 待ち時間 = 16384 サイクル(4.096ms) 0 0 1 1 0 : 待ち時間 = 32768 サイクル(8.192ms) 0 0 1 1 1 : 待ち時間 = 65536 サイクル(16.384ms) 0 1 0 0 0 : 待ち時間 = 131072 サイクル(32.768ms) 上記以外は設定しないでください 待ち時間はLOCO = 4.0MHz (0.25 μ s, TYP)の場合	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

MSTS[4:0] ビット (メインクロック発振器ウェイト時間設定ビット)

メインクロック発振器の発振安定待ち時間を選択します。

メインクロック発振安定待ち時間は、発振子メーカーが推奨する発振安定時間以上になるように設定してください。メインクロックを外部入力で使用している場合は、発振安定待ち時間は必要ないため、“00000b”を設定してください。

MSTS[4:0] ビットで設定した待ち時間は、LOCO クロックを使用して計測されます。LOCO は、LOCOCR.LCSTP ビットの値にかかわらず、必要なときに自動で発振します。

設定した待ち時間が経過した後、MCU 内部へのメインクロック供給が開始され、OSCOVFSR.MOOVF フラグが“1”になります。なお、設定した待ち時間が短かった場合は、メインクロックの発振が安定する前にクロックの供給が開始されます。

MOSCWTCR レジスタは、MOSCCR.MOSTP ビットが“1”で、OSCOVFSR.MOOVF フラグが“0”のときに書き換えてください。これ以外のときは書き換えしないでください。

9.2.14 低速オンチップオシレータ強制発振コントロールレジスタ (LOFCR)

アドレス 0008 0043h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	LOFXI N
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LOFXIN	低速オンチップオシレータ強制発振ビット	0: ソフトウェアスタンバイモード時発振停止(通常動作) 1: ソフトウェアスタンバイモード時発振停止なし(強制発振)	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LOFXIN ビット (低速オンチップオシレータ強制発振ビット)

低速オンチップオシレータ (LOCO) の強制発振を制御します。

強制発振を有効にした場合、低速オンチップオシレータがソフトウェアスタンバイであっても発振状態になります。

ローパワータイマ (LPT) のクロックソースに LOCO を選択し、ソフトウェアスタンバイモード中もカウント動作を継続する場合のみ LOCO 強制発振機能を有効にしてください。

LOFXIN ビットの書き換えを行う場合は、書き込み後、読み出して書き換わったのを確認してから、後続の命令を実行するようにしてください。

LOFXIN ビットの書き換えは、LOCOCR.LCSTP ビットが“0”の状態 (LOCO 動作) で行ってください。また、LOFXIN ビットを“1”に設定する場合は、LOCOCR.LCSTP ビットを“0”(LOCO 動作) にした後、LOCO クロックで5サイクル以上待ってから行ってください。LOFXIN ビットを“0”に設定した後、LOCOCR.LCSTP ビットを“1”(LOCO 停止) にする場合は、LOCO クロックで5サイクル以上待ってから行ってください。

9.2.15 CLKOUT 出力コントロールレジスタ (CKOCR)

アドレス 0008 003Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CKOSTP	CKODIV[2:0]			CKOSEL[3:0]			—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11-b8	CKOSEL[3:0]	CLKOUT出力ソース選択ビット	b11 b8 0 0 0 0 : LOCOクロック 0 0 0 1 : HOCOクロック 0 0 1 0 : メインクロック 0 0 1 1 : サブクロック 0 1 0 0 : PLL 1 0 0 0 : CTSU内部クロック 上記以外は設定しないでください	R/W
b14-b12	CKODIV[2:0]	CLKOUT出力分周比選択ビット	b14 b12 0 0 0 : 分周なし 0 0 1 : 2分周 0 1 0 : 4分周 0 1 1 : 8分周 1 0 0 : 16分周 1 0 1 : 32分周 1 1 0 : 64分周 1 1 1 : 128分周	R/W
b15	CKOSTP	CLKOUT出力停止制御ビット	0 : CLKOUT端子出力許可(注1) 1 : CLKOUT端子出力禁止(Low固定)	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. 対応する端子の端子機能制御レジスタ、ポートモードレジスタの設定も必要です。

CKOSEL[3:0] ビット (CLKOUT 出力ソース選択ビット)

CLKOUT 端子から出力するクロックのソースを LOCO クロック、HOCO クロック、メインクロック、サブクロック、PLL、CTSU 内部クロックから選択します。

CKODIV[2:0] ビット (CLKOUT 出力分周比選択ビット)

CKOSEL[3:0] ビットで選択したクロックの分周比を選択します。

変更するときは CKOSTP ビットを“1”にしてください。

CLKOUT 端子から出力されるクロックの特性は、「42.5.5.10 CLKOUT」を参照してください。

CLKOUT 端子出力サイクルの規定に合わせて、出力するクロックの分周比を設定してください。

CKOSTP ビット (CLKOUT 出力停止制御ビット)

CLKOUT 端子の出力を制御します。

“0”にすると選択したクロックが出力されます。“1”にすると Low が出力されます。

クロックを発振させたまま CKOSTP ビットを書き換えると、出力にグリッチが発生することがあります。

9.2.16 メインクロック発振器強制発振コントロールレジスタ (MOFCR)

アドレス 0008 C293h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	MOSEL	MODRV21	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	MODRV21	メインクロック発振器ドライブ能力切り替えビット	0: 1MHz~10MHz 1: 10MHz~20MHz	R/W
b6	MOSEL	メインクロック発振器切り替えビット	0: 発振子 1: 外部発振入力	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

EXTAL/XTAL 端子はポートと兼用端子になっており初期設定状態ではポート機能となります。

MOFCR レジスタの書き換えは、メインクロック停止ビット MOSCCR.MOSTP が“1”の状態 (MOSC 停止)で行ってください。

MODRV21 ビット (メインクロック発振器ドライブ能力切り替えビット)

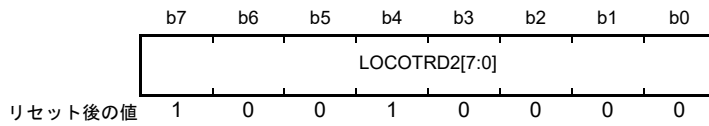
メインクロック発振器のドライブ能力の切り替えをします。

MOSEL ビット (メインクロック発振器切り替えビット)

メインクロック発振器の発振源の切り替えを行います。

9.2.17 低速オンチップオシレータトリミングレジスタ 2 (LOCOTRR2)

アドレス 0008 0061h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	LOCOTRD2[7:0]	低速オンチップオシレータ周波数補正ビット2	b7 b0 00000000 : 0 (周波数 : 低) 00000001 : 1 : : 11111110 : 254 11111111 : 255 (周波数 : 高)	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1” (書き込み許可)にした後で書き換えてください。

LOCOTRD2[7:0] ビット (低速オンチップオシレータ周波数補正ビット2)

低速オンチップオシレータの周波数補正値を設定してください。

設定値は通常の2進数 (0 (00h) から 255 (FFh)) で、値を大きくすると周波数が高くなります。

9.2.18 IWDT 専用オンチップオシレータトリミングレジスタ (ILOCOTRR)

アドレス 0008 0064h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	ILOCOTRD[4:0]	IWDT専用オンチップオシレータ周波数補正ビット	b4 b0 00000 : 0 (周波数 : 低) 00001 : 1 : : 11110 : 30 11111 : 31 (周波数 : 高)	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. 本レジスタはPRCR.PRC0ビットを“1” (書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. チップごとの固定値

ILOCOTRD[4:0] ビット (IWDT 専用オンチップオシレータ周波数補正ビット)

IWDT 専用オンチップオシレータの周波数補正値を設定してください。

設定値は通常の2進数 (0 (00h) から 31 (1Fh)) で、値を大きくすると周波数が高くなります。

工場出荷時に一定の条件で調整していますので、リセット後の値はチップごとに異なります。リセットすることにより工場出荷時に調整した発振周波数に戻ります。

9.2.19 高速オンチップオシレータトリミングレジスタ n (HOCOTRRn) (n = 0)

アドレス HOCOTRR0 0008 0068h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	HOCOTRD[5:0]	高速オンチップオシレータ周波数補正ビット	b5 b0 0 0 0 0 0 : 0 (周波数 : 低) 0 0 0 0 0 : 1 : : 1 1 1 1 1 0 : 62 1 1 1 1 1 1 : 63 (周波数 : 高)	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. 本レジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. チップごとの固定値

HOCOTRD[5:0] ビット (高速オンチップオシレータ周波数補正ビット)

高速オンチップオシレータの周波数補正値を設定してください。

設定値は通常の2進数(0(00h)から63(3Fh))で、値を大きくすると周波数が高くなります。

工場出荷時に一定の条件で調整していますので、リセット後の値はチップごとに異なります。リセットすることにより工場出荷時に調整した発振周波数に戻ります。

9.2.20 サブクロック発振器モードコントロールレジスタ (SOMCR)

アドレス 0008 0083h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	SODRV[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0 (注1)	0 (注1)

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SODRV[1:0]	SOSC ドライブ能力制御ビット	b1 b0 0 0 : 標準CL用ドライブ能力 0 1 : 低CL用ドライブ能力高 1 0 : 低CL用ドライブ能力中 1 1 : 低CL用ドライブ能力低	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC0ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. パワーオンリセット以外のリセット要因では初期化されません。

SODRV[1:0] ビット (SOSC ドライブ能力制御ビット)

サブクロック発振器のドライブ能力を制御します。SODRV[1:0] ビットの設定は、SOSCCR.SOSTP ビットが“1”のときに行ってください。

9.3 メインクロック発振器

メインクロック発振器へクロックを供給する方法には、発振子を接続する方法と外部クロックを入力する方法があります。

9.3.1 発振子を接続する方法

発振子を接続する場合の接続例を図 9.2 に示します。

必要に応じてダンピング抵抗 (R_d) を挿入してください。抵抗値は発振子、発振駆動能力によって異なりますので発振子メーカーの推奨する値に設定してください。また、発振子メーカーから外部に帰還抵抗 (R_f) を追加するよう指示があった場合は、その指示に従って EXTAL、XTAL 間に R_f を挿入してください。

発振子を接続してクロックを供給する場合、接続する発振子は表 9.1 のメインクロック発振器の発振子周波数の範囲内としてください。

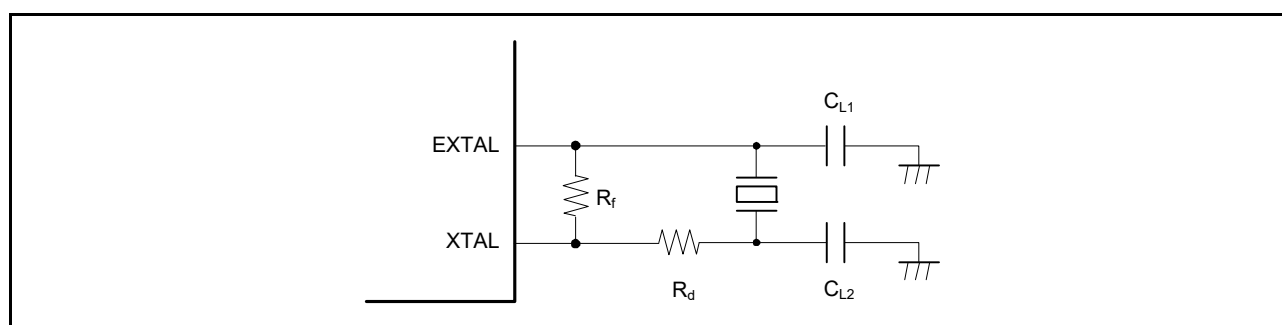


図 9.2 水晶振動子の接続例

9.3.2 外部クロックを入力する方法

外部クロック入力の接続例を図9.3に示します。外部クロックを入力して動作させる場合には、MOFCR.MOSEL ビットを“1”にし、XTAL 端子をオープンにしてください。

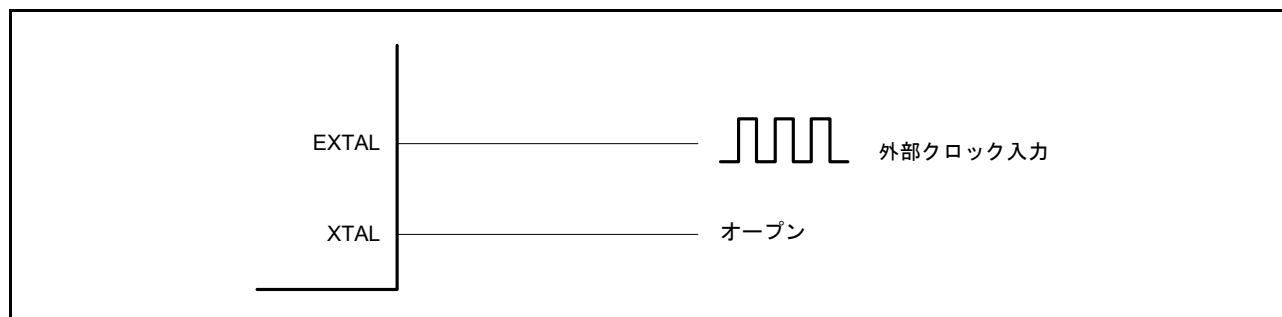


図 9.3 外部クロックの接続例

9.3.3 メインクロックを使用しない場合の端子処理

メインクロックを使用しない場合の端子処理は、「18.5 未使用端子の処理」を参照ください。

9.3.4 外部クロック入力に関する注意事項

外部クロック入力周波数の変更は、メインクロック発振器が動作を停止しているときのみ可能です。メインクロック発振器停止ビット (MOSCCR.MOSTP) に“0” (メインクロック発振器動作) が設定されている間は、外部クロック入力周波数を変更しないでください。

9.4 サブクロック発振器

サブクロック発振器へクロックを供給する方法には、水晶振動子を接続する方法があります。

9.4.1 32.768kHz 水晶振動子を接続する方法

サブクロック発振器へクロックを供給するには、**図 9.4** に示すように 32.768kHz の水晶振動子を接続します。

必要に応じてダンピング抵抗 (R_d) を挿入してください。抵抗値は発振子、発振駆動能力によって異なりますので発振子メーカーの推奨する値に設定してください。また、発振子メーカーから外部に帰還抵抗 (R_f) を追加するよう指示があった場合は、その指示に従って XCIN、XCOUT 間に R_f を挿入してください。発振子を接続してクロックを供給する場合、接続する発振子は**表 9.1** のサブクロック発振器の発振子周波数の範囲内としてください。

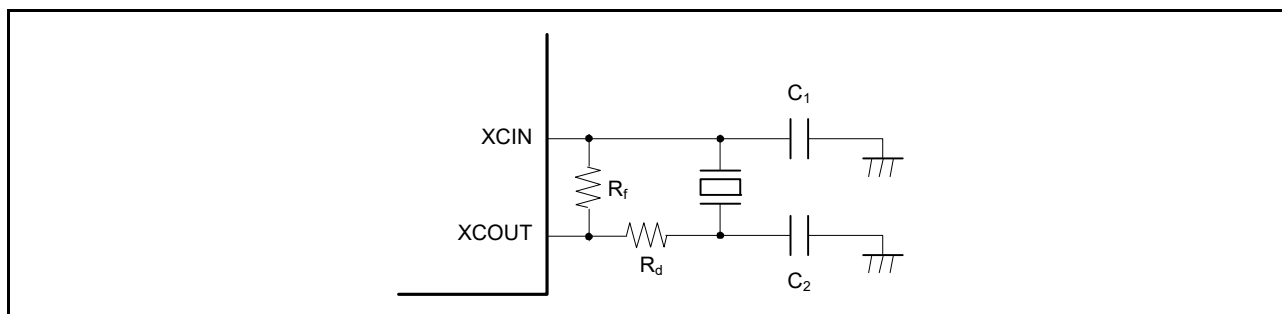


図 9.4 32.768kHz 水晶振動子の接続例

9.4.2 サブクロックを使用しない場合の端子処理

サブクロックを使用しない場合の端子処理は、「18.5 未使用端子の処理」を参照ください。

9.5 発振停止検出機能

9.5.1 発振停止検出と検出後の動作

発振停止検出機能は、メインクロック発振器の停止を検出し、システムクロックのクロックソースとしてメインクロックの代わりに低速オンチップオシレータが出力する低速クロックを供給する機能です。

発振停止検出時には発振停止検出割り込み要求を発生させることができます。また、発振停止検出時に、MTUの出力を強制的にハイインピーダンスとすることも可能です。詳細は、「20. マルチファンクションタイマパルスユニット 2 (MTU2a)」、「21. ポートアウトプットイネーブル 2 (POE2a)」を参照してください。

本 MCU は、メインクロック発振器の異常などによって入力クロックが一定期間“0”または“1”となった場合に、(「42. 電気的特性」の発振停止検出回路特性参照)、メインクロックの発振停止を検出します。

発振停止を検出すると、クロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) で選択されるメインクロックが、前段のセレクトにて LOCO クロックに切り替わります。そのため、システムクロックのクロックソースにメインクロックを選択した状態で発振停止を検出すると、CKSEL[2:0] ビットの設定値は変わらないまま、システムクロックのクロックソースが LOCO クロックへと切り替わります。

システムクロックコントロールレジスタ 3 のクロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) で PLL クロックが選択されている場合に発振停止を検出すると、SCKCR3.CKSEL[2:0] の設定値は変わらないまま、システムクロックのクロックソースは PLL クロックのままです。ただし、固有の周波数 (自励発振周波数) になります。

メインクロックと LOCO クロックの切り替えは、発振停止検出フラグ (OSTDSR.OSTDF) によって制御されます。OSTDF フラグが“1”になると LOCO クロックへ切り替わり、OSTDF フラグを“0”にするとメインクロックに戻ります。ただし、CKSEL[2:0] ビットでメインクロックあるいは PLL クロックを選択している場合は、OSTDF フラグを“0”にできません。発振停止検出後にクロックソースをメインクロックあるいは PLL クロックに戻りたい場合は、一度 CKSEL[2:0] ビットの設定をメインクロックおよび PLL クロック以外に変更し、OSTDF フラグを“0”にしてください。その後、OSTDF フラグが“1”になっていないことを確認し、所定の発振安定時間経過後に CKSEL[2:0] ビットの設定をメインクロックまたは PLL クロックに変更してください。

リセット解除後、メインクロック発振器は停止、発振停止検出機能は無効です。発振停止検出機能を有効にする場合は、メインクロック発振器を動作させ、所定の発振安定時間経過後に発振停止検出機能許可ビット (OSTDCR.OSTDE) への書き込みを行ってください。

発振停止検出機能は、外部要因によるメインクロックの停止に備えた機能であるため、ソフトウェアでメインクロック発振器を停止させる場合や、ソフトウェアスタンバイモードに移行する場合は、あらかじめ発振停止検出機能は無効にしてください。

発振停止検出によって LOCO クロックに切り替わるのは、システムクロックソースとしてメインクロックを選択した場合のシステムクロック、CAC メインクロック (CACMCLK)、および CAN クロック (CANMCLK) を選択していた場合です。LOCO クロック動作時のシステムクロック (ICLK) の周波数については、LOCO 発振周波数とシステムクロック (ICLK) 選択ビット (SCKCR.ICK[3:0]) の分周比の設定で決まります。

発振停止検出によって PLL の自励発振周波数で動作するのは、システムクロックソースとして PLL クロックを選択した場合のシステムクロックです。

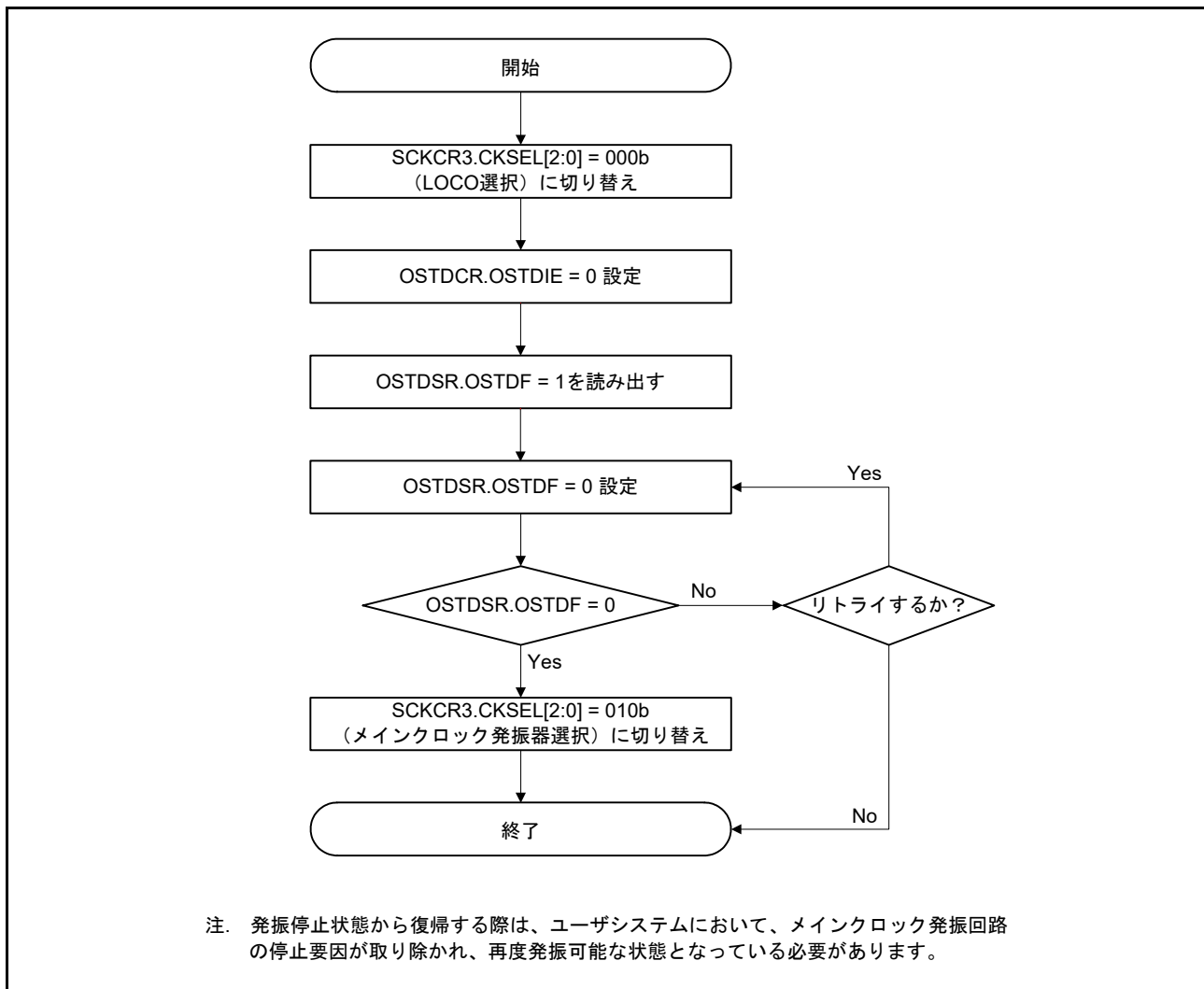


図 9.5 発振停止検出からの復帰のフローチャート例

9.5.2 発振停止検出割り込み

発振停止検出割り込み許可ビット (OSTDCR.OSTDIE) が“1” (発振停止検出割り込みを許可) のとき、発振停止検出フラグ (OSTDSR.OSTDF) が“1”になると発振停止検出割り込み (OSTDI) 要求が発生します。また、このときポートアウトプットイネーブル 2 (POE) へメインクロック発振器の停止を通知します。POE は、発振停止の通知を受けて入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 3 の OSTST ハイインピーダンスフラグ (ICSR3.OSTSTF) を“1”にします。この ICSR3.OSTSTF フラグは、発振停止を検出後、PCLK で 10 サイクル経過するまで書き込みできませんので注意してください。OSTDSR.OSTDF フラグのクリアは、発振停止検出割り込み許可ビット (OSTDCR.OSTDIE) を“0”にした後に行ってください。その後、OSTDCR.OSTDIE ビットを再度“1”にする場合は、PCLKB で 2 サイクル以上待ってから行ってください。アクセスサイクル数が PCLKB で定義されている I/O レジスタを読み出すことによって、PCLKB2 サイクル以上の待ち時間を確保することが可能です。

発振停止検出割り込みはノンマスクابل割り込みです。リセット解除後の初期状態では、「ノンマスクابل割り込み禁止」となっていますので、発振停止検出割り込みを使用する場合は、ソフトウェアでノンマスクابل割り込みを有効にしてください。詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

9.6 PLL 回路

PLL 回路は、発振器からの周波数を通倍する機能を持っています。

9.7 内部クロック

内部クロックは、クロック源としてメインクロック、サブクロック、HOCO クロック、LOCO クロック、PLL クロック、IWDT 専用クロックがあり、これらのクロックから以下に示す内部クロックを生成します。

- (1) CPU、DTC、ROM および RAM の動作クロック：システムクロック (ICLK)
- (2) 周辺モジュールの動作クロック：周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD)
- (3) FlashIF の動作クロック：FlashIF クロック (FCLK)
- (4) CAC モジュール用の動作クロック：CAC クロック (CACCLK)
- (5) CAN モジュール用の動作クロック：CAN クロック (CANMCLK)
- (6) RTC モジュール用の動作クロック：RTC 専用サブクロック (RTCCLK)
- (7) IWDT モジュール用の動作クロック：IWDT 専用クロック (IWDTCLK)
- (8) ローパワータイマ用の動作クロック：LPT クロック (LPTCLK)

内部クロックの周波数は、分周比を選択する SCKCR.FCK[3:0]、ICK[3:0]、PCKB[3:0]、PCKD[3:0] ビット、クロック源を選択する SCKCR3.CKSEL[2:0] ビット、PLL 回路の周波数を選択する PLLCR.STC[5:0]、PLIDIV[1:0] ビット、HOCO 回路の周波数を選択する OFS1.HOCOFRQ[1:0] ビットの組み合わせで設定します。各ビットの書き換え後に、変更後の周波数で動作します。

システムクロック (ICLK)、FlashIF 動作クロック (FCLK) に 32MHz より高い周波数のクロックを設定する場合、ROM アクセス時のウェイト挿入を設定する必要があります。詳細は「41. フラッシュメモリ (FLASH)」を参照してください。

9.7.1 システムクロック

システムクロック (ICLK) は、CPU、DTC、ROM および RAM の動作クロックです。

ICLK の周波数は、SCKCR.ICK[3:0] ビット、SCKCR3.CKSEL[2:0] ビット、PLLCR.STC[5:0]、PLIDIV[1:0] ビット、OFS1.HOCOFRQ[1:0] ビットで設定します。

9.7.2 周辺モジュールクロック

周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD) は、周辺モジュール用の動作クロックです。

PCLKB、PCLKD の周波数は、PCKB[3:0]、PCKD[3:0] ビット、SCKCR3.CKSEL[2:0] ビット、PLLCR.STC[5:0]、PLIDIV[1:0] ビット、OFS1.HOCOFRQ[1:0] ビットで設定します。

周辺モジュールクロック (PCLKD) は S12AD 用、周辺モジュールクロック (PCLKB) は、S12AD 以外の周辺モジュール用の動作クロックです。

9.7.3 FlashIF クロック

FlashIF クロック (FCLK) は、FlashIF 用の動作クロックです。

FCLK の周波数は、SCKCR.FCK[3:0] ビット、SCKCR3.CKSEL[2:0] ビット、PLLCR.STC[5:0]、PLIDIV[1:0] ビット、OFS1.HOCOFRQ[1:0] ビットで設定します。

9.7.4 CAC クロック

CAC クロック (CACCLK) は、CAC モジュール用の動作クロックです。

CACCLK にはメインクロック発振器で生成される CACMCLK、サブクロック発振器で生成される CACSCLK、高速オンチップオシレータで生成される CACHCLK、低速オンチップオシレータで生成される CACLCLK、IWDТ 専用オンチップオシレータで生成される CACILCLK があります。

9.7.5 CAN クロック

CAN クロック (CANMCLK) は、CAN モジュール用の動作クロックです。

CANMCLK は、メインクロック発振器で生成されたクロックです。

9.7.6 RTC 専用クロック

RTC 専用クロック (RTCSCLK) は、RTC モジュールの動作クロックです。

RTCSCLK はサブクロック発振器で生成されたクロックです。

9.7.7 IWDТ 専用クロック

IWDТ 専用クロック (IWDТCLK) は、IWDТ モジュールの動作クロックです。

IWDТCLK は、IWDТ 専用オンチップオシレータで内部発振によって生成されたクロックです。

9.7.8 ローパワータイマクロック

ローパワータイマクロック (LPTCLK) は、ローパワータイマ用の動作クロックです。LPTCLK には、サブクロック発振器で生成されるクロック、IWDТ 専用オンチップオシレータで生成されるクロック、低速オンチップオシレータの 4 分周で生成されるクロックがあります。

9.8 使用上の注意事項

9.8.1 クロック発生回路に関する注意事項

- (1) SCKCR レジスタで、各モジュールに供給されるシステムクロック (ICLK)、周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD)、FlashIF クロック (FCLK) の周波数を選択します。各周波数は、以下のようにしてください。
各周波数は電气的特性の AC タイミングのクロックサイクル時間 t_{cyc} の動作保証範囲内に収まるように選択してください。
周波数は表 9.1 の周波数範囲内に収まるように設定してください。
周辺モジュールは、基本的に PCLKB、PCLKD を基準に動作します。このため、周波数変更の前後でタイマや SCI などの動作速度が変わりますので注意してください。
- (2) システムクロック (ICLK)、周辺モジュールクロック B、D (PCLKB, PCLKD)、FlashIF クロック (FCLK) との間には下記の周波数関係が必要です。
ICLK:FCLK = N:1 (N は整数)
ICLK:PCLKB, PCLKD = N:1 (N は整数)
- (3) クロック周波数を変更後、確実に次の処理を実行するためには、周波数変更の書き込みをした後、同レジスタの読み出しを行ってから次の処理を実行してください。

9.8.2 SCKCR3 レジスタ書き換え時の注意事項

SCKCR3 レジスタが書き換えられた場合、クロックソースの切り替え時に短いクロックパルス (グリッチ) が発生しないよう、一時的にクロック出力を停止させています。この期間内に下記の条件を満たす信号が入力された場合、割り込みコントローラで検出できないことがあります。

- (1) PCLKB の分周比が 1 分周 (SCKCR.PCKB[3:0] ビットが “0000b”) の場合、切り替え後の PCLKB の 4 サイクルより短いパルス幅の外部端子割り込み、NMI 端子割り込み
- (2) PCLKB の分周比が 2 分周 (SCKCR.PCKB[3:0] ビットが “0001b”) の場合、切り替え後の PCLKB の 2.5 サイクルより短いパルス幅の外部端子割り込み、NMI 端子割り込み
- (3) SCKCR3.CKSEL[2:0] ビットを “011b” (サブクロック) に変更したときの RTC 周期割り込み

外部端子割り込み、NMI 端子割り込みを使用する場合は、上記 (1)、(2) の条件が満たされないように、十分にパルス幅の広い信号を入力してください。また、RTC 周期割り込みを使用する場合は、RTC 周期割り込みが発生してから、次の RTC 周期割り込みが発生するまでの間にクロックソースを切り替えてください。

9.8.3 発振子に関する注意事項

発振子に関する諸特性は、ユーザのボード設計に密接に関係しますので、本章で案内する発振子の接続例を参考に、ユーザ側での十分な評価を実施してご使用願います。発振子の回路定数は発振子、実装回路の浮遊容量などによって異なるため、発振子メーカーと十分ご相談の上決定してください。発振端子に印加される電圧が最大定格を超えないようにしてください。

9.8.4 ボード設計上の注意

発振子を使用する場合は、発振子およびコンデンサはできるだけ発振子接続端子の近くに配置してください。図 9.6 に示すように発振回路の近くには信号線を通過させないでください。電磁誘導によって正常に発振しなくなることがあります。

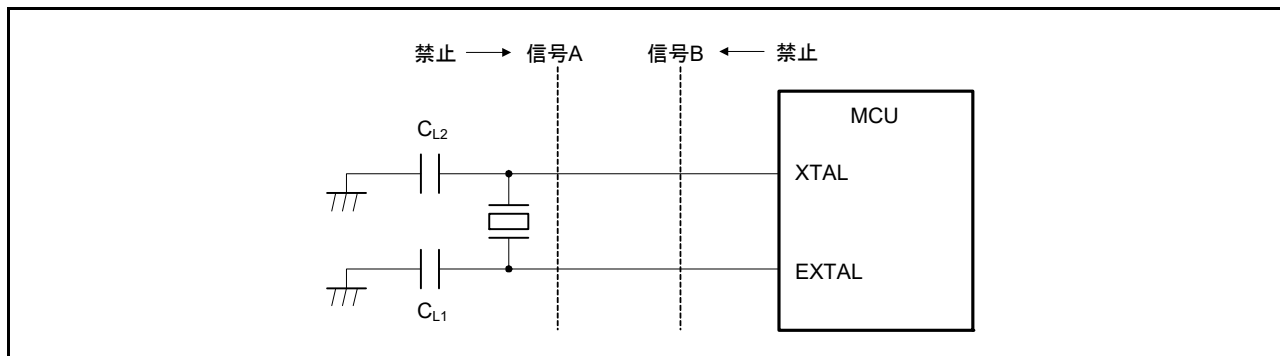


図 9.6 発振回路部のボード設計に関する注意事項 (メインクロック発振器の場合、サブクロック発振器も同様)

9.8.5 低 CL 水晶振動子の使用に関する注意事項

XCIN 端子や XCOUT 端子の近傍の信号が変化すると、サブクロック発振器の発振精度に影響する可能性があります。影響の大きさは、基板の配線パターンや近傍の信号変化の状況により異なります。低 CL 水晶振動子を使用した基板を作成する際には、アプリケーションノート「低 CL サブクロック回路のデザインガイド」(R01AN1830JJ)を参考に、ノイズ対策を実施してください。

9.8.6 発振子接続端子に関する注意事項

メインクロックを使用しない場合、EXTAL 端子、XTAL 端子を汎用ポート P36、P37 として使用することができます。汎用ポートとして使用する場合は、メインクロック停止設定 (MOSCCR.MOSTP = 1) で使用してください。ただし、メインクロックを使用するシステムにおいては EXTAL 端子、XTAL 端子を汎用ポートとして使用しないでください。

メインクロックを使用する場合は、P36、P37 を出力に設定しないでください。

一部の製品では、サブクロックを使用しない場合に、XCIN 端子、XCOUT 端子を汎用入力ポート PH6 (注 1)、PH7 (注 1) として使用することができます。汎用ポートとして使用する場合は、サブクロック停止設定 (SOSCCR.SOSTP = 1) で使用してください。ただし、サブクロックを使用するシステムにおいては XCIN 端子、XCOUT 端子を汎用入力ポートとして使用しないでください。

注 1. ROM 容量が 64K バイトの製品にはありません。

9.8.7 サブクロック発振器に関する注意事項

サブクロックの用途には、システムクロックのクロックソース、ローパワータイマ (LPT) のクロックソース、およびリアルタイムクロック (RTC) のクロックソースがあります。

サブクロック発振器の動作/停止は、サブクロック発振器コントロールレジスタのサブクロック発振器停止ビット (SOSCCR.SOSTP) で制御され、SOSCCR.SOSTP ビットが“0”に設定されているとサブクロック発振器は動作状態となります。

サブクロック発振器はソフトウェアスタンバイモードに遷移しても停止しません。ソフトウェアスタンバイモード中にサブクロック発振器を停止させたい場合は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前に SOSTP ビットを“1”にする必要があります。

サブクロック発振器に関するレジスタ、ビットの設定には以下のような注意、制限があります。

- SOSCCR.SOSTP ビットを書き換えた後は、値が書き換わったことを確認してから、次の処理を行ってください。
- SOMCR.SODRV[1:0] ビットの設定は、サブクロック発振器を動作させる前に行ってください。
- サブクロック発振器を停止させた後ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合、SOSTP ビットを“1”にしてからサブクロック換算で2サイクル以上の時間が経過してから、WAIT 命令を実行してください。

9.8.7.1 サブクロックを使用する場合

サブクロックを使用する場合は、図 9.7 のフローチャート例に従ってサブクロック発振器を動作させてください。

なお、サブクロックを使用する場合、ノイズによる誤動作を避けるため PG7/MD 端子を汎用入出力ポートとして使用しないでください。また、RTC を使用しない場合は、「24.6.7 リアルタイムクロックを使用しない場合の初期化手順」に従って RTC を停止させてください。

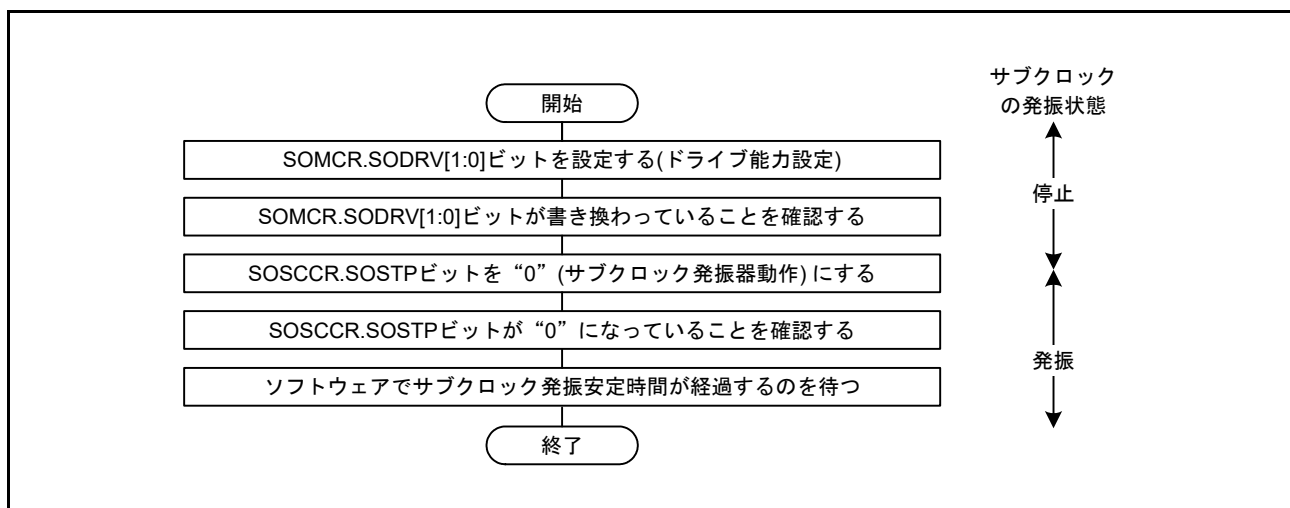


図 9.7 サブクロックを使用する場合の初期化フローチャート例

10. クロック周波数精度測定回路 (CAC)

本 MCU はクロック周波数精度測定回路 (CAC) を内蔵しています。

CAC は、測定の対象となるクロック (測定対象クロック) に対して、測定の基準となるクロック (測定基準クロック) で生成した時間内のクロックのパルスを数え、それが許容範囲内にあるか否かで精度を判定します。

測定の終了または測定基準クロックで生成した時間内のクロックのパルス数が許容範囲外の場合、割り込み要求を発生します。

10.1 概要

表 10.1 に CAC の仕様を、図 10.1 に CAC のブロック図を示します。

表 10.1 CAC の仕様

項目	内容
測定対象クロック	以下のクロックの周波数を測定可能 <ul style="list-style-type: none"> • メインクロック • サブクロック • HOCOクロック • LOCOクロック • IWDT専用クロック (IWDTCCLK) • 周辺モジュールクロック B (PCLKB)
測定基準クロック	<ul style="list-style-type: none"> • 外部から CACREF 端子に入力したクロック • メインクロック • サブクロック • HOCOクロック • LOCOクロック • IWDT専用クロック (IWDTCCLK) • 周辺モジュールクロック B (PCLKB)
選択機能	デジタルフィルタ機能
割り込み要因	<ul style="list-style-type: none"> • 測定終了割り込み • 周波数エラー割り込み • オーバフロー割り込み
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能

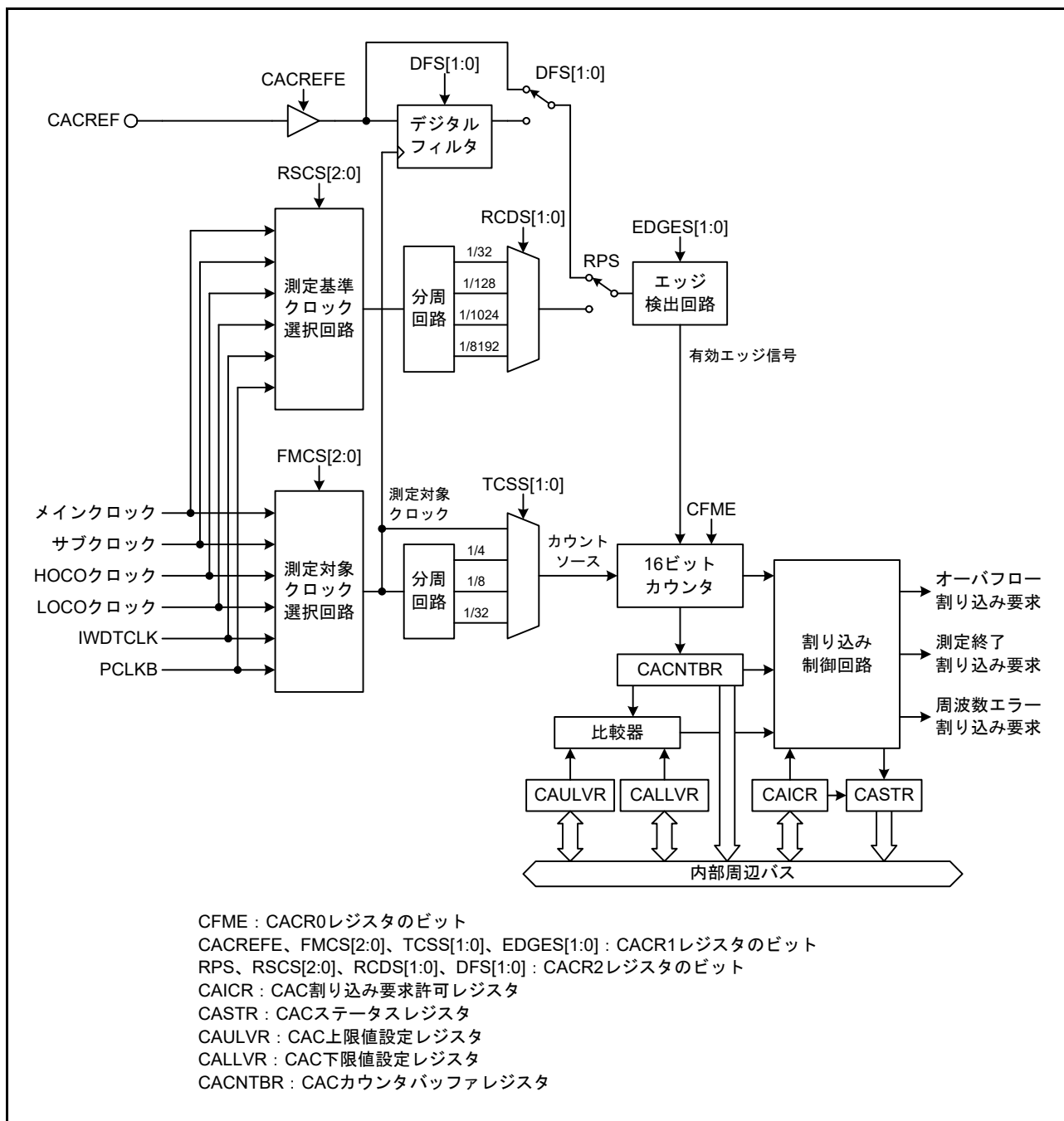


図 10.1 CAC のブロック図

表 10.2 に CAC の入出力端子を示します。

表 10.2 CAC の入出力端子

端子名	入出力	機能
CACREF	入力	測定基準クロックの入力端子

10.2 レジスタの説明

10.2.1 CAC コントロールレジスタ 0 (CACR0)

アドレス CAC.CACR0 0008 B000h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CFME
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CFME	クロック周波数測定有効ビット	0 : クロック周波数測定無効 1 : クロック周波数測定有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

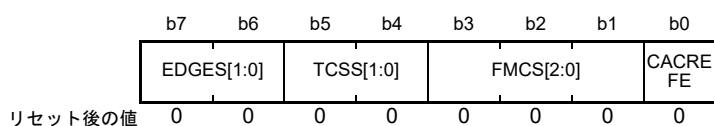
CFME ビット (クロック周波数測定有効ビット)

クロック周波数測定の有効 / 無効を指定するビットです。

このビットを書き換えても内部回路に反映されるまでは時間がかかります。前値が内部回路に反映されていない状態でこのビットを書き換えると無視されます。書き換えが反映されたかはビットの読み出しで確認できます。

10.2.2 CAC コントロールレジスタ 1 (CACR1)

アドレス CAC.CACR1 0008 B001h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CACREFE	CACREF 端子入力有効ビット	0 : CACREF 端子入力無効 1 : CACREF 端子入力有効	R/W
b3-b1	FMCS[2:0]	測定対象クロック選択ビット	b3 b1 0 0 0 : メインクロック 0 0 1 : サブクロック 0 1 0 : HOCOクロック 0 1 1 : LOCOクロック 1 0 0 : IWDT専用クロック (IWDTCCLK) 1 0 1 : 周辺モジュールクロック B (PCLKB) 上記以外は設定しないでください	R/W
b5-b4	TCSS[1:0]	タイマカウントソース選択ビット	b5 b4 0 0 : 分周なしクロック 0 1 : 4分周クロック 1 0 : 8分周クロック 1 1 : 32分周クロック	R/W
b7-b6	EDGES[1:0]	有効エッジ選択ビット	b7 b6 0 0 : 立ち上がりエッジ 0 1 : 立ち下がりエッジ 1 0 : 立ち上がり/立ち下がり両エッジ 1 1 : 設定しないでください	R/W

注. CACR1レジスタは、CACR0.CFMEビットが“0”のときに設定してください。

CACREFE ビット (CACREF 端子入力有効ビット)

CACREF 端子入力の有効 / 無効を指定するビットです。

FMCS[2:0] ビット (測定対象クロック選択ビット)

周波数を測定する測定対象クロックを選択します。

TCSS[1:0] ビット (タイマカウントソース選択ビット)

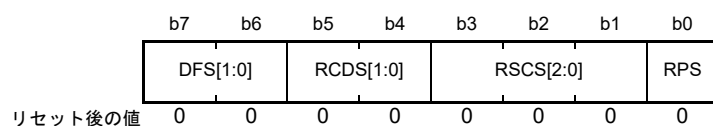
このビットの設定によりクロック周波数精度測定回路のカウントソースを選択します。

EDGES[1:0] ビット (有効エッジ選択ビット)

このビットの設定により基準信号の有効エッジを選択します。

10.2.3 CAC コントロールレジスタ 2 (CACR2)

アドレス CAC.CACR2 0008 B002h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPS	基準信号選択ビット	0 : CACREF 端子入力 1 : 内部クロック (内部生成信号)	R/W
b3-b1	RSCS[2:0]	測定基準クロック選択ビット	b3 b1 0 0 0 : メインクロック 0 0 1 : サブクロック 0 1 0 : HOCOクロック 0 1 1 : LOCOクロック 1 0 0 : IWDT専用クロック (IWDTCLK) 1 0 1 : 周辺モジュールクロック B (PCLKB) 上記以外は設定しないでください	R/W
b5-b4	RCDS[1:0]	測定基準クロック分周比選択ビット	b5 b4 0 0 : 32分周クロック 0 1 : 128分周クロック 1 0 : 1024分周クロック 1 1 : 8192分周クロック	R/W
b7-b6	DFS[1:0]	デジタルフィルタ機能選択ビット	b7 b6 0 0 : デジタルフィルタ機能無効 0 1 : 測定対象クロック 1 0 : 測定対象クロックの4分周クロック 1 1 : 測定対象クロックの16分周クロック	R/W

注. CACR2レジスタは、CACR0.CFMEビットが“0”のときに設定してください。

RPS ビット (基準信号選択ビット)

このビットの設定により基準信号として CACREF 端子入力か内部クロック (内部生成信号) のどちらを使用するか選択します。

RSCS[2:0] ビット (測定基準クロック選択ビット)

このビットの設定により測定基準クロックを生成するクロックソースを選択します。

RCDS[1:0] ビット (測定基準クロック分周比選択ビット)

このビットの設定により測定基準クロックの分周比を選択します。

DFS[1:0] ビット (デジタルフィルタ機能選択ビット)

このビットの設定により、デジタルフィルタの有効/無効、サンプリングクロックを選択します。

10.2.4 CAC 割り込み要求許可レジスタ (CAICR)

アドレス CAC.CAICR 0008 B003h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	OVFFC L	MENDF CL	FERRF CL	—	OVFIE	MENDI E	FERRI E
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FERRIE	周波数エラー割り込み要求許可ビット	0: 周波数エラー割り込み要求無効 1: 周波数エラー割り込み要求有効	R/W
b1	MENDIE	測定終了割り込み要求許可ビット	0: 測定終了割り込み要求無効 1: 測定終了割り込み要求有効	R/W
b2	OVFIE	オーバフロー割り込み要求許可ビット	0: オーバフロー割り込み要求無効 1: オーバフロー割り込み要求有効	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	FERRFCL	FERRF フラグクリアビット	このビットを“1”にすると CASTR.FERRF フラグがクリアされます。読むと“0”が読めます	R/W
b5	MENDFCL	MENDF フラグクリアビット	このビットを“1”にすると CASTR.MENDF フラグがクリアされます。読むと“0”が読めます	R/W
b6	OVFFCL	OVFF フラグクリアビット	このビットを“1”にすると CASTR.OVFF フラグがクリアされます。読むと“0”が読めます	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

FERRIE ビット (周波数エラー割り込み要求許可ビット)

周波数エラー割り込み要求の有効/無効を指定するビットです。

MENDIE ビット (測定終了割り込み要求許可ビット)

測定終了割り込み要求の有効/無効を指定するビットです。

OVFIE ビット (オーバフロー割り込み要求許可ビット)

オーバフロー割り込み要求の有効/無効を指定するビットです。

FERRFCL ビット (FERRF フラグクリアビット)

このビットを“1”にすると CASTR.FERRF フラグがクリアされます。

MENDFCL ビット (MENDF フラグクリアビット)

このビットを“1”にすると CASTR.MENDF フラグがクリアされます。

OVFFCL ビット (OVFF フラグクリアビット)

このビットを“1”にすると CASTR.OVFF フラグがクリアされます。

10.2.5 CAC ステータスレジスタ (CASTR)

アドレス CAC.CASTR 0008 B004h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	OVFF	MENDF	FERRF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FERRF	周波数エラーフラグ	0: クロックの周波数が設定値内 1: クロックの周波数が設定値を外れた(周波数エラー)	R
b1	MENDF	測定終了フラグ	0: 測定中 1: 測定が終了	R
b2	OVFF	オーバフローフラグ	0: カウンタがオーバフローしていない 1: カウンタがオーバフロー	R
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

FERRF フラグ (周波数エラーフラグ)

クロックの周波数が設定値を外れた(周波数エラー)ことを示します。

["1"になる条件]

- クロック周波数が設定値を外れたとき

["0"になる条件]

- CAICR.FERRFCL ビットに“1”を書き込んだとき

MENDF フラグ (測定終了フラグ)

測定が終了したことを示します。

["1"になる条件]

- 測定終了したとき

["0"になる条件]

- CAICR.MENDFCL ビットに“1”を書き込んだとき

OVFF フラグ (オーバフローフラグ)

カウンタがオーバフローしたことを示します。

["1"になる条件]

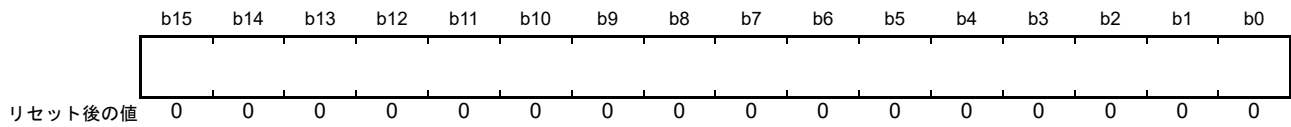
- カウンタがオーバフローしたとき

["0"になる条件]

- CAICR.OVFFCL ビットに“1”を書き込んだとき

10.2.6 CAC 上限値設定レジスタ (CAULVR)

アドレス CAC.CAULVR 0008 B006h



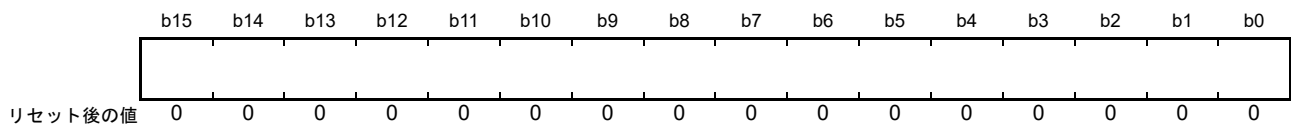
CAULVR レジスタは、周波数の測定に用いるカウンタの上限値を指定する 16 ビットの読み出し / 書き込み可能なレジスタです。このレジスタに指定された値を上回った場合、周波数の異常を検出します。

CACR0.CFME ビットが“0”のときに設定してください。

デジタルフィルタ、エッジ検出回路と CACREF 端子入力信号の位相差により CACNTBR レジスタに保持されるカウンタ値がずれることがありますので余裕をもった値を設定してください。

10.2.7 CAC 下限値設定レジスタ (CALLVR)

アドレス CAC.CALLVR 0008 B008h



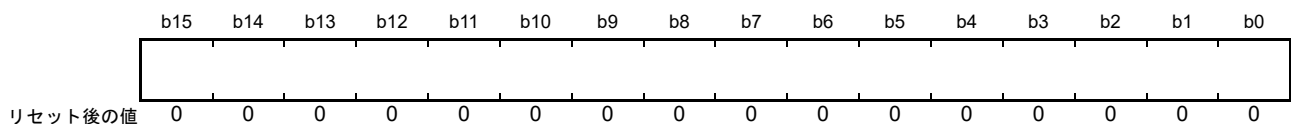
CALLVR レジスタは、周波数の測定に用いるカウンタの下限値を指定する 16 ビットの読み出し / 書き込み可能なレジスタです。このレジスタに指定された値を下回った場合、周波数の異常を検出します。

CACR0.CFME ビットが“0”のときに設定してください。

デジタルフィルタ、エッジ検出回路と CACREF 端子入力信号の位相差により CACNTBR レジスタに保持されるカウンタ値がずれることがありますので余裕をもった値を設定してください。

10.2.8 CAC カウンタバッファレジスタ (CACNTBR)

アドレス CAC.CACNTBR 0008 B00Ah



基準信号の有効エッジが入力されたときのカウンタ値を保持する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。

10.3 動作説明

10.3.1 クロック周波数測定

クロック周波数精度測定回路は、CACREF 端子入力または内部クロックを基準にクロック周波数を測定します。図 10.2 にクロック周波数精度測定回路の動作例を示します。

クロック周波数精度測定回路は、クロック周波数測定時、以下のように動作します。

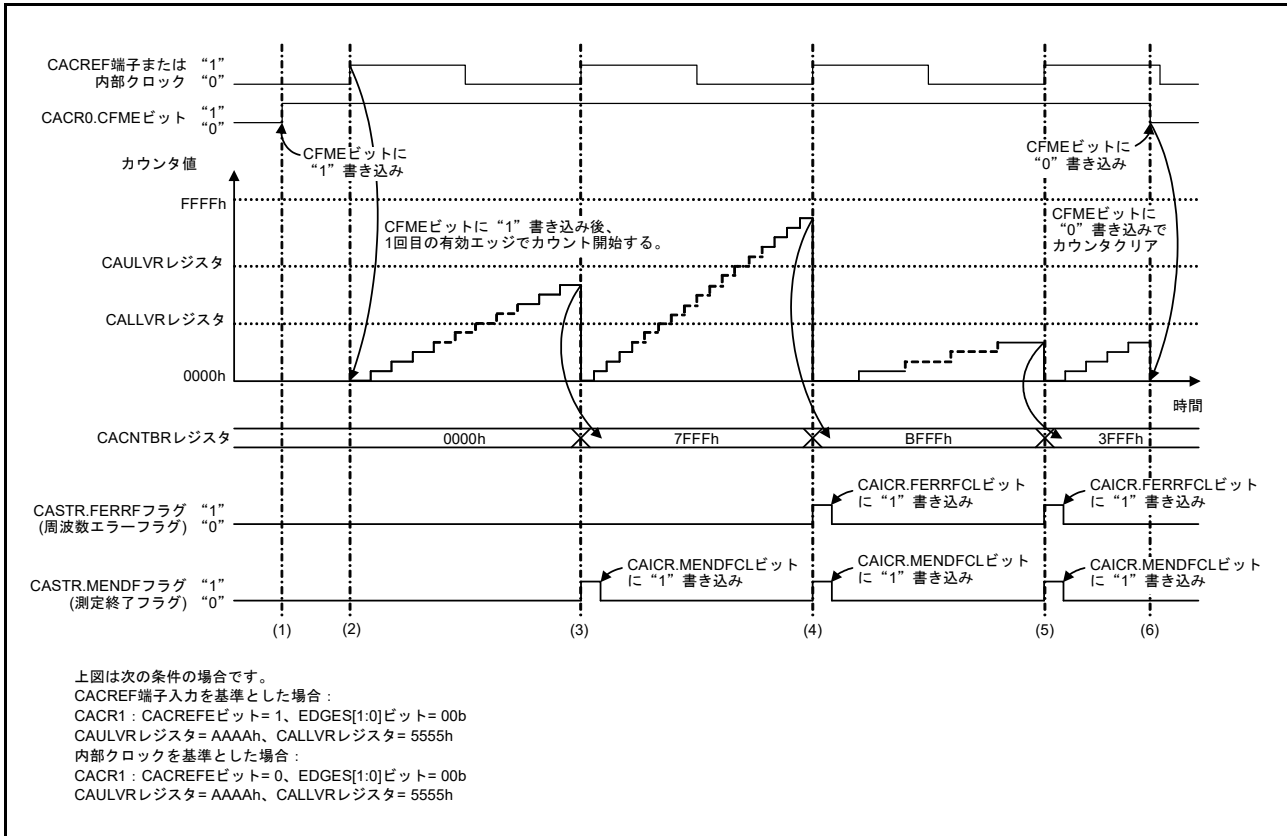


図 10.2 クロック周波数精度測定回路の動作例

- (1) CACREF 端子入力を基準とした場合 (CACR1.CACREFE ビット = 1) は、CACR2.RPS ビットを “0”、CACR1.CACREFE ビットを “1” にした状態で、CACR0.CFME ビットに “1” を書き込むとクロック周波数測定が有効になります。
一方、内部クロックを基準とした場合 (CACR1.CACREFE ビット = 0) は、CACR2.RPS ビットを “1” にした状態で、CACR0.CFME ビットに “1” を書き込むとクロック周波数測定が有効になります。
- (2) CACREF 端子入力を基準とした場合は、CFME ビットに “1” を書き込み後、CACREF 端子から CACR1.EDGES[1:0] ビットで選択した有効エッジ (図 10.2 では立ち上がりエッジ (CACR1.EDGES[1:0] ビット = 00b)) が入力されるとタイマのカウンタアップが開始されます。
内部クロックを基準とした場合は、CFME ビットに “1” を書き込み後、CACR2.RSCS[2:0] ビットで選択したクロックソースを元に CACR1.EDGES[1:0] ビットで選択した有効エッジ (図 10.2 では立ち上がりエッジ (CACR1.EDGES[1:0] ビット = 00b)) が入力されるとタイマのカウンタアップが開始されます。
- (3) 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタと比較します。CALLVR レジスタ ≤ CACNTBR レジスタ ≤ CAULVR レジスタのときは、クロック周波数が正常なので CASTR.MENDF フラグだけが “1” になります。また、CAICR.MENDIE ビットを “1” にしている場合は、測定終了割り込みが発生します。

- (4) 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタと比較します。CACNTBR レジスタ > CAULVR レジスタのときはクロック周波数が異常なので CASTR.FERRF フラグが“1”になります。また、CAICR.FERRIE ビットを“1”にしている場合は、周波数エラー割り込みが発生します。さらに CASTR.MENDF フラグも“1”になります。また、CAICR.MENDIE ビットを“1”にしている場合は、測定終了割り込みが発生します。
- (5) 次の有効エッジが入力されると、カウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタと比較します。CACNTBR レジスタ < CALLVR レジスタのときはクロック周波数が異常なので CASTR.FERRF フラグが“1”になります。また、CAICR.FERRIE ビットを“1”にしている場合は、周波数エラー割り込みが発生します。さらに CASTR.MENDF フラグも“1”になります。また、CAICR.MENDIE ビットを“1”にしている場合は、測定終了割り込みが発生します。
- (6) CACR0.CFME ビットが“1”の間は、有効エッジが入力されるたびにカウンタ値を CACNTBR レジスタに転送し、CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタと比較します。CACR0.CFME ビットに“0”を書き込むと、カウンタをクリアしカウントアップが停止します。

10.3.2 CACREF 端子のデジタルフィルタ機能

CACREF 端子はデジタルフィルタ機能を持っています。デジタルフィルタ機能は、設定したサンプリング周期に応じてサンプリングした端子のレベルが 3 回連続で一致した場合、内部に一致したレベルを伝達し、再度サンプリングした端子のレベルが 3 回連続で一致するまで内部へは同じレベルを伝達し続けます。

デジタルフィルタ機能はデジタルフィルタ機能の有効/無効とサンプリングクロックが設定できます。

デジタルフィルタと CACREF 端子入力信号の位相差により CACNTBR レジスタに転送されるカウンタ値は、最大サンプリングクロック 1 周期分の誤差があります。

カウントソースに分周クロックを選択している場合は、以下の計算式でカウント値誤差を表すことができます。

$$\text{カウント値誤差} = (\text{カウントソース 1 周期}) / (\text{サンプリングクロック 1 周期})$$

10.4 割り込み要求

CAC が要求する割り込み要因には、周波数エラー割り込み、測定終了割り込みおよびオーバフロー割り込みの 3 種類があります。各割り込み要因が発生すると各ステータスフラグが“1”になります。表 10.3 にクロック周波数精度測定回路割り込み要求を示します。

表 10.3 クロック周波数精度測定回路割り込み要求

割り込み要求	割り込み許可ビット	ステータスフラグ	割り込み要因
周波数エラー割り込み	CAICR.FERRIE	CASTR.FERRF	CACNTBR レジスタと CAULVR レジスタおよび CALLVR レジスタとを比較した結果が CACNTBR レジスタ > CAULVR レジスタまたは CACNTBR レジスタ < CALLVR レジスタのとき
測定終了割り込み	CAICR.MENDIE	CASTR.MENDF	基準信号の有効エッジが入力されたとき ただし、CACR0.CFME ビットを“1”に書き込み後、1 回目の有効エッジでは測定終了割り込みは発生しない
オーバフロー割り込み	CAICR.OVFIE	CASTR.OVFF	カウンタがオーバフローしたとき

10.5 使用上の注意事項

10.5.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ C (MSTPCRC) により、クロック周波数精度測定回路の動作禁止 / 許可を設定することが可能です。初期値では、クロック周波数精度測定回路の動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

11. 消費電力低減機能

11.1 概要

本 MCU には、消費電力低減機能としてクロックの切り替えによる消費電力の低減、モジュールストップ機能、通常動作時の低消費電力機能、および低消費電力状態への遷移機能があります。

表 11.1 に消費電力低減機能の仕様を、表 11.2 に低消費電力状態への遷移条件と CPU や周辺モジュールなどの状態および各モードの解除方法を示します。

リセット後は、通常のプログラム動作で DTC、RAM 以外のモジュールは停止状態になります。

表 11.1 消費電力低減機能の仕様

項目	内容
クロックの切り替えによる消費電力の低減	システムクロック (ICLK)、周辺モジュールクロック (PCLKB)、S12AD 用クロック (PCLKD)、FlashIF クロック (FCLK) に対し、個別に分周比を設定することが可能(注1)
モジュールストップ機能	周辺モジュールごとに機能を停止させることが可能
低消費電力状態への遷移機能	<ul style="list-style-type: none"> • CPU、周辺モジュール、発振器を停止させる低消費電力状態にすることが可能
低消費電力状態	<ul style="list-style-type: none"> • スリープモード • ディープスリープモード • ソフトウェアスタンバイモード • スヌーズモード
動作電力低減機能	<ul style="list-style-type: none"> • 動作周波数、動作電圧範囲に応じて動作電力制御モードを選択することにより、通常動作時、スリープモード時、ディープスリープモード時、およびスヌーズモード時の消費電力を低減することが可能 • 動作電力制御状態：4種類 高速動作モード 中速動作モード 中速動作モード2 低速動作モード

注1. 詳細は「9. クロック発生回路」を参照してください。

表 11.2 各モードにおける遷移および解除方法と動作状態 (1/2)

動作状態	スリープモード	ディープスリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード(注1)
遷移方法	制御レジスタ+命令	制御レジスタ+命令	制御レジスタ+命令	ソフトウェアスタンバイモード中にスヌーズ遷移条件発生
リセット以外の解除方法	割り込み	割り込み	割り込み(注2)	割り込み(注3)またはスヌーズ終了条件発生
解除後の状態(注4)	プログラム実行状態(割り込み処理)	プログラム実行状態(割り込み処理)	プログラム実行状態(割り込み処理)	プログラム実行状態(割り込み処理)またはソフトウェアスタンバイモード
メインクロック発振器	動作可能	動作可能	停止	動作可能
サブクロック発振器	動作可能	動作可能	動作可能	動作可能
高速オンチップオシレータ (HOCO)	動作可能	動作可能	停止	動作可能
低速オンチップオシレータ (LOCO)	動作可能	動作可能	動作可能(注5)	動作可能
IWDT専用オンチップオシレータ (ILOCO)	動作可能(注6)	動作可能(注6)	動作可能(注6)	動作可能(注6)
PLL	動作可能	動作可能	停止	動作可能
CPU	停止(保持)	停止(保持)	停止(保持)	停止(保持)
RAM0 (0000 0000h ~ 0000 FFFFh)	動作可能(保持)	停止(保持)	停止(保持)	動作可能(保持)(注9)

表 11.2 各モードにおける遷移および解除方法と動作状態 (2/2)

動作状態	スリープモード	ディープスリープモード	ソフトウェアスタンバイモード	スヌーズモード(注1)
DTC	動作可能(注8)	停止(保持)	停止(保持)	動作可能(注8、注9)
フラッシュメモリ	動作	停止(保持)	停止(保持)	停止(保持)
独立ウォッチドッグタイマ(IWDT)	動作可能(注6)	動作可能(注6)	動作可能(注6)	動作可能(注6)
リアルタイムクロック(RTC)	動作可能	動作可能	動作可能	動作可能
ローパワータイマ(LPT)	動作可能	動作可能	動作可能	動作可能
電圧検出回路(LVD)	動作可能	動作可能	動作可能	動作可能
パワーオンリセット回路	動作	動作	動作	動作
周辺モジュール	動作可能	動作可能	停止(保持)(注7)	動作可能
I/Oポート	動作	動作	保持	動作
RTCOU出力	動作可能	動作可能	動作可能	動作可能
CLKOUT出力	動作可能	動作可能	動作可能(注10)	動作可能
コンパレータB	動作可能	動作可能	動作可能(注11)	動作可能(注11)

動作可能は、制御レジスタ設定によって動作/停止を制御可能であることを示します。
停止(保持)は、内部レジスタ値保持、内部状態は動作中断を示します。

- 注1. MSTPCRm.MSTPmiビット(m = A~D, i = 31~0)を“0”に設定している内蔵周辺モジュールはすべて、スヌーズモード遷移後に動作クロックが供給され、動作が再開します。そのため、スヌーズモード中に動作が不要な内蔵周辺モジュールについては、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する前に対応するMSTPmiビットを“1”に設定し、モジュールストップ状態としてください。
- 注2. 外部端子割り込み(NMI, IRQ0~IRQ7)、周辺機能割り込み(RTCアラーム、RTC周期、IWDT、電圧監視、ELC (LPT専用割り込み))
- 注3. 外部端子割り込み(NMI, IRQ0~IRQ7)、周辺機能割り込み(RTCアラーム、RTC周期、IWDT、電圧監視、スヌーズ解除)
- 注4. RES#端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除は除きます。RES#端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除の場合は、リセット状態に遷移します。
- 注5. 低速オンチップオシレータ強制発振コントロールレジスタの低速オンチップオシレータ強制発振ビット(LOFCR.LOFXIN)の設定により、動作/停止を選択することができます。
- 注6. IWDTオートスタートモード時、オプション機能選択レジスタ0のIWDTスリープモードカウント停止制御ビット(OFS0.IWDTSLCSTP)の設定により、動作/停止を選択することができます。IWDTオートスタートモードではないとき、IWDTカウント停止コントロールレジスタのスリープモードカウント停止制御ビット(IWDTCSTPR.SLCSTP)の設定により、動作/停止を選択することができます。
- 注7. 周辺モジュールは状態を保持します。
- 注8. スリープモード中、あるいはスヌーズモード中は、システム制御関連のレジスタ(「表5.1 I/Oレジスタアドレス一覧」のモジュールシンボル欄にSYSTEMと記載のレジスタ)への書き込みは禁止です。
- 注9. スヌーズコントロールレジスタのスヌーズモード時DTC許可ビット(SNZCR.SNZDTC)の設定により、動作/停止を選択することができます。
- 注10. 低速オンチップオシレータ強制発振コントロールレジスタの低速オンチップオシレータ強制発振ビット(LOFCR.LOFXIN)を“1”に設定し、ソフトウェアスタンバイ中もLOCOの発振を継続させたい場合、CKOCR.CKOSSEL[3:0]に0000h(LOCOクロック)を設定しないでください。
- 注11. デジタルフィルタ機能は使用禁止です。比較結果のCMPOBn端子への出力のみ動作可能です。

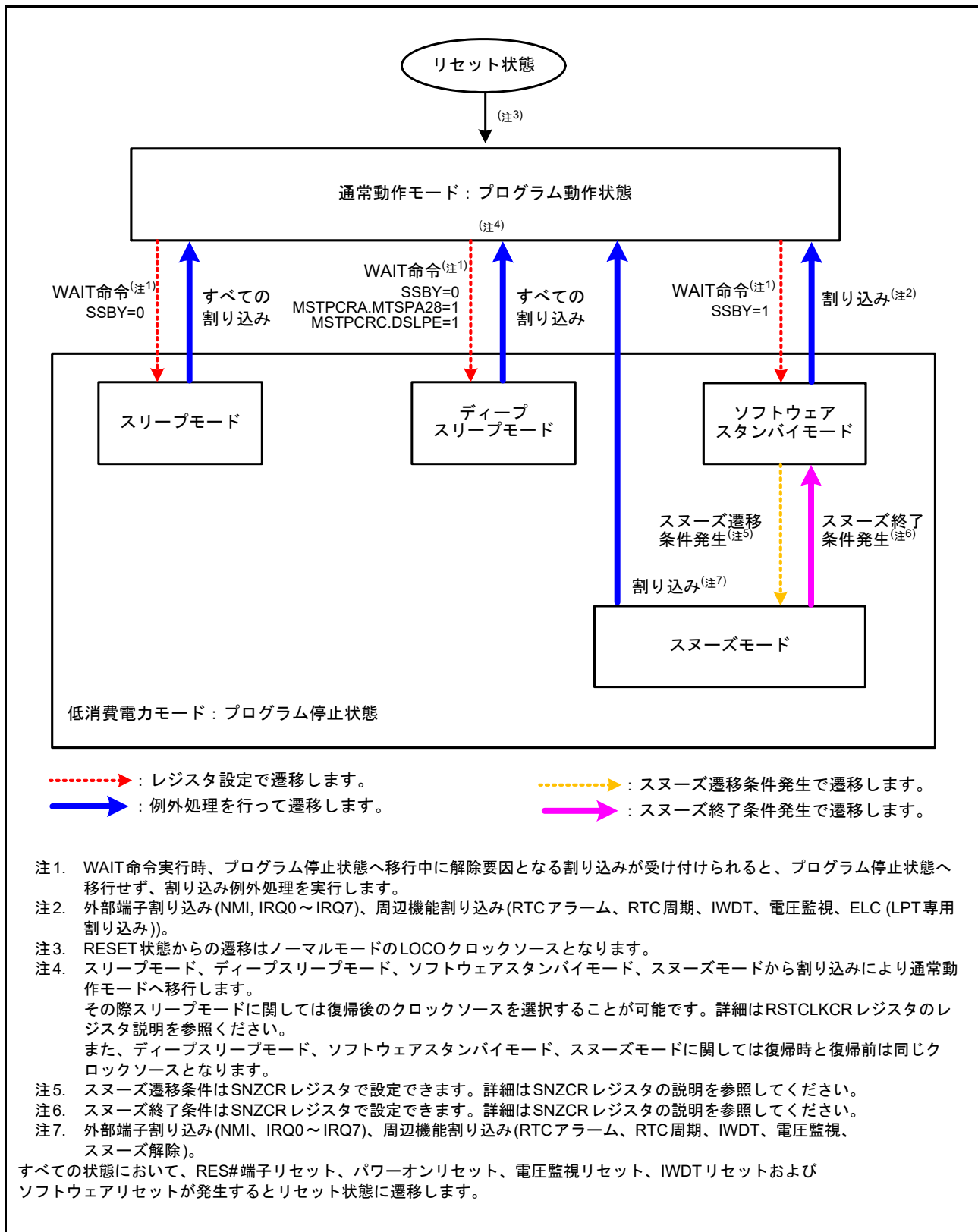


図 11.1 モード遷移

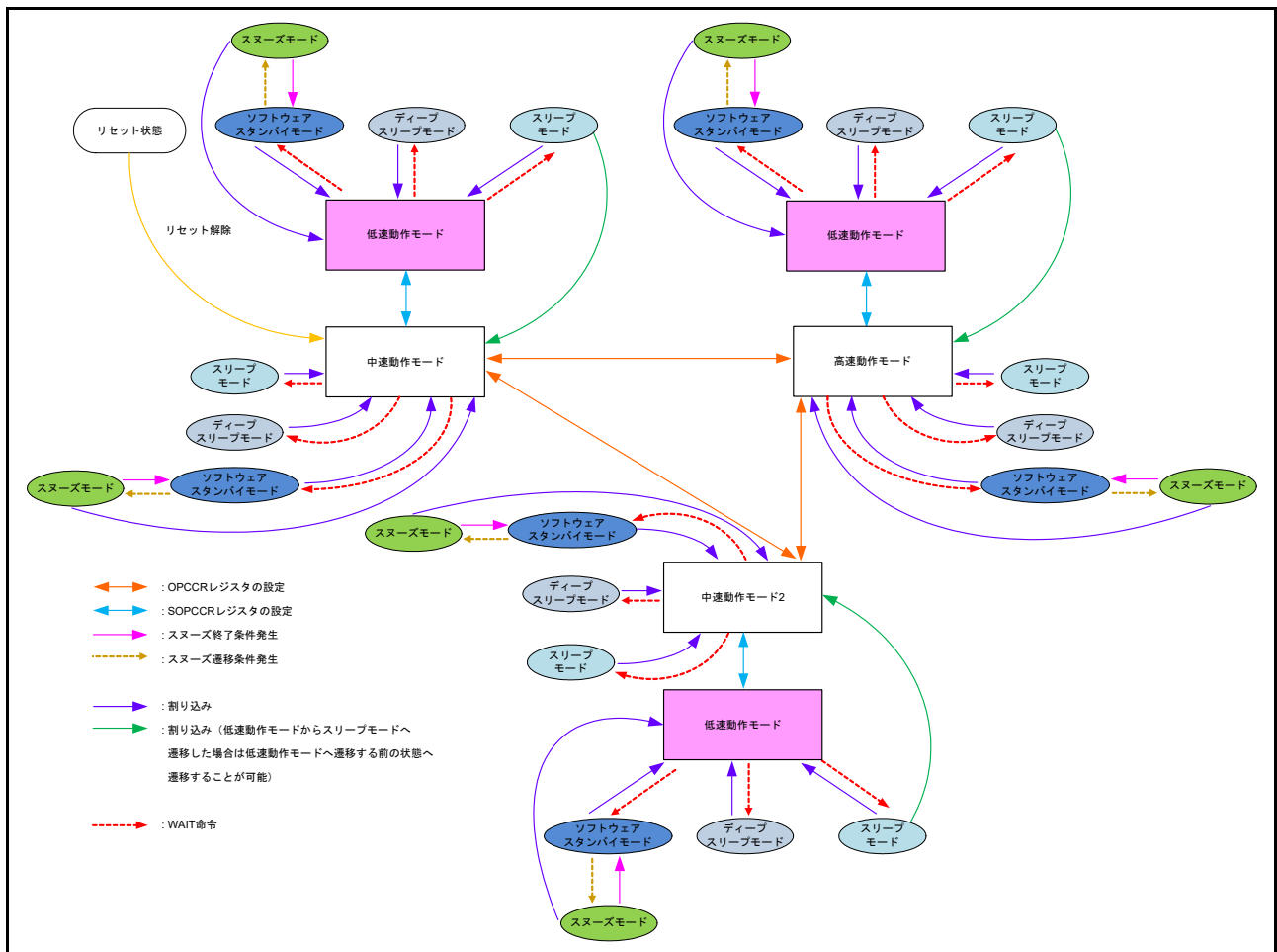


図 11.2 動作モード

- ソフトウェアスタンバイモードに遷移した場合に、サブクロック発振器の停止は行いません。
- スリープモードからはスリープモードへ遷移する前の動作状態に戻ることができます。
ただし、低速動作モードからスリープモードへ遷移した場合は低速動作モードへ遷移する前の状態 (高速動作モード、中速動作モード、または中速動作モード2) へ遷移することができます。
- リセット解除後は中速動作モードで動作開始します。
- スリープモード中、スヌーズモード中、モード遷移中は、システム制御関連のレジスタ (I/O レジスタ一覧のモジュールシンボル欄に SYSTEM と記載のレジスタ) への書き込みは禁止です。

表 11.3 各動作モードでの発振器の動作可否

	PLL	HOCO	LOCO	IWDT専用オンチップオシレータ	メインクロック発振器	サブクロック発振器
高速動作モード	○	○	○	○	○	○
中速動作モード	○	○	○	○	○	○
中速動作モード2	○	○	○	○	○	○
低速動作モード	×	×	×	○	×	○

○ : 動作可能
× : 動作禁止

11.2 レジスタの説明

11.2.1 スタンバイコントロールレジスタ (SBYCR)

アドレス 0008 000Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SSBY	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b14-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	SSBY	ソフトウェアスタンバイビット	0 : WAIT 命令実行後、スリープモードまたはディープスリープモードに遷移 1 : WAIT 命令実行後、ソフトウェアスタンバイモードに遷移	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1” (書き込み許可)にした後で書き換えてください。

SSBY ビット (ソフトウェアスタンバイビット)

WAIT 命令実行後の遷移先を設定します。

SSBY ビットが“1”の状態では WAIT 命令を実行すると、ソフトウェアスタンバイモードへ遷移します。

なお、割り込みによってソフトウェアスタンバイモードが解除され通常モードに遷移したときは、SSBY ビットは“1”のままです。SSBY ビットを“0”にするときは“0”を書いてください。

発振停止検出コントロールレジスタの発振停止検出機能許可ビット (OSTDCR.OSTDE) が“1”のときは、SSBY ビットに設定された値は無効になります。SSBY ビットが“1”のときも、WAIT 命令実行後は、スリープモードまたはディープスリープモードに遷移します。

11.2.2 モジュールストップコントロールレジスタ A (MSTPCRA)

アドレス 0008 0010h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	MSTPA 28	—	—	—	—	—	—	—	—	MSTPA 19	—	MSTPA 17	—
リセット後の値	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	MSTPA 15	—	—	—	—	—	MSTPA 9	—	—	—	MSTPA 5	MSTPA 4	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b4	MSTPA4	8ビットタイマ3、2(ユニット1)モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：TMR3, TMR2 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b5	MSTPA5	8ビットタイマ1、0(ユニット0)モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：TMR1, TMR0 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b8-b6	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b9	MSTPA9	マルチファンクションタイマパルスユニットモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：MTU (MTU0～MTU5) 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b14-b10	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b15	MSTPA15	コンペアマッチタイマ(ユニット0)モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：CMTユニット0 (CMT0, CMT1) 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b16	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b17	MSTPA17	12ビットA/Dコンバータモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：S12AD 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b18	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b19	MSTPA19	D/Aコンバータモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：DA 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b27-b20	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b28	MSTPA28	データトランスファコントローラモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：DTC 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31-b29	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

11.2.3 モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB)

アドレス 0008 0014h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	MSTPB30	—	—	—	MSTPB26	MSTPB25	—	MSTPB23	—	MSTPB21	—	—	—	MSTPB17	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	MSTPB10	MSTPB9	—	—	MSTPB6	—	MSTPB4	—	—	—	MSTPB0
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MSTPB0	CANモジュール モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：RSCAN0 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b4	MSTPB4	シリアルコミュニケーション インタフェース12モジュール ストップ設定ビット	対象モジュール：SCI12 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b6	MSTPB6	DOCモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：DOC 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b8-b7	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b9	MSTPB9	ELCモジュールストップ設定ビット	対象モジュール：ELC 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b10	MSTPB10	コンパレータBモジュールストップ設定 ビット	対象モジュール：CMPB 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b16-b11	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b17	MSTPB17	シリアルペリフェラルインタフェース0 モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：RSPI0 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b20-b18	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b21	MSTPB21	I ² Cバスインタフェース0モジュール ストップ設定ビット	対象モジュール：RIIC0 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b22	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b23	MSTPB23	CRC演算器モジュールストップ設定 ビット	対象モジュール：CRC 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b24	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b25	MSTPB25	シリアルコミュニケーション インタフェース6モジュールストップ設定 ビット	対象モジュール：SCI6 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b26	MSTPB26	シリアルコミュニケーション インタフェース5モジュールストップ設定 ビット	対象モジュール：SCI5 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b29-b27	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b30	MSTPB30	シリアルコミュニケーション インタフェース1モジュールストップ設定 ビット	対象モジュール：SCI1 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”（書き込み許可）にした後で書き換えてください。

11.2.4 モジュールストップコントロールレジスタ C (MSTPCRC)

アドレス 0008 0018h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	DSLPE	—	—	—	MSTPC 27	MSTPC 26	—	—	—	—	—	—	MSTPC 19	—	—	—
リセット後の値	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MSTPC 0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MSTPC0	RAM0 モジュールストップ設定ビット(注1)	対象モジュール：RAM0 (0000 0000h～0000 FFFFh) 0：RAM0動作 1：RAM0停止	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b18-b16	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b19	MSTPC19	クロック周波数精度測定回路 モジュールストップ設定ビット(注2)	対象モジュール：CAC 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b25-b20	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b26	MSTPC26	シリアルコミュニケーション インタフェース9 モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：SCI9 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b27	MSTPC27	シリアルコミュニケーション インタフェース8 モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：SCI8 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b30-b28	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b31	DSLPE	ディープスリープモード許可ビット	0：ディープスリープモード禁止 1：ディープスリープモード許可	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. RAMアクセス中に該当するMSTPC0ビットを“1”にしないでください。また、MSTPC0ビットが“1”の状態、該当するRAMにアクセスしないでください。

注2. MSTPC19ビットの書き換えは、本ビットによって制御するクロックの発振が安定しているときに行ってください。本ビットを書き換えた後、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合は、書き換え後、そのときに発振している発振器のうち、最も遅いクロックを出力する発振器の出カクロックで2サイクル経過したのち、WAIT命令を実行してください。

DSLPE ビット (ディープスリープモード許可ビット)

DSLPE ビットにて、ディープスリープモードへの移行の許可または禁止を設定します。DSLPE ビットを“1”にし、SBYCR.SSBY ビットおよび MSTPCRA.MSTPA28 ビットが所定の条件を満たした状態で、CPU が WAIT 命令を実行した場合、ディープスリープモードに移行します。詳細は「11.6.2 ディープスリープモード」を参照してください。

11.2.5 モジュールストップコントロールレジスタ D (MSTPCRD)

アドレス 0008 001Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	MSTPD 30	MSTPD 29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	MSTPD 10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b9-b8	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b10	MSTPD10	タッチセンサコントロールユニット モジュールストップ設定ビット	対象モジュール：CTSU 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b28-b11	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b29	MSTPD29	真正乱数生成器モジュールストップ設 定ビット	対象モジュール：RNG 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b30	MSTPD30	AESハードウェアアクセラレータモ ジュールストップ設定ビット	対象モジュール：AES 0：モジュールストップ状態の解除 1：モジュールストップ状態へ遷移	R/W
b31	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”（書き込み許可）にした後で書き換えてください。

11.2.6 動作電力コントロールレジスタ (OPCCR)

アドレス 0008 00A0h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	OPCM TSF	—	OPCM[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	OPCM[2:0]	動作電力制御モード 選択ビット	b2 b0 0 0 0 : 高速動作モード 0 1 0 : 中速動作モード 1 0 0 : 中速動作モード2 上記以外は設定しないでください	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	OPCMTSF	動作電力制御モード 遷移状態フラグ	0 : 遷移完了 1 : 遷移中	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

OPCCR レジスタは、通常動作モード、スリープモード、ディープスリープモード、スヌーズモード時の消費電力を低減させるためのレジスタです。

OPCCR レジスタの設定によって、使用する動作周波数に応じて消費電力を低減させることができます。以下に該当する場合、OPCCR レジスタの書き換えは無効になります。

- OPCCR.OPCMTSF フラグが“1”(遷移中)のとき
- スリープモードへ移行するための WAIT 命令実行から、スリープモードから通常動作へ復帰するまでの期間
- ディープスリープモードへ移行するための WAIT 命令実行から、ディープスリープモードから通常動作へ復帰するまでの期間
- SOPCCR.SOPCM ビットが“1”(低速動作モード)のとき

フラッシュメモリがプログラム/イレーズ (P/E) 中は、OPCCR レジスタのライトアクセスはできません。書き込みは無効になります。

動作電力制御モードへの遷移手順は、「11.5 動作電力低減機能」を参照してください。

なお、動作電力制御モードへの遷移中 (OPCCR.OPCMTSF フラグが“1”) は、E2 データフラッシュから正しい値が読み出せません。DTC 転送を使用して E2 データフラッシュを読み出す設定をしている場合は、OPCCR.OPCM[2:0] ビットを書き換える前に DTC モジュールを停止させてください。

スリープモード中、スヌーズモード中、またはモード遷移中は、システム制御関連のレジスタ (「表 5.1 I/O レジスタアドレス一覧」のモジュールシンボル欄に SYSTEM と記載のレジスタ) への書き込みは禁止です。

OPCM[2:0] ビット (動作電力制御モード選択ビット)

通常動作モード、スリープモード、ディープスリープモード、スヌーズモード時の動作電力制御モードを選択します。

表 11.4 に動作電力制御モードと OPCM[2:0] ビットおよび SOPCM ビット設定値と、動作周波数範囲・動作電圧範囲の関係を示します。

中速動作モード 2 ではクロックソースにメインクロック発振器を選択しないでください。

OPCMTSF フラグ (動作電力制御モード遷移状態フラグ)

動作電力制御モード切り替え時の切り替え制御状態を表します。

OPCM[2:0] ビットの値を書き換えると“1”になり、モード遷移が完了すると“0”になります。このフラグが“0”になったことを確認してから次の処理を行ってください。また、OPCM[2:0] ビットの書き換えは、このフラグが“0”のときに行ってください。

11.2.7 サブ動作電力コントロールレジスタ (SOPCCR)

アドレス 0008 00AAh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SOPC MTSF	—	—	—	SOPC M
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SOPCM	サブ動作電力制御モード選択ビット	0：高速動作モード、中速動作モードまたは中速動作モード2(注1) 1：低速動作モード	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	SOPCMTSF	サブ動作電力制御モード遷移状態フラグ	0：遷移完了 1：遷移中	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. OPCCR.OPCM[2:0]の設定による。

SOPCCR レジスタは、低速動作モードへの遷移を制御し、通常動作モード、スリープモード時、ディープスリープモード、スヌーズモード時の消費電力を低減させるためのレジスタです。

SOPCCR レジスタの設定によって、低速動作モードへ遷移、または低速動作モードから復帰することができます。

低速動作モードはサブクロック発振器専用の動作モードです。

低速動作モード中 (SOPCM = 1 のとき) は OPCCR レジスタの書き換えは無効になります。

以下に該当する場合、SOPCCR レジスタの書き換えは無効になります。

- SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“1”(遷移中)のとき
- スリープモードへ遷移するための WAIT 命令実行から通常動作へ復帰するまでの期間
- ディープスリープモードへ移行するための WAIT 命令実行から、ディープスリープモードから通常動作へ復帰するまでの期間

フラッシュメモリが P/E 中はこのレジスタのライトアクセスはできません。書き込みは無効になります。

動作電力制御モードの遷移手順は「11.5 動作電力低減機能」を参照してください。

なお、動作電力制御モードへの遷移中 (SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“1”) は、E2 データフラッシュから正しい値が読み出せません。DTC 転送を使用して E2 データフラッシュを読み出す設定をしている場合は、SOPCCR.SOPCM ビットを書き換える前に DTC モジュールを停止させてください。

スリープモード中、スヌーズモード中、またはモード遷移中は、システム制御関連のレジスタ(「表 5.1 I/O レジスタアドレス一覧」のモジュールシンボル欄に SYSTEM と記載のレジスタ)への書き込みは禁止です。

SOPCM ビット (サブ動作電力制御モード選択ビット)

通常動作モード、スリープモード、ディープスリープモード、スヌーズモード時の動作電力制御を選択します。

このビットに“1”を設定すると低速動作モードに遷移します。“0”に設定すると、低速動作モードへ遷移する前の動作モード (OPCCR.OPCM[2:0] に設定されている動作モード) に戻ります。

表 11.4 に動作電力制御モードと OPCM[2:0] ビットおよび SOPCM ビット設定値と、動作周波数範囲・動

作電圧範囲の関係を示します。

SOPCMTSF フラグ (サブ動作電力制御モード遷移状態フラグ)

サブ動作電力制御モード切り替え時の切り替え制御状態を表します。

SOPCM ビットの値を書き換えると“1”になり、モード遷移が完了すると“0”になります。このフラグが“0”になったことを確認してから次の処理を行ってください。また、SOPCM ビットの書き換えは、このフラグが“0”のときに行ってください。

表 11.4 動作電力制御モードと動作周波数範囲・動作電圧範囲の関係

動作電力制御モード	OPCM [2:0] ビット	SOPCM ビット	動作電圧範囲	動作周波数範囲				
				フラッシュメモリリード時				フラッシュメモリ P/E時
				ICLK	FCLK	PCLKD	PCLKB	FCLK
高速動作モード	000b	0	1.8 ~ 5.5V	~ 48MHz(注1)	~ 48MHz	~ 48MHz	~ 32MHz	1MHz ~ 48MHz(注1)
中速動作モード	010b	0		~ 24MHz	~ 24MHz	~ 24MHz	~ 24MHz	1MHz ~ 24MHz
中速動作モード2	100b	0		~ 1MHz	~ 1MHz	~ 1MHz	~ 1MHz	1MHz
低速動作モード	000b	1		~ 32.768KHz	~ 32.768KHz	~ 32.768KHz	~ 32.768KHz	—
	010b	1						
	100b	1						

注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。

注1. 32MHzより高い周波数のクロックを設定する場合、ROMアクセス時のウェイト挿入を設定する必要があります。詳細は「41. フラッシュメモリ (FLASH)」を参照してください。

各動作電力制御モードについて以下に説明します。

- 高速動作モード

FLASH リード時の最高動作周波数は、ICLK、PCLKD、FCLK が 48MHz で、PCLKB が 32MHz です。
FLASH リード時の動作電圧範囲は 1.8V ~ 5.5V です。

P/E 時の動作周波数範囲は 1 ~ 48MHz、動作電圧範囲は 1.8V ~ 5.5V です。

図 11.3 に高速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係を示します。

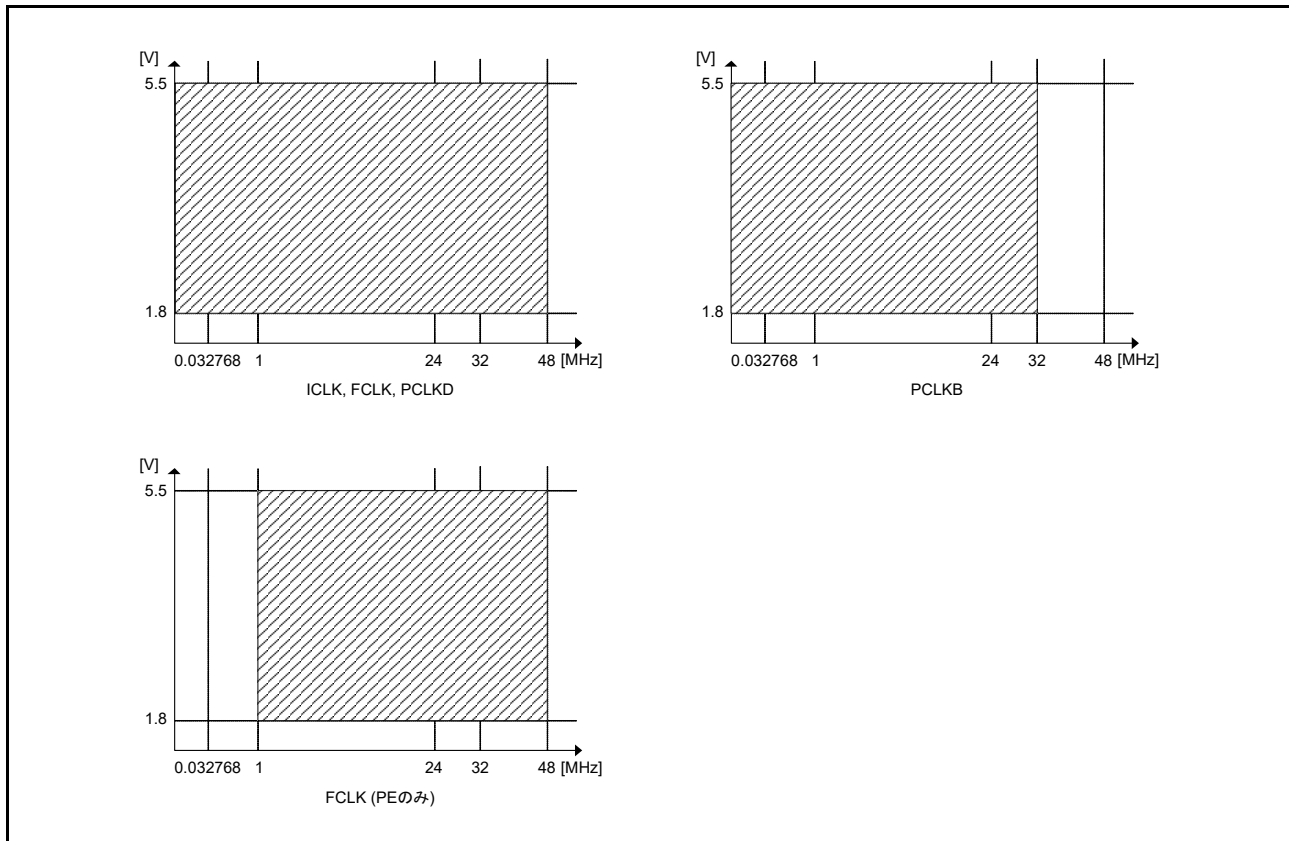


図 11.3 高速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係

注. フラッシュメモリ P/E 時、FCLK を 4MHz 未満で使用する場合は、設定可能な周波数は 1MHz、2MHz、3MHz です。

- 中速動作モード

高速動作モードよりも低速動作向けに消費電力を低減したモードです。

FLASH リード時の最高動作周波数は、ICLK、FCLK、PCLKB、PCLKD が 24MHz です。FLASH リード時の動作電圧範囲は 1.8V ~ 5.5V です。

P/E 時は、動作周波数範囲が 1 ~ 24MHz、動作電圧範囲が 1.8V ~ 5.5V となります。

同条件 (周波数・電圧) で同じ動作をさせる場合、高速動作モードよりも消費電力を低減できます。

リセット解除後は、本モードで起動します。

図 11.4 に中速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係を示します。

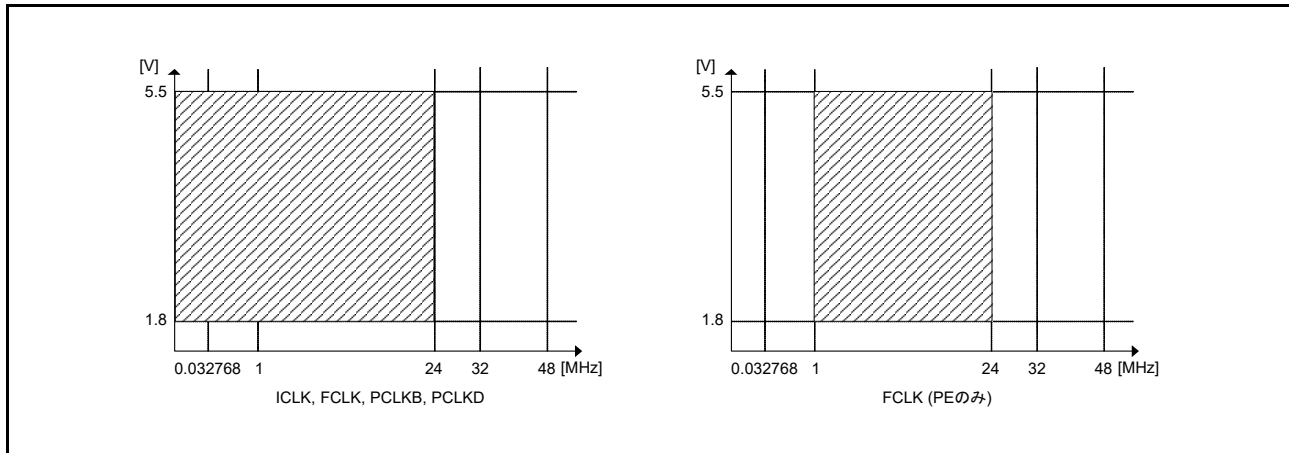


図 11.4 中速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係

注. フラッシュメモリ P/E 時、FCLK を 4MHz 未満で使用する場合は、設定可能な周波数は 1MHz、2MHz、3MHz です。

- 中速動作モード 2

中速動作モードよりも低速動作向けに消費電力を低減したモードです。なお、中速動作モード 2 ではクロックソースにメインクロック発振器を選択しないでください。

FLASH リード時の最高動作周波数は、ICLK、FCLK、PCLKB、PCLKD とも 1MHz で、動作電圧範囲は、1.8V ~ 5.5V です。

P/E 時の動作可能周波数は 1MHz、動作電圧範囲は 1.8V ~ 5.5V です。

同条件 (周波数・電圧) で同じ動作をさせる場合、中速動作モードよりも消費電力を低減できます。

図 11.5 に中速動作モード 2 における動作電圧と動作周波数の関係を示します。

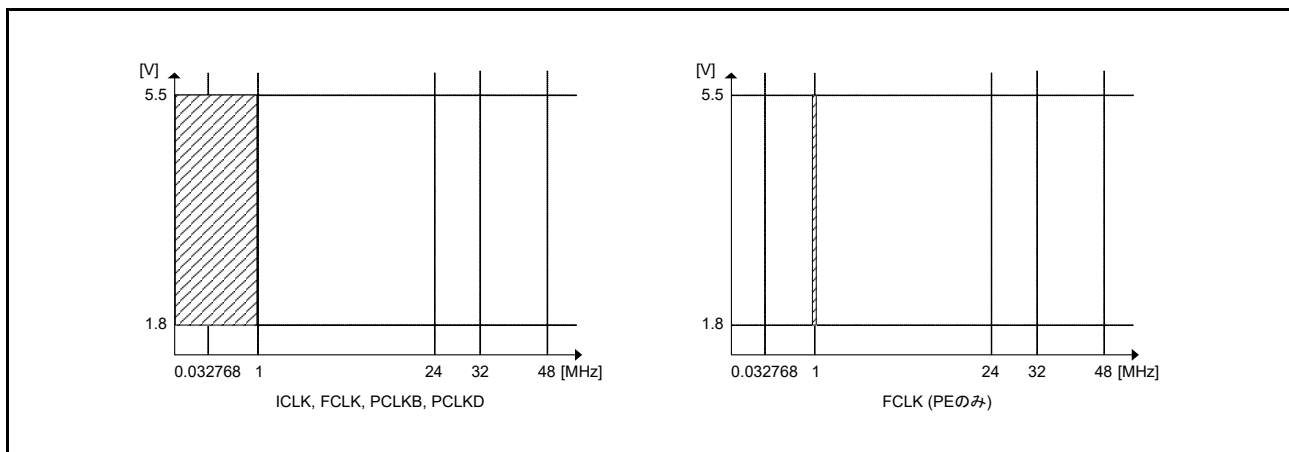


図 11.5 中速動作モード 2 における動作電圧と動作周波数の関係

- 低速動作モード

SOPCCR レジスタの SOPCM ビットに“1”を書くことにより、低速動作モードに遷移します。低速動作モード中に OPCM の設定を変更することはできません。低速動作モードは 32.768kHz のサブ発振器専用の動作モードです。

FLASH リード時の最高動作周波数は、ICLK、FCLK、PCLKB、PCLKD とも 32.768kHz で、動作電圧範囲は、1.8V ~ 5.5V です。

低速動作モード選択時には以下の制限事項があります。

- フラッシュメモリの P/E 動作は禁止です。
- PLL、メインクロック発振器、LOCO および HOCO は使用禁止です。

注． PLLCR2.PLEN ビットが“0” (PLL 動作) のとき、SOPCM ビットへの“1”書き込みは無効になります。
 HOCO.CR.HCSTP ビットが“0” (HOCO 動作) のとき、SOPCM ビットへの“1”書き込みは無効になります。
 MOSCCR.MOSTP ビットが“0” (メインクロック発振器動作) のとき、SOPCM ビットへの“1”書き込みは無効になります。
 LOCO.CR.LCSTP ビットが“0” (LOCO 動作) のとき、SOPCM ビットへの“1”書き込みは無効になります。

図 11.6 に低速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係を示します。

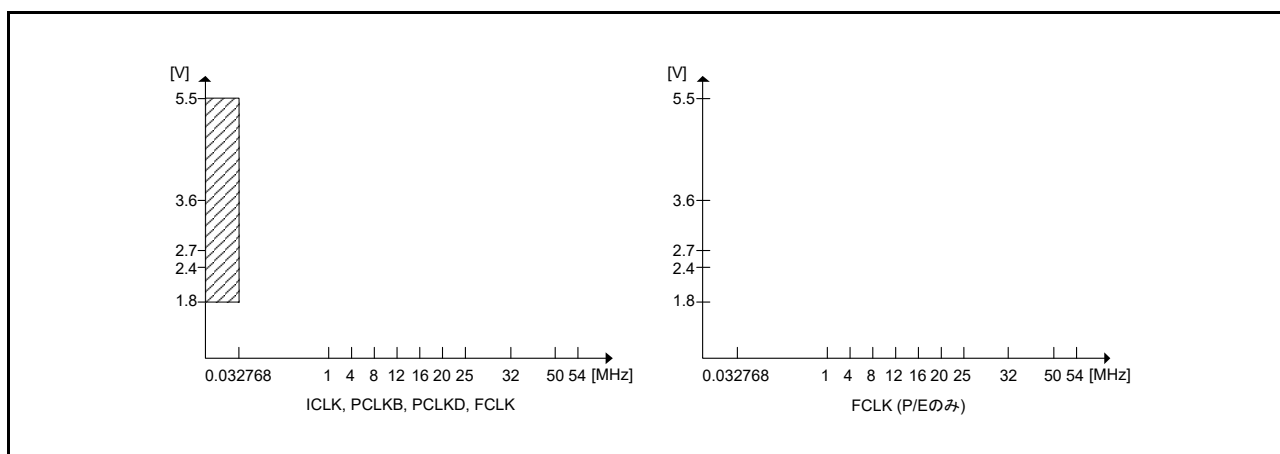


図 11.6 低速動作モードにおける動作電圧と動作周波数の関係

11.2.8 スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ (RSTCKCR)

アドレス 0008 00A1h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RSTCK EN	—	—	—	—	RSTCKSEL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	RSTCKSEL [2:0]	スリープモード復帰クロック ソース選択ビット	b2 b0 0 0 0 : LOCO 選択 0 0 1 : HOCO 選択(注1) 0 1 0 : メインクロック発振器選択(注2) RSTCKENビットが“1”のとき、上記以外は設定しないでください	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	RSTCKEN	スリープモード復帰クロック ソース切り替え許可ビット	0 : スリープモード解除時クロックソース切り替え無効 1 : スリープモード解除時クロックソース切り替え有効	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. HOCOは復帰先が高速動作モード時のみ選択可能です。

注2. メインクロック発振器は復帰先が高速動作モード時と中速動作モード時の場合、選択可能です。

RSTCKCR レジスタは、スリープモード解除時のクロックソース切り替えの制御を行うレジスタです。

RSTCKCR レジスタの設定によってスリープモードから復帰する場合、復帰するクロックソースに対応したメインクロック発振器コントロールレジスタのメインクロック停止ビット (MOSCCR.MOSTP)、高速オンチップオシレータコントロールレジスタのHOCO停止ビット (HOCOCR.HCSTP)、低速オンチップオシレータコントロールレジスタのLOCO停止ビット (LOCOCR.LCSTP) は、自動的に動作状態に書き換えられます。また、RSTCKSEL[2:0] ビットの値が自動的にシステムクロックコントロールレジスタ3のクロックソース選択ビット (SCKCR3.CKSEL[2:0]) にリロードされます。

RSTCKSEL[2:0] ビット (スリープモード復帰クロックソース選択ビット)

スリープモード解除時のクロックソースを選択します。

RSTCKSEL[2:0] ビットでのクロックソース選択は、RSTCKEN ビットが“1”の場合のみ有効です。

図 11.2 の動作モードで、スリープモードから高速動作モードへ復帰する場合は、LOCO、HOCO、メインクロック発振器が選択可能です。また、スリープモードから中速動作モードへ復帰する場合は、LOCO、メインクロック発振器が選択可能です。スリープモードから中速動作モード2へ復帰する場合は、LOCOが選択可能です。ただし、スリープモードから中速動作モード2へ復帰する場合、各クロック (ICLK、FCLK、PCLKB、PCLKD) の周波数は1MHz以下にしてください。

表 11.5 スリープモードから高速動作モードおよび中速動作モードへ復帰する場合

スリープ時の動作モード	スリープ時の クロックソース	RSTCKSEL	復帰後の 動作モード	復帰後のクロックソース
高速動作モードまたは、 高速動作モードから遷移 した低速動作モード	サブクロック発振器	000b (LOCO)	高速動作モード	LOCO
		001b (HOCO)		HOCO
		010b (メインクロック発振器)		メインクロック発振器
中速動作モードまたは、 中速動作モードから遷移 した低速動作モード	サブクロック発振器	000b (LOCO)	中速動作モード	LOCO
		010b (メインクロック発振器)		メインクロック発振器
中速動作モード2または、 中速動作モード2から遷 移した低速動作モード	サブクロック発振器	000b (LOCO)	中速動作モード2	LOCO(注1)

注1. 各クロック (ICKL, FCLK, PCLKD, PCLKB)の周波数は1MHz以下にしてください。

RSTCKEN ビット (スリープモード復帰クロックソース切り替え許可ビット)

スリープモード解除時のクロックソース切り替えの有効/無効を制御します。

スリープモード解除時にクロックソースの切り替えを行なうのは、スリープモード遷移時のクロックとしてサブクロック発振器を選択している場合のみとしてください。HOCO、LOCO、メインクロック発振器、PLL をクロックソースに選択している状態でスリープモードに遷移する場合には、本ビットを有効に設定しないでください。

本ビットを有効に設定した状態でスリープモードから復帰する場合は、SOPCCR レジスタの SOPCM ビットは自動的に“0”(中速動作モード2、中速動作モードまたは高速動作モード)に書き換わります。

分周設定 (SCKCR レジスタ) の値は保持されます。

スリープモードから中速動作モード2へ復帰する場合は、各クロックの周波数は1MHz以下になるようにしてください。

11.2.9 スヌーズコントロールレジスタ (SNZCR)

アドレス 0008 00AEh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SNZDTC	—	—	—	—	—	—	—	CTSUSNZSEL	ADCSNZSEL	LPTSNZSEL	SCISNZSEL				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SCISNZSEL [1:0]	SCIスヌーズ動作選択ビット	SCI5の動作によるスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件の設定 b1 b0 0 x: このビットの設定ではスヌーズモードに遷移しない 1 0: RXD5の立ち下がりを検出するとスヌーズモードに遷移、受信したデータとSCI5.CDRレジスタの値が一致しなかった場合、ソフトウェアスタンバイモードに戻る 1 1: RXD5の立ち下がりを検出するとスヌーズモードに遷移、受信したデータとSCI5.CDRレジスタの値が一致しなかった場合、または受信したデータをDTCで転送した後、ソフトウェアスタンバイモードに戻る	R/W
b3-b2	LPTSNZSEL [1:0]	LPTスヌーズ動作選択ビット	LPTの動作によるスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件の設定 b3 b2 0 x: このビットの設定ではスヌーズモードに遷移しない 1 0: LPTコンペアマッチ1によりスヌーズモードに遷移、ソフトウェアスタンバイモードには戻らない 1 1: LPTコンペアマッチ1によりスヌーズモードに遷移、LPTコンペアマッチ1起因のDTC転送が1回終了すると、ソフトウェアスタンバイモードに戻る	R/W
b5-b4	ADCSNZSEL [1:0]	S12ADスヌーズ動作選択ビット	S12ADの動作によるスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件の設定 b5 b4 0 x: このビットの設定ではスヌーズモードに遷移しない 1 0: LPTコンペアマッチ1によりスヌーズモードに遷移、ソフトウェアスタンバイモードには戻らない 1 1: LPTコンペアマッチ1によりスヌーズモードに遷移、A/Dコンバータの変換終了起因のDTC転送が1回終了すると、ソフトウェアスタンバイモードに戻る	R/W
b7-b6	CTSUSNZSEL [1:0]	CTSUスヌーズ動作選択ビット	CTSUの動作によるスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件の設定 b7 b6 0 x: このビットの設定ではスヌーズモードに遷移しない 1 0: LPTコンペアマッチ1によりスヌーズモードに遷移、CTSUからのスヌーズ終了要求でソフトウェアスタンバイモードに戻る 1 1: 設定禁止	R/W
b14-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	SNZDTC	スヌーズモード時DTC許可ビット	スヌーズモードでのDTC転送の許可設定 0: スヌーズモードでのDTC転送を禁止 1: スヌーズモードでのDTC転送を許可	R/W

x: Don't care

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

SNZCR レジスタは、ソフトウェアスタンバイモード中にスヌーズモードへ移行するためのスヌーズ遷移条件、スヌーズモードを終了するためのスヌーズ終了条件を設定するレジスタです。スヌーズモードで動作させる周辺機能の種類に合わせて、ソフトウェアスタンバイモードに移行する前にこのレジスタを設定してください。スヌーズモードで動作させる周辺機能や割り込みコントローラ、DTCの設定についても、ソフトウェアスタンバイモードに移行する前に設定してください。また、本レジスタでスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件を設定する場合、ローパワータイマスタンバイ復帰許可レジスタのローパワータイマスタンバイ復帰許可ビットを“0”にしてください。

なお、本レジスタ設定は、ソフトウェアスタンバイモード以外の動作モードでは、動作に影響を与えません。

SCISNZSEL [1:0] ビット (SCI スヌーズ動作選択ビット)

ソフトウェアスタンバイモード中に SCI5 でデータ受信を行う場合に使用します。

このビットを“10b”にした場合、ソフトウェアスタンバイモード中に RXD5 端子でスタートビットを検出すると、スヌーズモードに遷移してデータ受信を行います。受信したデータと SCI5.CDR レジスタの値が一致しなかったら、スヌーズモードを抜けてソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

このビットを“11b”にした場合、ソフトウェアスタンバイモード中に RXD5 端子でスタートビットを検出すると、スヌーズモードに遷移してデータ受信を行います。受信したデータと SCI5.CDR レジスタの値が一致しなかったとき、または一致した場合に受信データを DTC で転送し終わるとスヌーズモードを抜けてソフトウェアスタンバイモードに戻ります。受信データが一致して以降は、スタートビット検出でスヌーズモードに遷移し、受信データを DTC で転送し終わるとソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

LPTSNZSEL [1:0] ビット (LPT スヌーズ動作選択ビット)

ソフトウェアスタンバイモード中に LPT のコンペアマッチ 1 によってスヌーズモードに遷移する場合に使用します。

このビットを“10b”または“11b”にした場合、ソフトウェアスタンバイモード中に LPT のコンペアマッチ 1 が検出されると、スヌーズモードに遷移します。

このビットを“10b”にした場合、スヌーズモードに遷移した後は、割り込みによってスヌーズモードを解除するまでスヌーズモードを保持します。

このビットを“11b”にした場合、スヌーズモード中に LPT のコンペアマッチ 1 によって起動した DTC 転送が 1 回終了すると、スヌーズモードを抜けてソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

ADCSNZSEL [1:0] ビット (S12AD スヌーズ動作選択ビット)

ソフトウェアスタンバイモード中に S12AD で A/D 変換を行う場合に使用します。この場合、ELC を使用して、A/D 変換開始条件に LPT コンペアマッチ 1 を選択してください。

このビットを“10b”または“11b”にした場合、ソフトウェアスタンバイモード中に LPT のコンペアマッチ 1 が検出されると、スヌーズモードに遷移して A/D 変換を行います。

このビットを“10b”にした場合、スヌーズモードに遷移した後は、割り込みによってスヌーズモードを解除するまでスヌーズモードを保持します。

このビットを“11b”にした場合、スヌーズモード中に A/D コンバータの変換終了によって起動した DTC 転送が 1 回終了すると、スヌーズモードを抜けてソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

CTSUSNZSEL [1:0] ビット (CTSUS スヌーズ動作選択ビット)

ソフトウェアスタンバイモード中に CTSU でタッチ判定を行う場合に使用します。この場合、CTSUS の計測動作開始条件に外部トリガを選択し、ELC を使用して CTSU にリンクするイベントに LPT コンペアマッチ 1 を選択してください。

このビットを“10b”にした場合、ソフトウェアスタンバイモード中に LPT のコンペアマッチ 1 が検出されると、スヌーズモードに遷移して計測動作を行います。計測が終了して CTSU からスヌーズ終了要求が発行されると、スヌーズモードを抜けてソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

SNZDTC ビット (スヌーズモード時 DTC 許可ビット)

スヌーズモードでの DTC と RAM の動作を許可するビットです。スヌーズモードで DTC と RAM を動作させる場合には、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する前に、本ビットを“1”に設定してください。

11.2.10 スヌーズコントロールレジスタ 2 (SNZCR2)

アドレス 0008 00ACh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CTSUFNE[1:0]	ADE[1:0]	LPTCM1E[1:0]	SCIRXE[1:0]	—	—	—	—	—	SCIERE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SCIERE	SCI受信エラー選択ビット	0 : スヌーズ解除割り込みにSCI5受信エラー条件を選択しない 1 : スヌーズ解除割り込みにSCI5受信エラー割り込み要因を選択する	R/W
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3-b2	SCIRXE[1:0]	SCI受信データフル選択ビット	b3 b2 0 0 : スヌーズ解除割り込みにSCI5受信データフル条件を選択しない 0 1 : スヌーズ解除割り込みにSCI5受信データフル割り込み要因を選択する 1 x : スヌーズ解除割り込みにSCI5受信データフルによるDTC転送完了イベントを選択する	R/W
b5-b4	LPTCM1E[1:0]	LPTコンペアマッチ1選択ビット	b5 b4 0 0 : スヌーズ解除割り込みにLPTコンペアマッチ1条件を選択しない 0 1 : スヌーズ解除割り込みにLPTコンペアマッチ1割り込み要因を選択する 1 x : スヌーズ解除割り込みにLPTコンペアマッチ1によるDTC転送完了イベントを選択する	R/W
b7-b6	ADE[1:0]	S12AD変換終了選択ビット	b7 b6 0 0 : スヌーズ解除割り込みにS12AD変換終了条件を選択しない 0 1 : スヌーズ解除割り込みにS12AD変換終了割り込み要因を選択する 1 x : スヌーズ解除割り込みにS12AD変換終了によるDTC転送完了イベントを選択する	R/W
b9-b8	CTSUFNE[1:0]	CTSU測定終了選択ビット	b9 b8 0 0 : スヌーズ解除割り込みにCTSU測定終了条件を選択しない 0 1 : スヌーズ解除割り込みにCTSU測定終了割り込み要因を選択する 1 x : 設定禁止	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

x : Don't care

注. このレジスタはPRCR.PRC1ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

SNZCR2レジスタは、スヌーズ解除割り込みの要因を選択するレジスタです。選択された要因、イベントが発生すると、スヌーズ解除割り込みを出力します。スヌーズモードで動作させる周辺機能の種類に合わせて、ソフトウェアスタンバイモードに移行する前にこのレジスタを設定してください。複数の要因、イベントを選択した場合は、それぞれの要因、イベントが発生するたびにスヌーズ解除割り込みが出力されます。なお、本レジスタ設定は、ソフトウェアスタンバイモード以外の動作モードでも有効となります。

SCIERE ビット (SCI 受信エラー選択ビット)

スヌーズ解除割り込みにSCI5受信エラー割り込み条件を設定するビットです。SCIEREビットを“1”に設定すると、スヌーズ解除割り込みにSCI5受信エラー割り込み要因が選択されます。

SCIRXE[1:0] ビット (SCI 受信データフル選択ビット)

スヌーズ解除割り込みに SCI5 受信データフル割り込み条件を設定するビットです。SCIRXE[1:0] ビットを "01b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに SCI5 受信データフル割り込み要因が選択されます。また、SCIRXE[1:0] ビットを "10b" または "11b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに SCI5 受信データフル割り込みによる DTC 転送完了イベントが選択されます。

LPTCM1E[1:0] ビット (LPT コンペアマッチ 1 選択ビット)

スヌーズ解除割り込みに LPT コンペアマッチ 1 割り込み条件を設定するビットです。LPTCM1E[1:0] ビットを "01b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに LPT コンペアマッチ 1 割り込み要因が選択されます。

また、LPTCM1E[1:0] ビットを "10b" または "11b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに LPT コンペアマッチ 1 割り込みによる DTC 転送完了イベントが選択されます。

ADE[1:0] ビット (S12AD 変換終了選択ビット)

スヌーズ解除割り込みに S12AD 変換終了割り込み条件を設定するビットです。ADE[1:0] ビットを "01b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに S12AD 変換終了割り込み要因が選択されます。また、ADE[1:0] ビットを "10b" または "11b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに S12AD 変換終了割り込みによる DTC 転送完了イベントが選択されます。

CTSUFNE[1:0] ビット (CTSU 測定終了選択ビット)

スヌーズ解除割り込みに CTSU 測定終了割り込み条件を設定するビットです。CTSUFNE[1:0] ビットを "01b" に設定すると、スヌーズ解除割り込みに CTSU 測定終了割り込み要因が選択されます。

11.3 クロックの切り替えによる消費電力の低減

SCKCR.FCK[3:0]、ICK[3:0]、PCKB[3:0]、PCKD[3:0] ビットを設定すると、クロック周波数が切り替わります。CPU、DTC、ROM、RAM は、ICK[3:0] ビットで設定した動作クロックで動作します。

周辺モジュールは、PCKB[3:0]、PCKD[3:0] ビットで設定した動作クロックで動作します。
フラッシュインタフェースは FCK[3:0] ビットで設定した動作クロックで動作します。
詳細は「9. クロック発生回路」を参照してください。

11.4 モジュールストップ機能

モジュールストップ機能は、内蔵周辺モジュール単位で設定することができます。

MSTPCRA ~ MSTPCRD レジスタに対応する MSTPmi ビット ($m=A \sim D, i=31 \sim 0$) を“1”にすると、モジュールは動作を停止してモジュールストップ状態へ遷移します。このとき CPU は独立して動作を続けます。対応する MSTPmi ビットを“0”にすることによって、モジュールストップ状態は解除され、バスサイクルの終了時点でモジュールは動作を再開します。モジュールストップ状態では、モジュールの内部状態が保持されています。

リセット解除後は、DTC、RAM を除くすべてのモジュールがモジュールストップ状態になっています。

モジュールストップ状態に設定されたモジュールのレジスタは、読み出し、書き込みともにできませんが、モジュールストップ設定直後に書き込みを行った場合、書き込める場合がありますので注意してください。

11.5 動作電力低減機能

動作周波数、動作電圧に応じて動作電力制御モードを選択することにより、通常動作時、スリープモード時、ディープスリープモード時、スヌーズモード時の消費電力を低減することができます。

11.5.1 動作電力制御モード設定方法

動作電力制御モードの遷移手順を以下に示します。

(1) 消費電力が大きいモードから消費電力が小さいモードへ切り替える場合

- 例 1：高速動作モードから中速動作モードへの切り替え

(高速動作モードで高速動作)

↓

各クロックの周波数を中速動作モードの最高動作周波数以下に設定

↓

OPCCR.OPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認

↓

OPCCR.OPCM[2:0] ビットを“010b”(中速動作モード)に設定

↓

OPCCR.OPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認

↓

(中速動作モードで中速動作)

- 例2：高速 / 中速動作モードから低速動作モードへの切り替え
高速動作モードで高速動作 / 中速動作モードで中速動作

↓
各クロックの周波数を低速動作モードの最高動作周波数以下に設定
↓
サブクロック発振器以外がすべて停止していることを確認
↓
SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
SOPCCR.SOPCM ビットを“1”(低速動作モード)に設定
↓
SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
低速動作モードで低速動作

(2) 消費電力が小さいモードから消費電力が大きいモードへ切り替える場合

- 例1：低速動作モードから高速 / 中速動作モードへの切り替え
低速動作モードで低速動作

↓
SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
SOPCCR.SOPCM ビットを“0”(高速動作モードまたは中速動作モード)に設定
↓
SOPCCR.SOPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
各クロックの周波数を高速 / 中速動作モードの最高動作周波数以下に設定
↓
高速動作モードで高速動作 / 中速動作モードで中速動作

- 例2：中速動作モードから高速動作モードへの切り替え
中速動作モードで中速動作

↓
OPCCR.OPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
OPCCR.OPCM[2:0] ビットを“000b”(高速動作モード)に設定
↓
OPCCR.OPCMTSF フラグが“0”(遷移完了)であることを確認
↓
各クロックの周波数を高速動作モードの最高動作周波数以下に設定
↓
高速動作モードでの高速動作

11.6 低消費電力状態

11.6.1 スリープモード

11.6.1.1 スリープモードへの移行

SBYCR.SSBY ビットが“0”の状態では WAIT 命令を実行すると、スリープモードになります。スリープモード時、CPU の動作は停止しますが、CPU の内部レジスタは値を保持します。CPU 以外の周辺機能は停止しません。

IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“1”のときにスリープモードへ移行すると、IWDT はカウントを停止します。同様に、レジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSR.SLCSTP ビットが“1”のときにスリープモードへ移行すると、IWDT はカウントを停止します。

また、IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“0” (低消費電力モード遷移時 IWDT カウント継続) のときは、スリープモードへ移行後も IWDT はカウントを継続します。同様に、レジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSR.SLCSTP ビットが“0” のときは、スリープモードへ移行後も IWDT はカウントを継続します。

スリープモードを使用する場合、以下の設定を行った後、WAIT 命令を実行してください。

- (1) CPU の PSW.I ビット (注1) を“0”にする。
- (2) スリープモードからの復帰に使用する割り込みの要求先 (注2) を CPU に設定する。
- (3) スリープモードからの復帰に使用する割り込みの優先レベル (注3) を、CPU の PSW.IPL[3:0] ビット (注1) よりも高く設定する。
- (4) スリープモードからの復帰に使用する割り込みの IERm.IENj ビット (注3) を“1”にする。
- (5) 最後に書き込みを行った I/O レジスタを読み出し、書き込み値が反映されていることを確認する。
- (6) WAIT 命令の実行 (WAIT 命令の実行により CPU の PSW.I ビット (注1) は自動的に“1”になります)。

注1. 詳細は「2. CPU」を参照してください。

注2. 詳細は「14.4.3 割り込み要求先の選択」を参照してください。

注3. 詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

11.6.1.2 スリープモードの解除

スリープモードの解除は、すべての割り込み、RES# 端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、IWDTC のアンダフローによるリセットによって行われます。

- 割り込みによる解除

割り込みが発生すると、スリープモードは解除され、割り込み例外処理を開始します。マスカブル割り込みが CPU でマスクされている場合 (割り込み優先レベルが(注1)CPU の PSW.IPL[3:0] ビット(注2)以下に設定されている場合) には、スリープモードは解除されません。

- RES# 端子リセットによる解除

RES# 端子を Low にすると、リセット状態になります。規定のリセット入力期間が経過した後、RES# 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。

- パワーオンリセットによる解除

パワーオンリセットによって、スリープモードが解除されます。

- 電圧監視リセットによる解除

電圧検出回路の電圧監視リセットによって、スリープモードが解除されます。

- 独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除

IWDTC のアンダフローの内部リセットによって、スリープモードが解除されます。ただし、スリープモード時に IWDTC がカウントを停止する条件 (OFS0.IWDTCSTRT = 0 かつ OFS0.IWDTCSLCSTP = 1、または OFS0.IWDTCSTRT = 1 かつ IWDTCSTPR.SLCSTP = 1) では、IWDTC が停止しますので、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除はできません。

注 1. 詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

注 2. 詳細は「2. CPU」を参照してください。

11.6.1.3 スリープモード復帰クロックソース切り替え機能

スリープモード復帰クロック切り替えを行うには、スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ (RSTCKCR) による復帰後のクロックの設定と、クロックのウェイトコントロールレジスタの設定が必要となります。復帰割り込みが発生すると、復帰クロックとして設定された発振器の発振安定を待った後、自動的にクロックソースを切り替え、スリープモードから復帰します。その際、クロックソース切り替えに関連するレジスタが自動的に書き換えられます。

詳細は「11.2.8 スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ (RSTCKCR)」を参照してください。また、発振安定待ち時間の設定については、「9.2.13 メインクロック発振器ウェイトコントロールレジスタ (MOSCWTCR)」を参照してください。

11.6.2 ディープスリープモード

11.6.2.1 ディープスリープモードへの遷移

MSTPCRC.DSLPE ビットを“1”に設定し、かつ MSTPCRA.MSTPA28 ビットを“1”に設定し SBYCR.SSBY ビットを“0”にクリアした状態で WAIT 命令を実行すると、ディープスリープモードに遷移します。

ディープスリープモードでは、CPUに加え、DTC、ROM、RAMのクロックも停止します。周辺機能は停止しません。

IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“1”のときに、ディープスリープモードへ遷移すると、IWDT はカウントを停止します。同様に、レジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSLTPR.SLCSTP ビットが“1”のときに、ディープスリープモードへ遷移すると、IWDT はカウントを停止します。

また、IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“0” (低消費電力モード遷移時 IWDT カウント継続) のときは、ディープスリープモードへ遷移後も、IWDT はカウントを継続します。同様にレジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSLTPR.SLCSTP ビットが“0” のときは、ディープスリープモードへ遷移後、IWDT はカウントを継続します。

ディープスリープモードを使用する場合、以下の設定を行った後、WAIT 命令を実行してください。

- (1) CPU.PSW.I ビット(注1)を“0”にする。
- (2) ディープスリープモードからの復帰に使用する割り込みの要求先(注2)を CPU に設定する。
- (3) ディープスリープモードからの復帰に使用する割り込みの優先レベル(注3)を、CPU の PSW.IPL[3:0] ビット(注1)よりも高く設定する。
- (4) ディープスリープモードからの復帰に使用する割り込みの IERm.IENj(注3)を“1”にする。
- (5) 最後に書きこみを行った I/O レジスタを読み出し、書き込み値が反映されていることを確認する。
- (6) WAIT 命令を実行する (WAIT 命令の実行により CPU の PSW.I(注1)は自動的に“1”になります)。

注1. 詳細は「2. CPU」を参照してください。

注2. 詳細は「14.4.3 割り込み要求先の選択」を参照してください。

注3. 詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

11.6.2.2 ディープスリープモードの解除

ディープスリープモードの解除は、すべての割り込み、RES# 端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、IWDT のアンダフローによるリセットによって行われます。

- 割り込みによる解除
割り込みが発生すると、ディープスリープモードは解除され、割り込み例外処理を開始します。マスクされた割り込みが CPU でマスクされている場合 (割り込みの優先レベル(注1)が CPU の PSW.IPL[3:0] ビット(注2)以下に設定されている場合)には、ディープスリープモードは解除されません。
- RES# 端子リセットによる解除
RES# 端子を Low にすると、リセット状態になります。規定のリセット入力期間が経過した後、RES# 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。
- パワーオンリセットによる解除
パワーオンリセットによって、ディープスリープモードが解除されます。
- 電圧監視リセットによる解除
電圧検出回路の電圧監視リセットにより、ディープスリープモードが解除されます。
- 独立ウォッチドッグタイマによる解除
IWDT のアンダフローの内部リセットによって、ディープスリープモードが解除されます。ただし、ディープスリープモード時に IWDT がカウントを停止する条件 (OFS0.IWDTSTRT = 0 かつ OFS0.IWDTSLCSTP = 1、または OFS0.IWDTSTRT = 1 かつ IWDTCSTPR.SLCSTP = 1) では、IWDT が停止しますので、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除はできません。

注 1. 詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

注 2. 詳細は「2. CPU」を参照してください。

11.6.3 ソフトウェアスタンバイモード

11.6.3.1 ソフトウェアスタンバイモードへの移行

SBYCR.SSBY ビットを“1”にした状態で WAIT 命令を実行すると、ソフトウェアスタンバイモードに移行します。このモードでは、CPU、内蔵周辺機能、およびサブクロック発振器以外のすべての機能が停止します。ただし、CPU の内部レジスタの値と RAM のデータ、内蔵周辺機能と I/O ポートの状態、サブクロック発振器の状態は保持されます。ソフトウェアスタンバイモードでは、発振器が停止するため、消費電力は著しく低減されます。

スヌーズモードにおいて DTC を起動しない場合、WAIT 命令を実行する前に DTC の DTCST.DTCST ビットを“0”にしてください。

IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“1”のときに、ソフトウェアスタンバイモードへ移行すると、IWDT はカウントを停止します。同様に、レジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSLTPR.SLCSTP ビットが“1”のときにソフトウェアスタンバイモードへ移行すると、IWDT はカウントを停止します。

また、IWDT をオートスタートモードで使用している場合、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“0”（低消費電力モード遷移時 IWDT カウント継続）のときは、ソフトウェアスタンバイモードへ移行後も IWDT はカウントを継続します。同様に、レジスタスタートモードで使用している場合、IWDTCSLTPR.SLCSTP ビットが“0”のときは、ソフトウェアスタンバイモードへ移行後も IWDT はカウントを継続します。

ソフトウェアスタンバイモードを使用する場合、以下の設定を行った後、WAIT 命令を実行してください。

- (1) CPU の PSW.I ビット(注1)を“0”にする。
- (2) ソフトウェアスタンバイモードからの復帰に使用する割り込みの要求先(注2)を CPU に設定する。
- (3) ソフトウェアスタンバイモードからの復帰に使用する割り込みの優先レベル(注3)を CPU の PSW.IPL[3:0] ビット(注1)よりも高く設定する。
- (4) ソフトウェアスタンバイモードからの復帰に使用する割り込みの IERm.IENj ビット(注3)を“1”にする。
- (5) 最後に書き込みを行った I/O レジスタを読み出し、書いた値が反映されていることを確認する。
- (6) WAIT 命令を実行する (WAIT 命令の実行によって CPU の PSW.I ビット(注1)は自動的に“1”になります)。

注 1. 詳細は「2. CPU」を参照してください。

注 2. 詳細は「14.4.3 割り込み要求先の選択」を参照してください。

注 3. 詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

11.6.3.2 ソフトウェアスタンバイモードの解除

ソフトウェアスタンバイモードの解除は、外部端子割り込み (NMI, IRQ0 ~ IRQ7)、周辺機能割り込み (RTC アラーム、RTC 周期、IWDT、電圧監視、ELC (LPT 専用割り込み))、RES# 端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、独立ウォッチドッグタイマリセットによって行われます。ソフトウェアスタンバイモードの解除要因が発生すると、ソフトウェアスタンバイモード移行前に動作していた各発振器は動作を再開します。その後、これらすべての発振器の発振が安定するのを待ってソフトウェアスタンバイモードから復帰します。

- 割り込みによる解除

NMI、IRQ0 ~ IRQ7、RTC アラーム、RTC 周期、IWDT、電圧監視、ELC (LPT 専用割り込み) の割り込み要求が発生すると、ソフトウェアスタンバイモード移行前に動作していた各発振器は動作を再開します。その後、MOSCWTCR.MSTS[4:0] ビットで設定した各発振器の発振安定待ち時間が経過したところで、ソフトウェアスタンバイモードは解除され、割り込み例外処理を開始します。

- RES# 端子リセットによる解除

RES# 端子を Low にすると、クロックは発振を開始します。クロックの発振開始と同時に、MCU にクロックを供給します。このとき RES# 端子はクロックの発振が安定するまで Low を保持するようにしてください。RES# 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。

- パワーオンリセットによる解除

電源電圧の低下によってパワーオンリセットが発生すると、ソフトウェアスタンバイモードは解除されます。

- 電圧監視リセットによる解除

電源電圧の低下によって電圧監視リセットが発生すると、ソフトウェアスタンバイモードは解除されません。

- 独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除

IWDT のアンダフローの内部リセットによって、ソフトウェアスタンバイモードが解除されます。ただし、ソフトウェアスタンバイモード時に独立ウォッチドッグタイマがカウントを停止する条件 (OFS0.IWDTSTRT = 0 かつ OFS0.IWDTSLCSTP = 1、または OFS0.IWDTSTRT = 1 かつ IWDTCSTPR.SLCSTP = 1) では、独立ウォッチドッグタイマが停止しますので、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除はできません。

11.6.3.3 ソフトウェアスタンバイモードの応用例

IRQn 端子の立ち下がリエッジでソフトウェアスタンバイモードに移行し、IRQn 端子の立ち上がりエッジでソフトウェアスタンバイモードの解除を行う例を図 11.7 に示します。

この例では、ICU の IRQCRI.IRQMD[1:0] ビットが “01b” (立ち下がリエッジ) の状態で、IRQn 割り込みを受け付けた後、IRQCRI.IRQMD[1:0] ビットを “10b” (立ち上がりエッジ) に設定し、SBYCR.SSBY ビットを “1” にした後、WAIT 命令を実行してソフトウェアスタンバイモードに移行しています。その後、IRQn 端子の立ち上がりエッジでソフトウェアスタンバイモードが解除されます。

なお、ソフトウェアスタンバイモードからの復帰には、割り込みコントローラ (ICU) の設定も必要となります。詳細は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

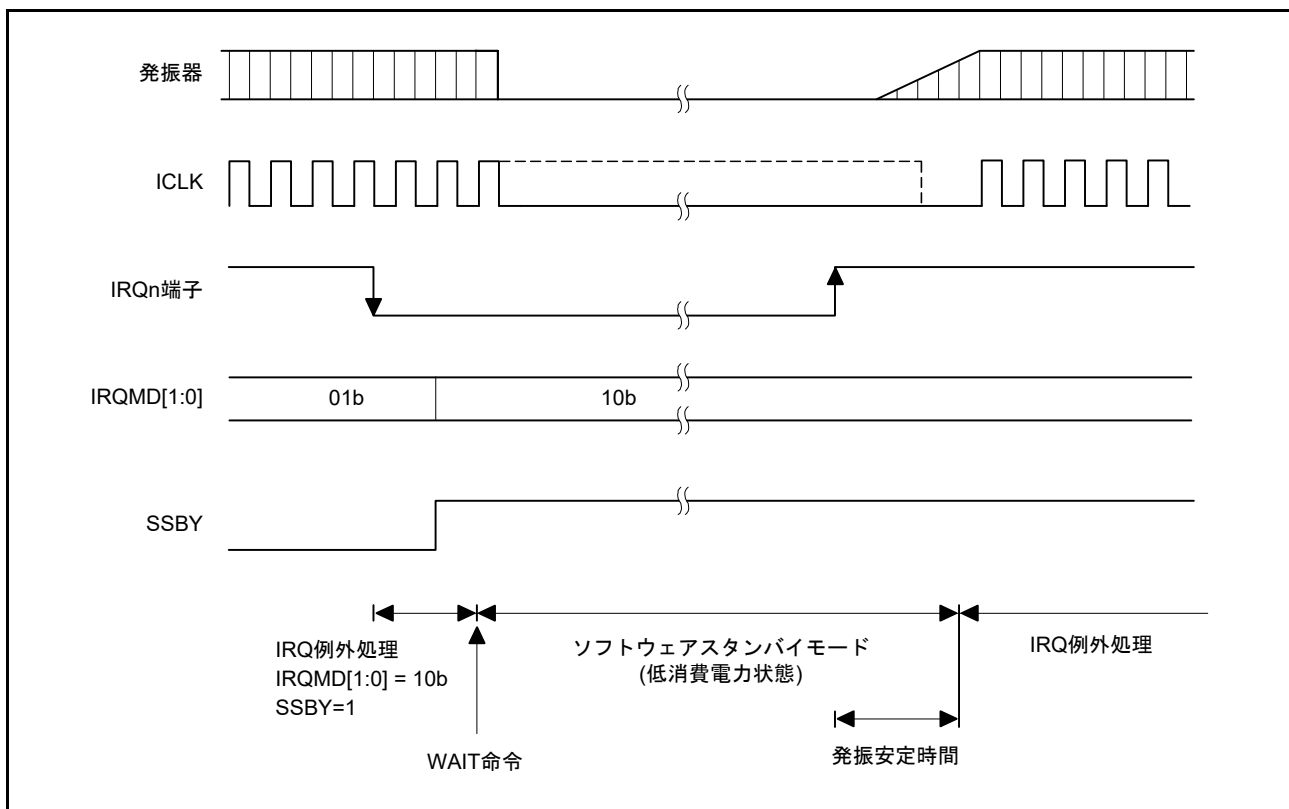


図 11.7 ソフトウェアスタンバイモードの応用例

11.6.4 スヌーズモード

スヌーズモードは、ソフトウェアスタンバイモード時に、一時的に周辺機能の動作が再開する状態です。

11.6.4.1 スヌーズモードへの移行

SNZCR レジスタでスヌーズ遷移条件を設定した状態でソフトウェアスタンバイモードに移行し、設定したスヌーズ遷移条件が検出されると、スヌーズモードへ遷移します。

スヌーズモードでは、CPU、ROM 以外の周辺機能、発振器、オンチップオシレータが動作を再開します。スヌーズモードで動作が不要な機能については、ソフトウェアスタンバイモードに移行する前に、モジュールストップ状態、停止状態に設定してください。また、スヌーズモードで動作させる必要のある機能については、ソフトウェアスタンバイモードに移行する前に動作設定を行ってください。

スヌーズモードで DTC を使用しない場合、DTC の DTCST.DTCST ビットを“0”、SNZCR.SNZDTCE を“0”にしてからソフトウェアスタンバイモードに移行してください。スヌーズモードで DTC を使用する場合は、DTC の DTCST.DTCST ビットを“1”、SNZCR.SNZDTCE を“1”にしてからソフトウェアスタンバイモードに移行してください。

11.6.4.2 スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードへの復帰

SNZCR レジスタでスヌーズ終了条件を設定した状態でスヌーズモードに遷移し、設定したスヌーズ終了条件が検出されると、発振器、オンチップオシレータ、周辺機能の動作が停止し、スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに復帰します。

スヌーズ終了条件の受け付けはスヌーズモードでのみ有効で、スヌーズモード以外では無視されます。

SNZCR レジスタで複数のスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件の組み合わせを設定した場合、いずれかの組み合わせにおいてスヌーズ遷移条件が発行され、スヌーズ終了条件が発行されていない状態であれば、他の組み合わせで発生したスヌーズ終了条件によるソフトウェアスタンバイモードへの復帰は行われません。

11.6.4.3 スヌーズモードの解除

スヌーズモードの解除は、外部端子割り込み (NMI, IRQ0 ~ IRQ7)、周辺機能割り込み (RTC アラーム、RTC 周期、IWDT、電圧監視、スヌーズ解除)、RES# 端子リセット、パワーオンリセット、電圧監視リセット、独立ウォッチドッグタイマリセットによって行われます。

- 割り込みによる解除

NMI、IRQ0 ~ IRQ7、RTC アラーム、RTC 周期、IWDT、電圧監視、スヌーズ解除の割り込み要求が発生すると、スヌーズモードおよびソフトウェアスタンバイモードは解除され、割り込み例外処理を開始します。

スヌーズ解除割り込みは、スヌーズモードから通常動作モードへ復帰するためのスヌーズ解除専用の割り込みです。SNZCR2 レジスタの設定により、スヌーズ解除割り込みの発生条件が選択できます。

SNZCR2 レジスタ設定は、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する直前にスヌーズ解除割り込みとして使用する要因を有効に設定し、通常動作モードに復帰後は要因選択を無効にしてください。

- RES# 端子リセットによる解除

RES# 端子を Low にすると、リセット状態になります。RES# 端子を High にすると、CPU はリセット例外処理を開始します。

- パワーオンリセットによる解除

電源電圧の低下によってパワーオンリセットが発生すると、スヌーズモードおよびソフトウェアスタンバイモードは解除されます。

- 電圧監視リセットによる解除

電源電圧の低下によって電圧監視リセットが発生すると、スヌーズモードおよびソフトウェアスタンバイモードは解除されます。

- 独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除

IWDT のアンダフローの内部リセットによって、スヌーズモードおよびソフトウェアスタンバイモードが解除されます。ただし、ソフトウェアスタンバイモード時に独立ウォッチドッグタイマがカウントを停止する条件 (OFS0.IWDTSTRT=0 かつ OFS0.IWDTSLCSTP=1、または OFS0.IWDTSTRT=1 かつ IWDTCSTPR.SLCSTP=1) では、独立ウォッチドッグタイマが停止しますので、独立ウォッチドッグタイマリセットによる解除はできません。

11.6.4.4 スヌーズ解除割り込み

スヌーズ解除割り込みは、スヌーズモードから通常動作モードへ復帰するためのスヌーズ解除専用の割り込みです。SNZCR2 レジスタの設定で選択した要因が発生すると、スヌーズ解除割り込み (SNZI) が発生します。SNZCR2 レジスタ設定と選択される要因の関係は「11.2.10 スヌーズコントロールレジスタ 2 (SNZCR2)」を参照してください。SNZCR2 レジスタ設定は、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する直前にスヌーズ解除割り込みとして使用する要因を有効に設定し、通常動作モードに復帰後は要因選択を無効にしてください。なお、SNZCR2 レジスタの設定で選択した割り込み要因について、割り込みコントローラの設定で割り込み要求の許可を設定した場合、通常動作モードへ復帰後スヌーズ解除割り込みに加えて選択した割り込みも発生します。

表 11.6 スヌーズ解除割り込み要因

名称	割り込み要因	DTCの起動
SNZI	SNZCR2レジスタ設定で選択した要因	不可能

11.6.4.5 スヌーズモードでの SCI5 データ受信動作例

スヌーズモードでは、SCI5 の調歩同期式モードでデータ受信を行うことができます。

SNZCR.SCISNZSEL ビットを“10b”または“11b”にした場合、ソフトウェアスタンバイ中に SCI5 がスタートビットを検出すると、スヌーズモードに遷移します。スタートビットを検出しスヌーズモードに遷移すると、ソフトウェアスタンバイモードに遷移する前に動作していた発振器、オンチップオシレータの動作が再開し、発振安定時間経過後に SCI5 の動作が再開し、データの受信を行います。基本クロックでのサンプリング動作は SCI5 の動作再開後となり、発振安定時間分データサンプリングタイミングが遅延します。クロックソースには高速オンチップオシレータ (HOCO) を選択し、低速オンチップオシレータ (LOCO)、メインクロック発振器、PLL は停止としてください。

SNZCR2 レジスタの設定により、スヌーズ解除割り込み条件に SCI5 受信データフル条件を設定することで、データ受信完了による通常動作モードへの復帰が可能です。

SNZCR.SCISNZSEL ビットを“10b”にした場合、受信したデータと SCI5.CDR レジスタの値が一致しなかったら、スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに戻ります。また、SNZCR.SCISNZSEL ビットを“11b”に設定した場合、受信したデータと SCI5.CDR レジスタの値が一致しないか、一致し受信したデータを DTC で転送し終わるとスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに戻ります。受信したデータと SCI5.CDR レジスタの値の一致以降は、スタートビットを検出するとスヌーズモードに遷移し、受信したデータを DTC で転送し終わるとスヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

スヌーズモードで DTC を用いて、連続したデータを受信する場合は、通常動作モードでの DTC 設定に加え、SNZCR.SNZDTCE ビットを“1”に設定してください。また、SNZCR2 レジスタによるスヌーズ解除割り込み条件の設定は、受信データフルによる DTC 転送完了イベントを設定してください。

図 11.8 にスヌーズモードでの SCI5 データ受信設定フローの例を、図 11.9 ~ 図 11.11 にスヌーズモードでの SCI5 データ受信動作タイミングを示します。

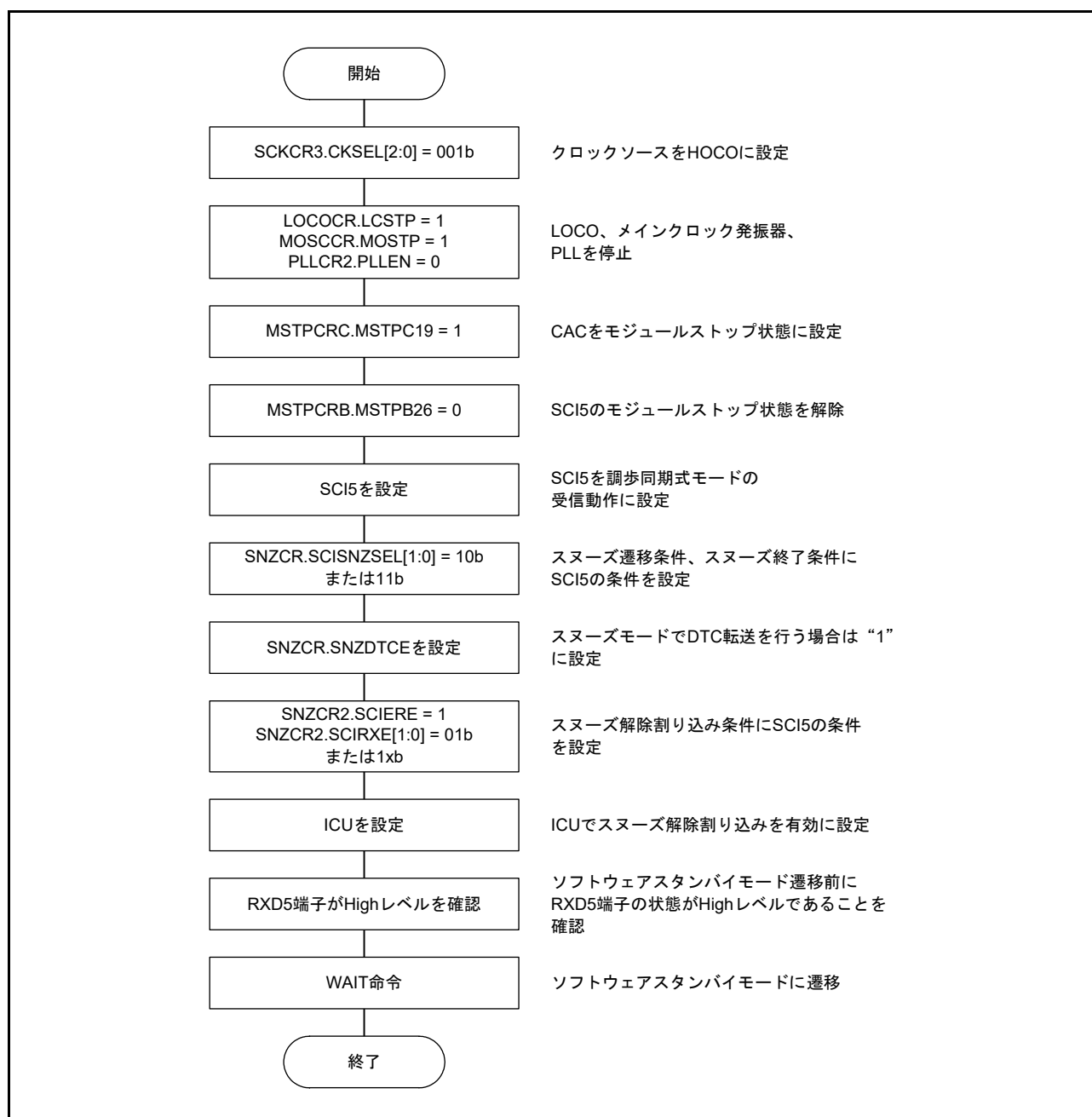


図 11.8 スヌーズモードでの SCI5 データ受信設定フローの例

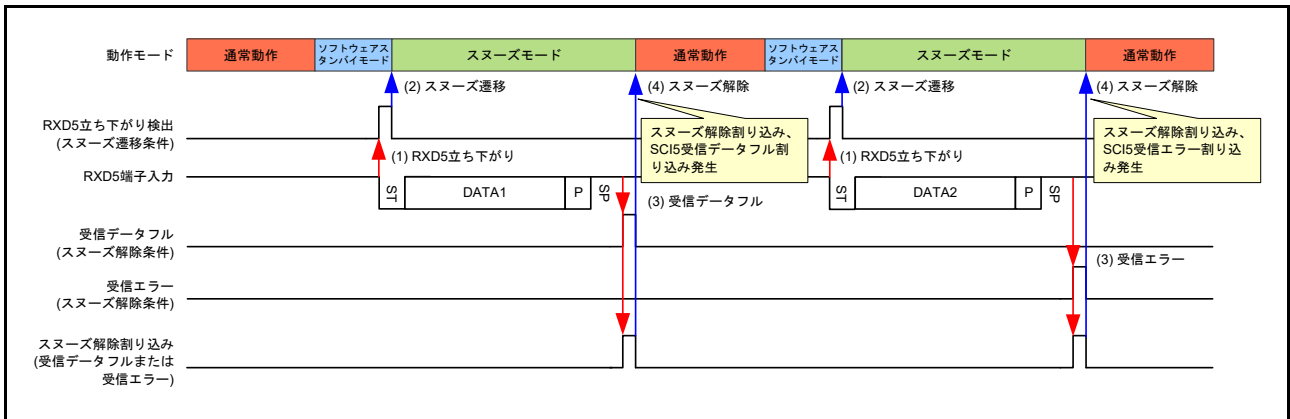


図 11.9 スリープモードでの SCI5 データ受信 (受信データフルまたは受信エラーでスリープモード解除)

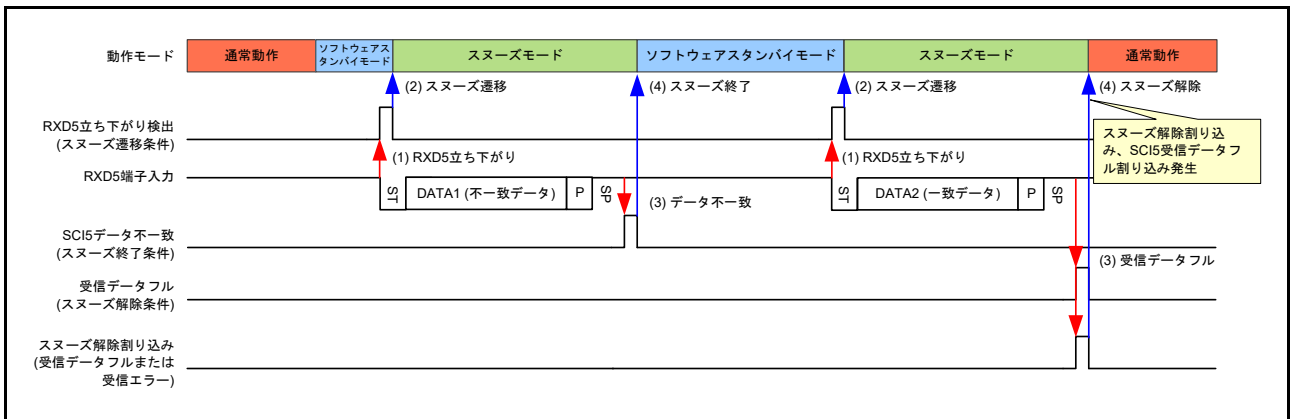


図 11.10 スリープモードでの SCI5 データ受信 (データ不一致でスリープモード終了、受信データフルでスリープモード解除)

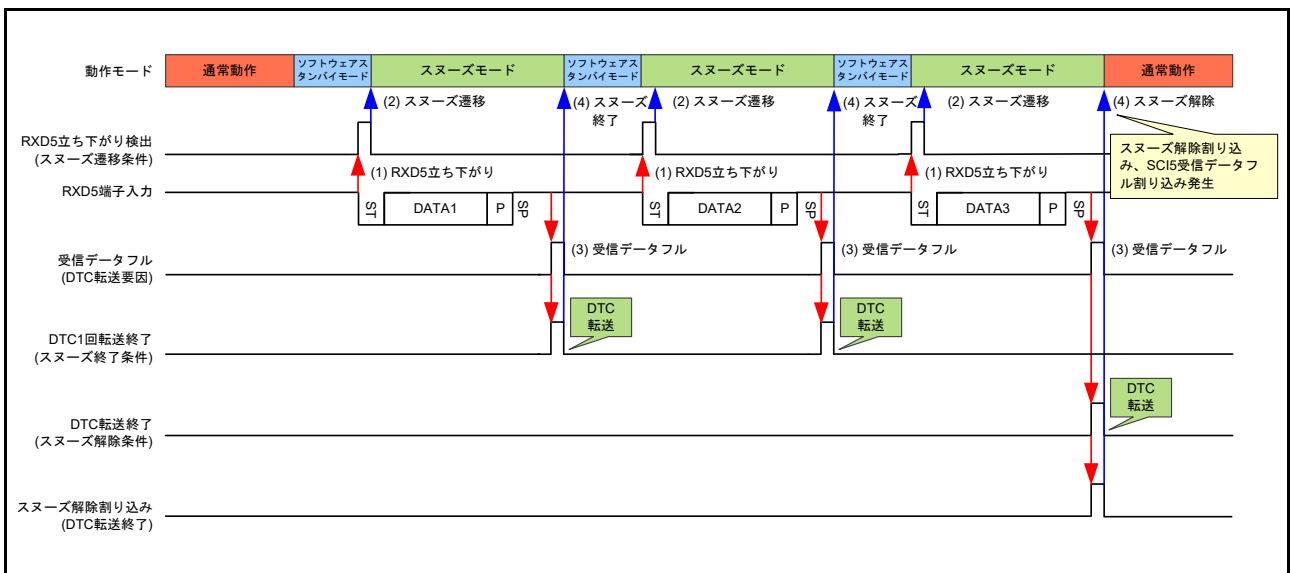


図 11.11 スリープモードでの SCI5 データ受信 (DTC 転送終了でスリープモード終了、DTC 転送終了割り込みでスリープモード解除)

11.6.4.6 スヌーズモードでの AD 変換動作例

スヌーズモードでは、S12AD での AD 変換動作を行うことができます。AD 変換開始トリガに ELC を経由してソフトウェアスタンバイモードで動作する LPT のコンペアマッチ 1 を使用することにより、定期的な AD 変換動作を行うことができます。

SNZCR.ADCSNZSEL ビットを“10b”または“11b”に設定した場合、ソフトウェアスタンバイモード中 LPC コンペアマッチ 1 が検出されると、スヌーズモードに遷移します。スヌーズモードに遷移すると、ソフトウェアスタンバイに遷移する前に動作していた発振器、オンチップオシレータの動作が再開し、発振安定時間経過後に ELC、S12AD の動作が再開します。S12AD の AD 変換開始条件を ELC からのトリガに設定し、ELC の設定で S12AD にリンクするイベントに LPT コンペアマッチ 1 を設定することで、スヌーズモード遷移後に S12AD の AD 変換動作を行うことができます。S12AD の動作モードはシングルスキャンモードとし、温度センサ出力、内部基準電圧の変換は行わないでください。

SNZCR2 レジスタの設定により、スヌーズ解除割り込み条件に S12AD 変換終了条件を設定することで、AD 変換終了による通常動作モードへの復帰が可能です。

SNZCR.ADCSNZSEL ビットを“10b”にした場合、スヌーズモードに遷移した後、割り込みによってスヌーズモードを解除するまでスヌーズモードを継続します。また、SNZCR.ADCSNZSEL ビットを“11b”にした場合、スヌーズモード中に AD 変換の終了によって起動した DTC 転送が 1 回終了すると、スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに戻ります。ソフトウェアスタンバイモードに復帰後、LPC コンペアマッチ 1 が再度発生すると、再びスヌーズモードに遷移し AD 変換を行います。

スヌーズモードで DTC を用いて、AD 変換結果を RAM に転送する場合は、通常動作モードでの DTC 設定に加え、SNZCR.SNZDTCE ビットを“1”に設定してください。また、SNZCR2 レジスタによるスヌーズ解除割り込み条件の設定は、S12AD 変換終了による DTC 転送完了イベントを設定してください。

図 11.12 にスヌーズモードでの S12AD 変換動作設定フローの例を、図 11.13、図 11.14 にスヌーズモードでの S12AD 変換動作タイミングを示します。

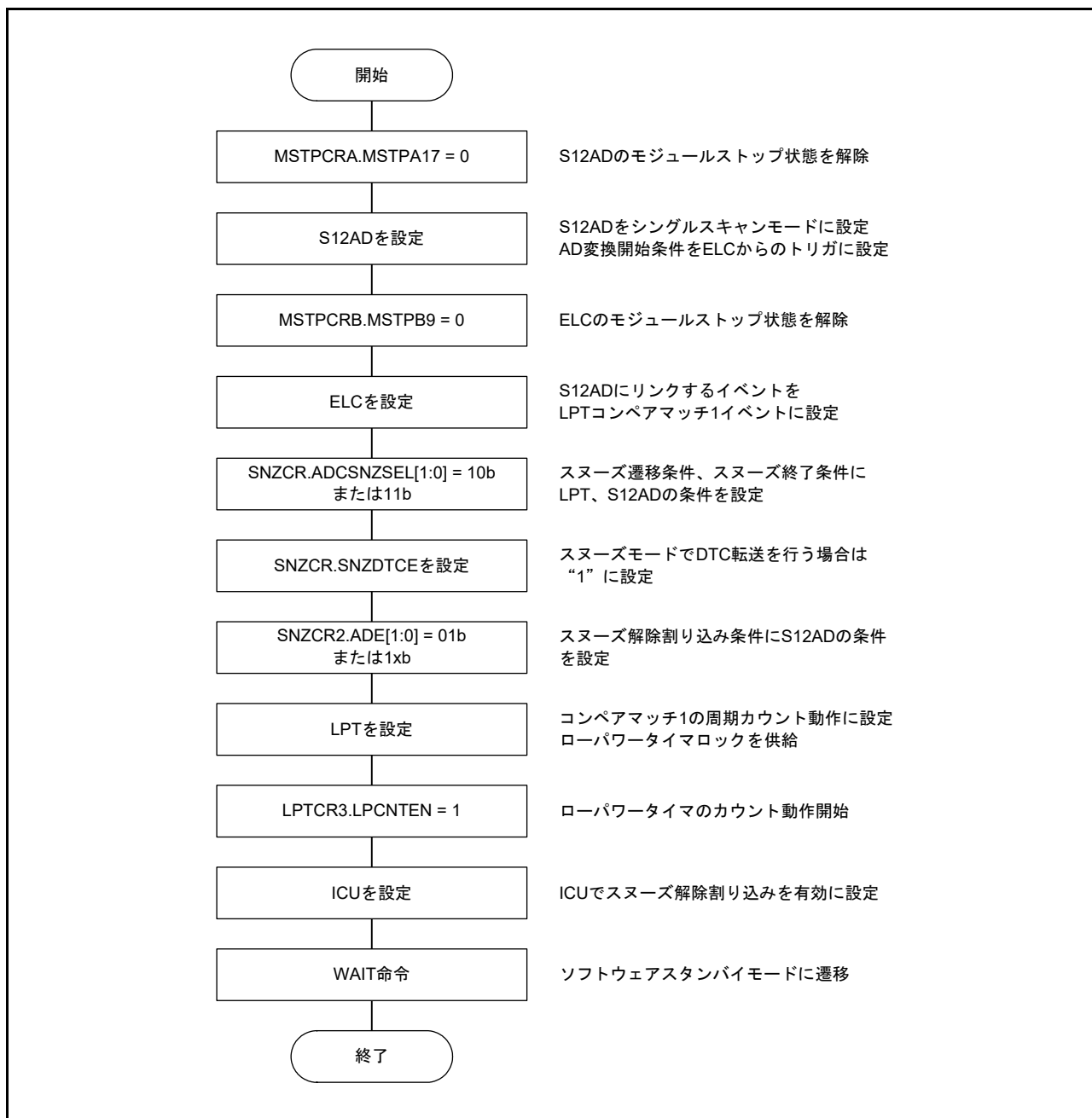


図 11.12 スヌーズモードでの S12AD 変換動作設定フローの例

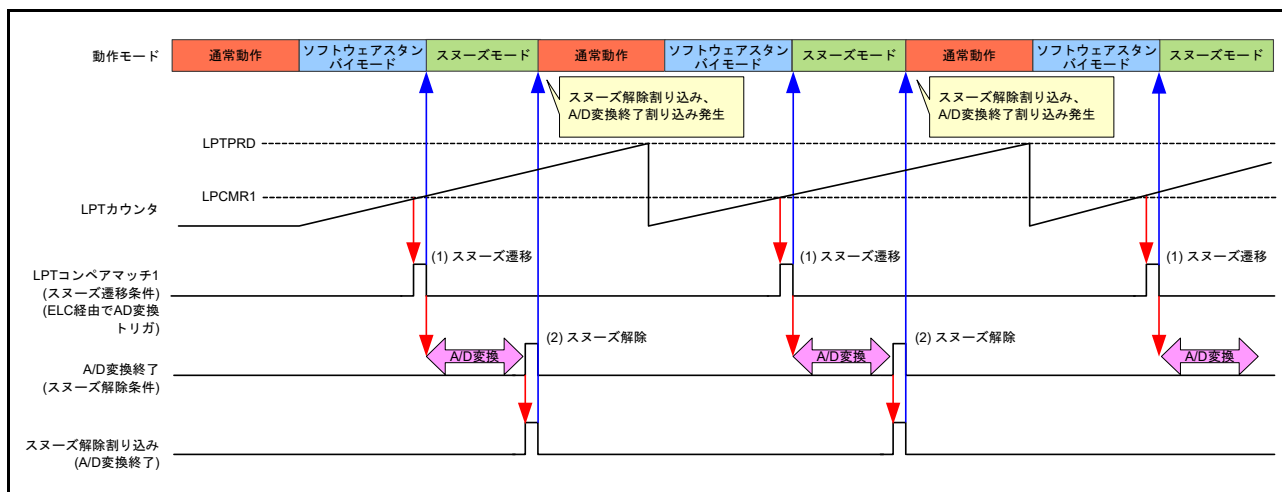


図 11.13 スヌーズモードでの S12AD 変換動作タイミング (DTC 転送無し)

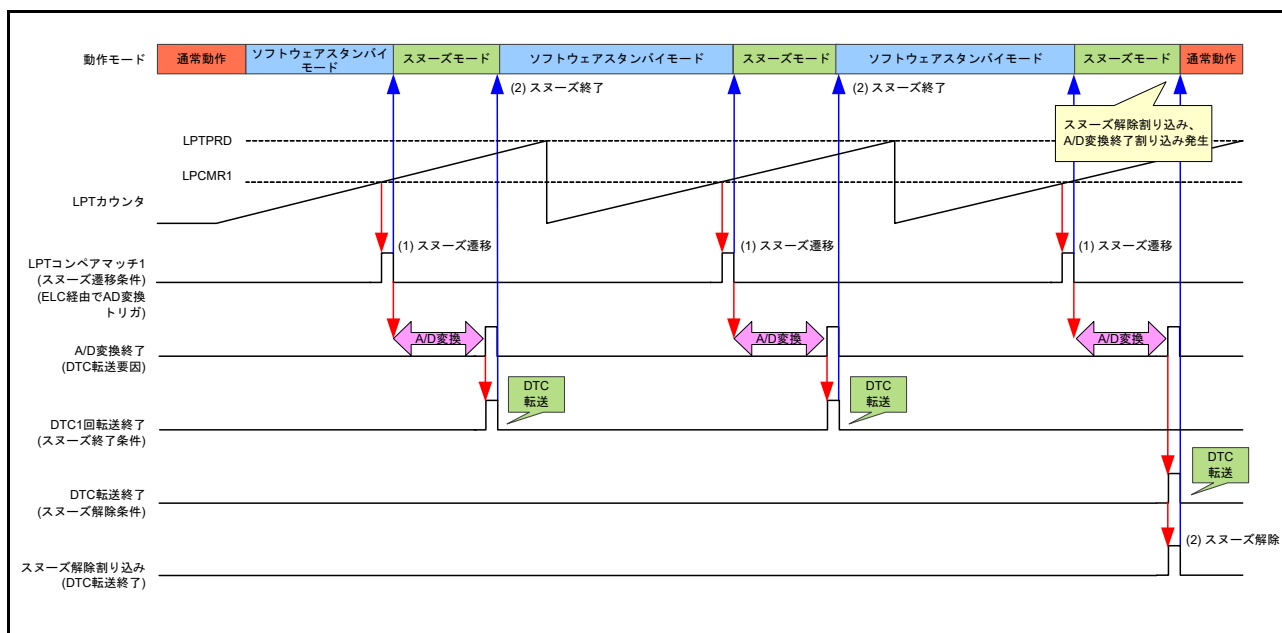


図 11.14 スヌーズモードでの S12AD 変換動作タイミング (DTC 転送有り)

11.6.4.7 スヌーズモードでの CTSU 計測動作例

スヌーズモードでは、CTSU での計測動作を行うことができます。CTSU の計測開始トリガに ELC を経由してソフトウェアスタンバイモードで動作する LPT のコンペアマッチ 1 を使用することにより、定期的な CTSU 計測動作を行うことができます。

SNZCR.CTSUSNZSEL ビットを“10b”に設定した場合、ソフトウェアスタンバイモード中に LPT コンペアマッチ 1 が検出されると、スヌーズモードに遷移します。スヌーズモードに遷移すると、ソフトウェアスタンバイに遷移する前に動作していた発振器、オンチップオシレータの動作が再開し、発振安定時間経過後に ELC、CTSU の動作が再開します。CTSU の計測開始条件を外部トリガ (ELC からのイベント入力) に設定し、ELC の設定で CTSU にリンクするイベントに LPT コンペアマッチ 1 を設定することで、スヌーズモード遷移後に CTSU の計測動作を行うことができます。計測が終了して CTSU からスヌーズ終了要求が発行されると、スヌーズモードからソフトウェアスタンバイモードに戻ります。

SNZCR2 レジスタの設定により、スヌーズ解除割り込み条件に CTSU 測定終了条件を設定することで、CTSU 測定終了による通常動作モードへの復帰が可能です。

スヌーズモードにおいて、DTC を用いてチャンネル毎の設定レジスタの書き込みやチャンネル毎の測定データの転送を行う場合は、通常動作モードでの DTC 設定に加え、SNZCR.SNZDTCE ビットを“1”に設定してください。

図 11.15 にスヌーズモードでの CTSU 計測動作設定フローの例を、図 11.16 にスヌーズモードでの CTSU 計測動作タイミングを示します。

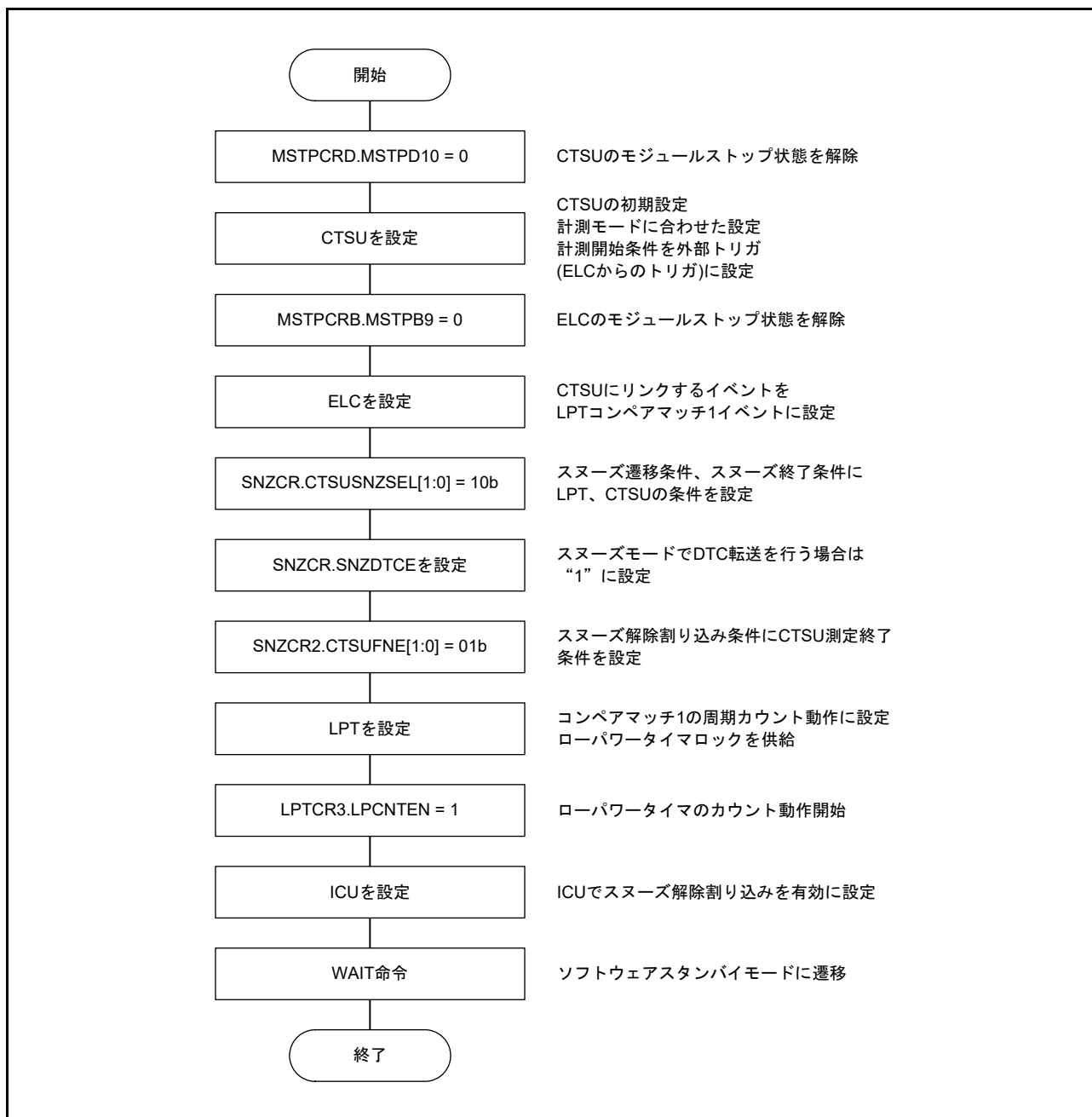


図 11.15 スヌーズモードでの CTSU 計測動作設定フローの例

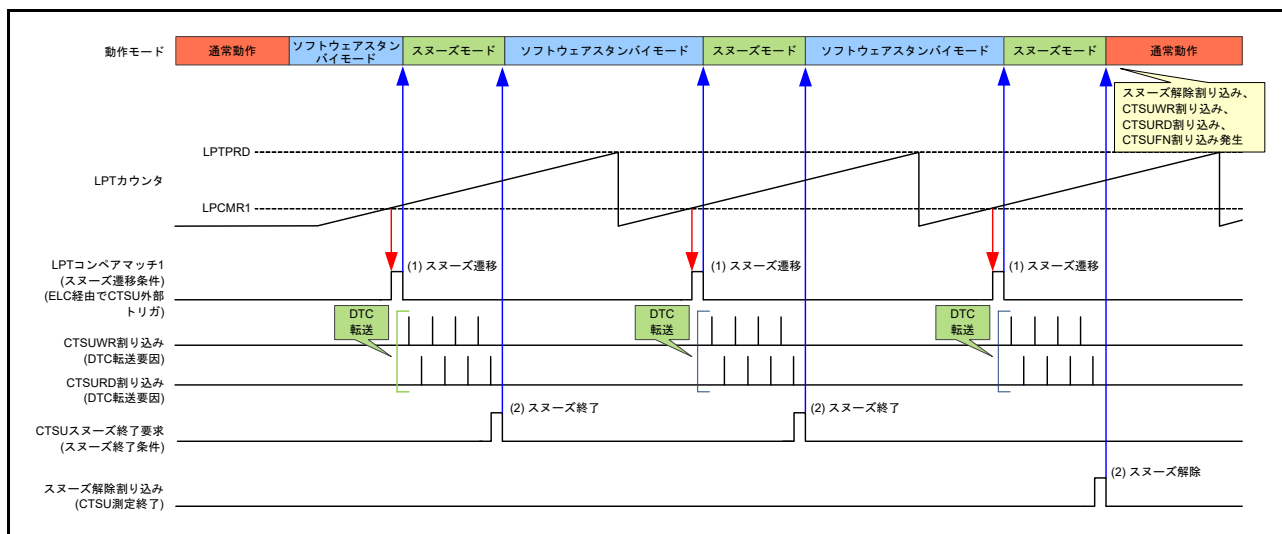


図 11.16 スヌーズモードでの CTSU 計測動作タイミング

11.7 使用上の注意事項

11.7.1 I/O ポートの状態

ソフトウェアスタンバイモードでは、I/O ポートの状態を保持します。

11.7.2 DTC のモジュールストップ

MSTPCRA.MSTPA28 ビットを“1”にする前に、DTC の DTCST.DTCST ビットを“0”にして、DTC が起動していない状態にしてください。

詳細は、「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」を参照してください。

11.7.3 内蔵周辺モジュールの割り込み

モジュールストップ状態では当該割り込みの動作ができません。したがって、割り込み要求が発生した状態でモジュールストップとすると、CPU の割り込み要因または DTC の起動要因のクリアができません。事前に割り込みを禁止してからモジュールストップ状態にしてください。

11.7.4 MSTPCRA、MSTPCRB、MSTPCRC、MSTPCRD レジスタの書き込み

MSTPCRA、MSTPCRB、MSTPCRC、および MSTPCRD レジスタへの書き込みは、CPU のみで行ってください。

11.7.5 WAIT 命令の実行タイミング

WAIT 命令は、先行して実行されたレジスタへの書き込みの完了を待たずに実行されます。レジスタへの書き込みによる設定変更が反映される前に WAIT 命令が実行される場合があり、意図していない動作を起す恐れがあります。最後のレジスタへの書き込みが完了していることを確認してから WAIT 命令を実行してください。

11.7.6 スリープモード中の DTC によるレジスタの書き換えについて

スリープモード中は OFS0.IWDTSLCSTP ビット、IWDTCSSTPR.SLCSTP ビットの設定によって IWDT が停止します。その場合、スリープモード中に DTC によって IWDT 関連のレジスタを書き換えないでください。

RSTCKCR レジスタはスリープモードから復帰するときにクロックソースを切り替える機能に関するレジスタです。そのため、スリープモード中に書き換えを行うと意図しない動作となる可能性がありますので、スリープモード中は RSTCKCR レジスタを書き換えないでください。

11.7.7 スヌーズモードでの DTC 転送について

スヌーズモードで DTC を使用する場合は、MRA.WBDIS ビットを“1”に設定しないでください。

11.7.8 スヌーズモードでの SCI5 データ受信動作について

スヌーズモードで SCI5 データ受信動作を使用する場合は、下記の条件を満たす必要があります。

- クロックソースは HOCO であること
- LOCO、メイン発振器および PLL は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前に停止していること
- ソフトウェアスタンバイモード遷移前に、MSTPCRC.MSTPC19 ビットに“1”を設定し、CAC をモジュールストップ状態にすること
- RXD5 端子は、ソフトウェアスタンバイモード遷移前に High を維持していること
- SCI5 通信中は、ソフトウェアスタンバイモードへの遷移が発生しないこと

11.7.9 スヌーズモードでの LPT 動作について

スヌーズモードで LPT を使用する場合は、MSTPCRB.MSTPB9 ビットを“0”に設定し、ELC のモジュールストップ状態を解除してください。また、SNZCR レジスタの設定でスヌーズ遷移条件、スヌーズ終了条件を設定する場合、ローパワータイムスタンバイ復帰許可レジスタのローパワータイムスタンバイ復帰許可ビット (LPWUCR.LPWKUPEN) は“0”にしてください。

11.7.10 スヌーズモードでの AD 変換動作について

スヌーズモードで AD 変換動作を使用する場合は、MSTPCRB.MSTPB9 ビットを“0”に設定し、ELC のモジュールストップ状態を解除してください。また、AD 変換の変換開始トリガは ELC からのトリガを選択し、動作モードはシングルスキャンモードとしてください。なお、温度センサ出力、内部基準電圧の変換は行わないでください。

11.7.11 スヌーズモードでの CTSU 計測動作について

スヌーズモードで CTSU 計測動作を使用する場合は、MSTPCRB.MSTPB9 ビットを“0”に設定し、ELC のモジュールストップ状態を解除してください。また、CTSU の測定開始トリガは ELC からの外部トリガを選択してください。

12. レジスタライトプロテクション機能

レジスタライトプロテクション機能は、プログラムが暴走したときに備え、重要なレジスタを書き換えられないように保護します。保護するレジスタは、プロテクトレジスタ (PRCR) で設定します。

表 12.1 に PRCR レジスタと保護されるレジスタの対応を示します。

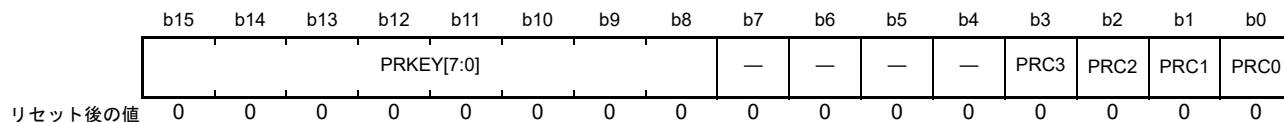
表 12.1 PRCR レジスタと保護されるレジスタの対応

PRCR レジスタ	保護されるレジスタ
PRC0 ビット	<ul style="list-style-type: none"> クロック発生回路関連レジスタ SCKCR, SCKCR3, PLLCR, PLLCR2, MOSCCR, SOSCCR, LOCOCR, ILOCOCR, HOCOGR, LOFCR, OSTDCR, OSTDSR, CKOCR, LOCOTRR2, ILOCOTRR, HOCOTRR0, SOMCR
PRC1 ビット	<ul style="list-style-type: none"> 動作モード関連レジスタ SYSCR1 消費電力低減機能関連レジスタ SBYCR, MSTPCRA, MSTPCRB, MSTPCRC, MSTPCRD, OPCCR, RSTCKCR, SOPCCR, SNZCR, SNZCR2 クロック発生回路関連レジスタ MOFCR, MOSCWTCR ソフトウェアリセットレジスタ SWRR
PRC2 ビット	<ul style="list-style-type: none"> ローパワータイマ関連レジスタ LPTCR1, LPTCR2, LPTCR3, LPTPRD, LPCMR0, LPCMR1, LPWUCR
PRC3 ビット	<ul style="list-style-type: none"> LVD 関連レジスタ LVCMPCR, LVDLVLR, LVD1CR0, LVD1CR1, LVD1SR, LVD2CR0, LVD2CR1, LVD2SR

12.1 レジスタの説明

12.1.1 プロテクトレジスタ (PRCR)

アドレス 0008 03FEh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PRC0	プロテクトビット0	クロック発生回路への書き込み許可 0: 書き込み禁止 1: 書き込み許可	R/W
b1	PRC1	プロテクトビット1	動作モード、消費電力低減機能、クロック発生回路関連レジスタ、ソフトウェアリセット関連レジスタへの書き込み許可 0: 書き込み禁止 1: 書き込み許可	R/W
b2	PRC2	プロテクトビット2	ローパワータイマ関連レジスタへの書き込み許可 0: 書き込み禁止 1: 書き込み許可	R/W
b3	PRC3	プロテクトビット3	LVD関連レジスタへの書き込み許可 0: 書き込み禁止 1: 書き込み許可	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b8	PRKEY[7:0]	PRCキーコードビット	PRCRレジスタの書き換えの可否を制御します。 PRCRレジスタを書き換える場合、上位8ビットに“A5h”、下位8ビットに任意の値を、16ビット単位で書いてください	R/W (注1)

注1. 書き込みデータは保持されません。

PRCi ビット (プロテクトビット i) (i = 0 ~ 3)

保護するレジスタへの書き込み許可 / 禁止を選択します。

PRCi ビットが“1”のとき、保護されるレジスタへの書き込みができます。PRCi ビットが“0”のとき、レジスタへの書き込みができません。

13. 例外処理

13.1 例外事象

CPU が通常のプログラムを実行している途中で、ある事象の発生によってそのプログラムの実行を中断し、別のプログラムを実行する必要がある場合があります。このような事象を総称して例外事象と呼びます。

RXv2 CPU は、8 種類の例外に対応します。図 13.1 に例外事象の種類を示します。

例外が発生すると、プロセッサモードはスーパーバイザモードになります。

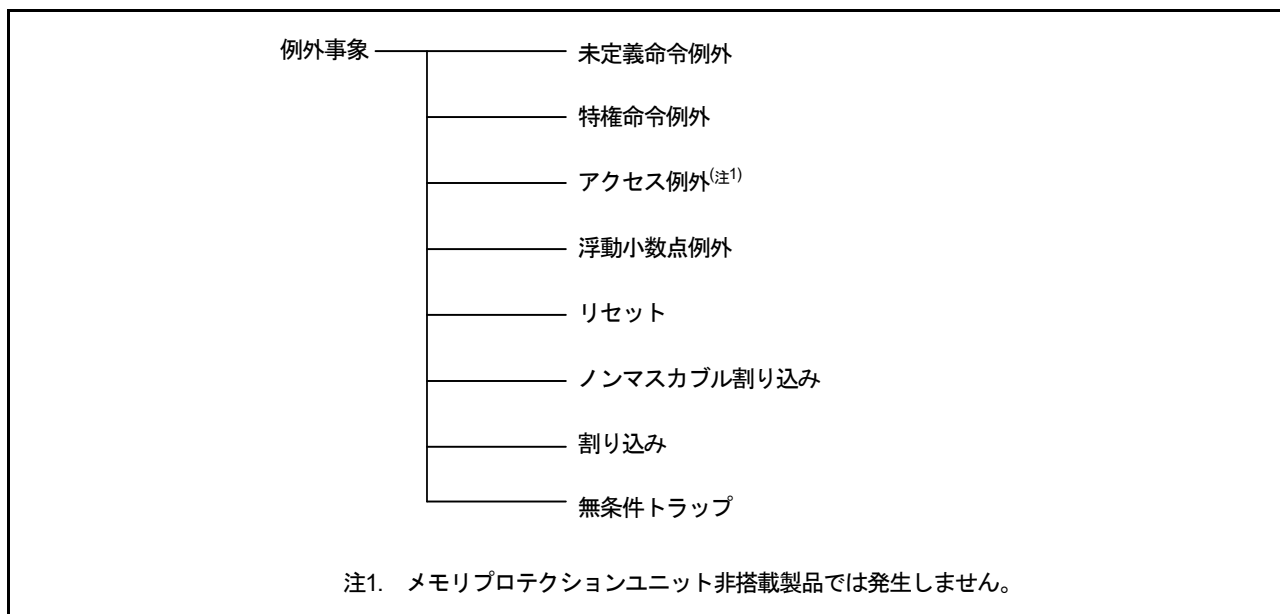


図 13.1 例外事象の種類

13.1.1 未定義命令例外

未定義命令例外は、未定義命令（実装されていない命令）の実行を検出した場合に発生します。

13.1.2 特権命令例外

特権命令例外は、ユーザモードで特権命令の実行を検出した場合に発生します。特権命令はスーパーバイザモードでのみ実行可能です。

13.1.3 アクセス例外

アクセス例外は、CPUからのメモリアクセスによるエラーが検出された場合に発生します。メモリプロテクションユニットが命令メモリプロテクションエラーを検出した場合には命令アクセス例外が、データメモリプロテクションエラーを検出した場合にはオペランドアクセス例外が発生します。

メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

13.1.4 浮動小数点例外

浮動小数点例外は、IEEE754規格で規定された5つの例外事象（オーバフロー、アンダフロー、精度異常、ゼロ除算、無効演算）の他、非実装処理を検出した場合に発生します。浮動小数点例外は、FPSWのEX、EU、EZ、EO、EVビットが“0”のとき、例外処理が禁止されます。

13.1.5 リセット

CPUにリセット信号を入力することによって発生します。リセットは最高度の優先順位を持ち、常に受け付けられます。

13.1.6 ノンマスカブル割り込み

CPUにノンマスカブル割り込み信号を入力することによって発生します。システムに致命的な障害が発生したと考えられる場合にのみ使用します。例外処理ルーチン処理後、例外発生時に実行していた元のプログラムに復帰しない条件で使用してください。

13.1.7 割り込み

CPUに割り込み信号を入力することによって発生します。割り込みのうち1つの要因を、高速割り込みとして割り当てることが可能です。高速割り込みは、通常の割り込みに比べ、ハードウェア前処理とハードウェア後処理が高速です。高速割り込みの優先レベルは15（最高）です。

PSWのIビットが“0”のとき、割り込みの受け付けは禁止されます。

13.1.8 無条件トラップ

INT命令、およびBRK命令を実行すると無条件トラップが発生します。

13.2 例外の処理手順

例外処理には、ハードウェアが自動的に処理する部分と、ユーザが記述したプログラム（例外処理ルーチン）によって処理される部分があります。リセットを除く、例外受け付け時の処理手順を図 13.2 に示します。

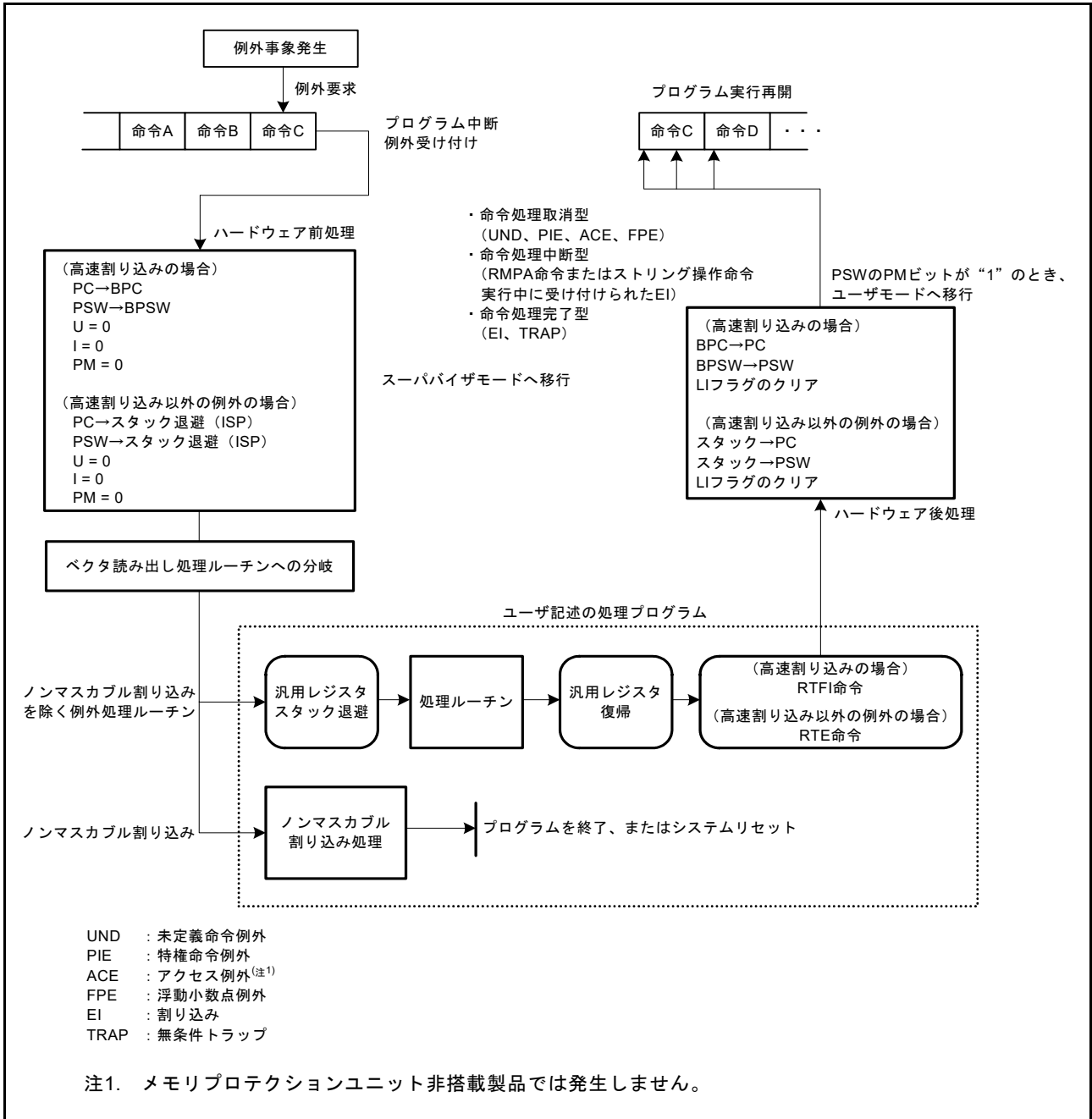


図 13.2 例外の処理手順の概要

例外が受け付けられると、RXv2 CPUはハードウェア処理を行った後、ベクタにアクセスし、分岐先アドレスを取得します。ベクタには例外ごとにベクタアドレスが割り当てられており、そこに例外処理ルーチンへの分岐先アドレスを書きます。

RXv2 CPUのハードウェア前処理では、高速割り込みの場合は、プログラムカウンタ(PC)の内容をバックアップPC(BPC)に、プロセッサステータスワード(PSW)の内容をバックアップPSW(BPSW)へ退避します。高速割り込み以外の例外では、PC、PSWをスタック領域に退避します。例外処理ルーチン中で使用する汎用レジスタ、およびPC、PSW以外の制御レジスタについては、例外処理ルーチンの先頭でユーザプログラムによってスタックに退避してください。

例外処理ルーチン処理完了後、スタックに退避したレジスタを復帰してRTE命令を実行することで、例外処理から元のプログラムに復帰します。高速割り込みの場合のみ、RTFI命令を実行します。ただし、ノンマスカブル割り込みの場合には、元のプログラムに復帰せず、プログラムを終了、またはシステムリセットを行ってください。

RXv2 CPUのハードウェア後処理では、高速割り込みの場合はBPCをPCに、また、BPSWの値をPSWに戻します。高速割り込み以外の例外では、スタック領域からPC、PSWの値を復帰します。

13.3 例外事象の受け付け

例外事象が発生すると、それまで実行していたプログラムを中断して、例外処理ルーチンに分岐します。

13.3.1 受け付けタイミングと退避されるPC値

各例外事象の受け付けタイミングと退避されるプログラムカウンタ（PC）の値を表 13.1 に示します。

表 13.1 受け付けタイミングと退避されるPC値

例外事象		処理型	受け付け タイミング	BPC/スタックに退避されるPC値
未定義命令例外		命令処理取消型	命令実行中	例外が発生した命令のPC値
特権命令例外		命令処理取消型	命令実行中	例外が発生した命令のPC値
アクセス例外(注1)		命令処理取消型	命令実行中	例外が発生した命令のPC値
浮動小数点例外		命令処理取消型	命令実行中	例外が発生した命令のPC値
リセット		命令処理放棄型	各マシンサイクル	なし
ノンマスクブル 割り込み	RMPA、SCMPU、SMOVB、 SMOVF、SMOVU、SSTR、 SUNTIL、SWHILE 命令実行中	命令処理中断型	命令実行中	実行中の命令のPC値
	上記以外の状態	命令処理完了型	命令の区切り	次の命令のPC値
割り込み	RMPA、SCMPU、SMOVB、 SMOVF、SMOVU、SSTR、 SUNTIL、SWHILE 命令実行中	命令処理中断型	命令実行中	実行中の命令のPC値
	上記以外の状態	命令処理完了型	命令の区切り	次の命令のPC値
無条件トラップ		命令処理完了型	命令の区切り	次の命令のPC値

注1. メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

13.3.2 ベクタとPC、PSWの退避場所

各例外事象のベクタとプログラムカウンタ（PC）、プロセッサステータスワード（PSW）の退避場所を表 13.2 に示します。例外ベクタテーブル、および割り込みベクタテーブルは、それぞれ先頭アドレスを設定する必要があります。詳細は、「2.6 ベクタテーブル」を参照してください。

表 13.2 ベクタとPC、PSWの退避場所

例外事象		ベクタ	PC、PSWの退避場所
未定義命令例外		例外ベクタテーブル（EXTB）	スタック
特権命令例外		例外ベクタテーブル（EXTB）	スタック
アクセス例外(注1)		例外ベクタテーブル（EXTB）	スタック
浮動小数点例外		例外ベクタテーブル（EXTB）	スタック
リセット		例外ベクタテーブル（EXTB）	なし
ノンマスクブル割り込み		例外ベクタテーブル（EXTB）	スタック
割り込み	高速割り込み	FINTV	BPC, BPSW
	高速割り込み以外	割り込みベクタテーブル（INTB）	スタック
無条件トラップ		割り込みベクタテーブル（INTB）	スタック

注1. メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

13.4 例外の受け付け / 復帰時のハードウェア処理

リセットを除く、例外の受け付けおよび復帰時のハードウェア処理について説明します。

(1) 例外受け付け時のハードウェア前処理

(a) PSW の退避

(高速割り込みの場合)

PSW → BPSW

(高速割り込み以外の例外の場合)

PSW → スタック領域

注. FPSW は、ハードウェア前処理では退避されません。浮動小数点演算命令を例外処理ルーチン内で使用する場合は、例外処理ルーチン内でユーザがスタックへ退避してください。

(b) PSW の PM、U、I ビットの更新

I: 0 にする

U: 0 にする

PM: 0 にする

(c) PC の退避

(高速割り込みの場合)

PC → BPC

(高速割り込み以外の例外の場合)

PC → スタック領域

(d) PC に例外処理ルーチン分岐先アドレスをセット

各例外に対応したベクタを取得し分岐することにより、例外処理ルーチン処理へ移行します。

(2) RTE 命令、RTFI 命令実行時のハードウェア後処理

(a) PSW の復帰

(高速割り込みの場合)

BPSW → PSW

(高速割り込み以外の例外の場合)

スタック領域 → PSW

(b) PC の復帰

(高速割り込みの場合)

BPC → PC

(高速割り込み以外の例外の場合)

スタック領域 → PC

(c) LI フラグのクリア処理

13.5 ハードウェア前処理

例外要求が受け付けられてから例外処理ルーチンが実行されるまでのハードウェア前処理について説明します。

13.5.1 未定義命令例外

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. プログラムカウンタ (PC) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. EXTB の値+0000005Ch 番地からベクタを取得します。
5. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.5.2 特権命令例外

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. プログラムカウンタ (PC) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. EXTB の値+00000050h 番地からベクタを取得します。
5. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.5.3 アクセス例外

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. プログラムカウンタ (PC) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. EXTB の値+00000054h 番地からベクタを取得します。
5. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

注. メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

13.5.4 浮動小数点例外

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. プログラムカウンタ (PC) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. EXTB の値+00000064h 番地からベクタを取得します。
5. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.5.5 リセット

1. 制御を初期化します。
2. FFFFFFFCh 番地からベクタを取得します。
3. 取得したベクタをプログラムカウンタ (PC) にセットします。

13.5.6 ノンマスカブル割り込み

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. RMPA、SCMPU、SMOVB、SMOVF、SMOVU、SSTR、SUNTIL、SWHILE 命令を実行中は、実行中の命令のプログラムカウンタ (PC) の内容を、それ以外の状態では次の命令の PC の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. PSW のプロセッサ割り込み優先レベル (IPL[3:0]) を“Fh”にします。
5. EXTB の値+00000078h 番地からベクタを取得します。
6. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.5.7 割り込み

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。高速割り込みの場合は、バックアップ PSW (BPSW) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. RMPA、SCMPU、SMOVB、SMOVF、SMOVU、SSTR、SUNTIL、SWHILE 命令を実行中は、実行中の命令のプログラムカウンタ (PC) の内容を、それ以外の状態では次の命令の PC の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。高速割り込みの場合は、バックアップ PC (BPC) に退避します。
4. PSW のプロセッサ割り込み優先レベル (IPL[3:0]) に、受け付けた割り込みの割り込み優先レベルを設定します。
5. 割り込みベクタテーブルから受け付けた割り込み要因のベクタを取得します。高速割り込みの場合は、高速割り込みベクタレジスタ (FINTV) からベクタを取得します。
6. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.5.8 無条件トラップ

1. プロセッサステータスワード (PSW) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
2. PSW のプロセッサモード設定ビット (PM)、スタックポインタ指定ビット (U)、割り込み許可ビット (I) を“0”にします。
3. 次の命令のプログラムカウンタ (PC) の内容をスタック領域 (ISP) に退避します。
4. INT 命令の場合は、割り込みベクタテーブルから INT 命令番号に対応したベクタを取得します。BRK 命令の場合は、割り込みベクタテーブルの先頭番地からベクタを取得します。
5. 取得したベクタを PC にセットし、例外処理ルーチンへ分岐します。

13.6 例外処理ルーチンからの復帰

例外処理ルーチンの最後で表 13.3 に示す命令を実行すると、例外処理シーケンス直前にスタック領域または制御レジスタ（BPC, BPSW）に退避されていたプログラムカウンタ（PC）とプロセッサステータスワード（PSW）の内容が復帰されます。

表 13.3 例外処理ルーチンからの復帰命令

例外事象		復帰命令
未定義命令例外		RTE
特権命令例外		RTE
アクセス例外(注1)		RTE
浮動小数点例外		RTE
リセット		復帰不可能
ノンマスカブル割り込み		禁止
割り込み	高速割り込み	RTFI
	高速割り込み以外	RTE
無条件トラップ		RTE

注1. メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

13.7 例外事象の優先順位

例外事象の優先順位を表 13.4 に示します。複数の例外が同時に発生した場合は、より優先度の高い事象が先に受け付けられます。

表 13.4 例外事象の優先順位

優先順位	例外事象
高い ↑ ↓ 低い	1 リセット
	2 ノンマスカブル割り込み
	3 割り込み
	4 命令アクセス例外(注1)
	5 未定義命令例外 特権命令例外
	6 無条件トラップ
	7 オペランドアクセス例外(注1)
	8 浮動小数点例外

注1. メモリプロテクションユニット非搭載製品では発生しません。

14. 割り込みコントローラ (ICUb)

14.1 概要

割り込みコントローラは、周辺モジュール、外部端子からの割り込みを受け付け、CPU への割り込みおよび DTC への転送要求を行います。

表 14.1 に割り込みコントローラの仕様を、図 14.1 に割り込みコントローラのブロック図を示します。

表 14.1 割り込みコントローラの仕様

項目		内容
割り込み	周辺機能割り込み	<ul style="list-style-type: none"> 周辺モジュールからの割り込み 割り込み検出：エッジ検出/レベル検出 接続している周辺モジュールの要因ごとの検出方法は固定
	外部端子割り込み	<ul style="list-style-type: none"> IRQ0～IRQ7端子からの割り込み 要因数：8 割り込み検出：Low/立ち下がリエッジ/立ち上がりエッジ/両エッジを要因ごとに設定可能 デジタルフィルタ機能：あり
	ソフトウェア割り込み	<ul style="list-style-type: none"> レジスタ書き込みによる割り込み 要因数：1
	イベントリンク割り込み	ELC イベントより、ELSR8I、ELSR18I 割り込みを発生
	割り込み優先順位	レジスタにより優先順位を設定
	高速割り込み機能	CPUの割り込み処理を高速化可能。1要因にのみ設定
	DTC制御	割り込み要因によりDTCの起動が可能(注1)
ノンマスクابل 割り込み	NMI端子割り込み	<ul style="list-style-type: none"> NMI端子からの割り込み 割り込み検出：立ち下がリエッジ/立ち上がりエッジ デジタルフィルタ機能：あり
	発振停止検出割り込み	発振停止検出時の割り込み
	IWDT アンダフロー/ リフレッシュエラー	ダウンカウンタがアンダフローしたとき、もしくはリフレッシュエラーが発生したときの割り込み
	電圧監視1割り込み	電圧検出回路1 (LVD1)の電圧監視割り込み
	電圧監視2割り込み	電圧検出回路2 (LVD2)の電圧監視割り込み
低消費電力状態 からの復帰	スリープモード ディープスリープモード	すべてのノンマスクابل割り込み、すべての割り込みで復帰
	ソフトウェアスタンバイ モード	ノンマスクابل割り込み、外部端子割り込み (IRQ0～IRQ7)、周辺機能割り込み (電圧監視1、電圧監視2、RTC アラーム/周期)、ELSR8I 割り込み (LPT 専用割り込み) で復帰
	スヌーズモード	ノンマスクابل割り込み、外部端子割り込み (IRQ0～IRQ7)、周辺機能割り込み (電圧監視1、電圧監視2、RTC アラーム/周期)、SNZI 割り込み (スヌーズ解除割り込み) で復帰

注1. DTCの起動要因については、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

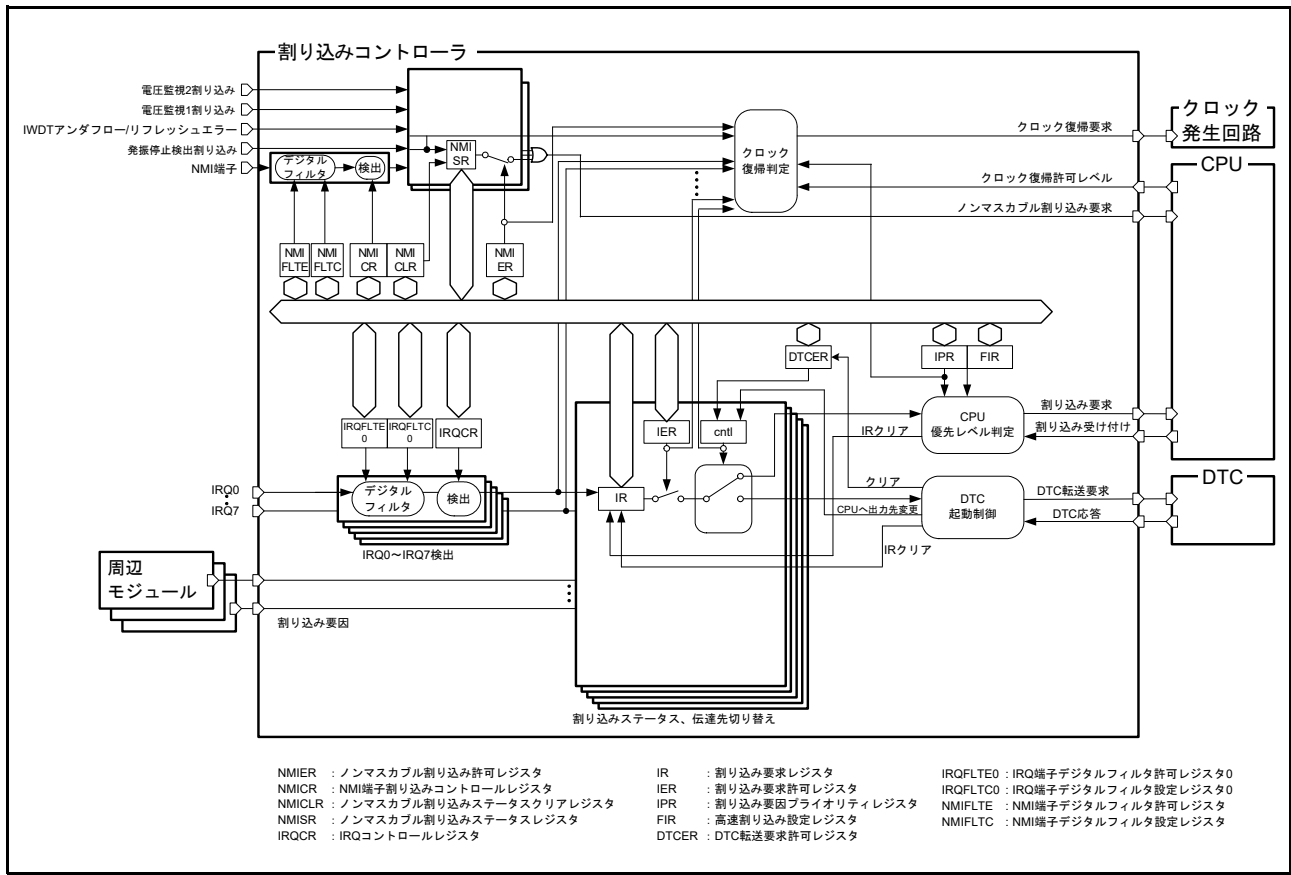


図 14.1 割り込みコントローラのブロック図

表 14.2 に割り込みコントローラで使用する入出力端子を示します。

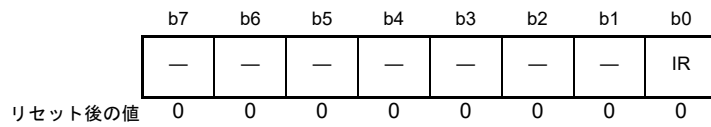
表 14.2 割り込みコントローラの入出力端子

端子名	入出力	機能
NMI	入力	ノンマスクابل割り込み要求端子
IRQ0~IRQ7	入力	外部割り込み要求端子

14.2 レジスタの説明

14.2.1 割り込み要求レジスタ n (IRn) (n = 割り込みベクタ番号)

アドレス ICU.IR016 0008 7010h~ICU.IR255 0008 70FFh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IR	割り込みステータスフラグ	0: 割り込み要求なし 1: 割り込み要求あり	R/(W) (注1)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. エッジ検出要因の場合、“0”のみ書けます。“1”を書かないでください。
レベル検出要因の場合、書き込みできません。

IRn レジスタは割り込み要因ごとに存在し、n は割り込みベクタ番号に対応しています。

割り込み要因と割り込みベクタ番号の対応は、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

IR フラグ (割り込みステータスフラグ)

割り込み要求のステータスフラグです。割り込み要求が発生すると“1”になります。割り込み要求を検出するためには、周辺モジュールの割り込みイネーブルビットで割り込み要求の出力を許可する必要があります。

割り込み要求の検出方法は、エッジ検出とレベル検出があります。周辺モジュールからの割り込みは、要因ごとにエッジ検出/レベル検出が決まっています。IRQi 端子 (i = 0 ~ 7) からの割り込みは、IRQCRI.IRQMD[1:0] ビットの設定によって、エッジ検出とレベル検出が切り替わります。各要因の検出方法については、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

(1) エッジ検出の場合

["1"になる条件]

- 周辺モジュール、IRQi 端子の割り込み要求が発生すると“1”になります。周辺モジュールごとの割り込み要求発生については、各周辺モジュールの章を参照してください。

["0"になる条件]

- 割り込み要求先が割り込み要求を受け付けると“0”になります。
- IR フラグに“0”を書くと“0”になります。ただし、割り込み要求先を DTC に設定している場合、IR フラグへの“0”書き込みは禁止です。

(2) レベル検出の場合

["1"になる条件]

- 周辺モジュール、IRQi 端子の割り込み要求が発生している間は“1”になります。周辺モジュールごとの割り込み要求発生については、各周辺モジュールの章を参照してください。

["0"になる条件]

- 割り込み要求の出力元をクリアすると“0”になります。(割り込み要求先が割り込み要求を受け付けても“0”になりません。)周辺モジュールごとの割り込み要求クリアについては、各周辺モジュールの章を参照してください。

IRQi 端子をレベル検出で使用する場合に、割り込みを取り下げるには IRQi 端子を High にしてください。

レベル検出時は、IR フラグへの“0”、“1”ともに書き込みは禁止です。

14.2.2 割り込み要求許可レジスタ m (IERm) (m = 02h ~ 1Fh)

アドレス ICU.IER02 0008 7202h~ICU.IER1F 0008 721Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	IEN7	IEN6	IEN5	IEN4	IEN3	IEN2	IEN1	IEN0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IEN0	割り込み要求許可ビット0	0: 割り込み要求禁止 1: 割り込み要求許可	R/W
b1	IEN1	割り込み要求許可ビット1		R/W
b2	IEN2	割り込み要求許可ビット2		R/W
b3	IEN3	割り込み要求許可ビット3		R/W
b4	IEN4	割り込み要求許可ビット4		R/W
b5	IEN5	割り込み要求許可ビット5		R/W
b6	IEN6	割り込み要求許可ビット6		R/W
b7	IEN7	割り込み要求許可ビット7		R/W

注. 予約となっているベクタ番号に対応するビットへの書き込みは“0”としてください。読むと“0”が読み出されます。

IENj ビット (割り込み要求許可ビット) (j = 0 ~ 7)

IENj ビットが“1”のとき、割り込み要求先に割り込み要求を出力します。

IENj ビットが“0”のとき、割り込み要求先に割り込み要求を出力しません。

IRn.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) は、IENj ビットの影響を受けません。IENj ビットが“0”であっても、「14.2.1 割り込み要求レジスタ n (IRn) (n = 割り込みベクタ番号)」に示す条件で IR フラグは変化します。

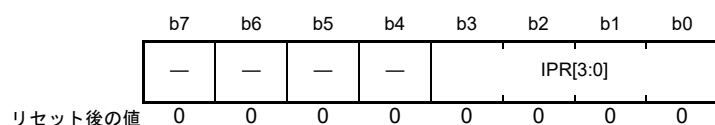
IERm.IENj ビットは、割り込み要因 (ベクタ番号) ごとに存在します。

割り込み要因と IERm.IENj ビットの対応は、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

割り込み要求先の選択における IERm.IENj ビットの設定手順は、「14.4.3 割り込み要求先の選択」を参照してください。

14.2.3 割り込み要因プライオリティレジスタ n (IPRn) (n = 割り込みベクタ番号)

アドレス ICU.IPR000 0008 7300h~ICU.IPR255 0008 73FFh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	IPR[3:0]	割り込み優先レベル設定ビット	b3 b0 0 0 0 0 : レベル0 (割り込み禁止)(注1) 0 0 0 1 : レベル1 0 0 1 0 : レベル2 0 0 1 1 : レベル3 0 1 0 0 : レベル4 0 1 0 1 : レベル5 0 1 1 0 : レベル6 0 1 1 1 : レベル7 1 0 0 0 : レベル8 1 0 0 1 : レベル9 1 0 1 0 : レベル10 1 0 1 1 : レベル11 1 1 0 0 : レベル12 1 1 0 1 : レベル13 1 1 1 0 : レベル14 1 1 1 1 : レベル15 (最高)	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. 高速割り込みに設定している場合は、レベル0であっても割り込みの発行が可能です。

割り込み要因と IPRn レジスタの対応は、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

IPR[3:0] ビット (割り込み優先レベル設定ビット)

対応する割り込み要因の優先レベルを選択するビットです。

IPR[3:0] ビットで選択した優先レベルは、CPU への割り込み要求の優先順位判定にのみ参照され、DTC への転送要求には影響を与えません。

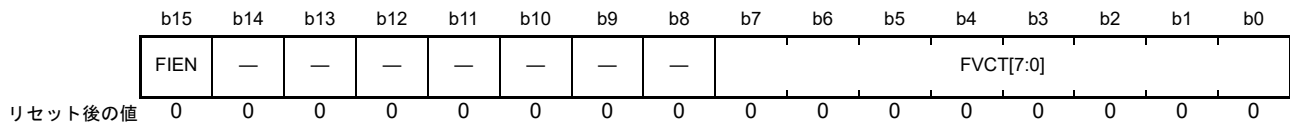
CPU は、PSW.IPL[3:0] ビットが示すレベルより高いレベルの割り込み要求のみを受け付け、割り込み処理を行います。

複数の割り込み要求が同時に発生した場合、IPR[3:0] ビットの設定値で優先順位比較を行います。同一レベルの割り込み要求が同時に発生した場合には、ベクタ番号の小さい割り込み要因が優先となります。

書き込みは、割り込み要求を禁止 (IERm.IENj ビット = 0 (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7)) した状態で行ってください。

14.2.4 高速割り込み設定レジスタ (FIR)

アドレス ICU.FIR 0008 72F0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	FVCT[7:0]	高速割り込みベクタ設定ビット	高速割り込みにするベクタ番号を指定します	R/W
b14-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	FIEN	高速割り込み許可ビット	0 : 高速割り込みを禁止 1 : 高速割り込みを許可	R/W

FIR レジスタの設定による高速化の機能は、CPU への割り込みにのみ有効です。DTC への転送要求には影響を与えません。

書き込みは、割り込み要求を禁止 (IERm.IENj ビット = 0 (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7)) した状態で行ってください。

FVCT[7:0] ビット (高速割り込みベクタ設定ビット)

高速割り込み機能を使用する割り込みのベクタ番号を指定するビットです。

FIEN ビット (高速割り込み許可ビット)

高速割り込みを許可するビットです。

FIEN ビットを“1”にすると、FVCT[7:0] ビットに設定したベクタ番号の割り込みが高速割り込みになります。

FIEN ビットが“1”のとき、割り込み要求先が CPU で、かつ FVCT[7:0] ビットで指定したベクタ番号の割り込み要求が発生すると、IPRn レジスタ (n = 割り込みベクタ番号) の設定に関係なく、高速割り込みとして CPU に要求を出力します。ただし、高速割り込みをソフトウェアスタンバイモードからの復帰に使用する場合には「14.6.2 ソフトウェアスタンバイモードからの復帰」を参照してください。

IERm.IENj ビットで割り込み要求が禁止されている割り込み要因は、CPU に割り込み要求が出力されません。

設定できるベクタ番号は、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

FVCT[7:0] ビットには、予約のベクタ番号を指定しないでください。

高速割り込みの詳細は、「13. 例外処理」および「14.4.6 高速割り込み」を参照してください。

14.2.5 ソフトウェア割り込み起動レジスタ (SWINTR)

アドレス ICU.SWINTR 0008 72E0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SWINT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SWINT	ソフトウェア割り込み起動ビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みでソフトウェア割り込み要求を発行します。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. “1”のみ書けます。

SWINT ビット (ソフトウェア割り込み起動ビット)

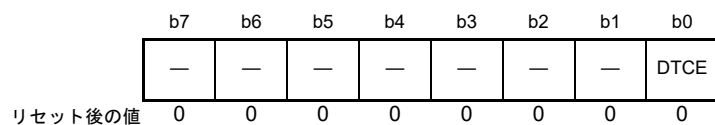
SWINT ビットに“1”を書くと、割り込み要求レジスタ 027 (IR027) が“1”になります。

DTC 転送要求許可レジスタ 027 (DTCER027) を“0”にして、SWINT ビットに“1”を書くと CPU への割り込みが発生します。

DTC 転送要求許可レジスタ 027 (DTCER027) を“1”にして、SWINT ビットに“1”を書くと DTC 転送要求を発行します。

14.2.6 DTC 転送要求許可レジスタ n (DTCERn) (n = 割り込みベクタ番号)

アドレス ICU.DTCER027 0008 711Bh ~ ICU.DTCER255 0008 71FFh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DTCE	DTC転送要求許可ビット	0 : CPUへの割り込み要因に設定する 1 : DTCの起動要因に設定する	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

割り込み要因との対応は「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

DTCE ビット (DTC 転送要求許可ビット)

DTCE ビットを“1”にすると、対応する割り込み要因が DTC 起動要因として選択されます。

[“1”になる条件]

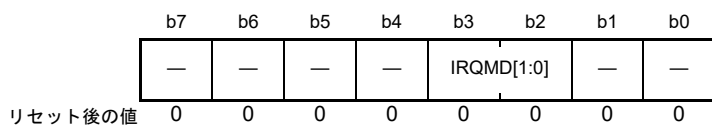
- DTCE ビットに“1”を書いたとき

[“0”になる条件]

- 指定した回数のデータ転送が終了したとき (チェーン転送の場合は、最後のチェーン転送の指定した回数のデータ転送が終了したとき)
- DTCE ビットに“0”を書いたとき

14.2.7 IRQ コントロールレジスタ i (IRQCRi) (i = 0 ~ 7)

アドレス ICU.IRQCR0 0008 7500h~ICU.IRQCR7 0008 7507h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3-b2	IRQMD[1:0]	IRQ検出設定ビット	b3 b2 0 0 : Low 0 1 : 立ち下がリエッジ 1 0 : 立ち上がりエッジ 1 1 : 両エッジ	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

該当する割り込み要求許可ビットが割り込み要求禁止 (IERm.IENj ビット (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7) が“0”) の状態でこのレジスタの設定変更を行ってください。レジスタ変更後は IR フラグをクリアし、その後割り込み要求許可ビットを許可に設定してください。ただし、Low に変更する場合は、IR フラグをクリアする必要はありません。

IRQMD[1:0] ビット (IRQ 検出設定ビット)

IRQ_i 端子の割り込み検出方法を設定します。

外部端子割り込みの検出設定手順は、「14.4.8 外部端子割り込み」を参照してください。

14.2.8 IRQ 端子デジタルフィルタ許可レジスタ 0 (IRQFLTE0)

アドレス ICU.IRQFLTE0 0008 7510h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	FLTEN 7	FLTEN 6	FLTEN 5	FLTEN 4	FLTEN 3	FLTEN 2	FLTEN 1	FLTEN 0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FLTEN0	IRQ0 デジタルフィルタ許可ビット	0 : デジタルフィルタ無効 1 : デジタルフィルタ有効	R/W
b1	FLTEN1	IRQ1 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b2	FLTEN2	IRQ2 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b3	FLTEN3	IRQ3 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b4	FLTEN4	IRQ4 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b5	FLTEN5	IRQ5 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b6	FLTEN6	IRQ6 デジタルフィルタ許可ビット		R/W
b7	FLTEN7	IRQ7 デジタルフィルタ許可ビット		R/W

FLTEN_i ビット (IRQ_i デジタルフィルタ許可ビット) (i = 0 ~ 7)

IRQ_i 端子のデジタルフィルタの使用を許可するビットです。

FLTEN_i ビットが“1”のとき、デジタルフィルタが有効になります。FLTEN_i ビットが“0”のとき、デジタルフィルタ機能は無効です。

IRQFLTC0.FCLKSEL_i[1:0] ビットで設定したサンプリングクロックごとに IRQ_i 端子のレベルをサンプリングし、レベルが3回一致したときにデジタルフィルタからの出力レベルを変更します。

デジタルフィルタの詳細は、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.2.9 IRQ 端子デジタルフィルタ設定レジスタ 0 (IRQFLTC0)

アドレス ICU.IRQFLTC0 0008 7514h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
FCLKSEL7[1:0]	FCLKSEL6[1:0]	FCLKSEL5[1:0]	FCLKSEL4[1:0]	FCLKSEL3[1:0]	FCLKSEL2[1:0]	FCLKSEL1[1:0]	FCLKSEL0[1:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	FCLKSEL0[1:0]	IRQ0 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット	0 0 : PCLK 0 1 : PCLK/8 1 0 : PCLK/32 1 1 : PCLK/64	R/W
b3-b2	FCLKSEL1[1:0]	IRQ1 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b5-b4	FCLKSEL2[1:0]	IRQ2 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b7-b6	FCLKSEL3[1:0]	IRQ3 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b9-b8	FCLKSEL4[1:0]	IRQ4 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b11-b10	FCLKSEL5[1:0]	IRQ5 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b13-b12	FCLKSEL6[1:0]	IRQ6 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W
b15-b14	FCLKSEL7[1:0]	IRQ7 デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット		R/W

FCLKSELi[1:0] ビット (IRQi デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット) (i = 0 ~ 7)

IRQ_i 端子のデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択するビットです。

サンプリングクロックは、PCLK (毎クロック)、PCLK/8 (8 クロックに 1 回)、PCLK/32 (32 クロックに 1 回)、PCLK/64 (64 クロックに 1 回) より選択します。

デジタルフィルタの詳細は、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.2.10 ノンマスクابل割り込みステータスレジスタ (NMISR)

アドレス ICU.NMISR 0008 7580h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	LVD2S T	LVD1S T	IWDTS T	—	OSTST	NMIST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NMIST	NMIステータスフラグ	0: NMI端子割り込み要求なし 1: NMI端子割り込み要求あり	R
b1	OSTST	発振停止検出割り込みステータスフラグ	0: 発振停止検出割り込み要求なし 1: 発振停止検出割り込み要求あり	R
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b3	IWDTS	IWDTアンダフロー/リフレッシュエラーステータスフラグ	0: IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー割り込み要求なし 1: IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー割り込み要求あり	R
b4	LVD1ST	電圧監視1割り込みステータスフラグ	0: 電圧監視1割り込み要求なし 1: 電圧監視1割り込み要求あり	R
b5	LVD2ST	電圧監視2割り込みステータスフラグ	0: 電圧監視2割り込み要求なし 1: 電圧監視2割り込み要求あり	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R

NMISRレジスタは、ノンマスクابل割り込み要因のステータスをモニタするレジスタです。NMISRレジスタへの書き込みは無視されます。

ノンマスクابل割り込み許可レジスタ (NMIER) の設定はこれらステータスフラグには影響しません。

ノンマスクابل割り込みハンドラが終了する前にNMISRレジスタを読み出し、他のノンマスクابل割り込みの発生状況を確認してください。NMISRレジスタの全ビットが“0”であることを確認してから、ハンドラを終了してください。

NMIST フラグ (NMIステータスフラグ)

NMI端子割り込み要求を示します。

NMISTフラグは読み出しのみ可能で、クリアはNMICLR.NMICLRビットによって行います。

["1"になる条件]

- NMI端子にNMICR.NMIMDビットに設定したエッジが入力されたとき

["0"になる条件]

- NMICLR.NMICLRビットに“1”を書いたとき

OSTST フラグ (発振停止検出割り込みステータスフラグ)

発振停止検出割り込み要求を示します。

OSTSTフラグは読み出しのみ可能で、クリアはNMICLR.OSTCLRビットによって行います。

["1"になる条件]

- 発振停止検出割り込みが発生したとき

["0"になる条件]

- NMICLR.OSTCLRビットに“1”を書いたとき

IWDTST フラグ (IWDT アンダフロー/リフレッシュエラーステータスフラグ)

IWDT アンダフロー/リフレッシュエラー割り込み要求を示します。

IWDTST フラグは読み出しのみ可能で、クリアは NMICLR.IWDTCLR ビットによって行います。

["1" になる条件]

- 発生元が割り込み発生許可で、IWDT アンダフロー/リフレッシュエラー割り込みが発生したとき

["0" になる条件]

- NMICLR.IWDTCLR ビットに "1" を書いたとき

LVD1ST フラグ (電圧監視 1 割り込みステータスフラグ)

電圧監視 1 割り込み要求を示します。

LVD1ST フラグは読み出しのみ可能で、クリアは NMICLR.LVD1CLR ビットによって行います。

["1" になる条件]

- 発生元が割り込み発生許可で、電圧監視 1 割り込みが発生したとき

["0" になる条件]

- NMICLR.LVD1CLR ビットに "1" を書いたとき

LVD2ST フラグ (電圧監視 2 割り込みステータスフラグ)

電圧監視 2 割り込み要求を示します。

LVD2ST フラグは読み出しのみ可能で、クリアは NMICLR.LVD2CLR ビットによって行います。

["1" になる条件]

- 発生元が割り込み発生許可で、電圧監視 2 割り込みが発生したとき

["0" になる条件]

- NMICLR.LVD2CLR ビットに "1" を書いたとき

14.2.11 ノンマスクابل割り込み許可レジスタ (NMIER)

アドレス ICU.NMIER 0008 7581h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	LVD2E N	LVD1E N	IWDTE N	—	OSTEN	NMIEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NMIEN	NMI端子割り込み許可ビット	0 : NMI端子割り込み禁止 1 : NMI端子割り込み許可	R/(W) (注1)
b1	OSTEN	発振停止検出割り込み許可ビット	0 : 発振停止検出割り込み禁止 1 : 発振停止検出割り込み許可	R/(W) (注1)
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	IWDTEN	IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー許可ビット	0 : IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー割り込み禁止 1 : IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー割り込み許可	R/(W) (注1)
b4	LVD1EN	電圧監視1割り込み許可ビット	0 : 電圧監視1割り込み禁止 1 : 電圧監視1割り込み許可	R/(W) (注1)
b5	LVD2EN	電圧監視2割り込み許可ビット	0 : 電圧監視2割り込み禁止 1 : 電圧監視2割り込み許可	R/(W) (注1)
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. 1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

NMIEN ビット (NMI 端子割り込み許可ビット)

NMI 端子割り込みの使用を許可するビットです。

1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

“0”を書くことはできません。

OSTEN ビット (発振停止検出割り込み許可ビット)

発振停止検出割り込みの使用を許可するビットです。

1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

“0”を書くことはできません。

IWDTEN ビット (IWDT アンダフロー/リフレッシュエラー許可ビット)

IWDT アンダフロー/リフレッシュエラー割り込みの使用を許可するビットです。

1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

“0”を書くことはできません。

LVD1EN ビット (電圧監視1割り込み許可ビット)

電圧監視1割り込みの使用を許可するビットです。

1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

“0”を書くことはできません。

LVD2EN ビット (電圧監視2割り込み許可ビット)

電圧監視2割り込みの使用を許可するビットです。

1回だけ“1”を書くことができます。以後の書き込みは無効です。

“0”を書くことはできません。

14.2.12 ノンマスクブル割り込みステータスクリアレジスタ (NMICLR)

アドレス ICU.NMICLR 0008 7582h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	LVD2C LR	LVD1C LR	IWDTC LR	—	OSTCL R	NMICL R
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NMICLR	NMIクリアビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みで、NMISR.NMISTフラグをクリアします。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b1	OSTCLR	OSTクリアビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みで、NMISR.OSTSTフラグをクリアします。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	IWDTCCLR	IWDTクリアビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みで、NMISR.IWDTSTフラグをクリアします。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b4	LVD1CLR	LVD1クリアビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みで、NMISR.LVD1STフラグをクリアします。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b5	LVD2CLR	LVD2クリアビット	読むと“0”が読み出されます。“1”書き込みで、NMISR.LVD2STフラグをクリアします。“0”書き込みは無効です	R/(W) (注1)
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. “1”のみ書けます。

NMICLR ビット (NMI クリアビット)

“1”を書くと、NMISR.NMIST フラグは“0”になります。読むと“0”が読めます。

OSTCLR ビット (OST クリアビット)

“1”を書くと、NMISR.OSTST フラグは“0”になります。読むと“0”が読めます。

IWDTCCLR ビット (IWDT クリアビット)

“1”を書くと、NMISR.IWDTST フラグは“0”になります。読むと“0”が読めます。

LVD1CLR ビット (LVD1 クリアビット)

“1”を書くと、NMISR.LVD1ST フラグは“0”になります。読むと“0”が読めます。

LVD2CLR ビット (LVD2 クリアビット)

“1”を書くと、NMISR.LVD2ST フラグは“0”になります。読むと“0”が読めます。

14.2.13 NMI 端子割り込みコントロールレジスタ (NMICR)

アドレス ICU.NMICR 0008 7583h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	NMIMD	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	NMIMD	NMI検出設定ビット	0：立ち下がリエッジ 1：立ち上がりエッジ	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

NMICR レジスタによる設定変更は、NMI 端子割り込みの使用を許可 (NMIER.NMIEN ビットを“1”にする) する前に行ってください。

NMIMD ビット (NMI 検出設定ビット)

NMI 端子割り込みの検出方法を設定します。

14.2.14 NMI 端子デジタルフィルタ許可レジスタ (NMIFLTE)

アドレス ICU.NMIFLTE 0008 7590h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	NFLTEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NFLTEN	NMI デジタルフィルタ許可ビット	0：デジタルフィルタ無効 1：デジタルフィルタ有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

NFLTEN ビット (NMI デジタルフィルタ許可ビット)

NMI 端子割り込みのデジタルフィルタの使用を許可するビットです。

NFLTEN ビットが“1”のとき、デジタルフィルタが有効になります。NFLTEN ビットが“0”のとき、デジタルフィルタ機能は無効です。

NMIFLTC.NFCLKSEL[1:0] ビットで設定したサンプリングクロックごとに NMI 端子のレベルをサンプリングし、レベルが 3 回一致したときにデジタルフィルタからの出力レベルを変更します。

デジタルフィルタの詳細は、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.2.15 NMI 端子デジタルフィルタ設定レジスタ (NMIFLTC)

アドレス ICU.NMIFLTC 0008 7594h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	NFCLKSEL[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	NFCLKSEL[1:0]	NMI デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット	b1 b0 0 0 : PCLK 0 1 : PCLK/8 1 0 : PCLK/32 1 1 : PCLK/64	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

NFCLKSEL[1:0] ビット (NMI デジタルフィルタサンプリングクロック設定ビット)

NMI 端子割り込みのデジタルフィルタのサンプリングクロックを選択するビットです。

サンプリングクロックは、PCLK (毎クロック)、PCLK/8 (8 クロックに 1 回)、PCLK/32 (32 クロックに 1 回)、PCLK/64 (64 クロックに 1 回) より選択します。

デジタルフィルタの詳細は、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.3 ベクタテーブル

割り込みコントローラで検出する例外事象には、割り込みとノンマスカブル割り込みがあります。

CPUが割り込み、またはノンマスカブル割り込みを受け付けた場合は、ベクタテーブルから4バイトのベクタアドレスを取得します。

14.3.1 割り込みのベクタテーブル

割り込みのベクタテーブルは、CPUの割り込みテーブルレジスタ(INTB)に設定した番地から、1024バイト(4バイト×256要因分)の領域に連続に配置されます。INTBレジスタは割り込みを許可する前に設定してください。INTBレジスタに4の倍数を設定してください。

なお、INT命令、およびBRK命令を実行すると無条件トラップが発生します。無条件トラップのベクタは、表14.3の割り込みのベクタテーブルと同じ領域を利用します。BRK命令はベクタ番号0のみ、INT命令は指定した番号(0～255)のベクタとなります。

表14.3に割り込みのベクタテーブルを示します。表14.3の各項目の内容は以下のとおりです。

項目	内容
割り込み要求発生元	割り込み要求発生元の名称を示します
名称	割り込み名称を示します
ベクタ番号	ベクタ番号を示します
ベクタアドレスオフセット	ベクタベースアドレスオフセット値を示します
割り込み検出方法	割り込みの検出方法を“エッジ”、“レベル”で示します
CPU割り込み	CPU割り込み要因を“○”で示します
DTC起動	DTC起動要因を“○”で示します
SSBY復帰	ソフトウェアスタンバイモードからの復帰要因を“○”で示します
IER	ベクタ番号に対応するIERレジスタ、ビット名を示します
IPR	割り込み要因に対応するIPRレジスタを示します
DTCER	DTC起動要因に対応するDTCERレジスタを示します

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (1/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU割り込み	DTC起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
—	無条件トラップ専用	0	0000h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	1	0004h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	2	0008h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	3	000Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	4	0010h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	5	0014h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	6	0018h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	7	001Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	8	0020h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	9	0024h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	10	0028h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	11	002Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	12	0030h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	13	0034h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	14	0038h	—	×	×	×	—	—	—
—	無条件トラップ専用	15	003Ch	—	×	×	×	—	—	—
BSC	BUSERR	16	0040h	レベル	○	×	×	IER02.IEN0	IPR000	—
—	予約	17	0044h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	18	0048h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	19	004Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	20	0050h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	21	0054h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	22	0058h	—	×	×	×	—	—	—
FCU	FRDYI	23	005Ch	エッジ	○	×	×	IER02.IEN7	IPR002	—
—	予約	24	0060h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	25	0064h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	26	0068h	—	×	×	×	—	—	—
ICU	SWINT	27	006Ch	エッジ	○	○	×	IER03.IEN3	IPR003	DTCER027
CMT0	CMIO	28	0070h	エッジ	○	○	×	IER03.IEN4	IPR004	DTCER028
CMT1	CMI1	29	0074h	エッジ	○	○	×	IER03.IEN5	IPR005	DTCER029
—	予約	30	0078h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	31	007Ch	—	×	×	×	—	—	—
CAC	FERRF	32	0080h	レベル	○	×	×	IER04.IEN0	IPR032	—
	MENDF	33	0084h	レベル	○	×	×	IER04.IEN1	IPR033	—
	OVFF	34	0088h	レベル	○	×	×	IER04.IEN2	IPR034	—
—	予約	35	008Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	36	0090h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	37	0094h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	38	0098h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	39	009Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	40	00A0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	41	00A4h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	42	00A8h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	43	00ACh	—	×	×	×	—	—	—

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (2/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU割り込み	DTC起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
RSPIO	SPEI0	44	00B0h	レベル	○	×	×	IER05.IEN4	IPR044	—
	SPRIO	45	00B4h	エッジ	○	○	×	IER05.IEN5		DTCER045
	SPTI0	46	00B8h	エッジ	○	○	×	IER05.IEN6		DTCER046
	SPII0	47	00BC h	レベル	○	×	×	IER05.IEN7		—
—	予約	48	00C0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	49	00C4h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	50	00C8h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	51	00CCh	—	×	×	×	—	—	—
RSCAN	COMFRXINT	52	00D0h	エッジ	○	○	×	IER06.IEN4	IPR052	DTCER052
	RXFINT	53	00D4h	レベル	○	×	×	IER06.IEN5	IPR053	—
	TXINT	54	00D8h	レベル	○	×	×	IER06.IEN6	IPR054	—
	CHERRINT	55	00DCh	レベル	○	×	×	IER06.IEN7	IPR055	—
	GLERRINT	56	00E0h	レベル	○	×	×	IER07.IEN0	IPR056	—
DOC	DOPCF	57	00E4h	レベル	○	×	×	IER07.IEN1	IPR057	—
CMPB	CMPB0	58	00E8h	エッジ	○	○	×	IER07.IEN2	IPR058	DTCER058
	CMPB1	59	00ECh	エッジ	○	○	×	IER07.IEN3	IPR059	DTCER059
CTSU	CTSUWR	60	00F0h	エッジ	○	○	×	IER07.IEN4	IPR060	DTCER060
	CTSURD	61	00F4h	エッジ	○	○	×	IER07.IEN5		DTCER061
	CTSUFN	62	00F8h	エッジ	○	×	×	IER07.IEN6		—
RTC	CUP	63	00FCh	エッジ	○	×	×	IER07.IEN7	IPR063	—
ICU	IRQ0	64	0100h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN0	IPR064	DTCER064
	IRQ1	65	0104h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN1	IPR065	DTCER065
	IRQ2	66	0108h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN2	IPR066	DTCER066
	IRQ3	67	010Ch	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN3	IPR067	DTCER067
	IRQ4	68	0110h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN4	IPR068	DTCER068
	IRQ5	69	0114h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN5	IPR069	DTCER069
	IRQ6	70	0118h	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN6	IPR070	DTCER070
	IRQ7	71	011Ch	エッジ/レベル	○	○	○	IER08.IEN7	IPR071	DTCER071
—	予約	72	0120h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	73	0124h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	74	0128h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	75	012Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	76	0130h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	77	0134h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	78	0138h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	79	013Ch	—	×	×	×	—	—	—
ELC	ELSR8I	80	0140h	エッジ	○	×	○	IER0A.IEN0	IPR080	—
SYSTEM	SNZI	81	0144h	エッジ	○	×	×	IER0A.IEN1	IPR081	—
—	予約	82	0148h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	83	014Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	84	0150h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	85	0154h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	86	0158h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	87	015Ch	—	×	×	×	—	—	—
LVD/CMPA	LVD1	88	0160h	エッジ	○	×	○	IER0B.IEN0	IPR088	—
	LVD2/CMPA2	89	0164h	エッジ	○	×	○	IER0B.IEN1	IPR089	—

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (3/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU割り込み	DTC起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
—	予約	90	0168h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	91	016Ch	—	×	×	×	—	—	—
RTC	ALM	92	0170h	エッジ	○	×	○	IER0B.IEN4	IPR092	—
	PRD	93	0174h	エッジ	○	×	○	IER0B.IEN5	IPR093	—
—	予約	94	0178h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	95	017Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	96	0180h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	97	0184h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	98	0188h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	99	018Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	100	0190h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	101	0194h	—	×	×	×	—	—	—
S12AD	S12ADI0	102	0198h	エッジ	○	○	×	IER0C.IEN6	IPR102	DTCER102
	GBADI	103	019Ch	エッジ	○	○	×	IER0C.IEN7	IPR103	DTCER103
—	予約	104	01A0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	105	01A4h	—	×	×	×	—	—	—
ELC	ELSR18I	106	01A8h	エッジ	○	○	×	IER0D.IEN2	IPR106	DTCER106
—	予約	107	01ACh	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	108	01B0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	109	01B4h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	110	01B8h	—	×	×	×	—	—	—
AES	AESWRI	111	01BCh	エッジ	○	○	×	IER0D.IEN7	IPR111	DTCER111
	AESRDI	112	01C0h	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN0		DTCER112
RNG	RNGRDI	113	01C4h	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN1	IPR113	DTCER113
MTU0	TGIA0	114	01C8h	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN2	IPR114	DTCER114
	TGIB0	115	01CCh	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN3		DTCER115
	TGIC0	116	01D0h	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN4		DTCER116
	TGID0	117	01D4h	エッジ	○	○	×	IER0E.IEN5		DTCER117
	TCIV0	118	01D8h	エッジ	○	×	×	IER0E.IEN6	IPR118	—
	TGIE0	119	01DCh	エッジ	○	×	×	IER0E.IEN7		—
	TGIF0	120	01E0h	エッジ	○	×	×	IER0F.IEN0		—
MTU1	TGIA1	121	01E4h	エッジ	○	○	×	IER0F.IEN1	IPR121	DTCER121
	TGIB1	122	01E8h	エッジ	○	○	×	IER0F.IEN2		DTCER122
	TCIV1	123	01ECh	エッジ	○	×	×	IER0F.IEN3	IPR123	—
	TCIU1	124	01F0h	エッジ	○	×	×	IER0F.IEN4		—
MTU2	TGIA2	125	01F4h	エッジ	○	○	×	IER0F.IEN5	IPR125	DTCER125
	TGIB2	126	01F8h	エッジ	○	○	×	IER0F.IEN6		DTCER126
	TCIV2	127	01FCh	エッジ	○	×	×	IER0F.IEN7	IPR127	—
	TCIU2	128	0200h	エッジ	○	×	×	IER10.IEN0		—
MTU3	TGIA3	129	0204h	エッジ	○	○	×	IER10.IEN1	IPR129	DTCER129
	TGIB3	130	0208h	エッジ	○	○	×	IER10.IEN2		DTCER130
	TGIC3	131	020Ch	エッジ	○	○	×	IER10.IEN3		DTCER131
	TGID3	132	0210h	エッジ	○	○	×	IER10.IEN4		DTCER132
	TCIV3	133	0214h	エッジ	○	×	×	IER10.IEN5	IPR133	—

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (4/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU 割り込み	DTC 起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
MTU4	TGIA4	134	0218h	エッジ	○	○	×	IER10.IEN6	IPR134	DT CER134
	TGIB4	135	021Ch	エッジ	○	○	×	IER10.IEN7		DT CER135
	TGIC4	136	0220h	エッジ	○	○	×	IER11.IEN0		DT CER136
	TGID4	137	0224h	エッジ	○	○	×	IER11.IEN1		DT CER137
	TCIV4	138	0228h	エッジ	○	○	×	IER11.IEN2	IPR138	DT CER138
MTU5	TGIU5	139	022Ch	エッジ	○	○	×	IER11.IEN3	IPR139	DT CER139
	TGIV5	140	0230h	エッジ	○	○	×	IER11.IEN4		DT CER140
	TGIW5	141	0234h	エッジ	○	○	×	IER11.IEN5		DT CER141
—	予約	142	0238h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	143	023Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	144	0240h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	145	0244h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	146	0248h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	147	024Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	148	0250h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	149	0254h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	150	0258h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	151	025Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	152	0260h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	153	0264h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	154	0268h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	155	026Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	156	0270h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	157	0274h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	158	0278h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	159	027Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	160	0280h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	161	0284h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	162	0288h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	163	028Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	164	0290h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	165	0294h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	166	0298h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	167	029Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	168	02A0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	169	02A4h	—	×	×	×	—	—	—
POE	OEI1	170	02A8h	レベル	○	×	×	IER15.IEN2	IPR170	—
	OEI2	171	02ACh	レベル	○	×	×	IER15.IEN3	IPR171	—
—	予約	172	02B0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	173	02B4h	—	×	×	×	—	—	—
TMR0	CMIA0	174	02B8h	エッジ	○	○	×	IER15.IEN6	IPR174	DT CER174
	CMIB0	175	02BCh	エッジ	○	○	×	IER15.IEN7		DT CER175
	OVI0	176	02C0h	エッジ	○	×	×	IER16.IEN0		—
TMR1	CMIA1	177	02C4h	エッジ	○	○	×	IER16.IEN1	IPR177	DT CER177
	CMIB1	178	02C8h	エッジ	○	○	×	IER16.IEN2		DT CER178
	OVI1	179	02CCh	エッジ	○	×	×	IER16.IEN3		—

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (5/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU 割り込み	DTC 起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
TMR2	CMIA2	180	02D0h	エッジ	○	○	×	IER16.IEN4	IPR180	DTCER180
	CMIB2	181	02D4h	エッジ	○	○	×	IER16.IEN5		DTCER181
	OVI2	182	02D8h	エッジ	○	×	×	IER16.IEN6		—
TMR3	CMIA3	183	02DCh	エッジ	○	○	×	IER16.IEN7	IPR183	DTCER183
	CMIB3	184	02E0h	エッジ	○	○	×	IER17.IEN0		DTCER184
	OVI3	185	02E4h	エッジ	○	×	×	IER17.IEN1		—
—	予約	186	02E8h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	187	02ECh	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	188	02F0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	189	02F4h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	190	02F8h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	191	02FCh	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	192	0300h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	193	0304h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	194	0308h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	195	030Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	196	0310h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	197	0314h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	198	0318h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	199	031Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	200	0320h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	201	0324h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	202	0328h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	203	032Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	204	0330h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	205	0334h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	206	0338h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	207	033Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	208	0340h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	209	0344h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	210	0348h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	211	034Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	212	0350h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	213	0354h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	214	0358h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	215	035Ch	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	216	0360h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	217	0364h	—	×	×	×	—	—	—
SCI1	ER11	218	0368h	レベル	○	×	×	IER1B.IEN2	IPR218	—
	RX11	219	036Ch	エッジ	○	○	×	IER1B.IEN3		DTCER219
	TX11	220	0370h	エッジ	○	○	×	IER1B.IEN4		DTCER220
	TE11	221	0374h	レベル	○	×	×	IER1B.IEN5		—
SCI5	ER15	222	0378h	レベル	○	×	×	IER1B.IEN6	IPR222	—
	RX15	223	037Ch	エッジ	○	○	×	IER1B.IEN7		DTCER223
	TX15	224	0380h	エッジ	○	○	×	IER1C.IEN0		DTCER224
	TE15	225	0384h	レベル	○	×	×	IER1C.IEN1		—

表 14.3 割り込みのベクタテーブル (6/6)

割り込み 要求発生元	名称	ベクタ 番号(注1)	ベクタ アドレス オフセット	割り込み 検出方法	CPU割り込み	DTC起動	SSBY 復帰	IER	IPR	DTCER
SCI6	ERI6	226	0388h	レベル	○	×	×	IER1C.IEN2	IPR226	—
	RXI6	227	038Ch	エッジ	○	○	×	IER1C.IEN3		DTCER227
	TXI6	228	0390h	エッジ	○	○	×	IER1C.IEN4		DTCER228
	TEI6	229	0394h	レベル	○	×	×	IER1C.IEN5		—
SCI8	ERI8	230	0398h	レベル	○	×	×	IER1C.IEN6	IPR230	—
	RXI8	231	039Ch	エッジ	○	○	×	IER1C.IEN7		DTCER231
	TXI8	232	03A0h	エッジ	○	○	×	IER1D.IEN0		DTCER232
	TEI8	233	03A4h	レベル	○	×	×	IER1D.IEN1		—
SCI9	ERI9	234	03A8h	レベル	○	×	×	IER1D.IEN2	IPR234	—
	RXI9	235	03ACh	エッジ	○	○	×	IER1D.IEN3		DTCER235
	TXI9	236	03B0h	エッジ	○	○	×	IER1D.IEN4		DTCER236
	TEI9	237	03B4h	レベル	○	×	×	IER1D.IEN5		—
SCI12	ERI12	238	03B8h	レベル	○	×	×	IER1D.IEN6	IPR238	—
	RXI12	239	03BCh	エッジ	○	○	×	IER1D.IEN7		DTCER239
	TXI12	240	03C0h	エッジ	○	○	×	IER1E.IEN0		DTCER240
	TEI12	241	03C4h	レベル	○	×	×	IER1E.IEN1		—
	SCIX0	242	03C8h	レベル	○	×	×	IER1E.IEN2	IPR242	—
	SCIX1	243	03CCh	レベル	○	×	×	IER1E.IEN3	IPR243	—
	SCIX2	244	03D0h	レベル	○	×	×	IER1E.IEN4	IPR244	—
	SCIX3	245	03D4h	レベル	○	×	×	IER1E.IEN5	IPR245	—
RIIC0	EEI0	246	03D8h	レベル	○	×	×	IER1E.IEN6	IPR246	—
	RXI0	247	03DCh	エッジ	○	○	×	IER1E.IEN7	IPR247	DTCER247
	TXI0	248	03E0h	エッジ	○	○	×	IER1F.IEN0	IPR248	DTCER248
	TEI0	249	03E4h	レベル	○	×	×	IER1F.IEN1	IPR249	—
—	予約	250	03E8h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	251	03ECh	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	252	03F0h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	253	03F4h	—	×	×	×	—	—	—
—	予約	254	03F8h	—	×	×	×	—	—	—
LPT	LPTCM1	255	03FCh	エッジ	○	○	×	IER1F.IEN7	IPR255	DTCER255

注1. ベクタ番号が小さいほど、優先順位は高くなります。

14.3.2 高速割り込みのベクタテーブル

高速割り込みに設定された割り込みのベクタテーブルは、CPUの高速割り込みベクタレジスタ(FINTV)です。

14.3.3 ノンмасカブル割り込みのベクタ領域

ノンмасカブル割り込みが使用するベクタ領域は、例外ベクタテーブルにあります。

例外ベクタテーブルは、CPUの例外テーブルレジスタ(EXTB)に設定したアドレスを先頭とする128バイト(4バイト×32要因)の領域に配置されます。EXTBレジスタはノンмасカブル割り込みを許可する前に設定してください。また、EXTBレジスタには4の倍数を設定してください。

14.4 割り込みの動作説明

割り込みコントローラは次の処理を行います。

- 割り込み検出
- 割り込み許可 / 禁止制御
- 割り込み要求先 (CPU 割り込み、DTC 起動) の選択
- 割り込み優先順位判定

14.4.1 割り込み検出

割り込み要求の検出方法は、レベル検出とエッジ検出の2種類があります。

IRQ_i 端子 (i = 0 ~ 7) からの外部割り込み要求は、IRQCRI.IRQMD[1:0] ビットの設定によってエッジ検出とレベル検出を切り替えることができます。

周辺モジュールからの割り込み要求は、要因ごとにエッジ検出 / レベル検出が決まっています。

各要因に対応する検出方法は、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

14.4.1.1 エッジ検出の割り込みステータスフラグ

周辺機能割り込みと、外部端子割り込みのエッジ検出の IR_n.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) の動作を図 14.2 に示します。

割り込み要求が発生したときの割り込み信号の変化点で IR_n.IR フラグが“1”になります。割り込み要求先が CPU の場合、割り込みを受け付けると IR_n.IR フラグは自動的に“0”になります。割り込み要求先が DTC の場合は、DTC の転送設定、転送回数によって異なります。詳細は「表 14.4 DTC 起動時の動作」を参照してください。ソフトウェアで IR_n.IR フラグをクリアする必要はありません。

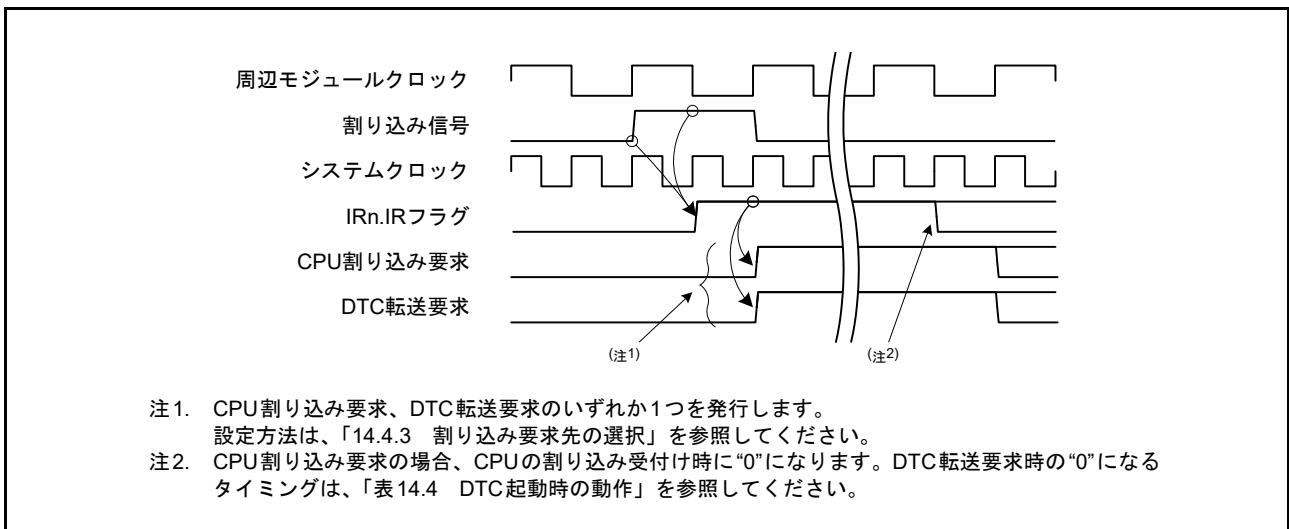


図 14.2 エッジ検出の IR_n.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) の動作

図 14.3～図 14.5 の割り込み信号は、割り込みコントローラの信号です。割り込みベクタ番号 64～95 の割り込みでは、タイミングが他の割り込みと異なります。割り込みベクタ番号 64～79 の IRQ 端子割り込みの場合、IRQ 端子入力から内部遅延 + 2PCLK 分の遅延が増加します。割り込みベクタ番号 80～95 の割り込みの場合、2PCLK 分の遅延が増加します。

毎サイクル割り込み信号が発生した場合、後続する割り込みの検出はできません。連続する割り込み要求はシステムクロックで 2 サイクル以上間隔をあけてください。

割り込み要求が発生し IRn.IR フラグが“1”の状態では、再度発生した割り込み要求は無視されます。(注 1) IRn.IR フラグの再セットのタイミングを図 14.3 に示します。

- 注 1. ただし、SCI、RIIC、RSCAN、RSPI の各送信割り込み / 受信割り込みの場合、IRn.IR フラグが“1”の状態が発生した割り込み要求は保持され、IRn.IR フラグが“0”になった後、保持された要求によって再度 IRn.IR フラグが“1”になります。詳細は、「27. シリアルコミュニケーションインタフェース (SCIg, SCIk, SCIlh)」、
「28. I²C バスインタフェース (RIICa)」、
「30. シリアルペリフェラルインタフェース (RSPIc)」の各割り込みの説明を参照してください。

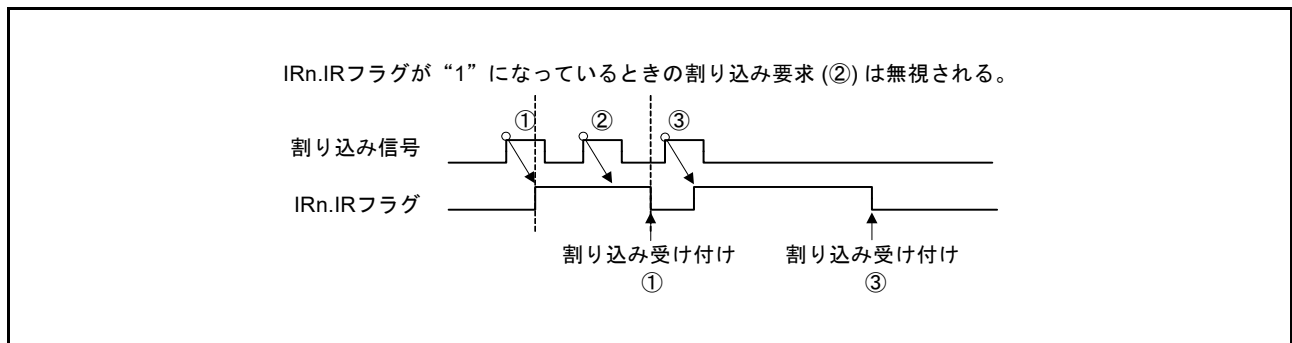


図 14.3 IRn.IR フラグの再セットのタイミング

IRn.IR フラグが“1”になった後、割り込みを禁止 (周辺モジュールの割り込み許可ビットで割り込み要求の出力を禁止) としても、IRn.IR フラグは影響を受けず保持されます。割り込みを禁止した場合の動作を図 14.4 に示します。

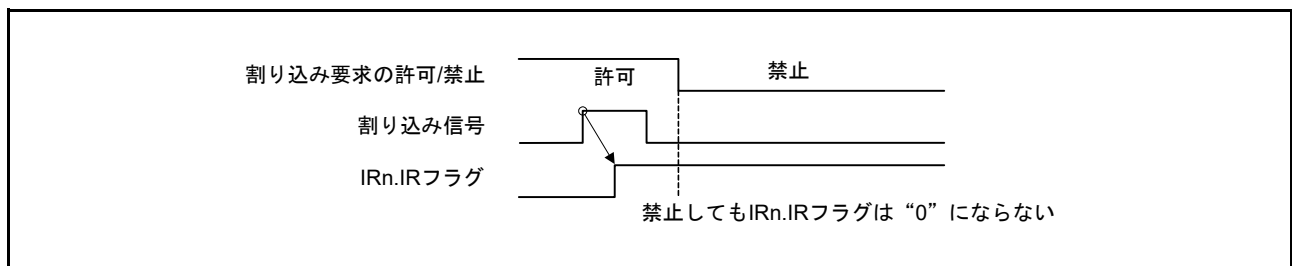


図 14.4 割り込み要求の禁止と IRn.IR フラグの関係

14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ

周辺機能割り込みと外部端子割り込みのレベル検出時の IRn.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) の動作を図 14.5 に示します。

割り込み信号がアサートされている間、IRn.IR フラグを“1”にし続けます。IRn.IR フラグを“0”にするためには、割り込み発生元の割り込み要求を“0”にしてください。割り込み要求発生元の割り込み要求フラグが“0”になったことを確認、および IRn.IR フラグが“0”になったことを確認してから、割り込みハンドラを終了してください。

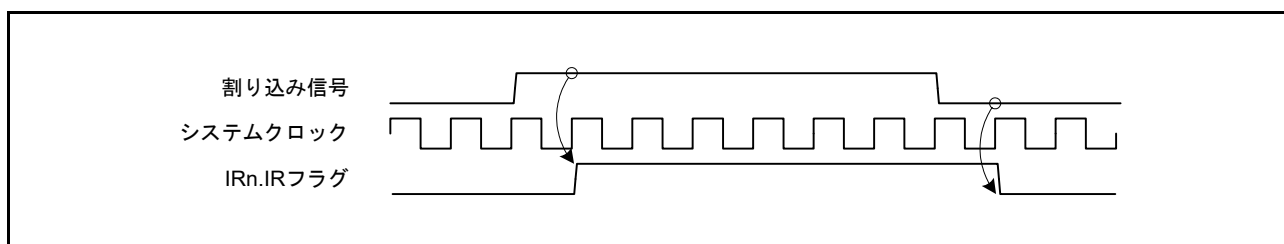


図 14.5 レベル検出時の IRn.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) の動作

レベル検出割り込みの処理手順を図 14.6 に示します。

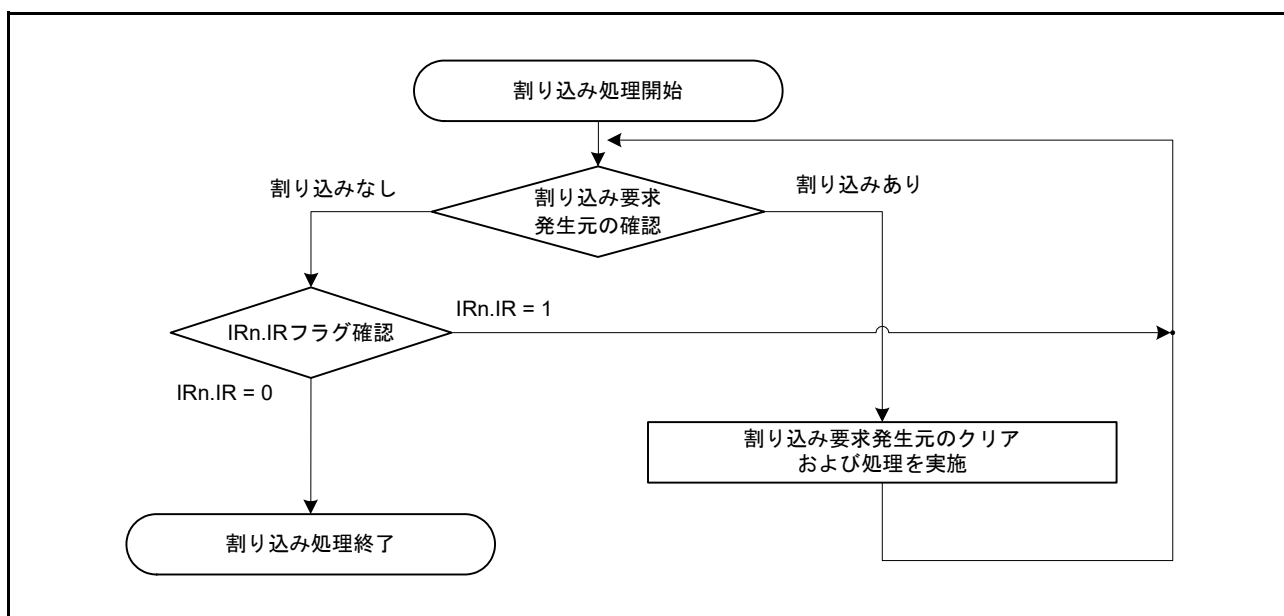


図 14.6 レベル検出割り込み処理手順

14.4.2 割り込み要求の許可 / 禁止

割り込み要求を許可するためには、以下の設定が必要です。

1. 周辺機能割り込みの場合、周辺モジュールの割り込み許可ビットで割り込み要求の出力を許可
2. IERm.IENj ビット (m = 02h ~ 1Fh、j = 0 ~ 7) によって割り込み要求を許可

割り込み発生元で割り込み出力が許可された割り込み要求が発生すると、対応する IRn.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) が“1”になります。

IERm.IENj ビットで割り込み要求を許可することで、IRn.IR フラグが“1”である割り込み要求が割り込み要求先へ出力されます。また、IERm.IENj ビットで割り込み要求を禁止することで、IRn.IR フラグが“1”になった割り込み要求は保留されます。

IRn.IR フラグは、IERm.IENj ビットの影響を受けません。

割り込み要求を禁止にする手順は以下のとおりです。

1. IERm.IENj ビットを割り込み要求禁止に設定する。
2. 周辺モジュールの割り込み出力許可ビットを禁止に設定し、書き込みを行ったレジスタを読んで、書き込み完了を確認する。
3. 必要に応じて、IRn.IR フラグを確認、もしくは IRn.IR フラグを“0”にする。(注1)

注 1. SCI、RIIC、RSPI の各送信割り込み / 受信割り込みを許可状態から禁止状態に変更する場合、上記の手順で IRn.IR フラグを“0”にしてください。詳細は、「27. シリアルコミュニケーションインタフェース (SCIg, SCIk, SCIlh)」、「28. I²C バスインタフェース (RIICa)」、「30. シリアルペリフェラルインタフェース (RSPIc)」の各割り込みの説明を参照してください。

14.4.3 割り込み要求先の選択

割り込み要因ごとに設定できる割り込み要求先は決められており、「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」に示された要求先が設定できます。表 14.3 に「○」の記載がない割り込み要求先を選択しないでください。

IRQ_i 端子 (i = 0 ~ 7) で DTC を割り込み要求先に設定する場合は、IRQCRI.IRQMD[1:0] ビットをエッジ検出に設定してください。

割り込み要求先の設定方法を以下に示します。

(1) DTC 起動

要因ごとに、IER_m.IEN_j ビット (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7) が “0” のときに以下の設定を行ってください。

- 当該要因のDTC転送要求許可レジスタのDTC転送要求許可ビット(DTCER_n.DTCE (n = 割り込みベクタ番号))を“1”に設定する

上記の状態、IER_m.IEN_j ビットを“1”にしてください。

また、DTC モジュール起動ビット (DTCST.DTCST) を“1”にしてください。要因ごとの設定と DTC モジュール起動ビットの設定はどちらを先に行っても構いません。

DTC の設定手順は、「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」の「16.5 DTC の設定手順」を参照してください。

(2) CPU 割り込み要求

割り込み要求先が DTC ではない要因は、CPU 割り込み対象となります。

上記の DTC 起動の設定がされていない状態で、IER_m.IEN_j ビット (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7) を“1”にしてください。

DTC を割り込み要求先に設定した場合の動作は、表 14.4 に示すとおりになります。

表 14.4 DTC 起動時の動作

割り込み要求先	DISEL (注1)	残り転送回数	1要求ごとの動作	IR (注2)	転送後の割り込み要求先
DTC (注3)	1	≠ 0	DTC 転送 → CPU 割り込み	CPU 割り込み受け付け時にクリア	DTC
		= 0	DTC 転送 → CPU 割り込み	CPU 割り込み受け付け時にクリア	DTCER _n .DTCE ビットがクリアされCPUに切り替え
	0	≠ 0	DTC 転送	DTC 転送情報読み出し後のDTCデータ転送開始時にクリア	DTC
		= 0	DTC 転送 → CPU 割り込み	CPU 割り込み受け付け時にクリア	DTCER _n .DTCE ビットがクリアされCPUに切り替え

注1. DTCのDISELはDTC.MRB.DISELビットで設定します。

注2. IR_n.IRフラグが“1”のとき、再度発生した割り込み要求(DTC転送要求)は無視されます。

注3. チェーン転送の場合は、チェーン最終転送までDTC転送を継続します。チェーン最終転送時のCPU割り込みの有無、IR_n.IRフラグのクリア、転送後の割り込み要求先の各動作は、チェーン最終転送のDISEL、および残り転送回数によって決まります。チェーン転送については、「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」の「表 16.4 チェーン転送の条件」を参照してください。

割り込み要求先を変更する場合は IER_m.IEN_j ビットが “0” のときに行ってください。

「(1) DTC 起動」を設定してから転送が完了していない状態 (DTCER_n.DTCE ビット (n = 割り込みベクタ番号) がクリアされていない状態) で、割り込み要求先を変更する場合、または DTC 転送設定内容を変更する場合は、以下の手順で行ってください。

1. 取り下げる要因、および新たに起動対象とする要因の IER_m.IEN_j ビットを “0” にする。
2. DTC 転送状況を確認する。転送中であれば、転送完了を待つ。
3. 「(1) DTC 起動」の設定を行う。

14.4.4 優先順位の判定

割り込みコントローラは、割り込み要求先ごとに優先順位の判定を行います。それぞれの割り込み要求先に対する優先順位判定方法は以下のとおりです。

(1) 割り込み要求先が CPU の場合の優先順位判定

高速割り込みに設定された要因が最も優先されます。その次に割り込み優先レベル設定ビット (IPRn.IPR[3:0] (n = 割り込みベクタ番号)) の値が大きい要因が優先されます。IPRn.IPR[3:0] ビットの値が同一レベルの要因が複数ある場合には、ベクタ番号が小さい要因が優先されます。

(2) 割り込み要求先が DTC の場合の優先順位判定

IPRn.IPR[3:0] ビットの影響を受けません。ベクタ番号が小さい要因が優先されます。

14.4.5 多重割り込み

CPU の多重割り込みを許可するには、受け付けた割り込みの処理ルーチン内で PSW.I ビットを“1”(割り込み許可)にしてください。

割り込み処理ルーチンに分岐した直後の PSW.IPL[3:0] ビットは、受け付けた割り込み要求の割り込み優先レベルと同じ値になっています。このとき、PSW.IPL[3:0] ビットより高い割り込み優先レベルの割り込み要求が発生すると、この割り込み要求の受け付け (多重割り込み) が行われます。

受け付けた割り込み要求の割り込み優先レベルが 15 (高速割り込み、IPR[3:0] を“1111b”に設定した割り込み) の場合は、多重割り込みは発生しません。

14.4.6 高速割り込み

高速割り込みは、CPU の割り込み応答を高速に実行できる割り込みで、割り込み要因のうちの 1 つだけを割り当てることができます。

高速割り込みの割り込み優先レベルは、IPRn.IPR[3:0] ビット (n = 割り込みベクタ番号) の設定にかかわらず、15 (最高) です。また、他のレベル 15 の割り込み要因よりも優先的に受け付けられます。ただし、PSW.IPL[3:0] ビットの値が“1111b”(優先レベル 15) の場合は、高速割り込みも受け付けられません。

割り込み要因を高速割り込みに割り当てするには、FIR.FVCT[7:0] ビットにその要因のベクタ番号を設定し、FIR.FIEN ビットを“1”(高速割り込みを許可)にしてください。

高速割り込みについては「2. CPU」や「13. 例外処理」も参照してください。

14.4.7 デジタルフィルタ

外部割り込み要求端子 IRQ_i ($i=0 \sim 7$) と NMI 端子割り込みには、デジタルフィルタ機能を持っています。デジタルフィルタは入力信号をフィルタ用サンプリングクロック (PCLK) でサンプリングし、サンプリング周期 3 回に満たないパルスを除去します。

IRQ_i 端子のデジタルフィルタを使用する場合、 $IRQFLTC0.FCLKSEL_i[1:0]$ ビットでサンプリング周波数 (PCLK, PCLK/8, PCLK/32, PCLK/64) を設定し、 $IRQFLTE0.FLTEN_i$ ビットを“1”(デジタルフィルタ有効) にしてください。

NMI 端子割り込みのデジタルフィルタを使用する場合、 $NMIFLTC.NFCLKSEL[1:0]$ ビットでサンプリング周波数 (PCLK, PCLK/8, PCLK/32, PCLK/64) を設定し、 $NMIFLTE.NFLTEN$ ビットを“1”(デジタルフィルタ有効) にしてください。

図 14.7 にデジタルフィルタの動作例を示します。

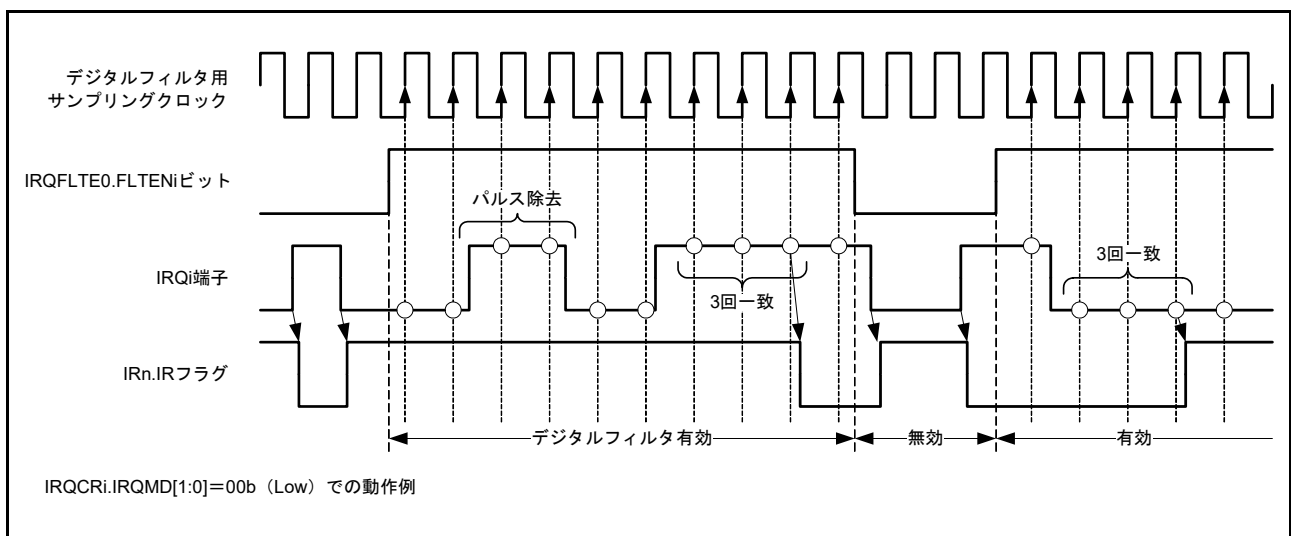


図 14.7 デジタルフィルタ動作例

ソフトウェアスタンバイモードに移行する際は、 $IRQFLTE0.FLTEN_i$ ビット、および $NMIFLTE.NFLTEN$ ビットを“0”(デジタルフィルタ無効) にしてください。ソフトウェアスタンバイモードからの復帰後に再度デジタルフィルタを使用する場合は、 $IRQFLTE0.FLTEN_i$ ビット、もしくは $NMIFLTE.NFLTEN$ ビットを“1”(デジタルフィルタ有効) にしてください。

14.4.8 外部端子割り込み

外部端子割り込みを使用する手順は以下のとおりです。

1. IERm.IENj ビット ($m = 02h \sim 1Fh$, $j = 0 \sim 7$) を“0”(割り込み要求禁止)にする。
2. IRQFLTE0.FLTENi ビット ($i = 0 \sim 7$) を“0”(デジタルフィルタ無効)にする。(注1)
3. IRQFLTC0.FCLKSELi[1:0] ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを設定する。(注1)
4. I/Oポートの設定、および確認を行う。
5. IRQCRi.IRQMD[1:0] ビットで検出方法を設定する。
6. IRn.IR フラグ ($n =$ 割り込みベクタ番号) を“0”にする(エッジ検出の場合)。
7. IRQFLTE0.FLTENi ビットを“1”(デジタルフィルタ有効)にする。(注1)
8. DTC 起動の場合 DTCERn.DTCE ビットを設定する(設定しない場合はCPU割り込み)。
9. IERm.IENj ビットを“1”(割り込み要求許可)にする。

注1. デジタルフィルタを使用する場合、設定が必要です。

14.5 ノンマスクابل割り込みの動作説明

ノンマスクابل割り込みにはNMI端子割り込み、発振停止検出割り込み、IWDTアンダフロー/リフレッシュエラー、電圧監視1割り込み、電圧監視2割り込みがあります。ノンマスクابل割り込みはCPUへの割り込みのみであり、DTCの起動はできません。高速割り込みを含むすべての割り込みの中で最優先の割り込みです。

ノンマスクابل割り込み要求は、CPUのPSW.Iビット(割り込み許可ビット)、PSW.IPL[3:0]ビット(プロセッサ割り込み優先レベル)の状態にかかわらず受け付けられます。ノンマスクابل割り込みの有無はノンマスクابل割り込みステータスレジスタ(NMISR)で確認できます。

ノンマスクابل割り込みハンドラでは、NMISRレジスタの全ビットが“0”であることを確認してから、ハンドラを終了してください。

初期状態では「ノンマスクابل割り込み禁止」となっています。ノンマスクابل割り込みを使用するシステムでは、プログラム処理の先頭で以下の手順に従ってください。

ノンマスクابل割り込み使用手順

1. スタックポインタ(SP)を設定する。
2. NMI端子を使用する場合は、NMIFLTC.NFCLTENビットを“0”(デジタルフィルタ無効)にする。(注1)
3. NMI端子を使用する場合は、NMIFLTC.NFCLKSEL[1:0]ビットでデジタルフィルタのサンプリングクロックを設定する。(注1)
4. NMI端子を使用する場合は、NMICR.NMIMDビットでNMI端子の検出センスを設定する。
5. NMI端子を使用する場合は、NMICLR.NMICLRビットに“1”を書いて、NMISR.NMISTフラグを“0”にする。
6. NMI端子を使用する場合は、NMIFLTC.NFCLTENビットを“1”(デジタルフィルタ有効)にする。(注1)
7. ノンマスクابل割り込み許可レジスタ(NMIER)の許可する割り込みに対応するビットを“1”にして、ノンマスクابل割り込みの使用を許可する。

注1. デジタルフィルタを使用する場合、設定が必要です。

NMIERレジスタに“1”を書くと、以後のNMIERレジスタへの書き込みは無視されます。ノンマスクابل割り込みを禁止することはできません。リセットでのみ禁止になります。

ノンマスクابل割り込みの処理の流れは、「13. 例外処理」を参照してください。

NMIステータスフラグ(NMISR.NMIST)は、NMICLR.NMICLRビットに“1”を書くことで“0”になります。

発振停止検出割り込みステータスフラグ(NMISR.OSTST)は、NMICLR.OSTCLRビットに“1”を書くことで“0”になります。

IWDTアンダフロー/リフレッシュエラーステータスフラグ(NMISR.IWDTST)は、NMICLR.IWDTCLRビットに“1”を書くことで“0”になります。

電圧監視1割り込みステータスフラグ(NMISR.LVD1ST)は、NMICLR.LVD1CLRビットに“1”を書くことで“0”になります。

電圧監視2割り込みステータスフラグ(NMISR.LVD2ST)は、NMICLR.LVD2CLRビットに“1”を書くことで“0”になります。

14.6 低消費電力状態からの復帰

スリープモード、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモード、スヌーズモードからの復帰に割り込みが使用できます。

詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。低消費電力モードごとの復帰要因の設定方法を以下に示します。

14.6.1 スリープモードおよびディープスリープモードからの復帰

すべてのノンマスクابل割り込み、およびすべての割り込みによって復帰することができます。復帰するための条件は以下のとおりです。

(1) ノンマスクابل割り込み

- NMIER レジスタによって該当する割り込み要求が許可されていること

(2) 割り込み

- 割り込み要求先が CPU であること
- IERm.IENj ビット (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7) によって該当する割り込み要求が許可されていること
- CPU の PSW.IPL[3:0] ビットよりも高い割り込み優先レベルであること

14.6.2 ソフトウェアスタンバイモードからの復帰

ノンマスクابل割り込み、および「表 14.3 割り込みのベクタテーブル」の「SSBY 復帰」列に「○」のある割り込みによって復帰することができます。復帰するための条件は以下のとおりです。

(1) ノンマスクابل割り込み

- NMIER レジスタによって該当する割り込み要求が許可されていること
- NMI 端子割り込みを使用する場合は、デジタルフィルタが無効になっていること

(2) 割り込み

- ソフトウェアスタンバイモードから復帰可能な要因であること
- 割り込み要求先が CPU であること
- IERm.IENj ビット (m = 02h ~ 1Fh, j = 0 ~ 7) によって該当する割り込み要求が許可されていること
- CPU の PSW.IPL[3:0] ビットよりも高い割り込み優先レベルであること
(高速割り込みを使用する場合には、FIR レジスタだけでなく、対応する IPRn.IPR[3:0] ビット (n = 割り込みベクタ番号) も CPU の PSW.IPL[3:0] ビットより高い割り込み優先レベルを設定してください)
- 外部端子割り込みを使用する場合は、使用する IRQi 端子のデジタルフィルタが無効になっていること

デジタルフィルタの設定方法については、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.6.3 スヌーズモードからの復帰

ノンマスクابل割り込み、外部端子割り込み (IRQ0 ~ IRQ7)、周辺機能割り込み (電圧監視 1、電圧監視 2、RTC アラーム/周期)、SNZI 割り込み (スヌーズ解除割り込み) によって復帰することができます。復帰するための条件は以下のとおりです。

(1) ノンマスクابل割り込み

- NMIER レジスタによって該当する割り込み要求が許可されていること
- NMI 端子割り込みを使用する場合は、デジタルフィルタが無効になっていること

(2) 割り込み

- スヌーズモードから復帰可能な要因であること
- 割り込み要求先が CPU であること
- IERm.IENj ビット (m = 02h ~ 1Fh、j = 0 ~ 7) によって該当する割り込み要求が許可されていること
- CPU の PSW.IPL[3:0] ビットよりも高い割り込み優先レベルであること
(高速割り込みを使用する場合には、FIR レジスタだけでなく、対応する IPRn.IPR[3:0] ビット (n = 割り込みベクタ番号) も CPU の PSW.IPL[3:0] ビットより高い割り込み優先レベルを設定してください)
- 外部端子割り込みを使用する場合は、使用する IRQi 端子のデジタルフィルタが無効になっていること

デジタルフィルタの設定方法については、「14.4.7 デジタルフィルタ」を参照してください。

14.7 使用上の注意事項

14.7.1 ノンマスクابل割り込み使用時の WAIT 命令の注意事項

WAIT 命令を実行する場合は、NMISR レジスタのすべてのステータスフラグが“0”であることを確認した後で行ってください。

15. バス

15.1 概要

表 15.1 にバスの仕様を、図 15.1 にバスの構成図を、表 15.2 にバス種類別アドレス対応表を示します。

表 15.1 バスの仕様

バスの種類		内容
CPUバス	命令バス	<ul style="list-style-type: none"> • CPU (命令)を接続 • 内蔵メモリを接続(RAM, ROM) • システムクロック (ICLK)に同期して動作
	オペランドバス	<ul style="list-style-type: none"> • CPU (オペランド)を接続 • 内蔵メモリを接続(RAM, ROM) • システムクロック (ICLK)に同期して動作
メモリバス	メモリバス1	<ul style="list-style-type: none"> • RAMを接続
	メモリバス2	<ul style="list-style-type: none"> • ROMを接続
内部メインバス	内部メインバス1	<ul style="list-style-type: none"> • CPUを接続 • システムクロック (ICLK)に同期して動作
	内部メインバス2	<ul style="list-style-type: none"> • DTCを接続 • 内蔵メモリを接続(RAM, ROM) • システムクロック (ICLK)に同期して動作
内部周辺バス	内部周辺バス1	<ul style="list-style-type: none"> • 周辺機能(DTC、割り込みコントローラ、バスエラー監視部)を接続 • システムクロック (ICLK)に同期して動作
	内部周辺バス2	<ul style="list-style-type: none"> • 周辺機能を接続 • 周辺モジュールクロック (PCLKB, PCLKD)に同期して動作
	内部周辺バス3	<ul style="list-style-type: none"> • 周辺機能(CTSUS、RSCAN)を接続 • 周辺モジュールクロック (PCLKB)に同期して動作
	内部周辺バス6	<ul style="list-style-type: none"> • ROM (P/E時)、E2データフラッシュを接続 • FlashIFクロック (FCLK)に同期して動作

P/E : プログラム / イレース

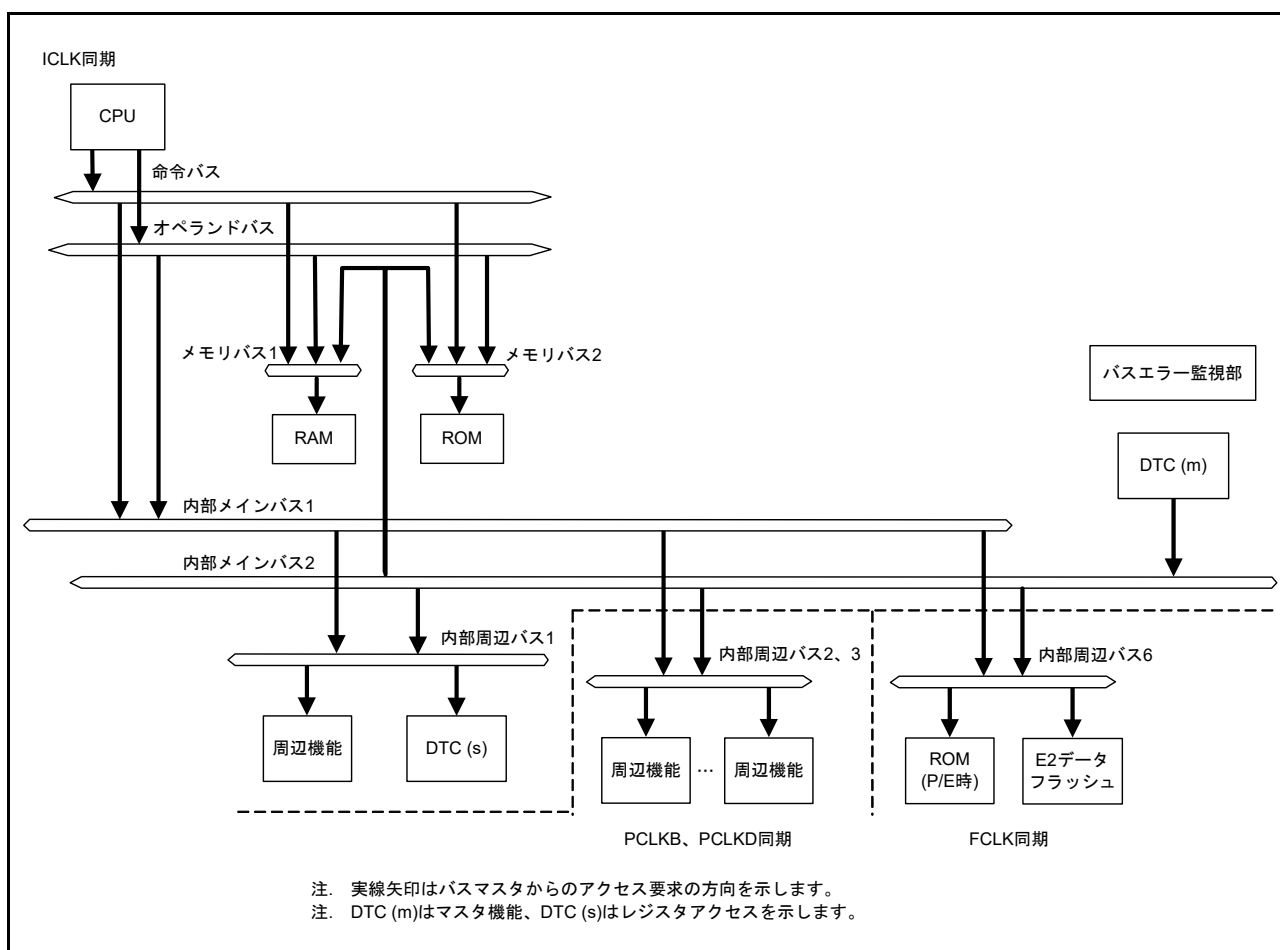


図 15.1 バスの構成図

表 15.2 バス種類別アドレス対応表

アドレス	バス	内容
0000 0000h ~ 0000 FFFFh	メモリバス 1	RAM
0008 0000h ~ 0008 7FFFh	内部周辺バス 1	周辺 I/O レジスタ
0008 8000h ~ 0009 FFFFh	内部周辺バス 2	
000A 0000h ~ 000B FFFFh	内部周辺バス 3	
0010 0000h ~ 00FF FFFFh	内部周辺バス 6	E2 データフラッシュ、ROM (プログラム/イレーズ用)
8000 0000h ~ FFFF FFFFh	メモリバス 2	ROM (読み出し専用)
FF00 0000h ~ FFFF FFFFh		

15.2 バスの説明

15.2.1 CPU バス

CPU バスには、命令バスとオペランドバスがあり、内部メインバス 1 に接続されています。命令バスは CPU の命令フェッチに、オペランドバスは CPU のオペランドアクセスに使用されます。命令バスは 64 ビットです。オペランドバスは、32 ビットです。

命令バスとオペランドバスは、RAM、ROM に接続しており、内部メインバス 1 を介さずに CPU から直接アクセスすることが可能です。ただし、ROM は読み出しのみ CPU からの直接アクセスが可能であり、書き込み/消去は内部周辺バスを介して行います。

内部メインバス 1 は、命令フェッチとオペランドのバス権要求を調停します。優先順位は、オペランド > 命令フェッチの順となります。

命令フェッチとオペランドアクセスからの要求が異なるバス (メモリバス 1、メモリバス 2、内部メインバス 1) に対するものであれば、それぞれのバスアクセスを同時に行うことが可能です。たとえば、ROM と RAM などの並列動作が可能となります。

15.2.2 メモリバス

メモリバスには、メモリバス 1 とメモリバス 2 があり、メモリバス 1 には RAM、メモリバス 2 には ROM が接続されています。メモリバスは 64 ビットです。メモリバス 1 とメモリバス 2 は、CPU バス (命令フェッチとオペランド)、内部メインバス 2 からのバス権要求を調停します。

2 本のバスの優先順位は、それぞれバスプライオリティ制御レジスタのメモリバス 1 (RAM) プライオリティ制御ビット (BUSPRI.BPRA[1:0])、メモリバス 2 (ROM) プライオリティ制御ビット (BUSPRI.BPRO[1:0]) により設定可能です。優先順位固定の場合は、2 本のバスの優先順位は、内部メインバス 2 > CPU バス (オペランド > 命令フェッチ) の順となります。優先順位トグルの場合は、内部メインバス 2 と CPU バスとでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

15.2.3 内部メインバス

内部メインバスは、CPU が使用するバス (内部メインバス 1) と、CPU 以外のバスマスタ (DTC) が使用するバス (内部メインバス 2) の 2 本で構成されます。

内部メインバス 1 は、命令フェッチとオペランドのバス権要求を調停します。優先順位は、オペランド > 命令フェッチの順となります。

内部メインバス 2 では、DTC のバス権要求を調停します。優先順位は、表 15.3 に示すようになります。

CPU と CPU 以外のバスマスタからの要求が異なるバス (内蔵メモリ、内部周辺バス 1 ~ 内部周辺バス 3、内部周辺バス 6) に対するものであれば、それぞれのバスアクセスを同時に行うことが可能です。

ただし、CPU により XCHG 命令が実行された場合には、バスプライオリティ制御レジスタ (BUSPRI) の設定にかかわらず、XCHG 命令によるバスアクセスが完了するまで、CPU 以外のバスアクセスは受け付けません。また、DTC の転送情報リードおよびライトバック中も DTC 以外のバスアクセスは受け付けません。

表 15.3 バスマスタ優先順位

優先度	バスマスタ
高 ↑ 低	DTC
	CPU

15.2.4 内部周辺バス

表 15.4 に内部周辺バスに接続される周辺機能を示します。

表 15.4 内部周辺バスに接続される周辺機能

バスの種類	周辺機能
内部周辺バス1	DTC、割り込みコントローラ、バスエラー監視部
内部周辺バス2	内部周辺バス1、3以外の周辺機能
内部周辺バス3	CTSU、RSCAN
内部周辺バス6	ROM (P/E時) / E2データフラッシュ

内部周辺バス1～3、6は、それぞれ、CPU (内部メインバス1) と CPU 以外のバスマスタ (内部メインバス2) からのバス権要求を調停します。

2本の内部メインバスの優先順位は、バスプライオリティ制御レジスタ (BUSPRI) により設定可能です。優先順位は、内部周辺バス1プライオリティ制御ビット (BUSPRI.BPIB[1:0])、内部周辺バス2、3プライオリティ制御ビット (BUSPRI.BPGB[1:0])、内部周辺バス6プライオリティ制御ビット (BUSPRI.BPFB[1:0]) によりバスごとに設定できます。優先順位固定の場合は、内部メインバス2 > 内部メインバス1の順となります。優先順位トグルの場合は、内部メインバス1と内部メインバス2とでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

BUSPRIレジスタの設定の違いにより、受け付けられる要求の順番が変わることがありますので注意してください。図 15.2 に示すとおり、受け付けられたバス要求の優先順位が低い場合は、その優先順位は変わりません。

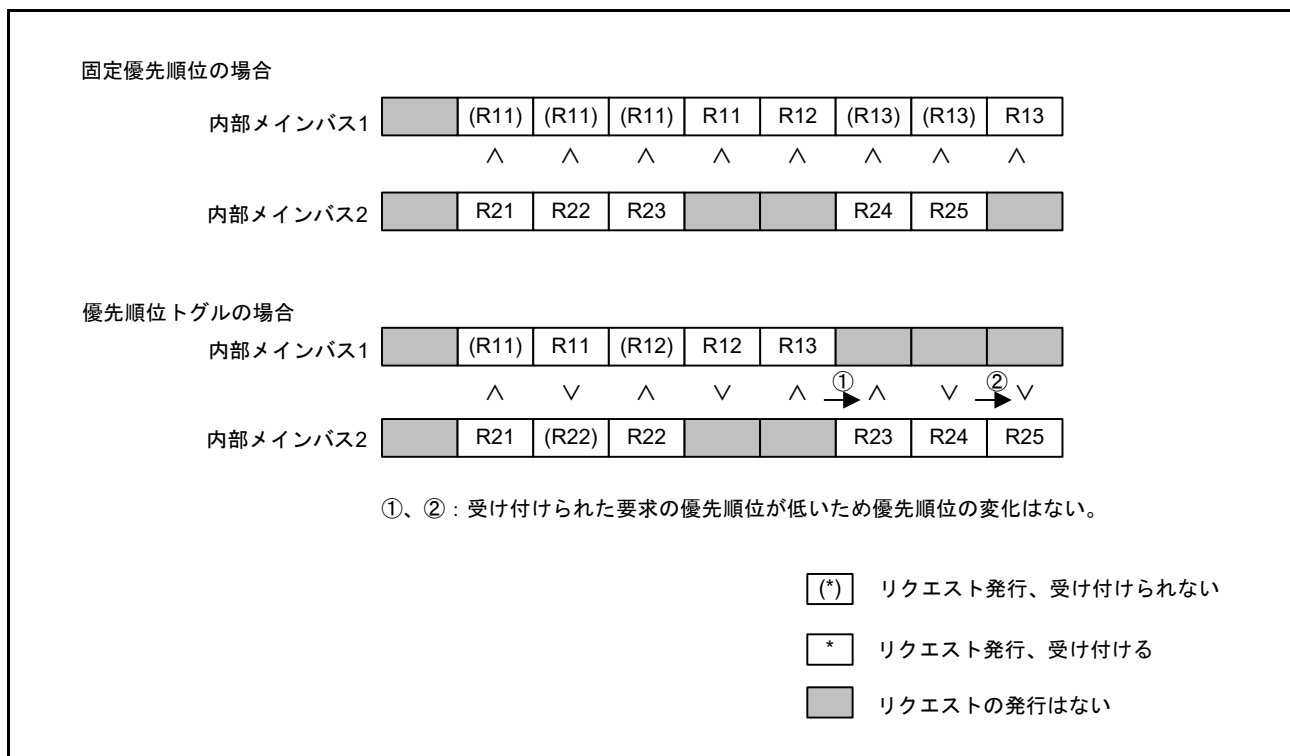


図 15.2 内部周辺バス優先順位

15.2.5 ライトバッファ機能 (内部周辺バス)

内部周辺バスはライトバッファ機能を持っており、ライトアクセスの場合は、動作の終了を待たずに、次のアクセスを受け付けることができます。ただし、同じバスマスタからのアクセスの場合、ライトアクセスの次のアクセスが異なる内部周辺バスに対するものであれば、ライトアクセスが終了するまで次のアクセスは、待たされます。CPU から内部周辺バスのライトアクセス後に内蔵メモリへのリードアクセスがある場合には、動作の終了を待たずに次のアクセスを受け付けられるため、アクセスの順番が入れ替わることがありますので注意してください。

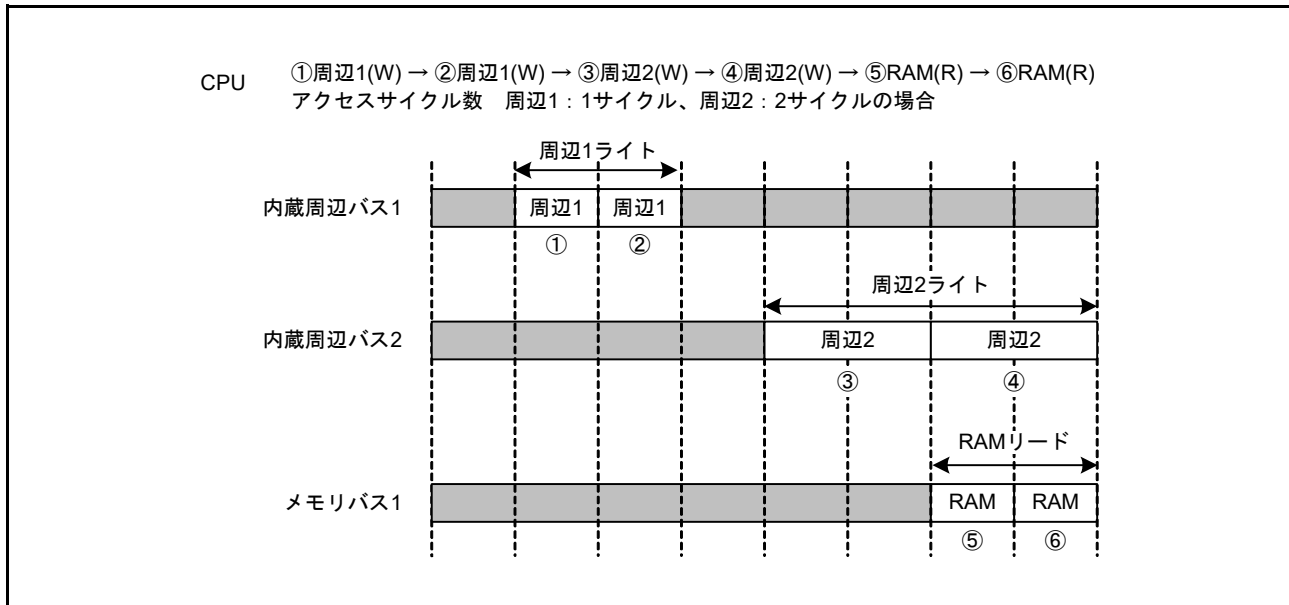


図 15.3 ライトバッファ機能

15.2.6 並列動作

それぞれのバスマスタが異なるスレーブにアクセスする場合、並列に動作することが可能です。たとえば、CPUの命令フェッチがROMを、オペランドがRAMをアクセス中に、DTCは周辺-周辺バス間の転送を行うことができます。図15.4に並列動作の例を示します。この例の場合、CPUは命令バスとオペランドバスを使って、それぞれROMとRAMを同時にアクセスすることが可能です。また、CPUがROMとRAMをアクセス中に、DTCは内部メインバス2を使って、周辺バスを同時にアクセスすることができます。

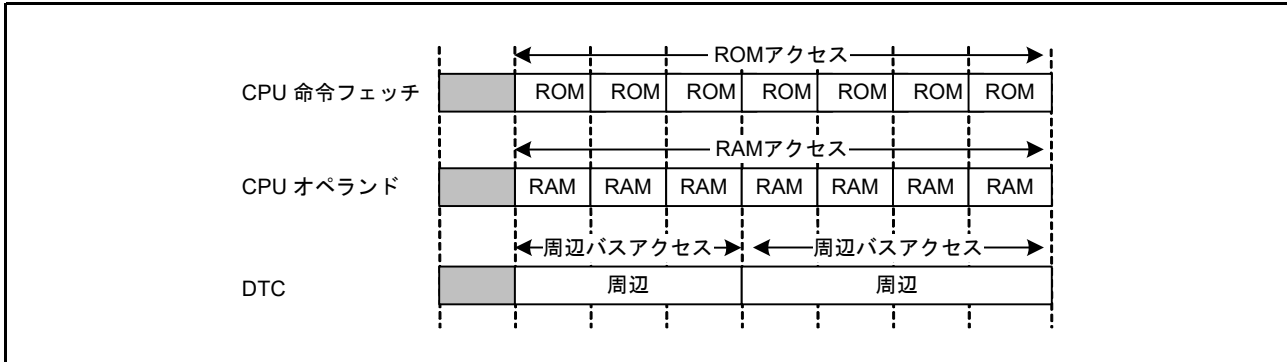


図 15.4 並列動作の例

15.2.7 制約事項

(1) アドレス空間の複数領域にまたがるアクセスの禁止

1つのアクセスでアドレス空間の複数領域をまたがるアクセスは禁止しており、その場合の動作は保証していません。1つのワード、ロングワードアクセスがアドレス空間の各領域境界を挟んで2つの領域にまたがらないようにしてください。

(2) RMPA 命令、ストリング操作命令に関する制約事項

- (a) RMPA 命令、ストリング操作命令の操作対象データをI/Oレジスタに配置することは禁止しており、その場合の動作は保証していません。

15.3 レジスタの説明

15.3.1 バスエラーステータスクリアレジスタ (BERCLR)

アドレス 0008 1300h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	STSCLR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	STSCLR	ステータスクリアビット	0: 無効 1: バスエラーステータスレジスタクリア	(W) (注1)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. “1”書き込みのみ有効で、“0”書き込みは無効です。

STSCLR ビット (ステータスクリアビット)

“1”を書き込むと、バスエラーステータスレジスタ 1 (BERSR1) とバスエラーステータスレジスタ 2 (BERSR2) がクリアされます。

“0”書き込みは無効です。読むと“0”が読み出されます。

15.3.2 バスエラー監視許可レジスタ (BEREN)

アドレス 0008 1304h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	TOEN	IGAEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

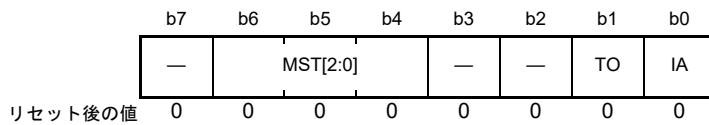
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IGAEN	不正アドレスアクセス検出許可ビット	0: 不正アドレスアクセス検出禁止 1: 不正アドレスアクセス検出許可	R/W
b1	TOEN	タイムアウト検出許可ビット (注1、注2)	0: バスタイムアウト検出禁止 1: バスタイムアウト検出許可	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. 検出禁止 (TOENビット=0) にしてバスアクセスを行った場合、バスがフリーズすることがあります。

注2. タイムアウトエラー検出中に TOEN ビットを“0” (検出禁止) にしないようにしてください。

15.3.3 バスエラーステータスレジスタ 1 (BERSR1)

アドレス 0008 1308h



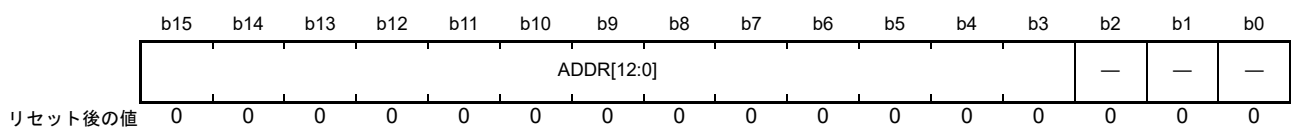
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IA	不正アドレスアクセスビット	0 : 不正アドレスアクセスの発生なし 1 : 不正アドレスアクセスの発生あり	R
b1	TO	タイムアウトビット	0 : タイムアウトの発生なし 1 : タイムアウトの発生あり	R
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b6-b4	MST[2:0]	バスマスタコードビット	b6 b4 0 0 0 : CPU 0 0 1 : 予約 0 1 0 : 予約 0 1 1 : DTC 1 0 0 : 予約 1 0 1 : 予約 1 1 0 : 予約 1 1 1 : 予約	R
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R

MST[2:0] ビット (バスマスタコードビット)

バスエラーを発生させたアクセスのバスマスタを示します。

15.3.4 バスエラーステータスレジスタ 2 (BERSR2)

アドレス 0008 130Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b15-b3	ADDR[12:0]	バスエラー発生アドレスビット	バスエラーが発生したアクセスのアドレスの上位13ビット(512Kバイト単位)	R

15.3.5 バスプライオリティ制御レジスタ (BUSPRI)

アドレス 0008 1310h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	BPFB[1:0]	—	—	—	BPGB[1:0]	—	BPIB[1:0]	—	BPRO[1:0]	—	BPRA[1:0]	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	BPRA[1:0]	メモリバス1 (RAM) プライオリティ制御ビット	b1 b0 0 0 : 優先順位固定 0 1 : 優先順位トグル 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/(W) (注1)
b3-b2	BPRO[1:0]	メモリバス2 (ROM) プライオリティ制御ビット	b3 b2 0 0 : 優先順位固定 0 1 : 優先順位トグル 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/(W) (注1)
b5-b4	BPIB[1:0]	内部周辺バス1プライオリティ制御ビット	b5 b4 0 0 : 優先順位固定 0 1 : 優先順位トグル 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/(W) (注1)
b7-b6	BPGB[1:0]	内部周辺バス2、3プライオリティ制御ビット	b7 b6 0 0 : 優先順位固定 0 1 : 優先順位トグル 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/(W) (注1)
b9-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11-b10	BPFB[1:0]	内部周辺バス6プライオリティ制御ビット	b11 b10 0 0 : 優先順位固定 0 1 : 優先順位トグル 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/(W) (注1)
b15-b12	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. DTCが停止した状態で、1回のみ書き込みできます。2回以上、書き込んだ場合、動作は保証されません。

BPRA[1:0] ビット (メモリバス1 (RAM) プライオリティ制御ビット)

メモリバス1 (RAM) に対する優先順位を設定します。

優先順位固定の場合は、内部メインバス2 > CPUバスとなります。

優先順位トグルの場合は、内部メインバス2とCPUバスとでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

BPRO[1:0] ビット (メモリバス2 (ROM) プライオリティ制御ビット)

メモリバス2 (ROM) に対する優先順位を設定します。

優先順位固定の場合は、内部メインバス2 > CPUバスとなります。

優先順位トグルの場合は、内部メインバス1とCPUバスとでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

BPIB[1:0] ビット (内部周辺バス 1 プライオリティ制御ビット)

内部周辺バス 1 に対する優先順位を設定します。

優先順位固定の場合は、内部メインバス 2 > 内部メインバス 1 となります。

優先順位トグルの場合は、内部メインバス 1 と内部メインバス 2 とでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

BPGb[1:0] ビット (内部周辺バス 2、3 プライオリティ制御ビット)

内部周辺バス 2 と内部周辺バス 3 に対する優先順位を設定します。

優先順位固定の場合は、内部メインバス 2 > 内部メインバス 1 となります。

優先順位トグルの場合は、内部メインバス 1 と内部メインバス 2 とでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

BPFB[1:0] ビット (内部周辺バス 6 プライオリティ制御ビット)

内部周辺バス 6 に対する優先順位を設定します。

優先順位固定の場合は、内部メインバス 2 > 内部メインバス 1 となります。

優先順位トグルの場合は、内部メインバス 1 と内部メインバス 2 とでバス要求を受け付けられた方の優先順位が低くなります。

15.4 バスエラー監視部

バスエラー監視部は、領域ごとのバスエラーを監視し、バスエラーが発生した場合、バスマスタへ通知します。

15.4.1 バスエラーの種類

バスエラーには、不正アドレスアクセスのバスエラーがあります。
不正アドレスアクセスは不正な領域へのアクセスがあった場合に検出します。

15.4.1.1 不正アドレスアクセス

不正アドレスアクセスは、バスエラー監視許可レジスタの不正アドレスアクセス検出許可ビットが有効 (BEREN.IGAEN = 1) に設定された場合で、不正アドレス領域にアクセスしたときに発生します。

どの領域が不正アドレスアクセスエラーを発生するかを表 15.5 に示します。

15.4.1.2 タイムアウト

タイムアウトは、バスエラー監視許可レジスタのタイムアウト検出許可ビットが有効 (BEREN.TOEN = 1) に設定された場合で、バスアクセスが 768 サイクル以内に終了しない場合に発生します。

- 内部周辺バス (2, 3): バスアクセス開始後、周辺モジュールクロック (PCLKB) で 768 サイクル以内にバスアクセスが終了しない場合
タイムアウトが発生すると PCLKB で 256 サイクル間、バスマスタからのアクセスは受け付けられません。
- 内部周辺バス (6): バスアクセス開始後、FlashIF クロック (FCLK) で 768 サイクル以内にバスアクセスが終了しない場合
タイムアウトが発生すると FCLK で 256 サイクル間、バスマスタからのアクセスは受け付けられません。

15.4.2 バスエラー発生時の動作

バスエラーが発生すると、CPU にバスエラーを通知します。バスエラーが発生した場合には、その動作を保証していません。

- CPU へのバスエラー発生通知:
割り込みが発生します。割り込みを発生させるかどうかは、ICU.IERn レジスタで制御できます。

15.4.3 バスエラーの発生条件

表 15.5 にアドレス空間の領域ごとに発生するバスエラーの種類を示します。

バスエラーが発生していない状態 (バスエラーステータスレジスタ n (BERSRn) ($n = 1, 2$) がクリアされている場合) で、不正アドレスアクセスエラーが検出されると、BERSRn レジスタにその時点の状態が記憶されます。一度バスエラーが発生すると、その後バスエラーが発生しても BERSRn がクリアされていない場合はその状態を記憶しません。

2 つ以上のバスマスタについてバスエラーが同時に発生する場合は、1 つのバスマスタの情報のみ記憶します。バスエラーの発生後は、BERSRn レジスタがクリアされるまで状態を保持します。

表 15.5 発生するバスエラーの種類

アドレス	内容	種類	
		不正アドレスアクセス	タイムアウト
0000 0000h ~ 0007 FFFFh	メモリバス1	—	—
0008 0000h ~ 0008 7FFFh	内部周辺バス1	—	—
0008 8000h ~ 0009 FFFFh	内部周辺バス2	△	—
000A 0000h ~ 000B FFFFh	内部周辺バス3	△	—
000C 0000h ~ 000F FFFFh	予約領域	○	—
0010 0000h ~ 00FF FFFFh	内部周辺バス6	△	—
0100 0000h ~ 07FF FFFFh	予約領域	○	—
0800 0000h ~ 0FFF FFFFh	予約領域	—	—
1000 0000h ~ 7FFF FFFFh	予約領域	○	—
8000 0000h ~ FFFF FFFFh	メモリバス2	—	—

— : バスエラーは発生しません。

△ : バスエラーは不定です。

○ : バスエラーを発生します。

注. 実装されるRAM、データフラッシュ、ROMの容量は製品により異なります。製品ごとの仕様については、「40. RAM」、「41. フラッシュメモリ (FLASH)」を参照してください。

16. データトランスファコントローラ (DTCb)

本 MCU は、データトランスファコントローラ (DTC) を内蔵しています。

DTC は、割り込み要求によって起動し、データ転送を行うことができます。

DTCb では、従来の DTC の転送方式 (ノーマル転送、リピート転送、ブロック転送、チェーン転送) に加え、これらを組み合わせて一連の転送として実行するシーケンス転送をサポートしています。シーケンス転送では、最初に転送したデータの値によって、最大 256 のシーケンスの中から 1 つを選択して実行できます。また、シーケンスの組み方によって、1 つのシーケンスを複数回に分けて実行することもできます。

16.1 概要

表 16.1 に DTC の仕様を、図 16.1 に DTC のブロック図を示します。

表 16.1 DTC の仕様

項目	内容
転送チャンネル数	<ul style="list-style-type: none"> DTC 起動が可能なすべての割り込み要因の数と同数
転送モード	<ul style="list-style-type: none"> ノーマル転送モード 1回の起動で1つのデータを転送する リピート転送モード 1回の起動で1つのデータを転送する リピートサイズ分データを転送すると転送開始アドレスに復帰 リピート回数は最大256回設定可能で、256 × 32ビットで、最大1024バイト転送可能 ブロック転送モード 1回の起動で1ブロックのデータを転送する ブロックサイズは、最大256 × 32ビット = 1024バイト設定可能
チェーン転送機能	<ul style="list-style-type: none"> 1回の転送要求に対して複数種類のデータ転送を連続して実行可能 「転送カウンタが“0”になったときのみ実施」/「毎回実施」のいずれかを選択可能
シーケンス転送	複雑な一連の転送をシーケンスとして登録し、転送データにより任意のシーケンスを選択して実行可能 <ul style="list-style-type: none"> シーケンス転送の起動要因は同時に1つのみ選択可能 シーケンスは、1つの起動要因に対し最大256通り 転送要求によって最初に転送されたデータがシーケンスを決定 シーケンスは、1回の転送要求で最後まで実行することも、途中で止めて次の転送要求で再開する(シーケンス分割)ことも可能
転送空間	<ul style="list-style-type: none"> ショートアドレスモードのとき16Mバイト ("0000 0000h" ~ "007F FFFFh" と "FF80 0000h" ~ "FFFF FFFFh" のうち、予約領域以外の領域) フルアドレスモードのとき4Gバイト ("0000 0000h" ~ "FFFF FFFFh" のうち、予約領域以外の領域)
データ転送単位	<ul style="list-style-type: none"> 1データ：1バイト(8ビット)、1ワード(16ビット)、1ロングワード(32ビット) 1ブロックサイズ：1~256データ
CPU 割り込み要求	<ul style="list-style-type: none"> DTC を起動した割り込みで CPU への割り込み要求を発生可能 1回のデータ転送終了後に CPU への割り込み要求を発生可能 指定したデータ数のデータ転送終了後に CPU への割り込み要求を発生可能
イベントリンク機能	1回のデータ転送後(ブロックの場合は1ブロック転送後)、イベントリンク要求を発生
リードスキップ	同一転送が連続したときの転送情報の読み出しを省略する設定が可能
ライトバックスキップ	転送元アドレスまたは転送先アドレスが固定の場合、更新されない転送情報の書き戻しを省略
ライトバックディスエーブル	転送情報のライトバックを実行しない設定が可能
ディスプレイースメント加算	転送元アドレスにディスプレイースメントを加算可能(転送情報ごとに選択)
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能

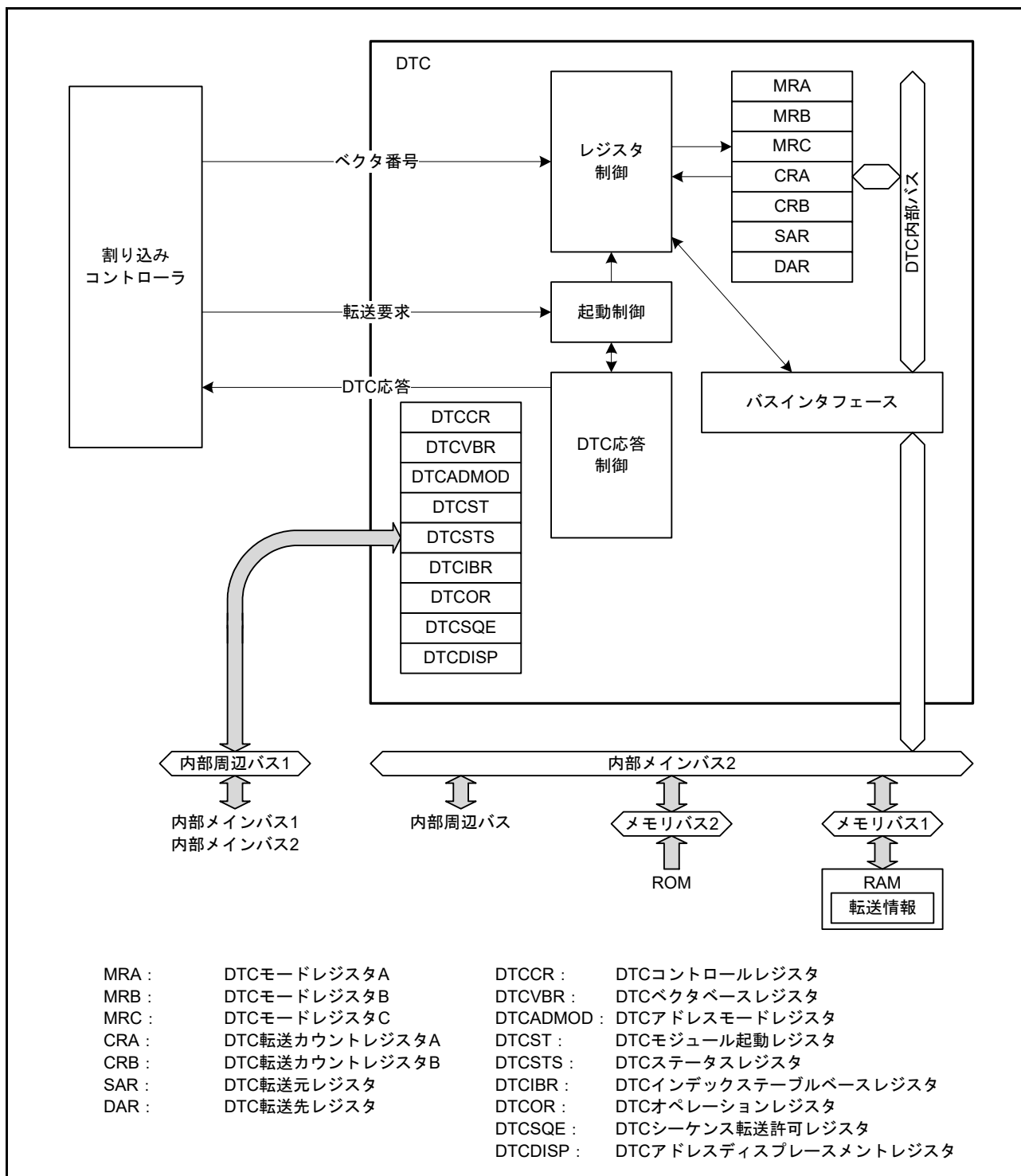


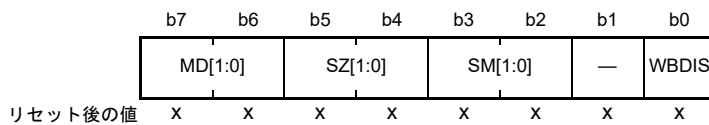
図 16.1 DTC のブロック図

16.2 レジスタの説明

MRA、MRB、MRC、SAR、DAR、CRA、CRB レジスタは DTC の内部レジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。これら内部レジスタの設定値は RAM 領域に転送情報として配置します。DTC は転送要求を受け付けると、RAM 領域から転送情報を読み出し、内部レジスタに設定します。データ転送が行われた後、更新された内部レジスタの値は転送情報として RAM 領域にライトバックされます。

16.2.1 DTC モードレジスタ A (MRA)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WBDIS	ライトバックディスエーブルビット	0: データ転送終了時、転送情報をライトバックする 1: データ転送終了時、転送情報をライトバックしない	—
b1	—	予約ビット	"0"にしてください	—
b3-b2	SM[1:0]	転送元アドレスアドレッシングモードビット	b3 b2 0 0: SARレジスタはアドレス固定 (SARレジスタのライトバックはスキップされます) 0 1: SARレジスタはアドレス固定 (SARレジスタのライトバックはスキップされます) 1 0: 転送後SARレジスタをインクリメント (SZ[1:0]ビットが"00b"のとき+1、 "01b"のとき+2、"10b"のとき+4) 1 1: 転送後SARレジスタをデクリメント (SZ[1:0]ビットが"00b"のとき-1、 "01b"のとき-2、"10b"のとき-4)	—
b5-b4	SZ[1:0]	DTCデータトランスファサイズビット	b5 b4 0 0: バイト(8ビット)転送 0 1: ワード(16ビット)転送 1 0: ロングワード(32ビット)転送 1 1: 設定しないでください	—
b7-b6	MD[1:0]	DTC転送モード選択ビット	b7 b6 0 0: ノーマル転送モード 0 1: リピート転送モード 1 0: ブロック転送モード 1 1: 設定しないでください	—

MRA レジスタは、DTC の動作モードを選択するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。

WBDIS ビット (ライトバックディスエーブルビット)

データ転送終了時、転送情報をライトバックするかどうかを選択します。

WBDIS ビットが "0" の場合は、更新された転送情報をライトバックします。

WBDIS ビットが "1" の場合は、転送後にアドレスがインクリメントされるような設定をしても転送情報のライトバックは行わず、転送要求ごとに毎回同じデータ転送を行います。転送情報がライトバックされないため、転送情報を ROM 上に配置することができます。

WBDIS ビットが "1" の場合、転送モードごとに下記の動作を行います。

(1) ノーマル転送モード、リピート転送モード

1回の転送要求で、1バイト、1ワード、1ロングワードの転送を行います。転送アドレス、転送回数は更新しませんので、転送要求ごとに同じ転送を繰り返します。転送回数が1の場合も

ICU.DTCERn.DTCE ビットを“0”にせず、次の転送要求でデータ転送を継続します。

(2) ブロック転送モード

1回の転送要求で、1ブロックの転送を行います。転送アドレス、ブロック転送回数は更新しませんので、転送要求ごとに同じブロック転送を繰り返します。ブロック転送回数が1の場合も

ICU.DTCERn.DTCE ビットを“0”にせず、次の転送要求でデータ転送を継続します。

なお、MRC.DISPE ビットを“1”にする場合、WBDIS ビットも“1”(ライトバックしない)にしてください。また、WBDIS ビットを“1”にした転送情報が1つでもある場合は、DTCCR.RRS ビットを“0”(リードスキップを行わない)にしてください。

16.2.2 DTC モードレジスタ B (MRB)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CHNE	CHNS	DISEL	DTS	DM[1:0]	INDX	SQEND	
リセット後の値	X	X	X	X	X	X	X	X

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SQEND	シーケンス転送終了ビット	0 : シーケンス転送を継続 1 : シーケンス転送を終了	—
b1	INDX	インデックステーブル参照ビット	0 : インデックステーブルを参照しない 1 : 転送したデータを元にインデックステーブルを参照する(注1)	—
b3-b2	DM[1:0]	転送先アドレスアドレッシングモードビット	b3 b2 0 0 : DAR レジスタはアドレス固定 (DAR レジスタのライトバックはスキップされます) 0 1 : DAR レジスタはアドレス固定 (DAR レジスタのライトバックはスキップされます) 1 0 : 転送後、DAR レジスタをインクリメント (MRA.SZ[1:0] ビットが“00b”のとき+1、 “01b”のとき+2、“10b”のとき+4) 1 1 : 転送後DAR レジスタをデクリメント (MRA.SZ[1:0] ビットが“00b”のとき-1、 “01b”のとき-2、“10b”のとき-4)	—
b4	DTS	DTC 転送モード選択ビット	0 : 転送先がリピート領域またはブロック領域 1 : 転送元がリピート領域またはブロック領域	—
b5	DISEL	DTC 割り込み選択ビット	0 : 指定した回数のデータ転送が終了したとき、CPUへの割り込み要求が発生 1 : データ転送のたびに、CPUへの割り込み要求が発生	—
b6	CHNS	DTC チェーン転送選択ビット	0 : 転送が終了するたびにチェーン転送を行う 1 : 転送カウンタが1 → 0、または1 → CRAHとなったとき、チェーン転送を行う	—
b7	CHNE	DTC チェーン転送許可ビット	0 : チェーン転送禁止 1 : チェーン転送許可	—

注1. INDX ビットを“1”にする場合、MRA.MD[1:0] ビットを“00b” (ノーマル転送モード) にしてください。

MRB レジスタは、DTC の動作モードを選択するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。

SQEND ビット (シーケンス転送終了ビット)

シーケンス転送を継続するか、終了するかを選択します。詳細は表 16.2 を参照してください。

DTC インデックステーブルにより参照される転送情報でのみ“1”にできます。DTC ベクタテーブルにより参照される転送情報では“0”にしてください。

INDX ビット (インデックステーブル参照ビット)

INDX ビットが“1”になった転送情報が読み込まれると、シーケンス転送が開始されます。詳細は表 16.2 を参照してください。

シーケンス転送と関係のない転送情報、シーケンス転送を開始しない転送情報では“0”にしてください。また、DTCSCQE レジスタに設定した要因と異なる要因の転送情報で INDX ビットを“1”にしている場合、その要因からの転送要求が発生しないようにしてください。

表 16.2 シーケンス転送におけるCHNE、SQEND、INDXビットの設定値とDTCの動作

CHNEビット	SQENDビット	INDXビット	動作	使用場所
0	0	1	シーケンス転送を開始	DTCSQEレジスタに設定した要因からの転送要求によって、最初に読み込まれる転送情報で使用
1	0	0	シーケンス転送を継続	シーケンス内の最初または途中の転送情報で使用
0	0	0	シーケンス転送を一時中断	シーケンス内の最初または途中の転送情報で使用
0	1	0	シーケンス転送を終了	シーケンス内の最後の転送情報で使用
0	1	1	シーケンス転送を終了し、新たなシーケンス転送を開始	シーケンス内の最後の転送情報で使用

注. 上記以外の設定は使用しないでください。

DTS ビット (DTC 転送モード選択ビット)

リピート転送モードまたはブロック転送モードのとき、転送元と転送先のいずれをリピート領域またはブロック領域にするかを指定します。

CHNS ビット (DTC チェーン転送選択ビット)

チェーン転送の条件を選択します。

CHNE ビットが“0”のときは CHNS ビットの設定は無視されます。チェーン転送が選択される条件の詳細は、「表 16.4 チェーン転送の条件」を参照してください。

次の転送がチェーン転送の場合、指定した転送回数の終了判定、割り込みステータスフラグのクリアは行われず、CPU への割り込み要求は発生しません。

CHNE ビット (DTC チェーン転送許可ビット)

チェーン転送を指定します。

チェーン転送の条件の選択は、CHNS ビットで行います。チェーン転送の詳細は、「16.4.6 チェーン転送」を参照してください。

シーケンス転送で使用する場合の設定値については、表 16.2 を参照してください。

16.2.3 DTC モードレジスタ C (MRC)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DISPE
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DISPE	ディスプレイメント加算ビット	0: 転送元アドレスにディスプレイメント値を加算しない 1: 転送元アドレスにディスプレイメント値を加算する	—
b7-b1	—	予約ビット	"0"にしてください	—

MRC レジスタは、DTC の動作モードを選択するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。

フルアドレスモード時のみ使用できます。ショートアドレスモードでは使用できませんので、ディスプレイメント加算機能を使う場合は DTCADM.SHORT ビットを“0”(フルアドレスモード)にしてください。

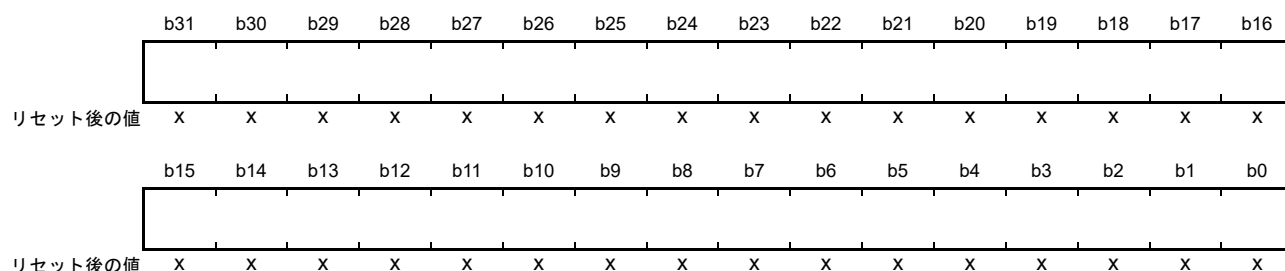
DISPE ビット (ディスプレイメント加算ビット)

転送元アドレスとして SAR + DTCDISP の値を使用するかどうかを指定します。

DISPE ビットを“1”にする場合は、MRA.WBDIS ビットを“1”(ライトバックしない)、DTCCR.RRS ビットを“0”(リードスキップを行わない)にしてください。

16.2.4 DTC 転送元レジスタ (SAR)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



x: 不定

SAR レジスタは、転送元の開始アドレスを設定するレジスタです。

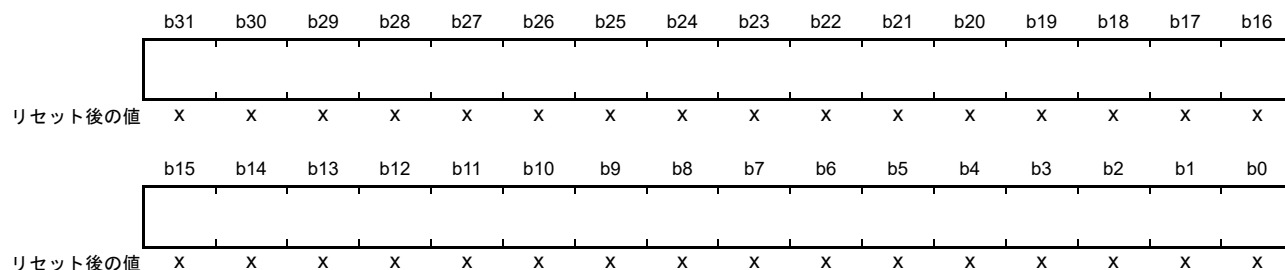
フルアドレスモードでは 32 ビットが有効となります。

ショートアドレスモードでは下位 24 ビットが有効で、上位 8 ビット (b31-b24) の設定は無視され、b23 で指定した値でビット拡張を行います。

SAR レジスタは CPU から直接アクセスすることはできません。

16.2.5 DTC 転送先レジスタ (DAR)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



x: 不定

DAR レジスタは、転送先の開始アドレスを設定するレジスタです。

フルアドレスモードでは 32 ビットが有効となります。

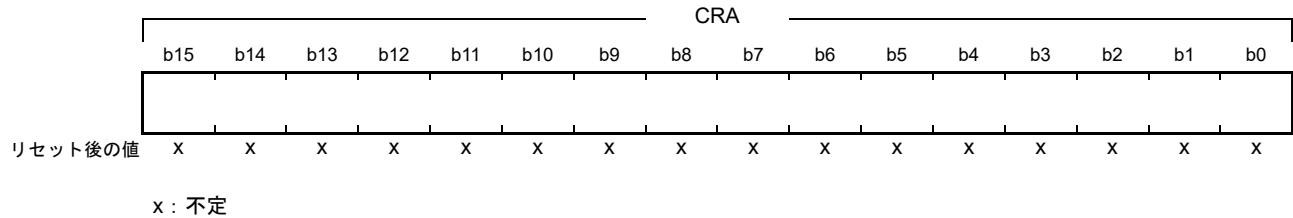
ショートアドレスモードでは下位 24 ビットが有効で、上位 8 ビット (b31-b24) の設定は無視され、b23 で指定した値でビット拡張を行います。

DAR レジスタは CPU から直接アクセスすることはできません。

16.2.6 DTC 転送カウントレジスタ A (CRA)

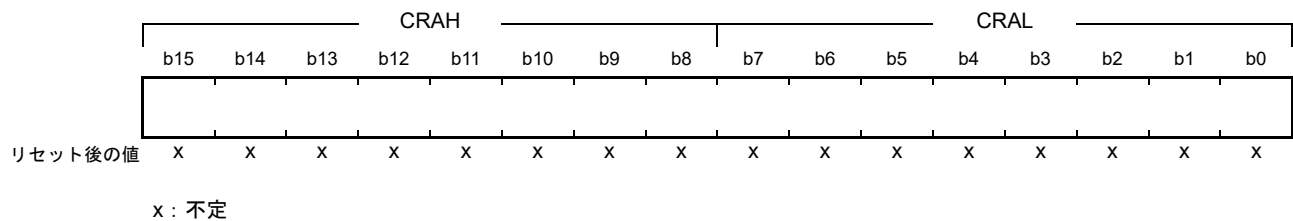
- ノーマル転送モード

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



- リピート転送モード、ブロック転送モード

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



シンボル	レジスタ名	機能	R/W
CRAL	転送カウンタA下位レジスタ	転送回数を設定します。転送中はカウンタとして動作します	—
CRAH	転送カウンタA上位レジスタ	転送回数を設定します。転送中はリロードレジスタとして動作します	—

注. 転送モードによって機能が異なります。

注. リピート転送モード時およびブロック転送モード時は、CRAH、CRALレジスタには同じ値を設定してください。

CRA レジスタは転送回数をカウントするレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。

(1) ノーマル転送モードの場合 (MRA.MD[1:0] ビット = 00b)

ノーマル転送モードでは、CRA レジスタは 16 ビットの転送カウンタとして機能します。

転送回数は、設定値が“0001h”のときは 1 回、“FFFFh”のときは 65535 回、“0000h”のときは 65536 回となります。

データ転送を 1 回行うたびにデクリメント (-1) されます。

(2) リピート転送モードの場合 (MRA.MD[1:0] ビット = 01b)

CRAH レジスタは転送回数を保持し、CRAL レジスタは 8 ビットの転送カウンタとして機能します。

転送回数は、設定値が“01h”のときは 1 回、“FFh”のときは 255 回、“00h”のときは 256 回となります。

CRAL レジスタはデータ転送を 1 回行うたびにデクリメント (-1) され、“00h”になると CRAH レジスタの値がリロードされます。

(3) ブロック転送モードの場合 (MRA.MD[1:0] ビット = 10b)

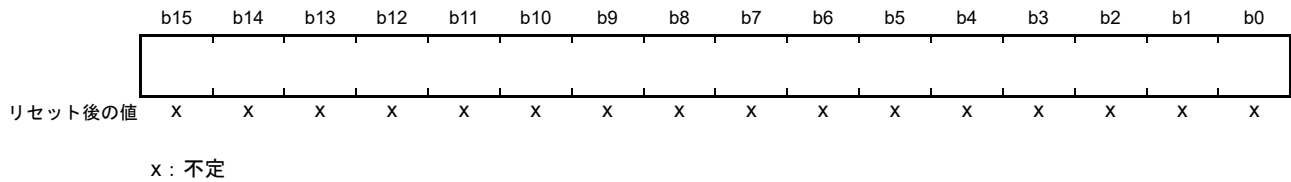
CRAH レジスタはブロックサイズを保持し、CRAL レジスタは 8 ビットのブロックサイズカウンタとして機能します。

転送回数は、設定値が“01h”のときは 1 回、“FFh”のときは 255 回、“00h”のときは 256 回となります。

CRAL レジスタはデータ転送を 1 回行うたびにデクリメント (-1) され、“00h”になると CRAH レジスタの値がリロードされます。

16.2.7 DTC 転送カウントレジスタ B (CRB)

アドレス (CPUから直接アクセス不可)



CRB レジスタは、ブロック転送モード時のブロック転送回数を指定するレジスタです。CPU から直接アクセスすることはできません。

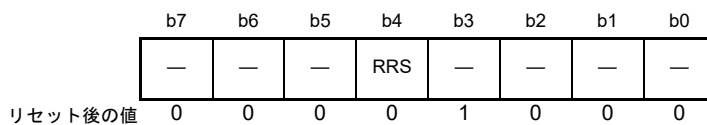
転送回数は、設定値が“0001h”のときは1回、“FFFFh”のときは65535回、“0000h”のときは65536回となります。

1ブロックサイズの最終データ転送時にデクリメント (-1) されます。

ノーマル転送モードおよびリピート転送モード設定時は、CRB レジスタを使用しません。設定値は無視されます。

16.2.8 DTC コントロールレジスタ (DTCCR)

アドレス DTC.DTCCR 0008 2400h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b4	RRS	DTC 転送情報リードスキップ許可ビット(注1)	0 : 転送情報リードスキップを行わない 1 : ベクタ番号の値が一致したとき、転送情報リードスキップを行う	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. シーケンス転送を使用するときは、“0”にしてください。

DTCCR レジスタは、DTC の動作を制御するレジスタです。

RRS ビット (DTC 転送情報リードスキップ許可ビット)

DTC ベクタ番号は、前回起動のベクタ番号と比較されます。

ベクタ番号が一致し RRS ビットが“1”のとき、転送情報リードを行わず DTC のデータ転送を行います。ただし、前回の起動がチェーン転送のときは、RRS ビットの値に関わらず転送情報リードが行われます。

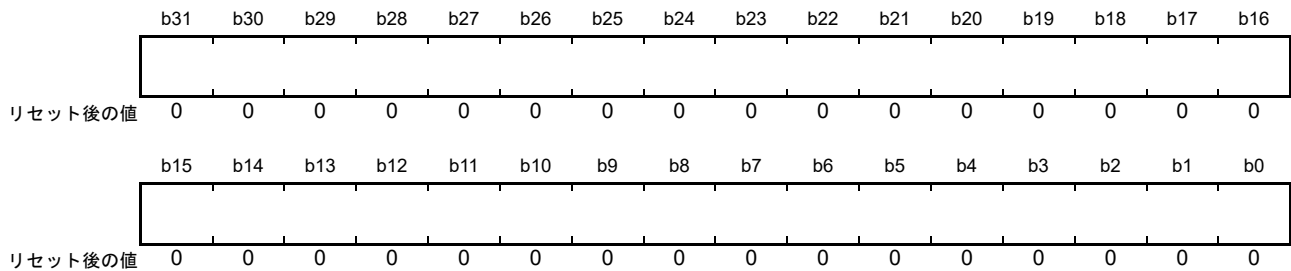
また、前回の転送が、ノーマル転送で転送カウンタ (CRA レジスタ) が“0”になった場合と、ブロック転送で転送カウンタ (CRB レジスタ) が“0”になった場合も、RRS ビットの値に関わらず転送情報リードが行われます。

MRA.WBDIS ビットを“1”にした転送情報が1つでもある場合は、RRS ビットを“0”にしてください。なお、MRC.DISPE ビットを“1”にする場合は、MRA.WBDIS ビットも“1”にする必要があります。

また、シーケンス転送は、チェーン転送と同様に複数のデータ転送を実行しますので、前回行った最後の転送を繰り返さないように、RRS ビットを“0”にして使用してください。

16.2.9 DTC ベクタベースレジスタ (DTCVBR)

アドレス DTC.DTCVBR 0008 2404h

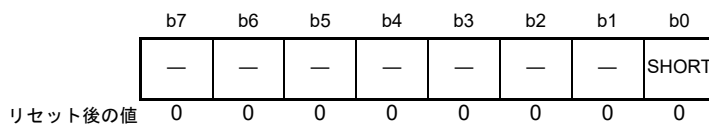


DTCVBR レジスタは、DTC ベクタの配置アドレスを算出するためのベースアドレスを設定するレジスタです。上位 4 ビットへの書き込みは無視され、b27 の値が拡張されて設定されます。また、下位 10 ビットは予約ビットで、値は“0”固定です。書く場合、“0”を書いてください。

0000 0000h ~ 07FF FC00h、および F800 0000h ~ FFFF FC00h の範囲で、1K バイト単位で設定可能です。

16.2.10 DTC アドレスモードレジスタ (DTCADM0D)

アドレス DTC.DTCADM0D 0008 2408h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SHORT	ショートアドレスモード設定ビット (注1)	0: フルアドレスモード 1: ショートアドレスモード	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. シーケンス転送を使用するときは、“0”(フルアドレスモード)にしてください。

DTCADM0D レジスタは、DTC がアクセス可能な領域を設定するレジスタです。

SHORT ビット (ショートアドレスモード設定ビット)

SAR レジスタ、DAR レジスタのアドレスモードを選択するビットです。

フルアドレスモードでは、4G バイト空間 (0000 0000h ~ FFFF FFFFh) のアクセスが可能です。

ショートアドレスモードでは、16M バイト空間 (0000 0000h ~ 007F FFFFh と FF80 0000h ~ FFFF FFFFh) のアクセスが可能です。

16.2.11 DTC モジュール起動レジスタ (DTCST)

アドレス DTC.DTCST 0008 240Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DTCST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DTCST	DTCモジュール起動ビット	0 : DTCモジュール停止 1 : DTCモジュール動作	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

DTCST ビット (DTC モジュール起動ビット)

DTC を転送要求受け付け可能にするためには、DTCST ビットを“1”にしてください。DTCST ビットを“0”にすると新たな転送要求を受け付けません。

動作中に“0”に書き換えた場合、受け付け済みの転送要求は処理が終わるまで動作します。

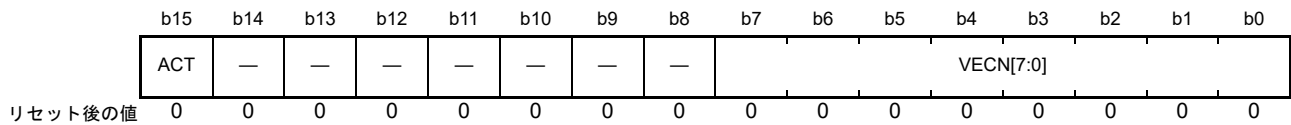
モジュールストップ状態、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモードへ移行する際は、DTCST ビットを“0”にしてください。

モジュールストップ状態、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモードから復帰した後、DTCST ビットを“1”にすると、データ転送が再開できます。

モジュールストップ状態、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモードへの移行については「16.9 消費電力低減機能」、および「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

16.2.12 DTC ステータスレジスタ (DTCSTS)

アドレス DTC.DTCSTS 0008 240Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	VECN[7:0]	DTCアクティブベクタ番号モニタフラグ	データ転送実行中にその起動要因をベクタ番号で示します データ転送実行中(ACTフラグが“1”のとき)にのみ有効値を示します	R
b14-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b15	ACT	DTCアクティブフラグ	0: データ転送は実行していない 1: データ転送実行中	R

VECN[7:0] フラグ (DTC アクティブベクタ番号モニタフラグ)

データ転送を実行中に、その転送の起動要因をベクタ番号で示します。

DTCSTS レジスタを読んだときに、ACT フラグが“1”(データ転送実行中)であれば、VECN[7:0] フラグの値は有効値を示しています。DTCSTS レジスタを読んだときに ACT フラグが“0”(データ転送は実行していない)であれば、VECN[7:0] フラグの値は無効値です。

DTC 起動要因とベクタアドレスの関係は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」の「14.3.1 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

ACT フラグ (DTC アクティブフラグ)

データ転送の実行状態を示します。

[“1”になる条件]

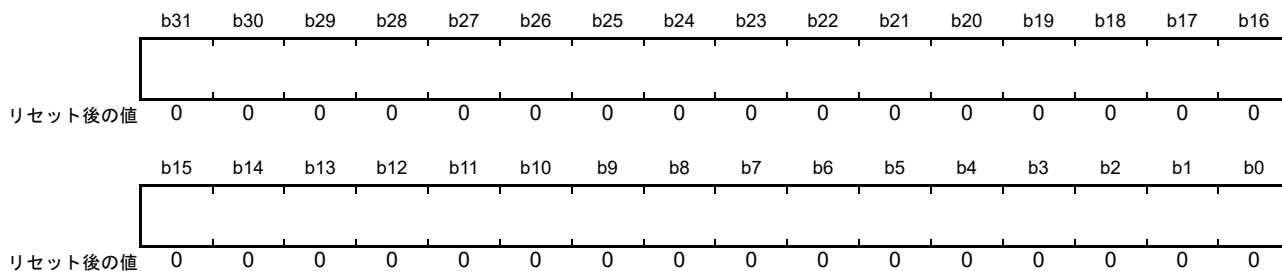
- 転送要求に対して DTC が起動したとき
- シーケンス転送が再開されたとき

[“0”になる条件]

- 1 回の転送要求に対するデータ転送が終了したとき
- シーケンス転送が一時中断したとき

16.2.13 DTC インデックステーブルベースレジスタ (DTCIBR)

アドレス DTC.DTCIBR 0008 2410h



DTCIBR レジスタは DTC インデックスの配置アドレスを算出するためのベースアドレスを設定するレジスタです。上位 4 ビットへの書き込みは無視され、b27 の値が拡張されて設定されます。また、下位 10 ビットは予約ビットで、値は“0”固定です。書く場合、“0”を書いてください。

0000 0000h ~ 07FF FC00h、および、F800 0000h ~ FFFF FC00h の範囲で、1K バイト単位で設定可能です。

16.2.14 DTC オペレーションレジスタ (DTCOR)

アドレス DTC.DTCOR 0008 2414h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SQTFRL
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SQTFRL	シーケンス転送終了ビット	“1”を書くと実行中のシーケンス転送を強制的に終了させることができます。読むと“0”が読めます	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R

DTCOR レジスタは、DTC モジュールのオペレーションを設定するレジスタです。

SQTFRL ビット (シーケンス転送終了ビット)

SQTFRL ビットを“1”にすると、実行中のシーケンス転送が終了します。

DTCSEQ.ESPSEL ビットが“1” (シーケンス転送を使用する) の場合、**図 16.2** の手順でシーケンス転送を終了させてください。

シーケンス転送が実行されていない場合に SQTFRL ビットに“1”を書いても、何も起こりません。

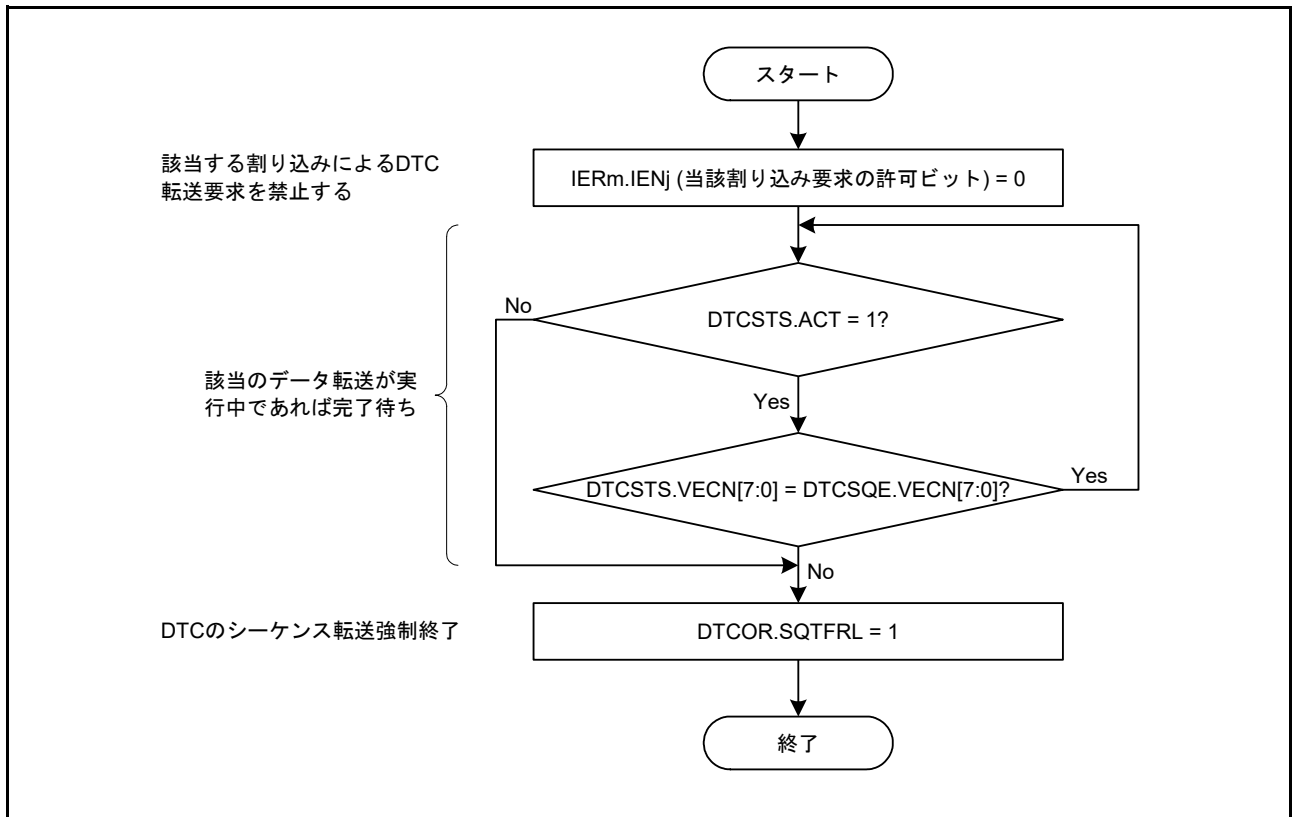
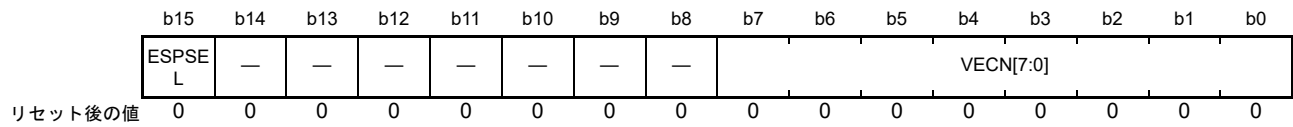


図 16.2 シーケンス転送強制終了手順

16.2.15 DTC シーケンス転送許可レジスタ (DTCSQE)

アドレス DTC.DTCSQE 0008 2416h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	VECN[7:0]	シーケンス転送ベクタ番号指定ビット	シーケンス転送を許可するベクタ番号を指定します。ESPSELビットが“1”の時のみ有効です。	R/W
b14-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R
b15	ESPSEL	シーケンス転送許可ビット	0 : シーケンス転送を使用しない 1 : シーケンス転送を使用する	R/W

DTCSQE レジスタは、DTC のシーケンス転送を指定するレジスタです。設定手順は図 16.24 に従ってください。

VECN[7:0] ビット (シーケンス転送ベクタ番号指定ビット)

シーケンス転送を使用するベクタ番号を選択します。シーケンス転送は1つの起動要因でのみ動作可能です。

起動要因とベクタ番号の関係は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」の「14.3.1 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。

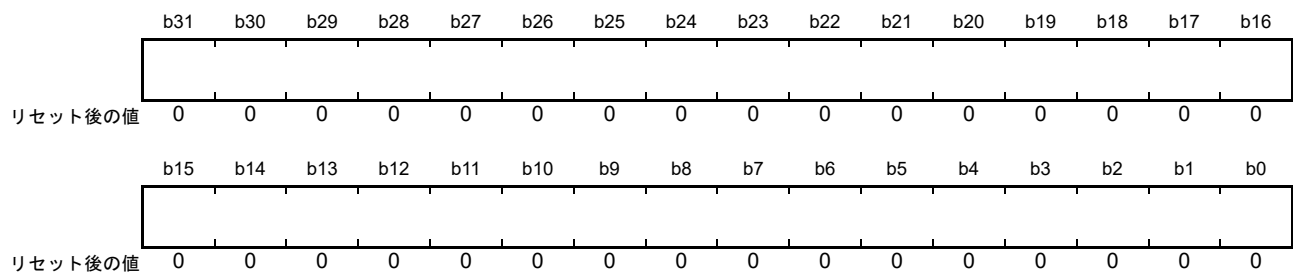
ESPSEL ビット (シーケンス転送許可ビット)

シーケンス転送を使用するかどうかを指定します。

ESPSEL ビットを“1”にする場合、DTCADM.SHORT ビットを“0”(フルアドレスモード)にしてください。

16.2.16 DTC アドレスディスプレイメントレジスタ (DTCDISP)

アドレス DTC.DTCDISP 0008 2418h



DTCDISP レジスタは、DTC の転送元アドレスに加算するディスプレイメント値を指定するレジスタです。

MRC.DISPE ビットが“1”の場合、転送元アドレスとして SAR + DTCDISP の値を使用します。

16.3 起動要因

DTCは割り込み要求によって起動します。DTCを起動する割り込み要求に対応するICU.DTCERn.DTCEビット(n =割り込みベクタ番号)を“1”にするとDTCの起動要因になります。

DTC起動要因とベクタアドレスの関係は、「14. 割り込みコントローラ(ICUb)」の「14.3.1 割り込みのベクタテーブル」を参照してください。また、ソフトウェア起動については、「14. 割り込みコントローラ(ICUb)」の「14.2.5 ソフトウェア割り込み起動レジスタ(SWINTR)」を参照してください。

DTCが一度、転送要求を受け付けると、その1要求分の転送が終わるまでは、優先順位に関わりなく新たな転送要求を受け付けません。DTCのデータ転送中に複数の転送要求が発生した場合、その転送が終わった時点で最も優先順位の高い要求が受け付けられます。DTCST.DTCSTビットが“0”(DTCモジュール停止)の状態でも複数の転送要求が発生した場合も、その後、DTCST.DTCSTビットを“1”(DTCモジュール動作)にした時点で最も優先順位の高い要求が受け付けられます。

1回のデータ転送(チェーン転送の場合、連続した最後の転送)を行うごとに、DTCは以下の動作を行います。

- 指定した総転送数の最終終了時は、データ転送後にICU.DTCERn.DTCEビットを“0”にしてCPUに割り込みを要求します。
- MRB.DISELビットが“1”のときは、データ転送後にCPUに割り込みを要求します。
- 上記のいずれでもない場合は、データ転送開始時に起動要因となった割り込みステータスフラグを“0”にします。

16.3.1 転送情報の配置とDTCベクタテーブル

DTCは起動要因別にDTCベクタテーブルから転送情報の先頭アドレスをリードし、この先頭アドレスから転送情報を読みます。

DTCベクタテーブルは、ベースアドレス(先頭アドレス)の下位10ビットが“0”になるように、1Kバイト境界に配置してください。DTCベクタテーブルのベースアドレスは、DTCベクタベースレジスタ(DTCVBR)に設定してください。

転送情報は、RAM領域に配置します。ただし、MRA.WBDISビットを“1”(ライトバックしない)にした場合は、ROM領域に配置することもできます。ベクタ番号 n に対する転送情報 n の先頭アドレスは、 $DTCVBR + 4n$ 番地に格納してください。

転送情報は、4バイト境界に配置してください。ショートアドレスモードの場合、12バイト、フルアドレスモード場合、16バイト使用します。DTCADM.SHORTビットで、ショートアドレスモード(SHORTビット=1)、フルアドレスモード(SHORTビット=0)の設定を行います。

DTCベクタテーブルと転送情報の対応を図16.3に示します。

RAM領域上の転送情報の配置を図16.4に示します。配置領域のエンディアンによって下位アドレスが異なります。詳細は、「16.10.2 転送情報の配置」を参照してください。

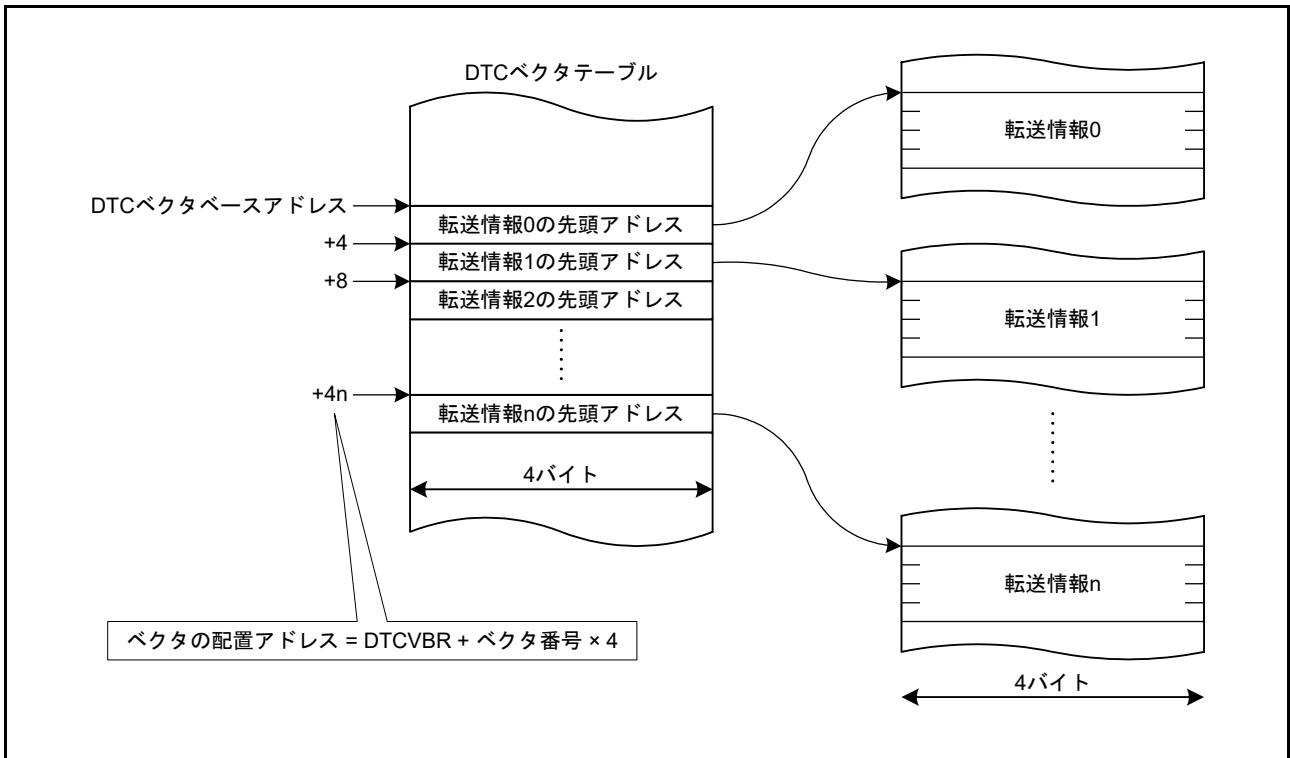


図 16.3 DTC ベクタテーブルと転送情報の対応

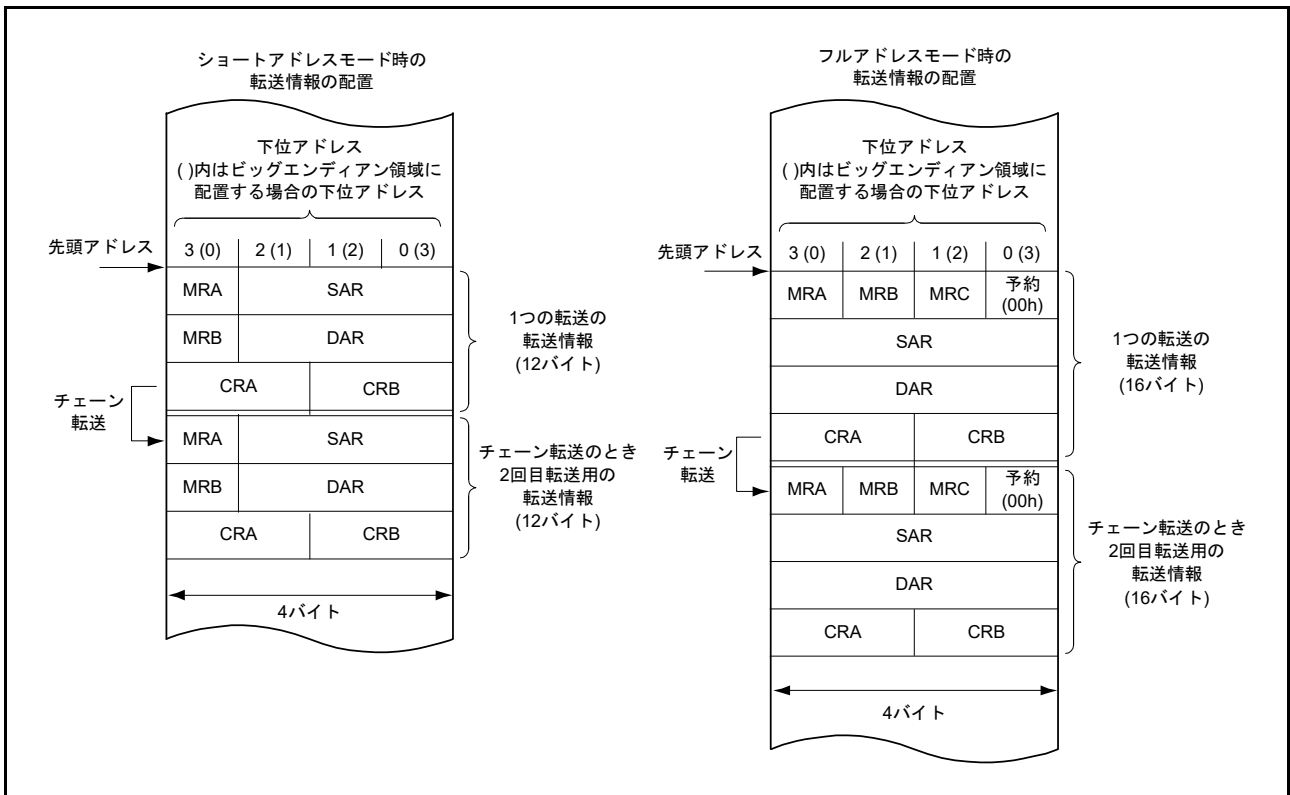


図 16.4 RAM 領域上の転送情報の配置

16.4 動作説明

DTC は、転送情報を元にデータを転送します。DTC を動作させるためには、あらかじめ転送情報を RAM 領域に格納しておく必要があります。

DTC が起動すると、ベクタ番号に対応する DTC ベクタを読み出します。次に DTC ベクタが示すアドレスから転送情報を読み出してデータ転送を行い、データ転送後の転送情報をライトバックします。転送情報を RAM 領域に格納することで、任意のチャンネル数のデータ転送を行うことができます。

転送モードには、ノーマル転送モード、リピート転送モード、ブロック転送モードがあります。

転送元アドレスは SAR レジスタ、転送先アドレスは DAR レジスタで指定します。SAR レジスタ、DAR レジスタは、それぞれの設定(インクリメント/デクリメント/固定)に従って、転送後に更新されます。

DTC の転送モードを表 16.3 に示します。

表 16.3 DTC の転送モード

転送モード	1回の転送要求で転送可能なデータサイズ	メモリアドレスの増減	指定可能な転送回数
ノーマル転送モード	1バイト/1ワード/1ロングワード	1、2または4増減あるいはアドレス固定	1～65536回
リピート転送モード(注1)	1バイト/1ワード/1ロングワード	1、2または4増減あるいはアドレス固定	1～256回(注3)
ブロック転送モード(注2)	CRAHレジスタで指定したブロックサイズ(1～256バイト/1～256ワード/1～256ロングワード)	1、2または4増減あるいはアドレス固定	1～65536回

注1. 転送元または転送先のいずれかをリピート領域に設定

注2. 転送元または転送先のいずれかをブロック領域に設定

注3. 指定回数の転送終了後は、初期状態を回復し動作を継続(リピート)する。

また、MRB.CHNE ビットを“1”にしておくことにより、1回の転送要求で複数の転送を行うことができます(チェーン転送)。MRB.CHNS ビットの設定で、指定された回数のデータ転送が終了したときにチェーン転送を行う設定も可能です。

DTC 動作フローチャートを図 16.5 に示します。チェーン転送の条件を表 16.4 に示します。

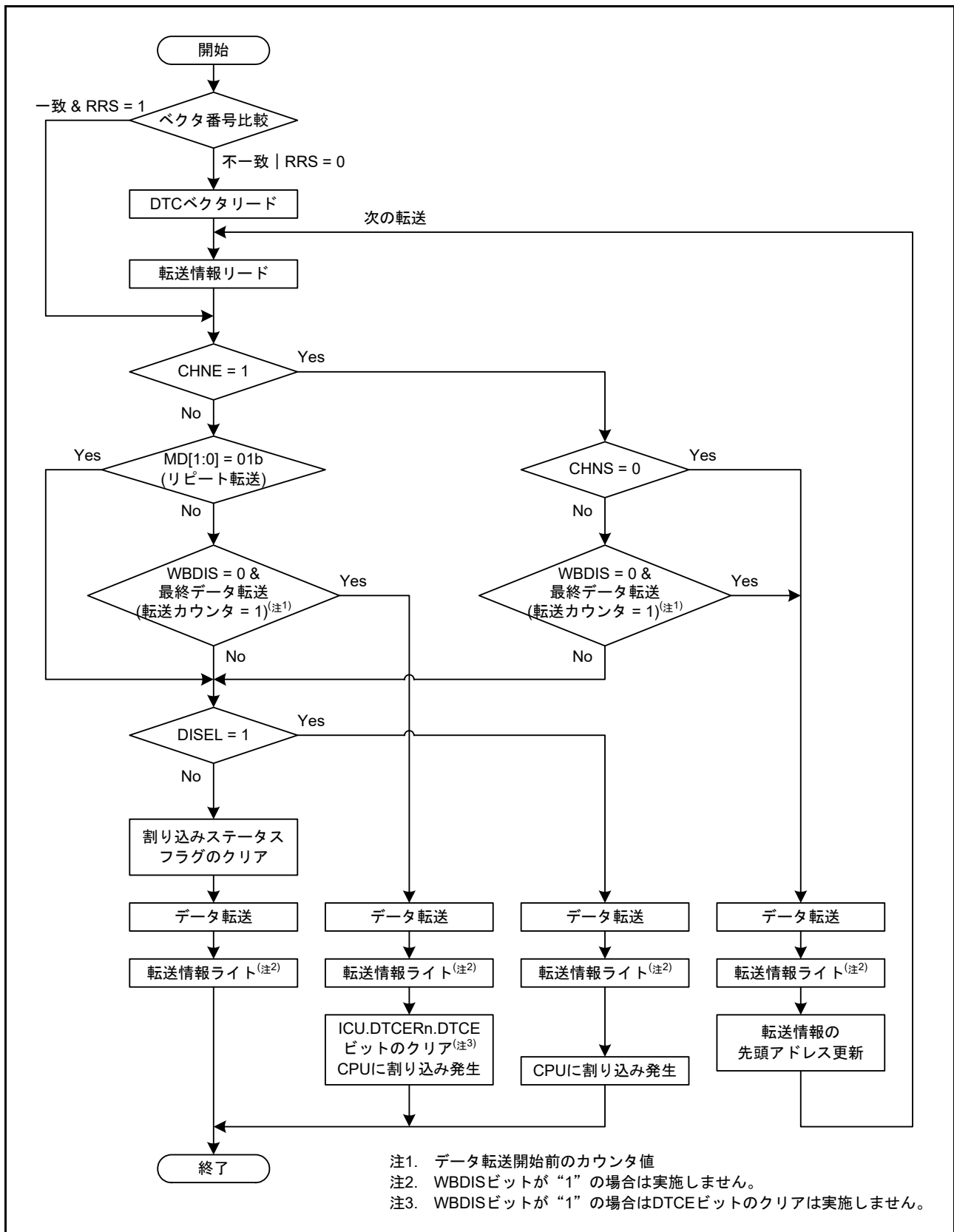


図 16.5 DTC 動作フローチャート

表 16.4 チェーン転送の条件

第1の転送				第2の転送(注3)				データ転送
CHNE ビット	CHNS ビット	DISEL ビット	転送カウンタ (注1、注2)	CHNE ビット	CHNS ビット	DISEL ビット	転送カウンタ (注1、注2)	
0	—	0	(1 → 0) 以外	—	—	—	—	第1転送で終了
0	—	0	(1 → 0)	—	—	—	—	第1転送で終了 CPUへ割り込み要求
0	—	1	—	—	—	—	—	
1	0	—	—	0	—	0	(1 → 0) 以外	第2転送で終了
				0	—	0	(1 → 0)	第2転送で終了 CPUへ割り込み要求
				0	—	1	—	
1	1	0	(1 → *) 以外	—	—	—	—	第1転送で終了
1	1	—	(1 → *)	0	—	0	(1 → 0) 以外	第2転送で終了
				0	—	0	(1 → 0)	第2転送で終了 CPUへ割り込み要求
				0	—	1	—	
1	1	1	(1 → *) 以外	—	—	—	—	第1転送で終了 CPUへ割り込み要求

注1. 転送カウンタは各転送モードで異なります。各転送モードでの転送カウンタは以下のとおりです。

ノーマル転送モード：CRAレジスタ、リピート転送モード：CRALレジスタ、ブロック転送モード：CRBレジスタ

注2. 転送終了時のカウンタ動作は、ノーマル転送モード、ブロック転送モードでは(1 → 0)、リピート転送モードでは(1 → CRAH)となります。表中の(1 → *)はこの両方を指しています。

注3. 第2の転送、またはそれ以降の転送でチェーン転送を選択することは可能ですが、第2の転送でCHNEビットが“1”の組み合わせを省略しています。

16.4.1 転送情報リードスキップ機能

DTCCR.RRS ビットの設定で、DTC ベクタのリードと転送情報のリードをスキップすることができます。

DTC 転送要求が入力されたとき、今回起動する DTC ベクタ番号と前回起動した DTC ベクタ番号が比較されます。比較結果が一致し、DTCCR.RRS ビットが“1”のとき、DTC ベクタのリードと転送情報のリードを行わず、DTC 内部に残っている転送情報に従ってデータ転送を行います。前回の起動がチェーン転送のときは、DTC ベクタのリードと転送情報のリードが行われます。また、前回の転送がノーマル転送で、転送カウンタ (CRA レジスタ) が“0”になった場合と、ブロック転送で転送カウンタ (CRB レジスタ) が“0”になった場合も、DTCCR.RRS ビットの値に関わらず転送情報リードが行われます。転送情報リードスキップの動作例を図 16.14 に示します。

DTC ベクタテーブルと転送情報を更新する場合には、一度 DTCCR.RRS ビットを“0”にして、DTC ベクタテーブルと転送情報を更新した後、DTCCR.RRS ビットを“1”にしてください。DTCCR.RRS ビットを“0”にすることによって DTC の内部に保持されていたベクタ番号は破棄されます。次の起動時は、更新された DTC ベクタテーブルおよび転送情報がリードされます。

16.4.2 転送情報ライトバックスキップ機能

16.4.2.1 アドレス固定によるライトバックスキップ

MRA.SM[1:0] ビット、または MRB.DM[1:0] ビットをアドレス固定 (“00b” または “01b”) に設定すると、転送情報の一部がライトバックされません。この機能は、ショートアドレスモード、フルアドレスモードの設定にかかわらず行われます。

転送情報ライトバックスキップ条件とライトバックスキップされるレジスタを表 16.5 に示します。なお、CRA レジスタ、CRB レジスタはショートアドレスモード、フルアドレスモードの設定にかかわらずライトバックされます。

また、フルアドレスモードの場合、MRA レジスタ、MRB レジスタ、MRC レジスタはライトバックスキップされます。

表 16.5 転送情報ライトバックスキップ条件とライトバックスキップされるレジスタ

MRA.SM[1:0] ビット		MRB.DM[1:0] ビット		SARレジスタ	DARレジスタ
b3	b2	b3	b2		
0	0	0	0	スキップ	スキップ
0	0	0	1		
0	1	0	0		
0	1	0	1		
0	0	1	0	スキップ	ライトバック
0	0	1	1		
0	1	1	0		
0	1	1	1		
1	0	0	0	ライトバック	スキップ
1	0	0	1		
1	1	0	0		
1	1	0	1		
1	0	1	0	ライトバック	ライトバック
1	0	1	1		
1	1	1	0		
1	1	1	1		

16.4.2.2 MRA.WBDIS ビットによるライトバックスキップ

MRA.WBDIS ビットが “1” の場合、転送情報の設定内容にかかわらず転送情報 (SAR, DAR, CRA, CRB) はライトバックされません。

メモリ上の転送情報を更新しませんので、転送情報を ROM から RAM にコピーすることなく DTC のデータ転送を実行することができます。また、ライトバックを省略することで、データ転送の後処理にかかる時間が短縮できます。

16.4.3 ノーマル転送モード

1回の転送要求で、1バイト、1ワードまたは1ロングワードの転送を行います。転送回数は1～65536です。

転送元アドレスと転送先アドレスは、インクリメント、デクリメント、または固定にそれぞれ設定できます。指定回数の転送が終了すると、CPUへの割り込み要求を発生させることができます。

ノーマル転送モードのレジスタ機能を表16.6に、ノーマル転送モードのメモリマップを図16.6に示します。

表16.6 ノーマル転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報をライトバックするとき書き戻される値(注1)
SAR	転送元アドレス	インクリメント/デクリメント/固定(注2)
DAR	転送先アドレス	インクリメント/デクリメント/固定(注2)
CRA	転送カウンタA	CRA - 1
CRB	転送カウンタB	更新されない

注1. MRA.WBDISビットが“1”のときは、ライトバックはスキップされます。

注2. アドレス固定のときは、ライトバックはスキップされます。

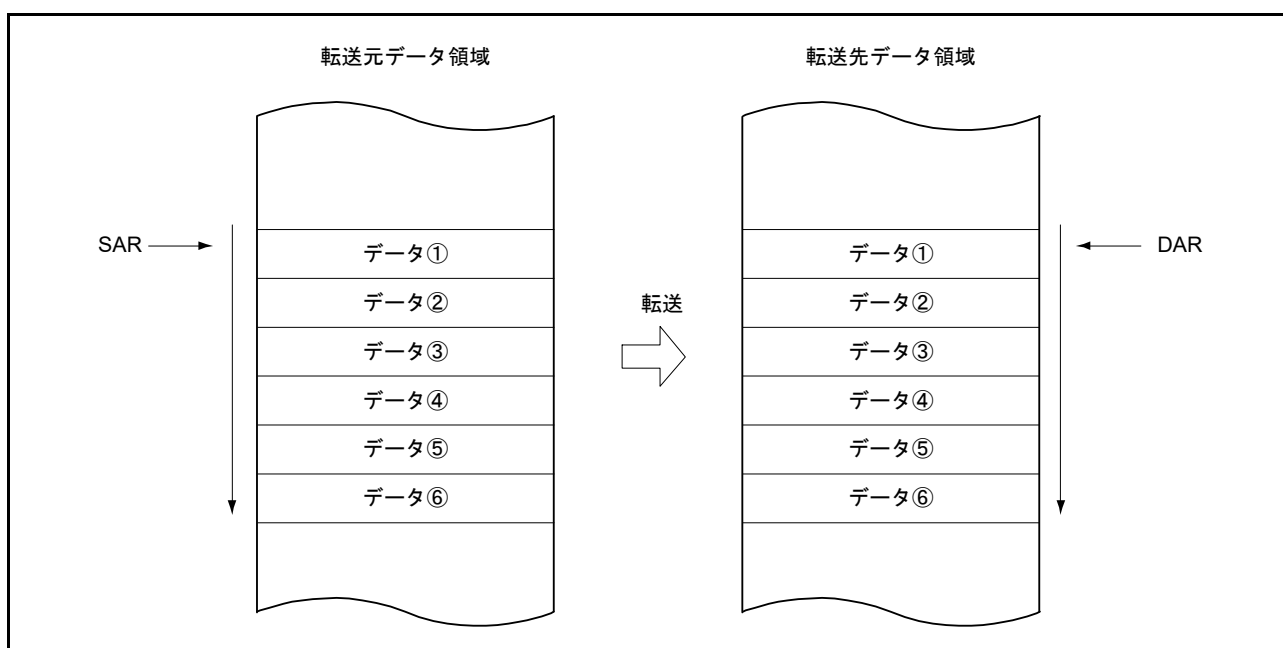


図16.6 ノーマル転送モードのメモリマップ

16.4.4 リピート転送モード

1回の転送要求で、1バイト、1ワードまたは1ロングワードの転送を行います。

MRB.DTS ビットで、転送元、転送先のいずれか一方をリピート領域に指定します。転送回数は1～256まで指定可能で、指定回数の転送が終了すると、転送カウンタおよびリピート領域に設定した方のアドレスレジスタは初期状態を回復し、転送を繰り返します。他方のアドレスレジスタは、連続してインクリメントまたはデクリメント、あるいはアドレス固定になります。

リピート転送モードでは、転送カウンタ CRAL レジスタが“00h”になると、CRAL レジスタの値は CRAH レジスタで設定した値に更新されます。このため、転送カウンタは“00h”にならないので、MRB.DISEL ビットが“0”(指定した回数のデータ転送が終了したとき、CPU への割り込みが発生)の場合は CPU への割り込み要求は発生しません。

リピート転送モードのレジスタ機能を表 16.7 に、リピート転送モードのメモリマップを図 16.7 に示します。

表 16.7 リピート転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報をライトバックするときに書き戻される値(注1)		
		CRAL ≠ 1 のとき	CRAL = 1 のとき	
			MRB.DTS ビット=0 のとき	MRB.DTS ビット=1 のとき
SAR	転送元アドレス	インクリメント/デクリメント/固定(注2)	インクリメント/デクリメント/固定(注2)	SAR レジスタの初期値
DAR	転送先アドレス	インクリメント/デクリメント/固定(注2)	DAR レジスタの初期値	インクリメント/デクリメント/固定(注2)
CRAH	転送カウンタ初期値保持	CRAH	CRAH	
CRAL	転送カウンタ A	CRAL - 1	CRAH	
CRB	転送カウンタ B	更新されない	更新されない	

注1. MRA.WBDIS ビットが“1”のときは、ライトバックはスキップされます。

注2. アドレス固定のときは、ライトバックはスキップされます。

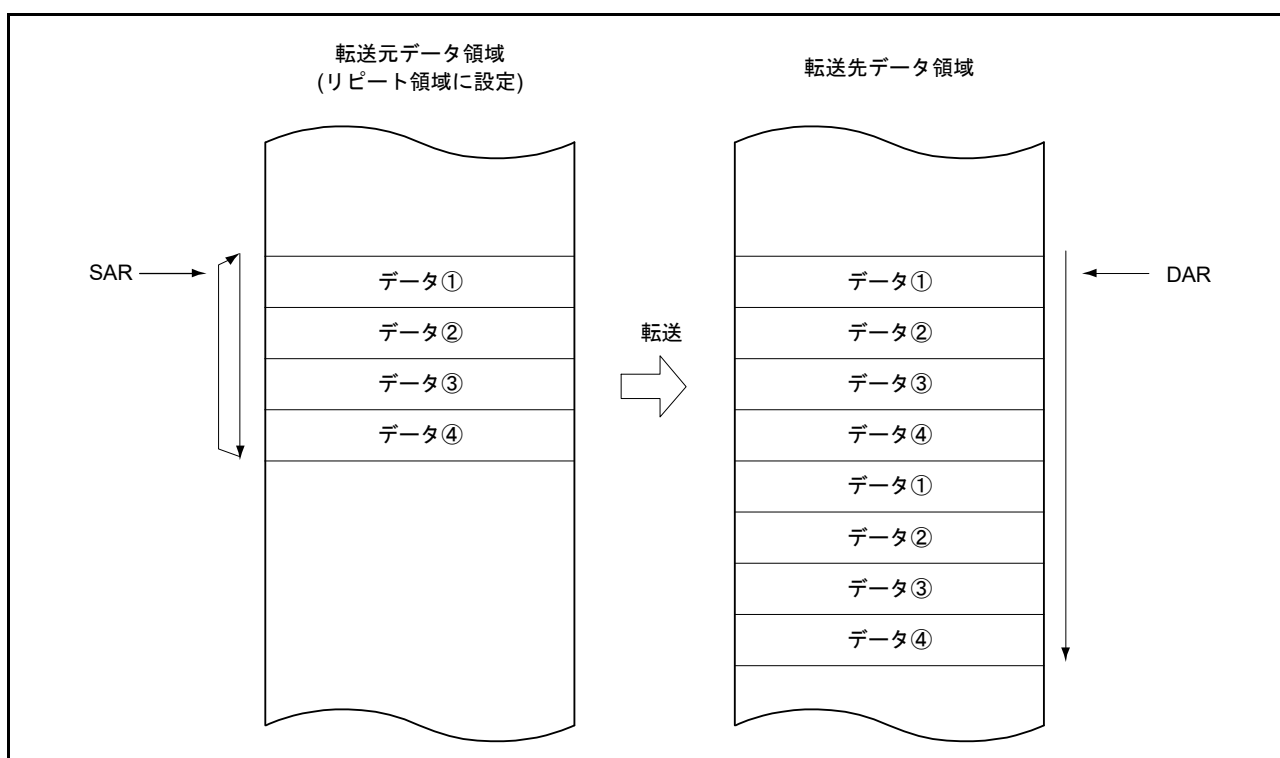


図 16.7 リピート転送モードのメモリマップ (転送元をリピート領域に設定した場合)

16.4.5 ブロック転送モード

1回の転送要求で、1ブロックの転送を行います。

MRB.DTS ビットで、転送元、転送先のいずれか一方をブロック領域に指定します。ブロックサイズは1～256バイト、1～256ワードまたは1～256ロングワードの指定が可能です。

指定された1ブロックの転送が終了すると、ブロックサイズカウンタ CRAL レジスタと、ブロック領域に指定したアドレスレジスタ (MRB.DTS ビットが“1”のとき SAR レジスタ、DTS ビットが“0”のとき DAR レジスタ) の初期状態が回復します。他方のアドレスレジスタは、連続してインクリメント、またはデクリメント、あるいはアドレス固定になります。

転送回数(ブロック回数)は、1～65536まで指定可能です。指定回数のブロック転送が終了すると、CPUへの割り込みを発生させることができます。

ブロック転送モードのレジスタ機能を表 16.8 に、ブロック転送モードのメモリマップを図 16.8 に示します。

表 16.8 ブロック転送モードのレジスタ機能

レジスタ	機能	転送情報をライトバックするときに書き戻される値(注1)	
		MRB.DTSビット=0のとき	MRB.DTSビット=1のとき
SAR	転送元アドレス	インクリメント/デクリメント/固定(注2)	SARレジスタの初期値
DAR	転送先アドレス	DARレジスタの初期値	インクリメント/デクリメント/固定(注2)
CRAH	ブロックサイズ初期値保持	CRAH	
CRAL	ブロックサイズカウンタ	CRAH	
CRB	ブロック転送回数カウンタ	CRB - 1	

注1. MRA.WBDISビットが“1”のときは、ライトバックはスキップされます。

注2. アドレス固定のときは、ライトバックはスキップされます。

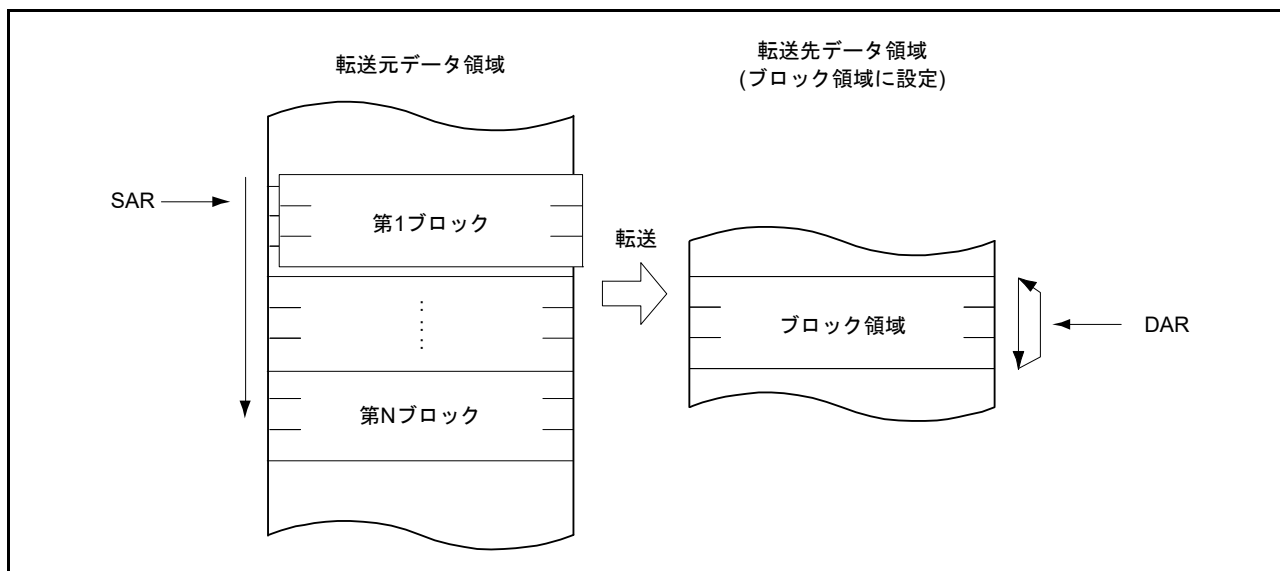


図 16.8 ブロック転送モードのメモリマップ (転送先をブロック領域に指定した場合)

16.4.6 チェーン転送

MRB.CHNE ビットを“1”にするとチェーン転送ができます。チェーン転送は、1回の転送要求で複数のデータ転送を行います。

MRB.CHNE ビットを“1”、MRB.CHNS ビットを“0”にした場合、指定した回数のデータ転送が終了したときも、MRB.DISEL ビットを“1”(データ転送のたびに、CPU への割り込み要求が発生)にしているときも、CPU への割り込み要求は発生しません。また、起動要因となった割り込みステータスフラグにも影響を与えません。

データ転送を定義する転送情報(SAR, DAR, CRA, CRB, MRA, MRB, MRC)はそれぞれ個別に設定できます。図 16.9 にチェーン転送の動作を示します。

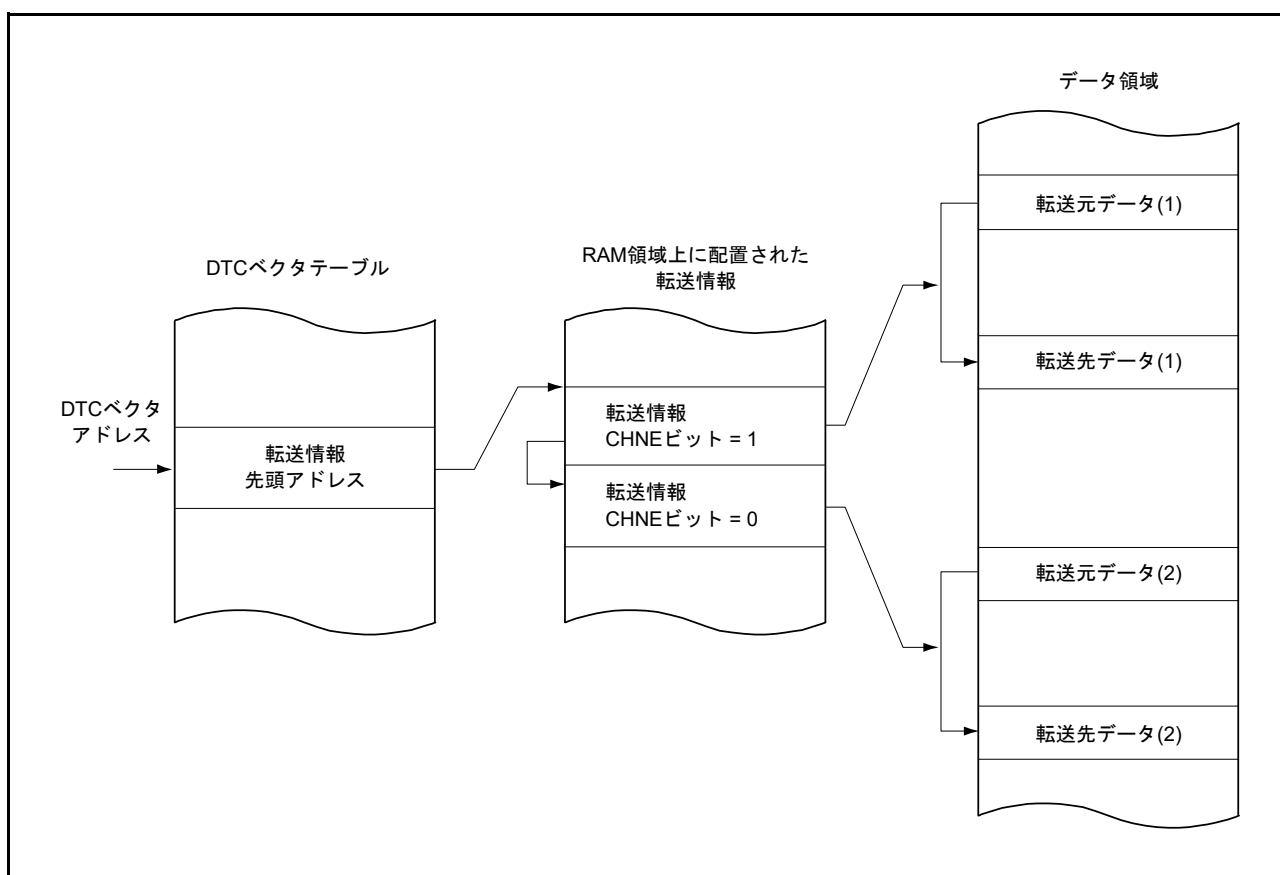


図 16.9 チェーン転送の動作

MRB.CHNE ビットを“1”、MRB.CHNS ビットを“1”にした場合、指定された回数のデータ転送が終了したときのみチェーン転送を行います。リピート転送モードでも、指定された回数のデータ転送が終了したときにチェーン転送を行います。

チェーン転送の条件の詳細については、表 16.4 のチェーン転送の条件を参照してください。

16.4.7 動作タイミング

DTC の動作タイミングの例を図 16.10 ~ 図 16.14 に示します。

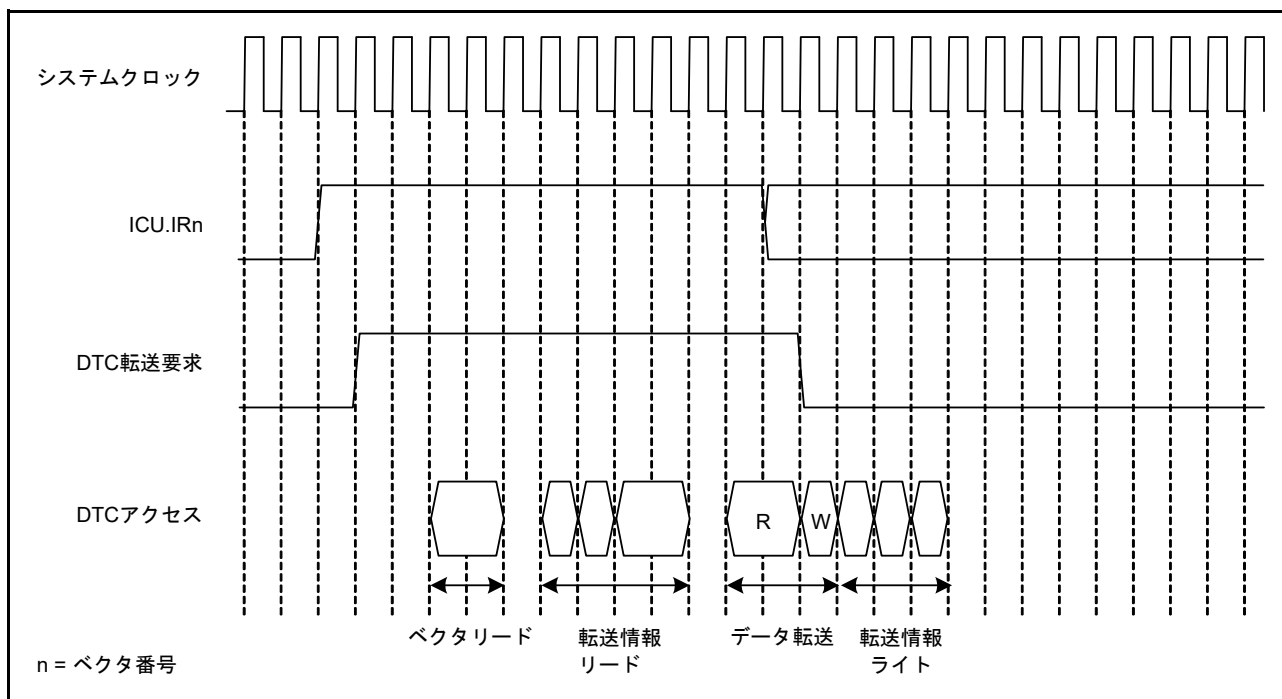


図 16.10 DTC 動作タイミング例 (1)
(ショートアドレスモード、ノーマル転送モード、リピート転送モードの場合)

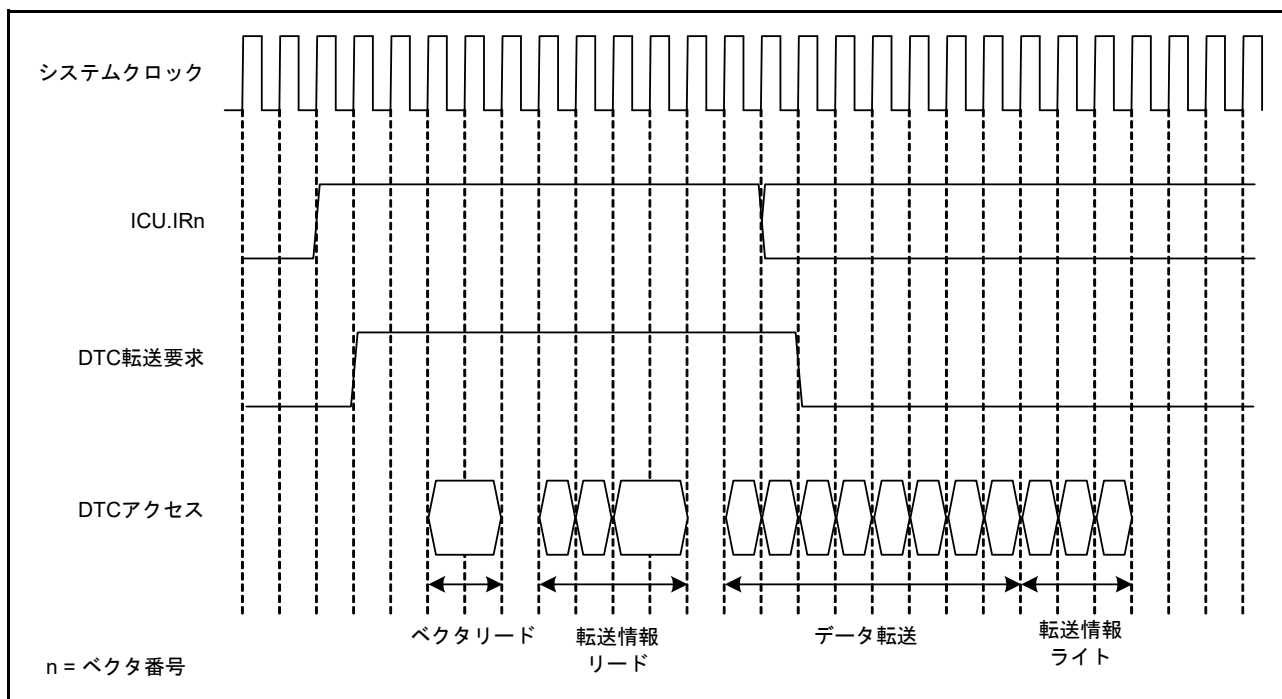


図 16.11 DTC 動作タイミング例 (2)
(ショートアドレスモード、ブロック転送モード、ブロックサイズ = 4 の場合)

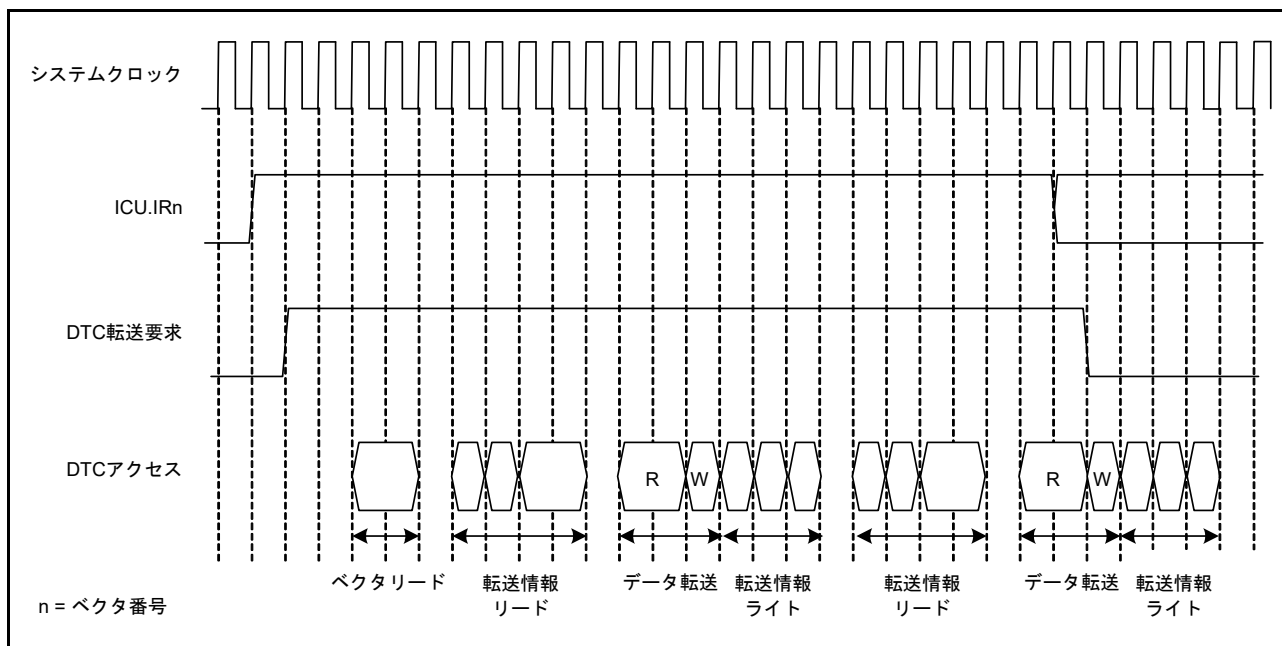


図 16.12 DTC 動作タイミング例 (3) (ショートアドレスモード、チェーン転送の場合)

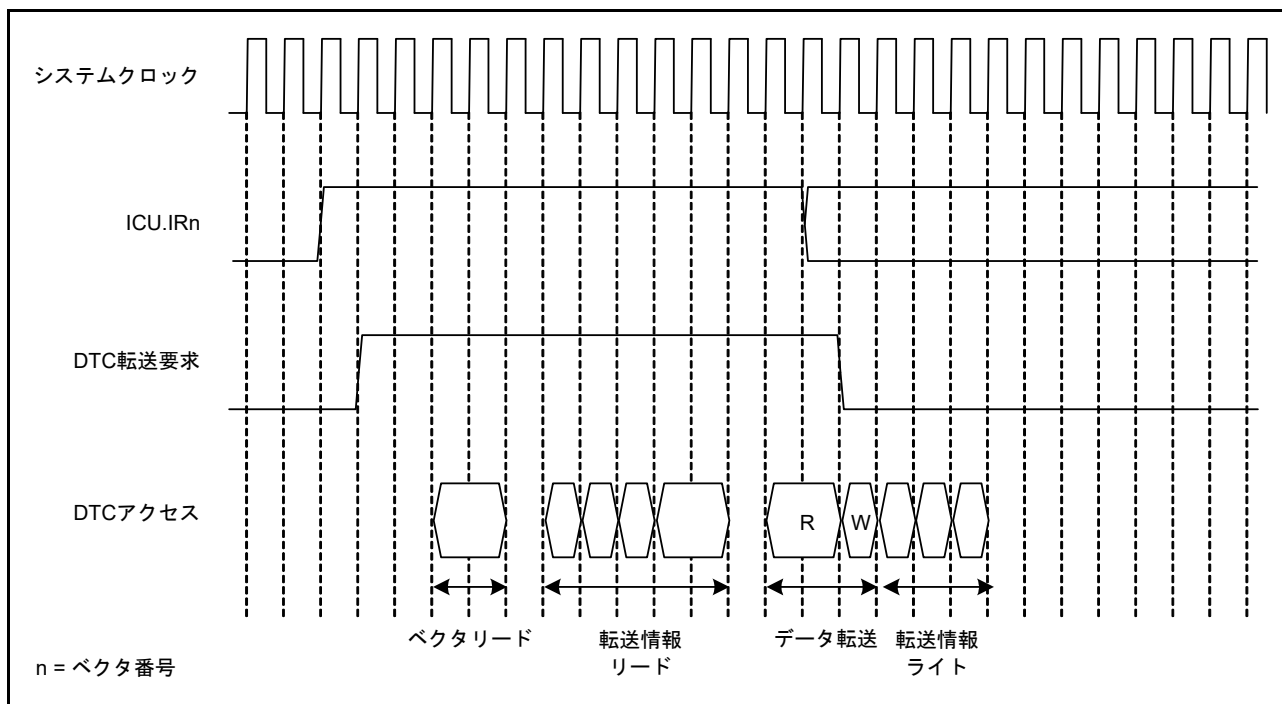


図 16.13 DTC 動作タイミング例 (4)
(フルアドレスモード、ノーマル転送モード、リピート転送モードの場合)

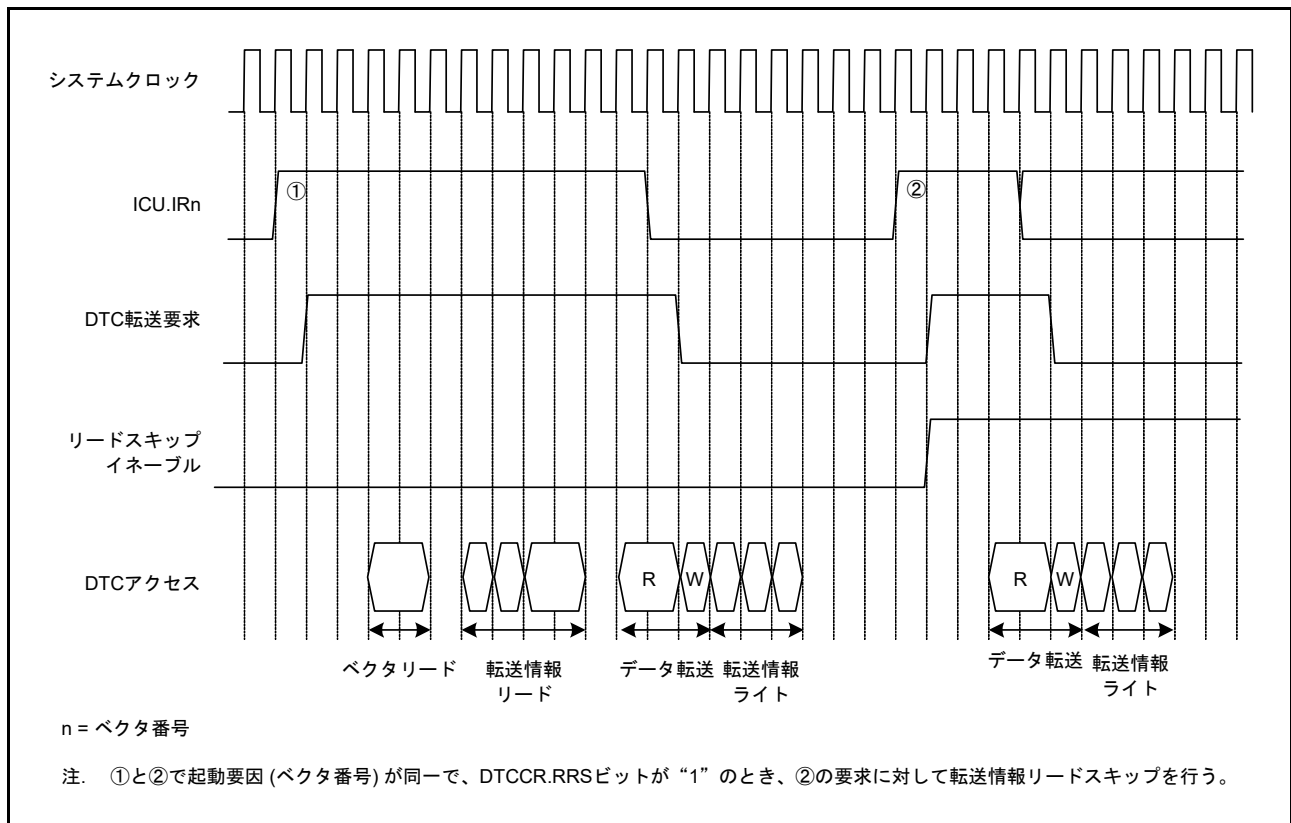


図 16.14 転送情報リードスキップ時の動作例
(ベクタ、転送情報、転送先がRAM、転送元は周辺モジュールの場合)

16.4.8 DTCの実行サイクル

DTCの1回のデータ転送の実行サイクルを表16.9に示します。

各処理状態の実施順序は、「16.4.7 動作タイミング」を参照してください。

表16.9 DTCの実行サイクル

転送モード	ベクタリード		転送情報リード			転送情報ライト			データ転送		内部動作	
									リード	ライト		
ノーマル	Cv + 1	0 (注1)	4 × Ci + 1 (注2)	3 × Ci + 1 (注3)	0 (注1)	3 × Ci (注4)	2 × Ci (注5)	Ci (注6)	Cr + 1	Cw	2	0 (注1)
リピート									Cr + 1	Cw		
ブロック (注7)									P × Cr	P × Cw		

注1. 転送情報リードスキップのとき

注2. フルアドレスモード動作のとき

注3. ショートアドレスモード動作のとき

注4. SARレジスタ、DARレジスタがともにアドレス固定でないとき

注5. SARレジスタ、またはDARレジスタがアドレス固定のとき

注6. SARレジスタとDARレジスタがともにアドレス固定のとき

注7. ブロックサイズが2以上の場合です。ブロックサイズが1の場合は、ノーマル転送のサイクル数となります。

P: ブロックサイズ (CRAH、CRAL レジスタの設定値)

Cv: ベクタ転送情報格納先アクセスサイクル

Ci: 転送情報格納先アドレスアクセスサイクル

Cr: データリード先アクセスサイクル

Cw: データライト先アクセスサイクル

(ベクタリード、転送情報リード、データ転送リードの「+1」、内部動作の「2」の単位はいずれもシステムクロック (ICLK) です。)

(Cv、Ci、Cr、Cwはアクセス先で異なります。アクセス先ごとのサイクル数は、「40. RAM」、「41. フラッシュメモリ (FLASH)」、「5. I/O レジスタ」を参照してください。)

16.4.9 DTCのバス権解放タイミング

DTCは、転送情報リード中と転送情報ライト中にはバス権を解放しません。その他のタイミングでは、バスマスタ調停部で決められた優先順位によってバス調停が行われます。

バス調停については、「15. バス」を参照してください。

16.4.10 シーケンス転送

DTCSQE レジスタで設定した起動要因に対してシーケンス転送を実行することができます。MRB.INDX ビットを“1”にするとシーケンス転送を開始し、MRB.SQEND ビットを“1”にするとシーケンス転送を終了します。またシーケンス転送実行中でも DTCOR.SQTFRL ビットを“1”にすることでシーケンス転送を強制的に終了させ、次の DTC 転送要求でインデックステーブル参照から開始することができます。

シーケンス転送は下記の処理を行います。

- (1) DTCSQE レジスタに設定された要因からの DTC 転送要求を受けて、DTC ベクタテーブルを参照し最初のデータ転送を実行
- (2) (1) で転送した最初のデータの下位 8 ビットの値 (シーケンス番号) に基づいて DTC インデックステーブルを参照
- (3) DTC インデックステーブルから取得したアドレスから、転送情報を読み出し
- (4) 転送情報に従ってデータ転送を実行。転送後、MRB.CHNE ビットと MRB.SQEND ビットの値によって以下のいずれかの動作を実施
 - CHNE ビットが“1”の場合、チェーン転送を実行 → 次の転送情報を読み出し → (4) へ
 - CHNE ビットが“0”かつ SQEND ビットが“0”の場合、シーケンス転送を一時中断 → (5) へ
 - CHNE ビットが“0”かつ SQEND ビットが“1”の場合、シーケンス転送を終了
- (5) DTCSQE レジスタに設定された要因から DTC 転送要求が入る (注 1) と、中断していたシーケンスを再開、次の転送情報を読み出し → (4) へ

注 1. データ転送の結果 ICU.DTCERn.DTCE ビットが“0”になると、DTC 転送要求が発生しません。シーケンス転送を再開するには、DTCE ビットを“1”にしてください。DTCE ビットが“0”になる条件は、図 16.5 または「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

シーケンス転送の基本動作を図 16.15、図 16.16 に示します。

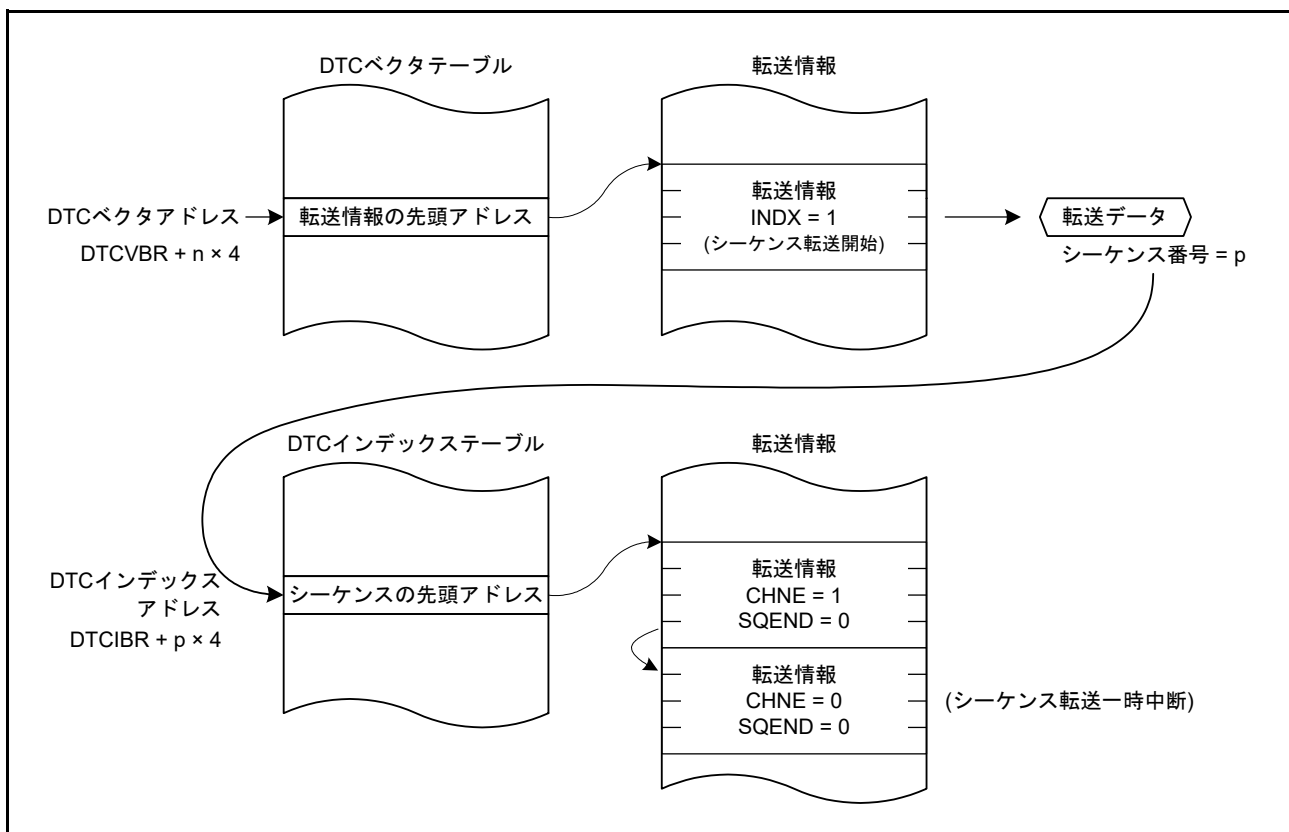


図 16.15 シーケンス転送の開始と一時中断

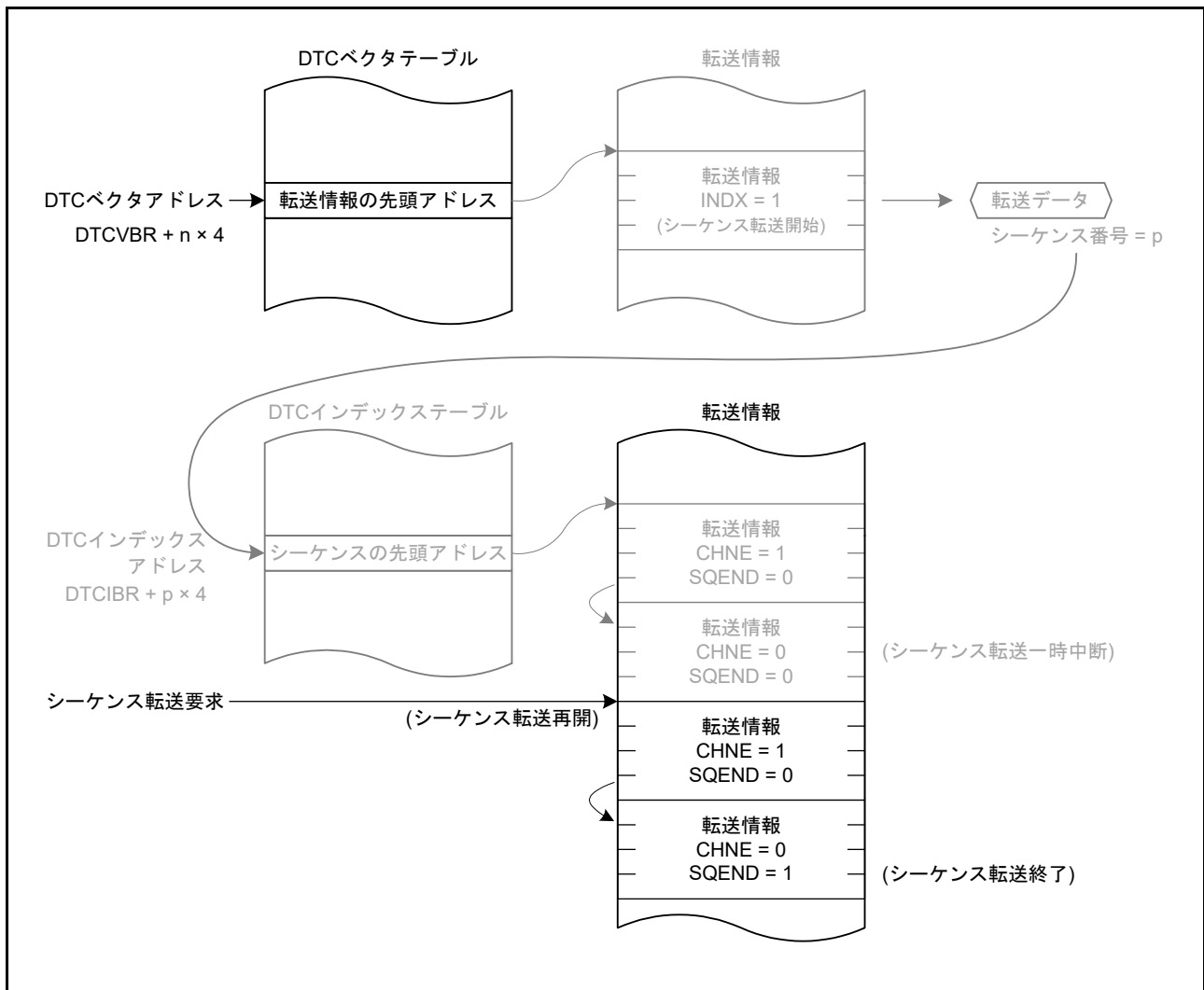


図 16.16 シーケンス転送の再開と終了

シーケンス転送実行時の CHNE、SQEND、INDX ビットの設定を表 16.10 に示します。

表 16.10 シーケンス転送と CHNE、SQEND、INDX ビット

DTCの動作	CHNEビット	SQENDビット	INDXビット
シーケンス転送開始	0	0	1(注1)
シーケンス転送継続	1	0	0
シーケンス転送一時中断(注2)	0	0	0
シーケンス転送終了	0	1	0
シーケンス転送終了、新たなシーケンス転送を開始	0	1	1(注1)
シーケンス転送以外	—	0	0

注. 上記以外の設定は使用しないでください。

注1. INDXビットを“1”にする転送情報では、MRA.MD[1:0]ビットを“00b”(ノーマル転送モード)にしてください。

注2. シーケンス転送が一時中断した場合、ICU.DTCERn.DTCEビットが“0”になっていることがあります。シーケンス転送を再開するにはDTCEビットを“1”にしてください。

シーケンス転送が一時中断していても、シーケンス転送が終了するまでは、新たなシーケンス転送は開始できません。シーケンス転送が一時中断しているときにシーケンス転送要求が入ると、中断していたシーケンス転送が再開されます。

16.4.11 DTC インデックステーブル

DTC インデックステーブルは、DTCIBR レジスタに設定されたアドレスを開始アドレスとする領域に配置されます。

シーケンス番号の値 p に対する転送情報テーブル p の先頭アドレスは、 $DTCIBR + p \times 4$ 番地に格納してください。

DTC インデックスの上位 30 ビットには、先頭アドレスの上位 30 ビットを設定します。CPUSEL ビットには、転送情報を読み出してシーケンスを開始するか、シーケンスを開始せずに CPU に割り込み要求を出力するかを設定します。DTC では処理しきれない複雑なシーケンスに対しては、CPUSEL ビットに“1”を設定し、CPU で処理を行います。

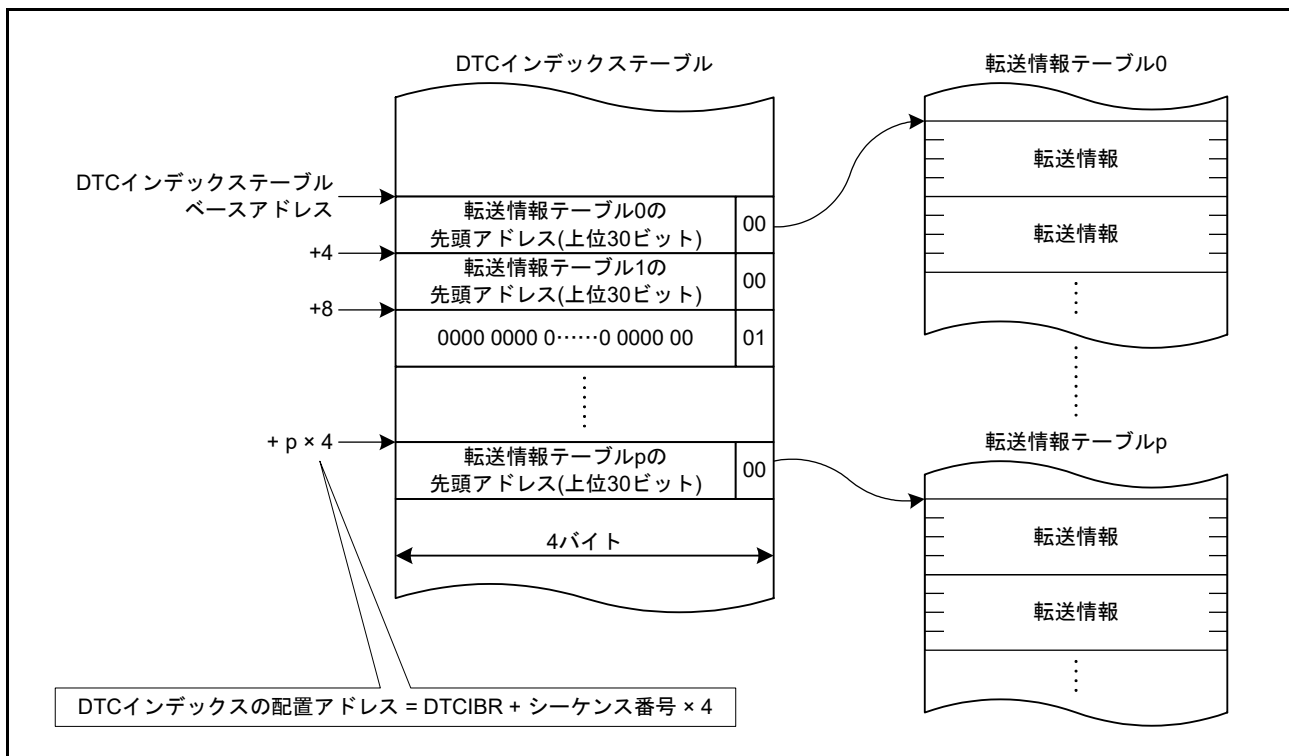


図 16.17 DTC インデックステーブル

- DTC インデックス

アドレス DTCIBR + p × 4



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPUSEL	シーケンス転送/CPU割り込み 選択ビット	0 : シーケンス転送を継続(シーケンスを開始) 1 : シーケンス転送を終了し、CPUに割り込み要求を出力	—
b1	—	予約ビット	“0”にしてください	—
b31-b2	DTCIADDR[31:2]	転送情報テーブルアドレス	転送情報テーブルの先頭アドレスの上位30ビットを設定 します。上位4ビット(b31-b28)への書き込みは無視され、 b31-b28の値はb27と同じ値になります。	—

取得したシーケンス番号が示す DTC インデックスの CPUSEL ビットが“1”の場合、CPU への割り込み要求が発生します。このとき ICU.DTCERn.DTCE ビットが“0”になりますので、これ以降、DTCSQE レジスタに設定した起動要因からの割り込み要求信号は、DTC ではなく CPU に伝えられます。CPU の割り込み処理が終わったら、次のシーケンス転送を開始できるように ICU.DTCERn.DTCE ビットを“1”にして DTC 転送要求を有効にしてください。

16.4.12 シーケンス転送の動作例

シーケンス転送の代表例を図 16.18 に、図中の転送例に対する転送情報の構成を図 16.19 ~ 図 16.23 に示します。

これらの例では、ベクタ番号 n の割り込み要因をシーケンス転送の要因に設定 (DTCSQE.VECN[7:0] ビット = n) しています。ベクタ番号 n の割り込み要因からの DTC 転送要求 (以降、単に「転送要求 n 」と記載) が入力されると、DTC は DTC ベクタテーブルを参照し、対応する転送情報を読み出します。この転送情報に従って転送されたデータの下位 8 ビットがシーケンス番号になり、256 通りのシーケンスの中から 1 つのシーケンスが選択されます。

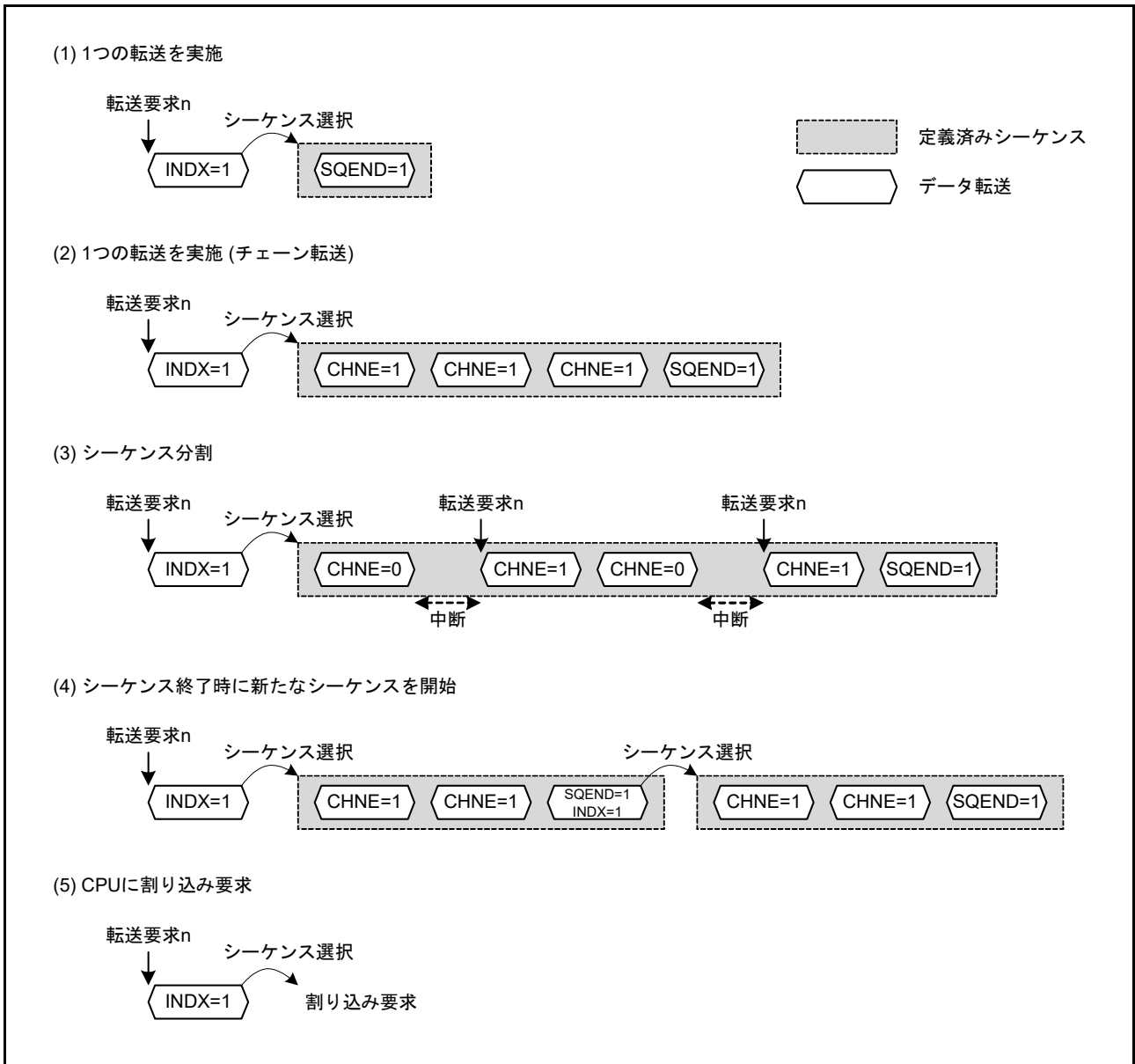


図 16.18 シーケンス転送の例

(1) 1つの転送を実施する場合

図 16.19 は、1つの転送(ノーマル転送、リピート転送、ブロック転送)を行うシーケンスの例です。

DTC は、DTC インデックステーブルを参照し、取得したシーケンス番号 p に対応する転送情報を読み出します。

転送情報中の CHNE、INDX、SQEND ビットがそれぞれ “0”、“0”、“1” なので、指定された転送を行うとシーケンスを終了します。

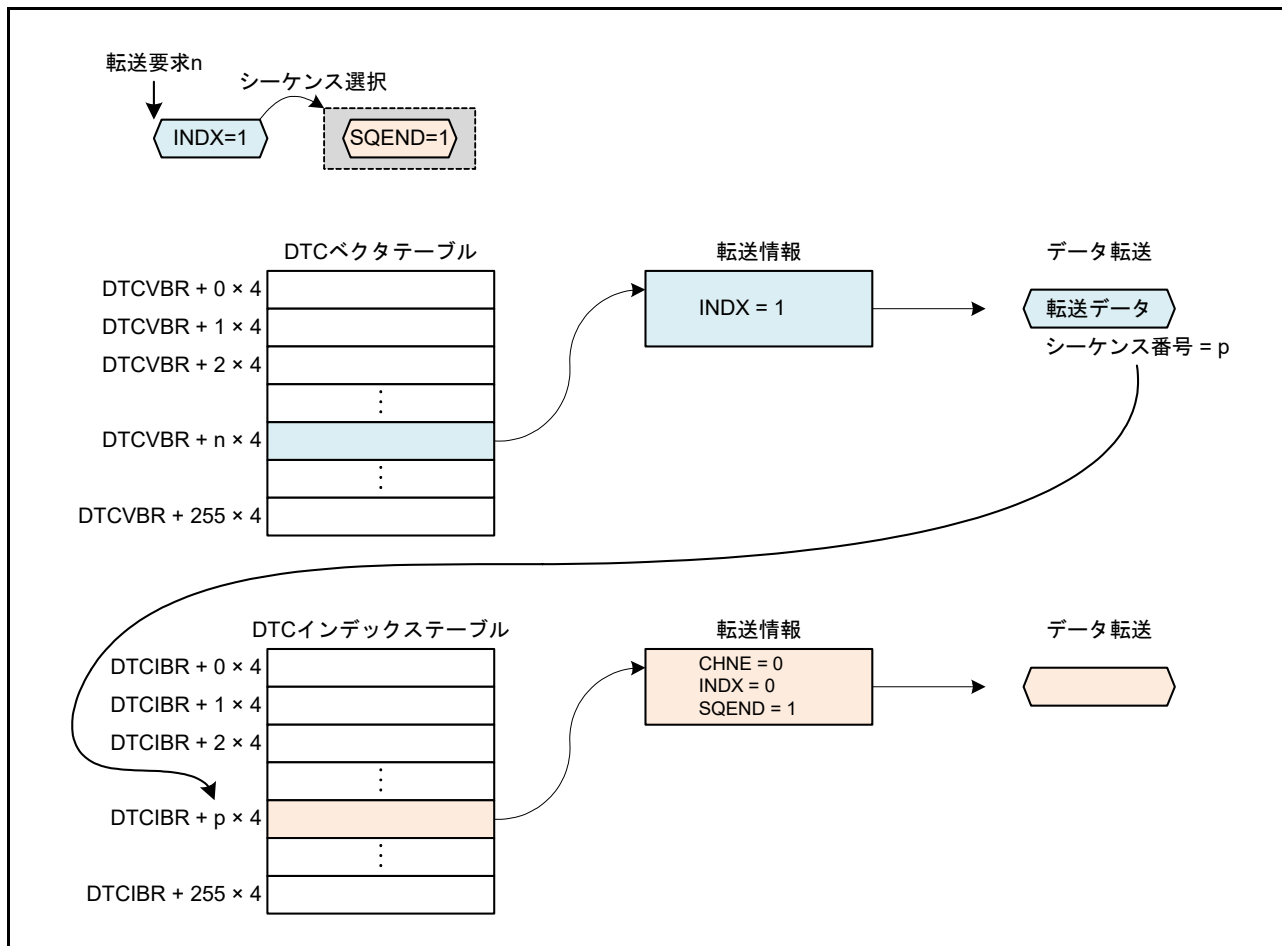


図 16.19 1つの転送を実施するシーケンスの例

(2) 1つのチェーン転送を実施する場合

図 16.20 は、1つのチェーン転送を行うシーケンスの例です。

DTC は、DTC インデックステーブルを参照し、取得したシーケンス番号 q に対応する転送情報を読み出します。

転送情報中の CHNE、INDX、SQEND ビットがそれぞれ “1”、“0”、“0” の間は、指定されたチェーン転送を行います。CHNE、INDX、SQEND ビットがそれぞれ “0”、“0”、“1” の転送情報を読み出すと、指定された転送を行った後シーケンスを終了します。

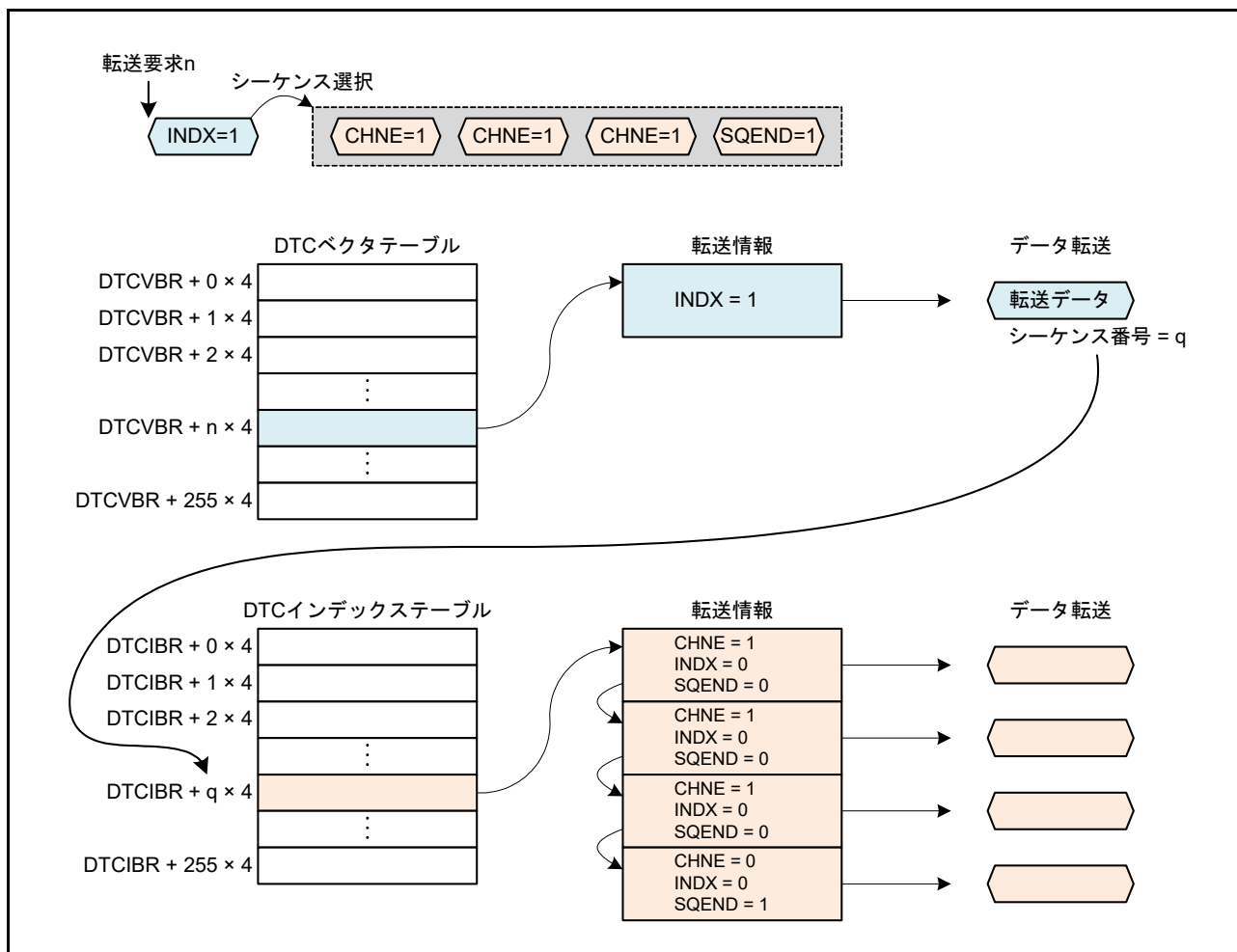


図 16.20 1つのチェーン転送を実施するシーケンスの例

(3) シーケンスを分割して実施する場合

図 16.21 は、1つのシーケンスを3つに分割して行うシーケンスの例です。

DTCは、DTCインデックステーブルを参照し、取得したシーケンス番号 r に対応する転送情報を読み出します。

転送情報中のCHNE、INDX、SQENDビットがそれぞれ“0”、“0”、“0”なので、指定された転送を行うと、シーケンスを中断して次の転送要求 n を待ちます。シーケンス転送実行中に転送要求 n が入力されると、DTCベクタテーブルは参照されず、中断していたシーケンスが再開されます。

CHNE、INDX、SQENDビットがそれぞれ“0”、“0”、“1”の転送情報を読み出すと、指定された転送を行った後シーケンスを終了します。

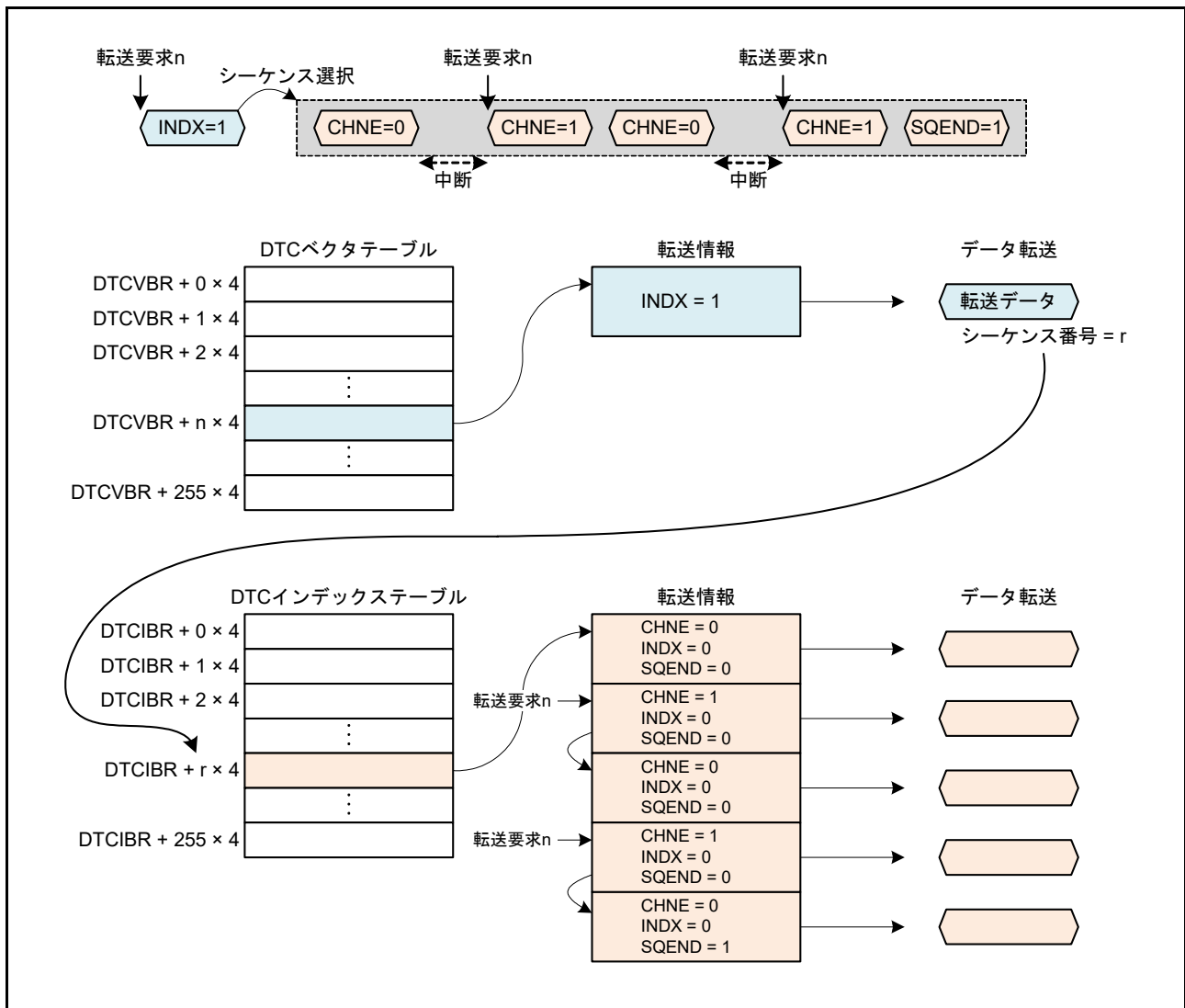


図 16.21 シーケンスを分割して実施する例

(4) シーケンス終了時に新たなシーケンスを開始する場合

図 16.22 は、1つ目のシーケンス転送終了時に次の新たなシーケンス転送を開始する例です。

DTC は、DTC インデックステーブルを参照し、取得したシーケンス番号 s に対応する転送情報を読み出します。

CHNE、INDX、SQEND ビットがそれぞれ “0”、“1”、“1” の転送情報を読み出すと、指定された転送を行い、転送されたデータの低位 8 ビットから新たなシーケンス番号を取得します。DTC は再び DTC インデックステーブルを参照し、取得したシーケンス番号 k に対応する転送情報を読み出し、新たなシーケンスを開始します。

CHNE、INDX、SQEND ビットがそれぞれ “0”、“0”、“1” の転送情報を読み出すと、指定された転送を行った後シーケンスを終了します。

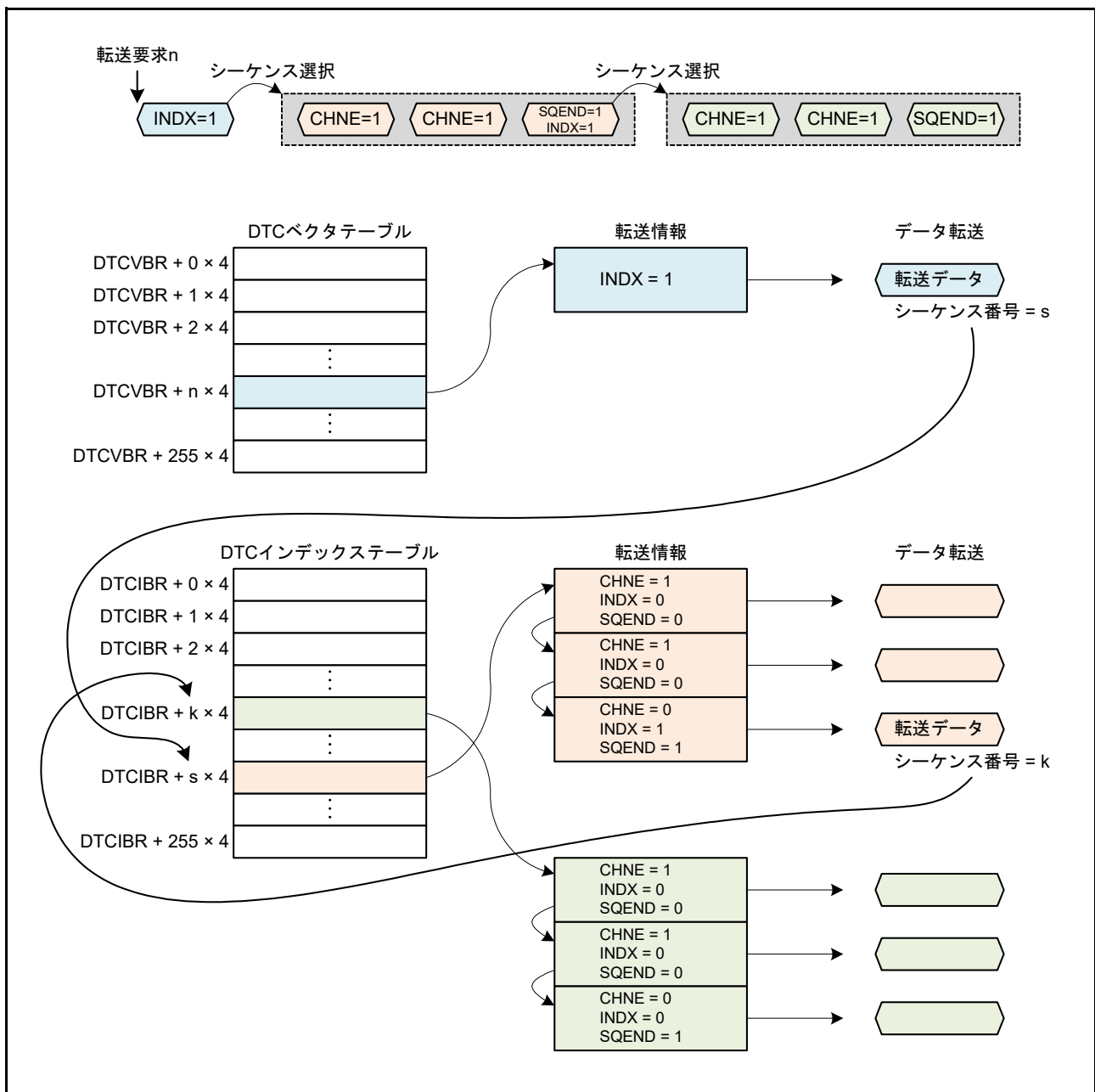


図 16.22 シーケンス終了時に新たなシーケンスを開始する例

(5) CPUに割り込み要求を出力する場合

図 16.23 は、シーケンスを開始せずに CPU に割り込み要求を出力する例です。

DTC は、取得したシーケンス番号 t に対応する DTC インデックスを取得します。取得した DTC インデックスの CPUSEL ビットが“1”であると、DTC はシーケンスを開始せずにシーケンス転送を終了し、CPU に割り込み要求を出力します。

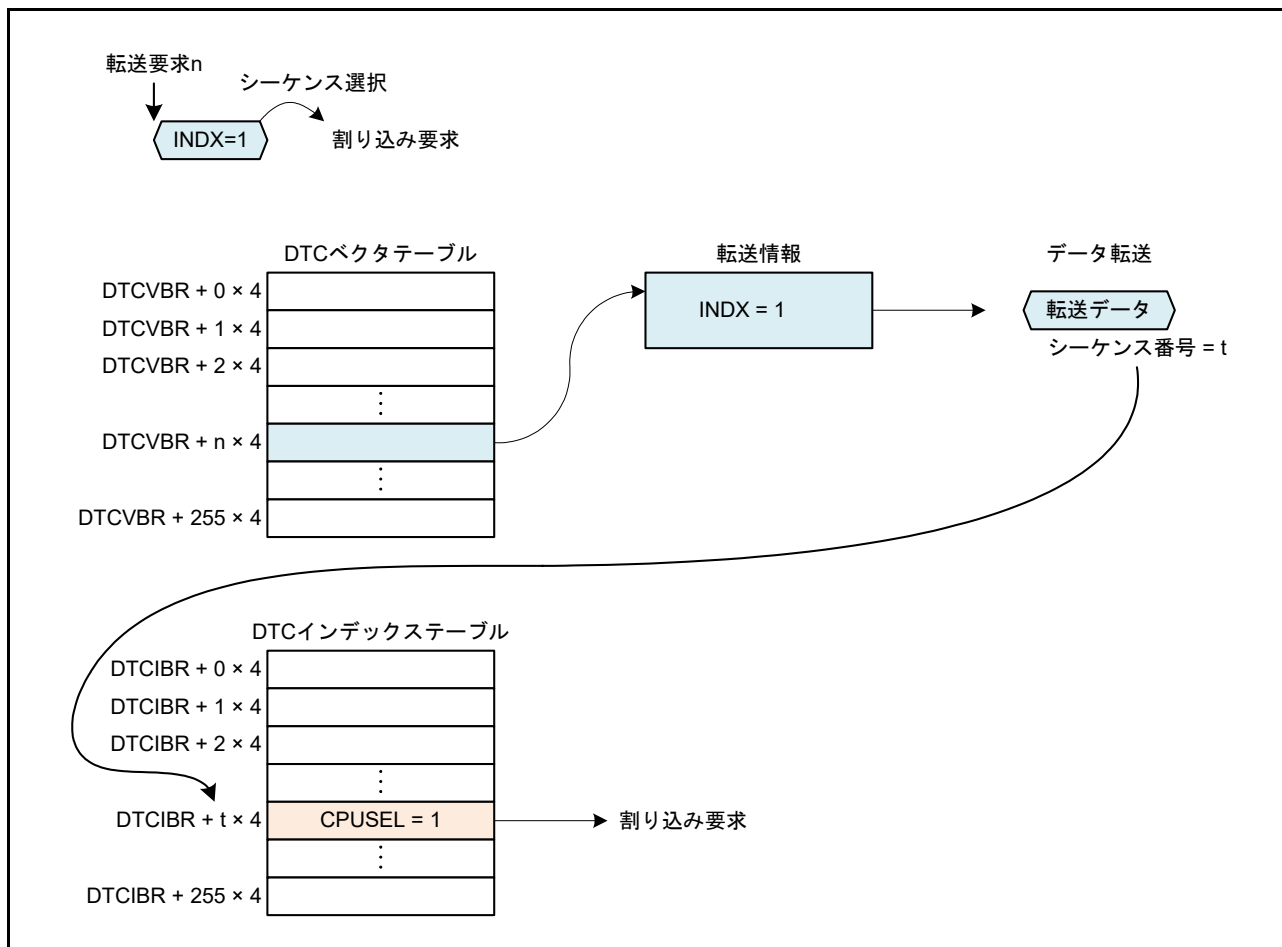


図 16.23 CPUに割り込み要求を出力する例

16.5 DTCの設定手順

DTCを使用する前に、DTCベクタベースレジスタ(DTCVBR)を設定してください。シーケンス転送を使用する場合はDTCインデックステーブルベースレジスタ(DTCIBR)も設定してください。

図16.24にDTCの起動に必要な設定手順を示します。

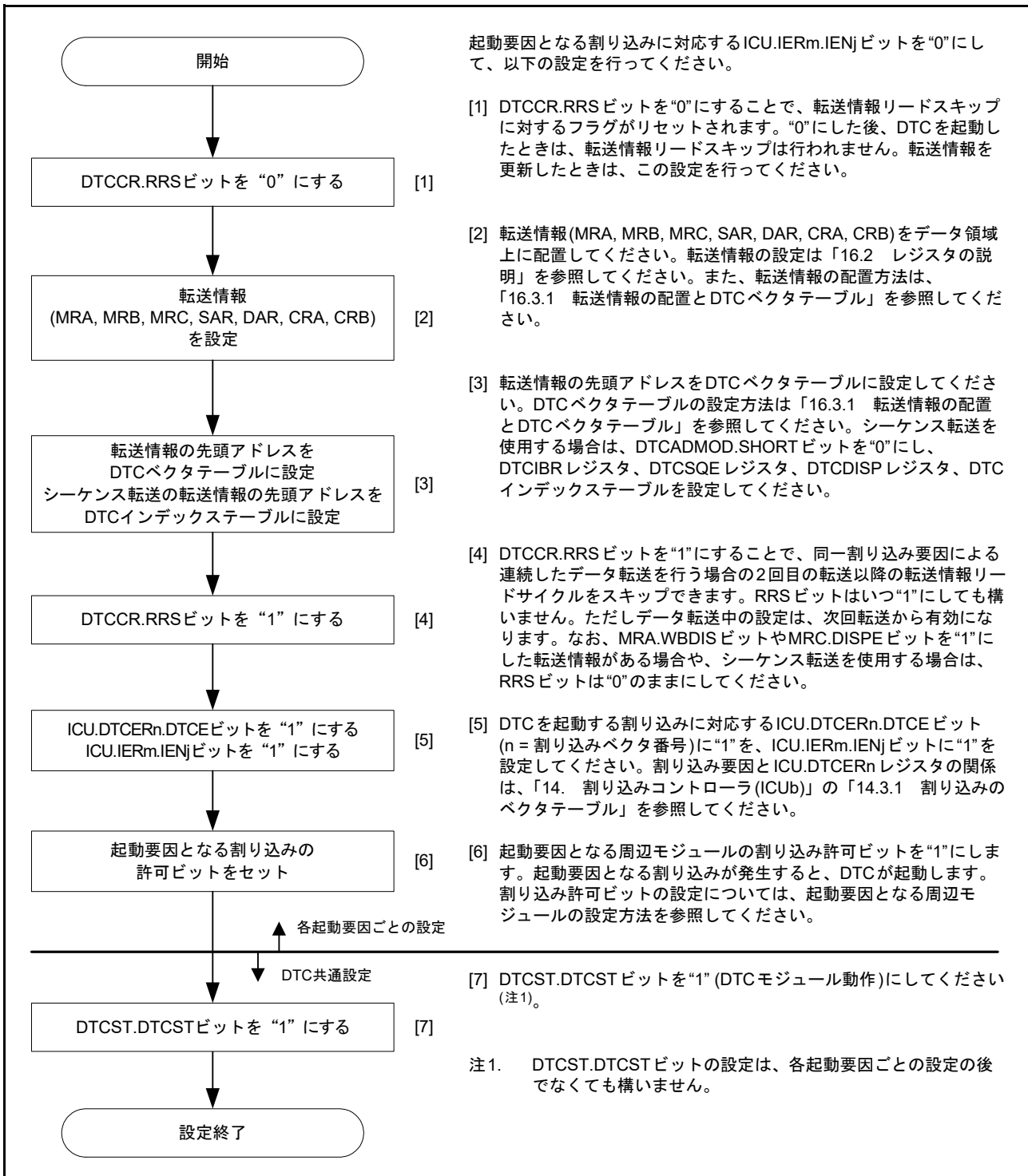


図 16.24 DTC の設定手順

16.6 DTC 使用例

16.6.1 ノーマル転送

DTC の使用例として、SCI による 128 バイトのデータ受信を行う例を示します。

(1) 転送情報の設定

MRA レジスタの MD[1:0] ビットを “00b” (ノーマル転送モード)、SZ[1:0] ビットを “00b” (バイト転送)、SM[1:0] ビットを “00b” (転送元アドレス固定) に設定します。MRB レジスタの CHNE ビットを “0” (チェーン転送禁止)、DISEL ビットを “0” (指定回数のデータ転送終了時、割り込み発生)、DM[1:0] ビットを “10b” (転送後 DAR レジスタをインクリメント) に設定します。MRB.DTS ビットは、任意の値にすることができます。SAR レジスタには SCI の RDR レジスタのアドレス、DAR レジスタにはデータを格納する RAM の先頭アドレス、CRA レジスタには 128 (“0080h”) を設定します。CRB レジスタは、任意の値にすることができます。

(2) DTC ベクタテーブルの設定

受信完了割り込み (RXI) 用の転送情報の先頭アドレスを、DTC ベクタテーブルに設定します。

(3) ICU の設定と DTC モジュール起動

対応する ICU.DTCERn.DTCE ビットを “1” に、ICU.IERm.IENj ビットを “1” にします。DTCST.DTCST ビットを “1” にします。

(4) SCI の設定

SCI の SCR.RIE ビットを “1” にして、RXI 割り込みを許可します。なお、SCI の受信動作中に受信エラーが発生すると以後の受信が行われませんので、CPU が受信エラー割り込みを受け付けられるようにしてください。

(5) DTC 転送

SCI で 1 バイトのデータ受信が完了するごとに RXI 割り込みが発生し、DTC が起動します。DTC によって、受信データが SCI の RDR レジスタから RAM へ転送され、DAR レジスタのインクリメント、CRA レジスタのデクリメントを行います。

(6) 割り込み処理

128 回のデータ転送が終了後、CRA レジスタが “0” になると、CPU に RXI 割り込み要求が出力されます。割り込み処理ルーチンで終了処理を行ってください。

16.6.2 カウンタが“0”のときのチェーン転送

第1のデータ転送の転送カウンタが“0”になったときのみ第2のデータ転送を行い、第2のデータ転送において第1の転送情報を変更します。このチェーン転送を繰り返すことで、転送回数が256回を超えるリピート転送を行うことができます。

128K バイトの入力バッファを 20 0000h ~ 21 FFFFh 番地に構成する例を示します (入力バッファは下位アドレス “0000h” から始まるように設定します)。カウンタが“0”のときのチェーン転送を図 16.25 に示します。

- (1) 第1のデータ転送は、入力データ用にノーマル転送モードを設定します。転送元アドレスは固定、CRA レジスタは“0000h”(65536回)、MRB.CHNE ビットは“1”(チェーン転送許可)、MRB.CHNS ビットは“1”(転送カウンタが“0”になったときのみチェーン転送を行う)、MRB.DISEL ビットは“0”(指定された回数 of データ転送が終了したとき CPU への割り込みが発生)にしてください。
- (2) 第1のデータ転送の転送先アドレスの 65536 回ごとの先頭アドレスの上位 8 ビット (この例の場合は “21h” と “20h”) を別の領域 (ROM など) に用意してください。
- (3) 第2のデータ転送は、第1のデータ転送の転送先アドレス再設定用にリピート転送モード (転送元をリピート領域) にします。転送先は第1の転送情報内の DAR レジスタの上位 8 ビットが配置されているアドレスです。このとき MRB.CHNE ビットは“0”(チェーン転送禁止)、MRB.DISEL ビットは“0”(指定された回数 of データ転送が終了したとき CPU への割り込みが発生)にしてください。この例の場合は、転送カウンタを“2”にしてください。
- (4) DTC 転送要求を受け付けると、第1のデータ転送を実行します。65536 回実行して、第1のデータ転送の転送カウンタが“0”になると、第2のデータ転送が開始され、第1のデータ転送の転送先アドレスの上位 8 ビットを“21h”にします。このとき、第1のデータ転送の転送先アドレスの下位 16 ビットと転送カウンタは、“0000h”になっています。
- (5) 引き続き、DTC 転送要求を受け付けると、第1のデータ転送を実行します。65536 回実行して、第1のデータ転送の転送カウンタが“0”になると、第2のデータ転送が開始され、第1のデータ転送の転送先アドレスの上位 8 ビットを“20h”にします。このとき、第1のデータ転送の転送先アドレスの下位 16 ビットと転送カウンタは“0000h”になっています。
- (6) 上記 (4)、(5) を無限に繰り返します。第2のデータ転送がリピート転送モードのため、CPU への割り込み要求は発生しません。

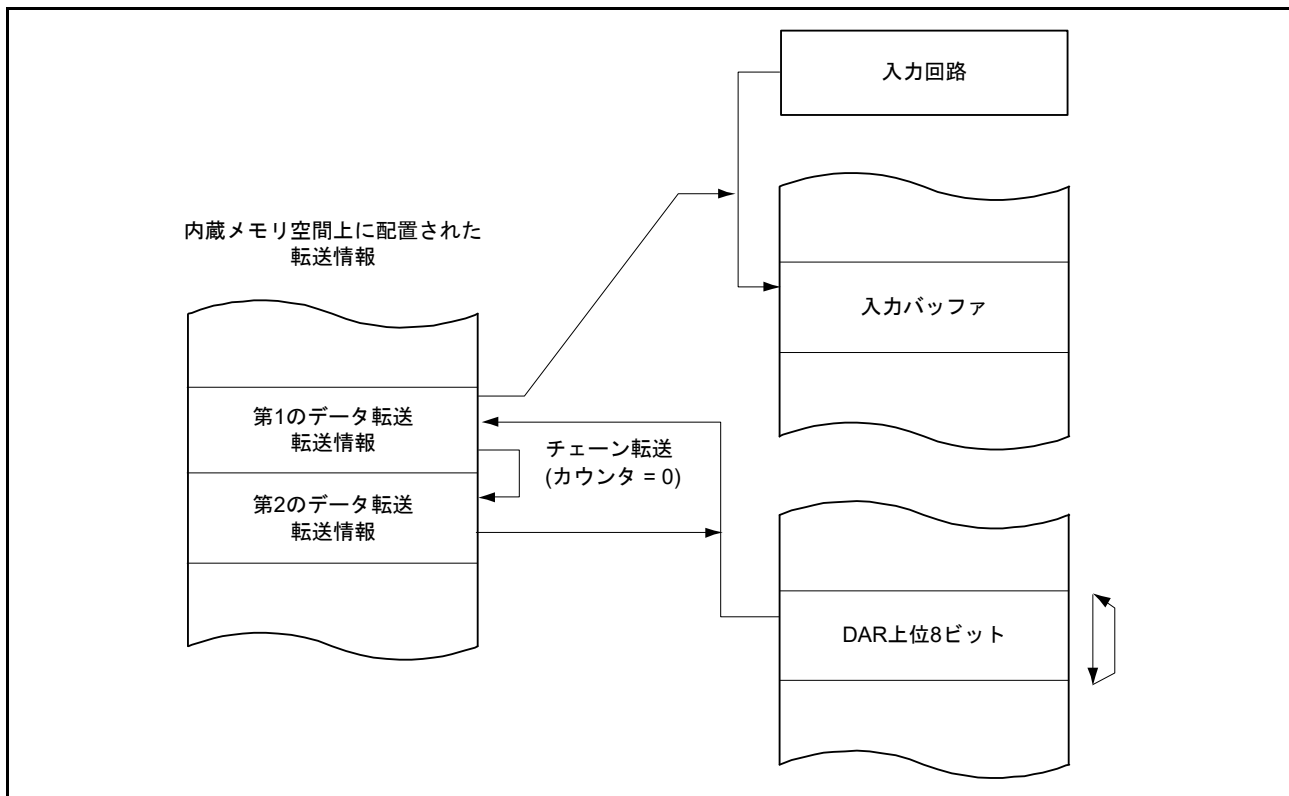


図 16.25 カウンタが“0”のときのチェーン転送

16.6.3 シーケンス転送

SCI の受信割り込みをシーケンス転送の起動要因にする例を示します。

(1) 転送情報の設定

MRA レジスタの MD[1:0] ビットを “00b” (ノーマル転送モード)、SZ[1:0] ビットを “00b” (バイト転送)、SM[1:0] ビットを “00b” (転送元アドレス固定) に設定します。MRB レジスタの CHNE ビットを “0” (チェーン転送禁止)、DISEL ビットを “0” (指定された回数のデータ転送が終了したとき割り込み発生)、DM[1:0] ビットを “10b” (転送後 DAR レジスタインクリメント)、INDX ビットを “1” (シーケンス転送開始)、SQEND ビットを “0” (シーケンス転送継続) に設定します。MRB.DTS ビットは、任意の値にすることができます。SAR レジスタに SCIk.RDR レジスタのアドレス、DAR レジスタにデータを格納する RAM の先頭アドレスを設定します。

WBDIS ビットを “1” (ライトバックしない) にした場合、CRA レジスタ、CRB レジスタの値は無視されます。

(2) DTC ベクタテーブルの設定

対象となる受信完了割り込み (RXI) 用の転送情報の先頭アドレスを、DTC ベクタテーブルに設定します。

(3) DTC インデックステーブルの設定

シーケンスごとの転送情報の先頭アドレスを、DTC インデックステーブルに設定します。

(4) ICU の設定と DTC モジュールの起動

対応する ICU.DTCERn.DTCE ビットを “1” に、ICU.IERm.IENj ビットを “1” にします。DTCST.DTCST ビットを “1” にします。

(5) SCI の設定

SCIk.SCR.RIE ビットを“1”にし、RXI 割り込みを許可します。なお、SCI の受信動作中に受信エラーが発生すると以後の受信が行われませんので、CPU が受信エラー割り込みを受け付けられるようにしてください。

(6) シーケンス転送の開始

SCI で 1 バイトのデータ受信が完了すると RXI 割り込みが発生し、DTC が起動します。DTC によって、受信データが SCIk.RDR レジスタから RAM へ転送されます。この受信データの値(シーケンス番号)によって DTC インデックステーブルを参照し、引き続きシーケンス番号に対応したデータ転送を実行します。

DTC インデックスの CPUSEL ビットが“1”の場合は、転送情報をリードせず、ICU.DTCERn.DTCE ビットを“0”にし、CPU に割り込み要求を出力してシーケンス転送を終了します。

(7) シーケンス転送一時中断中

ICU.DTCERn.DTCE ビットが“0”になっている場合は、“1”にします。対象となる RXI 割り込みによる DTC 転送要求が発生するたびに、続きのデータ転送を行います。

(8) シーケンス転送終了

シーケンス転送の最後の転送情報の MRB.SQEND ビットを“1”に設定します。このデータ転送を実行後、シーケンス転送を終了し、次に対象となる RXI 割り込みによる DTC 転送要求が発生した時は、DTC ベクタテーブルの参照から開始します。

16.7 割り込み要因

DTC が指定された回数のデータ転送を終了したとき、および MRB.DISEL ビットが“1”(データ転送のたびに、CPU への割り込みが発生)のデータ転送が終了したとき、DTC を起動した割り込み要因で CPU に対して割り込みが発生します。これらの CPU に対する割り込みは、CPU の PSW.I ビット(割り込み許可ビット)、PSW.IPL[3:0] ビット(プロセッサ割り込み優先レベル)、および割り込みコントローラの優先順位の制御を受けます。

16.8 イベントリンク

DTC は 1 要求分の転送完了後にイベント信号を出力します。

16.9 消費電力低減機能

モジュールストップ状態、ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモードへ移行する際は、DTCST.DTCST ビットを“0”(DTC モジュール停止)にした後、それぞれ以下の処理をしてください。

(1) モジュールストップ機能

MSTPCRA.MSTPA28 ビットに“1”(モジュールストップ状態への遷移)を書くことによって、DTC のモジュールストップ機能が有効になります。MSTPCRA.MSTPA28 ビットに“1”を書いたときにデータ転送が実行中であった場合、データ転送終了後にモジュールストップ状態に遷移します。

MSTPCRA.MSTPA28 ビットが“1”のとき、DTC のレジスタにアクセスしないでください。

MSTPCRA.MSTPA28 ビットに“0”(モジュールストップ状態の解除)を書くことにより、DTC のモジュールストップが解除されます。

(2) ディープスリープモード

「11. 消費電力低減機能」の「11.6.2.1 ディープスリープモードへの遷移」の手順に従って設定してください。

WAIT 命令実行時点でデータ転送が実行中であった場合、データ転送終了後にディープスリープモードに移行します。

ディープスリープモードから復帰後、MSTPCRA.MSTPA28 ビットに“0”を書くことにより、DTC のモジュールストップが解除されます。

(3) ソフトウェアスタンバイモード

「11. 消費電力低減機能」の「11.6.3.1 ソフトウェアスタンバイモードへの移行」の手順に従って設定してください。

WAIT 命令実行時点でデータ転送が実行中であった場合、データ転送終了後にソフトウェアスタンバイモードに移行します。

(4) 消費電力低減機能における注意事項

WAIT 命令とレジスタ設定手順については、「11. 消費電力低減機能」の「11.7.5 WAIT 命令の実行タイミング」を参照してください。

低消費電力モードから復帰後、データ転送を行うには、再度 DTCST.DTCST ビットを“1”にしてください。

ディープスリープモード期間、ソフトウェアスタンバイモード期間に発生した要求を DTC 転送要求でなく CPU への割り込み要求にする場合は、「14. 割り込みコントローラ(ICUb)」の「14.4.3 割り込み要求先の選択」の設定方法に沿って、割り込み要求先を CPU に切り替えてから WAIT 命令を実行してください。

16.10 使用上の注意事項

16.10.1 転送情報先頭アドレス

ベクタテーブルに指定する転送情報の先頭アドレスは、4の倍数を指定してください。4の倍数以外を指定すると、アドレスの最下位2ビットは“00b”としてアクセスします。

16.10.2 転送情報の配置

転送情報をメモリに配置するときには、配置する領域のエンディアンによって、図 16.26 に示すとおり配置してください。

たとえば、CRA、CRB設定データを16ビットで書く場合、ビッグエンディアンの場合は+8h(+Ch)番地にCRA設定データ、+Ah(+Eh)番地にCRB設定データを書いてください。リトルエンディアンの場合は+8h(+Ch)番地にCRB設定データ、+Ah(+Eh)番地にCRA設定データを書いてください。32ビットで書く場合は、エンディアンにかかわらず32ビットのMSB側にCRA設定データ、LSB側にCRB設定データを配置して+8h(+Ch)番地に書いてください。

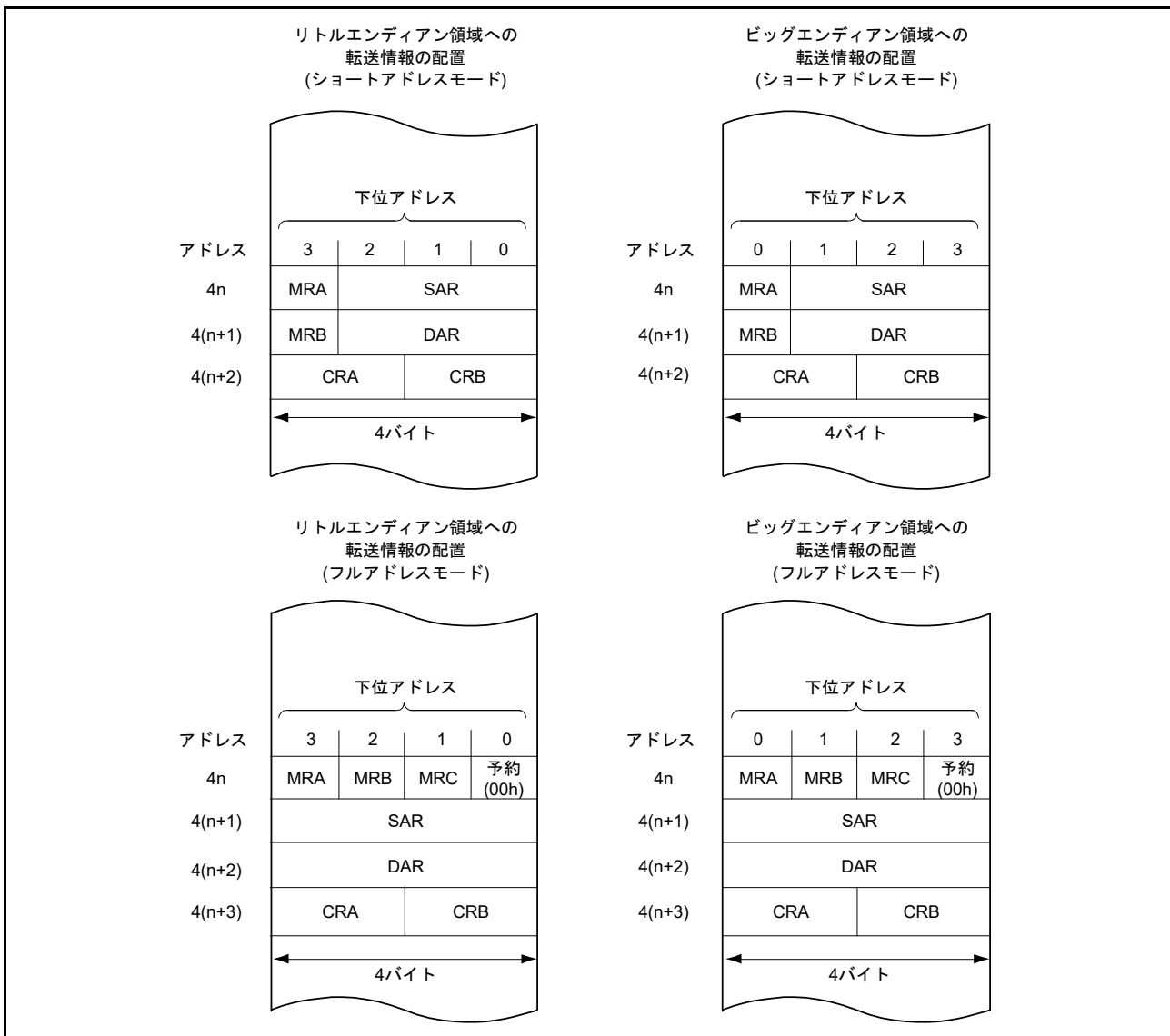


図 16.26 転送情報の配置

16.10.3 シーケンス転送使用時の注意事項

シーケンス転送は、DTCADM.SHORT ビットを“0”(フルアドレスモード)、DTCCR.RRS ビットを“0”(リードスキップを行わない)にして使用してください。

また、MRB.INDX ビットを“1”(シーケンス転送開始)にするとき、あるいはMRB.SQEND ビットを“1”(シーケンス転送終了)にするときは、MRB.CHNE ビットを“0”(チェーン転送禁止)にしてください。

17. イベントリンクコントローラ (ELC)

17.1 概要

イベントリンクコントローラ (ELC) は、各周辺モジュールで発生する割り込み要求をイベント信号とし、周辺モジュール間を相互に接続 (リンク) します。これにより、ソフトウェアを介さずに直接周辺モジュール間で連携動作ができます。イベント信号は、該当する割り込み要求許可ビットの設定に関係なく出力することができます。

表 17.1 に ELC の仕様を示します。図 17.1 に ELC のブロック図を示します。

表 17.1 ELCの仕様

項目	内容
イベントリンク機能	<ul style="list-style-type: none"> 48種類のイベント信号を、直接周辺モジュールへリンク可能 タイマ系の周辺モジュールは、イベント信号入力時の動作を選択可能 ポートBのイベントリンク動作が可能 <p>シングルポート(注1): 指定した1本のポートにイベントリンクの動作設定が可能 ポートグループ(注1): 最大8本あるポートの内、指定した複数本のポートをグループ化してイベントリンクの動作設定が可能</p>
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能

注1. 入力に設定されているシングルポート、ポートグループでは、対応する端子への入力信号が変化するとイベントが発生します。64ピンパッケージ製品において、ポート切り替えレジスタA (PSRA)でPC0、PC1を選択した場合、PB6、PB7をリンク動作させることはできません。48ピンパッケージ製品において、ポート切り替えレジスタB (PSRB)でPC0～PC3を選択した場合、PB0、PB1、PB3、PB5をリンク動作させることはできません。

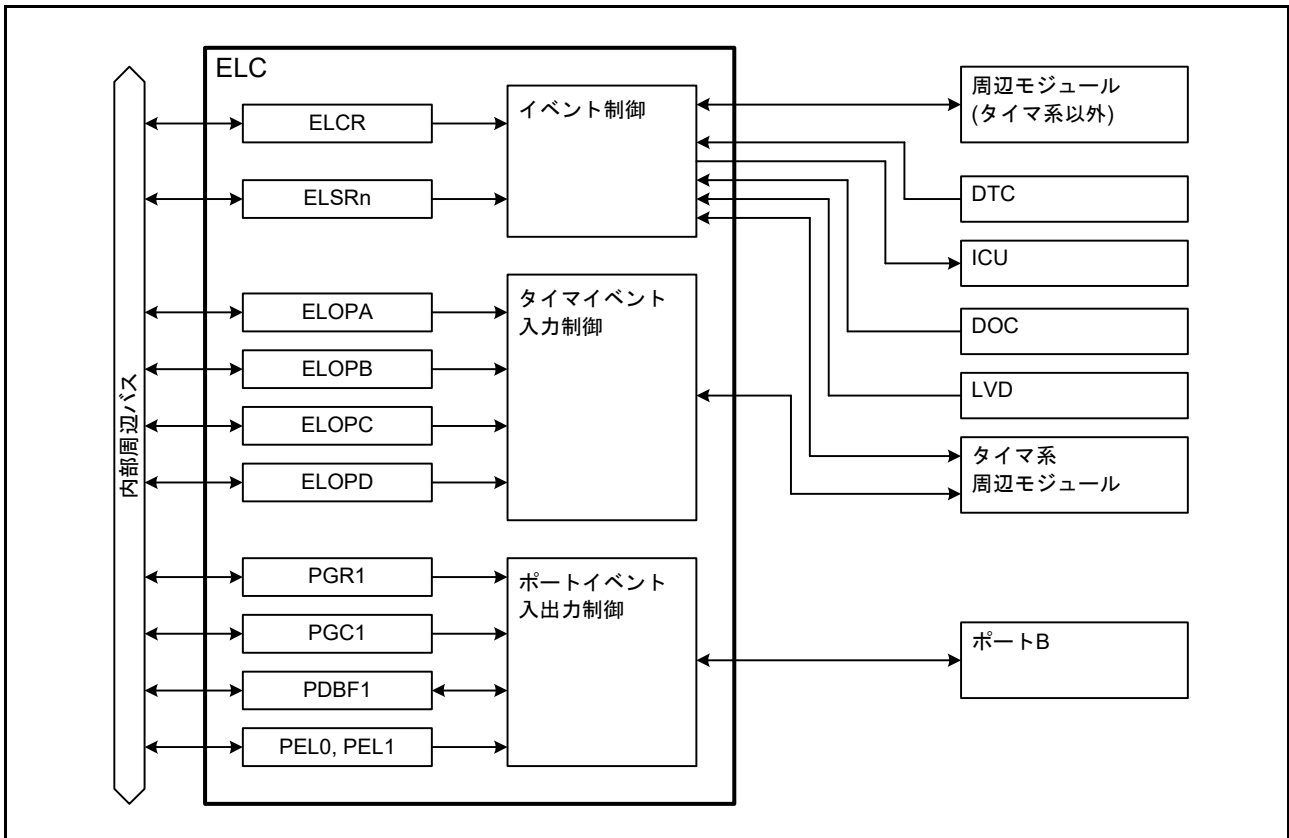


図 17.1 ELC のブロック図 (n = 1 ~ 4, 7, 8, 10, 12, 14 ~ 16, 18, 20, 22, 24, 25)

17.2 レジスタの説明

17.2.1 イベントリンクコントロールレジスタ (ELCR)

アドレス ELC.ELCR 0008 B100h

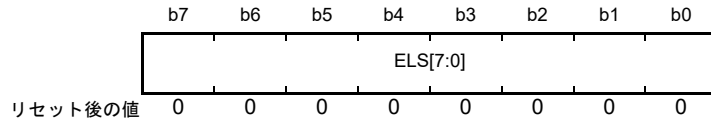
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ELCON	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	1	1	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b7	ELCON	全イベントリンク許可ビット	0 : ELC機能は無効 1 : ELC機能は有効	R/W

ELCR レジスタは、ELC の動作を制御するレジスタです。

17.2.2 イベントリンク設定レジスタ n (ELSRn) (n = 1 ~ 4, 7, 8, 10, 12, 14 ~ 16, 18, 20, 22, 24, 25)

アドレス ELC.ELSR1 0008 B102h, ELC.ELSR2 0008 B103h, ELC.ELSR3 0008 B104h, ELC.ELSR4 0008 B105h,
ELC.ELSR7 0008 B108h, ELC.ELSR8 0008 B109h, ELC.ELSR10 0008 B10Bh, ELC.ELSR12 0008 B10Dh,
ELC.ELSR14 0008 B10Fh, ELC.ELSR15 0008 B110h, ELC.ELSR16 0008 B111h, ELC.ELSR18 0008 B113h,
ELC.ELSR20 0008 B115h, ELC.ELSR22 0008 B117h, ELC.ELSR24 0008 B119h, ELC.ELSR25 0008 B11Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	ELS[7:0]	イベントリンク選択ビット	00h : 該当する周辺モジュールへのイベント信号の出力は無効 08h~6Ah : リンクするイベント信号の番号を指定 上記以外は設定しないでください	R/W

ELSRn レジスタは、周辺モジュールごとに、リンクするイベント信号を指定するレジスタです。ELSRn レジスタと周辺モジュールの対応を表 17.2 に示します。また、ELSRn レジスタに設定する値とイベント信号の対応を表 17.3 に示します。

表 17.2 ELSRn レジスタと周辺モジュールの対応

レジスタ名	周辺モジュール
ELSR1	MTU1
ELSR2	MTU2
ELSR3	MTU3
ELSR4	MTU4
ELSR7	CMT1
ELSR8	ICU (LPT専用割り込み) ^(注1)
ELSR10	TMR0
ELSR12	TMR2
ELSR14	CTSU
ELSR15	S12AD (ELCTRG00N)
ELSR16	DA0
ELSR18	ICU (割り込み1) ^(注2)
ELSR20	出力ポートグループ1
ELSR22	入力ポートグループ1
ELSR24	シングルポート0 ^(注3)
ELSR25	シングルポート1 ^(注3)

注1. イベント信号は“32h” (LPT・コンペアマッチ0)を指定してください。

注2. イベント信号は“63h”~“6Ah”の中から指定してください。これ以外の値は、設定しないでください。

注3. ELSR24、ELSR25レジスタにDOC・データ演算条件成立信号(6Ah)は、設定しないでください。

表 17.3 ELSRn.ELS[7:0]ビットに設定する値とイベント信号名の対応 (1/2)

ELS[7:0]ビットの値	周辺モジュール	ELSRn設定イベント信号
08h	マルチファンクションタイマ パルスユニット2	MTU1・コンペアマッチ1A
09h		MTU1・コンペアマッチ1B
0Ah		MTU1・オーバフロー
0Bh		MTU1・アンダフロー
0Ch		MTU2・コンペアマッチ2A
0Dh		MTU2・コンペアマッチ2B
0Eh		MTU2・オーバフロー
0Fh		MTU2・アンダフロー
10h		MTU3・コンペアマッチ3A
11h		MTU3・コンペアマッチ3B
12h		MTU3・コンペアマッチ3C
13h		MTU3・コンペアマッチ3D
14h		MTU3・オーバフロー
15h		MTU4・コンペアマッチ4A
16h		MTU4・コンペアマッチ4B
17h		MTU4・コンペアマッチ4C
18h		MTU4・コンペアマッチ4D
19h		MTU4・オーバフロー
1Ah		MTU4・アンダフロー
1Fh		コンペアマッチタイマ
22h	8ビットタイマ	TMR0・コンペアマッチA0
23h		TMR0・コンペアマッチB0
24h		TMR0・オーバフロー
28h		TMR2・コンペアマッチA2
29h		TMR2・コンペアマッチB2
2Ah		TMR2・オーバフロー
32h	ローパワータイマ	LPT・コンペアマッチ0
33h	ローパワータイマ	LPT・コンペアマッチ1
34h	12ビットA/Dコンバータ	S12AD・比較条件成立
35h		S12AD・比較条件不成立
3Ah	シリアルコミュニケーション インタフェース	SCI5・エラー(受信エラー・エラーシグナル検出)
3Bh		SCI5・受信データフル
3Ch		SCI5・送信データエンプティ
3Dh		SCI5・送信完了
4Eh	I ² Cバスインタフェース	RIIC0・通信エラー、イベント発生
4Fh		RIIC0・受信データフル
50h		RIIC0・送信データエンプティ
51h		RIIC0・送信終了
58h	12ビットA/Dコンバータ	S12AD・A/D変換終了
59h	コンパレータB0	コンパレータB0・比較結果変化
5Ah	コンパレータB0・B1	コンパレータB0・B1共通比較結果変化
5Bh	電圧検出回路	LVD1・電圧検出
61h	データトランスファコントローラ	DTC・転送終了
63h	I/Oポート	入力ポートグループ1・入力エッジ検出
65h		シングル入力ポート0・入力エッジ検出
66h		シングル入力ポート1・入力エッジ検出

表 17.3 ELSRn.ELS[7:0]ビットに設定する値とイベント信号名の対応 (2/2)

ELS[7:0]ビットの値	周辺モジュール	ELSRn設定イベント信号
69h	イベントリンクコントローラ	ソフトウェアイベント
6Ah	データ演算回路	DOC・データ演算条件成立
上記以外は設定しないでください		

17.2.3 イベントリンクオプション設定レジスタ A (ELOPA)

アドレス ELC.ELOPA 0008 B11Fh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
MTU3MD[1:0]	MTU2MD[1:0]	MTU1MD[1:0]	—	—	—	—	—

リセット後の値 1 1 1 1 1 1 1 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b3-b2	MTU1MD[1:0]	MTU1動作選択ビット	b3 b2 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウンtrisスタート 1 0 : インพุットキャプチャ(注1) 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b5-b4	MTU2MD[1:0]	MTU2動作選択ビット	b5 b4 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウンtrisスタート 1 0 : インพุットキャプチャ(注2) 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b7-b6	MTU3MD[1:0]	MTU3動作選択ビット	b7 b6 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウンtrisスタート 1 0 : インพุットキャプチャ(注3) 1 1 : イベント出力禁止	R/W

注1. MTU1.TCNTレジスタの値がMTU1.TGRAレジスタにキャプチャされます。

注2. MTU2.TCNTレジスタの値がMTU2.TGRAレジスタにキャプチャされます。

注3. MTU3.TCNTレジスタの値がMTU3.TGRAレジスタにキャプチャされます。

ELOPAレジスタは、イベント信号が入力されたときのMTU1～MTU3の動作を設定するレジスタです。ELC機能を使用しないときは、“11b”(イベント出力禁止)にしてください。

17.2.4 イベントリンクオプション設定レジスタ B (ELOPB)

アドレス ELC.ELOPB 0008 B120h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	MTU4MD[1:0]	—

リセット後の値 1 1 1 1 1 1 1 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	MTU4MD[1:0]	MTU4動作選択ビット	b1 b0 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウンtrisスタート 1 0 : インพุットキャプチャ(注1) 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

注1. MTU4.TCNTレジスタの値がMTU4.TGRAレジスタにキャプチャされます。

ELOPBレジスタは、イベント信号が入力されたときのMTU4の動作を設定するレジスタです。ELC機能を使用しないときは、“11b”(イベント出力禁止)にしてください。

17.2.5 イベントリンクオプション設定レジスタ C (ELOPC)

アドレス ELC.ELOPC 0008 B121h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	LPTMD[1:0]	CMT1MD[1:0]	—	—	—	—

リセット後の値 1 1 1 1 1 1 1 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b3-b2	CMT1MD[1:0]	CMT1動作選択ビット	b3 b2 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウントリスタート 1 0 : イベントカウンタ 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b5-b4	LPTMD[1:0]	LPT動作選択ビット	b5 b4 0 0 : LPTのコンペアマッチ0イベントを割り込み要求としてICU に出力 1 1 : イベント出力禁止 上記以外は設定しないでください	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

ELOPC レジスタは、イベント信号が入力されたときのCMT1、およびLPTの動作を設定するレジスタです。ELC機能を使用しないときは、“11b”(イベント出力禁止)にしてください。

17.2.6 イベントリンクオプション設定レジスタ D (ELOPD)

アドレス ELC.ELOPD 0008 B122h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	TMR2MD[1:0]	—	—	—	TMR0MD[1:0]	—

リセット後の値 1 1 1 1 1 1 1 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TMR0MD[1:0]	TMR0動作選択ビット	b1 b0 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウントリスタート 1 0 : イベントカウンタ 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b5-b4	TMR2MD[1:0]	TMR2動作選択ビット	b5 b4 0 0 : カウントスタート 0 1 : カウントリスタート 1 0 : イベントカウンタ 1 1 : イベント出力禁止	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

ELOPD レジスタは、イベント信号が入力されたときのTMR0、TMR2の動作を設定するレジスタです。ELC機能を使用しないときは、“11b”(イベント出力禁止)にしてください。

17.2.7 ポートグループ指定レジスタ 1 (PGR1)

アドレス ELC.PGR1 0008 B123h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PGR7	PGR6	PGR5	PGR4	PGR3	PGR2	PGR1	PGR0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PGR0	ポートグループ指定0ビット	0: ポートグループに指定しない 1: ポートグループに指定する	R/W
b1	PGR1	ポートグループ指定1ビット		R/W
b2	PGR2	ポートグループ指定2ビット		R/W
b3	PGR3	ポートグループ指定3ビット		R/W
b4	PGR4	ポートグループ指定4ビット		R/W
b5	PGR5	ポートグループ指定5ビット		R/W
b6	PGR6	ポートグループ指定6ビット		R/W
b7	PGR7	ポートグループ指定7ビット		R/W

PGR1 レジスタは、I/O ポートのグループ設定をするレジスタです。8 ビットのポートの内、このレジスタで“1”にしたビットに対応するポートがポートグループに選択されます。

たとえば、PGR1.PGR6 ビットと PGR1.PGR3 ビットを“1”にした場合、PB6 端子と PB3 端子がポートグループに選択されます。

表 17.4 に PGR1 レジスタとポートの対応を示します。

表 17.4 ポートグループ関連レジスタとポート番号の対応

ポート番号	ポートグループ指定レジスタ (PGRn)	ポートグループコントロールレジスタ (PGCn)	ポートバッファレジスタ (PDBFn)
ポートB	PGR1レジスタ	PGC1レジスタ	PDBF1レジスタ

17.2.8 ポートグループコントロールレジスタ 1 (PGC1)

アドレス ELC.PGC1 0008 B125h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	PGCI[1:0]	イベント出力エッジ選択ビット	b1 b0 0 0 : ポートへの入力信号の立ち上がりエッジを検出して、イベント信号を出力 0 1 : ポートへの入力信号の立ち下がりエッジを検出して、イベント信号を出力 1 x : ポートへの入力信号の立ち上がり/立ち下がりの両エッジを検出して、イベント信号を出力	R/W
b2	PGCOVE	PDBF上書き指定ビット	0 : PDBF1レジスタへの上書き無効 1 : PDBF1レジスタへの上書き有効	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b6-b4	PGCO[2:0]	ポートグループ動作セレクトビット	b6 b4 0 0 0 : イベント信号が入力されると、Lowを出力 0 0 1 : イベント信号が入力されると、Highを出力 0 1 0 : イベント信号が入力されると、トグル(反転)出力 0 1 1 : イベント信号が入力されると、バッファ値を出力 1 x x : イベント信号が入力されると、ポートグループ内でビットローテート出力(MSB→LSBへローテート)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

x : Don't care

PGC1 レジスタは、出力に設定されたポートグループに対して、イベント信号が入力されたときにポートから出力する信号の形式を指定するレジスタです。また、入力に設定されたポートグループに対して、PDBF1 レジスタへの上書き有効/無効の指定およびイベント発生条件(ポートへの入力信号の変化)の設定を行うレジスタです。

ポートの入出力方向は、対応する PDR レジスタのビットで設定してください。

PGC1 レジスタとポートの対応については、表 17.4 を参照してください。

17.2.9 ポートバッファレジスタ 1 (PDBF1)

アドレス ELC.PDBF1 0008 B127h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PDBF7	PDBF6	PDBF5	PDBF4	PDBF3	PDBF2	PDBF1	PDBF0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

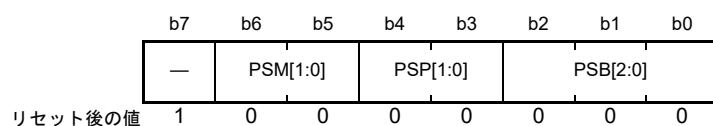
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PDBF0	ポートバッファ 0 ビット	イベント信号が入力されたときにPODRレジスタに転送するデータを設定します。設定した値は、PGC1.PGCO[2:0]ビットが“011b”、“1xxb”の場合に有効です。入力ポートグループに指定したビットへの書き込みは無効となります。詳細は、「17.3 動作説明」を参照してください	R/W
b1	PDBF1	ポートバッファ 1 ビット		R/W
b2	PDBF2	ポートバッファ 2 ビット		R/W
b3	PDBF3	ポートバッファ 3 ビット		R/W
b4	PDBF4	ポートバッファ 4 ビット		R/W
b5	PDBF5	ポートバッファ 5 ビット		R/W
b6	PDBF6	ポートバッファ 6 ビット		R/W
b7	PDBF7	ポートバッファ 7 ビット		R/W

PDBF1 レジスタは、PGR1 レジスタと対になる 8 ビットのレジスタです。PDBF1 レジスタの動作については、「17.3.6 I/O ポートのイベント信号入力時の動作とイベント生成」を参照してください。

PDBF1 レジスタとポートの対応については、表 17.4 を参照してください。

17.2.10 イベント接続ポート指定レジスタ m (PELm) (m = 0, 1)

アドレス ELC.PEL0 0008 B129h, ELC.PEL1 0008 B12Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	PSB[2:0]	ビット番号指定ビット	シングルポートに指定したいポートのビット番号を設定してください	R/W
b4-b3	PSP[1:0]	ポート番号指定ビット	b4 b3 0 0 : 設定無効 0 1 : ポート B (PGR1 レジスタに対応) 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/W
b6-b5	PSM[1:0]	イベントリンク指定ビット	<ul style="list-style-type: none"> 出力ポートに設定したとき : ポート出力データを指定 b6 b5 0 0 : イベント信号が入力されると、Low を出力 0 1 : イベント信号が入力されると、High を出力 1 x : イベント信号が入力されると、トグル(反転)出力 入力ポートに設定したとき : イベント出力エッジ選択 b6 b5 0 0 : 立ち上がりエッジを検出して、イベント信号を出力 0 1 : 立ち下がりエッジを検出して、イベント信号を出力 1 x : 立ち上がり/立ち下がりの両エッジを検出して、イベント信号を出力 	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

x : Don't care

PELm レジスタは、シングルポートの指定、イベント信号が入力されたときの動作、およびイベント出力の条件を設定するレジスタです。本 MCU では、ポート B のビットに対して、最大 2 つのシングルポートを設定できます。

ポートの入出力方向は、対応する PDR レジスタのビットで設定してください。

17.2.11 イベントリンクソフトウェアイベント発生レジスタ (ELSEGR)

アドレス ELC.ELSEGR 0008 B12Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	WI	WE	—	—	—	—	—	SEG
リセット後の値	1	0	1	1	1	1	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SEG	ソフトウェアイベント発生ビット	0: 通常動作 1: ソフトウェアイベント発生	W
b5-b1	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b6	WE	SEGビット書き込み許可ビット	0: SEGビットへの書き込み禁止 1: SEGビットへの書き込み許可	R/W
b7	WI	ELSEGRレジスタ書き込み禁止ビット	0: ELSEGRレジスタへの書き込み許可 1: ELSEGRレジスタへの書き込み禁止	W

本レジスタへの書き込みは MOV 命令を使用してください。

SEG ビット (ソフトウェアイベント発生ビット)

WE ビットが“1”の状態、本ビットに“1”を書き込むとソフトウェアイベントが発生します。本ビットは読むと“0”が読めます。“1”を書いても“1”になりません。

WE ビット (SEG ビット書き込み許可ビット)

WE ビットが“1”のときのみ、SEG ビットに対する書き込みが可能になります。
WE ビットを“1”にするには、WI ビットに“0”、WE ビットに“1”を同時に書いてください。
WE ビットを“0”にするには、WI ビットに“0”、WE ビットに“0”を同時に書いてください。

WI ビット (ELSEGR レジスタ書き込み禁止ビット)

WI ビットの書き込み値が“0”のときのみ、ELSEGR レジスタに対する書き込みが可能になります。読むと“1”が読めます。

17.3 動作説明

17.3.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

本 MCU に内蔵している周辺モジュールには、割り込みステータスフラグと、これらの割り込み要求の許可/禁止を制御する割り込み許可ビットがあります。各周辺モジュールで割り込み要求が発生すると、割り込み要求ステータスフラグが“1”になり、割り込み要求が許可のとき、CPU に対して割り込みを要求します。

これに対して、ELC は、各周辺モジュールで発生する割り込み要求をイベント信号とし、周辺モジュール間を相互に接続(リンク)することにより、ソフトウェアを介さずに直接周辺モジュール間で連携動作をさせることができます。イベント信号は、対応する割り込み許可ビットの設定に関係なく出力することができます。図 17.2 に割り込み処理と ELC の関係を示します。

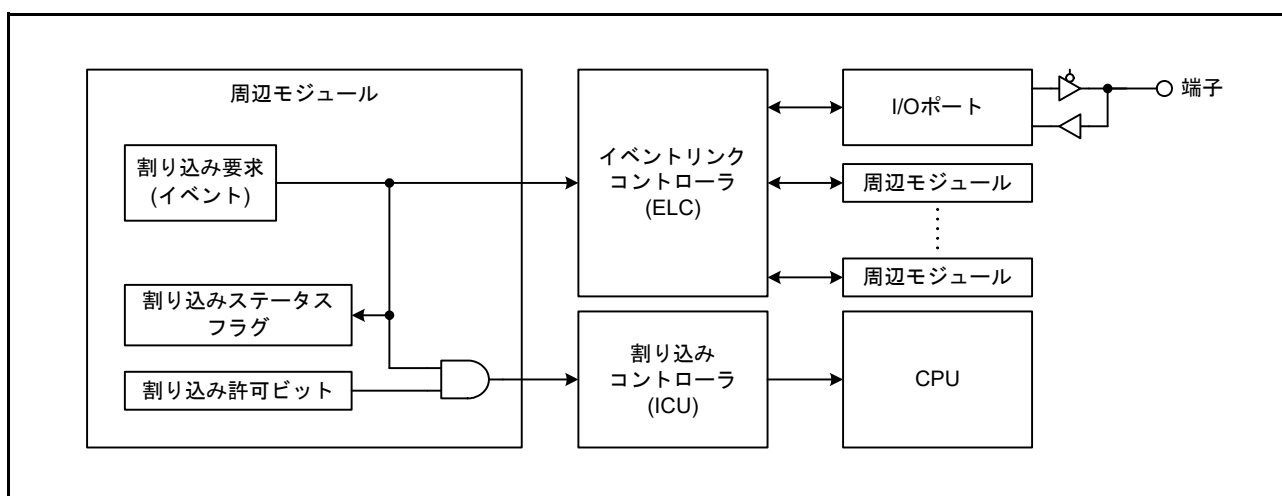


図 17.2 割り込み処理と ELC の関係

17.3.2 イベントのリンク

ELSRn レジスタにイベントを設定することにより、設定したイベントが発生した場合に対応する周辺モジュールを動作させることができます。1つの周辺モジュールに、1種類のイベントのみリンクできます。イベントにより動作させる周辺モジュールの初期設定が完了してから、ELSRn レジスタを設定してください。表 17.5 にイベント信号を入力したときの周辺モジュール別動作一覧を示します。

表 17.5 イベント信号入力時の周辺モジュール別動作一覧

周辺モジュール	イベント信号入力時の動作		
MTU CMT TMR	ELOPA～ELOPDレジスタの設定により以下の動作が選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • イベント信号が入力されると、カウントスタート • イベント信号が入力されると、カウントリスタート • 入力したイベント数をカウント(CMT, TMR) • イベント信号が入力されると、キャプチャ動作(MTU) 		
CTSU	イベント信号が入力されると、静電容量の計測を開始		
A/Dコンバータ	イベント信号が入力されると、A/D変換を開始		
D/Aコンバータ	イベント信号が入力されると、D/A変換を開始		
I/Oポート(出力)	イベント信号が入力されると、PODRレジスタ(ポート出力データレジスタ)の値が変化(出力端子のレベルが変化)	ポートグループ	<ul style="list-style-type: none"> • PODRレジスタの値が、指定された値に変化 • PDBF1レジスタの値をPODRレジスタに転送 • ローテート出力
		シングルポート	PODRレジスタの値が指定された値に変化
I/Oポート(入力)	入力端子のレベルが変化	ポートグループ	イベント発生
		シングルポート	
	イベント信号入力時	ポートグループ	入力端子の信号レベルをPDBF1レジスタに転送
		シングルポート	この組み合わせは使用できません
割り込み制御	イベント信号が入力されると、CPUに割り込みを要求、DTC転送開始		

17.3.3 タイマ系周辺モジュールのイベント信号入力時の動作

タイマ系周辺モジュールは、ELOPA ~ ELOPD レジスタによりイベント信号入力時の動作を設定します。

(1) カウントスタート動作

イベント信号が入力されると、タイマのカウントをスタートし、各タイマの制御レジスタのカウントスタートビット(注1)が“1”になります。カウントスタートビットが“1”のときに入力されたイベント信号は無視されます。

(2) カウントリスタート動作

イベント信号が入力されると、タイマのカウンタをクリアします。各タイマの制御レジスタのカウントスタートビット(注1)は保持されるため、カウントスタートビットが“1”のときにイベント信号を入力するとカウンタは0からカウントを再開します。

(3) イベントカウンタ動作

タイマのカウントソースとして、イベント信号を使用します。イベント信号が入力されると、カウンタがインクリメントされます。

(4) インプットキャプチャ動作

イベント信号が入力されると、カウンタの値をキャプチャします。

注1. 各タイマ系周辺モジュール章にあるタイマスタートに関するレジスタの説明を参照してください。

17.3.4 CTSU のイベント信号入力時の動作

CTSUCRA.CAP ビット、STRT ビットが“1”のときにイベント信号が入力されると、計測が開始されます。詳細はCTSUCRA.STRT ビットの説明を参照してください。

17.3.5 A/D コンバータ、D/A コンバータのイベント信号入力時の動作

ADCSR.ADST ビット、DACR.DAOE0 ビット(注1)が“1”になり、A/D 変換またはD/A 変換がスタートします。

注1. A/D コンバータ、D/A コンバータ章のビット説明を参照してください。

17.3.6 I/O ポートのイベント信号入力時の動作とイベント生成

I/O ポートのイベント信号入力時の動作とイベント生成条件の設定はELC内のレジスタで行います。イベントリンクが設定できるI/OポートはポートBです。

(1) シングルポートとポートグループ

I/Oポートへのイベントリンクは、8本あるI/Oポートの内の任意の1本へのイベントリンク(シングルポートへのイベントリンク)と、8本あるI/Oポートの内の任意の複数本へのイベントリンク(ポートグループへのイベントリンク)ができます。

シングルポートの設定は、PELm.PSP[1:0] ビットとPSB[2:0] ビット(m=0,1)で行います。ポートグループの設定は、PGR1 レジスタにより任意のビット(2ビット以上)を“1”にすることで行います。PGR1 レジ

スタで“1”にしたポートの内、出力に設定したポートは出力ポートグループに、入力に設定したポートは入力ポートグループになります。

1本のポートに対してシングルポートとポートグループの両方の設定をした場合、入力ポートでは両方の機能が有効になり、出力ポートではポートグループの機能のみが有効になります。

I/Oポートの入力、出力は、PDRレジスタにより設定してください。

(2) シングル入力ポートでのイベント発生

入力に設定されているシングルポートは、対応する端子への入力信号が変化するとイベント信号を出力します。イベント発生条件は、PELm.PSM[1:0]ビット (m=0, 1) で設定します。図 17.3 (1) にシングルポートのイベントリンク動作を示します。

(3) シングル出力ポートへのイベント信号入力

出力に設定されているシングルポートにイベント信号が入力されると、対応する端子のレベル (PODRレジスタの値) が PELm.PSM[1:0] ビットで指定したとおりに変化します。図 17.3 (2) にシングルポートのイベントリンク動作を示します。

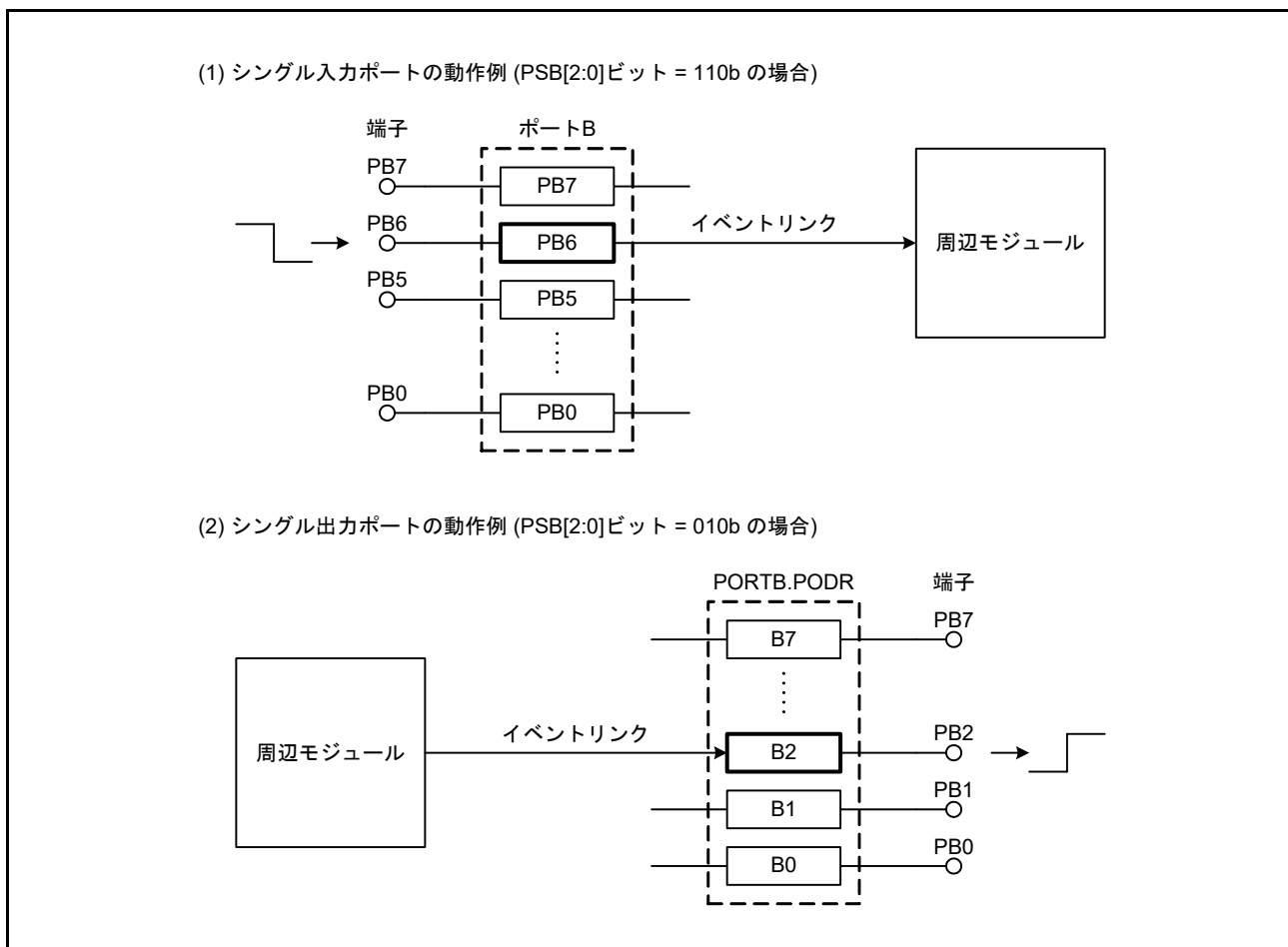


図 17.3 シングルポートのイベントリンク動作 (ポート B の場合)

(4) 入力ポートグループでのイベント発生

入力ポートグループは、対応する端子への入力信号のいずれかが変化すると、イベント信号を出力します。イベント発生条件は PGC1.PGCI[1:0] ビットで設定します。

(5) 入力ポートグループへのイベント信号の入力

入力ポートグループにイベント信号が入力されると、対応する端子のレベルが PDBF1 レジスタに転送されます。入力ポートグループに指定されていないポートに対応するビットの値は変化しません。図 17.4 に入力ポートグループのイベントリンク動作を示します。

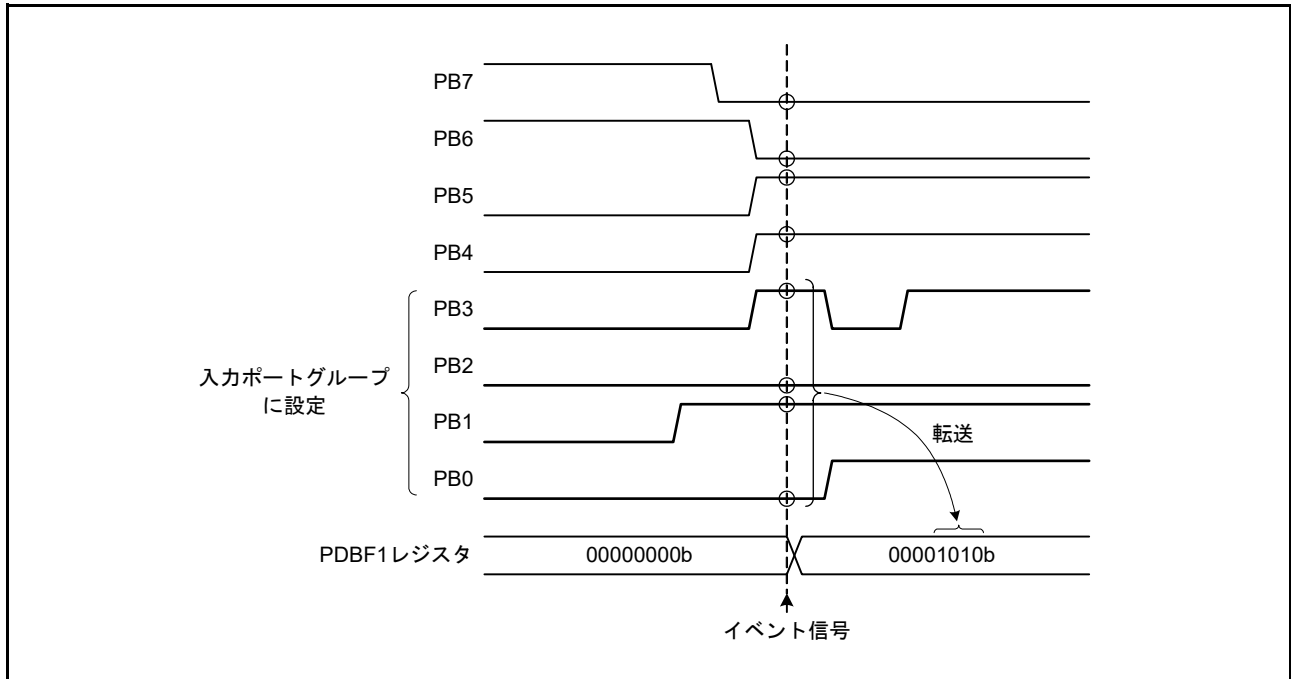


図 17.4 入力ポートグループのイベントリンク動作 (ポート B の場合)

(6) 出力ポートグループへのイベント信号の入力

出力ポートグループにイベント信号が入力されると、対応する PODR レジスタの値が PGC1.PGCO[2:0] ビットで設定されたとおりに変化します。図 17.5 に出力ポートグループのイベントリンク動作を示します。

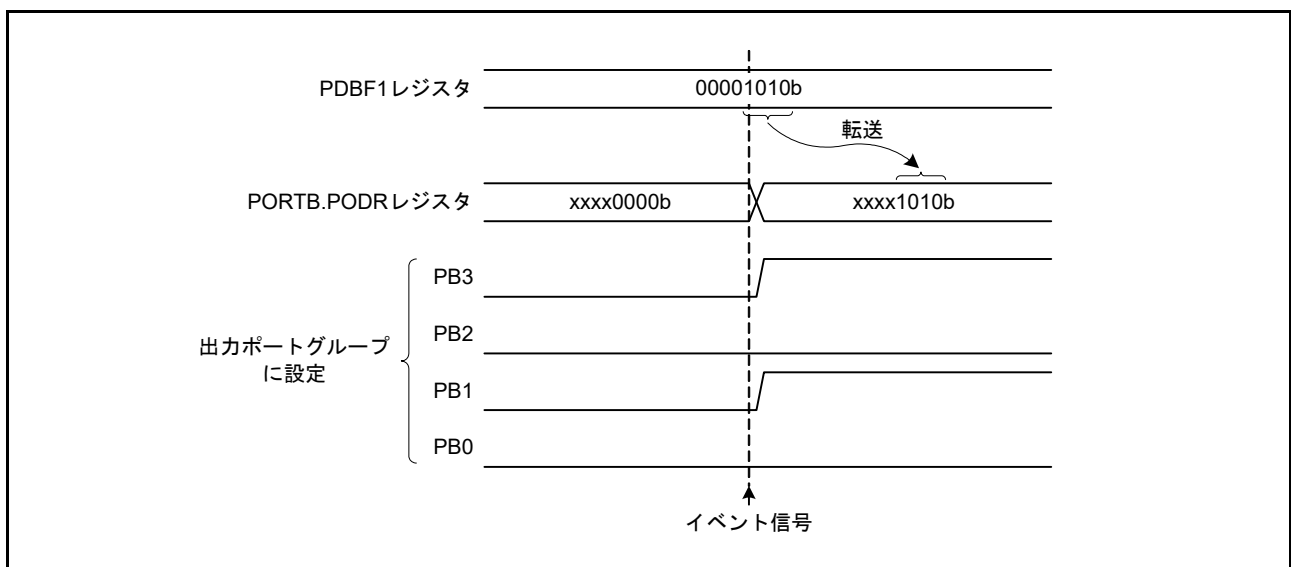


図 17.5 出力ポートグループのイベントリンク動作 (ポート B の場合)

(7) PDBF1 レジスタの動作

(a) 入力ポートグループ

入力ポートグループにイベント信号が入力されると、対応する端子のレベルが PDBF1 レジスタに転送されます。この状態で、再度入力ポートグループにイベント信号が入力された場合、PGC1.PGCOVE ビットの設定によって以下のように異なる動作をします。

- PGC1.PGCOVE ビット = 0 (上書き無効) のとき
 前回のイベント信号入力により PDBF1 レジスタに転送された値が、CPU または DTC によってリードされている場合、そのときの端子のレベルが PDBF1 レジスタに転送されます。リードされていない場合、端子のレベルは PDBF1 レジスタに転送されず、入力したイベント信号は無効となります。
- PGC1.PGCOVE ビット = 1 (上書き有効) のとき
 入力ポートグループにイベント信号が入力されると、対応する端子のレベルが、PDBF1 レジスタに転送されます。

(b) 出力ポートグループ

出力ポートグループが PDBF1 レジスタの値を出力する設定 (PGC1.PGCO[2:0] ビット = 011b) になっている場合、出力ポートグループにイベント信号が入力されると、PDBF1 レジスタの値が PODR レジスタに転送されます。出力ポートグループに設定されていないポートに対応するビットには、データは転送されません。

出力ポートグループがグループ内でのビットローテート出力 (PGC1.PGCO[2:0] ビット = 1xxb) に設定されている場合、1 回目のイベント信号で PDBF1 レジスタから PODR レジスタにデータが転送され、2 回目以降のイベント信号で当該グループ内で PODR レジスタ値が MSB → LSB にローテートします。

図 17.6 にビットローテートの動作を示します。

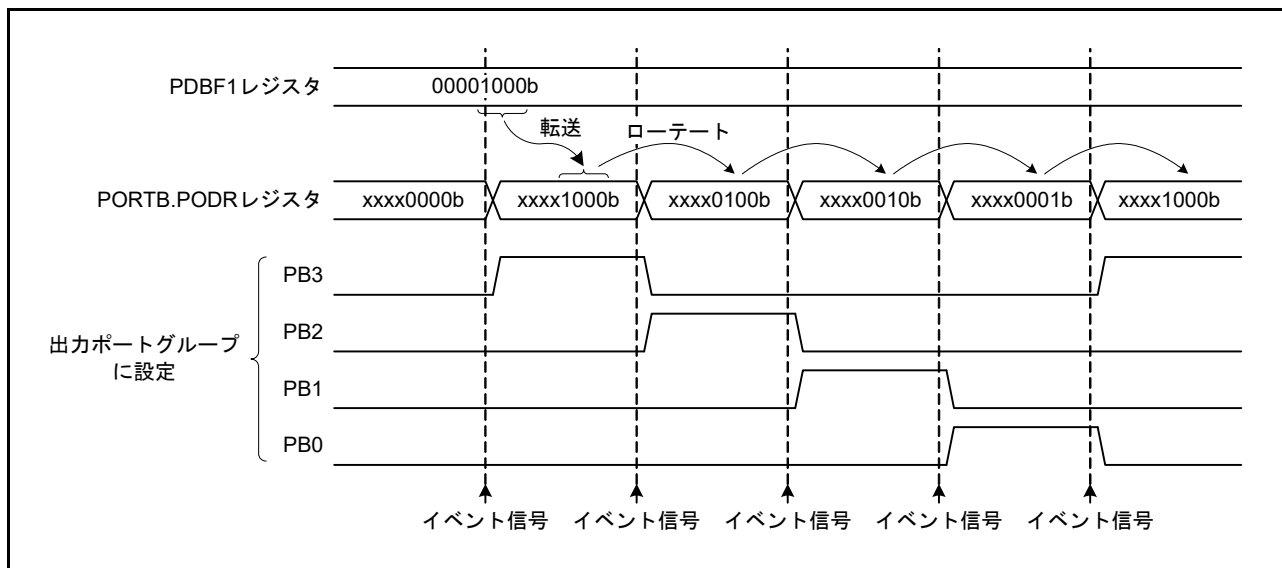


図 17.6 出力ポートグループのビットローテート動作 (ポート B の場合)

(8) PODR レジスタ、PDBF1 レジスタへの書き込み制限

ELCR.ELCON ビットが“1”(ELC 機能は有効)のとき、下記の条件でPODR レジスタ、PDBF1 レジスタへの書き込みが無効となります。

- 入力ポートグループに指定しイベントリンクを設定すると、対応する PDBF1 レジスタのビットへの書き込みは無効になります。ただし、イベント信号として DOC を選択した場合は、書き込みは有効です。
- 出力ポートグループに指定すると、対応する PODR レジスタのビットへの書き込みは無効になります。
- シングル出力ポートに指定されているとき、当該ポートへのイベント接続設定 (ELSRn レジスタの設定) を行うと、対応する PODR レジスタのビットへの書き込みは無効になります。

17.3.7 イベントリンクの動作設定手順例

イベントリンクの動作手順を以下に示します。

- (1) イベント信号により動作する (リンク先) 周辺モジュールの初期設定を行います。
- (2) ポートに対してイベントリンクを設定するときは、対応するポートの下記レジスタを設定します。
PODR レジスタ： 出力に設定したポートの初期値を設定します。
PDR レジスタ： ポートの入出力方向を設定します。
PGR1 レジスタ： ポートグループとして動作させる場合、グループ化の対象となるポートを設定します。
PGC1 レジスタ： ポートグループとして動作させる場合の動作を設定します。
PELm レジスタ： シングルポートとして動作させる場合、対象となるポートとイベント信号入力時の動作およびイベント発生条件を設定します (m = 0, 1)。
- (3) リンク先の周辺モジュールに対応する ELSRn レジスタに、リンクするイベント信号の番号を設定します。
- (4) リンク先の周辺モジュールがタイマ系の周辺モジュールの場合は、必要に応じて ELOPA ~ ELOPD レジスタを設定します。
- (5) ELCR.ELCON ビットを“1”にします。これによりイベントリンクが設定されている全周辺モジュールのイベントリンク動作が有効となります。
- (6) イベント信号を出力する (リンク元) 周辺モジュールの初期設定を行い、起動させます。周辺モジュールから出力されるイベント信号により、リンク先の周辺モジュールが事前に設定した動作を開始します。
- (7) 周辺モジュール単位でイベントリンク動作を停止するときは、対応する ELSRn レジスタに“00h”を設定してください。また ELCR.ELCON ビットを“0”にすることにより、全周辺モジュールのイベントリンク動作が停止します。

注. LVD のイベント信号出力を使用する場合、LVD の設定を行った後、ELC の設定を行ってください。LVD を無効にする場合も、先に該当する ELSRn レジスタに“00h”を設定してから実施してください。

17.4 使用上の注意事項

17.4.1 ELSRn レジスタの設定について

(1) ELSR8 レジスタの設定

イベント信号は“32h”(LPT・コンペアマッチ 0)を指定してください。

(2) ELSR18 レジスタの設定

イベント信号は“63h”～“6Ah”の中から指定してください。これ以外の値は、設定しないでください。

(3) ELSR24、ELSR25 レジスタの設定

DOC・データ演算条件成立信号(6Ah)は、設定しないでください。

17.4.2 出力ポートグループのビットローテート動作の設定について

出力ポートグループのビットローテート動作モードで、PDBF1 レジスタの値を変更する場合、変更後に ELSRn レジスタを再設定してください。また、ビットローテート動作に使用するイベントの発生間隔は、1 PCLKB 以上にしてください。

17.4.3 DTC 転送終了のイベント信号使用時の注意事項

DTC 転送終了のイベント信号を使用する場合、データ転送先の周辺モジュールとリンク先の周辺モジュールを同じにしないでください。周辺モジュールへの DTC 転送が完了する前に周辺モジュールが起動する可能性があります。

17.4.4 クロック設定について

イベントリンクを使用するには ELC の設定の他に、ELC と対象の周辺モジュールが動作可能である必要があります。対象の周辺モジュールがモジュールストップ状態の場合や、周辺モジュールが停止するモード(ソフトウェアスタンバイモード)の場合は動作できません。

17.4.5 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) により、ELC の動作を禁止 / 許可することが可能です。リセット解除後は、ELC の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

18. I/Oポート

18.1 概要

I/Oポートは、汎用入出力ポートと周辺機能の入出力、割り込み入力端子として機能します。

各ポートは、周辺モジュールの入出力端子や、割り込み入力端子と兼用となっています。リセット直後は入力ポートになっていますが、レジスタの設定により機能が切り替わります。各ポートの設定は、I/Oポートのレジスタ、および内蔵周辺モジュールのレジスタの設定によって決まります。

各ポートは、入力/出力を指定するポート方向レジスタ (PDR)、出力データを格納するポート出力データレジスタ (PODR)、端子の状態を反映するポート入力データレジスタ (PIDR)、端子の出力形態を選択するオープンドレイン制御レジスタ y (ODR y) ($y = 0, 1$)、入力プルアップ MOS のオン/オフを制御するプルアップ制御レジスタ (PCR)、機能端子を指定するポートモードレジスタ (PMR) を備えています。PMR レジスタの詳細については、「19. マルチファンクションピンコントローラ (MPC)」を参照してください。

また、48ピンパッケージ製品と64ピン、80ピンパッケージ製品にはそれぞれ、一部端子の汎用入出力機能を切り替えて PORTC を8ビットのポートとして使用することが可能なポート切り替えレジスタ A (PSRA)、ポート切り替えレジスタ B (PSRB) を備えています。

表 18.1 に I/Oポートの仕様を、表 18.2 に I/Oポートの機能を示します。

表 18.1 I/Oポートの仕様

ポート シンボル	パッケージ		パッケージ		パッケージ		パッケージ	
	80ピン	本数	64ピン	本数	48ピン	本数	32ピン	本数
PORT0	P03~P07	5	P03, P05	2	なし	0	なし	0
PORT1	P12~P17	6	P14~P17	4	P14~P17	4	P16, P17	2
PORT2	P20, P21, P26, P27	4	P26, P27	2	P26, P27	2	P26, P27	2
PORT3	P30~P32, P34~P37	7	P30~P32, P35~P37	6	P30, P31, P35~P37	5	P30, P31, P35, P36	4
PORT4	P40~P47	8	P40~P47	8	P40~P42, P45~P47	6	P40~P42	3
PORT5	P54, P55	2	P54, P55	2	なし	0	なし	0
PORTA	PA0~PA6	7	PA0, PA1, PA3, PA4, PA6	5	PA1, PA3, PA4, PA6	4	PA1, PA3, PA4	3
PORTB	PB0~PB7	8	PB0, PB1, PB3, PB5~PB7	6	PB0, PB1, PB3, PB5	4	PB0	1
PORTC	PC0~PC7 (注1)	6 (注3)	PC0~PC7 (注1)	6 (注3)	PC0~PC7 (注2)	4 (注3)	PC4~PC7	4
PORTD	PD0~PD2	3	なし	0	なし	0	なし	0
PORTE	PE0~PE5	6	PE0~PE5	6	PE1~PE4	4	PE1~PE4	4
PORTG	PG7	1	PG7	1	PG7	1	PG7	1
PORTH	PH0~PH3, PH6, PH7	6	PH0~PH3, PH6 (注4), PH7 (注4)	6	PH0~PH3	4	なし	0
PORTJ	PJ1, PJ6, PJ7	3	PJ6, PJ7	2	PJ6, PJ7	2	なし	0
	ポートの合計数	72	ポートの合計数	56	ポートの合計数	40	ポートの合計数	24

注1. PC0, PC1は、ポート切り替えレジスタAにより、切り替えた場合のみ有効です。

注2. PC0~PC3は、ポート切り替えレジスタBにより、切り替えた場合のみ有効です。

注3. PBとの兼用端子の本数は含みません。

注4. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

表 18.2 I/Oポートの機能

ポートシンボル	ポート	入力プルアップ機能	オープンドレイン出力機能	5Vトレラント	入出力レベル
PORT0	P03～P07	○	—	—	AVCC0
PORT1	P12, P13, P16, P17	○	○	○	VCC
	P14, P15	○	○	—	
PORT2	P20, P21, P26, P27	○	○	—	VCC
PORT3	P30～P32, P34, P36, P37	○	○	—	
	P35	—	—	—	
PORT4	P40～P47	○	—	—	
PORT5	P54, P55	○	—	—	VCC
PORTA	PA0～PA6	○	○	—	
PORTB	PB0～PB7	○	○	—	
PORTC	PC2～PC7	○	○	—	
PORTD	PD0～PD2	○	○	—	
	PE0～PE3	○	○	—	
PORTE	PE4, PE5	○	—	—	
	PG7	○	○	—	
PORTH	PH0～PH3	○	—	—	
	PH6(注1), PH7(注1)	—	—	—	
PORTJ	PJ1	○	—	—	
	PJ6, PJ7	○	—	—	AVCC0

○：あり

—：なし

注1. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

入力プルアップ機能、オープンドレイン出力機能、5Vトレラントの設定は、汎用入出力ポートと端子を共有している他の信号に対しても有効です。

18.2 入出力ポートの構成

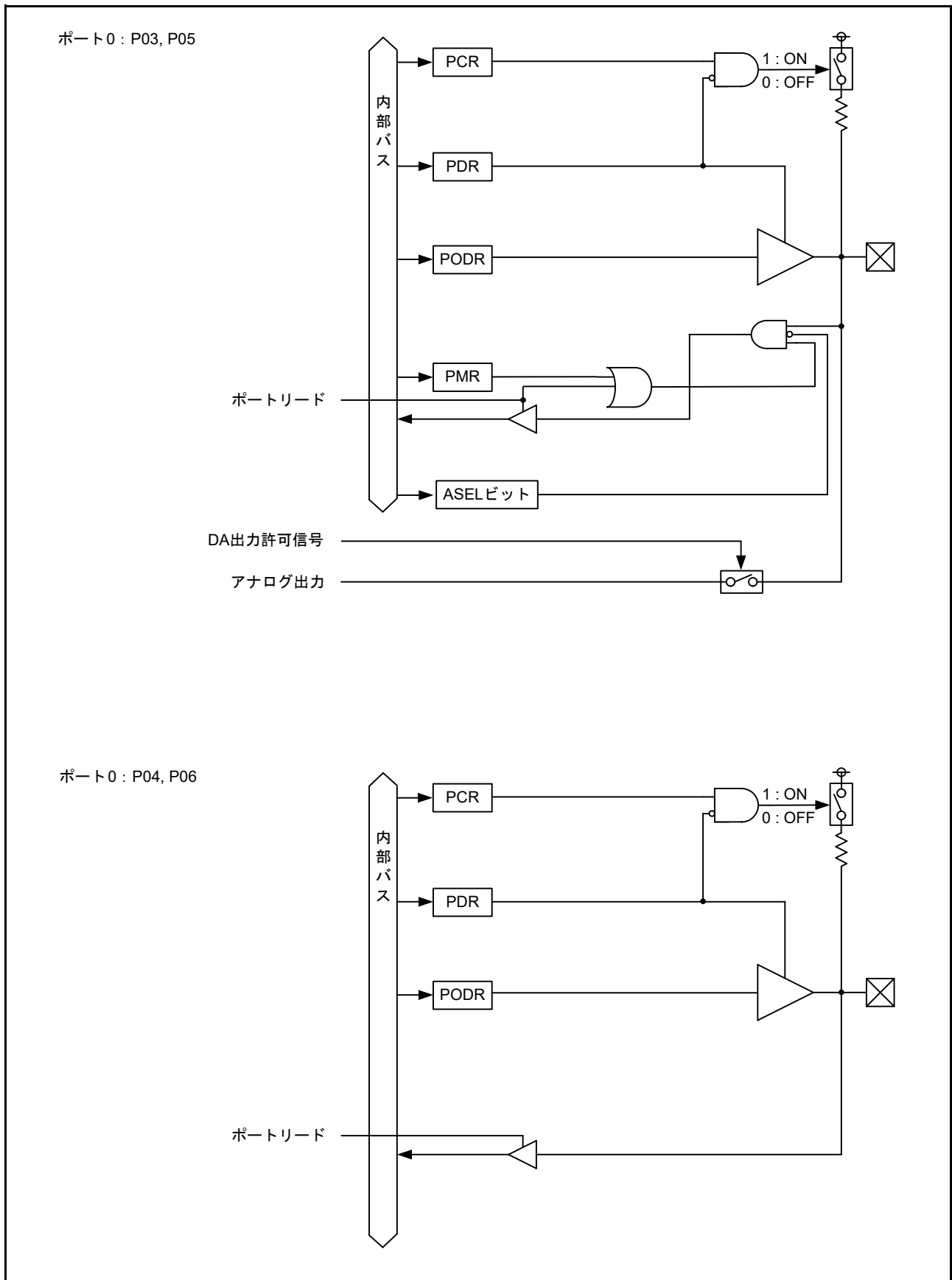


図 18.1 入出力ポートの構成 (1)

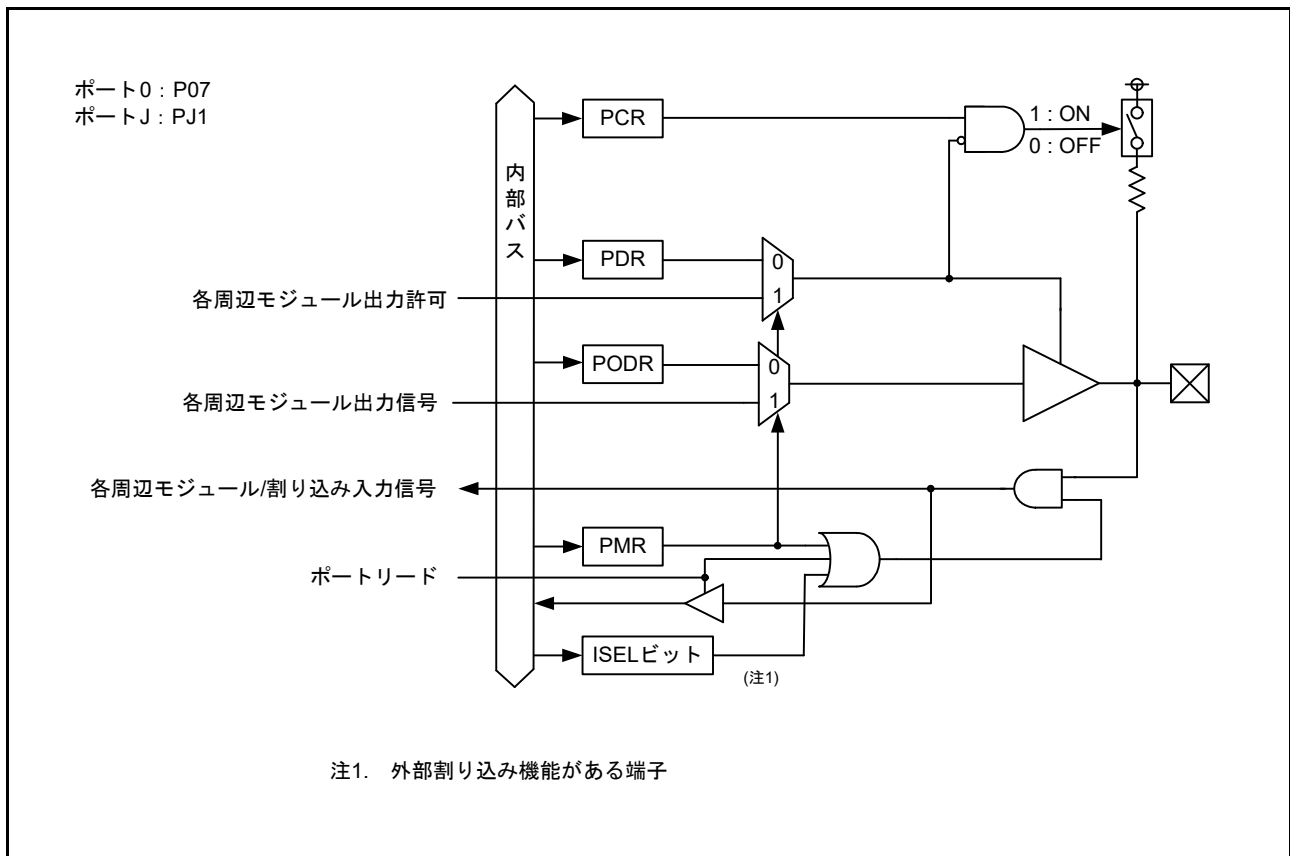


図 18.2 入出力ポートの構成 (2)

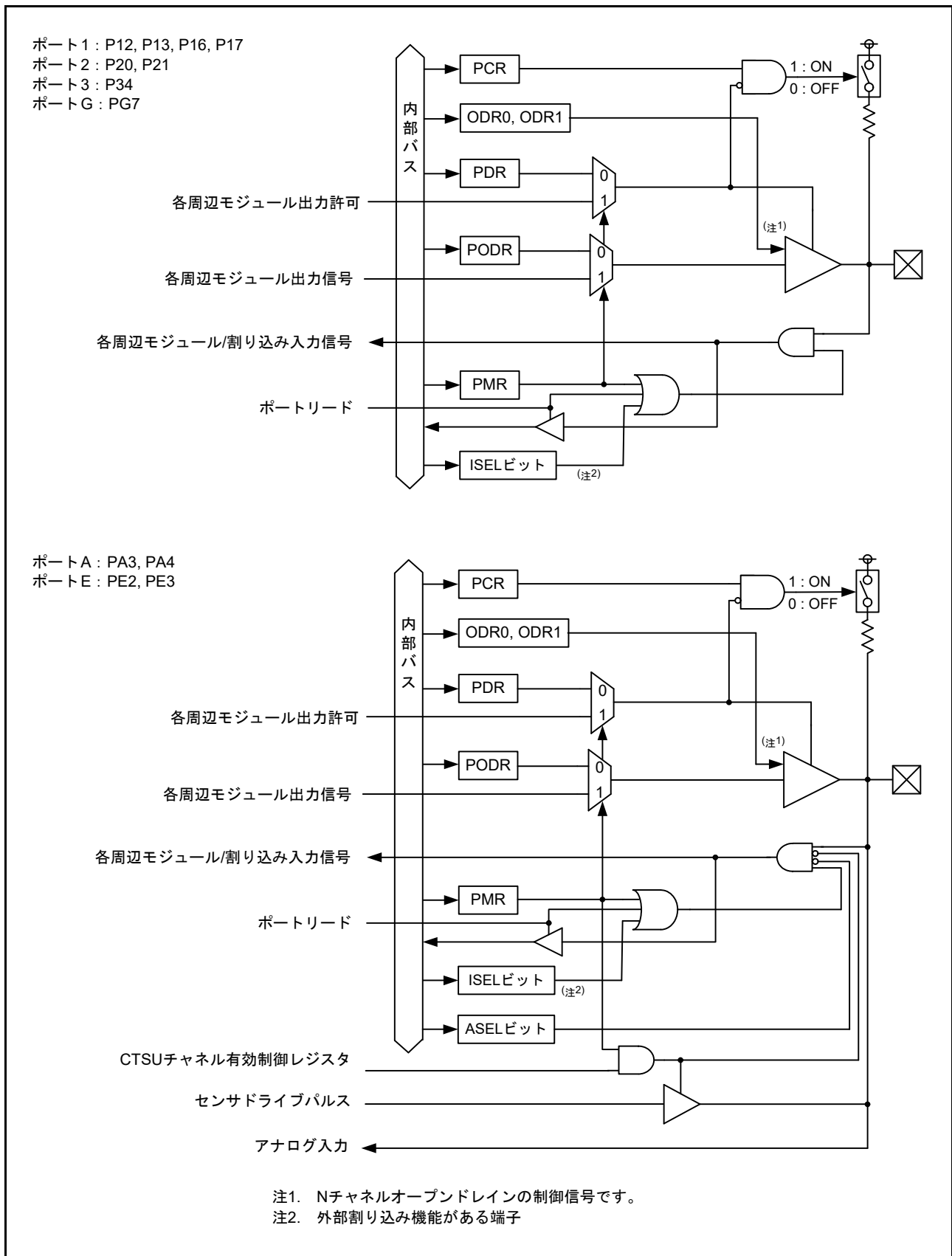


図 18.3 入出力ポートの構成 (3)

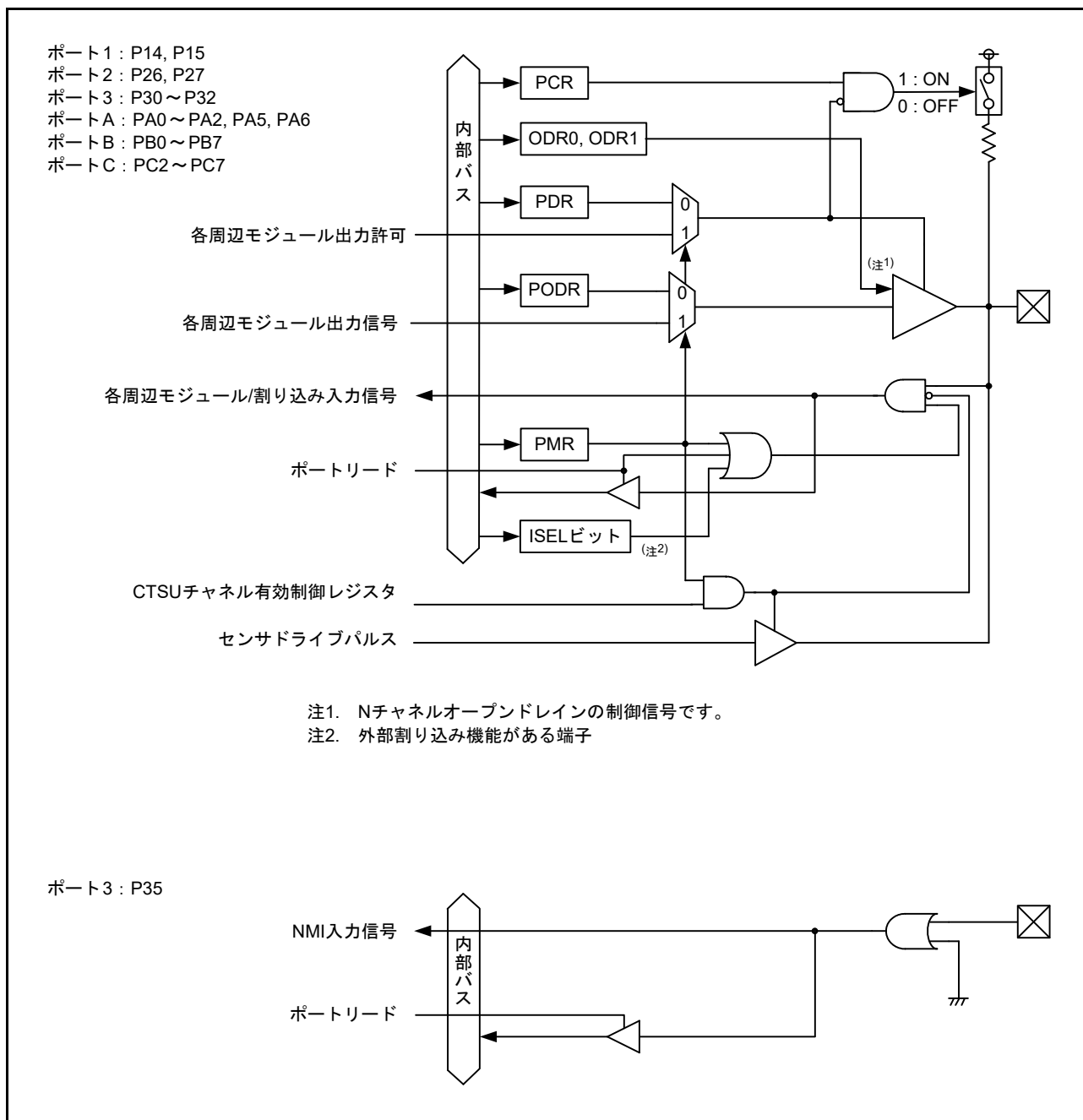


図 18.4 入出力ポートの構成 (4)

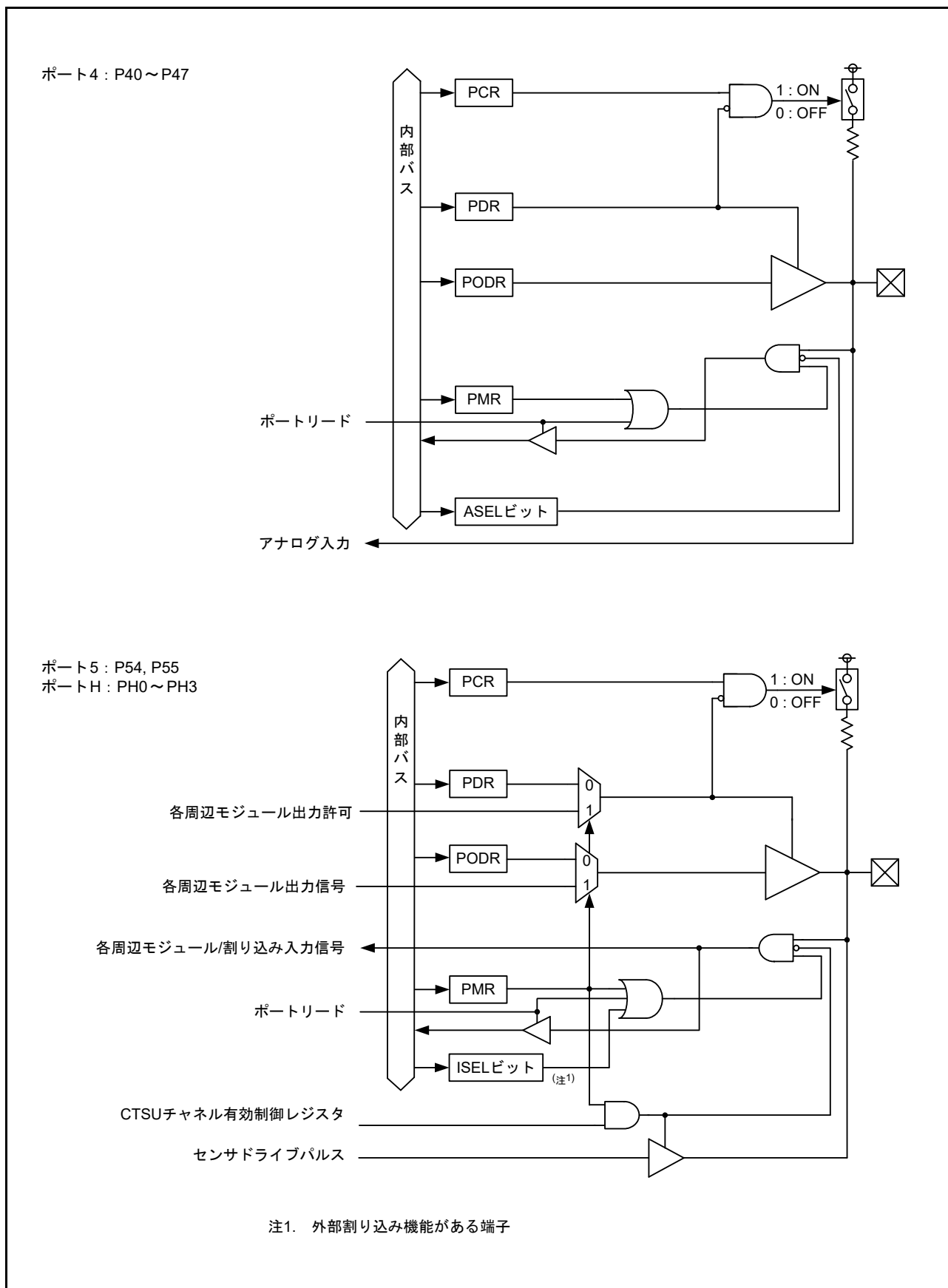


図 18.5 入出力ポートの構成 (5)

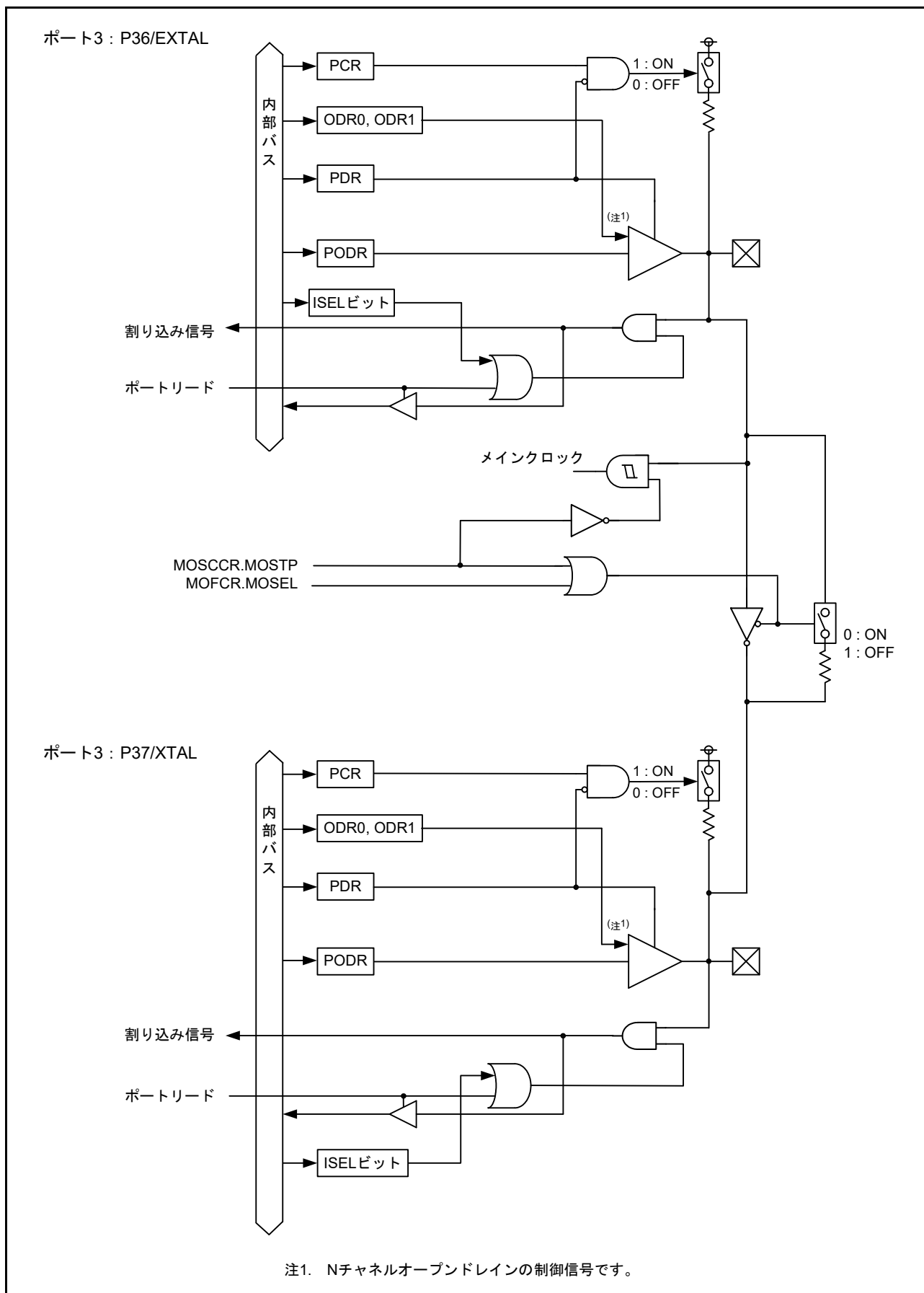


図 18.6 入出力ポートの構成 (6)

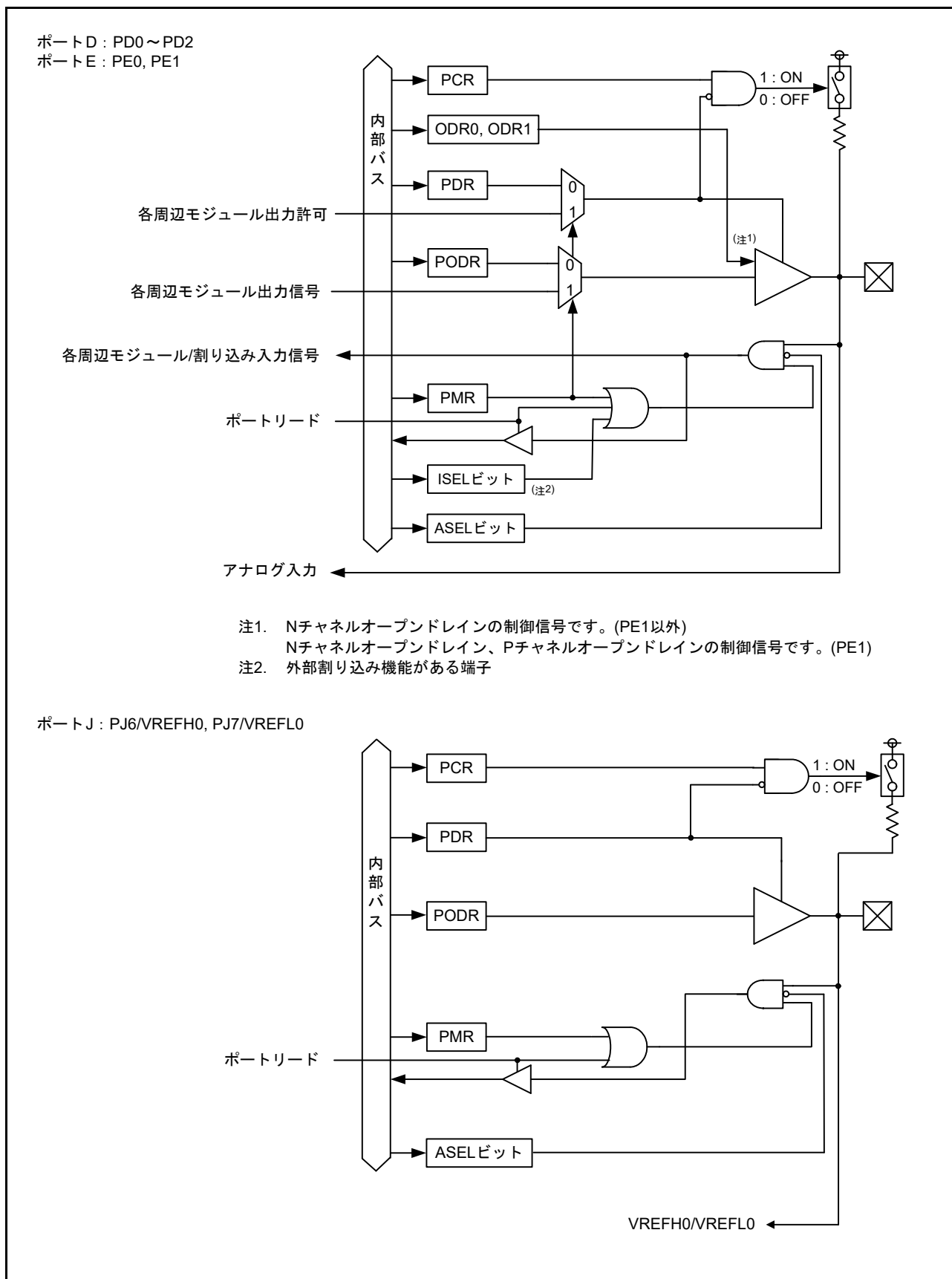


図 18.7 入出力ポートの構成 (7)

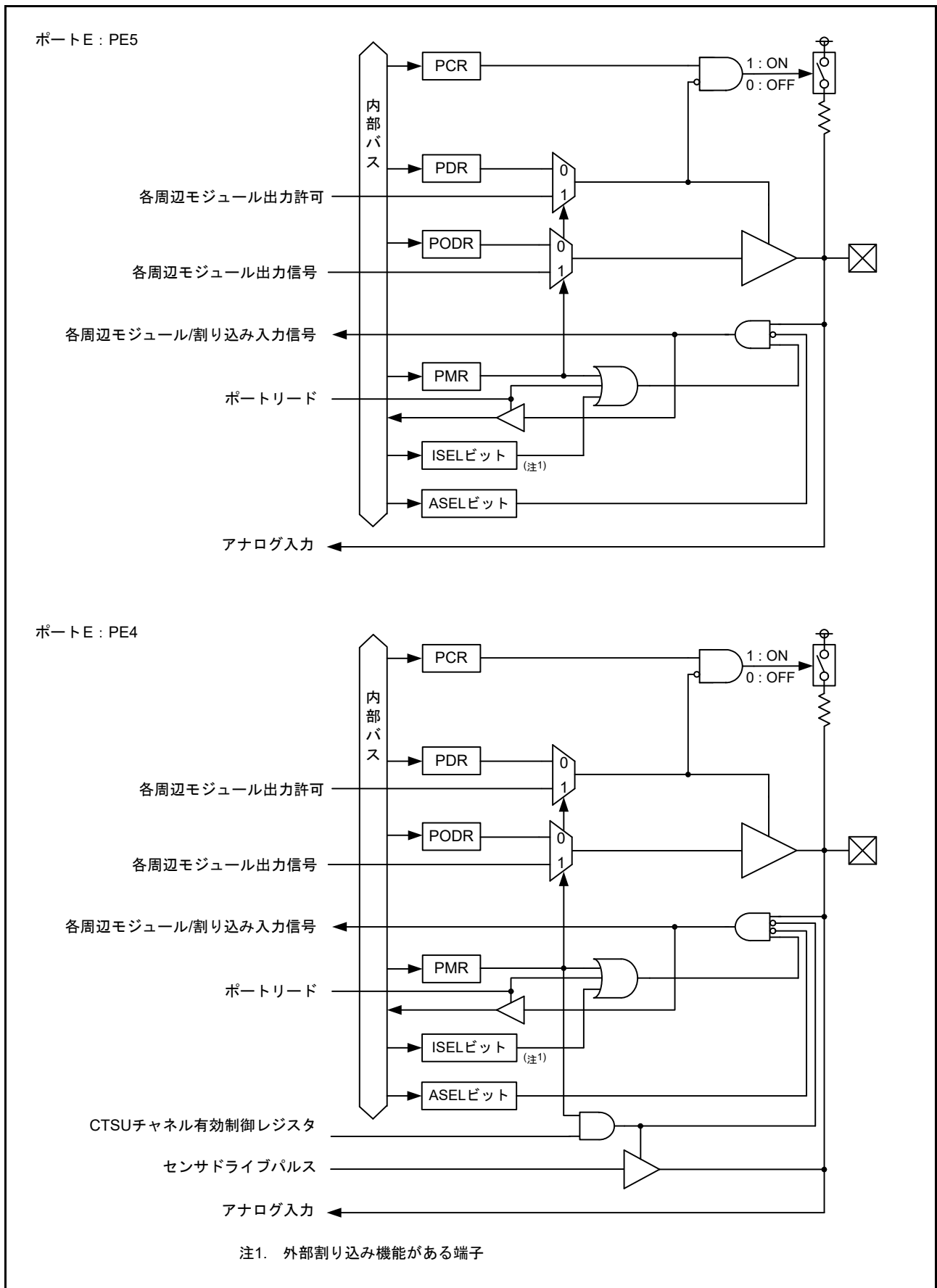


図 18.8 入出力ポートの構成 (8)

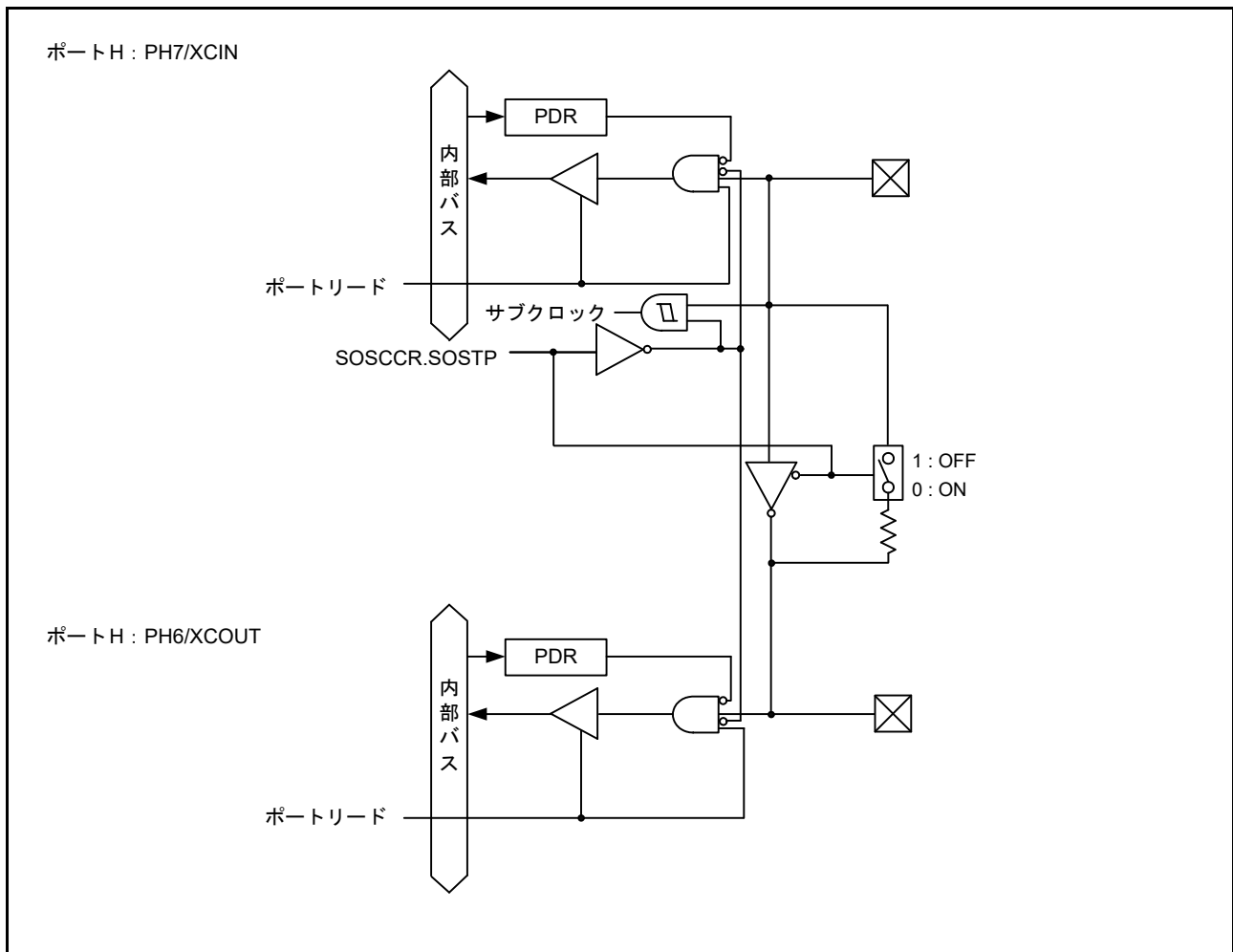


図 18.9 入出力ポートの構成 (9)

18.3 レジスタの説明

18.3.1 ポート方向レジスタ (PDR)

アドレス PORT0.PDR 0008 C000h, PORT1.PDR 0008 C001h, PORT2.PDR 0008 C002h, PORT3.PDR 0008 C003h, PORT4.PDR 0008 C004h, PORT5.PDR 0008 C005h, PORTA.PDR 0008 C00Ah, PORTB.PDR 0008 C00Bh, PORTC.PDR 0008 C00Ch, PORTD.PDR 0008 C00Dh, PORTE.PDR 0008 C00Eh, PORTG.PDR 0008 C010h, PORTH.PDR 0008 C011h, PORTJ.PDR 0008 C012h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0方向制御ビット	0: 入力(入力ポートとして機能) 1: 出力(出力ポートとして機能)	R/W
b1	B1	Pm1方向制御ビット		R/W
b2	B2	Pm2方向制御ビット		R/W
b3	B3	Pm3方向制御ビット		R/W
b4	B4	Pm4方向制御ビット		R/W
b5	B5	Pm5方向制御ビット		R/W
b6	B6	Pm6方向制御ビット		R/W
b7	B7	Pm7方向制御ビット		R/W

m = 0 ~ 5, A ~ E, G, H, J

PDR レジスタは、汎用入出力ポートの機能が選択されているとき、ポートの入力/出力を指定するレジスタです。

PORTm.PDR レジスタの各ビットは、それぞれポート m の端子 1 本ずつに対応しており、1 ビット単位で指定できます。

存在しないポート m の端子に対応している PDR レジスタの各ビットには、“1”(出力)を書いてください。

P35 端子は入力専用のため、PORT3.PDR.B5 ビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

32 ピンパッケージの製品では、PORTJ.PDR.B6 ビット、PORTJ.PDR.B7 ビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

18.3.2 ポート出力データレジスタ (PODR)

アドレス PORT0.PODR 0008 C020h, PORT1.PODR 0008 C021h, PORT2.PODR 0008 C022h, PORT3.PODR 0008 C023h, PORT4.PODR 0008 C024h, PORT5.PODR 0008 C025h, PORTA.PODR 0008 C02Ah, PORTB.PODR 0008 C02Bh, PORTC.PODR 0008 C02Ch, PORTD.PODR 0008 C02Dh, PORTE.PODR 0008 C02Eh, PORTG.PODR 0008 C030h, PORTH.PODR 0008 C031h, PORTJ.PODR 0008 C032h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0出力データ格納ビット	出力データ格納	R/W
b1	B1	Pm1出力データ格納ビット		R/W
b2	B2	Pm2出力データ格納ビット		R/W
b3	B3	Pm3出力データ格納ビット		R/W
b4	B4	Pm4出力データ格納ビット		R/W
b5	B5	Pm5出力データ格納ビット		R/W
b6	B6	Pm6出力データ格納ビット		R/W
b7	B7	Pm7出力データ格納ビット		R/W

m = 0 ~ 5, A ~ E, G, H, J

PODR レジスタは、汎用出力ポートとして使用する端子の出力データを格納するレジスタです。

80ピン未満のピン数の製品については、80ピンに対して存在しないポート m の端子のビットは予約ビットです。“0”を書いてください。

P35、PH6(注1)、PH7(注1)端子は入力専用のため、PORT3.PODR.B5ビット、PORTH.PODR.B6ビット、PORTH.PODR.B7ビットは予約ビットです。また、存在しない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

注1. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

18.3.3 ポート入力データレジスタ (PIDR)

アドレス PORT0.PIDR 0008 C040h, PORT1.PIDR 0008 C041h, PORT2.PIDR 0008 C042h, PORT3.PIDR 0008 C043h, PORT4.PIDR 0008 C044h, PORT5.PIDR 0008 C045h, PORTA.PIDR 0008 C04Ah, PORTB.PIDR 0008 C04Bh, PORTC.PIDR 0008 C04Ch, PORTD.PIDR 0008 C04Dh, PORTE.PIDR 0008 C04Eh, PORTG.PIDR 0008 C050h, PORTH.PIDR 0008 C051h, PORTJ.PIDR 0008 C052h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0

リセット後の値 X X X X X X X X

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0 ビット	ポートの端子状態を反映	R
b1	B1	Pm1 ビット		R
b2	B2	Pm2 ビット		R
b3	B3	Pm3 ビット		R
b4	B4	Pm4 ビット		R
b5	B5	Pm5 ビット		R
b6	B6	Pm6 ビット		R
b7	B7	Pm7 ビット		R

m = 0 ~ 5, A ~ E, G, H, J

PIDR レジスタは、ポートの端子の状態を反映するレジスタです。

PORTm.PIDR レジスタを読むと、PORTm.PDR レジスタ、PORTm.PMR の値に関係なく端子の状態が読めます。

P35 は NMI 端子の状態が読み出されます。

存在しない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読んだ場合、その値は不定です。書き込みは無効になります。

- 注． P36、P37 を汎用入出力ポートとして使用する場合、MOSCCR.MOSTP ビットに“1”(メインクロック発振停止)を設定してください。
- 注． PH6、PH7 を汎用入力ポートとして使用する場合、SOSCCR.SOSTP ビットに“1”(サブクロック発振停止)を設定してください。
- 注． PH6、PH7 は、ROM 容量が 64K バイトの製品にはありません。

18.3.4 ポートモードレジスタ (PMR)

アドレス PORT0.PMR 0008 C060h, PORT1.PMR 0008 C061h, PORT2.PMR 0008 C062h, PORT3.PMR 0008 C063h, PORT4.PMR 0008 C064h, PORT5.PMR 0008 C065h, PORTA.PMR 0008 C06Ah, PORTB.PMR 0008 C06Bh, PORTC.PMR 0008 C06Ch, PORTD.PMR 0008 C06Dh, PORTE.PMR 0008 C06Eh, PORTG.PMR 0008 C070h, PORTH.PMR 0008 C071h, PORTJ.PMR 0008 C072h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0 端子モード制御ビット	0 : 汎用入出力ポートとして使用 1 : 周辺機能として使用	R/W
b1	B1	Pm1 端子モード制御ビット		R/W
b2	B2	Pm2 端子モード制御ビット		R/W
b3	B3	Pm3 端子モード制御ビット		R/W
b4	B4	Pm4 端子モード制御ビット		R/W
b5	B5	Pm5 端子モード制御ビット		R/W
b6	B6	Pm6 端子モード制御ビット		R/W
b7	B7	Pm7 端子モード制御ビット	<ul style="list-style-type: none"> • PG7 0 : 汎用入出力ポートとして使用 (注1) 1 : MD機能として使用 (初期値) • その他 0 : 汎用入出力ポートとして使用 (初期値) 1 : 周辺機能として使用 	R/W

m = 0 ~ 5, A ~ E, G, H, J

注1. PG7を汎用入力ポートとして使用する場合、SOSCCR.SOSTP ビットに“1” (サブクロック発振停止) を設定してください。

PORTm.PMR レジスタの各ビットは、それぞれポート m の端子 1 本ずつに対応しており、1 ビット単位で指定できます。

80 ピン未満のピン数の製品については、80 ピンに対して存在しないポート m の端子のビットは予約ビットです。書く場合は、“0” を書いてください。

存在しない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

PORTG.PMR.B7 ビットの初期値は“1”です。

18.3.5 オープンドレイン制御レジスタ 0 (ODR0)

アドレス PORT1.ODR0 0008 C082h, PORT2.ODR0 0008 C084h, PORT3.ODR0 0008 C086h, PORTA.ODR0 0008 C094h, PORTB.ODR0 0008 C096h, PORTC.ODR0 0008 C098h, PORTD.ODR0 0008 C09Ah, PORTE.ODR0 0008 C09Ch

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b1	B1	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	B2	Pm1出力形態指定ビット	<ul style="list-style-type: none"> • P21, P31, PA1, PB1, PD1 b2 0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン b3 読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください • PE1 	R/W
b3	B3			b3 b2 0 0 : CMOS出力 0 1 : Nチャネルオープンドレイン 1 0 : Pチャネルオープンドレイン 1 1 : Hi-Z
b4	B4	Pm2出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b5	B5	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	B6	Pm3出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b7	B7	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

m = 1 ~ 3, A ~ E, J

80ピン未満のピン数の製品については、80ピンに対して存在しないポート m の端子のビットは予約ビットです。書く場合は、“0”を書いてください。

存在しない端子やオープンドレイン出力機能を割り付けられていない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

18.3.6 オープンドレイン制御レジスタ 1 (ODR1)

アドレス PORT1.ODR1 0008 C083h, PORT2.ODR1 0008 C085h, PORT3.ODR1 0008 C087h, PORTA.ODR1 0008 C095h, PORTB.ODR1 0008 C097h, PORTC.ODR1 0008 C099h, PORTG.ODR1 0008 C0A1h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm4出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b1	B1	予約ビット	読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	B2	Pm5出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b3	B3	予約ビット	読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	B4	Pm6出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b5	B5	予約ビット	読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	B6	Pm7出力形態指定ビット	0 : CMOS出力 1 : Nチャネルオープンドレイン	R/W
b7	B7	予約ビット	読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください	R/W

m = 1 ~ 3, A ~ C, G

80ピン未満のピン数の製品については、80ピンに対して存在しないポート m の端子のビットは予約ビットです。書く場合は、“0”を書いてください。

P35端子は入力専用のため、PORT3.ODR1.B2ビットは予約ビットです。存在しない端子やオープンドレイン出力機能を割り付けられていない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください。

18.3.7 プルアップ制御レジスタ (PCR)

アドレス PORT0.PCR 0008 C0C0h, PORT1.PCR 0008 C0C1h, PORT2.PCR 0008 C0C2h, PORT3.PCR 0008 C0C3h, PORT4.PCR 0008 C0C4h, PORT5.PCR 0008 C0C5h, PORTA.PCR 0008 C0CAh, PORTB.PCR 0008 C0CBh, PORTC.PCR 0008 C0CCh, PORTD.PCR 0008 C0CDh, PORTE.PCR 0008 C0CEh, PORTG.PCR 0008 C0D0h, PORTH.PCR 0008 C0D1h, PORTJ.PCR 0008 C0D2h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
B7	B6	B5	B4	B3	B2	B1	B0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	B0	Pm0入力プルアップ抵抗制御ビット	0 : 入力プルアップ抵抗無効 1 : 入力プルアップ抵抗有効	R/W
b1	B1	Pm1入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b2	B2	Pm2入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b3	B3	Pm3入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b4	B4	Pm4入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b5	B5	Pm5入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b6	B6	Pm6入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W
b7	B7	Pm7入力プルアップ抵抗制御ビット		R/W

m = 0 ~ 5, A ~ E, G, H, J

端子が入力状態のとき、PORTm.PCR レジスタが“1”のビットに対応する端子の入力プルアップ抵抗が有効になります。

汎用ポート出力、周辺機能出力として使用している場合には、PCR レジスタの設定値にかかわらず、プルアップ抵抗は無効になります。

リセット中もプルアップ抵抗は無効になります。

PORT3.PCR.B5 ビットは予約ビットです。また、存在しない端子のビットは予約ビットです。予約ビットは、読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

PORTG.PCR.B7 の初期値は“1”です。

18.3.8 ポート切り替えレジスタ A (PSRA)

アドレス PORT.PSRA 0008 C121h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
PSEL7	PSEL6	—	—	—	—	—	—

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	PSEL6	PB6/PC0切り替えビット	0 : PB6 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC0 汎用入出力ポート機能を選択	R/W
b7	PSEL7	PB7/PC1切り替えビット	0 : PB7 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC1 汎用入出力ポート機能を選択	R/W

注. PSRAレジスタは80、64ピンパッケージ製品用のレジスタです。

PSRAレジスタは、PB6、PB7の汎用入出力機能と、PC0、PC1の汎用入出力機能のどちらを使用するか選択します。PSEL6、PSEL7ビットに“1”を書き込むとPORTCを8ビットのポートとして使用することができます。「**図 18.10 PSRAレジスタによる汎用入出力ポートの切り替え**」に各ポートの対応を示します。

周辺機能の入出力機能は、PB6、PB7にマルチプレクスされた機能が有効となります。周辺機能を有効にする場合は、PORTB.PMRレジスタで対応する端子モード制御ビットに“1”を書き込んでください。

本レジスタの書き換えは、該当端子のPMRレジスタ、PDRレジスタ、PCRレジスタが“0”の状態で行ってください。

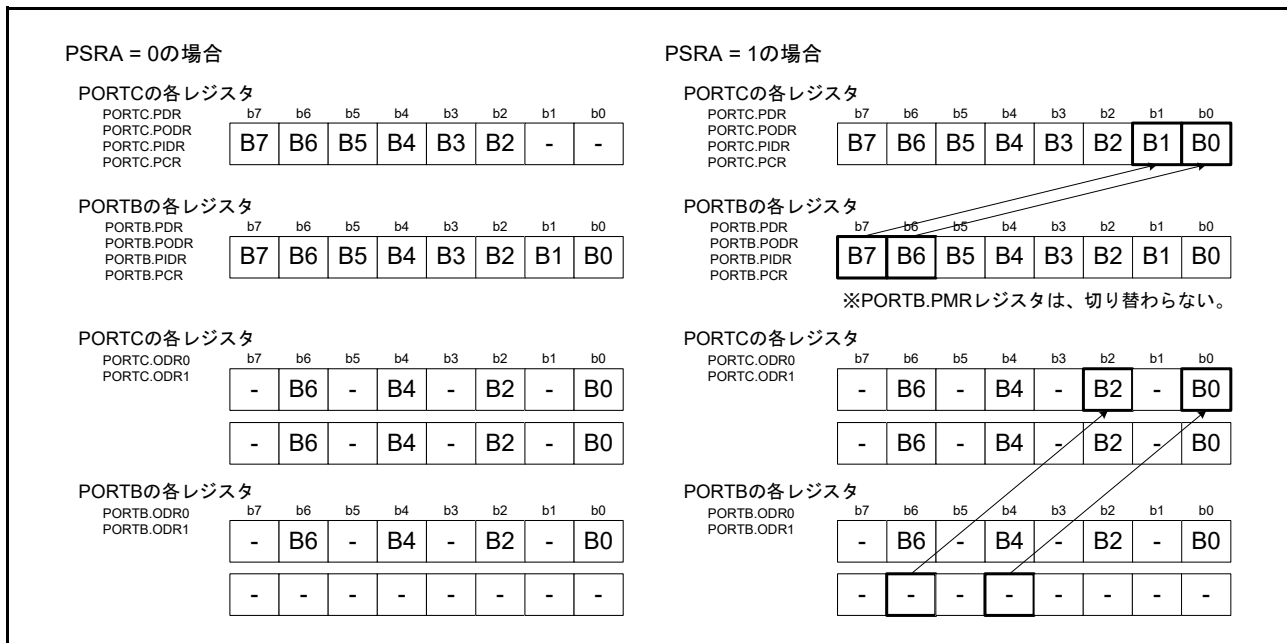


図 18.10 PSRAレジスタによる汎用入出力ポートの切り替え

18.3.9 ポート切り替えレジスタ B (PSRB)

アドレス PORT.PSRB 0008 C120h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	PSEL5	—	PSEL3	—	PSEL1	PSEL0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PSEL0	PB0/PC0切り替えビット	0 : PB0 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC0 汎用入出力ポート機能を選択	R/W
b1	PSEL1	PB1/PC1切り替えビット	0 : PB1 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC1 汎用入出力ポート機能を選択	R/W
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	PSEL3	PB3/PC2切り替えビット	0 : PB3 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC2 汎用入出力ポート機能を選択	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	PSEL5	PB5/PC3切り替えビット	0 : PB5 汎用入出力ポート機能を選択 1 : PC3 汎用入出力ポート機能を選択	R/W
b6-b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. PSRBレジスタは48ピンパッケージ製品用のレジスタです。

PSRBレジスタは、PB5、PB3、PB1、PB0の汎用入出力機能と、PC3、PC2、PC1、PC0の汎用入出力機能のどちらを使用するか選択します。PSEL5、PSEL3、PSEL1、PSEL0ビットに“1”を書き込むとPORTCを8ビットのポートとして使用することができます。「**図 18.11 PSRBレジスタによる汎用入出力ポートの切り替え**」に各ポートの対応を示します。

周辺機能の入出力機能は、PB0、PB1、PB3、PB5にマルチプレクスされた機能が有効となります。周辺機能を有効にする場合は、PORTB.PMRレジスタで対応する端子モード制御ビットに“1”を書き込んでください。

本レジスタの書き換えは、該当端子のPMRレジスタ、PDRレジスタ、PCRレジスタが“0”の状態で行ってください。

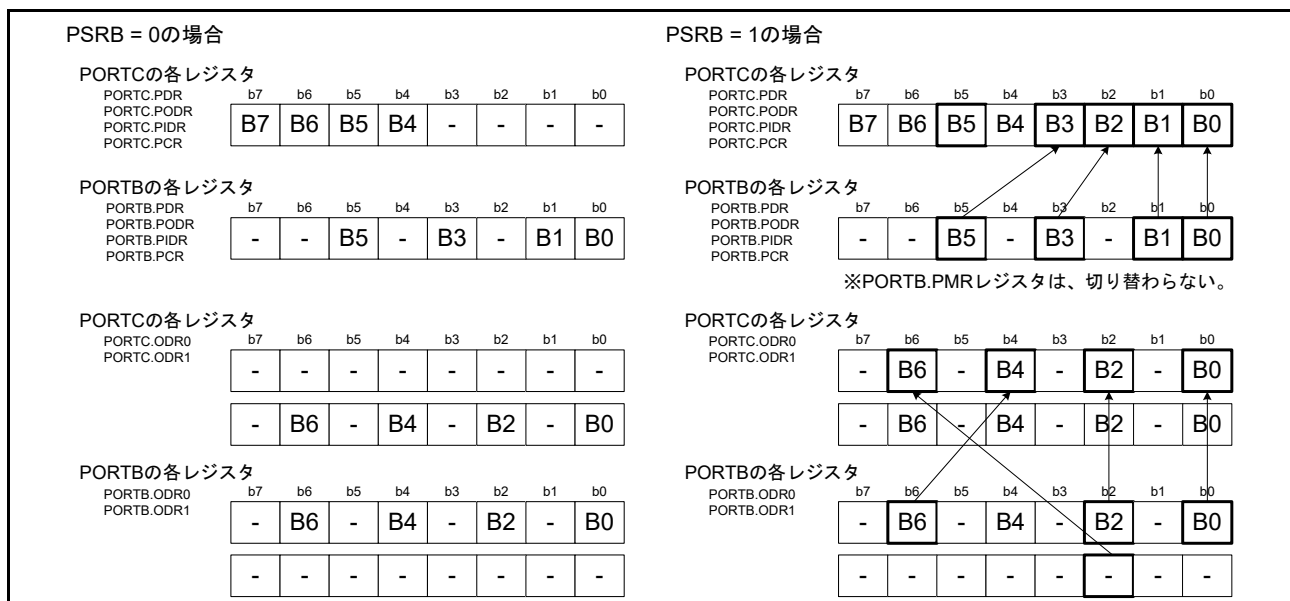
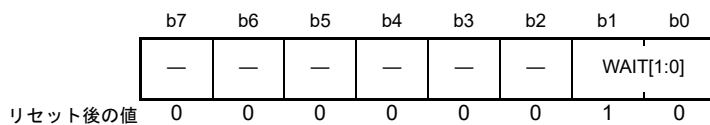


図 18.11 PSRBレジスタによる汎用入出力ポートの切り替え

18.3.10 ポートリードウェイト制御レジスタ (PRWCNTR)

アドレス PORT.PRWCNTR 0008 C122h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1, b0	WAIT[1:0] (注1)	ポートリードウェイト制御	b1 b0 0 0 : 設定禁止 0 1 : 1サイクルウェイト 1 0 : 2サイクルウェイト(初期値) 1 1 : 設定禁止	R/W
b2-b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. PRWCNTRレジスタのビット1、0の設定は下記の表に示しています。

電圧範囲	PCLKBの周波数範囲	WAIT[1:0]	ウェイトサイクル数
2.4 ~ 5.5V	~ 32MHz	01	1
		10	2
1.8 ~ 2.4V	~ 24MHz	01	1
		10	2
	24 ~ 32MHz	01	設定禁止
		10	2

PRWCNTRレジスタは、PIDRレジスタをリードする場合、ウェイトサイクル数を指定するレジスタです。

18.4 ポート方向レジスタ (PDR) の初期化

PDR レジスタの予約ビットは、表 18.3 ~ 表 18.6 を参照して初期化してください。

- 表 18.3 ~ 表 18.6 の空欄は、「表 18.1 I/O ポートの仕様」に記載されている端子に対応するビットです。使用するシステムに応じて“1”(出力)か“0”(入力)を設定してください。ただし、入力専用である P35 端子の PORT3.PDR.B5 ビットは予約ビットです。このビットには“0”(入力)を設定してください。
- 表 18.3 ~ 表 18.6 の空欄以外は、予約ビットです。予約ビットには表 18.3 ~ 表 18.6 に従って“0”(入力)または“1”(出力)を設定ください。予約ビットを設定する場合は、バイト単位でアクセスしてください。

表 18.3 80ピンのPDRレジスタの設定値

ポートシンボル	PDRレジスタ							
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
PORT0						1	1	1
PORT1							1	1
PORT2			1	1	1	1		
PORT3			0		1			
PORT4								
PORT5	1	1			1	1	1	1
PORTA	1							
PORTB								
PORTC							1	1
PORTD	1	1	1	1	1			
PORTE	1	1						
PORTG		1	1	1	1	1	1	1
PORTH			1	1				
PORTJ			1	1	1	1		1

表 18.4 64ピンのPDRレジスタの設定値

ポートシンボル	PDRレジスタ							
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
PORT0	1	1		1		1	1	1
PORT1					1	1	1	1
PORT2			1	1	1	1	1	1
PORT3			0	1	1			
PORT4								
PORT5	1	1			1	1	1	1
PORTA	1		1			1		
PORTB				1		1		
PORTC							1	1
PORTD (注1)	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTE	1	1						
PORTG		1	1	1	1	1	1	1
PORTH	(注2)	(注2)	1	1				
PORTJ			1	1	1	1	1	1

注1. ROM容量が64Kバイトの製品は、PORTD.PDRを読むと“00h”が読めます。

注2. ROM容量が64Kバイトの製品は、“1”にしてください。

表 18.5 48ピンのPDRレジスタの設定値

ポートシンボル	PDRレジスタ							
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
PORT0	1	1	1	1	1	1	1	1
PORT1					1	1	1	1
PORT2			1	1	1	1	1	1
PORT3			0	1	1	1		
PORT4				1	1			
PORT5	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTA	1		1			1		1
PORTB	1	1		1		1		
PORTC					1	1	1	1
PORTD(注1)	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTE	1	1	1					1
PORTG		1	1	1	1	1	1	1
PORTH	1	1	1	1				
PORTJ			1	1	1	1	1	1

注1. ROM容量が64Kバイトの製品は、PORTD.PDRを読むと“00h”が読めます。

表 18.6 32ピンのPDRレジスタの設定値

ポートシンボル	PDRレジスタ							
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
PORT0	1	1	1	1	1	1	1	1
PORT1			1	1	1	1	1	1
PORT2			1	1	1	1	1	1
PORT3	1		0	1	1	1		
PORT4	1	1	1	1	1			
PORT5	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTA	1	1	1			1		1
PORTB	1	1	1	1	1	1	1	
PORTC					1	1	1	1
PORTD(注1)	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTE	1	1	1					1
PORTG		1	1	1	1	1	1	1
PORTH	1	1	1	1	1	1	1	1
PORTJ	0	0	1	1	1	1	1	1

注1. ROM容量が64Kバイトの製品は、PORTD.PDRを読むと“00h”が読めます。

18.5 未使用端子の処理

表 18.7 に未使用端子の処理内容を示します。

表 18.7 未使用端子の処理内容

端子名	処理内容
PG7/MD	(モード端子として使用)
RES#	抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)
P35/NMI	抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)
P36/EXTAL	メインクロックを使用しない場合は、MOSCCR.MOSTPビットを“1”(汎用ポートP36)に設定 ポートP36としても使用しない場合は、ポート1~3、5、ポートA~E、H、J(J6、J7以外)の処理と同様
P37/XTAL	メインクロックを使用しない場合は、MOSCCR.MOSTPビットを“1”(汎用ポートP37)に設定 ポートP37としても使用しない場合は、ポート1~3、5、ポートA~E、H、J(J6、J7以外)の処理と同様 EXTAL端子に外部クロックを入力する場合は、端子を開放
PH7(注3)/XCIN	【ROM容量が64Kバイトの製品】 抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)、もしくは端子を開放 【ROM容量が128Kバイト以上の製品】 サブクロックを使用しない場合は、SOSCCR.SOSTPビットを“1”(汎用ポートPH7)に設定 ポートPH7としても使用しない場合は、PORTH.PDR.B7ビットを“0”に設定し、抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)、または“1”に設定し、端子を開放
PH6(注3)/XCOUT	【ROM容量が64Kバイトの製品】 端子を開放 【ROM容量が128Kバイト以上の製品】 サブクロックを使用しない場合は、SOSCCR.SOSTPビットを“1”(汎用ポートPH6)に設定 ポートPH6としても使用しない場合は、PORTH.PDR.B6ビットを“0”に設定し、抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)、または“1”に設定し、端子を開放
ポート1~3、5、 ポートA~E、H(H6、 H7以外)、J(J6、J7 以外)	<ul style="list-style-type: none"> • 入力に設定(PORTn.PDRビット=0)し、1端子ごとに抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)、または1端子ごとに抵抗を介してVSSに接続(プルダウン)(注1) • 出力に設定(PORTn.PDRビット=1)し、端子を開放(注1、注2)
ポート0、4	<ul style="list-style-type: none"> • 入力に設定(PORTn.PDRビット=0)し、1端子ごとに抵抗を介してAVCC0に接続(プルアップ)、または1端子ごとに抵抗を介してAVSS0に接続(プルダウン)(注1) • 出力に設定(PORTn.PDRビット=1)し、端子を開放(注1、注2)
PJ6/VREFH0	VREFH0として使用しない場合は、PJ6PFS.ASELビットを“0”(汎用ポートPJ6)に設定 ポートPJ6としても使用しない場合は、ポート0、4と同様の処理
PJ7/VREFL0	VREFL0として使用しない場合は、PJ7PFS.ASELビットを“0”(汎用ポートPJ7)に設定 ポートPJ7としても使用しない場合は、ポート0、4と同様の処理

注1. PORTn.PMRビットを“0”、およびPmnPFS.ISEL、ASELビットを“0”にしてください。

注2. 出力に設定し開放する場合、リセット解除からポートを出力にするまでの間、ポートは入力になっています。そのため、ポートが入力になっている間、端子の電圧レベルが不定となり、電源電流が増加する場合があります。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

19. マルチファンクションピンコントローラ (MPC)

19.1 概要

マルチファンクションピンコントローラ (MPC) は、周辺機能入出力、および割り込み入力信号を複数のポートから選択し割り付ける機能です。

表 19.1 にマルチプル端子の割り当て端子一覧を示します。パッケージの違いによる端子の有無については、表内で○、×で示します。同一機能を複数端子で有効にすることは禁止です。

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (1/8)

モジュール/機能	チャネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
割り込み		NMI (入力)	P35	○	○	○	○	○	○
割り込み	IRQ0	IRQ0 (入力)	P30	○	○	○	○	○	○
			PD0	○	×	×	×	×	×
			PH1	○	○	○	○	○	×
	IRQ1	IRQ1 (入力)	P31	○	○	○	○	○	○
			PD1	○	×	×	×	×	×
			PH2	○	○	○	○	○	×
	IRQ2	IRQ2 (入力)	P12	○	×	×	×	×	×
			P32	○	○	×	○	×	×
			P36	○	○	○	○	○	○
			PD2	○	×	×	×	×	×
	IRQ3	IRQ3 (入力)	P13	○	×	×	×	×	×
	IRQ4	IRQ4 (入力)	P14	○	○	○	○	○	×
			P34	○	×	×	×	×	×
			P37	○	○	○	○	○	×
			PB1	○	○	○	○	○	×
	IRQ5	IRQ5 (入力)	P15	○	○	○	○	○	×
			PA4	○	○	○	○	○	○
			PE5	○	○	×	○	×	×
	IRQ6	IRQ6 (入力)	P16	○	○	○	○	○	○
			PA3	○	○	○	○	○	○
IRQ7	IRQ7 (入力)	P17	○	○	○	○	○	○	
		PE2	○	○	○	○	○	○	
クロック発生回路		CLKOUT (出力)	PE3	○	○	○	○	○	○
			PE4	○	○	○	○	○	○
マルチファンクション タイマユニット2	MTU0	MTIOC0A (入出力)	P34	○	×	×	×	×	×
			PB3	○	○	○	○	○	×
			PC4	○	○	○	○	○	○
		MTIOC0B (入出力)	P13	○	×	×	×	×	×
			P15	○	○	○	○	○	×
			PA1	○	○	○	○	○	○

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (2/8)

モジュール/機能	チャネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
マルチファンクション タイマユニット2	MTU0	MTIOC0C (入出力)	P32	○	○	×	○	×	×
			PB1	○	○	○	○	○	×
			PC5	○	○	○	○	○	○
	MTU0	MTIOC0D (入出力)	PA3	○	○	○	○	○	○
	MTU1	MTIOC1A (入出力)	P20	○	×	×	×	×	×
			PE4	○	○	○	○	○	○
		MTIOC1B (入出力)	P21	○	×	×	×	×	×
			PB5	○	○	○	○	○	×
			PE3	○	○	○	○	○	○
		MTU2	MTIOC2A (入出力)	P26	○	○	○	○	○
	PB5			○	○	○	○	○	×
	MTIOC2B (入出力)		P27	○	○	○	○	○	○
		PE5	○	○	×	○	×	×	
	MTU3	MTIOC3A (入出力)	P14	○	○	○	○	○	×
			P17	○	○	○	○	○	○
			PC7	○	○	○	○	○	○
			PJ1	○	×	×	×	×	×
		MTIOC3B (入出力)	P17	○	○	○	○	○	○
			PA1	○	○	○	○	○	○
			PB7	○	○	×	○	×	×
			PC5	○	○	○	○	○	○
			PH0	○	○	○	○	○	×
		MTIOC3C (入出力)	P16	○	○	○	○	○	○
			PC6	○	○	○	○	○	○
		MTIOC3D (入出力)	P16	○	○	○	○	○	○
			PA6	○	○	○	○	○	×
			PB0	○	○	○	○	○	○
			PB6	○	○	×	○	×	×
	PC4		○	○	○	○	○	○	
	PH1		○	○	○	○	○	×	
	MTU4	MTIOC4A (入出力)	P55	○	○	×	○	×	×
			PA0	○	○	×	○	×	×
PB3			○	○	○	○	○	×	
PE2			○	○	○	○	○	○	
PE4			○	○	○	○	○	○	
MTIOC4B (入出力)		P30	○	○	○	○	○	○	
		P54	○	○	×	○	×	×	
		PC2	○	○	×	○	×	×	
		PD1	○	×	×	×	×	×	
		PE3	○	○	○	○	○	○	

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (3/8)

モジュール/機能	チャンネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品			
				パッケージ			パッケージ			
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン	
マルチファンクション タイマユニット2	MTU4	MTIOC4C (入出力)	PA4	○	○	○	○	○	○	
			PB1	○	○	○	○	○	×	
			PE1	○	○	○	○	○	○	
			PE5	○	○	×	○	×	×	
			PH2	○	○	○	○	○	×	
		MTIOC4D (入出力)	P31	○	○	○	○	○	○	
			P55	○	○	×	○	×	×	
			PA3	○	○	○	○	○	○	
			PC3	○	○	×	○	×	×	
			PD2	○	×	×	×	×	×	
	PE4		○	○	○	○	○	○		
	MTU5	MTIC5U (入力)	PA4	○	○	○	○	○	○	
			PA3	○	○	○	○	○	○	
		MTIC5V (入力)	PA6	○	○	○	○	○	×	
	MTU	MTIC5W (入力)	PB0	○	○	○	○	○	○	
			MTCLKA (入力)	P14	○	○	○	○	○	×
				PA4	○	○	○	○	○	○
		PC6		○	○	○	○	○	○	
		MTCLKB (入力)	P15	○	○	○	○	○	×	
			PA6	○	○	○	○	○	×	
			PC7	○	○	○	○	○	○	
MTCLKC (入力)		PA1	○	○	○	○	○	○		
	PC4	○	○	○	○	○	○			
	MTCLKD (入力)	PA3	○	○	○	○	○	○		
PC5		○	○	○	○	○	○			
ポートアウトプットイ ネーブル2	POE0	POE0# (入力)	PC4	○	○	○	○	○		
	POE1	POE1# (入力)	PB5	○	○	○	○	○		
	POE2	POE2# (入力)	P34	○	×	×	×	×		
			PA6	○	○	○	○	○	×	
	POE3	POE3# (入力)	PB3	○	○	○	○	○		
	POE8	POE8# (入力)	P17	○	○	○	○	○		
			P30	○	○	○	○	○		
PE3			○	○	○	○	○			
8ビットタイマ	TMR0	TMO0 (出力)	PB3	○	○	○	○	○		
			PH1	○	○	○	○	○		
		TMCIO (入力)	P21	○	×	×	×	×		
			PB1	○	○	○	○	○		
			PH3	○	○	○	○	○		
		TMRI0 (入力)	P20	○	×	×	×	×		
	PA4		○	○	○	○	○			
PH2	○	○	○	○	○	×				

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (4/8)

モジュール/機能	チャンネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
8ビットタイマ	TMR1	TMO1 (出力)	P17	○	○	○	○	○	○
			P26	○	○	○	○	○	○
		TMC11 (入力)	P12	○	×	×	×	×	×
			P54	○	○	×	○	×	×
			PC4	○	○	○	○	○	○
	TMRI1 (入力)	PB5	○	○	○	○	○	×	
	TMR2	TMO2 (出力)	P16	○	○	○	○	○	○
			PC7	○	○	○	○	○	○
		TMC12 (入力)	P15	○	○	○	○	○	×
			P31	○	○	○	○	○	○
			PC6	○	○	○	○	○	○
		TMRI2 (入力)	P14	○	○	○	○	○	×
	PC5		○	○	○	○	○	○	
	TMR3	TMO3 (出力)	P13	○	×	×	×	×	×
			P32	○	○	×	○	×	×
			P55	○	○	×	○	×	×
		TMC13 (入力)	P27	○	○	○	○	○	○
			P34	○	×	×	×	×	×
PA6			○	○	○	○	○	×	
TMRI3 (入力)	P30	○	○	○	○	○	○		
シリアルコミュニケーションインターフェース	SCI1	RXD1 (入力)/ SMISO1 (入出力)/ SSCL1 (入出力)	P15	○	○	○	○	○	×
			P30	○	○	○	○	○	○
		TXD1 (出力)/ SMOSI1 (入出力)/ SSDA1 (入出力)	P16	○	○	○	○	○	○
			P26	○	○	○	○	○	○
		SCK1 (入出力)	P17	○	○	○	○	○	○
			P27	○	○	○	○	○	○
	CTS1# (入力)/ RTS1# (出力)/SS1# (入力)	P14	○	○	○	○	○	×	
		P31	○	○	○	○	○	○	
	SCI5	RXD5 (入力)/ SMISO5 (入出力)/ SSCL5 (入出力)	PA2	○	×	×	×	×	×
			PA3	○	○	○	○	○	○
			PC2	○	○	×	○	×	×
		TXD5 (出力)/ SMOSI5 (入出力)/ SSDA5 (入出力)	PA4	○	○	○	○	○	○
			PC3	○	○	×	○	×	×
		SCK5 (入出力)	PA1	○	○	○	○	○	○
	PC4		○	○	○	○	○	○	
	CTS5# (入力)/ RTS5# (出力)/SS5# (入力)	PA6	○	○	○	○	○	×	
	SCI6	RXD6 (入力)/ SMISO6 (入出力)/ SSCL6 (入出力)	PB0	○	○	○	×	×	×
			PD1	○	×	×	×	×	×

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (5/8)

モジュール/機能	チャネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品			
				パッケージ			パッケージ			
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン	
シリアルコミュニケーションインタフェース	SCI6	TXD6 (出力)/ SMOSI6 (入出力)/ SSDA6 (入出力)	P32	○	○	×	×	×	×	
			PB1	○	○	○	×	×	×	
			PD0	○	×	×	×	×	×	
		SCK6 (入出力)	P34	○	×	×	×	×	×	
			PB3	○	○	○	×	×	×	
			PD2	○	×	×	×	×	×	
	CTS6# (入力)/ RTS6# (出力)/SS6# (入力)	PB2	○	×	×	×	×	×		
	SCI8	RXD8 (入力)/ SMISO8 (入出力)/ SSCL8 (入出力)	PC6	○	○	○	×	×	×	
			TXD8 (出力)/ SMOSI8 (入出力)/ SSDA8 (入出力)	PC7	○	○	○	×	×	×
			SCK8 (入出力)	PC5	○	○	○	×	×	×
			CTS8# (入力)/ RTS8# (出力)/SS8# (入力)	PC4	○	○	○	×	×	×
	SCI9	RXD9 (入力)/ SMISO9 (入出力)/ SSCL9 (入出力)	PB6	○	○	×	×	×	×	
			TXD9 (出力)/ SMOSI9 (入出力)/ SSDA9 (入出力)	PB7	○	○	×	×	×	×
			SCK9 (入出力)	PB5	○	○	×	×	×	×
			CTS9# (入力)/ RTS9# (出力)/SS9# (入力)	PB4	○	○	×	×	×	×
	SCI12	RXD12 (入力)/ SMISO12 (入出力)/ SSCL12 (入出力)/ RXDX12 (入力)	PE2	○	○	○ (ただし、 SMIS O12 機能 はあ りま せん)	○	○ (た だ し、 SMIS O12 機 能 は あ り ま せ ん)	○ (た だ し、 SMIS O12 機 能 は あ り ま せ ん)	
TXD12 (出力)/ SMOSI12 (入出力)/ SSDA12 (入出力)/ SIOX12 (入出力)/ TXDX12 (出力)			PE1	○	○	○ (た だ し、 SMO SI12 機 能 は あ り ま せ ん)	○	○ (た だ し、 SMO SI12 機 能 は あ り ま せ ん)	○ (た だ し、 SMO SI12 機 能 は あ り ま せ ん)	
SCK12 (入出力)		PE0	○	○	×	○	×	×		

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (6/8)

モジュール/機能	チャンネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
シリアルコミュニケーションインターフェース	SCI12	CTS12# (入力)/ RTS12# (出力)/ SS12# (入力)	PE3	○	○	○ (ただし、 SS12 #機能は ありません)	○	○ (ただし、 SS12 #機能は ありません)	○ (ただし、 SS12 #機能は ありません)
				○	○	○	○	○	○
I ² Cバスインターフェース	RIIC0	SCL0 (入出力)	P12	○	×	×	×	×	×
			P16	○	○	○	○	○	○
		SDA0 (入出力)	P13	○	×	×	×	×	×
			P17	○	○	○	○	○	○
シリアルペリフェラル インターフェース	RSPIO	RSPCKA (入出力)	PA5	○	×	×	×	×	×
			PB0	○	○	○	○	○	○
			PC5	○	○	○	○	○	○
		MOSIA (入出力)	P16	○	○	○	○	○	○
			PA6	○	○	○	○	○	×
			PC6	○	○	○	○	○	○
		MISOA (入出力)	P17	○	○	○	○	○	○
			PC7	○	○	○	○	○	○
		SSLA0 (入出力)	PA4	○	○	○	○	○	○
			PC4	○	○	○	○	○	○
		SSLA1 (出力)	PA0	○	○	×	○	×	×
		SSLA2 (出力)	PA1	○	○	○	○	○	○
		SSLA3 (出力)	PA2	○	×	×	×	×	×
			PC2	○	○	×	○	×	×
リアルタイムクロック	RTCOUT (出力)	P16	○	○	○	○	○	○	
		P32	○	○	×	○	×	×	
ローパワータイマ	LPT	LPTO (出力)	P26	○	○	○	○	○	○
			PB3	○	○	○	○	○	×
			PC7	○	○	○	○	○	○
CANモジュール	RSCAN0	CTXD0 (出力)	P14	○	○	○	×	×	×
			P54	○	○	×	×	×	×
		CRXD0 (入力)	P15	○	○	○	×	×	×
			P55	○	○	×	×	×	×
12ビットA/Dコンバータ		AN000 (入力) (注1)	P40	○	○	○	○	○	○
		AN001 (入力) (注1)	P41	○	○	○	○	○	○
		AN002 (入力) (注1)	P42	○	○	○	○	○	○
		AN003 (入力) (注1)	P43	○	○	×	○	×	×
		AN004 (入力) (注1)	P44	○	○	×	○	×	×
		AN005 (入力) (注1)	P45	○	○	○	○	○	×
		AN006 (入力) (注1)	P46	○	○	○	○	○	×
		AN007 (入力) (注1)	P47	○	○	○	○	○	×

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (7/8)

モジュール/機能	チャンネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
12ビットA/Dコンバータ		AN016 (入力)(注1)	PE0	○	○	×	○	×	×
		AN017 (入力)(注1)	PE1	○	○	○	○	○	○
		AN018 (入力)(注1)	PE2	○	○	○	○	○	○
		AN019 (入力)(注1)	PE3	○	○	○	○	○	○
		AN020 (入力)(注1)	PE4	○	○	○	○	○	○
		AN021 (入力)(注1)	PE5	○	○	×	○	×	×
		AN024 (入力)(注1)	PD0	○	×	×	×	×	×
		AN025 (入力)(注1)	PD1	○	×	×	×	×	×
		AN026 (入力)(注1)	PD2	○	×	×	×	×	×
		ADTRG0# (入力)	P07	○	×	×	×	×	×
		P16	○	○	○	○	○	○	
D/Aコンバータ		DA0 (出力)(注1)	P03	○	○	×	○	×	×
		DA1 (出力)(注1)	P05	○	○	×	○	×	×
クロック周波数制度測定回路		CACREF (入力)	PA0	○	○	×	○	×	×
			PC7	○	○	○	○	○	○
			PH0	○	○	○	○	○	×
LVD 電圧検出入力		CMPA2 (入力)(注1)	PE4	○	○	○	○	○	
コンパレータB		CMPB0 (入力)(注1)	PE1	○	○	○	○	○	○
		CVREFB0 (入力) (注1)	PE2	○	○	○	○	○	○
		CMPOB0 (出力)	PE5	○	○	×	○	×	×
		CMPB1 (入力)(注1)	PA3	○	○	○	○	○	○
		CVREFB1 (入力) (注1)	PA4	○	○	○	○	○	○
	CMPOB1 (出力)	PB1	○	○	○	○	○	×	
CTSU		TS0 (入出力)	P32	○	○	×	×	×	×
		TS1 (入出力)	P31	○	○	○	×	×	×
		TS2 (入出力)	P30	○	○	○	×	×	×
		TS3 (入出力)	P27	○	○	○	○	○	○
		TS4 (入出力)	P26	○	○	○	○	○	○
		TS5 (入出力)	P15	○	○	○	×	×	×
		TS6 (入出力)	P14	○	○	○	×	×	×
		TS7 (入出力)	PH3	○	○	○	×	×	×
		TS8 (入出力)	PH2	○	○	○	×	×	×
		TS9 (入出力)	PH1	○	○	○	×	×	×
		TS10 (入出力)	PH0	○	○	○	×	×	×
		TS11 (入出力)	P55	○	○	×	×	×	×
		TS12 (入出力)	P54	○	○	×	×	×	×
		TS13 (入出力)	PC7	○	○	○	○	○	○
		TS14 (入出力)	PC6	○	○	○	○	○	○
		TS15 (入出力)	PC5	○	○	○	○	○	○
		TS16 (入出力)	PC3	○	○	×	×	×	×
	TS17 (入出力)	PC2	○	○	×	×	×	×	

表 19.1 マルチプル端子の割り当て端子一覧 (8/8)

モジュール/機能	チャネル	端子機能	割り当てポート	ROM容量が 128Kバイト以上の製品			ROM容量が 64Kバイトの製品		
				パッケージ			パッケージ		
				80 ピン	64 ピン	48 ピン	64 ピン	48 ピン	32 ピン
CTSU		TS18 (入出力)	PB7	○	○	×	×	×	×
		TS19 (入出力)	PB6	○	○	×	×	×	×
		TS20 (入出力)	PB5	○	○	○	×	×	×
		TS21 (入出力)	PB4	○	×	×	×	×	×
		TS22 (入出力)	PB3	○	○	○	×	×	×
		TS23 (入出力)	PB2	○	×	×	×	×	×
		TS24 (入出力)	PB1	○	○	○	×	×	×
		TS25 (入出力)	PB0	○	○	○	○	○	○
		TS26 (入出力)	PA6	○	○	○	×	×	×
		TS27 (入出力)	PA5	○	×	×	×	×	×
		TS28 (入出力)	PA4	○	○	○	○	○	○
		TS29 (入出力)	PA3	○	○	○	○	○	○
		TS30 (入出力)	PA2	○	×	×	×	×	×
		TS31 (入出力)	PA1	○	○	○	○	○	○
		TS32 (入出力)	PA0	○	○	×	×	×	×
		TS33 (入出力)	PE4	○	○	○	○	○	○
		TS34 (入出力)	PE3	○	○	○	○	○	○
	TS35 (入出力)	PE2	○	○	○	○	○	○	
	TSCAP (—)	PC4	○	○	○	○	○	○	

注1. この端子機能を使用する場合は、該当端子の設定を汎用入力にしてください(PORT.PDR.BmビットおよびPORT.PMR.Bmビットを“0”にする)。

19.2 レジスタの説明

パッケージの違いにより、端子がないレジスタ、ビットは予約です。該当するビットに値を書く場合は、リセット後の値を書いてください。

19.2.1 書き込みプロテクトレジスタ (PWPR)

アドレス 0008 C11Fh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
BOWI	PFSWE	—	—	—	—	—	—

リセット後の値 1 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	PFSWE	PFSレジスタ書き込み許可ビット	0 : PFSレジスタへの書き込みを禁止 1 : PFSレジスタへの書き込みを許可	R/W
b7	BOWI	PFSWEビット書き込み禁止ビット	0 : PFSWEビットへの書き込みを許可 1 : PFSWEビットへの書き込みを禁止	R/W

PFSWE ビット (PFS レジスタ書き込み許可ビット)

PFSWE ビットを“1”にしたときのみ、PmnPFS レジスタに対する書き込みが許可されます。

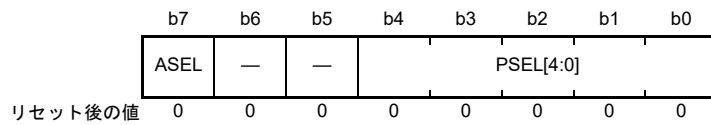
PFSWE ビットを設定する場合は、BOWI ビットに“0”を書いた後、PFSWE ビットを設定してください。

BOWI ビット (PFSWE ビット書き込み禁止ビット)

BOWI ビットを“0”にしたときのみ、PFSWE ビットに対する書き込みが許可されます。

19.2.2 P0n 端子機能制御レジスタ (P0nPFS) (n = 3, 5, 7)

アドレス P03PFS 0008 C143h, P05PFS 0008 C145h, P07PFS 0008 C147h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する P03 : DA0 (80/64ピン) P05 : DA1 (80/64ピン)	R/W

Pmn 端子機能制御レジスタ (PmnPFS) は、端子の機能を選択します。

PSEL[4:0] ビットで端子に割り付ける周辺機能を設定します。

ISEL ビットは、IRQ 入力端子として使用する場合に設定します。周辺機能と組み合わせても使用できます。ただし、同じ番号の IRQn (外部端子割り込み) を2つ以上の端子で許可することは禁止です。

ASEL ビットは、端子をアナログ端子として使用する場合に設定します。ASEL ビットでアナログ端子として設定する場合、ポートモードレジスタ (PORTm.PMR) で汎用入出力ポートを選択し、ポート方向レジスタ (PORTm.PDR) で入力としてください。このとき、端子状態を読むことはできません。PmnPFS レジスタは書き込みプロテクトレジスタ (PWPR) によってプロテクトされています。書き換える場合にはプロテクトを解除してから行ってください。

IRQn 機能のない端子の ISEL ビットは予約です。アナログ入出力機能のない端子の ASEL ビットは予約です。

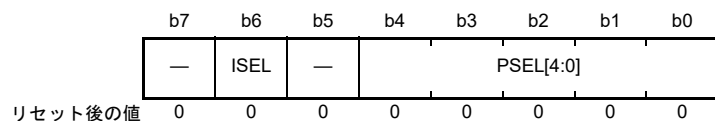
表 19.2 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子		
	P03	P05	P07
00000b (初期値)		Hi-Z	
01001b	—	—	ADTRG0#

— : 設定しないでください。

19.2.3 P1n 端子機能制御レジスタ (P1nPFS) (n = 2 ~ 7)

アドレス P12PFS 0008 C14Ah, P13PFS 0008 C14Bh, P14PFS 0008 C14Ch, P15PFS 0008 C14Dh,
P16PFS 0008 C14Eh, P17PFS 0008 C14Fh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する P12 : IRQ2 (80ピン) P13 : IRQ3 (80ピン) P14 : IRQ4 (80/64/48ピン) P15 : IRQ5 (80/64/48ピン) P16 : IRQ6 (80/64/48/32ピン) P17 : IRQ7 (80/64/48/32ピン)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

表 19.3 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子					
	P12	P13	P14	P15	P16	P17
00000b (初期値)	Hi-Z					
00001b	—	MTIOC0B	MTIOC3A	MTIOC0B	MTIOC3C	MTIOC3A
00010b	—	—	MTCLKA	MTCLKB	MTIOC3D	MTIOC3B
00101b	TMC1	TMO3	TMRI2	TMC2	TMO2	TMO1
00111b	—	—	—	—	RTCOUT	POE8#
01001b	—	—	—	—	ADTRG0#	—
01010b	—	—	—	RXD1 SMISO1 SSCL1	TXD1 SMOSI1 SSDA1	SCK1
01011b	—	—	CTS1# RTS1# SS1#	—	—	—
01101b	—	—	—	—	MOSIA	MISOA
01111b	SCL0	SDA0	—	—	SCL0	SDA0
10000b	—	—	CTXD0	CRXD0	—	—
11001b	—	—	TS6	TS5	—	—

— : 設定しないでください。

表 19.4 64ピン、48ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	P14	P15	P16	P17
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC3A	MTIOC0B	MTIOC3C	MTIOC3A
00010b	MTCLKA	MTCLKB	MTIOC3D	MTIOC3B
00101b	TMRI2	TMCI2	TMO2	TMO1
00111b	—	—	RTCOUT	POE8#
01001b	—	—	ADTRG0#	—
01010b	—	RXD1 SMISO1 SSCL1	TXD1 SMOSI1 SSDA1	SCK1
01011b	CTS1# RTS1# SS1#	—	—	—
01101b	—	—	MOSIA	MISOA
01111b	—	—	SCL0	SDA0
10000b	CTXD0	CRXD0	—	—
11001b	TS6	TS5	—	—

— : 設定しないでください。

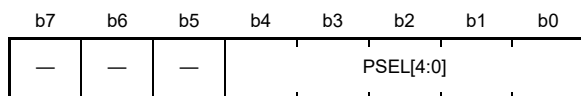
表 19.5 32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子	
	P16	P17
00000b (初期値)	Hi-Z	
00001b	MTIOC3C	MTIOC3A
00010b	MTIOC3D	MTIOC3B
00101b	TMO2	TMO1
00111b	RTCOUT	POE8#
01001b	ADTRG0#	—
01010b	TXD1 SMOSI1 SSDA1	SCK1
01101b	MOSIA	MISOA
01111b	SCL0	SDA0

— : 設定しないでください。

19.2.4 P2n 端子機能制御レジスタ (P2nPFS) (n = 0, 1, 6, 7)

アドレス P20PFS 0008 C150h, P21PFS 0008 C151h, P26PFS 0008 C156h, P27PFS 0008 C157h



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

表 19.6 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	P20	P21	P26	P27
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC1A	MTIOC1B	MTIOC2A	MTIOC2B
00101b	TMRI0	TMCIO	TMO1	TMCI3
01010b	—	—	TXD1 SMOS11 SSDA1	SCK1
11001b	—	—	TS4	TS3
11011b	—	—	LPTO	—

—：設定しないでください。

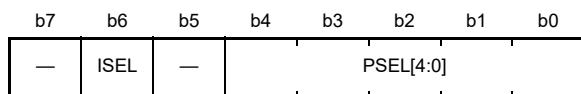
表 19.7 64ピン、48ピン、32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子	
	P26	P27
00000b (初期値)	Hi-Z	
00001b	MTIOC2A	MTIOC2B
00101b	TMO1	TMCI3
01010b	TXD1 SMOS11 SSDA1	SCK1
11001b	TS4	TS3
11011b	LPTO	—

—：設定しないでください。

19.2.5 P3n 端子機能制御レジスタ (P3nPFS) (n = 0 ~ 2, 4, 6, 7)

アドレス P30PFS 0008 C158h, P31PFS 0008 C159h, P32PFS 0008 C15Ah, P34PFS 0008 C15Ch, P36PFS 0008 C15Eh, P37PFS 0008 C15Fh



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する P30 : IRQ0 (80/64/48/32ピン) P31 : IRQ1 (80/64/48/32ピン) P32 : IRQ2 (80/64ピン) P34 : IRQ4 (80ピン) P36 : IRQ2 (80/64/48/32ピン) P37 : IRQ4 (80/64/48ピン)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

表 19.8 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	P30	P31	P32	P34
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC4B	MTIOC4D	MTIOC0C	MTIOC0A
00101b	TMRI3	TMCI2	TMO3	TMCI3
00111b	POE8#	—	RTCOUT	POE2#
01010b	RXD1 SMISO1 SSCL1	—	—	—
01011b	—	CTS1# RTS1# SS1#	TXD6 SMOSI6 SSDA6	SCK6
11001b	TS2	TS1	TS0	—

— : 設定しないでください。

表 19.9 64ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子		
	P30	P31	P32
00000b (初期値)	Hi-Z		
00001b	MTIOC4B	MTIOC4D	MTIOC0C
00101b	TMRI3	TMCI2	TMO3
00111b	POE8#	—	RTCOUT
01010b	RXD1 SMISO1 SSCL1	—	—
01011b	—	CTS1# RTS1# SS1#	TXD6 SMOSI6 SSDA6
11001b	TS2	TS1	TS0

— : 設定しないでください。

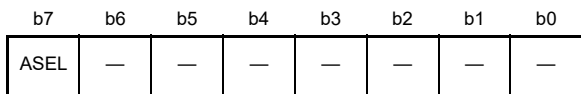
表 19.10 48、32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子	
	P30	P31
00000b (初期値)	Hi-Z	
00001b	MTIOC4B	MTIOC4D
00101b	TMRI3	TMCI2
00111b	POE8#	—
01010b	RXD1 SMISO1 SSCL1	—
01011b	—	CTS1# RTS1# SS1#
11001b	TS2	TS1

— : 設定しないでください。

19.2.6 P4n 端子機能制御レジスタ (P4nPFS) (n = 0 ~ 7)

アドレス P40PFS 0008 C160h, P41PFS 0008 C161h, P42PFS 0008 C162h, P43PFS 0008 C163h, P44PFS 0008 C164h, P45PFS 0008 C165h, P46PFS 0008 C166h, P47PFS 0008 C167h

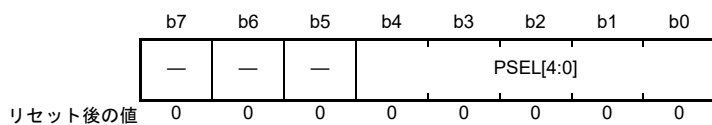


リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する P40 : AN000 (80/64/48/32 ピン) P41 : AN001 (80/64/48/32 ピン) P42 : AN002 (80/64/48/32 ピン) P43 : AN003 (80/64 ピン) P44 : AN004 (80/64 ピン) P45 : AN005 (80/64/48 ピン) P46 : AN006 (80/64/48 ピン) P47 : AN007 (80/64/48 ピン)	R/W

19.2.7 P5n 端子機能制御レジスタ (P5nPFS) (n = 4, 5)

アドレス P54PFS 0008 C16Ch, P55PFS 0008 C16Dh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

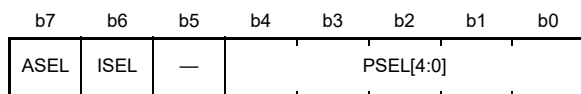
表 19.11 80ピン、64ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子	
	P54	P55
00000b (初期値)	Hi-Z	
00001b	MTIOC4B	MTIOC4D
00010b	—	MTIOC4A
00101b	TMCI1	TMO3
10000b	CTXD0	CRXD0
11001b	TS12	TS11

— : 設定しないでください。

19.2.8 PAn 端子機能制御レジスタ (PAnPFS) (n = 0 ~ 6)

アドレス PA0PFS 0008 C190h, PA1PFS 0008 C191h, PA2PFS 0008 C192h, PA3PFS 0008 C193h,
PA4PFS 0008 C194h, PA5PFS 0008 C195h, PA6PFS 0008 C196h



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する PA3 : IRQ6 (80/64/48/32ピン) PA4 : IRQ5 (80/64/48/32ピン)	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する PA3 : CMPB1 (80/64/48/32ピン) PA4 : CVREFB1 (80/64/48/32ピン)	R/W

表 19.12 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子						
	PA0	PA1	PA2	PA3	PA4	PA5	PA6
00000b (初期値)	Hi-Z						
00001b	MTIOC4A	MTIOC0B	—	MTIOC0D	MTIC5U	—	MTIC5V
00010b	—	MTCLKC	—	MTCLKD	MTCLKA	—	MTCLKB
00011b	—	MTIOC3B	—	MTIOC4D	MTIOC4C	—	MTIOC3D
00100b	—	—	—	MTIC5V	—	—	—
00101b	—	—	—	—	TMRI0	—	TMCI3
00111b	CACREF	—	—	—	—	—	POE2#
01010b	—	SCK5	RXD5 SMISO5 SSCL5	RXD5 SMISO5 SSCL5	TXD5 SMOSI5 SSDA5	—	—
01011b	—	—	—	—	—	—	CTS5# RTS5# SS5#
01101b	SSLA1	SSLA2	SSLA3	—	SSLA0	RSPCKA	MOSIA
11001b	TS32	TS31	TS30	TS29	TS28	TS27	TS26

— : 設定しないでください。

表 19.13 64ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子				
	PA0	PA1	PA3	PA4	PA6
00000b (初期値)	Hi-Z				
00001b	MTIOC4A	MTIOC0B	MTIOC0D	MTIC5U	MTIC5V
00010b	—	MTCLKC	MTCLKD	MTCLKA	MTCLKB
00011b	—	MTIOC3B	MTIOC4D	MTIOC4C	MTIOC3D
00100b	—	—	MTIC5V	—	—
00101b	—	—	—	TMRI0	TMCI3
00111b	CACREF	—	—	—	POE2#
01010b	—	SCK5	RXD5 SMISO5 SSCL5	TXD5 SMOSI5 SSDA5	—
01011b	—	—	—	—	CTS5# RTS5# SS5#
01101b	SSLA1	SSLA2	—	SSLA0	MOSIA
11001b	TS32	TS31	TS29	TS28	TS26

— : 設定しないでください。

表 19.14 48ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	PA1	PA3	PA4	PA6
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC0B	MTIOC0D	MTIC5U	MTIC5V
00010b	MTCLKC	MTCLKD	MTCLKA	MTCLKB
00011b	MTIOC3B	MTIOC4D	MTIOC4C	MTIOC3D
00100b	—	MTIC5V	—	—
00101b	—	—	TMRI0	TMCI3
00111b	—	—	—	POE2#
01010b	SCK5	RXD5 SMISO5 SSCL5	TXD5 SMOSI5 SSDA5	—
01011b	—	—	—	CTS5# RTS5# SS5#
01101b	SSLA2	—	SSLA0	MOSIA
11001b	TS31	TS29	TS28	TS26

— : 設定しないでください。

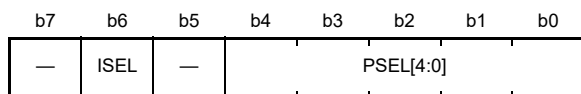
表 19.15 32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子		
	PA1	PA3	PA4
00000b (初期値)	Hi-Z		
00001b	MTIOC0B	MTIOC0D	MTIC5U
00010b	MTCLKC	MTCLKD	MTCLKA
00011b	MTIOC3B	MTIOC4D	MTIOC4C
00100b	—	MTIC5V	—
00101b	—	—	TMRI0
01010b	SCK5	RXD5 SMISO5 SSCL5	TXD5 SMOSI5 SSDA5
01101b	SSLA2	—	SSLA0
11001b	TS31	TS29	TS28

— : 設定しないでください。

19.2.9 PBn 端子機能制御レジスタ (PBnPFS) (n = 0 ~ 7)

アドレス PB0PFS 0008 C198h, PB1PFS 0008 C199h, PB2PFS 0008 C19Ah, PB3PFS 0008 C19Bh, PB4PFS 0008 C19Ch, PB5PFS 0008 C19Dh, PB6PFS 0008 C19Eh, PB7PFS 0008 C19Fh



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する PB1 : IRQ4 (80/64/48ピン)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

表 19.16 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子							
	PB0	PB1	PB2	PB3	PB4	PB5	PB6	PB7
00000b (初期値)	Hi-Z							
00001b	MTIC5W	MTIOC0C	—	MTIOC0A	—	MTIOC2A	MTIOC3D	MTIOC3B
00010b	MTIOC3D	MTIOC4C	—	MTIOC4A	—	MTIOC1B	—	—
00101b	—	TMCIO	—	TMO0	—	TMRI1	—	—
00111b	—	—	—	POE3#	—	POE1#	—	—
01010b	—	—	—	—	—	SCK9	RXD9 SMISO9 SSCL9	TXD9 SMOSI9 SSDA9
01011b	RXD6 SMISO6 SSCL6	TXD6 SMOSI6 SSDA6	CTS6# RTS6# SS6#	SCK6	CTS9# RTS9# SS9#	—	—	—
01101b	RSPCKA	—	—	—	—	—	—	—
10000b	—	CMPOB1	—	—	—	—	—	—
11001b	TS25	TS24	TS23	TS22	TS21	TS20	TS19	TS18
11011b	—	—	—	LPTO	—	—	—	—

— : 設定しないでください。

表 19.17 64ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子					
	PB0	PB1	PB3	PB5	PB6	PB7
00000b (初期値)	Hi-Z					
00001b	MTIC5W	MTIOC0C	MTIOC0A	MTIOC2A	MTIOC3D	MTIOC3B
00010b	MTIOC3D	MTIOC4C	MTIOC4A	MTIOC1B	—	—
00101b	—	TMCIO	TMO0	TMR1	—	—
00111b	—	—	POE3#	POE1#	—	—
01010b	—	—	—	SCK9	RXD9 SMISO9 SSCL9	TXD9 SMOSI9 SSDA9
01011b	RXD6 SMISO6 SSCL6	TXD6 SMOSI6 SSDA6	SCK6	—	—	—
01101b	RSPCKA	—	—	—	—	—
10000b	—	CMPOB1	—	—	—	—
11001b	TS25	TS24	TS22	TS20	TS19	TS18
11011b	—	—	LPTO	—	—	—

— : 設定しないでください。

表 19.18 48ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	PB0	PB1	PB3	PB5
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIC5W	MTIOC0C	MTIOC0A	MTIOC2A
00010b	MTIOC3D	MTIOC4C	MTIOC4A	MTIOC1B
00101b	—	TMCIO	TMO0	TMR1
00111b	—	—	POE3#	POE1#
01011b	RXD6 SMISO6 SSCL6	TXD6 SMOSI6 SSDA6	SCK6	—
01101b	RSPCKA	—	—	—
10000b	—	CMPOB1	—	—
11001b	TS25	TS24	TS22	TS20
11011b	—	—	LPTO	—

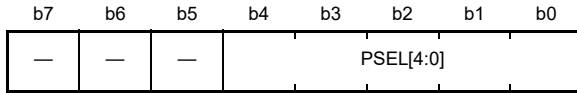
— : 設定しないでください。

表 19.19 32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子
	PB0
00000b (初期値)	Hi-Z
00001b	MTIC5W
00010b	MTIOC3D
01011b	RXD6 SMISO6 SSCL6
01101b	RSPCKA
11001b	TS25

19.2.10 PCn 端子機能制御レジスタ (PCnPFS) (n = 2 ~ 7)

アドレス PC2PFS 0008 C1A2h, PC3PFS 0008 C1A3h, PC4PFS 0008 C1A4h, PC5PFS 0008 C1A5h, PC6PFS 0008 C1A6h, PC7PFS 0008 C1A7h



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

表 19.20 80ピン、64ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子					
	PC2	PC3	PC4	PC5	PC6	PC7
00000b (初期値)	Hi-Z					
00001b	MTIOC4B	MTIOC4D	MTIOC3D	MTIOC3B	MTIOC3C	MTIOC3A
00010b	—	—	MTCLKC	MTCLKD	MTCLKA	MTCLKB
00011b	—	—	MTIOC0A	MTIOC0C	—	—
00101b	—	—	TMCI1	TMRI2	TMCI2	TMO2
00111b	—	—	POE0#	—	—	CACREF
01010b	RXD5 SMISO5 SSCL5	TXD5 SMOSI5 SSDA5	SCK5	SCK8	RXD8 SMISO8 SSCL8	TXD8 SMOSI8 SSDA8
01011b	—	—	CTS8# RTS8# SS8#	—	—	—
01101b	SSLA3	—	SSLA0	RSPCKA	MOSIA	MISOA
11001b	TS17	TS16	TSCAP	TS15	TS14	TS13
11011b	—	—	—	—	—	LPTO

— : 設定しないでください。

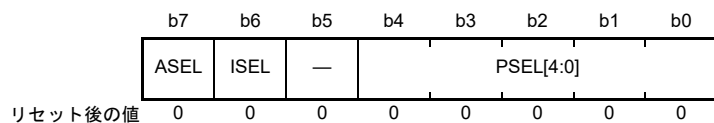
表 19.21 48ピン、32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	PC4	PC5	PC6	PC7
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC3D	MTIOC3B	MTIOC3C	MTIOC3A
00010b	MTCLKC	MTCLKD	MTCLKA	MTCLKB
00011b	MTIOC0A	MTIOC0C	—	—
00101b	TMCI1	TMRI2	TMCI2	TMO2
00111b	POE0#	—	—	CACREF
01010b	SCK5	SCK8	RXD8 SMISO8 SSCL8	TXD8 SMOSI8 SSDA8
01011b	CTS8# RTS8# SS8#	—	—	—
01101b	SSLA0	RSPCKA	MOSIA	MISOA
11001b	TSCAP	TS15	TS14	TS13
11011b	—	—	—	LPTO

— : 設定しないでください。

19.2.11 PDn 端子機能制御レジスタ (PDnPFS) (n = 0 ~ 2)

アドレス PD0PFS 0008 C1A8h, PD1PFS 0008 C1A9h, PD2PFS 0008 C1AAh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する PD0 : IRQ0 (80ピン) PD1 : IRQ1 (80ピン) PD2 : IRQ2 (80ピン)	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する PD0 : AN024 (80ピン) PD1 : AN025 (80ピン) PD2 : AN026 (80ピン)	R/W

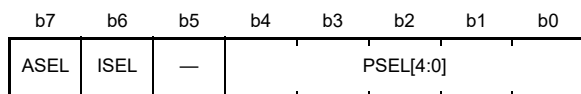
表 19.22 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子		
	PD0	PD1	PD2
00000b (初期値)	Hi-Z		
00001b	—	MTIOC4B	MTIOC4D
01011b	TXD6 SMOSI6 SSDA6	RXD6 SMISO6 SSCL6	SCK6

— : 設定しないでください。

19.2.12 PEn 端子機能制御レジスタ (PEnPFS) (n = 0 ~ 5)

アドレス PE0PFS 0008 C1B0h, PE1PFS 0008 C1B1h, PE2PFS 0008 C1B2h, PE3PFS 0008 C1B3h, PE4PFS 0008 C1B4h, PE5PFS 0008 C1B5h



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn 入力端子として使用しない 1 : IRQn 入力端子として使用する PE2 : IRQ7 (80/64/48/32 ピン) PE5 : IRQ5 (80/64 ピン)	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する PE0 : AN016 (80/64 ピン) PE1 : AN017, CMPB0 (80/64/48/32 ピン) PE2 : AN018, CVREFB0 (80/64/48/32 ピン) PE3 : AN019 (80/64/48/32 ピン) PE4 : AN020, CMPA2 (80/64/48/32 ピン) PE5 : AN021 (80/64 ピン)	R/W

表 19.23 80 ピン、64 ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子					
	PE0	PE1	PE2	PE3	PE4	PE5
00000b (初期値)	Hi-Z					
00001b	—	MTIOC4C	MTIOC4A	MTIOC4B	MTIOC4D	MTIOC4C
00010b	—	—	—	MTIOC1B	MTIOC1A	MTIOC2B
00011b	—	—	—	—	MTIOC4A	—
00111b	—	—	—	POE8#	—	—
01001b	—	—	—	CLKOUT	CLKOUT	—
01100b	SCK12	TXD12 TXDX12 SIOX12 SMOSI12 SSDA12	RXD12 RXDX12 SMISO12 SSCL12	CTS12# RTS12# SS12#	—	—
10000b	—	—	—	—	—	CMPOB0
11001b	—	—	TS35	TS34	TS33	—

— : 設定しないでください。

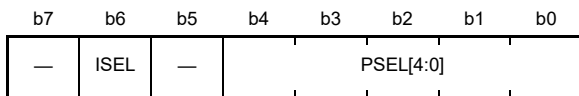
表 19.24 48ピン、32ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	PE1	PE2	PE3	PE4
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC4C	MTIOC4A	MTIOC4B	MTIOC4D
00010b	—	—	MTIOC1B	MTIOC1A
00011b	—	—	—	MTIOC4A
00111b	—	—	POE8#	—
01001b	—	—	CLKOUT	CLKOUT
01100b	TXD12 TXDX12 SIOX12 SSDA12	RXD12 RXDX12 SSCL12	CTS12# RTS12#	—
11001b	—	TS35	TS34	TS33

— : 設定しないでください。

19.2.13 PHn 端子機能制御レジスタ (PHnPFS) (n = 0 ~ 3)

アドレス MPC.PH0PFS 0008 C1C8h, MPC.PH1PFS 0008 C1C9h, MPC.PH2PFS 0008 C1CAh, MPC.PH3PFS 0008 C1CBh



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子入出力機能ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	ISEL	割り込み入力機能選択ビット	0 : IRQn入力端子として使用しない 1 : IRQn入力端子として使用する PH1 : IRQ0 (80/64/48ピン) PH2 : IRQ1 (80/64/48ピン)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

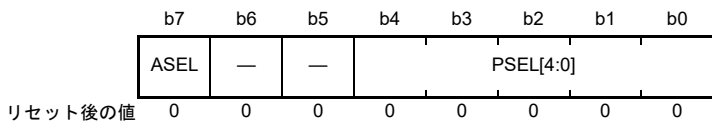
表 19.25 80ピン、64ピン、48ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子			
	PH0	PH1	PH2	PH3
00000b (初期値)	Hi-Z			
00001b	MTIOC3B	MTIOC3D	MTIOC4C	MTIOC4D
00101b	—	TMO0	TMRI0	TMCIO
00111b	CACREF	—	—	—
11001b	TS10	TS9	TS8	TS7

— : 設定しないでください。

19.2.14 PJn 端子機能制御レジスタ (PJnPFS) (n = 1, 6, 7)

アドレス MPC.PJ1PFS 0008 C1D1h, MPC.PJ6PFS 0008 C1D6h, MPC.PJ7PFS 0008 C1D7h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	PSEL[4:0]	端子機能選択ビット	周辺機能を選択します。個々の端子機能については、下表を参照してください	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	ASEL	アナログ機能選択ビット	0 : アナログ端子以外に使用する 1 : アナログ端子として使用する PJ6 : VREFH0 (80/64/48ピン) PJ7 : VREFL0 (80/64/48ピン)	R/W

表 19.26 80ピン 端子入出力機能レジスタ設定

PSEL[4:0]ビット 設定値	端子
	PJ1
00000b (初期値)	Hi-Z
00001b	MTIOC3A

19.3 使用上の注意事項

19.3.1 端子入出力機能設定手順

端子入出力機能の設定は下記の手順で行ってください。

1. ポートモードレジスタ (PMR) を“0”にして汎用入出力ポートに設定します。
2. 周辺機能モジュールにおいて、当該端子にアサインする入出力信号を設定します。
3. 書き込みプロテクトレジスタ (PWPR) を設定して、Pmn 端子機能制御レジスタ (PmnPFS) を書き込み有効にします (m = 0 ~ 5, A ~ E, H, J, n = 0 ~ 7)。
4. PmnPFS.PSEL[4:0] ビットにより端子入出力機能を設定します。
5. PWPR.PFSWE ビットを“0”設定し、PmnPFS レジスタへの書き込み禁止してください。
6. 必要に応じて PMR を“1”に設定し、選択された端子入出力機能に切り替えます。

19.3.2 MPC レジスタ設定する場合の注意事項

1. Pmn 端子機能制御レジスタ (PmnPFS) を設定するときは、当該端子の PMR レジスタが“0”の状態を設定してください。PMR レジスタが“1”の状態では PmnPFS レジスタを設定すると、入力機能の場合は意図しないエッジが入力されたり、出力機能の場合は、意図しないパルスが出力されたりする可能性があります。
2. PmnPFS レジスタで設定可能な機能以外に設定しないでください。指定機能以外に設定した場合、動作は保証されません。
3. MPC により同一の機能を複数の端子に割り当てる設定はしないでください。
4. ポート 4、E、D は A/D コンバータのアナログ入力端子の機能も兼ねています。アナログ入力端子として使用する場合は、精度劣化させないために、ポートモードレジスタ (PMR) の当該ビットを“0”、ポート方向レジスタ (PDR) の当該ビットを“0”にして当該端子を汎用入力にし、PmnPFS.ASEL ビットを“1”にしてください。
5. マルチプル端子のポートモードレジスタ (PMR)、ポート方向レジスタ (PDR) と、Pmn 端子機能制御レジスタ (PmnPFS) の設定および注意事項を表 19.27 に示します。

表 19.27 レジスタの設定

項目	PMR.Bn	PDR.Bn	PmnPFS			注意事項
			ASEL	ISEL	PSEL[4:0]	
リセット解除後	0	0	0	0	00000b	リセット解除後は汎用入力ポートとして機能します
汎用入力ポート	0	0	0	0/1	x	割り込み入力と併用する場合は、ISELビットを“1”にしてください
汎用出力ポート	0	1	0	0	x	
周辺機能	1	x	0	0/1	周辺機能 (表 19.2～ 表 19.26参照)	割り込み入力と併用する場合は、ISELビットを“1”にしてください
割り込み入力	0	0	0	1	x	
NMI	x	x	x	x(注1)	x	レジスタの設定は不要です
アナログ入出力	0	0	1	x(注1)	x	出力バッファをOFFにするため、汎用入力ポートに設定してください
CTSUS	1	0	0	0	11001b	PCR.Bn = 0にしてください
EXTAL/XTAL	0	0	x	0	x	出力バッファをOFFするため、汎用入力ポートに設定してください
XCIN/XCOUT	0	0	x	x(注1)	x	出力バッファをOFFするため、汎用入力ポートに設定してください

x : 設定不要

0/1 : PmnPFS.ISEL ビットを“0”にすれば、IRQ 端子として機能しません

PmnPFS.ISEL ビットを“1”にすれば、IRQ 端子として機能します (IRQ がマルチプルされている場合)

注1. PmnPFS.ISEL ビットを“1”にしても、IRQn入力端子として機能しません。

注. 端子状態の読み出しは、PmnPFS.ASEL ビットが“0”のとき可能です。

・PmnPFS.PSEL[4:0] ビットの変更は、PMR.Bn ビットが“0”の状態で行ってください。

・RIIC をアサインしたポートは、PCR.Bn ビットを“0”にしてください (RIIC 以外の周辺機能出力では自動的にプルアップがOFFになります)。

19.3.3 アナログ機能を使う場合の注意事項

アナログ機能を使用するときは、ポートモードレジスタ (PMR) の当該ビットを“0”、ポート方向レジスタ (PDR) の当該ビットを“0”にし、プルアップ制御レジスタ (PCR) の当該ビットを“0”にし、当該端子を汎用入力にしてから、Pmn 端子機能制御レジスタ (PmnPFS) の ASEL ビットを“1”にしてください。

19.3.4 静電容量式タッチセンサ CTSU 機能を使う場合の注意事項

静電容量式タッチセンサ CTSU 機能 (TSn (n = 0 ~ 35) 端子、TSCAP 端子) を使用するときは、ポートモードレジスタ (PMR) の当該ビットを“0”、ポート方向レジスタ (PDR) の当該ビットを“0”、プルアップ制御レジスタ (PCR) の当該ビットを“0”にし、PmnPFS.PSEL[4:0] ビットにより CTSU 機能を選択してから、PMR レジスタを“1”に設定してください。また静電容量式タッチセンサの端子機能を使用するときは、該当ビットの ISEL 設定に関わらず IRQ 入力端子として使用しないでください。

20. マルチファンクションタイマパルスユニット 2 (MTU2a)

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

20.1 概要

本 MCU は、6 チャンネル (MTU0 ~ MTU5) の 16 ビットタイマにより構成されるマルチファンクションタイマパルスユニット 2 (MTU) を内蔵しています。

表 20.1 に MTU の仕様を、表 20.2 に MTU の機能一覧を示します。また、図 20.1 に MTU のブロック図を示します。

表 20.1 MTU の仕様

項目	内容
パルス入出力	最大 16 本
パルス入力	3 本
カウントクロック	チャンネルごとに 8 または 7 種類 (MTU5 は 4 種類)
設定可能動作	<p>【MTU0 ~ MTU4】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンペアマッチによる波形出力 インプットキャプチャ機能 (ノイズフィルタ設定機能) カウンタクリア動作 複数のタイマカウンタ (TCNT) への同時書き込み コンペアマッチ/インプットキャプチャによる同時クリア カウンタの同期動作による各レジスタの同期入出力 同期動作と組み合わせることによる最大 12 相の PWM 出力 <p>【MTU0, MTU3, MTU4】</p> <ul style="list-style-type: none"> バッファ動作を設定可能 相補 PWM、リセット同期 PWM を用いた AC 同期モータ (ブラシレス DC モータ) 駆動モードが設定可能で、2 種類 (チョッピング、レベル) の波形出力が選択可能 <p>【MTU1, MTU2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立に位相計数モードを設定可能 カスケード接続動作 <p>【MTU3, MTU4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連動動作による相補 PWM、リセット同期 PWM 動作で、3 相のポジ、ネガ計 6 相の出力が可能 <p>【MTU5】</p> <ul style="list-style-type: none"> デッドタイム補償用カウンタ機能 インプットキャプチャ機能 (ノイズフィルタ設定可能) カウンタクリア動作
相補 PWM モード	<ul style="list-style-type: none"> カウンタの山、谷での割り込み A/D コンバータの変換スタートトリガを間引き機能
割り込み要因	28 種類
バッファ動作	レジスタデータの自動転送
トリガ生成	A/D コンバータの変換スタートトリガを生成可能
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

表20.2 MTUの機能一覧 (1/2)

項目	MTU0	MTU1	MTU2	MTU3	MTU4	MTU5
カウントクロック	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 MTCLKA MTCLKB MTCLKC MTCLKD	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 PCLK/256 MTCLKA MTCLKB	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 PCLK/1024 MTCLKA MTCLKB MTCLKC	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 PCLK/256 PCLK/1024 MTCLKA MTCLKB	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 PCLK/256 PCLK/1024 MTCLKA MTCLKB	PCLK/1 PCLK/4 PCLK/16 PCLK/64 PCLK/256 PCLK/1024 MTCLKA MTCLKB
位相計数モードの外部クロック	—	MTCLKA MTCLKB	MTCLKC MTCLKD	—	—	—
ジェネラルレジスタ (TGR)	TGRA TGRB TGRE	TGRA TGRB	TGRA TGRB	TGRA TGRB	TGRA TGRB	TGRU TGRV TGRW
ジェネラルレジスタ/ バッファレジスタ	TGRC TGRD TGRF	—	—	TGRC TGRD	TGRC TGRD	—
入出力端子	MTIOC0A MTIOC0B MTIOC0C MTIOC0D	MTIOC1A MTIOC1B	MTIOC2A MTIOC2B	MTIOC3A MTIOC3B MTIOC3C MTIOC3D	MTIOC4A MTIOC4B MTIOC4C MTIOC4D	入力端子 MTIC5U MTIC5V MTIC5W
カウンタクリア機能	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ
コンペア マッチ 出力	Low出力	○	○	○	○	—
	High出力	○	○	○	○	—
	トグル出力	○	○	○	○	—
インプットキャプチャ機能	○	○	○	○	○	○
同期動作	○	○	○	○	○	—
PWMモード1	○	○	○	○	○	—
PWMモード2	○	○	○	—	—	—
相補PWMモード	—	—	—	○	○	—
リセット同期PWM	—	—	—	○	○	—
AC同期モータ駆動モード	○	—	—	○	○	—
位相計数モード	—	○	○	—	—	—
バッファ動作	○	—	—	○	○	—
デッドタイム補償用 カウンタ機能	—	—	—	—	—	○
DTCの起動	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャと TCNT オーバフロー/ アンダフロー	TGRの コンペアマッチ または インプット キャプチャ

表20.2 MTUの機能一覧 (2/2)

項目	MTU0	MTU1	MTU2	MTU3	MTU4	MTU5
A/D変換開始トリガ	TGRAの コンペアマッチ または インプット キャプチャ TGRBの コンペアマッチ または インプット キャプチャ TGREの コンペアマッチ TGRFの コンペアマッチ	TGRAの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRAの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRAの コンペアマッチ または インプット キャプチャ	TGRAの コンペアマッチ または インプット キャプチャ 相補PWM モード時 TCNTの アンダフロー (谷)	—
割り込み要因	7要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 0A ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 0B ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 0C ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 0D ●コンペア マッチ 0E ●コンペア マッチ 0F ●オーバフロー	4要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 1A ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 1B ●オーバフロー ●アンダフロー	4要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 2A ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 2B ●オーバフロー ●アンダフロー	5要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 3A ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 3B ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 3C ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 3D ●オーバフロー	5要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 4A ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 4B ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 4C ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 4D ●オーバフロー/ アンダフロー	3要因 ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 5U ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 5V ●コンペアマッチ /インプット キャプチャ 5W
イベントリンク機能 (出力)	—	4要因 ●コンペアマッチ 1A ●コンペアマッチ 1B ●オーバフロー ●アンダフロー	4要因 ●コンペアマッチ 2A ●コンペアマッチ 2B ●オーバフロー ●アンダフロー	5要因 ●コンペアマッチ 3A ●コンペアマッチ 3B ●コンペアマッチ 3C ●コンペアマッチ 3D ●オーバフロー	6要因 ●コンペアマッチ 4A ●コンペアマッチ 4B ●コンペアマッチ 4C ●コンペアマッチ 4D ●オーバフロー ●アンダフロー	—
イベントリンク機能 (入力)	—	(1) カウント スタート動作 (2) インプット キャプチャ動 作 (TRGAに キャプチャ) (3) カウントリス タート動作	(1) カウント スタート動作 (2) インプット キャプチャ動 作 (TRGAに キャプチャ) (3) カウントリス タート動作	(1) カウント スタート動作 (2) インプット キャプチャ動 作 (TRGAに キャプチャ) (3) カウントリス タート動作	(1) カウント スタート動作 (2) インプット キャプチャ動 作 (TRGAに キャプチャ) (3) カウントリス タート動作	—
A/D変換開始 要求ディレイド機能	—	—	—	—	TADCORAと TCNTの一致で、 A/D変換開始要求 または TADCORBと TCNTの一致で、 A/D変換開始要求	—
割り込み間引き機能	—	—	—	TGRAの コンペアマッチ 割り込みを間引 き	TCIV割り込みを 間引き	—
モジュールストップ	MSTPCRA.MSTPA9(注1)					

○ : 可能

— : 不可能

注1. モジュールストップの詳細については、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

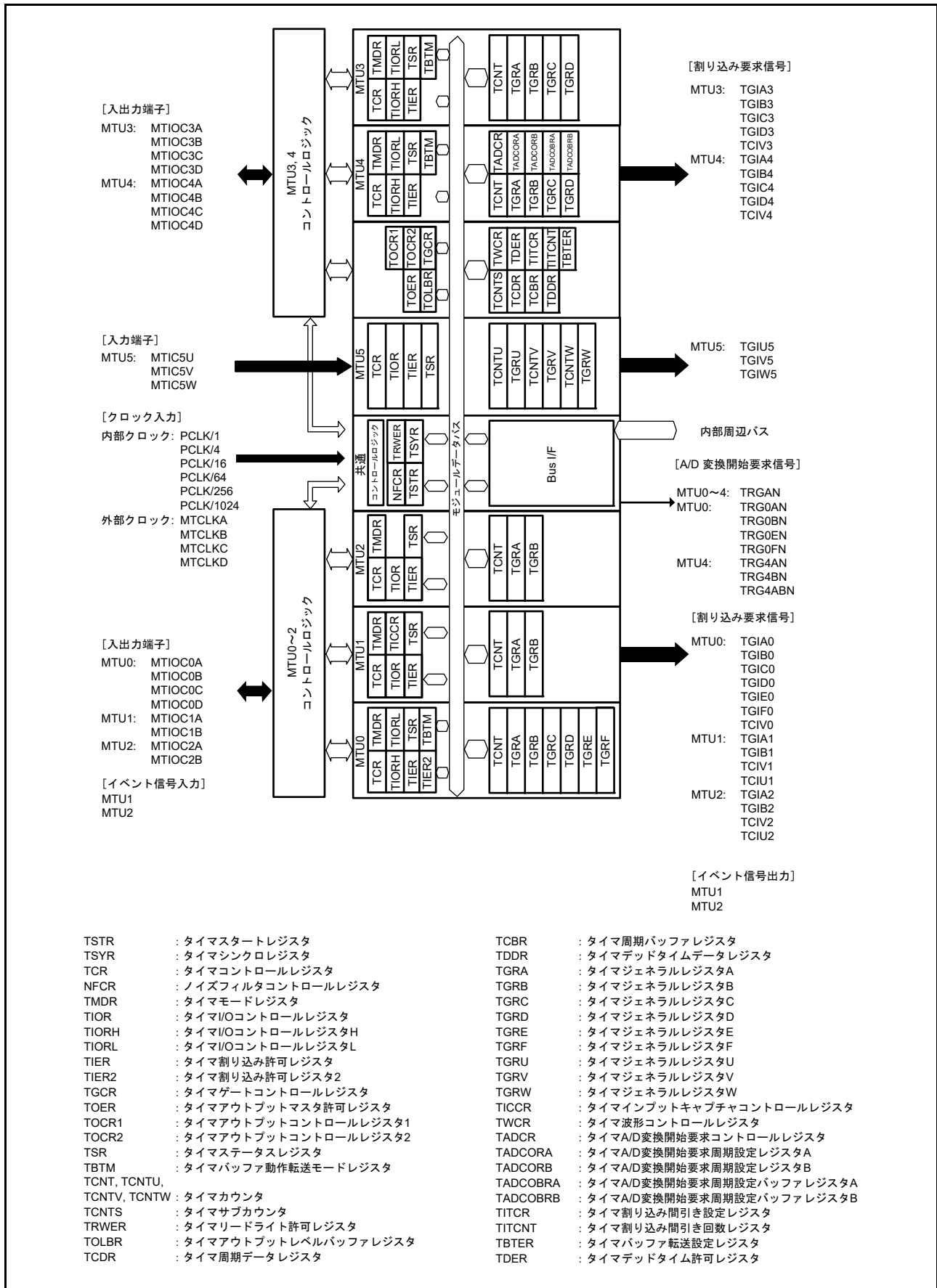


図 20.1 MTU のブロック図

表 20.3 に MTU で使用する入出力端子を示します。

表 20.3 MTUの入出力端子

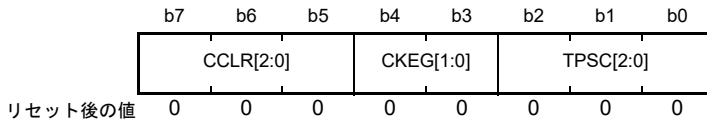
モジュール シンボル	端子名	入出力	機能
MTU	MTCLKA	入力	外部クロックA入力端子 (MTU1の位相計数モードA相入力)
	MTCLKB	入力	外部クロックB入力端子 (MTU1の位相計数モードB相入力)
	MTCLKC	入力	外部クロックC入力端子 (MTU2の位相計数モードA相入力)
	MTCLKD	入力	外部クロックD入力端子 (MTU2の位相計数モードB相入力)
MTU0	MTIOC0A	入出力	MTU0.TGRAのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC0B	入出力	MTU0.TGRBのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC0C	入出力	MTU0.TGRCのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC0D	入出力	MTU0.TGRDのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
MTU1	MTIOC1A	入出力	MTU1.TGRAのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC1B	入出力	MTU1.TGRBのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
MTU2	MTIOC2A	入出力	MTU2.TGRAのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC2B	入出力	MTU2.TGRBのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
MTU3	MTIOC3A	入出力	MTU3.TGRAのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC3B	入出力	MTU3.TGRBのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC3C	入出力	MTU3.TGRCのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC3D	入出力	MTU3.TGRDのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
MTU4	MTIOC4A	入出力	MTU4.TGRAのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC4B	入出力	MTU4.TGRBのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC4C	入出力	MTU4.TGRCのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
	MTIOC4D	入出力	MTU4.TGRDのインプットキャプチャ入力/アウトプットコンペア出力/PWM出力端子
MTU5	MTIC5U	入力	MTU5.TGRUのインプットキャプチャ入力/外部パルス入力端子
	MTIC5V	入力	MTU5.TGRVのインプットキャプチャ入力/外部パルス入力端子
	MTIC5W	入力	MTU5.TGRWのインプットキャプチャ入力/外部パルス入力端子

20.2 レジスタの説明

20.2.1 タイマコントロールレジスタ (TCR)

- MTU0.TCR, MTU1.TCR, MTU2.TCR, MTU3.TCR, MTU4.TCR

アドレス MTU0.TCR 0008 8700h, MTU1.TCR 0008 8780h, MTU2.TCR 0008 8800h, MTU3.TCR 0008 8600h, MTU4.TCR 0008 8601h

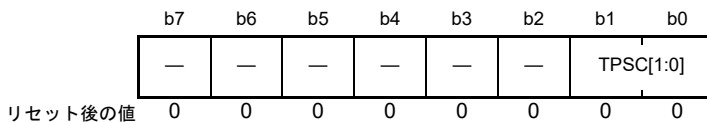


ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	TPSC[2:0]	タイマプリスケーラ選択ビット	表 20.6～表 20.9 を参照してください	R/W
b4-b3	CKEG[1:0]	クロックエッジ選択ビット	b4 b3 0 0 : 立ち上がりエッジでカウント 0 1 : 立ち下がりエッジでカウント 1 x : 両エッジでカウント	R/W
b7-b5	CCLR[2:0]	カウンタクリアビット	表 20.4、表 20.5 を参照してください	R/W

x : Don't care

- MTU5.TCRU, MTU5.TCRV, MTU5.TCRW

アドレス MTU5.TCRU 0008 8884h, MTU5.TCRV 0008 8894h, MTU5.TCRW 0008 88A4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TPSC[1:0]	タイマプリスケーラ選択ビット	表 20.10 を参照してください	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

MTU には、MTU0～MTU4 に各 1 本、MTU5 には TCRU/V/W の 3 本、計 8 本の TCR レジスタがあります。

TCR レジスタは、各チャネルの TCNT カウンタを制御するレジスタです。TCR レジスタの設定は、TCNT カウンタの動作が停止した状態で行ってください。

TPSC[2:0] ビット (タイマプリスケーラ選択ビット)

TCNT カウンタのカウントクロックソースを選択します。各チャネル独立に選択することができます。詳細は表 20.6～表 20.10 を参照してください。

CKEG[1:0] ビット (クロックエッジ選択ビット)

カウントクロックソースのエッジを選択します。内部クロックを両エッジでカウントすると、カウントクロックの周期が 1/2 になります (例: PCLK/4 の両エッジ = PCLK/2 の立ち上がりエッジ)。MTU1、MTU2 で位相計数モードを使用する場合は、本設定は無視され、位相計数モードの設定が優先されます。内部クロックのエッジ選択は、カウントクロックソースが PCLK/4 もしくはそれより遅い場合に有効です。カウントク

ロックソースに PCLK/1、あるいは他のチャンネルのオーバフロー/アンダフローを選択した場合、値は書き込めますが、動作は初期値になります。

CCLR[2:0] ビット (カウンタクリアビット)

TCNT カウンタのカウンタクリア要因を選択します。詳細は表 20.4、表 20.5 を参照してください。

表 20.4 CCLR[2:0] (MTU0, MTU3, MTU4)

チャンネル	ビット7	ビット6	ビット5	説明
	CCLR[2]	CCLR[1]	CCLR[0]	
MTU0	0	0	0	TCNTのクリア禁止
MTU3	0	0	1	TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア
MTU4	0	1	0	TGRBのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア
	0	1	1	同期クリア/同期動作をしている他のチャンネルのカウンタクリアでTCNTをクリア(注1)
	1	0	0	TCNTのクリア禁止
	1	0	1	TGRCのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア(注2)
	1	1	0	TGRDのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア(注2)
	1	1	1	同期クリア/同期動作をしている他のチャンネルのカウンタクリアでTCNTをクリア(注1)

注1. 同期動作の設定は、TSYR.SYNCn (n = 0, 3, 4) ビットを“1”にすることにより行います。

注2. TGRCまたはTGRDをバッファレジスタとして使用している場合は、バッファレジスタの設定が優先され、コンペアマッチ/インプットキャプチャが発生しないため、TCNTカウンタはクリアされません。

表 20.5 CCLR[2:0] (MTU1, MTU2)

チャンネル	ビット7	ビット6	ビット5	説明
	予約ビット(注2)	CCLR[1]	CCLR[0]	
MTU1	0	0	0	TCNTのクリア禁止
MTU2	0	0	1	TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア
	0	1	0	TGRBのコンペアマッチ/インプットキャプチャでTCNTクリア
	0	1	1	同期クリア/同期動作をしている他のチャンネルのカウンタクリアでTCNTをクリア(注1)

注1. 同期動作の設定は、TSYR.SYNCn (n = 1, 2) ビットを“1”にすることにより行います。

注2. MTU1、MTU2ではb7は予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

表 20.6 TPSC[2:0] (MTU0)

チャンネル	ビット2	ビット1	ビット0	説明
	TPSC[2]	TPSC[1]	TPSC[0]	
MTU0	0	0	0	内部クロック：PCLK/1でカウント
	0	0	1	内部クロック：PCLK/4でカウント
	0	1	0	内部クロック：PCLK/16でカウント
	0	1	1	内部クロック：PCLK/64でカウント
	1	0	0	外部クロック：MTCLKA端子入力力でカウント
	1	0	1	外部クロック：MTCLKB端子入力力でカウント
	1	1	0	外部クロック：MTCLKC端子入力力でカウント
	1	1	1	外部クロック：MTCLKD端子入力力でカウント

表20.7 TPSC[2:0] (MTU1)

チャンネル	ビット2	ビット1	ビット0	説明
	TPSC[2]	TPSC[1]	TPSC[0]	
MTU1	0	0	0	内部クロック : PCLK/1でカウント
	0	0	1	内部クロック : PCLK/4でカウント
	0	1	0	内部クロック : PCLK/16でカウント
	0	1	1	内部クロック : PCLK/64でカウント
	1	0	0	外部クロック : MTCLKA 端子入力でカウント
	1	0	1	外部クロック : MTCLKB 端子入力でカウント
	1	1	0	内部クロック : PCLK/256でカウント
	1	1	1	MTU2.TCNTのオーバフロー/アンダフローでカウント

注. MTU1が位相計数モード時、この設定は無効になります。

表20.8 TPSC[2:0] (MTU2)

チャンネル	ビット2	ビット1	ビット0	説明
	TPSC[2]	TPSC[1]	TPSC[0]	
MTU2	0	0	0	内部クロック : PCLK/1でカウント
	0	0	1	内部クロック : PCLK/4でカウント
	0	1	0	内部クロック : PCLK/16でカウント
	0	1	1	内部クロック : PCLK/64でカウント
	1	0	0	外部クロック : MTCLKA 端子入力でカウント
	1	0	1	外部クロック : MTCLKB 端子入力でカウント
	1	1	0	外部クロック : MTCLKC 端子入力でカウント
	1	1	1	内部クロック : PCLK/1024でカウント

注. MTU2が位相計数モード時、この設定は無効になります。

表20.9 TPSC[2:0] (MTU3, MTU4)

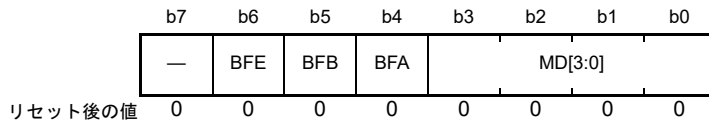
チャンネル	ビット2	ビット1	ビット0	説明
	TPSC[2]	TPSC[1]	TPSC[0]	
MTU3 MTU4	0	0	0	内部クロック : PCLK/1でカウント
	0	0	1	内部クロック : PCLK/4でカウント
	0	1	0	内部クロック : PCLK/16でカウント
	0	1	1	内部クロック : PCLK/64でカウント
	1	0	0	内部クロック : PCLK/256でカウント
	1	0	1	内部クロック : PCLK/1024でカウント
	1	1	0	外部クロック : MTCLKA 端子入力でカウント
	1	1	1	外部クロック : MTCLKB 端子入力でカウント

表20.10 TPSC[1:0] (MTU5)

チャンネル	ビット1	ビット0	説明
	TPSC[1]	TPSC[0]	
MTU5	0	0	内部クロック : PCLK/1でカウント
	0	1	内部クロック : PCLK/4でカウント
	1	0	内部クロック : PCLK/16でカウント
	1	1	内部クロック : PCLK/64でカウント

20.2.2 タイマモードレジスタ (TMDR)

アドレス MTU0.TMDR 0008 8701h, MTU1.TMDR 0008 8781h, MTU2.TMDR 0008 8801h, MTU3.TMDR 0008 8602h,
MTU4.TMDR 0008 8603h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MD[3:0]	モード選択ビット	タイマの動作モードを設定します。表 20.11 を参照してください	R/W
b4	BFA	バッファ動作Aビット	0: TGRAとTGRCレジスタは通常動作 1: TGRAとTGRCレジスタはバッファ動作	R/W
b5	BFB	バッファ動作Bビット	0: TGRBとTGRDレジスタは通常動作 1: TGRBとTGRDレジスタはバッファ動作	R/W
b6	BFE	バッファ動作Eビット	0: MTU0.TGREとMTU0.TGRFレジスタは通常動作 1: MTU0.TGREとMTU0.TGRFレジスタはバッファ動作	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TMDR レジスタは、各チャネルの動作モードを設定するレジスタです。TMDR レジスタの設定は、TCNT カウンタの動作が停止した状態で行ってください。

表 20.11 MD[3:0]ビットによる動作モードの設定

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	MTU0	MTU1	MTU2	MTU3	MTU4
MD[3]	MD[2]	MD[1]	MD[0]						
0	0	0	0	ノーマルモード	○	○	○	○	○
0	0	0	1	設定しないでください					
0	0	1	0	PWMモード1	○	○	○	○	○
0	0	1	1	PWMモード2	○	○	○		
0	1	0	0	位相計数モード1		○	○		
0	1	0	1	位相計数モード2		○	○		
0	1	1	0	位相計数モード3		○	○		
0	1	1	1	位相計数モード4		○	○		
1	0	0	0	リセット同期PWMモード(注1)				○	
1	0	0	1	設定しないでください。					
1	0	1	x	設定しないでください。					
1	1	0	0	設定しないでください。					
1	1	0	1	相補PWMモード1 (山で転送) (注1)				○	
1	1	1	0	相補PWMモード2 (谷で転送) (注1)				○	
1	1	1	1	相補PWMモード3 (山と谷で転送) (注1)				○	

x: Don't care

注. 各チャネルで○が付いている動作モード以外の動作モードは設定しないでください。

注1. リセット同期PWMモード、相補PWMモードの設定は、MTU3のみ可能です。

MTU3をリセット同期PWMモードまたは相補PWMモードに設定した場合、MTU4の設定は無効となりMTU3の設定に従います。MTU4はノーマルモードに設定してください。

BFA ビット (バッファ動作 A ビット)

TGRA レジスタを通常動作にするか、TGRA レジスタと TGRC レジスタを組み合わせでバッファ動作させるかを設定します。TGRC レジスタをバッファレジスタとして使用した場合、相補 PWM モード以外では TGRC レジスタのインプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しませんが、相補 PWM モード時は TGRC レジスタのコンペアマッチが発生します。また、MTU4 のコンペアマッチが相補 PWM モードの Tb 区間に発生した場合は、MTU4.TIER.TGIEC ビットは“0”にしてください。

また、リセット同期 PWM モードおよび相補 PWM モードの MTU3 および MTU4 のバッファ動作は、MTU3 の設定に従います。MTU4.TMDR レジスタの BFA ビットには“0”を書いてください。

TGRC レジスタを持たない MTU1、MTU2 では、このビットは予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。相補 PWM モードの Tb 区間については、[図 20.40](#) を参照してください。

BFB ビット (バッファ動作 B ビット)

TGRB レジスタを通常動作にするか、TGRB レジスタと TGRD レジスタを組み合わせでバッファ動作させるかを設定します。TGRD レジスタをバッファレジスタとして使用した場合、相補 PWM モード以外では TGRD レジスタのインプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しませんが、相補 PWM モード時は TGRD レジスタのコンペアマッチが発生します。また、コンペアマッチが相補 PWM モードの Tb 区間に発生した場合は、MTU3.TIER.TGIED ビット、MTU4.TIER.TGIED ビットは“0”にしてください。

また、リセット同期 PWM モードおよび相補 PWM モードの MTU3 および MTU4 のバッファ動作は、MTU3 の設定に従います。MTU4 の TMDR.BFB ビットには“0”にしてください。

TGRD レジスタを持たない MTU1、MTU2 では、このビットは予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。相補 PWM モードの Tb 区間については、[図 20.40](#) を参照してください。

BFE ビット (バッファ動作 E ビット)

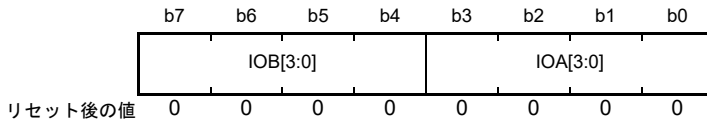
MTU0.TGRE レジスタと MTU0.TGRF レジスタを通常動作またはバッファ動作させるかどうかを選択します。TGRF レジスタをバッファレジスタとして使用した場合も、TGRF レジスタのコンペアマッチは発生します。

MTU1 ~ MTU4 では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

20.2.3 タイマ I/O コントロールレジスタ (TIOR)

- MTU0.TIORH, MTU1.TIOR, MTU2.TIOR, MTU3.TIORH, MTU4.TIORH

アドレス MTU0.TIORH 0008 8702h, MTU1.TIOR 0008 8782h, MTU2.TIOR 0008 8802h, MTU3.TIORH 0008 8604h, MTU4.TIORH 0008 8606h

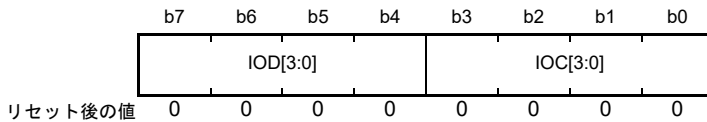


ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	IOA[3:0]	I/OコントロールAビット	下記の表を参照してください(注1) MTU0.TIORH : 表 20.20 MTU1.TIOR : 表 20.22 MTU2.TIOR : 表 20.23 MTU3.TIORH : 表 20.24 MTU4.TIORH : 表 20.26	R/W
b7-b4	IOB[3:0]	I/OコントロールBビット	下記の表を参照してください(注1) MTU0.TIORH : 表 20.12 MTU1.TIOR : 表 20.14 MTU2.TIOR : 表 20.15 MTU3.TIORH : 表 20.16 MTU4.TIORH : 表 20.18	R/W

注1. コンペアマッチでLow出力/High出力/トグル出力中に、IOm[3:0]ビット (m = A, B) の値を出力禁止 (“0000b”または“0100b”) へ変更するとHi-Zになります。

- MTU0.TIORL, MTU3.TIORL, MTU4.TIORL

アドレス MTU0.TIORL 0008 8703h, MTU3.TIORL 0008 8605h, MTU4.TIORL 0008 8607h

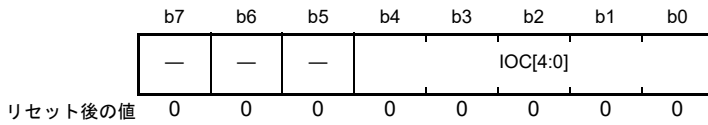


ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	IOC[3:0]	I/OコントロールCビット	下記の表を参照してください(注1) MTU0.TIORL : 表 20.21 MTU3.TIORL : 表 20.25 MTU4.TIORL : 表 20.27	R/W
b7-b4	IOD[3:0]	I/OコントロールDビット	下記の表を参照してください(注1) MTU0.TIORL : 表 20.13 MTU3.TIORL : 表 20.17 MTU4.TIORL : 表 20.19	R/W

注1. コンペアマッチでLow出力/High出力/トグル出力中に、IOm[3:0]ビット (m = C, D) の値を出力禁止 (“0000b”または“0100b”) へ変更するとHi-Zになります。

- MTU5.TIORU, MTU5.TIORV, MTU5.TIORW

アドレス MTU5.TIORU 0008 8886h, MTU5.TIORV 0008 8896h, MTU5.TIORW 0008 88A6h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	IOC[4:0]	I/OコントロールCビット	下記の表を参照してください MTU5.TIORU, MTU5.TIORV, MTU5.TIORW : 表20.28	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

MTUには、MTU0、MTU3、MTU4に各2本、MTU1、MTU2に各1本、MTU5にはMTU5.TIORU/V/Wの3本、計11本のTIORレジスタがあります。

TIORレジスタはTMDRレジスタの設定が、ノーマルモード、PWMモード、位相計数モードの場合に設定します。

TIORレジスタで指定した初期出力はカウンタ停止した（TSTR.CSTnビットを“0”にした）状態で有効になります。また、PWMモード2の場合にはカウンタが“0”になった時点での出力を指定します。

TGRCレジスタあるいはTGRDレジスタをバッファ動作に設定した場合は、本設定は無効となり、バッファレジスタとして動作します。

表20.12 TIORH (MTU0)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOB[3]	IOB[2]	IOB[1]	IOB[0]	MTU0.TGRBの機能	MTIOC0B端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0	インプットキャプチャレジスタ	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	1	x		両エッジでインプットキャプチャ
1	1	x	x		キャプチャ入力元はMTU1/カウントクロック MTU1.TCNTのカウントアップ/カウントダウンでインプットキャプチャ(注1)

x : Don't care

注1. MTU1のカウントクロックにPCLK/1を選択した場合、MTU0のインプットキャプチャは発生しません。MTU1のカウントクロックにはPCLK/1以外のクロックを選択してください。

表 20.13 TIORL (MTU0)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOD[3]	IOD[2]	IOD[1]	IOD[0]	MTU0.TGRDの機能	MTIOC0D端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ (注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0	インプットキャプチャレジスタ (注1)	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	1	x		両エッジでインプットキャプチャ
1	1	x	x		キャプチャ入力元はMTU1/カウントクロック MTU1.TCNTのカウントアップ/カウントダウンでイン プットキャプチャ (注2)

x : Don't care

- 注1. MTU0.TMDR.BFB ビットを“1”にしてMTU0.TGRDレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になり、インプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。
- 注2. MTU1のカウントクロックにPCLK/1を選択した場合、MTU0のインプットキャプチャは発生しません。MTU1のカウントクロックにはPCLK/1以外のクロックを選択してください。

表 20.14 TIOR (MTU1)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOB[3]	IOB[2]	IOB[1]	IOB[0]	MTU1.TGRBの機能	MTIOC1B端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0	インプットキャプチャレジスタ	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	1	x		両エッジでインプットキャプチャ
1	1	x	x		MTU0.TGRCのコンペアマッチ/インプットキャプチャの発生でインプットキャプチャ

x : Don't care

表20.15 TIOR (MTU2)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOB[3]	IOB[2]	IOB[1]	IOB[0]	MTU2.TGRBの機能	MTIOC2B端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.16 TIORH (MTU3)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOB[3]	IOB[2]	IOB[1]	IOB[0]	MTU3.TGRBの機能	MTIOC3B端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.17 TIORL (MTU3)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOD[3]	IOD[2]	IOD[1]	IOD[0]	MTU3.TGRDの機能	MTIOC3D端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ(注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ(注1)
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

注1. MTU3.TMDR.BFBビットを“1”にしてMTU3.TGRDレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になり、インプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。

表20.18 TIORH (MTU4)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOB[3]	IOB[2]	IOB[1]	IOB[0]	MTU4.TGRBの機能	MTIOC4B端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.19 TIORL (MTU4)

ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	説明	
IOD[3]	IOD[2]	IOD[1]	IOD[0]	MTU4.TGRDの機能	MTIOC4D端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ(注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0	インプットキャプチャレジスタ(注1)	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	x	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	x	1	x		両エッジでインプットキャプチャ

x : Don't care

注1. MTU4.TMDR.BFBビットを“1”にして、MTU4.TGRDレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になりインプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。

表20.20 TIORH (MTU0)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOA[3]	IOA[2]	IOA[1]	IOA[0]	MTU0.TGRAの機能	MTIOC0A端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0	インプットキャプチャレジスタ	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	1	x		両エッジでインプットキャプチャ
1	1	x	x		キャプチャ入力元はMTU1/カウントクロック MTU1.TCNTのカウントアップ/カウントダウンでイン プットキャプチャ(注1)

x : Don't care

注1. MTU1のカウントクロックにPCLK/1を選択した場合、MTU0のインプットキャプチャは発生しません。MTU1のカウントクロックにはPCLK/1以外のクロックを選択してください。

表 20.21 TIORL (MTU0)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOC[3]	IOC[2]	IOC[1]	IOC[0]	MTU0.TGRCの機能	MTIOC0Cの端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ(注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0		インプットキャプチャレジスタ(注1)
1	0	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	0	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	
1	1	x	x	キャプチャ入力元はMTU1/カウントクロック MTU1.TCNTのカウントアップ/カウントダウンでイン プットキャプチャ(注2)	

x : Don't care

注1. MTU0.TMDR.BFAビットを“1”にしてMTU0.TGRCレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になり、インプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。

注2. MTU1のカウントクロックにPCLK/1を選択した場合、MTU0のインプットキャプチャは発生しません。MTU1のカウントクロックにはPCLK/1以外のクロックを選択してください。

表 20.22 TIOR (MTU1)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOA[3]	IOA[2]	IOA[1]	IOA[0]	MTU1.TGRAの機能	MTIOC1A端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	0	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	0	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	0	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	
1	1	x	x	MTU0.TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャの発生でインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.23 TIOR (MTU2)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOA[3]	IOA[2]	IOA[1]	IOA[0]	MTU2.TGRAの機能	MTIOC2A端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.24 TIORH (MTU3)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOA[3]	IOA[2]	IOA[1]	IOA[0]	MTU3.TGRAの機能	MTIOC3A端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.25 TIORL (MTU3)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOC[3]	IOC[2]	IOC[1]	IOC[0]	MTU3.TGRCの端子	MTIOC3C端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ(注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ(注1)
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

注1. MTU3.TMDR.BFAビットを“1”にしてMTU3.TGRCレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になり、インプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。

表20.26 TIORH (MTU4)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOA[3]	IOA[2]	IOA[1]	IOA[0]	MTU4.TGRAの機能	MTIOC4A端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0		インプットキャプチャレジスタ
1	x	0	1	立ち下がりエッジでインプットキャプチャ	
1	x	1	x	両エッジでインプットキャプチャ	

x : Don't care

表20.27 TIORL (MTU4)

ビット3 IOC[3]	ビット2 IOC[2]	ビット1 IOC[1]	ビット0 IOC[0]	説明	
				MTU4.TGRCの機能	MTIOC4C端子の機能
0	0	0	0	アウトプットコンペアレジスタ(注1)	出力禁止
0	0	0	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでLow出力
0	0	1	0		初期出力はLow出力 コンペアマッチでHigh出力
0	0	1	1		初期出力はLow出力 コンペアマッチでトグル出力
0	1	0	0		出力禁止
0	1	0	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでLow出力
0	1	1	0		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでHigh出力
0	1	1	1		初期出力はHigh出力 コンペアマッチでトグル出力
1	x	0	0	インプットキャプチャレジスタ(注1)	立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	x	0	1		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	x	1	x		両エッジでインプットキャプチャ

x : Don't care

注1. MTU4.TMDR.BFAビットを“1”にして、MTU4.TGRCレジスタをバッファレジスタとして使用した場合は、本設定は無効になり、インプットキャプチャ/アウトプットコンペアは発生しません。

表20.28 TIORU, TIORV, TIORW (MTU5)

ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0	説明	
IOC[4]	IOC[3]	IOC[2]	IOC[1]	IOC[0]	MTU5.TGRU、MTU5.TGRV、 MTU5.TGRWの機能	MTIC5U、MTIC5V、MTIC5W端子の機能
0	0	0	0	0	コンペアマッチレジスタ	コンペアマッチ
0	0	0	0	1		設定しないでください
0	0	0	1	x		設定しないでください
0	0	1	x	x		設定しないでください
0	1	x	x	x		設定しないでください
1	0	0	0	0	インプットキャプチャレジスタ (注1)	設定しないでください
1	0	0	0	1		立ち上がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1	0		立ち下がりエッジでインプットキャプチャ
1	0	0	1	1		両エッジでインプットキャプチャ
1	0	1	x	x		設定しないでください
1	1	0	0	0		設定しないでください
1	1	0	0	1		外部入力信号のLowパルス幅測定用 相補PWMモードの谷でキャプチャ
1	1	0	1	0		外部入力信号のLowパルス幅測定用 相補PWMモードの山でキャプチャ
1	1	0	1	1		外部入力信号のLowパルス幅測定用 相補PWMモードの山と谷でキャプチャ
1	1	1	0	0		設定しないでください
1	1	1	0	1		外部入力信号のHighパルス幅測定用 相補PWMモードの谷でキャプチャ
1	1	1	1	0		外部入力信号のHighパルス幅測定用 相補PWMモードの山でキャプチャ
1	1	1	1	1		外部入力信号のHighパルス幅測定用 相補PWMモードの山と谷でキャプチャ

x : Don't care

注1. IOC[4:0]ビットへの“19h”、“1Ah”、“1Bh”、“1Dh”、“1Eh”、“1Fh”の設定は、外部パルス幅測定機能使用時か、MTU3、MTU4と連動したデッドタイム補償機能使用時のみとしてください。詳細は「20.3.10 外部パルス幅測定機能」、
「20.3.11 デッドタイム補償機能」を参照してください。

20.2.4 タイマコンペアマッチクリアレジスタ (TCNTCMPCLR)

アドレス MTU5.TCNTCMPCLR 0008 88B6h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CMPCLR5U	CMPCLR5V	CMPCLR5W
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPCLR5W	TCNTコンペアクリア5Wビット	0 : MTU5.TCNTWカウンタとMTU5.TGRWレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTWカウンタの“0000h”クリアを禁止 1 : MTU5.TCNTWカウンタとMTU5.TGRWレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTWカウンタの“0000h”クリアを許可	R/W
b1	CMPCLR5V	TCNTコンペアクリア5Vビット	0 : MTU5.TCNTVカウンタとMTU5.TGRVレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTVカウンタの“0000h”クリアを禁止 1 : MTU5.TCNTVカウンタとMTU5.TGRVレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTVカウンタの“0000h”クリアを許可	R/W
b2	CMPCLR5U	TCNTコンペアクリア5Uビット	0 : MTU5.TCNTUカウンタとMTU5.TGRUレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTUカウンタの“0000h”クリアを禁止 1 : MTU5.TCNTUカウンタとMTU5.TGRUレジスタのコンペアマッチ/インพุットキャプチャによる、MTU5.TCNTUカウンタの“0000h”クリアを許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TCNTCMPCLR レジスタは、MTU5.TCNTU、TCNTV、TCNTW カウンタのクリア要求を設定するレジスタです。

20.2.5 タイマ割り込み許可レジスタ (TIER)

- MTU0.TIER, MTU3.TIER

アドレス MTU0.TIER 0008 8704h, MTU3.TIER 0008 8608h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TTGE	—	—	TCIEV	TGIED	TGIEC	TGIEB	TGIEA

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

- MTU1.TIER, MTU2.TIER

アドレス MTU1.TIER 0008 8784h, MTU2.TIER 0008 8804h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TTGE	—	TCIEU	TCIEV	—	—	TGIEB	TGIEA

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

- MTU4.TIER

アドレス MTU4.TIER 0008 8609h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TTGE	TTGE2	—	TCIEV	TGIED	TGIEC	TGIEB	TGIEA

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TGIEA	TGR割り込み許可Aビット	0: 割り込み要求(TGIA)を禁止 1: 割り込み要求(TGIA)を許可	R/W
b1	TGIEB	TGR割り込み許可Bビット	0: 割り込み要求(TGIB)を禁止 1: 割り込み要求(TGIB)を許可	R/W
b2	TGIEC	TGR割り込み許可Cビット	0: 割り込み要求(TGIC)を禁止 1: 割り込み要求(TGIC)を許可	R/W
b3	TGIED	TGR割り込み許可Dビット	0: 割り込み要求(TGID)を禁止 1: 割り込み要求(TGID)を許可	R/W
b4	TCIEV	オーバフロー割り込み許可ビット	0: 割り込み要求(TCIV)を禁止 1: 割り込み要求(TCIV)を許可	R/W
b5	TCIEU	アンダフロー割り込み許可ビット	0: 割り込み要求(TCIU)を禁止 1: 割り込み要求(TCIU)を許可	R/W
b6	TTGE2	A/D変換開始要求許可2ビット	0: MTU4.TCNTカウンタのアンダフロー(谷)によるA/D変換要求を禁止 1: MTU4.TCNTカウンタのアンダフロー(谷)によるA/D変換要求を許可	R/W
b7	TTGE	A/D変換開始要求許可ビット	0: A/D変換開始要求の発生を禁止 1: A/D変換開始要求の発生を許可	R/W

MTUには、MTU0に2本、MTU1～MTU5に各1本、計7本のTIERレジスタがあります。

TIERレジスタは、各チャンネルの割り込み要求の許可、禁止を設定するレジスタです。

TGIEA、TGIEB ビット (TGR 割り込み許可 A、B ビット)

割り込み要求 (TGIm) を許可または禁止します。(m = A, B)

TGIEC、TGIED ビット (TGR 割り込み許可 C、D ビット)

MTU0、MTU3、MTU4 で割り込み要求 (TGIm) を許可または禁止します。(m = C, D)

MTU1、MTU2 では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

TCIEV ビット (オーバフロー割り込み許可ビット)

割り込み要求 (TCIV) を許可または禁止します。

TCIEU ビット (アンダフロー割り込み許可ビット)

MTU1、MTU2 で割り込み要求 (TCIU) を許可または禁止します。

MTU0、MTU3、MTU4 では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

TTGE2 ビット (A/D 変換開始要求許可 2 ビット)

相補 PWM モードで、MTU4.TCNT カウンタのアンダフロー (谷) による A/D 変換要求の発生を許可または禁止します。

MTU0 ~ MTU3 では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

TTGE ビット (A/D 変換開始要求許可ビット)

TGRA レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチによる A/D コンバータ開始要求の発生を許可または禁止します。

- MTU0.TIER2

アドレス MTU0.TIER2 0008 8724h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	TGIEF	TGIEE

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TGIEE	TGR 割り込み許可 E ビット	0 : 割り込み要求 (TGIE) を禁止 1 : 割り込み要求 (TGIE) を許可	R/W
b1	TGIEF	TGR 割り込み許可 F ビット	0 : 割り込み要求 (TGIF) を禁止 1 : 割り込み要求 (TGIF) を許可	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TGIEE、TGIEF ビット (TGR 割り込み許可 E、F ビット)

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRm レジスタのコンペアマッチによる割り込み要求の発生を許可または禁止します。(m = E, F)

- MTU5.TIER

アドレス MTU5.TIER 0008 88B2h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	TGIE5 U	TGIE5V	TGIE5 W
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TGIE5W	TGR割り込み許可5Wビット	0 : TGIW5割り込み要求を禁止 1 : TGIW5割り込み要求を許可	R/W
b1	TGIE5V	TGR割り込み許可5Vビット	0 : TGIV5割り込み要求を禁止 1 : TGIV5割り込み要求を許可	R/W
b2	TGIE5U	TGR割り込み許可5Uビット	0 : TGIU5割り込み要求を禁止 1 : TGIU5割り込み要求を許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TGIE5W、TGIE5V、TGIE5U ビット (TGR 割り込み許可 5m ビット)

割り込み要求 (TGIm5) を許可または禁止します。(m = W, V, U)

20.2.6 タイマステータスレジスタ (TSR)

アドレス MTU0.TSR 0008 8705h, MTU1.TSR 0008 8785h, MTU2.TSR 0008 8805h, MTU3.TSR 0008 862Ch,
MTU4.TSR 0008 862Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	1	x	x	x	x	x	x

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“1”としてください	R/W
b6	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b7	TCFD	カウント方向フラグ	0 : TCNTカウンタはダウンカウント 1 : TCNTカウンタはアップカウント	R

MTUには、MTU0～MTU4に各1本、計5本のTSRレジスタがあります。

TSRレジスタは、各チャンネルのステータスを表示するレジスタです。

TCFD フラグ (カウント方向フラグ)

MTU1～MTU4のTCNTカウンタのカウント方向を示すステータスフラグです。

MTU0では予約ビットです。読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください。

20.2.7 タイマバッファ動作転送モードレジスタ (TBTM)

- MTU0.TBTM

アドレス MTU0.TBTM 0008 8726h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	TTSE	TTSB	TTSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

- MTU3.TBTM, MTU4.TBTM

アドレス MTU3.TBTM 0008 8638h, MTU4.TBTM 0008 8639h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	TTSB	TTSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TTSA	タイミング選択Aビット	0: TGRCレジスタからTGRAレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのコンペアマッチA発生時 1: TGRCレジスタからTGRAレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのTCNTカウンタクリア時	R/W
b1	TTSB	タイミング選択Bビット	0: TGRDレジスタからTGRBレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのコンペアマッチB発生時 1: TGRDレジスタからTGRBレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのTCNTカウンタクリア時	R/W
b2	TTSE	タイミング選択Eビット	0: MTU0.TGRFレジスタからMTU0.TGREレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのMTU0のコンペアマッチE発生時 1: MTU0.TGRFレジスタからMTU0.TGREレジスタへの転送タイミングは各チャンネルのMTU0.TCNTカウンタクリア時	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

MTUには、MTU0、MTU3、MTU4に各1本、計3本のTBTMレジスタがあります。

TBTMレジスタは、PWMモード時のバッファレジスタからタイマジェネラルレジスタへの転送タイミングを設定するレジスタです。

TTSA ビット (タイミング選択 A ビット)

各チャンネルのバッファ動作時のTGRCレジスタからTGRAレジスタへの転送タイミングを設定します。なお、PWMモード以外で使用するチャンネルでは、TTSAビットを“1”に設定しないでください。

TTSB ビット (タイミング選択 B ビット)

各チャンネルのバッファ動作時のTGRDレジスタからTGRBレジスタへの転送タイミングを設定します。なお、PWMモード以外で使用するチャンネルでは、TTSBビットを“1”に設定しないでください。

TTSE ビット (タイミング選択 E ビット)

バッファ動作時のMTU0.TGRFレジスタからMTU0.TGREレジスタへの転送タイミングを設定します。MTU3、MTU4では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。なお、MTU0をPWMモード以外で使用する場合は、TTSEビットを“1”に設定しないでください。

20.2.8 タイムインプットキャプチャコントロールレジスタ (TICCR)

アドレス MTU1.TICCR 0008 8790h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	I2BE	I2AE	I1BE	I1AE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	I1AE	インプットキャプチャ許可ビット	0 : MTIOC1A端子をMTU2.TGRAレジスタのインプットキャプチャ条件に追加しない 1 : MTIOC1A端子をMTU2.TGRAレジスタのインプットキャプチャ条件に追加する	R/W
b1	I1BE	インプットキャプチャ許可ビット	0 : MTIOC1B端子をMTU2.TGRBレジスタのインプットキャプチャ条件に追加しない 1 : MTIOC1B端子をMTU2.TGRBレジスタのインプットキャプチャ条件に追加する	R/W
b2	I2AE	インプットキャプチャ許可ビット	0 : MTIOC2A端子をMTU1.TGRAレジスタのインプットキャプチャ条件に追加しない 1 : MTIOC2A端子をMTU1.TGRAレジスタのインプットキャプチャ条件に追加する	R/W
b3	I2BE	インプットキャプチャ許可ビット	0 : MTIOC2B端子をMTU1.TGRBレジスタのインプットキャプチャ条件に追加しない 1 : MTIOC2B端子をMTU1.TGRBレジスタのインプットキャプチャ条件に追加する	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

MTUには、MTU1に1本のTICCRレジスタがあります。

TICCRレジスタは、MTU1.TCNTカウンタとMTU2.TCNTカウンタのカスケード接続時のインプットキャプチャ条件を設定するレジスタです。

20.2.9 タイマ A/D 変換開始要求コントロールレジスタ (TADCR)

アドレス MTU4.TADCR 0008 8640h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
BF[1:0]	—	—	—	—	—	—	—	UT4AE	DT4AE	UT4BE	DT4BE	ITA3AE	ITA4VE	ITB3AE	ITB4VE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ITB4VE	TCIV4 割り込み間引き連動許可ビット (注1、注2、注3)	0 : TCIV4 割り込み間引き機能と連動しない 1 : TCIV4 割り込み間引き機能と連動する	R/W
b1	ITB3AE	TGIA3 割り込み間引き連動許可ビット (注1、注2、注3)	0 : TGIA3 割り込み間引き機能と連動しない 1 : TGIA3 割り込み間引き機能と連動する	R/W
b2	ITA4VE	TCIV4 割り込み間引き連動許可ビット (注1、注2、注3)	0 : TCIV4 割り込み間引き機能と連動しない 1 : TCIV4 割り込み間引き機能と連動する	R/W
b3	ITA3AE	TGIA3 割り込み間引き連動許可ビット (注1、注2、注3)	0 : TGIA3 割り込み間引き機能と連動しない 1 : TGIA3 割り込み間引き機能と連動する	R/W
b4	DT4BE	ダウンカウント TRG4BN 許可ビット (注3)	0 : MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4BN) を禁止 1 : MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4BN) を許可	R/W
b5	UT4BE	アップカウント TRG4BN 許可ビット	0 : MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4BN) を禁止 1 : MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4BN) を許可	R/W
b6	DT4AE	ダウンカウント TRG4AN 許可ビット (注3)	0 : MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4AN) を禁止 1 : MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4AN) を許可	R/W
b7	UT4AE	アップカウント TRG4AN 許可ビット	0 : MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4AN) を禁止 1 : MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時に A/D 変換の開始要求 (TRG4AN) を許可	R/W
b13-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b14	BF[1:0]	MTU4.TADCOBRA/B 転送タイミング 選択ビット	詳細は表 20.29 を参照してください	R/W

注. TADCR レジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

注1. 割り込み間引きが禁止のとき (TITCR.T3AEN, T4VEN ビットを“0”にしたとき、または TITCR の間引き回数設定ビット (T3ACOR[2:0], T4VCOR[2:0]) を“000b”にしたとき) は、割り込み間引き機能と連動しない (TADCR.ITA3AE, ITA4VE, ITB3AE, ITB4VE ビットを“0”) 設定にしてください。

注2. 割り込み間引きが禁止のときに、割り込み間引きと連動する設定にした場合、A/D 変換の開始要求が行われません。

注3. b6、b4～b0 は、相補 PWM モード以外では、“0”にしてください。

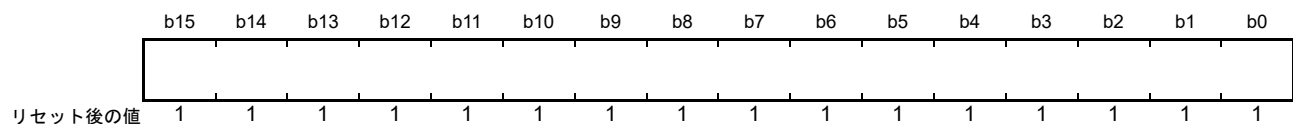
TADCR レジスタは、A/D 変換開始要求の許可 / 禁止の設定と、割り込み間引きと A/D 変換開始要求を連動する / しないを設定するレジスタです。

表20.29 BF[1:0]ビットによる転送タイミングの設定

ビット15	ビット14	説明			
		相補PWMモード時	リセット同期PWMモード時	PWMモード1時	ノーマルモード時
0	0	周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から、周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送しない	周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から、周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送しない	周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から、周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送しない	周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から、周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送しない
0	1	MTU4.TCNTの山で周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する	MTU3.TCNTがMTU3.TGRAとコンペアマッチしたとき周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する	MTU4.TCNTがMTU4.TGRAとコンペアマッチしたとき周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する	MTU4.TCNTがMTU4.TGRAとコンペアマッチしたとき周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する
1	0	MTU4.TCNTの谷で周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	1	MTU4.TCNTの山と谷で周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) から周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) へ転送する	設定禁止	設定禁止	設定禁止

20.2.10 タイマ A/D 変換開始要求周期設定レジスタ m (TADCORm) (m = A, B)

アドレス MTU4.TADCORA 0008 8644h, MTU4.TADCORB 0008 8646h

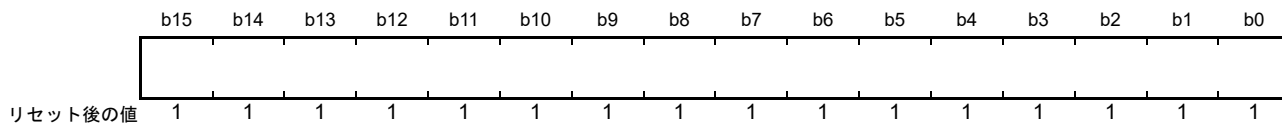


注. TADCORA、TADCORBレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TADCORA、TADCORBレジスタは、A/D変換開始要求周期を設定するレジスタです。MTU4.TCNTカウンタと一致したとき、対応するA/D変換開始要求を発生します。

20.2.11 タイマ A/D 変換開始要求周期設定バッファレジスタ m (TADCOBRm) (m = A, B)

アドレス MTU4.TADCOBRA 0008 8648h, MTU4.TADCOBRB 0008 864Ah

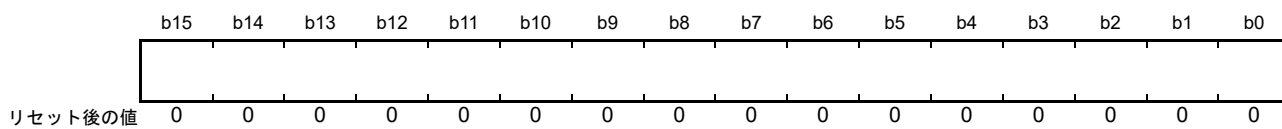


注. TADCOBRA、TADCOBRBレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TADCOBRA、TADCOBRBレジスタは、TADCORA、TADCORBレジスタのバッファレジスタで、A/D変換開始要求周期を設定するレジスタです。TADCOBRA、TADCOBRBレジスタから山か谷でTADCORA、TADCORBレジスタに転送します。

20.2.12 タイマカウンタ (TCNT)

アドレス MTU0.TCNT 0008 8706h, MTU1.TCNT 0008 8786h, MTU2.TCNT 0008 8806h, MTU3.TCNT 0008 8610h,
MTU4.TCNT 0008 8612h, MTU5.TCNTU 0008 8880h, MTU5.TCNTV 0008 8890h, MTU5.TCNTW 0008 88A0h



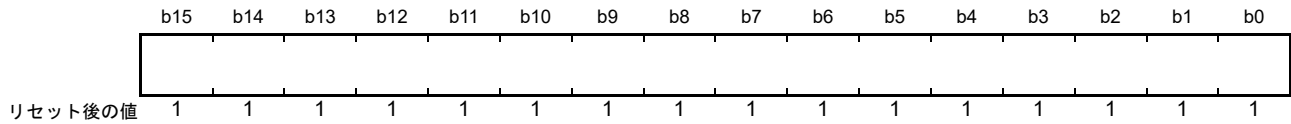
注. TCNTカウンタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

MTUには、MTU0～MTU4に各1本、MTU5にMTU5.TCNTU/V/Wの3本、計8本のTCNTカウンタがあります。

TCNTカウンタは、読み出し/書き込み可能なカウンタです。

20.2.13 タイマジェネラルレジスタ m (TGRm) (m = A, B, C, D, E, F, U, V, W)

アドレス MTU0.TGRA 0008 8708h, MTU0.TGRB 0008 870Ah, MTU0.TGRC 0008 870Ch, MTU0.TGRD 0008 870Eh,
 MTU0.TGRE 0008 8720h, MTU0.TGRF 0008 8722h, MTU1.TGRA 0008 8788h, MTU1.TGRB 0008 878Ah,
 MTU2.TGRA 0008 8808h, MTU2.TGRB 0008 880Ah, MTU3.TGRA 0008 8618h, MTU3.TGRB 0008 861Ah,
 MTU3.TGRC 0008 8624h, MTU3.TGRD 0008 8626h, MTU4.TGRA 0008 861Ch, MTU4.TGRB 0008 861Eh,
 MTU4.TGRC 0008 8628h, MTU4.TGRD 0008 862Ah, MTU5.TGRU 0008 8882h, MTU5.TGRV 0008 8892h,
 MTU5.TGRW 0008 88A2h



注. TGRレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

MTUには、MTU0に6本、MTU1、MTU2に各2本、MTU3、MTU4に各4本、MTU5に3本、計21本のジェネラルレジスタがあります。

TGRA、TGRB、TGRC、TGRDレジスタはアウトプットコンペア/インプットキャプチャ兼用のレジスタです。MTU0、MTU3、MTU4のTGRCレジスタとTGRDレジスタは、バッファレジスタとして動作設定することができます。TGRレジスタとバッファレジスタの組み合わせは、TGRA-TGRC、TGRB-TGRDになります。

MTU0.TGRE、MTU0.TGRFレジスタはコンペアレジスタとして機能し、MTU0.TCNTカウンタとMTU0.TGREレジスタが一致したとき、A/D変換開始要求を発生することができます。TGRFレジスタは、バッファレジスタとして動作設定することができます。TGRレジスタとバッファレジスタの組み合わせは、TGRE-TGRFになります。

MTU5.TGRU、MTU5.TGRV、MTU5.TGRWレジスタはコンペアマッチ/インプットキャプチャ/外部パルス幅測定兼用のレジスタです。

20.2.14 タイマスタートレジスタ (TSTR)

- MTU.TSTR (MTU0 ~ MTU4)

アドレス MTU.TSTR 0008 8680h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CST4	CST3	—	—	—	CST2	CST1	CST0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CST0	カウンタスタート0ビット	0 : MTU0.TCNTカウンタはカウント停止 1 : MTU0.TCNTカウンタはカウント動作	R/W
b1	CST1	カウンタスタート1ビット	0 : MTU1.TCNTカウンタはカウント停止 1 : MTU1.TCNTカウンタはカウント動作	R/W
b2	CST2	カウンタスタート2ビット	0 : MTU2.TCNTカウンタはカウント停止 1 : MTU2.TCNTカウンタはカウント動作	R/W
b5-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	CST3	カウンタスタート3ビット	0 : MTU3.TCNTカウンタはカウント停止 1 : MTU3.TCNTカウンタはカウント動作	R/W
b7	CST4	カウンタスタート4ビット	0 : MTU4.TCNTカウンタはカウント停止 1 : MTU4.TCNTカウンタはカウント動作	R/W

TSTR レジスタは MTU0 ~ MTU4 の TCNT カウンタの動作 / 停止を選択するレジスタです。

TMDR レジスタへ動作モードを設定する場合や TCR レジスタへ TCNT カウンタのカウントクロックを設定する場合は、TCNT カウンタのカウント動作を停止してから行ってください。

CSTn ビット (カウンタスタート n ビット) (n = 0 ~ 4)

各チャネルの TCNT カウンタの動作または停止を選択します。

MTIOC 端子を出力状態で動作中に、CSTn ビットに“0”を書くとカウンタは停止しますが、MTIOC 端子のアウトプットコンペア出力レベルは保持されます。CSTn ビットが“0”の状態では TIOR レジスタへの書き込みを行うと、設定した初期出力値に端子の出力レベルが更新されます。

- MTU5.TSTR (MTU5)

アドレス MTU5.TSTR 0008 88B4h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	CSTU5	CSTV5	CSTW5

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CSTW5	カウンタスタートW5ビット	0 : MTU5.TCNTWカウンタはカウント停止 1 : MTU5.TCNTWカウンタはカウント動作	R/W
b1	CSTV5	カウンタスタートV5ビット	0 : MTU5.TCNTVカウンタはカウント停止 1 : MTU5.TCNTVカウンタはカウント動作	R/W
b2	CSTU5	カウンタスタートU5ビット	0 : MTU5.TCNTUカウンタはカウント停止 1 : MTU5.TCNTUカウンタはカウント動作	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

20.2.15 タイマシンクロレジスタ (TSYR)

アドレス MTU.TSYR 0008 8681h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
SYNC4	SYNC3	—	—	—	SYNC2	SYNC1	SYNC0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SYNC0	タイマ同期0ビット	0 : MTU0.TCNTカウンタは独立して動作 (TCNTカウンタのセット/クリアは他のチャンネルと無関係) 1 : MTU0.TCNTカウンタは同期動作 TCNTカウンタの同期セット/同期クリアが可能	R/W
b1	SYNC1	タイマ同期1ビット	0 : MTU1.TCNTカウンタは独立して動作 (TCNTカウンタのセット/クリアは他のチャンネルと無関係) 1 : MTU1.TCNTカウンタは同期動作 TCNTカウンタの同期セット/同期クリアが可能	R/W
b2	SYNC2	タイマ同期2ビット	0 : MTU2.TCNTカウンタは独立して動作 (TCNTカウンタのセット/クリアは他のチャンネルと無関係) 1 : MTU2.TCNTカウンタは同期動作 TCNTカウンタの同期セット/同期クリアが可能	R/W
b5-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	SYNC3	タイマ同期3ビット	0 : MTU3.TCNTカウンタは独立して動作 (TCNTカウンタのセット/クリアは他のチャンネルと無関係) 1 : MTU3.TCNTカウンタは同期動作 TCNTカウンタの同期セット/同期クリアが可能	R/W
b7	SYNC4	タイマ同期4ビット	0 : MTU4.TCNTカウンタは独立して動作 (TCNTカウンタのセット/クリアは他のチャンネルと無関係) 1 : MTU4.TCNTカウンタは同期動作 TCNTカウンタの同期セット/同期クリアが可能	R/W

TSYR レジスタはMTU0～MTU4のTCNTカウンタの独立動作または同期動作を選択するレジスタです。対応するビットを“1”にしたチャンネルが同期動作を行います。

SYNCn ビット (タイマ同期 n ビット) (n = 0 ~ 4)

独立動作または他のチャンネルとの同期動作を選択します。

同期動作を選択すると、複数のTCNTカウンタの同期セットや、他チャンネルのカウンタクリアによる同期クリアが可能となります。

同期動作の設定には、最低2チャンネルのSYNCnビットを“1”にする必要があります。同期クリアの設定には、SYNCnビットの他にTCR.CCLR[2:0]ビットで、TCNTカウンタのクリア要因を設定する必要があります。

20.2.16 タイマリードライト許可レジスタ (TRWER)

アドレス MTU.TRWER 0008 8684h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	RWE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RWE	リードライト許可ビット	0 : レジスタの読み出し/書き込みを禁止する 1 : レジスタの読み出し/書き込みを許可する	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TRWER レジスタは、MTU3、MTU4 の誤書き込み防止の対象レジスタ / カウンタのアクセス許可 / 禁止を設定するレジスタです。

RWE ビット (リードライト許可ビット)

誤書き込み防止のレジスタへの読み出し / 書き込みの許可 / 禁止を設定します。

[“0”になる条件]

- RWE ビット = 1 を読み出し後、RWE ビットに “0” を書いたとき
- 誤書き込み防止の対象レジスタおよび対象カウンタ

MTUn.TCR、MTUn.TMDR、MTUn.TIORH、MTUn.TIORL、MTUn.TIER、MTUn.TGRA、MTUn.TGRB、MTU.TOER、MTU.TOCR1、MTU.TOCR2、MTU.TGCR、MTU.TCDR、MTU.TDDR と MTUn.TCNT の計 22 レジスタです。(n = 3, 4)

20.2.17 タイマアウトプットマスタ許可レジスタ (TOER)

アドレス MTU.TOER 0008 860Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	OE4D	OE4C	OE3D	OE4B	OE4A	OE3B
リセット後の値	1	1	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OE3B	マスタ許可MTIOC3Bビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b1	OE4A	マスタ許可MTIOC4Aビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b2	OE4B	マスタ許可MTIOC4Bビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b3	OE3D	マスタ許可MTIOC3Dビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b4	OE4C	マスタ許可MTIOC4Cビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b5	OE4D	マスタ許可MTIOC4Dビット	0 : MTU出力禁止(注1) 1 : MTU出力許可	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

注1. MTU出力禁止を設定したときに、各端子から非アクティブレベルを出力する場合は、I/Oポートのデータ方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) にあらかじめ汎用入出力ポートに非アクティブレベルを出力する設定をした上で、ポートモードレジスタ (PMR) で汎用入出力ポート使用に切り替えてください。

TOER レジスタは、出力端子の MTIOC4D、MTIOC4C、MTIOC3D、MTIOC4B、MTIOC4A、MTIOC3B の出力設定の許可 / 禁止を設定するレジスタです。

これらの端子は TOER レジスタの各ビットの設定をしないと正しく出力されません。MTU3、MTU4 において、TOER レジスタは MTU3、MTU4 の TIOR レジスタ設定の前に値を設定してください。

TOER レジスタは、TSTR.CST3、CST4 ビットを“0”にした後で設定してください (図 20.35、図 20.38 を参照)。

20.2.18 タイマアウトプットコントロールレジスタ 1 (TOCR1)

アドレス MTU.TOCR1 0008 860Eh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	PSYE	—	—	TOCL	TOCS	OLSN	OLSP

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OLSP	出力レベル選択Pビット(注2、注3)	表20.30を参照してください	R/W
b1	OLSN	出力レベル選択Nビット(注2、注3)	表20.31を参照してください	R/W
b2	TOCS	TOC選択ビット	0: TOCR1レジスタの設定を有効にする 1: TOCR2レジスタの設定を有効にする	R/W
b3	TOCL	TOCレジスタ書き込み禁止ビット(注1)	0: TOCSビット、OLSNビット、OLSPビットへの書き込みを許可 1: TOCSビット、OLSNビット、OLSPビットへの書き込みを禁止	R/W(注4)
b5-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	PSYE	PWM同期出力許可ビット	0: トグル出力を禁止 1: トグル出力を許可	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. TOCR1.TOCLビットを“1”に設定することにより、CPU暴走時の誤書き込みを防止することができます。

注2. TOCR1.TOCSビットを“0”に設定することにより、本設定が有効になります。

注3. デッドタイムを生成しない場合、逆相の出力は正相の逆のレベルになります。このとき、OLSPビットのみ有効となります。

注4. リセット後、1回だけ“1”を書き込むことができます。“1”書き込み後は、“0”を書き込むことはできません。

TOCR1レジスタは、相補PWMモード/リセット同期PWMモードのPWM周期に同期したトグル出力の許可/禁止、およびPWM出力の出力レベル反転の制御を設定するレジスタです。

OLSPビット (出力レベル選択Pビット)

リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、正相の出力レベルを選択します。

OLSNビット (出力レベル選択Nビット)

リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、逆相の出力レベルを選択します。

TOCSビット (TOC選択ビット)

相補PWMモード/リセット同期PWMモードの出力レベルの設定をTOCR1レジスタとTOCR2レジスタのどちらの設定を有効にするか選択します。

TOCLビット (TOCレジスタ書き込み禁止ビット)

TOCR1.TOCS, OLSN, OLSPビットへの書き込み禁止/許可の設定をします。

PSYEビット (PWM同期出力許可ビット)

PWM周期に同期したトグル出力を、MTIOC3A端子から出力するかどうかを設定します。

表 20.30 出力レベル選択機能

ビット0	機能			
OLSP	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	Low	High
1	Low	High	High	Low

表 20.31 出力レベル選択機能

ビット1	機能			
OLSN	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	High	Low
1	Low	High	Low	High

注. 逆相波形の初期出力値は、カウント開始後デッドタイム経過後にアクティブレベルに変化します。

OLSN = 1、OLSP = 1 の場合の相補 PWM モードの出力例（1 相分）を図 20.2 に示します。

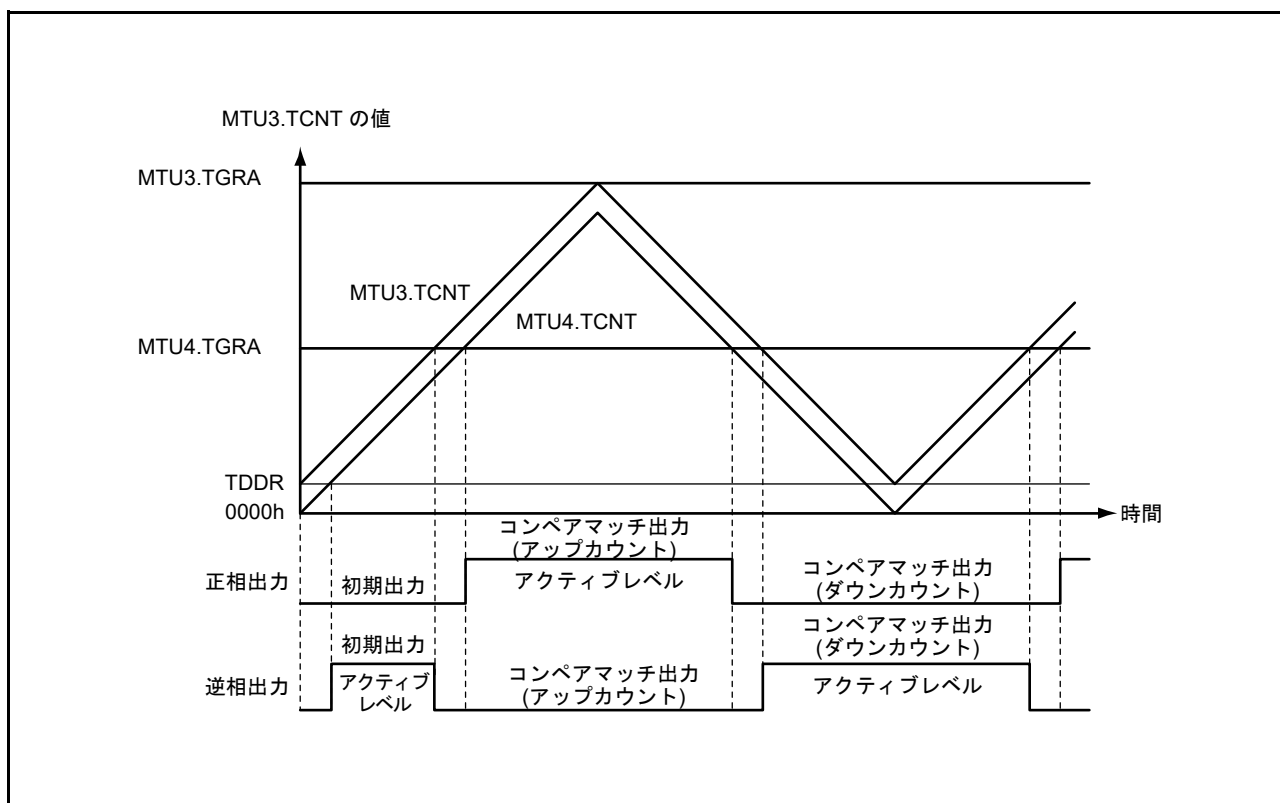


図 20.2 相補 PWM モードの出力レベルの例

20.2.19 タイマアウトプットコントロールレジスタ 2 (TOCR2)

アドレス MTU.TOCR2 0008 860Fh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
BF[1:0]	OLS3N	OLS3P	OLS2N	OLS2P	OLS1N	OLS1P	

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OLS1P	出力レベル選択1Pビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC3Bの出力レベルを選択します。 表20.32を参照してください	R/W
b1	OLS1N	出力レベル選択1Nビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC3Dの出力レベルを選択します。 表20.33を参照してください	R/W
b2	OLS2P	出力レベル選択2Pビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC4Aの出力レベルを選択します。 表20.34を参照してください	R/W
b3	OLS2N	出力レベル選択2Nビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC4Cの出力レベルを選択します。 表20.35を参照してください	R/W
b4	OLS3P	出力レベル選択3Pビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC4Bの出力レベルを選択します。 表20.36を参照してください	R/W
b5	OLS3N	出力レベル選択3Nビット(注1、注2)	リセット同期PWMモード/相補PWMモード時に、MTIOC4Dの出力レベルを選択します。 表20.37を参照してください	R/W
b7-b6	BF[1:0]	TOLBRバッファ転送タイミング選択ビット	TOLBRレジスタからTOCR2レジスタへのバッファ転送タイミングを選択します。 詳細は表20.38を参照してください	R/W

注1. TOCR1.TOCSビットを“1”に設定することにより、本レジスタの設定が有効になります。

注2. デッドタイムを生成しない場合、逆相の出力は正相の逆のレベルになります。このとき、OLSiPビットのみ有効となります。(i = 1 ~ 3)

TOCR2 レジスタは、相補 PWM モード/リセット同期 PWM モードにおける PWM 出力の出力レベル反転の制御を設定するレジスタです。

表 20.32 MTIOC3B出力レベル選択機能

ビット0	機能			
OLS1P	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	Low	High
1	Low	High	High	Low

表 20.33 MTIOC3D出力レベル選択機能

ビット1	機能			
OLS1N	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	High	Low
1	Low	High	Low	High

注. 逆相波形の初期出力値は、カウント開始後デッドタイム経過後にアクティブレベルに変化します。

表 20.34 MTIOC4A出力レベル選択機能

ビット2		機能		
OLS2P	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	Low	High
1	Low	High	High	Low

表 20.35 MTIOC4C出力レベル選択機能

ビット3		機能		
OLS2N	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	High	Low
1	Low	High	Low	High

注. 逆相波形の初期出力値は、カウント開始後デッドタイム経過後にアクティブレベルに変化します。

表 20.36 MTIOC4B出力レベル選択機能

ビット4		機能		
OLS3P	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	Low	High
1	Low	High	High	Low

表 20.37 MTIOC4D出力レベル選択機能

ビット5		機能		
OLS3N	初期出力	アクティブレベル	コンペアマッチ出力	
			アップカウント	ダウンカウント
0	High	Low	High	Low
1	Low	High	Low	High

注. 逆相波形の初期出力値は、カウント開始後デッドタイム経過後にアクティブレベルに変化します。

表 20.38 TOCR2.BF[1:0]ビットの設定

ビット7	ビット6	説明	
BF[1]	BF[0]	相補PWMモード時	リセット同期PWMモード時
0	0	TOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送しない	TOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送しない
0	1	MTU4.TCNTの山でTOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送する	MTU4.TCNT、MTU3.TCNTカウンタクリア時にTOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送する
1	0	MTU4.TCNTの谷でTOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送する	設定しないでください
1	1	MTU4.TCNTの山と谷でTOLBRレジスタからTOCR2レジスタへ転送する	設定しないでください

20.2.20 タイマアウトプットレベルバッファレジスタ (TOLBR)

アドレス MTU.TOLBR 0008 8636h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	OLS3N	OLS3P	OLS2N	OLS2P	OLS1N	OLS1P

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OLS1P	出力レベル選択1Pビット	TOCR2.OLS1Pビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b1	OLS1N	出力レベル選択1Nビット	TOCR2.OLS1Nビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b2	OLS2P	出力レベル選択2Pビット	TOCR2.OLS2Pビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b3	OLS2N	出力レベル選択2Nビット	TOCR2.OLS2Nビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b4	OLS3P	出力レベル選択3Pビット	TOCR2.OLS3Pビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b5	OLS3N	出力レベル選択3Nビット	TOCR2.OLS3Nビットにバッファ転送する値を設定してください	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TOLBR レジスタは TOCR2 レジスタのバッファレジスタで、相補 PWM モード / リセット同期 PWM モードにおける PWM 出力レベルを設定するレジスタです。

PWM 出力レベルの設定をバッファ動作で行う場合の設定手順例を図 20.3 に示します。

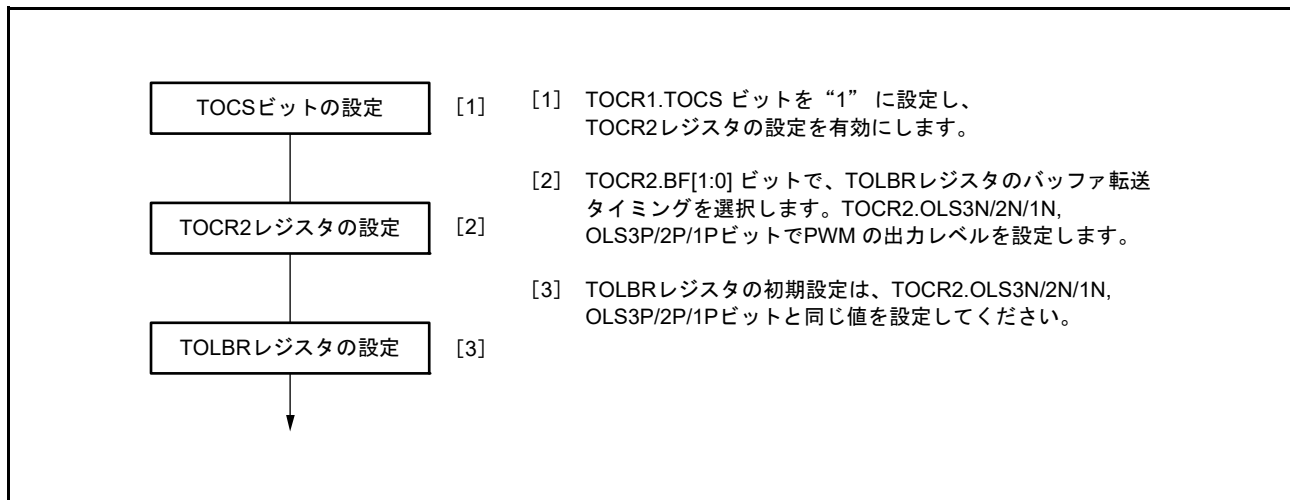


図 20.3 PWM 出力レベルの設定をバッファ動作で行う場合の設定手順例

20.2.21 タイマゲートコントロールレジスタ (TGCR)

アドレス MTU.TGCR 0008 860Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	BDC	N	P	FB	WF	VF	UF
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	UF	出力相切り替えビット	正相/逆相の出力相のON/OFFを設定します。これらのビットの設定はTGCR.FBビットが“1”のときのみ有効です。このときは、b0～b2の設定が、外部入力のためになります。表20.39を参照してください	R/W
b1	VF			R/W
b2	WF			R/W
b3	FB	外部フィードバック信号許可ビット	0：出力の切り替え切り替えは、外部入力(入力元は、MTU0.TGRA, TGRB, TGRCレジスタのインプットキャプチャ信号) 1：出力の切り替えはソフトウェアで行う(TGCR.UF、VF、WFビットの設定値)	R/W
b4	P	正相出力(P)制御ビット	0：レベル出力 1：リセット同期PWM/相補PWM出力	R/W
b5	N	逆相出力(N)制御ビット	0：レベル出力 1：リセット同期PWM/相補PWM出力	R/W
b6	BDC	ブラシレスDCモータビット	0：通常出力 1：本レジスタの機能を有効	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

TGCR レジスタは、リセット同期 PWM モード/相補 PWM モード時、ブラシレス DC モータ制御に必要な波形出力の制御を設定するレジスタです。相補 PWM モード/リセット同期 PWM モード以外では、TGCR レジスタの設定は無効です。

UF、VF、WF ビット (出力相切り替えビット)

これらのビットの設定は TGCR.FB ビットが“1”のときのみ有効です。このときは、ビット 0～2 の設定が、外部入力の代わりにになります。表 20.39 を参照してください。

FB ビット (外部フィードバック信号許可ビット)

正相/逆相の出力の切り替えを MTU0.TGRA, TGRB, TGRC レジスタのインプットキャプチャ信号で自動的に行うか、TGCR レジスタのビット 2～0 に“0”または“1”を書き込むことによって行うかを選択します。

P ビット (正相出力 (P) 制御ビット)

正相端子の出力 (MTIOC3B 端子、MTIOC4A 端子、MTIOC4B 端子) を出力時、レベル出力をするか、リセット同期 PWM/相補 PWM 出力するかを選択します。

N ビット (逆相出力 (N) 制御ビット)

逆相端子 (MTIOC3D 端子、MTIOC4C 端子、MTIOC4D 端子) を出力時、レベル出力するか、リセット同期 PWM/相補 PWM 出力するかを選択します。

BDC ビット (ブラシレス DC モータビット)

TGCR レジスタの機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

表 20.39 出力レベル選択機能

ビット2 WF	ビット1 VF	ビット0 UF	機能					
			MTIOC3B U相	MTIOC4A V相	MTIOC4B W相	MTIOC3D U相	MTIOC4C V相	MTIOC4D W相
0	0	0	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
0	0	1	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
0	1	0	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF
0	1	1	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON
1	0	0	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF
1	0	1	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
1	1	0	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF
1	1	1	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

20.2.22 タイマサブカウンタ (TCNTS)

アドレス MTU.TCNTS 0008 8620h

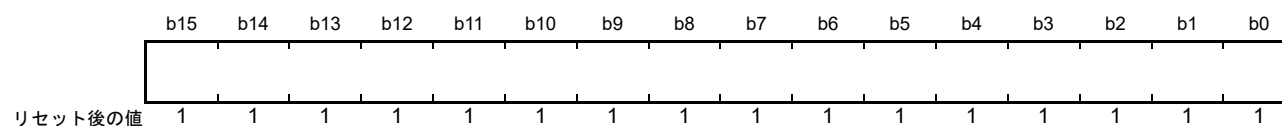


注. TCNTSカウンタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TCNTS カウンタは、相補 PWM モードに設定したときのみ使用される読み出し専用カウンタです。

20.2.23 タイマデッドタイムデータレジスタ (TDDR)

アドレス MTU.TDDR 0008 8616h

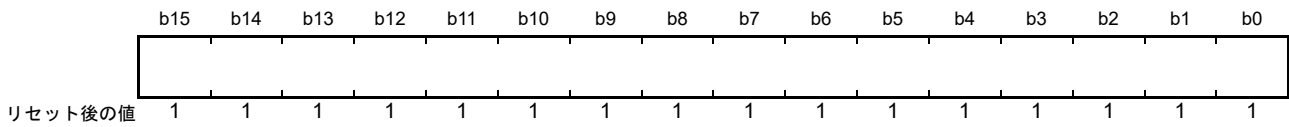


注. TDDRレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TDDR レジスタは、相補 PWM モード時 MTU3.TCNT と MTU4.TCNT カウンタのオフセット値を設定するレジスタです。相補 PWM モード時に MTU3.TCNT、MTU4.TCNT カウンタをクリアして再スタートするときは、TDDR レジスタの値が MTU3.TCNT カウンタにロードされカウント動作を開始します。

20.2.24 タイマ周期データレジスタ (TCDR)

アドレス MTU.TCDR 0008 8614h

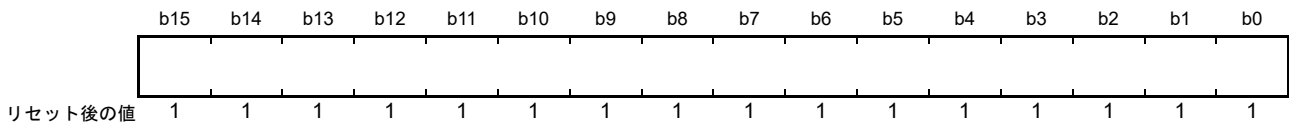


注. TCDRレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TCDR レジスタは、TCNTS カウンタのカウント方向を切り替えるカウント値を設定するレジスタです。相補 PWM モード時のみ使用します。TCDR レジスタの値は PWM 周期の 1/2 の値を設定してください。TCDR レジスタは、相補 PWM モード時 TCNTS カウンタと常時比較され、一致すると TCNTS カウンタはカウント方向を切り替えます（ダウンカウント→アップカウント）。

20.2.25 タイマ周期バッファレジスタ (TCBR)

アドレス MTU.TCBR 0008 8622h

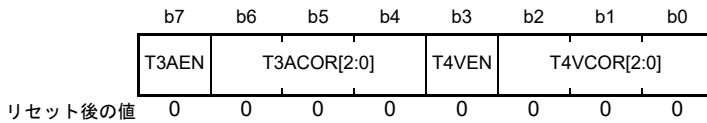


注. TCBRレジスタの8ビット単位でのアクセスは禁止です。16ビット単位でアクセスしてください。

TCBR レジスタは TCDR レジスタのバッファレジスタで、TCNTS カウンタのカウント方向を切り替えるカウント値を設定するレジスタです。相補 PWM モード時のみ使用します。TMDR レジスタで設定した転送タイミングで TCBR レジスタの値が TCDR レジスタに転送されます。

20.2.26 タイマ割り込み間引き設定レジスタ (TITCR)

アドレス MTU.TITCR 0008 8630h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	T4VCOR[2:0]	TCIV4 割り込み間引き回数設定ビット	TCIV4 割り込みの間引き回数を0~7回で設定します。(注1) 詳細は表20.40を参照してください	R/W
b3	T4VEN	T4VEN ビット	0 : TCIV4 割り込みの間引きを禁止する 1 : TCIV4 割り込みの間引きを許可する	R/W
b6-b4	T3ACOR[2:0]	TGIA3 割り込み間引き回数設定ビット	TGIA3 割り込みの間引き回数を0~7回で設定します。(注1) 詳細は表20.41を参照してください	R/W
b7	T3AEN	T3AEN ビット	0 : TGIA3 割り込みの間引きを禁止する 1 : TGIA3 割り込みの間引きを許可する	R/W

注1. 割り込み間引き回数に“0”を設定すると間引きは行いません。
また、割り込み間引き回数の変更前に、TITCR.T3AEN、TITCR.T4VEN ビットを“0”に設定して TITCNT カウンタをクリアしてください。

表20.40 T4VCOR[2:0]ビットによる割り込み間引き回数の設定

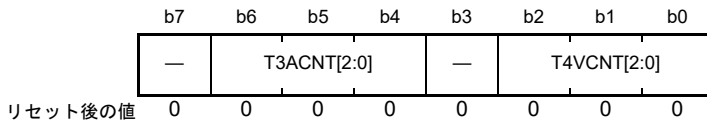
ビット2	ビット1	ビット0	説明
T4VCOR[2]	T4VCOR[1]	T4VCOR[0]	
0	0	0	TCIV4の割り込み間引きを行わない
0	0	1	TCIV4の割り込み間引き回数を1回に設定
0	1	0	TCIV4の割り込み間引き回数を2回に設定
0	1	1	TCIV4の割り込み間引き回数を3回に設定
1	0	0	TCIV4の割り込み間引き回数を4回に設定
1	0	1	TCIV4の割り込み間引き回数を5回に設定
1	1	0	TCIV4の割り込み間引き回数を6回に設定
1	1	1	TCIV4の割り込み間引き回数を7回に設定

表20.41 T3ACOR[2:0]ビットによる割り込み間引き回数の設定

ビット6	ビット5	ビット4	説明
T3ACOR[2]	T3ACOR[1]	T3ACOR[0]	
0	0	0	TGIA3の割り込み間引きを行わない
0	0	1	TGIA3の割り込み間引き回数を1回に設定
0	1	0	TGIA3の割り込み間引き回数を2回に設定
0	1	1	TGIA3の割り込み間引き回数を3回に設定
1	0	0	TGIA3の割り込み間引き回数を4回に設定
1	0	1	TGIA3の割り込み間引き回数を5回に設定
1	1	0	TGIA3の割り込み間引き回数を6回に設定
1	1	1	TGIA3の割り込み間引き回数を7回に設定

20.2.27 タイマ割り込み間引き回数カウンタ (TITCNT)

アドレス MTU.TITCNT 0008 8631h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	T4VCNT[2:0]	TCIV4割り込みカウンタビット	TITCR.T4VENビットに1を設定時、TCIV4割り込み要因が発生したときに1カウントアップします	R
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b6-b4	T3ACNT[2:0]	TGIA3割り込みカウンタビット	TITCR.T3AENビットに1を設定時、TGIA3割り込み要因が発生したときに1カウントアップします	R
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

注. TITCNTカウンタの値をクリアするには、TITCR.T3AENビットとTITCR.T4VENビットを“0”にしてください。

TITCNTカウンタは、割り込み間引き対象の割り込み要因発生回数をカウントするカウンタです。TITCNTカウンタは、MTU3.TCNT および MTU4.TCNT カウンタのカウント動作停止後も、値を保持します。

T4VCNT[2:0] ビット (TCIV4 割り込みカウンタビット)

[“0”になる条件]

- TITCR.T4VCOR[2:0] ビットと TITCNT.T4VCNT[2:0] ビットが一致したとき
- TITCR.T4VEN ビットが“0”のとき
- TITCR.T4VCOR[2:0] ビットが“000b”のとき

T3ACNT[2:0] ビット (TGIA3 割り込みカウンタビット)

[“0”になる条件]

- TITCR.T3ACOR[2:0] ビットと TITCNT.T3ACNT[2:0] ビットが一致したとき
- TITCR.T3AEN ビットが“0”のとき
- TITCR.T3ACOR[2:0] ビットが“000b”のとき

20.2.28 タイマバッファ転送設定レジスタ (TBTER)

アドレス MTU.TBTER 0008 8632h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	BTE[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	BTE[1:0]	バッファ転送抑止および割り込み間引き連動設定ビット	相補PWMモードで使用するバッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を抑止する/しない、または割り込み間引き機能と連動する/しないを設定します。詳細は表20.42を参照してください	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TBTER レジスタは、相補 PWM モードで使用するバッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を抑止する/しない、または割り込み間引き機能と連動する/しないを設定するレジスタです。

表 20.42 TBTER.BTE[1:0]ビットの設定

ビット1	ビット0	説明
BTE[1]	BTE[0]	
0	0	バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を抑止しない(注1) また、割り込み間引き機能と連動しない
0	1	バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を抑止する
1	0	バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を割り込み間引き機能と連動する(注2)
1	1	設定しないでください

注. 対象バッファレジスタ : MTU3.TGRC、MTU3.TGRD、MTU4.TGRC、MTU4.TGRD、MTU.TCBR レジスタ

注1. TMDR.MD[3:0]ビットの設定に従い転送します。詳細は「20.3.8 相補PWMモード」を参照してください。

注2. 割り込み間引きが禁止のとき (TITCR.T3AEN、T4VEN ビットを“0”に設定したとき、またはTITCRレジスタの間引き回数設定ビット (T3ACOR[2:0]、T4VCOR[2:0]) を“000b”に設定したとき) は、バッファ転送を割り込み間引きと連動しない設定 (TBTER.BTE[1]ビットを“0”に設定) にしてください。
割り込み間引きが禁止のときに、バッファ転送を割り込み間引きと連動する設定にした場合、バッファ転送は行われません。

20.2.29 タイマデッドタイム許可レジスタ (TDER)

アドレス MTU.TDER 0008 8634h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	TDER
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TDER	デッドタイム許可レジスタビット	0: デッドタイムを生成しない 1: デッドタイムを生成する(注1)	R/(W)
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. TDDR ≥ 1に設定してください。

TDER レジスタは、相補 PWM モードのデッドタイム生成を設定するレジスタです。TDER レジスタは MTU3 に 1 本あります。TDER レジスタの設定は、TCNT カウンタの動作が停止した状態で行ってください。

TDER ビット (デッドタイム許可レジスタビット)

デッドタイムの生成をする / しないを設定します。

[“0”になる条件]

- TDER = 1 を読み出し後、TDER ビットに“0”を書いたとき

20.2.30 タイマ波形コントロールレジスタ (TWCR)

アドレス MTU.TWCR 0008 8660h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CCE	—	—	—	—	—	—	WRE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	WRE	初期出力抑止許可ビット	0 : TOCRレジスタで設定した初期出力値を出力 1 : 初期出力を抑止する	R/(W) (注1)
b6-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	CCE	コンペアマッチクリア許可ビット	0 : MTU3.TGRAレジスタのコンペアマッチによるカウンタクリアをしない 1 : MTU3.TGRAレジスタのコンペアマッチによるカウンタクリアをする	R/(W) (注2)

注1. 相補PWMモードのとき以外は、“1”に設定しないでください。

注2. 相補PWMモード1のとき以外は、“1”に設定しないでください。

TWCRレジスタは、相補PWMモードでMTU3.TCNT, MTU4.TCNTカウンタの同期カウンタクリアが発生した場合の出力波形の制御と、MTU3.TGRAレジスタのコンペアマッチによるカウンタクリアをする/しないを設定するレジスタです。

TWCR.CCE, WREビットの設定は、TCNTカウンタの動作が停止した状態で行ってください。

WREビット (初期出力抑止許可ビット)

相補PWMモードで同期カウンタクリアが起きたときの出力波形を選択します。

本機能によって初期出力が抑止されるのは、相補PWMモードの谷のT_b区間で同期クリアが発生したときのみです。それ以外のときに同期クリアが発生した場合は、WREビットの設定によらず、TOCRレジスタで設定した初期値を出力します。また、MTU3.TCNT, MTU4.TCNTカウンタスタート直後の谷のT_b区間で同期クリアが発生した場合も、TOCRレジスタで設定した初期値を出力します。

相補PWMモードの谷のT_b区間については、[図 20.40](#)を参照してください。

[“1”になる条件]

- WRE = 0 を読み出し後、WREビットに“1”を書いたとき

CCEビット (コンペアマッチクリア許可ビット)

相補PWMモード1で、MTU3.TGRAレジスタのコンペアマッチによるカウンタクリアをする/しないを設定します。

[“1”になる条件]

- CCE = 0 を読み出し後、CCEビットに“1”を書いたとき

20.2.31 ノイズフィルタコントロールレジスタ (NFCR)

- MTU0.NFCR, MTU1.NFCR, MTU2.NFCR, MTU3.NFCR, MTU4.NFCR

アドレス MTU0.NFCR 0008 8690h, MTU1.NFCR 0008 8691h, MTU2.NFCR 0008 8692h, MTU3.NFCR 0008 8693h, MTU4.NFCR 0008 8694h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	NFC[1:0]		NFDEN	NFCEN	NFBEN	NFAEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NFAEN	ノイズフィルタ A 許可ビット	0 : MTIOCnA 端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIOCnA 端子のノイズフィルタは有効	R/W
b1	NFBEN	ノイズフィルタ B 許可ビット	0 : MTIOCnB 端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIOCnB 端子のノイズフィルタは有効	R/W
b2	NFCEN	ノイズフィルタ C 許可ビット(注1)	0 : MTIOCnC 端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIOCnC 端子のノイズフィルタは有効	R/W
b3	NFDEN	ノイズフィルタ D 許可ビット(注1)	0 : MTIOCnD 端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIOCnD 端子のノイズフィルタは有効	R/W
b5-b4	NFC[1:0]	ノイズフィルタクロック選択ビット	b5 b4 0 0 : PCLK/1 0 1 : PCLK/8 1 0 : PCLK/32 1 1 : カウントソースを外部クロックに設定	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. MTU1、MTU2では予約ビットになります。読むと“0”が読めます。書き込み値は無効です。

MTUn.NFCR レジスタ (n=0~4) は、MTIOCnm 端子 (n=0~4, m=A~D) のノイズフィルタの有効/無効、ノイズフィルタのサンプリングクロックを設定するレジスタです。

NFAEN ビット (ノイズフィルタ A 許可ビット)

MTIOCnA 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFAEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定、または TMDR.MD[3:0] ビットを“0000b”(ノーマルモード)以外に設定した状態で、NFAEN ビットを切り替えてください。

NFBEN ビット (ノイズフィルタ B 許可ビット)

MTIOCnB 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFBEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定、または TMDR.MD[3:0] ビットを“0000b”(ノーマルモード)以外に設定した状態で、NFBEN ビットを切り替えてください。

NFCEN ビット (ノイズフィルタ C 許可ビット)

MTIOCnC 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFCEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定または、TMDR.MD[3:0] ビットを“0000b”(ノーマルモード)以外に設定した状態で、NFCEN ビットを切り替えてください。

NFDEN ビット (ノイズフィルタ D 許可ビット)

MTIOCN_D 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFDEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をアウトプットコンペア機能に設定または、TMDR.MD[3:0] ビットを“0000b” (ノーマルモード) 以外に設定した状態で、NFDEN ビットを切り替えてください。

NFCS[1:0] ビット (ノイズフィルタクロック選択ビット)

ノイズフィルタのサンプリング周期を設定します。NFCS[1:0] ビットの設定後、設定したサンプリング周期の2周期分待った後、インプットキャプチャ機能に設定してください。NFCS[1:0] ビットを“11b”に設定しカウントソースを外部クロックとした場合、NFCS[1:0] ビット設定後外部クロックを2回入力した後インプットキャプチャ機能に設定してください。

- MTU5.NFCR

アドレス MTU5.NFCR 0008 8695h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	NFCS[1:0]	—	NFWE N	NFVEN	NFUEN	

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	NFUEN	ノイズフィルタU許可ビット	0 : MTIC5U端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIC5U端子のノイズフィルタは有効	R/W
b1	NFVEN	ノイズフィルタV許可ビット	0 : MTIC5V端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIC5V端子のノイズフィルタは有効	R/W
b2	NFWEN	ノイズフィルタW許可ビット	0 : MTIC5W端子のノイズフィルタは無効 1 : MTIC5W端子のノイズフィルタは有効	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5-b4	NFCS[1:0]	ノイズフィルタクロック選択ビット	b5 b4 0 0 : PCLK/1 0 1 : PCLK/8 1 0 : PCLK/32 1 1 : カウントソースを外部クロックに設定	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

MTU5.NFCR レジスタは、8ビットの読み出し/書き込み可能なレジスタです。MTU5.NFCR レジスタは、MTIC5m 端子のノイズフィルタの有効/無効を制御します。また、ノイズフィルタのサンプリングクロックを設定します。(m=U, V, W)

NFUEN ビット (ノイズフィルタ U 許可ビット)

MTIC5U 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFUEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をコンペアマッチ機能に設定した状態で NFUEN ビットを切り替えてください。

NFVEN ビット (ノイズフィルタ V 許可ビット)

MTIC5V 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFVEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をコンペアマッチ機能に設定した状態で NFVEN ビットを切り替えてください。

NFWEN ビット (ノイズフィルタ W 許可ビット)

MTIC5W 端子の入力のノイズフィルタ機能の有効/無効を設定します。NFWEN ビットを切り替えたとき、意図しない内部エッジが発生することがあるため、タイマ I/O コントロールレジスタの該当端子機能をコンペアマッチ機能に設定した状態で NFWEN ビットを切り替えてください。

NFCS[1:0] ビット (ノイズフィルタクロック選択ビット)

ノイズフィルタのサンプリング周期を設定するレジスタです。NFCS[1:0] ビットの設定後、設定したサンプリング周期の2周期分待った後インプットキャプチャ機能に設定してください。

20.2.32 バスマスタとのインタフェース

TCNT カウンタ、TGR レジスタ、TCNTS カウンタ、TCBR レジスタ、TDDR レジスタ、TCDR レジスタ、TADCR レジスタ、TADCORA/TADCORB レジスタ、および TADCOBRA/TADCOBRB レジスタは 16 ビットのレジスタです。バスマスタとの間のデータバスは 16 ビット幅なので、16 ビット単位での読み出し/書き込みが可能です。8 ビット単位での読み出し/書き込みはできません。16 ビット単位でアクセスしてください。

上記以外のレジスタは 8 ビットのレジスタです。8 ビット単位での読み出し/書き込みを行ってください。

20.3 動作説明

20.3.1 基本動作

各チャンネルには、TCNT カウンタと TGR レジスタがあります。TCNT カウンタは、アップカウント動作を行い、フリーランニングカウント動作、周期カウント動作、または外部イベントカウント動作が可能です。

TGR レジスタは、それぞれインプットキャプチャレジスタまたはアウトプットコンペアレジスタとして使用することができます。

(1) カウンタの動作

TSTR.CST0 ~ CST4 ビット、MTU5.TSTR.CSTU5, CSTV5, CSTW5 ビットを“1”にすると、対応するチャンネルの TCNT カウンタはカウント動作を開始します。フリーランニングカウント動作、周期カウント動作などが可能です。

(a) カウント動作の設定手順例

カウント動作設定手順例を図 20.4 に示します。

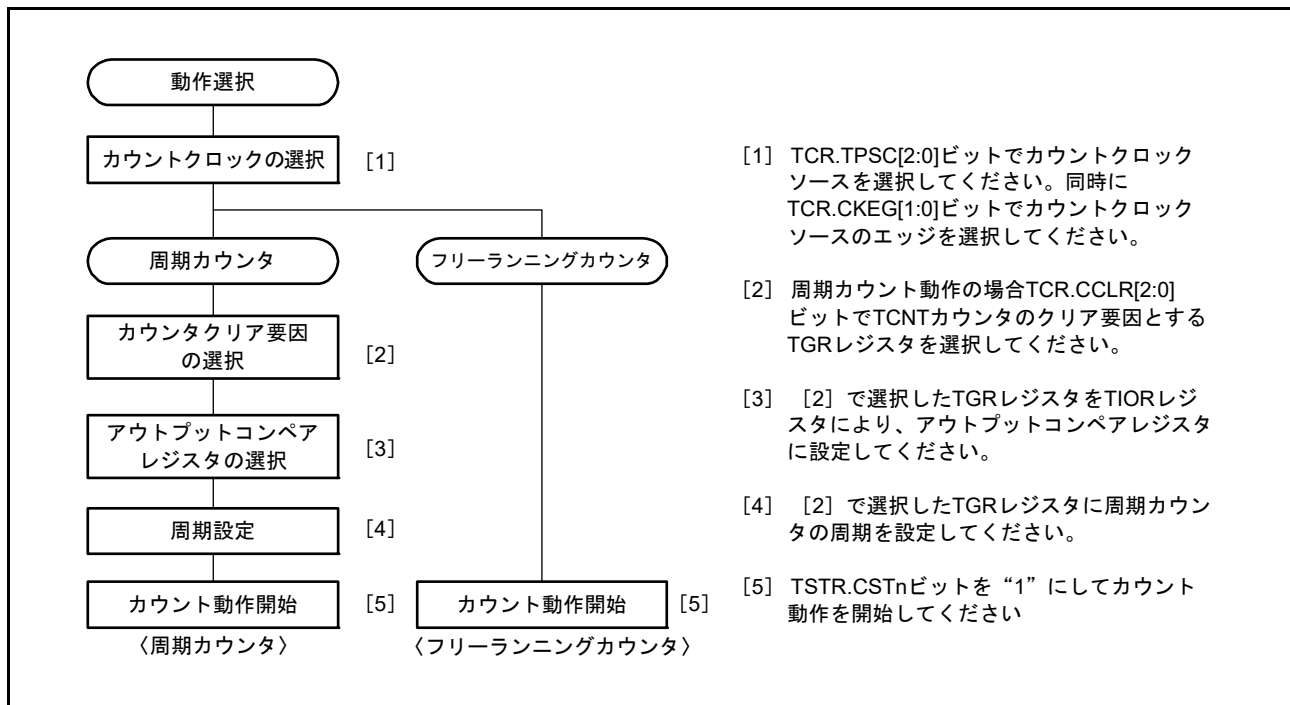


図 20.4 カウント動作設定手順例

(b) フリーランニングカウンタ動作と周期カウンタ動作

MTUのTCNTカウンタは、リセット直後はすべてフリーランニングカウンタの設定となっており、TSTRレジスタの対応するCSTnビットを“1”にするとフリーランニングカウンタとしてアップカウント動作を開始します。TCNTカウンタがオーバーフロー（“FFFFh”→“0000h”）すると、対応するTIER.TCIEVビットが“1”ならば、MTUは割り込みを要求します。TCNTカウンタはオーバーフロー後、“0000h”からアップカウント動作を継続します。

フリーランニングカウンタの動作を図20.5に示します。

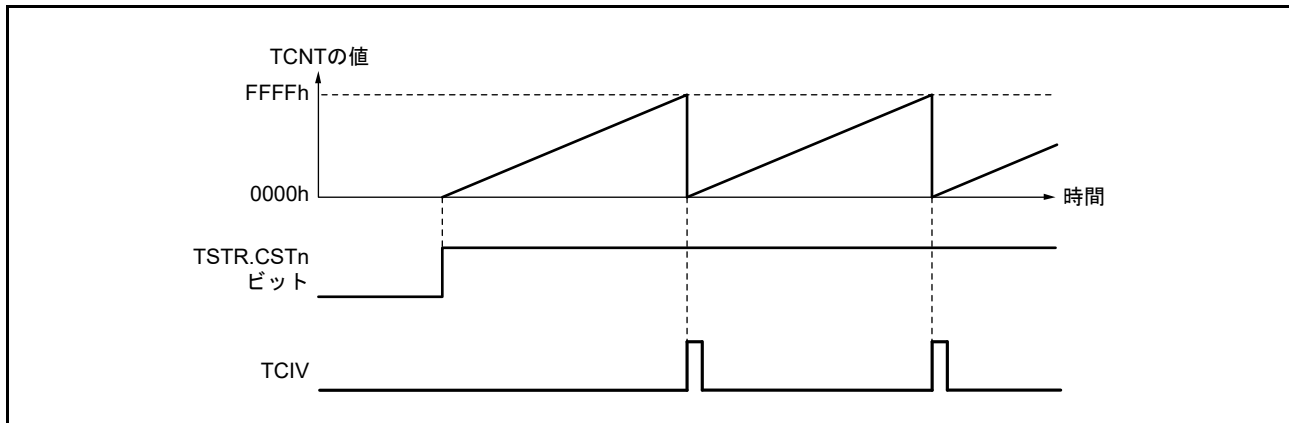


図 20.5 フリーランニングカウンタの動作

TCNTカウンタのクリア要因にコンペアマッチを選択したときは、対応するチャンネルのTCNTカウンタは周期カウンタ動作を行います。周期設定用のTGRレジスタをアウトプットコンペアレジスタに設定し、TCR.CCLR[2:0]ビットによりコンペアマッチによるカウンタクリアを選択します。設定後、TSTRレジスタの対応するビットを“1”にすると、周期カウンタとしてアップカウント動作を開始します。カウント値がTGRレジスタの値と一致すると、TCNTカウンタは“0000h”になります。

このとき対応するTIER.TGIEビットが“1”ならば、MTUは割り込みを要求します。TCNTカウンタはコンペアマッチ後、“0000h”からアップカウント動作を継続します。

周期カウンタの動作を図20.6に示します。

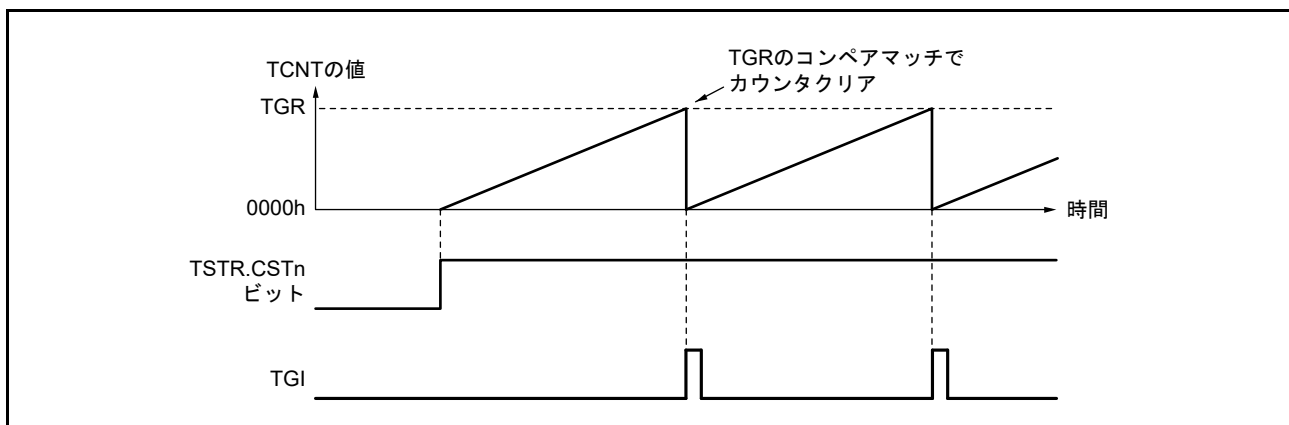


図 20.6 周期カウンタの動作

(2) コンペアマッチによる波形出力機能

MTUは、コンペアマッチにより対応する出力端子から Low 出力 / High 出力 / トグル出力を行うことができます。

(a) コンペアマッチによる波形出力動作の設定手順例

コンペアマッチによる波形出力動作の設定手順例を図 20.7 に示します。

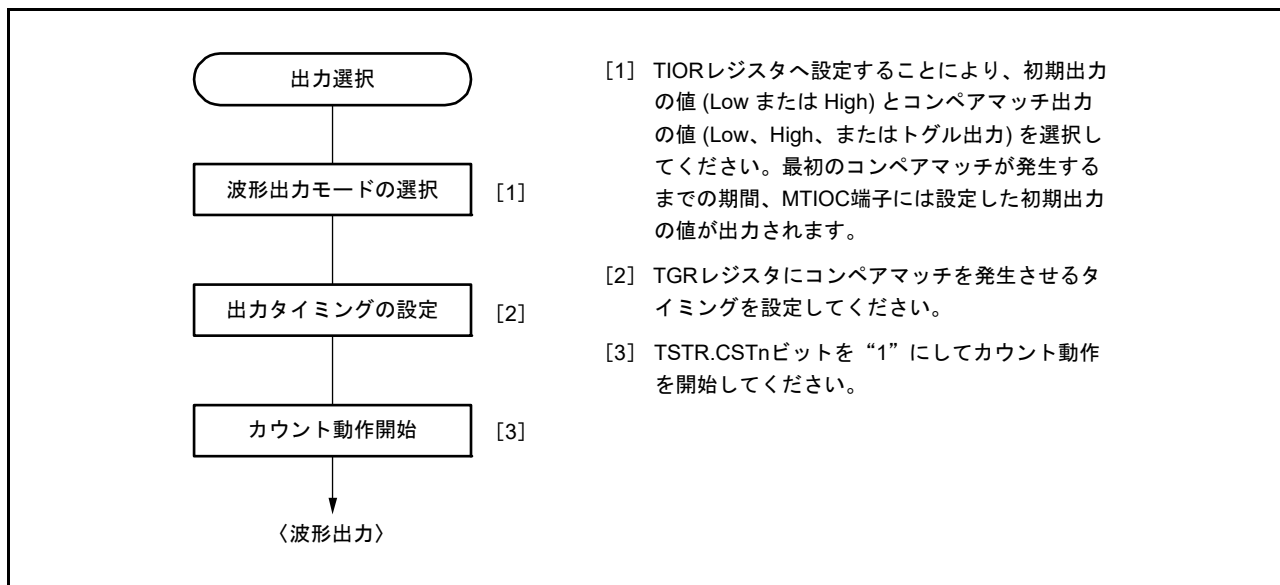


図 20.7 コンペアマッチによる波形出力動作例

(b) 波形出力動作例

Low 出力 / High 出力例を図 20.8 に示します。

TCNT カウンタをフリーランニングカウント動作とし、コンペアマッチ A により High 出力、コンペアマッチ B により Low 出力となるように設定した場合の例です。設定したレベルと端子のレベルが一致した場合には、端子のレベルは変化しません。

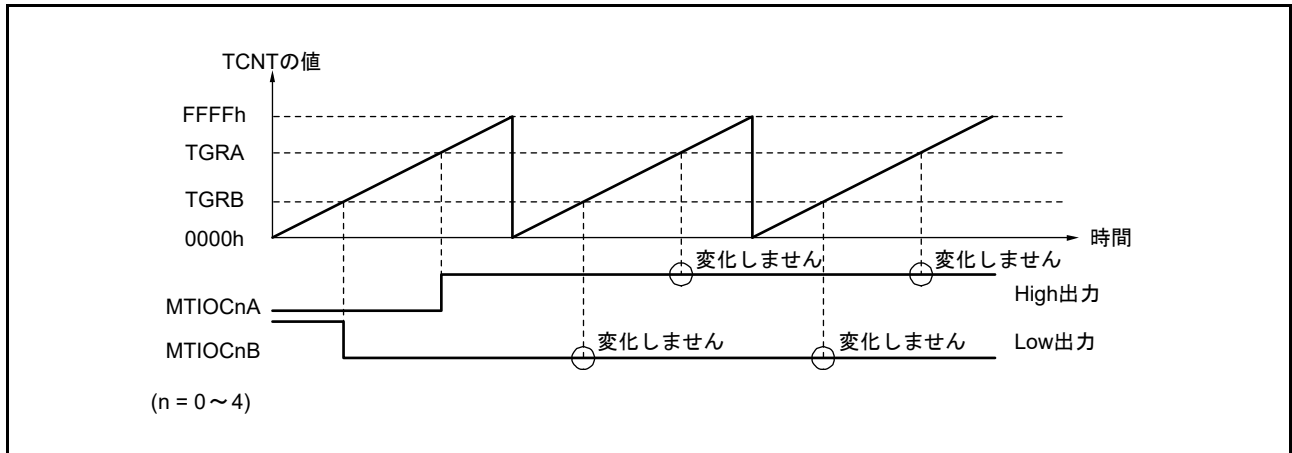


図 20.8 Low 出力 / High 出力の動作例

トグル出力の例を図 20.9 に示します。

TCNT カウンタを周期カウント動作 (コンペアマッチ B によりカウンタクリア) に、コンペアマッチ A、B ともトグル出力となるように設定した場合の例です。

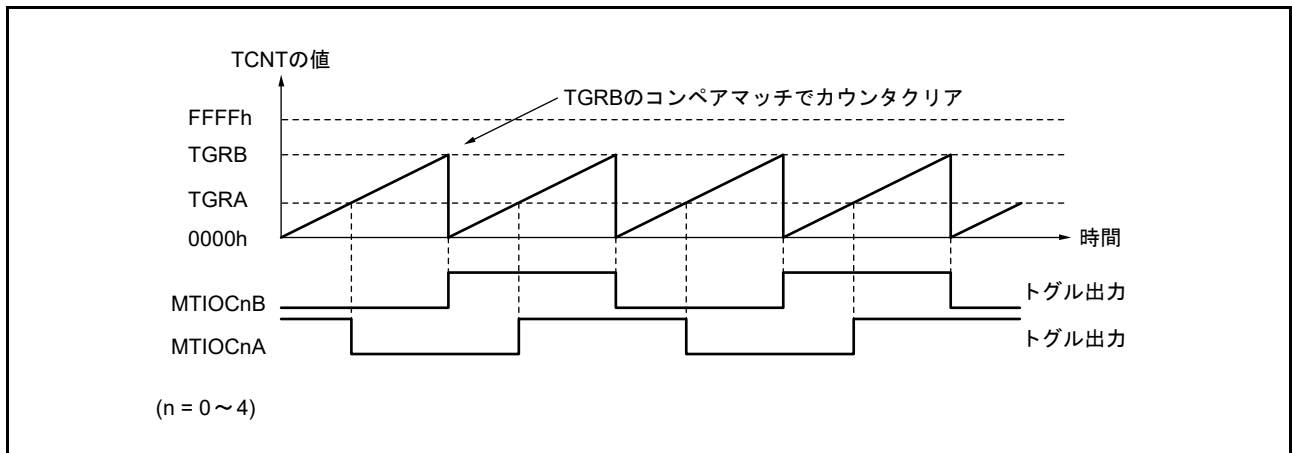


図 20.9 トグル出力の動作例

(3) インพุットキャプチャ機能

MTIOCnm 端子 (n = 0 ~ 4, m = A ~ D)、および MTIC5m 端子 (m = W, V, U) の入力エッジを検出して TCNT カウンタの値を TGR レジスタに転送することができます。

検出エッジは立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジから選択できます。また、MTU0、MTU1 は別のチャンネルのカウントクロックやコンペアマッチ信号をインพุットキャプチャの要因とすることもできます。

注. MTU0、MTU1 で別のチャンネルのカウントクロックをインพุットキャプチャ入力とする場合は、インพุットキャプチャ入力とするカウントクロックに PCLK/1 を選択しないでください。PCLK/1 を選択した場合は、インพุットキャプチャは発生しません。

(a) インพุットキャプチャ動作の設定手順例

インพุットキャプチャ動作の設定手順例を図 20.10 に示します。

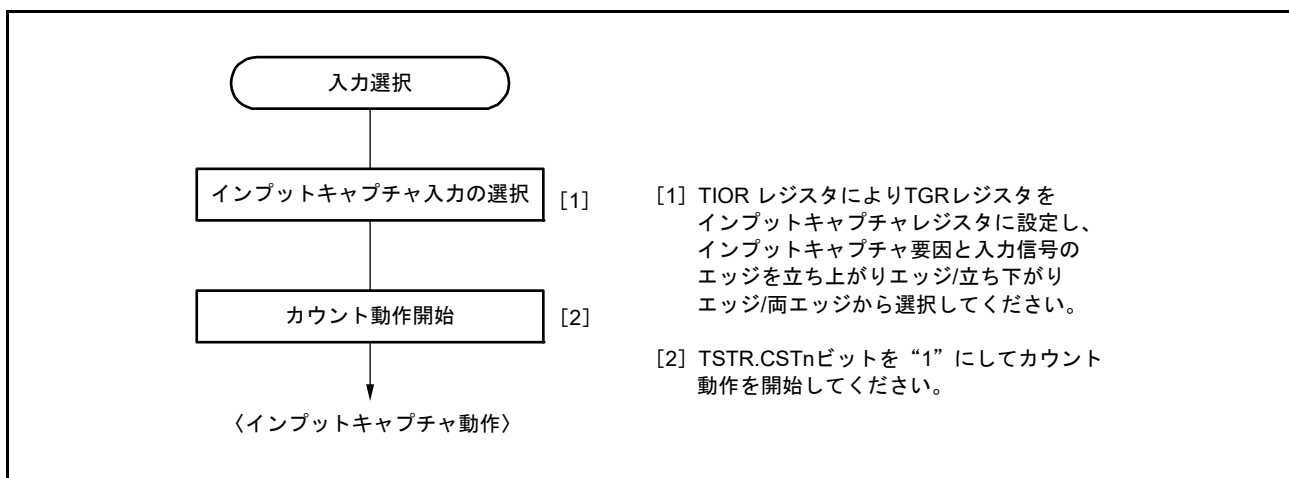


図 20.10 インพุットキャプチャ動作の設定手順例

(b) インพุットキャプチャ動作例

インพุットキャプチャ動作例を図 20.11 に示します。

MTIOCnA 端子のインพุットキャプチャ入力エッジは立ち上がり / 立ち下がりの両エッジ、また MTIOCnB 端子のインพุットキャプチャ入力エッジは立ち下がりエッジを選択し、TCNT カウンタは TGRB レジスタのインพุットキャプチャでカウンタクリアされるように設定した場合の例です。

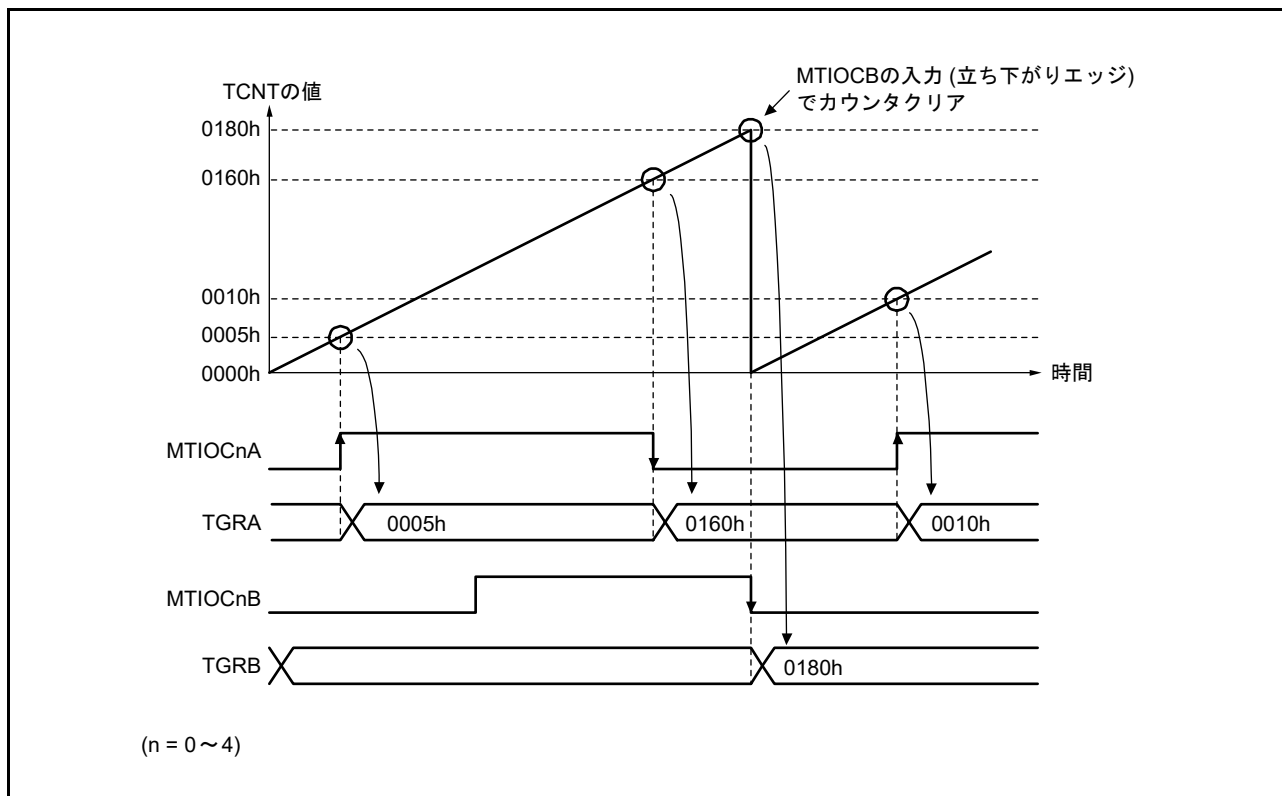


図 20.11 インพุットキャプチャ動作例

20.3.2 同期動作

同期動作は、複数の TCNT カウンタの値を同時に書き換えることができます（同期セット）。また、TCR の設定により複数の TCNT カウンタを同時にクリアすることができます（同期クリア）。

同期動作により、1つのタイムベースに対して動作する TGR レジスタの本数を増加することができます。

MTU0 ~ MTU4 はすべて同期動作の設定が可能です。

MTU5 は同期動作できません。

(1) 同期動作の設定手順例

同期動作の設定手順例を図 20.12 に示します。

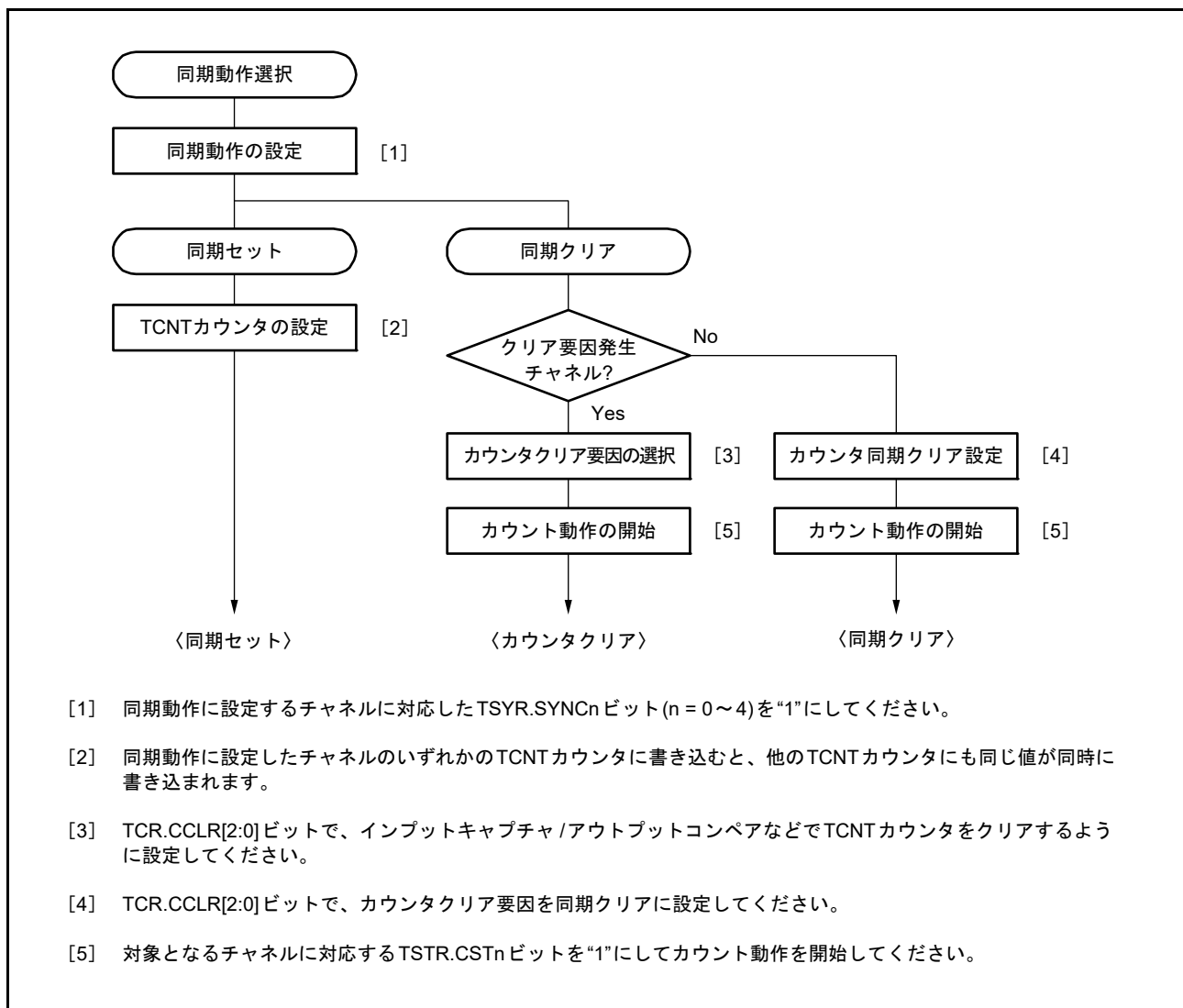


図 20.12 同期動作の設定手順例

(2) 同期動作の例

同期動作の例を図 20.13 に示します。

MTU0 ~ MTU2 を同期動作かつ PWM モード 1 に設定し、MTU0 のカウンタクリア要因を MTU0.TGRB レジスタのコンペアマッチ、また MTU1、MTU2 のカウンタクリア要因を同期クリアに設定した場合の例です。

3 相の PWM 波形を MTIOC0A、MTIOC1A、MTIOC2A 端子から出力します。このとき、MTU0 ~ MTU2 の TCNT カウンタは同期セット、MTU0.TGRB レジスタのコンペアマッチによる同期クリアを行い、MTU0.TGRB レジスタに設定したデータが PWM 周期となります。

PWM モードについては、「20.3.5 PWM モード」を参照してください。

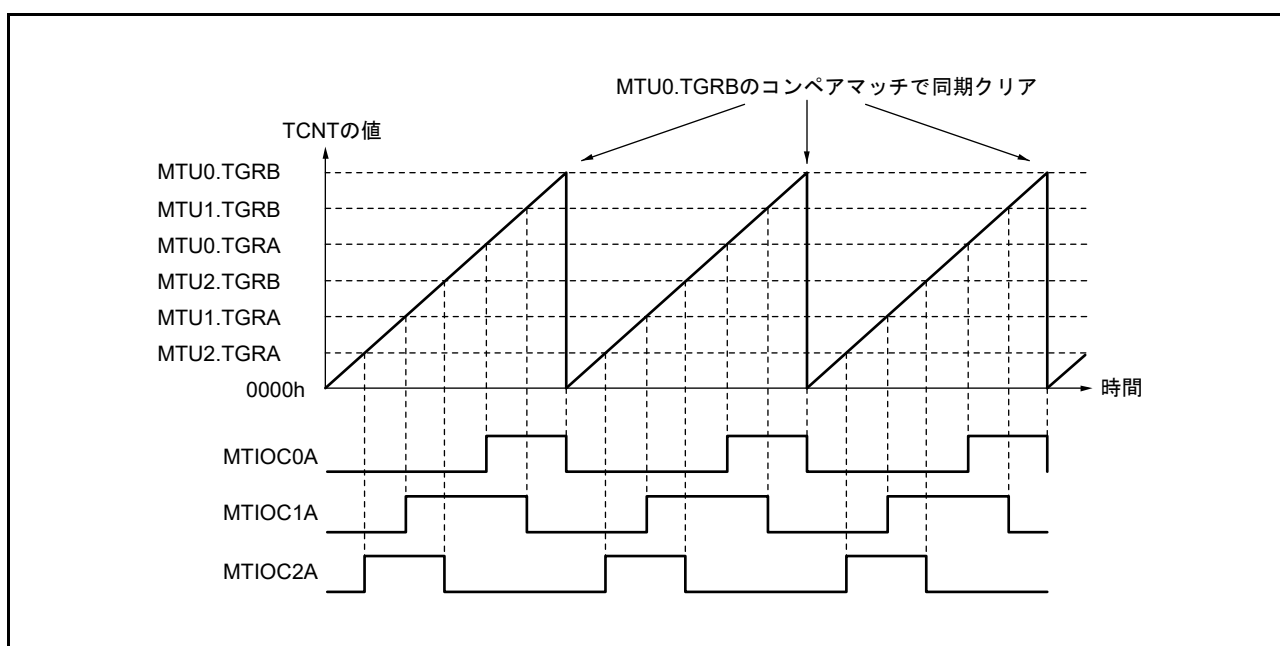


図 20.13 同期動作の動作例

20.3.3 バッファ動作

バッファ動作は、MTU0、MTU3、MTU4 が持つ機能です。TGRC レジスタと TGRD レジスタをバッファレジスタとして使用することができます。また、MTU0 は TGRF レジスタもバッファレジスタとして使用することができます。

バッファ動作は、TGR レジスタをインプットキャプチャレジスタに設定した場合と、コンペアマッチレジスタに設定した場合のそれぞれで動作内容が異なります。

注． MTU0.TGRE レジスタはインプットキャプチャレジスタに設定できません。コンペアマッチレジスタとしてのみ動作します。

表 20.43 にバッファ動作時のレジスタの組み合わせを示します。

表20.43 レジスタの組み合わせ

チャンネル	タイマジェネラルレジスタ	バッファレジスタ
MTU0	TGRA	TGRC
	TGRB	TGRD
	TGRE	TGRF
MTU3	TGRA	TGRC
	TGRB	TGRD
MTU4	TGRA	TGRC
	TGRB	TGRD

- TGR レジスタがアウトプットコンペアレジスタの場合

コンペアマッチが発生すると、対応するチャンネルのバッファレジスタの値がタイマジェネラルレジスタに転送されます。

この動作を図 20.14 に示します。

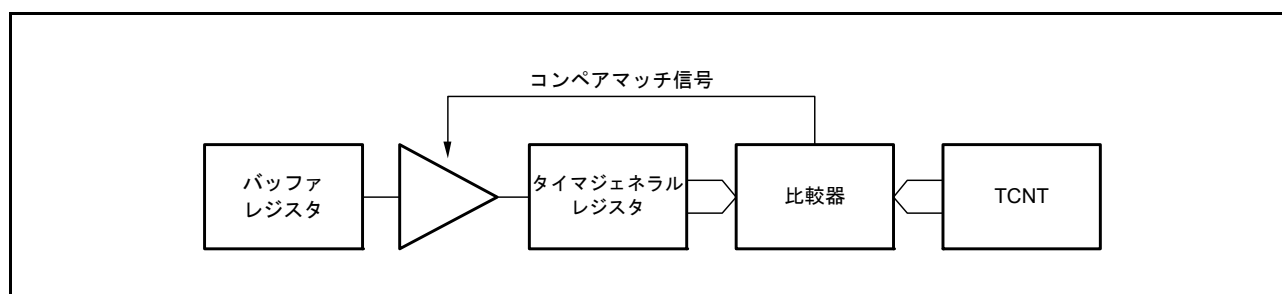


図 20.14 コンペアマッチバッファ動作

- TGRレジスタがインプットキャプチャレジスタの場合

インプットキャプチャが発生すると、TCNTカウンタの値をTGRレジスタに転送すると同時に、それまで格納されていたTGRレジスタの値をバッファレジスタに転送します。

この動作を図 20.15 に示します。

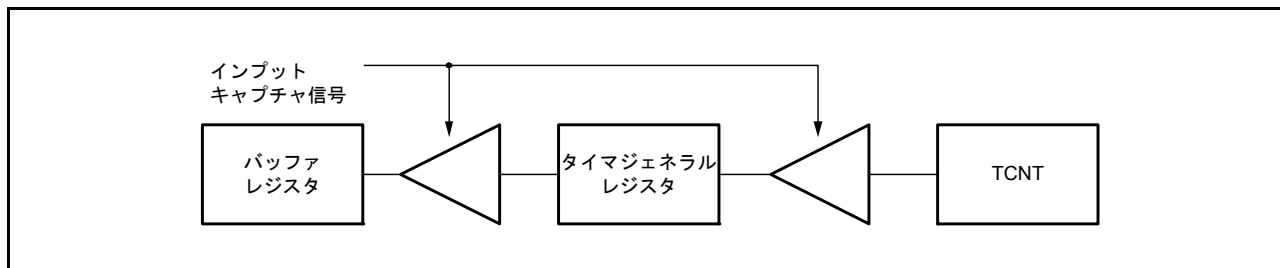


図 20.15 インプットキャプチャバッファ動作

(1) バッファ動作の設定手順例

バッファ動作の設定手順例を図 20.16 に示します。

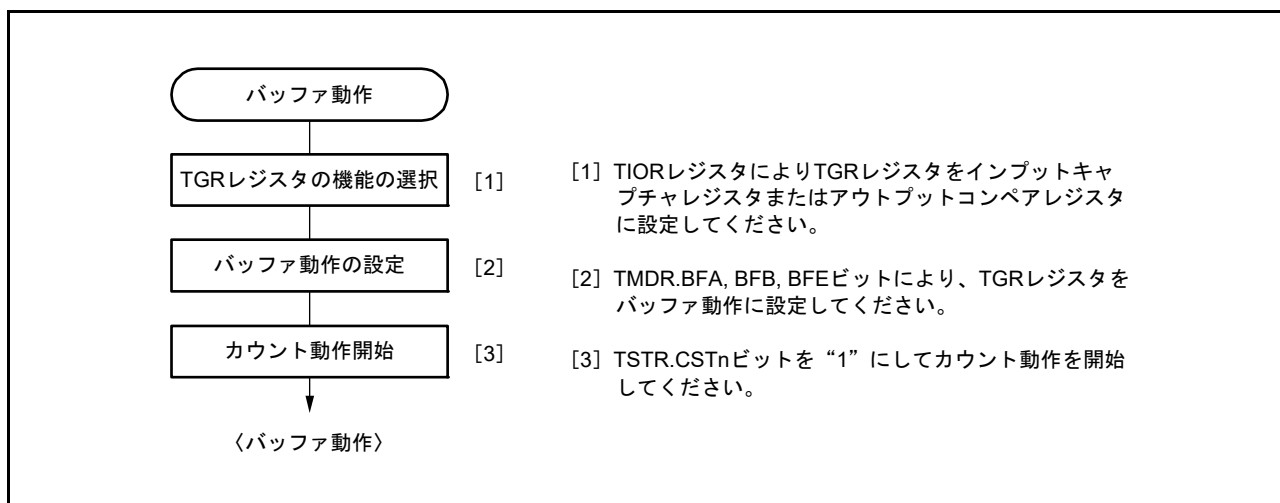


図 20.16 バッファ動作の設定手順例

(2) バッファ動作例

(a) TGR レジスタがアウトプットコンペアレジスタの場合

MTU0 を PWM モード 1 に設定し、TGRA レジスタと TGRC レジスタをバッファ動作に設定した場合の動作例を図 20.17 に示します。TCNT カウンタはコンペアマッチ B によりクリア、出力はコンペアマッチ A で High 出力、コンペアマッチ B で Low 出力に設定した例です。この例では、TBTM.TTSA ビットは“0”に設定しています。

バッファ動作が設定されているため、コンペアマッチ A が発生すると出力を変化させると同時に、バッファレジスタ TGRC の値がタイマジェネラルレジスタ TGRA に転送されます。この動作は、コンペアマッチ A が発生する度に繰り返されます。

PWM モードについては、「20.3.5 PWM モード」を参照してください。

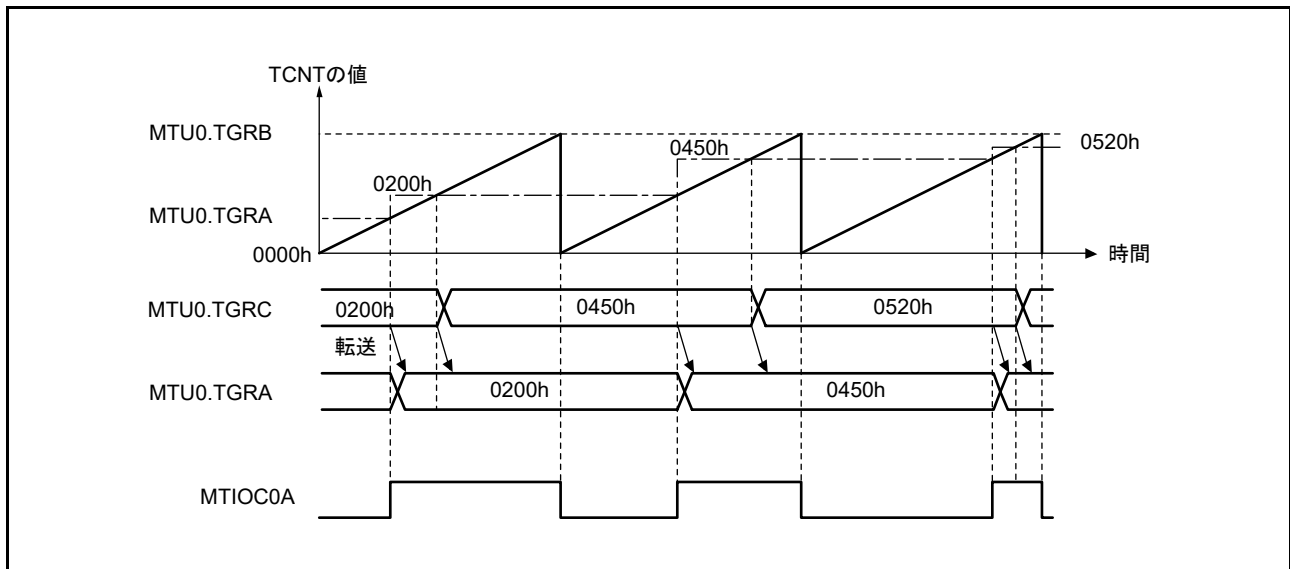


図 20.17 バッファ動作例 (1)

(b) TGR レジスタがインプットキャプチャレジスタの場合

TGRA レジスタをインプットキャプチャレジスタに設定し、TGRA レジスタと TGRC レジスタをバッファ動作に設定したときの動作例を図 20.18 に示します。

TCNT カウンタは TGRA レジスタのインプットキャプチャでカウンタクリア、MTIOCnA 端子のインプットキャプチャ入力エッジは立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジの両エッジが選択されています。

バッファ動作が設定されているため、インプットキャプチャ A により TCNT カウンタの値が TGRA レジスタに転送されると同時に、それまで TGRA レジスタに格納されていた値が TGRC レジスタに転送されます。

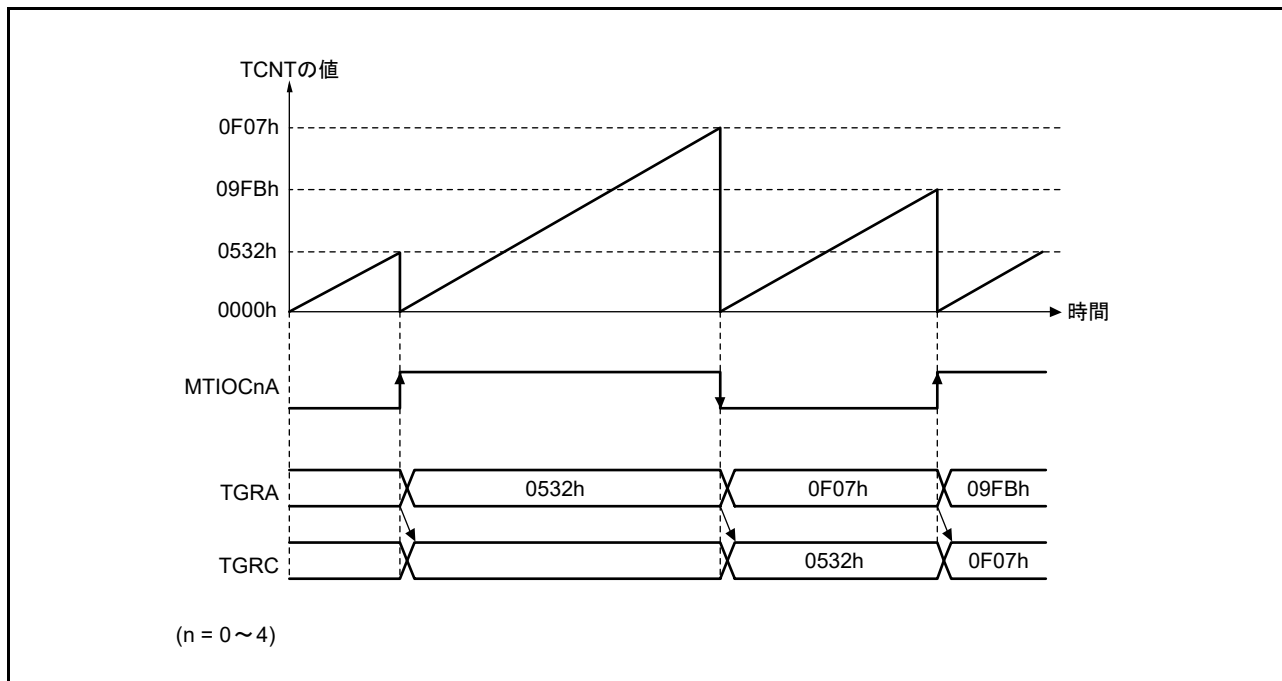


図 20.18 バッファ動作例 (2)

(3) バッファ動作時のバッファレジスタからタイマジェネラルレジスタへの転送タイミング選択

MTU0.TBTM, MTU3.TBTM, MTU4.TBTM レジスタを設定することで、MTU0 では PWM モード 1、2 時の、MTU3、MTU4 では PWM モード 1 時の、バッファレジスタからタイマジェネラルレジスタへの転送タイミングを選択できます。選択できるバッファ転送タイミングは、コンペアマッチ発生時（初期値）と TCNT カウンタクリア時のいずれか一方です。ここで TCNT カウンタのクリア時とは次の条件のいずれかが成立したときです。

- TCNT カウンタがオーバーフローしたとき (“FFFFh” → “0000h”)
- カウンタの動作中、TCNT カウンタに “0000h” が書き込まれたとき
- TCR.CCLR[2:0] ビットで設定したクリア要因で、TCNT カウンタが “0000h” になったとき

注． TBTM レジスタの設定は TCNT カウンタが停止した状態で行ってください。

MTU0 を PWM モード 1 に設定し、MTU0.TGRA レジスタと MTU0.TGRC レジスタをバッファ動作に設定した場合の動作例を図 20.19 に示します。MTU0.TCNT カウンタはコンペアマッチ B によりクリア、出力はコンペアマッチ A で High 出力、コンペアマッチ B で Low 出力、MTU0.TBTM.TTSA ビットは “1” に設定しています。

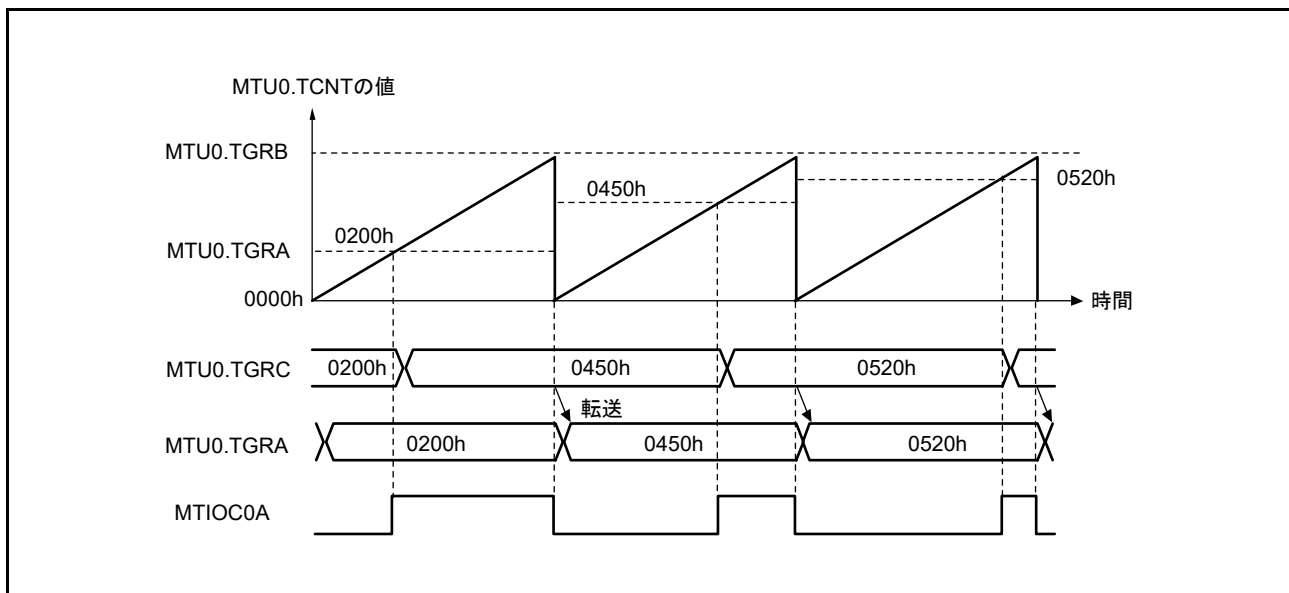


図 20.19 MTU0.TGRC レジスタから MTU0.TGRA レジスタのバッファ転送タイミングを MTU0.TCNT カウンタクリア時に選択した場合の動作例

20.3.4 カスケード接続動作

カスケード接続動作は、2チャンネルの16ビットカウンタを接続して32ビットカウンタとして動作させる機能です。

この機能は、MTU1のカウンタクロックをTCR.TPSC[2:0]ビットで“111b”（MTU2.TCNTのオーバフロー/アンダフローでカウント）に設定することにより動作します。

アンダフローが発生するのは、下位16ビットのTCNTカウンタが位相計数モードのときのみです。

表20.44にカスケード接続の組み合わせを示します。

注． MTU1、MTU2を位相計数モードに設定した場合は、カウンタクロックの設定は無効となり、独立して位相計数モードで動作します。

表20.44 カスケード接続組み合わせ

組み合わせ	上位16ビット	下位16ビット
MTU1とMTU2	MTU1.TCNT	MTU2.TCNT

カスケード動作時に、MTU1.TCNTカウンタとMTU2.TCNTカウンタの同時インプットキャプチャをする場合、TICCRレジスタで設定することで、インプットキャプチャ条件となる入力端子を追加することができます。インプットキャプチャの条件となるエッジ検出は、本来の入力端子の入力レベルと、追加した入力端子の入力レベルの論理和をとった信号に対して行われます。したがって、いずれか一方がHighのとき、もう一方が変化してもエッジ検出は行われません。詳細は、「(4) カスケード接続動作例(c)」を参照してください。カスケード接続時のインプットキャプチャについては「20.6.22 カスケード接続におけるMTU1.TCNT、MTU2.TCNTカウンタ同時インプットキャプチャ」を参照してください。

TICCRレジスタ設定値とインプットキャプチャ入力端子の対応を表20.45に示します。

表20.45 TICCRレジスタ設定値とインプットキャプチャ入力端子の対応

対象となるインプットキャプチャ	TICCRレジスタ設定値	インプットキャプチャ入力端子
MTU1.TCNTからMTU1.TGRAへのインプットキャプチャ	I2AEビット=0（初期値）	MTIOC1A
	I2AEビット=1	MTIOC1A, MTIOC2A
MTU1.TCNTからMTU1.TGRBへのインプットキャプチャ	I2BEビット=0（初期値）	MTIOC1B
	I2BEビット=1	MTIOC1B, MTIOC2B
MTU2.TCNTからMTU2.TGRAへのインプットキャプチャ	I1AEビット=0（初期値）	MTIOC2A
	I1AEビット=1	MTIOC2A, MTIOC1A
MTU2.TCNTからMTU2.TGRBへのインプットキャプチャ	I1BEビット=0（初期値）	MTIOC2B
	I1BEビット=1	MTIOC2B, MTIOC1B

(1) カスケード接続動作の設定手順例

カスケード接続動作の設定手順例を図 20.20 に示します。

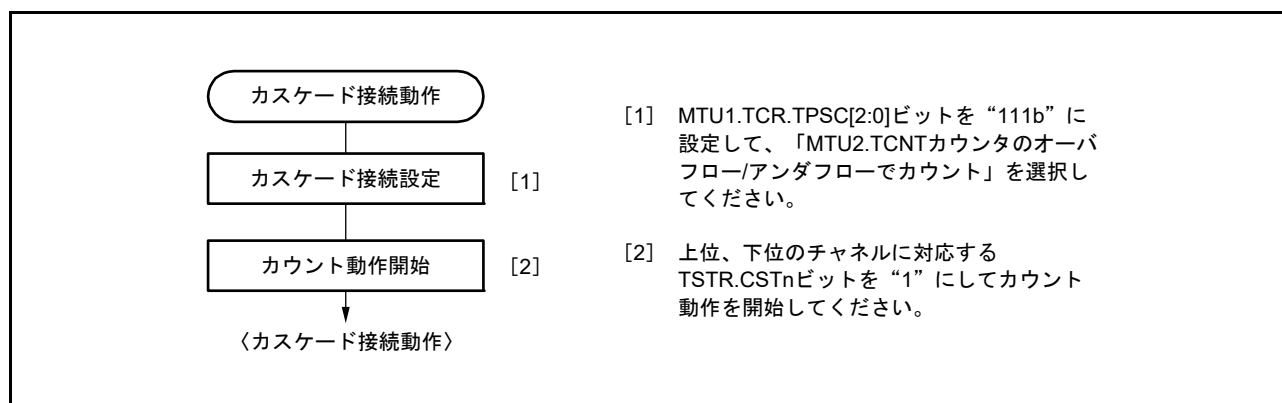


図 20.20 カスケード接続動作設定手順

(2) カスケード接続動作例 (a)

MTU1.TCNT, MTU2.TCNT カウンタをカスケード接続し、MTU1.TCNT カウンタは MTU2.TCNT カウンタのオーバーフロー/アンダフローでカウント、MTU2 を位相計数モード 1 に設定したときの動作を図 20.21 に示します。

MTU1.TCNT カウンタは MTU2.TCNT カウンタのオーバーフローでアップカウント、MTU2.TCNT カウンタのアンダフローでダウンカウントされます。

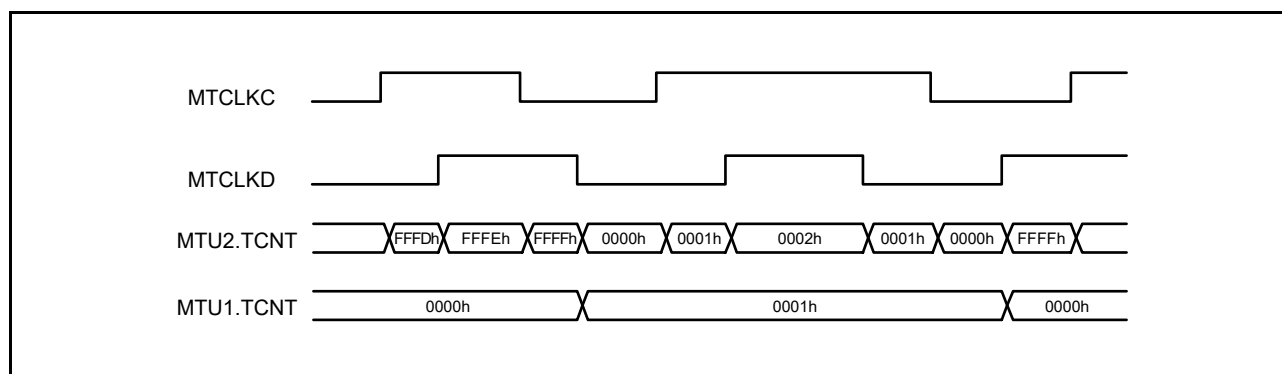


図 20.21 カスケード接続動作例 (a)

(3) カスケード接続動作例 (b)

MTU1.TCNT, MTU2.TCNT カウンタをカスケード接続し、TICCR.I2AE ビットを“1”にして、MTIOC2A 端子を MTU1.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件に追加した場合の動作を図 20.22 に示します。この例では MTU1.TIOR.IOA[3:0] ビットの設定は、MTIOC1A の立ち上がりエッジでインプットキャプチャに設定しています。また、MTU2.TIOR.IOA[3:0] ビットの設定は、MTIOC2A の立ち上がりエッジでインプットキャプチャに設定しています。

この場合、MTIOC1A と MTIOC2A の両方の立ち上がりエッジが MTU1.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件に設定されます。また、MTU2.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件は MTIOC2A の立ち上がりエッジとなります。

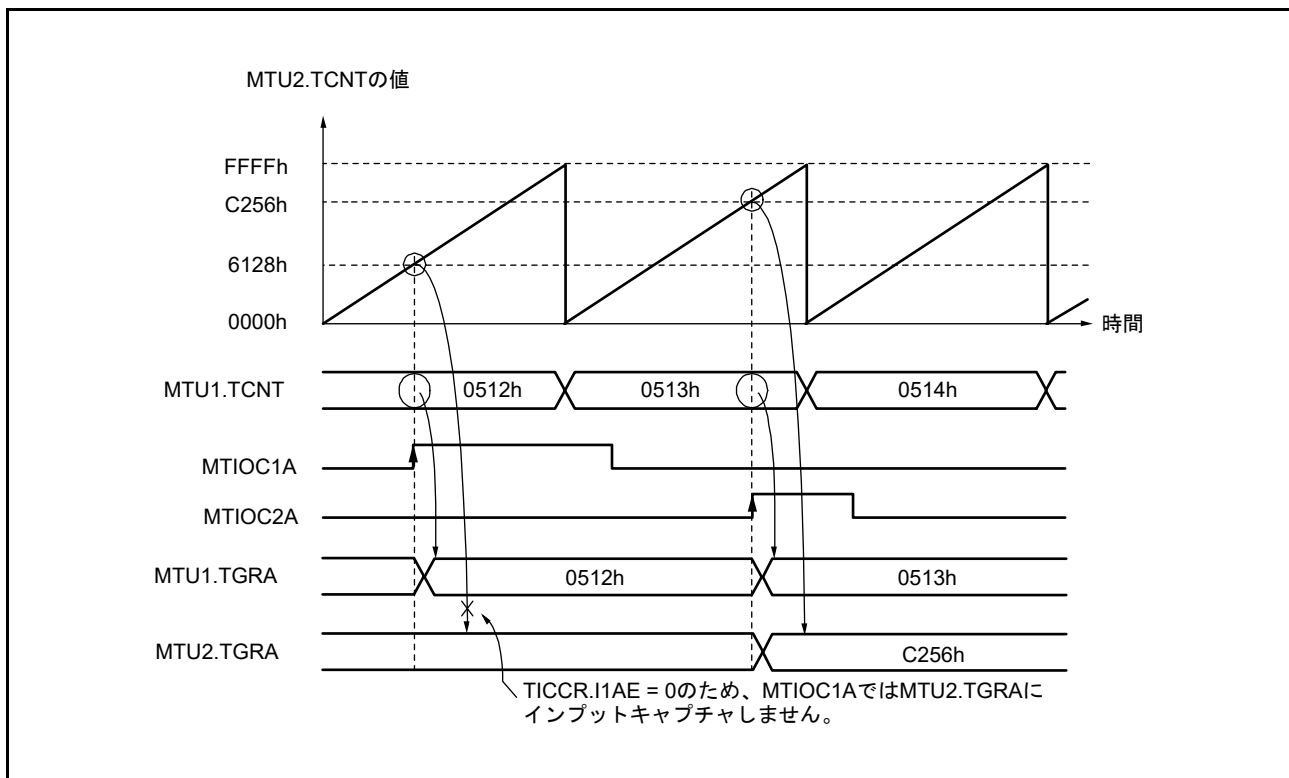


図 20.22 カスケード接続動作例 (b)

(4) カスケード接続動作例 (c)

MTU1.TCNT, MTU2.TCNT カウンタをカスケード接続し、TICCR.I2AE ビットと TICCR.I1AE に “1” を設定して、MTIOC2A 端子を MTU1.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件に追加し、MTIOC1A 端子を MTU2.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件に追加した場合の動作を図 20.23 に示します。この例では MTU1.TIOR.IOA[3:0] ビット、MTU2.TIOR.IOA[3:0] ビットの設定は、どちらも両エッジでインプットキャプチャに設定しています。この場合、MTIOC1A と MTIOC2A 入力の OR が MTU1.TGRA レジスタおよび MTU2.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件となります。

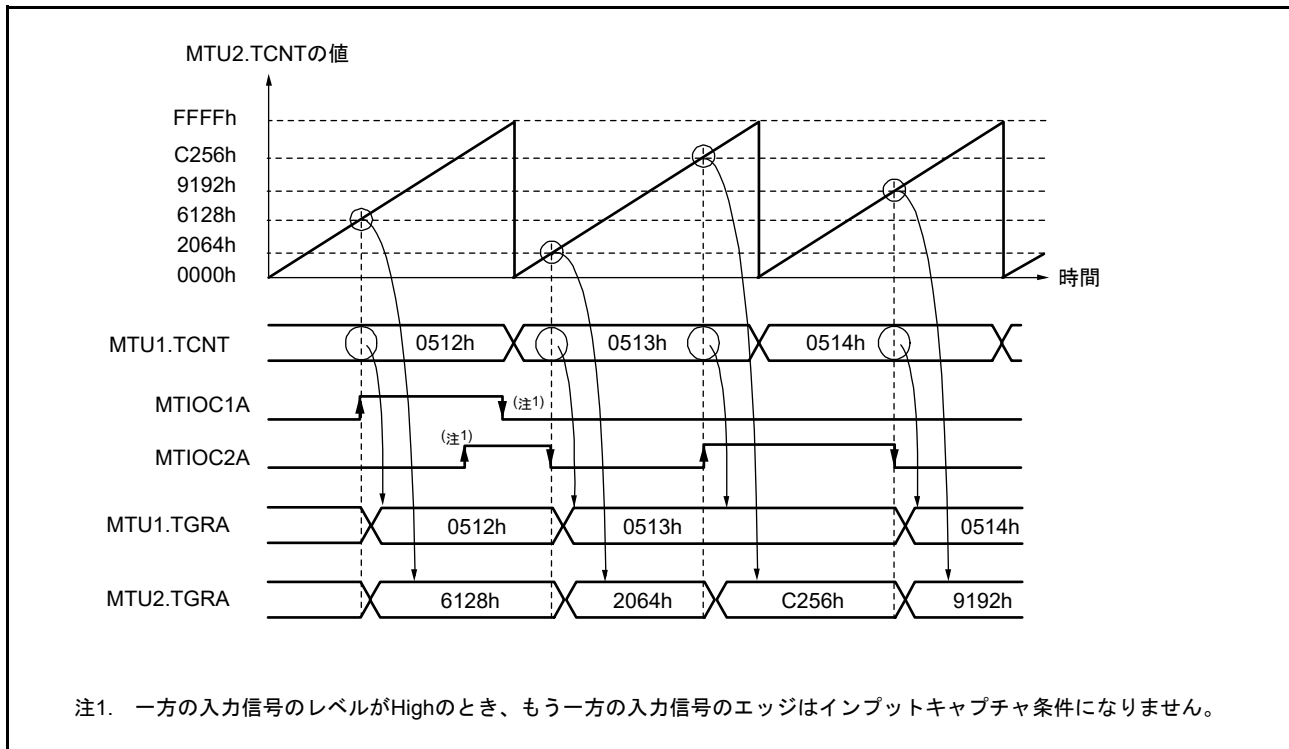


図 20.23 カスケード接続動作例 (c)

(5) カスケード接続動作例 (d)

MTU1.TCNT, MTU2.TCNT カウンタをカスケード接続し、TICCR.I2AE ビットを“1”にして、MTIOC2A 端子を MTU1.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件に追加した場合の動作を図 20.24 に示します。この例では MTU1.TIOR.IOA[3:0] ビットの設定は、MTU0.TGRA レジスタのコンペアマッチ/インプットキャプチャの発生でインプットキャプチャに設定しています。また、MTU2.TIOR.IOA[3:0] ビットの設定は、MTIOC2A の立ち上がりエッジでインプットキャプチャに設定しています。

この場合、MTU1.TIOR の設定が MTU0.TGRA レジスタのコンペアマッチ/インプットキャプチャの発生でインプットキャプチャのため、TICCR.I2AE ビットを“1”にしても MTIOC2A のエッジが MTU1.TGRA レジスタのインプットキャプチャ条件になることはありません。

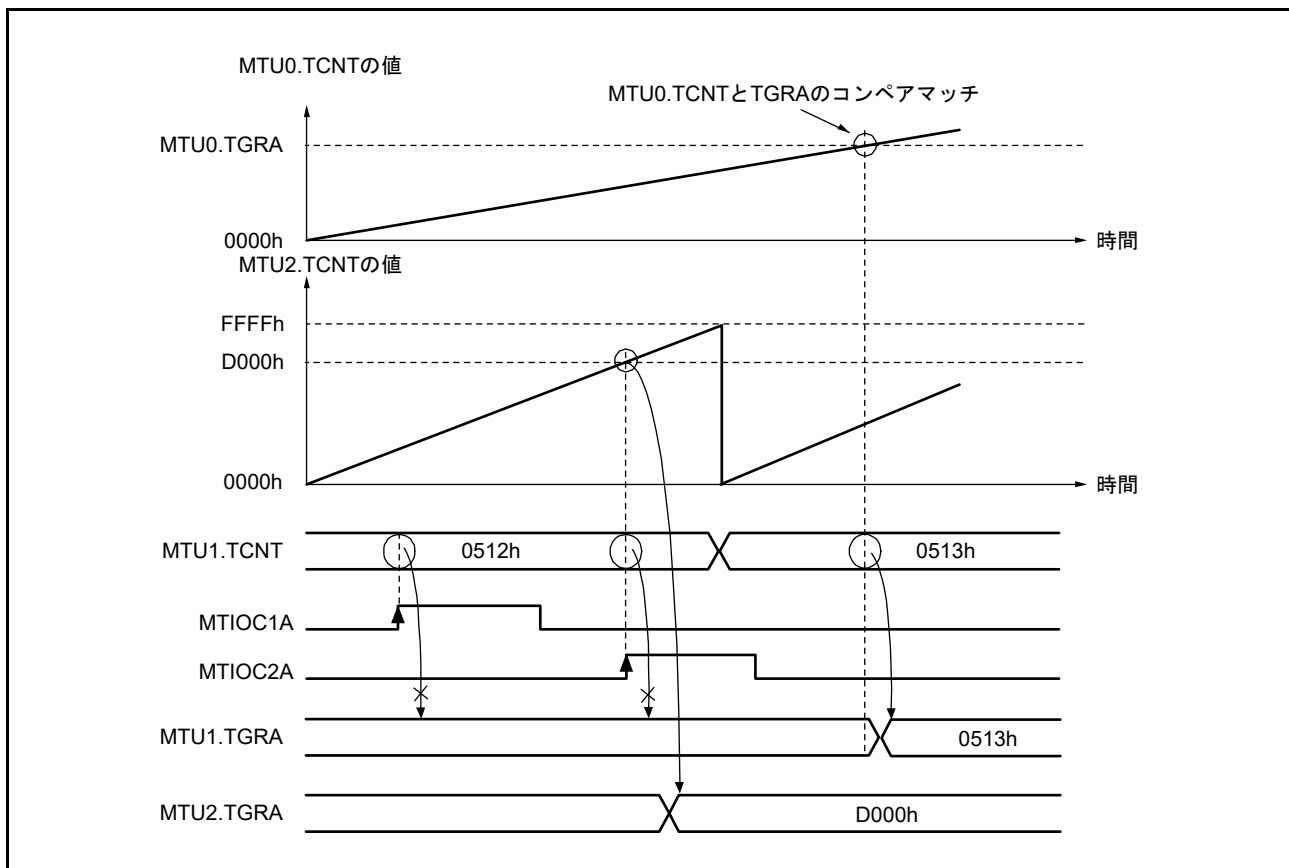


図 20.24 カスケード接続動作例 (d)

20.3.5 PWM モード

PWM モードは出力端子よりそれぞれ PWM 波形を出力するモードです。各 TGR レジスタのコンペアマッチによる出力レベルは Low 出力 / High 出力 / トグル出力の中から選択可能です。

各 TGR レジスタの設定により、デューティ 0% ~ 100% の PWM 波形が出力できます。

TGR レジスタのコンペアマッチをカウンタクリア要因とすることにより、そのレジスタに周期を設定することができます。全チャンネル個々に PWM モードに設定できます。PWM モードに設定したチャンネルの同期動作、および PWM モードに設定したチャンネルと他のモードに設定したチャンネルとの同期動作も可能です。

PWM モードには以下に示す 2 種類のモードがあります。

(a) PWM モード 1

TGRA レジスタと TGRB, TGRC レジスタと TGRD レジスタをペアで使用して、MTIOChA、MTIOChC 端子から PWM 出力を生成します。MTIOChA、MTIOChC 端子からコンペアマッチ A、C によって TIOR.IOA[3:0], IOC[3:0] ビットで指定した出力を、また、コンペアマッチ B、D によって TIOR.IOB[3:0], IOD[3:0] ビットで指定した出力を行います。初期出力値は TGRA, TGRC レジスタに設定した値になります。ペアで使用する TGR レジスタの設定値が同一の場合、コンペアマッチが発生しても出力値は変化しません。

PWM モード 1 では、最大 8 相の PWM 波形出力が可能です。

(b) PWM モード 2

TGR レジスタの 1 本を周期レジスタ、他の TGR レジスタをデューティレジスタに使用して PWM 出力を生成します。コンペアマッチによって、TIOR レジスタで指定した出力を行います。また、周期レジスタのコンペアマッチによるカウンタのクリアで各端子の出力値は TIOR レジスタで設定した初期値が出力されます。周期レジスタとデューティレジスタの設定値が同一の場合、コンペアマッチが発生しても出力値は変化しません。

PWM モード 2 では、同期動作と併用することにより最大 8 相の PWM 出力が可能です。

PWM 出力端子とレジスタの対応を表 20.46 に示します。

表 20.46 各 PWM 出力のレジスタと出力端子

チャンネル	レジスタ	出力端子	
		PWM モード 1	PWM モード 2
MTU0	MTU0.TGRA	MTIOC0A	MTIOC0A
	MTU0.TGRB		MTIOC0B
	MTU0.TGRC	MTIOC0C	MTIOC0C
	MTU0.TGRD		MTIOC0D
MTU1	MTU1.TGRA	MTIOC1A	MTIOC1A
	MTU1.TGRB		MTIOC1B
MTU2	MTU2.TGRA	MTIOC2A	MTIOC2A
	MTU2.TGRB		MTIOC2B
MTU3	MTU3.TGRA	MTIOC3A	設定できません
	MTU3.TGRB		
	MTU3.TGRC	MTIOC3C	
	MTU3.TGRD		
MTU4	MTU4.TGRA	MTIOC4A	
	MTU4.TGRB		
	MTU4.TGRC	MTIOC4C	
	MTU4.TGRD		

注. PWM モード 2 のとき、周期を設定した TGR レジスタの PWM 出力はできません。

(1) PWM モードの設定手順例

PWM モードの設定手順例を図 20.25 に示します。

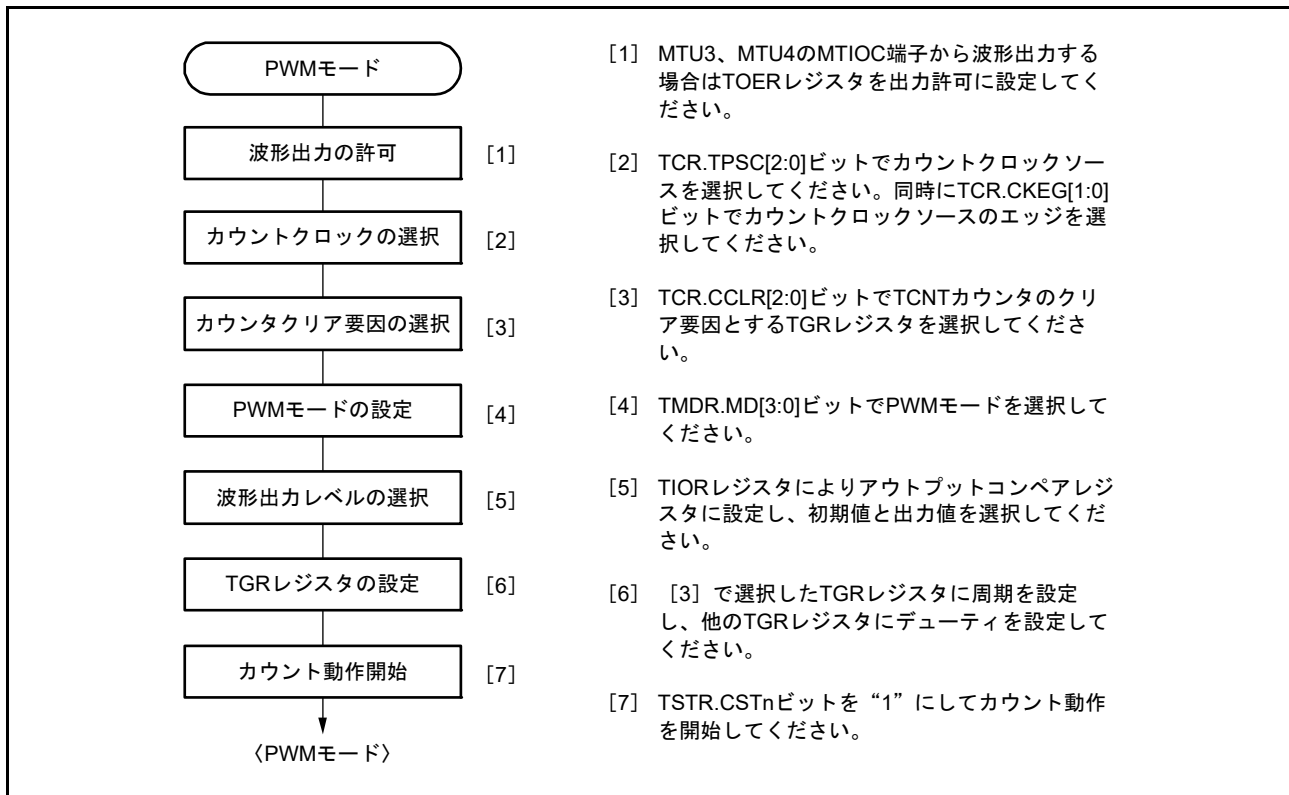


図 20.25 PWM モードの設定手順例

(2) PWM モードの動作例

PWM モード1の動作例を図 20.26 に示します。

この図は、TCNT カウンタのクリア要因を TGRA レジスタのコンペアマッチとし、TGRA レジスタの初期出力値と出力値を Low、TGRB レジスタの出力値を High に設定した場合の例です。

この場合、TGRA レジスタに設定した値が周期となり、TGRB レジスタに設定した値がデューティになります。

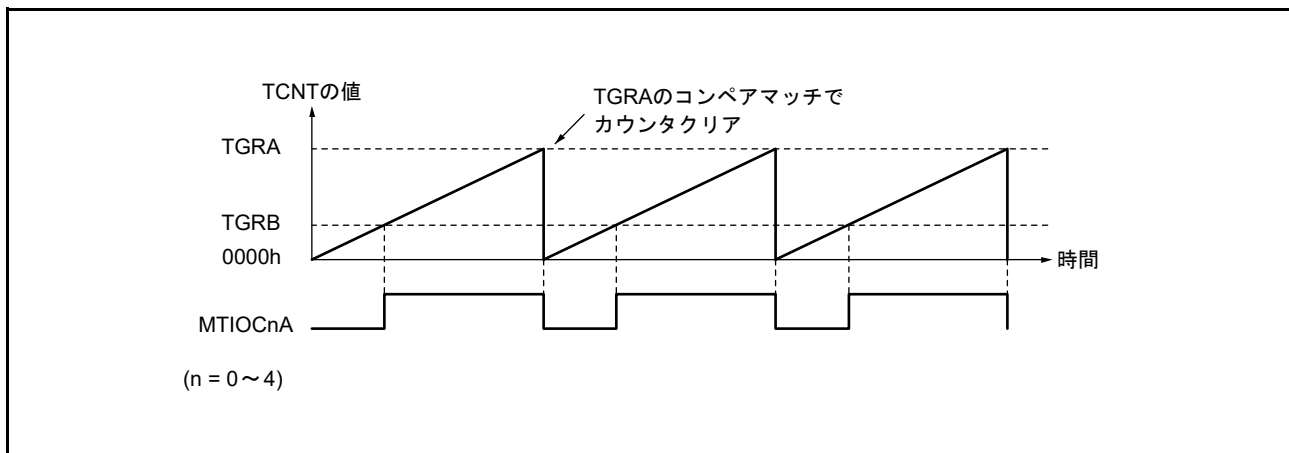


図 20.26 PWM モードの動作例

PWM モード2の動作例を図 20.27 に示します。

この図は、MTU0 と MTU1 を同期動作させ、TCNT カウンタのクリア要因を MTU1.TGRB レジスタのコンペアマッチとし、他の TGR レジスタ (MTU0.TGRA ~ MTU0.TGRD, MTU1.TGRA) の初期出力値を Low、出力値を High に設定して 5 相の PWM 波形を出力させた場合の例です。

この場合、MTU1.TGRB レジスタに設定した値が周期となり、他の TGR レジスタに設定した値がデューティになります。

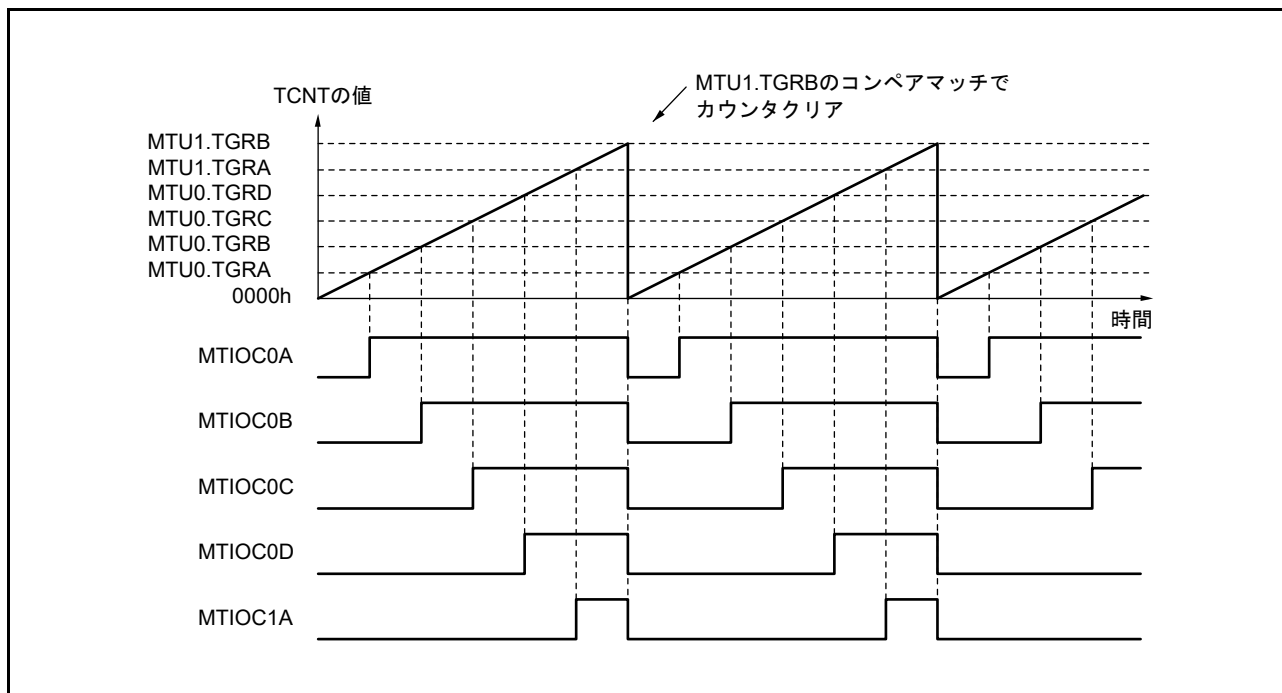


図 20.27 PWM モードの動作例

PWMモード1で、デューティ比0%、デューティ比100%のPWM波形を出力する例を図20.28に示します。この図は、TCNTカウンタのクリア要因をTGRAレジスタのコンペアマッチとし、TGRAレジスタの初期出力値と出力値をLow、TGRBレジスタの出力値をHighに設定した場合の例です。

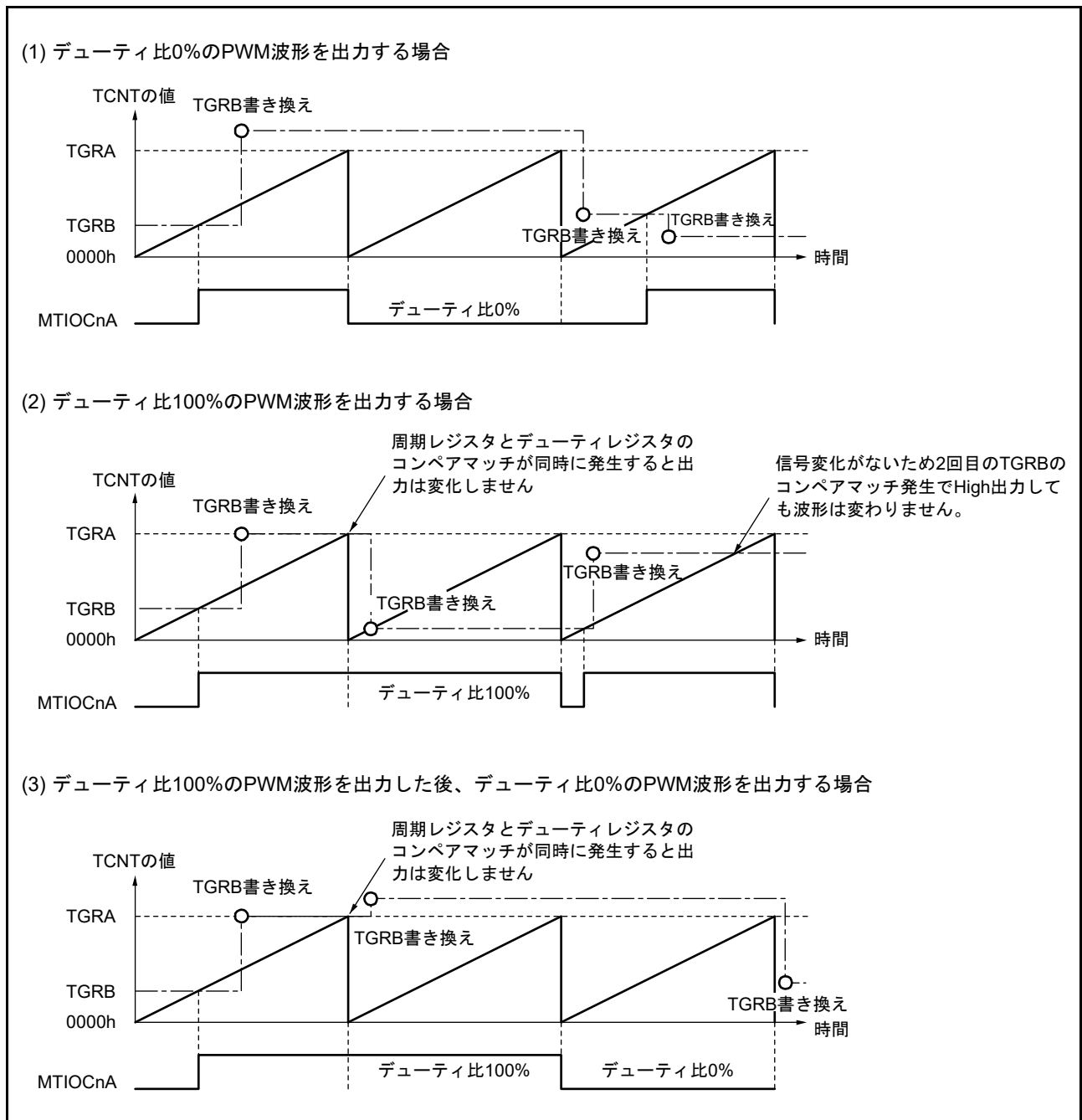


図 20.28 PWMモード動作例 (デューティ0%、デューティ100%のPWM波形を出力する例) (n = 0 ~ 4)

20.3.6 位相計数モード

位相計数モードに設定すると、TCR.TPSC[2:0], CKEG[1:0] ビットの設定にかかわらずカウントクロックには外部クロックが選択され、TCNT カウンタはアップカウンタ/ダウンカウンタとして動作します。ただし、TCR.CCLR[1:0] ビット、TIOR, TIER, TGR レジスタの機能は有効ですので、インプットキャプチャ/コンペアマッチ機能や割り込み機能は使用することができます。

2相エンコーダパルスの入力として使用できます。

TCNT カウンタがアップカウント時、オーバフローが発生すると、対応する TIER.TCIEV ビットが“1”ならば、TCIV 割り込みが発生します。また、ダウンカウント時アンダフローが発生すると、対応する TIER.TCIEU ビットが“1”ならば TCIU 割り込みが発生します。

TSR.TCFD フラグはカウント方向フラグです。TCFD フラグの読み出しにより、TCNT カウンタがアップカウントしているかダウンカウントしているかを確認することができます。

位相計数モードでは、外部クロック端子 MTCLKA、MTCLKB、MTCLKC、MTCLKD を2相エンコーダパルスの入力端子として使用できます。表 20.47 に外部クロック端子とチャンネルの対応を示します。

表 20.47 位相計数モードクロック入力端子

チャンネル	外部クロック端子	
	A相	B相
MTU1	MTCLKA	MTCLKB
MTU2	MTCLKC	MTCLKD

(1) 位相計数モードの設定手順例

位相計数モードの設定手順例を図 20.29 に示します。

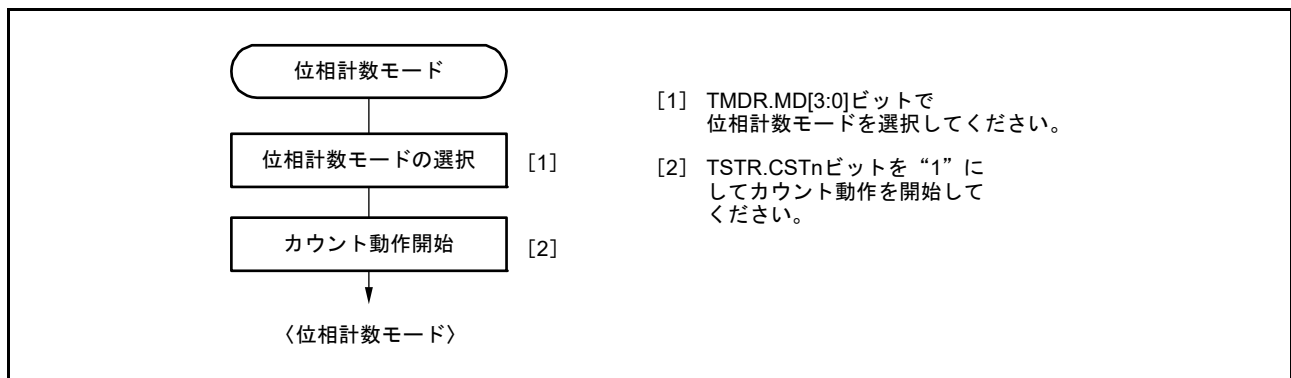


図 20.29 位相計数モードの設定手順例

(2) 位相計数モードの動作例

位相計数モードでは、2本の外部クロックの位相差でTCNTカウンタがアップカウント/ダウンカウントします。また、カウント条件により4つのモードがあります。

(a) 位相計数モード1

位相計数モード1の動作例を図20.30に、TCNTカウンタのアップカウント/ダウンカウント条件を表20.48に示します。

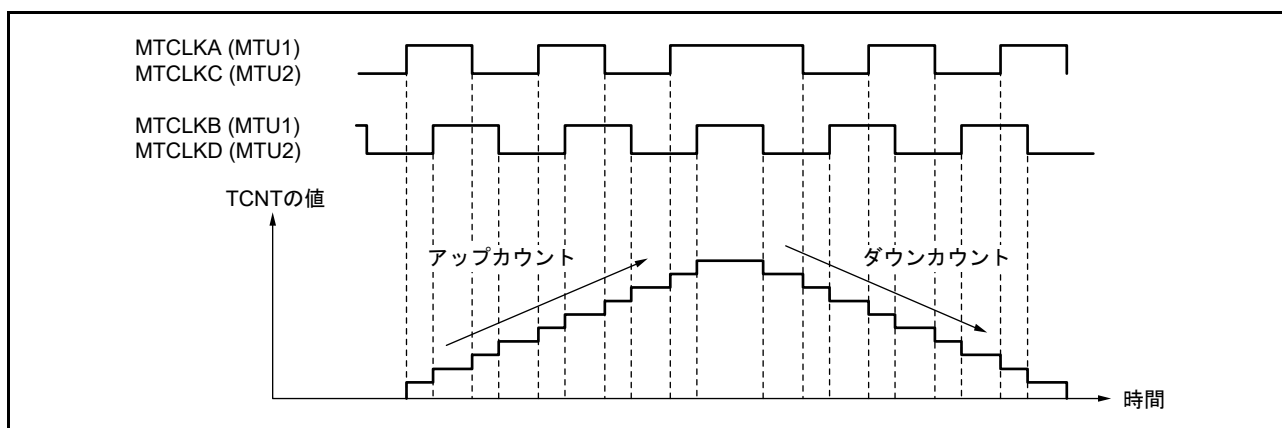


図 20.30 位相計数モード1の動作例

表20.48 位相計数モード1のアップカウント/ダウンカウント条件

MTCLKA (MTU1) MTCLKC (MTU2)	MTCLKB (MTU1) MTCLKD (MTU2)	動作内容
High	↑	アップカウント
Low	↓	
↑	Low	
↓	High	
High	↓	ダウンカウント
Low	↑	
↑	High	
↓	Low	

↑ : 立ち上がりエッジ

↓ : 立ち下がりエッジ

(b) 位相計数モード2

位相計数モード2の動作例を図20.31に、TCNTカウンタのアップカウント/ダウンカウント条件を表20.49に示します。

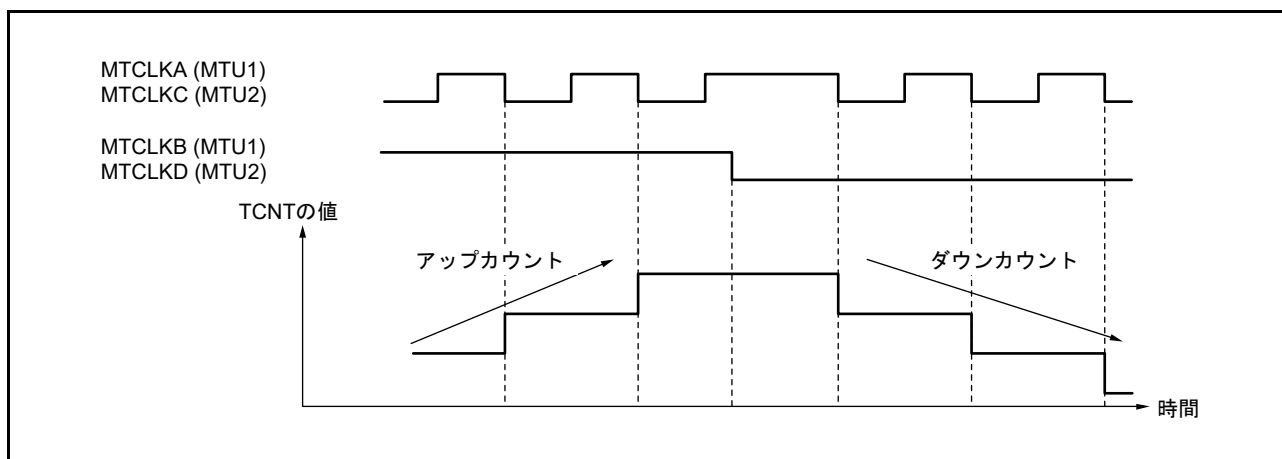


図 20.31 位相計数モード2の動作例

表 20.49 位相計数モード2のアップカウント/ダウンカウント条件

MTCLKA (MTU1) MTCLKC (MTU2)	MTCLKB (MTU1) MTCLKD (MTU2)	動作内容
High		カウントしない (Don't care)
Low		カウントしない (Don't care)
	Low	カウントしない (Don't care)
	High	アップカウント
High		カウントしない (Don't care)
Low		カウントしない (Don't care)
	High	カウントしない (Don't care)
	Low	ダウンカウント

: 立ち上がりエッジ

: 立ち下がりエッジ

(c) 位相計数モード3

位相計数モード3の動作例を図20.32に、TCNTカウンタのアップカウント/ダウンカウント条件を表20.50に示します。

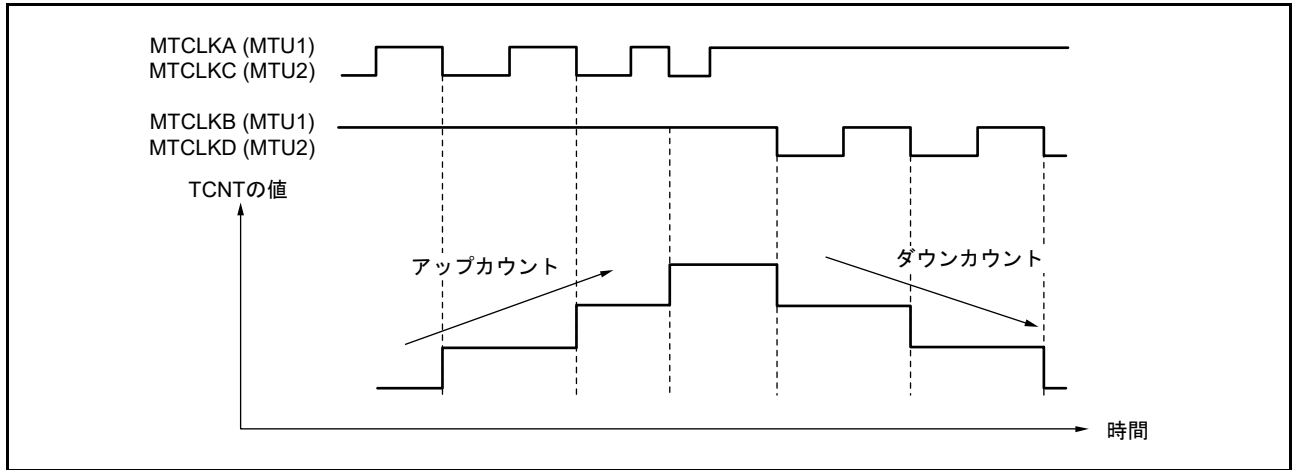


図 20.32 位相計数モード3の動作例

表 20.50 位相計数モード3のアップカウント/ダウンカウント条件

MTCLKA (MTU1) MTCLKC (MTU2)	MTCLKB (MTU1) MTCLKD (MTU2)	動作内容
High		カウントしない (Don't care)
Low		カウントしない (Don't care)
	Low	カウントしない (Don't care)
	High	アップカウント
High		ダウンカウント
Low		カウントしない (Don't care)
	High	カウントしない (Don't care)
	Low	カウントしない (Don't care)

: 立ち上がりエッジ

: 立ち下がりエッジ

(d) 位相計数モード4

位相計数モード4の動作例を図20.33に、TCNTカウンタのアップカウント/ダウンカウント条件を表20.51に示します。

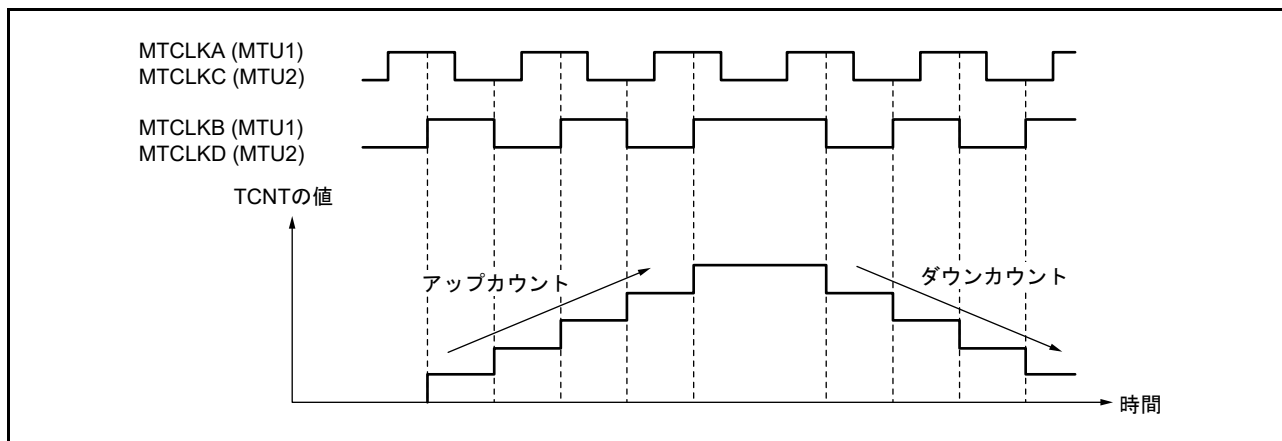


図 20.33 位相計数モード4の動作例

表 20.51 位相計数モード4のアップカウント/ダウンカウント条件

MTCLKA (MTU1) MTCLKC (MTU2)	MTCLKB (MTU1) MTCLKD (MTU2)	動作内容
High	↑	アップカウント
Low	↓	
↑	Low	カウントしない (Don't care)
↓	High	
High	↓	ダウンカウント
Low	↑	
↑	High	カウントしない (Don't care)
↓	Low	

↑ : 立ち上がりエッジ

↓ : 立ち下がりエッジ

(3) 位相計数モード応用例

MTU1 を位相計数モードに設定し、MTU0 と連携してサーボモータの2相エンコーダパルスを入力して位置または速度を検出する例を図 20.34 に示します。

MTU1 は位相計数モード1に設定し、MTCLKA と MTCLKB にエンコーダパルスのA相、B相を入力します。

MTU0.TCNT カウンタを MTU0.TGRC レジスタのコンペアマッチでカウンタクリアとして動作させ、MTU0.TGRA レジスタと MTU0.TGRC レジスタはコンペアマッチ機能で使用して、速度制御周期と位置制御周期を設定します。MTU0.TGRB レジスタは入力キャプチャ機能で使用し、MTU0.TGRB レジスタと MTU0.TGRD レジスタをバッファ動作させます。MTU0.TGRB レジスタの入力キャプチャ要因は、MTU1 のカウントクロックとし、2相エンコーダの4通倍パルスのパルス幅を検出します。

MTU1.TGRA レジスタと MTU1.TGRB レジスタは、入力キャプチャ機能に設定し、入力キャプチャ要因は MTU0.TGRA レジスタと MTU0.TGRC レジスタのコンペアマッチを選択し、それぞれの制御周期時のアップカウンタ/ダウンカウンタの値を格納します。

これにより、正確な位置/速度検出を行うことができます。

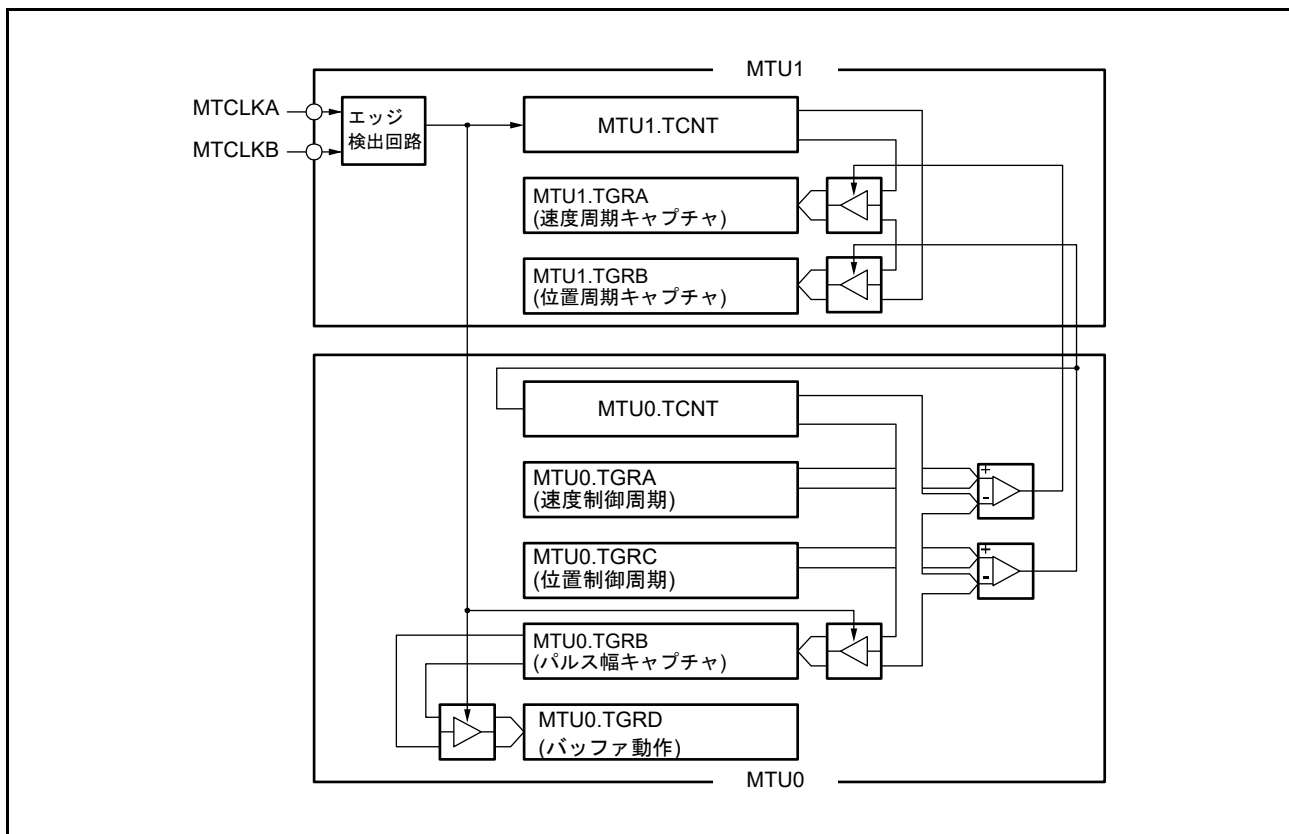


図 20.34 位相計数モードの応用例

20.3.7 リセット同期 PWM モード

リセット同期 PWM モードは、MTU3、MTU4 を組み合わせることにより、一方の波形変化点が共通の関係となる PWM 波形（正相・逆相）を 6 相出力します。

リセット同期 PWM モードに設定すると、MTIOC3B、MTIOC3D、MTIOC4A、MTIOC4C、MTIOC4B、および MTIOC4D 端子は PWM 出力端子となり、MTU3.TCNT カウンタはアップカウンタとして機能します。

PWM 出力端子を表 20.52 に、レジスタの設定を表 20.53 に示します。

表 20.52 リセット同期 PWM モード時の出力端子

チャンネル	出力端子	説明
MTU3	MTIOC3A	PWM 周期に同期したトグル出力（または入出力ポート）
	MTIOC3B	PWM 出力端子 1
	MTIOC3D	PWM 出力端子 1'（PWM 出力 1 の逆相波形）
MTU4	MTIOC4A	PWM 出力端子 2
	MTIOC4C	PWM 出力端子 2'（PWM 出力 2 の逆相波形）
	MTIOC4B	PWM 出力端子 3
	MTIOC4D	PWM 出力端子 3'（PWM 出力 3 の逆相波形）

表 20.53 リセット同期 PWM モード時のレジスタ設定

レジスタ	設定内容
MTU3.TCNT	“0000h” を初期設定
MTU4.TCNT	“0000h” を初期設定
MTU3.TGRA	MTU3.TCNT のカウント周期を設定
MTU3.TGRB	MTIOC3B、MTIOC3D 端子より出力される PWM 波形の変化点を設定
MTU4.TGRA	MTIOC4A、MTIOC4C 端子より出力される PWM 波形の変化点を設定
MTU4.TGRB	MTIOC4B、MTIOC4D 端子より出力される PWM 波形の変化点を設定

(1) リセット同期PWMモードの設定手順例

リセット同期PWMモードの設定手順例を図 20.35 に示します。

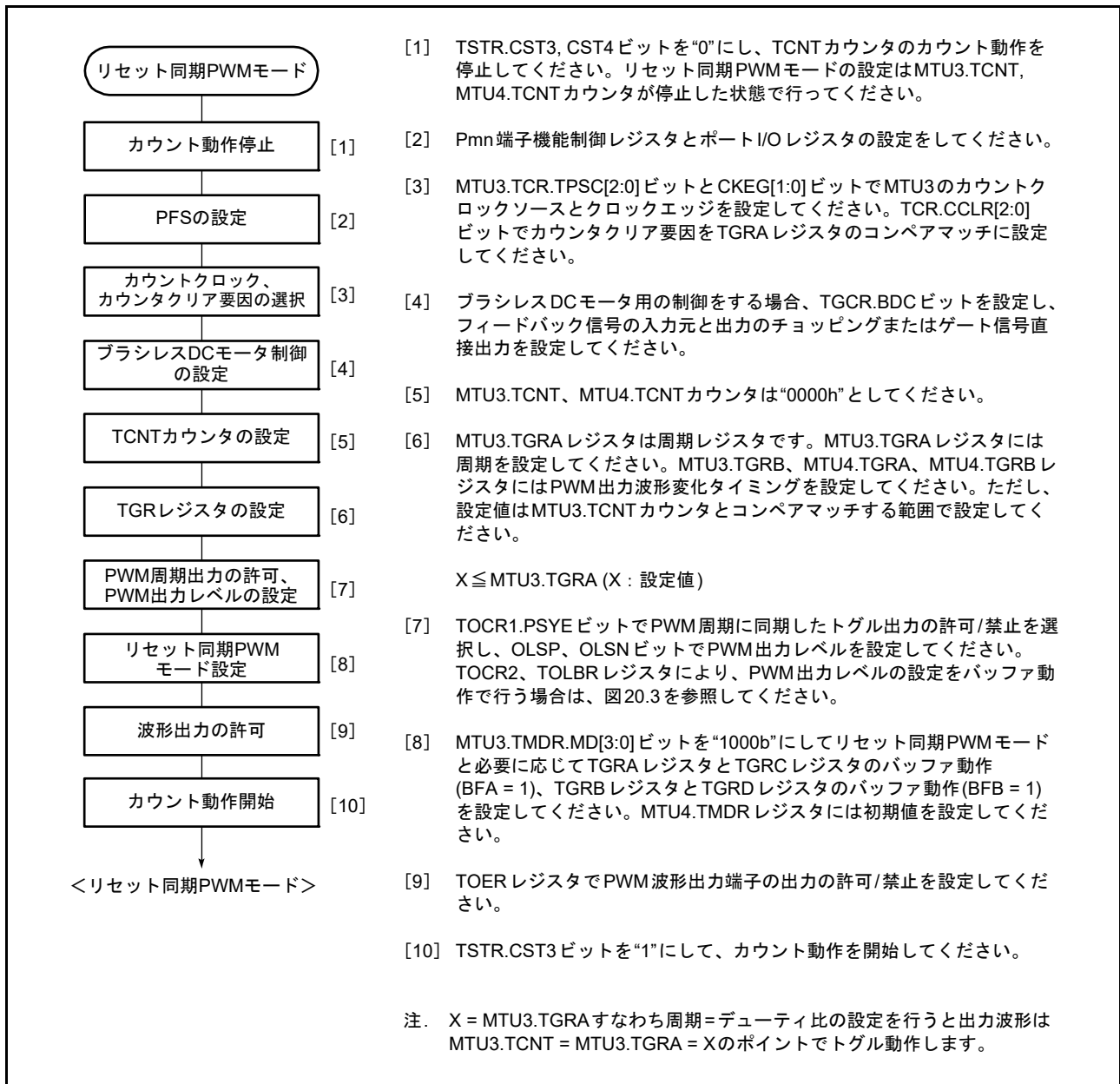


図 20.35 リセット同期PWMモードの設定手順例

(2) リセット同期 PWM モードの動作例

リセット同期 PWM モードの動作例を図 20.36 に示します。

リセット同期 PWM モードでは、MTU3.TCNT カウンタと MTU4.TCNT カウンタはアップカウンタとして動作します。MTU3.TCNT カウンタが MTU3.TGRA レジスタとコンペアマッチするとカウンタはクリアされ“0000h”からカウントアップを再開します。PWM 出力端子は、それぞれ MTU3.TGRB、MTU4.TGRA、MTU4.TGRB レジスタのコンペアマッチおよびカウンタクリアが発生する度にトグル出力を行います。

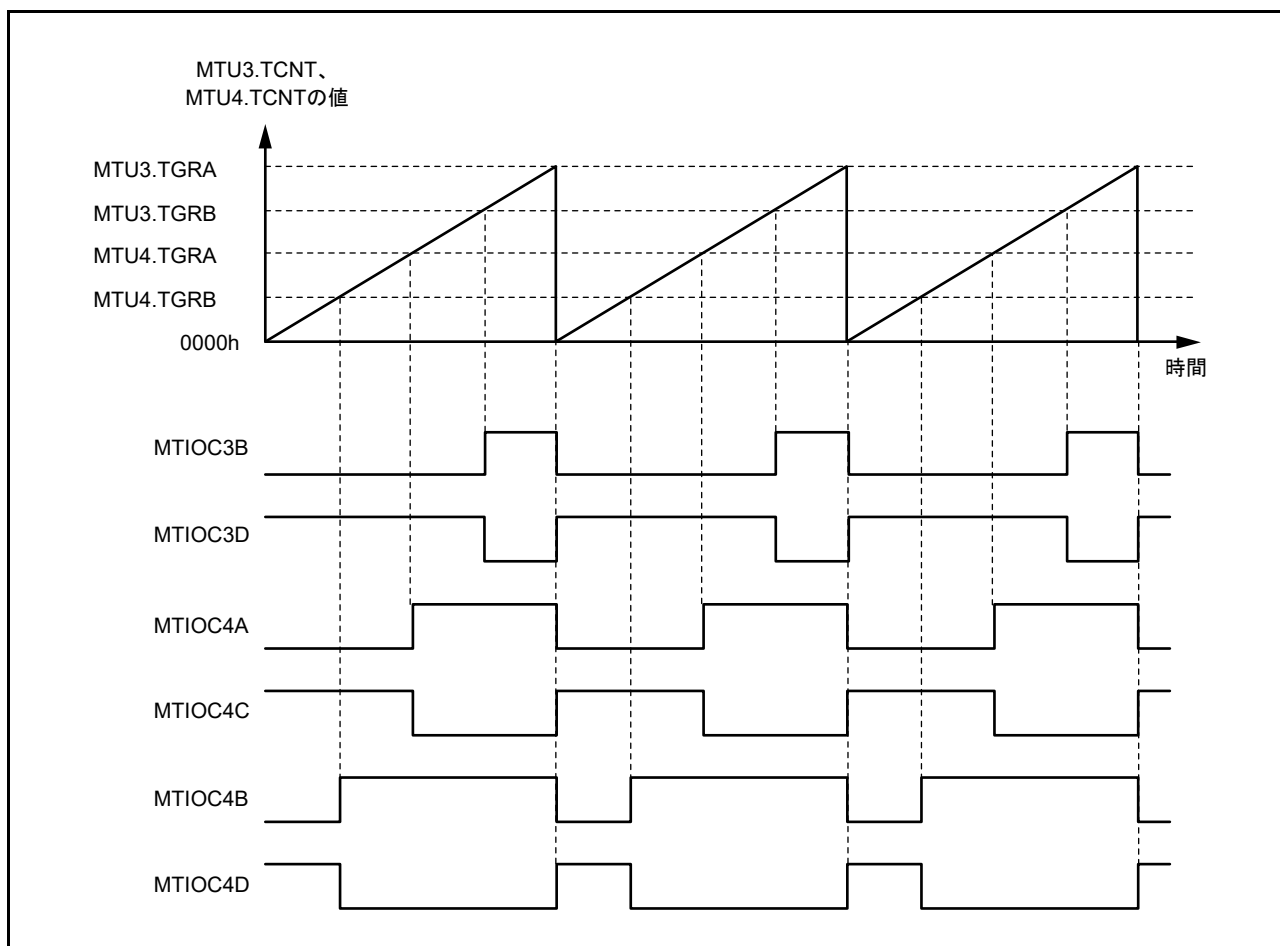


図 20.36 リセット同期 PWM モードの動作例 (TOCR1 レジスタの OLSN = 1、OLSP = 1 に設定した場合)

20.3.8 相補 PWM モード

相補 PWM モードでは、出力する PWM 波形にデッドタイムを設定できます。デッドタイムとは、アーム短絡を防止するために上下アームトランジスタを両方とも非アクティブレベルにする期間のことです。

MTU3、MTU4 を組み合わせることによりデッドタイムを設定した PWM 波形（正相・逆相）を 6 相出力します。また、デッドタイムがない PWM 波形を出力することもできます。

相補 PWM モードに設定すると、MTIOC3B、MTIOC3D、MTIOC4A、MTIOC4B、MTIOC4C、MTIOC4D 端子は PWM 出力端子となり、MTIOC3A 端子は PWM 周期に同期したトグル出力として設定することが可能です。

また、MTU3.TCNT カウンタと MTU4.TCNT カウンタはアップ/ダウンカウンタとして機能します。

使用される PWM 出力端子を表 20.54 に、使用するレジスタの設定を表 20.55 に示します。

また、PWM 出力を外部信号により直接 OFF する機能が、ポートの機能としてサポートされています。

表 20.54 相補 PWM モード時の出力端子

チャンネル	出力端子	説明
MTU3	MTIOC3A	PWM 周期に同期したトグル出力（または入出力ポート）
	MTIOC3B	PWM 出力端子 1
	MTIOC3C	入出力ポート(注1)
	MTIOC3D	PWM 出力端子 1'（PWM 出力 1 の逆相波形出力）
MTU4	MTIOC4A	PWM 出力端子 2
	MTIOC4C	PWM 出力端子 2'（PWM 出力 2 の逆相波形出力）
	MTIOC4B	PWM 出力端子 3
	MTIOC4D	PWM 出力端子 3'（PWM 出力 3 の逆相波形出力）

注 1. MTIOC3C 端子は相補 PWM モード時、タイマ入出力端子に設定しないでください。

表20.55 相補PWMモード時のレジスタ設定

チャンネル	カウンタ/ レジスタ	説明	CPUからの読み出し/書き込み
MTU3	MTU3.TCNT	デッドタイムレジスタに設定した値からカウントアップスタート	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU3.TGRA	MTU3.TCNTの上限値を設定(キャリア周期の1/2 + デッドタイム)	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU3.TGRB	PWM出力1のコンペアレジスタ	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU3.TGRC	MTU3.TGRAのバッファレジスタ	読み出し/書き込み可能
	MTU3.TGRD	PWM出力1/MTU3.TGRBのバッファレジスタ	読み出し/書き込み可能
MTU4	MTU4.TCNT	"0000h"を初期設定しカウントアップスタート	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU4.TGRA	PWM出力2のコンペアレジスタ	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU4.TGRB	PWM出力3のコンペアレジスタ	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能
	MTU4.TGRC	PWM出力2/MTU4.TGRAのバッファレジスタ	読み出し/書き込み可能
	MTU4.TGRD	PWM出力3/MTU4.TGRBのバッファレジスタ	読み出し/書き込み可能
タイマデッドタイムデータレジスタ (TDDR)	MTU4.TCNTとMTU3.TCNTのオフセット値(デッドタイムの値)を設定	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能	
タイマ周期データレジスタ (TCDR)	MTU4.TCNTの上限値の値を設定(キャリア周期の1/2)	TRWERレジスタの設定(注1)によりマスク可能	
タイマ周期/バッファレジスタ (TCBR)	TCDRレジスタのバッファレジスタ	読み出し/書き込み可能	
サブカウンタ (TCNTS)	デッドタイム生成のためのサブカウンタ	読み出しのみ可能	
テンポラリレジスタ1 (TEMP1)	PWM出力1/MTU3.TGRBのテンポラリレジスタ	読み出し/書き込み不可	
テンポラリレジスタ2 (TEMP2)	PWM出力2/MTU4.TGRAのテンポラリレジスタ	読み出し/書き込み不可	
テンポラリレジスタ3 (TEMP3)	PWM出力3/MTU4.TGRBのテンポラリレジスタ	読み出し/書き込み不可	

注1. TRWERレジスタ(タイマリードライト許可レジスタ)の設定によりアクセスの許可/禁止が可能です。

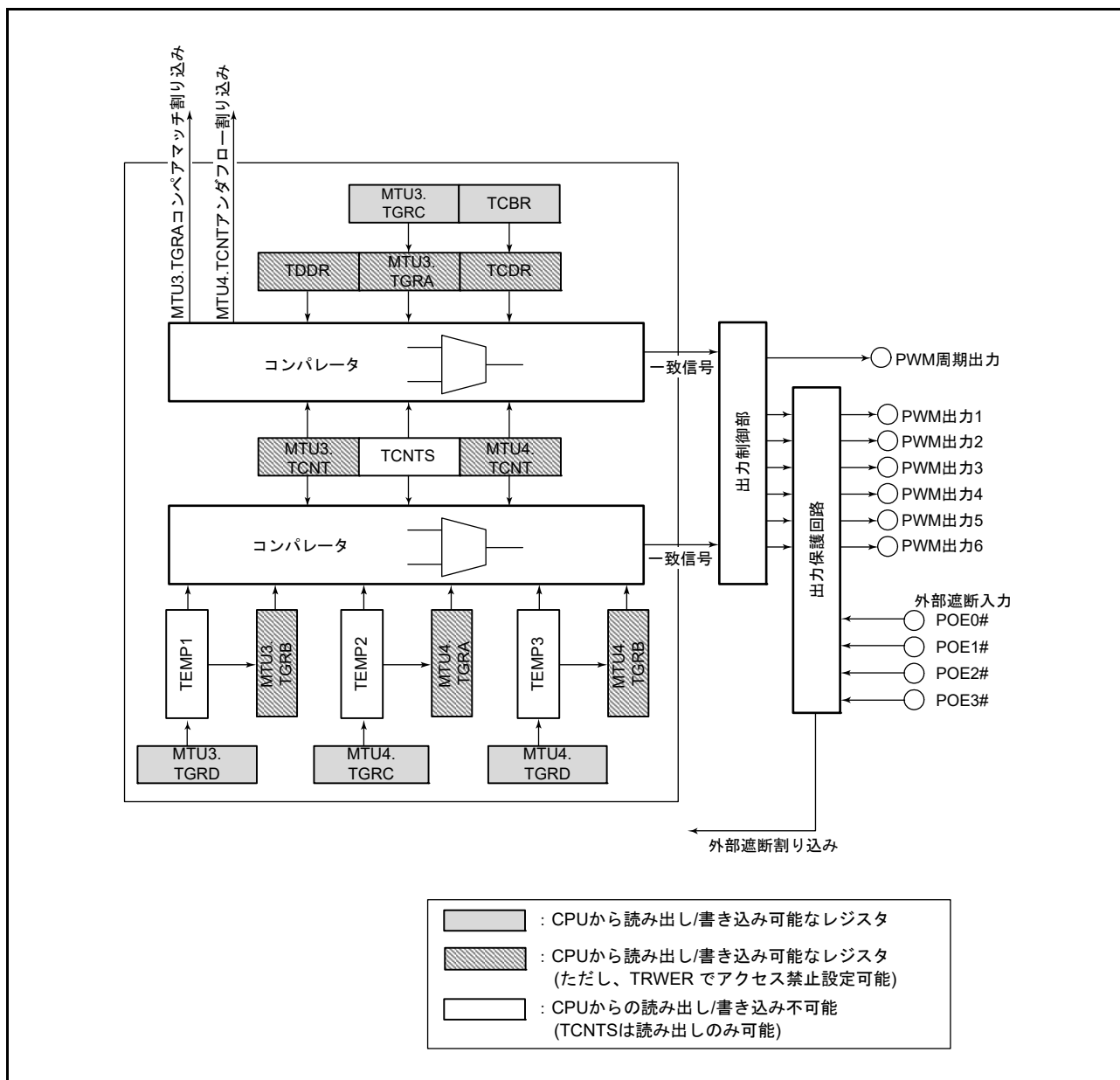


図 20.37 相補 PWM モード時の MTU3、MTU4 ブロック図

(1) 相補 PWM モードの設定手順例

相補 PWM モードの設定手順例を図 20.38 に示します。



図 20.38 相補 PWM モードの設定手順例

(2) 相補 PWM モードの動作概要

相補 PWM モードでは、6相（正相3本、逆相3本）の PWM 出力が可能です。図 20.39 に相補 PWM モードのカウンタ動作を示します。図 20.40 に相補 PWM モード動作例を示します。

(a) カウンタの動作

相補 PWM モードでは、MTU3.TCNT, MTU4.TCNT カウンタおよび TCNTS カウンタの3本のカウンタがアップダウンカウンタ動作を行います。

MTU3.TCNT カウンタは、相補 PWM モードに設定され TSTR.CST3 ビットが“0”のとき、TDDR レジスタに設定された値が自動的に初期値として設定されます。

CST3 ビットが“1”に設定されると、MTU3.TGRA レジスタに設定された値までアップカウント動作を行い、MTU3.TGRA レジスタと一致するとダウンカウントに切り替わります。その後、TDDR レジスタと一致するとアップカウントに切り替わり、この動作を繰り返します。

また、MTU4.TCNT カウンタには、初期値として“0000h”を設定します。

CST4 ビットが“1”に設定されると、MTU3.TCNT カウンタに同期して動作しアップカウントを行い、TCDR レジスタと一致するとダウンカウントに切り替わります。この後、“0000h”と一致するとアップカウントに切り替わり、この動作を繰り返します。

TCNTS カウンタは、読み出しのみ可能なカウンタです。初期値を設定する必要はありません。

MTU3 と MTU4 の TCNT カウンタがアップダウンカウント時、MTU3.TCNT カウンタが TCDR レジスタと一致するとダウンカウントを開始し、TCNTS カウンタが TCDR レジスタと一致するとアップカウントに切り替わります。また、MTU3.TGRA レジスタと一致すると“0000h”になります。

MTU3.TCNT、MTU4.TCNT カウンタがダウンカウント時、MTU4.TCNT カウンタが TDDR レジスタと一致するとアップカウントを開始し、TCNTS カウンタが TDDR レジスタと一致するとダウンカウントに切り替わります。また、“0000h”に一致すると TCNTS カウンタは MTU3.TGRA レジスタの値が設定されます。

TCNTS カウンタは、カウント動作をしている期間だけ PWM デューティが設定されているコンペアレジスタおよびテンポラリレジスタと比較されます。

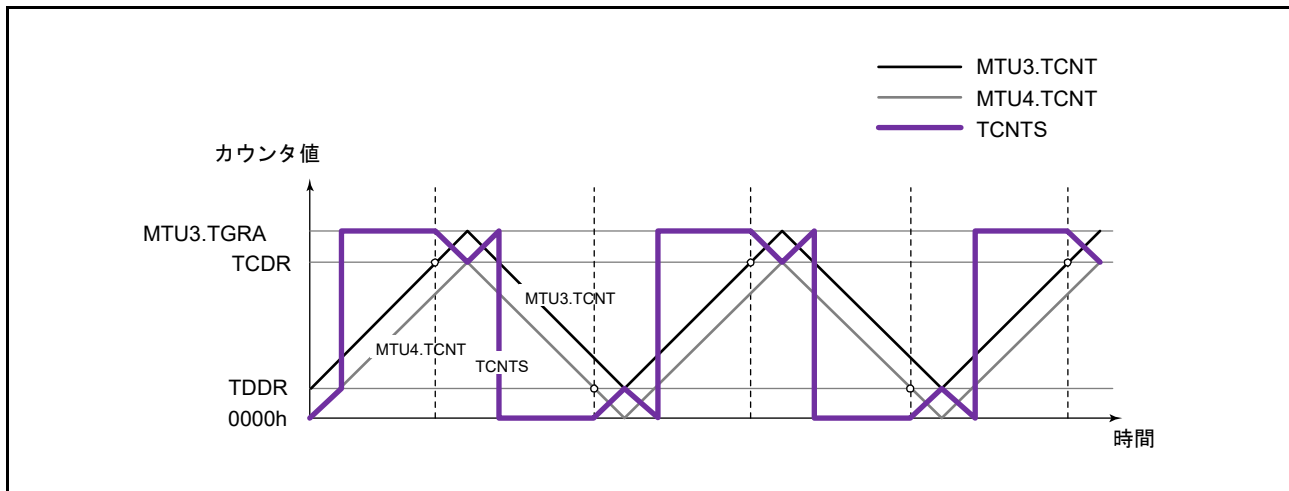


図 20.39 相補 PWM モードのカウンタ動作

(b) レジスタの動作

相補 PWM モードでは、コンペアレジスタ、バッファレジスタおよびテンポラリレジスタの9本のレジスタを使用して PWM 出力のデューティ制御を行います。図 20.40 に相補 PWM モードの動作例を示します。

PWM 出力を行うためにカウンタと比較されているレジスタが、MTU3.TGRB, MTU4.TGRA, MTU4.TGRB レジスタです。これらのレジスタとカウンタが一致すると TOCR1.OLSN, OLSP ビットで設定した値が PWM 出力端子から出力されます。

これらのコンペアレジスタのバッファレジスタが、MTU3.TGRD, MTU4.TGRC, MTU4.TGRD レジスタです。

また、バッファレジスタとコンペアレジスタの間にはテンポラリレジスタがあります。テンポラリレジスタは、CPU からアクセスできません。

コンペアレジスタのデータを変更するためには、対応するバッファレジスタに変更するデータを書き込んでください。バッファレジスタは、常時読み出し/書き込みが可能です。

バッファレジスタのデータを書き換える場合は、最後に必ず MTU4.TGRD レジスタへの書き込みを行い、バッファレジスタからテンポラリレジスタへのデータ転送を許可してください。このとき、タイマ周期レジスタのバッファレジスタとして動作する TCBR レジスタ、MTU3.TGRC レジスタからテンポラリレジスタへの転送も許可されます。転送は5本すべてのテンポラリレジスタ同時に行われます。

Ta 区間で転送を許可すると、バッファレジスタに書き込まれたデータはすぐにテンポラリレジスタに転送されます。また Tb1 区間と Tb2 区間では、テンポラリレジスタには転送されません。この区間で転送を許可されたデータは区間が終了後、テンポラリレジスタに転送されます。

テンポラリレジスタに転送された値は、Tb1 区間が終了したとき (TCNTS カウンタがアップカウント時に MTU3.TGRA レジスタと一致したとき)、または Tb2 区間が終了したとき (TCNTS カウンタがダウンカウント時に "0000h" と一致したとき) にコンペアレジスタに転送されます。テンポラリレジスタからコンペアレジスタに転送するタイミングは、TMDR.MD[3:0] ビットで選択できます。図 20.40 は、谷で変更するモードを選択した例です。

テンポラリレジスタへのデータの転送が行われない Tb (図 20.40 では Tb2) 区間では、テンポラリレジスタは、コンペアレジスタと同じ機能を持ち、カウンタと比較されます。このため、この区間では、1相の出力に対して2本のコンペアマッチレジスタを持つことになり、コンペアレジスタには変更前のデータ、テンポラリレジスタには新しく変更するデータが入っています。この区間では、MTU3.TCNT, MTU4.TCNT カウンタおよび TCNTS カウンタの3本、カウンタとコンペアレジスタ、テンポラリレジスタの各2本のレジスタが比較され、PWM 出力を制御します。

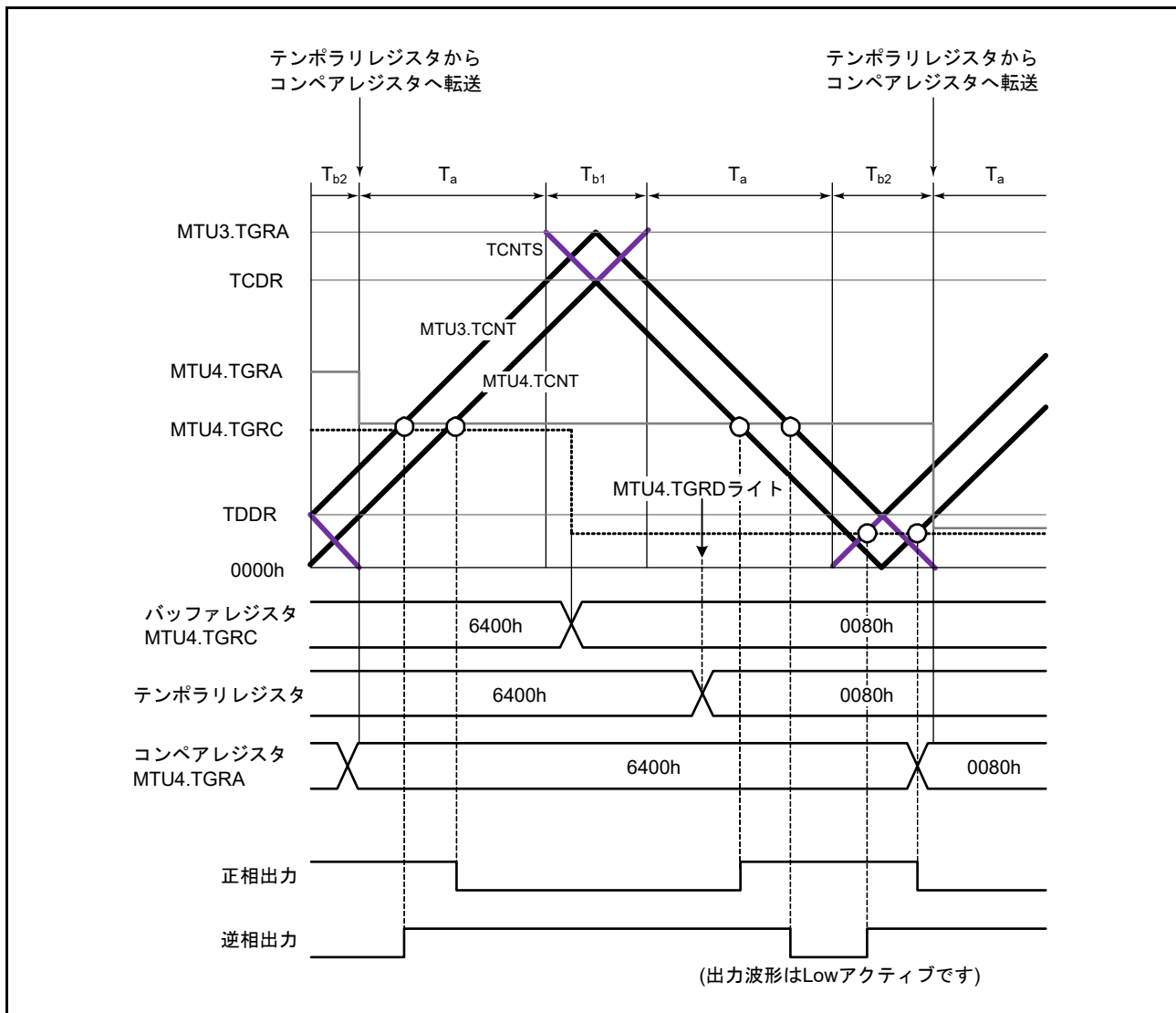


図 20.40 相補 PWM モード動作例

(c) 初期設定

相補 PWM モードでは、初期設定に必要なレジスタが 6 本あります。また、デッドタイム生成の有無を設定するレジスタが 1 本あります（デッドタイムを生成しない場合のみ設定してください）。

TMDR.MD[3:0] ビットで相補 PWM モードに設定する前に、次のレジスタの初期値を設定してください。

MTU3.TGRC レジスタは MTU3.TGRA レジスタのバッファレジスタとして動作し、PWM 周期の $1/2 +$ デッドタイム T_d を設定します。TCBR レジスタは、TCDR レジスタのバッファレジスタとして動作し、PWM 周期の $1/2$ を設定します。また、TDDR レジスタには、デッドタイム T_d を設定します。

デッドタイムを生成しない場合は、TDER.TDER ビットを“0”に設定し、MTU3.TGRC, MTU3.TGRA レジスタには、PWM 周期の $1/2 + 1$ を、TDDR レジスタには“1”を設定します。

バッファレジスタ MTU3.TGRD, MTU4.TGRC, MTU4.TGRD レジスタの 3 本には、それぞれ PWM デューティの初期値を設定します。

TDDR レジスタを除く 5 本のバッファレジスタに設定した値は、相補 PWM モードに設定すると同時にそれぞれ対応するコンペアレジスタに転送されます。

また、MTU4.TCNT カウンタは、相補 PWM モードに設定する前に“0000h”に設定してください。

表 20.56 初期設定の必要なレジスタとカウンタ

レジスタ/カウンタ	設定値
MTU3.TGRC	PWM周期の1/2 + デッドタイムTd (TDERでデッドタイム生成をなしに設定した場合はPWM周期の1/2+1)
TDDR	デッドタイムTd (TDERでデッドタイム生成をなしに設定した場合1)
TCBR	PWM周期の1/2
MTU3.TGRD, MTU4.TGRC, MTU4.TGRD	各相のPWMデューティの初期値
MTU4.TCNT	"0000h"

注. MTU3.TGRCレジスタの設定値は、TCBRレジスタに設定するPWM周期の1/2の値とTDDRレジスタに設定するデッドタイムTdの値の和としてください。ただし、TDERレジスタでデッドタイム生成をなしに設定した場合は、PWM周期の1/2+1としてください。

(d) PWM 出力レベルの設定

相補 PWM モードでは、PWM 出力の出力レベルを TOCR1.OLSN, OLSP ビット、または、TOCR2.OLS1P ~ OLS3P, OLS1N ~ OLS3N ビットで設定します。

出力レベルは、6 相出力の正相の 3 相、逆相の 3 相ごとに設定できます。

なお、出力レベルの設定 / 変更は、相補 PWM モードを解除した状態で行ってください。

(e) デッドタイムの設定

相補 PWM モードでは、PWM 出力にデッドタイムを設定できます。

デッドタイムは、TDDR レジスタに設定します。TDDR レジスタに設定した値が、MTU3.TCNT カウンタのカウンタスタート値となり、MTU3.TCNT カウンタと MTU4.TCNT カウンタのデッドタイムを生成します。TDDR レジスタの内容変更は、相補 PWM モードを解除した状態で行ってください。

(f) デッドタイムを生成しない設定

デッドタイムを生成しない設定は、TDER.TDER ビットを“0”に設定します。TDER レジスタは、“1”を読み出し後、“0”を書いたときのみ、“0”に設定できます。

MTU3.TGRA, TGRC レジスタには PWM 周期の 1/2+1 を設定し、TDDR レジスタには“1”を設定します。

デッドタイムを生成しない設定にすると、デッドタイムなしの PWM 波形を出力できます。図 20.41 にデッドタイムを生成しない場合の動作例を示します。

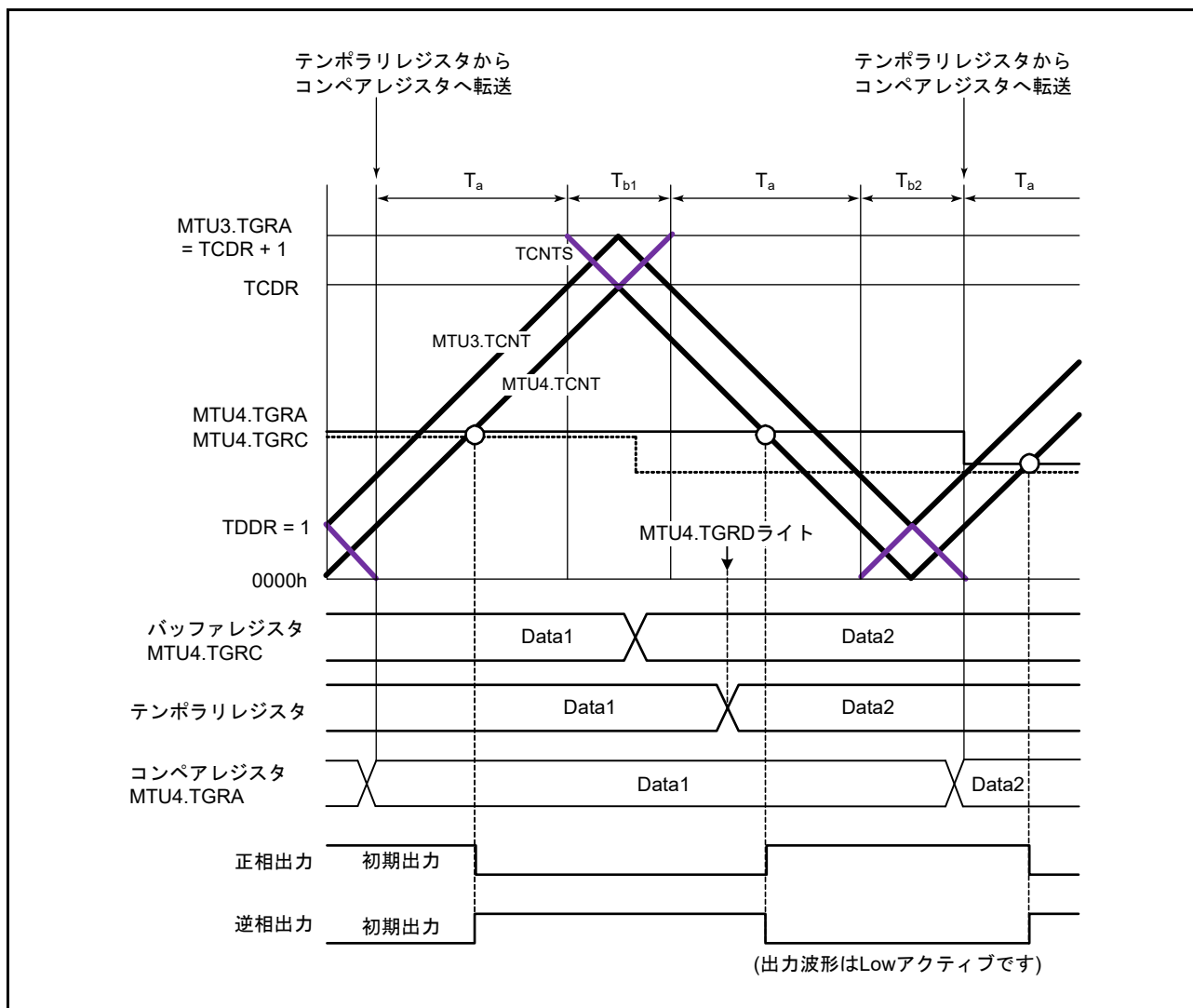


図 20.41 デッドタイムを生成しない場合の動作例

(g) PWM 周期の設定

相補 PWM モードでは、PWM 周期を MTU3.TCNT カウンタの上限値を設定する MTU3.TGRC レジスタと MTU4.TCNT カウンタの上限値を設定する TCDR レジスタの 2 つのレジスタに設定します。これらの 2 つのレジスタの関係は、次の関係になるよう設定してください。

デッドタイム生成あり : $MTU3.TGRC$ の設定値 = $TCDR$ の設定値 + $TDDR$ の設定値

デッドタイム生成なし : $MTU3.TGRC$ の設定値 = $TCDR$ の設定値 + 1

$TCDR$ レジスタと $TDDR$ レジスタの関係が、次の関係になるように設定してください。

$TCDR$ の設定値 > $TDDR$ の設定値 $\times 2 + 2$

また、 $MTU3.TGRC$, $TCDR$ レジスタの設定は、バッファレジスタの $MTU3.TGRC$, $TCBR$ レジスタに値を設定することで行ってください。 $MTU4.TGRD$ レジスタへの書き込みを行い転送を許可すると、 $MTU3.TGRC$, $TCBR$ レジスタに設定した値は、 $TMDR.MD[3:0]$ ビットで選択した転送タイミングで $MTU3.TGRC$, $TCDR$ レジスタに同時に転送されます。

変更した PWM 周期は、データ更新が山で行われる場合は次の周期から、谷で行われる場合はその周期から反映されます。図 20.42 に PWM 周期を山で変更する場合の動作例を示します。

なお、各バッファレジスタのデータの更新方法については、次の「(h) レジスタデータの更新」の項を参照してください。

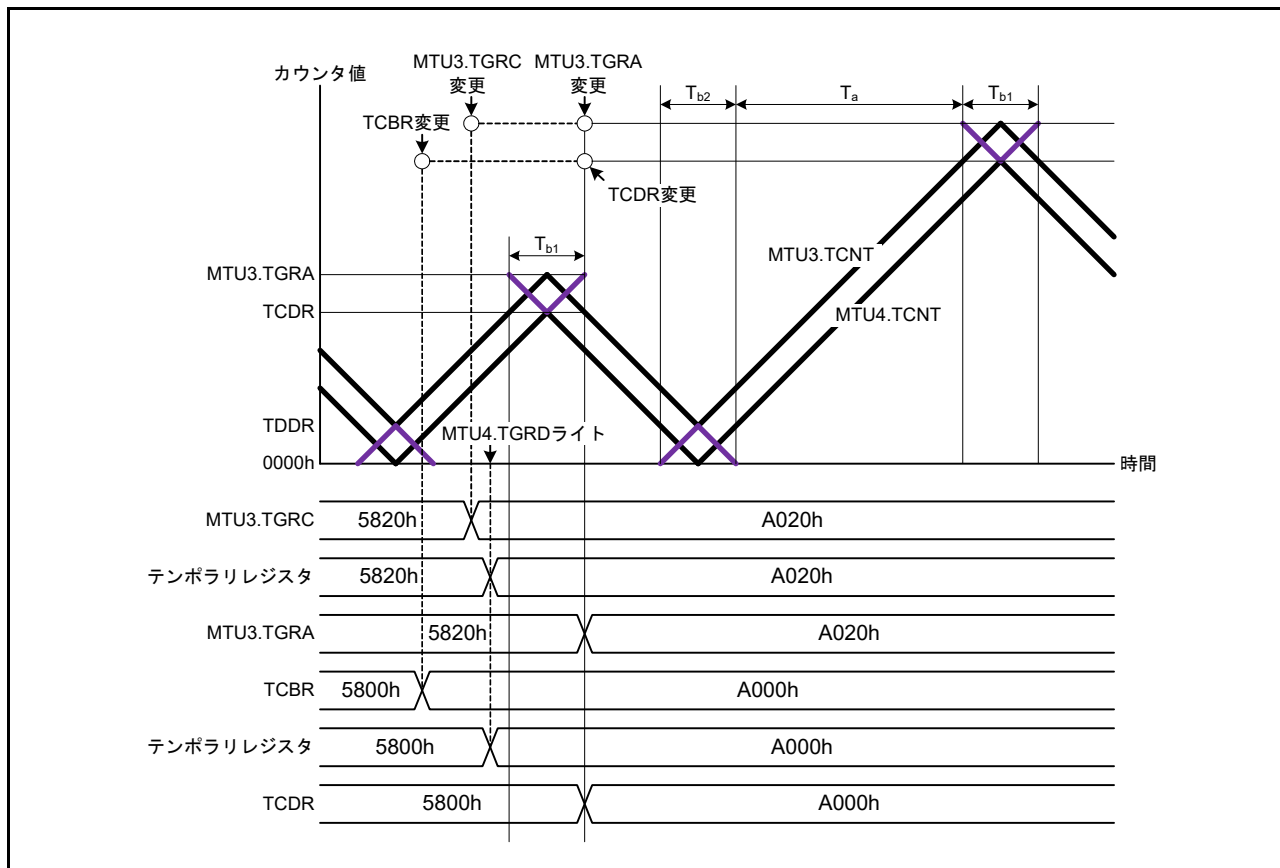


図 20.42 PWM 周期の変更例

(h) レジスタデータの更新

相補 PWM モードでは、コンペアレジスタのデータを更新する場合はバッファレジスタを使用します。更新データは、バッファレジスタに常時書き込むことができます。また、バッファレジスタを持った動作中に変更可能なレジスタは、PWM デューティ用および PWM 周期用の 5 本あります。

これらのレジスタとバッファレジスタの間には、それぞれテンポラリレジスタがあります。サブカウンタ TCNTS カウンタがカウント動作していない期間では、バッファレジスタのデータが更新されるとテンポラリレジスタの値も書き換えます。TCNTS カウンタがカウント動作中は、バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送は行われず、TCNTS カウンタが停止後、バッファレジスタに書かれている値が転送されます。

テンポラリレジスタの値は、TMDR.MD[3:0] ビットで設定したデータ更新タイミングでコンペアレジスタへ転送されます。図 20.43 に相補 PWM モードのデータ更新例を示します。この図は、カウンタの山と谷の両方でデータが更新されるモードの例です。

また、バッファレジスタのデータを書き換える場合は、最後に MTU4.TGRD レジスタへの書き込みを行ってください。バッファレジスタからテンポラリレジスタへのデータ転送は、MTU4.TGRD レジスタに書き込みした後、5 本すべてのレジスタ同時に行われます。

なお、5 本すべてのレジスタの更新を行わない場合、または MTU4.TGRD レジスタのデータを更新しない場合も、更新するレジスタのデータを書き込んだ後、MTU4.TGRD レジスタに書き込み動作を行ってください。

い。またこのとき、MTU4.TGRD レジスタに書き込むデータは、書き込み動作以前と同じデータを書き込んでください。

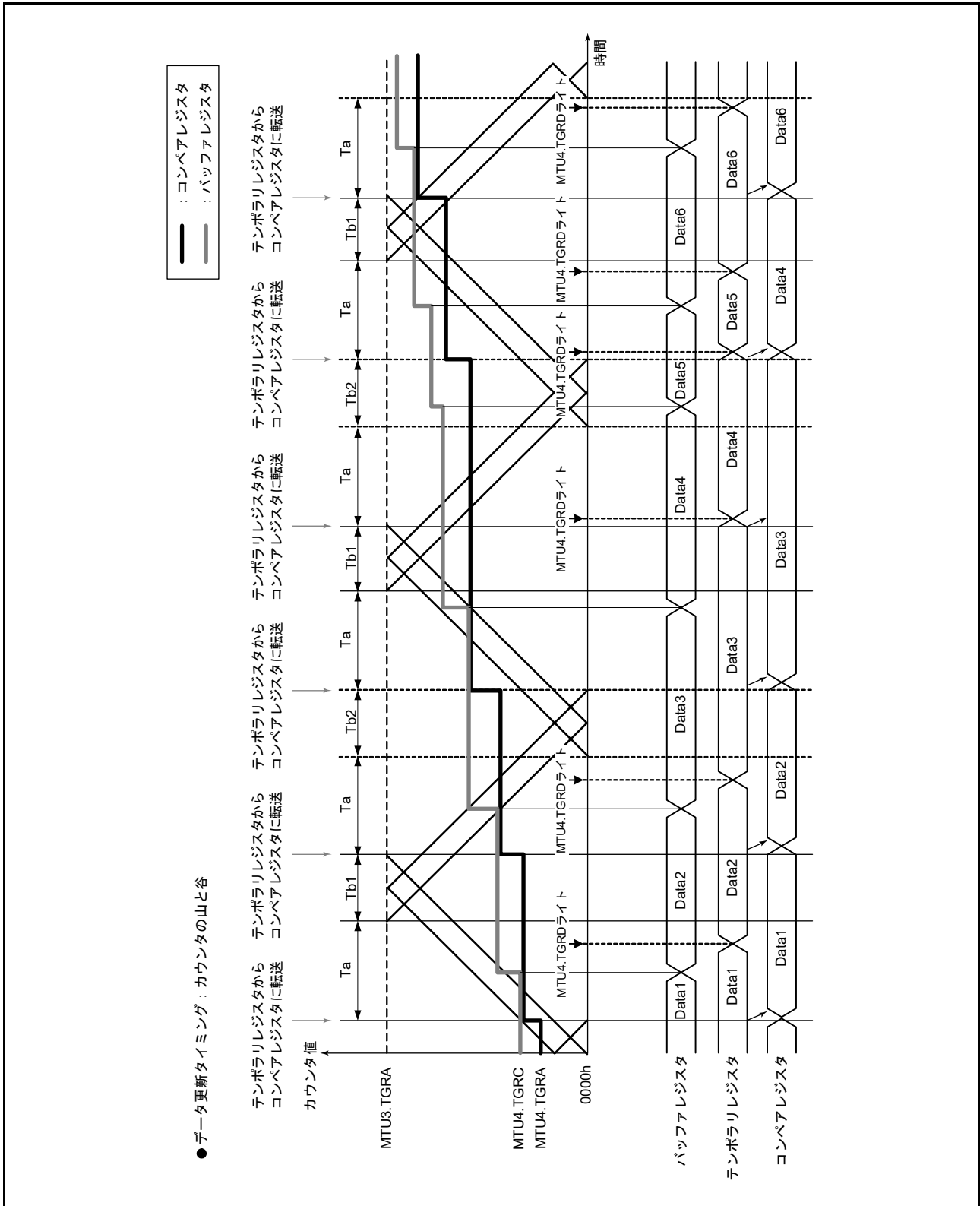


図 20.43 相補 PWM モードのデータ更新例

(i) 相補 PWM モードの初期出力

相補 PWM モードでは、TOCR1.OLSN, OLSP ビットの設定または、TOCR2.OLS1N ~ OLS3N, OLS1P ~ OLS3P ビットの設定で、初期出力が決まります。

この初期出力は、PWM 出力の非アクティブレベルで、TMDR レジスタで相補 PWM モードを設定してから MTU4.TCNT カウンタが TDDR レジスタに設定された値より大きくなるまで出力されます。図 20.44 に相補 PWM モードの初期出力例を示します。

また、PWM デューティの初期値が TDDR レジスタの値より小さい場合の波形例を図 20.45 に示します。

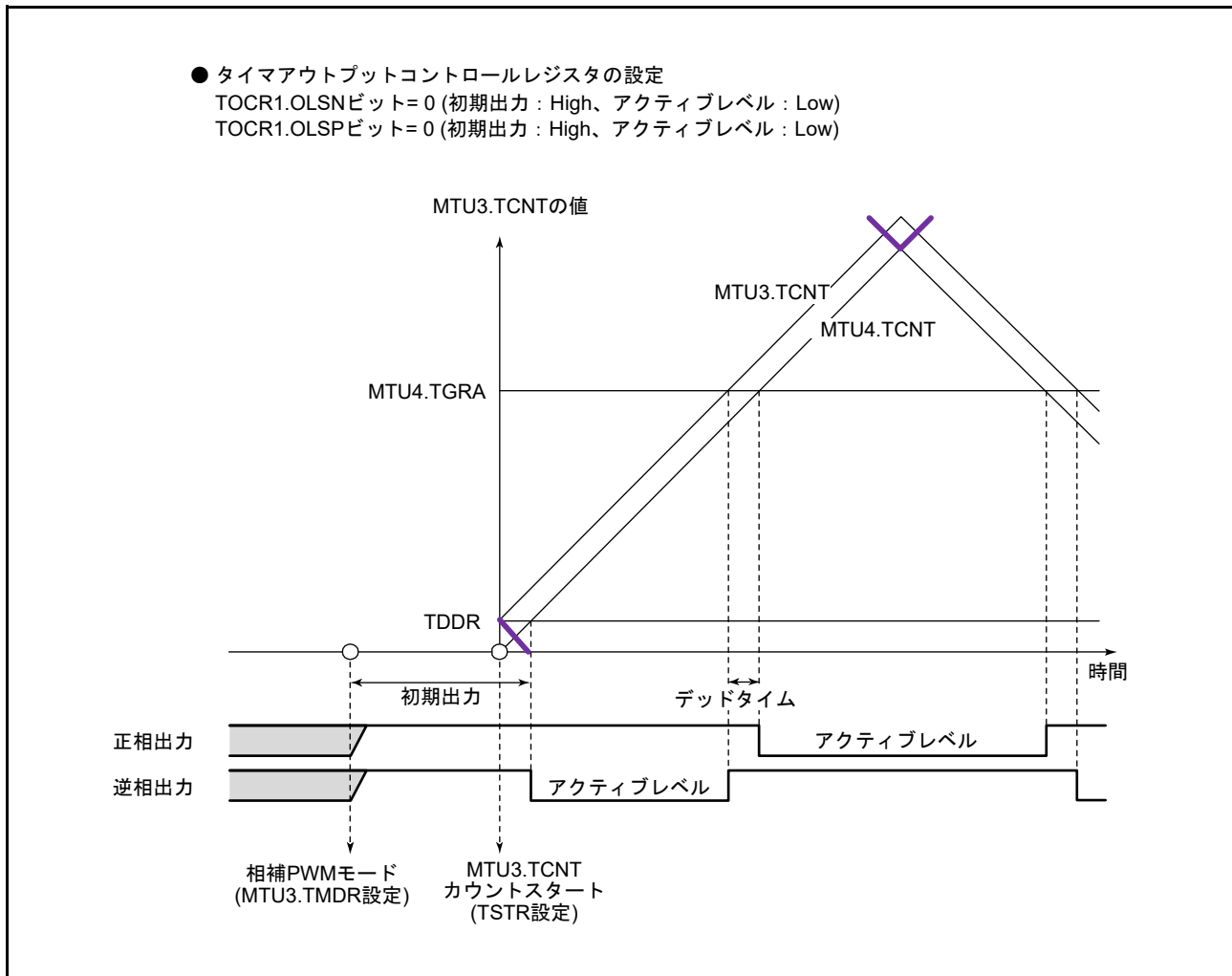


図 20.44 相補 PWM モードの初期出力例 (1)

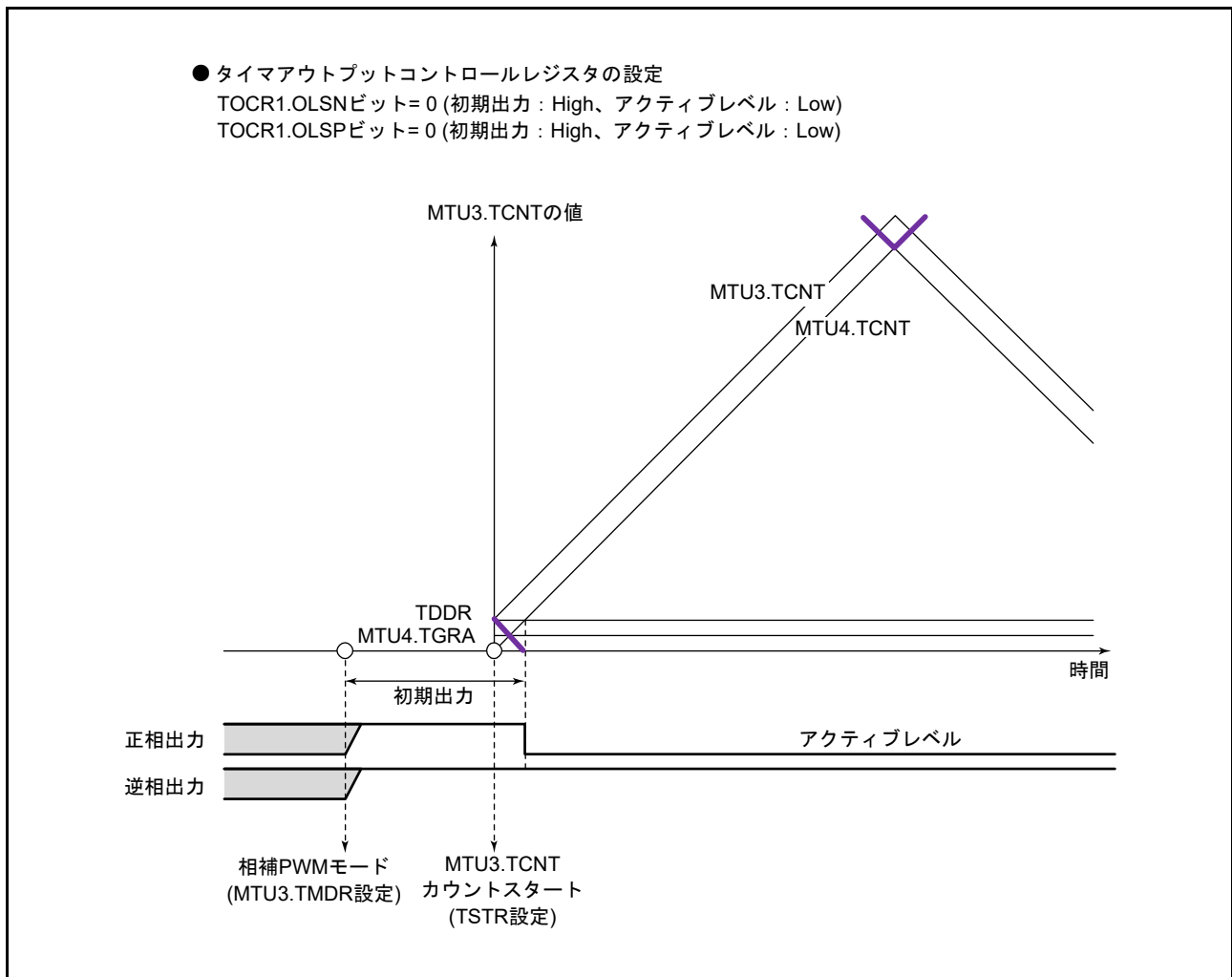


図 20.45 相補 PWM モードの初期出力例 (2)

(j) 相補 PWM モードの PWM 出力生成方法

相補 PWM モードでは、6相（正相3本、逆相3本）の PWM 波形を出力します。出力する PWM 波形にデッドタイムを設定できます。

PWM 波形は、カウンタとコンペアレジスタのコンペアマッチが発生したとき、タイマアウトプットコントロールレジスタで選択した出力レベルが出力されることで生成されます。また、TCNTS カウンタがカウント動作する期間では、デューティ 0% ~ 100% まで連続した PWM 出力を作るため、コンペアレジスタの値とテンポラリレジスタの値が同時に比較されます。このとき、ON、OFF のコンペアマッチが発生するタイミングが前後することがありますが、デッドタイムを確保し正相 / 逆相の ON 時間が重ならないようにするため、各相を OFF するコンペアマッチが優先されます。図 20.46 ~ 図 20.48 に相補 PWM モードの波形生成例を示します。

正相 / 逆相の OFF タイミングは、実線のカウンタとのコンペアマッチで生成され、ON タイミングは、実線のカウンタからデッドタイム分遅れて動作している点線のカウンタとのコンペアマッチで生成されます。ここで、T1 期間では、逆相を OFF する a のコンペアマッチが最優先され、a より先に発生したコンペアマッチは無視されます。また、T2 期間では、正相を OFF する c のコンペアマッチが最優先され、c より先に発生したコンペアマッチは無視されます。

また、図 20.46 に示すように通常の場合のコンペアマッチは、a → b → c → d（または c → d → a' → b'）の順番で発生します。

コンペアマッチが a → b → c → d の順番からはずれる場合は、逆相の OFF されている時間がデッドタイムの2倍より短いため、正相が ON しないことを示します。または c → d → a' → b' の順番からはずれる場合は、正相の OFF されている時間がデッドタイムの2倍より短いため、逆相が ON しないことを示します。

図 20.47 に示すように a のコンペアマッチの次に c のコンペアマッチが先に発生した場合は、b のコンペアマッチを無視して d のコンペアマッチで、逆相を ON します。これは、正相の ON タイミングである b のコンペアマッチより正相の OFF である c のコンペアマッチが先に発生することにより、正相を OFF することが優先されるためです（ゆえに正相は OFF から OFF のため波形は変化しません）。

同様に、図 20.48 に示す例では、逆相の ON タイミングである d のコンペアマッチより逆相の OFF である a' のコンペアマッチが先に発生することにより、逆相を OFF することが優先されます。このため、逆相は ON しません。

このように、相補 PWM モードでは、OFF するタイミングのコンペアマッチが優先され、ON するタイミングのコンペアマッチが OFF より先に発生しても無視されます。

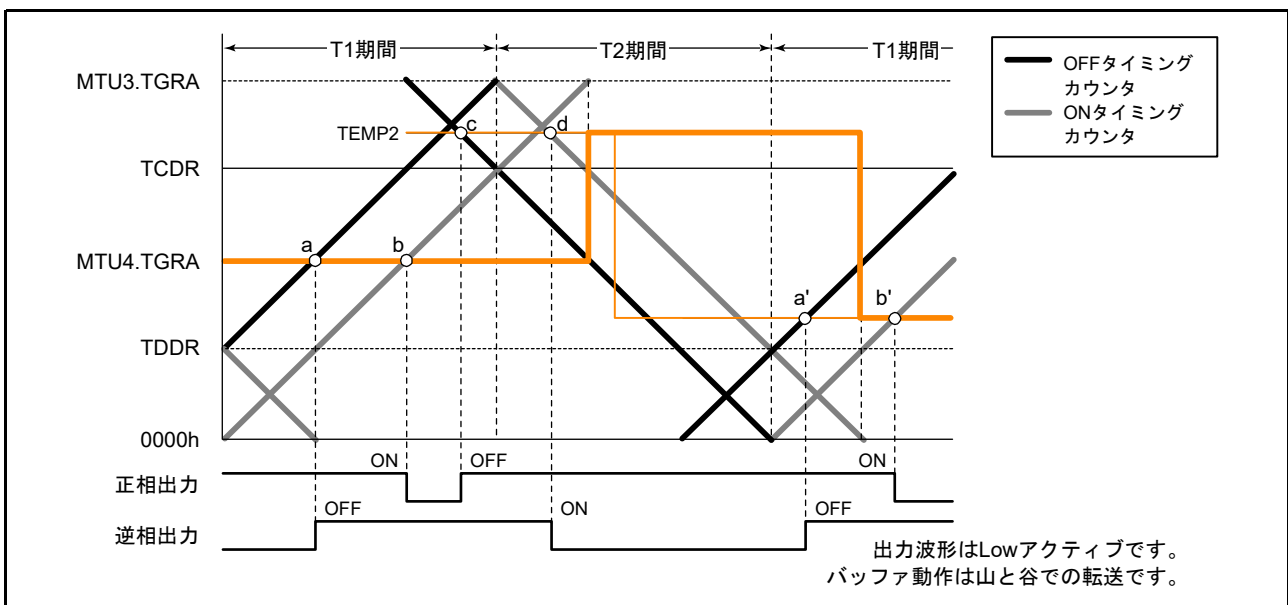


図 20.46 相補 PWM モード波形出力例 (1)

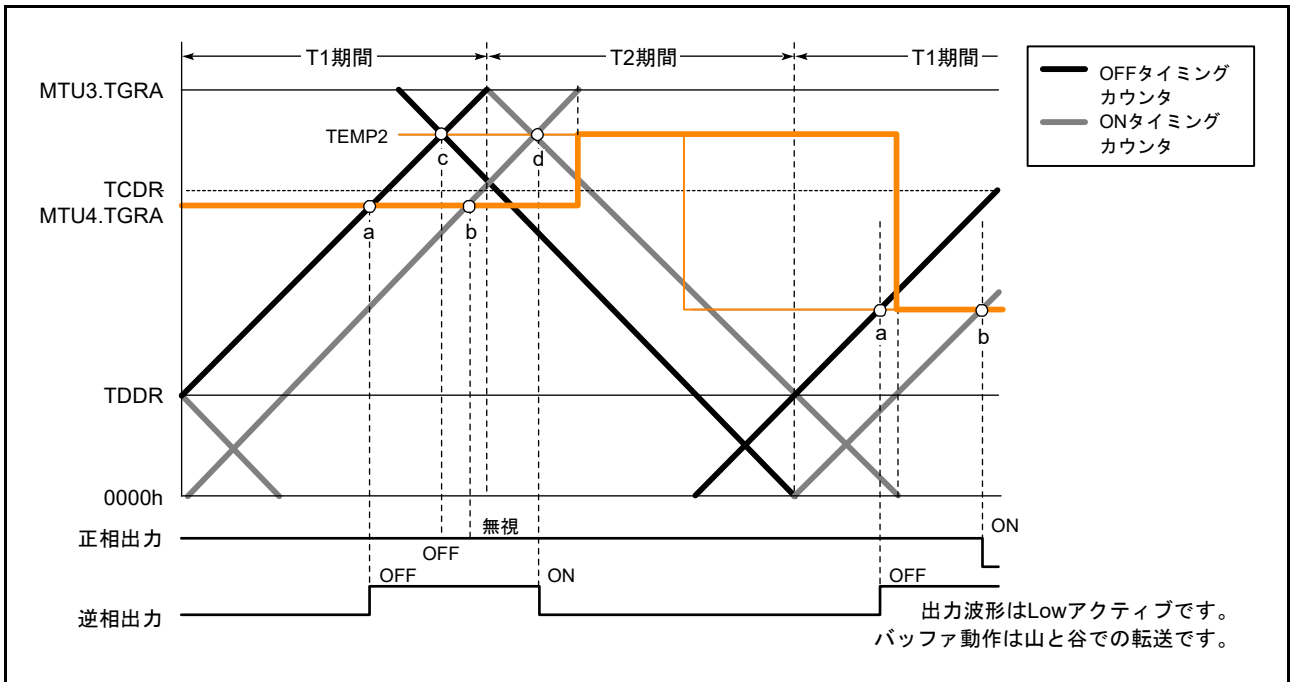


図 20.47 相補 PWM モード波形出力例 (2)

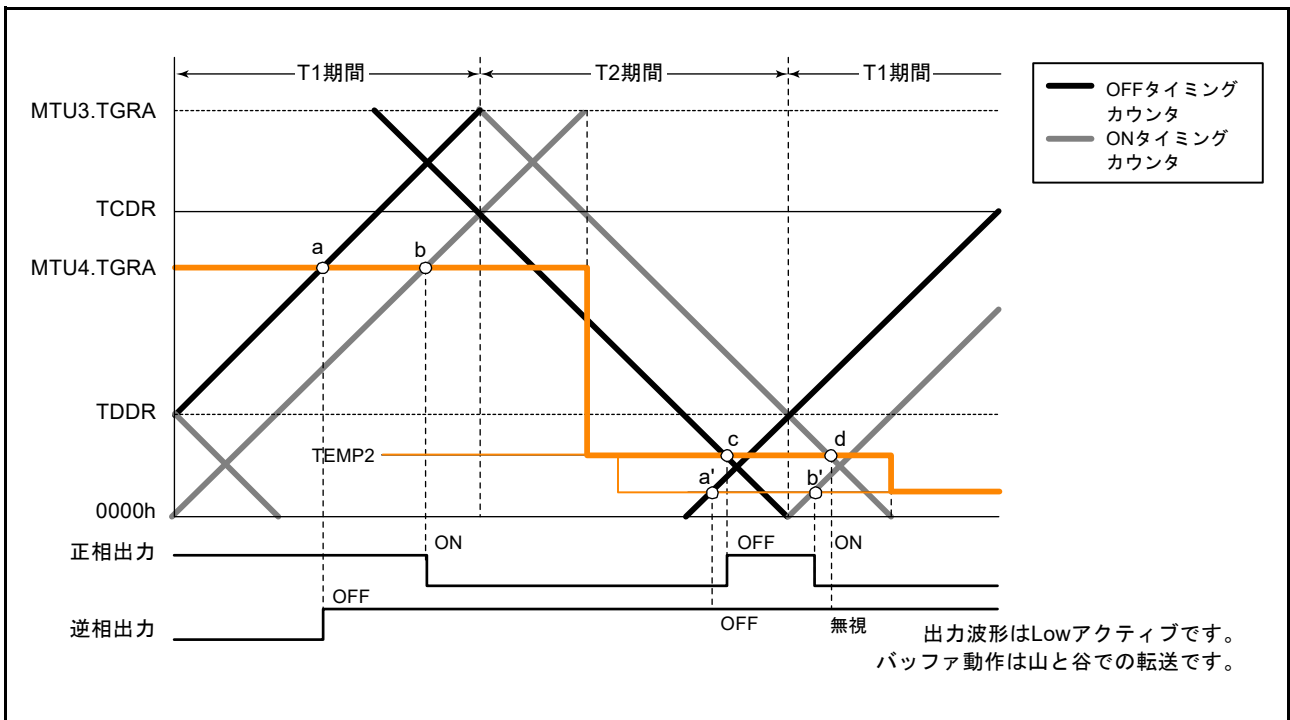


図 20.48 相補 PWM モード波形出力例 (3)

(k) 相補 PWM モードのデューティ比 0%、100% 出力

相補 PWM モードでは、デューティ比 0%、100% の PWM 出力を任意に出力可能です。図 20.49 ~ 図 20.53 に出力例を示します。

デューティ比 100% 出力は、データレジスタの値を “0000h” に設定すると出力されます。このときの波形は、正相が 100%ON 状態の波形です。また、デューティ比 0% 出力は、データレジスタの値を MTU3.TGRA レジスタの値と同じ値を設定すると出力されます。このときは、正相が 100%OFF 状態の波形です。

このとき、コンペアマッチは ON、OFF 同時に発生しますが、同じ相の ON するコンペアマッチと OFF するコンペアマッチが同時に発生すると、両方のコンペアマッチとも無視され波形は変化しません。

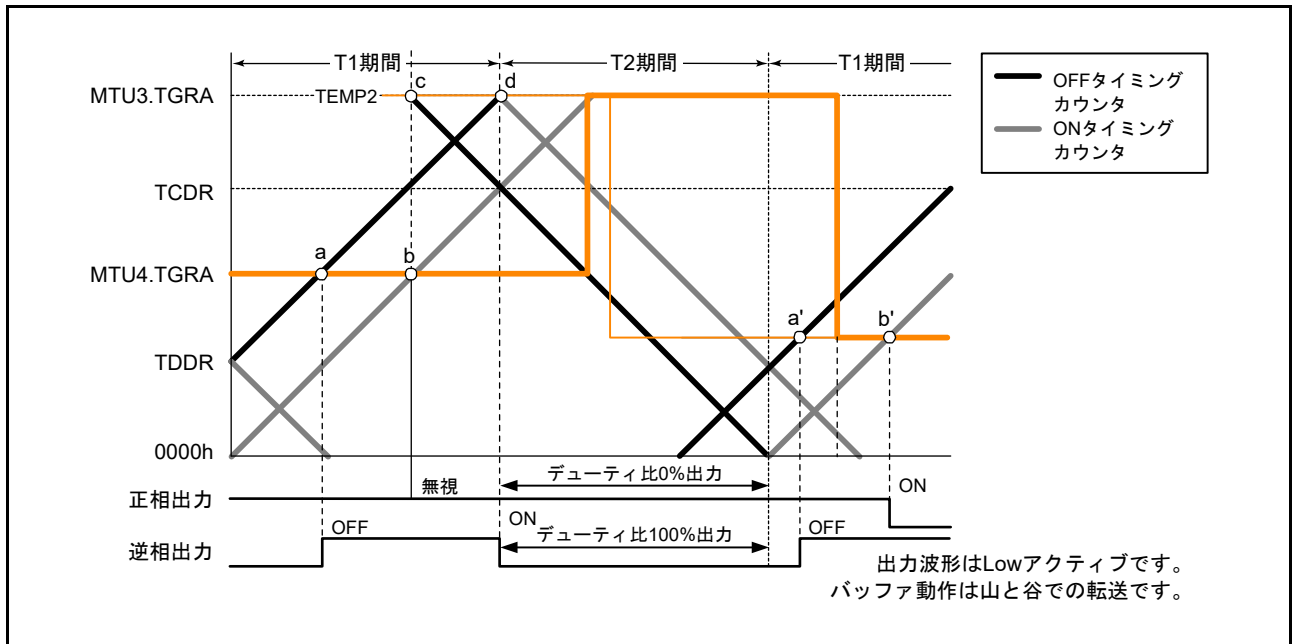


図 20.49 相補 PWM モード 0%、100% 波形出力例 (1)

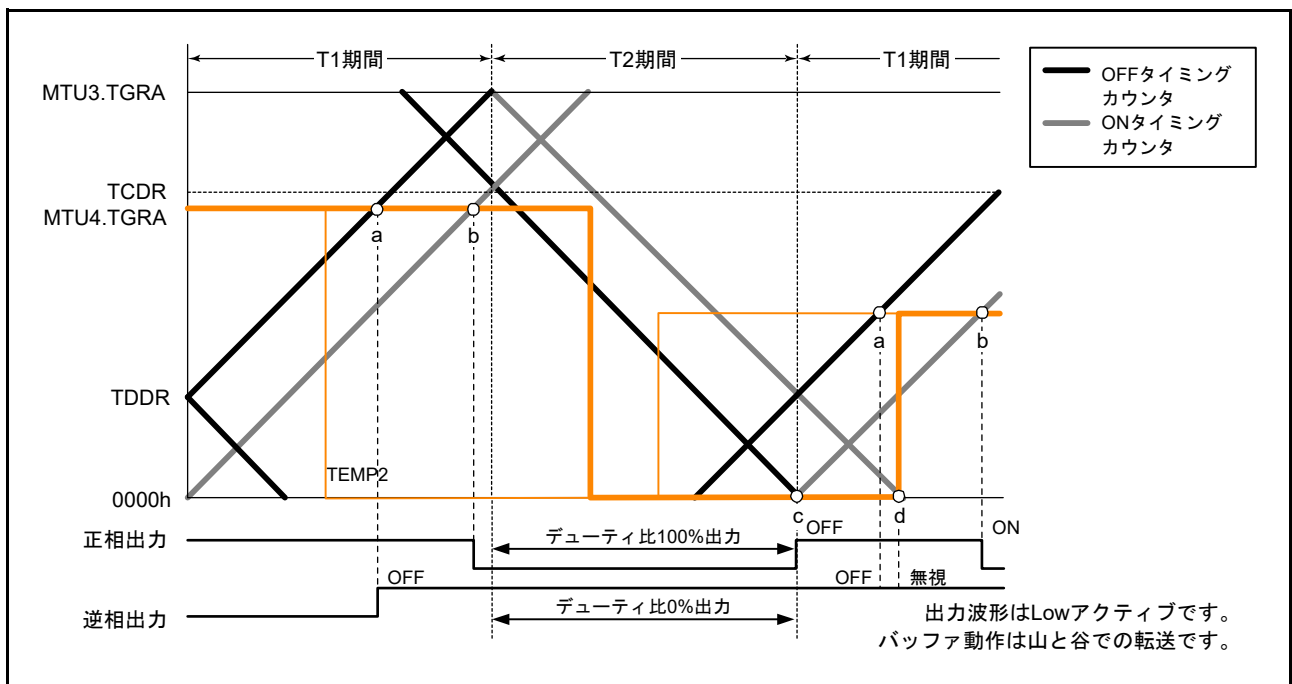


図 20.50 相補 PWM モード 0%、100% 波形出力例 (2)

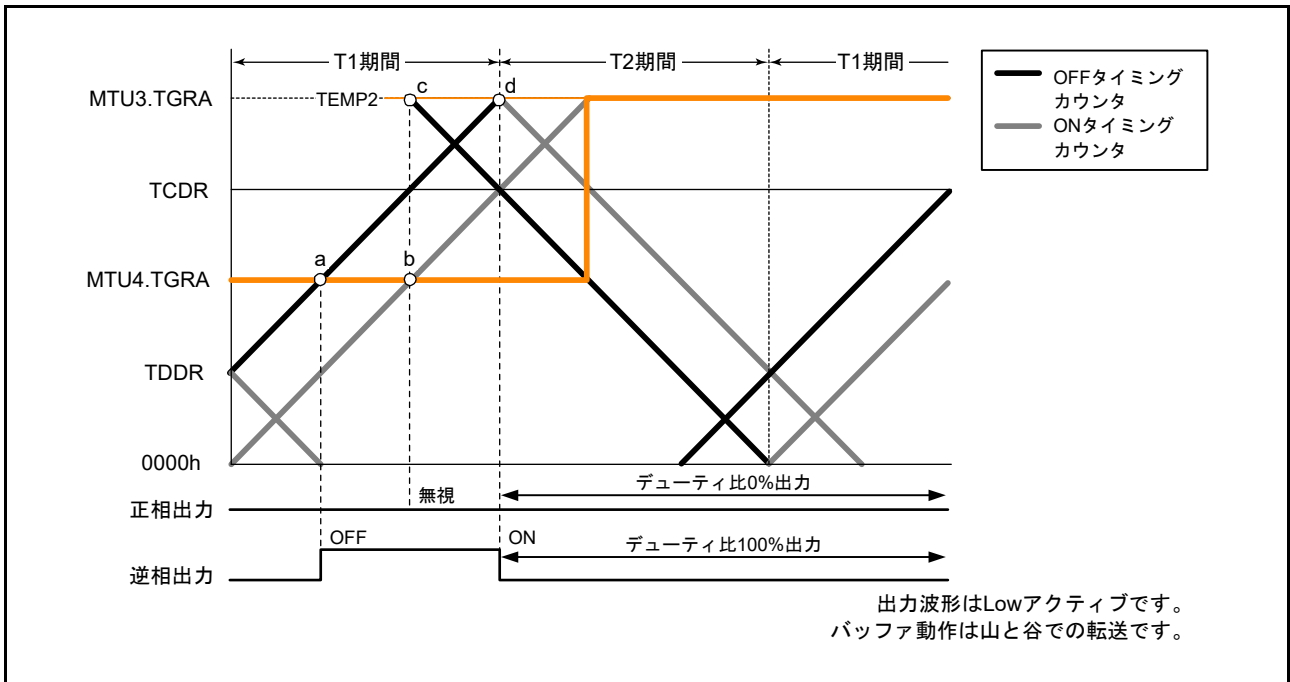


図 20.51 相補 PWM モード 0%、100% 波形出力例 (3)

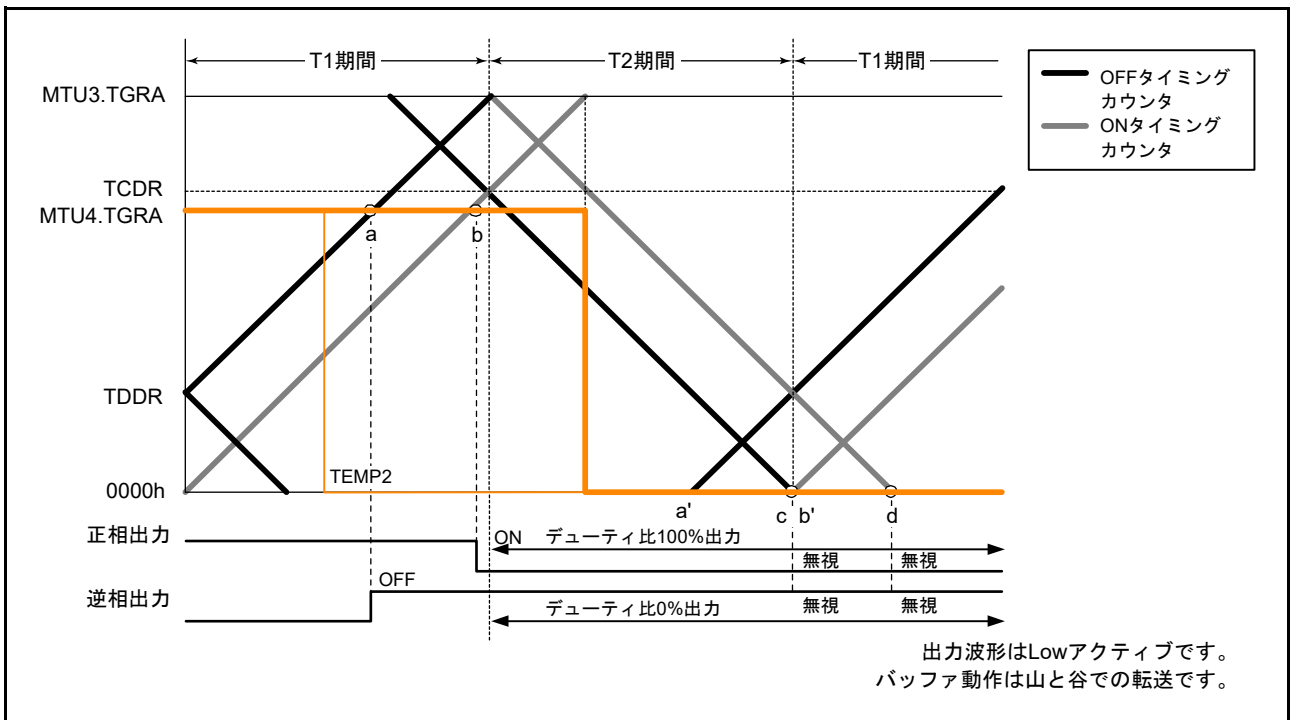


図 20.52 相補 PWM モード 0%、100% 波形出力例 (4)

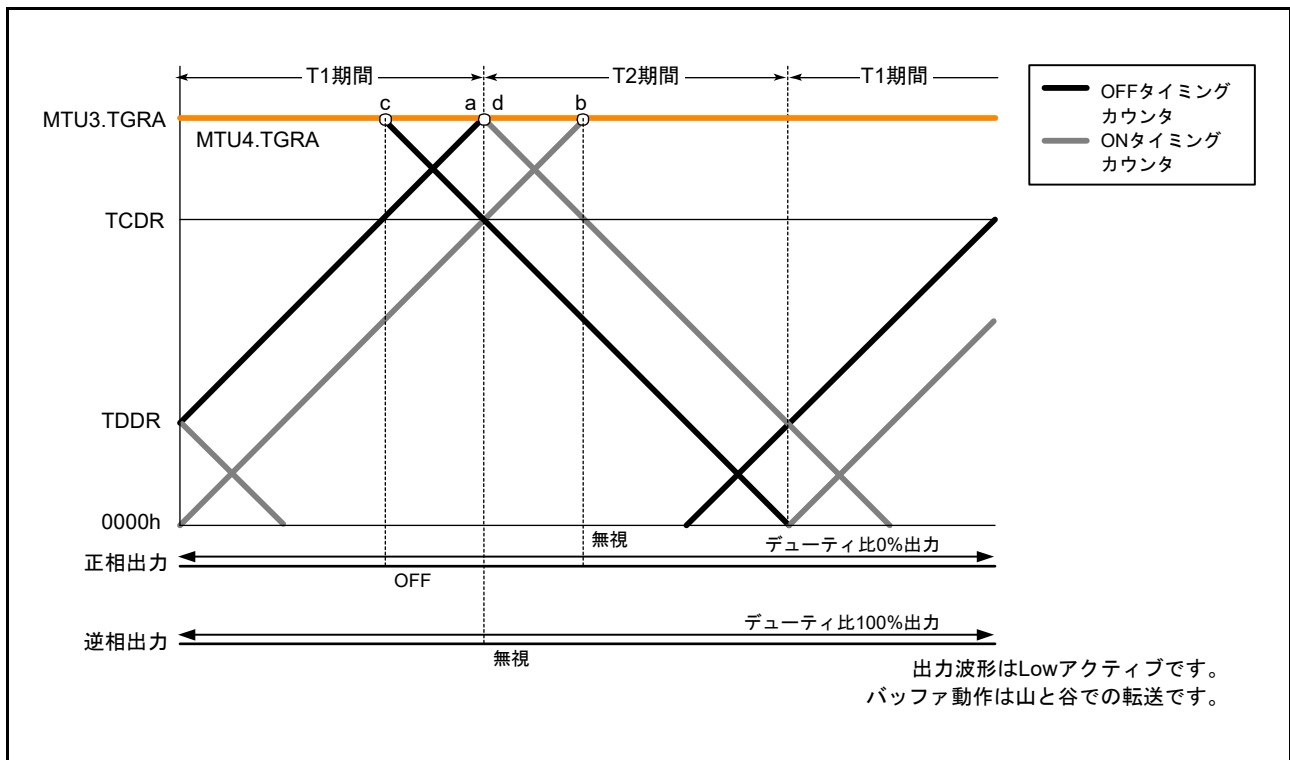


図 20.53 相補 PWM モード 0%、100% 波形出力例 (5)

(I) PWM 周期に同期したトグル出力

相補 PWM モードでは、TOCR1.PSYE ビットを“1”にすることにより PWM 出力端子から PWM 周期に同期したトグル出力が可能です。トグル出力の波形例を図 20.54 に示します。

この出力は、MTU3.TCNT カウンタと MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチと MTU4.TCNT カウンタと“0000h”のコンペアマッチでトグルを行います。

このトグル出力の出力端子は、MTIOC3A 端子です。また、初期出力は High 出力です。

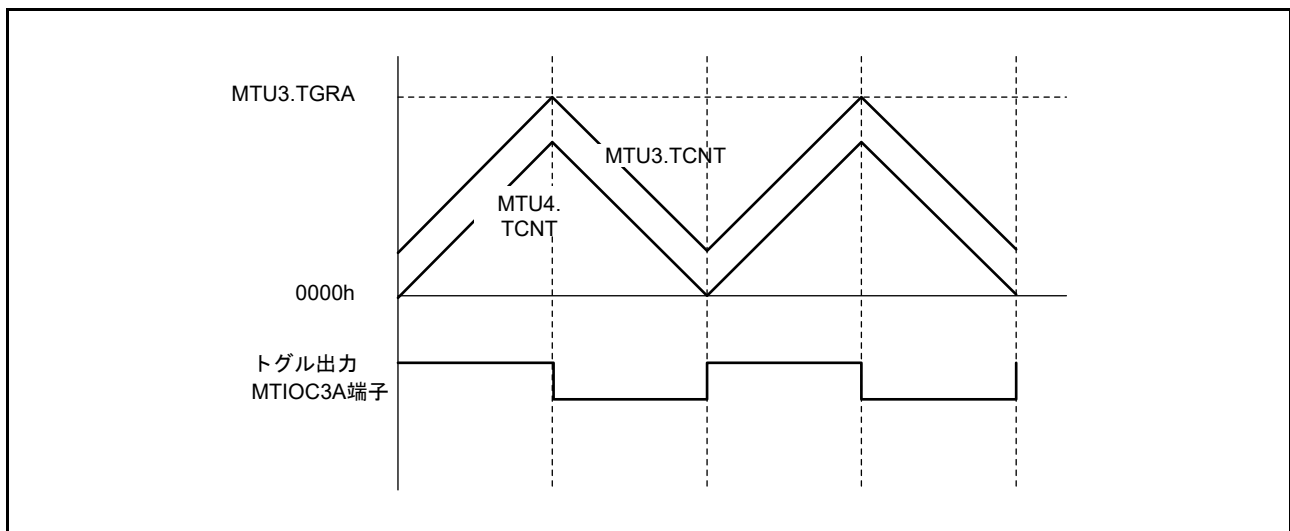


図 20.54 PWM 出力に同期したトグル出力波形例

(m) 他のチャネルによるカウンタクリア

相補 PWM モード時、TSYR レジスタにより他のチャネルとの同期モードに設定し、また MTU3.TCR.CCLR[2:0] ビットで同期クリアを選択することにより他のチャネルの要因で MTU3.TCNT, MTU4.TCNT カウンタおよび TCNTS カウンタをクリアすることが可能です。

図 20.55 に動作例を示します。

この機能を使うことによって、外部信号によるカウンタクリアおよび再スタートが可能です。

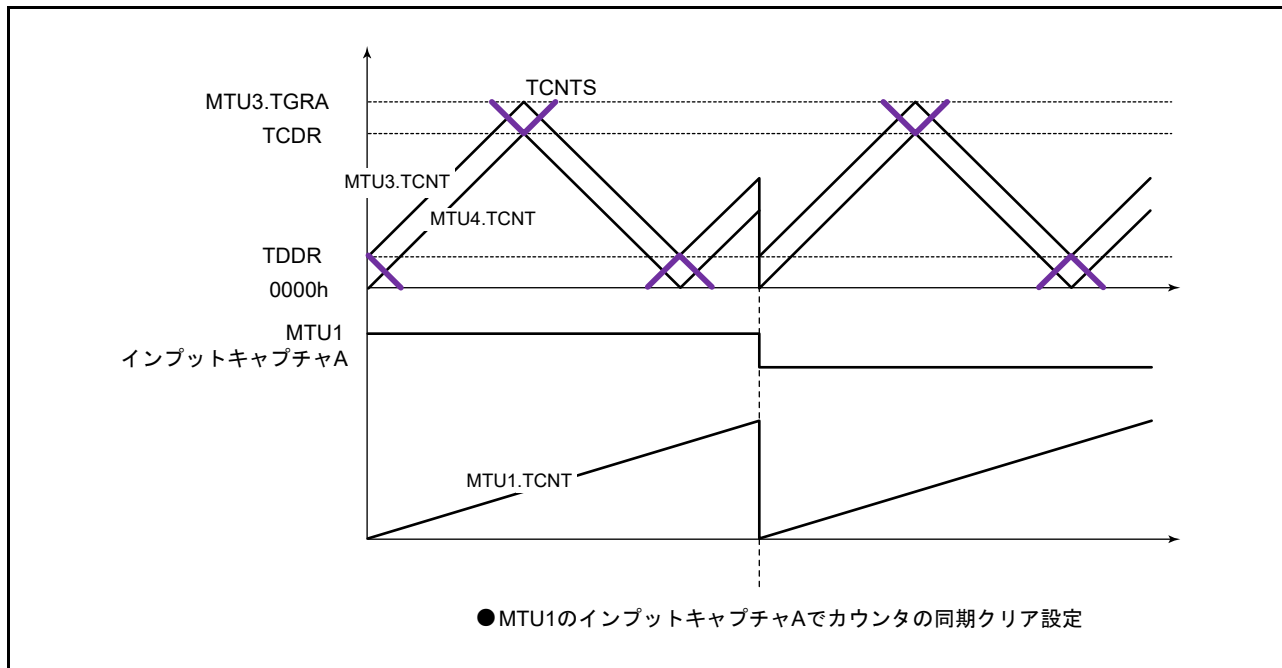


図 20.55 他のチャネルに同期したカウンタクリア

(n) 相補 PWM モードでの同期カウンタクリア時出力波形制御

TWCR.WRE ビットを“1”に設定することにより、相補 PWM モードの谷の Tb 区間 (Tb2 区間) で同期カウンタクリアが起こった場合の初期出力を抑止することができます。これにより、同期カウンタクリア時の急激なデューティ比の変化を抑止することができます。

TWCR.WRE ビットを“1”に設定することで初期出力を抑止することができるのは、同期クリアが図 20.56 の⑩、⑪のような Tb2 区間に入ってきたときのみです。それ以外のタイミングで同期クリアが起こった場合は、TOCR1.OLSN, OLSP ビットで設定した初期値が出力されます。また、Tb2 区間であっても、図 20.56 の①で示すカウンタスタート直後の初期出力期間で同期クリアが起こった場合には、初期出力の抑止は行いません。

MTU3、MTU4 のカウンタクリア要因は MTU0 ~ MTU2 からの同期クリアです。

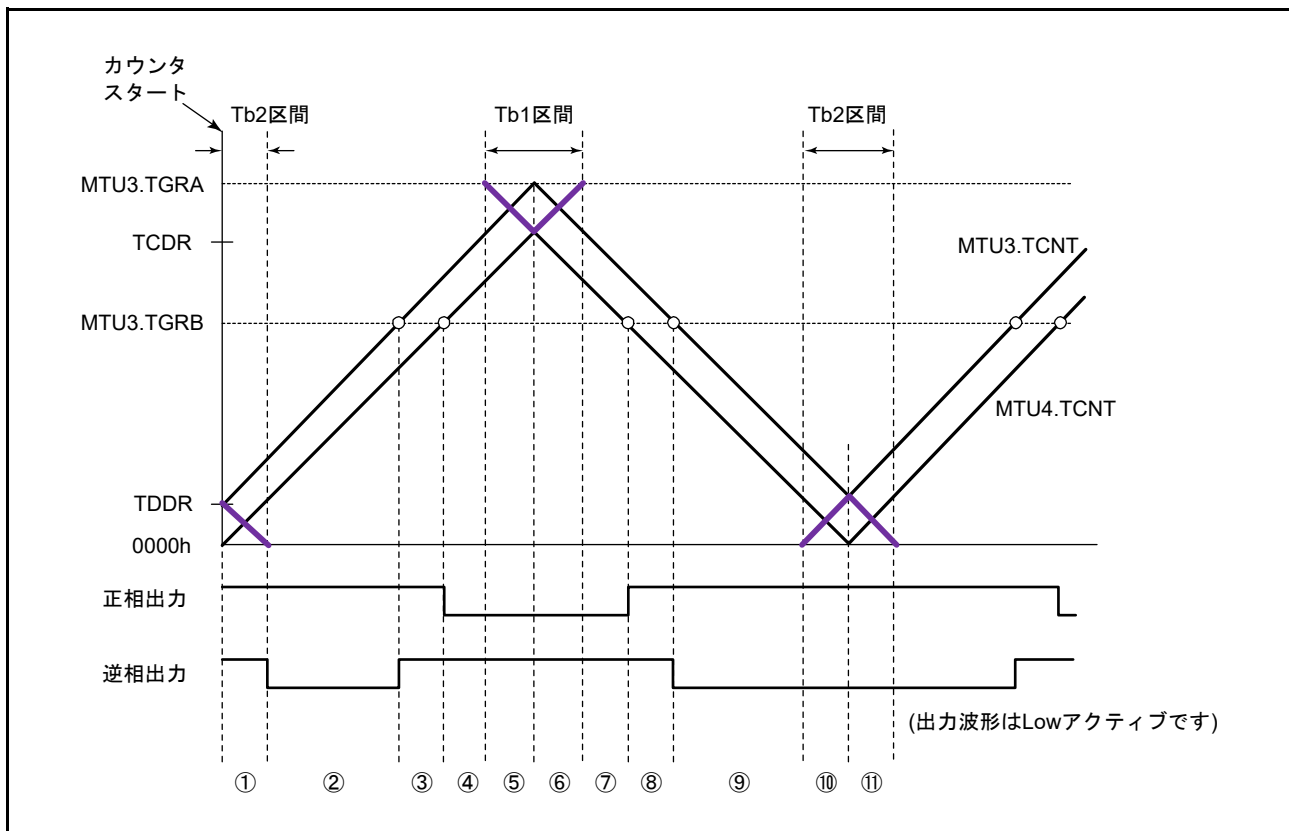


図 20.56 同期カウンタクリアタイミング

● 相補 PWM モードでの同期カウンタクリア時出力波形制御の設定手順例

相補 PWM モードでの同期カウンタクリア時出力波形制御の設定手順例を図 20.57 に示します。

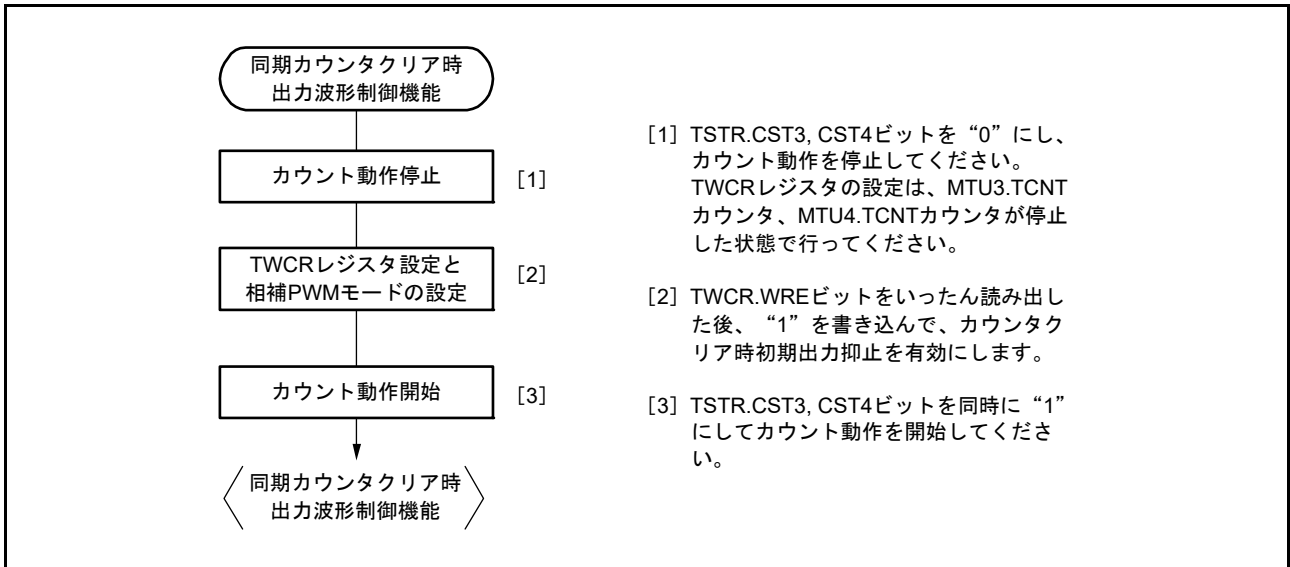


図 20.57 相補 PWM モードでの同期カウンタクリア時出力波形制御の設定手順例

● 相補 PWM モードでの同期カウンタクリア時出力波形制御動作例

図 20.58 ～図 20.61 に、TWCR.WRE ビットを“1”に設定した状態で MTU を相補 PWM 動作させ、同期カウンタクリアをした場合の動作例を示します。ここで、図 20.58 ～図 20.61 の同期カウンタクリアのタイミングは、それぞれ図 20.56 の③、⑥、⑧、⑪で示したタイミングです。

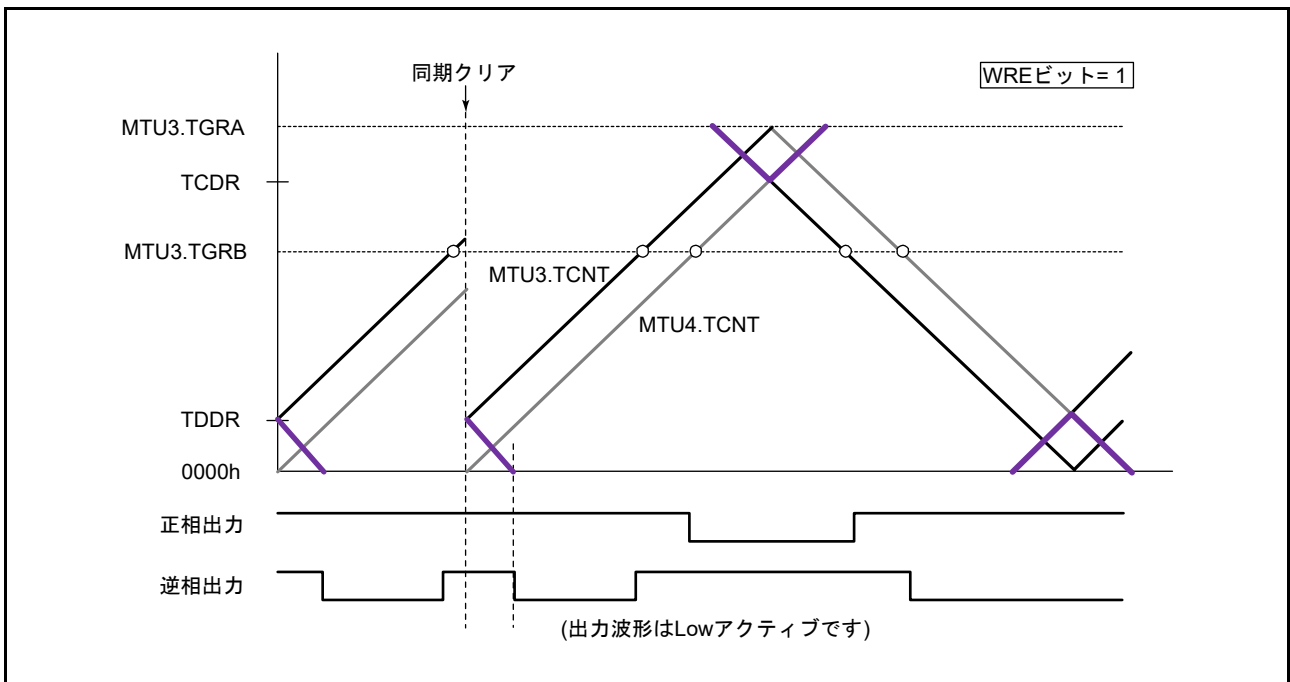


図 20.58 アップカウント中のデッドタイム時に同期クリアが発生した場合 (図 20.56 のタイミング③、TWCR.WRE ビット = 1)

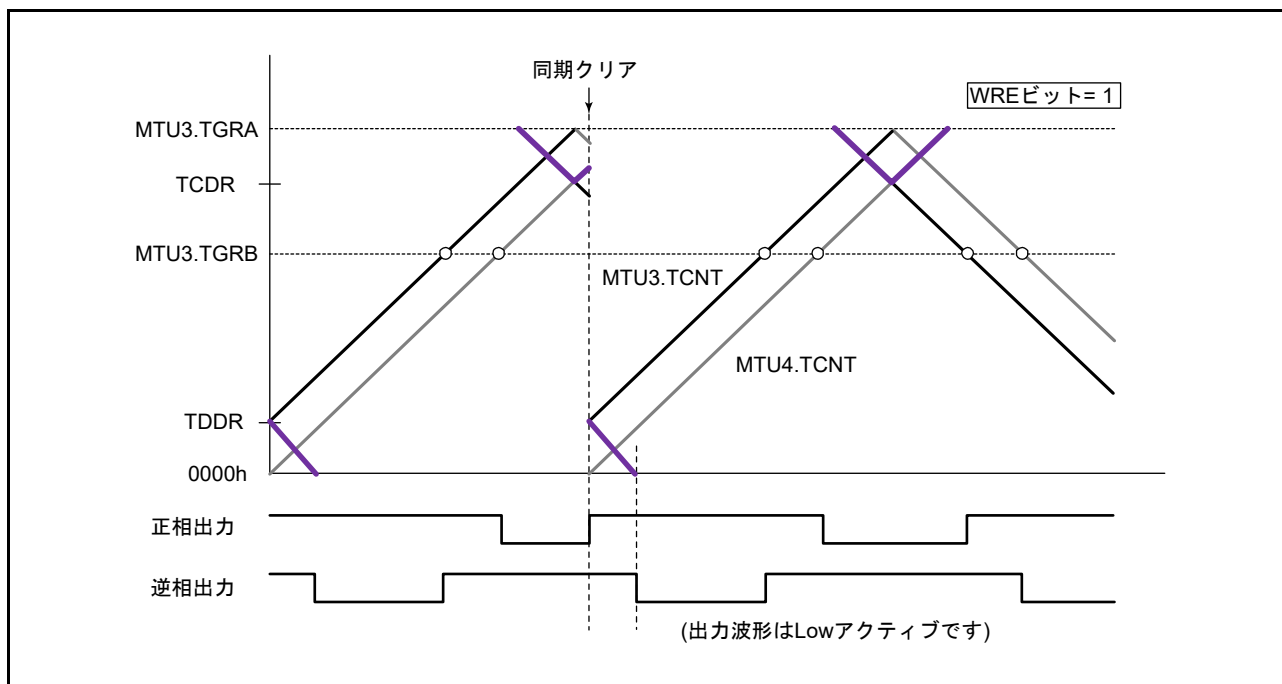


図 20.59 山のTb区間で同期クリアが発生した場合
(図 20.56 のタイミング⑥、TWCR.WRE ビット = 1)

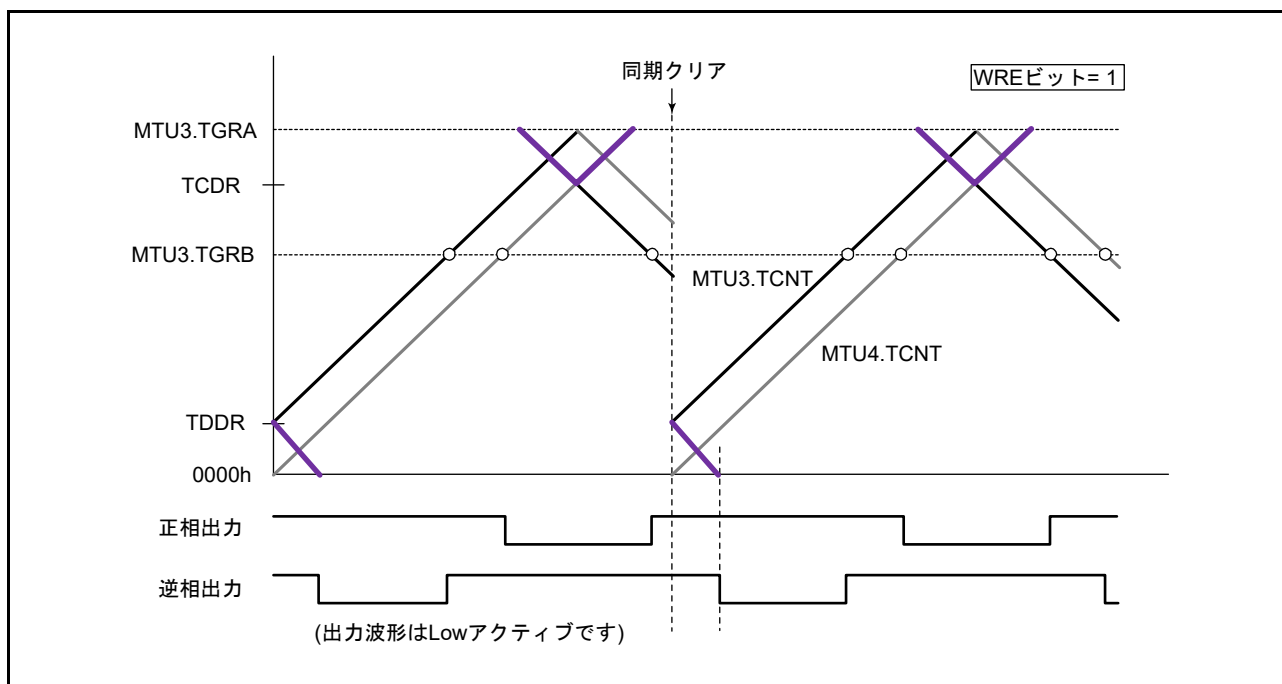


図 20.60 ダウンカウント中のデッドタイム時に同期クリアが発生した場合
(図 20.56 のタイミング⑧、TWCR.WRE ビット = 1)

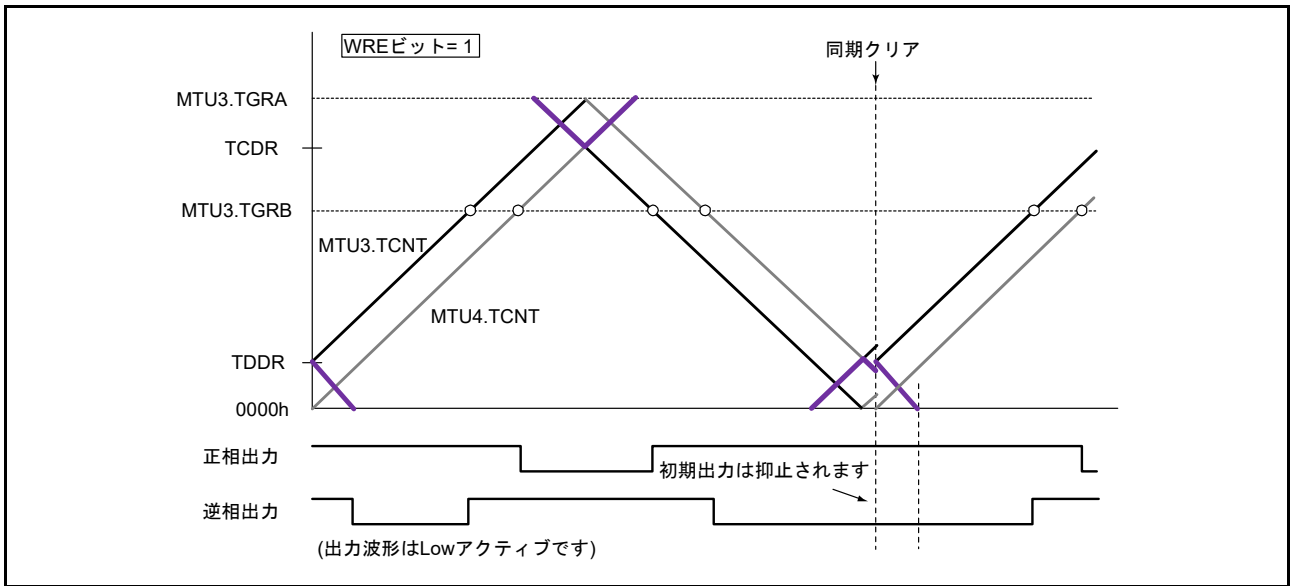


図 20.61 谷のTb区間で同期クリアが発生した場合
(図 20.56 のタイミング①、TWCR.WRE ビット = 1)

(o) MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチによるカウンタクリア

相補 PWM モードでは、TWCR.CCE ビットを設定することにより、MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチで MTU3.TCNT カウンタ、MTU4.TCNT カウンタおよび TCNTS カウンタをクリアすることが可能です。

図 20.62 に動作例を示します。

- 注． 相補 PWM モード 1 (山で転送) でのみ使用してください。
- 注． 他のチャンネルとの同期クリア機能に設定しないでください。(TSYR.SYNCn ビット (n=0~4) を“1”に設定しないでください)
- 注． PWM デューティ比は、“0000h”を設定しないでください。
- 注． TOCR1.PSYE ビットを“1”に設定しないでください。

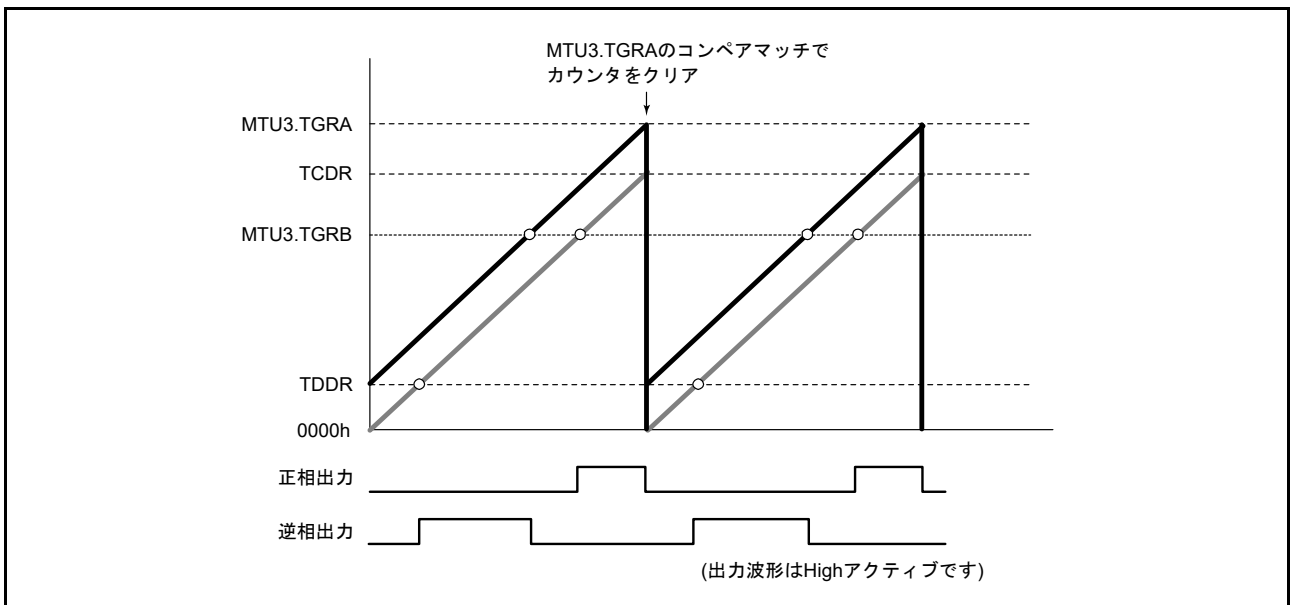


図 20.62 MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチにおけるカウンタクリアの動作例

(p) AC同期モータ (ブラシレス DC モータ) の駆動波形出力例

相補 PWM モードでは、TGCR レジスタを使ってブラシレス DC モータを簡単に制御することができます。図 20.63 ~ 図 20.66 に TGCR レジスタを使用したブラシレス DC モータの駆動波形例を示します。

3相ブラシレス DC モータの出力相の切り替えに、ホール素子などで検出した外部信号で行う場合、TGCR.FB ビットを“0”に設定します。この場合、磁極位置を示す外部信号を MTU0 のタイマ入力端子 MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C 端子に入力します。MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C 端子の3つの端子にエッジが発生すると、出力の ON/OFF が自動的に切り替わります。

TGCR.FB ビットが“1”の場合は、TGCR.UF, VF, WF ビットの各ビットに“0”または“1”を設定すると、出力の ON/OFF が切り替わります。

駆動波形の出力は、相補 PWM モードの6相 PWM 出力端子から出力されます。

この6相出力は TGCR.N ビットまたは TGCR.P ビットを“1”に設定することにより、ON 出力時、相補 PWM モードの出力を使用し、チョッピング出力を行うことが可能です。TGCR.N ビットまたは TGCR.P ビットが“0”の場合は、レベル出力になります。

また、6相出力のアクティブレベル (ON 出力時レベル) は、TGCR.N ビットまたは TGCR.P ビットの設定にかかわらず、TOCR1.OLSN, TOCR1.OLSP ビットで設定できます。

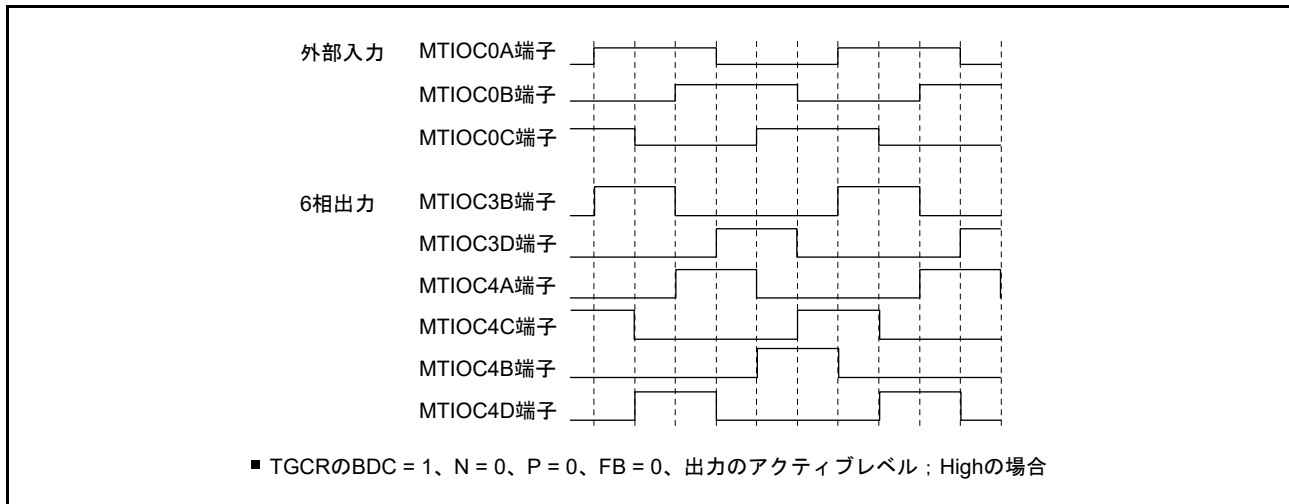


図 20.63 外部入力による出力相の切り替え動作例 (1)

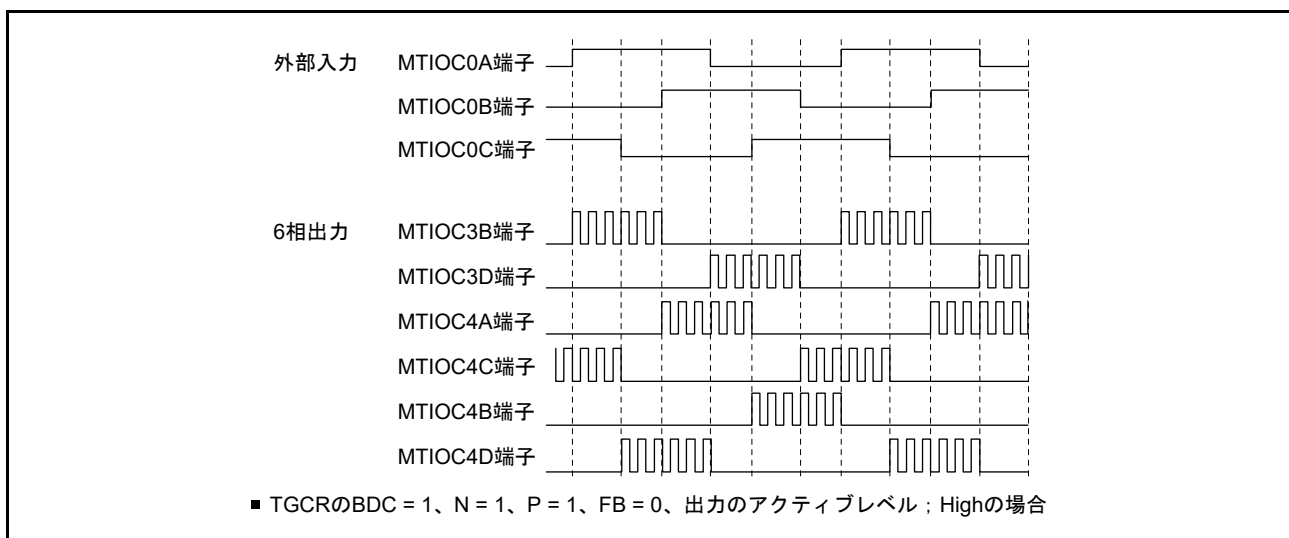


図 20.64 外部入力による出力相の切り替え動作例 (2)

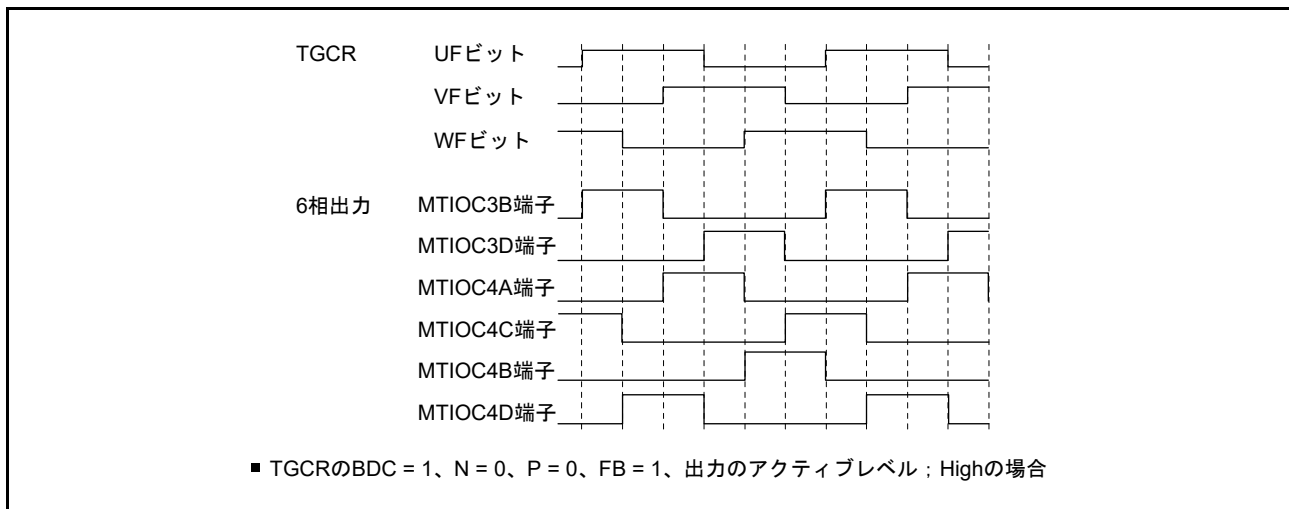


図 20.65 UF、VF、WF ビット設定による出力相の切り替え動作例 (1)

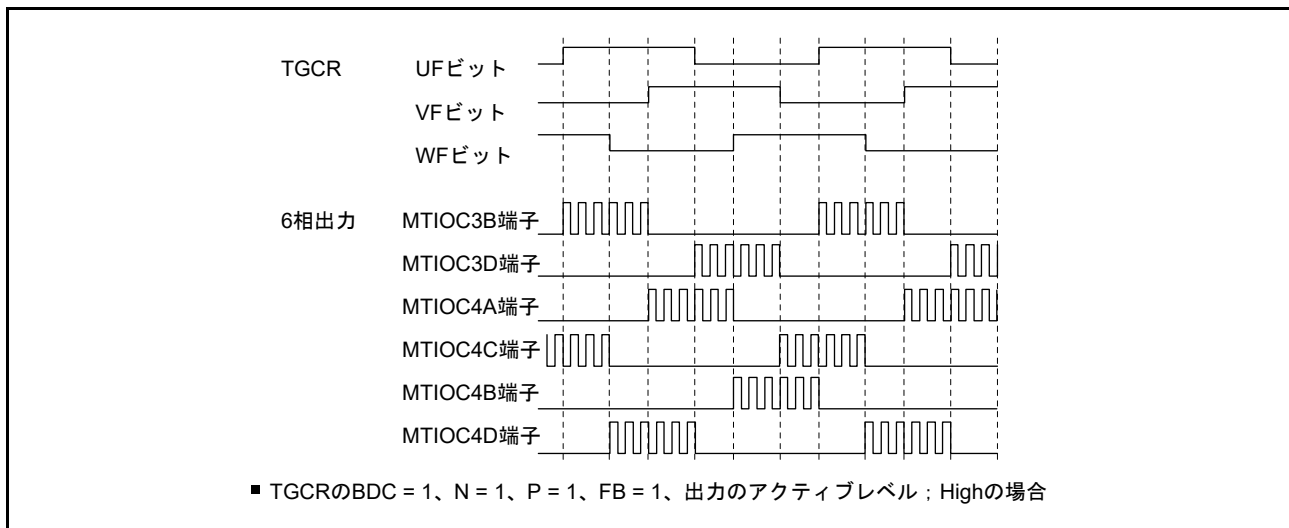


図 20.66 UF、VF、WF ビット設定による出力相の切り替え動作例 (2)

(q) A/D 変換開始要求の設定

相補 PWM モード時、A/D 変換の開始要求は MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチ、MTU4.TCNT カウンタのアンダフロー（谷）、MTU3、MTU4 以外のチャンネルのコンペアマッチを使用して行うことが可能です。

MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチを使用して開始要求を設定すると、MTU3.TCNT カウンタの山で A/D 変換を開始させることができます。

A/D 変換の開始要求は、TIER.TTGE ビットを“1”にすることで設定できます。MTU4.TCNT カウンタのアンダフロー（谷）の A/D 変換の開始要求は、MTU4.TIER.TTGE2 ビットを“1”にすることで設定できます。

(3) 相補 PWM モードの割り込み間引き機能

MTU3 と MTU4 の TGIA3 (山の割り込み)、および TCIV4 (谷の割り込み) は、TITCR レジスタを設定することにより、最大で7回まで割り込みを間引くことが可能です。

TBTER レジスタを設定することにより、バッファレジスタからテンポラリレジスタ / コンペアレジスタへの転送を連動して間引くことが可能です。バッファレジスタとの連動については、「(c) 割り込み間引きと連動したバッファ転送制御」を参照してください。

TADCR レジスタを設定することにより、A/D 変換開始要求ディレイド機能の A/D 変換開始要求を連動して間引くことが可能です。A/D 変換開始要求ディレイド機能との連動については「20.3.9 A/D 変換開始要求ディレイド機能」を参照してください。

TITCR レジスタの設定は、MTU3.TIER、MTU4.TIER レジスタの設定で TGIA3 と TCIV4 割り込み要求を禁止した状態、かつコンペアマッチが発生しない状態、かつコンペアマッチによる TGIA3、TGIA4 割り込み要求が発生しない状態で行ってください。また、間引き回数の変更前に、TITCR.T3AEN、T4VEN ビットを“0”にして、間引きカウンタをクリアしてください。

(a) 割り込み間引き機能の設定手順例

割り込み間引き機能の設定手順例を図 20.67 に示します。また、割り込み間引き回数の変更可能期間を図 20.68 に示します。

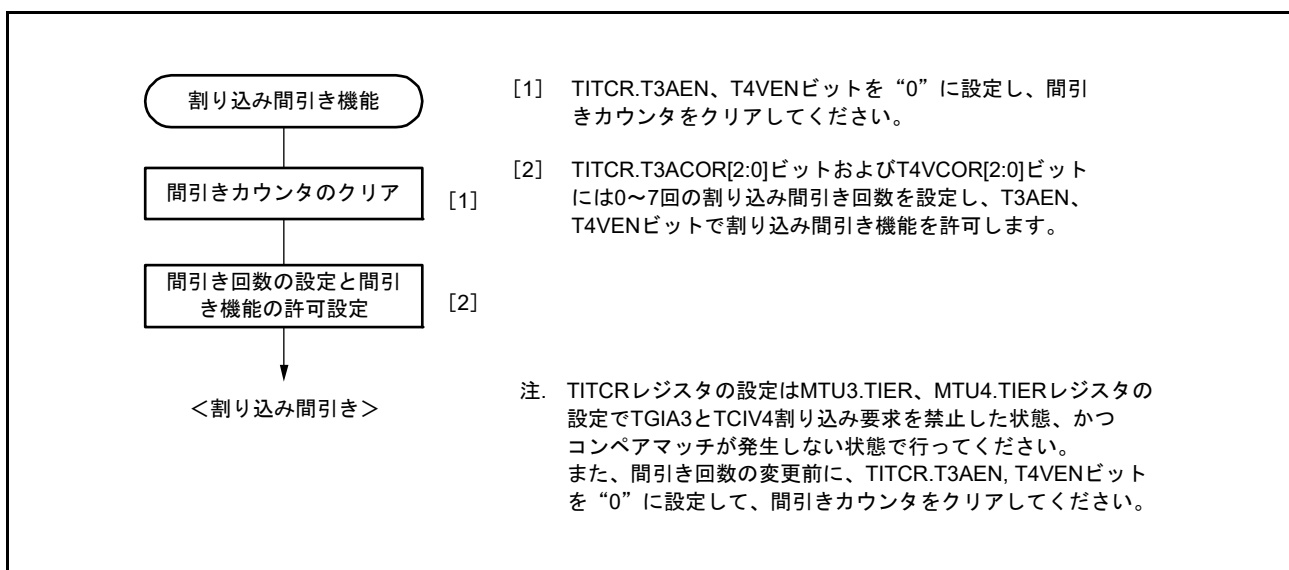


図 20.67 割り込み間引き機能の設定手順例

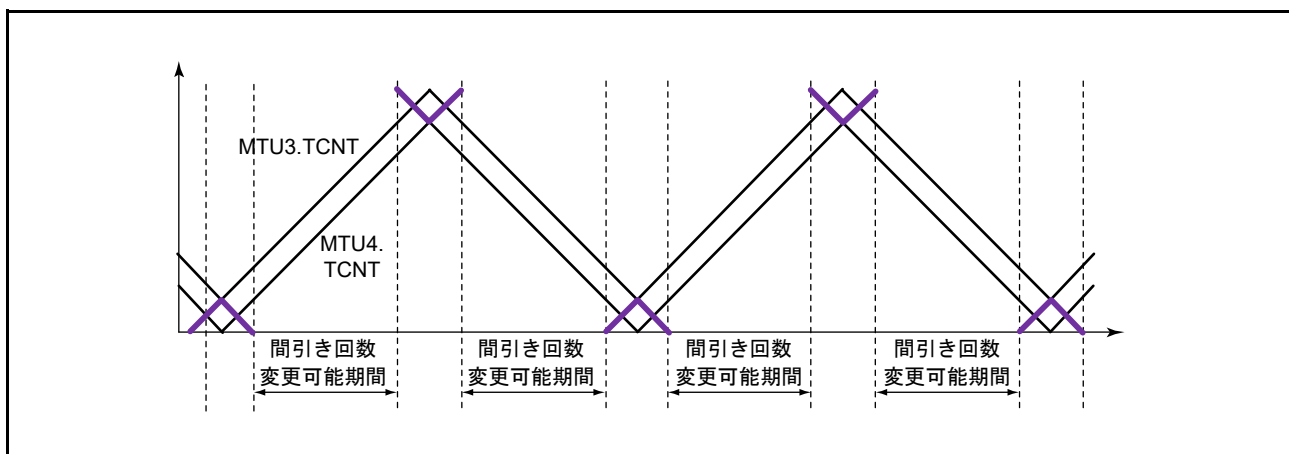


図 20.68 割り込み間引き回数の変更可能期間

(b) 割り込み間引き機能の動作例

TITCR.T3ACOR[2:0] ビットで割り込みの間引き回数を3回に設定し、TITCR.T3AEN ビットを“1”に設定した場合の、MTU3.TGIA 割り込み間引きの動作例を図 20.69 に示します。

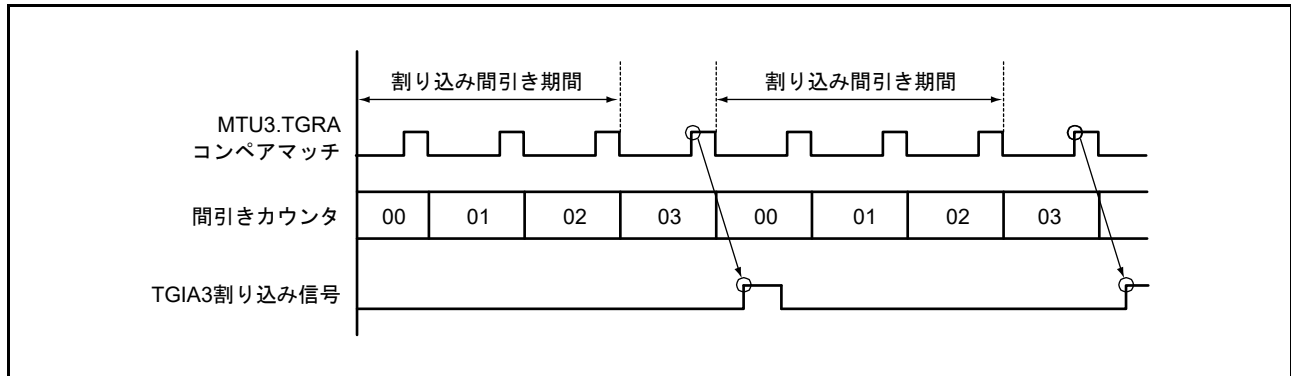


図 20.69 割り込み間引き機能の動作例

(c) 割り込み間引きと連動したバッファ転送制御

TBTER.BTE[1:0] ビットを設定することで、相補 PWM モード時、バッファレジスタからテンポラリレジスタへのバッファ転送をする / しない、または割り込み間引きと連動する / しないを選択することが可能です。

バッファ転送を抑止する設定 (TBTER.BTE[1:0] = 01b) にした場合の動作例を図 20.70 に示します。設定期間中は、バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送を行いません。

バッファ転送を割り込み間引きと連動する設定 (TBTER.BTE[1:0] = 10b) にした場合の動作例を図 20.71 に示します。この設定にした場合、バッファ転送許可期間内にバッファレジスタへの書き込みを行った場合は、バッファレジスタからテンポラリレジスタへのバッファ転送を即時に行います。バッファ転送許可期間外でバッファレジスタへの書き込みを行った場合は、次のバッファ転送許可期間が始まるタイミングで、バッファレジスタからテンポラリレジスタへのバッファ転送を行います。

なお、TITCR.T3AEN ビットを“1”に設定した場合、TITCR.T4VEN ビットを“1”に設定した場合、TITCR.T3AEN ビットと TITCR.T4VEN ビットをとともに“1”に設定した場合で、それぞれバッファ転送許可期間が異なります。TITCR.T3AEN ビットと TITCR.T4VEN ビットの設定とバッファ転送許可期間の関係を図 20.72 に示します。

- 注 . 本機能は、割り込み間引き機能と組み合わせて使用してください。
 割り込み間引きが禁止のとき (TITCR.T3AEN、T4VEN ビットを“0”に設定したとき、または TITCR レジスタの間引き回数設定ビット (T3ACOR[2:0], T4VCOR[2:0]) を“000b”に設定したとき) は、バッファ転送を割り込み間引きと連動しない設定 (TBTER.BTE[1] ビットを“0”に設定) してください。
 割り込み間引きが禁止のときに、バッファ転送を割り込み間引きと連動する設定にした場合、バッファ転送は行われません。

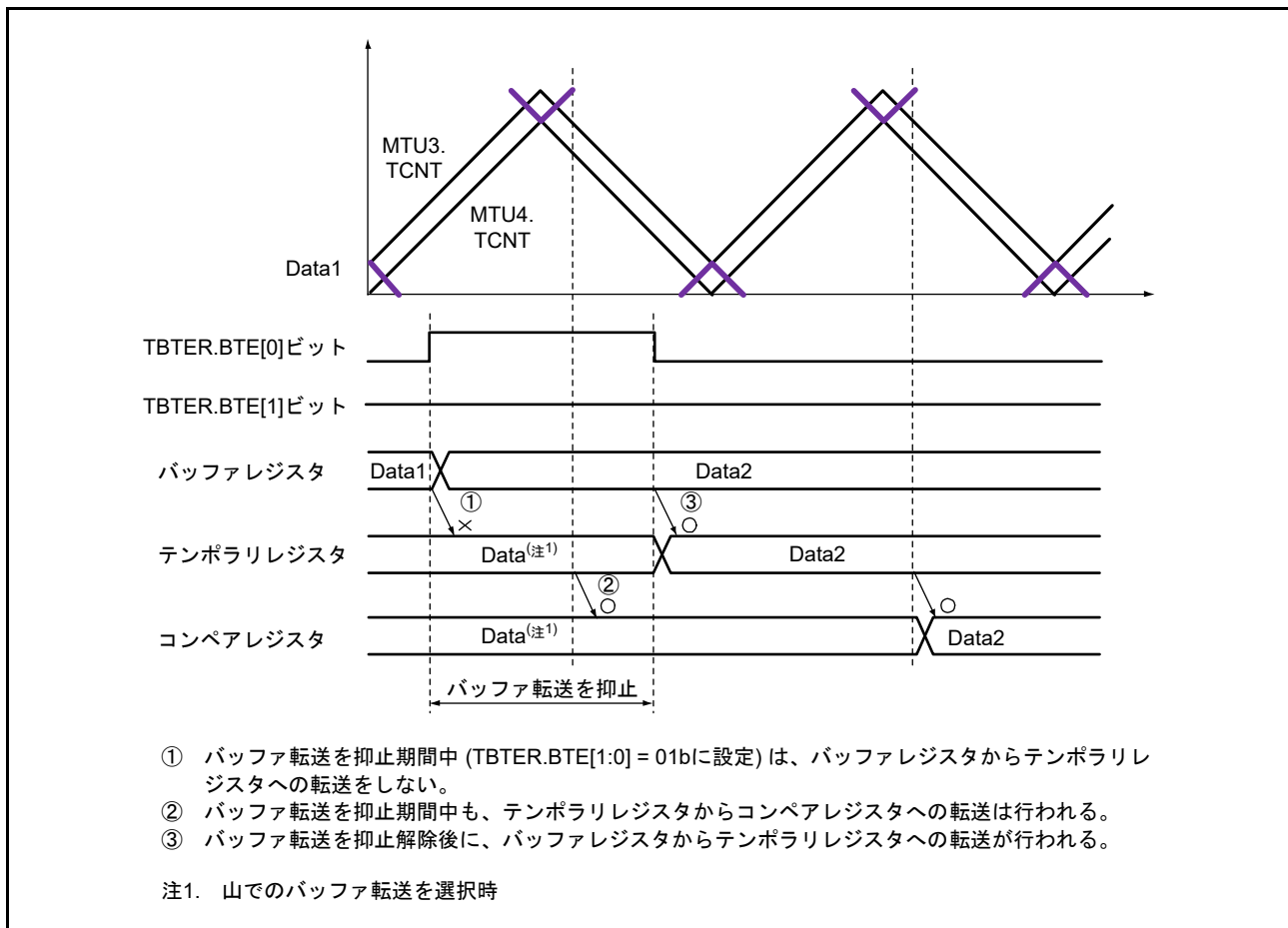


図 20.70 バッファ転送を抑止する設定 (TBTER.BTE[1:0] ビット = 01b) にした場合の動作例

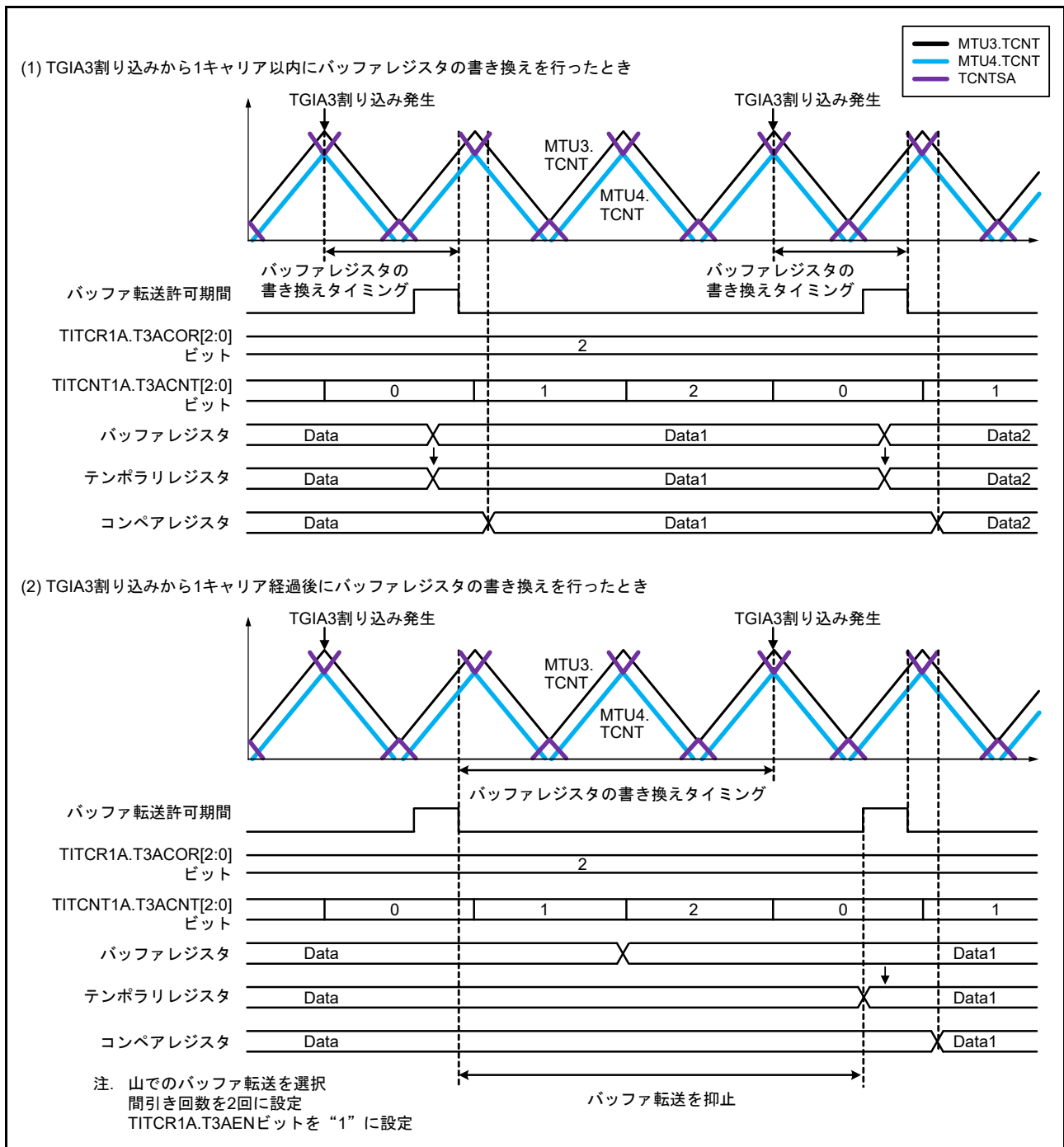


図 20.71 バッファ転送を割り込み間引きと連動する設定 (TBTER.BTE[1:0] ビット = 10b) にした場合の動作例

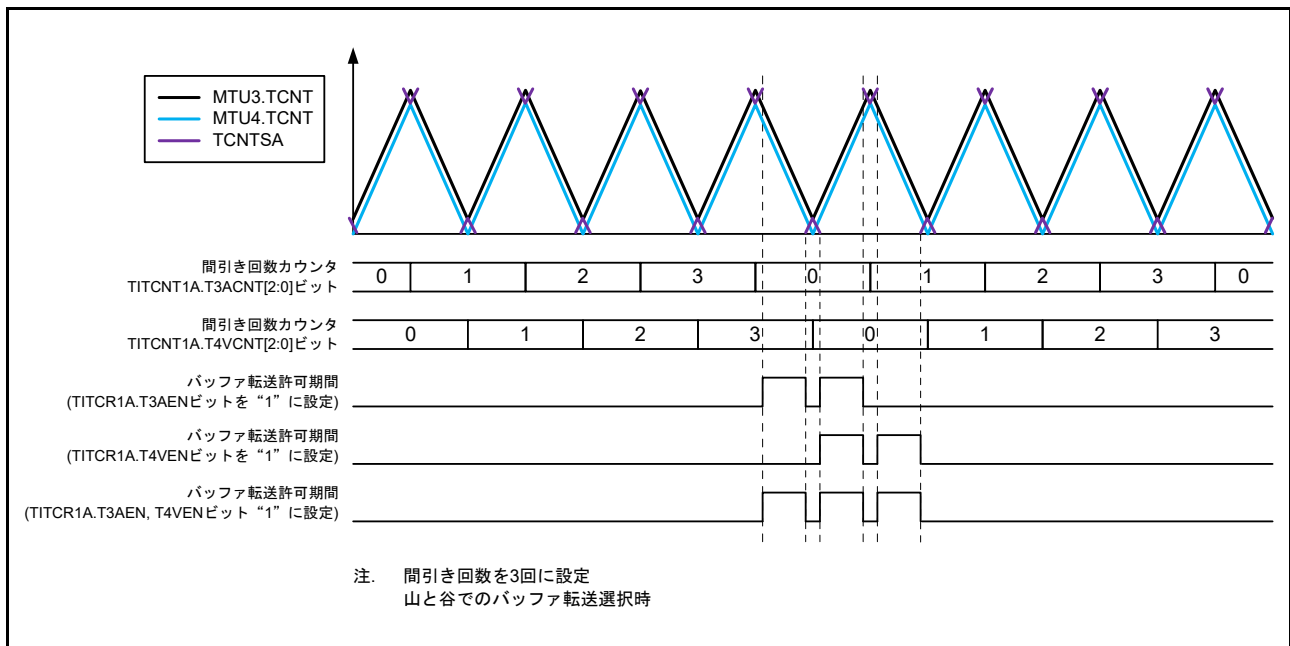


図 20.72 TITCR.T3AEN, T4VEN ビットの設定とバッファ転送許可期間の関係

(4) 相補 PWM モードの出力保護機能

相補 PWM モードの出力は、次の保護機能をもっています。

(a) レジスタ、カウンタの誤書き込み防止機能

モードレジスタ、コントロールレジスタ、コンペアレジスタおよびカウンタは、TRWER.RWE ビットの設定により CPU からのアクセスの許可/禁止を選択することが可能です。対象となるレジスタは MTU3 および MTU4 のレジスタの一部が対象となっており、次のレジスタに適用されます。

MTU3.TCR および MTU4.TCR、MTU3.TMDR および MTU4.TMDR、MTU3.TIORH および MTU4.TIORH、MTU3.TIORL および MTU4.TIORL、MTU3.TIER および MTU4.TIER、MTU3.TCNT および MTU4.TCNT、MTU3.TGRA および MTU4.TGRA、MTU3.TGRB および MTU4.TGRB、MTU.TOER、MTU.TOCR1、MTU.TOCR2、MTU.TGCR、MTU.TCDR、MTU.TDDR

計 22 レジスタ

この機能で、モードレジスタ、コントロールレジスタやカウンタを CPU からアクセス禁止に設定することにより、CPU の暴走による誤書き込みを防止することが可能です。アクセス禁止状態では、対象レジスタの読み出し値は不定で、書き込みは無効です。

(b) PWM 出力の停止機能

MTU0、MTU3、MTU4 の PWM 出力端子は、自動的にハイインピーダンス状態にすることが可能です。詳細は、「21. ポートアウトプットイネーブル 2 (POE2a)」を参照してください。

20.3.9 A/D 変換開始要求ディレイド機能

MTU4.TADCR, TADCORA, TADCORB, TADCOBRA, TADCOBRB レジスタを設定することで、A/D 変換の開始要求を行うことが可能です。

A/D 変換開始要求ディレイド機能は、MTU4.TCNT カウンタと MTU4.TADCORA, TADCORB レジスタを比較し、これらが一致したとき、それぞれの A/D 変換の開始要求 (TRG4AN, TRG4BN) を行います。

また、TADCR.ITA3AE, ITA4VE, ITB3AE, ITB4VE ビットビットの設定により、割り込み間引き機能と連動して A/D 変換の開始要求 (TRG4AN, TRG4BN) を間引くことが可能です。

(1) A/D 変換開始要求ディレイド機能の設定手順例

A/D 変換開始要求ディレイド機能の設定手順例を図 20.73 に示します。

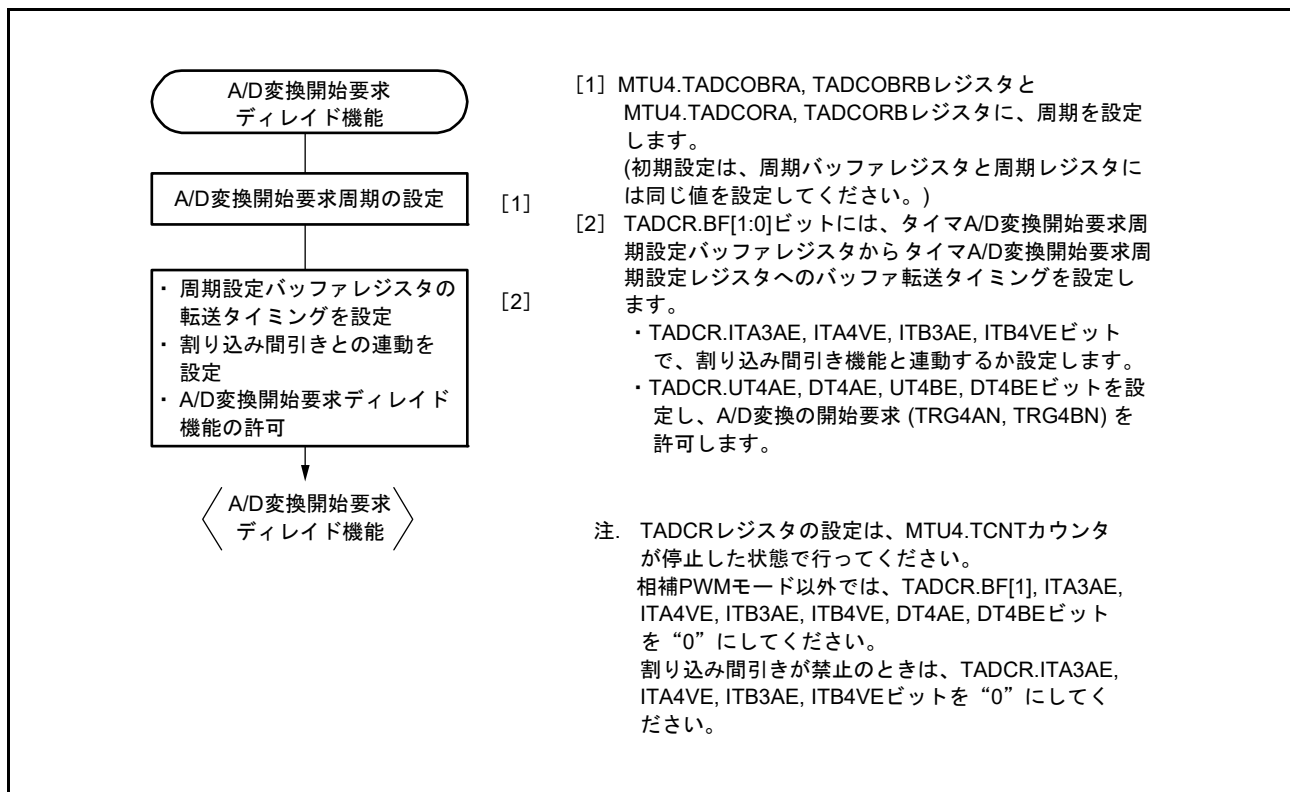


図 20.73 A/D 変換開始要求ディレイド機能の設定手順例

(2) A/D 変換開始要求ディレイド機能の基本動作例

バッファ転送タイミングを MTU4.TCNT カウンタの谷に設定し、MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント時に A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) を出力する設定にした場合の、A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の基本動作例を図 20.74 に示します。

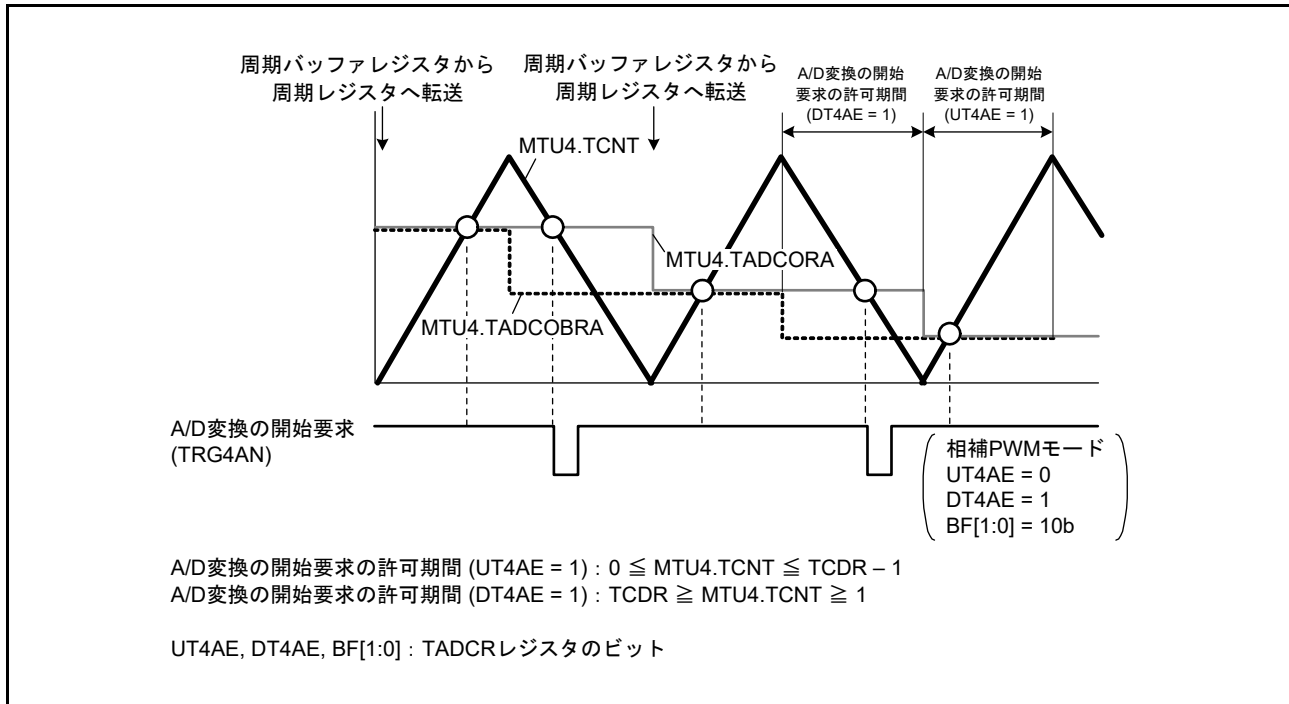


図 20.74 A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の基本動作例

(3) A/D 変換の開始要求の許可期間

MTU4.TADCR レジスタの UT4AE, UT4BE ビットで許可した期間内に MTU4.TCNT カウンタと MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB レジスタが一致したとき、それぞれの A/D 変換の開始要求 (TRG4AN, TRG4BN) を行います。

相補 PWM モードで MTU4.TADCR レジスタの UT4AE, UT4BE ビットを“1”にすると、MTU4.TCNT カウンタのアップカウント期間 ($0 \leq \text{MTU4.TCNT} \leq \text{TCDR} - 1$) に A/D 変換の開始要求を許可します。MTU4.TADCR レジスタの DT4AE, DT4BE ビットを“1”にすると、MTU4.TCNT カウンタのダウンカウント期間 ($\text{TCDR} \geq \text{MTU4.TCNT} \geq 1$) に A/D 変換の開始要求を許可します (図 20.74)。

(4) バッファ転送

タイマ A/D 変換開始要求周期設定レジスタ (MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB) のデータ更新は、タイマ A/D 変換開始要求周期設定バッファレジスタ (MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB) にデータを書き込むことにより行います。タイマ A/D 変換開始要求周期設定バッファレジスタからタイマ A/D 変換開始要求周期設定レジスタへの転送タイミングは、MTU4.TADCR.BF[1:0] ビットを設定することにより選択することができます。

相補 PWM モードでバッファ転送を使用する場合、バッファ転送のタイミングについて注意事項があります。詳細は、「20.6.27 相補 PWM モードにおける A/D 変換ディレイド機能の注意事項」を参照してください。

また、相補 PWM モード以外のときは、MTU4.TADCR レジスタの BF[1] ビットを“0”にしてください。

(5) 割り込み間引き機能と連動した A/D 変換開始要求ディレイド機能

相補 PWM モードでは、TADCR.ITA3AE, ITA4VE, ITB3AE, ITB4VE ビットの設定により、割り込み間引き機能と連動して A/D 変換の開始要求 (TRG4AN, TRG4BN) を行うことが可能です。MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時、およびダウンカウント時に TRG4AN 出力を許可する設定にし、割り込み間引き機能と連動した場合の A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の動作例を図 20.75 に示します。

また、MTU4.TCNT カウンタのアップカウント時に TRG4AN 出力を許可する設定にし、割り込み間引き機能と連動した場合の A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の動作例を図 20.76 に示します。

相補 PWM モード以外では、割り込み間引き機能と連動した A/D 変換開始要求ディレイド機能は使用できません。

MTU4.TADCR レジスタの ITA3AE, ITA4VE, ITB3AE, ITB4VE ビットを“0”にしてください。

注. 本機能は割り込み間引き機能と組み合わせて使用してください。

割り込み間引きが禁止のとき (TITCR.T3AEN, T4VEN ビットを“0”にしたとき、または TITCR.T3ACOR[2:0], T4VCOR[2:0] ビットを“000b”にしたとき) は、割り込み間引き機能と連動しない (TADCR.ITA3AE, ITA4VE, ITB3AE, ITB4VE ビットを“0”) 設定にしてください。

A/D コンバータへの変換要求信号は、TRG4ABN (TRG4AN または TRG4BN) になりますので注意してください。また、本機能使用時、MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB レジスタには“0002h”～“TCDR-2”を設定してください。

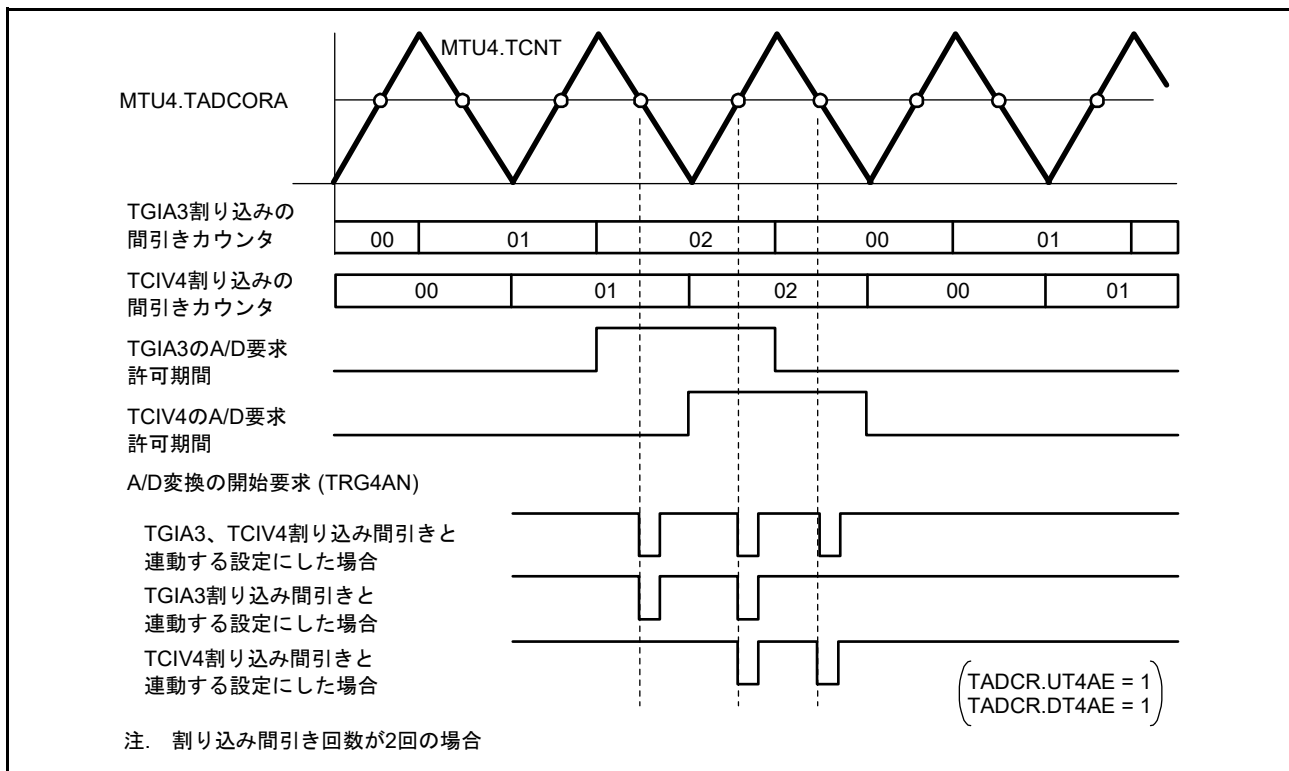


図 20.75 割り込み間引き機能と連動した場合の A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の動作例 (TCNT カウンタのアップカウント時およびダウンカウント時に TRG4AN 出力を許可したとき)

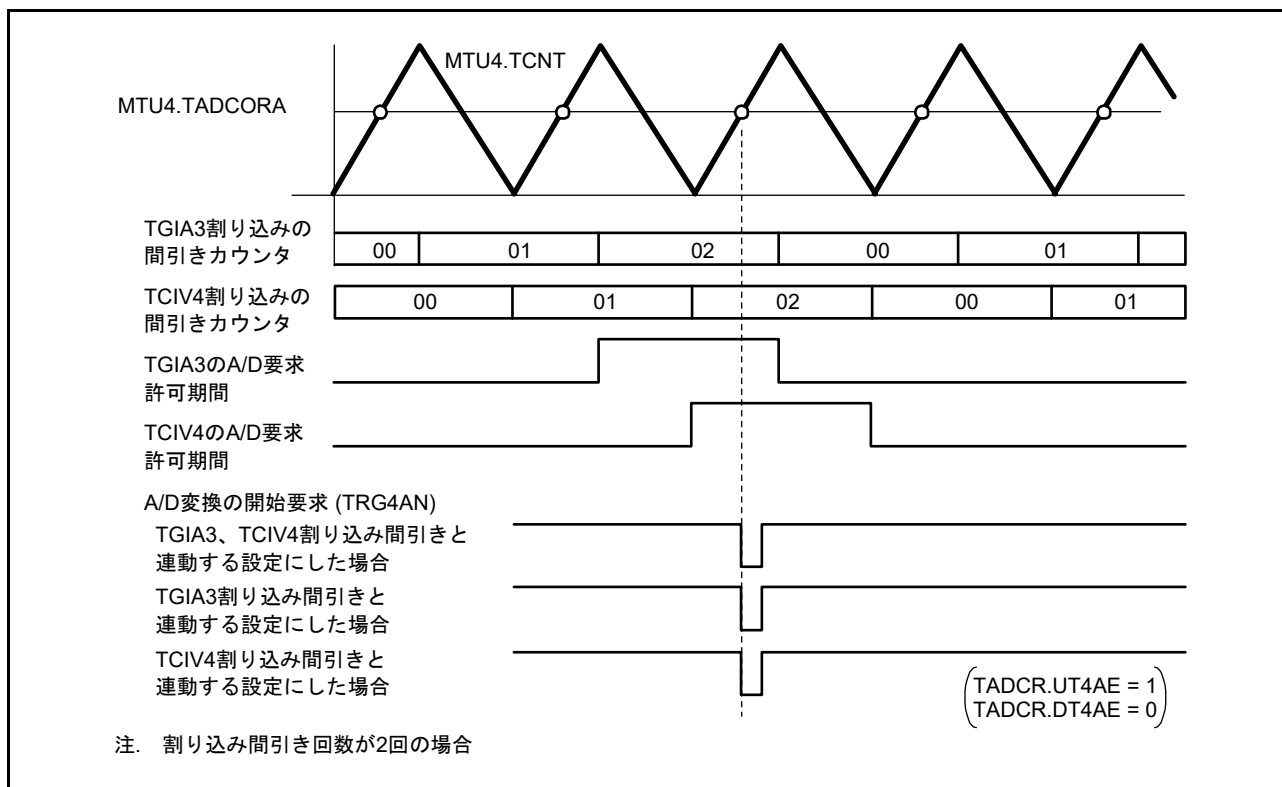


図 20.76 割り込み間引き機能と連動した場合の A/D 変換の開始要求信号 (TRG4AN) の動作例 (TCNT カウンタのアップカウント時に TRG4AN 出力を許可したとき)

20.3.10 外部パルス幅測定機能

MTU5 は、最大 3 本の外部パルス幅を測定することができます。

MTU5.TIORU, TIORV, TIORW レジスタの IOC[4:0] ビットにパルス幅測定を設定すると、MTIC5U 端子、MTIC5V 端子、MTIC5W 端子に入力された信号のパルス幅を測定します。IOC[4:0] ビットで指定したレベルが入力されている間、TCNTU, TCNTV, TCNTW カウンタはカウントアップします。

外部パルス幅測定の設定例を図 20.77、動作例を図 20.78 に示します。

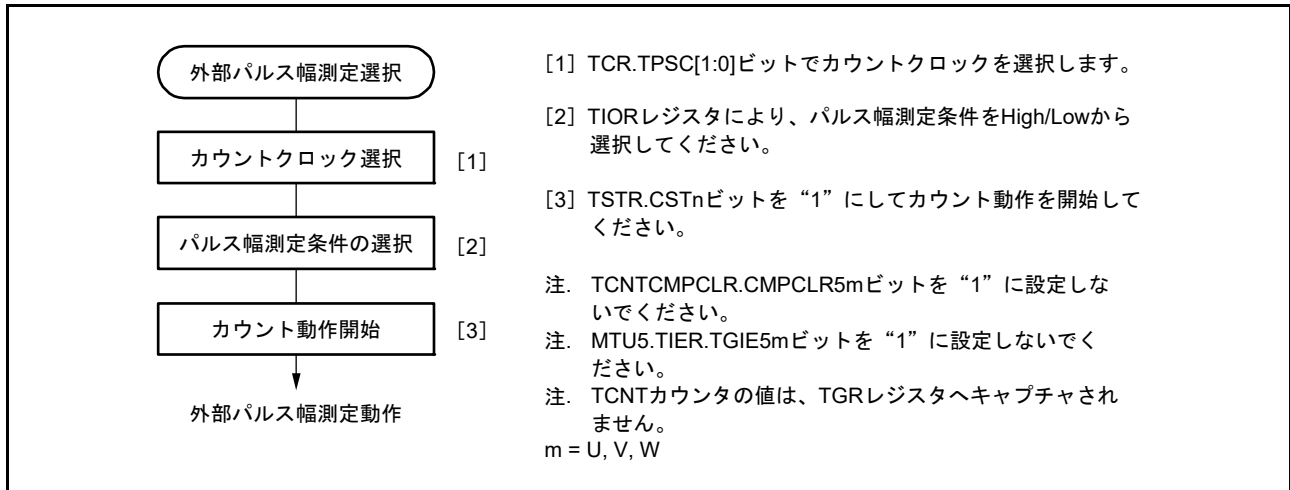


図 20.77 外部パルス幅測定の設定手順例

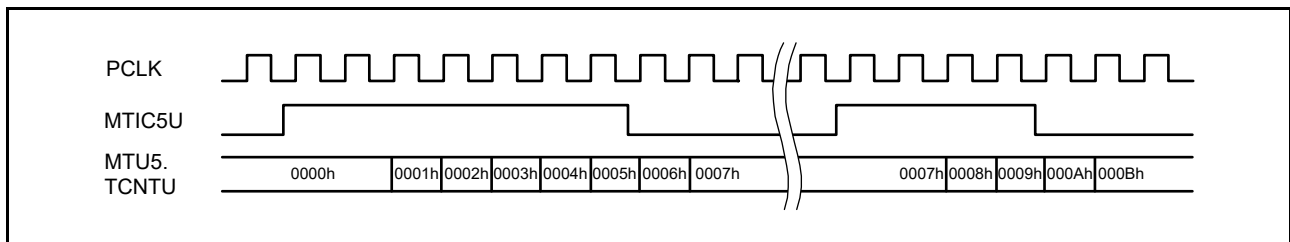


図 20.78 外部パルス幅測定動作例 (High 幅測定)

20.3.11 デッドタイム補償機能

MTU3～MTU5を組み合わせ、デッドタイム遅れ（相補PWM出力とインバータ出力間の遅延）を補償することができます。

図 20.79 に MTU3～MTU5 を組み合わせ、デッドタイム遅れを補償するモータ制御回路の例を示します。

MTU5 の外部パルス測定機能でデッドタイム遅れを測定して、PWM 出力のコンペアレジスタに設定するデューティを補正することで、MTU3、MTU4 を使用した相補 PWM 動作時の PWM 出力波形に対するデッドタイムを補償することができます（図 20.80）。MTU3～MTU5 を使用したデッドタイム補償の設定手順を図 20.81 に示します。このときの MTU5 の動作については、(2) 相補 PWM の山と谷での TCNTU、TCNTV、TCNTW カウンタキャプチャ動作を参照してください。

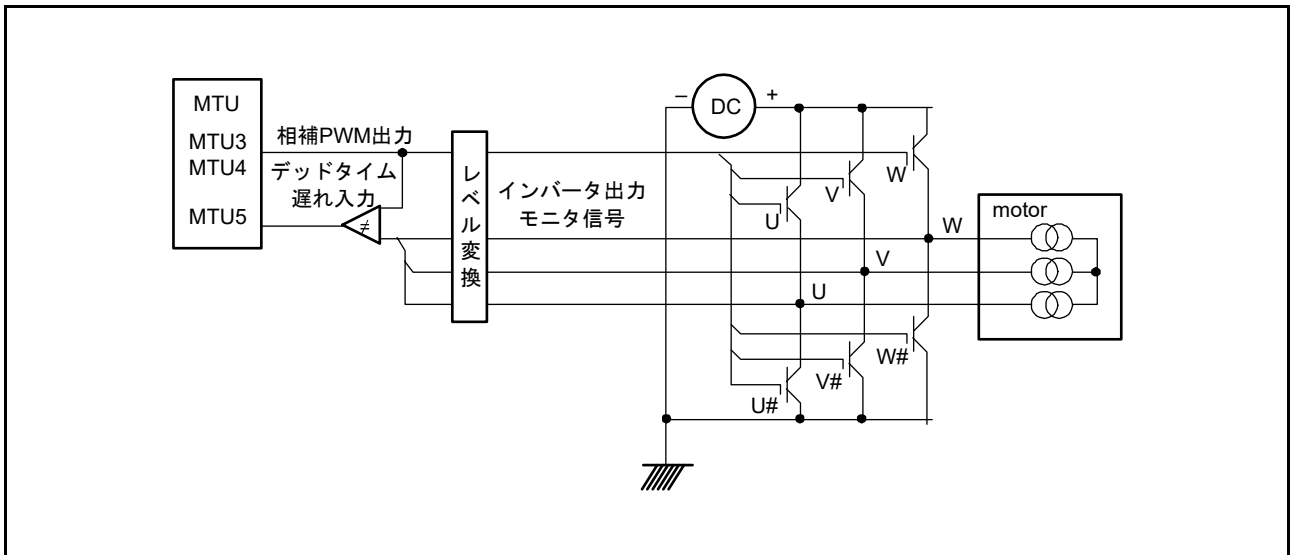


図 20.79 モータ制御回路構成例

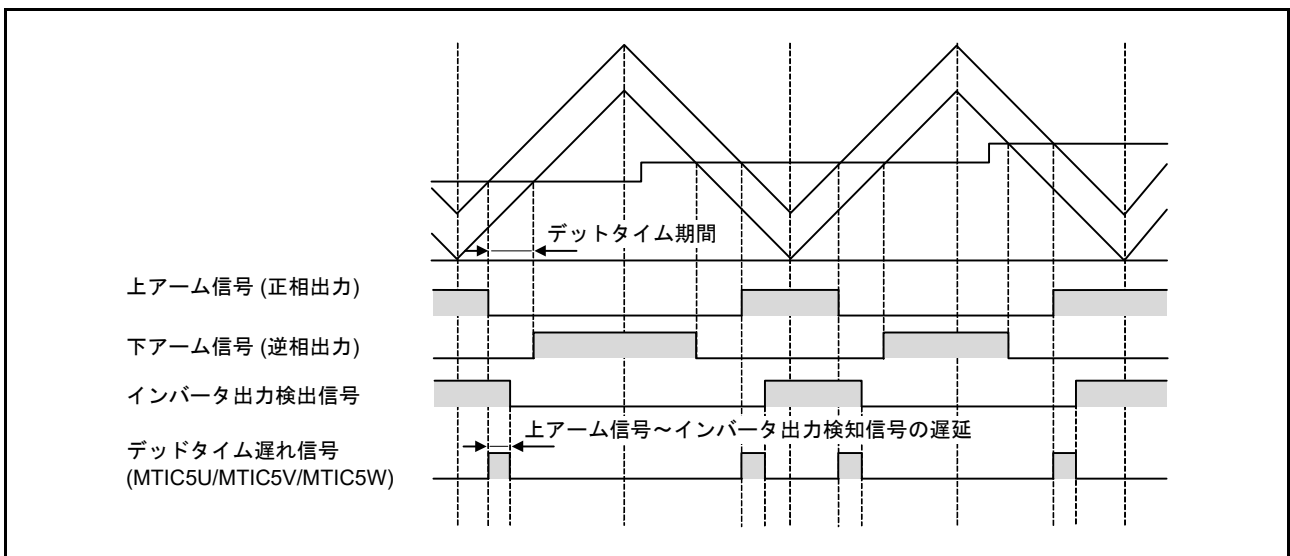


図 20.80 相補 PWM モード動作時のデッドタイム遅れ

(1) デッドタイム補償機能の設定手順例

MTU5の3本のカウンタを使用したデッドタイム補償機能の設定手順例を図 20.81 に示します。

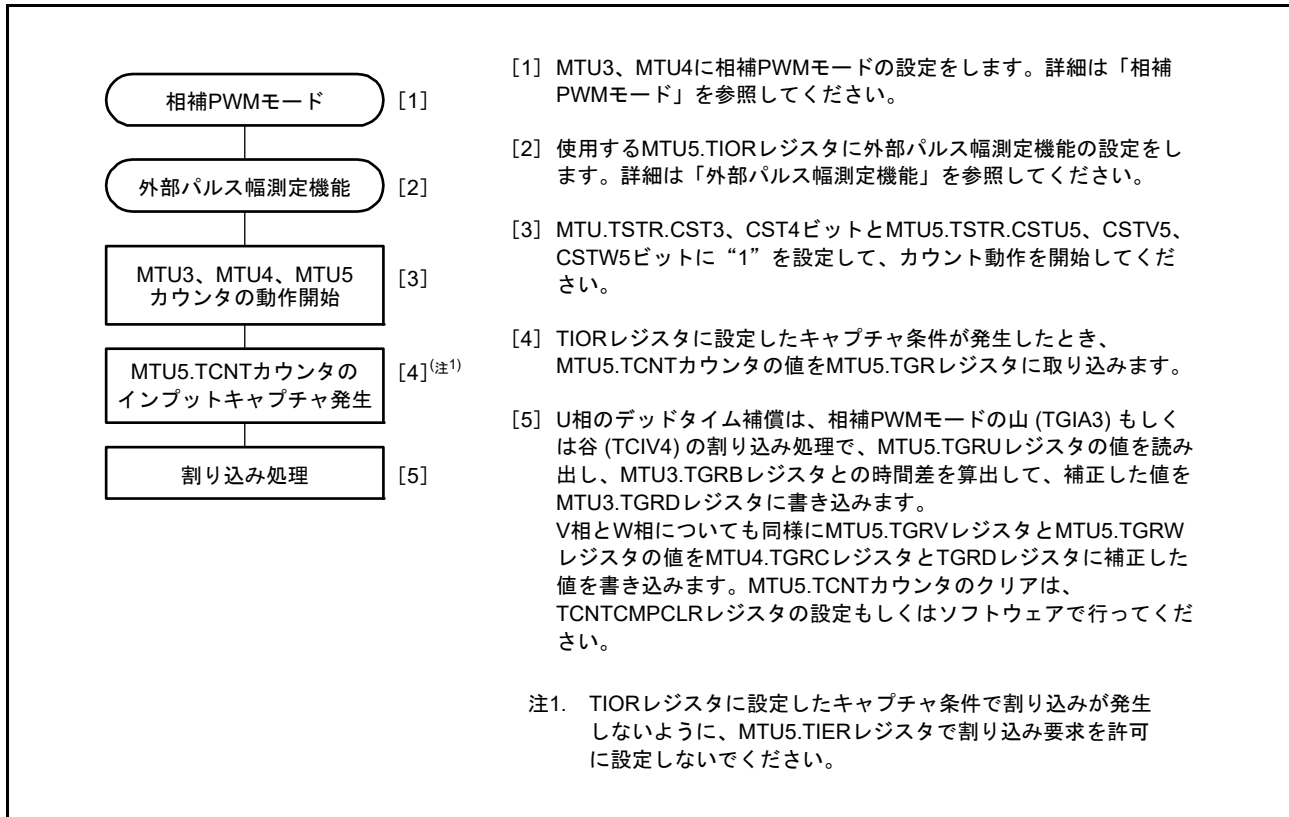


図 20.81 デッドタイム補償機能の設定手順例

(2) 相補 PWM の山と谷での TCNTU、TCNTV、TCNTW カウンタキャプチャ動作

MTU5 の外部パルス幅測定機能は、MTU3、MTU4 を相補 PWM モードで動作させたときに、相補 PWM の山、谷、または山と谷で TCNTU、TCNTV、TCNTW カウンタの値を TGRU、TGRV、TGRW レジスタに転送する機能です。転送タイミングは TIORU、TIORV、TIORW レジスタに設定します。また TCNTCMPCLR.CMPCLR5U、CMPCLR5V、CMPCLR5W ビットを“1”にすると TGRU、TGRV、TGRW レジスタへの転送タイミングで TCNTU、TCNTV、TCNTW カウンタが“0000h”になります。

図 20.82 は TCNTU カウンタをフリーランでクリアせずに使用し、相補 PWM の山と谷で TGRU レジスタにキャプチャを行った動作例です。

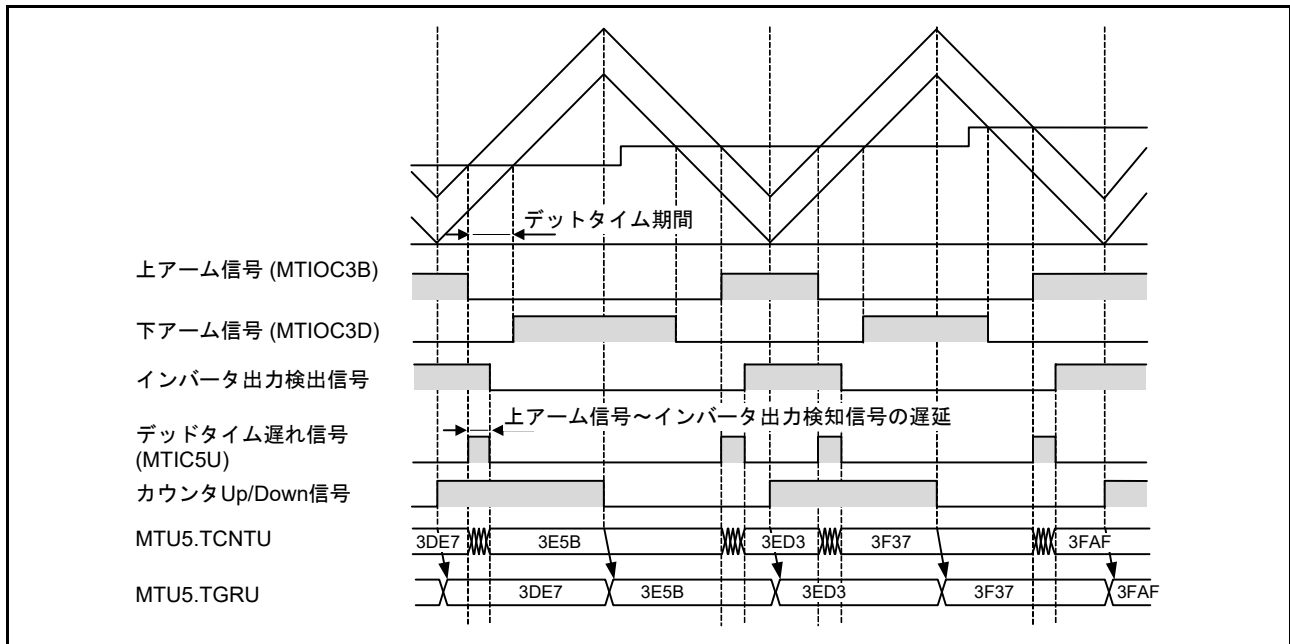


図 20.82 相補 PWM モード時の山と谷での MTU5.TCNTU カウンタキャプチャ動作

20.3.12 ノイズフィルタ機能

MTU の入力キャプチャ入力端子または外部パルス入力端子には、ノイズフィルタ機能を持っています。ノイズフィルタ機能は、入力信号をサンプリングクロックでサンプリングし、サンプリング周期 3 回に満たないパルスを除去します。

ノイズフィルタ機能は端子ごとにノイズフィルタ機能の許可/停止が設定でき、サンプリングクロックは、チャンネルごとに設定が可能です。図 20.83 にノイズフィルタのタイミングを示します。

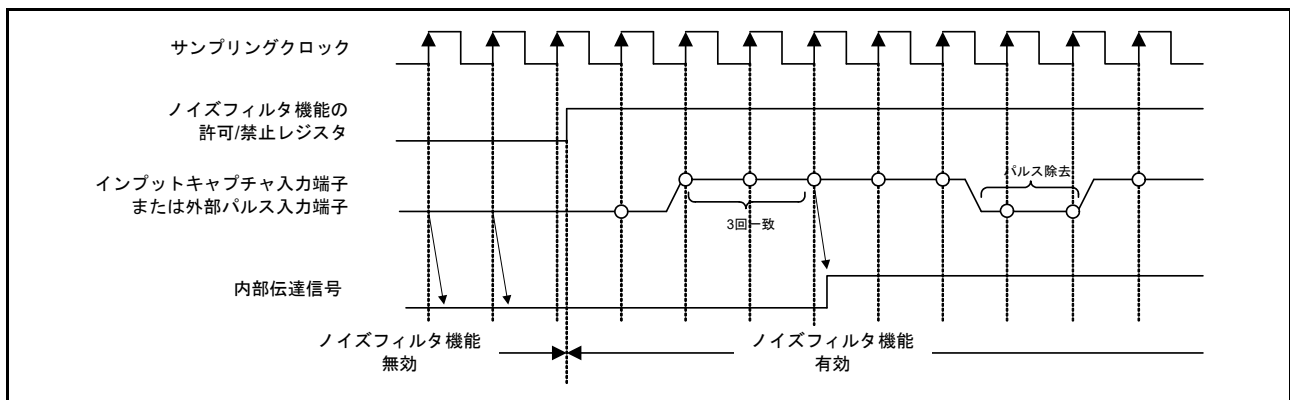


図 20.83 ノイズフィルタのタイミング

20.4 割り込み要因

20.4.1 割り込み要因と優先順位

割り込み要因には、TGR レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチ、TCNT カウンタのオーバフロー、アンダフローの3種類があります。各割り込み要因は、許可/禁止ビットを持っているため、割り込み要求信号の発生を独立に許可または禁止することができます。

割り込み要因が発生すると、TIER レジスタの対応する許可/禁止ビットが“1”であれば、割り込みを要求します。チャンネル間の優先順位は、割り込みコントローラにより変更可能です。チャンネル内の優先順位は固定です。詳細は「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

表 20.57 に MTU の割り込み要因の一覧を示します。

表 20.57 MTU 割り込み要因 (1)

チャンネル	名称	割り込み要因	DTCの起動	優先順位
MTU0	TGIA0	MTU0.TGRAのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	高 ↑ ↓ 低
	TGIB0	MTU0.TGRBのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIC0	MTU0.TGRCのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGID0	MTU0.TGRDのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TCIV0	MTU0.TCNTのオーバフロー	不可能	
	TGIE0	MTU0.TGREのコンペアマッチ	不可能	
	TGIF0	MTU0.TGRFのコンペアマッチ	不可能	
MTU1	TGIA1	MTU1.TGRAのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIB1	MTU1.TGRBのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TCIV1	MTU1.TCNTのオーバフロー	不可能	
	TCIU1	MTU1.TCNTのアンダフロー	不可能	
MTU2	TGIA2	MTU2.TGRAのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIB2	MTU2.TGRBのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TCIV2	MTU2.TCNTのオーバフロー	不可能	
	TCIU2	MTU2.TCNTのアンダフロー	不可能	
MTU3	TGIA3	MTU3.TGRAのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIB3	MTU3.TGRBのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIC3	MTU3.TGRCのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGID3	MTU3.TGRDのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TCIV3	MTU3.TCNTのオーバフロー	不可能	
MTU4	TGIA4	MTU4.TGRAのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIB4	MTU4.TGRBのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIC4	MTU4.TGRCのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGID4	MTU4.TGRDのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TCIV4	MTU4.TCNTのオーバフロー/アンダフロー	可能	
MTU5	TGIU5	MTU5.TGRUのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIV5	MTU5.TGRVのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	
	TGIW5	MTU5.TGRWのインプットキャプチャ/コンペアマッチ	可能	

注. リセット直後の初期状態について示しています。チャンネル間の優先順位は割り込みコントローラにより変更可能です。

(1) インพุットキャプチャ/コンペアマッチ割り込み

TIER.TGIE ビットが“1”のとき、各チャネルの TGR レジスタのインพุットキャプチャ/コンペアマッチの発生により、割り込み要求を発生します。MTU には、MTU0 に 6 本、MTU3、MTU4 に各 4 本、MTU1、MTU2 に各 2 本、MTU5 に各 3 本、計 21 本のインพุットキャプチャ/コンペアマッチ割り込みがあります。

(2) オーバフロー割り込み

TIER.TCIEV ビットが“1”のとき、各チャネルの TCNT カウンタのオーバフローの発生により、割り込み要求を発生します。MTU には、各チャネルに 1 本、計 5 本のオーバフロー割り込みがあります。

(3) アンダフロー割り込み

TIER.TCIEU ビットが“1”のとき、各チャネルの TCNT カウンタのアンダフローの発生により、割り込み要求を発生します。MTU には、MTU1、MTU2 に各 1 本、計 2 本のアンダフロー割り込みがあります。

20.4.2 DTC の起動

各チャンネルの TGR レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチ割り込み、MTU4 のオーバフロー割り込みによって、DTC を起動することができます。詳細は「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」を参照してください。

MTU では、MTU0、MTU3 が各 4 本、MTU1、MTU2 が各 2 本、MTU4 が 5 本、MTU5 が 3 本、計 20 本のインプットキャプチャ/コンペアマッチ割り込み、オーバフロー割り込みを DTC の起動要因とすることができます。

20.4.3 A/D コンバータの起動

MTU では、次の 5 種類の方法で A/D コンバータを起動できます。

各割り込み要因と A/D 変換開始要求の対応を、表 20.58 に示します。

(1) TGRA レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチと、相補 PWM モード時の MTU4.TCNT カウンタの谷での A/D コンバータの起動

各チャンネルの TGRA レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチによって、A/D コンバータを起動できます。また、MTU4.TIER.TTGE2 ビットを“1”にした状態で、相補 PWM モード動作をさせた場合は MTU4.TCNT カウンタが谷 (MTU4.TCNT = 0000h) になったときも A/D コンバータを起動できます。

次に示す条件で、A/D コンバータに対して A/D 変換開始要求 TRGAN を発生します。

- 各チャンネルの TGRA レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチが発生したとき、TIER.TTGE2 ビットが“1”にされていた場合
- MTU4.TIER.TTGE2 ビットを“1”にした状態で、相補 PWM モード動作をさせ、MTU4.TCNT カウンタが谷 (MTU4.TCNT = 0000h) になった場合

これらのとき A/D コンバータ側で MTU の変換開始トリガ TRGAN が選択されていれば、A/D 変換が開始されます。

(2) MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRE レジスタのコンペアマッチによる A/D コンバータの起動

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRE のコンペアマッチによって、A/D コンバータを起動できます。

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRE のコンペアマッチの発生により、A/D 変換開始要求 TRG0EN を発生します。このとき、A/D コンバータ側で MTU の変換開始トリガ TRG0EN が選択されていれば、A/D 変換が開始されます。

(3) MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRF レジスタのコンペアマッチによる A/D コンバータの起動

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRF レジスタのコンペアマッチによって、A/D コンバータを起動できません。

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRF レジスタのコンペアマッチの発生により、A/D 変換開始要求 TRG0FN を発生します。このとき、A/D コンバータ側で MTU の変換開始トリガ TRG0FN が選択されていれば、A/D 変換が開始されます。

(4) MTU0.TGRA レジスタと MTU0.TGRB レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチによる A/D コンバータの起動

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRA, MTU0.TGRB レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチによって、A/D コンバータを起動できます。

MTU0.TCNT カウンタと MTU0.TGRA, MTU0.TGRB レジスタのインプットキャプチャ/コンペアマッチの

発生により、A/D 変換開始要求 TRG0AN, TRG0BN を発生します。このとき、A/D コンバータ側で MTU の変換開始トリガ TRG0AN, TRG0BN が選択されていれば、A/D 変換が開始されます。

(5) A/D 変換開始要求ディレイド機能による A/D コンバータの起動

TADCR.UT4AE, DT4AE, UT4BE, DT4BE ビットを“1”にした場合、TADCORA, TADCORB レジスタと MTU4.TCNT カウンタの一致によって、TRG4AN, TRG4BN を発生し、A/D コンバータを起動できます。詳細は「20.3.9 A/D 変換開始要求ディレイド機能」を参照してください。

TRG4AN または TRG4BN が発生したとき、TRG4ABN が発生します。A/D コンバータ側で MTU の変換開始トリガ TRG4ABN が選択されていれば、A/D 変換が開始されます。

表 20.58 各割り込み要因と A/D 変換開始要求の対応

対象	A/D コンバータ起動要因	A/D 変換開始要求
MTU0.TGRA と MTU0.TCNT	インプットキャプチャ/コンペアマッチ	TRGAN
MTU1.TGRA と MTU1.TCNT		
MTU2.TGRA と MTU2.TCNT		
MTU3.TGRA と MTU3.TCNT		
MTU4.TGRA と MTU4.TCNT		
MTU4.TCNT	相補PWMモード時のMTU4.TCNTの谷	
MTU0.TGRA と MTU0.TCNT	インプットキャプチャ/コンペアマッチ	TRG0AN
MTU0.TGRB と MTU0.TCNT		TRG0BN
MTU0.TGRE と MTU0.TCNT	コンペアマッチ	TRG0EN
MTU0.TGRF と MTU0.TCNT		TRG0FN
TADCORA と MTU4.TCNT		TRG4AN
TADCORB と MTU4.TCNT		TRG4BN
TADCORA と MTU4.TCNT または TADCORB と MTU4.TCNT		TRG4ABN

20.5 動作タイミング

20.5.1 入出力タイミング

(1) TCNT カウンタのカウンタタイミング

内部クロック動作の場合の TGI 割り込みのカウンタタイミングを図 20.84、図 20.85 に示します。また、外部クロック動作（ノーマルモード）の場合の TCNT カウンタのカウンタタイミングを図 20.86 に、外部クロック動作（位相計数モード）の場合の TCNT カウンタのカウンタタイミングを図 20.87 に示します。

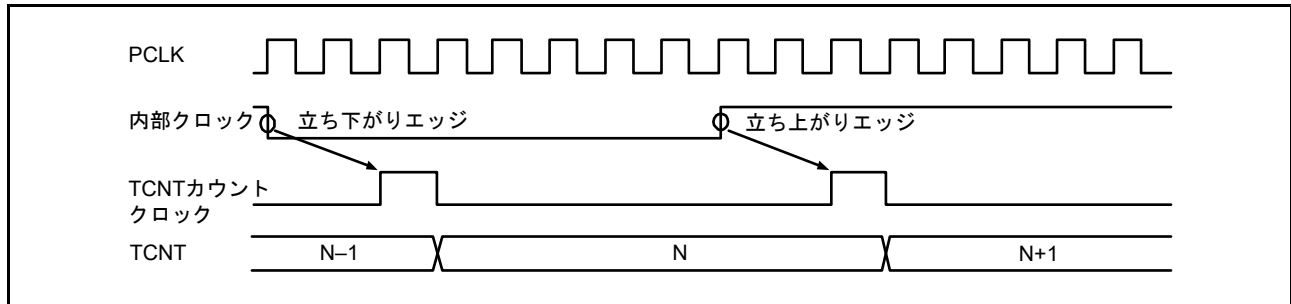


図 20.84 内部クロック動作時のカウンタタイミング (MTU0 ~ MTU4)

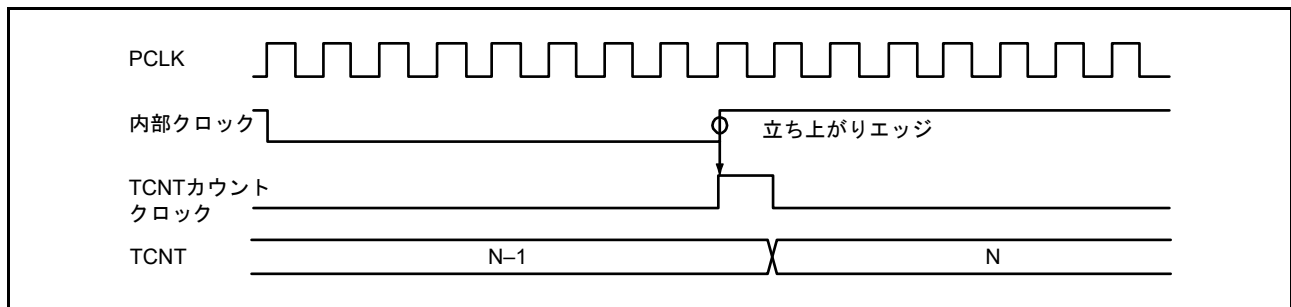


図 20.85 内部クロック動作時のカウンタタイミング (MTU5)

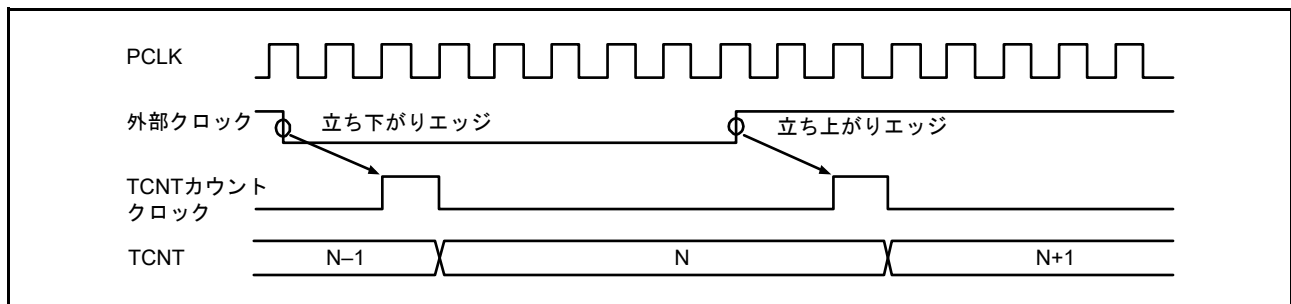


図 20.86 外部クロック動作時のカウンタタイミング (MTU0 ~ MTU4)

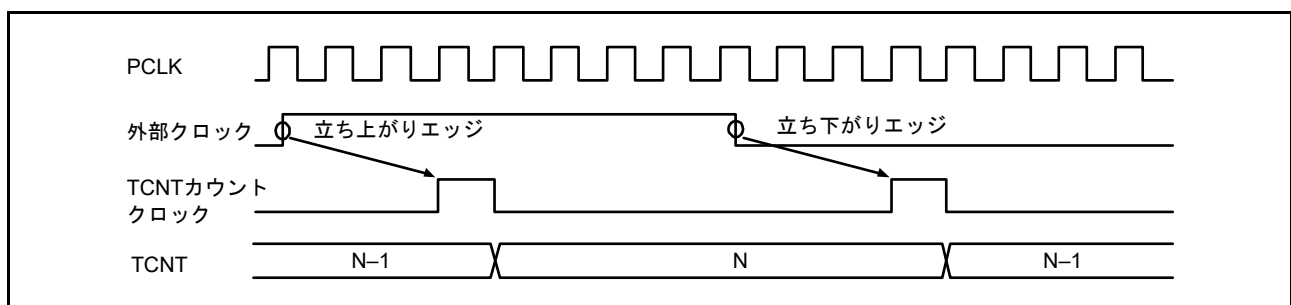


図 20.87 外部クロック動作時のカウンタタイミング (位相計数モード)

(2) アウトプットコンペア出力タイミング

コンペアマッチ信号は、TCNT カウンタと TGR レジスタが一致した最後のステート（TCNT カウンタが一致したカウント値を更新するタイミング）で発生します。コンペアマッチ信号が発生したとき、TIOR レジスタで設定した出力値がアウトプットコンペア出力端子（MTIOC 端子）に出力されます。TCNT カウンタと TGR レジスタが一致した後、TCNT カウントクロックが発生するまで、コンペアマッチ信号は発生しません。

アウトプットコンペア出力タイミング（ノーマルモード、PWM モード）を図 20.88 に、アウトプットコンペア出力タイミング（相補 PWM モード、リセット同期 PWM モード）を図 20.89 に示します。

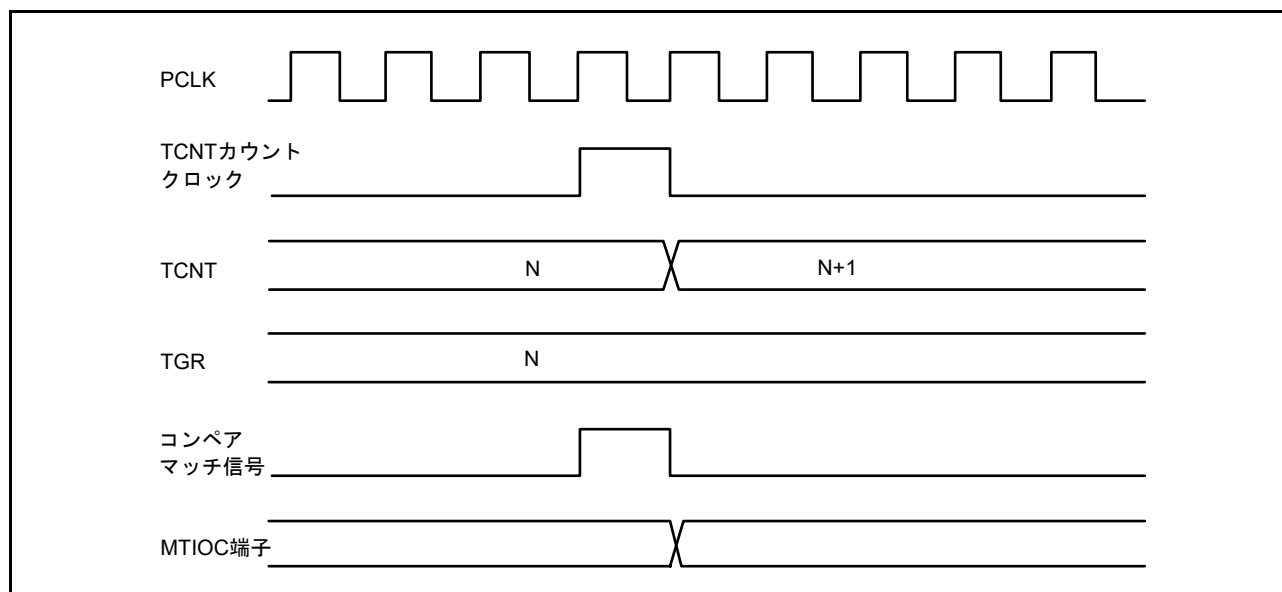


図 20.88 アウトプットコンペア出力タイミング（ノーマルモード、PWM モード）

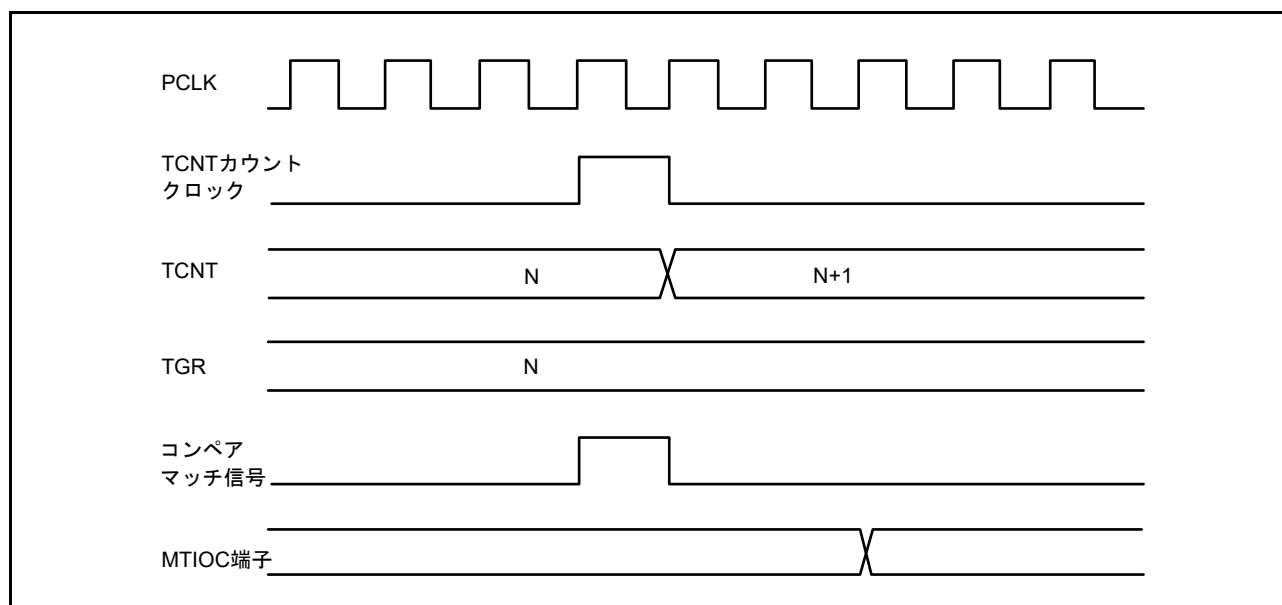


図 20.89 アウトプットコンペア出力タイミング（相補 PWM モード、リセット同期 PWM モード）

(3) インพุットキャプチャ信号タイミング

インพุットキャプチャのタイミングを図 20.90 に示します。

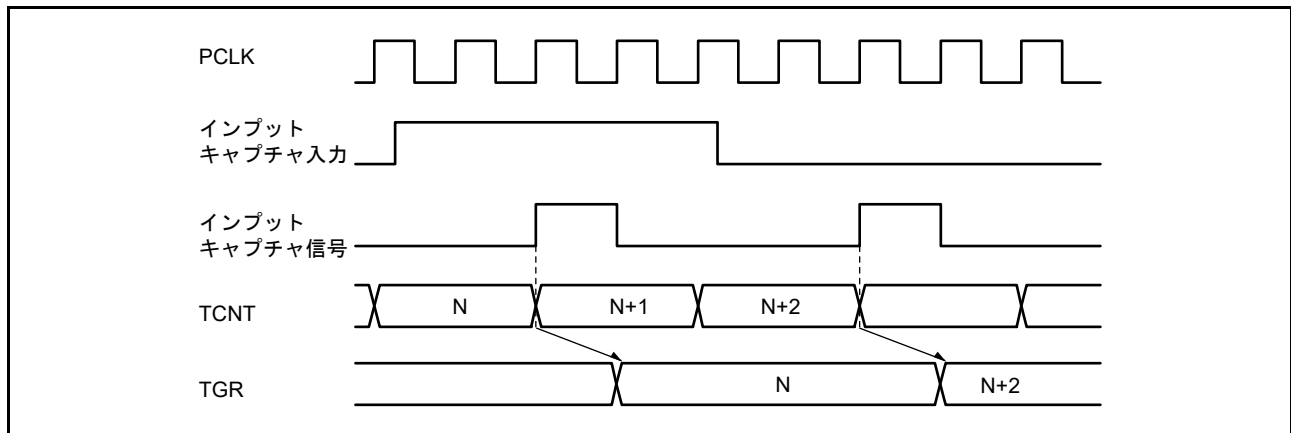


図 20.90 インพุットキャプチャ入力信号タイミング

(4) コンペアマッチ/インプットキャプチャによるカウンタクリアタイミング

コンペアマッチの発生によるカウンタクリアを指定した場合のタイミングを図 20.91、図 20.92 に示します。

インプットキャプチャの発生によるカウンタクリアを指定した場合のタイミングを図 20.93 に示します。

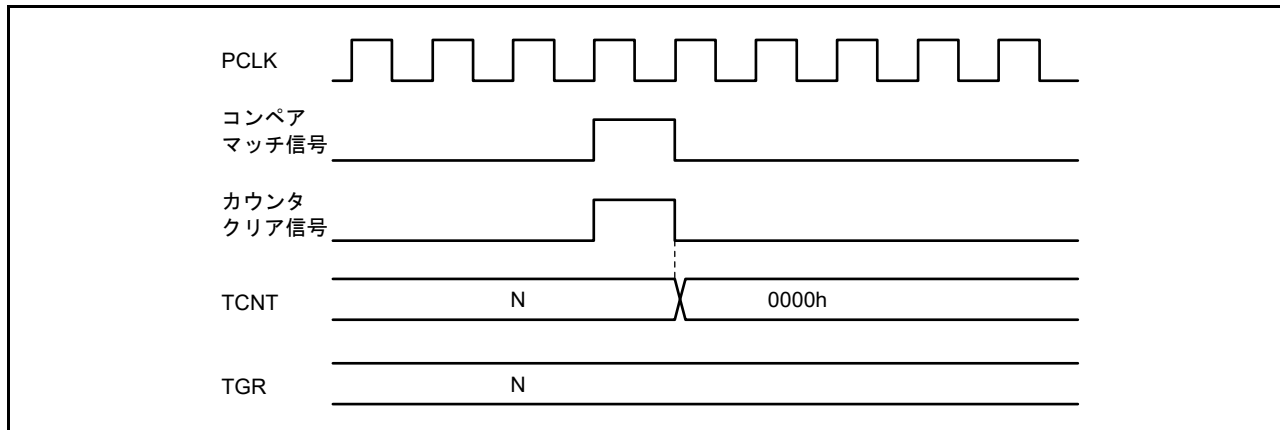


図 20.91 カウンタクリアタイミング (コンペアマッチ) (MTU0 ~ MTU4)

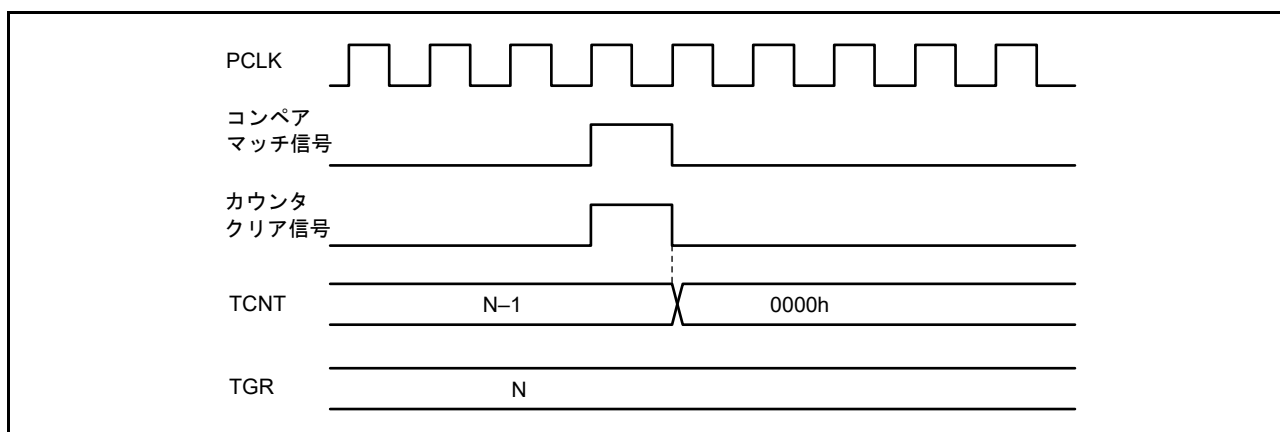


図 20.92 カウンタクリアタイミング (コンペアマッチ) (MTU5)

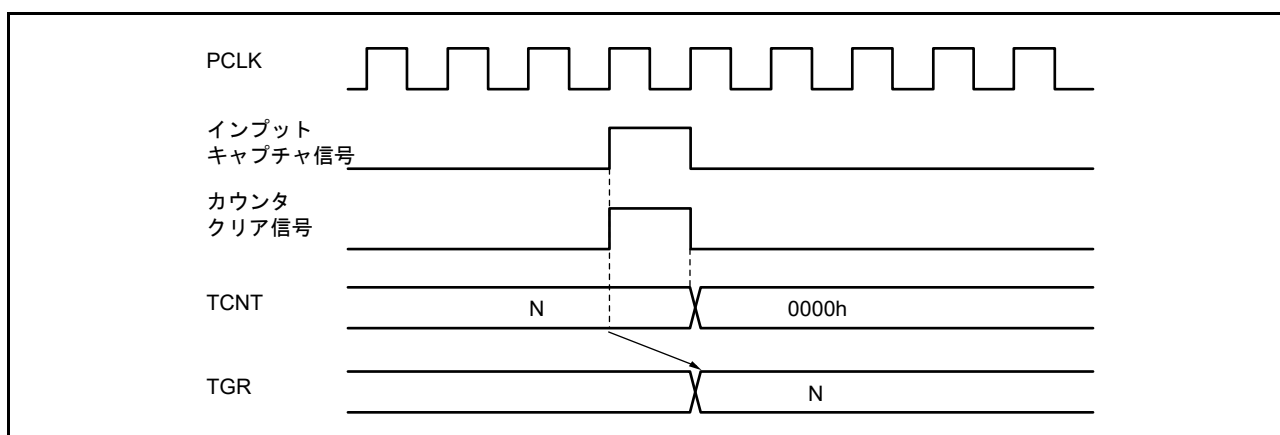


図 20.93 カウンタクリアタイミング (インプットキャプチャ) (MTU0 ~ MTU5)

(5) バッファ動作タイミング

バッファ動作の場合のタイミングを図 20.94 ~ 図 20.96 に示します。

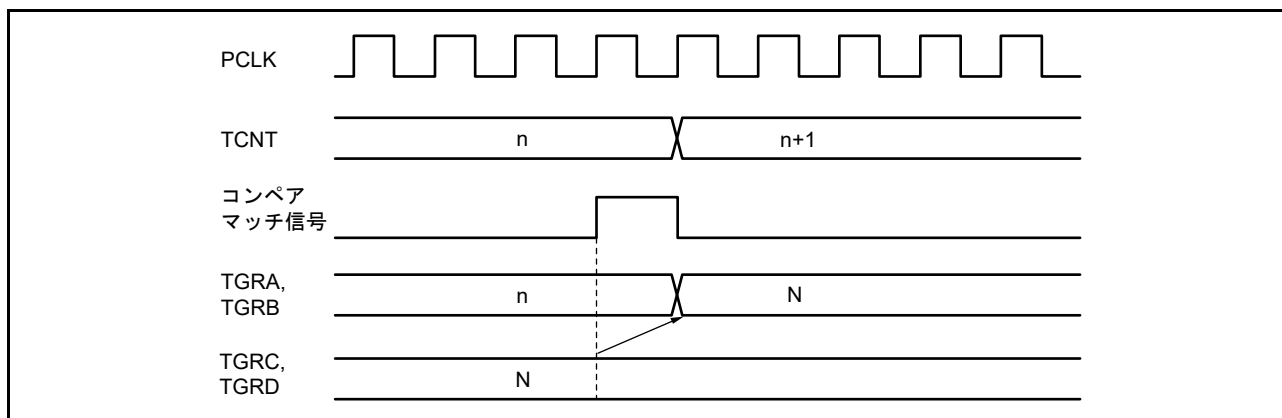


図 20.94 バッファ動作タイミング (コンペアマッチ)

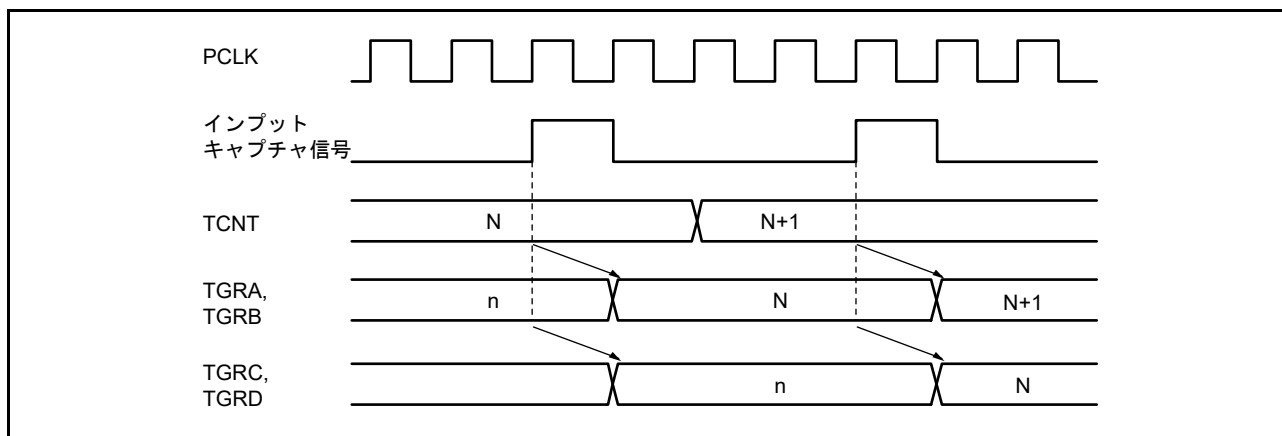


図 20.95 バッファ動作タイミング (インプットキャプチャ)

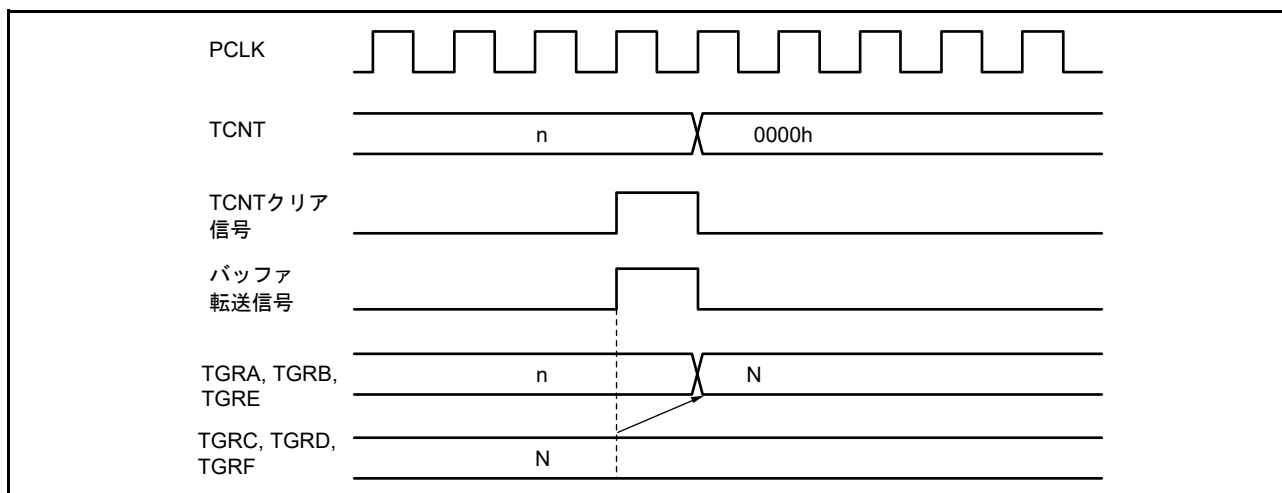


図 20.96 バッファ動作タイミング (TCNT カウンタクリア時)

(6) バッファ転送タイミング (相補 PWM モード時)

相補 PWM モード時のバッファ転送のタイミングを図 20.97 ~ 図 20.99 に示します。

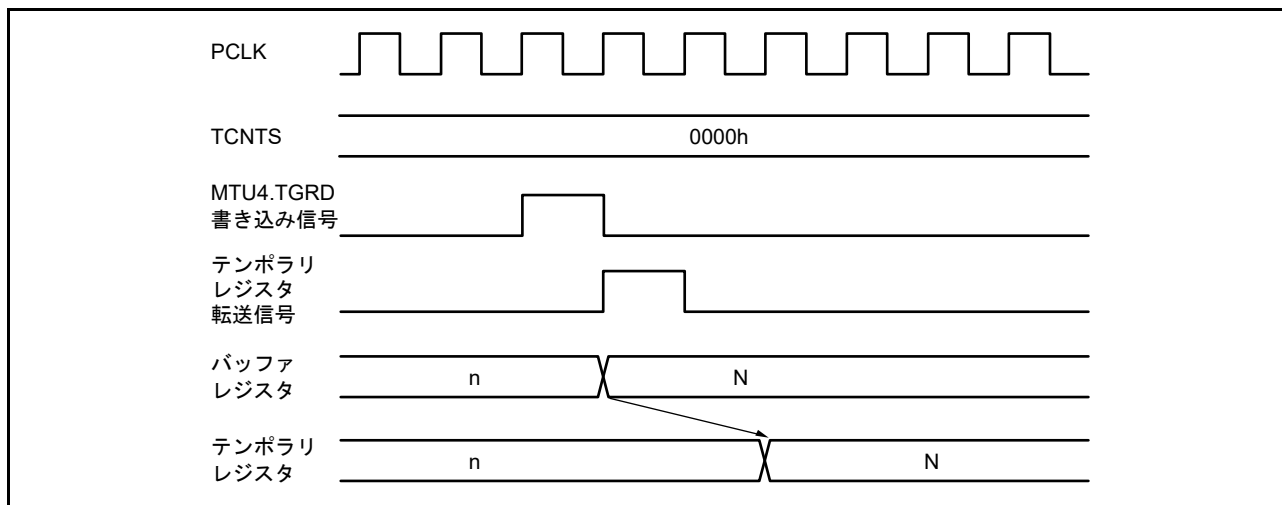


図 20.97 バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送タイミング (TCNTS カウンタ停止中)

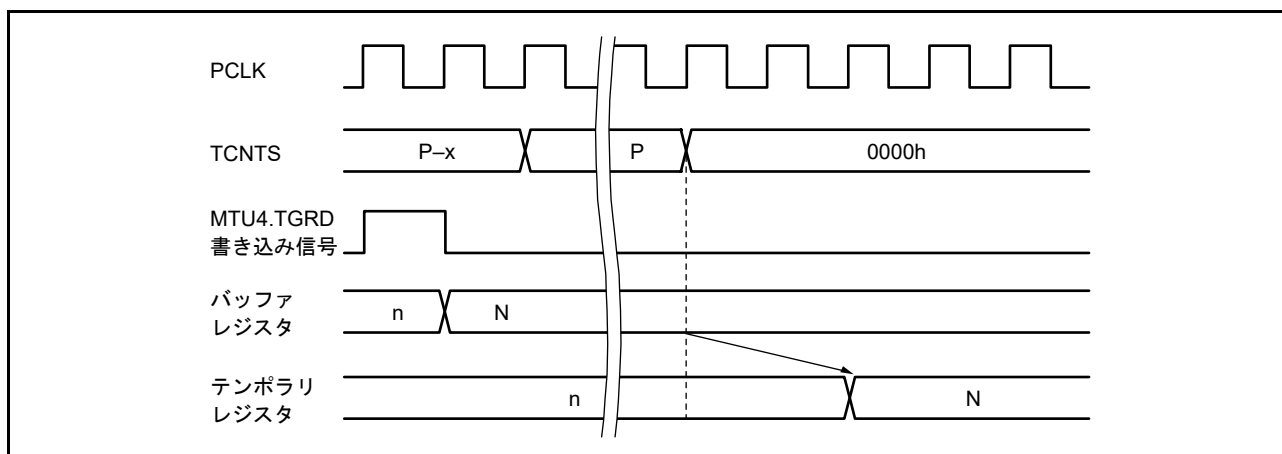


図 20.98 バッファレジスタからテンポラリレジスタへの転送タイミング (TCNTS カウンタ動作中)

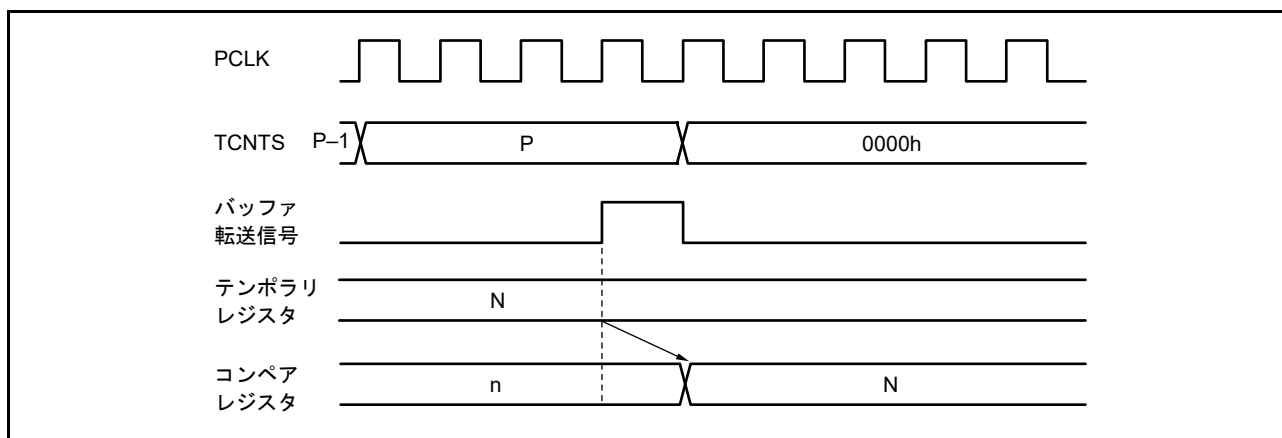


図 20.99 テンポラリレジスタからコンペアレジスタへの転送タイミング

20.5.2 割り込み信号タイミング

(1) コンペアマッチ時の TGI 割り込みタイミング

コンペアマッチの発生による TGI 割り込み要求信号のタイミングを図 20.100、図 20.101 に示します。

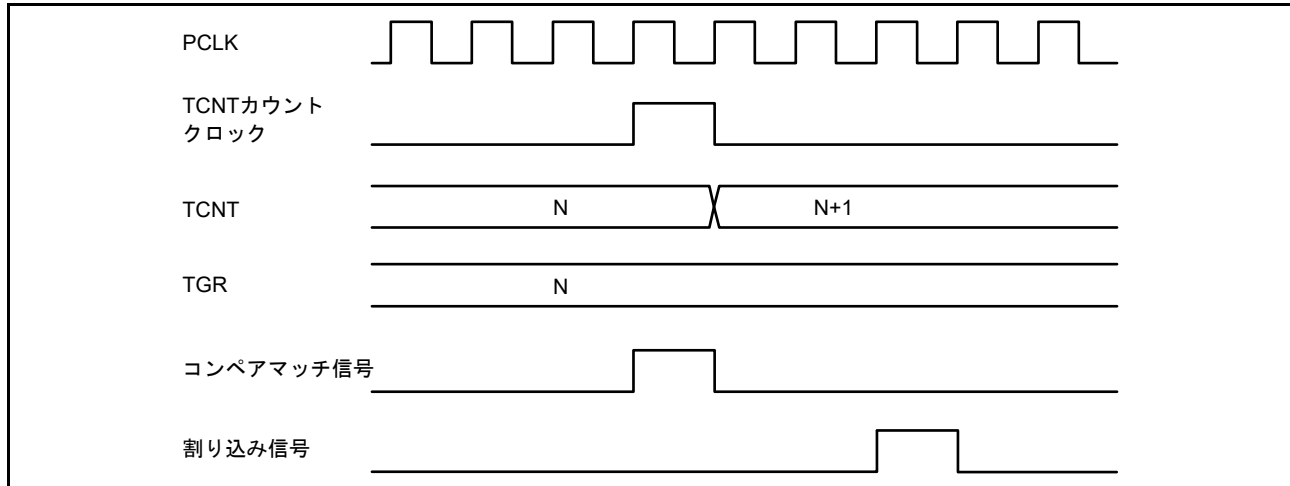


図 20.100 TGI 割り込みタイミング (コンペアマッチ) (MTU0 ~ MTU4)

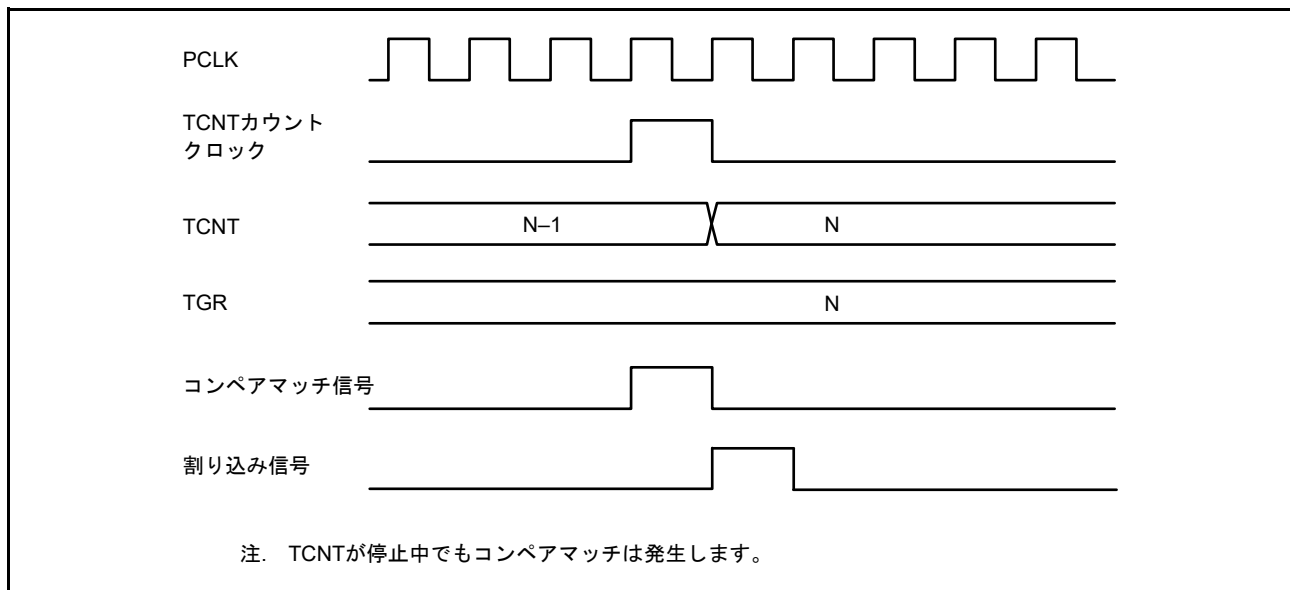


図 20.101 TGI 割り込みタイミング (コンペアマッチ) (MTU5)

(2) インพุットキャプチャ時の TGI 割り込みタイミング

インพุットキャプチャの発生による TGI 割り込み要求信号のタイミングを図 20.102、図 20.103 に示します。

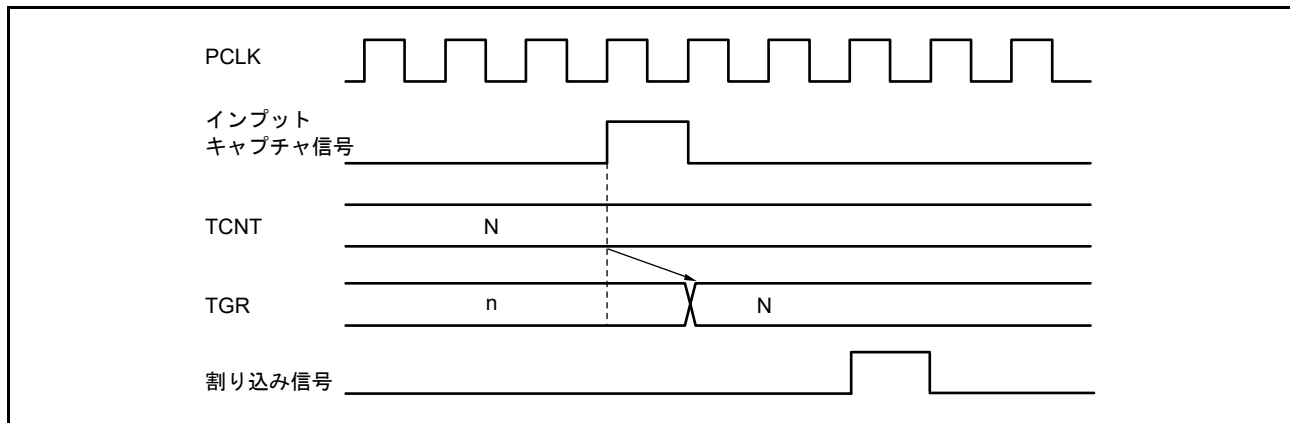


図 20.102 TGI 割り込みタイミング（インพุットキャプチャ）(MTU0 ~ MTU4)

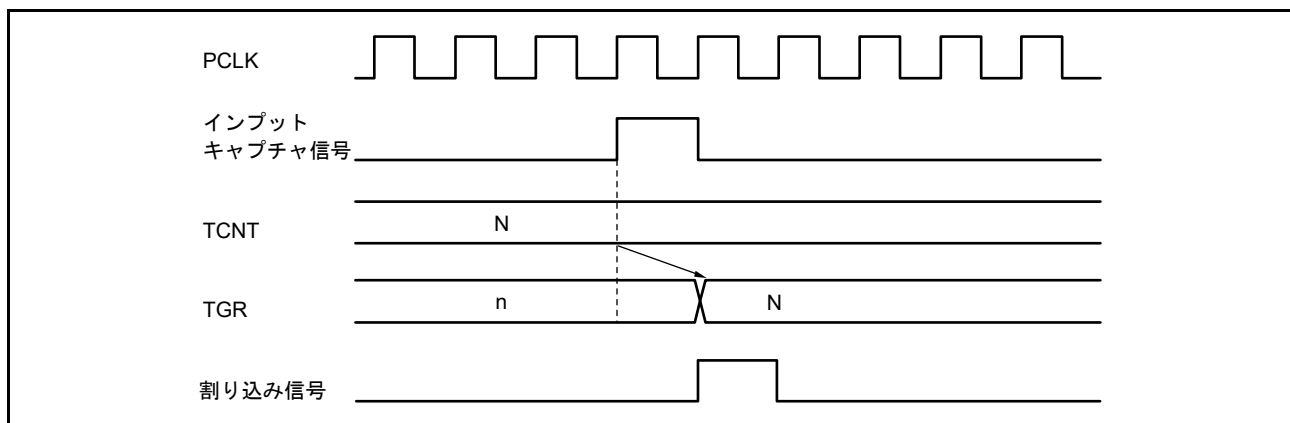


図 20.103 TGI 割り込みタイミング（インพุットキャプチャ）(MTU5)

(3) TCIV/TCIU 割り込みタイミング

オーバーフローの発生による TCIV 割り込み要求信号のタイミングを図 20.104 に示します。
 アンダフローの発生による TCIU 割り込み要求信号のタイミングを図 20.105 に示します。

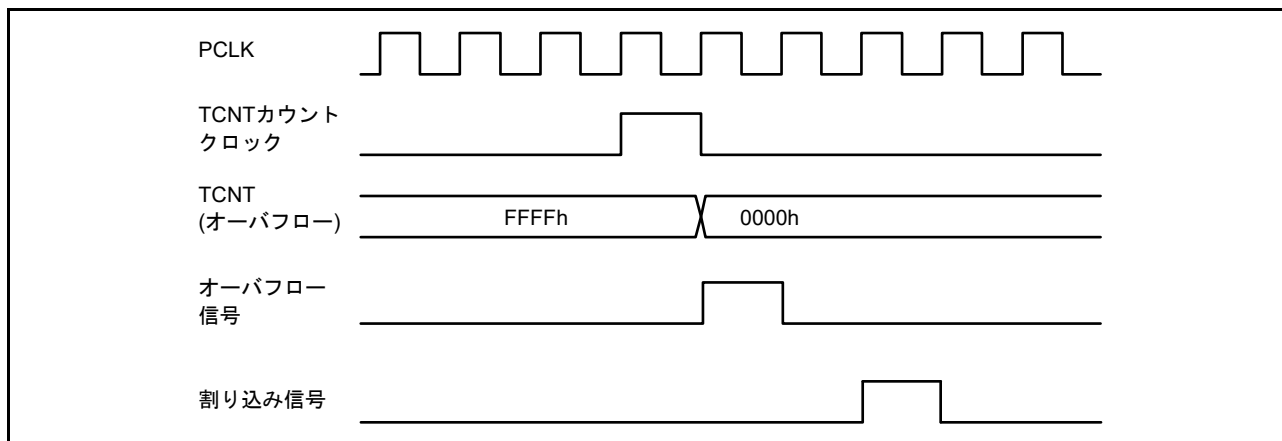


図 20.104 TCIV 割り込みタイミング

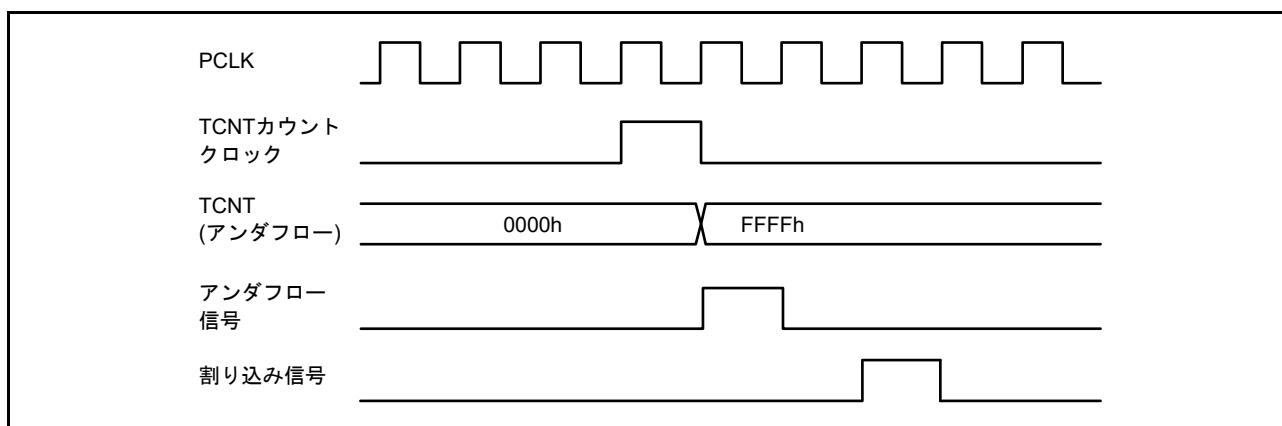


図 20.105 TCIU 割り込みタイミング

20.6 使用上の注意事項

20.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタにより、MTUの動作禁止/許可を設定することが可能です。初期値では、MTUの動作は停止します。モジュールクロックストップモードを解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

20.6.2 カウントクロックの制限事項

カウントクロックソースのパルス幅は、単エッジの場合は1.5 PCLK以上、両エッジの場合は2.5 PCLK以上が必要です。これ以下のパルス幅では正しく動作しませんのでご注意ください。

位相計数モードの場合は、2本の入カクロックの位相差およびオーバーラップはそれぞれ1.5 PCLK以上、パルス幅は2.5 PCLK以上が必要です。位相計数モードの入カクロックの条件を図20.106に示します。

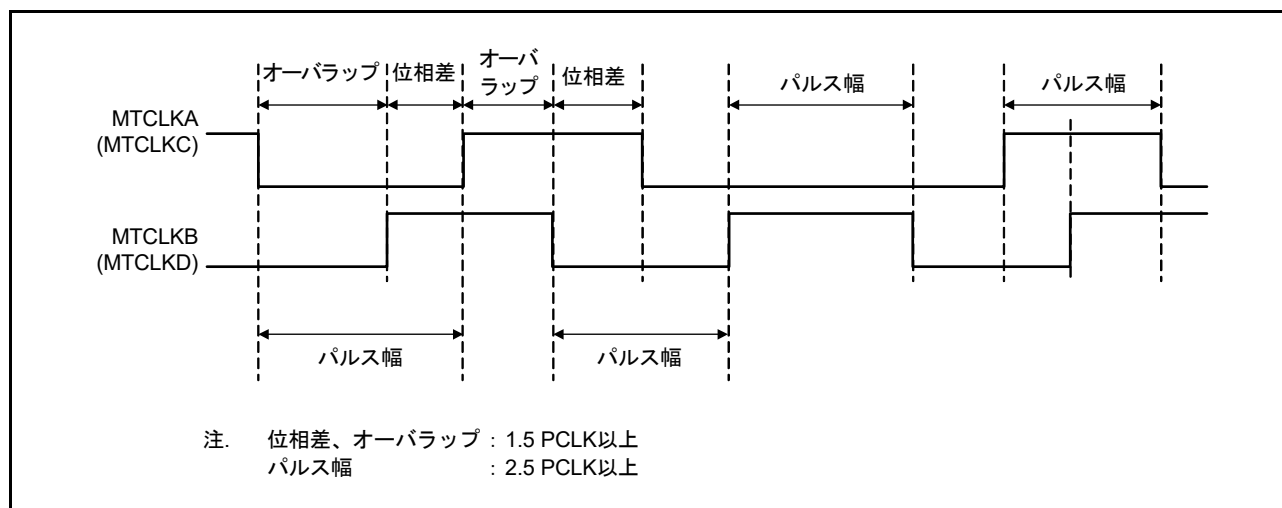


図 20.106 位相計数モード時の位相差、オーバーラップ、およびパルス幅

20.6.3 周期設定上の注意事項

コンペアマッチによるカウンタクリアを設定した場合、TCNT カウンタは TGR レジスタの値と一致した最後のステート（TCNT カウンタが一致したカウント値を更新するタイミング）でクリアされます。このため、実際のカウンタの周波数は次の式ようになります。

- MTU0 ～ MTU4 の場合

$$f = \frac{\text{CNTCLK}}{N+1}$$

- MTU5 の場合

$$f = \frac{\text{CNTCLK}}{N}$$

f : カウンタ周波数

CNTCLK : TCR.TPSC[2:0] ビットで設定したカウントクロックの周波数

N : TGR レジスタの設定値

20.6.4 TCNT カウンタの書き込みとクリアの競合

TCNT カウンタの書き込みサイクル中で、カウンタクリア信号が発生すると、TCNT カウンタへの書き込みは行われず、TCNT カウンタのクリアが優先されます。

このタイミングを図 20.107 に示します。

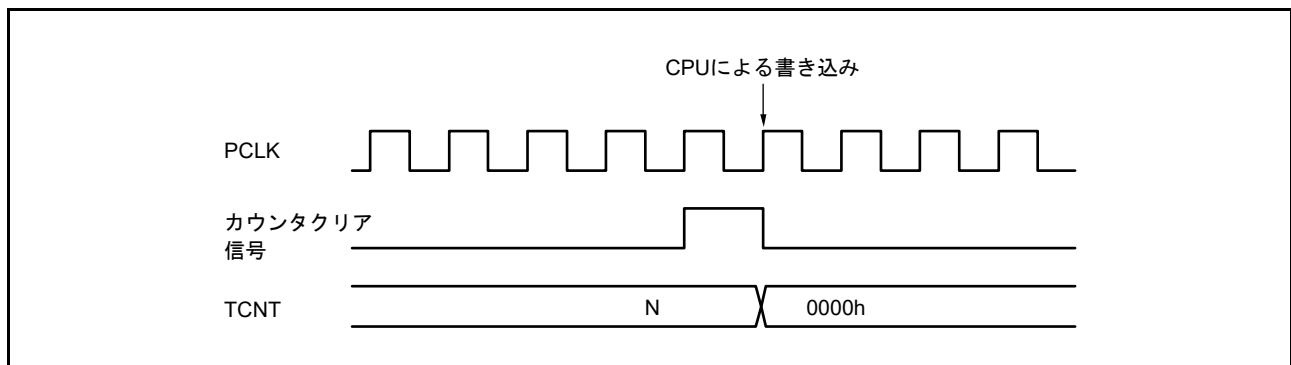


図 20.107 TCNT カウンタの書き込みとカウンタクリアの競合

20.6.5 TCNT カウンタの書き込みとカウントアップの競合

TCNT カウンタの書き込みサイクル中にカウントアップが発生しても、カウントアップされず、TCNT カウンタへの書き込みが優先されます。

このタイミングを図 20.108 に示します。

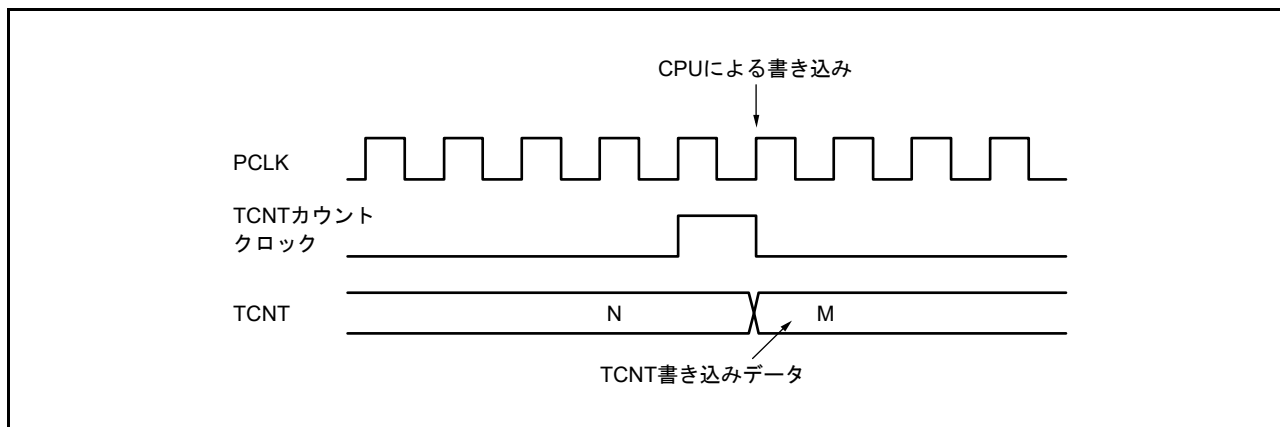


図 20.108 TCNT カウンタの書き込みとカウントアップの競合

20.6.6 TGR レジスタの書き込みとコンペアマッチの競合

TGR レジスタの書き込みサイクル中にコンペアマッチが発生した場合、TGR レジスタの書き込みが実行され、コンペアマッチ信号も発生します。

このタイミングを図 20.109 に示します。

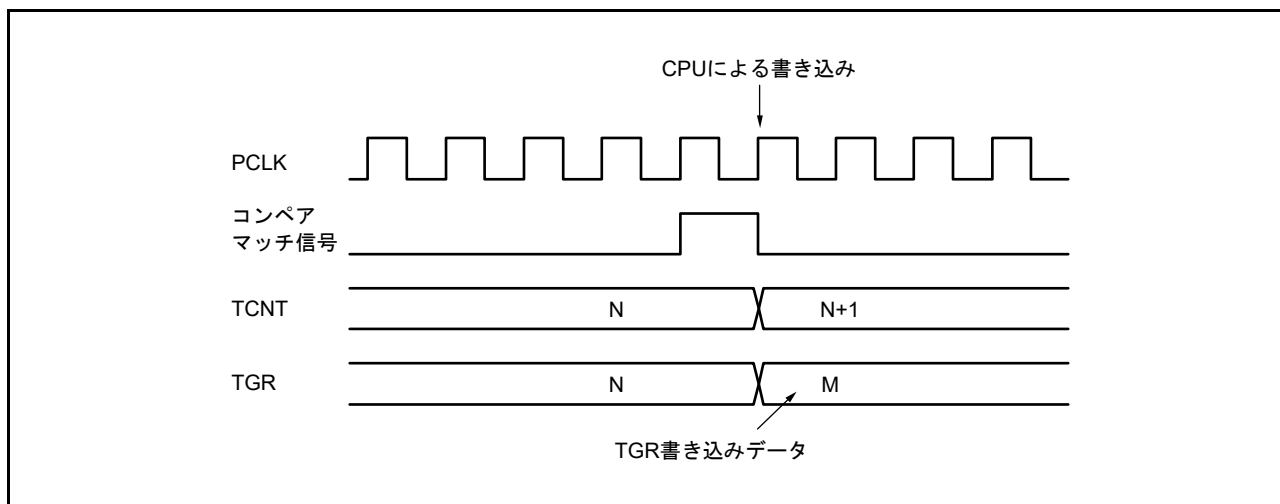


図 20.109 TGR レジスタの書き込みとコンペアマッチの競合

20.6.7 バッファレジスタの書き込みとコンペアマッチの競合

TGR レジスタの書き込みサイクル中にコンペアマッチが発生すると、バッファ動作によって TGR レジスタに転送されるデータは書き込み前のデータです。

このタイミングを図 20.110 に示します。

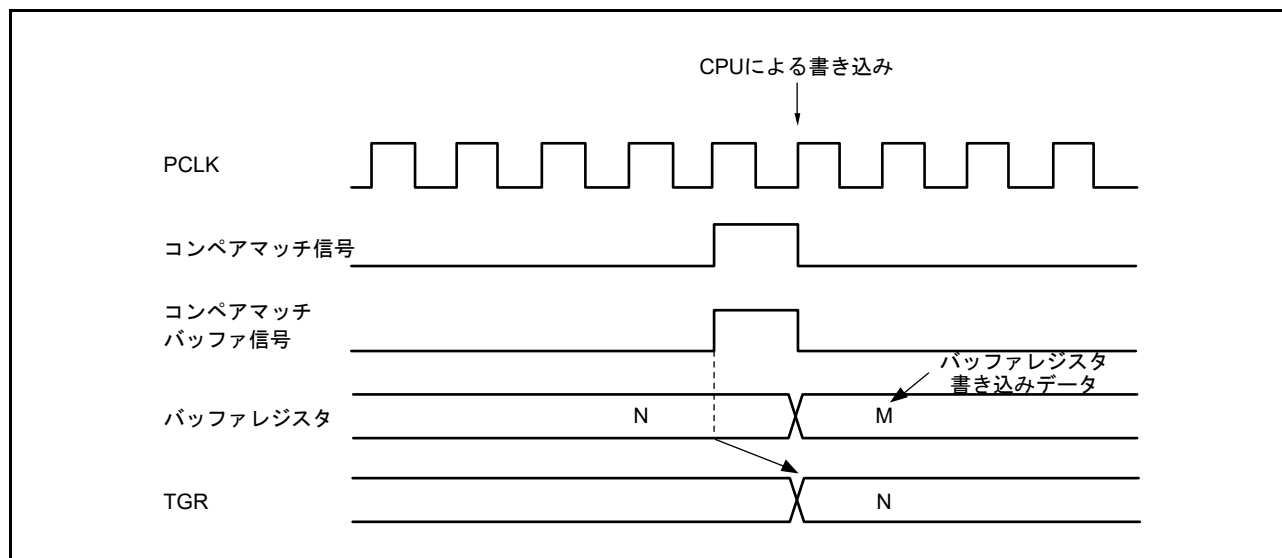


図 20.110 バッファレジスタの書き込みとコンペアマッチの競合

20.6.8 バッファレジスタの書き込みと TCNT カウンタクリアの競合

TBTM レジスタでバッファ転送タイミングを TCNT カウンタクリア時に設定した場合、TGR レジスタの書き込みサイクル中に TCNT カウンタクリアが発生すると、バッファ動作によって TGR レジスタに転送されるデータは書き込み前のデータです。

このタイミングを図 20.111 に示します。

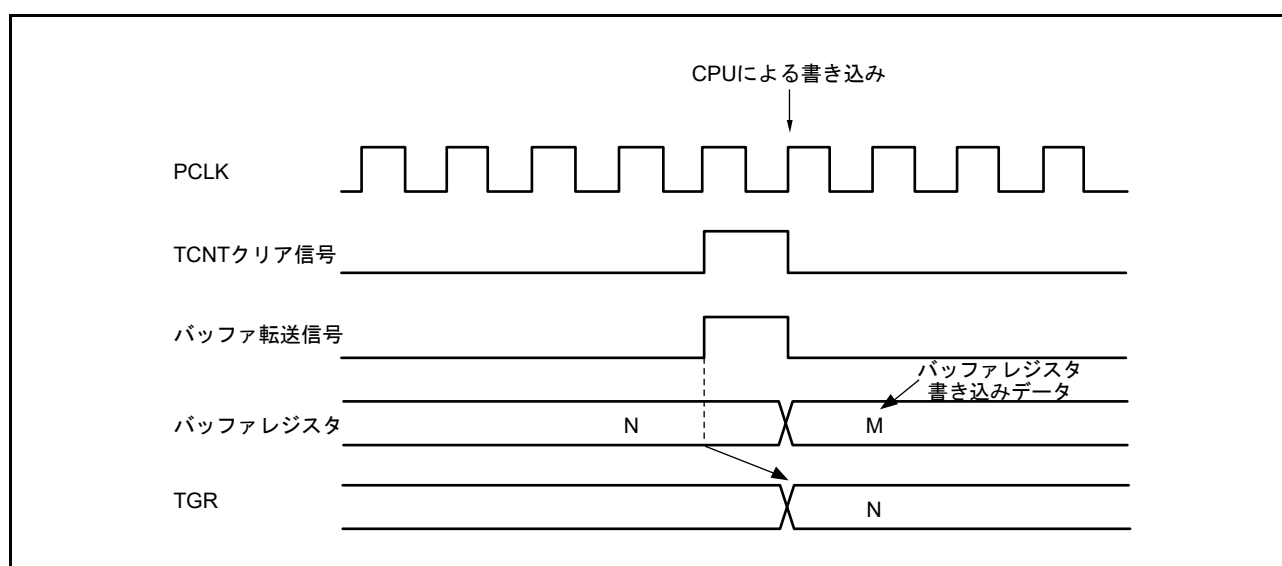


図 20.111 バッファレジスタの書き込みと TCNT カウンタクリアの競合

20.6.9 TGR レジスタの読み出しとインプットキャプチャの競合

TGR レジスタの読み出しサイクル中にインプットキャプチャ信号が発生すると、読み出しされるデータは、インプットキャプチャ転送前のデータとなります。

このタイミングを図 20.112 に示します。

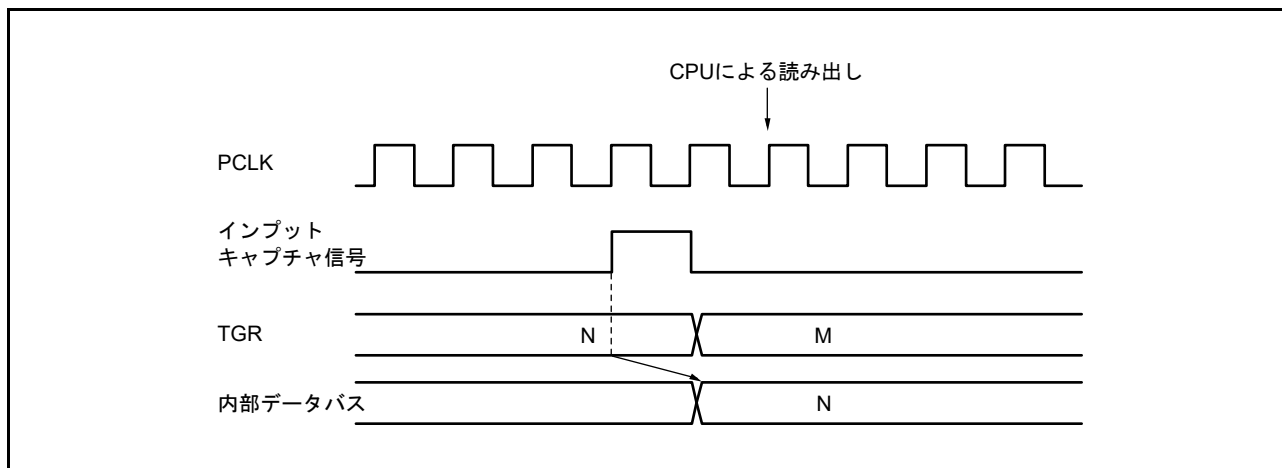


図 20.112 TGR レジスタの読み出しとインプットキャプチャの競合 (MTU0 ~ MTU5)

20.6.10 TGR レジスタの書き込みとインプットキャプチャの競合

TGR レジスタの書き込みサイクル中にインプットキャプチャ信号が発生すると、MTU0 ~ MTU4 では TGR レジスタへの書き込みは行われず、インプットキャプチャが優先され、MTU5 では TGR レジスタへの書き込みが実行され、インプットキャプチャ信号も発生します。

このタイミングを図 20.113、図 20.114 に示します。

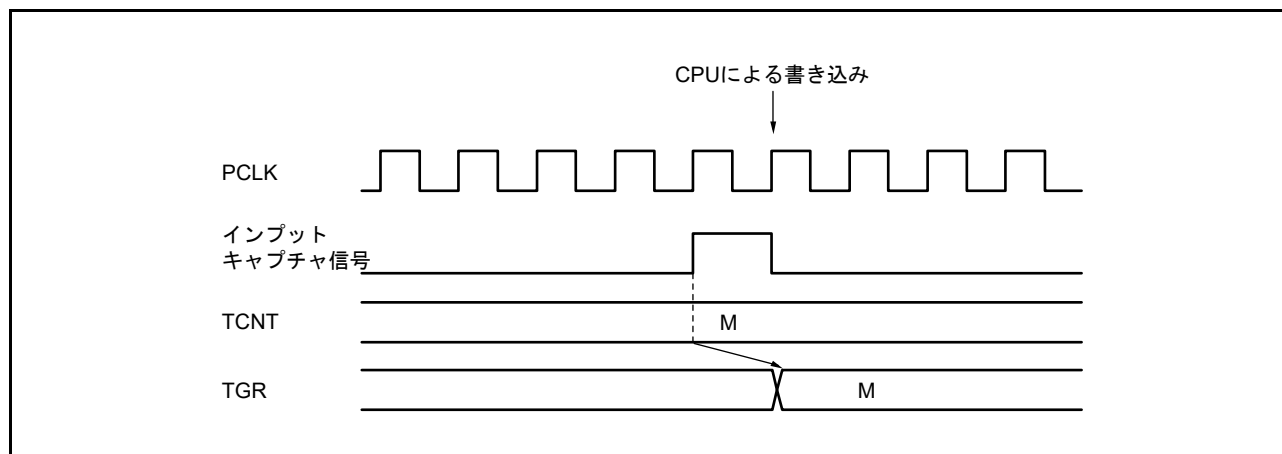


図 20.113 TGR レジスタの書き込みとインプットキャプチャの競合 (MTU0 ~ MTU4)

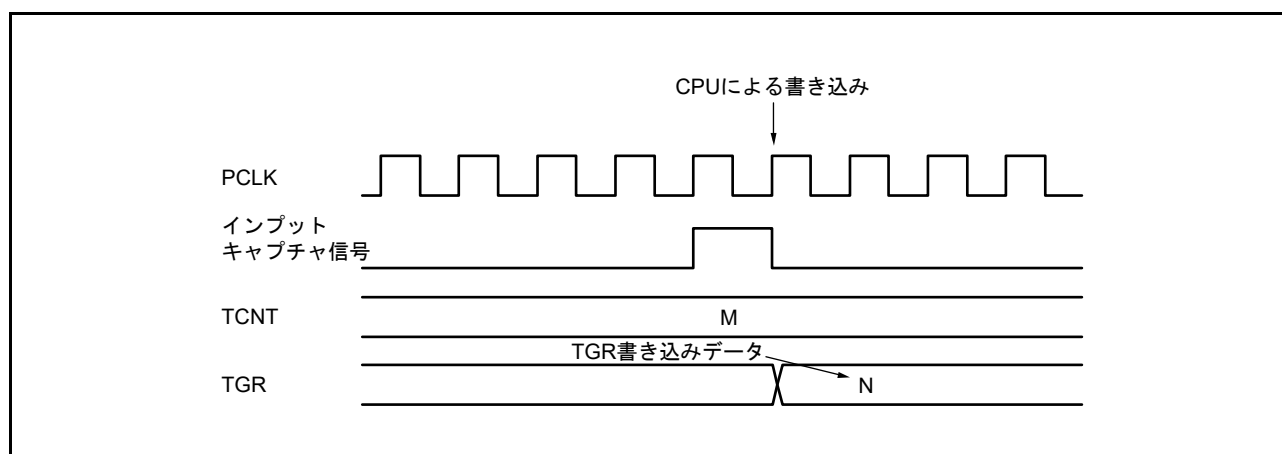


図 20.114 TGR レジスタの書き込みとインプットキャプチャの競合 (MTU5)

20.6.11 バッファレジスタの書き込みと入力キャプチャの競合

バッファの書き込みサイクル中に入力キャプチャ信号が発生すると、バッファレジスタへの書き込みは行われず、バッファ動作が優先されます。

このタイミングを図 20.115 に示します。

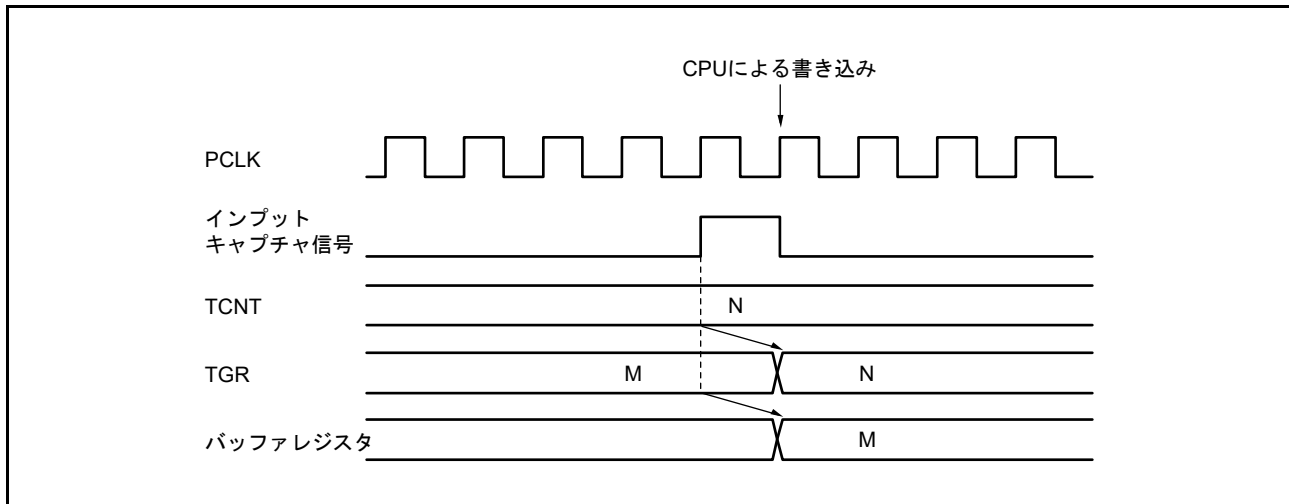


図 20.115 バッファレジスタの書き込みと入力キャプチャの競合

20.6.12 カスケード接続における MTU2.TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー/アンダフローの競合

MTU1.TCNT, MTU2.TCNT カウンタをカスケード接続し、MTU1.TCNT カウンタがカウントする瞬間 (MTU2.TCNT カウンタがオーバフロー/アンダフローする瞬間) と MTU2.TCNT カウンタの書き込みが競合すると、MTU2.TCNT カウンタへの書き込みが行われ、MTU1.TCNT カウンタのカウント信号が禁止されます。このとき、MTU1.TGRA レジスタがコンペアマッチレジスタとして動作し MTU1.TCNT カウンタの値と一致していた場合、コンペアマッチ信号が発生します。

また、MTU0 の入力キャプチャ要因に MTU1.TCNT カウントクロックを選択した場合には、MTU0.TGRA ~ TGRD レジスタは入力キャプチャ動作します。さらに MTU1.TGRB レジスタの入力キャプチャ要因に MTU0.TGRC レジスタのコンペアマッチ/入力キャプチャを選択した場合には、MTU1.TGRB レジスタは入力キャプチャ動作します。

このタイミングを図 20.116 に示します。

また、カスケード接続動作で TCNT カウンタのクリア設定を行う場合には、MTU1 と MTU2 の同期設定を行ってください。

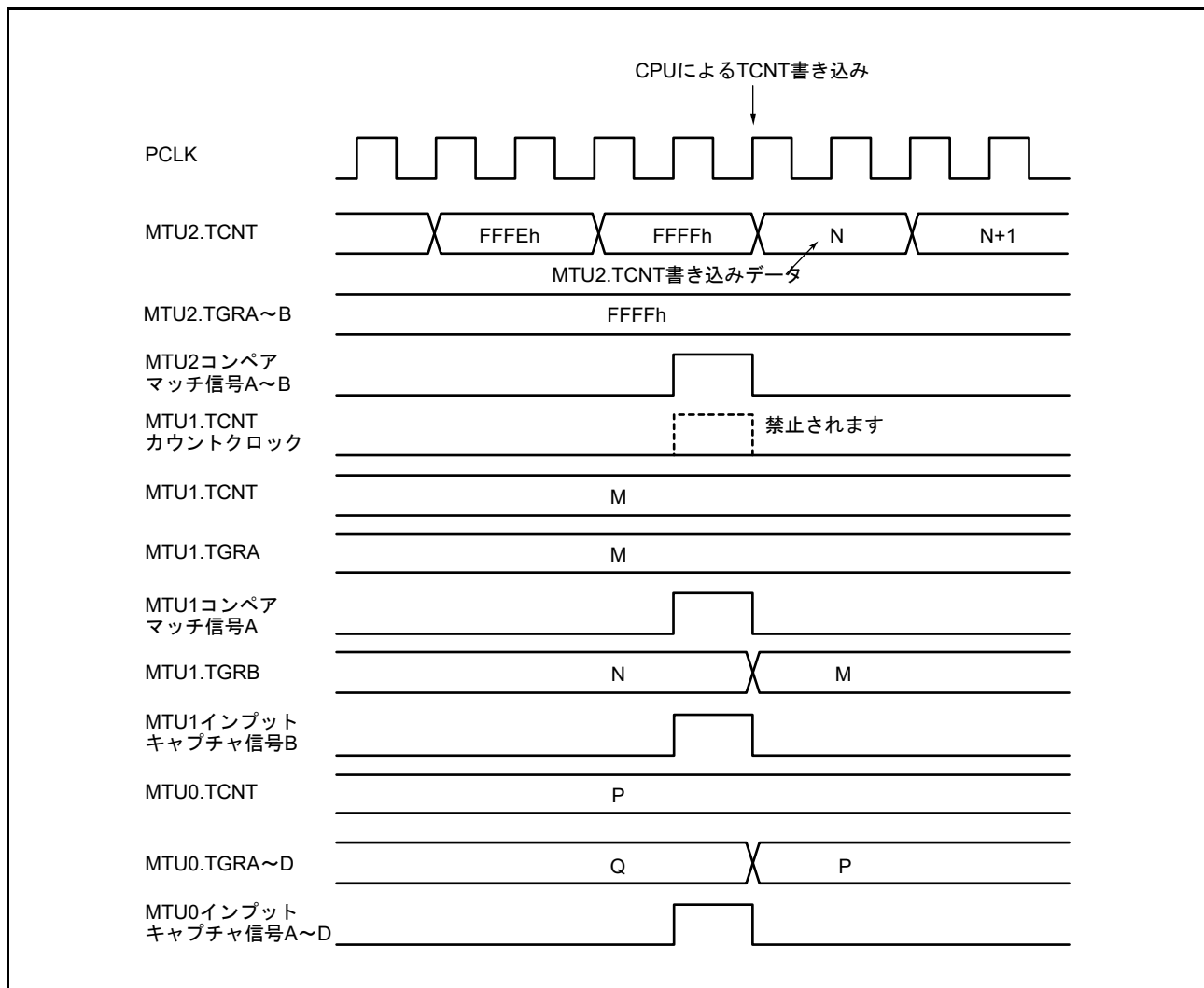


図 20.116 カスケード接続における MTU2.TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー/アンダフローの競合

20.6.13 相補 PWM モードでのカウント動作停止時のカウンタ値

MTU3.TCNT, MTU4.TCNT カウンタが相補 PWM モードで動作している時にカウント動作を停止すると、MTU3.TCNT カウンタは TDDR レジスタの値、MTU4.TCNT カウンタは“0000h”になります。

相補 PWM を再スタートすると自動的に初期状態からカウントを開始します。

この説明図を図 20.117 に示します。

また、他の動作モードでカウントを開始する場合は MTU3.TCNT, MTU4.TCNT カウンタにカウント初期値の設定を行ってください。

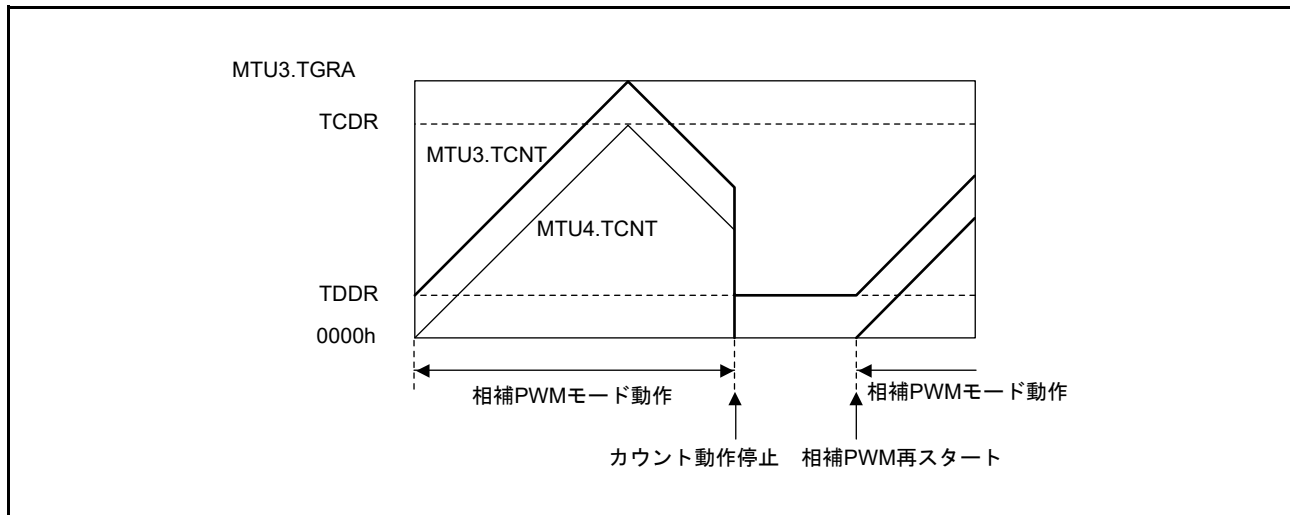


図 20.117 相補 PWM モード停止時のカウンタ値 (MTU3、MTU4 動作)

20.6.14 相補 PWM モードでのバッファ動作の設定

相補 PWM モードでは、PWM 周期設定レジスタ (MTU3.TGRA)、タイマ周期データレジスタ (TCDR)、コンペアレジスタ (MTU3.TGRB, MTU4.TGRA, MTU4.TGRB) の書き替えは、バッファ動作で行ってください。また、MTU4.TMDR.BFA ビット、MTU4.TMDR.BFB ビットは“0”にしてください。MTU4.TMDR.BFA ビットを“1”に設定すると MTIOC4C 端子の波形出力ができなくなります。同様に MTU4.TMDR.BFB ビットを“1”に設定すると MTIOC4D 端子の波形出力ができなくなります。

相補 PWM モード時の MTU3 および MTU4 のバッファ動作は、MTU3.TMDR.BFA ビット、MTU3.TMDR.BFB ビットの設定に従い動作します。MTU3.TMDR.BFA ビットを“1”にした場合、MTU3.TGRC レジスタは MTU3.TGRA レジスタのバッファレジスタとして機能します。同時に MTU4.TGRC レジスタは MTU4.TGRA レジスタのバッファレジスタとして機能し、さらに TCBR レジスタは TCDR レジスタのバッファレジスタとして機能します。

20.6.15 リセット同期 PWM モードのバッファ動作とコンペアマッチフラグ

リセット同期 PWM モードでバッファ動作を設定する場合には、MTU4.TMDR.BFA ビット、MTU4.TMDR.BFB ビットを“0”に設定してください。MTU4.TMDR.BFA ビットを“1”に設定すると、MTIOC4C 端子の波形出力ができなくなります。同様に MTU4.TMDR.BFB ビットを“1”に設定すると MTIOC4D 端子の波形出力ができなくなります。

リセット同期 PWM モード時の MTU3 および MTU4 のバッファ動作は MTU3.TMDR.BFA ビット、MTU3.TMDR.BFB ビットの設定に従い動作します。たとえば、MTU3.TMDR.BFA ビットを“1”にした場合、MTU3.TGRC レジスタは MTU3.TGRA レジスタのバッファレジスタとして機能します。同時に MTU4.TGRC レジスタは MTU4.TGRA レジスタのバッファレジスタとして機能します。

MTU3.TGRC、MTU3.TGRD レジスタがバッファレジスタとして動作している場合、対応する TGIC、TGID 割り込み要求は発生しません。

MTU3.TMDR.BFA ビット、MTU3.TMDR.BFB ビットを“1”にし、MTU3.TMDR.BFA ビット、MTU3.TMDR.BFB ビットを“0”にした場合の MTU3.TGR, MTU4.TGR レジスタ、MTIOC3m、MTIOC4m の動作例を図 20.118 に示します。(m = A ~ D)

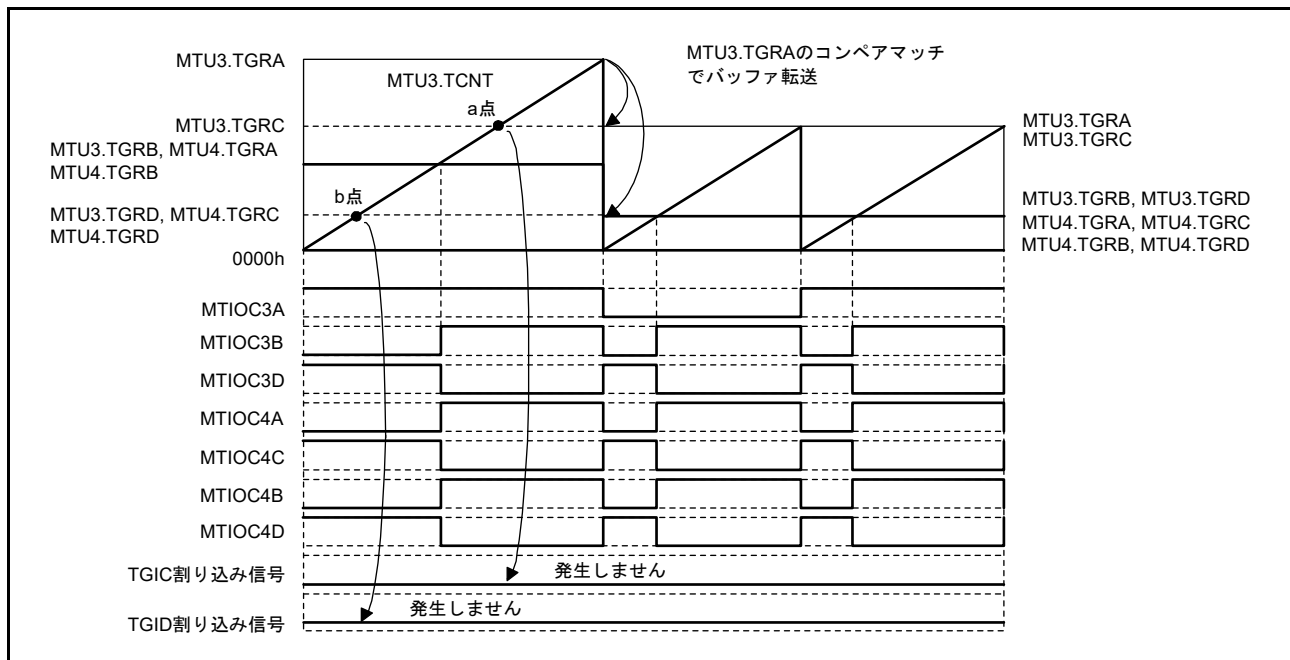


図 20.118 リセット同期 PWM モードのバッファ動作とコンペアマッチフラグ

20.6.16 リセット同期 PWM モードのオーバーフローフラグ

リセット同期 PWM モードを設定し、TSTR.CST3 ビットを“1”に設定すると、MTU3.TCNT カウンタと MTU4.TCNT カウンタのカウンタ動作が開始します。このとき、MTU4.TCNT カウンタのカウンタクロックソースとカウンタエッジは MTU3.TCR レジスタの設定に従います。

リセット同期 PWM モードで周期レジスタ MTU3.TGRA レジスタの設定値を“FFFFh”とし、カウンタクリア要因に MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチを指定した場合、MTU3.TCNT、MTU4.TCNT カウンタがアップカウントし“FFFFh”になると、MTU3.TGRA レジスタとのコンペアマッチが発生し、MTU3.TCNT、MTU4.TCNT カウンタともにクリアされます。このとき、対応する TCIV 割り込み要求は発生しません。

リセット同期 PWM モードで周期レジスタ MTU3.TGRA レジスタの設定値を“FFFFh”とし、カウンタクリア要因に MTU3.TGRA レジスタのコンペアマッチを指定した場合の動作例を図 20.119 に示します。

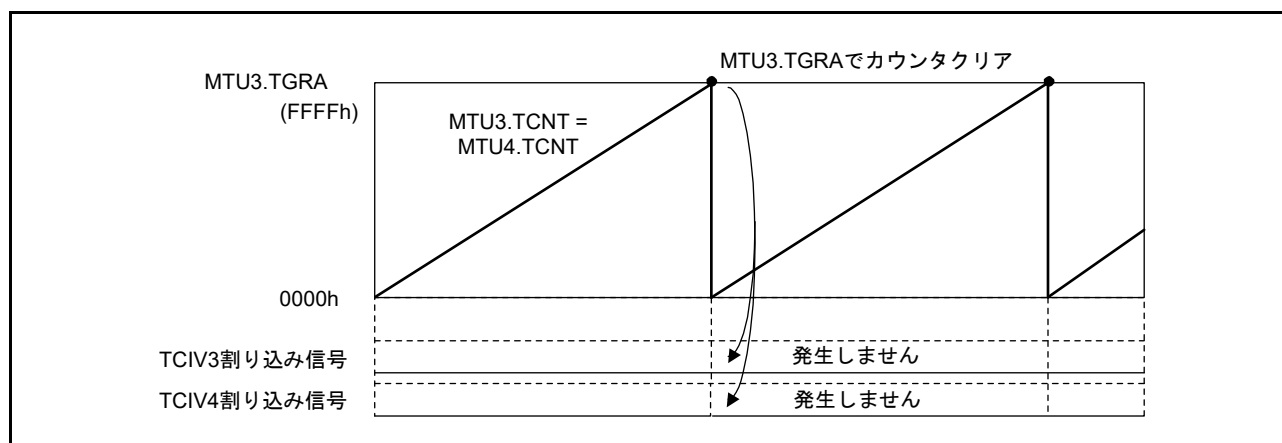


図 20.119 リセット同期 PWM モードのオーバーフローフラグ

20.6.17 オーバフロー/アンダフローとカウンタクリアの競合

オーバフロー/アンダフローとカウンタクリアが同時に発生すると、TCNT カウンタのクリアが優先されて、対応する TCIV 割り込みは発生しません。オーバフローとインプットキャプチャによるカウンタクリアが同時に発生すると、インプットキャプチャ割り込み信号が出力され、オーバフロー割り込み信号は出力されません。

TGR レジスタのコンペアマッチをクリア要因とし、TGR レジスタに“FFFFh”を設定した場合の動作タイミングを図 20.120 に示します。

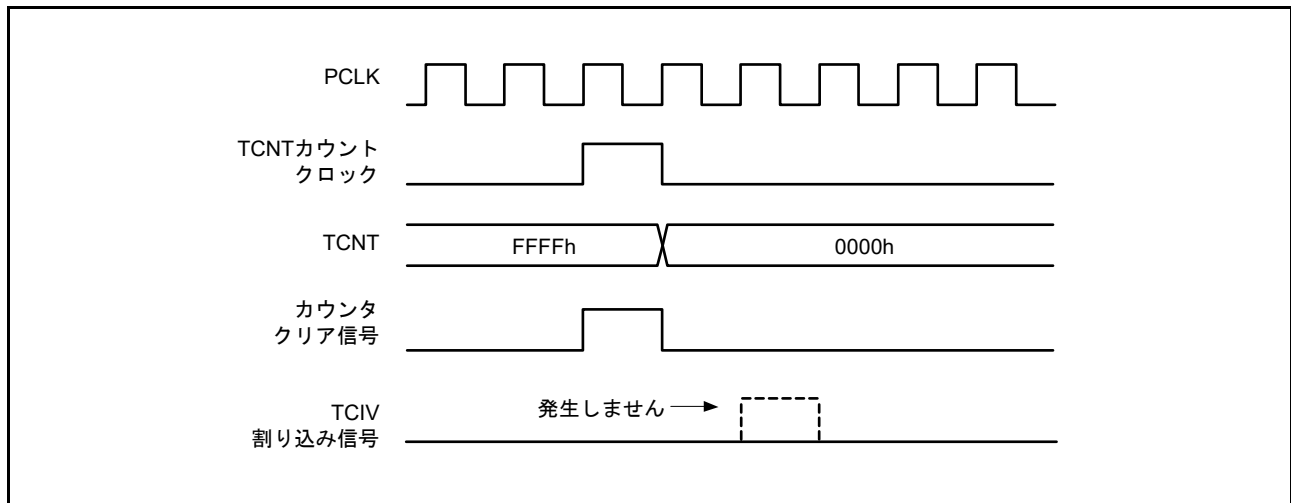


図 20.120 オーバフローとカウンタクリアの競合

20.6.18 TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー/アンダフローの競合

TCNT カウンタの書き込みサイクルで、アップカウント/ダウンカウントが発生し、オーバフロー/アンダフローが発生しても、TCNT カウンタへの書き込みが優先されます。対応する割り込みは発生しません。

TCNT カウンタの書き込みとオーバフロー競合時の動作タイミングを図 20.121 に示します。

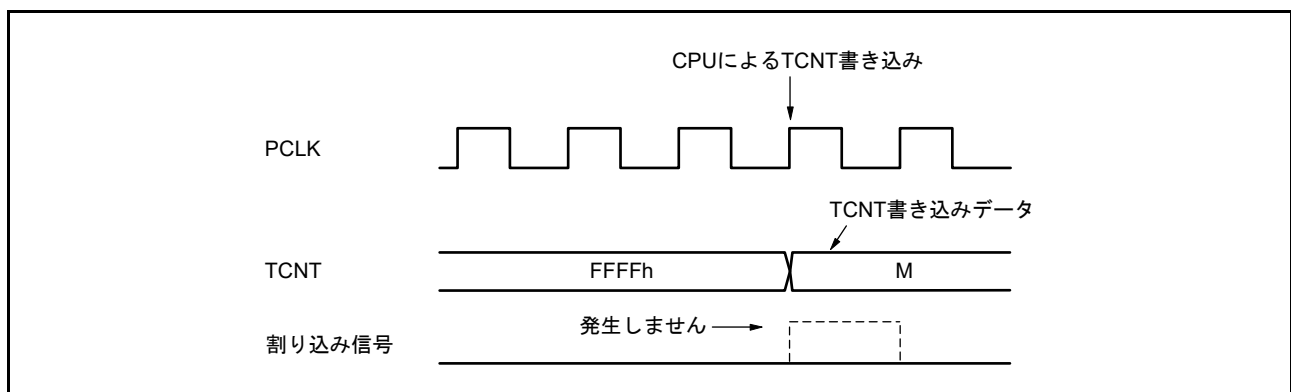


図 20.121 TCNT カウンタの書き込みとオーバフローの競合

20.6.19 ノーマルモードまたはPWMモード1からリセット同期PWMモードへ遷移する場合の注意事項

MTU3、MTU4のノーマルモードまたはPWMモード1からリセット同期PWMモードへ遷移する場合、出力端子 (MTIOC3B, MTIOC3D, MTIOC4A, MTIOC4C, MTIOC4B, MTIOC4D) を High の状態にしたままカウンタを止め、リセット同期PWMモードに遷移して動作させると、端子の初期出力が正しく出力されませんのでご注意ください。

ノーマルモードからリセット同期PWMモードに遷移する場合には、MTU3.TIORH, MTU3.TIORL, MTU4.TIORH, MTU4.TIORL レジスタに“11h”を書いて出力端子を Low に初期化した後、レジスタの初期値“00h”を設定してからモード遷移を行ってください。

PWMモード1からリセット同期PWMモードに遷移する場合には、いったんノーマルモードに遷移してから出力端子を Low へ初期化した後、レジスタの初期値“00h”を設定してからリセット同期PWMモードに遷移してください。

20.6.20 相補PWMモード、リセット同期PWMモードの出力レベル

MTU3、MTU4が相補PWMモードまたはリセット同期PWMモードの場合、PWM波形の出力レベルはTOCR1.OLSP, OLSN ビットで設定します。相補PWMモードまたはリセット同期PWMモードの場合、TIOR レジスタは“00h”にしてください。相補PWMモードでTDER.TDER ビットを“0” (デッドタイムを生成しない) に設定した場合の逆相の出力レベルは、TOCR1.OLSN ビットの設定によらず、TOCR1.OLSP ビットの設定による正相出力の反転レベルとなります。

20.6.21 モジュールストップ状態時の割り込み

割り込みが要求された状態でモジュールストップ状態になると、CPUの割り込み要因、またはDTCの起動要因のクリアができません。

事前に割り込みを無効にするなどしてからモジュールストップ状態に設定してください。

20.6.22 カスケード接続におけるMTU1.TCNT、MTU2.TCNTカウンタ同時インプットキャプチャ

MTU1.TCNT, MTU2.TCNTカウンタをカスケード接続して、32ビットカウンタとして動作させている場合、MTIOC1AとMTIOC2AまたはMTIOC1BとMTIOC2Bに同時にインプットキャプチャ入力を行っても、MTU1.TCNT、MTU2.TCNTカウンタに入力される外部からのインプットキャプチャ信号を、内部クロックに同期させて内部に取り込む際に、MTIOC1A、MTIOC2A、またはMTIOC1BとMTIOC2Bの取り込みタイミングにずれが生じ、カスケードカウンタ値を正常にキャプチャできない可能性があります。

例として、MTU1.TCNTカウンタ (上位16ビットのカウンタ) がMTU2.TCNTカウンタ (下位16ビットのカウンタ) のオーバーフローによるカウントアップ値をキャプチャすべきところを、カウントアップ前のカウント値をキャプチャします。その場合、正しくはMTU1.TCNT = FFF1h、MTU2.TCNT = 0000hの値をMTU1.TGRAレジスタとMTU2.TGRAレジスタ、もしくはMTU1.TGRBレジスタとMTU2.TGRBレジスタに転送すべきところを誤ってMTU1.TCNT = FFF0h、MTU2.TCNT = 0000hの値を転送します。

1本のインプットキャプチャ入力でMTU1.TCNTカウンタとMTU2.TCNTカウンタを同時にキャプチャできる機能を使用すれば、MTU1.TCNTカウンタとMTU2.TCNTカウンタのキャプチャタイミングのずれなく、32ビットカウンタの取り込みを行うことができます。詳細は、「20.2.8 タイムインプットキャプチャ

コントロールレジスタ (TICCR)」を参照してください。

20.6.23 相補 PWM モードの出力保護機能未使用時の注意事項

相補 PWM モードの出力保護機能は、初期状態では有効となっています。詳細は、「21. ポートアウトプットイネーブル 2 (POE2a)」を参照してください。

20.6.24 MTU5.TCNT カウンタと MTU5.TGR レジスタの注意事項

MTU5.TCNT_m カウンタ (m = U, V, W) のカウント動作を停止した状態で、MTU5.TGR_m レジスタに「MTU5.TCNT_m カウンタ値 + 1」の値を設定しないでください。MTU5.TCNT_m カウンタのカウント動作を停止した状態で、MTU5.TGR_m レジスタに「MTU5.TCNT_m カウンタ値 + 1」の値を設定した場合、カウンタ停止状態にもかかわらずコンペアマッチが発生します。

このとき、コンペアマッチ割り込み許可ビット (MTU5.TIER.TGIE5_m ビットが“1” (許可) になっていると、コンペアマッチ割り込みが発生します。なお、タイマコンペアマッチクリアレジスタが“1” (許可) になっていると、MTU5.TCNT_m カウンタは、コンペアマッチ割り込みの禁止 / 許可にかかわらず、コンペアマッチが発生すると“0000h”に自動クリアされます。

20.6.25 相補 PWM モード同期クリアするときの異常動作防止について

相補 PWM モードで、同期カウンタクリア時出力波形制御が有効 (TWCR.WRE ビット = 1) である状態で、条件 1、条件 2 のいずれかを満たすと、以下の現象が発生します。

- PWM 出力端子のデッドタイムが短くなる (もしくは消失する)
- PWM 逆相出力端子から、アクティブレベル出力期間以外でアクティブレベルが出力される

条件 1 : 初期出力の抑止期間⑩にて、PWM 出力がデッドタイム期間中に同期クリアした場合 (図 20.122 参照)。

条件 2 : 初期出力の抑止期間⑩、⑪にて、 $MTU3.TGRB \leq TDDR$ 、 $MTU4.TGRA \leq TDDR$ 、 $MTU4.TGRB \leq TDDR$ のいずれかが成立する状態で、同期クリアした場合 (図 20.123 参照)。

本現象は以下の方法により、回避することができます。

- コンペアレジスタ $MTU3.TGRB$ 、 $MTU4.TGRA$ 、 $MTU4.TGRB$ レジスタのすべてが、デッドタイムデータレジスタ (TDDR) の 2 倍以上になるように設定した状態で、同期クリアする

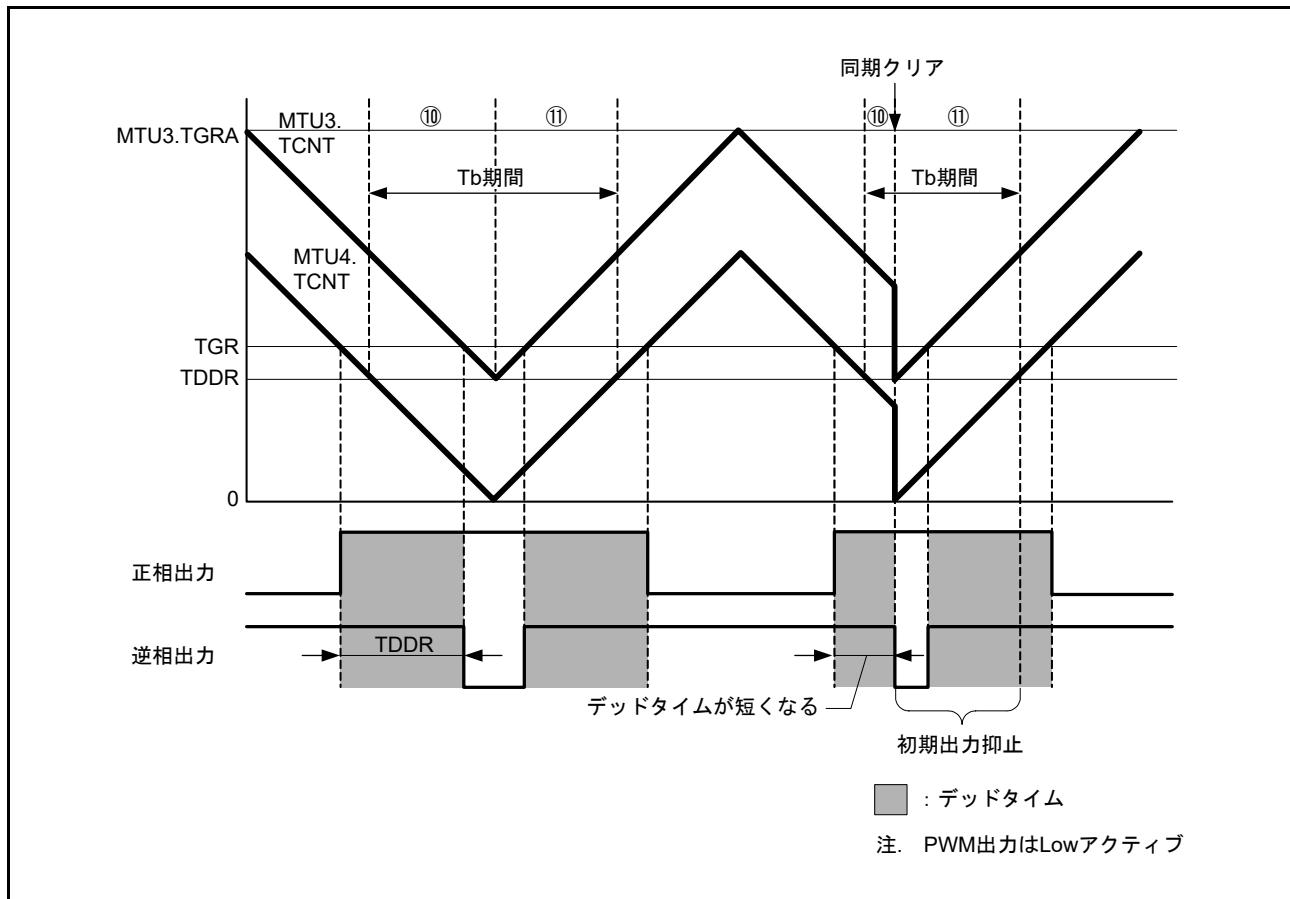


図 20.122 同期クリア例 (条件 1 の場合)

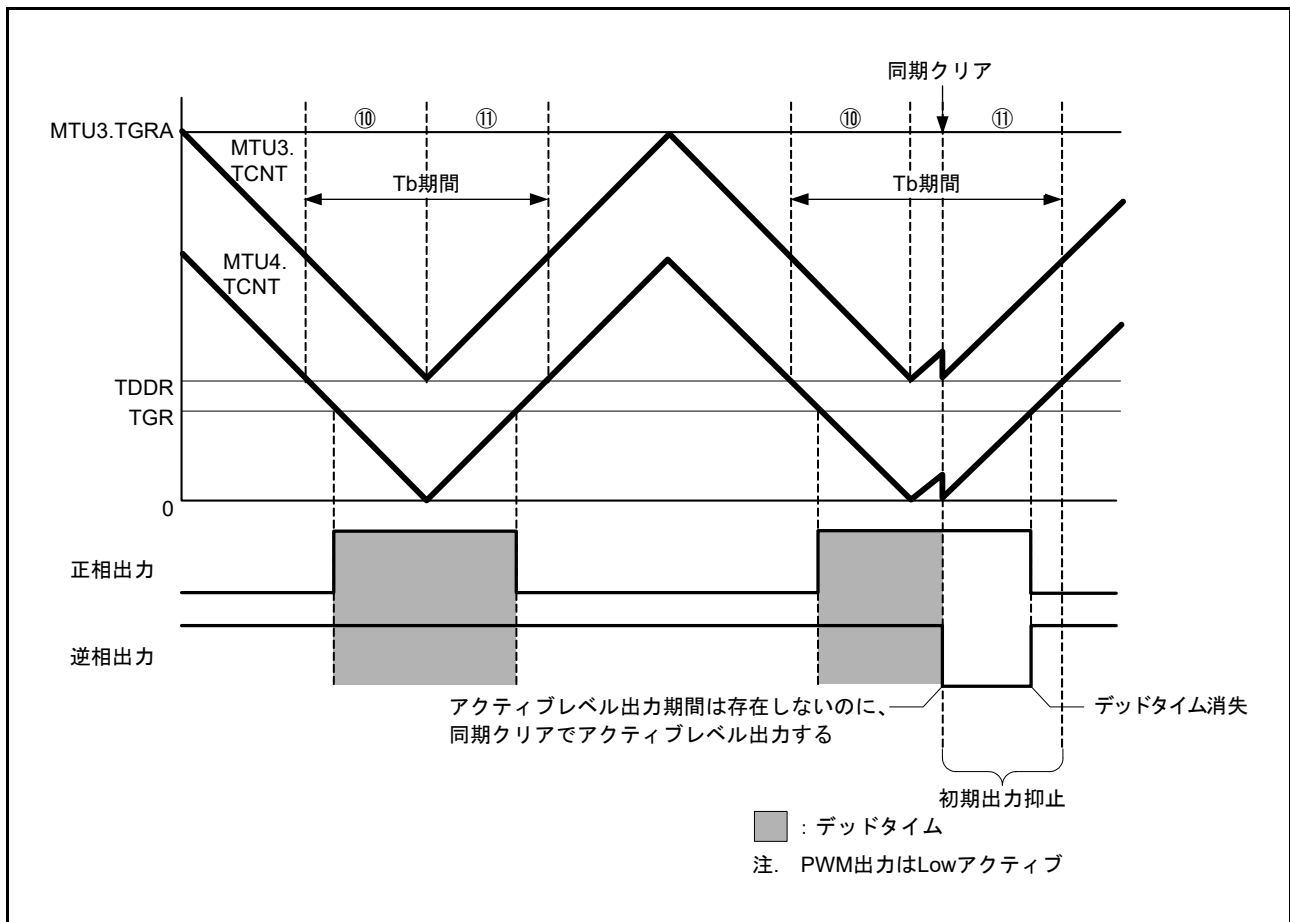


図 20.123 同期クリア例 (条件 2 の場合)

20.6.26 コンペアマッチによる割り込み信号の連続出力

TGR レジスタに“0000h”、カウントクロックを PCLK/1、コンペアマッチでカウンタクリアに設定した場合、TCNT カウンタは“0000h”のままとなり、割り込み信号は1サイクルの信号ではなく、レベル状の連続出力信号となります。これにより、2回目以降のコンペアマッチによる割り込み信号を認識できなくなります。

図 20.124 にコンペアマッチによる割り込み信号の連続出力タイミングを示します。

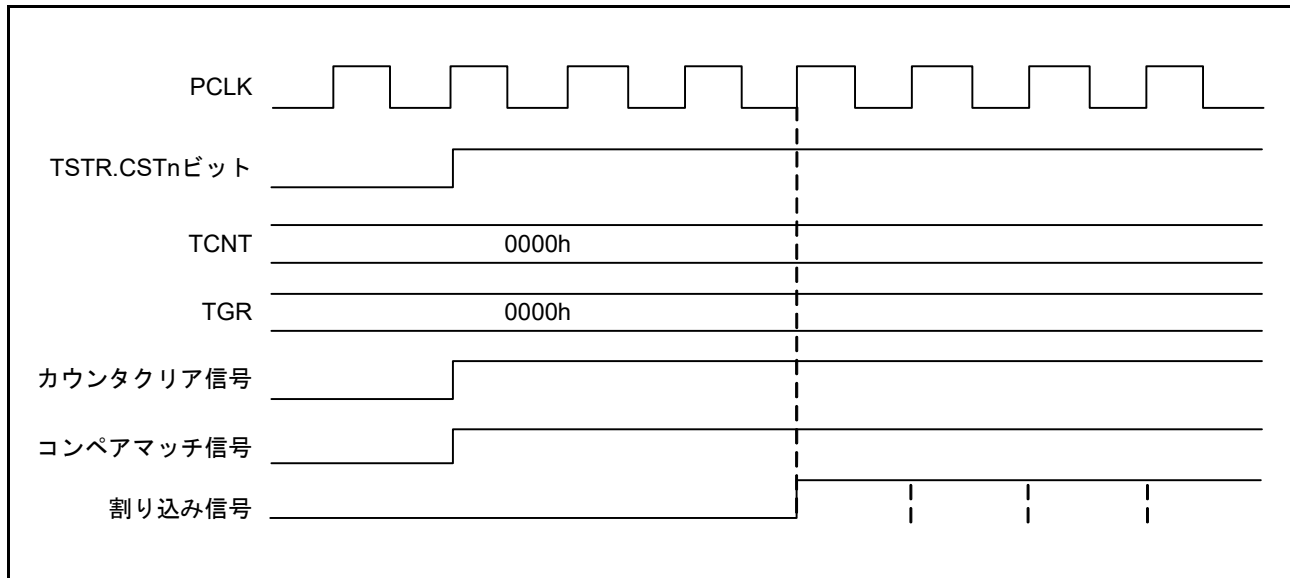


図 20.124 コンペアマッチによる割り込み信号の連続出力

20.6.27 相補 PWM モードにおける A/D 変換ディレイド機能の注意事項

- MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB レジスタに“0”、かつ、MTU4.TADCR レジスタの UT4AE, UT4BE ビットに“1”を設定して、MTU4.TCNT カウンタの谷でバッファ転送したとき、転送直後のアップカウント期間については A/D 変換の開始要求を行いません (図 20.125)。
- MTU4.TADCOBRA, MTU4.TADCOBRB レジスタに TCDR レジスタと同じ値、かつ、MTU4.TADCR レジスタの DT4AE, DT4BE ビットに“1”を設定して、MTU4.TCNT カウンタの山でバッファ転送したとき、転送直後のダウンカウント期間については A/D 変換の開始要求を行いません (図 20.126)。
- 割り込み間引き機能と連動して A/D 変換の開始要求を行う場合、 $2 \leq \text{MTU4.TADCORA/TADCORB} \leq \text{TCDR} - 2$ を満たすように MTU4.TADCORA, MTU4.TADCORB レジスタを設定してください。

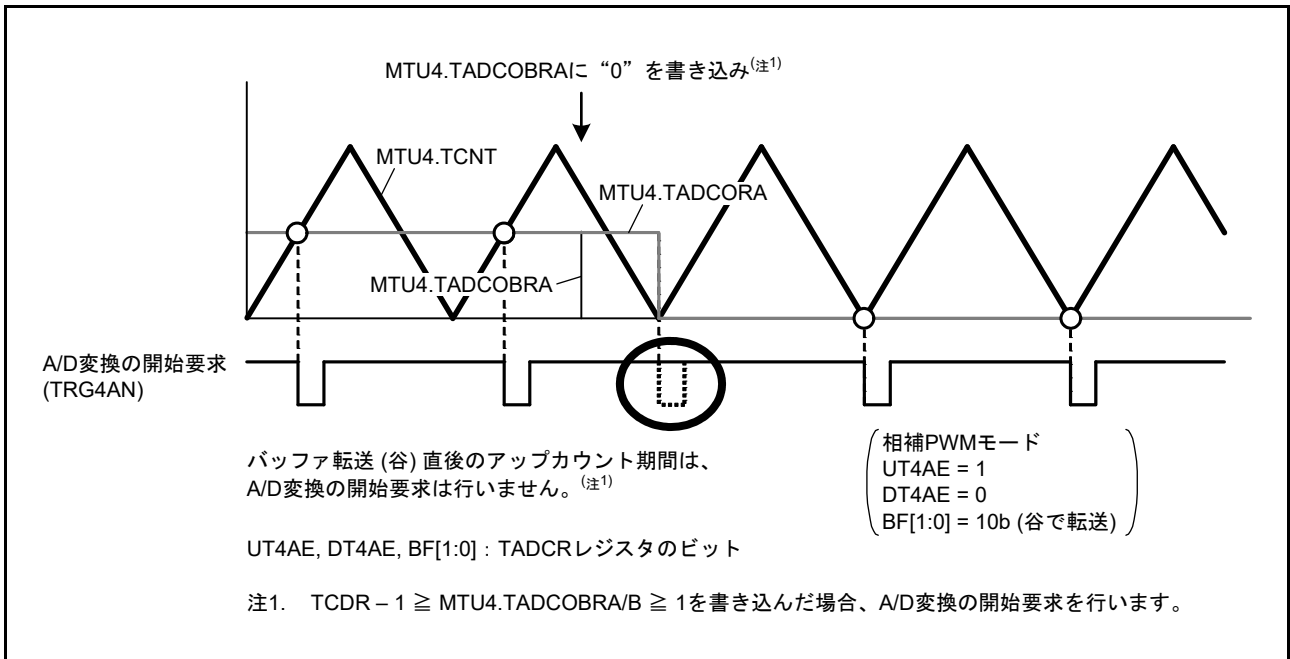


図 20.125 MTU4.TADCOBRAに“0”を書き込んだときのA/D変換の開始要求

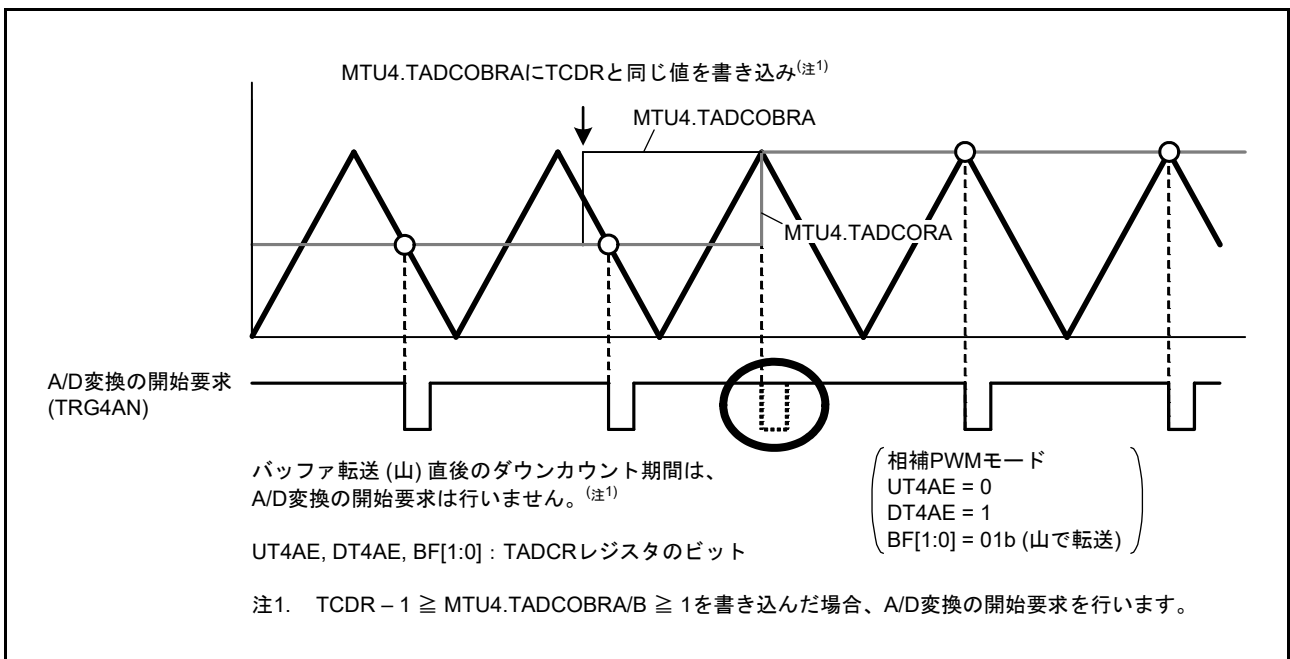


図 20.126 MTU4.TADCOBRAにTCDRと同じ値を書き込んだときのA/D変換の開始要求

20.7 MTU 出力端子の初期化方法

20.7.1 動作モード

MTU には以下の 6 つの動作モードがあり、いずれのモードでも波形出力することができます。

- ノーマルモード (MTU0 ~ MTU4)
- PWM モード 1 (MTU0 ~ MTU4)
- PWM モード 2 (MTU0 ~ MTU2)
- 位相計数モード 1 ~ 4 (MTU1, MTU2)
- 相補 PWM モード (MTU3, MTU4)
- リセット同期 PWM モード (MTU3, MTU4)

ここでは、各モードでの MTU 出力端子の初期化方法について示します。

20.7.2 動作中の異常などによる再設定時の動作

MTU の動作中に異常が発生した場合、システムで MTU の出力を遮断してください。遮断は I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力することにより行ってください。MTU 端子を出力禁止とするには TIOR レジスタで設定してください。相補 PWM 出力端子 (MTIOC3B, MTIOC3D, MTIOC4A, MTIOC4B, MTIOC4C, MTIOC4D) は、TOER レジスタで設定してください。また、PWM 出力端子に関してはポートアウトプットイネーブル 2 (POE) を使用し、ハード的に出力を遮断することも可能です。以下、動作中の異常などによる再設定時の端子の初期化手順と、再設定後別の動作モードで再スタートする場合の手順について示します。

MTU には前述のように 6 つの動作モードがあります。モード遷移の組み合わせは 36 通りとなりますがチャンネルとモードの組み合わせ上存在しない遷移が存在します。この一覧表を表 20.59 に示します。

ただし、下記の表記を使用します。

Normal : ノーマルモード PWM1 : PWM モード 1 PWM2 : PWM モード 2

PCM : 位相計数モード 1 ~ 4 CPWM : 相補 PWM モード RPWM : リセット同期 PWM モード

表 20.59 モード遷移の組み合わせ

	Normal	PWM1	PWM2	PCM	CPWM	RPWM
Normal	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
PWM1	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
PWM2	(13)	(14)	(15)	(16)	none	none
PCM	(17)	(18)	(19)	(20)	none	none
CPWM	(21)	(22)	none	none	(23), (24)	(25)
RPWM	(26)	(27)	none	none	(28)	(29)

20.7.3 動作中の異常などによる端子の初期化手順、モード遷移の概要

- TIOR レジスタの設定で端子の出力レベルを選択するモード (Normal, PWM1, PWM2, PCM) に移行する場合は TIOR レジスタの設定により端子を初期化してください。
- PWM モード1 では MTIOCNB/MTIOCND ($n=3, 4$) 端子に波形が出力されません。端子の機能を MTIOCNB/MTIOCND に設定している場合、当該端子はハイインピーダンス状態になります。出力すべきレベルがある場合は、当該端子を汎用出力ポートに設定してください。
- PWM モード2 では周期レジスタの端子に波形が出力されません。端子の機能を MTIOCNm 端子 ($n=0 \sim 2, m=A \sim D$) に設定している場合、当該端子はハイインピーダンス状態になります。出力すべきレベルがある場合は、当該端子を汎用出力ポートに設定してください。
- ノーマルモードまたは PWM モード2 では TGRC、TGRD レジスタがバッファレジスタとして動作している場合、対応する MTIOCNc/MTIOCND 端子 ($n=0, 3, 4$) に波形が出力されません。端子の機能を MTIOCNc/MTIOCND 端子に設定している場合、当該端子はハイインピーダンス状態になります。出力すべきレベルがある場合は、当該端子を汎用出力ポートに設定してください。
- PWM モード1 では TGRC、TGRD レジスタのいずれか一方がバッファレジスタとして動作している場合、対応する MTIOCNc/MTIOCND 端子 ($n=0, 3, 4$) に波形が出力されません。端子の機能を MTIOCNc/MTIOCND 端子に設定している場合、当該端子はハイインピーダンス状態になります。出力すべきレベルがある場合は、当該端子を汎用出力ポートに設定してください。
- タイマアウトプットコントロールレジスタ (TOCR) の設定で端子の出力レベルを選択するモード (CPWM, RPWM) に移行する場合は、TOER レジスタで MTU3、MTU4 を1度出力禁止にしてください。このとき、端子の機能を MTIOCNm 端子 ($n=3, 4, m=A \sim D$) に設定している場合、当該端子はハイインピーダンス状態になります。出力すべきレベルがある場合は、当該端子を汎用出力ポートに設定してください。ノーマルモードに移行し TIOR レジスタで初期化、TIOR レジスタを初期値に戻した後、モード設定手順 (TOCR 設定、TMDR 設定、TOER 設定) に従い動作させてください。

注. 特に断りがない場合、本項記述中の n にはチャンネル番号が入ります。

以下、表 20.59 の組み合わせ No. に従い端子の初期化手順を示します。なお、アクティブレベルは Low とします。

(1) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.127 に示します。

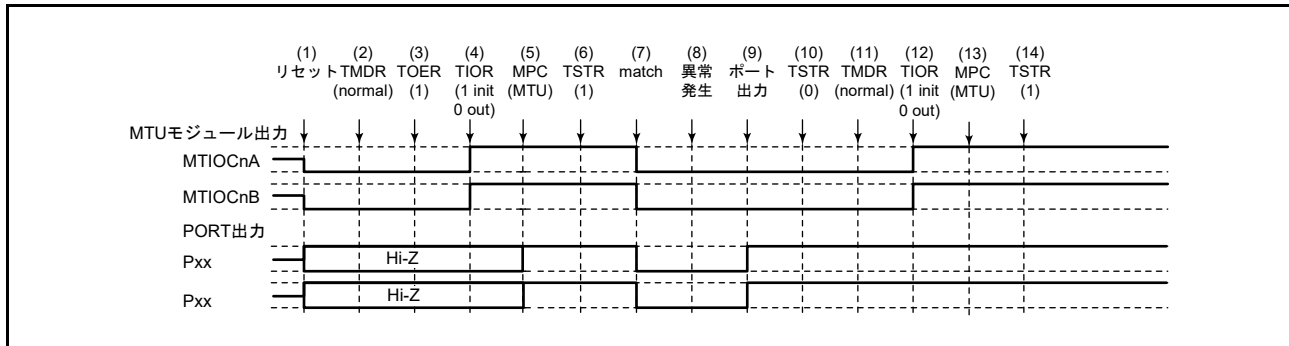


図 20.127 ノーマルモードで異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) リセットにより TMDR レジスタはノーマルモード設定になります。
- (3) MTU3、MTU4 では TIOR レジスタで端子を初期化する前に TOER レジスタで出力を許可してください。
- (4) TIOR レジスタで端子を初期化してください（例は初期出力が High、コンペアマッチで Low 出力です）。
- (5) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (6) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (7) コンペアマッチの発生により Low を出力します。
- (8) 異常が発生しました。
- (9) I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (10) TSTR レジスタでカウント動作を停止します。
- (11) ノーマルモードで再スタートする場合は必要ありません。
- (12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (14) TSTR レジスタで再スタートします。

(2) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、PWM モード1で再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後 PWM モード1で再スタートする場合の説明図を図 20.128 に示します。

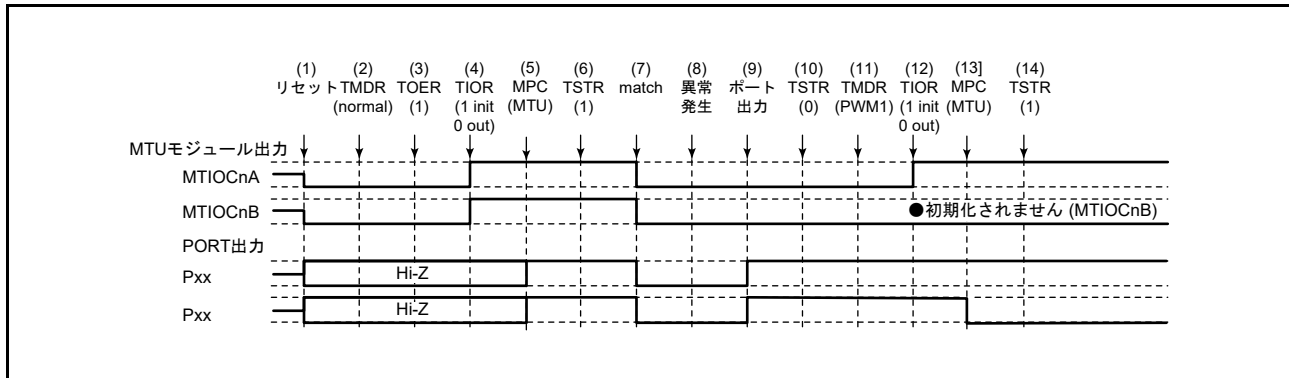


図 20.128 ノーマルモードで異常が発生し、PWM モード1で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.127 と共通です。

(11) PWM モード1を設定します。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード1では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

(3) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、PWM モード2で再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後 PWM モード2で再スタートする場合の説明図を図 20.129 に示します。

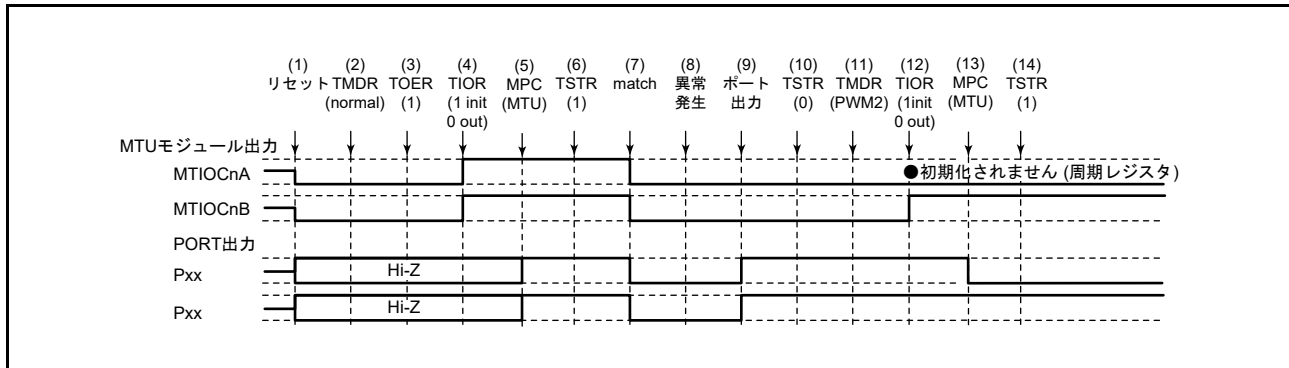


図 20.129 ノーマルモードで異常が発生し、PWM モード2で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.127 と共通です。

(11) PWM モード2を設定します。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード2では周期レジスタの端子は初期化されません。初期化したい場合にはノーマルモードで初期化した後 PWM モード2に移行してください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

注. PWM モード2は MTU0 ~ MTU2 でのみ設定可能です。したがって TOER レジスタの設定は不要です。

(4) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、位相計数モードで再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後位相計数モードで再スタートする場合の説明図を図 20.130 に示します。

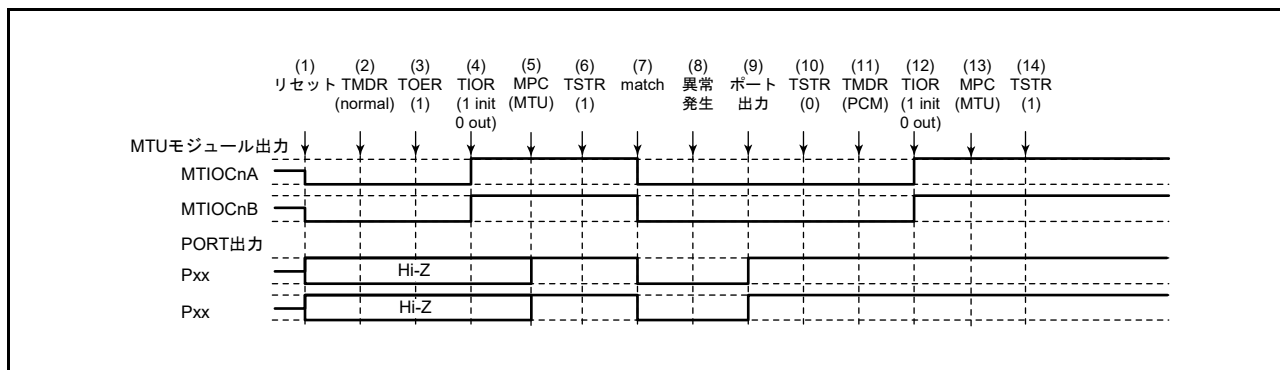


図 20.130 ノーマルモードで異常が発生し、位相計数モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.127 と共通です。

(11) 位相計数モードを設定します。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

注. 位相計数モードは MTU1、MTU2 でのみ設定可能です。したがって TOER レジスタの設定は不要です。

(5) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、相補 PWM モードで再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後相補 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.131 に示します。

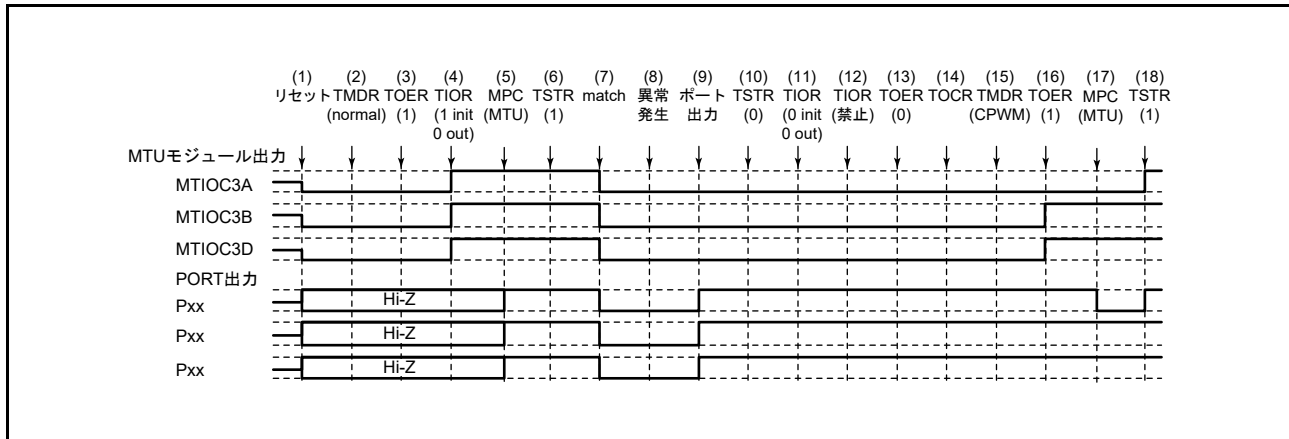


図 20.131 ノーマルモードで異常が発生し、相補 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.127 と共通です。

- (11) TIOR レジスタでノーマルモードの波形生成部を初期化してください。
- (12) TIOR レジスタでノーマルモードの波形生成部の動作を禁止してください。
- (13) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を禁止してください。
- (14) TOCR レジスタで相補 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (15) 相補 PWM モードを設定します。
- (16) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (17) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (18) TSTR レジスタで再スタートします。

(6) ノーマルモードで動作中に異常が発生し、リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の動作

ノーマルモードで異常が発生し、再設定後リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.132 に示します。

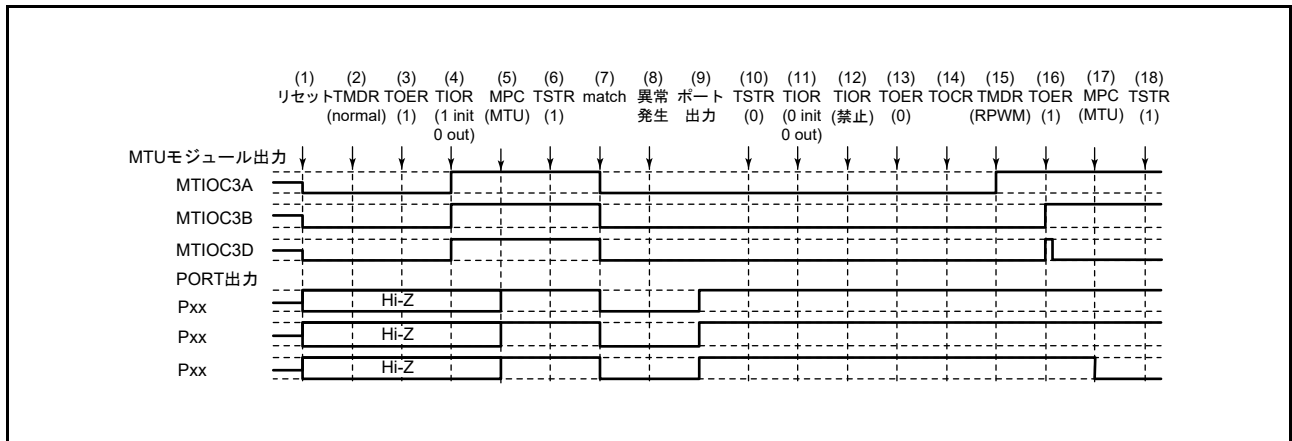


図 20.132 ノーマルモードで異常が発生し、リセット同期 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (13) は図 20.131 と共通です。

(14) TOCR レジスタでリセット同期 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。

(15) リセット同期 PWM モードを設定します。

(16) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。

(17) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(18) TSTR レジスタで再スタートします。

(7) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.133 に示します。

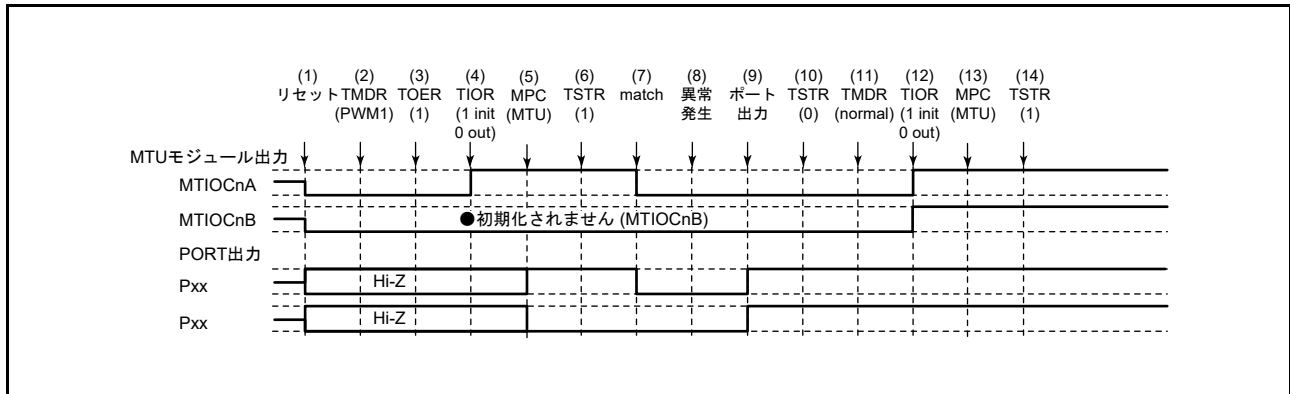


図 20.133 PWM モード 1 で異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) PWM モード 1 を設定してください。
- (3) MTU3、MTU4 では TIOR レジスタで端子を初期化する前に TOER レジスタで出力を許可してください。
- (4) TIOR レジスタで端子を初期化してください（例は初期出力が High、コンペアマッチで Low 出力です。PWM モード 1 では MTIOCnB 側は初期化されません）。
- (5) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (6) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (7) コンペアマッチの発生により Low を出力します。
- (8) 異常が発生しました。
- (9) I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (10) TSTR レジスタでカウント動作を停止します。
- (11) ノーマルモードを設定してください。
- (12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (14) TSTR レジスタで再スタートします。

(8) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、PWM モード 1 で再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後 PWM モード 1 で再スタートする場合の説明図を図 20.134 に示します。

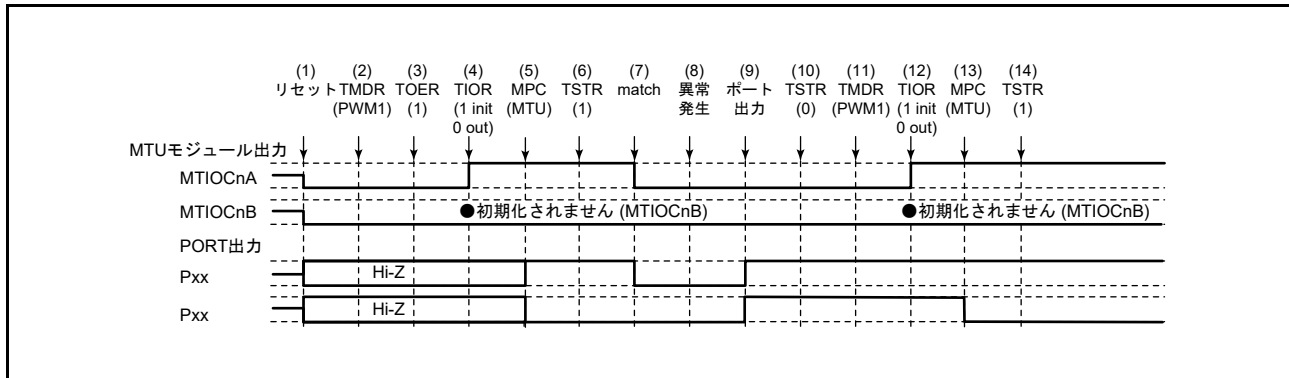


図 20.134 PWM モード 1 で異常が発生し、PWM モード 1 で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.133 と共通です。

(11) PWM モード 1 で再スタートする場合には必要ありません。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 1 では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

(9) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、PWM モード 2 で再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後 PWM モード 2 で再スタートする場合の説明図を図 20.135 に示します。

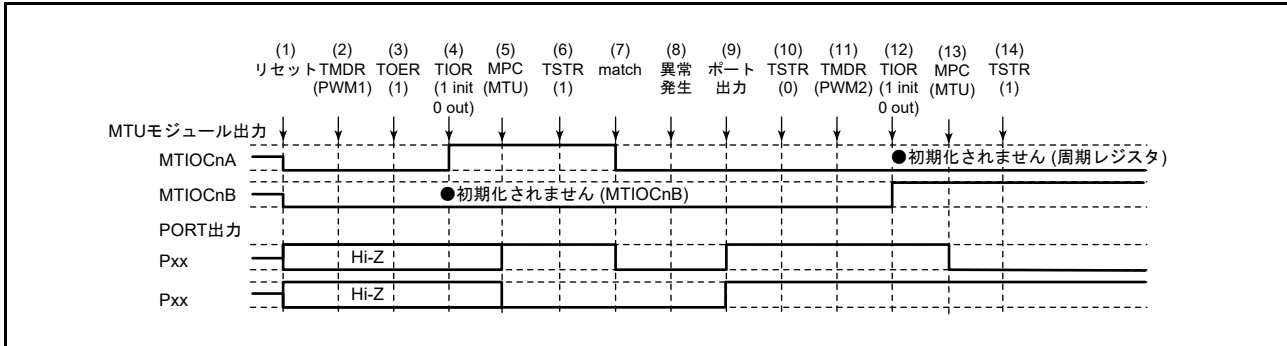


図 20.135 PWM モード 1 で異常が発生し、PWM モード 2 で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.133 と共通です。

(11) PWM モード 2 を設定します。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 2 では周期レジスタの端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

注． PWM モード 2 は MTU0 ~ MTU2 でのみ設定可能です。したがって TOER レジスタの設定は不要です。

(10) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、位相計数モードで再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後位相計数モードで再スタートする場合の説明図を図 20.136 に示します。

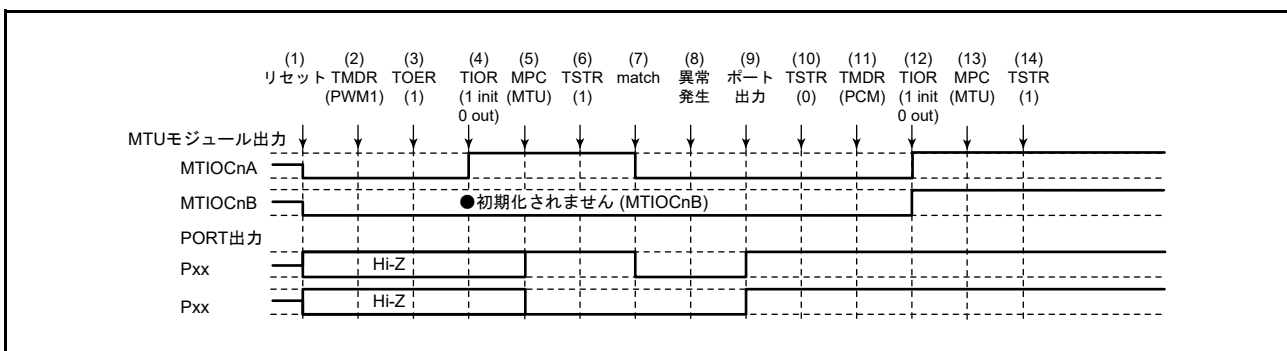


図 20.136 PWM モード 1 で異常が発生し、位相計数モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.133 と共通です。

(11) 位相計数モードを設定します。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

注． 位相計数モードは MTU1、MTU2 でのみ設定可能です。したがって TOER レジスタの設定は不要です。

(11) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、相補 PWM モードで再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後相補 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.137 に示します。

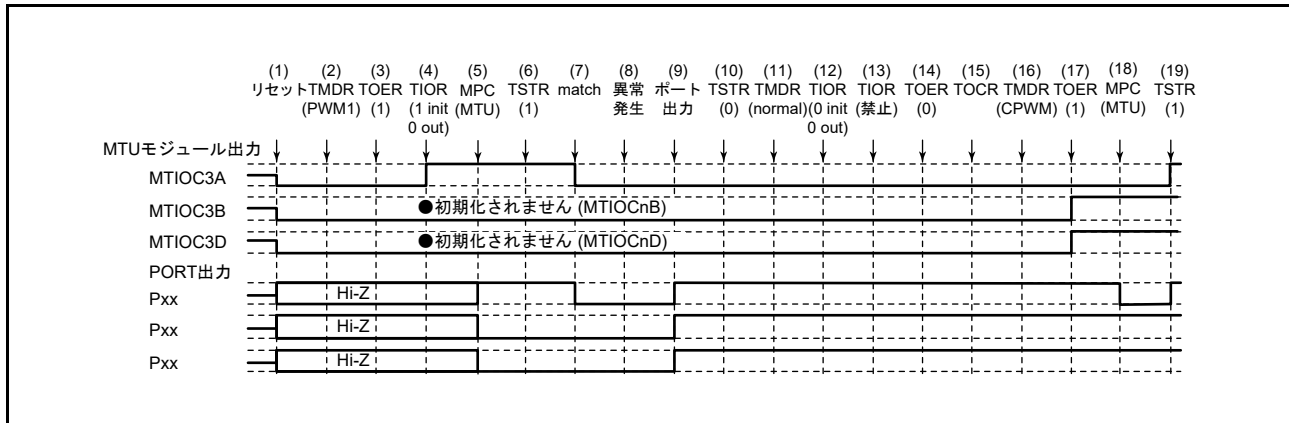


図 20.137 PWM モード 1 で異常が発生し、相補 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.133 と共通です。

- (11) 波形生成部の初期化のためノーマルモードを設定してください。
- (12) TIOR レジスタで PWM モード 1 の波形生成部を初期化してください。
- (13) TIOR レジスタで PWM モード 1 の波形生成部の動作を禁止してください。
- (14) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を禁止してください。
- (15) TOCR レジスタで相補 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (16) 相補 PWM モードを設定します。
- (17) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (18) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (19) TSTR レジスタで再スタートします。

(12) PWM モード 1 で動作中に異常が発生し、リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の動作

PWM モード 1 で異常が発生し、再設定後リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.138 に示します。

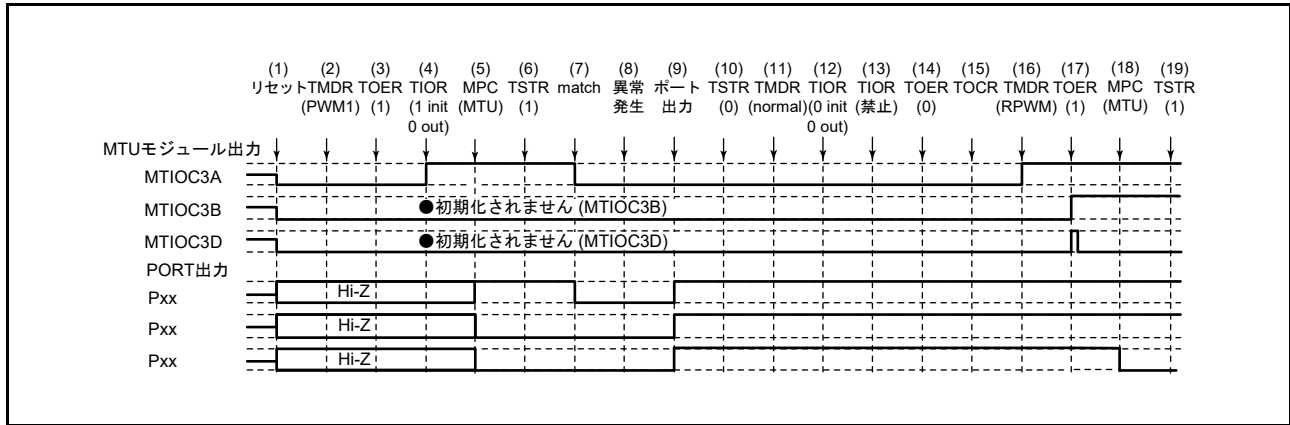


図 20.138 PWM モード 1 で異常が発生し、リセット同期 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (14) は図 20.137 と共通です。

(15) TOCR レジスタでリセット同期 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。

(16) リセット同期 PWM モードを設定します。

(17) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。

(18) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(19) TSTR レジスタで再スタートします。

(13) PWM モード 2 で動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

PWM モード 2 で異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.139 に示します。

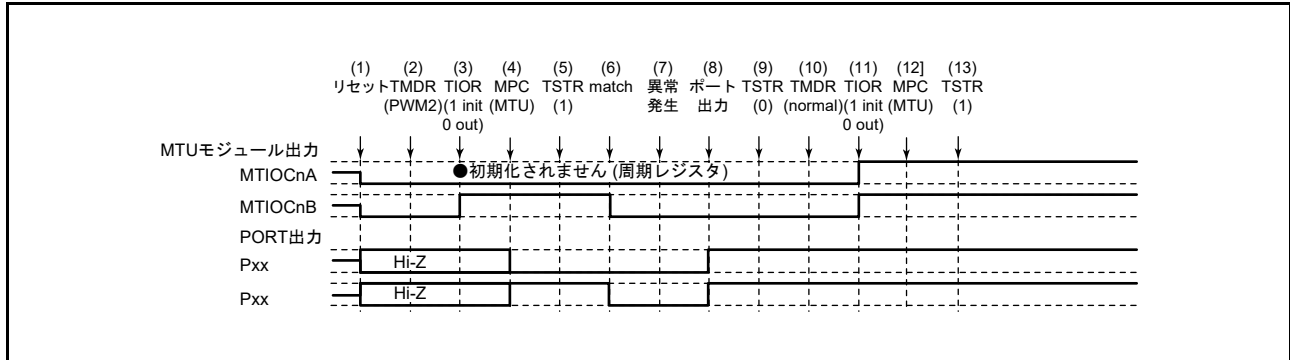


図 20.139 PWM モード 2 で異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) PWM モード 2 を設定してください。
- (3) TIOR レジスタで端子を初期化してください（例は初期出力が High、コンペアマッチで Low 出力です。PWM モード 2 では周期レジスタの端子は初期化されません。例は MTIOCnA が周期レジスタの場合です）。
- (4) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ（PMR）で MTU 出力としてください。
- (5) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (6) コンペアマッチの発生により Low を出力します。
- (7) 異常が発生しました。
- (8) I/O ポートのポート方向レジスタ（PDR）、ポート出力データレジスタ（PODR）、ポートモードレジスタ（PMR）で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (9) TSTR レジスタでカウント動作を停止します。
- (10) ノーマルモードを設定してください。
- (11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ（PMR）で MTU 出力としてください。
- (13) TSTR レジスタで再スタートします。

(14) PWM モード 2 で動作中に異常が発生し、PWM モード 1 で再スタートする場合の動作

PWM モード 2 で異常が発生し、再設定後 PWM モード 1 で再スタートする場合の説明図を図 20.140 に示します。

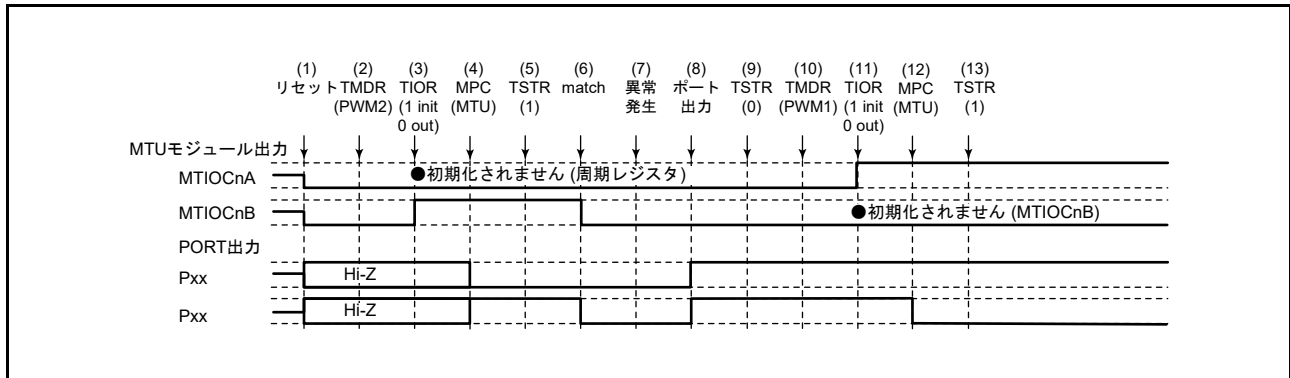


図 20.140 PWM モード 2 で異常が発生し、PWM モード 1 で復帰する場合

(1) ~ (9) は図 20.139 と共通です。

(10) PWM モード 1 を設定します。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 1 では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(15) PWM モード 2 で動作中に異常が発生し、PWM モード 2 で再スタートする場合の動作

PWM モード 2 で異常が発生し、再設定後 PWM モード 2 で再スタートする場合の説明図を図 20.141 に示します。

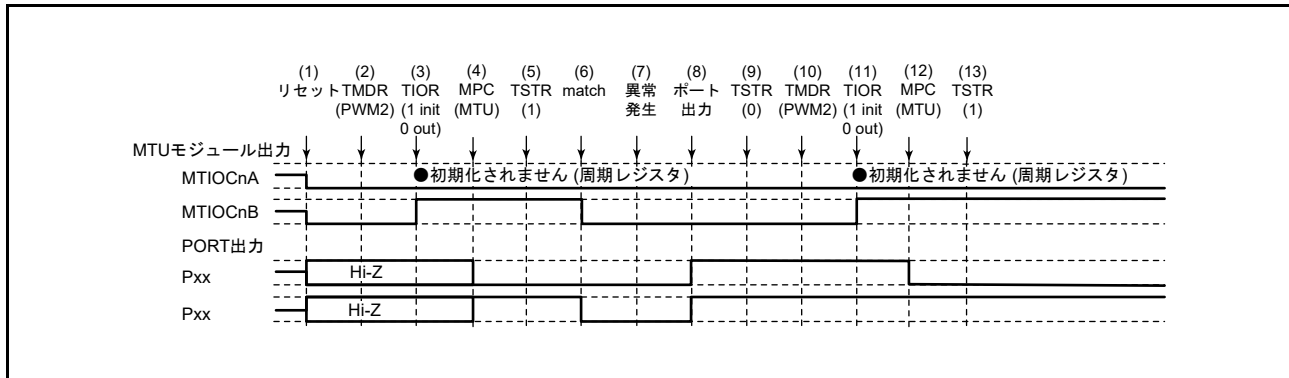


図 20.141 PWM モード 2 で異常が発生し、PWM モード 2 で復帰する場合

(1)～(9)は図 20.139 と共通です。

(10) PWM モード 2 で再スタートする場合には必要ありません。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 2 では周期レジスタの端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(16) PWM モード 2 で動作中に異常が発生し、位相計数モードで再スタートする場合の動作

PWM モード 2 で異常が発生し、再設定後位相計数モードで再スタートする場合の説明図を図 20.142 に示します。

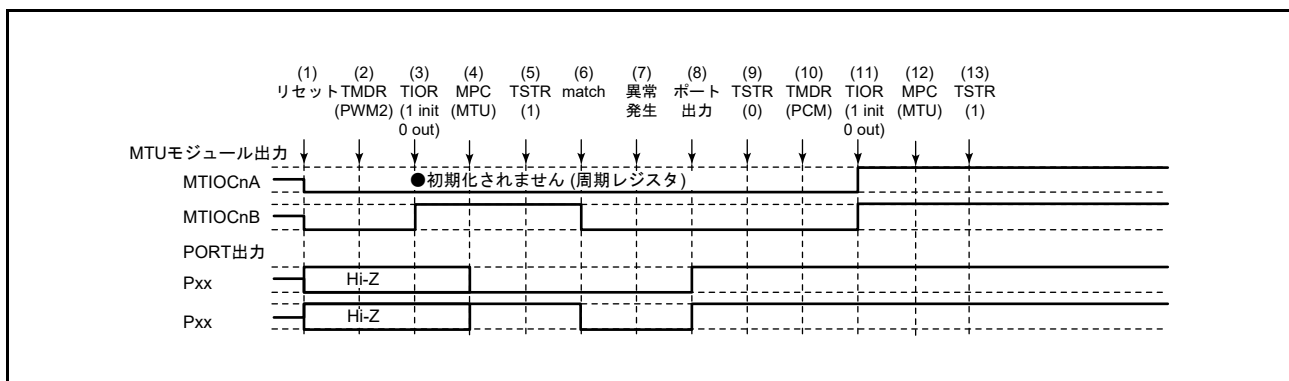


図 20.142 PWM モード 2 で異常が発生し、位相計数モードで復帰する場合

(1)～(9)は図 20.139 と共通です。

(10) 位相計数モードを設定します。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(17) 位相計数モードで動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

位相計数モードで異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.143 に示します。

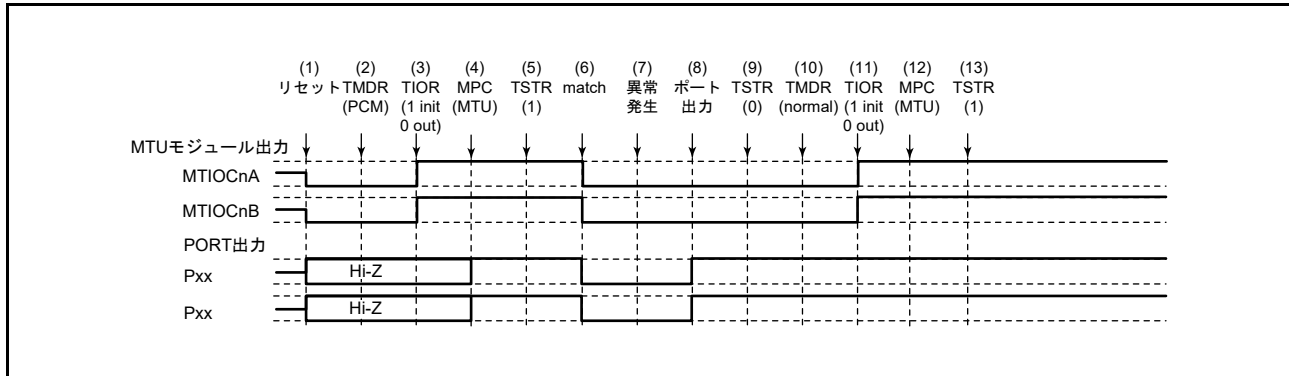


図 20.143 位相計数モードで異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) 位相計数モードを設定してください。
- (3) TIOR レジスタで端子を初期化してください（例は初期出力が High、コンペアマッチで Low 出力です）。
- (4) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (5) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (6) コンペアマッチの発生により Low を出力します。
- (7) 異常が発生しました。
- (8) I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (9) TSTR レジスタでカウント動作を停止します。
- (10) ノーマルモードで設定してください。
- (11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (13) TSTR レジスタで再スタートします。

(18) 位相計数モードで動作中に異常が発生し、PWM モード1で再スタートする場合の動作

位相計数モードで異常が発生し、再設定後 PWM モード1で再スタートする場合の説明図を図 20.144 に示します。

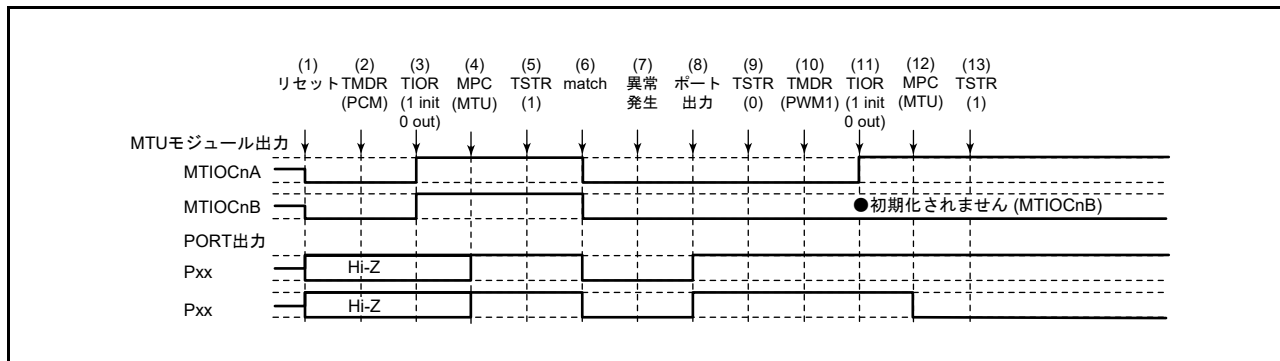


図 20.144 位相計数モードで異常が発生し、PWM モード1で復帰する場合

(1) ~ (9) は図 20.143 と共通です。

(10) PWM モード1を設定します。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード1では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(19) 位相計数モードで動作中に異常が発生し、PWM モード2で再スタートする場合の動作

位相計数モードで異常が発生し、再設定後 PWM2 モードで再スタートする場合の説明図を図 20.145 に示します。

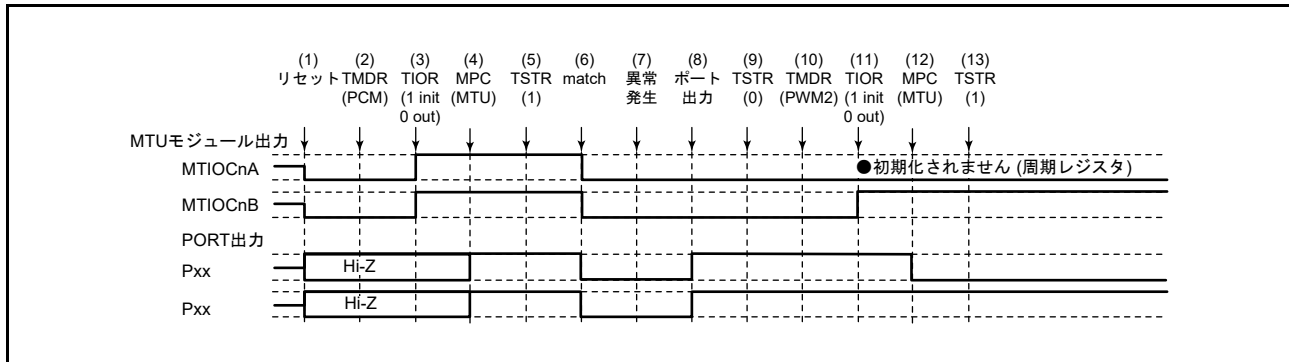


図 20.145 位相計数モードで異常が発生し、PWM モード2で復帰する場合

(1) ~ (9) は図 20.143 と共通です。

(10) PWM モード2を設定します。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード1では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(20) 位相計数モードで動作中に異常が発生し、位相計数モードで再スタートする場合の動作

位相計数モードで異常が発生し、再設定後位相計数モードで再スタートする場合の説明図を図 20.146 に示します。

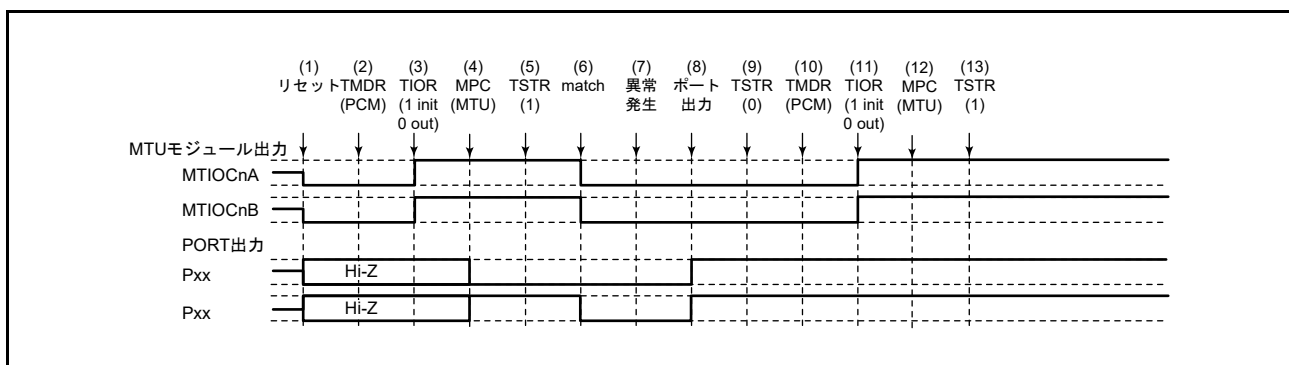


図 20.146 位相計数モードで異常が発生し、位相計数モードで復帰する場合

(1) ~ (9) は図 20.143 と共通です。

(10) 位相計数モードで再スタートする場合には必要ありません。

(11) TIOR レジスタで端子を初期化してください。

(12) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(13) TSTR レジスタで再スタートします。

(21) 相補 PWM モードで動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

相補 PWM モードで異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.147 に示します。

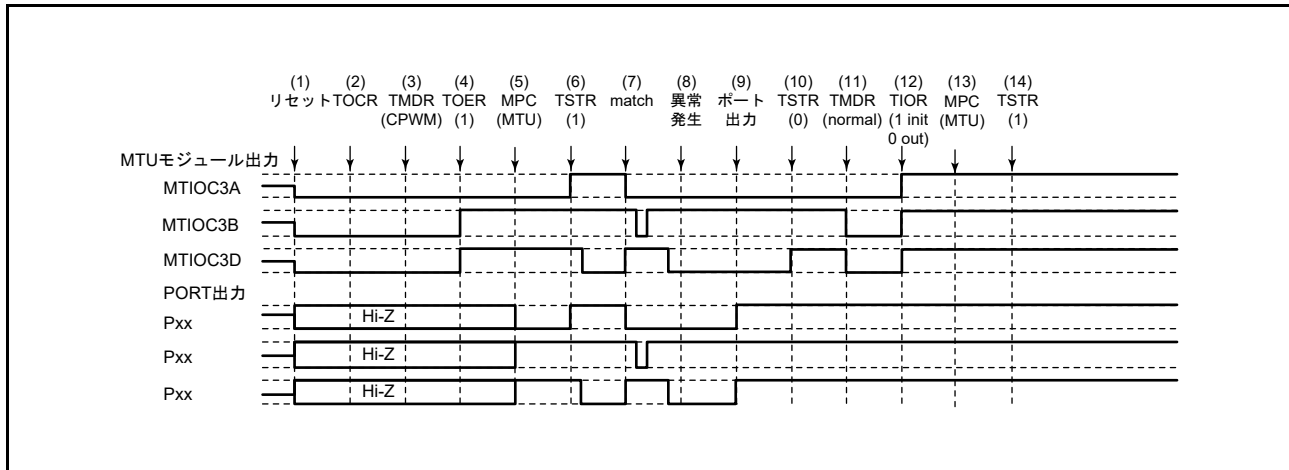


図 20.147 相補 PWM モードで異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) TOCR レジスタで相補 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (3) 相補 PWM モードを設定します。
- (4) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (5) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (6) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (7) コンペアマッチの発生により相補 PWM 波形を出力します。
- (8) 異常が発生しました。
- (9) I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (10) TSTR レジスタでカウント動作を停止します (MTU 出力は相補 PWM 出力初期値となります)。
- (11) ノーマルモードを設定してください (MTU 出力は Low となります)。
- (12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (14) TSTR レジスタで再スタートします。

(22) 相補 PWM モードで動作中に異常が発生し、PWM モード 1 で再スタートする場合の動作

相補 PWM モードで異常が発生し、再設定後 PWM モード 1 で再スタートする場合の説明図を図 20.148 に示します。

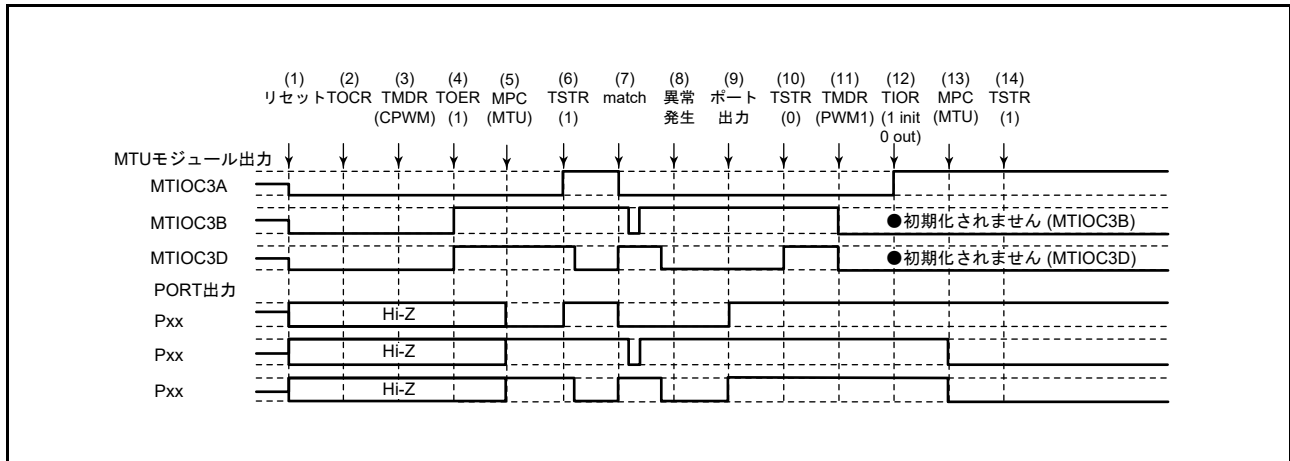


図 20.148 相補 PWM モードで異常が発生し、PWM モード 1 で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.147 と共通です。

(11) PWM モード 1 を設定してください (MTU 出力は Low となります)。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 1 では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

(23) 相補 PWM モードで動作中に異常が発生し、相補 PWM モードで再スタートする場合の動作

相補 PWM モードで異常が発生し、再設定後相補 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.149 に示します (周期、デューティ設定をカウンタを止めたときの値から再スタートする場合)。

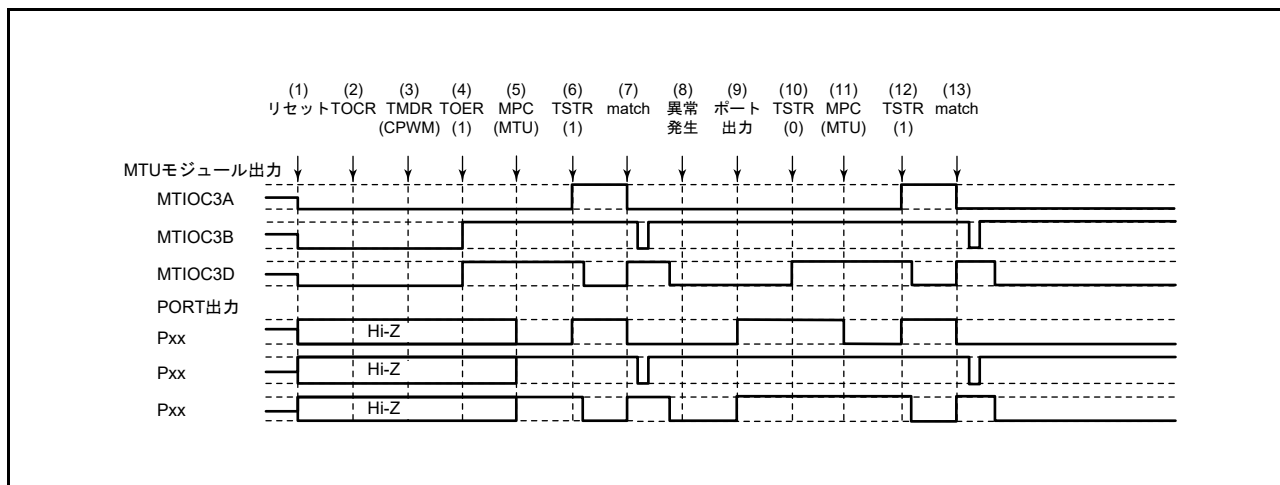


図 20.149 相補 PWM モードで異常が発生し、相補 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.147 と共通です。

(11) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(12) TSTR レジスタで再スタートします。

(13) コンペアマッチの発生により相補 PWM 波形を出力します。

(24) 相補 PWM モードで動作中に異常が発生し、相補 PWM モードで新たに再スタートする場合の動作

相補 PWM モードで異常が発生し、再設定後相補 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.150 に示します（周期、デューティ設定を全く新しい設定値で再スタートする場合）。

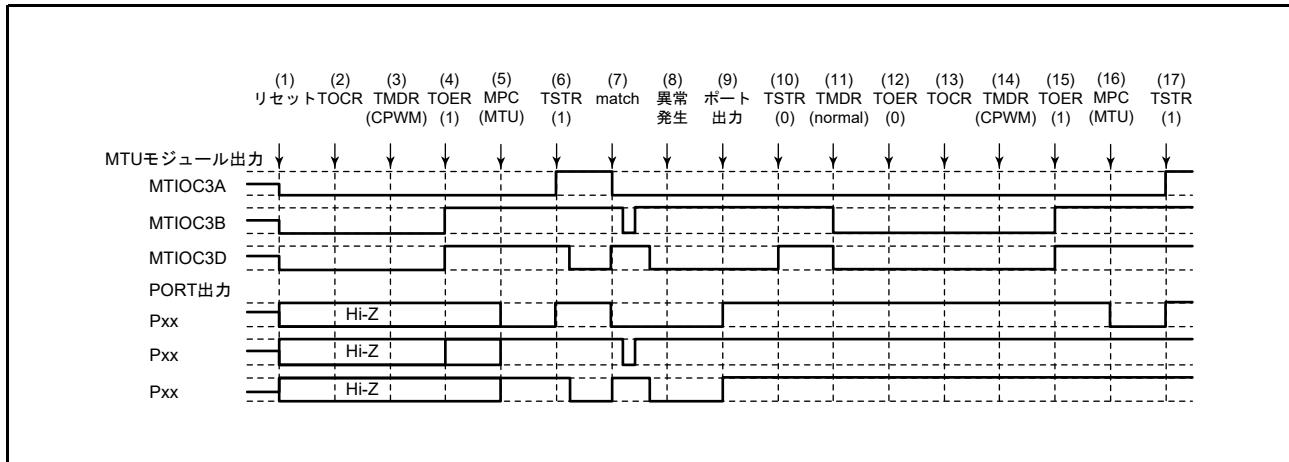


図 20.150 相補 PWM モードで異常が発生し、相補 PWM モードで復帰する場合

(1)～(10)は図 20.147 と共通です。

- (11) ノーマルモードを設定し新しい設定値を設定してください（MTU 出力は Low となります）。
- (12) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を禁止してください。
- (13) TOCR レジスタで相補 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (14) 相補 PWM モードを設定します。
- (15) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (16) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ（PMR）で MTU 出力としてください。
- (17) TSTR レジスタで再スタートします。

(25) 相補 PWM モードで動作中に異常が発生し、リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の動作

相補 PWM モードで異常が発生し、再設定後リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.151 に示します。

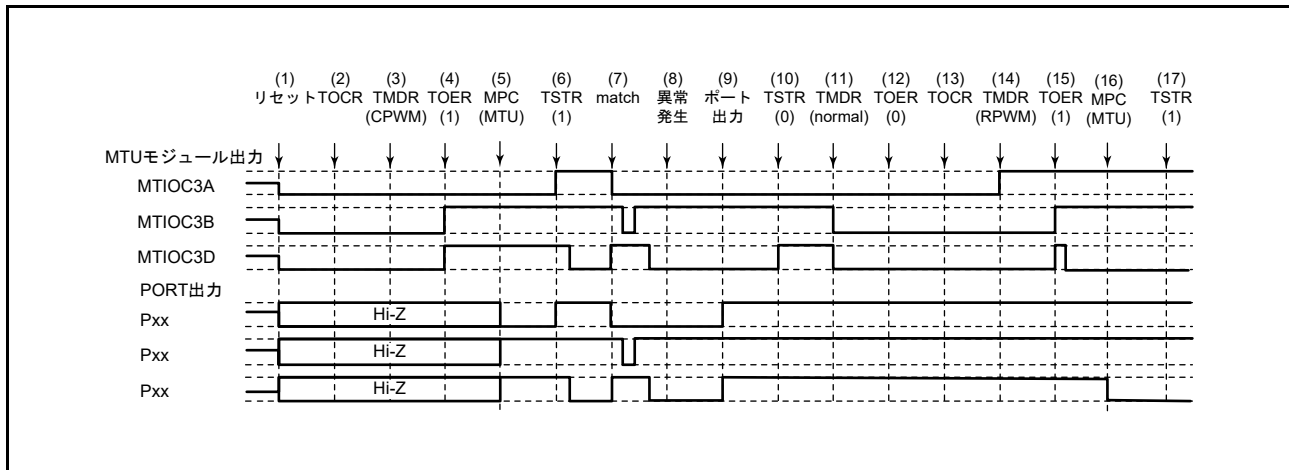


図 20.151 相補 PWM モードで異常が発生し、リセット同期 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.147 と共通です。

(11) ノーマルモードを設定してください (MTU 出力は Low となります)。

(12) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を禁止してください。

(13) TOCR レジスタでリセット同期 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。

(14) リセット同期 PWM モードを設定します。

(15) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。

(16) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(17) TSTR レジスタで再スタートします。

(26) リセット同期 PWM モードで動作中に異常が発生し、ノーマルモードで再スタートする場合の動作

リセット同期 PWM モードで異常が発生し、再設定後ノーマルモードで再スタートする場合の説明図を図 20.152 に示します。

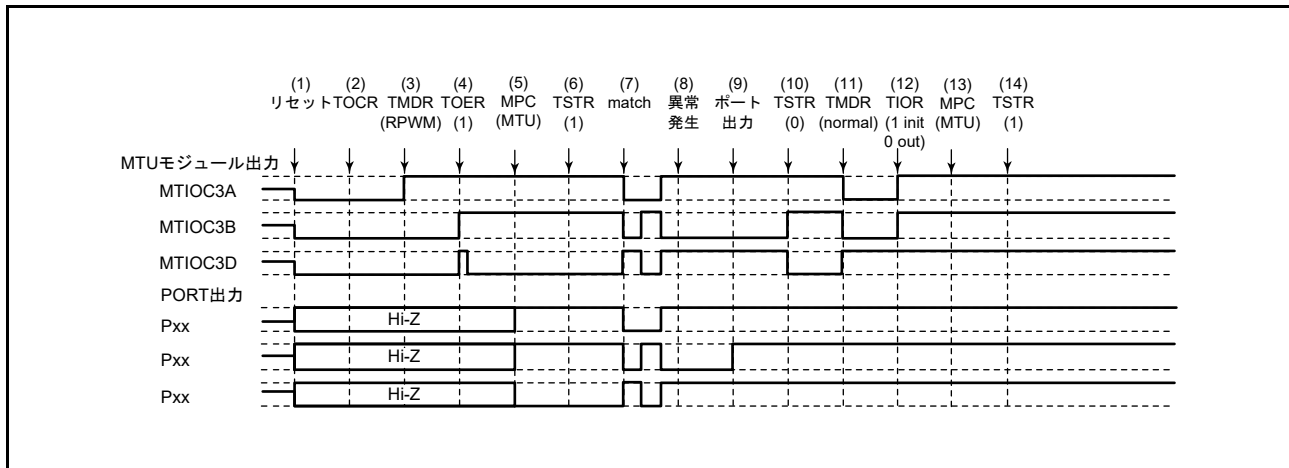


図 20.152 リセット同期 PWM モードで異常が発生し、ノーマルモードで復帰する場合

- (1) リセットにより MTU 出力は Low、ポートはハイインピーダンスになります。
- (2) TOCR レジスタでリセット同期 PWM の出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (3) リセット同期 PWM モードを設定します。
- (4) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (5) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (6) TSTR レジスタでカウント動作を開始します。
- (7) コンペアマッチの発生によりリセット同期 PWM 波形を出力します。
- (8) 異常が発生しました。
- (9) I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR)、ポートモードレジスタ (PMR) で端子を汎用出力ポートに切り替え、非アクティブレベルを出力してください。
- (10) TSTR レジスタでカウント動作を停止します (MTU 出力はリセット同期 PWM 出力初期値となります)。
- (11) ノーマルモードを設定してください (MTU 出力は正相側が Low、逆相側が High となります)。
- (12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。
- (13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (14) TSTR レジスタで再スタートします。

(27) リセット同期 PWM モードで動作中に異常が発生し、PWM モード 1 で再スタートする場合の動作

リセット同期 PWM モードで異常が発生し、再設定後 PWM モード 1 で再スタートする場合の説明図を図 20.153 に示します。

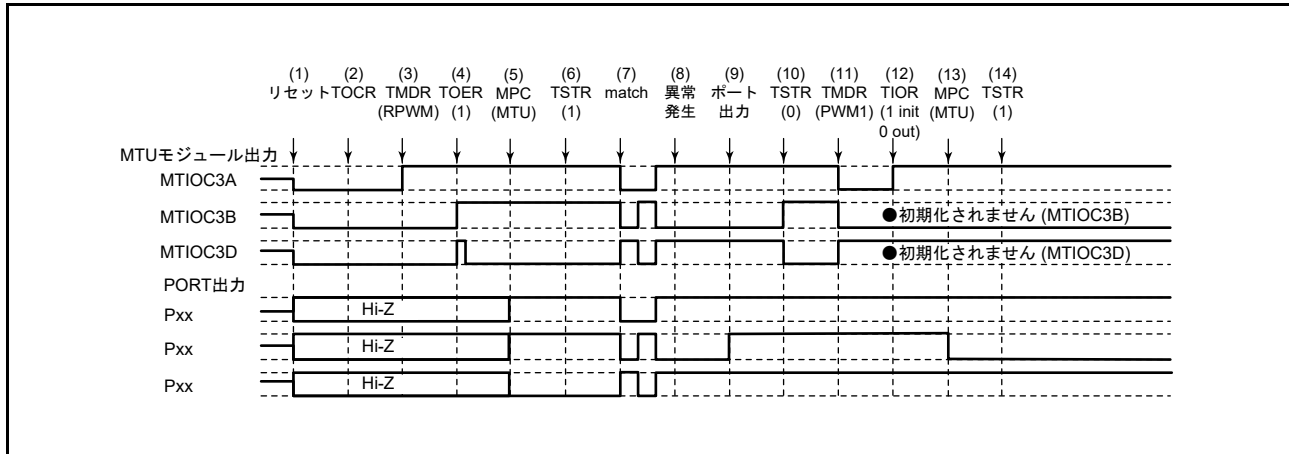


図 20.153 リセット同期 PWM モードで異常が発生し、PWM モード 1 で復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.152 と共通です。

(11) PWM モード 1 を設定してください (MTU 出力は正相側が Low、逆相側が High となります)。

(12) TIOR レジスタで端子を初期化してください。なお、PWM モード 1 では MTIOCnB (MTIOCnD) 端子に波形が出力されません。出力すべきレベルがある場合は、I/O ポートのポート方向レジスタ (PDR)、ポート出力データレジスタ (PODR) で汎用出力ポートの設定をしてください。

(13) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(14) TSTR レジスタで再スタートします。

(28) リセット同期 PWM モードで動作中に異常が発生し、相補 PWM モードで再スタートする場合の動作

リセット同期 PWM モードで異常が発生し、再設定後相補 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.154 に示します。

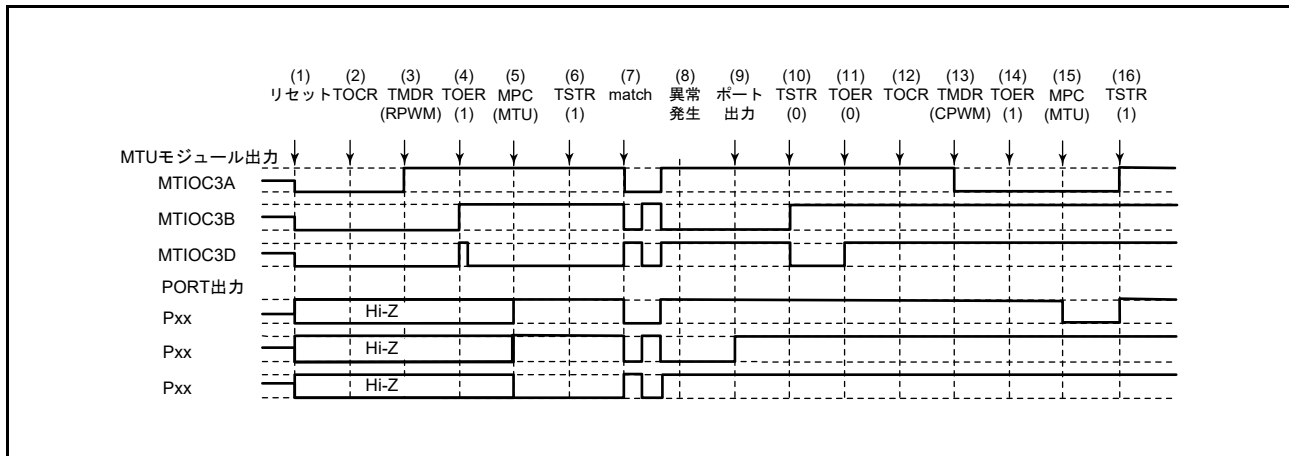


図 20.154 リセット同期 PWM モードで異常が発生し、相補 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.152 と共通です。

- (11) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を禁止してください。
- (12) TOCR レジスタで相補 PWM モードの出力レベルと周期出力の許可 / 禁止を選択してください。
- (13) 相補 PWM を設定します (MTU の周期出力端子は Low になります)。
- (14) TOER レジスタで MTU3、MTU4 の出力を許可してください。
- (15) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。
- (16) TSTR レジスタで再スタートします。

(29) リセット同期 PWM モードで動作中に異常が発生し、リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の動作

リセット同期 PWM モードで異常が発生し、再設定後リセット同期 PWM モードで再スタートする場合の説明図を図 20.155 に示します。

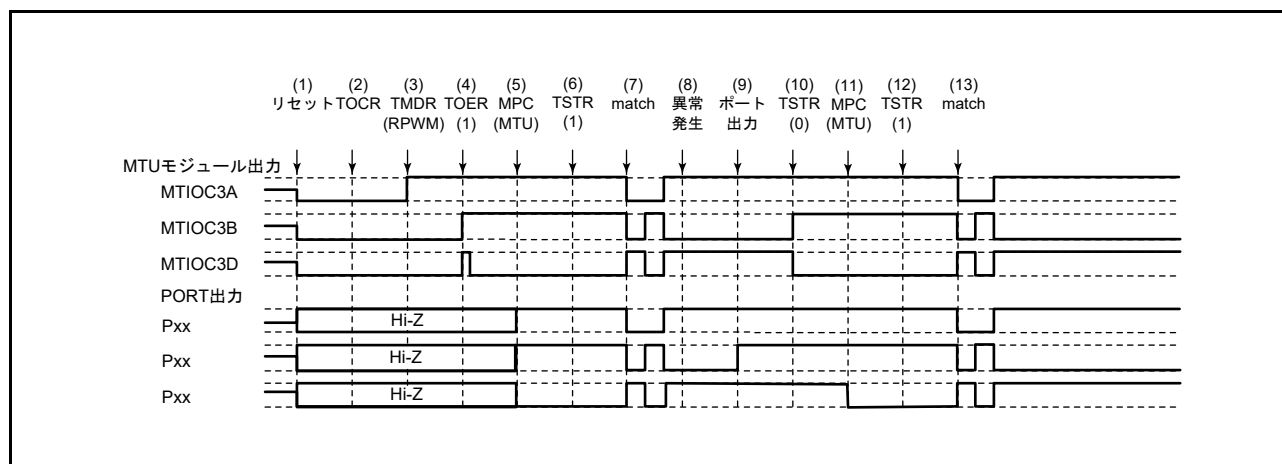


図 20.155 リセット同期 PWM モードで異常が発生し、リセット同期 PWM モードで復帰する場合

(1) ~ (10) は図 20.152 と共通です。

(11) MPC と I/O ポートのポートモードレジスタ (PMR) で MTU 出力としてください。

(12) TSTR レジスタで再スタートします。

(13) コンペアマッチの発生によりリセット同期 PWM 波形を出力します。

20.8 ELC によるリンク動作

20.8.1 ELC へのイベント信号出力

MTU はイベントリンクコントローラ (ELC) により、割り込み要求信号をイベント信号として使用して、あらかじめ設定したモジュールに対してリンク動作が可能です。

イベント信号は、該当する割り込み要求許可ビットの設定に関係なく出力することができます。

20.8.2 ELC からのイベント信号受信による MTU の動作

MTU は ELC の ELSRn レジスタの設定により、あらかじめ設定したイベントによる次の動作が可能です。

(1) カウントスタート動作

ELC の ELOPA、ELOPB レジスタで MTU のカウントスタート動作を選択します。ELOPA レジスタは MTU1 ~ MTU3、ELOPB レジスタは MTU4 に機能します。MTU の設定するチャンネルの TMDR レジスタはリセット後の値“00h”にしてください。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、表 20.60 に示した TSTR.CSTn ビットが“1”になり、MTU のカウントがスタートします。

ただし、TSTR.CSTn ビットが“1”のときに指定したイベントが発生した場合は、そのイベントは無効となります。各チャンネルに対して使用する TSTR レジスタのビット名は表 20.60 を参照してください。

カウントスタート動作の設定手順の詳細については「20.3.1 (1) カウンタの動作」を参照ください。

表 20.60 ELC とリンク動作するタイマスタートレジスタ

チャンネル番号	タイマスタートレジスタ
MTU1	TSTR.CST1 ビット
MTU2	TSTR.CST2 ビット
MTU3	TSTR.CST3 ビット
MTU4	TSTR.CST4 ビット

(2) インพุットキャプチャ動作

ELC の ELOPA、ELOPB レジスタで MTU2 のインพุットキャプチャ動作を選択します。ELOPA レジスタは MTU1 ~ MTU3、ELOPB レジスタは MTU4 に対応します。MTU の設定するチャンネルの TMDR レジスタはリセット後の値“00h”にしてください。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCNT カウンタの値を TGR レジスタへキャプチャします。イベントリンクによるインพุットキャプチャ動作を使用する場合は、MTU の TIOR レジスタのビットをインพุットキャプチャに設定し、TSTR.CSTn ビットを“1”にしカウンタをスタートさせてください。

このとき TIOcNA 端子 (インพุットキャプチャ端子) の入力は無効となります。

各チャンネルに対して使用する TGR レジスタ、TIOR レジスタのビット名は表 20.61 を参照してください。

インพุットキャプチャの設定手順の詳細については「20.3.1 (3) インพุットキャプチャ機能」を参照ください。

表 20.61 ELC 動作時のインพุットキャプチャ動作において使用する各チャンネルでのタイマジェネラルレジスタ、タイマ I/O コントロールレジスタ

チャンネル番号	タイマジェネラルレジスタ	タイマ I/O コントロールレジスタのビット名
MTU1	MTU1.TGRA レジスタ	MTU1.TIOR.IOA[3:0] ビット
MTU2	MTU2.TGRA レジスタ	MTU2.TIOR.IOA[3:0] ビット
MTU3	MTU3.TGRA レジスタ	MTU3.TIORH.IOA[3:0] ビット
MTU4	MTU4.TGRA レジスタ	MTU4.TIORH.IOA[3:0] ビット

(3) カウントリスタート動作

ELC の ELOPA、ELOPB レジスタで MTU のカウントリスタート動作を選択します。ELOPA レジスタは MTU1 ~ MTU3、ELOPB レジスタは MTU4 に対応します。MTU の設定するチャンネルの TMDR レジスタはリセット後の値 “00h” にしてください。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCNT カウンタの値が初期値に書き換わります。TSTR.CSTn ビットが “1” になっていればカウント動作を継続することができます。対応する TSTR.CSTn ビットは表 20.60 を参照ください。

20.8.3 ELC からのイベント信号受信による MTU の注意事項

以下に MTU をイベントリンクによる動作で使用する際の注意事項を示します。

(1) カウントスタート動作

TSTR.CSTn ビットへのライトサイクル中に ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TSTR.CSTn ビットへの書き込みサイクルは行われずイベント発生による “1” 書き込みが優先されます。

(2) カウントリスタート動作

TCNT カウンタへのライトサイクル中に ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCNT カウンタへの書き込みサイクルは行われずイベント発生によるカウント値の初期化が優先されます。

21. ポートアウトプットイネーブル2 (POE2a)

ポートアウトプットイネーブル2 (POE) は、POE0# ~ POE3#、POE8# 端子の入力変化、MTU 相補 PWM 出力端子 (MTIOC3B, MTIOC3D, MTIOC4A, MTIOC4B, MTIOC4C, MTIOC4D) の出力状態、クロック発生回路の発振停止検出、レジスタ設定 (SPOER レジスタ) によって MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 出力端子 (MTIOC0A, MTIOC0B, MTIOC0C, MTIOC0D) をハイインピーダンスにすることができます。

また、同時に割り込み要求を発行することができます。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

21.1 概要

表 21.1 に POE の仕様を、図 21.1 に POE のブロック図を示します。

表 21.1 POE の仕様

項目	内容
入力レベル検出による ハイインピーダンス制御	<ul style="list-style-type: none"> POE0# ~ POE3#、POE8# の各入力端子に立ち下がリエッジ、PCLK/8クロックごとに16回、PCLK/16クロックごとに16回、PCLK/128クロックごとに16回のLowサンプリングが設定可能 POE0# ~ POE3# 端子の立ち下がリエッジまたはLowサンプリングによって、MTU相補PWM出力端子をハイインピーダンスに設定可能 POE8# 端子の立ち下がリエッジまたはLowサンプリングによって、MTU0出力端子をハイインピーダンスに設定可能
出力レベル比較による ハイインピーダンス制御	<ul style="list-style-type: none"> MTU相補PWM出力端子の出力レベルを比較し、同時にアクティブレベル出力が1PCLKクロック以上続いた場合、MTU相補PWM出力端子をハイインピーダンスに設定可能
発振停止検出による ハイインピーダンス制御	<ul style="list-style-type: none"> クロック発生回路が発振停止した場合、MTU相補PWM出力端子およびMTU0出力端子をハイインピーダンスに設定可能
ソフトウェア (レジスタ) による ハイインピーダンス制御	<ul style="list-style-type: none"> POEのレジスタ書き込みをすることで、MTU相補PWM出力端子およびMTU0出力端子をハイインピーダンスに設定可能
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> POE0# ~ POE3#、POE8# の入力レベル検出結果またはMTU相補PWM出力端子の出力レベルの比較結果により、それぞれの割り込みを発生

POE は、図 21.1 のブロック図に示すように入力レベル検出回路、出力レベル比較回路、クロック発生回路の発振停止検出信号の入力、およびハイインピーダンス要求 / 割り込み要求生成回路から構成されます。

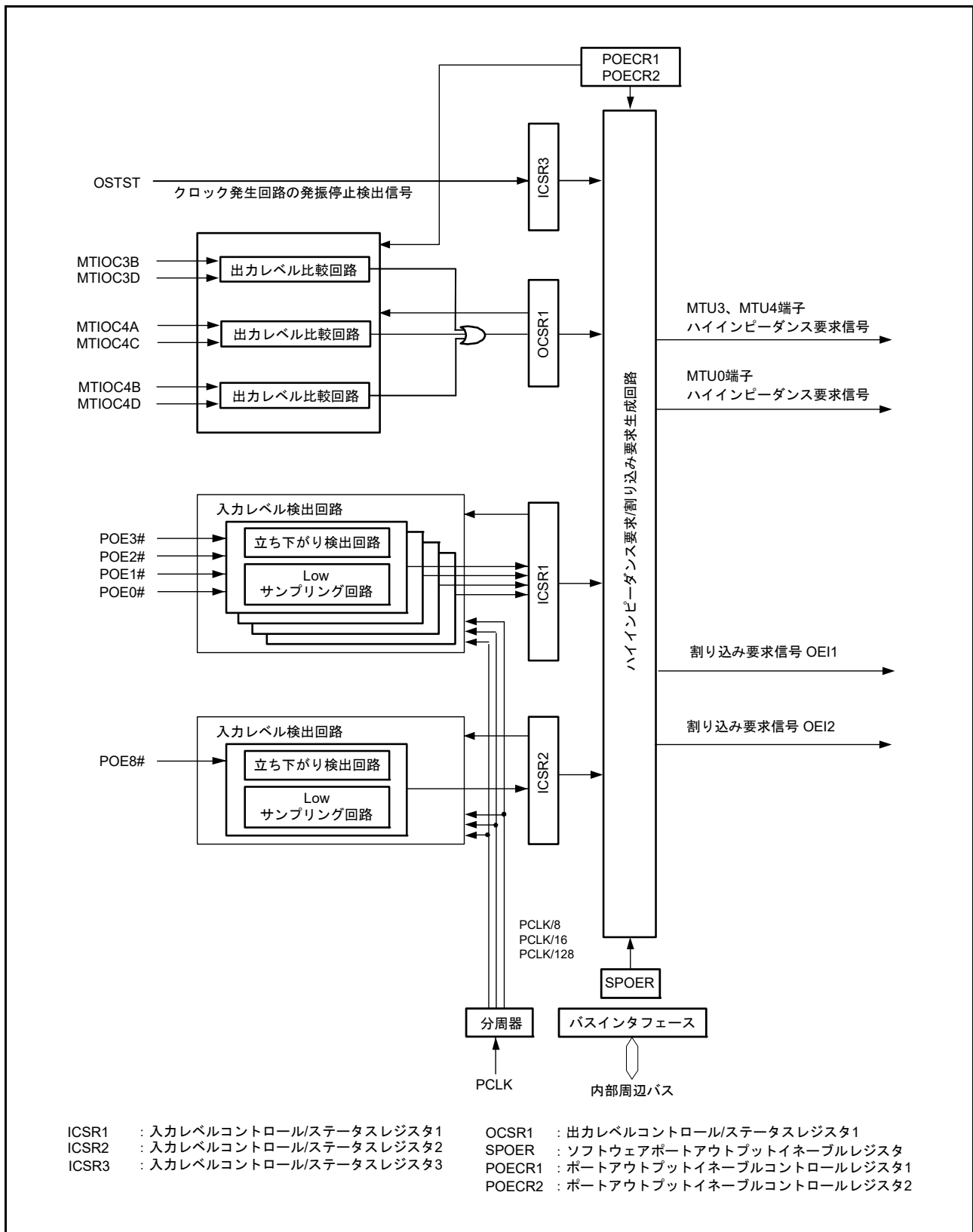


図 21.1 POE のブロック図

表 21.2 に POE で使用する入出力端子を示します。

表 21.2 POEの入出力端子

端子名	入出力	機能
POE0#～POE3#	入力	MTU相補PWM出力端子をハイインピーダンスにする要求信号
POE8#	入力	MTU0の出力端子をハイインピーダンスにする要求信号
MTIOC3B	出力	MTU3相補PWM出力端子
MTIOC3D	出力	MTU3相補PWM出力端子
MTIOC4A	出力	MTU4相補PWM出力端子
MTIOC4B	出力	MTU4相補PWM出力端子
MTIOC4C	出力	MTU4相補PWM出力端子
MTIOC4D	出力	MTU4相補PWM出力端子
MTIOC0A	出力	MTU0出力端子
MTIOC0B	出力	MTU0出力端子
MTIOC0C	出力	MTU0出力端子
MTIOC0D	出力	MTU0出力端子

表 21.3 に示す端子の組み合わせで出力レベルの比較を行います。

表 21.3 端子の組み合わせ

端子の組み合わせ	入出力	機能
MTIOC3BとMTIOC3D	出力	どの組み合わせに対して出力レベル比較を行いハイインピーダンス制御を行うかは、POEのレジスタで設定できます。 1PCLKクロック以上同時にアクティブレベル出力が続いた場合、MTU相補PWM出力端子をハイインピーダンスにします。 (MTU.TOCR1.TOCSビット="0"のときに、MTU.TOCR1.OLSP、OLSNビットが"0"の場合はLow出力、"1"の場合はHigh出力。 MTU.TOCR1.TOCSビット="1"のときに、MTU.TOCR2.OLS3N、OLS3P、OLS2N、OLS2P、OLS1N、OLS1Pビットが"0"の場合はLow出力、"1"の場合はHigh出力)
MTIOC4AとMTIOC4C	出力	
MTIOC4BとMTIOC4D	出力	

21.2 レジスタの説明

21.2.1 入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 1 (ICSR1)

アドレス 0008 8900h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	POE3F	POE2F	POE1F	POE0F	—	—	—	PIE1	POE3M[1:0]	POE2M[1:0]	POE1M[1:0]	POE0M[1:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	POE0M[1:0]	POE0モード選択ビット	b1 b0 0 0: POE0#端子入力の立ち下がりエッジでハイインピーダンス要求を受け付ける 0 1: POE0#端子入力のレベルをPCLK/8クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 0: POE0#端子入力のレベルをPCLK/16クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 1: POE0#端子入力のレベルをPCLK/128クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける	R/W (注1)
b3-b2	POE1M[1:0]	POE1モード選択ビット	b3 b2 0 0: POE1#端子入力の立ち下がりエッジでハイインピーダンス要求を受け付ける 0 1: POE1#端子入力のレベルをPCLK/8クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 0: POE1#端子入力のレベルをPCLK/16クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 1: POE1#端子入力のレベルをPCLK/128クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける	R/W (注1)
b5-b4	POE2M[1:0]	POE2モード選択ビット	b5 b4 0 0: POE2#端子入力の立ち下がりエッジでハイインピーダンス要求を受け付ける 0 1: POE2#端子入力のレベルをPCLK/8クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 0: POE2#端子入力のレベルをPCLK/16クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 1: POE2#端子入力のレベルをPCLK/128クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける	R/W (注1)
b7-b6	POE3M[1:0]	POE3モード選択ビット	b7 b6 0 0: POE3#端子入力の立ち下がりエッジでハイインピーダンス要求を受け付ける 0 1: POE3#端子入力のレベルをPCLK/8クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 0: POE3#端子入力のレベルをPCLK/16クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける 1 1: POE3#端子入力のレベルをPCLK/128クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、ハイインピーダンス要求を受け付ける	R/W (注1)
b8	PIE1	ポート割り込み許可1ビット	0: 入力レベル検出によるOE1割り込み要求を禁止 1: 入力レベル検出によるOE1割り込み要求を許可	R/W
b11-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	POE0F	POE0フラグ	0: POE0#端子にハイインピーダンス要求なし 1: POE0#端子にハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)
b13	POE1F	POE1フラグ	0: POE1#端子にハイインピーダンス要求なし 1: POE1#端子にハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)
b14	POE2F	POE2フラグ	0: POE2#端子にハイインピーダンス要求なし 1: POE2#端子にハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)
b15	POE3F	POE3フラグ	0: POE3#端子にハイインピーダンス要求なし 1: POE3#端子にハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)

注1. リセット後、1回のみ書けます。

注2. フラグを“0”にするため、“1”を読み出した後に“0”のみ書けます。

POE0M[1:0] ~ POE3M[1:0] ビットで Low サンプルングを設定している場合、POE0F ~ POE3F フラグに“0”を書き込むには、POE0# ~ POE3# 端子に High を入力する必要があります。

詳細は「21.3.5 ハイインピーダンスからの解除」を参照してください。

PIE1 ビット (ポート割り込み許可 1 ビット)

POE3F ~ POE0F フラグのいずれかが“1”になったときに、OEI1 割り込みを要求するかどうかを指定します。

POE0F フラグ (POE0 フラグ)

POE0# 端子にハイインピーダンス要求が入力されたことを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- POE0# 端子に POE0M[1:0] ビットで設定した入力が発生したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

POE1F フラグ (POE1 フラグ)

POE1# 端子にハイインピーダンス要求が入力されたことを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- POE1# 端子に POE1M[1:0] ビットで設定した入力が発生したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

POE2F フラグ (POE2 フラグ)

POE2# 端子にハイインピーダンス要求が入力されたことを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- POE2# 端子に POE2M[1:0] ビットで設定した入力が発生したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

POE3F フラグ (POE3 フラグ)

POE3# 端子にハイインピーダンス要求が入力されたことを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- POE3# 端子に POE3M[1:0] ビットで設定した入力が発生したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

21.2.2 出力レベルコントロール/ステータスレジスタ 1 (OCSR1)

アドレス 0008 8902h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	OSF1	—	—	—	—	—	OCE1	OIE1	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	OIE1	出力短絡割り込み許可1ビット	0: 出力レベル比較によるOIE1割り込み要求を禁止 1: 出力レベル比較によるOIE1割り込み要求を許可	R/W
b9	OCE1	出力短絡ハイインピーダンス許可1ビット	0: 端子をハイインピーダンスにしない 1: 端子をハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b14-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	OSF1	出力短絡フラグ1	0: 同時にアクティブレベルになっていない 1: 同時にアクティブレベルになった	R/(W) (注2)

注1. リセット後、1回のみ書けます。

注2. フラグを“0”にするため、“1”を読んだ後に“0”のみ書けます。

OIE1 ビット (出力短絡割り込み許可 1 ビット)

OSF1 フラグが“1”のときに、OIE1 割り込みを要求するかどうかを指定します。

OCE1 ビット (出力短絡ハイインピーダンス許可 1 ビット)

OSF1 フラグが“1”のときに、MTU 相補 PWM 出力端子をハイインピーダンスにするかどうかを指定します。

OSF1 フラグ (出力短絡フラグ 1)

表 21.3 に示す MTU 相補 PWM 出力端子の比較する 3 組の 2 相出力のうち、1 組でも同時にアクティブレベルになったことを示すフラグです。POE2.PnCZEA (n=1, 2, 3) ビットが“0”のとき、または MTU のアウトプットコンペア機能を有効にしていないとき、対応する MTU 相補 PWM 出力端子が同時にアクティブレベルになっても OSF1 フラグは“1”になりません。アクティブレベルについては MTU.TOCR1、TOCR2 レジスタの設定に依存します。

[“1”になる条件]

- 3 組の 2 相出力のうち、1 組でも同時にアクティブレベルになったとき (注1)

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
“0”を書くには、MTU 相補 PWM 出力端子から非アクティブを出力する必要があります。
詳細は「21.3.5 ハイインピーダンスからの解除」参照してください。

注1. MPC.PmnPFS レジスタの設定内容にかかわらず、端子のレベルだけで判断します。

21.2.3 入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 2 (ICSR2)

アドレス 0008 8908h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	POE8F	—	—	POE8E	PIE2	—	—	—	—	—	—	POE8M[1:0]	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	POE8M[1:0]	POE8モード選択ビット	b1 b0 0 0 : POE8#端子入力の立ち下がりエッジで要求を受け付ける 0 1 : POE8#端子入力のレベルをPCLK/8クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、要求を受け付ける 1 0 : POE8#端子入力のレベルをPCLK/16クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、要求を受け付ける 1 1 : POE8#端子入力のレベルをPCLK/128クロックごとに16回サンプリングし、すべてLowだった場合、要求を受け付ける	R/W (注1)
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	PIE2	ポート割り込み許可2ビット	0 : OEI2割り込み要求を禁止 1 : OEI2割り込み要求を許可	R/W
b9	POE8E	POE8ハイインピーダンス許可ビット	0 : MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C、MTIOC0D端子をハイインピーダンスにしない 1 : MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C、MTIOC0D端子をハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b11-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	POE8F	POE8フラグ	0 : POE8#端子にハイインピーダンス要求なし 1 : POE8#端子にハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)
b15-b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後、1回のみ書けます。

注2. フラグを“0”にするため、“1”を読み出した後に“0”のみ書けます。

PIE2 ビット (ポート割り込み許可2ビット)

POE8F フラグが“1”になったときに、OEI2 割り込みを要求するかどうかを指定します。

POE8E ビット (POE8 ハイインピーダンス許可ビット)

POE8F フラグが“1”になったときに、MTU0 用端子をハイインピーダンスにするかどうかを指定します。

POE8F フラグ (POE8 フラグ)

POE8# 端子にハイインピーダンス要求が入力されたことを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- POE8# 端子に POE8M[1:0] ビットで設定した入力が発生したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

POE8M[1:0] ビットで Low サンプリングを設定している場合、“0”を書くには、POE8# 端子に High を入力する必要があります。

詳細は「21.3.5 ハイインピーダンスからの解除」参照してください。

21.2.4 ソフトウェアポートアウトプットイネーブルレジスタ (SPOER)

アドレス 0008 890Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CH0HI Z	CH34HI Z
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CH34HIZ	MTU3、MTU4出力ハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W
b1	CH0HIZ	MTU0出力ハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CH34HIZ ビット (MTU3、MTU4 出力ハイインピーダンス許可ビット)

MTU 相補 PWM 出力端子 (MTIOC3B/MTIOC3D/MTIOC4A/MTIOC4B/MTIOC4C/MTIOC4D) をハイインピーダンスにする制御を行うかどうかを選択します。

[“1”になる条件]

- “1”を書いたとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

CH0HIZ ビット (MTU0 出力ハイインピーダンス許可ビット)

MTU0 用端子 (MTIOC0A/MTIOC0B/MTIOC0C/MTIOC0D) をハイインピーダンスにする制御を行うかどうかを選択します。

[“1”になる条件]

- “1”を書いたとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

21.2.5 ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 1 (POECR1)

アドレス 0008 890Bh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	PE3ZE	PE2ZE	PE1ZE	PE0ZE

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PE0ZE	MTIOC0Aハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b1	PE1ZE	MTIOC0Bハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b2	PE2ZE	MTIOC0Cハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b3	PE3ZE	MTIOC0Dハイインピーダンス許可ビット	0 : ハイインピーダンスにしない 1 : ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後、1回のみ書けます。

21.2.6 ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 2 (POECR2)

アドレス 0008 890Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	P1CZEA	P2CZEA	P3CZEA	—	—	—	—
リセット後の値	0	1	1	1	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	P3CZEA	MTUポート3ハイインピーダンス許可ビット	0: 出力レベル比較を行わず、ハイインピーダンスにしない 1: ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b5	P2CZEA	MTUポート2ハイインピーダンス許可ビット	0: 出力レベル比較を行わず、ハイインピーダンスにしない 1: ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b6	P1CZEA	MTUポート1ハイインピーダンス許可ビット	0: 出力レベル比較を行わず、ハイインピーダンスにしない 1: ハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後、1回のみ書けます。

本機能を使用しない場合、“00h”を書いてください。

P3CZEA ビット (MTU ポート 3 ハイインピーダンス許可ビット)

MTU 相補 PWM 出力端子の MTIOC4B と MTIOC4D をハイインピーダンスするかどうかを許可します。また、MTIOC4B と MTIOC4D の出力レベル比較を行うかどうかを許可します。

P2CZEA ビット (MTU ポート 2 ハイインピーダンス許可ビット)

MTU 相補 PWM 出力端子の MTIOC4A と MTIOC4C をハイインピーダンスするかどうかを許可します。また、MTIOC4A と MTIOC4C の出力レベル比較を行うかどうかを許可します。

P1CZEA ビット (MTU ポート 1 ハイインピーダンス許可ビット)

MTU 相補 PWM 出力端子の MTIOC3B と MTIOC3D をハイインピーダンスするかどうかを許可します。また、MTIOC3B と MTIOC3D の出力レベル比較を行うかどうかを許可します。

21.2.7 入力レベルコントロール/ステータスレジスタ 3 (ICSR3)

アドレス 0008 890Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	OSTST F	—	—	OSTST E	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b9	OSTSTE	OSTSTハイインピーダンス許可ビット	0 : MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C、MTIOC0D、MTIOC3B、MTIOC3D、MTIOC4A、MTIOC4B、MTIOC4C、MTIOC4D 端子をハイインピーダンスにしない 1 : MTIOC0A、MTIOC0B、MTIOC0C、MTIOC0D、MTIOC3B、MTIOC3D、MTIOC4A、MTIOC4B、MTIOC4C、MTIOC4D 端子をハイインピーダンスにする	R/W (注1)
b11-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	OSTSTF	OSTSTハイインピーダンスフラグ	0 : 発振停止ハイインピーダンス要求なし 1 : 発振停止ハイインピーダンス要求あり	R/(W) (注2)
b15-b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. リセット後、1回のみ書けます。

注2. フラグを“0”にするため、“1”を読み出した後に“0”のみ書けます。

OSTSTE ビット (OSTST ハイインピーダンス許可ビット)

発振停止検出時に MTU 相補 PWM 出力端子、MTU0 用端子をハイインピーダンスにするかどうかを許可します。

OSTSTF フラグ (OSTST ハイインピーダンスフラグ)

OSTSTF フラグは、発振停止ハイインピーダンス要求を示すステータスフラグです。発振停止状態になると“1”になります。OSTSTF フラグを“0”にするときは、発振停止検出信号がネゲート状態のときに“0”を書いてください。発振停止検出信号がアサート中に OSTSTF フラグに“0”を書いても“0”になりません。アサート中とは、発振停止を検出後、10PCLK クロック経過するまでの期間です。

[“1”になる条件]

- 発振停止状態を検出したとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき

21.3 動作説明

以下にハイインピーダンスの対象になる端子と条件を示します。

(1) MTU0 用端子 (MTIOC0A)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE8# 端子の入力レベル検出
POECR1.PE0ZE ビットと ICSR2.POE8E ビットが“1”の状態、ICSR2.POE8F フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POECR1.PE0ZE ビットが“1”の状態、SPOER.CH0HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POECR1.PE0ZE ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、OSTSTF フラグが“1”になったとき

(2) MTU0 用端子 (MTIOC0B)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE8# 端子の入力レベル検出
POECR1.PE1ZE ビットと ICSR2.POE8E ビットが“1”の状態、ICSR2.POE8F フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POECR1.PE1ZE ビットが“1”の状態、SPOER.CH0HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POECR1.PE1ZE ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、OSTSTF フラグが“1”になったとき

(3) MTU0 用端子 (MTIOC0C)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE8# 端子の入力レベル検出
POECR1.PE2ZE ビットと ICSR2.POE8E ビットが“1”の状態、ICSR2.POE8F フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POECR1.PE2ZE ビットが“1”の状態、SPOER.CH0HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POECR1.PE2ZE ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、OSTSTF フラグが“1”になったとき

(4) MTU0 用端子 (MTIOC0D)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE8# 端子の入力レベル検出
POECR1.PE3ZE ビットと ICSR2.POE8E ビットが“1”の状態、ICSR2.POE8F フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POECR1.PE3ZE ビットが“1”の状態、SPOER.CH0HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POECR1.PE3ZE ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、OSTSTF フラグが“1”になったとき

(5) MTU3 用端子 (MTIOC3B, MTIOC3D)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE0# ~ POE3# 端子の入力レベル検出
POE2R.P1CZEA ビットが“1”の状態、ICSR1.POE3F、POE2F、POE1F、または POE0F フラグが“1”になったとき
- MTIOC3B 端子と MTIOC3D 端子の出力レベル比較
POE2R.P1CZEA ビットと OCSR1.OCE1 ビットが“1”の状態、OCSR1.OSF1 フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POE2R.P1CZEA ビットが“1”の状態、SPOER.CH34HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POE2R.P1CZEA ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、ICSR3.OSTSTF フラグが“1”になったとき

(6) MTU4 用端子 (MTIOC4A, MTIOC4C)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE0# ~ POE3# 端子の入力レベル検出
POE2R.P2CZEA ビットが“1”の状態、ICSR1.POE3F、POE2F、POE1F、または POE0F フラグが“1”になったとき
- MTIOC4A 端子と MTIOC4C 端子の出力レベル比較
POE2R.P2CZEA ビットと OCSR1.OCE1 ビットが“1”の状態、OCSR1.OSF1 フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POE2R.P2CZEA ビットが“1”の状態、SPOER.CH34HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POE2R.P2CZEA ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、ICSR3.OSTSTF フラグが“1”になったとき

(7) MTU4 用端子 (MTIOC4B, MTIOC4D)

以下のいずれかの条件が成立したとき、端子をハイインピーダンスにします。

- POE0# ~ POE3# 端子の入力レベル検出
POE2R.P3CZEA ビットが“1”の状態、ICSR1.POE3F、POE2F、POE1F、または POE0F フラグが“1”になったとき
- MTIOC4B 端子と MTIOC4D 端子の出力レベル比較
POE2R.P3CZEA ビットと OCSR1.OCE1 ビットが“1”の状態、OCSR1.OSF1 フラグが“1”になったとき
- SPOER レジスタ設定
POE2R.P3CZEA ビットが“1”の状態、SPOER.CH34HIZ ビットを“1”にしたとき
- 発振停止検出
POE2R.P3CZEA ビットと ICSR3.OSTSTE ビットが“1”の状態、ICSR3.OSTSTF フラグが“1”になったとき

21.3.1 入力レベル検出動作

ICSR1、ICSR2 レジスタで設定した入力条件が POE0# ~ POE3#、POE8# 端子に発生した場合、MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子をハイインピーダンスにします。

(1) 立ち下がリエッジ検出

POE0# ~ POE3#、POE8# 端子に High から Low の変化が入力されたとき、MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子をハイインピーダンスにします。

立ち下がリエッジは、PCLK でサンプリングを行った後、検出します。POE0# ~ POE3#、POE8# 端子に 1PCLK クロック未満の Low が入力された場合、立ち下がリエッジが検出できるかどうかは保証できません。

POE0# ~ POE3#、POE8# 端子入力から端子のハイインピーダンスまでのタイミング例を図 21.2 に示します。

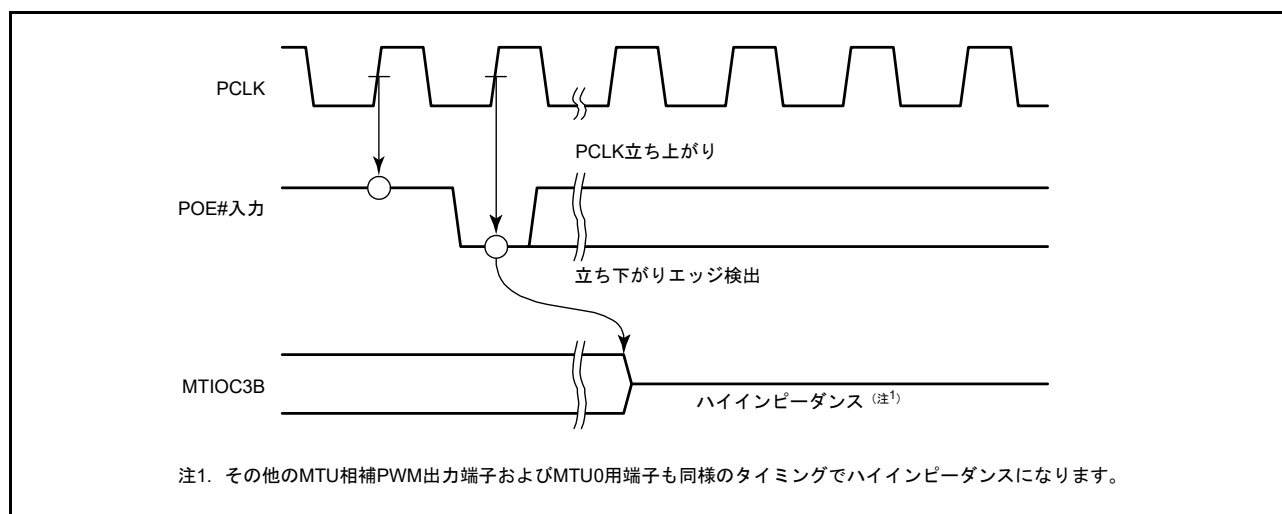


図 21.2 立ち下がリエッジ検出動作

(2) Low 検出

図 21.3 に Low 検出動作を示します。ICSR1、ICSR2 レジスタで設定したサンプリングクロックで、16回連続して Low を検出すると Low 検出とみなし、MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子をハイインピーダンス状態にします。このとき、一度でも High を検出した場合は Low 検出とみなしません。また、サンプリングクロックが出力されていない期間は、POE0# ~ POE3#、POE8# 端子が変化しても無視されます。

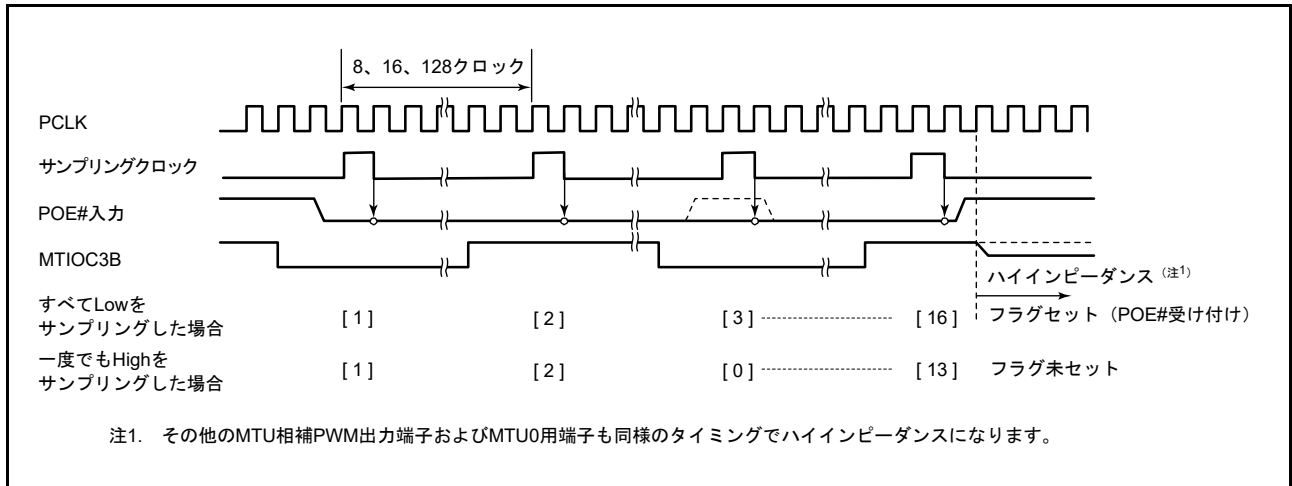


図 21.3 Low 検出動作

21.3.2 出力レベル比較動作

MTIOC3B と MTIOC3D の組み合わせを例に、MTU 相補 PWM 出力端子の出力レベル比較動作を図 21.4 に示します。他の端子の組み合わせについても同様です。

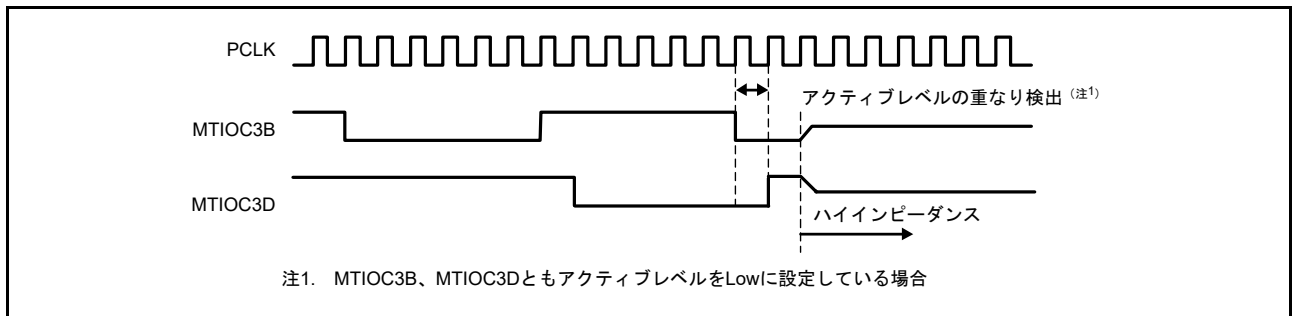


図 21.4 出力レベル比較動作

21.3.3 レジスタによるハイインピーダンス制御

ソフトウェアポートアウトプットイネーブルレジスタ (SPOER) への書き込みによって、MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子のハイインピーダンス制御をします。

SPOER.CH34HIZ ビットを“1”にすることで、POECR2 レジスタで設定した MTU 相補 PWM 出力の端子 (MTU3, MTU4) をハイインピーダンスにします。

SPOER.CH0HIZ ビットを“1”にすることで、POECR1 レジスタで設定した MTU0 用出力端子をハイインピーダンスにします。

21.3.4 発振停止検出によるハイインピーダンス制御

ICSR3.OSTSTE ビットが“1”のとき、クロック発生回路の発振停止検出機能により発振停止が検出されると、POECR2 レジスタで設定した MTU 相補 PWM 出力端子および POECR1 レジスタで設定した MTU0 用端子をハイインピーダンスにします。

21.3.5 ハイインピーダンスからの解除

入力レベル検出でハイインピーダンスになった MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子は、リセットで初期状態に戻るか、ICSR1.POE3F、POE2F、POE1F、POE0F フラグ、ICSR2.POE8F フラグを“0”にすることにより解除されます。ただし、ICSR1.POE3M[1:0]、POE2M[1:0]、POE1M[1:0]、POE0M[1:0] ビット、ICSR2.POE8M[1:0] ビットで Low サンプリングに設定している場合には、POE0# ~ POE3#、POE8# 端子から High を入力して High を検出した後でないと、フラグに対して“0”を書いても無効となりフラグは“0”になりません。

出力レベル比較でハイインピーダンスになった MTU 相補 PWM 出力端子は、リセットで初期状態に戻るか、OCSR1.OSF1 フラグを“0”にすることにより解除されます。ただし、MTU 相補 PWM 出力端子から非アクティブレベルを出力するようにした後でないと、フラグに対して“0”を書いても無効となりフラグは“0”になりません。非アクティブレベル出力は、MTU のレジスタを設定することで行うことができます。

クロック発生回路の発振停止によりハイインピーダンスになった MTU 相補 PWM 出力端子および MTU0 用端子は、ICSR3.OSTSTF ビットまたは ICSR3.OSTSTE ビットを“0”にすることによりハイインピーダンスが解除されます。

SPOER.CH34HIZ ビットまたは SPOER.CH0HIZ ビットによりハイインピーダンスになった MTU 相補 PWM 出力端子または MTU0 用端子は、端子に対応するビット (SPOER.CH34HIZ, SPOER.CH0HIZ) を“0”にすることによりハイインピーダンスが解除されます。

21.4 割り込み

POE は入力レベル検出動作、出力レベル比較動作、クロック発生回路の発振停止において、条件が一致したときに割り込み要求を出して割り込みを発生することができます。表 21.4 に割り込みの種類と割り込み要求を出す条件を示します。OEI1 割り込みと OEI2 割り込みを受け付けたとき、当該割り込みの例外処理ルーチンの先頭で当該フラグが“1”になっていることを確認してください。

表 21.4 割り込み要求の種類と条件

名称	割り込み要因	該当フラグ	条件
OEI1	アウトプットイネーブル割り込み1	POE0F, POE1F, POE2F, POE3F, OSF1	ICSR1.PIE1ビットが“1”の状態(ICSR1.POE0F、POE1F、POE2F、またはPOE3Fフラグが“1”になったとき、もしくはOCSR1.OIE1ビットが“1”の状態(OCSR1.OSF1フラグが“1”になったとき)
OEI2	アウトプットイネーブル割り込み2	POE8F	ICSR2.PIE2ビットが“1”の状態(ICSR2.POE8Fフラグが“1”になったとき)

21.5 使用上の注意事項

21.5.1 ソフトウェアスタンバイモードへの移行について

POE を使用する場合は、ソフトウェアスタンバイモードに移行しないでください。ソフトウェアスタンバイモードでは、POE の動作が停止するため、端子のハイインピーダンス制御はできません。

21.5.2 POE を使用しない場合について

POE を使用しない場合は、ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 1 (POECR1) に“00h”を、ポートアウトプットイネーブルコントロールレジスタ 2 (POECR2) に“00h”をそれぞれ書き込んでください。

21.5.3 端子の MTU 機能設定について

POE によるハイインピーダンス制御は、端子が PMR レジスタと PmnPFS レジスタによって MTU の該当端子に選択されている場合のみ機能します。汎用入出力ポートに選択されている場合は、ハイインピーダンス制御はできません。

22. 8ビットタイマ (TMRa)

本MCUは、8ビットのカウンタをベースにした2チャンネルの8ビットタイマ(TMR)を2ユニット(ユニット0、ユニット1)、合計4チャンネル内蔵しています。外部イベントのカウントが可能なほか、2本のレジスタとのコンペアマッチ信号により、カウンタのクリア、割り込み要求、任意のデューティ比のパルス出力など、多機能タイマとして種々の応用が可能です。

ユニット0、ユニット1は同一機能です。また、SCIの基本クロックを生成することができます。

本章に記載しているPCLKとはPCLKBを指します。

22.1 概要

表22.1にTMRの仕様を、表22.2にTMRの機能一覧を示します。

図22.1にユニット0、図22.2にユニット1のブロック図を示します。

表22.1 TMRの仕様

項目	仕様
カウントクロック	<ul style="list-style-type: none"> 内部クロック：PCLK/1、PCLK/2、PCLK/8、PCLK/32、PCLK/64、PCLK/1024、PCLK/8192 外部クロック：外部カウントクロック
チャンネル数	(8ビット×2チャンネル)×2ユニット
コンペアマッチ	<ul style="list-style-type: none"> 8ビットモード(コンペアマッチA、コンペアマッチB) 16ビットモード(コンペアマッチA、コンペアマッチB)
カウンタクリア	コンペアマッチA、コンペアマッチB、外部カウンタリセット信号から選択
タイマ出力	任意のデューティ比のパルス出力、PWM出力
2チャンネルのカスケード接続	<ul style="list-style-type: none"> 16ビットカウントモード TMR0を上位、TMR1を下位(TMR2を上位、TMR3を下位)とする16ビットタイマ コンペアマッチカウントモード TMR1はTMR0のコンペアマッチをカウント(TMR3はTMR2のコンペアマッチをカウント)
割り込み要因	コンペアマッチA、コンペアマッチB、オーバーフロー
イベントリンク機能(出力)	コンペアマッチA、コンペアマッチB、オーバーフロー(TMR0, 2)
イベントリンク機能(入力)	イベント受付により、3種類のうち1つの動作が可能 (1) カウントスタート動作(TMR0, 2) (2) イベントカウンタ動作(TMR0, 2) (3) カウントリスタート動作(TMR0, 2)
DTCの起動	コンペアマッチA割り込み、コンペアマッチB割り込みにより起動可能
SCIの基本クロック生成	SCIの基本クロックを生成(注1)
消費電力低減機能	ユニットごとにモジュールストップ状態への遷移が可能

注1. 詳細は「27. シリアルコミュニケーションインタフェース(SCI_g, SCI_k, SCI_h)」を参照してください。

表22.2 TMRの機能一覧

項目		ユニット0			ユニット1		
カウンタモード		8ビット		16ビット	8ビット		16ビット
チャンネル		TMR0	TMR1	TMR0 + TMR1	TMR2	TMR3	TMR2 + TMR3
カウントクロック		PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO	PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO	PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO	PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO	PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO	PCLK/1 PCLK/2 PCLK/8 PCLK/32 PCLK/64 PCLK/1024 PCLK/8192 TMCIO
カウンタクリア		TMR0.TCORA TMR0.TCORB TMRIO	TMR1.TCORA TMR1.TCORB TMRIO	TMR0.TCORA + TMR1.TCORA TMR0.TCORB + TMR1.TCORB TMRIO	TMR2.TCORA TMR2.TCORB TMRIO	TMR3.TCORA TMR3.TCORB TMRIO	TMR2.TCORA + TMR3.TCORA TMR2.TCORB + TMR3.TCORB TMRIO
コンペア マッチ	コンペアマッチA	○	○	○	○	○	○
	コンペアマッチB	○	○	○	○	○	○
タイマ出 力	Low出力	○	○	○	○	○	○
	High出力	○	○	○	○	○	○
	トグル出力	○	○	○	○	○	○
DTCの起 動	コンペアマッチA	○	○	○	○	○	○
	コンペアマッチB	○	○	○	○	○	○
	TCNTのオーバフ ロー	—	—	—	—	—	—
割り込み	コンペアマッチA	CMIA0	CMIA1	CMIA0	CMIA2	CMIA3	CMIA2
	コンペアマッチB	CMIB0	CMIB1	CMIB0	CMIB2	CMIB3	CMIB2
	TCNTのオーバフ ロー	OVI0	OVI1	OVI0	OVI2	OVI3	OVI2
カスケード接続		TMR1の オーバフ ロー	TMR0の コンペア マッチA	—	TMR3の オーバフ ロー	TMR2の コンペア マッチA	—
SCIの基本クロックの生成 (注1)		○		—	○		—
ELC出力 イベント	コンペアマッチA	○	—	○	○	—	○
	コンペアマッチB	○	—	○	○	—	○
	TCNTのオーバフ ロー	○	—	○	○	—	○
ELC入力 イベント	カウントスタート	○	—	—	○	—	—
	イベントカウンタ	○	—	—	○	—	—
	カウントリスタート	○	—	—	○	—	—
モジュールストップの設定 (注2)		(ユニット0) MSTPCRA.MSTPA5ビット、(ユニット1) MSTPCRA.MSTPA4ビット					

○：可能

—：不可能

注1. 詳細は「27. シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIg, SCIk, SCIlh)」を参照してください。

注2. 詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

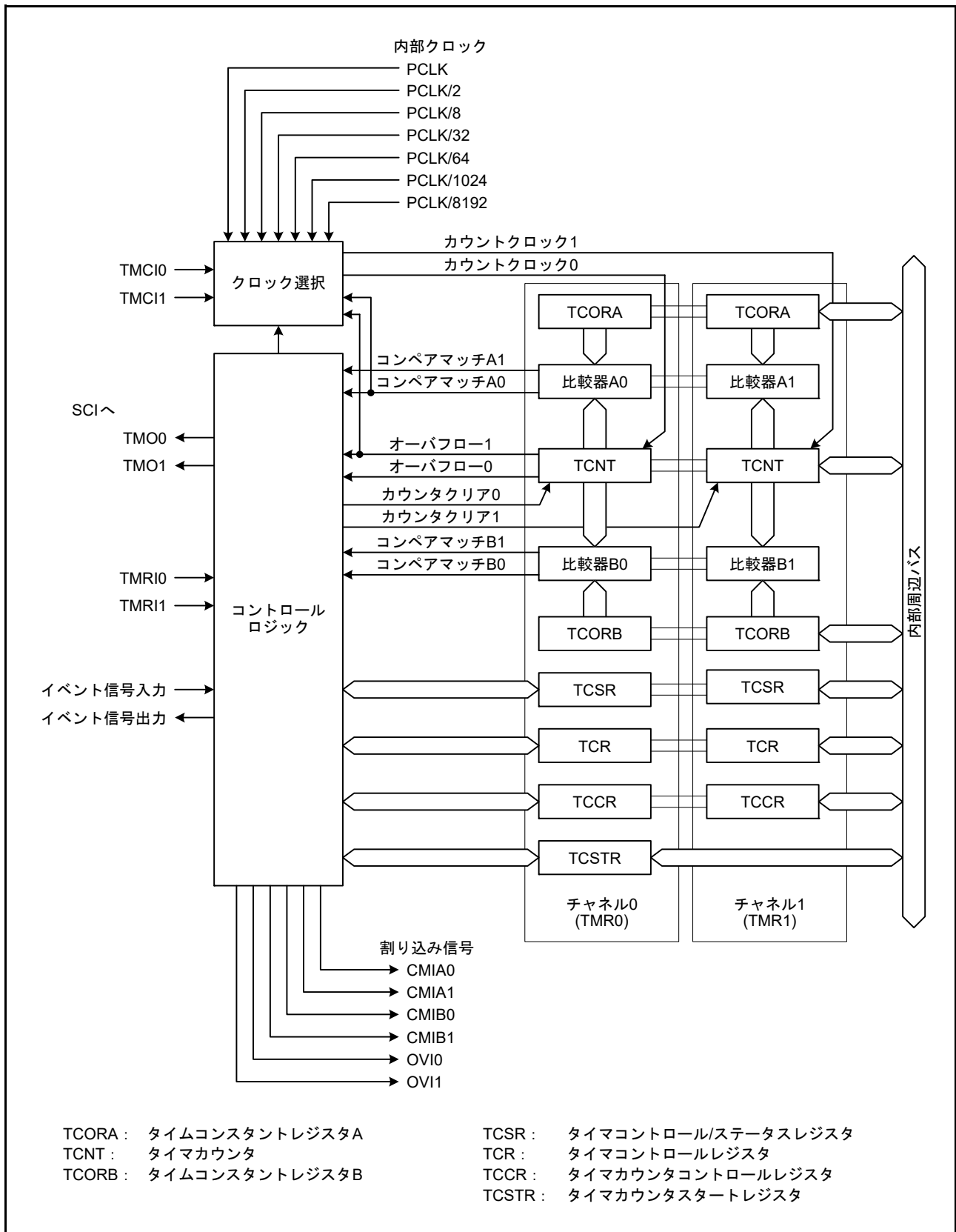


図 22.1 TMR (ユニット0) のブロック図

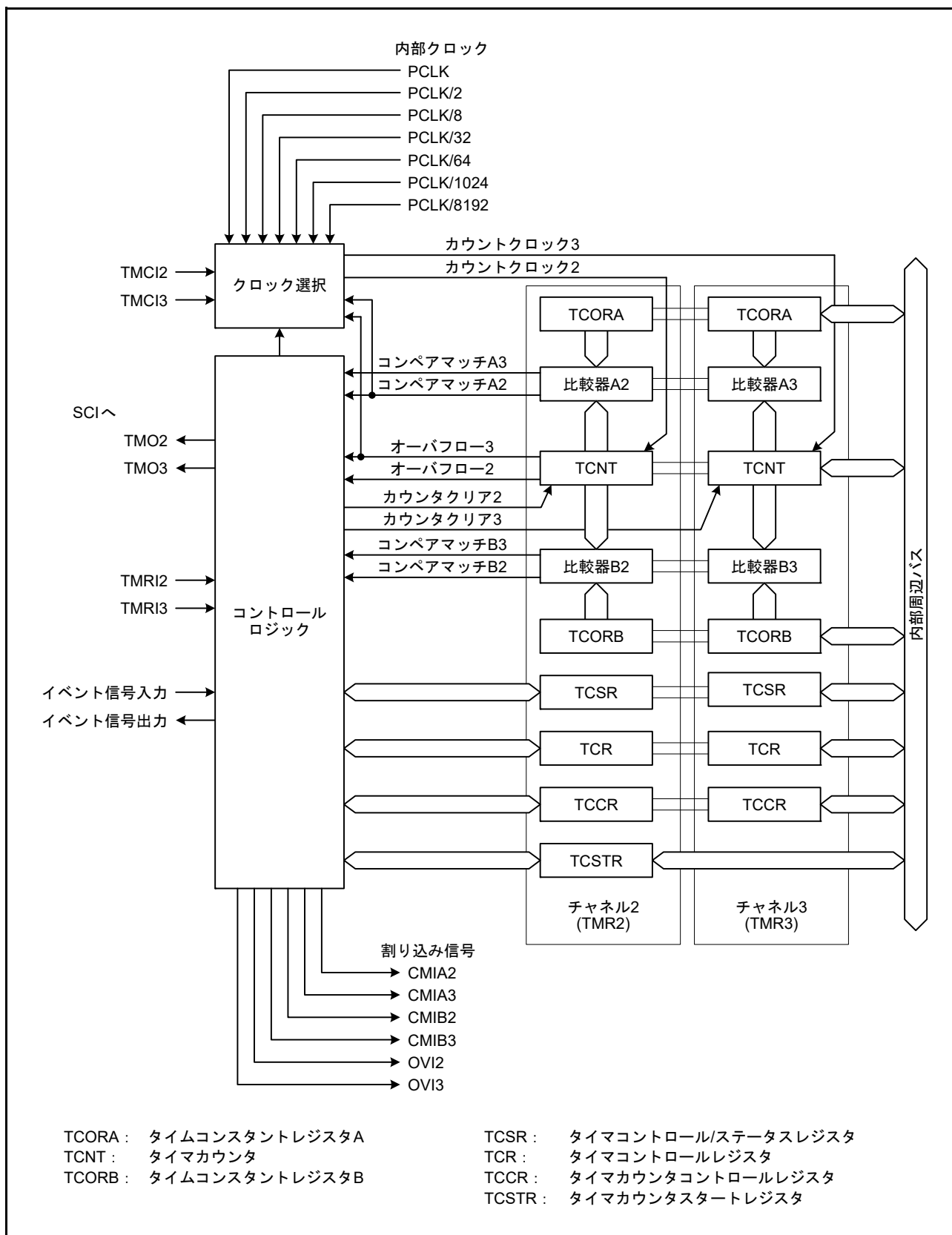


図 22.2 TMR (ユニット 1) のブロック図

表 22.3 に TMR で使用する入出力端子を示します。

表 22.3 TMRの入出力端子

ユニット	チャンネル	端子名	入出力	機能
ユニット0	TMR0	TMO0	出力	コンペアマッチ出力
		TMC10	入力	外部カウントクロック入力
		TMR10	入力	外部カウンタリセット入力
	TMR1	TMO1	出力	コンペアマッチ出力
		TMC11	入力	外部カウントクロック入力
		TMR11	入力	外部カウンタリセット入力
ユニット1	TMR2	TMO2	出力	コンペアマッチ出力
		TMC12	入力	外部カウントクロック入力
		TMR12	入力	外部カウンタリセット入力
	TMR3	TMO3	出力	コンペアマッチ出力
		TMC13	入力	外部カウントクロック入力
		TMR13	入力	外部カウンタリセット入力

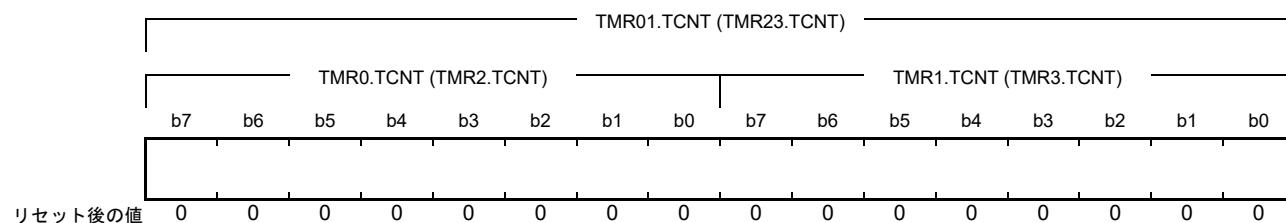
22.2 レジスタの説明

表 22.4 16ビットアクセスのレジスタ配置

アドレス	レジスタ	上位8ビット	下位8ビット
0008 8208h	TMR01.TCNT	TMR0.TCNT	TMR1.TCNT
0008 8204h	TMR01.TCORA	TMR0.TCORA	TMR1.TCORA
0008 8206h	TMR01.TCORB	TMR0.TCORB	TMR1.TCORB
0008 820Ah	TMR01.TCCR	TMR0.TCCR	TMR1.TCCR
0008 8218h	TMR23.TCNT	TMR2.TCNT	TMR3.TCNT
0008 8214h	TMR23.TCORA	TMR2.TCORA	TMR3.TCORA
0008 8216h	TMR23.TCORB	TMR2.TCORB	TMR3.TCORB
0008 821Ah	TMR23.TCCR	TMR2.TCCR	TMR3.TCCR

22.2.1 タイマカウンタ (TCNT)

アドレス TMR0.TCNT 0008 8208h, TMR1.TCNT 0008 8209h, TMR2.TCNT 0008 8218h, TMR3.TCNT 0008 8219h,
TMR01.TCNT 0008 8208h, TMR23.TCNT 0008 8218h



TCNT カウンタは、8 ビットのリード/ライト可能なアップカウンタです。

TMR0.TCNT カウンタと TMR1.TCNT カウンタ (TMR2.TCNT カウンタと TMR3.TCNT カウンタ) を 16 ビットカウンタ (TMR01.TCNT, TMR23.TCNT) として 16 ビット単位でアクセスすることも可能です。

カウントクロックは、TCCR.CSS[1:0], CKS[2:0] ビットで選択します。

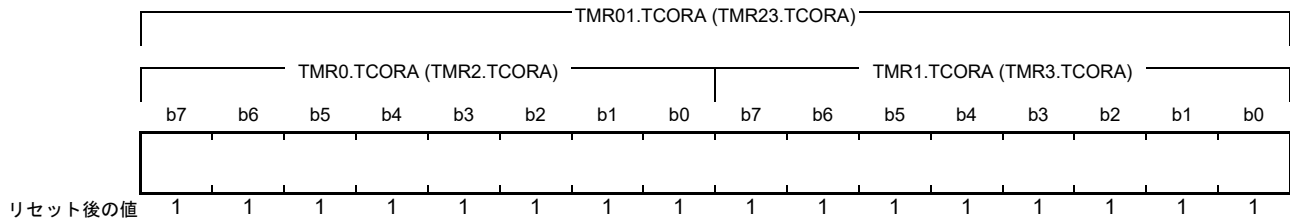
TCNT カウンタは、外部カウンタリセット信号、またはコンペアマッチ A、コンペアマッチ B によりクリアすることができます。どのコンペアマッチでクリアするかは、TCR.CCLR[1:0] ビットにより選択します。

TCNT カウンタのオーバーフロー (“FFh”→“00h”) が発生すると、TCR.OVIE ビットで割り込み要求が許可されていれば、オーバーフロー割り込みを出力します。

なお、対応する割り込みベクタ番号は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」と「表 22.6 TMR の割り込み要因」を参照してください。

22.2.2 タイムコンスタントレジスタ A (TCORA)

アドレス TMR0.TCORA 0008 8204h, TMR1.TCORA 0008 8205h, TMR2.TCORA 0008 8214h, TMR3.TCORA 0008 8215h,
TMR01.TCORA 0008 8204h, TMR23.TCORA 0008 8214h



TCORA レジスタは、8 ビットのリード/ライト可能なレジスタです。

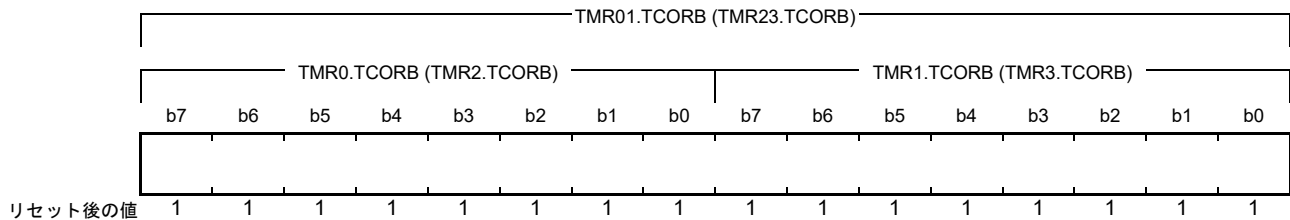
TMR0.TCORA レジスタと TMR1.TCORA レジスタ (TMR2.TCORA レジスタと TMR3.TCORA レジスタ) を 16 ビットレジスタ (TMR01.TCORA, TMR23.TCORA) として 16 ビット単位でアクセスすることも可能です。

TCORA レジスタの値は TCNT カウンタと比較され、一致するとコンペアマッチ A が発生し、TCR.CMIEA ビットで割り込み要求が許可されていれば、コンペアマッチ A 割り込みを出力します。

ただし、TCORA レジスタへの書き込み時には比較しません。また、このコンペアマッチ A と TCSR.OSA[1:0] ビットの設定により、TMO_n 端子からのタイマ出力を制御することができます。

22.2.3 タイムコンスタントレジスタ B (TCORB)

アドレス TMR0.TCORB 0008 8206h, TMR1.TCORB 0008 8207h, TMR2.TCORB 0008 8216h, TMR3.TCORB 0008 8217h,
TMR01.TCORB 0008 8206h, TMR23.TCORB 0008 8216h



TCORB レジスタは、8 ビットのリード/ライト可能なレジスタです。

TMR0.TCORB レジスタと TMR1.TCORB レジスタ (TMR2.TCORB レジスタと TMR3.TCORB レジスタ) を 16 ビットレジスタ (TMR01.TCORB, TMR23.TCORB) として 16 ビット単位でアクセスすることも可能です。

TCORB レジスタの値は TCNT カウンタと比較され、一致するとコンペアマッチ B が発生し TCR.CMIEB ビットで割り込み要求が許可されていれば、コンペアマッチ B 割り込みを出力します。

ただし、TCORB レジスタへの書き込み時には比較しません。また、このコンペアマッチ B と TCSR.OSB[1:0] ビットの設定により、TMO_n 端子からのタイマ出力を制御することができます。

22.2.4 タイマコントロールレジスタ (TCR)

アドレス TMR0.TCR 0008 8200h, TMR1.TCR 0008 8201h, TMR2.TCR 0008 8210h, TMR3.TCR 0008 8211h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CMIEB	CMIEA	OVIE	CCLR[1:0]	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4-b3	CCLR[1:0]	カウンタクリアビット	b4 b3 0 0 : クリアを禁止 0 1 : コンペアマッチAによりクリア 1 0 : コンペアマッチBによりクリア 1 1 : 外部カウンタリセット信号によりクリア (注1) (TCCR.TMRISビットでエッジまたはレベルを選択)	R/W
b5	OVIE	オーバフロー割り込み許可ビット	0 : オーバフローによる割り込み要求(OVIn)を禁止 1 : オーバフローによる割り込み要求(OVIn)を許可	R/W
b6	CMIEA	コンペアマッチA割り込み許可ビット	0 : コンペアマッチAによる割り込み要求(CMIAn)を禁止 1 : コンペアマッチAによる割り込み要求(CMIAn)を許可	R/W
b7	CMIEB	コンペアマッチB割り込み許可ビット	0 : コンペアマッチBによる割り込み要求(CMIBn)を禁止 1 : コンペアマッチBによる割り込み要求(CMIBn)を許可	R/W

注1. 外部カウンタリセット信号を使用する場合は、該当する端子の設定が必要です。詳細については「18. I/Oポート」、および「19. マルチファンクションピンコントローラ(MPC)」を参照してください。

CCLR[1:0] ビット (カウンタクリアビット)

TCNT カウンタのクリア条件を指定します。

OVIE ビット (オーバフロー割り込み許可ビット)

TCNT カウンタのオーバフローによる割り込み要求 (OVIn) の許可または禁止を選択します。

CMIEA ビット (コンペアマッチ A 割り込み許可ビット)

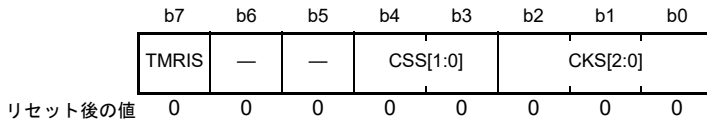
TCORA レジスタと TCNT カウンタの値が一致したときに出力されるコンペアマッチ A による割り込み要求 (CMIAn) の許可または禁止を選択します。

CMIEB ビット (コンペアマッチ B 割り込み許可ビット)

TCORB レジスタと TCNT カウンタの値が一致したときに出力されるコンペアマッチ B による割り込み要求 (CMIBn) の許可または禁止を選択します。

22.2.5 タイマカウンタコントロールレジスタ (TCCR)

アドレス TMR0.TCCR 0008 820Ah, TMR1.TCCR 0008 820Bh, TMR2.TCCR 0008 821Ah, TMR3.TCCR 0008 821Bh,
TMR01.TCCR 0008 820Ah, TMR23.TCCR 0008 821Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CKS[2:0]	クロック選択ビット (注1)	表22.5を参照してください	R/W
b4-b3	CSS[1:0]	クロックソース選択ビット	表22.5を参照してください	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	TMRIS	タイマリセット検出条件選択ビット	0 : 外部カウンタリセット信号の立ち上がりでクリア 1 : 外部カウンタリセット信号のHighでクリア	R/W

注1. 外部カウントクロックを使用する場合は、該当する端子の設定が必要です。詳細については「18. I/Oポート」、および「19. マルチファンクションピンコントローラ(MPC)」を参照してください。

TCCR レジスタはカウンタの基本動作を設定する8ビットのレジスタです。偶数チャンネルのアドレスに対して16ビットアクセスすると、同時に2つのTCCRレジスタにアクセスできます。

CKS[2:0] ビット (クロック選択ビット)

CSS[1:0] ビット (クロックソース選択ビット)

CKS[2:0] ビットおよびCSS[1:0] ビットは、カウントクロックを選択します。詳細は、表22.5を参照してください。

TMRIS ビット (タイマリセット検出条件選択ビット)

TCR.CCLR[1:0] ビットが“11b” (外部カウンタリセット信号によりクリア) のとき有効となり、カウンタのリセット検出条件 (レベルまたはエッジ) を選択します。

表22.5 TCNTカウンタに入力するクロックとカウント条件

チャネル	TCCRレジスタ					機能	
	CSS[1:0]		CKS[2:0]				
	b4	b3	b2	b1	b0		
TMR0 (TMR2)	0	0	—	0	0	クロック入力を禁止	
					1	外部カウントクロックの立ち上がりエッジでカウント(注1)	
					0	外部カウントクロックの立ち下がりエッジでカウント(注1)	
					1	外部カウントクロックの立ち上がり/立ち下がり両エッジでカウント(注1)	
	0	1	0	0	0	内部クロック：PCLKでカウント	
					1	内部クロック：PCLK/2でカウント	
					0	内部クロック：PCLK/8でカウント	
					1	内部クロック：PCLK/32でカウント	
				1	0	0	内部クロック：PCLK/64でカウント
						1	内部クロック：PCLK/1024でカウント
						0	内部クロック：PCLK/8192でカウント
						1	クロック入力を禁止
	1	0	—	—	—	設定しないでください	
	1	1	—	—	—	TMR1.TCNT (TMR3.TCNT)のオーバフロー信号でカウント(注2)	
TMR1 (TMR3)	0	0	—	0	0	クロック入力を禁止	
					1	外部カウントクロックの立ち上がりエッジでカウント(注1)	
					0	外部カウントクロックの立ち下がりエッジでカウント(注1)	
					1	外部カウントクロックの立ち上がり/立ち下がり両エッジでカウント(注1)	
	0	1	0	0	0	内部クロック：PCLKでカウント	
					1	内部クロック：PCLK/2でカウント	
					0	内部クロック：PCLK/8でカウント	
					1	内部クロック：PCLK/32でカウント	
			1	0	0	内部クロック：PCLK/64でカウント	
					1	内部クロック：PCLK/1024でカウント	
					0	内部クロック：PCLK/8192でカウント	
					1	クロック入力を禁止	
	1	0	—	—	—	設定しないでください	
	1	1	—	—	—	TMR0.TCNT (TMR2.TCNT)のコンペアマッチAでカウント(注2)	

注1. 外部カウントクロックを使用する場合は、該当する端子の設定が必要です。詳細については「18. I/Oポート」、および「19. マルチファンクションピンコントローラ(MPC)」を参照してください。

注2. TMR0 (TMR2)のクロック入力をTMR1.TCNT (TMR3.TCNT)カウンタのオーバフロー信号とし、TMR1 (TMR3)のクロック入力をTMR0.TCNT (TMR2.TCNT)カウンタのコンペアマッチ信号とすると、TCNTカウンタクロックが発生しません。この設定は行わないでください。

22.2.6 タイマコントロール/ステータスレジスタ (TCSR)

- TMR0.TCSR、TMR2.TCSR レジスタ

アドレス TMR0.TCSR 0008 8202h, TMR2.TCSR 0008 8212h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	OSB[1:0]		OSA[1:0]	
リセット後の値	x	x	x	0	0	0	0	0

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OSA[1:0]	アウトプット選択ビットA (注1)	b1 b0 0 0: 変化しない 0 1: Low出力 1 0: High出力 1 1: 反転出力(トグル出力)	R/W
b3-b2	OSB[1:0]	アウトプット選択ビットB (注1)	b3 b2 0 0: 変化しない 0 1: Low出力 1 0: High出力 1 1: 反転出力(トグル出力)	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めず。書く場合、“0”としてください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“1”としてください	R/W

注1. OSA[1:0]、OSB[1:0]ビットがすべて“0”の場合には、TMO_n端子に対応したアウトプットイネーブルをネゲートし、I/Oポートに対しハイインピーダンス出力を要求します。OSA[1:0]、OSB[1:0]ビットのいずれかを“1”にした場合、リセット後の最初のコンペアマッチが起こるまでのタイマ出力端子はLowです。

OSA[1:0] ビット (アウトプット選択ビット A)

TCORA レジスタと TCNT カウンタのコンペアマッチ A による TMO_n 端子の出力方法を選択します。

OSB[1:0] ビット (アウトプット選択ビット B)

TCORB レジスタと TCNT カウンタのコンペアマッチ B による TMO_n 端子の出力方法を選択します。

- TMR1.TCSR、TMR3.TCSR レジスタ

アドレス TMR1.TCSR 0008 8203h, TMR3.TCSR 0008 8213h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	OSB[1:0]		OSA[1:0]	
リセット後の値	x	x	x	1	0	0	0	0

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OSA[1:0]	アウトプット選択ビットA (注1)	b1 b0 0 0: 変化しない 0 1: Low出力 1 0: High出力 1 1: 反転出力(トグル出力)	R/W
b3-b2	OSB[1:0]	アウトプット選択ビットB (注1)	b3 b2 0 0: 変化しない 0 1: Low出力 1 0: High出力 1 1: 反転出力(トグル出力)	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“1”としてください	R/W

注1. OSA[1:0]、OSB[1:0]ビットがすべて“0”の場合には、TMO_n端子に対応したアウトプットイネーブルをネゲートし、I/Oポートに対しハイインピーダンス出力を要求します。OSA[1:0]、OSB[1:0]ビットのいずれかを“1”にした場合、リセット後の最初のコンペアマッチが起こるまでのタイマ出力端子はLowです。

OSA[1:0] ビット (アウトプット選択ビット A)

TCORA レジスタと TCNT カウンタのコンペアマッチ A による TMO_n 端子の出力方法を選択します。

OSB[1:0] ビット (アウトプット選択ビット B)

TCORB レジスタと TCNT カウンタのコンペアマッチ B による TMO_n 端子の出力方法を選択します。

22.2.7 タイマカウンタスタートレジスタ (TCSTR)

アドレス TMR0.TCSTR 0008 820Ch, TMR2.TCSTR 0008 821Ch

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	TCS

リセット後の値 x x x x x x x 0

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TCS	タイマカウンタステータスビット	0: ELCによるカウント停止状態 1: ELCによるカウント開始状態	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“0”としてください	R/W

TCS ビット (タイマカウンタステータスビット)

ELC によるタイマカウンタの状態を確認できます。

読み出し値が“1”のとき、ELC によるタイマ開始状態で、“0”のとき、タイマカウンタ停止状態です。

このビットをクリアするには、“0”を書いてください。“1”の書き込みは無効です。

TCS ビットは、イベントリンクコントローラ (ELC) の ELOPD レジスタでカウントスタート動作が選択されたときのみに有効となります。

詳細は、「22.7 ELC によるリンク動作」および、「17. イベントリンクコントローラ (ELC)」を参照してください。

22.3 動作説明

22.3.1 パルス出力

任意のデューティパルスを出力させる例を図 22.3 に示します。

1. TCORA レジスタのコンペアマッチにより TCNT カウンタがクリアされるように、TCR.CCLR[1:0] ビットを“01b”(コンペアマッチ A によりクリア)に設定します。
2. TCORA レジスタのコンペアマッチにより High 出力、TCORB レジスタのコンペアマッチにより Low 出力になるように、TCSR.OSA[1:0] ビットを“10b”(High 出力)、TCSR.OSB[1:0] ビットを“01b”(Low 出力)にします。

以上の設定により周期が TCORA レジスタ、パルス幅が TCORB レジスタの波形をソフトウェアの介在なしに出力できます。

TCSR.OSA[1:0] ビットまたは TCSR.OSB[1:0] ビットを設定してから、リセット後の最初のコンペアマッチが起こるまでのタイマ出力端子は Low です。

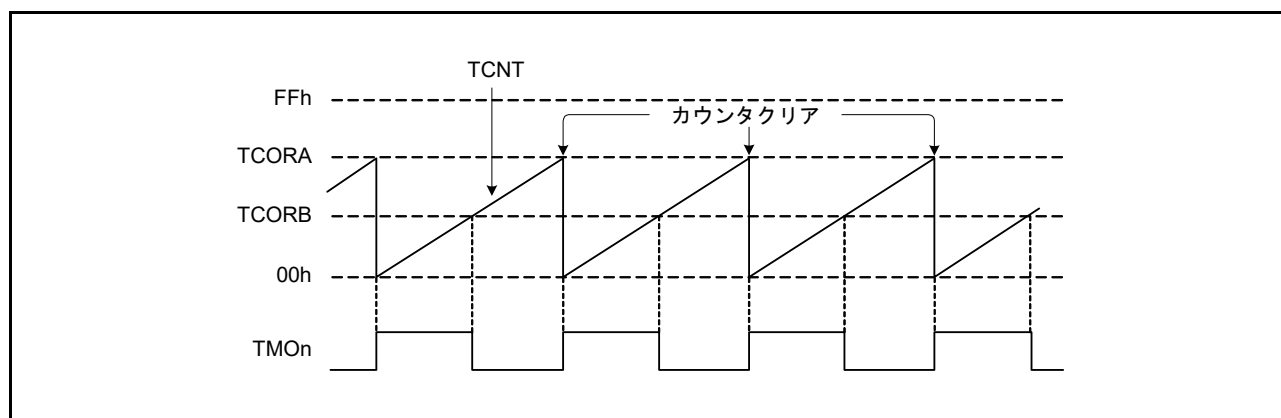


図 22.3 パルス出力例 (n = 0 ~ 3)

22.3.2 外部カウンタリセット入力

TMRIn 入力に対する任意の遅延時間のパルスを出力させる例を図 22.4 に示します。

1. TMRIn 入力の High で TCNT カウンタがクリアされるように、TCR.CCLR[1:0] ビットを “11b” (外部カウンタリセット信号によりクリア) にし、TCCR.TMRIS ビットを “1” (外部カウンタリセット信号の High でクリア) にします。
2. TCORA レジスタのコンペアマッチにより High 出力、TCORB レジスタのコンペアマッチにより Low 出力になるように、TCSR.OSA[1:0] ビットを “10b” (High 出力)、TCSR.OSB[1:0] ビットを “01b” (Low 出力) にします。

以上の設定により TMRIn 入力からの遅延が TCORA レジスタ、パルス幅が (TCORB – TCORA) の波形を出力できます。

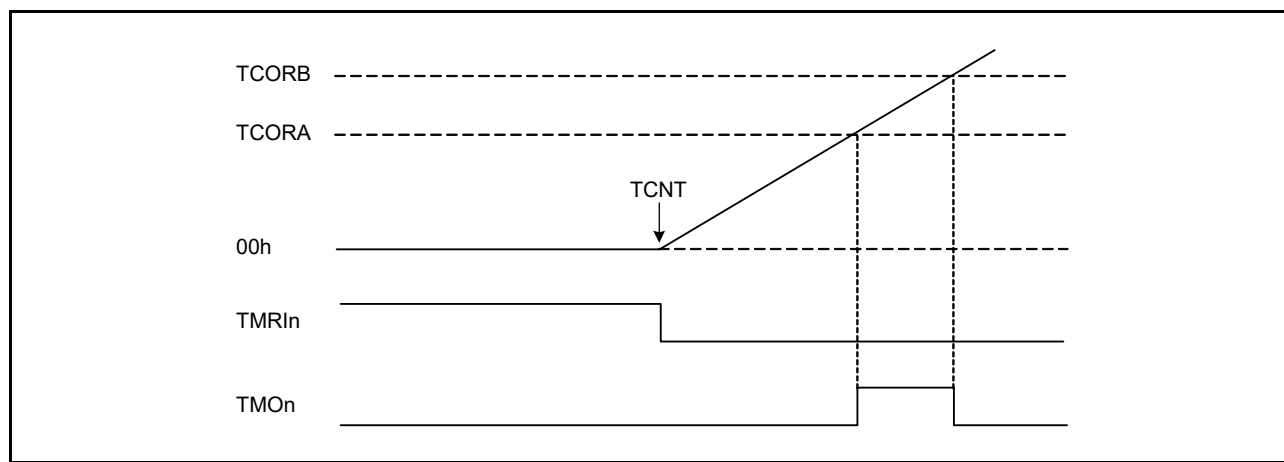


図 22.4 外部カウンタリセット信号入力例 (n = 0 ~ 3)

22.4 動作タイミング

22.4.1 TCNT カウンタのカウンタタイミング

内部クロック動作の場合の TCNT カウンタのカウンタタイミングを図 22.5 に示します。また、外部クロック動作の場合の TCNT カウンタのカウンタタイミングを図 22.6 に示します。

なお外部クロックのパルス幅は、片エッジの場合は 1.5 PCLK 以上、両エッジの場合は 2.5 PCLK 以上必要です。これ以下のパルス幅では正しく動作しませんので注意してください。

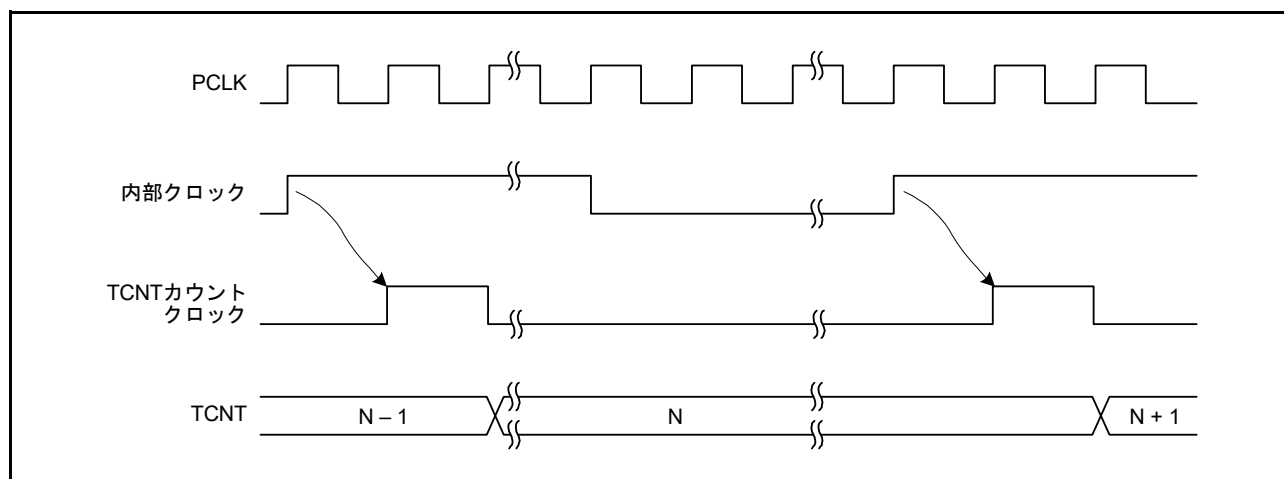


図 22.5 内部クロック動作時のカウンタタイミング

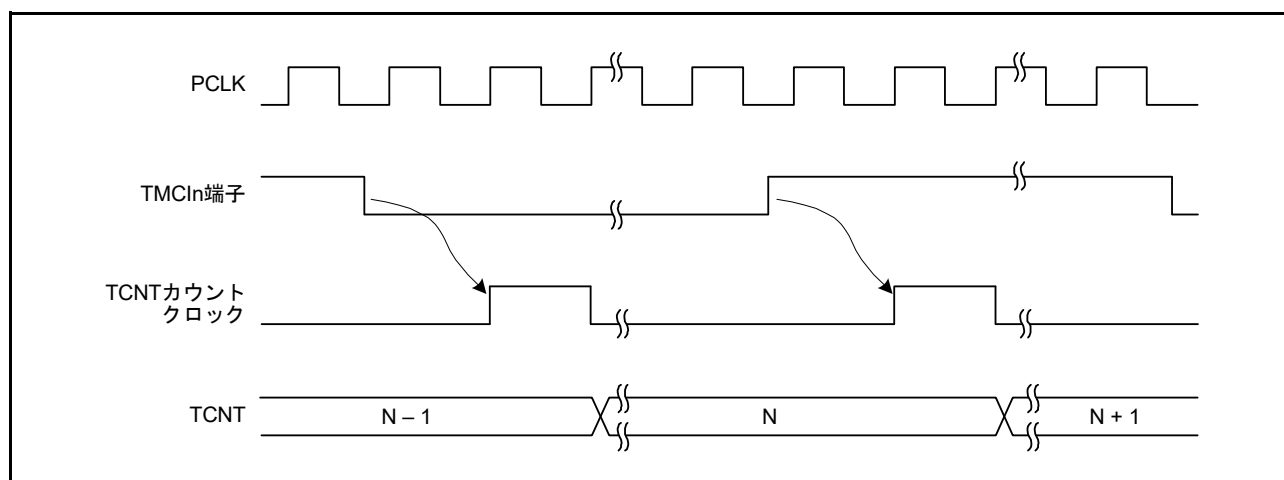


図 22.6 外部クロック動作時のカウンタタイミング (両エッジの場合)

22.4.2 コンペアマッチ時の割り込みタイミング

TCORA または TCORB レジスタが TCNT カウンタの値と一致したときコンペアマッチが発生し、割り込み要求が許可されていればコンペアマッチ割り込み信号が出力されます。コンペアマッチは、一致した最後のステート (TCNT カウンタが一致したカウント値を更新するタイミング) で発生します。したがって、TCNT カウンタと TCORA、TCORB レジスタの値が一致した後、TCNT カウントクロックが発生するまでコンペアマッチは発生しません。割り込み信号の出力タイミングを図 22.7 に示します。

なお、対応する割り込みベクタ番号は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」と表 22.6 を参照してください。

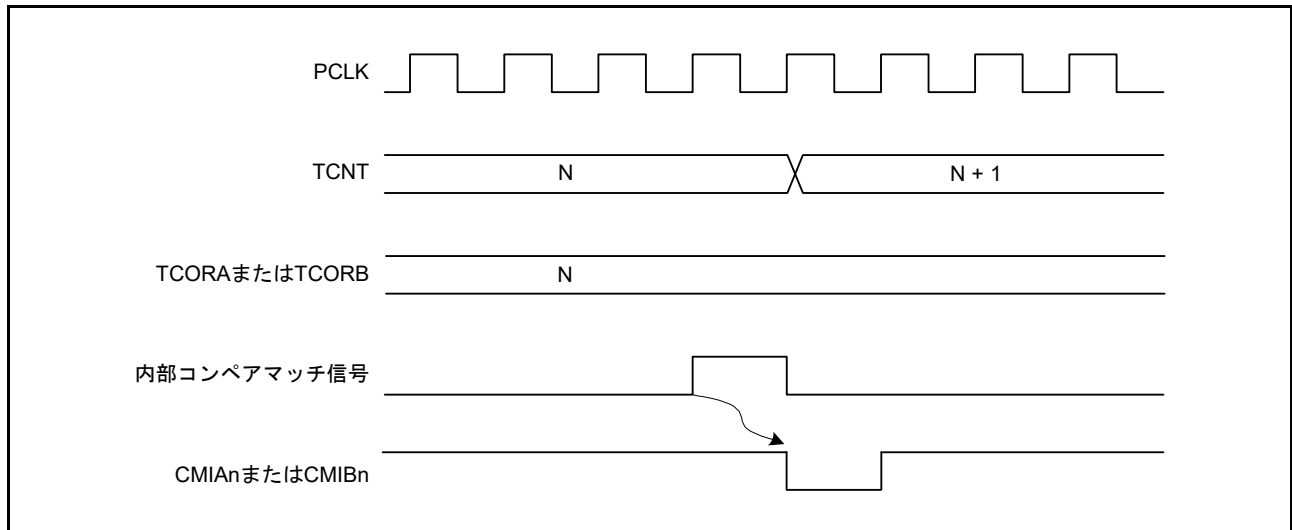


図 22.7 コンペアマッチ時の割り込みタイミング (n = 0 ~ 3)

22.4.3 コンペアマッチ時の出力信号タイミング

コンペアマッチ信号が発生したとき、TCSR.OSA[1:0], OSB[1:0] ビットで設定される出力値がタイマ出力端子 (TMO_n) に出力されます。

コンペアマッチ A 信号によるトグル出力の場合の出力信号タイミングを図 22.8 に示します。

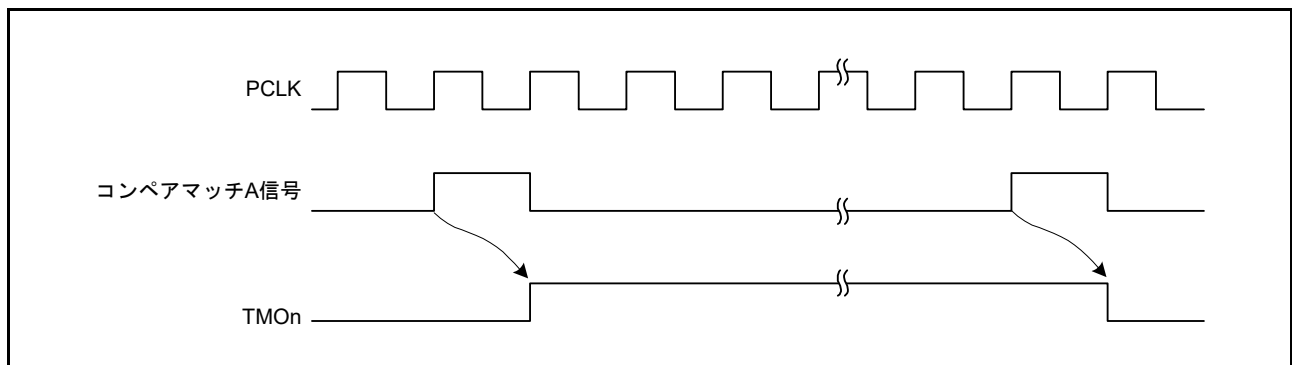


図 22.8 コンペアマッチ A 信号による出力信号タイミング (n = 0 ~ 3)

22.4.4 コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング

TCNT カウンタは、TCR.CCLR[1:0] ビットの選択によりコンペアマッチ A またはコンペアマッチ B でクリアされます。

コンペアマッチによるカウンタクリアタイミングを図 22.9 に示します。

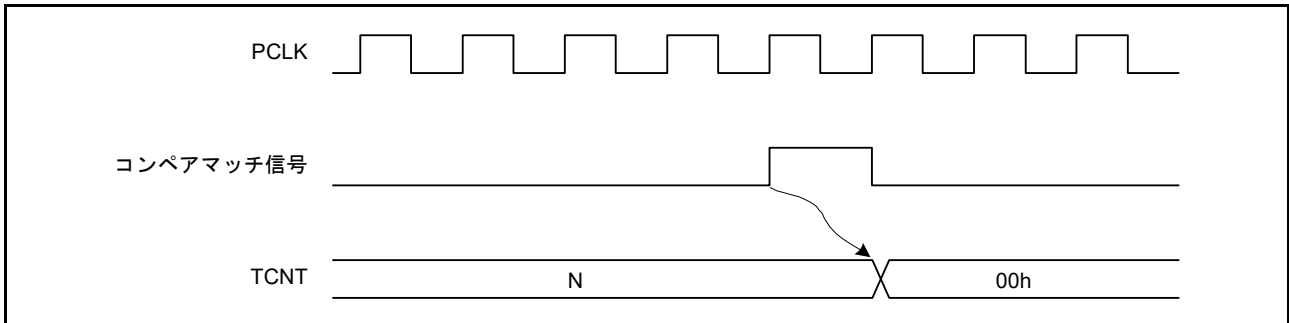


図 22.9 コンペアマッチによるカウンタクリアタイミング

22.4.5 TCNT カウンタの外部リセットタイミング

TCNT カウンタは、TCR.CCLR[1:0] ビットの選択により外部カウンタリセット信号の立ち上がりエッジ、または High でクリアされます。リセットを入力してから TCNT カウンタのクリアまでは 2PCLK 以上必要となります。

外部カウンタリセット信号によるクリアタイミングを図 22.10、図 22.11 に示します。

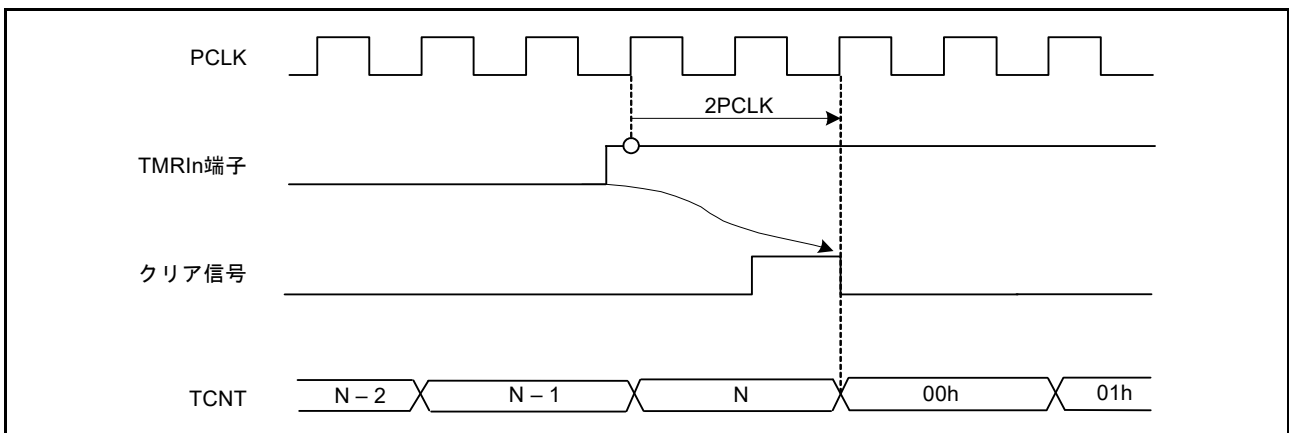


図 22.10 外部カウンタリセット信号によるクリアタイミング (立ち上がりエッジ)

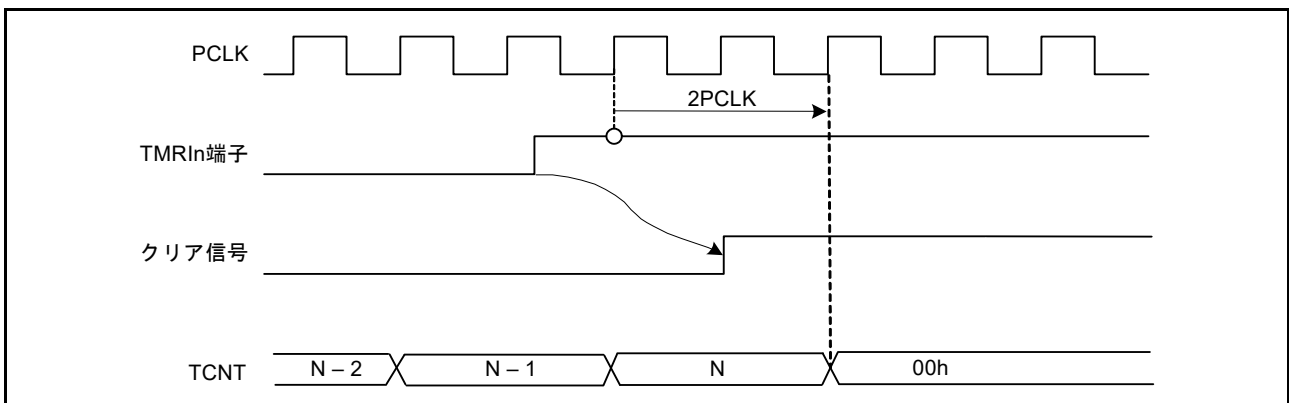


図 22.11 外部カウンタリセット信号によるクリアタイミング (High)

22.4.6 オーバフローによる割り込みタイミング

TCNT カウンタのオーバフロー (“FFh”→“00h”) が発生すると、割り込み要求が許可されていれば、オーバフロー割り込み信号が出力されます。

割り込み信号の出力タイミングを図 22.12 に示します。

なお、対応する割り込みベクタ番号は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」と表 22.6 を参照してください。

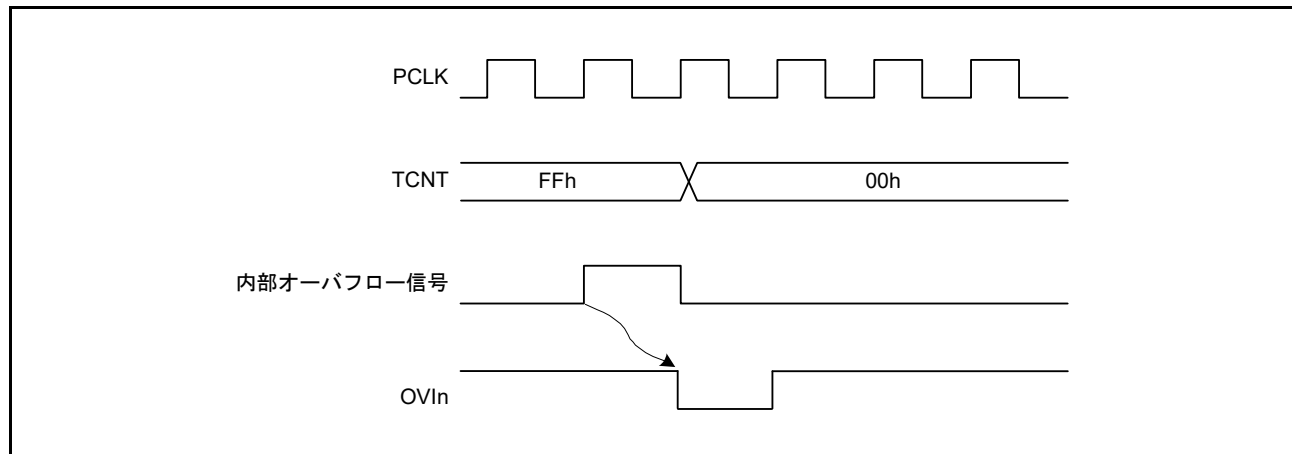


図 22.12 オーバフローによる割り込みタイミング (n = 0 ~ 3)

22.5 カスケード接続時の動作

TMR0.TCCR、TMR1.TCCR レジスタのいずれか一方の CSS[1:0] ビットを“11b”にすると、2チャンネルの TMR はカスケード接続されます。この場合、1本の16ビットタイマとして使用する16ビットカウントモードか、または TMR0 のコンペアマッチを TMR1 でカウントするコンペアマッチカウントモードにすることができます。

なお、この節ではユニット0について説明しています。ユニット1のカスケード接続時の動作についても、ユニット0と同様です。

22.5.1 16ビットカウントモード

TMR0.TCCR.CSS[1:0] ビットが“11b”のとき、TMR0 を上位8ビット、TMR1 を下位8ビットとする1チャンネルの16ビットタイマとして動作します。

(1) カウンタクリア指定

- TMR0.TCR.CCLR[1:0] ビットの設定が16ビットカウンタに対して有効になります。
TMR0.TCR.CCLR[1:0] ビットでコンペアマッチによるカウンタクリアを設定した場合、16ビットのコンペアマッチが発生すると16ビットカウンタ (TMR0.TCNT、TMR1.TCNT カウンタの両方) がクリアされます。また、TMR10 端子によるカウンタクリアを設定した場合も、16ビットカウンタ (TMR0.TCNT、TMR1.TCNT カウンタの両方) がクリアされます。
- TMR1.TCR.CCLR[1:0] ビットの設定は無効になります。

(2) 端子出力

- TMR0.TCSR.OSA[1:0]、OSB[1:0] ビットによる TMO0 端子の出力制御は、16ビットのコンペアマッチ条件に従います。
- TMR1.TCSR.OSA[1:0]、OSB[1:0] ビットによる TMO1 端子の出力制御は、下位8ビットのコンペアマッチ条件に従います。

22.5.2 コンペアマッチカウントモード

TMR1.TCCR.CSS[1:0] ビットが“11b”のとき、TMR1.TCNT カウンタは TMR0 のコンペアマッチ A の発生回数をカウントします。TMR0、TMR1 の制御はそれぞれ個別に行われ、割り込みの発生、TMO_n 端子 (n = 0, 1) の出力、カウンタクリアなどは各チャンネルの設定に従います。

22.6 割り込み要因

22.6.1 割り込み要因と DTC 起動

TMRn の割り込み要因は、CMIA_n、CMIB_n、OVIn の 3 種類があります。表 22.6 に各割り込み要因と優先順位を示します。

なお、CMIA_n、CMIB_n 割り込みにより DTC を起動することができます。

表 22.6 TMR の割り込み要因

名称	割り込み要因	DTC の起動	優先順位
CMIA0	TMR0.TCORA のコンペアマッチ	可能	高  低
CMIB0	TMR0.TCORB のコンペアマッチ	可能	
OVI0	TMR0.TCNT のオーバーフロー	不可能	
CMIA1	TMR1.TCORA のコンペアマッチ	可能	
CMIB1	TMR1.TCORB のコンペアマッチ	可能	
OVI1	TMR1.TCNT のオーバーフロー	不可能	
CMIA2	TMR2.TCORA のコンペアマッチ	可能	
CMIB2	TMR2.TCORB のコンペアマッチ	可能	
OVI2	TMR2.TCNT のオーバーフロー	不可能	
CMIA3	TMR3.TCORA のコンペアマッチ	可能	
CMIB3	TMR3.TCORB のコンペアマッチ	可能	
OVI3	TMR3.TCNT のオーバーフロー	不可能	

22.7 ELCによるリンク動作

22.7.1 ELC へのイベント信号出力

TMR はイベントリンクコントローラ (ELC) により、割り込み要求信号をイベント信号として使用して、あらかじめ設定したモジュールに対してリンク動作が可能です。TMR はコンペアマッチ A、コンペアマッチ B、および、オーバフローのイベント信号を出力します。対応するチャンネルは TMR0 と TMR2 です。

イベント信号は該当する割り込み要求許可ビット (TMR0.TCR.OVIE/TMR2.TCR.OVIE, TMR0.TCR.CMIEA/TMR2.TCR.CMIEA, TMR0.TCR.CMIEB/TMR2.TCR.CMIEB) の設定に関係なく出力することができます。詳細は、「17. イベントリンクコントローラ (ELC)」を参照してください。

カスケード接続の動作にも、イベント出力機能は対応しています。

22.7.2 ELC からのイベント信号受信による TMR 動作

TMR は ELC の ELSRn レジスタの設定により、あらかじめ設定したイベントによる次の動作が可能です。ただし、カスケード接続の動作には ELC は対応しておりません。

(1) カウントスタート動作

ELC の ELOPD レジスタで TMR のカウントスタート動作を選択します。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCSTR.TCS ビットが“1”にセットされ、TMR のカウントがスタートします。カウントソースは、ELC の ELOPD レジスタで TMR のカウントスタート動作を選択した後、TCCR.CKS[2:0] ビット、CSS[1:0] ビットの設定により選択してください。

TCS ビットが“1”にセットされた状態で指定したイベントが発生した場合は、そのイベントは無効となります。

カウントを停止させるためには、TCSTR.TCS ビットへ“0”を書いてください。

カウント停止状態でカウントスタートのイベントが入力されると、再び CKS[2:0]、CSS[1:0] ビットに従ってカウントします。

TCS ビットは、ELC の ELOPD.TMR0MD[1:0]、ELOPD.TMR2MD[1:0] ビットにおいてカウントスタートが選択されたときのみ有効となります。

(2) イベントカウンタ動作

ELC の ELOPD レジスタで TMR のイベントカウンタ動作を選択します。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCCR.CKS[2:0] ビット、CSS[1:0] ビットの設定に関係なくそのイベントをカウントソースとして、イベントカウンタ動作します。カウント値を読み出すと、実際に入力されたイベント数が読み出されます。

(3) カウントリスタート動作

ELC の ELOPD レジスタで TMR のカウントリスタート動作を選択します。ELSRn レジスタで指定したイベントが発生すると、TCNT カウンタの値が初期値に書き換わります。CKS[2:0] ビット、CSS[1:0] ビットの設定が「クロック入力禁止」以外になっていれば、カウンタ動作を継続することができます。

22.7.3 ELCからのイベント信号受信によるTMRの注意事項

以下にTMRをイベントリンクによる動作で使用する際の注意事項を示します。

(1) カウントスタート動作

TCSTR.TCSビットへのライトサイクル中にELSRnレジスタで指定したイベントが発生すると、TCSTR.TCSビットへの書き込みサイクルは行われずイベント発生による“1”の設定が優先されます。

(2) イベントカウンタ動作

TCNTカウンタへのライトサイクル中にELSRnレジスタで指定したイベントが発生すると、TCNTカウンタへの書き込みサイクルは行われずイベント発生によるカウント動作が優先されます。

(3) カウントリスタート動作

TCNTカウンタへのライトサイクル中にELSRnレジスタで指定したイベントが発生すると、TCNTカウンタへの書き込みサイクルは行われずイベント発生によるカウント値の初期化が優先されます。

22.8 使用上の注意事項

22.8.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタにより、TMRの動作禁止/許可を設定することが可能です。初期値では、TMRの動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

22.8.2 周期設定上の注意

コンペアマッチによるカウンタクリアを設定した場合、TCNTカウンタはTCORA、TCORBレジスタの値と一致した最後のPCLK(TCNTカウンタが一致したカウント値を更新するタイミング)でクリアされます。このため、カウンタの周波数は以下の式になります(f :カウンタ周波数、PCLK:動作周波数、 N :TCORA、TCORBレジスタの設定値)。

$$f = \text{PCLK} / (N + 1)$$

22.8.3 TCNTカウンタへの書き込みとカウンタクリアの競合

図22.13のようにCPUによるTCNTカウンタへの書き込みと同時にカウンタクリアが発生すると、カウンタへの書き込みは行われずクリアが優先されます。

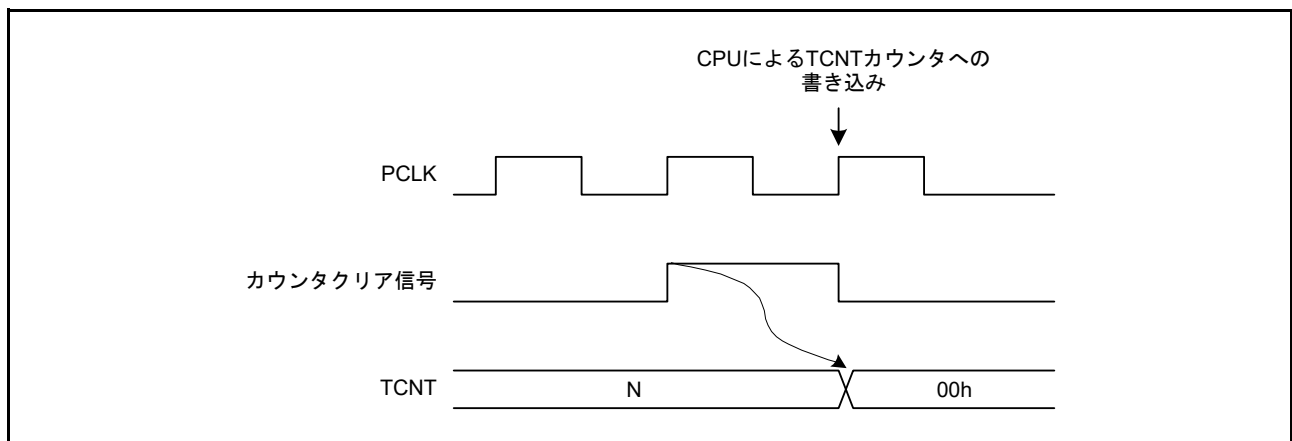


図 22.13 TCNTカウンタへの書き込みとカウンタクリアの競合

22.8.4 TCNT カウンタへの書き込みとカウントアップの競合

図 22.14 のように CPU による TCNT カウンタへの書き込みと同時にカウントアップが発生しても、カウントアップされず TCNT カウンタへの書き込みが優先されます。

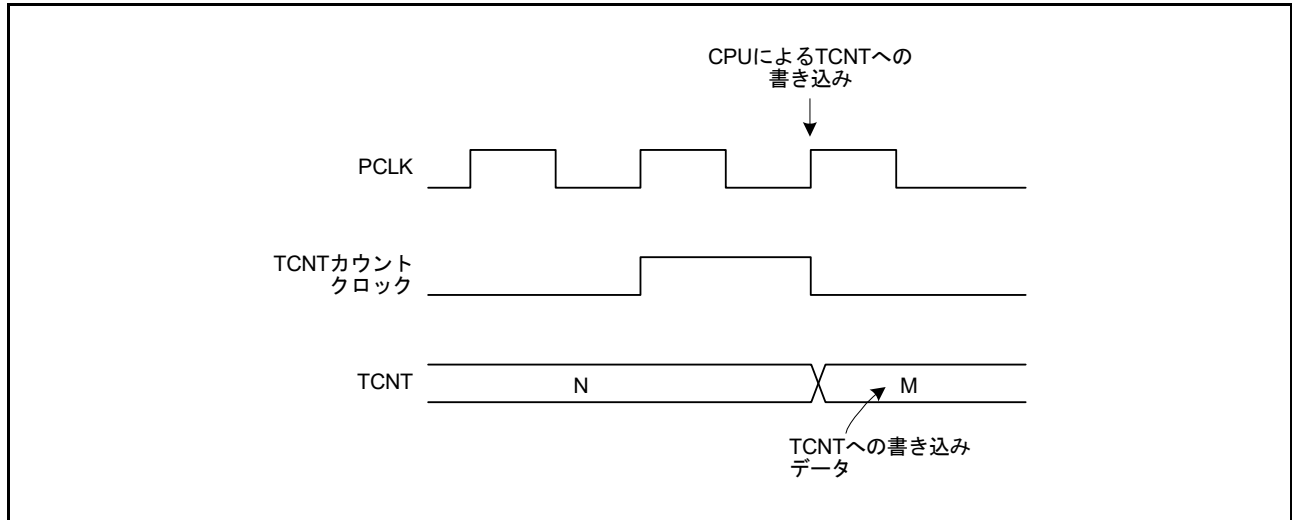


図 22.14 TCNT カウンタへの書き込みとカウントアップの競合

22.8.5 TCORA、TCORB レジスタへの書き込みとコンペアマッチの競合

図 22.15 のように CPU による TCORA、TCORB レジスタへの書き込みと同時にコンペアマッチが発生するタイミングとなっても、TCORA、TCORB レジスタへの書き込みが優先されコンペアマッチ信号は High になりません。

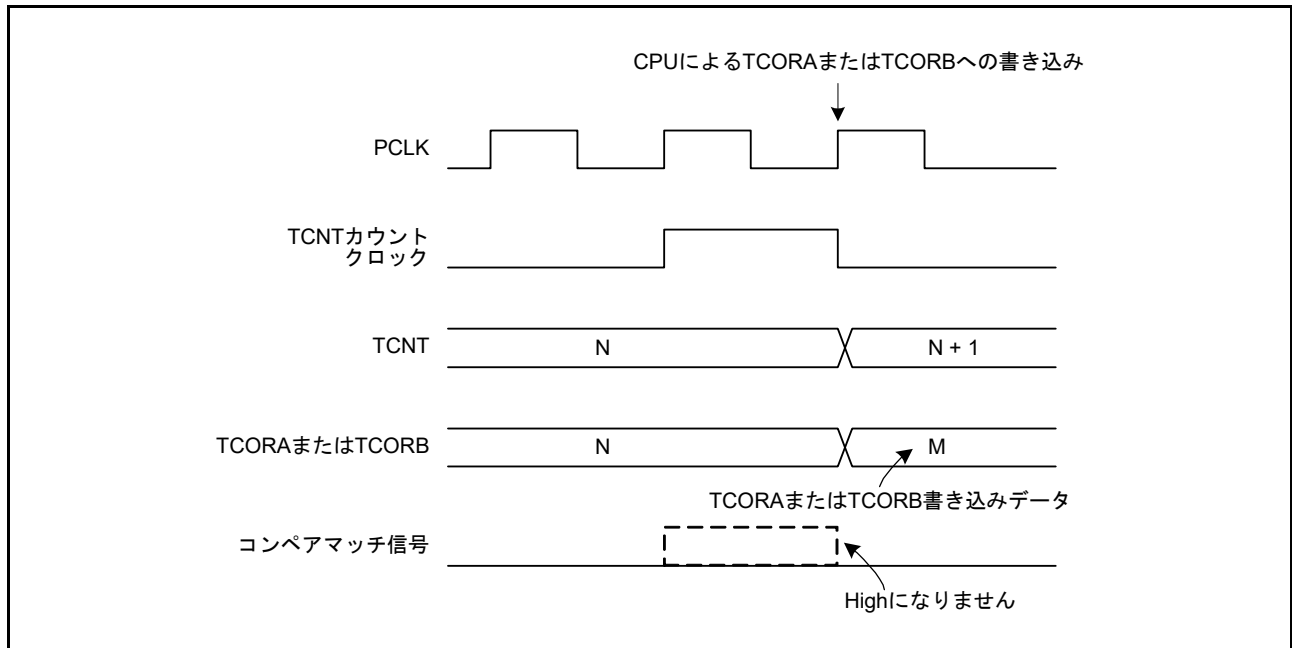


図 22.15 TCORA、TCORB レジスタのライトとコンペアマッチの競合

22.8.6 コンペアマッチ A、B の競合

コンペアマッチ A、コンペアマッチ B が同時に発生すると、コンペアマッチ A に対して設定されている出力方法と、コンペアマッチ B に対して設定されている出力方法のうち、表 22.7 に示す出力設定の優先順位の高い方が出力されます。

表 22.7 タイマ出力の優先順位

出力設定	優先順位
トグル出力	高 ↑ 低
High出力	
Low出力	
変化しない	

22.8.7 内部クロックの切り替えと TCNT カウンタの動作

内部クロックを切り替えるタイミングによっては、TCNT カウンタがカウントアップされてしまう場合があります。内部クロックの切り替えタイミング (TCCR.CKS[2:0] ビットの書き換え) と、TCNT カウンタ動作の関係を表 22.8 に示します。

内部クロックから TCNT カウントクロックを生成する場合、内部クロックの立ち上がりエッジを検出しています。そのため、たとえば表 22.8 の No.2 のように、Low→High になるようなクロックの切り替えを行うと、切り替えタイミングをエッジと見なして TCNT カウントクロックが発生し、TCNT カウンタがカウントアップされてしまいます。

また、内部クロックと外部クロックを切り替えるときも、TCNT カウンタがカウントアップされることがあります。

表 22.8 内部クロックの切り替えと TCNT カウンタの動作 (1/2)

No.	TCCR.CKS[2:0] ビット書き換えタイミング	TCNT カウンタの動作
1	Low→Low (注1)の切り替え	<p>切り替え前のクロック</p> <p>切り替え後のクロック</p> <p>TCNT カウントクロック</p> <p>TCNT</p> <p>TCCR.CKS[2:0] ビット書き換え</p>

表22.8 内部クロックの切り替えとTCNTカウンタの動作 (2/2)

No.	TCCR.CKS[2:0]ビット書き換えタイミング	TCNTカウンタの動作
2	Low→High (注2)の切り替え	<p style="text-align: center;">TCCR.CKS[2:0]ビット書き換え</p>
3	High→Low (注4)の切り替え	<p style="text-align: center;">TCCR.CKS[2:0]ビット書き換え</p>
4	High→Highの切り替え	<p style="text-align: center;">TCCR.CKS[2:0]ビット書き換え</p>

- 注1. Low→停止、および停止→Lowの場合を含みます。
- 注2. 停止→Highの場合を含みます。
- 注3. 切り替えのタイミングをエッジとみなすために発生し、TCNTカウンタはカウントアップされてしまいます。
- 注4. High→停止の場合を含みます。

22.8.8 カスケード接続時のクロックソース設定

16ビットカウントモードとコンペアマッチカウントモードを同時に設定した場合、TMR0.TCNT、TMR1.TCNT カウンタ (TMR2.TCNT、TMR3.TCNT カウンタ) のカウントクロックが発生しなくなるため、カウンタが停止して動作しません。この設定はしないでください。

22.8.9 コンペアマッチ割り込みの連続出力

TCORA または TCORB レジスタを“00h”に、内部クロックを PCLK/1、コンペアマッチでカウンタクリアに設定した場合、TCNT カウンタは“00h”のままで更新されず、コンペアマッチ割り込みを連続してレベル状に出力します。

このとき、割り込みコントローラは2つ目以降の割り込みを検出できなくなります。

コンペアマッチ割り込みが連続出力する場合の動作タイミングを図 22.16 に示します。

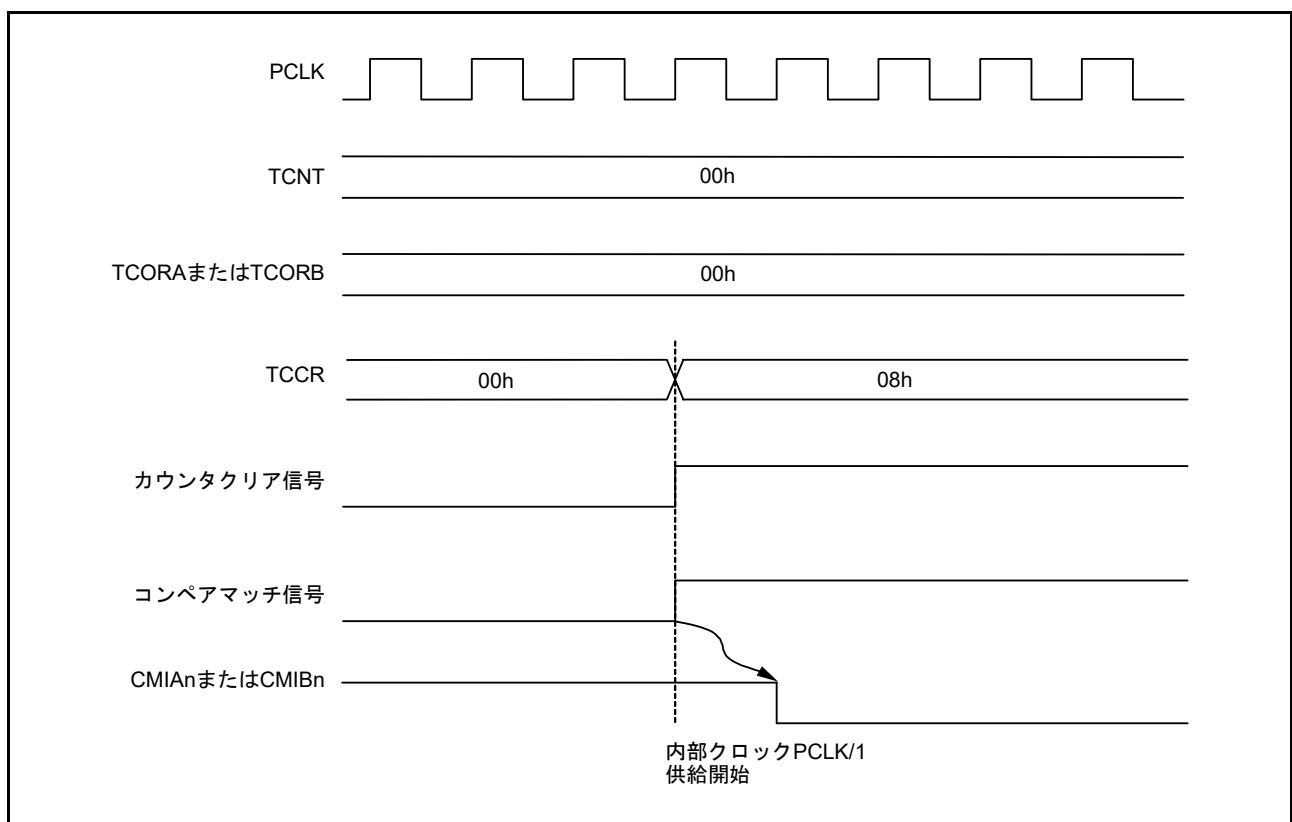


図 22.16 コンペアマッチ割り込みの連続出力 (n = 0 ~ 3)

23. コンペアマッチタイマ (CMT)

本 MCU は、2 チャンネルの 16 ビットタイマにより構成されるコンペアマッチタイマ (CMT) を 1 ユニット (ユニット 0)、合計 2 チャンネル内蔵しています。CMT は、16 ビットのカウンタを持ち、設定した周期ごとに割り込みを発生させることができます。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

23.1 概要

表 23.1 に CMT の仕様を示します。

図 23.1 に CMT (ユニット 0) のブロック図を示します。2 チャンネルの CMT で 1 ユニートを構成しています。

表 23.1 CMT の仕様

項目	機能
カウントクロック	<ul style="list-style-type: none"> 4種類の分周クロック PCLK/8、PCLK/32、PCLK/128、PCLK/512の中からチャンネルごとに選択可能
割り込み	コンペアマッチ割り込みをチャンネルごとに要求することが可能
イベントリンク機能(出力)	CMT1のコンペアマッチによりイベント信号出力
イベントリンク機能(入力)	設定したモジュールに対してリンク動作が可能 CMT1のカウントスタート、イベントカウンタ、カウントリスタート動作が可能
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

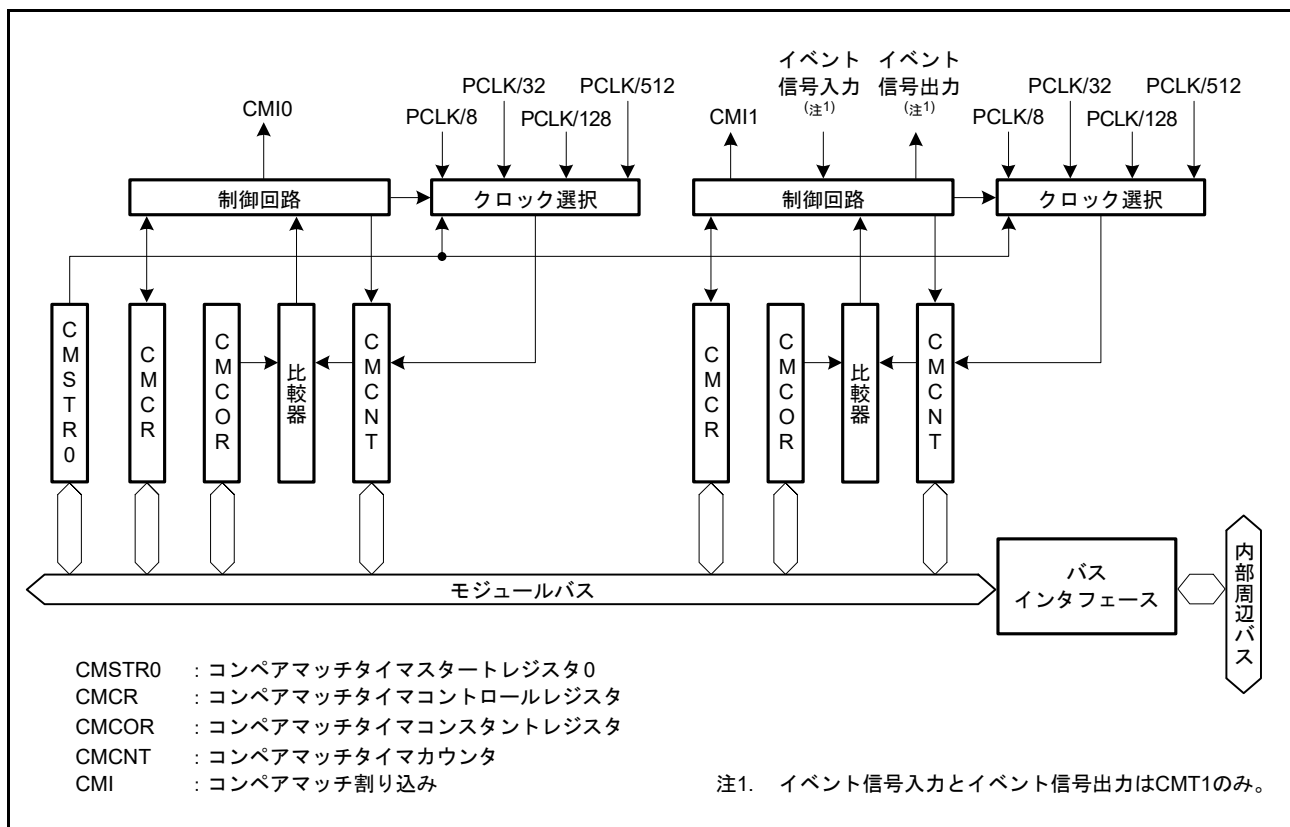


図 23.1 CMT (ユニット 0) のブロック図

23.2 レジスタの説明

23.2.1 コンペアマッチタイマスタートレジスタ 0 (CMSTR0)

アドレス CMT.CMSTR0 0008 8000h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	STR1	STR0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	STR0	カウントスタート0ビット	0 : CMT0.CMCNTカウンタのカウンタ動作停止 1 : CMT0.CMCNTカウンタのカウンタ動作開始	R/W
b1	STR1	カウントスタート1ビット	0 : CMT1.CMCNTカウンタのカウンタ動作停止 1 : CMT1.CMCNTカウンタのカウンタ動作開始	R/W
b15-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

23.2.2 コンペアマッチタイマコントロールレジスタ (CMCR)

アドレス CMT0.CMCR 0008 8002h, CMT1.CMCR 0008 8008h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CMIE	—	—	—	—	CKS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	0	0	0	0	0	0	0

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKS[1:0]	クロック選択ビット	b1 b0 0 0 : PCLK/8 0 1 : PCLK/32 1 0 : PCLK/128 1 1 : PCLK/512	R/W
b5-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	CMIE	コンペアマッチ割り込み許可ビット	0 : コンペアマッチ割り込み(CMIn)を禁止 1 : コンペアマッチ割り込み(CMIn)を許可	R/W
b7	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“1”としてください	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CKS[1:0] ビット (クロック選択ビット)

周辺モジュールクロック (PCLK) を分周して得られる 4 種類の分周クロックからカウントソースを選択します。

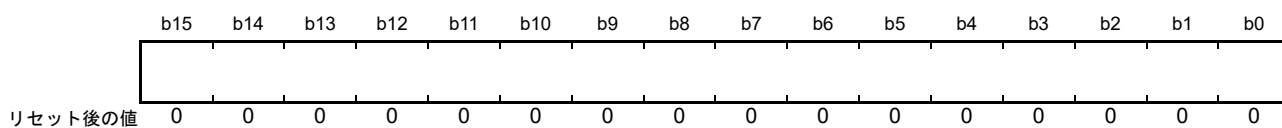
CMSTR0.STRn ビット (n = 0, 1) を“1”に設定すると、CKS[1:0] ビットで選択されたクロックにより対応する CMCNT カウンタがカウントアップを開始します。

CMIE ビット (コンペアマッチ割り込み許可ビット)

CMCNT と CMCOR の値が一致したとき、コンペアマッチ割り込み (CMIn) (n = 0, 1) の発生を許可するか禁止するかを選択します。

23.2.3 コンペアマッチタイマカウンタ (CMCNT)

アドレス CMT0.CMCNT 0008 8004h, CMT1.CMCNT 0008 800Ah



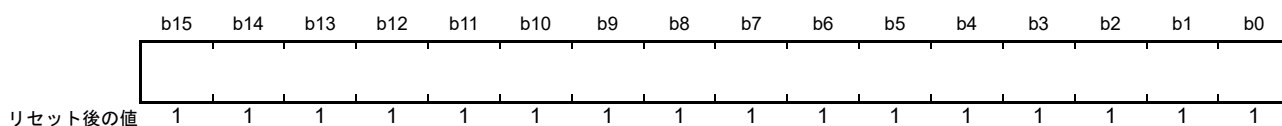
CMCNT カウンタは、読み出し / 書き込み可能なアップカウンタです。

CMCR.CKS[1:0] ビットで分周クロックを選択して、CMSTR0.STRn ビット (n = 0, 1) を “1” にすると、そのクロックによって CMCNT カウンタはカウントアップを開始します。

CMCNT カウンタの値が CMCOR レジスタの値と一致すると、CMCNT カウンタは “0000h” になります。このとき、コンペアマッチ割り込み (CMIn) (n = 0, 1) が発生します。

23.2.4 コンペアマッチタイマコンスタントレジスタ (CMCOR)

アドレス CMT0.CMCOR 0008 8006h, CMT1.CMCOR 0008 800Ch



CMCOR レジスタは、CMCNT カウンタとのコンペアマッチする値を設定する読み出し / 書き込み可能なレジスタです。

23.3 動作説明

23.3.1 周期カウント動作

CMCR.CKS[1:0] ビットで分周クロックを選択し、CMSTR0.STRn ビット ($n=0, 1$) を“1”にすると、選択したクロックによってCMCNTカウンタはカウントアップを開始します。

CMCNTカウンタの値がCMCORレジスタの値と一致すると、コンペアマッチ割り込み(CMIn) ($n=0, 1$) が発生します。CMCNTカウンタは“0000h”からカウントアップを再開します。CMCNTカウンタの動作を図23.2に示します。

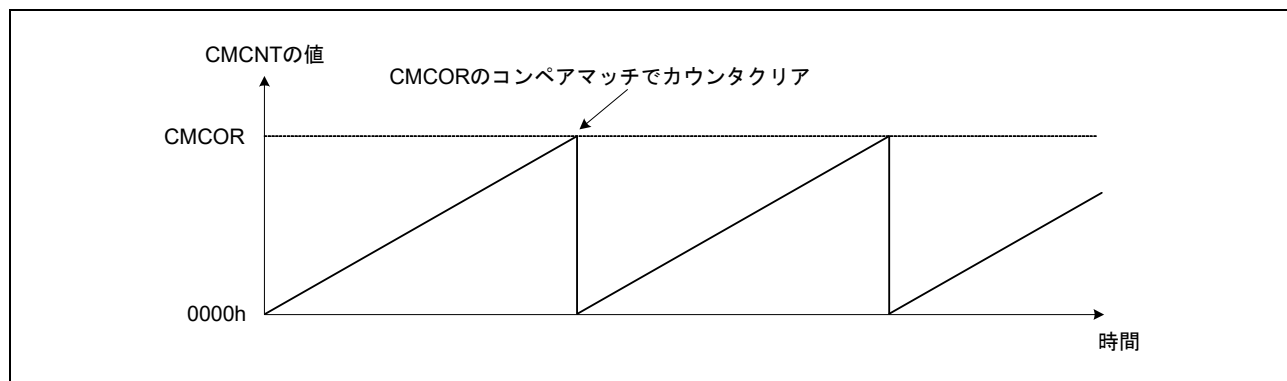


図 23.2 CMCNT カウンタの動作

23.3.2 CMCNT カウンタのカウントタイミング

CMCR.CKS[1:0] ビットで、周辺モジュールクロック(PCLK)を分周した4種類の分周クロック(PCLK/8、PCLK/32、PCLK/128、PCLK/512)からCMCNTカウンタに入力するカウントクロックを選択できます。このときのCMCNTカウンタのカウントタイミングを図23.3に示します。

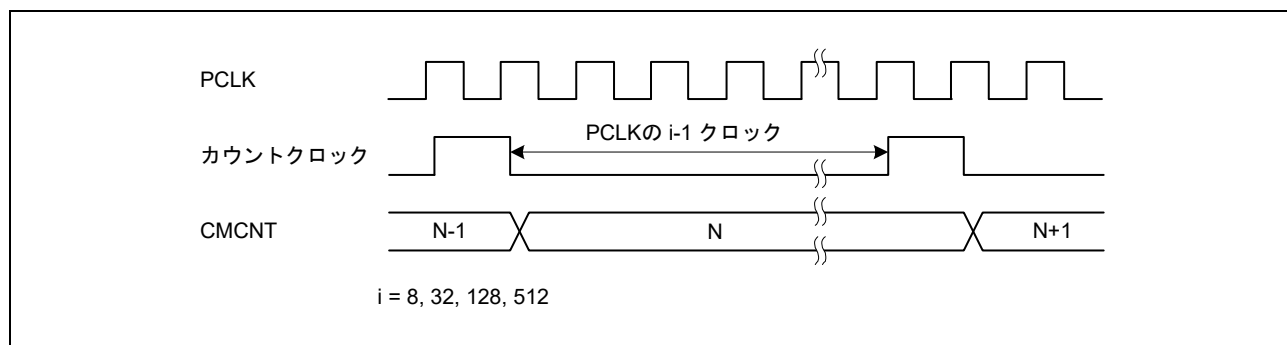


図 23.3 CMCNT カウンタのカウントタイミング

23.4 割り込み

23.4.1 割り込み要因

CMTは、チャンネルごとにコンペアマッチ割り込み (CMI_n) ($n = 0, 1$) があり、それぞれ個々にベクタアドレスが割り当てられています。コンペアマッチ割り込みが発生すると、該当する割り込み要求が出力されます。

割り込み要求により CPU 割り込みを発生させる場合、チャンネル間の優先順位は割り込みコントローラの設定により変更可能です。詳しくは「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

表 23.2 CMTの割り込み要因

名称	割り込み要因	DTCの起動
CMI0	CMT0のコンペアマッチ	可能
CMI1	CMT1のコンペアマッチ	可能

23.4.2 コンペアマッチ割り込みの発生タイミング

CMCNT カウンタの値と CMCOR レジスタの値が一致したときに、コンペアマッチ割り込み (CMI_n) ($n = 0, 1$) が発生します。

コンペアマッチ信号は、一致した最後のステート (CMCNT カウンタが一致したカウント値を更新するタイミング) で発生します。したがって、CMCNT カウンタの値と CMCOR レジスタの値とが一致した後、CMCNT 入力クロックが発生するまでコンペアマッチ信号は発生しません。

コンペアマッチ割り込みのタイミングを図 23.4 に示します。

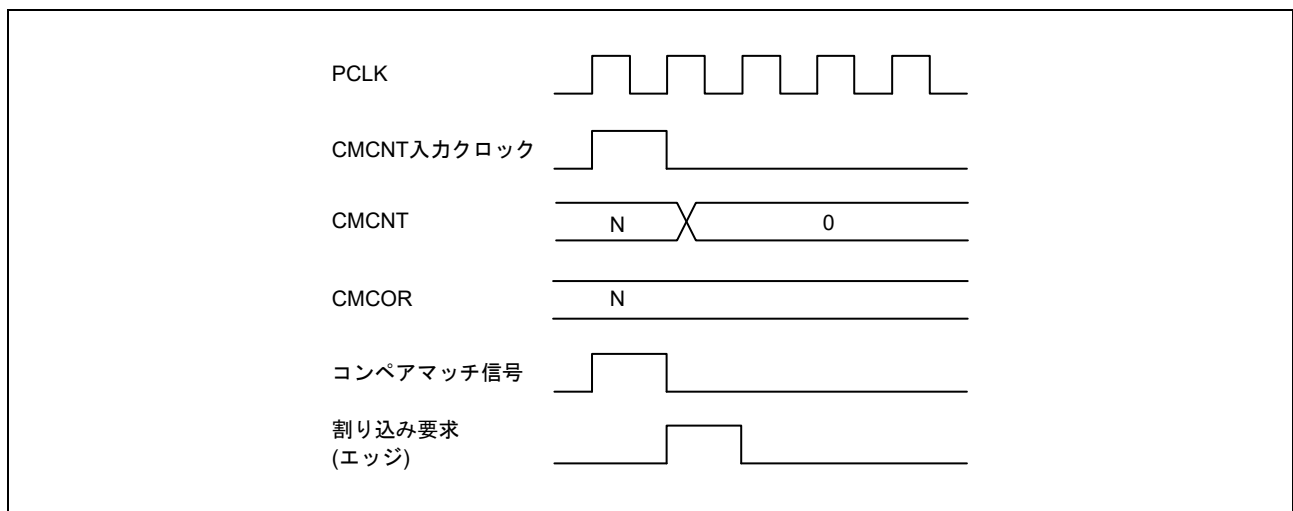


図 23.4 コンペアマッチ割り込みタイミング

23.5 ELCによるリンク動作

23.5.1 ELC へのイベント信号出力

CMT はイベントリンクコントローラ (ELC) により、割り込み要求信号をイベント信号として使用して、あらかじめ設定したモジュールに対してリンク動作が可能です。CMT1 のコンペアマッチによりイベント信号を出力します。

イベント信号は該当する割り込み要求許可ビット (CMTn.CMCR.CMIE ビット) の設定に関係なく出力することができます。

23.5.2 ELC からのイベント信号受信による CMT の動作

CMT は ELC の ELSR7 レジスタにあらかじめ設定したイベントにより次の動作が可能です。

(1) カウントスタート動作

ELC の ELOPC レジスタで CMT のカウントスタート動作を選択します。ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMSTR0.STR1 ビットが“1”になり、CMT のカウントがスタートします。

ただし、CMSTR0.STR1 ビットが“1”になった状態で指定したイベントが発生した場合は、そのイベントは無効となります。

(2) イベントカウンタ動作

ELC の ELOPC レジスタで CMT のイベントカウンタ動作を選択します。CMSTR0.STR1 ビットが“1”の状態、ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMT1.CMCR.CKS[1:0] ビットの設定に関係なくそのイベントをカウンタソースとして、イベントカウンタ動作を行います。カウンタ値を読み出すと、実際に入力されたイベント数が読み出されます。

(3) カウンタリスタート動作

ELC の ELOPC レジスタで CMT のカウンタリスタート動作を選択します。ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMT1.CMCNT カウンタの値が初期値に書き換わります。CMSTR0.STR1 ビットが“1”の状態であればカウンタ動作を継続することができます。

23.5.3 ELC からのイベント信号受信による CMT の注意事項

以下に CMT をイベントリンクによる動作で使用する際の注意事項を示します。

(1) カウントスタート動作

CMSTR0.STR1 ビットへのライトサイクル中に ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMSTR0.STR1 ビットへの書き込みは行われずイベント発生による“1”の設定が優先されます。

(2) イベントカウンタ動作

CMT1.CMCNT カウンタへのライトサイクル中に ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMT1.CMCNT カウンタへの書き込みは行われずイベント発生によるカウンタ動作が優先されます。

(3) カウンタリスタート動作

CMT1.CMCNT カウンタへのライトサイクル中に ELSR7 レジスタで指定したイベントが発生すると、CMT1.CMCNT カウンタへの書き込みは行われずイベント発生によるカウンタ値の初期化が優先されます。

23.6 使用上の注意事項

23.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタにより、CMTの動作を禁止/許可することが可能です。リセット後、CMTはモジュールストップ状態です。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

23.6.2 CMCNTカウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合

CMCNTカウンタへの書き込み中にコンペアマッチ信号が発生すると、CMCNTカウンタへの書き込みは行われずCMCNTカウンタのクリアが優先されます。このタイミングを図23.5に示します。

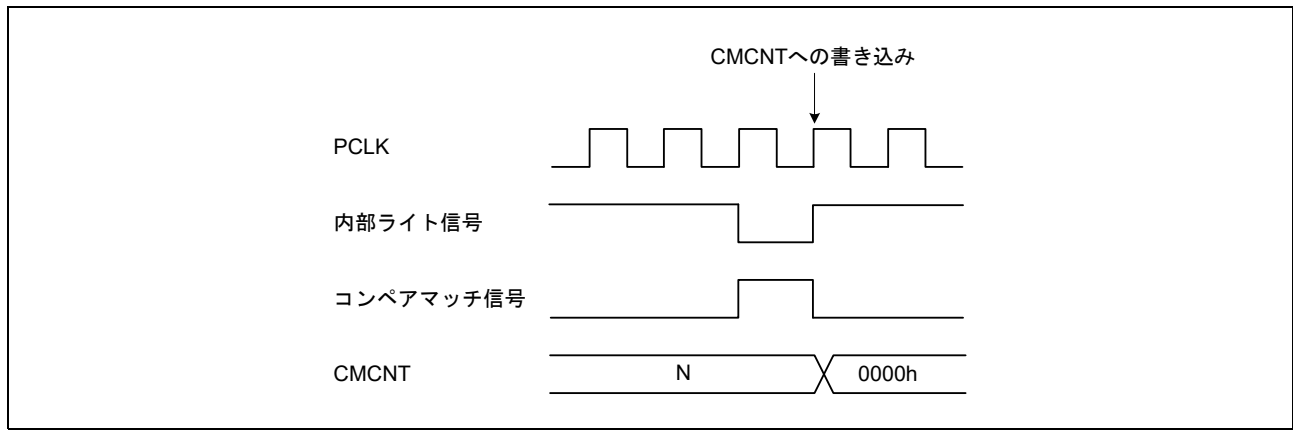


図 23.5 CMCNTカウンタへの書き込みとコンペアマッチの競合

23.6.3 CMCNTカウンタへの書き込みとカウントアップの競合

CMCNTカウンタへの書き込みと、カウントアップが競合した場合、CMCNTカウンタへの書き込みが優先されます。このタイミングを図23.6に示します。

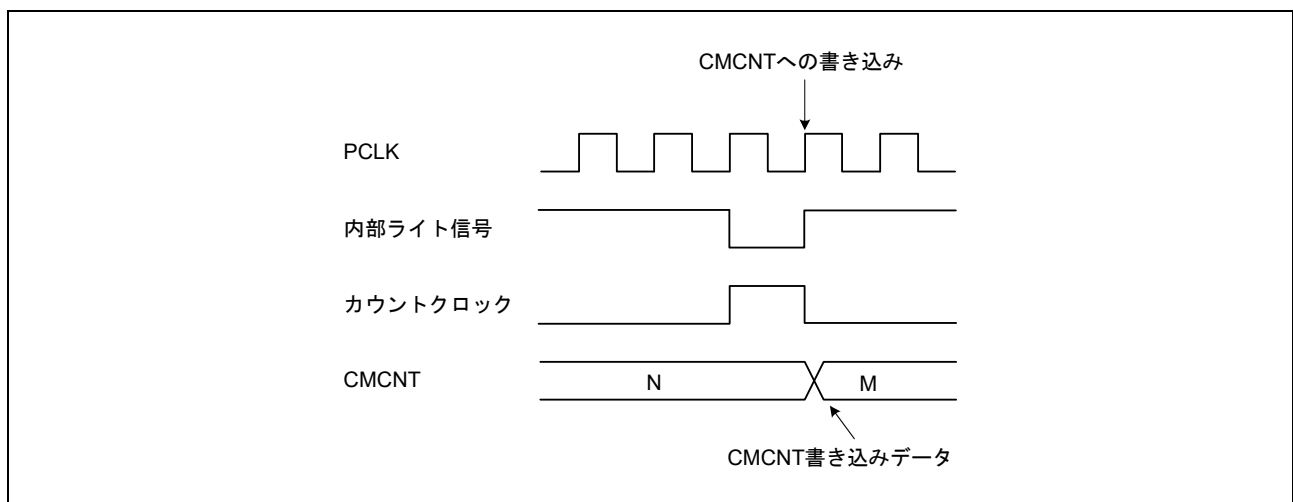


図 23.6 CMCNTカウンタへの書き込みとカウントアップの競合

24. リアルタイムクロック (RTCB)

24.1 概要

RTCはカウントモードとして、カレンダーカウントモードとバイナリカウントモードの2種類を持ち、レジスタの設定により切り替えて使用します。

カレンダーカウントモードは、2000年から2099年の100年間を、うるう年を自動で判定してカウントするモードです。

バイナリカウントモードは、年、月、日、曜日、時、分の概念を持たず、秒のみをカウントし、その情報をシリアル値として保持するモードで、西暦以外のカレンダーに対応できます。

RTCは、クロックソースをプリスケアラで分周した128 Hzのクロックを基準クロックとして年、月、日、曜日、午前/午後(12時間モード時)、時、分、秒、または32ビットバイナリを1/128秒単位でカウントします。

表 24.1 に RTC の仕様を、図 24.1 に RTC のブロック図を、表 24.2 に RTC の入出力端子を示します。

表24.1 RTCの仕様

項目	内容
カウントモード	カレンダーカウントモード/バイナリカウントモード
クロックソース(注1)	サブクロック(XCIN)
時計/カレンダー機能	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダーカウントモード 年、月、日、曜日、時、分、秒をカウント、BCD表示 12時間/24時間モード切り替え機能 30秒調整機能(30秒未満は00秒に切り捨て、30秒以降は1分に桁上げ) うるう年自動補正機能 • バイナリカウントモード 秒を32ビットでカウント、バイナリ表示 • 両モード共通 スタート/ストップ機能 秒以下の桁のバイナリ表示(1 Hz, 2 Hz, 4 Hz, 8 Hz, 16 Hz, 32 Hz, 64 Hz) 時計誤差補正機能 クロック(1 Hz/64 Hz)出力
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> • アラーム割り込み(ALM) アラーム割り込み条件として、以下のいずれと比較するか選択可能 • カレンダーカウントモード：年、月、日、曜日、時、分、秒 • バイナリカウントモード：32ビットバイナリカウンタの各ビット • 周期割り込み(PRD) 割り込み周期として、2秒、1秒、1/2秒、1/4秒、1/8秒、1/16秒、1/32秒、1/64秒、1/128秒、1/256秒 周期から選択可能 • 桁上げ割り込み(CUP) 次のいずれかのタイミングで割り込み要求発生 • 64 Hzカウンタから秒カウンタへの桁上げが発生したとき • 64 Hzカウンタの変化とR64CNTレジスタの読み出しタイミングが重なったとき • アラーム割り込み、周期割り込みによる、ソフトウェアスタンバイモードからの復帰が可能

注1. 周辺モジュールクロック周波数(PCLKB) ≧ クロックソース周波数となるようにしてください。

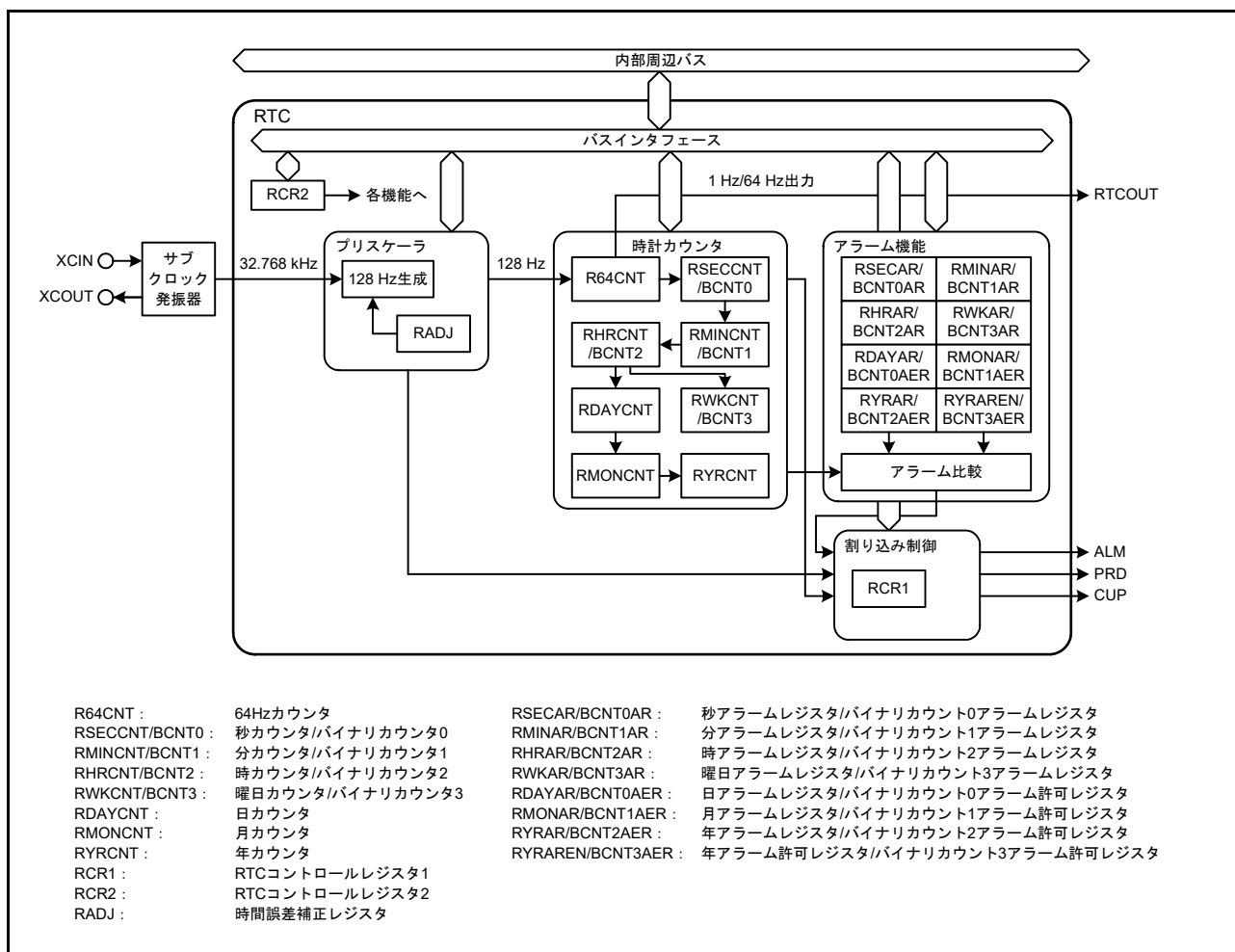


図 24.1 RTC のブロック図

表 24.2 RTCの入出力端子

端子名	入出力	機能
XCIN	入力	サブクロック用の32.768 kHzの水晶振動子を接続する端子です
XCOU	出力	
RTCOUT	出力	1 Hz/64 Hzの波形を出力します

24.2 レジスタの説明

RTC のレジスタの書き込み / 読み出しは、「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」に従って行う必要があります。

RTC のレジスタのビットで、リセット後の値が x (不定) のビットは、リセットでは初期化されません。また、カウント動作時 (RCR2.START ビット=1 のとき) にリセット状態または低消費電力状態へ遷移した場合、年 / 月 / 曜日 / 日 / 時 / 分 / 秒 / 64 Hz カウンタは動作を継続します。レジスタ書き込みおよびレジスタ更新処理中にリセットが発生した場合は、レジスタ値を破壊する可能性がありますので、ご注意ください。また、レジスタ設定直後にソフトウェアスタンバイモードへ遷移しないでください。詳細は、「24.5.4 レジスタ設定後の低消費電力モード移行について」を参照ください。

24.2.1 64 Hz カウンタ (R64CNT)

アドレス RTC.R64CNT 0008 C400h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	F1HZ	F2HZ	F4HZ	F8HZ	F16HZ	F32HZ	F64HZ
リセット後の値	0	x	x	x	x	x	x	x

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	F64HZ	64 Hz ビット	秒以下の桁の 1 Hz ~ 64 Hz の状態を示します	R
b1	F32HZ	32 Hz ビット		R
b2	F16HZ	16 Hz ビット		R
b3	F8HZ	8 Hz ビット		R
b4	F4HZ	4 Hz ビット		R
b5	F2HZ	2 Hz ビット		R
b6	F1HZ	1 Hz ビット		R
b7	—	予約ビット	読むと "0" が読めます。書き込みは無効になります	R

R64CNT カウンタは、カレンダーカウントモード / バイナリカウントモード共通で使用します。

R64CNT カウンタは、128 Hz の基準クロックでアップカウントするカウンタで、秒周期を生成します。

R64CNT カウンタを読み出すことで、秒以下の状態が確認できます。

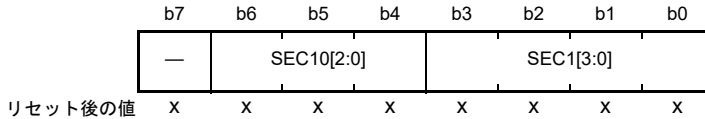
RTC ソフトウェアリセットまたは 30 秒調整を実行すると "00h" になります。

読み出し時は、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。

24.2.2 秒カウンタ (RSECCNT)/ バイナリカウンタ 0 (BCNT0)

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RSECCNT 0008 C402h



x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SEC1[3:0]	1秒カウントビット	一秒の位は1秒ごとに0から9をカウントします。桁上げが発生すると、十秒の位が+1されます	R/W
b6-b4	SEC10[2:0]	10秒カウントビット	十秒の位は0から5をカウントして、60秒のカウントを行います	R/W
b7	—	予約ビット	"0"を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W

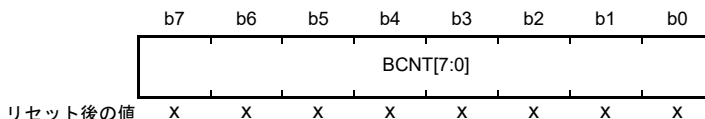
RSECCNT カウンタは、BCD コード化された秒部分の設定、カウント用のカウンタであり、64 Hz カウンタの1秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は、10進 (BCD) で“00”～“59”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RSECCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き変わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0 0008 C402h



x: 不定

BCNT0 カウンタは、書き込み / 読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b7～b0 です。

32 ビットバイナリカウンタは、64 Hz カウンタの1秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

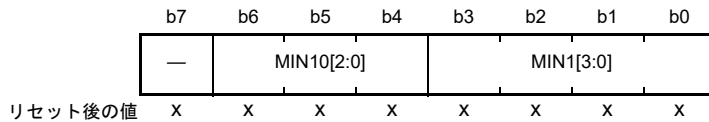
書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

読み出し時は、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。

24.2.3 分カウンタ (RMINCNT)/ バイナリカウンタ 1 (BCNT1)

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RMINCNT 0008 C404h



x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MIN1[3:0]	1分カウントビット	一分の位は1分ごとに0から9をカウントします。桁上げが発生すると、十分の位が+1されます	R/W
b6-b4	MIN10[2:0]	10分カウントビット	十分の位は0から5をカウントして、60分のカウントを行います	R/W
b7	—	予約ビット	"0"を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W

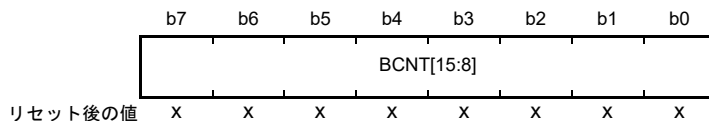
RMINCNT カウンタは、BCD コード化された分部分の設定、カウント用のカウンタであり、秒カウンタの1分ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は、10進 (BCD) で“00”～“59”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RMINCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT1 0008 C404h



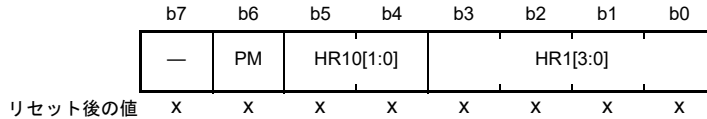
x: 不定

BCNT1 カウンタは、書き込み / 読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b15～b8 です。32 ビットバイナリカウンタは、64 Hz カウンタの 1 秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。読み出し時は、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。

24.2.4 時カウンタ (RHCNT)/ バイナリカウンタ 2 (BCNT2)

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RHCNT 0008 C406h



x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	HR1[3:0]	1時間カウントビット	一時間の位は1時間ごとに0から9をカウントします。桁上げが発生すると、十時間の位が+1されます	R/W
b5-b4	HR10[1:0]	10時間カウントビット	十時間の位は一時間の位の桁上げごとに0から2をカウントします	R/W
b6	PM	PMビット	時カウンタのAM/PMの設定 0: 午前 1: 午後	R/W
b7	—	予約ビット	“0”を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W

RHCNT カウンタは、BCD コード化された時部分の設定、カウント用のカウンタであり、分カウンタの1時間ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は、時間モードビット (RCR2.HR24) によってそれぞれ以下の範囲となります。

RCR2.HR24 ビットが “0” : 10 進 (BCD) で “00” ~ “11”

RCR2.HR24 ビットが “1” : 10 進 (BCD) で “00” ~ “23”

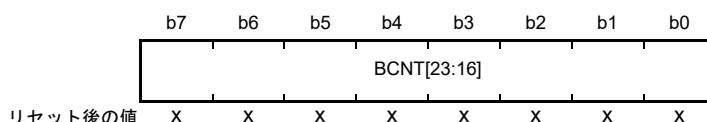
上記以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RHCNT カウンタを読み出す場合は、RCR2.HR24 ビットが “0” の場合のみ PM ビットが有効になります。RCR2.HR24 ビットが “1” の場合は、PM ビットの値を無視してください。

RHCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT2 0008 C406h



x: 不定

BCNT2 カウンタは、書き込み / 読み出し可能な 32 ビットバイナリカウンタの b23 ~ b16 です。

32 ビットバイナリカウンタは、64 Hz カウンタの1秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

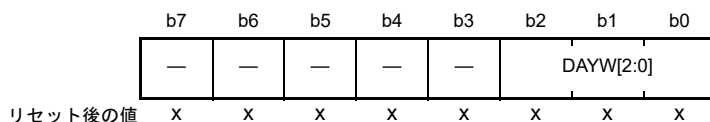
書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

読み出し時は、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。

24.2.5 曜日カウンタ (RWKCNT)/ バイナリカウンタ 3 (BCNT3)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RWKCNT 0008 C408h



x: 不定

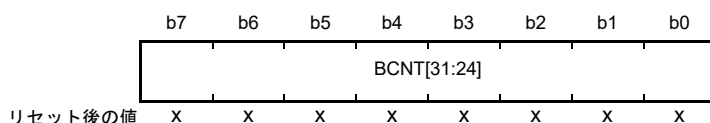
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	DAYW[2:0]	曜日カウントビット	b2 b0 0 0 0: 日 0 0 1: 月 0 1 0: 火 0 1 1: 水 1 0 0: 木 1 0 1: 金 1 1 0: 土 1 1 1: 設定しないでください	R/W
b7-b3	—	予約ビット	"0"を設定してください。読むと設定値が読めず	R/W

RWKCNT カウンタはコード化された曜日部分の設定、カウント用のカウンタであり、時カウンタの1日ごとの桁上げによってカウント動作を行います。設定可能範囲は、10進で“0”～“6”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT3 0008 C408h

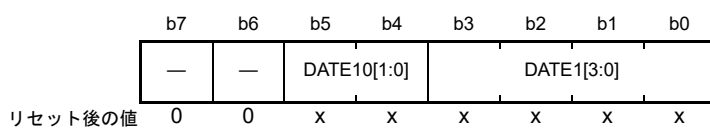


x: 不定

BCNT3 カウンタは、書き込み/読み出し可能な32ビットバイナリカウンタのb31～b24です。32ビットバイナリカウンタは、64 Hz カウンタの1秒ごとの桁上げによってカウント動作を行います。書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。読み出し時は、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。

24.2.6 日カウンタ (RDAYCNT)

アドレス RTC.RDAYCNT 0008 C40Ah



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DATE1[3:0]	1日カウントビット	一日の位は1日ごとに0~9をカウントします。桁上げが発生すると十日の位が+1されます	R/W
b5-b4	DATE10[1:0]	10日カウントビット	十日の位は一日の位の桁上げごとに0~3をカウントします	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

RDAYCNT カウンタは、カレンダーカウントモード時に使用します。

RDAYCNT カウンタは、BCD コード化された日部分の設定、カウント用のカウンタであり、時カウンタの1日ごとの桁上げによってカウント動作を行います。また、うるう年、月に対応したカウント動作を行います。

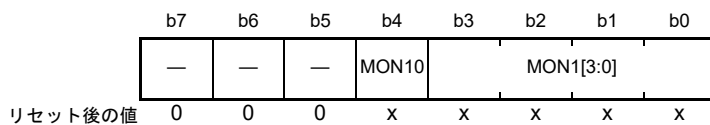
うるう年は年カウンタ (RYRCNT) の“00”を2000年とみなして2000年から2099年を、400、100、4で割り切れるかどうかによって計算されます。

設定可能範囲は、10進 (BCD) で“01”～“31”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません (月ごとおよびうるう年によって設定可能範囲が変化しますので、確認の上、設定してください)。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RDAYCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

24.2.7 月カウンタ (RMONCNT)

アドレス RTC.RMONCNT 0008 C40Ch



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MON1[3:0]	1月カウントビット	一月の位は1月ごとに0~9をカウントします。桁上げが発生すると十月の位が+1されます	R/W
b4	MON10	10月カウントビット	十月の位は一月の位の桁上げごとに0~1をカウントします	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

RMONCNT カウンタは、カレンダーカウントモード時に使用します。

RMONCNT カウンタは、BCD コード化された月部分の設定、カウント用のカウンタであり、日カウンタの月ごとの桁上げによってカウント動作を行います。

設定可能範囲は、10進 (BCD) で“01”～“12”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RMONCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

24.2.8 年カウンタ (RYRCNT)

アドレス RTC.RYRCNT 0008 C40Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	YR10[3:0]				YR1[3:0]			
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	YR1[3:0]	1年カウントビット	一年の位は1年ごとに0~9をカウントします。桁上げが発生すると十年の位が+1されます	R/W
b7-b4	YR10[3:0]	10年カウントビット	十年の位は一年の位の桁上げごとに0~9をカウントします	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

RYRCNT カウンタは、カレンダーカウントモード時に使用します。

RYRCNT カウンタは、BCD コード化された年部分の設定、カウント用のカウンタであり、月カウンタの1年ごとの桁上げによって、カウント動作を行います。

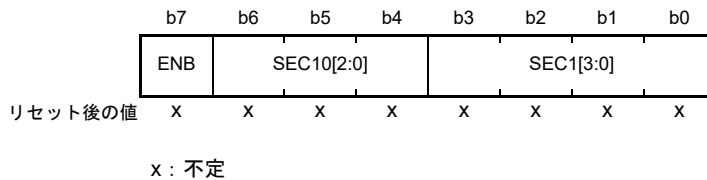
設定可能範囲は、10進(BCD)で“00”～“99”です。それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。また、書き込みは、スタートビット (RCR2.START) でカウント動作を停止させてから行ってください。

RYRCNT カウンタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

24.2.9 秒アラームレジスタ (RSECAR)/ バイナリカウンタ 0 アラームレジスタ (BCNT0AR)

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RSECAR 0008 C410h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	SEC1[3:0]	1秒ビット	一秒の位の設定値	R/W
b6-b4	SEC10[2:0]	10秒ビット	十秒の位の設定値	R/W
b7	ENB	ENBビット	0 : RSECCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RSECCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RSECAR レジスタは、BCD コード化された秒カウンタ (RSECCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RSECAR レジスタの値と RSECCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

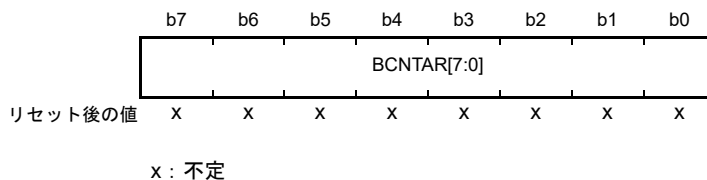
設定可能範囲は、10 進 (BCD) で“00”～“59”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RSECAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0AR 0008 C410h



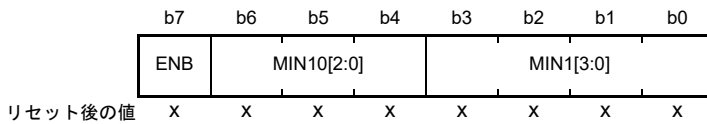
BCNT0AR レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b7～b0 に対応する書き込み / 読み出し可能なアラームレジスタです。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.10 分アラームレジスタ (RMINAR)/ バイナリカウンタ 1 アラームレジスタ (BCNT1AR)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RMINAR 0008 C412h



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MIN1[3:0]	1分ビット	一分の位の設定値	R/W
b6-b4	MIN10[2:0]	10分ビット	十分の位の設定値	R/W
b7	ENB	ENBビット	0 : RMINCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RMINCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RMINAR レジスタは、BCD コード化された分カウンタ (RMINCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RMINAR レジスタの値と RMINCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

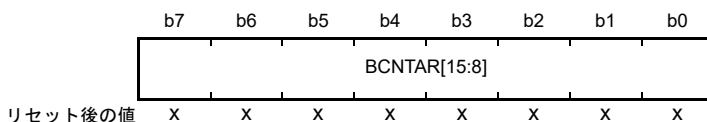
設定可能範囲は、10 進 (BCD) で“00”～“59”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RMINAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT1AR 0008 C412h



x : 不定

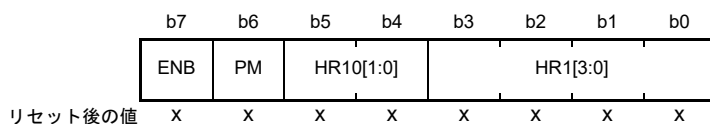
BCNT1AR レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b15～b8 に対応する書き込み / 読み出し可能なアラームレジスタです。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.11 時アラームレジスタ (RHRAR)/ バイナリカウンタ 2 アラームレジスタ (BCNT2AR)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RHRAR 0008 C414h



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	HR1[3:0]	1時間ビット	一時間の位の設定値	R/W
b5-b4	HR10[1:0]	10時間ビット	十時間の位の設定値	R/W
b6	PM	PMビット	時アラームのAM/PMの設定 0 : 午前 1 : 午後	R/W
b7	ENB	ENBビット	0 : RHCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RHCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RHRAR レジスタは、BCD コード化された時カウンタ (RHCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RHRAR レジスタの値と RHCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

設定可能範囲は、時間モードビット (RCR2.HR24) によってそれぞれ以下の範囲となります。

RCR2.HR24 ビットが“0” : 10 進 (BCD) で“00” ~ “11”

RCR2.HR24 ビットが“1” : 10 進 (BCD) で“00” ~ “23”

上記以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RCR2.HR24 ビットが“0”の場合は、PM ビットの設定も行ってください。

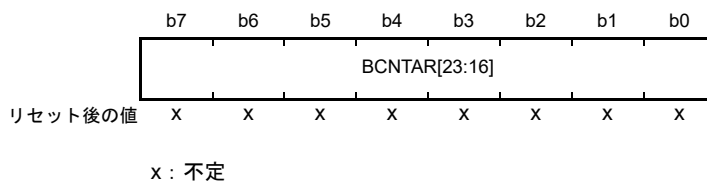
RCR2.HR24 ビットが“1”の場合は、PM ビットの値は無効となります。

RHRAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT2AR 0008 C414h



BCNT2AR レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b23 ~ b16 に対応する書き込み / 読み出し可能なア
ラームレジスタです。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.12 曜日アラームレジスタ (RWKAR)/ バイナリカウンタ 3 アラームレジスタ (BCNT3AR)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RWKAR 0008 C416h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	—	—	—	—	DAYW[2:0]		
リセット後の値	X	X	X	X	X	X	X	X

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	DAYW[2:0]	曜日の設定値ビット	b2 b0 0 0 0: 日 0 0 1: 月 0 1 0: 火 0 1 1: 水 1 0 0: 木 1 0 1: 金 1 1 0: 土 1 1 1: 設定しないでください	R/W
b6-b3	—	予約ビット	"0"を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W
b7	ENB	ENBビット	0: RWKCNTカウンタの値と比較を行わない 1: RWKCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RWKAR レジスタは、コード化された曜日カウンタ (RWKCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RWKAR レジスタの値と RWKCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

設定可能範囲は、10進で“0”～“6”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RWKAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT3AR 0008 C416h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BCNTAR[31:24]							
リセット後の値	X	X	X	X	X	X	X	X

x: 不定

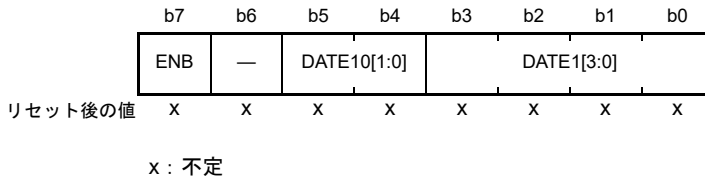
BCNT3AR レジスタは、32ビットバイナリカウンタの b31～b24 に対応する書き込み/読み出し可能なアラームレジスタです。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.13 日アラームレジスタ (RDAYAR)/ バイナリカウンタ 0 アラーム許可レジスタ (BCNT0AER)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RDAYAR 0008 C418h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	DATE1[3:0]	1日ビット	一日の位の設定値	R/W
b5-b4	DATE10[1:0]	10日ビット	十日の位の設定値	R/W
b6	—	予約ビット	“0”を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W
b7	ENB	ENBビット	0 : RDAYCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RDAYCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RDAYAR レジスタは、BCD コード化された日カウンタ (RDAYCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RDAYAR レジスタの値と RDAYCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

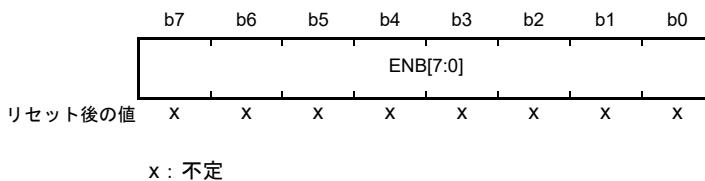
設定可能範囲は、10進 (BCD) で“01”～“31”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RDAYAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT0AER 0008 C418h



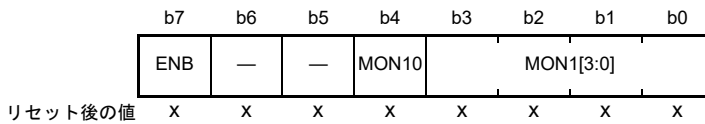
BCNT0AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b7～b0 に対応するアラーム許可を設定する書き込み/読み出し可能なレジスタです。ENB[31:0] ビットのうち、“1”になっているビットに対応したバイナリカウンタ (BCNT[31:0]) とバイナリアラームレジスタ (BCNTAR[31:0]) の比較を行い、おのおのすべてが一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.14 月アラームレジスタ (RMONAR)/ バイナリカウンタ 1 アラーム許可レジスタ (BCNT1AER)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RMONAR 0008 C41Ah



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	MON1[3:0]	1月ビット	一月の位の設定値	R/W
b4	MON10	10月ビット	十月の位の設定値	R/W
b6-b5	—	予約ビット	“0”を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W
b7	ENB	ENBビット	0 : RMONCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RMONCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RMONAR レジスタは、BCD コード化された月カウンタ (RMONCNT) に対応するアラームレジスタです。ENB ビットが“1”であれば、RMONAR レジスタの値と RMONCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

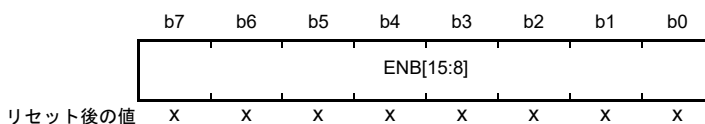
設定可能範囲は、10 進 (BCD) で“01”～“12”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RMONAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み/読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT1AER 0008 C41Ah



x : 不定

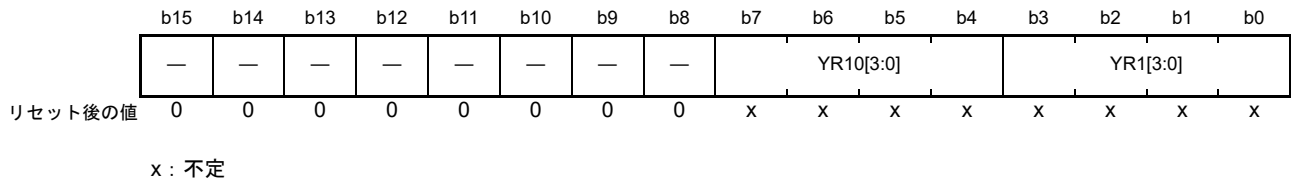
BCNT1AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b15～b8 に対応するアラーム許可を設定する書き込み/読み出し可能なレジスタです。ENB[31:0] ビットのうち、“1”になっているビットに対応したバイナリカウンタ (BCNT[31:0]) とバイナリアラームレジスタ (BCNTAR[31:0]) の比較を行い、おのおのすべてが一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.15 年アラームレジスタ (RYRAR)/ バイナリカウンタ 2 アラーム許可レジスタ (BCNT2AER)

(1) カレンダーカウントモード時

アドレス RTC.RYRAR 0008 C41Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	YR1[3:0]	1年ビット	一年の位の設定値	R/W
b7-b4	YR10[3:0]	10年ビット	十年の位の設定値	R/W
b15-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

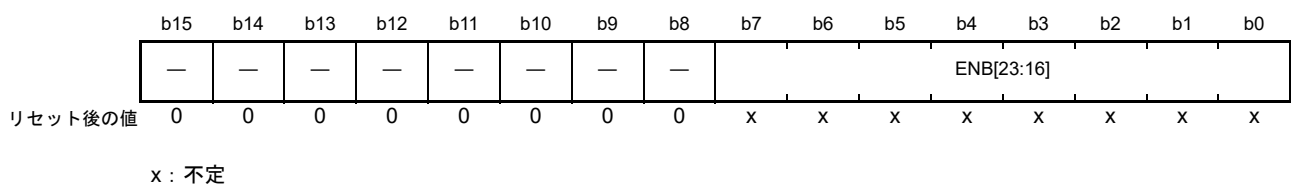
RYRAR レジスタは、BCD コード化された年カウンタ (RYRCNT) に対応するアラームレジスタです。設定可能範囲は、10 進 (BCD) で“00”～“99”であり、それ以外の値が設定されると、正常に動作しません。

RYRAR レジスタを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。レジスタの書き込み / 読み出しの注意事項については「24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項」を参照してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“0000h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT2AER 0008 C41Ch



BCNT2AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b23～b16 に対応するアラーム許可を設定する書き込み / 読み出し可能なレジスタです。ENB[31:0] ビットのうち、“1”になっているビットに対応したバイナリカウンタ (BCNT[31:0]) とバイナリアラームレジスタ (BCNTAR[31:0]) の比較を行い、おのおのすべてが一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“0000h”になります。

24.2.16 年アラーム許可レジスタ (RYRAREN)/ バイナリカウンタ 3 アラーム許可レジスタ (BCNT3AER)

(1) カレンダカウントモード時

アドレス RTC.RYRAREN 0008 C41Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	“0”を設定してください。読むと設定値が読めます	R/W
b7	ENB	ENB ビット	0 : RYRCNTカウンタの値と比較を行わない 1 : RYRCNTカウンタの値と比較を行う	R/W

RYRAREN レジスタは、ENB ビットが“1”であれば、RYRAR レジスタの値と RYRCNT カウンタの値との比較を行います。アラームレジスタ (RSECAR, RMINAR, RHRAR, RWKAR, RDAYAR, RMONAR, RYRAREN) のうち、ENB ビットが“1”になっているもののみ、カウンタとアラームレジスタの比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

(2) バイナリカウントモード時

アドレス RTC.BCNT3AER 0008 C41Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ENB[31:24]							
リセット後の値	x	x	x	x	x	x	x	x

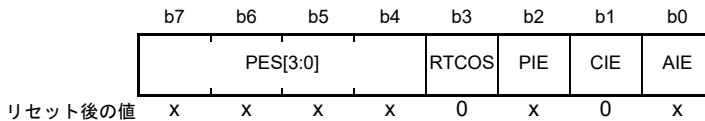
x : 不定

BCNT3AER レジスタは、32 ビットバイナリカウンタの b31 ~ b24 に対応するアラーム許可を設定する書き込み / 読み出し可能なレジスタです。ENB[31:0] ビットのうち、“1”になっているビットに対応したバイナリカウンタ (BCNT[31:0]) とバイナリアラームレジスタ (BCNTAR[31:0]) の比較を行い、おのおのがすべて一致するとき、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

24.2.17 RTC コントロールレジスタ 1 (RCR1)

アドレス RTC.RCR1 0008 C422h



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AIE	アラーム割り込み許可ビット	0 : アラーム割り込み要求を禁止 1 : アラーム割り込み要求を許可	R/W
b1	CIE	桁上げ割り込み許可ビット	0 : 桁上げ割り込み要求を禁止 1 : 桁上げ割り込み要求を許可	R/W
b2	PIE	周期割り込み許可ビット	0 : 周期割り込み要求を禁止 1 : 周期割り込み要求を許可	R/W
b3	RTCOS	RTCOUT出力選択ビット	0 : RTCOUTは1 Hzを出力 1 : RTCOUTは64 Hzを出力	R/W
b7-b4	PES[3:0]	周期割り込み選択ビット	b7 b4 0 1 1 0 : 周期割り込み発生時の周期は1/256秒ごと 0 1 1 1 : 周期割り込み発生時の周期は1/128秒ごと 1 0 0 0 : 周期割り込み発生時の周期は1/64秒ごと 1 0 0 1 : 周期割り込み発生時の周期は1/32秒ごと 1 0 1 0 : 周期割り込み発生時の周期は1/16秒ごと 1 0 1 1 : 周期割り込み発生時の周期は1/8秒ごと 1 1 0 0 : 周期割り込み発生時の周期は1/4秒ごと 1 1 0 1 : 周期割り込み発生時の周期は1/2秒ごと 1 1 1 0 : 周期割り込み発生時の周期は1秒ごと 1 1 1 1 : 周期割り込み発生時の周期は2秒ごと 上記以外は、周期割り込みを発生しない	R/W

RCR1 レジスタは、カレンダーカウントモード/バイナリカウントモード共通で使用します。

AIE、PIE、PES[3:0] ビットは、クロックソースに同期して更新されるので、RCR1 レジスタを書き換えた場合は、全ビットの値が更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

AIE ビット (アラーム割り込み許可ビット)

アラーム割り込み要求の許可または禁止を選択します。

CIE ビット (桁上げ割り込み許可ビット)

秒カウンタ (RSECCNT)/バイナリカウンタ 0 (BCNT0) への桁上げ、または 64 Hz カウンタ (R64CNT) 読み出しと、64 Hz カウンタへの桁上げが重なったときの割り込み要求の許可または禁止を選択します。

PIE ビット (周期割り込み許可ビット)

周期割り込み要求の許可または禁止を選択します。

RTCOS ビット (RTCOUT 出力選択ビット)

RTCOUT の出力周期を選択するビットです。RTCOS ビットは、カウント動作停止中 (RCR2.START ビット = 0) かつ RTCOUT 出力禁止 (RCR2.RTCOE ビット = 0) のときに書き換えてください。RTCOUT を外部端子に出力する場合は、RCR2.RTCOE ビットを有効にしてください。

PES[3:0] ビット (周期割り込み選択ビット)

周期割り込みの周期を設定します。PES[3:0] ビットで設定した周期に応じて周期割り込みを要求します。

24.2.18 RTC コントロールレジスタ 2 (RCR2)

アドレス RTC.RCR2 0008 C424h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CNTM D	HR24	AADJP	AADJE	RTCOE	ADJ30	RESET	START
リセット後の値	x	x	x	x	0	0	0	x

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	START	スタートビット(注3)	0: プリスケアラとカウンタは停止 1: プリスケアラとカウンタは通常動作	R/W
b1	RESET	RTCソフトウェアリセット ビット	<ul style="list-style-type: none"> 書き込み時 0: 書き込み無効 1: プリスケアラおよびRTCソフトウェアリセット対象レジスタ(注1)を初期化 読み出し時 0: 通常の時計動作またはRTCソフトウェアリセット完了 1: RTCソフトウェアリセット中 	R/W
b2	ADJ30	30秒調整ビット(注2)	<ul style="list-style-type: none"> 書き込み時 0: 書き込み無効 1: 30秒調整の実行 読み出し時 0: 通常の時計動作または30秒調整が完了 1: 30秒調整中 	R/W
b3	RTCOE	RTCOUT出力許可ビット	0: RTCOUT出力禁止 1: RTCOUT出力許可	R/W
b4	AADJE	自動補正機能許可ビット(注3)	0: 自動補正機能禁止 1: 自動補正機能許可	R/W
b5	AADJP	自動補正周期選択ビット(注3)	0: 1分(バイナリカウンタモード時は32秒)ごとにRADJ.ADJ[5:0]ビットをプリスケアラのカウンタ値から加減する 1: 10秒(バイナリカウンタモード時は8秒)ごとにRADJ.ADJ[5:0]ビットをプリスケアラのカウンタ値から加減する	R/W
b6	HR24	時間モードビット(注2、注3)	0: RTCは12時間モードで動作 1: RTCは24時間モードで動作	R/W
b7	CNTMD	カウントモード選択ビット(注3)	0: カレンダーカウントモード 1: バイナリカウントモード	R/W

注1. R64CNT, RSECAR/BCNT0AR, RMINAR/BCNT1AR, RHRAR/BCNT2AR, RWKAR/BCNT3AR, RDAYAR/BCNT0AER, RMONAR/BCNT1AER, RYRAR/BCNT2AER, RYRAREN/BCNT3AER, RADJ, RCR2.ADJ30, RCR2.AADJE, RCR2.AADJP

注2. バイナリカウンタモードでは予約ビットです。書く場合は“0”を書いてください。

注3. このビットを書き換えた場合、値が書き換わったことを確認してから次の処理を実施してください。AADJE, AADJP, HR24ビットについては「24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項」も参照してください。

RCR2 レジスタは、時間モード、自動補正機能、RTCOUT 出力許可、30 秒調整、RTC ソフトウェアリセット、カウント制御に関するレジスタです。

START ビット (スタートビット)

プリスケアラおよびカウンタ (時計) の停止または動作を制御するビットです。

START ビットは、クロックソースに同期して更新されるので、START ビットを書き換えた場合は、値が更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

RESET ビット (RTC ソフトウェアリセットビット)

プリスケアラおよび RTC ソフトウェアリセット対象レジスタを初期化するビットです。

RESET ビットに“1”が書き込まれた場合、クロックソースに同期して初期化が実行され、初期化が完了す

ると RESET ビットは自動的に“0”になります。

RESET ビットに“1”を書き込んだ場合は、“0”になったことを確認してから次の処理を実行してください。

ADJ30 ビット (30 秒調整ビット)

30 秒調整を行うビットです。

ADJ30 ビットに“1”が書き込まれたときの RSECCNT カウンタの値が 30 秒未満の場合は 00 秒に切り捨て、30 秒以上の場合は 1 分に桁上げします。

30 秒調整は、クロックソースに同期して行われます。ADJ30 ビットに“1”が書き込まれた場合、30 秒調整が完了すると ADJ30 ビットは自動的に“0”になります。ADJ30 ビットに“1”を書き込んだ場合は、“0”になったことを確認してから次の処理を実行してください。

30 秒調整が行われると、プリスケアラおよび R64CNT カウンタもリセットされます。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると ADJ30 ビットは、“0”になります。

バイナリカウンタモードでは予約ビットです。書く場合、“0”を書いてください。

RTC OE ビット (RTC OUT 出力許可ビット)

RTC OUT (1 Hz/64 Hz クロック) の出力を許可するビットです。

RTC OE ビットの書き換えは、START ビットでカウント動作を停止させてから行ってください。カウント動作を停止する (START ビットに“0”を書く) ときは、同時に RTC OE ビットの値を書き換えしないでください。

RTC OUT を外部端子に出力する場合は、RTC OE ビットを許可にし、かつポート制御の設定もしてください。

AADJE ビット (自動補正機能許可ビット)

自動補正機能の禁止、許可を制御するビットです。

AADJE ビットの書き換えは、プラスマイナスビット (RADJ.PMADJ[1:0]) を“00b” (補正しない) にしてから行ってください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると AADJE ビットは、“0”になります。

AADJP ビット (自動補正周期選択ビット)

自動補正周期を選択するビットです。

AADJP ビットの書き換えは、プラスマイナスビット (RADJ.PMADJ[1:0]) を“00b” (補正しない) にしてから行ってください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると AADJP ビットは、“0”になります。

HR24 ビット (時間モードビット)

RTC の時間モードを 12 時間モードで動作させるか、24 時間モードで動作させるかを指定するビットです。

HR24 ビットの書き換えは、START ビットでカウント動作を停止させてから行ってください。START ビットと同時に HR24 ビットの値を書き換えしないでください。

バイナリカウンタモードでは予約ビットです。書く場合、“0”を書いてください。

CNTMD ビット (カウントモード選択ビット)

RTC のカウントモードを、カレンダーカウントモードで動作させるか、バイナリカウントモードで動作させるかを指定するビットです。

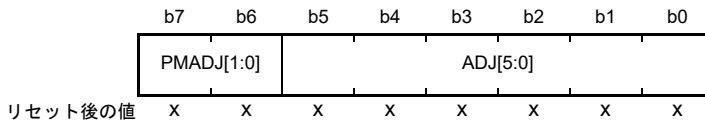
カウントモードを設定した後は、RTC ソフトウェアリセットを実行し、初期設定からやり直してください。

CNTMD ビットはクロックソースに同期して更新されるので、書き換えた場合は、値が更新されたことを確認してから RTC ソフトウェアリセットを実行してください。RTC ソフトウェアリセット実行後、設定したカウントモードに切り替わります。

初期設定の詳細は、「24.3.1 電源投入後のレジスタの初期設定概要」を参照してください。

24.2.19 時間誤差補正レジスタ (RADJ)

アドレス RTC.RADJ 0008 C42Eh



x : 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	ADJ[5:0]	補正值ビット	誤差補正值を設定します	R/W
b7-b6	PMADJ[1:0]	プラスマイナスビット	b7 b6 0 0 : 補正動作を行いません 0 1 : 時計を進める 1 0 : 時計を遅らせる 1 1 : 設定しないでください	R/W

RADJ レジスタは、カレンダーカウントモード/バイナリカウントモード共通で使用します。

時計を誤差補正值に応じて進めるか、遅らせることによって、補正を行います。

自動補正機能許可ビット (RCR2.AADJE) が“0”の場合は、RADJ レジスタを書き込むときに補正動作を行います。

RCR2.AADJE ビットが“1”の場合は、自動補正周期選択ビット (RCR2.AADJP) で設定した間隔で補正動作を行います。

ソフトウェア設定 (自動補正しない設定) による補正時は、レジスタ設定後、クロックソースで 320 サイクル以内に次の補正值を設定すると前回の補正設定が無効となる場合があります。連続して補正を行う場合は、レジスタ設定後、クロックソースで 320 サイクル以上待ってから再設定してください。

RADJ レジスタは、クロックソースに同期して更新されます。RADJ レジスタを書き換えた場合は、全ビットの値が更新されたことを確認してから次の処理を実行してください。

RTC ソフトウェアリセットを実行すると“00h”になります。

ADJ[5:0] ビット (補正值ビット)

時計の誤差に応じて補正值 (サブクロックのクロックサイクル数) を設定します。

PMADJ[1:0] ビット (プラスマイナスビット)

ADJ[5:0] ビットで設定した誤差補正值に応じて時計を進めるか、遅らせるかを選択します。

24.3 動作説明

24.3.1 電源投入後のレジスタの初期設定概要

電源投入後、クロック設定、カウントモード設定、時刻設定、時計誤差補正、アラーム、割り込みの初期設定をしてください。

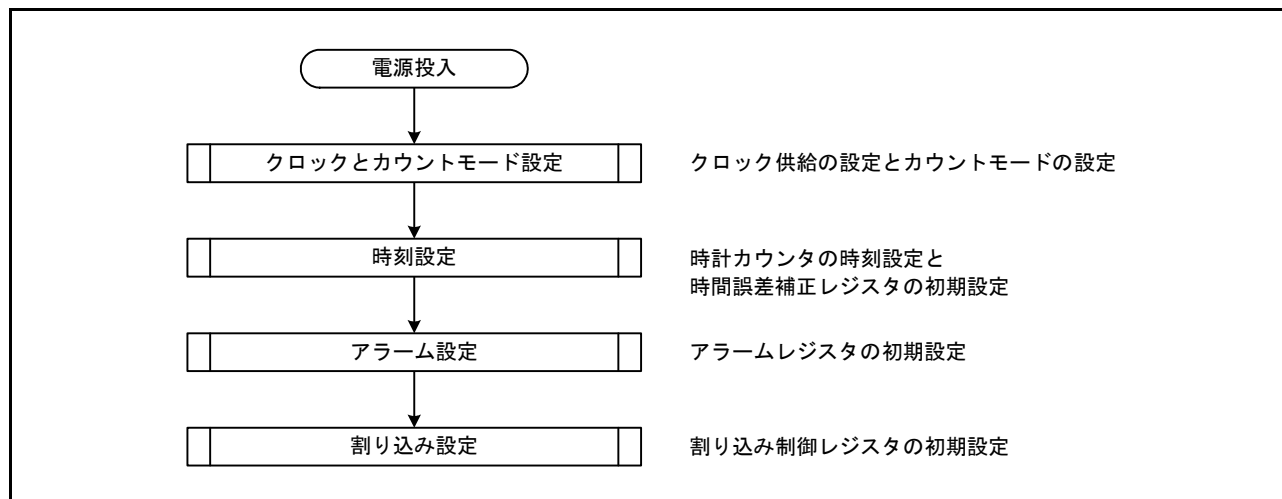


図 24.2 電源投入後の初期設定概要

24.3.2 クロックとカウントモード設定手順

図 24.3 にクロックとカウントモードの設定手順を示します。

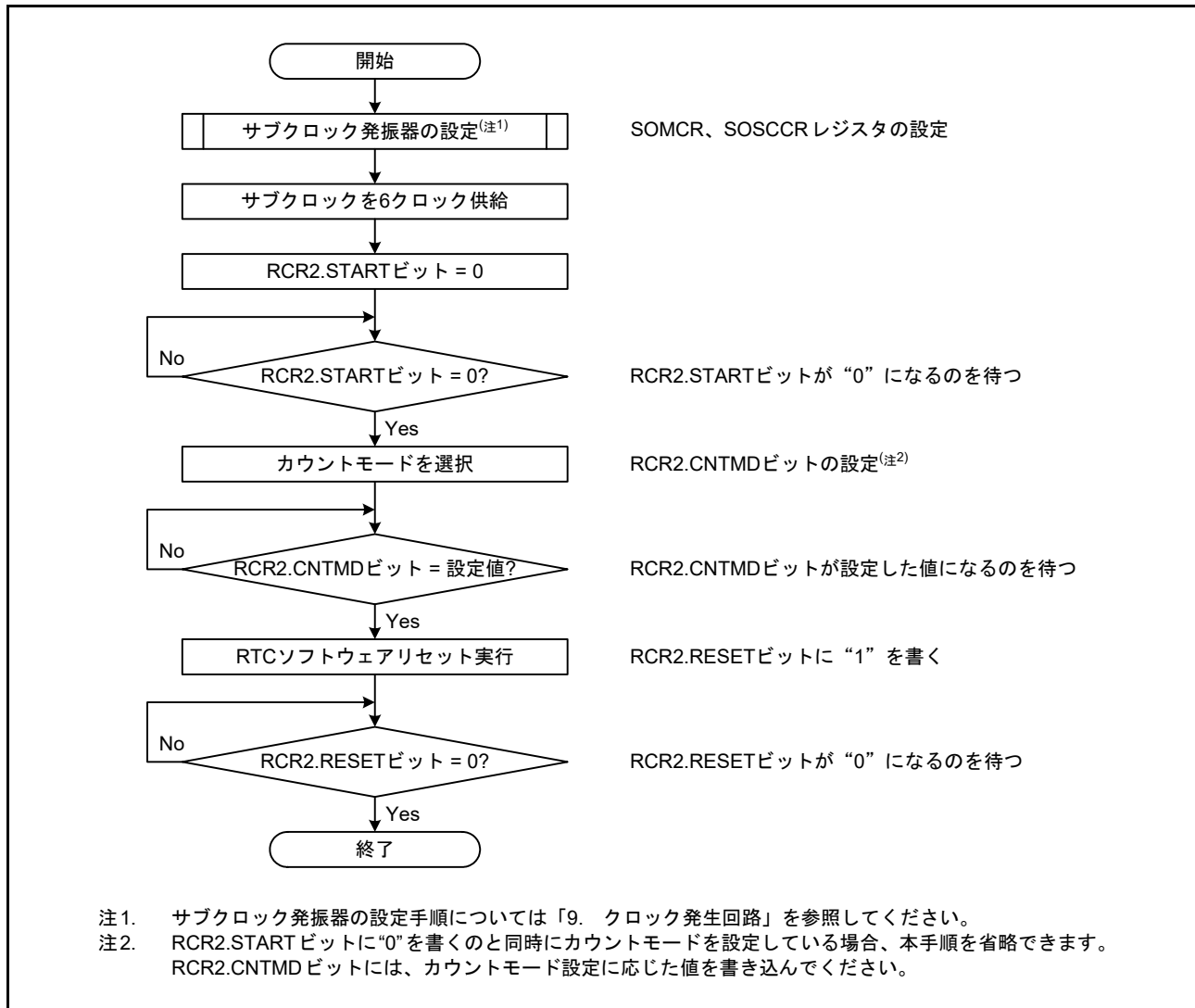


図 24.3 クロック、カウントモード設定手順

24.3.3 時刻設定手順

図 24.4 に時刻設定手順を示します。

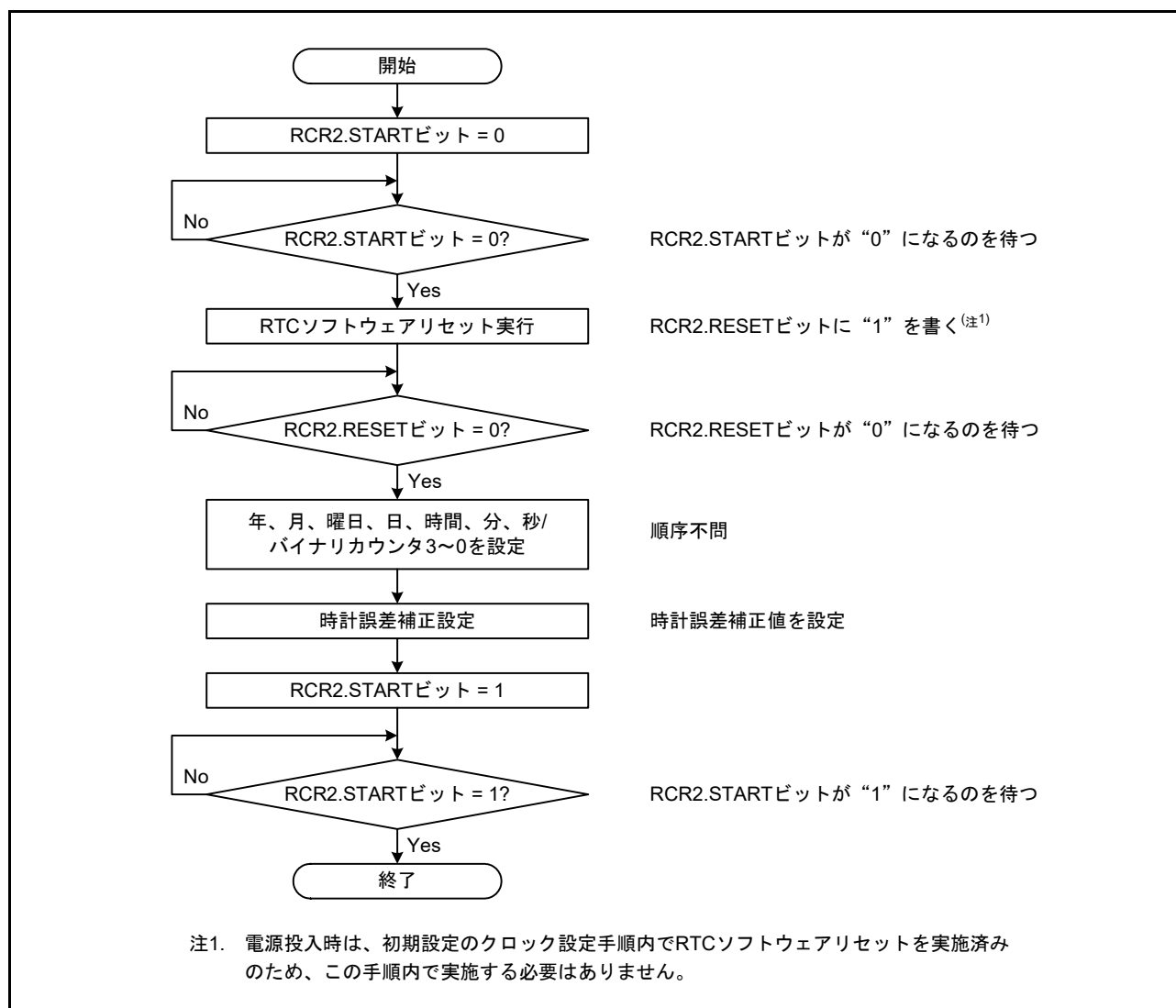


図 24.4 時刻設定手順

24.3.4 30秒調整手順

図 24.5 に 30 秒調整手順を示します。30 秒調整機能はカレンダーカウントモードでのみ使用可能です。

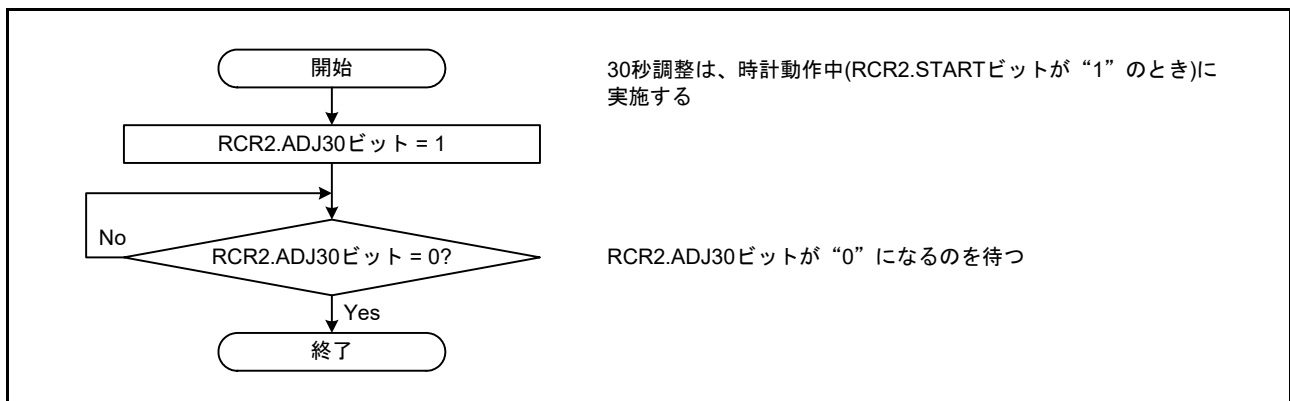


図 24.5 30 秒調整手順

24.3.5 64 Hz カウンタ および時刻読み出し手順

図 24.6 に 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順を示します。

64 Hz カウンタおよび時刻読み出し中に桁上げが起こると正しい時刻が得られないため、再度読み出す必要があります。割り込みを使用しない方法を図 24.6 の (a) に、桁上げ割り込みを使用する方法を図 24.6 の (b) に示します。通常、プログラムを容易にするために、割り込みを使用しない方法を利用します。

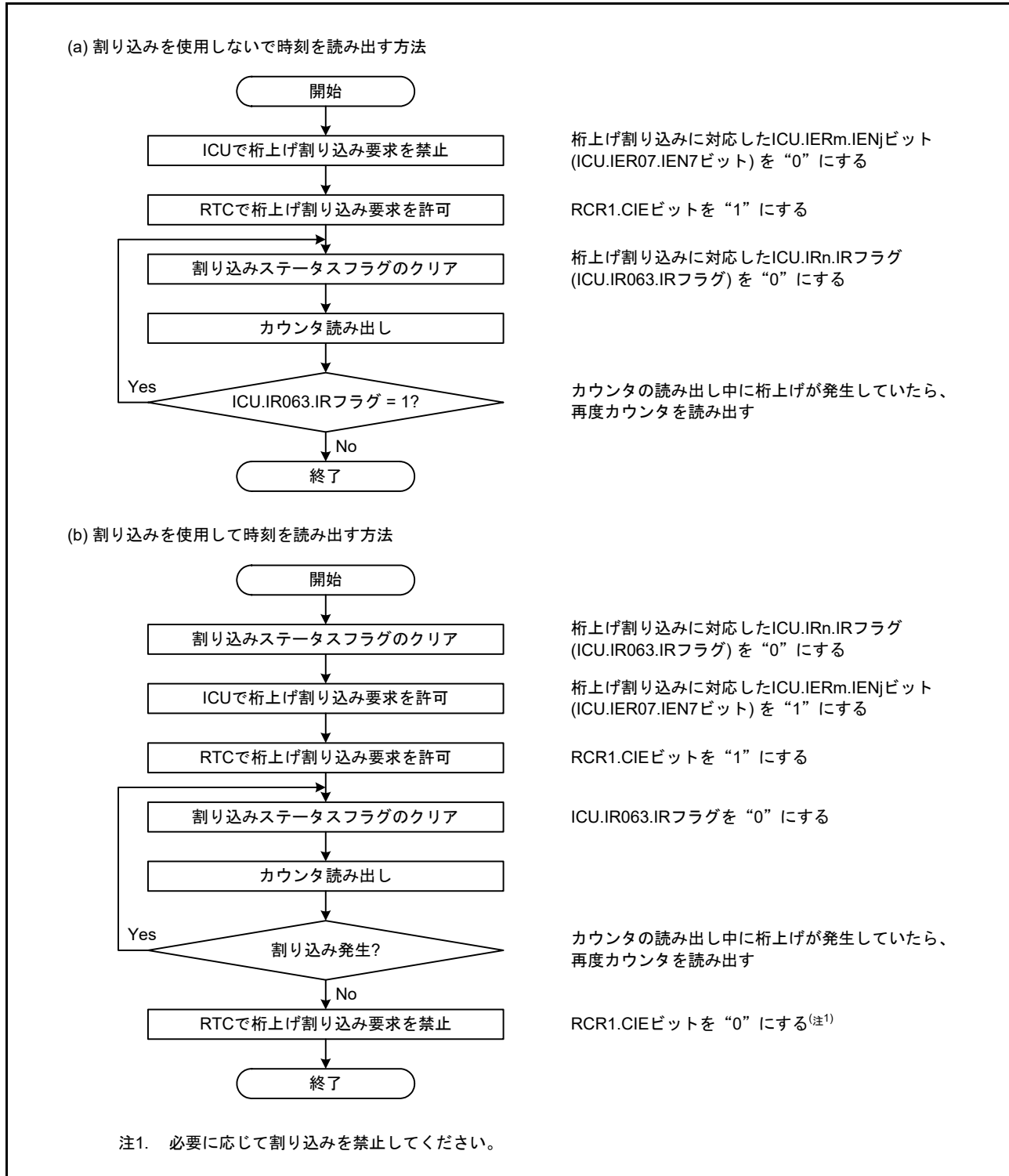


図 24.6 時刻読み出し手順

24.3.6 アラーム機能

図 24.7 にアラーム機能の使用方法を示します。

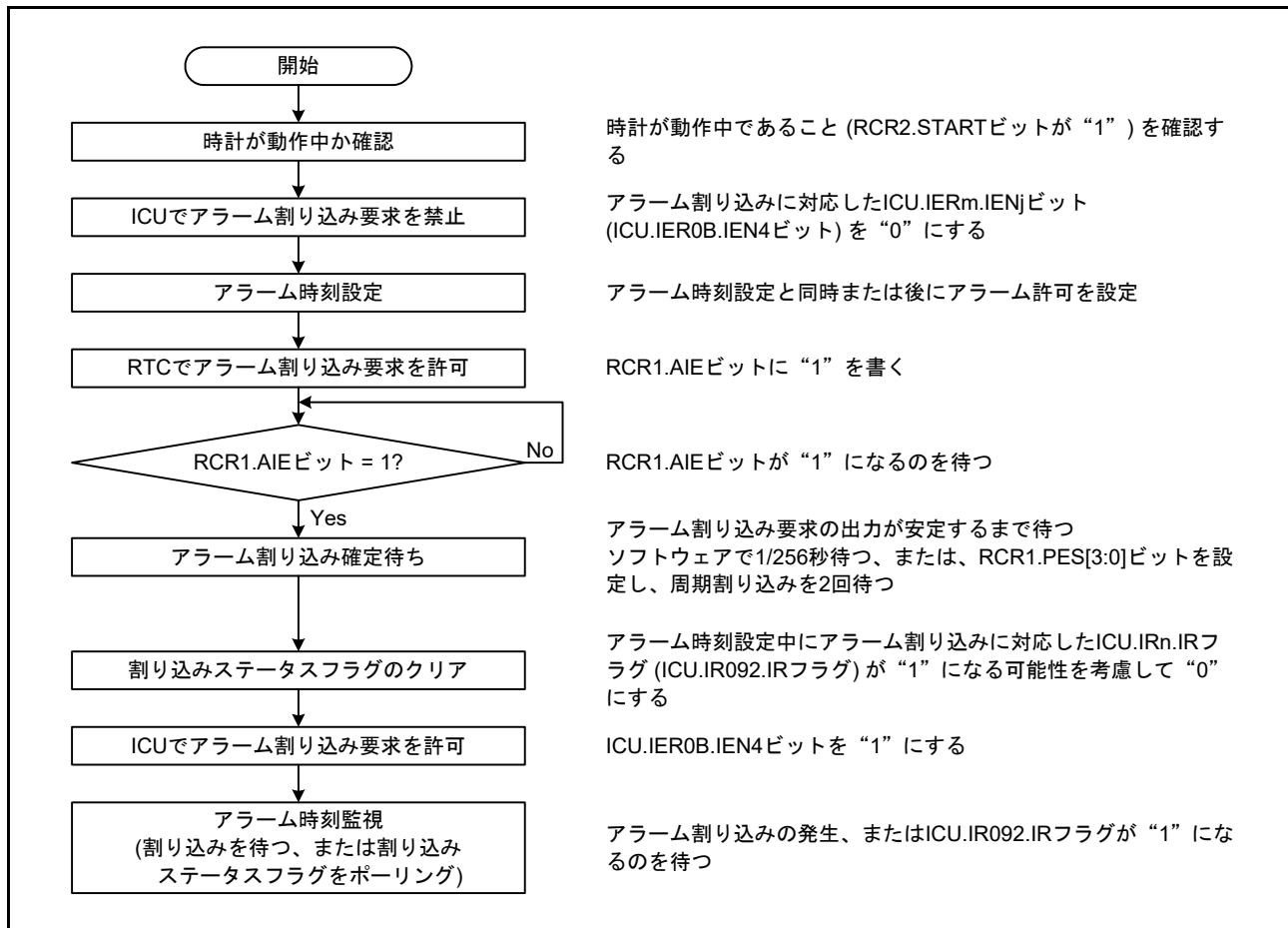


図 24.7 アラーム機能の使用方法

カレンダーカウントモードでは、アラームは、年、月、日、曜日、時、分、秒のいずれか、あるいは組み合わせで発生させることができます。アラームの対象とする各アラームレジスタの ENB ビットに“1”を書き込み、下位ビットにアラーム時刻を設定します。アラームの対象外のレジスタは、ENB ビットに“0”を書き込みます。

バイナリカウントモードでは、32 ビットの任意のビットの組み合わせでアラームを発生させることができます。アラームの対象とするビットに対応するアラーム許可レジスタの ENB ビットに“1”を書き込み、アラームレジスタにアラーム時刻を設定します。アラームの対象外とするビットには、アラーム許可レジスタの ENB ビットに“0”を書き込みます。

カウンタとアラーム時刻が一致した場合は、アラーム割り込みに対応した IR フラグ (ICU.IR092.IR フラグ) が“1”になります。アラームの検出はこのフラグを読み出すことによって確認できますが、通常は割り込みで行います。アラーム割り込みに対応した割り込み要求許可ビット (ICU.IER0B.IEN4 ビット) に“1”が書き込まれている場合、アラーム割り込みが発生しアラームを検出することができます。

ICU.IR092.IR フラグは“0”を書き込むと“0”になります。

低消費電力状態のときにカウンタとアラーム時刻が一致すると低消費電力状態から復帰します。

24.3.7 アラーム割り込み禁止手順

図 24.8 に許可状態のアラーム割り込み要求を禁止する手順を示します。

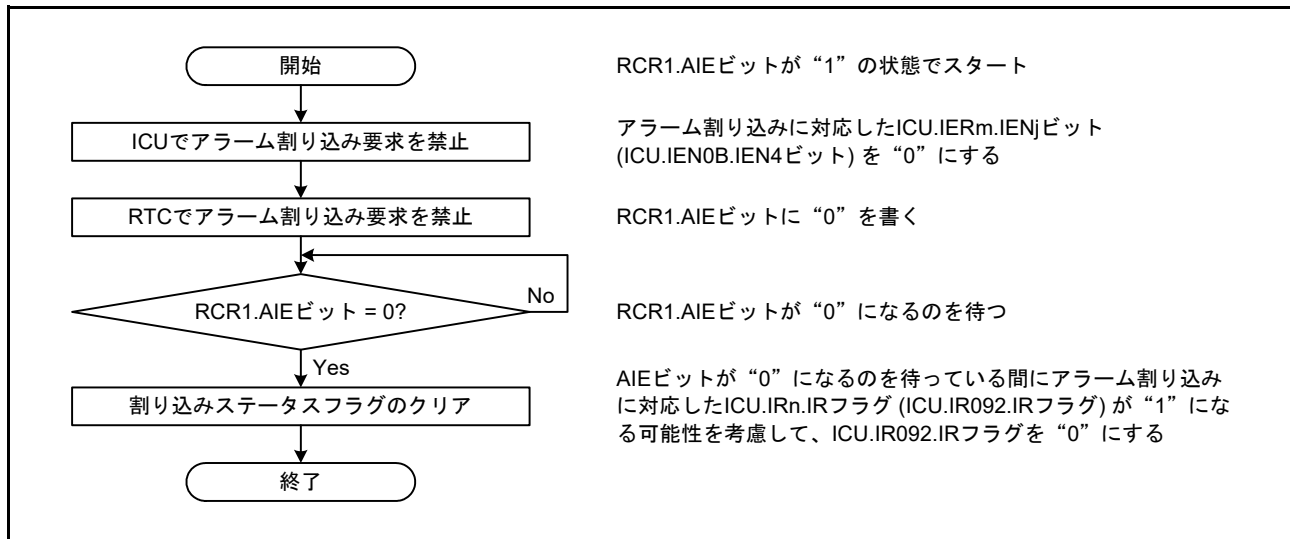


図 24.8 アラーム割り込み要求を禁止する手順

24.3.8 時計誤差補正機能

時計誤差補正機能は、サブクロックの発振精度による時計の誤差 (遅れる / 進む) を補正します。サブクロック選択時、32,768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、サブクロックの周波数が高い場合は時計が進み、低い場合は時計が遅れます。本機能により、時計を進めるか、遅らせることで誤差を補正することができます。

時計誤差補正機能には、自動補正とソフトウェアによる補正の 2 種類の補正機能があります。

自動補正、ソフトウェアによる補正の選択は、RCR2.AADJE ビットで設定してください。

24.3.8.1 自動補正機能

RCR2.AADJE ビットが“1”の場合、自動補正機能が有効です。

自動補正機能では、RCR2.AADJP ビットで選択した補正周期ごとに RADJ レジスタ設定に応じて時計を進めるか、遅らせます。以下に例を示します。

例 1) サブクロック周波数 = 32.769 kHz

補正方法：

サブクロックの周波数が 32.769 kHz の場合、32,769 クロックサイクルで 1 秒になりますが、RTC は、32,768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、1 秒につき 1 クロックサイクル分、時計が進みません。1 分なら 60 クロックサイクル分、時計が進むため、1 分ごとに 60 クロックサイクル分、時計を遅らせることで補正できます。

レジスタ設定内容：(RCR2.CNTMD = 0 の場合)

- RCR2.AADJP ビット = 0 (1 分ごとに補正)
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 10b (遅らせる)
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 60 (3Ch)

例 2) サブクロック周波数 = 32.766 kHz

補正方法：

サブクロックの周波数が 32.766 kHz の場合、32,766 クロックサイクルで 1 秒になりますが、RTC は 32,768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、1 秒につき 2 クロックサイクル分、時計が遅れます。10 秒なら 20 クロックサイクル分、時計が遅れるため、10 秒ごとに 20 クロックサイクル分、時計を進めることで補正できます。

レジスタ設定内容：(RCR2.CNTMD = 0 の場合)

- RCR2.AADJP ビット = 1 (10 秒ごとに補正)
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 01b (進める)
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 20 (14h)

例 3) サブクロック周波数 = 32.764 kHz

補正方法：

サブクロックの周波数が 32.764 kHz の場合、32,764 クロックサイクルで 1 秒になりますが、RTC は 32,768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、1 秒につき 4 クロックサイクル分、時計が遅れます。8 秒なら 32 クロックサイクル分、時計が遅れるため、8 秒ごとに“32”クロックサイクル分、時計を進めることで補正できます。

レジスタ設定内容：(RCR2.CNTMD = 1 の場合)

- RCR2.AADJP ビット = 1 (8 秒ごとに補正)
- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 01b (進める)
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 32 (20h)

24.3.8.2 ソフトウェアによる補正

RCR2.AADJE ビットが“0”の場合、ソフトウェアによる補正が有効です。

ソフトウェアによる補正では、RADJ レジスタへの書き込み命令を実行したタイミングで RADJ レジスタ設定に応じて時計を進めるか、遅らせます。

例 1) サブクロック周波数 = 32.769 kHz

補正方法：

サブクロックの周波数が 32.769 kHz の場合、32,769 クロックサイクルで 1 秒になりますが、RTC は 32,768 クロックサイクルを 1 秒として動作するため、1 秒につき 1 クロックサイクル分、時計が進みます。1 秒ごとに 1 クロックサイクル分、時計が進むため、1 秒ごとに 1 クロックサイクル分、時計を遅らせることで補正できます。

レジスタ設定内容：

- RADJ.PMADJ[1:0] ビット = 10b (遅らせる)
- RADJ.ADJ[5:0] ビット = 1 (01h)
1 秒の割り込みごとに RADJ レジスタに書き込む

24.3.8.3 補正モードの変更手順

補正モードを変更する場合は、RADJ.PMADJ[1:0] ビットを“00b”(補正しない)にした後、RCR2.AADJE ビットを変更してください。

ソフトウェアによる補正から、自動補正に切り替える場合

- (1) RADJ.PMADJ[1:0] ビットを“00b”(補正しない)にする
- (2) RCR2.AADJE ビットを“1”(自動補正機能許可)にする
- (3) RCR2.AADJP ビットで補正周期を選択する
- (4) RADJ.PMADJ[1:0] ビットに補正方向を、RADJ.ADJ[5:0] ビットに時計誤差補正值を設定する

自動補正から、ソフトウェアによる補正に切り替える場合

- (1) RADJ.PMADJ[1:0] ビットを“00b”(補正しない)にする
- (2) RCR2.AADJE ビットを“0”(ソフトウェアによる補正機能有効)にする
- (3) 任意のタイミングで RADJ.PMADJ[1:0] ビットに補正方向を、RADJ.ADJ[5:0] ビットに時計誤差補正值を書き込むと補正を行う。以降、RADJ レジスタに書き込むごとに補正を行う。

24.3.8.4 補正機能の停止手順

補正機能を停止する場合は、RADJ.PMADJ[1:0] ビットを“00b”(補正しない)にしてください。

24.4 割り込み要因

RTC の割り込み要因には、以下の 3 種類があります。表 24.3 に RTC の割り込み要因を示します。

表 24.3 RTCの割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みステータスフラグ	割り込み要求許可ビット
ALM	アラーム割り込み	IR092.IR	IER0B.IEN4
PRD	周期割り込み	IR093.IR	IER0B.IEN5
CUP	桁上げ割り込み	IR063.IR	IER07.IEN7

(1) アラーム割り込み (ALM)

アラームレジスタと時計カウンタとの比較結果によって割り込みが発生します (詳細は「24.3.6 アラーム機能」を参照してください)。

アラームレジスタの設定中に時計カウンタと一致し、割り込みフラグが“1”になる可能性があるため、アラームレジスタの変更後、アラーム時刻設定の確定を待ち、一度 ICU.IR092.IR フラグを“0”にしてください。アラーム割り込みの割り込みフラグは、一度“0”にすると、再度アラームレジスタと時計カウンタが不一致状態になった後、再び一致するかアラームの再設定を行うまで“1”になりません。

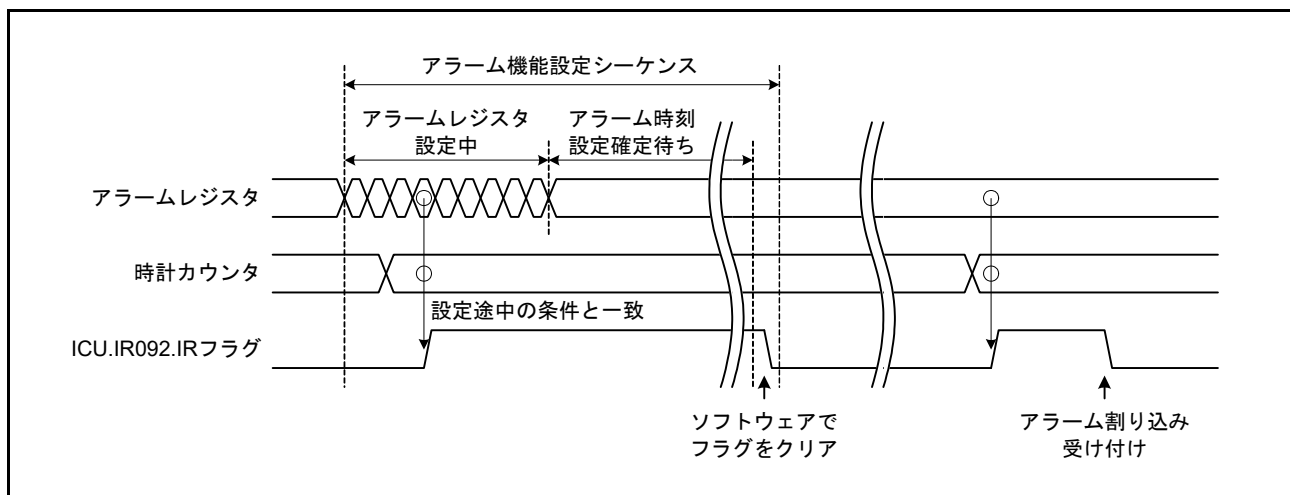


図 24.9 アラーム割り込みのタイミングチャート

(2) 周期割り込み (PRD)

2 秒、1 秒、1/2 秒、1/4 秒、1/8 秒、1/16 秒、1/32 秒、1/64 秒、1/128 秒、1/256 秒周期で発生する割り込みです。RCR1.PES[3:0] ビットによって周期の選択が可能です。

(3) 桁上げ割り込み (CUP)

秒カウンタ/バイナリカウンタ 0 への桁上げが発生したとき、または 64 Hz カウンタ読み出しと R64CNT カウンタへの桁上げが重なったときに発生する割り込みです。

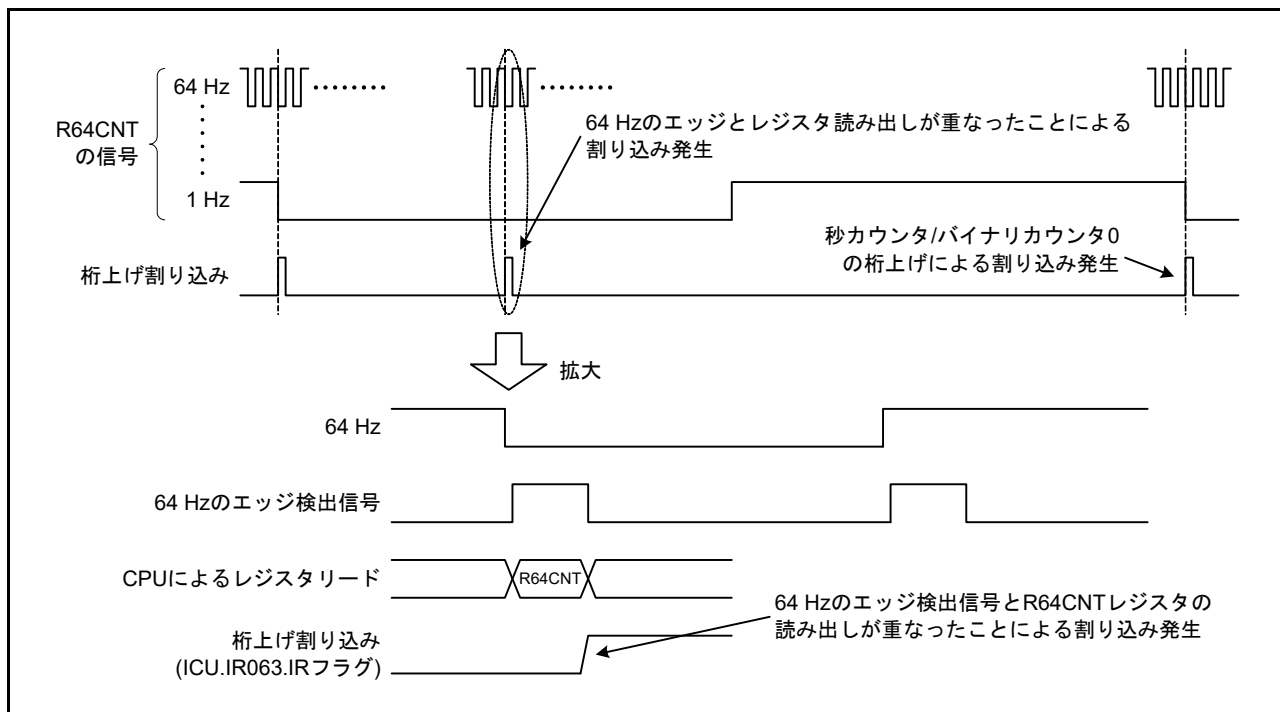


図 24.10 桁上げ割り込みのタイミングチャート

24.5 使用上の注意事項

24.5.1 カウント動作時のレジスタ書き込みについて

カウント動作時 (RCR2.START ビット = 1 のとき) は、以下のレジスタに書き込みを行わないでください。

RSECCNT/BCNT0, RMINCNT/BCNT1, RHRCNT/BCNT2, RDAYCNT, RWKCNT/BCNT3, RMONCNT, RYRCNT, RCR1.RTCOS, RCR2.RTCOE, RCR2.HR24

上記のレジスタへの書き込みを行う場合は、一度カウント動作を停止してから書き込んでください。

24.5.2 周期割り込みの使用について

周期割り込みの使用方法を図 24.11 に示します。

周期割り込みは、RCR1.PES[3:0] ビットの設定によって割り込みの発生および周期を切り替えることができます。しかし、割り込み発生にプリスケアラ、R64CNT、RSECCNT/BCNT0 カウンタを使用しているため、RCR1.PES[3:0] ビット設定直後の割り込み発生周期は保証されません。

RCR2 レジスタによって、カウント動作の停止 / 動作、RTC ソフトウェアリセット、30 秒調整を行うと、割り込み発生周期に影響を与えます。また、時計誤差補正機能を使用した場合、補正後の割り込み発生周期は、補正值の分だけ周期がずれます。

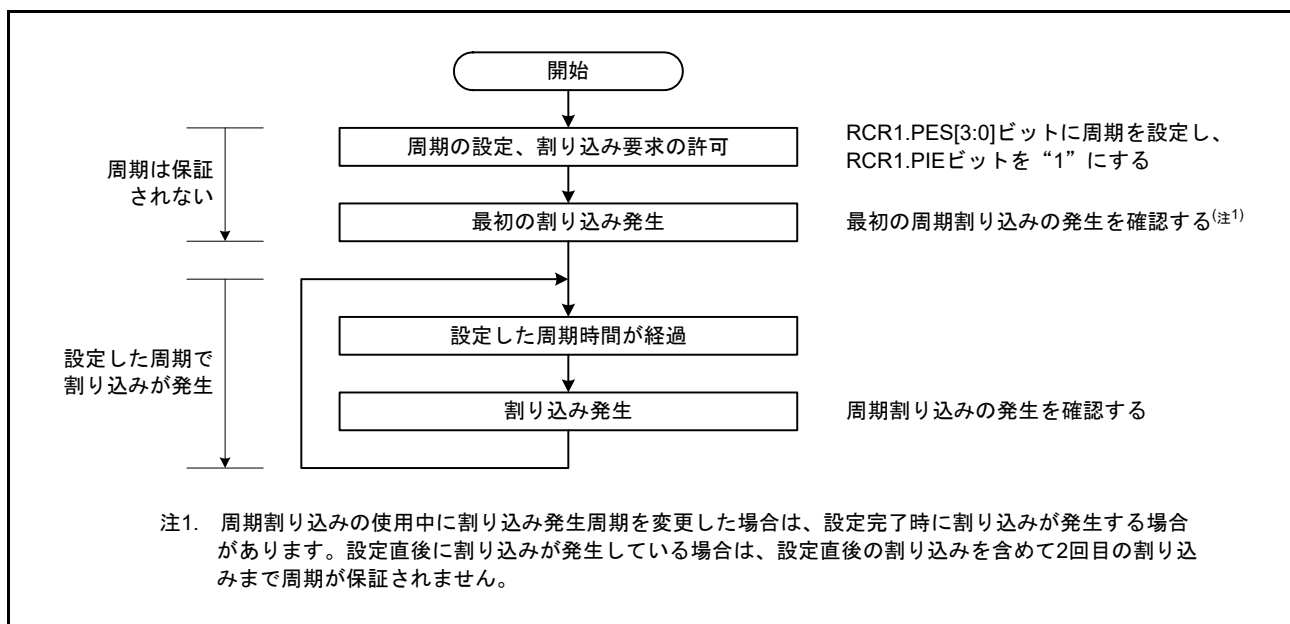


図 24.11 周期割り込み機能の使用方法

24.5.3 RTCOUT (1 Hz/64 Hz) 出力について

RCR2 レジスタによって、カウント動作の停止 / 動作、RTC ソフトウェアリセット、30 秒調整を行うと、RTCOUT (1 Hz/64 Hz) 出力の周期に影響を与えます。また、時計誤差補正機能を使用した場合、補正後の RTCOUT (1 Hz/64 Hz) 出力の周期は、補正值の分だけ周期がずれます。

24.5.4 レジスタ設定後の低消費電力モード移行について

RTC 内レジスタへの書き込み、およびレジスタ更新処理中に低消費電力状態 (ソフトウェアスタンバイモード) へ遷移すると、レジスタ値を破壊する可能性があります。レジスタ設定後は、設定されたことを確認してから低消費電力状態に遷移してください。

24.5.5 レジスタの書き込み / 読み出し時の注意事項

- 秒カウンタ / バイナリカウンタ 0 など、カウントレジスタの読み出しは、「24.3.5 64 Hz カウンタおよび時刻読み出し手順」に従ってください。
- カウントレジスタ、アラームレジスタ、年アラーム許可レジスタ、RCR2.AADJE、AADJP、HR24 ビットに書いた値は、書き込み後 4 回目の読み出しから反映されます。
- RCR1.CIE、RTCOS ビット、RCR2.RTCOE ビットは、書き込み後すぐに書いた値を読み出すことができます。
- リセットまたはソフトウェアスタンバイモードから復帰した後に時計カウンタの値を読み出すときは、時計動作中 (RCR2.START ビット = 1) で 1/128 秒待ってから読み出しを行ってください。
- リセット発生後、RTC レジスタへの書き込みは、クロックソース 6 サイクル経過後に行ってください。

24.5.6 カウントモードの変更について

カウントモード (カレンダー / バイナリ) を変更する場合には、RCR2.START ビットを “0” に設定し、カウント動作を停止させてから初期設定からやり直してください。初期設定の詳細は「24.3.1 電源投入後のレジスタの初期設定概要」を参照してください。

24.5.7 リアルタイムクロックを使用しない場合の初期化手順

RTC 内のレジスタは、リセットによる初期化が行われないため、初期状態によっては意図しない割り込み要求が発生したり、カウンタが動作したりすることにより、電力消費量が多くなります。

RTC を必要としない製品では、**図 24.12** に示す初期化手順に従って、レジスタを初期化してください。

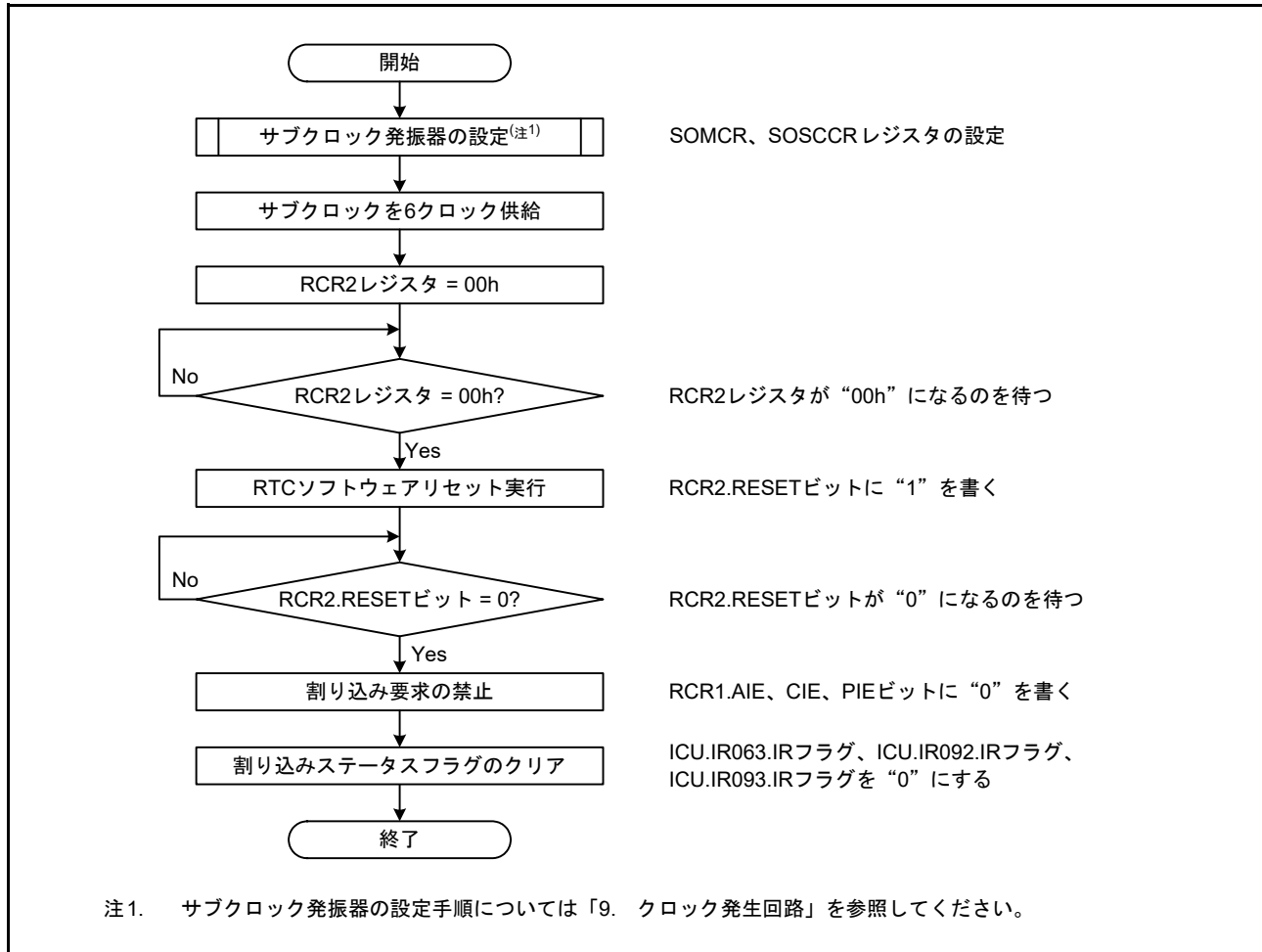


図 24.12 初期化手順

25. ローパワータイマ (LPTa)

25.1 概要

本 MCU は、1 チャンネルの 16 ビットタイマにより構成されるローパワータイマ (LPT) を内蔵しています。LPT は、クロックソースとしてサブクロック、LOCO クロック、または IWDTC 専用クロックを使用しており、ソフトウェアスタンバイモード時もカウント動作を継続することが可能です。コンペアマッチ信号により、ソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰することが可能です。

また、チャンネル 0 は PWM 波形を生成することもできます。

表 25.1 に LPT の仕様を、図 25.1 に LPT のブロック図を示します。

表 25.1 LPT の仕様

項目	内容
クロックソース	サブクロック、LOCO クロック (4 分周)、IWDTC 専用クロック
クロック分周比	分周なし、2 分周、4 分周、8 分周、16 分周、32 分周
カウント動作	<ul style="list-style-type: none">16 ビットのアップカウンタによるアップカウントソフトウェアスタンバイモード時もカウント動作継続可能
コンペアマッチ	コンペアマッチ 0 (ソフトウェアスタンバイモード時のみコンペアマッチ信号が発生) コンペアマッチ 1
PWM 波形生成	LPTO 端子から PWM 波形の出力が可能
割り込み	コンペアマッチ 1
イベントリンク機能 (出力)	コンペアマッチ 0 (ソフトウェアスタンバイモード時のみコンペアマッチ信号が発生) コンペアマッチ 1

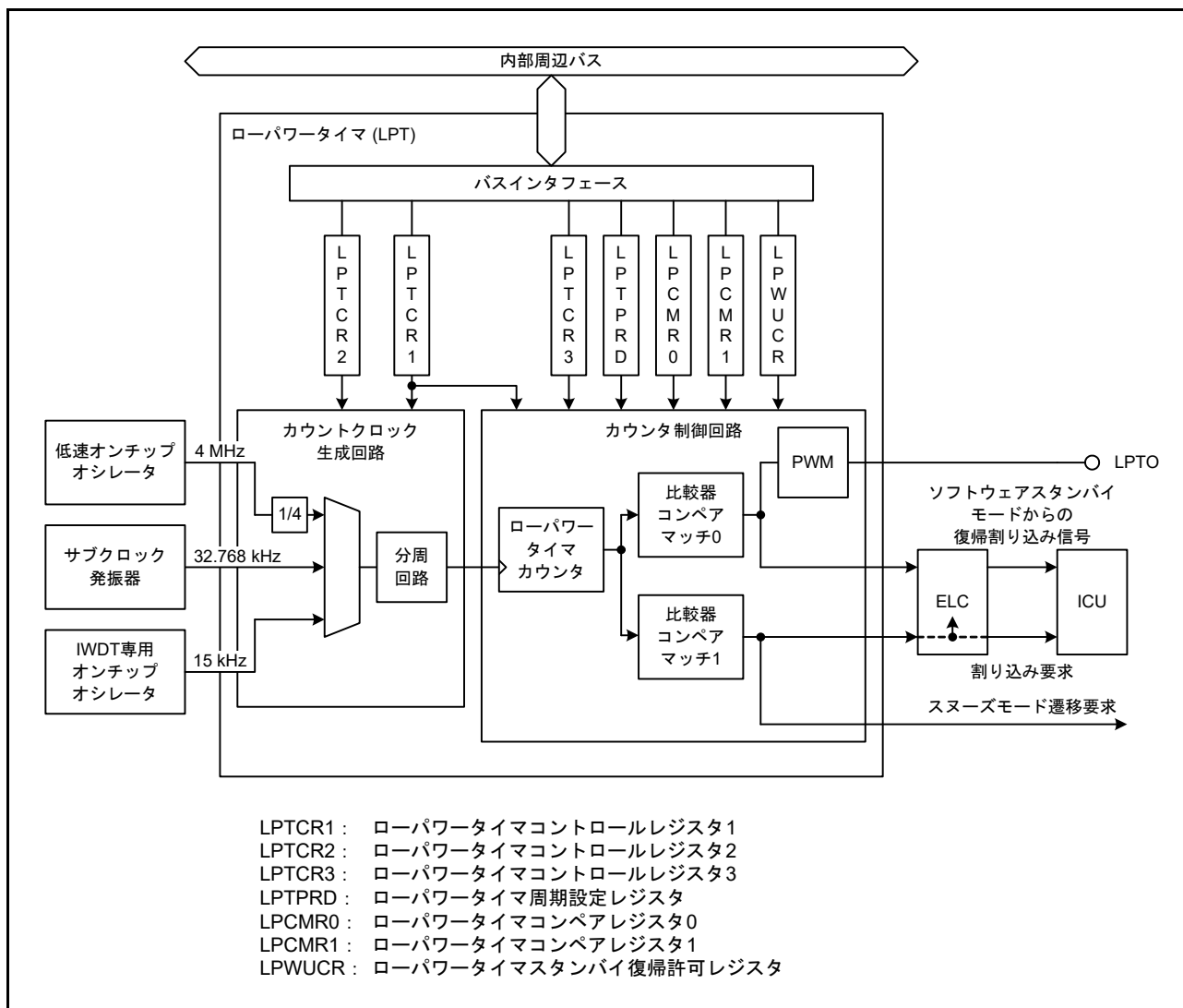


図 25.1 LPTのブロック図

表25.2 LPTの入出力端子

端子名	入出力	機能
LPTO	出力	PWM波形出力端子

25.2 レジスタの説明

25.2.1 ローパワータイマコントロールレジスタ 1 (LPTCR1)

アドレス LPT.LPTCR1 0008 00B0h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
LPCMR E1	LPCMR E0	—	LPCNT CKSEL	LPCNT CKSEL 2	LPCNTPSSEL[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	LPCNTPSSEL[2:0]	クロック分周比選択ビット(注1)	b2 b0 0 0 0 : 分周なし 0 0 1 : 2分周 0 1 0 : 4分周 0 1 1 : 8分周 1 0 0 : 16分周 1 0 1 : 32分周 上記以外は設定しないでください	R/W
b3	LPCNTCKSEL2	クロックソース選択ビット2(注1、注2)	b4 b3 0 0 : サブクロック 0 1 : LOCOクロックの4分周(注3)	R/W
b4	LPCNTCKSEL	クロックソース選択ビット(注1、注2)	1 0 : IWDT専用クロック (IWDTCLK)(注4) 1 1 : LOCOクロックの4分周(注3)	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	LPCMRE0	コンペアマッチ0許可ビット(注5)	0 : コンペアマッチ0禁止 1 : コンペアマッチ0許可	R/W
b7	LPCMRE1	コンペアマッチ1許可ビット(注5)	0 : コンペアマッチ1禁止 1 : コンペアマッチ1許可	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. LPTCR2.LPCNTSTPビットが“1”(ローパワータイマへのクロックを停止)のときに変更してください。

注2. システムクロック (ICKL)と周辺モジュールクロック (PCLKB)の周波数 $\geq 4 \times$ (クロックソースの周波数)となるようにしてください。

注3. 低速オンチップオシレータ (LOCO)が生成するクロック (LOCOクロック)を4分周したクロックが、ローパワータイマに供給されます。ローパワータイマのクロックソースとしてLOCOクロックを使用し、ソフトウェアスタンバイモード中も動作させる場合、LOFCR.LOFXINビットを“1”にしてください。

注4. IWDT専用オンチップオシレータが生成するクロック (IWDTCLK)がローパワータイマに供給されます。本ビットを変更する場合は、IWDT専用オンチップオシレータが安定発振している状態で行ってください。

また、ローパワータイマのクロックソースとしてIWDTCLKを使用する場合、IWDTオートスタートモード動作時はOFS0.IWDTSLCSTPビットに“0”(カウント停止無効)を、それ以外の時はIWDTCSSTPR.SLCSTPビットに“0”(カウント停止無効)を設定してください。この設定をしなかった場合、ソフトウェアスタンバイモード時にIWDT専用オンチップオシレータが停止します。

注5. LPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPTCR1 レジスタは、ローパワータイマの制御を行います。

LPCNTCKSEL2 ビット (クロックソース選択ビット2)

ローパワータイマのクロックソースを LOCO クロックにするビットです。

LPCNTCKSEL ビット (クロックソース選択ビット)

ローパワータイマのクロックソースをサブクロック、IWDT 専用クロックから選択します。

LPCNTCKSEL2 ビットが“0”のとき有効です。

LPCMRE0 ビット (コンペアマッチ 0 許可ビット)

ローパワータイマによるコンペアマッチ 0 の許可または禁止を設定します。

本ビットが“1”、かつ、LPWUCR.LPWKUPEN ビットが“1”(ローパワータイマによるソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可)のときにローパワータイマを動作状態にしてソフトウェアスタンバイモードに遷移すると、ローパワータイマカウンタの値が LPCMR0 レジスタの設定値と一致したときにイベントリンクコントローラ (ELC) を介してソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰します。

ソフトウェアスタンバイモードからの復帰に使用する場合は、割り込みの設定と ELC の設定が必要です。

ELC の設定の詳細については、「17. イベントリンクコントローラ (ELC)」を、割り込みの設定の詳細については、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

なお、コンペアマッチ 0 による割り込み要求は、ソフトウェアスタンバイモード時にのみ発生します。通常動作モード、スリープモード、およびディープスリープモード時は発生しません。

LPCMRE1 ビット (コンペアマッチ 1 許可ビット)

ローパワータイマによるコンペアマッチ 1 の許可または禁止を設定します。

本ビットが“1”のときにローパワータイマカウンタの値が LPCMR1 レジスタの設定値と一致すると、イベントリンクコントローラ (ELC) に対してイベント信号が出力され、また同じ信号が ELC 経由で割り込みコントローラ (ICU) に対して割り込み要求信号として伝達されます。このため、割り込みを発生させるには ELC のモジュールストップを解除しておく必要があります。

25.2.2 ローパワータイマコントロールレジスタ 2 (LPTCR2)

アドレス LPT.LPTCR2 0008 00B1h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PWME	OLVL	OPOL	—	—	—	—	LPCNT STP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LPCNTSTP	クロック供給制御ビット	0 : ローパワータイマにクロックを供給 1 : ローパワータイマへのクロックを停止	R/W
b4-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	OPOL	出力極性選択ビット(注1)	0 : 初期値はLow、その後の出力はOLVLビットの設定どおり 1 : 初期値はHigh、その後の出力はOLVLビット設定の反転	R/W
b6	OLVL	出力レベル選択ビット(注1)	0 : コンペアマッチ0でHighを出力、カウンタクリア時にLowを出力 1 : コンペアマッチ0でLowを出力、カウンタクリア時にHighを出力	R/W
b7	PWME	PWMモード許可ビット(注1)	0 : PWMモード禁止 1 : PWMモード許可	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. このビットはLPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPTCR2 レジスタは、ローパワータイマで使用するクロックの供給制御と PWM モードの動作設定を行います。

LPCNTSTP ビット (クロック供給制御ビット)

ローパワータイマで使用するクロックの供給 / 停止を制御します。本ビットを“0”にすると、ローパワータイマカウンタおよび分周回路にクロックが供給されます。

OPOL ビット (出力極性選択ビット)

PWM モード時の出力波形の極性を選択します。

OLVL ビット (出力レベル選択ビット)

PWM モード時、コンペアマッチ 0 で出力する波形のレベルを選択します。

OPOL ビットとの組み合わせにより以下のような波形を生成できます。

表25.3 OPOLビット、OLVLビットの組み合わせと出力波形のレベル

OPOLビット	OLVLビット	初期値	コンペアマッチ0時	カウンタクリア時
0	0	Low	High	Low
0	1	Low	Low	High
1	0	High	Low	High
1	1	High	High	Low

PWME ビット (PWM モード許可ビット)

PWM モードの許可 / 禁止を制御します。

本ビットを“0”にすると、LPTO 端子の出力は初期値に固定されます。“1”にすると LPTO 端子から PWM 波形を出力できます。

25.2.3 ローパワータイマコントロールレジスタ 3 (LPTCR3)

アドレス LPT.LPTCR3 0008 00B2h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	LPCNT RST	LPCNT EN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	LPCNTEN	ローパワータイマカウンタ動作制御ビット	0: ローパワータイマカウンタ停止 1: ローパワータイマカウンタ動作	R/W
b1	LPCNTRST	ローパワータイマカウンタクリアビット(注1、注2)	<ul style="list-style-type: none"> 書き込み時 0: 何もしない 1: 分周回路およびローパワータイマカウンタをクリア 読み出し時 0: クリア完了 1: クリア中 	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注. このレジスタは、LPTCR2.LPCNTSTPビットが“0”(ローパワータイマにクロックを供給)のときに変更してください。

注1. このビットは、LPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

注2. 連続してローパワータイマカウンタをクリアする場合、LPCNTRSTビットが“0”になったことを確認した後、LPTCR1.LPCNTCKSEL2、LPCNTCKSELビットで選択したクロックで1サイクル以上待ってからLPCNTRSTビットに“1”を書いてください。

LPTCR3 レジスタは、ローパワータイマカウンタと分周回路の動作制御およびクリアを行います。

LPCNTEN ビット (ローパワータイマカウンタ動作制御ビット)

ローパワータイマカウンタおよび分周回路の動作/停止を制御します。

LPTCR2.LPCNTSTP ビットが“0”(ローパワータイマにクロックを供給)のときに本ビットを“1”にすると、ローパワータイマカウンタおよび分周回路が動作を開始します。

本ビットが“1”のときは、LPCNTRST ビットに“1”を書き込まないでください。

LPCNTRST ビット (ローパワータイマカウンタクリアビット)

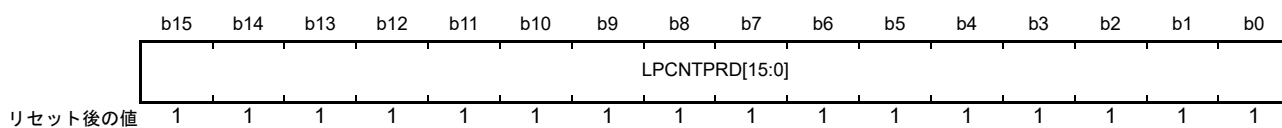
ローパワータイマカウンタおよび分周回路をクリアします。

LPTCR2.LPCNTSTP ビットが“0”(ローパワータイマにクロックを供給)のときに本ビットに“1”を書き込むと、ローパワータイマで使用するクロックに同期してクリアが実行され、クリアが完了すると本ビットは自動的に“0”になります。

本ビットに“1”を書いた場合、値が“0”(クリア完了)になったことを確認してから次の処理を実行してください。

25.2.4 ローパワータイマ周期設定レジスタ (LPTPRD)

アドレス LPT.LPTPRD 0008 00B4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	LPCNTPRD[15:0]	ローパワータイマ周期設定ビット	ローパワータイマの周期を設定 設定範囲：0001h~FFFFh	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注. このレジスタはLPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPTPRD レジスタは、ローパワータイマの周期を設定するレジスタです。

ローパワータイマの周期は、「LPTPRD + 1」に比例し、下記の計算式で求められます。

$$\text{ローパワータイマの周期} = \text{クロックソースの周期} \times \text{分周比} \times (\text{LPTPRD} + 1)$$

ローパワータイマカウンタの値と本設定値が一致すると、カウンタは“0000h”になり、カウントを継続します。

本レジスタに“0000h”を設定しないでください。

表 25.4、表 25.5、表 25.6 にローパワータイマの周期設定例を示します。目標の周期に対し、一番近い設定例です。

表 25.4 ローパワータイマの周期設定例(IWDTCLKの場合)

分周比	分周なし			2分周			4分周		
	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)
1	000Eh	1.00	0.00	0006h	0.93	-6.67	0003h	1.07	6.67
2	001Dh	2.00	0.00	000Dh	1.87	-6.67	0006h	1.87	-6.67
5	004Ah	5.00	0.00	0024h	4.93	-1.33	0011h	4.80	-4.00
10	0095h	10.00	0.00	004Ah	10.00	0.00	0024h	9.87	-1.33
20	012Bh	20.00	0.00	0095h	20.00	0.00	004Ah	20.00	0.00
50	02EDh	50.00	0.00	0176h	50.00	0.00	00BAh	49.87	-0.27
100	05DBh	100.00	0.00	02EDh	100.00	0.00	0176h	100.00	0.00
200	0BB7h	200.00	0.00	05DBh	200.00	0.00	02EDh	200.00	0.00
500	1D4Bh	500.00	0.00	0EA4h	499.87	-0.03	0751h	499.73	-0.05
1000	3A97h	1000.00	0.00	1D4Ah	999.87	-0.01	0EA4h	999.73	-0.03
2000	752Fh	2000.00	0.00	3A96h	1999.87	-0.01	1D4Ah	1999.73	-0.01
5000	—	—	—	927Bh	5000.00	0.00	493Dh	5000.00	0.00
10000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50000	—	—	—	—	—	—	—	—	—

分周比	8分周			16分周			32分周		
	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の 周期 (ms)	誤差 (%)
1	0001h	1.07	6.67	—	—	—	—	—	—
2	0003h	2.13	6.67	0001h	2.13	6.67	—	—	—
5	0008h	4.80	-4.00	0004h	5.33	6.67	0001h	4.27	-14.67
10	0011h	9.60	-4.00	0008h	9.60	-4.00	0004h	10.67	6.67
20	0024h	19.73	-1.33	0011h	19.20	-4.00	0008h	19.20	-4.00
50	005Ch	49.60	-0.80	002Dh	49.07	-1.87	0016h	49.07	-1.87
100	00BAh	99.73	-0.27	005Ch	99.20	-0.80	002Dh	98.13	-1.87
200	0176h	200.00	0.00	00BAh	199.47	-0.27	005Ch	198.40	-0.80
500	03A8h	499.73	-0.05	01D3h	499.20	-0.16	00E9h	499.20	-0.16
1000	0751h	999.47	-0.05	03A8h	999.47	-0.05	01D3h	998.40	-0.16
2000	0EA4h	1999.47	-0.03	0751h	1998.93	-0.05	03A8h	1998.93	-0.05
5000	249Eh	5000.00	0.00	124Eh	4999.47	-0.01	0926h	4998.40	-0.03
10000	493Dh	10000.00	0.00	249Eh	10000.00	0.00	124Eh	9998.93	-0.01
20000	927Bh	20000.00	0.00	493Dh	20000.00	0.00	249Eh	20000.00	0.00
50000	—	—	—	B71Ah	50000.00	0.00	5B8Ch	49998.93	0.00

表25.5 ローパワータイマの周期設定例(サブクロックの場合)

分周比	分周なし			2分周			4分周		
	目標の周期 (ms)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)
1	0020h	1.01	0.71	000Fh	0.98	-2.34	0007h	0.98	-2.34
2	0041h	2.01	0.71	001Fh	1.95	-2.34	000Fh	1.95	-2.34
5	00A3h	5.00	0.10	0050h	4.94	-1.12	0027h	4.88	-2.34
10	0147h	10.01	0.10	00A2h	9.95	-0.51	0050h	9.89	-1.12
20	028Eh	19.99	-0.05	0146h	19.96	-0.21	00A2h	19.90	-0.51
50	0665h	49.99	-0.02	0332h	49.99	-0.02	0198h	49.93	-0.15
100	0CCCh	100.01	0.01	0665h	99.98	-0.02	0332h	99.98	-0.02
200	1999h	200.01	0.01	0CCBh	199.95	-0.02	0665h	199.95	-0.02
500	3FFFh	500.00	0.00	1FFFh	500.00	0.00	0FFFh	500.00	0.00
1000	7FFFh	1000.00	0.00	3FFFh	1000.00	0.00	1FFFh	1000.00	0.00
2000	FFFFh	2000.00	0.00	7FFFh	2000.00	0.00	3FFFh	2000.00	0.00
5000	—	—	—	—	—	—	9FFFh	5000.00	0.00
10000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50000	—	—	—	—	—	—	—	—	—

分周比	8分周			16分周			32分周		
	目標の周期 (ms)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)
1	0003h	0.98	-2.34	0001h	0.98	-2.34	—	—	—
2	0007h	1.95	-2.34	0003h	1.95	-2.34	0001h	1.95	-2.34
5	0013h	4.88	-2.34	0009h	4.88	-2.34	0004h	4.88	-2.34
10	0027h	9.77	-2.34	0013h	9.77	-2.34	0009h	9.77	-2.34
20	0050h	19.78	-1.12	0027h	19.53	-2.34	0013h	19.53	-2.34
50	00CBh	49.80	-0.39	0065h	49.80	-0.39	0032h	49.80	-0.39
100	0198h	99.85	-0.15	00CBh	99.61	-0.39	0065h	99.61	-0.39
200	0332h	199.95	-0.02	0198h	199.71	-0.15	00CBh	199.22	-0.39
500	07FFh	500.00	0.00	03FFh	500.00	0.00	01FFh	500.00	0.00
1000	0FFFh	1000.00	0.00	07FFh	1000.00	0.00	03FFh	1000.00	0.00
2000	1FFFh	2000.00	0.00	0FFFh	2000.00	0.00	07FFh	2000.00	0.00
5000	4FFFh	5000.00	0.00	27FFh	5000.00	0.00	13FFh	5000.00	0.00
10000	9FFFh	10000.00	0.00	4FFFh	10000.00	0.00	27FFh	10000.00	0.00
20000	—	—	—	9FFFh	20000.00	0.00	4FFFh	20000.00	0.00
50000	—	—	—	—	—	—	C7FFh	50000.00	0.00

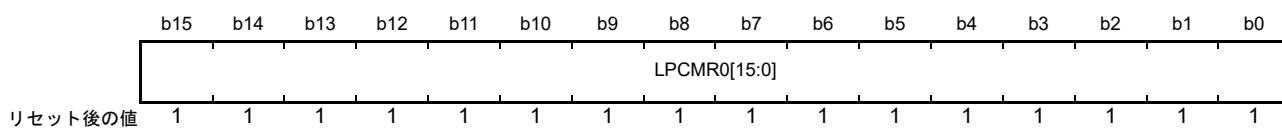
表 25.6 ローパワータイマの周期設定例(LOCOクロックの場合)

分周比	分周なし			2分周			4分周		
	目標の周期 (ms)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)
1	03E7h	1.00	0.00	01F3h	1.00	0.00	00F9h	1.00	0.00
2	07CFh	2.00	0.00	03E7h	2.00	0.00	01F3h	2.00	0.00
5	1387h	5.00	0.00	09C3h	5.00	0.00	04E1h	5.00	0.00
10	270Fh	10.00	0.00	1387h	10.00	0.00	09C3h	10.00	0.00
20	4E1Fh	20.00	0.00	270Fh	20.00	0.00	1387h	20.00	0.00
50	C34Fh	50.00	0.00	61A7h	50.00	0.00	30D3h	50.00	0.00
100	—	—	—	C34Fh	100.00	0.00	61A7h	100.00	0.00
200	—	—	—	—	—	—	C34Fh	200.00	0.00
500	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2000	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5000	—	—	—	—	—	—	—	—	—

分周比	8分周			16分周			32分周		
	目標の周期 (ms)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)	誤差 (%)	設定値	実際の周期 (ms)
1	007Ch	1.00	0.00	003Eh	1.01	0.80	001Eh	0.99	-0.80
2	00F9h	2.00	0.00	007Ch	2.00	0.00	003Eh	2.02	0.80
5	0270h	5.00	0.00	0138h	5.01	0.16	009Bh	4.99	-0.16
10	04E1h	10.00	0.00	0270h	10.00	0.00	0138h	10.02	0.16
20	09C3h	20.00	0.00	04E1h	20.00	0.00	0270h	20.00	0.00
50	1869h	50.00	0.00	0C34h	50.00	0.00	061Ah	50.02	0.03
100	30D3h	100.00	0.00	1869h	100.00	0.00	0C34h	100.00	0.00
200	61A7h	200.00	0.00	30D3h	200.00	0.00	1869h	200.00	0.00
500	F423h	500.00	0.00	7A11h	500.00	0.00	3D08h	500.00	0.00
1000	—	—	—	F423h	1000.00	0.00	7A11h	1000.00	0.00
2000	—	—	—	—	—	—	F423h	2000.00	0.00
5000	—	—	—	—	—	—	—	—	—

25.2.5 ローパワータイマコンペアレジスタ 0 (LPCMR0)

アドレス LPT.LPCMR0 0008 00B8h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	LPCMR0[15:0]	ローパワータイマコンペア0ビット	ローパワータイマカウンタとのコンペアマッチ値0を設定	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

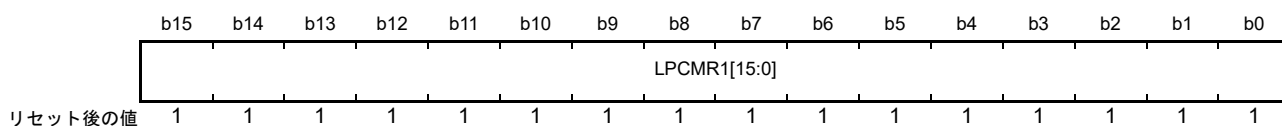
注. LPTCR2.PWMEビットが“0”(PWMモード禁止)の場合、このレジスタは、LPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPCMR0 レジスタは、ローパワータイマカウンタとのコンペアマッチ値0を設定するレジスタです。

LPCMR0 レジスタには、LPTPRD レジスタに設定した値以下の値を設定してください。

25.2.6 ローパワータイマコンペアレジスタ 1 (LPCMR1)

アドレス LPT.LPCMR1 0008 00BAh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	LPCMR1[15:0]	ローパワータイマコンペア1ビット	ローパワータイマカウンタとのコンペアマッチ値1を設定	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注. このレジスタは、LPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPCMR1 レジスタは、ローパワータイマカウンタとのコンペアマッチ値1を設定するレジスタです。

LPTCR2.PWMEビットが“0”(PWMモード禁止)の場合、LPCMR1 レジスタには、LPTPRD レジスタに設定した値以下の値を設定してください。

LPTCR2.PWMEビットが“1”(PWMモード許可)の場合、LPCMR1 レジスタには、LPTPRD レジスタに設定した値と同じ値を設定してください。

25.2.7 ローパワータイマスタンバイ復帰許可レジスタ (LPWUCR)

アドレス LPT.LPWUCR 0008 00BCh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	LPWKU PEN	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b14-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	LPWKUPEN	ローパワータイマスタンバイ復帰許可ビット(注1)	0: ローパワータイマによるソフトウェアスタンバイモードからの復帰を禁止 1: ローパワータイマによるソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可	R/W

注. このレジスタはPRCR.PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にした後で書き換えてください。

注1. このビットはLPTCR3.LPCNTENビットが“0”(ローパワータイマカウンタ停止)のときに変更してください。

LPWUCR レジスタは、ローパワータイマのコンペアマッチ 0 でソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰する機能の許可制御を行います。

LPWKUPEN ビット (ローパワータイマスタンバイ復帰許可ビット)

ローパワータイマのコンペアマッチ 0 でソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰する機能の許可または禁止を設定します。

LPWKUPEN ビットを“1”にする場合、「11. 消費電力低減機能」のSNZCR レジスタを“0000h”にしてください。逆にSNZCR レジスタのいずれかのビットを“1”にする場合、LPWKUPEN ビットを“1”にしないでください。

25.3 動作説明

25.3.1 周期カウント動作

ローパワータイマは、MCUの動作モードにかかわらず動作する16ビットのアップカウンタです(注1)。

LPTCR1.LPCNTPSSEL[2:0]ビットで分周比、LPTCR1.LPCNTCKSEL、LPCNTCKSEL2ビットでクロックソースを選択し、LPTCR2.LPCNTSTPビットを“0”(ローパワータイマにクロックを供給)にした後、LPTCR3.LPCNTENビットを“1”(ローパワータイマカウンタ動作)にすると、選択したクロックによってローパワータイマカウンタがカウントを開始します。

ローパワータイマカウンタの値がLPTPRDレジスタの値と一致すると、カウンタの値は“0000h”からカウントを再開します。

LPTCR1.LPCMRE0ビットが“1”(コンペアマッチ0許可)かつLPWUCR.LPWKUPENビットが“1”(ローパワータイマによるソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可)の場合、ソフトウェアスタンバイモード中にローパワータイマカウンタの値がLPCMR0レジスタの値と一致すると、イベントリンクコントローラ(ELC)を介してソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰します。

LPTCR1.LPCMRE1ビットが“1”(コンペアマッチ1許可)のときにローパワータイマカウンタの値がLPCMR1レジスタの設定値と一致すると、イベントリンクコントローラ(ELC)に対してイベント信号が出力され、割り込みコントローラ(ICU)に対して割り込みが要求されます。

図25.2にローパワータイマの動作を、図25.3に初期設定手順例を示します。

注1. LPTCR1.LPCNTCKSEL、LPCNTCKSEL2ビットで“10b”(IWDT専用クロック)を選択している場合、IWDTがオートスタートモードで、かつOFS0.IWDTSLCSTPビットを“1”(カウント停止有効)にしている、またはレジスタスタートモードで、かつIWDTCSSTPR.SLCSTPビットを“1”(カウント停止有効)にしていると、低消費電力状態ではIWDTCLKが停止するため、カウンタが停止します。

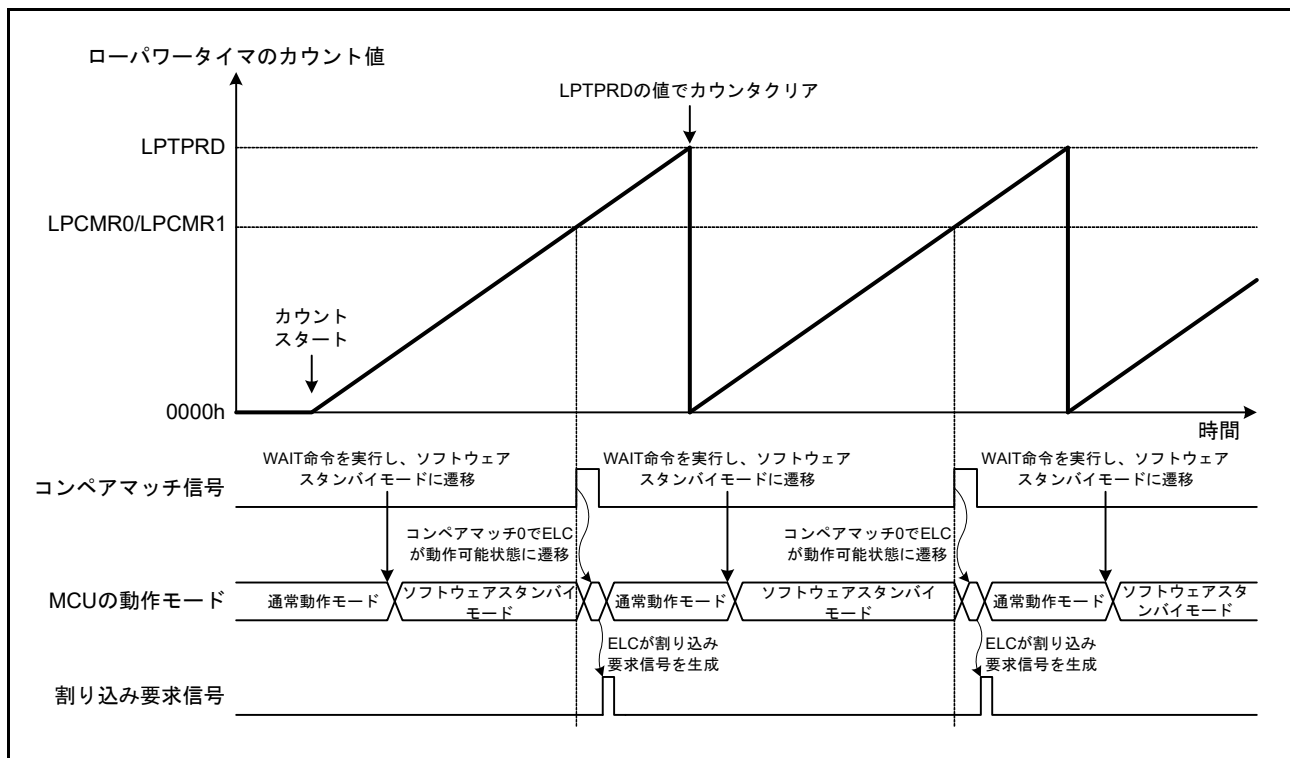
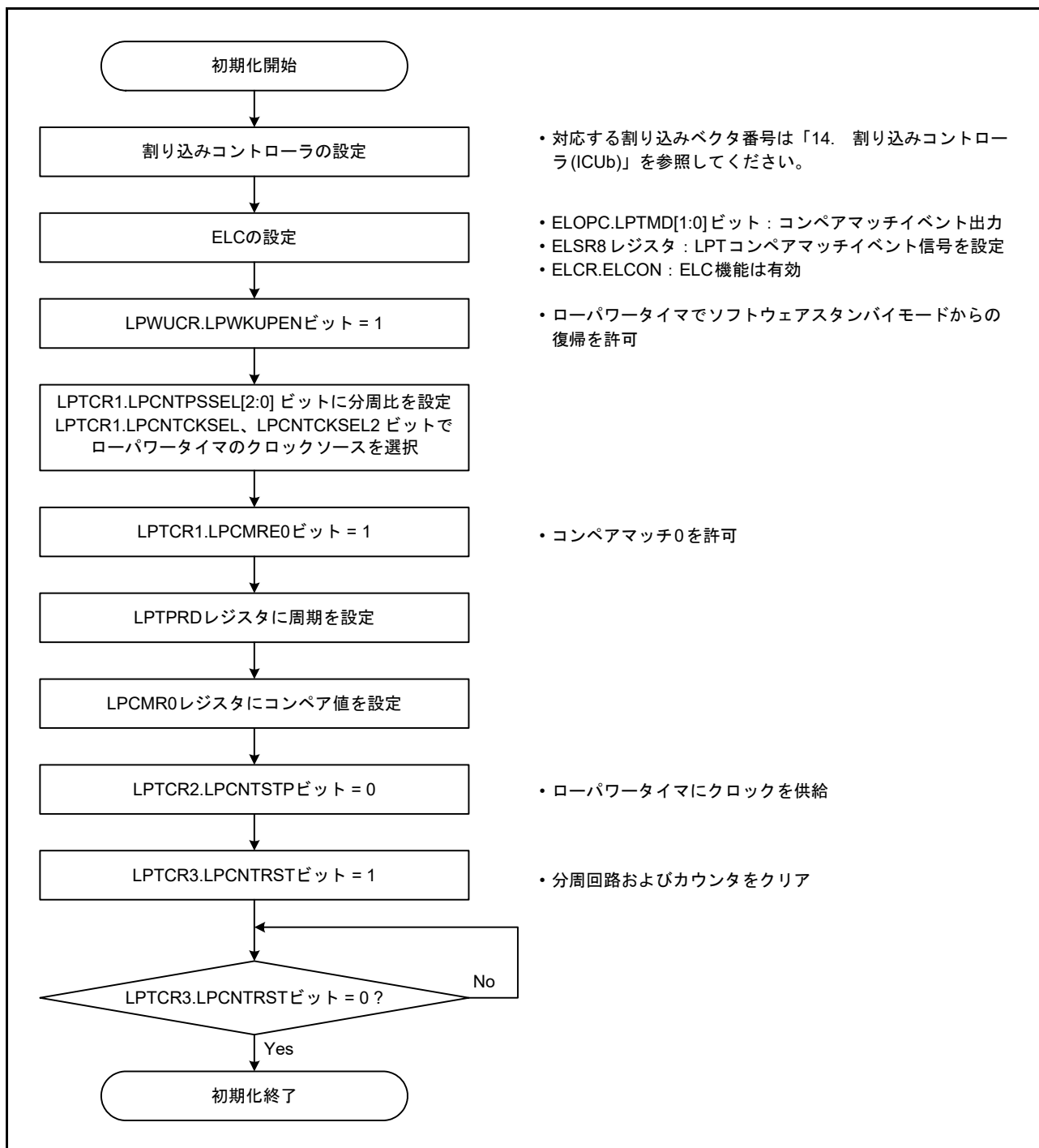


図 25.2 ローパワータイマの動作



• 対応する割り込みベクタ番号は「14. 割り込みコントローラ(ICUb)」を参照してください。

• ELOPC.LPTMD[1:0] ビット : コンペアマッチイベント出力
 • ELSR8 レジスタ : LPTコンペアマッチイベント信号を設定
 • ELCR.ELCON : ELC機能は有効

• ローパワータイマでソフトウェアスタンバイモードからの復帰を許可

• コンペアマッチ0を許可

• ローパワータイマにクロックを供給

• 分周回路およびカウンタをクリア

図 25.3 初期設定手順例

25.3.2 PWM 動作

LPTCR2.PWME ビットを“1”にすると、ローパワータイマはPWMモードで動作します。PWMモードでは、LPCMR1レジスタにLPTPRDレジスタと同じ値を設定してください。

PWM波形出力端子(LPTO)からは、LPTCR2.OPOLビットとOLVLビットの組み合わせによって、任意のPWM波形を出力できます。出力できる波形の一覧を図25.4に示します。

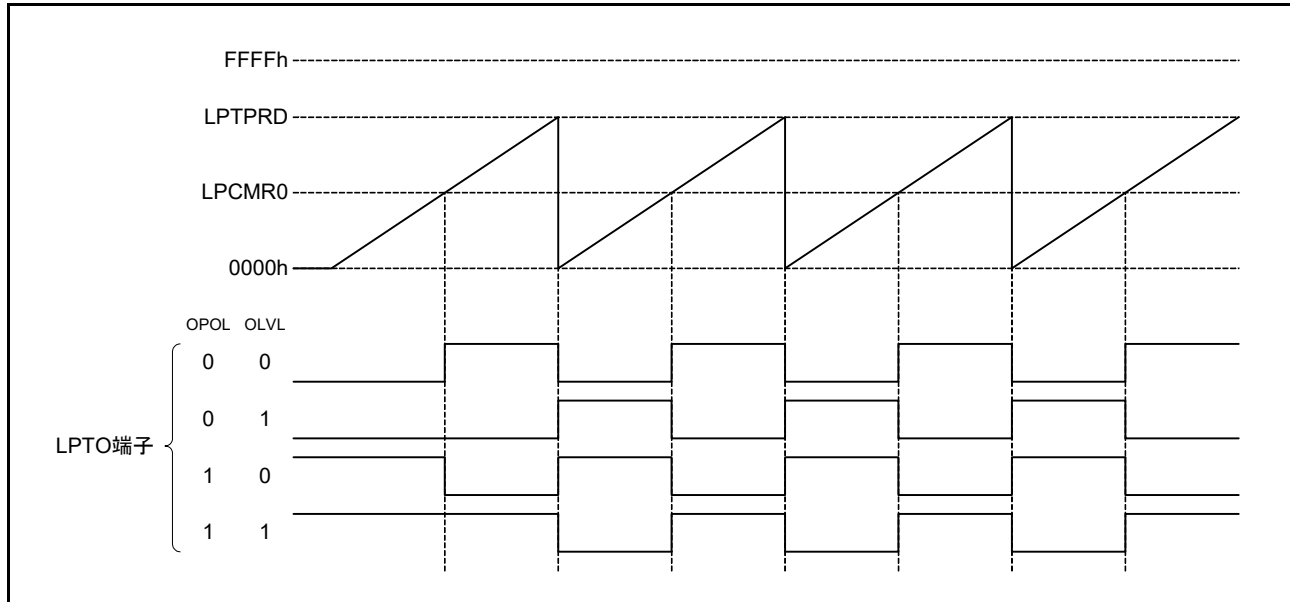


図 25.4 PWM 波形

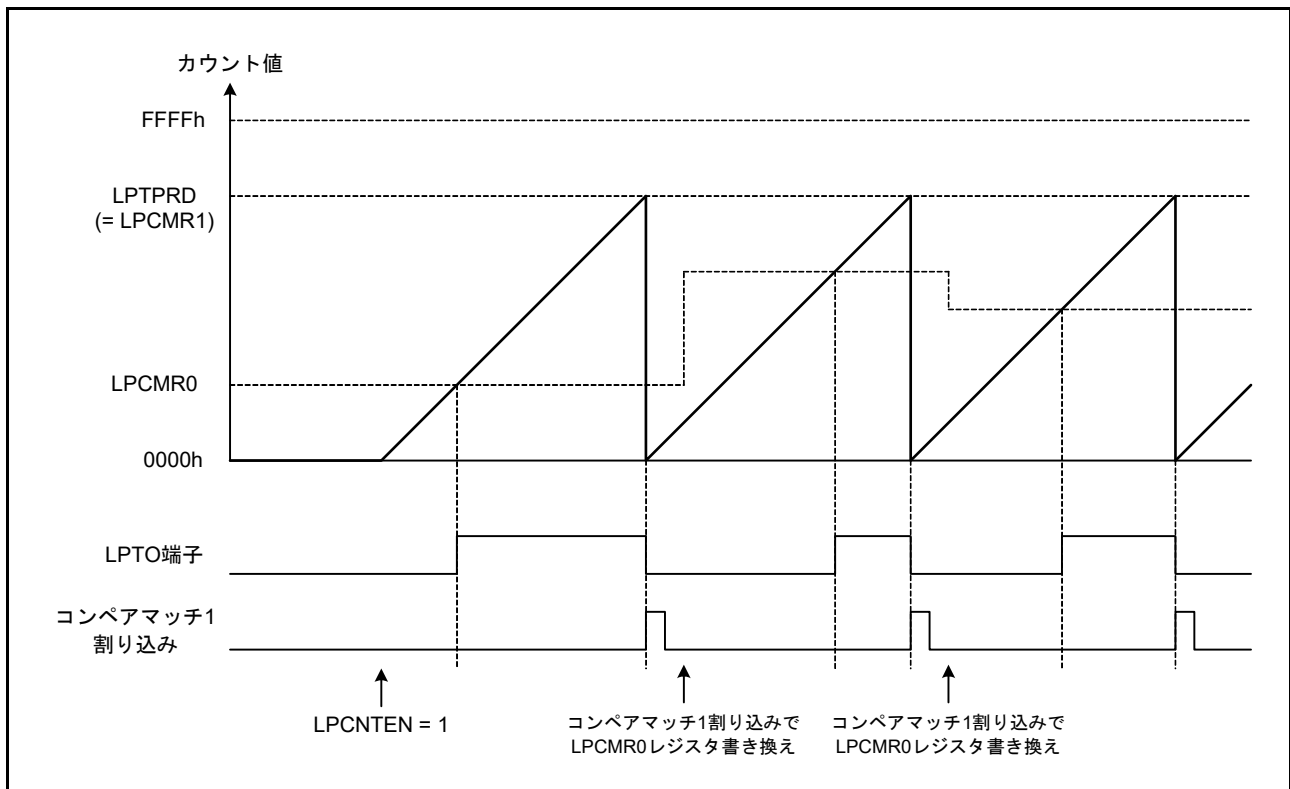
図 25.5 に LPTCR2.OPOL ビットと OLVL ビットが両方とも“0”のときの PWM モードの動作例を示します。このときの LPTO 端子出力の High 幅は“LPTPRD – LPCMR0”、Low 幅は“LPCMR0 + 1”で表せます。

ローパワータイマのカウント動作は、周期カウント動作と同じです。初期設定を行い、LPTCR3.LPCNTEN ビットを“1”にすると、ローパワータイマがカウントを開始します。カウンタの値が LPCMR0 レジスタの値と一致すると、LPTO 端子が High になり、コンペアマッチ 0 イベントが発生します。カウンタの値が LPTPRD レジスタの値 (= LPCMR1 レジスタの値) と一致すると、カウンタがリセットされ、LPTO 端子が Low になり、コンペアマッチ 1 イベントが発生します。

コンペアマッチ 1 割り込みの処理ルーチンで LPCMR0 レジスタの値を書き換えると、PWM 出力のデューティを変更することができます。なお、LPCMR0 レジスタの書き換えを、CPU を使用せずに DTC で行うことも可能です。

また、スヌーズモード中に DTC で LPCMR0 レジスタを書き換えるようにすると、低消費電力状態のまま PWM 波形を変更することができます。スヌーズモードに関する詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

なお、LPCMR0 レジスタの書き換えがコンペアマッチ 0 発生前で、かつ書き換えた値がカウンタの値より小さかった場合、その周期ではコンペアマッチ 0 が発生しないため、LPTO 端子のレベルは変化しません。

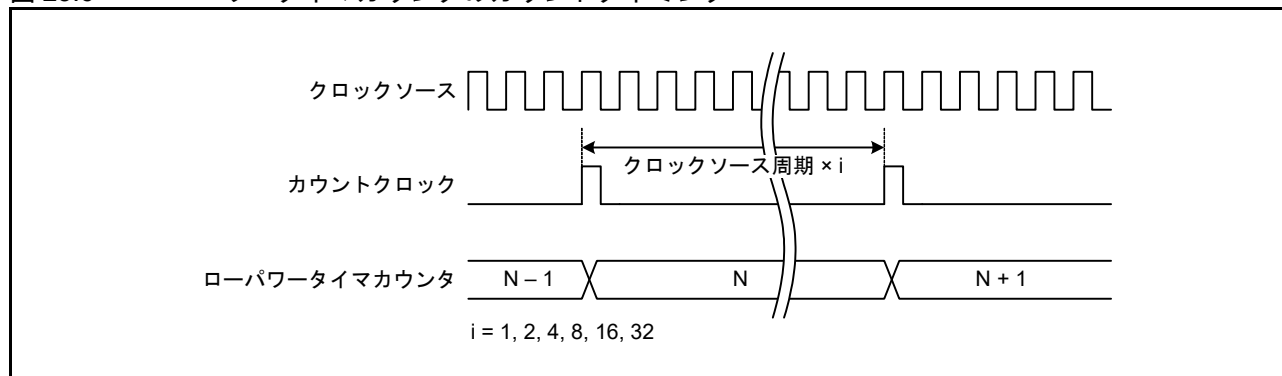


25.3.3 ローパワータイマカウンタのカウンタタイミング

LPTCR1.LPCNTCKSEL、LPCNTCKSEL2 ビットで選択したクロックソースを1～32分周した6種類の分周クロックの内、ローパワータイマカウンタに入力するカウンタクロックをLPTCR1.LPCNTPSSEL[2:0] ビットで選択できます。

このときのローパワータイマカウンタのカウンタタイミングを図25.6に示します。

図25.6 ローパワータイマカウンタのカウンタタイミング



25.3.4 ローパワータイマカウンタのクリアタイミング

LPTCR3.LPCNTRST ビットに“1”を書くと(注1)、ローパワータイマカウンタがクリアされます。

LPTCR3.LPCNTRST ビットは、カウンタのクリアが完了すると自動的に“0”になります。

このときのローパワータイマカウンタのクリアタイミングを図25.7に示します。

注1. LPTCR3.LPCNTRST ビットへの書き込みは、LPTCR3.LPCNTEN ビットが“0” (ローパワータイマカウンタ停止) のときに行ってください。

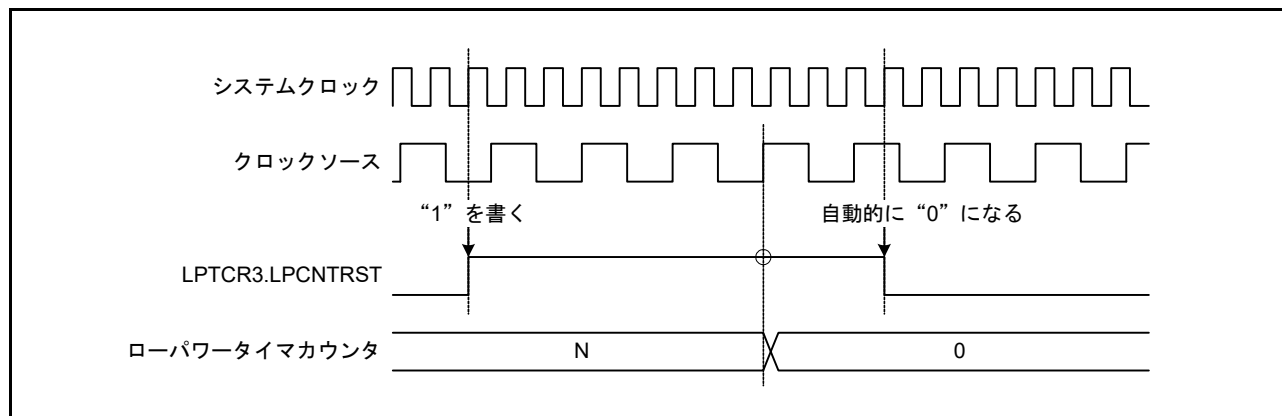


図25.7 ローパワータイマカウンタのクリアタイミング

25.4 割り込み要因

ローパワータイマの割り込み要因は、コンペアマッチ 1 割り込み (LPTCMI1) のみです。コンペアマッチ 1 割り込みでは、DTC を起動させることができます。コンペアマッチ 1 割り込みを使用する場合、イベントリンクコントローラ (ELC) のモジュールストップを解除してください。

25.5 イベントリンク機能 (出力)

ローパワータイマは、コンペアマッチ 1 をイベントとしてイベントリンクコントローラ (ELC) に出力し、あらかじめ設定していたモジュールを動作させることができます。詳細は「17. イベントリンクコントローラ (ELC)」を参照してください。

25.6 スヌーズモードへの遷移要求

ローパワータイマのコンペアマッチ 1 イベントは、スヌーズモードへの遷移要求としても使用できます。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

25.7 イベントリンクコントローラ (ELC) を介した割り込みによるソフトウェアスタンバイモードの解除について

ローパワータイマは、ソフトウェアスタンバイモード時のみ、コンペアマッチ 0 によるイベント信号をイベントリンクコントローラ (ELC) に出力します。

ELC の ELOPC.LPTMD[1:0] ビットを “00b” (コンペアマッチ 0 イベントを割り込み要求として ICU に出力) に設定し、ELSR8 レジスタに “32h” (LPT・コンペアマッチ 0) を設定することで、イベント信号による割り込みが発生し、ソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰することができます。

25.8 使用上の注意事項

25.8.1 ソフトウェアスタンバイモードへの遷移に関する注意事項について

ソフトウェアスタンバイモードから通常動作モードに復帰して、再度ソフトウェアスタンバイモードに遷移する場合、LPTCR1.LPCNTCKSEL、LPCNTCKSEL2 ビットで選択したクロックで 1 サイクル以上待つから WAIT 命令を実行する必要があります。

26. 独立ウォッチドッグタイマ (IWDTa)

独立ウォッチドッグタイマ (IWDT) は、プログラムの暴走を検知するために使用できます。IWDT のカウンタがアンダフローする前にリフレッシュするようプログラムを作成しておき、アンダフローが発生したら暴走したと判断できます。

WDT とは以下の点で機能が異なります。

- カウントソースはIWDT 専用クロック (IWDTCLK) を分周したもの (周辺モジュールクロックの影響を受けない)
- 低消費電力状態で、カウンタを停止させない選択が可能 (IWDTCSR.SLCSTP ビットまたは、OFS0.IWDTSLCSTP ビットで選択)

26.1 概要

表 26.1 に IWDT の仕様を示します。

表 26.1 IWDT の仕様

項目	内容
カウントソース(注1)	IWDT 専用クロック (IWDTCLK)
クロック分周比	1分周/16分周/32分周/64分周/128分周/256分周
カウント動作	14ビットのカウンタによるダウンカウント
カウント開始条件	<ul style="list-style-type: none"> • オートスタートモード：リセット解除後、自動的にカウント開始 • レジスタスタートモード：リフレッシュ動作 (IWDTRR レジスタに“00h”を書き込み後、“FFh”を書き込む)により、カウント開始
カウント停止条件	<ul style="list-style-type: none"> • リセット • 低消費電力状態 (レジスタ設定による(注2)) • アンダフロー、リフレッシュエラー発生時 (レジスタスタートモード時のみ)
ウィンドウ機能	ウィンドウ開始/終了位置を設定可能 (リフレッシュ許可/禁止期間)
リセット出力要因	<ul style="list-style-type: none"> • カウンタがアンダフローしたとき • リフレッシュ許可期間以外でリフレッシュを行ったとき (リフレッシュエラー)
ノンマスクブル割り込み要因	<ul style="list-style-type: none"> • カウンタがアンダフローしたとき • リフレッシュ許可期間以外でリフレッシュを行ったとき (リフレッシュエラー)
カウンタ値の読み出し	IWDTSR レジスタを読み出すことで、カウンタのカウント値の読み出しが可能
オートスタートモード (オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) 制御)	<ul style="list-style-type: none"> • リセット後のクロック分周比の選択 (OFS0.IWDTCKS[3:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのタイムアウト期間の選択 (OFS0.IWDTTOPS[1:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのウィンドウ開始位置の選択 (OFS0.IWDTRPSS[1:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのウィンドウ終了位置の選択 (OFS0.IWDRPES[1:0] ビット) • リセット出力、または割り込み要求出力の選択 (OFS0.IWDRSTIRQS ビット) • 低消費電力状態でのカウンタ動作/停止の選択 (OFS0.IWDTSLCSTP ビット)
レジスタスタートモード (IWDT レジスタ制御)	<ul style="list-style-type: none"> • リフレッシュ動作後のクロック分周比の選択 (IWDTCSR.CKS[3:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのタイムアウト期間の選択 (IWDTCSR.TOPS[1:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのウィンドウ開始位置の選択 (IWDTCSR.RPSS[1:0] ビット) • 独立ウォッチドッグタイマのウィンドウ終了位置の選択 (IWDTCSR.RPES[1:0] ビット) • リセット出力、または割り込み要求出力の選択 (IWDTCSR.RSTIRQS ビット) • 低消費電力状態でのカウンタ動作/停止の選択 (IWDTCSR.SLCSTP ビット)

注1. 周辺モジュールクロック (PCLKB) 周波数 $\geq 4 \times$ (カウントソースの分周後周波数) となるようにしてください。

注2. オートスタートモード時、OFS0.IWDTSLCSTP ビットが“1”の場合、レジスタスタートモード時、IWDTCSR.SLCSTP ビットが“1”の場合。

図 26.1 に IWDT のブロック図を示します。

IWDT では、バスインタフェース部とレジスタ部は周辺モジュールクロック (PCLKB) で動作し、14 ビットダウンカウンタと制御回路は IWDTCLK で動作します。

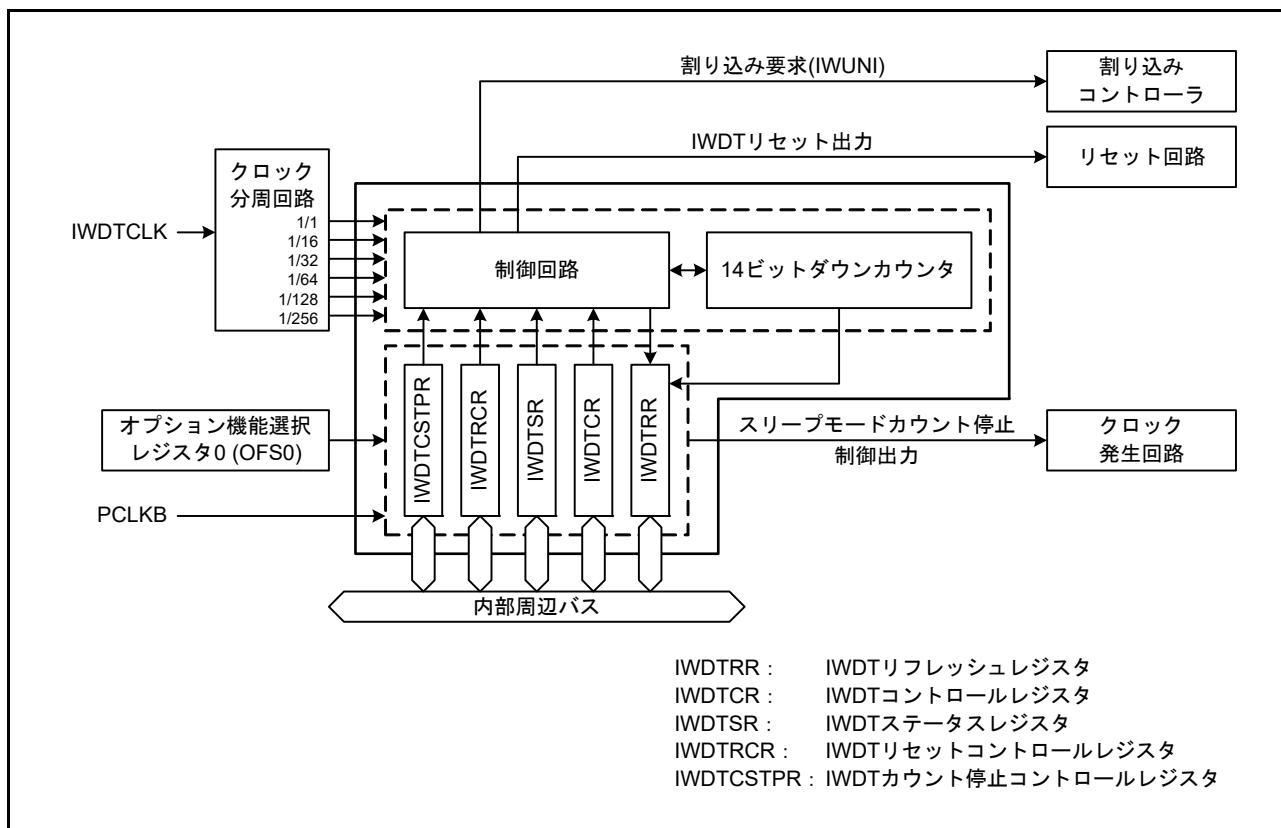
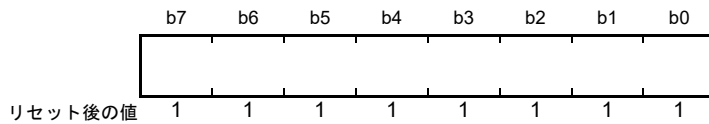


図 26.1 IWDT のブロック図

26.2 レジスタの説明

26.2.1 IWDt リフレッシュレジスタ (IWDtRR)

アドレス IWDt.IWDtRR 0008 8030h



ビット	機能	R/W
b7-b0	“00h”書き込み後、“FFh”の書き込みでリフレッシュ	R/W

IWDtRR レジスタは、IWDt のカウンタをリフレッシュするためのレジスタです。

リフレッシュ許可期間中に、IWDtRR レジスタに“00h”を書き込み後、“FFh”を書き込む(リフレッシュ動作)により IWDt のカウンタをリフレッシュします。

カウンタはリフレッシュされると、オートスタートモードの場合、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の IWDtTOPS[1:0] ビットで設定した値からダウンカウントを行います。レジスタスタートモードの場合、IWDtCR.TOPs[1:0] ビットで設定した値からダウンカウントを行います。また、レジスタスタートモードの場合、リセット解除後の最初のリフレッシュ動作により、IWDtCR.TOPs[1:0] ビットで設定した値からダウンカウントを開始します。

読み出される値は、“00h”を書き込んだ場合は“00h”が、“00h”以外の値を書き込んだ場合は“FFh”となります。

リフレッシュ動作の詳細については、「26.3.2 リフレッシュ動作」を参照してください。

26.2.2 IWDT コントロールレジスタ (IWDTCR)

アドレス IWDT.IWDTCR 0008 8032h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	
—	—	RPSS[1:0]	—	—	RPES[1:0]	CKS[3:0]			—	—	TOPS[1:0]					
リセット後の値	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TOPS[1:0]	タイムアウト期間選択ビット	b1 b0 0 0 : 128サイクル(007Fh) 0 1 : 512サイクル(01FFh) 1 0 : 1024サイクル(03FFh) 1 1 : 2048サイクル(07FFh)	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b7-b4	CKS[3:0]	クロック分周比選択ビット	b7 b4 0 0 0 0 : 分周なし 0 0 1 0 : 16分周 0 0 1 1 : 32分周 0 1 0 0 : 64分周 1 1 1 1 : 128分周 0 1 0 1 : 256分周 上記以外は設定しないでください	R/W
b9-b8	RPES[1:0]	ウィンドウ終了位置選択ビット	b9 b8 0 0 : 75% 0 1 : 50% 1 0 : 25% 1 1 : 0% (ウィンドウの終了位置設定なし)	R/W
b11-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b13-b12	RPSS[1:0]	ウィンドウ開始位置選択ビット	b13 b12 0 0 : 25% 0 1 : 50% 1 0 : 75% 1 1 : 100% (ウィンドウの開始位置設定なし)	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R

注. 本レジスタはリセット後1回だけ書けます。また、カウンタが動作を開始した後は書けません。

レジスタスタートモード使用時に、タイムアウト時間、リフレッシュ許可期間を設定するレジスタです。

オートスタートモードの場合は、IWDTCR レジスタの設定は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の設定が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、IWDTCR レジスタの各ビットと同様の設定が可能です。詳細については、「26.3.7 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応」を参照してください。

TOPS[1:0] ビット (タイムアウト期間選択ビット)

カウンタがアンダフローするまでのタイムアウト期間を CKS[3:0] ビットで設定した分周クロックを 1 サイクルとして、128 サイクル / 512 サイクル / 1024 サイクル / 2048 サイクルから選択します。

リフレッシュ後、アンダフローするまでの時間 (IWDTCLK 数) は、CKS[3:0] ビットと TOPS[1:0] ビットの組み合わせにより決定します。

表 26.2 に CKS[3:0] ビット、TOPS[1:0] ビットの設定と、タイムアウト期間および IWDTCLK 数の関係を示します。

表 26.2 タイムアウト期間設定表

CKS[3:0] ビット				TOPS[1:0] ビット		クロック分周比	タイムアウト期間 (サイクル数)	IWDTCLK 数
b7	b6	b5	b4	b1	b0			
0	0	0	0	0	0	分周なし	128	128
				0	1		512	512
				1	0		1024	1024
				1	1		2048	2048
0	0	1	0	0	0	16分周	128	2048
				0	1		512	8192
				1	0		1024	16384
				1	1		2048	32768
0	0	1	1	0	0	32分周	128	4096
				0	1		512	16384
				1	0		1024	32768
				1	1		2048	65536
0	1	0	0	0	0	64分周	128	8192
				0	1		512	32768
				1	0		1024	65536
				1	1		2048	131072
1	1	1	1	0	0	128分周	128	16384
				0	1		512	65536
				1	0		1024	131072
				1	1		2048	262144
0	1	0	1	0	0	256分周	128	32768
				0	1		512	131072
				1	0		1024	262144
				1	1		2048	524288

CKS[3:0] ビット (クロック分周比選択ビット)

IWDTCLK を分周する分周比設定を 1 分周 / 16 分周 / 32 分周 / 64 分周 / 128 分周 / 256 分周から選択します。

TOPS[1:0] ビットと組み合わせて、IWDT のカウント期間を IWDTCLK の 128 ~ 524288 クロックの間で設定できます。

RPES[1:0] ビット (ウィンドウ終了位置選択ビット)

カウンタのウィンドウ終了位置を、カウント期間の 75%、50%、25%、0% から選択します。選択するウィンドウ終了位置は、ウィンドウ開始位置より小さい値を選択します (ウィンドウ開始位置 > ウィンドウ終了位置)。ウィンドウ終了位置をウィンドウ開始位置よりも大きい値に設定した場合、ウィンドウ開始位置の設定のみが有効となります。

RPSS[1:0] ビット、RPES[1:0] ビットで設定したウィンドウ開始 / 終了位置のカウンタ値は、TOPS[1:0] ビットの設定により変わります。

表 26.3 に TOPS[1:0] ビットの値に対応したウィンドウ開始 / 終了位置のカウンタ値を示します。

表 26.3 タイムアウト期間とウィンドウ許可 / 終了カウンタ値対応表

TOPS[1:0]ビット		タイムアウト期間		リフレッシュ許可 / 終了カウンタ値			
b1	b0	サイクル数	カウンタ値	100%	75%	50%	25%
0	0	128	007Fh	007Fh	005Fh	003Fh	001Fh
0	1	512	01FFh	01FFh	017Fh	00FFh	007Fh
1	0	1024	03FFh	03FFh	02FFh	01FFh	00FFh
1	1	2048	07FFh	07FFh	05FFh	03FFh	01FFh

RPSS[1:0] ビット (ウィンドウ開始位置選択ビット)

カウンタのウィンドウ開始位置を、カウント期間 (カウント開始を 100%、アンダフロー発生時を 0%) の 100%、75%、50%、25% から選択します。ウィンドウ開始位置からウィンドウ終了位置までの期間がリフレッシュ許可期間となり、それ以外はリフレッシュ禁止期間となります。

図 26.2 に RPSS[1:0] ビット、RPES[1:0] ビットの設定値と、リフレッシュ許可 / 禁止期間の関係を示します。

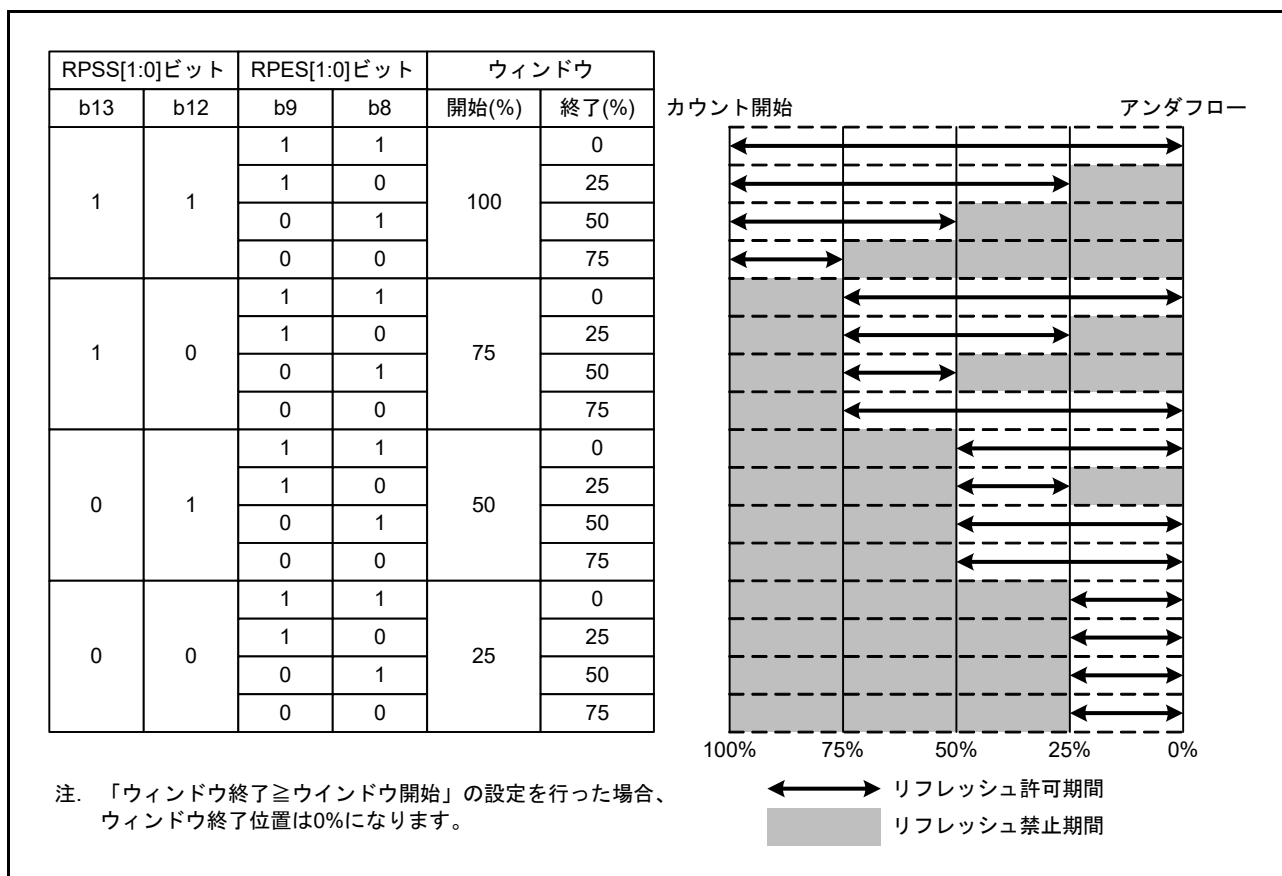
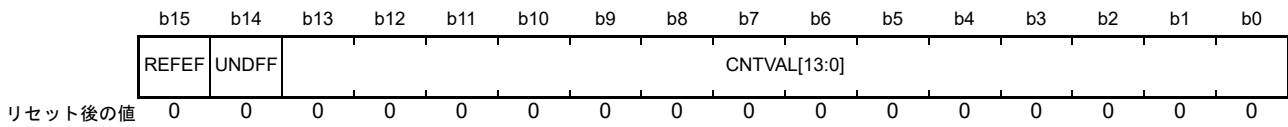


図 26.2 RPSS[1:0] ビット、RPES[1:0] ビットとリフレッシュ許可期間

26.2.3 IWDT ステータスレジスタ (IWDTSR)

アドレス IWDT.IWDTSR 0008 8034h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b13-b0	CNTVAL[13:0]	カウンタ値ビット	カウンタのカウンタ値	R
b14	UNDFE	アンダフローフラグ	0: アンダフローなし 1: アンダフロー発生	R/(W) (注1)
b15	REFEF	リフレッシュエラーフラグ	0: リフレッシュエラーなし 1: リフレッシュエラー発生	R/(W) (注1)

注1. フラグを“0”にするための“0”書き込みのみ可能です。

CNTVAL[13:0] ビット (カウンタ値ビット)

カウンタのカウンタ値を確認することができます。ただし、読み出されるカウンタ値は、カウンタの実際の値に対し1カウントずれることがあります。

UNDFE フラグ (アンダフローフラグ)

カウンタのアンダフロー発生状態を確認することができます。

読み出した値が“1”のとき、カウンタはアンダフローが発生した状態です。読み出した値が“0”のとき、アンダフローは発生していません。

値を“0”にするには、UNDFE フラグに“0”を書き込んでください。“1”の書き込みは無効です。

REFEF フラグ (リフレッシュエラーフラグ)

リフレッシュエラー (リフレッシュ禁止期間中のリフレッシュ動作) の発生状態を確認することができます。

読み出した値が“1”のとき、リフレッシュエラーが発生した状態です。読み出した値が“0”のとき、リフレッシュエラーは発生していません。

値を“0”にするには、REFEF フラグに“0”を書き込んでください。“1”の書き込みは無効です。

26.2.4 IWDT リセットコントロールレジスタ (IWDTRCR)

アドレス IWDT.IWDTRCR 0008 8036h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RSTIR QS	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b7	RSTIRQS	リセット割り込み要求選択ビット	0 : ノンマスクブル割り込み要求を出力 1 : リセット信号を出力	R/W

注. 本レジスタはリセット後1回だけ書けます。また、カウンタが動作を開始した後は書けません。

レジスタスタートモード使用時に、タイムアウトまたはリフレッシュエラー発生時の動作を設定するレジスタです。

オートスタートモードの場合は、IWDTRCR レジスタの設定は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の設定が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、IWDTRCR レジスタの各ビットと同様の設定が可能です。詳細については、「26.3.7 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応」を参照してください。

26.2.5 IWDT カウント停止コントロールレジスタ (IWDTCSSTPR)

アドレス IWDT.IWDTCSSTPR 0008 8038h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	1	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b7	SLCSTP	スリープモードカウント停止制御ビット	0 : 低消費電力状態でもカウンタが動作(注1) 1 : 低消費電力状態でカウンタが停止	R/W

注. 本レジスタはリセット後1回だけ書けます。また、カウンタが動作を開始した後は書けません。

注1. スリープモード、ディープスリープモード、またはソフトウェアスタンバイモードでカウンタがカウントを継続します。

レジスタスタートモード使用時に、低消費電力状態でカウンタを動作させるかどうかを設定するレジスタです。

オートスタートモードの場合は、IWDTCSSTPR レジスタの設定は無効となり、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の設定が有効となります。OFS0 レジスタの設定は、IWDTCSSTPR レジスタの各ビットと同様の設定が可能です。詳細については、「26.3.7 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応」を参照してください。

SLCSTP ビット (スリープモードカウント停止制御ビット)

低消費電力状態でのカウンタの動作 / 停止を選択します。

26.2.6 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)

オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) については、「26.3.7 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応」を参照してください。

26.3 動作説明

26.3.1 カウント開始条件別の各動作

IWDT のスタートモードの選択は、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の IWDTSTRT ビットで行います。

OFS0.IWDTSTRT ビットが“1” (レジスタスタートモード) の場合、IWDTCR レジスタ、IWDTRCR レジスタ、IWDTCSNTPR レジスタの設定が有効となり、IWDTRR レジスタへのリフレッシュ動作でカウントが開始されます。OFS0.IWDTSTRT ビットが“0” (オートスタートモード) の場合、OFS0 レジスタが有効となり、リセット後、自動的にカウントが開始されます。

26.3.1.1 レジスタスタートモード

OFS0.IWDTSTRT ビットが“1” の場合、レジスタスタートモードとなり、IWDTCR レジスタ、IWDTRCR レジスタ、および IWDTCSNTPR レジスタが有効となります。

リセット解除後、IWDTCR レジスタにクロック分周比、ウィンドウ開始/終了位置、タイムアウト期間、IWDTRCR レジスタにリセット出力/割り込み要求出力、また IWDTCSNTPR レジスタに低消費電力状態におけるカウンタ動作/停止の設定を行います。その後、リフレッシュ動作でカウンタに IWDTCR.TOPS[1:0] ビットで選択した値がセットされダウンカウントを開始します。

以後、プログラムが正常に動作していてリフレッシュ許可期間内でリフレッシュされている場合は、リフレッシュごとにカウンタ値が再設定されダウンカウントを続けます。この間、IWDT はリセットを出力しません。しかし、プログラムの暴走などによりカウンタのリフレッシュが行われず、カウンタのアンダフローが発生した場合、またはリフレッシュ許可期間以外でのリフレッシュ動作によりリフレッシュエラーが発生した場合は、IWDT はリセット信号、もしくは割り込み要求 (IWUNI) を出力します。IWDTRCR.RSTIRQS ビットで、リセット信号出力、または割り込み要求出力のいずれかを選択します。

図 26.3 に以下の条件での動作例を示します。

- レジスタスタートモード (OFS0.IWDTSTRT = 1)
- リセット出力許可 (IWDTRCR.RSTIRQS = 1)
- ウィンドウ開始位置 75% (IWDTCR.RPSS[1:0] = 10b)
- ウィンドウ終了位置 25% (IWDTCR.RPES[1:0] = 10b)

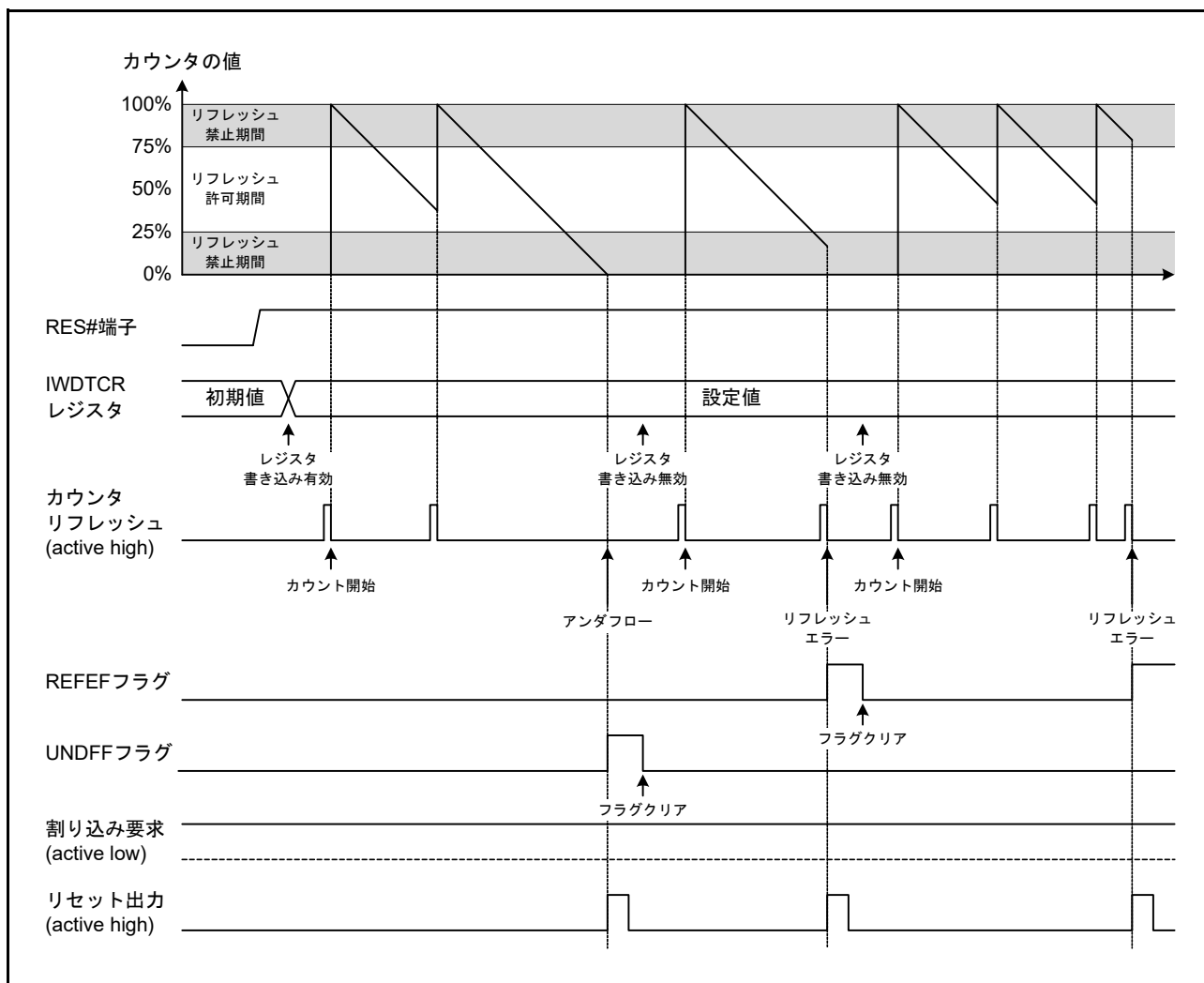


図 26.3 レジスタスタートモード動作例

26.3.1.2 オートスタートモード

オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の IWDTSTRT ビットが“0”の場合、オートスタートモードとなり、IWDTCR レジスタ、IWDTRCR レジスタ、および IWDTCSTPR レジスタが無効となります。

また、リセット期間中に OFS0 レジスタの値を使ってクロック分周比、ウィンドウ開始/終了位置、タイムアウト期間、リセット出力/割り込み要求出力、また低消費電力状態におけるカウンタ動作/停止の設定が行われます。その後、リセット解除でカウンタに OFS0.IWDTTOPS[1:0] ビットで設定されたタイムアウト期間の値がセットされ自動でダウンカウントを開始します。

以後、プログラムが正常に動作していてリフレッシュ許可期間内でリフレッシュされている場合は、リフレッシュごとにカウンタ値が再設定されダウンカウントを続けます。この間、IWDT はリセットを出力しません。しかし、プログラムの暴走などによりカウンタのリフレッシュが行われず、カウンタのアンダフローが発生した場合、またはリフレッシュ許可期間以外でのリフレッシュ動作によりリフレッシュエラーが発生した場合は、IWDT はリセット信号、もしくは割り込み要求 (IWUNI) を出力します。リセット信号または割り込み要求を出力後、1 サイクルカウント後にカウンタはタイムアウト期間をリロードし、カウント動作を再開します。OFS0.IWDTRSTIRQS ビットで、リセット信号出力、または割り込み要求出力のいずれかを選択します。

図 26.4 に以下の条件での動作例を示します。

- オートスタートモード (OFS0.IWDTSTRT = 0)
- 割り込み要求出力許可 (OFS0.IWDTRSTIRQS = 0)
- ウィンドウ開始位置 75% (OFS0.IWDRPSS[1:0] = 10b)
- ウィンドウ終了位置 25% (OFS0.IWDRPES[1:0] = 10b)

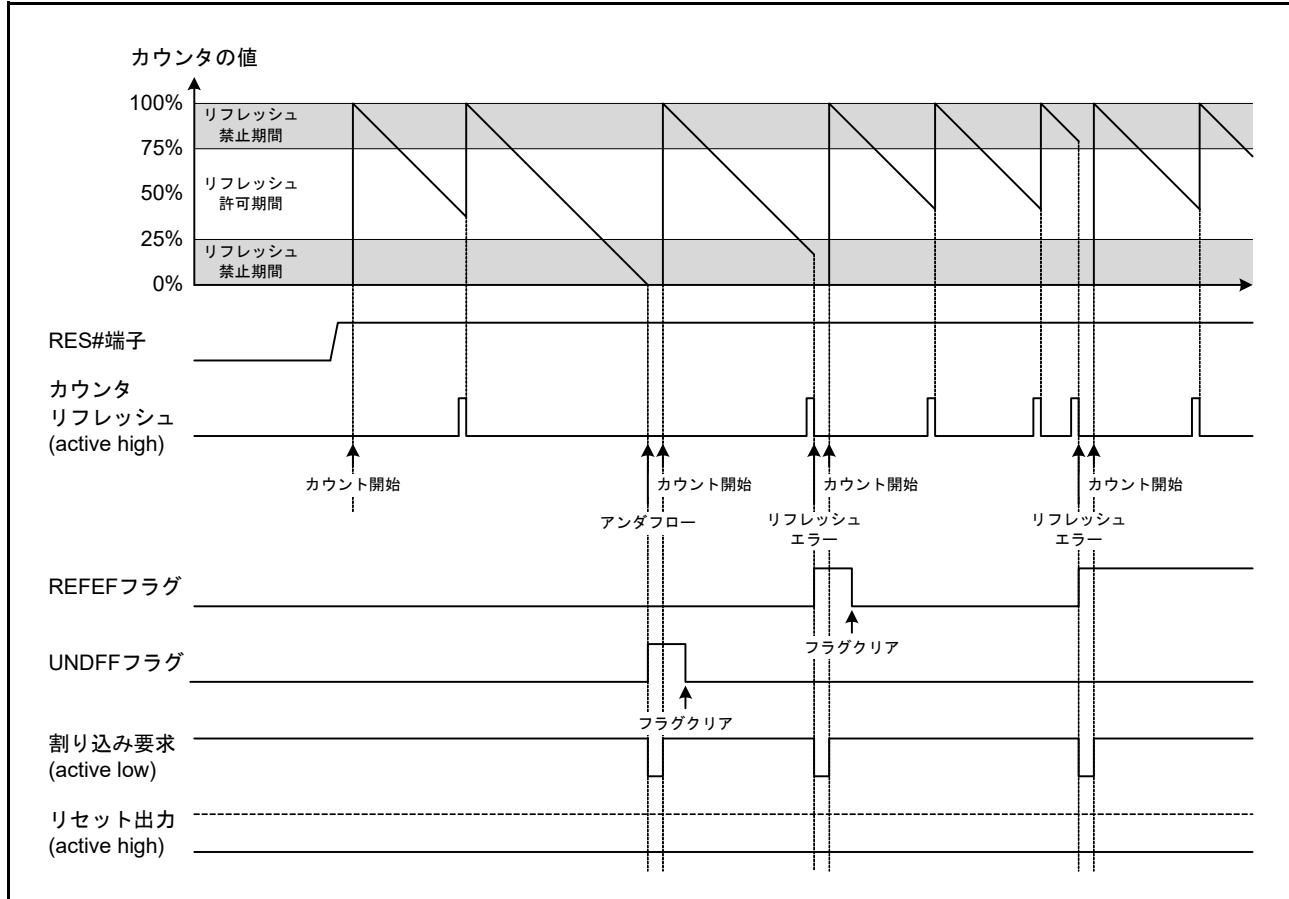


図 26.4 オートスタートモード動作例

26.3.2 リフレッシュ動作

カウンタのリフレッシュ、およびカウンタ動作開始 (リフレッシュによるカウント開始) を行うには、IWDTRR レジスタへの“00h”書き込みに続けて“FFh”書き込みを行います。“00h”書き込み後に“FFh”以外を書き込んだ場合、リフレッシュは行いません。再度、IWDTRR レジスタへ“00h”→“FFh”の順で書き込むことにより、リフレッシュを正常に行うことができます。

なお、“00h” (1回目) → “00h” (2回目) の書き込みを行った場合でも、その後“FFh”を書き込むことにより、“00h” → “FFh” 順の書き込み動作が成立するため、“00h” (n-1回目) → “00h” (n回目) → “FFh” のような書き込み動作も有効となり、リフレッシュを行います。“00h”以前の書き込みが“00h”以外でも同様に、“00h” → “FFh” 順の書き込み動作が成立すると、リフレッシュを行います。また、IWDTRR レジスタへの“00h”書き込みと“FFh”書き込みの間に、IWDTRR レジスタ以外へのアクセス、または IWDTRR レジスタの読み出しを行った場合でもリフレッシュを行います。

【リフレッシュ有効書き込み例】

- “00h” → “FFh”
- “00h” (n-1回目) → “00h” (n回目) → “FFh”
- “00h” → 別レジスタアクセスまたは IWDTRR レジスタの読み出し → “FFh”

【リフレッシュ無効書き込み例】

- “23h” (“00h”以外) → “FFh”
- “00h” → “54h” (“FFh”以外)
- “00h” → “AAh” (“00h”および“FFh”以外) → “FFh”

リフレッシュ動作として、IWDTRR レジスタへの“00h”の書き込みがリフレッシュ許可期間外であっても、IWDTRR レジスタへの“FFh”の書き込みがリフレッシュ許可期間内であれば、書き込み動作が成立となりリフレッシュを行います。

なお、カウンタがリフレッシュされるタイミングは、IWDTRR レジスタに“FFh”を書き込み後、カウントサイクル数で最大4サイクル必要となります (1サイクル間の IWDTCCLK の数は、IWDTCR.CKS[3:0] ビットの設定値により異なります)。そのため、リフレッシュ許可期間終了位置から4カウント前、もしくはカウンタがアンダフローする4カウント前までに、IWDTRR レジスタへの“FFh”書き込みを完了してください。カウンタの値は IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットで確認できます。

【リフレッシュ動作タイミング例】

- ウィンドウ開始位置を“01FFh”とした場合、IWDTRR レジスタへの“00h”の書き込みが“01FFh”より前 (たとえば“0202h”) であっても、IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットの値が“01FFh”になってから、IWDTRR レジスタへ“FFh”を書き込めばリフレッシュを行います。
- ウィンドウ終了位置を“01FFh”とした場合、IWDTRR レジスタへ“00h” → “FFh”を書き込んだ直後に IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットの値を読み出して“0203h” (“01FFh”の4カウント前) 以上であればリフレッシュを行います。
- “0000h”までがリフレッシュ許可期間である場合、アンダフロー直前までリフレッシュが可能となりますが、この場合 IWDTRR レジスタへ“00h” → “FFh”を書き込んだ直後に IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットの値を読み出して“0003h” (アンダフローの4カウント前) 以上であればアンダフローは発生せず、リフレッシュを行います。

図 26.5 に PCLKB > IWDTCLK、カウントクロックが IWDTCLK/1 の場合の IWDT リフレッシュ動作波形を示します。

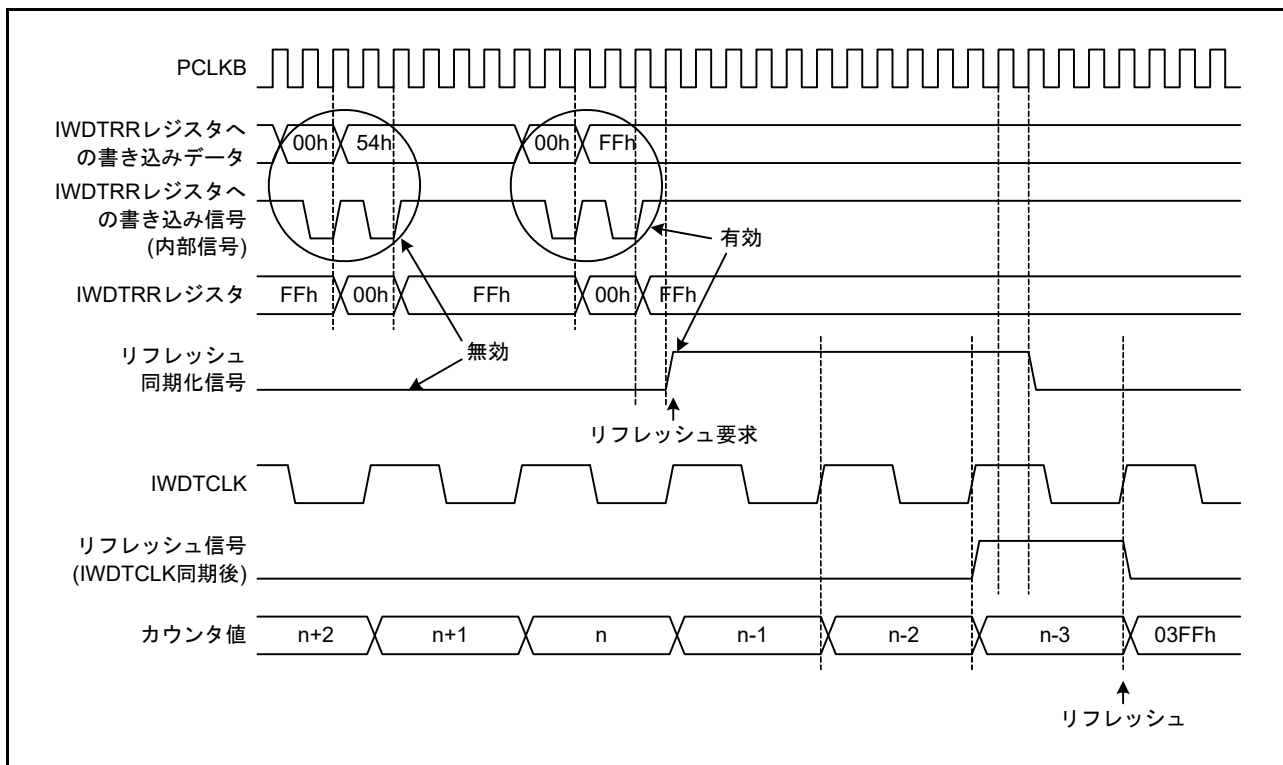


図 26.5 IWDT リフレッシュ動作波形 (IWDTCR.CKS[3:0] = 0000b、IWDTCR.TOPS[1:0] = 10b)

26.3.3 ステータスフラグ

IWDTSR.REFEF フラグ、IWDTSR.UNDFE フラグは、IWDT がリセットを出力した場合のリセット要因、または IWDT の割り込み要求が発生した場合の割り込み要因を保持します。

リセット解除後、もしくは割り込み要求発生時に IWDTSR.REFEF フラグ、または IWDTSR.UNDFE フラグを読むことで、リセット要因、または割り込み要因の発生状態を確認することができます。

各フラグの値を“0”にするには“0”を書き込んでください。“1”の書き込みは無効です。

各フラグは、“0”にしなくても動作に影響を与えません。“0”にしない場合は、次に IWDT がリセットを出力したときに古いリセット要因はクリアされ、新しいリセット要因が書き込まれます。または、次に IWDT の割り込み要求が発生したときに古い割り込み要因はクリアされ、新しい割り込み要因が書き込まれます。

なお、各フラグに“0”を書いた後、その値が反映されるまでには、最大で IWDTCLK 3 クロックと PCLKB 2 クロック必要です。

26.3.4 リセット出力

レジスタスタートモード時、IWDTRCR.RSTIRQS ビットを“1”にした場合、またはオートスタートモード時、オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) の IWDTRSTIRQS ビットを“1”にした場合、カウンタのアンダフロー、またはリフレッシュエラーにより、リセットを出力します。

レジスタスタートモードでは、リセット出力後、カウンタは初期状態 (“0000h”) で停止します。リセット解除後、リフレッシュ動作を行うことによりカウンタ値が再設定されダウンカウントを開始します。

オートスタートモードでは、リセット出力後、自動でダウンカウントを開始します。

26.3.5 割り込み要因

レジスタスタートモード時、IWDTRCR.RSTIRQS ビットを“0”にした場合、またはオートスタートモード時、OFS0.IWDTRSTIRQS ビットを“0”にした場合、カウンタのアンダフローまたはリフレッシュエラーが発生すると、割り込み (IWUNI) が発生します。本割り込みはノンマスカブル割り込みです。詳細は、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

表 26.4 IWDT の割り込み要因

名称	割り込み要因	DTC の起動
IWUNI	カウンタのアンダフロー リフレッシュエラー	不可能

26.3.6 カウンタ値の読み出し

IWDT のカウンタは IWDTCLK で動作しているため、カウンタ値を直接読み出すことはできません。そのため、IWDT はカウンタ値を PCLKB で同期化し、IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットに格納します。IWDTSR.CNTVAL[13:0] ビットに格納された値を読み出すことで、間接的にカウンタ値を確認することができます。

なお、読み出しには PCLKB で数クロック (最大 4 クロック) 必要となるため、読み出されるカウンタ値は、カウンタの実際の値に対し 1 カウントずれることがあります。

図 26.6 に PCLKB > IWDTCLK、カウントクロックが IWDTCLK/1 の場合の IWDT カウンタ値の読み出し処理を示します。

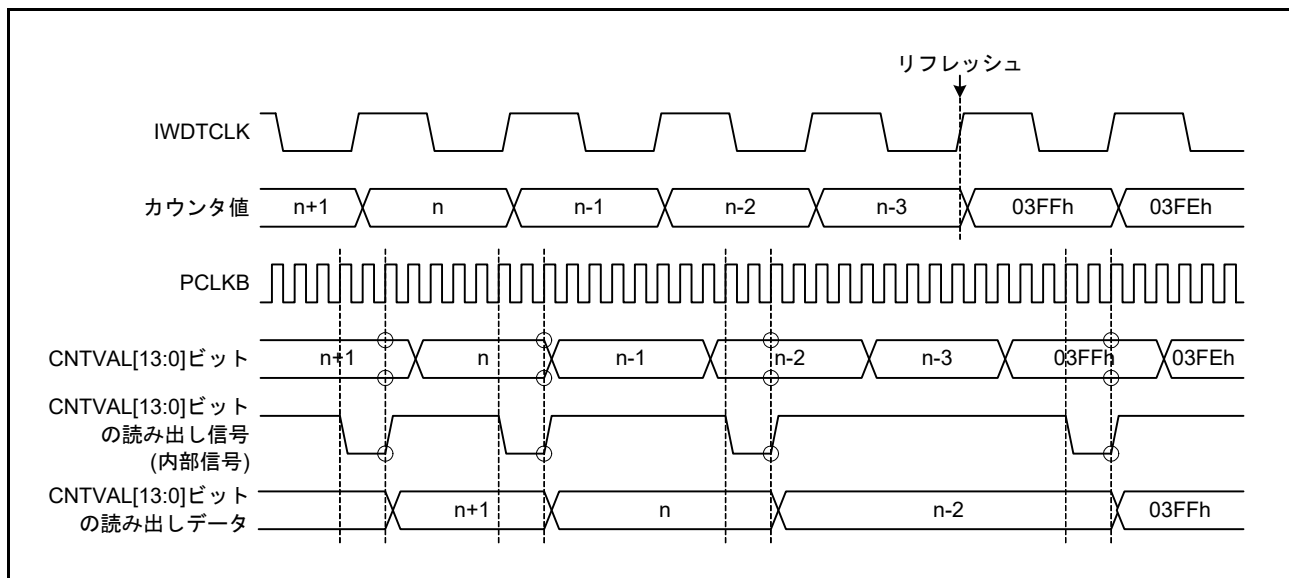


図 26.6 IWDT カウンタ値の読み出し処理 (IWDTCR.CKS[3:0] = 0000b、IWDTCR.TOPS[1:0] = 10b)

26.3.7 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応

表 26.5 にオートスタートモードで使用するオプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) とレジスタスタートモードで使用するレジスタとの対応を示します。

OFS0 レジスタについては、「7.2.1 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)」を参照してください。

表 26.5 オプション機能選択レジスタ 0 (OFS0) と IWDT レジスタの対応

制御	機能	OFS0 レジスタ (オートスタートモード時有効) OFS0.IWDTSTRT = 0	IWDT レジスタ (レジスタスタートモード時有効) OFS0.IWDTSTRT = 1
カウンタ	タイムアウト期間選択	OFS0.IWDTTOPS[1:0]	IWDTCR.TOPS[1:0]
	クロック分周比選択	OFS0.IWDTCKS[3:0]	IWDTCR.CKS[3:0]
	ウィンドウ開始位置選択	OFS0.IWDRPSS[1:0]	IWDTCR.RPSS[1:0]
	ウィンドウ終了位置選択	OFS0.IWDRPES[1:0]	IWDTCR.RPES[1:0]
リセット出力/ 割り込み要求出力	リセット出力/割り込み要求出力選択	OFS0.IWDRSTIRQS	IWDTCR.RSTIRQS
カウント停止	スリープモードカウント停止制御	OFS0.IWDTSLCSTP	IWDTCSSTPR.SLCSTP

26.4 使用上の注意事項

26.4.1 リフレッシュ動作について

リフレッシュタイミングの設定においては、PCLKB と IWDTCLK の精度を考慮し、誤差の範囲で周期が変化してもリフレッシュできる値を設定してください。

26.4.2 クロック分周比の設定

PCLKB の周波数 $\geq 4 \times$ (カウントソースの分周後周波数) となるようにしてください。

27. シリアルコミュニケーションインタフェース (SCIg, SCIk, SCIH)

本 MCU は、独立した 6 チャンネルのシリアルコミュニケーションインタフェース (SCI: Serial Communications Interface) を備えています。SCI は、SCIk モジュール (SCI1, SCI5)、SCIg モジュール (SCI6, SCI8, SCI9) と、SCIH モジュール (SCI12) から構成されています。

SCIk (SCI1, SCI5) と SCIg (SCI6, SCI8, SCI9) は、調歩同期式とクロック同期式のシリアル通信が可能です。調歩同期式では Universal Asynchronous Receiver/Transmitter (UART) や、Asynchronous Communications Interface Adapter (ACIA) などの標準の調歩同期式通信用 LSI とのシリアル通信ができます。この他、調歩同期モードの拡張機能として、ISO/IEC 7816-3 (Identification Card) に対応したスマートカード (IC カード) インタフェースに対応しています。さらに、簡易 I²C バスインタフェースのシングルマスタ動作、および簡易 SPI インタフェースに対応しています。

SCIH (SCI12) は、上記の機能に加えて、Start Frame、Information Frame から構成される拡張シリアル通信プロトコルに対応しています。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

27.1 概要

表 27.1 に SCIg、SCIk の仕様を、表 27.2 に SCIH の仕様を、表 27.3 に SCI チャンネル別機能一覧を示します。

図 27.1 に SCI1、SCI8、SCI9 のブロック図を、図 27.2 に SCI5、SCI6 のブロック図を、図 27.3 に SCI12 (SCIH) のブロック図を示します。

表 27.1 SCIg, SCIk の仕様 (1/2)

項目	内容
シリアル通信方式	<ul style="list-style-type: none"> 調歩同期式 クロック同期式 スマートカードインタフェース 簡易 I²C バス 簡易 SPI バス
転送速度	ポーレートジェネレータ内蔵により任意のビットレートを設定可能
全二重通信	送信部：ダブルバッファ構成による連続送信が可能 受信部：ダブルバッファ構成による連続受信が可能
入出力端子	表 27.4～表 27.6 参照
データ転送	LSB ファースト/MSB ファースト選択可能 (注1)
入出力信号レベル反転	入力信号、出力信号のレベルをそれぞれ独立して反転可能 (SCI1, SCI5)
割り込み要因	送信終了、送信データエンプティ、受信データフル、受信エラー、データ一致開始条件/再開条件/停止条件生成終了 (簡易 I ² C モード用)
消費電力低減機能	チャンネルごとにモジュールストップ状態への遷移が可能

表27.1 SCIg, SCIkの仕様 (2/2)

項目	内容	
調歩同期式モード	データ長	7ビット/8ビット/9ビット
	送信ストップビット	1ビット/2ビット
	パリティ機能	偶数パリティ/奇数パリティ/パリティなし
	受信エラー検出機能	パリティエラー、オーバランエラー、フレーミングエラー
	ハードウェアフロー制御	CTSn#端子、RTSn#端子を用いた送受信制御が可能
	データ一致検出	受信データと比較データレジスタの内容を比較して、値が一致すると割り込み要求を生成可能(SCI1, SCI5)
	スタートビットの検出	Lowまたは立ち下がリエッジを選択可能
	受信データサンプリングタイミング調整	受信データのサンプリングポイントをデータの中央を基点に前後に変更可能(SCI1, SCI5)
	送信信号変化タイミング調整	送信データの立ち下がリエッジまたは立ち上がりエッジのいずれかを遅延させることが可能(SCI1, SCI5)
	ブレイク検出	フレーミングエラー発生時、RXDn端子のレベルを直接読み出す、またはSPTR.RXDMONフラグを読み出すことでブレイクを検出可能
	クロックソース	内部クロック/外部クロックの選択が可能 TMRからの転送レートクロック入力が可能(SCI5, SCI6)
	倍速モード	ポーレートジェネレータ倍速モードを選択可能
	マルチプロセッサ通信機能	複数のプロセッサ間のシリアル通信機能
	ノイズ除去	RXDn端子入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵
クロック同期式モード	データ長	8ビット
	受信エラーの検出	オーバランエラー
	ハードウェアフロー制御	CTSn#端子、RTSn#端子を用いた送受信制御が可能
スマートカードインタフェースモード	エラー処理	受信時パリティエラーを検出するとエラーシグナルを自動送出 送信時エラーシグナルを受信するとデータを自動再送信
	データタイプ	ダイレクトコンベンション/インパースコンベンションをサポート
簡易I ² Cモード	通信フォーマット	I ² Cバスフォーマット
	動作モード	マスタ(シングルマスタ動作のみ)
	転送速度	ファストモード対応(転送速度は「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」を参照して設定してください)
	ノイズ除去	SSCLn、SSDAn入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵 ノイズ除去幅調整可能
簡易SPIモード	データ長	8ビット
	エラーの検出	オーバランエラー
	SS入力端子機能	SSn#端子がHighのとき、出力端子をハイインピーダンスにすることが可能
	クロック設定	クロック位相、クロック極性の設定を4種類から選択可能
ビットレートモジュレーション機能	内蔵ポーレートジェネレータの出力補正により誤差を低減可能	
イベントリンク機能(SCI5のみ対応)	エラー(受信エラー・エラーシグナル検出)イベント出力	
	受信データフルイベント出力	
	送信データエンプティイベント出力	
	送信終了イベント出力	

注1. 簡易I²Cモードでは、MSBファーストでのみ使用可能です。

表27.2 SCIlhの仕様 (1/3)

項目	内容
シリアル通信方式	<ul style="list-style-type: none"> 調歩同期式 クロック同期式 スマートカードインタフェース 簡易I²Cバス 簡易SPIバス

表27.2 SCIlhの仕様 (2/3)

項目		内容
転送速度		ポーレートジェネレータ内蔵により任意のビットレートを設定可能
全二重通信		送信部：ダブルバッファ構成による連続送信が可能 受信部：ダブルバッファ構成による連続受信が可能
入出力端子		表27.4～表27.7参照
データ転送		LSBファースト/MSBファースト選択可能(注1)
割り込み要因		送信終了、送信データエンプティ、受信データフル、受信エラー 開始条件/再開条件/停止条件生成終了(簡易I ² Cモード用)
消費電力低減機能		モジュールストップ状態への遷移が可能
調歩同期式モード	データ長	7ビット/8ビット/9ビット
	送信ストップビット	1ビット/2ビット
	パリティ機能	偶数パリティ/奇数パリティ/パリティなし
	受信エラー検出機能	パリティエラー、オーバランエラー、フレーミングエラー
	ハードウェアフロー制御	CTSn#端子、RTSn#端子を用いた送受信制御が可能
	スタートビットの検出	Lowまたは立ち下がリエッジを選択可能
	ブレーク検出	フレーミングエラー発生時、RXDn端子のレベルを直接読み出すことでブレークを検出可能
	クロックソース	内部クロック/外部クロックの選択が可能 TMRからの転送レートクロック入力が可能
	倍速モード	ポーレートジェネレータ倍速モードを選択可能
	マルチプロセッサ通信機能	複数のプロセッサ間のシリアル通信機能
	ノイズ除去	RXDn端子入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵
クロック同期式モード	データ長	8ビット
	受信エラーの検出	オーバランエラー
	ハードウェアフロー制御	CTSn#端子、RTSn#端子を用いた送受信制御が可能
スマートカード インタフェースモード	エラー処理	受信時パリティエラーを検出するとエラーシグナルを自動送出 送信時エラーシグナルを受信するとデータを自動再送信
	データタイプ	ダイレクトコンベンション/インバースコンベンションをサポート
簡易I ² Cモード	通信フォーマット	I ² Cバスフォーマット
	動作モード	マスタ(シングルマスタ動作のみ)
	転送速度	ファストモード対応(転送速度は「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」を参照して設定してください)
	ノイズ除去	SSCLn、SSDAn入力経路にデジタルノイズフィルタを内蔵 ノイズ除去幅調整可能
簡易SPIモード	データ長	8ビット
	エラーの検出	オーバランエラー
	SS入力端子機能	SSn#端子がHighのとき、出力端子をハイインピーダンスにすることが可能
	クロック設定	クロック位相、クロック極性の設定を4種類から選択可能

表27.2 SCIlhの仕様 (3/3)

項目		内容
拡張シリアルモード	Start Frame 送信	<ul style="list-style-type: none"> Break Field Low widthの出力が可能/出力完了割り込み機能あり バス衝突検出機能あり/検出割り込み機能あり
	Start Frame 受信	<ul style="list-style-type: none"> Break Field Low widthの検出が可能/検出完了割り込み機能あり Control Field 0、Control Field 1のデータ比較/一致割り込み機能あり Control Field 1にはプライマリ/セカンダリの2種類の比較データを設定可能 Control Field 1にプライオリティインタラプトビットを設定可能 Break FieldがないStart Frameにも対応可能 Control Field 0がないStart Frameにも対応可能 ビットレート測定機能あり
	入出力制御機能	<ul style="list-style-type: none"> TXDX12/RXDX12信号の極性選択が可能 RXDX12信号にデジタルフィルタ機能を設定可能 RXDX12端子とTXDX12端子を兼用した半二重通信が可能 RXDX12端子受信データサンプリングタイミング選択可能
	タイマ機能	<ul style="list-style-type: none"> リロードタイマ機能として使用可能
ビットレートモジュレーション機能		内蔵ポーレートジェネレータの出力補正により誤差を低減可能

注1. 簡易I²Cモードでは、MSBファーストでのみ使用可能です。

表27.3 SCIチャネル別機能一覧

項目	SCI1	SCI5	SCI6	SCI8, SCI9	SCI12
調歩同期式モード	○	○	○	○	○
クロック同期式モード	○	○	○	○	○
スマートカードインタフェースモード	○	○	○	○	○
簡易I ² Cモード	○	○	○	○	○
簡易SPIモード	○	○	○	○	○
データ一致検出	○	○	—	—	—
拡張シリアルモード	—	—	—	—	○
TMRクロック入力	—	○	○	—	○
イベントリンク機能	—	○	—	—	—

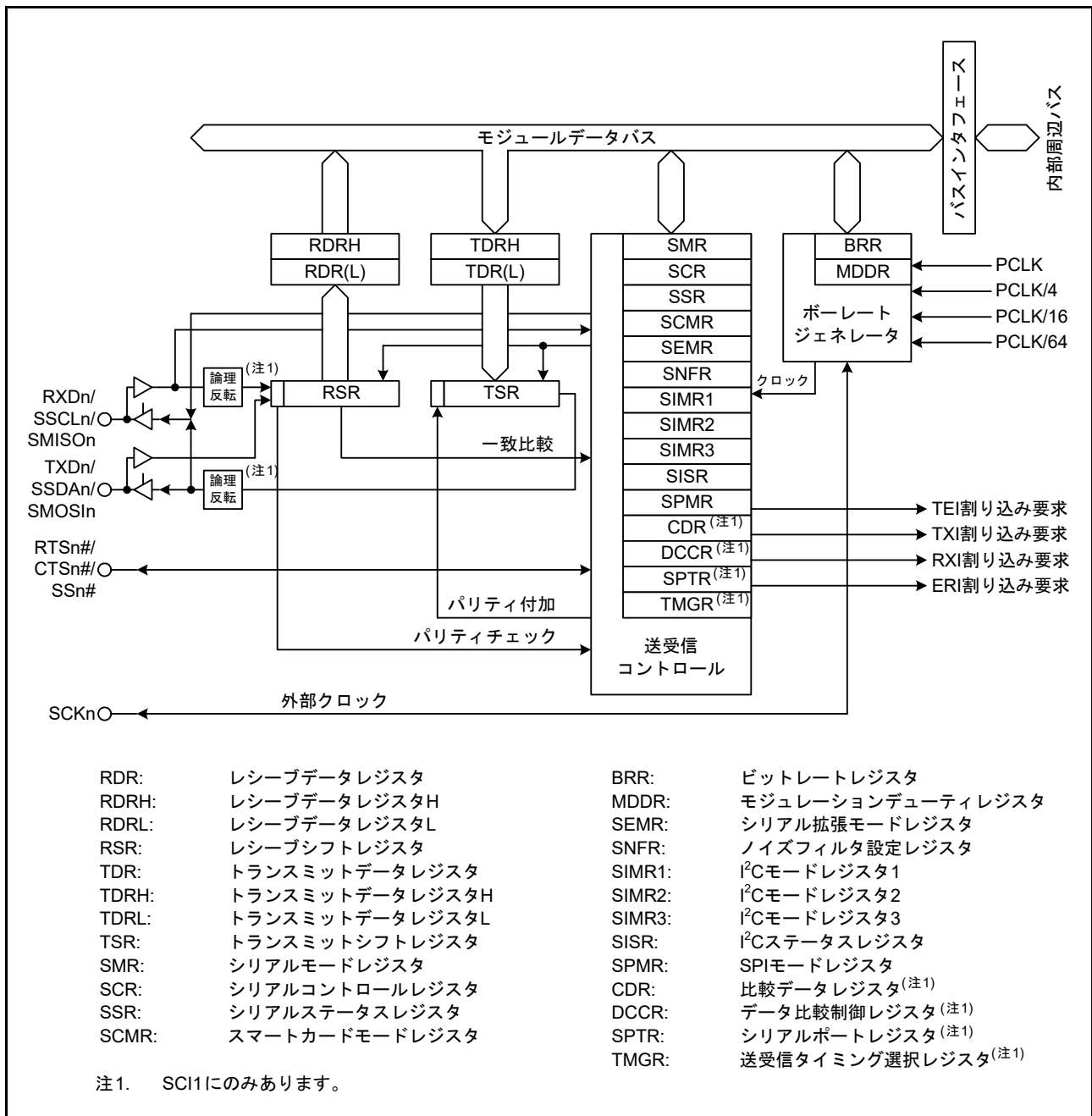


図 27.1 SClg、SCIk (SCI1, SCI8, SCI9) のブロック図

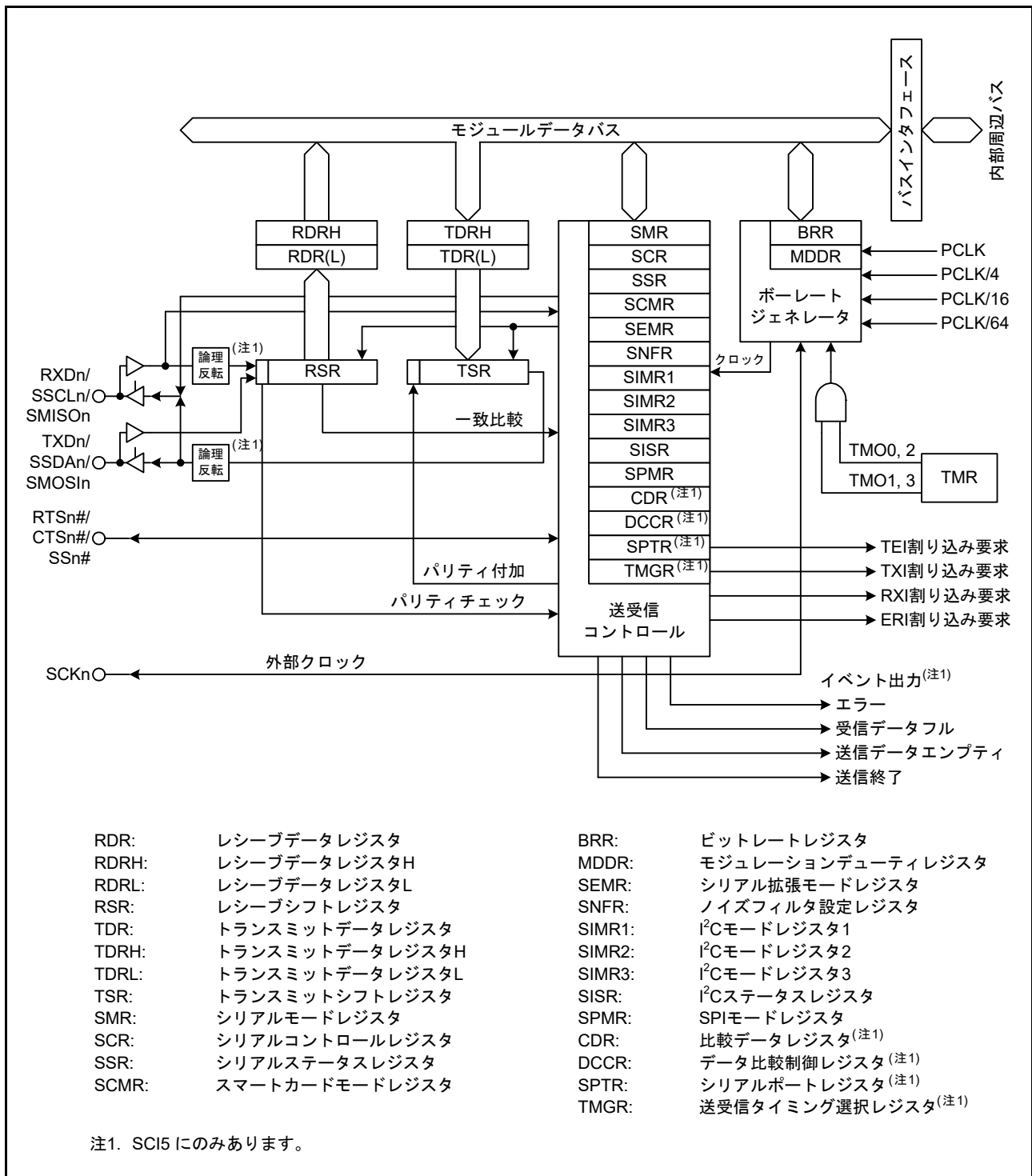


図 27.2 SCIg, SCIk (SCI5, SCI6) のブロック図

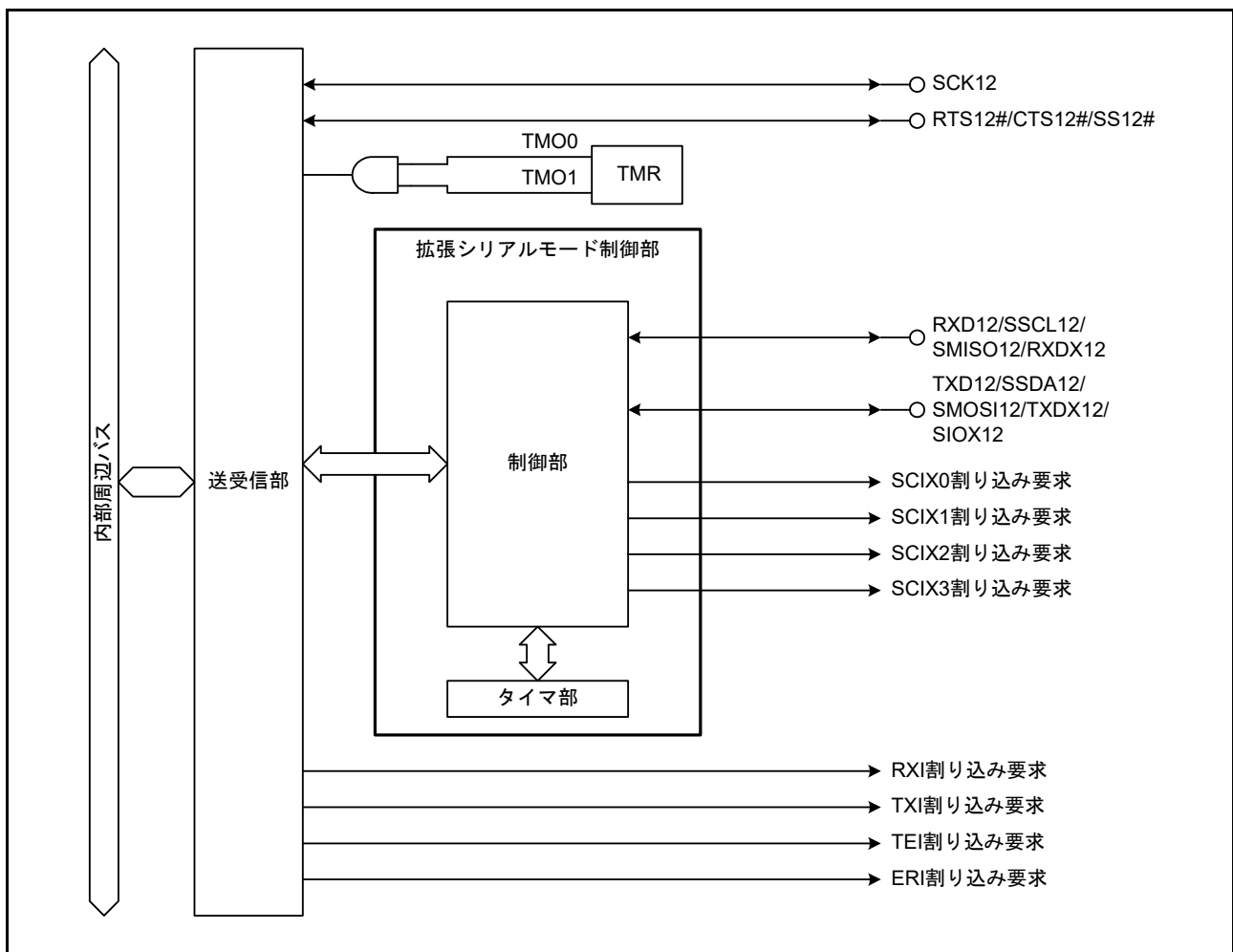


図 27.3 SCIh (SCI12) のブロック図

表 27.4 ~ 表 27.7 に SCI の入出力端子をモード別に示します。

表 27.4 SCI の入出力端子 (調歩同期式/クロック同期式モード)

チャンネル	端子名	入出力	機能
SCI1	SCK1	入出力	SCI1のクロック入出力端子
	RXD1	入力	SCI1の受信データ入力端子
	TXD1	出力	SCI1の送信データ出力端子
	CTS1#/RTS1#	入出力	SCI1送受信開始制御用入出力端子
SCI5	SCK5	入出力	SCI5のクロック入出力端子
	RXD5	入力	SCI5の受信データ入力端子
	TXD5	出力	SCI5の送信データ出力端子
	CTS5#/RTS5#	入出力	SCI5送受信開始制御用入出力端子
SCI6	SCK6	入出力	SCI6のクロック入出力端子
	RXD6	入力	SCI6の受信データ入力端子
	TXD6	出力	SCI6の送信データ出力端子
	CTS6#/RTS6#	入出力	SCI6送受信開始制御用入出力端子
SCI8	SCK8	入出力	SCI8のクロック入出力端子
	RXD8	入力	SCI8の受信データ入力端子
	TXD8	出力	SCI8の送信データ出力端子
	CTS8#/RTS8#	入出力	SCI8送受信開始制御用入出力端子
SCI9	SCK9	入出力	SCI9のクロック入出力端子
	RXD9	入力	SCI9の受信データ入力端子
	TXD9	出力	SCI9の送信データ出力端子
	CTS9#/RTS9#	入出力	SCI9送受信開始制御用入出力端子
SCI12	SCK12	入出力	SCI12のクロック入出力端子
	RXD12	入力	SCI12の受信データ入力端子
	TXD12	出力	SCI12の送信データ出力端子
	CTS12#/RTS12#	入出力	SCI12送受信開始制御用入出力端子

表 27.5 SCI の入出力端子 (簡易I²Cモード)

チャンネル	端子名	入出力	機能
SCI1	SSCL1	入出力	SCI1のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA1	入出力	SCI1のI ² Cデータ入出力端子
SCI5	SSCL5	入出力	SCI5のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA5	入出力	SCI5のI ² Cデータ入出力端子
SCI6	SSCL6	入出力	SCI6のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA6	入出力	SCI6のI ² Cデータ入出力端子
SCI8	SSCL8	入出力	SCI8のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA8	入出力	SCI8のI ² Cデータ入出力端子
SCI9	SSCL9	入出力	SCI9のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA9	入出力	SCI9のI ² Cデータ入出力端子
SCI12	SSCL12	入出力	SCI12のI ² Cクロック入出力端子
	SSDA12	入出力	SCI12のI ² Cデータ入出力端子

表 27.6 SCIの入出力端子(簡易SPIモード)

チャンネル	端子名	入出力	機能
SCI1	SCK1	入出力	SCI1のクロック入出力端子
	SMISO1	入出力	SCI1のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI1	入出力	SCI1のマスタ送出データ入出力端子
	SS1#	入力	SCI1チップセレクト入力端子
SCI5	SCK5	入出力	SCI5のクロック入出力端子
	SMISO5	入出力	SCI5のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI5	入出力	SCI5のマスタ送出データ入出力端子
	SS5#	入力	SCI5チップセレクト入力端子
SCI6	SCK6	入出力	SCI6のクロック入出力端子
	SMISO6	入出力	SCI6のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI6	入出力	SCI6のマスタ送出データ入出力端子
	SS6#	入力	SCI6チップセレクト入力端子
SCI8	SCK8	入出力	SCI8のクロック入出力端子
	SMISO8	入出力	SCI8のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI8	入出力	SCI8のマスタ送出データ入出力端子
	SS8#	入力	SCI8チップセレクト入力端子
SCI9	SCK9	入出力	SCI9のクロック入出力端子
	SMISO9	入出力	SCI9のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI9	入出力	SCI9のマスタ送出データ入出力端子
	SS9#	入力	SCI9チップセレクト入力端子
SCI12	SCK12	入出力	SCI12のクロック入出力端子
	SMISO12	入出力	SCI12のスレーブ送出データ入出力端子
	SMOSI12	入出力	SCI12のマスタ送出データ入出力端子
	SS12#	入力	SCI12チップセレクト入力端子

表 27.7 SCIの入出力端子(拡張シリアルモード)

チャンネル	端子名	入出力	機能
SCI12	RDX12	入力	SCI12の受信データ入力端子
	TXDX12	出力	SCI12の送信データ出力端子
	SIOX12	入出力	SCI12送受信データ入出力端子

27.2 レジスタの説明

27.2.1 レシーブシフトレジスタ (RSR)

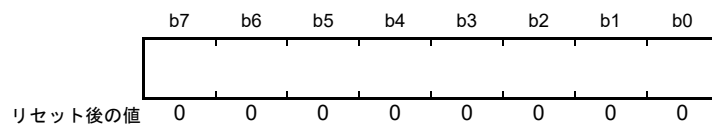
RSR レジスタは、RXDn 端子から入力されたシリアルデータをパラレルデータに変換するための受信シフトレジスタです。

1 フレーム分のデータを受信すると、データは自動的に RDR レジスタへ転送されます。

CPU から直接アクセスすることはできません。

27.2.2 レシーブデータレジスタ (RDR)

アドレス SCI1.RDR 0008 A025h, SCI5.RDR 0008 A0A5h, SCI6.RDR 0008 A0C5h, SCI8.RDR 0008 A105h,
SCI9.RDR 0008 A125h, SCI12.RDR 0008 B305h



RDR レジスタは、受信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。

1 フレーム分のデータを受信すると、RSR レジスタから受信データがこのレジスタへ転送され、RSR レジスタは次のデータを受信可能となります。

RSR レジスタと RDR レジスタはダブルバッファ構造になっているため、連続受信動作が可能です。

RDR レジスタのリードは、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生したときに 1 回だけ行ってください。受信データを RDR からリードしないまま次の 1 フレーム分のデータを受け取るとオーバランエラーになりますので注意してください。

RDR レジスタへは CPU から書き込みできません。

27.2.3 レシーブデータレジスタ H、L、HL (RDRH, RDRL, RDRHL)

- レシーブデータレジスタ H (RDRH)

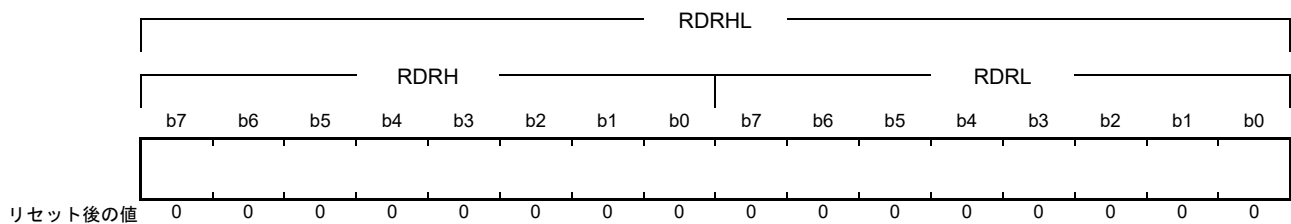
アドレス SCI1.RDRH 0008 A030h, SCI5.RDRH 0008 A0B0h, SCI6.RDRH 0008 A0D0h, SCI8.RDRH 0008 A110h,
SCI9.RDRH 0008 A130h, SCI12.RDRH 0008 B310h

- レシーブデータレジスタ L (RDRL)

アドレス SCI1.RDRL 0008 A031h, SCI5.RDRL 0008 A0B1h, SCI6.RDRL 0008 A0D1h, SCI8.RDRL 0008 A111h,
SCI9.RDRL 0008 A131h, SCI12.RDRL 0008 B311h

- レシーブデータレジスタ HL (RDRHL)

アドレス SCI1.RDRHL 0008 A030h, SCI5.RDRHL 0008 A0B0h, SCI6.RDRHL 0008 A0D0h, SCI8.RDRHL 0008 A110h,
SCI9.RDRHL 0008 A130h, SCI12.RDRHL 0008 B310h



RDRH レジスタと RDRL レジスタは、それぞれ受信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。調歩同期式モード 9 ビットデータ長選択時に使用します。

RDRL レジスタは RDR レジスタのシャドウとなっており、RDRL レジスタへのアクセスは RDR レジスタへのアクセスになります。

1 フレーム分のデータを受信すると、RSR レジスタから受信データがこれらのレジスタへ転送され、RSR レジスタは次のデータを受信可能となります。

RSR レジスタと RDRH レジスタおよび RDRL レジスタはダブルバッファ構造になっているため、連続受信動作が可能です。

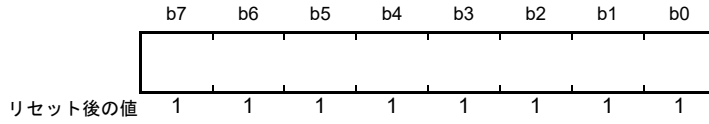
RDRH レジスタおよび RDRL レジスタのリードは、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生したときに、RDRH レジスタ、RDRL レジスタの順に 1 回だけ行ってください。受信データを RDRL からリードしないまま次の 1 フレーム分のデータを受け取るとオーバランエラーになりますので注意してください。

RDRH レジスタおよび RDRL レジスタへは CPU から書き込みできません。RDRH レジスタの b1 から b7 は“0”に固定されており、読むと“0”が読めます。

RDRHL レジスタとして 16 ビットでもアクセスできます。

27.2.4 トランスミットデータレジスタ (TDR)

アドレス SCI1.TDR 0008 A023h, SCI5.TDR 0008 A0A3h, SCI6.TDR 0008 A0C3h, SCI8.TDR 0008 A103h,
SCI9.TDR 0008 A123h, SCI12.TDR 0008 B303h



TDR レジスタは、送信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。

TSR レジスタに空きを検出すると、TDR レジスタに書き込まれた送信データは、TSR レジスタに転送されて送信を開始します。

TDR レジスタと TSR レジスタはダブルバッファ構造になっているため、連続送信動作が可能です。1 フレーム分のデータを送信したとき、TDR レジスタに次の送信データが書き込まれていれば TSR レジスタへ転送して送信を継続します。

TDR レジスタは CPU からリード/ライト可能です。TDR レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生したときに 1 回だけ行ってください。

27.2.5 トランスミットデータレジスタ H、L、HL (TDRH, TDRL, TDRHL)

- トランスミットデータレジスタ H (TDRH)

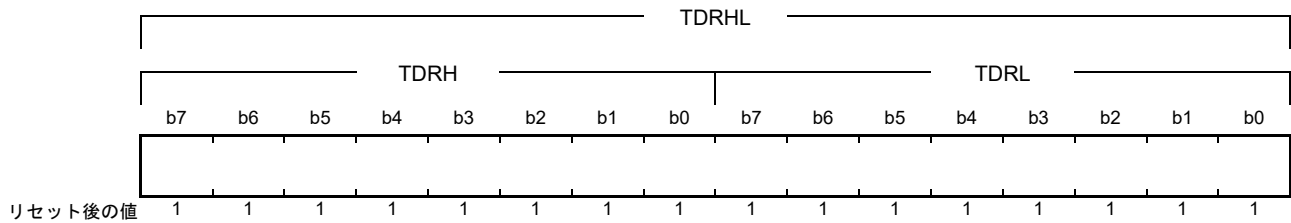
アドレス SCI1.TDRH 0008 A02Eh, SCI5.TDRH 0008 A0AEh, SCI6.TDRH 0008 A0CEh, SCI8.TDRH 0008 A10Eh,
SCI9.TDRH 0008 A12Eh, SCI12.TDRH 0008 B30Eh

- トランスミットデータレジスタ L (TDRL)

アドレス SCI1.TDRL 0008 A02Fh, SCI5.TDRL 0008 A0AFh, SCI6.TDRL 0008 A0CFh, SCI8.TDRL 0008 A10Fh,
SCI9.TDRL 0008 A12Fh, SCI12.TDRL 0008 B30Fh

- トランスミットデータレジスタ HL (TDRHL)

アドレス SCI1.TDRHL 0008 A02Eh, SCI5.TDRHL 0008 A0AEh, SCI6.TDRHL 0008 A0CEh, SCI8.TDRHL 0008 A10Eh,
SCI9.TDRHL 0008 A12Eh, SCI12.TDRHL 0008 B30Eh



TDRH レジスタと TDRL レジスタは、それぞれ送信データを格納するための 8 ビットのレジスタです。調歩同期式モード 9 ビットデータ長選択時に使用します。

TDRL レジスタは TDR レジスタのシャドウとなっており、TDRL レジスタへのアクセスは TDR レジスタへのアクセスになります。

TSR レジスタに空きを検出すると、TDRH レジスタおよび TDRL レジスタに書き込まれた送信データは TSR レジスタに転送されて送信を開始します。

TDRH レジスタおよび TDRL レジスタと TSR レジスタはダブルバッファ構造になっているため、連続送信動作が可能です。1 フレーム分のデータを送信したとき、TDRL レジスタに次の送信データが書き込まれていれば TSR レジスタへ転送して送信を続けます。

TDRH レジスタおよび TDRL レジスタは CPU からリード/ライト可能です。TDRH レジスタの b1 から b7 は“1”に固定されており、読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください。

TDRH レジスタおよび TDRL レジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生したときに、TDRH レジスタ、TDRL レジスタの順に 1 回だけ行ってください。

TDRHL レジスタとして 16 ビットでもアクセスできます。

27.2.6 トランスミットシフトレジスタ (TSR)

TSR レジスタは、シリアルデータを送信するためのシフトレジスタです。

TDR レジスタに書き込まれた送信データは、自動的に TSR レジスタに転送され、TXDn 端子に送出することでシリアルデータの送信を行います。

CPU からは直接アクセスすることはできません。

27.2.7 シリアルモードレジスタ (SMR)

SMR レジスタは、スマートカードインタフェースモードと非スマートカードインタフェースモードに応じて一部のビットの機能が異なります。

(1) 非スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 0)

アドレス SC11.SMR 0008 A020h, SC15.SMR 0008 A0A0h, SC16.SMR 0008 A0C0h, SC18.SMR 0008 A100h, SC19.SMR 0008 A120h, SC112.SMR 0008 B300h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CM	CHR	PE	PM	STOP	MP	CKS[1:0]	

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKS[1:0]	クロックセレクトビット	b1 b0 0 0 : PCLK (n = 0) (注1) 0 1 : PCLK/4 (n = 1) (注1) 1 0 : PCLK/16 (n = 2) (注1) 1 1 : PCLK/64 (n = 3) (注1)	R/W (注4)
b2	MP	マルチプロセッサモードビット	(調歩同期式モードのみ有効) 0 : マルチプロセッサ通信機能を禁止 1 : マルチプロセッサ通信機能を許可	R/W (注4)
b3	STOP	ストップビットレングスビット	(調歩同期式モードのみ有効) 0 : 1ストップビット 1 : 2ストップビット	R/W (注4)
b4	PM	パリティモードビット	(PEビット = 1のときのみ有効) 0 : 偶数パリティで送受信 1 : 奇数パリティで送受信	R/W (注4)
b5	PE	パリティイネーブルビット	(調歩同期式モードのみ有効) • 送信時 0 : パリティビットなし 1 : パリティビットを付加 • 受信時 0 : パリティなしで受信 1 : パリティチェックを行う	R/W (注4)
b6	CHR	キャラクタレングスビット	(調歩同期式モードのみ有効(注2)) SCMR.CHR1ビットと組み合わせて選択します。 CHR1 CHR 0 0 : データ長9ビットで送受信 0 1 : データ長9ビットで送受信 1 0 : データ長8ビットで送受信(初期値) 1 1 : データ長7ビットで送受信(注3)	R/W (注4)
b7	CM	コミュニケーションモードビット	0 : 調歩同期式モード、または簡易I ² Cモードで動作 1 : クロック同期式モード、または簡易SPIモードで動作	R/W (注4)

注1. nは設定値の10進表示で、「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」中のnの値を表します。

注2. 調歩同期式モード以外では、設定は無効でデータ長は8ビット固定です。

注3. LSBファースト固定となり、送信ではTDRレジスタのMSB(b7)は送信されません。

注4. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

CKS[1:0] ビット (クロックセレクトビット)

内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを選択します。

CKS[1:0] ビットの設定値とボーレートの関係については、「27.2.11 ビットレートレジスタ (BRR)」を参照してください。

MP ビット (マルチプロセッサモードビット)

マルチプロセッサ通信機能の許可 / 禁止を選択します。マルチプロセッサモードでは、PE、PM ビットの設定は無効です。

STOP ビット (ストップビットレングスビット)

送信データのストップビット長を選択します。

受信時はこのビットの設定にかかわらずストップビットの1ビット目のみチェックし、2ビット目が“0”の場合は次の送信フレームのスタートビットと見なします。

PM ビット (パリティモードビット)

送受信時のパリティ (偶数パリティ / 奇数パリティ) を選択します。

マルチプロセッサモードでは、PM ビットの設定は無効です。

PE ビット (パリティイネーブルビット)

PE ビットが“1”のとき、送信時はパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。

マルチプロセッサフォーマットでは、PE ビットの設定にかかわらずパリティビットの付加、チェックは行いません。

CHR ビット (キャラクタレングスビット)

送受信データのデータ長を SCMR.CHR1 ビットと組み合わせて選択します。

調歩同期式モード以外では、データ長は8ビット固定です。

(2) スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 1)

アドレス SMC11.SMR 0008 A020h, SMC15.SMR 0008 A0A0h, SMC16.SMR 0008 A0C0h, SMC18.SMR 0008 A100h, SMC19.SMR 0008 A120h, SMC12.SMR 0008 B300h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
GM	BLK	PE	PM	BCP[1:0]		CKS[1:0]	

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKS[1:0]	クロックセレクトビット	b1 b0 0 0 : PCLK (n = 0) (注1) 0 1 : PCLK/4 (n = 1) (注1) 1 0 : PCLK/16 (n = 2) (注1) 1 1 : PCLK/64 (n = 3) (注1)	R/W (注2)
b3-b2	BCP[1:0]	基本クロックパルスビット	SCMR.BCP2ビットと組み合わせて選択します。 表27.8にSCMR.BCP2ビットとSMR.BCP[1:0]ビットの組み合わせを示します。	R/W (注2)
b4	PM	パリティモードビット	(PEビット=1のときのみ有効) 0 : 偶数パリティで送受信 1 : 奇数パリティで送受信	R/W (注2)
b5	PE	パリティイネーブルビット	PEビットが“1”のとき、送信時はパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。スマートカードインタフェースモードでは、PEビットは“1”にして使用してください	R/W (注2)
b6	BLK	ブロック転送モードビット	0 : 非ブロック転送モードで動作します 1 : ブロック転送モードで動作します	R/W (注2)
b7	GM	GSMモードビット	0 : 非GSMモードで動作します 1 : GSMモードで動作します	R/W (注2)

注1. nは設定値の10進表示で、「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」中のnの値を表します。

注2. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

CKS[1:0] ビット (クロックセレクトビット)

内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースを選択します。

CKS[1:0] ビットの設定値とボーレートの関係については、「27.2.11 ビットレートレジスタ (BRR)」を参照してください。

BCP[1:0] ビット (基本クロックパルスビット)

スマートカードインタフェースモードにおいて、1ビット転送期間中の基本クロック数を選択します。

SCMR.BCP2ビットと組み合わせて選択します。

詳細は、「27.6.4 受信データサンプリングタイミングと受信マージン」を参照してください。

表 27.8 SCMR.BCP2ビットとSMR.BCP[1:0]ビットの組み合わせ

SCMR.BCP2ビット	SMR.BCP[1:0]ビット		1ビット転送期間中の基本クロック数
0	0	0	93クロック (S = 93) (注1)
0	0	1	128クロック (S = 128) (注1)
0	1	0	186クロック (S = 186) (注1)
0	1	1	512クロック (S = 512) (注1)
1	0	0	32クロック (S = 32) (注1) (初期値)
1	0	1	64クロック (S = 64) (注1)
1	1	0	372クロック (S = 372) (注1)
1	1	1	256クロック (S = 256) (注1)

注1. Sは「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」中のSの値を表します。

PM ビット (パリティモードビット)

送受信時のパリティ (偶数パリティ / 奇数パリティ) を選択します。

スマートカードインタフェースモードにおけるこのビットの使用方法については、「27.6.2 データフォーマット (ブロック転送モード時を除く)」を参照してください。

PE ビット (パリティイネーブルビット)

PE ビットは“1”にしてください。

送信時はパリティビットを付加し、受信時はパリティチェックを行います。

BLK ビット (ブロック転送モードビット)

BLK ビットを“1”にすると、ブロック転送モードで動作します。

ブロック転送モードについては、「27.6.3 ブロック転送モード」を参照してください。

GM ビット (GSM モードビット)

GM ビットを“1”にすると、GSM モードで動作します。

GSM モードでは、SSR.TEND フラグのセットタイミングが先頭から 11.0 etu (etu: Elementary Time Unit、1ビットの転送期間) に前倒しされ、クロック出力制御機能が追加されます。詳細は、「27.6.6 シリアルデータの送信 (ブロック転送モードを除く)」、「27.6.8 クロック出力制御」を参照してください。

27.2.8 シリアルコントロールレジスタ (SCR)

注. SCRレジスタは、スマートカードインタフェースモードと非スマートカードインタフェースモードに応じて一部のビットの機能が異なります。

(1) 非スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 0)

アドレス SCI1.SCR 0008 A022h, SCI5.SCR 0008 A0A2h, SCI6.SCR 0008 A0C2h, SCI8.SCR 0008 A102h, SCI9.SCR 0008 A122h, SCI12.SCR 0008 B302h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TIE	RIE	TE	RE	MPIE	TEIE	CKE[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKE[1:0]	クロックイネーブルビット	(調歩同期式の場合) b1 b0 0 0: 内蔵ポーレートジェネレータ SCKn端子はハイインピーダンスになります 0 1: 内蔵ポーレートジェネレータ SCKn端子からビットレートと同じ周波数のクロックを出力します 1 x: 外部クロックまたはTMRクロック (注2) 外部クロック使用時は、SCKn端子からビットレートの16倍の周波数のクロックを入力してください。 SEMR.ABCSビットが“1”のときは8倍の周波数のクロックを入力してください。 TMRクロック使用時 (注2)は、SCKn端子はハイインピーダンスになります。 (クロック同期式の場合) b1 b0 0 x: 内部クロック SCKn端子はクロック出力端子となります 1 x: 外部クロック SCKn端子はクロック入力端子となります	R/W (注1)
b2	TEIE	トランスミットエンド インタラプトイネーブルビット	0: TEI割り込み要求を禁止 1: TEI割り込み要求を許可	R/W
b3	MPIE	マルチプロセッサインタラプト イネーブルビット	(調歩同期式モードで、SMR.MPビット=1のとき有効) 0: 通常の受信動作 1: マルチプロセッサビットが“0”の受信データは読み飛ばし、SSR.RDRF, ORER, FERの各ステータスフラグのセット (“1”)を禁止します。マルチプロセッサビットが“1”のデータを受信すると、MPIEビットは自動的に“0”になり、通常の受信動作に戻ります	R/W
b4	RE	レシーブイネーブルビット	0: シリアル受信動作を禁止 1: シリアル受信動作を許可	R/W (注3)
b5	TE	トランスミットイネーブルビット	0: シリアル送信動作を禁止 1: シリアル送信動作を許可	R/W (注3)
b6	RIE	レシーブインタラプトイネーブル ビット	0: RXIおよびERI割り込み要求を禁止 1: RXIおよびERI割り込み要求を許可	R/W
b7	TIE	トランスミットインタラプト イネーブルビット	0: TXI割り込み要求を禁止 1: TXI割り込み要求を許可	R/W

x: Don't care

注1. TEビット=0、REビット=0の場合のみ書き込み可能です。

注2. SCI5、SCI6、SCI12のみ選択可能。

注3. SMR.CMビットが“1”のときは、TEビット=0、REビット=0の場合のみ“1”を書き込み可能です。

一度、TE、REビットのいずれかを“1”にした後は、TEビット=0、REビット=0の書き込みのみ可能になります。SMR.CMビットが“0”かつSIMR1のIICMビットが“0”のときは、任意のタイミングで書き込みが可能です。

CKE[1:0] ビット (クロックイネーブルビット)

クロックソースおよび SCKn 端子の機能を選択します。

内蔵 TMR クロックは SEMR.ACS0 ビットと組み合わせて設定します。

TEIE ビット (トランスミットエンド インタラプトイネーブルビット)

TEI 割り込み要求を許可、または禁止します。

TEI 割り込み要求の禁止は、TEIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

簡易 I²C モードでは、開始 / 再開 / 停止条件生成完了割り込み (STI 割り込み) が TEI 割り込みに割り当てられます。その場合も TEIE ビットにより STI 割り込み要求を許可、または禁止することができます。

MPIE ビット (マルチプロセッサインタラプトイネーブルビット)

MPIE ビットを“1”にすると、マルチプロセッサビットが“0”の受信データは読み飛ばし、SSR.RDRF、ORER、FER フラグの各ステータスフラグは“1”になりません。マルチプロセッサビットが“1”のデータを受信すると、MPIE ビットは自動的にクリアされ、通常の受信動作に戻ります。詳細は「27.4 マルチプロセッサ通信機能」を参照してください。

マルチプロセッサビットが“0”の受信データを受信しているときは、RSR レジスタから RDR レジスタへの受信データの転送、および受信エラーの検出と、RDRF、ORER、FER の各フラグのセット (“1”) は行いません。

マルチプロセッサビットが“1”の受信データを受信すると、SSR.MPB ビットを“1”にし、MPIE ビットを自動的に“0”にし、RXI、ERI 割り込み要求 (SCR の RIE ビットが“1”の場合) と、RDRF、ORER、FER フラグのセット (“1”) が許可されます。

マルチプロセッサ通信機能を使用しない場合は、MPIE ビットには“0”を書き込んでください。

RE ビット (レシーブイネーブルビット)

シリアル受信動作を許可、または禁止します。

RE ビットを“1”にすると、調歩同期式モードの場合はスタートビットを、クロック同期式モードの場合は同期クロック入力をそれぞれ検出するとシリアル受信を開始します。なお、RE ビットを“1”にする前に SMR レジスタの設定を行い、受信フォーマットを決定してください。

RE ビットを“0”にして受信動作を停止しても、SSR.ORER、FER、PER、RDRF の各フラグは影響を受けず、状態を保持します。

TE ビット (トランスミットイネーブルビット)

シリアル送信動作を許可、または禁止します。

TE ビットを“1”にすると、TDR レジスタに送信データを書き込むことでシリアル送信を開始します。なお、TE ビットを“1”にする前に SMR レジスタの設定を行い、送信フォーマットを決定してください。

RIE ビット (レシーブインタラプトイネーブルビット)

RXI および ERI 割り込み要求を許可、または禁止します。

RXI 割り込み要求の禁止は、RIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

ERI 割り込み要求の解除は、SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグをすべてクリアするか、RIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

TIE ビット (トランスミットインタラプトイネーブルビット)

TXI 割り込み要求を許可、または禁止します。

TXI 割り込み要求の禁止は、TIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

(2) スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 1)

アドレス SMC11.SCR 0008 A022h, SMC15.SCR 0008 A0A2h, SMC16.SCR 0008 A0C2h, SMC18.SCR 0008 A102h,
SMC19.SCR 0008 A122h, SMC12.SCR 0008 B302h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TIE	RIE	TE	RE	MPIE	TEIE	CKE[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CKE[1:0]	クロックイネーブルビット	<ul style="list-style-type: none"> SMR.GMビット=0の場合 b1 b0 0 0 : 出力ディセーブル SCKn端子はハイインピーダンスになります 0 1 : クロック出力 1 x : 設定しないでください SMR.GMビット=1の場合 b1 b0 0 0 : Low出力固定 x 1 : クロック出力 1 0 : High出力固定 	R/W (注1)
b2	TEIE	トランスミットエンド インタラプトイネーブルビット	スマートカードインタフェースモードでは、“0”としてください	R/W
b3	MPIE	マルチプロセッサインタラプト イネーブルビット	スマートカードインタフェースモードでは、“0”としてください	R/W
b4	RE	レシーブイネーブルビット	0 : シリアル受信動作を禁止 1 : シリアル受信動作を許可	R/W (注2)
b5	TE	トランスミットイネーブルビット	0 : シリアル送信動作を禁止 1 : シリアル送信動作を許可	R/W (注2)
b6	RIE	レシーブインタラプトイネーブル ビット	0 : RXIおよびERI割り込み要求を禁止 1 : RXIおよびERI割り込み要求を許可	R/W
b7	TIE	トランスミットインタラプト イネーブルビット	0 : TXI割り込み要求を禁止 1 : TXI割り込み要求を許可	R/W

x: Don't care

注1. TEビット=0、REビット=0の場合のみ書き込み可能です。

注2. TEビット=0、REビット=0の場合のみ“1”を書き込み可能です。

一度、TE、REビットのいずれかを“1”にした後は、TEビット=0、REビット=0の書き込みのみ行ってください。

各割り込み要求については、「27.12 割り込み要因」を参照してください。

CKE[1:0] ビット (クロックイネーブルビット)

SCKn 端子からのクロック出力を制御します。

GSM モードではクロックの出力をダイナミックに切り替えることができます。詳細は、「27.6.8 クロック出力制御」を参照してください。

TEIE ビット (トランスミットエンドインタラプトイネーブルビット)

スマートカードインタフェースモードでは“0”としてください。

MPIE ビット (マルチプロセッサインタラプトイネーブルビット)

スマートカードインタフェースモードでは“0”としてください。

RE ビット (レシーブイネーブルビット)

シリアル受信動作を許可、または禁止します。

RE ビットを“1”にすると、スタートビットを検出するとシリアル受信を開始します。なお、RE ビットを“1”にする前に SMR レジスタの設定を行い、受信フォーマットを決定してください。

RE ビットを“0”にして受信動作を停止しても、SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグは影響を受けず、状態を保持します。

TE ビット (トランスミットイネーブルビット)

シリアル送信動作を許可、または禁止します。

TE ビットを“1”にすると、TDR レジスタに送信データを書き込むことでシリアル送信を開始します。なお、TE ビットを“1”にする前に SMR レジスタの設定を行い、送信フォーマットを決定してください。

RIE ビット (レシーブインタラプトイネーブルビット)

RXI および ERI 割り込み要求を許可、または禁止します。

RXI 割り込み要求の禁止は、RIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

ERI 割り込み要求の解除は、SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグをすべてクリアするか、RIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

TIE ビット (トランスミットインタラプトイネーブルビット)

TXI 割り込み要求を許可、または禁止します。

TXI 割り込み要求の禁止は、TIE ビットを“0”にすることで行うことができます。

27.2.9 シリアルステータスレジスタ (SSR)

SSR レジスタは、スマートカードインタフェースモードと非スマートカードインタフェースモードに応じて一部のビットの機能が異なります。

(1) 非スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 0)

アドレス SCI1.SSR 0008 A024h, SCI5.SSR 0008 A0A4h, SCI6.SSR 0008 A0C4h, SCI8.SSR 0008 A104h, SCI9.SSR 0008 A124h, SCI12.SSR 0008 B304h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TDRE	RDRF	ORER	FER	PER	TEND	MPB	MPBT

リセット後の値 1 0 0 0 0 1 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MPBT	マルチプロセッサビットトランスファビット	送信フレームに付加するマルチプロセッサビットの設定 0: データ送信サイクル 1: ID送信サイクル	R/W
b1	MPB	マルチプロセッサビット	受信フレーム中のマルチプロセッサビットの値 0: データ送信サイクル 1: ID送信サイクル	R
b2	TEND	トランスミットエンドフラグ	0: キャラクタを送信中 1: キャラクタを送信終了	R
b3	PER	パリティエラーフラグ	0: パリティエラーの発生なし 1: パリティエラーの発生あり	R/(W) (注1)
b4	FER	フレーミングエラーフラグ	0: フレーミングエラーの発生なし 1: フレーミングエラーの発生あり	R/(W) (注1)
b5	ORER	オーバランエラーフラグ	0: オーバランエラーの発生なし 1: オーバランエラーの発生あり	R/(W) (注1)
b6	RDRF	受信データフルフラグ	0: RDRレジスタに有効なデータなし 1: RDRレジスタに受信データあり	R/(W) (注2)
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0: TDRレジスタに未送信のデータあり 1: TDRレジスタにデータなし	R/(W) (注2)

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。フラグをクリアする場合は、フラグが“1”であることを確認してから“0”を書いてください。

注2. 書く場合“1”としてください。

MPB ビット (マルチプロセッサビット)

受信フレーム中のマルチプロセッサビットの値が格納されます。SCR.RE ビットが“0”のときは変化しません。

TEND フラグ (トランスミットエンドフラグ)

送信が終了したことを表示します。

[“1”になる条件]

- SCR.TE ビットが“0” (シリアル送信動作を禁止) のとき
SCR.TE ビットを“0”から“1”にするときは、TEND フラグは影響を受けず“1”の状態を保持します。
- 送信キャラクタの最後尾ビットの送信時、TDR レジスタが更新されていないとき

[“0”になる条件]

- SCR.TE ビットが“1”の状態 TDR レジスタへ送信データを書き込んだとき
TEND フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。

PER フラグ (パリティエラーフラグ)

調歩同期式モードで受信時にパリティエラーが発生して異常終了したことを表示します。

["1"になる条件]

- データ一致検出機能が無効の場合に、受信中にパリティエラーを検出したとき (SCI1, SCI5)
- 受信中にパリティエラーを検出したとき (SCI6, SCI8, SCI9, SCI12)
パリティエラーが発生したときの受信データは RDR レジスタに転送されますが、RXI 割り込み要求は発生しません。なお、PER フラグが“1”になった状態では、以降の受信データは RDR レジスタに転送されません。

["0"になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
PER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0” (シリアル受信動作を禁止) にしても、PER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

FER フラグ (フレーミングエラーフラグ)

調歩同期式モードで受信時にフレーミングエラーが発生して異常終了したことを表示します。

["1"になる条件]

- データ一致検出機能が無効の場合に、ストップビットの“0”を検出したとき (SCI1, SCI5)
- ストップビットが“0”のとき (SCI6, SCI8, SCI9, SCI12)
2ストップモードのときは、1ビット目のストップビットが“1”であるかどうかのみを判定し、2ビット目のストップビットはチェックしません。なお、フレーミングエラーが発生したときの受信データは RDR レジスタに転送されますが、RXI 割り込み要求は発生しません。さらに、FER フラグが“1”になった状態では、以降の受信データは RDR レジスタに転送されません。

["0"になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
FER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0”にしても、FER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

ORER フラグ (オーバランエラーフラグ)

受信時にオーバランエラーが発生して異常終了したことを表示します。

["1"になる条件]

- RDR レジスタの受信データをリードしないで次のデータを受信したとき
RDR レジスタはオーバランエラーが発生する前の受信データを保持し、後から受信したデータが失われます。ORER フラグが“1”になった状態では、以降のシリアル受信を続けることはできません。なお、クロック同期式モードでは、シリアル送信も続けることはできません。

["0"になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
ORER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0”にしても、ORER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

RDRF フラグ (受信データフルフラグ)

RDR レジスタ内の受信データの有無を表示します。

["1"になる条件]

- 受信が正常終了し、RSR レジスタから RDR レジスタへ受信データが転送されたとき

["0"になる条件]

- RDR レジスタからデータを読み出したとき

TDRE フラグ (送信データエンプティフラグ)

TDR レジスタ内の送信データの有無を表示します。

["1"になる条件]

- TDR レジスタから TSR レジスタにデータが転送されたとき

["0"になる条件]

- TDR レジスタへ送信データを書いたとき

(2) スマートカードインタフェースモードのとき (SCMR.SMIF ビット = 1)

アドレス SMC11.SSR 0008 A024h, SMC15.SSR 0008 A0A4h, SMC16.SSR 0008 A0C4h, SMC18.SSR 0008 A104h, SMC19.SSR 0008 A124h, SMC112.SSR 0008 B304h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
TDRE	RDRF	ORER	ERS	PER	TEND	MPB	MPBT

リセット後の値 1 0 0 0 0 1 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MPBT	マルチプロセッサビット トランスファビット	スマートカードインタフェースモードでは"0"としてください	R/W
b1	MPB	マルチプロセッサビット	スマートカードインタフェースモードでは使用しません。"0"としてください	R
b2	TEND	トランスミットエンドフラグ	0: キャラクタを送信中 1: キャラクタを送信終了	R
b3	PER	パリティエラーフラグ	0: パリティエラーの発生なし 1: パリティエラーの発生あり	R/(W) (注1)
b4	ERS	エラーシグナルステータスフラグ	0: エラーシグナルLow応答なし 1: エラーシグナルLow応答あり	R/(W) (注1)
b5	ORER	オーバランエラーフラグ	0: オーバランエラーの発生なし 1: オーバランエラーの発生あり	R/(W) (注1)
b6	RDRF	受信データフルフラグ	0: RDRレジスタに有効なデータなし 1: RDRレジスタに受信データあり	R/(W) (注2)
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0: TDRレジスタに未送信のデータあり 1: TDRレジスタにデータなし	R/(W) (注2)

注1. フラグをクリアするための"0"書き込みのみ可能です。フラグをクリアする場合は、フラグが"1"であることを確認してから"0"を書いてください。

注2. 書く場合"1"としてください。

TEND フラグ (トランスミットエンドフラグ)

受信側からのエラーシグナルの応答がなく、次の送信データを TDR レジスタに転送可能になったとき“1”になります。

["1"になる条件]

- SCR.TE ビット = 0 (シリアル送信動作を禁止) のとき
SCR.TE ビットを“0”から“1”にするときは、TEND フラグは影響を受けず“1”の状態を保持します。
- 1 バイトのデータを送信して一定期間後、ERS フラグ = 0 かつ TDR レジスタが更新されていないとき
セットされるタイミングは、レジスタの設定により以下のように異なります。
SMR.GM ビット = 0、SMR.BLK ビット = 0 のとき、送信開始から 12.5 etu 後
SMR.GM ビット = 0、SMR.BLK ビット = 1 のとき、送信開始から 11.5 etu 後
SMR.GM ビット = 1、SMR.BLK ビット = 0 のとき、送信開始から 11.0 etu 後
SMR.GM ビット = 1、SMR.BLK ビット = 1 のとき、送信開始から 11.0 etu 後

["0"になる条件]

- SCR.TE ビットが“1”の状態 TDR レジスタへ送信データを書き込んだとき
TEND フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。

PER フラグ (パリティエラーフラグ)

調歩同期式モードで受信時にパリティエラーが発生して異常終了したことを表示します。

["1"になる条件]

- 受信中にパリティエラーを検出したとき
パリティエラーが発生したときの受信データは RDR レジスタに転送されますが、RXI 割り込み要求は発生しません。なお、PER フラグが“1”になった状態では、以降の受信データは RDR レジスタに転送されません。

["0"になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
PER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0” (シリアル受信動作を禁止) にしても、PER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

ERS フラグ (エラーシグナルステータスフラグ)

["1"になる条件]

- エラーシグナル Low をサンプリングしたとき

["0"になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
ERS フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0”にしても、ERS フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

ORER フラグ (オーバランエラーフラグ)

受信時にオーバランエラーが発生して異常終了したことを表示します。

[“1”になる条件]

- RDR レジスタの受信データをリードしないで次のデータを受信したとき
RDR レジスタではオーバランエラーが発生する前の受信データを保持し、後から受信したデータが失われます。ORER フラグが“1”になった状態では、以降のシリアル受信を続けることはできません。

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
ORER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。
SCR.RE ビットを“0”にしても、ORER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

RDRF フラグ (受信データフルフラグ)

RDR レジスタ内の受信データの有無を表示します。

[“1”になる条件]

- 受信が正常終了し、RSR レジスタから RDR レジスタへ受信データが転送されたとき

[“0”になる条件]

- RDR レジスタからデータを読み出したとき

TDRE フラグ (送信データエンプティフラグ)

TDR レジスタ内の送信データの有無を表示します。

[“1”になる条件]

- TDR レジスタから TSR レジスタにデータが転送されたとき

[“0”になる条件]

- TDR レジスタへ送信データを書いたとき

27.2.10 スマートカードモードレジスタ (SCMR)

アドレス SC11.SCMR 0008 A026h, SC15.SCMR 0008 A0A6h, SC16.SCMR 0008 A0C6h, SC18.SCMR 0008 A106h,
SC19.SCMR 0008 A126h, SC112.SCMR 0008 B306h,
SMCI1.SCMR 0008 A026h, SMCI5.SCMR 0008 A0A6h, SMCI6.SCMR 0008 A0C6h, SMCI8.SCMR 0008 A106h,
SMCI9.SCMR 0008 A126h, SMCI12.SCMR 0008 B306h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
BCP2	—	—	CHR1	SDIR	SINV	—	SMIF

リセット後の値 1 1 1 1 0 0 1 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SMIF	スマートカードインタフェースモードセレクトビット	0: 非スマートカードインタフェースモード (調歩同期式モード、クロック同期式モード、簡易SPIモード、簡易I ² Cモード) 1: スマートカードインタフェースモード	R/W (注1)
b1	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b2	SINV	送受信データインパートビット (注2、注3)	0: TDRレジスタのデータビットをそのままTSRレジスタに転送、RSRレジスタのデータビットをそのままRDRレジスタに転送 1: TDRレジスタのデータビットを反転してTSRレジスタに転送、RSRレジスタのデータビットを反転してRDRレジスタに転送	R/W (注1)
b3	SDIR	送受信データトランスファディレクションビット(注2、注4)	0: LSBファーストで送受信 1: MSBファーストで送受信	R/W (注1)
b4	CHR1	キャラクタレングスビット1(注5)	SMR.CHRビットと組み合わせて選択します CHR1 CHR 0 0: データ長9ビットで送受信 0 1: データ長9ビットで送受信 1 0: データ長8ビットで送受信(初期値) 1 1: データ長7ビットで送受信(注6)	R/W (注1)
b6-b5	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b7	BCP2	基本クロックパルスビット2	SMR.BCP[1:0]ビットと組み合わせて選択します 表27.9にSCMR.BCP2ビットとSMR.BCP[1:0]ビットの組み合わせを示します。	R/W (注1)

注1. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

注2. スマートカードインタフェースモード、調歩同期式モード(マルチプロセッサモード)、クロック同期式モード、簡易SPIモードで使用可能です。

注3. 簡易I²Cモードで動作させる場合は、“0”にしてください

注4. 簡易I²Cモードで動作させる場合は、“1”にしてください

注5. 調歩同期式モードでのみ有効です。調歩同期式モード以外では、設定は無効でデータ長は8ビット固定です。

注6. LSBファースト固定となり、送信ではTDRレジスタのMSB(b7)は送信されません。

SMIF ビット (スマートカードインタフェースモードセレクトビット)

スマートカードインタフェースモードで動作させるときは、“1”を設定します。

非スマートカードインタフェースモードである調歩同期式(マルチプロセッサモード含む)、クロック同期式モード、簡易SPIモード、および簡易I²Cモードで動作させるときは、“0”を設定します。

SINV ビット (送受信データインパートビット)

データレジスタとシフトレジスタ間のデータ転送時にロジックレベルを反転します。SINVビットは、パリティビットのロジックレベルには影響しません。パリティビットを反転させる場合は、SMR.PMビットを反転してください。

CHR1 ビット (キャラクタレンクスビット 1)

送受信データのデータ長を選択します。
SMR.CHR ビットと組み合わせて選択します。
調歩同期式モード以外では、データ長は 8 ビット固定です。

BCP2 ビット (基本クロックパルスビット 2)

スマートカードインタフェースモードにおいて 1 ビット転送期間中の基本クロック数を、SMR.BCP[1:0] ビットと組み合わせて選択します。

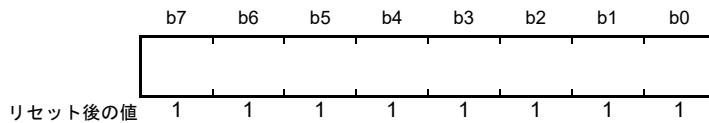
表 27.9 SCMR.BCP2 ビットと SMR.BCP[1:0] ビットの組み合わせ

SCMR.BCP2 ビット	SMR.BCP[1:0] ビット		1 ビット転送期間中の基本クロック数
0	0	0	93クロック (S = 93) (注1)
0	0	1	128クロック (S = 128) (注1)
0	1	0	186クロック (S = 186) (注1)
0	1	1	512クロック (S = 512) (注1)
1	0	0	32クロック (S = 32) (注1) (初期値)
1	0	1	64クロック (S = 64) (注1)
1	1	0	372クロック (S = 372) (注1)
1	1	1	256クロック (S = 256) (注1)

注1. Sは「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」中のSの値を表します。

27.2.11 ビットレートレジスタ (BRR)

アドレス SCI1.BRR 0008 A021h, SCI5.BRR 0008 A0A1h, SCI6.BRR 0008 A0C1h, SCI8.BRR 0008 A101h, SCI9.BRR 0008 A121h, SCI12.BRR 0008 B301h



BRR レジスタはビットレートを調整するための 8 ビットのレジスタです。

SCI はチャンネルごとにボーレートジェネレータが独立しているため、異なるビットレートを設定できます。通常の調歩同期式モード、マルチプロセッサ通信、クロック同期式モード、スマートカードインタフェースモード、簡易 SPI モードおよび簡易 I²C モードにおける BRR レジスタの設定値 N とビットレート B の関係を表 27.10、表 27.11 に示します。

BRR レジスタへの書き込みは、SCR.TE ビット = 0、SCR.RE ビット = 0 の場合のみ可能です。

表 27.10 BRR レジスタの設定値 N とビットレート B の関係 (SCI1, SCI5)

モード	SEMR レジスタの設定			BRR レジスタの設定値	誤差 (%)
	BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット		
調歩同期式、マルチプロセッサ通信	0	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	0	1	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	1	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	任意	任意	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{12 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 12 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
クロック同期式、簡易 SPI				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	
スマートカードインタフェース				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
簡易 I ² C (注1)				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	

B: ビットレート (bps)

N: BRR レジスタの設定値 ($0 \leq N \leq 255$)

PCLK: 周辺モジュールクロック周波数 (MHz)

n と S: 表 27.13、表 27.14 のとおり SMR、SCMR レジスタの設定値によって決まります。

注1. 簡易 I²C モードでの SCL 出力の High/Low 幅が I²C-bus 規格を満たすようビットレートを調整してください。

表 27.11 BRRレジスタの設定値NとビットレートBの関係 (SCI6, SCI8, SCI9, SCI12)

モード	SEMRレジスタの設定		BRRレジスタの設定値	誤差 (%)
	BGDM ビット	ABCS ビット		
調歩同期式、 マルチプロ セッサ通信	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	0	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	1	0		
	1	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
クロック同期式、 簡易SPI			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	
スマートカードインタフェース			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times B} - 1$	誤差 = $\left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
簡易I ² C (注1)			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times B} - 1$	

B: ビットレート (bps)

N: BRRレジスタの設定値 ($0 \leq N \leq 255$)

PCLK: 周辺モジュールクロック周波数 (MHz)

nとS: 表 27.13、表 27.14 のとおり SMR、SCMRレジスタの設定値によって決まります。

注1. 簡易I²CモードでのSCL出力のHigh/Low幅がI²C-bus規格を満たすようビットレートを調整してください。

表 27.12 SCL High/Low幅算出式

モード	SCL	算出式 (秒(s))
I ² C	High幅 (min値)	$(N+1) \times 4 \times 2^{2n-1} \times 7 \times \frac{1}{PCLK \times 10^6}$
	Low幅 (min値)	$(N+1) \times 4 \times 2^{2n-1} \times 8 \times \frac{1}{PCLK \times 10^6}$

表 27.13 クロックソースの設定

SMR.CKS[1:0]ビットの設定	クロックソース	n
00	PCLK	0
01	PCLK/4	1
10	PCLK/16	2
11	PCLK/64	3

表27.14 スマートカードインタフェースモード時の基本クロックの設定

SCMR.BCP2ビットの設定	SMR.BCP[1:0]ビットの設定	1ビット期間中の基本クロックパルス数	S
0	00	93クロック	93
0	01	128クロック	128
0	10	186クロック	186
0	11	512クロック	512
1	00	32クロック	32
1	01	64クロック	64
1	10	372クロック	372
1	11	256クロック	256

通常の調歩同期式モードにおける BRR レジスタの値 N の設定例を表 27.15 に、各動作周波数における設定可能な最高ビットレートを表 27.17 に示します。また、クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける BRR レジスタの値 N の設定例を表 27.20 に、スマートカードインタフェースモードにおける BRR レジスタの値 N の設定例を表 27.22 に、簡易 I²C モードにおける BRR レジスタの値 N の設定例を表 27.24 に示します。スマートカードインタフェースモードでは 1 ビット転送期間の基本クロック数 S を選択できます。詳細は「27.6.4 受信データサンプリングタイミングと受信マージン」を参照してください。また、表 27.18、表 27.21 に外部クロック入力時の最高ビットレートを示します。

調歩同期式モードで SEMR.ABCS ビットまたは BGDM ビットのいずれか一方のビットを“1”にしたときのビットレートは表 27.15 の 2 倍に、両ビットとも“1”にしたときのビットレートは 4 倍になります。

表27.15 ビットレートに対するBRRの設定例(調歩同期式モード)

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)														
	8			9.8304			10			12			12.288		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	2	141	0.03	2	174	-0.26	2	177	-0.25	2	212	0.03	2	217	0.08
150	2	103	0.16	2	127	0.00	2	129	0.16	2	155	0.16	2	159	0.00
300	1	207	0.16	1	255	0.00	2	64	0.16	2	77	0.16	2	79	0.00
600	1	103	0.16	1	127	0.00	1	129	0.16	1	155	0.16	1	159	0.00
1200	0	207	0.16	0	255	0.00	1	64	0.16	1	77	0.16	1	79	0.00
2400	0	103	0.16	0	127	0.00	0	129	0.16	0	155	0.16	0	159	0.00
4800	0	51	0.16	0	63	0.00	0	64	0.16	0	77	0.16	0	79	0.00
9600	0	25	0.16	0	31	0.00	0	32	-1.36	0	38	0.16	0	39	0.00
19200	0	12	0.16	0	15	0.00	0	15	1.73	0	19	-2.34	0	19	0.00
31250	0	7	0.00	0	9	-1.70	0	9	0.00	0	11	0.00	0	11	2.40
38400	—	—	—	0	7	0.00	0	7	1.73	0	9	-2.34	0	9	0.00

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)														
	14			16			17.2032			18			19.6608		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	2	248	-0.17	3	70	0.03	3	75	0.48	3	79	-0.12	3	86	0.31
150	2	181	0.16	2	207	0.16	2	223	0.00	2	233	0.16	2	255	0.00
300	2	90	0.16	2	103	0.16	2	111	0.00	2	116	0.16	2	127	0.00
600	1	181	0.16	1	207	0.16	1	223	0.00	1	233	0.16	1	255	0.00
1200	1	90	0.16	1	103	0.16	1	111	0.00	1	116	0.16	1	127	0.00
2400	0	181	0.16	0	207	0.16	0	223	0.00	0	233	0.16	0	255	0.00
4800	0	90	0.16	0	103	0.16	0	111	0.00	0	116	0.16	0	127	0.00
9600	0	45	-0.93	0	51	0.16	0	55	0.00	0	58	-0.69	0	63	0.00
19200	0	22	-0.93	0	25	0.16	0	27	0.00	0	28	1.02	0	31	0.00
31250	0	13	0.00	0	15	0.00	0	16	1.20	0	17	0.00	0	19	-1.70
38400	—	—	—	0	12	0.16	0	13	0.00	0	14	-2.34	0	15	0.00

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)								
	20			25			30		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
110	3	88	-0.25	3	110	-0.02	3	132	0.13
150	3	64	0.16	3	80	0.47	3	97	-0.35
300	2	129	0.16	2	162	-0.15	2	194	0.16
600	2	64	0.16	2	80	0.47	2	97	-0.35
1200	1	129	0.16	1	162	-0.15	1	194	0.16
2400	1	64	0.16	1	80	0.47	1	97	-0.35
4800	0	129	0.16	0	162	-0.15	0	194	0.16
9600	0	64	0.16	0	80	0.47	0	97	-0.35
19200	0	32	-1.36	0	40	-0.76	0	48	-0.35
31250	0	19	0.00	0	24	0.00	0	29	0.00
38400	0	15	1.73	0	19	1.73	0	23	1.73

注. SEMR.ABCSビット、SEMR.ABCSEビット、SEMR.BGDMビットがすべて“0”のときの例です。
 ABCSビットまたはBGDMビットのいずれか一方のビットを“1”にしたときは、ビットレートが2倍になります。
 ABCSビット、BGDMビットを両方とも“1”にしたときは、ビットレートが4倍になります。
 ABCSEビットを“1”にしたときは、ビットレートが16/3倍になります。

表 27.16 各動作周波数における最高ビットレート(調歩同期式モード) (SCI1, SCI5)

PCLK (MHz)	SEMRレジスタの設定値					最高ビット レート (bps)	PCLK (MHz)	SEMRレジスタの設定値					最高ビット レート (bps)
	BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N			BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット	n	N	
8	0	0	0	0	0	250000	9.8304	0	0	0	0	0	307200
		1	0	0	0	500000			1	0	0	0	614400
	1	0	0	0	0	1000000		0	0	0	0	1228800	
		1	0	0	0			1	0	0	0		1638400
任意						1333333	任意						1638400
10	0	0	0	0	0	312500	12	0	0	0	0	0	375000
		1	0	0	0	625000			1	0	0	0	750000
	1	0	0	0	0	1250000		0	0	0	0	1500000	
		1	0	0	0			1	0	0	0		2000000
任意						1666667	任意						2000000
12.288	0	0	0	0	0	384000	14	0	0	0	0	0	437500
		1	0	0	0	768000			1	0	0	0	875000
	1	0	0	0	0	1536000		0	0	0	0	1750000	
		1	0	0	0			1	0	0	0		2333333
任意						2048000	任意						2333333
16	0	0	0	0	0	500000	17.2032	0	0	0	0	0	537600
		1	0	0	0	1000000			1	0	0	0	1075200
	1	0	0	0	0	2000000		0	0	0	0	2150400	
		1	0	0	0			1	0	0	0		2867200
任意						2666667	任意						2867200
18	0	0	0	0	0	562500	19.6608	0	0	0	0	0	614400
		1	0	0	0	1125000			1	0	0	0	1228800
	1	0	0	0	0	2250000		0	0	0	0	2457600	
		1	0	0	0			1	0	0	0		3276800
任意						3000000	任意						3276800
20	0	0	0	0	0	625000	25	0	0	0	0	0	781250
		1	0	0	0	1250000			1	0	0	0	1562500
	1	0	0	0	0	2500000		0	0	0	0	3125000	
		1	0	0	0			1	0	0	0		4166667
任意						3333333	任意						4166667
30	0	0	0	0	0	937500							
		1	0	0	0	1875000							
	1	0	0	0	0	3750000							
		1	0	0	0		5000000						
任意						5000000							

表27.17 各動作周波数における最高ビットレート(調歩同期式モード)(SCI6, SCI8, SCI9, SCI12)

PCLK (MHz)	SEMRレジスタの設定値				最高ビット レート (bps)	PCLK (MHz)	SEMRレジスタの設定値				最高ビット レート (bps)
	BGDM ビット	ABCS ビット	n	N			BGDM ビット	ABCS ビット	n	N	
8	0	0	0	0	250000	9.8304	0	0	0	0	307200
		1	0	0	500000			1	0	0	614400
	1	0	0	0	1000000		1	0	0	0	
		1	0	0				1228800			
10	0	0	0	0	312500	12	0	0	0	0	375000
		1	0	0	625000			1	0	0	750000
	1	0	0	0	1250000		1	0	0	0	
		1	0	0				1500000			
12.288	0	0	0	0	384000	14	0	0	0	0	437500
		1	0	0	768000			1	0	0	875000
	1	0	0	0	1536000		1	0	0	0	
		1	0	0				1750000			
16	0	0	0	0	500000	17.2032	0	0	0	0	537600
		1	0	0	1000000			1	0	0	1075200
	1	0	0	0	2000000		1	0	0	0	
		1	0	0				2150400			
18	0	0	0	0	562500	19.6608	0	0	0	0	614400
		1	0	0	1125000			1	0	0	1228800
	1	0	0	0	2250000		1	0	0	0	
		1	0	0				2457600			
20	0	0	0	0	625000	25	0	0	0	0	781250
		1	0	0	1250000			1	0	0	1562500
	1	0	0	0	2500000		1	0	0	0	
		1	0	0				3125000			
30	0	0	0	0	937500			0	0	0	
		1	0	0	1875000			1	0	0	
	1	0	0	0	3750000		1	0	0	0	
		1	0	0							

表 27.18 外部クロック入力時の最高ビットレート(調歩同期式モード)

PCLK (MHz)	外部入力クロック (MHz)	最高ビットレート (bps)	
		SEMR.ABCS ビット=0	SEMR.ABCS ビット=1
8	2.0000	125000	250000
9.8304	2.4576	153600	307200
10	2.5000	156250	312500
12	3.0000	187500	375000
12.288	3.0720	192000	384000
14	3.5000	218750	437500
16	4.0000	250000	500000
17.2032	4.3008	268800	537600
18	4.5000	281250	562500
19.6608	4.9152	307200	614400
20	5.0000	312500	625000
25	6.2500	390625	781250
30	7.5000	468750	937500

表 27.19 TMRクロック入力時の最高ビットレート(調歩同期式モード)

PCLK (MHz)	TMRクロック (MHz)	最高ビットレート (bps)	
		SEMR.ABCS ビット=0	SEMR.ABCS ビット=1
8	4	250000	500000
9.8304	4.9152	307200	614400
10	5	312500	625000
12	6	375000	750000
12.288	6.144	384000	768000
14	7	437500	875000
16	8	500000	1000000
17.2032	8.6016	537600	1075200
18	9	562500	1125000
19.6608	9.8304	614400	1228800
20	10	625000	1250000
25	12.5	781250	1562500
30	15	937500	1875000

表27.20 ビットレートに対するBRRの設定例(クロック同期式モード、簡易SPIモード)

ビットレート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)											
	8		10		16		20		25		30	
	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N	n	N
110												
250	3	124	3	155	3	249						
500	2	249	3	77	3	124	3	155	3	194	3	233
1k	2	124	2	155	2	249	3	77	3	97	3	116
2.5k	1	199	1	249	2	99	2	124	2	155	2	187
5k	1	99	1	124	1	199	1	249	2	77	2	93
10k	0	199	0	249	1	99	1	124	1	155	1	187
25k	0	79	0	99	0	159	0	199	0	249	1	74
50k	0	39	0	49	0	79	0	99	0	124	0	149
100k	0	19	0	24	0	39	0	49	0	62	0	74
250k	0	7	0	9	0	15	0	19	0	24	0	29
500k	0	3	0	4	0	7	0	9	—	—	0	14
1M	0	1			0	3	0	4	—	—		
2M	0	0 (注1)			0	1			—	—		
2.5M			0	0 (注1)			0	1			0	2
4M					0	0 (注1)						
5M							0	0 (注1)				
6.25M									0	0 (注1)		
7.5M											0	0 (注1)

空欄：誤差が5%を超えるため、設定できません。

—：設定可能ですが1～5%の誤差がでます。

注1. 連続送信/連続受信はできません。1フレームの送信/受信終了後、次のフレームの送信/受信を開始するまで1ビット期間の間隔が空きます(同期クロックの出力が1ビット期間停止します)。そのため、1フレーム(8ビット)のデータ転送に9ビット分の時間がかかり、平均した転送レートは8/9倍になります。

表27.21 外部クロック入力時の最高ビットレート(クロック同期式モード、簡易SPIモード)

PCLK (MHz)	外部入力クロック (MHz)	最高ビットレート (Mbps)
8	1.3333	1.3333
10	1.6667	1.6667
12	2.0000	2.0000
14	2.3333	2.3333
16	2.6667	2.6667
18	3.0000	3.0000
20	3.3333	3.3333
25	4.1667	4.1667
30	5.0000	5.0000

表27.22 ビットレートに対するBRRの設定例(スマートカードインタフェースモードでn=0、S=372のとき)

ビットレート (bps)	PCLK (MHz)	n	N	誤差 (%)
9600	7.1424	0	0	0.00
	10.00	0	1	-30.00
	10.7136	0	1	-25.00
	13.00	0	1	-8.99
	14.2848	0	1	0.00
	16.00	0	1	12.01
	18.00	0	2	-15.99
	20.00	0	2	-6.66
	25.00	0	3	-12.49
	30.00	0	3	5.01

表27.23 各動作周波数における最高ビットレート(スマートカードインタフェースモードでS=32のとき)

PCLK (MHz)	最高ビットレート (bps)	n	N
10.00	156250	0	0
10.7136	167400	0	0
13.00	203125	0	0
16.00	250000	0	0
18.00	281250	0	0
20.00	312500	0	0
25.00	390625	0	0
30.00	468750	0	0

表27.24 ビットレートに対するBRRの設定例(簡易I²Cモード)

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)														
	8			10			16			20			25		
	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)	n	N	誤差 (%)
10k	0	24	0.0	0	30	0.8	0	49	0.0	0	62	-0.8	0	77	0.2
25k	0	9	0.0	0	12	-3.8	1	4	0.0	0	24	0.0	0	30	0.8
50k	0	4	0.0	0	5	4.2	0	9	0.0	0	12	-3.8	2	0	-2.3
100k	0	2	-16.7	1	0	-21.9	0	4	0.0	0	6	-10.7	1	1	-2.3
250k	0	0	0.0	0	0	25.0	0	1	0.0	0	2	-16.7	0	2	4.2
350k										0	1	-10.7	0	2	-25.6

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)		
	30		
	n	N	誤差 (%)
10k	0	93	-0.3
25k	0	37	-1.3
50k	0	18	-1.3
100k	0	9	-6.3
250k	1	0	-6.3
350k	0	2	-10.7

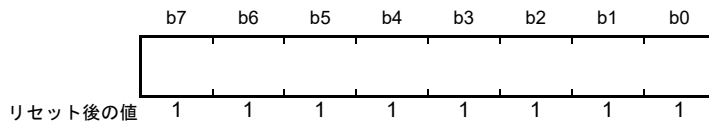
表27.25 各ビットレート設定でのSCL High/Low幅最小値(簡易I²Cモード)

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)											
	8			10			16			20		
	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)
10k	0	24	43.75/50.00	0	30	43.40/49.60	0	49	43.75/50.00	0	62	44.10/50.40
25k	0	9	17.50/20.00	0	12	18.20/20.80	1	4	17.50/20.00	0	24	17.50/20.00
50k	0	4	8.75/10.00	0	5	8.40/9.60	0	9	8.75/10.00	0	12	9.10/10.40
100k	0	2	5.25/6.00	1	0	5.60/6.40	0	4	4.38/5.00	0	6	4.90/5.60
250k	0	0	1.75/2.00	0	0	1.40/1.60	0	1	1.75/2.00	0	2	2.10/2.40
350k										0	1	1.40/1.60

ビット レート (bps)	動作周波数PCLK (MHz)					
	25			30		
	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)	n	N	SCL High/Low幅 min値 (μs)
10k	0	77	43.68/49.92	0	93	43.87/50.13
25k	0	30	17.36/19.84	0	37	17.73/20.27
50k	2	0	8.96/10.24	0	18	8.87/10.13
100k	1	1	4.48/5.12	0	9	4.67/5.33
250k	0	2	1.68/1.92	1	0	1.87/2.13
350k	0	2	1.68/1.92	0	2	1.40/1.60

27.2.12 モジュレーションデューティレジスタ (MDDR)

アドレス SCI1.MDDR 0008 A032h, SCI5.MDDR 0008 A0B2h, SCI6.MDDR 0008 A0D2h, SCI8.MDDR 0008 A112h,
SCI9.MDDR 0008 A132h, SCI12.MDDR 0008 B312h



MDDR レジスタは BRR レジスタにより調整されたビットレートを補正するためのレジスタです。SEMR.BRME ビットが“1”にセットされているとき、内蔵ポーレートジェネレータにより生成されるビットレートを平均的に $M/256$ に補正します。MDDR レジスタの設定値 M とビットレート B の関係を表 27.26、表 27.27 に示します。

MDDR レジスタに設定できる値の範囲は、“80h”以上“FFh”以下です。これ以外の値は設定できません。MDDR レジスタへの書き込みは、SCR.TE ビット=0、SCR.RE ビット=0 の場合のみ可能です。

表 27.26 ビットレートモジュレーション機能使用時のMDDRレジスタ設定値MとビットレートBの関係(SCI1, SCI5)

モード	SEMRレジスタの設定			BRRレジスタの設定値	誤差 (%)
	BGDM ビット	ABCS ビット	ABCSE ビット		
調歩同期式、 マルチプロ セッサ通信	0	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	1	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	0	1	0		
	1	1	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	任意	任意	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{12 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 12 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
クロック同期式、 簡易SPI (注1)				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	
スマートカードインタフェース				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
簡易I2C (注2)				$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	

B: ビットレート (bps)

M: MDDR レジスタの設定値 ($128 \leq M \leq 255$)

N: ポーレートジェネレータの BRR の設定値 ($0 \leq N \leq 255$)

PCLK: 動作周波数 (MHz)

n と S: 「27.2.11 ビットレートレジスタ (BRR)」表 27.13、表 27.14 のとおり SMR、SCMR レジスタの設定値によって決ま

ります。

- 注1. クロック同期モードおよび簡易SPIモードの最高速設定 (SMR.CKS[1:0]ビット=00b、かつSCR.CKE[1]ビット=0、かつBRR=0)では、本機能を使用しないでください。
- 注2. 簡易I²CモードでのSCL出力のHigh/Low幅がI²C-bus規格を満たすようビットレートを調整してください。

表 27.27 ビットレートモジュレーション機能使用時のMDDRレジスタ設定値MとビットレートBの関係 (SCI6, SCI8, SCI9, SCI12)

モード	SEMRレジスタの設定		BRRレジスタの設定値	誤差 (%)
	BGDM ビット	ABCS ビット		
調歩同期式、 マルチプロ セッサ通信	0	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	1	0	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{32 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 32 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	0	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{16 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 16 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
	1	1	$N = \frac{PCLK \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times 8 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
クロック同期式、 簡易SPI (注1)			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{8 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	
スマートカードインタフェース			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{S \times 2^{2n+1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	$\text{誤差} = \left\{ \frac{PCLK \times 10^6}{B \times S \times 2^{2n+1} \times \frac{256}{M} \times (N+1)} - 1 \right\} \times 100$
簡易I ² C (注2)			$N = \frac{PCLK \times 10^6}{64 \times 2^{2n-1} \times \frac{256}{M} \times B} - 1$	

B: ビットレート (bps)

M: MDDR レジスタの設定値 ($128 \leq M \leq 255$)

N: ボーレートジェネレータのBRRの設定値 ($0 \leq N \leq 255$)

PCLK: 動作周波数 (MHz)

nとS: 「27.2.11 ビットレートレジスタ (BRR)」表 27.13、表 27.14 のとおり SMR、SCMR レジスタの設定値によって決まります。

- 注1. クロック同期モードおよび簡易SPIモードの最高速設定 (SMR.CKS[1:0]ビット=00b、かつSCR.CKE[1]ビット=0、かつBRR=0)では、本機能を使用しないでください。
- 注2. 簡易I²CモードでのSCL出力のHigh/Low幅がI²C-bus規格を満たすようビットレートを調整してください。

なお、SMR.CKS[1:0]ビットの設定値を小さく、BRR レジスタの設定値を大きくした方が、1ビット期間の長さの長短差が小さくなります。

27.2.13 シリアル拡張モードレジスタ (SEMR)

アドレス SCI1.SEMR 0008 A027h, SCI5.SEMR 0008 A0A7h, SCI6.SEMR 0008 A0C7h, SCI8.SEMR 0008 A107h, SCI9.SEMR 0008 A127h, SCI12.SEMR 0008 B307h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	RXDESEL	BGDM	NFEN	ABCS	ABCSE	BRME	ITE	ACS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ACS0	調歩同期クロックソースセレクトビット	(調歩同期式モードでのみ有効) 0: 外部クロック 1: TMRから出力される2つのコンペアマッチ出力の論理積(SCI5、SCI6、SCI12のみ有効) SCIのチャンネルごとに使用できるコンペアマッチ出力が異なります	R/W (注1)
b1	ITE	即時送信許可ビット(注2)	(調歩同期式モードでのみ有効) 0: 送信許可からデータ送信の開始までに内部待機期間あり 1: 送信許可にするとともにデータ送信開始	R/W (注1)
b2	BRME	ビットレートモジュレーションイネーブルビット	0: ビットレートモジュレーション機能無効 1: ビットレートモジュレーション機能有効	R/W (注1)
b3	ABCSE	調歩同期基本クロックセレクト拡張ビット(注2)	(調歩同期式モードで内蔵ポーレートジェネレータ使用時のみ有効) 0: 1ビット期間の転送レートはBGDMビットとABCSビットの設定に従う 1: 基本クロック6サイクルの期間が1ビット期間の転送レートになります	R/W (注1)
b4	ABCS	調歩同期基本クロックセレクトビット	(調歩同期式モードでのみ有効) 0: 基本クロック16サイクルの期間が1ビット期間の転送レートになります 1: 基本クロック8サイクルの期間が1ビット期間の転送レートになります	R/W (注1)
b5	NFEN	デジタルノイズフィルタ機能イネーブルビット	(調歩同期式モード) 0: RXDn入力信号のノイズ除去機能無効 1: RXDn入力信号のノイズ除去機能有効 (簡易I ² Cモード) 0: SSCLn、SSDAn入力信号のノイズ除去機能無効 1: SSCLn、SSDAn入力信号のノイズ除去機能有効 上記以外のモードでは、NFENビットを“0”にしてください。	R/W (注1)
b6	BGDM	ポーレートジェネレータ倍速モードセレクトビット	(調歩同期式モードで内蔵ポーレートジェネレータ使用時のみ有効) 0: ポーレートジェネレータから通常の周波数のクロックを出力 1: ポーレートジェネレータから2倍の周波数のクロックを出力	R/W (注1)
b7	RXDESEL	調歩同期スタートビットエッジ検出セレクトビット	(調歩同期式モードでのみ有効) 0: RXDn端子入力のLowレベルでスタートビットを検出 1: RXDn端子入力の立ち下がりがエッジでスタートビットを検出	R/W (注1)

注1. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

注2. SCI6、SCI8、SCI9、SCI12では予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

SEMRレジスタは、調歩同期式モード時の1ビット期間のクロックを選択したり、スタートビットの検出方法を選択するためのレジスタです。

ACS0 ビット (調歩同期クロックソースセレクトビット)

調歩同期式モードにおける、クロックソースを選択します。

ACS0 ビットは、調歩同期式モード (SMR.CM ビット = 0) で、外部クロック入力 (SCR.CKE[1:0] ビット = 10b, 11b) のときに有効です。外部クロックまたは、内蔵 TMR のコンペアマッチ出力の論理積を選択できます。

調歩同期式モード以外では、ACS0 ビットを“0”にしてください。

SCI5、SCI6、SCI12 では、TMR ユニット 0、1 の TMO_n (n = 0 ~ 3 出力を基本クロックソースにすることができます。詳細は表 27.28 を参照してください。

SCI1、SCI8、SCI9 の ACS0 ビットは予約ビットです。SCI1、SCI8、SCI9 では“0”にしてください。

表 27.28 SCIのチャンネルと使用できるコンペアマッチ出力

SCI	TMR	コンペアマッチ出力
SCI5	ユニット0	TMO0, TMO1
SCI6	ユニット1	TMO2, TMO3
SCI12	ユニット0	TMO0, TMO1

TMR ユニット 0 の TMO0、TMO1 出力を選択したときの設定例を図 27.4 に示します。

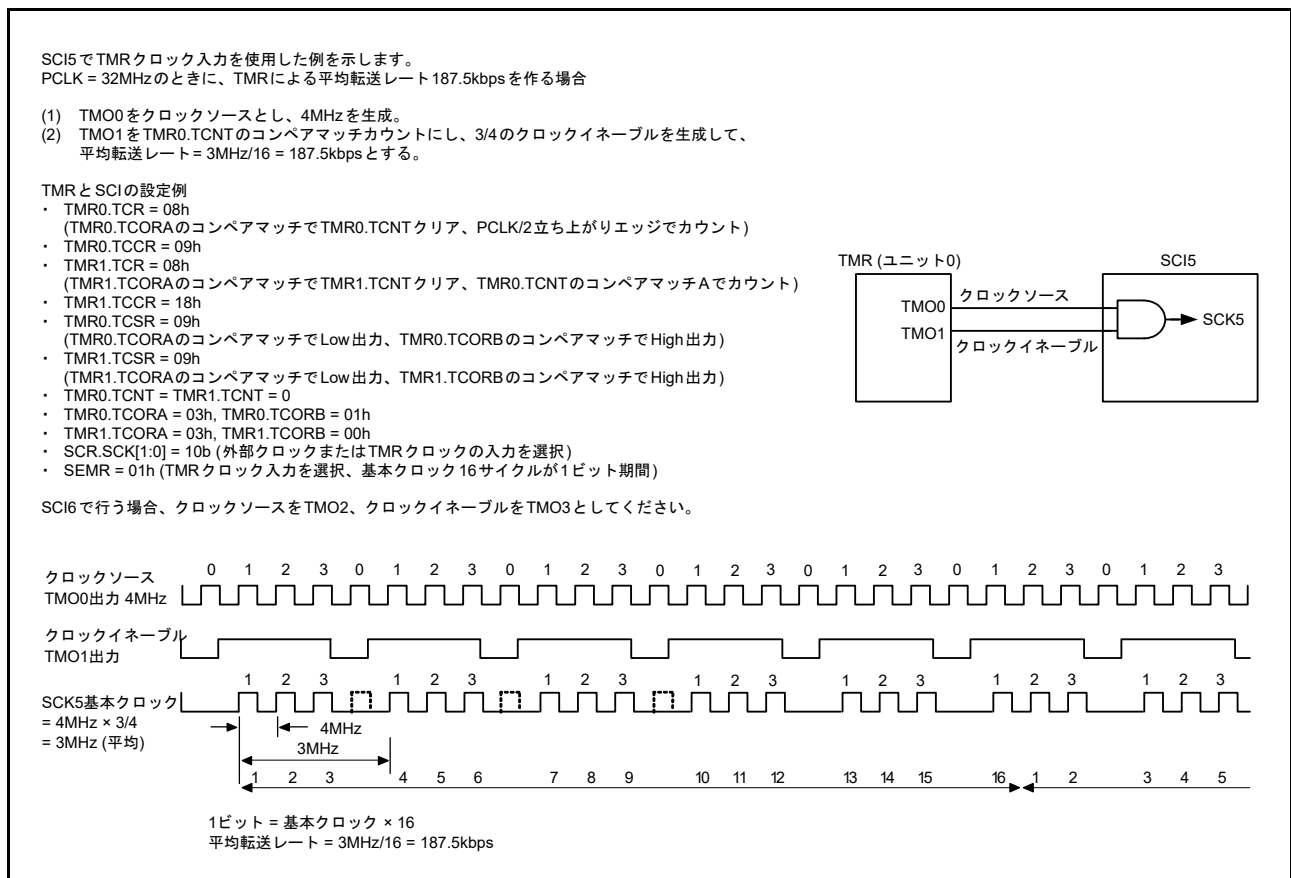


図 27.4 TMR クロック入力時の平均転送レート設定例

ITE ビット (即時送信許可ビット)

調歩同期式モードにおいて、内部待機期間なしでデータ送信を開始させるためのビットです。“0”の場合、SCR.TE ビットを“1”にしてからデータ送信が開始されるまでに、1 フレーム分の内部待機期間を確保します。“1”にすると、SCR.TE ビットを“1”にした直後にデータ送信が開始されます。

BRME ビット (ビットレートモジュレーションイネーブルビット)

ビットレートモジュレーション機能の有効、無効を選択します。有効にすると、内蔵ボーレートジェネレータにより生成されるビットレートを平均的に補正します。

ABCSE ビット (調歩同期基本クロックセレクト拡張ビット)

このビットを“1”にすると、基本クロック 6 サイクルの期間が 1 ビット期間の転送レートになります。また、内蔵ボーレートジェネレータから 2 倍の周波数のクロックが出力されます。

調歩同期式モード (SMR.CM ビット=0) で、クロックソースに内蔵ボーレートジェネレータを選択 (SCR.CKE[1] ビット=0) したときに有効です。

なお、ビットレートを PCLK の 1/6 の周波数にする場合は、このビットを“1”にするとともに、SMR.CKS[1:0] ビットを“00b”に、BRR レジスタを“00h”にしてください。

NFEN ビット (デジタルノイズフィルタ機能イネーブルビット)

デジタルノイズフィルタ機能の有効、無効を選択します。

有効にすると、調歩同期式モードの場合は、RXDn 入力信号のノイズを除去し、簡易 I²C モードの場合は SSDAn、SSCLn の入力信号のノイズを除去します。

上記以外のモードでは NFEN ビットを“0”にし、デジタルノイズフィルタ機能を無効にしてください。

デジタルノイズフィルタ機能を無効にすると、入力信号がそのまま内部信号として伝えられます。

BGDM ビット (ボーレートジェネレータ倍速モードセレクトビット)

ボーレートジェネレータの出力クロックの周期を選択します。

調歩同期式モード (SMR.CM ビット=0) で、クロックソースに内蔵ボーレートジェネレータを選択 (SCR.CKE[1] ビット=0) したときに有効です。内蔵ボーレートジェネレータから通常の周波数のクロックを出力するか、2 倍の周波数のクロックを出力するかを選択できます。ボーレートジェネレータから出力されるクロックは基本クロックの生成に使用されます。BGDM ビット=1 を設定すると基本クロックの周期が 1/2 倍になり、ビットレートが 2 倍になります。

調歩同期式モード以外では“0”を設定してください。

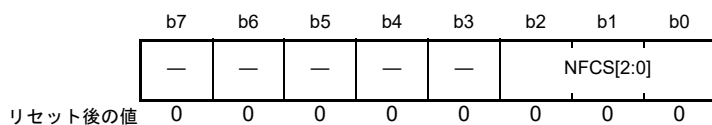
RXDESEL ビット (調歩同期スタートビットエッジ検出セレクトビット)

調歩同期式モード受信動作におけるスタートビットの検出方法を選択します。本ビットの設定によりブレイク時の動作が異なります。ブレイク中に受信動作を停止させたい場合、およびブレイク終了後に RXDn 端子入力を 1 フレーム期間以上 High レベルに保持せず受信を開始する場合は“1”を設定してください。

調歩同期式モード以外では“0”を設定してください。

27.2.14 ノイズフィルタ設定レジスタ (SNFR)

アドレス SCI1.SNFR 0008 A028h, SCI5.SNFR 0008 A0A8h, SCI6.SNFR 0008 A0C8h, SCI8.SNFR 0008 A108h, SCI9.SNFR 0008 A128h, SCI12.SNFR 0008 B308h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	NFCS[2:0]	ノイズフィルタクロックセレクトビット	調歩同期式モード時、基本クロック基準で b2 b0 0 0 0 : 1分周のクロックをノイズフィルタに使用 簡易 I ² C モード時、SMR.CKS[1:0] ビットで選択した内蔵 ボーレートジェネレータのクロックソース基準で b2 b0 0 0 1 : 1分周のクロックをノイズフィルタに使用 0 1 0 : 2分周のクロックをノイズフィルタに使用 0 1 1 : 4分周のクロックをノイズフィルタに使用 1 0 0 : 8分周のクロックをノイズフィルタに使用 上記以外は設定しないでください	R/W (注1)
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. SCR.TE ビット=0、SCR.RE ビット=0 (シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止) の場合のみ書き込み可能です。

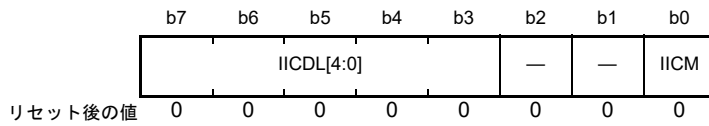
NFCS[2:0] ビット (ノイズフィルタクロックセレクトビット)

デジタルノイズフィルタのサンプリングクロックを選択します。

調歩同期式モード時にノイズフィルタを使用する場合、“000b”を設定してください。簡易 I²C モード時は“001b”～“100b”の中で設定してください。

27.2.15 I²C モードレジスタ 1 (SIMR1)

アドレス SCI1.SIMR1 0008 A029h, SCI5.SIMR1 0008 A0A9h, SCI6.SIMR1 0008 A0C9h, SCI8.SIMR1 0008 A109h, SCI9.SIMR1 0008 A129h, SCI12.SIMR1 0008 B309h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICM	簡易I ² Cモードセレクトビット	SMIF IICM 0 0: 調歩同期式モード、マルチプロセッサモード、 クロック同期式モード (調歩同期式、クロック同期式モードまたは簡易 SPIモード) 0 1: 簡易I ² Cモード 1 0: スマートカードインタフェースモード 1 1: 設定しないでください	R/W (注1)
b2-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7-b3	IICDL[4:0]	SSDA出力遅延セレクトビット	(内蔵ポーレートジェネレータのクロックソース基準) b7 b3 00000: 出力遅延なし 00001: 0~1サイクル 00010: 1~2サイクル 00011: 2~3サイクル 00100: 3~4サイクル 00101: 4~5サイクル : : 11110: 29~30サイクル 11111: 30~31サイクル	R/W (注1)

注1. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

SIMR1レジスタは、簡易I²Cモード、およびSSDA出力遅延段数を選択するためのレジスタです。

IICMビット (簡易I²Cモードセレクトビット)

SCMR.SMIFビットとの組み合わせで、動作モードを選択します。

IICDL[4:0]ビット (SSDA出力遅延セレクトビット)

SSCL_n端子出力の立ち下がりに対するSSDA_n端子出力の遅延を選択します。内蔵ポーレートジェネレータのクロックソースを1サイクルとし、遅延なし~31サイクルまでの選択が可能です。内蔵ポーレートジェネレータのクロックソースとは、PCLKをSMR.CKS[1:0]ビットの設定により分周されたクロックを指します。簡易I²Cモード以外では“00000b”を設定してください。簡易I²Cモード時は、“00001b”~“11111b”のいずれかを設定してください。

27.2.16 I²C モードレジスタ 2 (SIMR2)

アドレス SCI1.SIMR2 0008 A02Ah, SCI5.SIMR2 0008 A0AAh, SCI6.SIMR2 0008 A0CAh, SCI8.SIMR2 0008 A10Ah, SCI9.SIMR2 0008 A12Ah, SCI12.SIMR2 0008 B30Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	IICACK T	—	—	—	IICCS C	IICINT M
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICINTM	I ² C 割り込みモードセレクトビット	0 : ACK/NACK 割り込みを使用 1 : 受信割り込み、送信割り込みを使用	R/W (注1)
b1	IICCS	クロック同期化ビット	0 : クロック同期を行わない 1 : クロック同期を行う	R/W (注1)
b4-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	IICACKT	ACK送信データビット	0 : ACK送信 1 : NACK送信またはACK/NACK受信	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. SCR.TE ビット=0、SCR.RE ビット=0 (シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止) の場合のみ書き込み可能です。

SIMR2 レジスタは、簡易 I²C モードの送受信制御を選択するためのレジスタです。

IICINTM ビット (I²C 割り込みモードセレクトビット)

簡易 I²C モード時の割り込み要求の要因を選択します。

IICCS ビット (クロック同期化ビット)

他のデバイスがウェイトを挿入するなどの目的で、SSCLn 端子を Low にしたとき、内部で生成する SSCLn クロックを同期化する場合は、IICCS ビットに“1”を設定します。

IICCS ビットに“0”を設定すると、SSCLn クロックの同期化は行いません。SSCLn 端子入力に関わらず、BRR レジスタで設定したビットレートにしたがって SSCLn クロックを生成します。

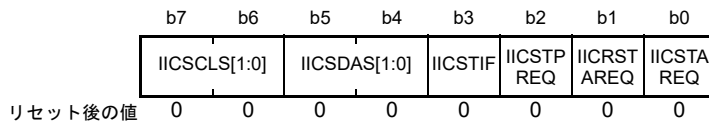
デバッグ時を除いて IICCS ビットには“1”を設定してください。

IICACKT ビット (ACK 送信データビット)

送信データの ACK ビットを格納します。ACK/NACK ビット受信時は“1”を設定してください。

27.2.17 I²C モードレジスタ 3 (SIMR3)

アドレス SCI1.SIMR3 0008 A02Bh, SCI5.SIMR3 0008 A0ABh, SCI6.SIMR3 0008 A0CBh, SCI8.SIMR3 0008 A10Bh, SCI9.SIMR3 0008 A12Bh, SCI12.SIMR3 0008 B30Bh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICSTAREQ	開始条件生成ビット	0 : 開始条件を生成しない 1 : 開始条件を生成 (注1、注3、注4、注5)	R/W
b1	IICRSTAREQ	再開条件生成ビット	0 : 再開条件を生成しない 1 : 再開条件を生成 (注2、注3、注4、注5)	R/W
b2	IICSTPREQ	停止条件生成ビット	0 : 停止条件を生成しない 1 : 停止条件を生成 (注2、注3、注4、注5)	R/W
b3	IICSTIF	開始/再開/停止条件生成完了フラグ	0 : 各条件生成要求がない状態、または生成中の状態 1 : 各条件生成が完了した状態	R/W
b5-b4	IICSDAS[1:0]	SSDA出力セレクトビット	b5 b4 0 0 : シリアルデータ出力 0 1 : 開始条件、再開条件、停止条件の生成 1 0 : SSdAn端子はLowを出力 1 1 : SSdAn端子はハイインピーダンス状態	R/W
b7-b6	IICSCLS[1:0]	SSCL出力セレクトビット	b7 b6 0 0 : シリアルクロック出力 0 1 : 開始条件、再開条件、停止条件の生成 1 0 : SSCLn端子はLowを出力 1 1 : SSCLn端子はハイインピーダンス状態	R/W

注1. SSCLn端子とSSdAn端子が両方ともHigh (それぞれの端子に対応するPIDRレジスタのビットが“1”)のときに開始条件生成を行ってください。

注2. SSCLn端子がLow (対応するPIDRレジスタのビットが“0”)のときに再開条件生成または停止条件生成を行ってください。

注3. IICSTAREQビット、IICRSTAREQビット、IICSTPREQビットの2つ以上を“1”にしないでください。

注4. IICSTIFフラグを“0”にしてから、各条件生成を行ってください。

注5. “1”の状態を“0”を書き込まないでください。“1”の状態を“0”を書きこむと、コンディション生成が中断します。

SIMR3 レジスタは、簡易 I²C モードの開始条件、停止条件生成、および、SSdAn 端子、SSCLn 端子の出力値固定を制御するためのレジスタです。

IICSTAREQ ビット (開始条件生成ビット)

開始条件の生成を行うときは、IICSTAREQ ビットを“1”にするとともに、IICSDAS[1:0] ビット、IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ“01b”にしてください。

[“1”になる条件]

- “1”を書き込んだとき

[“0”になる条件]

- 開始条件の生成が完了したとき

IICRSTAREQ ビット (再開条件生成ビット)

再開条件の生成を行うときは、IICRSTAREQ ビットを“1”にするとともに、IICSDAS[1:0] ビット、IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ“01b”にしてください。

["1"になる条件]

- “1”を書き込んだとき

["0"になる条件]

- 再開条件の生成が完了したとき

IICSTPREQ ビット (停止条件生成ビット)

停止条件の生成を行うときは、IICSTPREQ ビットを“1”にするとともに、IICSDAS[1:0] ビット、IICSCLS[1:0] ビットをそれぞれ“01b”にしてください。

["1"になる条件]

- “1”を書き込んだとき

["0"になる条件]

- 停止条件の生成が完了したとき

IICSTIF フラグ (開始 / 再開 / 停止条件生成完了フラグ)

各条件生成実行後、生成完了した状態を示します。IICRSTAREQ ビット、IICRSTAREQ ビット、IICSTPREQ ビットにより各条件の生成を行うときは、IICSTIF フラグを“0”にしてから生成を実行してください。

SCR.TEIE ビットで割り込み要求が許可された状態で、IICSTIF フラグが“1”の場合に開始 / 再開 / 停止条件生成完了割り込み (STI) 要求が出力されます。

["1"になる条件]

- 開始 / 再開 / 停止の各条件の生成が完了したとき (ただし“0”になる条件と競合した場合は“0”になる条件が優先されます。)

["0"になる条件]

- “0”を書き込んだとき (IICSTIF フラグが“0”になったことを確認してください。)
- SIMR1.IICM ビットが“0”のとき (簡易 I²C モード以外の場合)
- SCR.TE ビットが“0”のとき

IICSDAS[1:0] ビット (SSDA 出力セレクトビット)

SSDAn 端子からの出力を制御します。

通常動作時は、IICSDAS[1:0] ビットと IICSCLS[1:0] ビットは同じ値にしてください。

IICSCLS[1:0] ビット (SSCL 出力セレクトビット)

SSCLn 端子からの出力を制御します。

通常動作時は、IICSCLS[1:0] ビットと IICSDAS[1:0] ビットは同じ値にしてください。

27.2.18 I²C ステータスレジスタ (SISR)

アドレス SCI1.SISR 0008 A02Ch, SCI5.SISR 0008 A0ACh, SCI6.SISR 0008 A0CCh, SCI8.SISR 0008 A10Ch, SCI9.SISR 0008 A12Ch, SCI12.SISR 0008 B30Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	IICACKR
リセット後の値	0	0	x	x	0	x	0	0

x: 不定

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	IICACKR	ACK受信データフラグ	0 : ACK受信 1 : NACK受信	R/W (注1)
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	—	予約ビット	読み出し値は不定です	R
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読み出し値は不定です	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。

SISR レジスタは、簡易 I²C モード関連のステータスをモニタします。

IICACKR フラグ (ACK 受信データフラグ)

受信された ACK/NACK ビットを読み出すことができます。

IICACKR フラグは、ACK/NACK を受信するビットの SSCLn クロックの立ち上がりのタイミングで更新されます。

27.2.19 SPI モードレジスタ (SPMR)

アドレス SCI1.SPMR 0008 A02Dh, SCI5.SPMR 0008 A0ADh, SCI6.SPMR 0008 A0CDh, SCI8.SPMR 0008 A10Dh, SCI9.SPMR 0008 A12Dh, SCI12.SPMR 0008 B30Dh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CKPH	CKPOL	—	MFF	—	MSS	CTSE	SSE

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SSE	SSn#端子機能イネーブルビット	0: SSn#端子機能禁止 1: SSn#端子機能許可	R/W (注1)
b1	CTSE	CTSイネーブルビット	0: CTS機能禁止(RTS出力機能有効) 1: CTS機能許可	R/W (注1)
b2	MSS	マスタスレーブセレクトビット	0: SMOSIn端子: 送信、SMISOn端子: 受信(マスタモード) 1: SMOSIn端子: 受信、SMISOn端子: 送信(スレーブモード)	R/W (注1)
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	MFF	モードフォルトフラグ	0: モードフォルトエラーなし 1: モードフォルトエラーあり	R/W (注2)
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	CKPOL	クロック極性セレクトビット	0: クロック極性反転なし 1: クロック極性反転あり	R/W (注1)
b7	CKPH	クロック位相セレクトビット	0: クロック遅れなし 1: クロック遅れあり	R/W (注1)

注1. SCR.TEビット=0、SCR.REビット=0(シリアル送信動作を禁止、かつシリアル受信動作を禁止)の場合のみ書き込み可能です。

注2. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。

SPMRレジスタは、調歩同期式モードおよびクロック同期式モードの拡張設定を選択するためのレジスタです。

SSE ビット (SSn# 端子機能イネーブルビット)

SSn# 端子を用いて送受信制御を行う場合(簡易 SPI モード)は“1”を設定します。それ以外の通信モードでは“0”を設定してください。なお、簡易 SPI モードでも、マスタモード(SCR.CKE[1:0]ビット=00bかつMSSビット=0)かつシングルマスタで使用するときは、マスタ側のSSn#端子を用いた送受信制御は不要であり、SSEビットは“0”を設定します。SSEビット、CTSEビットの両方を有効にしないでください(設定した場合、両ビット共に“0”にしたときと同じ動作となります)。

CTSE ビット (CTS イネーブルビット)

SSn# 端子をCTS制御信号入力として用いて送受信制御を行う場合は“1”を設定します。“0”を設定している状態ではRTSn#信号を出力します。スマートカードインタフェースモード、簡易 SPI モード、簡易 I²Cモード時は“0”を設定してください。CTSEビット、SSEビットの両方を有効にしないでください(設定した場合、両ビット共に“0”にしたときと同じ動作となります)。

MSS ビット (マスタスレーブセレクトビット)

簡易 SPI モード時にマスタモード、スレーブモードを選択します。MSSビットを“1”にすると、SMOSIn端子から受信データを入力し、SMISOn端子から送信データを出力します。

簡易 SPI モード以外では“0”にしてください。

MFF フラグ (モードフォルトフラグ)

モードフォルトエラーが発生したことを表示します。

マルチマスタ時は MFF フラグの読み出しにより、モードフォルトエラーを判定してください。

[“1”になる条件]

- 簡易 SPI モードのマスタモード設定時(SSE ビット = 1 かつ MSS ビット = 0)に、SSn# 端子入力が Low になったとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき

CKPOL ビット (クロック極性セレクトビット)

SCKn 端子からのクロック出力の極性を選択します。詳細は、[図 27.62](#)を参照してください。

簡易 SPI モードおよびクロック同期式モード以外では“0”としてください。

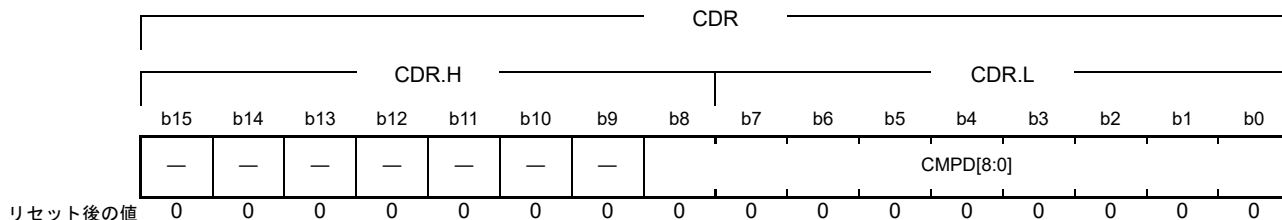
CKPH ビット (クロック位相セレクトビット)

SCKn 端子からのクロック出力の位相設定を選択します。詳細は、[図 27.62](#)を参照してください。

簡易 SPI モードおよびクロック同期式モード以外では“0”としてください。

27.2.20 比較データレジスタ (CDR)

アドレス SCI1.CDR 0008 A03Ah, SCI5.CDR 0008 A0BAh,
SCI1.CDR.H 0008 A03Ah, SCI5.CDR.H 0008 A0BAh,
SCI1.CDR.L 0008 A03Bh, SCI5.CDR.L 0008 A0BBh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b8-b0	CMPD[8:0]	比較データビット	データ一致検出機能を使用する場合の比較元データを設定します	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R

CMPD[8:0] ビット (比較データビット)

データ一致検出機能で使します。有効ビット長は、SMR.CHR ビットと SCMR.CHR1 ビットで設定したキャラクタ長と同じです。

受信データとこのビットに設定した値が一致すると、DCCR.DCMF フラグが“1”になります。

27.2.21 データ比較制御レジスタ (DCCR)

アドレス SCI1.DCCR 0008 A033h, SCI5.DCCR 0008 A0B3h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
DCME	IDSEL	—	DFER	DPER	—	—	DCMF

リセット後の値 0 1 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DCMF	データ一致フラグ	0: データ不一致 1: データ一致	R/(W) (注1)
b2-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	DPER	一致データパリティエラーフラグ	0: 一致したデータにパリティエラーなし 1: 一致したデータにパリティエラーあり	R/(W) (注1)
b4	DFER	一致データフレーミングエラーフラグ	0: 一致したデータにフレーミングエラーなし 1: 一致したデータにフレーミングエラーあり	R/(W) (注1)
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	IDSEL	IDフレーム選択ビット(注2)	0: すべての受信データを比較する 1: マルチプロセッサビットが“1”の受信データのみ比較する	R/W
b7	DCME	データ一致検出機能許可ビット(注2)	0: データ一致検出機能無効 1: データ一致検出機能有効	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。フラグをクリアするには、“1”であることを確認した後、“0”を書いてください。

注2. 調歩同期モードでのみ有効です。

DCMF フラグ (データ一致フラグ)

受信データと CDR レジスタの値を比較した結果を示します。

["1"]になる条件]

- DCME ビットが“1”の場合に、受信データと CDR レジスタの値が一致したとき

["0"]になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき
SCR.RE ビットを“0”にしても、DCMF フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

DPER フラグ (一致データパリティエラーフラグ)

一致したデータのパリティエラーの有無を示します。

["1"]になる条件]

- データ一致を検出した受信データにパリティエラーがあったとき

["0"]になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき

DPER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。

SCR.RE ビットを“0”にしても、DPER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

DFER フラグ (一致データフレーミングエラーフラグ)

一致したデータのフレーミングエラーの有無を示します。

[“1”になる条件]

- データ一致を検出した受信フレームのストップビットが“0”であったとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読み出した後、“0”を書き込んだとき

DFER フラグを“0”にして割り込み処理ルーチンを終了する場合は、「14.4.1.2 レベル検出の割り込みステータスフラグ」の手順を参照してください。

SCR.RE ビットを“0”にしても、DFER フラグは影響を受けず以前の状態を保持します。

IDSEL ビット (ID フレーム選択ビット)

比較する受信データの条件を指定します。DCME ビットが“1”のときのみ有効です。

このビットを“1”にすると、マルチプロセッサビットが“1”の受信フレーム (ID フレーム) 内のデータだけを比較します。

このビットを“0”にすると、すべての受信データを比較します。

DCME ビット (データ一致検出機能許可ビット)

データ一致検出機能の有効/無効を設定するビットです。データ一致検出機能は調歩同期式モードでのみ有効です。これ以外のモードでは“0”にしてください。

このビットは、データの一致を検出すると自動的に“0”に戻ります。

27.2.22 シリアルポートレジスタ (SPTR)

アドレス SCI1.SPTR 0008 A03Ch, SCI5.SPTR 0008 A0BCh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TTADJ	RTADJ	TINV	RINV	—	SPB2IO	SPB2DT	RXDMON
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RXDMON	RXDラインモニタフラグ	RINVビットが“0”のとき 0 : RXDn端子はLow 1 : RXDn端子はHigh RINVビットが“1”のとき 0 : RXDn端子はHigh 1 : RXDn端子はLow	R
b1	SPB2DT	シリアルポートブ레이크データビット (注1)	SCR.TEビット、SPB2DTビット、SPB2IOビット、TINVビットを組み合わせ、TXDn端子を制御します。詳細は表 27.29を参照してください	R/W
b2	SPB2IO	シリアルポートブ레이크入出力ビット (注1)		R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R
b4	RINV	受信入力反転ビット (注2)	0 : RXD端子からの入力信号を反転しない 1 : RXD端子からの入力信号を反転する	R/W (注3)
b5	TINV	送信出力反転ビット (注2)	0 : TXD端子への出力信号を反転しない 1 : TXD端子への出力信号を反転する	R/W (注3)
b6	RTADJ	受信データサンプリングタイミング調整ビット (注4)	0 : 受信データのサンプリングポイントを調整しない 1 : 受信データのサンプリングポイントを調整する	R/W (注3)
b7	TTADJ	送信信号変化タイミング調整ビット (注4)	0 : 送信データの変化タイミングを調整しない 1 : 送信データの変化タイミングを調整する	R/W (注3)

注1. 調歩同期式モードでのみ有効です。

注2. スマートカードインタフェースモード、簡易I²Cモードで動作させる場合は、“0”にしてください。

注3. SCR.TEビットとREビットがともに“0”のときのみ書き換え可能です。

注4. 調歩同期式モードで、クロックソースに内蔵ポーレートジェネレータを選択したときのみ有効です。

RXDMON フラグ (RXD ラインモニタフラグ)

RXDn 端子のレベルをモニタするためのフラグです。

SPB2DT ビット (シリアルポートブ레이크データビット)

SCR.TE ビットが“0”のときに、TXDn 端子の出力レベルを指定するビットです。詳細は表 27.29 を参照してください。

SPB2IO ビット (シリアルポートブ레이크入出力ビット)

SCR.TE ビットが“0”のときに、TXDn 端子の入出力を指定するビットです。TXDn 端子をソフトウェアで制御する場合は、“1” (出力) に設定してください。

表 27.29 TXDn 端子の制御

SCR.TE ビットの設定値	SPB2IO ビットの設定値	SPB2DT ビットの設定値	TINV ビットの設定値	TXDn 端子の状態
0 (送信禁止)	0 (入力)	任意	任意	Hi-Z
	1 (出力)	0	0	Low を出力
			1	High を出力
		1	0	High を出力
			1	Low を出力
1 (送信許可)	任意	任意	任意	送信データ出力端子

RINV ビット (受信入力反転ビット)

RXDn 端子からの入力信号をレシーブシフトレジスタの手前で論理反転するビットです。データビットだけでなく、スタートビット、パリティビット、ストップビットも反転します。

TINV ビット (送信出力反転ビット)

トランスミットシフトレジスタの出力信号を TXDn 端子の手前で論理反転するビットです。データビットだけでなく、スタートビット、パリティビット、ストップビットも反転します。

RTADJ ビット (受信データサンプリングタイミング調整ビット)

受信データのサンプリングポイントを、デフォルトの位置から変更するビットです。伝送線路や途中のデバイスの特性により、受信信号の High/Low 幅が変化してしまった場合などに、受信マージンを改善するために使用します。通常は“0”にしてください。

TTADJ ビット (送信信号変化タイミング調整ビット)

送信信号の High/Low が変化するタイミングを、デフォルトの位置から変更するビットです。伝送線路や途中のデバイスの特性により、送信信号の High/Low 幅が変化することが予想される場合などに、相手デバイスの受信マージンを改善するために使用します。通常は“0”にしてください。

27.2.23 送受信タイミング選択レジスタ (TMGR)

アドレス SCI1.TMGR 0008 A03Dh, SCI5.TMGR 0008 A0BDh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	RTMG[3:0]	受信データサンプリングタイミング選択ビット (注1)	b3 b0 1111: デフォルト位置から7クロック前でサンプリング 1110: デフォルト位置から6クロック前でサンプリング 1101: デフォルト位置から5クロック前でサンプリング 1100: デフォルト位置から4クロック前でサンプリング 1011: デフォルト位置から3クロック前でサンプリング 1010: デフォルト位置から2クロック前でサンプリング 1001: デフォルト位置から1クロック前でサンプリング x000: デフォルト位置でサンプリング 0001: デフォルト位置から1クロック後でサンプリング 0010: デフォルト位置から2クロック後でサンプリング 0011: デフォルト位置から3クロック後でサンプリング 0100: デフォルト位置から4クロック後でサンプリング 0101: デフォルト位置から5クロック後でサンプリング 0110: デフォルト位置から6クロック後でサンプリング 0111: デフォルト位置から7クロック後でサンプリング	R/W (注2)
b7-b4	TTMG[3:0]	送信信号変化タイミング選択ビット (注3)	b7 b4 1111: “1”から“0”への変化を7クロック遅らせる 1110: “1”から“0”への変化を6クロック遅らせる 1101: “1”から“0”への変化を5クロック遅らせる 1100: “1”から“0”への変化を4クロック遅らせる 1011: “1”から“0”への変化を3クロック遅らせる 1010: “1”から“0”への変化を2クロック遅らせる 1001: “1”から“0”への変化を1クロック遅らせる x000: 波形を変化させない 0001: “0”から“1”への変化を1クロック遅らせる 0010: “0”から“1”への変化を2クロック遅らせる 0011: “0”から“1”への変化を3クロック遅らせる 0100: “0”から“1”への変化を4クロック遅らせる 0101: “0”から“1”への変化を5クロック遅らせる 0110: “0”から“1”への変化を6クロック遅らせる 0111: “0”から“1”への変化を7クロック遅らせる	R/W (注4)

- 注1. SPTR.RTADJビットが“1”のときのみ有効です。
 注2. SPTR.RTADJビットが“0”のときのみ書き換え可能です。
 注3. SPTR.TTADJビットが“1”のときのみ有効です。
 注4. SPTR.TTADJビットが“0”のときのみ書き換え可能です。

TMGR レジスタは受信データのサンプリングタイミングや送信データの変化タイミングを調整するレジスタです。調歩同期式モードで、クロックソースに内蔵ボーレートジェネレータを選択したときのみ有効です。本レジスタは、SCI6、SCI8、SCI9、SCI12にはありません。

RTMG[3:0] ビット (受信データサンプリングタイミング選択ビット)

受信データのサンプリングポイントを選択するビットです。SPTR.RTADJビットが“1”のときのみ有効です。RTMG[3]ビットが“0”の場合、デフォルト位置より後ろで、“1”の場合、前でサンプリングします。

RTMG[2:0]ビットにはサンプリングポイントの移動量を基本クロックの数で設定します。設定可能な値の範囲については、表 27.30 を参照してください。

表27.30 RTMG[2:0]ビットに設定可能な値の範囲

SEMR.ABCSEビットの設定値	SEMR.ABCSビットの設定値	データビットの幅	設定可能な値の範囲
0	0	16 サイクル	0~7 ("000b"~"111b")
0	1	8 サイクル	0~3 ("000b"~"011b")
1	任意	6 サイクル	0~2 ("000b"~"010b")

TTMG[3:0] ビット (送信信号変化タイミング選択ビット)

トランスミットシフトレジスタにおける送信信号の変化タイミングを選択するビットです。SPTR.TTADJビットが“1”のときのみ有効です。

TTMG[3] ビットが“0”の場合、“0”から“1”に変化するタイミングを、TTMG[3] ビットが“1”の場合、“1”から“0”に変化するタイミングを遅らせます。SPTR.TINV ビットの値により、TXDn 端子からの出力波形は以下のように変化します。

(1) SPTR.TINV ビットが“0”の場合

TTMG[3] ビットが“0”の場合、Low から High への変化 (立ち上がりエッジ) が遅れるため、High 幅が Low 幅より短くなります。

TTMG[3] ビットが“1”の場合、High から Low への変化 (立ち下がりエッジ) が遅れるため、High 幅が Low 幅より長くなります。

(2) TINV ビットが“1”の場合

TTMG[3] ビットが“0”の場合、High から Low への変化 (立ち下がりエッジ) が遅れるため、High 幅が Low 幅より長くなります。

TTMG[3] ビットが“1”の場合、Low から High への変化 (立ち上がりエッジ) が遅れるため、High 幅が Low 幅より短くなります。

TTMG[2:0] ビットには遅延量を基本クロックの数で設定します。設定可能な値の範囲については、表 27.31 を参照してください。

表27.31 TTMG[2:0]ビットに設定可能な値の範囲

SEMR.ABCSEビットの設定値	SEMR.ABCSビットの設定値	データビットの幅	設定可能な値の範囲
0	0	16 サイクル	0~7 ("000b"~"111b")
0	1	8 サイクル	0~7 ("000b"~"111b")
1	任意	6 サイクル	0~5 ("000b"~"101b")

27.2.24 拡張シリアルモード有効レジスタ (ESMER)

アドレス SCI12.ESMER 0008 B320h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	ESME

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ESME	拡張シリアルモード有効ビット	0 : 拡張シリアルモード無効 1 : 拡張シリアルモード有効	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ESME ビット (拡張シリアルモード有効ビット)

ESME ビットが“1”の場合、拡張シリアルモード制御部が有効となります。

ESME ビットを“0”にすると、拡張シリアルモード制御部は初期化された状態になります。

表27.32 ESME ビットの設定とタイマ動作モード

ESME ビット	タイマモード	Break Field Low width 判定モード	Break Field Low width 出力モード
0	使用可能 (注1)	使用不可能	使用不可能
1	使用可能	使用可能	使用可能

注1. PCLK 選択時のみ動作します。

27.2.25 コントロールレジスタ 0 (CR0)

アドレス SCI12.CR0 0008 B321h

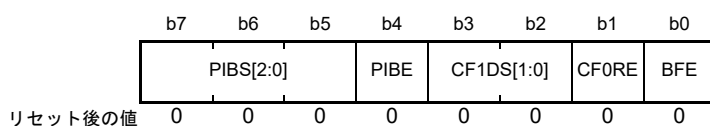
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	BRME	RXDSF	SFSF	—

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b1	SFSF	Start Frame ステータスフラグ	0 : Start Frame 検出機能無効状態 1 : Start Frame 検出機能有効状態	R
b2	RXDSF	RXDX12 入力ステータスフラグ	0 : RXDX12 入力許可状態 1 : RXDX12 入力禁止状態	R
b3	BRME	ビットレート測定イネーブルビット	0 : ビットレート測定無効 1 : ビットレート測定有効	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

27.2.26 コントロールレジスタ 1 (CR1)

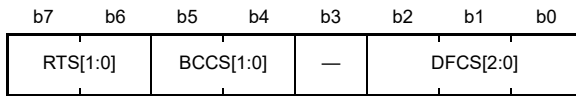
アドレス SCI12.CR1 0008 B322h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BFE	Break Fieldイネーブルビット	0 : Break Fieldの検出が無効 1 : Break Fieldの検出が有効	R/W
b1	CF0RE	Control Field 0受信イネーブルビット	0 : Control Field 0受信無効 1 : Control Field 0受信有効	R/W
b3-b2	CF1DS[1:0]	Control Field 1データレジスタ選択ビット	b3 b2 00 : PCF1DRを比較データに選択 01 : SCF1DRを比較データに選択 10 : PCF1DRおよびSCF1DRを比較データに選択 11 : 設定しないでください	R/W
b4	PIBE	プラリオリティインタラプトビットイネーブルビット	0 : プライオリティインタラプトビット無効 1 : プライオリティインタラプトビット有効	R/W
b7-b5	PIBS[2:0]	プラリオリティインタラプトビットセレクトビット	b7 b5 000 : Control Field 1 0ビット目 001 : Control Field 1 1ビット目 010 : Control Field 1 2ビット目 011 : Control Field 1 3ビット目 100 : Control Field 1 4ビット目 101 : Control Field 1 5ビット目 110 : Control Field 1 6ビット目 111 : Control Field 1 7ビット目	R/W

27.2.27 コントロールレジスタ 2 (CR2)

アドレス SCI12.CR2 0008 B323h



リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	DFCS[2:0]	RXDX12信号デジタルフィルタ クロック選択ビット	b2 b0 0 0 0 : フィルタ無効 0 0 1 : フィルタクロックは基本クロック (注1、注2) 0 1 0 : フィルタクロックはPCLK/8 0 1 1 : フィルタクロックはPCLK/16 1 0 0 : フィルタクロックはPCLK/32 1 0 1 : フィルタクロックはPCLK/64 1 1 0 : フィルタクロックはPCLK/128 1 1 1 : 設定しないでください	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5-b4	BCCS[1:0]	バス衝突検出クロック選択 ビット	<ul style="list-style-type: none"> SEMR.BGDMビットが“0”または、SEMR.BGDMビットが“1”かつSMR.CKS[1:0]ビットが“00b”以外の場合 b5 b4 0 0 : 基本クロック 0 1 : 基本クロックの2分周 1 0 : 基本クロックの4分周 1 1 : 設定しないでください	R/W
			<ul style="list-style-type: none"> SEMR.BGDMビットが“1”かつSMR.CKS[1:0]ビットが“00b”の場合 b5 b4 0 0 : 基本クロックの2分周 0 1 : 基本クロックの4分周 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	
b7-b6	RTS[1:0]	RXDX12受信サンプリング タイミング選択ビット	<ul style="list-style-type: none"> SCI12.SEMR.ABCSビット = 0の場合 b7 b6 0 0 : 基本クロックの8クロック目の立ち上がり 0 1 : 基本クロックの10クロック目の立ち上がり 1 0 : 基本クロックの12クロック目の立ち上がり 1 1 : 基本クロックの14クロック目の立ち上がり	R/W
			<ul style="list-style-type: none"> SCI12.SEMR.ABCSビット = 1の場合 b7 b6 0 0 : 基本クロックの4クロック目の立ち上がり 0 1 : 基本クロックの5クロック目の立ち上がり 1 0 : 基本クロックの6クロック目の立ち上がり 1 1 : 基本クロックの7クロック目の立ち上がり	

注. 基本クロックとは、SCI12.SEMR.ABCS = 0のとき、1データ期間の1/16の周期、SCI12.SEMR.ABCS = 1のとき、1データ期間の1/8の周期です。

注1. 基本クロックを使用する場合、SCI12.SCR.TEビットを“1”にしてください。

注2. SEMR.BGDMビットが“1”かつSMR.CKS[1:0]ビットが“00b”の場合は基本クロックの2分周がフィルタクロックとなります。

27.2.28 コントロールレジスタ 3 (CR3)

アドレス SCI12.CR3 0008 B324h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	SDST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SDST	Start Frame検出開始ビット	0 : Start Frameの検出を行わない 1 : Start Frameの検出を行う	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SDST ビット (Start Frame 検出開始ビット)

SDST ビットを“1”にすると Start Frame の検出を開始します。読むと“0”が読み出されます。

27.2.29 ポートコントロールレジスタ (PCR)

アドレス SCI12.PCR 0008 B325h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SHARPS	—	—	RXDXP S	TXDXP S
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TXDXPS	TXDX12信号極性選択ビット	0 : TXDX12信号極性を反転せずに出力 1 : TXDX12信号極性を反転して出力	R/W
b1	RXDXP S	RXD12信号極性選択ビット	0 : RXDX12極性を反転せずに入力 1 : RXDX12極性を反転して入力	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	SHARPS	TXDX12/RXD12端子兼用選択ビット	0 : TXDX12端子、RXDX12端子独立 1 : TXDX12/RXD12端子兼用	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SHARPS ビット (TXDX12/RXD12 端子兼用選択ビット)

SHARPS ビットが“1”の場合、TXDX12/RXD12 端子を兼用した半二重通信が可能となります。

27.2.30 割り込みコントロールレジスタ (ICR)

アドレス SCI12.ICR 0008 B326h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	AEDIE	BCDIE	PIBDIE	CF1MIE	CF0MIE	BFDIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BFDIE	Break Field Low width 検出割り込み許可ビット	0 : Break Field Low width 検出割り込み禁止 1 : Break Field Low width 検出割り込み許可	R/W
b1	CF0MIE	Control Field 0一致割り込み許可ビット	0 : Control Field 0一致割り込み禁止 1 : Control Field 0一致割り込み許可	R/W
b2	CF1MIE	Control Field 1一致割り込み許可ビット	0 : Control Field 1一致割り込み禁止 1 : Control Field 1一致割り込み許可	R/W
b3	PIBDIE	プライオリティインタラプトビット検出割り込み許可ビット	0 : プライオリティインタラプトビット検出割り込み禁止 1 : プライオリティインタラプトビット検出割り込み許可	R/W
b4	BCDIE	バス衝突検出割り込み許可ビット	0 : バス衝突検出割り込み禁止 1 : バス衝突検出割り込み許可	R/W
b5	AEDIE	有効エッジ検出割り込み許可ビット	0 : 有効エッジ検出割り込み禁止 1 : 有効エッジ検出割り込み許可	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

27.2.31 ステータスレジスタ (STR)

アドレス SCI12.STR 0008 B327h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	AEDF	BCDF	PIBDF	CF1MF	CF0MF	BFDF

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BFDF	Break Field Low width 検出フラグ	["1"になる条件] • Break Field Low width 検出したとき • Break Field Low width 出力完了したとき • タイマがアンダフローしたとき ["0"になる条件] • STCR.BFDCL ビットに"1"を書いたとき	R
b1	CF0MF	Control Field 0 一致フラグ	["1"になる条件] • Control Field 0 受信データが設定データと一致したとき ["0"になる条件] • STCR.CF0MCL ビットに"1"を書いたとき	R
b2	CF1MF	Control Field 1 一致フラグ	["1"になる条件] • Control Field 1 受信データが設定データと一致したとき ["0"になる条件] • STCR.CF1MCL ビットに"1"を書いたとき	R
b3	PIBDF	プライオリティインタラプト ビット検出フラグ	["1"になる条件] • プライオリティインタラプトビットを検出したとき ["0"になる条件] • STCR.PIBDCL ビットに"1"を書いたとき	R
b4	BCDF	バス衝突検出フラグ	["1"になる条件] • バス衝突を検出したとき ["0"になる条件] • STCR.BCDCL ビットに"1"を書いたとき	R
b5	AEDF	有効エッジ検出フラグ	["1"になる条件] • 有効エッジを検出したとき ["0"になる条件] • STCR.AEDCL ビットに"1"を書いたとき	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと"0"が読めます。書き込みは無効になります	R

27.2.32 ステータスクリアレジスタ (STCR)

アドレス SCI12.STCR 0008 B328h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	AEDCL	BCDCL	PIBDC L	CF1MC L	CF0MC L	BFDCCL

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BFDCCL	BFDFクリアビット	BFDCCLビットを“1”にするとSTR.BFDFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b1	CF0MCL	CF0MFクリアビット	CF0MCLビットを“1”にするとSTR.CF0MFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b2	CF1MCL	CF1MFクリアビット	CF1MCLビットを“1”にするとSTR.CF1MFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b3	PIBDCCL	PIBDFクリアビット	PIBDCCLビットを“1”にするとSTR.PIBDFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b4	BCDCL	BCDFクリアビット	BCDCLビットを“1”にするとSTR.BCDFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b5	AEDCL	AEDFクリアビット	AEDCLビットを“1”にするとSTR.AEDFフラグをクリアします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

27.2.33 Control Field 0 データレジスタ (CF0DR)

アドレス SCI12.CF0DR 0008 B329h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
[Empty Register]							

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

CF0DR レジスタは、Control Field 0 の比較データを格納する 8 ビットのリード/ライト可能なレジスタです。

27.2.34 Control Field 0 コンペアイネーブルレジスタ (CF0CR)

アドレス SCI12.CF0CR 0008 B32Ah

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CF0CE7	CF0CE6	CF0CE5	CF0CE4	CF0CE3	CF0CE2	CF0CE1	CF0CE0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CF0CE0	Control Field 0 0ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット0コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット0コンペ有効	R/W
b1	CF0CE1	Control Field 0 1ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット1コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット1コンペ有効	R/W
b2	CF0CE2	Control Field 0 2ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット2コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット2コンペ有効	R/W
b3	CF0CE3	Control Field 0 3ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット3コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット3コンペ有効	R/W
b4	CF0CE4	Control Field 0 4ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット4コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット4コンペ有効	R/W
b5	CF0CE5	Control Field 0 5ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット5コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット5コンペ有効	R/W
b6	CF0CE6	Control Field 0 6ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット6コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット6コンペ有効	R/W
b7	CF0CE7	Control Field 0 7ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 0 ビット7コンペ無効 1 : Control Field 0 ビット7コンペ有効	R/W

27.2.35 Control Field 0 受信データレジスタ (CF0RR)

アドレス SCI12.CF0RR 0008 B32Bh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

CF0RR レジスタは、Control Field 0 の受信データを格納する 8 ビットのリード可能なレジスタです。

27.2.36 プライマリ Control Field 1 データレジスタ (PCF1DR)

アドレス SCI12.PCF1DR 0008 B32Ch

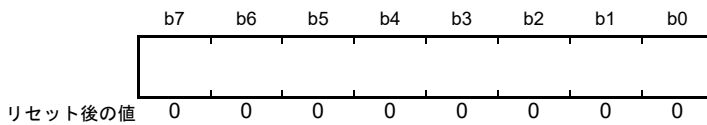
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

PCF1DR レジスタは、Control Field 1 のプライマリ比較データを格納する 8 ビットのリード/ライト可能なレジスタです。

27.2.37 セカンダリ Control Field 1 データレジスタ (SCF1DR)

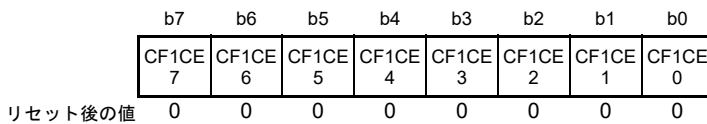
アドレス SCI12.SCF1DR 0008 B32Dh



SCF1DR レジスタは、Control Field 1 のセカンダリ比較データを格納する 8 ビットのリード/ライト可能なレジスタです。

27.2.38 Control Field 1 コンペアイネーブルレジスタ (CF1CR)

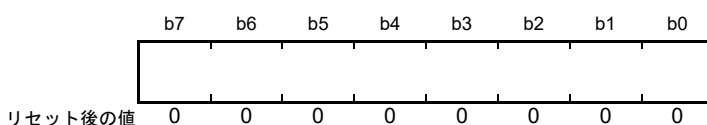
アドレス SCI12.CF1CR 0008 B32Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CF1CE0	Control Field 1 0ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット0コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット0コンペアイ有効	R/W
b1	CF1CE1	Control Field 1 1ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット1コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット1コンペアイ有効	R/W
b2	CF1CE2	Control Field 1 2ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット2コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット2コンペアイ有効	R/W
b3	CF1CE3	Control Field 1 3ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット3コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット3コンペアイ有効	R/W
b4	CF1CE4	Control Field 1 4ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット4コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット4コンペアイ有効	R/W
b5	CF1CE5	Control Field 1 5ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット5コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット5コンペアイ有効	R/W
b6	CF1CE6	Control Field 1 6ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット6コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット6コンペアイ有効	R/W
b7	CF1CE7	Control Field 1 7ビットコンペアイネーブルビット	0 : Control Field 1 ビット7コンペアイ無効 1 : Control Field 1 ビット7コンペアイ有効	R/W

27.2.39 Control Field 1 受信データレジスタ (CF1RR)

アドレス SCI12.CF1RR 0008 B32Fh



CF1RR レジスタは Control Field 1 の受信データを格納する 8 ビットのリード可能なレジスタです。

27.2.40 タイマコントロールレジスタ (TCR)

アドレス SCI12.TCR 0008 B330h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	TCST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TCST	タイマカウント開始ビット	0 : タイマカウント停止 1 : タイマカウント開始	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

27.2.41 タイマモードレジスタ (TMR)

アドレス SCI12.TMR 0008 B331h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	TCSS[2:0]		TWRC	—	TOMS[1:0]		—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	TOMS[1:0]	タイマ動作モード選択ビット(注1)	b1 b0 0 0 : タイマモード 0 1 : Break Field Low width 判定モード 1 0 : Break Field Low width 出力モード 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	TWRC	カウンタ書き込み制御ビット	0 : リロードレジスタとカウンタへの書き込み 1 : リロードレジスタのみ書き込み	R/W
b6-b4	TCSS[2:0]	タイマカウントクロックソース選択ビット(注1)	b6 b4 0 0 0 : PCLK 0 0 1 : PCLK/2 0 1 0 : PCLK/4 0 1 1 : PCLK/8 1 0 0 : PCLK/16 1 0 1 : PCLK/32 1 1 0 : PCLK/64 1 1 1 : PCLK/128	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

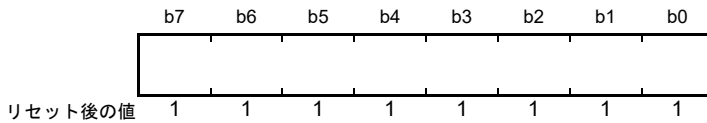
注1. TOMS[1:0]およびTCSS[2:0]ビットの書き換えは、タイマカウント停止時(TCST = 0)に行ってください。

TWRC ビット (カウンタ書き込み制御ビット)

TCNT、TPRE レジスタにライトしたときに、リロードレジスタのみ書き込むのか、リロードレジスタとカウンタに書き込むのか選択します。

27.2.42 タイムプリスケアラレジスタ (TPRE)

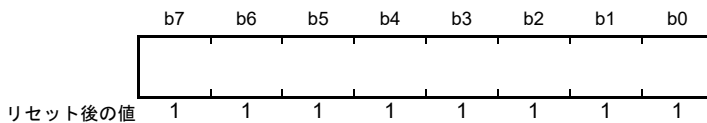
アドレス SCI12.TPRE 0008 B332h



TPRE レジスタは、8 ビットのリロードレジスタ、リードバッファおよびカウンタで構成され、初期値はそれぞれ FFh です。TMR.TCSS[2:0] ビットで選択されたカウントクロックソースでダウンカウントを行い、アンダフローするとカウンタへリロードレジスタの値がロードされます。またアンダフローは TCNT レジスタのカウントクロックソースとなります。リロードレジスタとリードバッファは同じアドレスに配置されており、ライト時はリロードレジスタへ書き込まれ、リード時はリードバッファに転送されたカウンタ値が読み出されます。なお、リロードレジスタ値をカウンタへロードする際は、PCLK の 1 クロックが必要です。

27.2.43 タイマカウントレジスタ (TCNT)

アドレス SCI12.TCNT 0008 B333h



TCNT レジスタは、8 ビットのリロードレジスタ、リードバッファおよびカウンタで構成され、初期値はそれぞれ FFh です。TPRE レジスタのアンダフローをダウンカウントし、TCNT レジスタがアンダフローするとカウンタへリロードレジスタの値がロードされます。リロードレジスタとリードバッファは同じアドレスに配置されており、ライト時はリロードレジスタへ書き込まれ、リード時はリードバッファに転送されたカウンタ値が読み出されます。なお、リロードレジスタ値をカウンタへロードする際は、PCLK の 1 クロックが必要です。

27.3 調歩同期式モードの動作

調歩同期式シリアル通信の一般的なデータフォーマットを図 27.5 に示します。

1 フレームは、スタートビット (Low) から始まり送受信データ、パリティビット、ストップビット (High) の順で構成されます。

調歩同期式シリアル通信では、通信回線は通常マーク状態 (High) に保たれています。

SCI は通信回線を監視し、スペース (Low) を検出するとスタートビットとみなしてシリアル通信を開始します。

SCI 内部では、送信部と受信部は独立していますので、全二重通信を行うことができます。また、送信部と受信部が共にダブルバッファ構造になっていますので、送信および受信中にデータのリード/ライトができ、連続送受信が可能です。

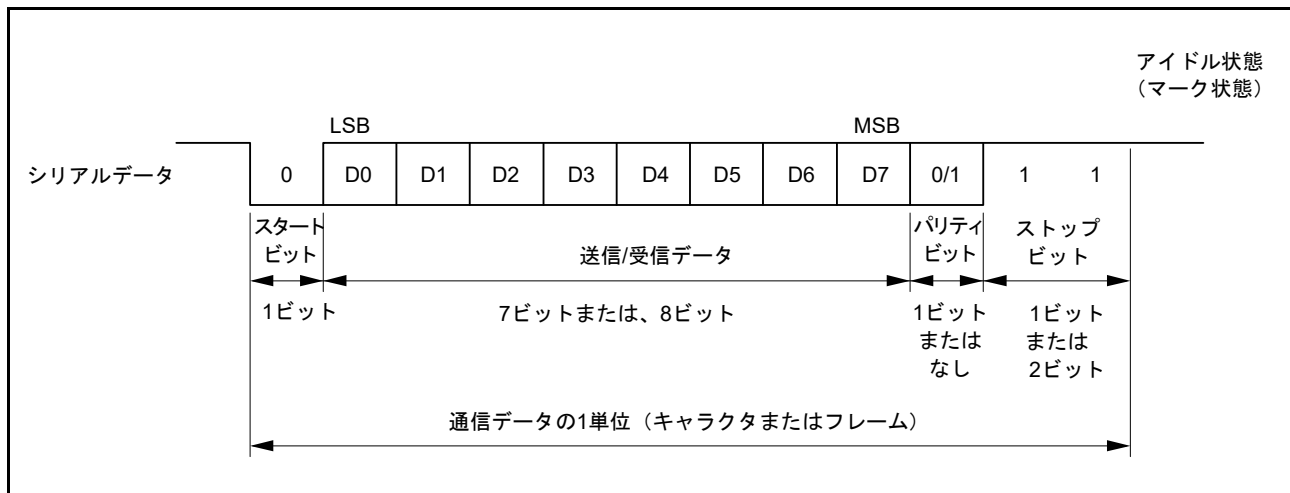


図 27.5 調歩同期式シリアル通信のデータフォーマット
(8 ビットデータ / パリティあり / 2 ストップビットの例)

27.3.1 シリアル送信 / 受信フォーマット

調歩同期式モードで設定できるシリアル送信 / 受信フォーマットを表 27.33 に示します。

フォーマットは 18 種類あり、SMR レジスタおよび SCMR レジスタの選定により選択できます。マルチプロセッサ機能の詳細については「27.4 マルチプロセッサ通信機能」を参照してください。

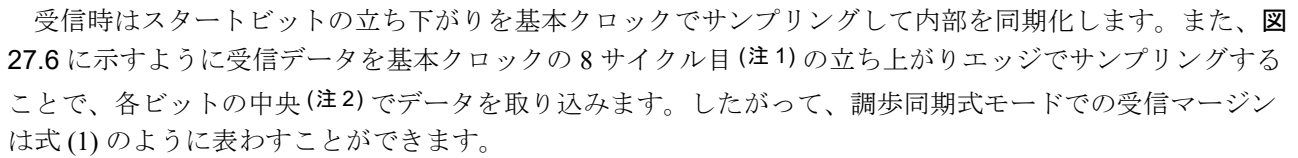
表27.33 シリアル送信/受信フォーマット(調歩同期式モード)

SCMR の設定	SMRの設定				シリアル送信/受信フォーマットとフレーム長																	
	CHR1	CHR	PE	MP	STOP	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13				
0	0	0	0	0	0	S	9ビットデータ									STOP						
0	0	0	0	1	1	S	9ビットデータ									STOP	STOP					
0	0	1	0	0	0	S	9ビットデータ									P	STOP					
0	0	1	0	1	1	S	9ビットデータ									P	STOP	STOP				
1	0	0	0	0	0	S	8ビットデータ								STOP							
1	0	0	0	1	1	S	8ビットデータ								STOP	STOP						
1	0	1	0	0	0	S	8ビットデータ								P	STOP						
1	0	1	0	1	1	S	8ビットデータ								P	STOP	STOP					
1	1	0	0	0	0	S	7ビットデータ							STOP								
1	1	0	0	1	1	S	7ビットデータ							STOP	STOP							
1	1	1	0	0	0	S	7ビットデータ							P	STOP							
1	1	1	0	1	1	S	7ビットデータ							P	STOP	STOP						
0	0	—	1	0	0	S	9ビットデータ									MPB	STOP					
0	0	—	1	1	1	S	9ビットデータ									MPB	STOP	STOP				
1	0	—	1	0	0	S	8ビットデータ								MPB	STOP						
1	0	—	1	1	1	S	8ビットデータ								MPB	STOP	STOP					
1	1	—	1	0	0	S	7ビットデータ							MPB	STOP							
1	1	—	1	1	1	S	7ビットデータ							MPB	STOP	STOP						

S: スタートビット
 STOP: ストップビット
 P: パリティビット
 MPB: マルチプロセッサビット

27.3.2 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン

調歩同期式モードでは、SCIはビットレートの16倍(注1)の周波数の基本クロックで動作します。

受信時はスタートビットの立ち下がり基本クロックでサンプリングして内部を同期化します。また、 図27.6に示すように受信データを基本クロックの8サイクル目(注1)の立ち上がりエッジでサンプリングすることで、各ビットの中央(注2)でデータを取り込みます。したがって、調歩同期式モードでの受信マージンは式(1)のように表わすことができます。

$$M = \left| \left(0.5 - \frac{1}{2N} \right) - (L - 0.5)F - \frac{|D - 0.5|}{N}(1 + F) \right| \times 100 (\%) \quad \dots \text{式(1)}$$

M: 受信マージン

N: クロックに対するビットレートの比

- SEMR.ABCSEビットが“0”、かつSEMR.ABCSビットが“0”のときN = 16
- SEMR.ABCSEビットが“0”、かつSEMR.ABCSビットが“1”のときN = 8
- SEMR.ABCSEビットが“1”のときN = 6

D: クロックのデューティ (D = 0.5 ~ 1.0)

L: フレーム長 (L = 9 ~ 13)

F: クロック周波数の偏差の絶対値

式(1)で、F = 0、D = 0.5とすると、

$$M = \{0.5 - 1/(2 \times 16)\} \times 100 (\%) = 46.875 (\%)$$

となります。ただし、この値はあくまでも計算上の値ですので、システム設計の際には20 ~ 30%の余裕を持たせてください。

注1. いずれもSEMR.ABCSEビットが“0”、かつSEMR.ABCSビットが“0”のときの値です。ABCSEビットが“0”、かつABCSビットが“1”のときは、ビットレートの8倍の周波数が基本クロックとなり、受信データは基本クロックの4番目の立ち上がりエッジでサンプリングします。また、ABCSEビットが“1”のときは、ビットレートの6倍の周波数が基本クロックとなり、受信データは基本クロックの3番目の立ち上がりエッジでサンプリングします。

注2. SPTR.RTADJビットが“0”の場合。

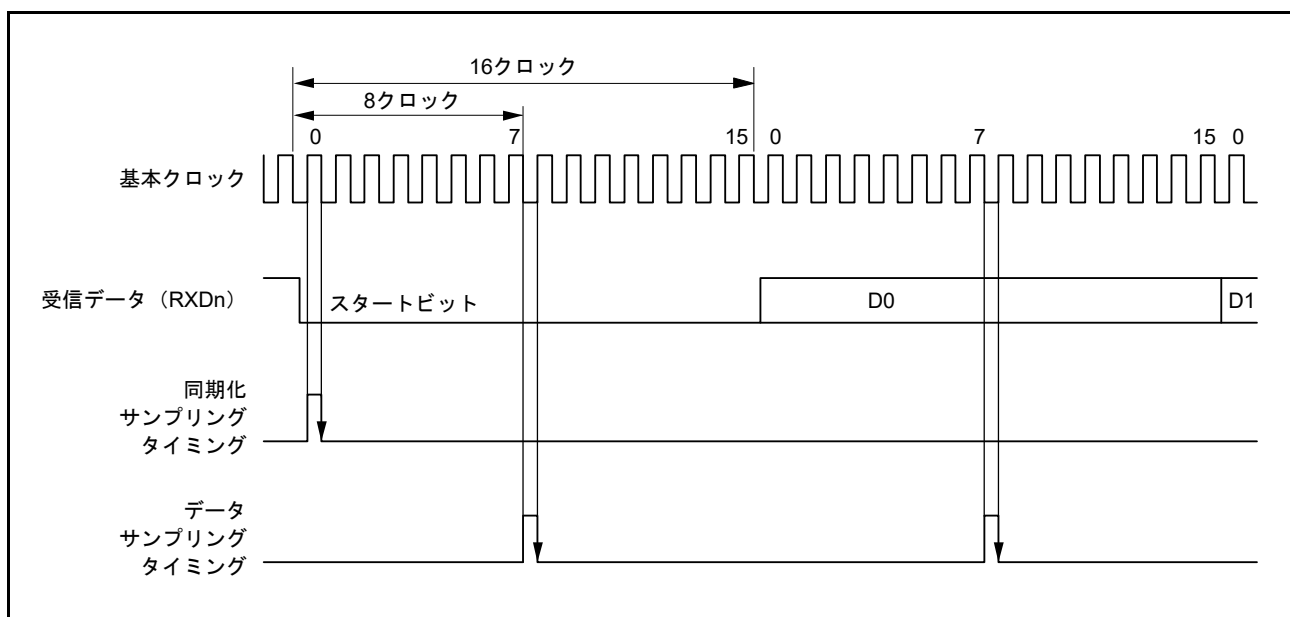


図 27.6 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミング

SCI1、SCI5には、通信線路上のデバイスの影響などにより信号のHigh幅やLow幅が変わってしまう場合に備え、受信データのサンプリングタイミングや送信データの変化タイミングを変更する機能があります。

27.3.2.1 受信データのサンプリングタイミング調整

立ち上がり時間と立ち下がり時間の差が大きく、High幅とLow幅に差ができてしまった波形を受信した場合、短い方のパルスの中央でデータをサンプリングするようにタイミングを調整します。Low幅が短い場合はサンプリングタイミングを早め、High幅が短い場合はサンプリングタイミングを遅らせませす。

TMGR.RTMG[3:0]ビットにデフォルトのサンプリングポイントに対するオフセットを設定し、SPTR.RTADJビットを“1”にすると、設定した位置で受信データをサンプリングします。

図 27.7 にサンプリングタイミングの調整例を示します。

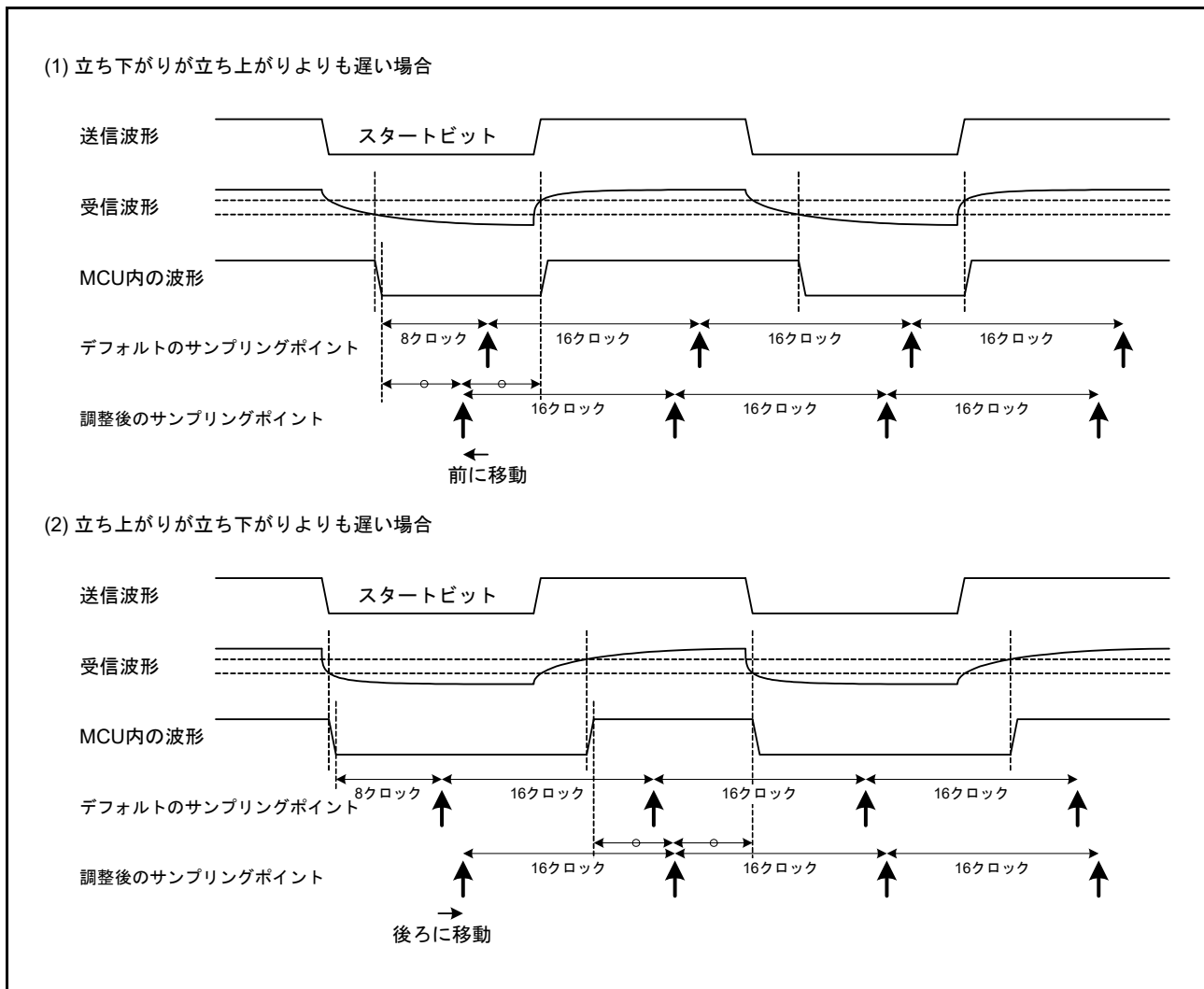


図 27.7 サンプリングタイミングの調整例 (SEMR.ABCSE ビット = 0, SEMR.ABCS ビット = 0)

27.3.2.2 送信データの変化タイミング調整

逆に、本 MCU が送信した波形が受信側のデバイスで High 幅と Low 幅に差ができてしまうような場合に、送信時に前もって High 幅と Low 幅に差を持たせて、受信側で差がなくなるように調整することもできます。受信側で High 幅が短くなる場合は立ち下がりエッジを遅らせることで送信時の High 幅を広げ、Low 幅が短くなる場合は立ち上がりエッジを遅らせることで送信時の Low 幅を広げます。

TMGR.TTMG[3:0] ビットに変化させるエッジとその遅延量を設定し、SPTR.TTADJ ビットを“1”にすると、設定した位置で送信データが変化します。

図 27.8 に変化タイミングの調整例を示します。

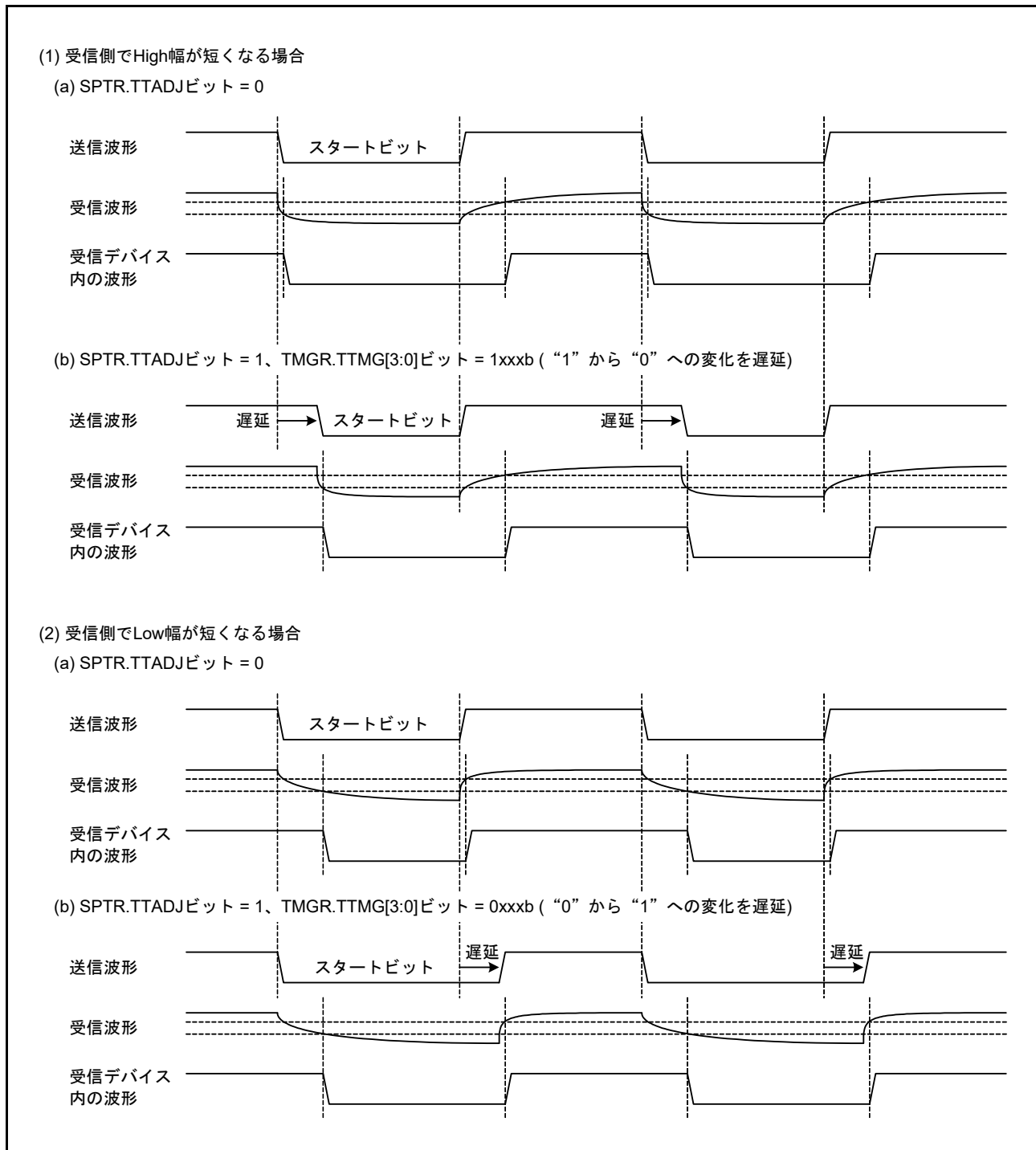


図 27.8 変化タイミングの調整例

27.3.3 クロック

SCIの送受信クロックは、SMR.CMビットとSCR.CKE[1:0]ビットの設定により、内蔵ポーレートジェネレータの生成する内部クロックまたはSCK_n端子から入力される外部クロックのいずれかを選択できます。

外部クロックを使用する場合は、SCK_n端子にビットレートの16倍（SEMR.ABCSビット=0のとき）、8倍（SEMR.ABCSビット=1のとき）の周波数のクロックを入力してください。また、外部クロックを選択した場合は、SCIn.SEMR.ACS0ビット（n=5, 6, 12）の設定により、TMR0、TMR1からの基本クロックを選択することが可能です。

内部クロックで動作させるときはSCK_n端子からクロックを出力することができます。このとき出力されるクロックの周波数はビットレートと等しく、送信時の位相は図27.9に示すように送信データの中央でクロックが立ち上がります。

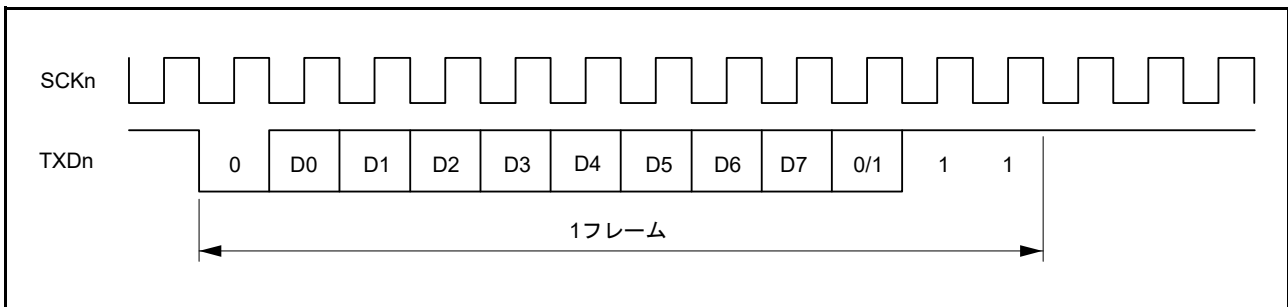


図 27.9 出カクロックと送信データの位相関係
(調歩同期式モード: SMR.CHR = 0、PE = 1、MP = 0、STOP = 1)

27.3.4 倍速モードと6分周モード

SEMR.BGDMビットを“1”にすることによって内蔵ポーレートジェネレータの出力クロック周波数が2倍となり、ビットレートが2倍の高速通信が可能となります。また、この状態からSEMR.ABCSビットを“1”にすると基本クロックのサイクル数が16から8になるため、ビットレートは初期状態から4倍に高速化されます。

また、SEMR.ABCSEビットを“1”にすると、1ビット期間中の基本クロックパルス数が6、かつ基本クロックの周期が1/2になり、SEMRレジスタのABCSビット、BGDMビット、ABCSEビットがすべて“0”の場合に比べ16/3倍のビットレートで動作します。

なお、「27.3.2 調歩同期式モードの受信データサンプリングタイミングと受信マージン」の式(1)が示すとおり、SEMR.ABCSビットを“1”にするとサイクル数が8になり、サンプリング間隔が粗くなるため受信マージンが減少します。したがって、ビットレート2倍の高速通信は、SEMR.BGDMビットを“0”、SEMR.ABCSビットを“1”にするよりも、SEMR.BGDMビットを“1”、SEMR.ABCSビットを“0”にする設定を推奨します。

27.3.5 CTS、RTS 機能

CTS 機能は、CTS_n# 端子入力を使用して送信制御を行う機能です。

SPMR.CTSE ビットを“1”にすると CTS 機能が有効になります。CTS 機能が有効のとき、CTS_n# 端子入力が Low のときのみ送信動作を開始します。

送信動作中に CTS_n# 端子を High にした場合、送信中のフレームは影響を受けず送信を継続します。

RTS 機能は、RTS_n# 端子出力を使用して送信要求を行う機能で、受信可能状態になると Low を出力します。RTS_n# 端子から Low、High を出力する条件は以下の通りです。

[Low になる条件]

以下の条件をすべて満たす場合

- SCR.RE ビットが“1”
- 受信動作中でない
- 未読の受信データがない
- SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグがすべて“0”

[High になる条件]

Low になる条件を満たさない場合

なお、CTS/RTS はどちらか一方しか選択できません。

27.3.6 データ一致検出機能

データ一致検出機能は、SCI1、SCI5 の調歩同期式モードで利用可能です。

DCCR.DCME ビットを“1”にすると、受信データと CDR.CMPD[8:0] ビットの内容が比較(注1)され、値が一致すると受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。

SMR.MP ビットが“0”の場合は、すべての受信データが比較されます。

SMR.MP ビットを“1”にすると、DCCR.IDSEL ビットが“1”の場合は、マルチプロセッサビットが“1”のデータのみが比較され、“0”のデータは無視されます。DCCR.IDSEL ビットが“0”の場合は、マルチプロセッサビットの値にかかわらずすべての受信データが比較されます。

受信データが CDR.CMPD[8:0] ビットの値と一致するまでは、受信データの格納は行われず、フラグも更新されません。データが一致すると、DCCR.DCME ビットは自動的に“0”になり、DCMF フラグが“1”になります。このとき、DCCR.IDSEL ビットが“1”であると、SCR.MPIE ビットも自動的に“0”になります。また、SCR.RIE ビットが“1”であると、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生します。

一致したデータにフレーミングエラーがあった場合は、DCCR.DFER フラグが“1”になり、パリティエラーがあった場合は DCCR.DPER フラグが“1”になります。CDR.CMPD[8:0] ビットの値と一致した受信データは受信バッファに格納されず、SSR.RDRF フラグも“1”になりません。

データの一致を検出し、DCCR.DCME ビットが“0”になった後は、通常通りデータの受信が行われます。

DCCR.DFER フラグまたは DCCR.DPER フラグが“1”のときは、データの一致は検出されません。データ一致検出機能を有効にする前に、これらのフラグは“0”にしてください。

注 1. 比較対象は SMR.CHR ビット、SCMR.CHR1 ビットで指定したキャラクタ長に相当する部分です。

図 27.10、図 27.11 にデータ一致検出の例を示します。

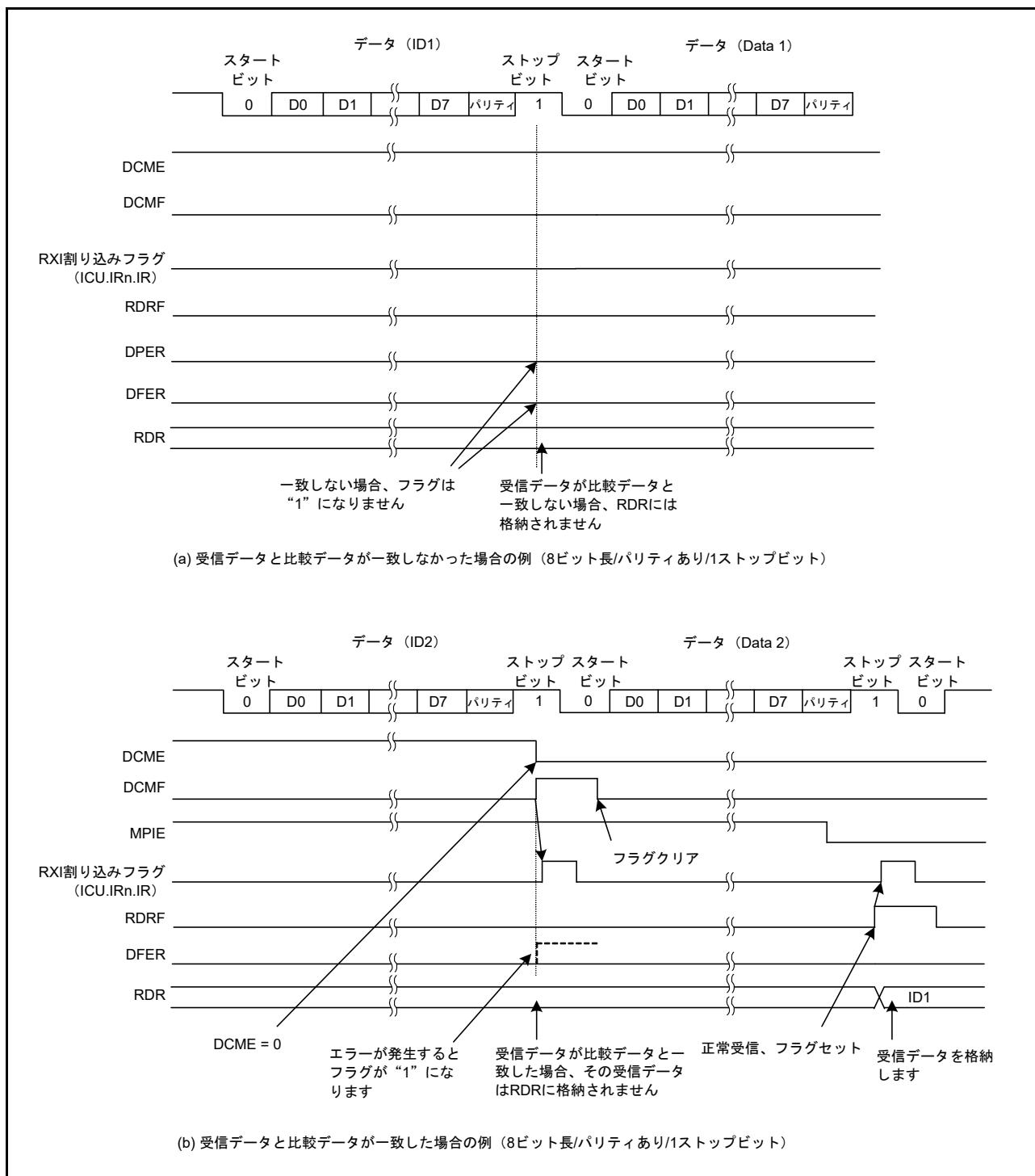


図 27.10 データ一致検出の例 (1) 非マルチプロセッサモード

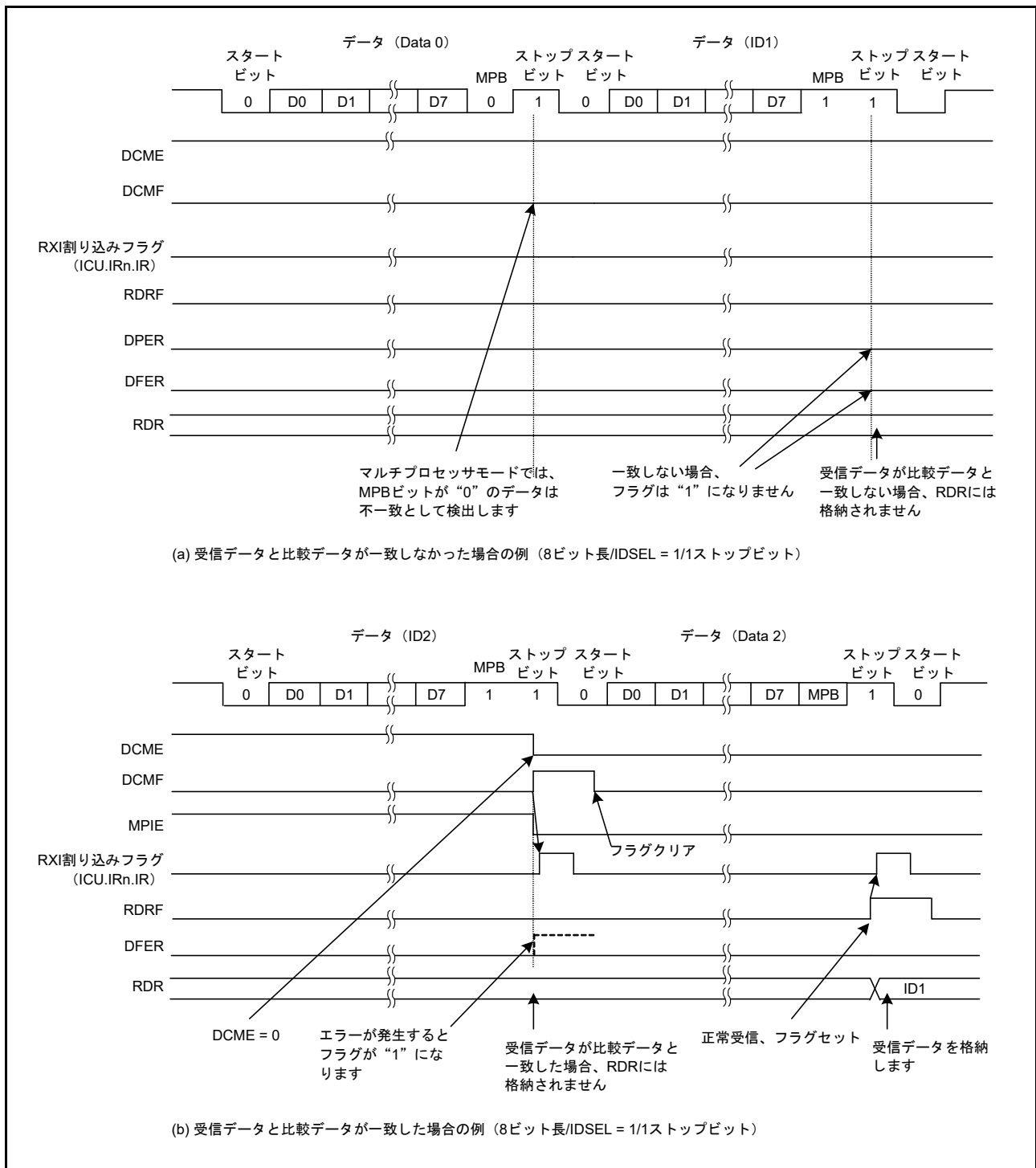


図 27.11 データ一致検出の例 (2) マルチプロセッサモード

27.3.7 SCIの初期化 (調歩同期式モード)

データの送受信前に SCR レジスタに初期値 “00h” を書き込み、図 27.12 のフローチャートの例に従って初期化してください。動作モードの変更、通信フォーマットの変更の場合も、SCR レジスタを初期値にしてから変更してください。

調歩同期式モードで外部クロックを使用する場合は、初期化の期間も含めてクロックを供給してください。

なお、SCR.RE ビットを “0” にしても、SSR レジスタの ORER、FER、PER、RDRF フラグおよび RDR、RDRH、RDRL レジスタは初期化されませんので注意してください。

また、SCR レジスタの TIE ビット、TE ビット、TEIE ビットを同時に “1” にすると、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生する前に送信終了割り込み (TEI) 要求が発生しますので注意してください。

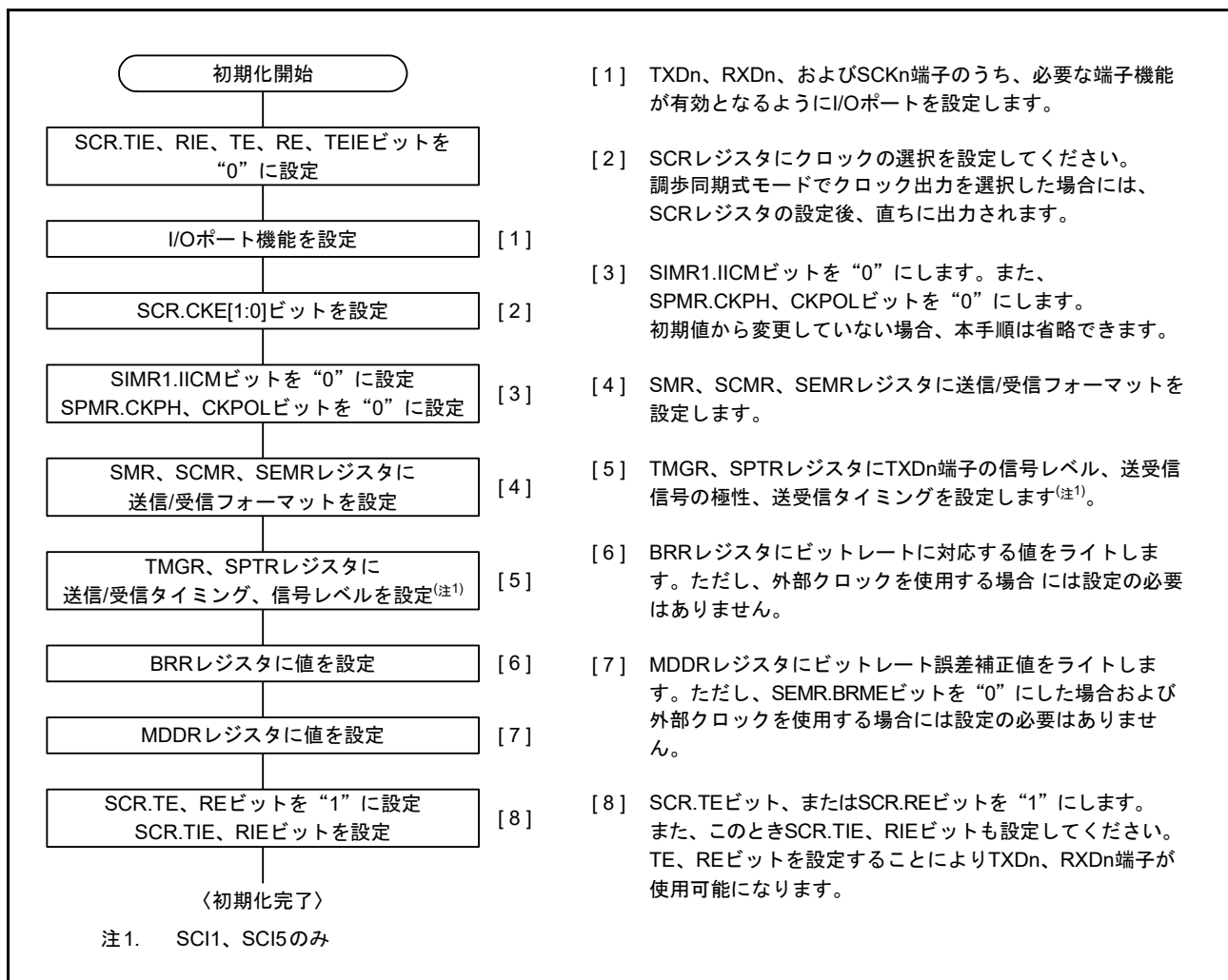


図 27.12 SCIの初期化フローチャートの例 (調歩同期式モード)

図 27.13 は、リセット解除後に図 27.12 に従って SCI を調歩同期式モードに設定して、データ送信を行ったときのタイミング例です。図に示すように、端子機能を TXD 端子に設定した時点では、SCR.TE ビットが“0”であるため端子はハイインピーダンスです。TE ビットを“1”にした後送信データを書くと、データ送信が開始されます。TE ビットを“1”にしてからデータ送信が開始されるまでには、1 フレーム分の内部待機期間があります(注1)。調歩同期式モードでは、この期間 TXD 端子は High になります。

注1. SEMR.ITE ビットが“0”の場合。ITE ビットが“1”の場合、この内部待機期間はありません。

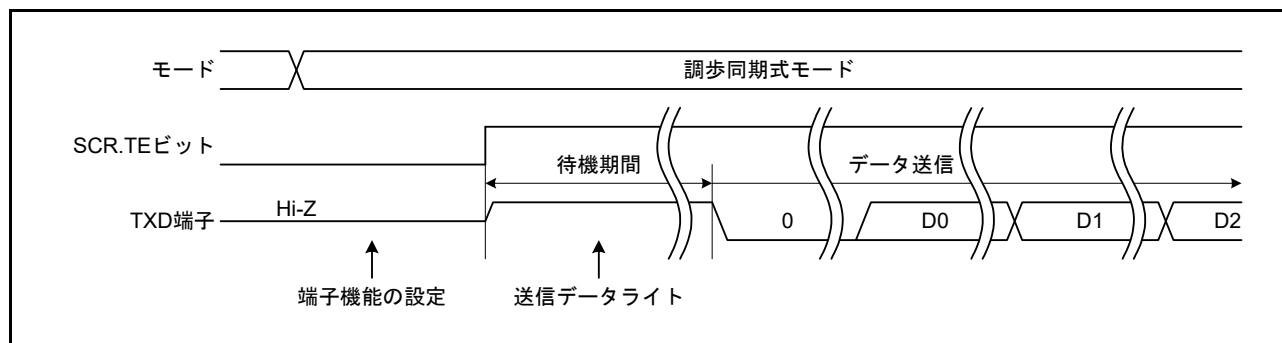


図 27.13 調歩同期式モード時のデータ送信タイミング例

27.3.8 シリアルデータの送信 (調歩同期式モード)

図 27.14 ~ 図 27.16 に調歩同期式モードのシリアル送信時の動作例を示します。
シリアルデータの送信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCI は TXI 割り込み処理ルーチンで TDR レジスタ (注 1) にデータが書き込まれると、TDR レジスタ (注 1) から TSR レジスタにデータを転送します。なお、送信開始時の TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットを“1”にした後に SCR.TE ビットを“1”にするか、1 命令で同時に“1”にすることで発生します。
2. SPMR.CTSE ビットが“0” (CTS 機能禁止)、または CTSn# 端子入力が Low で、TDR レジスタ (注 1) から TSR レジスタにデータを転送し、送信を開始します。このとき、SCR.TIE ビットが“1”であると、TXI 割り込み要求が発生します。TXI 割り込み処理ルーチンで、前に転送したデータの送信が終了するまでに TDR レジスタ (注 1、注 2) に次の送信データを書き込むことで連続送信が可能です。TEI 割り込み要求を使用する場合、TXI 割り込み要求処理ルーチン内で最終送信データを TDR レジスタ (注 1、注 2) に書いた後、SCR.TIE ビットを“0” (TXI 割り込み要求を禁止) に、SCR.TEIE ビットを“1” (TEI 割り込み要求を許可) にします。
3. TXDn 端子からスタートビット、送信データ、パリティビットまたはマルチプロセッサビット (フォーマットによってはない場合もあります)、ストップビットの順に送り出します。
4. ストップビットを送り出すタイミングで TDR レジスタ (注 3) の更新 (書き込み) をチェックします。
5. TDR レジスタ (注 3) が更新されていると、SPMR.CTSE ビットが“0” (CTS 機能禁止)、または CTSn# 端子入力 Low で、次の送信データを TDR レジスタ (注 1) から TSR レジスタに転送し、ストップビット送出後、次のフレームの送信を開始します。
6. TDR レジスタ (注 3) が更新されていなければ、SSR.TEND フラグを“1”にし、ストップビット送出後、High を出力してマーク状態になります。このとき、SCR.TEIE ビットが“1”であると、SSR.TEND フラグが“1”になり TEI 割り込み要求が発生します。

注 1. データ長 9 ビット選択時は、TDRH および TDRL レジスタになります。

注 2. データ長 9 ビット選択時は、TDRH、TDRL レジスタの順にデータを書き込んでください。

注 3. データ長 9 ビット選択時は、TDRL レジスタ更新のみチェックします。TDRH レジスタ更新はチェックしません。

図 27.17 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

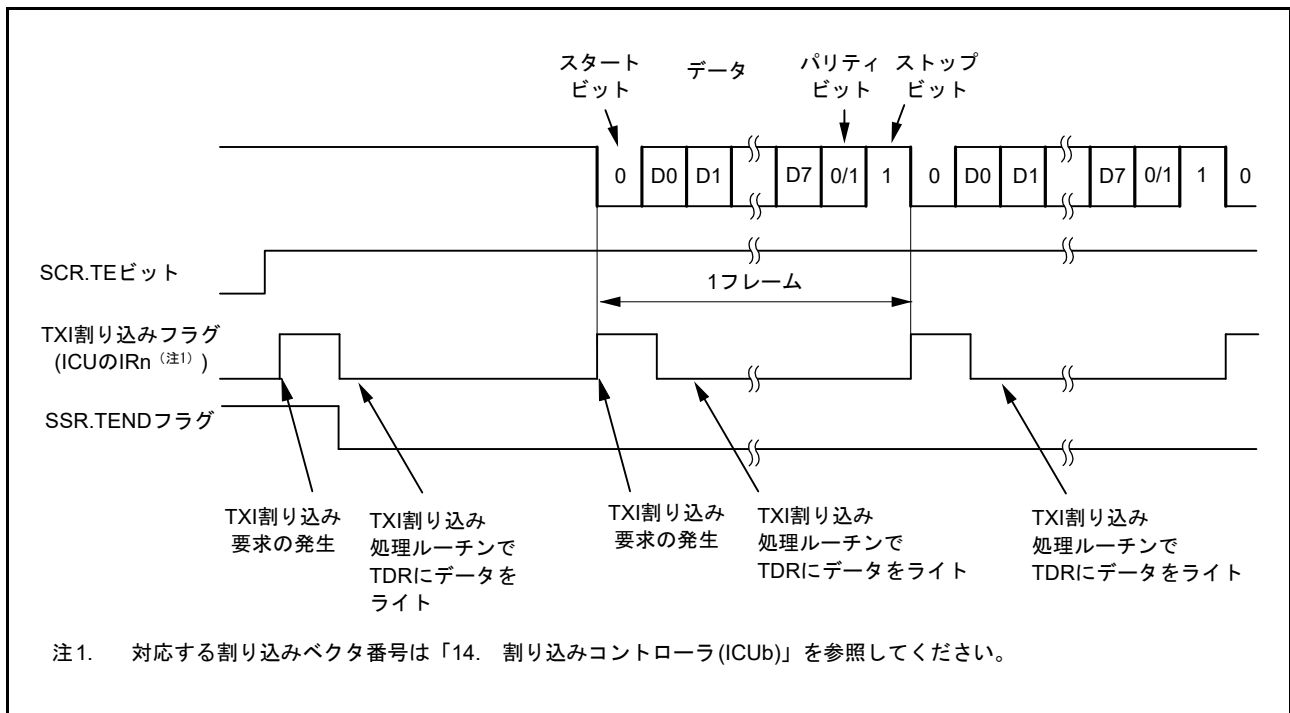


図 27.14 調歩同期式モードのシリアル送信の動作例(1)
(8ビットデータ/パリティあり/1ストップビット/CTS機能使用しない/送信開始時)

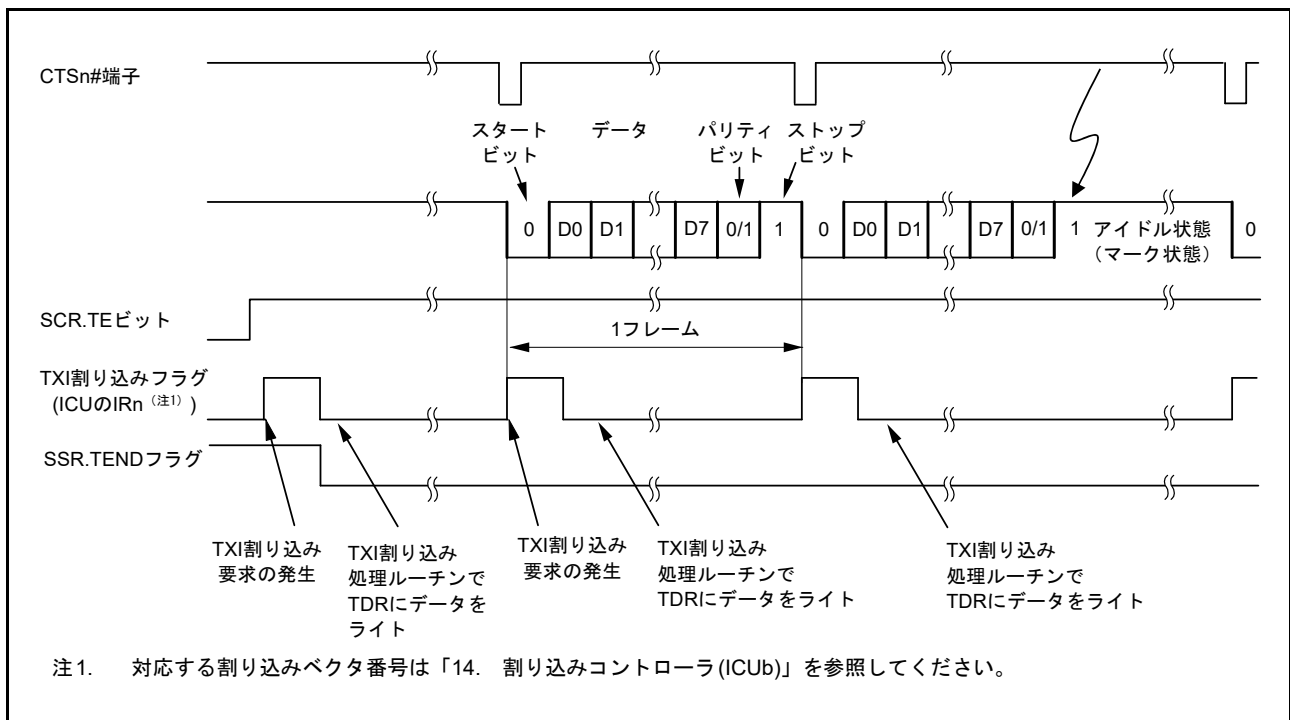


図 27.15 調歩同期式モードのシリアル送信の動作例(2)
(8ビットデータ/パリティあり/1ストップビット/CTS機能使用する/送信開始時)

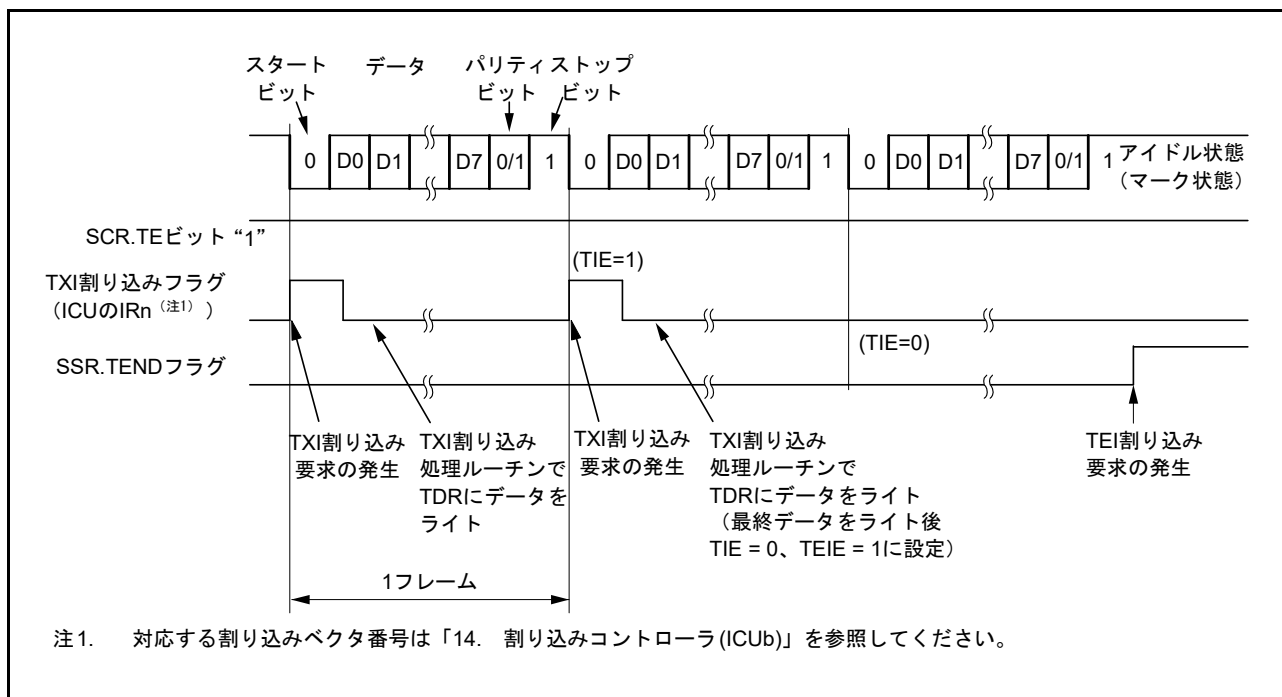


図 27.16 調歩同期式モードのシリアル送信の動作例 (3)
 (8ビットデータ / パリティあり / 1ストップビット / CTS機能使用しない / 送信中～送信終了時)

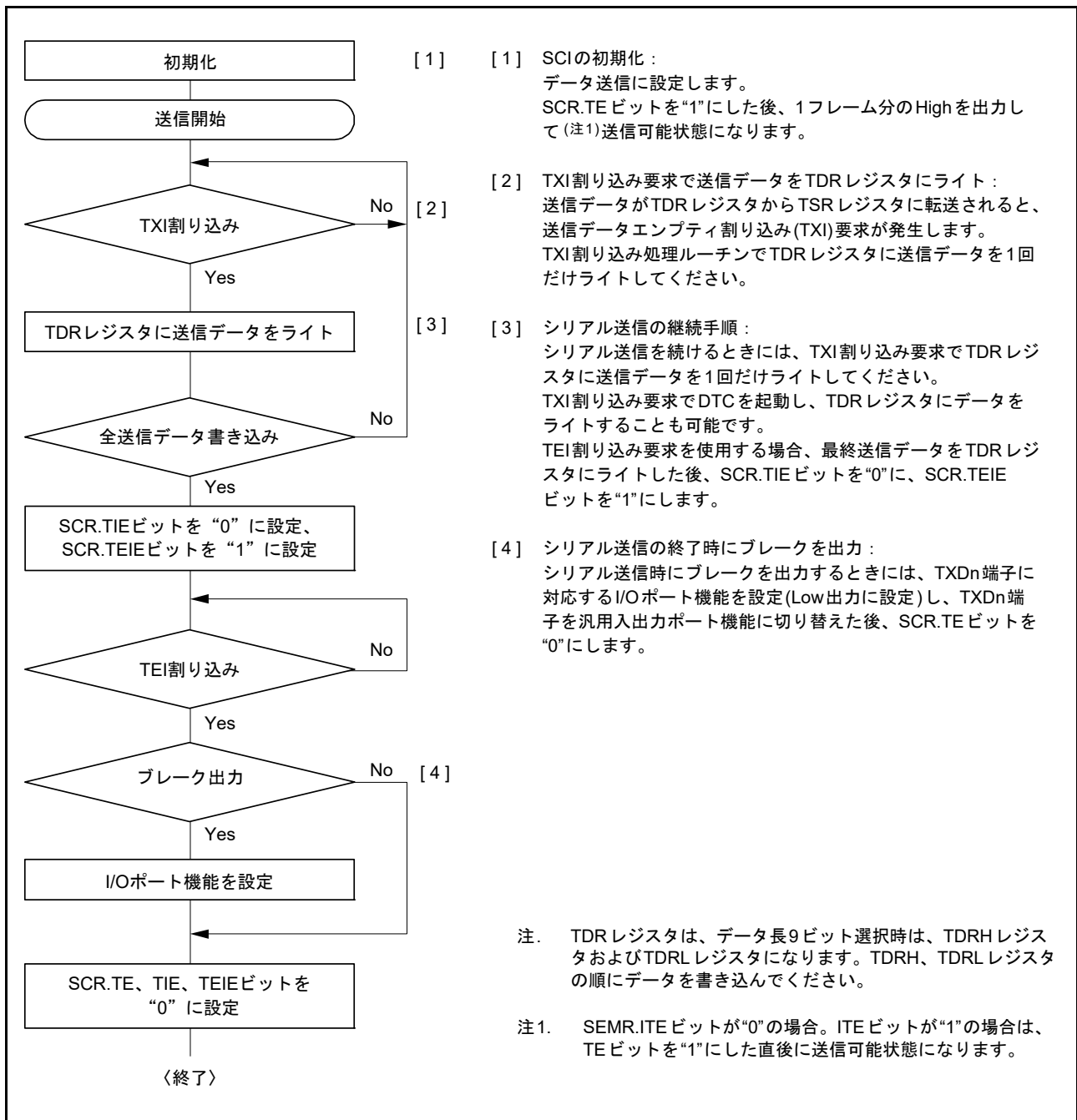


図 27.17 調歩同期式モードのシリアル送信のフローチャート例

27.3.9 シリアルデータの受信 (調歩同期式モード)

図 27.18、図 27.19 に調歩同期式モードのシリアル受信時の動作例を示します。

シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCR.RE ビットが“1”になると、RTSn# 端子出力を Low にします (RTS 機能使用時)。
2. 通信回線を監視しスタートビットを検出すると、内部を同期化して受信データを RSR レジスタに取り込み、パリティビットとストップビットをチェックします。
3. オーバランエラーが発生したときは、SSR.ORER フラグをセットします。このとき、SCR.RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。受信データは RDR レジスタ (注1) に転送しません。
4. パリティエラーを検出した場合は SSR.PER フラグをセットし、受信データを RDR レジスタ (注1) に転送します。このとき、RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。
5. フレーミングエラー (ストップビットが“0”のとき) を検出した場合は SSR.FER フラグをセットし、受信データを RDR レジスタ (注1) に転送します。このとき、RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。
6. 正常に受信したときは、受信データを RDR レジスタ (注1) に転送します。このとき、RIE ビットが“1”であると、RXI 割り込み要求が発生します。この RXI 割り込み処理ルーチンで RDR レジスタ (注1) に転送された受信データを次のデータ受信完了までにリードすることで連続受信が可能です。RDR レジスタ (注2) に転送された受信データが読み出されると、RTSn# 端子出力を Low にします。

注 1. データ長 9 ビット選択時は、RDRH および RDRL レジスタになります。

注 2. データ長 9 ビット選択時は、RDRL レジスタの読み出しのみチェックします。RDRH レジスタの読み出しはチェックしません。

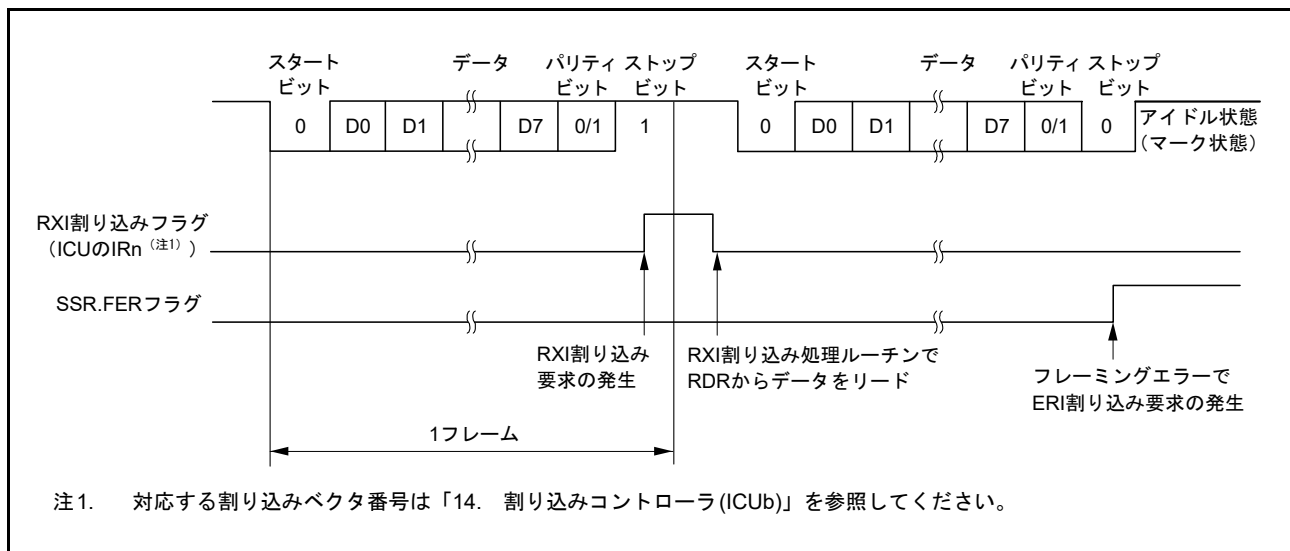


図 27.18 調歩同期式モードのシリアル受信時の動作例 (1) (RTS 機能未使用時)
(8 ビットデータ / パリティあり / 1 ストップビットの例)

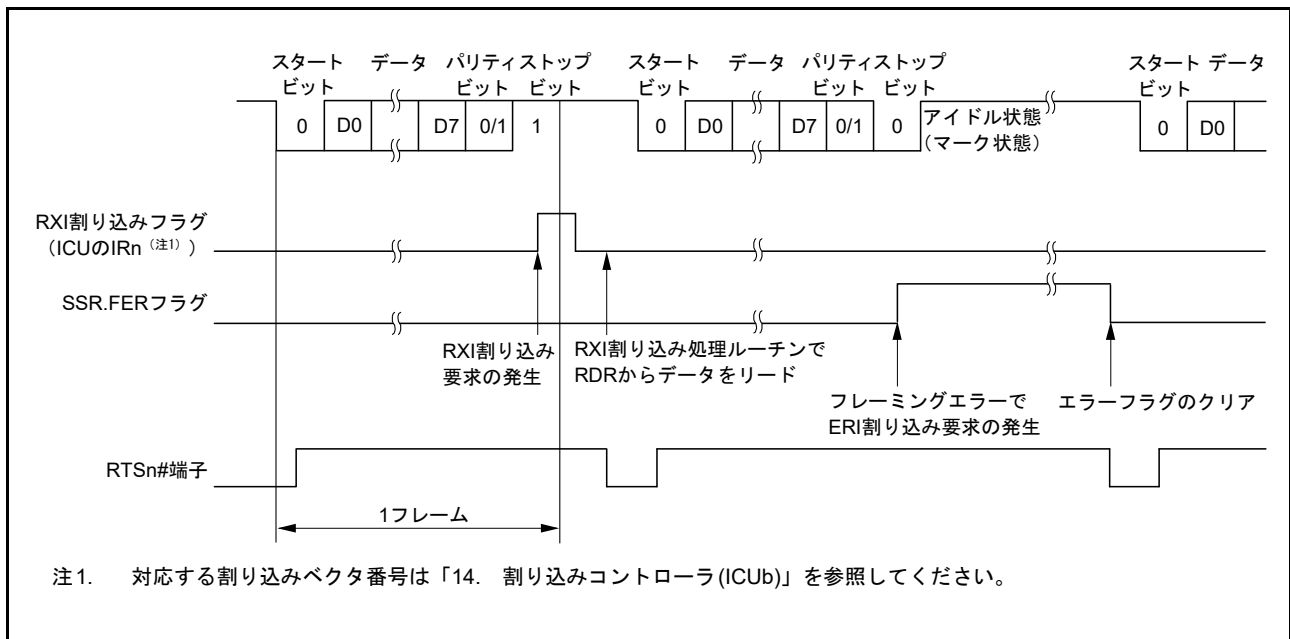


図 27.19 調歩同期式モードのシリアル受信時の動作例 (2) (RTS 機能使用時)
(8ビットデータ / パリティあり / 1ストップビットの例)

受信エラーを検出した場合の SSR レジスタの各ステータスフラグの状態と受信データの処理を表 27.34 に示します。

受信エラーを検出すると、ERI 割り込み要求が発生し、RXI 割り込み要求は発生しません。受信エラーフラグがセットされた状態では以後の受信動作ができません。したがって、受信を継続する前に ORER、FER、および PER フラグを“0”にしてください。また、オーバランエラー処理では RDR (または RDRL) レジスタをリードしてください。また、受信動作中に SCR.RE ビットを“0”にし受信動作を強制終了した場合、RDR (または RDRL) レジスタに読み出し前の受信データが残る場合があるため、RDR (または RDRL) レジスタをリードしてください。

図 27.20、図 27.21 にシリアル受信のフローチャートの例を示します。

表 27.34 SSRレジスタのステータスフラグの状態と受信データの処理

SSRレジスタのステータスフラグ			受信データ	受信エラーの状態
ORER	FER	PER		
1	0	0	消失	オーバランエラー
0	1	0	RDR (注1)へ転送	フレーミングエラー
0	0	1	RDR (注1)へ転送	パリティエラー
1	1	0	消失	オーバランエラー+フレーミングエラー
1	0	1	消失	オーバランエラー+パリティエラー
0	1	1	RDR (注1)へ転送	フレーミングエラー+パリティエラー
1	1	1	消失	オーバランエラー+フレーミングエラー+パリティエラー

注1. データ長9ビット選択時はRDRH、RDRLレジスタになります。

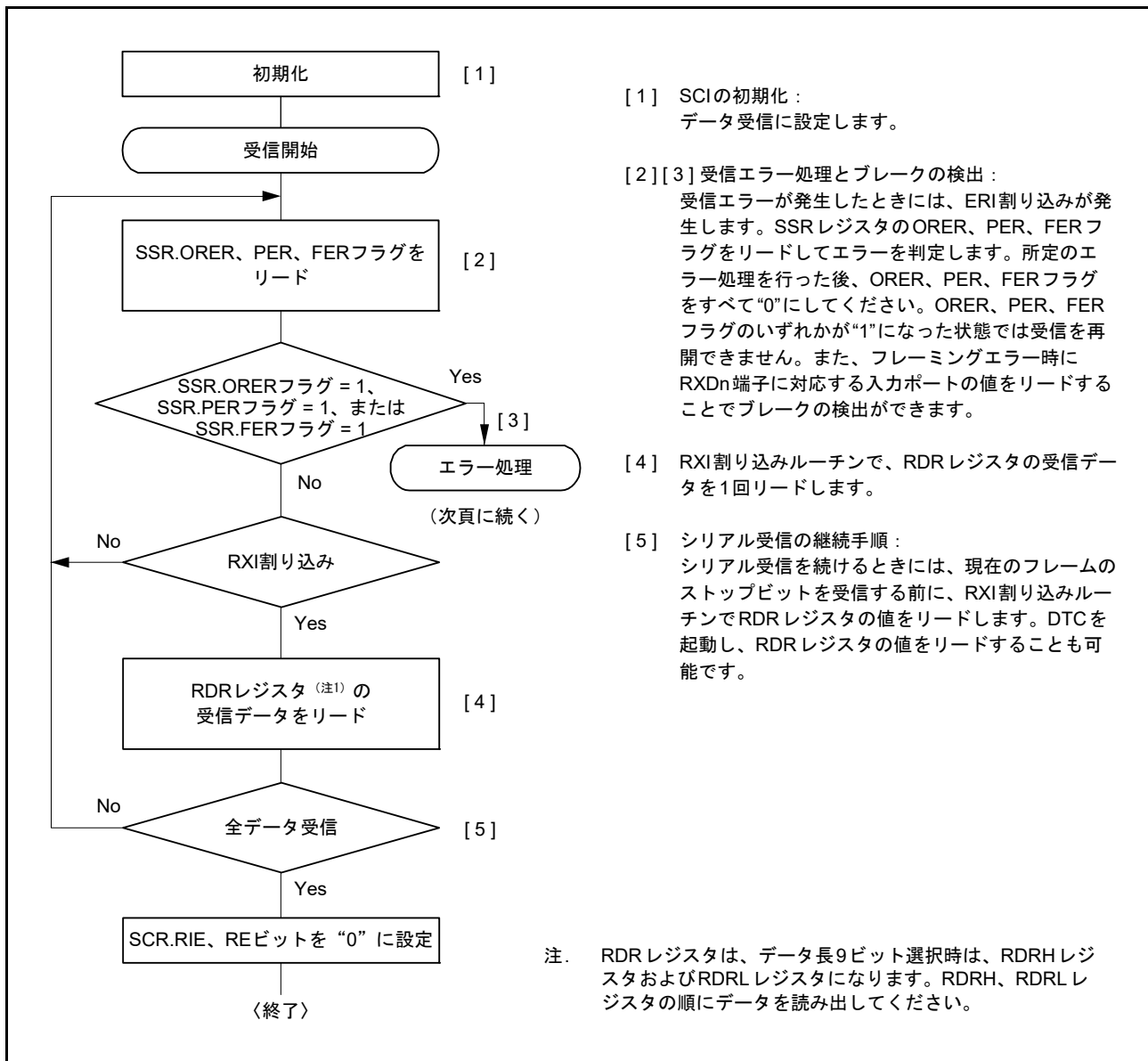


図 27.20 調歩同期式モードのシリアル受信のフローチャート例 (1)

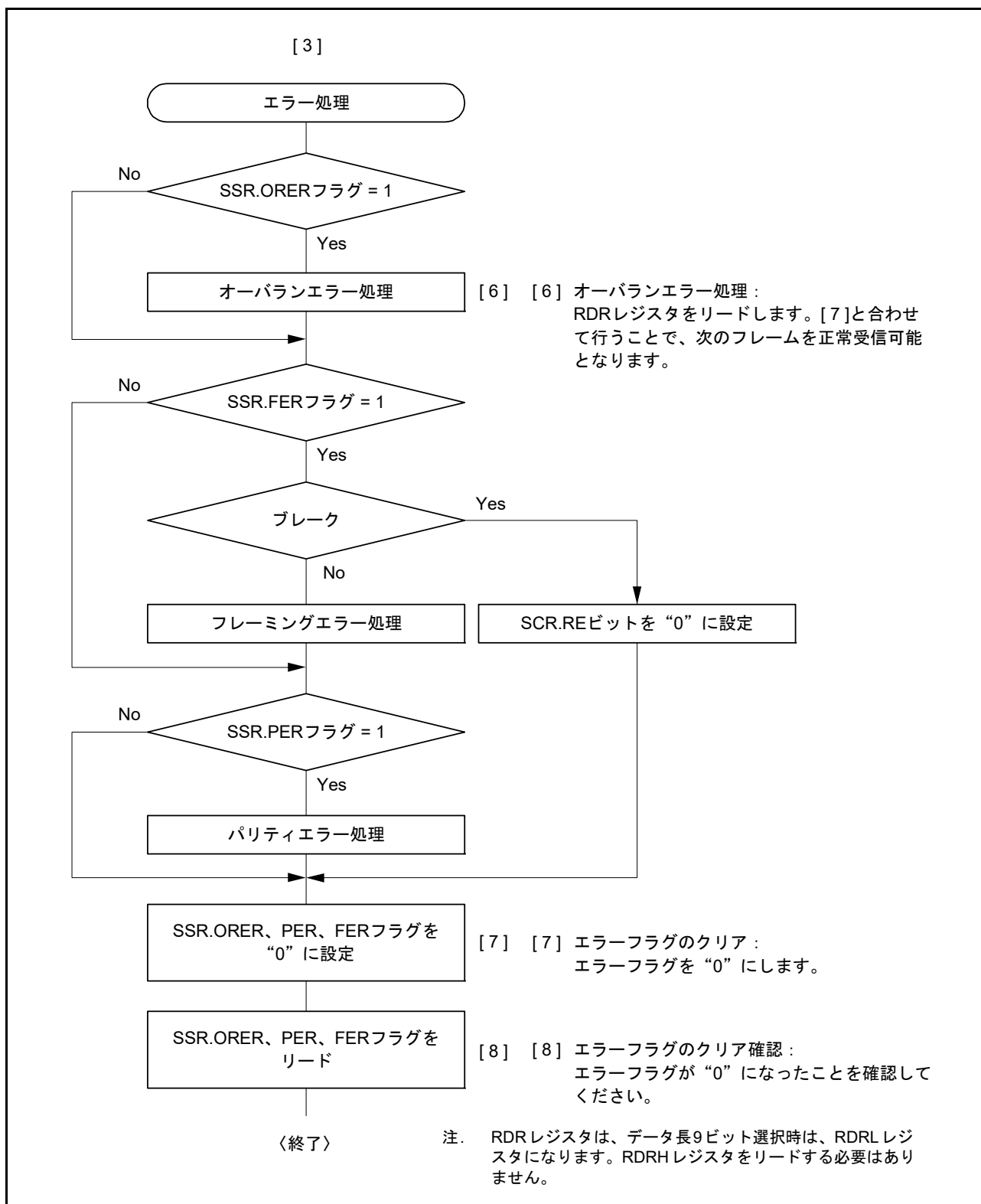


図 27.21 調歩同期式モードのシリアル受信のフローチャート例 (2)

27.4 マルチプロセッサ通信機能

マルチプロセッサ通信機能を使用すると、マルチプロセッサビットを付加した調歩同期式シリアル通信により複数のプロセッサ間で通信回線を共有してデータの送受信を行うことができます。マルチプロセッサ通信では受信局に各々固有の ID コードを割り付けます。シリアル通信サイクルは、受信局を指定する ID 送信サイクルと指定された受信局に対するデータ送信サイクルで構成されます。ID 送信サイクルとデータ送信サイクルの区別はマルチプロセッサビットで行います。マルチプロセッサビットが“1”のとき ID 送信サイクル、“0”のときデータ送信サイクルとなります。図 27.22 にマルチプロセッサフォーマットを使用したプロセッサ間通信の例を示します。送信局は、まず受信局の ID コードにマルチプロセッサビット 1 を付加した通信データを送信します。続いて、送信データにマルチプロセッサビット 0 を付加した通信データを送信します。受信局は、マルチプロセッサビットが“1”の通信データを受信すると自局の ID と比較し、一致した場合は続いて送信される通信データを受信します。一致しなかった場合は、再びマルチプロセッサビットが“1”の通信データを受信するまで通信データを読みとばします。

SCI はこの機能をサポートするため、SCR.MPIE ビットが設けてあります。MPIE ビットを“1”にすると、マルチプロセッサビットが“1”のデータを受け取るまで RSR レジスタから RDR レジスタ（データ長 9 ビット選択時は RDRH、RDRL レジスタ）への受信データの転送、および受信エラーの検出と SSR レジスタの RDRF、ORER、FER フラグのセットを禁止します。マルチプロセッサビットが“1”の受信キャラクタを受け取ると、SSR.MPB フラグが“1”になるとともに SCR.MPIE ビットが“0”になって通常の実受信動作に戻ります。このとき SCR.RIE ビットが“1”であると RXI 割り込みが発生します。

マルチプロセッサフォーマットを指定した場合は、パリティビットの指定は無効です。それ以外は通常の調歩同期式モードと変わりません。マルチプロセッサ通信を行うときのクロックも通常の調歩同期式モードと同一です。

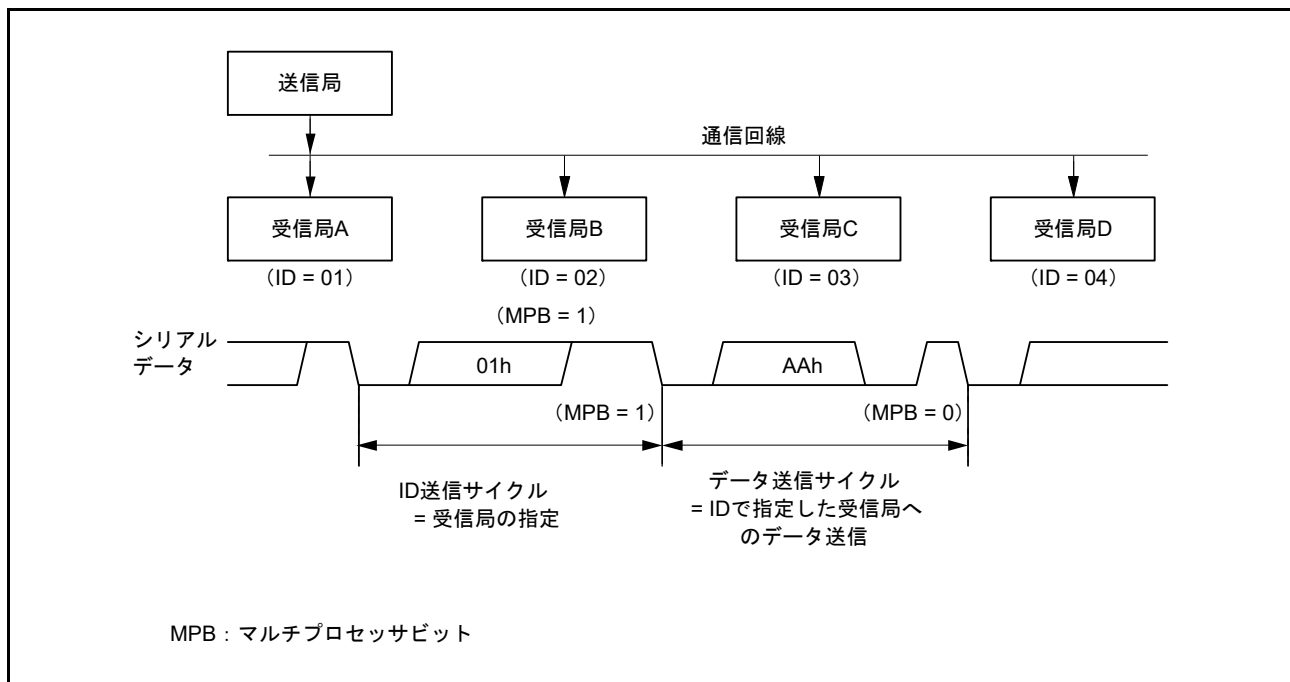


図 27.22 マルチプロセッサフォーマットを使用した通信例 (受信局 A へのデータ“AAh”の送金の例)

27.4.1 マルチプロセッサシリアルデータ送信

図 27.23 にマルチプロセッサシリアル送信のフローチャートの例を示します。ID 送信サイクルでは SSR.MPBT ビットを“1”にして送信してください。データ送信サイクルでは SSR.MPBT ビットを“0”にして送信してください。その他の動作は調歩同期式モードの動作と同じです。

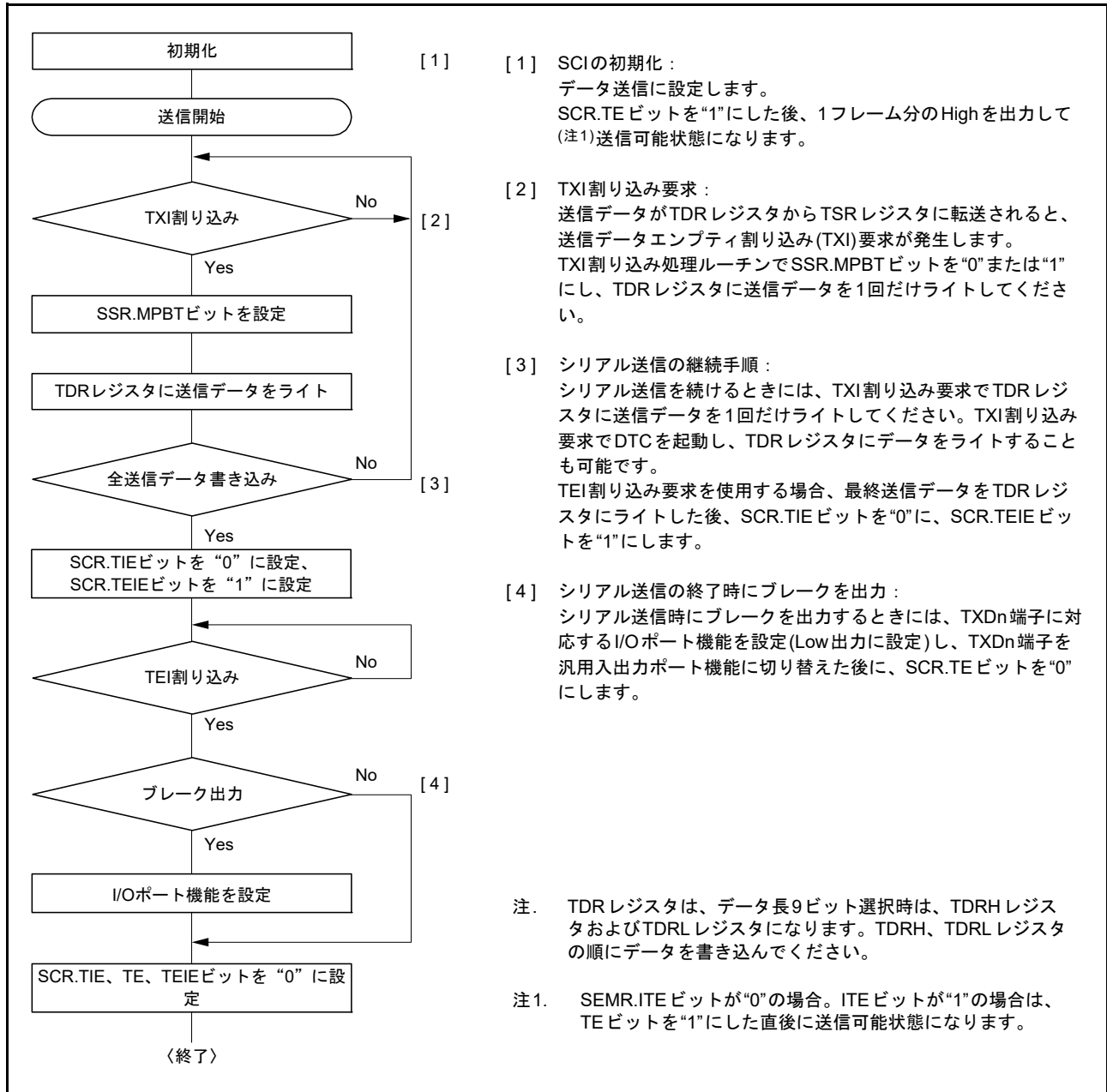


図 27.23 マルチプロセッサシリアル送信のフローチャートの例

27.4.2 マルチプロセッサシリアルデータ受信

図 27.25、図 27.26 にマルチプロセッサデータ受信のフローチャートの例を示します。SCR.MPIE ビットを“1”にするとマルチプロセッサビットが“1”の通信データを受信するまで通信データを読み飛ばします。マルチプロセッサビットが“1”の通信データを受信すると受信データを RDR レジスタ（データ長 9 ビット選択時は RDRH、RDRL レジスタ）に転送します。このとき RXI 割り込み要求が発生します。その他の動作は調歩同期式モードの動作と同じです。

図 27.24 に受信時の動作例を示します。

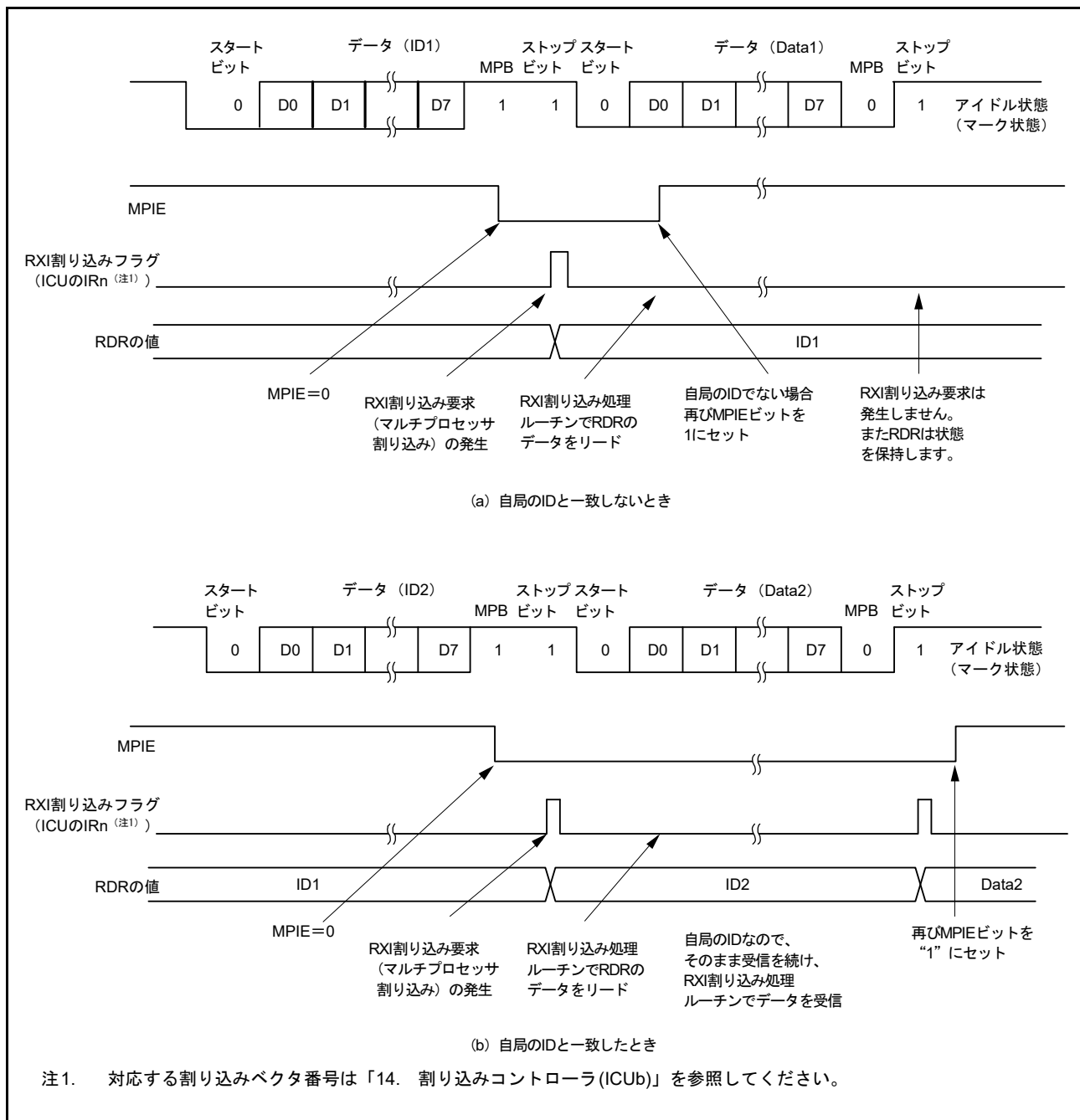


図 27.24 SCI の受信時の動作例 (8 ビットデータ / マルチプロセッサビットあり / 1 ストップビットの例)

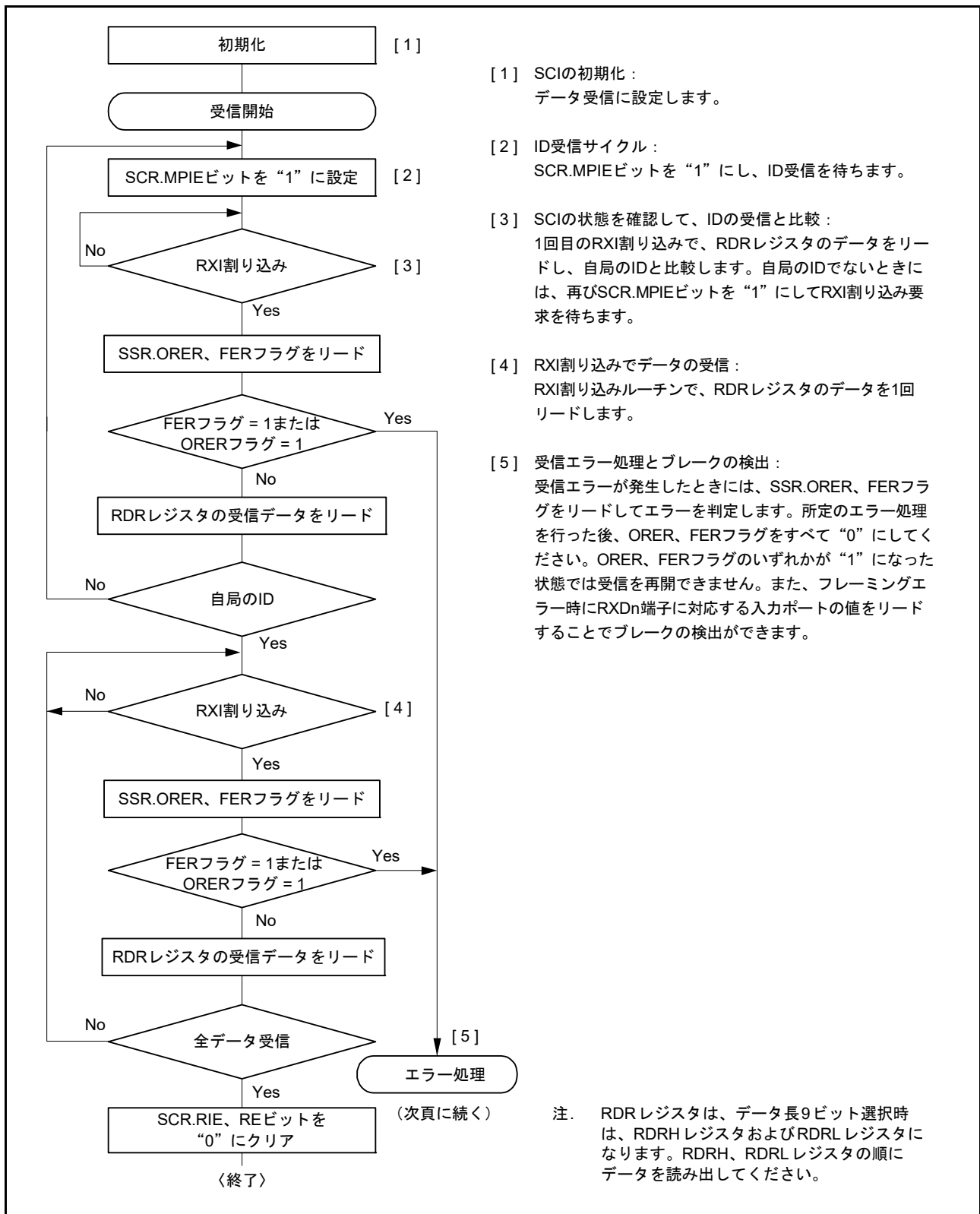


図 27.25 マルチプロセッサシリアル受信のフローチャートの例 (1)

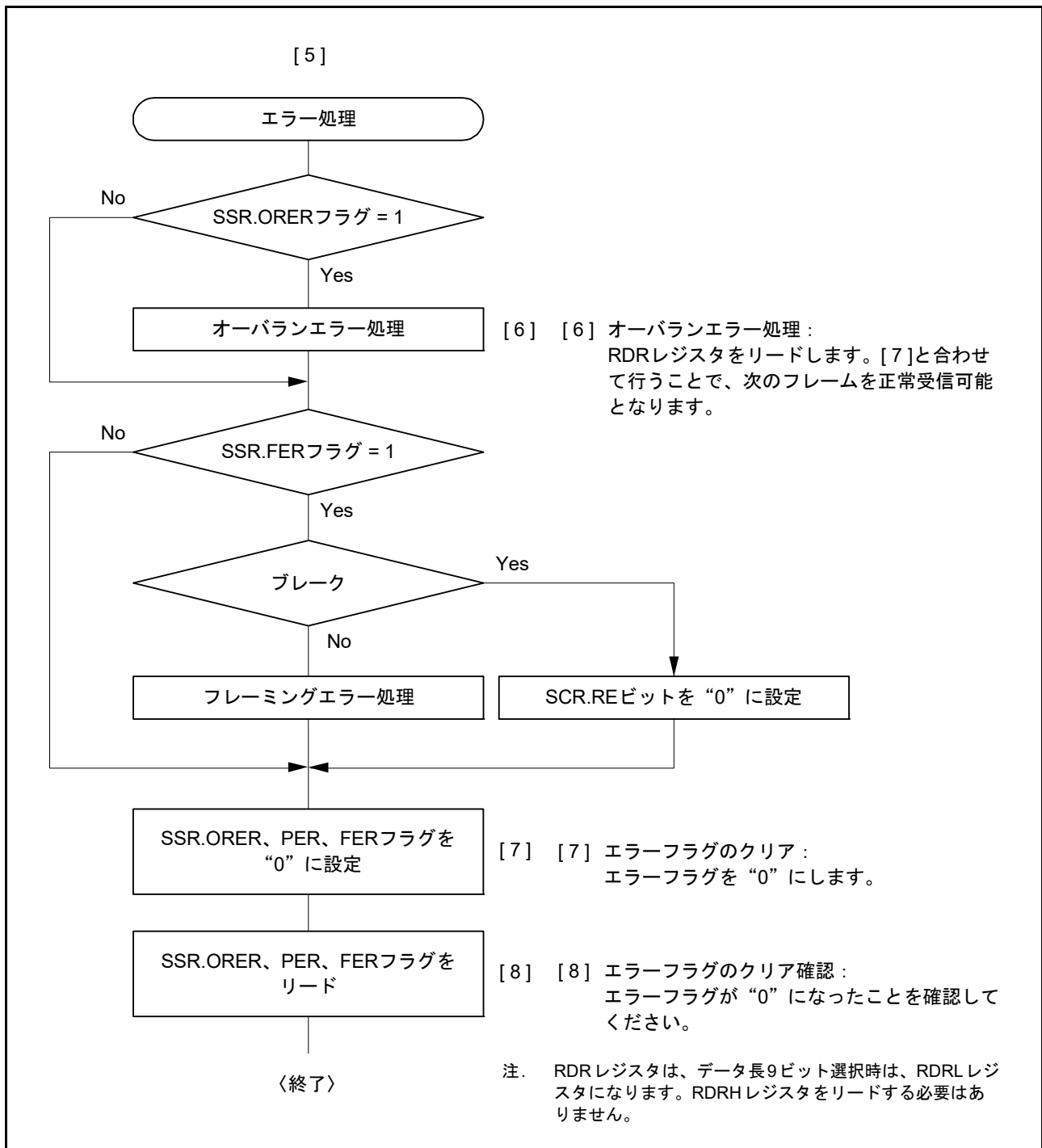


図 27.26 マルチプロセッサシリアル受信のフローチャートの例 (2)

27.5 クロック同期式モードの動作

クロック同期式シリアル通信のデータフォーマットを図 27.27 に示します。

クロック同期式モードではクロックパルスに同期してデータを送受信します。通信データの1キャラクタは8ビットデータで構成されます。クロック同期式モードでは、パリティビットの付加はできません。

SCIは、データ送信時は同期クロックの立ち下がりから次の立ち上がりまで出力します。データ受信時は同期クロックの立ち上がりに同期してデータを取り込みます。8ビット出力後の通信回線は最終ビット出力状態を保ちます。

SCI内部では送信部と受信部が独立していますので、クロックを共有することで全二重通信を行うことができます。また、送信部/受信部は共にダブルバッファ構造になっていますので、送信中に次の送信データのライト、受信中に前の受信データのリードを行うことで連続送受信が可能です。

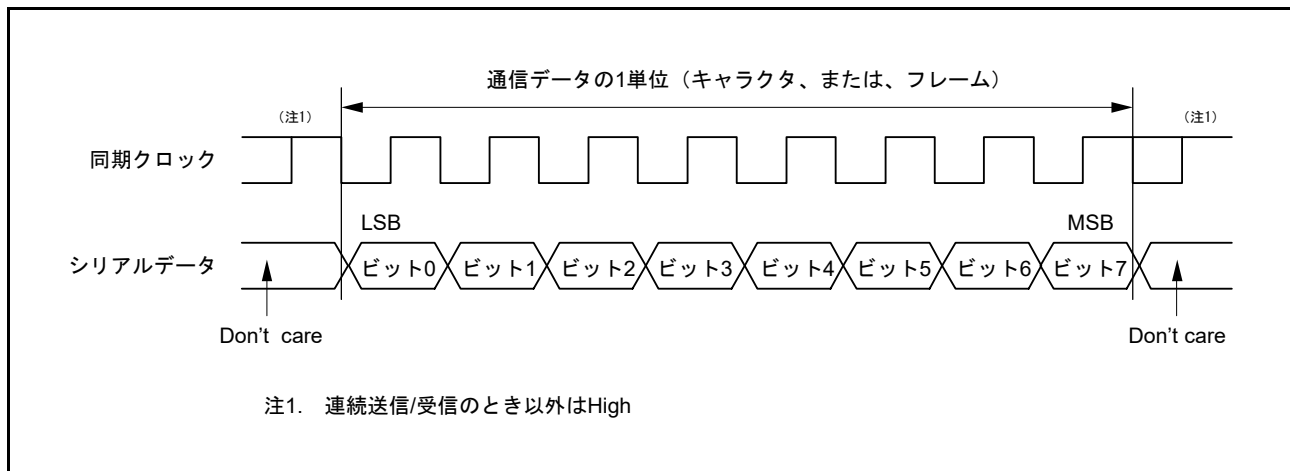


図 27.27 クロック同期式シリアル通信のデータフォーマット (LSB ファーストの場合)

27.5.1 クロック

SCR.CKE[1:0] ビットの設定により、内蔵ボーレートジェネレータが生成する内部クロック、または SCKn 端子から入力される外部同期クロックを選択できます。

内部クロックで動作させるとき、SCKn 端子から同期クロックが出力されます。同期クロックは1キャラクタの送受信で8パルス出力され、送信および受信を行わないときは High に固定されます。ただし、受信動作のみのときは、CTS 機能が無効な場合は SCR.RE ビットを“1”にするとともに同期クロックの出力を開始し、オーバランエラーが発生するか、SCR.RE ビットを“0”にすると、同期クロックは High レベルで停止します。

受信動作のみでかつ CTS 機能が有効な場合は、SCR.RE ビットが“0”のときに CTSn# 端子入力が High であれば、SCR.RE ビットを“1”にしてもクロック出力を開始しません。SCR.RE ビットを“1”にしかつ CTSn# 端子入力が Low になると同期クロックの出力を開始します。その後、フレームの受信が完了した時点で CTSn# 端子入力が High であれば同期クロック出力を High レベルで停止します。CTSn# 端子入力が Low を継続のときは、オーバランエラーが発生するか、SCR.RE ビットを“0”にすると、同期クロックは High レベルで停止します。

27.5.2 CTS、RTS 機能

CTS 機能は、内部クロック時に CTSn# 端子入力を使用して送受信開始制御を行う機能です。SPMR.CTSE ビットを“1”にすると、CTS 機能が有効になります。

CTS 機能が有効のとき、CTSn# 端子入力が Low のときのみ送受信動作を開始します。

送受信動作中に CTSn# 端子を High にした場合、送受信中のフレームは影響を受けず送受信を継続します。

RTS 機能は、外部同期クロック時に RTSn# 端子出力を使用して送受信開始要求を行う機能で、シリアル通信が可能な状態になると Low を出力します。Low、High を出力する条件は以下のとおりです。

[Low になる条件]

以下の条件をすべて満たす場合

- SCR.RE ビットまたは SCR.TE ビットが“1”
- 送受信動作中でない
- 未読の受信データがない (SCR.RE ビットが“1”のとき)
- 未送信のデータがある (SCR.TE ビットが“1”のとき)
- SSR.ORER フラグが“0”

[High になる条件]

Low になる条件を満たさない場合

27.5.3 SCIの初期化(クロック同期式モード)

データの送受信前にSCRレジスタに初期値“00h”を書き込み、図27.28のフローチャートの例に従って初期化してください。動作モードの変更、通信フォーマットの変更の場合も、SCRレジスタを初期値にしてから変更してください。

SCR.REビットを“0”にしても、SSRレジスタのORER、FER、PERフラグおよびRDRレジスタは初期化されませんので注意してください。

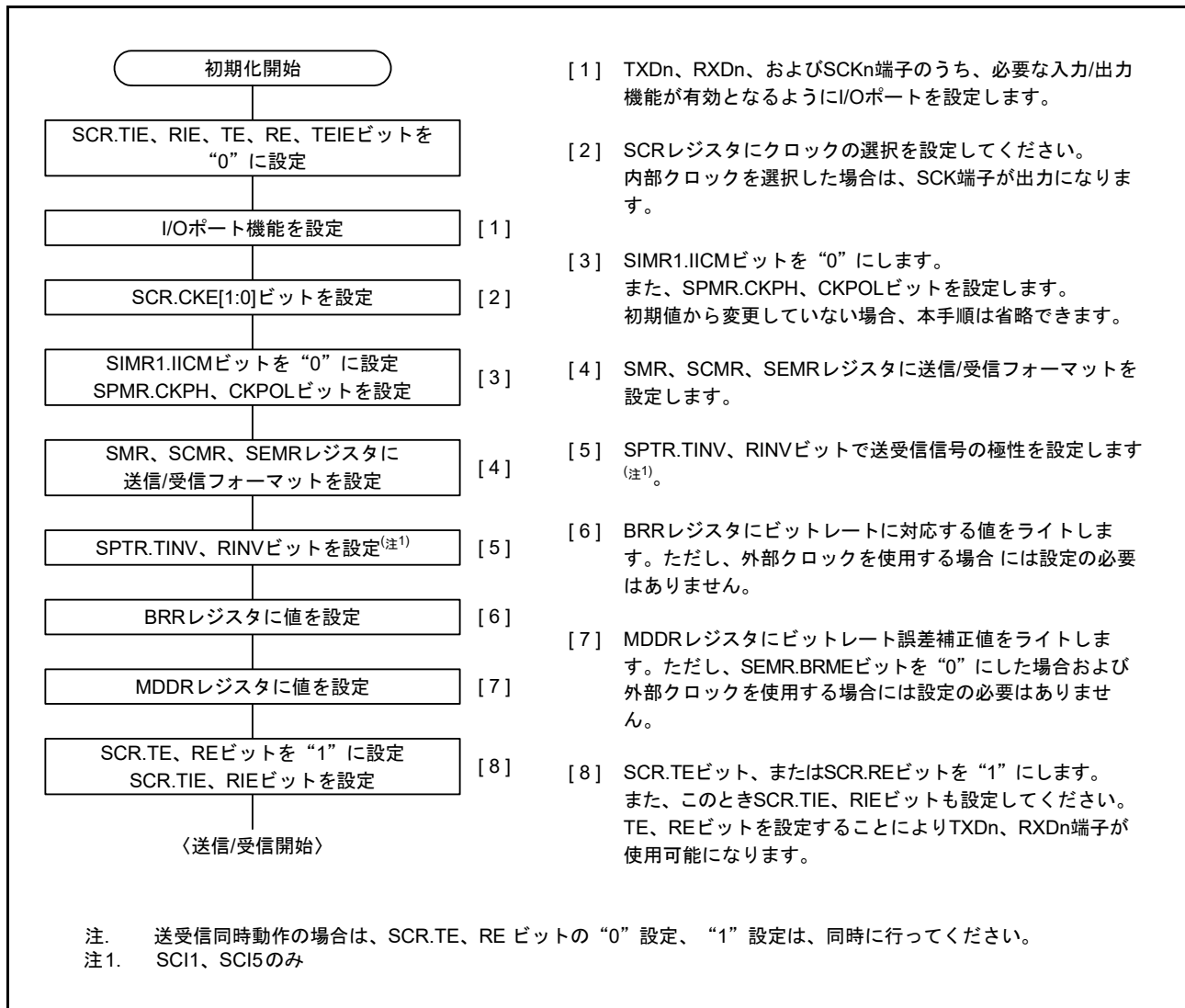


図 27.28 SCIの初期化フローチャートの例(クロック同期式モード)

27.5.4 シリアルデータの送信 (クロック同期式モード)

図 27.29、図 27.30、図 27.31 にクロック同期式モードのシリアル送信時の動作例を示します。
シリアルデータの送信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCI は TXI 割り込みルーチンにより TDR レジスタにデータが書き込まれると、TDR レジスタから TSR レジスタにデータを転送します。なお、送信開始時の TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットを“1”にした後に SCR.TE ビットを“1”にするか、1 命令で同時に“1”にすることで発生します。
2. TDR レジスタから TSR レジスタにデータを転送し、送信を開始します。このとき、SCR.TIE ビットが“1”であると、TXI 割り込み要求が発生します。この TXI 割り込み処理ルーチンで、前に転送したデータの送信が終了するまでに TDR レジスタに次の送信データを書き込むことで連続送信が可能です。TEI 割り込み要求を使用する場合、TXI 割り込み要求処理ルーチン内で最終送信データを TDR レジスタにデータを書いた後、SCR.TIE ビットを“0” (TXI 割り込み要求を禁止) に、SCR.TEIE ビットを“1” (TEI 割り込み要求を許可) にします。
3. クロック出力モードにしたときには出力クロックに同期して、外部クロックにしたときには入力クロックに同期して、TXDn 端子から 8 ビットのデータを出力します。出力クロックは、SPMR.CTSE ビットが“1” (CTS 機能許可) のとき、CTS 信号入力が高レベルになるまで待ってから開始します。
4. 最終ビットを送り出すタイミングで TDR レジスタの更新 (書き込み) をチェックします。
5. TDR レジスタが更新されていれば、TDR レジスタから TSR レジスタにデータを転送し、次のフレームの送信を開始します。
6. TDR レジスタが更新されていなければ、SSR.TEND フラグを“1”にし、最終ビット出力状態を保持します。このとき SCR.TEIE ビットが“1”であると、TEI 割り込み要求が発生します。SCKn 端子は High に固定されます。

図 27.32 にシリアル送信のフローチャートの例を示します。

受信エラーフラグ (SSR.ORER, FER, PER) が“1”になった状態では送信を開始しません。送信開始の前に、受信エラーフラグを“0”にしてください。また、受信エラーフラグは SCR.RE ビットを“0”にただけではクリアされませんので注意してください。

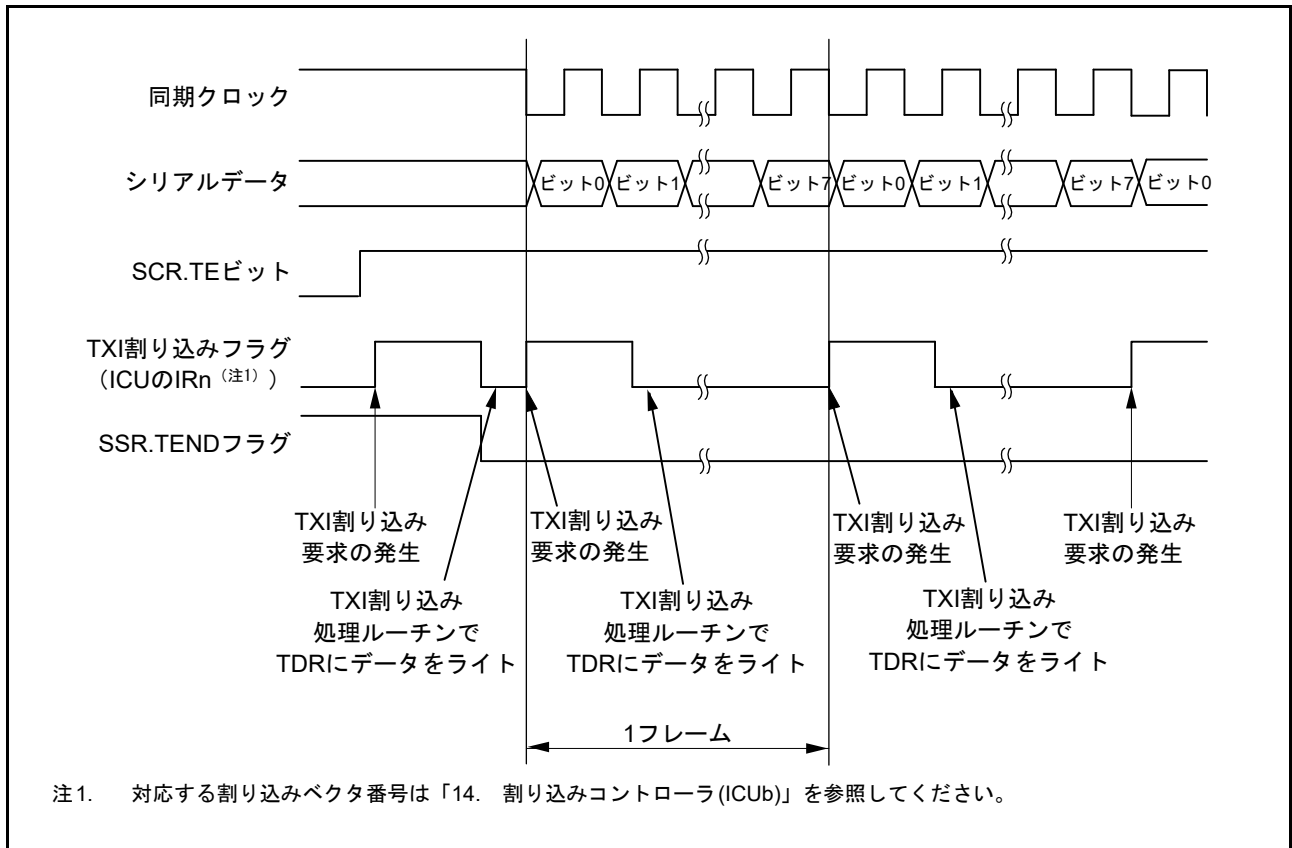


図 27.29 クロック同期式モードのシリアル送信の動作例 (1) (送信開始・CTS 機能使用しない)

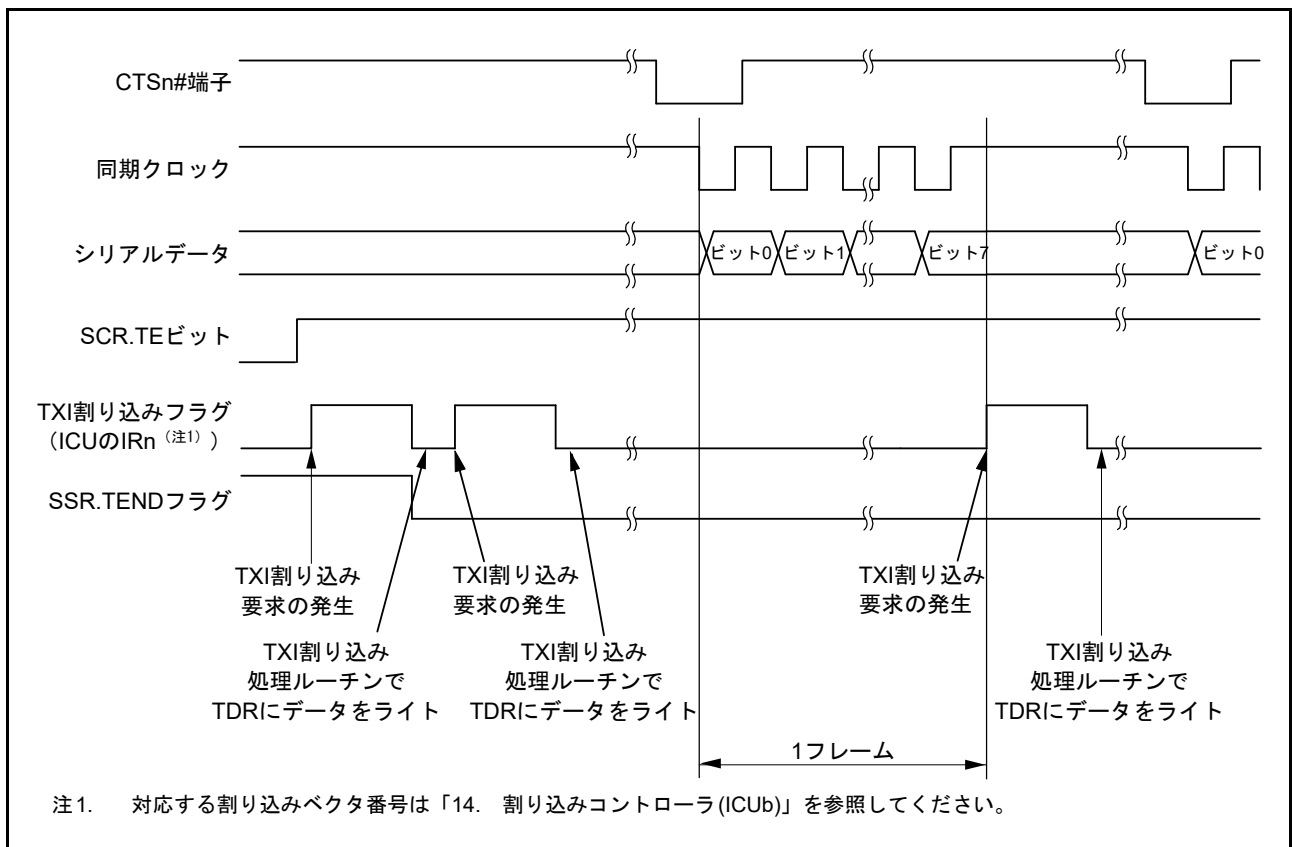


図 27.30 クロック同期式モードのシリアル送信の動作例 (2) (送信開始・CTS 機能使用する)

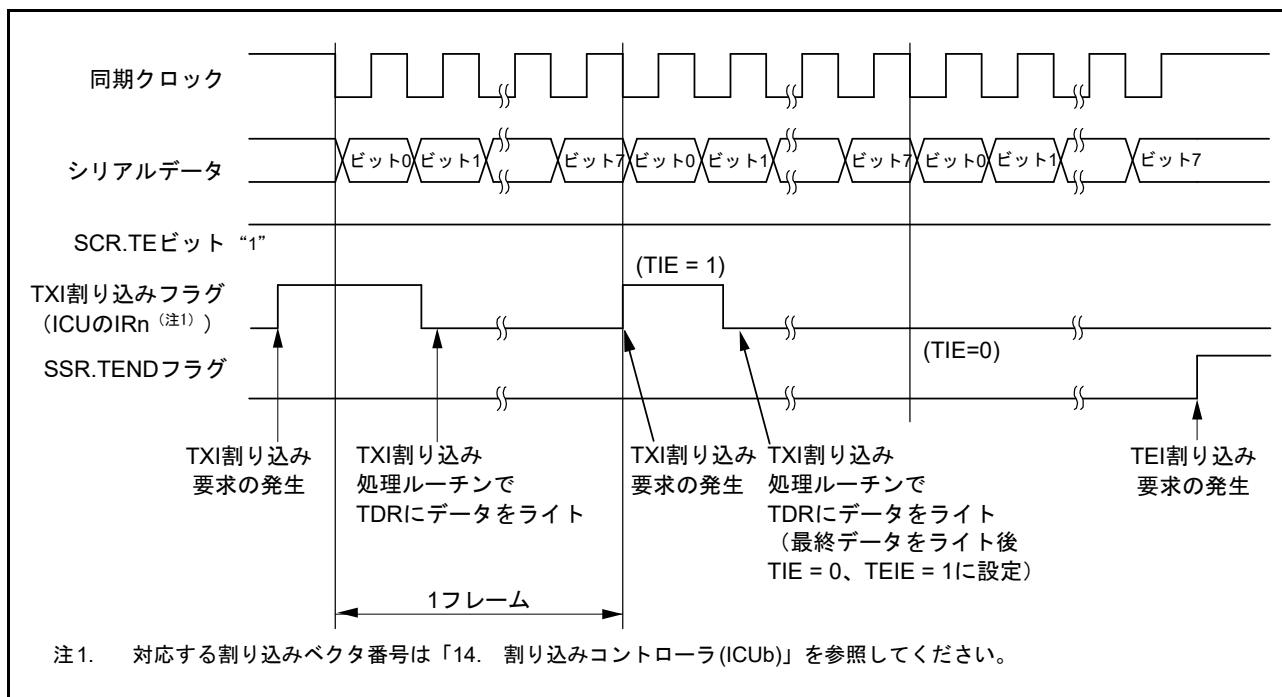


図 27.31 クロック同期式モードのシリアル送信の動作例 (3) (送信中～送信終了時)

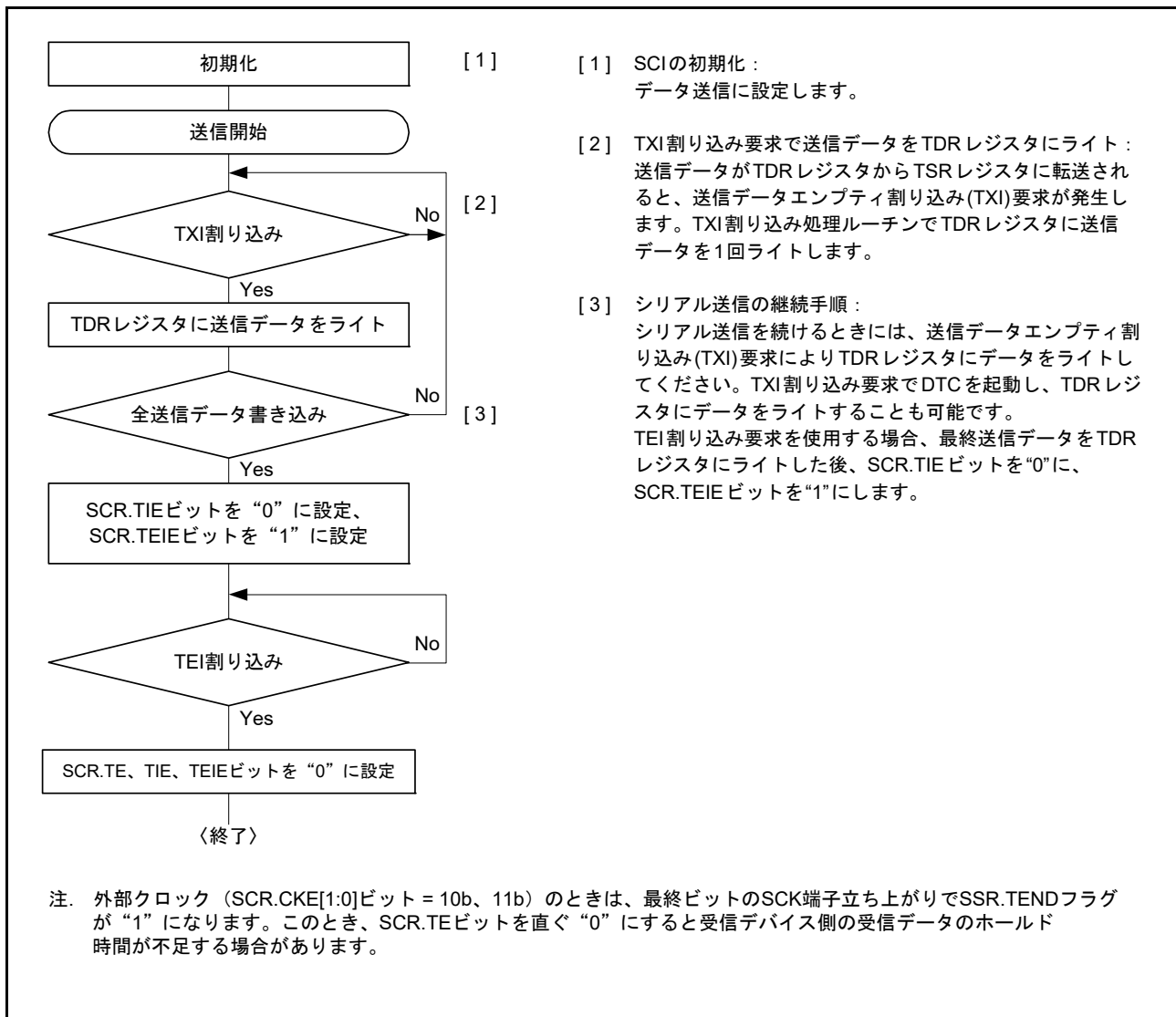


図 27.32 クロック同期式モードのシリアル送信のフローチャート例

27.5.5 シリアルデータの受信 (クロック同期式モード)

図 27.33、図 27.34 にクロック同期式モードのシリアル受信時の動作例を示します。
シリアルデータの受信時、SCI は以下のように動作します。

1. SCR.RE ビットが“1”になると、RTSn# 信号出力を Low にします (RTS 機能使用時)。
2. SCI は同期クロックの入力、または出力に同期して内部を初期化して受信を開始し、受信データを RSR レジスタに取り込みます。
3. オーバランエラーが発生したときは、SSR.ORER フラグをセットします。このとき SCR.RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。受信データは RDR レジスタに転送しません。
4. 正常に受信したときは、受信データを RDR レジスタに転送します。このとき RIE ビットが“1”であると、RXI 割り込み要求が発生します。この RXI 割り込み処理ルーチンで RDR レジスタに転送された受信データを次のデータ受信完了までにリードすることで連続受信が可能です。RDR レジスタに転送された受信データが読み出されると、RTSn# 信号出力を Low にします (RTS 機能使用時)。

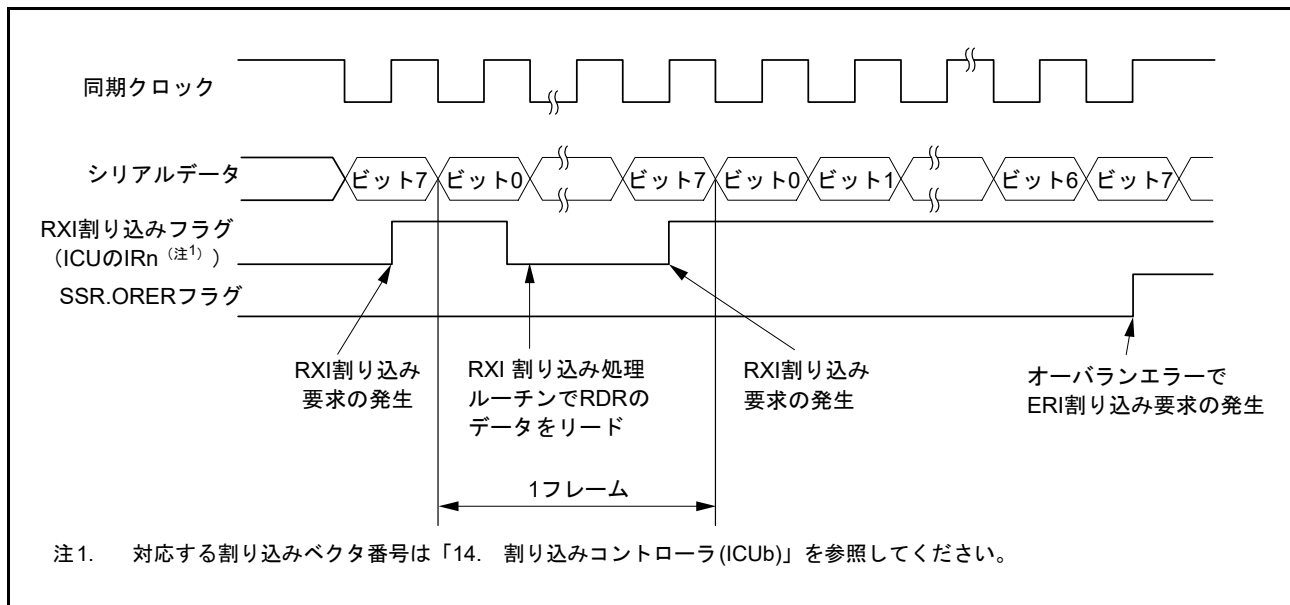


図 27.33 クロック同期式モードのシリアル受信時の動作例 (1) (RTS 機能未使用時)

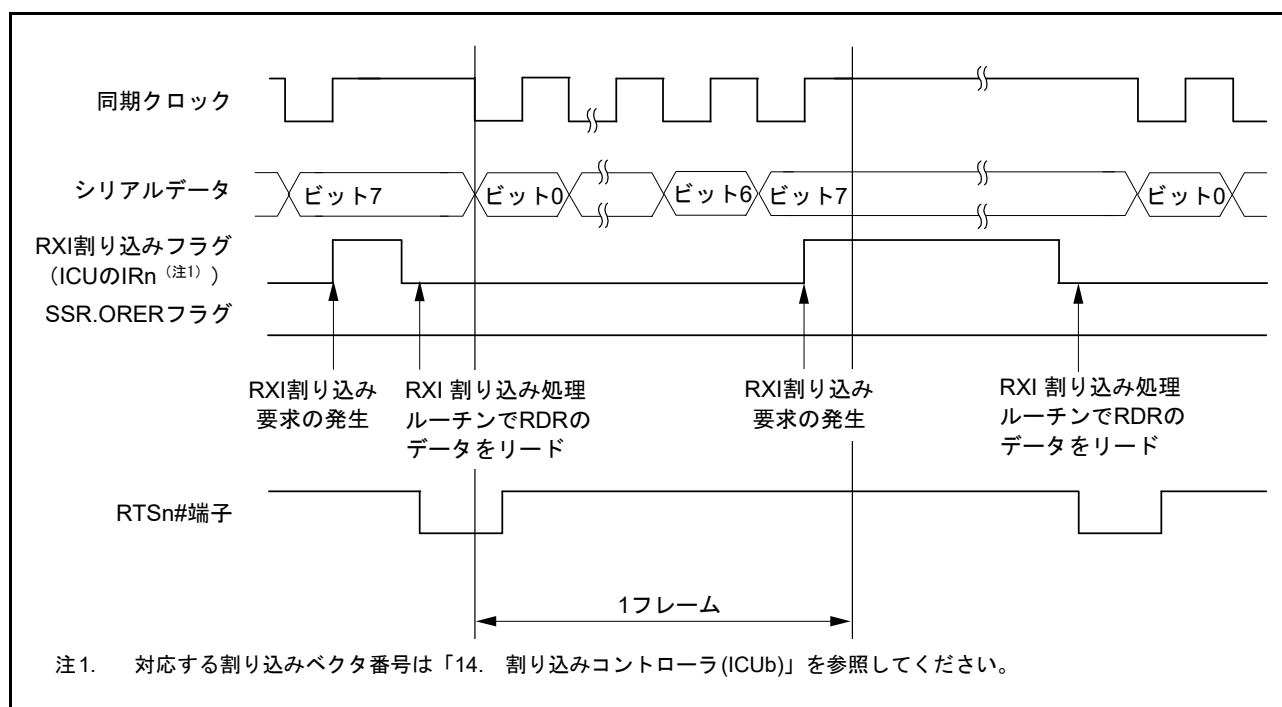


図 27.34 クロック同期式モードのシリアル受信時の動作例 (2) (RTS 機能使用時)

受信エラーフラグがセットされた状態では以後の送受信動作ができません。したがって、受信を継続する前に SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグを“0”にしてください。また、オーバランエラー処理では RDR レジスタをリードしてください。また、受信動作中に SCR.RE ビットを“0”にし受信動作を強制終了した場合、RDR レジスタに読み出し前の受信データが残る場合があるため、RDR レジスタをリードしてください。

図 27.35 にシリアル受信のフローチャートの例を示します。

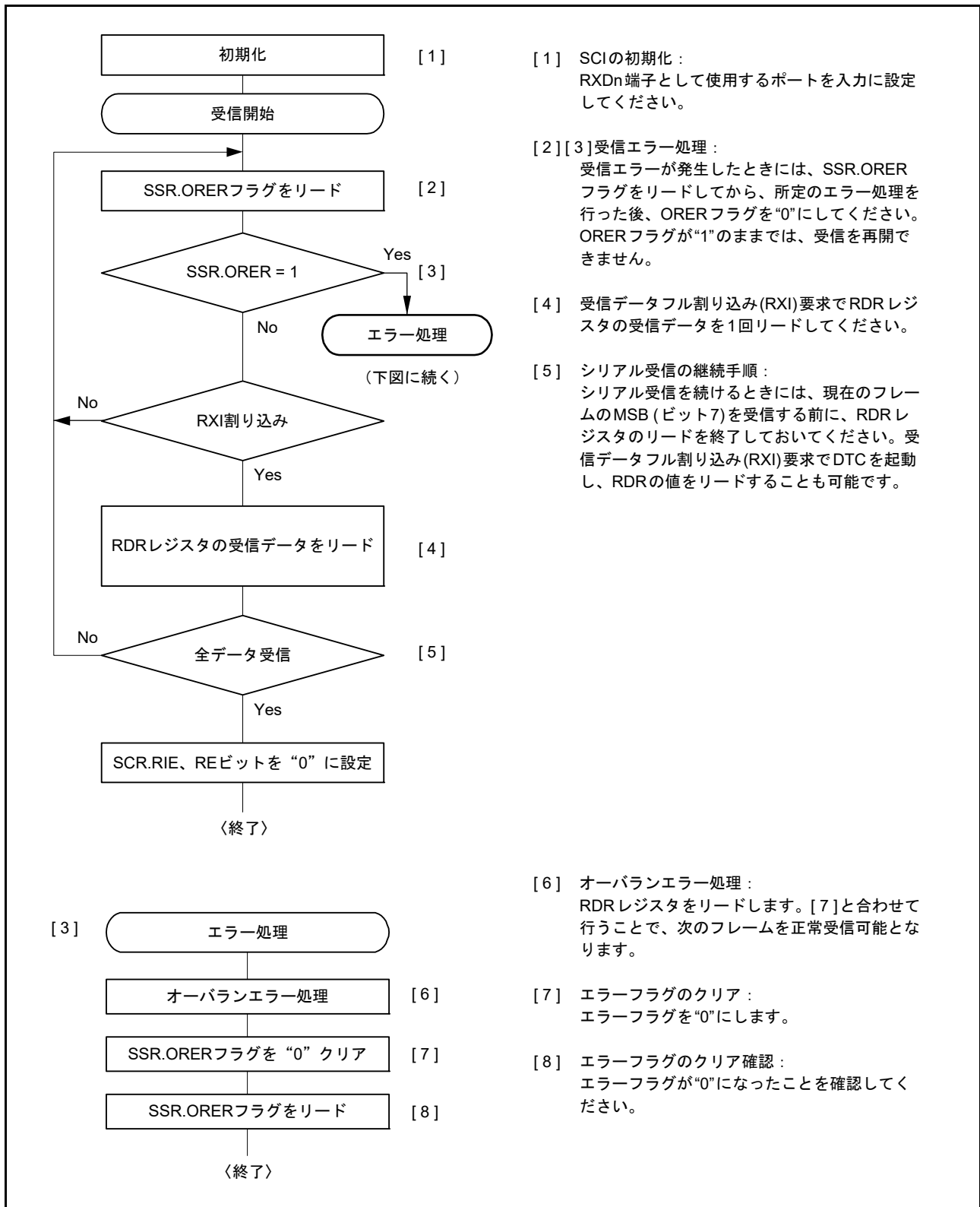


図 27.35 クロック同期式モードのシリアル受信のフローチャート例

27.5.6 シリアルデータの送受信同時動作 (クロック同期式モード)

図 27.36 にクロック同期式モードのシリアル送受信同時動作のフローチャートの例を示します。

シリアル送受信同時動作は、SCI の初期化後、以下の手順に従って行ってください。

送信から同時送受信へ切り替えるときには、SCI が送信終了状態であることを SSR.TEND フラグが“1”になっていることで確認してください。その後、SCR レジスタを初期化してから SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE ビットを 1 命令で同時に“1”にしてください。

受信から同時送受信へ切り替えるときには、SCI が受信完了状態であることを確認した後、SCR レジスタの RIE、RE ビットを“0”にしてから、エラーフラグ (SSR.ORER, FER, PER) が“0”であることを確認した後、SCR レジスタの TIE、RIE、TE、RE ビットを 1 命令で同時に“1”にしてください。

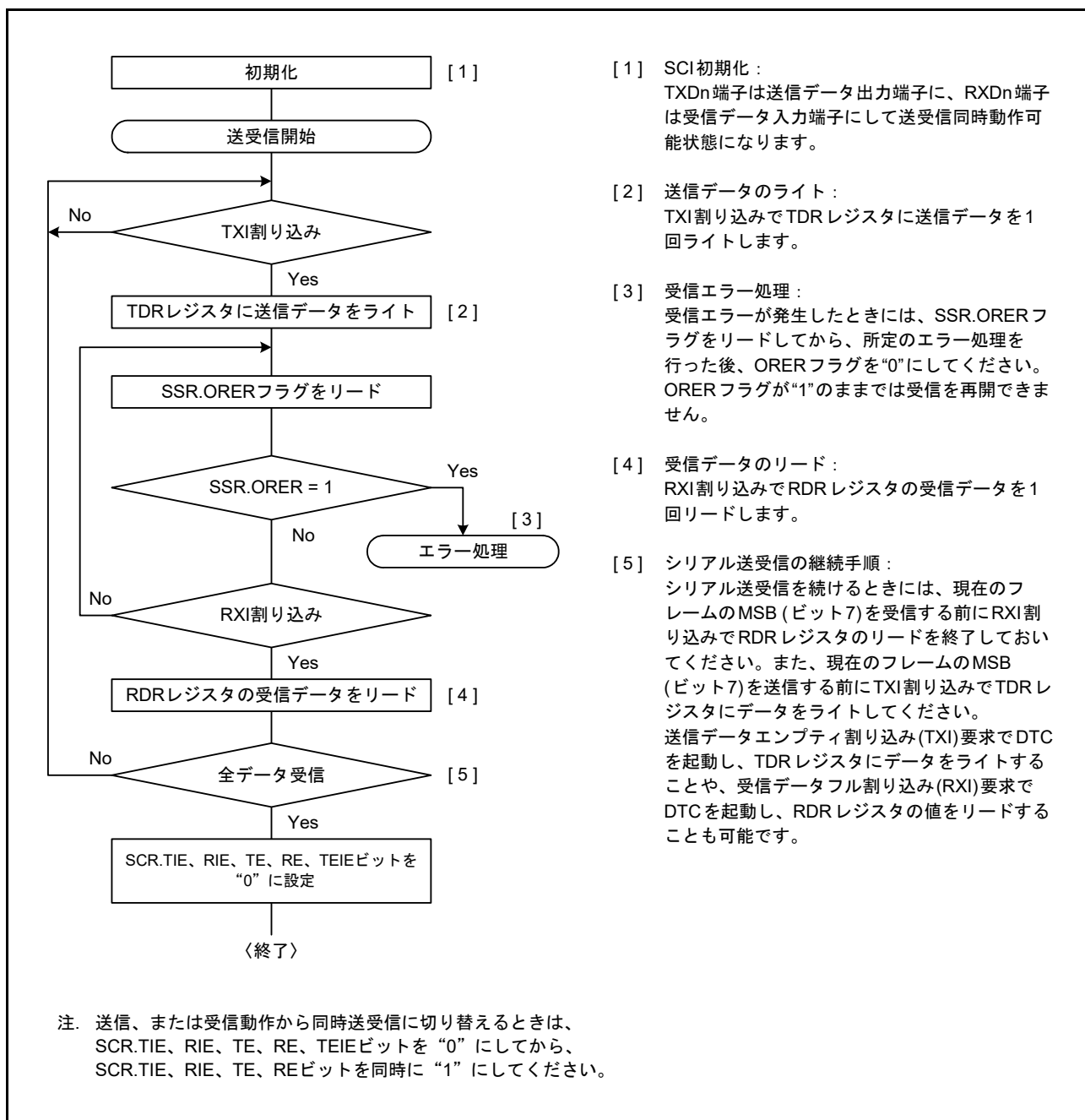


図 27.36 クロック同期式モードのシリアル送受信同時動作のフローチャート例

27.6 スマートカードインタフェースモードの動作

SCIの拡張機能として、ISO/IEC 7816-3 (Identification Card) に対応したスマートカード (IC カード) インタフェースに対応しています。

スマートカードインタフェースモードへの切り替えはレジスタにより行います。

27.6.1 接続例

図 27.37 にスマートカード (IC カード) との接続例を示します。

IC カードとは1本のデータ伝送線で送受信が行われるので、TXDn 端子と RXDn 端子とを結線し、データ伝送線を抵抗で電源 VCC 側にプルアップしてください。

IC カードを接続しない状態で SCR.TE ビット = 1、SCR.RE ビット = 1 に設定すると、閉じた送信 / 受信が可能となり自己診断をすることができます。

SCI で生成するクロックを IC カードに供給する場合は、SCKn 端子出力を IC カードの CLK 端子に入力してください。

リセット信号の出力には本 MCU の出力ポートを使用できます。

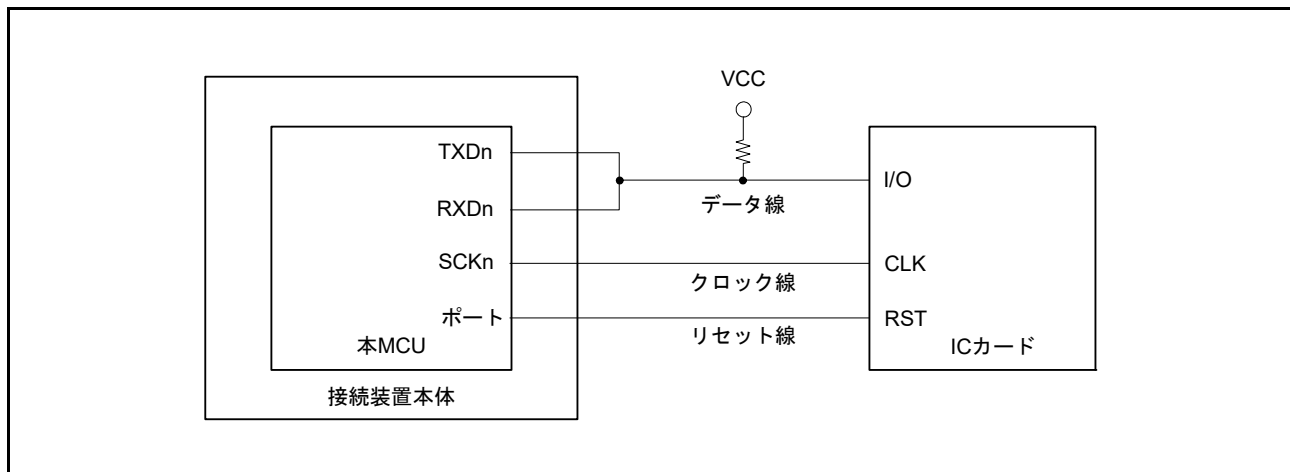


図 27.37 スマートカード (IC カード) との接続例

27.6.2 データフォーマット (ブロック転送モード時を除く)

図 27.38 にスマートカードインタフェースモードでの送受信フォーマットを示します。

- 調歩同期式で、1 フレームは 8 ビットデータとパリティビットで構成されます。
- 送信時は、パリティビットの終了から次のフレーム開始まで 2 etu (Elementary Time Unit: 1 ビットの転送期間) 以上のガードタイムをおきます。
- 受信時にパリティエラーを検出した場合、スタートビットから 10.5 etu 経過後、エラーシグナル (Low) を 1 etu 期間出力します。
- 送信時にエラーシグナルをサンプリングすると、2 etu 以上経過後、自動的に同じデータを再送信します。

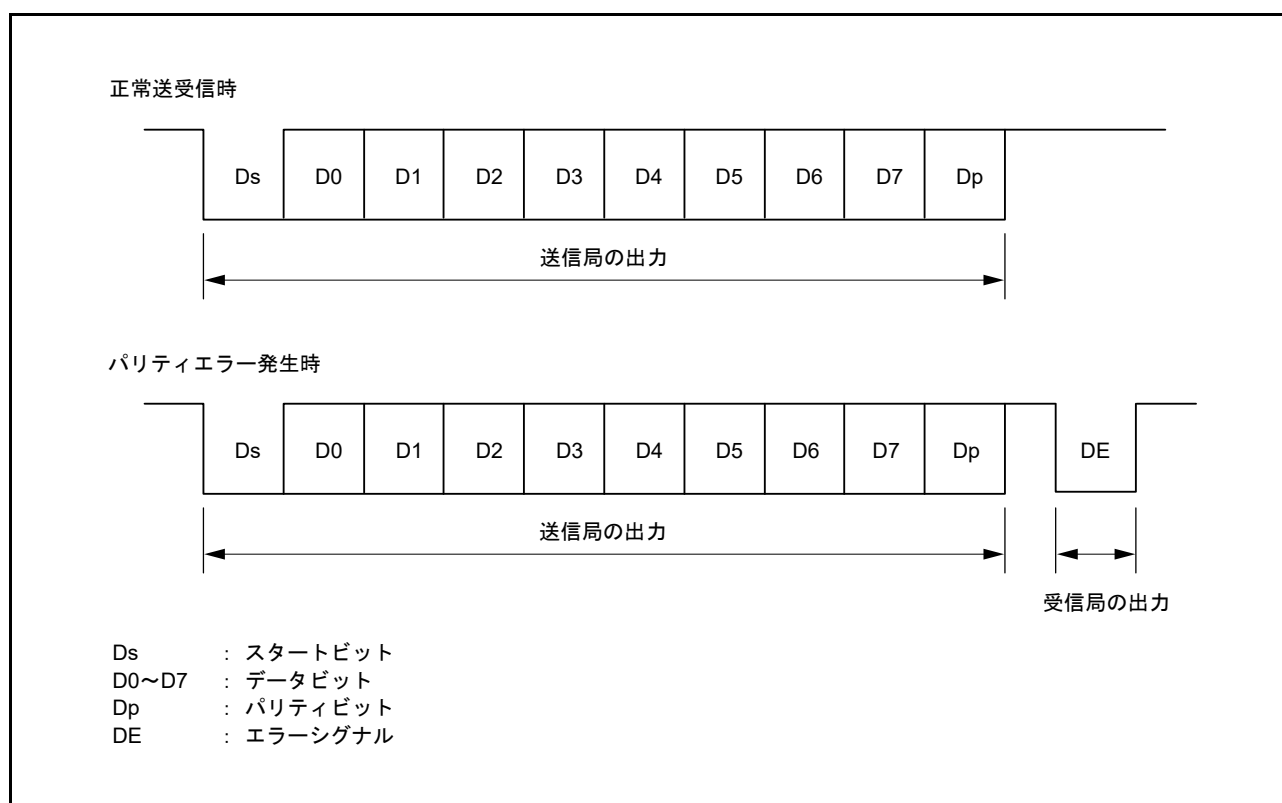


図 27.38 スマートカードインタフェースモードのデータフォーマット

ダイレクトコンベンションタイプと、インバースコンベンションタイプの2種類のICカードとの送受信は、以下のように行ってください。

(1) ダイレクトコンベンションタイプ

ダイレクトコンベンションタイプは、**図 27.39**に示す開始キャラクタの例のように、論理1レベルを状態Zに、論理0レベルを状態Aに対応付け、LSBファーストで送受信します。**図 27.39**の開始キャラクタでは、データは“3Bh”となります。

ダイレクトコンベンションタイプでは、SCMRレジスタのSDIR、SINVビットをともに“0”にしてください。また、スマートカードの規定により偶数パリティとなるようSMR.PMビットには“0”を設定してください。

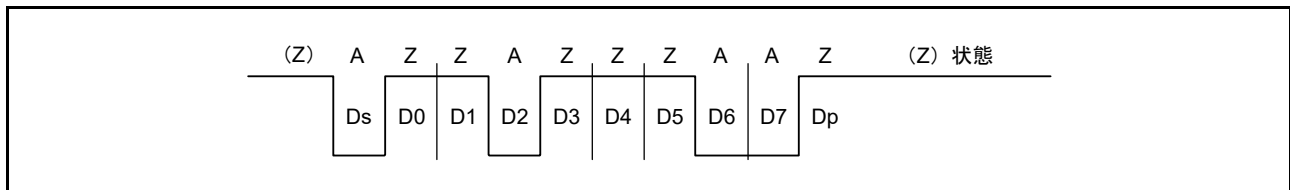


図 27.39 ダイレクトコンベンション
(SCMR.SDIR ビット = 0、SCMR.SINV ビット = 0、SMR.PM ビット = 0)

(2) インバースコンベンションタイプ

インバースコンベンションタイプは、論理1レベルを状態Aに、論理0レベルを状態Zに対応付け、MSBファーストで送受信します。**図 27.40**の開始キャラクタでは、データは“3Fh”となります。

インバースコンベンションタイプでは、SCMRレジスタのSDIR、SINVビットをともに“1”にしてください。パリティビットはスマートカードの規定により偶数パリティで論理0となり、状態Zが対応します。

本MCUでは、SINVビットはデータビットD7～D0のみ反転させます。このため、送受信ともSMR.PMビットに“1”を設定してパリティビットを反転させてください。

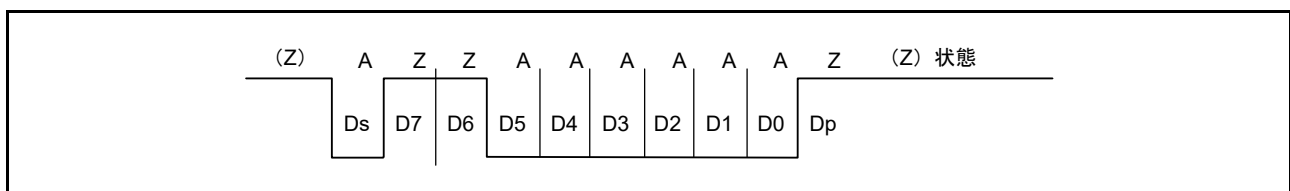


図 27.40 インバースコンベンション
(SCMR.SDIR ビット = 1、SCMR.SINV ビット = 1、SMR.PM ビット = 1)

27.6.3 ブロック転送モード

ブロック転送モードは、非ブロック転送モードと比較して以下の点が異なります。

- 受信時にパリティチェックを行います。エラーを検出してもエラーシグナルは出力しません。SSR.PER フラグはセットされますので、次のフレームのパリティビットを受信する前にクリアしてください。
- 送信時のパリティビットの終了から、次のフレーム開始までのガードタイムは最小1 etu 以上です。
- 再送信を行わないため、SSR.TEND フラグは送信開始から11.5 etu 後にセットされます。
- SSR.ERS フラグは非ブロック転送モードと同じで、エラーシグナルのステータスを示しますが、エラーシグナルの送受信を行わないため“0”となります。

27.6.4 受信データサンプリングタイミングと受信マージン

スマートカードインタフェースモードで使用できる送受信クロックは、内蔵ボーレートジェネレータが生成した基本クロックのみです。

スマートカードインタフェースモードでは、SCMR.BCP2 ビット、SMR.BCP[1:0] ビットの設定により、ビットレートの 32 倍、64 倍、372 倍、256 倍、93 倍、128 倍、186 倍、512 倍の周波数の基本クロックで動作します。

受信時は、スタートビットの立ち下がりをもとに基本クロックでサンプリングして同期化します。図 27.41 に示すように、受信データを基本クロックのそれぞれ 16、32、186、128、46、64、93、256 クロック目の立ち上がりエッジでサンプリングすることで、各ビットの中央でデータを取り込みます。このときの受信マージンは次の式で表わすことができます。

$$M = \left| \left(0.5 - \frac{1}{2N} \right) - (L - 0.5)F - \frac{|D - 0.5|}{N} (1 + F) \right| \times 100 (\%)$$

M: 受信マージン(%)

N: クロックに対するビットレートの比(N = 32, 64, 372, 256)

D: クロックデューティ(D = 0 ~ 1.0)

L: フレーム長(L = 10)

F: クロック周波数の偏差の絶対値

上の式で、F = 0、D = 0.5、N = 372 とすると、受信マージンは次のようになります。

$$M = \{0.5 - 1/(2 \times 372)\} \times 100 (\%) = 49.866 (\%)$$

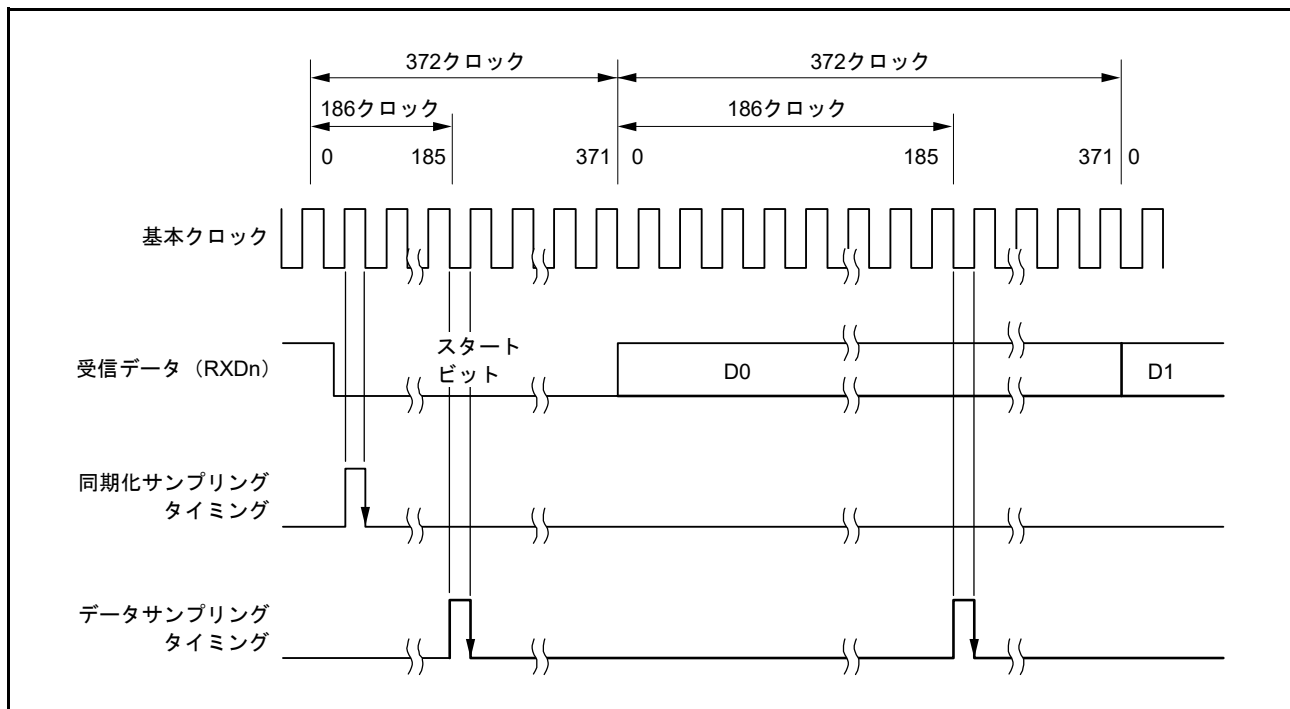


図 27.41 スマートカードインタフェースモード時の受信データサンプリングタイミング (372 倍のクロック使用時)

27.6.5 SCIの初期化(スマートカードインタフェースモード)

図 27.42 のフローチャート例に従って SCI を初期化してください。

送信モードと受信モードを切り替える場合も、SCR レジスタと SSR レジスタは初期化してください。ビットレートを変更しない場合、CKE[1:0] ビットを“00b”にする必要はありません。なお、RE ビットを“0”にしても RDR レジスタは初期化されません。

受信モードから送信モードに切り替える場合、受信動作が完了していることを確認した後、図 27.42 の [1] と [3] を実施し、[11] で TE ビット=1、RE ビット=0 に設定してください。受信動作の完了は、RXI 割り込み要求、SSR.ORER フラグ、または SSR.PER フラグで確認できます。

送信モードから受信モードに切り替える場合、送信動作が完了していることを確認した後、図 27.42 の [1] と [3] を実施し、[11] で TE ビット=0、RE ビット=1 に設定してください。送信動作の完了は SSR.TEND フラグで確認できます。

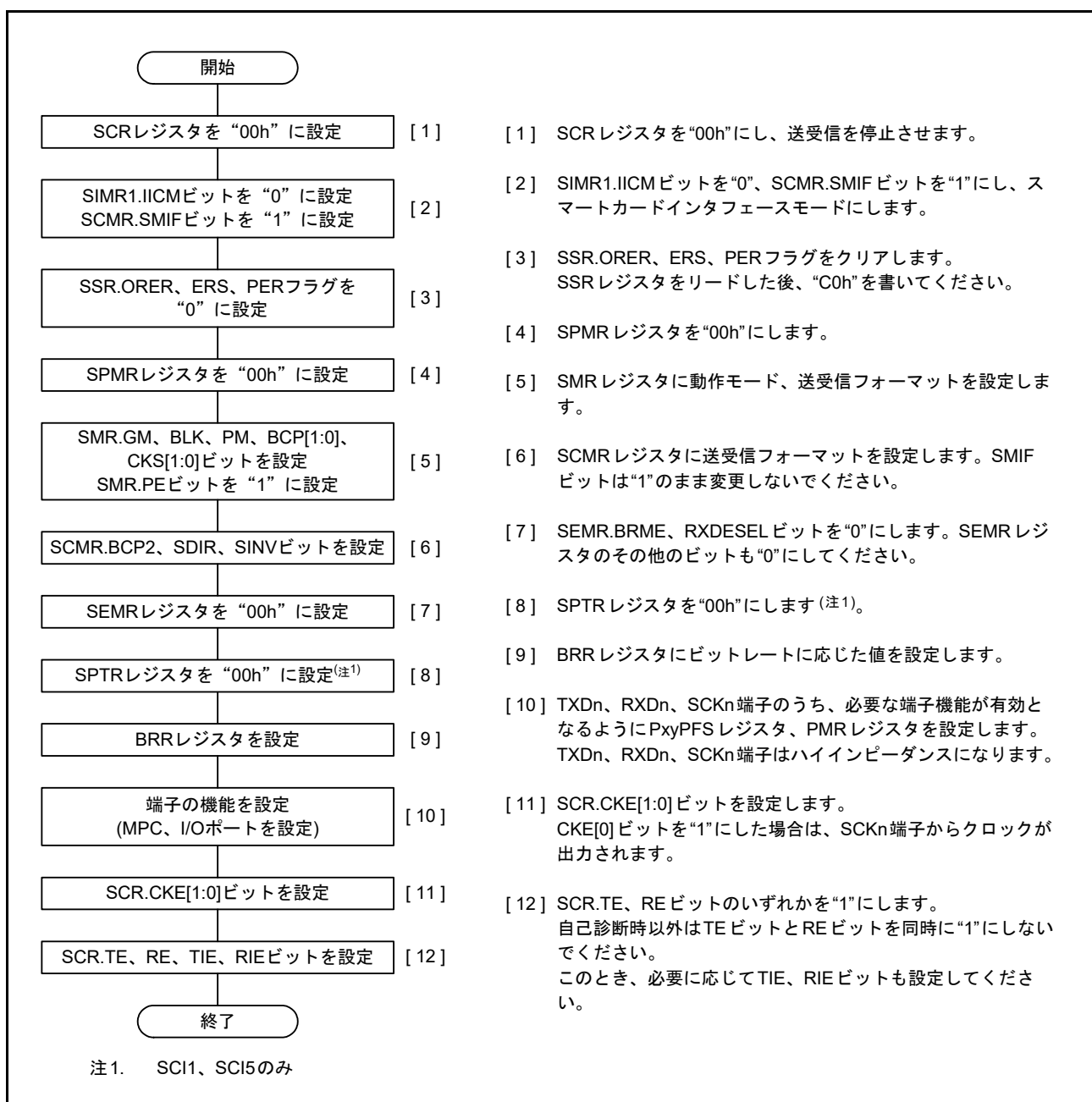


図 27.42 SCIの初期化フローチャートの例(スマートカードインタフェースモード)

図 27.43 は、リセット解除後に図 27.42 に従って SCI をスマートカードインタフェースモードに設定して、データ送信を行ったときのタイミング例です。図に示すように、端子機能を SCK 端子、TXD 端子に設定した時点では、それぞれ SCR.CKE[0] ビット、SCR.TE ビットが“0”であるため端子はハイインピーダンスです。CKE[0] ビットを“1”にすると SCK 端子からクロックが出力されます。TE ビットを“1”にした後送信データを書くと、データ送信が開始されます。TE ビットを“1”にしてからデータ送信が開始されるまでには、1 フレーム分の内部待機期間があります。スマートカードインタフェースモードでは、この期間 TXD 端子はハイインピーダンスになります。

スマートカードインタフェースモードでは、TE ビット、RE ビットが共に“0”になっている場合でも、CKE[0] ビットが“1”(クロック出力)であれば、クロックを出力し続けます。

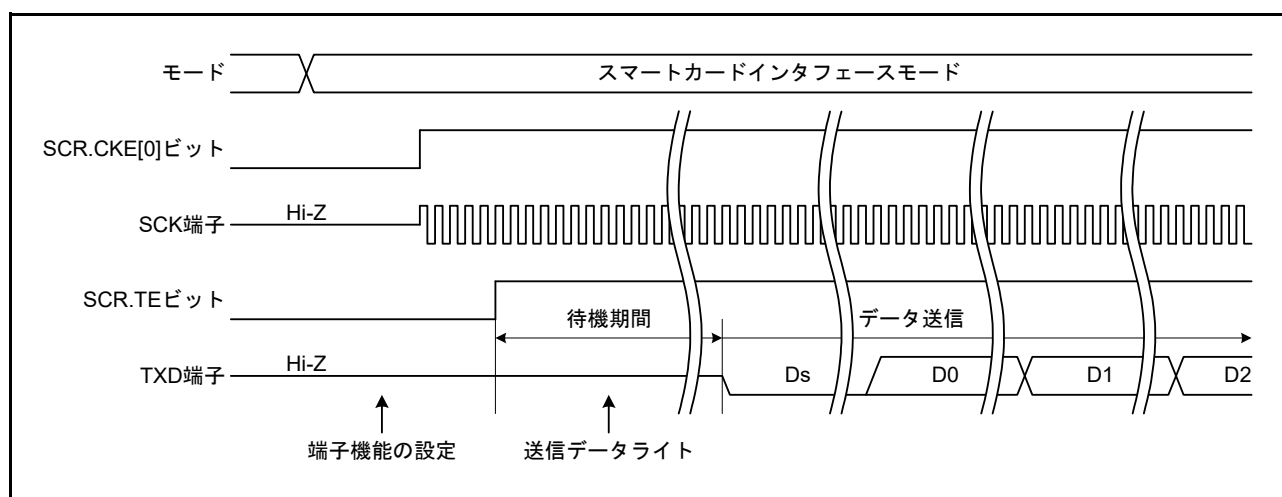


図 27.43 スマートカードインタフェースモード時のデータ送信タイミング例

27.6.6 シリアルデータの送信 (ブロック転送モードを除く)

スマートカードインタフェースモードにおけるシリアル送信は、エラーシグナルのサンプリングと再送信処理があるため、非スマートカードインタフェースモードとは動作が異なります (ブロック転送モードを除く)。送信時の再送信動作を図 27.44 に示します。

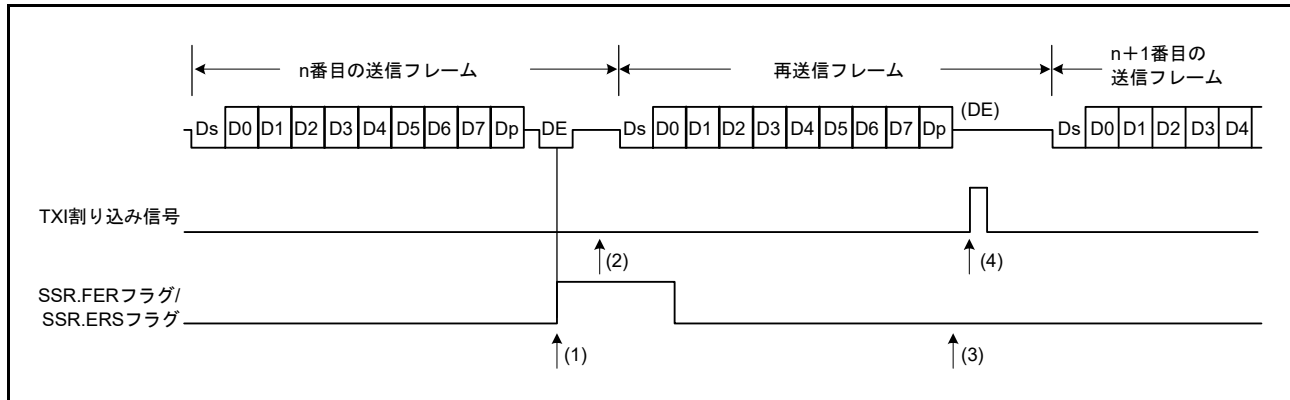


図 27.44 SCI 送信モードの場合の再送信動作 (送信時の再送信動作)

- (1) 1 フレーム分の送信を完了した後、受信側からのエラーシグナルをサンプリングすると SSR.ERS フラグが“1”になります。このとき SCR.RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。次のパリティビットのサンプリングまでに ERS フラグをクリアしてください。
- (2) エラーシグナルを受信したフレームでは、SSR.TEND フラグはセットされません。TDR レジスタから TSR レジスタに再度データが転送され、自動的に再送信を行います。
- (3) 受信側からエラーシグナルが返ってこない場合は、ERS フラグはセットされません。
- (4) 再送信を含む 1 フレームの送信が完了したと判断して、SSR.TEND フラグがセットされます。このとき、SCR.TIE ビットが“1”であれば、TXI 割り込み要求が発生します。送信データを TDR レジスタに書き込むことにより次のデータが送信されます。

シリアル送信のフローチャートの例を図 27.45 に示します。

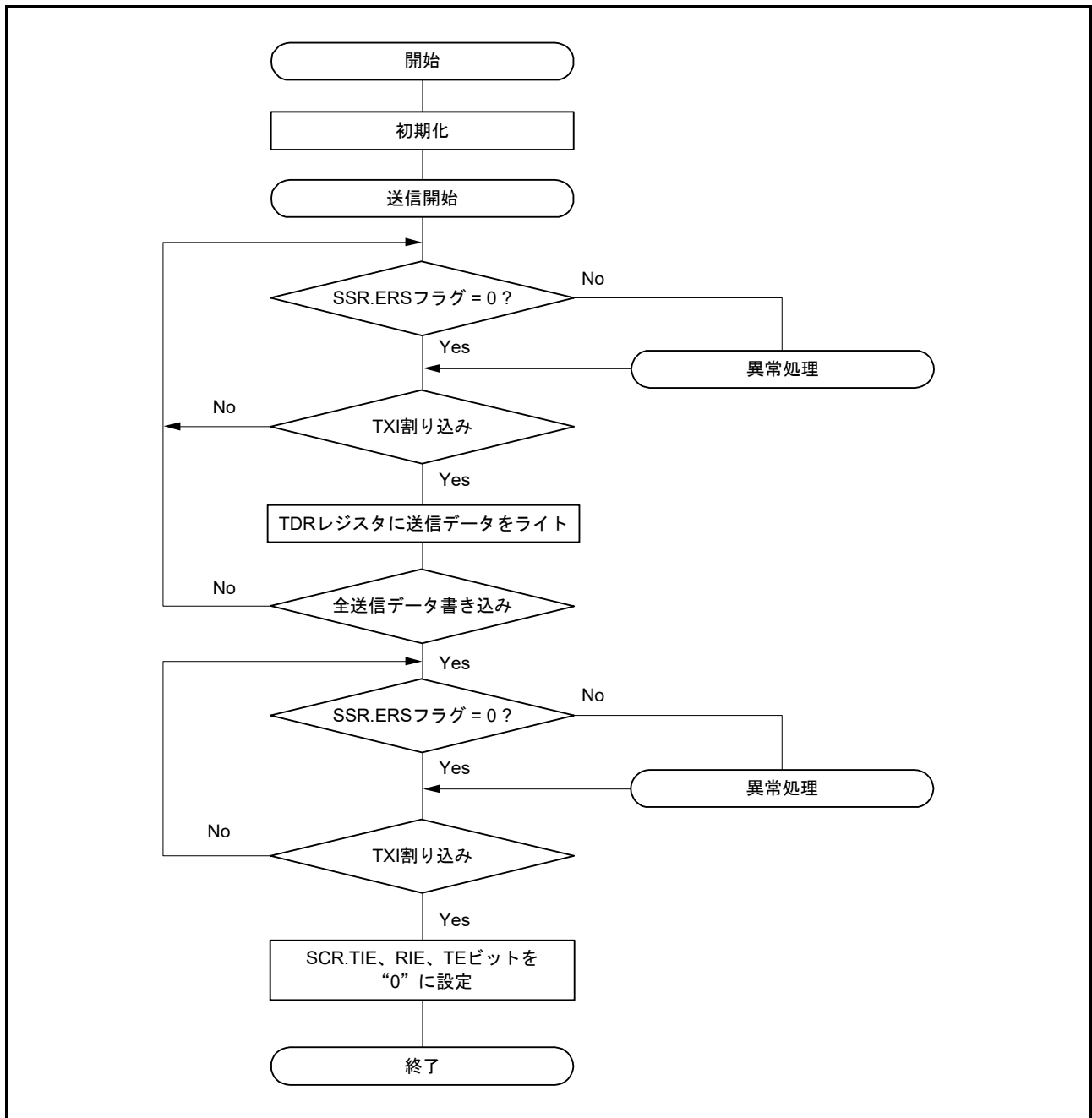


図 27.45 スマートカードインタフェース送信のフローチャート例

これらの一連の処理は、TXI 割り込み要因によって DTC を起動することで自動的に行うことができます。送信動作では、SCR.TIE ビットを“1”にしておくと、SSR.TEND フラグが“1”になったときに TXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に TXI 割り込み要求を設定しておけば、TXI 割り込み要求により DTC が起動されて送信データの転送を行います。TEND フラグは、DTC によるデータ転送時に自動的に“0”になります。

エラーが発生した場合は SCI が自動的に同じデータを再送信します。この間、TEND フラグは“0”のまま保持され、DTC は起動されません。したがって、エラー発生時の再送信を含め、SCI と DTC が指定されたバイト数を自動的に送信します。ただし、エラー発生時、ERS フラグは自動的にクリアされませんので、RIE ビットを“1”にしておき、エラー発生時に ERI 割り込み要求を発生させ、ERS フラグをクリアしてくだ

さい。

なお、DTCを使って送受信を行う場合は、先にDTCを設定し、許可状態にしてからSCIの設定を行ってください。

DTCの設定方法は「16. データトランスファコントローラ(DTCb)」を参照してください。

なお、SMR.GMビットの設定により、SSR.TENDフラグのセットタイミングが異なります。図27.46にTENDフラグ発生タイミングを示します。

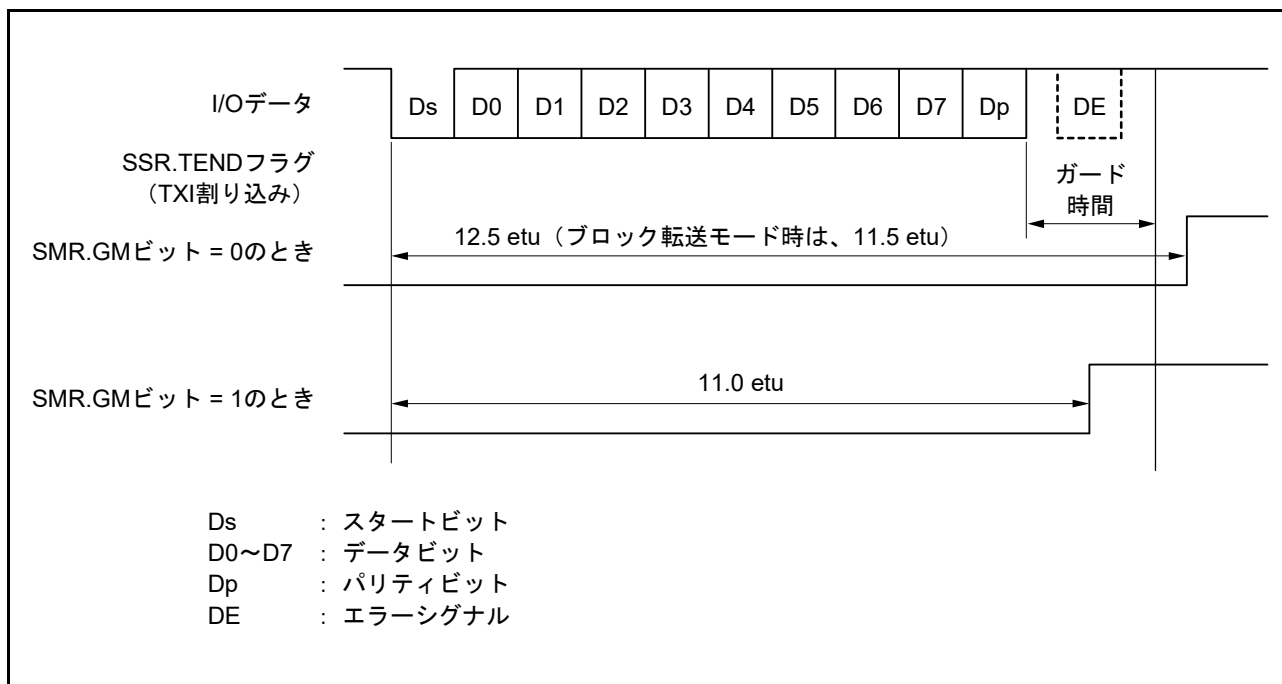


図 27.46 送信時の SSR.TEND フラグの発生タイミング

27.6.7 シリアル受信 (ブロック転送モードを除く)

スマートカードインタフェースモードにおけるシリアル受信は、非スマートカードインタフェースモードと同様の処理手順になります。受信モードの場合の再送信動作を図 27.47 に示します。

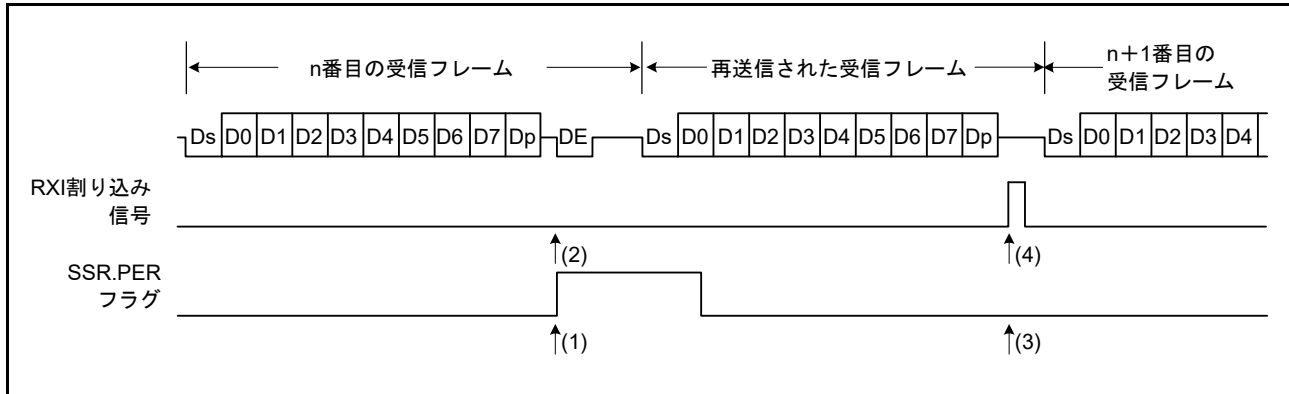


図 27.47 SCI 受信モードの場合の再送信動作 (受信時の再送信動作)

- (1) 受信データにパリティエラーを検出すると SSR.PER フラグが“1”になります。このとき、SCR.RIE ビットが“1”であると、ERI 割り込み要求が発生します。次のパリティビットのサンプリングタイミングまでに PER フラグをクリアしてください。
- (2) パリティエラーを検出したフレームでは RXI 割り込みは発生しません。
- (3) パリティエラーが検出されない場合は、SSR.PER フラグはセットされません。
- (4) 正常に受信を完了したと判断して、RIE ビットが“1”であれば、RXI 割り込み要求を生成します。

シリアル受信のフローチャートの例を図 27.48 に示します。

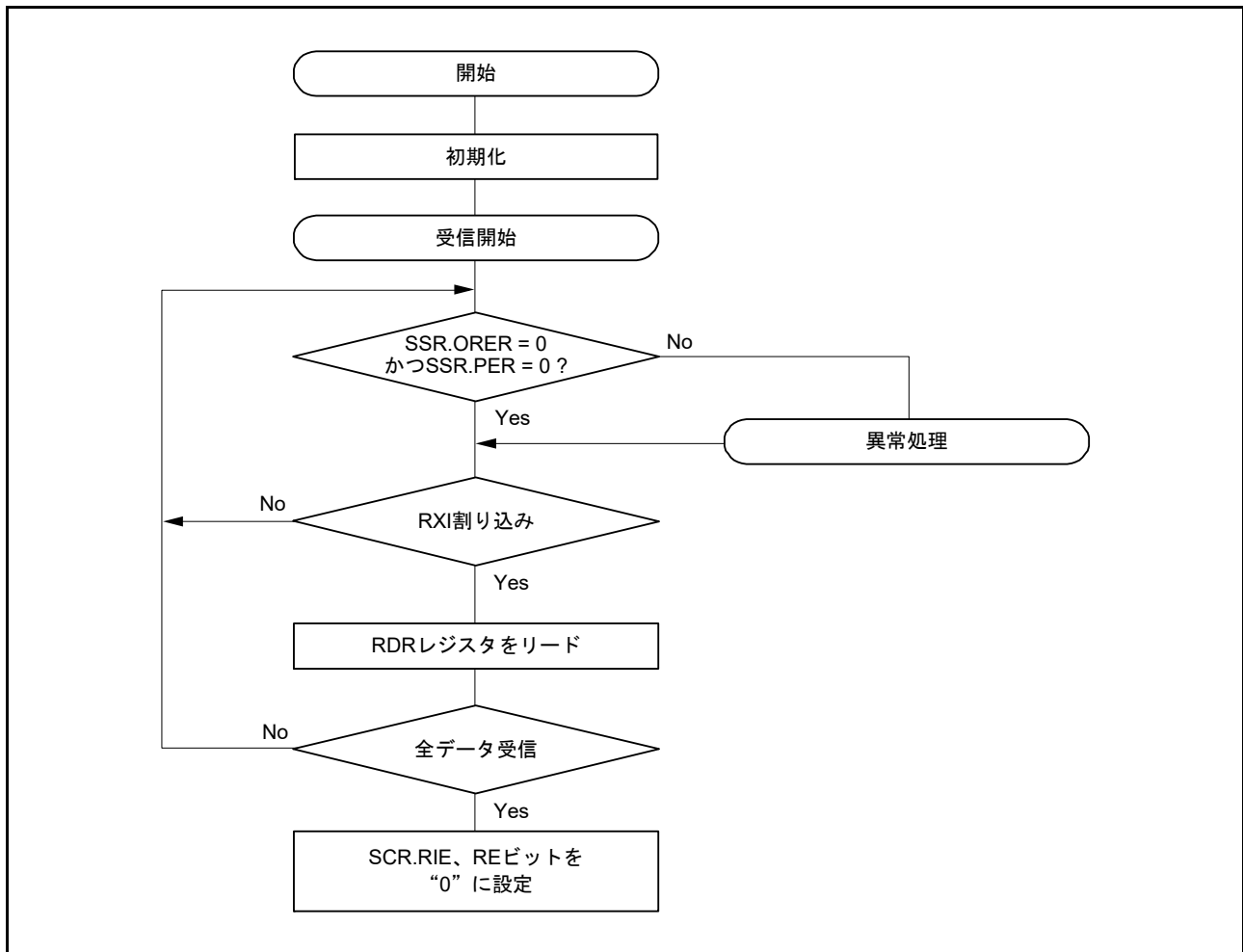


図 27.48 スマートカードインタフェース受信のフローチャート例

これらの一連の処理は、RXI 割り込み要求によって DTC を起動することで自動的に行うことができます。受信動作では、RIE ビットを“1”にしておくと、RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に RXI 割り込み要求を設定しておけば、RXI 割り込み要求により DTC が起動されて受信データの転送を行います。

また、受信時にエラーが発生し SSR レジスタの ORER、PER フラグのいずれかが“1”になると、受信エラー割り込み (ERI) 要求が発生しますのでエラーフラグをクリアしてください。エラーが発生した場合は DTC は起動されず、受信データはスキップされるため DTC に設定したバイト数だけ受信データを転送します。

なお、受信時にパリティエラーが発生し PER フラグが“1”になった場合でも、受信したデータは RDR レジスタに転送されるのでこのデータをリードすることは可能です。また、受信動作中に SCR.RE ビットを“0”にし受信動作を強制終了した場合、RDR レジスタに読み出し前の受信データが残る場合があるため、RDR レジスタをリードしてください。

注. ブロック転送モードの場合は、「27.3 調歩同期式モードの動作」を参照してください。

27.6.8 クロック出力制御

SMR.GM ビットが“1”であるとき、SCR.CKE[1:0] ビットによってクロック出力を High や Low に固定することができます。CKE[1:0] ビットを“01b”(クロック出力)にすると、SCK 端子から基本クロックが出力されます。基本クロックの周波数(ビットレート)の設定については、「27.2.11 ビットレートレジスタ(BRR)」を参照してください。CKE[1:0] ビットを“00b”(Low 出力固定)や“10b”(High 出力固定)にすると、SCK 端子から Low や High を出力できます。

図 27.49 にクロック出力制御を行ったときのタイミング図を示します。

なお、SMR.GM ビットが“0”(非 GSM モード)の場合に CKE[1:0] ビットを変更すると、その結果がすぐに SCK 端子に反映されるため、SCK 端子から意図しない幅のパルスが出力されることがあります。

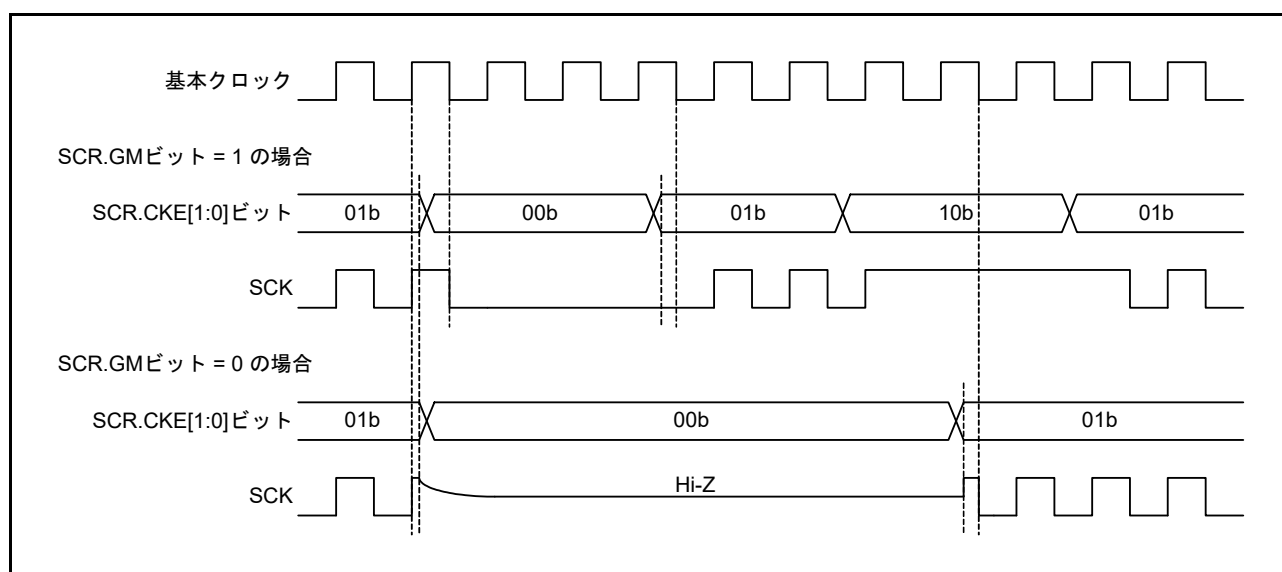


図 27.49 クロック出力制御

27.7 簡易 I²C モードの動作

簡易 I²C バスフォーマットは、8 ビットのデータと 1 ビットのアクノリッジから構成されます。開始条件および再開条件に続くフレームはスレーブアドレスフレームで、マスタデバイスが通信先であるスレーブデバイスを指定するのに使用します。指定されたスレーブデバイスは新たにスレーブデバイスが指定されるか、停止条件まで有効です。各フレーム中の 8 ビットのデータは、MSB から順に送信されます。

図 27.50 に I²C バスフォーマットを、図 27.51 に I²C バスタイミングを示します。

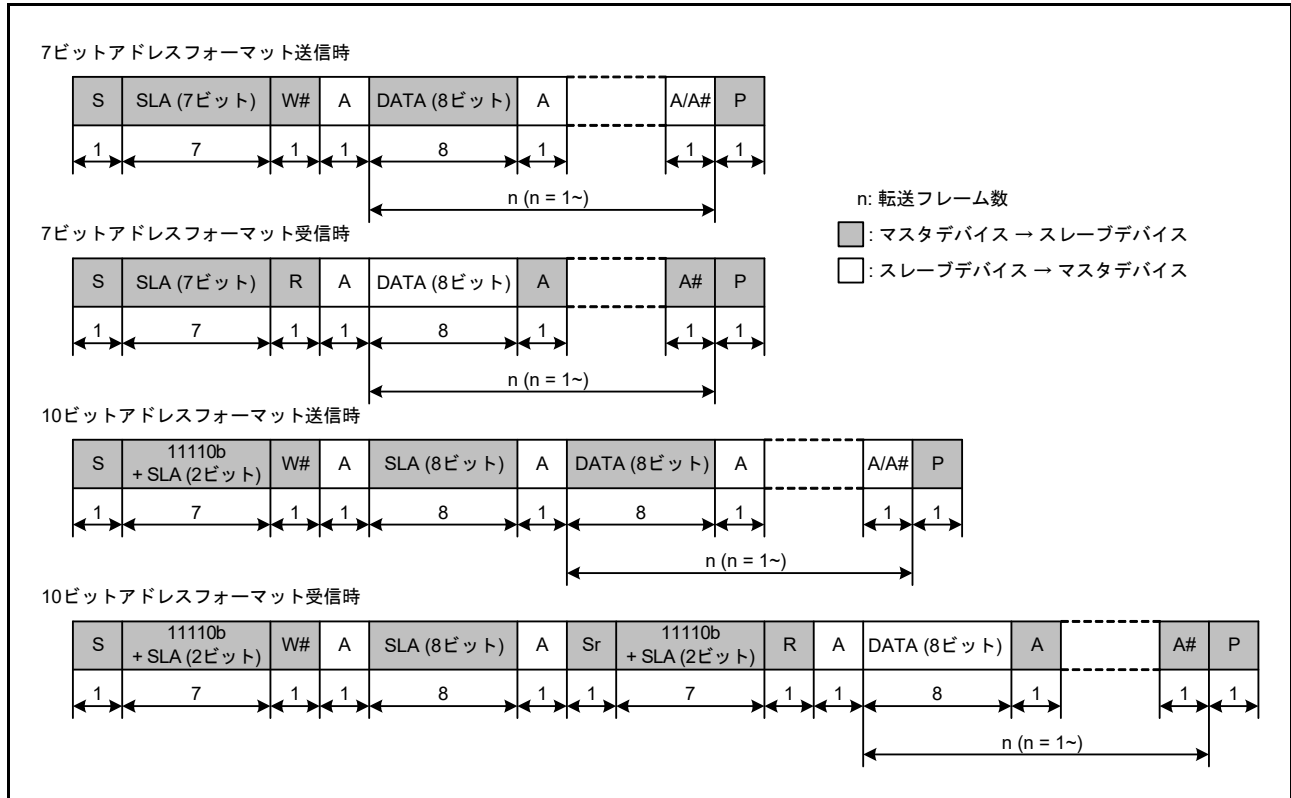


図 27.50 I²C バスフォーマット

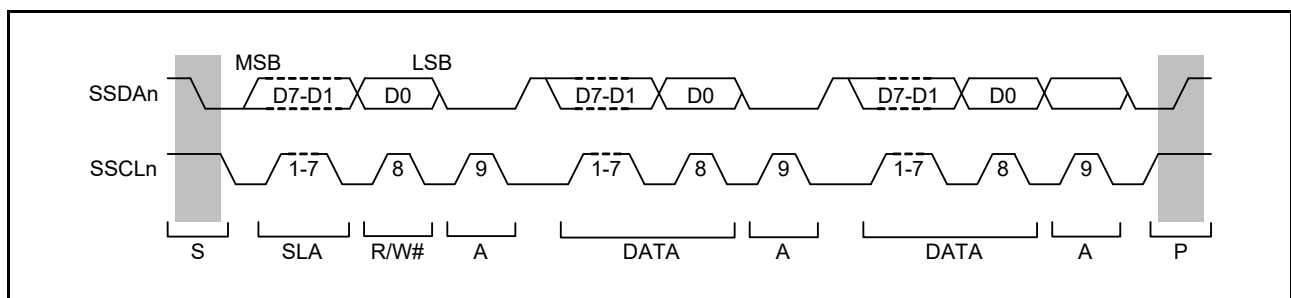


図 27.51 I²C バスタイミング (SLA = 7 ビットの場合)

- S: スタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SSCLnラインがHighの状態からSSDAnラインがHighからLowに変化します。
- SLA: スレーブアドレスを示します。マスタデバイスがスレーブデバイスを選択します。
- R/W#: 送信/受信の方向を示します。“1”のときスレーブデバイスからマスタデバイスへ、“0”のときマスタデバイスからスレーブデバイスへデータを送信します。
- A/A#: アクノリッジを示します(マスタ送信モード時: スレーブデバイスがアクノリッジを返します。マスタ受信モード時: マスタデバイスがアクノリッジを返します)。Lowを返すことをACK、Highを返すことをNACKと言います。
- Sr: リスタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SSCLnラインがHighの状態からセットアップ時間経過後にSSDAnラインがHighからLowに遷移します。
- DATA: 送受信データを示します。
- P: ストップコンディションを示します。マスタデバイスが、SSCLnラインがHighの状態からSSDAnラインがLowからHighに変化します。

27.7.1 開始条件、再開条件、停止条件の生成

SIMR3.IICSTAREQ ビットに“1”を書き込むことにより、開始条件生成を行います。開始条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SSDAn ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)、SSCLn ラインは開放状態を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、開始条件のホールド時間を確保
- SSCLn ラインの立ち下げ (High から Low に遷移)、SIMR3.IICSTAREQ ビットは“0”にし、開始条件生成割り込み要求を出力

SIMR3.IICRSTAREQ ビットに“1”を書き込むことにより、再開条件生成を行います。再開条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SSDAn ラインを開放、SSCLn ラインは Low を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、SSCLn ラインの Low 期間を確保
- SSCLn ラインを開放 (Low から High に遷移)
- SSCLn ラインの High を検出後、BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、再開条件のセットアップ時間を確保
- SSDAn ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、再開条件のホールド時間を確保
- SSCLn ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)、SIMR3.IICRSTAREQ ビットは“0”にし、再開条件生成割り込み要求を出力

SIMR3.IICSTPREQ ビットに“1”を書き込むことにより、停止条件の生成を行います。停止条件の生成では、以下の動作が行われます。

- SSDAn ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)、SSCLn ラインは Low を保持
- BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、SSCLn ラインの Low 期間を確保
- SSCLn ラインを開放 (Low から High に遷移)
- SSCLn ラインの High を検出後、BRR レジスタで設定したビットレートの半分の時間、停止条件のセットアップ時間を確保
- SSDAn ラインを開放 (Low から High に遷移)、SIMR3.IICSTPREQ ビットは“0”にし、停止条件生成割り込み要求を出力

図 27.52 に開始条件、再開条件、停止条件生成の動作タイミングを示します。

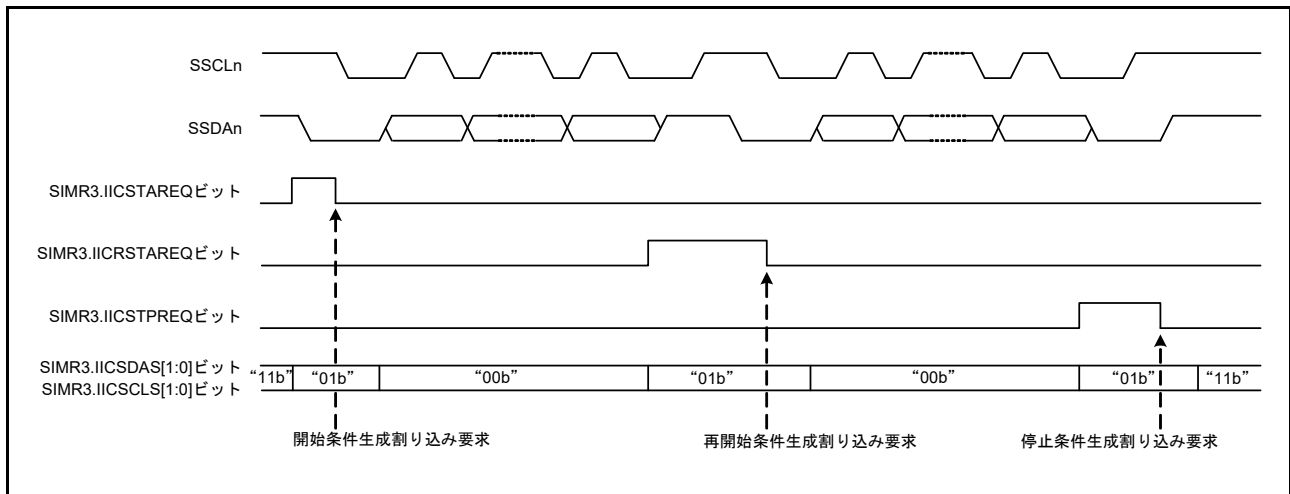


図 27.52 開始条件、再開条件、停止条件生成の動作タイミング

27.7.2 クロック同期化

通信先のスレーブデバイスがウェイトを挿入する目的で SSCLn ラインを Low にすることがあります。SIMR2.IICCSC ビットに“1”を設定すると、内部 SSCLn クロックが SSCLn 端子入力のレベルと異なる場合に、同期を取るための制御を行います。

SIMR2.IICCSC ビットが“1”の場合、内部 SSCLn クロックが Low から High に遷移したとき、SSCLn 端子入力が Low の間は High 期間のカウントを停止し、SSCLn 端子入力が High に遷移すると High 期間のカウントを開始します。このとき、SSCLn 端子が High に遷移して High 期間のカウントを開始するまで、SSCLn 端子入力遅延、SSCLn 端子入力のノイズフィルタ遅延（ノイズフィルタのサンプリングクロックで2～3サイクル）、内部処理遅延（PCLK で1～2サイクル）の合計分かかります。この間他のデバイスが SSCLn ラインを Low にしていなくても、内部 SSCLn クロックの High 期間は延長されます。

SIMR2.IICCSC ビットが“1”の場合、データ送信および受信は、SSCLn 端子入力と内部 SSCLn クロックの論理積に同期して行われます。SIMR2.IICCSC ビットが“0”の場合、データ受信および送信は、内部 SSCLn クロックに同期して行われます。

開始条件、再開条件および停止条件生成要求発行後、内部 SSCLn クロックが Low から High に遷移するまでの間にスレーブデバイスからウェイトを挿入された場合、その期間分、生成完了は延長されます。

内部 SSCLn クロックが High に遷移後にスレーブデバイスがウェイトを挿入した場合は、そのウェイト期間も停止はせず、生成完了割り込み要求を発行しますが、条件生成自体は保証されません。

図 27.53 にクロック同期化の動作例を示します。

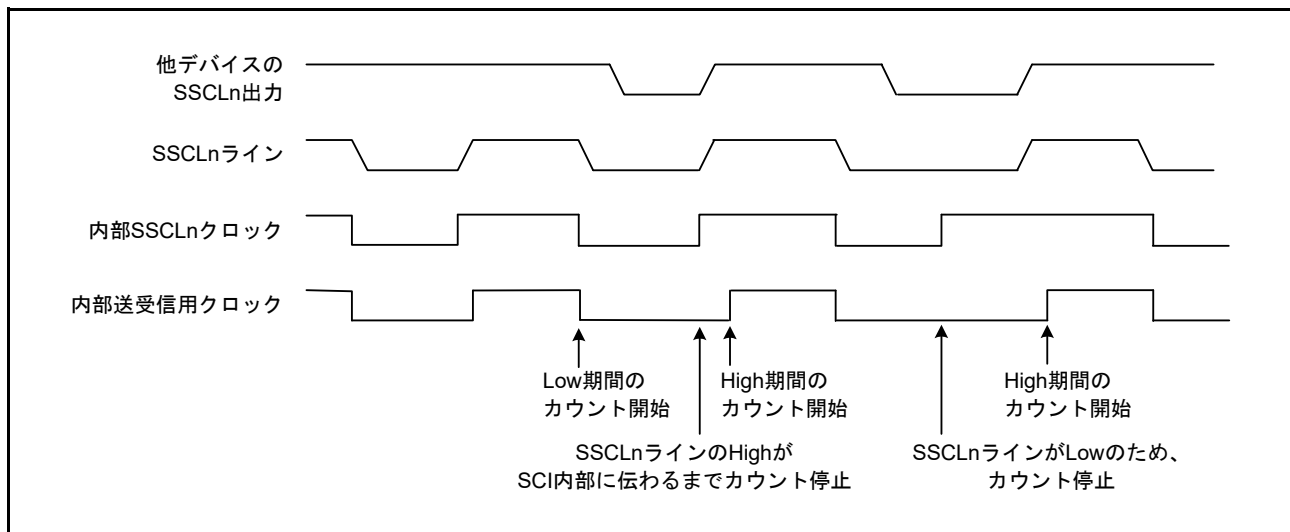


図 27.53 クロック同期化の動作例

27.7.3 SSDA 出力遅延

SIMR1.IICDL[4:0] ビットにより、SSCLn 端子出力の立ち下がりに対して、SSDAn 端子出力を遅延させることが可能です。遅延時間は内蔵ポーレートジェネレータのクロックソース基準（PCLK ベースに SMR.CKS[1:0] で選択された分周クロック）で 0～31 サイクルの間で選択可能です。SSDAn 端子出力を遅延させる対象は、開始条件 / 再開条件 / 停止条件信号と 8 ビットの送信データおよびアクノリッジです。

SSDA 出力遅延が SSCLn 端子出力の立ち下がり時間より小さい場合、SSCLn 端子出力の立ち下がり中に SSDAn 端子出力が変化開始し、スレーブデバイスが誤動作する可能性があります。SSDA 出力遅延が SSCLn 端子出力の立ち下がり時間の最大値（I²C の標準モード、ファストモードでは 300ns）より大きくなるように設定してください。

図 27.54 に SSDA 出力遅延のタイミングを示します。

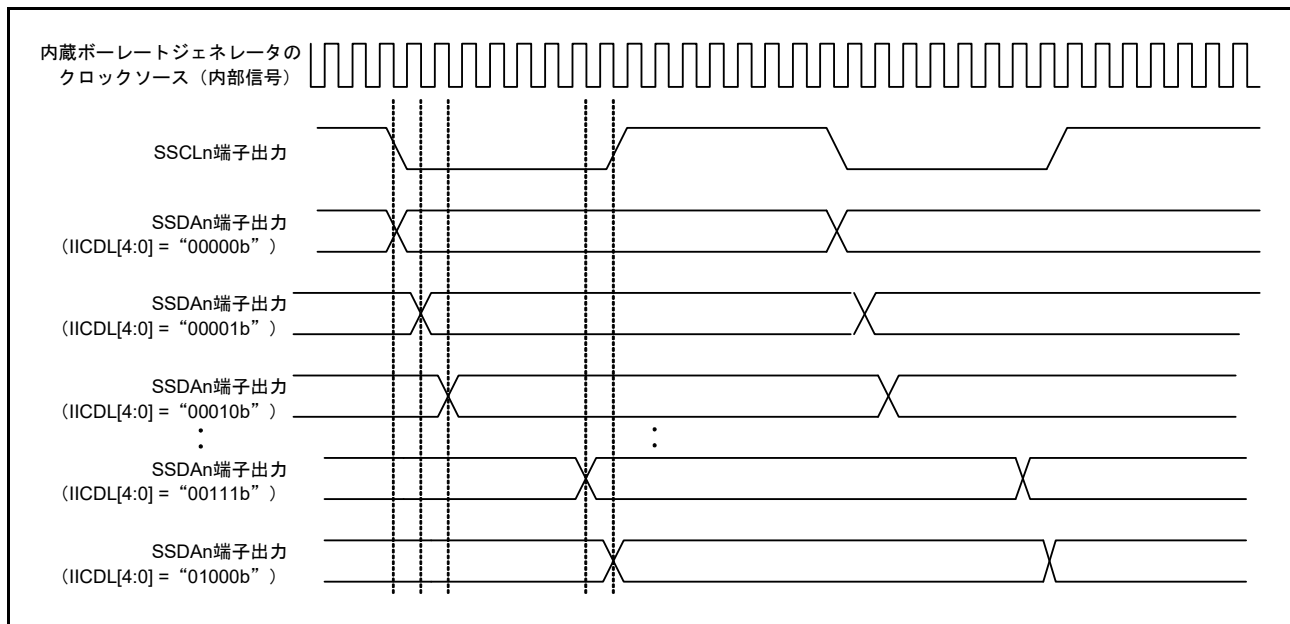


図 27.54 SSDA 出力遅延のタイミング

27.7.4 SCIの初期化(簡易I²Cモード)

データの送受信前に、SCRレジスタに初期値“00h”を書き込み、図27.55のフローチャートの例に従って、初期化してください。

動作モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合も、SCRレジスタを初期値にしてから変更してください。また、簡易I²Cモード時の通信ポートのオープンドレイン設定は、ポート側でしてください。

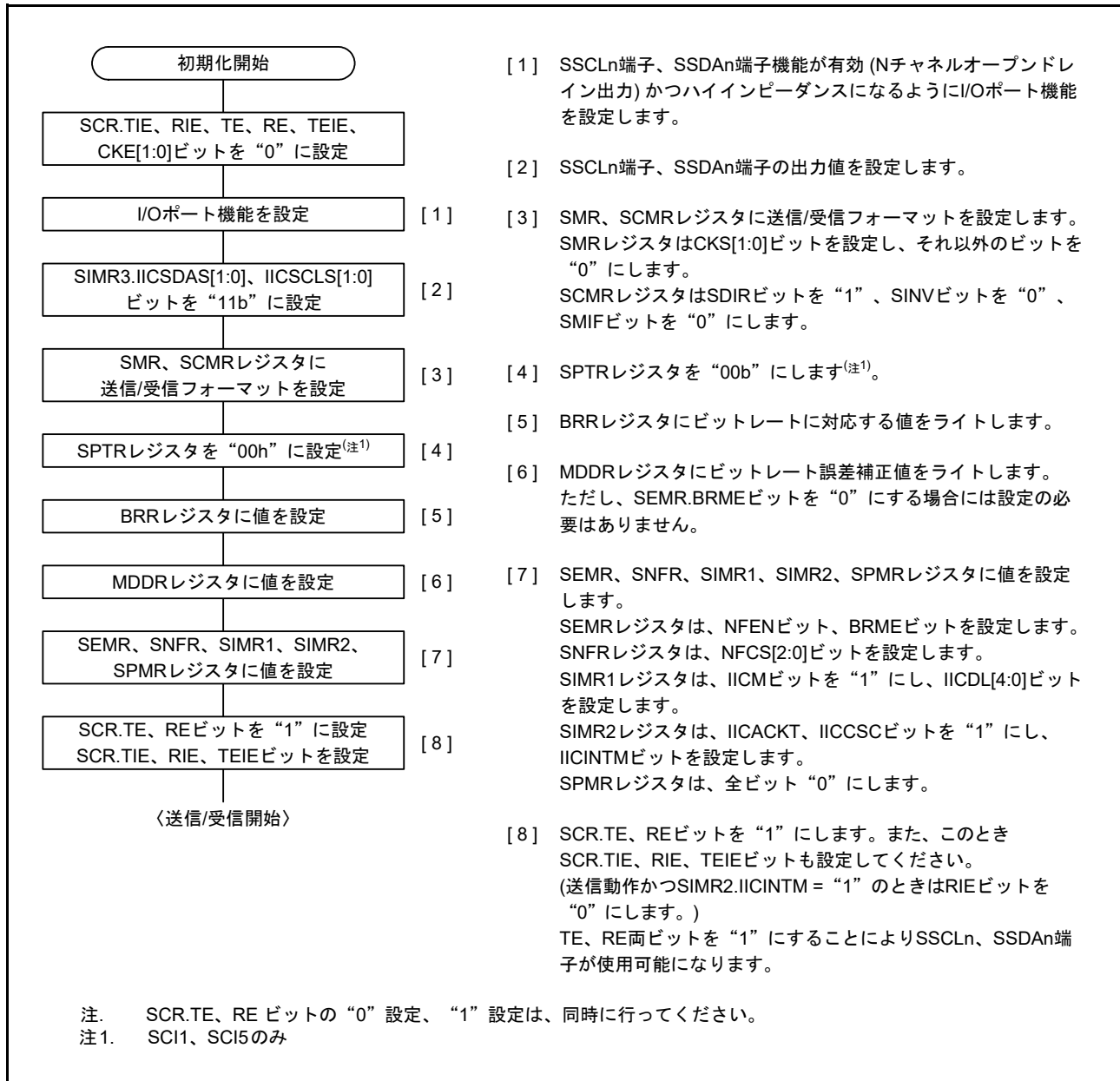


図27.55 SCIの初期化フローチャート例(簡易I²Cモード)

27.7.5 マスタ送信動作 (簡易 I²C モード)

図 27.56、図 27.57 に簡易 I²C モードのマスタ送信の動作例を、図 27.58 にデータ送信のフローチャートの例を示します。STI 割り込みについては、表 27.39 を参照してください。

10 ビットスレーブアドレス時は、図 27.58 の [3] ~ [4] の手順を 2 回繰り返します。

簡易 I²C モードでの送信データエンプティ割り込み (TXI) は、クロック同期式送信時の TXI 割り込み要求発生タイミングとは異なり、1 フレームの通信を完了した時点で発生します。

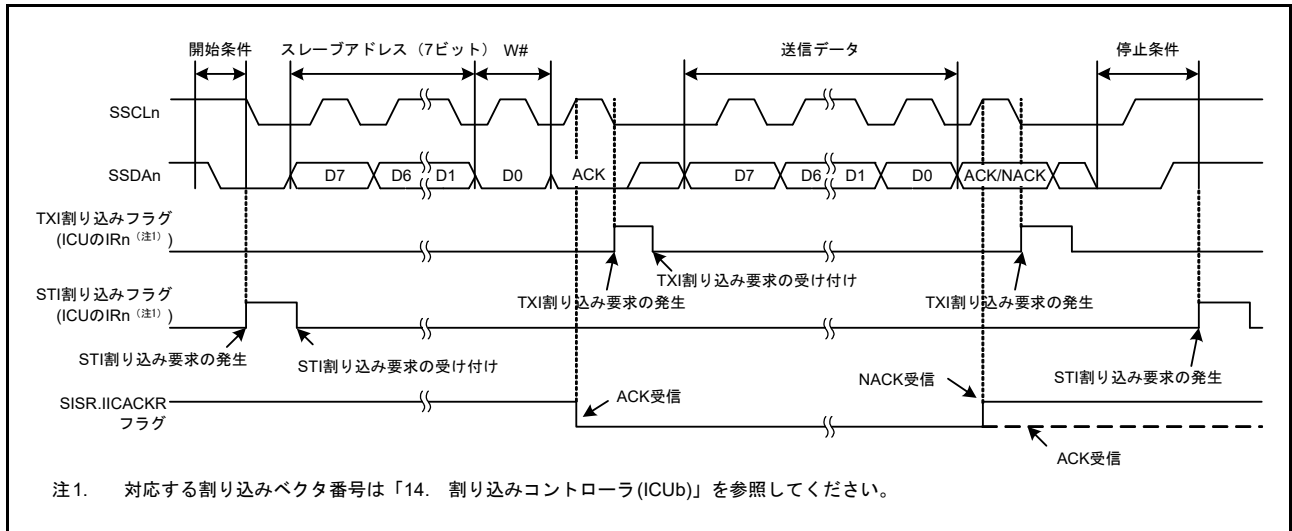


図 27.56 簡易 I²C バスモードのマスタ送信の動作例 1
(7 ビットスレーブアドレス、送信割り込み、受信割り込み使用時)

マスタ送信で、SIMR2.IICINTM ビットを“0” (ACK 割り込み、NACK 割り込みを使用) にした場合、ACK 割り込みをトリガに DTC を起動し、データを必要バイト数送信します。NACK を受信した場合は NACK 割り込みをトリガに送信中止、再送などのエラー処理を行います。

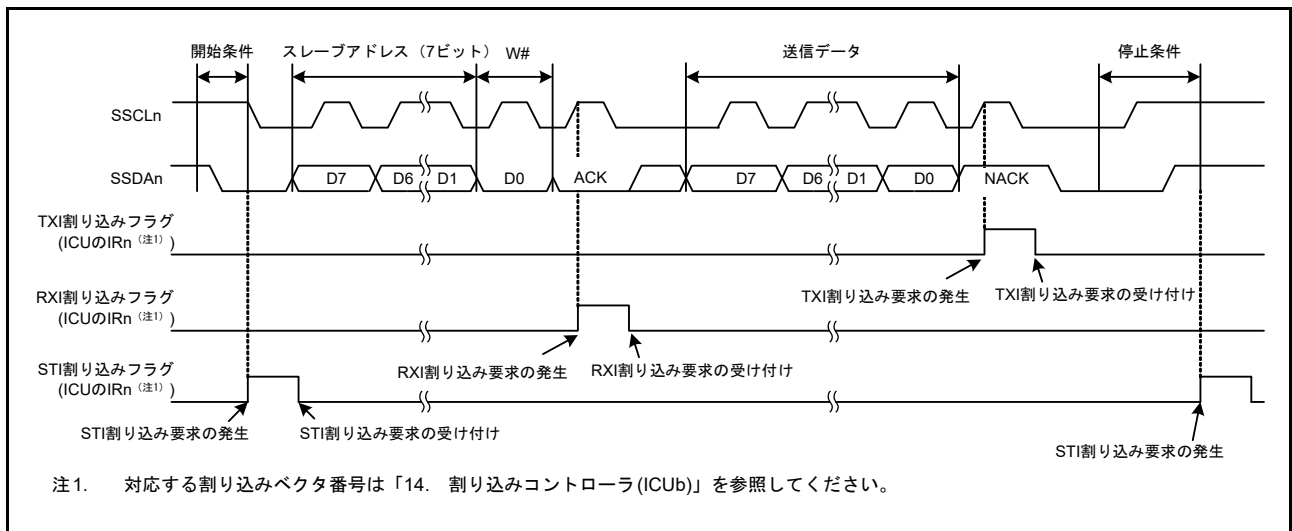
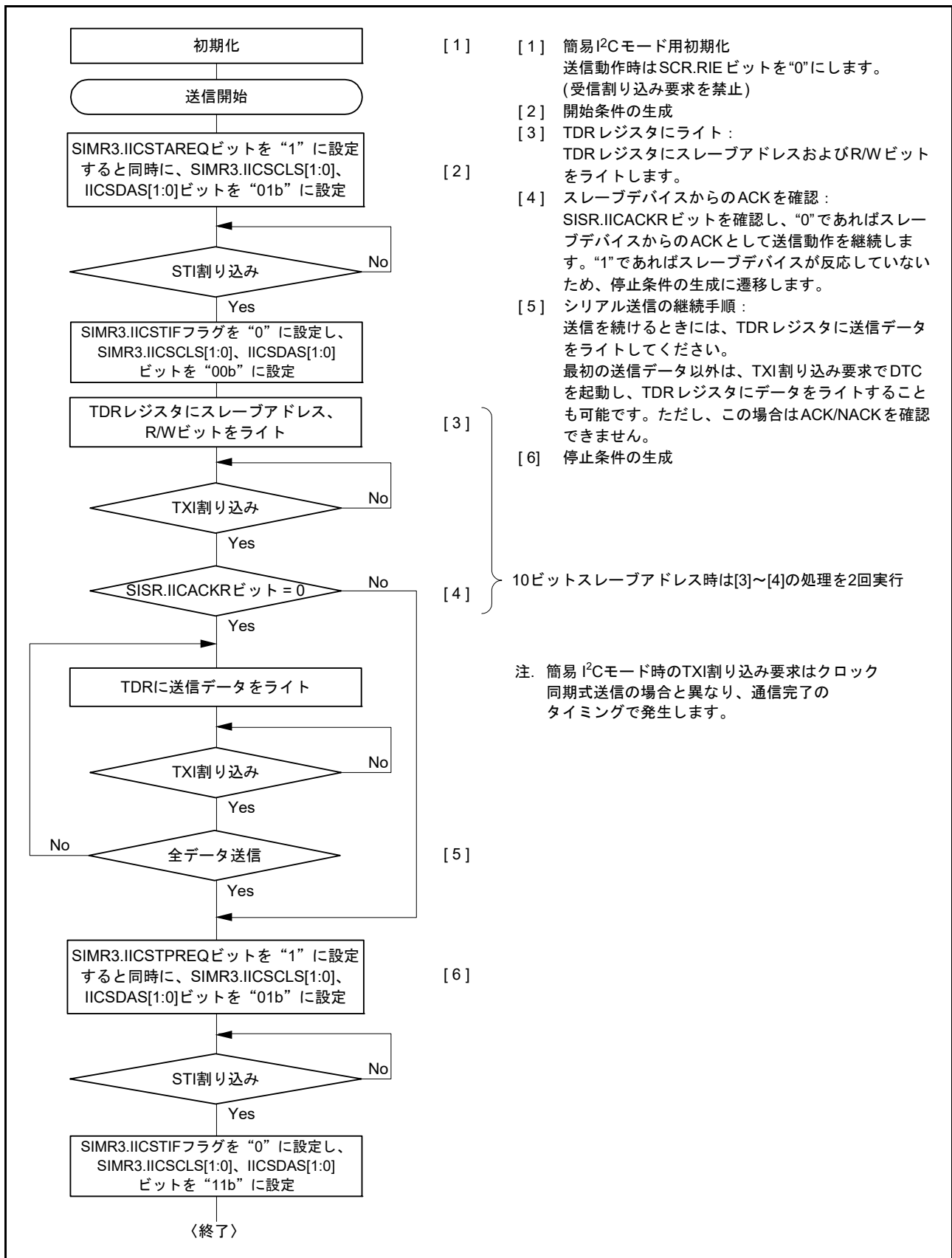


図 27.57 簡易 I²C バスモードのマスタ送信の動作例 2
(7 ビットスレーブアドレス、ACK 割り込み、NACK 割り込み使用時)



- [1] [1] 簡易I²Cモード用初期化
送信動作時はSCR.RIEビットを“0”にします。
(受信割り込み要求を禁止)
 - [2] [2] 開始条件の生成
 - [3] [3] TDRレジスタにライト：
TDRレジスタにスレーブアドレスおよびR/Wビット
をライトします。
 - [4] [4] スレーブデバイスからのACKを確認：
SISR.IICACKRビットを確認し、“0”であればスレー
ブデバイスからのACKとして送信動作を継続しま
す。“1”であればスレーブデバイスが反応していな
いため、停止条件の生成に遷移します。
 - [5] [5] シリアル送金の継続手順：
送信を続けるときには、TDRレジスタに送信デー
タをライトしてください。
最初の送信データ以外は、TXI割り込み要求でDTC
を起動し、TDRレジスタにデータをライトすること
も可能です。ただし、この場合はACK/NACKを確認
できません。
 - [6] [6] 停止条件の生成
- [3] }
[4] } 10ビットスレーブアドレス時は[3]~[4]の処理を2回実行

注. 簡易 I²Cモード時のTXI割り込み要求はクロック同期式送信の場合と異なり、通信完了のタイミングで発生します。

図 27.58 簡易 I²C モードのマスタ送信動作のフローチャート例 (送信割り込み、受信割り込み使用時)

27.7.6 マスタ受信動作 (簡易 I²C モード)

図 27.59 に簡易 I²C モードのマスタ受信の動作例を、図 27.60 にマスタ受信のフローチャートの例を示します。ともに SIMR2.IICINTM ビットを“1” (受信割り込み、送信割り込みを使用) を想定しています。

簡易 I²C モードでの送信データエンプティ割り込み (TXI) は、クロック同期式送信時の TXI 割り込み要求発生タイミングとは異なり、1 フレームの通信を完了した時点で発生します。

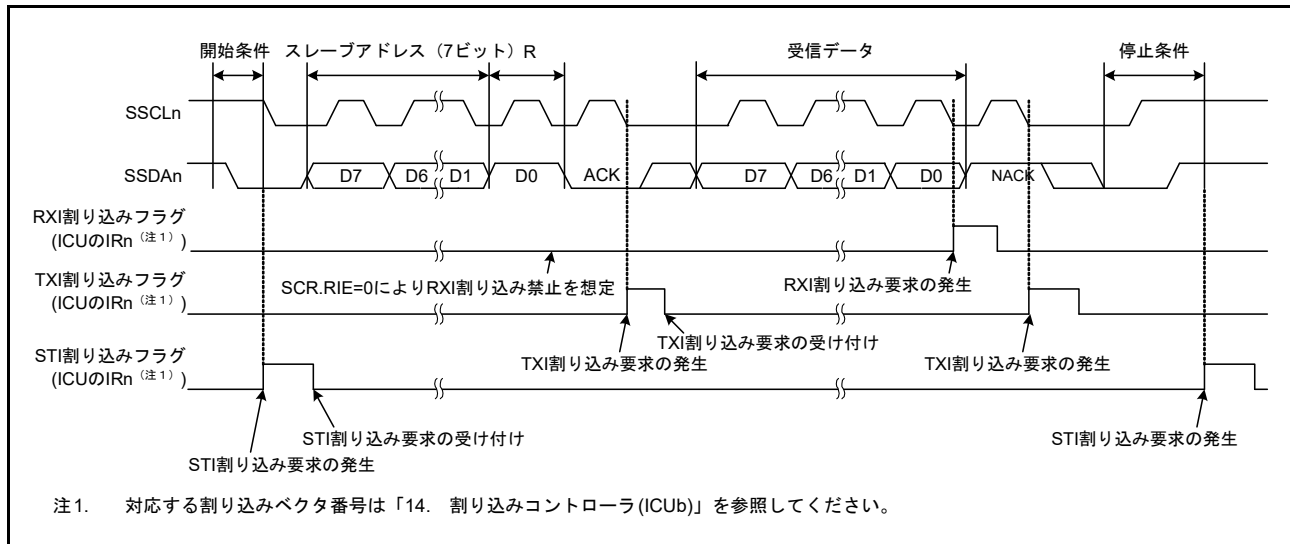


図 27.59 簡易 I²C バスモードのマスタ受信の動作例
(7 ビットスレーブアドレス、送信割り込み、受信割り込み使用時)

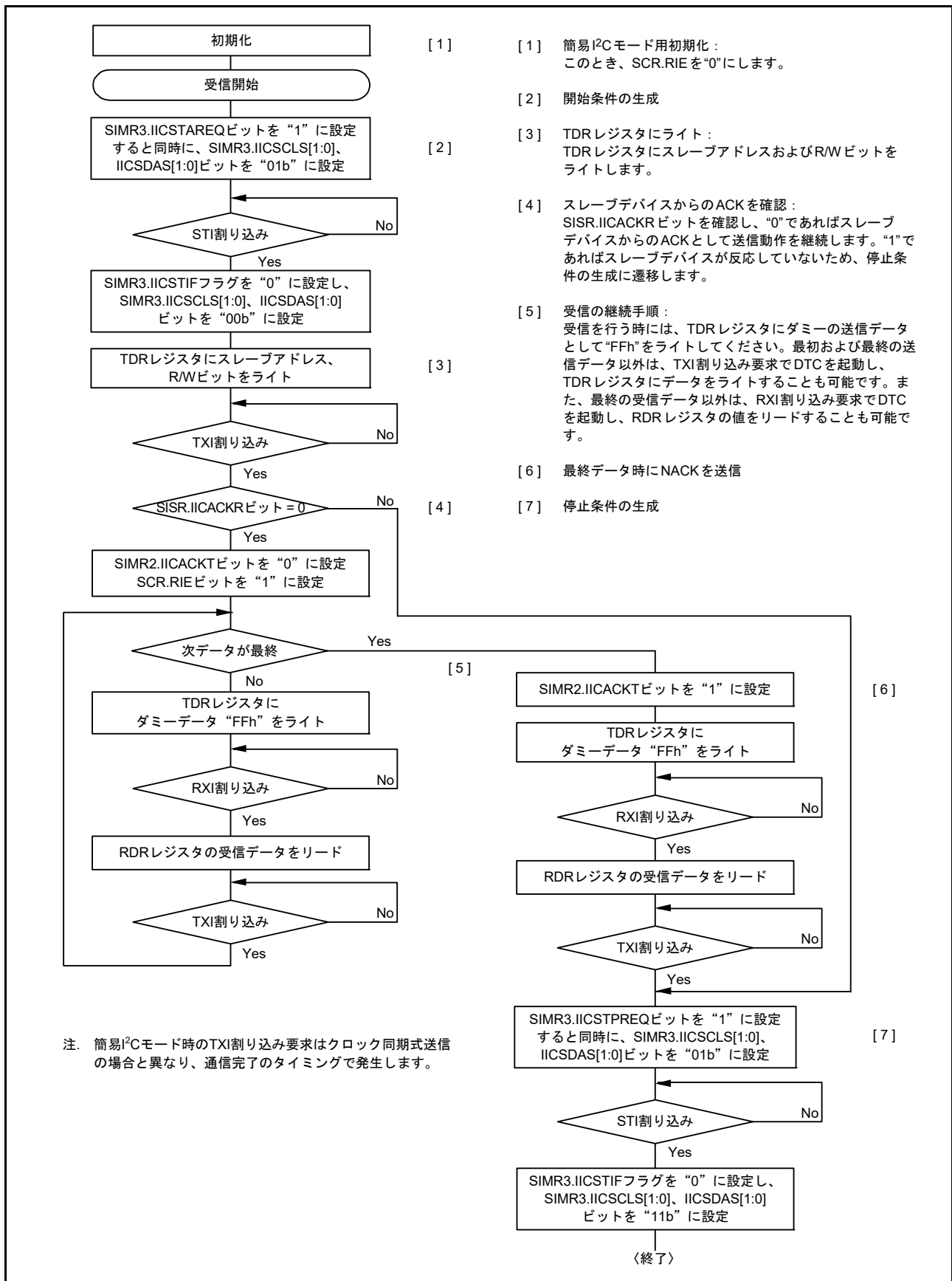


図 27.60 簡易 I²C モードのマスタ受信動作のフローチャート例 (送信割り込み、受信割り込み使用時)

27.7.7 バスハングアップからの回復

通信不具合などで SCI の内部状態が異常になり、バスをスタックさせてしまった場合、以下の手順で SCI をリセットし、バスを解放してください。

- (1) SCR.TE ビットと RE ビットを同時に“0”にして、SCI をリセットする。
- (2) SIMR3 レジスタを“F0h”にして、バスを解放する。
- (3) SSR.RDRF フラグが“1”の場合は、RDR レジスタをダミーリードして RDRF フラグをクリアする。
- (4) SCR.TE ビットと RE ビットを同時に“1”にする。

27.8 簡易 SPI モードの動作

SCI の拡張機能として、1 つまたは複数のマスタから複数のスレーブに通信が可能な簡易 SPI モードをサポートしています。

クロック同期式モードの設定 (SCMR.SMIF ビット=0、SIMR1.IICM ビット=0、SMR.CM ビット=1)、かつ、SPMR.SSE ビットを“1”にすることにより、簡易 SPI モードになります。なお、簡易 SPI モード用途でも、マスタモードかつ、シングルマスタで使用するときは、マスタ側の SS 端子機能は不要であり、SPMR.SSE ビットを“0”にします。

図 27.61 に簡易 SPI モードの接続例を示します。マスタからの SS 信号出力については、汎用ポートで制御してください。

簡易 SPI モードではクロック同期式モード同様、クロックパルスに同期してデータを送受信します。通信データの 1 キャラクタは 8 ビットデータで構成され、パリティビットの付加はできません。SCMR.SINV ビットを“1”にすることで、送受信データを反転できます。

SCI 内部では送信部と受信部が独立していますので、クロックを共有することで全二重通信ができます。また、送信部/受信部はともにダブルバッファ構造になっており、送信中に次の送信データの書き込み、受信中に前の受信データを読み込むことで連続送受信ができます。

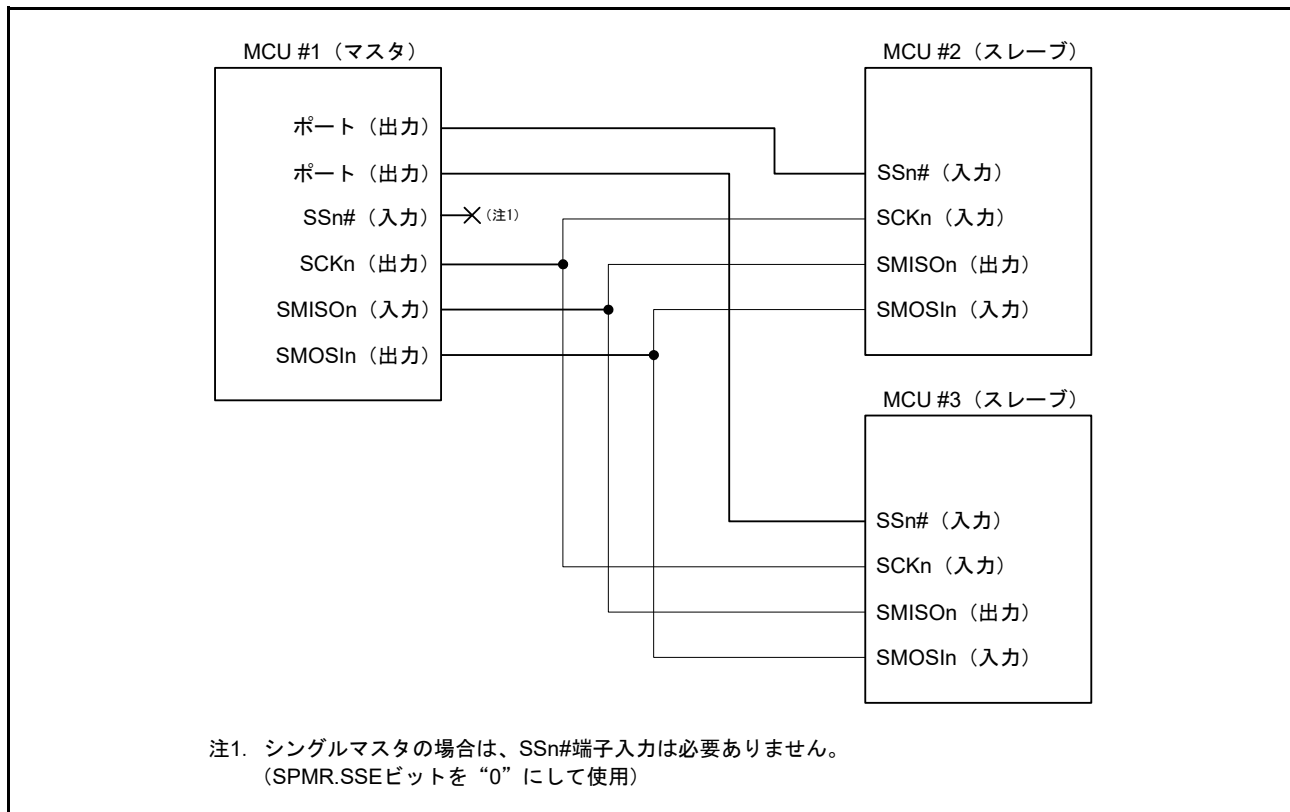


図 27.61 簡易 SPI モードの接続例 (シングルマスタ時 (SPMR.SSE ビット = 0))

27.8.1 マスタモード、スレーブモードと各端子の状態

簡易 SPI モードでは、マスタモード (SCR.CKE[1:0] ビット = “00b” または “01b”、かつ SPMR.MSS ビット = 0) とスレーブモード (SCR.CKE[1:0] ビット = “10b” または “11b”、かつ SPMR.MSS ビット = 1) で各端子の入出力方向が変わります。

表 27.35 にモードおよび SSn# 端子入力と各端子の状態の関係を示します。

表 27.35 モードおよび SSn# 端子入力と各端子の状態の関係

モード	SSn# 端子入力	SMOSIn 端子状態	SMISOOn 端子状態	SCKn 端子状態
マスタモード (注1)	High (通信可能)	送信データ出力 (注2)	受信データ入力	クロック出力 (注3)
	Low (通信不可)	ハイインピーダンス	受信データ入力 (無効)	ハイインピーダンス
スレーブモード	High (通信不可)	受信データ入力 (無効)	ハイインピーダンス	クロック入力 (無効)
	Low (通信可能)	受信データ入力	送信データ出力	クロック入力

注1. シングルマスタ時 (SPMR.SSE ビット = 0) は、SSn# 端子の入力レベルに関わらず通信可能 (SSn# 端子入力が High のときと等価) となります。SSn# 端子は未使用であり、別の用途として使用できます。

注2. 送信禁止時 (SCR.TE ビット = 0) はハイインピーダンスです。

注3. マルチマスタ (SPMR.SSE ビット = 1) かつ送受信禁止時 (SCR.TE, RE ビット = 00b) はハイインピーダンスです。

27.8.2 マスタモード時の SS 機能

SCR.CKE[1:0] = 00b かつ SPMR.MSS = 0 を設定することで、マスタモードになります。

シングルマスタ時 (SPMR.SSE ビット = 0) は SSn# 端子は未使用であり、SSn# 端子入力のレベルに関わらず送受信動作が可能です。

マルチマスタ時 (SPMR.SSE ビット = 1)、かつ、SSn# 端子入力が High のとき、他にマスタが存在しないか、他のマスタが送受信を受信動作を行っていないことを示すためマスタとして SCKn 端子からクロックを出力し、送受信動作を行います。マルチマスタ時 (SPMR.SSE ビット = 1)、かつ、SSn# 端子入力が Low のとき、他のマスタが存在し、送受信を行っていることを示します。そのとき SCI は SMOSIn 端子出力、SCKn 端子出力をハイインピーダンスにし、送受信動作は開始しません。また、モードフォルトエラーとして SPMR.MFF フラグが “1” になります。マルチマスタ時は SPMR.MFF フラグを読むことでエラー処理を行ってください。なお、送受信動作中にモードフォルトが発生しても、送受信動作は停止せず、送受信動作完了後に SMOSIn 端子出力、SCKn 端子出力がハイインピーダンスになります。

マスタからの SS 信号出力については、汎用ポートで制御してください。

27.8.3 スレーブモード時の SS 機能

SCR.CKE[1:0] = 10b かつ SPMR.MSS = 1 を設定することで、スレーブモードになります。

SSn# 端子入力が High のとき、SMISOOn 端子出力はハイインピーダンスになり、SCKn 端子からのクロック入力は無視されます。SSn# 端子入力が Low のとき、SCKn 端子からのクロック入力が有効になり、送受信動作が可能になります。

送受信動作中に SSn# 端子入力が Low から High に変化した場合、SMISOOn 端子出力をハイインピーダンスにします。なお、内部の送受信動作は継続し、SCKn 端子からのクロック入力に従って 1 キャラクタ分の送受信動作完了後動作を停止します。その際、割り込み (TXI、RXI、TEI のいずれか) が発生します。

27.8.4 クロックと送受信データの関係

SPMR.CKPOL,CKPH ビットにより、送受信に用いるクロックを4種類から選択可能です。クロックと送受信データの関係を図 27.62 に示します。マスタモード、スレーブモードともクロックと送受信データの関係は同じです。

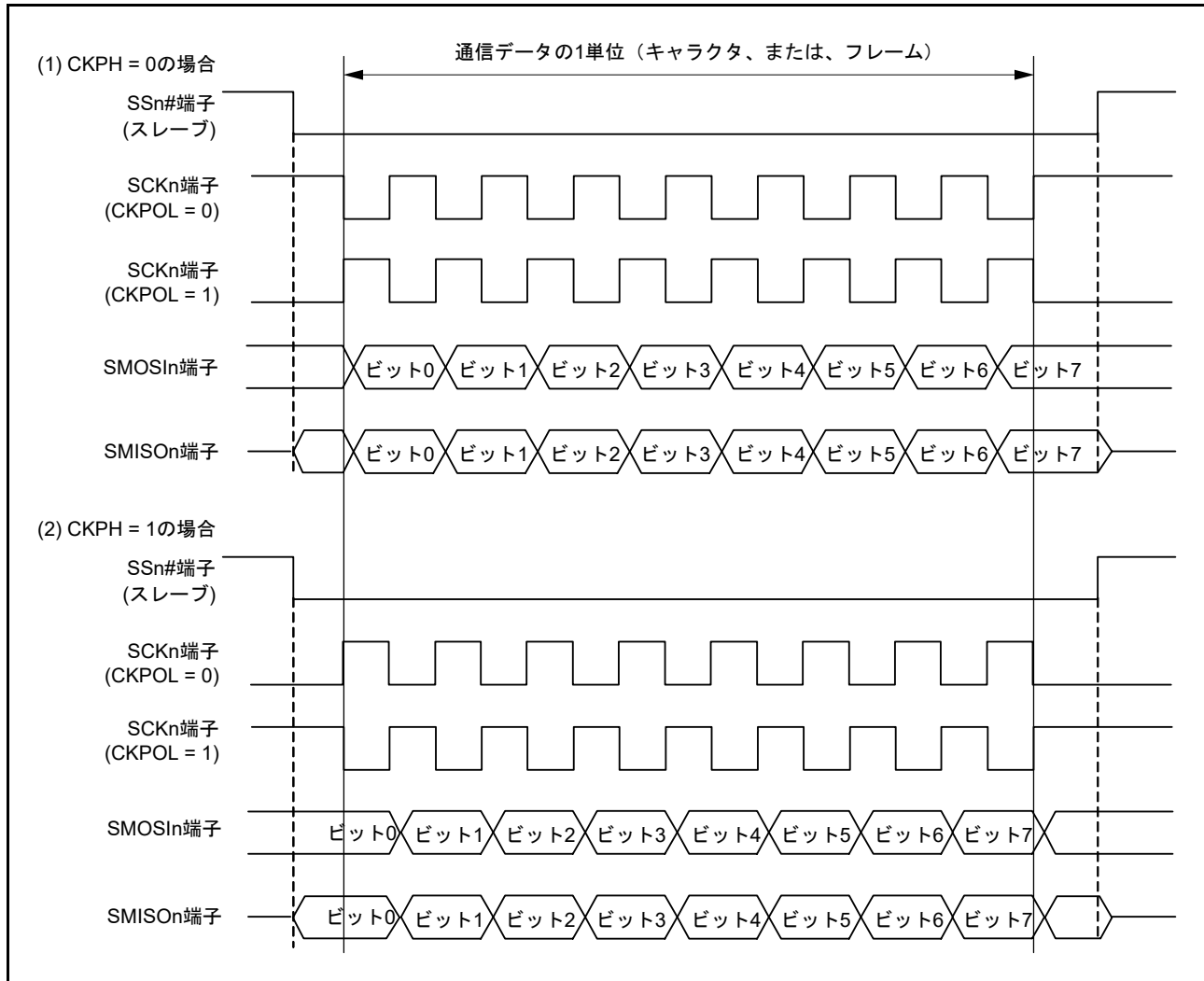


図 27.62 簡易 SPI モードのクロックと送受信データの関係

27.8.5 SCI の初期化 (簡易 SPI モード)

クロック同期式モードの初期化手順 (図 27.28 の SCI の初期化フローチャート例) と同様です。SPMR レジスタの CKPOL、CKPH ビットにより選択されるクロックの種類は、マスタデバイスとスレーブデバイスで合わせます。

初期化、動作モードの変更、通信フォーマットの変更などの場合、SCR レジスタを初期値にしてから変更してください。

RE ビットを“0”にしても、SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグ、および RDR レジスタは初期化されませんので注意してください。

27.8.6 シリアルデータの送受信 (簡易 SPI モード)

マスタモード時は、送受信開始前に送受信先のスレーブデバイスの SSn# 端子を Low にし、送受信が終了すると送受信先のスレーブデバイスの SSn# 端子を High にします。それ以外の手順はクロック同期式モードと同様です。

27.9 ビットレートモジュレーション機能

ビットレートモジュレーション機能とは、ボーレートジェネレータに入力されたクロックを、指定された個数間引くことによって、ビットレートを補正する機能です。

SEMR.BRME ビットが“1”のとき、ボーレートジェネレータは、入力されたクロック 256 個のうち MDDR レジスタに設定された個数だけを、平均的な間隔となるよう有効にし、カウントを行います。

調歩同期モードで SMR.CKS[1:0] ビットが“00b”で、BRR レジスタが“00h”、MDDR レジスタが“160”のときの例を、図 27.63 に示します。この例では基本クロックの周期が平均的に 256/160 に補正され、ビットレートは 160/256 に補正されています。内部クロックの間引きには偏りがあり、基本クロックのパルス幅は、間引かれた内部クロック分の伸縮が生じます。

注． クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードでは、最高速設定 (SMR.CKS[1:0] ビット = 00b、かつ SCR.CKE[1] ビット = 0、かつ BRR = 0) で本機能を使用しないでください。

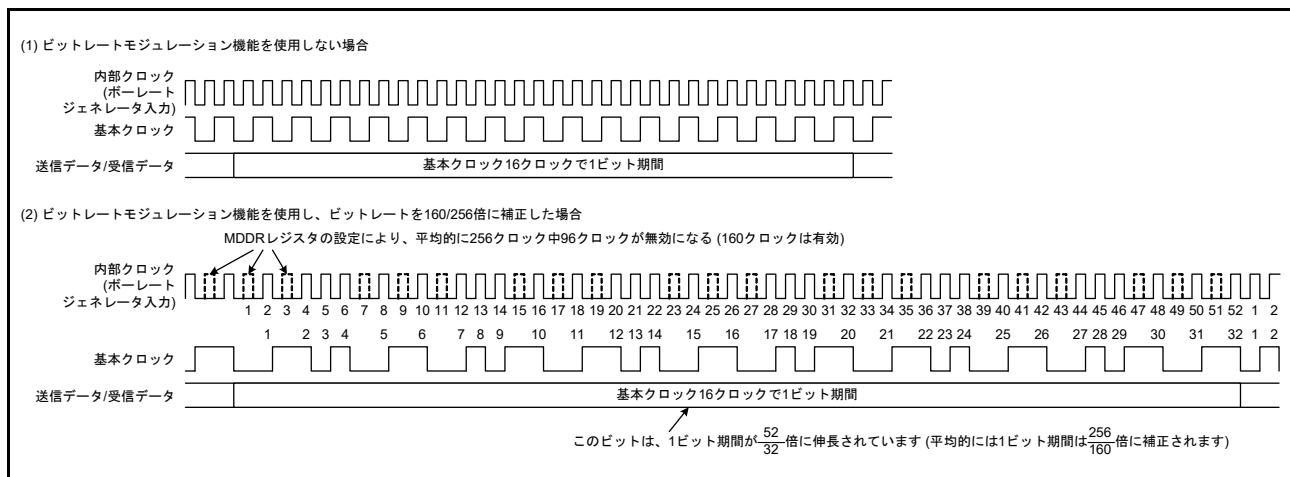


図 27.63 ビットレートモジュレーション機能使用時の基本クロックの例

なお、ボーレートジェネレータに入力されるクロックの周期が短いほど、生成される基本クロックの周期の差が小さくなり、また、ボーレートジェネレータの分周比も大きくなるため、結果として 1 ビット期間の長さの差も小さくなります。

27.10 拡張シリアルモード制御部の動作説明

27.10.1 シリアル通信プロトコル

SCI12の拡張シリアルモード制御部は、図27.64に示すようなStart Frame、Information Frameから構成されるシリアル通信プロトコルを実現します。

Start FrameはBreak FieldとControl Field 0、Control Field 1で構成されています。また、Information FrameはいくつかのData FieldとCRC16 Upper Field、CRC16 Lower Fieldで構成することができます。

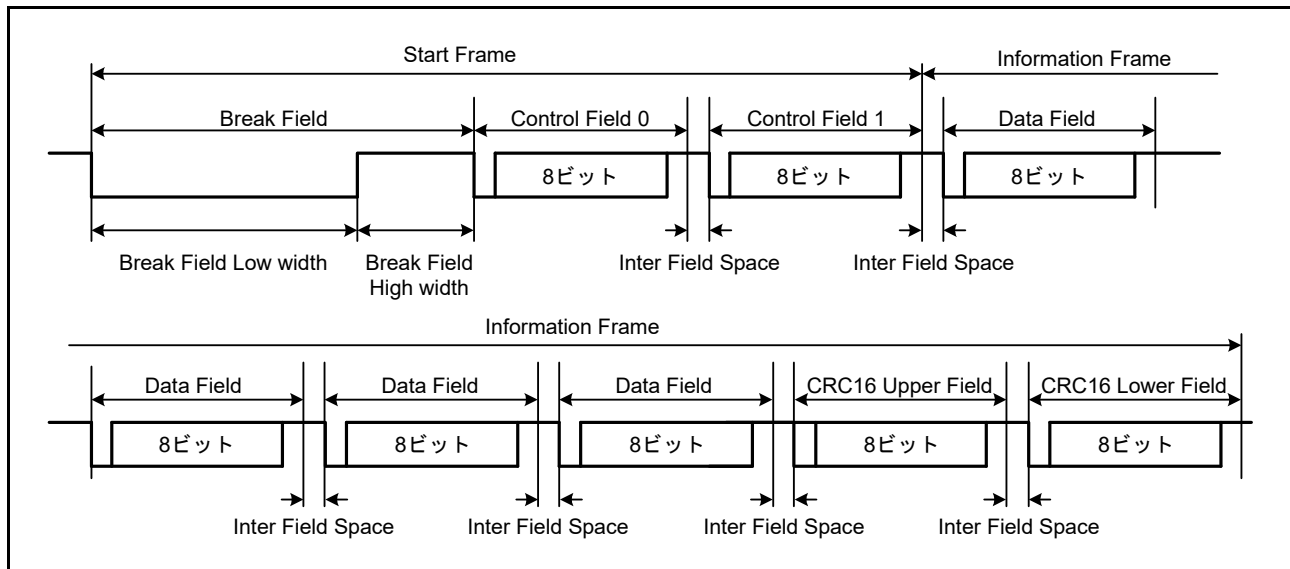


図 27.64 拡張シリアルモード制御部シリアル通信プロトコル

27.10.2 Start Frame 送信

図27.65にBreak Field Low width、Control Field 0およびControl Field 1で構成されるStart Frameの送信時の動作例を示します。また、図27.66、図27.67にStart Frameの送信を行うためのフローチャートを示します。

拡張シリアルモード制御部は、Start Frame送信時、以下のように動作します。なお、SCI12は調歩同期式モードで使用します。

- (1) タイマの動作モードをBreak Field Low width出力モードにした状態で、TCR.TCSTビットに“1”を書き込むと、タイマがカウントを開始し、TCNT、TPREレジスタに設定した期間、TXDX12端子からLowが出力されます。
- (2) タイマがアンダフローするとTXDX12端子の出力が反転し、STR.BFDFフラグが“1”になります。また、ICR.BFDIEビットを“1”にしている場合は、SCIX0割り込みが発生します。
- (3) TCR.TCSTビットに“0”を書き込んでタイマのカウントを停止させた後、Control Field 0のデータを送信します。Break Field Low width出力後、次にアンダフローするまでにカウントを停止してください。
- (4) Control Field 0のデータの送信が完了した後、Control Field 1のデータを送信します。
- (5) Control Field 1のデータの送信が完了した後、Information Frameの通信を行います。

Start Frameの構成にあわせてBreak FieldおよびControl Field 0を省略してください。

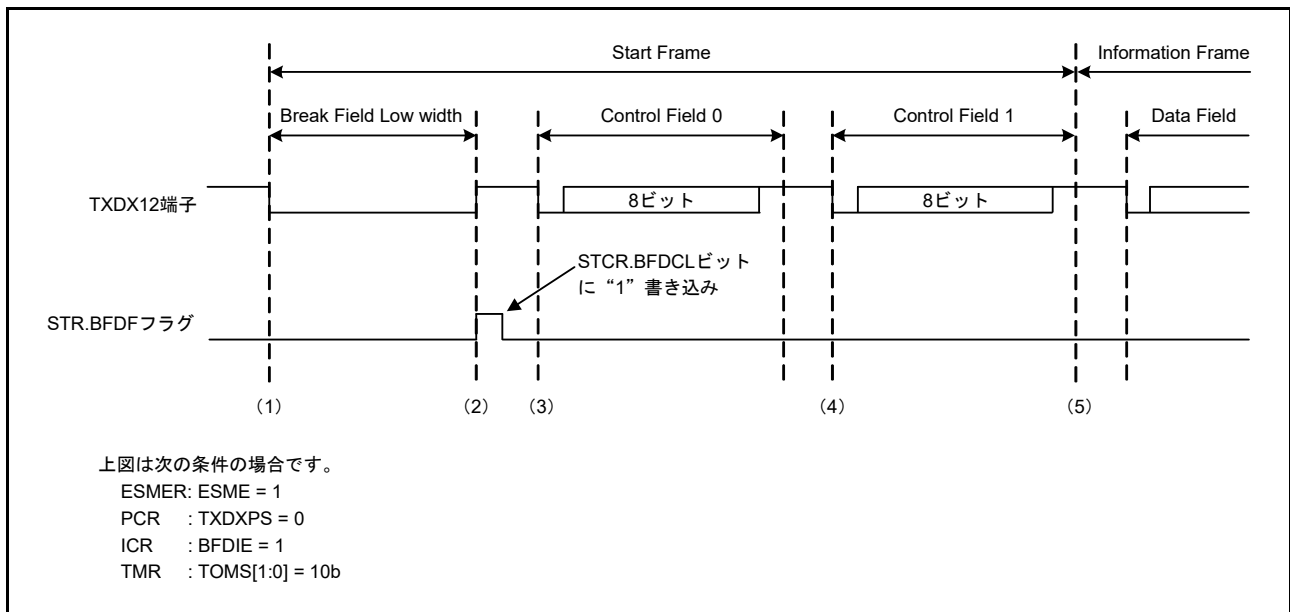


図 27.65 Start Frame 送信時の動作例

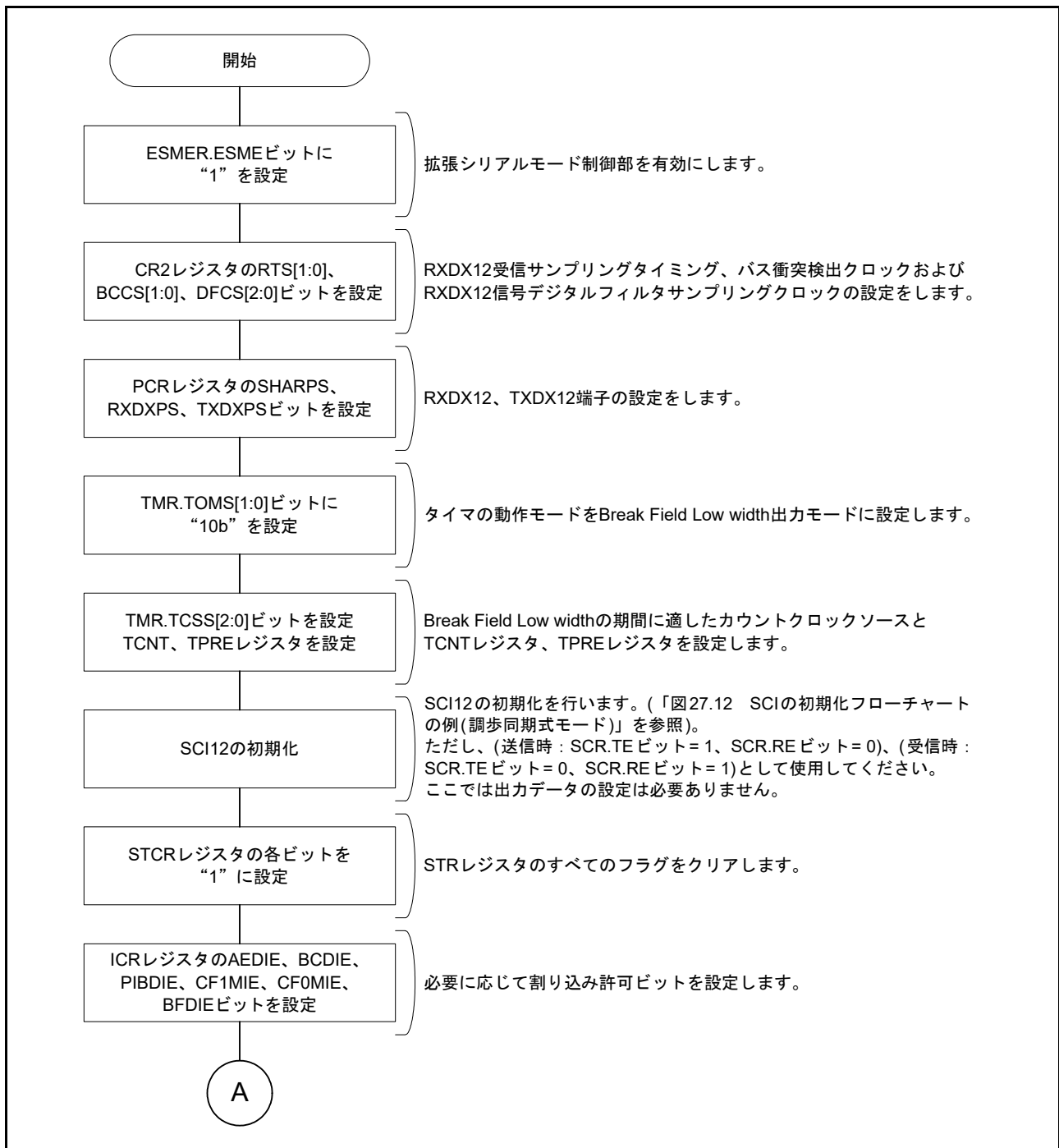


図 27.66 Start Frame 送信フローチャート例 (1)

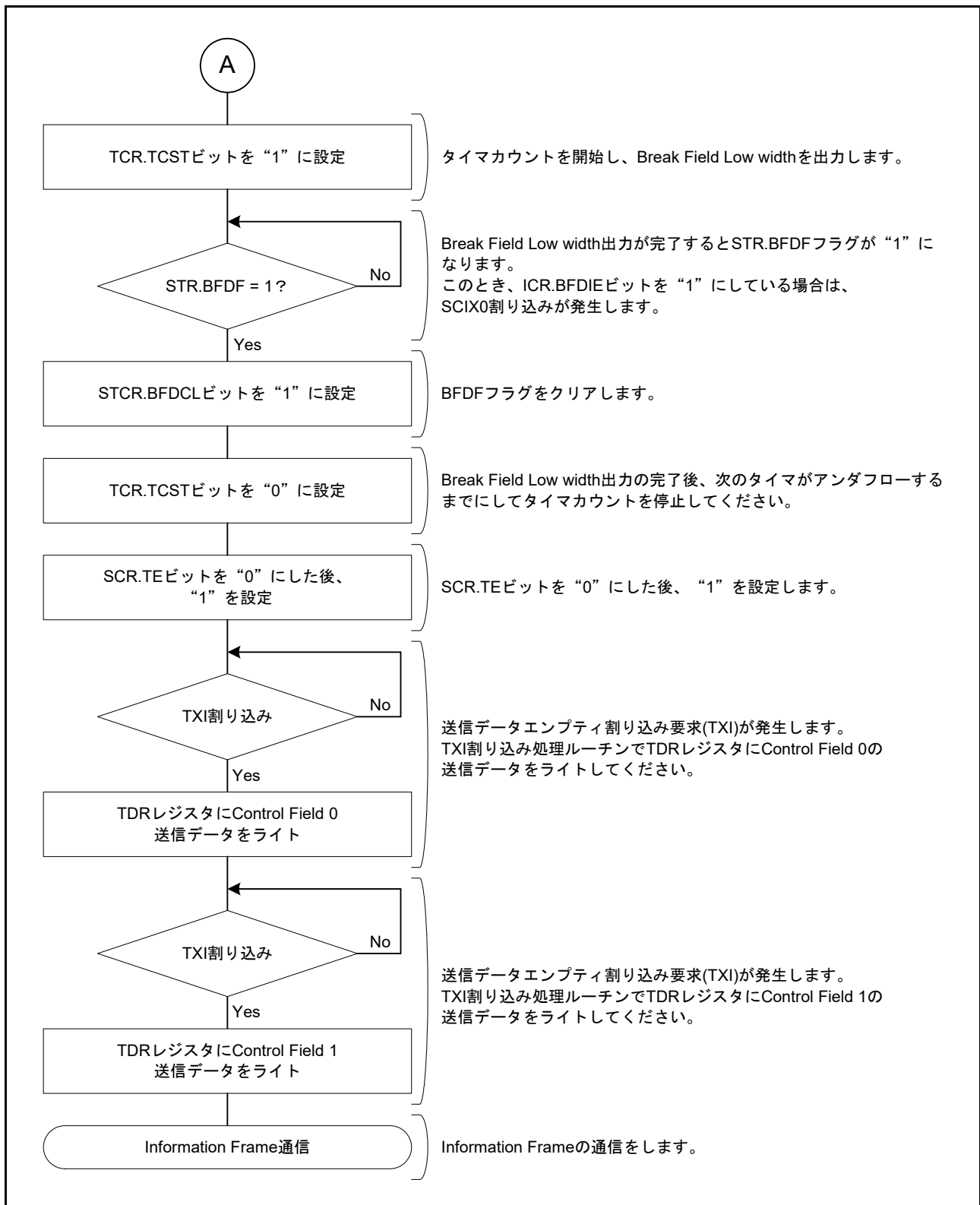


図 27.67 Start Frame 送信フローチャート例 (2)

27.10.3 Start Frame 受信

拡張シリアルモード制御部では、表 27.36 のような構成の Start Frame を検出することができます。

表 27.36 Start Frameの構成

ビットの設定		Start Frameの構成
BFE	CF0RE	
0	0	
0	1	
1	0	
1	1	

図 27.68 に Break Field Low width、Control Field 0 および Control Field 1 で構成される Start Frame の受信時の動作例を示します。また、図 27.69、図 27.70 に Start Frame の受信を行うためのフローチャート、図 27.71 に Start Frame 受信時の状態遷移図を示します。

拡張シリアルモード制御部は、Start Frame 受信時、以下のように動作します。なお、SCI12 は調歩同期式モードで使用します。

- (1) タイマの動作モードを Break Field Low width 検出モードに設定して、CR3.SDST ビットに“1”を書き込むと、Break Field Low width 検出が可能になります。
- (2) タイマの TCNT、TPRE レジスタに設定した期間以上の Low が RXDX12 端子から入力されると、Break Field Low width として検出します。このとき、STR.BFDF フラグが“1”になります。また、ICR.BFDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX0 割り込みが発生します。
- (3) Break Field Low width 検出後、RXDX12 端子からの入力が High になると CR0.RXDSF フラグが“0”になり、Control Field 0 の受信を開始します。
- (4) Control Field 0 で受信したデータが CF0DR レジスタに設定したデータと一致した場合、STR.CF0MF フラグが“1”になります。また、ICR.CF0MIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX1 割り込みが発生します。その後、Control Field 1 の受信を開始します。Control Field 0 で受信したデータが CF0DR レジスタに設定したデータと一致しない場合は、Break Field Low width 検出前の状態に遷移します。
- (5) Control Field 1 で受信したデータが PCF1DR レジスタまたは SCF1DR レジスタに設定したデータと一致した場合、STR.CF1MF フラグが“1”になります。また、ICR.CF1MIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX1 割り込みが発生します。その後、Information Frame の通信を行います。Control Field 1 で受信したデータが PCF1DR レジスタまたは SCF1DR レジスタに設定したデータのどちらとも一致しない場合は、Break Field Low width 検出前の状態に遷移します。

Start Frame の構成にあわせ、Break Field および Control Field 0 の処理を省略してください。

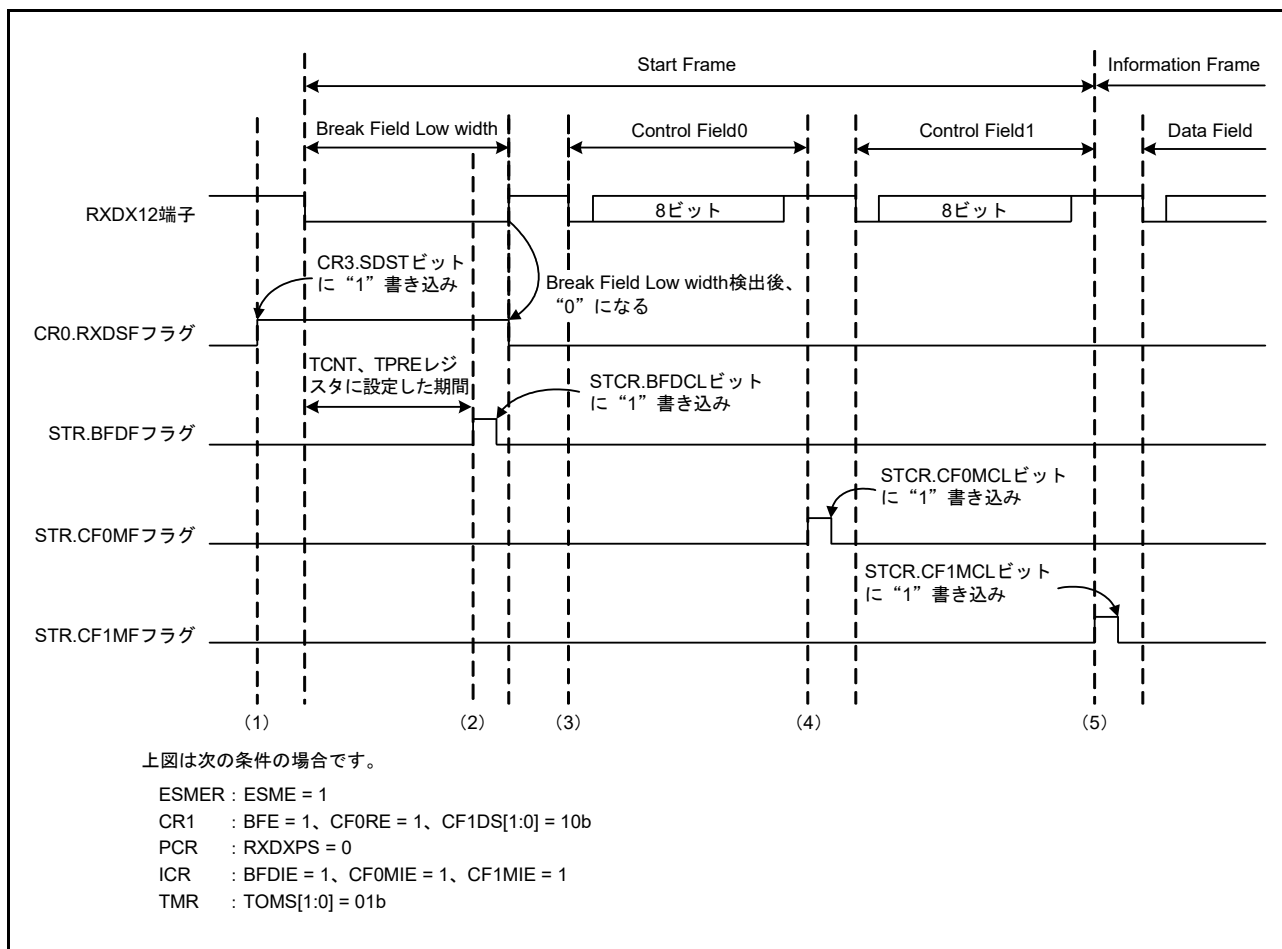


図 27.68 Start Frame 受信時の動作例

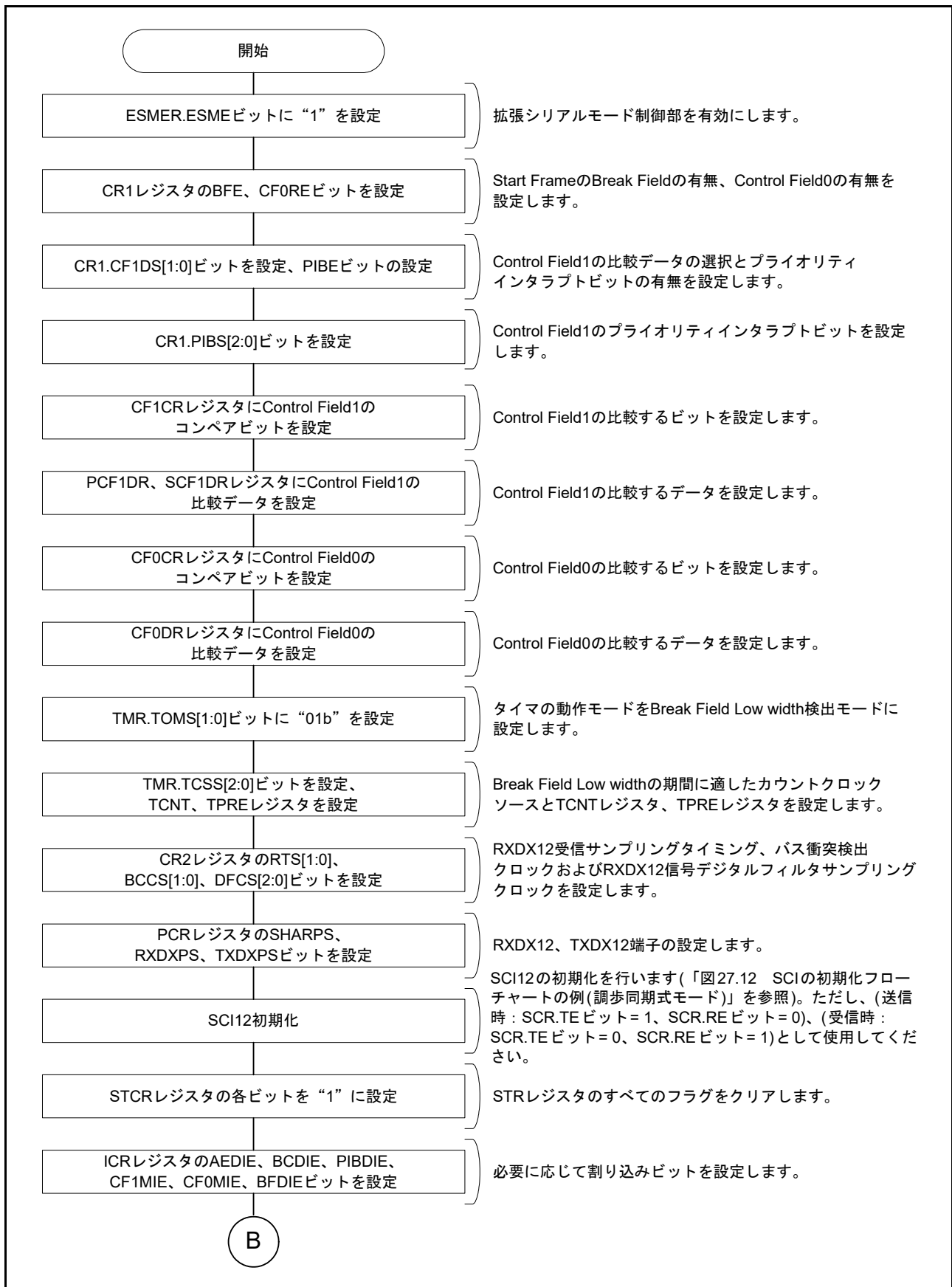


図 27.69 Start Frame 受信フローチャート例 (1)

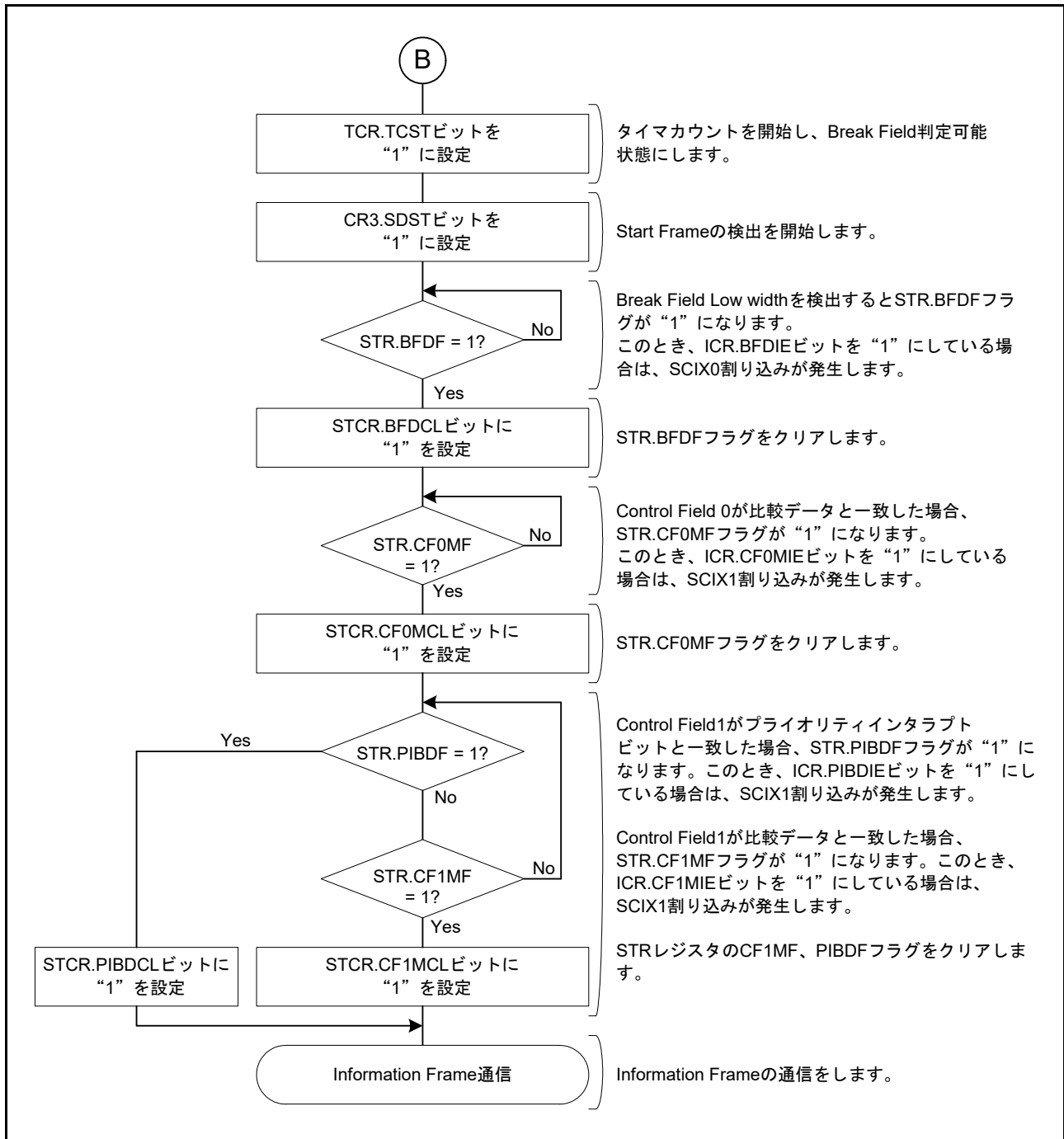


図 27.70 Start Frame 受信フローチャート例 (2)

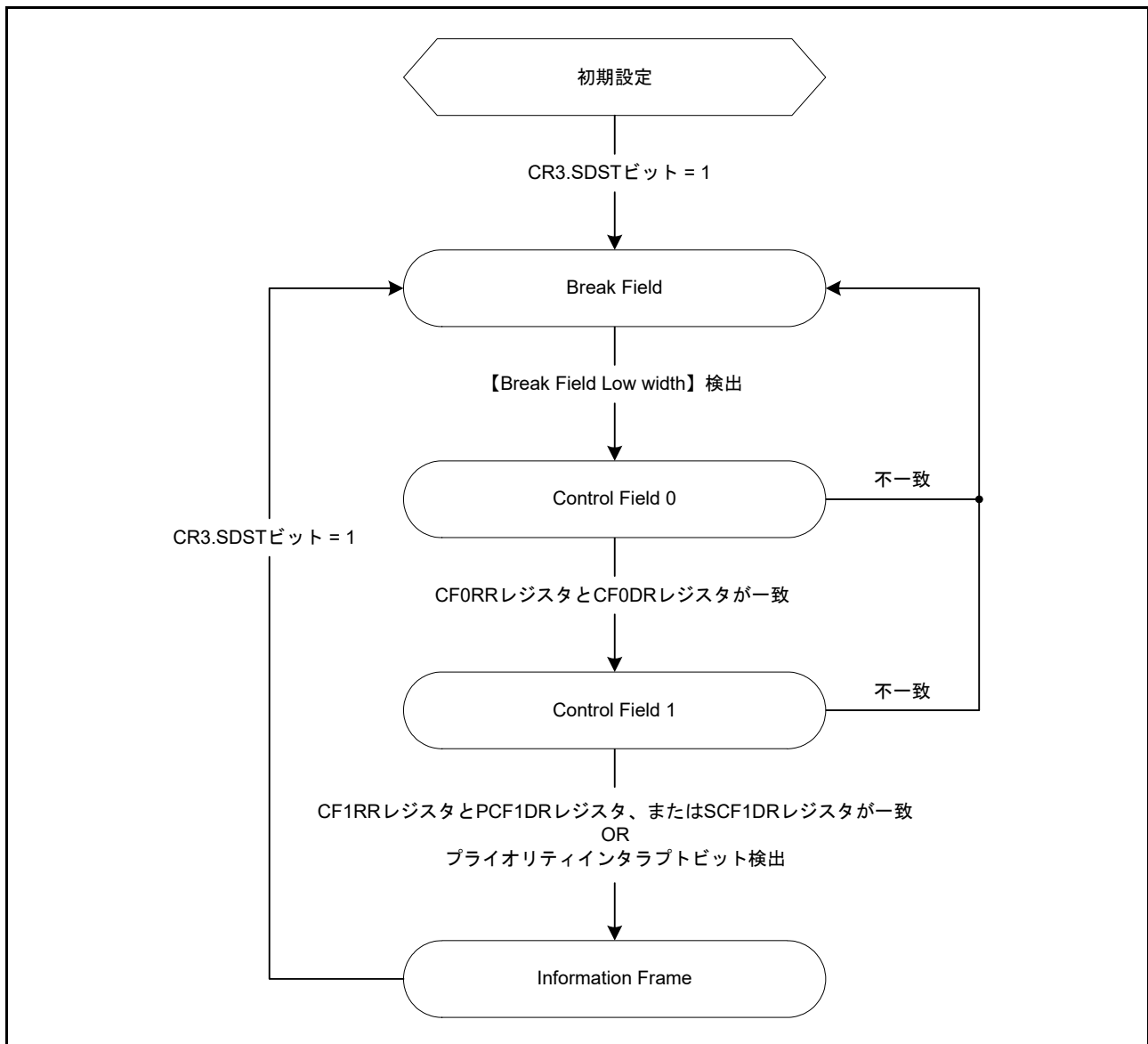


図 27.71 Start Frame 受信時の状態遷移図

27.10.3.1 プライオリティインタラプトビット

図 27.72 にプライオリティインタラプトビットを使用した Start Frame 受信時の動作例を示します。プライオリティインタラプトビットは CR1.PIBE ビットを“1”にすることで有効となります。

拡張シリアルモード制御部は、プライオリティインタラプトビットを使用した Start Frame 受信時、以下のよう動作します。

(1)～(4) は図 27.68 の Start Frame 受信時の動作例 (1)～(4) と同様になります。

(5) CR1.PIBS[2:0] ビットで指定したビットの値が PCF1DR レジスタに設定した値と一致した場合、STR.PIBDF フラグが“1”になります。また、ICR.PIBDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX1 割り込みが発生します。その後、Information Frame の通信を行います。Control Field 1 で受信したデータが PCF1DR レジスタまたは SCF1DR レジスタに設定したデータのどちらとも一致せず、プライオリティインタラプトビットも検出しない場合は、Break Field Low width 検出前の状態に遷移します。

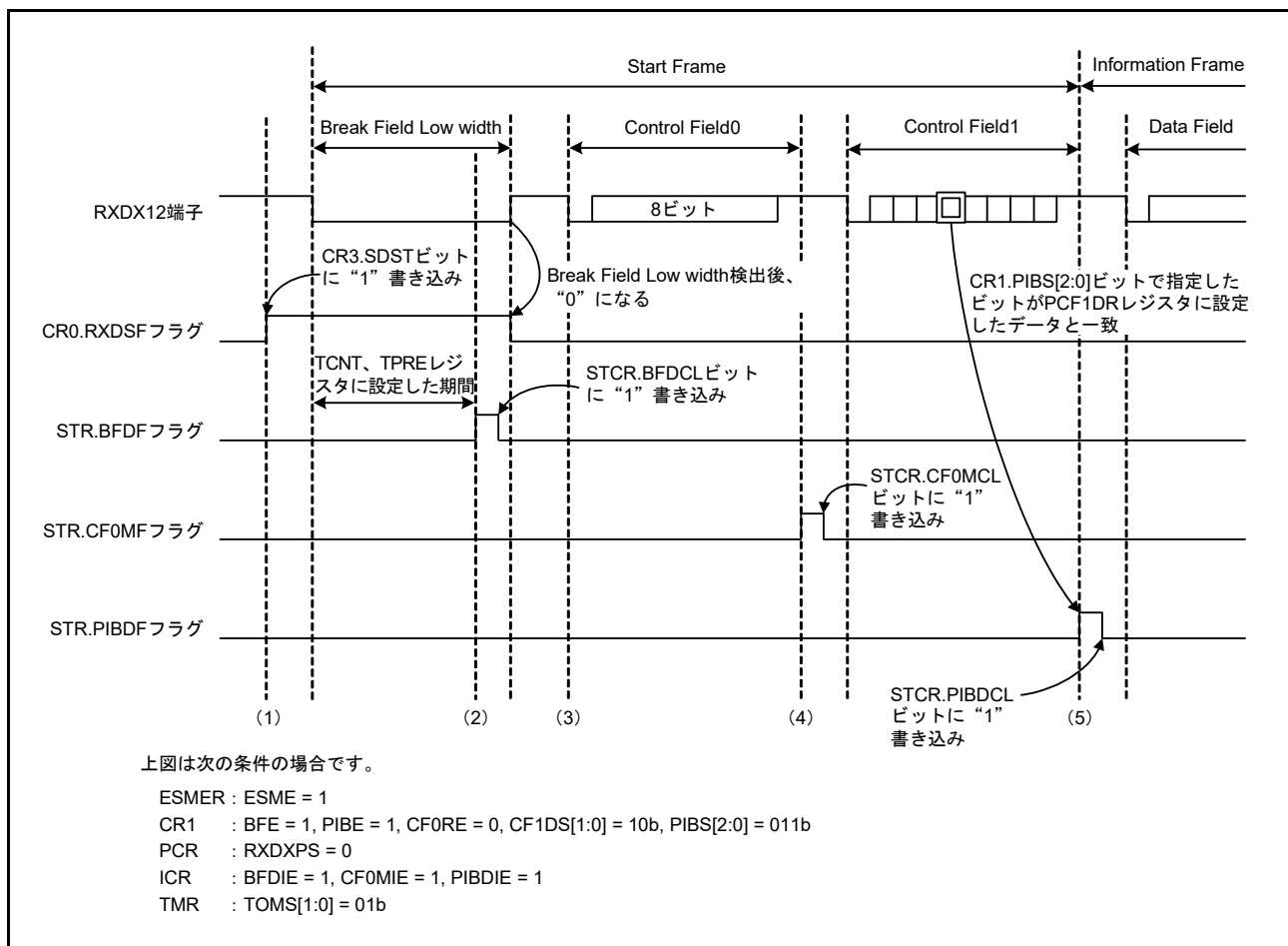


図 27.72 Start Frame の受信時の動作例 (プライオリティインタラプトビット使用時)

27.10.4 バス衝突検出機能

ESMER.ESME ビット = 1、かつ SCR.TE ビット = 1 の状態で、Break Field Low width 出力中およびデータ送信中にバス衝突検出機能が働きます。

図 27.73 にバス衝突検出機能の動作例を示します。TXDX12 端子の出力と RXDX12 端子の入力を CR2.BCCS[1:0] ビットで設定されたバス衝突検出クロックでサンプリングし、3 回連続不一致が発生すると STR.BCDF フラグが“1”になります。また、ICR.BCDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX2 割り込みが発生します。

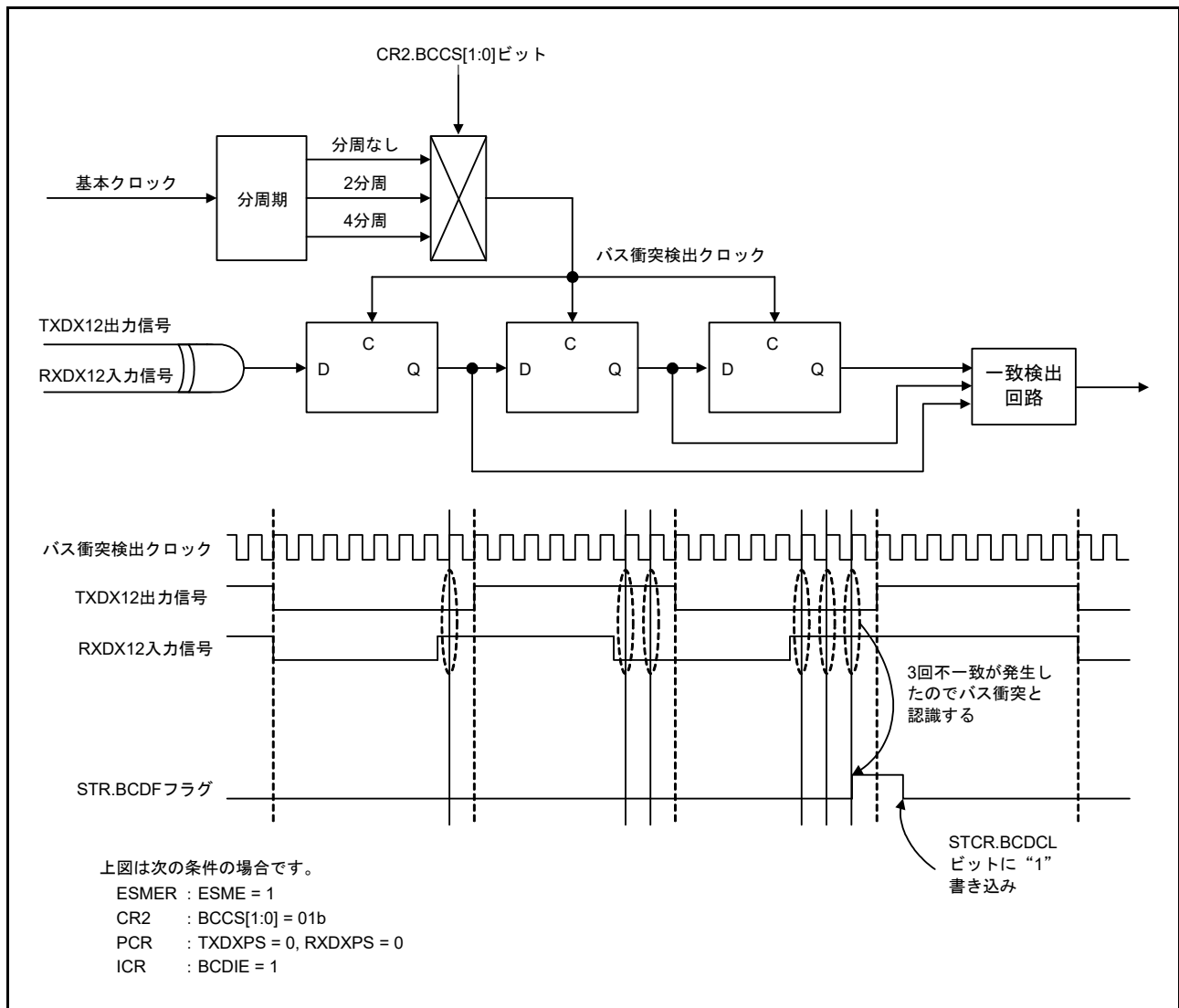


図 27.73 バス衝突検出機能の動作例

27.10.5 RXDX12 端子入力デジタルフィルタ機能

RXDX12 端子の入力信号は、デジタルフィルタ回路を通して内部に取り込むことができます。デジタルフィルタ回路は、3段直列に接続されたフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されます。RXDX12 端子入力信号はCR2.DFCS[2:0] ビットによって選択されたクロックでサンプリングされ、3つのラッチ出力が一致すると、後段へそのレベルを伝えます。一致しないときは、前の値を保持します。すなわち、3サンプリングクロック以上同一のレベルを保持した場合は信号として認識しますが、3サンプリングクロック以下の信号変化はノイズとして判断し、信号変化として認識しません。図 27.74 にデジタルフィルタ機能の動作例を示します。

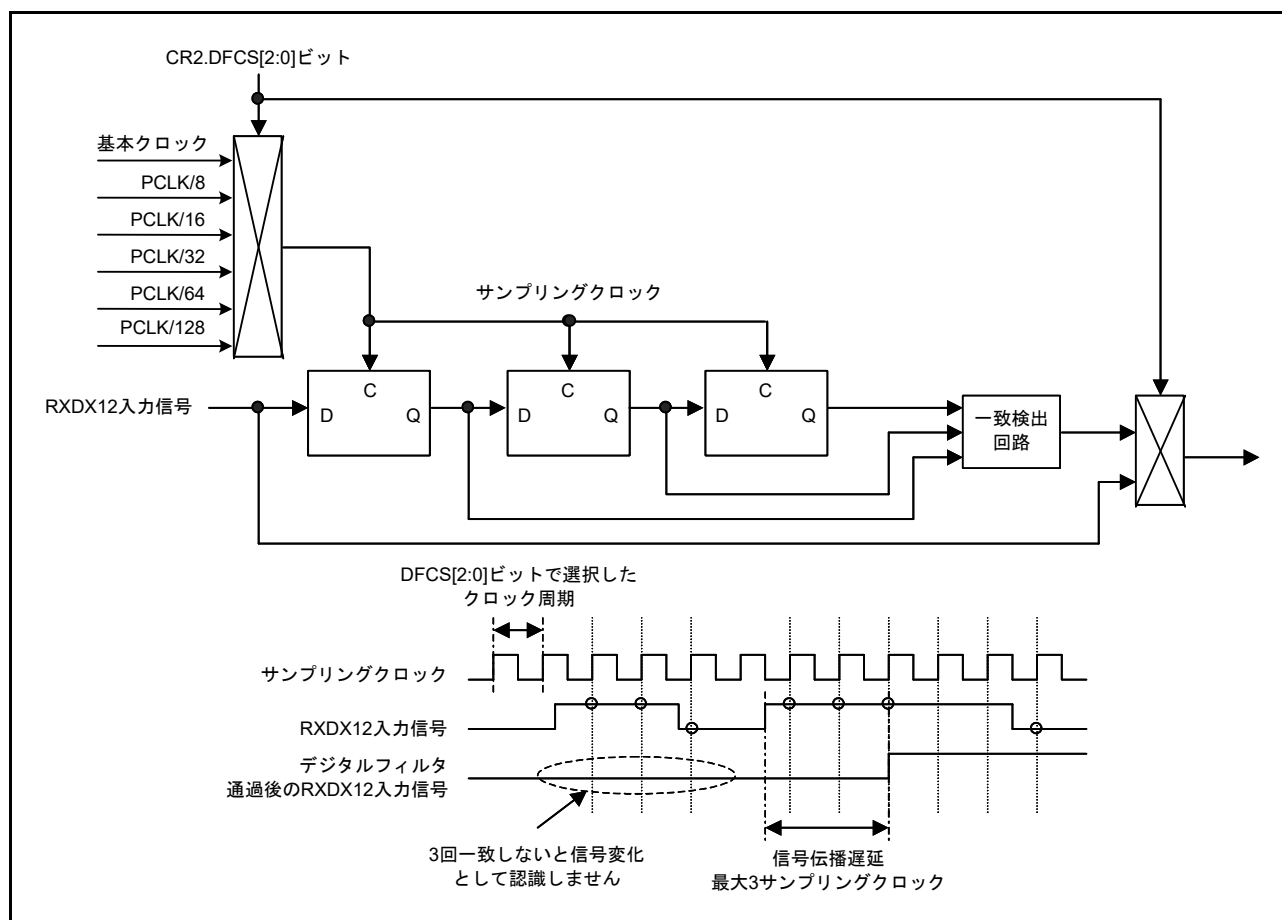


図 27.74 デジタルフィルタ機能の動作例

27.10.6 ビットレート測定機能

RXDX12 端子から入力される信号の立ち上がり — 立ち下がり間または、立ち下がり — 立ち上がり間を測定する機能です。図 27.75 にビットレート測定機能の動作例を示します。

- (1) CR0.BRME ビットに“1”を書き込むとビットレート測定が有効となります。BRME ビットは、測定を行いたいときのみ“1”を設定してください。また、BRME ビットを“1”にしても Break Field 中は、ビットレートの測定動作を行いません。
- (2) Break Field Low width を検出後、RXDX12 端子の入力が High になると、ビットレート測定が開始します。
- (3) ビットレート測定開始後、RXDX12 端子から有効エッジ(立ち上がりエッジおよび立ち下がりエッジ)が入力されるとタイマはそのときのカウンタ値をリードバッファに保持し、カウンタをリロードします。ICR.AEDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX3 割り込みが発生します。TCNT、TPRE レジスタをリードすることで保持は解除されます。
- (4) 有効エッジ間のカウンタ値からビットレートを算出し、BRR レジスタの設定を変更することで、ビットレートを調整することができます。Control Field 1 一致後、ビットレート測定機能を無効にする場合は CR0.BRME ビットに“0”を書き込んでください。

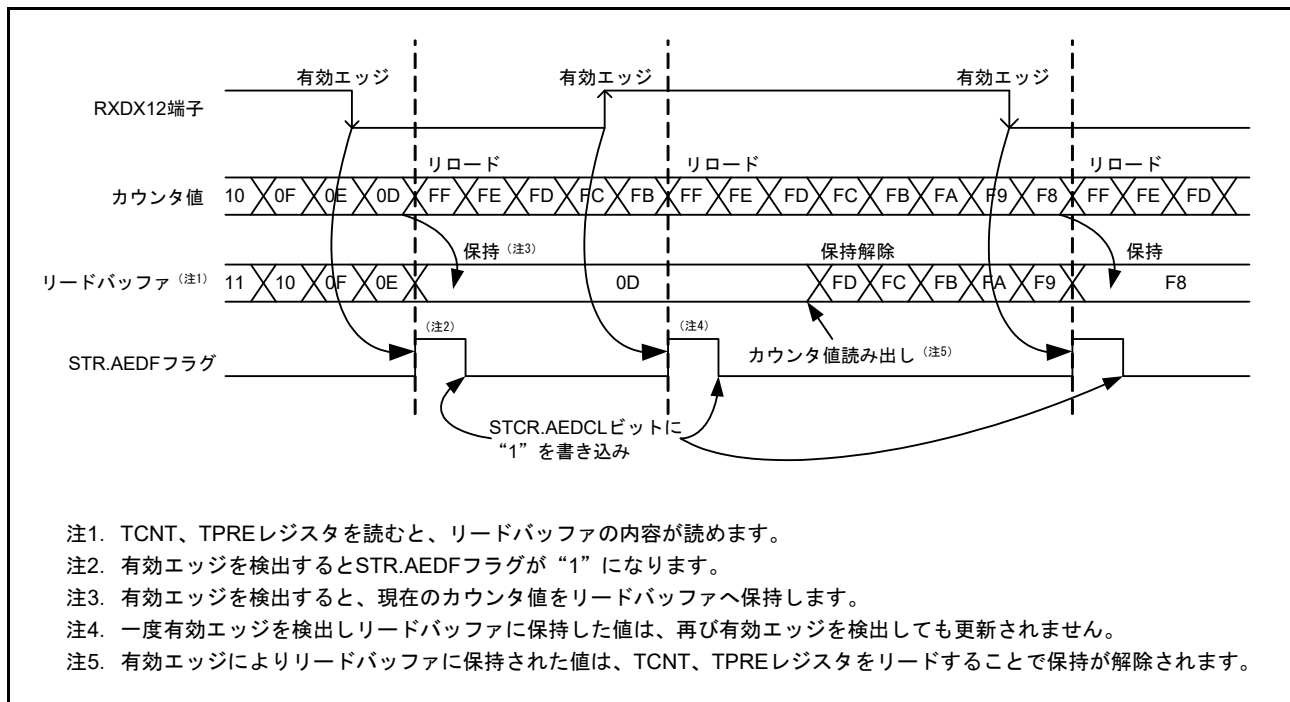


図 27.75 ビットレート測定機能動作例

27.10.7 RXDX12 受信データサンプリングタイミング選択機能

拡張シリアルモード制御部では、RXDX12 受信データのサンプリングタイミングを CR2.RTS[1:0] ビットにより、基本クロックの 8 クロック目の立ち上がり、10 クロック目の立ち上がり、12 クロック目の立ち上がりおよび 14 クロック目の立ち上がりから選択することができます。SEMR.ABCS ビットが“1”の場合は基本クロックの 4 クロック目の立ち上がり、5 クロック目の立ち上がり、6 クロック目の立ち上がりおよび 7 クロック目の立ち上がりから選択することができます。図 27.76 に RXDX12 受信データサンプリングタイミングを示します。

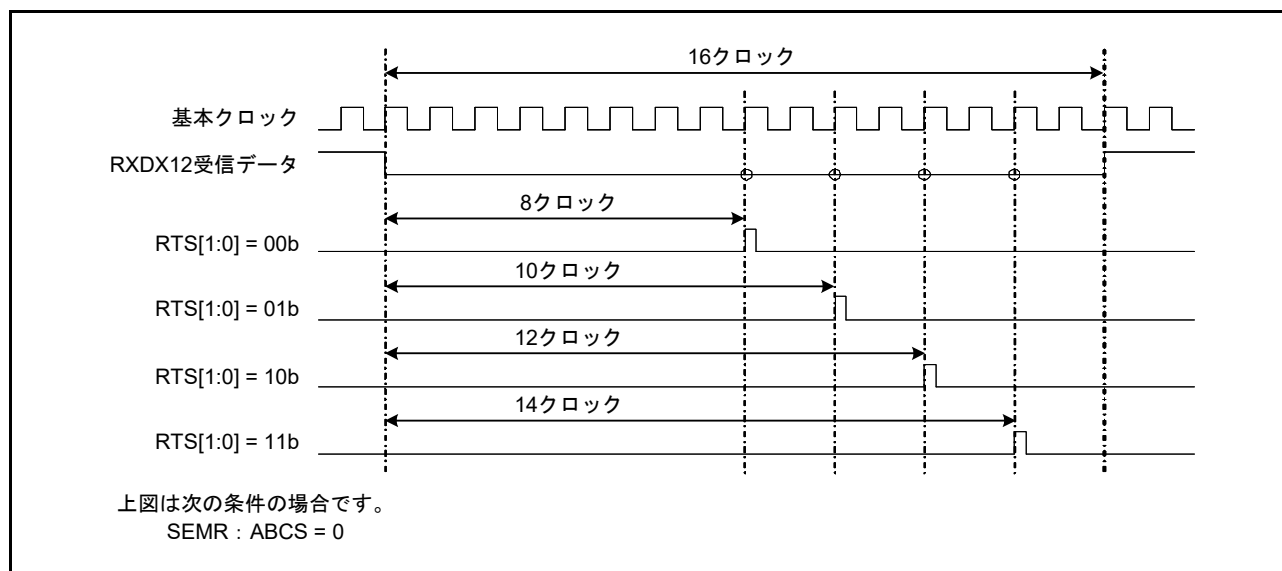


図 27.76 RXDX12 受信データサンプリングタイミング

27.10.8 タイマ

タイマには次の動作モードがあります。

(1) Break Field Low width 出力モード

Start Frame 送信時、Break Field Low width の Low を TXDX12 端子から出力するモードです。TMR.TOMS[1:0] ビットを“10b”に設定すると、Break Field Low width 出力モード動作になります。カウントクロックソースは TMR.TCSS[2:0] ビットで選択します。TCR.TCST ビットに“1”を書き込むと、TXDX12 端子の出力を Low にし、カウントを開始します。タイマがアンダフローすると TXDX12 端子の出力を High にし、STR.BFDF フラグが“1”になります。また、ICR.BFDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX0 割り込みが発生します。TCR.TCST ビットに“0”を書き込むと、TPRE レジスタおよび TCNT レジスタはリロード後カウントを停止します。Break Field Low width 出力完了後、タイマが再度アンダフローする前にカウントを停止してください。図 27.77 に Break Field Low width 出力モードの動作例を示します。

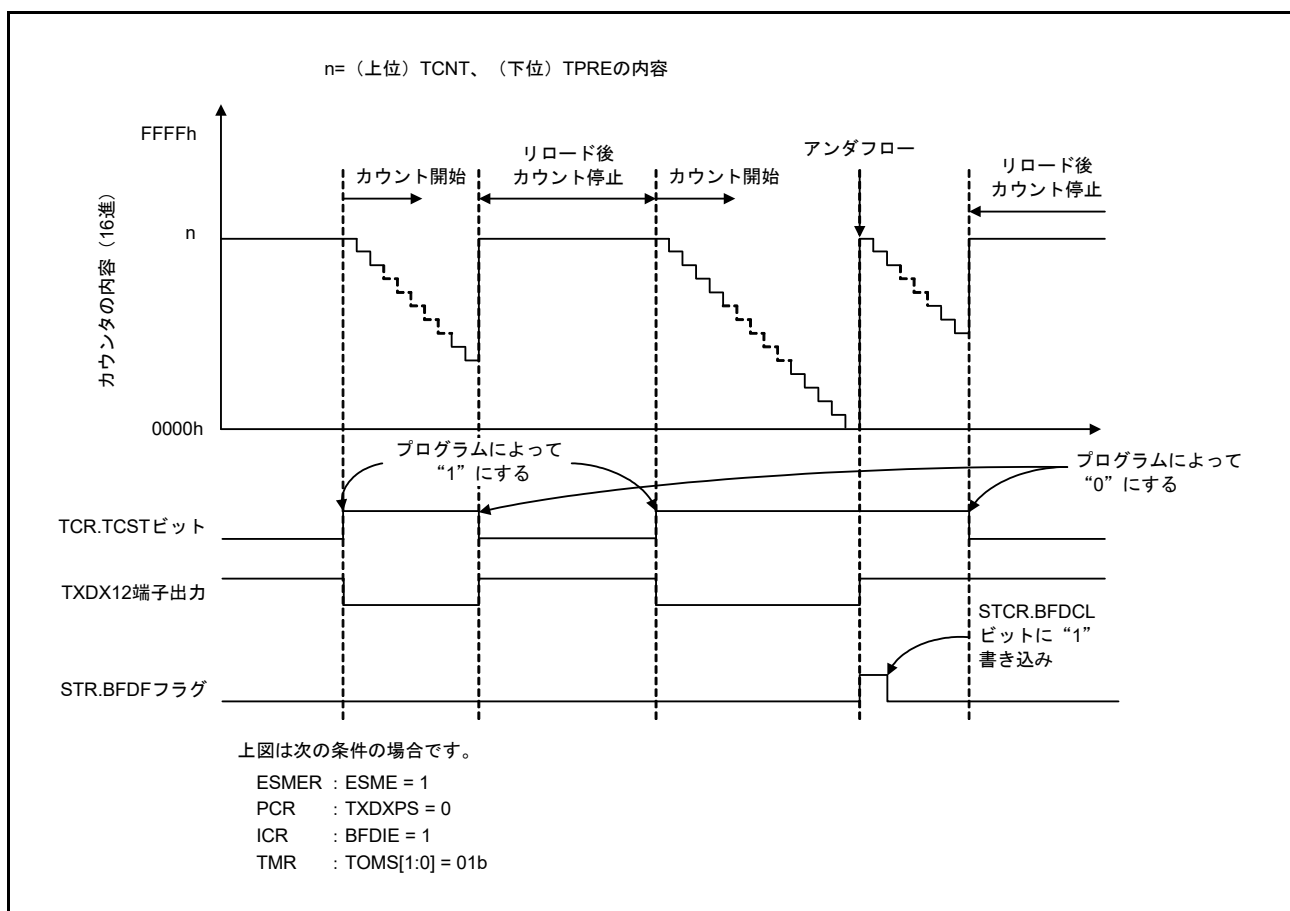


図 27.77 Break Field Low width 出力モードの動作例

(2) Break Field Low width 判定モード

Start Frame 受信時、RXDX12 端子から入力される Break Field Low width 判定するモードです。TMR.TOMS[1:0] ビットを“01b”に設定すると、Break Field Low width 判定モード動作になります。カウントクロックソースは TMR.TCSS[2:0] ビットで選択します。TCR.TCST ビットに“1”を書き込むと、Break Field Low width 判定可能状態になります。RXDX12 端子から Low が入力されると判定を開始します。RXDX12 端子から High が入力されると TPRES レジスタおよび TCNT レジスタはリロードを行い Break Field Low width 判定可能状態になります。Break Field Low width 判定中にタイマがアンダフローすると STR.BFDF フラグが“1”になります。また、ICR.BFDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX0 割り込みが発生します。データ通信中にタイマがアンダフローし、割り込みが発生することが問題となる場合は、Break Field Low width 判定後、タイマを停止してください。図 27.78 に Break Field Low width 判定モードの動作例を示します。

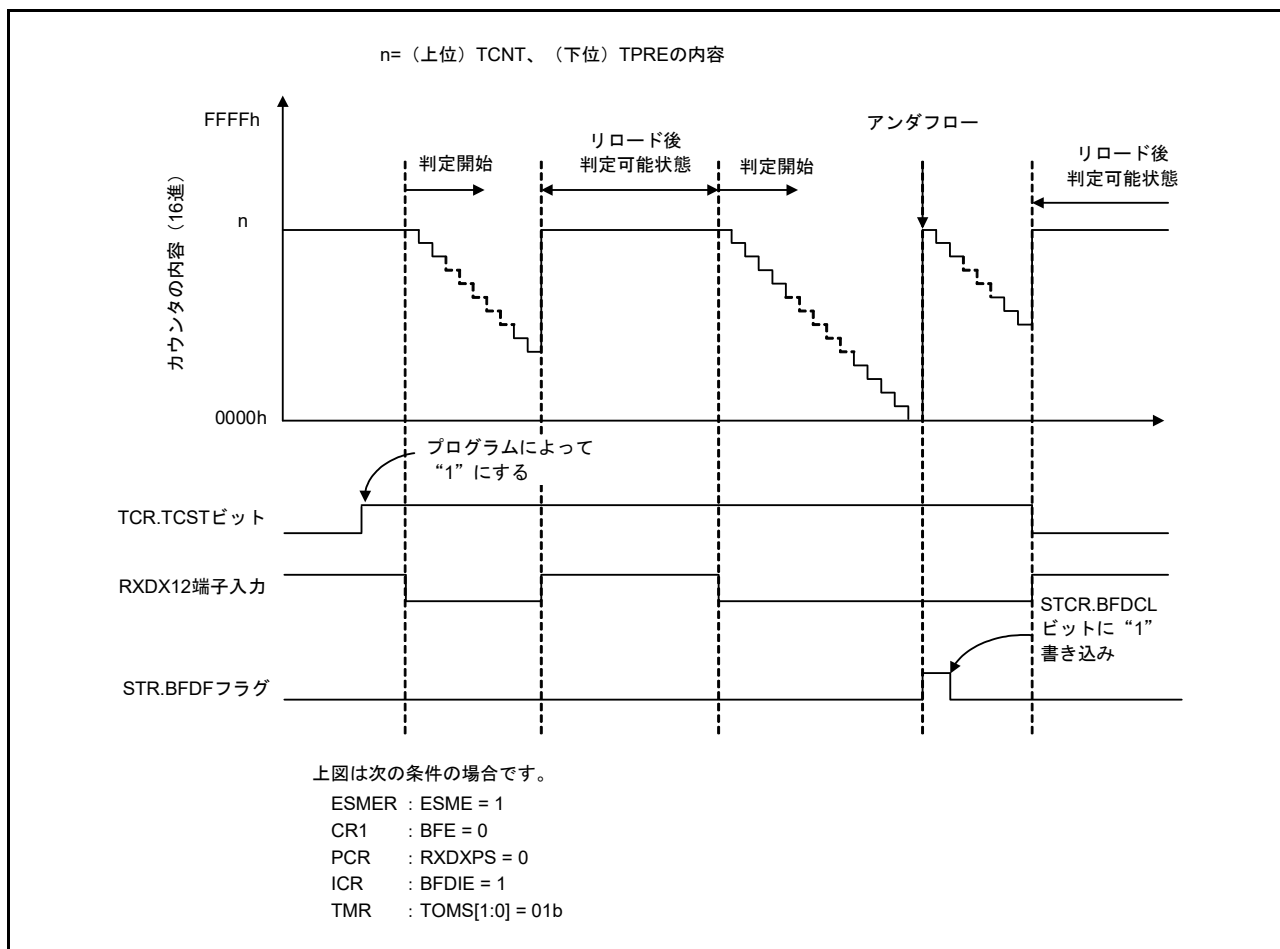


図 27.78 Break Field Low width 判定モードの動作例

(3) タイマモード

内部クロックをカウントクロックソースとしてカウントするモードです。TMR.TOMS[1:0] ビットを“00b”に設定すると、タイマモード動作になります。カウントクロックソースは TMR.TCSS[2:0] ビットで選択します。TCR.TCST ビットに“1”を書き込むと、カウントを開始し、TCST ビットに“0”を書き込むとカウントを停止します。TPRES レジスタに入力するカウントクロックソースの周期で TPRES レジスタがダウンカウントします。TPRES レジスタのアンダフローをカウントクロックソースにして、TCNT レジスタがダウンカウントします。タイマがアンダフローすると STR.BFDF フラグが“1”になります。また、ICR.BFDIE ビットを“1”にしている場合は、SCIX0 割り込みが発生します。

27.11 ノイズ除去機能

ノイズ除去機能に用いるノイズフィルタの構成を図 27.79 に示します。ノイズフィルタは2段のフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されます。設定したサンプリング周期に応じて3回サンプリングした端子のレベルが一致した場合、内部に一致したレベルを伝達し、再度3回のサンプリングした端子レベルが一致するまで内部へは同じレベルを伝達し続けます。

調歩同期式モード時は、RXDnの入力信号にノイズ除去機能を使用できます。サンプリング周期は、基本クロックの周期 (SEMR.ABCSE = 0 かつ SEMR.ABCS = 0 のとき1ビット期間の1/16、SEMR.ABCSE = 0 かつ SEMR.ABCS = 1 のとき1ビット期間の1/8、SEMR.ABCSE = 1 のとき1ビット期間の1/6) となります。

簡易 I²C モード時は SSDAn、SSCLn の入力信号に、ノイズ除去機能を使用できます。サンプリングクロックは、内蔵ボーレートジェネレータのクロックソースの1/2/4/8分周クロックから SNFR.NFCS[2:0] ビットの設定により選択します。

ノイズフィルタを有効にした状態で基本クロックが停止した場合、基本クロック入力再開時は停止時のノイズフィルタの状態の続きから動作を開始します。基本クロックが入力されている期間に SCR.TE ビット = 0、SCR.RE ビット = 0 にした場合、ノイズフィルタのフリップフロップはすべて“1”に初期化され、受信再開時の入力データが“1”の場合は一致検出として内部信号に伝えられます。“0”の場合は3回サンプリングした端子のレベルが一致するまではノイズフィルタの出力は初期値を保持します。

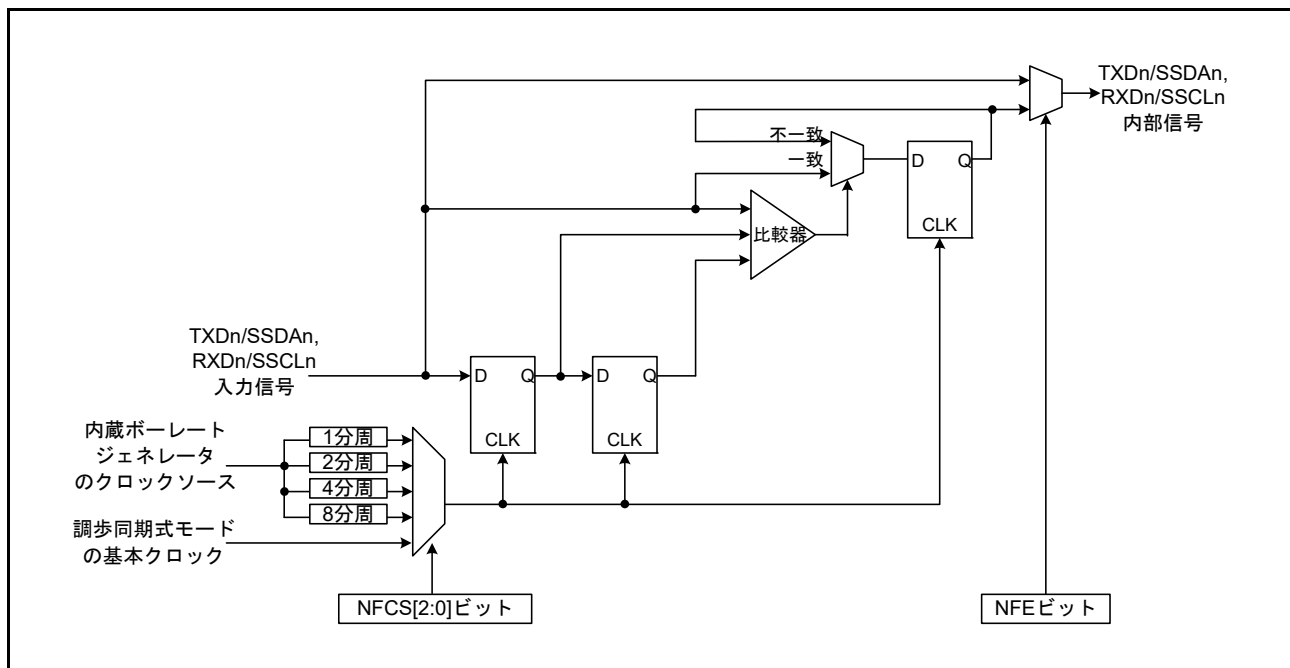


図 27.79 デジタルノイズフィルタのブロック図

27.12 割り込み要因

27.12.1 TXI 割り込みおよび RXI 割り込みバッファ動作

TXI 割り込みおよび RXI 割り込みに関しては、割り込みコントローラの割り込みステータスフラグが“1”のときに割り込み発生条件が成立しても、SCI は割り込み要求を出力せず内部で保持します（内部で保持できる容量は、1 要因ごとに 1 要求までです）。

割り込みコントローラの割り込みステータスフラグが“0”になると、SCI は割り込みコントローラに対して保持していた割り込み要求を出力します。その後、保持していた割り込み要求をクリアします。なお、内部で保持している割り込み要求は、対応する割り込みイネーブルビット（SCR.TIE ビットまたは SCR.RIE ビット）を“0”にすることでクリアできます。

27.12.2 調歩同期式モード、クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける割り込み

表 27.37 に調歩同期式モード、クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける割り込み要因を示します。各割り込み要因は、SCR レジスタのイネーブルビットにより独立に許可することができます。

SCR.TIE ビットが“1”のとき、送信データが TDR レジスタ、または TDRL レジスタ（注1）から TSR レジスタに転送されると TXI 割り込み要求が発生します。また、TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットを“1”にした後で SCR.TE ビットを“1”にするか、SCR.TIE ビットと SCR.TE ビットを 1 命令で同時に“1”にすることも発生します。TXI 割り込み要求により、DTC を起動してデータ転送を行うことができます。

TXI 割り込み要求は、SCR.TIE ビットが“0”の状態では SCR.TE ビットを“1”にした場合、および SCR.TE ビットが“1”の状態では SCR.TIE ビットを“1”にした場合には発生しません。（注2）

ただし、SCR.TIE ビットが“1”の状態では SCR.TE ビットを“0”にした場合、TXI 割り込み要求が発生しますのでご注意ください。

SCR.TEIE ビットが“1”のとき、送信データの最終ビットを送信するタイミングまでに TDR レジスタ、または TDRL レジスタ（注1）に次のデータをライトしていないと SSR.TEND フラグが“1”になり、TEI 割り込み要求が発生します。また、SCR.TE ビットを“1”にしてから TDR レジスタ、または TDRL レジスタ（注1）に送信データをライトするまでの間は、SSR.TEND フラグは“1”を保持しており、SCR.TEIE ビットを“1”にすると TEI 割り込み要求が発生します。

TDR レジスタ、または TDRL レジスタ（注1）にデータを書き込むと、SSR.TEND フラグがクリアされて TEI 割り込み要求は取り消されますが、取り消されるまで時間がかかります。

SCR.RIE ビットが“1”のとき、受信データが RDR レジスタ、または RDRL レジスタ（注1）に格納されると RXI 割り込み要求が発生します。RXI 割り込み要求により、DTC を起動してデータ転送を行うことができます。

SCR.RIE ビットが“1”のとき、SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグのいずれかが“1”になると ERI 割り込み要求が発生します。このとき RXI 割り込み要求は発生しません。SSR レジスタの ORER、FER、PER フラグをすべてクリアすることにより ERI 割り込み要求を取り下げることができます。

注 1. 調歩同期式モードかつデータ長 9 ビットを選択した場合

注 2. 最終データの送信時など、TXI 割り込みを一時的に禁止し、送信終了割り込みによる処理を行ってから新たにデータ送信を開始したいときには、SCR.TIE ビットではなく TXI 割り込みに対応する割り込みコントローラの割り込み要求許可ビットで割り込みの禁止 / 許可を制御してください。新データ送信のための TXI 割り込み要求の発生が抑止されてしまうことを防ぐことができます。

表 27.37 SCI割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DTCの起動
ERI	受信エラー	ORER, FER, PER, DFER (注1), DPER (注1)	不可能
RXI	受信データフル	RDRF	可能
	データ一致 (注1)	DCMF (注1)	
TXI	送信データエンプティ	TDRE	可能
TEI	送信終了	TEND	不可能

注1. SCI1、SCI5にのみ存在します。

27.12.3 スマートカードインタフェースモードにおける割り込み

スマートカードインタフェースモードでは、表 27.38 の割り込み要因があります。送信終了割り込み (TEI) 要求は使用できません。

表 27.38 SCI割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DTCの起動
ERI	受信エラー、エラーシグナル検出	ORER, PER, ERS	不可能
RXI	受信データフル	—	可能
TXI	送信データエンプティ	TEND	可能

スマートカードインタフェースモードの場合も通常の SCI の場合と同様に、DTC を使って送受信を行うことができます。送信動作では、SSR.TEND フラグが“1”になると、TXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に TXI 割り込み要求を設定しておけば、TXI 割り込み要求により DTC が起動されて送信データの転送を行います。TEND フラグは、DTC によるデータ転送時に自動的に“0”になります。

エラーが発生した場合は SCI が自動的に同じデータを再送信します。この間、TEND フラグは“0”のまま保持され、DTC は起動されません。したがって、エラー発生時の再送信を含め、SCI と DTC が指定されたバイト数を自動的に送信します。ただし、エラー発生時、SSR.ERS フラグは自動的にクリアされませんので、SCR.RIE ビットを“1”にしておき、エラー発生時に ERI 割り込み要求を発生させ ERS フラグをクリアしてください。

なお、DTC を使って送受信を行う場合は、先に DTC を設定し、許可状態にしてから SCI の設定を行ってください。DTC の設定方法は「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」を参照してください。

また、受信動作では、受信データが RDR レジスタにセットされると RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に RXI 割り込み要求を設定しておけば、RXI 割り込み要求で DTC が起動されて受信データの転送を行います。エラーが発生した場合は、エラーフラグがセットされます。そのため DTC は起動されず、代わりに CPU に対し ERI 割り込み要求を生成しますのでエラーフラグをクリアしてください。

27.12.4 簡易 I²C モードにおける割り込み

簡易 I²C モードでは、表 27.39 の割り込み要因があります。STI 割り込みは、送信終了割り込み (TEI) 要求に割り当てられます。受信エラー割り込み (ERI) 要求は使用できません。

簡易 I²C モードも、DTC を使って送受信を行うことができます。

SIMR2.IICINTM ビットが“1”のとき、8 ビット目の SSCLn 端子立ち下がり、RXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に RXI 割り込み要求を設定しておけば、RXI 割り込み要求で DTC が起動されて受信データの転送を行います。また、9 ビット目 (アクノリッジビット) の SSCLn 端子立ち下がり、TXI 割り込み要求が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に TXI 割り込み要求を設定しておけば、TXI 割り込み要求により DTC が起動されて送信データの転送を行います。

SIMR2.IICINTM ビットが“0”のとき、9 ビット目 (アクノリッジビット) の SSCLn 端子立ち上がり、SSDAn 端子入力 Low だと RXI 割り込み要求 (ACK 検出)、SSDAn 端子入力 High だと TXI 割り込み要求 (NACK 検出) が発生します。あらかじめ DTC の起動要因に RXI 割り込み要求を設定しておけば、RXI 割り込み要求で DTC が起動されて受信データまたは送信データの転送が可能です。

なお、DTC を使って送受信を行う場合は、先に DTC を設定し、許可状態にしてから SCI の設定を行ってください。

SIMR3.IICSTAREQ、IICRSTAREQ、IICSTPREQ の各ビットを用いて開始条件、再開条件、停止条件を生成した場合、生成が完了すると STI 割り込み要求が発生します。

表 27.39 SCI 割り込み要因

名称	割り込み要因		割り込みフラグ	DTC の起動
	IICINTM ビット=0	IICINTM ビット=1		
RXI	ACK 検出	受信	—	可能
TXI	NACK 検出	送信	—	可能 (注 1)
STI	開始条件、再開条件、停止条件生成終了		IICSTIF	不可能

注 1. SIMR2.IICINTM ビット=1 (受信割り込み、送信割り込みを選択) の場合のみ DTC の起動が可能です。

27.12.5 拡張シリアルモード制御部の割り込み要求

SCIlh の拡張シリアルモード制御部が生成する割り込み要求には、SCIX0 割り込み (Break Field Low width 検出)、SCIX1 割り込み (Control Field 0 一致、Control Field 1 一致、プライオリティインタラプトビット検出)、SCIX2 割り込み (バス衝突検出) および SCIX3 割り込み (有効エッジ検出) の計 6 種類があります。各割り込み要因が発生するとステータスフラグが“1”になります。表 27.40 に各割り込み要求の内容を示します。

表 27.40 拡張シリアルモード制御部の割り込み要求

割り込み要求	ステータスフラグ	割り込み要因
SCIX0 割り込み (Break Field Low width 検出)	BFDF	<ul style="list-style-type: none"> • タイマに設定した期間より長い Break Field Low width を検出したとき • タイマに設定した期間、Break Field Low width 出力が完了したとき • タイマがアンダフローしたとき
SCIX1 割り込み (Control Field 0 一致)	CF0MF	Control Field 0 の受信データが CF0DR に設定したデータと一致したとき
SCIX1 割り込み (Control Field 1 一致)	CF1MF	Control Field 1 の受信データが PCF1DR または SCF1DR に設定したデータと一致したとき
SCIX1 割り込み (プライオリティ インタラプトビット検出)	PIBDF	プライオリティインタラプトビットに指定したビットのデータが PCF1DR に設定したデータと一致したとき
SCIX2 割り込み (バス衝突検出)	BCDF	TXDX12 端子の出力と RXDX12 端子の入力をバス衝突検出クロックでサンプリングし、3 回連続不一致が発生するとき
SCIX3 割り込み (有効エッジ検出)	AEDF	ビットレート測定中、有効エッジを検出したとき

27.13 イベントリンク機能

SCI5 は、各割り込み要因をイベントとしてイベントリンクコントローラ (ELC) へ出力し、あらかじめ設定していたモジュールを動作させることができます。

イベントは、対応する割り込みの割り込み要求許可ビットの設定に関係なく出力することができます。また、割り込みステータスフラグが“1”の状態でもイベントは出力可能です。

(1) エラー (受信エラー・エラーシグナル検出) イベント出力

- 受信時にパリティエラーが発生して異常終了したことを示します。
- 受信時にフレーミングエラーが発生して異常終了したことを示します。
- 受信時にオーバランエラーが発生して異常終了したことを示します。
- スマートカードインタフェースモードで送信時にエラーシグナルを検出したことを示します。

(2) 受信データフルイベント出力

- 受信データがレシーブデータレジスタ (RDR レジスタ、または RDRL レジスタ) にセットされたことを示します。
- 簡易 I²C モードで、SIMR2.IICINTM ビットが“0”のとき、ACK を検出したことを示します。
- 簡易 I²C モードで、SIMR2.IICINTM ビットが“1”のとき、8 ビット目の SSCL5 端子立ち下がりを検出したことを示します。
- 簡易 I²C モードのマスタ送信かつ SIMR2.IICINTM ビットが“1”のときは、受信データフルイベントを使用しないようにイベントリンクコントローラ (ELC) を設定してください。

(3) 送信データエンptyイベント出力

- SCR.TE ビットが“0”から“1”に変化したことを示します。
- トランスミットデータレジスタ (TDR レジスタ、または TDRL レジスタ) からトランスミットシフトレジスタ (TSR レジスタ) に送信データを転送したことを示します。
- スマートカードインタフェースモードで送信が完了したことを示します。
- 簡易 I²C モードで、SIMR2.IICINTM ビットが“0”のとき、NACK を検出したことを示します。
- 簡易 I²C モードで、SIMR2.IICINTM ビットが“1”のとき、9 ビット目の SSCL5 端子立ち下がりを検出したことを示します。

(4) 送信終了イベント出力

- 送信が完了したことを示します。
- 簡易 I²C モードで開始条件、再開条件、停止条件の生成が完了したことを示します。

27.14 使用上の注意事項

27.14.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) とモジュールストップコントロールレジスタ C (MSTPCRC) により、SCI の動作を禁止 / 許可することができます。リセット後の値では、SCI の動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することによりレジスタをアクセスできます。詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

27.14.2 ブレークの検出と処理について

フレーミングエラー検出時に、RXDn 端子の値を直接読み出すか、SCI1、SCI5 では SPTR.RXDMON フラグの値を読み出すことでブレークを検出できます。ブレークでは RXDn 端子からの入力がすべて Low になりますので、SSR.FER フラグが“1”（フレーミングエラーの発生あり）になり、また SSR.PER フラグも“1”（パリティエラーの発生あり）になる可能性があります。SEMR.RXDESEL ビットが“0”のとき、SCI は、ブレークを受信した後も受信動作を続けます。したがって、FER フラグを“0”（フレーミングエラーの発生なし）にしても、再び FER フラグが“1”になりますので注意してください。SEMR.RXDESEL ビットが“1”のとき、SCI は、SSR.FER フラグを“1”にし、次のフレームのスタートビット検出待ちの状態を受信動作を停止します。このとき SSR.FER フラグを“0”にすれば、ブレーク中は SSR.FER フラグの“0”を保持します。RXDn 端子が High になりブレークが終了した後、最初の RXDn 端子の立ち下がりですtartビットの始まりを検出し、受信動作を開始します。

27.14.3 マーク状態とブレークの送付

SCR.TE ビットが“0”（シリアル送信動作を禁止）のとき、TXDn 端子はハイインピーダンスになります。このとき TXDn 端子を強制的にマーク / スペース状態にするには、I/O ポート関連のレジスタを設定して TXDn 端子を汎用出力ポートに切り替えてください。

SCR.TE ビットを“1”（シリアル送信動作を許可）にするまで、通信回線をマーク状態（“1”の状態）にするためには、対応する PODR レジスタのビットを“1”にして、汎用出力ポートから High を出力します。通信を開始する場合、TE ビットを“1”にしてから PMR レジスタの対応するビットを“1”にしてください。

データ送信時にブレーク（一定期間以上連続したスペース）を送出したいときは、対応する PODR レジスタのビットを“0”（Low 出力）にした後、PMR レジスタの対応するビットを“0”（汎用入出力ポート）にします。TE ビットを“0”にする場合、この後実施してください。TE ビットを“0”にすると現在の送信状態とは無関係に送信部は初期化されます。

SPTR レジスタがある場合、汎用出力ポートに切り替えることなくマーク / スペースを出力できます。SPTR.SPB2IO ビットを“1”（出力）、SPB2DT ビットを“1”（マーク）または“0”（スペース）にした後、TE ビットを“0”にしてください。

27.14.4 受信エラーフラグと送信動作について （クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード）

受信エラーフラグ (SSR.ORER) が“1”になった状態では、TDR レジスタにデータをライトしても送信を開始できません。送信開始時には、受信エラーフラグを“0”にしておいてください。また、SCR.RE ビットを“0”（シリアル受信動作を禁止）にしても受信エラーフラグは“0”になりませんので注意してください。

27.14.5 TDR レジスタへのライトについて

TDR、TDRH、TDRL レジスタへのデータのライトを行うことができます。しかし、TDR、TDRH、TDRL レジスタに送信データが残っている状態で新しいデータを TDR、TDRH、TDRL レジスタにライトすると、TDR、TDRH、TDRL レジスタに格納されていたデータは TSR レジスタに転送されていないため失われてしまいます。したがって、TDR、TDRH、TDRL レジスタへの送信データのライトは、TXI 割り込み要求によって行ってください。

27.14.6 クロック同期送信時の制約事項 (クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード)

同期クロックに外部クロックソースを使用する場合、以下の制約があります。

(1) 送信開始時

CPU または DTC による TDR レジスタの更新後、PCLK で 5 クロック以上経過した後に送信クロックを入力してください (図 27.80 参照)。

(2) 連続送信時

- ビット7の送信クロックの立ち上がり以前に、TDR レジスタまたは TDRL レジスタに次の送信データを書き込んでください (図 27.80 参照)。
- ビット7送信開始以降に TDR レジスタを更新する場合は、同期クロックが Low の期間に TDR レジスタを更新し、かつビット7の送信クロックの High 幅を、4 PCLK 以上にしてください (図 27.80 参照)。

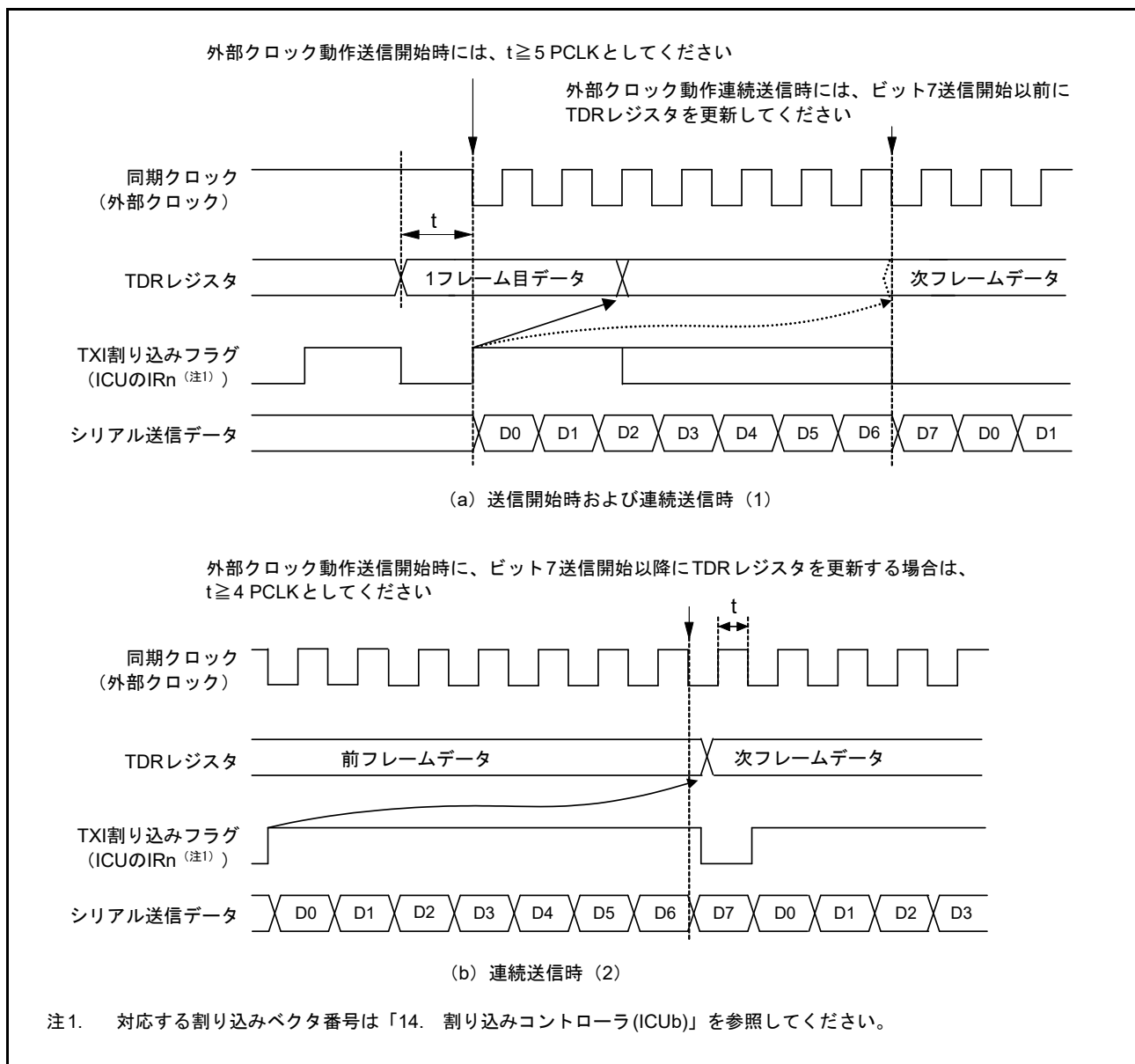


図 27.80 クロック同期式モード送信での外部クロック使用の制約事項

27.14.7 DTC 使用上の制約事項

DTCにより、RDR、RDRH、RDRL レジスタのリードを行うときは起動要因を当該 SCI の受信データフル割り込み (RXI) に設定してください。

27.14.8 通信の開始に関する注意事項

通信開始時点で割り込みコントローラの割り込みステータスフラグ (IRn.IR ビット) が“1”のときは、動作許可 (SCR.TE ビットを“1”に設定、または SCR.RE ビットを“1”に設定) 前に以下の手順で割り込み要求をクリアしてください。割り込みステータスフラグの詳細については、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

- 通信が停止していること (SCR.TE ビットまたは SCR.RE ビットが“0”となっていること) を確認
- 対応する割り込みイネーブルビット (SCR.TIE ビットまたは SCR.RIE ビット) を“0”に設定
- 対応する割り込みイネーブルビット (SCR.TIE ビットまたは SCR.RIE ビット) を読み出し、“0”を確認
- 割り込みコントローラの割り込みステータスフラグ (IRn.IR ビット) に“0”を設定

27.14.9 低消費電力状態時の動作について

(1) 送信

モジュールストップ状態への遷移、またはソフトウェアスタンバイモードへの遷移は、TXDn 端子を汎用入出力ポート機能に切り替えるか、SPTR レジスタで出力レベルを固定 (SCI1, SCI5) した後、動作を停止 (SCR.TIE ビット=0、TE ビット=0、TEIE ビット=0) してから行ってください。TE ビットを“0”にすることによって、TSR レジスタおよび SSR.TEND フラグは初期化されます。モジュールストップ状態、ソフトウェアスタンバイモード時の出力端子の状態は、ポートの設定または SPTR レジスタの設定 (SCI1, SCI5) に依存し、解除後は低消費電力へ遷移前のレベルを出力します。送信中に遷移すると、送信中のデータは不確定になります。

低消費電力状態を解除した後、送信モードを変えないで送信する場合は、TE ビット=1 に設定し、SSR レジスタリード→TDR レジスタライトで送信開始できます。送信モードを変えて送信する場合は、初期設定から行ってください。

図 27.81 に送信時のソフトウェアスタンバイモード遷移フローチャートの例を示します。図 27.82、図 27.83 にソフトウェアスタンバイモード遷移時のポートの端子状態を示します。

また、DTC 転送による送信からモジュールストップ状態への遷移、または、ソフトウェアスタンバイモード遷移は、動作を停止 (TE ビット=0) してから行ってください。解除後、DTC による送信を再開する場合は、TE ビット=1、TIE ビット=1 に設定すると TXI 割り込みフラグが立ち、DTC による送信が始まります。

(2) 受信

モジュールストップ状態への遷移または、ソフトウェアスタンバイモードへの遷移は、受信動作を停止 (SCR.RE ビット=0) してから行ってください。受信中に遷移すると、受信中のデータは無効になります。

低消費電力状態からの解除の後、受信モードを変えないで受信する場合は、RE ビット=1 に設定して受信を開始してください。受信モードを変えて受信する場合は、初期設定から行ってください。

図 27.84 に受信時のソフトウェアスタンバイモード遷移フローチャートの例を示します。

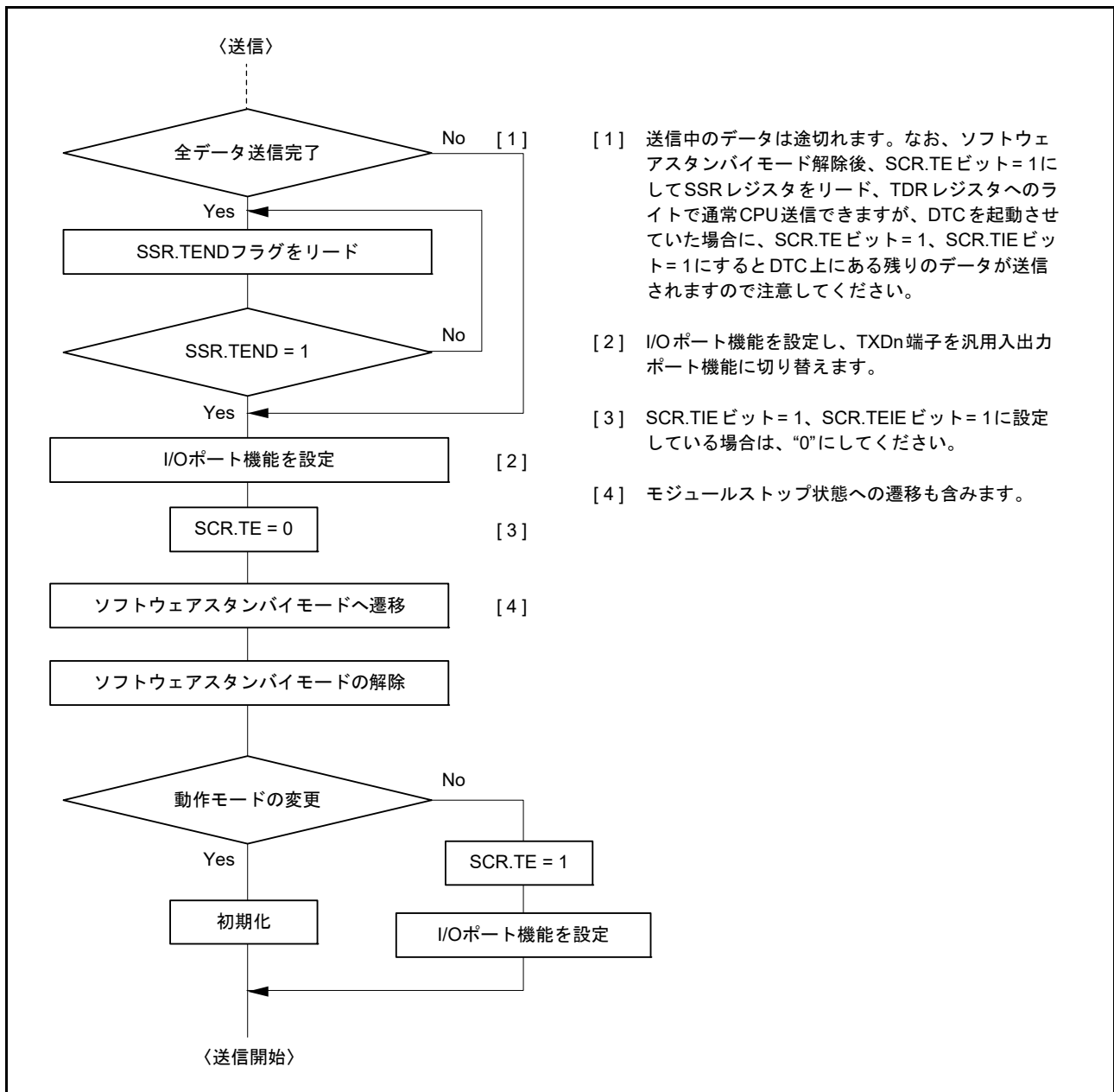


図 27.81 送信時のソフトウェアスタンバイモード遷移フローチャートの例

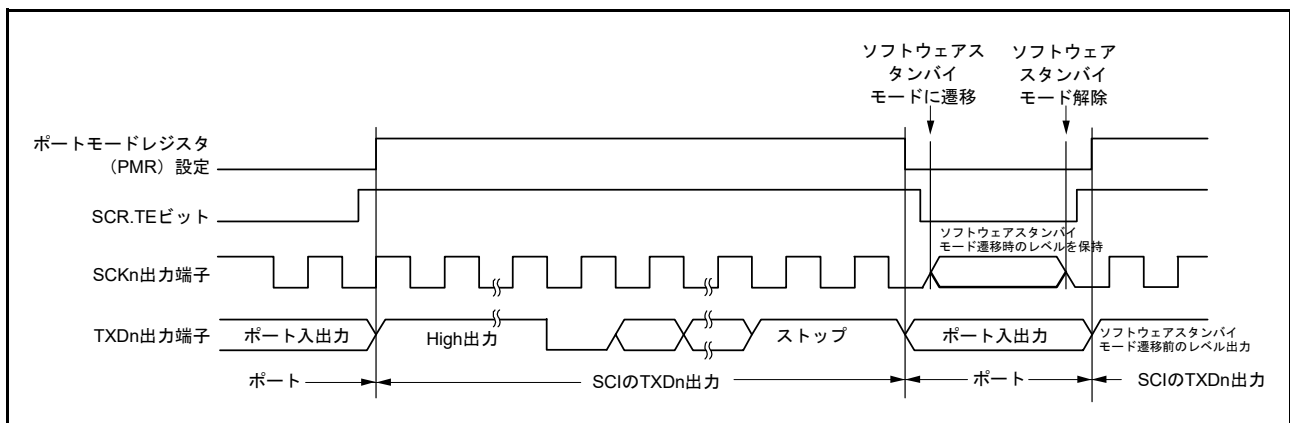


図 27.82 ソフトウェアスタンバイモード遷移時のポートの端子状態 (内部クロック、調歩同期送信)

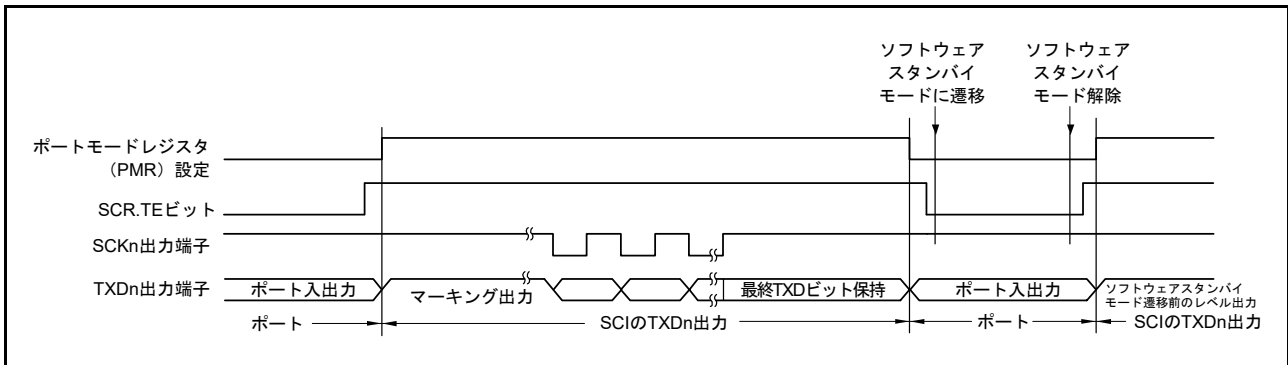


図 27.83 ソフトウェアスタンバイモード遷移時のポートの端子状態 (内部クロック、クロック同期送信)

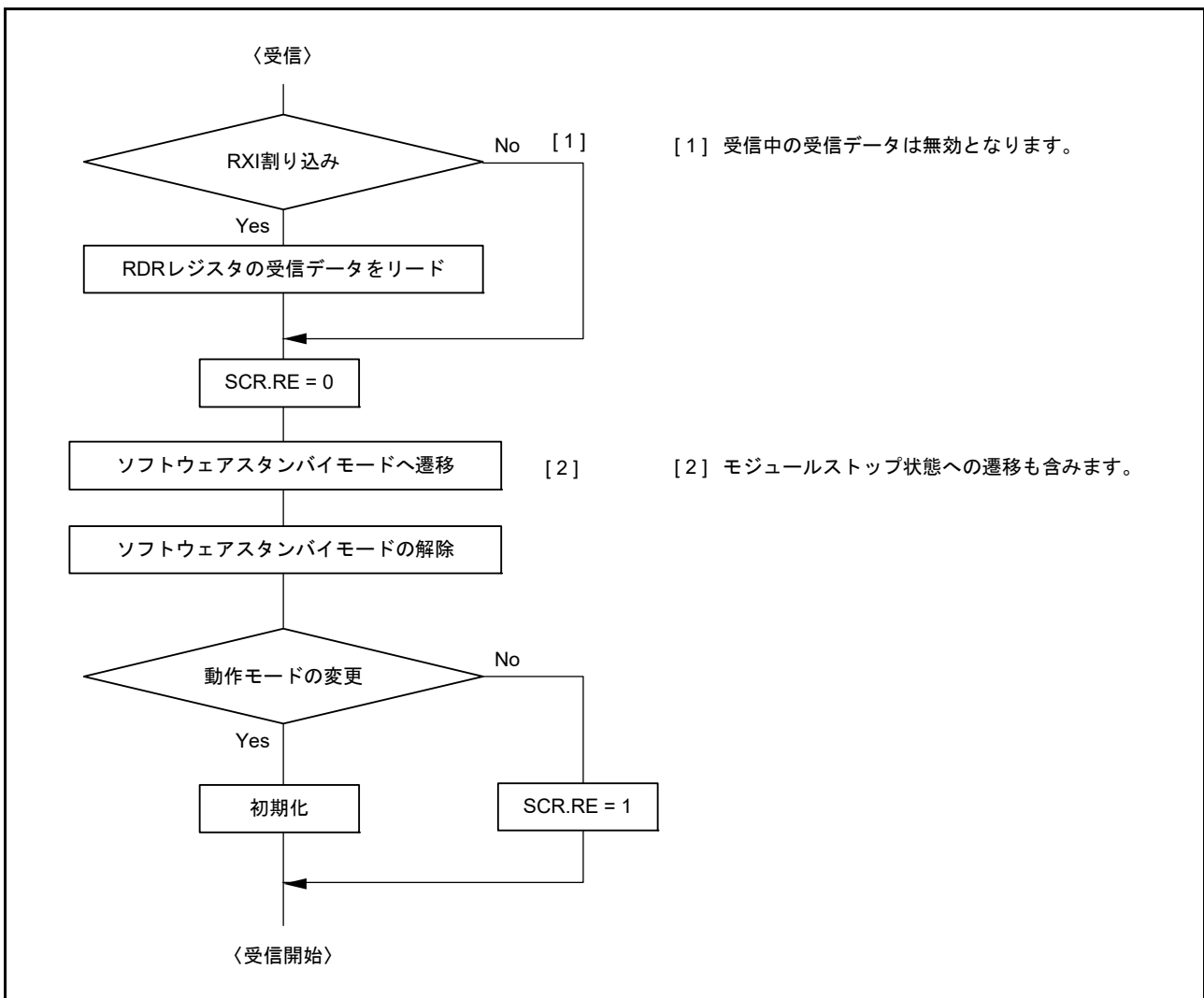


図 27.84 受信時のソフトウェアスタンバイモード遷移フローチャートの例

27.14.10 クロック同期式モードおよび簡易 SPI モードにおける外部クロック入力

クロック同期式モードおよび簡易 SPI モード時、外部クロック SCKn への入力信号は、High 幅および Low 幅を 2 PCLK 以上、周期を 6 PCLK 以上としてください。

27.14.11 簡易 SPI モードの制約事項

(1) マスタモード

- SPMR.SSE ビットが“1”のとき、SPMR.CKPH、CKPOL ビットにより設定した送受信クロックの初期値に合わせてクロック線を抵抗でプルアップ（プルダウン）してください。
SCR.TE ビットを“0”にしたときにクロック線がハイインピーダンスになるのを防ぐ、また SCR.TE ビットを“0”から“1”にしたときにクロック線に意図しないエッジが発生するのを防ぐためです。シングルマスタモードで SPMR.SSE ビットが“0”のときは、SCR.TE ビットを“0”にしてもクロック線はハイインピーダンスになりませんのでプルアップ（プルダウン）は不要です。
- クロック遅れあり設定 (SPMR.CKPH ビット = 1) の場合、図 27.85 に示すように SCKn 端子の最終クロックエッジ手前のクロックエッジで受信データフル割り込み (RXI) が発生します。このとき、SCR レジスタの TE、RE ビットを SCKn 端子の最終クロックエッジより前に“0”に設定すると SCKn 端子出力がハイインピーダンスとなり、最終送受信クロックのクロックパルス幅が短くなります。また、RXI 割り込み後、SCKn 端子の最終クロックエッジより前に接続先スレーブに対する SSn# 端子入力信号を High にするとスレーブが誤動作する可能性があります。
- マルチマスタ時、送受信キャラクタの途中でモードフォルトエラーが発生すると、SSn# 端子入力が Low の間 SCKn 端子出力がハイインピーダンスとなり、接続先スレーブへの送受信クロック供給が停止します。送受信動作再開時のビットずれを回避するために、接続先スレーブの再設定を行ってください。

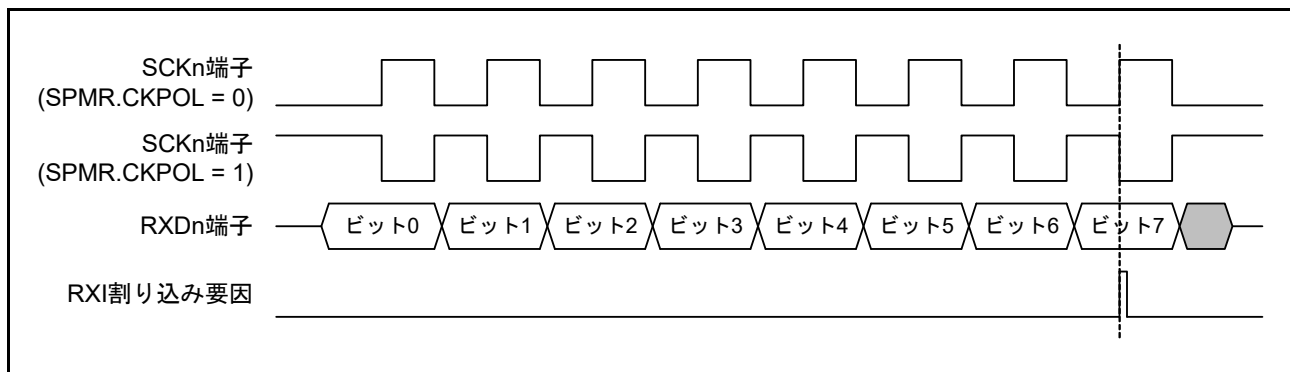


図 27.85 簡易 SPI モード (クロック遅れあり) RXI 割り込み発生タイミング

(2) スレーブモード

- TDR レジスタへの送信データの書き込みから外部クロック入力開始まで 5 PCLK 以上の時間を確保し、また SSn# 端子への Low 入力から外部クロック入力開始までについても 5 PCLK 以上の時間を確保してください。
- マスタからの外部クロックの供給は転送データ長と同じにしてください。
- SSn# 端子入力は、データ転送開始前と完了後に制御してください。
- SSn# 端子入力が送受信キャラクタの途中で Low から High に変化した場合は、SCR レジスタの TE、RE ビットを“0”にし、再設定後、1 バイト目から転送をやり直してください。

27.14.12 拡張シリアルモード制御部の使用上の制約事項 1

PCR.SHARPS ビットを“1”にした場合、TXDX12/RXDX12 端子は以下のときのみ出力となります。

- タイマを Break Field Low width 出力モードで TCR.TCST ビットを“1”にしたとき
(TCR.TCST ビットを“1”にし、Low が出力されるまで、最大でタイマカウントクロックソースの 1 サイクルの High が出力されます。)
- SCR.TE ビットが“1”のとき

27.14.13 拡張シリアルモード制御部の使用上の制約事項 2

拡張シリアルモードを有効にした場合も、TXI、RXI、ERI、TEI 割り込み要求は生成されます。Start Frame 受信中は拡張シリアルモード制御部が受信データフル信号を使用するため、RXI 割り込みを許可しないでください。Information Frame 受信時に RXI 割り込みを使用する場合、以下のいずれかの手順で使用してください。なお、受信エラーを検出したときは、図 27.86 のフローチャートの例に従って受信エラーフラグのクリアと拡張シリアルモード制御部の初期化を実施してください。

- (1) SCR.RIE ビットを“0”にし、割り込み要求出力を禁止してください。この場合受信エラーが発生した場合に ERI 割り込みが発生しないため、Start Frame の受信終了タイミングで、SSR レジスタのエラーフラグを確認してください。Start Frame の受信完了後 Information Frame の第 1 バイトの受信が完了するまでの間に、SCR.RIE ビットを“1”に切り替えてください。
- (2) SCR.RIE ビットを“1”にし、ICU の RXI 割り込みを禁止し、ICU の ERI 割り込みを許可してください。Start Frame の受信完了後 Information Frame の第 1 バイトの受信が完了するまでの間に、ICU の RXI 割り込みに対応する IRn.IR フラグをクリアし、ICU の RXI 割り込みを許可に切り替えてください。

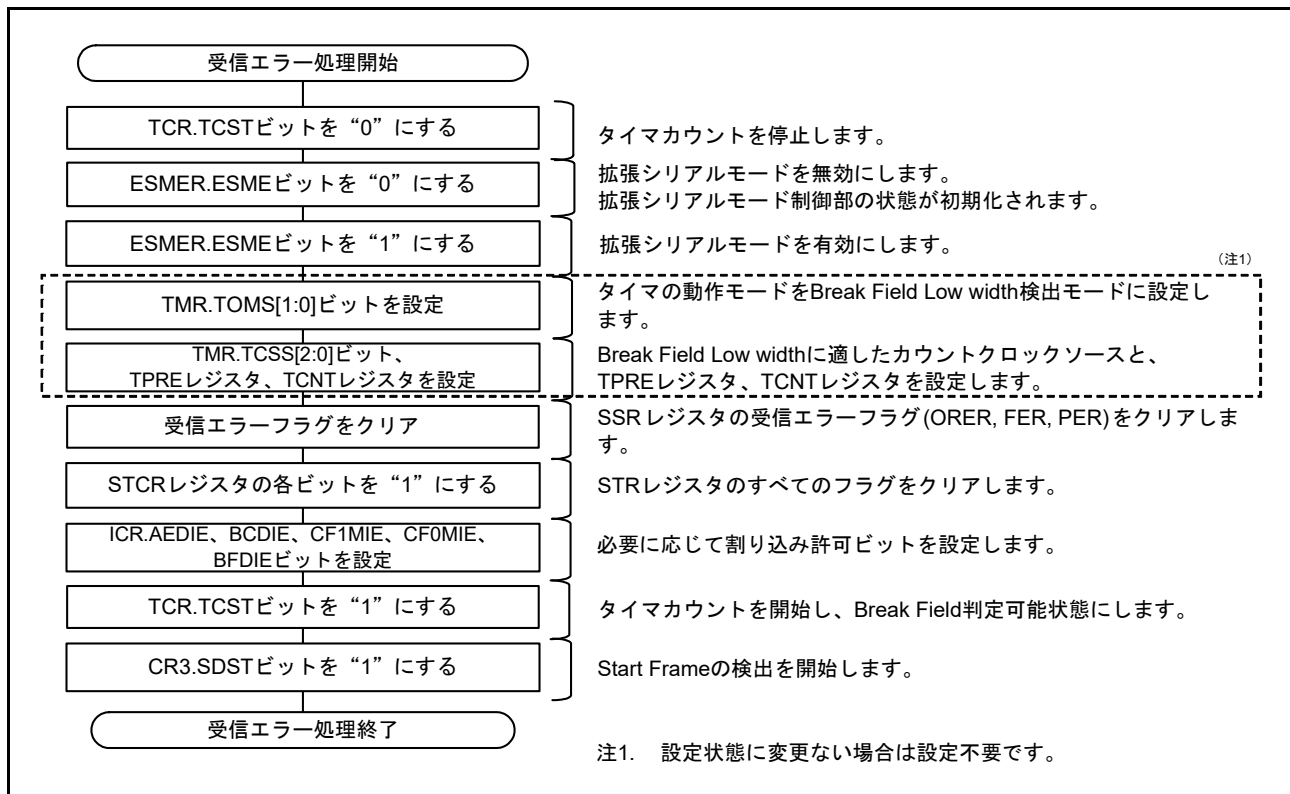


図 27.86 受信エラー処理のフローチャートの例 (Start Frame 受信中)

27.14.14 トランスミットイネーブルビット (TE ビット) に関する注意事項

SCR.TE ビットが“0” (シリアル送信動作を禁止) のときに端子の機能を「TXDn」にしたり、端子の機能が「TXDn」になっているときに TE ビットを“0”にしたりすると、TXDn 端子の出力がハイインピーダンスになります。

以下のいずれかの方法により、TXDn ラインがハイインピーダンスにならないようにしてください。

- (1) TXDn ラインにプルアップ抵抗またはプルダウン抵抗を接続する。
- (2) TE ビットを“1”にしてから、端子の機能を「TXDn」に切り替える (注1)。また、TE ビットを“0”にする前に、端子の機能を「汎用入出力ポート」に切り替えて、High または Low を出力させる。
- (3) SPTR.SPB2IO ビットを“1”にしてから、端子の機能を「TXDn」にする。また、その後も SPB2IO ビットを“1”にしたままにする (SCI1, SCI5)。

注1. TXI 割り込みが許可されているときに TE ビットを“1”にすると、割り込みが発生します。このことが問題になる場合は、端子の機能を「TXDn」にした後に、対応する ICU.IERm.IENj ビットを“1”にしてください。

27.14.15 調歩同期式モードにおける RTS 機能使用時の受信停止に関する注意事項

調歩同期式モードでは、SCR.RE ビットを“0”にしてから RTS 信号生成回路が停止するまでに、PCLK で 1 サイクル必要です。

RE ビットを“0”にしてから RDR (または RDRL) レジスタを読み出す場合は、これら 2 つの処理が連続して行われないように、RE ビットが“0”になったのを確認してから RDR (または RDRL) レジスタを読み出してください。

28. I²Cバスインタフェース (RIICa)

本 MCU は、1 チャンネルの I²C バスインタフェース (RIIC0) を内蔵しています。

RIIC は、NXP 社が提唱する I²C バス (Inter-IC-bus) インタフェース方式に準拠しており、そのサブセット機能を内蔵しています。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

28.1 概要

表 28.1 に RIIC の仕様を、図 28.1 に RIIC のブロック図を、表 28.2 に RIIC で使用する入出力端子を示します。

表 28.1 RIIC の仕様 (1/2)

項目	内容
通信フォーマット	<ul style="list-style-type: none"> I²Cバスフォーマット/SMBusフォーマット マスタ/スレーブ選択可能 設定した転送速度に応じた各種セットアップ時間、ホールド時間、バスフリー時間を自動確保
転送速度	ファストモード対応 (~400 kbps)
シリアルクロック (SCL)	マスタ時、SCL のデューティ比を 4% ~ 96% の範囲で設定可能
コンディション発行・コンディション検出	スタートコンディション/リスタートコンディション/ストップコンディションの自動生成、スタートコンディション(リスタートコンディション含む)/ストップコンディション検出可能
スレーブアドレス	<ul style="list-style-type: none"> 異なるスレーブアドレスを 3 種類まで設定可能 7ビット/10ビットアドレスフォーマット対応 (混在可能) ジェネラルコールアドレス検出、デバイス ID アドレス検出、SMBus のホストアドレス検出可能
アクノリッジ応答	<ul style="list-style-type: none"> 送信時、アクノリッジビットの自動ロード ノットアクノリッジ受信時に次送信データ転送の自動中断が可能 受信時、アクノリッジビットの自動送出 8クロック目と9クロック目の間にウェイトありを選択すると、受信データ内容に応じたアクノリッジ応答のソフトウェア制御が可能
ウェイト機能	<ul style="list-style-type: none"> 受信時、SCL ラインの Low ホールドによるウェイトが可能 8クロック目と9クロック目の間でウェイト 9クロック目と1クロック目の間でウェイト
SDA出力遅延機能	アクノリッジ送信を含むデータ送信出力の変化タイミングを遅延させることが可能
アービトレーション	<ul style="list-style-type: none"> マルチマスタ対応 他のマスタとの SCL 衝突時、SCL の同期動作可能 スタートコンディション発行競合時、SDA ライン上の信号の状態が不一致ならアービトレーションロスト検出可能 マスタ時、送信データ不一致でアービトレーションロスト検出可能 バスビジー中のスタートコンディション発行でアービトレーションロスト検出可能(スタートコンディションの二重発行防止) ノットアクノリッジ送信時、SDA ライン上の信号の状態が不一致ならアービトレーションロスト検出可能 スレーブ送信時、データ不一致でアービトレーションロスト検出可能
タイムアウト検出機能	内蔵タイムアウト検出機能により SCL の長時間停止を検出可能
ノイズ除去	SCL、SDA 入力にデジタルノイズフィルタを内蔵、ノイズ除去幅をソフトウェアで調整可能
割り込み要因	4種類 <ul style="list-style-type: none"> 通信エラー/通信イベント アービトレーションロスト検出 NACK 検出 タイムアウト検出 スタートコンディション検出(リスタートコンディション含む) ストップコンディション検出 受信データフル(スレーブアドレス一致時含む) 送信データエンプティ(スレーブアドレス一致時含む) 送信終了
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能

表 28.1 RIICの仕様 (2/2)

項目	内容
RIICの動作モード	<ul style="list-style-type: none"> 4種類 マスタ送信モード、マスタ受信モード、スレーブ送信モード、スレーブ受信モード
イベントリンク機能 (出力)	<p>4種類 (RIIC0)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信エラー/通信イベント アービトレーションロスト検出 NACK検出 タイムアウト検出 スタートコンディション検出 (リスタートコンディション含む) ストップコンディション検出 受信データフル (スレーブアドレス一致時含む) 送信データエンpty (スレーブアドレス一致時含む) 送信終了

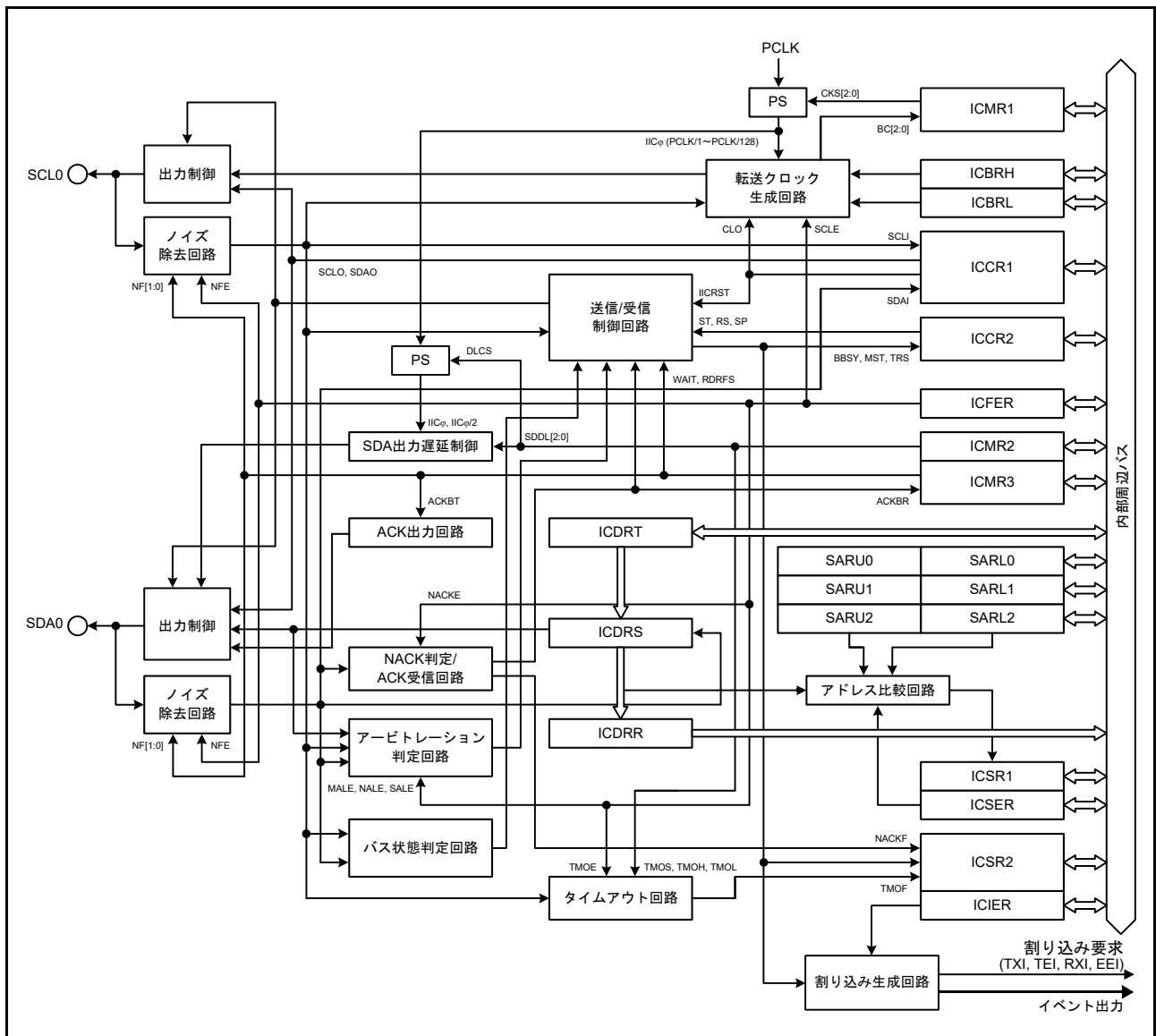


図 28.1 RIICのブロック図

RIIC の各信号の入力レベルは、I²Cバス選択時 (ICMR3.SMBS ビット = 0) は CMOS レベルであり、SMBus 選択時 (ICMR3.SMBS ビット = 1) は TTL レベルです。

表28.2 RIICの入出力端子

チャンネル	端子名	入出力	機能
RIIC0	SCL0	入出力	RIIC0シリアルクロック入出力端子
	SDA0	入出力	RIIC0シリアルデータ入出力端子

28.2 レジスタの説明

28.2.1 I²Cバスコントロールレジスタ 1 (ICCR1)

アドレス RIIC0.ICCR1 0008 8300h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ICE	IICRST	CLO	SOWP	SCLO	SDAO	SCLI	SDAI
リセット後の値	0	0	0	1	1	1	1	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SDAI	SDAラインモニタビット	0 : SDA0ラインはLow 1 : SDA0ラインはHigh	R
b1	SCLI	SCLラインモニタビット	0 : SCL0ラインはLow 1 : SCL0ラインはHigh	R
b2	SDAO	SDA出力制御/モニタビット	<ul style="list-style-type: none"> • リード時 0 : SDA0端子をLowにしている 1 : SDA0端子を解放している • ライト時 0 : SDA0端子をLowにする 1 : SDA0端子を解放する (外部プルアップ抵抗によりHigh出力) 	R/W
b3	SCLO	SCL出力制御/モニタビット	<ul style="list-style-type: none"> • リード時 0 : SCLO端子をLowにしている 1 : SCLO端子を解放している • ライト時 0 : SCLO端子をLowにする 1 : SCLO端子を解放する (外部プルアップ抵抗によりHigh出力) 	R/W
b4	SOWP	SCLO/SDAOライトプロテクトビット	0 : SCLO、SDAOビットの書き換え許可 1 : SCLO、SDAOビットを保護 (読むと“1”が読めます)	R/W
b5	CLO	SCL追加出力ビット	0 : SCLを追加で出力しない(通常状態) 1 : SCLを追加で出力する (1クロック出力後、自動的に“0”になる)	R/W
b6	IICRST	I ² Cバスインタフェース内部リセットビット	0 : RIICリセット、内部リセット解除 1 : RIICリセット、内部リセット状態 (ビットカウンタのクリア、SCL0/SDA0出力ラッチを解除)	R/W
b7	ICE	I ² Cバスインタフェース許可ビット	0 : 禁止(SCL0、SDA0端子非駆動状態) 1 : 許可(SCL0、SDA0端子駆動状態) (IICRSTビットとの組み合わせで、RIICリセット、内部リセットを選択)	R/W

SDAO ビット (SDA 出力制御 / モニタビット)、SCLO ビット (SCL 出力制御 / モニタビット)

RIICが出力するSDA0信号、SCL0信号を直接操作するためのビットです。

これらのビットに値を書く場合は、同時にSOWPビットにも“0”を書いてください。

これらのビットを操作した結果は入力バッファを介してRIICに入力されます。スレーブモードに設定していると、ビットの操作内容によってはスタートコンディションを検出してバスを解放することがあります。

スタートコンディション、ストップコンディション、リスタートコンディション期間中、および送受信中にこれらのビットを書き換えしないでください。これらの期間に書き換えた場合の動作は保証できません。

これらのビットを読んだ場合は、そのときRIICが出力している信号の状態が読めます。

CLO ビット (SCL 追加出力ビット)

SCL を 1 クロックずつ追加で出力する機能で、デバッグ時または異常処理時に使用します。通常は“0”にしてください。正常な通信動作中に使用すると通信エラーの原因になります。本機能の詳細については、「28.11.2 SCL 追加出力機能」を参照してください。

IICRST ビット (I²C バスインタフェース内部リセットビット)

RIIC の内部状態をリセットします。

IICRST ビットを“1”にすると、RIIC リセットまたは内部リセットを行うことができます。

RIIC リセット、内部リセットは ICE ビットとの組み合わせによって決定します。表 28.3 に RIIC のリセットの種類を示します。

RIIC リセットでは全レジスタおよび内部状態を、内部リセットではビットカウンタ (ICMR1.BC[2:0] ビット)、I²C バスシフトレジスタ (ICDRS)、I²C バスステータスレジスタ (ICSR1, ICSR2) および内部状態を初期化します。各レジスタのリセット状況については、「28.14 リセット時/コンディション検出時のレジスタおよび機能の初期化」を参照してください。

動作中 (ICE ビット=1 の状態)、通信不具合などによりバス状態や RIIC がハングアップしたときに IICRST ビットを“1”にすると、ポートの設定、RIIC の各コントロールレジスタや設定レジスタを初期化せずに RIIC の内部状態をリセットすることができます。

また RIIC が Low を出力したままハングアップした場合、内部状態をリセットすることで SCL0 端子 / SDA0 端子をハイインピーダンスにしてバスを解放することができます。

注. スレーブモード時でマスタデバイスと通信中にバスハングアップなどにより IICRST ビットで内部リセットを行うと、マスタデバイスの状態と異なる状態 (主に双方のビットカウンタ情報に差異が生じる) になる可能性があるため、スレーブモード時には基本的に内部リセットは行わず、復帰処理はマスタデバイスから行うようにしてください。もし、スレーブモード時に内部リセットを行う場合は、バスフリー中に実施してください。なお、RIIC がスレーブモード時に SCL0 ラインを Low 出力状態のままハングアップして内部リセットが必要な場合には、内部リセット後にマスタデバイスからリスタートコンディション発行、またはストップコンディション発行後スタートコンディション発行から通信をやり直すようにしてください。スレーブデバイスのみ単独でリセットを行い、マスタデバイスからスタートコンディションまたはリスタートコンディション発行がないまま通信が再開された場合、双方の動作状態に差異が生じたまま動作することになるため同期ずれの原因になります。

表 28.3 RIIC のリセットの種類

IICRST	ICE	状態	内容
1	0	RIIC リセット	RIIC 全レジスタおよび内部状態をリセット
	1	内部リセット	ICMR1.BC[2:0] ビット、ICSR1、ICSR2、ICDRS レジスタおよび内部状態をリセット

ICE ビット (I²C バスインタフェース許可ビット)

SCL0、SDA0 端子の駆動状態、非駆動状態を選択します。また、ICE ビットは IICRST ビットとの組み合わせにより、2 種類のリセットを行うことができます。リセットの種類については「表 28.3 RIIC のリセットの種類」を参照してください。

RIIC を使用するときには、ICE ビットを“1”に設定してください。ICE ビットが“1”のとき、SCL0、SDA0 端子駆動状態になります。

RIIC を使用しないときは、ICE ビットを“0”に設定してください。ICE ビットが“0”のとき、SCL0、SDA0 端子非駆動状態になります。また、マルチファンクションピンコントローラ (MPC) の設定で SCL0、SDA0 端子を RIIC に割り当てないでください。RIIC に割り当てられている場合、スレーブアドレス比較動作を行いますので注意してください。

28.2.2 I²Cバスコントロールレジスタ 2 (ICCR2)

アドレス RIIC0.ICCR2 0008 8301h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	BBSY	MST	TRS	—	SP	RS	ST	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b1	ST	スタートコンディション発行要求ビット	0: スタートコンディションの発行を要求しない 1: スタートコンディションの発行を要求する	R/W
b2	RS	リスタートコンディション発行要求ビット	0: リスタートコンディションの発行を要求しない 1: リスタートコンディションの発行を要求する	R/W
b3	SP	ストップコンディション発行要求ビット	0: ストップコンディションの発行を要求しない 1: ストップコンディションの発行を要求する	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	TRS	送信/受信モードビット	0: 受信モード 1: 送信モード	R/W (注1)
b6	MST	マスタ/スレーブモードビット	0: スレーブモード 1: マスタモード	R/W (注1)
b7	BBSY	バスビジー検出フラグ	0: I ² Cバスが解放状態(バスフリー状態) 1: I ² Cバスが占有状態(バスビジー状態)	R

注1. ICMR1.MTWPビットが“1”のとき、MST、TRSビットへの書き込みができます。

STビット (スタートコンディション発行要求ビット)

マスタモードへの移行およびスタートコンディションの発行を要求します。

STビットが“1”になるとスタートコンディションの発行を要求し、BBSYフラグが“0”(バスフリー)のときスタートコンディションの発行を行います。

スタートコンディション発行の詳細については、「28.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション 発行機能」を参照してください。

[“1”になる条件]

- “1”を書いたとき

[“0”になる条件]

- “0”を書いたとき
- スタートコンディションの発行が完了したとき (スタートコンディションを検出したとき)
- ICSR2.ALフラグが“1”になったとき (アービトレーションロスト)
- ICCR1.ICRSTビットに“1”を書き、RIICリセットまたは内部リセットしたとき

注. STビットは、BBSYフラグが“0”(バスフリー)のとき、“1”(スタートコンディション発行要求)にしてください。

BBSYフラグが“1”(バスビジー)のとき、STビットを“1”(スタートコンディション発行要求)にすると、スタートコンディション発行エラーとしてアービトレーションロストが発生しますので注意してください。

RSビット (リスタートコンディション発行要求ビット)

マスタモードでリスタートコンディションの発行を要求します。

RSビットが“1”になるとリスタートコンディションの発行を要求し、BBSYフラグが“1”(バスビジー)でかつMSTビットが“1”(マスタモード)のとき、リスタートコンディションの発行を行います。

リスタートコンディション発行の詳細動作については、「28.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション 発行機能」を参照してください。

["1"になる条件]

- ICCR2.BBSY フラグが“1”の状態、“1”を書いたとき

["0"になる条件]

- “0”を書いたとき
- リスタートコンディションの発行が完了したとき (スタートコンディションを検出したとき)
- ICSR2.AL フラグが“1”になったとき (アービトレーションロスト)
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

注. ストップコンディション発行中に RS ビットを“1”にしないでください。

注. スレープモードでは RS ビットに“1”(リスタートコンディション発行要求)を書いた場合、リスタートコンディションは発行されずに RS ビットは“1”のままになります。この状態からマスタモードに移行させた場合、リスタートコンディションが発行される可能性がありますので注意してください。

SP ビット (ストップコンディション発行要求ビット)

マスタモードでストップコンディションの発行を要求します。

SP ビットが“1”になるとストップコンディションの発行を要求し、BBSY フラグが“1”(バスビジー)でかつ MST ビットが“1”(マスタモード)のとき、ストップコンディションの発行を行います。

ストップコンディション発行の詳細動作については、「28.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション 発行機能」を参照してください。

["1"になる条件]

- ICCR2.BBSY フラグが“1”でかつ ICCR2.MST ビットが“1”の状態、“1”を書いたとき

["0"になる条件]

- “0”を書いたとき
- ストップコンディションの発行が完了したとき (ストップコンディションを検出したとき)
- ICSR2.AL フラグが“1”になったとき (アービトレーションロスト)
- スタートコンディションおよびリスタートコンディションを検出したとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

注. BBSY フラグが“0”(バスフリー)のとき書き込みはできません。

注. リスタートコンディション発行中に SP ビットを“1”にしないでください。

TRS ビット (送信 / 受信モードビット)

送信 / 受信モードを示すビットです。

TRS ビットが“0”のとき受信モード、TRS ビットが“1”のとき送信モードを表し、MST ビットとの組み合わせで RIIC の動作モードを表します。

TRS ビットは、スタートコンディションの発行 / 検出および R/W# ビットの値で“1”または“0”になり、RIIC の動作モードは自動的に送信モードまたは受信モードに移行します。ICMR1.MTWP ビットが“1”のとき書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

["1"になる条件]

- スタートコンディション発行要求により正常にスタートコンディションが発行されたとき (ST ビットが“1”の状態、スタートコンディションを検出したとき)
- リスタートコンディション発行要求により正常にリスタートコンディションが発行されたとき (RS ビットが“1”の状態、リスタートコンディションを検出したとき)

- マスタモード時、スレーブアドレスに付加した R/W# ビットが“0”のとき
- スレーブモード時、受信したスレーブアドレスが IC SER レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつ R/W# ビットに“1”を受信したとき
- ICMR1.MTWP ビットが“1”の状態に“1”を書いたとき

["0"になる条件]

- ストップコンディションを検出したとき
- ICSR2.AL フラグが“1”になったとき (アービトレーションロスト)
- マスタモード時、スレーブアドレスに付加した R/W# ビットが“1”のとき
- スレーブモード時、受信したスレーブアドレスが IC SER レジスタで有効にしたアドレスと一致し、かつ R/W# ビットに“0”を受信したとき (ジェネラルコールアドレス含む)
- スレーブモード時、リスタートコンディションを検出したとき (ICCR2.BBSY フラグ = 1、ICCR2.MST ビット = 0 の状態でスタートコンディションを検出したとき)
- ICMR1.MTWP ビットが“1”の状態に“0”を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

MST ビット (マスタ/スレーブモードビット)

マスタモード/スレーブモードを示すビットです。

MST ビットが“0”のときスレーブモード、MST ビットが“1”のときマスタモードを表し、TRS ビットとの組み合わせで RIIC の動作モードを表します。

MST ビットは、スタートコンディションの発行、ストップコンディションの発行/検出などで“1”または“0”になり、RIIC の動作モードは自動的にマスタモードまたはスレーブモードに移行します。ICMR1.MTWP ビットが“1”のとき書き込みはできますが、通常では書き込みの必要はありません。

["1"になる条件]

- スタートコンディション発行要求によるスタートコンディションが正常に発行されたとき (ST ビットが“1”の状態に、スタートコンディションを検出したとき)
- ICMR1.MTWP ビットが“1”の状態に“1”を書いたとき

["0"になる条件]

- ストップコンディションを検出したとき
- ICSR2.AL フラグが“1”になったとき (アービトレーションロスト)
- ICMR1.MTWP ビットが“1”の状態に“0”を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

BBSY フラグ (バスビジー検出フラグ)

I²C バスの占有 (バスビジー)/解放状態 (バスフリー) を示します。

SCL0 ラインが High の状態で SDA0 ラインが High から Low に変化すると、スタートコンディションが発行されると認識して“1”になります。

SCL0 ラインが High の状態で SDA0 ラインが Low から High に変化すると、ストップコンディションが発行されると認識し、バスフリー時間 (ICBRL レジスタに設定した時間) が経過するまでスタートコンディションを検出しなかったとき“0”になります。

["1"になる条件]

- スタートコンディションを検出したとき

["0"になる条件]

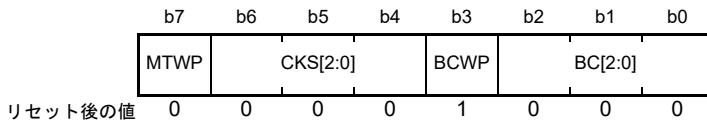
- ストップコンディションを検出後、バスフリー時間 (ICBRL レジスタに設定した時間) が経過するまでス

ターゲットコンディションを検出しなかったとき

- ICCR1.ICE ビットが“0”の状態でも ICCR1.IICRST ビットに“1”を書いたとき (RIIC リセット)

28.2.3 I²C バスモードレジスタ 1 (ICMR1)

アドレス RIIC0.ICMR1 0008 8302h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	BC[2:0]	ビットカウンタ	b2 b0 0 0 0 : 9ビット 0 0 1 : 2ビット 0 1 0 : 3ビット 0 1 1 : 4ビット 1 0 0 : 5ビット 1 0 1 : 6ビット 1 1 0 : 7ビット 1 1 1 : 8ビット	R/W (注1)
b3	BCWP	BCライトプロテクトビット	0 : BC[2:0]の値を設定許可 (読むと“1”が読めます)	R/W (注1)
b6-b4	CKS[2:0]	内部基準クロック選択ビット	RIICの内部基準クロック (IICφ) ソースを選択します b6 b4 0 0 0 : PCLK/1 0 0 1 : PCLK/2 0 1 0 : PCLK/4 0 1 1 : PCLK/8 1 0 0 : PCLK/16 1 0 1 : PCLK/32 1 1 0 : PCLK/64 1 1 1 : PCLK/128	R/W
b7	MTWP	MST/TRSライトプロテクトビット	0 : ICCR2.MST, TRSビットへの書き込み禁止 1 : ICCR2.MST, TRSビットへの書き込み許可	R/W

注1. BC[2:0]ビットを書き換える場合は、BCWPビットを“0”にするのと同時に書き換えてください。

BC[2:0] ビット (ビットカウンタ)

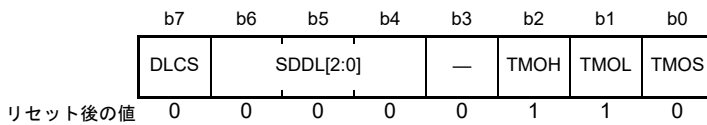
SCL0 ラインの立ち上がりでダウンカウントを行うカウンタで、読み出すと残りの転送ビット数を知ることができます。読み出しおよび書き込みはできますが、通常ではアクセスする必要はありません。

なお、書く場合には転送するデータのビット数+1を指定し (データにアクリッジ1ビットが付加されて転送される)、転送バイト間にかつ SCL0 ラインが Low の状態で行ってください。

BC[2:0] ビットはアクリッジを含むデータ転送終了時、またはスタートコンディション検出 (リスタートコンディション含む) で自動的に“000b”に戻ります。

28.2.4 I²Cバスモードレジスタ 2 (ICMR2)

アドレス RIIC0.ICMR2 0008 8303h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOS	タイムアウト検出時間選択ビット	0 : ロングモードを選択 1 : ショートモードを選択	R/W
b1	TMOL	タイムアウトLカウント制御ビット	0 : SCL0ラインがLow期間中のカウントアップを禁止 1 : SCL0ラインがLow期間中のカウントアップを許可	R/W
b2	TMOH	タイムアウトHカウント制御ビット	0 : SCL0ラインがHigh期間中のカウントアップを禁止 1 : SCL0ラインがHigh期間中のカウントアップを許可	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6-b4	SDDL[2:0]	SDA出力遅延カウンタ	<ul style="list-style-type: none"> ICMR2.DLCSビット=0 (IICφ)のとき b6 b4 0 0 0 : 出力遅延なし 0 0 1 : IICφの1サイクル 0 1 0 : IICφの2サイクル 0 1 1 : IICφの3サイクル 1 0 0 : IICφの4サイクル 1 0 1 : IICφの5サイクル 1 1 0 : IICφの6サイクル 1 1 1 : IICφの7サイクル ICMR2.DLCSビット=1 (IICφ/2)のとき b6 b4 0 0 0 : 出力遅延なし 0 0 1 : IICφの1~2サイクル 0 1 0 : IICφの3~4サイクル 0 1 1 : IICφの5~6サイクル 1 0 0 : IICφの7~8サイクル 1 0 1 : IICφの9~10サイクル 1 1 0 : IICφの11~12サイクル 1 1 1 : IICφの13~14サイクル 	R/W
b7	DLCS	SDA出力遅延クロックソース 選択ビット	0 : SDA出力遅延カウンタのクロックソースに 内部基準クロック (IICφ)を選択 1 : SDA出力遅延カウンタのクロックソースに 内部基準クロックの2分周 (IICφ/2)を選択 (注1)	R/W

注1. SCL端子がLowのときのみDLCSビット=1 (IICφ/2)の設定が有効になります。SCL端子がHighのときDLCSビット=1の設定は無効となり内部基準クロック (IICφ)となります。

TMOS ビット (タイムアウト検出時間選択ビット)

タイムアウト検出機能有効時 (ICFER.TMOE ビット=1) にタイムアウト検出時間を選択するビットで、“0”にするとロングモード、“1”にするとショートモードになります。ロングモードではタイムアウト検出用内部カウンタが16ビットカウンタとして、またショートモードでは14ビットカウンタとして動作し、SCL0ラインがTMOH、TMOLビットで選択された状態になったとき、内部基準クロック (IICφ) をカウントソースとしてアップカウントを行います。

タイムアウト検出機能の詳細については、「28.11.1 タイムアウト検出機能」を参照してください。

TMOL ビット (タイムアウトLカウント制御ビット)

タイムアウト検出機能有効時 (ICFER.TMOE ビット=1) にSCL0ラインがLow期間中にタイムアウト検出機能の内部カウンタのカウントアップを許可するか禁止するかを選択するビットです。

TMOH ビット (タイムアウトHカウント制御ビット)

タイムアウト検出機能有効時 (ICFER.TMOE ビット=1) に SCL0 ラインが High 期間中にタイムアウト検出機能の内部カウンタのカウントアップを許可するか禁止するかを選択するビットです。

SDDL[2:0] ビット (SDA 出力遅延カウンタ)

SDDL[2:0] ビットの設定値により、SDA 出力を遅延させることができます。SDA 出力遅延カウンタは、DLCS ビットで選択したクロックソースによりカウントします。また、この機能の設定はアクノリッジビット送出を含むすべての SDA 出力に適用されます。

SDA 出力遅延の設定は、I²C バス仕様 (データ有効時間/アクノリッジ有効時間 (注1) 以内) または SMBus 仕様 (データホールド時間 (300 ns) 以上、かつ「クロックの Low 幅-データセットアップ時間 (250 ns)」以下) を満たすようにしてください。仕様外を設定した場合、通信デバイスとの通信破綻を引き起こすか、バスの状態によっては見かけ上スタートコンディションまたはストップコンディションになる可能性がありますので注意してください。

本機能の詳細については、「28.5 SDA 出力遅延機能」を参照してください。

注 1. データ有効時間 / アクノリッジ有効時間

3,450 ns (~ 100 kbps : スタンダードモード (Sm))

900 ns (~ 400 kbps : ファストモード (Fm))

28.2.5 I²Cバスモードレジスタ 3 (ICMR3)

アドレス RIIC0.ICMR3 0008 8304h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
SMBS	WAIT	RDRFS	ACKWP	ACKBT	ACKBR	NF[1:0]	

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	NF[1:0]	ノイズフィルタ段数選択ビット	b1 b0 0 0 : 1 IICφ以下のノイズを除去(フィルタは1段) 0 1 : 2 IICφ以下のノイズを除去(フィルタは2段) 1 0 : 3 IICφ以下のノイズを除去(フィルタは3段) 1 1 : 4 IICφ以下のノイズを除去(フィルタは4段)	R/W
b2	ACKBR	受信アクノリッジビット	0 : アクノリッジビットに“0”を受信(ACK受信) 1 : アクノリッジビットに“1”を受信(NACK受信)	R
b3	ACKBT	送信アクノリッジビット	0 : アクノリッジビットに“0”を送出(ACK送信) 1 : アクノリッジビットに“1”を送出(NACK送信)	R/W (注1)
b4	ACKWP	ACKBTライトプロテクトビット	0 : ACKBTビットへの書き込み禁止 1 : ACKBTビットへの書き込み許可	R/W (注1)
b5	RDRFS	RDRFフラグセット タイミング選択ビット	0 : 9個目のSCLの立ち上がり時に“1”になる (8クロック目の立ち下がりにてSCL0ラインをLowにホールドしない) 1 : 8個目のSCLの立ち上がり時に“1”になる (8クロック目の立ち下がりにてSCL0ラインをLowにホールドする) LowホールドはACKBTビットへの書き込みで解除	R/W (注2)
b6	WAIT	WAITビット	0 : WAITなし (9クロック目と1クロック目の間をLowにホールドしない) 1 : WAITあり (9クロック目と1クロック目の間をLowにホールドする) LowホールドはICDRRレジスタの読み出しで解除	R/W (注2)
b7	SMBS	SMBus/I ² Cバス選択ビット	0 : I ² Cバス選択 1 : SMBus選択	R/W

注1. ACKBTビットに書く場合には、ACKWPビットが“1”の状態で行ってください。ACKBTビットへの書き込みと同時に“1”にしても、ACKBTビットに書き込みはできません。

注2. WAITビットおよびRDRFSビットは、受信モードのみ有効、送信モード時は無効です。

NF[1:0] ビット (ノイズフィルタ段数選択ビット)

デジタルノイズフィルタの段数を選択します。

デジタルノイズフィルタ機能の詳細については、「28.6 デジタルノイズフィルタ回路」を参照してください。

注. ノイズフィルタで除去するノイズ幅の設定は、SCL0ラインのHigh/Low幅よりも狭くしてください。ノイズフィルタ幅を、[SCLのHigh幅またはLow幅のいずれか短い方] - 1.5 × t_{IICcyc} (内部基準クロック (IICφ)の周期)と同じか、それ以上に設定した場合は、RIICのノイズフィルタ機能によりシリアルクロックをノイズとみなし、正常に動作することができなくなる可能性がありますので注意してください。

ACKBR ビット (受信アクノリッジビット)

送信モード時に受信デバイスから受け取ったアクノリッジビットの内容を格納します。

["1"になる条件]

- ICCR2.TRS ビットが“1”の状態アクノリッジビットに“1”を受信したとき

["0"になる条件]

- ICCR2.TRS ビットが“1”の状態アクノリッジビットに“0”を受信したとき

- ICCR1.ICE ビットが“0”の状態では ICCR1.IICRST ビットに“1”を書いたとき (RIIC リセット)

ACKBT ビット (送信アノリッジビット)

受信モード時にアノリッジのタイミングで送出するビットを設定します。

[“1”になる条件]

- ACKWP ビットが“1”の状態では“1”を書いたとき

[“0”になる条件]

- ACKWP ビットが“1”の状態では“0”を書いたとき
- ストップコンディションの発行を検出したとき (ICCR2.SP ビットが“1”の状態では ストップコンディションを検出したとき)
- ICCR1.ICE ビットが“0”の状態では ICCR1.IICRST ビットに“1”を書いたとき (RIIC リセット)

ACKWP ビット (ACKBT ライトプロテクトビット)

ACKBT ビットへの書き込みを制御します。

RDRFS ビット (RDRF フラグセット タイミング選択ビット)

受信モードにおいて RDRF フラグのセットタイミングおよび 8 個目の SCL の立ち下がりでは SCL0 ラインの Low ホールドを行うかどうかを選択します。

RDRFS ビットが“0”のとき、8クロック目の立ち下がりでは SCL0 ラインの Low ホールドは行わず、9クロック目の立ち上がりでは RDRF フラグを“1”にします。

RDRFS ビットが“1”のとき、RDRF フラグは 8クロック目の立ち上がりでは“1”にし、8クロック目の立ち下がりでは SCL0 ラインを Low にホールドします。この SCL0 ラインの Low ホールドは ACKBT ビットへの書き込みにより解除されます。

この設定のとき、データ受信後アノリッジビット送出前に SCL0 ラインを自動的に Low にホールドするため、受信データの内容に応じて ACK (ACKBT ビットが“0”) または NACK (ACKBT ビットが“1”) を送出する処理が可能です。

WAIT ビット (WAIT ビット)

WAIT ビットは、受信モードにおいて 1 バイト受信ごとに I²C バス受信データレジスタ (ICDRR) の読み出しが完了するまで、SCL の 9クロック目と 1クロック目の間を Low にホールドするかどうかを制御します。

WAIT ビットが“0”のとき、SCL の 9クロック目と 1クロック目の間の Low ホールドは行わず、受信動作をそのまま続けます。RDRFS ビットと WAIT ビットがともに“0”のとき、ダブルバッファによる連続受信動作が可能です。

WAIT ビットが“1”のとき、1 バイト受信ごとに 9クロック目の立ち下がり以降、ICDRR レジスタの値が読み出されるまでの間 SCL0 ラインを Low にホールドします。これにより 1 バイトごとの受信動作が可能です。

注. WAIT ビットを“0”にする場合は、ICDRR レジスタを先に読んでから“0”にしてください。

SMBS ビット (SMBus/I²C バス選択ビット)

SMBS ビットを“1”にすると、SMBus が選択され IC SER.HOAE ビットが有効になります。

28.2.6 I²Cバスファンクション許可レジスタ (ICFER)

アドレス RIIC0.ICFER 0008 8305h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	SCLE	NFE	NACKE	SALE	NALE	MALE	TMOE
リセット後の値	0	1	1	1	0	0	1	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOE	タイムアウト検出機能有効ビット	0: タイムアウト検出機能無効 1: タイムアウト検出機能有効	R/W
b1	MALE	マスターアービトレーションロスト検出許可ビット	0: マスターアービトレーションロスト検出禁止 (アービトレーションロスト検出機能を無効にし、アービトレーションロスト発生によるICCR2.MST, TRSビットの自動クリアを行わない) 1: マスターアービトレーションロスト検出許可 (アービトレーションロスト検出機能を有効にし、アービトレーションロスト発生によるICCR2.MST, TRSビットの自動クリアを行う)	R/W
b2	NALE	NACK送信アービトレーションロスト検出許可ビット	0: NACK送信アービトレーションロスト検出禁止 1: NACK送信アービトレーションロスト検出許可	R/W
b3	SALE	スレーブアービトレーションロスト検出許可ビット	0: スレーブアービトレーションロスト検出禁止 1: スレーブアービトレーションロスト検出許可	R/W
b4	NACKE	NACK受信転送中断許可ビット	0: NACK受信時、転送を中断しない(転送中断禁止) 1: NACK受信時、転送を中断する(転送中断許可)	R/W
b5	NFE	デジタルノイズフィルタ有効ビット	0: デジタルノイズフィルタを使用しない 1: デジタルノイズフィルタを使用する	R/W
b6	SCLE	SCL同期回路有効ビット	0: SCL同期回路無効 1: SCL同期回路有効	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TMOE ビット (タイムアウト検出機能有効ビット)

タイムアウト検出機能の有効/無効を選択します。

タイムアウト検出機能の詳細については、「28.11.1 タイムアウト検出機能」を参照してください。

MALE ビット (マスターアービトレーションロスト検出許可ビット)

マスターモード時にアービトレーションロスト検出機能の有効/無効を決定します。通常は“1”にしてください。

NALE ビット (NACK送信アービトレーションロスト検出許可ビット)

受信モード時、NACK送出中にACKが検出された場合(同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、2つ以上のマスタが同時に同一のスレーブデバイスを選択しそれぞれ受信バイト数が異なる場合など)にアービトレーションロストを発生させるかどうかを選択します。

SALE ビット (スレーブアービトレーションロスト検出許可ビット)

スレーブ送信モード時、送出中の値と異なる値がバス上で検出された場合(同じアドレスのスレーブがバス上に存在した場合や、ノイズの影響などにより送信データと不一致が生じた場合など)にアービトレーションロストを発生させるかどうかを選択します。

NACKE ビット (NACK 受信転送中断許可ビット)

送信モード時、NACK を受信した場合に転送動作を継続するか中断するかを選択します。通常は“1”にしてください。

NACKE ビットが“1”のとき、NACK を受信した場合、次の転送動作を中断します。

NACKE ビットが“0”のとき、受信アクノリッジの内容に関わらず次の転送動作を継続します。

NACK 受信転送中断機能の詳細については、「28.8.2 NACK 受信転送中断機能」を参照してください。

SCLE ビット (SCL 同期回路有効ビット)

SCL 入力クロックに対して、クロック同期を行うかどうかを選択します。通常は“1”にしてください。

SCLE ビットを“0”(SCL 同期回路無効)にすると、クロック同期を行いません。この設定の場合、RIIC は SCL0 ラインの状態に関わらず ICBRH および ICBRL レジスタで設定された転送速度のクロックを出力します。そのため、I²C バスラインの負荷が仕様に定められた値よりも大幅に大きい場合や、マルチマスタにおいて SCL 出力が重なった場合など、仕様外の短いクロックになる可能性がありますので注意してください。また SCL 同期回路無効の場合、スタートコンディション・リスタートコンディション・ストップコンディションの発行および SCL 追加出力の連続出力にも影響します。

SCLE ビットは、設定した転送速度が出力されているかどうかを確認する場合などを除き“0”にしないでください。

28.2.7 I²Cバスステータス許可レジスタ (ICSER)

アドレス RIIC0.ICSER 0008 8306h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
HOAE	—	DIDE	—	GCAE	SAR2E	SAR1E	SAR0E

リセット後の値 0 0 0 0 1 0 0 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SAR0E	スレーブアドレスレジスタ0許可ビット	0 : SARL0、SARU0の設定値は無効 1 : SARL0、SARU0の設定値は有効	R/W
b1	SAR1E	スレーブアドレスレジスタ1許可ビット	0 : SARL1、SARU1の設定値は無効 1 : SARL1、SARU1の設定値は有効	R/W
b2	SAR2E	スレーブアドレスレジスタ2許可ビット	0 : SARL2、SARU2の設定値は無効 1 : SARL2、SARU2の設定値は有効	R/W
b3	GCAE	ジェネラルコールアドレス許可ビット	0 : ジェネラルコールアドレス検出は無効 1 : ジェネラルコールアドレス検出は有効	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	DIDE	デバイスIDアドレス検出許可ビット	0 : デバイスIDアドレス検出は無効 1 : デバイスIDアドレス検出は有効	R/W
b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	HOAE	ホストアドレス許可ビット	0 : ホストアドレス検出は無効 1 : ホストアドレス検出は有効	R/W

SARyE ビット (スレーブアドレスレジスタ y 許可ビット) (y = 0 ~ 2)

SARLy、SARUy レジスタで設定したスレーブアドレスを有効にするかどうかを選択します。

SARyE ビットを“1”にすると、SARLy、SARUy レジスタの設定値が有効になり、受信したスレーブアドレスと比較が行われます。

SARyE ビットを“0”にすると、SARLy、SARUy レジスタの設定値が無効になり、受信したスレーブアドレスと一致しても無視されます。

GCAE ビット (ジェネラルコールアドレス許可ビット)

ジェネラルコールアドレス (0000 000b + 0 (write) : All “0”) を受信した場合、無視するかどうかを選択します。

GCAE ビットが“1”の場合、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレスと一致すると、RIIC は SARLy、SARUy レジスタ (y = 0 ~ 2) で設定したスレーブアドレスとは無関係にジェネラルコールアドレスと認識し、受信動作を行います。

GCAE ビットが“0”の場合、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレスと一致しても無視されます。

DIDE ビット (デバイス ID アドレス検出許可ビット)

スタートコンディションまたはリスタートコンディション検出後の第一バイトにデバイス ID アドレス (1111 100b) を受信した場合、デバイス ID アドレスと認識して動作させるかどうかを選択します。

DIDE ビットが“1”の場合、受信した第一バイトがデバイス ID アドレスと一致した場合、RIIC はデバイス ID アドレスを受信したと認識し、続く R/W# ビットが“0” (write) のとき第二バイト目以降をスレーブアドレスとみなして受信動作を継続します。

DIDE ビットが“0”の場合、受信した第一バイトがデバイス ID アドレスと一致しても無視され、第一バイトを通常のスレーブアドレスとみなして動作します。

デバイス ID アドレス検出の詳細については、「28.7.3 デバイス ID アドレス検出機能」を参照してください。

HOAE ビット (ホストアドレス許可ビット)

ICMR3.SMBS ビットが“1”の場合、ホストアドレス (0001 000b) を受信したとき、無視するかどうかを選択します。

ICMR3.SMBS ビットが“1”でかつHOAE ビットが“1”の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致すると、RIIC は SARLy、SARUy レジスタ (y = 0 ~ 2) で設定したスレーブアドレスとは無関係にホストアドレスと認識し、受信動作を行います。

ICMR3.SMBS ビットが“0”またはHOAE ビットが“0”の場合、受信したスレーブアドレスがホストアドレスと一致しても無視されます。

28.2.8 I²Cバス割り込み許可レジスタ (ICIER)

アドレス RIIC0.ICIER 0008 8307h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TIE	TEIE	RIE	NAKIE	SPIE	STIE	ALIE	TMOIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOIE	タイムアウト割り込み要求許可ビット	0: タイムアウト割り込み (TMOI) 要求の禁止 1: タイムアウト割り込み (TMOI) 要求の許可	R/W
b1	ALIE	アービトレーションロスト割り込み要求許可ビット	0: アービトレーションロスト割り込み (ALI) 要求の禁止 1: アービトレーションロスト割り込み (ALI) 要求の許可	R/W
b2	STIE	スタートコンディション検出割り込み要求許可ビット	0: スタートコンディション検出割り込み (STI) 要求の禁止 1: スタートコンディション検出割り込み (STI) 要求の許可	R/W
b3	SPIE	ストップコンディション検出割り込み要求許可ビット	0: ストップコンディション検出割り込み (SPI) 要求の禁止 1: ストップコンディション検出割り込み (SPI) 要求の許可	R/W
b4	NAKIE	NACK受信割り込み要求許可ビット	0: NACK受信割り込み (NAKI) 要求の禁止 1: NACK受信割り込み (NAKI) 要求の許可	R/W
b5	RIE	受信データフル割り込み要求許可ビット	0: 受信データフル割り込み (RXI) 要求の禁止 1: 受信データフル割り込み (RXI) 要求の許可	R/W
b6	TEIE	送信終了割り込み要求許可ビット	0: 送信終了割り込み (TEI) 要求の禁止 1: 送信終了割り込み (TEI) 要求の許可	R/W
b7	TIE	送信データエンプティ割り込み要求許可ビット	0: 送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求の禁止 1: 送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求の許可	R/W

TMOIE ビット (タイムアウト割り込み要求許可ビット)

ICSR2.TMOF フラグが“1”になったとき、タイムアウト割り込み (TMOI) 要求の許可 / 禁止を選択します。TMOI 割り込みは、TMOF フラグを“0”にするか、または TMOIE ビットを“0”にすることで解除できます。

ALIE ビット (アービトレーションロスト割り込み要求許可ビット)

ICSR2.AL フラグが“1”になったとき、アービトレーションロスト割り込み (ALI) 要求の許可 / 禁止を選択します。ALI 割り込みは、AL フラグを“0”にするか、または ALIE ビットを“0”にすることで解除できます。

STIE ビット (スタートコンディション検出割り込み要求許可ビット)

ICSR2.START フラグが“1”になったとき、スタートコンディション検出割り込み (STI) 要求の許可 / 禁止を選択します。STI 割り込みは、START フラグを“0”にするか、または STIE ビットを“0”にすることで解除できます。

SPIE ビット (ストップコンディション検出割り込み要求許可ビット)

ICSR2.STOP フラグが“1”になったとき、ストップコンディション検出割り込み (SPI) 要求の許可 / 禁止を選択します。SPI 割り込みは、STOP フラグを“0”にするか、または SPIE ビットを“0”にすることで解除できます。

NAKIE ビット (NACK 受信割り込み要求許可ビット)

ICSR2.NACKF フラグが“1”になったとき、NACK 受信割り込み (NAKI) 要求の許可 / 禁止を選択します。NAKI 割り込みは、NACKF フラグを“0”にするか、または NAKIE ビットを“0”にすることで解除できます。

RIE ビット (受信データフル割り込み要求許可ビット)

ICSR2.RDRF フラグが“1”になったとき、受信データフル割り込み (RXI) 要求の許可 / 禁止を選択します。

TEIE ビット (送信終了割り込み要求許可ビット)

ICSR2.TEND フラグが“1”になったとき、送信終了割り込み (TEI) 要求の許可 / 禁止を選択します。TEI 割り込みは、TEND フラグを“0”にするか、または TEIE ビットを“0”にすることで解除できます。

TIE ビット (送信データエンプティ割り込み要求許可ビット)

ICSR2.TDRE フラグが“1”になったとき、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求の許可 / 禁止を選択します。

28.2.9 I²Cバスステータスレジスタ 1 (ICSR1)

アドレス RIIC0.ICSR1 0008 8308h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
HOA	—	DID	—	GCA	AAS2	AAS1	AAS0

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	AAS0	スレーブアドレス0検出フラグ	0: スレーブアドレス0未検出 1: スレーブアドレス0検出	R/(W) (注1)
b1	AAS1	スレーブアドレス1検出フラグ	0: スレーブアドレス1未検出 1: スレーブアドレス1検出	R/(W) (注1)
b2	AAS2	スレーブアドレス2検出フラグ	0: スレーブアドレス2未検出 1: スレーブアドレス2検出	R/(W) (注1)
b3	GCA	ジェネラルコールアドレス検出フラグ	0: ジェネラルコールアドレス未検出 1: ジェネラルコールアドレス検出	R/(W) (注1)
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	DID	デバイスIDアドレス検出フラグ	0: デバイスIDアドレス未検出 1: デバイスIDアドレス検出 • スタートコンディション直後の第一バイトがデバイスIDアドレス (1111 100b) + 0 (write)と一致した場合	R/(W) (注1)
b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	HOA	ホストアドレス検出フラグ	0: ホストアドレス未検出 1: ホストアドレス検出 • 受信したスレーブアドレスがホストアドレス(0001 000b)と一致した場合	R/(W) (注1)

注1. “0”のみ書けます。

AASy フラグ (スレーブアドレス y 検出フラグ) (y = 0 ~ 2)

[“1”になる条件]

[7ビットアドレスフォーマット選択時: SARUy.FS ビット = 0]

- ICSER.SARyE ビットが“1”(スレーブアドレス y 検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスが SARLy.SVA[6:0] ビットと一致したとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

[10ビットアドレスフォーマット選択時: SARUy.FS ビット = 1]

- ICSER.SARyE ビットが“1”(スレーブアドレス y 検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスが 1111 0b + SARUy.SVA[1:0] ビットと一致し、それに続くアドレスが SARLy レジスタと一致したとき、第二バイトの9個目の SCL の立ち上がり

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

[7ビットアドレスフォーマット選択時: SARUy.FS ビット = 0]

- ICSER.SARyE ビットが“1”(スレーブアドレス y 検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスが SARLy.SVA[6:0] ビットと不一致のとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

[10ビットアドレスフォーマット選択時: SARUy.FS ビット = 1]

- ICSER.SARyE ビットが“1”(スレーブアドレス y 検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスが 1111 0b + SARUy.SVA[1:0] ビットと不一致のとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

- ICSE.SARyEビットが“1”(スレーブアドレスy検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスが1111 0b + SARUy.SVA[1:0] ビットと一致し、それに続くアドレスが SARLy レジスタと不一致のとき、第二バイトの9個目の SCL の立ち上がり

GCA フラグ (ジェネラルコールアドレス検出フラグ)

["1"になる条件]

- ICSE.GCAEビットが“1”(ジェネラルコールアドレス検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス (0000 000b + 0 (write)) と一致したとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

["0"になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICSE.GCAEビットが“1”(ジェネラルコールアドレス検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスがジェネラルコールアドレス (0000 000b + 0 (write)) と不一致のとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

DID フラグ (デバイス ID アドレス検出フラグ)

["1"になる条件]

- ICSE.DIDEビットが“1”(デバイス ID アドレス検出有効)の状態、スタートコンディション検出またはリスタートコンディション検出後の第一バイトがデバイス ID アドレス (1111 100b) + 0 (write) と一致したとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

["0"になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICSE.DIDEビットが“1”(デバイス ID アドレス検出有効)の状態、スタートコンディション検出またはリスタートコンディション検出後の第一バイトがデバイス ID アドレス (1111 100b) と不一致のとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり
- ICSE.DIDEビットが“1”(デバイス ID アドレス検出有効)の状態、スタートコンディション検出またはリスタートコンディション検出後の第一バイトがデバイス ID アドレス (1111 100b) + 0 (write) と一致し、続く第二バイトがスレーブアドレス 0 ~ 2 のすべてと不一致のとき、第二バイトの9個目の SCL の立ち上がり
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

HOA フラグ (ホストアドレス検出フラグ)

["1"になる条件]

- ICSE.HOAEビットが“1”(ホストアドレス検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスがホストアドレス (0001 000b) と一致したとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり

["0"になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICSE.HOAEビットが“1”(ホストアドレス検出有効)の状態、受信したスレーブアドレスがホストアドレス (0001 000b) と不一致のとき、第一バイトの9個目の SCL の立ち上がり
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

28.2.10 I²Cバスステータスレジスタ 2 (ICSR2)

アドレス RIIC0.ICSR2 0008 8309h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TDRE	TEND	RDRF	NACKF	STOP	START	AL	TMOF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMOF	タイムアウト検出フラグ	0: タイムアウト未検出 1: タイムアウト検出	R/(W) (注1)
b1	AL	アービトレーションロストフラグ	0: アービトレーションロストの発生なし 1: アービトレーションロストの発生あり	R/(W) (注1)
b2	START	スタートコンディション検出フラグ	0: スタートコンディション未検出 1: スタートコンディション検出	R/(W) (注1)
b3	STOP	ストップコンディション検出フラグ	0: ストップコンディション未検出 1: ストップコンディション検出	R/(W) (注1)
b4	NACKF	NACK検出フラグ	0: NACK未検出 1: NACK検出	R/(W) (注1)
b5	RDRF	受信データフルフラグ	0: ICDRRレジスタに受信データなし 1: ICDRRレジスタに受信データあり	R/(W) (注1)
b6	TEND	送信終了フラグ	0: データ送信中 1: データ送信終了	R/(W) (注1)
b7	TDRE	送信データエンプティフラグ	0: ICDRTレジスタに送信データあり 1: ICDRTレジスタに送信データなし	R

注1. “0”のみ書けます。

TMOF フラグ (タイムアウト検出フラグ)

SCL0ラインの状態が一定期間変化しない場合、タイムアウトを認識して“1”になります。

[“1”になる条件]

- ICFER.TMOEビットが“1”(タイムアウト検出機能有効)で、かつマスターモードまたはスレーブモードで受信スレーブアドレスが一致した状態で ICMR2.TMOH, TMOL, TMOS ビットで選択された条件の期間 SCL0ラインの状態に変化がないとき

[“0”になる条件]

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ICCR1.IICRSTビットに“1”を書き、RIICリセットまたは内部リセットしたとき

AL フラグ (アービトレーションロストフラグ)

スタートコンディション発行時やアドレスおよびデータ送信時において、バス競合などによりバス占有権を喪失(アービトレーションロスト)したことを示します。RIICは送信中にSDA0ラインのレベルを監視し、出力データとSDA0ラインのレベルが一致しない場合ALフラグを“1”にしてバスが他のデバイスによって占有されたことを示します。

このほか、受信モード時のNACK送信中や、スレーブモード時のデータ送信中もアービトレーションロストの検出が可能です。

[“1”になる条件]

【マスターアービトレーションロスト検出有効時: ICFER.MALEビット=1】

- マスター送信モード時のデータ送信(スレーブアドレス送信含む)において、ACK期間を除くSCLの立ち上がり時に、出力したSDA信号とSDA0ライン上の信号の状態が不一致であったとき(内部SDA出力が

High 出力 (SDA0 端子はハイインピーダンス) で、SDA0 ラインに Low を検出したとき)

- ICCR2.ST ビットが“1”(スタートコンディション発行要求)の状態ですタートコンディションを検出したとき、出力した SDA 信号と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致であったとき
- ICCR2.BBSY フラグが“1”の状態ですタートコンディション発行要求)に設定したとき

【NACK アービトレーションロスト検出有効時 : ICFER.NALE ビット = 1】

- 受信モード時の NACK 送信において、ACK 期間の SCL の立ち上がり時に、出力した SDA 信号と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致であったとき

【スレーブアービトレーションロスト検出有効時 : ICFER.SALE ビット = 1】

- スレーブ送信モード時のデータ送信において、ACK 期間を除く SCL の立ち上がり時に、出力した SDA 信号と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致であったとき

【“0”になる条件】

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

表 28.4 アービトレーションロスト発生要因と各アービトレーションロスト許可機能との関係

ICFER			ICSR2	エラー内容	アービトレーションロスト発生要因
MALE	NALE	SALE	AL		
1	x	x	1	スタートコンディション発行エラー	ICCR2.ST ビットが“1”の状態ですタートコンディション検出時に出力した SDA 信号と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致のとき
			1	送信データ不一致	ICCR2.BBSY フラグが“1”の状態ですタートコンディション発行要求)に設定したとき マスタ送信モードで送信データ(スレーブアドレス送信含む)とバス状態が不一致のとき
x	1	x	1	NACK 送信不一致	マスタ受信モードまたはスレーブ受信モードで NACK 送信時に ACK を検出したとき
x	x	1	1	送信データ不一致	スレーブ送信モードで送信データとバス状態が不一致のとき

x : Don't care

START フラグ (スタートコンディション検出フラグ)

【“1”になる条件】

- スタートコンディション (リスタートコンディション含む) を検出したとき

【“0”になる条件】

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

STOP フラグ (ストップコンディション検出フラグ)

【“1”になる条件】

- ストップコンディションを検出したとき

【“0”になる条件】

- “1”を読んだ後、“0”を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

NACKF フラグ (NACK 検出フラグ)

【“1”になる条件】

- ICFER.NACKE ビットが“1” (転送中断許可) の状態で、送信モード時に受信デバイスからアクノリッジがなかった (NACK を受信した) とき

[“0” になる条件]

- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

注. NACKF フラグが“1” になると RIIC は通信動作を中断します。NACKF フラグが“1” の場合、送信モード時に ICDRT レジスタへの書き込みを行ったり、受信モード時に ICDRR レジスタの読み出しを行ったりしても、送信 / 受信動作は行われません。通信動作を再開する場合は NACKF フラグを“0” にしてください。

RDRF フラグ (受信データフルフラグ)

[“1” になる条件]

- ICDRS レジスタから ICDRR レジスタに受信データが転送されたとき、ICMR3.RDRFS ビットの設定により 8 または 9 個目の SCL の立ち上がりで“1” になります。
- スタートコンディション (リスタートコンディション含む) 検出後、受信したスレーブアドレスが一致し ICCR2.TRS ビットが“0” のとき

[“0” になる条件]

- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICDRR レジスタを読んだとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

TEND フラグ (送信終了フラグ)

[“1” になる条件]

- TDRE フラグが“1” の状態で、9 個目の SCL の立ち上がり

[“0” になる条件]

- “1” を読んだ後、“0” を書いたとき
- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ストップコンディションを検出したとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

TDRE フラグ (送信データエンプティフラグ)

[“1” になる条件]

- ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータ転送が行われ、ICDRT レジスタが空になったとき
- ICCR2.TRS ビットが“1” になったとき
- 受信したスレーブアドレスが一致し、TRS ビットが“1” のとき

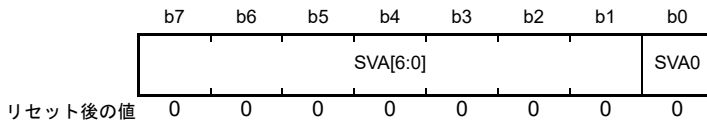
[“0” になる条件]

- ICDRT レジスタへデータを書いたとき
- ICCR2.TRS ビットが“0” になったとき
- ICCR1.IICRST ビットに“1” を書き、RIIC リセットまたは内部リセットしたとき

注. ICFER.NACKE ビットが“1” の状態で NACKF フラグが“1” になると RIIC は通信動作を中断します。このときすでに、ICDRT レジスタに次の送信データが書き込まれていても (TDRE フラグが“0”)、ICDRS レジスタへのデータ転送は行われず ICDRT レジスタのデータが保持されるため、TDRE フラグは“1” になりません。

28.2.11 スレーブアドレスレジスタ Ly (SARLy) (y = 0 ~ 2)

アドレス RIIC0.SARL0 0008 830Ah, RIIC0.SARL1 0008 830Ch, RIIC0.SARL2 0008 830Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SVA0	10ビットアドレス最下位ビット	スレーブアドレスを設定してください。	R/W
b7-b1	SVA[6:0]	7ビットアドレス/ 10ビットアドレス下位ビット	スレーブアドレスを設定してください。	R/W

SVA0 ビット (10 ビットアドレス最下位ビット)

10ビットアドレスフォーマット選択時 (SARUy.FS ビット = 1)、10ビットアドレス最下位ビットとして機能し、SVA[6:0] ビットと合わせて10ビットアドレス下位8ビットを設定します。

ICSER.SARyE ビットが“1” (SARLy、SARUy レジスタ有効) かつ SARUy.FS ビットが“1” のとき設定値が有効になり、SARUy.FS ビットまたは SARyE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

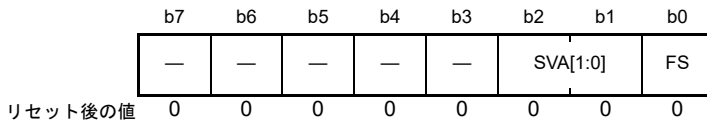
SVA[6:0] ビット (7 ビットアドレス / 10 ビットアドレス下位ビット)

7ビットアドレスフォーマット選択時 (SARUy.FS ビット = 0)、7ビットアドレスとして機能し、10ビットアドレスフォーマット選択時 (SARUy.FS ビット = 1)、SVA0 ビットと合わせて10ビットアドレス下位8ビットとして機能します。

ICSER.SARyE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

28.2.12 スレーブアドレスレジスタ Uy (SARUy) (y = 0 ~ 2)

アドレス RIIC0.SARU0 0008 830Bh, RIIC0.SARU1 0008 830Dh, RIIC0.SARU2 0008 830Fh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FS	7ビット/10ビットアドレスフォーマット選択ビット	0: 7ビットアドレスフォーマット選択 1: 10ビットアドレスフォーマット選択	R/W
b2-b1	SVA[1:0]	10ビットアドレス上位ビット	スレーブアドレスを設定してください	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

FS ビット (7 ビット / 10 ビットアドレスフォーマット選択ビット)

スレーブアドレス y (SARLy, SARUy レジスタ) を 7 ビットアドレスにするか、10 ビットアドレスにするかを選択します。

ICSER.SARyE ビットが“1” (SARLy, SARUy レジスタ有効) かつ SARUy.FS ビットが“0” のとき、スレーブアドレス y は 7 ビットアドレスフォーマットが選択され、SARLy.SVA[6:0] ビットの設定値が有効になり SVA[1:0] ビットおよび SARLy.SVA0 ビットの設定値は無視されます。

ICSER.SARyE ビットが“1” (SARLy, SARUy レジスタ有効) かつ SARUy.FS ビットが“1” のとき、スレーブアドレス y は 10 ビットアドレスフォーマットが選択され、SVA[1:0] ビット、SARLy レジスタの設定値が有効になります。

ICSER.SARyE ビットが“0” (SARLy, SARUy レジスタ無効) のとき SARUy.FS ビットの設定値は無効です。

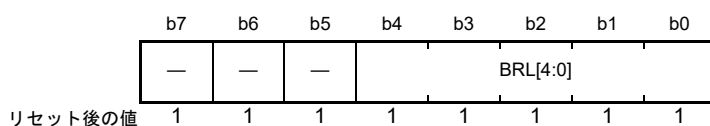
SVA[1:0] ビット (10 ビットアドレス上位ビット)

10 ビットアドレスフォーマット選択時 (FS ビット = 1)、10 ビットアドレスの上位 2 ビットアドレスとして機能します。

ICSER.SARyE ビットが“1” (SARLy, SARUy レジスタ有効) かつ SARUy.FS ビットが“1” のとき設定値が有効になり、SARUy.FS ビットまたは SARyE ビットが“0” のとき設定値は無視されます。

28.2.13 I²Cバスビットレート Low レジスタ (ICBRL)

アドレス RIIC0.ICBRL 0008 8310h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	BRL[4:0]	ビットレートLow幅設定ビット	SCLのLow幅の値を設定	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W

ICBRL レジスタは SCL の Low 幅を設定するための 5 ビットのレジスタです。

また ICBRL レジスタは、SCL 自動 Low ホールド発生時 (「28.8 SCL の自動 Low ホールド機能」参照) のデータセットアップ時間確保レジスタとしても機能します。そのため RIIC を常にスレーブモードで使用する場合には、データセットアップ時間(注1)以上の値を設定してください。

ICBRL レジスタは ICMR1.CKS[2:0] ビットで選択した内部基準クロック (IIC ϕ) で Low 幅をカウントします。

デジタルノイズフィルタ回路の使用を許可 (ICFER.NFE ビット = 1) した場合、ICBRL レジスタは、ノイズフィルタの段数 + 1 以上の値を設定してください。ノイズフィルタの段数については、ICMR3.NF[1:0] ビットを参照してください。

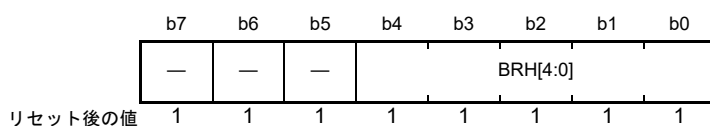
注 1. データセットアップ時間 (t_{SU;DAT})

250 ns (~ 100 kbps : スタンダードモード (Sm))

100 ns (~ 400 kbps : ファストモード (Fm))

28.2.14 I²Cバスビットレート High レジスタ (ICBRH)

アドレス RIIC0.ICBRH 0008 8311h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	BRH[4:0]	ビットレートHigh幅設定ビット	SCLのHigh幅の値を設定	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”として下さい。	R/W

ICBRH レジスタは SCL の High 幅を設定するための 5 ビットのレジスタで、マスタモード時に有効です。RIIC を常にスレーブモードで使用する場合には、High 幅を設定する必要はありません。

ICBRH レジスタは ICMR1.CKS[2:0] ビットで選択された内部基準クロック (IICφ) で High 幅をカウントします。

デジタルノイズフィルタ回路の使用を許可 (ICFER.NFE ビット = 1) した場合、ICBRH レジスタは、ノイズフィルタの段数 + 1 以上の値を設定してください。ノイズフィルタの段数については、ICMR3.NF[1:0] ビットを参照してください。

I²C 転送速度および SCL のデューティ比は以下の式で算定します。

$$\text{転送速度} = 1 / \{ ((\text{ICBRH} + 1) + (\text{ICBRL} + 1)) / \text{IIC}\phi (\text{注1}) + \text{SCL0 ライン立ち上がり時間 (tr)} \\ + \text{SCL0 ライン立ち下がり時間 (tf)} \}$$

$$\text{デューティ比} = \{ \text{SCL0 ライン立ち上がり時間 (tr)} (\text{注2}) + (\text{ICBRH} + 1) / \text{IIC}\phi \} / \{ \text{SCL0 ライン立ち下がり時間 (tf)} (\text{注2}) \\ + (\text{ICBRL} + 1) / \text{IIC}\phi \}$$

注 1. IICφ = PCLK × 分周比

注 2. SCL0 ライン立ち上がり時間 (tr)、SCL0 ライン立ち下がり時間 (tf) は、バスライン総容量 (Cb) とプルアップ抵抗 (Rp) に依存します。詳細については NXP 社の I²C バス仕様書を参照してください。

ICBRH、ICBRL レジスタの値の設定例を表 28.5 に示します。

表 28.5 転送速度に対するICBRH、ICBRLレジスタの設定例

転送速度 (kbps)	動作周波数PCLK (MHz)								
	8			10			12.5		
	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL
10	100b	22 (F6h)	25 (F9h)	101b	13 (EDh)	15 (EFh)	101b	16 (F0h)	20 (F4h)
50	010b	16 (F0h)	19 (F3h)	010b	21 (F5h)	24 (F8h)	011b	12 (ECh)	15 (EFh)
100	001b	15 (EFh)	18 (F2h)	001b	19 (F3h)	23 (F7h)	001b	24 (F8h)	29 (FDh)
400	000b	4 (E4h)	10 (EAh)	000b	5 (E5h)	12 (ECh)	000b	7 (E7h)	16 (F0h)

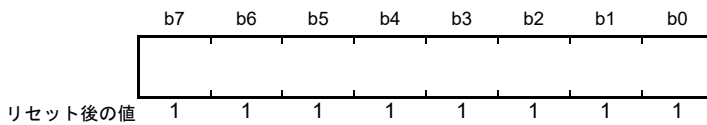
転送速度 (kbps)	動作周波数PCLK (MHz)								
	16			20			25		
	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL
10	101b	22 (F6h)	25 (F9h)	110b	13 (EDh)	15 (EFh)	110b	16 (F0h)	20 (F4h)
50	011b	16 (F0h)	19 (F3h)	011b	21 (F5h)	24 (F8h)	100b	12 (ECh)	15 (EFh)
100	010b	15 (EFh)	18 (F2h)	010b	19 (F3h)	23 (F7h)	010b	24 (F8h)	29 (FDh)
400	000b	9 (E9h)	20 (F4h)	000b	11 (EBh)	25 (F9h)	001b	7 (E7h)	16 (F0h)

転送速度 (kbps)	動作周波数PCLK (MHz)					
	30			32		
	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL	CKS[2:0]	ICBRH	ICBRL
10	110b	20 (F4h)	24 (F8h)	110b	22 (F6h)	25 (F9h)
50	100b	15 (EFh)	18 (F2h)	100b	16 (F0h)	19 (F3h)
100	011b	14 (EEh)	17 (F1h)	011b	15 (EFh)	18 (F2h)
400	001b	8 (E8h)	19 (F3h)	001b	9 (E9h)	20 (F4h)

注. SCL0ラインの立ち上がり時間(tr)を100 kbps以下(Sm)は1000 ns、400 kbps以下(Fm)は300 ns、SCL0ラインの立ち下がり時間(tf)を400 kbps以下(Sm/Fm)は300 nsとして計算した場合の設定例です。
SCL0ライン立ち上がり時間(tr)、SCL0ライン立ち下がり時間(tf)の値についてはNXP社のI²Cバス仕様書を参照してください。

28.2.15 I²Cバス送信データレジスタ (ICDRT)

アドレス RIIC0.ICDRT 0008 8312h



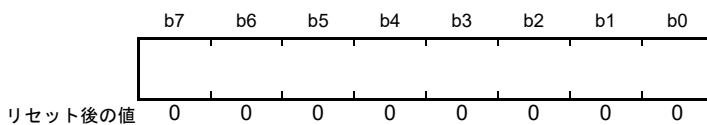
I²Cバスシフトレジスタ (ICDRS)の空きを検出すると、ICDRTレジスタに書き込まれた送信データがICDRSレジスタへ転送され、送信モード時にデータ送信を開始します。

ICDRTレジスタとICDRSレジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRSレジスタのデータ送信中に、次に送信するデータをICDRTレジスタに書いておくと連続送信動作が可能です。

ICDRTレジスタは常に読み出し/書き込み可能です。ICDRTレジスタへの送信データの書き込みは、送信データエンプティ割り込み (TXI) 要求が発生したときに1回だけ行ってください。

28.2.16 I²Cバス受信データレジスタ (ICDRR)

アドレス RIIC0.ICDRR 0008 8313h



1バイトのデータの受信が終了すると、受信したデータはI²Cバスシフトレジスタ (ICDRS)からICDRRレジスタへ転送され、次のデータを受信可能にします。

ICDRSレジスタとICDRRレジスタはダブルバッファ構造になっているため、ICDRSレジスタのデータ受信中に、すでに受信したデータをICDRRレジスタから読んでおくと連続受信動作が可能です。

ICDRRレジスタに書き込みはできません。ICDRRレジスタの読み出しは、受信データフル割り込み (RXI) 要求が発生したときに1回だけ行ってください。

受信データをICDRRレジスタから読み出さないまま (ICSR2.RDRFフラグが“1”の状態のまま) 次の受信データを受け取ると、RIICはRDRFフラグが次に“1”になるタイミングの1つ手前のSCL0の立ち下がりでSCL0ラインをLowにホールドします。

28.2.17 I²Cバスシフトレジスタ (ICDRS)

ICDRSレジスタは、データを送信/受信するためのシフトレジスタです。

送信時はICDRTレジスタから送信データがICDRSレジスタに転送され、SDA0端子からデータが送信されます。受信時は1バイトのデータの受信が終了すると、データがICDRSレジスタからICDRRレジスタへ転送されます。

ICDRSレジスタは直接アクセスすることはできません。

28.3 動作説明

28.3.1 通信データフォーマット

I²C バスフォーマットは、8 ビットのデータと 1 ビットのアクノリッジで構成されています。スタートコンディションおよびリスタートコンディションに続く第一バイトは、アドレスバイトでマスタデバイスが通信先であるスレーブデバイスを指定するのに使用します。指定されたスレーブは新たにスレーブが指定されるか、ストップコンディションが発行されるまで有効です。

図 28.2 に I²C バスフォーマットを、図 28.3 に I²C バスタイミングを示します。

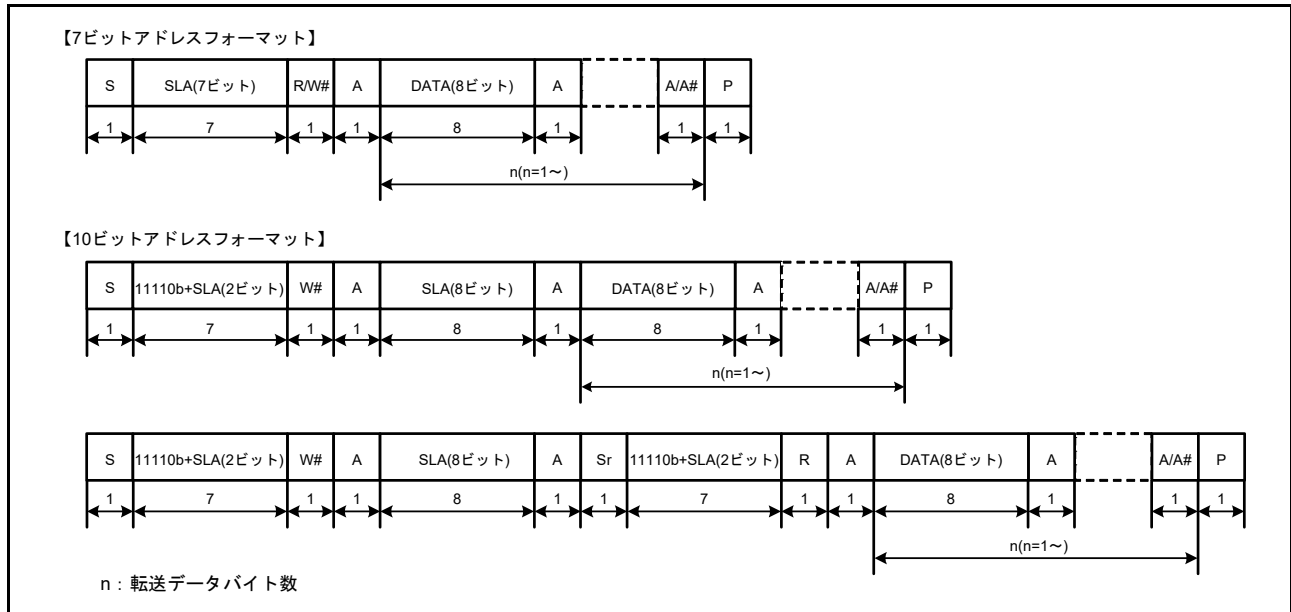


図 28.2 I²C バスフォーマット

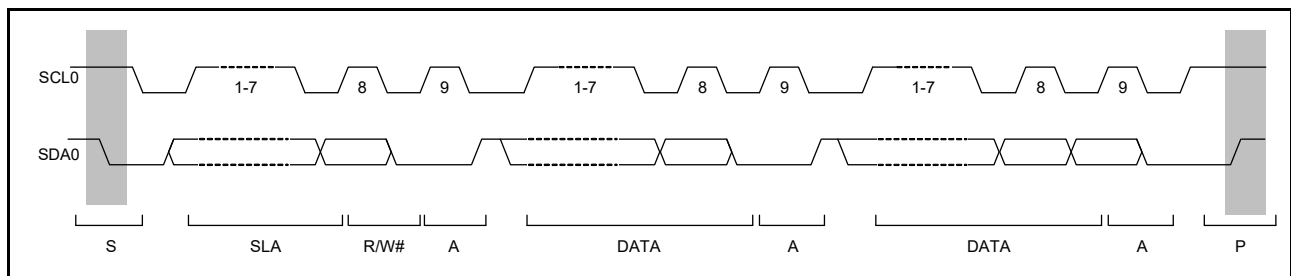


図 28.3 I²C バスタイミング (SLA = 7 ビットの場合)

- S: スタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SCL0ラインがHighの状態でもSDA0ラインがHighからLowに変化します。
- SLA: スレーブアドレスを示します。マスタデバイスがスレーブデバイスを選択します。
- R/W#: 送信/受信の方向を示します。“1”のときスレーブデバイスからマスタデバイスへ、“0”のときマスタデバイスからスレーブデバイスへデータを送信します。
- A: アクノリッジを示します。受信デバイスがSDA0ラインをLowにします(マスタ送信モード時: スレーブデバイスがアクノリッジを返します。マスタ受信モード時: マスタデバイスがアクノリッジを返します)。
- A#: ノットアクノリッジを示します。受信デバイスがSDA0ラインをHighにします。
- Sr: リスタートコンディションを示します。マスタデバイスが、SCL0ラインがHighの状態でもセットアップ時間経過後にSDA0ラインがHighからLowに変化します。
- DATA: 送受信データを示します。
- P: ストップコンディションを示します。マスタデバイスが、SCL0ラインがHighの状態でもSDA0ラインがLowからHighに変化します。

28.3.2 初期設定

データの送信/受信を開始する場合、**図 28.4** に示す手順に従って RIIC を初期化してください。

ICCR1.ICE ビットを“0” (SCL0、SDA0 端子非駆動状態) にしたまま ICCR1.IICRST ビットを“1” (RIIC リセット) にした後、ICCR1.ICE ビットを“1” (内部リセット) にします。これにより ICSR1 レジスタの各フラグや内部状態の初期化を行います。その後、SARLy、SARUy、ICSER、ICMR1、ICBRH、ICBRL レジスタ (y = 0 ~ 2) を設定し、その他のレジスタは必要に応じて設定してください (RIIC の初期設定については**図 28.4** 参照)。必要なレジスタの設定が終了したら、ICCR1.IICRST ビットを“0” (RIIC リセット解除) にしてください。すでに RIIC の初期化が完了している場合、この手順は不要です。

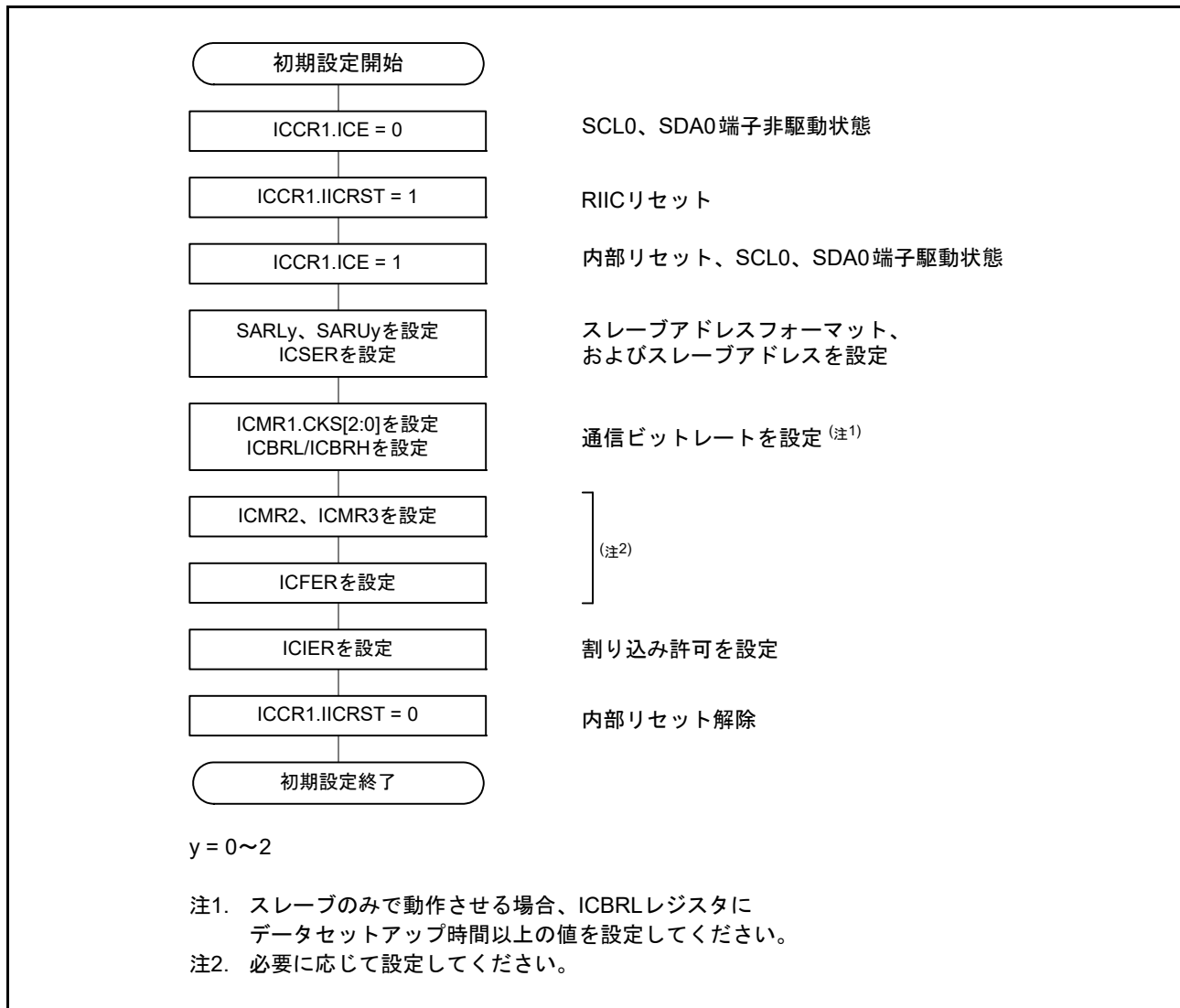


図 28.4 RIIC の初期化フローチャート例

28.3.3 マスタ送信動作

マスタ送信では、マスタデバイスである RIIC がクロックを生成し、データを送信して、スレーブデバイスがアクノリッジを返します。図 28.5 にマスタ送信の使用例を、図 28.6 ~ 図 28.8 にマスタ送信の動作タイミングを示します。

以下にマスタ送信の送信手順と動作を示します。

- (1) 初期設定を行います。詳細は「28.3.2 初期設定」を参照してください。
- (2) ICCR2.BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2.ST ビットに“1”を書きます(スタートコンディション発行要求)。RIIC はスタートコンディション発行要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。RIIC はスタートコンディションを検出すると BBSY フラグ、ICSR2.START フラグを自動的に“1”にし、ST ビットを自動的に“0”にします。このとき ST ビットが“1”の状態でも出力した SDA 信号と SDA0 ラインの状態がずれることなくスタートコンディションを検出した場合、RIIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正しく行われたと認識し、ICCR2.MST, TRS ビットを自動的に“1”にしてマスタ送信モードになります。また ICSR2.TDRE は、TRS ビットが“1”になることにより自動的に“1”になります。
- (3) ICSR2.TDRE フラグが“1”であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ(スレーブアドレスと R/W# ビット)を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと TDRE フラグは自動的に“0”になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータが転送されて、再び TDRE フラグが“1”になります。R/W# ビットを含むスレーブアドレスの送信が完了すると、送信された R/W# ビットにより自動的に TRS ビットが変更され送信モード/受信モードが選択されます。RIIC は R/W# ビットが“0”の第一バイトを受信すると、引き続きマスタ送信モードの状態を継続します。このとき ICSR2.NACKF フラグが“1”なら、スレーブデバイスが認識されていないか、あるいは通信不良が発生しているかですので、ストップコンディションを発行してください。ストップコンディションの発行は ICCR2.SP ビットに“1”を書くことで行われます。なお 10 ビットアドレスフォーマットで送信する場合は、まず 1 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタに 1111 0b + スレーブアドレスの上位 2 ビット + W を書き、2 回目のアドレス送信処理で ICDRT レジスタにスレーブアドレスの下位 8 ビットを書いてください。
- (4) ICSR2.TDRE フラグが“1”であることを確認した後、送信データを ICDRT レジスタに書いてください。なお、送信データの準備ができるまで、またはストップコンディションを発行するまでの間 RIIC は自動的に SCL0 ラインを Low にホールドします。
- (5) 送信する全バイトを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2.NACKF フラグが“1”になるか、ICSR2.TEND フラグが“1”になるまで待ってから ICCR2.SP ビットに“1”を書いてください(ストップコンディション発行要求)。RIIC はストップコンディション発行要求を受け付けると、ストップコンディションを発行します。
- (6) RIIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2.MST, TRS ビットが自動的に“00b”になり、スレーブ受信モードに移行します。また、ストップコンディション検出により ICSR2.TDRE, TEND フラグも自動的に“0”になり、ICSR2.STOP フラグが“1”になります。
- (7) ICSR2.STOP フラグが“1”であることを確認した後、次通信のために ICSR2.NACKF, STOP フラグを“0”にしてください。

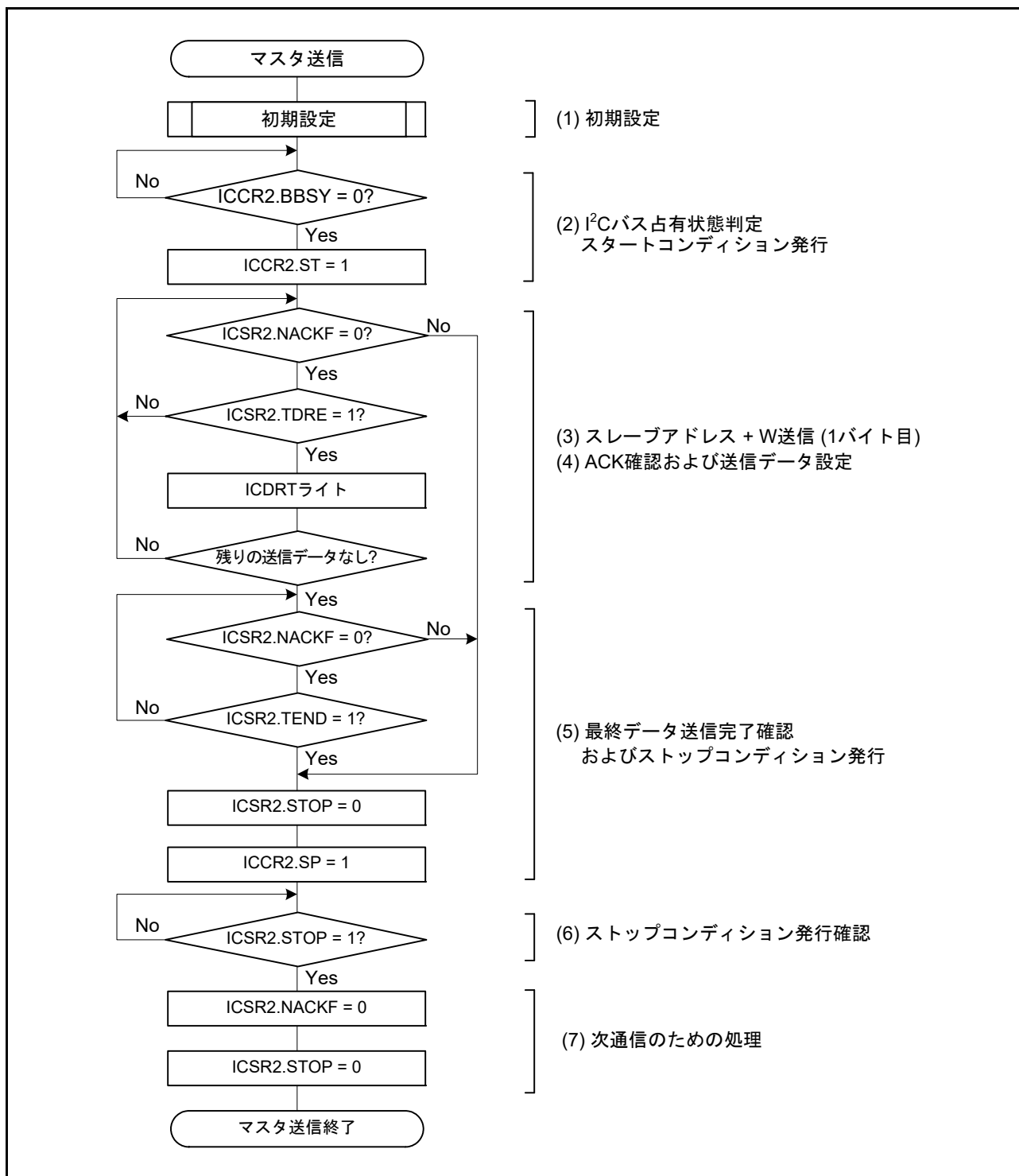


図 28.5 マスタ送信のフローチャート例

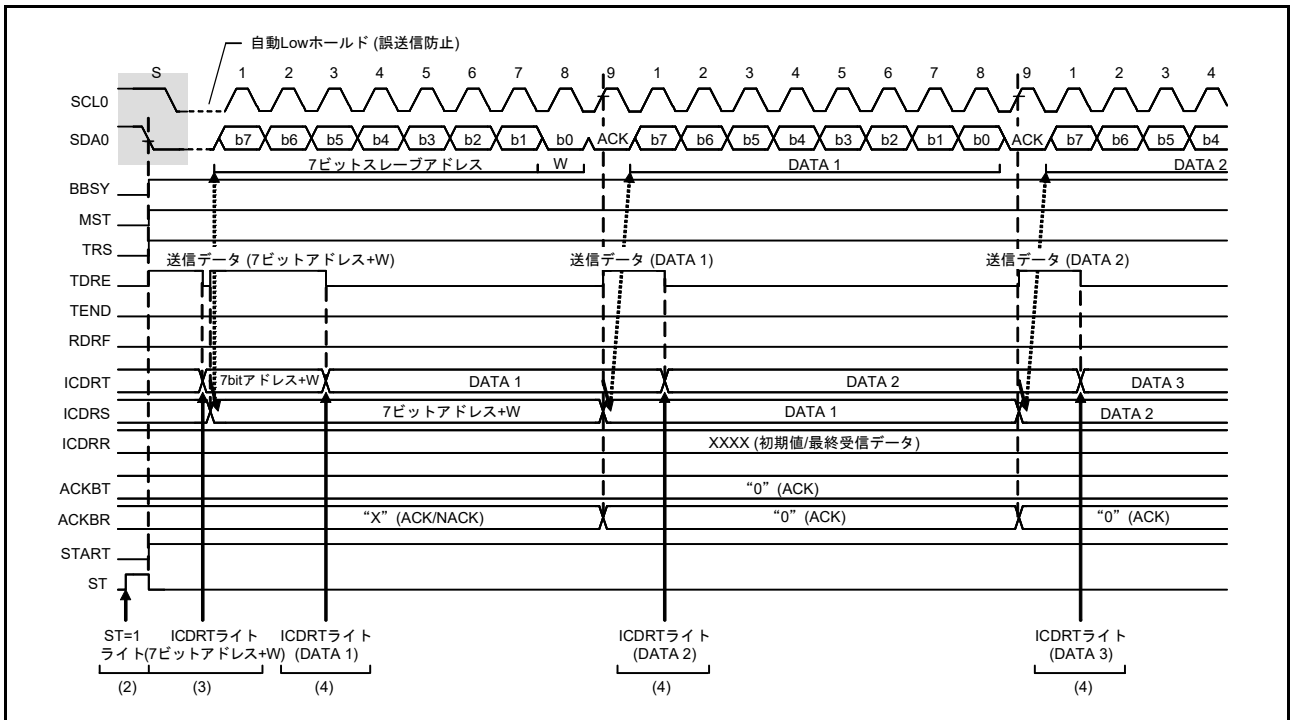


図 28.6 マスタ送信の動作タイミング (1) (7ビットアドレスフォーマットのとき)

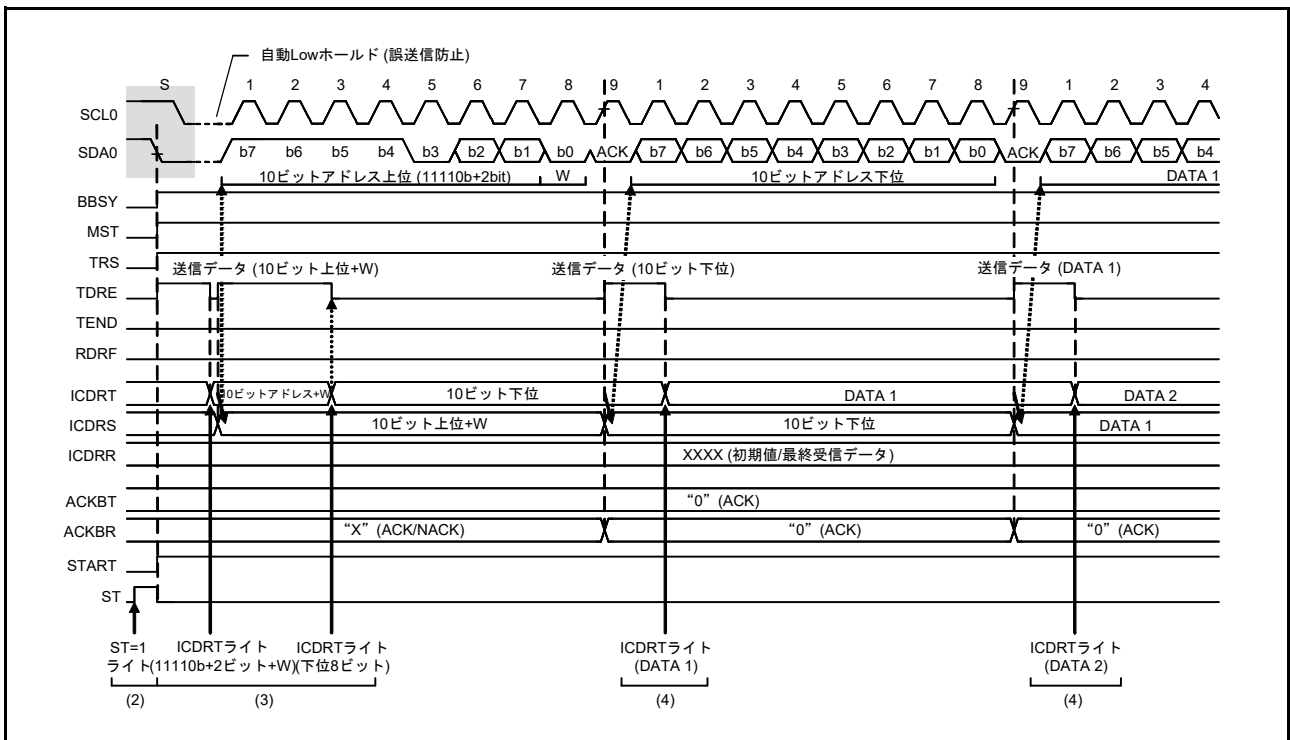


図 28.7 マスタ送信の動作タイミング (2) (10ビットアドレスフォーマットのとき)

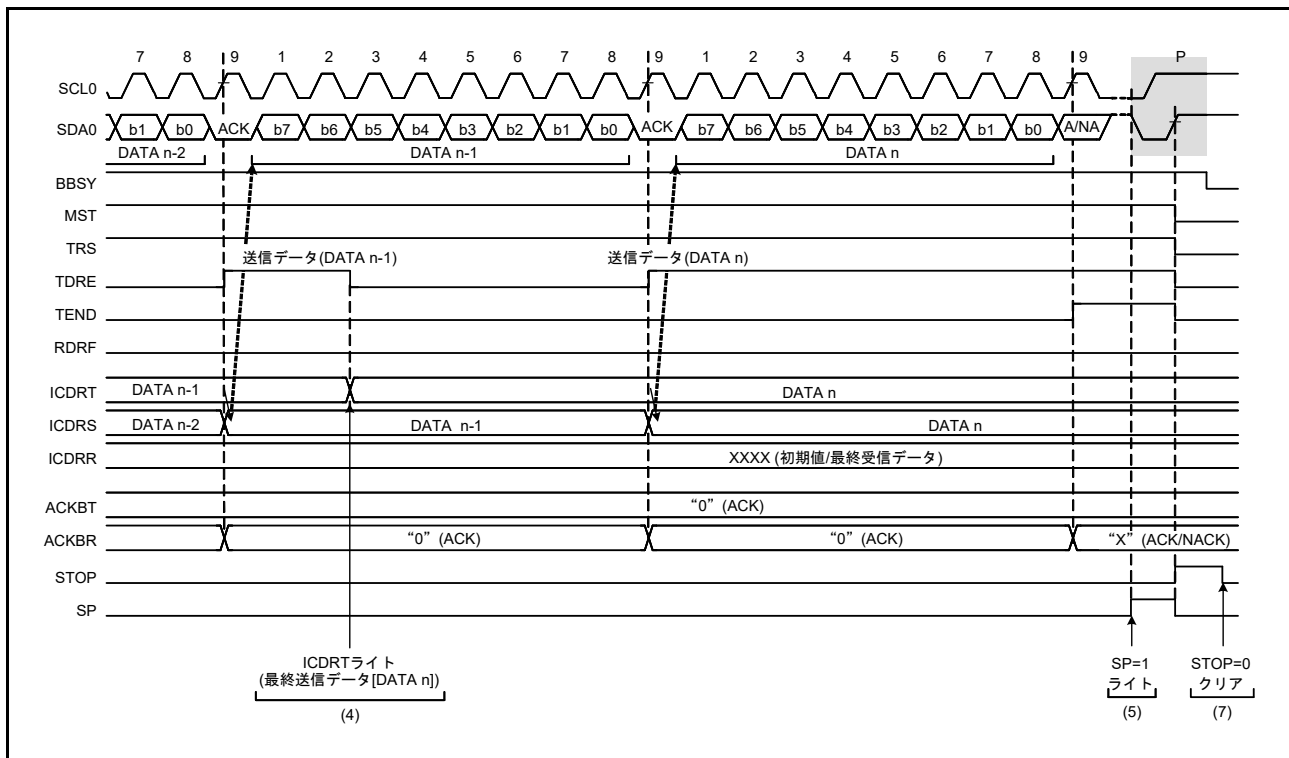


図 28.8 マスタ送信の動作タイミング (3)

28.3.4 マスタ受信動作

マスタ受信では、マスタデバイスである RIIC がクロックを生成し、スレーブデバイスからデータを受信して、アックノリッジを返します。最初にスレーブデバイスにスレーブアドレスを送信する必要があるため、まずマスタ送信モードでスレーブアドレスを送信し、その後マスタ受信モードでデータを受信します。

図 28.9、図 28.10 にマスタ受信の使用例 (7 ビットアドレスフォーマットの場合) を、図 28.11 ~ 図 28.13 にマスタ受信の動作タイミングを示します。

以下にマスタ受信の受信手順と動作を示します。

- (1) 初期設定を行います。詳細は「28.3.2 初期設定」を参照してください。
- (2) ICCR2.BBSY フラグを読んでバスが解放状態であることを確認した後、ICCR2.ST ビットに“1”を書きます (スタートコンディション発行要求)。RIIC はスタートコンディション発行要求を受け付けると、スタートコンディションを発行します。RIIC はスタートコンディションを検出すると BBSY フラグ、ICSR2.START フラグを自動的に“1”にし、ST ビットを自動的に“0”にします。このとき ST ビットが“1”の状態でも出力した SDA 信号と SDA0 ラインの状態がずれることなくスタートコンディションを検出した場合、RIIC は ST ビットによるスタートコンディション発行が正しく行われたと認識し、ICCR2.MST、TRS ビットを自動的に“1”にしてマスタ送信モードになります。また ICSR2.TDRE フラグは、TRS ビットが“1”になることにより自動的に“1”になります。
- (3) ICSR2.TDRE フラグが“1”であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データ (スレーブアドレスと R/W# ビット) を書いてください。ICDRT レジスタに送信データを書くと TDRE フラグは自動的に“0”になり、ICDRT レジスタから ICDRS レジスタにデータが転送されて、再び TDRE フラグが“1”になります。R/W# ビットを含むスレーブアドレスの送信が完了すると、送信された R/W# ビットにより自動的に ICCR2.TRS ビットが変更され送信モード/受信モードが選択されます。RIIC は R/W# ビットが“1”の第一バイトを受信すると、9 クロック目の立ち上がりで TRS ビットを“0”にしてマスタ受信

モードに移行します。このとき TDRE フラグは“0”に、ICSR2.RDRF フラグは自動的に“1”になります。

このとき ICSR2.NACKF フラグが“1”なら、スレーブデバイスが認識されていないか、あるいは通信不良が発生しているかですので、ストップコンディションを発行してください。ストップコンディションの発行は ICCR2.SP ビットに“1”を書くことで行えます。

なお、10 ビットアドレスフォーマットでマスタ受信を行う場合は、まずマスタ送信で 10 ビットアドレスを送信した後、リスタートコンディションを発行します。その後、1111 0b + スレーブアドレスの上位 2 ビット + R を送信することで、マスタ受信モードに移行します。

- (4) ICSR2.RDRF フラグが“1”であることを確認した後、ダミーで ICDRR レジスタを読むと、RIIC は SCL を出力して受信動作を開始します。
- (5) 1 バイトのデータ受信が終了し、ICMR3.RDRFS ビットで設定した 8 または 9 個目の SCL の立ち上がりで、ICSR2.RDRF フラグが“1”になります。このとき ICDRR レジスタを読むと、受信したデータを読むことができ、同時に RDRF フラグは自動的に“0”になります。また 9 個目の SCL のアクノリッジビットには、ICMR3.ACKBT ビットに設定された値が返信されます。また、次の受信バイトが最終バイト - 1 の場合、ICDRR レジスタ (最終バイト - 2 バイト目) を読む前に ICMR3.WAIT ビットを“1” (WAIT あり) にしてください。これにより、続く (6) の ICMR3.ACKBT ビットを“1” (NACK) にする処理が他割り込みなどにより遅れた場合でも最終バイトで NACK 出力を可能にするとともに、最終バイトの受信時に 9 クロック目の立ち下がり で SCL0 ラインを Low に固定して、ストップコンディション発行可能状態にすることができます。
- (6) ICMR3.RDRFS ビットが“0”でスレーブデバイスに次のデータ受信で通信終了であることを通知する必要がある場合には、ICMR3.ACKBT ビットを“1” (NACK) にしてください。
- (7) ICDRR レジスタ (最終バイト - 1 バイト目) 読み出し後、ICSR2.RDRF フラグが“1”であることを確認してから、ICCR2.SP ビットに“1”を書いて (ストップコンディション発行要求)、ICDRR レジスタ (最終バイト) を読んでください。RIIC は ICDRR レジスタの読み出しにより、WAIT 状態が解除され、9 クロック目の Low 出力終了または SCL0 ラインの Low ホールド解除後にストップコンディションを発行します。
- (8) RIIC はストップコンディションを検出すると、ICCR2.MST, TRS ビットは自動的に“00b”になり、スレーブ受信モードに移行します。また、ストップコンディション検出により ICSR2.STOP フラグが“1”になります。
- (9) ICSR2.STOP フラグが“1”であることを確認した後、次通信のために ICSR2.NACKF, STOP フラグを“0”にしてください。

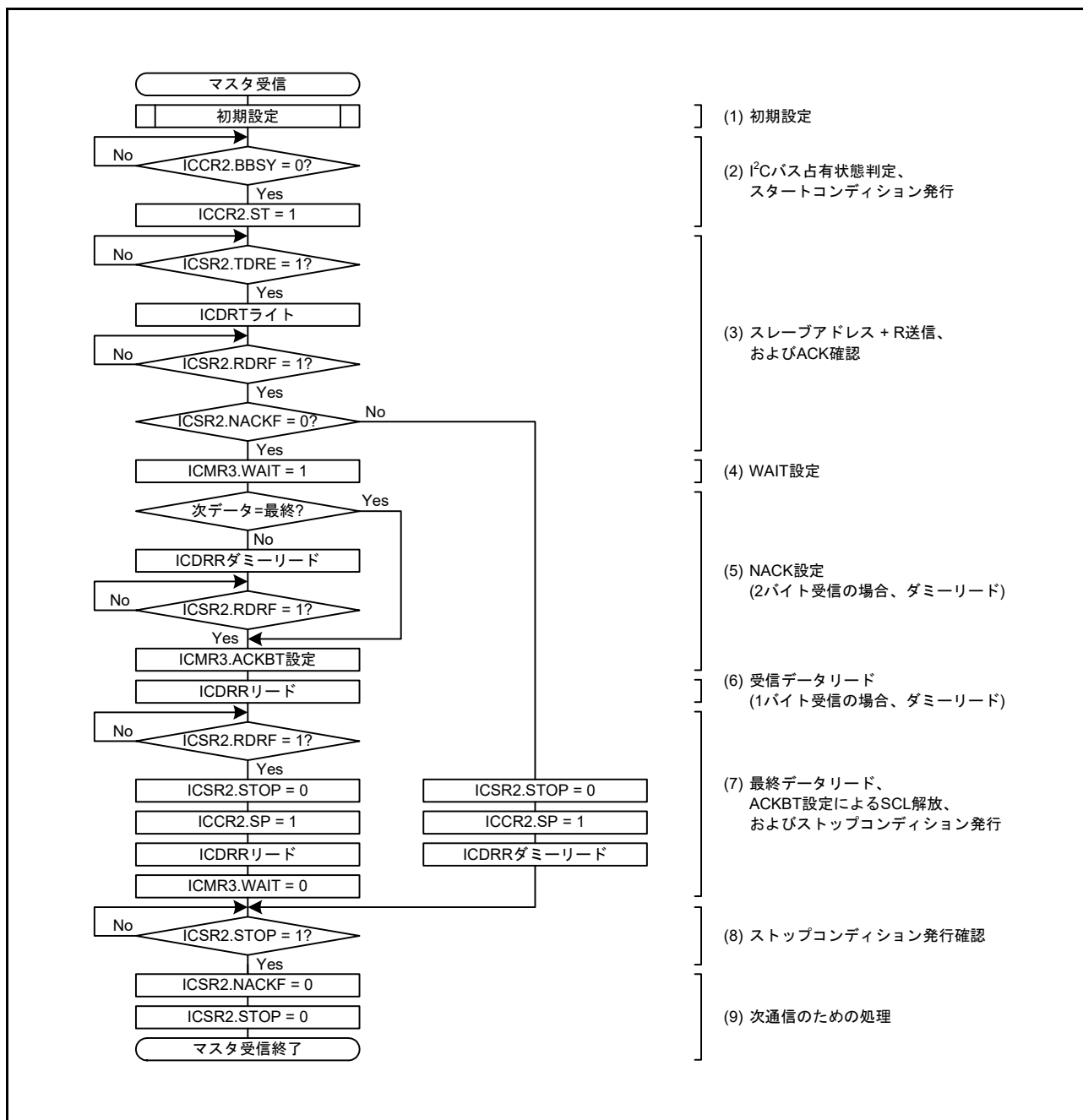


図 28.9 マスタ受信のフローチャート例 (7 ビットアドレスフォーマットの場合、2 バイト以下の場合)

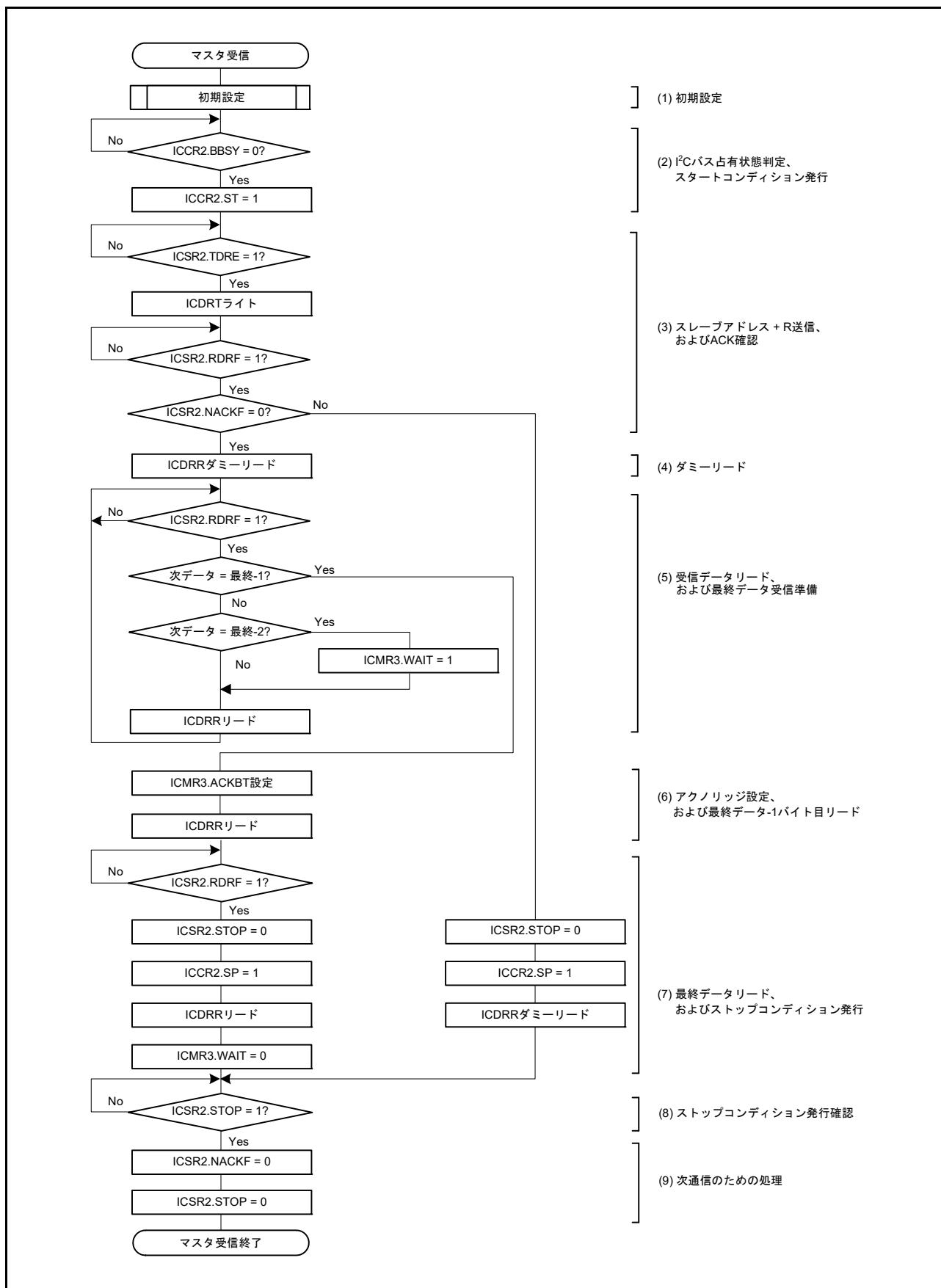


図 28.10 マスタ受信のフローチャート例 (7ビットアドレスフォーマット、3バイト以上の場合)

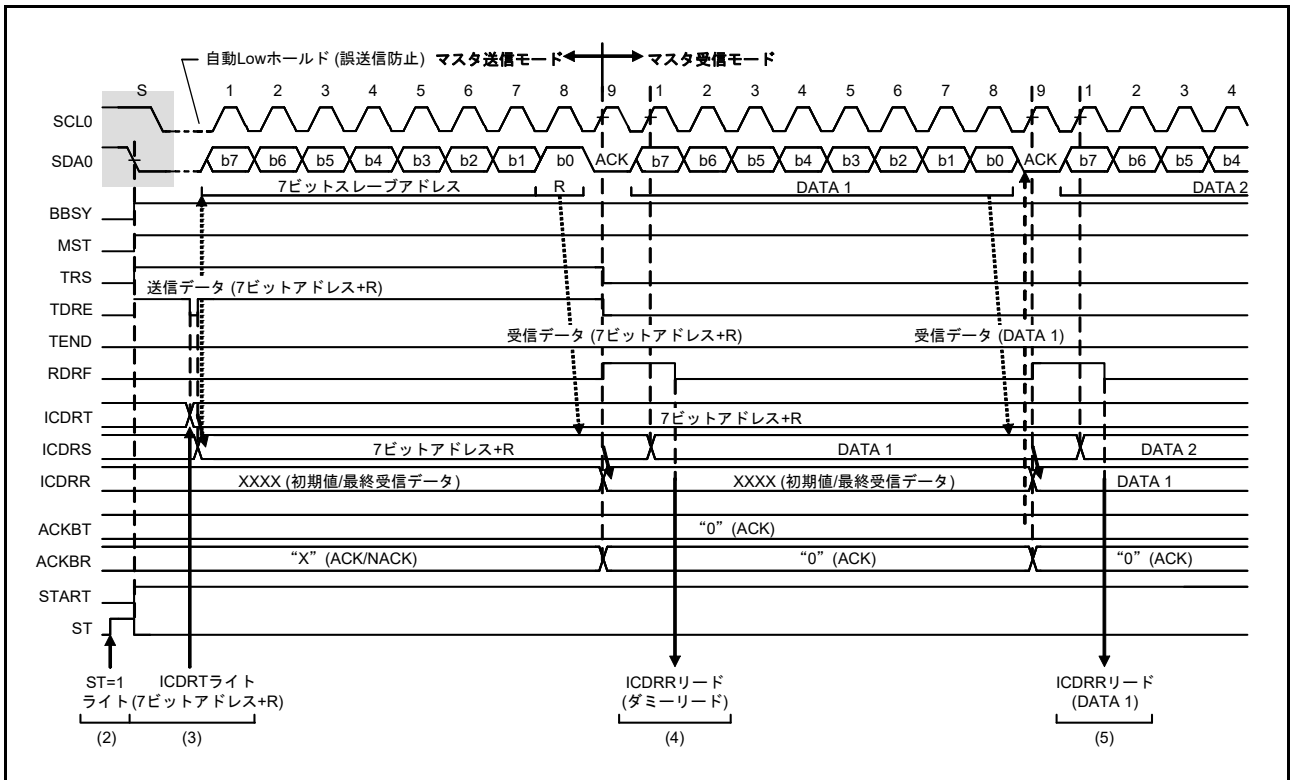


図 28.11 マスタ受信の動作タイミング (1) (7ビットアドレスフォーマット、RDRFS ビット = 0 のとき)

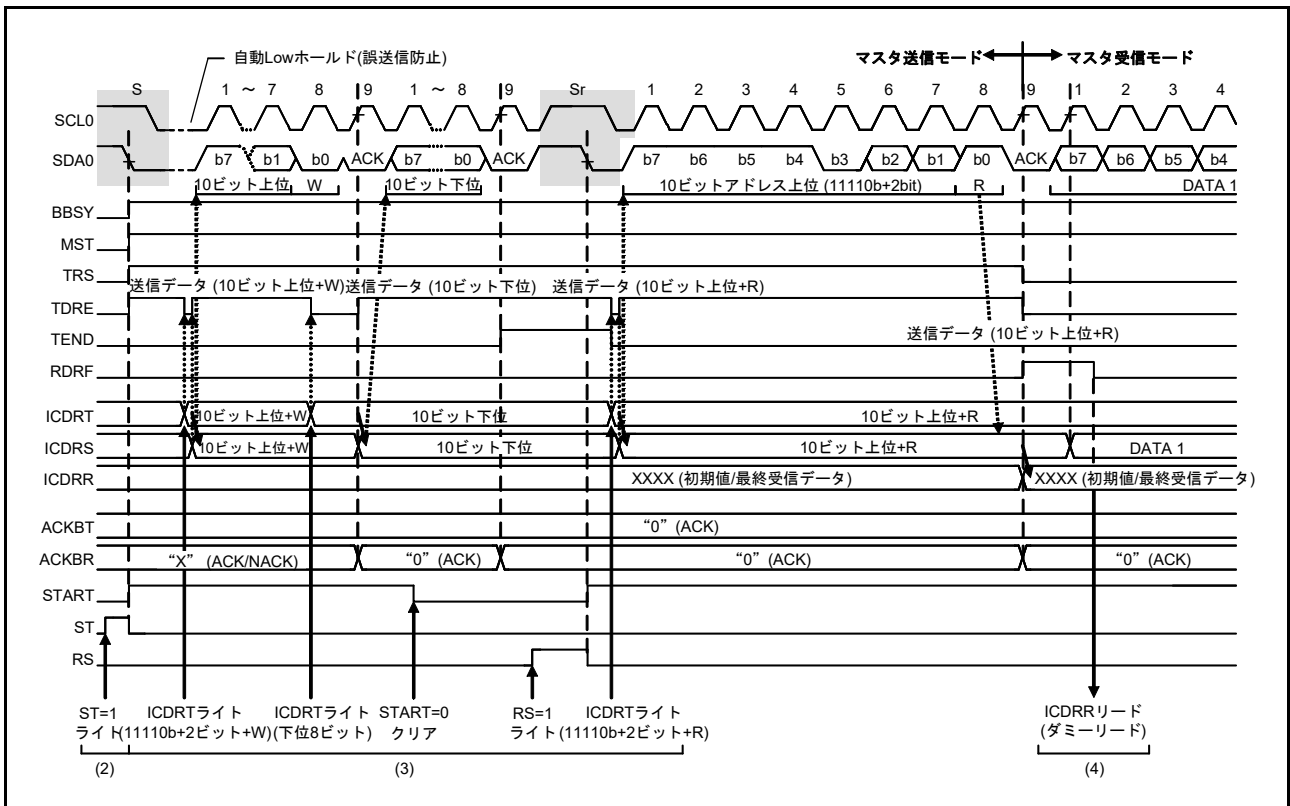


図 28.12 マスタ受信の動作タイミング (2) (10ビットアドレスフォーマット、RDRFS ビット = 0 のとき)

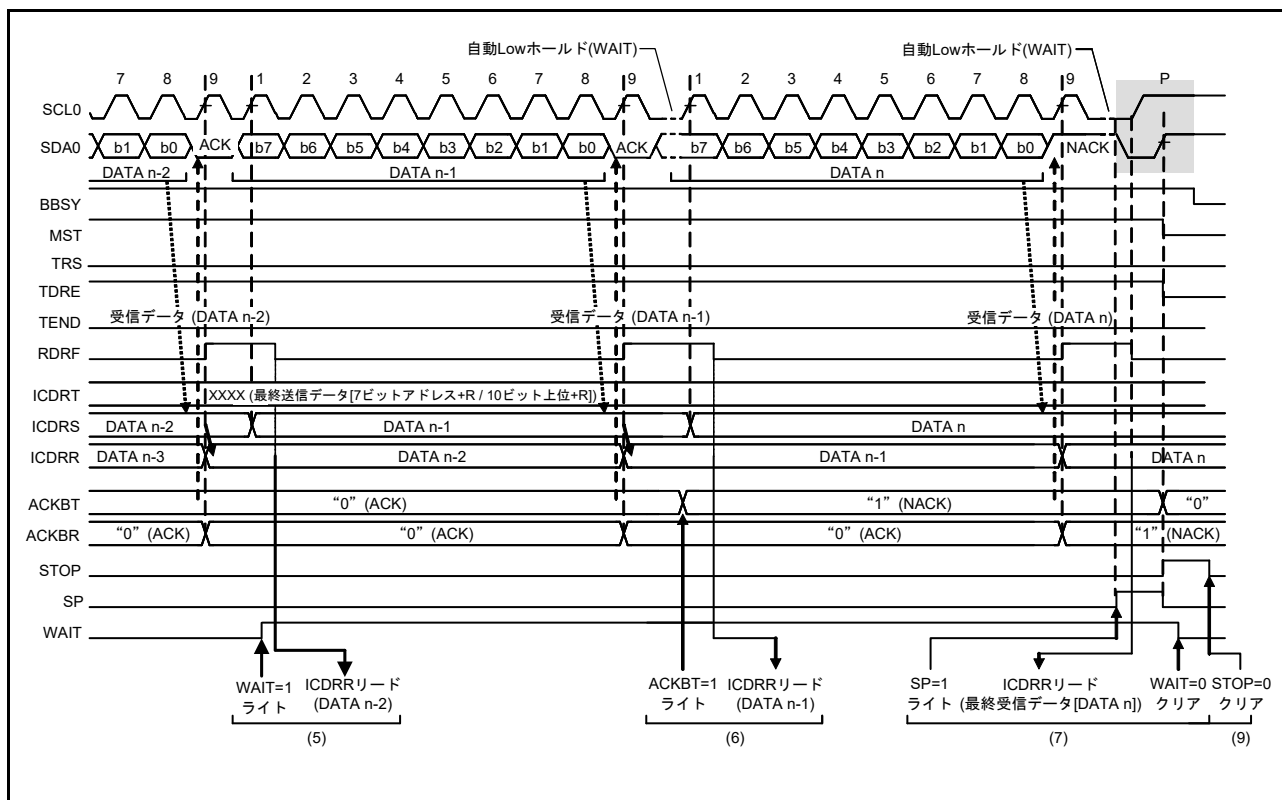


図 28.13 マスタ受信の動作タイミング (3) (RDRFS ビット = 0 のとき)

28.3.5 スレーブ送信動作

スレーブ送信では、マスタデバイスが SCL を出力し、スレーブデバイスである RIIC がデータを送信し、マスタデバイスがアクノリッジを返します。

図 28.14 にスレーブ送信の使用例を示します。図 28.15、図 28.16 にスレーブ送信の動作タイミングを示します。

以下にスレーブ送信の送信手順と動作を示します。

- (1) 初期設定を行います。詳細は「28.3.2 初期設定」を参照してください。
初期設定完了後、RIIC はスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
- (2) RIIC はスレーブアドレスが一致した場合、9 個目の SCL の立ち上がりで該当する ICSR1.HOA, GCA, AASy ビット (y=0~2) のいずれかを“1”にし、9 個目の SCL のアクノリッジビットに ICMR3.ACKBT ビットに設定した値を返信します。このとき受信した R/W# ビットが“1”のとき、ICCR2.TRS ビットおよび ICSR2.TDRE フラグを“1”にし、自動的にスレーブ送信モードに切り替わります。
- (3) ICSR2.TDRE フラグが“1”であることを確認した後、ICDRT レジスタに送信データを書いてください。このとき、ICFER.NACKF ビットが“1”の状態でもスタデバイスからアクノリッジがなかった (NACK を受信した) 場合、RIIC は次の通信動作を中断します。
- (4) ICSR2.NACKF フラグが“1”になるか、または最終送信データを ICDRT レジスタに書いた後、ICSR2.TDRE フラグが“1”の状態、ICSR2.TEND フラグが“1”になるまで待ってください。ICSR2.NACKF フラグが“1”または TEND フラグが“1”の場合、RIIC は 9 クロック目の立ち下がり以降 SCL0 ラインを Low にホールドします。
- (5) ICSR2.NACKF フラグが“1”または ICSR2.TEND フラグが“1”の場合、終了処理のため ICDRR レジスタをダミーで読んでください。これにより SCL0 ラインを開放します。
- (6) RIIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1.HOA, GCA, AASy ビット (y=0~2)、ICSR2.TDRE, TEND フラグ、ICCR2.TRS ビットを自動的に“0”にし、スレーブ受信モードに移行します。
- (7) ICSR2.STOP フラグが“1”であることを確認した後、次通信のために ICSR2.NACKF, STOP フラグを“0”にしてください。

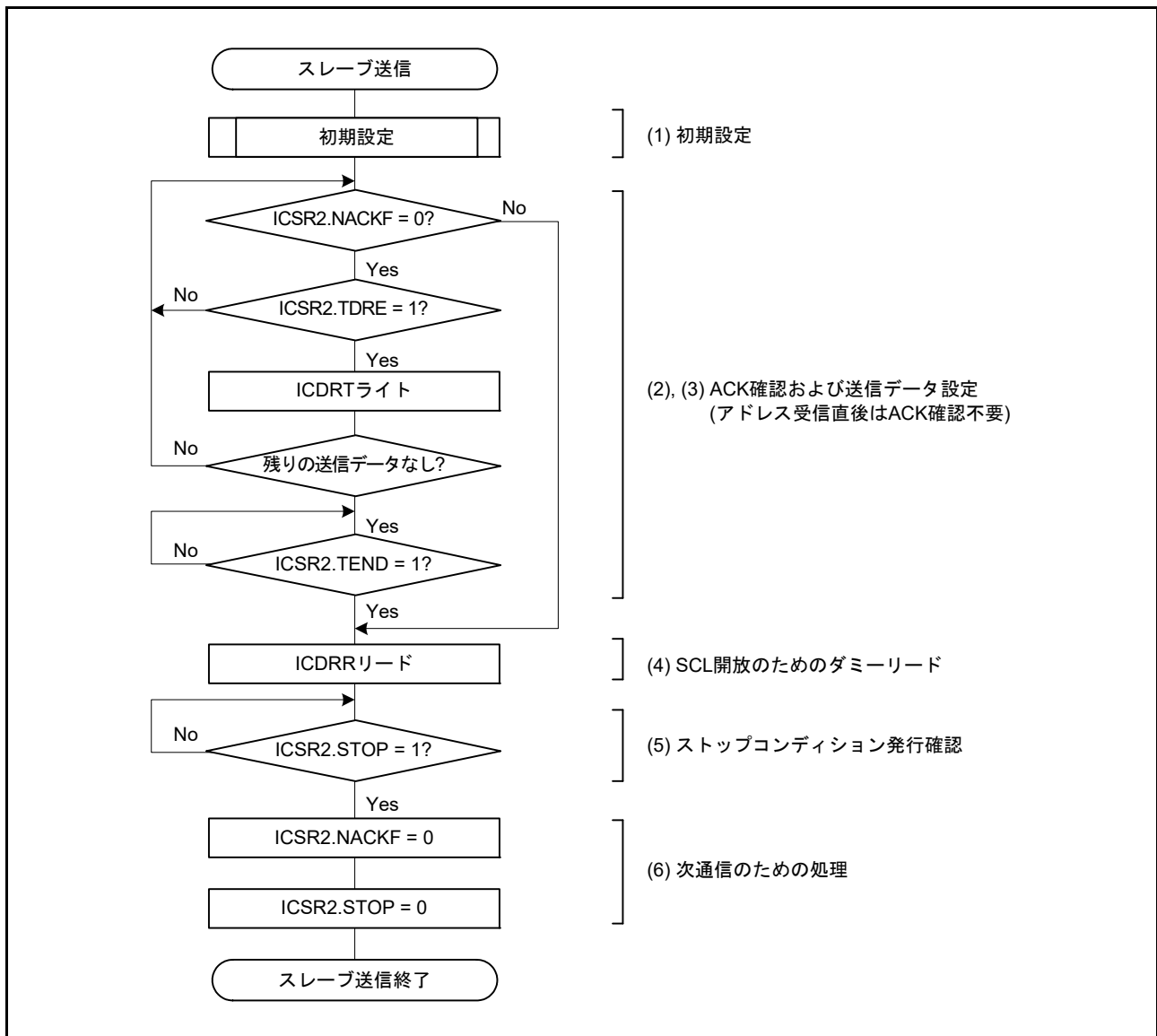


図 28.14 スレーブ送信のフローチャート例

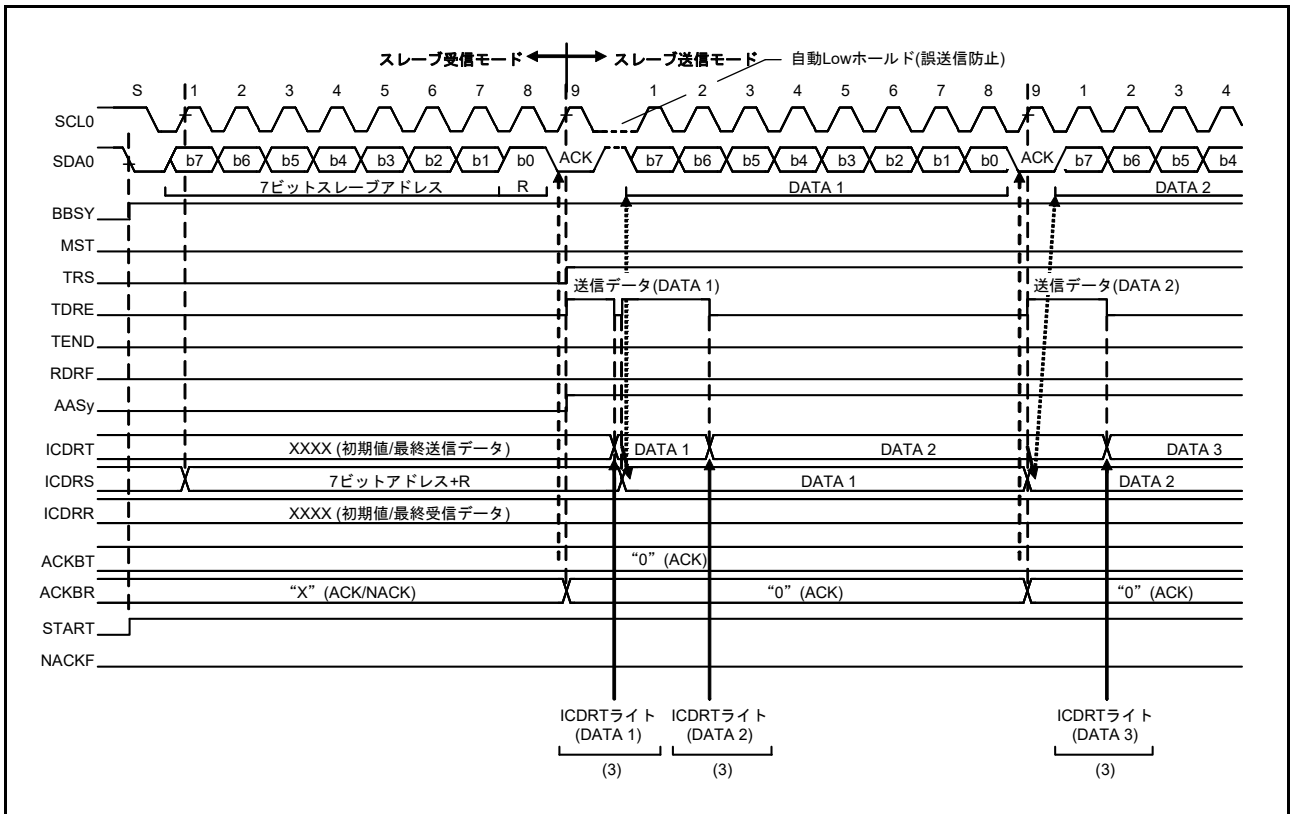


図 28.15 スレーブ送信の動作タイミング (1) (7ビットアドレスフォーマットの時)

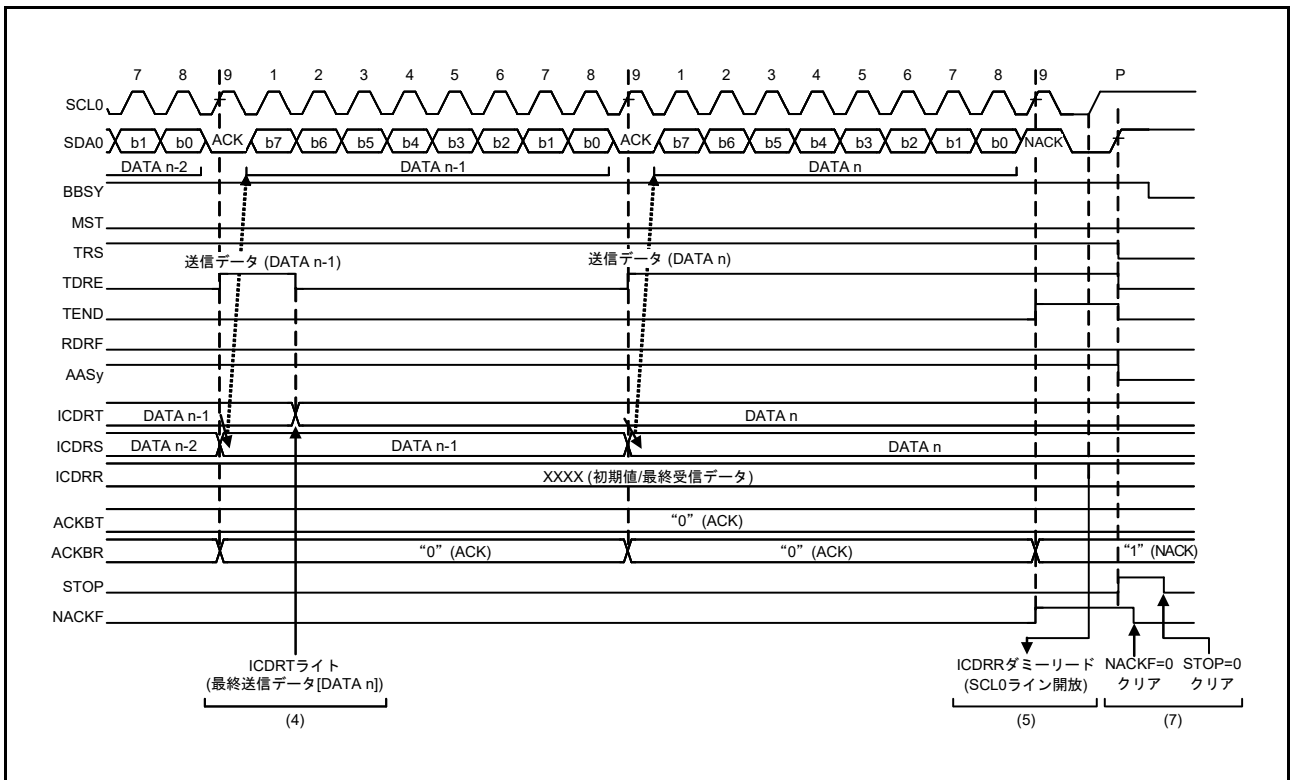


図 28.16 スレーブ送信の動作タイミング (2)

28.3.6 スレーブ受信動作

スレーブ受信では、マスタデバイスが SCL と送信データを出力し、スレーブデバイスである RIIC がアクノリッジを返します。

図 28.17 にスレーブ受信の使用例を図 28.18、図 28.19 にスレーブ受信の動作タイミングを示します。以下にスレーブ受信の受信手順と動作を示します。

- (1) 初期設定を行います。詳細は「28.3.2 初期設定」を参照してください。
初期設定完了後、RIIC はスレーブアドレスが一致するまで待機状態となります。
- (2) RIIC はスレーブアドレスが一致した場合、RIIC は 9 個目の SCL の立ち上がりで該当する ICSR1.HOA, GCA, AASy ビット (y=0 ~ 2) のいずれかを“1”にし、9 個目の SCL のアクノリッジビットに ICMR3.ACKBT ビットに設定した値を返信します。このとき受信した R/W# ビットが“0”なら、スレーブ受信モードの状態を継続し、ICSR2.RDRF フラグを“1”にします。
- (3) ICSR2.STOP フラグが“0”で、かつ ICSR2.RDRF フラグが“1”であることを確認したら、最初の 1 回目は ICDRR レジスタをダミーで読んでください (なお、ダミーで読んだ受信データは 7 ビットアドレスフォーマット時にスレーブアドレス + R/W# ビット、10 ビットアドレスフォーマット時は下位 8 ビットアドレスになります)。
- (4) ICDRR レジスタを読むと RIIC は ICSR2.RDRF フラグを自動的に“0”にします。なお、ICDRR レジスタの読み出しが遅れて、RDRF フラグが“1”になった状態で次のデータを受信すると、RIIC は RDRF フラグが“1”になるタイミングの 1 つ手前の SCL 立ち下がり SCL0 ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICDRR レジスタを読むことで解除され RIIC は SCL0 ラインを開放します。ICSR2.STOP フラグが“1”で、かつ ICSR2.RDRF フラグが“1”の場合、または全データ受信が完了するタイミングで ICDRR レジスタを読んでください。
- (5) RIIC はストップコンディションを検出すると、ICSR1.HOA, GCA, AASy ビット (y=0 ~ 2) を自動的に“0”にします。
- (6) ICSR2.STOP フラグが“1”であることを確認した後、次通信のために ICSR2.STOP フラグを“0”にしてください。

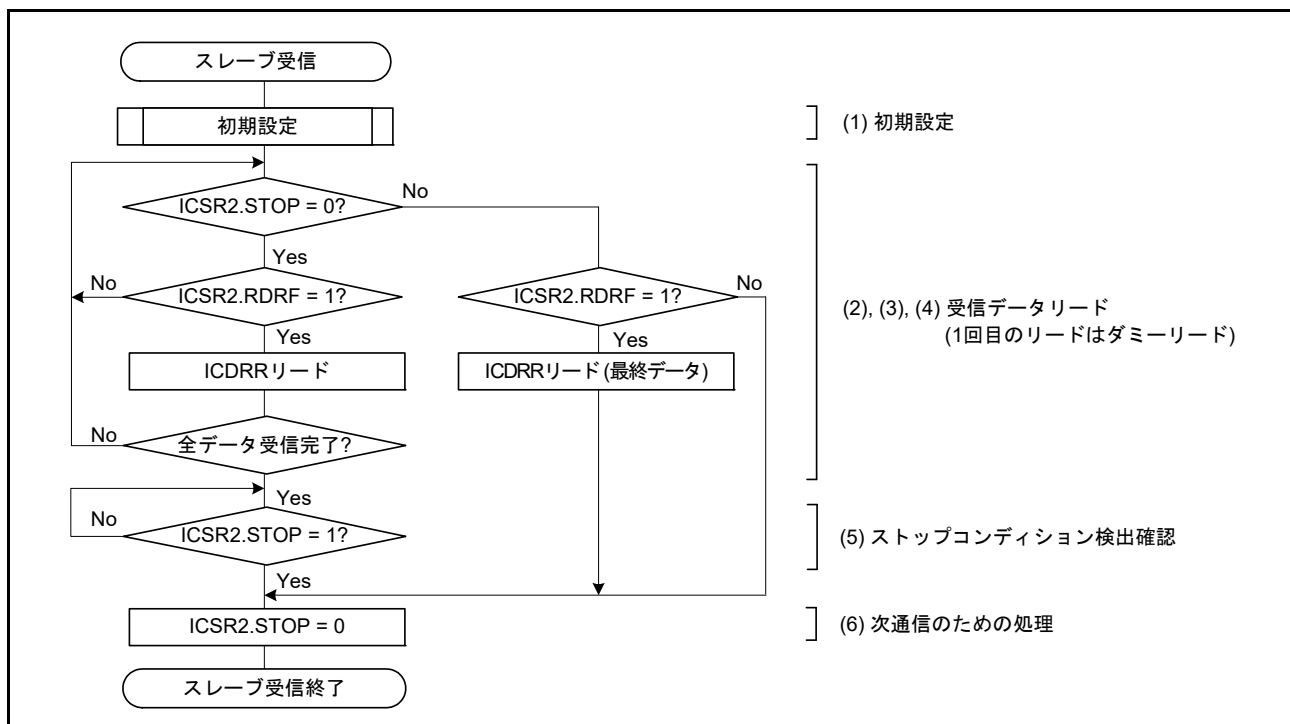


図 28.17 スレーブ受信のフローチャート例

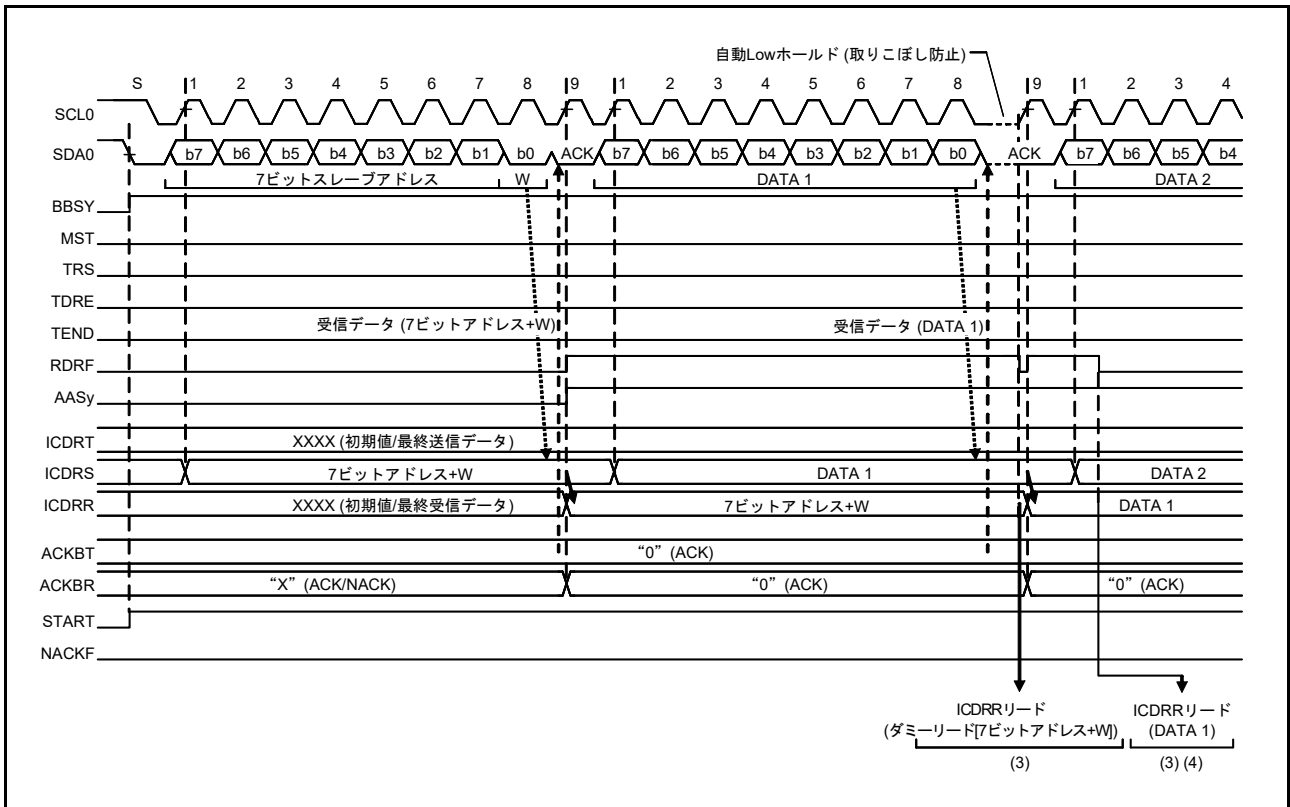


図 28.18 スレーブ受信の動作タイミング (1) (7ビットアドレスフォーマット、RDRFS ビット = 0 のとき)

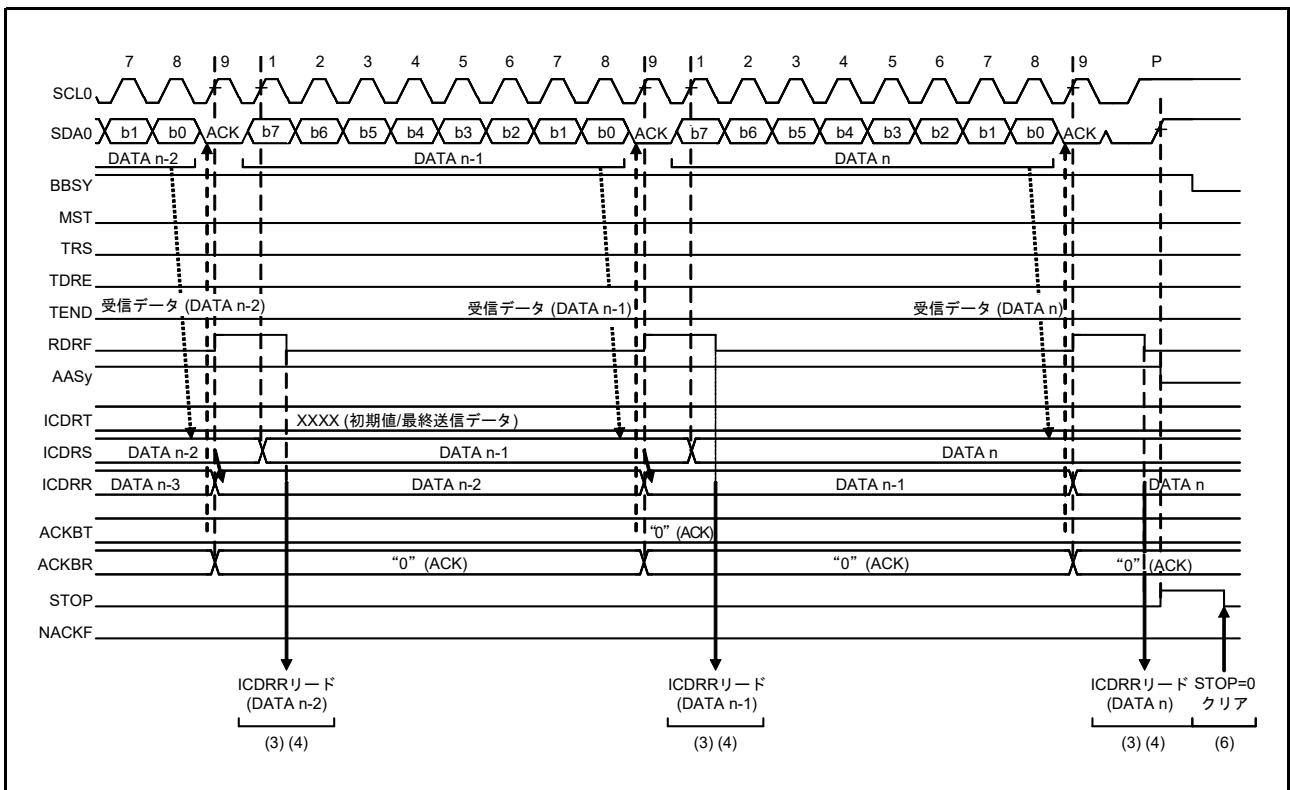


図 28.19 スレーブ受信の動作タイミング (2) (RDRFS ビット = 0 のとき)

28.4 SCL 同期回路

RIIC の SCL 生成は SCL0 ラインの立ち上がりを検出すると、ICBRH レジスタで設定された High 幅のカウンタを開始し、High 幅のカウンタが終了すると SCL0 ラインを Low にドライブして立ち下げます。また SCL0 ラインの立ち下がりを検出すると、ICBRL レジスタで設定された Low 幅のカウンタを開始し、Low 幅のカウンタが終了すると SCL0 ラインの Low ドライブを終了して SCL0 ラインを開放します。これにより SCL を生成します。

I²C バスをマルチマスタで使用する場合、SCL は他のマスタデバイスとの競合により SCL 同士が衝突する場合があります。SCL が衝突した場合、マスタデバイスは SCL の同期化を行う必要があります。この SCL の同期はビットごとに行う必要があり、RIIC はマスタモード時に SCL0 ラインを監視してビットごとに同期を取りながら SCL を生成する機能 (SCL 同期回路) を備えています。

RIIC が SCL0 ラインの立ち上がりを検出し ICBRH レジスタで設定された High 幅のカウンタ中に他のマスタデバイスの SCL 出力により SCL0 ラインが立ち下げられた場合、RIIC は SCL0 ラインの立ち下がりを検出すると High 幅のカウンタアップ動作を中断し、SCL0 ラインの Low ドライブを行うのと同時に ICBRL レジスタで設定された Low 幅のカウンタアップを開始します。Low 幅のカウンタが終了すると SCL0 ラインの Low ドライブを終了して SCL0 ラインを開放します。このとき他のマスタデバイスの SCL の Low 幅が RIIC で設定された Low 幅よりも長い場合、SCL の Low 幅は延長されます。他のマスタデバイスの Low 幅出力が終了すると、SCL0 ラインが開放され SCL が立ち上がります。そのため SCL 出力衝突時の SCL の High 幅は短いクロックに同期し、Low 幅は長いクロックに同期化されます。なお、この SCL 同期は ICFER.SCLE ビットが“1”のとき有効です。

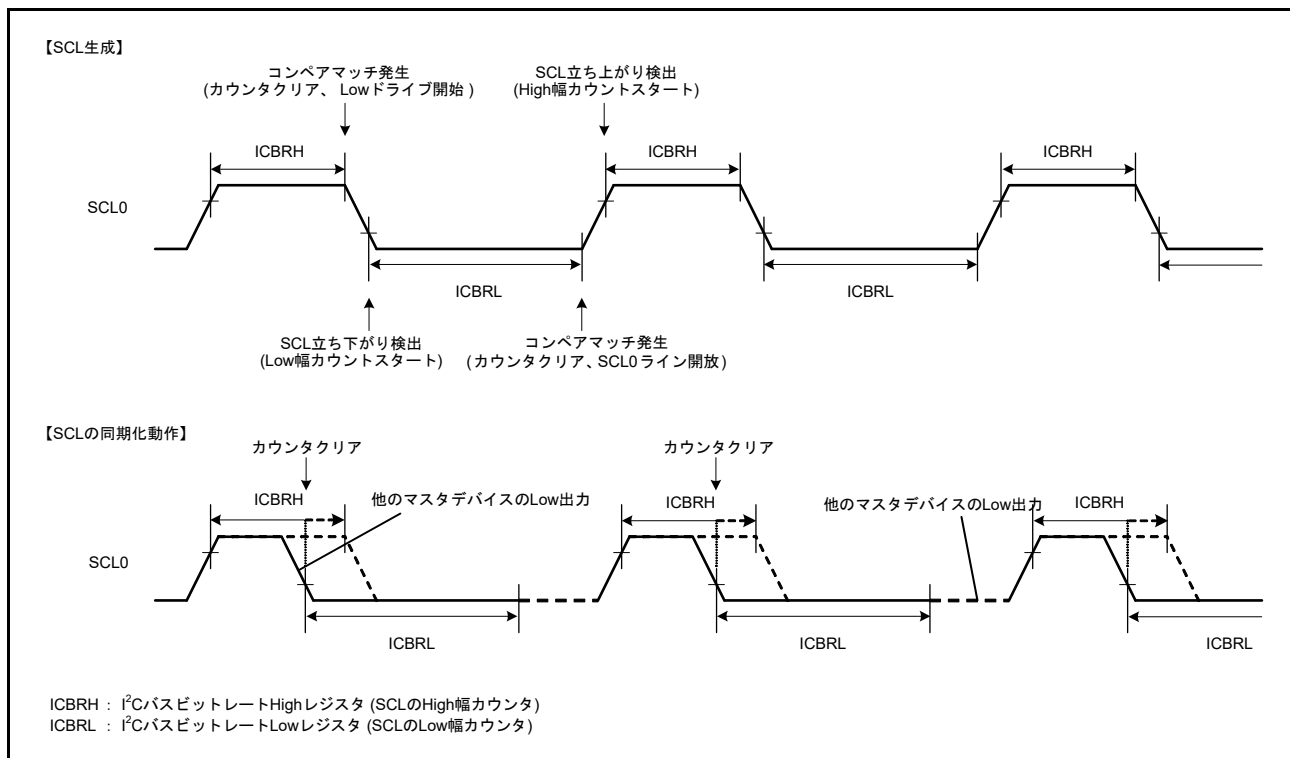


図 28.20 RIIC の SCL 生成および SCL 同期化動作

28.5 SDA出力遅延機能

RIICはSDA出力遅延機能を備えています。SDA出力遅延機能は、すべてのSDA出力タイミング(発行動作(スタート/リスタート/ストップコンディション)、データ出力、ACK/NACK出力)を遅延させることができます。

SDA出力遅延機能は、SCLの立ち下がり検出からSDA出力を遅延させ、確実にSCLのLow期間中にSDA出力を行うことで、通信デバイスの誤認動作を防ぐ目的で使用します。また、SMBusのデータホールド時間: 300 ns (min)の仕様を満たす目的でも使用することができます。

このSDA出力遅延機能はICMR2.SDDL[2:0]ビットが“000b”以外のとき有効で、SDDL[2:0]ビットが“000b”のとき無効です。

SDA出力遅延機能が有効(SDDL[2:0]ビットが“000b”以外)のとき、SDA出力遅延カウンタはICMR2.DLCSビットで選択された内部基準クロック(IICφ)またはその2分周クロック(IICφ/2)をカウントソースとしてSDDL[2:0]ビットで設定されたサイクル数分のカウント動作を行います。遅延サイクル分のカウントが終了した時点でRIICはSDA出力(発行動作(スタート/リスタート/ストップコンディション)、データ出力、ACK/NACK出力)を行います。

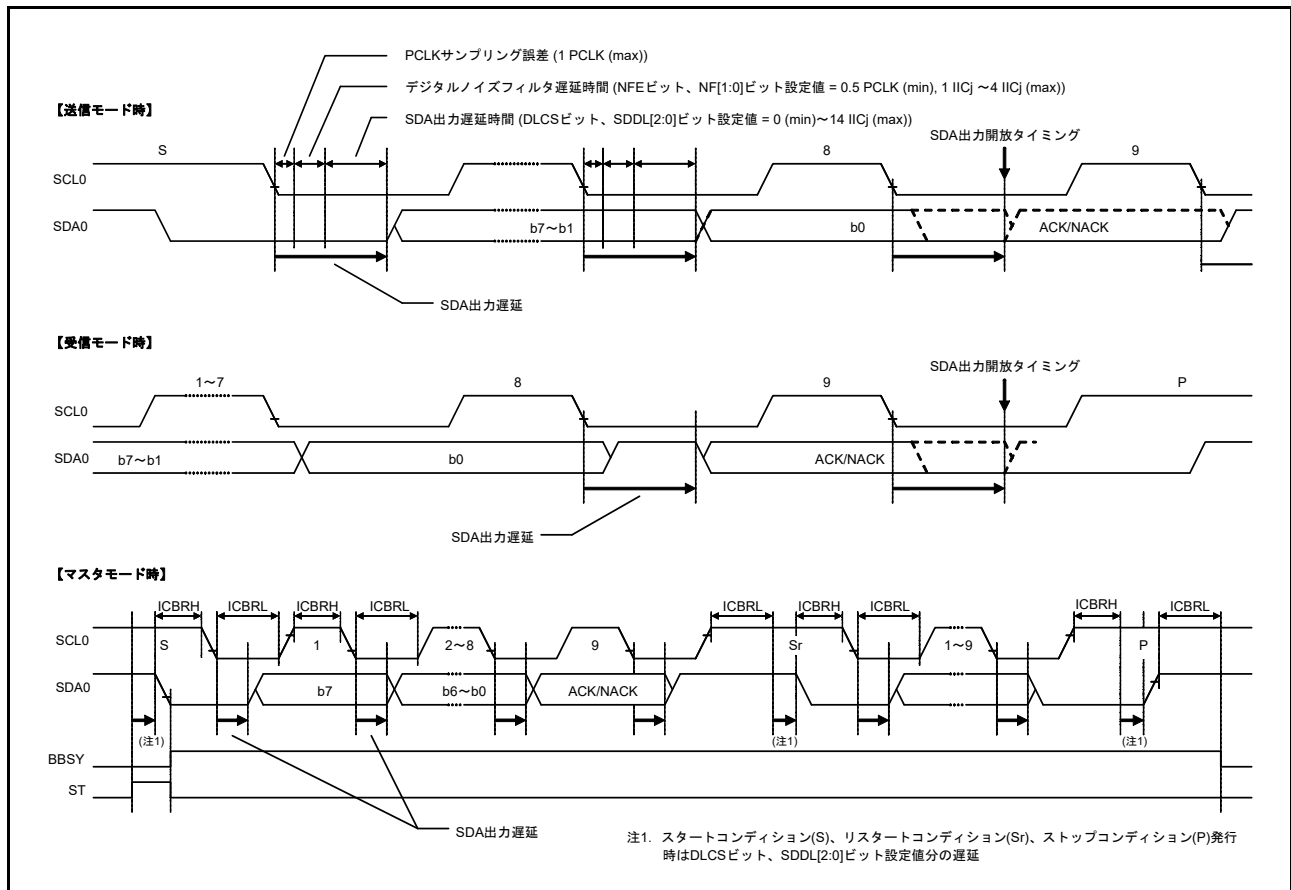


図 28.21 SDA出力遅延タイミング

28.6 デジタルノイズフィルタ回路

SCL0 端子および SDA0 端子の状態は、デジタルノイズフィルタ回路を経由して内部に取り込まれます。

図 28.22 にデジタルノイズフィルタ回路のブロック図を示します。

RIIC に内蔵されているデジタルノイズフィルタ回路は、4 段の直列に接続されたフリップフロップ回路と一致検出回路で構成されています。

デジタルノイズフィルタの有効段数は ICMR3.NF[1:0] ビットで選択し、ノイズ除去能力は選択した有効段数に応じて $1 IIC\phi \sim 4 IIC\phi$ サイクル分となります。

SCL0 端子入力信号 (または SDA0 端子入力信号) は $IIC\phi$ の立ち下がりでもサンプリングされ、ICMR3.NF[1:0] ビットで設定された有効段数のフリップフロップ回路出力がすべて一致したとき、そのレベルが内部信号として伝えられ、一致しない場合は前の値を保持します。

なお、 $PCLK = 4 \text{ MHz}$ 時の 400 kbps 通信のように内部動作クロック (PCLK) と通信速度の比が小さい場合、デジタルノイズフィルタの特性上、ノイズ発生時に必要な信号まで除去してしまう場合がありますので注意してください。

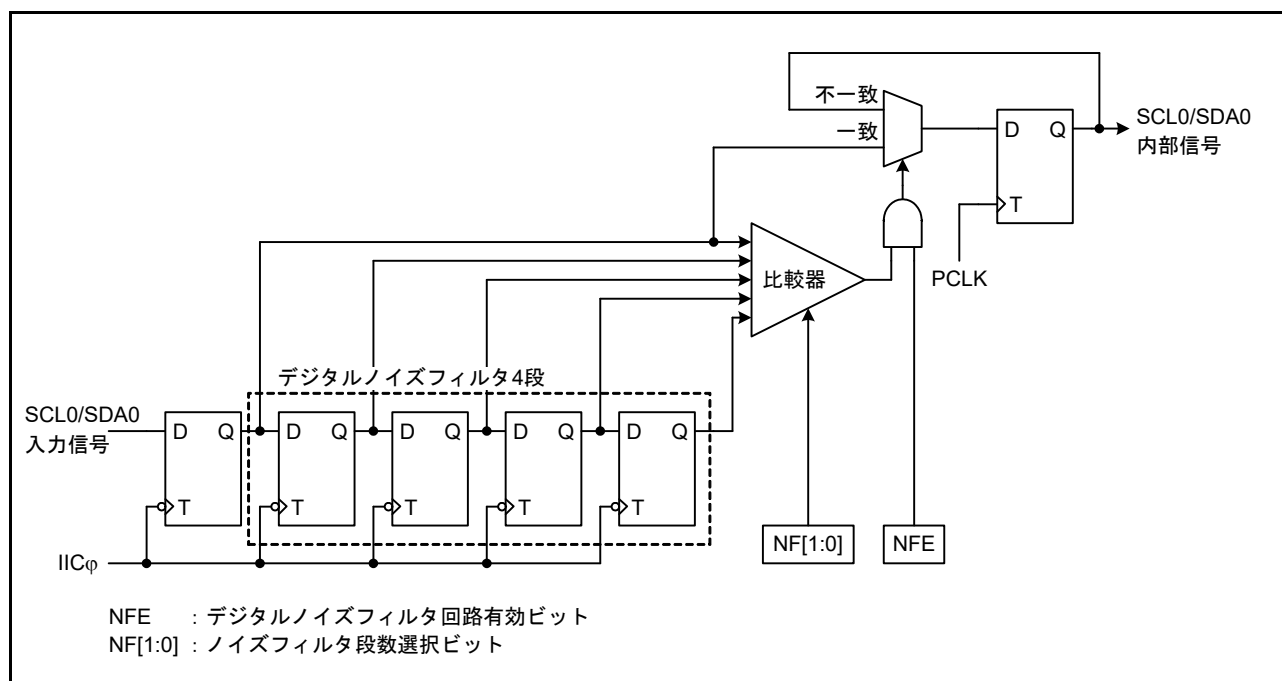


図 28.22 デジタルノイズフィルタ回路のブロック図

28.7 アドレス一致検出機能

RIICはジェネラルコールアドレス、ホストアドレスの他に3種類のスレーブアドレスを設定可能です。またスレーブアドレスには7ビットアドレスまたは10ビットアドレスの設定が可能です。

28.7.1 スレーブアドレス一致検出機能

RIICは3種類のスレーブアドレスを設定可能で、それぞれに応じたスレーブアドレス検出機能を備えています。ICSER.SARyEビット(y=0~2)が“1”のとき、SARUy/SARLyレジスタ(y=0~2)に設定されたスレーブアドレスを検出することができます。

RIICは設定されたスレーブアドレス一致を検出すると、9個目のSCLの立ち上がりで該当するICSR1.AASyフラグ(y=0~2)を“1”にし、このとき受信したR/W#ビットによりICSR2.RDRFフラグまたはICSR2.TDREフラグを“1”にします。これにより受信データフル割り込み(RXI)または送信データエンピ割り込み(TXI)を発生させることができ、AASyフラグを確認することでどのスレーブアドレスが指定されたかを識別することができます。

図28.23～図28.25にAASyフラグが“1”になるタイミングを示します。

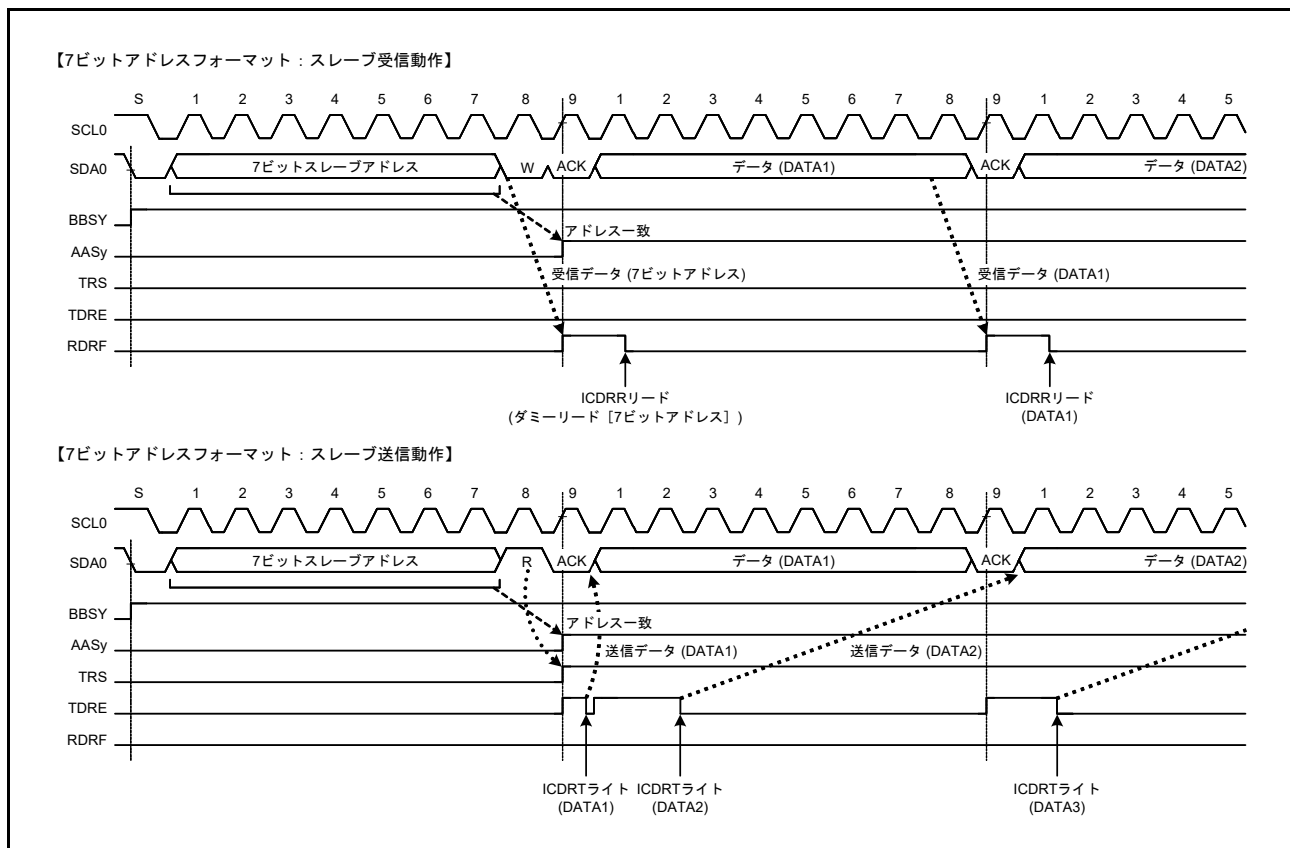


図 28.23 7ビットアドレスフォーマット選択時にAASyフラグが“1”になるタイミング

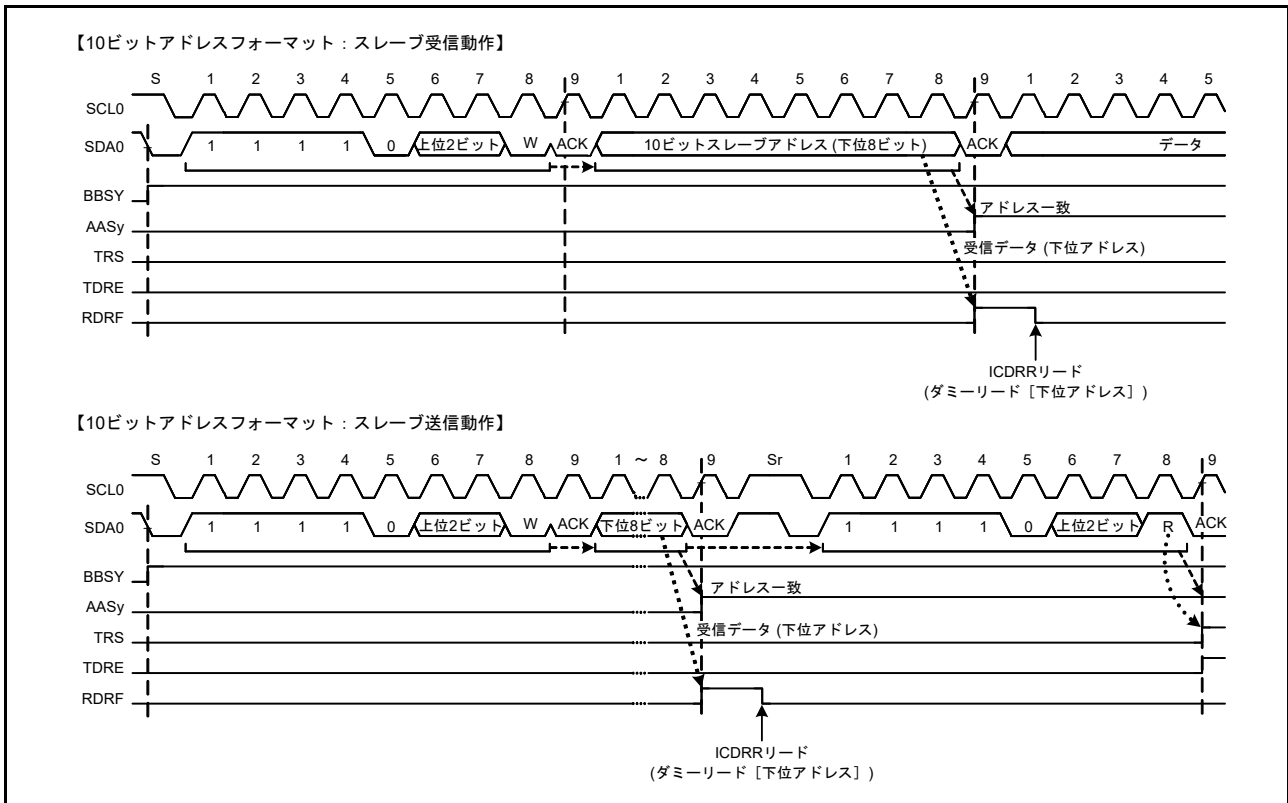


図 28.24 10ビットアドレスフォーマット選択時に AASy フラグが“1”になるタイミング

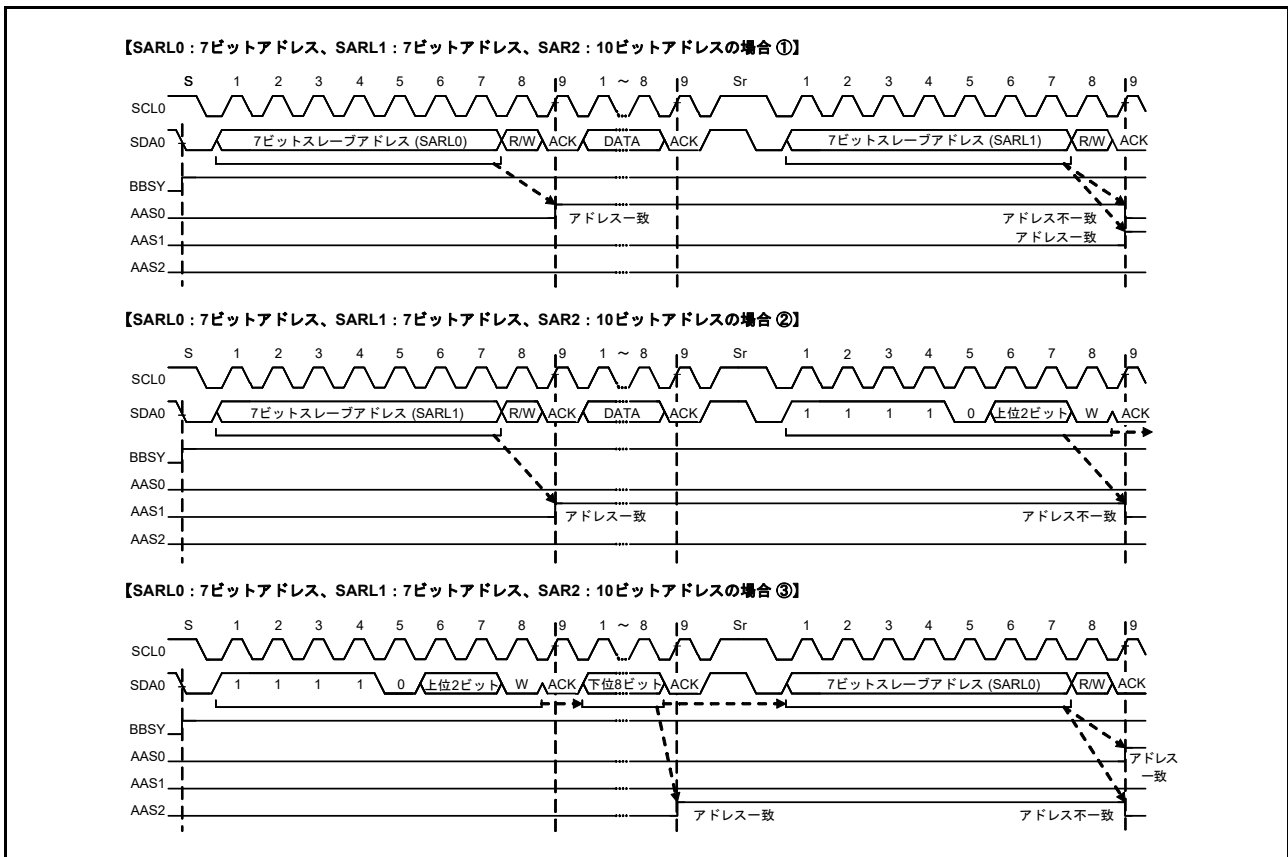


図 28.25 7ビット/10ビットアドレスフォーマット混在時に AASy フラグが“1”または“0”になるタイミング

28.7.2 ジェネラルコールアドレス検出機能

RIICはジェネラルコールアドレス (0000 000b + 0 (write)) の検出機能を備えています。ICSER.GCAE ビットが“1”のとき、ジェネラルコールアドレスを検出することができます。

スタートコンディションまたはリスタートコンディション後のアドレスが 0000 000b + 1 (read) (スタートバイト) だった場合、RIICはこのアドレスを All “0” のスレーブアドレスと認識し、ジェネラルコールアドレスとみなしません。

RIICはジェネラルコールアドレスを検出すると、9個目のSCLの立ち上がりでICSR1.GCAフラグを“1”にし、同時にICSR2.RDRFフラグを“1”にします。これにより受信データフル割り込み (RXI) を発生させることができ、GCAフラグを確認することでジェネラルコールアドレスが送信されたことを認識することができます。

なお、ジェネラルコールアドレス検出後の動作は通常のスレーブ受信動作と同じです。

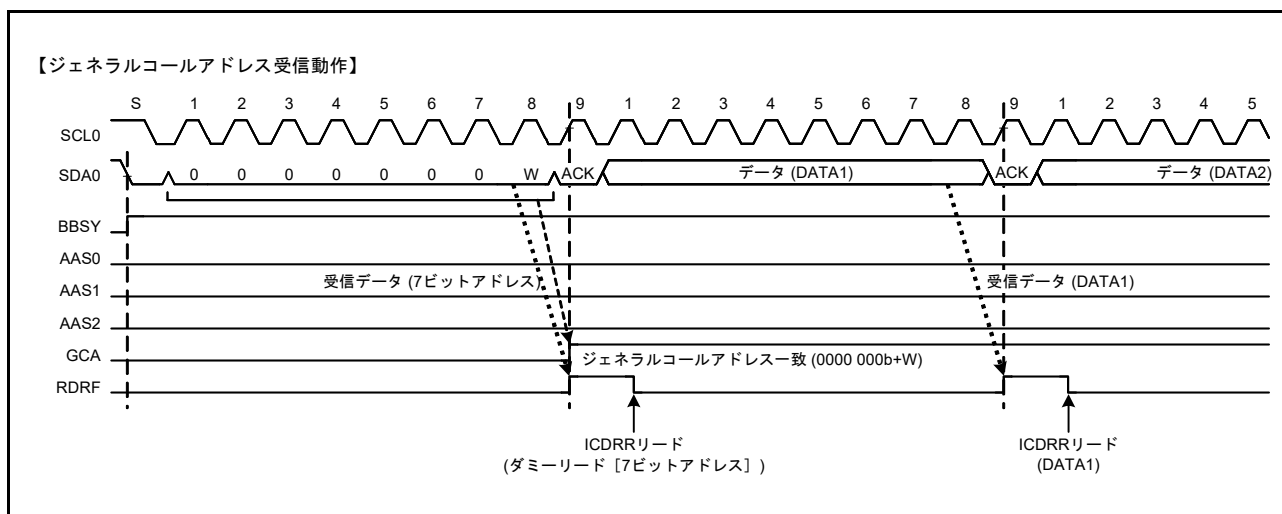


図 28.26 ジェネラルコールアドレス受信時に GCA フラグが “1” になるタイミング

28.7.3 デバイス ID アドレス検出機能

RIICはI²Cバス仕様に準拠したデバイスIDアドレスの検出機能を備えています。ICSR.DIDEビットを“1”にした状態で、スタートコンディションまたはリスタートコンディション後の1バイト目に1111 100bを受信すると、RIICはこのアドレスをデバイスIDアドレスと認識し、続くR/W#ビットが“0”のとき9個目のSCLの立ち上がりでICSR1.DIDフラグを“1”にした後、2バイト目以降と自スレーブアドレスとの比較動作を行います。この2バイト目以降のアドレスがスレーブアドレスレジスタの値と一致した場合、該当するICSR1.AAS_yフラグ(y=0~2)が“1”になります。

その後スタートコンディションまたはリスタートコンディション後の1バイト目が再びデバイスIDアドレス(1111 100b)と一致し、続くR/W#ビットが“1”のときRIICは続く2バイト目以降はアドレス比較動作を行わず、ICSR2.TDREフラグを“1”にします。

デバイスIDアドレス検出機能は、自スレーブアドレスと不一致あるいは自スレーブアドレス一致後のリスタートコンディション後のアドレスがデバイスIDアドレスと不一致の場合、DIDフラグを“0”にし、スタートコンディションまたはリスタートコンディション後の1バイト目がデバイスIDアドレス(1111 100b)と一致し、かつR/W#ビットが“0”のときDIDフラグを“1”にセットし、続く2バイト目以降をスレーブアドレスと比較します。R/W#ビットが“1”の場合、DIDフラグは前値の状態を継続し、2バイト目以降のスレーブアドレス比較を行いません。そのため、TDREフラグが“1”であることを確認後DIDフラグをチェックすることで、デバイスIDを受信したことを確認することができます。

なお、一連のデバイスID受信後にホストに送信するデバイスIDフィールドとして必要な情報(3バイト分: メーカー[12ビット]+部品識別[9ビット]+リビジョン[3ビット])は、通常の送信データと同様あらかじめ準備してください。また、デバイスIDフィールドに必要な情報の詳細についてはNXP社にお問い合わせください。

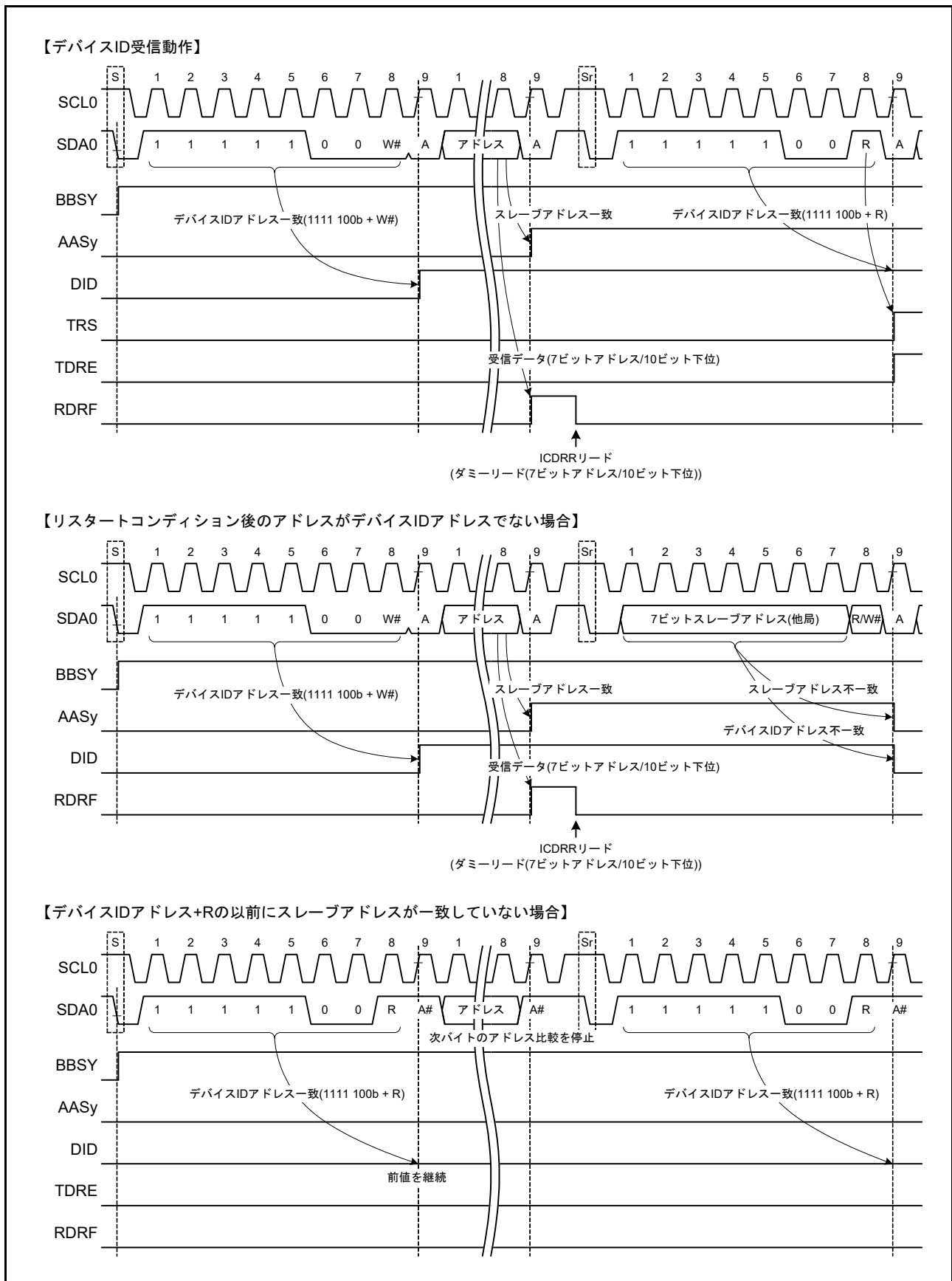


図 28.27 デバイス ID アドレス受信時の AASy、DID フラグセット / クリアタイミング

28.7.4 ホストアドレス検出機能

RIICにはSMBus動作時にホストアドレス検出機能を備えています。ICMR3.SMBSビットが“1”のときICSER.HOAEビットを“1”にすると、スレーブ受信モード (ICCR2.MST, TRSビット=00b) にホストアドレス (0001 000b) を検出することが可能です。

RIICはホストアドレスを検出すると、9個目のSCLの立ち上がりでICSR1.HOAフラグを“1”にし、Wrビット (R/W#ビットに“0”を受信) のときICSR2.RDRFフラグを“1”にします。これにより受信データフル割り込み (RXI) を発生させることができ、HOAフラグを確認することでスマートバッテリーなどからホストアドレスが送信されたことを認識することができます。

なお、ホストアドレス (0001 000b) に続くビットがRdビット (R/W#ビットに“1”を受信) の場合においてもホストアドレスを検出することが可能です。また、ホストアドレス検出後の動作は通常のスレーブ動作と変わりありません。

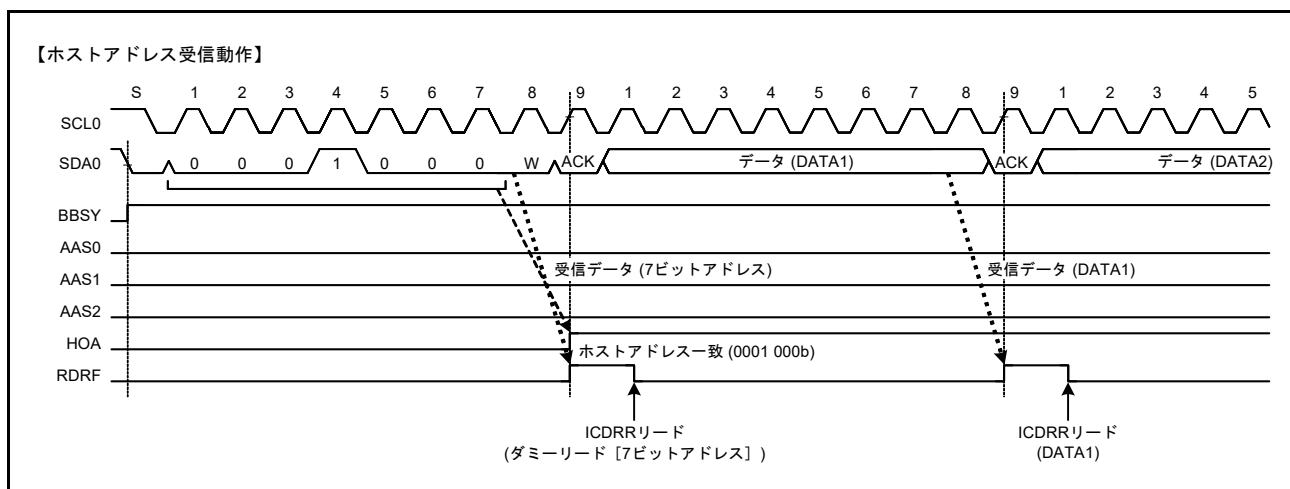


図 28.28 ホストアドレス受信時に HOA フラグが“1”になるタイミング

28.8 SCLの自動Lowホールド機能

28.8.1 送信データ誤送信防止機能

RIICは送信モード時 (ICCR2.TRS ビット=1)、シフトレジスタ (ICDRS レジスタ) が空の状態かつ送信データ (ICDRT レジスタ) が書かれていない場合、以下に示す区間、自動的に SCL0 ラインの Low ホールドを行います。この Low ホールドは送信データの書き込みが行われるまでの期間 Low 区間を延長し、意図しない送信データの誤送信を防止します。

《マスタ送信モード》

- スタートコンディション/リスタートコンディション発行後の Low 区間
- 9クロック目と1クロック目の間の Low 区間

《スレーブ送信モード》

- 9クロック目と1クロック目の間の Low 区間

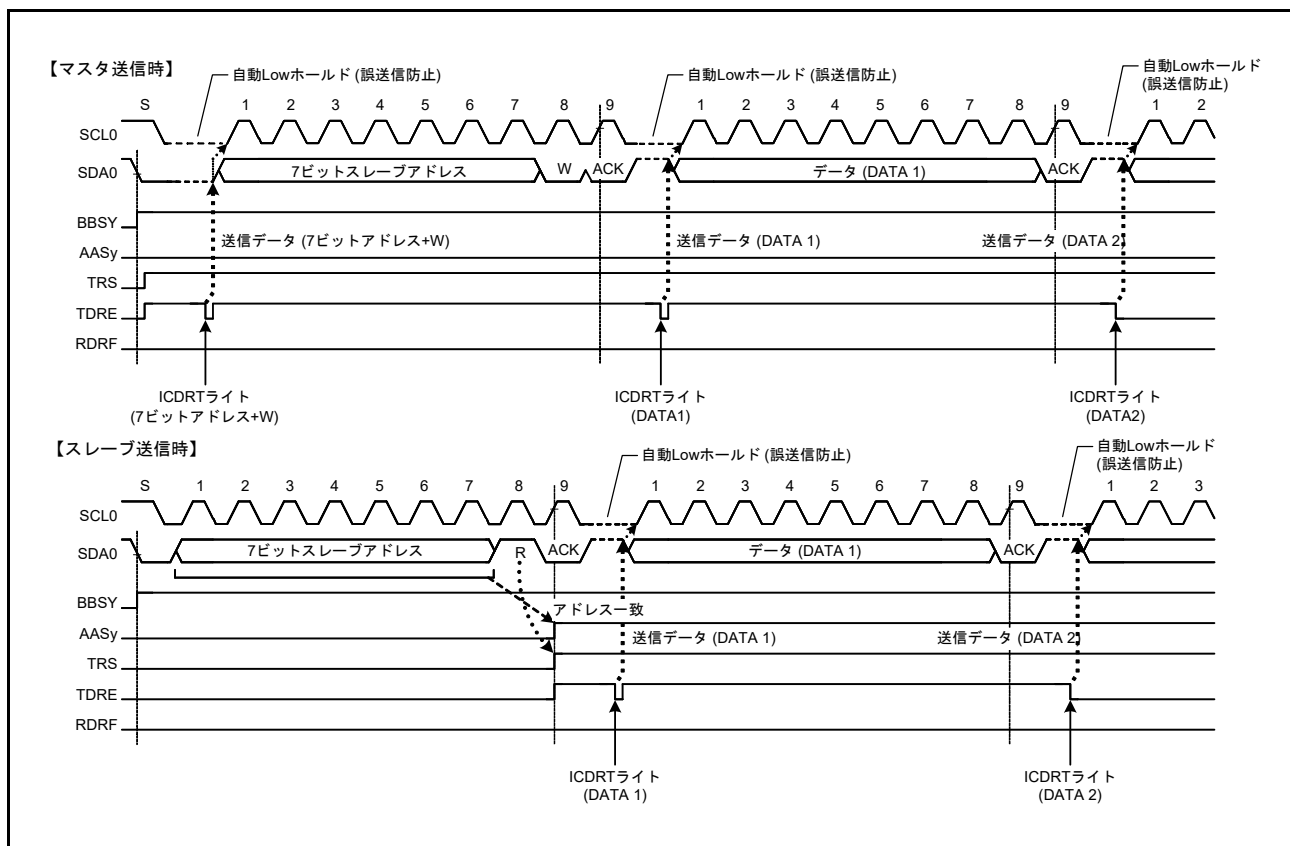


図 28.29 送信モードの自動 Low ホールド動作

28.8.2 NACK 受信転送中断機能

RIICは送信モード時 (ICCR2.TRS ビット = 1) に NACK を受信した場合、転送動作を中断する機能を備えています。この機能は ICFER.NACKE ビットが “1” (転送中断許可) のとき有効で、NACK 受信時にすでに次の送信データが書き込まれていた場合 (ICSR2.TDRE フラグ = 0 の状態)、9 個目の SCL の立ち上がり時の次のデータ送信動作を自動的に中断します。これにより次送信データの MSB が “0” のときの SDA0 ライン Low 出力固定を防止することができます。

なお NACK 受信転送中断機能で転送動作が中断された場合 (ICSR2.NACKF フラグ = 1)、以後の送信動作および受信動作は行いません。動作を再開するには NACKF フラグを “0” にしてください。マスタ送信モードの場合には、リスタートコンディション発行後に NACKF フラグを “0” にして動作をやり直すか、ストップコンディション発行後に NACKF フラグを “0” にし、その後スタートコンディションの発行からやり直してください。

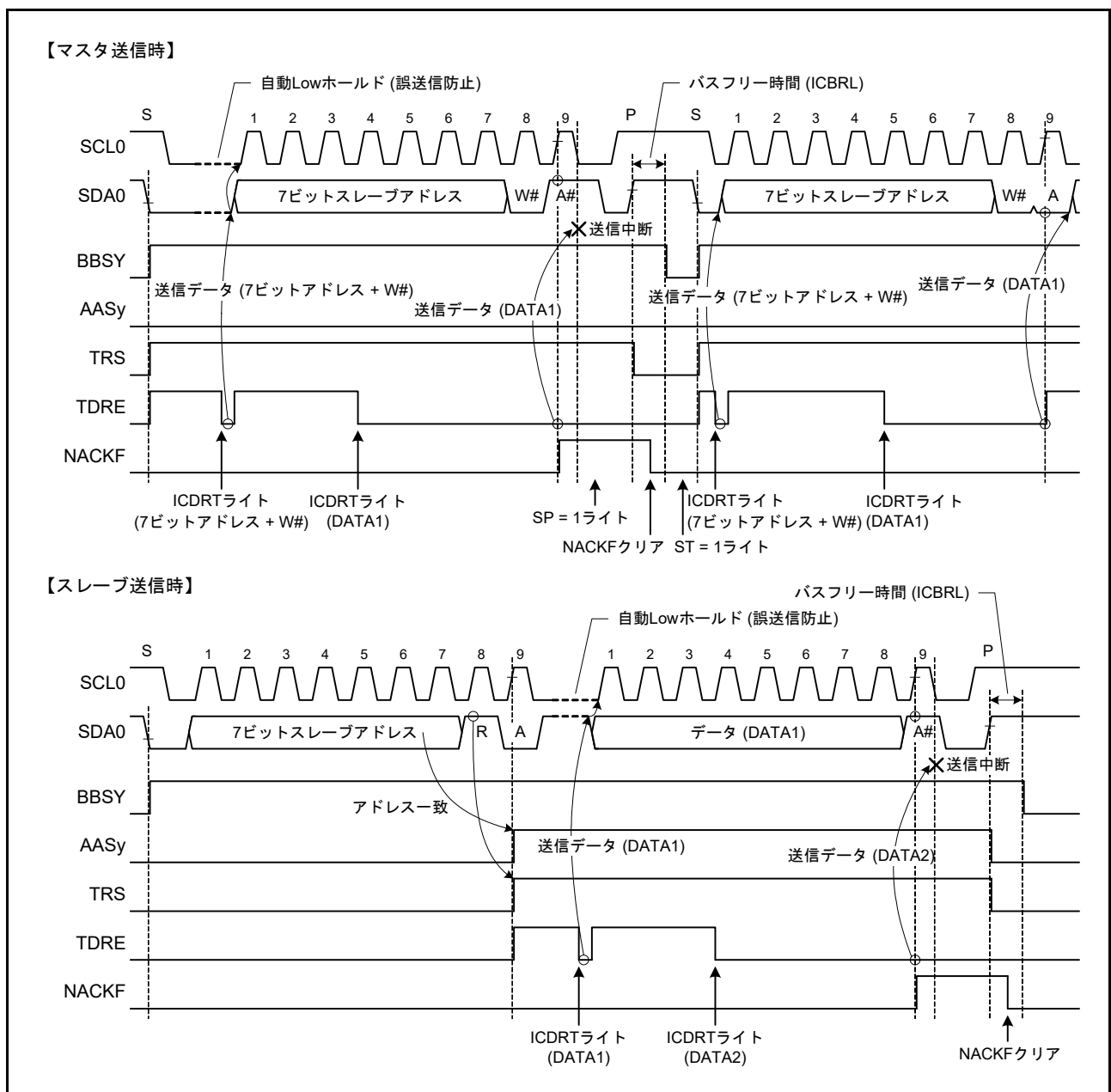


図 28.30 NACK 受信時の転送中断動作 (NACKE ビット = 1 のとき)

28.8.3 受信データ取りこぼし防止機能

RIICは受信モード時 (ICCR2.TRS ビット = 0)、受信データフル (ICSR2.RDRF フラグ = 1) の状態で受信データ (ICDRR レジスタ) の読み出しが1転送バイト以上遅れるなどの応答処理遅延が発生した場合、次のデータ受信の1つ手前で自動的に SCL0 ラインの Low ホールドを行い、受信データの取りこぼしを未然に防止します。

この自動 Low ホールドによる取りこぼし防止機能は、最終受信データの読み出し処理が遅れて、その間にストップコンディション後に自スレーブアドレスを指定された場合にも有効で、ストップコンディション後自スレーブアドレスと不一致の場合にはこの Low ホールドは行わないため、他の通信を阻害しません。

また、RIICでは ICMR3.WAIT ビットと RDRFS ビットの組み合わせにより Low ホールドを行う区間を選択することができます。

(1) WAIT ビットによる1バイト受信動作 / 自動 Low ホールド機能

ICMR3.WAIT ビットを“1”にすると、RIICは WAIT ビット機能による1バイト受信動作になります。ICMR3.RDRFS ビットが“0”のとき、RIICは SCL の8クロック目の立ち下がりから9クロック目の立ち下がり期間のアクノリッジビットには自動的に ICMR3.ACKBT ビットの内容が送出され、9クロック目の立ち下がりを検出すると WAIT ビット機能により自動的に SCL0 ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICDRR レジスタの読み出しによって解除されます。そのため1バイトごとの受信動作が可能となります。

なお WAIT ビット機能は、マスタ受信モード時またはスレーブ受信モード時でかつ自スレーブアドレス (ジェネラルコールアドレス、ホストアドレス含む) と一致した以降の受信バイトから有効になります。

(2) RDRFS ビットによる1バイト受信動作 (ACK/NACK 送出制御) / 自動 Low ホールド機能

ICMR3.RDRFS ビットを“1”にすると、RIICは RDRFS ビット機能による1バイト受信動作になります。RDRFS ビットを“1”にすると、受信データフルフラグ (ICSR2.RDRF フラグ) が“1”になるタイミングが8個目の SCL の立ち上がりに変更され、8クロック目の立ち下がりを検出すると自動的に SCL0 ラインを Low にホールドします。この Low ホールドは ICMR3.ACKBT ビットへの書き込みによって解除され、ICDRR レジスタの読み出しでは解除されません。そのため1バイトごとに受信したデータの内容に応じた ACK/NACK 送出の受信動作が可能となります。

なお RDRFS ビット機能は、マスタ受信モード時またはスレーブ受信モード時でかつ自スレーブアドレス (ジェネラルコールアドレス、ホストアドレス含む) と一致した以降の受信バイトから有効になります。

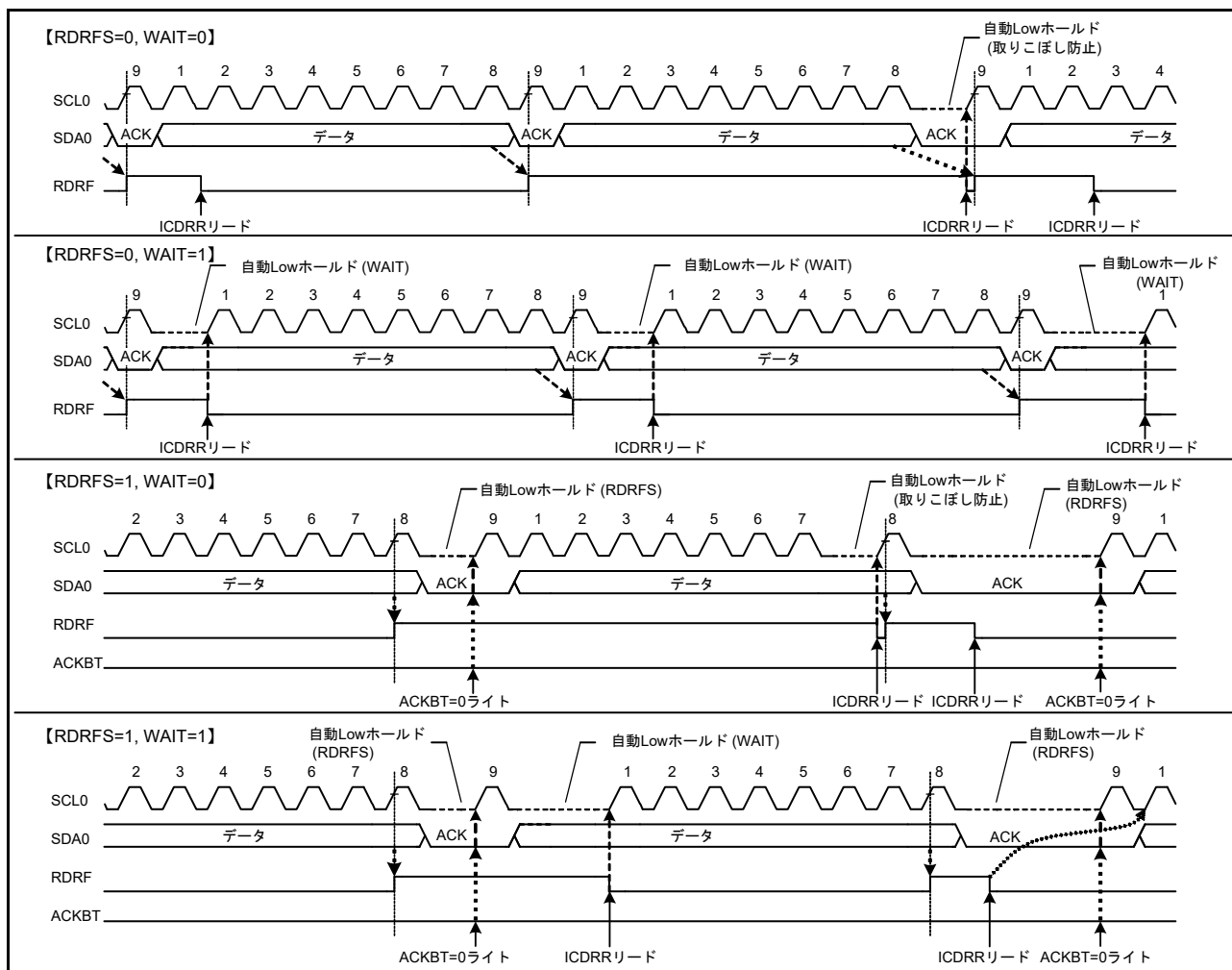


図 28.31 受信モードの自動 Low ホールド動作 (RDRFS、WAIT ビット)

28.9 アービトレーションロスト検出機能

RIICにはI²Cバス仕様で定められている通常のアービトレーションロスト検出機能の他に、スタートコンディションの二重発行防止、NACK送信時のアービトレーションロスト検出やスレーブ送信時におけるアービトレーションロスト検出機能も備えています。

28.9.1 マスタアービトレーションロスト検出機能 (MALE ビット)

RIICはスタートコンディション発行の際SDA0ラインをLowにしますが、これよりも早く他のマスタデバイスがスタートコンディションを発行してSDA0ラインをLowにした場合、アービトレーションロストを発生させ、他のマスタデバイスの通信を優先します。同様にICCR2.BBSYフラグが“1”(バスビジー)のときにICCR2.STビットを“1”にするとアービトレーションロストが発生し、他のマスタデバイスの通信を優先します。スタートコンディションは生成しません。

またスタートコンディション発行が正常に行われた場合、アドレス送信を含む送信データ(SDA信号)とSDA0ラインに不一致が生じた場合(SDA出力がHigh(SDA0端子はハイインピーダンス)で、SDA0ラインにLowを検出したとき)、アービトレーションロストを発生させます。

マスタアービトレーションロストが発生した場合、RIICはスレーブ受信モードに移行します。このときジェネラルコールアドレスを含むスレーブアドレス一致があった場合にはスレーブ動作を継続します。

なおRIICは、ICFER.MALEビットが“1”(マスタアービトレーションロスト検出許可)の状態以下に示す条件が成立したとき、マスタアービトレーションロストを検出します。

マスタアービトレーションロスト検出条件

- ICCR2.BBSYフラグが“0”の状態(ICCR2.STビットを“1”)にしてスタートコンディションを発行したときに、SDA信号とSDA0ライン上の信号の状態が不一致のとき(スタートコンディション発行エラー)
- ICCR2.BBSYフラグが“1”の状態(ICCR2.STビットを“1”)にしたとき(スタートコンディション二重発行エラー)
- マスタ送信モード時(ICCR2.MST, TRSビット=11b)、アクノリッジを除く送信データ(SDA信号)とSDA0ライン上の信号の状態が不一致のとき

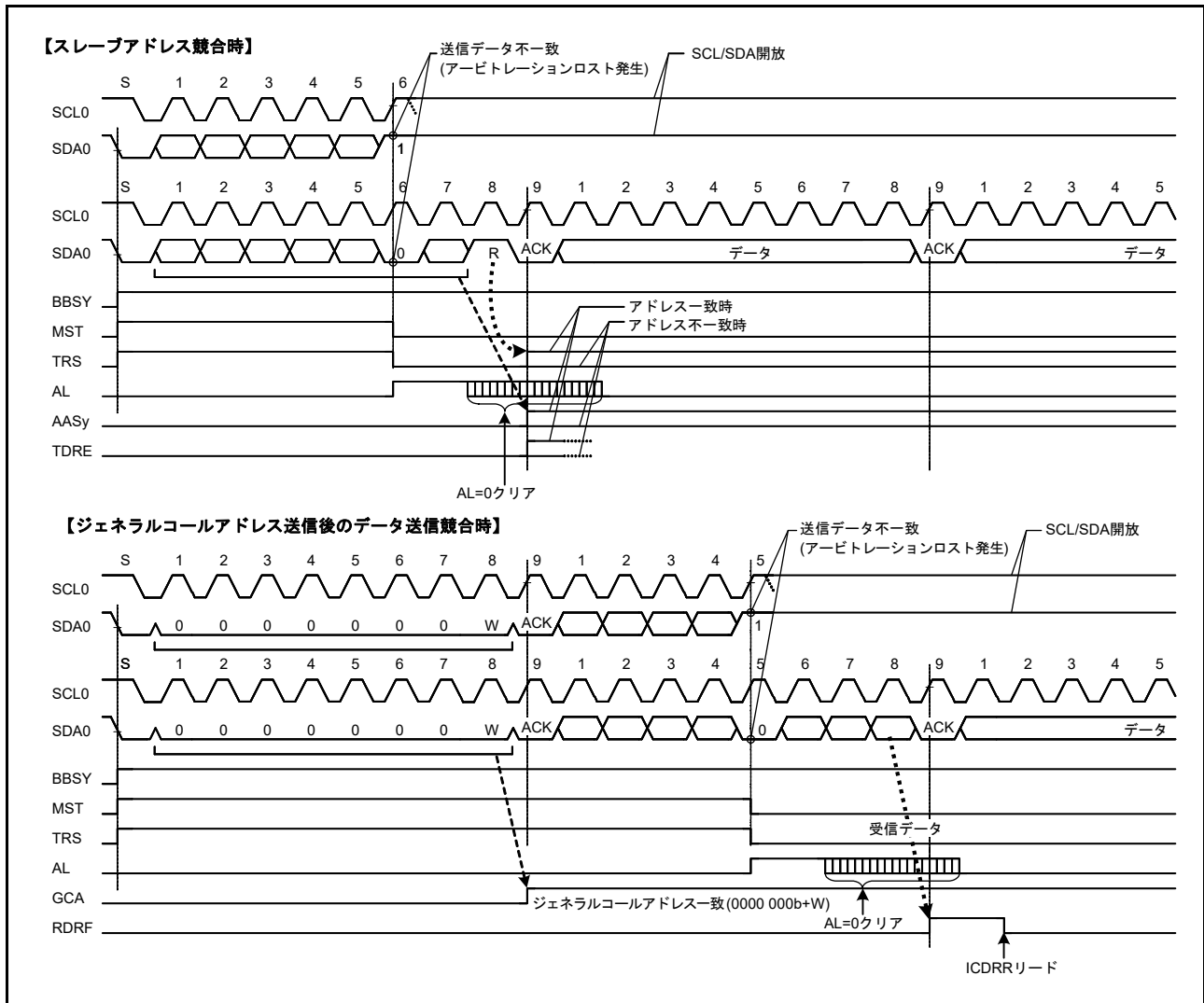


図 28.32 マスタアービトレーションロスト検出動作例 (MALE ビット = 1 のとき)

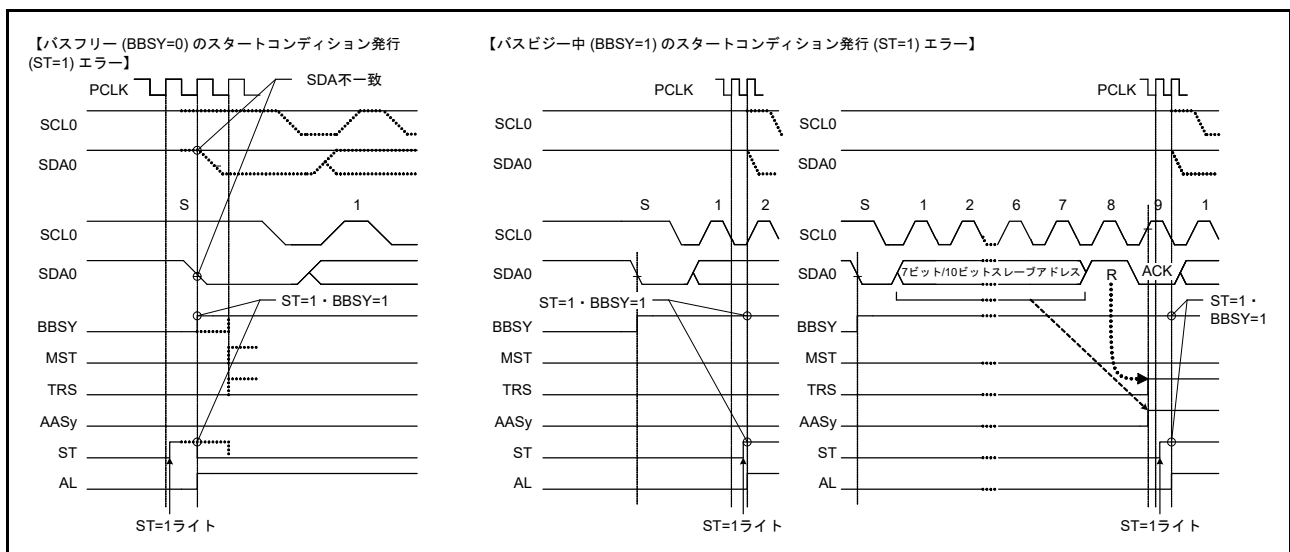


図 28.33 スタートコンディション発行時のアービトレーションロスト (MALE ビット = 1 のとき)

28.9.2 NACK 送信アービトレーションロスト検出機能 (NALE ビット)

RIICは受信モード時でNACK送信時に出力したSDA信号とSDA0ライン上の信号の状態が不一致の場合(SDA出力がHigh(SDA0端子はハイインピーダンス)で、SDA0ラインにLowを検出したとき)、アービトレーションロストを発生させる機能を備えています。NACK送信アービトレーションロストは、主にマルチマスタのシステムにおいて2つ以上のマスタが同時に同一スレーブデバイスからデータを受信する際にNACK送信とACK送信が衝突することで発生します。これは2つ以上のマスタデバイスが1つのスレーブデバイスを介して共通の情報のやり取りする際に起こり得ます。図28.34にNACK送信アービトレーションロスト検出動作例を示します。

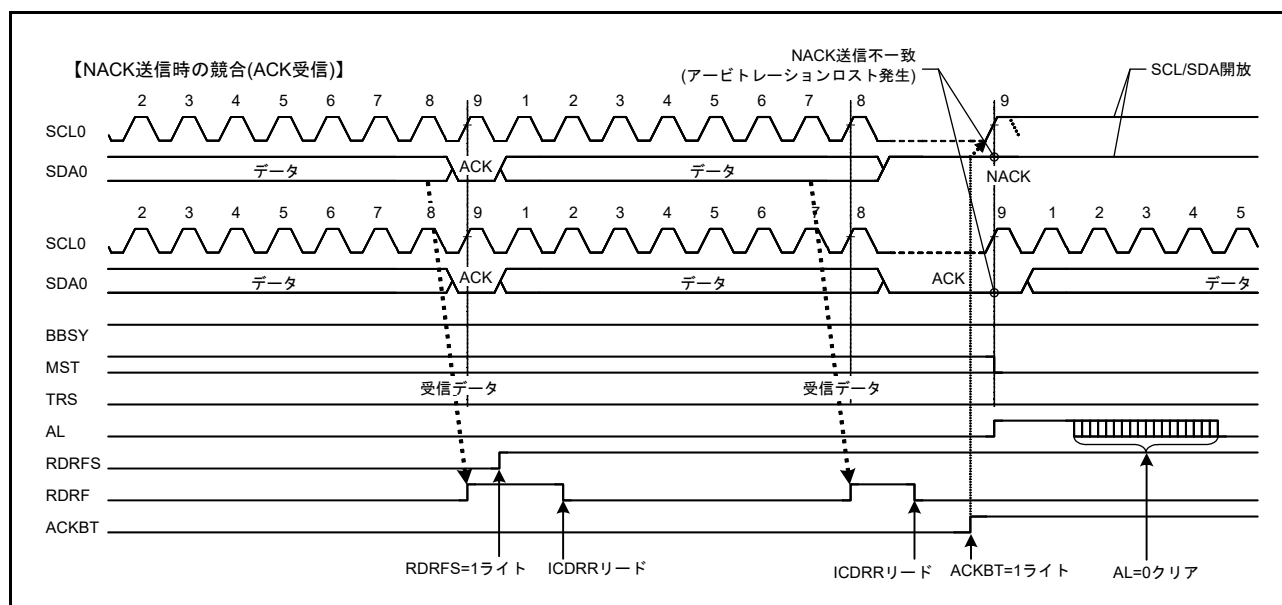


図 28.34 NACK 送信アービトレーションロスト検出動作例 (NALE ビット = 1 のとき)

2つのマスタデバイス(マスタA、マスタB)と1つのスレーブデバイスがバス上に接続されている場合に挙げて説明します。マスタAはスレーブデバイスから2バイト受信、マスタBはスレーブデバイスから4バイト分のデータ受信を行うものとします。

このときマスタAとマスタBが同時にスレーブデバイスをアクセスした場合、スレーブアドレスは同じであるため、マスタA、マスタBともスレーブデバイスアクセス時にアービトレーションロストが発生しません。そのためマスタA、マスタBともどちらもバス権を取得したものと認識して動作します。ここでマスタAは、スレーブデバイスから最終バイトである2バイト目の受信が完了した時点でNACKを送信します。一方マスタBは、スレーブデバイスから必要な4バイト受信に満たないためACK送信を行います。このときマスタAのNACK送信とマスタBのACK送信の衝突が発生します。このような状況が発生した場合、マスタAはマスタBが出したACK送信を検出できないままストップコンディション発行動作を行うため、マスタBのSCL出力と競合し通信を阻害します。

RIICはこのようなNACK送信時にACKを受信した場合、アービトレーションロストを発生させることができます。

NACK送信アービトレーションロストが発生した場合、RIICはスレーブ一致状態を解除してスレーブ受信モードに移行します。これによりストップコンディション発行を未然に防ぎ、バスの通信阻害を防止することが可能です。

またSMBusのARPコマンド処理において、Assign AddressのUDID(Unique Device Identifier)不一致時のNACK送信以降、およびAssign Address確定後のGet UDID(General)のNACK送信以降の余剰処理("FFh"送信処理)を省くことができます。

なお RIIC は、ICFER.NALE ビットが“1”(NACK 送信アービトレーションロスト検出許可)の状態ですべての条件が成立したとき、NACK 送信アービトレーションロストを検出します。

NACK 送信アービトレーションロスト検出条件

- NACK 送信時(ICMR3.ACKBT ビット=1)、出力した SDA 信号と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致のとき (ACK を受信したとき)

28.9.3 スレーブアービトレーションロスト検出機能 (SALE ビット)

RIIC は、スレーブ送信時に送信データ (出力した SDA 信号) と SDA0 ライン上の信号の状態に不一致が生じた場合 (SDA 出力が High (SDA0 端子はハイインピーダンス) で、SDA0 ラインに Low を検出したとき)、アービトレーションロストを発生させる機能を備えています。このアービトレーションロスト機能は、主に SMBus の UDID (Unique Device Identifier) 送信時に使用します。

スレーブアービトレーションロストが発生した場合、RIIC はスレーブ一致状態を解除してスレーブ受信モードに移行します。

この機能により SMBus の UDID 送信時のデータ衝突検出およびデータ衝突以降の余剰処理 (“FFh” 送信処理) を省くことができます。

なお RIIC は、ICFER.SALE ビットが“1”(スレーブアービトレーションロスト検出許可)の状態ですべての条件が成立したとき、スレーブアービトレーションロストを検出します。

スレーブアービトレーションロスト検出条件

- スレーブ送信モード時(ICCR2.MST, TRS ビット=01b)、アクノリッジを除く送信データ (出力した SDA 信号) と SDA0 ライン上の信号の状態が不一致のとき

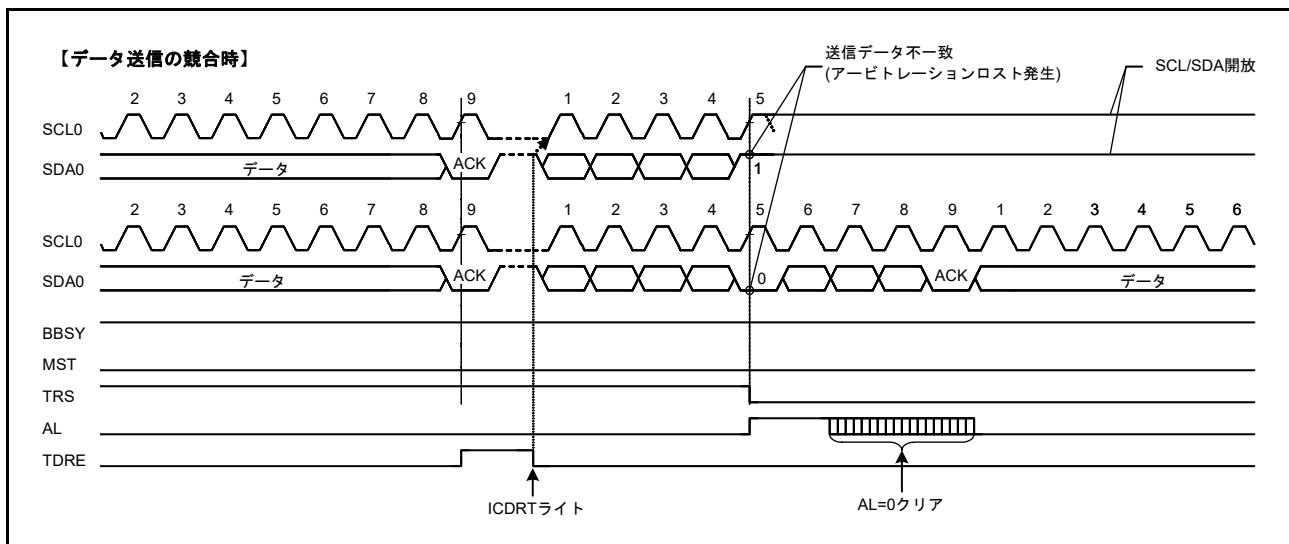


図 28.35 スレーブアービトレーションロスト検出動作例 (SALE ビット = 1 のとき)

28.10 スタートコンディション、リスタートコンディション、ストップコンディション発行機能

28.10.1 スタートコンディション発行動作

RIICは、ICCR2.STビットによりスタートコンディションの発行を行います。

STビットを“1”にすると、スタートコンディション発行の要求が行われICCR2.BBSYフラグが“0”(バスフリー)の状態のときスタートコンディションの発行を行います。スタートコンディションが正常に発行された場合、RIICは自動的にマスタ送信モードに移行します。

スタートコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

スタートコンディション発行動作

- (1) SDA0ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- (2) ICBRHレジスタで設定した時間スタートコンディションのホールド時間を確保
- (3) SCL0ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- (4) SCL0ラインのLowを検出後、ICBRLレジスタで設定した時間SCL0ラインのLow幅を確保

28.10.2 リスタートコンディション発行動作

RIICはICCR2.RSビットによりリスタートコンディションの発行を行います。

RSビットを“1”にするとリスタートコンディション発行の要求が行われ、RIICはICCR2.BBSYフラグが“1”(バスビジー)の状態かつICCR2.MSTビットが“1”(マスタモード)のとき、リスタートコンディションの発行を行います。

リスタートコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

リスタートコンディション発行動作

- (1) SDA0ラインを開放
- (2) ICBRLレジスタで設定した時間SCL0ラインのLow幅を確保
- (3) SCL0ラインを開放 (Low から High に遷移)
- (4) SCL0ラインのHigh検出後、ICBRLレジスタで設定した時間リスタートコンディションのセットアップ時間を確保
- (5) SDA0ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- (6) ICBRHレジスタで設定した時間リスタートコンディションのホールド時間を確保
- (7) SCL0ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- (8) SCL0ラインのLowを検出後、ICBRLレジスタで設定した時間SCL0ラインのLow幅を確保

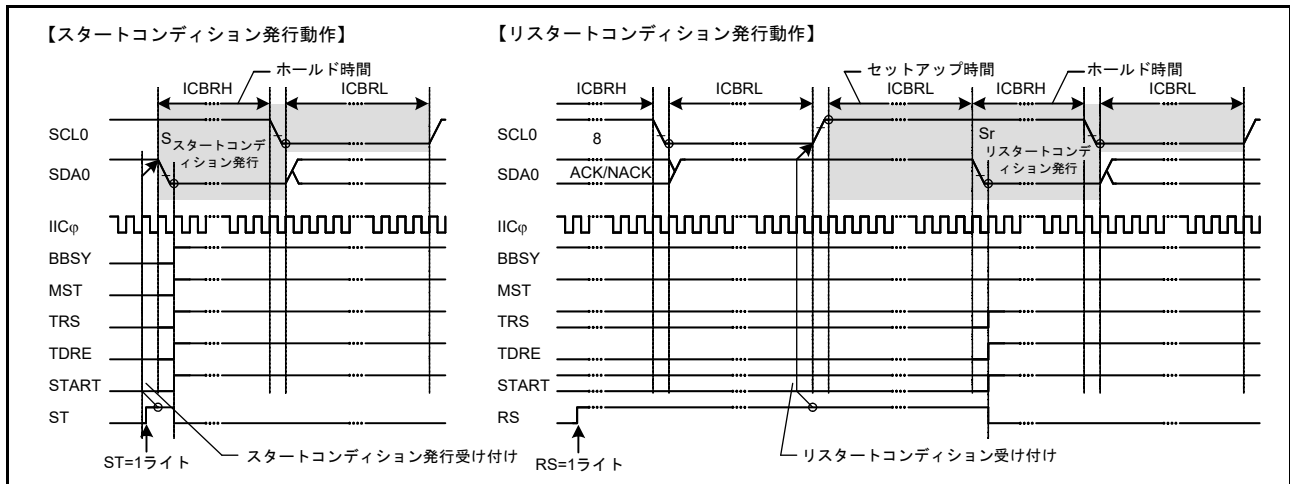


図 28.36 スタートコンディション/リスタートコンディション発行動作タイミング (ST、RS ビット)

28.10.3 ストップコンディション発行動作

RIIC は ICCR2.SP ビットによりストップコンディションの発行を行います。

SP ビットを“1”にするとストップコンディション発行の要求が行われ、RIIC は ICCR2.BBSY フラグが“1” (バスビジー) の状態であつ ICCR2.MST ビットが“1” (マスタモード) のとき、ストップコンディションの発行を行います。

ストップコンディションの発行は、以下のシーケンスに従って行われます。

ストップコンディション発行動作

- (1) SDA0 ラインを立ち下げ (High から Low に遷移)
- (2) ICBRL レジスタで設定した時間 SCL0 ラインの Low 幅を確保
- (3) SCL0 ラインを開放 (Low から High に遷移)
- (4) SCL0 ラインの High 検出後、ICBRH レジスタで設定した時間ストップコンディションのセットアップ時間を確保
- (5) SDA0 ラインを開放 (Low から High に遷移)
- (6) ICBRL レジスタで設定した時間、バスフリー時間を確保
- (7) BBSY フラグクリア (バス権解放)

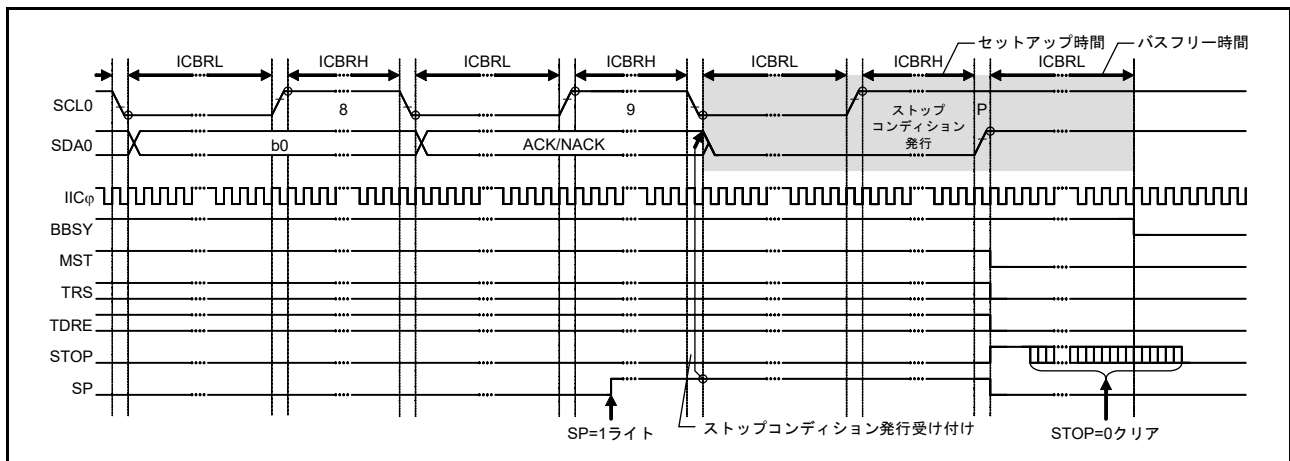


図 28.37 ストップコンディション発行動作タイミング (SP ビット)

28.11 バスハングアップ

I²Cバスでは主にノイズ等の影響により、マスタデバイスとスレーブデバイス間で同期ずれが発生すると、SCL0ラインやSDA0ラインが固定されたままバスハングアップを起こす場合があります。

RIICは、このバスハングアップ状態に対しSCL0ラインを監視することで、バスハングアップ状態を検出できるタイムアウト検出機能や、同期ずれによるバスハングアップ状態を解除するためのSCL追加出力機能およびRIICリセット機能、内部リセット機能を備えています。

また、ICCR1.SCLO, SDAO, SCLI, SDAIビットを確認することで、RIIC自身がSCL0ライン/SDA0ラインにLow出力しているか、あるいは通信デバイス側がLow出力しているかどうかを確認することが可能です。

28.11.1 タイムアウト検出機能

RIICにはSCL0ラインに一定時間以上変化が見られない状態を検出するタイムアウト検出機能を備えています。RIICは、SCL0ラインがLowまたはHighに固定されたまま一定時間以上経過したことを検知し、バスの異常状態を検出することができます。

タイムアウト検出機能はSCL0ラインの状態を監視し、LowまたはHighの時間を内部カウンタでカウントします。タイムアウト検出機能はSCL0ラインに変化(立ち上がり/立ち下がり)があった場合、内部カウンタをリセットし、変化がない場合カウント動作を続けます。SCL0ラインに変化がないまま内部カウンタがオーバフローすると、RIICはタイムアウトを検出しバスハングアップを知らせることができます。

このタイムアウト検出機能はICFER.TMOEビットが“1”のとき有効で、以下の期間にSCL0ラインのLow固定またはHigh固定のバスハングアップを検出します。

- マスタモード (ICCR2.MST ビット = 1) で、バスビジー (ICCR2.BBSY フラグ = 1)
- スレーブモード (ICCR2.MST ビット = 0) で、自スレーブアドレス一致 (ICSR1 レジスタ ≠ 00h) かつバスビジー (ICCR2.BBSY フラグ = 1)
- スタートコンディション発行要求中 (ICCR2.ST ビット = 1) で、バスフリー (ICCR2.BBSY フラグ = 0)

タイムアウト検出機能の内部カウンタは、ICMR1.CKS[2:0]ビットで設定された内部基準クロック (IICφ) をカウントソースとして動作し、ロングモード選択時 (ICMR2.TMOS ビット = 0) 16ビットカウンタ、ショートモード選択時 (TMOS ビット = 1) 14ビットカウンタとなります。

また内部カウンタのカウント動作は、SCL0ラインがLowのときカウントさせるか、Highのときカウントさせるか、あるいはその両方をカウントさせるかをICMR2.TMOH, TMOLビットの設定により選択することが可能です。なおTMOH, TMOLビットの両方を“0”にした場合は、内部カウント動作を行いません。

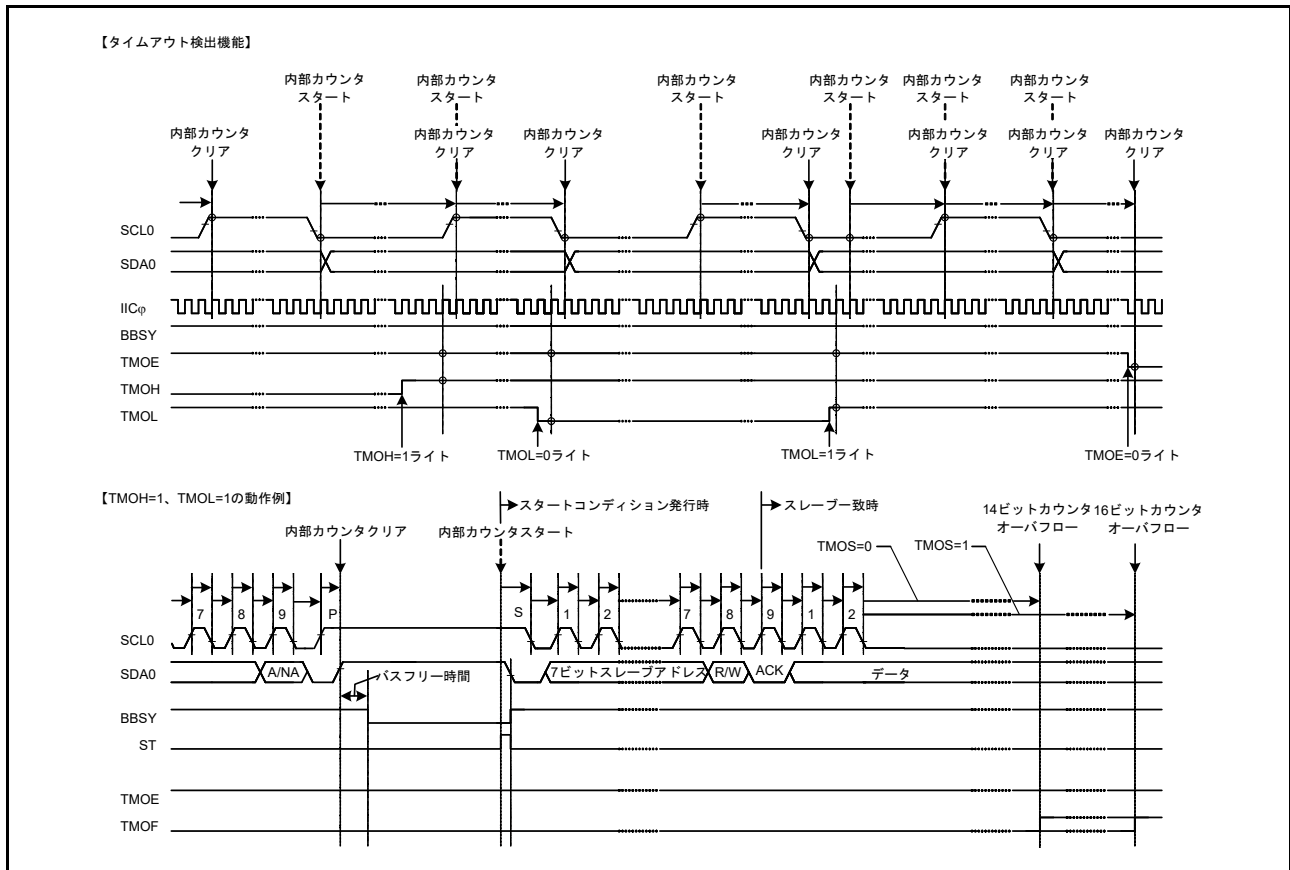


図 28.38 タイムアウト検出機能

28.11.2 SCL 追加出力機能

RIICにはマスタモード時、スレーブデバイスとの同期ずれによるスレーブデバイスのSDA0ラインLow固定状態を開放するためのSCL追加出力機能を備えています。

SCL追加出力機能は、SCLを1クロックずつ追加で出力する機能で、主にマスタモード時にスレーブデバイスがSDA0ラインをLow固定状態のままストップコンディションを発行できない場合に、スレーブデバイスのSDA0ライン固定状態を開放させることに使用します。通常は使用しないでください。正常な通信動作中に使用すると通信異常の原因になります。

ICCR1.CLOビットを“1”にすると、ICMR1.CKS[2:0]ビット、ICBRH、ICBRLレジスタで設定された周波数のクロックがSCL0端子から1クロック分追加で出力されます。1クロック分の追加クロック出力が終了するとCLOビットは自動的に“0”になります。このときICCR2.BBSYフラグが“1”であるとSCL0端子はLowになり、BBSYフラグが“0”であるとSCL0端子はHighになります。CLOビットが“0”であることを確認した後“1”を書くことにより、追加クロックを連続して出力することができます。

RIICがマスタモード時にノイズ等の影響によりスレーブデバイスとの同期ずれが原因でスレーブデバイスがSDA0ラインをLow固定状態のままストップコンディションを発行できないバスハングアップのとき、SCL追加出力機能を使用して追加クロックを1クロックずつ出力することでスレーブデバイスのSDA0ラインのLow固定状態を開放させ、バス状態を復帰させることができます。このスレーブデバイスのSDA0ライン開放はICCR1.SDAIビットをチェックすることで確認することができます。スレーブデバイスのSDA0ライン開放を確認した後、通信を終了させるため再度ストップコンディション発行を行ってください。

なお、この機能を使用する場合はICFER.MALEビットを“0”(マスタアービトラクションロスト検出禁止)にして使用してください。

ICCR1.CLO ビットの使用条件

- バスフリー状態 (ICCR2.BBSY フラグ=0) またはマスタモード (ICCR2.MST ビット=1、BBSY フラグ=1 の状態) のとき
- 通信デバイスが SCL0 ラインを Low ホールドにしていない状態のとき

図 28.39 に SCL 追加出力機能 (CLO ビット) を示します。

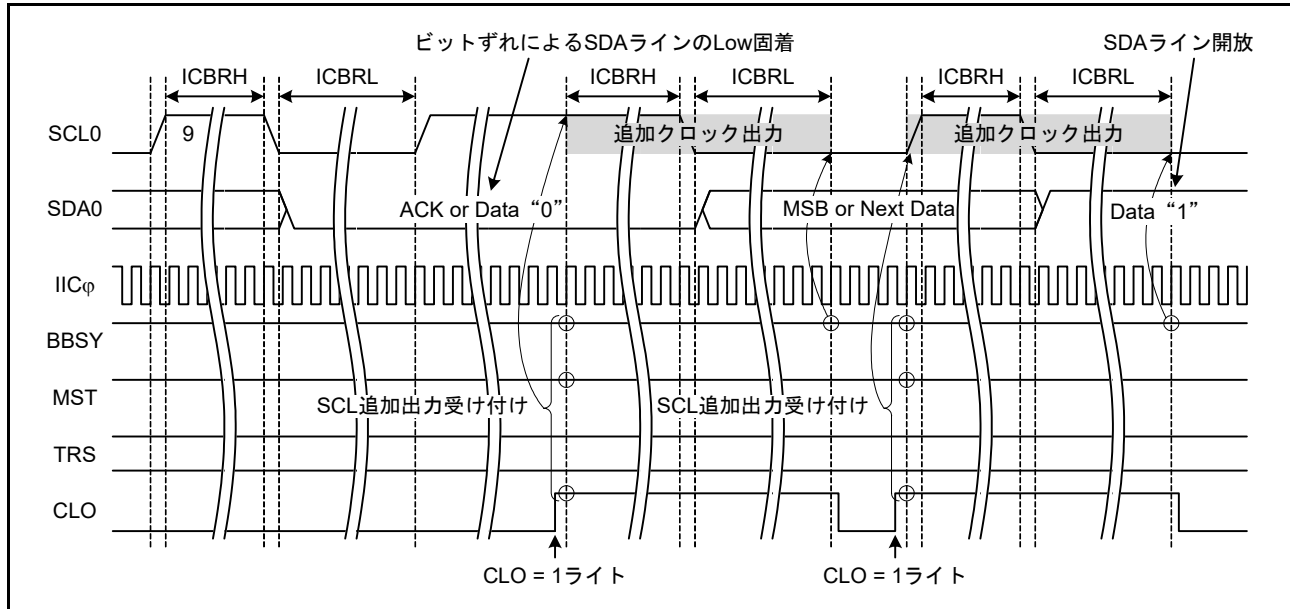


図 28.39 SCL 追加出力機能 (CLO ビット)

28.11.3 RIIC リセット、内部リセット

RIIC は RIIC モジュールをリセットするための機能を備えています。リセットには 2 種類のリセットがあり、1 つは ICCR2.BBSY フラグを含めた全レジスタの初期化を行う RIIC リセット、もう 1 つは各種設定値を保持したままスレーブアドレス一致状態の解除や内部カウンタの初期化などを行う内部リセットです。

リセット後は ICCR1.IICRST ビットを “0” にしてください。

いずれのリセットも SCL0 端子 / SDA0 端子の出力状態を解除しハイインピーダンスに戻すため、バスハンダアップ状態の解除にも利用できます。

なおスレーブ動作時のリセットは、マスタデバイスとの同期ずれを引き起こす原因になりますので使用は極力避けてください。また RIIC リセット (ICCR1.ICE、IICRST ビット = 01b) のリセット中はスタートコンディションなどのバス状態を監視できませんので注意してください。

RIIC リセット、内部リセットの詳細については、「28.14 リセット時 / コンディション検出時のレジスタおよび機能の初期化」を参照してください。

28.12 SMBus 動作

RIIC は SMBus (Ver.2.0) に準拠した通信動作が可能です。SMBus 通信を行うには、ICMR3.SMBS ビットを“1”にしてください。転送速度は SMBus 仕様の 10 kbps ~ 100 kbps の範囲に収まるよう ICMR1.CKS[2:0] ビット、ICBRH、ICBRL レジスタを設定し、データホールド時間：300 ns (min) の仕様を守るよう ICMR2.DLCS ビットおよび ICMR2.SDDL[2:0] ビットの値を決定してください。RIIC をスレーブデバイスからの動作で使用する場合には、転送速度の設定は不要ですが、ICBRL はデータセットアップ時間 (250 ns) 以上の値を設定してください。

なお SMBus デバイスデフォルトアドレス (1100 001b) はスレーブアドレスレジスタ L0 ~ L2 (SARL0、SARL1、SARL2) のいずれか 1 本を使用し、該当する SARUy.FS ビット (y=0 ~ 2) (7 ビット /10 ビットアドレスフォーマット選択ビット) を“0” (7 ビットアドレスフォーマット) を選択してください。

また、UDID (Unique Device Identifier) 送信時には、ICFER.SALE ビットを“1”にしてスレーブアービトレーションロスト検出機能を有効にしてください。

28.12.1 SMBus タイムアウト測定

(1) スレーブデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信では、スレーブデバイスは以下に示す区間 (タイムアウト間隔： $t_{\text{LOW:SEXT}}$) を計測する必要があります。

- スタートコンディションからストップコンディション

スレーブデバイスでタイムアウト測定を行う場合、RIIC のスタートコンディション検出割り込み (STI)、ストップコンディション検出割り込み (SPI) を利用してスタートコンディション検出からストップコンディション検出までの時間を MTU または TMR タイマを使用してその区間を計測することで行います。このタイムアウト測定時間は SMBus 仕様のクロック Low の累積時間 (スレーブデバイス) $t_{\text{LOW:SEXT}} : 25 \text{ ms (max)}$ 以内である必要があります。

MTU または TMR で計測した時間が、SMBus 仕様のクロック Low 検出のタイムアウト $t_{\text{TIMEOUT}} : 25 \text{ ms (min)}$ を超えた場合、スレーブデバイスはバス解放動作を行う必要があります。スレーブデバイスのバス解放動作を行うには ICCR1.IICRST ビットに“1”を書き、RIIC の内部リセットを行ってください。内部リセットを行うと RIIC は SCL0 端子 /SDA0 端子のバス駆動を中止し、端子をハイインピーダンスにすることができます。これによりバス解放を行うことができます。

(2) マスタデバイスのタイムアウト測定

SMBus 通信のマスタデバイスは以下に示す区間 (タイムアウト間隔： $t_{\text{LOW:MEXT}}$) を計測する必要があります。

- スタートコンディションからアクノリッジビット
- アクノリッジビットから次のアクノリッジビット
- アクノリッジビットからストップコンディション

マスタデバイスでタイムアウト測定を行う場合、RIIC のスタートコンディション検出割り込み (STI)、ストップコンディション検出割り込み (SPI)、および送信終了割り込み (TEI) または受信データフル割り込み (RXI) を利用して、それぞれの区間を MTU または TMR タイマを使用して各区間の時間を計測することで行います。このタイムアウト測定時間は SMBus 仕様のクロック Low の累積時間 (マスタデバイス) $t_{\text{LOW:MEXT}} : 10 \text{ ms (max)}$ 以内である必要があります。スタートコンディションからストップコンディションまでのすべての $t_{\text{LOW:MEXT}}$ を加算した結果が $t_{\text{LOW:SEXT}} : 25 \text{ ms (max)}$ 以内である必要があります。

ACK 受信タイミング (SCL の 9 クロック目の立ち上がり) は、マスタ送信モード時 (マスタトランスミッタ) は ICSR2.TEND フラグ、マスタ受信モード時 (マスタレシーバ) は ICSR2.RDRF フラグで見ることがあります。そのためマスタ送信時は 1 バイト送信動作を行い、マスタ受信時は最終バイト受信の 1 つ手前までは ICMR3.RDRFS ビットを “0” で使用してください。RDRFS ビットが “0” のとき、RDRF フラグは SCL の 9 クロック目の立ち上がりで “1” になります。

MTU または TMR で計測した時間が、SMBus 仕様のクロック Low の累積時間 (マスタデバイス) $t_{LOW:MEXT} : 10 \text{ ms (max)}$ または各計測時間の加算した結果が、SMBus 仕様のクロック Low 検出のタイムアウト $t_{TIMEOUT} : 25 \text{ ms (min)}$ を超えた場合、マスタデバイスはトランザクションの中止動作を行う必要があります。マスタ送信時には即座に送信動作 (ICDRT レジスタへの書き込み動作) を中止してください。マスタデバイスのトランザクション中止動作はストップコンディションを発行することで行われます。

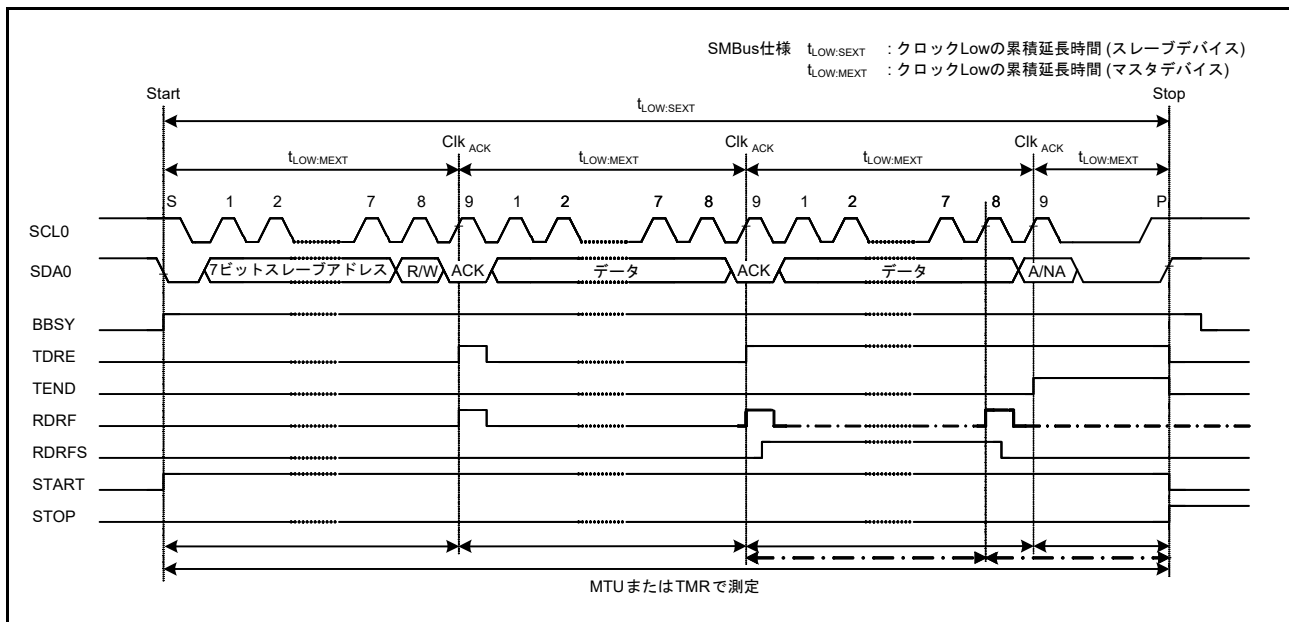


図 28.40 SMBus タイムアウト測定

28.12.2 パケットエラーコード (PEC)

本 MCU は CRC 演算器を内蔵しています。RIIC の通信動作に CRC 演算器を利用することで SMBus のパケットエラーコード (PEC) の送信または受信データチェックを行うことができます。CRC 演算器の多項式については「31. CRC 演算器 (CRC)」を参照してください。

マスタ送信の PEC データ生成は、全送信データを CRC 演算器の CRC データ入力レジスタ (CRCDIR) に書くことで生成することができます。

マスタ受信の PEC データチェックは、全受信データを CRC 演算器の CRCDIR レジスタに書き、そこで得られた CRC データ出力レジスタ (CRCDOR) の値と受信した PEC データを比較することで行います。

なお PEC コードチェックにおいて最終バイト受信時に一致 / 不一致に応じて ACK/NACK 送出を行う場合には、最終バイト受信の SCL の 8 クロック目の立ち上がりまでに ICMR3.RDRFS ビットを “1” にし、8 クロック目の立ち下がり SCL0 ラインを Low にホールドしてください。

28.12.3 SMBus ホスト通知プロトコル (Notify ARP master コマンド)

SMBus ではスレーブデバイスが SMBus ホスト (または ARP マスタ) に対し、一時的にマスタデバイスとなり自スレーブアドレスを通知 (または要求) することができます。

本 MCU を SMBus ホスト (または ARP マスタ) として動作させる場合、スレーブデバイスからのホストアドレス (0001 000b) 送信をスレーブアドレスとして検出する必要があり、RIIC ではこのホストアドレスの検出機能を備えています。ホストアドレスをスレーブアドレスとして検出する場合は、ICMR3.SMBS ビットを“1”、ICSER.HOAE ビットを“1”にしてください。なおホストアドレス検出後の動作は、通常のスレーブ動作と同じです。

28.13 割り込み要因

RIICの割り込み要因には、通信エラー/通信イベント(アービトレーションロスト検出、NACK検出、タイムアウト検出、スタートコンディション検出、ストップコンディション検出)、受信データフル、送信データエンプティ、送信終了の4種類があります。

表28.6に割り込み一覧を示します。受信データフルおよび送信データエンプティ割り込み要求により、DTCを起動してデータ転送を行うことができます。

表28.6 割り込み要因

名称	割り込み要因	割り込みフラグ	DTCの起動	割り込み条件
EEI	通信エラー/通信イベント	AL	不可能	AL = 1かつALIE = 1
		NACKF		NACKF = 1かつNAKIE = 1
		TMOF		TMOF = 1かつTMOIE = 1
		START		START = 1かつSTIE = 1
		STOP		STOP = 1かつSPIE = 1
RXI(注2)	受信データフル	RDRF	可能	RDRF = 1かつRIE = 1
TXI(注1)	送信データエンプティ	TDRE	可能	TDRE = 1かつTIE = 1
TEI(注3)	送信終了	TEND	不可能	TEND = 1かつTEIE = 1

注. CPUから周辺モジュールへの書き込みと命令と、実際にモジュールに書き込まれるタイミングには、遅延があります。割り込みフラグをクリアまたは割り込み要求をマスクした場合は再度フラグを読み、クリアまたはマスクビット書き込みの完了を確認した後に割り込み処理から復帰させてください。モジュールへの書き込み完了を確認せずに割り込み処理から復帰させた場合、再度同一の割り込みが発生する可能性があります。

注1. TXI割り込みはエッジ割り込みのためクリアする必要はありません。またTXI割り込みの条件となるICSR2.TDREフラグは、ICDRTレジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出(ICSR2.STOPフラグ=1)で自動的に“0”になります。

注2. RXI割り込みはエッジ割り込みのためクリアする必要はありません。またRXI割り込みの条件となるICSR2.RDRFフラグは、ICDRRレジスタの読み出しで自動的に“0”になります。

注3. TEI割り込みを使用する場合、TEI割り込み処理の中でICSR2.TENDフラグをクリアしてください。なおICSR2.TENDフラグは、ICDRTレジスタへの送信データの書き込み、あるいはストップコンディションの検出(ICSR2.STOPフラグ=1)で自動的に“0”になります。

割り込み処理の中でそれぞれのフラグをクリアまたは割り込み要求をマスクしてください。

28.13.1 TXI 割り込みおよび RXI 割り込みバッファ動作

TXI 割り込みおよび RXI 割り込みは、TXI 割り込みおよび RXI 割り込みに対応した ICURn.IRn フラグが“1”のときに割り込み発生条件が整った場合、ICU に対して割り込み要求を出力せず内部で保持します(内部で保持できる容量は、1 要因ごとに 1 要求までです)。

IR フラグが“0”になると、ICU に対して保持していた割り込み要求を出力します。通常の使用状態では、内部で保持している割り込み要求は自動的にクリアされます。

また、内部で保持している割り込み要求は、ICIER レジスタの対応する割り込み許可ビットを“0”にすることでクリアが可能です。

28.14 リセット時/コンディション検出時のレジスタおよび機能の初期化

RIICはMCUリセット、RIICリセットおよび内部リセットによってリセットできます。表28.7にリセット時/コンディション検出時のレジスタおよび機能のリセット状況を示します。

表28.7 リセット時/コンディション検出時のレジスタおよび機能のリセット状況

		MCU リセット	RIICリセット (ICEビット=0、 IICRSTビット=1)	内部リセット (ICEビット=1、 IICRSTビット=1)	スタートコンディション/ リスタートコンディション 検出	ストップコンディション 検出
ICCR1	SDAO, SCLO	リセット	リセット	リセット	保持	保持
	IICRST, ICE		保持	保持		
	その他		リセット			
ICCR2	ST, RS	リセット	リセット	リセット	リセット	保持
	SP				(注1)	リセット
	TRS					
	MST					
	BBSY					
ICMR1	BC[2:0]	リセット	リセット	リセット	リセット	保持
	その他			保持	保持	
ICMR2		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICMR3	ACKBT	リセット	リセット	保持	保持	リセット
	その他					保持
ICFER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICSER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICIER		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICSR1		リセット	リセット	リセット	保持	リセット
ICSR2	START	リセット	リセット	リセット	"1"になる	リセット
	STOP				保持	"1"になる
	TEND				(注1)	リセット
	TDRE					
	その他					
SARL0, SARL1, SARL2, SARU0, SARU1, SARU2		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICBRH, ICBRL		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRT		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRR		リセット	リセット	保持	保持	保持
ICDRS		リセット	リセット	リセット	保持	保持
タイムアウト検出機能		リセット	リセット	リセット	動作	動作
バスフリー時間計測		リセット	リセット	動作	動作	動作

注1. リセットされません。条件に応じて"0"または"1"になります。

28.15 イベントリンク機能 (出力)

RIIC0 は次の要因が発生すると、イベントリンクコントローラ (ELC) に対してイベント出力を行います。

- 通信エラー / 通信イベント
- 受信データフル
- 送信データエンプティ
- 送信終了

28.15.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

RIIC の割り込みには、通信エラー / 通信イベント (アービトレーションロスト検出、NACK 検出、タイムアウト検出、スタートコンディション検出、ストップコンディション検出)、受信データフル、送信データエンプティ、送信終了の 4 種類があり、それぞれに割り込み許可 / 禁止を制御する許可ビットがあります。割り込み要因が発生すると割り込み許可ビットが許可の場合に ICU に対して割り込み要求信号を出力します。

これに対してイベント信号は、割り込み許可ビットに依存せず、割り込み要因が発生すると出力され、ELC を介して他のモジュールに伝達されます。

割り込み要因については、表 28.6 を参照してください。

28.16 使用上の注意事項

28.16.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) により、モジュールストップ状態への遷移/解除を行うことができます。初期値では RIIC はモジュールストップ状態です。モジュールストップ状態を解除することにより、RIIC のレジスタへのアクセスが可能になります。

モジュールストップコントロールレジスタ B の詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

28.16.2 通信の開始に関する注意事項

通信開始 (ICCR1.ICE ビット = 1) 時点で RIIC の割り込みに対応した IR フラグが “1” のときは、動作許可前に下記の手順で割り込み要求をクリアしてください。IR フラグが “1” で通信を開始 (ICCR1.ICE ビット = 1) すると、通信開始後の割り込み要求が内部で保持されるため、IR フラグが予期しない挙動となる可能性があります。

- (1) ICCR1.ICE ビットが “0” であることを確認
- (2) 対応する周辺側の割り込み許可ビット (ICIER.TIE など) を “0” にする
- (3) 対応する周辺側の割り込み許可ビット (ICIER.TIE など) を読み出し、“0” を確認
- (4) IR フラグを “0” にする

29. CANモジュール (RSCAN)

29.1 概要

ISO 11898-1 規格に準拠した CAN (Controller Area Network) プロトコルコントローラを 1 チャンネル内蔵した CAN モジュールを搭載しています。表 29.1 に CAN モジュールの仕様、図 29.1 に CAN モジュールブロック図、表 29.2 に CAN モジュールの入出力端子を示します。

なお、本章では次の変数を使用してレジスタなどの数を表しています。

- j ($j=0 \sim 15$) : 受信ルール登録レジスタ (GAFLIDL j , GAFLIDH j , GAFLML j , GAFLMH j , GAFLPL j , GAFLPH j) の番号
- m ($m=0, 1$) : 受信 FIFO バッファ番号
- n ($n=0 \sim 15$) : 受信バッファ番号
- p ($p=0 \sim 3$) : 送信バッファ番号
- r ($r=0 \sim 127$) : RAM テストレジスタ (RPGACCr) の番号

表 29.1 CANモジュールの仕様 (1/2)

項目	仕様
チャンネル数	1
プロトコル	ISO 11898-1規格準拠
通信速度	<ul style="list-style-type: none"> • 最大1Mbps $\text{通信速度(CANビットタイムクロック)} = \frac{1}{\text{CANビットタイム}}$ $\text{CANビットタイム} = \text{CANTq} \times 1\text{ビット分のTq数}$ $\text{CANTq} = \frac{\text{CFGL.BRP}[9:0] + 1}{\text{fCAN}}$ <p>Tq : Time quantum fCAN : CANクロックソース(GCFGL.DCSビットで選択したクロック)の周波数</p>
バッファ	合計20バッファ <ul style="list-style-type: none"> • 各チャンネル専用 : 4バッファ (4バッファ × 1チャンネル) 送信バッファ : 4バッファ /1チャンネル • チャンネル間共用 : 16バッファ 受信バッファ : 0~16バッファ 受信FIFOバッファ : 2本(1本あたり最大16バッファ割り当て可能) 送受信FIFOバッファ : 1本/1チャンネル(1本あたり最大16バッファ割り当て可能)
受信機能	<ul style="list-style-type: none"> • データフレームとリモートフレームを受信可能 • 受信するIDフォーマット(標準ID、拡張ID、両方)を選択可能 • FIFOごとの割り込み許可/禁止設定可能 • ミラー機能(自送信メッセージの受信機能) • タイムスタンプ機能(メッセージの受信時間を16ビットタイマ値で記録)
受信フィルタ機能	<ul style="list-style-type: none"> • 合計16個の受信ルールで受信メッセージを選別可能 • チャンネルごとに0~16個の範囲で受信ルール数を設定可能 • アクセプタンスフィルタ処理 : 受信ルールごとにID、マスク設定可能 • DLCフィルタ処理 : 受信ルールごとにDLCフィルタチェック可能
受信メッセージ転送機能	<ul style="list-style-type: none"> • ルーティング機能 受信メッセージを任意のバッファへ転送する機能(転送可能バッファ数 : 2) 転送先 : 受信バッファ、受信FIFOバッファ、送受信FIFOバッファ • ラベル付加機能 受信バッファおよびFIFOバッファへメッセージを格納時、ラベル情報も同時に格納可能

表 29.1 CANモジュールの仕様 (2/2)

項目	仕様
送信機能	<ul style="list-style-type: none"> データフレームとリモートフレームを送信可能 送信するIDフォーマット(標準ID、拡張ID、両方)を選択可能 送信バッファ、送受信FIFOバッファごとに割り込み許可/禁止設定可能 ID優先送信または送信バッファ番号優先送信を選択可能 送信アボート機能(フラグでアボート完了を確認可能) ワンショット送信機能
インターバル送信機能	メッセージの送信間隔を設定可能(送受信FIFOバッファの送信モード)
送信履歴機能	送信完了したメッセージの履歴情報を格納する機能
バスオフ復帰モード選択	<p>バスオフ状態からの復帰方法を選択可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO 11898-1規格準拠 バスオフ開始でチャンネル待機モードへ自動遷移 バスオフ終了でチャンネル待機モードへ自動遷移 プログラムによるチャンネル待機モードへの遷移 プログラムによるエラーアクティブ状態への遷移(バスオフ強制復帰機能)
エラー状態の監視	<ul style="list-style-type: none"> CANプロトコルエラー(スタフエラー、フォームエラー、ACKエラー、CRCエラー、ビットエラー、ACKデリミタエラー、バスドミナントロック)を監視 エラー状態の遷移を検出(エラーワーニング、エラーパッシブ、バスオフ開始、バスオフ復帰) エラーカウンタの読み出し DLCエラーを監視
割り込み要因	<p>5本</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル(2本) <ul style="list-style-type: none"> グローバル受信FIFO割り込み グローバルエラー割り込み チャンネル(3本) <ul style="list-style-type: none"> チャンネル送信割り込み <ul style="list-style-type: none"> -送信完了割り込み -送信アボート割り込み -送受信FIFO送信完了割り込み -送信履歴割り込み 送受信FIFO受信割り込み チャンネルエラー割り込み
CANクロックソース	周辺モジュールクロック(PCLK)、CANMCLK
テスト機能	<p>ユーザ評価用テスト機能</p> <ul style="list-style-type: none"> リッスンオンリモード セルフテストモード0(外部ループバック) セルフテストモード1(内部ループバック) RAMテスト(読み書きテスト)
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

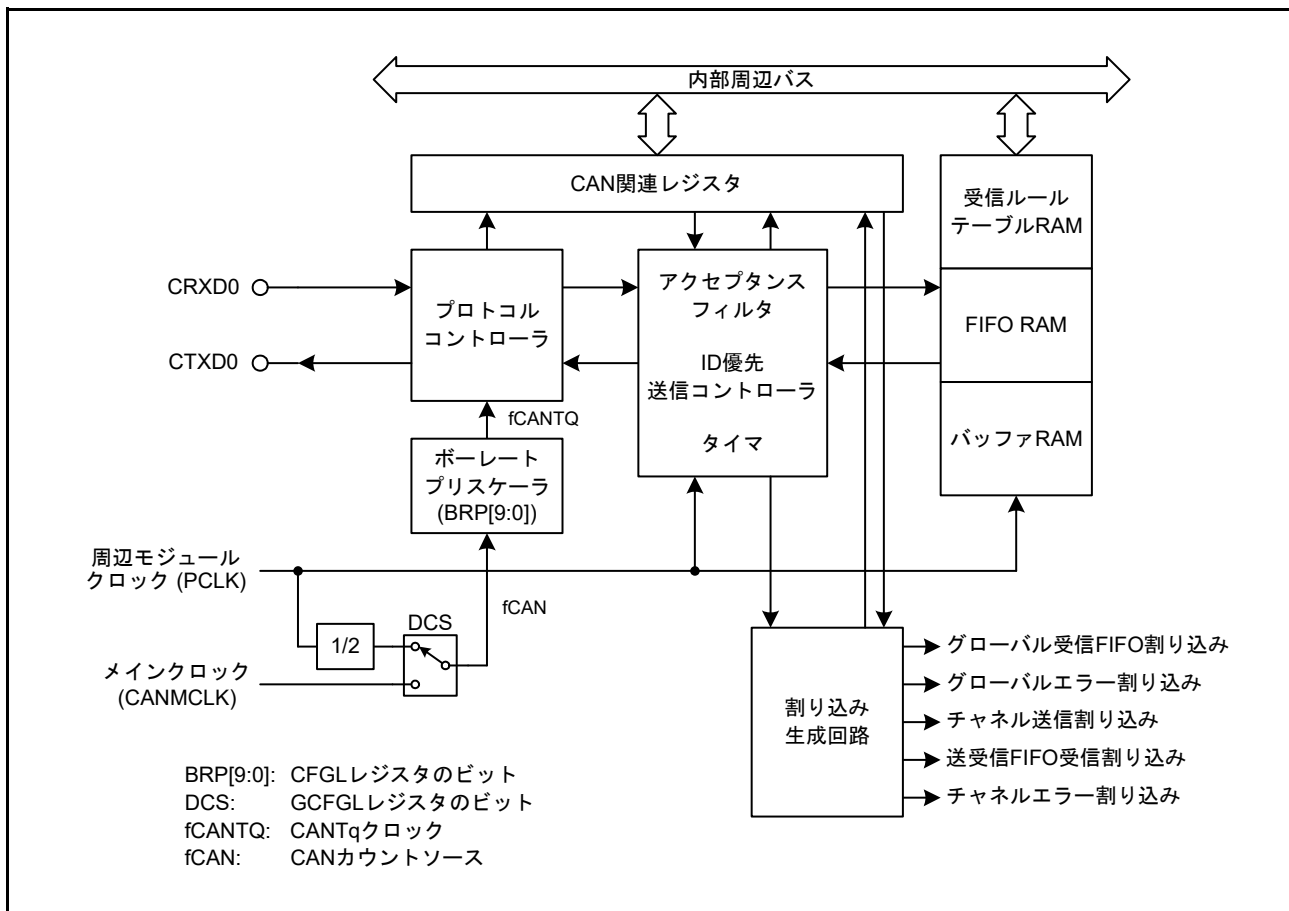


図 29.1 CANモジュールのブロック図

- CRXD0/CTXD0 : CANの入出力端子です。
- プロトコルコントローラ : バスアービトレーションや送受信時のビットタイミング、スタッフ処理、エラー処理などのCANプロトコル処理を行います。
- 受信ルールテーブルRAM : 受信メッセージのフィルタ処理に使用するルールを格納します。それぞれの受信ルールには、受信したいメッセージのID、フレームフォーマット、データ長コード、および、フィルタを通過したメッセージに付加するラベル、メッセージの格納場所を設定します。
- FIFO RAM : 16段のFIFOバッファを構成しているRAMです。受信専用のFIFOが2本と、送信用/受信用のいずれかに設定できるFIFOが1本あります。
- バッファRAM : 送信バッファまたは受信バッファとして使用するRAMです。送信バッファは4本、受信バッファは16本あります。
- アクセプタンスフィルタ : 受信メッセージのフィルタ処理を行います。このフィルタ処理には、受信ルールテーブルRAMのデータを使用します。
- タイマ : 受信時のタイムスタンプ機能に使用するタイマが1本、送信FIFOバッファ使用時に、メッセージ送信間隔を決定するタイマが1本あります。

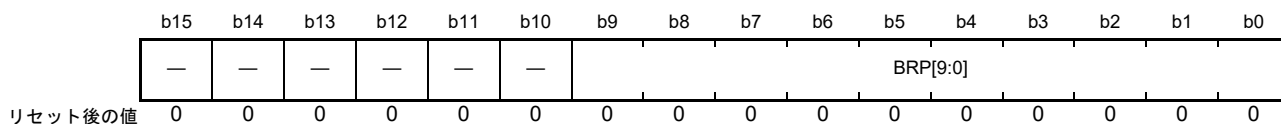
表 29.2 CANモジュールの入出力端子

端子名	入出力	機能
CRXD0	入力	RSCAN0の受信データ入力端子です
CTXD0	出力	RSCAN0の送信データ出力端子です

29.2 レジスタの説明

29.2.1 ビットコンフィギュレーションレジスタ L (CFGL)

アドレス RSCAN0.CFGL 000A 8300h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	BRP[9:0]	プリスケラ分周比設定ビット	設定値をP (0~1023)とすると、ポーレートプリスケラはfCANをP+1で分周します	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CFGL レジスタは、チャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。また、チャンネルリセットモードで本レジスタを設定した後で、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードに遷移してください。ビットタイミングの設定については、「29.9 初期設定」を参照してください。

BRP[9:0] ビット (プリスケラ分周比設定ビット)

CAN クロックソース (fCAN) を BRP[9:0] ビットで分周したクロックが CANTq クロック (fCANTQ) になり、CANTq クロックの1クロックが1 Time Quantum (Tq) になります。

29.2.2 ビットコンフィギュレーションレジスタ H (CFGH)

アドレス RSCAN0.CFGH 000A 8302h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	SJW[1:0]	—	—	TSEG2[2:0]	—	—	TSEG1[3:0]	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	TSEG1[3:0]	タイムセグメント1制御ビット	b3 b0 0 0 0 0 : 設定しないでください 0 0 0 1 : 設定しないでください 0 0 1 0 : 設定しないでください 0 0 1 1 : 4Tq 0 1 0 0 : 5Tq 0 1 0 1 : 6Tq 0 1 1 0 : 7Tq 0 1 1 1 : 8Tq 1 0 0 0 : 9Tq 1 0 0 1 : 10Tq 1 0 1 0 : 11Tq 1 0 1 1 : 12Tq 1 1 0 0 : 13Tq 1 1 0 1 : 14Tq 1 1 1 0 : 15Tq 1 1 1 1 : 16Tq	R/W
b6-b4	TSEG2[2:0]	タイムセグメント2制御ビット	b6 b4 0 0 0 : 設定しないでください 0 0 1 : 2Tq 0 1 0 : 3Tq 0 1 1 : 4Tq 1 0 0 : 5Tq 1 0 1 : 6Tq 1 1 0 : 7Tq 1 1 1 : 8Tq	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b9-b8	SJW[1:0]	再同期ジャンプ幅制御ビット	b9 b8 0 0 : 1 Tq 0 1 : 2 Tq 1 0 : 3 Tq 1 1 : 4 Tq	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CFGH レジスタは、チャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。また、チャンネルリセットモードで本レジスタを設定した後で、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードに遷移してください。ビットタイミングの設定については「29.9 初期設定」を参照してください。

TSEG1[3:0] ビット (タイムセグメント1制御ビット)

プロパゲーションタイムセグメント (PROP_SEG) とフェーズバッファセグメント 1 (PHASE_SEG1) の合計長を Tq 値で指定します。

4 ~ 16Tq の値が設定可能です。

TSEG2[2:0] ビット (タイムセグメント2制御ビット)

フェーズバッファセグメント 2 (PHASE_SEG2) の長さを Tq 値で指定します。

2 ~ 8Tq の値が設定可能です。

TSEG1[3:0] ビットより小さい値を設定してください。

SJW[1:0] ビット (再同期ジャンプ幅制御ビット)

再同期ジャンプ幅 (Resynchronization jump width) を Tq 値で指定します。1 ~ 4Tq の値が設定可能です。
TSEG2[3:0] ビット以下の値を設定してください。

29.2.3 制御レジスタ L (CTRL)

アドレス RSCAN0.CTRL 000A 8304h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ALIE	BLIE	OLIE	BORIE	BOEIE	EPIE	EWIE	BEIE	—	—	—	—	RTBO	CSLPR	CHMDC[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CHMDC[1:0]	モード選択ビット	b1 b0 0 0 : チャネル通信モード 0 1 : チャネルリセットモード 1 0 : チャネル待機モード 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	CSLPR	チャネルストップモードビット	0 : チャネルストップモードではない 1 : チャネルストップモード	R/W
b3	RTBO	バスオフ強制復帰ビット	RTBO ビットを“1”にすると、バスオフから強制的に復帰する。読むと“0”が読めます	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	BEIE	プロトコルエラー割り込み許可ビット	0 : プロトコルエラー割り込み禁止 1 : プロトコルエラー割り込み許可	R/W
b9	EWIE	エラーワーニング割り込み許可ビット	0 : エラーワーニング割り込み禁止 1 : エラーワーニング割り込み許可	R/W
b10	EPIE	エラーパッシブ割り込み許可ビット	0 : エラーパッシブ割り込み禁止 1 : エラーパッシブ割り込み許可	R/W
b11	BOEIE	バスオフ開始割り込み許可ビット	0 : バスオフ開始割り込み禁止 1 : バスオフ開始割り込み許可	R/W
b12	BORIE	バスオフ復帰割り込み許可ビット	0 : バスオフ復帰割り込み禁止 1 : バスオフ復帰割り込み許可	R/W
b13	OLIE	オーバーロードフレーム送信割り込み許可ビット	0 : オーバーロードフレーム送信割り込み禁止 1 : オーバーロードフレーム送信割り込み許可	R/W
b14	BLIE	バスロック割り込み許可ビット	0 : バスロック割り込み禁止 1 : バスロック割り込み許可	R/W
b15	ALIE	アービトレーションロスト割り込み許可ビット	0 : アービトレーションロスト割り込み禁止 1 : アービトレーションロスト割り込み許可	R/W

CHMDC[1:0] ビット (モード選択ビット)

チャネルのモード (チャネル通信モード、チャネルリセットモード、チャネル待機モード) を選択するビットです。詳細は、「29.3.2 チャネルモード」を参照してください。チャネルストップモードへは、チャネルリセットモード時に CSLPR ビットを“1”にすることで遷移します。CHMDC[1:0] ビットを“11b”には設定しないでください。CTRH.BOM[1:0] ビットの設定によってチャネル待機モードへ遷移した場合は、CHMDC[1:0] ビットは自動的に“10b”になります。

CSLPR ビット (チャネルストップモードビット)

“1”にすると、チャネルストップモードになります。

“0” にすると、チャンネルストップモードは解除されます。

このビットは、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードでは書き換えないでください。

RTBO ビット (バスオフ強制復帰ビット)

バスオフ状態時 “1” (バスオフからの強制復帰) にすると、強制的にバスオフ状態からエラーアクティブ状態へと変化します。このビットは自動的に “0” になります。“1” にすると、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグが “00h” になり、STSL.BOSTS フラグは “0” (バスオフ状態ではない) になります。他のレジスタは変化しません。バスオフ状態からの復帰によるバスオフ復帰割り込み要求は発生しません。CTRH.BOM[1:0] ビットが “00b” (ISO 11898-1 規格準拠) のときにのみ使用してください。

RTBO ビットを “1” にしてからエラーアクティブ状態に遷移するまでに、最大 1 CAN ビットタイムの遅延が発生します。このビットはチャンネル通信モードで “1” を書いてください。

BEIE ビット (プロトコルエラー割り込み許可ビット)

BEIE ビットが “1” の場合、ERFLL.BEF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

EWIE ビット (エラーワーニング割り込み許可ビット)

EWIE ビットが “1” の場合、ERFLL.EWF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

EPIE ビット (エラーパッシブ割り込み許可ビット)

EPIE ビットが “1” の場合、ERFLL.EPF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

BOEIE ビット (バスオフ開始割り込み許可ビット)

BOEIE ビットが “1” の場合、ERFLL.BOEF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

BORIE ビット (バスオフ復帰割り込み許可ビット)

BORIE ビットが “1” の場合、ERFLL.BORF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

OLIE ビット (オーバロードフレーム送信割り込み許可ビット)

OLIE ビットが “1” の場合、ERFLL.OVLF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

BLIE ビット (バスロック割り込み許可ビット)

BLIE ビットが “1” の場合、ERFLL.BLF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

ALIE ビット (アービトラージョンロスト割り込み許可ビット)

ALIE ビットが “1” の場合、ERFLL.ALF フラグが “1” になると、エラー割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

29.2.4 制御レジスタ H (CTRH)

アドレス RSCAN0.CTRH 000A 8306h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	CTMS[1:0]	CTME	ERRD	BOM[1:0]	—	—	—	—	—	—	TAIE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TAIE	送信アポート割り込み許可ビット	0 : 送信アポート割り込み禁止 1 : 送信アポート割り込み許可	R/W
b4-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6-b5	BOM[1:0]	バスオフ復帰モード選択ビット	b6 b5 0 0 : ISO 11898-1 規格準拠 0 1 : バスオフ開始でチャンネル待機モードへ遷移 1 0 : バスオフ終了でチャンネル待機モードへ遷移 1 1 : バスオフ中にプログラムによる要求でチャンネル待機モードへ遷移	R/W
b7	ERRD	エラー表示モード選択ビット	0 : ERFLR レジスタの b14 ~ b8 がすべてクリアされた後、最初に発生したエラー情報のエラーフラグのみ表示 1 : 発生したすべてのエラー情報のエラーフラグを表示	R/W
b8	CTME	通信テストモード許可ビット	0 : 通信テストモード禁止 1 : 通信テストモード許可	R/W
b10-b9	CTMS[1:0]	通信テストモード選択ビット	b10 b9 0 0 : 標準テストモード 0 1 : リッスンオンリモード 1 0 : セルフテストモード 0 (外部ループバックモード) 1 1 : セルフテストモード 1 (内部ループバックモード)	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TAIE ビット (送信アポート割り込み許可ビット)

TAIE ビットを“1”に設定し、送信バッファの送信アポートが完了した場合、割り込み要求が発生します。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

BOM[1:0] ビット (バスオフ復帰モード選択ビット)

CAN モジュールのバスオフ復帰モードを選択します。

BOM[1:0] ビットが“00b”の場合、バスオフ状態からエラーアクティブ状態への復帰は ISO 11898-1 規格に準拠します。すなわち、CAN モジュールは、11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出後、再び CAN 通信 (エラーアクティブ状態) に入ります。バスオフ状態からの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求が発生します。128 回検出する前に CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“10b” (チャンネル待機モード) にしても 128 回検出するまでチャンネル待機モードには遷移しません。

BOM[1:0] ビットが“01b”の場合、CAN モジュールがバスオフ状態に達すると、CTRL.CHMDC[1:0] ビットが“10b”になり、チャンネル待機モードへ遷移します。バスオフ状態からの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求は発生せず、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグが“00h”になります。

BOM[1:0] ビットが“10b”の場合、CAN モジュールがバスオフ状態に達すると CTRL.CHMDC[1:0] ビットが“10b”になり、バスオフ状態から復帰した (11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出) 後に、チャンネル待機モードに遷移します。バスオフ状態からの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求が発生し、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグが“00h”になります。

BOM[1:0] ビットが“11b”の場合、CAN モジュールがバスオフ状態のときに CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“10b”にすると、チャンネル待機モードになります。バスオフ状態からの復帰時にバスオフ復帰割り込み要求は発生せず、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは“00h”になります。しかし、

CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“10b”にする前に、11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出して、バスオフ状態からエラーアクティブ状態に復帰した場合は、バスオフ復帰割り込み要求が発生します。

CAN モジュールがチャンネル待機モードに遷移すると同時に (BOM[1:0] ビットが“01b”のとき：バスオフ開始時、または BOM[1:0] ビットが“10b”のとき：バスオフ終了時) に、CPU がチャンネルリセットモードへの遷移を要求した場合は、CPU の要求が優先されます。このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

ERRD ビット (エラー表示モード選択ビット)

ERFLL レジスタの b14 ~ b8 の表示モードを制御します。

“0”にすると最初に発生したエラーのフラグのみが“1”になります。最初に複数のエラーが発生した場合、検出された複数のエラーのフラグはすべて“1”になります。

“1”にすると発生順に関係なく、起こったエラーのフラグはすべて“1”になります。

このビットはチャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。

CTME ビット (通信テストモード許可ビット)

“1”にすると通信テストモードは許可になります。このビットはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。

チャンネルリセットモード時は“0”になります。

CTMS[1:0] ビット (通信テストモード選択ビット)

通信テストモードを選択するビットです。このビットはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。チャンネルリセットモード時は“0”になります。

29.2.5 ステータスレジスタ L (STSL)

アドレス RSCAN0.STSL 000A 8308h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	COMSTS	RECSTS	TRMSTS	BOSTS	EPSTS	CSLPSTS	CHLTSTS	CRSTS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CRSTSTS	チャンネルリセットステータスフラグ	0: チャンネルリセットモードではない 1: チャンネルリセットモード	R
b1	CHLTSTS	チャンネル待機ステータスフラグ	0: チャンネル待機モードではない 1: チャンネル待機モード	R
b2	CSLPSTS	チャンネルストップステータスフラグ	0: チャンネルストップモードではない 1: チャンネルストップモード	R
b3	EPSTS	エラーパッシブステータスフラグ	0: エラーパッシブ状態ではない 1: エラーパッシブ状態	R
b4	BOSTS	バスオフステータスフラグ	0: バスオフ状態ではない 1: バスオフ状態	R
b5	TRMSTS	送信ステータスフラグ	0: バスアイドルまたは受信 1: 送信中またはバスオフ状態	R
b6	RECSTS	受信ステータスフラグ	0: バスアイドルまたは送信中またはバスオフ状態 1: 受信	R
b7	COMSTS	通信ステータスフラグ	0: 通信可能な状態ではない 1: 通信可能な状態	R
b15-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

CRSTSTS フラグ (チャンネルリセットステータスフラグ)

チャンネルリセットモードに遷移すると“1”になります。チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードに遷移すると“0”になります。チャンネルリセットモードからチャンネルストップモードに遷移しても“1”のままです。

CHLTSTS フラグ (チャンネル待機ステータスフラグ)

チャンネル待機モードに遷移すると“1”になります。チャンネル待機モード以外のモードに遷移すると“0”になります。

CSLPSTS フラグ (チャンネルストップステータスフラグ)

チャンネルストップモードに遷移すると“1”になります。チャンネルストップモードから復帰すると“0”になります。

EPSTS フラグ (エラーパッシブステータスフラグ)

エラーパッシブ状態 ($128 \leq \text{STSH.TEC}[7:0]$ フラグ ≤ 255 または $128 \leq \text{STSH.REC}[7:0]$ フラグ) になると“1”になります。エラーパッシブ状態以外になるか、またはチャンネルリセットモードになると“0”になります。

BOSTS フラグ (バスオフステータスフラグ)

バスオフ状態 ($\text{STSH.TEC}[7:0]$ フラグ > 255) になると“1”になります。バスオフ状態以外になると“0”になります。

TRMSTS フラグ (送信ステータスフラグ)

送信を開始すると“1”になります。バスオフ状態では“1”のままです。バスアイドル状態になるか、または受信を開始すると“0”になります。

RECSTS フラグ (受信ステータスフラグ)

受信を開始すると“1”になります。バスアイドル状態になるか、または送信を開始すると“0”になります。

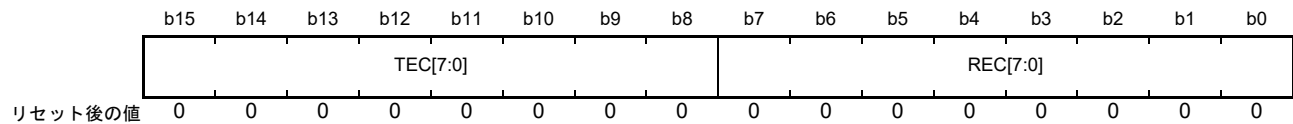
COMSTS フラグ (通信ステータスフラグ)

通信準備が整ったことを示すビットです。

チャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードからチャンネル通信モードに移行し、11ビットの連続するレセシブを検出した後に“1”になります。チャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モード時は“0”になります。

29.2.6 ステータスレジスタ H (STSH)

アドレス RSCAN0.STSH 000A 830Ah



ビット	シンボル	機能	R/W
b7-b0	REC[7:0]	受信エラーカウンタ (REC)の値が読めます	R
b15-b8	TEC[7:0]	送信エラーカウンタ (TEC)の値が読めます	R

REC[7:0] フラグ

受信エラーカウンタの値を示します。受信エラーカウンタの増減条件については、ISO 11898-1 規格を参照してください。

チャンネルリセットモード時は“00h”になります。

TEC[7:0] フラグ

送信エラーカウンタの値を示します。送信エラーカウンタの増減条件については、ISO 11898-1 規格を参照してください。

チャンネルリセットモード時は“00h”になります。

29.2.7 エラーフラグレジスタ L (ERFLL)

アドレス RSCAN0.ERFLL 000A 830Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	ADERR	B0ERR	B1ERR	CERR	AERR	FERR	SERR	ALF	BLF	OVLf	BORF	BOEF	EPF	EWf	BEF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BEF	バスエラーフラグ	0: チャンネルバスエラー未検出 1: チャンネルバスエラー検出	R/(W) (注1)
b1	EWf	エラーワーニングフラグ	0: エラーワーニング未検出 1: エラーワーニング検出	R/(W) (注1)
b2	EPF	エラーパッシブフラグ	0: エラーパッシブ未検出 1: エラーパッシブ検出	R/(W) (注1)
b3	BOEF	バスオフ開始フラグ	0: バスオフ開始未検出 1: バスオフ開始検出	R/(W) (注1)
b4	BORF	バスオフ復帰フラグ	0: バスオフ復帰未検出 1: バスオフ復帰検出	R/(W) (注1)
b5	OVLf	オーバロードフラグ	0: オーバロード未検出 1: オーバロード検出	R/(W) (注1)
b6	BLF	バスロックフラグ	0: チャンネルバスロック未検出 1: チャンネルバスロック検出	R/(W) (注1)
b7	ALF	アービトレーションロストフラグ	0: アービトレーションロスト未検出 1: アービトレーションロスト検出	R/(W) (注1)
b8	SERR	スタッフエラーフラグ	0: スタッフエラー未検出 1: スタッフエラー検出	R/(W) (注1)
b9	FERR	フォームエラーフラグ	0: フォームエラー未検出 1: フォームエラー検出	R/(W) (注1)
b10	AERR	ACKエラーフラグ	0: ACKエラー未検出 1: ACKエラー検出	R/(W) (注1)
b11	CERR	CRCエラーフラグ	0: CRCエラー未検出 1: CRCエラー検出	R/(W) (注1)
b12	B1ERR	レセシブビットエラーフラグ	0: レセシブビットエラー未検出 1: レセシブビットエラー検出	R/(W) (注1)
b13	B0ERR	ドミナントビットエラーフラグ	0: ドミナントビットエラー未検出 1: ドミナントビットエラー検出	R/(W) (注1)
b14	ADERR	ACKデリミタエラーフラグ	0: ACKデリミタエラー未検出 1: ACKデリミタエラー検出	R/(W) (注1)
b15	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。“1”を書いても値は変化しません。

各エラーの発生条件を確認するには、ISO 11898-1 規格を参照してください。各フラグを“0”にする場合は、プログラムで“0”を書いてください。プログラムで“1”にできません。フラグが“1”になるタイミングとプログラムで“0”を書くタイミングが同じ場合、そのフラグは“1”になります。チャンネルリセットモード時、“0”になります。

ERFLL レジスタの b14 ~ b8 に関して、CTRH.ERRD ビットを“0” (最初に発生したエラー情報のみ表示) に設定したとき、b14 ~ b8 のすべてのフラグが“0”の状態エラーが検出された場合に、対応するフラグは“1”になります。

BEF フラグ (バスエラーフラグ)

ADERR、B0ERR、B1ERR、CERR、AERR、FERR、SERR フラグのいずれか1つでも“1”になると、BEF フラグは“1”になります。

EWF フラグ (エラーワーニングフラグ)

STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグの値が 95 を超えると“1”になります。STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが最初に 95 を超えたときのみ“1”になります。したがって、STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが 95 を超えたままで、プログラムで“0”を書いた場合、一度 STSH.REC[7:0] フラグと STSH.TEC[7:0] フラグの両方が 95 以下になり、再び STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが 95 を超えるまでは“1”にはなりません。

EPF フラグ (エラーパッシブフラグ)

エラーパッシブ状態 (STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグ > 127) になると“1”になります。STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが最初に 127 を超えたときのみ“1”になります。したがって、STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが 127 を超えたままで、プログラムで“0”を書いた場合、一度 STSH.REC[7:0] フラグと STSH.TEC[7:0] フラグの両方が 127 以下になり、再び STSH.REC[7:0] フラグまたは STSH.TEC[7:0] フラグが 127 を超えるまでは“1”にはなりません。

BOEF フラグ (バスオフ開始フラグ)

バスオフ状態 (STSH.TEC[7:0] フラグ > 255) になると“1”になります。CTRH.BOM[1:0] ビットが“01b” (バスオフ開始でチャンネル待機モードへ遷移) で、バスオフ状態になった場合も“1”になります。

BORF フラグ (バスオフ復帰フラグ)

11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出してバスオフ状態から復帰すると“1”になります。ただし、11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出する前に、以下の方法でバスオフ状態から復帰した場合は“1”になりません。

- CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“01b” (チャンネルリセットモード) に設定した場合
- CTRL.RTBO ビットを“1” (バスオフからの強制復帰) に設定した場合
- CTRH.BOM[1:0] ビットを“01b” (バスオフ開始でチャンネル待機モードへ遷移) に設定した場合
- CTRH.BOM[1:0] ビットが“11b” (バスオフ中にプログラムによる要求でチャンネル待機モードへ遷移) で、11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出する前に、CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“10b” (チャンネル待機モード) に設定した場合

OVLf フラグ (オーバロードフラグ)

受信または送信を行う場合に、オーバロードフレームの送信条件が検出されると“1”になります。

BLF フラグ (バスロックフラグ)

チャンネル通信モード時、CAN バス上に 32 ビットの連続するドミナントを検出すると“1”になります。“1”になった後、次のいずれかの条件が成立するとバスロックを再検出できるようになります。

- BLF フラグを“1”から“0”にした後、レセシブビットを検出。
- BLF フラグを“1”から“0”にした後、チャンネルリセットモードに遷移し、再度チャンネル通信モードに遷移。

ALF フラグ (アービトレーションロストフラグ)

アービトレーションロストを検出すると“1”になります。

SERR フラグ (スタッフエラーフラグ)

スタッフエラーを検出すると“1”になります。

FERR フラグ (フォームエラーフラグ)

フォームエラーを検出すると“1”になります。

AERR フラグ (ACK エラーフラグ)

ACK エラーを検出すると“1”になります。

CERR フラグ (CRC エラーフラグ)

CRC エラーを検出すると“1”になります。

B1ERR フラグ (レセシブビットエラーフラグ)

レセシブを送信したにも関わらずドミナントを検出すると“1”になります。

B0ERR フラグ (ドミナントビットエラーフラグ)

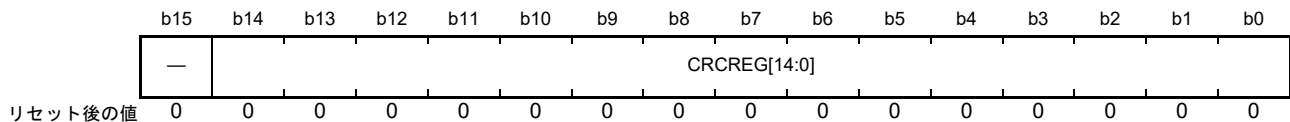
ドミナントを送信したにも関わらずレセシブを検出すると“1”になります。

ADERR フラグ (ACK デリミタエラーフラグ)

送信中の ACK デリミタでフォームエラーを検出すると“1”になります。

29.2.8 エラーフラグレジスタ H (ERFLH)

アドレス RSCAN0.ERFLH 000A 830Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b14-b0	CRCREG[14:0]	CRC 演算データ	送信メッセージまたは受信メッセージを基に計算したCRC値を表示します	R
b15	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

CRCREG[14:0] ビット (CRC 演算データ)

CTRH.CTME ビットが“1”(通信テストモード許可)の場合、送信または受信メッセージを基に計算したCRC値が読めます。CTRH.CTME ビットが“0”(通信テストモード禁止)の場合、“0”が読めます。

29.2.9 グローバル設定レジスタ L (GCFGL)

アドレス RSCAN.GCFGL 000A 8322h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	TSSS	TSP[3:0]			—	—	—	DCS	MME	DRE	DCE	TPRI	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TPRI	送信優先順位選択ビット	0: ID優先 1: 送信バッファ番号優先	R/W
b1	DCE	DLCチェック許可ビット	0: DLCチェック禁止 1: DLCチェック許可	R/W
b2	DRE	DLC置換許可ビット	0: DLC置換禁止 1: DLC置換許可	R/W
b3	MME	ミラー機能許可ビット	0: ミラー機能禁止 1: ミラー機能許可	R/W
b4	DCS	CANクロックソース選択ビット	0: PCLK 1: CANMCLK (メインクロックから生成)	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11-b8	TSP[3:0]	タイムスタンプクロック源分周ビット	b11 b8 0 0 0 0 : 分周なし 0 0 0 1 : 2分周 0 0 1 0 : 4分周 0 0 1 1 : 8分周 0 1 0 0 : 16分周 0 1 0 1 : 32分周 0 1 1 0 : 64分周 0 1 1 1 : 128分周 1 0 0 0 : 256分周 1 0 0 1 : 512分周 1 0 1 0 : 1024分周 1 0 1 1 : 2048分周 1 1 0 0 : 4096分周 1 1 0 1 : 8192分周 1 1 1 0 : 16384分周 1 1 1 1 : 32768分周	R/W
b12	TSSS	タイムスタンプクロック源選択ビット	0: PCLK 1: CANビットタイムクロック	R/W
b15-b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

GCFGL レジスタはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

TPRI ビット (送信優先順位選択ビット)

TPRI ビットにより、送信優先順位を設定します。

“0”の場合、ID 優先となり送信優先順位は CAN バスアービトラージョンルール (ISO 11898-1 規格) に準拠します。“1”の場合、送信バッファ番号優先となり送信に設定された一番小さい番号の送信バッファが優先されます。

DCE ビット (DLC チェック許可ビット)

“1”にすると、DLC チェック機能が使用できます。GAFLPHj.GAFLDLC[3:0] ビットを“0000b”にしてから、DCE ビットを“0”にしてください。

DRE ビット (DLC 置換許可ビット)

DRE ビットを“1”にすると、DLC フィルタを通過した場合、受信メッセージの DLC 値の代わりに、受信ルールの DLC 値がバッファに格納されます。この場合、受信ルールの DLC 値を超えるデータバイトには“00h”が格納されます。

DCE ビットが“1” (DLC チェック許可) のときに、DLC 置換機能を使用できます。

MME ビット (ミラー機能許可ビット)

“1”にすると、ミラー機能が使用できます。

DCS ビット (CAN クロックソース選択ビット)

DCS ビットを“0”にすると、CAN クロックソース (fCAN) は周辺クロック (PCLK) の 2 分周クロックが使用されます。

DCS ビットを“1”にすると、CAN クロックソース (fCAN) は、外部の EXTAL 端子から生成された CANMCLK が使用されます。

TSP[3:0] ビット (タイムスタンプクロック源分周ビット)

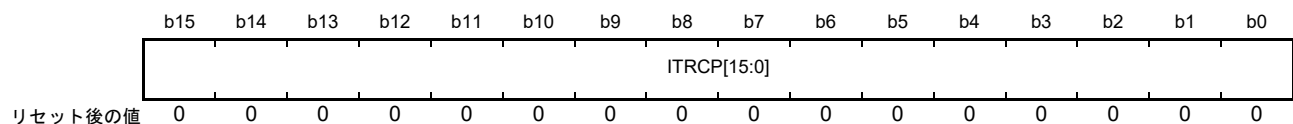
TSSS ビットで選択したクロック源を TSP[3:0] ビットで分周したクロックがタイムスタンプカウンタのカウントソースになります。

TSSS ビット (タイムスタンプクロック源選択ビット)

タイムスタンプカウンタのクロック源を選択します。

29.2.10 グローバル設定レジスタ H (GCFGH)

アドレス RSCAN.GCFGH 000A 8324h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	ITRCP[15:0]	インターバルタイムプリスケアラ設定ビット	設定値をMとするとPCLKをM分周します。 インターバルタイムを使用する場合、“0000h”を設定しないでください	R/W

GCFGH レジスタはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

ITRCP[15:0] ビット (インターバルタイムプリスケアラ設定ビット)

FIFO 用インターバルタイムのクロック源の分周値を設定します。詳細は、「29.5.3 (1) インターバル送信機能」を参照してください。

29.2.11 グローバル制御レジスタ L (GCTRL)

アドレス RSCAN.GCTRL 000A 8326h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	
—	—	—	—	—	THLEIE	MEIE	DEIE	—	—	—	—	—	GSLPR	GMDC[1:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	GMDC[1:0]	グローバルモード選択ビット	b1 b0 0 0 : グローバル動作モード 0 1 : グローバルリセットモード 1 0 : グローバルテストモード 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	GSLPR	グローバルストップモードビット	0 : グローバルストップモードではない 1 : グローバルストップモード	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	DEIE	DLCエラー割り込み許可ビット	0 : DLCエラー割り込み禁止 1 : DLCエラー割り込み許可	R/W
b9	MEIE	FIFOメッセージロスト割り込み許可ビット	0 : FIFOメッセージロスト割り込み禁止 1 : FIFOメッセージロスト割り込み許可	R/W
b10	THLEIE	送信履歴バッファオーバーフロー割り込み許可ビット	0 : 送信履歴バッファオーバーフロー割り込み禁止 1 : 送信履歴バッファオーバーフロー割り込み許可	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

GMDC[1:0] ビット (グローバルモード選択ビット)

CAN モジュール全体のモード (グローバル動作モード、グローバルリセットモード、グローバルテストモード) を選択するビットです。詳細は、「29.3.1 グローバルモード」を参照してください。グローバルストップモードへは、グローバルリセットモード時に GSLPR ビットを“1”にすることで遷移します。

GSLPR ビット (グローバルストップモードビット)

“1”にすると、グローバルストップモードになります。

“0”にすると、グローバルストップモードは解除されます。

このビットは、グローバル動作モードまたはグローバルテストモードでは書き換えしないでください。

DEIE ビット (DLC エラー割り込み許可ビット)

DEIE ビットが“1”の場合、GERFLL.DEF フラグが“1”になると、割り込み要求が発生します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

MEIE ビット (FIFO メッセージロスト割り込み許可ビット)

MEIE ビットが“1”の場合、GERFLL.MES フラグが“1”になると、割り込み要求が発生します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

THLEIE ビット (送信履歴バッファオーバーフロー割り込み許可ビット)

THLEIE ビットが“1”の場合、GERFLL.THLES フラグが“1”になると、割り込み要求が発生します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

29.2.12 グローバル制御レジスタ H (GCTRH)

アドレス RSCAN.GCTRH 000A 8328h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TSRST
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSRST	タイムスタンプカウンタリセットビット	TSRSTビットを“1”にすると、タイムスタンプカウンタをリセットします。読むと“0”が読み出されます	R/W
b15-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TSRST ビット (タイムスタンプカウンタリセットビット)

タイムスタンプカウンタをリセットするために使用します。“1”にすると GTSC レジスタが“0000h”になります。

29.2.13 グローバルステータスレジスタ (GSTS)

アドレス RSCAN.GSTS 000A 832Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GRAMINIT	GSLPSTS	GHLTSTS	GRSTSTS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	GRSTSTS	グローバルリセットステータスフラグ	0: グローバルリセットモードではない 1: グローバルリセットモード	R
b1	GHLTSTS	グローバルテストステータスフラグ	0: グローバルテストモードではない 1: グローバルテストモード	R
b2	GSLPSTS	グローバルストップステータスフラグ	0: グローバルストップモードではない 1: グローバルストップモード	R
b3	GRAMINIT	CAN用RAMクリアステータスフラグ	0: CAN用RAMクリア完了 1: CAN用RAMクリア中	R
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

GRSTSTS フラグ (グローバルリセットステータスフラグ)

グローバルリセットモードに遷移すると“1”になります。

グローバルリセットモード以外のモードに遷移すると“0”になります。グローバルリセットモードからグローバルストップモードに遷移しても、“1”のままです。

GHLTSTS フラグ (グローバルテストステータスフラグ)

グローバルテストモードに遷移すると“1”になります。グローバルテストモード以外のモードに遷移すると“0”になります。

GSLPSTS フラグ (グローバルストップステータスフラグ)

グローバルストップモードに遷移すると“1”になります。グローバルストップモードから復帰すると“0”になります。

GRAMINIT フラグ (CAN 用 RAM クリアステータスフラグ)

CAN 用 RAM のクリア状態を示します。

CAN モジュールイネーブル後、“1”になります。CAN 用 RAM クリアが完了すると“0”になります。

29.2.14 グローバルエラーフラグレジスタ (GERFLL)

アドレス RSCAN.GERFLL 000A 832Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	THLES	MES	DEF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DEF	DLCエラーフラグ	0 : DLCエラーなし 1 : DLCエラー	R/(W) (注1)
b1	MES	FIFOメッセージロストステータスフラグ	0 : FIFOメッセージロストエラーなし 1 : FIFOメッセージロストエラー	R
b2	THLES	送信履歴バッファオーバーフローステータスフラグ	0 : 送信履歴バッファオーバーフローなし 1 : 送信履歴バッファオーバーフロー	R
b7-b3	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。“1”を書いても値は変化しません。

GERFLL レジスタのフラグは、グローバルリセットモード時、“0”になります。

DEF フラグ (DLC エラーフラグ)

DLC チェックでエラーが検出されると“1”になります。プログラムで“0”を書くことで“0”にできます。

MES フラグ (FIFO メッセージロストステータスフラグ)

RFSTSm.RFMLT フラグまたは CFSTS0.CFMLT フラグのいずれか1つでも“1”になると、MES フラグは“1”になります。

すべての RFSTSm.RFMLT フラグおよび CFSTS0.CFMLT フラグを“0”にすると、MES フラグは“0”になります。

THLES フラグ (送信履歴バッファオーバーフローステータスフラグ)

THLSTS0.THLELT フラグが“1”になると、THLES フラグは“1”になります。

THLSTS0.THLELT フラグを“0”にすると、THLES フラグは“0”になります。

29.2.15 グローバル送信割り込みステータスレジスタ (GTINTSTS)

アドレス RSCAN.GTINTSTS 000A 8388h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	THIF0	CFTIF0	TAIF0	TSIF0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSIF0	RSCAN0送信バッファ割り込みステータスフラグ	0:送信バッファ送信完了割り込み要求なし 1:送信バッファ送信完了割り込み要求あり	R
b1	TAIF0	RSCAN0送信バッファアポート割り込みステータスフラグ	0:送信バッファアポート割り込み要求なし 1:送信バッファアポート割り込み要求あり	R
b2	CFTIF0	RSCAN0送受信FIFO割り込みステータスフラグ	0:送受信FIFO送信割り込み要求なし 1:送受信FIFO送信割り込み要求あり	R
b3	THIF0	RSCAN0送信履歴割り込みステータスフラグ	0:送信履歴割り込み要求なし 1:送信履歴割り込み要求あり	R
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

GTINTSTS レジスタのフラグは、グローバルリセットまたはチャンネルリセットモード時に“0”になります。

TSIF0 フラグ (RSCAN0 送信バッファ割り込みステータスフラグ)

TMIEC.TMIEp ビットが“1”(割り込み許可)、かつ対応する TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“10b”(送信完了、アポート要求なし)、または“11b”(送信完了、アポート要求あり)になると、TSIF0 フラグは“1”になります。

TSIF0 フラグが“1”になる条件が成立している TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグをすべて“00b”にすると、このフラグは“0”になります。また、TMIEC.TMIEp ビットを“0”にすることも、このフラグは“0”になります。

TAIF0 フラグ (RSCAN0 送信バッファアポート割り込みステータスフラグ)

CTRH.TAIE ビットが“1”(割り込み許可)、かつ TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“01b”(送信アポート完了)になると、TAIF0 フラグは“1”になります。

送信アポート完了した TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグをすべて“00b”にすると、このフラグは“0”になります。

CFTIF0 フラグ (RSCAN0 送受信 FIFO 割り込みステータスフラグ)

CFCCLO.CFTXIE ビットが“1”(割り込み許可)、かつ CFSTS0.CFTXIF フラグが“1”(割り込み要求あり)になると、CFTIF0 フラグは“1”になります。

CFSTS0.CFTXIF フラグを“0”にすると、このフラグは“0”になります。また、CFCCLO.CFTXIE ビットを“0”にすることも、このフラグは“0”になります。

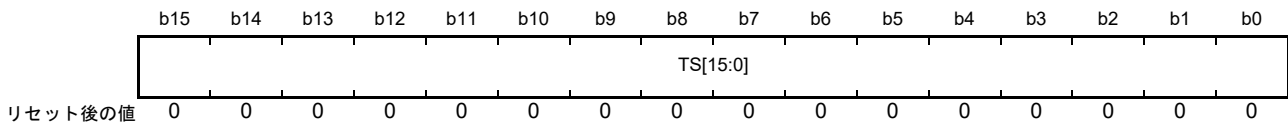
THIF0 フラグ (RSCAN0 送信履歴割り込みステータスフラグ)

THLCC0.THLIE ビットが“1”(割り込み許可)、かつ THLSTS0.THLIF フラグが“1”(割り込み要求あり)になると、THIF0 フラグは“1”になります。

THLSTS0.THLIF フラグを“0”にすると、このフラグは“0”になります。また、THLCC0.THLIE ビットを“0”にすることも、このフラグは“0”になります。

29.2.16 タイムスタンプレジスタ (GTSC)

アドレス RSCAN.GTSC 000A 832Eh



ビット	シンボル	機能	カウンタ値	R/W
b15-b0	TS[15:0]	タイムスタンプ用カウンタの値が読めます	0000h~FFFFh	R

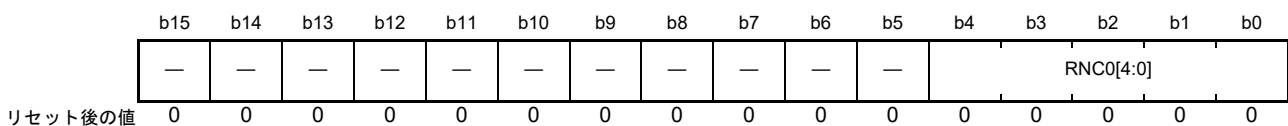
TS[15:0] ビットを読むと、その時点のタイムスタンプカウンタ (16 ビットフリーランカウンタ) の値が読めます。SOFを検出したとき、TS[15:0] ビットの値がキャプチャされ、その後、受信バッファまたはFIFOバッファに格納されます。タイムスタンプカウンタはグローバルリセットモードで初期化されます。

タイムスタンプカウンタの開始、停止タイミングは、カウントソースに依存します。

- GCFGL.TSSS ビットが“0”(PCLKを選択)の場合
グローバル動作モードへ遷移したときにカウント開始。
グローバルストップモードまたはグローバルテストモードでカウント停止。
- GCFGL.TSSS ビットが“1”(CAN ビットタイムクロックを選択)の場合
対応するチャンネルがチャンネル通信モードへ遷移したときにカウント開始。
対応するチャンネルがチャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードでカウント停止。

29.2.17 受信ルール数設定レジスタ (GAFLCFG)

アドレス RSCAN.GAFLCFG 000A 8330h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	RNC0[4:0]	RSCAN0 受信ルール数設定ビット	チャンネル0の受信ルール数を設定してください。 設定範囲は“00h”~“10h”です	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

GAFLCFG レジスタはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

受信ルールテーブルに登録できるルール数は最大 16 です。

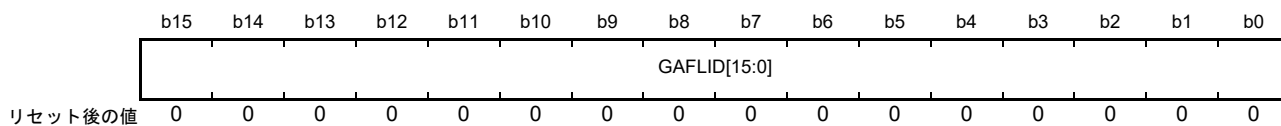
RNC0[4:0] ビット (RSCAN0 受信ルール数設定ビット)

チャンネル“0”の受信ルールテーブルに登録するルール数を設定します。

“00h”~“10h”以外の値を設定しないでください。

29.2.18 受信ルール登録レジスタ jAL (GAFLIDLj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLIDL0 000A 83A0h, RSCAN.GAFLIDL1 000A 83ACh, RSCAN.GAFLIDL2 000A 83B8h,
RSCAN.GAFLIDL3 000A 83C4h, RSCAN.GAFLIDL4 000A 83D0h, RSCAN.GAFLIDL5 000A 83DCh,
RSCAN.GAFLIDL6 000A 83E8h, RSCAN.GAFLIDL7 000A 83F4h, RSCAN.GAFLIDL8 000A 8400h,
RSCAN.GAFLIDL9 000A 840Ch, RSCAN.GAFLIDL10 000A 8418h, RSCAN.GAFLIDL11 000A 8424h,
RSCAN.GAFLIDL12 000A 8430h, RSCAN.GAFLIDL13 000A 843Ch, RSCAN.GAFLIDL14 000A 8448h,
RSCAN.GAFLIDL15 000A 8454h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	GAFLID[15:0]	ID設定ビットL	受信ルールのIDを設定してください。 標準IDの場合、b10～b0にIDを設定してください。b15～b11は“0”にしてください	R/W

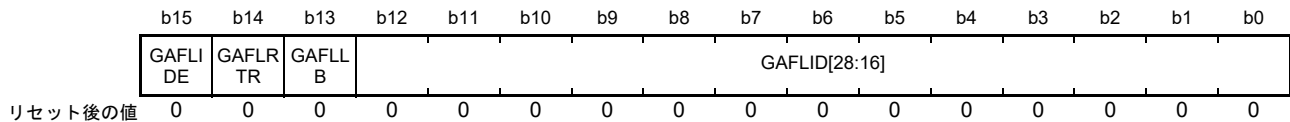
GAFLIDLj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換えしてください。

GAFLID[15:0] ビット (ID 設定ビット L)

受信ルールの ID フィールドを設定します。アクセプタンスフィルタ処理では、ここで設定した ID と受信メッセージの ID を比較します。

29.2.19 受信ルール登録レジスタ jAH (GAFLIDHj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLIDH0 000A 83A2h, RSCAN.GAFLIDH1 000A 83AEh, RSCAN.GAFLIDH2 000A 83BAh,
RSCAN.GAFLIDH3 000A 83C6h, RSCAN.GAFLIDH4 000A 83D2h, RSCAN.GAFLIDH5 000A 83DEh,
RSCAN.GAFLIDH6 000A 83EAh, RSCAN.GAFLIDH7 000A 83F6h, RSCAN.GAFLIDH8 000A 8402h,
RSCAN.GAFLIDH9 000A 840Eh, RSCAN.GAFLIDH10 000A 841Ah, RSCAN.GAFLIDH11 000A 8426h,
RSCAN.GAFLIDH12 000A 8432h, RSCAN.GAFLIDH13 000A 843Eh, RSCAN.GAFLIDH14 000A 844Ah,
RSCAN.GAFLIDH15 000A 8456h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	GAFLID[28:16]	ID 設定ビット H	受信ルールの ID を設定してください。 標準 ID の場合、“0”にしてください	R/W
b13	GAFLLB	受信ルール対象メッセージ選択 ビット	0：他の CAN ノードが送信したメッセージを受信時 1：自らが送信したメッセージを受信時	R/W
b14	GAFLRTR	RTR 選択ビット	0：データフレーム 1：リモートフレーム	R/W
b15	GAFLIDE	IDE 選択ビット	0：標準 ID 1：拡張 ID	R/W

GAFLIDHj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換え
てください。

GAFLID[28:16] ビット (ID 設定ビット H)

受信ルールの ID フィールドを設定します。アクセプタンスフィルタ処理では、ここで設定した ID と受信
メッセージの ID を比較します。

GAFLLB ビット (受信ルール対象メッセージ選択ビット)

“0”にすると、他の CAN ノードが送信したメッセージを受信する場合に、受信ルールを用いたデータ処
理を行います。

ミラー機能使用時に“1”にすると、自らが送信したメッセージを受信する場合に、受信ルールを用いた
データ処理を行います。

GAFLRTR ビット (RTR 選択ビット)

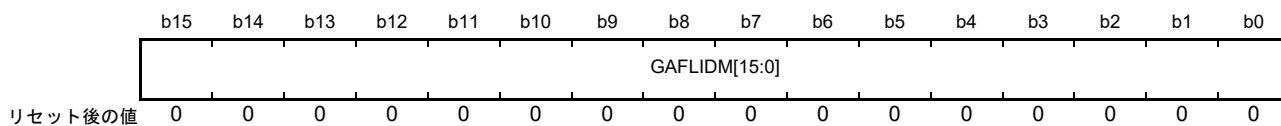
受信ルールのフレームフォーマット (データフレームまたはリモートフレーム) を選択します。アクセプ
タンスフィルタ処理では、このビットと受信メッセージの RTR ビットを比較します。

GAFLIDE ビット (IDE 選択ビット)

受信ルールの ID フォーマット (標準 ID または拡張 ID) を選択します。アクセプタンスフィルタ処理で
は、このビットと受信メッセージの IDE ビットを比較します。

29.2.20 受信ルール登録レジスタ jBL (GAFLMLj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLML0 000A 83A4h, RSCAN.GAFLML1 000A 83B0h, RSCAN.GAFLML2 000A 83BCh,
RSCAN.GAFLML3 000A 83C8h, RSCAN.GAFLML4 000A 83D4h, RSCAN.GAFLML5 000A 83E0h,
RSCAN.GAFLML6 000A 83ECh, RSCAN.GAFLML7 000A 83F8h, RSCAN.GAFLML8 000A 8404h,
RSCAN.GAFLML9 000A 8410h, RSCAN.GAFLML10 000A 841Ch, RSCAN.GAFLML11 000A 8428h,
RSCAN.GAFLML12 000A 8434h, RSCAN.GAFLML13 000A 8440h, RSCAN.GAFLML14 000A 844Ch,
RSCAN.GAFLML15 000A 8458h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	GAFLIDM[15:0]	IDマスクビットL	0 : 対応するIDビットを比較しない 1 : 対応するIDビットを比較する	R/W

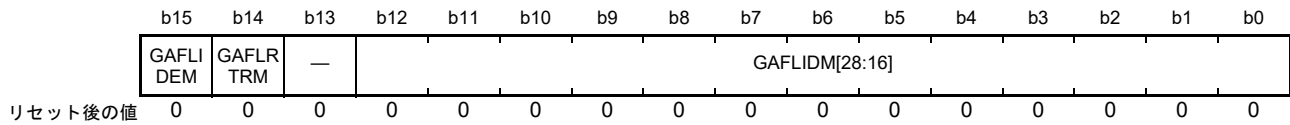
GAFLMLj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換えしてください。

GAFLIDM[15:0] ビット (ID マスクビット L)

受信ルールの対応する ID ビットをマスクするビットです。

29.2.21 受信ルール登録レジスタ jBH (GAFLMHj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLMH0 000A 83A6h, RSCAN.GAFLMH1 000A 83B2h, RSCAN.GAFLMH2 000A 83BEh,
RSCAN.GAFLMH3 000A 83CAh, RSCAN.GAFLMH4 000A 83D6h, RSCAN.GAFLMH5 000A 83E2h,
RSCAN.GAFLMH6 000A 83EEh, RSCAN.GAFLMH7 000A 83FAh, RSCAN.GAFLMH8 000A 8406h,
RSCAN.GAFLMH9 000A 8412h, RSCAN.GAFLMH10 000A 841Eh, RSCAN.GAFLMH11 000A 842Ah,
RSCAN.GAFLMH12 000A 8436h, RSCAN.GAFLMH13 000A 8442h, RSCAN.GAFLMH14 000A 844Eh,
RSCAN.GAFLMH15 000A 845Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	GAFLIDM[28:16]	IDマスクビットH	0: 対応するIDビットを比較しない 1: 対応するIDビットを比較する	R/W
b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b14	GAFLRTRM	RTRマスクビット	0: RTRビットを比較しない 1: RTRビットを比較する	R/W
b15	GAFLIDEM	IDEマスクビット	0: IDEビットを比較しない 1: IDEビットを比較する	R/W

GAFLMHj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換え
てください。

GAFLIDM[28:16] ビット (ID マスクビット H)

受信ルールの対応する ID ビットをマスクするビットです。

GAFLRTRM ビット (RTR マスクビット)

受信ルールの RTR ビットをマスクするビットです。

GAFLIDEM ビット (IDE マスクビット)

“1”にすると、GAFLIDHj.GAFLIDE ビットで設定した ID フォーマットのメッセージに対してのみフィル
タ処理を行います。

“0”にすると、すべての受信メッセージと ID が一致したとみなします。GAFLIDEM ビットを“0”にする
場合は、GAFLMHj.GAFLIDM[28:16] ビットと GAFLMLj.GAFLIDM[15:0] ビットをすべて“0”にしてくださ
い。

29.2.22 受信ルール登録レジスタ jCL (GAFLPLj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLPL0 000A 83A8h, RSCAN.GAFLPL1 000A 83B4h, RSCAN.GAFLPL2 000A 83C0h,
RSCAN.GAFLPL3 000A 83CCh, RSCAN.GAFLPL4 000A 83D8h, RSCAN.GAFLPL5 000A 83E4h,
RSCAN.GAFLPL6 000A 83F0h, RSCAN.GAFLPL7 000A 83FCh, RSCAN.GAFLPL8 000A 8408h,
RSCAN.GAFLPL9 000A 8414h, RSCAN.GAFLPL10 000A 8420h, RSCAN.GAFLPL11 000A 842Ch,
RSCAN.GAFLPL12 000A 8438h, RSCAN.GAFLPL13 000A 8444h, RSCAN.GAFLPL14 000A 8450h,
RSCAN.GAFLPL15 000A 845Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	
	GAFLR MV	GAFLRMDP[6:0]						—	—	—	GAFLF DP4	—	—	GAFLF DP1	GAFLF DP0		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	GAFLFDP0	受信FIFOバッファ選択ビット0	0: 受信FIFOバッファ0を選択しない 1: 受信FIFOバッファ0を選択する	R/W
b1	GAFLFDP1	受信FIFOバッファ選択ビット1	0: 受信FIFOバッファ1を選択しない 1: 受信FIFOバッファ1を選択する	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	GAFLFDP4	RSCAN0送受信FIFOバッファ 選択ビット0	0: RSCAN0送受信FIFOバッファ0を選択しない 1: RSCAN0送受信FIFOバッファ0を選択する	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b14-b8	GAFLRMDP[6:0]	受信バッファ番号選択ビット	受信メッセージを格納する受信バッファの番号を設定	R/W
b15	GAFLRMV	受信バッファ許可ビット	0: 受信バッファを使用しない 1: 受信バッファを使用する	R/W

GAFLPLj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換え
てください。

**GAFLFDP0 ビット (受信 FIFO バッファ選択ビット 0)、
GAFLFDP1 ビット (受信 FIFO バッファ選択ビット 1)、
GAFLFDP4 ビット (RSCAN0 送受信 FIFO バッファ選択ビット 0)**

フィルタを通過した受信メッセージを格納する FIFO バッファを指定します。最大2つの FIFO バッファ
が選択できます。ただし、GAFLPLj.GAFLRMV ビットを“1”(受信バッファにメッセージを格納する)にし
た場合は、最大1つの FIFO バッファが選択できます。受信 FIFO バッファと、CFCCH0.CFM[1:0] ビットを
“00b”(受信モード)に設定した送受信 FIFO バッファのみ選択できます。

GAFLRMDP[6:0] ビット (受信バッファ番号選択ビット)

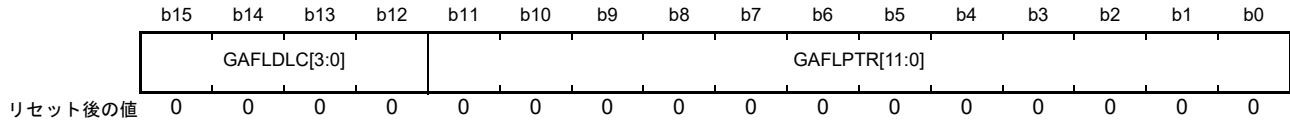
GAFLRMV ビットを“1”にした場合に、フィルタを通過した受信メッセージを格納する受信バッファの番
号を選択します。RMNB.NRXMB[4:0] ビットで設定した値より小さい番号を設定してください。

GAFLRMV ビット (受信バッファ許可ビット)

“1”にすると、GAFLRMDP[6:0] ビットで選択した受信バッファに、フィルタを通過した受信メッセージ
を格納します。

29.2.23 受信ルール登録レジスタ jCH (GAFLPHj) (j = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.GAFLPH0 000A 83AAh, RSCAN.GAFLPH1 000A 83B6h, RSCAN.GAFLPH2 000A 83C2h,
RSCAN.GAFLPH3 000A 83CEh, RSCAN.GAFLPH4 000A 83DAh, RSCAN.GAFLPH5 000A 83E6h,
RSCAN.GAFLPH6 000A 83F2h, RSCAN.GAFLPH7 000A 83FEh, RSCAN.GAFLPH8 000A 840Ah,
RSCAN.GAFLPH9 000A 8416h, RSCAN.GAFLPH10 000A 8422h, RSCAN.GAFLPH11 000A 842Eh,
RSCAN.GAFLPH12 000A 843Ah, RSCAN.GAFLPH13 000A 8446h, RSCAN.GAFLPH14 000A 8452h,
RSCAN.GAFLPH15 000A 845Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	GAFLPTR[11:0]	受信ルールラベル設定ビット	12ビットのラベル情報を設定	R/W
b15-b12	GAFLDLC[3:0]	受信ルールDLC設定ビット	b15 b12 0 0 0 0 : データ長0バイト以上(DLCチェックしない) 0 0 0 1 : データ長1バイト以上 0 0 1 0 : データ長2バイト以上 0 0 1 1 : データ長3バイト以上 0 1 0 0 : データ長4バイト以上 0 1 0 1 : データ長5バイト以上 0 1 1 0 : データ長6バイト以上 0 1 1 1 : データ長7バイト以上 1 x x x : データ長8バイト以上	R/W

x : Don't care

GAFLPHj レジスタは、GRWCR.RPAGE ビットが“0”で、かつグローバルリセットモードでのみ書き換えしてください。

GAFLPTR[11:0] ビット (受信ルールラベル設定ビット)

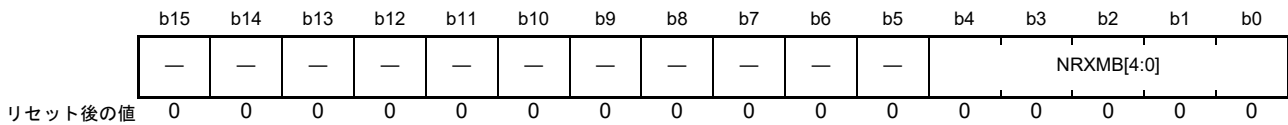
フィルタを通過したメッセージに付加する 12 ビットのラベルを設定します。ラベルはメッセージを受信バッファや FIFO バッファに格納する際に付加されます。

GAFLDLC[3:0] ビット (受信ルール DLC 設定ビット)

メッセージを受信するために必要な最小のデータ長を設定します。フィルタ処理中のメッセージのデータ長が GAFLDLC[3:0] ビットで設定した値以上の場合、DLC チェックを通過します。“0000b”を設定すると、DLC チェック機能は無効になり、すべてのデータ長のメッセージが通過します。

29.2.24 受信バッファ数設定レジスタ (RMNB)

アドレス RSCAN.RMNB 000A 8332h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	NRXMB[4:0]	受信バッファ数設定ビット	受信バッファ数を設定する。0～16の範囲で設定してください	R/W
b15-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

RMNB レジスタはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

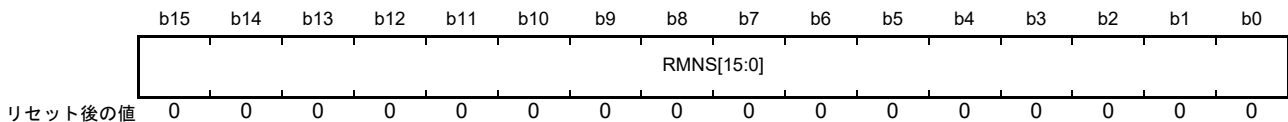
NRXMB[4:0] ビット (受信バッファ数設定ビット)

CAN モジュール全体の受信バッファ数を設定します。最大値は 16 です。

“0”を設定すると、受信バッファは使用できません。

29.2.25 受信バッファ受信完了フラグレジスタ (RMND0)

アドレス RSCAN.RMND0 000A 8334h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RMNS[15:0]	受信バッファ受信完了フラグ n	0: 受信バッファ n に新しいメッセージなし (n = 0～15) 1: 受信バッファ n に新しいメッセージあり	R/W

RMND0 レジスタは、グローバル動作モードまたはグローバルテストモードで“0”を書いてください。

RMNS[15:0] フラグ (受信バッファ受信完了フラグ n)

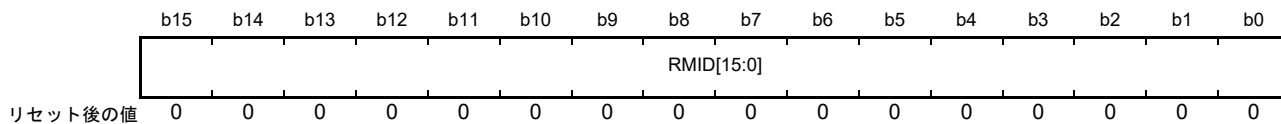
対応する受信バッファにメッセージを格納する処理が始まると“1”になります。

フラグを“0”にする場合は、対応するフラグにプログラムで“0”を書いてください。“0”を書く場合は、“0”にしたいビットを“0”、そうでないビットを“1”にして 16 ビット単位で書いてください。メッセージ格納中は“0”にできません。メッセージを格納する時間は PCLK の 10 クロック分です。

グローバルリセットモード時、“0”になります。

29.2.26 受信バッファレジスタ nAL (RMIDLn) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMIDL0 000A 83A0h, RSCAN.RMIDL1 000A 83B0h, RSCAN.RMIDL2 000A 83C0h,
RSCAN.RMIDL3 000A 83D0h, RSCAN.RMIDL4 000A 83E0h, RSCAN.RMIDL5 000A 83F0h,
RSCAN.RMIDL6 000A 8400h, RSCAN.RMIDL7 000A 8410h, RSCAN.RMIDL8 000A 8420h,
RSCAN.RMIDL9 000A 8430h, RSCAN.RMIDL10 000A 8440h, RSCAN.RMIDL11 000A 8450h,
RSCAN.RMIDL12 000A 8460h, RSCAN.RMIDL13 000A 8470h, RSCAN.RMIDL14 000A 8480h,
RSCAN.RMIDL15 000A 8490h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RMID[15:0]	受信バッファ ID データ L	受信メッセージの標準 ID/拡張 ID が読めます。標準 ID の場合は、b10~b0 を読んでください。b15~b11 は 0 が読めます	R

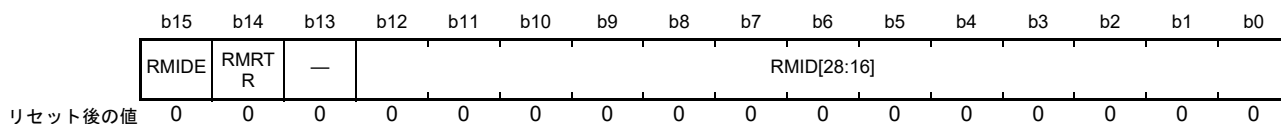
GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RMID[15:0] ビット (受信バッファ ID データ L)

受信バッファに格納されたメッセージの ID を示します。

29.2.27 受信バッファレジスタ nAH (RMIDHn) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMIDH0 000A 83A2h, RSCAN.RMIDH1 000A 83B2h, RSCAN.RMIDH2 000A 83C2h,
RSCAN.RMIDH3 000A 83D2h, RSCAN.RMIDH4 000A 83E2h, RSCAN.RMIDH5 000A 83F2h,
RSCAN.RMIDH6 000A 8402h, RSCAN.RMIDH7 000A 8412h, RSCAN.RMIDH8 000A 8422h,
RSCAN.RMIDH9 000A 8432h, RSCAN.RMIDH10 000A 8442h, RSCAN.RMIDH11 000A 8452h,
RSCAN.RMIDH12 000A 8462h, RSCAN.RMIDH13 000A 8472h, RSCAN.RMIDH14 000A 8482h,
RSCAN.RMIDH15 000A 8492h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	RMID[28:16]	受信バッファ ID データ H	受信メッセージの標準 ID/拡張 ID が読めます。標準 ID の場合は、“0”が読めます	R
b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b14	RMRT R	受信バッファ RTR ビット	0: データフレーム 1: リモートフレーム	R
b15	RMIDE	受信バッファ IDE ビット	0: 標準 ID 1: 拡張 ID	R

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RMID[28:16] ビット (受信バッファ ID データ H)

受信バッファに格納されたメッセージの ID を示します。

RMRT R ビット (受信バッファ RTR ビット)

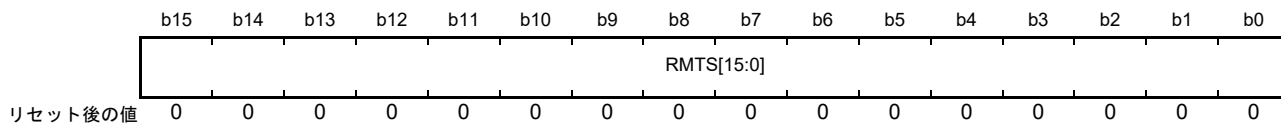
受信バッファに格納されたメッセージのフレームフォーマット (データフレームまたはリモートフレーム) を示します。

RMIDE ビット (受信バッファ IDE ビット)

受信バッファに格納されたメッセージの ID フォーマット (標準 ID または拡張 ID) を示します。

29.2.28 受信バッファレジスタ nBL (RMTSn) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMTS0 000A 83A4h, RSCAN.RMTS1 000A 83B4h, RSCAN.RMTS2 000A 83C4h,
RSCAN.RMTS3 000A 83D4h, RSCAN.RMTS4 000A 83E4h, RSCAN.RMTS5 000A 83F4h,
RSCAN.RMTS6 000A 8404h, RSCAN.RMTS7 000A 8414h, RSCAN.RMTS8 000A 8424h,
RSCAN.RMTS9 000A 8434h, RSCAN.RMTS10 000A 8444h, RSCAN.RMTS11 000A 8454h,
RSCAN.RMTS12 000A 8464h, RSCAN.RMTS13 000A 8474h, RSCAN.RMTS14 000A 8484h,
RSCAN.RMTS15 000A 8494h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RMTS[15:0]	受信バッファタイムスタンプデータ	受信メッセージのタイムスタンプ値が読めます	R

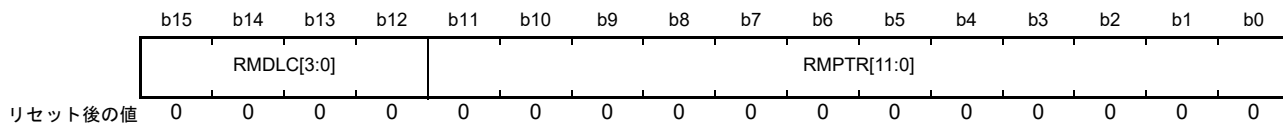
GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RMTS[15:0] ビット (受信バッファタイムスタンプデータ)

受信バッファに格納されたメッセージのタイムスタンプ値を示します。

29.2.29 受信バッファレジスタ nBH (RMPTRn) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMPTR0 000A 83A6h, RSCAN.RMPTR1 000A 83B6h, RSCAN.RMPTR2 000A 83C6h,
 RSCAN.RMPTR3 000A 83D6h, RSCAN.RMPTR4 000A 83E6h, RSCAN.RMPTR5 000A 83F6h,
 RSCAN.RMPTR6 000A 8406h, RSCAN.RMPTR7 000A 8416h, RSCAN.RMPTR8 000A 8426h,
 RSCAN.RMPTR9 000A 8436h, RSCAN.RMPTR10 000A 8446h, RSCAN.RMPTR11 000A 8456h,
 RSCAN.RMPTR12 000A 8466h, RSCAN.RMPTR13 000A 8476h, RSCAN.RMPTR14 000A 8486h,
 RSCAN.RMPTR15 000A 8496h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	RMPTR[11:0]	受信バッファラベルデータ	受信メッセージのラベル情報が読めます	R
b15-b12	RMDLC[3:0]	受信バッファ DLC データ	b15 b12 0 0 0 0 : 0バイト 0 0 0 1 : 1バイト 0 0 1 0 : 2バイト 0 0 1 1 : 3バイト 0 1 0 0 : 4バイト 0 1 0 1 : 5バイト 0 1 1 0 : 6バイト 0 1 1 1 : 7バイト 1 x x x : 8バイト	R

x : Don't care

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RMPTR[11:0] ビット (受信バッファラベルデータ)

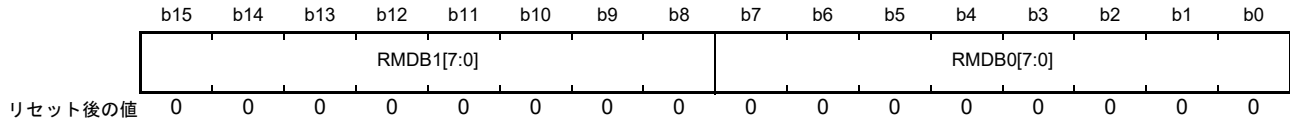
受信バッファに格納されたメッセージのラベル情報を示します。

RMDLC[3:0] ビット (受信バッファ DLC データ)

受信バッファに格納されたメッセージのデータ長を示します。

29.2.30 受信バッファレジスタ nCL (RMDF0n) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMDF00 000A 83A8h, RSCAN.RMDF01 000A 83B8h, RSCAN.RMDF02 000A 83C8h,
RSCAN.RMDF03 000A 83D8h, RSCAN.RMDF04 000A 83E8h, RSCAN.RMDF05 000A 83F8h,
RSCAN.RMDF06 000A 8408h, RSCAN.RMDF07 000A 8418h, RSCAN.RMDF08 000A 8428h,
RSCAN.RMDF09 000A 8438h, RSCAN.RMDF10 000A 8448h, RSCAN.RMDF11 000A 8458h,
RSCAN.RMDF12 000A 8468h, RSCAN.RMDF13 000A 8478h, RSCAN.RMDF14 000A 8488h,
RSCAN.RMDF15 000A 8498h



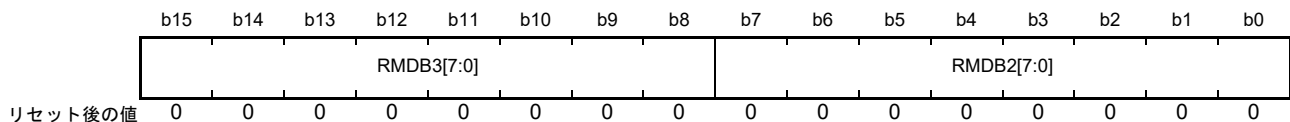
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RMDB0[7:0]	受信バッファデータバイト0	受信バッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RMDB1[7:0]	受信バッファデータバイト1		R

RMPTRn.RMDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.31 受信バッファレジスタ nCH (RMDF1n) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMDF10 000A 83AAh, RSCAN.RMDF11 000A 83BAh, RSCAN.RMDF12 000A 83CAh,
RSCAN.RMDF13 000A 83DAh, RSCAN.RMDF14 000A 83EAh, RSCAN.RMDF15 000A 83FAh,
RSCAN.RMDF16 000A 840Ah, RSCAN.RMDF17 000A 841Ah, RSCAN.RMDF18 000A 842Ah,
RSCAN.RMDF19 000A 843Ah, RSCAN.RMDF110 000A 844Ah, RSCAN.RMDF111 000A 845Ah,
RSCAN.RMDF112 000A 846Ah, RSCAN.RMDF113 000A 847Ah, RSCAN.RMDF114 000A 848Ah,
RSCAN.RMDF115 000A 849Ah



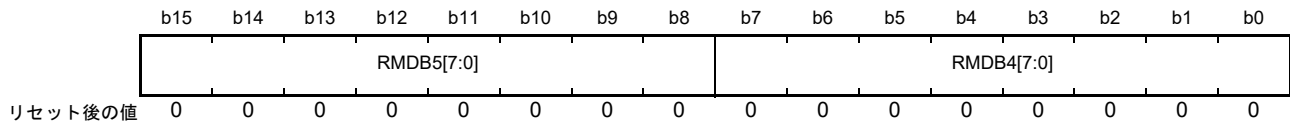
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RMDB2[7:0]	受信バッファデータバイト2	受信バッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RMDB3[7:0]	受信バッファデータバイト3		R

RMPTRn.RMDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.32 受信バッファレジスタ nDL (RMDF2n) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMDF20 000A 83ACh, RSCAN.RMDF21 000A 83BCh, RSCAN.RMDF22 000A 83CCh,
RSCAN.RMDF23 000A 83DCh, RSCAN.RMDF24 000A 83ECh, RSCAN.RMDF25 000A 83FCh,
RSCAN.RMDF26 000A 840Ch, RSCAN.RMDF27 000A 841Ch, RSCAN.RMDF28 000A 842Ch,
RSCAN.RMDF29 000A 843Ch, RSCAN.RMDF210 000A 844Ch, RSCAN.RMDF211 000A 845Ch,
RSCAN.RMDF212 000A 846Ch, RSCAN.RMDF213 000A 847Ch, RSCAN.RMDF214 000A 848Ch,
RSCAN.RMDF215 000A 849Ch



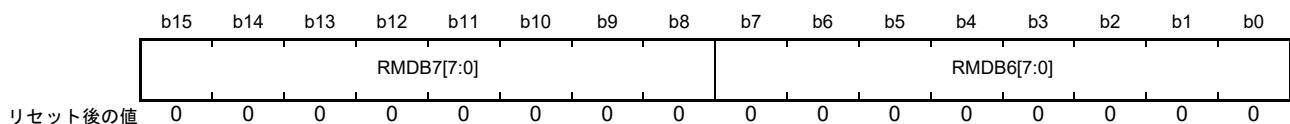
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RMDB4[7:0]	受信バッファデータバイト4	受信バッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RMDB5[7:0]	受信バッファデータバイト5		R

RMPTRn.RMDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.33 受信バッファレジスタ nDH (RMDF3n) (n = 0 ~ 15)

アドレス RSCAN.RMDF30 000A 83AEh, RSCAN.RMDF31 000A 83BEh, RSCAN.RMDF32 000A 83CEh,
RSCAN.RMDF33 000A 83DEh, RSCAN.RMDF34 000A 83EEh, RSCAN.RMDF35 000A 83FEh,
RSCAN.RMDF36 000A 840Eh, RSCAN.RMDF37 000A 841Eh, RSCAN.RMDF38 000A 842Eh,
RSCAN.RMDF39 000A 843Eh, RSCAN.RMDF310 000A 844Eh, RSCAN.RMDF311 000A 845Eh,
RSCAN.RMDF312 000A 846Eh, RSCAN.RMDF313 000A 847Eh, RSCAN.RMDF314 000A 848Eh,
RSCAN.RMDF315 000A 849Eh



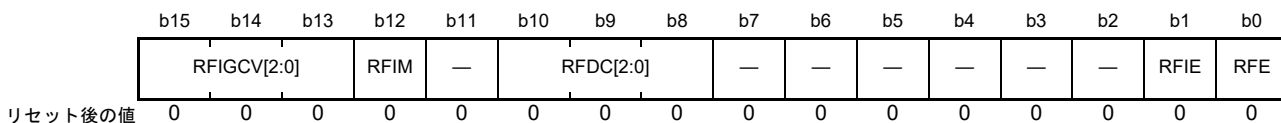
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RMDB6[7:0]	受信バッファデータバイト6	受信バッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RMDB7[7:0]	受信バッファデータバイト7		R

RMPTRn.RMDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.34 受信 FIFO 制御レジスタ m (RFCCm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFCC0 000A 8338h, RSCAN.RFCC1 000A 833Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RFE	受信 FIFO バッファ許可ビット	0 : 受信 FIFO バッファを使用しない 1 : 受信 FIFO バッファを使用する	R/W
b1	RFIE	受信 FIFO 割り込み許可ビット	0 : 受信 FIFO 割り込み禁止 1 : 受信 FIFO 割り込み許可	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b10-b8	RFDC[2:0]	受信 FIFO バッファ段数設定ビット	b10 b8 0 0 0 : 0メッセージ 0 0 1 : 4メッセージ 0 1 0 : 8メッセージ 0 1 1 : 16メッセージ 1 0 0 : 設定しないでください 1 0 1 : 設定しないでください 1 1 0 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	R/W
b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	RFIM	受信 FIFO 割り込み要因選択ビット	0 : RFIGCV[2:0] ビットで設定した条件に達したときに発生 1 : 1メッセージ受信完了ごとに発生	R/W
b15-b13	RFIGCV[2:0]	受信 FIFO 割り込み要求発生タイミング選択ビット	b15 b13 0 0 0 : FIFO バッファに1/8までメッセージ格納時 0 0 1 : FIFO バッファに2/8までメッセージ格納時 0 1 0 : FIFO バッファに3/8までメッセージ格納時 0 1 1 : FIFO バッファに4/8までメッセージ格納時 1 0 0 : FIFO バッファに5/8までメッセージ格納時 1 0 1 : FIFO バッファに6/8までメッセージ格納時 1 1 0 : FIFO バッファに7/8までメッセージ格納時 1 1 1 : FIFO バッファがフルの時	R/W

RFE ビット (受信 FIFO バッファ許可ビット)

“1”にすると、受信 FIFO バッファが使用できます。“0”にすると、RFSTSm.RFEMP フラグが“1”(バッファ空)になります。このビットはグローバル動作モードまたはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

RFIE ビット (受信 FIFO 割り込み許可ビット)

“1”にすると、受信 FIFO 割り込みが使用できます。RFE ビットが“0”(受信 FIFO バッファを使用しない)のときに、RFIE ビットを書き換えてください。

RFDC[2:0] ビット (受信 FIFO バッファ段数設定ビット)

1つの受信 FIFO バッファに格納できるメッセージの数を選択します。“000b”に設定した場合は、受信 FIFO バッファを使用しないでください。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

RFIM ビット (受信 FIFO 割り込み要因選択ビット)

FIFO 割り込み要因を選択します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

RFIGCV[2:0] ビット (受信 FIFO 割り込み要求発生タイミング選択ビット)

RFIM ビットを“0”にした場合の受信 FIFO 割り込み要求を発生させるために必要な受信メッセージ数をバッファ総数 (RFDC[2:0] の設定) に対する分数で指定します。RFDC[2:0] ビットを“001b” (4 メッセージ) に設定した場合は、RFIGCV[2:0] ビットを“001b”、“011b”、“101b”、または“111b”にしてください。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

29.2.35 受信 FIFO ステータスレジスタ m (RFSTSm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFSTS0 000A 8340h, RSCAN.RFSTS1 000A 8342h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	RFMC[5:0]					—	—	—	—	RFIF	RFMLT	RFLL	RFEMP	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RFEMP	受信FIFOバッファ空ステータスフラグ	0: 受信FIFOバッファに未読メッセージあり 1: 受信FIFOバッファに未読メッセージなし(バッファ空)	R
b1	RFLL	受信FIFOバッファフルステータスフラグ	0: 受信FIFOバッファフルではない 1: 受信FIFOバッファフル	R
b2	RFMLT	受信FIFOメッセージロストフラグ	0: 受信FIFOメッセージロストなし 1: 受信FIFOメッセージロスト	R/(W) (注1)
b3	RFIF	受信FIFO割り込み要求フラグ	0: 受信FIFO割り込み要求なし 1: 受信FIFO割り込み要求あり	R/(W) (注1)
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b13-b8	RFMC[5:0]	受信FIFO未読メッセージ数表示カウンタ	受信FIFOバッファに格納された未読メッセージ数を示します	R
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。“1”を書いても値は変化しません。

RFEMP フラグ (受信 FIFO バッファ空ステータスフラグ)

受信 FIFO バッファのすべてのメッセージを読むと“1”になります。また、RFCCm.RFE ビットが“0”のとき、またはグローバルリセットモード時に“1”になります。

受信メッセージが1つでも受信 FIFO バッファに格納されると“0”になります。

RFLL フラグ (受信 FIFO バッファフルステータスフラグ)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージ数が、RFCCm.RFDC[2:0] ビットで設定した段数と一致すると“1”になります。

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージ数が、RFCCm.RFDC[2:0] ビットで設定した段数より小さくなると“0”になります。また、RFCCm.RFE ビットが“0” (受信 FIFO バッファを使用しない) のとき、またはグローバルリセットモード時に“0”になります。

RFMLT フラグ (受信 FIFO メッセージロストフラグ)

受信 FIFO バッファがフルの場合に、さらに新しいメッセージを格納しようとしたとき“1”になります。この場合、新しいメッセージは破棄されます。

RFMLT フラグへの“0”書き込み、またはグローバルリセットモード時、“0”になります。

このビットはグローバル動作モードまたはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

RFIF フラグ (受信 FIFO 割り込み要求フラグ)

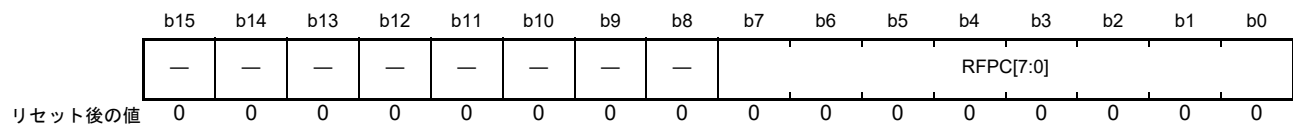
RFCCm.RFIGCV[2:0] ビット (m = 0, 1) と RFCCm.RFIM ビットで設定した受信 FIFO 割り込み要求発生条件が整ったときに“1”になります。RFIF フラグへの“0”書き込み、またはグローバルリセットモード時、“0”になります。このビットはグローバル動作モードまたはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

RFMC[5:0] フラグ (受信 FIFO 未読メッセージ数表示カウンタ)

受信 FIFO バッファ内の未読メッセージ数を示します。RFCCm.RFE ビットを“0”にすると、“00h”になります。

29.2.36 受信 FIFO ポインタ制御レジスタ m (RFPCTRm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFPCTR0 000A 8348h, RSCAN.RFPCTR1 000A 834Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RFPC[7:0]	受信FIFOポインタ	“FFh”を書くと、受信FIFOバッファの次の未読メッセージにリードポインタが移動します。設定値は“FFh”です	W
b15-b8	—	予約ビット	書く場合、“0”としてください	W

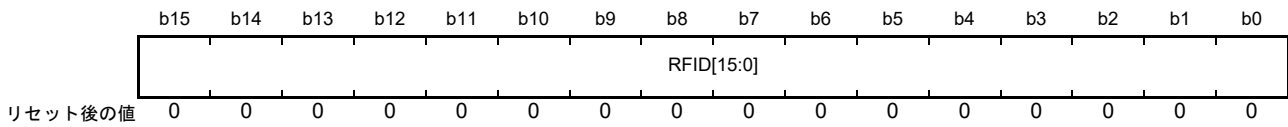
RFPC[7:0] ビット (受信 FIFO ポインタ)

RFPC[7:0] ビットに“FFh”を書くと、受信 FIFO バッファの次の未読メッセージにリードポインタが移動します。このとき RFSTSm.RFMC[5:0] フラグ (受信 FIFO 未読メッセージ数表示カウンタ) の値が“1”減算されます。RFIDLm、RFIDHm、RFTSm、RFPTRm、RFDF0m ~ RFDF3m レジスタを読んで受信 FIFO バッファのメッセージを読み出した後、RFPC[7:0] ビットに“FFh”を書いてください。

なお、“FFh”の書き込みは、RFCCm.RFE ビットが“1”(受信 FIFO バッファを使用する)で、RFSTSm.RFEMP フラグが“0”(未読メッセージあり)のときに行ってください。

29.2.37 受信 FIFO アクセスレジスタ mAL (RFIDLm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFIDL0 000A 85A0h, RSCAN.RFIDL1 000A 85B0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RFID[15:0]	受信FIFOバッファIDデータL	受信メッセージの標準ID/拡張IDが読めます。標準IDの場合は、b10～b0を読んでください。b15～b11は“0”が読めます	R

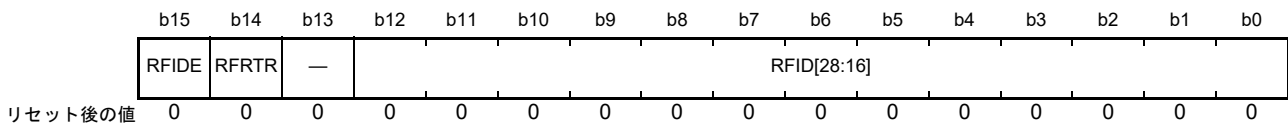
GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RFID[15:0] ビット (受信 FIFO バッファ ID データ L)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージの ID を示します。

29.2.38 受信 FIFO アクセスレジスタ mAH (RFIDHm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFIDH0 000A 85A2h, RSCAN.RFIDH1 000A 85B2h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	RFID[28:16]	受信FIFOバッファIDデータH	受信メッセージの標準ID/拡張IDが読めます。標準IDの場合は、“0”が読めます	R
b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b14	RFRTR	受信FIFOバッファRTRビット	0: データフレーム 1: リモートフレーム	R
b15	RFIDE	受信FIFOバッファIDEビット	0: 標準ID 1: 拡張ID	R

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RFID[28:16] ビット (受信 FIFO バッファ ID データ H)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージの ID を示します。

RFRTR ビット (受信 FIFO バッファ RTR ビット)

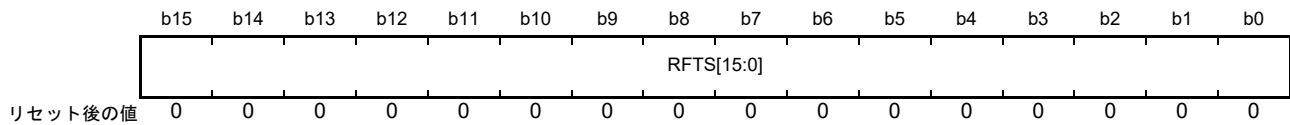
受信 FIFO バッファに格納されたメッセージのフレームフォーマット (データフレームまたはリモートフレーム) を示します。

RFIDE ビット (受信 FIFO バッファ IDE ビット)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージの ID フォーマット (標準 ID または拡張 ID) を示します。

29.2.39 受信 FIFO アクセスレジスタ mBL (RFTSm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFTS0 000A 85A4h, RSCAN.RFTS1 000A 85B4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	RFTS[15:0]	受信FIFOバッファタイムスタンプデータ	受信メッセージのタイムスタンプ値が読めます	R

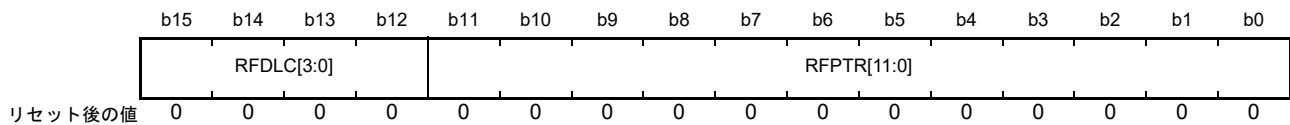
GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RFTS[15:0] ビット (受信 FIFO バッファタイムスタンプデータ)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージのタイムスタンプ値を示します。

29.2.40 受信 FIFO アクセスレジスタ mBH (RFPTRm) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFPTR0 000A 85A6h, RSCAN.RFPTR1 000A 85B6h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	RFPTR[11:0]	受信FIFOバッファラベルデータ	受信メッセージのラベル情報が読めます	R
b15-b12	RFDLC[3:0]	受信FIFOバッファ DLC データ	b15 b12 0 0 0 0 : 0バイト 0 0 0 1 : 1バイト 0 0 1 0 : 2バイト 0 0 1 1 : 3バイト 0 1 0 0 : 4バイト 0 1 0 1 : 5バイト 0 1 1 0 : 6バイト 0 1 1 1 : 7バイト 1 x x x : 8バイト	R

x : Don't care

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

RFPTR[11:0] ビット (受信 FIFO バッファラベルデータ)

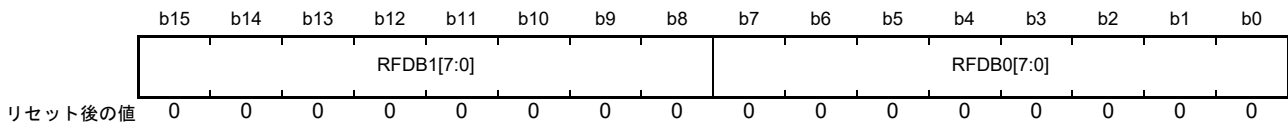
受信 FIFO バッファに格納されたメッセージのラベル情報を示します。

RFDLC[3:0] ビット (受信 FIFO バッファ DLC データ)

受信 FIFO バッファに格納されたメッセージのデータ長を示します。

29.2.41 受信 FIFO アクセスレジスタ mCL (RFDF0m) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFDF00 000A 85A8h, RSCAN.RFDF01 000A 85B8h



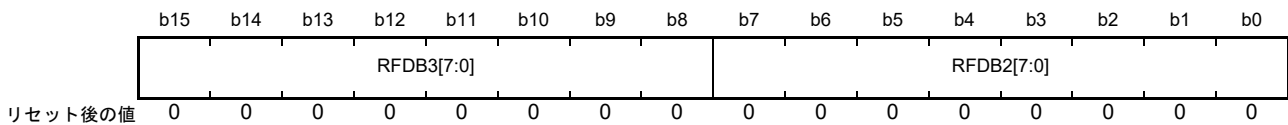
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RFDB0[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト0	受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RFDB1[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト1		R

RFPTRm.RFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.42 受信 FIFO アクセスレジスタ mCH (RFDF1m) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFDF10 000A 85AAh, RSCAN.RFDF11 000A 85BAh



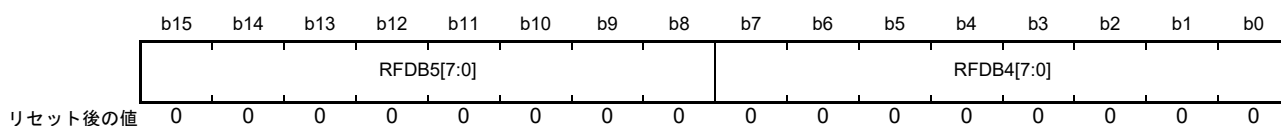
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RFDB2[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト2	受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RFDB3[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト3		R

RFPTRm.RFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.43 受信 FIFO アクセスレジスタ mDL (RFDF2m) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFDF20 000A 85ACh, RSCAN.RFDF21 000A 85BCh



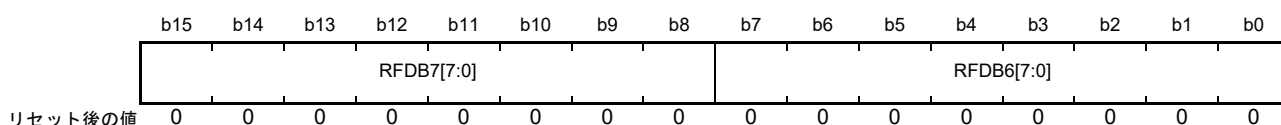
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RFDB4[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト4	受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RFDB5[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト5		R

RFPTRm.RFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.44 受信 FIFO アクセスレジスタ mDH (RFDF3m) (m = 0, 1)

アドレス RSCAN.RFDF30 000A 85AEh, RSCAN.RFDF31 000A 85BEh



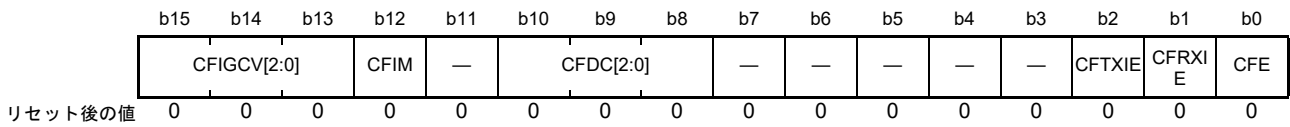
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RFDB6[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト6	受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読めます	R
b15-b8	RFDB7[7:0]	受信FIFOバッファデータバイト7		R

RFPTRm.RFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは、“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

29.2.45 送受信 FIFO 制御レジスタ 0L (CFCCL0)

アドレス RSCAN0.CFCCL0 000A 8350h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CFE	送受信 FIFOバッファ許可ビット	0: 送受信 FIFOバッファを使用しない 1: 送受信 FIFOバッファを使用する	R/W
b1	CFRXIE	送受信 FIFO受信割り込み許可ビット	0: 送受信 FIFO受信割り込み禁止 1: 送受信 FIFO受信割り込み許可	R/W
b2	CFTXIE	送受信 FIFO送信割り込み許可ビット	0: 送受信 FIFO送信割り込み禁止 1: 送受信 FIFO送信割り込み許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b10-b8	CFDC[2:0]	送受信 FIFOバッファ段数設定ビット	b10 b8 0 0 0 : 0メッセージ 0 0 1 : 4メッセージ 0 1 0 : 8メッセージ 0 1 1 : 16メッセージ 1 0 0 : 設定しないでください 1 0 1 : 設定しないでください 1 1 0 : 設定しないでください 1 1 1 : 設定しないでください	R/W
b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	CFIM	送受信 FIFO割り込み要因選択ビット	0: 受信モード時 受信メッセージ数がCFGICV[2:0]ビットで設定した条件に達したとき、FIFO受信割り込み要求発生 送信モード時 メッセージ送信完了によってバッファが空になったとき、FIFO送信割り込み要求発生 1: 受信モード時 1メッセージ受信ごとにFIFO受信割り込み要求発生 送信モード時 1メッセージ送信が完了するごとにFIFO送信割り込み要求発生	R/W
b15-b13	CFGICV[2:0]	送受信 FIFO受信割り込み要求発生タイミング選択ビット	b15 b13 0 0 0 : FIFOバッファに1/8までメッセージ格納時 0 0 1 : FIFOバッファに2/8までメッセージ格納時 0 1 0 : FIFOバッファに3/8までメッセージ格納時 0 1 1 : FIFOバッファに4/8までメッセージ格納時 1 0 0 : FIFOバッファに5/8までメッセージ格納時 1 0 1 : FIFOバッファに6/8までメッセージ格納時 1 1 0 : FIFOバッファに7/8までメッセージ格納時 1 1 1 : FIFOバッファがフルの時	R/W

CFE ビット (送受信 FIFO バッファ許可ビット)

“1”にすると、送受信 FIFO バッファを使用できます。

“0”にすると、送信モードでは、送受信 FIFO バッファのメッセージが送信中、または次の送信に決定している場合、送信完了、CAN バスエラーの検出、またはアービトラージロストの後に、空になります。それ以外の場合、または受信モードでは“0”にすると空になります。

このビットは、次に示す条件で“0”になります。

- 受信モード時：グローバルリセットモード
- 送信モード時：チャネルリセットモード

このビットは、次に示すモードでのみ書き換えてください。

- 受信モード：グローバル動作モードまたはグローバルテストモード
- 送信モード：チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モード

CFRXIE ビット (送受信 FIFO 受信割り込み許可ビット)

このビットが“1”の場合、CFSTS0.CFRXIF フラグが“1”になると、送受信 FIFO 受信割り込み要求が発生します。

CFE ビットが“0”の状態、CFRXIE ビットを書き換えてください。

CFTXIE ビット (送受信 FIFO 送信割り込み許可ビット)

このビットが“1”の場合、CFSTS0.CFTXIF フラグが“1”になると、送受信 FIFO 送信割り込み要求が発生します。

CFE ビットが“0”(送受信 FIFO バッファを使用しない)の状態、CFTXIE ビットを書き換えてください。

CFDC[2:0] ビット (送受信 FIFO バッファ段数設定ビット)

1つの送受信 FIFO バッファに格納できるメッセージの数を設定します。“000b”に設定した場合は、送受信 FIFO バッファを使用しないでください。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

CFIM ビット (送受信 FIFO 割り込み要因選択ビット)

送受信 FIFO 割り込み要因を選択します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

CFIGCV[2:0] ビット (送受信 FIFO 受信割り込み要求発生タイミング選択ビット)

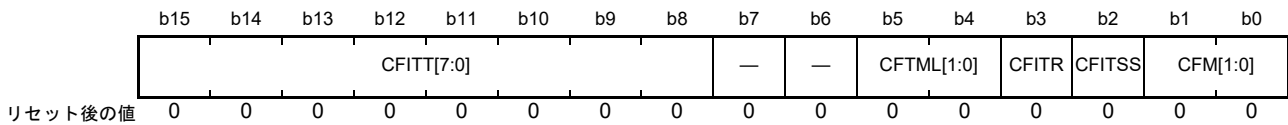
CFCCH0.CFM[1:0] ビットを“00b”(受信モード)に、CFIM ビットを“0”にした場合の送受信 FIFO 受信割り込み要求を発生させるために必要な受信メッセージ数をバッファ総数(CFDC[2:0] ビットの設定)に対する分数で指定します。

CFDC[2:0] ビットを“001b”(4メッセージ)に設定した場合は、CFIGCV[2:0] ビットを“001b”、“011b”、“101b”、または“111b”にしてください。

このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

29.2.46 送受信 FIFO 制御レジスタ 0H (CFCC0)

アドレス RSCAN0.CFCC0 000A 8352h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CFM[1:0]	送受信FIFOモード選択ビット	b1 b0 0 0 : 受信モード 0 1 : 送信モード 1 0 : 設定しないでください 1 1 : 設定しないでください	R/W
b2	CFITSS	インターバルタイマクロックソース選択ビット	0 : CFITR ビットで選択したクロック 1 : CAN ビットタイムクロック	R/W
b3	CFITR	送受信FIFOインターバルタイマ分解能	0 : PCLKをGCFGH.ITRCP[15:0]ビットで分周したクロック 1 : PCLKをGCFGH.ITRCP[15:0]ビットの値×10で分周したクロック	R/W
b5-b4	CFTML[1:0]	送信バッファリンク設定ビット	送受信FIFOバッファにリンクさせる送信バッファ番号を設定してください	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b8	CFITT[7:0]	メッセージ送信間隔設定ビット	メッセージの送信間隔を設定してください。設定値は“00h”～“FFh”です	R/W

CFM[1:0] ビット (送受信 FIFO モード選択ビット)

送受信 FIFO のモードを選択します。このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

CFITSS ビット (インターバルタイマクロックソース選択ビット)

“0” のとき、CFITR ビットで選択したクロックがインターバルタイマのカウントソースになります。

“1” のとき、CAN ビットタイムクロックがインターバルタイマのカウントソースになります。

CFCC0.CFE ビットを“0”(送受信 FIFO バッファを使用しない)にしてから、CFITSS ビットを書き換えてください。

CFITR ビット (送受信 FIFO インターバルタイマ分解能)

CFITSS ビットが“0” のとき、有効です。

“0” のとき、PCLK を GCFGH.ITRCP[15:0] ビットで分周したクロックを選択します。

“1” のとき、PCLK を GCFGH.ITRCP[15:0] ビットの値×10 で分周したクロックを選択します。

CFCC0.CFE ビットが“0”(送受信 FIFO バッファを使用しない) の状態で、CFITR ビットを書き換えてください。

CFTML[1:0] ビット (送信バッファリンク設定ビット)

CFM[1:0] ビットを“01b”(送信モード) に設定した場合、送受信 FIFO バッファにリンクする送信バッファ番号を設定します。

CFCC0.CFDC[2:0] ビットを“001b”以上にすると、CFTML[1:0] ビットの設定が有効になります。

このビットはグローバルリセットモードでのみ書き換えてください。

CFITT[7:0] ビット (メッセージ送信間隔設定ビット)

CFM[1:0] ビットを“01b”(送信モード) に設定した送受信 FIFO バッファから連続してメッセージを送信

する場合、メッセージの送信間隔を設定します。

CFCCLO.CFE ビットを“0”(送受信 FIFO バッファを使用しない)にしてから、CFITT[7:0] ビットを書き換えてください。

29.2.47 送受信 FIFO ステータスレジスタ 0 (CFSTS0)

アドレス RSCAN0.CFSTS0 000A 8358h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	CFMC[5:0]					—	—	—	CFTXIF	CFRXIF	CFMLT	CFLL	CFEMP	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CFEMP	送受信 FIFO バッファ空ステータスフラグ	0: 送受信 FIFO バッファにメッセージあり 1: 送受信 FIFO バッファにメッセージなし(バッファ空)	R
b1	CFLL	送受信 FIFO バッファフルステータスフラグ	0: 送受信 FIFO バッファフルではない 1: 送受信 FIFO バッファフル	R
b2	CFMLT	送受信 FIFO メッセージロストフラグ	0: 送受信 FIFO メッセージロストなし 1: 送受信 FIFO メッセージロスト	R/(W) (注1)
b3	CFRXIF	送受信 FIFO 受信割り込み要求フラグ	0: 送受信 FIFO 受信割り込み要求なし 1: 送受信 FIFO 受信割り込み要求あり	R/(W) (注1)
b4	CFTXIF	送受信 FIFO 送信割り込み要求フラグ	0: 送受信 FIFO 送信割り込み要求なし 1: 送受信 FIFO 送信割り込み要求あり	R/(W) (注1)
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b13-b8	CFMC[5:0]	送受信 FIFO メッセージ数表示カウンタ	送受信 FIFO バッファに格納されたメッセージ数を示します	R
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。“1”を書いても値は変化しません。

CFEMP フラグ (送受信 FIFO バッファ空ステータスフラグ)

[“1”になる条件]

- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”の場合: 全メッセージを読み出したとき、またはグローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”の場合: すべてのメッセージを送信したとき、またはチャンネルリセットモード
- CFCCL0.CFE ビットが“0”(送受信 FIFO バッファを使用しない)のとき
ただし、送受信 FIFO バッファのメッセージが送信中または次の送信に決定している場合、送信完了、CAN バスエラーの検出、またはアービトレーションロストの後に、“1”になります。

[“0”になる条件]

- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”の場合: 受信メッセージが1つでも送受信 FIFO バッファに格納されたとき
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”の場合: CFIDL0、CFIDH0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタに書いてから、CFPCTR0 レジスタに“FFh”を書いたとき

CFFLL フラグ (送受信 FIFO バッファフルステータスフラグ)

["1"になる条件]

- 送受信 FIFO バッファに格納されたメッセージ数が、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットで設定した段数と一致したとき

["0"になる条件]

- 送受信 FIFO バッファに格納されたメッセージ数が、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットで設定した段数より小さくなったとき
- CFCCL0.CFE ビットが "0" (送受信 FIFO バッファを使用しない) のとき
ただし、送受信 FIFO バッファのメッセージが送信中または次の送信に決定している場合、送信完了、CAN バスエラーの検出、またはアービトラージロストの後に、"0" になります。
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "00b" の場合：グローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "01b" の場合：チャンネルリセットモード

CFMLT フラグ (送受信 FIFO メッセージロストフラグ)

["1"になる条件]

- 送受信 FIFO バッファがフルの場合に、さらに新しいメッセージを格納しようとしたとき。この場合、新しいメッセージは破棄されます。

["0"になる条件]

- CFMLT フラグへの "0" 書き込み
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "00b" の場合：グローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "01b" の場合：チャンネルリセットモード
このフラグは、グローバル動作モードまたはグローバルテストモードで "0" を書いてください。

CFRXIF フラグ (送受信 FIFO 受信割り込み要求フラグ)

["1"になる条件]

- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "00b" で、CFCCL0.CFIM ビットで選択した要因が発生したとき

["0"になる条件]

- CFRXIF フラグへの "0" 書き込み
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "00b" の場合：グローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "01b" の場合：チャンネルリセットモード
このフラグは、グローバル動作モードまたはグローバルテストモードで "0" を書いてください。

CFTXIF フラグ (送受信 FIFO 送信割り込み要求フラグ)

["1"になる条件]

- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "01b" で、CFCCL0.CFIM ビットで選択した要因が発生したとき

["0"になる条件]

- CFTXIF フラグへの "0" 書き込み
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "00b" の場合：グローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが "01b" の場合：チャンネルリセットモード
このフラグは、グローバル動作モードまたはグローバルテストモードで "0" を書いてください。

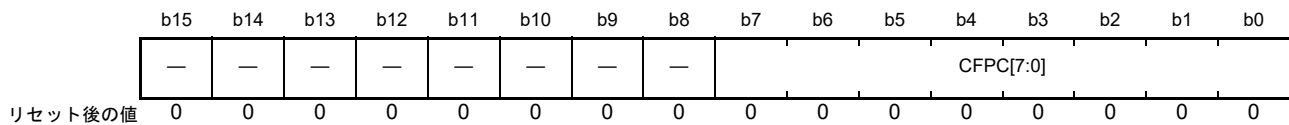
CFMC[5:0] フラグ (送受信 FIFO メッセージ数表示カウンタ)

CFMC[5:0] フラグが示す値は、CFCCH0.CFM[1:0] ビットの設定により次のようになります。

- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b” (送信モード) の場合：バッファに格納した未送信メッセージ数
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b” (受信モード) の場合：バッファに格納された未読の受信メッセージ数
このビットは、次に示す条件で“0”になります。
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b” の場合：グローバルリセットモード
- CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b” の場合：チャンネルリセットモード

29.2.48 送受信 FIFO ポインタ制御レジスタ 0 (CFPCTR0)

アドレス RSCAN0.CFPCTR0 000A 835Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CFPC[7:0]	RSCAN0送受信FIFOポインタ	受信モード時 “FFh”を書くと、送受信FIFOバッファの次の未読メッセージにリードポインタが移動します 送信モード時 “FFh”を書くと、送受信FIFOバッファの次の段にライトポインタが移動します	W
b15-b8	—	予約ビット	書く場合、“0”としてください	W

CFPC[7:0] ビット (RSCAN0 送受信 FIFO ポインタ)

[受信モード (CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”) のとき]

CFPC[7:0] ビットに“FFh”を書くと、送受信 FIFO バッファの次の未読メッセージにリードポインタが移動します。このとき CFSTS0.CFMC[5:0] フラグ (送受信 FIFO メッセージ数表示カウンタ) の値が“1” 減算されます。CFIDL0、CFIDH0、CFTS0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタを読んで送受信 FIFO バッファのメッセージを読み出したあと、CFPC[7:0] ビットに“FFh”を書いてください。

なお、“FFh”の書き込みは、CFCCL0.CFE ビットが“1” (送受信 FIFO バッファを使用する) で、CFSTS0.CFEMP フラグが“0” (メッセージあり) のときに行ってください。

[送信モード (CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”) のとき]

CFPC[7:0] ビットに“FFh”を書くと、CFIDL0、CFIDH0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタに書いたデータが送受信 FIFO バッファに格納され、バッファの次の段にライトポインタが移動します。このとき CFSTS0.CFMC[5:0] フラグの値が“1” 加算されます。CFIDL0、CFIDH0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタに送信メッセージを書いた後に、CFPC[7:0] ビットに“FFh”を書いてください。

なお、“FFh”の書き込みは、CFCCL0.CFE ビットが“1” で、CFSTS0.CFFLL フラグが“0” (フルではない) のときに行ってください。

29.2.49 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0AL (CFIDL0)

アドレス RSCAN0.CFIDL0 000A 85E0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	CFID[15:0]	送受信 FIFO バッファ ID データ L	CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b” (送信モード) 時 標準 ID または拡張 ID を設定してください。標準 ID の場合、 b10～b0 に ID を設定してください。b15～b11 は“0”にして ください CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00” (受信モード) 時 受信メッセージの標準 ID または拡張 ID が読めます。標準 ID の場合、b10～b0 を読んでください。b15～b11 は“0”が読め ます	R/W

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b” (送信モード) の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b” (受信モード) の場合のみ、このレジスタを読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

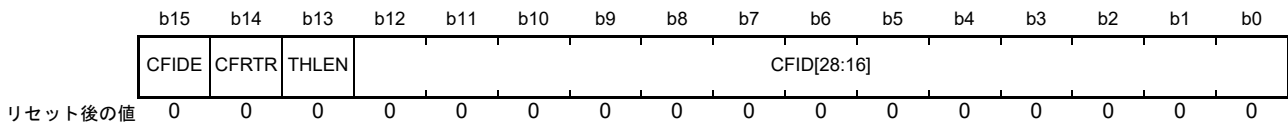
CFID[15:0] ビット (送受信 FIFO バッファ ID データ L)

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージの ID を示します。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”のとき、送受信 FIFO バッファから送信するメッセージの ID を設定します。

29.2.50 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0AH (CFIDH0)

アドレス RSCAN0.CFIDH0 000A 85E2h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	CFID[28:16]	送受信FIFOバッファIDデータH	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時標準IDまたは拡張IDを設定してください。標準IDの場合、“0”にしてください CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時受信メッセージの標準IDまたは拡張IDが読めます。標準IDの場合、“0”が読めます	R/W
b13	THLEN	送信履歴データ格納許可ビット	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時のみ有効 0: 送信履歴データをバッファに格納しない 1: 送信履歴データをバッファに格納する	R/W
b14	CFRTR	送受信FIFOバッファRTRビット	0: データフレーム 1: リモートフレーム	R/W
b15	CFIDE	送受信FIFOバッファIDEビット	0: 標準ID 1: 拡張ID	R/W

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “01b” (送信モード) の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “00b” (受信モード) の場合のみ、このレジスタを読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが “1” のときに、このレジスタの読み書きができます。

CFID[28:16] ビット (送受信 FIFO バッファ ID データ H)

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “00b” のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージの ID を示します。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “01b” のとき、送受信 FIFO バッファから送信するメッセージの ID を設定します。

THLEN ビット (送信履歴データ格納許可ビット)

“1” にすると、送信が完了した後、送信メッセージの送信履歴データ (ラベル情報、バッファ番号、バッファタイプ) が送信履歴バッファに格納されます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “01b” (送信モード) のときに、有効になります。

CFRTR ビット (送受信 FIFO バッファ RTR ビット)

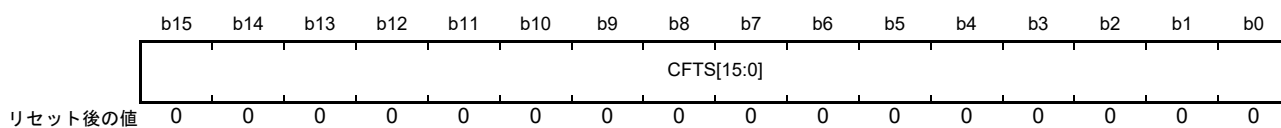
CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “00b” のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージのデータフォーマット (データフレームまたはリモートフレーム) を示します。CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “01b” のとき、送受信 FIFO バッファから送信するメッセージのデータフォーマットを設定します。

CFIDE ビット (送受信 FIFO バッファ IDE ビット)

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “00b” のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージの ID フォーマット (標準 ID または拡張 ID) を示します。CFCCH0.CFM[1:0] ビットが “01b” のとき、送受信 FIFO バッファから送信するメッセージの ID フォーマットを設定します。

29.2.51 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0BL (CFTS0)

アドレス RSCAN0.CFTS0 000A 85E4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	CFTS[15:0]	送受信FIFOバッファタイムスタンプデータ	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b” (受信モード)時のみ有効 受信メッセージのタイムスタンプ値が読めます	R

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

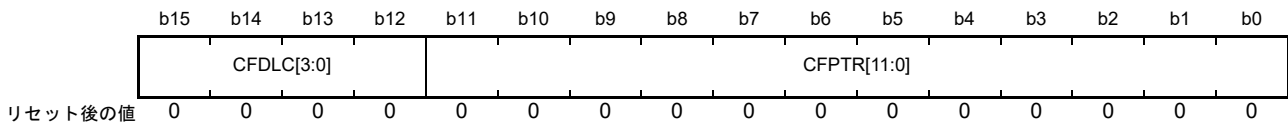
CFTS[15:0] ビット (送受信 FIFO バッファタイムスタンプデータ)

送受信 FIFO バッファに格納されたメッセージのタイムスタンプ値を示します。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”のときに、有効になります。

29.2.52 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0BH (CFPTR0)

アドレス RSCAN0.CFPTR0 000A 85E6h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b11-b0	CFPTR[11:0]	送受信FIFOバッファラベルデータ	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時 送信履歴バッファに格納するラベル情報を設定してください。CFPTR[7:0]ビットのみ有効です CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時 受信メッセージのラベル情報が読めます	R/W
b15-b12	CFDL3[3:0]	送受信FIFOバッファ DLC データ	b15 b12 0 0 0 0 : 0バイト 0 0 0 1 : 1バイト 0 0 1 0 : 2バイト 0 0 1 1 : 3バイト 0 1 0 0 : 4バイト 0 1 0 1 : 5バイト 0 1 1 0 : 6バイト 0 1 1 1 : 7バイト 1 x x x : 8バイト	R/W

x : Don't care

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”(送信モード)の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”(受信モード)の場合のみ、このレジスタを読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

CFPTR[11:0] ビット (送受信 FIFO バッファラベルデータ)

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージに付加されたラベル情報を示します。CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”のとき、メッセージ送信が完了した場合、CFPTR[7:0] ビットの値が送信履歴に格納されます。

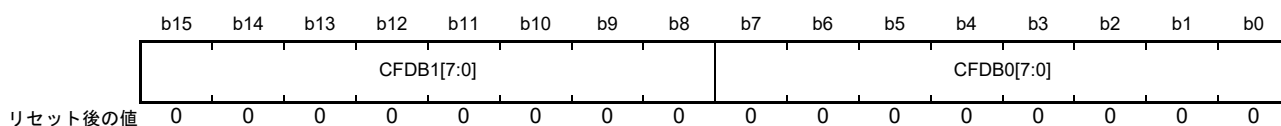
CFDL3[3:0] ビット (送受信 FIFO バッファ DLC データ)

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”のとき、送受信 FIFO バッファに格納された受信メッセージのデータ長を示します。CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”のとき、送受信 FIFO バッファから送信されるメッセージのデータ長を設定します。

9 バイト以上を設定した場合、実際に送信されるデータは 8 バイトになります。

29.2.53 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0CL (CFDF00)

アドレス RSCAN0.CFDF00 000A 85E8h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CFDB0[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト0	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時 送受信FIFOバッファのデータを設定してください CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時 送受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読 めます	R/W
b15-b8	CFDB1[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト1		R/W

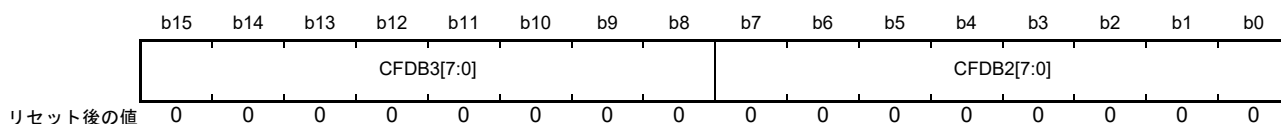
CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”の場合のみ、このレジスタを読めます。CFPTR0.CFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.54 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0CH (CFDF10)

アドレス RSCAN0.CFDF10 000A 85EAh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CFDB2[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト2	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時 送受信FIFOバッファのデータを設定してください CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時 送受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読 めます	R/W
b15-b8	CFDB3[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト3		R/W

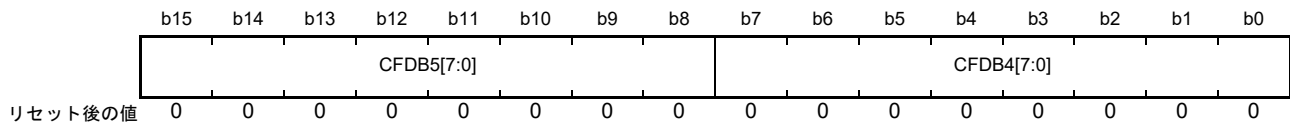
CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“01b”の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0] ビットが“00b”の場合のみ、このレジスタを読めます。CFPTR0.CFDLC[3:0] ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.55 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0DL (CFDF20)

アドレス RSCAN0.CFDF20 000A 85ECh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CFDB4[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト4	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時 送受信FIFOバッファのデータを設定してください CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時 送受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読 めます	R/W
b15-b8	CFDB5[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト5		R/W

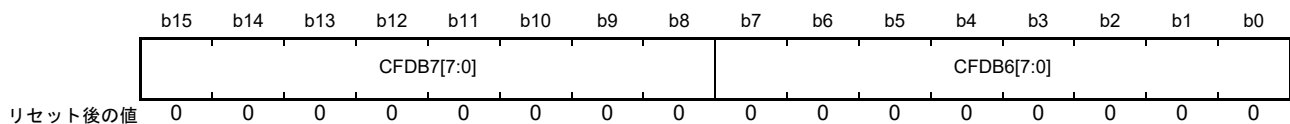
CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”の場合のみ、このレジスタを読めます。CFPTR0.CFDLC[3:0]ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGEビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.56 送受信 FIFO アクセスレジスタ 0DH (CFDF30)

アドレス RSCAN0.CFDF30 000A 85EEh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	CFDB6[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト6	CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”(送信モード)時 送受信FIFOバッファのデータを設定してください CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”(受信モード)時 送受信FIFOバッファに格納されたメッセージのデータが読 めます	R/W
b15-b8	CFDB7[7:0]	送受信FIFOバッファデータバイト7		R/W

CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“01b”の場合のみ、このレジスタに書けます。

CFCCH0.CFM[1:0]ビットが“00b”の場合のみ、このレジスタを読めます。CFPTR0.CFDLC[3:0]ビットの値が“1000b”未満の場合、データが設定されていないデータバイトは“00h”が読めます。

GRWCR.RPAGEビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.57 受信 FIFO メッセージロストステータスレジスタ (RFMSTS)

アドレス RSCAN.RFMSTS 000A 8360h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	RF1MLT	RF0MLT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RF0MLT	受信FIFOバッファ0メッセージロストステータスフラグ	0: 受信FIFOバッファ mメッセージロストなし (m = 0, 1) 1: 受信FIFOバッファ mメッセージロスト	R
b1	RF1MLT	受信FIFOバッファ1メッセージロストステータスフラグ		R
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

RFMSTS レジスタは、グローバルリセットモード時、“00h”になります。

RFmMLT フラグ (受信 FIFO バッファ m メッセージロストステータスフラグ)

RFSTS_m.RFMLT フラグが“1”(メッセージロスト)になると、RFmMLT フラグは“1”になります。

RFSTS_m.RFMLT フラグを“0”にすると、RFmMLT フラグは“0”になります。

29.2.58 送受信 FIFO メッセージロストステータスレジスタ (CFMSTS)

アドレス RSCAN0.CFMSTS 000A 8361h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CF0MLT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CF0MLT	RSCAN0送受信FIFOバッファ0メッセージロストステータスフラグ	0: RSCAN0送受信FIFOバッファ“0”メッセージロストなし 1: RSCAN0送受信FIFOバッファ“0”メッセージロスト	R
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

CFMSTS レジスタは、グローバルリセットモード時、“00h”になります。

CF0MLT フラグ (RSCAN0 送受信 FIFO バッファ 0 メッセージロストステータスフラグ)

CFSTS₀.CFMLT フラグが“1”(メッセージロスト)になると、CF0MLT フラグは“1”になります。

CFSTS₀.CFMLT フラグを“0”にすると、CF0MLT フラグは“0”になります。

29.2.59 受信 FIFO 割り込みステータスレジスタ (RFISTS)

アドレス RSCAN.RFISTS 000A 8362h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	RF1IF	RF0IF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RF0IF	受信FIFOバッファ 0 割り込み要求ステータスフラグ	0: 受信FIFOバッファ m 割り込み要求なし (m = 0, 1) 1: 受信FIFOバッファ m 割り込み要求あり	R
b1	RF1IF	受信FIFOバッファ 1 割り込み要求ステータスフラグ		R
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

RFISTS レジスタは、グローバルリセットモード時、“00h”になります。

RFmIF フラグ (受信 FIFO バッファ m 割り込み要求ステータスフラグ)

RFSTSm.RFIF フラグが“1”(割り込み要求あり)になると、RFmIF フラグは“1”になります。
RFSTSm.RFIF フラグを“0”にすると、RFmIF フラグは“0”になります。

29.2.60 送受信 FIFO 受信割り込みステータスレジスタ (CFISTS)

アドレス RSCAN.CFISTS 000A 8363h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CF0IF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CF0IF	RSCAN0 送受信 FIFO バッファ 0 受信割り込み要求ステータスフラグ	0: RSCAN0 送受信 FIFO バッファ “0” 受信割り込み要求なし 1: RSCAN0 送受信 FIFO バッファ “0” 受信割り込み要求あり	R
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

CFISTS レジスタは、グローバルリセットモード時、“00h”になります。

CF0IF フラグ (RSCAN0 送受信 FIFO バッファ 0 受信割り込み要求ステータスフラグ)

CFST0.CFRXIF フラグが“1”(割り込み要求あり)になると、CF0IF フラグは“1”になります。
CFST0.CFRXIF フラグを“0”にすると、CF0IF フラグは“0”になります。

29.2.61 送信バッファ制御レジスタ p (TMCp) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMC0 000A 8364h, RSCAN0.TMC1 000A 8365h, RSCAN0.TMC2 000A 8366h,
RSCAN0.TMC3 000A 8367h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	TMOM	TMTAR	TMTR
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMTR	送信要求ビット	0: 送信を要求しない 1: 送信を要求する	R/(W) (注1)
b1	TMTAR	送信アボート要求ビット	0: 送信アボートを要求しない 1: 送信アボートを要求する	R/(W) (注1)
b2	TMOM	ワンショット送信許可ビット	0: ワンショット送信禁止 1: ワンショット送信許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. “1”のみ書けます。“0”を書いても値は変化しません。

TMCp レジスタが次の条件を満たす場合は、“00h”にしてください。

- CFCCH0.CFTML[1:0] ビットで選択した送信バッファ番号に対応する

TMCp レジスタのビットは、チャンネルリセットモード時に“0”になります。TMCp レジスタ (p = 0 ~ 3) は、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。

TMTR ビット (送信要求ビット)

“1”にすると、送信バッファに格納されたメッセージの送信を行います。

TMTR ビットは次の条件で“0”になります。プログラムで“0”を書いても“0”にできません。

- 送信が完了したとき
- TMTAR ビットを“1”にし、送信アボートが完了したとき
- TMOM ビットが“1”の状態、エラーまたはアービトレーションロストを検出したとき
TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“00b”のときに、TMTR ビットを“1”に設定してください。

TMTAR ビット (送信アボート要求ビット)

“1”にすると、送信バッファに格納されたメッセージの送信アボート要求が発生します。ただし、送信中または次の送信に決定したメッセージはアボートできません。

TMTR ビットが“1”のとき、TMTAR ビットを“1”にできます。

TMTAR ビットは次の条件で“0”になります。プログラムで“0”を書いても“0”になりません。

- 送信が完了したとき
- 送信アボートが完了したとき
- エラーまたはアービトレーションロストを検出したとき
“0”になるタイミングと“1”を書くタイミングが同じ場合、“0”になります。

TMOM ビット (ワンショット送信許可ビット)

“1”にするとワンショット送信が許可されます。送信に失敗しても、CAN プロトコルに規定された再送信を行いません。

TMOM ビットは、TMSTSp.TMTRM フラグが“0”のときに書き換えてください。TMOM ビットに“1”を書く場合は、TMTR ビットと同時に“1”を書いてください。

29.2.62 送信バッファステータスレジスタ p (TMSTSp) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMSTS0 000A 836Ch, RSCAN0.TMSTS1 000A 836Dh, RSCAN0.TMSTS2 000A 836Eh, RSCAN0.TMSTS3 000A 836Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	TMTAR M	TMTR M	TMTRF[1:0]		TMTST S
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMTSTS	送信バッファ送信ステータスフラグ	0 : 送信中ではない 1 : 送信中	R
b2-b1	TMTRF[1:0]	送信バッファ送信結果フラグ	b2 b1 0 0 : 送信中または送信要求なし 0 1 : 送信アポート完了 1 0 : 送信完了(送信アポート要求なし) 1 1 : 送信完了(送信アポート要求あり)	R/W
b3	TMTRM	送信バッファ送信要求ステータスフラグ	0 : 送信要求なし 1 : 送信要求あり	R
b4	TMTARM	送信バッファ送信アポート要求ステータスフラグ	0 : 送信アポート要求なし 1 : 送信アポート要求あり	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R

TMSTSp レジスタのビットは、チャンネルリセットモード時に“0”になります。

TMTSTS フラグ (送信バッファ送信ステータスフラグ)

送信バッファからの送信が開始すると“1”になります。送信バッファからの送信が完了、またはバスエラーやアービトラージョンロストにより中断されると“0”になります。

TMTRF[1:0] フラグ (送信バッファ送信結果フラグ)

送信バッファからの送信結果を示します。

00b : 送信中または送信要求なし。

01b : 送信バッファからの送信がアポートされた。

10b : TMCp.TMTAR ビットが“0”(送信アポートを要求しない)で、送信が完了した。

11b : TMCp.TMTAR ビットが“1”(送信アポートを要求する)で、送信が完了した。

TMTRF[1:0] フラグは、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードで“00b”を書いてください。“00b”以外の値は書かないでください。

TMTRM フラグ (送信バッファ送信要求ステータスフラグ)

TMCp.TMTR ビットを“1”にすると、TMTRM フラグは“1”になります。

TMCp.TMTR ビットが“0”になると、TMTRM フラグは“0”になります。

TMTARM フラグ (送信バッファ送信アポート要求ステータスフラグ)

TMCp.TMTAR ビットを“1”にすると、TMTARM フラグは“1”になります。

TMCp.TMTAR ビットが“0”になると、TMTARM フラグは“0”になります。

29.2.63 送信バッファ送信要求ステータスレジスタ (TMTRSTS)

アドレス RSCAN0.TMTRSTS 000A 8374h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TMTRS TS3	TMTRS TS2	TMTRS TS1	TMTRS TS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMTRSTS0	RSCAN0送信バッファ0送信要求ステータスフラグ	0: 送信要求なし 1: 送信要求あり	R
b1	TMTRSTS1	RSCAN0送信バッファ1送信要求ステータスフラグ		R
b2	TMTRSTS2	RSCAN0送信バッファ2送信要求ステータスフラグ		R
b3	TMTRSTS3	RSCAN0送信バッファ3送信要求ステータスフラグ		R
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

TMTRSTSp フラグ (RSCAN0 送信バッファ p 送信要求ステータスフラグ) (p = 0 ~ 3)

TMCP.TMTR ビットの状態を示します。

TMTR ビットを“1”(送信を要求する)にすると、対応する TMTRSTSp フラグは“1”になります。

TMTR ビットが“0”(送信を要求しない)になると、対応する TMTRSTSp フラグは“0”になります。また、チャンネルリセットモード時、“0”になります。

29.2.64 送信バッファ送信完了ステータスレジスタ (TMTCSTS)

アドレス RSCAN0.TMTCSTS 000A 8376h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TMTCS TS3	TMTCS TS2	TMTCS TS1	TMTCS TS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMTCSTS0	RSCAN0送信バッファ0送信完了ステータスフラグ	0: 送信未完了 1: 送信完了	R
b1	TMTCSTS1	RSCAN0送信バッファ1送信完了ステータスフラグ		R
b2	TMTCSTS2	RSCAN0送信バッファ2送信完了ステータスフラグ		R
b3	TMTCSTS3	RSCAN0送信バッファ3送信完了ステータスフラグ		R
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

TMTCSTSp フラグ (RSCAN0 送信バッファ p 送信完了ステータスフラグ) (p = 0 ~ 3)

TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“10b”(送信完了、送信アポート要求なし)または“11b”(送信完了、送信アポート要求あり)になると、対応する TMTCSTSp フラグは“1”になります。

このフラグを“0”にする場合は、対応する TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグを“00b”にしてください。また、チャンネルリセットモード時、“0”になります。

29.2.65 送信バッファ送信アボートステータスレジスタ (TMTASTS)

アドレス RSCAN0.TMTASTS 000A 8378h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TMTAS TS3	TMTAS TS2	TMTAS TS1	TMTAS TS0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMTASTS0	RSCAN0送信バッファ0送信アボートステータスフラグ	0:送信アボートなし 1:送信アボートあり	R
b1	TMTASTS1	RSCAN0送信バッファ1送信アボートステータスフラグ		R
b2	TMTASTS2	RSCAN0送信バッファ2送信アボートステータスフラグ		R
b3	TMTASTS3	RSCAN0送信バッファ3送信アボートステータスフラグ		R
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

TMTASTSp フラグ (RSCAN0 送信バッファ p 送信アボートステータスフラグ) (p = 0 ~ 3)

TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“01b”(送信アボート完了)になると、対応する TMTASTSp フラグは“1”になります。

このフラグを“0”にする場合は、対応する TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグを“00b”にしてください。また、チャンネルリセットモード時、“0”になります。

29.2.66 送信バッファ割り込み許可レジスタ (TMIEC)

アドレス RSCAN0.TMIEC 000A 837Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	TMIE3	TMIE2	TMIE1	TMIE0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TMIE0	RSCAN0送信バッファ 0割り込み許可ビット	0: 送信バッファ割り込み禁止 1: 送信バッファ割り込み許可	R/W
b1	TMIE1	RSCAN0送信バッファ 1割り込み許可ビット		R/W
b2	TMIE2	RSCAN0送信バッファ 2割り込み許可ビット		R/W
b3	TMIE3	RSCAN0送信バッファ 3割り込み許可ビット		R/W
b15-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

TMIEp ビット (RSCAN0 送信バッファ p 割り込み許可ビット) (p = 0 ~ 3)

このビットを“1”に設定し、対応する送信が完了した場合、送信バッファ割り込み要求が発生します。このビットは対応する TMSTSp.TMTRM フラグが“0” (送信要求なし) のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクした送信バッファに対応するビットは“0”にしてください。

29.2.67 送信バッファレジスタ pAL (TMIDLp) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMIDL0 000A 8600h, RSCAN0.TMIDL1 000A 8610h, RSCAN0.TMIDL2 000A 8620h, RSCAN0.TMIDL3 000A 8630h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	TMID[15:0]															
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	TMID[15:0]	送信バッファ ID データ L	標準 ID または拡張 ID を設定してください。 標準 ID の場合、b10 ~ b0 に ID を設定してください。b15 ~ b11 は“0”にしてください	R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0” (送信を要求しない) のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

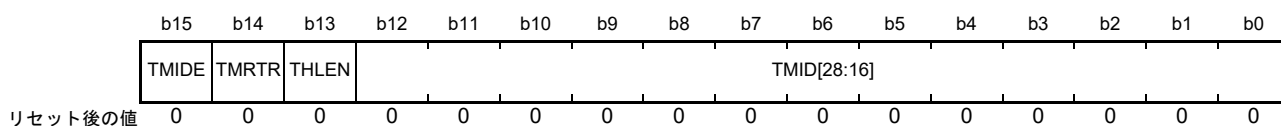
GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

TMID[15:0] ビット (送信バッファ ID データ L)

送信バッファから送信するメッセージの ID を設定します。

29.2.68 送信バッファレジスタ pAH (TMIDHp) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMIDH0 000A 8602h, RSCAN0.TMIDH1 000A 8612h, RSCAN0.TMIDH2 000A 8622h,
RSCAN0.TMIDH3 000A 8632h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b12-b0	TMID[28:16]	送信バッファ ID データ H	標準 ID または拡張 ID を設定してください。 標準 ID の場合、“0”にしてください	R/W
b13	THLEN	送信履歴データ格納許可ビット	0: 送信履歴データをバッファに格納しない 1: 送信履歴データをバッファに格納する	R/W
b14	TMRTR	送信バッファ RTR ビット	0: データフレーム 1: リモートフレーム	R/W
b15	TMIDE	送信バッファ IDE ビット	0: 標準 ID 1: 拡張 ID	R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0”(送信を要求しない)のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

TMID[28:16] ビット (送信バッファ ID データ H)

送信バッファから送信するメッセージの ID を設定します。

THLEN ビット (送信履歴データ格納許可ビット)

“1”にすると、送信が完了した後、送信メッセージの送信履歴データ (ラベル情報、バッファ番号、バッファタイプ) が送信履歴バッファに格納されます。

TMRTR ビット (送信バッファ RTR ビット)

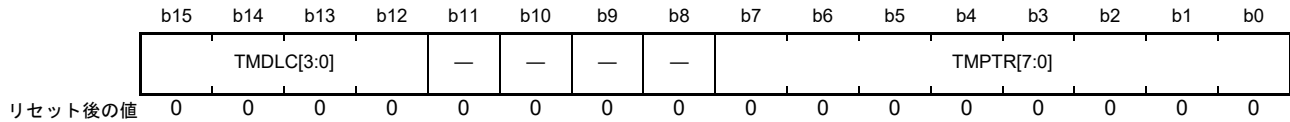
送信バッファから送信するメッセージのデータフォーマットを設定します。

TMIDE ビット (送信バッファ IDE ビット)

送信バッファから送信するメッセージの ID フォーマットを設定します。

29.2.69 送信バッファレジスタ pBH (TMPTRp) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMPTR0 000A 8606h, RSCAN0.TMPTR1 000A 8616h, RSCAN0.TMPTR2 000A 8626h,
RSCAN0.TMPTR3 000A 8636h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TMPTR[7:0]	送信バッファラベルデータ	送信履歴バッファに格納するラベル情報を設定してください	R/W
b11-b8	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b12	TMDLC[3:0]	送信バッファ DLC データ	b15 b12 0 0 0 0 : 0バイト 0 0 0 1 : 1バイト 0 0 1 0 : 2バイト 0 0 1 1 : 3バイト 0 1 0 0 : 4バイト 0 1 0 1 : 5バイト 0 1 1 0 : 6バイト 0 1 1 1 : 7バイト 1 x x x : 8バイト	R/W

x : Don't care

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0” (送信を要求しない) のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1” のときに、このレジスタの読み書きができます。

TMPTR[7:0] ビット (送信バッファラベルデータ)

メッセージ送信が完了した場合、TMPTR[7:0] ビットの値が送信履歴バッファに格納されます。

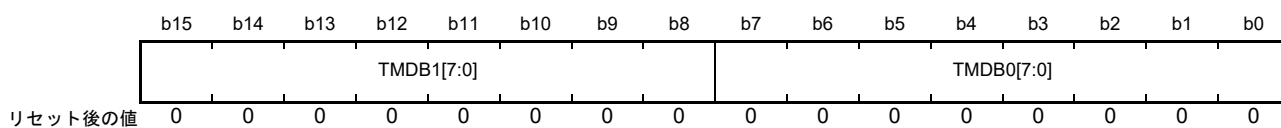
TMDLC[3:0] ビット (送信バッファ DLC データ)

TMIDHp.TMRTR ビットが“0” (データフレーム) のとき、送信バッファから送信されるメッセージのデータ長を設定します。9 バイト以上を設定した場合、実際に送信されるデータは 8 バイトになります。

TMIDHp.TMRTR ビットが“1” (リモートフレーム) のとき、要求するメッセージのデータ長を設定します。

29.2.70 送信バッファレジスタ pCL (TMDF0p) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMDF00 000A 8608h, RSCAN0.TMDF01 000A 8618h, RSCAN0.TMDF02 000A 8628h,
RSCAN0.TMDF03 000A 8638h



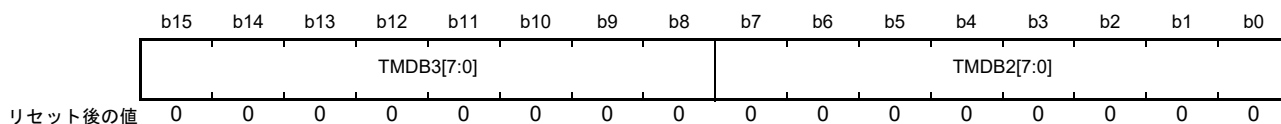
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TMDB0[7:0]	送信バッファデータバイト0	送信バッファのデータを設定してください	R/W
b15-b8	TMDB1[7:0]	送信バッファデータバイト1		R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0”(送信を要求しない)のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.71 送信バッファレジスタ pCH (TMDF1p) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMDF10 000A 860Ah, RSCAN0.TMDF11 000A 861Ah, RSCAN0.TMDF12 000A 862Ah,
RSCAN0.TMDF13 000A 863Ah



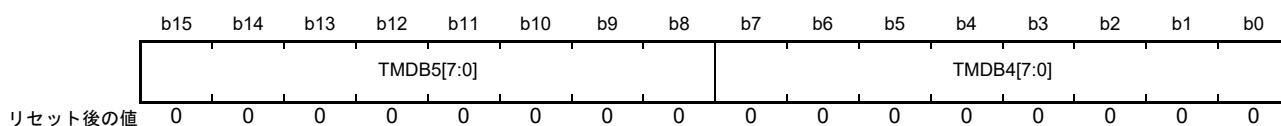
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TMDB2[7:0]	送信バッファデータバイト2	送信バッファのデータを設定してください	R/W
b15-b8	TMDB3[7:0]	送信バッファデータバイト3		R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0”(送信を要求しない)のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.72 送信バッファレジスタ pDL (TMDF2p) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMDF20 000A 860Ch, RSCAN0.TMDF21 000A 861Ch, RSCAN0.TMDF22 000A 862Ch,
RSCAN0.TMDF23 000A 863Ch



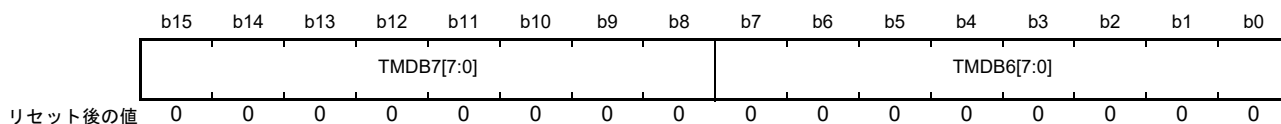
ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TMDB4[7:0]	送信バッファデータバイト4	送信バッファのデータを設定してください	R/W
b15-b8	TMDB5[7:0]	送信バッファデータバイト5		R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0”(送信を要求しない)のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.73 送信バッファレジスタ pDH (TMDF3p) (p = 0 ~ 3)

アドレス RSCAN0.TMDF30 000A 860Eh, RSCAN0.TMDF31 000A 861Eh, RSCAN0.TMDF32 000A 862Eh,
RSCAN0.TMDF33 000A 863Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TMDB6[7:0]	送信バッファデータバイト6	送信バッファのデータを設定してください	R/W
b15-b8	TMDB7[7:0]	送信バッファデータバイト7		R/W

このレジスタは、対応する TMSTSp.TMTRM ビットが“0”(送信を要求しない)のときに書き換えてください。送受信 FIFO バッファにリンクされている場合、書き込みを行わないでください。

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.2.74 送信履歴バッファ制御レジスタ (THLCC0)

アドレス RSCAN0.THLC0 000A 837Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	THLDT E	THLIM	THLIE	—	—	—	—	—	—	—	THLE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	THLE	送信履歴バッファ許可ビット	0: 送信履歴バッファを使用しない 1: 送信履歴バッファを使用する	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	THLIE	送信履歴割り込み許可ビット	0: 送信履歴割り込み禁止 1: 送信履歴割り込み許可	R/W
b9	THLIM	送信履歴割り込み要因選択ビット	0: 送信履歴バッファに6データ格納されたとき 1: 1送信履歴データの格納完了時	R/W
b10	THLDTE	送信履歴対象バッファ選択ビット	0: 送受信FIFOからのエントリ 1: 送信バッファ、送受信FIFOからのエントリ	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

THLE ビット (送信履歴バッファ許可ビット)

“1”にすると、送信履歴バッファが使用できます。THLDTE ビットで選択したバッファからの送信が完了すると、送信メッセージの送信履歴データが、送信履歴バッファへ格納されます。

このビットは、チャンネル通信モードまたはチャンネル待機モードでのみ書き換えてください。

THLIE ビット (送信履歴割り込み許可ビット)

THLIE ビットを“1”に設定し、THLIM ビットで選択した要因が発生した場合、送信履歴割り込み要求が発生します。

THLE ビットが“0”の状態、THLIE ビットを書き換えてください。

THLIM ビット (送信履歴割り込み要因選択ビット)

送信履歴割り込み要因を選択します。

このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

THLDTE ビット (送信履歴対象バッファ選択ビット)

“0”にすると、送受信 FIFO バッファから送信したメッセージの送信履歴データを送信履歴バッファに格納します。“1”にすると、送信バッファ、送受信 FIFO バッファから送信したメッセージの送信履歴データを、送信履歴バッファに格納します。

このビットはチャンネルリセットモードでのみ書き換えてください。

29.2.75 送信履歴バッファステータスレジスタ (THLSTS0)

アドレス RSCAN0.THLSTS0 000A 8380h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	THLMC[3:0]			—	—	—	—	THLIF	THLELT	THLFL	THLEMP	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	THLEMP	送信履歴バッファ空ステータスフラグ	0: 送信履歴バッファに未読データあり 1: 送信履歴バッファに未読データなし(バッファ空)	R
b1	THLFL	送信履歴バッファフルステータスフラグ	0: 送信履歴バッファフルではない 1: 送信履歴バッファフル	R
b2	THLELT	送信履歴バッファオーバフローフラグ	0: 送信履歴バッファオーバフローではない 1: 送信履歴バッファオーバフロー	R/(W) (注1)
b3	THLIF	送信履歴割り込み要求フラグ	0: 送信履歴割り込み要求なし 1: 送信履歴割り込み要求あり	R/(W) (注1)
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11-b8	THLMC[3:0]	送信履歴バッファ未読数カウンタ	送信履歴バッファに格納された未読データ数を示します	R
b15-b12	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。“1”を書いても値は変化しません。

THLEMP フラグ (送信履歴バッファ空ステータスフラグ)

送信履歴データが1つでも送信履歴バッファへ格納されると“0”になります。

送信履歴バッファのすべてのデータを読むと“1”になります。THLCC0.THLE ビットを“0”(送信履歴バッファを使用しない)にしたとき、またはチャンネルリセットモード時、“1”になります。

THLFL フラグ (送信履歴バッファフルステータスフラグ)

送信履歴バッファに8個のデータが格納されると“1”になります。格納数が8個より少なくなると“0”になります。

THLCC0.THLE ビットが“0”(送信履歴バッファを使用しない)のとき、またはチャンネルリセットモード時、“0”になります。

THLELT フラグ (送信履歴バッファオーバフローフラグ)

送信履歴バッファがフルの場合に、さらに新しい送信履歴データを格納しようとしたとき“1”になります。

この場合、新しいデータは破棄されます。プログラムで“0”を書き込むことで“0”にしてください。チャンネルリセットモード時、“0”になります。

THLIF フラグ (送信履歴割り込み要求フラグ)

THLCC0.THLEIM ビットで設定した割り込み要因が発生したとき“1”になります。

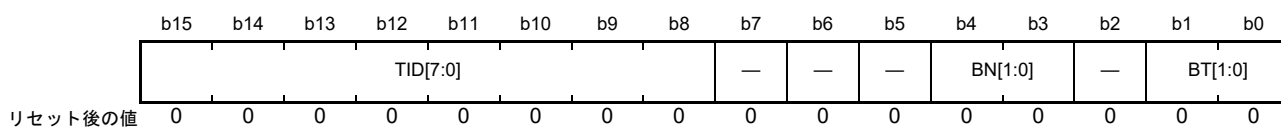
プログラムで“0”を書き込むことで“0”にしてください。チャンネルリセットモード時、“0”になります。

THLMC[3:0] フラグ (送信履歴バッファ未読数カウンタ)

送信履歴バッファ内の未読データ数を示します。

29.2.76 送信履歴バッファアクセスレジスタ (THLACC0)

アドレス RSCAN0.THLACC0 000A 8680h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	BT[1:0]	バッファタイプデータ	b1 b0 0 1 : 送信バッファ 1 0 : 送信FIFOバッファ	R
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b4-b3	BN[1:0]	バッファ番号データ	送信元の送信バッファ / 送受信FIFO番号が読めます	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b15-b8	TID[7:0]	ラベルデータ	格納されたデータのラベル情報が読めます	R

GRWCR.RPAGE ビットが“1”のときに、このレジスタからの読み出しができます。

BT[1:0] ビット (バッファタイプデータ)

送信履歴バッファに格納された送信履歴データの送信元バッファの種類を表示します。

BN[1:0] ビット (バッファ番号データ)

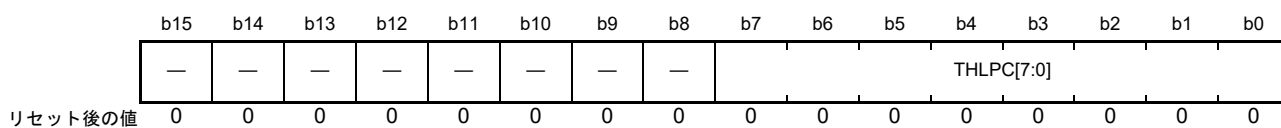
送信履歴バッファに格納された送信履歴データの送信元バッファ番号を表示します。

TID[7:0] ビット (ラベルデータ)

送信履歴バッファに格納された送信履歴データのラベル情報を表示します。

29.2.77 送信履歴バッファポインタ制御レジスタ (THLPCTR0)

アドレス RSCAN0.THLPCTR0 000A 8384h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	THLPC[7:0]	送信履歴バッファポインタ	“FFh”を書くと、送信履歴バッファの次の未読データにリードポインタが移動します	W
b15-b8	—	予約ビット	書く場合、“0”としてください	W

THLPC[7:0] ビット (送信履歴バッファポインタ)

THLPC[7:0] ビットに“FFh”を書くと、送信履歴バッファの次のデータにリードポインタが移動します。このとき THLSTS0.THLMC[3:0] フラグ (送信履歴バッファ未読数カウンタ) の値が“1”減算されます。

THLACC0 レジスタを読んだあと、THLPC[7:0] ビットに“FFh”を書いてください。

なお、“FFh”の書き込みは、THLCC0.THLE ビットが“1”(送信履歴バッファを使用する)で、THLSTS0.THLEMP フラグが“0”のときに行ってください。

29.2.78 グローバル RAM ウィンドウ制御レジスタ (GRWCR)

アドレス RSCAN.GRWCR 000A 838Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	RPAGE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	RPAGE	RAMウィンドウ選択ビット	0: ウィンドウ0 (受信ルール登録レジスタ、RAMテストレジスタ)選択 1: ウィンドウ1 (受信バッファ、受信FIFOバッファ、送受信FIFOバッファ、送信バッファ、送信履歴データアクセスレジスタ)選択	R/W
b15-b1	—	予約ビット	書く場合、“0”としてください	R/W

RPAGE ビット (RAM ウィンドウ選択ビット)

RPAGE ビットで選択されたウィンドウによって、アドレス 000A 83A0h ~ 000A 8681h に割り付けられるレジスタを切り替えます。

[RPAGE ビットが“0”(ウィンドウ 0)の場合に割り付けられるレジスタ]

- 受信ルール登録レジスタ : GAFLIDLj, GAFLIDHj, GAFLMLj, GAFLMHj, GAFLPLj, GAFLPHj (j = 0 ~ 15)
- RAM テストレジスタ : RPGACCr (r = 0 ~ 127)

[RPAGE ビットが“1”(ウィンドウ 1)の場合に割り付けられるレジスタ]

- 受信バッファレジスタ : RMIDLn, RMIDHn, RMTSn, RMPTRn, RMDf0n ~ RMDf3n (n = 0 ~ 15)
- 受信 FIFO アクセスレジスタ : RFIDLm, RFIDHm, RFTSm, RFPTRm, RFDF0m ~ RFDF3m (m = 0, 1)
- 送受信 FIFO アクセスレジスタ : CFIDL0, CFIDH0, CFTS0, CFPTR0, CFDF00 ~ CFDF30
- 送信バッファレジスタ : TMIDLp, TMIDHp, TMPTRp, TMDF0p ~ TMDF3p (p = 0 ~ 3)
- 送信履歴バッファアクセスレジスタ : THLACC0

29.2.79 グローバルテスト設定レジスタ (GTSTCFG)

アドレス RSCAN.GTSTCFG 000A 838Ch

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	RTMPS[2:0]		—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b10-b8	RTMPS[2:0]	RAMテストページ設定ビット	ページ0 (“00h”)～2 (“02h”)ページの範囲で設定	R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

GTSTCFG レジスタはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

RTMPS[2:0] ビット (RAM テストページ設定ビット)

RAM テスト時、RAM テスト対象となるページ番号を設定します。“00h”～“02h”以外の値を設定しないでください。

29.2.80 グローバルテスト制御レジスタ (GTSTCTRL)

アドレス RSCAN.GTSTCTRL 000A 838Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	RTME	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	RTME	RAMテスト許可ビット	0 : RAMテスト禁止 1 : RAMテスト許可	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

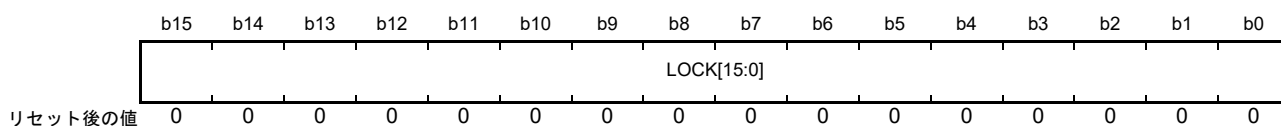
RTME ビット (RAM テスト許可ビット)

“1”にすると、RAM テストが許可になります。このビットはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

- (1) GCTRL.GMDC[1:0] ビットを“10b”(グローバルテストモード)にする。
- (2) GLOCKK レジスタに“7575h”と“8A8Ah”を連続して書き込み、プロテクトを解除する。
- (3) RTME ビットを“1”にする。
- (4) RTME ビットが“1”になったことを確認する。

29.2.81 グローバルテストプロテクト解除レジスタ (GLOCKK)

アドレス RSCAN.GLOCKK 000A 8394h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	LOCK[15:0]	プロテクト解除データ	テスト機能を使用するために、プロテクト解除データを書いてください。読むと0000hが読めます	W

GLOCKK レジスタはグローバルテストモードでのみ書き換えてください。

LOCK[15:0] ビット (プロテクト解除データ)

表 29.3 に示すプロテクト解除データを連続して LOCK[15:0] ビットに書くと、対象ビットへの“1”書き込みが可能になります。

表 29.3 テスト機能用プロテクト解除データ

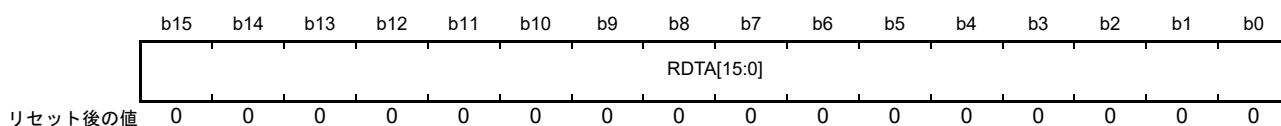
テスト機能	プロテクト解除データ1	プロテクト解除データ2	対象ビット
RAM テスト	7575h	8A8Ah	GTSTCTRL.RTME ビット

プロテクトが解除された後、RAM を除く CAN のレジスタ領域 (000A 8300h ~ 000A 839Fh) に書き込みを実行すると、再度プロテクトが有効になります。

CAN のレジスタ領域の読み出し、または他の領域への読み書きを実行しても、プロテクトは有効になりません。

29.2.82 RAM テストレジスタ r (RPGACCr) (r = 0 ~ 127)

アドレス RSCAN.RPGACC0~RSCAN.RPGACC127 000A 8580h~000A 867Eh



機能	R/W
CAN用RAMデータの読み書きができます	R/W

RPGACCr レジスタは、グローバルテストモードでかつ GTSTCTRL.RTME ビットが“1” (RAM テスト許可) の状態で書き換えてください。GTSTCTRL.RTME ビットが“1”のときに、RPGACCr レジスタの読み書きができます。GRWCR.RPAGE ビットが“0”のときに、このレジスタの読み書きができます。

29.3 CANモード

CANモジュールには、CANモジュール全体の状態を制御するグローバルモードが4種類と、個々のチャネル状態を制御するチャネルモードが4種類あります。

詳細は「29.3.1 グローバルモード」および「29.3.2 チャネルモード」を参照してください。

- グローバルストップモード：モジュール全体のクロックを停止させ、低消費電力を実現する。
- グローバルリセットモード：モジュール全体の初期設定を行う。
- グローバルテストモード：テスト設定を行う。また、RAMテストを実施する。
- グローバル動作モード：モジュール全体を動作可能にする。
- チャネルストップモード：チャネルのクロックが停止する。
- チャネルリセットモード：チャネルの初期設定を行う。
- チャネル待機モード：CAN通信を停止する。また、チャネルのテストを許可する。
- チャネル通信モード：CAN通信を行う。

29.3.1 グローバルモード

図 29.2 にグローバルモードの遷移図を示します。

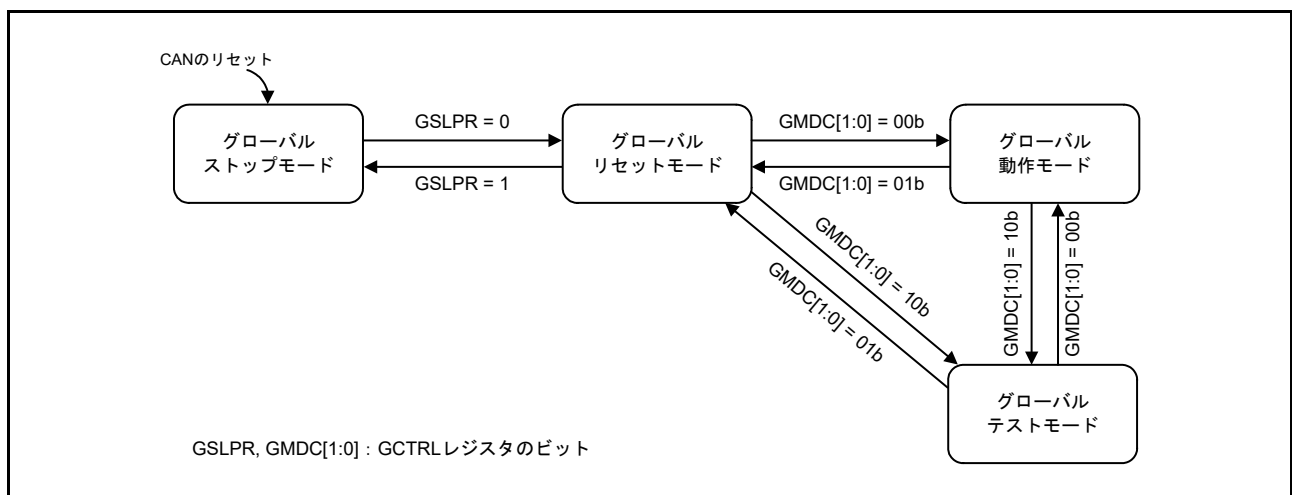


図 29.2 グローバルモードの遷移図

グローバルモードの遷移により、チャネルのモードが変化することがあります。表 29.4 にグローバルモード設定 (GCTRL.GMDC[1:0]、GSLPR ビット) によるチャネルモードの変化を示します。

表 29.4 グローバルモード設定 (GCTRL.GMDC[1:0]、GSLPR ビット) によるチャネルモードの変化

設定前のチャネルモード	設定後のチャネルモード			
	GMDC[1:0] = 00b GSLPR = 0 (グローバル動作)	GMDC[1:0] = 10b GSLPR = 0 (グローバルテスト)	GMDC[1:0] = 01b GSLPR = 0 (グローバルリセット)	GMDC[1:0] = 01b GSLPR = 1 (グローバルストップ)
チャネル通信	チャネル通信	チャネル通信	チャネルリセット	遷移禁止
チャネル待機	チャネル待機	チャネル待機	チャネルリセット	遷移禁止
チャネルリセット	チャネルリセット	チャネルリセット	チャネルリセット	チャネルストップ
チャネルストップ	チャネルストップ	チャネルストップ	チャネルストップ	チャネルストップ

表 29.5 にグローバルモードの遷移時間を示します。

表 29.5 グローバルモードの遷移時間

遷移前のモード	遷移後のモード	最大遷移時間
グローバルストップ	グローバルリセット	3PCLKクロック
グローバルリセット	グローバルストップ	3PCLKクロック
グローバルリセット	グローバルテスト	10PCLKクロック
グローバルリセット	グローバル動作	10PCLKクロック
グローバルテスト	グローバルリセット	3PCLKクロック
グローバルテスト	グローバル動作	3PCLKクロック
グローバル動作	グローバルリセット	3PCLKクロック
グローバル動作	グローバルテスト	CAN フレームの2つ分

(1) グローバルストップモード

グローバルストップモードではCANのクロックが停止するので、消費電力が低減されます。CAN関連レジスタの読み出しは可能ですが、書き込みはしないでください。レジスタ値は保持されます。

CANモジュールイネーブル後、グローバルストップモードになります。また、グローバルリセットモード時にGCTRL.GSLPRビットを“1”(グローバルストップモード)にすると、各CTRL.CSLPRビットが“1”(チャンネルストップモード)になります。すべてのチャンネルが強制的にチャンネルストップモードへ遷移すると、グローバルストップモードになります。GCTRL.GSLPRビットは、グローバル動作モードおよびグローバルテストモードでは書き換えしないでください。

(2) グローバルリセットモード

グローバルリセットモードでCANモジュールの設定を行います。グローバルリセットモードに遷移すると、一部のレジスタが初期化されます。表 29.8 と表 29.9 に初期化されるレジスタ一覧を示します。

GCTRL.GMDC[1:0]ビットを“01b”に設定すると、各CTRL.CHMDC[1:0]ビットが“01b”(チャンネルリセットモード)になります。すべてのチャンネルが強制的にチャンネルリセットモードへ遷移すると、グローバルリセットモードになります。すでにチャンネルリセットモードまたはチャンネルストップモードであるチャンネルはモード遷移しません(CTRL.CHMDC[1:0]ビットがすでに“01b”に設定されているため)。

(3) グローバルテストモード

グローバルテストモードでテスト関連レジスタの設定を行います。グローバルテストモードに遷移すると、すべてのCAN通信は停止します。

GCTRL.GMDC[1:0]ビットを“10b”に設定すると、各CTRL.CHMDC[1:0]ビットが“10b”(チャンネル待機モード)になります。すべてのチャンネルが強制的にチャンネル待機モードへ遷移すると、グローバルテストモードになります。チャンネルストップモード、チャンネルリセットモード、またはチャンネル待機モードであるチャンネルは、モード遷移しません。

(4) グローバル動作モード

グローバル動作モードではCANモジュール全体が動作します。

GCTRL.GMDC[1:0]ビットを“00b”にすると、グローバル動作モードに遷移します。

29.3.2 チャネルモード

図 29.3 にチャネルモードの状態遷移図を示します。表 29.6 にチャネルモードの遷移時間を示します。

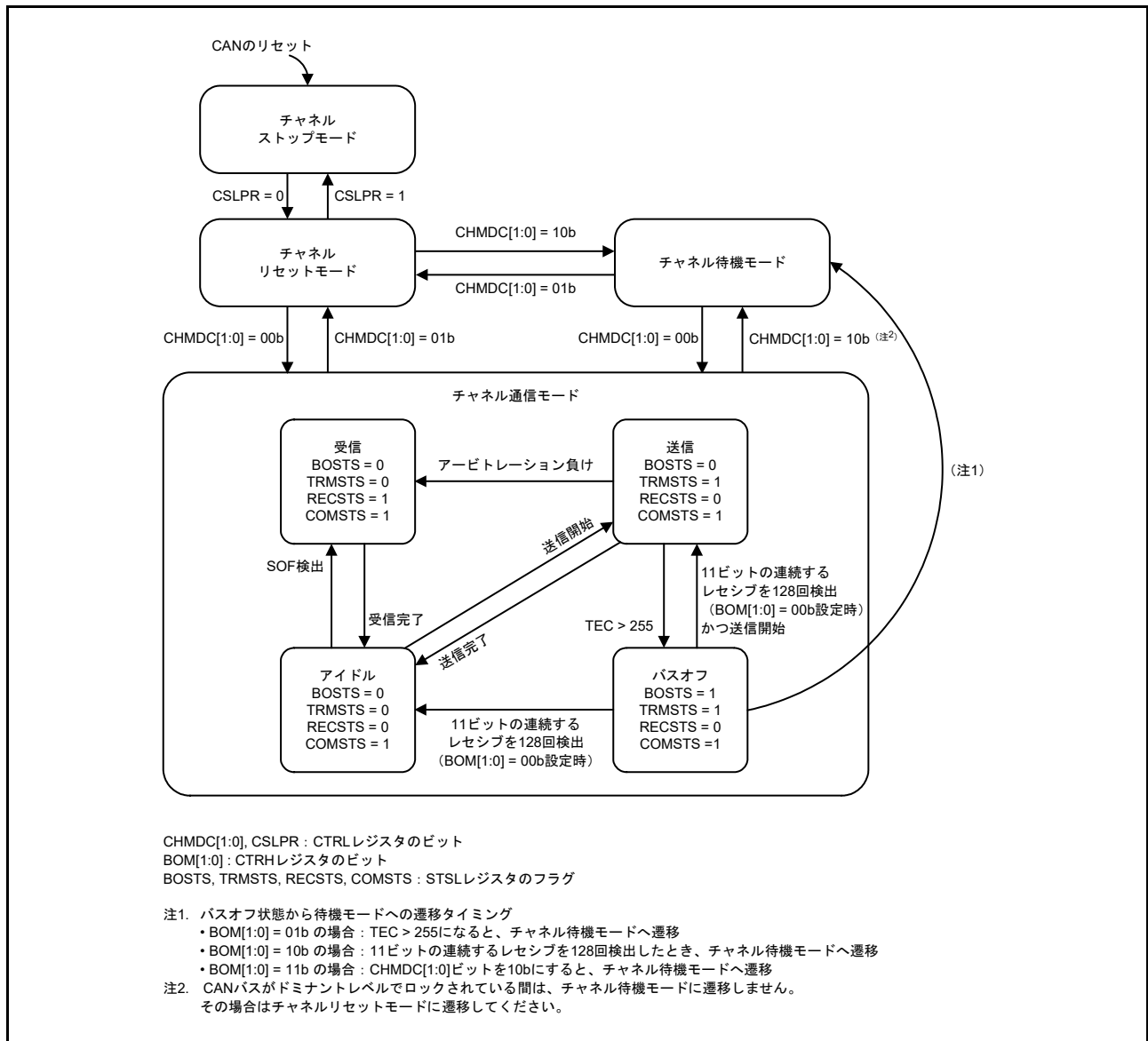


図 29.3 チャネルモードの状態遷移図

表 29.6 チャネルモードの遷移時間

遷移前のモード	遷移後のモード	最大遷移時間
チャネルストップ	チャネルリセット	3 PCLKクロック
チャネルリセット	チャネルストップ	3 PCLKクロック
チャネルリセット	チャネル待機	3 CANビットタイム
チャネルリセット	チャネル通信	2 CANビットタイム
チャネル待機	チャネルリセット	3 PCLKクロック
チャネル待機	チャネル通信	3 CANビットタイム
チャネル通信	チャネルリセット	3 PCLKクロック
チャネル通信	チャネル待機	CANフレームの2つ分

(1) チャネルストップモード

チャネルストップモードでは、チャネルへ供給するクロックが停止するので、消費電力が低減されます。CAN 関連レジスタの読み出しは可能ですが、書き込みはしないでください。レジスタ値は保持されます。

各チャネルは、CAN モジュールイネーブル後、チャネルストップモードになります。また、チャネルリセットモード時に、CTRL.CSLPR ビットを“1”(チャネルストップモード)にすると、チャネルストップモードに遷移します。CTRL.CSLPR ビットはチャネル通信モードおよびチャネル待機モードでは書き換えしないでください。

(2) チャネルリセットモード

チャネルリセットモードでチャネルの設定を行います。チャネルリセットモードに遷移すると、一部のチャネル関連レジスタが初期化されます。表 29.8 に初期化されるレジスタ一覧を示します。

CAN 通信中に CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“01b”(チャネルリセットモード)にすると、送受信の完了を待たずに通信が中断され、チャネルリセットモードへ遷移します。表 29.7 に CAN 通信中に CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“01b”(チャネルリセットモード)に設定したときの動作を示します。

(3) チャネル待機モード

チャネル待機モードでチャネルのテスト関連レジスタの設定を行います。チャネル待機モードに遷移すると、チャネルの CAN 通信は停止します。

表 29.7 に CAN 通信中に CTRL.CHMDC[1:0] ビットを“10b”(チャネル待機モード)に設定したときの動作を示します。

表 29.7 チャネルリセット/チャネル待機モード遷移時の動作

モード	受信中	送信中	バスオフ状態
チャネルリセット (CHMDC[1:0] = 01b)	受信の終了を待たずにチャネルリセットモードに遷移(注1)	送信の終了を待たずにチャネルリセットモードに遷移(注1)	バスオフ復帰の終了を待たずにチャネルリセットモードに遷移
チャネル待機(注3) (CHMDC[1:0] = 10b)	受信の終了を待ってチャネル待機モードに遷移(注2)	送信の終了を待ってチャネル待機モードに遷移(注2)	<p>【BOM[1:0]ビットが“00b”の場合】 バスオフ復帰後のみ、チャネル待機モード遷移(CHMDC[1:0] = 10b)が実行される</p> <p>【BOM[1:0]ビットが“01b”の場合】 バスオフ状態への遷移条件が成立したときに自動的にチャネル待機モードに遷移</p> <p>【BOM[1:0]ビットが“10b”の場合】 バスオフ復帰の終了を待って自動的にチャネル待機モードに遷移</p> <p>【BOM[1:0]ビットが“11b”の場合】 CHMDC[1:0]ビットに“10b”が設定されるとすぐにチャネル待機モードに遷移(バスオフ復帰の終了は待たない)</p>

注1. 通信が終了した後にチャネルリセットモードへ遷移するには、まずCHMDC[1:0]ビットを“10b”に設定し、通信が終了しチャネル待機モードへ遷移したことを確認してから、CHMDC[1:0]ビットを“01b”に設定してください。

注2. CANバスがドミナントレベルでロックされている間は、チャネル待機モードに遷移しません。その場合はチャネルリセットモードに遷移してください。ドミナントロックを検出するとERFLL.BLFフラグが“1”になるので、CANバスの状態を確認できます。

注3. チャネルリセットモードからチャネル待機モードへ遷移する場合、チャネルリセットモードでCFGLレジスタとCFGHレジスタを設定してからチャネル待機モードへ遷移してください。

(4) チャネル通信モード

チャネル通信モードでCAN通信を行います。CAN通信時、各チャネルは次に示す通信状態をとります。

- アイドル : 受信も送信もしていない状態。
- 受信 : 他のノードから送られてきたメッセージを受信している状態。
- 送信 : メッセージを送信している状態。
- バスオフ : CAN通信から遮断されている状態。

CTRL.CHMDC[1:0] ビットを “00b” にすると、チャンネル通信モードに遷移します。遷移後、11 ビットの連続するレセシブを検出すると、STSL.COMSTS フラグが “1” (通信可能な状態) になり、CAN ネットワーク上でアクティブノードとして、送受信が許可されます。この時点で、メッセージの送受信を開始できるようになります。

(5) バスオフ状態

ISO 11898-1 規格の送信、受信エラーカウンタの増減ルールに従ってバスオフ状態に遷移します。バスオフ状態からの復帰方法は、CTRH.BOM[1:0] ビットで設定します。

- CTRH.BOM[1:0] ビットが “00b” のとき
ISO 11898-1 規格に準拠し、11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出後に、バスオフ状態から CAN 通信可能な状態 (エラーアクティブ状態) に復帰します。そのとき、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは “00h” に初期化され、ERFLL.BORF フラグが “1” (バスオフ復帰検出) になります。バスオフ状態で、CTRL.CHMDC[1:0] ビットを “10b” (チャンネル待機モード) にすると、バスオフ復帰が完了 (11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出) してからチャンネル待機モードに遷移します。
- CTRH.BOM[1:0] ビットが “01b” のとき
バスオフ状態に遷移すると、CTRL.CHMDC[1:0] ビットが “10b” になり、チャンネル待機モードへ遷移します。そのとき、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは “00h” に初期化されます。ERFLL.BORF フラグは “1” になりません。
- CTRH.BOM[1:0] ビットが “10b” のとき
バスオフ状態に遷移すると、CTRL.CHMDC[1:0] ビットが “10b” になり、バスオフ復帰が完了 (11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出) してからチャンネル待機モードへ遷移します。そのとき、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは “00h” に初期化され、ERFLL.BORF フラグは “1” になります。
- CTRH.BOM[1:0] ビットが “11b” のとき
バスオフ状態時に、CTRL.CHMDC[1:0] ビットを “10b” にすると、バスオフ復帰を待たずにチャンネル待機モードに遷移します。そのとき、STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは “00h” に初期化されます。ERFLL.BORF フラグは “1” になりません。
ただし、CTRL.CHMDC[1:0] ビットを “10b” にする前に 11 ビットの連続するレセシブを 128 回検出し、エラーアクティブ状態に復帰した場合、ERFLL.BORF フラグは “1” になります。

CAN モジュールによるチャンネル待機モードへの遷移と、プログラムによる CTRL.CHMDC[1:0] ビットへの書き込みが同時に発生した場合、プログラムによる書き込みが優先されます。CTRH.BOM[1:0] ビットを “01b” または “10b” に設定した場合のチャンネル待機モードへの自動的な遷移は、CTRL.CHMDC[1:0] ビットが “00b” (チャンネル通信モード) のときのみ発生します。

また、CTRL.RTBO ビットを “1” にすることで、バスオフ状態から強制的に復帰することができます。CTRL.RTBO ビットに “1” を書くと、直ちにエラーアクティブ状態になり、11 ビットの連続するレセシブを検出後、通信可能な状態になります。この場合、ERFLL.BORF フラグは “1” になりません。STSH.TEC[7:0] フラグと STSH.REC[7:0] フラグは “00h” に初期化されます。CTRL.RTBO ビットは、CTRH.BOM[1:0] ビットが “00b” のときに “1” を書いてください。

表29.8 グローバルリセットモードおよびチャネルリセットモードで初期化されるレジスタ一覧

レジスタ	ビット/フラグ
CTRLレジスタ	CHMDC[1:0]
CTRHレジスタ	CTMS[1:0], CTME
STSLレジスタ	CHLTSTS, EPSTS, BOSTS, TRMSTS, RECSTS, COMSTS
STSHレジスタ	REC[7:0], TEC[7:0]
ERFLLレジスタ	ADERR, BOERR, B1ERR, CERR, AERR, FERR, SERR, ALF, BLF, OVLF, BORF, BOEF, EPF, EWF, BEF
ERFLHレジスタ	CRCREG[14:0]
CFCCL0レジスタ	送受信FIFOバッファが送信モード時 : CFE
CFSTS0レジスタ	送受信FIFOバッファが送信モード時 : CFMC[5:0], CFTXIF, CFRXIF, CFMLT, CFFLL, CFEMP
TMCpレジスタ	TMOM, TMTAR, TMTR
TMSTSpレジスタ	TMTARM, TMTRM, TMTRF[1:0], TMTSTS
TMTRSTSレジスタ	TMTRSTSp
TMCSTSpレジスタ	TMCSTSp
TMASTSpレジスタ	TMASTSp
THLCC0レジスタ	THLE
THLSTS0レジスタ	THLMC[3:0], THLIF, THLELT, THLFLL, THLEMP
GTINTSTSレジスタ	THIF0, CFTIF0, TAIF0, TSIF0

表29.9 グローバルリセットモードでのみ初期化されるレジスタ一覧

レジスタ	ビット/フラグ
GSTSレジスタ	GHLTSTS
GERFLLレジスタ	THLES, MES, DEF
GTSCレジスタ	TS[15:0]
RMND0レジスタ	RMNSn
RFCCmレジスタ	RFE
RFSTSmレジスタ	RFMC[5:0], RFIF, RFMLT, RFFLL, RFEMP
CFCCL0レジスタ	送受信FIFOが受信モード時 : CFE
CFSTS0レジスタ	送受信FIFOバッファが受信モード時 : CFMC[5:0], CFTXIF, CFRXIF, CFMLT, CFFLL, CFEMP
RFMSTSレジスタ	RFmMLT
CFMSTSレジスタ	CF0MLT
RFISTSレジスタ	RFmIF
CFISTSレジスタ	CF0IF
GTSTCFGレジスタ	RTMPS[2:0]
GTSTCTRLレジスタ	RTME

29.4 受信機能

受信の種類には次の 2 つがあります。

- 受信バッファによる受信
全チャンネルで共有する受信バッファは、0 ~ 16 バッファの範囲で使用できます。受信バッファに格納するメッセージは毎回上書きされるので、最新の受信データが読み出せます。
- 受信 FIFO バッファ、送受信 FIFO バッファ (受信モード) による受信
全チャンネルで共有する受信 FIFO バッファが 2 本と、各チャンネル専用の送受信 FIFO バッファが 1 チャンネルにつき 1 本ずつあります。FIFO バッファには RFCCm.RFDC[2:0] ビット、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットで設定した段数までメッセージを保存することができ、古いメッセージから順次、読み出せます。

29.4.1 受信ルールテーブルを用いたデータ処理

受信ルールテーブルを用いたデータ処理により、選別したメッセージを指定のバッファに格納することができます。データ処理には、アクセプタンスフィルタ処理、DLC フィルタ処理、ルーティング処理、ラベル付加処理、ミラー機能の処理があります。

登録できる受信ルール数は 1 チャンネルにつき最大 16 となります。受信ルールを設定しない場合は、メッセージを受信できません。図 29.4 に受信ルール登録の説明図を示します。

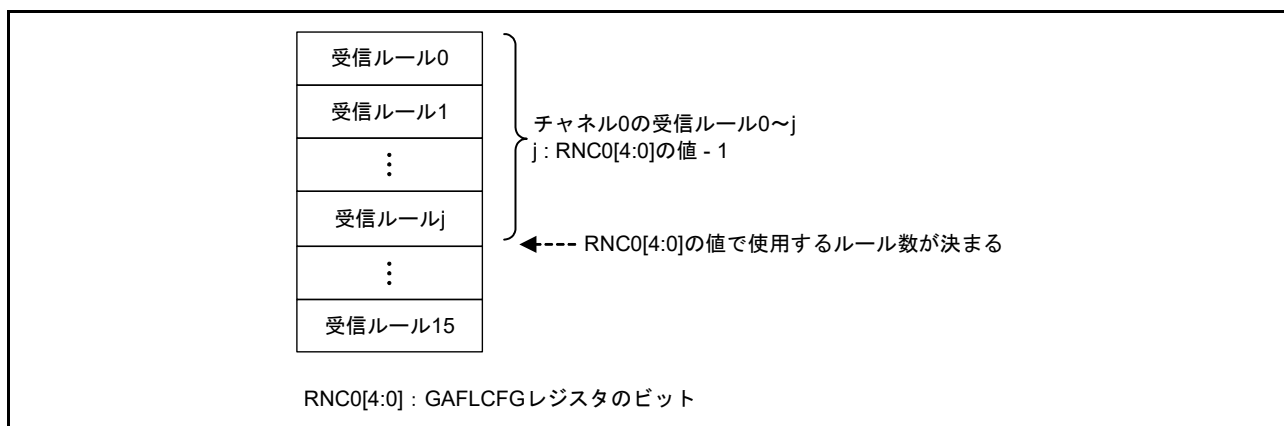


図 29.4 受信ルール登録

各受信ルールは GAFLIDL_j、GAFLIDH_j、GAFLML_j、GAFLMH_j、GAFLPL_j、GAFLPH_j レジスタの 12 バイトで構成されています。GAFLIDL_j レジスタと GAFLIDH_j レジスタでは ID、IDE、RTR ビット、ミラー機能の設定、GAFLML_j レジスタと GAFLMH_j レジスタではマスク設定、GAFLPL_j レジスタと GAFLPH_j レジスタでは付加するラベル情報、DLC 値、格納先受信バッファの設定、格納先 FIFO バッファの設定を行います。

(1) アクセプタンスフィルタ処理

アクセプタンスフィルタ処理では、受信メッセージの ID データ、IDE、RTR ビットが、対応するチャンネルの受信ルールに設定した ID データ、IDE、RTR ビットと比較されます。すべてのビットが一致すると、アクセプタンスフィルタ処理を通過します。GAFLML_j レジスタおよび GAFLMH_j レジスタで“0”(ビットを比較しない)にしたビットに対応する受信メッセージの ID データ、IDE、RTR ビットは、比較されずに一致したとみなします。

対応するチャンネルの一番小さい番号の受信ルールからチェックを開始します。受信メッセージの比較対象ビットが受信ルールとすべて一致したとき、または一致する受信ルールがないまますべてのチェックを終了したとき、フィルタ処理は停止します。一致する受信ルールがない場合は、受信バッファや FIFO バッファに格納されません。

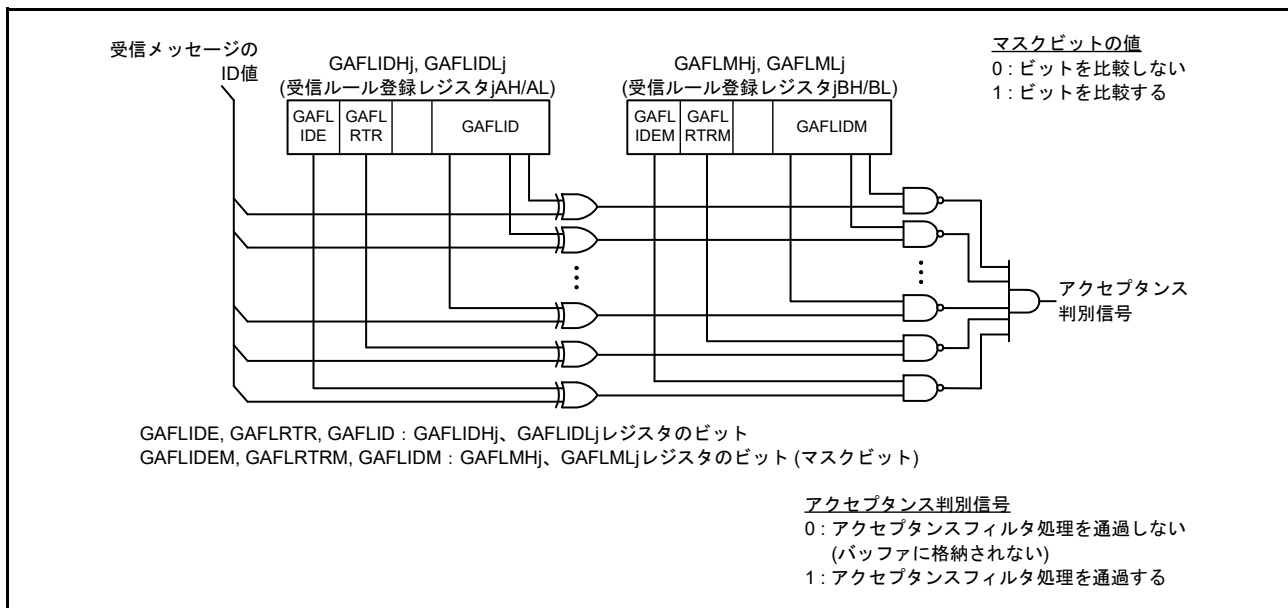


図 29.5 アクセプタンスフィルタ機能

(2) DLC フィルタ処理

GCFGL.DCE ビットを“1” (DLC チェック許可) にすると、アクセプタンスフィルタ処理を通過したメッセージに対して DLC フィルタ処理が行われます。メッセージの DLC 値が受信ルールに設定した DLC 値以上の場合、DLC フィルタ処理を通過します。

GCFGL.DRE ビットが“0” (DLC 置換禁止) で、DLC フィルタ処理を通過した場合、受信メッセージの DLC 値がバッファに格納されます。この場合、受信メッセージのすべてのデータバイトがバッファに格納されます。

GCFGL.DRE ビットが“1” (DLC 置換許可) で、DLC フィルタ処理を通過した場合、受信メッセージの DLC 値の代わりに、受信ルールの DLC 値がバッファに格納されます。この場合、受信ルールの DLC 値を超えるデータバイトには“00h”が格納されます。

受信メッセージの DLC 値が受信ルールの DLC 値より小さい場合は、DLC フィルタ処理を通過しません。この場合、メッセージは受信バッファや FIFO バッファに格納されず、GERFLL.DEF フラグが“1” (DLC エラー) となります。

(3) ルーティング処理

アクセプタンスフィルタ処理と DLC フィルタ処理を通過したメッセージは、受信バッファ、受信 FIFO バッファ、または受信モードに設定した送受信 FIFO バッファに格納されます。メッセージ格納先は、GAFLPLj.GAFLRMV、GAFLRMDP[6:0]、GAFLFDP4、GAFLFDP1、GAFLFDP0 ビットで設定します。フィルタ処理を通過したメッセージは最大2つのバッファに格納することができます。

(4) ラベル付加処理

フィルタ処理を通過したメッセージに 12 ビットのラベル情報を付加し、バッファに格納することができます。ラベル情報は、GAFLPHj.GAFLPTR[11:0] ビットに設定します。

(5) ミラー機能の処理

ミラー機能を使用すると、自らが送信したメッセージを受信することができます。ミラー機能は、GCFGL.MME ビットを“1” (ミラー機能許可) にすることで使用可能になります。

ミラー機能使用時、他の CAN ノードが送信したメッセージを受信するときは、GAFLIDHj.GAFLLB ビッ

トを“0”にした受信ルールがデータ処理に使用されます。自らが送信したメッセージを受信するときは、GAFLIDHj.GAFLLB ビットを“1”にした受信ルールがデータ処理に使用されます。

29.4.2 タイムスタンプ

タイムスタンプカウンタは、メッセージの受信時間を記録するために使用する 16 ビットのフリーランカウンタです。タイムスタンプカウンタ値は、メッセージの SOF (スタートオブフレーム) のタイミングで取り込まれ、メッセージ ID やデータとともに、受信バッファや FIFO バッファに格納されます。タイムスタンプカウンタのクロック源は、GCFGL.TSSS ビットで、PCLK または CAN ビットタイムクロックから選択できます。選択したクロック源を GCFGL.TSP[3:0] ビットで分周したクロックが、タイムスタンプカウンタのカウンタソースになります。

CAN ビットタイムクロックをクロック源として使用する場合、対応するチャンネルがチャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードに遷移すると、タイムスタンプカウンタが停止します。PCLK をクロック源として使用する場合、タイムスタンプ機能はチャンネルモードに影響されません。

タイムスタンプカウンタ値は GCTRH.TSRST ビットを“1”にすると、“0000h”にリセットされます。

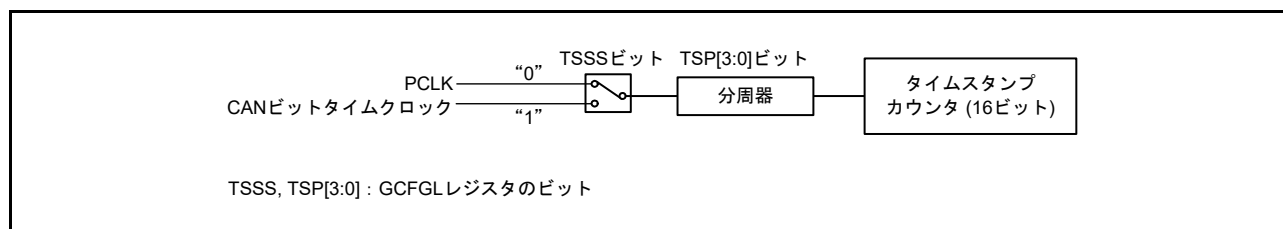


図 29.6 タイムスタンプ機能のブロック図

29.5 送信機能

送信の種類には、次の2つがあります。

- 送信バッファによる送信：
 - 1チャンネルにつき4バッファあります。
- 送受信 FIFO バッファ (送信モード) による送信：
 - 1チャンネルにつき1本ずつあります。1本のFIFOバッファに最大16メッセージ格納できます。送信バッファにリンクさせて使用します。FIFOバッファ内で、次に送信予定のメッセージのみ送信の優先順位判定の対象となります。メッセージは格納順に送信されます。

図 29.7 に送受信 FIFO バッファのリンクを示します。

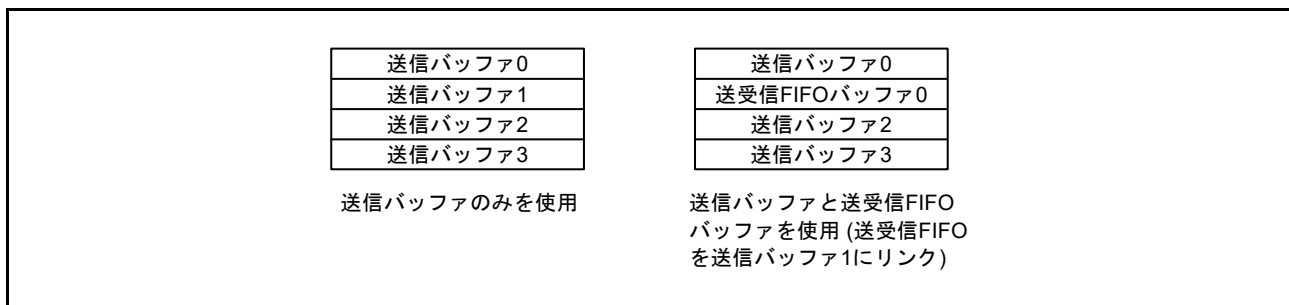


図 29.7 送受信 FIFO バッファのリンク

29.5.1 送信の優先順位判定

同一チャンネル内で複数のバッファから送信要求が出された場合、送信の優先順位を判定します。判定方法は次の2つから選択することができます。

- ID 優先 (GCFGL.TPRI ビットが“0”)
- 送信バッファ番号優先 (GCFGL.TPRI ビットが“1”)

GCFGL.TPRI ビットの設定は、すべての CAN チャンネルで有効です。

GCFGL.TPRI ビットを“0”にした場合、格納したメッセージ ID の優先順位に基づいてメッセージが送信されます。ID の優先順位は ISO 11898-1 規格に規定されている CAN バスアービトレーション規定に準拠します。送信バッファ、送信モードに設定した送受信 FIFO バッファに格納したメッセージの ID が判定対象になります。送受信 FIFO バッファの場合は、FIFO 内の最も古いメッセージが優先順位判定の対象になります。メッセージが送受信 FIFO バッファから送信中の場合、同じ FIFO バッファにある次のメッセージが優先順位判定の対象になります。GCFGL.TPRI ビットを“1”にした場合、送信要求があるバッファの中で、最も小さい番号の送信バッファのメッセージが最初に送信されます。送受信 FIFO バッファが送信バッファにリンクしている場合は、リンク先の送信バッファ番号で判定されます。

GCFGL.TPRI ビットの設定に関わらず、アービトレーションロストまたはエラーが発生し、再送信される場合、送信の優先順位判定が再度実行されます。

29.5.2 送信バッファを用いた送信

送信バッファの送信要求ビット (TMCp.TMTR ビット) を“1” (送信を要求する) にすると、データフレームまたはリモートフレームを送信することができます。

送信結果は、対応する TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグで確認します。送信が成功すると、TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグは“10b” (送信完了: 送信アボート要求なし) または“11b” (送信完了: 送信アボート要求あり) になります。

(1) 送信アボート機能

TMSTSp.TMTRM フラグが“1” (送信要求あり) である送信バッファにおいて、TMCp.TMTAR ビットを“1” (送信アボートを要求する) にすると、送信要求が取り消されます。送信アボートが完了すると、TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグが“01b” (送信アボート完了) になり、送信要求が取り消されます (TMSTSp.TMTRM フラグが“0” になります)。

送信中のメッセージまたは送信の優先順位判定で次の送信に決定しているメッセージはアボートできません。ただし、TMCp.TMTAR ビットを“1” にしたメッセージを送信中にアービトレーションロストまたはエラーが発生した場合、再送信は行いません。

(2) ワンショット送信機能 (再送信禁止機能)

TMCp.TMOM ビットを“1” (ワンショット送信許可) にすると、1 回だけ送信を行います。アービトレーションロストまたはエラーが発生しても、再送信は行いません。

ワンショット送信の結果は、対応する TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグで確認します。ワンショット送信が成功すると、TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグは“10b” または“11b” になります。アービトレーションロストまたはエラーが発生した場合、TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグは“01b” (送信アボート完了) になります。

29.5.3 FIFO バッファによる送信

1 本の送受信 FIFO バッファに、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットで設定した段数分のメッセージを格納できます。最初に格納したメッセージから順に送信されます。

送受信 FIFO バッファは、CFCCH0.CFTML[1:0] ビットで選択した送信バッファにリンクされます。CFCCL0.CFE ビットを“1” (送受信 FIFO バッファを使用する) にすると、送信の優先順位判定の対象になります。FIFO バッファ内で、次に送信予定のメッセージに対してのみ優先順位判定を実施します。

CFCCL0.CFE ビットを“0” (送受信 FIFO バッファを使用しない) にすると、次に示すタイミングで CFSTS0.CFEMP フラグが“1” (送受信 FIFO バッファ空) になります。

- 送受信 FIFO バッファのメッセージが送信中でなく、次の送信に決定していない場合、直ちに空になります。
- 送受信 FIFO バッファのメッセージが送信中、または次の送信に決定している場合、送信完了、CAN バスエラーの検出、またはアービトレーションロストの後に、空になります。

CFCCL0.CFE ビットを“0” にすると、送受信 FIFO バッファのすべてのメッセージは失われ、FIFO バッファへメッセージを格納できなくなります。再度 CFCCL0.CFE ビットを“1” にする前に、CFSTS0.CFEMP フラグが“1” になったことを確認してください。

(1) インターバル送信機能

送信モードに設定した送受信 FIFO バッファを使用時に、同一 FIFO バッファからメッセージを送信する場合、メッセージ送信間のインターバル時間を設定できます。

CFCCL0.CFE ビットを“1” にし、最初のメッセージが FIFO バッファから正常に送信された後、インターバルタイマはカウントを開始します (CAN プロトコルの EOF7 の後)。その後インターバル時間が経過する

と、次のメッセージが送信されます。インターバルタイマは、CFCCL0.CFE ビットを“0”にしたとき、またはチャンネルリセットモード時、停止します。

インターバル時間は CFCCH0.CFITT[7:0] ビットで設定します。インターバルタイマを使用しない場合は、CFCCH0.CFITT[7:0] ビットに“00h”を設定してください。

CFCCH0.CFITR、CFITSS ビットで、インターバルタイマのカウントソースを選択します。

CFCCH0.CFITR、CFITSS ビットを“00b”にすると PCLK を GCFGH.ITRCP[15:0] ビットの値で分周したクロック、“10b”にすると PCLK を GCFGH.ITRCP[15:0] ビットの値×10 で分周したクロック、“x1b”にすると CAN ビットタイムクロックがカウントソースになります。

GCFGH.ITRCP[15:0] ビットの設定値を M、CFCCH0.CFITT[7:0] ビットの値を N とすると、インターバル時間は次の式で求められます。

- CFCCH0.CFITR、CFITSS ビットが“00b”の場合

$$\frac{1}{PCLK} \times M \times N$$

- CFCCH0.CFITR、CFITSS ビットが“10b”の場合

$$\frac{1}{PCLK} \times M \times 10 \times N$$

- CFCCH0.CFITR、CFITSS ビットが“x1b”の場合
(fCANBIT は CAN ビットタイムクロックの周波数)

$$\frac{1}{fCANBIT} \times N$$

図 29.8 にインターバルタイマのブロック図を示します。

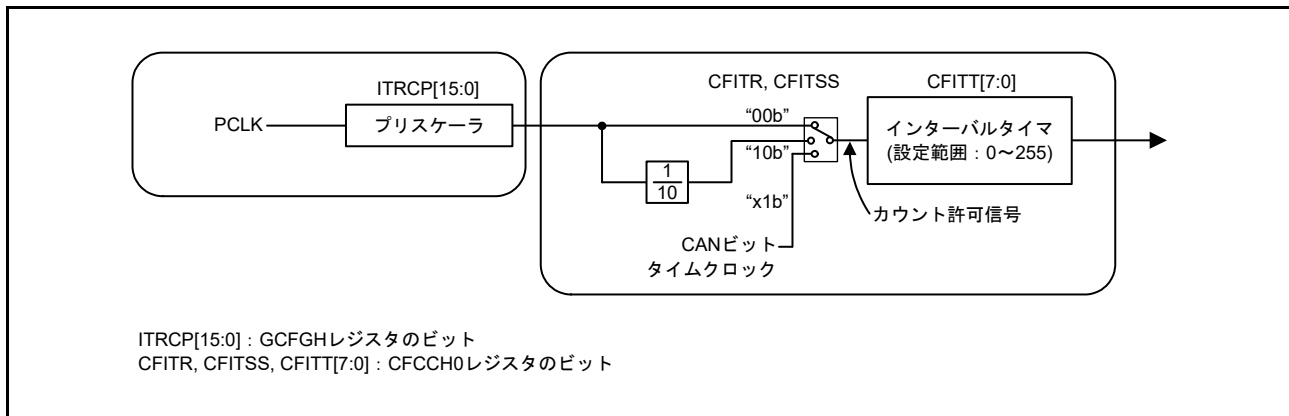


図 29.8 インターバルタイマのブロック図

図 29.9 にインターバルタイマのタイミング図を示します。

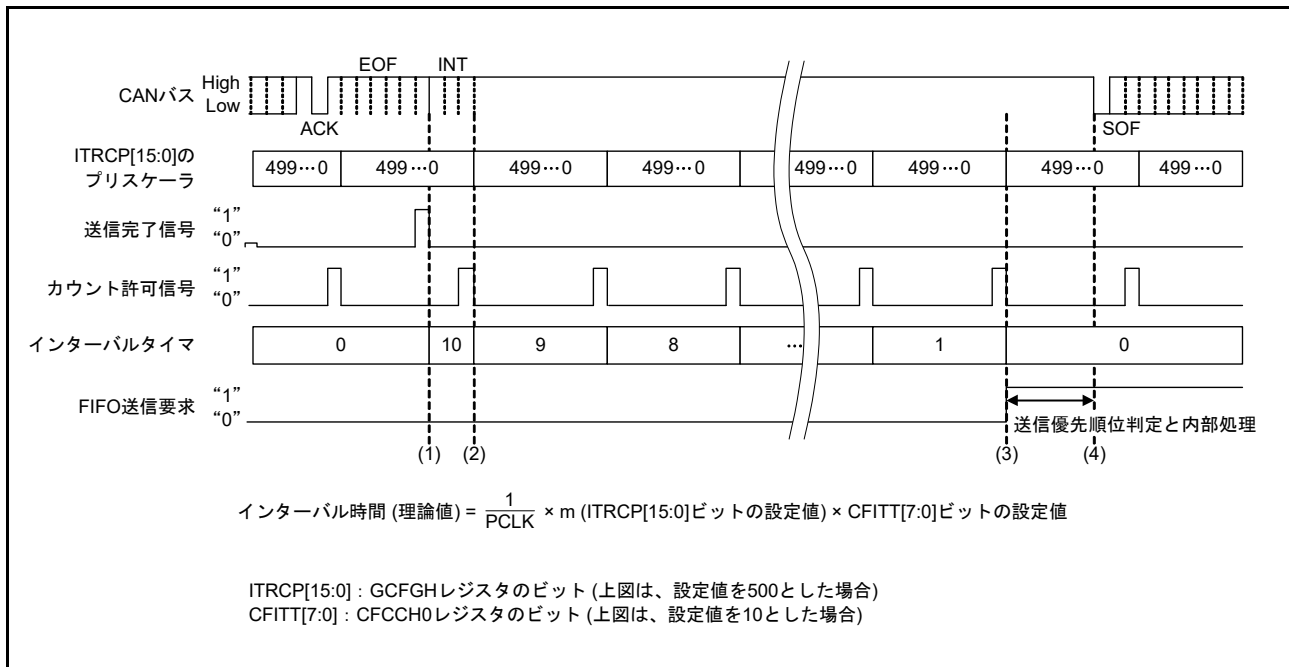


図 29.9 インターバルタイマのタイミング図

- (1) 送信が完了するとインターバルタイマがカウントを開始します。送信が完了したタイミングでプリスケアラが初期化されないため、最初のインターバル時間は、最大でインターバルタイマの1カウント分の誤差が発生します。
- (2) 次のカウント許可信号で、インターバルタイマは1減算されます。
- (3) インターバルタイマが“0”になると、送受信 FIFO バッファから送信要求が出されます。
- (4) 優先順位判定で送受信 FIFO バッファが次の送信に決まると、送信を開始します。送信要求が出されてから送信が開始するまで、CAN ビットタイムクロックの3クロック以下の遅延で、送信を開始します。

29.5.4 送信履歴機能

送信完了したメッセージの情報を送信履歴バッファに格納できます。チャンネルごとに1つの送信履歴バッファを持ち、送信履歴バッファには8個の送信履歴データを格納できます。

THLCC0.THLDTE ビットで、メッセージ送信元のバッファの種類が選択できます。CFIDH0.THLEN ビットで、メッセージごとに送信履歴データを格納するかどうかを設定できます。

送信が成功した後に、次に示す送信メッセージの情報が送信履歴データとして送信履歴バッファへ格納されます。送信が成功してから送信履歴データが格納されるまで、最大で38PCLK分遅延する場合があります。

- バッファタイプ 01b: 送信バッファ
 10b: 送受信 FIFO バッファ
- バッファ番号 送信元の送信バッファ、または送受信 FIFO バッファの番号。
 これはバッファタイプに依存します。表 29.10 を参照してください。
- ラベルデータ 送信メッセージのラベル情報

表 29.10 送信履歴データのバッファ番号

バッファの番号	バッファタイプ	
	01b	10b
00b	送信バッファ 0	CFCC0.CFTML[1:0]ビットで送受信FIFOバッファにリンクさせた送信バッファの番号
01b	送信バッファ 1	
10b	送信バッファ 2	
11b	送信バッファ 3	

ラベルデータは、メッセージを特定するために使用します。送信バッファ、送受信 FIFO バッファから送信するメッセージに、固有のラベルデータを付加することができます。

送信履歴データは、THLACC0 レジスタから読み出せます。バッファがフルの場合に、新しい送信履歴データを格納しようとする、バッファがオーバーフローし、新しいデータは破棄されます。

29.6 テスト機能

テスト機能は、通信テストとグローバルテストの2つに分類できます。

通信テスト：チャンネルごとに行うテスト

- 標準テストモード
 - リッスンオンリモード
 - セルフテストモード0(外部ループバックモード)
 - セルフテストモード1(内部ループバックモード)
- グローバルテスト：モジュール全体で行うテスト
- RAMテスト(読み書きテスト)

29.6.1 標準テストモード

標準テストモードでは、CRCテストを行うことができます。

29.6.2 リッスンオンリモード

リッスンオンリモードでは、データフレームとリモートフレームを受信できます。CANバス上にはレセシブビットのみが送信され、ACKビット、オーバーロードフラグ、アクティブエラーフラグは送信されません。リッスンオンリモードは、通信速度の検出に使用できます。

リッスンオンリモードでは、どのバッファからも送信要求をしないでください。

図 29.10 にリッスンオンリモード選択時の接続を示します。

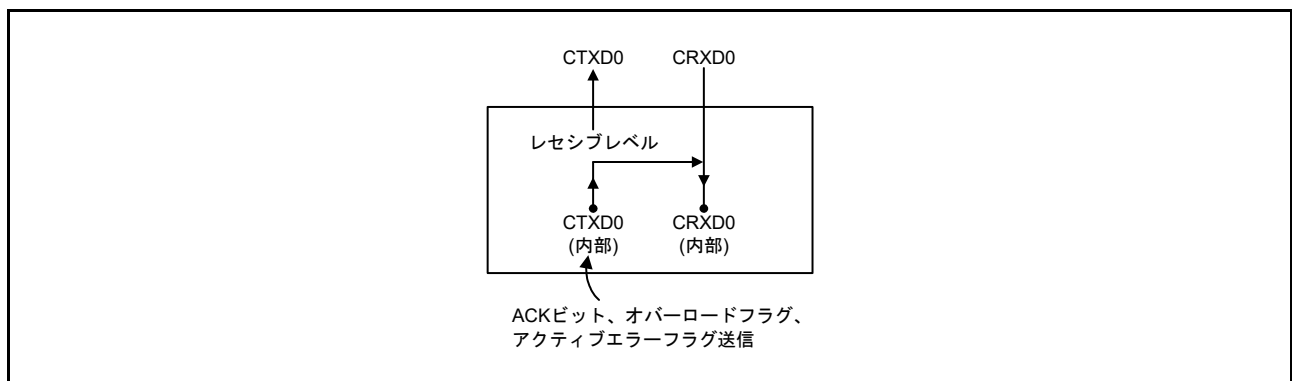


図 29.10 リッスンオンリモード選択時の接続

29.6.3 セルフテストモード (ループバックモード)

セルフテストモードでは、送信したメッセージを自チャンネルの受信ルールと比較し、フィルタ処理を通過するとバッファに格納されます。他のCANノードが送信したメッセージは、GAFLIDHj.GAFLLB ビットを“0”(他のCANノードが送信したメッセージを受信時)にした受信ルールとのみ比較されます。

ミラー機能とセルフテストモードが同時に許可された場合、セルフテストモードの設定が優先されます。

(1) セルフテストモード0 (外部ループバックモード)

セルフテストモード0はCANトランシーバを含めたチャンネルのループバックテストを行います。

セルフテストモード0では、送信したメッセージをCANトランシーバ経由で受信したメッセージとして取り扱い、送信したメッセージをバッファに格納します。自送信メッセージを受信するため、ACKビットを生成します。

図 29.11 にセルフテストモード0選択時の接続を示します。

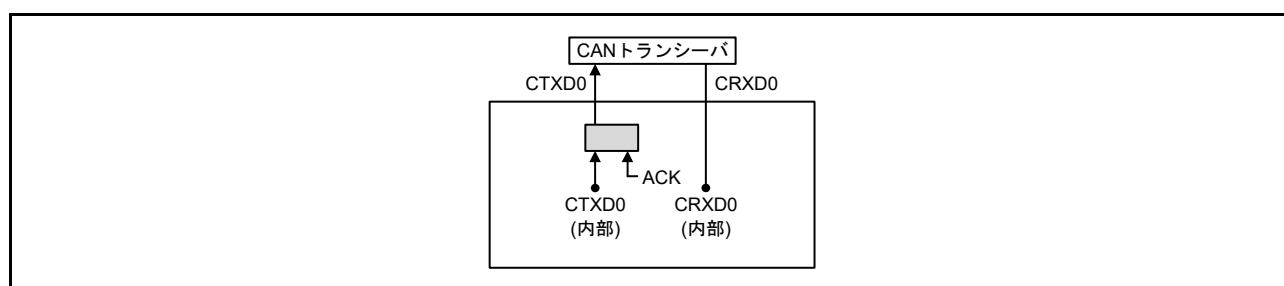


図 29.11 セルフテストモード0選択時の接続

(2) セルフテストモード1 (内部ループバックモード)

セルフテストモード1では、送信したメッセージを受信したメッセージとして取り扱い、送信したメッセージをバッファに格納します。自送信メッセージを受信するため、ACKビットを生成します。

セルフテストモード1では内部CTXD0端子から内部CRXD0端子への内部フィードバックを行います。外部CRXD0端子の入力は、切り離されます。外部CTXD0端子はレセシブビットのみ出力します。

図 29.12 にセルフテストモード1選択時の接続を示します。

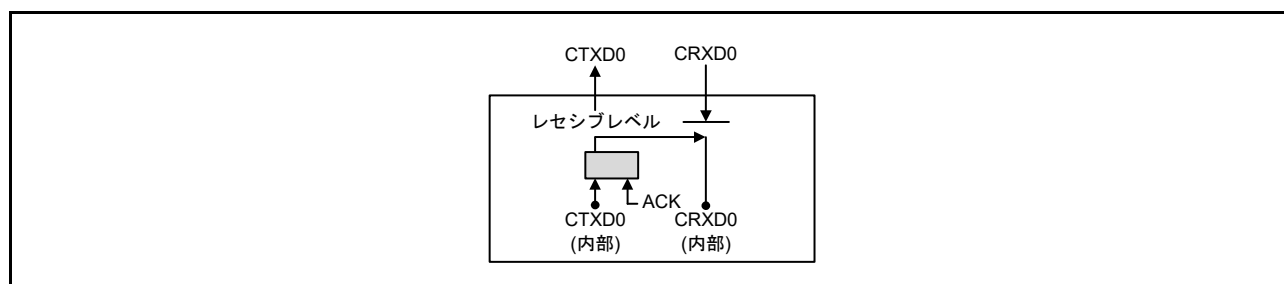


図 29.12 セルフテストモード1選択時の接続

29.6.4 RAM テスト

RAMテスト機能を使用すると、CAN用RAM全体にアクセスすることができます。

RAMテスト機能使用時、RAMは256バイトごとのページに分けられます。ページはGTSTCFG.RTMPS[2:0]ビットで設定し、ページ内のデータはRPGACCrレジスタから読み出し/書き込みができます。有効な総RAMサイズは、544バイト(0220h)です。

29.7 割り込み

CAN モジュールには 5 本の割り込みがあり、グローバル割り込みとチャンネル割り込みに分類されます。

グローバル割り込み (2 本)

- グローバル受信 FIFO 割り込み (RXFINT)
- グローバルエラー割り込み (GLERRINT)

チャンネル割り込み (チャンネルごとに 3 本ずつ)

- チャンネル送信割り込み (TXINT)
 - 送信完了割り込み
 - 送信アボート割り込み
 - 送受信 FIFO 送信完了割り込み
 - 送信履歴割り込み
- 送受信 FIFO 受信割り込み (COMFRXINT)
- チャンネルエラー割り込み (CHERRINT)

割り込み要求が発生すると、CAN モジュールの対応する割り込み要求フラグが“1”(割り込み要求あり)になります。その場合、割り込み許可ビットを“1”(割り込み許可)にしていると、CAN モジュールから割り込み要求が出力されます(割り込みの発生は、割り込み機能により制御されます)。

割り込み要求フラグを“0”(割り込み要求なし)にするか、割り込み許可ビットを“0”(割り込み禁止)にすると、割り込み要求がクリアされます。割り込み要求をクリアするまで、次の割り込みは発生しません。

割り込みの設定については「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

次ページ以降に、表 29.11 に CAN 割り込み要因一覧を示します。また、図 29.13 に CAN グローバル割り込みブロック図を、図 29.14 に CAN チャンネル割り込みブロック図を示します。

表 29.11 CAN 割り込み要因一覧

割り込み要因		対応する割り込み要求フラグ(注1)	対応する割り込み許可ビット(注1)	
グローバル 割り込み	グローバル受信 FIFO	受信 FIFO0	RFSTS0.RFIF フラグ	RFCC0.RFIE ビット
		受信 FIFO1	RFSTS1.RFIF フラグ	RFCC1.RFIE ビット
	グローバルエラー	GERFLL.DEF フラグ	GCTRL.DEIE ビット	
		GERFLL.MES フラグ	GCTRL.MEIE ビット	
		GERFLL.THLES フラグ	GCTRL.THLEIE ビット	
チャンネル 割り込み	チャンネル送信	送信完了	TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグ	TMIEC.TMIEp ビット
		送信アボート	TMSTSp.TMTRF[1:0] フラグ	CTRH.TAIE ビット
		送受信 FIFO 送信	CFSTS0.CFTXIF フラグ	CFCC0.CFTXIE ビット
		送信履歴	THLSTS0.THLIF フラグ	THLCC0.THLIE ビット
	送受信 FIFO 受信	CFSTS0.CFRXIF フラグ	CFCC0.CFRXIE ビット	
	チャンネルエラー	ERFLL.BEF フラグ	CTRL.BEIE ビット	
		ERFLL.ALF フラグ	CTRL.ALIE ビット	
		ERFLL.BLF フラグ	CTRL.BLIE ビット	
		ERFLL.OVLF フラグ	CTRL.OLIE ビット	
		ERFLL.BORF フラグ	CTRL.BORIE ビット	
		ERFLL.BOEF フラグ	CTRL.BOIE ビット	
		ERFLL.EPF フラグ	CTRL.EPIE ビット	
		ERFLL.EWF フラグ	CTRL.EWIE ビット	
	ウェイクアップ	なし	なし	

注1. 割り込み機能にある割り込み要求フラグ、割り込み許可ビットは記載していません。詳細については「14. 割り込みコントローラ(ICUb)」を参照してください。

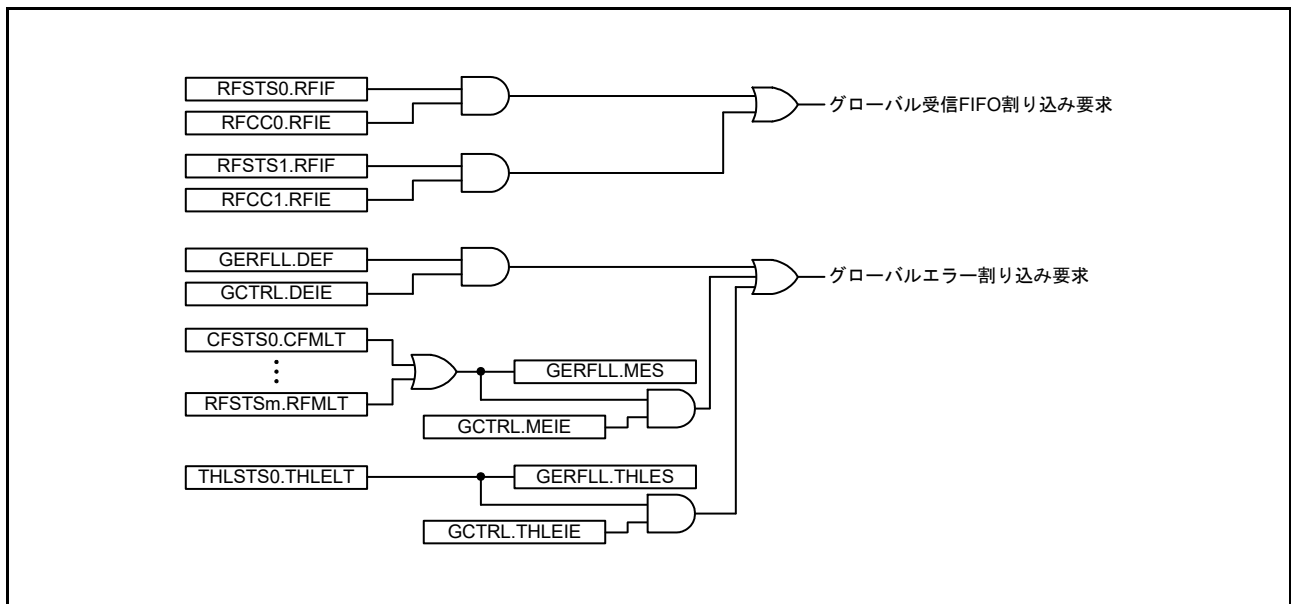


図 29.13 CAN グローバル割り込みブロック図

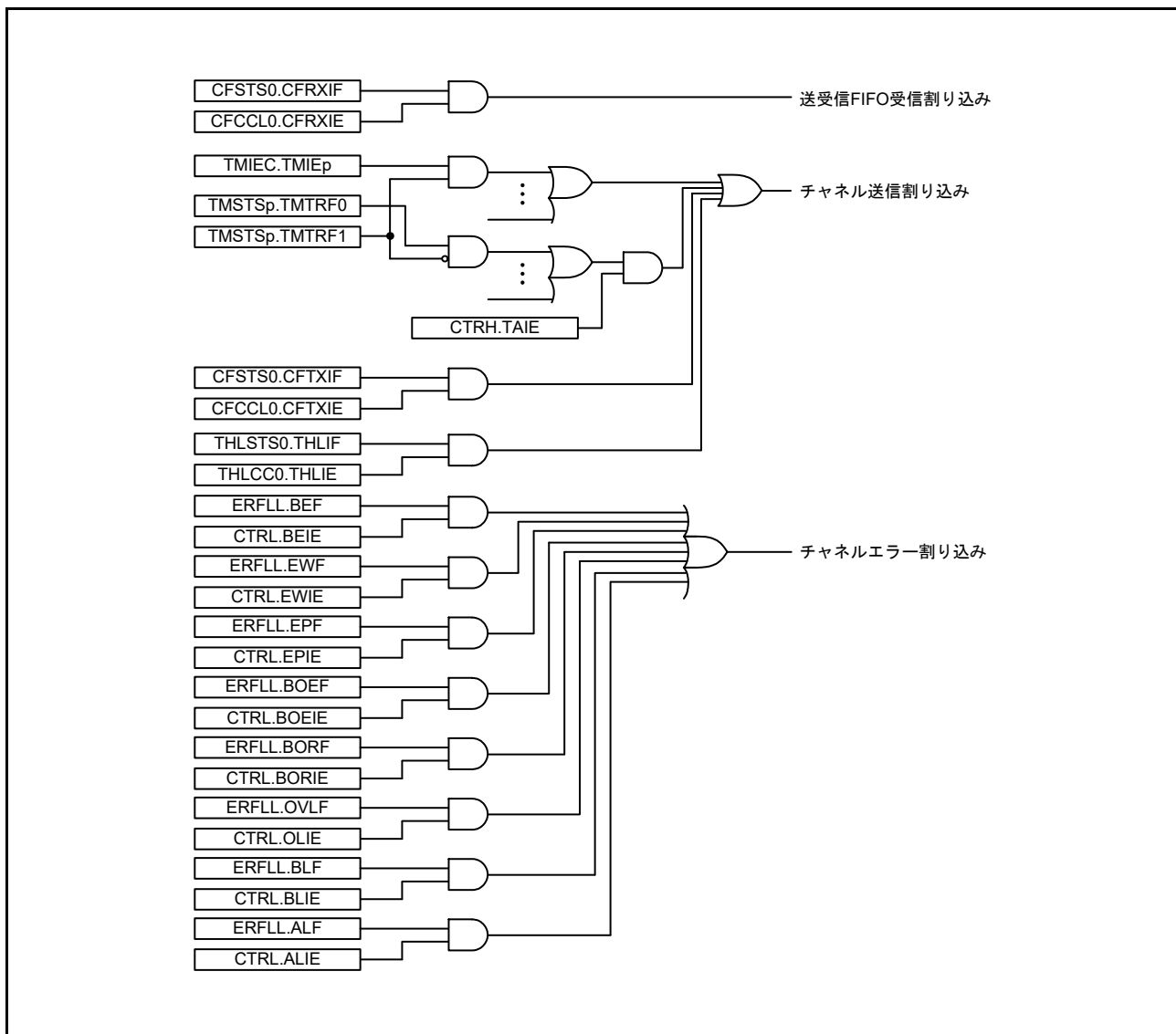


図 29.14 CAN チャンネル割り込みブロック図

29.8 RAM ウィンドウ

CANモジュールのアドレス 000A 83A0h ~ 000A 8681h はウィンドウ形式になっており、GRWCR.RPAGE ビットで、割り付けられるレジスタを切り替えることができます。

- GRWCR.RPAGE ビットが“0” (ウィンドウ 0) の場合に割り付けられるレジスタ
 受信ルール登録レジスタ : GAFLIDLj, GAFLIDHj, GAFLMLj, GAFLMHj, GAFLPLj, GAFLPHj
 RAM テストレジスタ : RPGACCr
- GRWCR.RPAGE ビットが“1” (ウィンドウ 1) の場合に割り付けられるレジスタ
 受信バッファレジスタ : RMIDLn, RMIDHn, RMTSn, RMPTRn, RMDf0n ~ RMDf3n
 受信 FIFO アクセスレジスタ : RFIDLm, RFIDHm, RFTSm, RFPTRm, RFDF0m ~ RFDF3m
 送受信 FIFO アクセスレジスタ : CFIDL0, CFIDH0, CFTS0, CFPTR0, CFDF00 ~ CFDF30
 送信バッファレジスタ : TMIDLp, TMIDHp, TMPTRp, TMDF0p ~ TMDF3p
 送信履歴バッファアクセスレジスタ : THLACC0

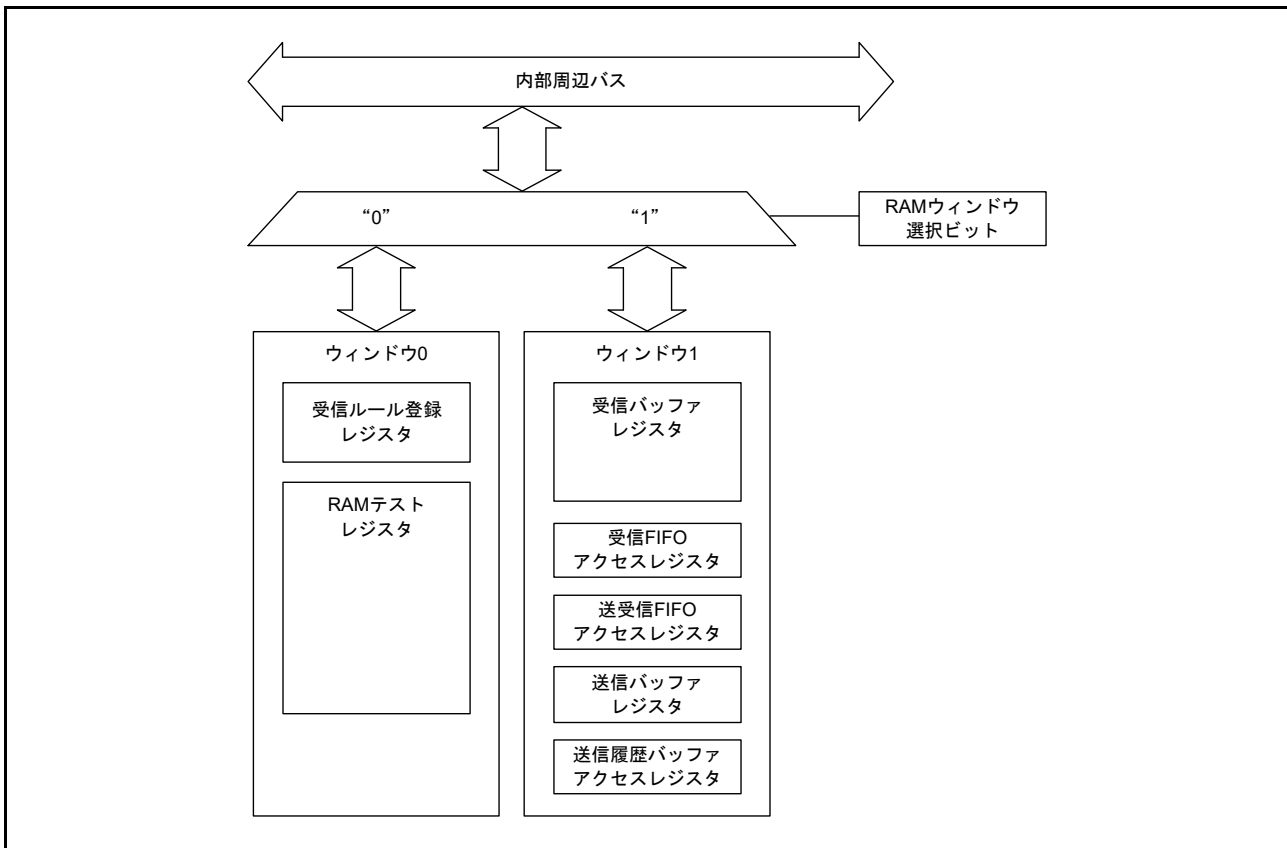


図 29.15 RAM ウィンドウ

29.9 初期設定

CAN モジュールイネーブル後に CAN モジュールは CAN 用 RAM の初期化を行います。RAM の初期化時間は、PCLK の 276 サイクルです。RAM の初期化中は、GSTS.GRAMINIT フラグが“1”(CAN 用 RAM クリア中)になり、初期化が終了すると“0”(CAN 用 RAM クリア完了)になります。GSTS.GRAMINIT フラグが“0”になった後に CAN の設定を行ってください。

図 29.16 に CAN モジュールイネーブル後の設定手順を示します。

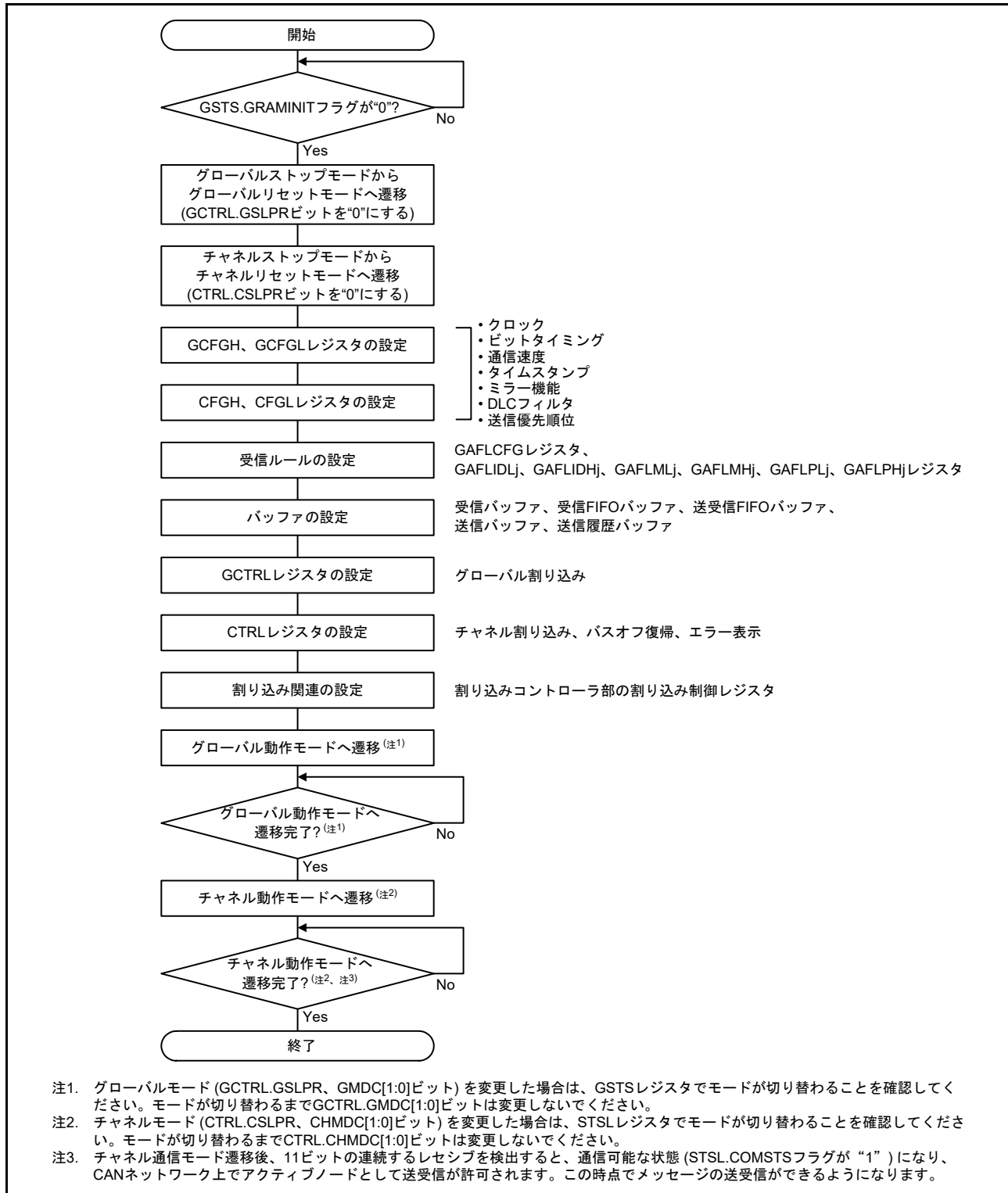


図 29.16 CAN モジュールイネーブル後の設定手順

29.9.1 クロックの設定

CANモジュールのクロック源であるCANクロックソース (fCAN) を設定します。GCFGL.DCS ビットで、PCLK または CANMCLK を選択します。

29.9.2 ビットタイミングの設定

CANプロトコルでは、通信フレームの1ビットはSS、TSEG1、TSEG2の3つのセグメントで構成されます。このうち、TSEG1およびTSEG2の2つのセグメントをチャンネルごとにCFGHレジスタで設定できます。2つのセグメントを設定することで、サンプルポイントのタイミングを決めます。このタイミングは1 Time Quantum (以下Tq) 単位で調整できます。1Tqは、GCFGL.DCS ビットで選択したクロックをCFGH.BRP[9:0] ビットで分周したクロック (CANTq クロック) の周期になります。

図 29.17 にビットタイミング図を示します。表 29.12 にビットタイミングの設定例を示します。

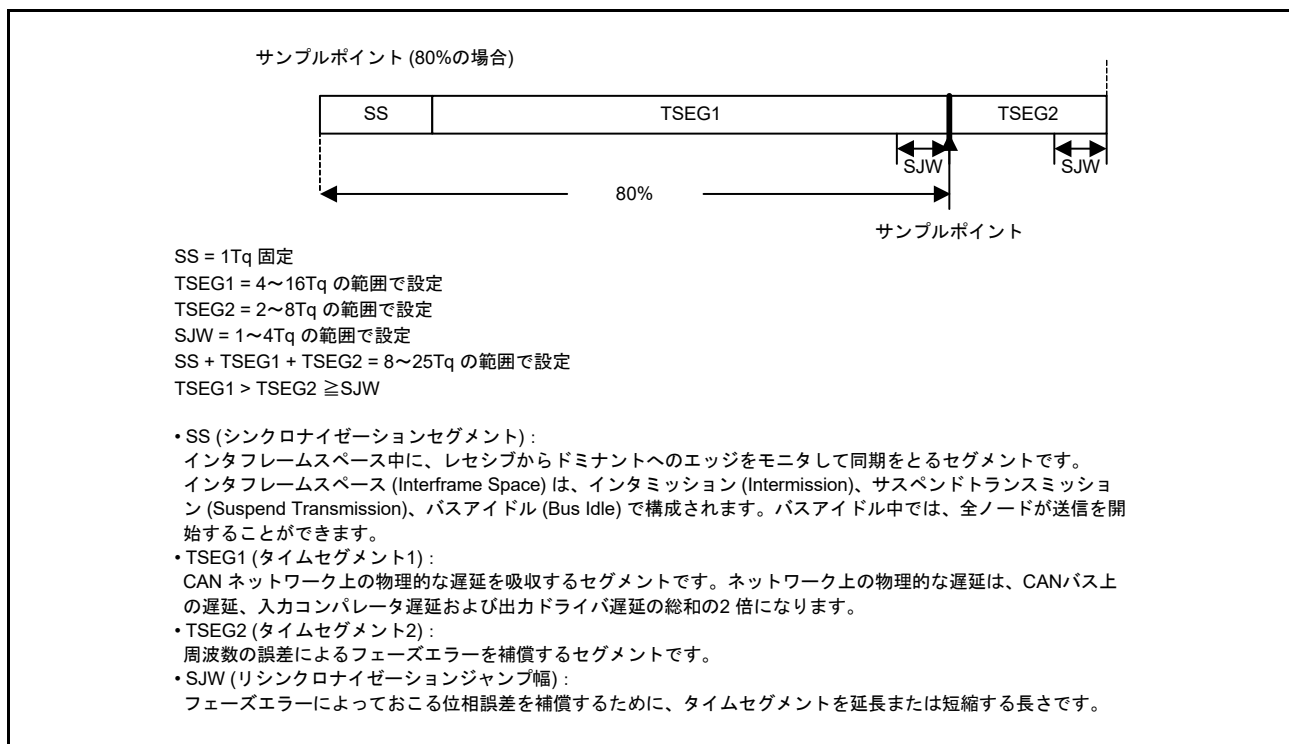


図 29.17 ビットタイミング図

表 29.12 ビットタイミングの設定例

1ビット	設定値(Tq)				サンプルポイント(%) (図29.17参照)
	SS	TSEG1	TSEG2	SJW	
8Tq	1	4	3	1	62.50
	1	5	2	1	75.00
10Tq	1	6	3	1	70.00
	1	7	2	1	80.00
16Tq	1	10	5	1	68.75
	1	11	4	1	75.00
20Tq	1	13	6	1	70.00
	1	15	4	3	80.00
24Tq	1	15	8	1	66.67
	1	16	7	1	70.83

29.9.3 通信速度の設定

CANの通信速度は、fCAN、ボーレートプリスケアラ分周値(CFGL.BRP[9:0]ビット)および1ビットタイムのTq数を用いてチャンネルごとに設定します。

図 29.18 に CAN クロック制御ブロック図を、表 29.13 に通信速度の設定例を示します。

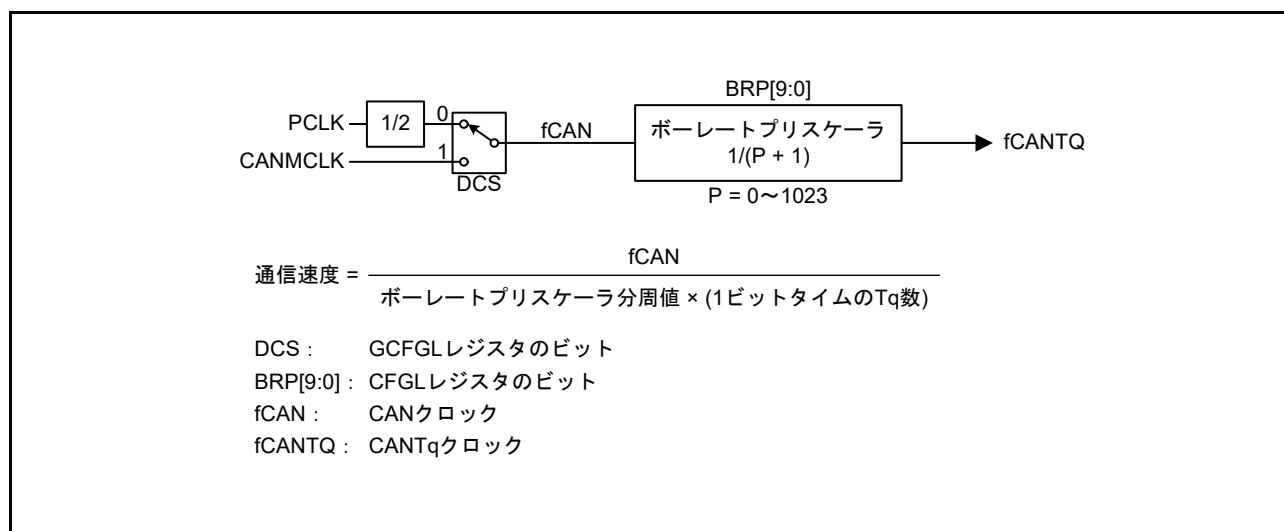


図 29.18 CAN クロック制御ブロック図

表 29.13 通信速度の設定例

通信速度	fCAN	
	16MHz	8MHz
1 Mbps	8Tq (2) 16Tq (1)	8Tq (1)
500 kbps	8Tq (4) 16Tq (2)	8Tq (2) 16Tq (1)
250 kbps	8Tq (8) 16Tq (4)	8Tq (4) 16Tq (2)
83.3 kbps	8Tq (24) 16Tq (12)	8Tq (12) 16Tq (6)
33.3 kbps	8Tq (60) 10Tq (48) 16Tq (30) 20Tq (24)	8Tq (30) 10Tq (24) 16Tq (15) 20Tq (12)

注. ()内の数字はボーレートプリスケアラ分周値

29.9.4 受信ルールの設定

受信ルール関連レジスタで受信ルールの設定を行うことができます。
16の受信ルールを登録できます。

図 29.19 に受信ルール設定手順について示します。

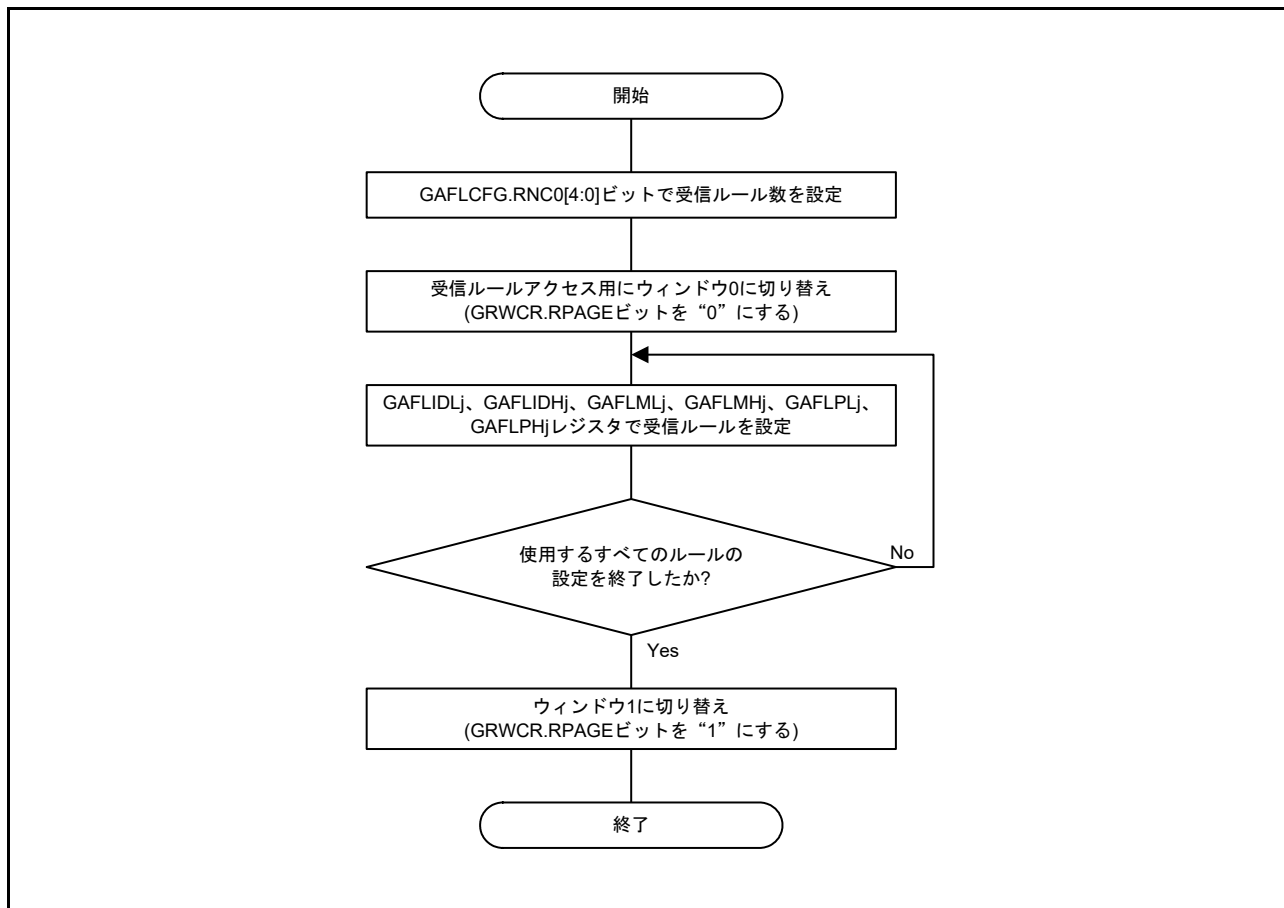


図 29.19 受信ルール設定手順

29.9.5 バッファの設定

各種バッファのサイズと割り込み要因を設定します。また、送信モードに設定した送受信 FIFO バッファはリンクする送信バッファを設定します。

図 29.20 にバッファの構成を示します。図 29.21 に各種バッファの設定手順を示します。

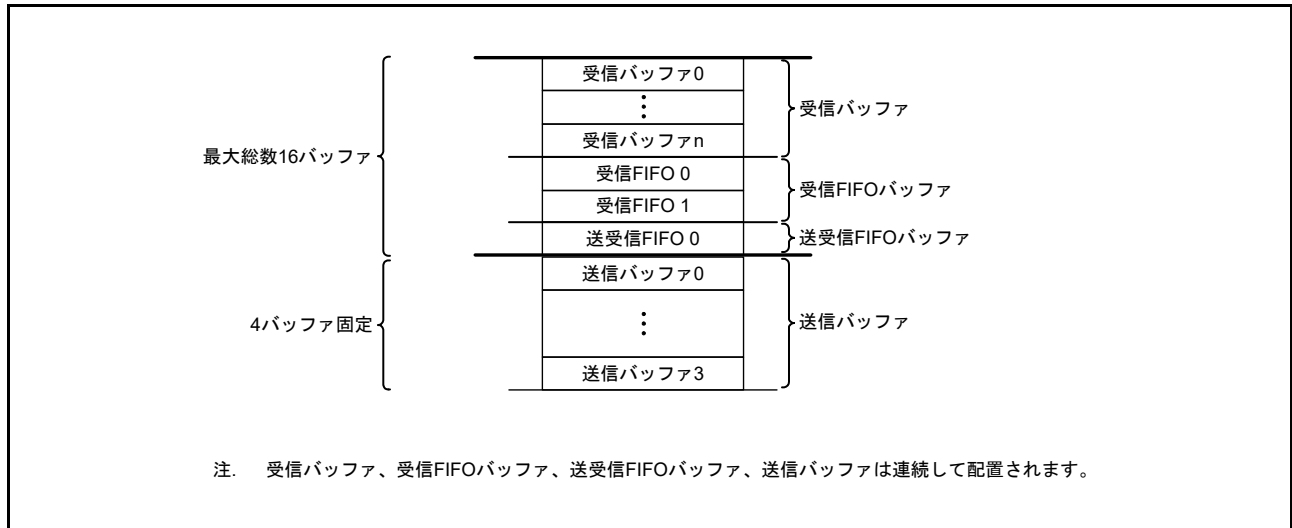


図 29.20 バッファの構成

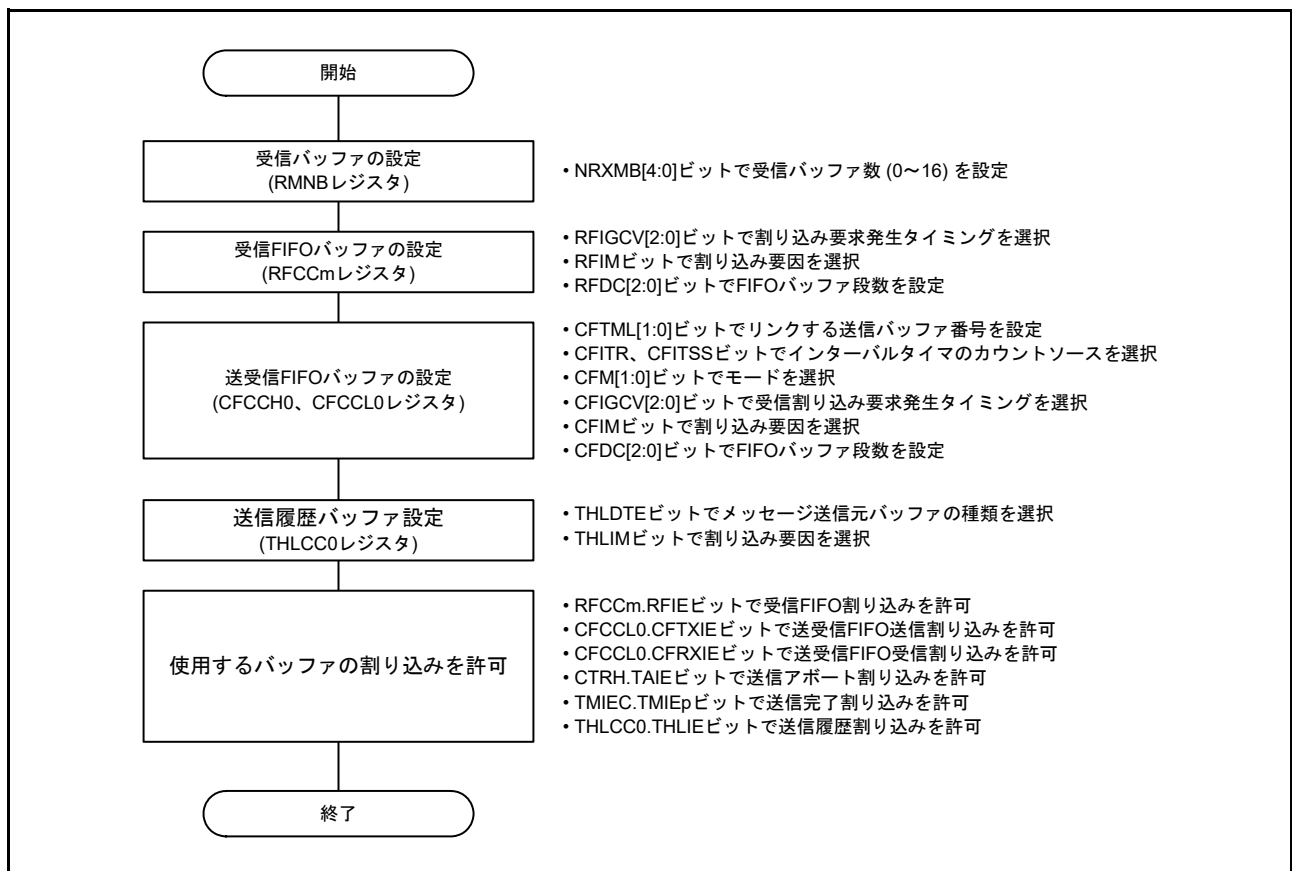


図 29.21 各種バッファの設定手順

29.10 受信手順

29.10.1 受信バッファの読み出し手順

受信したメッセージを受信バッファに格納する処理が始まると、RMND0.RMNSn フラグが“1”(受信バッファ n に新しいメッセージあり)になります。メッセージは RMIDLn、RMIDHn、RMTSn、RMPTRn、RMDf0n ~ RMDf3n レジスタから読めます。受信バッファからメッセージを読み出す前に次のメッセージを受信した場合、メッセージが上書きされます。

図 29.22 に受信バッファの読み出し手順を示します。

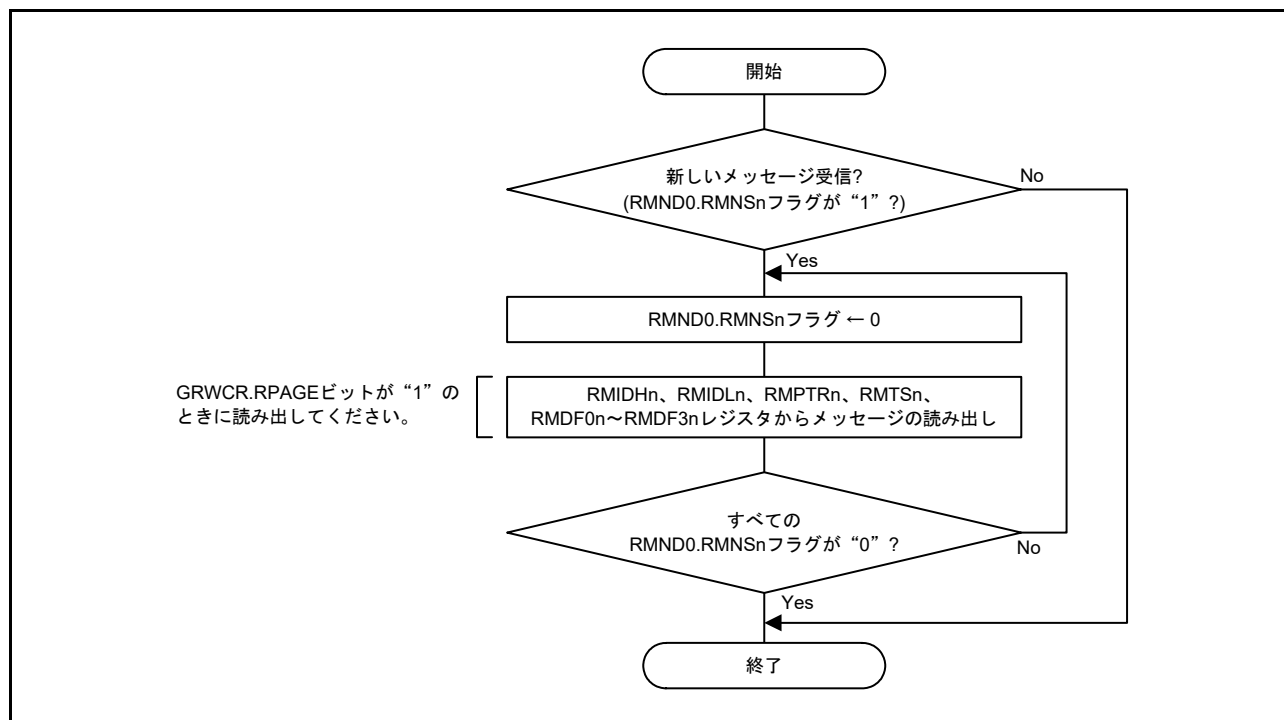


図 29.22 受信バッファの読み出し手順

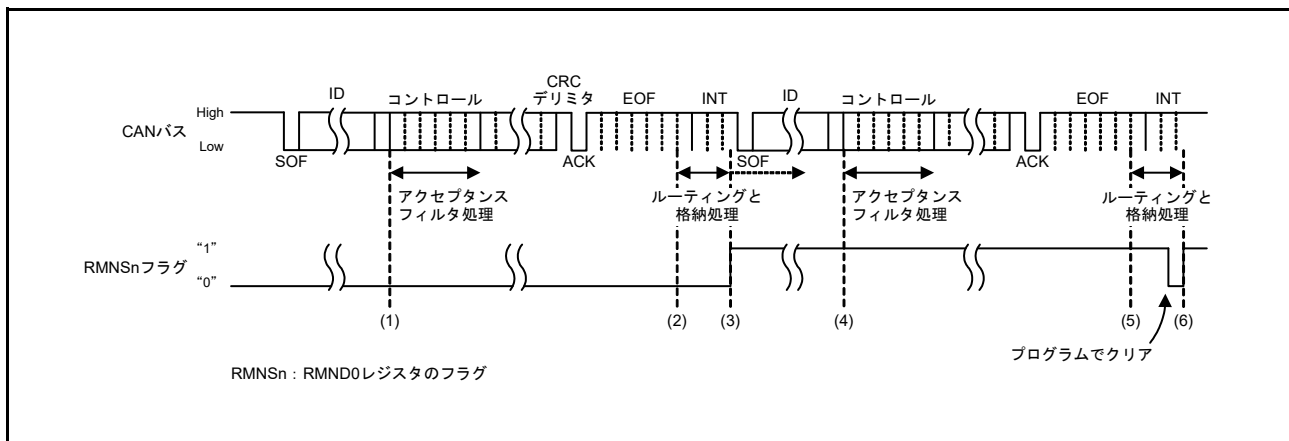


図 29.23 受信バッファの受信タイミング図

- (1) メッセージの ID フィールドを受信し終わると、アクセプタンスフィルタ処理が開始します。
- (2) 対応するチャンネルの受信ルールと一致し、かつメッセージが正常に受信されると、指定のバッファに転送するルーティング処理が開始します。GCFGL.DCE ビットが“1” (DLC チェック許可) の場合、この時点で DLC フィルタ処理を行います。
- (3) DLC フィルタ処理を通過すると、指定した受信バッファにメッセージを格納する処理が開始します。メッセージの格納処理が始まると、対応する RMND0.RMNSn フラグが“1” (受信バッファに新しいメッセージあり) になります。他のチャンネルでフィルタ処理や送信の優先順位判定処理を行っている場合、ルーティング処理や格納処理が遅延する場合があります。
- (4) 次のメッセージの ID フィールドを受信し終わると、アクセプタンスフィルタ処理が開始します。
- (5) 対応するチャンネルの受信ルールと一致し、かつメッセージが正常に受信されると、指定のバッファに転送するルーティング処理が開始します。GCFGL.DCE ビットが“1” (DLC チェック許可) の場合、この時点で DLC フィルタ処理を行います。
- (6) 対応する RMND0.RMNSn フラグを“0” (受信バッファに新しいメッセージなし) にクリアした場合、メッセージの格納処理が始まると、再度、“1”になります。RMND0.RMNSn フラグが“1”のままでも、新しいメッセージは受信バッファに上書きされます。メッセージ格納中は RMND0.RMNSn フラグを“0”にできません。

29.10.2 FIFO バッファの読み出し手順

受信メッセージが1つ以上の受信 FIFO バッファまたは、受信モードに設定した送受信 FIFO バッファへ格納されると、対応するメッセージ数表示カウンタ (RFSTSm.RFMC[5:0] フラグまたは CFSTS0.CFMC[5:0] フラグ) の値が1加算されます。このとき、RFCCm.RFIE ビット (受信 FIFO 割り込み許可ビット) や CFCCL0.CFRXIE ビット (送受信 FIFO 受信割り込み許可ビット) を“1”にしていると、割り込み要求が発生します。受信メッセージは、受信 FIFO バッファの場合は RFIDLm、RFIDHm、RFTSm、RFPTRm、RFDF0m ~ RFDF3m レジスタから、送受信 FIFO バッファの場合は CFIDL0、CFIDH0、CFTS0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタから読み出すことができます。FIFO バッファは古いメッセージから読み出せます。

メッセージ数表示カウンタの値が FIFO バッファの段数値 (RFCCm.RFDC[2:0] ビットまたは CFCCL0.CFDC[2:0] ビットで設定した値) に一致したとき、RFSTSm.RFLL フラグまたは CFSTS0.CFLL フラグが“1” (FIFO バッファフル) になります。

FIFO バッファからすべてのメッセージを読み出したとき、RFSTSm.RFEMP フラグまたは CFSTS0.CFEMP フラグが“1” (FIFO バッファ空) になります。

割り込み要求フラグ (RFSTSm.RFIF フラグまたは CFSTS0.CFRXIF フラグ) が“1” (割り込み要求あり) の状態で RFCCm.RFE ビットや CFCCL0.CFE ビットを“0” (FIFO バッファを使用しない) にすると、割り込み要求フラグは自動的に“0”になりません。割り込み要求フラグはプログラムで“0”にしてください。

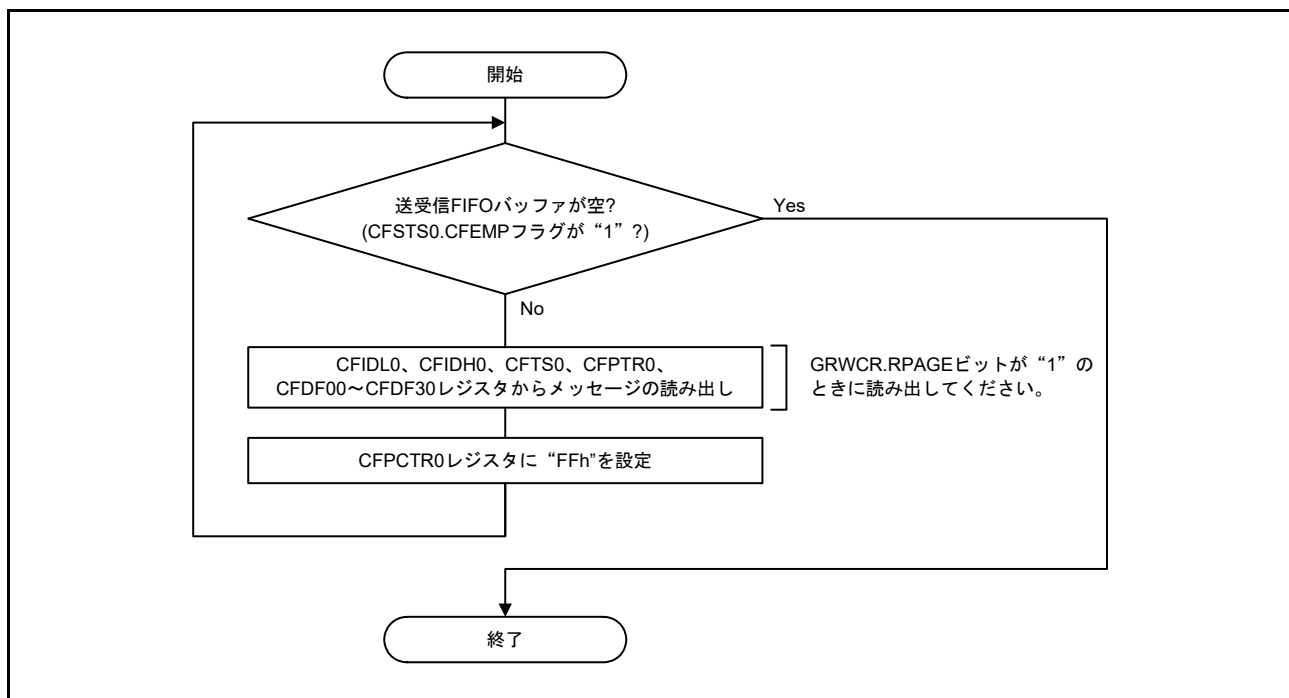


図 29.24 送受信 FIFO バッファの読み出し手順

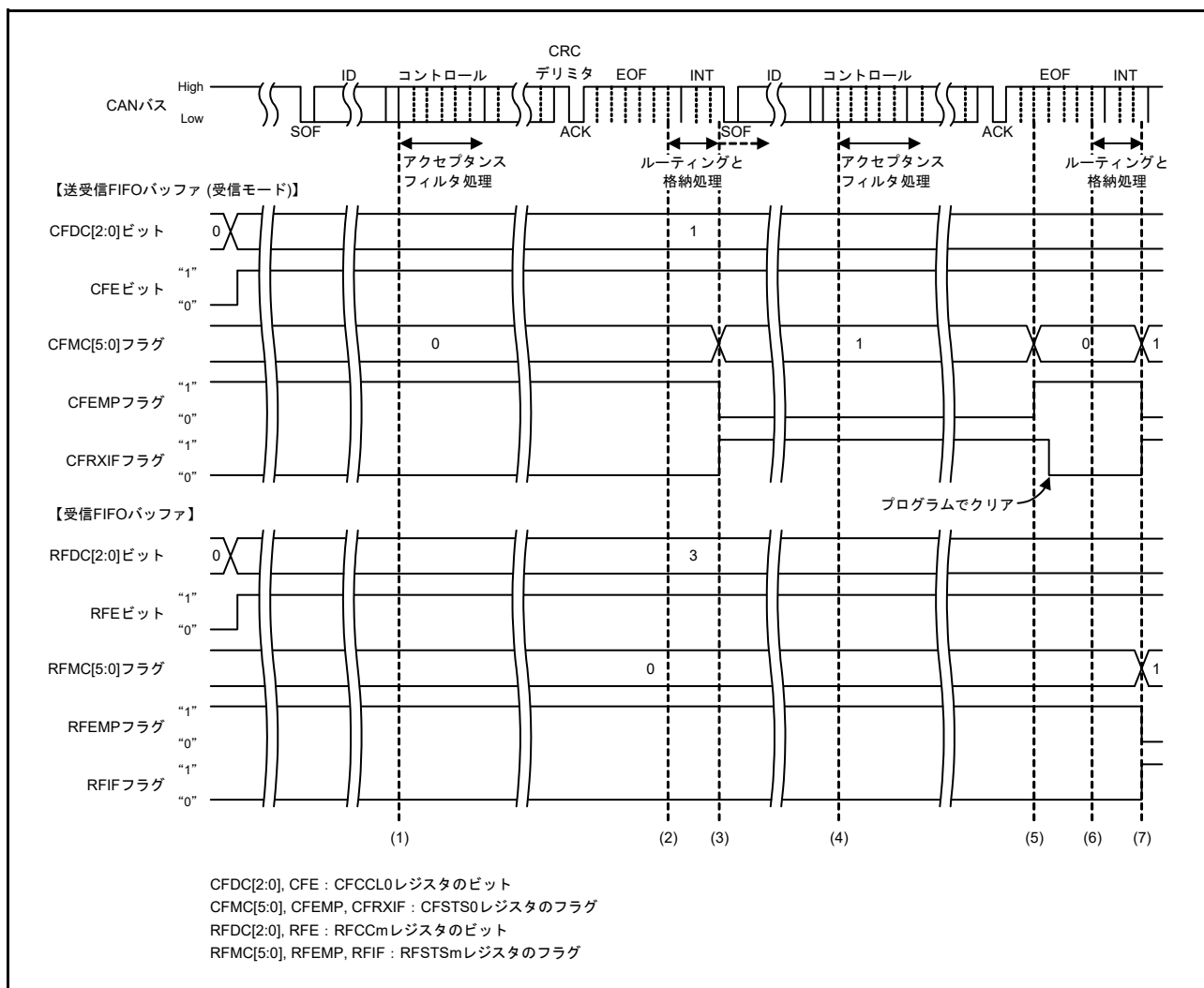


図 29.25 FIFO バッファの受信タイミング図

- (1) メッセージの ID フィールドを受信し終わると、アクセプタンスフィルタ処理が開始します。
- (2) 対応するチャンネルの受信ルールと一致し、かつメッセージが正常に受信されると、指定のバッファに転送するルーティング処理が開始します。GCFGL.DCE ビットが“1” (DLC チェック許可) の場合、この時点で DLC フィルタ処理を行います。
- (3) DLC フィルタ処理を通過し、かつ CFCCL0.CFE ビットが“1” (送受信 FIFO バッファを使用する) で、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットの値が“001b”以上の場合、受信モードに設定した送受信 FIFO バッファにメッセージが格納されます。CFSTS0.CFMC[5:0] フラグが 1 加算されて“01h”になります。CFCCL0.CFIM ビットを“1” (1 メッセージ受信ごとに割り込み要求発生) にしている場合、CFSTS0.CFRXIF フラグが“1” (送受信 FIFO 受信割り込み要求あり) になります。CFSTS0.CFRXIF フラグはプログラムで“0”にできます。
- (4) 次のメッセージの ID フィールドを受信し終わると、アクセプタンスフィルタ処理が開始します。
- (5) CFIDL0、CFIDH0、CFSTS0、CFPTR0、CFDF00 ~ CFDF30 レジスタから受信メッセージを読み出し、CFPCTR0 レジスタに“FFh”を書きます。それにより、CFSTS0.CFMC[5:0] フラグが 1 減算されて“00h”になり、CFSTS0.CFEMP フラグが“1” (送受信 FIFO バッファ空) になります。
- (6) 対応するチャンネルの受信ルールと一致し、かつメッセージが正常に受信されると、指定のバッファに転送するルーティング処理が開始します。GCFGL.DCE ビットが“1” (DLC チェック許可) の場合、この時点で DLC フィルタ処理を行います。

- (7) DLC フィルタ処理を通過し、かつ CFCCL0.CFE ビットが“1”(送受信 FIFO バッファを使用する)、CFCCL0.CFDC[2:0] ビットの値が“001b”以上の場合、受信モードに設定した送受信 FIFO バッファにメッセージが格納されます。CFSTS0.CFMC[5:0] フラグが 1 加算されて“01h”になります。CFCCL0.CFIM ビットを“1”(1 メッセージ受信ごとに割り込み要求発生)にしている場合、CFSTS0.CFRXIF フラグが“1”(送受信 FIFO 受信割り込み要求あり)になります。
- また、RFCCm.RFE ビットが“1”(受信 FIFO バッファを使用する)、RFCCm.RFDC[2:0] ビットの値が“001b”以上の場合、受信 FIFO バッファにメッセージが格納されます。RFSTSm.RFMC[5:0] フラグが 1 加算されて“01h”になります。RFCCm.RFIM ビットを“1”(1 メッセージ受信ごとに割り込み要求発生)にしている場合、RFSTSm.RFIF フラグが“1”(受信 FIFO 割り込み要求あり)になります。

29.11 送信手順

29.11.1 送信バッファからの送信手順

図 29.26 に送信バッファからの送信手順を示します。

図 29.27 に 2 つの送信バッファからメッセージを送信し、送信が正常に完了した場合のタイミング図を示します。図 29.28 に 2 つの送信バッファからメッセージを送信し、送信がアボート完了した場合のタイミング図を示します。

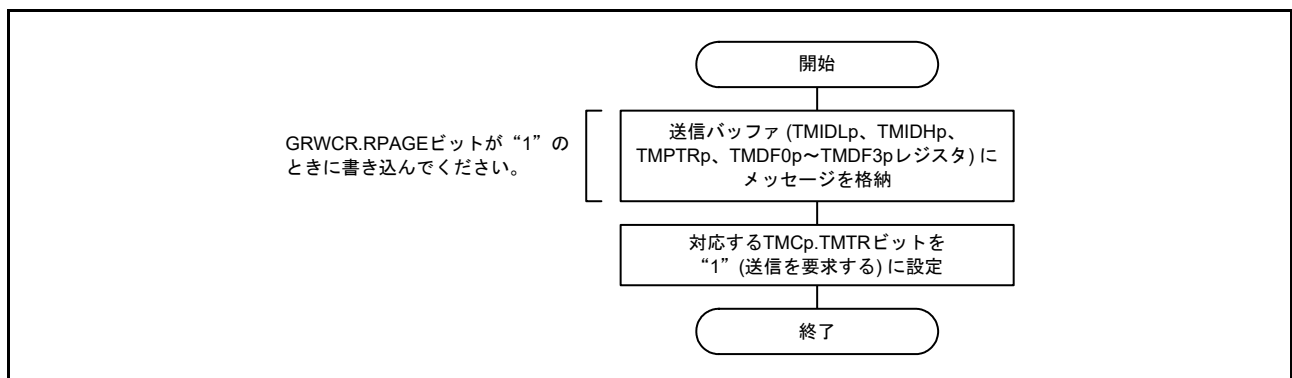


図 29.26 送信バッファからの送信手順

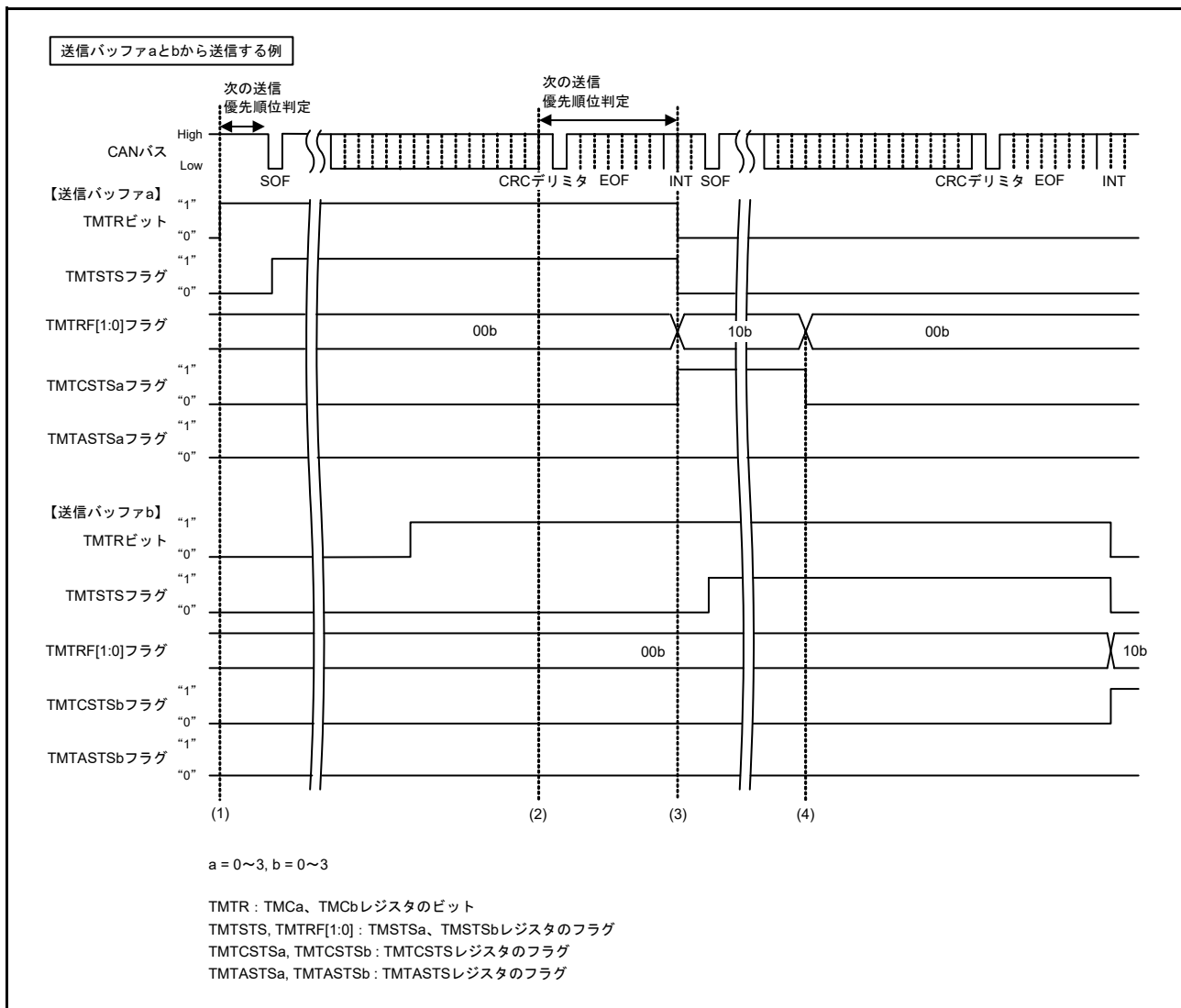


図 29.27 送信バッファの送信タイミング図 (正常に送信完了時)

- (1) CANバスがアイドル状態のとき TMCa.TMTR ビット ($a = 0 \sim 3$) を“1”にすると、最優先送信バッファを決めるために、送信の優先順位判定処理を開始します。送信バッファ a が最優先送信バッファとして決まると、対応する TMTSTSa.TMTSTS フラグが“1”(送信中)になり、CANチャネルは送信を開始します。
- (2) CRC デリミタで、バッファからの送信要求があれば、次の優先順位判定を開始します。
- (3) 送信が成功すると、TMSTSa.TMTRFR[1:0] フラグは“10b”(送信完了(送信アポート要求なし))、TMSTSa.TMTSTS フラグと TMCa.TMTR ビットは“0”、TMTCSb.TMTCSTSa フラグは“1”になります。TMIEC.TMIEa ビットが“1”(割り込み許可)のとき、送信割り込み要求が発生します。割り込み要求をクリアするには、TMSTSa.TMTRFR[1:0] フラグを“00b”(送信中または送信要求なし)にしてください。
- (4) 次の送信を開始する前に、TMSTSa.TMTRFR[1:0] フラグを“00b”にしてください。次のメッセージを送信バッファに書いてから、TMCa.TMTR ビットを“1”(送信を要求する)にしてください。TMSTSa.TMTRFR[1:0] フラグが“00b”のときのみ、TMCa.TMTR ビットを“1”に設定できます。送信を開始後にアービトレーションロストが発生した場合、TMSTSa.TMTSTS フラグは“0”になります。送信の優先順位判定はCRCデリミタ開始時に、最優先送信バッファを検索するために再び実行されます。送信中またはアービトレーションロスト後にエラーが発生した場合、優先順位判定処理はエラーフレーム送信中に再び実行されます。

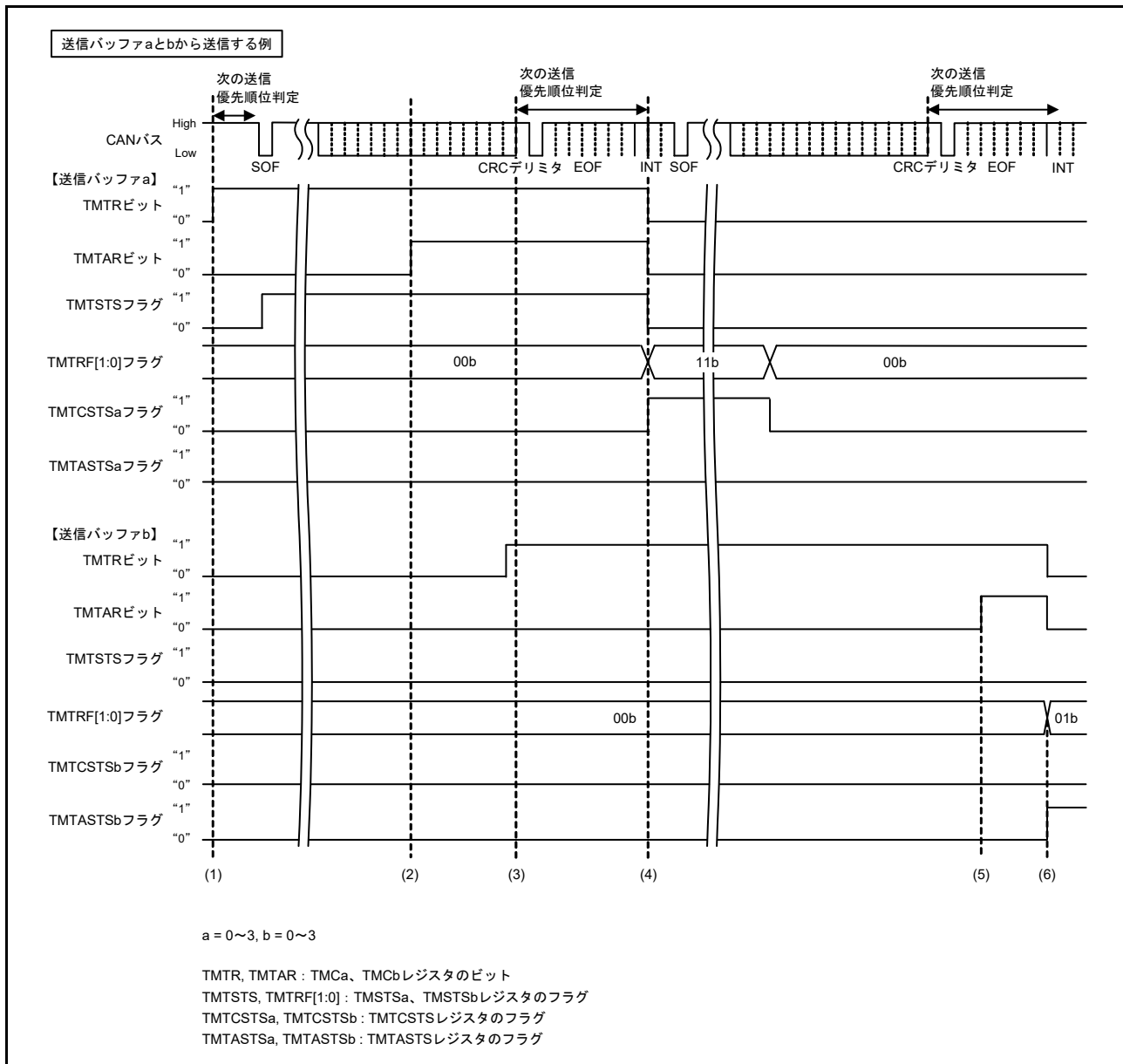


図 29.28 送信バッファの送信タイミング図 (送信アボート完了時)

- (1) CANバスがアイドル状態のとき TMCa.TMTR ビット (a = 0 ~ 3) を "1" にすると、最優先送信バッファを決めるために、送信の優先順位判定処理を開始します。送信バッファ a が最優先送信バッファとして決まると、対応する TMTSTS.TMTSTS フラグが "1" (送信中) になり、CANチャンネルは送信を開始します。
- (2) 送信バッファが次の送信に決まっているとき、または現在送信中であるとき、TMCa.TMTAR ビットを "1" (アボート要求する) にしても、エラーまたはアービトラージョンロストが発生しない限り、メッセージ送信はアボートされません。
- (3) CRC デリミタで、次の優先順位判定処理を開始します。このタイミング図では、バッファ b は次の送信バッファとして選択されていません。
- (4) 送信が成功すると、TMTSTS.TMTRF[1:0] フラグは "11b" (送信完了 (送信アボート要求あり))、TMTSTS.TMTSTS フラグと TMCa.TMTR ビットは "0"、TMCSTS.TMCSTSa フラグは "1" になります。TMIEC.TMIEa ビットが "1" (割り込み許可) のとき、送信割り込み要求が発生します。割り込み要求をクリアするには、TMTSTS.TMTRF[1:0] フラグを "00b" (送信中または送信要求なし) にしてください。

- (5) CANバス上に他のCANノードが送信している場合 (TMSTSa.TMTSTS フラグは“0”)、対応するチャンネルが優先順位判定中に TMCa.TMTAR ビットを“1”にすると、TMCa.TMTR ビットを“0”にできません。
- (6) 内部処理時間経過後、送信は中止され、TMSTSa.TMTRF[1:0] フラグが“01b”、TMTASTS.TMTASTSa フラグは“1”になります。送信バッファが送信中ではなくて、次の送信バッファとしても選択されていなくて、かつ優先順位判定中でなければ、アボート要求はすぐに受け付けられ、TMSTSa.TMTRF[1:0] フラグは“01b”になります。このとき、TMCa.TMTR ビットと TMTAR ビットは“0”になります。CTR.H.TAIE ビットが“1” (送信アボート割り込み許可) のとき、送信アボートが完了すると割り込み要求が発生します。割り込み要求をクリアするには、TMSTSa.TMTRF[1:0] フラグを“00b”にしてください。

CANチャンネルが送信を開始後にアービトレーションロストが発生した場合、TMSTSa.TMTSTS フラグは“0”になります。優先順位判定はCRCデリミタ開始時に、最優先送信バッファを検索するために再び実行されます。送信中またはアービトレーションロスト後にエラーが発生した場合、優先順位判定処理はエラーフレーム送信中に再び実行されます。

29.11.2 送受信 FIFO バッファからの送信手順

図 29.29 に送受信 FIFO バッファからの送信手順を示します。

図 29.30 に送受信 FIFO バッファからメッセージを送信し、送信が正常に完了した場合のタイミング図を示します。図 29.31 に送受信 FIFO バッファからメッセージを送信し、送信がアボート完了した場合のタイミング図を示します。

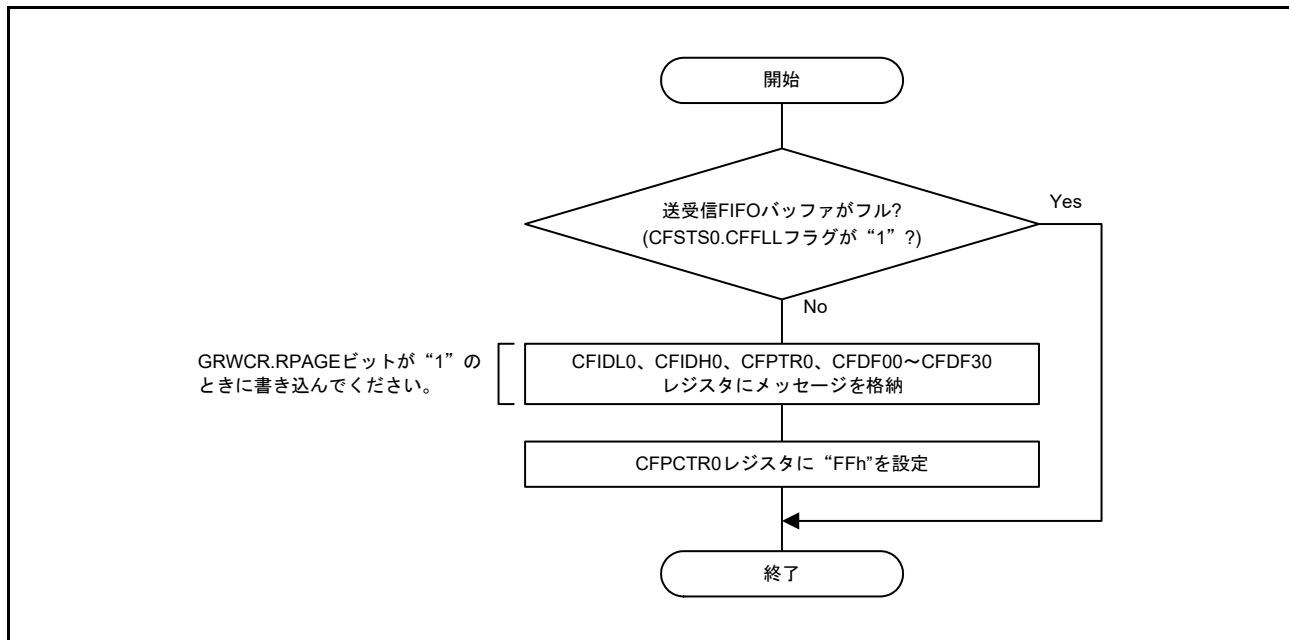


図 29.29 送受信 FIFO バッファからの送信手順

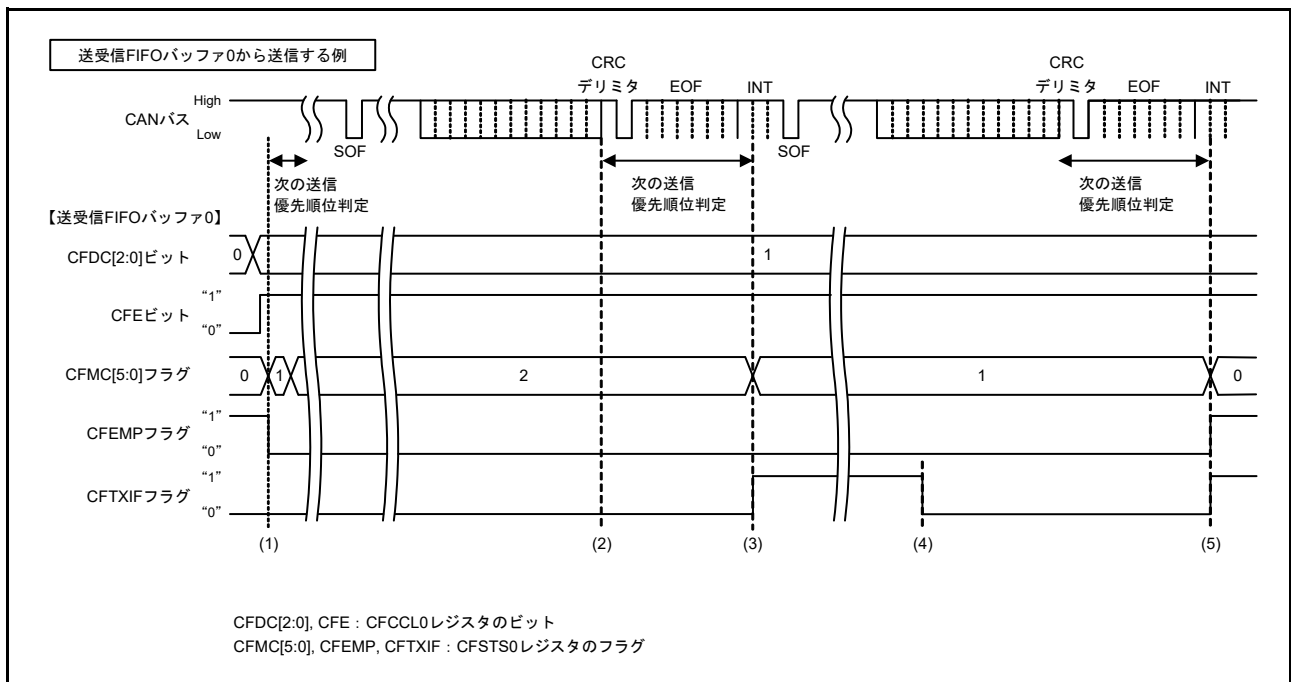


図 29.30 送受信 FIFO バッファの送信タイミング図 (正常に送信完了時)

- (1) CANバスがアイドル状態のとき、CFCL0.CFEビットが“1”(送受信FIFOバッファ0を使用する)、CFCL0.CFDC[2:0]ビットが“001b”(4メッセージ)以上、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグの値が“01h”以上の場合、最優先の送信メッセージを決めるために優先順位判定処理を開始します。送信メッセージが決まると送信を開始します。
- (2) バッファからの送信要求があれば、CRCデリミタで次の優先順位判定処理を開始します。
- (3) 送信が成功すると、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグが1減算されます。CFCL0.CFIMビットを“1”(1メッセージ送信ごとに割り込み要求発生)にした場合、CFSTS0.CFTXIFフラグが“1”(送受信FIFO送信割り込み要求あり)になります。
- (4) CFSTS0.CFTXIFフラグはプログラムでクリアできます。
- (5) 送受信FIFOバッファ0からの送信が完了し、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグが1減算されます。CFSTS0.CFMC[5:0]フラグが“00h”になるため、CFSTS0.CFEMPフラグが“1”(送受信FIFOバッファ空)になります。CFSTS0.CFEMPフラグが“1”になるまで送信は続けられます。CFSTS0.CFLLフラグが“1”(送受信FIFOバッファフル)になるまで、送信メッセージをFIFOバッファに格納することができます。

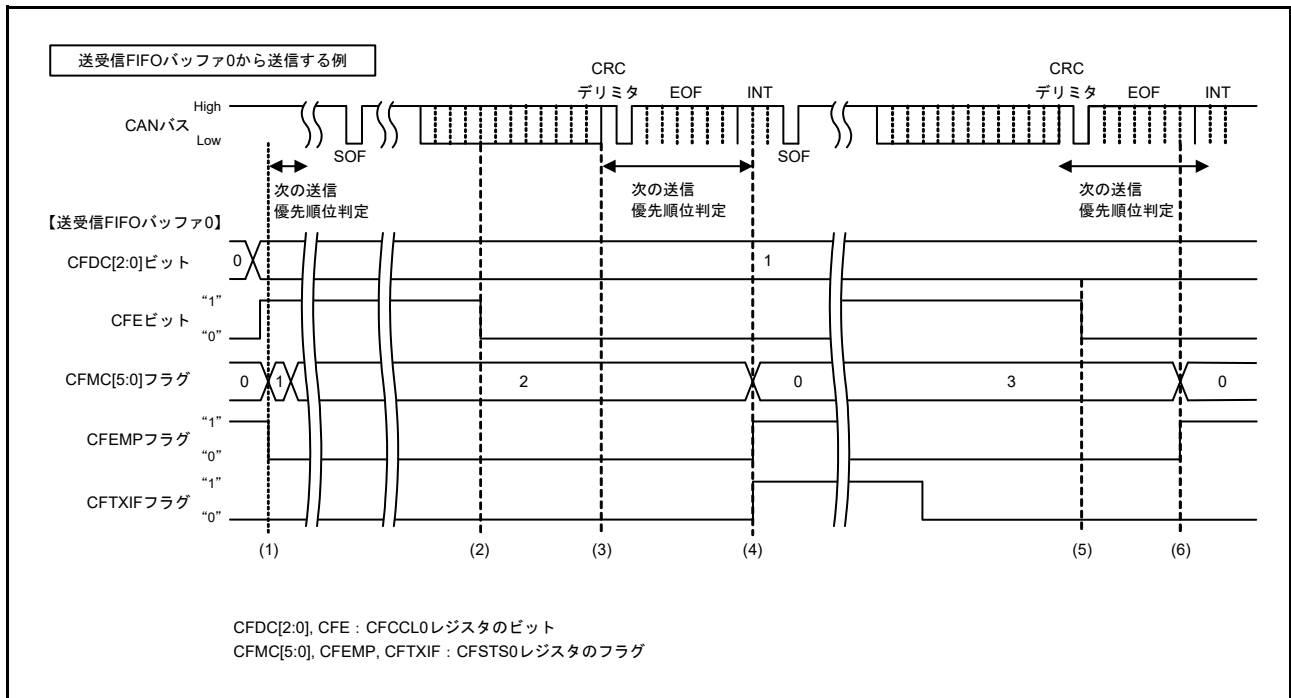


図 29.31 送受信 FIFO バッファの送信タイミング図 (送信アポート完了時)

- (1) CANバスがアイドル状態のとき、CFCCL0.CFEビットが“1”(送受信FIFOバッファ0を使用する)、CFCCL0.CFDC[2:0]ビットが“001b”(4メッセージ)以上、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグの値が“01h”以上の場合、最優先の送信メッセージを決めるために優先順位判定処理を開始します。送信メッセージが決まると送信を開始します。
- (2) メッセージが送信中、または次の送信に決まっているとき、アービトレーションロストまたはエラーが発生しない限り、CFCCL0.CFEビットを“0”(送受信FIFOバッファ0を使用しない)にしても送信はアポートされません。
- (3) バッファからの送信要求があれば、CRCデリミタで次の優先順位判定処理を開始します。この図では、送受信FIFOバッファ0は次の送信用バッファとして選択されていません。
- (4) 送信が成功すると、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグの値が“00h”になります。CFCCL0.CFIMビットを“1”(1メッセージ送信ごとに割り込み要求発生)にした場合、CFSTS0.CFTXIFフラグが“1”(送受信FIFOバッファ送信割り込み要求あり)になります。CFSTS0.CFTXIFフラグはプログラムでクリアできます。
- (5) CANバス上の他のCANノードが送信中の場合(送受信FIFOバッファ0からは送信されていない)、送信の優先順位判定中にCFCCL0.CFEビットを“0”(送受信FIFOバッファ0を使用しない)にしても、送受信FIFOバッファ0は直ちに禁止にはできません(CFSTS0.CFEMPフラグは直ちに“1”(送受信FIFOバッファ空)にはなりません)。
- (6) 内部処理時間経過後、送受信FIFOバッファは禁止され、CFSTS0.CFMC[5:0]フラグは“00h”になり、CFSTS0.CFEMPフラグは“1”になります。送受信FIFOバッファ0が送信中でもなく、次の送信バッファとしても選択されていなくて、かつ優先順位判定中でなければ、直ちに送受信FIFOバッファ0は禁止されます(CFSTS0.CFMC[5:0]フラグは“00h”になり、CFSTS0.CFEMPフラグは“1”になります)。

29.11.3 送信履歴バッファの読み出し手順

送信履歴データは、THLACC0レジスタで読めます。1データを読んだ後、対応するTHLPCTR0レジスタへ“FFh”を書くと、次のデータへアクセスできます。図29.32に送信履歴バッファの読み出し手順を示します。

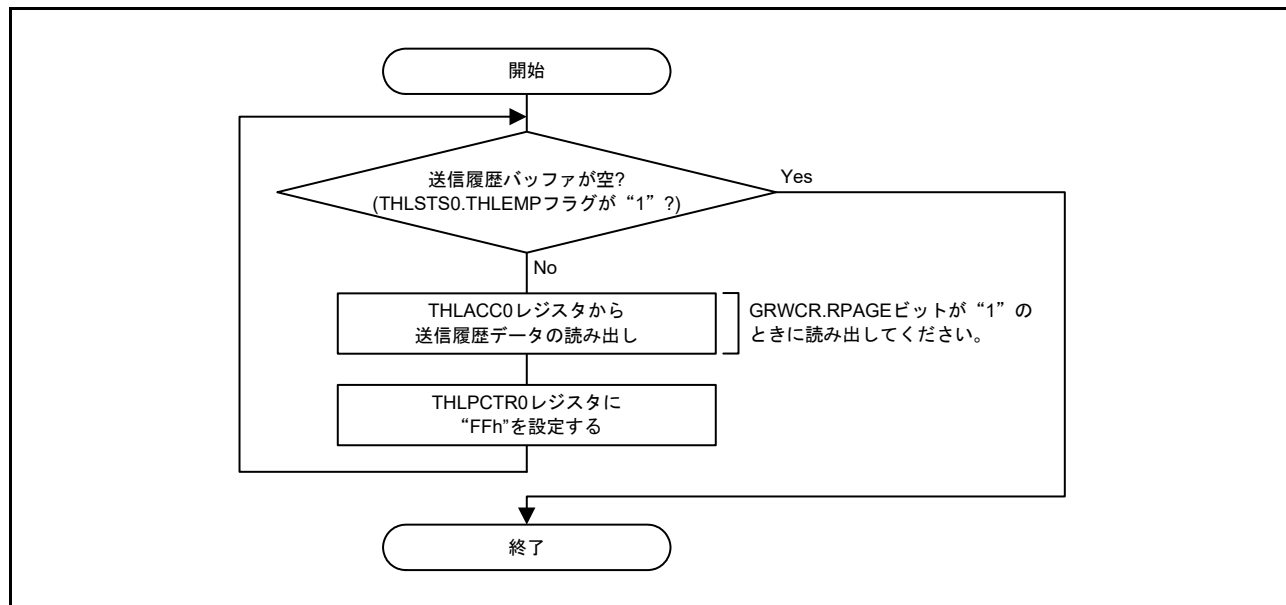


図 29.32 送信履歴バッファの読み出し手順

29.12 テスト設定

29.12.1 セルフテストモードの設定手順

セルフテストモードでは、自ら送信したメッセージを受信することにより、チャンネル単体で通信テストを行うことができます。

図 29.33 にセルフテストモードの設定手順を示します。

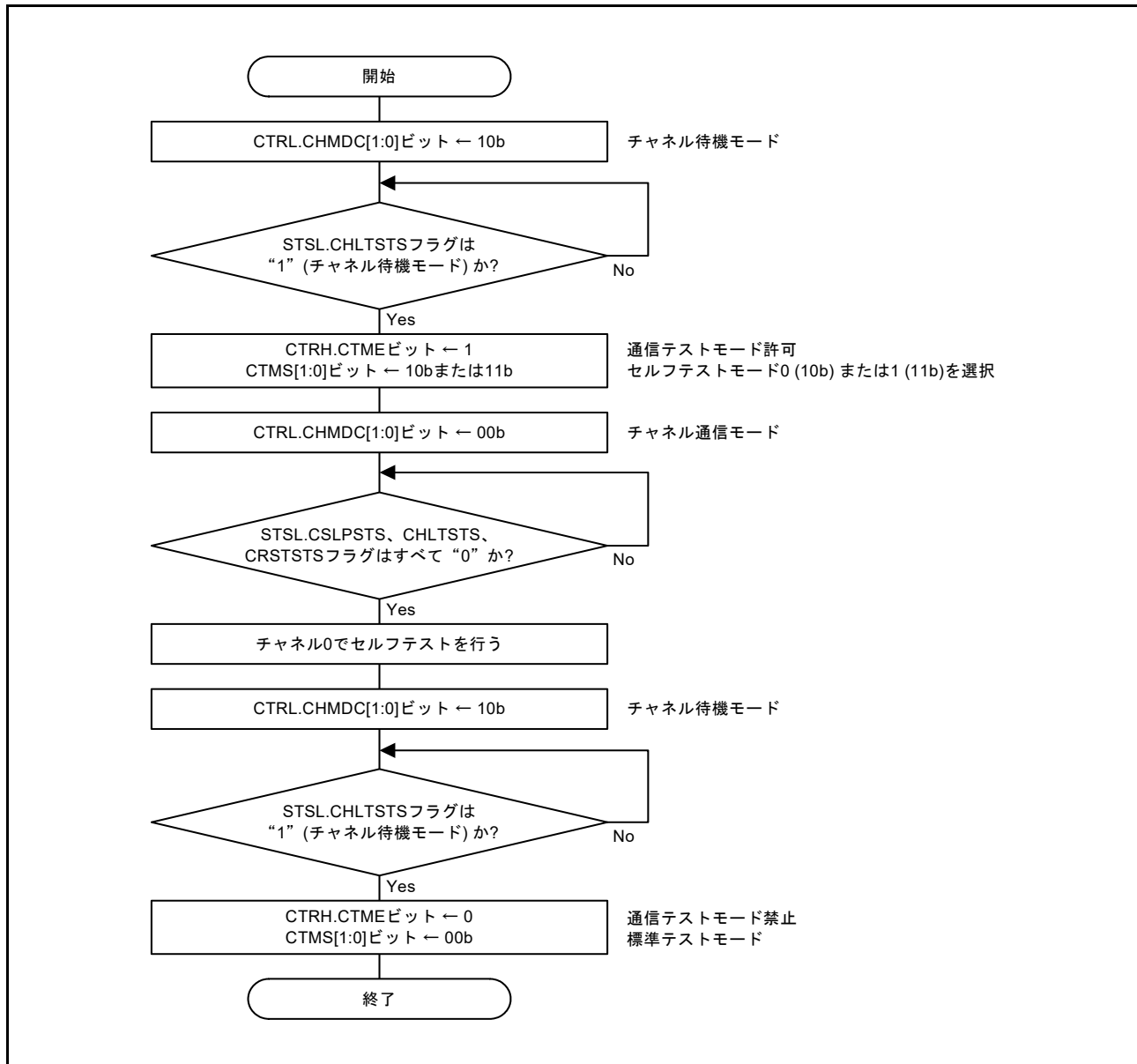


図 29.33 セルフテストモードの設定手順

29.12.2 プロテクト解除手順

表 29.14 に示すグローバルテスト機能はプロテクトされているため、解除データ 1 と解除データ 2 を連続して GLOCKK.LOCK[15:0] ビットに書いてから、それぞれのテスト機能ビットを“1”にしてください。

表29.14 テスト機能用プロテクト解除データ

テスト機能	プロテクト解除データ1	プロテクト解除データ2	対象ビット
RAM テスト	7575h	8A8Ah	GTSTCTRL.RTME ビット

間違った値を GLOCKK.LOCK[15:0] ビットに書いた場合、再度、解除データ 1 の書き込みからやり直してください。

図 29.34 にプロテクト解除手順を示します。

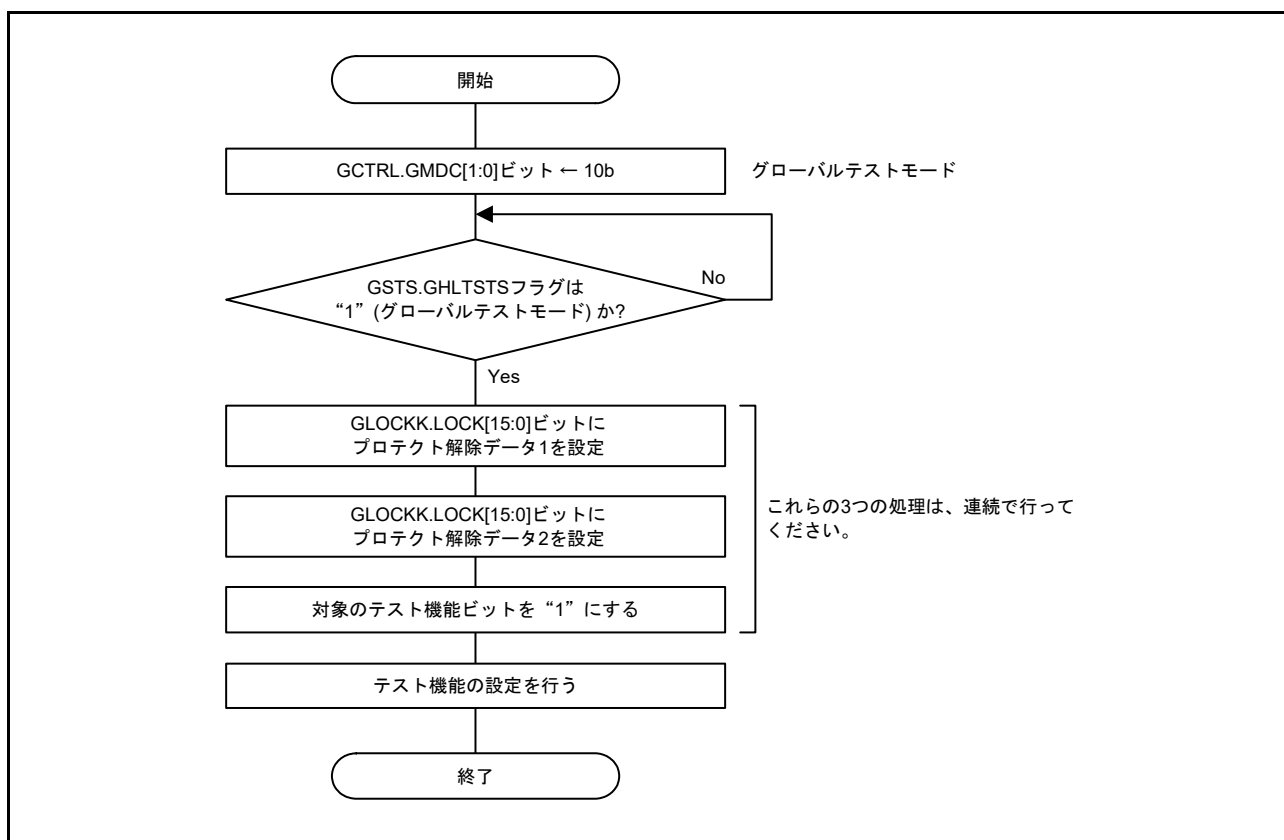


図 29.34 プロテクト解除手順

29.12.3 RAMテストの設定手順

RAMテストには、CAN用RAMの読み書きテストがあります。読み書きテストでは、RAMに書いた値が正しく読めることを確認できます。RAMテストを終了する前に、CAN用RAMの全ページに“0000h”を書いてください。

図 29.35 に RAM テストの設定手順を示します。

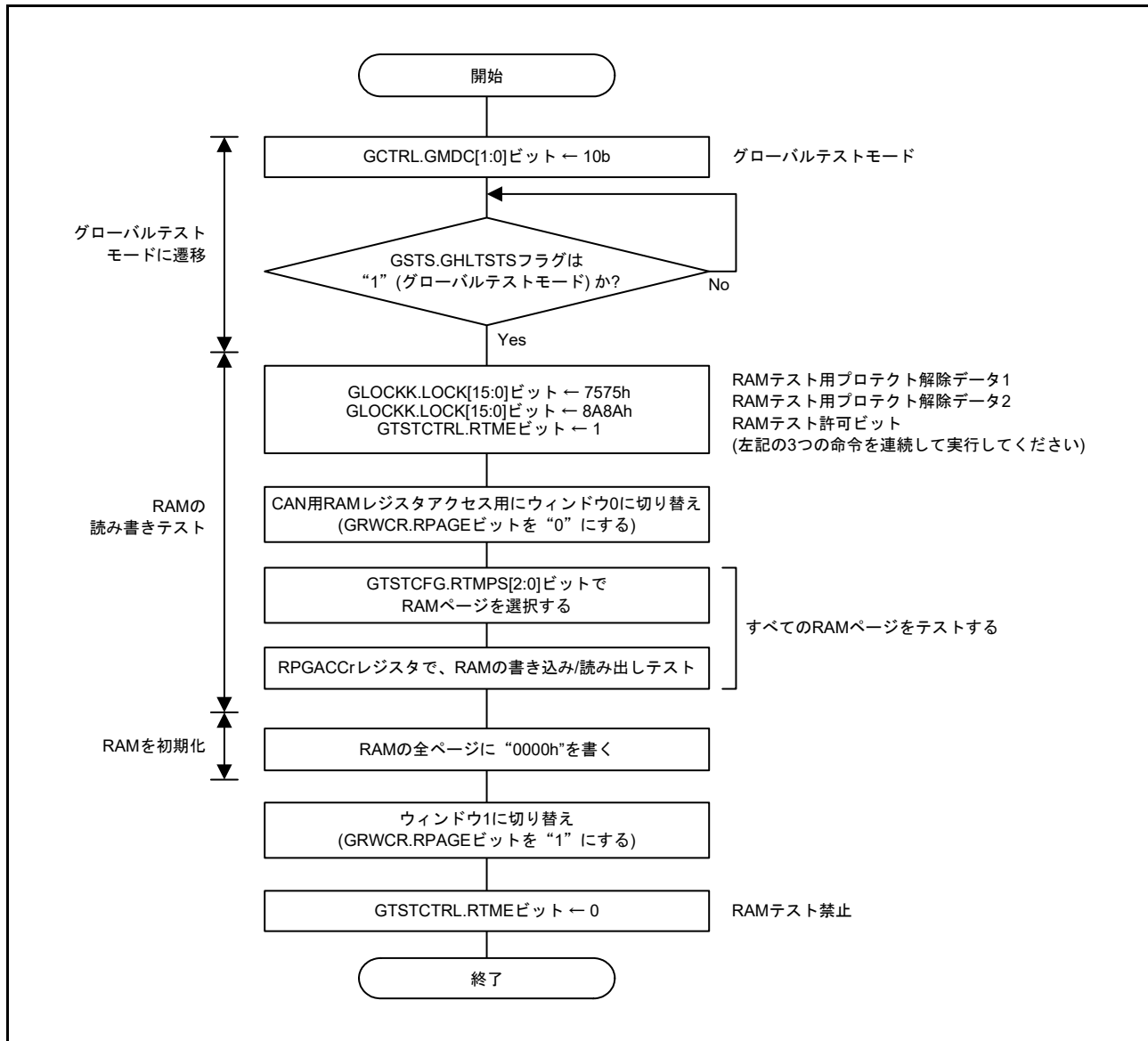


図 29.35 RAMテストの設定手順

29.13 CANモジュールの注意事項

- グローバルモードを変更する場合は、GSTS.GSLPSTS、GHLTSTS、GRSTSTS フラグで遷移を確認してください。チャンネルモードを変更する場合は、STSL.CSLPSTS、CHLTSTS、CRSTSTS フラグで遷移を確認してください。
- アクセプタンスフィルタ処理は、小さい番号の受信ルールから順にチェックを開始します。複数の受信ルールに同じ ID、IDE、RTR ビットの値を設定した場合、小さい番号の受信ルールでアクセプタンスフィルタ処理が通過します。その後の DLC フィルタ処理を通過しなかった場合も、アクセプタンスフィルタ処理には戻らず、データ処理は終了し、メッセージはバッファに格納されません。
- 送信バッファを送受信 FIFO バッファにリンクした場合、対応する送信バッファの制御レジスタ (TMCp レジスタ) は “00h” にしてください。また、対応する送信バッファのステータスレジスタ (TMSTSp レジスタ) は使用しないでください。その他のステータスレジスタ (TMTRSTS、TMTCASTS、TMTASTS レジスタ) は、送受信 FIFO にリンクした送信バッファに対応するフラグは変化しません。対応する割り込み許可レジスタ (TMIEC レジスタ) の許可ビットは “0” (割り込み禁止) にしてください。
- タイムスタンプカウンタのクロック源に CAN ビットタイムクロックを選択した場合、対応するチャンネルがチャンネルリセットモードまたはチャンネル待機モードに遷移すると、タイムスタンプカウンタが停止します。
- 受信 FIFO バッファ、送受信 FIFO バッファがフルのときに、新しい受信メッセージを格納しようとした場合、新しいメッセージは破棄されます。送受信 FIFO バッファに新しい送信メッセージを格納しようとする場合、送受信 FIFO バッファがフルでないことを確認してください。
- CAN モジュールの割り込み要求フラグは、割り込みが受け付けられても自動的に “0” になりませんので、プログラムで “0” にしてください。これらのフラグが “1” の場合、それ以降に成立した割り込み要因により割り込みは発生しません。
- 複数の割り込み要因が 1 つの割り込みにまとめられている CAN 関連割り込みを発生させるためには、以下の条件を満たす必要があります。
割り込み要因に対応する CAN モジュールの割り込み要求フラグがすべて “0” (ただし、表 29.11 にある対応する割り込み許可ビットが “1” の割り込み要求フラグのみが対象)。
- 未使用の受信バッファレジスタ (RMIDLn, RMIDHn, RMTSn, RMPTRn, RMDf0n ~ RMDf3n (n = 0 ~ 15))、受信 FIFO アクセスレジスタ (RFIDLm, RFIDHm, RFTSm, RFPTRm, RFDF0m ~ RFDF3m (m = 0, 1)) と送受信 FIFO アクセスレジスタ (CFIDL0, CFIDH0, CFTS0, CFPTR0, CFDF00 ~ CFDF30) の値は、一度、グローバルリセットモードを抜けてグローバル動作モードやグローバルテストモードに遷移すると不定になります。

30. シリアルペリフェラルインタフェース (RSPIC)

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

30.1 概要

本 MCU は、1 チャンルのシリアルペリフェラルインタフェース (RSPIC) を内蔵しています。

RSPIC は、全二重または単方向 (送信のみ) の同期式シリアル通信ができます。複数のプロセッサや周辺デバイスとの高速なシリアル通信機能を内蔵しています。

表 30.1 に RSPIC の仕様を、図 30.1 に RSPIC のブロック図を示します。

なお、本章では、RSPIC コマンドレジスタ m (SPCMDm) で使用している m は、0 ~ 7 と規定しています。

表 30.1 RSPIC の仕様 (1/2)

項目	内容
チャンネル数	1チャンネル
RSPIC 転送機能	<ul style="list-style-type: none"> MOSI (Master Out Slave In)、MISO (Master In Slave Out)、SSL (Slave Select)、RSPCK (RSPIC Clock) 信号を使用して、SPI 動作 (4 線式) / クロック同期式動作 (3 線式) でシリアル通信が可能 通信モード：全二重または単方向 (送信のみ) を選択可能 RSPCK の極性を変更可能 RSPCK の位相を変更可能
データフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> MSB ファースト / LSB ファーストの切り替え可能 転送ビット長を 8、9、10、11、12、13、14、15、16、20、24、32 ビットから選択可能 送信 / 受信バッファは 128 ビット 一度の送受信で最大 4 フレームを転送 (1 フレームは最大 32 ビット) 送受信データをバイト単位でスワップ可能
ビットレート	<ul style="list-style-type: none"> マスタモード時、内蔵ポーレートジェネレータで PCLK を分周して RSPCK を生成 (分周比は 2 ~ 4096 分周) スレーブ時は、PCLK の最小 4 分周のクロックを、RSPCK として入力可能 (RSPCK の最高周波数は PCLK の 4 分周) High 幅：PCLK の 2 サイクル、Low 幅：PCLK の 2 サイクル
バッファ構成	<ul style="list-style-type: none"> 送信および受信バッファはそれぞれダブルバッファ構成 送信および受信バッファは 128 ビット
エラー検出	<ul style="list-style-type: none"> モードフォルトエラー検出 オーバランエラー検出 (注1) パリティエラー検出 アンダランエラー検出
SSL 制御機能	<ul style="list-style-type: none"> 1 チャンネルあたり 4 本の SSL 端子 (SSLA0 ~ SSLA3) シングルマスタ設定時には、SSLA0 ~ SSLA3 端子を出力 マルチマスタ設定時：SSLA0 端子は入力、SSLA1 ~ SSLA3 端子は出力または未使用 スレーブ設定時：SSLA0 端子は入力、SSLA1 ~ SSLA3 端子は未使用 SSL 出力のアサートから RSPCK 動作までの遅延 (RSPCK 遅延) を設定可能 設定範囲：1 ~ 8 RSPCK 設定単位：1 RSPCK RSPCK 停止から SSL 出力のネゲートまでの遅延 (SSL ネゲート遅延) を設定可能 設定範囲：1 ~ 8 RSPCK 設定単位：1 RSPCK 次アクセスの SSL 出力アサートのウェイト (次アクセス遅延) を設定可能 設定範囲：1 ~ 8 RSPCK 設定単位：1 RSPCK SSL 極性変更機能
マスタ転送時の制御方式	<ul style="list-style-type: none"> 最大 8 コマンドで構成された転送を連続してループ実行可能 各コマンドに以下の項目を設定可能 SSL 信号値、ビットレート、RSPCK 極性 / 位相、転送データ長、LSB / MSB ファースト、パースト、RSPCK 遅延、SSL ネゲート遅延、次アクセス遅延 送信バッファへのライトで転送を起動可能 SSL ネゲート時の MOSI 信号値を設定可能 RSPCK 自動停止機能
割り込み要因	<ul style="list-style-type: none"> 割り込み要因 受信バッファフル割り込み 送信バッファエンプティ割り込み エラー割り込み (モードフォルト、オーバラン、アンダラン、パリティエラー) アイドル割り込み

表 30.1 RSPIの仕様 (2/2)

項目	内容
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> RSPI初期化機能 ループバックモード機能
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

注1. マスタ受信かつ、RSPCK自動停止機能有効時、オーバランエラー検出タイミングで転送クロックが停止するため、オーバランエラーが発生しません。

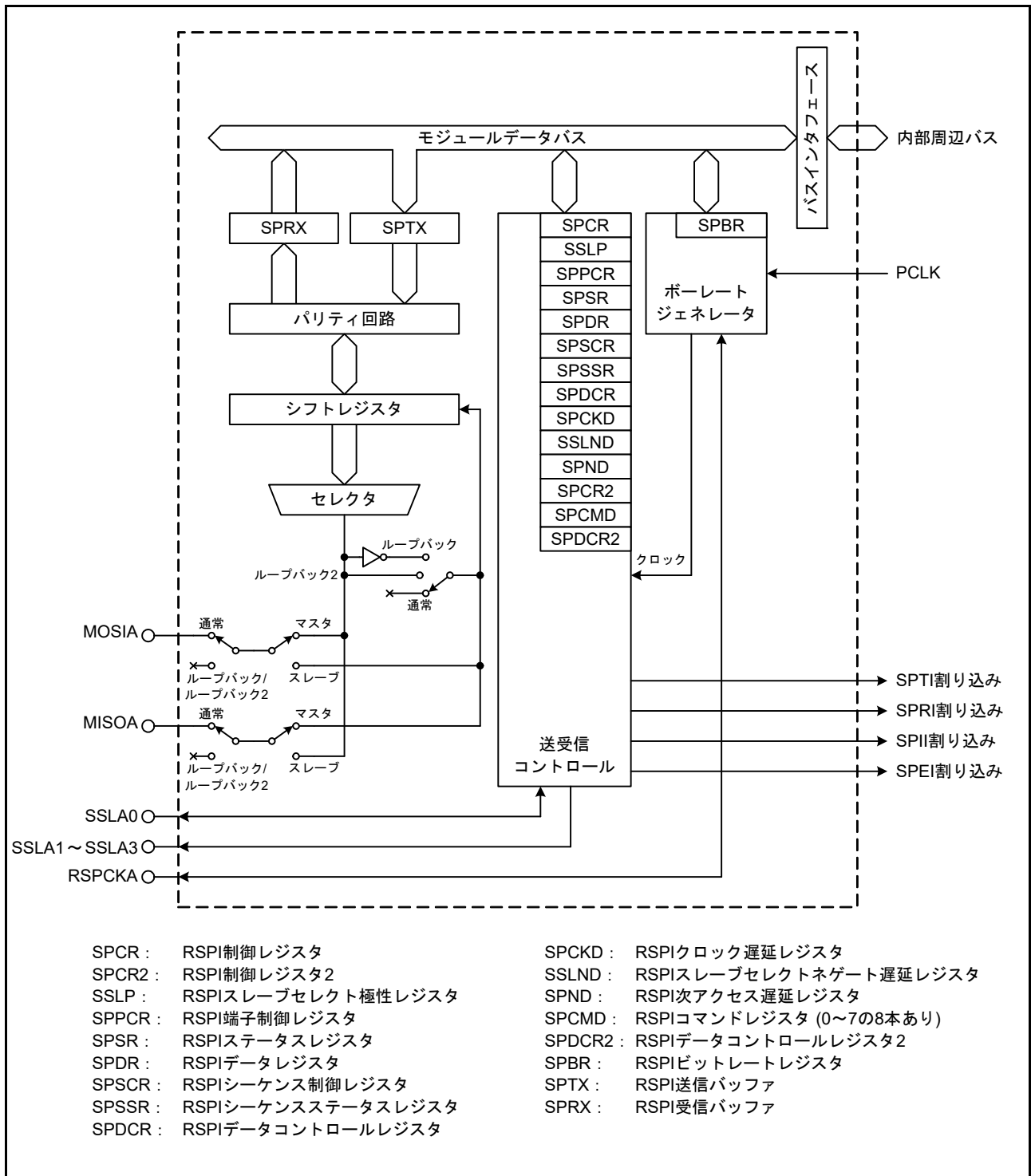


図 30.1 RSPI のブロック図

表 30.2 に RSPI で使用する入出力端子を示します。

SSLA0 端子の入出力方向は、シングルマスタ設定の場合は出力、マルチマスタ設定とスレーブ設定の場合は入力に、RSPI が自動的に切り替えます。RSPCKA、MOSIA、MISOA 端子の入出力方向は、マスタ/スレーブ設定と SSLA0 端子の入力レベルに応じて、RSPI が自動的に切り替えます。

詳細は、「30.3.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

表 30.2 RSPIの入出力端子

チャンネル	端子名	入出力	機能
RSPI0	RSPCKA	入出力	クロック入出力
	MOSIA	入出力	マスタ送出データ入出力
	MISOA	入出力	スレーブ送出データ入出力
	SSLA0	入出力	スレーブセレクト入出力
	SSLA1	出力	スレーブセレクト出力
	SSLA2	出力	スレーブセレクト出力
	SSLA3	出力	スレーブセレクト出力

30.2 レジスタの説明

30.2.1 RSPI 制御レジスタ (SPCR)

アドレス RSPI0.SPCR 0008 8380h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SPRIE	SPE	SPTIE	SPEIE	MSTR	MODFEN	TXMD	SPMS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPMS	RSPIモード選択ビット(注1)	0: SPI動作(4線式) 1: クロック同期式動作(3線式)	R/W
b1	TXMD	通信動作モード選択ビット(注1)	0: 全二重通信(受信回路動作) 1: 送信のみの単方向通信(受信回路停止)	R/W
b2	MODFEN	モードフォルトエラー検出許可ビット(注1)	0: モードフォルトエラー検出を禁止 1: モードフォルトエラー検出を許可	R/W
b3	MSTR	RSPIマスタ/スレーブモード選択ビット(注1)	0: スレーブモード 1: マスタモード	R/W
b4	SPEIE	エラー割り込み許可ビット	0: エラー割り込み要求の生成を禁止 1: エラー割り込み要求の生成を許可	R/W
b5	SPTIE	送信バッファエンプティ割り込み許可ビット	0: 送信バッファエンプティ割り込み要求の生成を禁止 1: 送信バッファエンプティ割り込み要求の生成を許可	R/W
b6	SPE	RSPI機能許可ビット	0: RSPI機能は無効 1: RSPI機能は有効	R/W
b7	SPRIE	受信バッファフル割り込み許可ビット	0: 受信バッファフル割り込み要求の生成を禁止 1: 受信バッファフル割り込み要求の生成を許可	R/W

注1. SPEビットが“1”の場合、MSTRビット、MODFENビット、TXMDビット、SPMSビットの値を変更しないでください。

SPMS ビット (RSPI モード選択ビット)

SPI動作(4線式)/クロック同期式動作(3線式)を選択するためのビットです。

クロック同期式動作を行う場合は SSLA0 ~ SSLA3 端子を使用せず、RSPCKA 端子、MOSIA 端子、MISOA 端子の3端子を用いて通信を行います。また、マスタモード時 (SPCR.MSTR = 1) でクロック同期式動作を行う場合は、SPCMDm.CPHA ビットを“0”、“1”どちらにも設定できます。スレーブモード時 (SPCR.MSTR = 0) でクロック同期式動作を行う場合は CPHA ビットを“1”に設定してください。スレーブモード時 (SPCR.MSTR = 0) でクロック同期式動作を行う場合、CPHA ビットを“0”にしないでください。

TXMD ビット (通信動作モード選択ビット)

全二重通信、または送信のみの単方向通信を選択するためのビットです。

TXMD ビットを“1”にして通信を行う場合、送信動作のみを行い、受信動作を行いません(「30.3.6 通信動作モード」参照)。

また、TXMD ビットを“1”に設定した場合、受信バッファフルの割り込み要求を使用することはできません。

MODFEN ビット (モードフォルトエラー検出許可ビット)

モードフォルトエラーの検出を許可/禁止するためのビットです(「30.3.9 エラー検出」を参照)。また、RSPIはMODFENビットとMSTRビットとの組み合わせに従って、SSLA0～SSLA3端子の入出力方向を決定します(「30.3.2 RSPI端子の制御」を参照)。

MSTR ビット (RSPI マスタ/スレーブモード選択ビット)

RSPIのマスタ/スレーブモードを選択するためのビットです。また、RSPIはMSTRビットの設定に従って、RSPCKA、MOSIA、MISOA、SSLA0～SSLA3端子の方向を決定します。

SPEIE ビット (エラー割り込み許可ビット)

RSPIがモードフォルトエラーまたはアンダランエラーを検出してSPSR.MODFフラグを“1”にした場合、RSPIがオーバランエラーを検出してSPSR.OVRFフラグを“1”にした場合、またはパリティエラーを検出してSPSR.PERFフラグを“1”にした場合のエラー割り込み要求の生成を許可/禁止します。詳細については、「30.3.9 エラー検出」を参照してください。

SPTIE ビット (送信バッファエンプティ割り込み許可ビット)

RSPIが送信バッファエンプティを検出し、送信バッファエンプティ割り込み要求の生成を許可/禁止します。

送信開始時の送信バッファエンプティ割り込み要求は、SPTIEビットと同時または後に、SPEビットを“1”にすることで発生します。

RSPI機能は無効(SPEビットが“0”)に遷移しても、SPTIEビットを“1”にしていると、送信バッファエンプティ割り込みが発生することに注意してください。

SPE ビット (RSPI 機能許可ビット)

RSPI機能の有効/無効を選択します。

SPSR.MODFフラグが“1”の場合には、SPEビットを“1”にすることはできません。詳細は「30.3.9 エラー検出」を参照してください。

SPEビットを“0”にすると、RSPI機能が無効化され、モジュール機能の一部が初期化されます。詳細は「30.3.10 RSPIの初期化」を参照してください。また、SPEビットを“0”の状態から“1”または“1”の状態から“0”になることで送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。

SPRIE ビット (受信バッファフル割り込み許可ビット)

RSPIがシリアル転送完了後の受信バッファフルを検出し、受信バッファフル割り込み要求の生成を許可/禁止します。

30.2.2 RSPIスレーブセレクト極性レジスタ (SSLP)

アドレス RSPI0.SSLP 0008 8381h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	SSL3P	SSL2P	SSL1P	SSL0P
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SSL0P	SSL0信号極性設定ビット	0 : SSL0信号はアクティブLow 1 : SSL0信号はアクティブHigh	R/W
b1	SSL1P	SSL1信号極性設定ビット	0 : SSL1信号はアクティブLow 1 : SSL1信号はアクティブHigh	R/W
b2	SSL2P	SSL2信号極性設定ビット	0 : SSL2信号はアクティブLow 1 : SSL2信号はアクティブHigh	R/W
b3	SSL3P	SSL3信号極性設定ビット	0 : SSL3信号はアクティブLow 1 : SSL3信号はアクティブHigh	R/W
b7-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. SPCR.SPEビットが“1”の場合、SSLPレジスタを書き換えないでください。

30.2.3 RSPI 端子制御レジスタ (SPPCR)

アドレス RSPI0.SPPCR 0008 8382h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	MOIFE	MOIFV	—	—	SPLP2	SPLP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPLP	RSPIループバックビット	0 : 通常モード 1 : ループバックモード(データを反転して送信)	R/W
b1	SPLP2	RSPIループバック2ビット	0 : 通常モード 1 : ループバックモード(データを反転せずに送信)	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	MOIFV	MOSIアイドル固定値ビット	0 : MOSIアイドル時のMOSIA端子の出力値はLow 1 : MOSIアイドル時のMOSIA端子の出力値はHigh	R/W
b5	MOIFE	MOSIアイドル値固定許可ビット	0 : MOSI出力値は前回転送の最終データ 1 : MOSI出力値はMOIFVビットの設定値	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. SPCR.SPEビットが“1”の場合、SPPCRレジスタを書き換えしないでください。

SPLP ビット (RSPI ループバックビット)

RSPI の端子モードを選択します。

SPLP ビットを“1”にすると、RSPI は SPCR.MSTR ビットが“1”ならば、MISOA 端子とシフトレジスタ間を、SPCR.MSTR ビットが“0”ならば、MOSIA 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路 (反転) を接続します。(ループバックモード)

SPLP2 ビット (RSPI ループバック 2 ビット)

RSPI の端子モードを選択します。

SPLP2 ビットを“1”にすると、RSPI は SPCR.MSTR ビットが“1”ならば、MISOA 端子とシフトレジスタ間を、SPCR.MSTR ビットが“0”ならば、MOSIA 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します。(ループバックモード)

MOIFV ビット (MOSI アイドル固定値ビット)

マスタモードで MOIFE ビットが“1”の場合、SSL ネゲート期間 (バースト転送における SSL 保持期間を含む) の MOSIA 端子の出力値を選択します。

MOIFE ビット (MOSI アイドル値固定許可ビット)

マスタモードの RSPI が、SSL ネゲート期間 (バースト転送における SSL 保持期間を含む) に MOSIA 出力値を固定するために使用するビットです。MOIFE が“0”の場合には、RSPI は SSL ネゲート期間中に前回のシリアル転送の最終データを MOSIA に出力します。MOIFE が“1”の場合には、RSPI は MOIFV ビットに設定された固定値を MOSIA に出力します。

30.2.4 RSPI ステータスレジスタ (SPSR)

アドレス RSPI0.SPSR 0008 8383h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
SPRF	—	SPTEF	UDRF	PERF	MODF	IDLNF	OVRF

リセット後の値 0 0 1 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	OVRF	オーバランエラーフラグ	0: オーバランエラーなし 1: オーバランエラー発生	R/(W) (注1)
b1	IDLNF	アイドルフラグ	0: RSPIがアイドル状態 1: RSPIが転送状態	R
b2	MODF	モードフォルトエラーフラグ	0: モードフォルトエラーなし、アンダランエラーなし 1: モードフォルトエラーまたはアンダランエラー発生	R/(W) (注1)
b3	PERF	パリティエラーフラグ	0: パリティエラーなし 1: パリティエラー発生	R/(W) (注1)
b4	UDRF	アンダランエラーフラグ	MODFフラグと組み合わせてモードフォルトエラーとアンダランエラーの発生状況が確認できます。 b4 b2 0 0: モードフォルトエラーなし、アンダランエラーなし 0 1: モードフォルトエラー発生 1 1: アンダランエラー発生	R/(W) (注1、 注2)
b5	SPTEF	送信バッファエンプティフラグ	0: 送信バッファに有効なデータあり 1: 送信バッファに有効なデータなし	R (注3)
b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	SPRF	受信バッファフルフラグ	0: 受信バッファに有効なデータなし 1: 受信バッファに有効なデータあり	R (注3)

注1. フラグをクリアするため、“1”を読んだ後に“0”を書くことのみ可能です。

注2. UDRFフラグを“0”にするときは、同時にMODFフラグも“0”にしてください。

注3. 書く場合、“1”としてください。

OVRF フラグ (オーバランエラーフラグ)

オーバランエラーの発生状況を示します。マスタモード (SPCR.MSTR ビットが“1”) かつ RSPCK クロック自動停止機能有効 (SPCR2.SCKASE ビットが“1”) のときは、オーバランエラーが発生しないため、“1”になりません。詳細は「30.3.9.1 オーバランエラー」を参照ください。

[“1”になる条件]

- SPCR.TXMD ビットが“0”、かつ受信バッファがフルの状態での次の受信が終了したとき

[“0”になる条件]

- OVRF フラグが“1”になったときの SPSR レジスタを読んだ後、OVRF フラグに“0”を書いたとき

IDLNF フラグ (アイドルフラグ)

RSPI の転送状況を示します。

["1" になる条件]

【マスタモード】

- 下記["0" になる条件] のマスタモード時の条件がいずれも満たされないとき

【スレーブモード】

- SPCR.SPE ビットが "1" (RSPI 機能が有効) のとき

["0" になる条件]

【マスタモード】

- SPCR.SPE ビットが "0" (RSPI 初期化) のとき
- 以下の条件がすべて満たされたとき
 1. 送信バッファが空 (SPTEF フラグ = 1)
 2. SPSSR.SPCP[2:0] ビットが "000b"
 3. 最終ビットの送出自体が完了し、SSLND.SLNDL[2:0] ビットと SPND.SPNDL[2:0] ビットで指定した時間が経過した

【スレーブモード】

- SPCR.SPE ビットが "0" (RSPI 初期化) のとき

MODF フラグ (モードフォルトエラーフラグ)

モードフォルトエラーとアンダランエラーの発生を示します。モードフォルトエラーとアンダランエラーのどちらが発生したかは、UDRF フラグによって判別できます。

["1" になる条件]

【マルチマスタモードのとき】

- SPCR.MSTR ビットが "1" (マスタモード)、SPCR.MODFEN ビットが "1" (モードフォルトエラー検出を許可) の状態で、SSLAi 端子の入力レベルがアクティブレベルになり、RSPI がモードフォルトエラーを検出したとき

【スレーブモードのとき】

- SPCR.MSTR ビットが "0" (スレーブモード)、SPCR.MODFEN ビットが "1" (モードフォルトエラー検出を許可) の状態で、データ転送に必要な RSPCK サイクルが終了する前に SSLAi 端子がネゲートされ、RSPI がモードフォルトエラーを検出したとき
- SPCR.SPE ビットが "1" (RSPI 機能は有効) で送信データの出力準備が整っていないときに、シリアル通信が開始され RSPI がアンダランエラーを検出したとき

なお、SSLAi 信号のアクティブレベルは、SSLP.SSLiP ビット (SSLi 信号極性設定ビット) によって決定されます。

["0" になる条件]

- MODF フラグが "1" の状態の SPSR レジスタを読んだ後、MODF フラグに "0" を書いたとき

PERF フラグ (パリティエラーフラグ)

パリティエラーの発生を示すフラグです。

[“1”になる条件]

- SPCR.TXMD ビットが“0”、SPCR2.SPPE ビットが“1”の状態を受信が終了し、パリティエラーが検出されたとき

[“0”になる条件]

- PERF フラグが“1”の状態の SPSR レジスタを読んだ後、PERF フラグに“0”を書いたとき

UDRF フラグ (アンダランエラーフラグ)

アンダランエラーが発生したことを示すフラグです。このフラグが“1”になると、MODF フラグも“1”になります。MODF フラグが“1”のときにこのフラグが“0”であれば、発生したエラーはモードフォルトエラーです。

[“1”になる条件]

- SPCR.MSTR ビットが“0” (スレーブモード)、SPCR.SPE ビットが“1” (RSPI機能は有効)で送信データの出力準備が整っていないときに、シリアル通信が開始され RSPI がアンダランエラーを検出したとき

[“0”になる条件]

- UDRF フラグが“1”の状態の SPSR レジスタを読んだ後、UDRF フラグに“0”を書いたとき

SPTEF フラグ (送信バッファエンプティフラグ)

RSPI データレジスタの送信バッファ (SPTX) 内にある有効データの有無を示すフラグです。

[“1”になる条件]

- SPCR.SPE ビットが“0” (RSPI 初期化) のとき
- SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分の送信データが送信バッファからシフトレジスタに転送されたとき

[“0”になる条件]

- SPDR レジスタに SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分の送信データを書き込んだとき

なお、SPDR レジスタは SPTEF フラグが“1”のときのみデータを設定できます。SPTEF フラグが“0”のときにデータを設定しても、送信バッファのデータは更新されません。

SPRF フラグ (受信バッファフルフラグ)

RSPI データレジスタの受信バッファ (SPRX) 内にある有効データの有無を示すフラグです。

[“1”になる条件]

- SPCR.TXMD ビットが“0” (全二重)、SPRF フラグが“0”のときに、SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分の受信データがシフトレジスタから受信バッファ (SPRX) に転送されたとき
ただし、OVRF フラグが“1”のときは、“1”に変化しません。

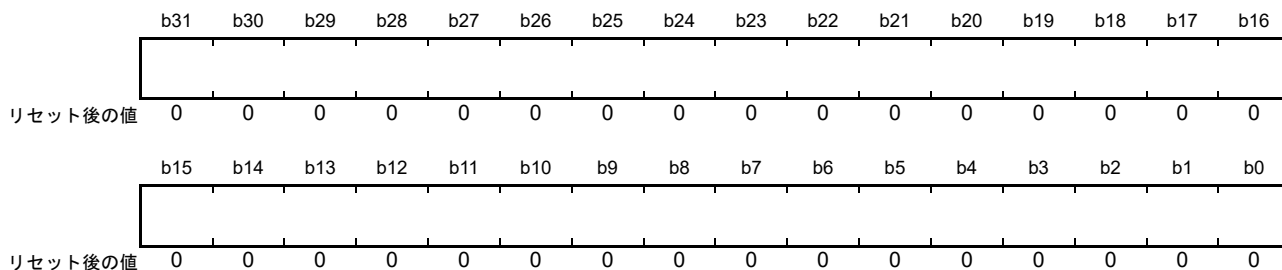
[“0”になる条件]

- SPDR レジスタから受信データをすべて読み出したとき

30.2.5 RSPI データレジスタ (SPDR)

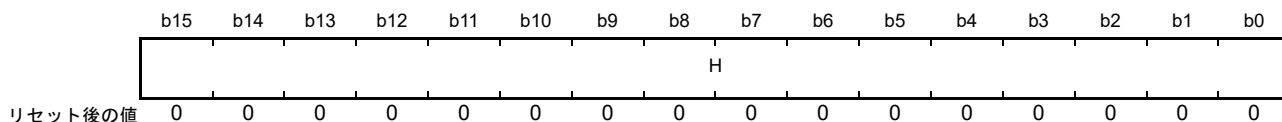
- ロングワードアクセス時

アドレス RSPI0.SPDR 0008 8384h



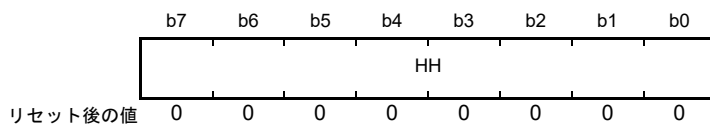
- ワードアクセス時

アドレス RSPI0.SPDR.H 0008 8384h



- バイトアクセス時

アドレス RSPI0.SPDR.HH 0008 8384h



SPDR レジスタは、RSPI 送受信用のデータを格納するバッファです。

ロングワードアクセス (SPLW ビットが“1”、SPBYT ビットが“0”) のときは、SPDR を 32 ビット単位でアクセスしてください。

ワードアクセス (SPLW ビットが“0”、SPBYT ビットが“0”) のときは、SPDR.H を 16 ビット単位でアクセスしてください。

バイトアクセス (SPBYT ビットが“1”) のときは、SPDR.HH を 8 ビット単位でアクセスしてください。

送信バッファと受信バッファは独立したバッファです。SPDR レジスタの構造図を図 30.2 に示します。

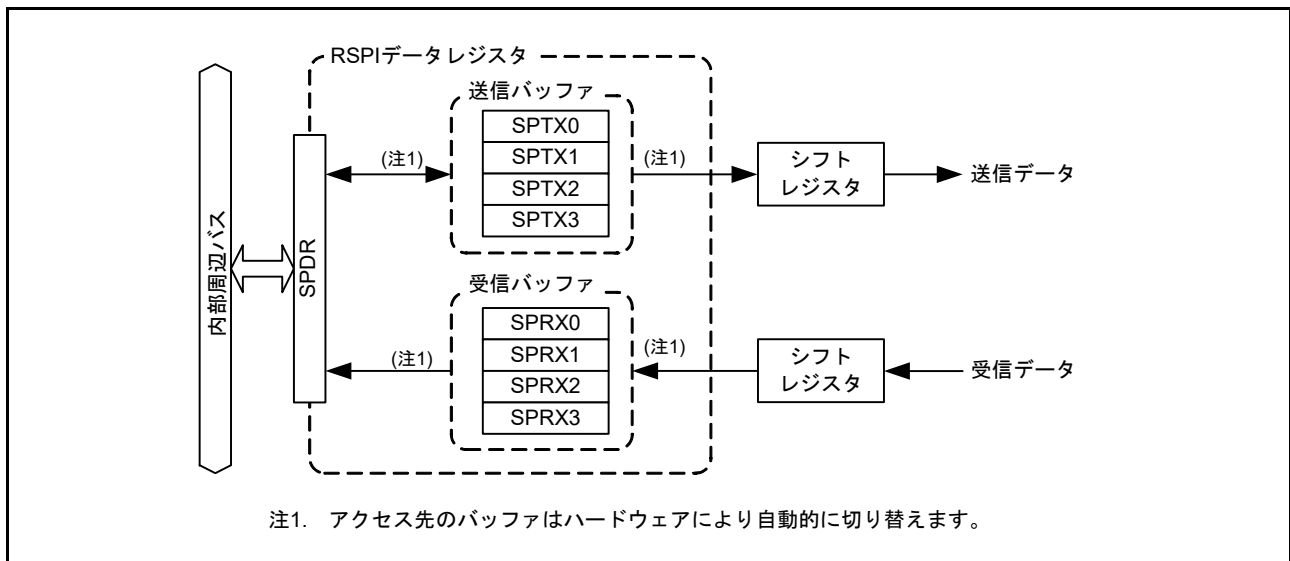


図 30.2 SPDR レジスタの構造図

送信バッファと受信バッファは、それぞれ4バッファあります。使用するバッファ数は、RSPIデータコントロールレジスタのフレーム数設定ビット(SPDCR.SPFC[1:0])で設定できます。SPDRレジスタには、これらの合計8バッファが1アドレスにマッピングされています。

送信バッファSPTX n ($n=0\sim3$)は、SPDRレジスタへの書き込みによって送信バッファへ値を書くことができ、書いたデータを送信します。

受信バッファは、データの受信が完了すると受信データを格納します。オーバーラン発生時は、受信バッファの値を更新しません。

また、データ長が32ビット以外の場合、SPRX n ($n=0\sim3$)の非参照ビットには、SPTX n ($n=0\sim3$)の非参照ビットが格納されます。

たとえば、データ長が9ビットのデータを受信した場合はSPRX n [8:0]には受信データが格納され、SPRX n [31:9]にSPTX n [31:9]が格納されます。

(1) バスインタフェース

SPDR レジスタは、32 ビットの送信バッファと受信バッファがそれぞれ 4 バッファ分、合計 32 バイトあります。これらの 32 バイトを SPDR レジスタの 4 バイト空間にマッピングしています。また、SPDR レジスタへのアクセスは、SPDCR.SPLW ビット、SPDCR.SPBYP ビットで設定したアクセスサイズで行ってください。

送信データは、LSB 詰めで書いてください。受信データは LSB 詰めで格納されます。

SPDR レジスタへの書き込みと、読み出しの動作を以下に示します。

(a) 書き込み

SPDR レジスタに書き込むことによって、送信バッファ (SPTXn) に値を書くことができます。SPDR レジスタの読み出し時と異なり、SPDCR.SPRDTD ビットの値に影響されません。

送信バッファには、送信バッファライトポイントがあり、SPDR レジスタへの書き込みによって自動的に次のバッファを指し示すようになります。

図 30.3 に送信バッファのバスインタフェース (ライト時) の構成図を示します。

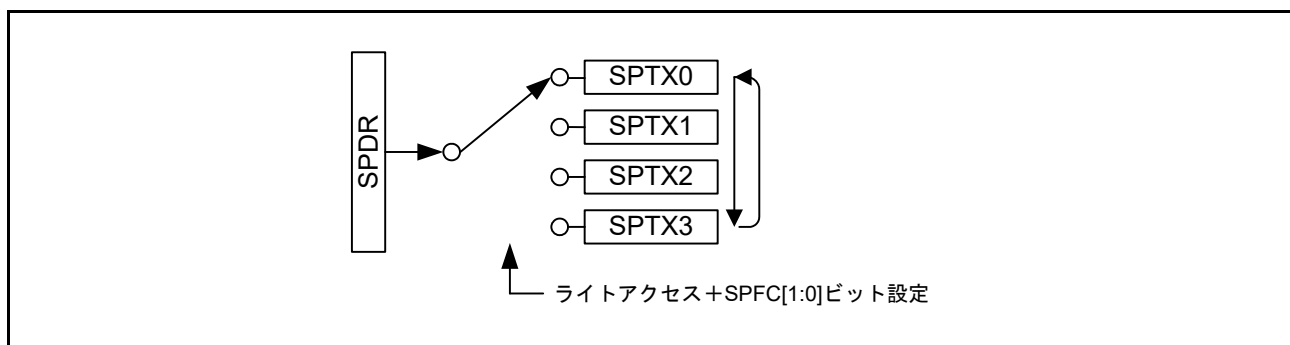


図 30.3 SPDR レジスタの構成図 (ライト時)

送信バッファライトポイントの切り替え順序は、RSPI データコントロールレジスタのフレーム数設定ビット (SPDCR.SPFC[1:0]) の設定によって異なります。

- SPFC[1:0] ビットの設定と SPTX0 ~ SPTX3 の切り替え順序
 - SPFC[1:0] ビットが “00b” のとき : SPTX0 → SPTX0 → SPTX0 → . . .
 - SPFC[1:0] ビットが “01b” のとき : SPTX0 → SPTX1 → SPTX0 → SPTX1 → . . .
 - SPFC[1:0] ビットが “10b” のとき : SPTX0 → SPTX1 → SPTX2 → SPTX0 → SPTX1 → . . .
 - SPFC[1:0] ビットが “11b” のとき : SPTX0 → SPTX1 → SPTX2 → SPTX3 → SPTX0 → SPTX1 → . . .

RSPI 制御レジスタの RSPI 機能許可ビット (SPCR.SPE) が “0” の状態で “1” を書くと、次の書き込み先は SPTX0 になります。

送信バッファ (SPTXn) への書き込みは、送信バッファエンプティ割り込み発生後 (SPSR.SPTEF フラグが “1” になった後)、RSPI データコントロールレジスタ (SPDCR) のフレーム数設定ビット (SPFC[1:0]) で設定したフレーム数分の送信データを書き込んでください。同書き込み完了から次の送信バッファエンプティ割り込み発生までの期間 (SPSR.SPTEF フラグが “0” の期間) は、送信バッファ (SPTXn) に書き込みを行っても同バッファの値は更新されません。

(b) 読み出し

SPDR レジスタを読み出すことによって、受信バッファ (SPRXn)、または送信バッファ (SPTXn) の値を読むことができます。RSPI データコントロールレジスタの RSPI 受信 / 送信データ選択ビット (SPDCR.SPRDTD) によって、受信バッファを読み出すか、送信バッファを読み出すかを選択できます。

SPDR レジスタの読み出し順は、独立した受信バッファリードポインタと送信バッファリードポインタによって制御されます。

図 30.4 に受信バッファと送信バッファのバスインタフェース (リード時) の構成図を示します。

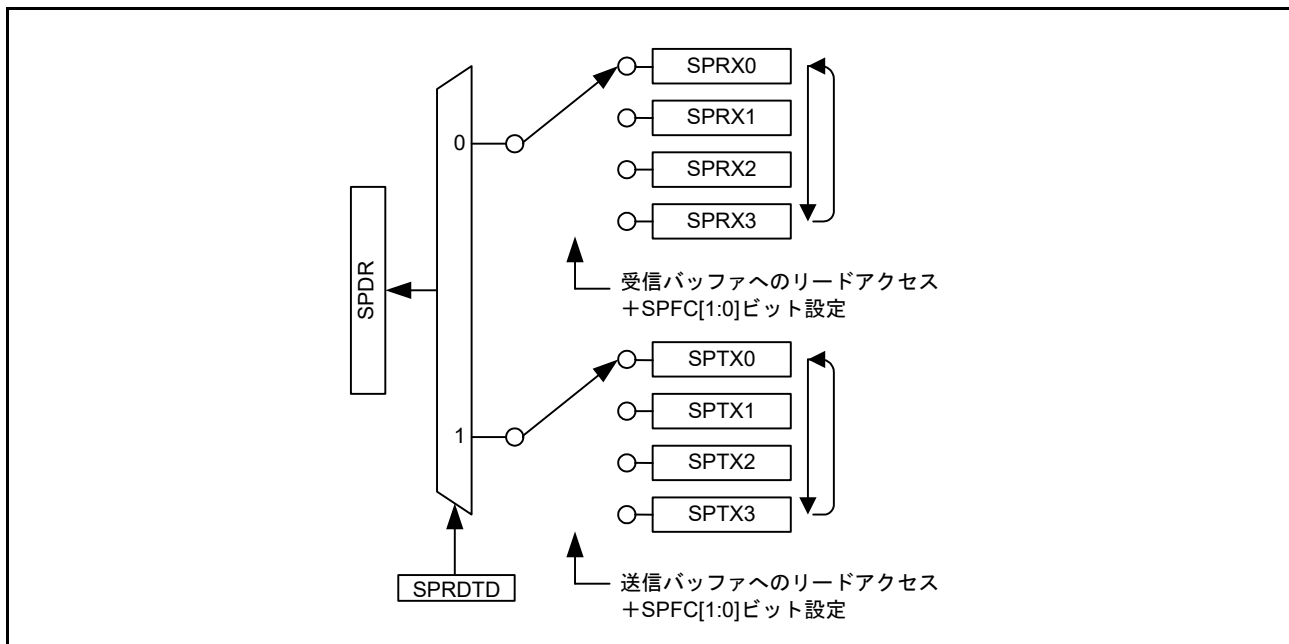


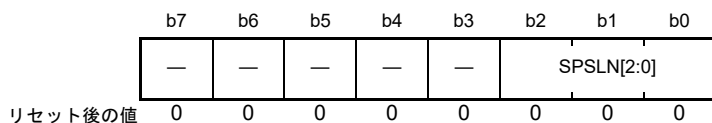
図 30.4 SPDR レジスタの構成図 (リード時)

受信バッファをリードすると、受信バッファリードポインタが次のバッファに自動的に切り替わります。受信バッファリードポインタの切り替え順序は、送信バッファライトポインタと同様の順序で切り替わります。ただし、RSPI 制御レジスタの RSPI 機能許可ビット (SPCR.SPE) が “0” の状態で “1” を書くと、次の読み出し先は SPRX0 になります。

送信バッファリードポインタは SPDR への書き込み時に更新され、送信バッファリード時には更新されません。送信バッファをリードすると、SPDR に最後に書き込んだ値が読み出せます。ただし、送信バッファエンプティ割り込み発生後、RSPI データコントロールレジスタのフレーム数設定ビット (SPDCR.SPFC[1:0]) で設定したフレーム数分のデータの書き込み完了から次の送信バッファエンプティ割り込みが発生するまでの期間 (SPSR.SPTEF フラグが “0” の期間) は、送信バッファの読み出し値は、すべて “0” となります。

30.2.6 RSPI シーケンス制御レジスタ (SPSCR)

アドレス RSPI0.SPSCR 0008 8388h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPSLN[2:0]	RSPIシーケンス長設定ビット	b2 b0 シーケンス長 参照するSPCMD0~7レジスタ(番号) 0 0 0 : 1 0→0→... 0 0 1 : 2 0→1→0→... 0 1 0 : 3 0→1→2→0→... 0 1 1 : 4 0→1→2→3→0→... 1 0 0 : 5 0→1→2→3→4→0→... 1 0 1 : 6 0→1→2→3→4→5→0→... 1 1 0 : 7 0→1→2→3→4→5→6→0→... 1 1 1 : 8 0→1→2→3→4→5→6→7→0→... 設定されたシーケンス長に応じて、参照するSPCMD0~7レジスタの参照順を変更します。SPSLN[2:0]ビットの設定値とシーケンス長、RSPIが参照するSPCMD0~7レジスタの関係は上記のとおりです。なお、スレーブモードのRSPIでは、SPCMD0レジスタが参照されません。	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SPSCR レジスタは、RSPI がマスタモードで動作する場合のシーケンス長を設定するためのレジスタです。SPCR.MSTR、SPE ビットがともに“1”の状態において、SPSCR.SPSSLN[2:0] ビットを書き換える場合、SPSR.IDLNF フラグが“0”の状態書き換えてください。

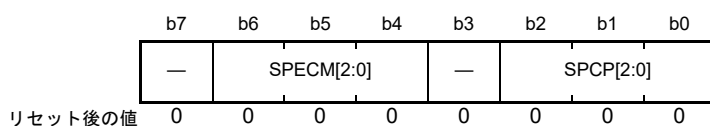
SPSLN[2:0] ビット (RSPI シーケンス長設定ビット)

マスタモードのRSPIがシーケンス動作する場合のシーケンス長を設定します。マスタモードのRSPIはSPSLN[2:0] ビットで設定されたシーケンス長に応じて、参照するSPCMD0~7レジスタと参照順を変更します。

スレーブモードでは、SPCMD0レジスタが参照されます。

30.2.7 RSPI シーケンスステータスレジスタ (SPSSR)

アドレス RSPI0.SPSSR 0008 8389h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPCP[2:0]	RSPIコマンドポインタビット	b2 b0 0 0 0 : SPCMD0 0 0 1 : SPCMD1 0 1 0 : SPCMD2 0 1 1 : SPCMD3 1 0 0 : SPCMD4 1 0 1 : SPCMD5 1 1 0 : SPCMD6 1 1 1 : SPCMD7	R
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b6-b4	SPECM[2:0]	RSPIエラーコマンドビット	b6 b4 0 0 0 : SPCMD0 0 0 1 : SPCMD1 0 1 0 : SPCMD2 0 1 1 : SPCMD3 1 0 0 : SPCMD4 1 0 1 : SPCMD5 1 1 0 : SPCMD6 1 1 1 : SPCMD7	R
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

SPSSR レジスタは、RSPI がマスタモードで動作する場合のシーケンス制御の状態を示します。
SPSSR レジスタへの書き込みは無効です。

SPCP[2:0] ビット (RSPI コマンドポインタビット)

RSPI のシーケンス制御で、現在ポインタで指されている SPCMD_m レジスタを示します。
なお、RSPI のシーケンス制御については、「30.3.11.1 マスタモード動作」を参照してください。

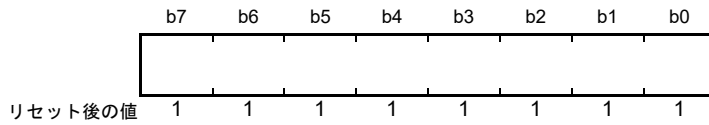
SPECM[2:0] ビット (RSPI エラーコマンドビット)

RSPI のシーケンス制御で、エラー検出時に SPCP[2:0] ビットで指定されていた SPCMD_m レジスタを示します。RSPI は、エラー検出時にのみ SPECM[2:0] ビットを更新します。SPSR.OVRF、MODF フラグがともに“0”で、エラーが発生していない場合には、SPECM[2:0] ビットの値には意味がありません。

なお、RSPI のエラー検出機能については、「30.3.9 エラー検出」を参照してください。また、RSPI のシーケンス制御については、「30.3.11.1 マスタモード動作」を参照してください。

30.2.8 RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)

アドレス RSPI0.SPBR 0008 838Ah



SPBR レジスタは、マスタモード時のビットレート設定に使用します。SPCR.MSTR、SPE ビットがともに“1”の場合、SPBR レジスタを書き換えしないでください。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SPBR レジスタ、SPCMDm.BRDV[1:0] ビット (ビットレート分周設定ビット) の設定に関係なく、入力クロックのビットレートに依存します。(電気的特性を満足するビットレートを使用してください)

ビットレートは SPBR レジスタの設定値と SPCMDm.BRDV[1:0] ビットの設定値の組み合わせで決定されます。ビットレートの計算式は下記のとおりです。計算式中で n は SPBR レジスタの設定値 (0, 1, 2, …, 255)、N は BRDV[1:0] ビットの設定値 (0, 1, 2, 3) です。

$$\text{ビットレート} = \frac{f(\text{PCLK})}{2 \times (n + 1) \times 2^N}$$

SPBR レジスタ、BRDV[1:0] ビットの設定値とビットレートの関係の例を表 30.3 に示します。相手デバイスの AC スペックを考慮の上、電気的特性を満足するビットレートを使用してください。

表 30.3 SPBR レジスタ、BRDV[1:0] ビットの設定値とビットレート

SPBR レジスタの設定値 (n)	BRDV[1:0] ビットの設定値 (N)	分周比	ビットレート PCLK = 32 MHz
0	0	2	16.0 Mbps
1	0	4	8.00 Mbps
2	0	6	5.33 Mbps
3	0	8	4.00 Mbps
4	0	10	3.20 Mbps
5	0	12	2.67 Mbps
5	1	24	1.33 Mbps
5	2	48	667 kbps
5	3	96	333 kbps
255	3	4096	7.81 kbps

30.2.9 RSPI データコントロールレジスタ (SPDCR)

アドレス RSPI0.SPDCR 0008 838Bh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	SPBYT	SPLW	SPRDT D	—	—	SPFC[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	SPFC[1:0]	フレーム数設定ビット	b1 b0 0 0 : 1フレーム 0 1 : 2フレーム 1 0 : 3フレーム 1 1 : 4フレーム	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	SPRDTD	RSPI受信/送信データ選択ビット	0 : SPDRは受信バッファを読み出す 1 : SPDRは送信バッファを読み出す (ただし、送信バッファが空のとき)	R/W
b5	SPLW	RSPIロングワードアクセス/ ワードアクセス設定ビット(注1)	0 : SPDRレジスタへはワードアクセス 1 : SPDRレジスタへはロングワードアクセス	R/W
b6	SPBYT	RSPIバイトアクセス設定ビット	0 : SPDRレジスタへはワードアクセスまたはロングワードアクセス(SPLWビット有効) 1 : SPDRレジスタへはバイトアクセス(SPLWビット無効)	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. SPDRレジスタにワードまたはロングワードでアクセスする場合は、SPBYTビットを“0”にしてください。

SPCMDm.SPB[3:0] ビット、SPSCR.SPSSLN[2:0] ビット、SPDCR.SPFC[1:0] ビットの組み合わせから1回の送受信起動で最大4フレームを送受信できます。

SPCR.SPE ビットが“1”の状態において、SPDCR.SPFC[1:0] ビットを書き換える場合、SPSR.IDLNF フラグが“0”のときに書き換えてください。

SPFC[1:0] ビット (フレーム数設定ビット)

SPDR レジスタに格納できる(1回の転送起動)フレーム数を設定します。SPSCR.SPSSLN[2:0] ビット、SPDCR.SPFC[1:0] ビットの設定により1回の送受信起動で最大4フレームを送受信できます。また、SPFC[1:0] ビットの設定により、受信バッファフル割り込みが発生したり、送信バッファエンプティ割り込みが発生したり、送信が開始されたりするフレーム数も変更されます。

SPDR レジスタに SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分の送信データを書き込むと、SPSR.SPTEF フラグが“0”になり送信が開始されます。その後、設定したフレーム数分の送信データがシフトレジスタに転送されると、SPTEF フラグが“1”になり RSPI 送信バッファエンプティ割り込みが発生します。

また、SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数分の受信を行うと、SPSR.SPRF フラグが“1”になり受信バッファフル割り込みが発生します。

表 30.4 に、SPDR レジスタに格納できるフレームの構成と送受信設定の組み合わせ例を示します。組み合わせ例に示した以外の設定はしないでください。

表 30.4 SPSLN[2:0] ビットと SPFC[1:0] ビットの設定可能な組み合わせ

設定	SPSLN[2:0]	SPFC[1:0]	1シーケンスで 転送するフレーム数	送信バッファ、受信バッファが 「有効データあり」になるフレーム数
1-1	000b	00b	1	1
1-2	000b	01b	2	2
1-3	000b	10b	3	3
1-4	000b	11b	4	4
2-1	001b	01b	2	2
2-2	001b	11b	4	4
3	010b	10b	3	3
4	011b	11b	4	4
5	100b	00b	5	1
6	101b	00b	6	1
7	110b	00b	7	1
8	111b	00b	8	1

SPRDTD ビット (RSPI 受信 / 送信データ選択ビット)

SPDR レジスタの読み出す値を受信バッファとするか、送信バッファとするか選択します。

送信バッファを読む場合 SPDR レジスタへ直前に書いた値が読めます。

送信バッファの読み出しは、送信バッファエンプティ割り込み発生後、SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム数を書き終える前 (SPSR.SPTEF フラグが“1”の期間) に行ってください。

詳細は、「30.2.5 RSPI データレジスタ (SPDR)」を参照してください。

SPLW ビット (RSPI ロングワードアクセス / ワードアクセス設定ビット)

SPDR レジスタへのアクセス幅を設定します。SPBYT ビットが“0”のとき有効です。SPLW ビットが“0”のときはワードアクセス、SPLW ビットが“1”のときはロングワードアクセスで SPDR レジスタにアクセスしてください。

また、SPLW ビットが“0”のとき、SPCMDm.SPB[3:0] ビット (RSPI データ長設定ビット) の設定は、8 ~ 16 ビットに設定してください。20、24、32 ビットは選択しないでください。

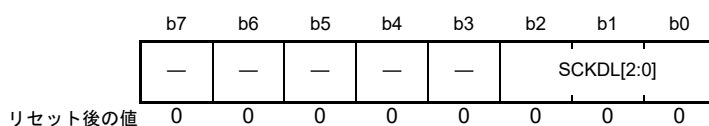
SPBYT ビット (RSPI バイトアクセス設定ビット)

SPDR レジスタへのアクセス幅を設定します。SPBYT ビットが“0”のときは、SPLW ビットの設定に従って SPDR レジスタにアクセスしてください。SPBYT ビットが“1”のときは、バイトアクセスで SPDR レジスタにアクセスしてください。

また、SPBYT ビットが“1”のとき、SPCMDm.SPB[3:0] ビット (RSPI データ長設定ビット) の設定は、8 ビットに設定してください。9 ~ 16、20、24、32 ビットは選択しないでください。

30.2.10 RSPI クロック遅延レジスタ (SPCKD)

アドレス RSPI0.SPCKD 0008 838Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SCKDL[2:0]	RSPCK遅延設定ビット	b2 b0 0 0 0 : 1 RSPCK 0 0 1 : 2 RSPCK 0 1 0 : 3 RSPCK 0 1 1 : 4 RSPCK 1 0 0 : 5 RSPCK 1 0 1 : 6 RSPCK 1 1 0 : 7 RSPCK 1 1 1 : 8 RSPCK	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SPCKD レジスタは、SPCMDm.SCKDEN ビットが“1”の状態における、SSLAi 信号アサート開始から RSPCK 発振までの期間 (RSPCK 遅延) を設定するためのレジスタです。SPCR.MSTR ビットと、SPCR.SPE ビットが“1”の場合、SPCKD レジスタを書き換えしないでください。

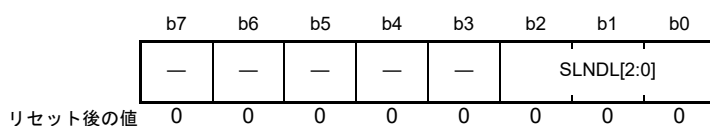
SCKDL[2:0] ビット (RSPCK 遅延設定ビット)

SPCMDm.SCKDEN ビットが“1”の場合の RSPCK 遅延値を設定します。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SCKDL[2:0] ビットを“000b”にしてください。

30.2.11 RSPI スレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)

アドレス RSPI0.SSLND 0008 838Dh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SLNDL[2:0]	SSLネゲート遅延設定ビット	b2 b0 0 0 0 : 1 RSPCK 0 0 1 : 2 RSPCK 0 1 0 : 3 RSPCK 0 1 1 : 4 RSPCK 1 0 0 : 5 RSPCK 1 0 1 : 6 RSPCK 1 1 0 : 7 RSPCK 1 1 1 : 8 RSPCK	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SSLNDレジスタは、マスタモードのRSPIがシリアル転送の最終RSPCKエッジを送出してからSSLAi信号をネゲートするまでの期間(SSLネゲート遅延)を設定するためのレジスタです。SPCR.MSTRビットと、SPCR.SPEビットが“1”の場合、SSLNDレジスタを書き換えしないでください。

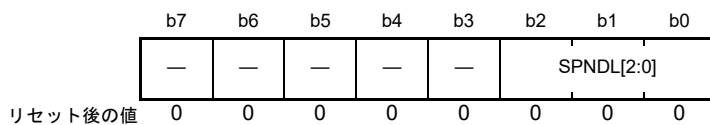
SLNDL[2:0]ビット(SSLネゲート遅延設定ビット)

SPCMDm.SLNDENビットが“1”の場合のSSLネゲート遅延値を設定します。

RSPIをスレーブモードで使用する場合には、SLNDL[2:0]ビットを“000b”にしてください。

30.2.12 RSPI 次アクセス遅延レジスタ (SPND)

アドレス RSPI0.SPND 0008 838Eh



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	SPNDL[2:0]	RSPI次アクセス遅延設定ビット	b2 b0 0 0 0 : 1 RSPCK + 2 PCLK 0 0 1 : 2 RSPCK + 2 PCLK 0 1 0 : 3 RSPCK + 2 PCLK 0 1 1 : 4 RSPCK + 2 PCLK 1 0 0 : 5 RSPCK + 2 PCLK 1 0 1 : 6 RSPCK + 2 PCLK 1 1 0 : 7 RSPCK + 2 PCLK 1 1 1 : 8 RSPCK + 2 PCLK	R/W
b7-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SPND レジスタは、SPCMDm.SPNDEN ビットが“1”の状態、シリアル転送終了後の SSLAi 信号の非アクティブ期間(次アクセス遅延)を設定するためのレジスタです。SPCR.MSTR ビットと、SPCR.SPE ビットが“1”の場合、SPND レジスタを書き換えしないでください。

SPNDL[2:0] ビット (RSPI 次アクセス遅延設定ビット)

SPCMDm.SPNDEN ビットが“1”の場合の次アクセス遅延を設定します。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SPNDL[2:0] ビットを“000b”にしてください。

30.2.13 RSPI 制御レジスタ 2 (SPCR2)

アドレス RSPI0.SPCR2 0008 838Fh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	SCKAS E	PTE	SPIIE	SPOE	SPPE
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	SPPE	パリティ許可ビット(注1)	0: 送信データにパリティビットを付加しない 受信データのパリティチェックを行わない 1: 送信データにパリティビットを付加する 受信データのパリティチェックを行う	R/W
b1	SPOE	パリティモードビット(注1)	0: 偶数パリティで送受信 1: 奇数パリティで送受信	R/W
b2	SPIIE	アイドル割り込み許可ビット	0: アイドル割り込み要求の生成を禁止 1: アイドル割り込み要求の生成を許可	R/W
b3	PTE	パリティ自己診断ビット	0: パリティ回路自己診断機能は無効 1: パリティ回路自己診断機能が有効	R/W
b4	SCKASE	RSPCK自動停止機能許可ビット (注1)	0: RSPCK自動停止機能が無効 1: RSPCK自動停止機能が有効	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. SPCR.SPEビットが“1”の場合、SPPE、SPOE、SCKASEビットの設定値を変更しないでください。

SPPE ビット (パリティ許可ビット)

パリティ機能の有効、無効を選択するビットです。

SPOE ビット (パリティモードビット)

偶数パリティ / 奇数パリティを設定するビットです。

偶数パリティでは、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、1の数の合計が偶数個になるようにパリティビットを決定します。同様に、奇数パリティでは、パリティビットと送受信キャラクタを合わせて、1の数の合計が奇数個になるようにパリティビットを決定します。

SPOE ビットは、SPPE ビットが“1”のときのみ有効です。

SPIIE ビット (アイドル割り込み許可ビット)

RSPI がアイドル状態であることを検出し、SPSR.IDLNF フラグが“0”になった場合に、アイドル割り込み要求の生成を許可 / 禁止します。

PTE ビット (パリティ自己診断ビット)

パリティ機能が正常であることを確認するために、パリティ回路の自己診断を有効にするビットです。

SCKASE ビット (RSPCK 自動停止機能許可ビット)

RSPCK 自動停止機能の有効、無効を選択するビットです。本機能を有効にした場合、マスタモードのデータ受信時、オーバランエラーが発生する直前のタイミングで RSPCK クロックが停止します。詳細は「30.3.9.1 オーバランエラー」を参照ください。

30.2.14 RSPI コマンドレジスタ m (SPCMDm) (m = 0 ~ 7)

アドレス RSPI0.SPCMD0 0008 8390h, RSPI0.SPCMD1 0008 8392h, RSPI0.SPCMD2 0008 8394h,
RSPI0.SPCMD3 0008 8396h, RSPI0.SPCMD4 0008 8398h, RSPI0.SPCMD5 0008 839Ah,
RSPI0.SPCMD6 0008 839Ch, RSPI0.SPCMD7 0008 839Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SCKDEN	SLNDEN	SPNDEN	LSBF	SPB[3:0]			SSLKP	SSLA[2:0]			BRDV[1:0]		CPOL	CPHA	
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPHA	RSPCK位相設定ビット	0: 奇数エッジでデータサンプル、偶数エッジでデータ変化 1: 奇数エッジでデータ変化、偶数エッジでデータサンプル	R/W
b1	CPOL	RSPCK極性設定ビット	0: アイドル時のRSPCKがLow 1: アイドル時のRSPCKがHigh	R/W
b3-b2	BRDV[1:0]	ビットレート分周設定ビット	b3 b2 0 0: ベースのビットレートを選択 0 1: ベースのビットレートの2分周を選択 1 0: ベースのビットレートの4分周を選択 1 1: ベースのビットレートの8分周を選択	R/W
b6-b4	SSLA[2:0]	SSL信号アサート設定ビット	b6 b4 0 0 0: SSL0 0 0 1: SSL1 0 1 0: SSL2 0 1 1: SSL3 1 x x: 設定しないでください	R/W
b7	SSLKP	SSL信号レベル保持ビット	0: 転送終了時に全SSL信号をネゲート 1: 転送終了後から次アクセス開始までSSL信号レベルを保持(バースト転送)	R/W
b11-b8	SPB[3:0]	RSPIデータ長設定ビット	b11 b8 0100~0111 : 8ビット 1 0 0 0 : 9ビット 1 0 0 1 : 10ビット 1 0 1 0 : 11ビット 1 0 1 1 : 12ビット 1 1 0 0 : 13ビット 1 1 0 1 : 14ビット 1 1 1 0 : 15ビット 1 1 1 1 : 16ビット 0 0 0 0 : 20ビット 0 0 0 1 : 24ビット 0010, 0011 : 32ビット	R/W
b12	LSBF	RSPI LSB ファーストビット	0: MSB ファースト 1: LSB ファースト	R/W
b13	SPNDEN	RSPI次アクセス遅延許可ビット	0: 次アクセス遅延は1 RSPCK + 2 PCLK 1: 次アクセス遅延はRSPI次アクセス遅延レジスタ (SPND)の設定値	R/W
b14	SLNDEN	SSLネゲート遅延設定許可ビット	0: SSLネゲート遅延は1 RSPCK 1: SSLネゲート遅延はRSPIスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)の設定値	R/W
b15	SCKDEN	RSPCK遅延設定許可ビット	0: RSPCK遅延は1 RSPCK 1: RSPCK遅延はRSPIクロック遅延レジスタ (SPCKD)の設定値	R/W

x : Don't care

SPCMDm レジスタは、マスタモードの RSPI の転送フォーマットを設定します。1 チャンネルの RSPI には、RSPI コマンドレジスタが 8 本あります (SPCMD0 ~ SPCMD7 レジスタ)。また、SPCMD0 レジスタの一部のビットは、スレーブモードの RSPI の転送フォーマットを設定するためにも使用されます。マスタモードの RSPI は SPSCR.SPSSLN[2:0] ビットの設定に従ってシーケンシャルに SPCMDm レジスタを参照し、参照した SPCMDm レジスタに設定されたシリアル転送を実行します。

SPCMDm レジスタの設定は、送信バッファが空の (次転送のデータがセットされていない) 状態でその SPCMDm レジスタを参照して送信するデータを設定する前に実施してください。

マスタモードの RSPI が参照している SPCMDm レジスタは、SPSSR.SPCP[2:0] ビットにより確認できます。また、SPCR.MSTR ビットが“0”、SPCR.SPE ビットが“1”の場合、SPCMDm レジスタを書き換えしないでください。

CPHA ビット (RSPCK 位相設定ビット)

マスタモード/スレーブモードの RSPI の RSPCK 位相を設定します。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一の RSPCK 位相を設定する必要があります。

CPOL ビット (RSPCK 極性設定ビット)

マスタモード/スレーブモードの RSPI の RSPCK 極性を設定します。RSPI モジュール間のデータ通信を行う場合、モジュール間で同一の RSPCK 極性を設定する必要があります。

BRDV[1:0] ビット (ビットレート分周設定ビット)

ビットレートを決定するために使用するレジスタです。BRDV[1:0] ビットと SPBR レジスタの設定値の組み合わせでビットレートを決定します (「30.2.8 RSPI ビットレートレジスタ (SPBR)」を参照)。SPBR レジスタの設定値は、ベースとなるビットレートを決定します。BRDV[1:0] ビットの設定値は、ベースのビットレートに対して分周なし/2分周/4分周/8分周したビットレートを選択するために使用します。SPCMDm レジスタにはそれぞれ異なる BRDV[1:0] ビットの設定を行えます。このため、コマンドごとに異なるビットレートでシリアル転送を実行できます。

SSLA[2:0] ビット (SSL 信号アサート設定ビット)

マスタモードの RSPI がシリアル転送する場合の SSLAi 信号のアサートを制御するためのビットです。SSLA[2:0] ビットの設定値が、SSLAi 信号のアサートを制御します。SSLAi 信号アサート時の信号極性は、SSLP レジスタの設定値に依存します。マルチマスタモードで SSLA[2:0] ビットを“000b”にした場合には、全 SSL 信号がネゲート状態でシリアル転送が実行されます (SSLA0 端子は入力になるため)。

なお、RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SSLA[2:0] ビットを“000b”にしてください。

SSLKP ビット (SSL 信号レベル保持ビット)

マスタモードの RSPI がシリアル転送する場合に、現コマンドに対応する SSL ネゲートタイミングから次コマンドに対応する SSL アサートタイミングの間、現コマンドの SSLAi 信号レベルを保持するか、ネゲートするかを設定するビットです。

SSLKP ビットを“1”とすることによってバースト転送が可能となります。詳細は「30.3.11.1 マスタモード動作の(4) バースト転送」を参照してください。

RSPI をスレーブモードで使用する場合には、SSLKP ビットを“0”にしてください。

SPB[3:0] ビット (RSPI データ長設定ビット)

マスタモード/スレーブモードのRSPIの転送データ長を設定します。SPDCR.SPBYT ビットが“1”のときは“0100b”(8ビット)に設定してください。SPDCR.SPBYT ビットが“0”、かつSPDCR.SPLW ビットが“0”のときは、“0100b”(8ビット)～“1111b”(16ビット)の範囲で値を設定してください。

LSBF ビット (RSPI LSB ファーストビット)

マスタモード/スレーブモードのRSPIのデータフォーマットを、MSB ファーストにするかLSB ファーストにするかを選択します。

SPNDEN ビット (RSPI 次アクセス遅延許可ビット)

マスタモードのRSPIがシリアル転送を終了してSSLAi信号を非アクティブにしてから、次アクセスのSSLAi信号アサートを可能にするまでの期間(次アクセス遅延)を設定します。SPNDEN ビットが“0”のとき、RSPIは次アクセス遅延を1RSPCK+2PCLKにします。SPNDEN ビットが“1”のとき、RSPIはSPNDレジスタの設定に従った次アクセス遅延を挿入します。

RSPIをスレーブモードで使用する場合には、SPNDEN ビットを“0”にしてください。

SLNDEN ビット (SSL ネゲート遅延設定許可ビット)

マスタモードのRSPIが、RSPCKを発振停止してからSSLAi信号を非アクティブにするまでの期間(SSLネゲート遅延)を設定します。SLNDEN ビットが“0”のとき、RSPIはSSLネゲート遅延を1RSPCKにします。SLNDEN ビットが“1”のとき、RSPIはSSLNDレジスタの設定に従ったRSPCK遅延でSSLをネゲートします。

RSPIをスレーブモードで使用する場合には、SLNDEN ビットを“0”にしてください。

SCKDEN ビット (RSPCK 遅延設定許可ビット)

マスタモードのRSPIが、SSLAi信号をアクティブにしてからRSPCKを発振するまでの期間(RSPCK遅延)を設定します。SCKDEN ビットが“0”のとき、RSPIはRSPCK遅延を1RSPCKにします。SCKDEN ビットが“1”のとき、RSPIはSPCKDレジスタの設定に従ったRSPCK遅延でRSPCKの発振を開始します。

RSPIをスレーブモードで使用する場合には、SCKDEN ビットを“0”にしてください。

30.2.15 RSPI データコントロールレジスタ 2 (SPDCR2)

アドレス RSPi0.SPDCR2 0008 83A0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	BYSW
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BYSW	バイトスワップビット	0 : SPDRのデータをバイト単位でスワップしない 1 : SPDRのデータをバイト単位でスワップする	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

SPDCR2 レジスタは、送受信データのバイトの並びを設定するためのレジスタです。
SPCR.SPE ビットが“0”のときに書き換えてください。

BYSW ビット (バイトスワップビット)

送信時は SPDR レジスタに書かれたデータの送信順序を、受信時は受信したデータを SPDR レジスタに転送するときのバイト位置を、変更するためのビットです。SPDCR.SPBYT ビットが“0”のとき有効です。

バイトスワップを使用する場合は、SPCMDm.SPB[3:0] ビットを“1111b”(16 ビット)、“0010b”(32 ビット) または“0011b”(32 ビット)のいずれかに設定してください。また、SPCR2.SPPE ビットは“0”(パリティビットを付加しない)にしてください。

詳細は、「30.3.4.3 バイトスワップ送信」、「30.3.4.4 バイトスワップ受信」を参照してください。

30.3 動作説明

本章では、シリアル転送期間という用語を、有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまでの期間を意味する用語として使用しています。

30.3.1 RSPI 動作の概要

RSPI は、スレーブモード(SPI 動作)、シングルマスタモード(SPI 動作)、マルチマスタモード(SPI 動作)、スレーブモード(クロック同期式動作)、マスタモード(クロック同期式動作)での同期式のシリアル転送ができます。RSPI のモードは、SPCR.MSTR、MODFEN、SPMS ビットによって設定できます。表 30.5 に RSPI のモードと SPCR レジスタの設定の関係および各モードの概要を示します。

表 30.5 RSPIのモードとSPCRレジスタの設定の関係および各モードの概要

モード	SPI動作			クロック同期式動作	
	スレーブ	シングルマスタ	マルチマスタ	スレーブ	マスタ
MSTRビットの設定	0	1	1	0	1
MODFENビットの設定	0 or 1	0	1	0	0
SPMSビットの設定	0	0	0	1	1
RSPCKA信号	入力	出力	出力/Hi-Z(注1)	入力	出力
MOSIA信号	入力	出力	出力/Hi-Z(注1)	入力	出力
MISOA信号	出力/Hi-Z(注2)	入力	入力	出力	入力
SSLA0信号	入力	出力	入力	Hi-Z(注3)	Hi-Z(注3)
SSLA1～SSLA3信号	Hi-Z(注3)	出力	出力/Hi-Z(注1)	Hi-Z(注3)	Hi-Z(注3)
SSL極性変更機能	あり	あり	あり	—	—
転送レート	～PCLK/4	～PCLK/2	～PCLK/2	～PCLK/4	～PCLK/2
クロックソース	RSPCK入力	内蔵ボーレートジェネレータ	内蔵ボーレートジェネレータ	RSPCK入力	内蔵ボーレートジェネレータ
クロック極性	2種				
クロック位相	2種	2種	2種	1種(CPHA = 1)	2種
先頭転送ビット	MSB/LSB				
転送データ長	8～16、20、24、32ビット				
バースト転送	可能(CPHA = 1)	可能(CPHA = 0, 1)	可能(CPHA = 0, 1)	—	—
RSPCK遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
SSLネゲート遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
次アクセス遅延制御	なし	あり	あり	なし	あり
転送起動方法	SSL入力アクティブまたはRSPCK発振	送信バッファエンピティ割り込み要求、またはSPTEF = 1で送信バッファ書き込み	送信バッファエンピティ割り込み要求、またはSPTEF = 1で送信バッファ書き込み	RSPCK発振	送信バッファエンピティ割り込み要求、またはSPTEF = 1で送信バッファ書き込み
シーケンス制御	なし	あり	あり	なし	あり
送信バッファエンピティ検出	あり				
受信バッファフル検出	あり(注4)				
オーバランエラー検出	あり(注4)	あり(注4、注6)	あり(注4、注6)	あり(注4)	あり(注4、注6)
アンダランエラー検出	あり	なし	なし	あり	なし
パリティエラー検出	あり(注4、注5)				
モードフォルトエラー検出	あり(MODFEN = 1)	なし	あり	なし	なし

注1. SSLA0が他のマスタによってアサートされると、端子がHi-Zになります。

注2. SSLA0がネゲートされているまたはSPCR.SPEビットが“0”の場合、端子がHi-Zになります。

注3. 本モードでは使用しません。

注4. SPCR.TXMDビットが“1”のときは、受信バッファフル、オーバランエラー、パリティエラーの検出を行いません。

注5. SPCR2.SPPEビットが“0”のときは、パリティエラーの検出を行いません。

注6. SPCR2.SCKASEビットが“1”のときは、オーバランエラーの検出を行いません。

30.3.2 RSPI 端子の制御

シングルマスタモード(SPI動作)、マルチマスタモード(SPI動作)のRSPIは、SPPCR.MOIFE、MOIFVビットの設定に従って、SSLネゲート期間(バースト転送におけるSSL保持期間を含む)のMOSI信号値を表30.6のように決定します。

表30.6 SSLネゲート期間のMOSI信号値の決定方法

MOIFEビット	MOIFVビット	SSLネゲート期間のMOSI信号値
0	0, 1	前回転送の最終データ
1	0	Low
1	1	High

30.3.3 RSPI システム構成例

30.3.3.1 シングルマスタ / シングルスレーブ (本 MCU = マスタ)

図 30.5 に、本 MCU をマスタとして使用した場合のシングルマスタ / シングルスレーブの RSPI システムの構成例を示します。シングルマスタ / シングルスレーブの構成では、本 MCU (マスタ) の SSLA0 ~ SSLA3 出力は使用しません。SPI スレーブの SSL 入力は Low に固定して、SPI スレーブを選択できる状態にします。(注1)

本 MCU (マスタ) は、RSPCKA と MOSIA をドライブします。SPI スレーブは、MISO をドライブします。

注1. SPCMDm.CPHA ビットが“0”の場合に相当する転送フォーマットでは、SSL 信号をアクティブレベルに固定することができないスレーブデバイスも存在します。SSL 信号を固定にできない場合には、本 MCU の SSLAi 出力をスレーブデバイスの SSL 入力に接続してください。

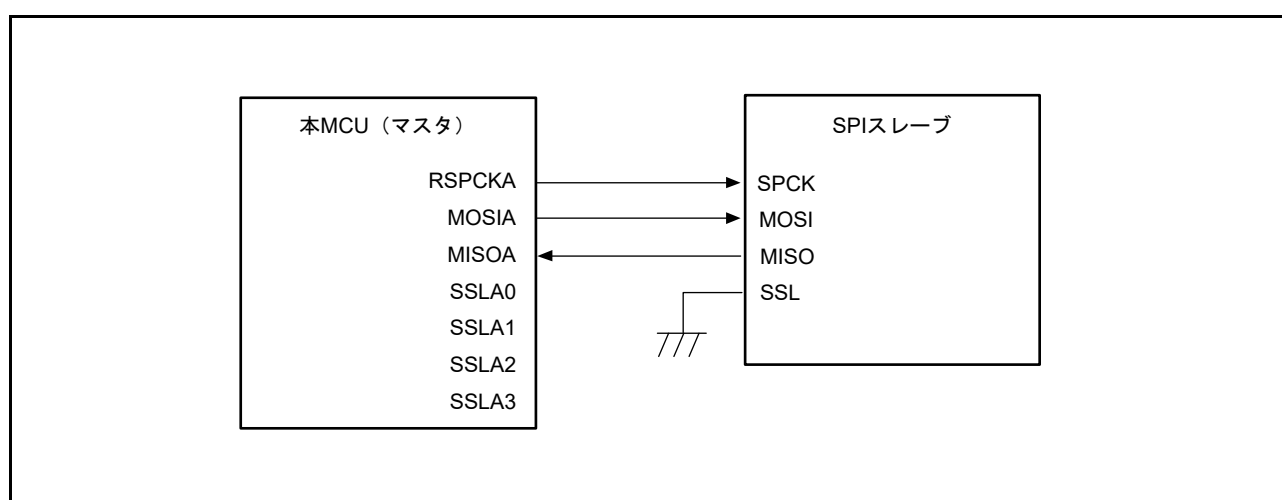


図 30.5 シングルマスタ / シングルスレーブの構成例 (本 MCU = マスタ)

30.3.3.2 シングルマスタ / シングルスレーブ (本 MCU = スレーブ)

図 30.6 に、本 MCU をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ / シングルスレーブの RSPI システム構成例を示します。本 MCU をスレーブとして使用する場合には、SSLA0 端子を SSL 入力として使用します。SPI マスタは、SPCK と MOSI をドライブします。本 MCU (スレーブ) は、MISOA をドライブします。(注 1)

SPCMDm.CPHA ビットを“1”にしたシングルスレーブ構成の場合には、本 MCU (スレーブ) の SSLA0 入力を Low に固定して本 MCU (スレーブ) を選択できる状態とし、シリアル転送を実行することも可能です(図 30.7)。

注 1. SSLA0 が非アクティブレベルの場合、端子状態が Hi-Z になります。

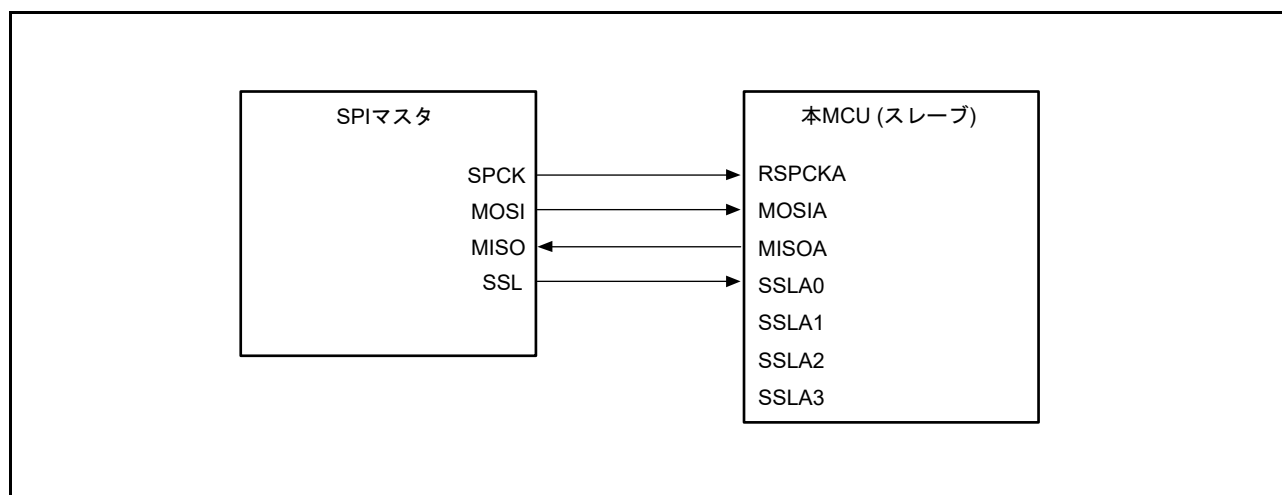


図 30.6 シングルマスタ / シングルスレーブの構成例 (本 MCU = スレーブ、CPHA = 0)

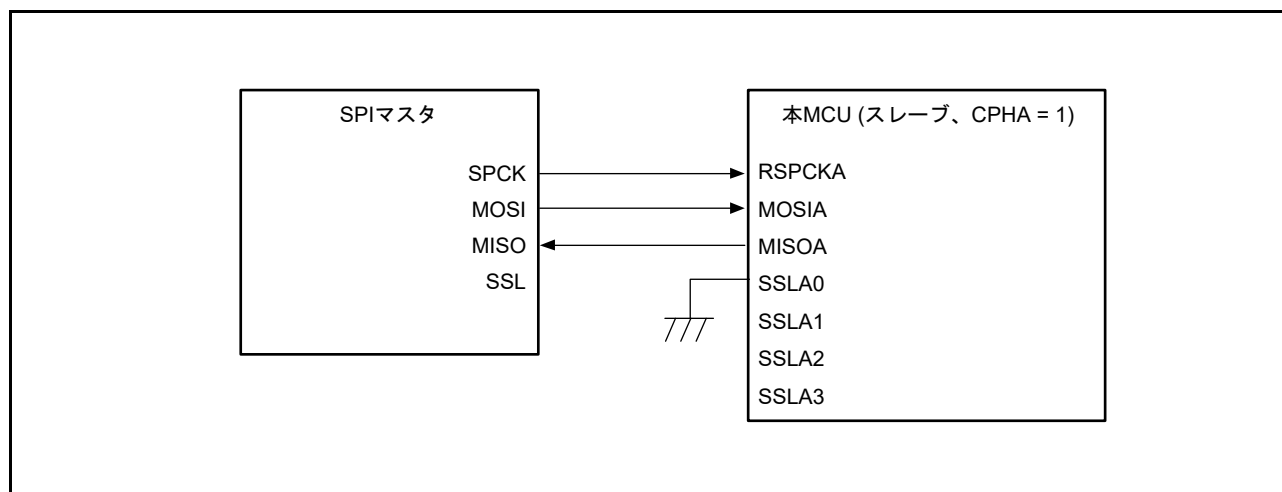


図 30.7 シングルマスタ / シングルスレーブの構成例 (本 MCU = スレーブ、CPHA = 1)

30.3.3.3 シングルマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = マスタ)

図 30.8 に、本 MCU をマスタとして使用した場合のシングルマスタ / マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 30.8 の例では、本 MCU (マスタ) と 4 つのスレーブ (SPI スレーブ 0 ~ SPI スレーブ 3) から RSPI システムを構成しています。

本 MCU (マスタ) の RSPCKA 出力と MOSIA 出力は、SPI スレーブ 0 ~ SPI スレーブ 3 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。SPI スレーブ 0 ~ SPI スレーブ 3 の MISO 出力は、すべて本 MCU (マスタ) の MISOA 入力に接続します。本 MCU (マスタ) の SSLA0 ~ SSLA3 出力は、それぞれ SPI スレーブ 0 ~ SPI スレーブ 3 の SSL 入力に接続します。

本 MCU (マスタ) は、RSPCKA、MOSIA、SSLA0 ~ SSLA3 をドライブします。SPI スレーブ 0 ~ SPI スレーブ 3 のうち、SSL 入力に Low を入力されているスレーブが、MISO をドライブします。

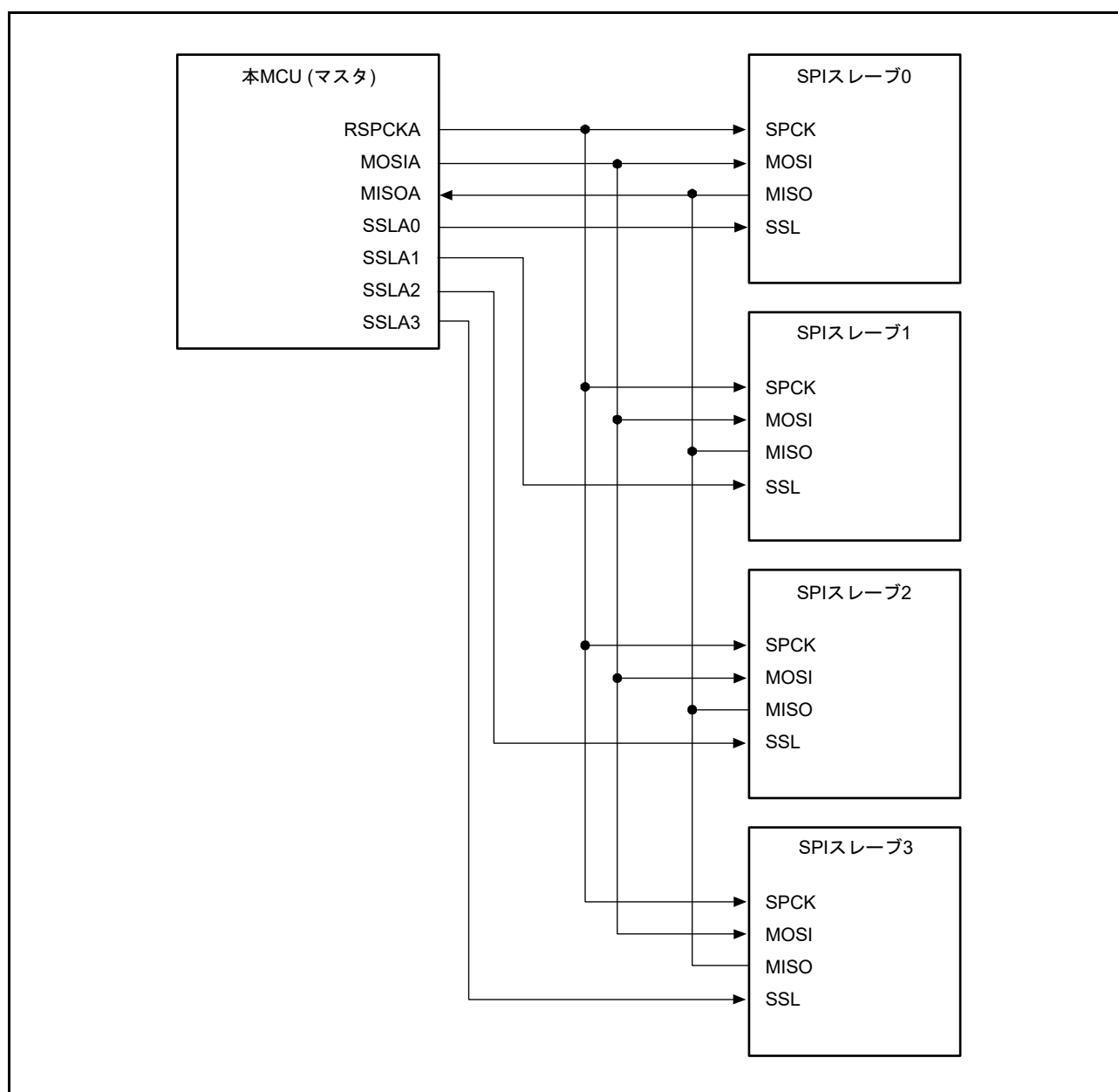


図 30.8 シングルマスタ / マルチスレーブの構成例 (本 MCU = マスタ)

30.3.3.4 シングルマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = スレーブ)

図 30.9 に、本 MCU をスレーブとして使用した場合のシングルマスタ / マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 30.9 の例では、SPI マスタと 2 つの本 MCU (スレーブ X、スレーブ Y) から RSPI システムを構成しています。

SPI マスタの SPCK 出力と MOSI 出力は、本 MCU (スレーブ X、スレーブ Y) の RSPCKA 入力と MOSIA 入力に接続します。本 MCU (スレーブ X、スレーブ Y) の MISOA 出力は、SPI マスタの MISO 入力に接続します。SPI マスタの SSLX 出力、SSLY 出力は、本 MCU (スレーブ X、スレーブ Y) の SSLA0 入力に接続します。

SPI マスタは、SPCK、MOSI、SSLX、SSLY をドライブします。本 MCU (スレーブ X、スレーブ Y) のうち、SSLA0 入力に Low を入力されているスレーブが、MISOA をドライブします。

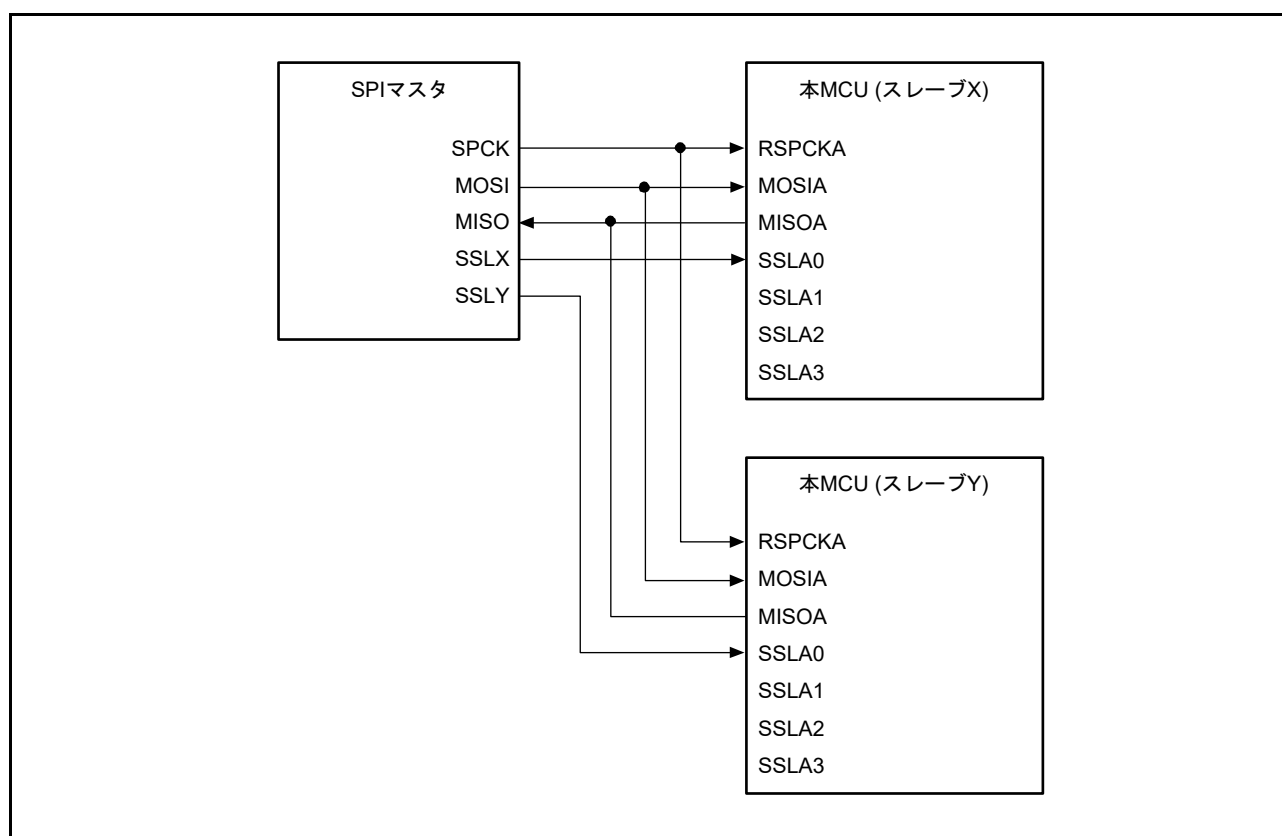


図 30.9 シングルマスタ / マルチスレーブの構成例 (本 MCU = スレーブ)

30.3.3.5 マルチマスタ / マルチスレーブ (本 MCU = マスタ)

図 30.10 に、本 MCU をマスタとして使用した場合のマルチマスタ / マルチスレーブの RSPI システム構成例を示します。図 30.10 の例では、2つの本 MCU (マスタ X、マスタ Y) と 2つの SPI スレーブ (SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2) から RSPI システムを構成しています。

本 MCU (マスタ X、マスタ Y) の RSPCKA 出力と MOSIA 出力は、SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の RSPCK 入力と MOSI 入力に接続します。SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の MISO 出力は、本 MCU (マスタ X、マスタ Y) の MISOA 入力に接続します。本 MCU (マスタ X) の任意の汎用ポート Y 出力は、本 MCU (マスタ Y) の SSLA0 入力に接続します。本 MCU (マスタ Y) の任意の汎用ポート X 出力は、本 MCU (マスタ X) の SSLA0 入力に接続します。本 MCU (マスタ X、マスタ Y) の SSLA1 出力と SSLA2 出力は、SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 の SSL 入力に接続します。この構成例では、SSLA0 入力、スレーブ接続用の SSLA1 出力、SSLA2 出力のみでシステムを構成できるので、本 MCU の SSLA3 出力を使用していません。

本 MCU は、SSLA0 入力レベルが High の場合には、RSPCKA、MOSIA、SSLA1、SSLA2 をドライブします。SSLA0 入力レベルが Low の場合には、モードフォルトエラーを検出し、RSPCKA、MOSIA、SSLA1、SSLA2 を Hi-Z にして、他方のマスタに RSPI バス権を解放します。SPI スレーブ 1、SPI スレーブ 2 のうち、SSL 入力が Low を入力されているスレーブが、MISO をドライブします。

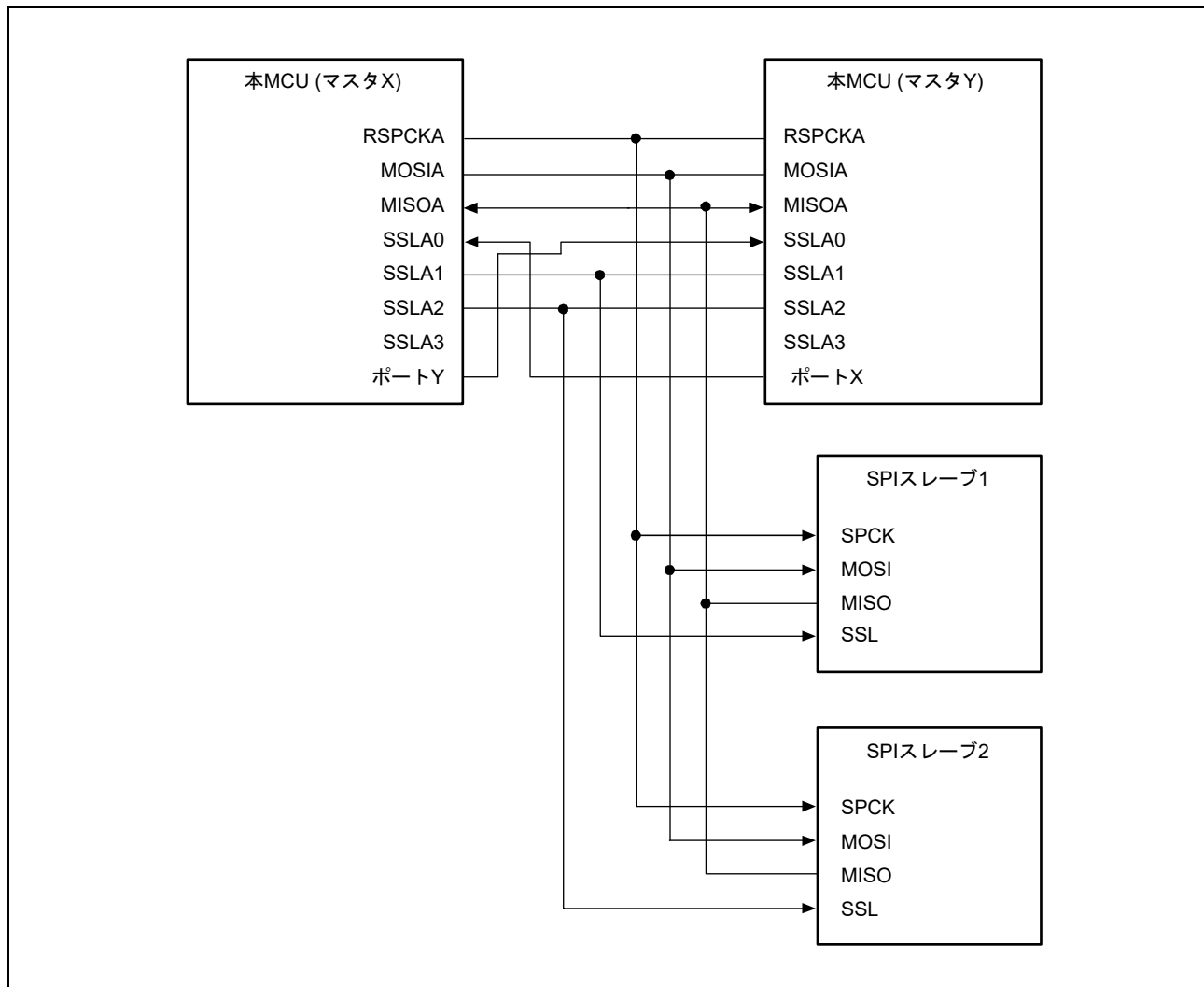


図 30.10 マルチマスタ / マルチスレーブの構成例 (本 MCU = マスタ)

30.3.3.6 マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) (本 MCU = マスタ)

図 30.11 に、本 MCU をマスタとして使用した場合のマスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) の RSPI システムの構成例を示します。マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) の構成では、本 MCU (マスタ) の SSLA0 ~ SSLA3 は使用しません。

本 MCU (マスタ) は、RSPCKA と MOSIA をドライブします。SPI スレーブは、MISO をドライブします。

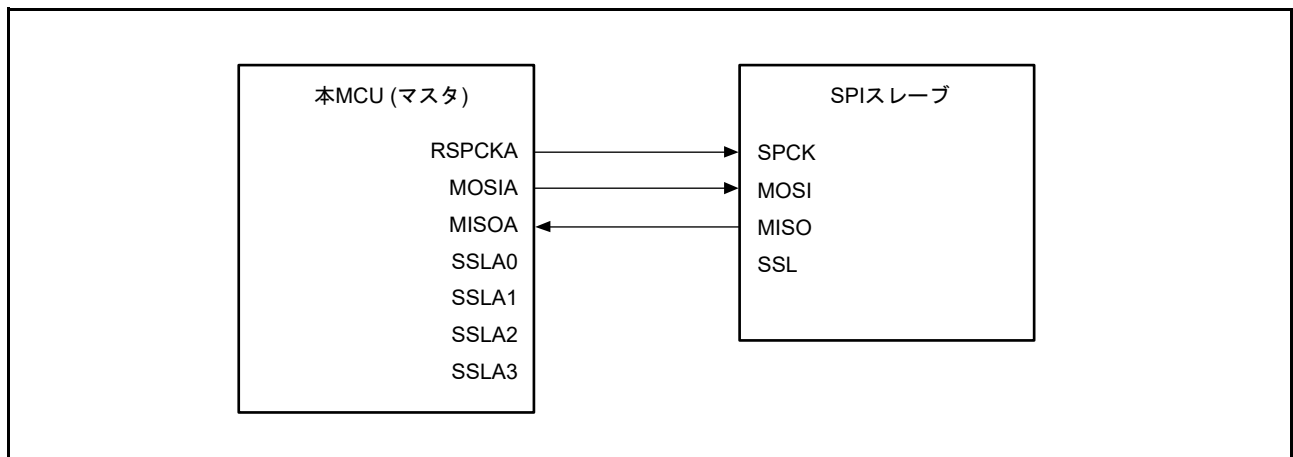


図 30.11 マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) の構成例 (本 MCU = マスタ)

30.3.3.7 マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) (本 MCU = スレーブ)

図 30.12 に、本 MCU をスレーブとして使用した場合のマスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) の RSPI システム構成例を示します。本 MCU をスレーブ (クロック同期式動作) として使用する場合には、本 MCU (スレーブ) は、MISOA をドライブし、SPI マスタは、SPCK と MOSI をドライブします。また、本 MCU (スレーブ) の SSLA0 ~ SSLA3 は使用しません。

SPCMDm.CPHA ビットを“1”にしたシングルスレーブ構成の場合のみ、本 MCU (スレーブ) はシリアル転送を実行することが可能です。

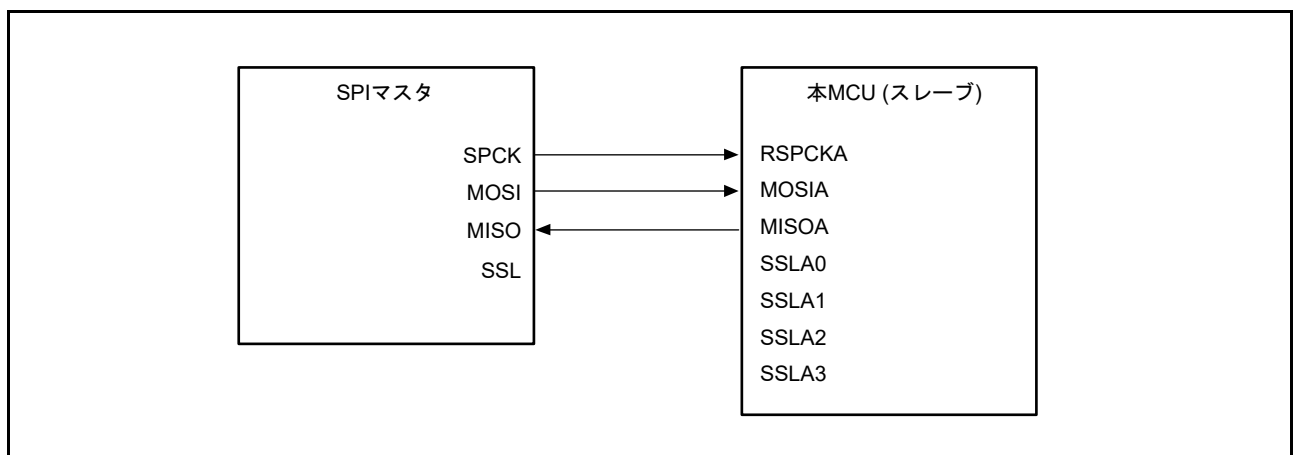


図 30.12 マスタ (クロック同期式動作) / スレーブ (クロック同期式動作) の構成例
(本 MCU = スレーブ、CPHA = 1)

30.3.4 データフォーマット

RSPI のデータフォーマットは、RSPI コマンドレジスタ m (SPCMD m)、RSPI 制御レジスタ 2 のパリティ許可ビット (SPCR2.SPPE)、RSPI データコントロールレジスタ 2 (SPDCR2) の設定値に依存します。MSB/LSB ファーストに関わらず、RSPI は RSPI データレジスタ (SPDR) の LSB から設定データ長分の範囲を転送データとして扱います。

送受信時の 1 フレームのデータフォーマットを下記に示します。

(a) パリティ機能無効時

パリティ機能無効時は、RSPI コマンドレジスタ m の RSPI データ長設定ビット (SPCMD m .SPB[3:0]) で設定したビット長のデータの送受信を行います。

(b) パリティ機能有効時

パリティ機能有効時は、RSPI コマンドレジスタ m の RSPI データ長設定ビット (SPCMD m .SPB[3:0]) で設定したビット長のデータの送受信を行います。ただし、最終ビットは、パリティビットとなります。

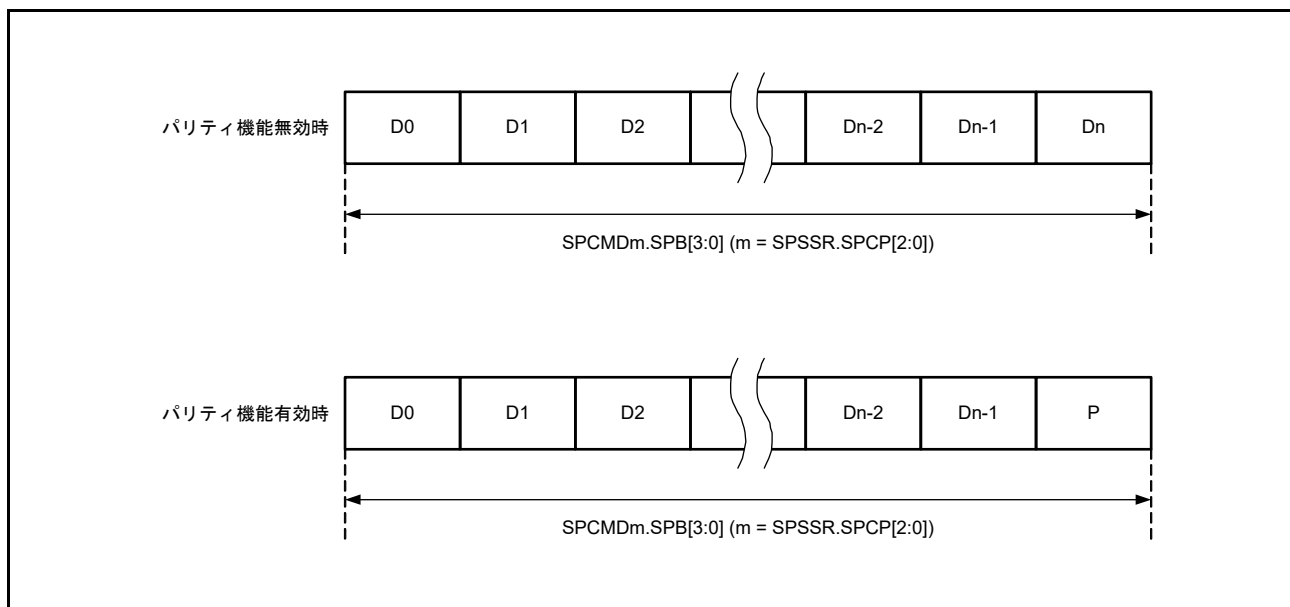


図 30.13 データフォーマット概要 (パリティ機能無効時 / 有効時)

30.3.4.1 パリティ機能無効時 (SPCR2.SPPE = 0)

パリティ機能無効時は、送信バッファのデータを加工せず、シフトレジスタにコピーします。以下にRSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの関係を MSB/LSB ファーストとビット長の組み合わせで説明します。

(1) MSB ファースト転送 (32 ビットデータ)

図 30.14 に、パリティ機能無効時、RSPI がデータ長 32 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の SPDR レジスタとシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの T31 ~ T00 をシフトレジスタにコピーします。送信データは、T31 → T30 → … → T00 の順番にシフトレジスタの値をシフトし送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R31 ~ R00 までデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。

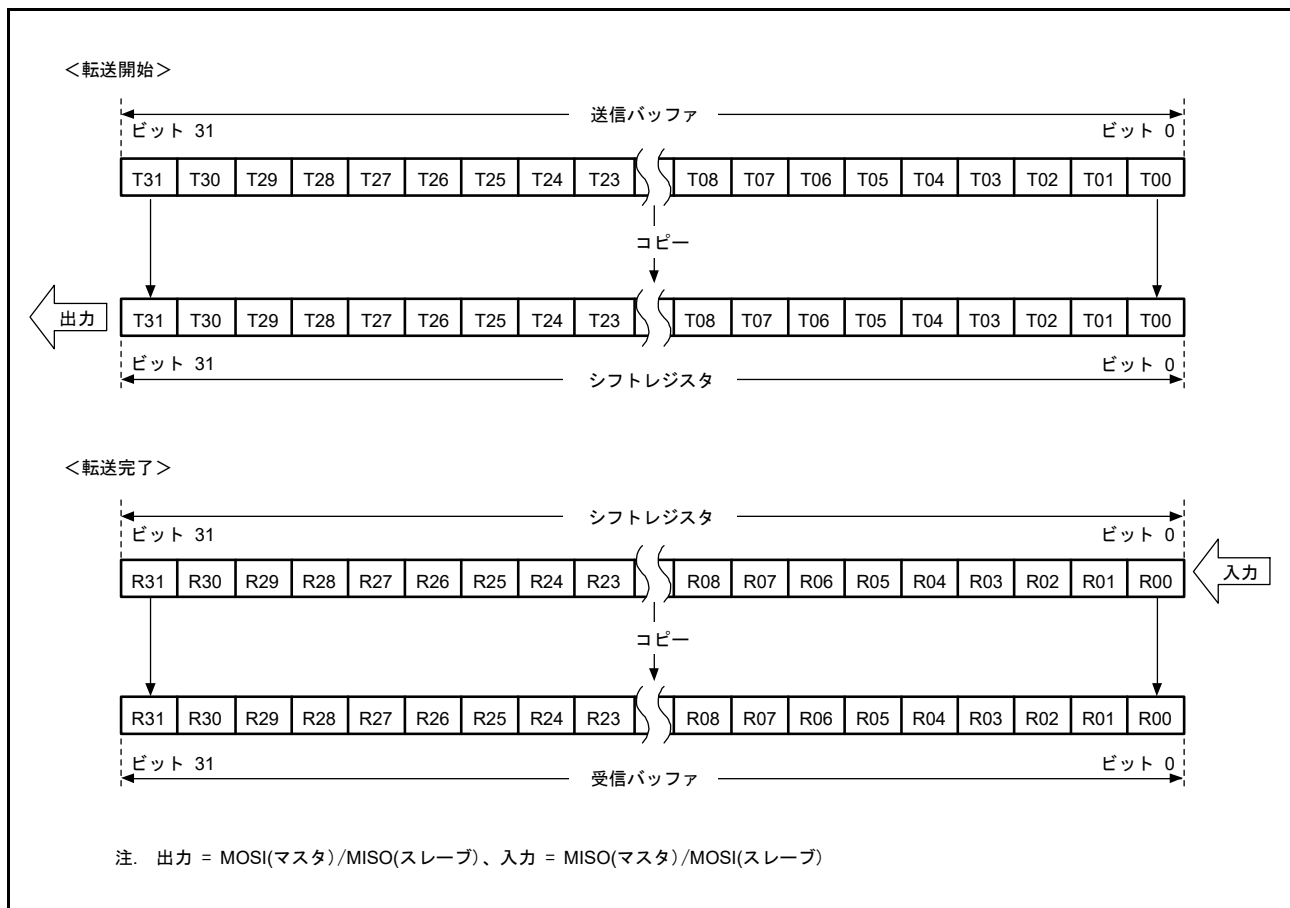


図 30.14 MSB ファースト転送 (32 ビットデータ / パリティ機能無効)

(2) MSB ファースト転送 (24 ビットデータ)

図 30.15 に、RSPI がパリティ機能無効時、32 ビット以外のデータを MSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの下位 24 ビット (T23 ~ T00) をシフトレジスタにコピーします。送信データは、T23 → T22 → … → T00 の順番にシフトレジスタの値をシフトし送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R23 ~ R00 までデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時に T31 ~ T24 に “0” を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに “0” を入れることができます。

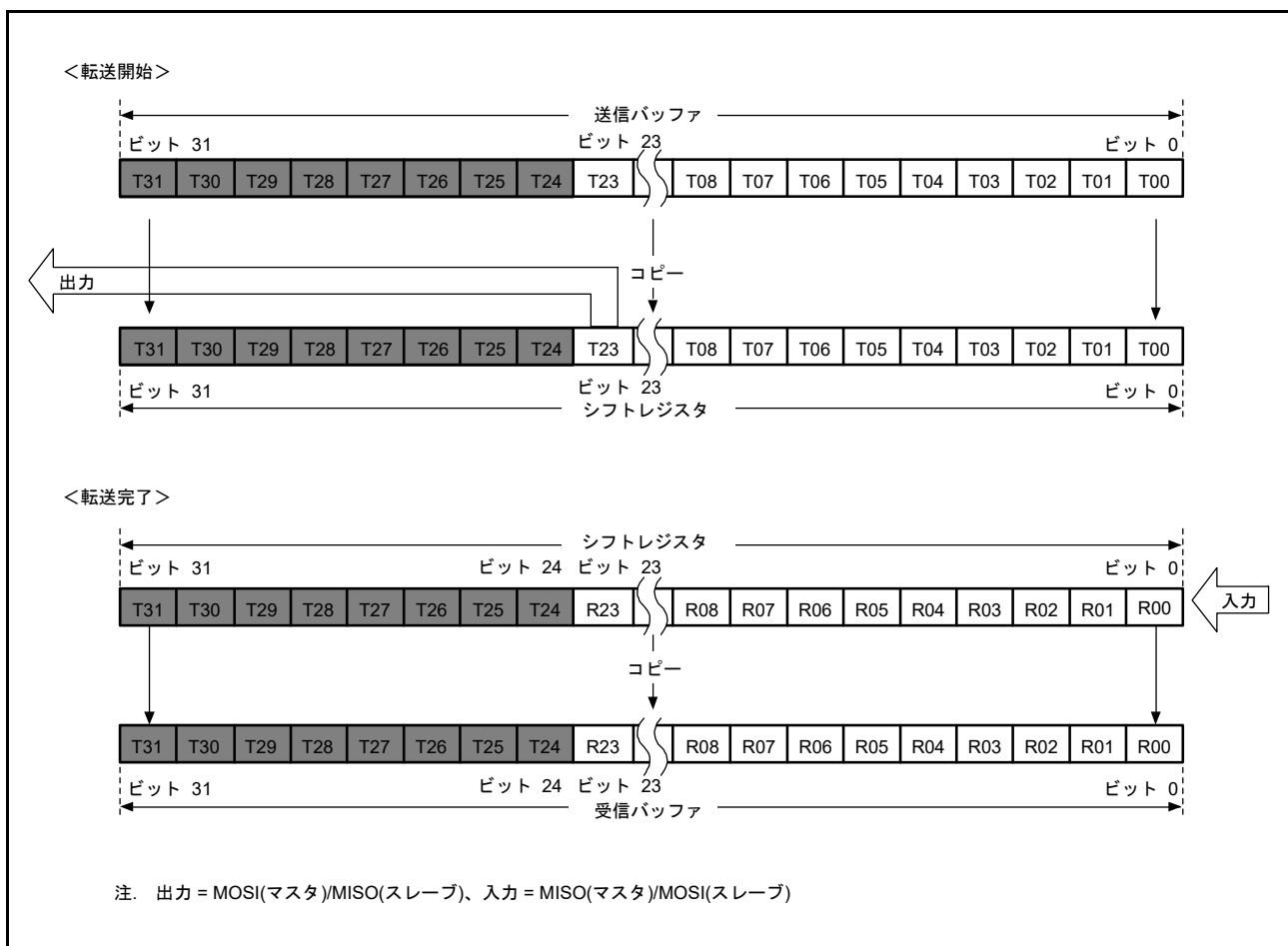


図 30.15 MSB ファースト転送 (24 ビットデータ / パリティ機能無効)

(3) LSB ファースト転送 (32 ビットデータ)

図 30.16 に、RSPI がパリティ機能無効時、データ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファのデータ (T31 ~ T00) をビット単位で入れ替え、シフトレジスタに T00 ~ T31 の順番に並び替えコピーします。送信データは、T00 → T01 → … → T31 の順番にシフトレジスタの値をシフトし送信します。

受信時は、最初のデータをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R00 ~ R31 までデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。

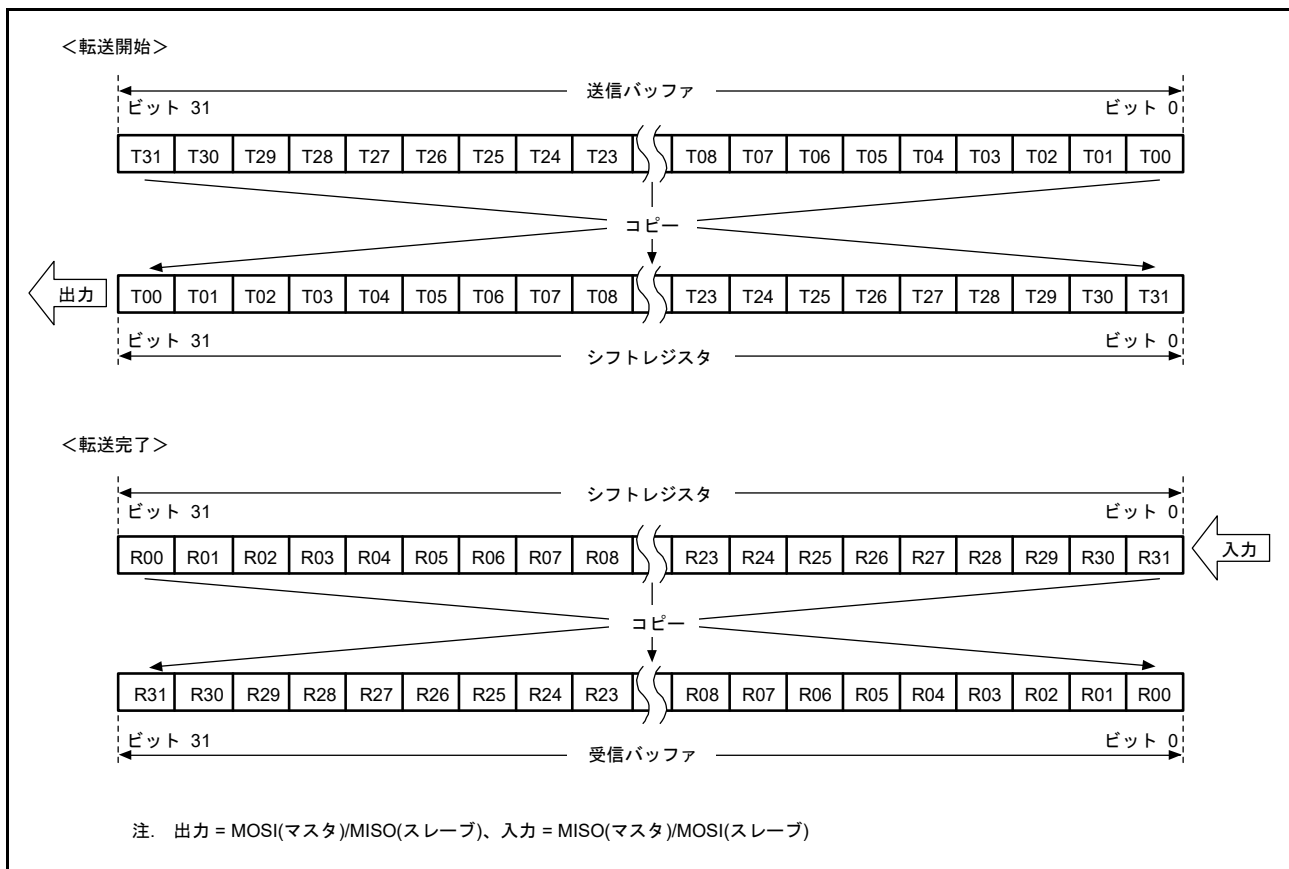


図 30.16 LSB ファースト転送 (32 ビットデータ / パリティ機能無効)

(4) LSB ファースト転送 (24 ビットデータ)

図 30.17 に、RSPI がパリティ機能無効時、32 ビット以外のデータを LSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、送信バッファの下位 24 ビット (T23 ~ T00) をビット単位で T00 ~ T23 と入れ替えシフトレジスタにコピーします。送信データは、T00 → T01 → … → T23 の順番にシフトレジスタの値をシフトし送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 8 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R00 ~ R23 までデータがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時に T31 ~ T24 に“0”を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに“0”を入れることができます。

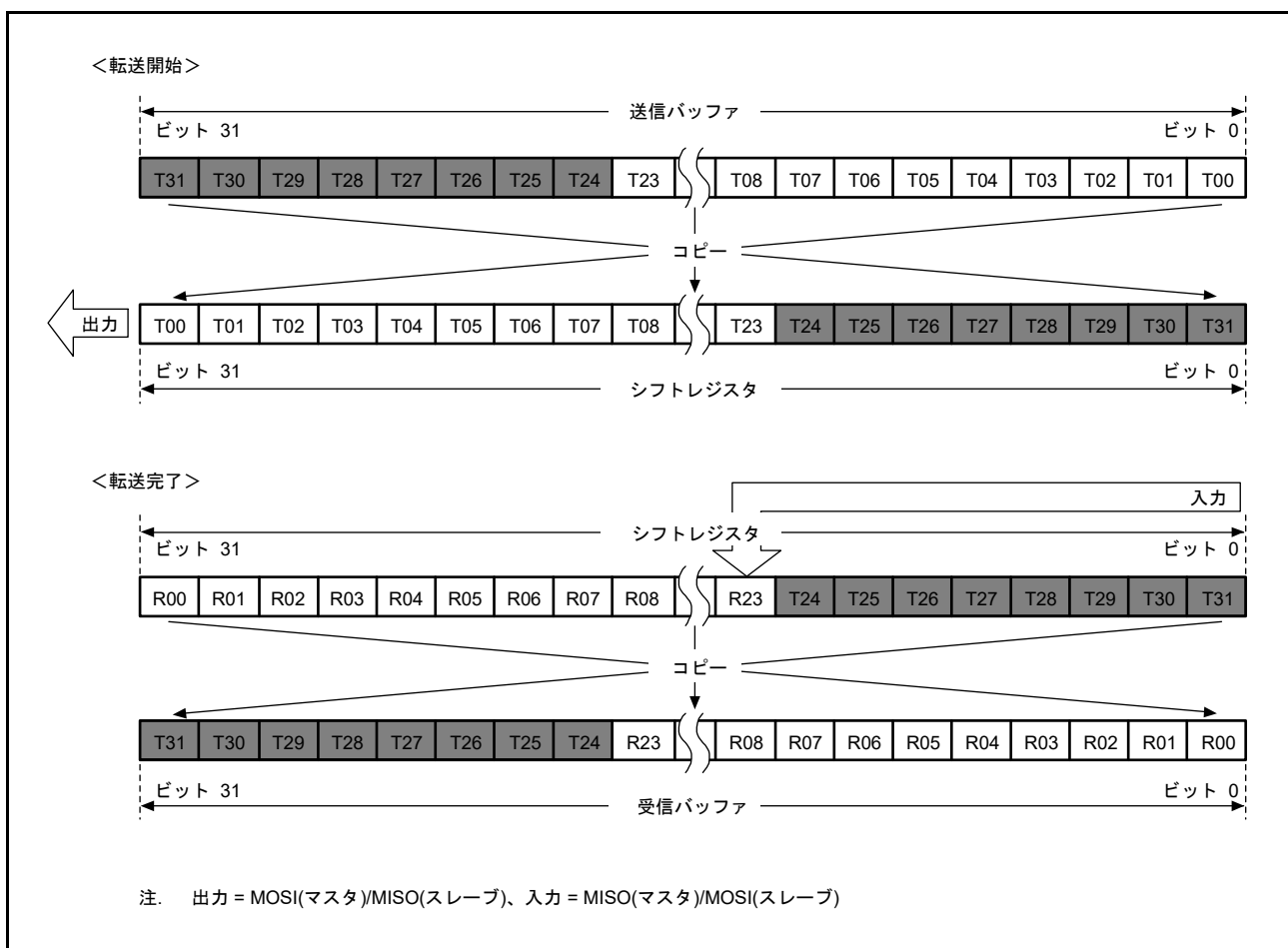


図 30.17 LSB ファースト (24 ビットデータ / パリティ機能無効)

30.3.4.2 パリティ機能有効時 (SPCR2.SPPE = 1)

パリティ機能有効時は、送受信データの最下位ビットをパリティビットに変換します。パリティビットの値は、ハードウェアで計算を行い変換します。

(1) MSB ファースト転送 (32 ビットデータ)

図 30.18 に、パリティ機能有効時、RSPI がデータ長 32 ビットの MSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、最初に T31 ~ T01 までのデータ値より、パリティビット (P) の値を演算し、最終ビットである T00 と置き換え、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T31 → T30 → … → T01 → P の順番に送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R31 ~ P まで受信データがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーすると、R31 ~ P のデータをチェックし、パリティエラーの判定を行います。

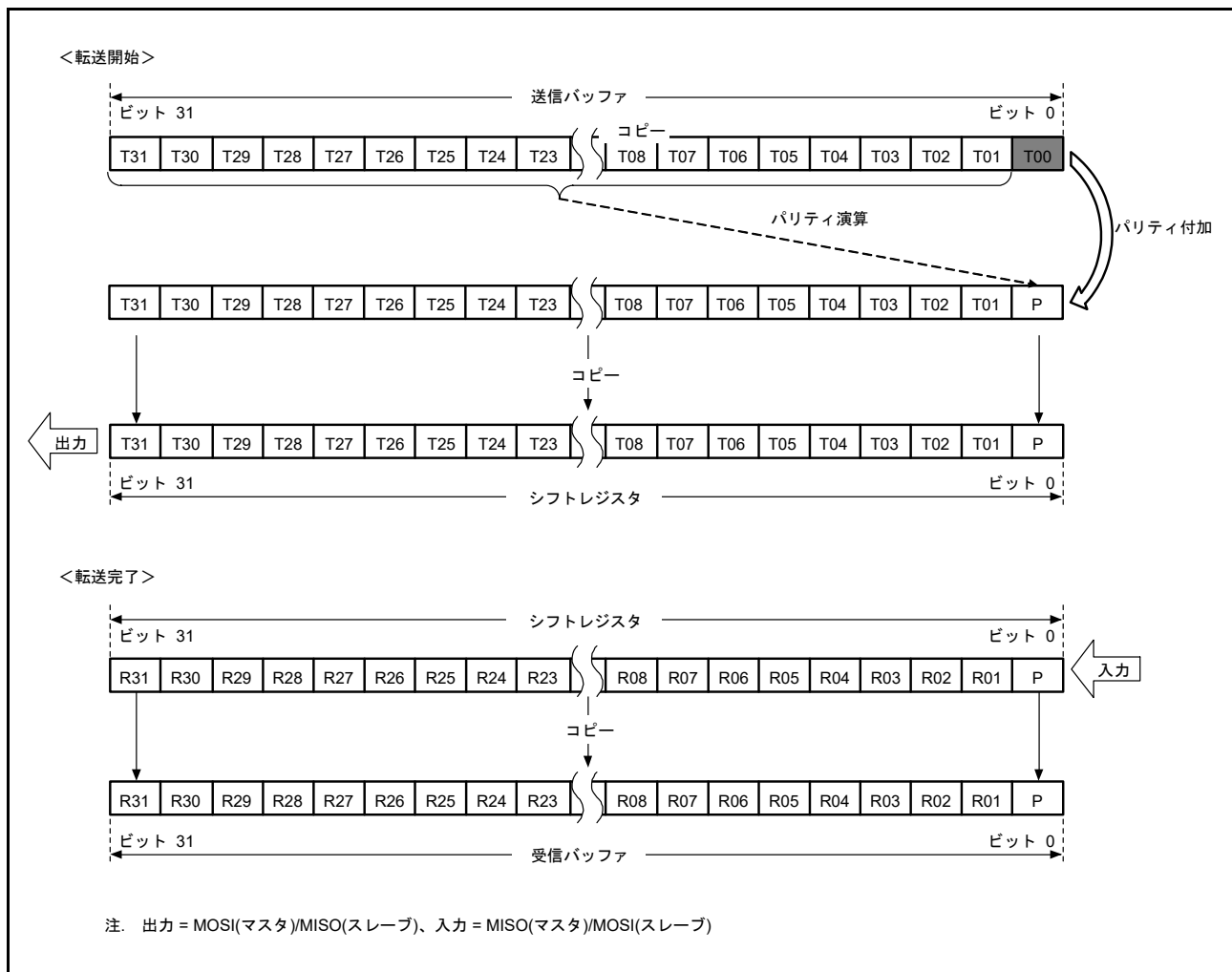


図 30.18 MSB ファースト転送 (32 ビットデータ / パリティ機能有効)

(2) MSB ファースト転送 (24 ビットデータ)

図 30.19 に、RSPI がパリティ機能有効時、32 ビット以外のデータを MSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、最初に T23 ~ T01 までのデータ値より、パリティビット (P) の値を演算し、最終ビットである T00 と置き換え、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T23 → T22 → … → T01 → P の順番に送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R23 ~ P まで受信データがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーすると、R23 ~ P のデータをチェックし、パリティエラーの判定を行います。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時に T31 ~ T24 に“0”を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに“0”を入れることができます。

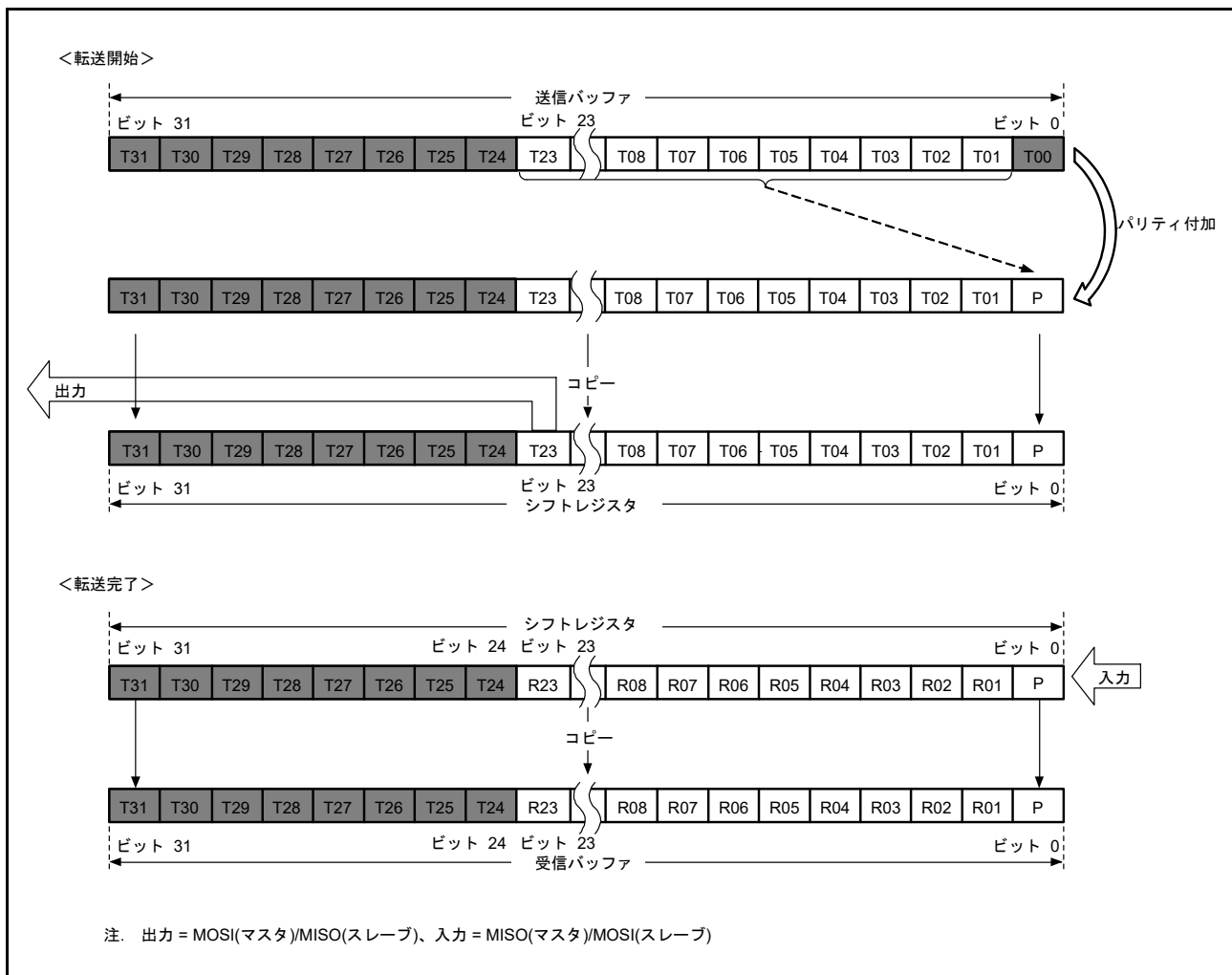


図 30.19 MSB ファースト転送 (24 ビットデータ / パリティ機能有効)

(3) LSB ファースト転送 (32 ビットデータ)

図 30.20 に、RSPI がパリティ機能有効時、データ長 32 ビットの LSB ファースト転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、最初に T30 ~ T00 までのデータ値より、パリティビット (P) の値を演算し、最終ビットである T31 と置き換え、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T00 → T01 → … → T30 → P の順番に送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 0 に格納し、1 データごと受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され R00 ~ P まで受信データがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーすると、R00 ~ P のデータをチェックし、パリティエラーの判定を行います。

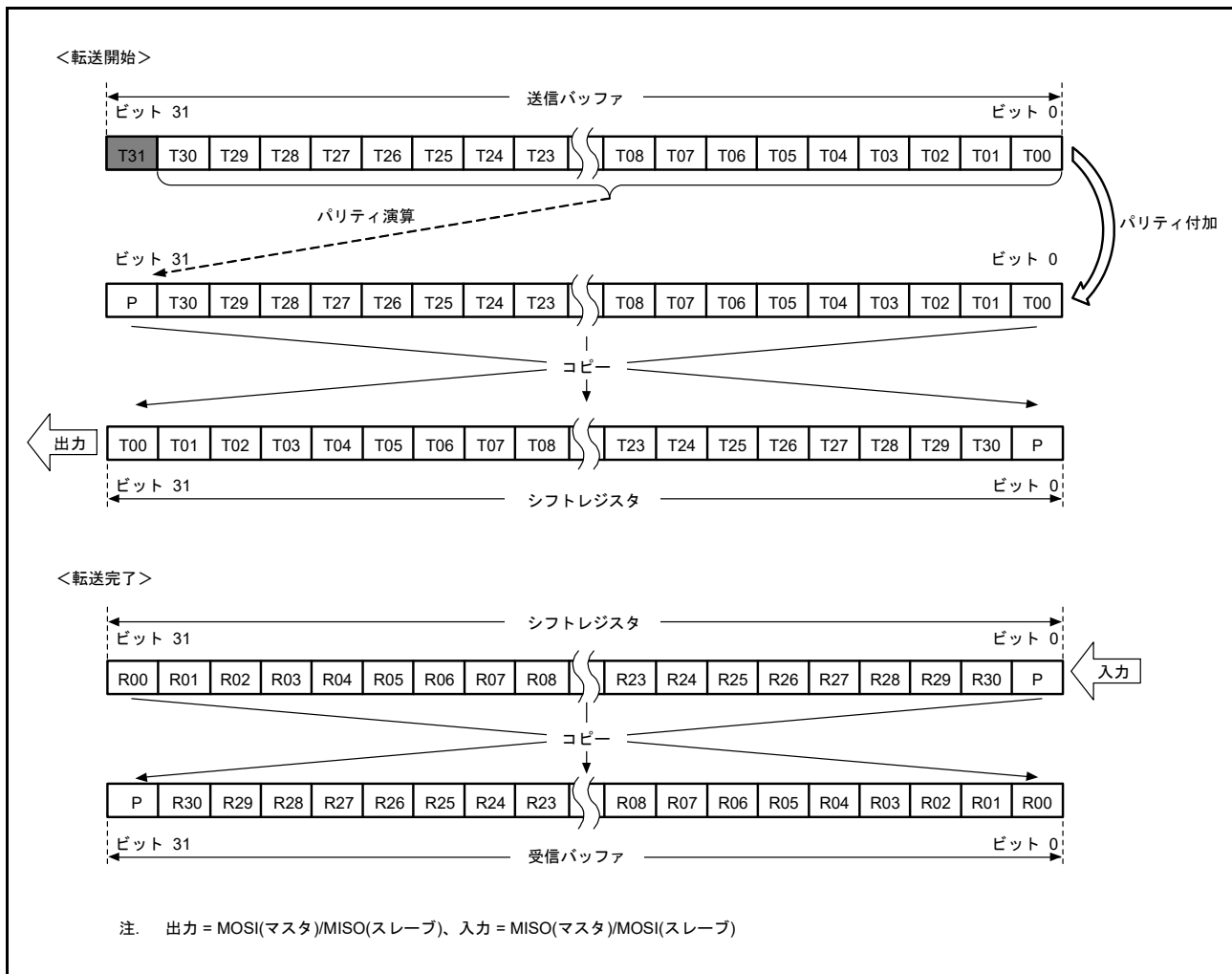


図 30.20 LSB ファースト転送 (32 ビットデータ / パリティ機能有効)

(4) LSB ファースト転送 (24 ビットデータ)

図 30.21 に、RSPI がパリティ機能有効時、32 ビット以外のデータを LSB ファースト転送する例として、24 ビットのデータ転送を実施する場合の RSPI データレジスタ (SPDR) とシフトレジスタの動作内容を示します。

送信時は、最初に T22 ~ T00 までのデータ値より、パリティビット (P) の値を演算し、最終ビットである T23 と置き換え、シフトレジスタにコピーします。送信データは、T00 → T01 → … → T22 → P の順番に送信します。

受信時は、受信データをシフトレジスタのビット 8 に格納し、1 データごとに受信データをシフトします。必要分の RSPCK が入力され、R00 ~ P まで受信データがたまると、シフトレジスタの値を受信バッファにコピーします。シフトレジスタにデータをコピーすると、R00 ~ P のデータをチェックし、パリティエラーの判定を行います。このとき、受信バッファの上位 8 ビットには送信バッファの上位 8 ビットの値が格納されます。送信時に T31 ~ T24 に“0”を書き込んでおくことにより、受信バッファの上位 8 ビットに“0”を入れることができます。

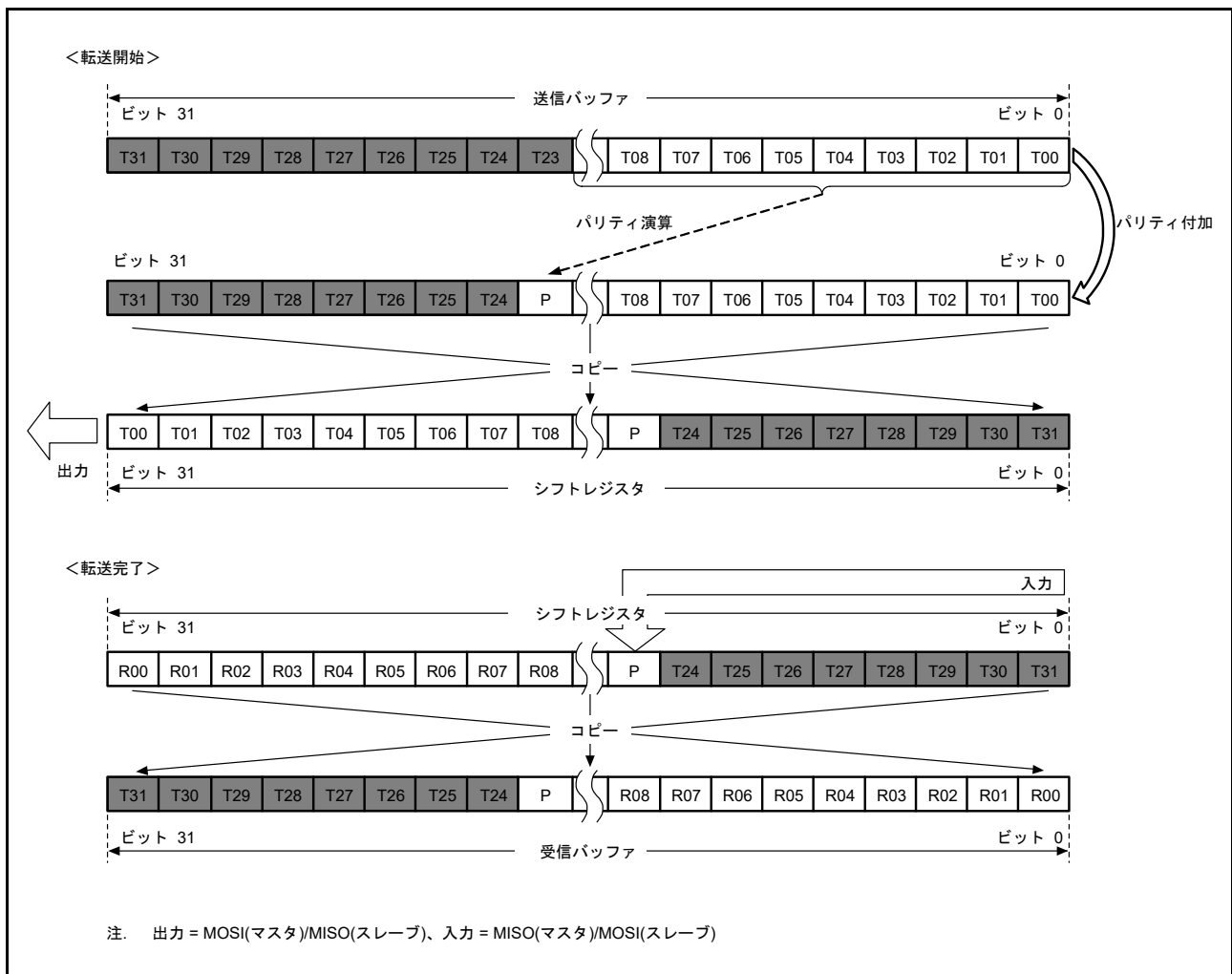


図 30.21 LSB ファースト (24 ビットデータ / パリティ機能有効)

30.3.4.3 バイトスワップ送信

SPDCR2.BYSW ビットが“1”(SPDR のデータをバイト単位でスワップする) のときは、送信バッファ (SPDR) のデータを 8 ビット単位で入れ替えてシフトレジスタに転送します。図 30.22 にデータ長が 32 ビットの場合の SPDR レジスタとシフトレジスタ間のデータ転送の様子を示します。

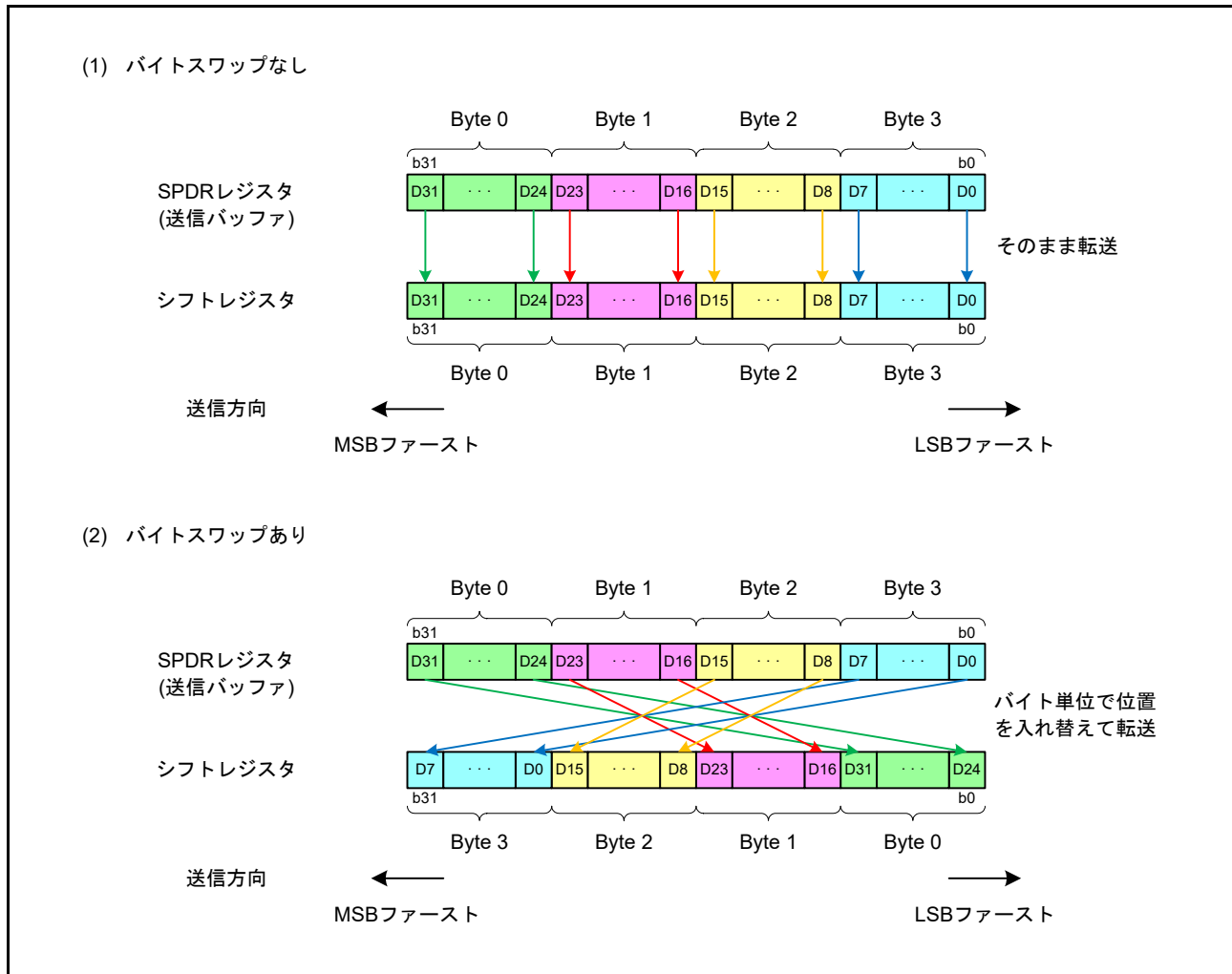


図 30.22 MSB/LSB ファーストとバイトスワップあり/なしの設定と送信データ変換

30.3.4.4 バイトスワップ受信

SPDCR2.BYSW ビットが“1”(SPDR のデータをバイト単位でスワップする) のときは、シフトレジスタのデータを8ビット単位で入れ替えて受信バッファ(SPDR)に転送します。図 30.23 にデータ長が32ビットの場合のシフトレジスタとSPDRレジスタ間のデータ転送の様子を示します。

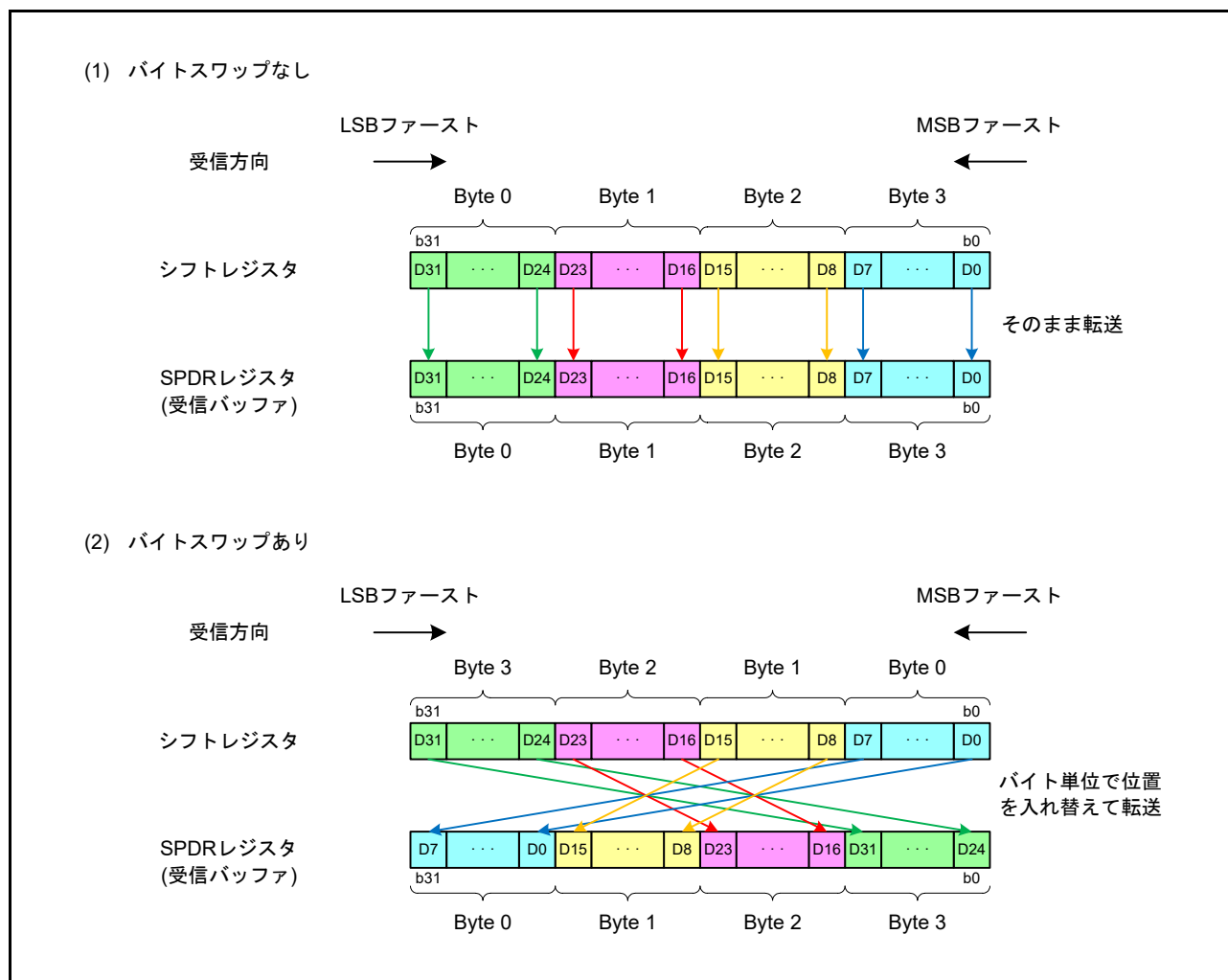


図 30.23 MSB/LSB ファーストとバイトスワップあり/なしの設定と受信データ変換

30.3.5 転送フォーマット

30.3.5.1 CPHA ビット = 0 の場合

図 30.24 に SPCMDm.CPHA ビットが“0”の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。ただし、RSPI がスレーブモード (SPCR.MSTR = 0) で CPHA ビットが“0”の場合のクロック同期式動作 (SPCR.SPMS ビットが“1”の場合) はしないでください。図 30.24 において、RSPCKA (CPOL = 0) は SPCMDm.CPOL ビットが“0”の場合、RSPCKA (CPOL = 1) は SPCMDm.CPOL ビットが“1”の場合の RSPCKA 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。各信号の入出力方向は、RSPI の設定に依存します。詳細は「30.3.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

SPCMDm.CPHA ビットが“0”の場合には、SSLAi 信号のアサートタイミングで、MOSIA 信号と MISOA 信号への有効データのドライブが開始されます。SSLAi 信号のアサート後に発生する最初の RSPCKA 信号変化タイミングが最初の転送データ取り込みタイミングになり、このタイミング以降 1 RSPCK 周期ごとにデータがサンプリングされます。MOSIA 信号と MISOA 信号の変化タイミングは、転送データ取り込みタイミングの 1/2 RSPCK 周期後になります。CPOL ビットの設定値は、RSPCKA 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1 は、SSLAi 信号のアサートから RSPCKA 発振までの期間 (RSPCK 遅延) です。t2 は、RSPCKA 発振停止から SSLAi 信号のネゲートまでの期間 (SSL ネゲート遅延) です。t3 は、シリアル転送終了後に次転送のための SSLAi 信号アサートを抑制するための期間 (次アクセス遅延) です。t1、t2、t3 は、RSPI システム上のマスタデバイスによって制御されます。本 MCU の RSPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、「30.3.11.1 マスタモード動作」を参照してください。

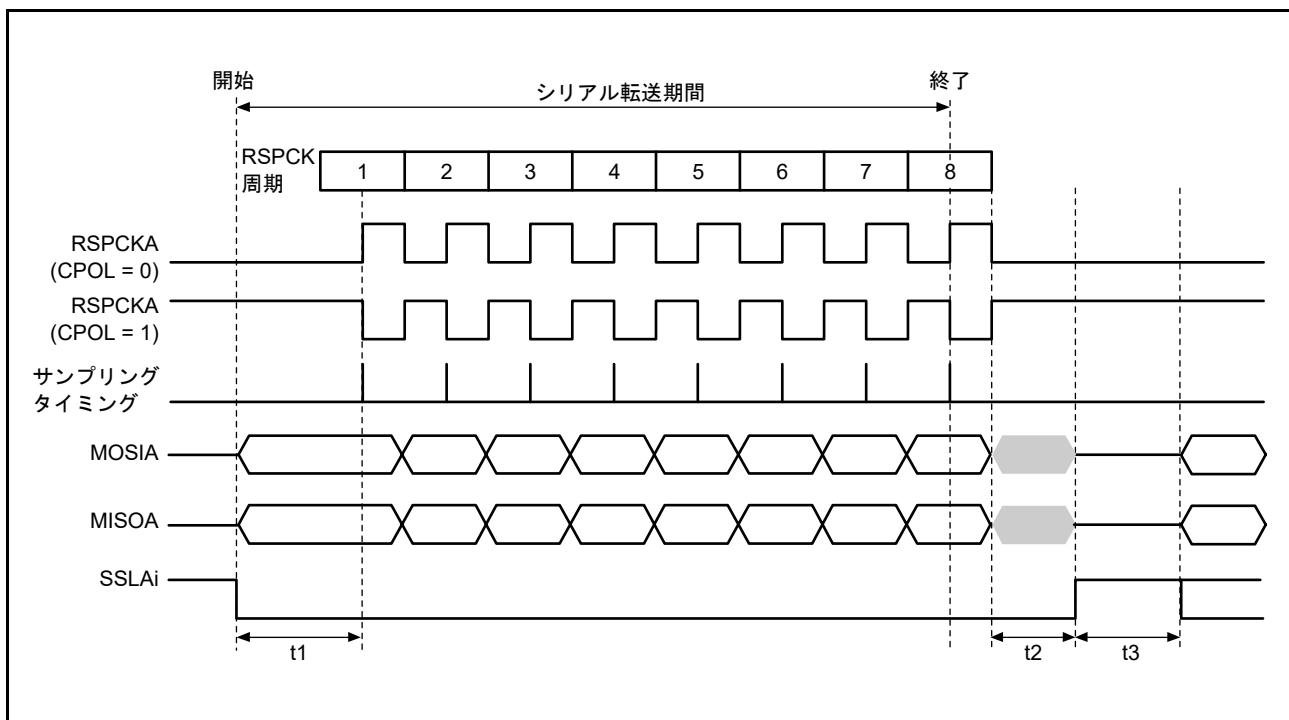


図 30.24 RSPI 転送フォーマット (CPHA ビット = 0)

30.3.5.2 CPHA ビット = 1 の場合

図 30.25 に SPCMDm.CPHA ビットが“1”の場合に、8 ビットのデータをシリアル転送した場合の転送フォーマット例を示します。ただし、SPCR.SPMS ビットが“1”の場合は SSLAi 信号を用いず、RSPCKA 信号、MOSIA 信号、MISOA 信号のみで通信を行います。図 30.25 において、RSPCKA (CPOL = 0) は SPCMDm.CPOL ビットが“0”の場合、RSPCKA (CPOL = 1) は SPCMDm.CPOL ビットが“1”の場合の RSPCKA 信号波形です。サンプリングタイミングは、RSPI がシフトレジスタにシリアル転送データを取り込むタイミングを示しています。各信号の入出力方向は、RSPI のモード(マスタ/スレーブ)に依存します。詳細は「30.3.2 RSPI 端子の制御」を参照してください。

SPCMDm.CPHA ビットが“1”の場合には、SSLAi 信号のアサートタイミングで、MISOA 信号に無効データのドライブが開始されます。SSLAi 信号のアサート後に発生する最初の RSPCKA 信号変化タイミングで、MOSIA 信号と MISOA 信号への有効データへの出力が開始され、このタイミング以降 1 RSPCK 周期ごとにデータが更新されます。転送データの取り込みは、このタイミングの 1/2 RSPCK 周期後になります。SPCMDm.CPOL ビットの設定値は RSPCKA 信号の動作タイミングには影響を与えず、信号極性のみに影響を与えます。

t1、t2、t3 の内容は、CPHA ビット = 0 の場合と同様です。本 MCU の RSPI がマスタモードである場合の t1、t2、t3 については、「30.3.11.1 マスタモード動作」を参照してください。

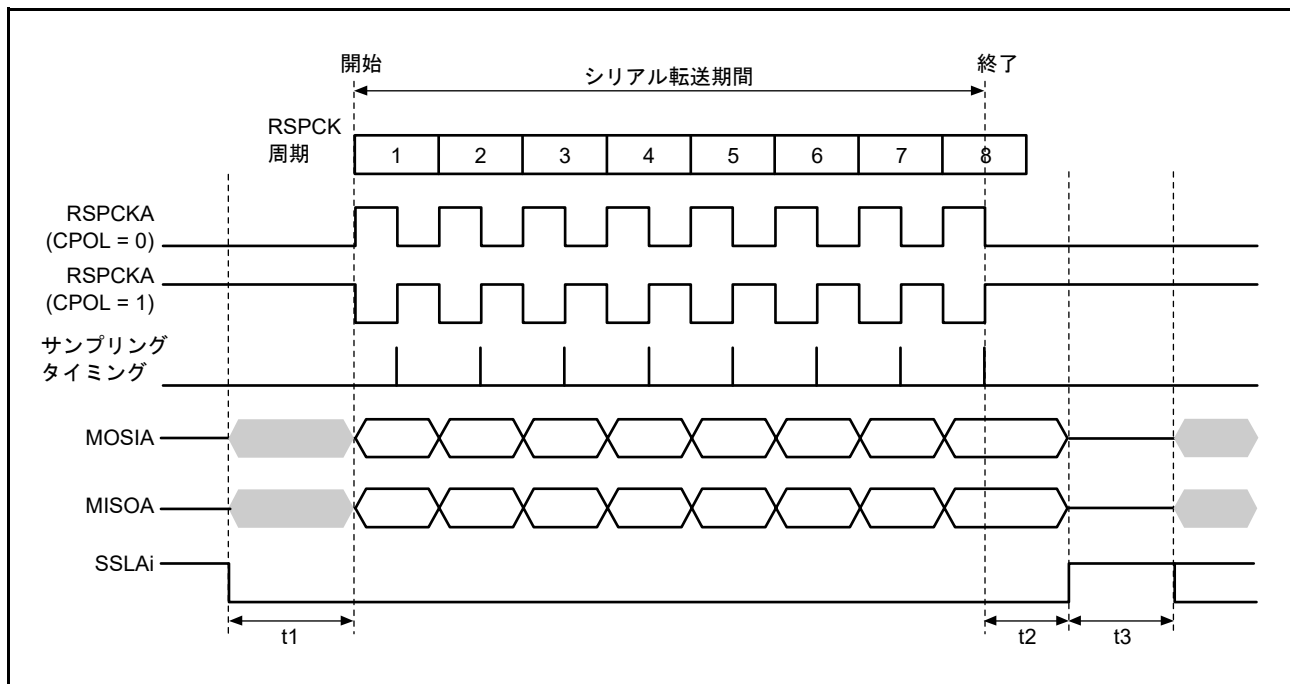


図 30.25 RSPI 転送フォーマット (CPHA ビット = 1)

30.3.6 通信動作モード

SPCR.TXMD ビットの設定により、全二重通信または送信のみの単方向通信を選択します。

図 30.26、図 30.27 に記載した“SPDR アクセス”は、SPDR レジスタへのアクセス状況を示しています。“W”は書き込みサイクルを示しています。

30.3.6.1 全二重通信 (SPCR.TXMD = 0)

図 30.26 に、SPCR.TXMD ビットを“0”にした場合の動作例を示します。図 30.26 の例では、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが“00b”、SPCMDm.CPHA ビットが“1”、SPCMDm.CPOL ビットが“0”の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKA 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (= 転送ビット数) を示しています。

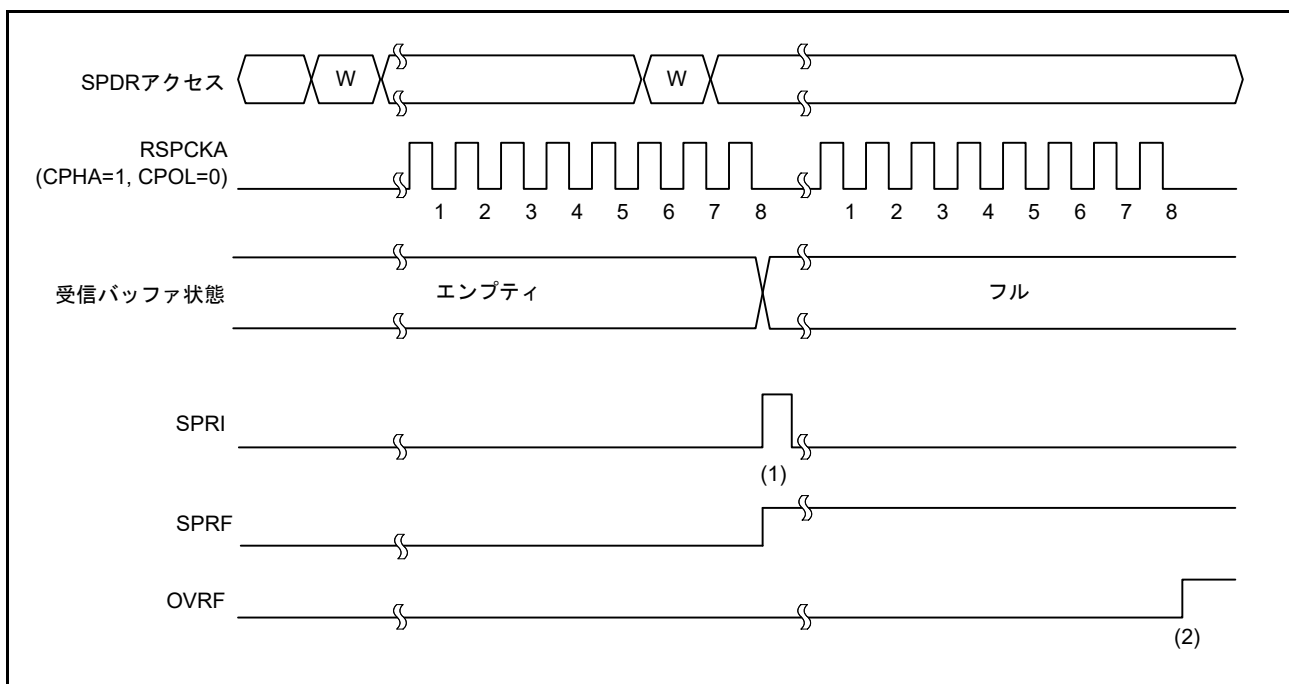


図 30.26 SPCR.TXMD = 0 の動作例

以下に、図中の (1)、(2) に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

- (1) SPDR レジスタの受信バッファが空の状態ですerial転送が終了すると、RSPI は受信バッファフル割り込み要求 (SPRI) を生成 (SPSR.SPRF フラグを“1”) してシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーします。
- (2) SPDR レジスタの受信バッファに以前の受信データがある状態でシリアル転送が終了すると、RSPI は SPSR.OVRF フラグを“1”にしてシフトレジスタの受信データを破棄します。

全二重通信時 (SPCR.TXMD = 0) は、送信と同時に受信も行います。そのため、SPSR.SPRF、OVRF フラグは受信バッファの状態に応じて、それぞれ (1)、(2) のタイミングで“1”になります。

30.3.6.2 送信のみの単方向通信 (SPCR.TXMD = 1)

図 30.27 に、SPCR.TXMD ビットを“1”にした場合の動作例を示します。図 30.27 の例では、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが“00b”、SPCMDm.CPHA ビットが“1”、SPCMDm.CPOL ビットが“0”の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKA 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (= 転送ビット数) を示しています。

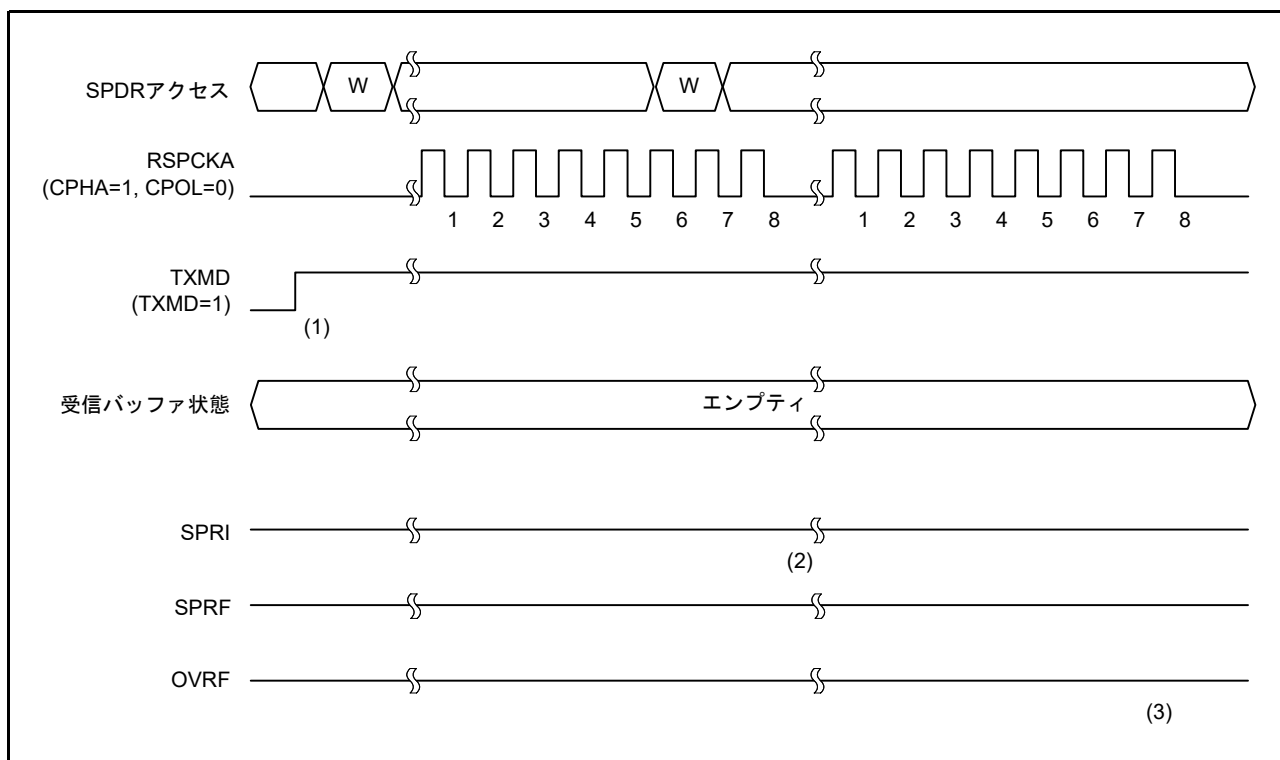


図 30.27 SPCR.TXMD = 1 の動作例

以下に、図中の (1)、(2)、(3) に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

- (1) 送信のみの単方向通信 (SPCR.TXMD = 1) への遷移は、受信バッファにデータが残っていないこと、SPSR.SPRF、OVRF フラグが“0”であることを確認してから、行ってください。
- (2) SPDR レジスタの受信バッファが空の状態ではシリアル転送が終了すると、送信のみの単方向通信 (SPCR.TXMD = 1) のときは、SPRF フラグは“0”を維持し、シフトレジスタのデータを受信バッファへコピーしません。
- (3) SPDR レジスタの受信バッファに以前の受信データは存在しないため、シリアル転送が終了しても、SPSR.OVRF フラグは“0”を保持し、シフトレジスタのデータを受信バッファへコピーしません。

送信のみの単方向通信時 (SPCR.TXMD = 1) は、データ送信を実施するだけで、受信は行いません。そのため、SPSR.SPRF、OVRF フラグは (1)、(2)、(3) いずれのタイミングでも“0”を保持します。

30.3.7 送信バッファエンプティ / 受信バッファフル割り込み

図 30.28 に送信バッファエンプティ割り込み (SPTI) と受信バッファフル割り込み (SPRI) の動作例を示します。図 30.28 に記載した“SPDR アクセス”は、SPDR レジスタへのアクセス状況を示しています。“W”は書き込みサイクル、“R”は読み出しサイクルを示しています。図 30.28 の例では、SPCR.TXMD ビットが“0”、SPDCR.SPFC[1:0] ビットが“00b”、SPCMDm.CPHA ビットが“1”、SPCMDm.CPOL ビットが“0”の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKA 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (= 転送ビット数) を示しています。

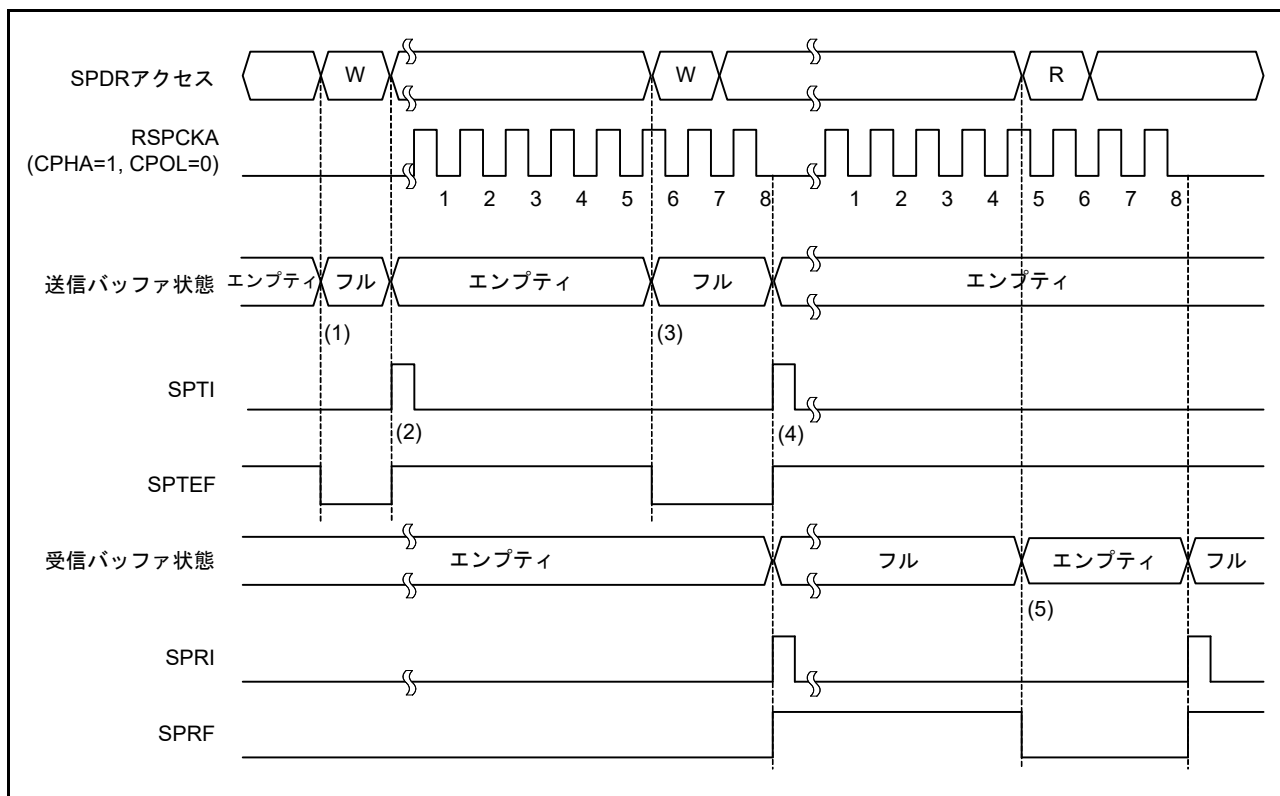


図 30.28 SPTI、SPRI 割り込みの動作例

以下に、図中の (1) ~ (5) に示したタイミングでの割り込みの動作内容を説明します。

- (1) SPDR レジスタの送信バッファが空の (次転送のデータがセットされていない) 状態で、SPDR レジスタに送信データを書き込むと、RSPI は送信バッファにデータを書き込み、SPSR.SPTEF フラグを“0”にします。
- (2) シフトレジスタが空の場合には、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーして送信バッファエンプティ割り込み要求 (SPTI) を生成し、SPSR.SPTEF フラグを“1”にします。なお、シリアル転送の開始方法は、RSPI のモードに依存します。(「30.3.11 SPI 動作」、「30.3.12 クロック同期式動作」参照)
- (3) 送信バッファエンプティ割り込みルーチンまたは SPTEF フラグによる送信バッファエンプティ判定処理で、SPDR レジスタに送信データを書き込むと、送信バッファにデータが転送され、SPSR.SPTEF フラグが“0”になります。シフトレジスタにはシリアル転送中のデータが格納されているため、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしません。
- (4) SPDR レジスタの受信バッファが空の状態ではシリアル転送が終了すると、RSPI はシフトレジスタの受信データを受信バッファにコピーし、受信バッファフル割り込み要求 (SPRI) を生成し、SPSR.SPRF フラグを“1”にします。また、シリアル転送が終了するとシフトレジスタが空になるため、シリアル転送が終了する前に送信バッファがフルであった場合には、RSPI が SPSR.SPTEF フラグを“1”にして送信

バッファのデータをシフトレジスタにコピーします。なお、オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了すると RSPI はシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。

- (5) 受信バッファフル割り込みルーチンまたは SPRF フラグによる受信バッファフル判定処理で、SPDR レジスタを読み出すと、受信データが読み出せます。受信データを読み出すと、SPRF フラグが“0”になります。

送信バッファに未送信のデータがある状態 (SPTEF フラグが“0”) で、SPDR レジスタに送信データを書き込んだ場合には、RSPI は送信バッファのデータを更新しません。SPDR レジスタに送信データを書き込む場合には、送信バッファエンpty割り込みルーチンまたは SPTEF フラグによる送信バッファエンpty判定処理で行ってください。また、送信バッファエンpty割り込みを利用する場合には、SPCR の SPTIE ビットを“1”にしてください。

SPCR.SPE ビットを“0” (RSPI 機能は無効) にするときは、SPCR.SPTIE ビットも同時に“0”にしてください。SPCR.SPE ビットが“0”のときに SPCR.SPTIE ビットが“1”であると、送信バッファエンpty割り込み要求が発生します。

受信バッファフル (SPRF フラグが“1”) の状態で、シリアル転送が終了した場合には、RSPI はシフトレジスタから受信バッファへのデータのコピーを行わず、オーバランエラーを検出します (「30.3.9 エラー検出」参照)。受信データのオーバランを防ぐために、受信バッファフル割り込み要求で、次のシリアル転送終了よりも前に受信データを読み出してください。また受信バッファフル割り込みを利用する場合には、SPCR.SPRIE ビットを“1”にしてください。

送信 / 受信バッファの状態は、送信 / 受信割り込み、または対応する ICU の IRn.IR フラグ (n = 割り込みベクタ番号) によって確認することができます。割り込みベクタ番号については、「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。また、SPTEF フラグ / SPRF フラグによって確認することもできます。

30.3.8 アイドル割り込み

SPCR2.SPIIE ビットが“1”のときに SPSR.IDLNF フラグが“0”になると、アイドル割り込み要求 (SPII) が発生します。

マスタモード時は送信開始前も IDLNF フラグが“0”なので、このときにアイドル割り込みが発生しないように、送信バッファにデータを書いて IDLNF フラグが“1”になった後に SPIIE ビットを“1”にしてください。送信完了後 SSLA0 信号がネゲートされ、次アクセス遅延 (t3) 時間が経過するまで次のデータを供給しなければ、IDLNF フラグが“0”になります。

30.3.9 エラー検出

通常のRSPIのシリアル転送では、SPDRレジスタの送信バッファに書き込んだデータが送信され、受信されたデータをSPDRレジスタの受信バッファから読み出すことができます。SPDRレジスタへアクセスした場合の送受信バッファの状態やシリアル転送の開始/終了時のRSPIの状態によっては、通常以外の転送が実行される場合があります。

一部の通常以外の転送動作が発生した場合には、RSPIはオーバランエラー、アンダランエラー、パリティエラーまたはモードフォルトエラーとして検出します。表30.7に、通常以外の転送動作とRSPIのエラー検出機能の関係を示します。

表30.7 通常以外の転送の発生条件とRSPIのエラー検出機能

	発生条件	RSPI動作	エラー検出
1	送信バッファフルの状態ですPDRレジスタを書き込み	<ul style="list-style-type: none"> 送信バッファ内容を保持 書き込みデータ欠落 	なし
2	受信バッファエンプティの状態ですPDRレジスタを読み出し	受信が完了していれば受信したデータ、完了していなければ前回受信したデータをパスに出カ	なし
3	スレーブモード時、送信データがシフトレジスタに転送されていない状態でシリアル転送開始	シリアル転送を中断 送受信データ欠落 MISO端子のドライブ停止 RSPI機能を無効に設定	アンダランエラー検出
4	受信バッファフルの状態です、シリアル転送が終了	受信バッファ内容を保持 受信データ欠落	オーバランエラー検出
5	全二重通信時に、パリティ機能が有効な状態で誤ったパリティビットを受信	パリティエラーフラグのセット	パリティエラー検出
6	マルチマスタモードでシリアル転送アイドル時にSSLA0入力信号がアサート	<ul style="list-style-type: none"> RSPCKA、MOSIA、SSLA1～3出力信号のドライブ停止 RSPI機能は無効 	モードフォルトエラー検出
7	マルチマスタモードでシリアル転送中にSSLA0入力信号がアサート	<ul style="list-style-type: none"> シリアル転送を中断 送受信データ欠落 RSPCKA、MOSIA、SSLA1～3出力信号のドライブ停止 RSPI機能は無効 	モードフォルトエラー検出
8	スレーブモードでシリアル転送中にSSLA0入力信号がネゲート	<ul style="list-style-type: none"> シリアル転送中断 送受信データ欠落 MISO出力信号のドライブ停止 RSPI機能は無効 	モードフォルトエラー検出

表30.7の1に示した動作に対しては、RSPIはエラーを検出しません。SPDRレジスタへの書き込み時にデータを欠落させないために、送信バッファエンプティ割り込み要求発生時、またはSPSR.SPTEFフラグが“1”のときにSPDRレジスタへの書き込みを実施してください。

2に示した動作に対しても、RSPIはエラーを検出しません。不要なデータを読み出さないようにするためには、受信バッファフル割り込み要求発生時、またはSPSR.SPRFフラグが“1”のときにSPDRレジスタの読み出しを実行するようにしてください。

3に示したアンダランエラーについては「30.3.9.4 アンダランエラー」で、4に示したオーバランエラーについては「30.3.9.1 オーバランエラー」で、5に示したパリティエラーについては「30.3.9.2 パリティエラー」で説明します。また、6～8に示したモードフォルトエラーについては「30.3.9.3 モードフォルトエラー」で説明します。

なお、送受信の割り込みについては、「30.3.7 送信バッファエンプティ/受信バッファフル割り込み」を参照してください。

30.3.9.1 オーバランエラー

SPDR レジスタの受信バッファフル状態でシリアル転送が終了すると、RSPI はオーバランエラーを検出して SPSR.OVRF フラグを“1”にします。OVRF フラグが“1”の状態では、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信バッファにはエラー発生前のデータが保持されます。OVRF フラグを“0”にするためには、OVRF フラグが“1”にセットされた状態の SPSR レジスタを読み出した後に、OVRF フラグに“0”を書く必要があります。

図 30.29 に、SPRF フラグと OVRF フラグの動作を示します。図 30.29 に記載した“SPSR アクセス”と“SPDR アクセス”は、それぞれ SPSR、SPDR レジスタへのアクセス状況を示しています。“W”は書き込みサイクル、“R”は読み出しサイクルを示しています。図 30.29 の例では、SPCMDm.CPHA ビットが“1”、SPCMDm.CPOL ビットが“0”の設定で、RSPI が 8 ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKA 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数 (= 転送ビット数) を示しています。

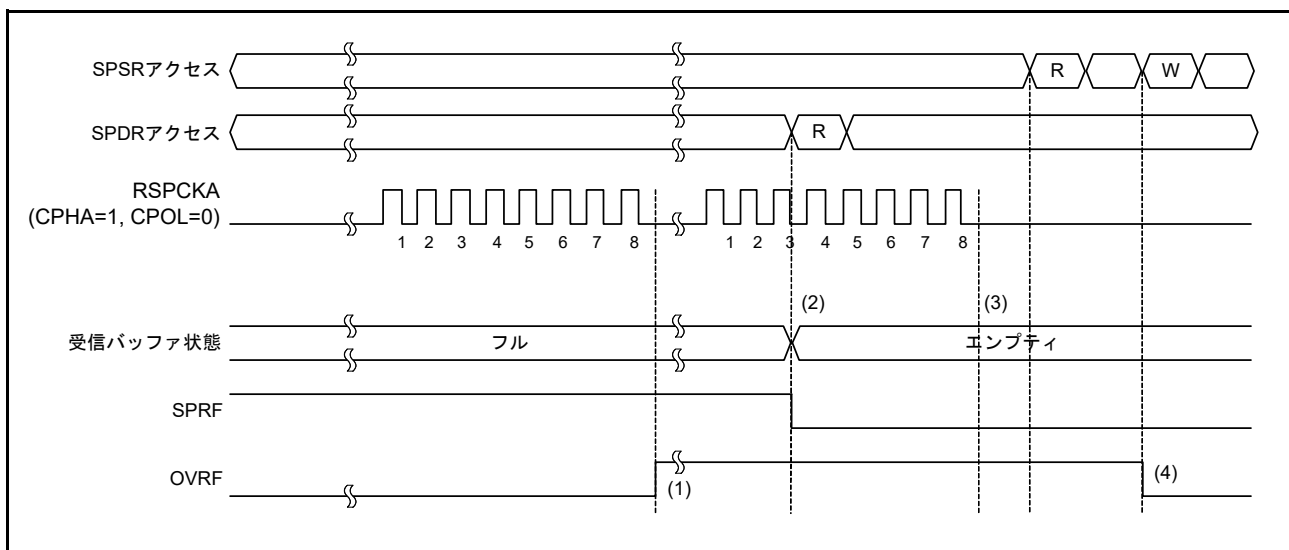


図 30.29 SPRF フラグと OVRF フラグの動作例

以下に、図中の (1) ~ (4) に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

- (1) 受信バッファフル (SPRF フラグが“1”) の状態でシリアル転送が終了すると、RSPI がオーバランエラーを検出し、OVRF フラグを“1”にします。RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。また、SPPE ビットが“1”であっても、パリティエラーの検出は行いません。マスタモードの場合には、SPSSR.SPECM[2:0] ビットに、SPCMDm レジスタに対するポインタの値をコピーします。
- (2) SPDR レジスタを読み出すと、RSPI は受信バッファのデータが読み出せます。このとき SPRF フラグは“0”になります。受信バッファが空になっても、OVRF フラグは“0”になりません。
- (3) OVRF フラグが“1”の状態 (オーバランエラー) でシリアル転送が終了した場合には、RSPI はシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません (SPRF フラグは“0”のままです)。受信バッファフル割り込みも発生しません。また、SPPE ビット“1”であってもパリティエラーの検出は行いません。マスタモードの RSPI の場合に、RSPI は SPECM[2:0] ビットを更新しません。オーバランエラー発生状態で、シフトレジスタから受信バッファへ受信データをコピーしなかった場合でも、シリアル転送が終了すると RSPI はシフトレジスタを空であると判定し、送信バッファからシフトレジスタへのデータ転送は可能な状態になります。
- (4) OVRF フラグが“1”の状態 で SPSR レジスタを読んだ後、OVRF フラグに“0”を書くと、RSPI は OVRF フラグを“0”にします。

オーバランの発生は、SPSR レジスタの読み出しあるいはエラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しに

よって確認できます。シリアル転送を実行する場合には、SPDR レジスタの読み出し直後に SPSR レジスタを読み出すなどの方法で、オーバーランエラー発生を早期に検出できるように対処してください。RSPI をマスタモードで使用する場合、SPSSR.SPECM[2:0] ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMDm レジスタに対するポインタ値を確認できます。

オーバーランエラーが発生して OVRF フラグが“1”になると、OVRF フラグが“0”になるまで正常な受信動作ができなくなります。

マスタモードで RSPCK 自動停止機能を有効にした場合は、オーバーランエラーが発生しません。図 30.30、図 30.31 にマスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形を示します。

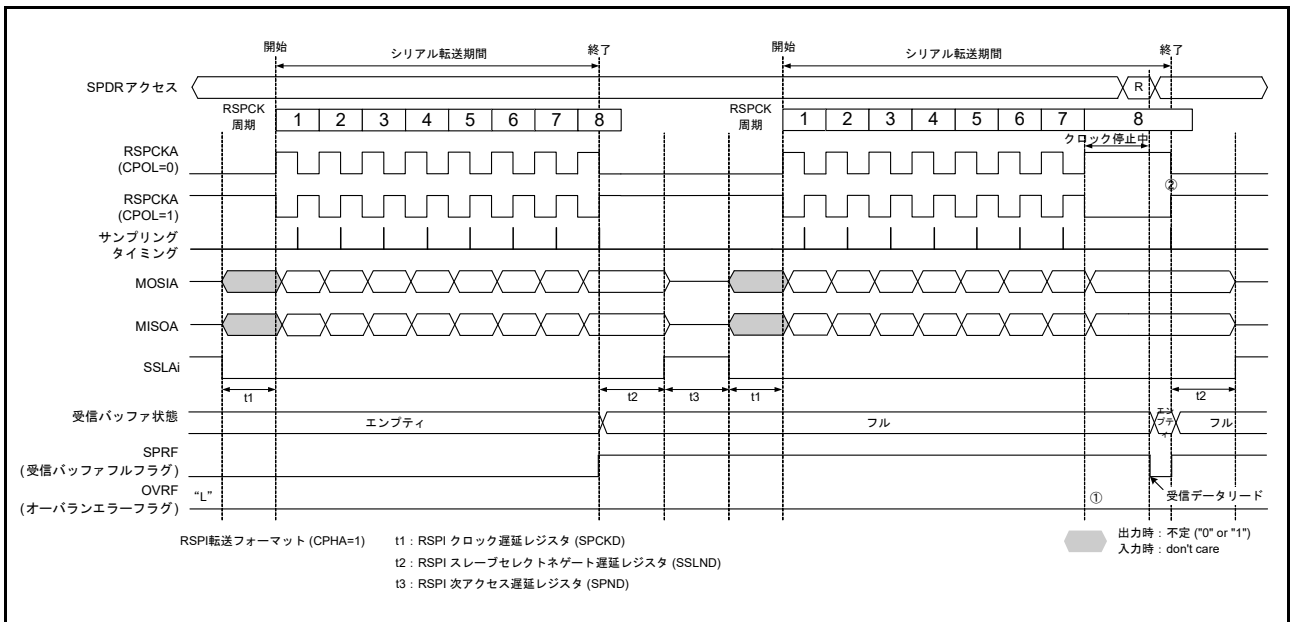


図 30.30 マスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形 (CPHA = 1)

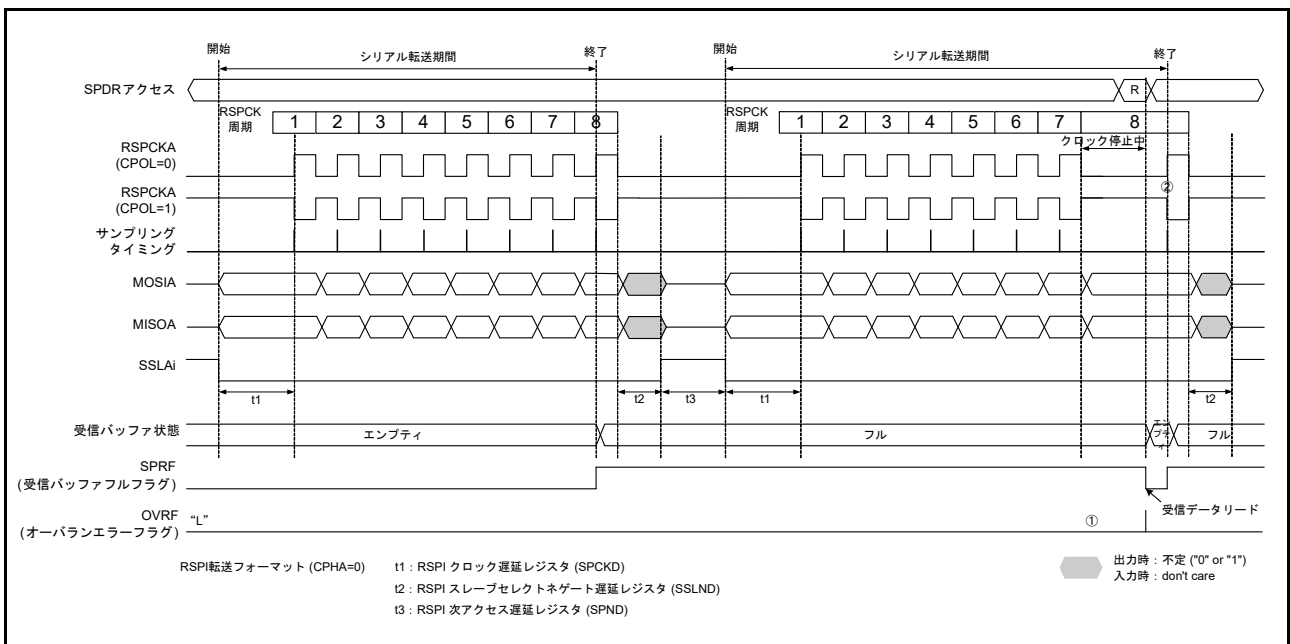


図 30.31 マスタモードの受信バッファフル状態でシリアル転送が継続するときのクロック停止波形 (CPHA = 0)

以下に、図中の (1)、(2) に示したタイミングでのフラグ動作を説明します。

- (1) 受信バッファフルの場合は、RSPCK クロックが停止するためオーバーランエラーは発生しません。
- (2) クロック停止中に SPDR を読み出すと、受信バッファのデータが読み出せます。受信バッファの読み出し後 (SPRF フラグが“0”になった後)、RSPCK クロックが再開します。

30.3.9.2 パリティエラー

SPCR.TXMD ビットが“0”、SPCR2.SPPE ビットが“1”の状態ですべての二重通信を行い、転送が終了すると、パリティエラーの判定を行います。RSPIは、受信データにパリティエラーを検出すると、SPSR.PERF フラグを“1”にします。SPSR.OVRF フラグが“1”の状態では、RSPIはシフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしないので、受信データに対するパリティエラーの検出は行いません。PERF フラグを“0”にするためには、PERF フラグが“1”の状態のSPSRレジスタを読んだ後、PERF フラグに“0”を書く必要があります。

図 30.32 に、OVRF フラグと PERF フラグの動作を示します。図 30.32 に記載した“SPSR アクセス”は、SPSR レジスタへのアクセス状況を示しています。“W”は書き込みサイクル、“R”は読み出しサイクルを示しています。図 30.32 の例では、SPCR.TXMD ビットが“0”、SPCR2.SPPE ビットが“1”の状態ですべての二重通信を行っています。SPCMDm.CPHA ビットが“1”、SPCMDm.CPOL ビットが“0”の設定で、RSPIが8ビットのシリアル転送を実行しています。RSPCKA 波形の下に記載した数字は RSPCK サイクル数(=転送ビット数)を示しています。

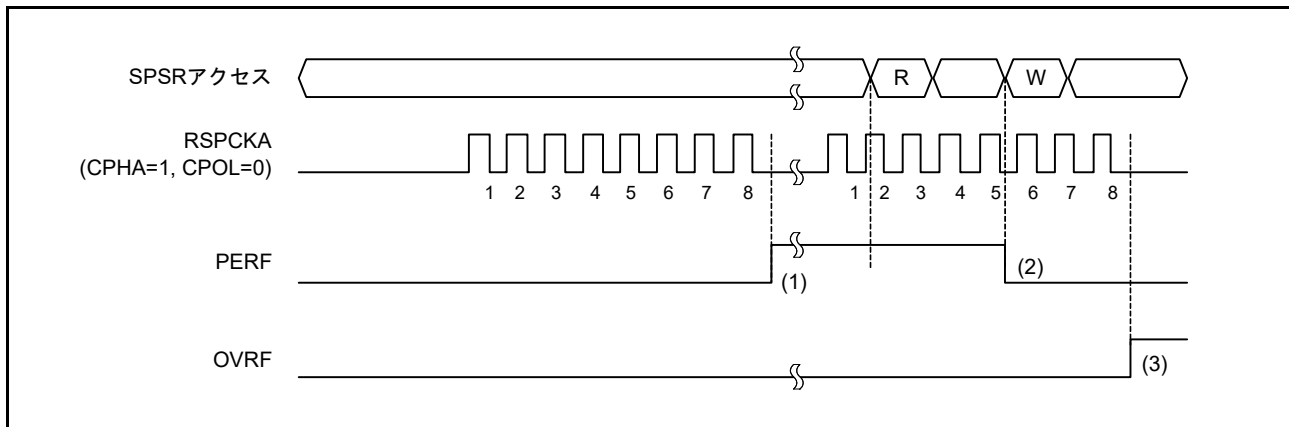


図 30.32 PERF フラグの動作例

以下に、図中の(1)～(3)に示したタイミングでのフラグの動作内容を説明します。

- (1) RSPIがオーバーランエラーを検出せず、シリアル転送が終了すると、シフトレジスタのデータを受信バッファにコピーします。このとき、RSPIが受信データを判定し、パリティエラーを検出すると PERF フラグを“1”にします。マスタモードの場合には、SPSSR.SPECM[2:0] ビットに、SPCMDm レジスタに対するポインタの値をコピーします。
- (2) PERF フラグが“1”の状態ですべてのSPSRレジスタを読んだ後、PERF フラグに“0”を書くと、PERF フラグが“0”になります。
- (3) RSPIがオーバーランエラーを検出し、シリアル転送が終了すると、シフトレジスタのデータを受信バッファにコピーしません。このとき、RSPIはパリティエラーを検出しません。

パリティエラーの発生は、SPSR レジスタの読み出し、あるいはエラー割り込みと SPSR レジスタの読み出しによって確認できます。シリアル転送を実行する場合には、SPSR フラグを読み出すなどの方法で、パリティエラー発生を早期に検出できるように対処してください。RSPIをマスタモードで使用する場合、SPSSR.SPECM[2:0] ビットを読み出すことで、エラー発生時の SPCMDm レジスタに対するポインタ値を確認できます。

30.3.9.3 モードフォルトエラー

SPCR.MSTR ビットが“1”、SPCR.SPMS ビットが“0”、SPCR.MODFEN ビットが“1”の場合には、RSPIはマルチマスタモードで動作します。マルチマスタモードのRSPIのSSLA0入力信号に対してアクティブレベルが入力されると、シリアル転送状態にかかわらず、RSPIはモードフォルトエラーを検出してSPSR.MODFフラグを“1”にします。モードフォルトエラーを検出すると、RSPIはSPSSR.SPECM[2:0]ビットに、SPCMDmレジスタに対するポインタの値をコピーします。なお、SSLA0信号のアクティブレベルは、SSLP.SSLOPビットによって決定されます。

MSTRビットが“0”の場合には、RSPIはスレーブモードで動作します。スレーブモードのRSPIのMODFENビットが“1”、SPMSビットが“0”の場合、シリアル転送期間(有効データのドライブ開始から最終有効データの取り込みまで)にSSLA0入力信号がネゲートされると、RSPIはモードフォルトエラーを検出します。

RSPIはモードフォルトエラーを検出すると、出力信号のドライブ停止およびSPCR.SPEビットのクリアを実施します(「30.3.10 RSPIの初期化」を参照)。マルチマスタ構成の場合には、モードフォルトエラーを利用して出力信号のドライブとRSPI機能を停止させ、マスタ権の解放を実現できます。

モードフォルトエラーの発生は、SPSRレジスタの読み出し、あるいはエラー割り込みとSPSRレジスタの読み出しによって確認できます。エラー割り込みを利用せずにモードフォルトエラーを検出するためには、SPSRレジスタをポーリングする必要があります。RSPIをマスタモードで使用する場合、SPSSR.SPECM[2:0]ビットを読み出すことで、エラー発生時のSPCMDmレジスタに対するポインタ値を確認できます。

MODFフラグが“1”の状態では、RSPIはSPEビットへの“1”の書き込みを無視します。モードフォルトエラー検出後にRSPI機能を有効にするためには、MODFフラグを“0”にしてください。MODFフラグを“0”にすると、SPEビットは“1”になります。

30.3.9.4 アンダランエラー

RSPIがスレーブモード(SPCR.MSTRビットが“0”)で動作している場合、SPCR.SPEビットが“1”(RSPI機能は有効)、かつ送信データをシフトレジスタにセットしていない状態でシリアル転送が開始されると、RSPIはアンダランエラーを検出してSPSRレジスタのMODFフラグとUDRFフラグを“1”にします。

RSPIはアンダランエラーを検出すると、出力信号のドライブを停止しSPEビットを“0”にします。SPEビットが“0”になるとRSPI機能は無効となります(「30.3.10 RSPIの初期化」を参照)。

アンダランエラーの発生は、SPSRレジスタの読み出し、あるいはエラー割り込みとSPSRレジスタの読み出しによって確認できます。エラー割り込みを利用せずにアンダランエラーを検出する場合、SPSRレジスタをポーリングする必要があります。

MODFフラグが“1”のとき、RSPIはSPEビットへの“1”書き込みを無視します。アンダランエラー検出後にRSPI機能を有効にするには、MODFフラグを“0”にしてください。MODFフラグを“0”にすると、SPEビットは“1”になります。

30.3.10 RSPIの初期化

SPCR.SPE ビットに“0”を書いた場合、またはモードフォルトエラーやアンダランエラー検出により RSPI が SPE ビットを“0”にした場合には、RSPI は RSPI 機能を無効化し、モジュール機能の一部を初期化します。また、システムリセットが発生した場合には、RSPI はモジュール機能をすべて初期化します。以下に、SPCR.SPE ビットを“0”にすることによる初期化とシステムリセットによる初期化について説明します。

30.3.10.1 SPE ビットのクリアによる初期化

SPCR.SPE ビットを“0”にしたとき、RSPI は以下に示す初期化を実施します。

- 実行中の送受信を中断
- スレーブモードの場合、出力信号のドライブ停止 (Hi-Z)
- RSPI 内部ステータスの初期化
- RSPI 送信バッファを空にする (SPTEF フラグを“1”にする)

SPE ビットを“0”にする初期化では、RSPI の制御ビットは初期化されません。このため、再度 SPE ビットを“1”にすれば初期化前と同じ転送モードで RSPI を起動できます。

SPSR.SPRF、UDRF、PERF、MODF、OVRF フラグの値は初期化されません。また、SPSSR レジスタの値も初期化されません。このため、RSPI の初期化後も受信バッファのデータの読み出し、RSPI 転送時のエラー発生状況の確認ができます。

送信バッファは空 (SPTEF フラグが“1”) の状態に初期化されます。このため、RSPI 初期化後に SPCR.SPTIE ビットを“1”にしていると、送信バッファエンプティ割り込みが発生します。CPU で RSPI を初期化する場合に、送信バッファエンプティ割り込みを禁止するためには、SPE ビットへの“0”書き込みと同時に SPTIE ビットにも“0”を書いてください。

30.3.10.2 システムリセット

システムリセットによる初期化では、「30.3.10.1 SPE ビットのクリアによる初期化」に記載の事項に加え、RSPI 制御用の全ビットの初期化、ステータスビットの初期化、データレジスタの初期化が実施され、RSPI が完全に初期化されます。

30.3.11 SPI 動作

30.3.11.1 マスタモード動作

シングルマスタモード動作とマルチマスタモード動作の違いは、モードフォルトエラー検出(「30.3.9 エラー検出」を参照)のみです。シングルマスタモードのRSPIではモードフォルトエラーを検出しません。マルチマスタモードのRSPIではモードフォルトエラーを検出します。本節では、シングル/マルチマスタモードで共通する動作について説明します。

(1) シリアル転送の開始

RSPI送信バッファが空(SPTEFフラグが“1”、次転送のデータがセットされていない)の状態、SPDRレジスタへデータを書き込むと、RSPIはSPDRレジスタの送信バッファ(SPTX)のデータを更新します。SPDRレジスタへSPDCR.SPFC[1:0]ビットで設定したフレーム分のデータの書き込み後、シフトレジスタが空の場合には、RSPIは送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。RSPIは、シフトレジスタに送信データをコピーするとシフトレジスタのステータスをフルに変更し、シリアル転送が終了するとシフトレジスタのステータスを空に変更します。シフトレジスタのステータスを参照することはできません。

なお、RSPIの転送フォーマットの詳細については「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。SSLAi出力端子の極性は、SSLPレジスタの設定値に依存します。

(2) シリアル転送の終了

SPCMDm.CPHAビットにかかわらず、RSPIは最終サンプリングタイミングに対応するRSPCKAエッジを送出するとシリアル転送を終了します。受信バッファ(SPRX)が空(SPRFフラグが“0”)の場合には、シリアル転送終了後にシフトレジスタからSPDRレジスタの受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードのRSPIのデータ長は、SPCMDm.SPB[3:0]ビットの設定値に依存します。SSLAi出力端子の極性は、SSLPレジスタの設定値に依存します。RSPIの転送フォーマットの詳細については「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

(3) シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、SPSCR レジスタ、SPCMDm レジスタ、SPBR レジスタ、SPCKD レジスタ、SSLND レジスタ、SPND レジスタによって決定されます。

SPSCR レジスタは、マスタモードの RSPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMDm レジスタには、SSLAi 端子の出力信号値、MSB/LSB ファースト、データ長、ビットレート設定の一部、RSPCK 極性/位相、SPCKD レジスタの参照要否、SSLND レジスタの参照要否、SPND レジスタの参照要否が設定されています。SPBR レジスタにはビットレート設定の一部、SPCKD レジスタには RSPI クロック遅延値、SSLND レジスタには SSL ネゲート遅延、SPND レジスタには RSPI 次アクセス遅延値が設定されています。

RSPI は、SPSCR レジスタに設定されたシーケンス長に従って、SPCMDm レジスタの一部/全部からなるシーケンスを構成します。RSPI には、シーケンスを構成している SPCMDm レジスタに対するポインタが存在します。このポインタの値は、SPSSR.SPCP[2:0] ビットを読むことによって確認できます。SPCR.SPE ビットを“1”にして RSPI 機能を許可すると、RSPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 レジスタにセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 レジスタの設定内容を転送フォーマットに反映します。RSPI は、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、RSPI はポインタを SPCMD0 レジスタにセットするので、シーケンスは繰り返し実行されます。

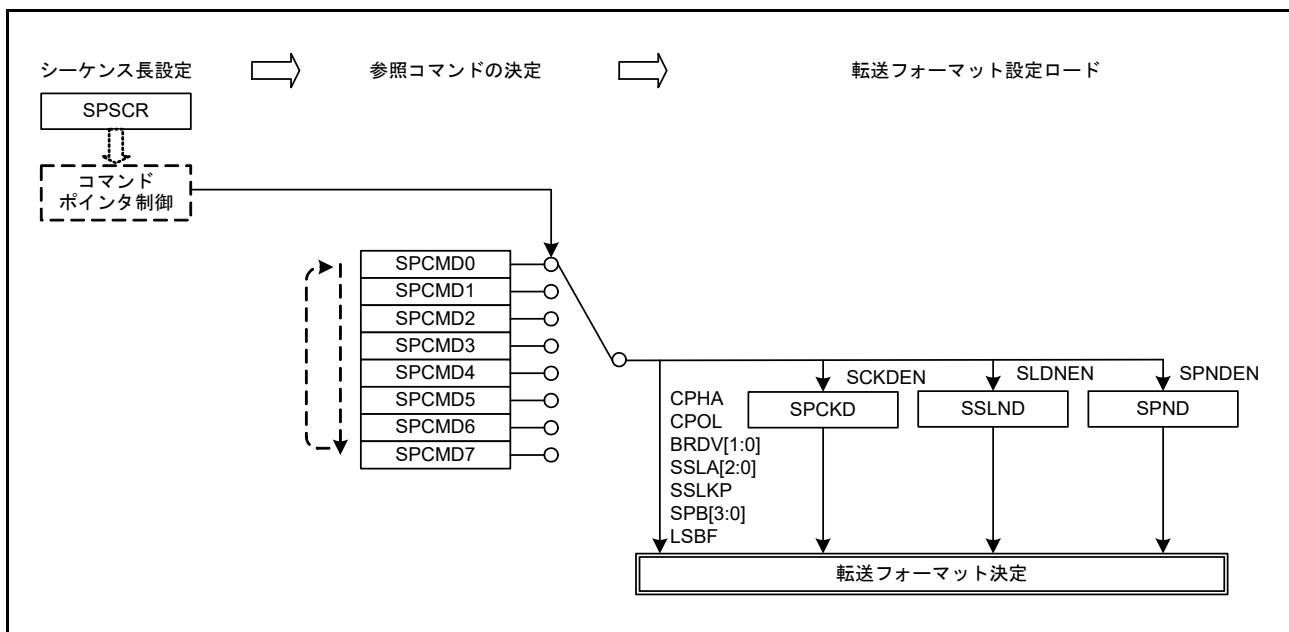


図 30.33 マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

本章では、データ (SPDR) と設定 (SPCMDm) の 2 つを合わせてフレームとします。

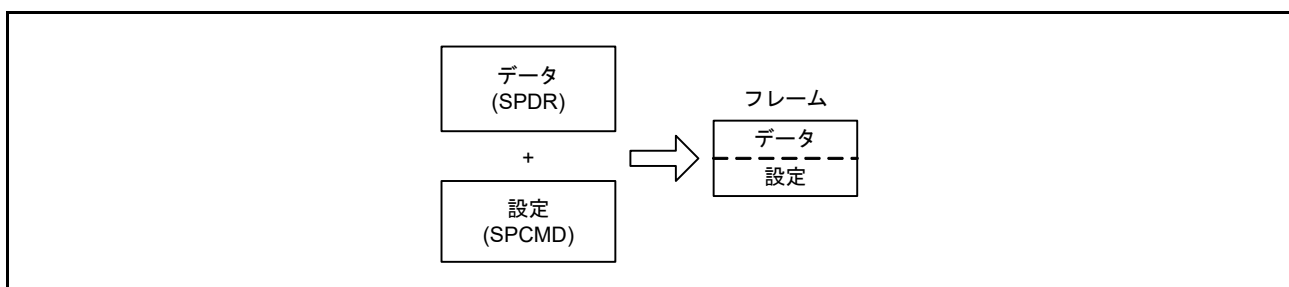


図 30.34 フレームの概念図

表 30.4 の設定でシーケンス動作を行ったときのコマンドと送信バッファ / 受信バッファの関係を図 30.35 に示します。

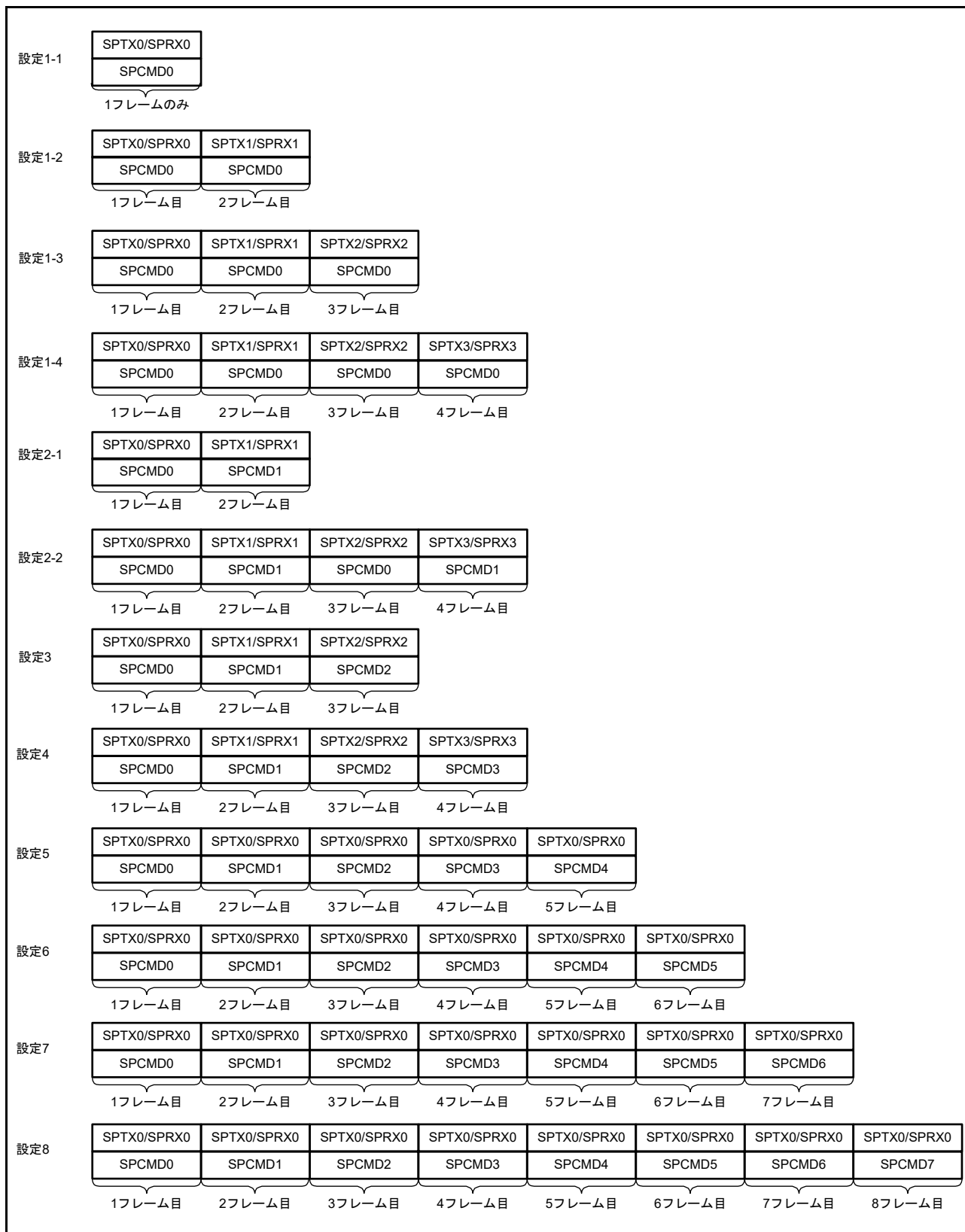


図 30.35 シーケンス動作時の RSPI コマンドレジスタと送受信バッファの対応

(4) バースト転送

RSPI が現在のシリアル転送で参照している SPCMDm.SSLKP ビットが“1”の場合には、RSPI はシリアル転送中の SSLAi 信号レベルを次のシリアル転送の SSLAi 信号アサート開始まで保持します。次のシリアル転送での SSLAi 信号レベルが、現在のシリアル転送での SSLAi 信号レベルと同じであれば、RSPI は SSLAi 信号アサート状態を保持したまま連続的にシリアル転送を実行することができます (バースト転送)。

図 30.36 に、SPCMD0、SPCMD1 レジスタの設定を使用してバースト転送を実現した場合の SSLAi 信号動作例を示します。図 30.36 に記載した (1) ~ (8) の RSPI 動作内容について、以下に説明します。なお、SSLAi 出力信号の極性は、SSLP レジスタの設定値に依存します。

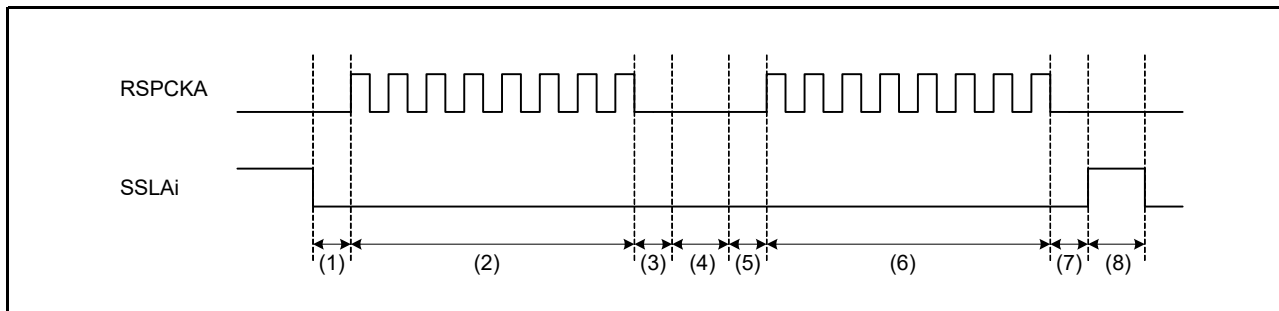


図 30.36 SSLKP ビットを利用したバースト転送動作の例 (CPHA = 1, CPOL = 0)

- (1) SPCMD0 レジスタに従った SSLAi 信号のアサートと RSPCK 遅延の挿入を実施します。
- (2) SPCMD0 レジスタに従ったシリアル転送を実行します。
- (3) SSL ネゲート遅延を挿入します。
- (4) SPCMD0.SSLKP ビットが“1”であるため、SPCMD0 レジスタでの SSLAi 信号値を保持します。この期間は、最短の場合には SPCMD0 レジスタの次アクセス遅延と同じだけ継続されます。最短期間を経過後にシフトレジスタが空の場合には、次転送のための送信データがシフトレジスタに格納されるまで、この期間を継続します。
- (5) SPCMD1 レジスタに従った RSPCK 遅延の挿入を実施します。
- (6) SPCMD1 レジスタに従ったシリアル転送を実行します。
- (7) SSL ネゲート遅延を挿入します。
- (8) SPCMD1.SSLKP ビットが“0”であるため、SSLAi 信号をネゲートします。また、SPCMD1 レジスタに従った次アクセス遅延が挿入されます。

SSLKP ビットを“1”にした SPCMDm レジスタでの SSLAi 信号出力設定と、次転送で使用する SPCMDm レジスタでの SSLAi 信号出力設定が異なる場合、RSPI は次転送のコマンドに対応した SSLAi 信号のアサート時 (図 30.36 の (5)) に SSLAi 信号状態を切り替えます。このような SSLAi 信号の切り替えが発生した場合、MISOA をドライブするスレーブが競合して信号レベルの衝突が発生する可能性があるので注意してください。

マスタモードの RSPI は、SSLKP ビットを使用しない場合の SSLAi 信号動作をモジュール内部で参照しています。SPCMDm.CPHA ビットが“0”の場合でも、RSPI は内部で検出した次転送の SSLAi 信号のアサートを使用してシリアル転送を正確に開始できます。このため、マスタモードのバースト転送は、CPHA ビットの設定値にかかわらず実行できます。

(5) RSPCK 遅延 (t1)

マスタモード時の RSPCK 遅延値は、SPCMDm.SCKDEN ビットの設定と SPCKD レジスタの設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMDm レジスタをポインタ制御によって決定し、選択した SPCMDm.SCKDEN ビットと SPCKD レジスタを使用して、表 30.8 のようにシリアル転送時の RSPCK 遅延値を決定します。なお、RSPCK 遅延の定義については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

表 30.8 SCKDEN ビット、SPCKD レジスタと RSPCK 遅延値の関係

SPCMDm.SCKDEN ビット	SPCKD.SCKDL[2:0] ビット	RSPCK 遅延値
0	000b ~ 111b	1 RSPCK
1	000b	1 RSPCK
	001b	2 RSPCK
	010b	3 RSPCK
	011b	4 RSPCK
	100b	5 RSPCK
	101b	6 RSPCK
	110b	7 RSPCK
	111b	8 RSPCK

(6) SSL ネゲート遅延 (t2)

マスタモード時の SSL ネゲート遅延値は、SPCMDm.SLNDEN ビットの設定と SSLND レジスタの設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMDm レジスタをポインタ制御によって決定し、選択した SPCMDm.SLNDEN ビットと SSLND レジスタを使用して、表 30.9 のようにシリアル転送時の SSL ネゲート遅延値を決定します。なお、SSL ネゲート遅延の定義については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

表 30.9 SLNDEN ビット、SSLND レジスタと SSL ネゲート遅延値の関係

SPCMDm.SLNDEN ビット	SSLND.SLNDL[2:0] ビット	SSL ネゲート遅延値
0	000b ~ 111b	1 RSPCK
1	000b	1 RSPCK
	001b	2 RSPCK
	010b	3 RSPCK
	011b	4 RSPCK
	100b	5 RSPCK
	101b	6 RSPCK
	110b	7 RSPCK
	111b	8 RSPCK

(7) 次アクセス遅延 (t3)

マスタモード時の次アクセス遅延は、SPCMDm.SPNDEN ビットの設定と SPND レジスタの設定に依存します。RSPI は、シリアル転送で参照する SPCMDm レジスタをポインタ制御によって決定し、選択した SPCMDm.SPNDEN ビットと SPND レジスタを使用して、表 30.10 のようにシリアル転送時の RSPCK 遅延を決定します。なお、次アクセス遅延の定義については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

表30.10 SPNDENビット、SPNDレジスタと次アクセス遅延値の関係

SPCMDm.SPNDENビット	SPND.SPNDL[2:0]ビット	次アクセス遅延値
0	000b ~ 111b	1 RSPCK + 2 PCLK
1	000b	1 RSPCK + 2 PCLK
	001b	2 RSPCK + 2 PCLK
	010b	3 RSPCK + 2 PCLK
	011b	4 RSPCK + 2 PCLK
	100b	5 RSPCK + 2 PCLK
	101b	6 RSPCK + 2 PCLK
	110b	7 RSPCK + 2 PCLK
	111b	8 RSPCK + 2 PCLK

(8) 初期化フロー

図 30.37 に、SPI 動作時、RSPI をマスターモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、入出力ポートの設定方法については各ブロックの説明を参照してください。

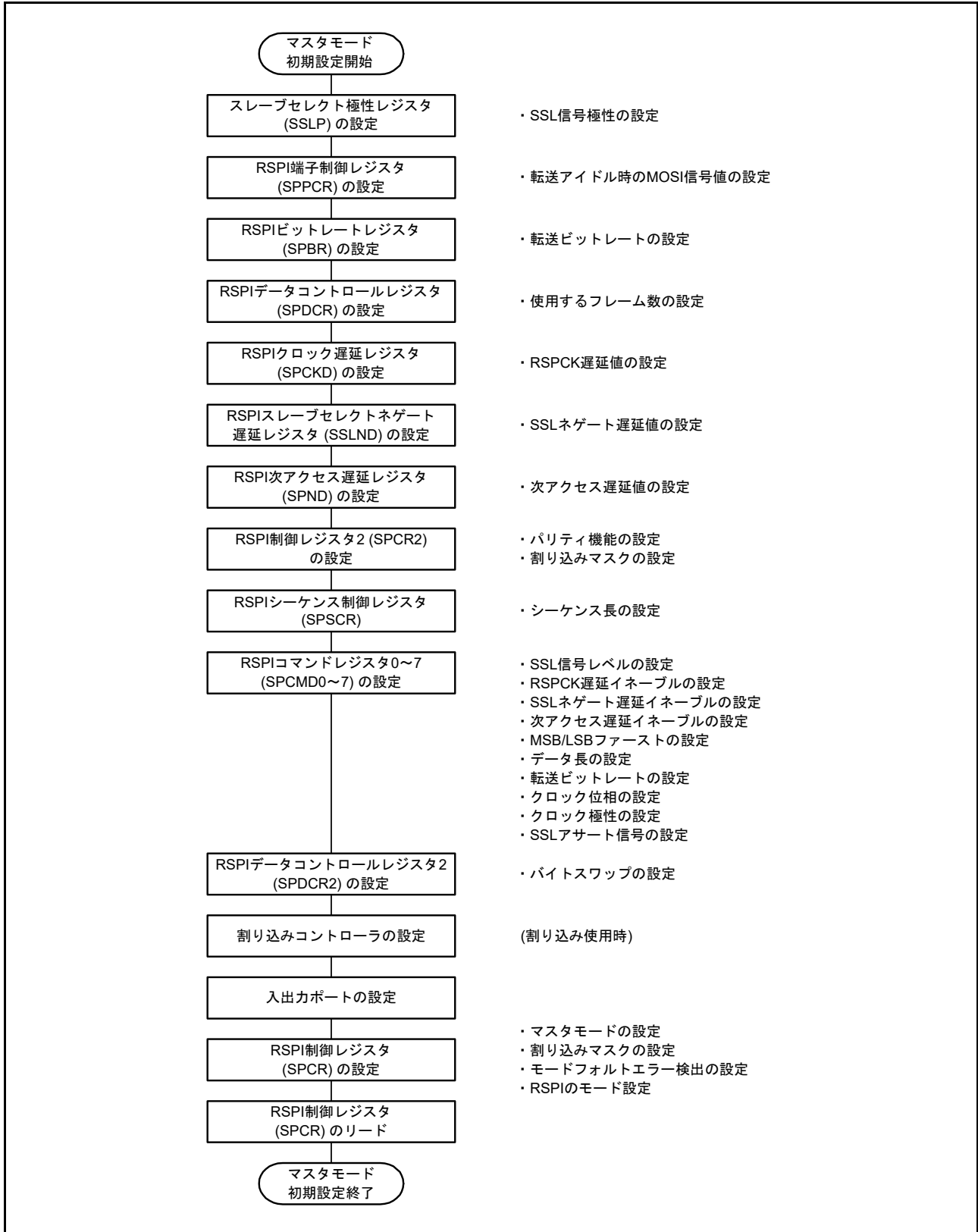


図 30.37 マスターモード時の初期化フロー例 (SPI 動作)

(9) ソフトウェア処理フロー

ソフトウェア処理フローの例を図 30.38 ~ 図 30.40 に示します。

(a) 送信処理フロー

送信を行う場合、最終データの書き込み完了後 SPII 割り込みを許可することによって、全データの送信完了を CPU に通知することが可能です。

SPII 割り込みの代わりに、SPSR.IDLNF フラグが“0”になったかどうかをポーリングすることでも全データ送信完了を確認できます。ただし、SPDR レジスタに送信データを書き込んでから IDLNF フラグが“1”になるまでは、PCLK で1サイクル必要です。SPDR レジスタに最終データを書いた後は、“1”になる前の IDLNF フラグで判定しないように、一度 SPSR レジスタの値を読み捨てて、次に読み出した SPSR.IDLNF フラグの値から全データ送信完了の確認に使用してください。

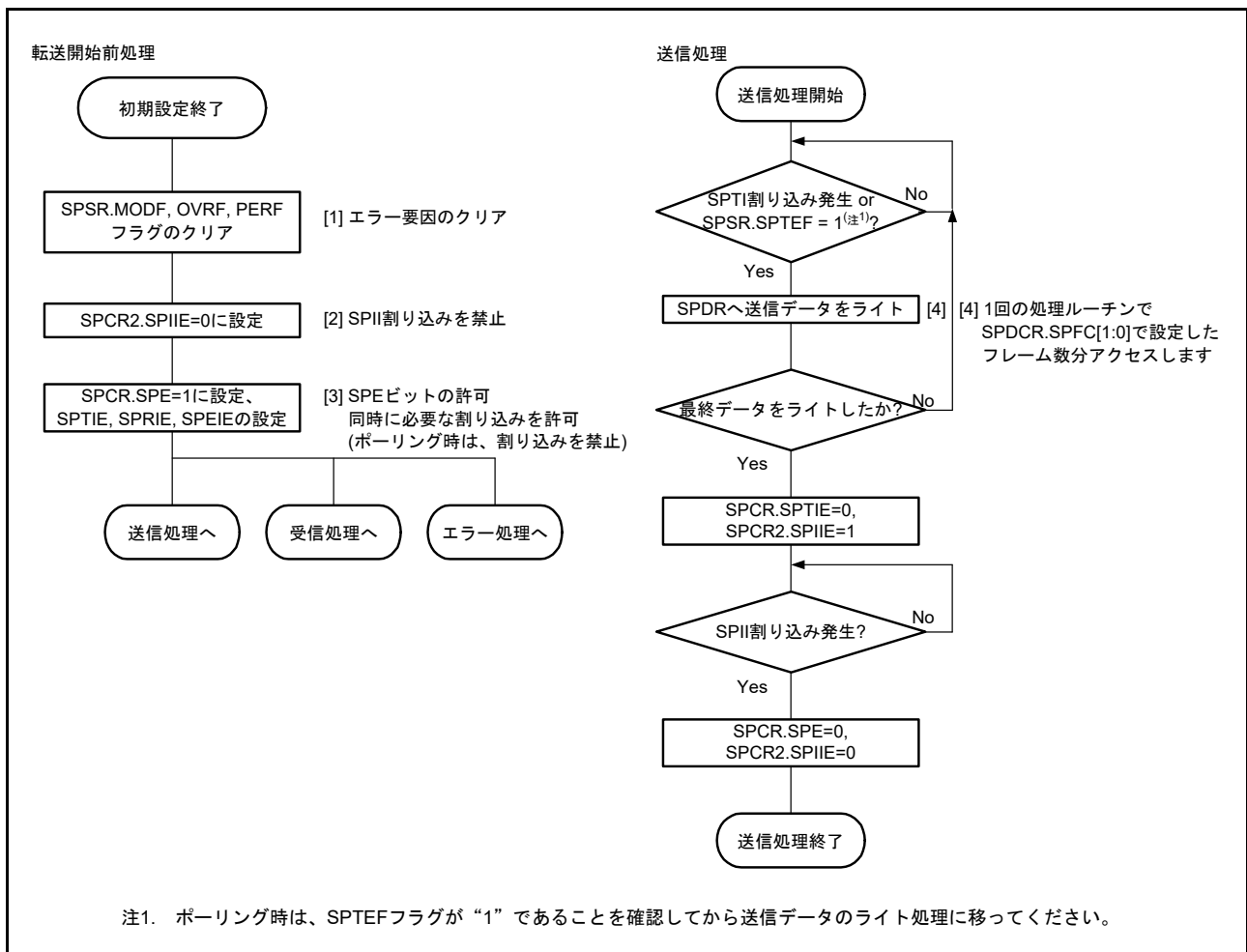


図 30.38 マスタモード時のフローチャート (送信)

(b) 受信処理フロー

RSPI は受信のみの単方向通信をサポートしていないため、送信を必要とします。

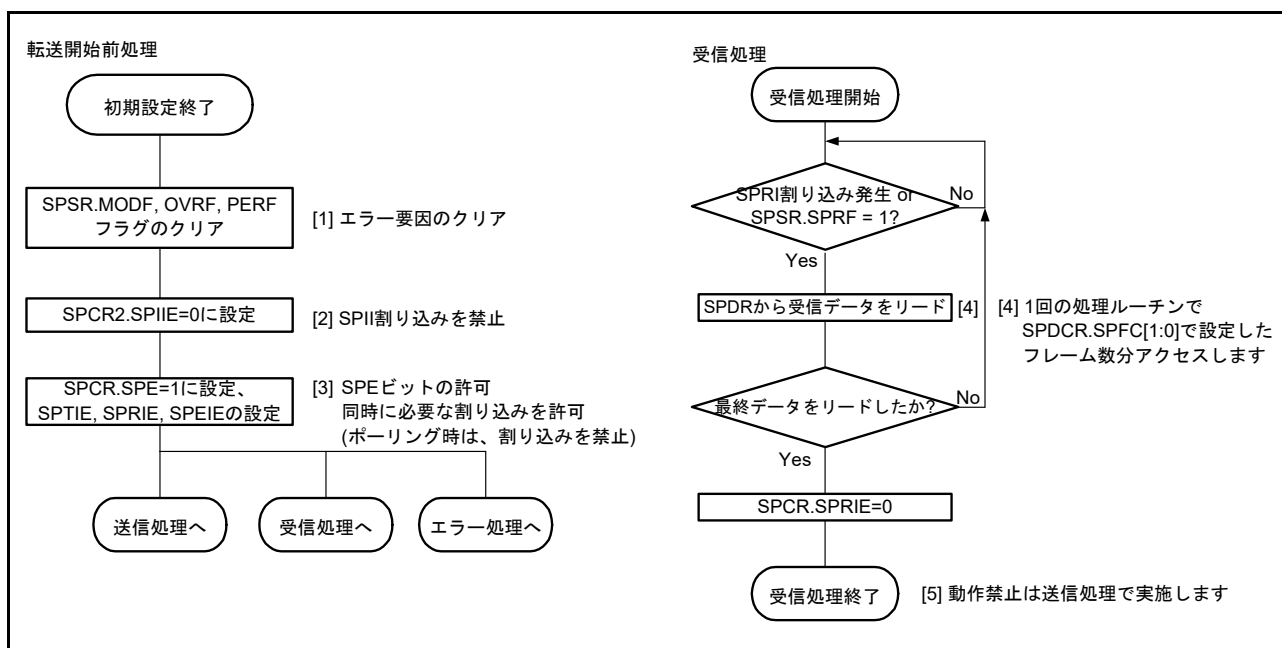


図 30.39 マスタモード時のフローチャート (受信)

(c) エラー処理フロー

モードフォルトエラー発生時は、SPCR.SPE ビットが自動的にクリアされ、送信 / 受信動作を停止させます。しかし、その他のエラー要因では SPCR.SPE ビットはクリアされず送信 / 受信動作は継続されるため、最初に起きたエラー要因ではない他の要因でエラーが発生した場合は、SPSSR.SPECM[2:0] ビットが更新されてしまうため、SPCR.SPE ビットをクリアし動作を停止することを推奨します。

割り込み使用時にエラーが発生したときは、ICU.IRn.IR フラグに SPTI 割り込みまたは SPRI 割り込み要求が保持されている可能性がありますので、エラー処理にて ICU.IRn.IR フラグをクリアしてください。また、SPRI 割り込み要求が保持されている場合、受信バッファを読み出して RSPI の内部シーケンサを初期化してください。

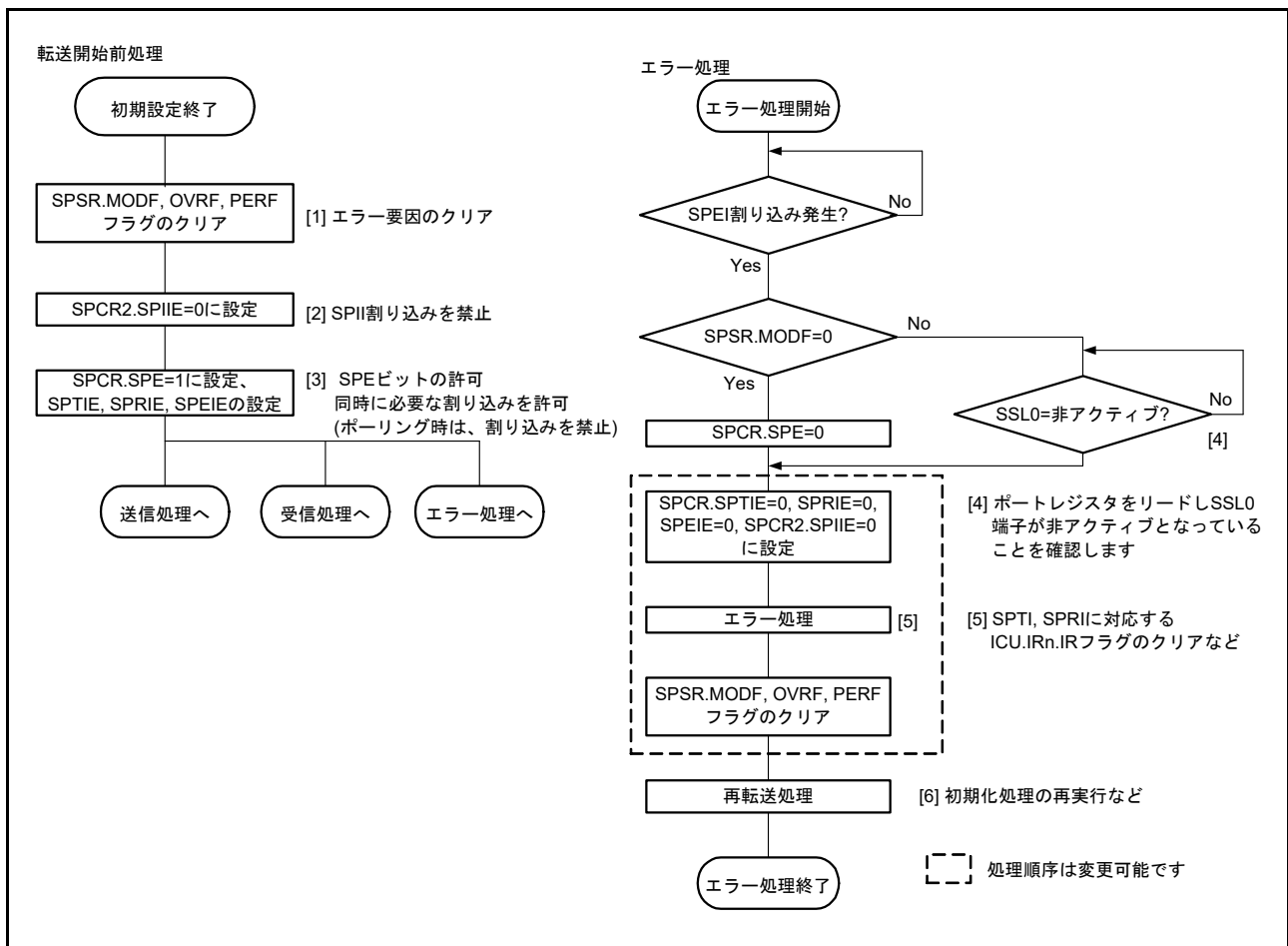


図 30.40 マスタモード時のフローチャート (エラー)

30.3.11.2 スレーブモード動作

(1) シリアル転送の開始

SPCMD0.CPHA ビットが“0”の場合、RSPIはSSLA0入力信号のアサートを検出すると、MISOA出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、CPHAビットが“0”の場合には、SSLA0入力信号のアサートがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHAビットが“1”の場合には、RSPIはSSLA0入力信号のアサート状態で最初のRSPCKAエッジを検出すると、MISOA出力信号への有効データのドライブを開始する必要があります。このため、CPHAビットが“1”の場合には、SSLA0信号アサート状態における最初のRSPCKAエッジがシリアル転送開始のトリガになります。

CPHAビットの設定に依存せず、RSPIがMISOA出力信号のドライブを開始するタイミングは、SSLA0信号アサートタイミングです。CPHAビットの設定によって、RSPIが出力するデータの有効/無効が異なります。

なお、RSPIの転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。SSLA0入力信号の極性は、SSLP.SSL0Pビットの設定値に依存します。

(2) シリアル転送の終了

SPCMD0.CPHAビットにかかわらず、RSPIは最終サンプリングタイミングに相当するRSPCKAエッジを検出するとシリアル転送を終了します。受信バッファに空きがある場合(SPRFフラグが“0”の場合)には、シリアル転送の終了後に、RSPIはシフトレジスタからSPDRレジスタの受信バッファに受信データをコピーします。また、受信用バッファの状態に関わらず、RSPIはシリアル転送の終了後にシフトレジスタの状態を空に変更します。シリアル転送開始からシリアル転送終了の間にRSPIがSSLA0入力信号のネゲートを検出するとモードフォルトエラーが発生します(「30.3.9 エラー検出」を参照)。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードのRSPIのデータ長はSPCMD0.SPB[3:0]ビットの設定値に依存します。SSLA0入力信号の極性は、SSLP.SSL0Pビットの設定値に依存します。RSPIの転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

(3) シングルスレーブ時の注意点

SPCMD0.CPHAビットが“0”の場合には、RSPIはSSLA0入力信号のアサートエッジを検出するとシリアル転送を開始します。図30.7の例に示したような構成でRSPIをシングルスレーブで使用する場合には、SSLA0入力信号がアクティブ状態に固定されるため、CPHAビットを“0”に設定したRSPIではシリアル転送を正しく開始できません。SSLA0入力信号をアクティブ状態に固定する構成で、スレーブモードRSPIの送受信を正しく実行するためには、CPHAビットを“1”にしてください。CPHAビットを“0”にする必要がある場合には、SSLA0入力信号を固定しないでください。

(4) バースト転送

SPCMD0.CPHA ビットが“1”の場合には、SSLA0 入力信号のアサート状態を保持したままで連続的なシリアル転送(バースト転送)を実行できます。CPHA ビットが“1”の場合には、SSLA0 入力信号アクティブ状態における最初の RSPCKA エッジから最終ビット受信のためのサンプリングタイミングまでが、シリアル転送期間に相当します。SSLA0 入力信号がアクティブレベルのままであっても、アクセスの開始を検出可能であるので、バースト転送に対応できます。

CPHA ビットが“0”の場合には、バースト転送の2回目以降のシリアル転送を正しく実行できません。

(5) 初期化フロー

図 30.41 に、SPI 動作時、RSPI をスレーブモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、入出力ポートの設定方法については各ブロックの説明を参照してください。

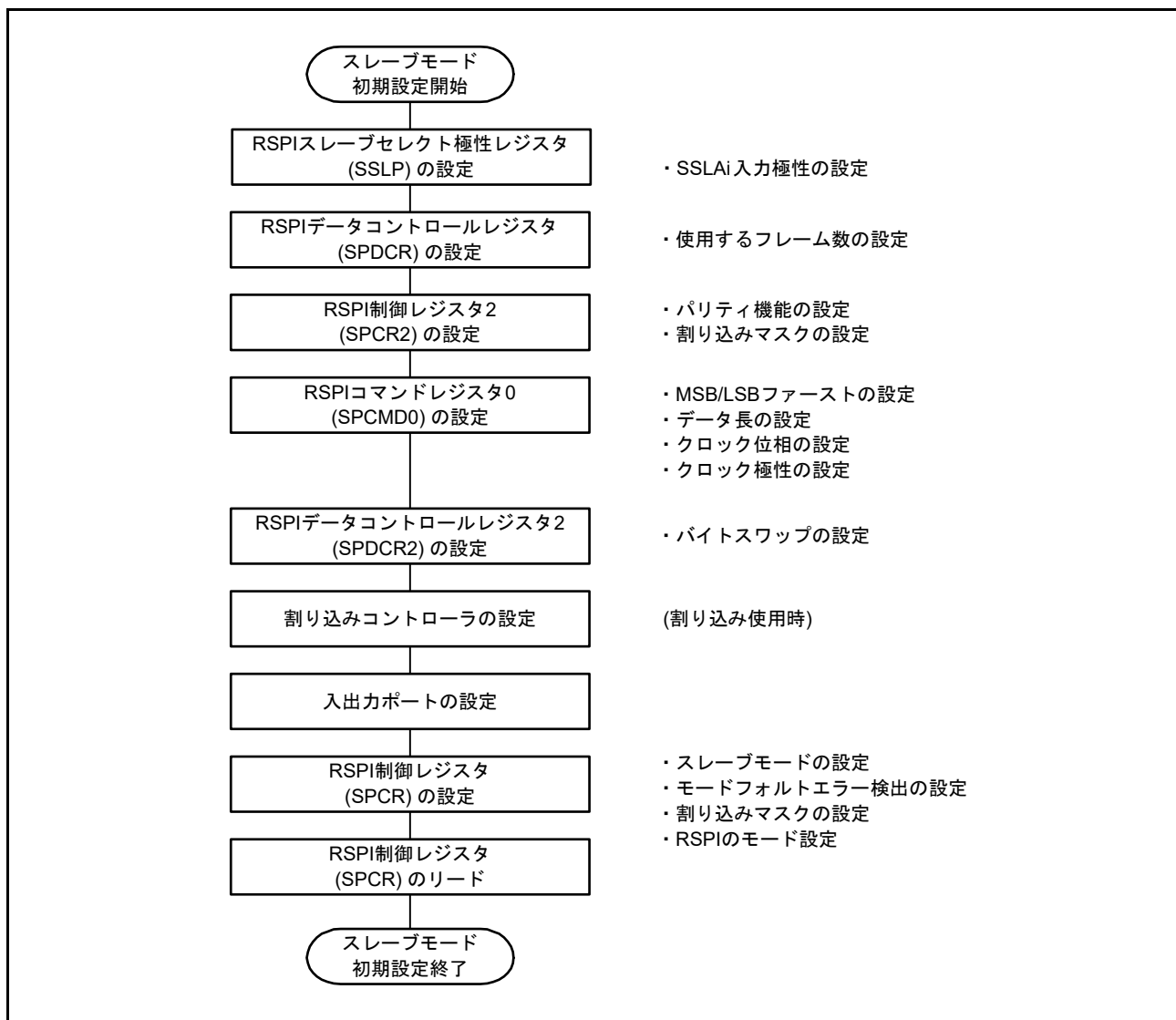


図 30.41 スレーブモード時の初期化フロー例 (SPI 動作)

(6) ソフトウェア処理フロー

ソフトウェア処理フローの例を図 30.42 ~ 図 30.44 に示します。

(a) 送信処理フロー

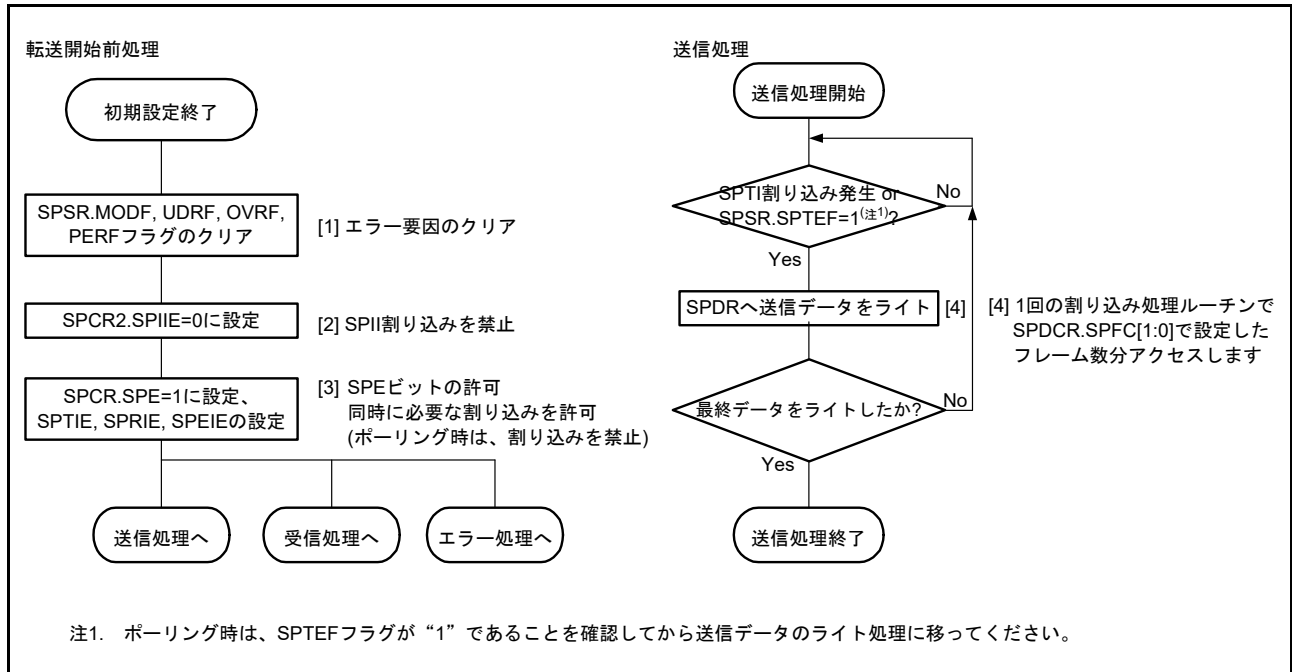


図 30.42 スレーブモード時のフローチャート (送信)

(b) 受信処理フロー

RSPI は受信のみの単方向通信をサポートしていないため、送信を必要とします。

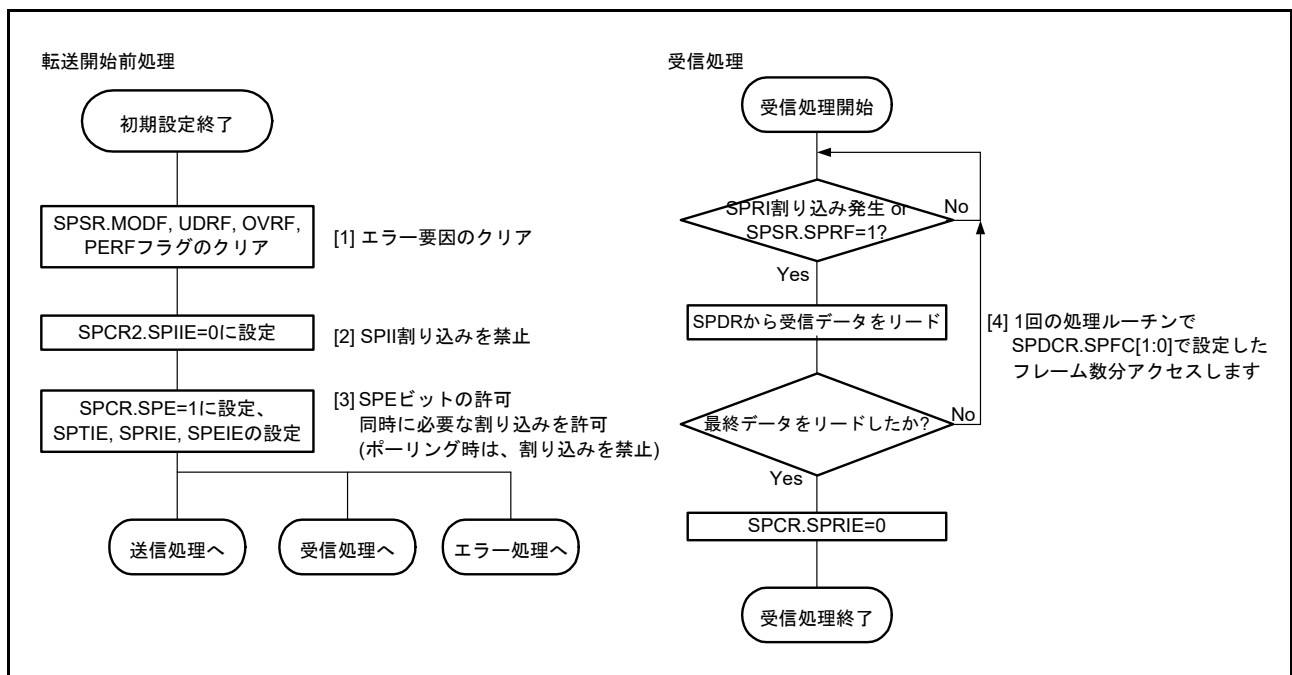


図 30.43 スレーブモード時のフローチャート (受信)

(c) エラー処理フロー

スレーブモード時は、モードフォルトエラーが発生しても SSLA0 端子の状態にかかわらず、SPSR.MODF フラグをクリアすることができます。

割り込み使用時にエラーが発生したときは、ICU.IRn.IR フラグに SPTI 割り込みまたは SPRI 割り込み要求が保持されている可能性があるためエラー処理にて ICU.IRn.IR フラグをクリアしてください。また、SPRI 割り込み要求が保持されている場合、受信バッファを読み出して RSPI の内部シーケンサを初期化してください。

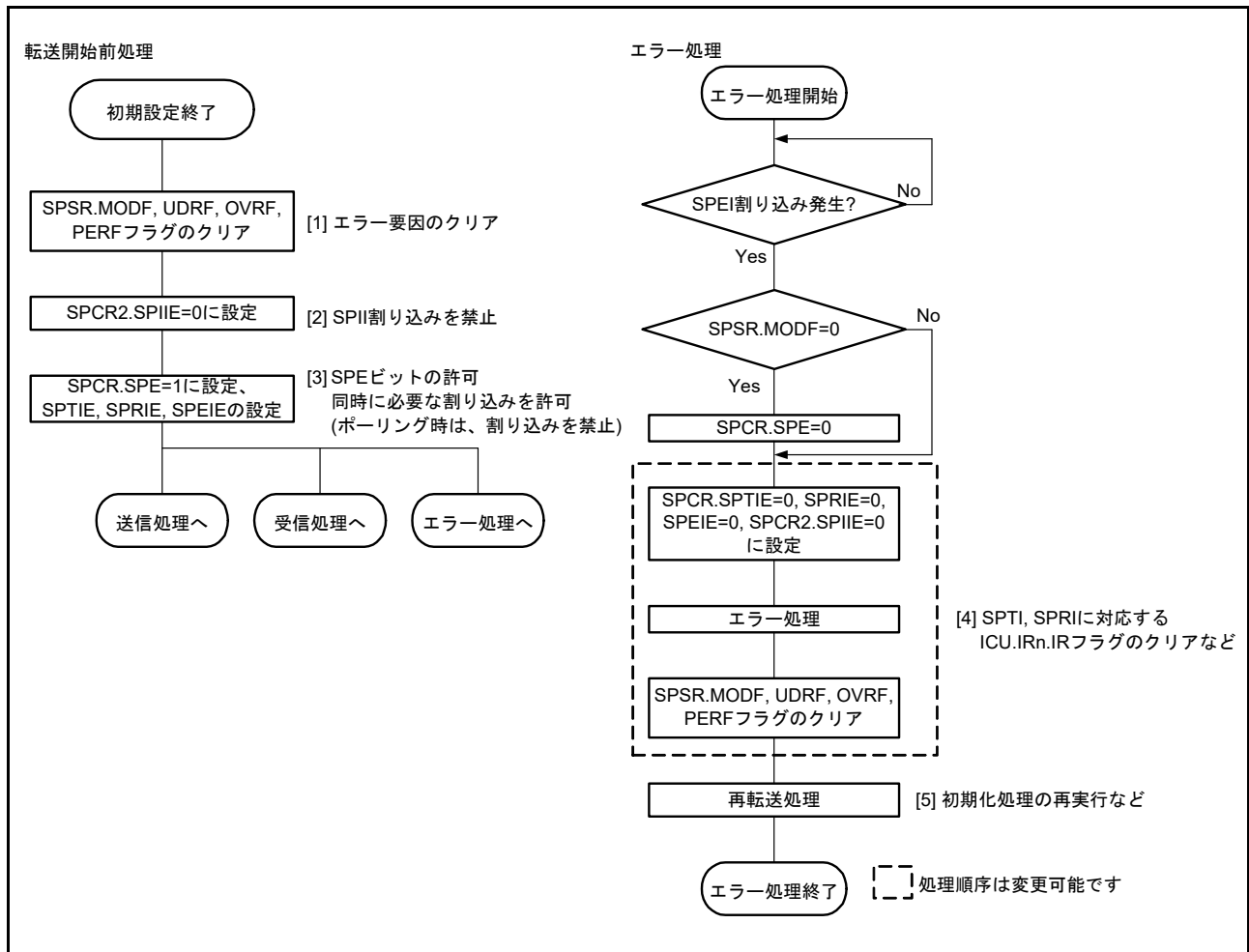


図 30.44 スレーブモード時のフローチャート (エラー処理)

30.3.12 クロック同期式動作

RSPI は、SPCR.SPMS ビットが“1”であるとき、クロック同期式動作となります。クロック同期式動作は、SSLAi 端子を使用せず、RSPCKA、MOSIA、MISOA の 3 本の端子を用いて通信を行い、SSLAi 端子は I/O ポートとして使用することができます。

クロック同期式動作は、SSLAi 端子を使用せず通信を行います。モジュール内部の動作は SPI 動作と同様の動作を行います。マスタモード、スレーブモードにおいて、SPI 動作時と同様のフローで通信を行うことができますが、SSLAi 端子を使用しませんので、モードフォルトエラーの検出を行いません。

また、クロック同期式動作では、スレーブモード時 (SPCR.MSTR = 0) に SPCMDm.CPHA ビットを“0”にしないでください。

30.3.12.1 マスタモード動作

(1) シリアル転送の開始

送信バッファが空 (SPSR.SPTEF フラグが“1”、次転送のデータがセットされていない) の状態で、SPDR レジスタへデータを書くと、RSPI は SPDR レジスタの送信バッファ (SPTX) のデータを更新します。SPDR レジスタへ SPDCR.SPFC[1:0] ビットで設定したフレーム分のデータの書き込み後、シフトレジスタが空の場合には、RSPI は送信バッファのデータをシフトレジスタにコピーしてシリアル転送を開始します。RSPI は、シフトレジスタに送信データをコピーするとシフトレジスタのステータスをフルに変更し、シリアル転送が終了するとシフトレジスタのステータスを空に変更します。シフトレジスタのステータスを参照することはできません。

なお、RSPI の転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。ただし、クロック同期式動作時は、SSLA0 出力信号を用いずに通信を行います。

(2) シリアル転送の終了

RSPI は最終サンプリングタイミングに対応する RSPCKA エッジを送出するとシリアル転送を終了します。受信バッファ (SPRX) が空 (SPSR.SPRF フラグが“0”) の場合には、シリアル転送終了後にシフトレジスタから SPDR レジスタの受信バッファにデータをコピーします。

なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。マスタモードの RSPI のデータ長は、SPCMDm.SPB[3:0] ビットの設定値に依存します。RSPI の転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。ただし、クロック同期式動作時は、SSLA0 出力信号を用いずに通信を行います。

(3) シーケンス制御

マスタモード時の転送フォーマットは、SPSCR レジスタ、SPCMDm レジスタ、SPBR レジスタ、SPCKD レジスタ、SSLND レジスタ、SPND レジスタによって決定されます。クロック同期式動作時は、SSLAi 信号の出力を行いませんが、これらの設定は有効です。

SPSCR レジスタは、マスタモードの RSPI で実行するシリアル転送のシーケンス構成を決定するためのレジスタです。SPCMDm レジスタには、SSLAi 出力信号値、MSB/LSB ファースト、データ長、ビットレート設定の一部、RSPCKA 極性 / 位相、SPCKD レジスタの参照要否、SSLND レジスタの参照要否、SPND レジスタの参照要否が設定されています。SPBR レジスタにはビットレート設定の一部、SPCKD レジスタには RSPI クロック遅延値、SSLND レジスタには SSL ネゲート遅延、SPND レジスタには次アクセス遅延値が設定されています。

RSPI は、SPSCR レジスタに設定されたシーケンス長に従って、SPCMDm レジスタの一部 / 全部からなるシーケンスを構成します。RSPI には、シーケンスを構成している SPCMDm レジスタに対するポインタが存在します。このポインタの値は、SPSSR.SPCP[2:0] ビットの読み出しによって確認できます。SPCR.SPE ビットが“1”で RSPI 動作が許可された状態にすると、RSPI はコマンドに対するポインタを SPCMD0 レジ

スタにセットし、シリアル転送の開始時に SPCMD0 レジスタの設定内容を転送フォーマットに反映します。RSPIは、各データ転送の次アクセス遅延期間が終了するたびにポインタをインクリメントします。シーケンスを構成している最終コマンドに対応するシリアル転送が終了すると、RSPIはポインタを SPCMD0 レジスタにセットするので、シーケンスは繰り返し実行されます。

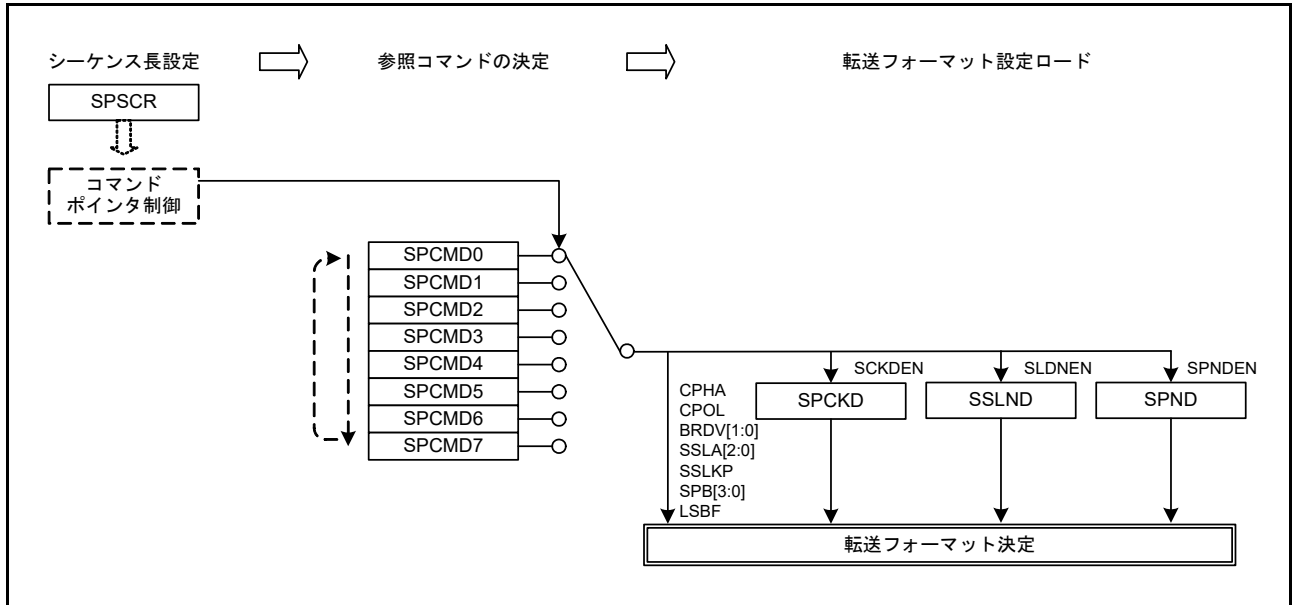


図 30.45 マスタモードでのシリアル転送方式の決定方法

本章では、データ (SPDR) と設定 (SPCMDm) の 2 つを合わせてフレームとします。

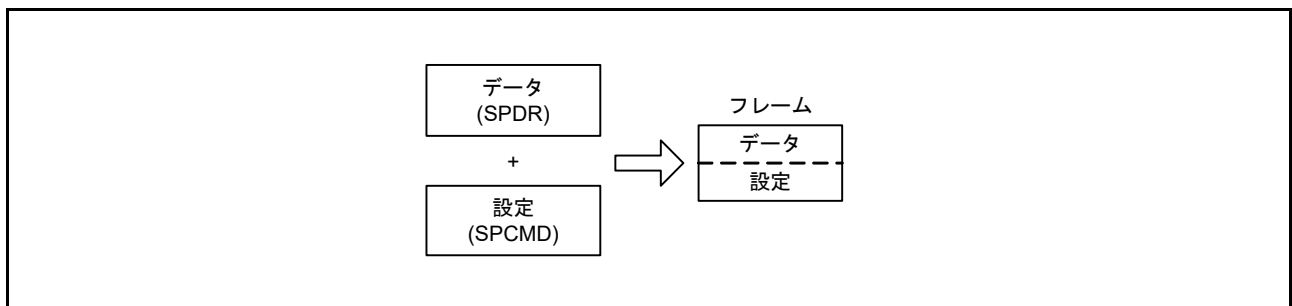


図 30.46 フレーム概念図

表 30.4 の設定でシーケンス動作を行ったときのコマンドと送信バッファ / 受信バッファの関係を図 30.47 に示します。

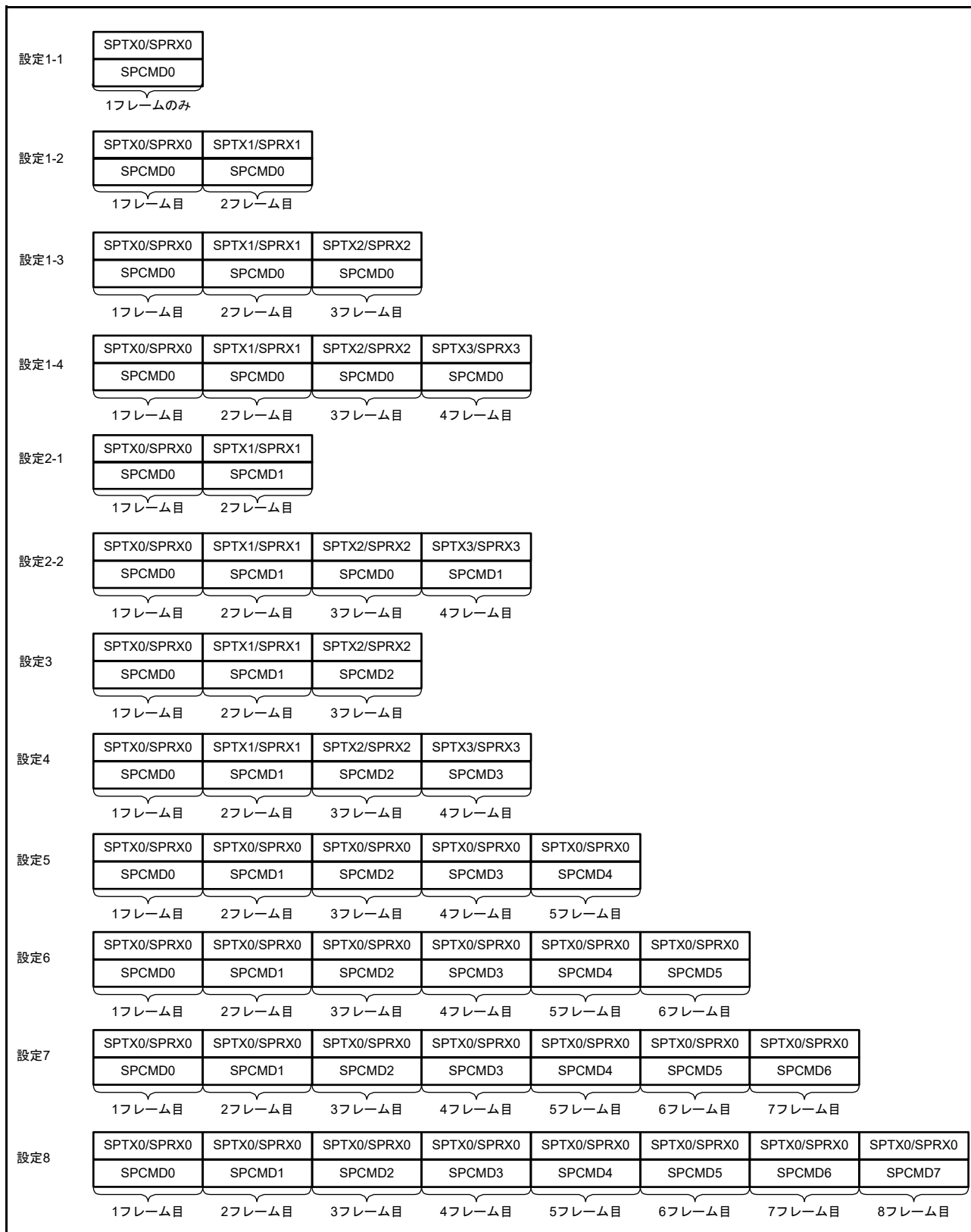


図 30.47 シーケンス動作時の RSPI コマンドレジスタと送受信バッファの対応

(4) 初期化フロー

図 30.48 に、クロック同期式動作時の RSPI をマスターモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

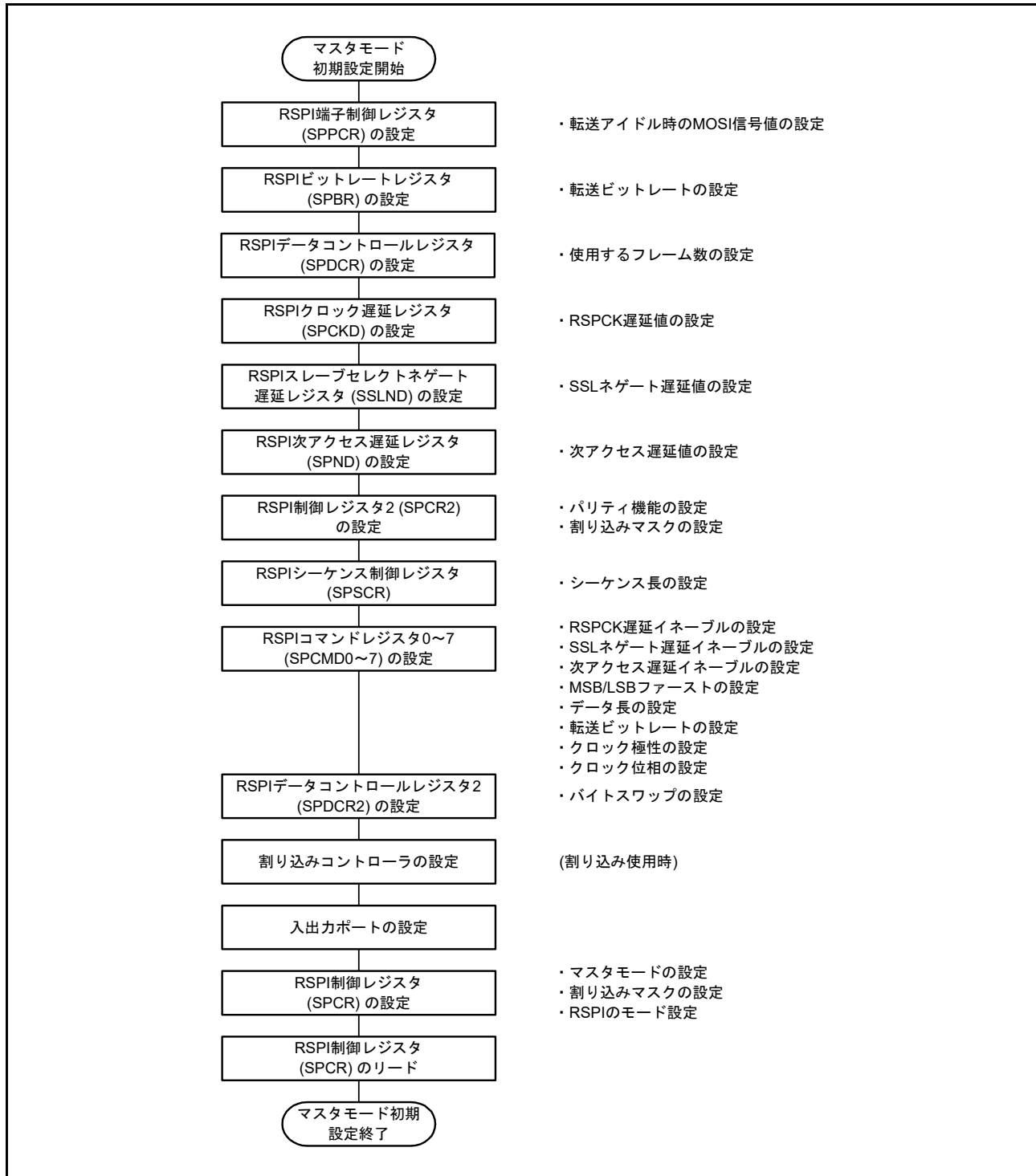


図 30.48 マスターモード時の初期化フロー例 (クロック同期式動作)

(5) ソフトウェア処理フロー

クロック同期式動作時のマスタモード動作のソフトウェア処理は、SPI動作時のマスタモード動作のソフトウェア処理フローと同様になります。詳細は、「30.3.11.1 (9) ソフトウェア処理フロー」を参照してください。ただし、モードフォルトエラーの発生はありません。

30.3.12.2 スレーブモード動作

(1) シリアル転送の開始

RSPIは、SPCR.SPMSビットが“1”であるとき、最初のRSPCKAエッジがシリアル転送開始のトリガになります。

SPMSビットが“1”であるときは、RSPIはMISOA出力信号をドライブします。

なお、RSPIの転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。ただし、クロック同期式動作時はSSLA0入力信号を使用しません。

(2) シリアル転送の終了

RSPIは最終サンプリングタイミングに相当するRSPCKAエッジを検出するとシリアル転送を終了します。受信バッファが空 (SPSR.SPRFフラグが“0”) の場合には、シリアル転送の終了後に、RSPIはシフトレジスタからSPDRレジスタの受信バッファに受信データをコピーします。また、受信バッファの状態にかかわらず、RSPIはシリアル転送の終了後にシフトレジスタの状態を空に変更します。なお、最終サンプリングタイミングは転送データのビット長に依存して変化します。スレーブモードのRSPIのデータ長はSPCMD0.SPB[3:0]ビットの設定値に依存します。RSPIの転送フォーマットの詳細については、「30.3.5 転送フォーマット」を参照してください。

(3) 初期化フロー

図 30.49 に、クロック同期式動作時の RSPI をスレーブモードで使用する場合の初期化フローの例を示します。なお、割り込みコントローラ、入出力ポートの設定方法については、各ブロックの説明を参照してください。

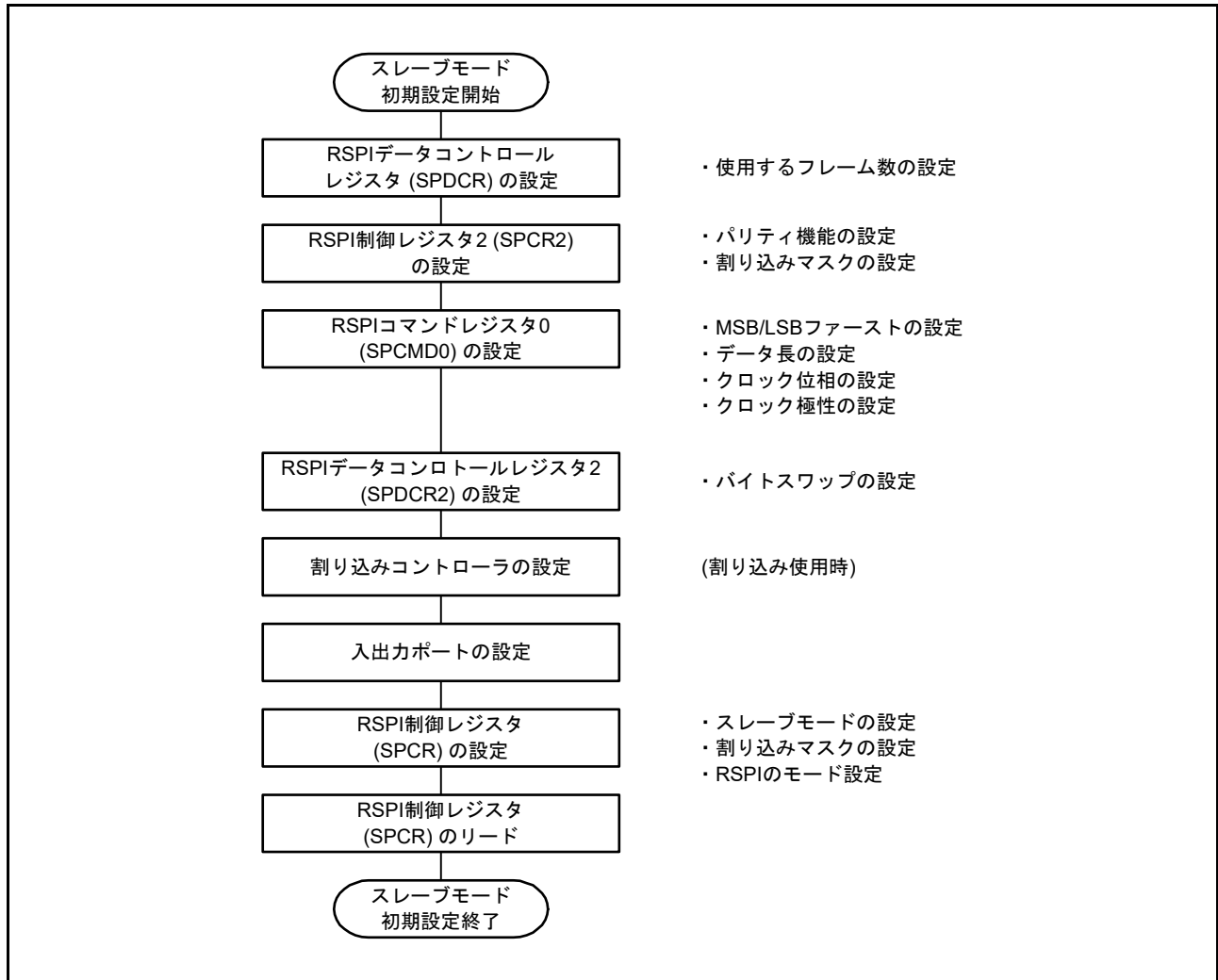


図 30.49 スレーブモード時の初期化フロー例 (クロック同期式動作)

(4) ソフトウェア処理フロー

クロック同期式動作時のスレーブモード動作のソフトウェア処理は、SPI 動作時のスレーブモード動作のソフトウェア処理フローと同様になります。詳細は、「30.3.11.2 (6) ソフトウェア処理フロー」を参照してください。ただし、モードフォルトエラーの発生はありません。

30.3.13 ループバックモード

SPPCR.SPLP2 ビットまたは SPLP ビットに“1”を書くと、RSPI は SPCR.MSTR ビットが“1”ならば、MISOA 端子とシフトレジスタ間を、SPCR.MSTR ビットが“0”ならば、MOSIA 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断し、シフトレジスタの入力経路と出力経路を接続します。また、SPCR.MSTR ビットが“1”ならば、MOSIA 端子とシフトレジスタ間を、SPCR.MSTR ビットが“0”ならば、MISOA 端子とシフトレジスタ間の経路を遮断しません。これをループバックモードと呼びます。ループバックモードでシリアル転送を実行すると、RSPI の送信データまたは送信データの反転が RSPI の受信データになります。

表 30.11 に SPLP2 ビット、SPLP ビットの設定と受信データの関係を示します。また、図 30.50 に、マスターモードの RSPI をループバックモード (SPPCR.SPLP2 = 0, SPPCR.SPLP = 1) に設定した場合のシフトレジスタ入出力経路の構成を示します。

表 30.11 SPLP2 ビット、SPLP ビットの設定と受信データ

SPPCR.SPLP2 ビット	SPPCR.SPLP ビット	受信データ
0	0	MOSIA 端子または MISOA 端子からの入力データ
0	1	送信データの反転
1	0	送信データ
1	1	送信データ

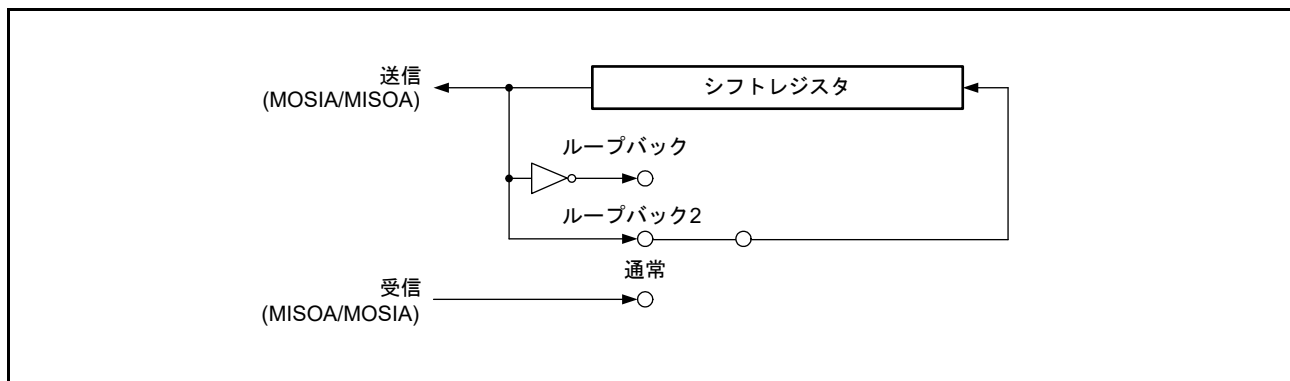


図 30.50 ループバックモード時のシフトレジスタ入出力構成 (マスターモード)

30.3.14 パリティビット機能の自己判断

パリティ回路は、送信データに対するパリティ付加部と受信データに対するエラー検出部で構成されます。パリティ回路のパリティ付加部とエラー検出部の故障を検出するために、図 30.51 に示すのフローに従い、パリティ回路の自己診断を行います。

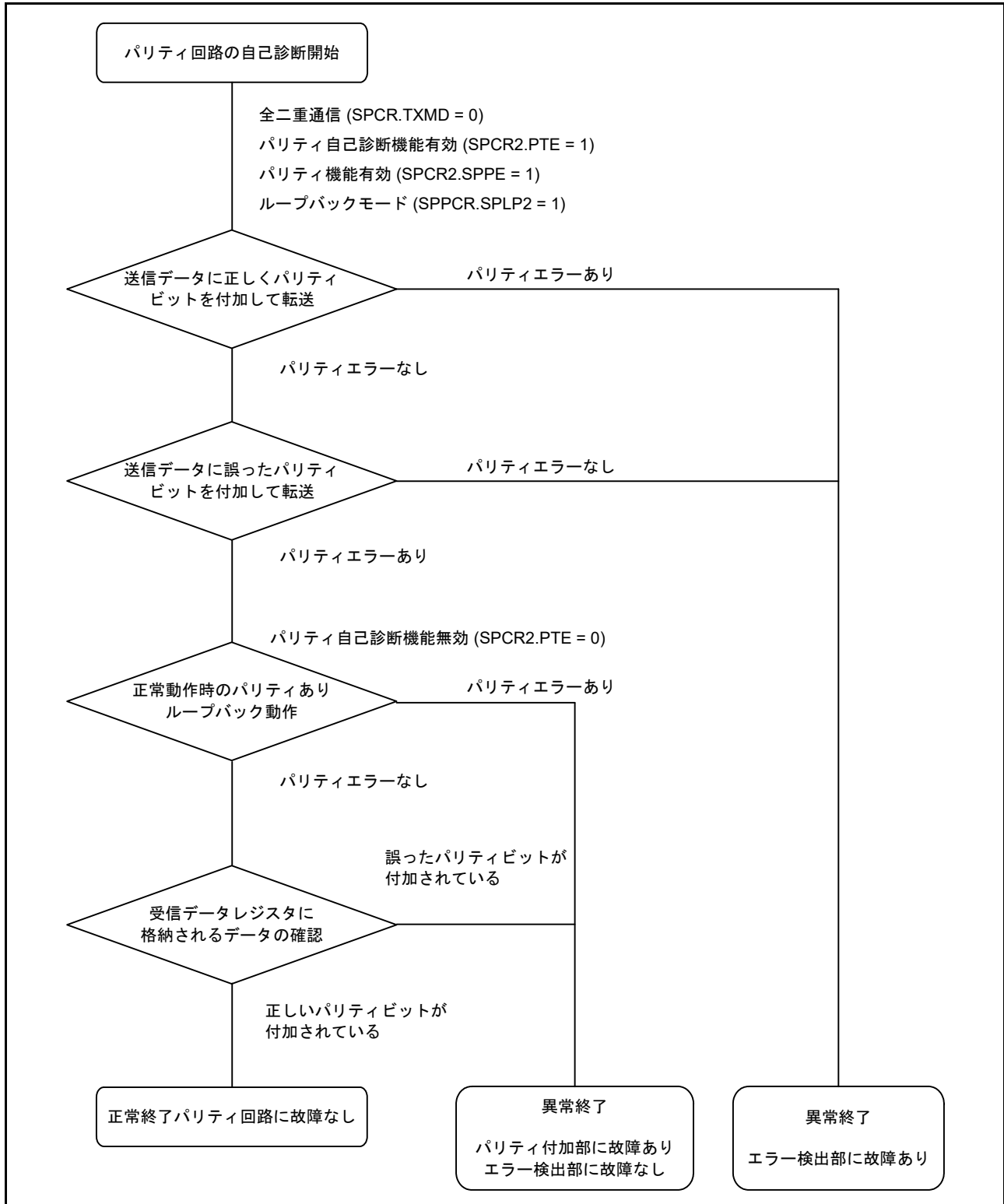


図 30.51 パリティ回路の自己判断フロー

30.3.15 割り込み要因

RSPIの割り込み要因には、受信バッファフル、送信バッファエンプティ、エラー(モードフォルト、アンダラン、オーバラン、パリティエラー)、アイドルがあります。また、受信バッファフル、送信バッファエンプティの割り込み要求でDTCを起動し、データ転送を行うことができます。

モードフォルト、アンダラン、オーバラン、パリティエラーの割り込み要求がSPEIのベクタアドレスに割り付けられているため、フラグによる要因の判断が必要です。表30.12にRSPIの割り込み要因を示します。表30.12の割り込み条件が成立すると、割り込みが発生します。受信バッファフルと送信バッファエンプティの要因は、データ転送で割り込み要因をクリアしてください。

DTCを使って送受信を行う場合は、先にDTCを設定し、許可状態にしてからRSPIの設定を行ってください。DTCの設定方法は「16. データトランスファコントローラ(DTCb)」を参照してください。

送信バッファエンプティ割り込み、および受信バッファフル割り込みは、ICU.IRn.IRフラグが“1”のときに割り込み発生条件となっても、ICUに対して割り込み要求を出力せず内部で保持します(内部で保持できる容量は、1要因ごとに1要求までです)。ICU.IRn.IRフラグが“0”になると、ICUに対して保持していた割り込み要求を出力します。保持している割り込み要求を出力すると、保持している割り込み要求は自動的にクリアされます。また、内部で保持している割り込み要求は、対応する割り込み許可ビット(SPCR.SPTIEビットまたはSPCR.SPRIEビット)を“0”にすることでクリアが可能です。

表30.12 RSPIの割り込み要因

割り込み要因	略称	割り込み条件	DTC起動
受信バッファフル	SPRI	SPCR.SPRIEビットが“1”の状態を受信バッファフル(SPRFフラグが“1”)になったとき	可能
送信バッファエンプティ	SPTI	SPCR.SPTIEビットが“1”の状態を送信バッファエンプティ(SPTIEフラグが“1”)になったとき	可能
エラー(モードフォルト、アンダラン、オーバラン、パリティエラー)	SPEI	SPCR.SPEIEビットが“1”の状態でSPSR.MODF、UDRF、OVRF、またはPERFフラグが“1”になったとき	不可能
アイドル	SPII	SPCR2.SPIIEビットが“1”の状態でSPSR.IDLNFフラグが“0”になったとき	不可能

30.4 使用上の注意事項

30.4.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) により、RSPI の動作禁止 / 許可を設定できます。リセット後の値では、RSPI の動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタをアクセスできます。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

30.4.2 消費電力低減機能の注意事項

モジュールストップ機能の使用、およびスリープモードを除く低消費電力モードに遷移する場合は、あらかじめ SPCR.SPE ビットを“0”に設定し通信を終了させてください。

30.4.3 通信の開始に関する注意事項

ICU.IRn.IR フラグが“1”で通信を開始すると、通信開始後の割り込み要求が内部で保持されるため、ICU.IRn.IR フラグが予期しない挙動となる可能性があります。

通信開始時点で ICU.IRn.IR フラグが“1”のときは、動作許可 (SPCR.SPE ビットを“1”にする) 前に下記の手順で割り込み要求をクリアしてください。

- (1) 通信が停止していること (SPCR.SPE ビットが“0”となっていること) を確認
- (2) 対応する割り込み許可ビット (SPCR.SPTIE ビットまたは SPCR.SPRIE ビット) を“0”にする
- (3) 対応する割り込み許可ビット (SPCR.SPTIE ビットまたは SPCR.SPRIE ビット) を読み出し、“0”を確認
- (4) ICU.IRn.IR フラグを“0”にする

30.4.4 SPRF/SPTEF フラグに関する注意事項

SPSR.SPRF、SPTEF フラグをポーリングして使用する場合、SPCR.SPRIE、SPTIE ビットを“0”にしてください。

31. CRC演算器 (CRC)

CRC (Cyclic Redundancy Check) 演算器は、CRCコード生成を行います。

31.1 概要

表 31.1 に CRC 演算器の仕様を示します。図 31.1 に CRC 演算器のブロック図を示します。

表 31.1 CRC演算器の仕様

項目	内容
CRC演算対象データ (注1)	8nビットのデータに対してCRCコードを生成 (n=自然数)
CRC演算処理方式	8ビット並列実行
CRC生成多項式	3つの多項式から選択可能 <ul style="list-style-type: none"> 8ビットCRC $X^8 + X^2 + X + 1$ 16ビットCRC $X^{16} + X^{15} + X^2 + 1$ $X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$
CRC演算切り替え	LSBファーストまたはMSBファーストでの通信用に、CRC演算結果のビットオーダを切り替えることが可能
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

注1. 演算対象データをCRC演算の単位に分割する機能はありません。8ビット単位で書いてください。

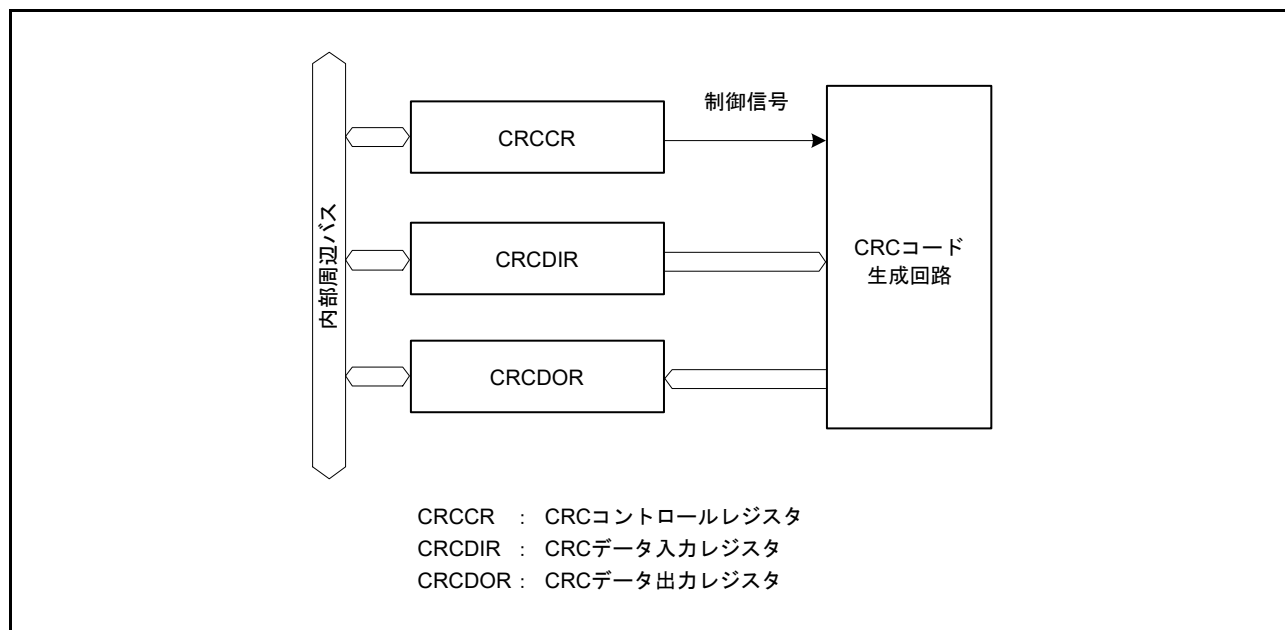


図 31.1 CRC演算器のブロック図

31.2 レジスタの説明

31.2.1 CRC コントロールレジスタ (CRCCR)

アドレス 0008 8280h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DORCLR	—	—	—	—	LMS	GPS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	GPS[1:0]	CRC生成多項式切り替えビット	b1 b0 0 0 : 演算しません 0 1 : 8ビットCRC ($X^8 + X^2 + X + 1$) 1 0 : 16ビットCRC ($X^{16} + X^{15} + X^2 + 1$) 1 1 : 16ビットCRC ($X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$)	R/W
b2	LMS	CRC演算切り替えビット	0 : LSBファースト通信用にCRCを生成 1 : MSBファースト通信用にCRCを生成	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	DORCLR	CRCDORレジスタクリアビット	1 : CRCDORレジスタをクリア 読むと“0”が読めます	R/W (注1)

注1. “1”のみ書けます。

LMS ビット (CRC 演算切り替えビット)

生成した16ビットのCRCコードのビットオーダを選択します。LSBファーストで通信を行う場合はCRCコードの下位バイト (b7～b0) から先に、MSBファーストで通信を行う場合はCRCコードの上位バイト (b15～b8) から先に送信してください。CRCコードの送信および受信については、「31.3 CRC演算器の動作説明」を参照してください。

DORCLR ビット (CRCDOR レジスタクリアビット)

DORCLR ビットを“1”にすると、CRCDORレジスタが“0000h”になります。

読むと“0”が読めます。“1”のみ書けます。

31.2.2 CRC データ入力レジスタ (CRCDIR)

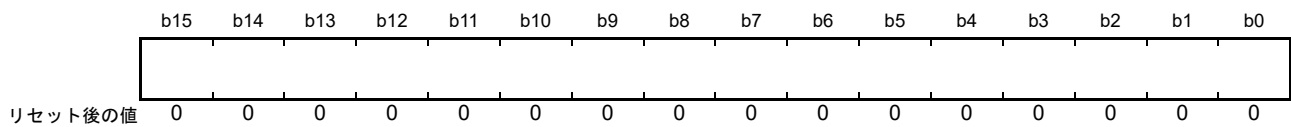
アドレス 0008 8281h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

CRCDIRレジスタは、読み出し／書き込み可能なレジスタです。CRC演算対象となるデータを書いてください。

31.2.3 CRC データ出力レジスタ (CRCDOR)

アドレス 0008 8282h



CRCDOR レジスタは、読み出し／書き込み可能なレジスタです。

初期値は "0000h" ですので、初期値以外を用いて演算する場合は、CRCDOR を書き換えてください。

データを CRCDIR レジスタに書くと、演算結果が CRCDOR レジスタに格納されます。また、通信データに続いて CRC コードを CRC 演算し、結果が "0000h" の場合、誤りがないと判断できます。

8 ビット CRC ($X^8 + X^2 + X + 1$ の多項式) を使用した場合は、下位バイト (b7 ~ b0) に有効な CRC コードが得られます。上位バイト (b15 ~ b8) は、更新されません。

31.3 CRC演算器の動作説明

CRC演算器は、LSBファースト/MSBファースト通信用CRCコードを生成します。

16ビットのCRC生成多項式 ($X^{16} + X^{12} + X^5 + 1$) を使用して、入力データ (“F0h”) のCRCコードを生成する例を以下に示します。この例ではCRC演算の前に、CRCデータ出力レジスタ (CRCDOR) の値をクリアします。

8ビットCRC ($X^8 + X^2 + X + 1$ の多項式) を使用した場合は、CRCDORレジスタの下位バイトに有効なCRCコードが得られます。

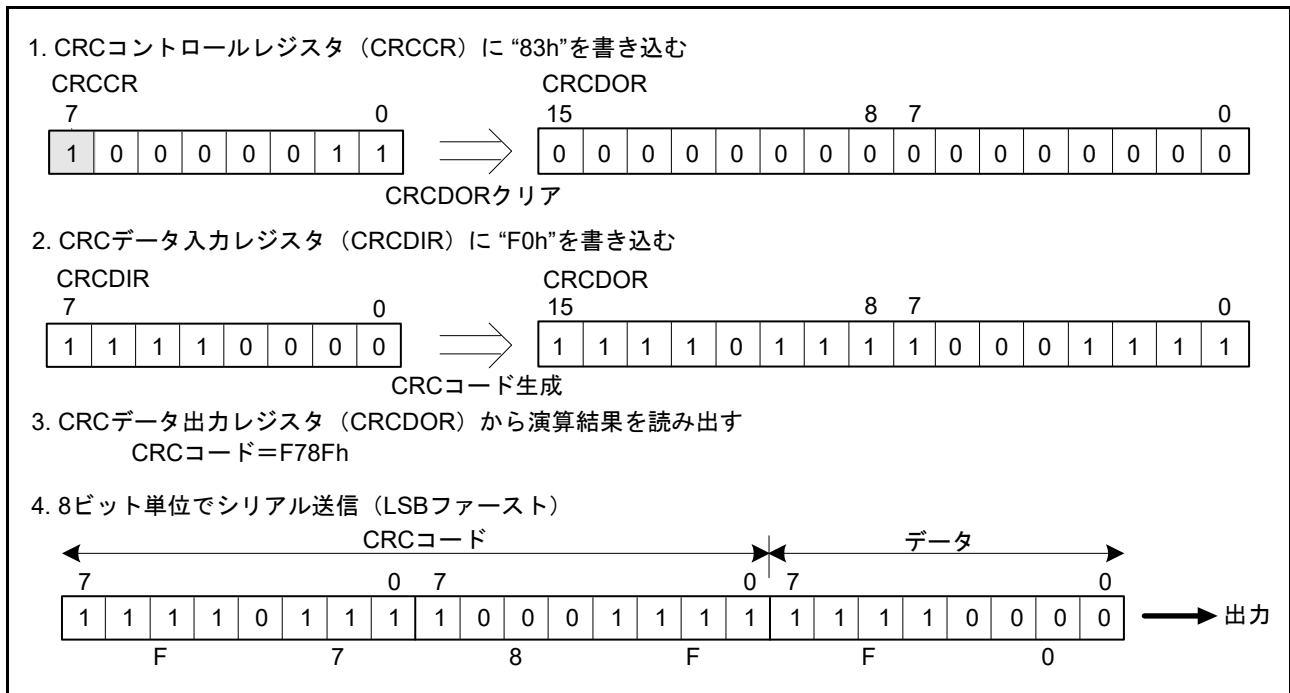


図 31.2 LSBファーストでのデータ送信

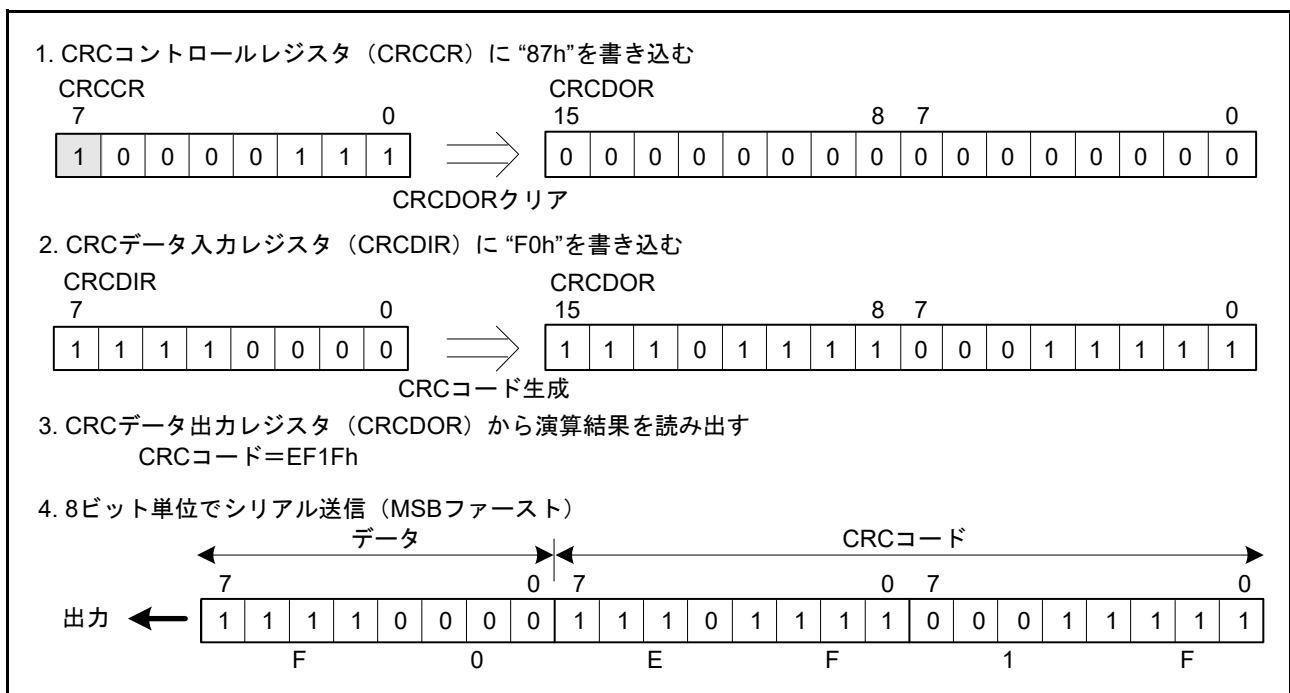


図 31.3 MSBファーストでのデータ送信

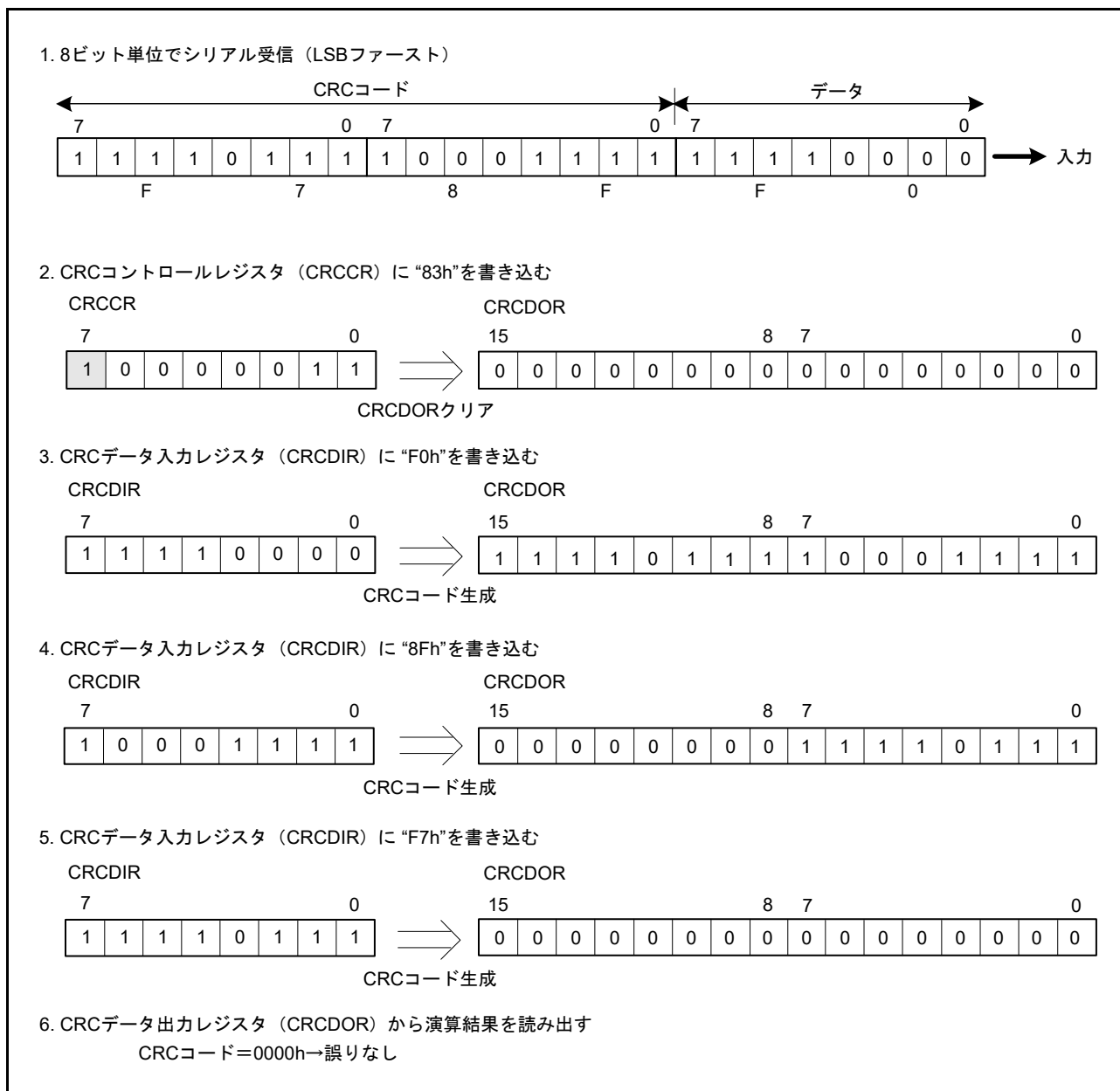


図 31.4 LSBファーストでのデータ受信

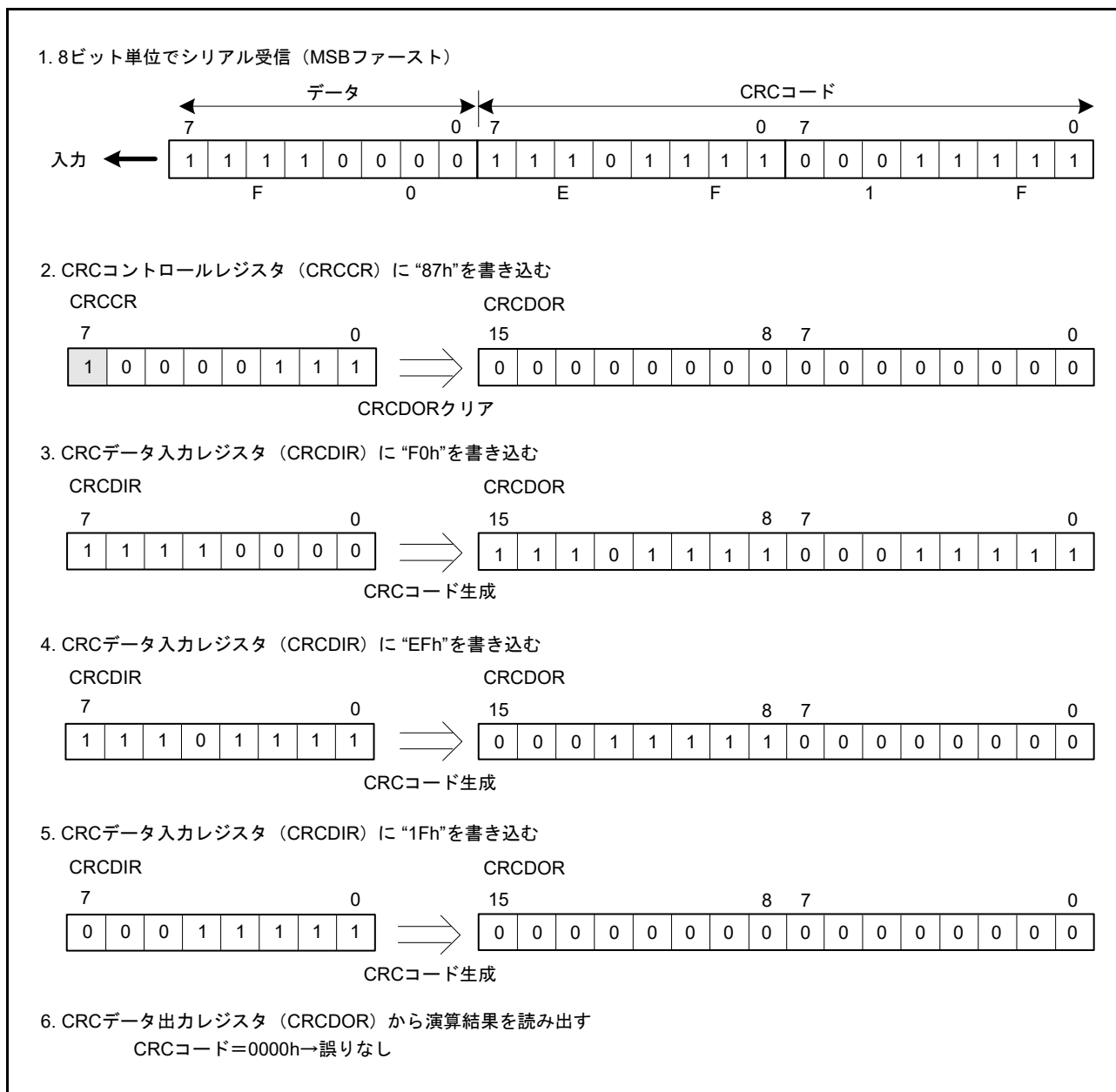


図 31.5 MSBファーストでのデータ受信

31.4 使用上の注意事項

31.4.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) により、CRC 演算器の動作を禁止/許可することが可能です。リセット後、CRC はモジュールストップ状態です。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。

詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

31.4.2 転送時の注意事項

LSB ファーストで送信する場合と、MSB ファーストで送信する場合とは、CRC コードを送る順序が異なりますので注意してください。

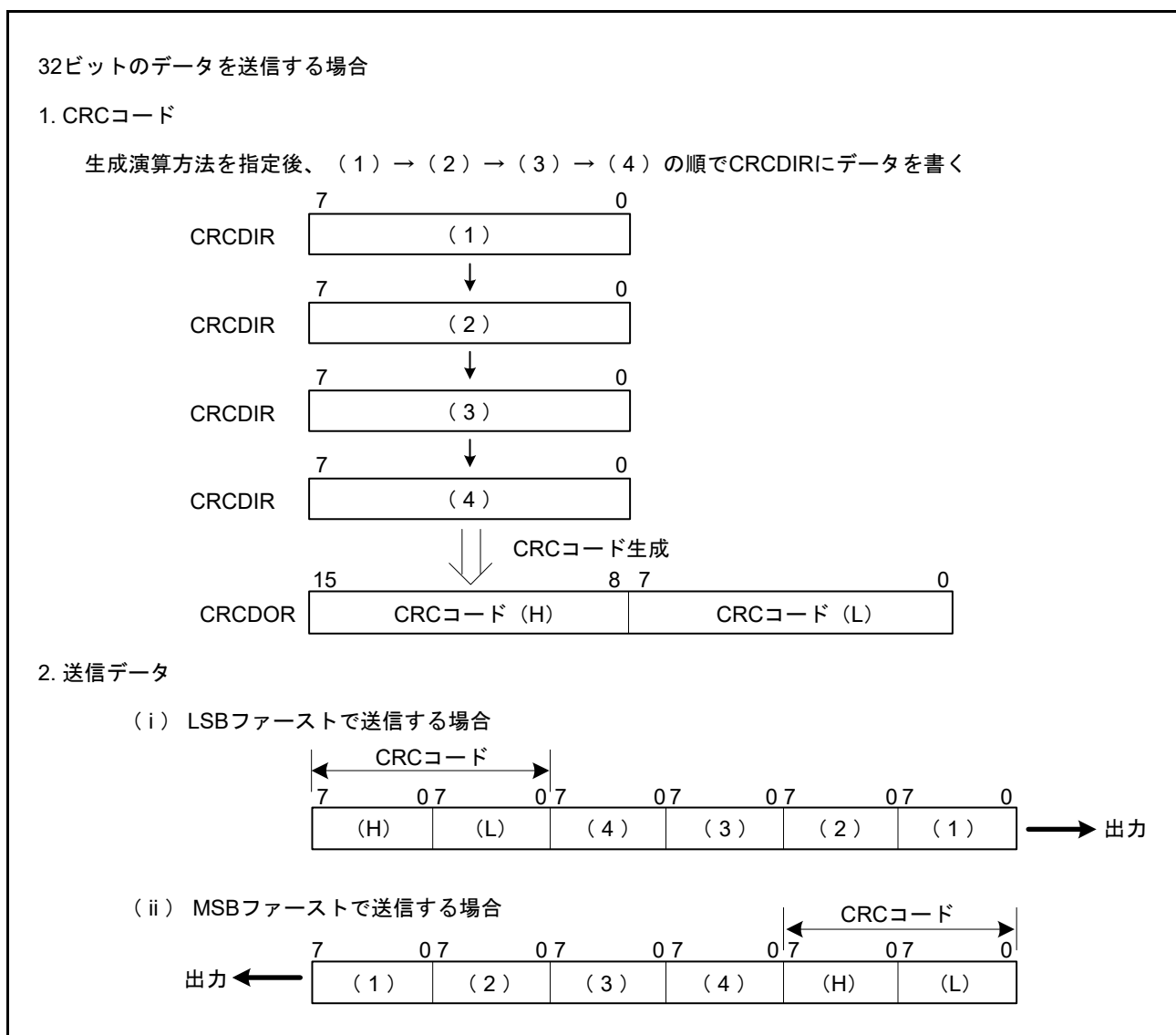


図 31.6 LSB ファーストと MSB ファーストの送信データ

32. 静電容量式タッチセンサ (CTS2SL, CTS2L)

静電容量式タッチセンサユニット (CTSU: Capacitive Touch Sensing Unit) は、タッチセンサの静電容量を測定します。ソフトウェアで静電容量の変化を判定することによって、指などがタッチセンサに接触したことを検出できます。通常、タッチセンサの電極表面は誘電体で覆われており、指が直接電極に接触することはありません。

図 32.1 に示すように、電極と周囲の導電体との間には静電容量 (寄生容量) が存在します。人体も導電体ですので、電極に指が近づくと静電容量の値が増加します。

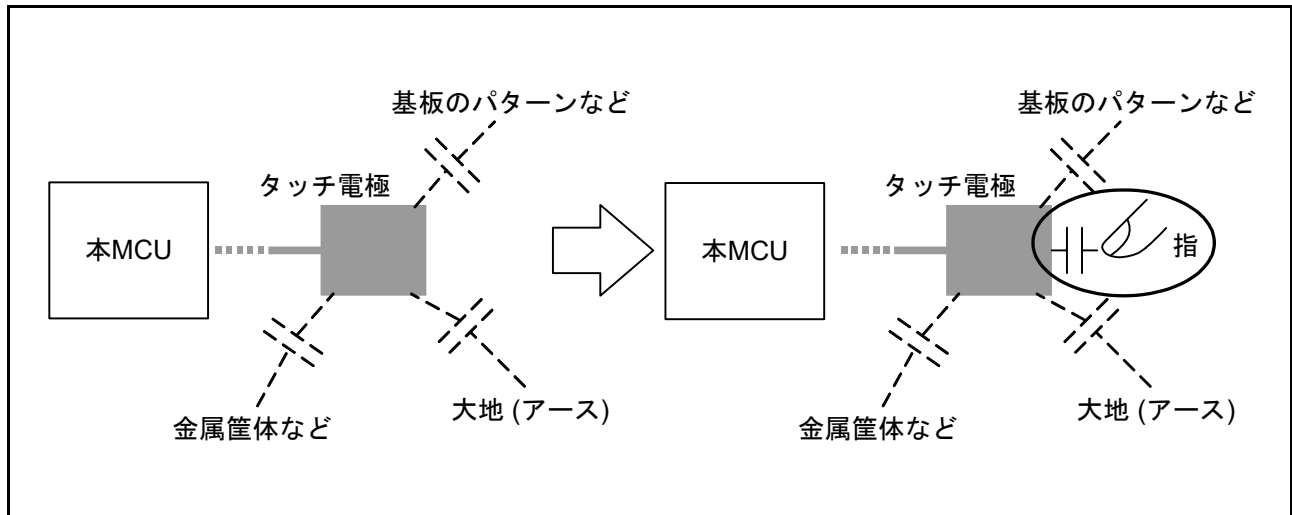


図 32.1 指による静電容量の増加

静電容量の検出方式には自己容量方式と相互容量方式があります。

自己容量方式では、指とひとつの電極との間に生じる静電容量を検出します。一方、相互容量方式は、二つの電極を送信電極と受信電極として使用し、指が接近することによって両者の間に生じる静電容量の変化を検出する方式です。

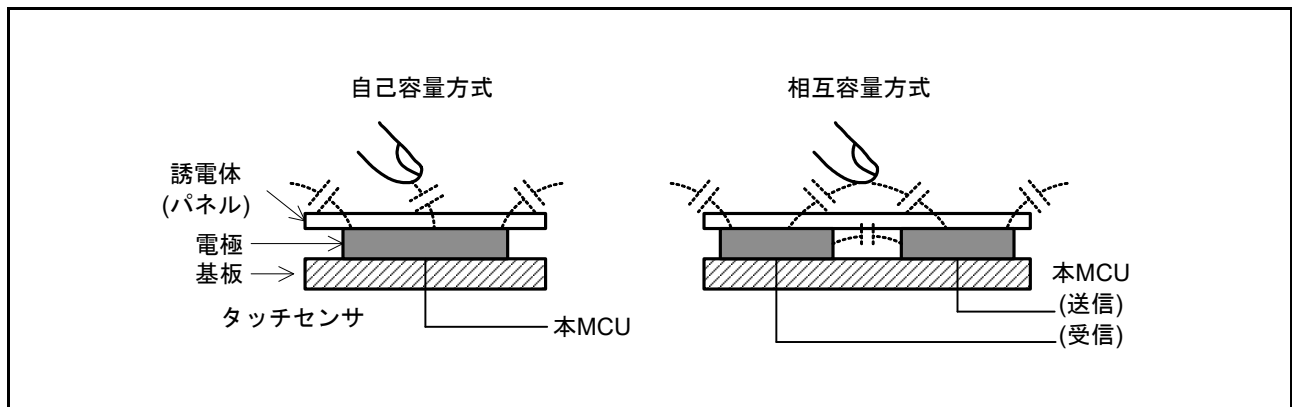


図 32.2 自己容量方式と相互容量方式

静電容量の測定は、充放電電流の量に応じて周波数に変化するクロック信号を一定の時間カウントすることにより行います。

CTSU の計測動作原理については、「32.3.1 計測動作原理」を参照してください。

32.1 概要

ROM容量が128Kバイト以上の製品にはCTS2SL、ROM容量が64Kバイトの製品にはCTS2Lが搭載されています。CTS2SLにはCTS2Lの機能に加え、自動補正機能、自動判定機能があります。

表32.1にCTSの仕様を、図32.3にCTSのブロック図を示します。

表32.1 CTSの仕様

項目		内容
動作クロック		PCLKB (1 MHz～)、PCLKB/2、PCLKB/4、またはPCLKB/8から選択
入出力端子	静電容量計測端子	<ul style="list-style-type: none"> CTS2SL : TS0～TS35端子(36チャンネル) CTS2L : TS3, TS4, TS13～TS15, TS25, TS28, TS29, TS31, TS33～TS35端子(12チャンネル)
	計測電源用コンデンサ接続端子	TSCAP端子(0.01 μF)
計測方式	自己容量方式	電極の静電容量に対する充放電電流から計測
	相互容量方式	送信電極-受信電極間の静電容量に対する充放電電流から計測
	電流計測モード	端子に流れる電流を直接計測
スキャンモード	シングルスキャンモード	1チャンネルの静電容量を計測
	マルチスキャンモード	複数チャンネルの静電容量を連続して計測
ノイズ対策		<ul style="list-style-type: none"> センサドライブパルスのスペクトラム拡散機能 センサドライブパルスのランダム位相シフト機能 複数周波数センサドライブパルスを用いたノイズホッピング機能
端子ごとの調整		<ul style="list-style-type: none"> オフセット電流調整機能 センサドライブパルス周波数指定 計測時間指定
計測開始条件		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアトリガ 外部トリガ(イベントリンクコントローラ(ELC)からのイベント入力)
自動処理機能(CTS2SLにのみ搭載)		<ul style="list-style-type: none"> 自動補正機能 自動判定機能
低電力動作		スヌーズモード時に計測可能 <ul style="list-style-type: none"> ELC経由で入力される外部トリガによって計測開始 自動判定機能を使用した非タッチ判定によってスヌーズモードを終了可能(CTS2SLのみ) 測定終了割り込みによってスヌーズモードを解除可能
割り込み要因		<ul style="list-style-type: none"> レジスタ設定要求割り込み(CTSUWR) 計測結果読み出し要求割り込み(CTSURD) 測定終了割り込み(CTSUFN)
イベントリンク機能		計測開始トリガ入力
消費電力低減機能		モジュールストップ状態への遷移が可能

CTSは、図32.3に示すようにステート制御部、トリガ制御部、クロック制御部、チャンネル制御部、ポート制御部、センサドライブパルス生成部、計測部、割り込み部、制御レジスタで構成されます。

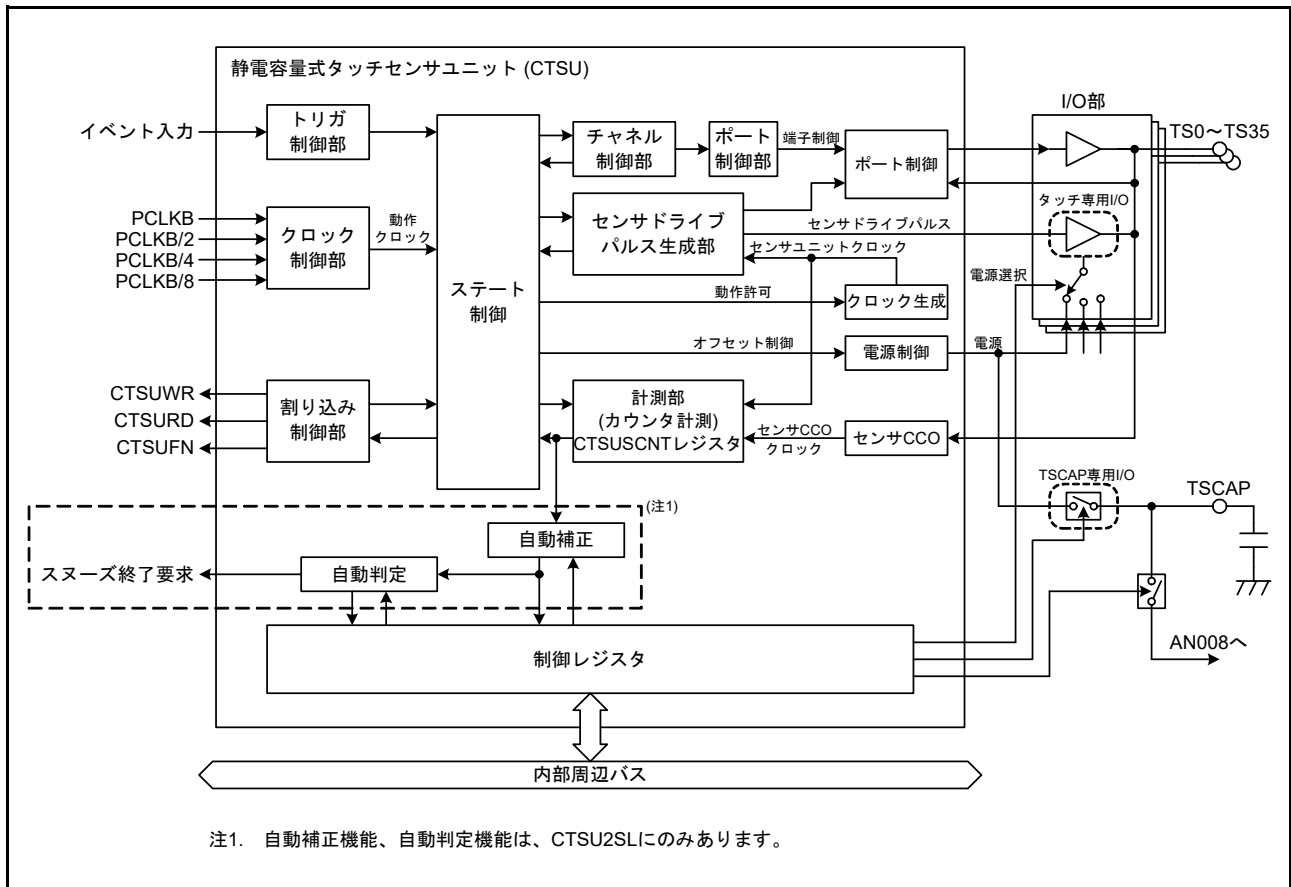


図 32.3 CTSU のブロック図

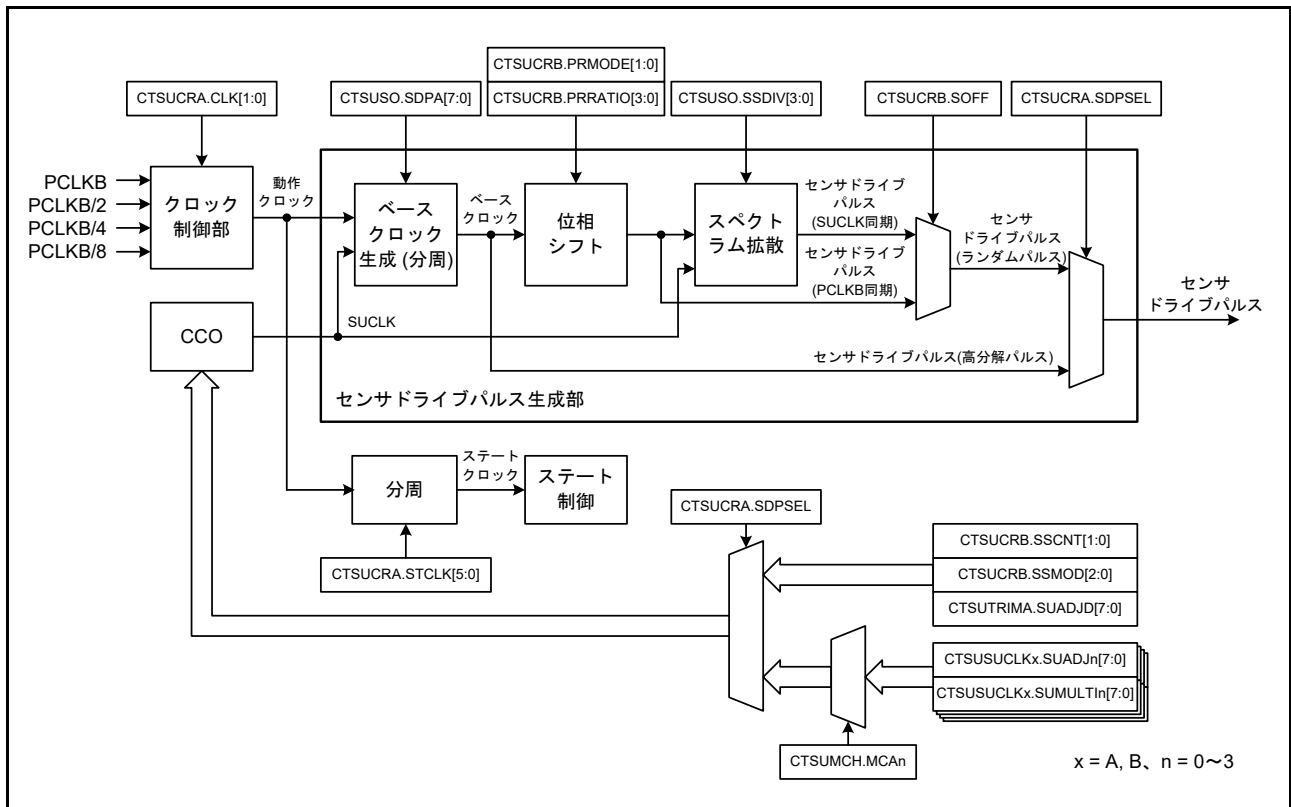


図 32.4 センサドライブパルス生成部の構成

表32.2 CTSUの入出力端子

端子名	入出力	機能
TS0～TS35	入出力	静電容量計測端子(タッチ端子)
TSCAP	—	計測用二次電源(コンデンサ)接続端子

32.2 レジスタの説明

32.2.1 CTSU 制御レジスタ A (CTSUCRA)

アドレス CTSU.CTSUCRA 000A 0900h

b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
DCBAC K	DCMO DE	STCLK[5:0]					PCSEL	SDPSE L	POSEL[1:0]		LOAD[1:0]		ATUNE 2	—	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
MD1	MD0	CLK[1:0]		ATUNE 1	ATUNE 0	CSW	PON	TXVSEL[1:0]		PUMP ON	INIT	—	SNZ	CAP	STRT
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	STRT	計測動作開始ビット	0 : 計測動作停止 1 : 計測動作開始	R/W
b1	CAP	計測開始トリガ選択ビット	0 : ソフトウェアトリガ 1 : 外部トリガ	R/W
b2	SNZ	スヌーズ機能有効ビット	0 : スヌーズモード時計測無効/通常動作 1 : スヌーズモード時計測有効/サスペンド	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	INIT	制御部初期化ビット	“1”を書くとCTSU制御部と一部のレジスタ(注1)が初期化されます。読むと“0”が読めます	R/W
b5	PUMPON	昇圧回路起動ビット(注2)	0 : 昇圧回路OFF 1 : 昇圧回路ON	R/W
b7-b6	TXVSEL[1:0]	送信電源選択ビット	b7 b6 0 0 : I/O電源 x 1 : 低ノイズVCC(注3) 1 0 : 内部ロジック電源	R/W
b8	PON	計測電源供給許可ビット	0 : 電源OFF 1 : 電源ON	R/W
b9	CSW	計測電源用コンデンサ接続ビット	0 : TSCAP切断 1 : TSCAP接続	R/W
b10	ATUNE0	電源電圧設定ビット(注4)	0 : 計測電源電圧 = 1.5 V 1 : 計測電源電圧 = 1.2 V	R/W
b11	ATUNE1	電流レンジ切り替えビット1	電流の計測レンジを切り替えます。 詳細は、表32.5を参照してください	R/W
b13-b12	CLK[1:0]	動作クロック選択ビット	b13 b12 0 0 : PCLKB 0 1 : PCLKB/2 (PCLKBを2分周したクロック) 1 0 : PCLKB/4 (PCLKBを4分周したクロック) 1 1 : PCLKB/8 (PCLKBを8分周したクロック)	R/W
b14	MD0	計測モード選択ビット0	0 : シングルスキャンモード 1 : マルチスキャンモード	R/W
b15	MD1	計測モード選択ビット1	0 : 自己容量方式 1 : 相互容量方式	R/W
b16	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b17	ATUNE2	電流レンジ切り替えビット2	電流の計測レンジを切り替えます。 詳細は、表32.5を参照してください	R/W
b19-b18	LOAD[1:0]	計測用負荷制御ビット	b19 b18 0 0 : 定電流負荷モード(通常計測用) 0 1 : 無負荷モード 1 0 : 定電流負荷モード(キャリブレーション用) 1 1 : 抵抗負荷モード(キャリブレーション用)	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b21-b20	POSEL[1:0]	非計測チャンネル出力選択ビット	b21 b20 0 0 : Low出力 0 1 : オープン(Hi-Z) 1 0 : Low出力(TXVSEL[1:0]ビットで設定した電源を使用) 1 1 : 送信チャンネルと同相のパルスを出力(TXVSEL[1:0]ビットで設定した電源を使用)	R/W
b22	SDPSEL	センサドライブパルス選択ビット	0 : ランダムパルスモード 1 : 高分解パルスモード(SUCLKモード)	R/W
b23	PCSEL	昇圧回路クロック選択ビット	0 : センサドライブパルス 1 : ステートクロック	R/W
b29-b24	STCLK[5:0]	ステートクロック選択ビット	設定値をnとすると、ステートクロック(STCLK)の周波数は動作クロックの $1/2(n+1)$ $n=0\sim63$ 、STCLK = 動作クロック / (2~128) STCLKの周波数が500 kHzになるようにしてください	R/W
b30	DCMODE	電流計測モード選択ビット	0 : 通常モード 1 : DC電流計測モード	R/W
b31	DCBACK	電流計測帰還選択ビット	0 : TSCAP端子からフィードバック 1 : TSm端子からフィードバック	R/W

注. STRT ビット、INITビット以外のビットは、STRT ビットが“0”のときに設定してください。

注1. CTSUSCNT、CTSUSMCH、CTSUSURの各レジスタが初期化されます。

注2. VCCの電圧が4.5 V未満の場合、“1”にしてください。

注3. 低ノイズVCCとは、VCC端子からCTSUS送信電源専用の配線を用いて供給される電源です。他の回路との共通インピーダンスを持たないため、近隣端子の動作に伴うスイッチングノイズの影響を受けにくくなっています。

注4. VCCの電圧が2.4 V未満の場合、“1”にしてください。

STRT ビット (計測動作開始ビット)

計測の開始 / 停止を制御します。

CAP ビットが“0”(ソフトウェアトリガ)のときに STRT ビットを“1”にすると、計測を開始します。計測が終了すると自動的に“0”になります。

CAP ビットが“1”(外部トリガ)のときに STRT ビットを“1”にすると、外部トリガ待ち状態になり、外部トリガが入力されると計測を開始します。計測が終了すると、再び外部トリガ待ち状態になります。

CTSUSの状態を、表 32.3 に示します。

表32.3 CTSUSの状態

CAPビット	STRTビット	CTSUSUR.STC[2:0]フラグ	CTSUSの状態
0	0	—	停止
0	1	—	計測中
1	0	—	停止
1	1	000b	外部トリガ待ち
1	1	000b以外	計測中

STRT ビットが“1”のときに“1”を上書きした場合、書き込みは無視され、動作はそのまま継続されます。

STRT ビットが“1”のときに計測を強制的に停止させたい場合(強制停止)、STRT ビットを“0”にするのと同時に INIT ビットを“1”にしてください。

SNZ ビット (スヌーズ機能有効ビット)

外部トリガを選択した場合に、スヌーズモード時の計測を有効にするビットです。また、単純に CTSU をサスペンド状態にして、待機時の消費電力を抑える用途にも使用できます。

表32.4 CTSUの内部状態

PONビット	SNZビット	CAPビット	STRTビット	外部トリガ	CTSUの内部状態
0	0	0	0	—	停止
1	0	—	—	—	動作
1	1	0	0	—	サスペンド(低電力モード)(注1)
1	1	1	0	—	サスペンド
1	1	1	1	なし	サスペンド(トリガ待ち)
1	1	1	1	あり	計測

注. 上記以外は設定禁止です。

注1. CTSUを待機させて消費電力を抑えるモードです。計測はできません。

ソフトウェアスタンバイモード中のトリガによってスヌーズモードに遷移し、計測を実行できます。スヌーズモード時の計測は以下の手順で実行できます。

- (1) イベントリンクコントローラ (ELC) で CTSU の外部トリガを LPT コンペアマッチ 1 に設定してください。
- (2) スヌーズモードへの遷移条件を (1) の要因に設定し、スヌーズモードの解除条件を測定終了割り込み (CTSUFN 割り込み) に設定してください。
- (3) CAP ビットと SNZ ビットを“1”にした後、STRT ビットを“1”にして、外部トリガ待ち状態にしてください。
- (4) ソフトウェアスタンバイモードに遷移させてください。
- (5) 外部トリガを検出すると、スヌーズモードに遷移し、CTSU が計測を開始します。
- (6) 計測が終了すると、CTSUFN 割り込みが発生し、CPU は通常動作モードになります。
- (7) SNZ ビットを“0”にしてサスペンド状態を解除してください。サスペンド状態を継続する場合、この後再度 SNZ ビットを“1”にしてください。

センサドライブパルスを高分解パルスモードに設定し (CTSUCRA.SDPSEL ビット = 1)、スヌーズ機能を使用する場合、昇圧回路用クロックにセンサドライブパルスを選択 (CTSUCRA.PCSEL ビット = 0) できません。

INIT ビット (制御部初期化ビット)

このビットを“1”にすることで内部制御レジスタを初期化できます。計測中に強制停止させる場合は、STRT ビットを“0”にするのと同時に INIT ビットを“1”にしてください。

STRT ビットを“1” (CTSU 動作開始) にするのと同時に INIT ビットを“1”にしないでください。

PUMPON ビット (昇圧回路起動ビット)

アナログスイッチの電源を生成するための昇圧回路を制御します。このビットが“0”のとき、出力電圧は VCC と同じになり、“1”のとき約 4.5V になります。VCC の電圧が 4.5V 未満の場合、このビットを“1”にしてください。

TXVSEL[1:0] ビット (送信電源選択ビット)

相互容量方式において、送信に設定した TSm 端子の I/O 電源を選択するビットです。また、選択した電源は、自己容量方式のアクティブシールド電極用の電源にも使用されます。

TSm 端子を自己容量方式のアクティブシールドに使用する場合は、“10b”にしてください。

PON ビット (計測電源供給許可ビット)

計測用電源 (1.5 V) の供給を制御するビットです。

このビットを“1”にする前に、PUMPON ビットを設定し、CSW ビットを“1”にしてください。

CSW ビット (計測電源用コンデンサ接続ビット)

TSCAP 端子に接続されたコンデンサの充電制御を行います。

このビットを“1”にする前に、TSCAP 端子にマルチプレクスされた汎用入出力ポート (PC4 端子) から Low を出力し、コンデンサの電荷を放電させてください。

このビットを“1”にした後は、TSCAP 端子に接続されたコンデンサが充電されるまで待ってから計測を開始してください。

ATUNE0 ビット (電源電圧設定ビット)

CTS2 の計測電源電圧を制御するビットです。

VCC の電圧に応じて本ビットを設定してください。VCC の電圧が 2.4 V 未満の場合、このビットを“1”にしてください。2.4 V 以上の場合は“0”、“1”どちらでも構いません。

ATUNE1 ビット (電流レンジ切り替えビット 1)、ATUNE2 ビット (電流レンジ切り替えビット 2)

計測電源の最大供給電流 (計測レンジ) を設定します。

表32.5 ATUNE1ビット、ATUNE2ビットの設定と計測レンジ

ATUNE2ビット	ATUNE1ビット	計測レンジ
0	0	80 μ A
0	1	40 μ A
1	0	20 μ A
1	1	160 μ A (電流計測モード)

MD1 ビット (計測モード選択ビット 1)

計測方式 (自己容量方式 / 相互容量方式) を選択するビットです。

このビットを“0” (自己容量方式) にする場合、計測対象のチャンネルは受信 (CHTRCm ビット = 0 (m = 0 ~ 35)) にしてください。アクティブシールドとして使用する場合に限り送信 (CHTRCm ビット = 1) にすることができます。送信に設定したチャンネルがある場合、送信端子からは計測中のチャンネルと同相のパルスが出力されます。

このビットを“1” (相互容量方式) にする場合、送信端子と受信端子をまんべんなく配置してください。すべてのチャンネルが受信の場合、計測できません。

詳細は、「32.3.4 計測方式」を参照してください。

LOAD[1:0] ビット (計測用負荷制御ビット)

計測用の負荷を選択するビットです。

このビットが“00b”の場合、2.5 μ A の定電流負荷、“10b”の場合 20 μ A の定電流負荷、“11b”の場合 15 k Ω の抵抗負荷が選択されます。

定電流負荷モードから抵抗負荷モードに切り替える場合、まず無負荷モードに切り替えてから抵抗負荷モードに切り替えてください。

POSEL[1:0] ビット (非計測チャネル出力選択ビット)

計測中でない端子 (非計測端子) の出力を選択するビットです。

たとえば、図 32.5 のような電極配置で、TS0 ~ TS2 端子を使用して自己容量方式による計測を行い、TS3 端子と非計測端子をアクティブシールドとして使用する場合、以下のように設定します。

- TS3 端子を送信に設定 : CTSUCHACA.CHAC3 ビット、CTSUCHTRCA.CHTRC3 ビットを“1”にします
- TS0 ~ TS2 端子を受信に設定 : CTSUCHACA.CHAC0 ~ CHAC2 ビットを“1”、CTSUCHTRCA.CHTRC0 ~ CHTRC2 ビットを“0”にします
- 非計測端子の出力を同相パルスに設定 : POSEL[1:0] ビットを“11b”にします

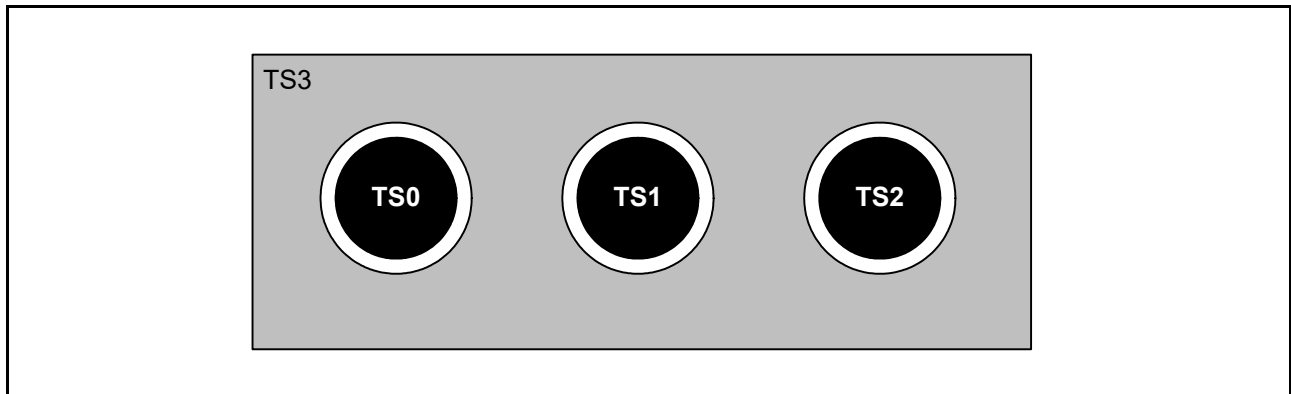


図 32.5 電極の配置例

SDPSEL ビット (センサドライブパルス選択ビット)

センサドライブパルスおよびセンサユニットクロック (SUCLK) を選択するビットです。

このビットを“0” (ランダムパルスモード) にした場合、動作クロックを CTSUSO.SDPA[7:0] ビットで分周したクロック (ベースクロック) を基準に、疑似乱数を用いてランダムに Low 幅を延長させることで、PCLKB に同期したセンサドライブパルスを生成します。このパルスを SUCLK でリサンプリングすることによって、High 幅、Low 幅ともにランダムにしたものをセンサドライブパルスとして使うこともできます。SUCLK は CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] ビット、CTSUCRB.SSCNT[1:0] ビット、CTSUCRB.SSMOD[2:0] ビットの設定に従って生成されます。ランダムパルスモードでは、SUCLK はセンサドライブパルスのリサンプリング (周波数拡散) のためだけに使用されます。

このビットを“1” (高分解パルスモード) にした場合、SUCLK を CTSUSO.SDPA[7:0] ビットで分周したクロック (ベースクロック) がセンサドライブパルスになります。SUCLK は CTSUSUCLKA レジスタ、CTSUSUCLKB レジスタの設定に従って生成されます。CTSUSUCLKA レジスタ、CTSUSUCLKB レジスタは SDPSEL ビットを“1”にする前に設定し、“1”にした後は書き換えしないでください。CTSUCALIB.CCOCLK ビットを“1”にすると、計測ごとに SUCLK の周波数が調整されます。

STCLK[5:0] ビット (ステートクロック選択ビット)

動作クロックに対するステートクロック (STCLK) の分周値を設定します。STCLK は、計測時間と SUCLK の周波数調整周期に関係します。

このビットの設定値を n とすると、分周値は以下の式で決まります。

$$\text{分周値} = (n + 1) \times 2$$

STCLK が 500 kHz になるように、値を設定してください。

DCMODE ビット (電流計測モード選択ビット)

センサドライブパルスを使用せずに、電流を計測するときに使用します。

このビットを“1”にすると、受信端子から、CTSUCALIB.IOC ビットで指定したレベルが出力され、センサドライブパルスが停止します。

DCBACK ビット (電流計測帰還選択ビット)

計測電源 (LDO) のフィードバック入力を選択するビットです。DCMODE ビットが“1”のときのみ有効です。

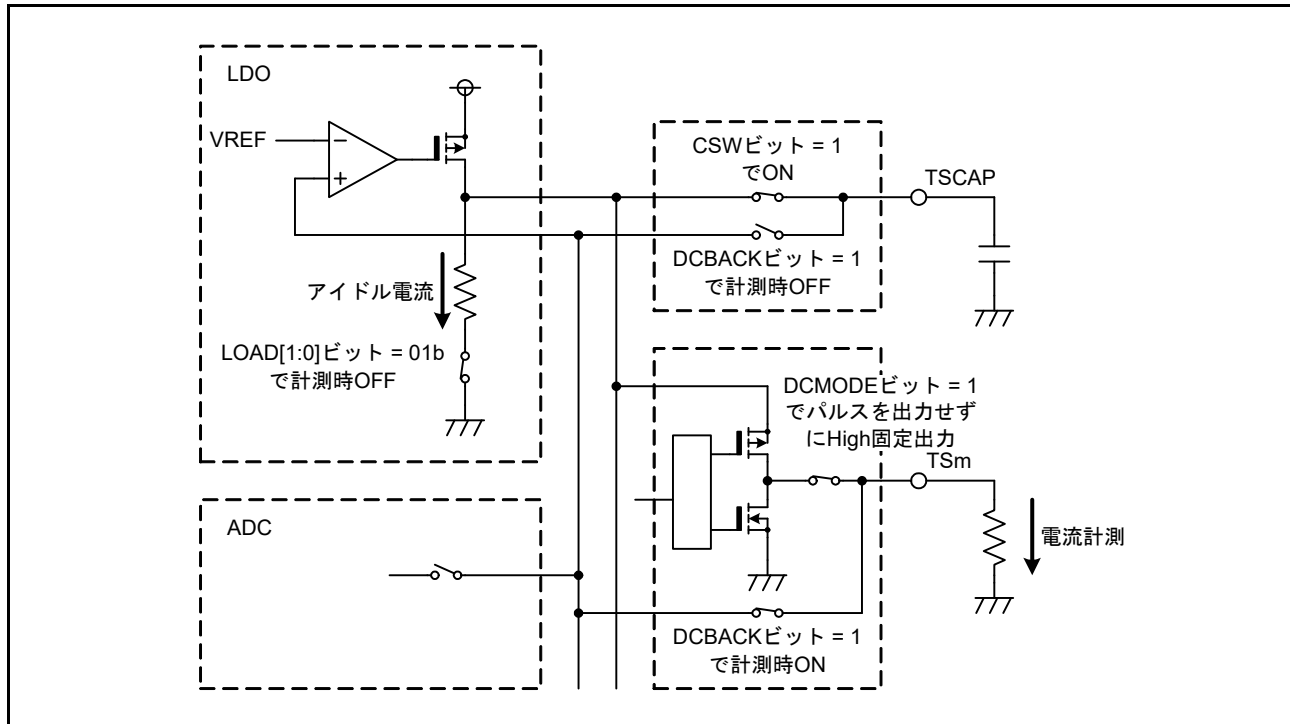


図 32.6 LDO のフィードバックループ

32.2.2 CTSU 制御レジスタ B (CTSUCRB)

アドレス CTSU.CTSUCRB 000A 0904h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	SSCNT[1:0]	—	SSMOD[2:0]		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SST[7:0]							PROFF	SOFF	PRMODE[1:0]		PRRATIO[3:0]				
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	PRRATIO[3:0]	疑似乱数更新周期設定ビット (注1)	疑似乱数生成用の線形帰還シフトレジスタ (LFSR) のシフト周期を設定します。	R/W
b5-b4	PRMODE[1:0]	疑似乱数生成周期設定ビット (注1)	b5 b4 0 0 : 255周期 0 1 : 63周期 1 0 : 31周期 1 1 : 3周期	R/W
b6	SOFF	周波数拡散機能OFFビット (注1)	0 : 周波数拡散機能ON 1 : 周波数拡散機能OFF	R/W
b7	PROFF	疑似乱数OFFビット	0 : 疑似乱数制御を行う 1 : 疑似乱数制御を行わない	R/W
b15-b8	SST[7:0]	センサ安定待ち時間設定ビット	<ul style="list-style-type: none"> ランダムパルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 0) 設定値をnとすると、安定待ち時間はPCLKB同期のセンサドライブパルスの2(n + 1)サイクル 高分解パルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 1) 設定値をnとすると、安定待ち時間はSTCLKのn + 1サイクル 	R/W
b23-b16	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b26-b24	SSMOD[2:0]	SUCLK拡散モード選択ビット	b26 b24 0 0 0 : 256周期 0 0 1 : 384周期 0 1 0 : 512周期 0 1 1 : 1024周期 1 1 1 : 周波数拡散なし 上記以外は設定しないでください	R/W
b27	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b29-b28	SSCNT[1:0]	SUCLK拡散制御ビット	b29 b28 0 0 : CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] + 00h 0 1 : CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] + 20h 1 0 : CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] + 40h 1 1 : CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] + 60h	R/W
b31-b30	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. CTSUCRBレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

注1. PRRATIO[3:0]ビット、PRMODE[1:0]ビット、SOFFビットは、CTSUCRA.SDPSELビットが“0” (ランダムパルスモード) のときのみ有効です。

PRRATIO[3:0] ビット (疑似乱数更新周期設定ビット)

疑似乱数生成に使用する線形帰還シフトレジスタ (LFSR) のシフト周期を指定するビットです。ベースクロックのクロック数で指定します。

また、このビットの設定値は、計測パルス数や計測時間に影響します。これらは以下の式で計算できます。

基本パルス数は、PRMODE[1:0] ビットによって選択した周期の 2 倍です。

計測パルス数 = 基本パルス数 × (PRRATIO[3:0] ビット + 1)

計測時間 = (基本パルス数 × (PRRATIO[3:0] ビット + 1) + (基本パルス数 - 2) × 0.25) × ベースクロック周期

PRMODE[1:0] ビット (疑似乱数生成周期設定ビット)

疑似乱数生成に使用する線形帰還シフトレジスタ (LFSR) の生成多項式を更新する周期を指定するビットです。

このビットで選択した周期の 2 倍が基本パルス数になります。

SOFF ビット (周波数拡散機能 OFF ビット)

周波数拡散のための SUCLK によるリサンプリング機能を OFF にするためのビットです。PCLKB に同期したセンサドライブパルスを使用する場合は、このビットを“1”にしてください。

PROFF ビット (疑似乱数 OFF ビット)

疑似乱数制御を OFF にするためのビットです。このビットを“1”にすると、疑似乱数生成に LFSR は用いられず、1 周期毎に“1”または“0”を出力します。

SST[7:0] ビット (センサ安定待ち時間設定ビット)

センサドライブパルス供給から TSCAP 端子の電圧が安定するまでの期間を設定するビットです。

TSCAP 端子の電圧はセンサドライブパルスを供給することにより安定します。このビットの値とサイクル数の関係は以下のとおりです。

- CTSUCRA.SDPSEL ビット = 0 の場合

PCLKB 同期のセンサドライブパルスのサイクル数を基準に安定待ち時間を指定します。

サイクル数 = 2 × (SST[7:0] ビットの値 + 1)

安定待ち時間は、以下の範囲で設定してください。

SST[7:0] ビットで設定したサイクル数 ≥ (PRRATIO[3:0] ビット + 1)

- CTSUCRA.SDPSEL ビット = 1 の場合

STCLK のサイクル数により安定待ち時間を指定します。

サイクル数 = 1 × (SST[7:0] ビットの値 + 1)

SSMOD[2:0] ビット (SUCLK 拡散モード選択ビット)

SUCLK 発振器のスペクトラム拡散周期を設定するビットです。SUCLK の発振周波数は、CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] ビットと SSCNT[1:0] ビットで指定された周波数を基準に、アップスプレッドされます。

SSCNT[1:0] ビット (SUCLK 拡散制御ビット)

CTSUTRIMA.SUADJD[7:0] ビットで指定された SUCLK 発振器の発振周波数を調整するビットです。

32.2.3 CTSU 計測チャネルレジスタ (CTSUMCH)

アドレス CTSU.CTSMCH 000A 0908h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	MCA3	MCA2	MCA1	MCA0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	MCH1[5:0]					—	—	MCH0[5:0]						
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	MCH0[5:0]	計測チャネルビット0	<ul style="list-style-type: none"> シングルスキャンモード 計測したい受信チャネルの番号を指定します。 マルチスキャンモード 計測中の受信チャネルの番号が表示されます。 	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b13-b8	MCH1[5:0]	計測チャネルビット1	<ul style="list-style-type: none"> シングルスキャンモード 計測したい送信チャネルの番号を指定します。 マルチスキャンモード 計測中の送信チャネルの番号が表示されます。 	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b16	MCA0	マルチクロック0許可ビット	0: 禁止 1: 許可	R/W
b17	MCA1	マルチクロック1許可ビット		
b18	MCA2	マルチクロック2許可ビット		
b19	MCA3	マルチクロック3許可ビット		
b31-b20	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. CTSUMCHレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

MCH0[5:0] ビット (計測チャネルビット 0)

シングルスキャンモードでは、計測する受信チャネルを指定します。CTSUCHACA、CTSUCHACBレジスタで“0”(計測対象外)に設定されているチャネルを指定しないでください。指定した場合、計測開始後すぐに完了します。

マルチスキャンモードでは、計測中の受信チャネルを示します。値を書き換えても、計測開始時にクリアされます。

計測が終了すると“111111b”になります。

MCH1[5:0] ビット (計測チャネルビット 1)

シングルスキャンモードでは、計測する送信チャネルを指定します。CTSUCHACA、CTSUCHACBレジスタで“0”(計測対象外)に設定されているチャネルを指定しないでください。指定した場合、計測開始後すぐに完了します。

マルチスキャンモードでは、計測中の送信チャネルを示します。値を書き換えても、計測開始時にクリアされます。

計測が終了すると“111111b”になります。

MCA_n ビット (マルチクロック n 許可ビット) (n = 0 ~ 3)

周波数の異なる複数のセンサユニットクロック (SUCLK) を使用して計測 (マルチクロック計測) する場合に、各クロックの使用を許可するビットです。

MCA_n ビットを“1”にすると、SUCLK_n が計測に使用されます。

MCA_n ビットを複数有効にして計測を開始すると、SUCLK₀ から昇順にクロックを切り替えながら、指定されたチャンネルの計測を行います。許可されたすべての SUCLK で計測が終わると、次のチャンネルの計測を開始します。

SUCLK₀ ~ SUCLK₃ の周波数は、CTSUSUCLKA レジスタ、CTSUSUCLKB レジスタで設定します。

32.2.4 CTSU チャネル有効制御レジスタ A (CTSUCHACA)

アドレス CTSU.CTSUCHACA 000A 090Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	CHAC3	CHAC3	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC2	CHAC1	CHAC1	CHAC1	CHAC1
	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CHAC1	CHAC1	CHAC1	CHAC1	CHAC1	CHAC1	CHAC9	CHAC8	CHAC7	CHAC6	CHAC5	CHAC4	CHAC3	CHAC2	CHAC1	CHAC0
	5	4	3	2	1	0										
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CHAC0	チャンネル0有効制御ビット	0 : 計測対象外 1 : 計測対象	R/W
b1	CHAC1	チャンネル1有効制御ビット		R/W
b2	CHAC2	チャンネル2有効制御ビット		R/W
b3	CHAC3	チャンネル3有効制御ビット		R/W
b4	CHAC4	チャンネル4有効制御ビット		R/W
b5	CHAC5	チャンネル5有効制御ビット		R/W
b6	CHAC6	チャンネル6有効制御ビット		R/W
b7	CHAC7	チャンネル7有効制御ビット		R/W
b8	CHAC8	チャンネル8有効制御ビット		R/W
b9	CHAC9	チャンネル9有効制御ビット		R/W
b10	CHAC10	チャンネル10有効制御ビット		R/W
b11	CHAC11	チャンネル11有効制御ビット		R/W
b12	CHAC12	チャンネル12有効制御ビット		R/W
b13	CHAC13	チャンネル13有効制御ビット		R/W
b14	CHAC14	チャンネル14有効制御ビット		R/W
b15	CHAC15	チャンネル15有効制御ビット		R/W
b16	CHAC16	チャンネル16有効制御ビット		R/W
b17	CHAC17	チャンネル17有効制御ビット		R/W
b18	CHAC18	チャンネル18有効制御ビット		R/W
b19	CHAC19	チャンネル19有効制御ビット		R/W
b20	CHAC20	チャンネル20有効制御ビット		R/W
b21	CHAC21	チャンネル21有効制御ビット		R/W
b22	CHAC22	チャンネル22有効制御ビット		R/W
b23	CHAC23	チャンネル23有効制御ビット		R/W
b24	CHAC24	チャンネル24有効制御ビット		R/W
b25	CHAC25	チャンネル25有効制御ビット		R/W
b26	CHAC26	チャンネル26有効制御ビット		R/W
b27	CHAC27	チャンネル27有効制御ビット		R/W
b28	CHAC28	チャンネル28有効制御ビット		R/W
b29	CHAC29	チャンネル29有効制御ビット		R/W
b30	CHAC30	チャンネル30有効制御ビット		R/W
b31	CHAC31	チャンネル31有効制御ビット		R/W

注. CTSUCHACAレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

32.2.5 CTSU チャネル有効制御レジスタ B (CTSUCHACB)

アドレス CTSU.CTSUCHACB 000A 0910h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CHAC3 5	CHAC3 4	CHAC3 3	CHAC3 2
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CHAC32	チャンネル32有効制御ビット	0 : 計測対象外 1 : 計測対象	R/W
b1	CHAC33	チャンネル33有効制御ビット		R/W
b2	CHAC34	チャンネル34有効制御ビット		R/W
b3	CHAC35	チャンネル35有効制御ビット		R/W
b31-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. CTSUCHACBレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

CHACm ビット (チャンネル m 有効制御ビット) (m = 0 ~ 35)

静電容量を計測する端子 (送信、受信とも) を設定します。

存在しない端子に対応するビットは“0”にしてください。

32.2.6 CTSU チャネル送受信制御レジスタ A (CTSUCHTRCA)

アドレス CTSU.CTSUCHTRCA 000A 0914h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	CHTRC31	CHTRC30	CHTRC29	CHTRC28	CHTRC27	CHTRC26	CHTRC25	CHTRC24	CHTRC23	CHTRC22	CHTRC21	CHTRC20	CHTRC19	CHTRC18	CHTRC17	CHTRC16
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	CHTRC15	CHTRC14	CHTRC13	CHTRC12	CHTRC11	CHTRC10	CHTRC9	CHTRC8	CHTRC7	CHTRC6	CHTRC5	CHTRC4	CHTRC3	CHTRC2	CHTRC1	CHTRC0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CHTRC0	チャンネル0送受信制御ビット	0 : 受信 1 : 送信	R/W
b1	CHTRC1	チャンネル1送受信制御ビット		R/W
b2	CHTRC2	チャンネル2送受信制御ビット		R/W
b3	CHTRC3	チャンネル3送受信制御ビット		R/W
b4	CHTRC4	チャンネル4送受信制御ビット		R/W
b5	CHTRC5	チャンネル5送受信制御ビット		R/W
b6	CHTRC6	チャンネル6送受信制御ビット		R/W
b7	CHTRC7	チャンネル7送受信制御ビット		R/W
b8	CHTRC8	チャンネル8送受信制御ビット		R/W
b9	CHTRC9	チャンネル9送受信制御ビット		R/W
b10	CHTRC10	チャンネル10送受信制御ビット		R/W
b11	CHTRC11	チャンネル11送受信制御ビット		R/W
b12	CHTRC12	チャンネル12送受信制御ビット		R/W
b13	CHTRC13	チャンネル13送受信制御ビット		R/W
b14	CHTRC14	チャンネル14送受信制御ビット		R/W
b15	CHTRC15	チャンネル15送受信制御ビット		R/W
b16	CHTRC16	チャンネル16送受信制御ビット		R/W
b17	CHTRC17	チャンネル17送受信制御ビット		R/W
b18	CHTRC18	チャンネル18送受信制御ビット		R/W
b19	CHTRC19	チャンネル19送受信制御ビット		R/W
b20	CHTRC20	チャンネル20送受信制御ビット		R/W
b21	CHTRC21	チャンネル21送受信制御ビット		R/W
b22	CHTRC22	チャンネル22送受信制御ビット		R/W
b23	CHTRC23	チャンネル23送受信制御ビット		R/W
b24	CHTRC24	チャンネル24送受信制御ビット		R/W
b25	CHTRC25	チャンネル25送受信制御ビット		R/W
b26	CHTRC26	チャンネル26送受信制御ビット		R/W
b27	CHTRC27	チャンネル27送受信制御ビット		R/W
b28	CHTRC28	チャンネル28送受信制御ビット		R/W
b29	CHTRC29	チャンネル29送受信制御ビット		R/W
b30	CHTRC30	チャンネル30送受信制御ビット		R/W
b31	CHTRC31	チャンネル31送受信制御ビット		R/W

注. CTSUCHTRCAレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

32.2.7 CTSU チャネル送受信制御レジスタ B (CTSUCHTRCB)

アドレス CTSU.CTSUCHTRCB 000A 0918h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CHTRC 35	CHTRC 34	CHTRC 33	CHTRC 32
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CHTRC32	チャンネル32送受信制御ビット	0 : 受信 1 : 送信	R/W
b1	CHTRC33	チャンネル33送受信制御ビット		R/W
b2	CHTRC34	チャンネル34送受信制御ビット		R/W
b3	CHTRC35	チャンネル35送受信制御ビット		R/W
b31-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. CTSUCHTRCBレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

CHTRCm ビット (チャンネル m 送受信制御ビット) (m = 0 ~ 35)

相互容量フルスキャンモード時のチャンネル m (T_Sm 端子) に対する受信、送信の割り当てを行います。

自己容量方式 (CTSUCRA.MD1 ビット = 0) 時に送信にすると、アクティブシールド信号出力として使用できます。ただし、アクティブシールド出力として使用する場合は、2ビット以上“1”にしないでください。

32.2.8 CTSU ステータスレジスタ (CTSUSR)

アドレス CTSU.CTSUSR 000A 091Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	PS	UCOVF	SCOVF	DTSR	—	STC[2:0]	—	—	ICOMP0	ICOMP1	ICOMP RST	—	—	—	MFC[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	MFC[1:0]	マルチクロックカウンタ	b1 b0 0 0 : SUCLK0 0 1 : SUCLK1 1 0 : SUCLK2 1 1 : SUCLK3	R/W
b4-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	ICOMP RST	ICOMP0、ICOMP1フラグリセットビット	“1”を書くと、ICOMP0、ICOMP1フラグがリセットされます。読むと“0”が読めます	R/W
b6	ICOMP1	過電流検出フラグ	0 : 正常 1 : 過電流検出	R
b7	ICOMP0	過電圧検出フラグ	0 : 正常 1 : 過電圧検出	R
b10-b8	STC[2:0]	計測ステートカウンタ	b10 b8 0 0 0 : State 0 0 0 1 : State 1 0 1 0 : State 2 0 1 1 : State 3 1 0 0 : State 4 1 0 1 : State 5	R
b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	DTSR	データ転送ステータスフラグ	0 : 計測結果が読み出されている 1 : 計測結果が読み出されていない	R
b13	SCOVF	センサカウンタオーバフローフラグ (注1)	0 : オーバフローなし 1 : オーバフローあり	R/(W) (注2)
b14	UCOVF	センサユニットクロックカウンタオーバフローフラグ (注1)	0 : オーバフローなし 1 : オーバフローあり	R/(W) (注2)
b15	PS	相互容量計測状態フラグ	0 : 1回目の計測 1 : 2回目の計測	R
b31-b16	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. CTSUCRA.INITビットを“1”にしてSCOVF、UCOVFフラグをクリアする場合、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに実施してください。

注2. フラグをクリアするための“0”書き込みのみ可能です。フラグをクリアする場合、フラグが“1”であることを確認してから“0”を書いてください。

MFC[1:0] ビット (マルチクロックカウンタ)

マルチクロック計測を実行中 (CTSUCRA.SDPSEL ビット = 1、CTSUCRA.MCAn ビット (n = 0 ~ 3) の 2 ビット以上が“1”)、そのとき使用されている SUCLK の番号を示します。

CTSUSR レジスタに値を書く場合、このビットには“00b”を書いてください。

ICOMP1 フラグ (過電流検出フラグ)

計測用電源の出力電流異常を示すフラグです。CTSUCRA.PON ビットを“0”にするか ICOMPRST ビットを“1”にすると、クリアされます。

このフラグが“1”になったときの CTSUSCNT.SC[15:0] ビットの値は、“FFFFh”になります。

ICOMP0 フラグ (過電圧検出フラグ)

計測用電源の出力電圧異常を示すフラグです。CTSUCRA.PON ビットを“0”にするか ICOMPRST ビットを“1”にすると、クリアされます。

このフラグが“1”になったときの CTSUSCNT.SC[15:0] ビットの値は、“0000h”になります。

STC[2:0] ビット (計測ステートカウンタ)

現在の計測ステートを示すビットです。各ステートの詳細は、「32.3.3 計測ステート」を参照してください。

DTSR フラグ (データ転送ステータスフラグ)

センサカウンタに格納された計測結果を読み出したかどうかを示すフラグです。

[“1”になる条件]

- 計測が終了して、CTSUSCNT レジスタに計測結果が格納されたとき

[“0”になる条件]

- CTSUSCNT レジスタからデータを読み出したとき
- CTSUCRA.INIT ビットを“1”にしたとき

SCOVF フラグ (センサカウンタオーバフローフラグ)

センサカウンタがオーバフローしたことを示すフラグです。このフラグが“1”になったときの CTSUSCNT.SC[15:0] ビットの値は“FFFFh”になります。

計測の途中でオーバフローが発生しても、設定された期間まで計測処理は続きます。そのため、どのチャンネルを計測中にオーバフローが発生したかは、全チャンネルの計測が終了してから (CTSUFN 割り込み発生後)、各チャンネルの計測結果を見て判断してください。

[“1”になる条件]

- 計測中に CTSUSCNT.SC[15:0] ビットがオーバフローしたとき

[“0”になる条件]

- SCOVF フラグが“1”であることを確認した後、“0”を書いたとき
- CTSUCRA.INIT ビットを“1”にしたとき

UCOVF フラグ (センサユニットクロックカウンタオーバフローフラグ)

センサユニットクロックカウンタがオーバフローしたことを示すフラグです。このフラグが“1”になったときの CTSUSCNT.UC[15:0] ビットの値は“FFFFh”になります。

計測の途中でオーバフローが発生しても、設定された期間まで計測処理は続きます。そのため、どのチャンネルを計測中にオーバフローが発生したかは、全チャンネルの計測が終了してから (CTSUFN 割り込み発生後)、各チャンネルの計測結果を見て判断してください。

[“1”になる条件]

- 計測中に CTSUSCNT.UC[15:0] ビットがオーバフローしたとき

[“0”になる条件]

- UCOVF フラグが“1”であることを確認した後、“0”を書いたとき
- CTSUCRA.INIT ビットを“1”にしたとき

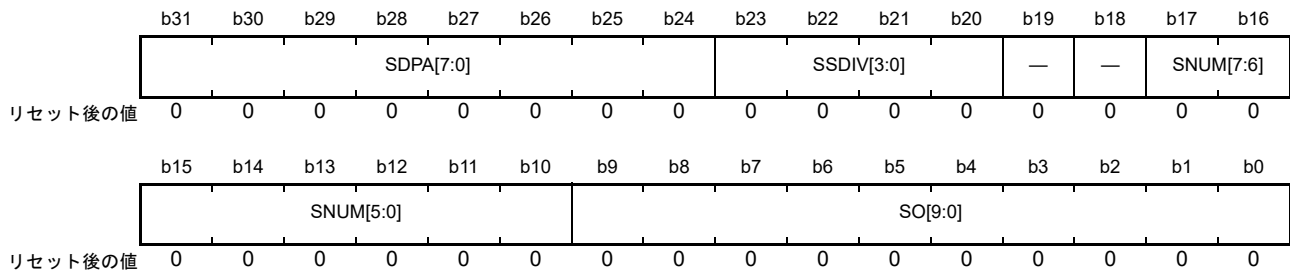
PS フラグ (相互容量計測状態フラグ)

相互容量方式 (CTSUCRA.MD1 ビット = 1) では1チャンネルあたり2回の計測を実施しますが、そのときの計測が1回目なのか2回目なのかを示すフラグです。

計測停止中や自己容量方式 (MD1 ビット = 0) での計測中は、“0” になっています。

32.2.9 CTSU センサオフセットレジスタ (CTSUSO)

アドレス CTSU.CTSUSO 000A 0920h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b9-b0	SO[9:0]	センサオフセット調整ビット	センサCCOの入力電流オフセットを調整します	R/W
b17-b10	SNUM[7:0]	計測期間設定ビット	<ul style="list-style-type: none"> ランダムパルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 0) CTSUの計測期間を基本計測単位の繰り返し数で設定します。設定できる値の範囲は“00h”~“3Fh”です。設定値をnとすると、基本計測単位をn+1回繰り返します 高分解パルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 1) CTSUの計測期間をSTCLKの周期を基準に設定します。設定値をnとすると、STCLKの8(n+1)周期の間、計測を実施します 	R/W
b19-b18	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b23-b20	SSDIV[3:0]	スペクトラム拡散サンプリング周期制御ビット	b23 b20 0 0 0 0 : 1分周 0 0 0 1 : 2分周 : 1 1 1 0 : 15分周 1 1 1 1 : 16分周	R/W
b31-b24	SDPA[7:0]	ベースクロック設定ビット (注1)	<ul style="list-style-type: none"> ランダムパルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 0) 設定値をnとすると、ベースクロック周波数は動作クロックの2(n+1)分周 高分解パルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 1) 設定値をnとすると、ベースクロック周波数はSUCLKの2(n+1)分周 	R/W

注1. 相互容量方式(CTSUCRA.MD1ビット=1)や周波数拡散機能がOFF(CTSUCRB.SOFFビット=1)の場合、SDPA[7:0]ビットを“00h”にしないでください。

このレジスタには、CTSUWR 割り込みの発生後、値を書き込んでください。このレジスタに値を書き込むと、計測ステートが State 3 に遷移します。このレジスタには1度に32ビットすべての値を設定してください。

SO[9:0] ビット (センサオフセット調整ビット)

センサ CCO の入力電流オフセットを調整するビットです。

非タッチ状態の静電容量により発生するセンサ CCO の入力電流をこのビットによってオフセットさせ、タッチ計測時にセンサカウンタがオーバーフローすることを防ぎます。

SNUM[7:0] ビット (計測期間設定ビット)

ランダムパルスモード (CTSUCRA.SDPSEL ビット = 0) の場合、CTSUCRB.PRRATIO[3:0] ビットと CTSUCRB.PRMODE[1:0] ビットで指定した数の計測パルス (基本計測単位) を、計測時に何回繰り返すかを設定します。繰り返し回数は「SNUM[7:0] ビットの値 + 1」です。

高分解パルスモード (SDPSEL ビット = 1) の場合、STCLK の周期を基準に計測期間を設定します。STCLK の「 $8 \times (\text{SNUM}[7:0] \text{ ビットの値} + 1)$ 」周期の間、計測を実施します。

SSDIV[3:0] ビット (スペクトラム拡散サンプリング周期制御ビット)

ランダムパルスモード (CTSUCRA.SDPSEL ビット = 0) において、PCLKB 同期のセンサドライブパルスを SUCLK でリサンプリングするときに、何分周のクロックでリサンプリングするかを設定するビットです。センサドライブパルスの 4 倍以上の周波数になるように設定してください。

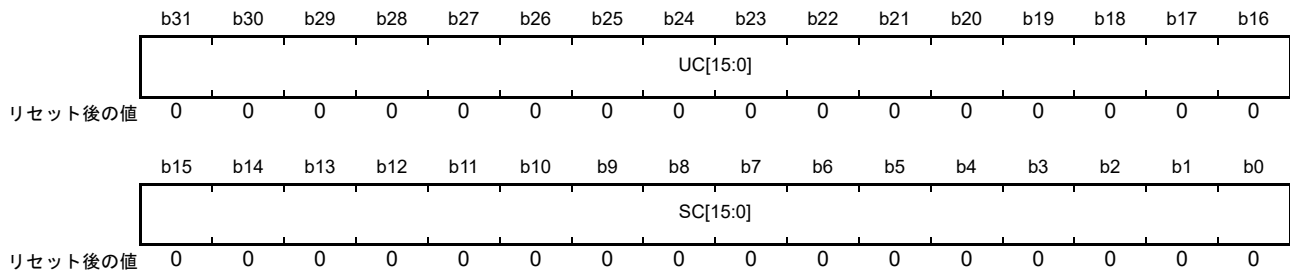
SDPA[7:0] ビット (ベースクロック設定ビット)

ランダムパルスモード (SDPSEL ビット = 0) の場合、動作クロックに対するベースクロックの分周値を設定します。このビットの設定値を n とすると、分周値は $2(n + 1)$ で表せます。ランダムパルスモードでは、ベースクロックをスペクトラム拡散させたものがセンサドライブパルスになります。

高分解パルスモード (SDPSEL ビット = 1) の場合、SUCLK に対するベースクロックの分周値を設定します。このビットの設定値を n とすると、分周値は $2(n + 1)$ で表せます。高分解パルスモードでは、ベースクロックがセンサドライブパルスとして使用されます。

32.2.10 CTSU センサカウンタ (CTSUSCNT)

アドレス CTSU.CTSUSCNT 000A 0924h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	SC[15:0]	センサカウンタビット	計測結果を示すビットです。 オーバーフロー発生時は“FFFFh”になります	R
b31-b16	UC[15:0]	センサユニットクロックカウンタ ビット	SUCLK用CCOの出カクロック (SUCLKの2倍の周波 数)のカウンタ値を示します。オーバーフロー発生時は “FFFFh”になります	R

このレジスタは、CTSURD 割り込み発生後、読み出してください。

このレジスタの値を CTSUCALIB.CNTRDSEL ビットで設定した回数読み出すと、計測ステートが State 0 (CTSUSR.STC[2:0] フラグ = 000b) または State 2 (STC[2:0] フラグ = 010b) に遷移します。

カウンタの値は、次の計測で計測ステートが State 4 (STC[2:0] フラグ = 100b) に遷移する直前にクリアされます。また、CTSUCRA.INIT ビットでも本カウンタはクリアされます。

(a) CTSUCALIB.CNTRDSEL ビット = 0 の場合

このレジスタを 1 回読み出すと計測ステートが進みます。

16 ビットアクセス時は、SC[15:0] ビットまたは UC[15:0] ビットのどちらを読み出しても計測ステートが進み、State 4 に遷移する前に両方のカウンタがクリアされます。計測結果が必要な場合は、SC[15:0] ビットを読み出してください。

(b) CTSUCALIB.CNTRDSEL ビット = 1 の場合

このレジスタを 2 回読み出すと計測ステートが進みます。

16 ビットアクセスで、SC[15:0] ビットと UC[15:0] ビット両方の結果を読み出したいときに使用してください。

SC[15:0] ビット (センサカウンタビット)

計測期間中にセンサ CCO から出力されるクロックをカウントするカウンタです。

UC[15:0] ビット (センサユニットクロックカウンタビット)

センサユニットクロックの 2 倍の周波数のクロックをカウントするカウンタです。

32.2.11 CTSU キャリブレーションレジスタ (CTSUCALIB)

アドレス CTSU.CTSUCALIB 000A 0928h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	TXREV	CCOCLALIB	CCOCLK	DACCLK	SUCARRY	SUMSEL	DACCARRY	DACMSEL	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	IOCSSEL	DCOFF	—	IOC	CNTRDSEL	TSOC	SUCLKEN	CLKSEL[1:0]	DRV	TSOD	—	—	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b2	TSOD	TS全端子出力制御ビット	<ul style="list-style-type: none"> CTS2Lの場合 0: 静電容量計測モード 1: TS端子出力テストモード(キャリブレーション用) CTS2SLの場合 0: 静電容量計測モード 1: IOCSELビットで選択 	R/W
b3	DRV	キャリブレーション設定ビット1	0: 静電容量計測モード 1: キャリブレーションモード1	R/W
b5-b4	CLKSEL[1:0]	観測クロック選択ビット	b5 b4 0 0: Low出力 0 1: センサCCOクロックの4分周 1 0: 設定しないでください 1 1: SUCLKの4分周	R/W
b6	SUCLKEN	SUCLK許可ビット	0: SUCLK停止 1: SUCLK発振	R/W
b7	TSOC	キャリブレーション設定ビット2	0: 静電容量計測モード 1: キャリブレーションモード2	R/W
b8	CNTRDSEL	センサカウンタレジスタリード回数選択ビット	0: 1回読み出すと次ステートへ進む 1: 2回読み出すと次ステートへ進む	R/W
b9	IOC	TS端子出力制御ビット	<ul style="list-style-type: none"> TSOD = 1, IOCSEL = 1(注1)の場合 0: TS_m端子からLow出力 1: TS_m端子からHigh出力 CTSUCRA.DCMODE = 1の場合 0: TS_m端子からHigh出力 1: TS_m端子からLow出力 	R/W
b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11	DCOFF	ダウンコンパートOFFビット	0: 通常動作モード 1: ダウンコンパートOFF	R/W
b12	IOCSEL	TS端子固定出力選択ビット(注2)	0: 静電容量計測モード(複数電極接続機能使用) 1: TS端子出力テストモード(キャリブレーション用)	R/W
b23-b13	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b24	DACMSEL	DAC電流マトリクス固定ビット	0: 電流源をローテーション 1: 電流源を固定	R/W
b25	DACCARRY	DAC上位電流源繰り上がり入力	0: 通常計測 1: data入力に+64します	R/W
b26	SUMSEL	CCO電流マトリクス固定ビット	0: 電流源をローテーション 1: 電流源を固定	R/W
b27	SUCARRY	CCO繰り上がり入力	0: 通常計測 1: data入力に+32します	R/W

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b28	DACCLK	DAC変調回路用クロック選択ビット	0: 動作クロック 1: SUCLK	R/W
b29	CCOCLK	CCO変調回路用クロック選択ビット	0: 動作クロック 1: SUCLK	R/W
b30	CCOCALIB	CCOキャリブレーションモード選択ビット	0: 通常モード LDO電流→電流計測用発振器 SSCNT電流→SUCLK発振器 1: 発振器キャリブレーションモード LDO電流→SUCLK発振器 SSCNT電流→電流計測用発振器	R/W
b31	TXREV	送信端子反転出力ビット	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己容量方式(CTSUCRA.MD1 = 0) 0: 受信端子と同相の信号を出力 1: 受信端子と逆相の信号を出力 ● 相互容量方式(CTSUCRA.MD1 = 1) 0: 1回目は受信端子の同相、2回目は受信端子の逆相の信号を出力 1: 1回目は受信端子の逆相、2回目は受信端子の同相の信号を出力 	R/W

注1. 「IOCSEL = 1」の条件は、CTS2SLでのみ必要です。

注2. このビットは、CTS2SLにのみあります。

CTS2Lでは、予約ビットです。読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください。

TSOD ビット (TS 全端子出力制御ビット)

TSm 端子の出力テストや複数電極の合計容量の計測を行う場合に使用するビットです。自己容量方式 (CTSUCRA.MD1 ビット = 0)、シングルスキャンモード (CTSUCRA.MD0 ビット = 0) でのみ有効です。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

TSOD ビット、IOCSEL ビット (CTS2SL のみ) を“1”にした場合、IOC ビットで指定した信号がすべての TSm 端子から出力されます。

TSOD ビットを“1”、IOCSEL ビットを“0”にした場合、計測対象かつ受信に設定したすべての TSm 端子からセンサドライブパルスが出力されます。このとき、全電極の静電容量の合計値が計測できます。このモードは、CTS2SL でのみ利用できます。

DRV ビット (キャリブレーション設定ビット 1)

CTS2L のキャリブレーションを行う場合に使用するビットです。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

DRV ビットを“1”にすると、疑似的に State 3、State 4 の状態になります。計測中の State 3、State 4 とは以下の点で異なります。

- センサドライブパルスが出力されない
- 計測カウンタのイネーブル、リセットが出力されない

CLKSEL[1:0] ビット (観測クロック選択ビット)

CTS2L 内で生成される 2 つのクロックの内、波形を観測したいクロックを選択するビットです。選択したクロックの 4 分周クロックを CLKOUT 端子でモニタできます。

TSOC ビット (キャリブレーション設定ビット 2)

TSOC ビットは、CTS2L のキャリブレーションを行う場合に使用します。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

CNTRDSEL ビット (センサカウンタレジスタリード回数選択ビット)

CTSUSCNT レジスタのリード回数を選択するビットです。以下の場合、“1”にしてください。

- 16ビットアクセスで、CTSUSCNT.SC[15:0]ビットと CTSUSCNT.UC[15:0]ビットの両方をリードする場合

IOC ビット (TS 端子出力制御ビット)

TSOD ビットと IOCSEL ビット (CTSUS2SL のみ) を“1”にするか、または CTSUCRA.DCMODE ビットを“1”にした場合に、T_{Sm} 端子から出力するレベルを選択します。

TSOD ビットと IOCSEL ビットのいずれかが“0”、かつ CTSUCRA.DCMODE ビットが“0”の場合、このビットは無視されます。

DCOFF ビット (ダウンコンバート OFF ビット)

LDO の出力を OFF にするビットです。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

DACMSEL ビット (DAC 電流マトリクス固定ビット)

主に電流源の特性評価及びテスト時に使用します。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

SUMSEL ビット (CCO 電流マトリクス固定ビット)

主に電流源の特性補正、テスト評価に使用します。静電容量を計測する場合は、“0”にしてください。

CCOCALIB ビット (CCO キャリブレーションモード選択ビット)

外部電流と電流 DAC の出力を比較し、発振器特性を補正するときに使用します。

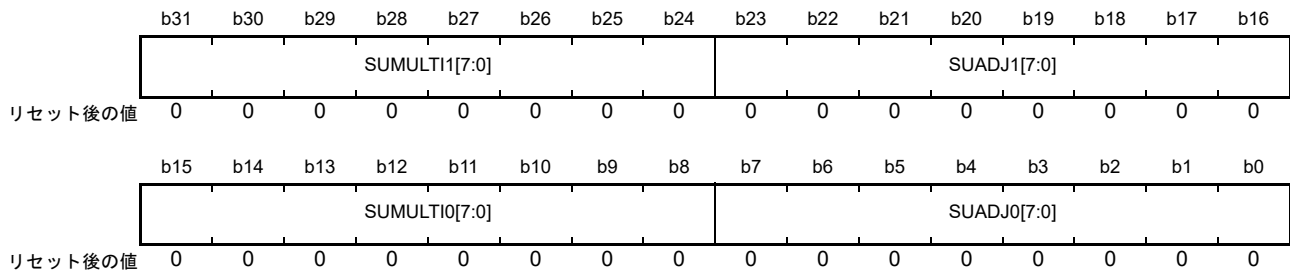
TXREV ビット (送信端子反転出力ビット)

送信端子からの出力を反転するためのビットです。

“1”にすると、送信端子からのパルス出力を反転できます。通常は“0”にしてください。

32.2.12 CTSU センサユニットクロック制御レジスタ A (CTSUSUCLKA)

アドレス CTSU.CTSUSUCLKA 000A 092Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SUADJ0[7:0]	SUCLK0周波数調整ビット	SUCLK0の周波数の初期値を設定してください	R/W
b15-b8	SUMULTI0[7:0]	SUCLK0通倍率設定ビット	SUCLK0の周波数とSTCLKの周波数との通倍比を設定してください。設定した値をnとすると、SUCLK0の周波数はSTCLKの周波数のn+1倍になります	R/W
b23-b16	SUADJ1[7:0]	SUCLK1周波数調整ビット	SUCLK1の周波数の初期値を設定してください	R/W
b31-b24	SUMULTI1[7:0]	SUCLK1通倍率設定ビット	SUCLK1の周波数とSTCLKの周波数との通倍比を設定してください。設定した値をnとすると、SUCLK1の周波数はSTCLKの周波数のn+1倍になります	R/W

センサユニットクロック発振器内のフィードバックループの設定を行うレジスタです。

SUADJn[7:0] ビット (SUCLKn 周波数調整ビット) (n = 0, 1)

SUCLKnの周波数の初期値を設定するビットです。

このビットの値は、計測ごとに周波数のずれを補正するように更新されます。

SUMULTIn[7:0] ビット (SUCLKn 通倍率設定ビット) (n = 0, 1)

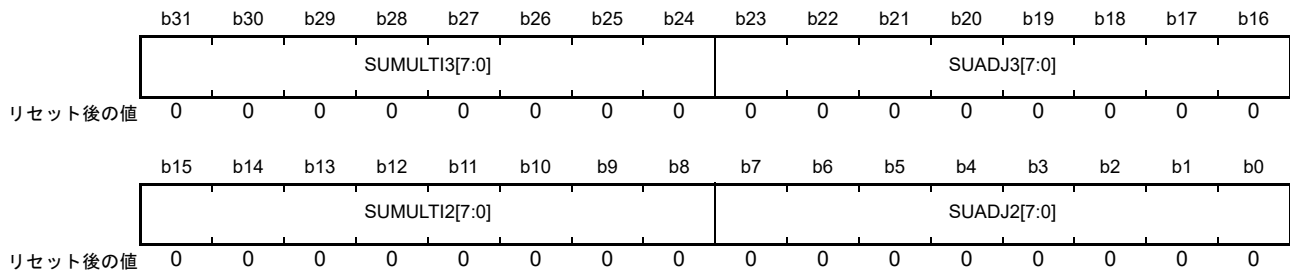
PLL内の分周器の分周比を設定するビットです。

PLLで生成されたクロックを「このビットに設定した値+1」分周し、STCLKの位相と比較します。比較した結果を元にSUADJnビットの値が更新されます。

SUCLKnの周波数が16 MHz～40 MHzの範囲に入るように値を設定してください。

32.2.13 CTSU センサユニットクロック制御レジスタ B (CTSUSUCLKB)

アドレス CTSU.CTSUSUCLKB 000A 0930h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	SUADJ2[7:0]	SUCLK2周波数調整ビット	SUCLK2の周波数の初期値を設定してください	R/W
b15-b8	SUMULTI2[7:0]	SUCLK2通倍率設定ビット	SUCLK2の周波数とSTCLKの周波数との通倍比を設定してください。設定した値をnとすると、SUCLK2の周波数はSTCLKの周波数のn+1倍になります	R/W
b23-b16	SUADJ3[7:0]	SUCLK3周波数調整ビット	SUCLK3の周波数の初期値を設定してください	R/W
b31-b24	SUMULTI3[7:0]	SUCLK3通倍率設定ビット	SUCLK3の周波数とSTCLKの周波数との通倍比を設定してください。設定した値をnとすると、SUCLK3の周波数はSTCLKの周波数のn+1倍になります	R/W

センサユニットクロック発振器内のフィードバックループの設定を行うレジスタです。

SUADJn[7:0] ビット (SUCLKn 周波数調整ビット) (n = 2, 3)

SUCLKnの周波数の初期値を設定するビットです。

このビットの値は、計測ごとに周波数のずれを補正するように更新されます。

SUMULTIn[7:0] ビット (SUCLKn 通倍率設定ビット) (n = 2, 3)

PLL内の分周器の分周比を設定するビットです。

PLLで生成されたクロックを「このビットに設定した値+1」分周し、STCLKの位相と比較します。比較した結果を元にSUADJnビットの値が更新されます。

SUCLKnの周波数が16 MHz～40 MHzの範囲に入るように値を設定してください。

32.2.14 CTSU トリミングレジスタ A (CTSUTRIMA)

アドレス CTSU.CTSUTRIMA 007F C3A4h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	RTRIM[7:0]	基準抵抗調整入力ビット	内部基準抵抗の抵抗値を調整するビットです。25°C時に所定の電流値になるような値が書かれています	R/W
b15-b8	DACTRIM[7:0]	オフセット電流調整ビット	電流計測用発振器用の電流DACの係数を調整するビットです	R/W
b23-b16	SUADJD[7:0]	SUCLK周波数調整ビット	ランダムパルスモード(CTSUCRA.SDPSEL = 0)時のSUCLK周波数を調整するビットです。SUCLKの周波数が約32 MHzになるような値が書かれています	R/W
b31-b24	TRESULT4[7:0]	テスト結果4格納ビット	LDOの負荷抵抗を120 kΩにしたときの変動係数が格納されています	R/W

このレジスタには、工場出荷時に個々のチップごとに測定された調整データが書かれています。値は書き換えしないでください。

32.2.15 CTSU トリミングレジスタ B (CTSUTRIMB)

アドレス CTSU.CTSUTRIMB 007F C3A8h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TRESULT0[7:0]	テスト結果0格納ビット	LDOの負荷抵抗を7.5 kΩにしたときの変動係数が格納されています	R/W
b15-b8	TRESULT1[7:0]	テスト結果1格納ビット	LDOの負荷抵抗を15 kΩにしたときの変動係数が格納されています	R/W
b23-b16	TRESULT2[7:0]	テスト結果2格納ビット	LDOの負荷抵抗を30 kΩにしたときの変動係数が格納されています	R/W
b31-b24	TRESULT3[7:0]	テスト結果3格納ビット	LDOの負荷抵抗を60 kΩにしたときの変動係数が格納されています	R/W

このレジスタには、工場出荷時に個々のチップごとに測定された調整データが書かれています。値は書き換えしないでください。

32.2.16 CTSU オプション設定レジスタ (CTSUSOPT)

アドレス CTSU.CTSUSOPT 000A 0940h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SCACTB[3:0]			—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	AJFEN	—	—	MTUCF EN	DTCLE SS	—	—	—	CCOCF EN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CCOCFEN	CCO特性補正機能許可ビット	0 : CCO特性補正機能無効 1 : CCO特性補正機能有効	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	DTCLESS	データ転送要求禁止ビット(注1)	0 : データ転送要求信号を出力する 1 : データ転送要求信号を出力しない	R/W
b5	MTUCFEN	相互容量演算許可ビット(注2)	0 : 2回目計測データから1回目計測データを減算しない 1 : 2回目計測データから1回目計測データを減算する	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	AJFEN	自動判定機能許可ビット	0 : 自動判定機能無効 1 : 自動判定機能有効(注3)	R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b19-b16	SCACTB[3:0]	センサカウンタ自動補正テーブル番号設定ビット	アクセスするセンサカウンタ自動補正テーブルの番号を指定します。値の範囲は0~11です。CTSUSCNTACTレジスタに値を設定すると、自動的にインクリメントされます	R/W
b31-b20	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

注1. CTSUCRA.MD0ビットが“1”(マルチスキャンモード)の場合、このビットは“0”にしてください。

注2. CTSUCRA.MD1ビットが“1”(相互容量方式)、かつAJFENビットが“1”の場合、このビットは“1”にしてください。

注3. このビットを“1”にする場合、CCOCFENビットも“1”にしてください。

CTSUSOPT レジスタは、測定結果の自動補正や自動判定機能を有効にするためのレジスタです。CTSUS2SLにのみあります。

CCOCFEN ビット (CCO 特性補正機能許可ビット)

このビットを“1”にすると、センサカウンタ自動補正テーブル n (n = 0 ~ 11) を使用して、計測値を補正します。補正した結果が“FFFFh”を超えた場合、センサカウンタの値は“FFFFh”になり、CTSUSR.SCOVFフラグが“1”になります。

DTCLESS ビット (データ転送要求禁止ビット)

このビットを“1”にすると、CTSUSWR 割り込み、CTSUSRD 割り込みが出力されなくなります。また、CTSUSO レジスタに値を設定しなくても State 2 から State 3 に遷移します。CTSUSO レジスタには、計測開始前に値を設定しておいてください。同様に、CTSUSR.DTSR フラグも“1”になりません。

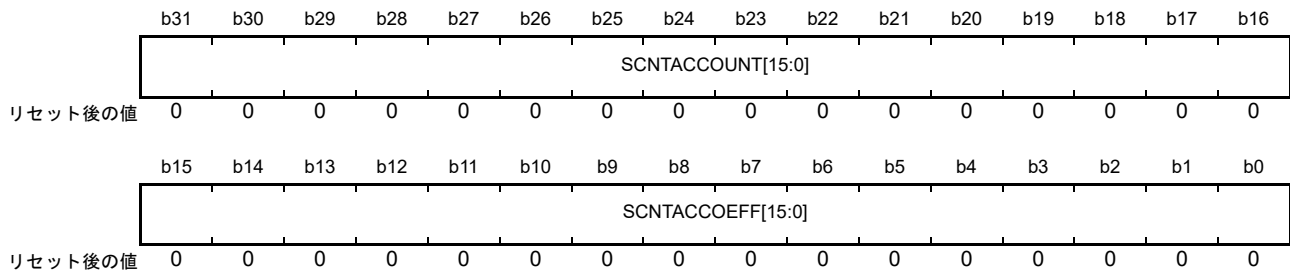
MTUCFEN ビット (相互容量演算許可ビット)

CTSUCRA.MD1 ビットが“1” (相互容量方式) のときにこのビットを“1”にすると、2回目の計測結果が1回目の計測値に対する差分になります。1回目の計測が完了したときは、CTSUSR.DTSR フラグは“1”にならず、CTSURD 割り込みも発生しません。2回目の計測を完了すると、DTSR フラグが“1”になり、CTSURD 割り込みが発生します。

2回目の計測値から1回目の計測値を引いた結果が“0000h”を下回った場合、CTSUSCNT.SC[15:0] ビットは“0000h”になります。また、1回目または2回目の計測値がオーバーフローした場合、CTSUSR.SCOVF フラグは“1”になりますが、SC[15:0] ビットには差分が格納されません。

32.2.17 CTSU センサカウンタ自動補正テーブルアクセスレジスタ (CTSUSCNTACT)

アドレス CTSU.CTSUSCNTACT 000A 0944h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	SCNTACCOEFF[15:0]	センサカウンタ補正係数設定ビット	SCNTACCOUNT[15:0]ビットに設定した計測値に対する補正係数を設定します。補正係数は、整数部が4ビット、小数部が12ビットの固定小数点数です	R/W
b31-b16	SCNTACCOUNT[15:0]	センサカウンタ計測値設定ビット	比較対象の計測値を設定します	R/W

注. このレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

CTSUSCNTACT レジスタは、センサカウンタ自動補正テーブル n ($n=0 \sim 11$) にアクセスするためのレジスタです。CTSUS2SL にのみあります。アクセス対象のテーブルは、CTSUOPT.SCACTB[3:0] ビットで選択します。

センサカウンタ自動補正テーブルは、CTSUOPT.CCOCFEN ビットが“1”(CCO 特性補正機能有効)の場合に使用されます。

センサカウンタ自動補正テーブル n には、比較対象の計測値と、その計測値に対する補正係数を設定します。テーブル n に設定する計測値は、テーブル $n-1$ に設定する計測値より大きな値にしてください。また、テーブル 0 の計測値は“0000h”、テーブル 11 の計測値は“FFFFh”にしてください。

SCNTACCOUNT[15:0] ビットに値を書くと、CTSUOPT.SCACTB[3:0] ビットの値が自動的にインクリメントされ、次のテーブルにアクセスできるようになります。

32.2.18 CTSU 自動判定制御レジスタ (CTSUAJCR)

アドレス CTSU.CTSUAJCR 000A 0958h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	AJBMAT[3:0]				AJMMAT[3:0]				—	—	JC[1:0]		—	—	—	BLINI
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	THOT[7:0]							TLOT[7:0]								
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	TLOT[7:0]	非タッチ判定基準設定ビット	何回連続で非タッチが検出された場合に非タッチと判定するかを設定するビットです。設定値をmとすると、m+1回連続で非タッチが検出されたときにCTSUAJRR.TJRnフラグが“0”になります	R/W
b15-b8	THOT[7:0]	タッチ判定基準設定ビット	何回連続でタッチが検出された場合にタッチと判定するかを設定するビットです。設定値をmとすると、m+1回連続でタッチが検出されたときにCTSUAJRR.TJRnフラグが“1”になります	R/W
b16	BLINI	ベースライン初期化ビット	0 : ベースライン演算を行う 1 : ベースライン演算の結果を初期化する(注1)	R/W
b19-b17	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b21-b20	JC[1:0]	判定条件設定ビット(注2)	b21 b20 0 0 : タッチ判定が1つ以上でタッチと判定する 0 1 : タッチ判定が2つ以上でタッチと判定する 1 0 : タッチ判定が3つ以上でタッチと判定する 1 1 : タッチ判定が4つのときのみタッチと判定する	R/W
b23-b22	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b27-b24	AJMMAT[3:0]	計測値移動平均回数設定ビット	計測値の移動平均回数を設定するビットです。設定値をnとすると平滑化係数は $1/2^n$ になります。設定範囲は“0000b”~“1011b”です	R/W
b31-b28	AJBMAT[3:0]	ベースライン平均回数設定ビット	ベースラインの平均回数を設定するビットです。設定値をnとすると、平均回数は 2^{n+1} になります。“0000b”を設定した場合、ベースラインの更新は行われません	R/W

注. このレジスタは、CTSUCRA.STRTビットが“0”のときに設定してください。

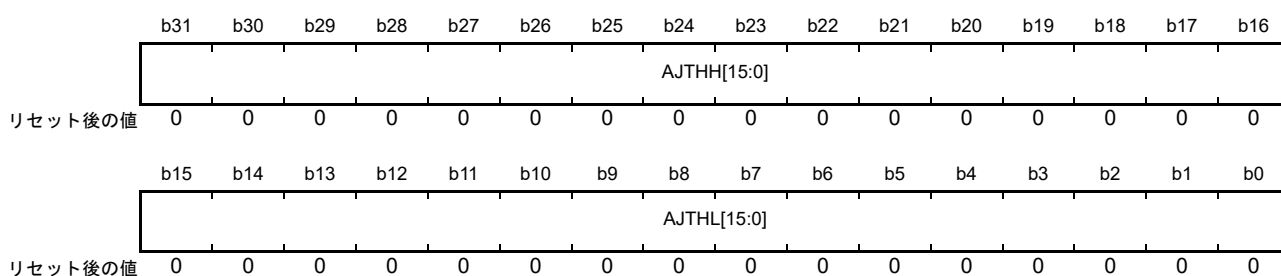
注1. 演算結果を初期化するには、このビットを“1”にしたまま計測を行う必要があります。

注2. マルチクロック計測を行うときのみ設定できます。マルチクロック計測を行わないときは“00b”にしてください。

CTSUAJCR レジスタは、ベースライン演算や移動平均演算の設定と、タッチ/非タッチ判定の基準を設定するためのレジスタです。CTS2SLにのみあります。

32.2.19 CTSU しきい値レジスタ (CTSUAJTHR)

アドレス CTSU.CTSUAJTHR 000A 095Ch



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	AJTHL[15:0]	下側しきい値設定ビット	非タッチ判定のしきい値をベースラインからの相対値で設定します。-32768～32767の符号付き整数です	R/W
b31-b16	AJTHH[15:0]	上側しきい値設定ビット	タッチ判定のしきい値をベースラインからの相対値で設定します。-32768～32767の符号付き整数です	R/W

注. このレジスタは、State 0またはState 2で設定してください。

CTSUAJTHR レジスタは、タッチ/非タッチ判定の基準となるしきい値を設定するためのレジスタです。CTS2SL にのみあります。

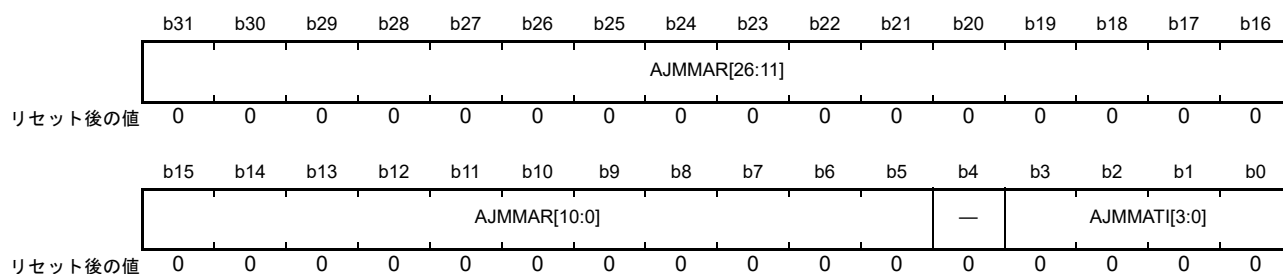
AJTHH[15:0] ビットの絶対値が、AJTHL[15:0] ビットの絶対値より大きくなるように設定してください。

マルチクロック計測を行う (CTSUMCH.MCAn ビットの複数ビットが“1”) 場合、CTSUWR 割り込みの発生ごとに、計測クロックの周波数に合ったしきい値を設定してください。

マルチスキャンモード (CTSUCRA.MD0 ビット=1) の場合で、かつ CTSUWR 割り込み発生時にこのレジスタの値を設定する場合、CTSURD 割り込み発生時にこのレジスタの値も RAM に退避させてください。

32.2.20 CTSU 移動平均結果レジスタ (CTSUAJMMAR)

アドレス CTSU.CTSUAJMMAR 000A 0960h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	AJMMATI[3:0]	移動平均回数カウントビット	現時点の計測値の移動平均回数を示します。初回計測時に“0000b”にしてください	R/W
b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b31-b5	AJMMAR[26:0]	移動平均結果ビット	計測値の移動平均演算結果が格納されます。整数部が16ビット、小数部が11ビットの固定小数点数です	R/W

注. このレジスタは、State 0またはState 2で設定してください。

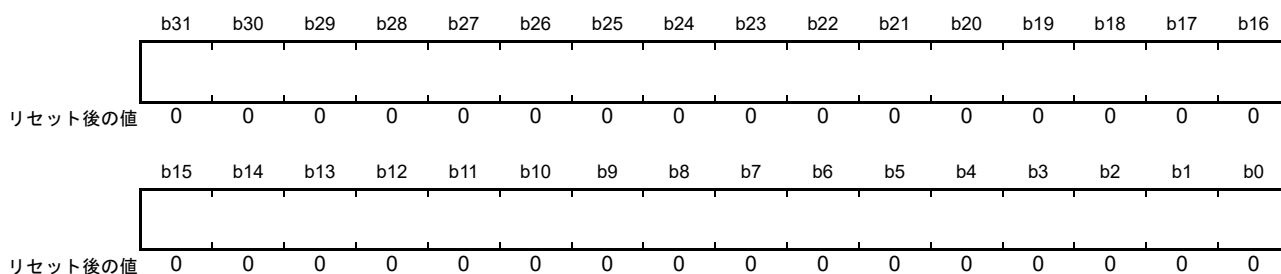
CTSUAJMMAR レジスタは、移動平均演算の内部状態を格納するレジスタです。CTS2SLにのみあります。

マルチクロック計測を行う (CTSUCH.MCAn ビットの複数ビットが“1”) 場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じクロックを使用して計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

マルチスキャンモード (CTSUCRA.MD0 ビット = 1) の場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じチャネルを計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

32.2.21 CTSU ベースライン平均中間結果レジスタ (CTSUAJBLACT)

アドレス CTSU.CTSUAJBLACT 000A 0964h



注. このレジスタは、State 0またはState 2で設定してください。

CTSUAJBLACT レジスタは、ベースライン平均演算の途中の演算値を格納するレジスタです。整数部が16ビット、小数部が16ビットの固定小数点数です。CTS2SL にのみあります。

マルチクロック計測を行う (CTS2MCH.MCAn ビットの複数ビットが“1”) 場合、CTS2URD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じクロックを使用して計測する前の CTS2UWR 割り込み発生時に書き戻してください。

マルチスキャンモード (CTS2UCRA.MD0 ビット = 1) の場合、CTS2URD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じチャンネルを計測する前の CTS2UWR 割り込み発生時に書き戻してください。

32.2.22 CTSU ベースライン平均結果レジスタ (CTSUAJBLAR)

アドレス CTSU.CTSUAJBLAR 000A 0968h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b15-b0	AJBLAC[15:0]	ベースライン平均カウントビット	現時点のベースライン平均演算のカウント値を示します	R/W
b31-b16	AJBLAR[15:0]	ベースライン平均結果ビット	ベースライン平均演算結果が格納されます	R/W

注. このレジスタは、State 0またはState 2で設定してください。

CTSUAJBLAR レジスタは、ベースライン平均演算の結果を格納するレジスタです。CTS2SL にのみあります。

マルチクロック計測を行う (CTSUMCH.MCAn ビットの複数ビットが“1”) 場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じクロックを使用して計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

マルチスキャンモード (CTSUCRA.MD0 ビット = 1) の場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じチャンネルを計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

32.2.23 CTSU 自動判定結果レジスタ (CTSUAJRR)

アドレス CTSU.CTSUAJRR 000A 096Ch

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	SJCCR[7:0]							—	—	—	FJR	TJR3	TJR2	TJR1	TJR0	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TJR0	タッチ判定結果フラグ0	ランダムパルスまたはSUCLK0を使用したときの判定結果が格納されます 0: 非タッチ 1: タッチ	R/W
b1	TJR1	タッチ判定結果フラグ1	SUCLK1を使用したときの判定結果が格納されます 0: 非タッチ 1: タッチ	R/W
b2	TJR2	タッチ判定結果フラグ2	SUCLK2を使用したときの判定結果が格納されます 0: 非タッチ 1: タッチ	R/W
b3	TJR3	タッチ判定結果フラグ3	SUCLK3を使用したときの判定結果が格納されます 0: 非タッチ 1: タッチ	R/W
b4	FJR	最終判定結果フラグ	マルチクロック計測時の最終判定結果が格納されます。マルチクロック計測を指定しなかった場合、TJR0フラグと同じ値が格納されます 0: 非タッチ 1: タッチ	R
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b8	SJCCR[7:0]	連続検出残回数ビット	あと何回連続でタッチまたは非タッチを検出するとTJRnフラグの値が反転するかを示します	R/W
b31-b16	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注. このレジスタは、State 0またはState 2で設定してください。

CTSUAJRR レジスタは、タッチ / 非タッチの判定結果を格納するレジスタです。CTS2SL にのみあります。

マルチクロック計測を行う (CTSUCRA.MCAn ビットの複数ビットが“1”) 場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じクロックを使用して計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

マルチスキャンモード (CTSUCRA.MD0 ビット = 1) の場合、CTSURD 割り込み発生ごとにこのレジスタの値を RAM に退避させて、再び同じチャンネルを計測する前の CTSUWR 割り込み発生時に書き戻してください。

32.2.24 CTSU A/D コンバータ接続制御レジスタ (CTSUAADCC)

アドレス CTSU.CTSUAADCC 000A 0700h

	b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24	b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	CTADCS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CTADCS	TSCAP 電圧 A/D 変換ビット	0 : TSCAP 端子の電圧を計測しない 1 : TSCAP 端子の電圧を AN008 に接続する	R/W
b31-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CTSUSL と A/D コンバータの信号接続を制御するレジスタです。

CTADCS ビット (TSCAP 電圧 A/D 変換ビット)

TSCAP 端子の電圧を A/D コンバータで計測するためのビットです。

CTSUCRA.DCMODE ビットを“1”(電流計測モード)、CTSUCRA.DCBACK ビットを“1”にすると、TSM 端子 (m = 0 ~ 35) の電圧も計測できます。

(a) TSCAP 端子の電圧を測定する場合のレジスタ設定

CTSUCRA.PUMPON ビット = 0 または 1 (VCC の電圧によって決定)

CTSUCRA.PON ビット = 1

CTSUCRA.CSW ビット = 1

CTSUCRA.DCBACK ビット = 0

(b) TSM 端子の電圧を測定する場合のレジスタ設定

CTSUCRA.PUMPON ビット = 0 または 1 (VCC の電圧によって決定)

CTSUCRA.PON ビット = 1

CTSUCRA.CSW ビット = 0

CTSUCRA.MD0 ビット = 0

CTSUCRA.MD1 ビット = 0

CTSUCRA.LOAD[1:0] ビット = 01b

CTSUCRA.DCMODE ビット = 1

CTSUCRA.DCBACK ビット = 1

CTSUCHACA.CHACm ビットまたは CTSUCHACB.CHACm ビット = 1

CTSUCHTRCA.CHTRCm ビットまたは CTSUCHTRCB.CHTRCm ビット = 0

CTSUMCH.MCH0[5:0] ビット = m

CTSUCALIB.DRV ビット = 1

CTSUSO レジスタ = 0000 03C0h

32.3 動作説明

32.3.1 計測動作原理

図 32.7 に計測部回路を示します。

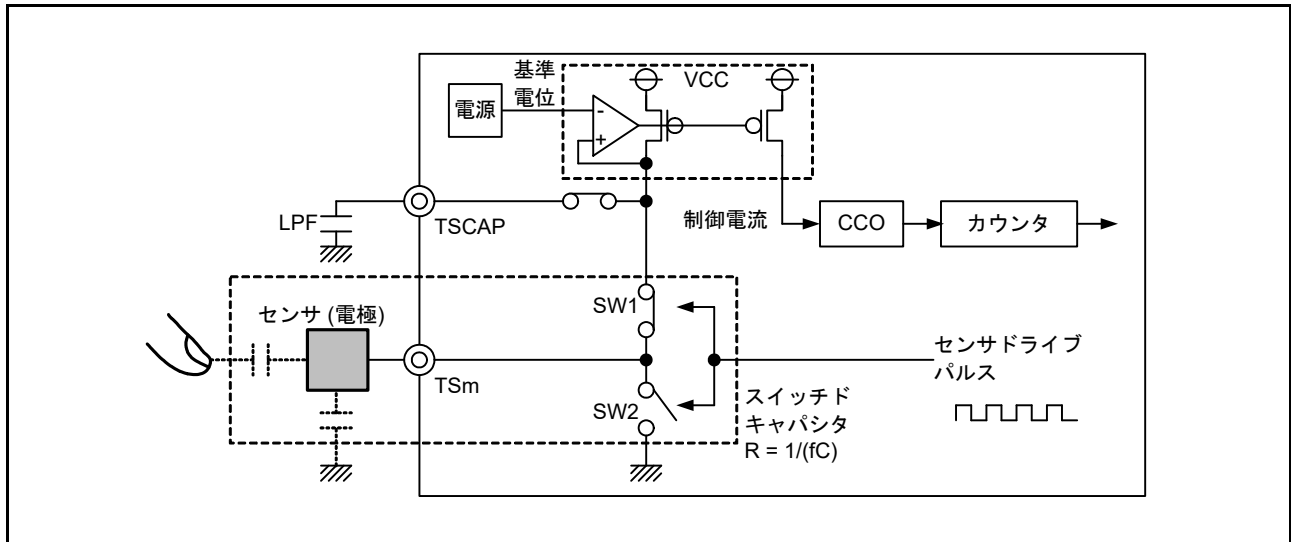


図 32.7 計測部回路 (m = 0 ~ 35)

CTS2 の電流周波数変換方式の静電容量計測動作原理を、図 32.8 ~ 図 32.10 を用いて説明します。

(1) SW1 : ON、SW2 : OFF にすることで、電極の静電容量に充電されます (図 32.8)。

(2) SW1 : OFF、SW2 : ON にすることで、充電された容量は放電されます (図 32.9)。

(1) と (2) の充放電を早いタイミングで切り替えることにより、スイッチドキャパシタに電流が流れます。このとき、人体の接近により静電容量値が変わるため、流れる電流が変化します。TSCAP 電源を生成する電源 (LDO) からスイッチドキャパシタに流れる電流に比例した制御電流を電流制御発振器 (CCO) に供給することで、クロックを生成します。人体の接近によって変わるクロック周波数をカウンタで計測し、読み出したカウンタ値を用いて、ソフトウェアで人体の接近を判定します (図 32.10)。

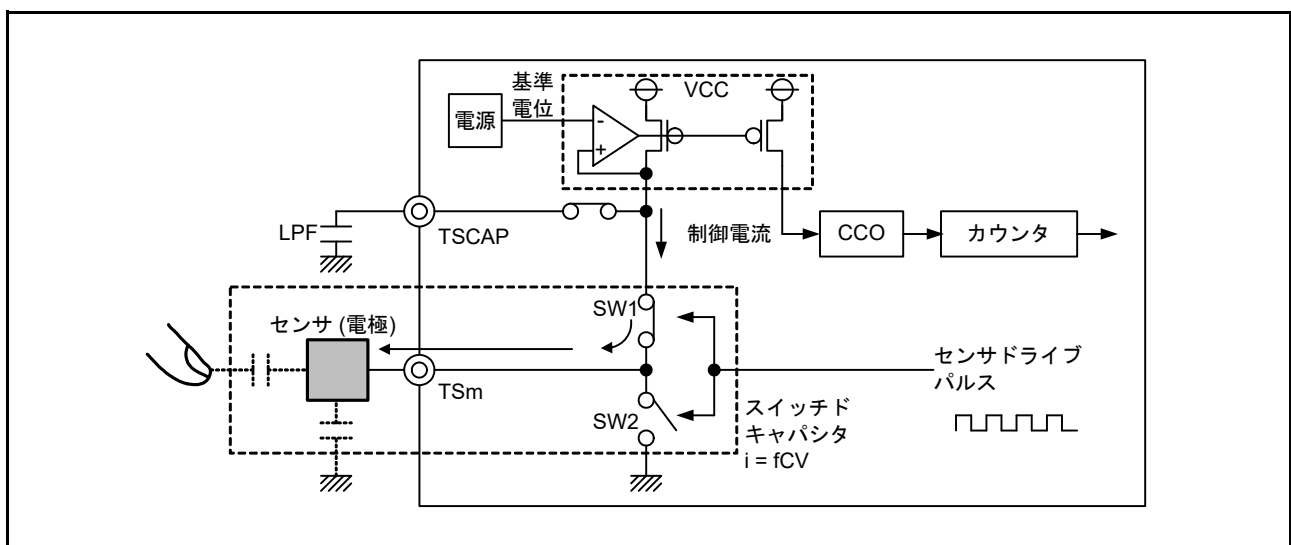


図 32.8 充電動作 (m = 0 ~ 35)

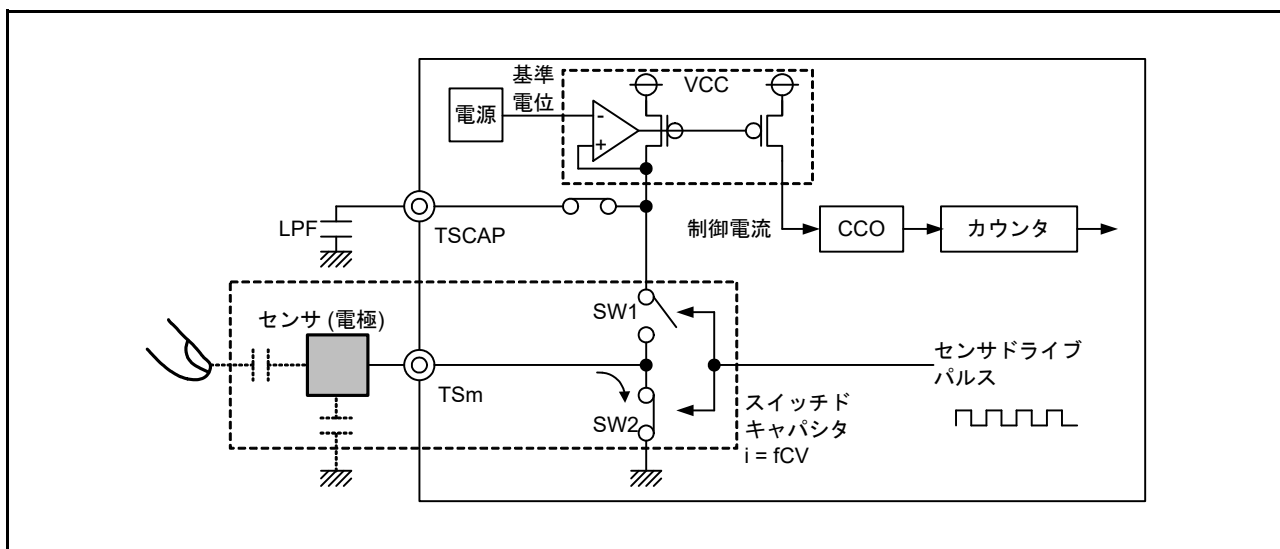


図 32.9 放電動作 (m = 0 ~ 35)

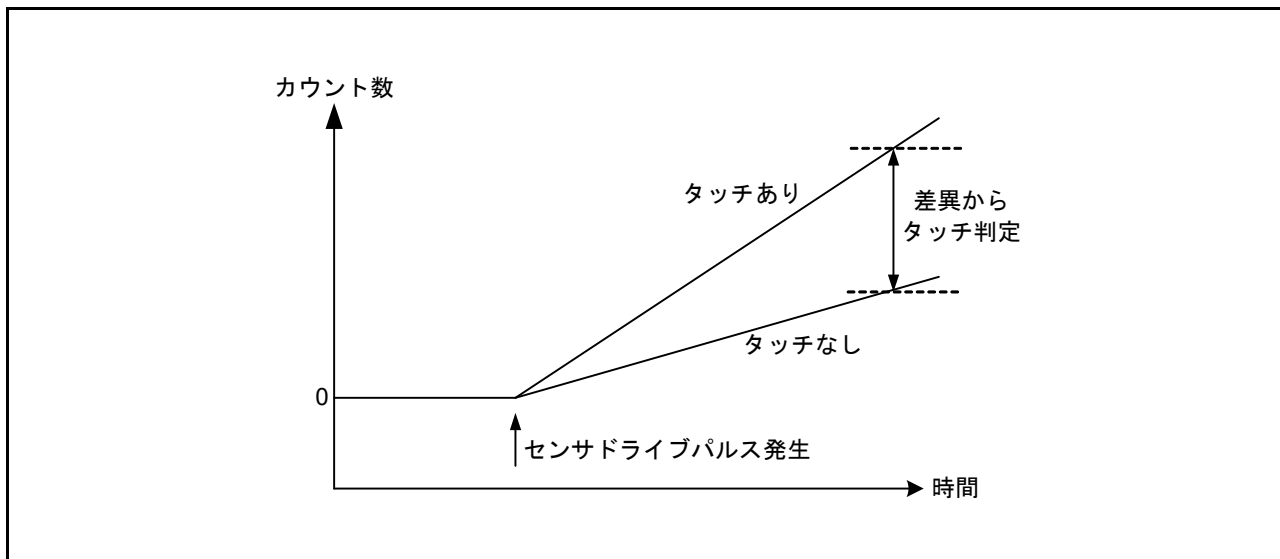


図 32.10 接触 / 非接触による計測値の変化

32.3.2 初期設定フロー

図 32.11 に、CTSUS の初期設定フローを示します。

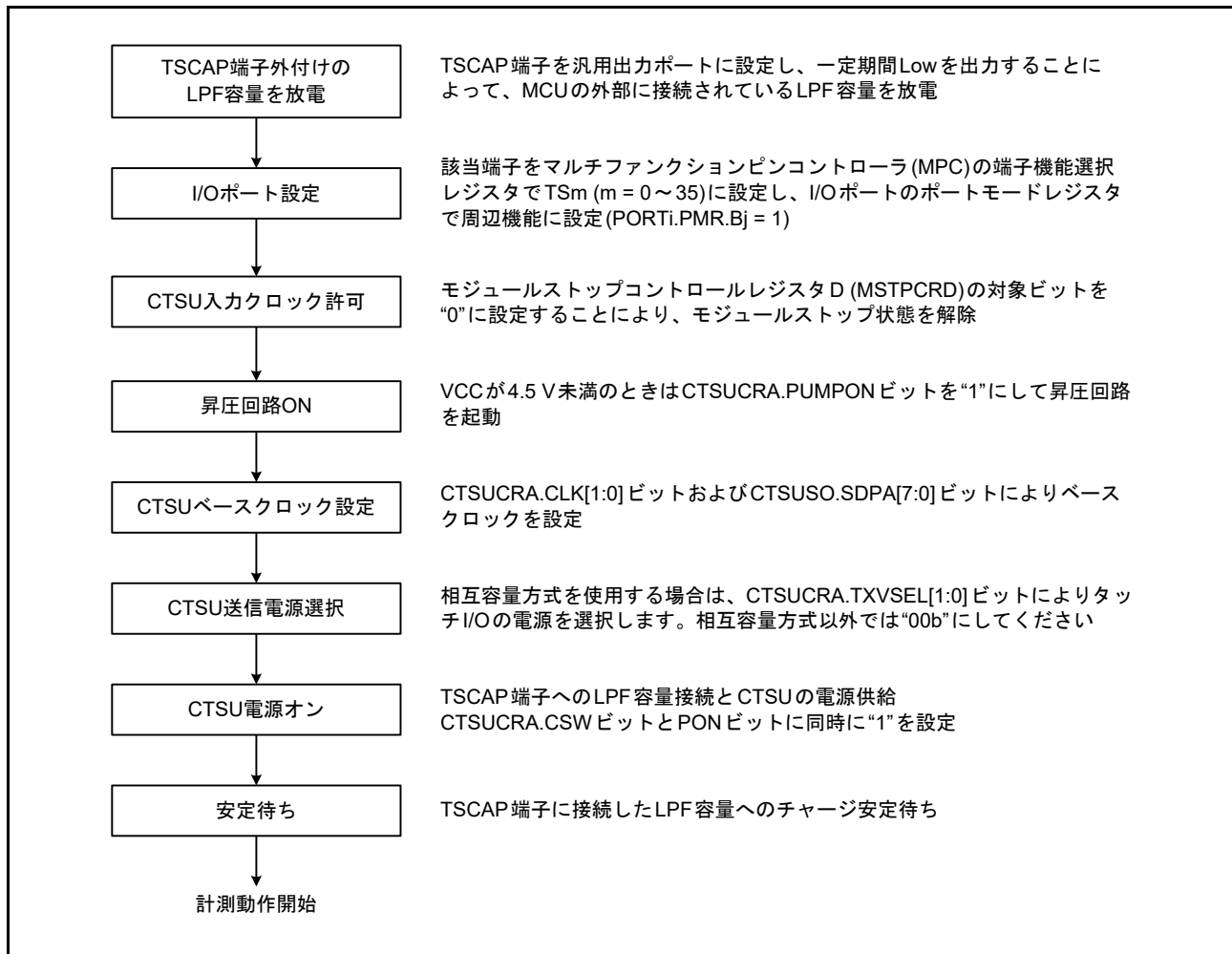


図 32.11 CTSUS 初期設定フロー

図 32.12 に、CTSUS の動作を停止し、スタンバイ状態にするフローを示します。

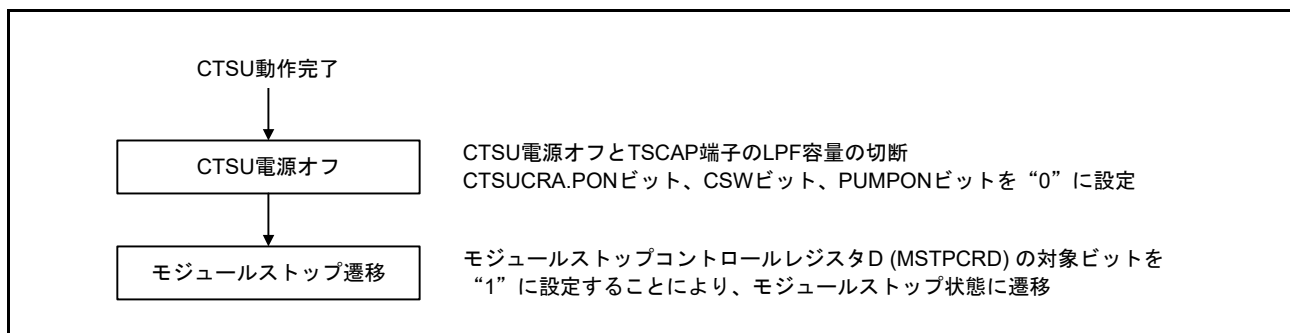


図 32.12 CTSUS 停止フロー

停止から再開する場合は、図 32.11 の初期設定フローに従ってください。

32.3.3 計測ステート

CTSUSR.STC[2:0] ビットには、現在の計測ステートが表示されます。計測ステートは、全ての計測方式で共通です。図 32.13 に状態遷移図を示します。

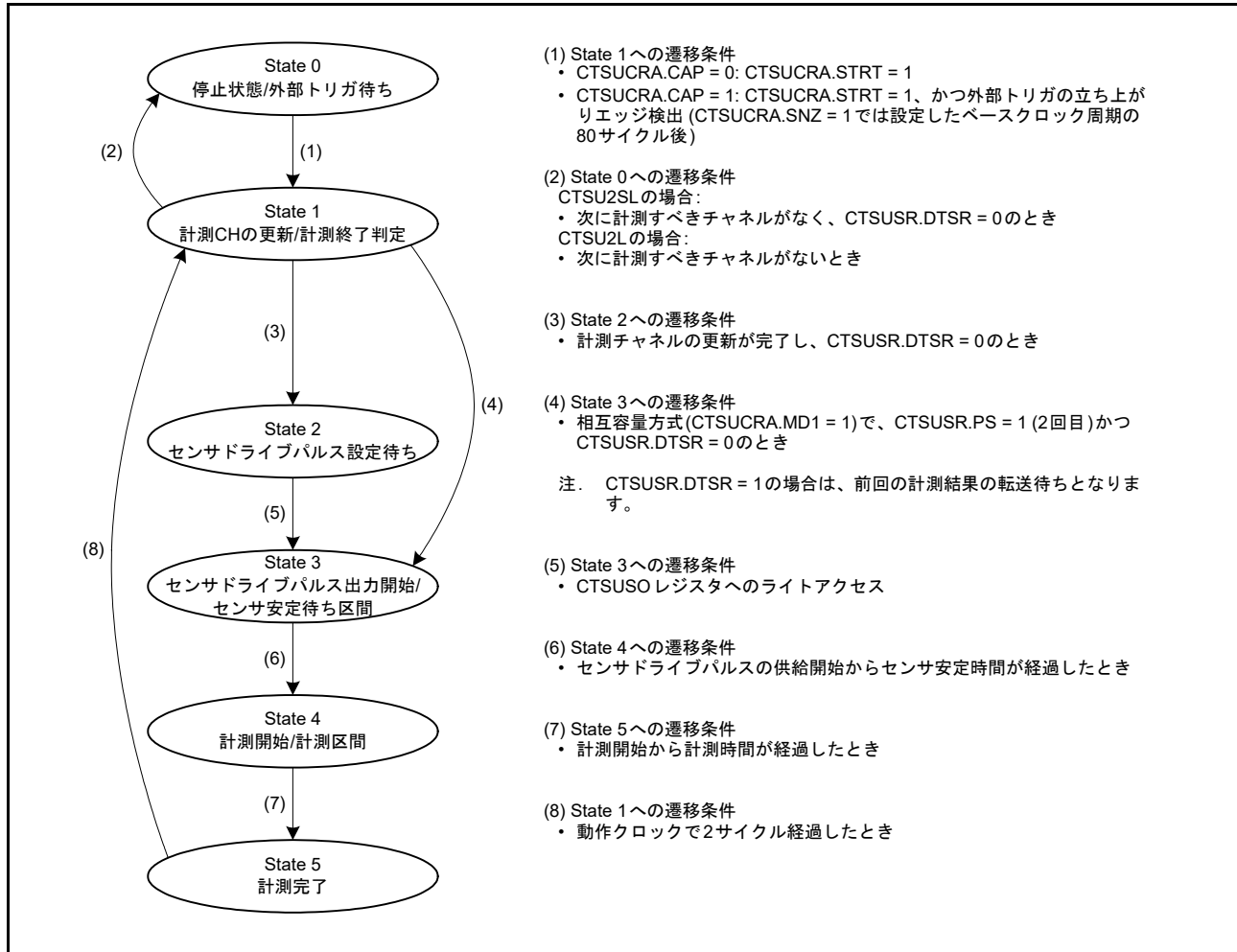


図 32.13 状態遷移図

CTSUS ステートマシンは、指定したすべての計測チャンネルの計測が終了すると State 0 に遷移します。

CTSUCRA.STRT ビットは、ソフトウェアトリガの場合は自動的に“0”になります。外部トリガの場合は“1”が保持され、次のトリガの待機状態になります。

計測中またはトリガ待機状態時に強制停止 (CTSUCRA.STRT ビットへの“0”と CTSUCRA.INIT ビットへの“1”の同時書き込み) させることにより、State 0 に遷移し、停止します。

また、CTSUSMCH レジスタ、CTSUSCHAC_x レジスタ (x = A, B)、CTSUSCHTRC_x レジスタの設定で計測するチャンネルが存在しなかった場合、State 1 に遷移した後すぐに CTSUSFN 割り込みを出力し State 0 に遷移します。

32.3.4 計測方式

CTSUは、自己容量方式と相互容量方式に対応しています。図 32.14 に自己容量方式と相互容量方式の概要を示します。

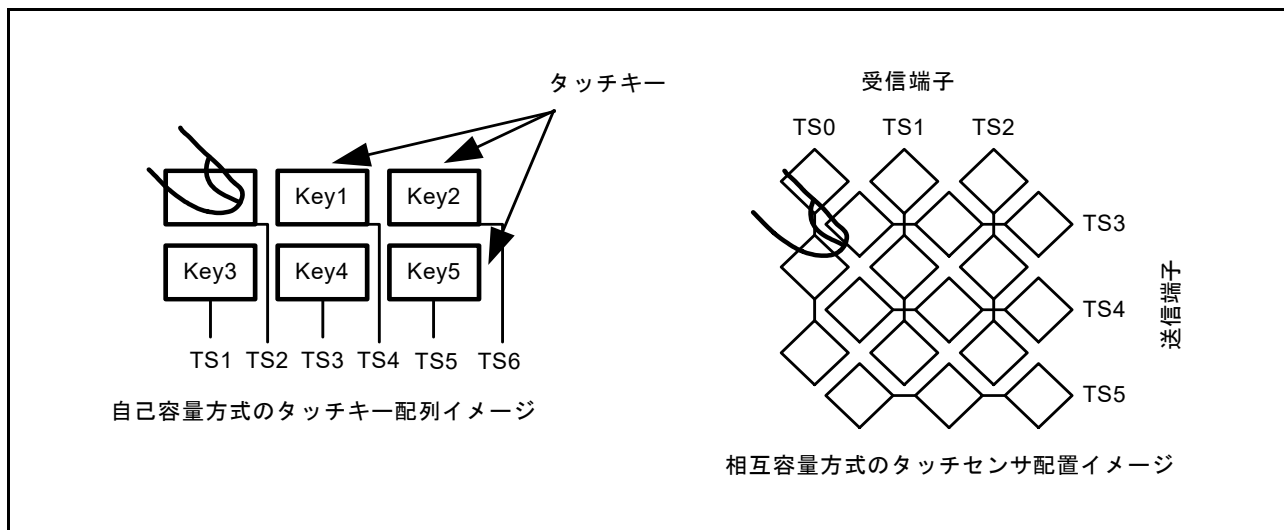


図 32.14 自己容量方式と相互容量方式の概要

自己容量方式では、1つのタッチキーに1つのタッチ端子を割り当て、それぞれの人体の接近による静電容量を計測します。

相互容量方式では、対向する2つの電極(送信端子、受信端子)間の容量を計測します。

32.3.4.1 自己容量方式動作

自己容量方式では、1つのセンサに1つの計測端子を割り当て、それぞれの静電容量を計測します。スキャンモードとセンサドライブパルスを選択できます。

図 32.15 にソフトウェアフローと動作例を示します。

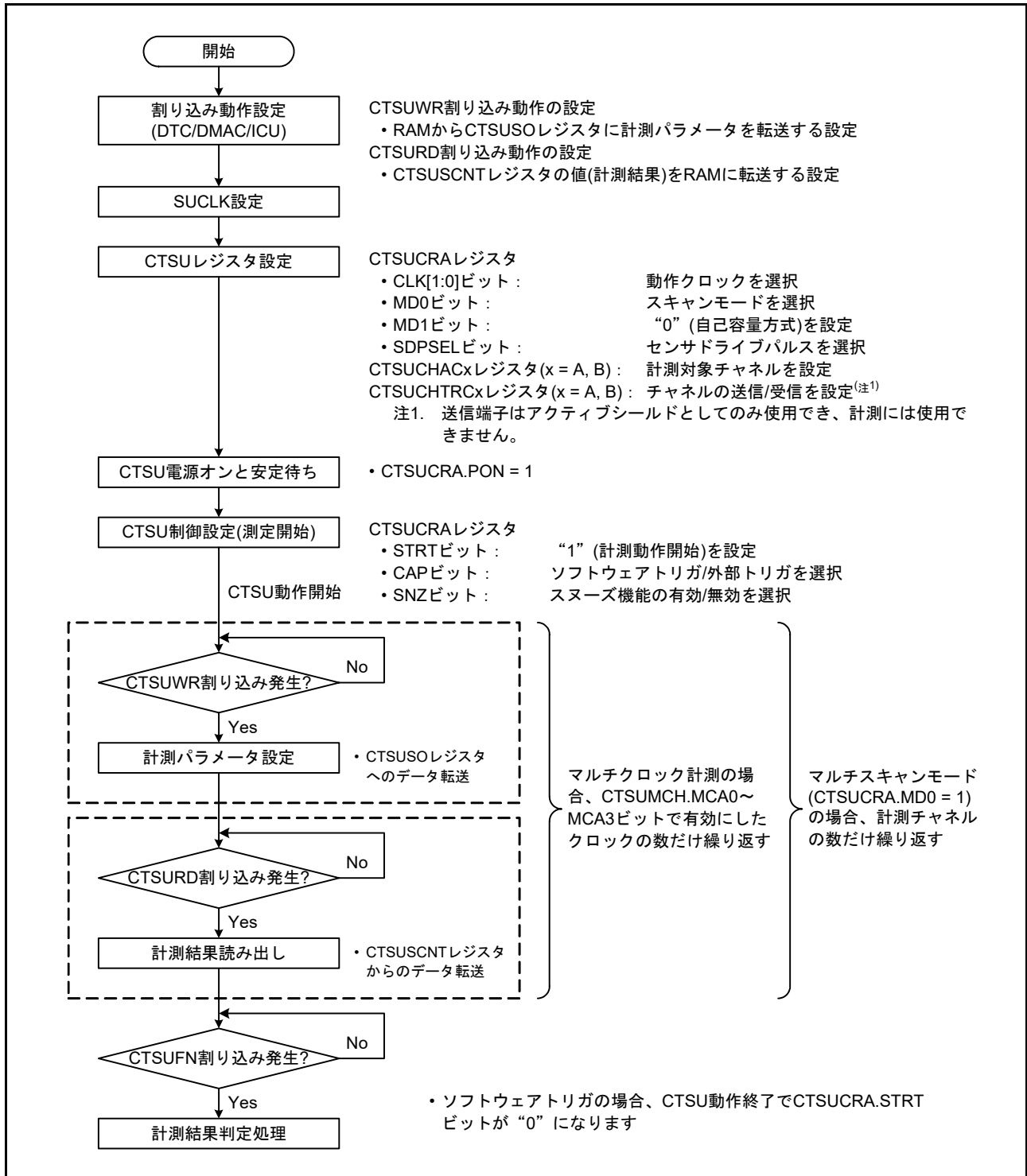


図 32.15 自己容量方式のソフトウェアフローと動作例

32.3.4.2 相互容量方式動作

相互容量方式は、受信チャンネルのセンサドライブパルスの High 期間に対して、計測対象の送信チャンネルにエッジを印加して計測を行います。1 計測対象に対して立ち上がりエッジと立ち下がりエッジの 2 回の計測を実施します。この 2 回の計測データの差分からタッチ判定を行い、より高いタッチ感度を実現します。スキャンモードとセンサドライブパルスを選択できます。

送信端子と受信端子のすべての組み合わせに対して静電容量を計測します。図 32.16 にソフトウェアフローと動作例を示します。

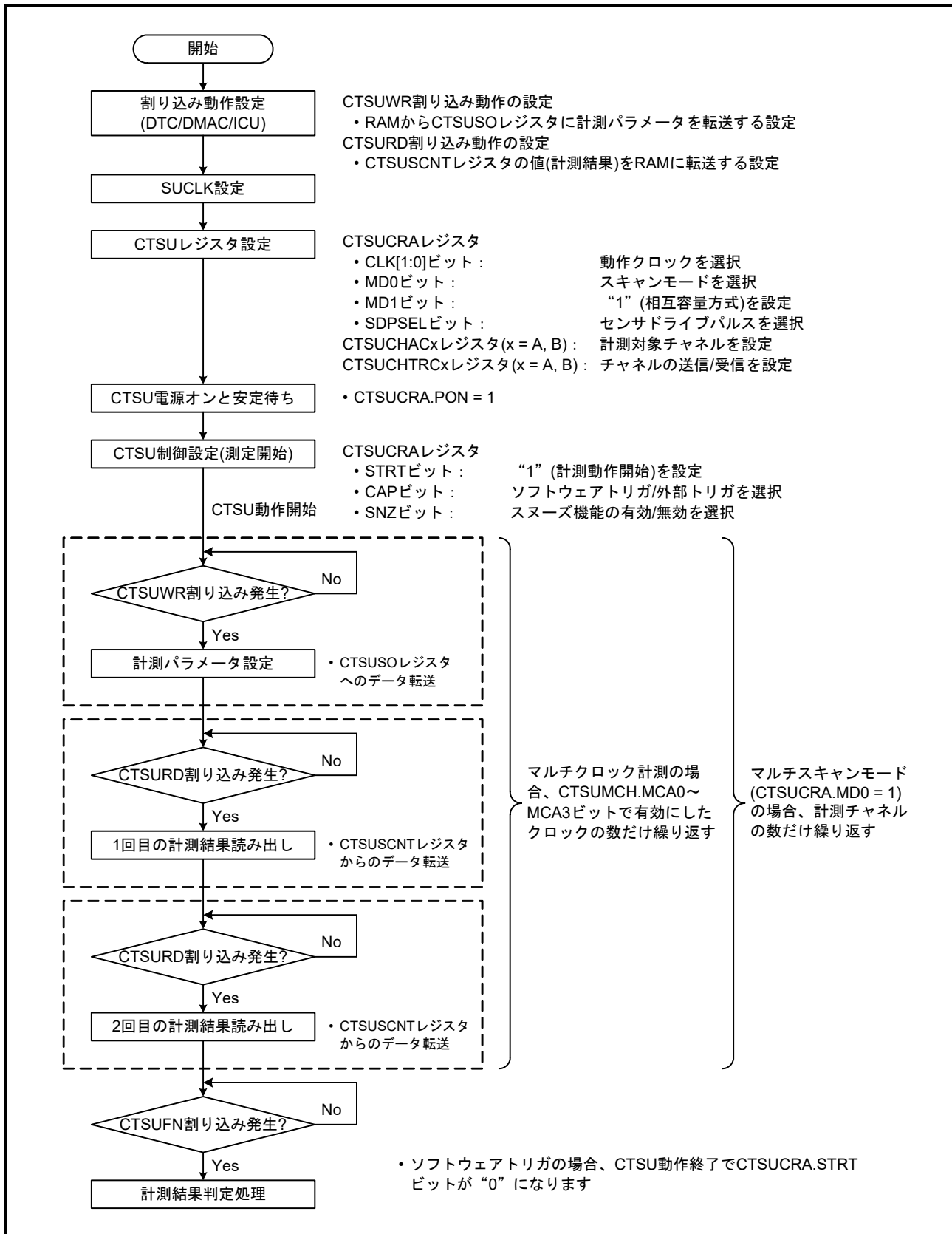


図 32.16 相互容量方式のソフトウェアフローと動作例

32.3.5 スキャンモード

CTS2のスキャンモードには、シングルスキャンモードとマルチスキャンモードの2つのモードがあります。

(1) シングルスキャンモード

CTS2MCH.MCH0[5:0] ビットで指定した受信チャンネル、MCH1[5:0] ビットで指定した送信チャンネルの組み合わせで、1回だけ計測を行います。

(2) マルチスキャンモード

CTS2CHACx レジスタ (x = A, B) で計測対象にしたチャンネルの内、CTS2CHTRCx レジスタで設定した受信チャンネル、送信チャンネルのすべての組み合わせに対して、それぞれ1回ずつ計測を行います。

受信チャンネル、送信チャンネルともチャンネル番号の小さい方から順に使用されます。また、1つの送信チャンネルに対しすべての受信チャンネルの組み合わせで測定が終わってから、送信チャンネルが切り替わります。

32.3.6 マルチクロック計測

周波数の異なる複数のクロックを順次切り替えて計測を行います。高分解パルスモード (SUCLK モード) のみ有効です。

計測に使用するクロック (SUCLKn) は、CTS2MCH.MCAn ビット (n = 0 ~ 3) で指定してください。また、各クロックの周波数は、CTS2SUCLKA、CTS2SUCLKB レジスタで設定してください。

計測は SUCLK0 から昇順に行われます。指定されたすべてのクロックで計測が終わると、次のチャンネルの計測を開始します。

32.3.7 自動判定機能

CTS2SL には、タッチ / 非タッチを自動判定する機能があります。

自動判定機能の CTS2FN 割り込みにより、スリープモードから通常動作モードに復帰させたり、スリープ終了要求により、ソフトウェアスタンバイモードに復帰させたりすることができます。

図 32.17 に自動判定機能の構成図を示します。

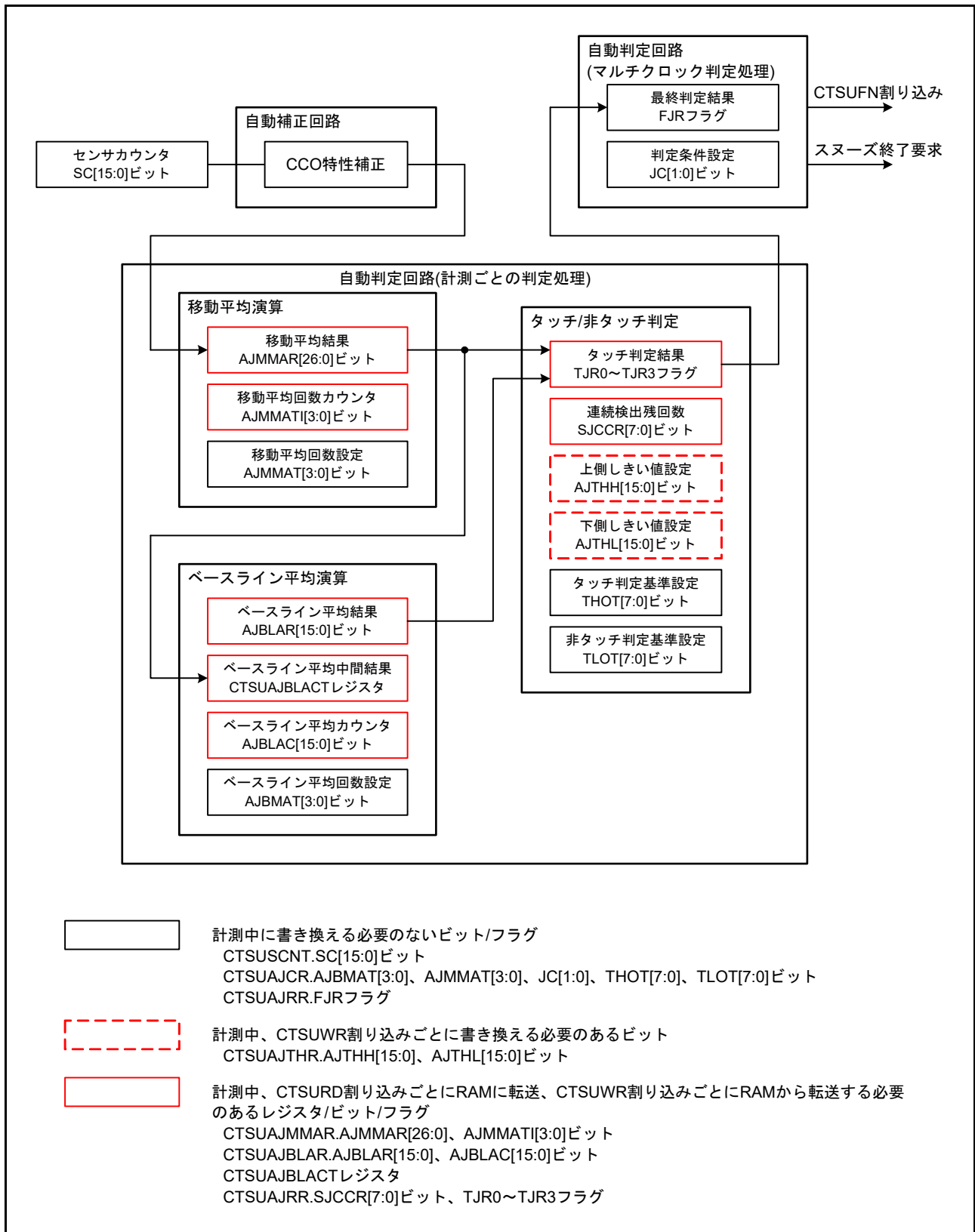


図 32.17 自動判定機能の構成図

32.3.7.1 自動判定機能の動作

自動判定の対象となる計測値は、CTSUSCNT.SC[15:0] ビットの値です。計測値から移動平均とベースライン平均を算出し、その差分からタッチ/非タッチを判定します。移動平均回数とベースライン平均回数は、それぞれ CTSUAJCR レジスタの AJMMAT[3:0] ビット、AJBMAT[3:0] ビットで設定できます。

図 32.18 に自動判定機能の動作例を示します。

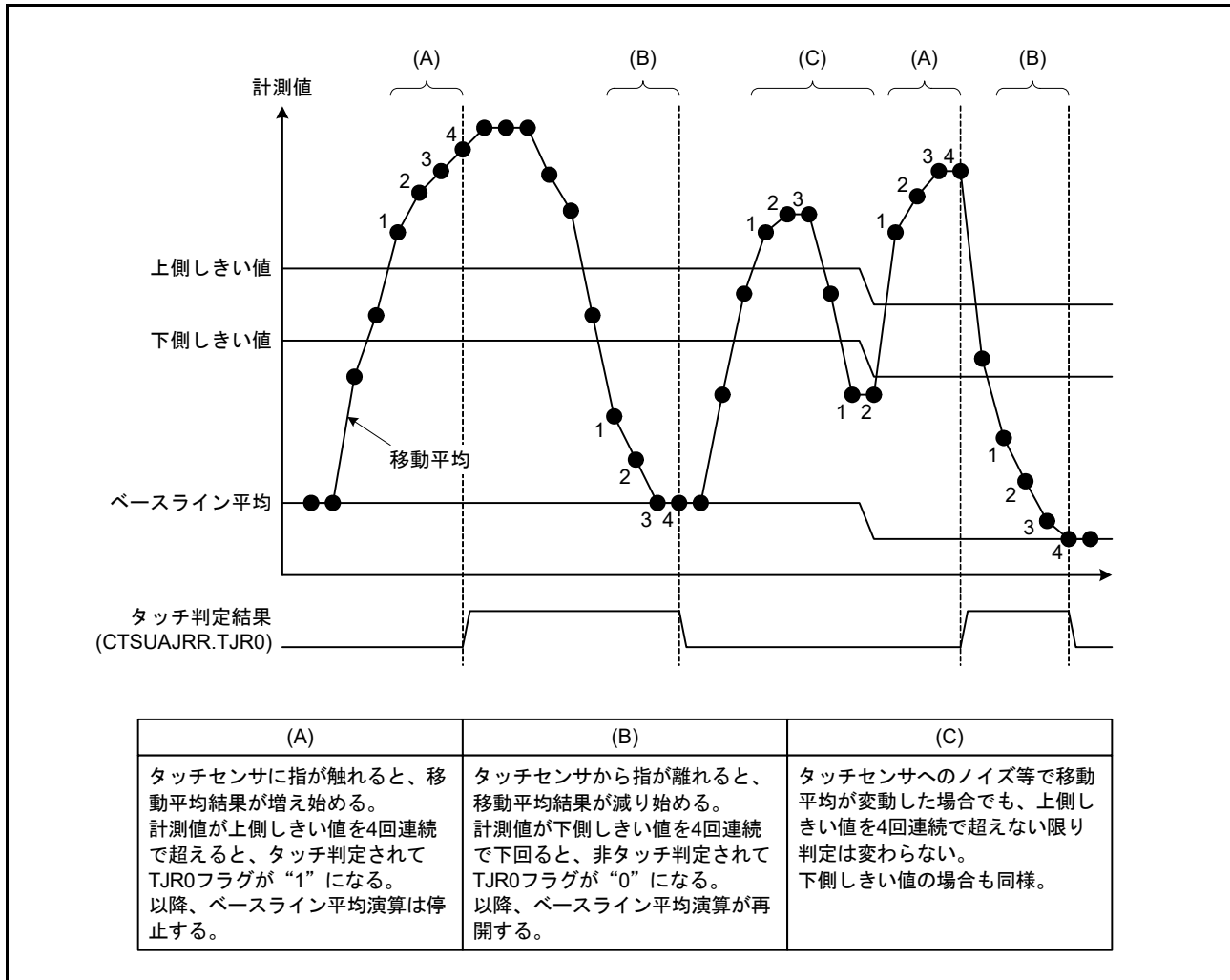


図 32.18 自動判定機能の動作例 (CTSUAJCR.THOT[7:0] ビット = 03h、TLOT[7:0] ビット = 03h の場合)

(1) タッチ判定

移動平均とベースライン平均の差分が上側しきい値 (CTSUAJTHR.AJTHH[15:0] ビット) を CTSUAJCR.THOT[7:0] ビットで指定した回数連続で超えると (上側しきい値が負の値の場合は下回ると)、CTSUAJRR.TJRn フラグ (n = 0 ~ 3) が“1”になります。

マルチクロック計測を指定しなかった場合は、TJR0 フラグの値がそのまま CTSUAJRR.FJR フラグに反映されます。マルチクロック計測を指定した場合は、TJR0 ~ TJR3 フラグの値が CTSUAJCR.JC[1:0] ビットで指定した判定条件に合致すると、FJR フラグが“1”になります。

(2) 非タッチ判定

移動平均とベースライン平均の差分が下側しきい値 (CTSUAJTHR.AJTHL[15:0] ビット) を CTSUAJCR.TLOT[7:0] ビットで指定した回数連続で下回ると (下側しきい値が負の値の場合は超えると)、TJR_n フラグ (n = 0 ~ 3) が “0” になります。

マルチクロック計測を指定しなかった場合は、TJR0 フラグの値がそのまま FJR フラグに反映されます。マルチクロック計測を指定した場合は、TJR0 ~ TJR3 フラグの値が JC[1:0] ビットで指定した判定条件を満たさなくなると、FJR フラグが “0” になります。

(3) ベースライン平均演算

TJR_n フラグ (n = 0 ~ 3) が “1” になると、次の計測からベースライン平均演算を停止します。ベースライン平均演算が停止すると、中間結果 (CTSUAJBLACT レジスタ) と平均回数 (CTSUAJBLAR.AJBLAC[15:0] ビット) が初期化されます。

TJR_n フラグが “0” になると、次の計測からベースライン平均演算を再開します。

マルチクロック計測を指定した場合は、TJR0 ~ TJR3 フラグごとに、ベースライン平均演算の停止 / 再開が行われます。

32.3.7.2 自己容量方式動作

図 32.19 に、自動判定機能を使用した、自己容量マルチスキャンモードのソフトウェアフローを示します。

シングルスキャンモードでかつマルチクロック計測を行わない場合に限り、割り込み動作の設定を省略できます。その際は、CTSUAJCR.DTCLESS ビットを “1” (データ転送要求信号を出力しない) にし、CTSUSO、CTSUAJTHR レジスタは計測開始前に値を設定してください。

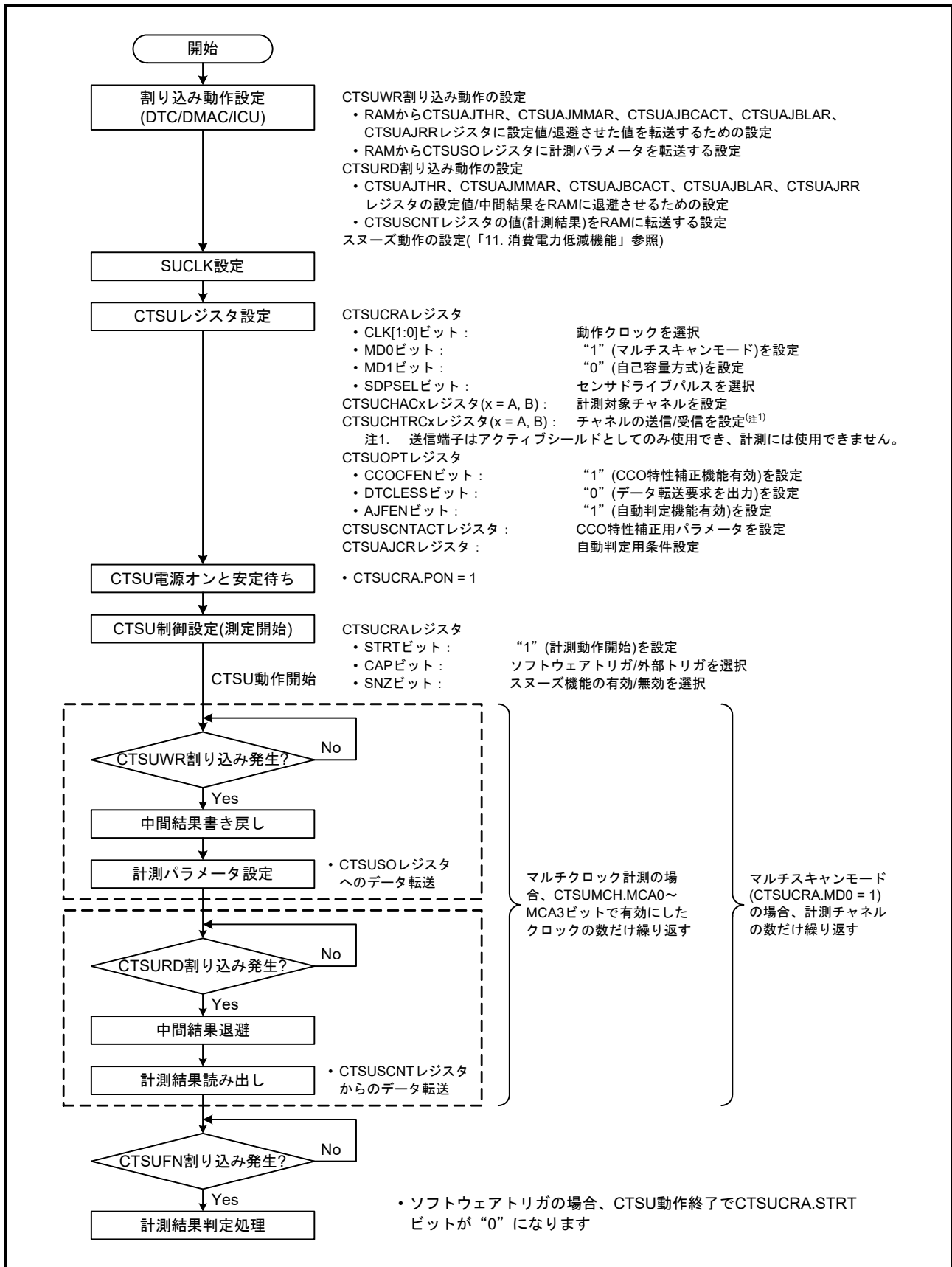


図 32.19 自動判定機能使用時の自己容量マルチスキャンモードのソフトウェアフロー

32.3.7.3 相互容量方式動作

図 32.20 に、自動判定機能を使用した、相互容量マルチスキャンモードのソフトウェアフローを示します。

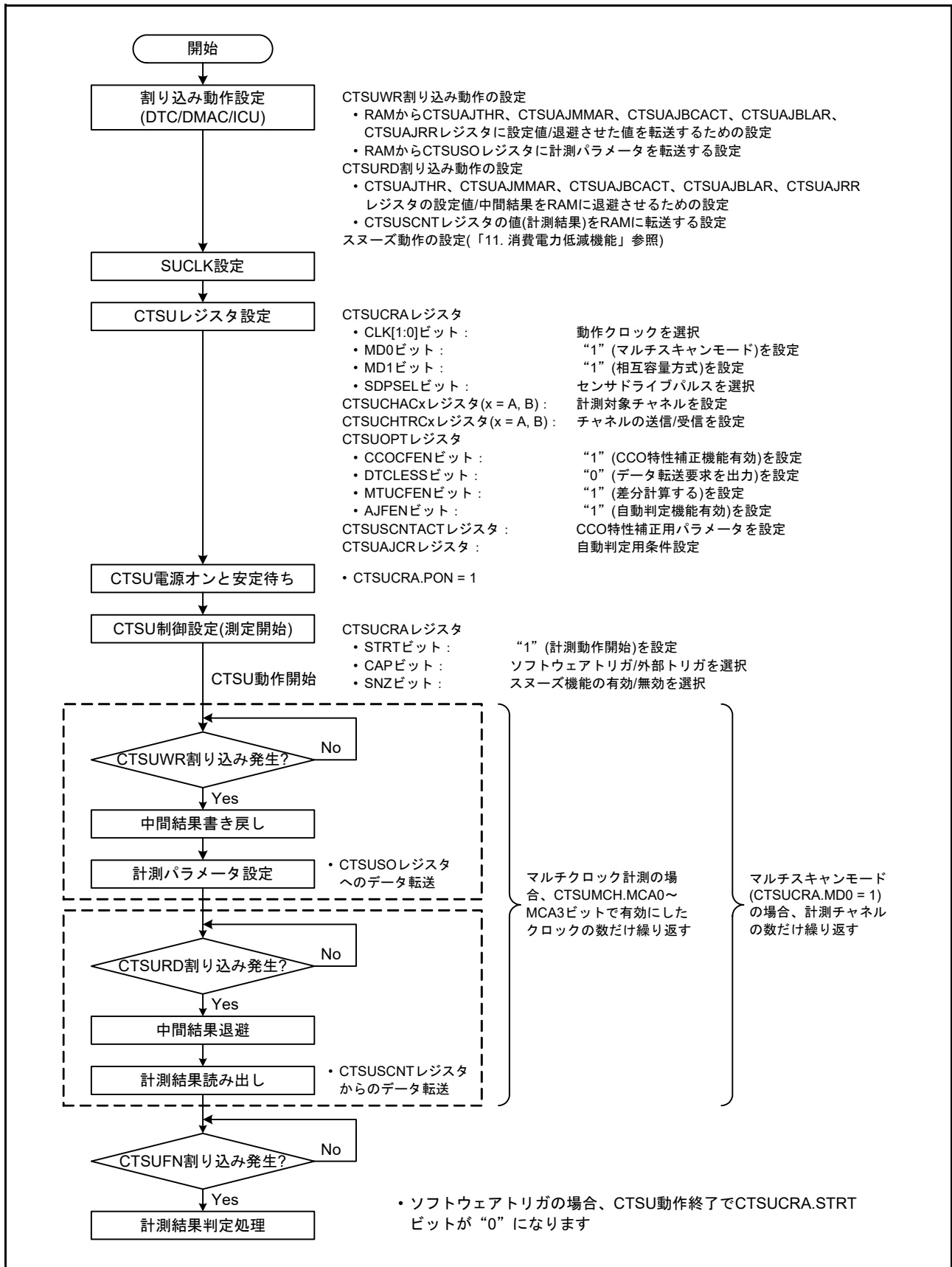


図 32.20 自動判定機能使用時の相互容量マルチスキャンモードのソフトウェアフロー

32.3.8 複数電極接続機能

複数電極接続 (Multiple Electrode Connection: MEC) 機能とは、複数の電極をあたかも1つの電極であるかのように扱う機能です。CTS2SLにのみあります。この機能を使用すると、複数の電極を一度にまとめて計測することが可能になります。

CTSUCRA.MD1 ビットを“0”(自己容量方式)、MD0 ビットを“0”(シングルスキャンモード)、CTSUCALIB.TSOD ビットを“1”(IOCSEL ビットで選択)、IOCSEL ビットを“0”(静電容量計測モード(複数電極接続機能使用))にした場合、CTSUCHACx.CHACm ビット(x = A, B、m = 0 ~ 35)を“1”(計測対象)、CTSUCHTRCx.CHTRCm ビットを“0”(受信)に設定したすべての TSm 端子からセンサドライブパルスが出力されます。このため、各 TSm 端子に接続された全電極の静電容量の合計値が計測できます。

なお、本機能を用いてタッチが検出された場合、どの電極の静電容量が変化したのかは判別できません。TSOD ビットを“0”(静電容量計測モード)にして、各電極の静電容量を個別に計測してください。

32.4 割り込み

CTSUSには、以下の3種類の割り込みがあります。

- レジスタ設定要求割り込み (CTSUWR)
- 計測結果読み出し要求割り込み (CTSURD)
- 測定終了割り込み (CTSUFN)

32.4.1 レジスタ設定要求割り込み (CTSUWR)

計測チャンネルごとの設定データをRAM上に用意しておき、あらかじめCTSUWR割り込みに対応したDTC/ICUの転送設定を行います。CTSUWR割り込みはState 1からState 2に遷移したときに出力されます。対応するチャンネルの設定データをRAMからCTSUSOレジスタに書き込んでください(図32.21)。CTSUSOレジスタにデータを書くとState 3に遷移します。

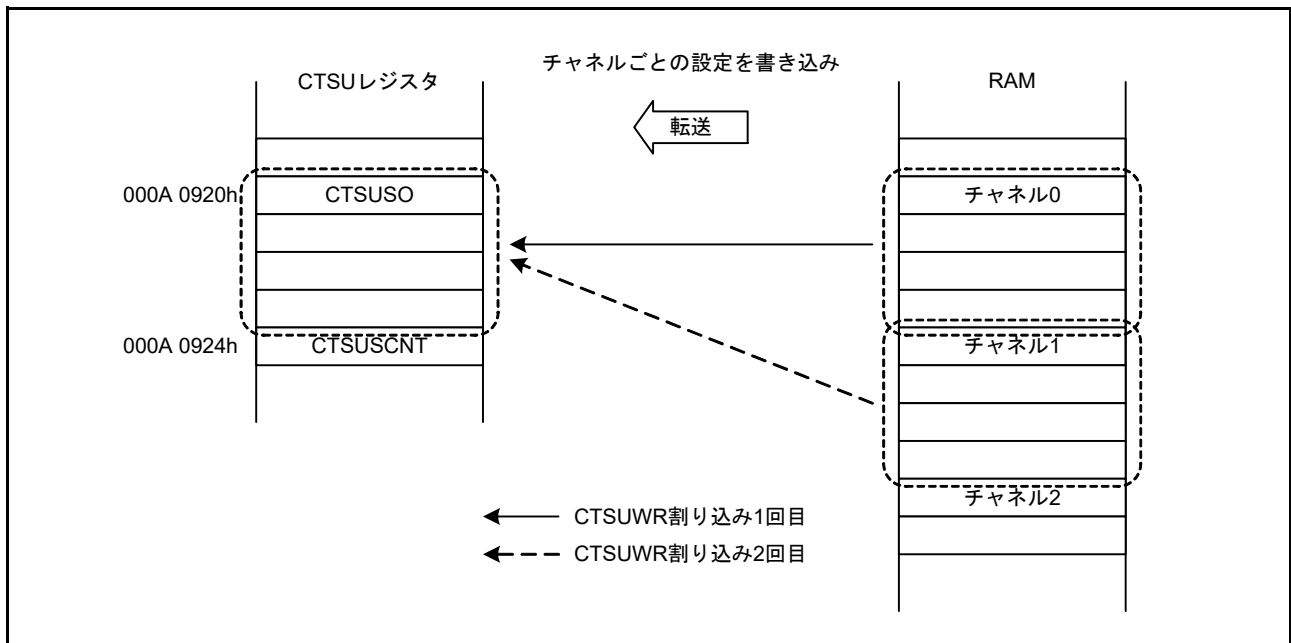


図 32.21 CTSUWR 割り込みを用いた DTC 転送動作例

CTSUWR 割り込みによって DTC 転送を行う場合、以下のとおり設定してください。

- 転送先アドレス：CTSUSO レジスタのアドレス
- 転送先アドレスの処理：1回の割り込みで4バイトのデータを1回転送(アドレスは固定)
- 転送元アドレス：RAM上に用意した設定データの最下位チャンネルのCTSUSOデータ格納アドレス
- 転送元アドレスの処理：1回の割り込みで4バイトのデータを1回転送(先頭バイトのアドレスは前回の割り込み処理から継続)
- 転送回数：計測する回数を指定

32.4.2 計測結果読み出し要求割り込み (CTSURD)

あらかじめ、CTSURD 割り込みに対応した DTC/ICU の転送設定を行います。1 チャンネルの計測が終了した後、State 5 から State 1 に遷移すると CTSURD 割り込みが出力されます。計測結果を CTSUSCNT レジスタから読み出してください(図 32.22)。CTSUSCNT レジスタを読み出すと、State 0 または State 2 に遷移します。

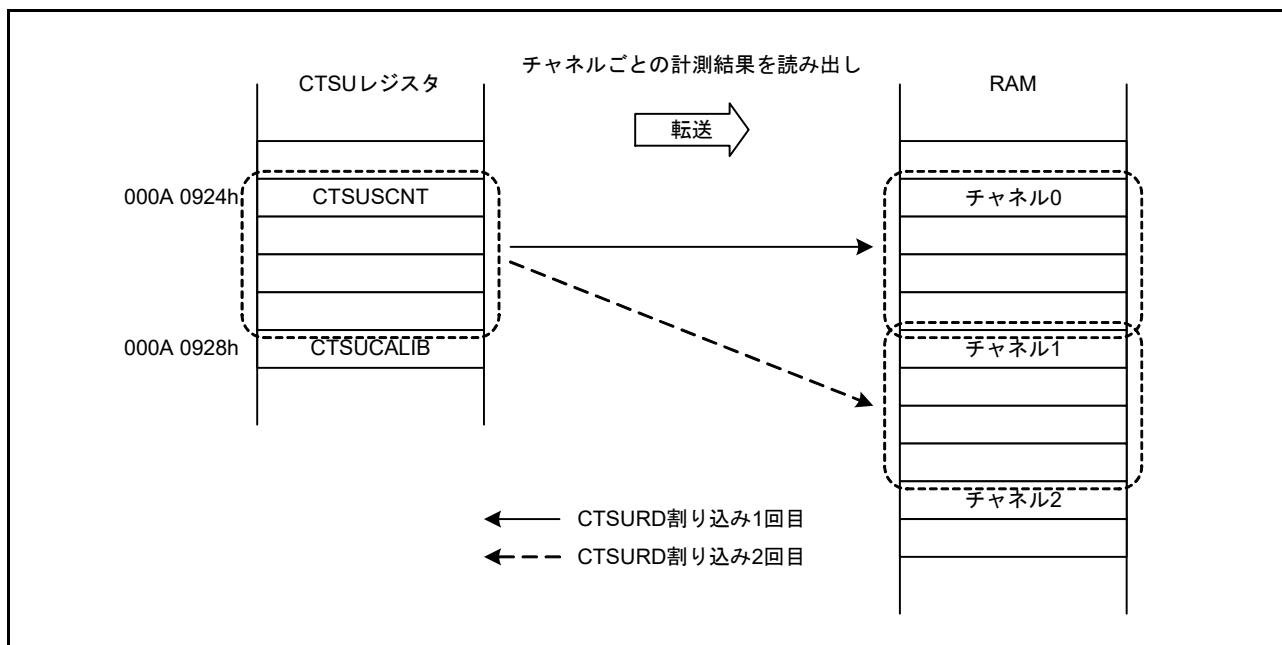


図 32.22 CTSURD 割り込みを用いた DTC 転送動作例

CTSURD 割り込みによって DTC 転送を行う場合、以下のとおり設定してください。

- 転送元アドレス：CTSUSCNT レジスタのアドレス
- 転送元アドレスの処理：1 回の割り込みで 4 バイトのデータを 1 回転送 (先頭アドレスは固定)
- 転送先アドレス：RAM 上に用意した最下位チャンネルの計測結果データ格納アドレス
- 転送先アドレスの処理：1 回の割り込みで 4 バイトのデータを 1 回転送 (先頭アドレスは前回の割り込み処理から継続)
- 転送回数：計測する回数を指定

32.4.3 測定終了割り込み (CTSUFN)

有効にしたすべてのチャンネルの計測が終了した後、State 1 から State 0 に遷移すると CTSUFN 割り込みが出力されます。

ただし、CTSUCRA.SNZ ビットが“1”(スヌーズモード時計測有効)、かつ CTSUOPT.AJFEN ビットが“1”(自動判定機能有効)の場合、以下の条件の少なくとも一つが満たされたときのみ CTSUFN 割り込みが出力されます。

- タッチ判定されたチャンネルがあったとき
- 最終チャンネルの計測時に過電圧が検出されたとき

なお、スヌーズ解除割り込みに CTSUFN 割り込みを選択している場合、測定中に上記以外のエラーが発生しても、非タッチと判定されれば、スヌーズモードは解除されずにソフトウェアスタンバイモードに戻ります。このことが問題になる場合は、他の割り込みを使用してソフトウェアスタンバイモードを解除してください。

32.5 スヌーズ終了要求

CTSUCRA.SNZ ビットが“1”(スヌーズモード時計測有効)、かつ CTSUOPT.AJFEN ビットが“1”(自動判定機能有効)の場合、すべてのチャンネルで非タッチと判定されると、スヌーズ終了要求が出力されます。

ただし、最終チャンネルの計測時に過電圧が検出された場合は、スヌーズ終了要求は出力されずに CTSUFN 割り込みが出力されます。

スヌーズモードの詳細については、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

32.6 使用上の注意事項

32.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ D (MSTPCRD) により、CTSUS の動作を禁止 / 許可することができます。リセット後の値では、CTSUS の動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することによりレジスタをアクセスできます。詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

32.6.2 計測結果データ (CTSUSCNT レジスタ)

計測中に読み出さないでください。読み出した場合、その値は保証できません。

32.6.3 ソフトウェアトリガ

CTSUCRA.CLK[1:0] ビットで“10b”(PCLKB/4)または“11b”(PCLKB/8)を選択した場合、計測終了後すぐに計測を再開させるときは、割り込み発生から下記のサイクル以上待つてから CTSUCRA.STRT ビットに“1”を書いてください。

- CTSUCRA.CLK[1:0] ビット = 10b の場合 : 3 サイクル以上
- CTSUCRA.CLK[1:0] ビット = 11b の場合 : 7 サイクル以上

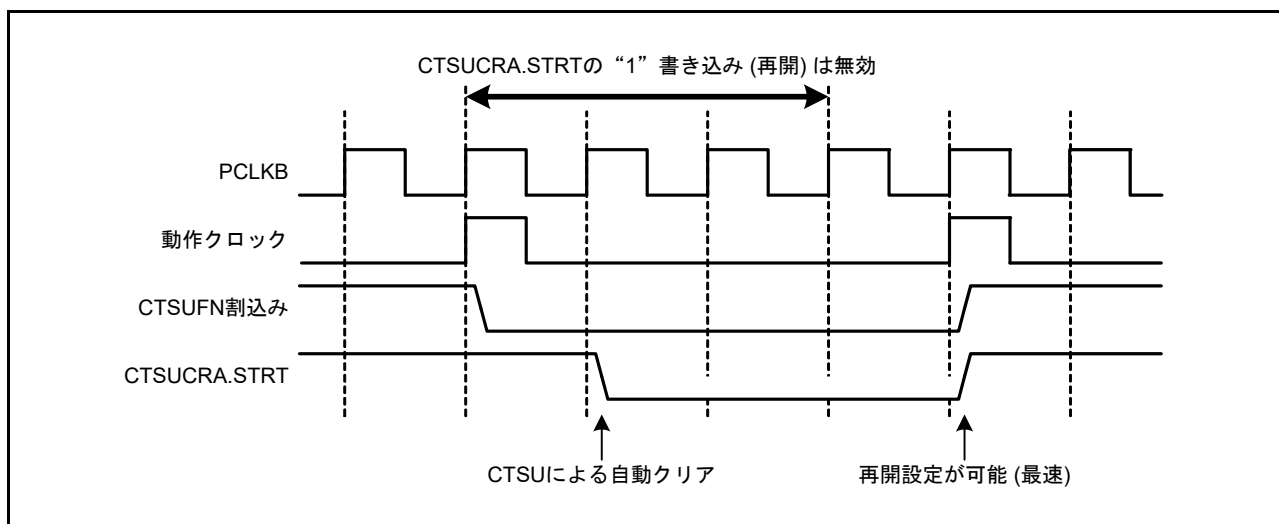


図 32.23 再開時の注意事項

32.6.4 外部トリガ

計測期間中に外部トリガが入力された場合、そのトリガは無視されます。外部トリガは、CTSUFN 割り込みが発生してから動作クロックで1サイクル後から有効になります。

外部トリガモードを終了する場合は、CTSUCRA.STRT ビットに“0”を書くのと同時に CTSUCRA.INIT ビットに“1”を書いて(強制停止)ください。

32.6.5 強制停止の注意事項

計測中に強制停止させる場合は、CTSUCRA.STRT ビットに“0”を書くのと同時に CTSUCRA.INIT ビットに“1”を書いてください。動作が停止し、内部制御レジスタが初期化されます。

INIT ビットによる初期化では、内部計測状態の初期化に加え、以下のレジスタが初期化されます。

- CTSUMCH レジスタ
- CTSUSR レジスタ
- CTSUSCNT レジスタ

また強制停止させた場合、内部状態によっては割り込み要求が発生することがあります。強制停止後、DTC や ICU の停止 / 無効処理を行ってください。

何らかの要因で DTC 転送を停止する場合は、CTSUSL に対しても強制停止および初期化処理を行ってください。

32.6.6 TSCAP 端子

TSCAP 端子には、CTSUSL の内部電圧を安定させるためのコンデンサを接続する必要があります。TSCAP 端子とコンデンサの間、およびコンデンサと GND の間の配線は、できるだけ太く、短くしてください。

TSCAP 端子に接続されたコンデンサは、スイッチを ON (CTSUCRA.CSW = 1) にして接続する前に、I/O ポートから Low を出力させ、十分に放電させてください。

32.6.7 周波数拡散時のサンプリング周期設定

周波数拡散機能が ON (CTSUCRB.SOFP = 0) のときのセンサドライブパルスのサンプリング周期が、センサドライブパルス周期の 1/4 未満になるように、CTSUCRA.CLK[1:0] と CTSUSO.SDPA[7:0] を設定してください。

32.6.8 計測動作中 (CTSUCRA.STRT ビット = 1) の注意事項

計測動作中 (CTSUCRA.STRT ビット = 1) に、周辺モジュールクロックを停止させたり、計測端子 (TSM 端子、TSCAP 端子) のポート設定を変更したりしないでください。

このような設定をしてしまった場合、強制停止 (CTSUCRA.STRT ビット = 0、CTSUCRA.INIT ビット = 1) 後、CTSUCRA.PON ビットと CTSUCRA.CSW ビットに同時に“0”を書き込み、CTSUCRA.SNZ ビットに“0”を設定し、初期設定からやり直してください。

32.6.9 自己容量方式の送信端子

自己容量方式時の送信端子は、計測には使用できません。送信端子からは計測パルスと同相のパルスが出力されています。基板上のアクティブシールドとして使用してください。また、自己容量方式では送信端子を同時に複数選択しないでください。

33. AESA

本章は、守秘契約を結んでいただいたうえで公開致します。
詳細は、弊社営業担当にご確認ください。

34. RNGA

本章は、守秘契約を結んでいただいたうえで公開致します。
詳細は、弊社営業担当にご確認ください。

35. 12ビットA/Dコンバータ (S12ADE)

35.1 概要

本MCUは、逐次比較方式の12ビットのA/Dコンバータを1ユニット内蔵しています。最大18チャンネルのアナログ入力と温度センサ出力、内部基準電圧を選択できます。

12ビットA/Dコンバータは、選択した最大18チャンネルのアナログ入力、温度センサ出力または内部基準電圧を逐次比較方式で12ビットのデジタル値に変換します。動作モードは、任意に選択した最大18チャンネルのアナログ入力を若いチャンネル番号順に1回のみ変換するシングルスキャンモードと、任意に選択した最大18チャンネルのアナログ入力を順次若いチャンネル番号順に連続して変換する連続スキャンモードと、最大18チャンネルのアナログ入力を任意に選択して2つのグループ(グループAとグループB)に分け、グループ単位で選択したチャンネルのアナログ入力を若いチャンネル番号順に変換するグループスキャンモードがあります。

グループスキャンモードでは、グループAとグループBのスキャン開始条件(同期トリガ)を個別に選択することで、グループAとグループBは異なるタイミングでA/D変換を開始することができます。グループAの優先制御動作を設定すると、前述の動作に加えてグループBのA/D変換動作中にグループAのスキャン開始を受け付けて、グループBのA/D変換動作を中断して、グループAのA/D変換動作を優先的に開始します。

ダブルトリガモードは、任意に選択した1チャンネルのアナログ入力をシングルスキャンモードかグループスキャンモード(グループA)で変換し、1回目の同期トリガで変換したデータと2回目の同期トリガで変換したデータを別々のレジスタに格納(A/D変換データの二重化)します。

自己診断は、スキャンごとの最初に1回実施され、12ビットA/Dコンバータ内部で生成する3つの電圧値のうち1つをA/D変換します。

温度センサ出力と内部基準電圧の両方を同時に選択することはできません。温度センサ出力または内部基準電圧は、それぞれ単独でA/D変換を行ってください。

高電位側基準電圧には外部端子入力(VREFH0)かアナログ基準電圧(AVCC0)から選択することができます。低電位側基準電圧には外部端子入力(VREFL0)かアナログ基準電圧(AVSS0)を選択することができます。

コンペア機能(ウィンドウA、ウィンドウB)を有しています。ウィンドウA/BそれぞれにHigh側、Low側の基準値を指定し、選択したチャンネルのA/D変換値が比較条件に一致した場合、イベント条件(A or B、A and B、A exor B)に応じてELCイベント(S12ADWMELC/S12ADWUMELC)を出力します。また、A/D変換値とLow側基準値を比較するコンパレータ動作も可能です。

A/Dデータ格納バッファは、A/D変換データを順番に格納する16本からなるリングバッファです。

表35.1に12ビットA/Dコンバータの仕様を、表35.2に12ビットA/Dコンバータの機能概要を示します。図35.1に12ビットA/Dコンバータのブロック図を示します。

表 35.1 12ビットA/Dコンバータの仕様 (1/2)

項目	内容
ユニット数	1ユニット
入力チャンネル	18チャンネル
拡張アナログ機能	温度センサ出力、内部基準電圧
A/D変換方式	逐次比較方式
分解能	12ビット
変換時間	1チャンネル当たり 0.88 μ s (ADCCR.CCSビット=0)、0.67 μ s (ADCCR.CCSビット=1) (A/D変換クロック ADCLK = 48 MHz動作時)
A/D変換クロック	周辺モジュールクロックPCLKB(注1)とA/D変換クロックADCLK(注1)を以下の周波数比で設定可能 PCLKB : ADCLK周波数比 = 1 : 1、1 : 2、2 : 1、4 : 1、8 : 1 ADCLKの設定はクロック発生回路で行います
データレジスタ	<ul style="list-style-type: none"> アナログ入力用18本、ダブルトリガモードでのA/D変換データ二重化用1本 温度センサ用1本 内部基準電圧用1本 自己診断用1本 A/D変換結果を12ビットA/Dデータレジスタに保持 A/D変換結果の12ビット精度出力に対応 加算モード時はA/D変換結果の加算値を変換精度ビット数+2ビット/4ビット(注2)でA/Dデータレジスタに保持 ダブルトリガモード(シングルスキャンとグループスキャンモードで選択可能) 選択した1つのチャンネルのアナログ入力のA/D変換データを1回目は対象チャンネルのデータレジスタに保持、2回目のA/D変換データは二重化レジスタに保持
動作モード	<ul style="list-style-type: none"> シングルスキャンモード : 任意に選択した最大18チャンネルのアナログ入力を1回のみA/D変換 温度センサ出力を1回のみA/D変換 内部基準電圧を1回のみA/D変換 連続スキャンモード : 任意に選択した最大18チャンネルのアナログ入力を繰り返しA/D変換 グループスキャンモード : 任意に選択した最大18チャンネルのアナログ入力をグループAとグループBに分け、グループ単位で選択したアナログ入力を1回のみA/D変換 グループAとグループBは、各々の変換開始条件(同期トリガ)を選択することで異なるタイミングで変換開始可能 グループスキャンモード(グループA優先制御選択時) グループBのA/D変換動作中にグループAのトリガ入力があった場合、グループBのA/D変換動作を中断し、グループAのA/D変換動作を実施 グループAのA/D変換動作終了後、グループBのA/D変換動作を再実行(再スキャン)の設定が可能
A/D変換開始条件	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアトリガ 同期トリガ マルチファンクションタイムパルスユニット(MTU)、イベントリンクコントローラ(ELC)からのトリガ 非同期トリガ 外部トリガADTRG0#端子によるA/D変換動作の開始が可能
機能	<ul style="list-style-type: none"> サンプリングステート数可変機能 12ビットA/Dコンバータの自己診断機能 A/D変換値加算モードと平均モードが選択可能 アナログ入力断線検出機能(ディスチャージ機能/プリチャージ機能) ダブルトリガモード(A/D変換データ二重化機能) A/Dデータレジスタオートクリア機能 コンペア機能(ウィンドウA、ウィンドウB) コンペア機能使用時のリングバッファ(16本)
割り込み要因	<ul style="list-style-type: none"> ダブルトリガモードとグループスキャンモードを除き、1回のスキャン終了でスキャン終了割り込み要求(S12ADI0)を発生 ダブルトリガモードの設定では、2回のスキャン終了でスキャン終了割り込み要求(S12ADI0)を発生 グループスキャンモードの設定では、グループAのスキャン終了でスキャン終了割り込み要求(S12ADI0)を発生。グループBのスキャン終了でグループB専用のスキャン終了割り込み要求(GBADI)を発生 グループスキャンモードでダブルトリガモード選択時は、グループAの2回のスキャン終了でスキャン終了割り込み要求(S12ADI0)を発生。グループBのスキャン終了でグループB専用のスキャン終了割り込み要求(GBADI)を発生 S12ADI0、GBADI割り込みでデータトランスファコントローラ(DTC)を起動可能

表35.1 12ビットA/Dコンバータの仕様 (2/2)

項目	内容
イベントリンク機能	<ul style="list-style-type: none"> グループスキャンモードでのグループBのスキャン終了を除くスキャン終了時にELCイベント発生 グループスキャンモードでのグループBのスキャン終了時にELCイベント発生 すべてのスキャン終了時にELCイベント発生 ELCからのトリガによりスキャン開始可能 シングルスキャンモードでのウィンドウコンペア機能のイベント条件に応じて、ELCイベント発生
消費電力低減機能	<ul style="list-style-type: none"> モジュールストップ状態への設定が可能 (注3、注4)

注1. 周辺モジュールクロックPCLKBはSCKCR.PCKB[3:0]ビットで設定した周波数、A/D変換クロックADCLKはSCKCR.PCKD[3:0]ビットで設定した周波数になります。

注2. 加算時の拡張ビット数は、加算回数により異なります。

2ビット拡張：1～4回変換(0～3回加算)

4ビット拡張：16回変換(15回加算)

注3. 詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

注4. モジュールストップ状態を解除後は、1μs以上待ってからA/D変換を開始してください。

表35.2 12ビットA/Dコンバータの機能概要

項目			端子名、略称等	
アナログ入力チャネル			AN000～AN008、AN016～AN021、AN024～AN026、温度センサ出力、内部基準電圧	
A/D変換開始条件	ソフトウェア	ソフトウェアトリガ	可能	
	非同期トリガ	ADTRG0#	可能	
	同期トリガ	MTU0.TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャ		TRG0AN
		MTU0.TGRBのコンペアマッチ/インプットキャプチャ		TRG0BN
		MTU0～MTU4のTGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャまたは相補PWMモード時のMTU4.TCNTのアンダフロー(谷)		TRGAN
		MTU0.TGREのコンペアマッチ		TRG0EN
		MTU0.TGRFのコンペアマッチ		TRG0FN
		MTU4.TADCORAとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)		TRG4AN
		MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)		TRG4BN
		MTU4.TADCORAとMTU4.TCNT、MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)		TRG4ABN
ELCからのトリガ		可能		
割り込み			S12ADI0、GBADI割り込み	
モジュールストップ機能の設定(注1)			MSTPCRA.MSTPA17ビット	

注1. 詳細は、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

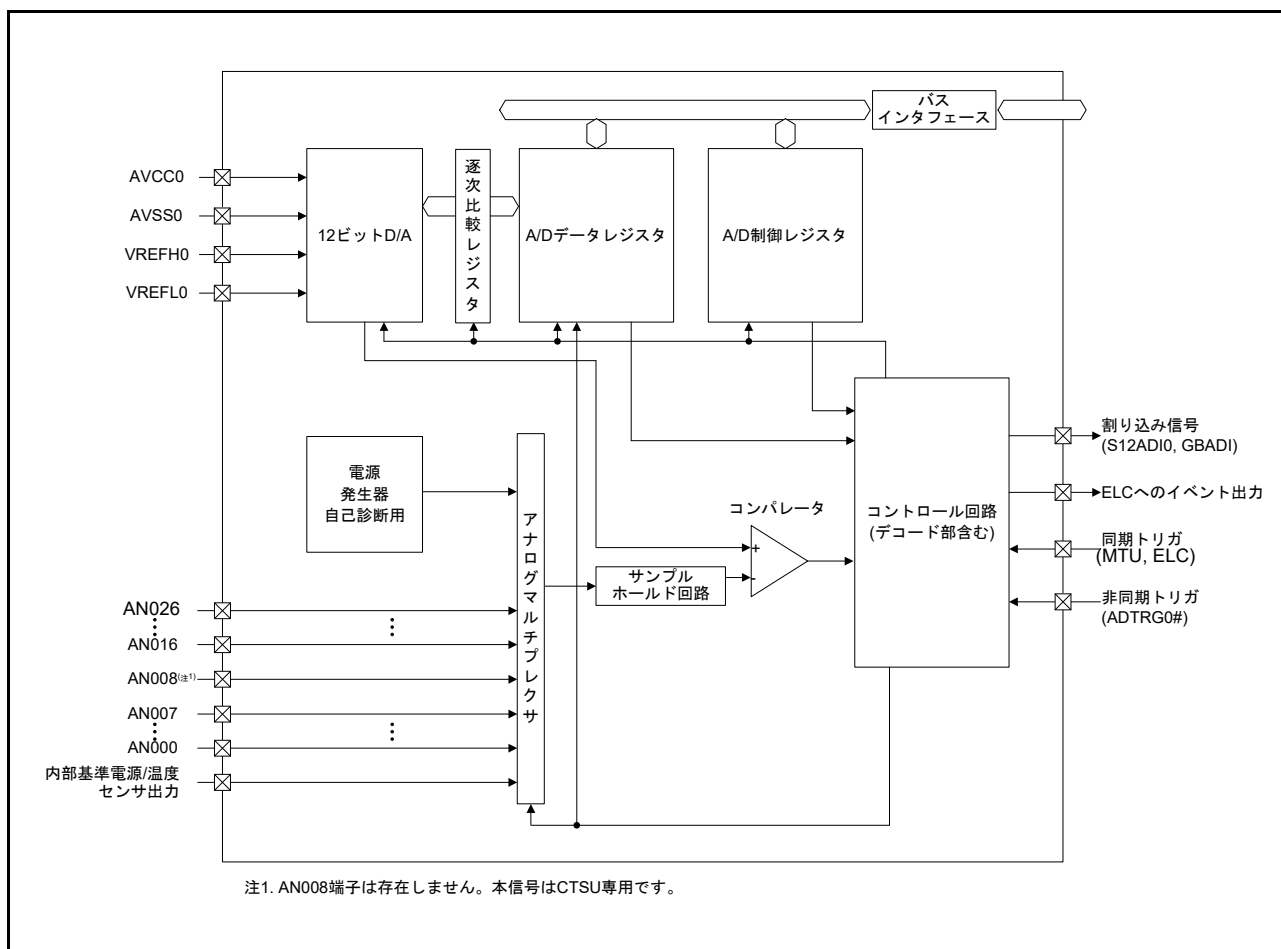


図 35.1 12ビットA/Dコンバータのブロック図

表 35.3 に 12ビットA/Dコンバータで使用する入力端子を示します。

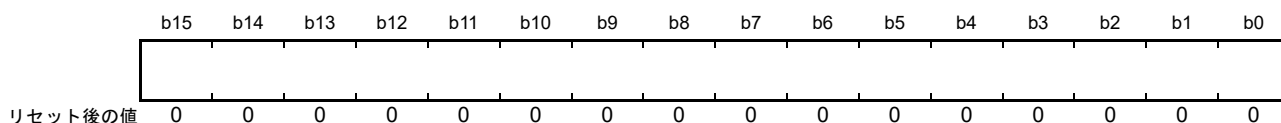
表 35.3 12ビットA/Dコンバータの入力端子

端子名	入出力	機能
AVCC0	入力	アナログ部の電源端子
AVSS0	入力	アナログ部のグランド端子
VREFH0	入力	基準電源端子
VREFL0	入力	基準電源グランド端子
AN000～AN007, AN016～AN021, AN024～AN026	入力	アナログ入力端子0～7、アナログ入力端子16～21、アナログ入力端子24～26
ADTRG0#	入力	A/D変換開始のための外部トリガ入力端子

35.2 レジスタの説明

35.2.1 A/D データレジスタ y (ADDRy) (y = 0 ~ 8, 16 ~ 21, 24 ~ 26)、 A/D データ二重化レジスタ (ADDBLDR)、 A/D 温度センサデータレジスタ (ADTSDR)、 A/D 内部基準電圧データレジスタ (ADOCDR)

アドレス S12AD.ADDR0 0008 9020h, S12AD.ADDR1 0008 9022h, S12AD.ADDR2 0008 9024h,
S12AD.ADDR3 0008 9026h, S12AD.ADDR4 0008 9028h, S12AD.ADDR5 0008 902Ah,
S12AD.ADDR6 0008 902Ch, S12AD.ADDR7 0008 902Eh, S12AD.ADDR8 0008 9030h,
S12AD.ADDR16 0008 9040h, S12AD.ADDR17 0008 9042h, S12AD.ADDR18 0008 9044h,
S12AD.ADDR19 0008 9046h, S12AD.ADDR20 0008 9048h, S12AD.ADDR21 0008 904Ah,
S12AD.ADDR24 0008 9050h, S12AD.ADDR25 0008 9052h, S12AD.ADDR26 0008 9054h,
S12AD.ADBLDR 0008 9018h, S12AD.ADTSDR 0008 901Ah, S12AD.ADOCDR 0008 901Ch



ADDRy レジスタ (y=0 ~ 8, 16 ~ 21, 24 ~ 26) は、A/D 変換結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。ADDBLDR レジスタは、ダブルトリガモード選択時の 2 回目のトリガによって A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。ADTSDR レジスタは、温度センサ出力を A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。ADOCDR レジスタは、内部基準電圧を A/D 変換した結果を格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。

各レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビット (ADCER.ADRFMT) の設定値 (右詰め、または左詰め)
- 加算回数選択ビット (ADADC.ADC[2:0]) の設定値 (1 回、2 回、3 回、15 回加算)
- 平均モードイネーブルビット (ADADC.AVEE) の設定値 (加算、または平均)

以下、条件ごとのフォーマットを示します。

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に A/D 変換値を格納します。読み出し時、b15-b12 は “0” が読み出されます。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に A/D 変換値を格納します。読み出し時、b3-b0 は “0” が読み出されます。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャネルの A/D 変換値を平均した値を格納します。読み出し時、b15-b12 は “0” が読み出されます。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャネルの A/D 変換値を平均した値を格納します。読み出し時、b3-b0 は “0” が読み出されます。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

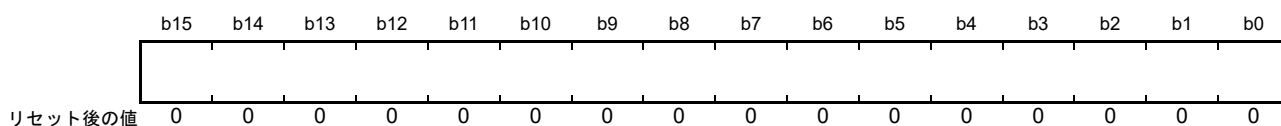
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回 ~ 4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。読み出し時、b15-b14 は “0” が読み出されます。

- 右詰めフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。
- 左詰めフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合
b15-b2 に同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。読み出し時、b1-b0 は“0”が読み出されます。
- 左詰めフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。

A/D 変換値加算モードを選択したとき、同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を示します。A/D 変換回数を 1 回～4 回、16 回に設定できます。A/D 変換値加算モードを選択すると、変換回数を 1 回～4 回に設定した場合は、A/D 変換結果の加算値を変換精度のビット数に 2 ビット分拡張したデータとして、変換回数を 16 回に設定した場合は、A/D 変換結果の加算値を変換精度のビット数に 4 ビット分拡張したデータとして、A/D データレジスタに保持します。A/D 変換値加算モードを選択した場合でも、A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定に従い、A/D データレジスタに値が格納されます。

35.2.2 A/D 自己診断データレジスタ (ADRD)

アドレス S12AD.ADRD 0008 901Eh



ADRD レジスタは、12ビットA/Dコンバータの自己診断でA/D変換した結果を格納する16ビットの読み出し専用レジスタです。A/D変換値に加えて、自己診断のステータスが付加されます。ADRDレジスタは下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/Dデータレジスタフォーマット選択ビット (ADCER.ADRFMT) の設定値 (右詰め、または左詰め)

A/D自己診断機能にはA/D変換加算モードとA/D変換平均モードを適用することはできません。自己診断の詳細については「35.2.11 A/Dコントロール拡張レジスタ (ADCER)」を参照してください。

以下、条件ごとのフォーマットを示します。

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0にA/D変換値を格納します。b15-b14に自己診断ステータスを格納します。読み出し時、b13-b12は“0”が読み出されます。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4にA/D変換値を格納します。b1-b0に自己診断ステータスを格納します。読み出し時、b3-b2は“0”が読み出されます。

表35.4 自己診断ステータス内容

右詰めフォーマット時のb15-b14 左詰めフォーマット時のb1-b0	自己診断ステータス
00b	パワーオンから一度も自己診断を実施していないことを示します
01b	0Vの電圧値の自己診断を実施したことを示します
10b	基準電圧×1/2の電圧値の自己診断を実施したことを示します
11b	基準電圧の電圧値の自己診断を実施したことを示します

注. 自己診断の詳細については、「35.2.11 A/Dコントロール拡張レジスタ (ADCER)」を参照してください。

35.2.3 A/D コントロールレジスタ (ADCSR)

アドレス S12AD.ADCSR 0008 9000h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
ADST	ADCS[1:0]	ADIE	—	ADHSC	TRGE	EXTRG	DBLE	GBADIE	—	DBLANS[4:0]					
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	DBLANS[4:0]	ダブルトリガ対象チャンネル選択ビット	ダブルトリガ対象のアナログ入力を1チャンネル選択します。ダブルトリガモード選択時のみ有効です	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	GBADIE	グループBスキャン終了割り込み許可ビット	0: グループBのスキャン終了後にGBADI割り込み発生を禁止 1: グループBのスキャン終了後にGBADI割り込み発生を許可	R/W
b7	DBLE	ダブルトリガモード選択ビット	0: ダブルトリガモード非選択 1: ダブルトリガモード選択	R/W
b8	EXTRG	トリガ選択ビット (注1)	0: 同期トリガによるA/D変換の開始を選択 1: 非同期トリガによるA/D変換の開始を選択	R/W
b9	TRGE	トリガ開始許可ビット	0: 同期、非同期トリガによるA/D変換の開始を禁止 1: 同期、非同期トリガによるA/D変換の開始を許可	R/W
b10	ADHSC	A/D変換動作選択ビット	0: 高速変換動作 1: 低電流変換動作	R/W
b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b12	ADIE	スキャン終了割り込み許可ビット	0: スキャン終了後のS12ADI0割り込み発生を禁止 1: スキャン終了後のS12ADI0割り込み発生を許可	R/W
b14-b13	ADCS[1:0]	スキャンモード選択ビット	b14 b13 0 0: シングルスキャンモード 0 1: グループスキャンモード 1 0: 連続スキャンモード 1 1: 設定禁止	R/W
b15	ADST	A/D変換スタートビット	0: A/D変換停止 1: A/D変換開始	R/W

注1. 外部端子(非同期トリガ)でA/D変換を起動する方法
外部端子(ADTRG0#)にHighを入力した状態で、ADCSR.TRGEビットを“1”、ADCSR.EXTRGビットを“1”にします。その後、ADTRG0#の信号をLowに変化させると、ADTRG0#の立ち下がりエッジを検出し、スキャン変換を開始します。このときのLow入力のパルス幅は、1.5 PCLKBクロック以上必要です。

ADCSRレジスタは、ダブルトリガモードの設定、A/D変換起動トリガの設定、スキャン終了割り込み許可/禁止、スキャンモードの選択、A/D変換の開始/停止を行うレジスタです。

DBLANS[4:0] ビット (ダブルトリガ対象チャンネル選択ビット)

ダブルトリガモードでA/D変換データを二重化する1チャンネルを選択します。

DBLANS[4:0]ビットで選択したチャンネルのアナログ入力を、1回目のA/D変換開始トリガで変換した結果がA/Dデータレジスタyに格納され、2回目のA/D変換開始トリガで変換した結果がA/Dデータ二重化レジスタに格納されます。表35.5にダブルトリガ対象チャンネルの選択表を示します。

ダブルトリガモードを選択した場合は、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したチャンネルの選択は無効になり、DBLANS[4:0]ビットで選択した1チャンネルがA/D変換を行うチャンネルとなります。

ダブルトリガモードを使用する場合は、自己診断機能、温度センサ出力および内部基準電圧のA/D変換は選択しないでください(グループスキャンのグループBのA/D変換には、温度センサ出力および内部基準電圧を選択することができます)。また、DBLANS[4:0]ビットは、ADSTビットが“0”のときに設定してください(ADSTビットへの“1”書き込みと同時に設定もしないでください)。

なお、ダブルトリガモードを設定した状態での A/D 変換値加算 / 平均モードは、DBLANS[4:0] ビットで選択したチャンネルを ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択することで実行可能です。

表35.5 DBLANS[4:0]ビット設定値とダブルトリガ対象チャンネルの関係

DBLANS[4:0]	二重化チャンネル	DBLANS[4:0]	二重化チャンネル	DBLANS[4:0]	二重化チャンネル
0000b	AN000	0100b	AN008	11001b	AN025
00001b	AN001	1000b	AN016	11010b	AN026
00010b	AN002	10001b	AN017		
00011b	AN003	10010b	AN018		
00100b	AN004	10011b	AN019		
00101b	AN005	10100b	AN020		
00110b	AN006	10101b	AN021		
00111b	AN007	1100b	AN024		

GBADIE ビット (グループ B スキャン終了割り込み許可ビット)

グループスキャンモードでのグループ B のスキャン終了割り込み (GBADI) の発生を許可 / 禁止します。

DBLE ビット (ダブルトリガモード選択ビット)

ダブルトリガモードは、1 回目の同期トリガで変換された結果と 2 回目で変換された結果を別々の結果レジスタに格納する機能です。

ダブルトリガモードを選択した場合、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで指定したチャンネルは無効となり、DBLANS[4:0] ビットで選択したチャンネルが有効となります。ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択された同期トリガのみで動作します。非同期トリガ、およびソフトウェアトリガは発生させないでください。1 回目の同期トリガで変換した結果は、A/D データレジスタ y に格納され、2 回目の同期トリガで変換した結果は、A/D データ二重化レジスタに格納されます。このとき、ADIE ビットが“1”に設定していると、1 回目の変換終了時は割り込みを発生せず、2 回目の変換終了時に割り込みを発生します。

なお、ダブルトリガモードは、連続スキャンモードで使用しないでください。

DBLE ビットの設定は、あらかじめ ADST ビットを“0”にしてから行ってください。

EXTRG ビット (トリガ選択ビット)

A/D 変換を起動するトリガを同期トリガにするか、非同期トリガにするかを選択します。

TRGE ビット (トリガ開始許可ビット)

同期トリガ、非同期トリガによる A/D 変換の起動を許可 / 禁止します。

グループスキャンモードでは、このビットを“1”にしてください。

ADHSC ビット (A/D 変換動作選択ビット)

A/D 変換の動作モードを設定します。

ADHSC ビットを書き換える場合は、12 ビット A/D コンバータをスタンバイ状態にする必要があります。ADHSC ビットの手書き換え手順は、「35.8.10 ADHSC ビットの手書き換え手順」を参照してください。

ADIE ビット (スキャン終了割り込み許可ビット)

グループスキャンモードでのグループ B を除く、A/D スキャン変換終了割り込み (S12ADI0) の発生を許可 / 禁止します。

ダブルトリガモードを非選択に設定した場合は、1 回のスキャンが終了したときに、ADIE ビットが“1”に設定されていれば、S12ADI0 割り込みが発生します。

ダブルトリガモードを選択した場合は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した同期トリガからのトリガで開始したスキャンに限り、2回目のスキャンが終了したときにADIE ビットが“1”に設定されていればS12ADIO 割り込みが発生します。

ADCS[1:0] ビット (スキャンモード選択ビット)

スキャン変換モードを選択します。

シングルスキャンモードは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した最大 18 チャンネルのアナログ入力を若いチャンネル番号順に A/D 変換を実施し、選択されたすべてのチャンネルの変換が終了するとスキャン変換を停止します。

連続スキャンモードは、ADCSR.ADST ビットが“1”の間、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した最大 18 チャンネルのアナログ入力を若いチャンネル番号順に A/D 変換を実施し、選択されたすべてのチャンネルの変換が終了すると最初のチャンネルに戻り A/D 変換を継続します。連続スキャン中に ADCSR.ADST ビットを“0”にすると、スキャン中に A/D 変換を停止します。

グループスキャンモードは ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した同期トリガを開始条件として、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した最大 18 チャンネルのアナログ入力 (グループ A) を若いチャンネル番号順に A/D 変換を実施し、選択したすべてのチャンネルの A/D 変換が終了すると停止します。また、同様に ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットで選択した同期トリガを A/D 変換開始条件として、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した最大 18 チャンネルのアナログ入力 (グループ B) を若いチャンネル番号順に A/D 変換を実施し、選択したすべてのチャンネルの A/D 変換が終了すると停止します。

グループスキャンモードを選択する場合は、グループ A とグループ B で異なるチャンネルと異なるトリガを選択してください。

温度センサ出力または内部基準電圧を選択する場合は、シングルスキャンモードを選択し、ADANSA0、ADANSA1 レジスタでのチャンネル選択をすべて非選択としてから A/D 変換を行います。選択した温度センサ出力または内部基準電圧の A/D 変換が終了すると停止します。

ADCS[1:0] ビットは、ADST ビットが“0”のときに設定してください (ADST ビットへの“1”書き込みと同時設定もしないでください)。

ADST ビット (A/D 変換スタートビット)

A/D 変換の開始 / 停止を制御します。

ADST ビットを“1”に設定する前に、A/D 変換クロック、変換モード、変換対象アナログ入力の設定を行ってください。

[“1”になる条件]

- ソフトウェアで“1”を書き込んだとき
- ADCSR.EXTRG ビットに“0”、ADCSR.TRGE ビットに“1”を設定し、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した同期トリガを検出したとき
- グループスキャンモードでADCSR.TRGEビットに“1”を設定しADSTRGR.TRSB[5:0]ビットで選択した同期トリガを検出したとき
- ADCSR.TRGE ビットと ADCSR.EXTRG ビットを“1”、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットを“000000b”に設定し、非同期トリガを検出したとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット = 01bかつADGSPCR.PGSビット = 1)に、グループBのトリガを検出し、グループBのA/D変換を開始したとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット = 01bかつADGSPCR.PGSビット = 1)に、ADGSPCR.GBRSCN ビットを“1”に設定し、グループBのA/D変換を再開したとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット = 01bかつADGSPCR.PGSビット = 1)に、ADGSPCR.GBRP ビットを“1”に設定し、グループBのA/D変換を開始したとき

["0"になる条件]

- ソフトウェアで“0”を書き込んだとき
- シングルスキャンモードで、選択したすべてのチャンネル、温度センサ出力または内部基準電圧のA/D変換が終了したとき
- グループスキャンモードでグループAのスキャンが終了したとき
- グループスキャンモードでグループBのスキャンが終了したとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット=01bかつADGSPCR.PGSビット=1)に、グループBのA/D変換実行中に、グループAのトリガを検出し、グループBのスキャンが中断されたとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット=01bかつADGSPCR.PGSビット=1)に、ADGSPCR.GBRSCNビットを“1”に設定し、グループBの再起動トリガによるスキャンが終了したとき
- グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット=01bかつADGSPCR.PGSビット=1)に、ADGSPCR.GBRPビットを“1”に設定し、グループBのトリガによるスキャンが終了したとき

注. グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット=01bかつADGSPCR.PGSビット=1)、ADSTビットを“1”にしないでください。

注. グループA優先制御動作モード有効時(ADCSR.ADCS[1:0]ビット=01bかつADGSPCR.PGSビット=1)、かつADGSPCR.GBRPビット=1のとき、ADSTビットを“0”にしないでください。A/D変換を強制停止させる場合、ADSTビットのクリア手順に従ってください。

35.2.4 A/D チャネル選択レジスタ A0 (ADANSA0)

アドレス S12AD.ADANSA0 0008 9004h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ANSA0 08	ANSA0 07	ANSA0 06	ANSA0 05	ANSA0 04	ANSA0 03	ANSA0 02	ANSA0 01	ANSA0 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ANSA000	A/D変換チャンネル選択ビット	0 : AN000 ~ AN008を変換対象から外す 1 : AN000 ~ AN008を変換対象とする	R/W
b1	ANSA001			R/W
b2	ANSA002			R/W
b3	ANSA003			R/W
b4	ANSA004			R/W
b5	ANSA005			R/W
b6	ANSA006			R/W
b7	ANSA007			R/W
b8	ANSA008			R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADANSA0レジスタは、A/D変換を行うチャンネルのアナログ入力 AN000 ~ AN008 を選択するレジスタです。グループスキャンモードでは、グループ A のチャンネルを選択します。

ANSA0n ビット (n = 00 ~ 08) (A/D 変換チャンネル選択ビット)

A/D変換を行うチャンネルのアナログ入力 AN000 ~ AN008 の選択を行います。選択するチャンネルおよびチャンネル数は任意に設定可能です。ANSA000 ビットが AN000 に、ANSA008 ビットが AN008 に対応します。

温度センサあるいは内部基準電圧を A/D 変換する場合は、アナログ入力チャンネルを選択しないでください(本レジスタ設定値を“0000h”としてください)。

ダブルトリガモードを選択した場合は、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャンネルがグループ A の選択チャンネルとなり、ANSA0n ビットの設定は無効になります。

ANSA0n ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

35.2.5 A/D チャネル選択レジスタ A1 (ADANSA1)

アドレス S12AD.ADANSA1 0008 9006h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	ANSA1 10	ANSA1 09	ANSA1 08	—	—	ANSA1 05	ANSA1 04	ANSA1 03	ANSA1 02	ANSA1 01	ANSA1 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ANSA100	A/D変換チャネル選択ビット	0 : AN016～AN021を変換対象から外す 1 : AN016～AN021を変換対象とする	R/W
b1	ANSA101			R/W
b2	ANSA102			R/W
b3	ANSA103			R/W
b4	ANSA104			R/W
b5	ANSA105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	ANSA108	A/D変換チャネル選択ビット	0 : AN024～AN026を変換対象から外す 1 : AN024～AN026を変換対象とする	R/W
b9	ANSA109			R/W
b10	ANSA110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADANSA1レジスタは、A/D変換を行うチャネルのアナログ入力AN016～AN021、AN024～AN026を選択するレジスタです。グループスキャンモードでは、グループAのチャネルを選択します。

ANSA1nビット (n = 00～05, 08～10) (A/D変換チャネル選択ビット)

A/D変換を行うチャネルのアナログ入力AN016～AN021、AN024～AN026の選択を行います。選択するチャネルおよびチャネル数は任意に設定可能です。ANSA100ビットがAN016に、ANSA110ビットがAN026に対応します。

温度センサあるいは内部基準電圧をA/D変換する場合は、アナログ入力チャネルを選択しないでください(本レジスタ設定値を0000hとしてください)。

ダブルトリガモードを選択した場合は、ADCSR.DBLANS[4:0]ビットで選択した1チャネルがグループAの選択チャネルとなり、ANSA1nビットの設定は無効になります。

ANSA1nビットは、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

35.2.6 A/D チャネル選択レジスタ B0 (ADANSB0)

アドレス S12AD.ADANSB0 0008 9014h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ANSB0 08	ANSB0 07	ANSB0 06	ANSB0 05	ANSB0 04	ANSB0 03	ANSB0 02	ANSB0 01	ANSB0 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ANSB000	A/D変換チャンネル選択ビット	0 : AN000 ~ AN008 を変換対象から外す 1 : AN000 ~ AN008 を変換対象とする	R/W
b1	ANSB001			R/W
b2	ANSB002			R/W
b3	ANSB003			R/W
b4	ANSB004			R/W
b5	ANSB005			R/W
b6	ANSB006			R/W
b7	ANSB007			R/W
b8	ANSB008			R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADANSB0 レジスタは、グループスキャンモード選択時にグループ B で A/D 変換を行うチャンネルのアナログ入力 AN000 ~ AN008 を選択するレジスタです。ADANSB0 レジスタはグループスキャンモード以外のスキャンモードでは使用しません。

ANSB0n ビット (n = 00 ~ 08) (A/D 変換チャンネル選択ビット)

グループスキャンモード選択時にグループ B で A/D 変換を行うチャンネルのアナログ入力 AN000 ~ AN008 の選択を行います。ADANSB0 レジスタは他のスキャンモードでは使用しません。選択するチャンネルおよびチャンネル数は、グループ A で指定したチャンネル (ADANSA0、ADANSA1 レジスタ、またはダブルトリガモードによる ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択したグループ A に該当するチャンネル) 以外から設定します。

ANSB000 ビットが AN000 に、ANSB008 ビットが AN008 に対応します。

温度センサあるいは内部基準電圧を A/D 変換する場合は、アナログ入力チャンネルを選択しないでください (本レジスタ設定値を 0000h としてください)。

ANSB0n ビットは、ADCSR.ADST ビットが “0” のときに設定してください。

35.2.7 A/D チャンネル選択レジスタ B1 (ADANSB1)

アドレス S12AD.ADANSB1 0008 9016h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	ANSB1 10	ANSB1 09	ANSB1 08	—	—	ANSB1 05	ANSB1 04	ANSB1 03	ANSB1 02	ANSB1 01	ANSB1 00
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ANSB100	A/D変換チャンネル選択ビット	0 : AN016～AN021を変換対象から外す 1 : AN016～AN021を変換対象とする	R/W
b1	ANSB101			R/W
b2	ANSB102			R/W
b3	ANSB103			R/W
b4	ANSB104			R/W
b5	ANSB105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	ANSB108	A/D変換チャンネル選択ビット	0 : AN024～AN026を変換対象から外す 1 : AN024～AN026を変換対象とする	R/W
b9	ANSB109			R/W
b10	ANSB110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADANSB1 レジスタは、グループスキャンモード選択時にグループ B で A/D 変換を行うチャンネルのアナログ入力 AN016～AN021、AN024～AN026 を選択するレジスタです。ADANSB1 レジスタはグループスキャンモード以外のスキャンモードでは使用しません。

ANSB1n ビット (n = 00～05, 08～10) (A/D 変換チャンネル選択ビット)

ANSB1n ビットは、グループスキャンモード選択時にグループ B で A/D 変換を行うチャンネル AN016～AN021、AN024～AN026 の選択を行います。ADANSB1 レジスタは他のスキャンモードでは使用しません。選択するチャンネルおよびチャンネル数は、グループ A で指定したチャンネル (ADANSA0、ADANSA1 レジスタ、またはダブルトリガモードによる ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択したグループ A に該当するチャンネル) 以外から設定します。

ANSB100 ビットが AN016 に、ANSB110 ビットが AN026 に対応します。

温度センサあるいは内部基準電圧を A/D 変換する場合は、アナログ入力チャンネルを選択しないでください (本レジスタ設定値を 0000h としてください)。

ANSB1n ビットは、ADCSR.ADST ビットが “0” のときに設定してください。

35.2.8 A/D変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタ 0 (ADADS0)

アドレス S12AD.ADADS0 0008 9008h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	ADS008	ADS007	ADS006	ADS005	ADS004	ADS003	ADS002	ADS001	ADS000
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ADS000	A/D変換値加算/平均チャンネル選択ビット	0 : AN000 ~ AN008のA/D変換値加算/平均モード非選択 1 : AN000 ~ AN008のA/D変換値加算/平均モード選択	R/W
b1	ADS001			R/W
b2	ADS002			R/W
b3	ADS003			R/W
b4	ADS004			R/W
b5	ADS005			R/W
b6	ADS006			R/W
b7	ADS007			R/W
b8	ADS008			R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADADS0レジスタは、A/D変換を連続2～4、16回実施して加算(積算)、または平均するA/D変換チャンネル00～08を選択します。

ADS0nビット (n = 00 ~ 08) (A/D変換値加算 / 平均チャンネル選択ビット)

ADANSA0.ANSA0nビット、またはADCSR.DBLANS[4:0]ビットとADANSB0.ANSB0nビットで選択したA/D変換チャンネルと同一番号のADS0nビットを“1”にすると、ADADC.ADC[2:0]ビットで設定した回数(2～4、16回)分、選択したチャンネルのアナログ入力を連続してA/D変換し、ADADC.AVEEビットが“0”の場合、加算(積算)した値を、ADADC.AVEEビットが“1”の場合、加算(積算)値から平均した値をA/Dデータレジスタに格納します。加算/平均モードが非選択のA/D変換チャンネルは、通常の1回変換を実施し、A/Dデータレジスタに値を格納します。

ADS0nビットは、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

35.2.9 A/D変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタ 1 (ADADS1)

アドレス S12AD.ADADS1 0008 900Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	ADS11 0	ADS10 9	ADS10 8	—	—	ADS10 5	ADS10 4	ADS10 3	ADS10 2	ADS10 1	ADS10 0
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ADS100	A/D変換値加算/平均チャンネル選択ビット	0 : AN016 ~ AN022のA/D変換値加算/平均モード非選択 1 : AN016 ~ AN022のA/D変換値加算/平均モード選択	R/W
b1	ADS101			R/W
b2	ADS102			R/W
b3	ADS103			R/W
b4	ADS104			R/W
b5	ADS105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	ADS108	A/D変換値加算/平均チャンネル選択ビット	0 : AN024 ~ AN026のA/D変換値加算/平均モード非選択 1 : AN024 ~ AN026のA/D変換値加算/平均モード選択	R/W
b9	ADS109			R/W
b10	ADS110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADADS1 レジスタは、A/D変換を連続2～4、16回実施して加算(積算)、または平均するA/D変換チャンネル16～21、24～26を選択します。

ADS1nビット (n = 00 ~ 05, 08 ~ 10) (A/D変換値加算 / 平均チャンネル選択ビット)

ADANSA1.ANSA1nビット、またはADCSR.DBANS[4:0]ビットとADANSB1.ANSB1nビットで選択したA/D変換チャンネルと同一番号のADS1nビットを“1”にすると、ADADC.ADC[2:0]ビットで設定した回数(2～4、16回)分、選択したチャンネルのアナログ入力を連続してA/D変換し、ADADC.AVEEビットが“0”の場合、加算(積算)した値を、ADADC.AVEEビットが“1”の場合、加算(積算)値から平均した値をA/Dデータレジスタに格納します。加算/平均モードが非選択のA/D変換チャンネルは、通常の1回変換を実施し、A/Dデータレジスタに値を格納します。

ADS1nビットは、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

図35.2にADS002ビットとADS006ビットを“1”にしたときのスキャン動作シーケンスを示します。

連続スキャンモード(ADCSR.ADCS[1:0] = 10b)で、加算モードを選択(ADADC.AVEE = 0)、加算回数は3回に設定(ADADC.ADC[2:0] = 011b)、AN000 ~ AN008が選択(ADANSA0.ANSA0n = FFh)されているものとします。AN000から変換を開始します。AN002の変換は4回連続変換(3回加算)し、加算(積算)値をA/Dデータレジスタ2に返します。その後、AN003の変換を開始し、AN006の変換で4回連続変換し、加算(積算)値をA/Dデータレジスタ6に返します。AN008の変換後、再度AN000から同じシーケンスで動作します。

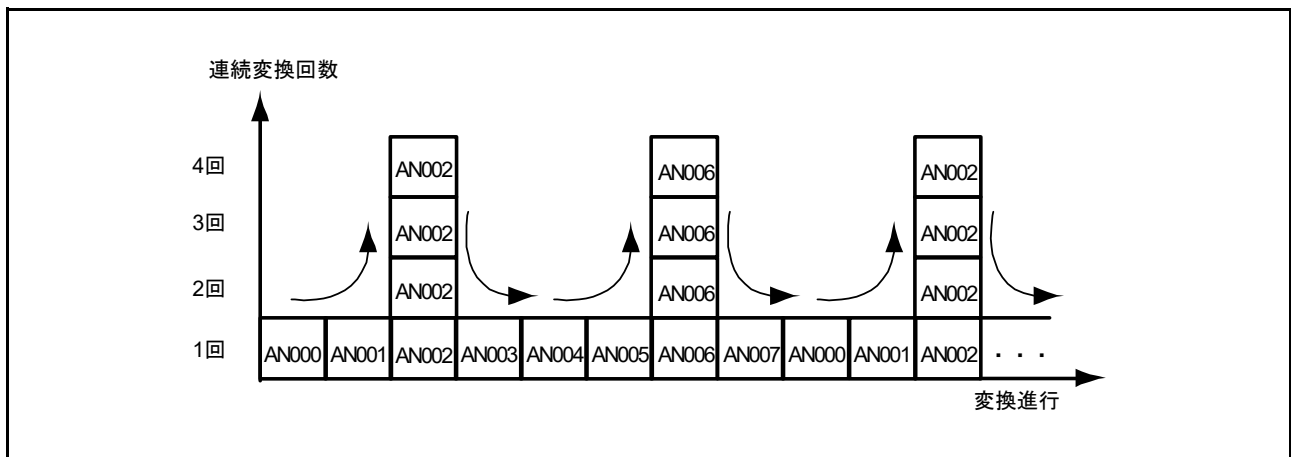


図 35.2 ADADC.ADC[2:0] = 011b、ADS002 = 1、ADS006 = 1 選択時のスキャン変換シーケンス

35.2.10 A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタ (ADADC)

アドレス S12AD.ADADC 0008 900Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	AVEE	—	—	—	—	ADC[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	ADC[2:0]	加算回数選択ビット	b2 b0 000: 1回変換(加算なし。通常変換と同じ) 001: 2回変換(1回加算を行う) 010: 3回変換(2回加算を行う)(注1) 011: 4回変換(3回加算を行う) 101: 16回変換(15回加算を行う)(注1) 上記以外は設定しないでください	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	AVEE	平均モードイネーブルビット	0: 加算モードを選択 1: 平均モードを選択	R/W

注1. AVEEビットは、2回変換、4回変換の時のみ有効です。平均モードを選択した場合(ADADC.AVEEビット=1)、3回変換(ADADC.ADC[2:0]=010b)および16回変換(ADADC.ADC[2:0]=101b)に設定しないでください。

ADADCレジスタは、A/D変換値加算/平均モードが選択されたチャンネル、温度センサ出力、内部基準電圧のA/D変換に対して加算回数の設定と、加算モード/平均モードの選択を行います。

ADC[2:0]ビット(加算回数選択ビット)

ダブルトリガモードでの選択チャンネル(ADCSR.DBLANS[4:0]ビットでの選択チャンネル)を含むA/D変換および加算/平均モードが選択されたチャンネル、温度センサ出力、内部基準電圧のA/D変換に対して共通の加算回数を設定します。

ADADC.AVEEビットを“1”にして平均モードを選択する場合、1回変換(ADADC.ADC[2:0]=000b)、3回変換(ADADC.ADC[2:0]=010b)および16回変換(ADADC.ADC[2:0]=101b)に設定しないでください。

ADC[2:0]ビットの設定は、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに行ってください。

AVEEビット(平均モードイネーブルビット)

ダブルトリガモードでの選択チャンネル(ADCSR.DBLANS[4:0]ビットでの選択チャンネル)を含むA/D変換および加算/平均モードが選択されたチャンネル、温度センサ出力、内部基準電圧のA/D変換に対して加算モード、または平均モードの選択を行います。

ADADC.AVEEビットを“1”にして平均モードを選択する場合、1回変換(ADADC.ADC[2:0]=000b)、3回変換(ADADC.ADC[2:0]=010b)および16回変換(ADADC.ADC[2:0]=101b)に設定しないでください。1回、3回および16回変換の平均値を求めることはできません。

AVEEビットの設定は、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

35.2.11 A/D コントロール拡張レジスタ (ADCER)

アドレス S12AD.ADCER 0008 900Eh

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ADRFMT	—	—	—	DIAGM	DIAGLD	DIAGVAL[1:0]	—	—	ACE	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b5	ACE	A/D データレジスタ自動クリアイネーブルビット	0 : 自動クリアを禁止 1 : 自動クリアを許可	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b9-b8	DIAGVAL[1:0]	自己診断変換電圧選択ビット	b9 b8 0 0 : 自己診断電圧固定モード時は設定禁止 0 1 : 0Vの電圧を使って自己診断を行う 1 0 : 基準電圧×1/2の電圧を使って自己診断を行う (注1) 1 1 : 基準電圧の電圧を使って自己診断を行う (注1)	R/W
b10	DIAGLD	自己診断モード選択ビット	0 : 自己診断電圧ローテーションモード 1 : 自己診断電圧固定モード	R/W
b11	DIAGM	自己診断イネーブルビット	0 : 12ビットA/Dコンバータの自己診断を実施しない 1 : 12ビットA/Dコンバータの自己診断を実施する	R/W
b14-b12	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	ADRFMT	A/D データレジスタフォーマット選択ビット	0 : A/D データレジスタのフォーマットを右詰めにする 1 : A/D データレジスタのフォーマットを左詰めにする	R/W

注1. 基準電圧とはADHVREFCNTレジスタで選択した端子の電圧を意味します。

ADCER レジスタは、自己診断モード、A/D データレジスタ y (ADDRy) のフォーマット、A/D データレジスタの自動クリア機能の設定を行うレジスタです。

ACE ビット (A/D データレジスタ自動クリアイネーブルビット)

CPU、DTC によって ADDRy、ADDRD、ADDBLDR、ADTSDR、ADOCDR レジスタを読み出した後、当該レジスタの自動クリア (All“0”) を行うか行わないかを選択します。A/D データレジスタの自動クリアにより各 A/D データレジスタの未更新故障を検出することができます。

DIAGVAL[1:0] ビット (自己診断変換電圧選択ビット)

自己診断電圧固定モードでの電圧値を選択します。詳細は ADCER.DIAGLD ビットの説明を参照してください。

ADCER.DIAGVAL[1:0] ビットが“00b”の状態では ADCER.DIAGLD ビットを“1”に設定して、自己診断を実施しないでください。

DIAGLD ビット (自己診断モード選択ビット)

自己診断で変換する3つの電圧値をローテーションするか、電圧値を固定するかを選択します。

ADCER.DIAGLD ビットを“0”にすると 0V → 基準電圧×1/2 → 基準電圧の順番にローテーションして変換していきます。リセット後、自己診断ローテーションモードを選択した場合は 0V から自己診断を行います。自己診断電圧固定モードを選択した場合は ADCER.DIAGVAL[1:0] ビットで選択した電圧に固定して変換します。自己診断電圧ローテーションモードでは、スキャン変換が終了しても 0V に戻りませんので、再びスキャン変換を実施すると、前回の続きからローテーションします。自己診断電圧固定モードから、自己診断電圧ローテーションモードに切り替えた場合は、固定した電圧値からローテーションを開始します。

DIAGLD ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

DIAGM ビット (自己診断イネーブルビット)

自己診断を実施するかしないかを選択します。

自己診断は、12ビットA/Dコンバータの故障を検出するための機能です。内部で生成する0V、基準電圧×1/2、基準電圧の3つの電圧値のいずれかを変換します。変換が終了すると自己診断データレジスタ (ADRD) に変換した電圧の情報と変換値を格納します。その後、ソフトウェアでADRDレジスタを読み出し、変換値が正常の範囲にある(正常)かない(異常)かを判断します。自己診断は、スキャンごとの最初に1回実施され、3つの電圧値のうち1つをA/D変換します。グループスキャンモードで自己診断を選択した場合は、グループAとグループBのそれぞれで自己診断を実行します。

DIAGM ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

ADRFMT ビット (A/D データレジスタフォーマット選択ビット)

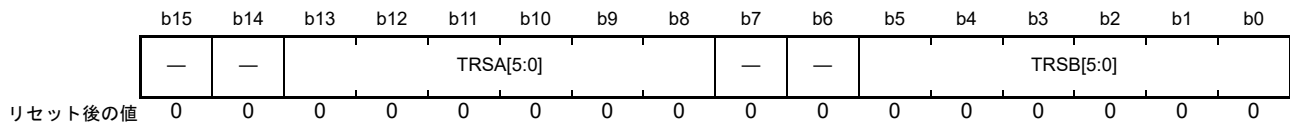
ADDR_y、ADRD、ADTSDR、ADOCDR、ADDBLDR、ADCMPDR0、ADCMPDR1、ADWINLLB、ADWINULB レジスタに格納するデータの右詰め/左詰めを選択します。

ADRFMT ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

各データレジスタのフォーマットの詳細は、「35.2.1 A/D データレジスタ y (ADDR_y) (y = 0 ~ 8, 16 ~ 21, 24 ~ 26)、A/D データ二重化レジスタ (ADDBLDR)、A/D 温度センサデータレジスタ (ADTSDR)、A/D 内部基準電圧データレジスタ (ADOCDR)」、「35.2.2 A/D 自己診断データレジスタ (ADRD)」、「35.2.25 A/D コンペア機能ウィンドウ A 下位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR0)」、「35.2.26 A/D コンペア機能ウィンドウ A 上位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR1)」、「35.2.33 A/D コンペア機能ウィンドウ B 下位側レベル設定レジスタ (ADWINLLB)」、「35.2.34 A/D コンペア機能ウィンドウ B 上位側レベル設定レジスタ (ADWINULB)」を参照してください。

35.2.12 A/D 変換開始トリガ選択レジスタ (ADSTRGR)

アドレス S12AD.ADSTRGR 0008 9010h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	TRSB[5:0]	グループB専用A/D変換開始トリガ選択ビット	グループスキャンモードでグループBのA/D変換開始トリガを選択します	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b13-b8	TRSA[5:0]	A/D変換開始トリガ選択ビット	シングルスキャンモード、連続スキャンモードでのA/D変換開始トリガを選択します。グループスキャンモードではグループAのA/D変換開始トリガを選択します	R/W
b15-b14	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADSTRGR レジスタは、A/D 変換開始トリガの選択を行うレジスタです。

TRSB[5:0] ビット (グループB専用A/D変換開始トリガ選択ビット)

グループBで選択したアナログ入力のスキャンを開始するトリガを選択します。TRSB[5:0] ビットはグループスキャンモードでのみ設定が必要なビットで、他のスキャンモードでは使用しません。グループBのスキャン変換開始トリガには、ソフトウェアトリガと非同期トリガの設定は禁止です。よって、グループスキャンモードでは、TRSB[5:0] ビットを“000000b”以外に設定し、ADCSR.TRGE ビットを“1”に設定してください。

グループスキャンモードのグループA優先制御時に、ADGSPCR.GBRP ビットを“1”にすることで、グループBをシングルスキャンモードで連続動作させることができます。ADGSPCR.GBRP ビットを“1”に設定する場合は、TRSB[5:0] ビットを“3Fh”に設定してください。なお、A/D変換で使用するトリガの発行間隔は、実際のスキャン変換時間 (t_{SCAN}) 以上となるように設定してください。発行間隔が t_{SCAN} 以内の場合は、トリガによるA/D変換が無効となる場合があります。

表 35.6 に TRSB[5:0] ビットでのA/D起動要因選択一覧を示します。

TRSA[5:0] ビット (A/D変換開始トリガ選択ビット)

シングルスキャンモード、連続スキャンモードでのA/D変換開始トリガの選択を行います。グループスキャンモードではグループAで選択したアナログ入力のスキャンを開始するトリガを選択します。グループスキャンモードまたはダブルトリガモードでスキャンを実行する場合は、ソフトウェアトリガと非同期トリガは使用できません。

- 同期トリガのA/D変換起動要因を使用する場合は、ADCSR.TRGE ビットを“1”に設定し、かつADCSR.EXTRG ビットを“0”に設定してください。
- 非同期トリガを使用する場合は、ADCSR.TRGE ビットを“1”に設定し、かつADCSR.EXTRG ビットを“1”に設定してください。
- ソフトウェアトリガ (ADCSR.ADST) は、ADCSR.TRGE ビット、ADCSR.EXTRG ビット、TRSA[5:0] ビットの設定値にかかわらず有効です。

なお、A/D変換で使用するトリガの発行間隔は、実際のスキャン変換時間 (t_{SCAN}) 以上となるように設定してください。発行間隔が t_{SCAN} 以内の場合は、トリガによるA/D変換が無効となる場合があります。表 35.7 に TRSA[5:0] ビットでのA/D起動要因選択一覧を示します。

表35.6 TRSB[5:0]ビットでのA/D起動要因選択一覧

モジュール	要因	備考	TRSB [5]	TRSB [4]	TRSB [3]	TRSB [2]	TRSB [1]	TRSB [0]
トリガ要因非選択状態			1	1	1	1	1	1
MTU	TRG0AN	MTU0.TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャ	0	0	0	0	0	1
	TRG0BN	MTU0.TGRBのコンペアマッチ/インプットキャプチャ	0	0	0	0	1	0
	TRGAN	MTU0～MTU4のTGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャまたは相補PWMモード時のMTU4.TCNTのアンダフロー(谷)	0	0	0	0	1	1
	TRG0EN	MTU0.TGREのコンペアマッチ	0	0	0	1	0	0
	TRG0FN	MTU0.TGRFのコンペアマッチ	0	0	0	1	0	1
	TRG4AN	MTU4.TADCORAとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	0	1	1	0
	TRG4BN	MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	0	1	1	1
	TRG4ABN	MTU4.TADCORAとMTU4.TCNT、MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	1	0	0	0
ELC	ELCTRG00N		0	0	1	0	0	1

表35.7 TRSA[5:0]ビットでのA/D起動要因選択一覧

モジュール	要因	備考	TRSA [5]	TRSA [4]	TRSA [3]	TRSA [2]	TRSA [1]	TRSA [0]
トリガ要因非選択状態			1	1	1	1	1	1
外部端子	ADTRG0#	トリガ入力端子	0	0	0	0	0	0
MTU	TRG0AN	MTU0.TGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャ	0	0	0	0	0	1
	TRG0BN	MTU0.TGRBのコンペアマッチ/インプットキャプチャ	0	0	0	0	1	0
	TRGAN	MTU0～MTU4のTGRAのコンペアマッチ/インプットキャプチャまたは相補PWMモード時のMTU4.TCNTのアンダフロー(谷)	0	0	0	0	1	1
	TRG0EN	MTU0.TGREのコンペアマッチ	0	0	0	1	0	0
	TRG0FN	MTU0.TGRFのコンペアマッチ	0	0	0	1	0	1
	TRG4AN	MTU4.TADCORAとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	0	1	1	0
	TRG4BN	MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTのコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	0	1	1	1
	TRG4ABN	MTU4.TADCORAとMTU4.TCNT、MTU4.TADCORBとMTU4.TCNTコンペアマッチ(割り込み間引き機能)	0	0	1	0	0	0
ELC	ELCTRG00N		0	0	1	0	0	1

35.2.13 A/D変換拡張入力コントロールレジスタ (ADEXICR)

アドレス S12AD.ADEXICR 0008 9012h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	OCSA	TSSA	—	—	—	—	—	—	OCSAD	TSSAD
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	TSSAD	温度センサ出力A/D変換値加算/平均モード選択ビット	0: 温度センサ出力A/D変換値加算/平均モード非選択 1: 温度センサ出力A/D変換値加算/平均モード選択	R/W
b1	OCSAD	内部基準電圧A/D変換値加算/平均モード選択ビット	0: 内部基準電圧A/D変換値加算/平均モード非選択 1: 内部基準電圧A/D変換値加算/平均モード選択	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	TSSA	温度センサ出力A/D変換選択ビット	0: 温度センサ出力をA/D変換しない 1: 温度センサ出力をA/D変換する	R/W
b9	OCSA	内部基準電圧A/D変換選択ビット	0: 内部基準電圧をA/D変換しない 1: 内部基準電圧をA/D変換する	R/W
b15-b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADEXICR レジスタは、温度センサ出力 / 内部基準電圧の A/D 変換の設定をします。

TSSAD ビット (温度センサ出力 A/D 変換値加算 / 平均モード選択ビット)

温度センサ出力の A/D 変換を選択し、TSSAD ビットを“1”にすると、ADADC.ADC[2:0] ビットで設定した回数 (2 ~ 4、16 回) 分、温度センサ出力を連続して A/D 変換し、ADADC.AVEE ビットが“0”の場合は加算 (積算) した値を、ADADC.AVEE ビットが“1”の場合は平均した値を A/D 温度センサデータレジスタ (ADTSDR) に格納します。TSSAD ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

OCSAD ビット (内部基準電圧 A/D 変換値加算 / 平均モード選択ビット)

内部基準電圧の A/D 変換を選択し、OCSAD ビットを“1”にすると、ADADC.ADC[2:0] ビットで設定した回数 (2 ~ 4、16 回) 分、内部基準電圧を連続して A/D 変換し、ADADC.AVEE ビットが“0”の場合は加算 (積算) した値を、ADADC.AVEE ビットが“1”の場合は平均した値を A/D 内部基準電圧データレジスタ (ADOCDR) に格納します。

OCSAD ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

TSSA ビット (温度センサ出力 A/D 変換選択ビット)

シングルスキャンモードでの温度センサ出力の A/D 変換を選択します。温度センサ出力の A/D 変換を行う場合は、ADANSA0、ADANSA1 レジスタ、ADANSB0、ADANSB1 レジスタの全ビットと ADCSR.DBLE ビット、OCSA ビットのすべてに“0”を設定し、シングルスキャンモードで実行してください。TSSA ビットの設定は、ADST ビットが“0”のときに行ってください。温度センサ出力の A/D 変換は、サンプリング前にディスチャージを行う必要がありますので、ADDISCR.ADNDIS[4:0] ビットに“0Fh”を自動的に設定します。また、サンプリング時間は 5 μs 以上に設定してください。

温度センサ出力の A/D 変換は、ディスチャージ完了後、サンプリングが開始するので、オートディスチャージ期間 (15 ADCLK) がサンプリング前に挿入されます。

OCSA ビット (内部基準電圧 A/D 変換選択ビット)

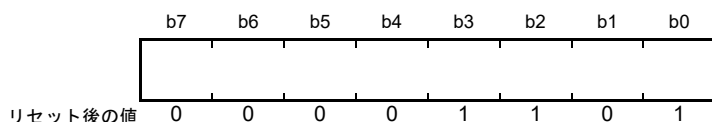
シングルスキャンモードでの内部基準電圧の A/D 変換を選択します。内部基準電圧の A/D 変換を行う場

合は、ADANSA0、ADANSA1 レジスタ、ADANSB0、ADANSB1 レジスタの全ビットと ADCSR.DBLE ビット、TSSA ビットのすべてに“0”を設定し、シングルスキャンモードで実行してください。OCSA ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。内部基準電圧の A/D 変換は、サンプリング前にディスチャージを行う必要がありますので、ADDISCR.ADNDIS[4:0] ビットに“0Fh”を自動的に設定します。また、サンプリング時間は 5 μ s 以上に設定してください。

内部基準電圧の A/D 変換は、ディスチャージ完了後、サンプリングが開始するので、オートディスチャージ期間 (15 ADCLK) がサンプリング前に挿入されます。

35.2.14 A/D サンプリングステートレジスタ n (ADSSTRn) (n = 0 ~ 8, L, T, O)

アドレス S12AD.ADSSTR0 0008 90E0h, S12AD.ADSSTR1 0008 90E1h, S12AD.ADSSTR2 0008 90E2h,
S12AD.ADSSTR3 0008 90E3h, S12AD.ADSSTR4 0008 90E4h, S12AD.ADSSTR5 0008 90E5h,
S12AD.ADSSTR6 0008 90E6h, S12AD.ADSSTR7 0008 90E7h, S12AD.ADSSTR8 0008 90E8h,
S12AD.ADSSTRL 0008 90DDh, S12AD.ADSSTRT 0008 90DEh, S12AD.ADSSTRO 0008 90DFh



ADSSTRn レジスタは、アナログ入力のサンプリング時間の設定を行います。

1 ステート = 1 ADCLK (A/D 変換クロック) 幅で ADCLK クロックが 48 MHz であれば 1 ステート = 20.8 ns になります。初期値は 13 ステートです。アナログ入力信号源のインピーダンスが高くサンプリング時間が不足する場合や、ADCLK クロックが低速な場合に、サンプリング時間を調整することができます。

ADSSTRn レジスタは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。サンプリング時間の設定下限値は、PCLKB と ADCLK の周波数比により異なります。

PCLKB : ADCLK 周波数比 = 1 : 1、2 : 1、4 : 1、8 : 1 の場合、5 ステート以上の値を設定してください。

PCLKB : ADCLK 周波数比 = 1 : 2 の場合、6 ステート以上の値を設定してください。

表 35.8 に A/D サンプリングステートレジスタと対象チャネルの関係を示します。

詳細は、「35.3.6 アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間」を参照してください。

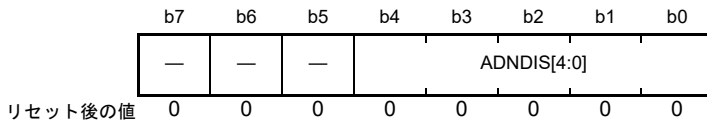
表 35.8 A/D サンプリングステートレジスタと対象チャネルの関係

レジスタ名	対象チャネル
ADSSTR0 レジスタ	AN000
ADSSTR1 レジスタ	AN001
ADSSTR2 レジスタ	AN002
ADSSTR3 レジスタ	AN003
ADSSTR4 レジスタ	AN004
ADSSTR5 レジスタ	AN005
ADSSTR6 レジスタ	AN006
ADSSTR7 レジスタ	AN007
ADSSTR8 レジスタ	AN008
ADSSTRL レジスタ	AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026
ADSSTRT レジスタ	温度センサ出力 (注1)
ADSSTRO レジスタ	内部基準電圧 (注1)

注1. 温度センサ出力または内部基準電圧を A/D 変換する場合、サンプリング時間を 5 μ s 以上に設定する必要があります。

35.2.15 A/D 断線検出コントロールレジスタ (ADDISCR)

アドレス S12AD.ADDISCR 0008 907Ah



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	ADNDIS[4:0]	A/D断線検出アシスト設定ビット	b4 ADNDIS[4] : ディスチャージ/プリチャージの選択 0 : ディスチャージ 1 : プリチャージ b3-b0 ADNDIS[3:0] : ディスチャージ/プリチャージ期間	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADDISCR レジスタは、断線検出アシスト機能を設定するレジスタです。

ADNDIS[4:0] ビット (A/D 断線検出アシスト設定ビット)

A/D 断線検出アシスト機能のプリチャージ/ディスチャージの設定、期間を設定します。ADNDIS[4] ビット = 1 でプリチャージ、ADNDIS[4] ビット = 0 でディスチャージが選択されます。ADNDIS[3:0] ビットで、プリチャージ/ディスチャージ期間を設定します。ADNDIS[3:0] ビット = 0000b の場合は、断線検出アシスト機能は無効です。ADNDIS[3:0] ビット = 0001b は設定禁止です。ADNDIS[3:0] ビット = 0000b、0001b 以外では、設定した値がプリチャージ/ディスチャージ期間のステート数となります。

温度センサ出力または内部基準電圧を A/D 変換するために、ADEXICR.OCSA もしくは TSSA ビットを“1”にすると、ADNDIS[4:0] ビットを自動的に“0Fh”に固定し、A/D 変換に先立ちディスチャージする設定 (オートディスチャージ) となります。温度センサ出力または内部基準電圧を A/D 変換するたびに、オートディスチャージ期間 (15 ADCLK) がサンプリング前に挿入されます。

35.2.16 A/D イベントリンクコントロールレジスタ (ADELCCR)

アドレス S12AD.ADELCCR 0008 907Dh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	ELCC[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	ELCC[1:0]	イベントリンクコントロールビット	b1 b0 0 0 : グループスキャンモードのグループBのスキャン終了を除くスキャン終了時にイベント発生 0 1 : グループスキャンモードのグループBのスキャン終了時にイベント発生 1 x : すべてのスキャン終了時にイベント発生	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

x : Don't care

ADELCCR レジスタは、ELC 用スキャン終了イベント (S12ADELC) のイベント発生条件を設定します。

ELCC[1:0] ビット (イベントリンクコントロールビット)

ELC 用スキャン終了イベント (S12ADELC) 発生条件を選択するビットです。

35.2.17 A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ (ADGSPCR)

アドレス S12AD.ADGSPCR 0008 9080h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	GBRP	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	GBRSCN	PGS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PGS	グループA優先制御設定ビット (注1)	0: グループAの優先制御動作を行わない 1: グループAの優先制御動作を行う	R/W
b1	GBRSCN	グループB再起動設定ビット (注2)	(PGS = 1のときのみ有効。PGS = 0のときは予約ビット) 0: グループAの優先制御でグループBのA/D変換動作中断後の再起動をしない 1: グループAの優先制御でグループBのA/D変換動作中断後の再起動をする	R/W
b14-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15	GBRP	グループB用シングルスキャン連続起動設定ビット (注3)	(PGS = 1のときのみ有効。PGS = 0のときは予約ビット) 0: グループBはシングルスキャン連続動作しない 1: グループBのシングルスキャン連続動作開始	R/W

- 注1. PGSビットを“1”にするときは、ADCSR.ADCS[1:0]ビットを“01b”(グループスキャンモード)に設定してください。それ以外の設定をした場合、動作は保証されません。
- 注2. GBRSCNビットを“1”にする場合は、周辺モジュールクロックPCLKBとA/D変換クロックADCLKの周波数比を1:1にしてください。
- 注3. GBRPビットを“1”にした場合は、GBRSCNビットの設定によらず、グループBのシングルスキャン連続動作を実行します。

ADGSPCRレジスタは、グループスキャンモードでグループAを優先的にA/D変換する優先制御を設定するレジスタです。

PGSビット (グループA優先制御設定ビット)

グループAの優先動作を制御します。グループA優先制御動作を行うときに“1”を設定してください。

PGSビットを“1”に設定するときは、ADCSR.ADCS[1:0]ビットを“01b”(グループスキャンモード)に設定してください。

PGSビットを“0”にする場合は、「35.8.2 A/D変換停止時の注意事項」に従い、ソフトウェアでのクリアを行ってください。PGSビットを“1”にする場合は、「35.3.4.3 グループA優先制御動作」の手順に従い設定を行ってください。

GBRSCNビット (グループB再起動設定ビット)

グループA優先制御時の、グループBの再スキャン動作を設定します。

GBRSCNビットを“1”にすると、グループAのトリガ入力によるスキャン動作中断後、グループAのA/D変換動作の終了を待って、グループBの再スキャン動作を実行します。また、グループAのA/D変換動作中にグループBのトリガ入力があった場合、グループAのA/D変換動作の終了を待って、グループBの再スキャン動作を行います。

GBRSCNビットを“0”にした場合は、A/D変換実行中に入力されたトリガは無視されます。また、GBRSCNビットの設定は、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに行ってください。

GBRSCNビットの設定は、PGSビットが“1”のときに有効となります。

GBRPビット (グループB用シングルスキャン連続起動設定ビット)

グループBをシングルスキャンで連続動作させる場合に設定します。

GBRPビットを“1”にすると、グループBのシングルスキャンが起動します。スキャン終了後、自動的に

グループ B のシングルスキャンを再開します。グループ A 優先制御動作でグループ B の A/D 変換動作が中断した後は、グループ A の A/D 変換動作終了後、自動的にグループ B のシングルスキャンを再開します。

GBRP ビットを“1”にする場合は、事前にグループ B のトリガ入力を無効にしてください。GBRP ビットを“1”にした場合、GBRSCN ビットの設定は無効です。

GBRP ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

GBRP ビットの設定は、PGS ビットが“1”のときに有効となります。

35.2.18 A/D コンペア機能コントロールレジスタ (ADCMPCR)

アドレス S12AD.ADCMPCR 0008 9090h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	WCMPE	—	—	CMPAE	—	CMPBE	—	—	—	—	—	—	—	CMPAB[1:0]	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	CMPAB[1:0]	ウィンドウ A/B の複合条件設定ビット	b1 b0 0 0 : ウィンドウ A 比較条件一致 OR ウィンドウ B 比較条件一致で S12ADWUMELC 出力、それ以外は S12ADWUMELC 出力 0 1 : ウィンドウ A 比較条件一致 EXOR ウィンドウ B 比較条件一致で S12ADWUMELC 出力、それ以外は S12ADWUMELC 出力 1 0 : ウィンドウ A 比較条件一致 AND ウィンドウ B 比較条件一致で S12ADWUMELC 出力、それ以外は S12ADWUMELC 出力 1 1 : 設定禁止	R/W
b8-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b9	CMPBE	コンペアウィンドウ B 動作許可ビット	0 : コンペアウィンドウ B 停止 S12ADWUMELC/S12ADWUMELC 出力禁止 1 : コンペアウィンドウ B 動作	R/W
b10	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b11	CMPAE	コンペアウィンドウ A 動作許可ビット	0 : コンペアウィンドウ A 停止 S12ADWUMELC/S12ADWUMELC 出力禁止 1 : コンペアウィンドウ A 動作	R/W
b13-b12	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b14	WCMPE	ウィンドウ機能設定ビット	0 : ウィンドウ機能無効 ウィンドウ A/B は下位側の 1 値と A/D 変換結果を比較するコンパレータとして動作します。 1 : ウィンドウ機能有効 ウィンドウ A/B は上位側、下位側の 2 値と A/D 変換結果を比較するウィンドウコンパレータとして動作します。	R/W
b15	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPCR レジスタは、コンペアウィンドウ A/B 機能の設定を行います。

CMPAB[1:0] ビット (ウィンドウ A/B の複合条件設定ビット)

CMPAB[1:0] ビットは、シングルスキャン時、ウィンドウ A/B が共に有効である場合 (CMPAE = 1 かつ CMPBE = 1) に有効です。ELC 用コンペア機能マッチ/アンマッチイベント出力条件と ADWINMON.MONCOMB フラグのモニタ条件を選択します。CMPAB[1:0] ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

CMPBE ビット (コンペアウィンドウ B 動作許可ビット)

コンペアウィンドウ B の停止 / 動作を選択します。CMPBE ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

以下のレジスタを設定する場合は、本ビットを“0”にしてください。

- A/D チャンネル選択レジスタ A0/A1/B0/B1 (ADANSA0, ADANSA1, ADANSB0, ADANSB1)
- A/D 変換拡張入力コントロールレジスタの OCSA、TSSA ビット (ADEXICR.OCSA, TSSA)
- ウィンドウ B チャンネル選択レジスタの CMPCHB[5:0] (ADCMPBNSR.CMPCHB[5:0])

CMPAE ビット (コンペアウィンドウ A 動作許可ビット)

コンペアウィンドウ A の停止 / 動作を選択します。CMPAE ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

以下のレジスタを設定する場合は、本ビットを“0”にしてください。

- A/D チャンネル選択レジスタ A0/A1/B0/B1 (ADANSA0, ADANSA1, ADANSB0, ADANSB1)
- A/D 変換拡張入力コントロールレジスタの OCSA、TSSA ビット (ADEXICR.OCSA, TSSA)
- ウィンドウ A チャンネル選択レジスタ 0/1 (ADCMPANSR0, ADCMPANSR1)
- ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ (ADCMPANSER)

WCMPE ビット (ウィンドウ機能設定ビット)

ウィンドウ機能の有効 / 無効を選択します。WCMPE ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

35.2.19 A/Dコンペア機能ウィンドウAチャンネル選択レジスタ0 (ADCMPANSR0)

アドレス S12AD.ADCMPANSR0 0008 9094h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPC HA008	CMPC HA007	CMPC HA006	CMPC HA005	CMPC HA004	CMPC HA003	CMPC HA002	CMPC HA001	CMPC HA000
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPCHA000	コンペアウィンドウA チャンネル選択ビット	0 : AN000～AN008をコンペアウィンドウA対象から外す 1 : AN000～AN008をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b1	CMPCHA001			R/W
b2	CMPCHA002			R/W
b3	CMPCHA003			R/W
b4	CMPCHA004			R/W
b5	CMPCHA005			R/W
b6	CMPCHA006			R/W
b7	CMPCHA007			R/W
b8	CMPCHA008			R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPANSR0 レジスタは、コンペアウィンドウAの条件で比較を行うチャンネルのアナログ入力 AN000～AN008を選択するレジスタです。

CMPCHA0n ビット (n = 00～08) (コンペアウィンドウAチャンネル選択ビット)

ADANSA0.ANSA0n ビットと ADANSB0.ANSB0n ビットで選択したA/D変換チャンネルと同一番号のCMPCHA0n ビットを“1”にすると、コンペア機能が有効になります。

CMPCHA0n ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

35.2.20 A/D コンペア機能ウィンドウ A チャンネル選択レジスタ 1 (ADCMPANSR1)

アドレス S12AD.ADCMPANSR1 0008 9096h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CMPC HA110	CMPC HA109	CMPC HA108	—	—	CMPC HA105	CMPC HA104	CMPC HA103	CMPC HA102	CMPC HA101	CMPC HA100
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPCHA100	コンペアウィンドウA チャンネル選択ビット	0 : AN016～AN021をコンペアウィンドウA対象から外す 1 : AN016～AN021をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b1	CMPCHA101			R/W
b2	CMPCHA102			R/W
b3	CMPCHA103			R/W
b4	CMPCHA104			R/W
b5	CMPCHA105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	CMPCHA108	コンペアウィンドウA チャンネル選択ビット	0 : AN024～AN026をコンペアウィンドウA対象から外す 1 : AN024～AN026をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b9	CMPCHA109			R/W
b10	CMPCHA110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPANSR1 レジスタは、コンペアウィンドウ A の条件で比較を行うチャンネルのアナログ入力 AN016～AN021、AN024～AN026 を選択するレジスタです。

CMPCHA1n ビット (n = 00～05, 08～10) (コンペアウィンドウ A チャンネル選択ビット)

ADANSA1.ANSA1n ビットと ADANSB1.ANSB1n ビットで選択した A/D 変換チャンネルと同一番号の CMPCHA1n ビットを“1”にすると、コンペア機能が有効になります。

CMPCHA1n ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

35.2.21 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力選択レジスタ (ADCOMPANSER)

アドレス S12AD.ADCMPANSER 0008 9092h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPO CA	CMPTS A
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPTSA	温度センサ出力コンペア選択ビット	0 : 温度センサ出力をコンペアウィンドウA対象から外す 1 : 温度センサ出力をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b1	CMPOCA	内部基準電圧コンペア選択ビット	0 : 内部基準電圧をコンペアウィンドウA対象から外す 1 : 内部基準電圧をコンペアウィンドウA対象とする	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCOMPANSER レジスタは、温度センサ出力 / 内部基準電圧をコンペアウィンドウ A の条件で比較を行うかを選択するレジスタです。

CMPTSA ビット (温度センサ出力コンペア選択ビット)

ADEXICR.TSSA ビットが“1”のときに CMPTSA ビットを“1”にすると、コンペアウィンドウ A 機能が有効になります。CMPTSA ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

CMPOCA ビット (内部基準電圧コンペア選択ビット)

ADEXICR.OCSA ビットが“1”のときに CMPOCA ビットを“1”にすると、コンペアウィンドウ A 機能が有効になります。CMPOCA ビットの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに行ってください。

35.2.22 A/Dコンペア機能ウィンドウA比較条件設定レジスタ0 (ADCMPLR0)

アドレス S12AD.ADCMPLR0 0008 9098h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPLCHA008	CMPLCHA007	CMPLCHA006	CMPLCHA005	CMPLCHA004	CMPLCHA003	CMPLCHA002	CMPLCHA001	CMPLCHA000
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPLCHA000	コンペアウィンドウAコンペア条件選択ビット	ウィンドウ機能無効時 (ADCMPCR.WCMPE ビットが“0”) 0: ADCMPDR0 レジスタ値 > A/D 変換値 1: ADCMPDR0 レジスタ値 < A/D 変換値	R/W
b1	CMPLCHA001			R/W
b2	CMPLCHA002		R/W	
b3	CMPLCHA003		ウィンドウ機能有効時 (ADCMPCR.WCMPE ビットが“1”) 0: A/D 変換値 < ADCMPDR0 レジスタ値または ADCMPDR1 レジスタ値 < A/D 変換値 1: ADCMPDR0 レジスタ値 < A/D 変換値 < ADCMPDR1 レジスタ値	R/W
b4	CMPLCHA004			R/W
b5	CMPLCHA005			R/W
b6	CMPLCHA006			R/W
b7	CMPLCHA007			R/W
b8	CMPLCHA008		R/W	
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPLR0 レジスタは、ADCMPDR0/ADCMPDR1 レジスタ値と A/D 変換結果を比較する条件を設定します。ADCMPLR0 レジスタの設定は、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

CMPLCHA0n ビット (n = 00 ~ 08) (コンペアウィンドウAコンペア条件選択ビット)

ウィンドウA比較条件の対象としたチャンネル (AN000 ~ AN008) の比較条件を設定します。比較対象のアナログ入力ごとに設定できます。CMPLCHA000 ビットが AN000 に、CMPLCHA008 ビットが AN008 に対応します。各アナログ入力の比較結果が設定した条件と一致したとき、ADCMPDR0.CMPSTCHA0n フラグが“1”にセットされます。コンペア条件を図 35.3 に示します。

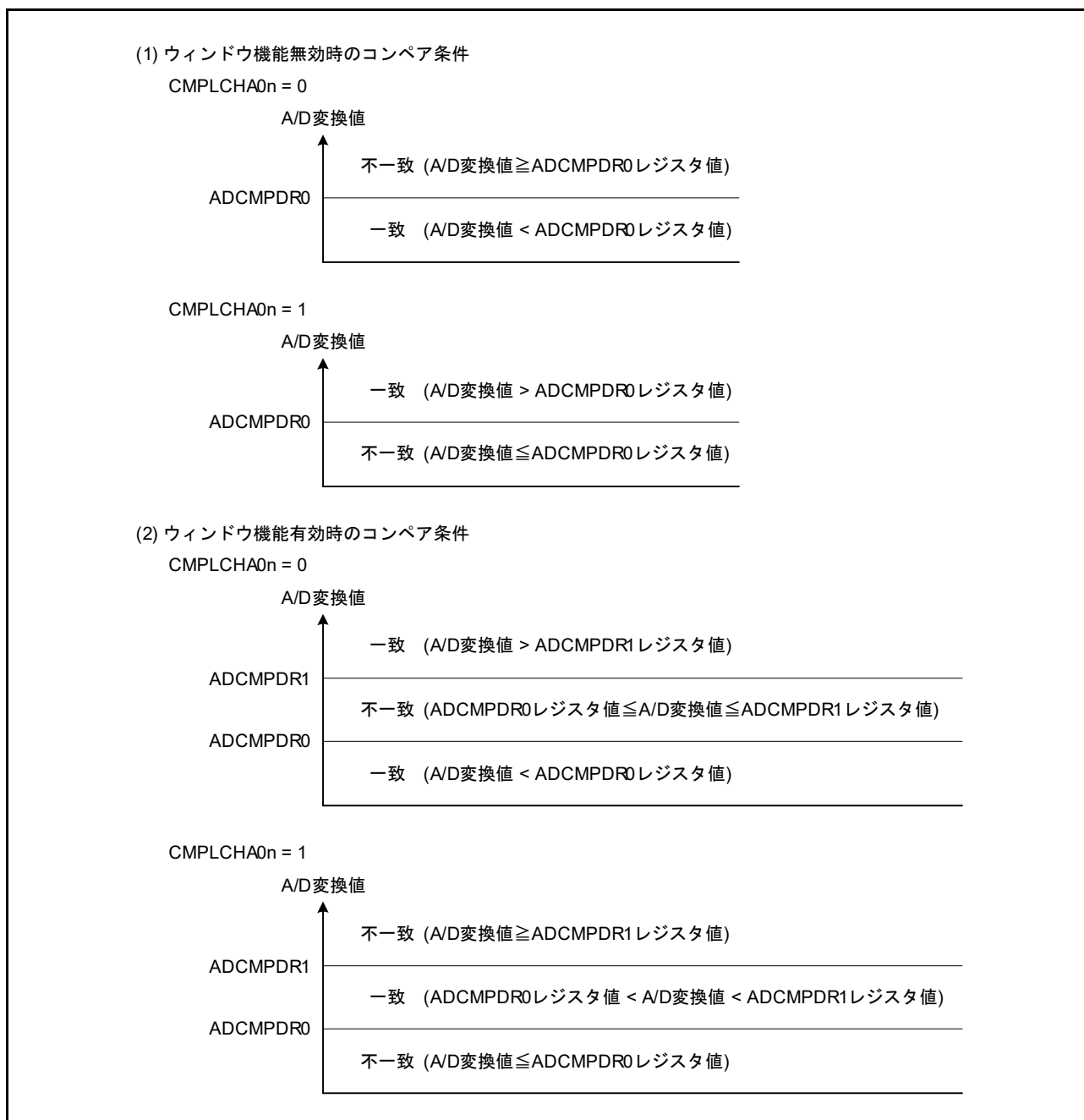


図 35.3 コンペア機能ウィンドウ A コンペア条件説明

35.2.23 A/Dコンペア機能ウィンドウA比較条件設定レジスタ1 (ADCMPLR1)

アドレス S12AD.ADCMPLR1 0008 909Ah

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CMPLCHA110	CMPLCHA109	CMPLCHA108	—	—	CMPLCHA105	CMPLCHA104	CMPLCHA103	CMPLCHA102	CMPLCHA101	CMPLCHA100
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPLCHA100	コンペアウィンドウAコンペア条件選択ビット	ウィンドウ機能無効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“0”) 0: ADCMPDR0レジスタ値 > A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 ウィンドウ機能有効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“1”) 0: A/D変換値 < ADCMPDR0レジスタ値または ADCMPDR1レジスタ値 < A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 < ADCMPDR1レジスタ値	R/W
b1	CMPLCHA101			R/W
b2	CMPLCHA102			R/W
b3	CMPLCHA103			R/W
b4	CMPLCHA104			R/W
b5	CMPLCHA105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	CMPLCHA108	コンペアウィンドウAコンペア条件選択ビット	ウィンドウ機能無効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“0”) 0: ADCMPDR0レジスタ値 > A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 ウィンドウ機能有効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“1”) 0: A/D変換値 < ADCMPDR0レジスタ値または ADCMPDR1レジスタ値 < A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 < ADCMPDR1レジスタ値	R/W
b9	CMPLCHA109			R/W
b10	CMPLCHA110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPLR1レジスタは、ADCMPDR0/ADCMPDR1レジスタ値とA/D変換結果を比較する条件を設定します。ADCMPLR1レジスタの設定は、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

CMPLCHA1nビット (n = 00 ~ 05, 08 ~ 10) (コンペアウィンドウAコンペア条件選択ビット)

ウィンドウA比較条件の対象としたチャンネル(AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026)の比較条件を設定します。比較対象のアナログ入力ごとに設定できます。CMPLCHA100ビットがAN016に、CMPLCHA110ビットがAN026に対応します。

各アナログ入力の比較結果が設定した条件と一致したとき、ADCMPDR1.CMPSTCHA1nフラグが“1”にセットされます。

コンペア条件を図35.3に示します。

35.2.24 A/Dコンペア機能ウィンドウA拡張入力比較条件設定レジスタ (ADCMPLER)

アドレス S12AD.ADCMPLER 0008 9093h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPLO CA	CMPLT SA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPLTSA	コンペアウィンドウA 温度センサ出力コンペア 条件選択ビット	ウィンドウA機能無効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“0”) 0: ADCMPDR0レジスタ値 > A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 ウィンドウA機能有効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“1”) 0: A/D変換値 < ADCMPDR0レジスタ値または A/D変換値 > ADCMPDR1レジスタ値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 < ADCMPDR1レジスタ値	R/W
b1	CMPLOCA	コンペアウィンドウA 内部基準電圧コンペア 条件選択ビット	ウィンドウA機能無効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“0”) 0: ADCMPDR0レジスタ値 > A/D変換値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 ウィンドウA機能有効時(ADCMPCR.WCMPEビットが“1”) 0: A/D変換値 < ADCMPDR0レジスタ値または A/D変換値 > ADCMPDR1レジスタ値 1: ADCMPDR0レジスタ値 < A/D変換値 < ADCMPDR1レジスタ値	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPLERレジスタは、ADCMPDR0/ADCMPDR1レジスタ値とA/D変換結果を比較する条件を設定します。ADCMPLERレジスタの設定は、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。

CMPLTSAビット(コンペアウィンドウA温度センサ出力コンペア条件選択ビット)

温度センサ出力をウィンドウA比較条件の対象とした場合の比較条件を設定します。

温度センサ出力の比較結果が設定した条件と一致したとき、ADCMPSER.CMPSTTSAフラグが“1”にセットされます。コンペア条件を図35.3に示します。

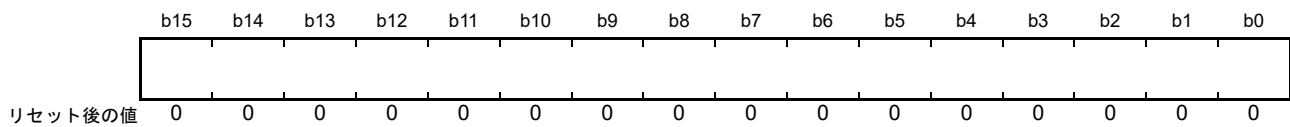
CMPLOCAビット(コンペアウィンドウA内部基準電圧コンペア条件選択ビット)

内部基準電圧をウィンドウA比較条件の対象とした場合の比較条件を設定します。

内部基準電圧の比較結果が設定した条件と一致したとき、ADCMPSER.CMPSTOCAフラグが“1”にセットされます。コンペア条件を図35.3に示します。

35.2.25 A/Dコンペア機能ウィンドウ A 下位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR0)

アドレス S12AD.ADCMPDR0 0008 909Ch



ADCMPDR0 レジスタは、コンペアウィンドウ A 機能使用時、基準となるデータを設定するリードライト可能なレジスタです。ADCMPDR0 レジスタは、ウィンドウ A の下位側レベルを設定します。

ADCMPDR0 レジスタの書き込みは A/D 変換中でも有効です。A/D 変換中にレジスタ値を書き換えることにより、ダイナミックに基準データを変更することができます。

上限側レベル \geq 下限側レベル (ADCMPDR1 設定値 \geq ADCMPDR0 設定値) となるように設定してください。

ADCMPDR0 レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定値 (右詰めまたは左詰め)
- A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタの設定値 (A/D 変換値平均モード選択、または非選択)
- A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタの設定値 (加算 / 平均モード選択、加算回数選択)

注. A/D データレジスタ y (ADDRy) のフォーマット設定と異なるフォーマットでコンペア値を設定した場合、正しい比較結果が得られません。

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 にコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 にコンペアレベル (下位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回 ~ 4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b14 は “0” を書いてください。
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回 ~ 4 回選択時) に設定した場合
b15-b2 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b1-b0 は “0” を書いてください。

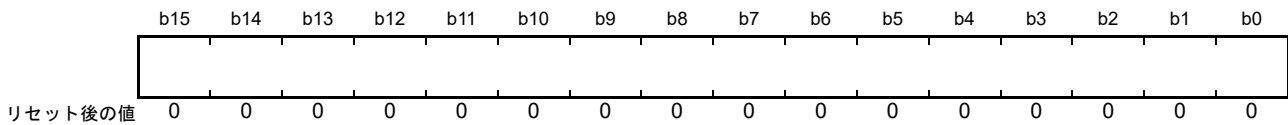
- 左詰めフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。

A/D 変換値加算モードを選択したとき、同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を設定します。A/D 変換回数は 1 回～4 回、16 回に設定できます。A/D 変換値加算モードを選択すると、A/D 変換回数を 1 回～4 回設定時には、変換精度のビット数に 2 ビット分拡張して ADCMPDR0 レジスタに設定してください。A/D 変換回数を 16 回設定時には、変換精度のビット数に 4 ビット分拡張して ADCMPDR0 レジスタに設定してください。

A/D 変換値加算モードを選択した場合でも、A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定にしたがい基準となるデータを設定してください。

35.2.26 A/Dコンペア機能ウィンドウ A 上位側レベル設定レジスタ (ADCMPDR1)

アドレス S12AD.ADCMPDR1 0008 909Eh



ADCMPDR1 レジスタは、コンペアウィンドウ A 機能使用時、基準となるデータを設定するリードライト可能なレジスタです。ADCMPDR1 は、ウィンドウ A の上位側レベルを設定します。

ADCMPDR1 レジスタの書き込みは A/D 変換中でも有効です。A/D 変換中にレジスタ値を書き換えることにより、ダイナミックに基準データを変更することができます。

上限側レベル \geq 下限側レベル (ADCMPDR1 設定値 \geq ADCMPDR0 設定値) となるように設定してください。

ADCMPDR1 レジスタはウィンドウ機能無効時には使用しません。

ADCMPDR1 レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定値 (右詰めまたは左詰め)
- A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタの設定値 (A/D 変換値平均モード選択、または非選択)
- A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタの設定値 (加算 / 平均モード選択、加算回数選択)

注. A/D データレジスタ y (ADDRy) のフォーマット設定と異なるフォーマットでコンペア値を設定した場合、正しい比較結果が得られません。

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 にコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 にコンペアレベル (上位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b14 は “0” を書いてください。
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合

b15-b2に同一チャネルのA/D変換値と比較するコンペアレベル(上位側)を設定します。b1-b0は“0”を書いてください。

- 左詰めフォーマット(A/D変換値加算モード、変換回数16回選択時)に設定した場合 b15-b0に同一チャネルのA/D変換値と比較するコンペアレベル(上位側)を設定します。

A/D変換値加算モードを選択したとき、同一チャネルのA/D変換値を加算した値を設定します。A/D変換回数は1回～4回、16回に設定できます。A/D変換値加算モードを選択すると、A/D変換回数を1回～4回設定時には、変換精度のビット数に2ビット分拡張してADCMPDR1レジスタに設定してください。A/D変換回数を16回設定時には、変換精度のビット数に4ビット分拡張してADCMPDR1レジスタに設定してください。

A/D変換値加算モードを選択した場合でも、A/Dデータレジスタフォーマット選択ビットの設定にしたがい基準となるデータを設定してください。

35.2.27 A/Dコンペア機能ウィンドウAチャネルステータスレジスタ0(ADCMPSTR0)

アドレス S12AD.ADCMPSTR0 0008 90A0h

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	CMPSTCHA008	CMPSTCHA007	CMPSTCHA006	CMPSTCHA005	CMPSTCHA004	CMPSTCHA003	CMPSTCHA002	CMPSTCHA001	CMPSTCHA000
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTCHA000	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作状態(ADCMPCR.CMPAE = 1)のとき、ウィンドウA比較条件の対象としたチャネル(AN000～AN008)の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b1	CMPSTCHA001			R/W
b2	CMPSTCHA002			R/W
b3	CMPSTCHA003			R/W
b4	CMPSTCHA004			R/W
b5	CMPSTCHA005			R/W
b6	CMPSTCHA006			R/W
b7	CMPSTCHA007			R/W
b8	CMPSTCHA008			R/W
b15-b9	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPSTR0レジスタは、コンペアウィンドウA機能の比較結果を格納するレジスタです。

CMPSTCHA0nフラグ(n = 00～08)(コンペアウィンドウAフラグ)

ウィンドウA比較条件の対象としたチャネル(AN000～AN008)の比較結果を示すステータスフラグです。A/D変換終了時にADCMPPLR0.CMPLCHA0nビットに設定された比較条件と一致した場合、“1”にセットされます。CMPSTCHA000フラグがAN000に、CMPSTCHA008フラグがAN008に対応します。

CMPSTCHA0nフラグに“1”を書き込むことはできません。

["1"になる条件]

- ADCMPCR.CMPAE = 1の条件で、ADCMPPLR0.CMPLCHA0nビットに設定した条件が成立したとき

["0"になる条件]

- “1”の状態を読んだ後、“0”を書き込んだとき

35.2.28 A/Dコンペア機能ウィンドウAチャネルステータスレジスタ1 (ADCMPSTR1)

アドレス S12AD.ADCMPSTR1 0008 90A2h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	CMPST CHA110	CMPST CHA109	CMPST CHA108	—	—	CMPST CHA105	CMPST CHA104	CMPST CHA103	CMPST CHA102	CMPST CHA101	CMPST CHA100
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTCHA100	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作状態(ADCMPSTR.CMPAE = 1)のとき、ウィンドウA比較条件の対象としたチャネル(AN016～AN021)の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b1	CMPSTCHA101			R/W
b2	CMPSTCHA102			R/W
b3	CMPSTCHA103			R/W
b4	CMPSTCHA104			R/W
b5	CMPSTCHA105			R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b8	CMPSTCHA108	コンペアウィンドウAフラグ	ウィンドウA動作状態(ADCMPSTR.CMPAE = 1)のとき、ウィンドウA比較条件の対象としたチャネル(AN024～AN026)の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b9	CMPSTCHA109			R/W
b10	CMPSTCHA110			R/W
b15-b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPSTR1レジスタは、コンペアウィンドウA機能の比較結果を格納するレジスタです。

CMPSTCHA1n フラグ (n = 00 ~ 05, 08 ~ 10) (コンペアウィンドウAフラグ)

ウィンドウA比較条件の対象としたチャネル(AN016～AN021, AN024～AN026)の比較結果を示すステータスフラグです。A/D変換終了時にADCMPSTR1.CMPLCHA1nビットに設定された比較条件と一致した場合、“1”にセットされます。CMPSTCHA100フラグがAN016に、CMPSTCHA110フラグがAN026に対応します。

CMPSTCHA1nフラグに“1”を書き込むことはできません。

[“1”になる条件]

- ADCMPSTR.CMPAE = 1の条件で、ADCMPSTR1.CMPLCHA1nビットに設定した条件が成立したとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読んだ後、“0”を書き込んだとき

35.2.29 A/D コンペア機能ウィンドウ A 拡張入力チャネルステータスレジスタ (ADCMPSER)

アドレス S12AD.ADCMPSER 0008 90A4h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CMPST OCA	CMPST TSA
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTTSA	コンペアウィンドウA 温度センサ出力コンペア フラグ	ウィンドウA動作状態(ADCMPPCR.CMPAE = 1)のとき、温度センサ出力の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b1	CMPSTOCA	コンペアウィンドウA 内部基準電圧コンペア フラグ	ウィンドウA動作状態(ADCMPPCR.CMPAE = 1)のとき、内部基準電圧の比較結果を示します。 0：比較条件不成立 1：比較条件成立	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPSER レジスタは、コンペアウィンドウ A 機能の比較結果を格納するレジスタです。

CMPSTTSA フラグ (コンペアウィンドウ A 温度センサ出力コンペアフラグ)

温度センサ出力の比較結果を示すステータスフラグです。A/D 変換終了時に ADCMPPLER.CMPLTSA ビットに設定された比較条件と一致した場合、“1”にセットされます。

CMPSTTSA フラグに“1”を書き込むことはできません。

[“1”になる条件]

- ADCMPPCR.CMPAE = 1 の条件で、ADCMPPLER.CMPLTSA ビットに設定した条件が成立したとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読んだ後、“0”を書き込んだとき

CMPSTOCA フラグ (コンペアウィンドウ A 内部基準電圧コンペアフラグ)

内部基準電圧の比較結果を示すステータスフラグです。A/D 変換終了時に ADCMPPLER.CMPLOCA に設定された比較条件と一致した場合、“1”にセットされます。

CMPSTOCA フラグに“1”を書き込むことはできません。

[“1”になる条件]

- ADCMPPCR.CMPAE = 1 の条件で、ADCMPPLER.CMPLOCA ビットに設定した条件が成立したとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読んだ後、“0”を書き込んだとき

35.2.30 A/D 高電位 / 低電位基準電圧コントロールレジスタ (ADHVREFCNT)

アドレス S12AD.ADHVREFCNT 0008 908Ah

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	ADSLP	—	—	LVSEL	—	—	HVSEL[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	HVSEL[1:0]	高電位側基準電圧選択ビット	b1 b0 0 0 : 高電位側基準電圧にAVCC0を選択 0 1 : 高電位側基準電圧にVREFH0を選択(注1) 上記以外は設定しないでください	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	LVSEL	低電位側基準電圧選択ビット	0 : 低電位側基準電圧にAVSS0を選択 1 : 低電位側基準電圧にVREFL0を選択(注1)	R/W
b6-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	ADSLP	スリープビット	0 : 通常動作 1 : スタンバイ状態	R/W

注1. PJ6、PJ7端子をアナログ入出力端子(PORTJ.PMR.B6 = 0, PORTJ.PMR.B7 = 0, PORTJ.PDR.B6 = 0, PORTJ.PDR.B7 = 0, PJ6PFS.ASEL = 1, PJ7PFS.ASEL = 1)に設定してください。

ADHVREFCNT レジスタは、高電位 / 低電位基準電圧の設定を行います。A/D 変換前に設定してください。

HVSEL[1:0] ビット (高電位側基準電圧選択ビット)

高電位側基準電圧の設定を行います。AVCC0、VREFH0 から選択できます。
32ピンパッケージの製品では“01b”にしてください。

LVSEL ビット (低電位側基準電圧選択ビット)

低電位側基準電圧の設定を行います。AVSS0、VREFL0 から選択できます。
32ピンパッケージの製品では“1”にしてください。

ADSLP ビット (スリープビット)

12ビットA/Dコンバータをスタンバイ状態にします。ADCSR.ADHSC ビットを書き換える場合にのみADSLP ビットを“1”にしてください。ADCSR.ADHSC ビットを書き換え以外で、ADSLP ビットを“1”にすることは禁止です。

ADSLP ビットを“1”にした後は、5 μs 以上経ってから“0”にしてください。またADSLP ビットを“0”にした後、1 μs 以上待ってからA/D変換を開始してください。

ADHSC ビットを書き換え手順は、「35.8.10 ADHSC ビットを書き換え手順」を参照してください。

35.2.31 A/D コンペア機能ウィンドウ A/B ステータスマニタレジスタ (ADWINMON)

アドレス S12AD.ADWINMON 0008 908Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	MONC MPB	MONC MPA	—	—	—	MONC OMB
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MONCOMB	組み合わせ結果モニタフラグ	組み合わせの結果を示します。 本フラグはウィンドウA/B共に動作状態のときに有効です。 0: ウィンドウA/Bの複合条件不成立 1: ウィンドウA/Bの複合条件成立	R
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b4	MONCMPA	比較結果モニタ A フラグ	0: ウィンドウA比較条件不成立 1: ウィンドウA比較条件成立	R
b5	MONCMPB	比較結果モニタ B フラグ	0: ウィンドウB比較条件不成立 1: ウィンドウB比較条件成立	R
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

ADWINMON レジスタは比較結果と組みあわせ結果をモニタできます。

MONCOMB フラグ (組み合わせ結果モニタフラグ)

ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した組み合わせ条件で比較条件結果 A と比較結果条件 B を組み合わせた結果を示す読み出し専用のフラグです。

["1" になる条件]

- ADCMPCR.CMPAE = 1 かつ ADCMPCR.CMPBE = 1 の条件で、ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した組み合わせ条件に一致

["0" になる条件]

- ADCMPCR.CMPAB[1:0] ビットで設定した組み合わせ条件に一致しない。
- ADCMPCR.CMPAE = 0 または ADCMPCR.CMPBE = 0 のとき

MONCMPA フラグ (比較結果モニタ A フラグ)

ADCMPLR0、ADCMPLR1、ADCMPLER レジスタで設定した条件にウィンドウ A 対象チャネルの A/D 変換値が一致した場合は“1”を、一致しなかった場合は“0”を示す読み出し専用のフラグです。

["1" になる条件]

- ADCMPCR.CMPAE = 1 の条件で、ADCMPLR0.CMPLCHA0n ビットに設定した条件が成立したとき

["0" になる条件]

- ADCMPCR.CMPAE = 1 の条件で、ADCMPLR0.CMPLCHA0n ビットに設定した条件が不成立のとき
- ADCMPCR.CMPAE = 0 のとき (ADCMPCR.CMPAE = 1 → 0 で自動クリア)

MONCMPB フラグ (比較結果モニタ B フラグ)

ADCMPBNSR.CMPLB ビットで設定した条件にウィンドウ B 対象チャネルの A/D 変換値が一致した場合は“1”を、一致しなかった場合は“0”を示す読み出し専用のフラグです。

["1" になる条件]

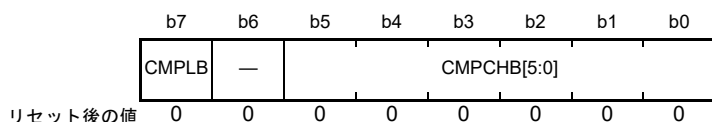
- ADCMPCR.CMPBE = 1 の条件で、ADCMPBNSR.CMPLB ビットに設定した条件が成立したとき

["0"になる条件]

- ADCMPCR.CMPBE = 1 の条件で、ADCMPBNSR.CMPLB ビットに設定した条件が不成立のとき
- ADCMPCR.CMPBE = 0 のとき (ADCMPCR.CMPBE = 1 → 0 で自動クリア)

35.2.32 A/D コンペア機能ウィンドウ B チャンネル選択レジスタ (ADCMPBNSR)

アドレス S12AD.ADCMPBNSR 0008 90A6h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	CMPCHB[5:0]	コンペアウィンドウ B チャンネル選択ビット	コンペアウィンドウ B の条件で比較を行うチャンネルを選択します b5 b0 0 0 0 0 0 : AN000 0 0 0 0 1 : AN001 0 0 0 1 0 : AN002 : 0 0 0 1 1 0 : AN006 0 0 0 1 1 1 : AN007 0 0 1 0 0 0 : AN008 0 1 0 0 0 0 : AN016 0 1 0 0 0 1 : AN017 : 0 1 0 1 0 1 : AN021 0 1 1 0 0 0 : AN024 0 1 1 0 0 1 : AN025 0 1 1 0 1 0 : AN026 1 0 0 0 0 0 : 温度センサ 1 0 0 0 0 1 : 内部基準電圧 上記以外は設定しないでください	R/W
b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	CMPLB	コンペアウィンドウ B コンペア条件設定ビット	ウィンドウ機能無効時 (ADCMPCR.WCMPE ビットが“0”) 0 : ADWINLLB レジスタ値 > A/D 変換値 1 : ADWINLLB レジスタ値 < A/D 変換値 ウィンドウ機能有効時 (ADCMPCR.WCMPE ビットが“1”) 0 : A/D 変換値 < ADWINLLB レジスタ値または ADWINULB レジスタ値 < A/D 変換値 1 : ADWINLLB レジスタ値 < A/D 変換値 < ADWINULB レジスタ値	R/W

ADCMPBNSR レジスタは、コンペアウィンドウ B 機能の設定を行います。

CMPCHB[5:0] ビット (コンペアウィンドウ B チャンネル選択ビット)

コンペアウィンドウ B の条件で比較を行うチャンネルを AN000 ~ AN008、AN016 ~ AN021、AN024 ~ AN026、温度センサ、内部基準電圧から選択するビットです。

ADANSA0、ADANSA1、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した A/D 変換チャンネルの番号 (16 進) を指定すると、コンペアウィンドウ B 機能が有効になります。

CMPCHB[5:0] ビットは、ADCSR.ADST ビットが“0”のときに設定してください。

CMPLB ビット (コンペアウィンドウ B コンペア条件設定ビット)

ウィンドウ B 対象としたチャンネルの比較条件を設定します。各アナログ入力の比較結果が設定した条件と一致したとき、ADCMPBSR.CMPSTB フラグが“1”にセットされます。コンペア条件を図 35.4 に示します。

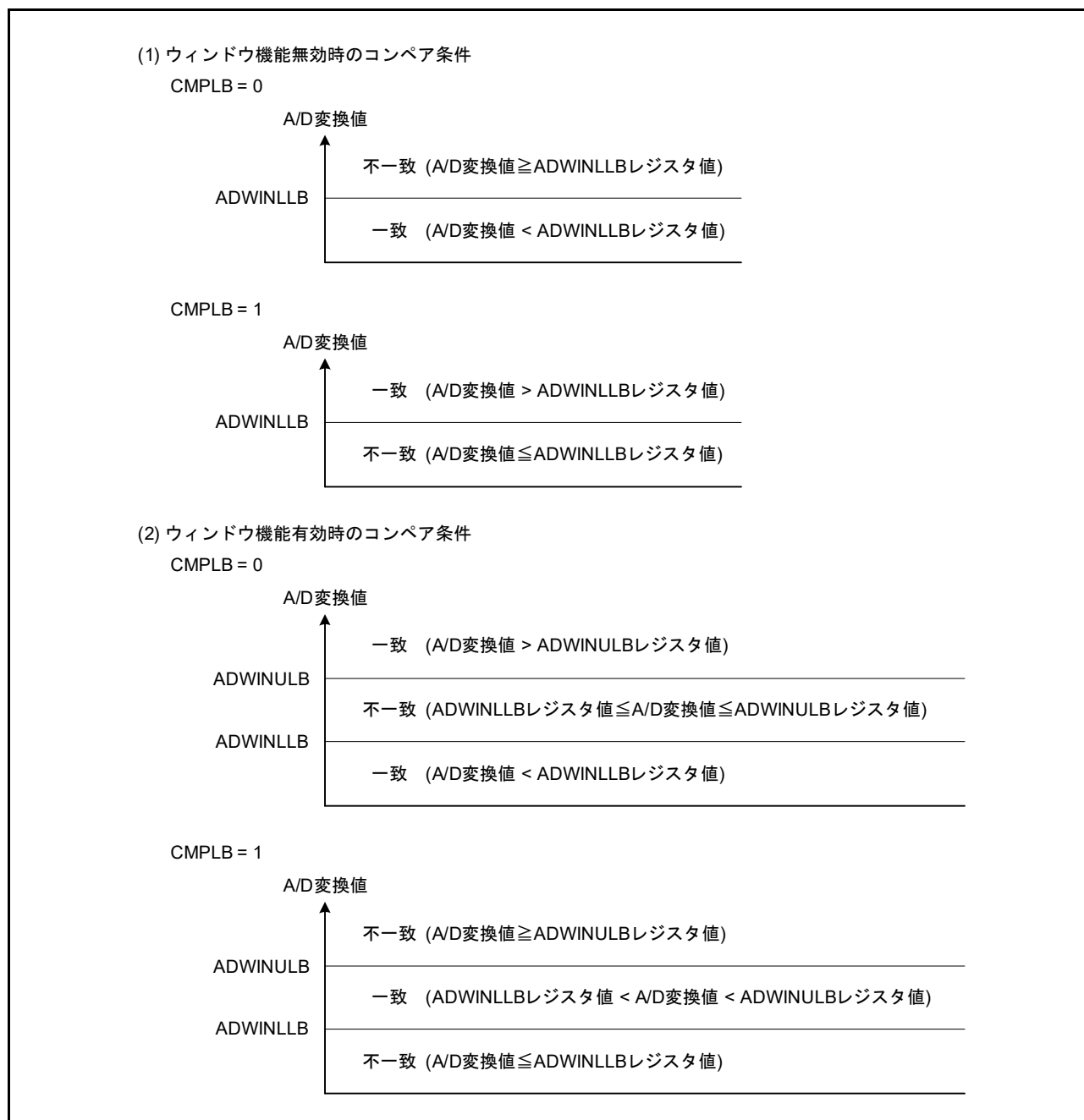
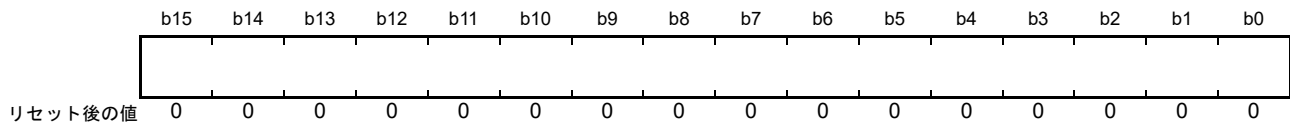


図 35.4 コンペア機能ウィンドウ B コンペア条件説明

35.2.33 A/D コンペア機能ウィンドウ B 下位側レベル設定レジスタ (ADWINLLB)

アドレス S12AD.ADWINLLB 0008 90A8h



ADWINLLB レジスタは、コンペアウィンドウ B 機能使用時、基準となるデータを設定するリードライト可能なレジスタです。ADWINLLB は、ウィンドウ B の下位側レベルを設定します。

ADWINLLB レジスタの書き込みは A/D 変換中でも有効です。A/D 変換中にレジスタ値を書き換えることにより、ダイナミックに基準データを変更することができます。

上限側レベル \geq 下限側レベル (ADWINULB 設定値 \geq ADWINLLB 設定値) となるように設定してください。

ADWINLLB レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定値 (右詰めまたは左詰め)
- A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタの設定値 (A/D 変換値平均モード選択、または非選択)
- A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタの設定値 (加算 / 平均モード選択、加算回数選択)

注. A/D データレジスタ y (ADDRy) のフォーマット設定と異なるフォーマットでコンペア値を設定した場合、正しい比較結果が得られません。

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 にコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 にコンペアレベル (下位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b15-b14 は “0” を書いてください。
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合
b15-b2 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。b1-b0 は “0” を書いてください。

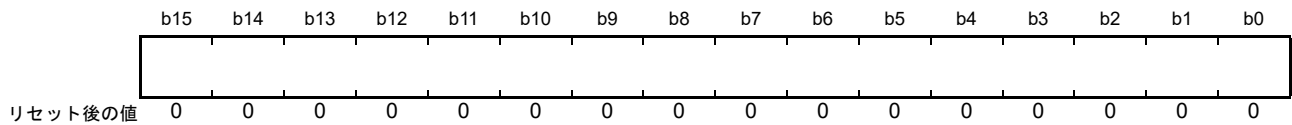
- 左詰めフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (下位側) を設定します。

A/D 変換値加算モードを選択したとき、同一チャネルの A/D 変換値を加算した値を設定します。A/D 変換回数は 1 回～4 回、16 回に設定できます。A/D 変換値加算モードを選択すると、A/D 変換回数を 1 回～4 回設定時には、変換精度のビット数に 2 ビット分拡張して ADWINLLB レジスタに設定してください。A/D 変換回数を 16 回設定時には、変換精度のビット数に 4 ビット分拡張して ADWINLLB レジスタに設定してください。

A/D 変換値加算モードを選択した場合でも、A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定にしたがい基準となるデータを設定してください。

35.2.34 A/D コンペア機能ウィンドウ B 上位側レベル設定レジスタ (ADWINULB)

アドレス S12AD.ADWINULB 0008 90AAh



ADWINULB レジスタは、コンペアウィンドウ B 機能使用時、基準となるデータを設定するリードライト可能なレジスタです。ADWINULB は、ウィンドウ B の上位側レベルを設定します。

ADWINULB レジスタの書き込みは A/D 変換中でも有効です。A/D 変換中にレジスタ値を書き換えることにより、ダイナミックに基準データを変更することができます。

上限側レベル \geq 下限側レベル (ADWINULB 設定値 \geq ADWINLLB 設定値) となるように設定してください。

ADWINULB レジスタはウィンドウ機能無効時には使用しません。

ADWINULB レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定値 (右詰めまたは左詰め)
- A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタの設定値 (A/D 変換値平均モード選択、または非選択)
- A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタの設定値 (加算 / 平均モード選択、加算回数選択)

注. A/D データレジスタ y (ADDRy) のフォーマット設定と異なるフォーマットでコンペア値を設定した場合、正しい比較結果が得られません。

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 にコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 にコンペアレベル (上位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b12 は “0” を書いてください。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b3-b0 は “0” を書いてください。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。b15-b14 は “0” を書いてください。
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値と比較するコンペアレベル (上位側) を設定します。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回～4 回選択時) に設定した場合

b15-b2に同一チャネルのA/D変換値と比較するコンペアレベル(上位側)を設定します。b1-b0は“0”を書いてください。

- 左詰めフォーマット(A/D変換値加算モード、変換回数16回選択時)に設定した場合 b15-b0に同一チャネルのA/D変換値と比較するコンペアレベル(上位側)を設定します。

A/D変換値加算モードを選択したとき、同一チャネルのA/D変換値を加算した値を設定します。A/D変換回数は1回～4回、16回に設定できます。A/D変換値加算モードを選択すると、A/D変換回数を1回～4回設定時には、変換精度のビット数に2ビット分拡張してADWINULBレジスタに設定してください。A/D変換回数を16回設定時には、変換精度のビット数に4ビット分拡張してADWINULBレジスタに設定してください。

A/D変換値加算モードを選択した場合でも、A/Dデータレジスタフォーマット選択ビットの設定にしたがい基準となるデータを設定してください。

35.2.35 A/Dコンペア機能ウィンドウBチャネルステータスレジスタ (ADCMPBSR)

アドレス S12AD.ADCMPBSR 0008 90ACh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	CMPST B
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CMPSTB	コンペアウィンドウBフラグ	0: 比較条件不成立 1: 比較条件成立	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADCMPBSRレジスタは、コンペアウィンドウB機能の比較結果を格納するレジスタです。

CMPSTBフラグ(コンペアウィンドウBフラグ)

ウィンドウB比較条件の対象としたチャネル(AN000～AN008、AN016～AN021、AN024～AN026、温度センサ、内部基準電圧)の比較結果を示すステータスフラグです。A/D変換終了時に

ADCMPBSR.CMPCHB[5:0]ビットに設定された比較条件と一致した場合、“1”にセットされます。

CMPSTBフラグに“1”を書き込むことはできません。

[“1”になる条件]

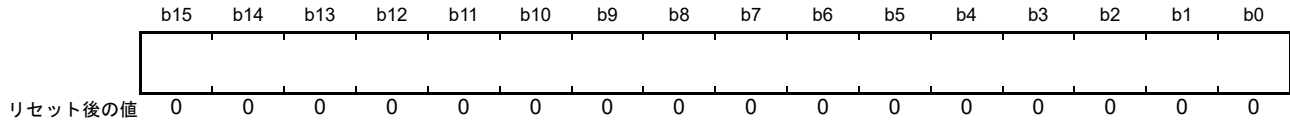
- ADCMPBSR.CMPBE = 1の条件で、ADCMPBSR.CMPLBビットに設定した条件が成立したとき

[“0”になる条件]

- “1”の状態を読んだ後、“0”を書き込んだとき

35.2.36 A/D データ格納バッファレジスタ n (ADBUFn) (n = 0 ~ 15)

アドレス S12AD.ADBUF0 0008 90B0h, S12AD.ADBUF1 0008 90B2h, S12AD.ADBUF2 0008 90B4h,
S12AD.ADBUF3 0008 90B6h, S12AD.ADBUF4 0008 90B8h, S12AD.ADBUF5 0008 90BAh,
S12AD.ADBUF6 0008 90BCh, S12AD.ADBUF7 0008 90BEh, S12AD.ADBUF8 0008 90C0h,
S12AD.ADBUF9 0008 90C2h, S12AD.ADBUF10 0008 90C4h, S12AD.ADBUF11 0008 90C6h,
S12AD.ADBUF12 0008 90C8h, S12AD.ADBUF13 0008 90CAh, S12AD.ADBUF14 0008 90CCh,
S12AD.ADBUF15 0008 90CEh



A/D データ格納バッファレジスタ n (ADBUFn) は、全 A/D 変換値を順に格納する 16 ビットの読み出し専用レジスタです。本レジスタはオートクリア機能対象外です。

ADBUFn レジスタは、下記の条件でフォーマットが異なります。

- A/D データレジスタフォーマット選択ビットの設定値 (右詰めまたは左詰め)
- A/D 変換値加算 / 平均機能チャンネル選択レジスタの設定値 (A/D 変換値平均モード選択、または非選択)
- A/D 変換値加算 / 平均回数選択レジスタの設定値 (加算 / 平均モード選択、加算回数選択)

(1) A/D 変換値加算 / 平均モードを非選択とした場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に A/D 変換値を格納します。読み出し時、b15-b12 は“0”が読み出されます。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に A/D 変換値を格納します。読み出し時、b3-b0 は“0”が読み出されます。

(2) A/D 変換値平均モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマットに設定した場合
b11-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値を平均した値を格納します。読み出し時、b15-b12 は“0”が読み出されます。
- 左詰めのフォーマットに設定した場合
b15-b4 に同一チャンネルの A/D 変換値を平均した値を格納します。読み出し時、b3-b0 は“0”が読み出されます。

A/D 変換値加算モードを 2 回、4 回に設定の場合のみ、A/D 変換値平均モードを設定できます。

(3) A/D 変換値加算モードを選択した場合

- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回 ~ 4 回選択時) に設定した場合
b13-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。読み出し時、b15-b14 は“0”が読み出されます。
- 右詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 1 回 ~ 4 回選択時) に設定した場合
b15-b2 に同一チャンネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。読み出し時、b1-b0 は“0”が読み出されます。
- 左詰めのフォーマット (A/D 変換値加算モード、変換回数 16 回選択時) に設定した場合
b15-b0 に同一チャンネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。

A/D 変換値加算モードを選択したとき、同一チャンネルの A/D 変換値を加算した値を格納します。A/D 変換

回数は1回～4回、16回に設定できます。A/D変換値加算モードを選択すると、A/D変換回数を1回～4回設定時には、変換精度のビット数に2ビット分拡張したデータとしてADBUFnレジスタに格納します。A/D変換回数16回設定時には、変換精度のビット数に4ビット分拡張したデータとしてADBUFnレジスタに格納します。

A/D変換値加算モードを選択した場合でも、A/Dデータレジスタフォーマット選択ビットの設定にしたがいADBUFnレジスタに拡張したA/D変換値を格納します。

35.2.37 A/Dデータ格納バッファイネーブルレジスタ (ADBUFEN)

アドレス S12AD.ADBUFEN 0008 90D0h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	BUFEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	BUFEN	データ格納バッファイネーブルビット	0: データ格納バッファを使用しない 1: データ格納バッファを使用する	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADBUFENレジスタは、データ格納バッファイネーブルの設定を行います。

BUFENビット (データ格納バッファイネーブルビット)

コンペア機能使用時に、データ格納バッファの使用を許可するビットです。

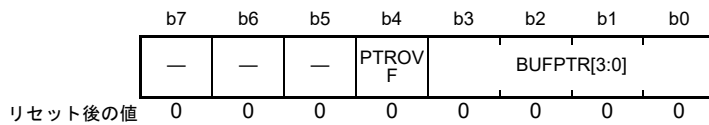
BUFEN=1のとき、自己診断以外のA/D変換結果(加算結果)をADBUFnに格納します。

ADBUFn、およびADBUFPTRは、データ格納動作を停止(BUFEN=0)させてから読み出してください。

データ二重化/連続スキャン/グループスキャン時、データ格納バッファは使用しないでください。

35.2.38 A/D データ格納バッファポインタレジスタ (ADBUFPTR)

アドレス S12AD.ADBUFPTR 0008 90D2h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	BUFPTR[3:0]	データ格納バッファポインタ	次のA/D変換データが転送されるデータ格納バッファの番号を示します	R/W
b4	PTROVF	ポインタオーバーフローフラグ	0: データ格納バッファポインタがオーバーフローしていない 1: データ格納バッファポインタがオーバーフローした	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

ADBUFPTR レジスタは、データ格納バッファポインタのレジスタです。

BUFPTR[3:0] ビット (データ格納バッファポインタ)

次のA/D変換データが転送されるデータ格納バッファの番号を示す読み出しビットです。

データ格納バッファ 15 にデータが転送されると、ポインタの値は“0000b”になり、PTROVF フラグが“1”にセットされます。次のデータが転送されるとデータ格納バッファ 0 のデータを上書きします。

本レジスタに“00h”を書き込むと値はクリアされます。“00h”以外の書き込みは無効です。

PTROVF フラグ (ポインタオーバーフローフラグ)

データ格納バッファポインタがオーバーフローしたかどうかを示す読み出しビットです。ポインタの値がオーバーフローして“0000b”になると“1”がセットされます。

本レジスタに“00h”を書き込むと値はクリアされます。“00h”以外の書き込みは無効です。

35.2.39 A/D変換サイクル制御レジスタ (ADCCR)

アドレス S12AD.ADCCR 0008 907Eh

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	CCS	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b1	CCS	変換サイクル選択ビット	変換サイクル数を選択するビットです。詳細は表35.9を参照してください	R/W
b7-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

CCSビット (変換サイクル選択ビット)

1ビットあたりの変換に要するサイクルを選択します。

逐次変換に要するサイクル数は表35.9のとおりです。

表35.9 逐次変換サイクル数

CCSビット	ADHSCビット	変換サイクル数
0	0	32 サイクル
0	1	41 サイクル
1	0	22 サイクル
1	1	28 サイクル

35.3 動作説明

35.3.1 スキャンの動作説明

スキャンとは、選択したチャンネルのアナログ入力を順次 A/D 変換する動作です。

スキャン変換の動作モードには、シングルスキャンモードと連続スキャンモードとグループスキャンモードの3種類の動作モードがあります。また、変換モードには高速変換モードと通常変換モードがあります。シングルスキャンモードは、指定した1チャンネル以上のスキャンを1回実施して終了するモードです。連続スキャンモードは指定した1チャンネル以上のスキャンをソフトウェアで ADCSR.ADST ビットを“0” (“1”の状態から“0”) にクリアするまで無制限に繰り返し実施するモードです。グループスキャンモードは、グループ A とグループ B のスキャンをそれぞれ選択した同期トリガで開始し、グループ A とグループ B で選択したチャンネルのスキャンをそれぞれ1回ずつ実施して終了するモードです。

シングルスキャンモード、連続スキャンモードはスキャン変換が開始すると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した AN_n の n が小さい番号順から A/D 変換を行います。グループスキャンモードは、グループ A が ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した AN_n の n が小さい番号順から、グループ B が ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した AN_n の n が小さい番号順から A/D 変換を行います。

自己診断を選択した場合は、スキャンごとの最初に1回実施され、12ビット A/D コンバータ内部で生成する3つの電圧値のうち1つを A/D 変換します。

温度センサ出力または、内部基準電圧を A/D 変換する場合は単独でスキャンを実施してください。

ダブルトリガモードは、シングルスキャンモード、またはグループスキャンモードで使用します。ダブルトリガモードを許可すると、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで選択した、同期トリガでのスキャン起動でのみ、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した1チャンネルの A/D 変換データを二重化します。

35.3.2 シングルスキャンモード

35.3.2.1 基本動作

シングルスキャンモードの基本動作は、指定されたチャンネルのアナログ入力を以下のように1サイクルのみA/D変換します。

- (1) ソフトウェア、同期トリガまたは非同期トリガ入力によって、ADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したAN_nのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- (2) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDR_y)に格納されます。
- (3) 選択されたすべてのチャンネルのA/D変換終了後、ADCSR.ADIEビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0割り込み要求を発生します。
- (4) ADCSR.ADSTビットはA/D変換中は“1”(A/D変換開始)を保持し、選択されたすべてのチャンネルのA/D変換が終了すると自動的にクリアされ、12ビットA/Dコンバータは待機状態になります。

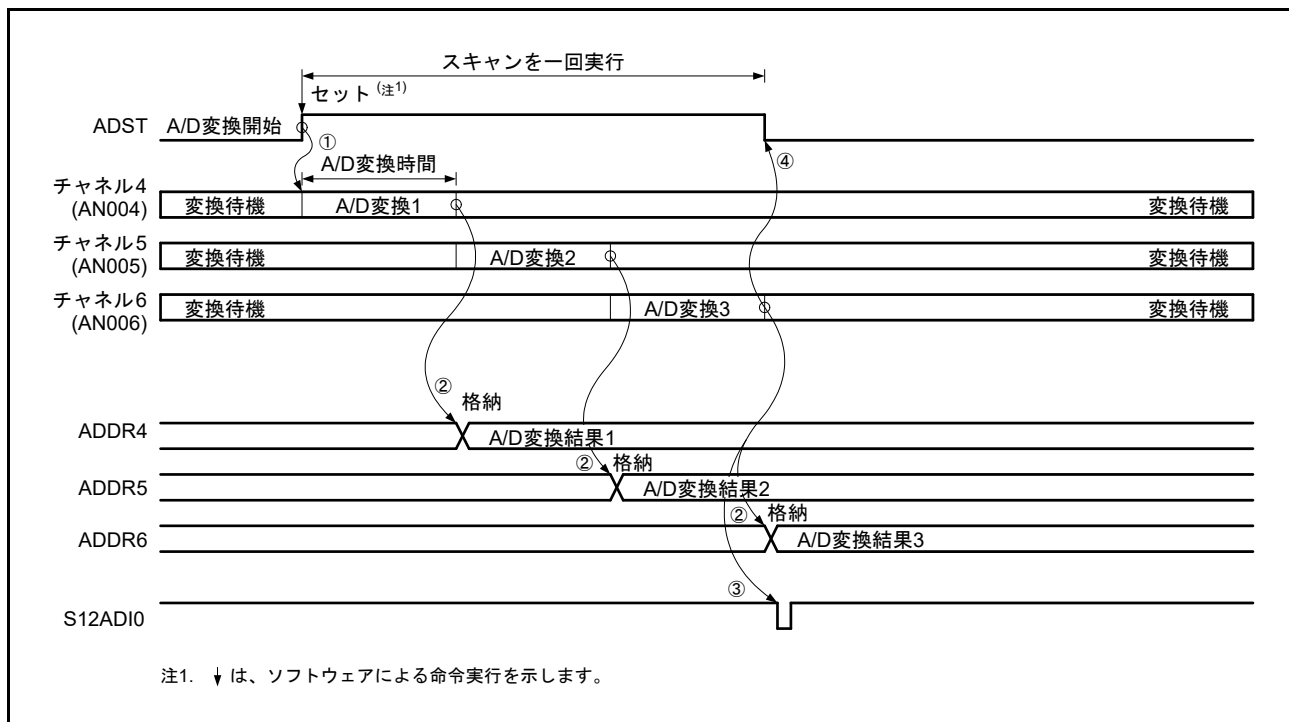


図 35.5 シングルスキャンモードの動作例 (基本動作 : AN004、AN005、AN006 選択)

35.3.2.2 チャンネル選択と自己診断

チャンネル選択と共に自己診断を選択すると、以下のように12ビットA/Dコンバータに供給される基準電圧のA/D変換を行い、その後選択したチャンネルのアナログ入力を1回のみA/D変換します。

- (1) ソフトウェア、同期トリガまたは非同期トリガ入力によってADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、最初に自己診断でのA/D変換を開始します。
- (2) 自己診断でのA/D変換が終了すると、A/D変換結果はA/D自己診断データレジスタ(ADRD)に格納され、次にADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- (3) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)へ格納されます。
- (4) 選択されたすべてのチャンネルのA/D変換終了後、ADCSR.ADIEビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていれば、S12ADI0割り込み要求を発生します。
- (5) ADSTビットはA/D変換中は“1”(A/D変換開始)を保持し、選択されたすべてのチャンネルのA/D変換が終了すると自動的にクリアされ、12ビットA/Dコンバータは待機状態になります。

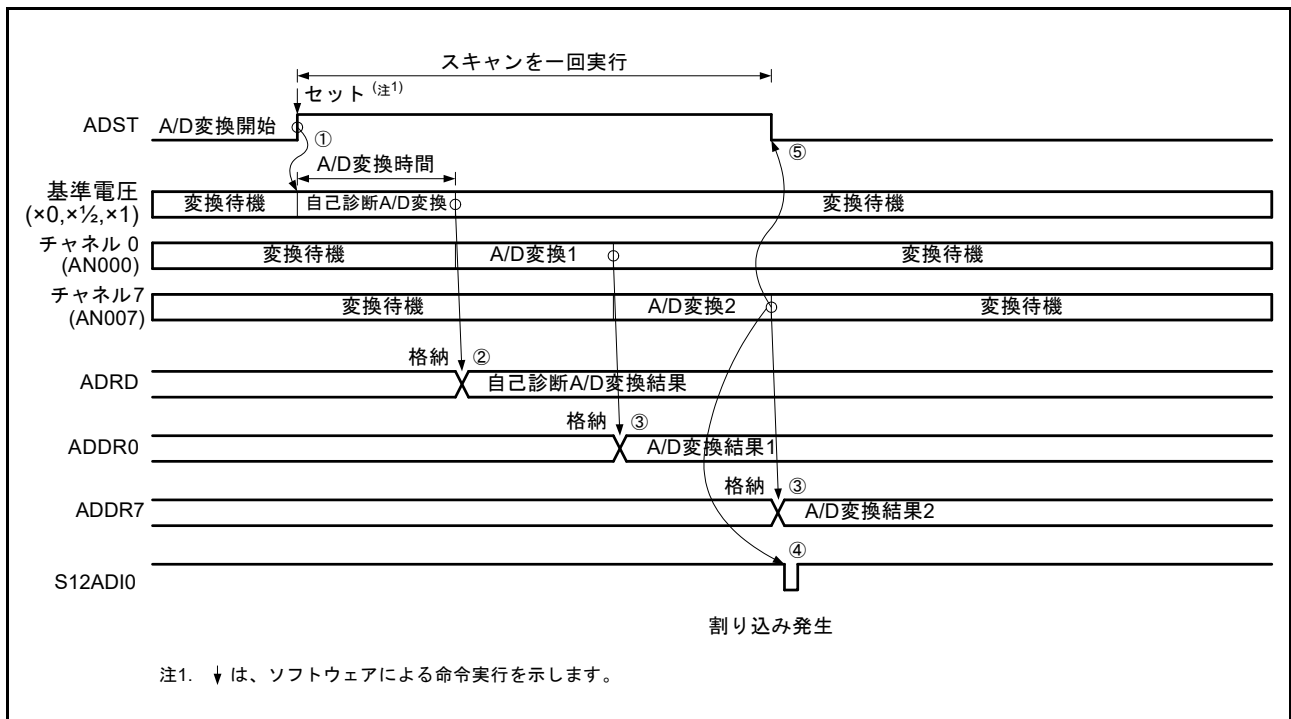


図 35.6 シングルスキャンモードの動作例 (基本動作 : AN000、AN007 選択 + 自己診断)

35.3.2.3 温度センサ出力 / 内部基準電圧選択時の A/D 変換動作

温度センサ出力または内部基準電圧の A/D 変換は、シングルスキャンモードで実行し、動作は以下のようになります。

チャンネル選択はすべて非選択 (ADANSA0、ADANSA1 レジスタビットはすべて“0”かつ ADCSR.DBLE ビットを“0”) に設定します。また温度センサ出力の A/D 変換を選択する場合は、内部基準電圧の A/D 変換選択ビット (ADEXICR.OCOSA) は“0” (非選択) に、内部基準電圧の A/D 変換を選択する場合は、温度センサ出力の A/D 変換選択ビット (ADEXICR.TSSA) は“0” (非選択) に設定します。

- (1) サンプリング時間は $5\ \mu\text{s}$ 以上になるように設定してください。
- (2) 内部基準電圧または温度センサ出力の A/D 変換に切り替えた後、ADST ビットを“1”にセットして変換を開始してください。
- (3) A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D 温度センサデータレジスタ (ADTSDR) または A/D 内部基準電圧データレジスタ (ADOCDR) に格納され、ADCSR.ADIE ビットが“1” (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求が発生します。
- (4) ADST ビットは A/D 変換中は“1”を保持し、A/D 変換が終了すると自動的にクリアされ、A/D 変換器は待機状態になります。

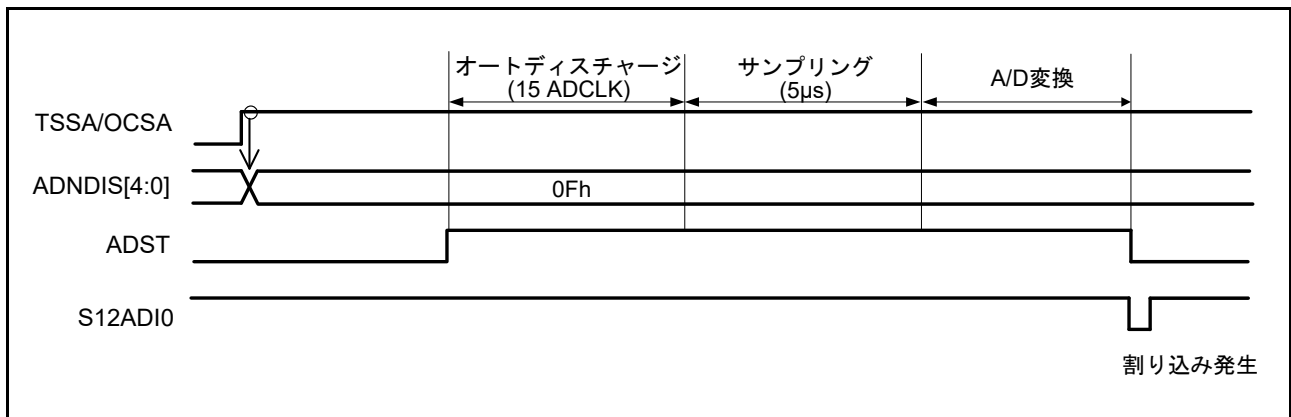


図 35.7 シングルスキャンモードの動作例 (温度センサ出力、内部基準電圧選択)

35.3.2.4 ダブルトリガモード選択時の動作

シングルスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合は、以下のように同期トリガで開始するシングルスキャンモードを2回行います。

自己診断は非選択とし、温度センサ出力 A/D 変換選択ビット (ADEXICR.TSSA) と内部基準電圧 A/D 変換選択ビット (ADEXICR.OCSA) を“0”に設定してください。

A/D 変換データ二重化は、二重化するチャンネルの番号を ADCSR.DBLANS[4:0] ビットに設定し、ADCSR.DBLE ビットを“1”にすると有効となります。ADCSR.DBLE を“1”にした場合は ADANSA0、ADANSA1 レジスタのチャンネル選択は無効になります。またダブルトリガモードを選択する場合は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットで同期トリガを選択し、ADCSR.EXTRG ビットを“0”に、ADCSR.TRGE ビットを“1”に設定してください。また、ソフトウェアトリガは使用しないでください。

- (1) 同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが“1” (A/D 変換開始) にセットされると、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャンネルの A/D 変換を開始します。
- (2) A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) へ格納されます。
- (3) ADST は自動的にクリアされ、12 ビット A/D コンバータは待機状態になります。このとき、ADCSR.ADIE ビット (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) の設定に関わらず、S12ADI0 割り込みは発生しません。
- (4) 2 回目のトリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが“1” (A/D 変換開始) になると、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットで選択した 1 チャンネルの A/D 変換を開始します。
- (5) A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果はダブルトリガモード専用の A/D データ二重化レジスタ (ADDBLDR) に格納されます。
- (6) ADCSR.ADIE ビットが“1” (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていれば、S12ADI0 割り込み要求を発生します。
- (7) ADCSR.ADST ビットは A/D 変換中は“1” (A/D 変換開始) を保持し、A/D 変換が終了すると自動的にクリアされ、12 ビット A/D コンバータは待機状態になります。

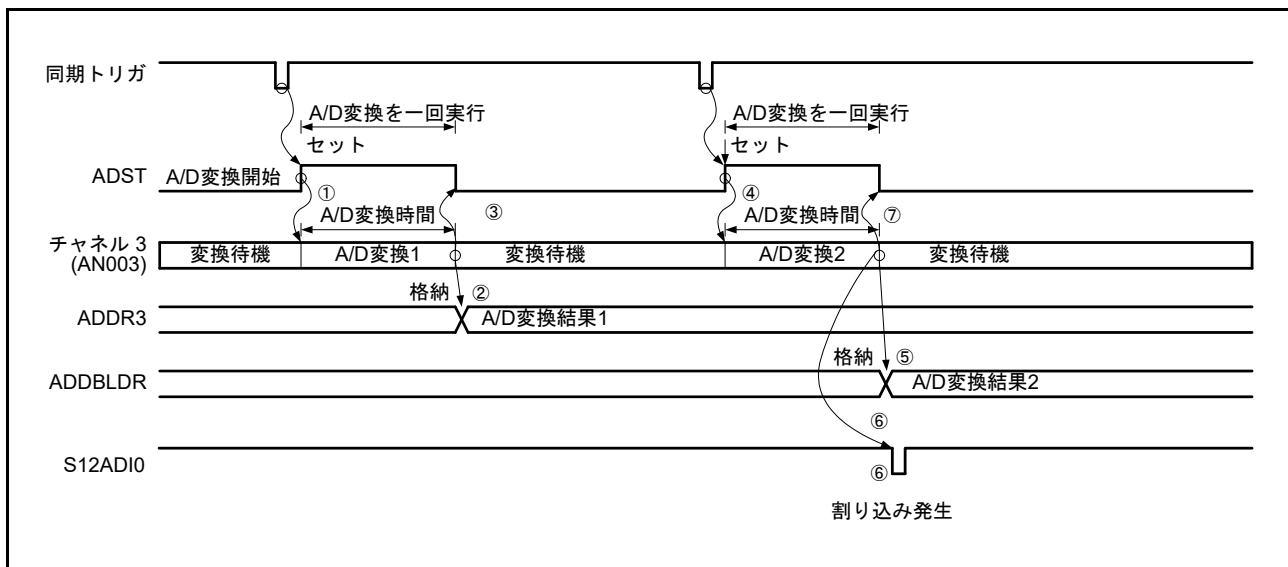


図 35.8 シングルスキャンモードの動作例 (ダブルトリガモード選択、AN003 を二重化)

35.3.3 連続スキャンモード

35.3.3.1 基本動作

連続スキャンモードの基本動作は、選択されたチャンネルのアナログ入力を以下のように繰り返しA/D変換します。

連続スキャンモード時は、温度センサ出力A/D変換選択ビット (ADEXICR.TSSA) と内部基準電圧A/D変換選択ビット (ADEXICR.OCSA) はともに“0”(非選択)に設定します。

- (1) ソフトウェア、同期トリガまたは非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが“1”(A/D変換開始)になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (2) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (3) 選択されたすべてのチャンネルのA/D変換終了後、ADCSR.ADIE ビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0割り込み要求を発生します。
また12ビットA/Dコンバータは、継続してADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- (4) ADCSR.ADST ビットは自動的にクリアされず、“1”(A/D変換開始)の間は(2)～(3)を繰り返します。ADCSR.ADST ビットを“0”(A/D変換停止)に設定するとA/D変換を中止し、12ビットA/Dコンバータは待機状態になります。
- (5) その後、ADCSR.ADST ビットを“1”(A/D変換開始)にセットすると再びADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。

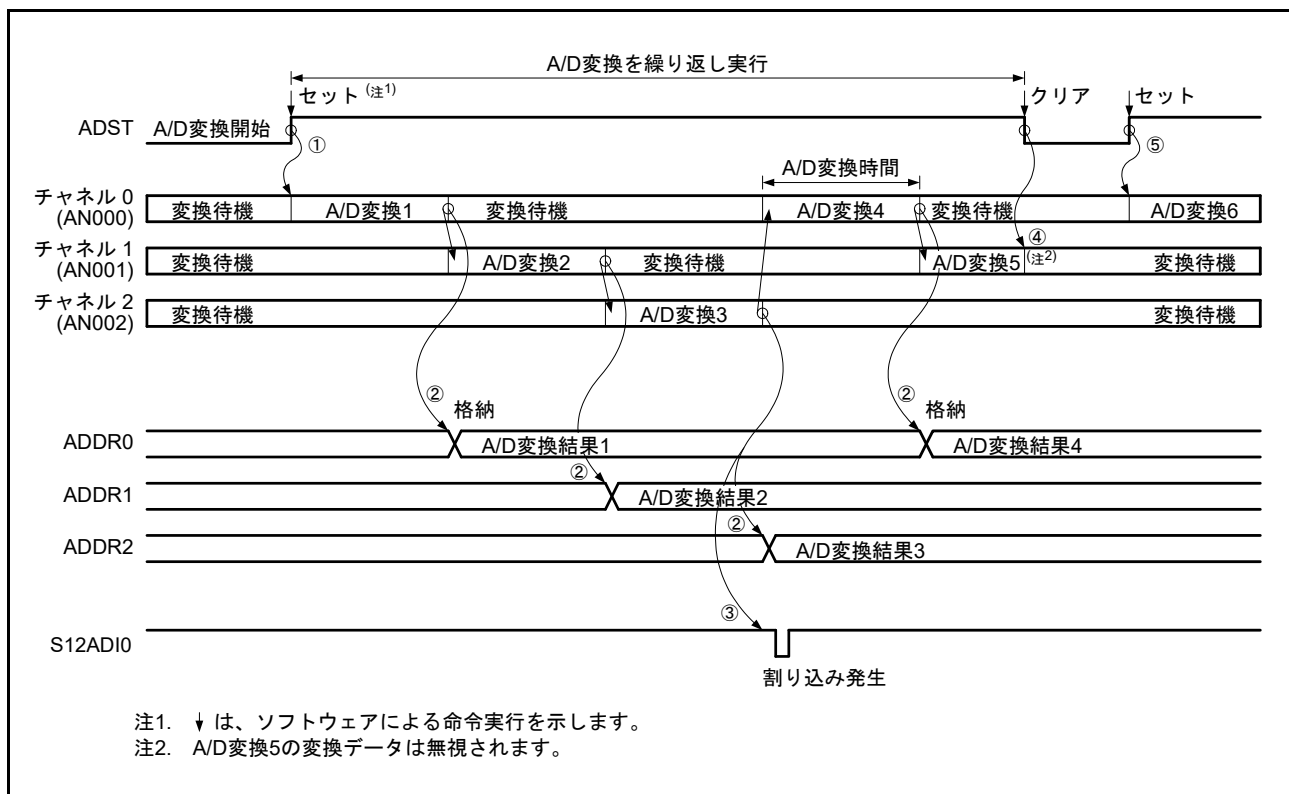


図 35.9 連続スキャンモードの動作例 (基本動作 : AN000、AN001、AN002 選択)

35.3.3.2 チャネル選択と自己診断

チャネル選択と共に自己診断を選択すると、以下のように12ビットA/Dコンバータに供給される基準電圧のA/D変換を行い、その後選択したチャンネルのアナログ入力をA/D変換する動作を繰り返します。連続スキャンモード時は温度センサA/D変換選択ビット(ADEXICR.TSSA)と内部基準電圧A/D変換選択ビット(ADEXICR.OCSA)はともに“0”(非選択)に設定します。

- (1) ソフトウェア、同期トリガまたは非同同期トリガ入力によってADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、最初に自己診断でのA/D変換を開始します。
- (2) 自己診断でのA/D変換が終了すると、A/D変換結果はA/D自己診断データレジスタ(ADDRD)に格納され、次にADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- (3) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)へ格納されます。
- (4) 選択したすべてのチャンネルのA/D変換終了後、ADCSR.ADIEビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていれば、S12ADI0割り込み要求を発生します。また、12ビットA/Dコンバータは継続して自己診断でのA/D変換を開始し、終了後にADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- (5) ADSTビットは自動的にクリアされず、“1”に設定されている間は(2)～(4)を繰り返します。ADSTビットを“0”(A/D変換停止)に設定するとA/D変換を中止し、12ビットA/Dコンバータは待機状態になります。
- (6) その後、ADSTビットが“1”(A/D変換開始)に設定されると、再び自己診断でのA/D変換から開始します。

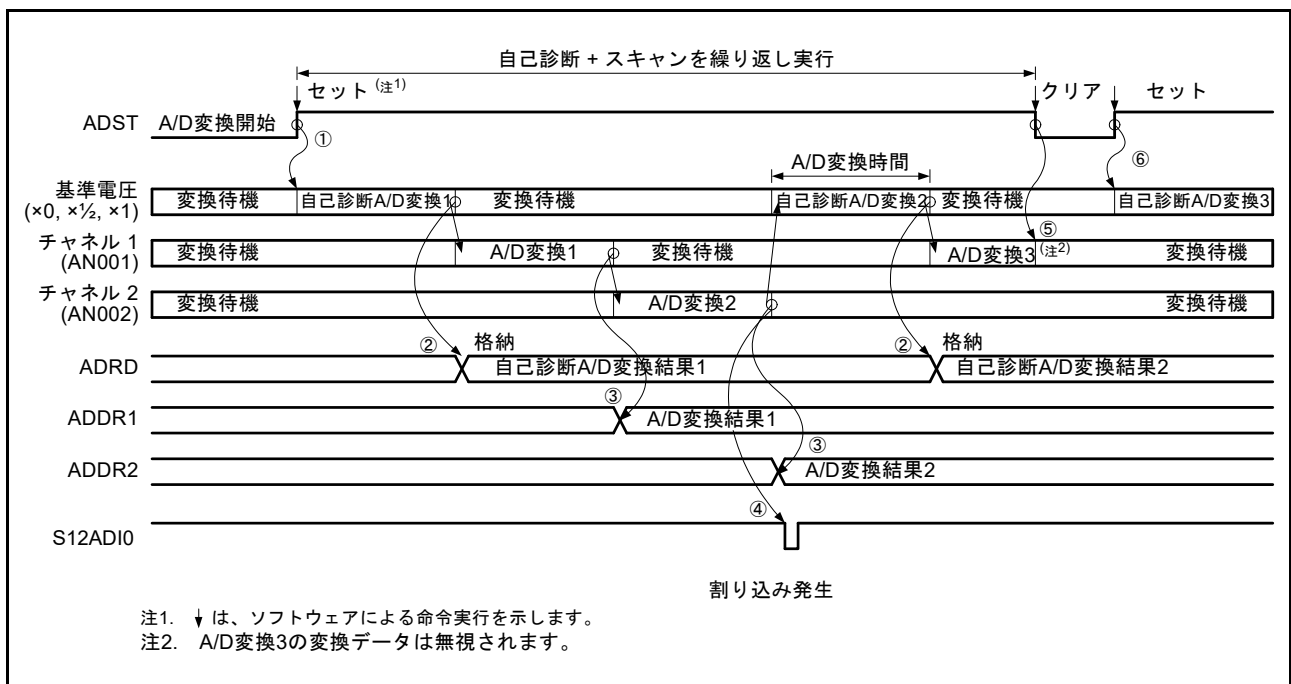


図 35.10 連続スキャンモードの動作例 (基本動作 : AN001、AN002 選択 + 自己診断)

35.3.4 グループスキャンモード

35.3.4.1 基本動作

グループスキャンモードの基本動作は、同期トリガをスキャン開始条件とし、グループ A とグループ B のそれぞれで選択したすべてのチャンネルのアナログ入力を以下のように 1 回のみ A/D 変換します。グループ A とグループ B のそれぞれのスキャン動作は、シングルスキャンモードと同じ動作になります。

グループスキャンモードのトリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットでグループ A の同期トリガを選択し、ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットでグループ B の同期トリガを選択します。グループ A とグループ B の A/D 変換が同時に起こらないように、グループ A とグループ B のトリガは別々のトリガにしてください。また、ソフトウェアトリガは使用しないでください。

A/D 変換対象とするチャンネルは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタでグループ A のチャンネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1 レジスタでグループ B のチャンネルを選択します。グループ A とグループ B で同一のチャンネルを選択することはできません。

グループスキャンモード時は温度センサ A/D 変換選択ビット (ADEXICR.TSSA) と内部基準電圧 A/D 変換選択ビット (ADEXICR.OCSA) はともに“0” (非選択) に設定します。

グループスキャンモードで自己診断を選択した場合は、グループ A とグループ B それぞれで自己診断を実施します。

以下に MTU からの同期トリガによるグループスキャンモードの動作例を示します。グループ A は MTU からの TRG4AN トリガで変換開始し、グループ B は MTU からの TRG4BN トリガで変換開始する設定です。

- (1) MTU からの TRG4AN トリガでグループ A のスキャンを開始します。
- (2) グループ A のスキャン終了時に ADCSR.ADIE ビットが“1” (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていると、S12ADI0 割り込みを発生します。
- (3) MTU からの TRG4BN トリガでグループ B のスキャンを開始します。
- (4) グループ B のスキャン終了時に ADCSR.GBADIE ビットが“1” (スキャン終了による GBADI 割り込み許可) に設定されていると、GBADI 割り込みを発生します。

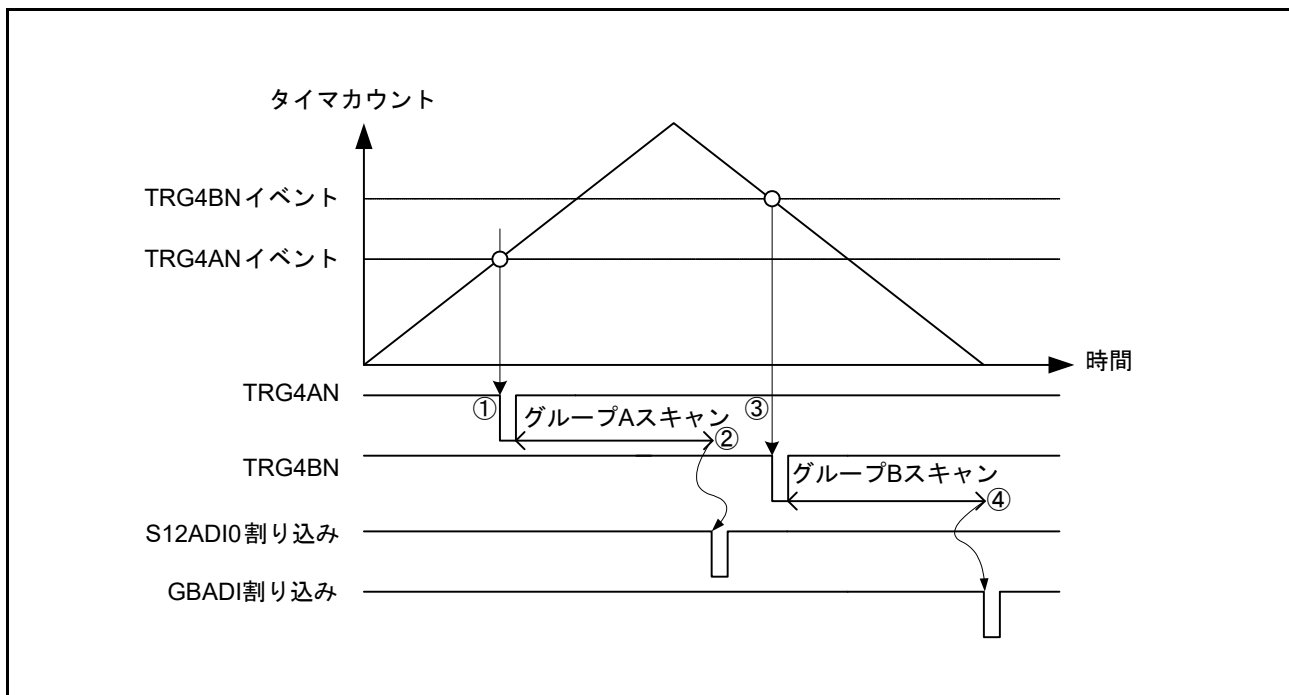


図 35.11 グループスキャンモードの動作例 (MTU からの同期トリガ発生による基本動作)

35.3.4.2 ダブルトリガモード選択時の動作

グループスキャンモードでダブルトリガモードを選択した場合は、グループ A は同期トリガで開始するシングルスキャンモードの実行 2 回分を一連の動作として制御します。グループ B は同期トリガで開始するシングルスキャンモードと同じ動作になります。

グループスキャンモードのトリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットでグループ A の同期トリガを選択し、ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットでグループ B の同期トリガを選択します。グループ A とグループ B の A/D 変換が同時に起こらないように、グループ A とグループ B のトリガは別々のトリガにしてください。また、ソフトウェアトリガ、および非同期トリガは使用しないでください。

A/D 変換対象とするチャンネルは、ADCSR.DBLANS[4:0] ビットでグループ A のチャンネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1 レジスタでグループ B のチャンネルを選択します。グループ A とグループ B で同一のチャンネルを選択することはできません。グループスキャンモード時は温度センサ A/D 変換選択ビット (ADEXICR.TSSA) と内部基準電圧 A/D 変換選択ビット (ADEXICR.OCSA) はともに“0”(非選択)に設定します。

グループスキャンモードでダブルトリガモード選択時は自己診断は選択できません。

A/D 変換データ二重化は、二重化するチャンネルの番号を ADCSR.DBLANS[4:0] ビットに設定し、ADCSR.DBLE ビットを“1”にすると有効となります。

以下に MTU からの同期トリガによるグループスキャンモードかつダブルトリガモード設定時の動作例を示します。グループ A は MTU からの TRG4ABN トリガで変換開始し、グループ B は MTU からの TRG0AN トリガで変換開始する設定です。

- (1) MTU からの TRG0AN トリガでグループ B のスキャンを開始します。
- (2) グループ B のスキャン終了時に ADCSR.GBADIE ビットが“1”(スキャン終了による GBADI 割り込み許可)に設定されていると、GBADI 割り込みを発生します。
- (3) MTU からの 1 回目の TRG4ABN トリガでグループ A の 1 回目のスキャンを開始します。
- (4) グループ A の 1 回目のスキャン終了時は、A/D 変換結果を対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納し、ADCSR.ADIE ビットの設定に関わらず S12ADI0 割り込み要求は発生しません。
- (5) MTU からの 2 回目の TRG4ABN トリガでグループ A の 2 回目のスキャンを開始します。
- (6) グループ A の 2 回目のスキャン終了時は、変換データを ADDBLDR に格納し、ADCSR.ADIE ビットが“1”(スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求を発生します。

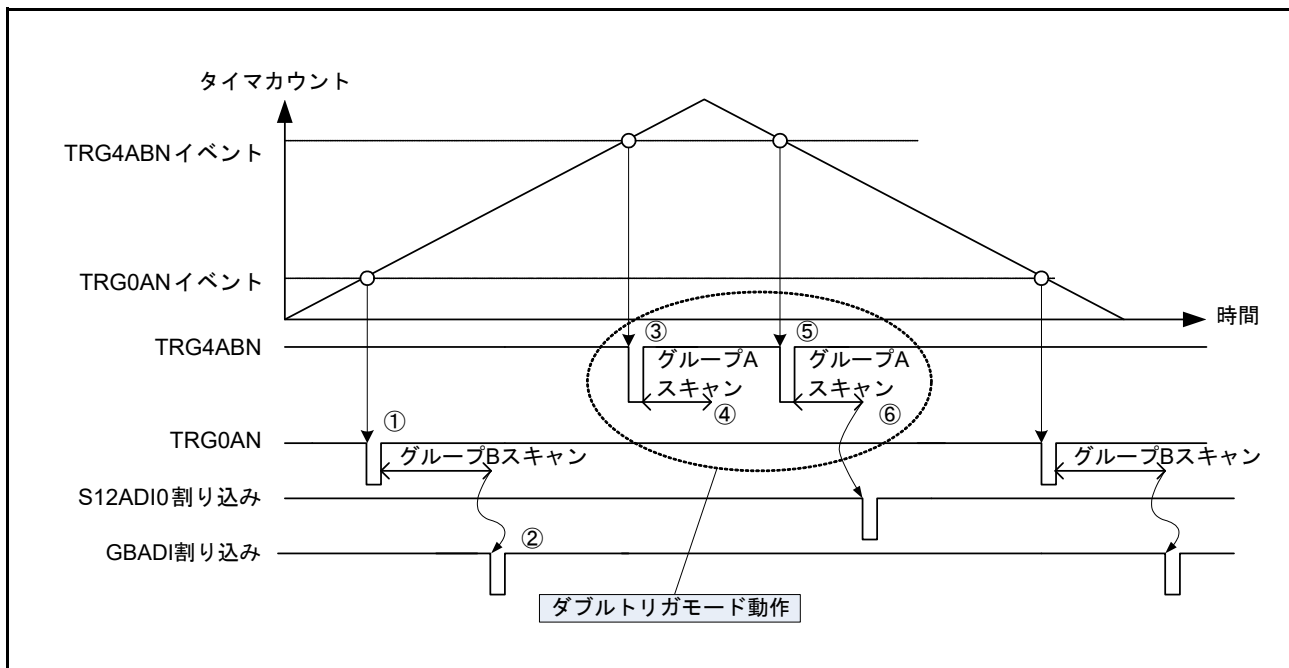


図 35.12 グループスキャンモードでダブルトリガモード選択時の動作例
(MTU からの同期トリガ発生による基本動作)

35.3.4.3 グループ A 優先制御動作

グループスキャンモードで A/D グループスキャン優先コントロールレジスタ (ADGSPCR) の PGS ビットを“1”にすると、グループ A 優先制御動作を行います。ADGSPCR レジスタの PGS ビットを“1”に設定する際は、図 35.13 に記載された手順に従い、設定を実行してください。フロー以外の設定をした場合、A/D 変換の動作および格納されたデータは保証されません。

グループスキャンモードの基本動作では、グループ A、もしくはグループ B の A/D 変換動作中に他方のトリガ入力があっても無視されます。グループ A 優先制御動作では、グループ B の A/D 変換動作中にグループ A のトリガ入力があった場合、グループ B の A/D 変換動作を中断して、グループ A の A/D 変換動作を行います。ADGSPCR.GBRSCN ビットが“0”のときは、グループ A の A/D 変換動作終了後に待機状態となります。ADGSPCR.GBRSCN ビットが“1”のときは、グループ A の A/D 変換動作終了後、自動的にグループ B の A/D 変換動作をスキャン先頭から再開します。ADGSPCR.GBRSCN ビットの設定と A/D 変換動作中のトリガ入力時の動作を表 35.10 に示します。

グループ A とグループ B のスキャン動作は、シングルスキャンモードと同じ動作になります。またグループ B のスキャン動作は、ADGSPCR.GBRP ビットに“1”を設定すると、シングルスキャンを連続して実行する動作になります。

グループスキャンモードのトリガ設定は、ADSTRGR.TRSA[5:0] ビットでグループ A の同期トリガを選択し、ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットでグループ A のトリガとは異なるグループ B の同期トリガを選択してください。ADGSPCR.GBRP ビットに“1”を設定する場合は、ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットは“3Fh”を設定してください。また A/D 変換対象とするチャンネルは、ADANSA0、ADANSA1 レジスタでグループ A のチャンネルを選択し、ADANSB0、ADANSB1 レジスタでグループ A とは異なるグループ B のチャンネルを選択してください。

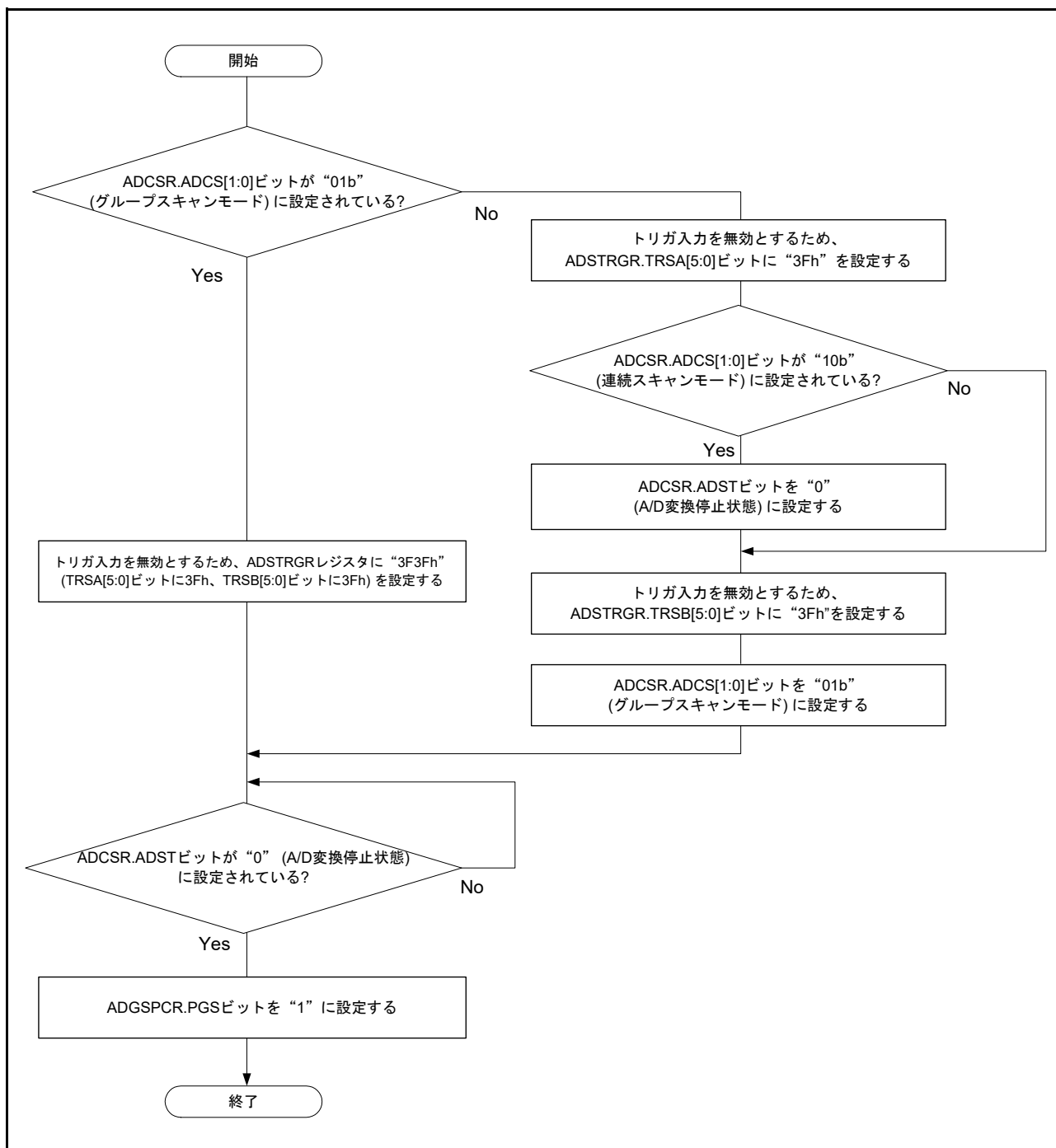


図 35.13 ADGSPCR.PGS ビット設定時のフロー

表 35.10 ADGSPCR.GBRSCNビットの設定によるA/D変換動作制御

A/D変換動作	トリガ入力	ADGSPCR.GBRSCN = 0	ADGSPCR.GBRSCN = 1
グループA のA/D変換動作中	グループAトリガ入力	トリガ入力無効	トリガ入力無効
	グループBトリガ入力	トリガ入力無効	グループAのA/D変換動作終了後、グループBのA/D変換動作を行います。
グループB のA/D変換動作中	グループAトリガ入力	グループBのA/D変換中断し、 グループAのA/D変換動作開始	<ul style="list-style-type: none"> グループBのA/D変換中断し、グループAのA/D変換動作開始 グループAのA/D変換終了後、グループBのA/D変換動作開始
	グループBトリガ入力	トリガ入力無効	トリガ入力無効

以下にグループAにチャンネル0を、グループBにチャンネル1～3を選択したグループスキャンモードグループA優先制御動作の動作例 (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0時) を示します。

- グループBのトリガ入力によってADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- A/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)に格納されます。
- グループBのA/D変換動作中に、グループAのトリガ入力があると、ADCSR.ADSTビットを“0”にクリアし、動作中のA/D変換を中断します。その後、ADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順にA/D変換を開始します。
- 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)に格納されます。
- ADCSR.ADIEビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0割り込み要求を発生します。
- ADSTビットは自動的にクリアされた後、再度、自動的にADCSR.ADSTビットが“1”(A/D変換開始)になると、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択したチャンネルANnのnが小さい番号順に、グループBのA/D変換を再度開始します。
- 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)に格納されます。
- ADCSR.GBADIEビットが“1”(グループBのスキャン終了によるGBADI割り込み許可)に設定されていると、GBADI割り込み要求を発生します。
- ADSTビットはA/D変換中は“1”(A/D変換開始)を保持し、A/D変換が終了すると自動的にクリアされ、A/Dコンバータは待機状態になります。

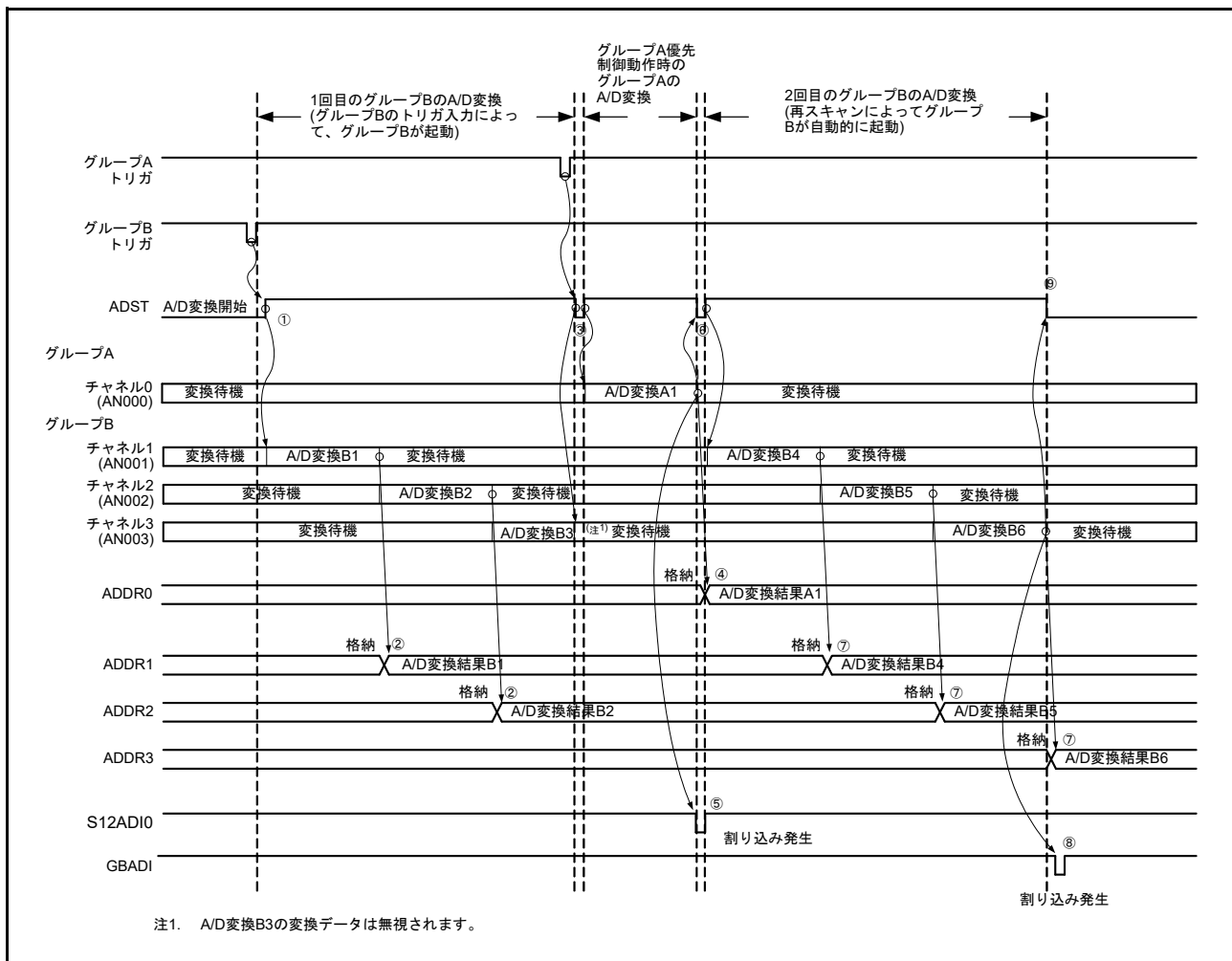


図 35.14 グループ A 優先制御の動作例 (1) (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 時の動作)

次に、グループ B 再スキャン動作時に、再度グループ A のトリガが入力された場合の例として、グループ A 優先制御動作の動作時 (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 時) に、グループ A にチャンネル 0 を、グループ B にチャンネル 1～3 を選択した場合の例を示します。

- (1) グループ B のトリガ入力によって、ADCSR.ADST ビットが“1” (A/D 変換開始) に設定されると、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した、グループ B のチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (2) 1 チャンルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (3) グループ B の A/D 変換動作中に、グループ A のトリガ入力があると、ADCSR.ADST ビットを“0”にクリア (A/D 変換停止) し、動作中のグループ B の A/D 変換を中断します。
- (4) その後、ADCSR.ADST ビットを自動的に“1”にし、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した、グループ A のチャンネル ANn の n が小さい番号順に、グループ A の A/D 変換を開始します。
- (5) 1 チャンルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (6) ADCSR.ADIE ビットが“1” (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求を発生します。
- (7) ADGSPCR.GBRSCN ビットが“1” (再スキャン動作有効) に設定されていると、グループ A の A/D 変換後、グループ B の再スキャン動作により、自動的に ADCSR.ADST ビットが“1”に設定されます。その

- 後、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択した、グループBのチャンネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を再度開始します。
- (8) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)に格納されます。
 - (9) 再スキャン起動によるグループBのA/D変換動作中に、グループAのトリガ入力があると、ADCSR.ADSTビットを“0”にクリア(A/D変換停止)し、動作中のグループBのA/D変換を中断します。
 - (10) その後、ADCSR.ADSTビットを自動的に“1”にし、ADANSA0、ADANSA1レジスタで選択した、グループAのチャンネルANnのnが小さい番号順に、グループAのA/D変換を開始します。
 - (11) 1チャンネルのA/D変換が終了すると、A/D変換結果は対応するA/Dデータレジスタ(ADDRy)に格納されます。
 - (12) ADCSR.ADIEビットが“1”(スキャン終了によるS12ADI0割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0割り込み要求を発生します。
 - (13) ADGSPCR.GBRSCNビットが“1”(再スキャン動作有効)に設定されていると、グループAのA/D変換後、グループBの再スキャン動作により、自動的にADCSR.ADSTビットが“1”に設定されます。その後、ADANSB0、ADANSB1レジスタで選択した、グループBのチャンネルANnのnが小さい番号順に、A/D変換を再度開始します。
 - (14) 再スキャン起動によるグループBのA/D変換中に、グループAのトリガ入力があると、(9)～(13)を繰り返し実行します。グループAのトリガ入力がない場合は、グループBのA/D変換が終了するとADCSR.ADSTビットが自動的にクリアされ、12ビットA/Dコンバータは待機状態になります。

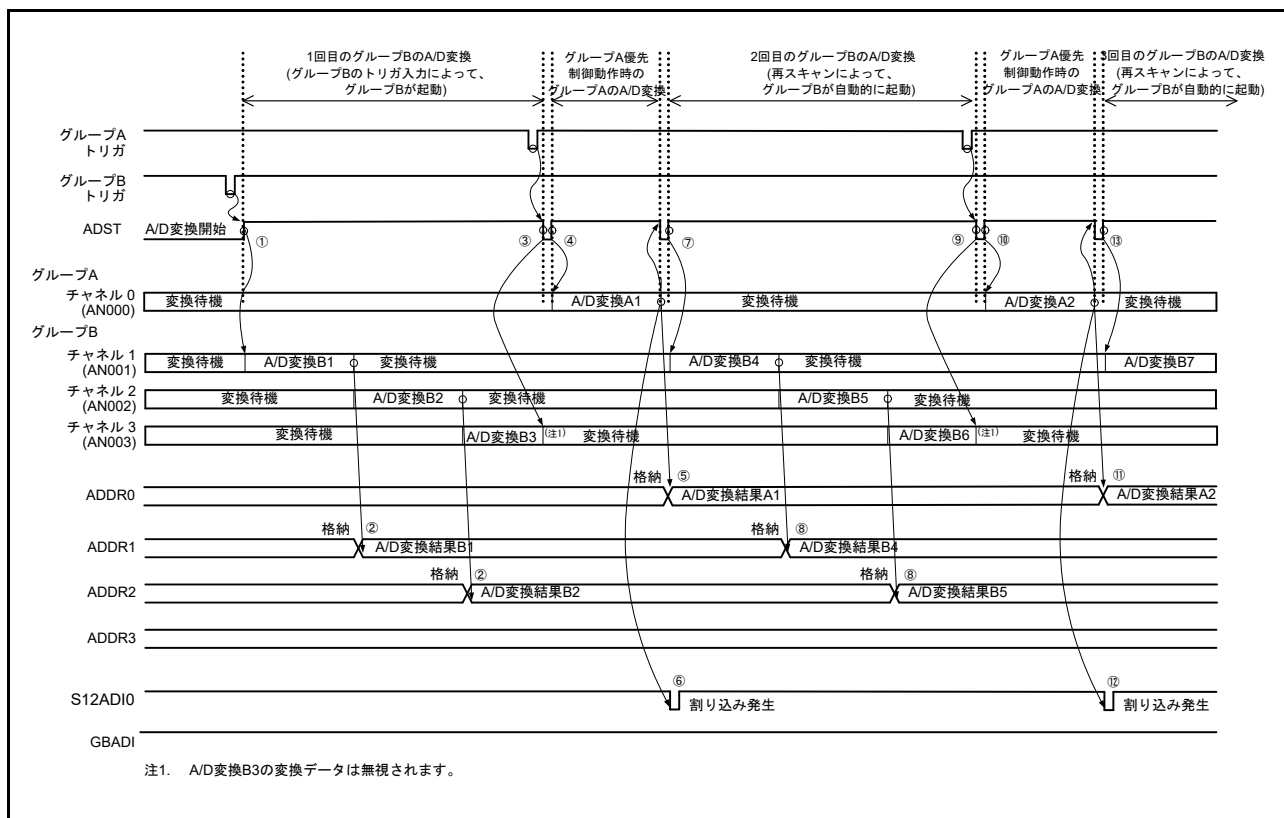


図 35.15 グループ A 優先制御の動作例 (2) (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 時の動作)

次に、グループ A の A/D 変換動作中に、グループ B のトリガが入力された場合の、再スキャン動作の例として、グループ A 優先制御動作の動作時 (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 時) に、グループ A にチャンネル 1 ~ 3 を、グループ B にチャンネル 0 を選択した場合の例を示します。

- (1) グループ A のトリガ入力によって、ADCSR.ADST ビットが“1”(A/D 変換開始)になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択した、グループ A のチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (2) 1 チャンネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (3) グループ A の A/D 変換動作中に、グループ B のトリガ入力があると、グループ A の A/D 変換終了後に、グループ B の A/D 変換を実行できる状態となります。(ただし、グループ A のトリガが連続で入力された場合、グループ B の再スキャン動作は、グループ A に打ち消され、実施されません)
- (4) グループ A のスキャン終了後、ADCSR.ADIE ビットが“1”(スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可)に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求を発生します。
- (5) グループ A のスキャン終了後、グループ B の再スキャン起動により、自動的に ADCSR.ADST ビットが“1”に設定されます。
その後、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択した、グループ B のチャンネル ANn の n が小さい番号順に、A/D 変換を再度開始します。
- (6) 1 チャンネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (7) 再スキャン起動による、グループ B のスキャン終了後、ADCSR.GBADIE ビットが“1”(スキャン終了による GBADI 割り込み許可)に設定されていると、GBADI 割り込み要求を発生します。
- (8) ADST ビットは A/D 変換中は“1”(A/D 変換開始)を保持し、A/D 変換が終了すると、自動的にクリアされ、A/D 変換器は待機状態になります。

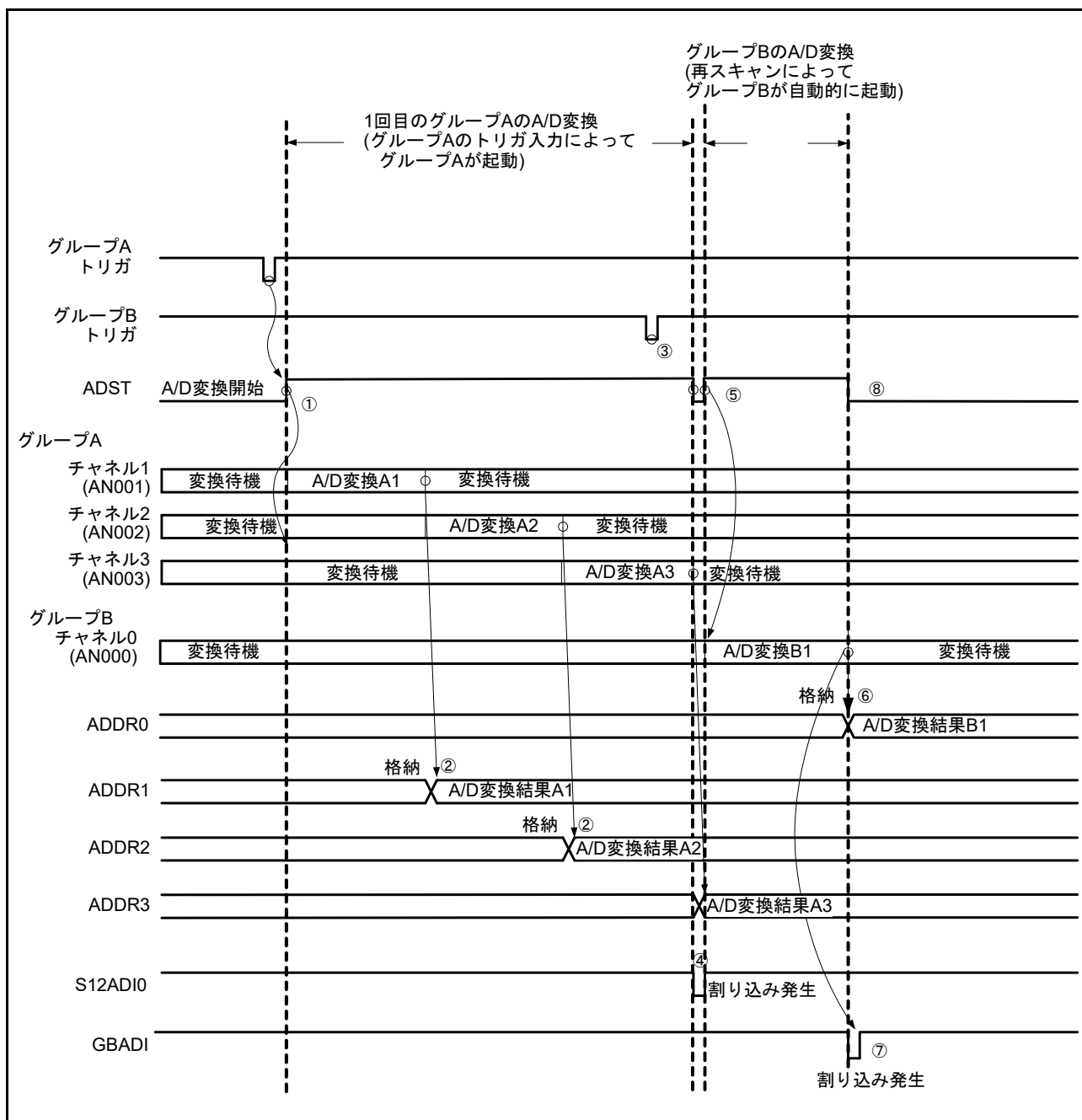


図 35.16 グループ A 優先制御の動作例 (3) (ADGSPCR.GBRSCN = 1、ADGSPCR.GBRP = 0 時の動作)

以下にグループ A にチャンネル 0 を、グループ B にチャンネル 1～3 を選択したときのグループ A 優先制御の動作例 (ADGSPCR.GBRSCN = 0, ADGSPCR.GBRP = 0) を示します。

- (1) グループ B のトリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが“1” (A/D 変換開始) になると、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (2) 1 チャンルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (3) グループ B の A/D 変換動作中に、グループ A のトリガ入力があると、ADCSR.ADST ビットを“0”にクリアし、動作中の A/D 変換を中断します。その後、ADCSR.ADST ビットが自動的に“1” (A/D 変換開始) になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (4) 1 チャンルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (5) ADCSR.ADIE ビットが“1” (スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求を発生します。
- (6) ADST ビットは A/D 変換中は“1” (A/D 変換開始) を保持し、A/D 変換が終了すると自動的にクリアされ、A/D 変換器は待機状態になります。

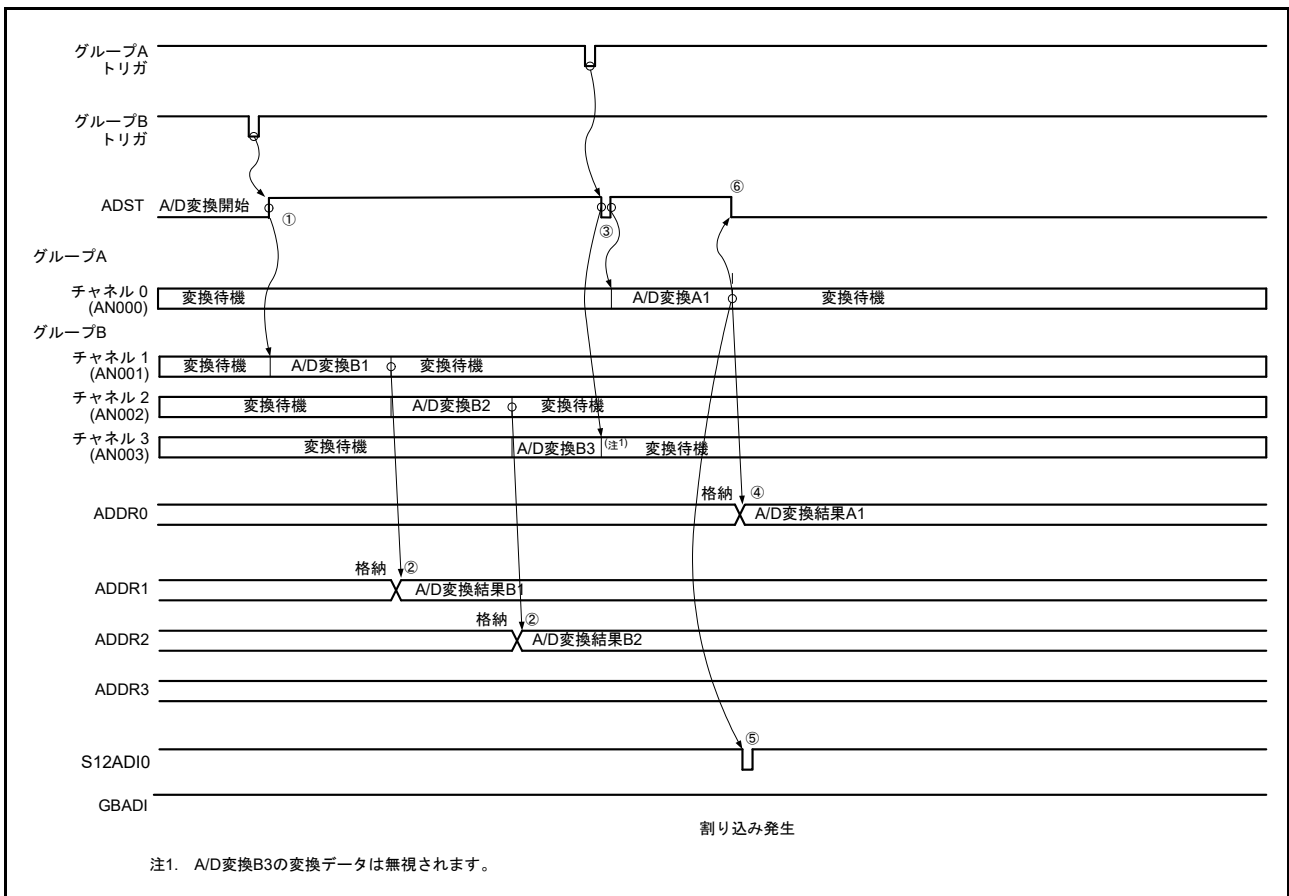


図 35.17 グループ A 優先制御の動作例 (4) (ADGSPCR.GBRSCN = 0, ADGSPCR.GBRP = 0 時の動作)

以下にグループ A にチャンネル 0 を、グループ B にチャンネル 1～3 を選択したときの、グループ A 優先制御の動作例 (ADGSPCR.GBRP = 1) を示します。

- (1) ADGSPCR.GBRP = 1 を設定すると、ADCSR.ADST ビットが“1”(A/D 変換開始) に設定され、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (2) 1 チャンネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (3) グループ B の A/D 変換動作中に、グループ A のトリガ入力があると、ADCSR.ADST ビットを“0”にクリアし、動作中の A/D 変換を中断します。その後、ADCSR.ADST ビットが自動的に“1”(A/D 変換開始) になると、ADANSA0、ADANSA1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を開始します。
- (4) 1 チャンネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (5) ADCSR.ADIE ビットが“1”(スキャン終了による S12ADI0 割り込み許可) に設定されていると、S12ADI0 割り込み要求を発生します。
- (6) ADST ビットを自動的にクリアした後、再度、ADCSR.ADST ビットが自動的に“1”(A/D 変換開始) になると、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を再度開始します。
- (7) 1 チャンネルの A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDRy) に格納されます。
- (8) ADCSR.GBADIE ビットが“1”に設定されていると、GBADI 割り込み要求を発生します。
- (9) ADST ビットを自動的にクリアした後、再度、自動的に ADCSR.ADST ビットを“1”(A/D 変換開始) に設定して、ADANSB0、ADANSB1 レジスタで選択したチャンネル ANn の n が小さい番号順に A/D 変換を再度開始します。ADGSPCR.GBRP ビットが“1”に設定されている間は、(6)～(9)の動作を繰り返します。ADGSPCR.GBRP ビットが“1”に設定されている間は、ADCSR.ADST ビットを“0”にクリアしないでください。ADGSPCR.GBRP = 1 のとき、A/D 変換を強制停止させるには、「35.8.2 A/D 変換停止時の注意事項」に示す ADCSR.ADST ビットによるソフトウェアクリア実行の設定フローの手順に従ってください。

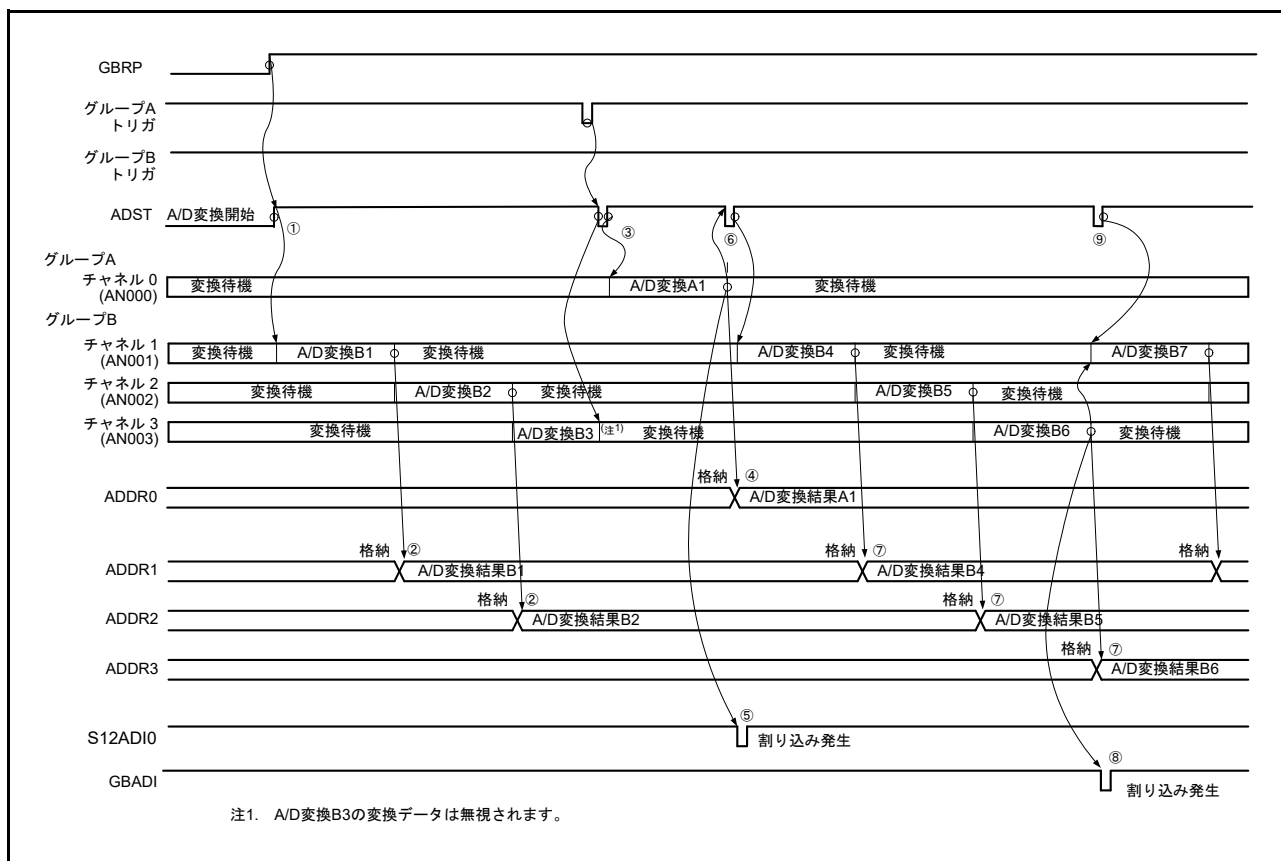


図 35.18 グループ A 優先制御の動作例 (5) (ADGSPCR.GBRP = 1 時の動作)

35.3.5 コンペア機能 (ウィンドウ A、ウィンドウ B)

35.3.5.1 コンペア機能ウィンドウ A/B

コンペア機能は、レジスタに設定した基準値と A/D 変換結果を比較する機能で、ウィンドウ (A/B) 毎に基準値を設定できます。コンペア機能使用時は、自己診断機能、ダブルトリガモードは使用できません。ウィンドウ A とウィンドウ B の大きな違いは、ウィンドウ B が選択可能なチャンネルが 1 つであること、割り込み出力信号が異なることです。

連続スキャンモードとコンペア機能を組み合わせた場合の動作を以下に示します。

- (1) ソフトウェア、同期トリガまたは非同期トリガ入力によって ADCSR.ADST ビットが“1” (A/D 変換開始) になると、選択されたチャンネルの A/D 変換を開始します。
- (2) A/D 変換が終了すると、A/D 変換結果は対応する A/D データレジスタ (ADDR_y, ADTSDR, ADOCDR) に格納されます。ADCMPCR.CMPAE = 1 のとき、ADCMPANSR0、ADCMPANSR1、ADCMPANSER レジスタでウィンドウ A 対象に設定されていれば、ADCMPCR0、ADCMPCR1 レジスタ設定値と比較されます。ADCMPCR.CMPBE = 1 のとき、ADCMPBNSR レジスタで、ウィンドウ B 対象に設定されていれば、ADWINULB/ADWINLLB レジスタ設定値と比較されます。
- (3) 比較の結果、ウィンドウ A は、ADCMPLR0、ADCMPLR1、ADCMPLER レジスタで設定した条件と一致したときコンペアウィンドウ A のフラグ (ADCMPSR0.CMPSTCHA0n, ADCMPSR1.CMPSTCHA1n, ADCMPSER.CMPSTTSA, ADCMPSER.CMPSTOCA) が“1”にセットされます。同様に、ウィンドウ B は、ADCMPBNSR.CMPPLB で設定した条件と一致したとき、コンペアウィンドウ B フラグ (ADCMPBSR.CMPSTB) が“1”にセットされます。
- (4) 選択されたすべての A/D 変換と比較が終了すると、再びスキャンを行います。
- (5) ADCSR.ADST ビットを“0” (A/D 変換停止) に設定し、コンペアフラグが“1”になっているチャンネルに対する処理を実行します。
- (6) 処理終了後、すべてのコンペアフラグをクリアしてください。再度コンペアを実行する場合には、再度 A/D 変換を開始してください。

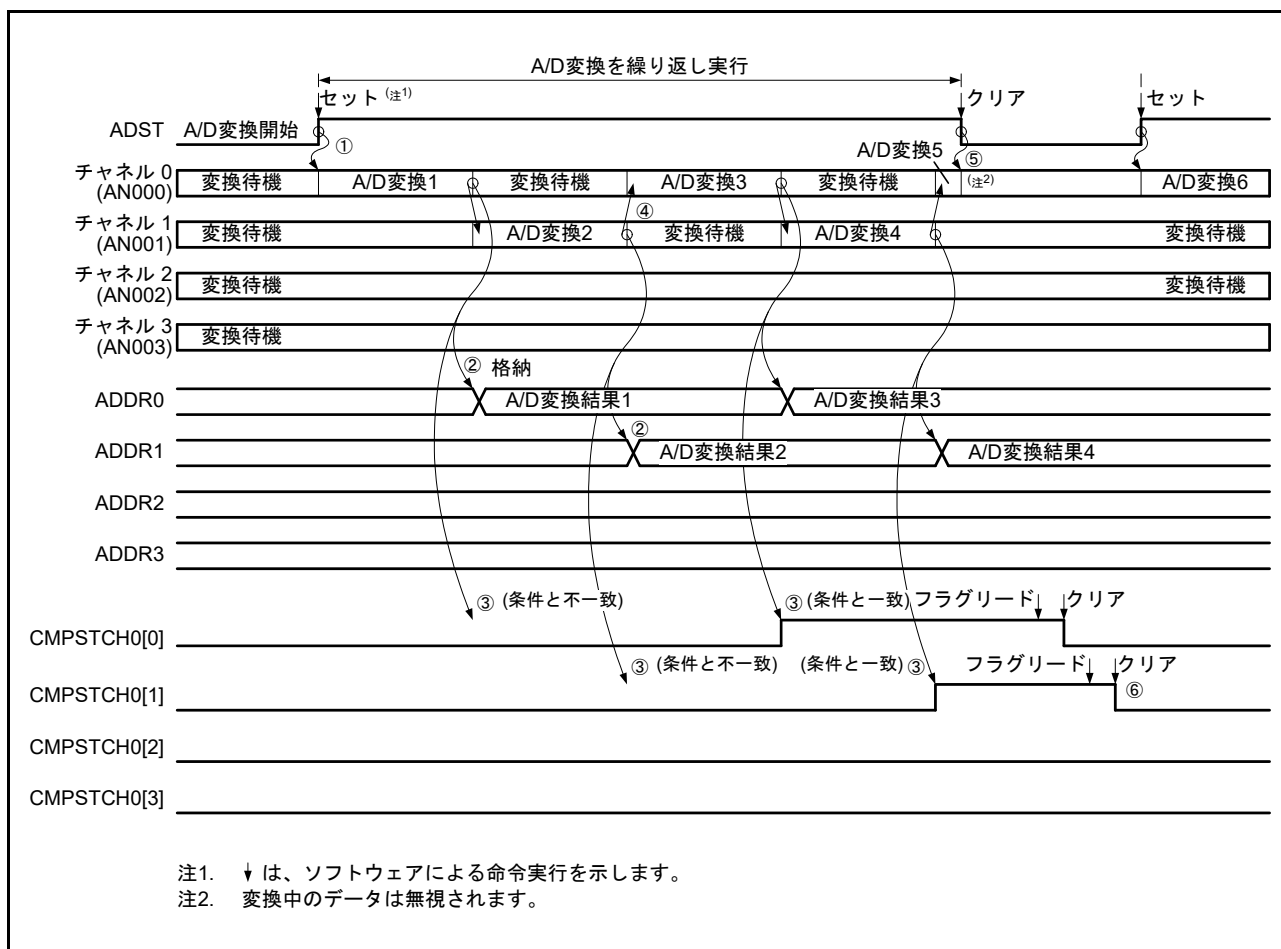


図 35.19 コンペア機能の動作例 (AN000、AN001、AN002、AN003 コンペア対象)

35.3.5.2 コンペア機能の ELC 出力

コンペア機能の ELC 出力は、ウィンドウ A/B それぞれに High 側、Low 側の基準値を指定し、選択したチャンネルの A/D 変換値を High/Low 基準値と比較して、ウィンドウ A と B の比較条件成立 / 不成立結果からイベント条件 (A or B, A and B, A exor B) に応じて ELC イベント (S12ADWMELC/S12ADWUMELC) を出力します。

ウィンドウ A で複数チャンネルを選択した場合は、いずれか一つのチャンネルの比較条件成立で、ウィンドウ A は比較条件成立となります。

本機能を使用する場合はシングルスキャンモードで A/D 変換してください。

ウィンドウ A には、AN000 ~ AN008、AN016 ~ AN021、AN024 ~ AN026、温度センサ出力、内部基準電圧の中から任意のチャンネルを選択することができます。ただし、内部基準電圧か温度センサ出力を選択する時は他のチャンネルと同時に選択することはできません。ウィンドウ B には、AN000 ~ AN008、AN016 ~ AN021、AN024 ~ AN026、温度センサ出力、内部基準電圧の中から一つのチャンネルを選択することができます。

以下に本機能を用いる場合の設定手順を示します。通常のシングルスキャンモードでの A/D 変換に必要な設定手順は省きます。

- (1) ADCSR.ADCS[1:0] ビットは“00b”(シングルスキャンモード)であることを確認してください。
- (2) ADCMPANSR0、ADCMPANSR1、ADCMPANSER レジスタでウィンドウ A、ADCMPBNSR レジスタでウィンドウ B に使用するチャンネル (AN000 ~ AN008、AN016 ~ AN021、AN024 ~ AN026、温度センサ、内部基準電圧) を選択してください。
- (3) ADCMPLR0、ADCMPLR1、ADCMPLER、ADCMPBNSR レジスタでウィンドウコンペアの比較条件を設定し、ADCMPDR0、ADCMPDR1、ADWINULB/ADWINLLB レジスタで上限 / 下限基準値の設定を行ってください。
- (4) ADCMPDR レジスタで、ウィンドウ A/B の複合条件設定、ウィンドウ A/B 動作許可、割り込み出力許可を設定してください。1 回のシングルスキャンが終了するタイミングで ELC へのスキャン終了イベント (S12ADELC) が出力されます。また、ADCMPDR.CMPAB[1:0] の設定により、マッチ / アンマッチイベント (S12ADWMELC/S12ADWUMELC) が 1 PCLKB 遅れて出力されます。
マッチ / アンマッチイベントは排他出力で、同時にイベント両方を出力することはありません。

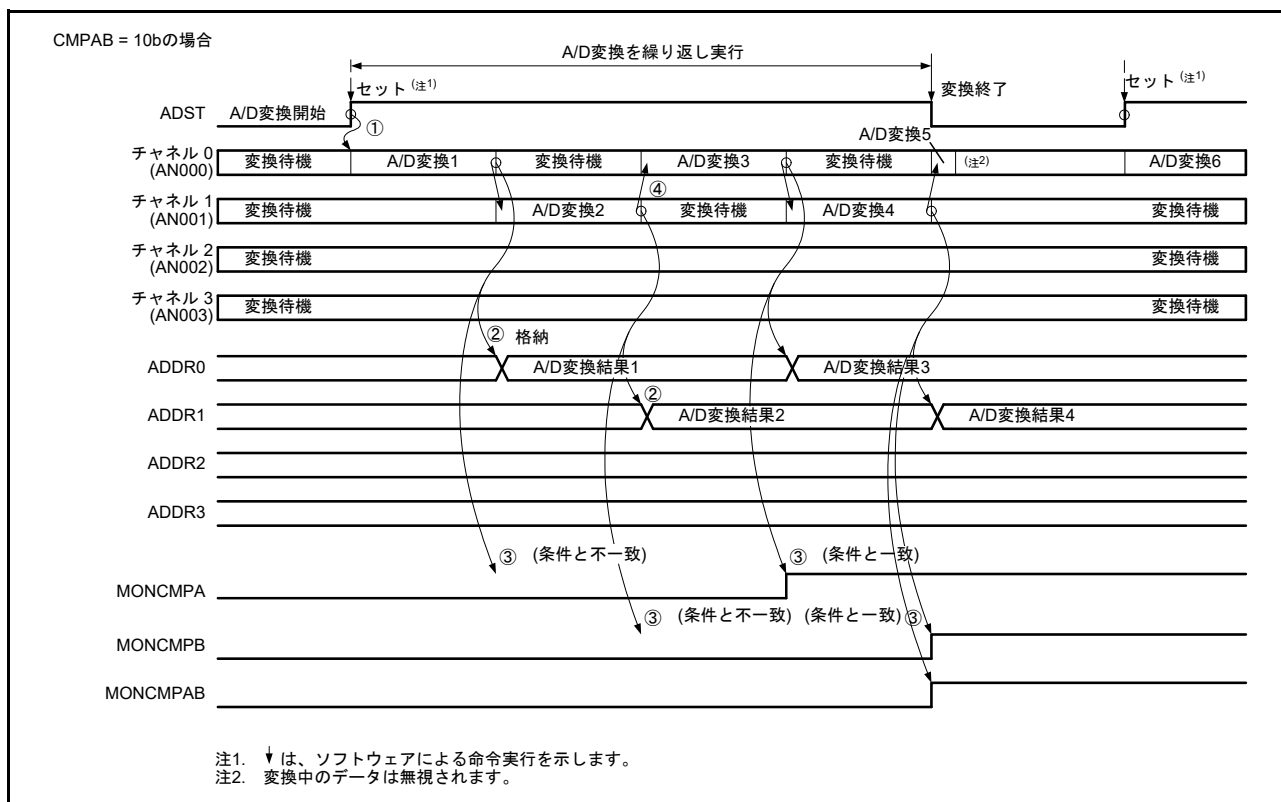


図 35.20 ウィンドウコンペア機能の動作例 (AN000、AN001、AN002、AN003 コンペア対象)

35.3.5.3 データ格納バッファの使用方法

S12ADEは、A/Dデータ格納バッファ16個からなるリングバッファ機能を有しており、コンペア機能使用時に、自己診断以外のA/D変換結果(加算/平均結果含む)を順番にデータ格納バッファ(ADBUFn(n=0~15))に格納します。

変換結果の格納タイミングは、A/D変換結果がデータレジスタに書き込まれるのと同時で、直近の16回分の変換データが保有されます。

以下にデータ格納バッファとポインタ、オーバーフローフラグの動作概要図を示す。BUFENビットを“1”にセットすると、A/D変換終了毎にA/D変換結果が転送される。ポインタの指し示す番号は次のデータが転送されてきた時にデータが書き込まれるデータ格納バッファの番号です。バッファ15までデータが書き込まれると、ポインタは“0000b”に戻り、オーバーフローフラグが“1”になります。その後続けて転送されてきたデータは以前に書き込まれたデータを上書きしていきます。ADBUFPTRレジスタに“00h”を書き込むとポインタとオーバーフローフラグは初期値に戻ります。

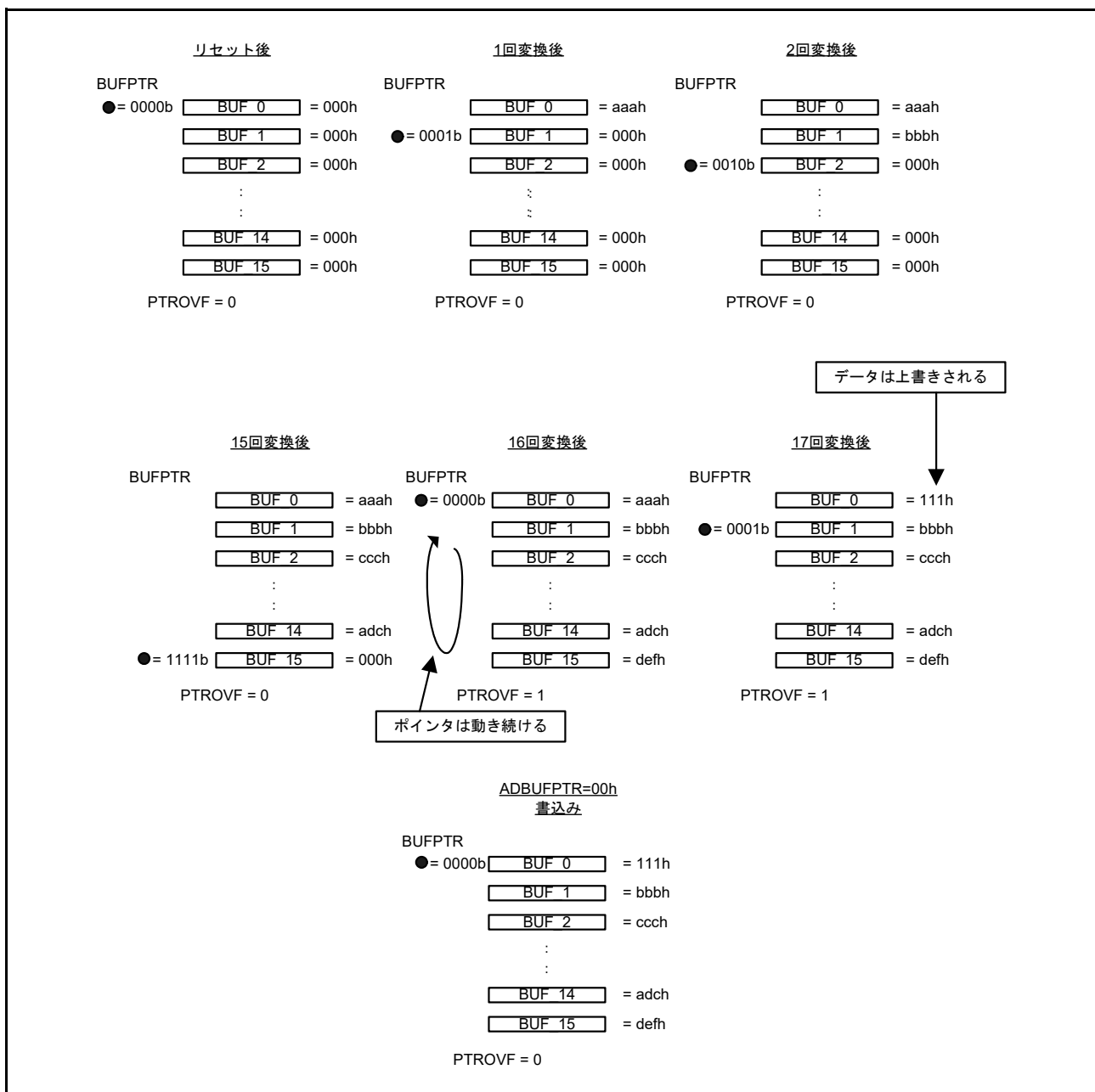


図 35.21 データ格納バッファとポインタ、オーバーフローフラグの動作概要

35.3.5.4 コンペア機能制約

コンペア機能には、以下の制約条件があります。

1. 自己診断機能、ダブルトリガモードは併用禁止です
(ADRD、ADDBLDR レジスタはコンペア機能対象外です。)
2. マッチ/アンマッチイベント出力を使用する場合は、シングルスキャンモードを設定してください。
3. ウィンドウ A で温度センサか内部基準電圧選択時は、ウィンドウ B の動作は禁止です。
4. ウィンドウ B で温度センサか内部基準電圧選択時は、ウィンドウ A の動作は禁止です。
5. ウィンドウ A とウィンドウ B で同一チャンネルは設定禁止です。
6. バッファ機能を使用する場合は、シングルスキャンモードを設定してください。
(ダブルトリガモードも併用禁止です)
7. High 側基準値 \geq Low 側基準値となるように設定してください。

35.3.6 アナログ入力のサンプリング時間とスキャン変換時間

スキャン変換は、ソフトウェア、同期トリガまたは非同期トリガ入力による起動が選択できます。スキャン変換開始遅延時間 (t_D) の後に、断線検出アシスト処理、自己診断変換処理を行い、この後に A/D 変換処理が開始されます。

図 35.22 にシングルスキャンモード、ソフトウェア起動と同期トリガ起動によるスキャン変換を行う場合のタイミングを示します。また、図 35.23 にシングルスキャンモード、非同期トリガ起動によるスキャン変換を行う場合のタイミングを示します。スキャン変換時間 (t_{SCAN}) はスキャン変換開始遅延時間 (t_D)、断線検出アシスト処理時間 (t_{DIS}) (注 1)、自己診断変換時間 (t_{DIAG}) (注 2)、A/D 変換処理時間 (t_{CONV})、スキャン変換終了遅延時間 (t_{ED}) を含めた時間となります。

A/D 変換処理時間 (t_{CONV}) は、サンプリング時間 (t_{SPL})、逐次変換時間 (t_{SAM}) を合わせた時間となります。サンプリング時間 (t_{SPL}) は、A/D コンバータ内のサンプルホールド回路に電荷を充電するための時間です。アナログ入力の信号源インピーダンスが高くサンプリング時間が不足する場合や、A/D 変換クロック (ADCLK) が低速の場合には ADSSTRn レジスタでサンプリング時間を調整することができます。

逐次変換時間 (t_{SAM}) は、高速変換動作時で 32 ステート (ADCLK)、低電流変換動作時で 41 ステート (ADCLK) となります。スキャン変換時間を表 35.11 に示します。

選択チャンネル数が n のシングルスキャンのスキャン変換時間 (t_{SCAN}) は、次のように表されます。

$$t_{SCAN} = t_D + (t_{DIS} \times n) + t_{DIAG} + (t_{CONV} \times n) \text{ (注 3)} + t_{ED}$$

連続スキャンの 1 サイクル目は、シングルスキャンの t_{SCAN} から t_{ED} を省いた時間です。

連続スキャンの 2 サイクル目以降は、 $(t_{DIS} \times n) + t_{DIAG} + t_{DSD} + (t_{CONV} \times n)$ となります。

- 注 1. 断線検出アシストを設定しない場合は、 $t_{DIS} = 0$ となります。温度センサ、内部基準電圧を A/D 変換する場合に限り、オートディスチャージ期間 15 ステート (ADCLK) 挿入されます。
- 注 2. 自己診断を設定しない場合は、 $t_{DIAG} = 0$ 、 $t_{DSD} = 0$ となります。
- 注 3. 選択チャンネルのサンプリング時間 (t_{SPL}) が、同一の場合は $t_{CONV} \times n$ となりますが、チャンネルごとに異なる場合は、各チャンネルのサンプリング時間 (t_{SPL}) と逐次変換時間 (t_{SAM}) の総和となります。

表 35.11 スキャンでの各所要時間(ADCLKとPCLKBのサイクル数で示します)

項目			記号	種別/条件			単位	
				同期トリガ (注5)	非同期トリガ	ソフトウェアトリガ		
スキャン開始処理時間 (注1、注2)	グループA優先制御動作によるグループAのA/D変換	グループB中断あり (グループAのA/D変換要因によってグループBを停止させた後、グループAを起動)	t_D	3 PCLKB + 6 ADCLK	—	—	サイクル	
		グループB中断なし (グループAのA/D変換要因によって起動)		2 PCLKB + 4 ADCLK	—	—		
	自己診断有効時のA/D変換	2 PCLKB + 6 ADCLK		4 PCLKB + 6 ADCLK	6 ADCLK			
	上記以外	2 PCLKB + 4 ADCLK		4 PCLKB + 4 ADCLK	4 ADCLK			
断線検出アシスト処理時間			t_{DIS}	ADDISCR.ADNDIS[3:0]設定値 (初期値00h) × ADCLK (注3)				
自己診断変換処理時間 (注1)	サンプリング時間		t_{DIAG}	t_{SPL}	ADSSTR0設定値 (初期値0Dh) × ADCLK (注4)			
	逐次変換時間	12ビット変換精度			t_{SAM}	32 ADCLK (高速変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“0”の時)		
			41 ADCLK (低電流変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“0”の時)					
			22 ADCLK (高速変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“1”の時)					
			28 ADCLK (低電流変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“1”の時)					
	自己診断変換終了後。通常のA/D変換開始時		t_{DED}	2 ADCLK				
連続スキャン時の最終チャネル変換終了後、自己診断変換開始時		t_{DSD}	2 ADCLK					
A/D変換処理時間 (注1)	サンプリング時間		t_{CONV}	t_{SPL}	ADSSTRn (n = 0 ~ 8, L, T, O)設定値 (初期値0Dh) × ADCLK (注4)			
	逐次変換時間	12ビット変換精度			t_{SAM}	32 ADCLK (高速変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“0”の時)		
						41 ADCLK (低電流変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“0”の時)		
						22 ADCLK (高速変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“1”の時)		
						28 ADCLK (低電流変換動作かつ変換サイクル選択ビットが“1”の時)		
スキャン終了時間 (注1)			t_{ED}	1 PCLKB + 3 ADCLK (注6)				

- 注1. t_D 、 t_{DIAG} 、 t_{CONV} 、 t_{ED} の各タイミングについては図35.22、図35.23を参照してください。
- 注2. ソフトウェア書き込み、またはトリガ入力からA/D変換開始までの最大時間です。
- 注3. 温度センサ出力/内部基準電圧をA/D変換時は、“0Fh” (15 ADCLK)に固定されます。
- 注4. 電圧条件により必要なサンプリング時間(ns)が規定されています。「42.6 A/D変換特性」を参照ください。
- 注5. タイマ出力からトリガ入力までの経路で消費する時間は含まれていません。
- 注6. ADCLKがPCLKBより高速な場合(PCLKB : ADCLK周波数比 = 1 : 2の設定)では、2 PCLKB + 2 ADCLKになります。

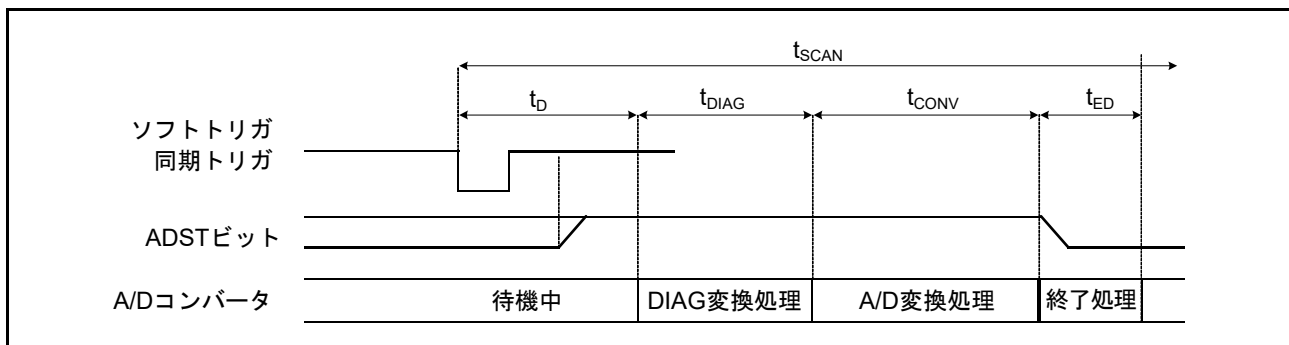


図 35.22 スキャン変換のタイミング (ソフトウェア起動、同期トリガ起動の場合)

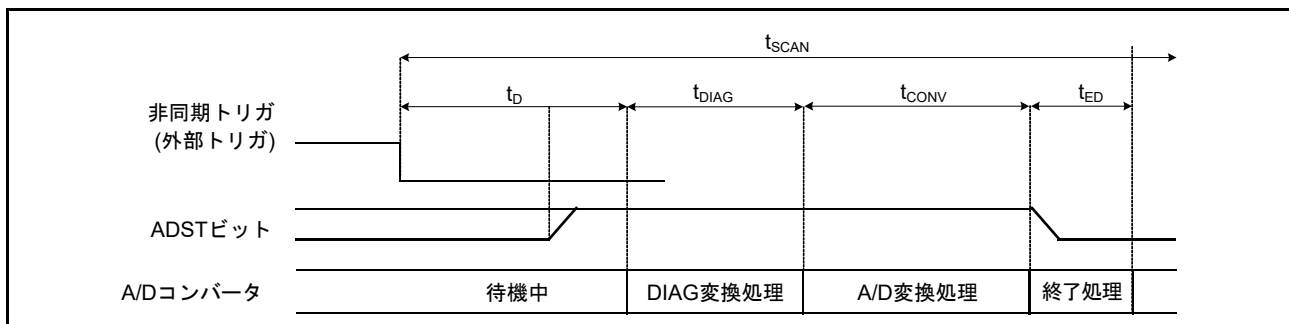


図 35.23 スキャン変換のタイミング (非同期トリガ起動の場合)

35.3.7 A/D データレジスタの自動クリア機能の使用例

ADCER.ACE ビットを“1”にすることにより、CPU、DTC によって A/D データレジスタ (ADDRy, ADDR, ADTSDR, ADOCDR, ADDBLDR) を読み出す際、自動的に ADDRy、ADDR、ADTSDR、ADOCDR、ADDBLDR レジスタを“0000h”にクリアできます。

リングバッファ (ADBUFn (n = 0 ~ 15)) はオートクリア対象外です。

この機能を使うことにより、ADDRy、ADDR、ADTSDR、ADOCDR、ADDBLDR レジスタの未更新故障を検出することができます。以下に ADDRy レジスタの自動クリア機能が無効 / 有効時の例を示します。

ADCER.ACE ビットが“0”(自動クリア禁止)の場合、A/D 変換結果 (0222h) が何らかの原因で ADDRy レジスタに書き込みされなかったとき、古いデータ (0111h) が ADDRy レジスタの値となります。さらに A/D 変換終了割り込みを利用して、この ADDRy レジスタの値を汎用レジスタに読み出した場合、古いデータ (0111h) が汎用レジスタに保存できます。ただし、未更新のチェックを行う場合、古いデータを RAM、汎用レジスタに逐一保持しながらチェックを行う必要があります。

ADCER.ACE ビットが“1”(自動クリア許可)の場合には、ADDRy = 0111h を CPU、DTC により読み出す際、ADDRy レジスタは自動的に“0000h”にクリアされます。その後、A/D 変換結果 (0222h) が ADDRy レジスタに何らかの原因で転送できなかったとき、クリアされたデータ (0000h) が ADDRy レジスタ値として残ります。ここで A/D 変換終了割り込みを利用して、この ADDRy レジスタの値を汎用レジスタなどに読み出した場合、“0000h”が汎用レジスタなどに保持されます。読み出されたデータ値が“0000h”であることをチェックするだけで、ADDRy レジスタの未更新故障があったことを判断できます。

35.3.8 A/D 変換値加算 / 平均機能

A/D 変換値加算機能は、同じチャンネルを 2 ~ 4、16 回連続で A/D 変換し、その変換値の合計をデータレジスタに保持します。A/D 変換値平均機能は、同じチャンネルを 2 回、または 4 回連続で A/D 変換し、その変換値の平均をデータレジスタに保持します。この結果の平均値を使用することで、ノイズ成分によっては A/D 変換精度が良くなります。ただし、A/D 変換精度が良くなることを保証する機能ではありません。

A/D 変換値加算 / 平均機能は、チャンネル選択アナログ入力 A/D 変換、温度センサ出力 A/D 変換、内部基準電圧 A/D 変換選択時に使用できます。

35.3.9 断線検出アシスト機能

A/D 変換開始前に、サンプリング容量の電荷を所定の状態に固定する機能を内蔵しています。この機能により、アナログ入力に接続した配線の断線検出が可能になります。

図 35.24 に断線検出アシスト機能を使用した場合の A/D 変換動作図を示します。また、図 35.25 にプリチャージを選択した場合の断線検出例を、図 35.26 にディスチャージを選択した場合の断線検出例を示します。

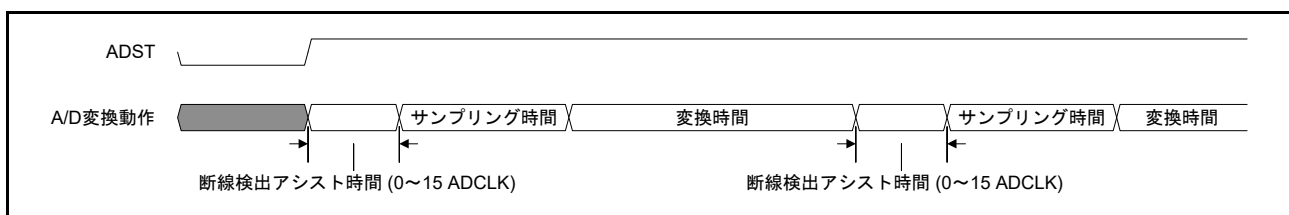


図 35.24 断線検出アシスト機能を使用した場合の A/D 変換動作図

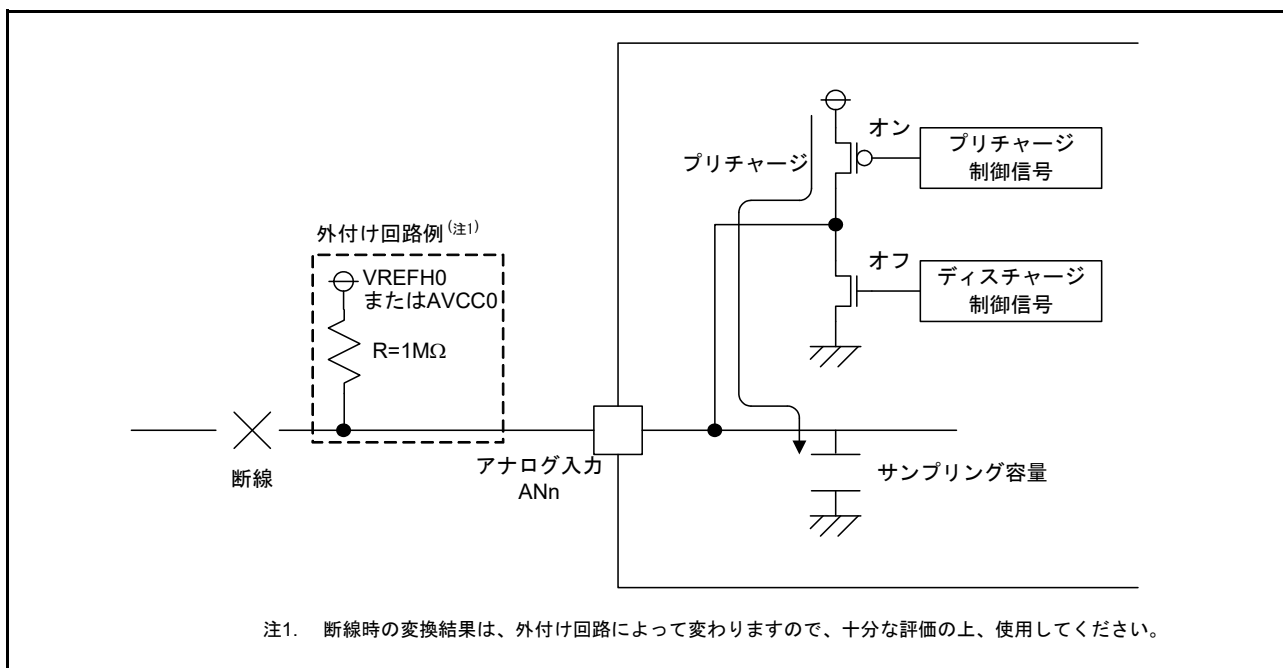


図 35.25 プリチャージを選択した場合の断線検出例

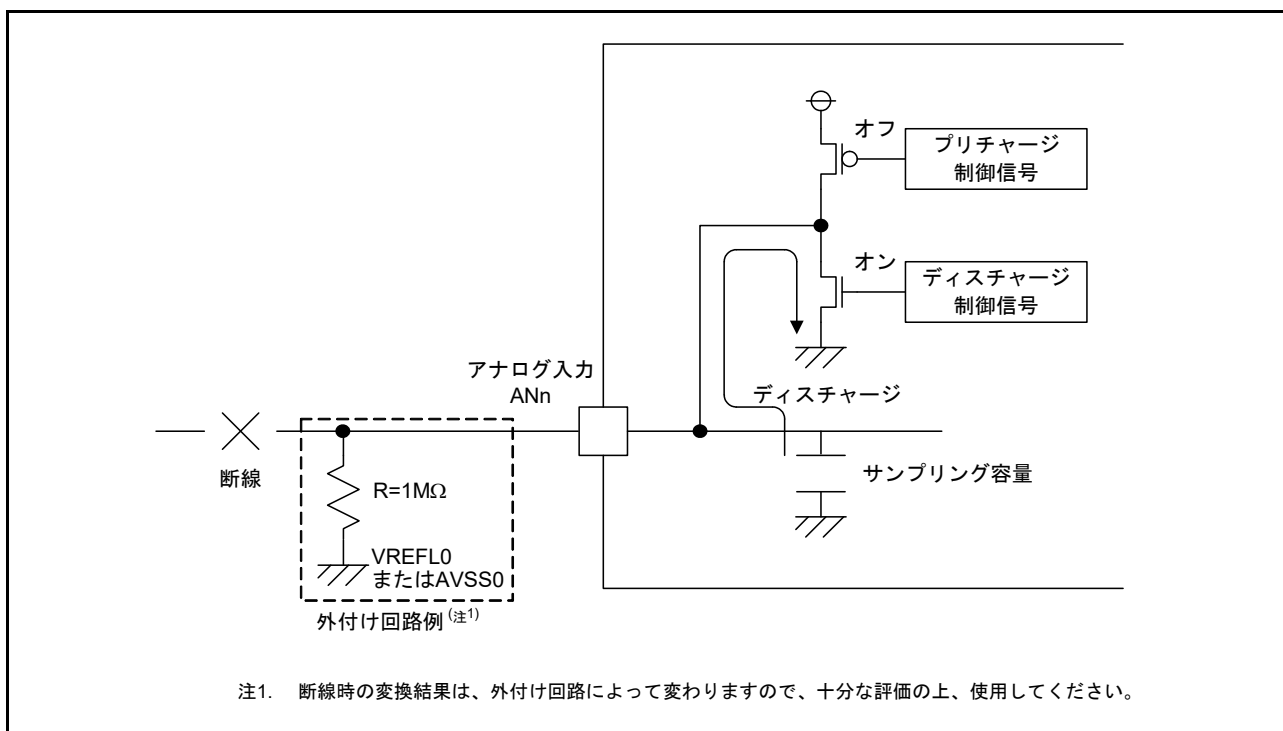


図 35.26 ディスチャージを選択した場合の断線検出例

35.3.10 非同期トリガによる A/D 変換の開始

非同期トリガの入力により A/D 変換を開始することができます。非同期トリガを使用して A/D 変換を開始する場合、A/D 変換開始トリガ選択ビット (ADSTRGR.TRSA[5:0]) を “000000b” に設定し、非同期トリガ (ADTRG0# 端子) に High を入力した後、ADCSR.TRGE ビットを “1”、ADCSR.EXTRG ビットを “1” にします。図 35.27 に非同期トリガ入力タイミングを示します。

ADST ビットが “1” になってから、変換を開始するまでの時間は、「35.8.3 A/D 変換強制停止と開始時の動作タイミング」を参照してください。グループスキャンモードで使用するグループ B は、非同期トリガを選択できません。

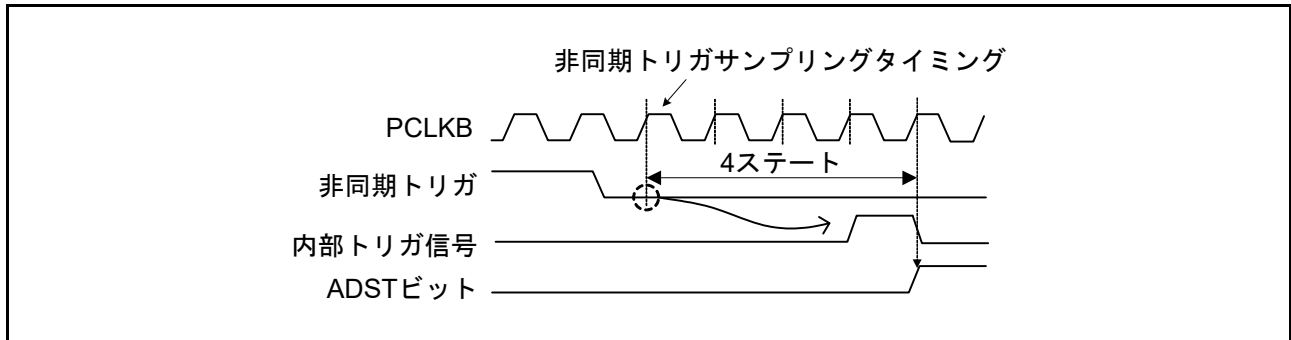


図 35.27 非同期トリガ入力タイミング

35.3.11 周辺モジュールからの同期トリガによる A/D 変換の開始

同期トリガによって、A/D 変換を開始することができます。同期トリガで A/D 変換を開始するときには、ADCSR.TRGE ビットを “1”、ADCSR.EXTRG ビットを “0” とし、ADSTRGR.TRSA[5:0]、ADSTRGR.TRSB[5:0] ビットで該当の A/D 変換開始要因を選択します。

35.4 割り込み要因と DTC 転送要求

35.4.1 割り込み要求

CPU へのスキャン終了割り込み要求である S12ADI0、GBADI 割り込みを発生することができます。

ADCSR.ADIE ビットを “1” にすると S12ADI0 を許可、“0” にすると S12ADI0 を禁止できます。

ADCSR.GBADIE ビットを “1” にすると GBADI を許可、“0” にすると GBADI を禁止できます。

また、S12ADI0、GBADI 発生時に DTC を起動できます。S12ADI0、GBADI 割り込みで変換されたデータの読み出しを DTC で行うと、連続変換がソフトウェアの負担なく実現できます。DTC の設定は「16. データトランスファコントローラ (DTCb)」を参照してください。

35.5 イベントリンク機能

35.5.1 ELC へのイベント出力動作

ELC では、S12ADI0 割り込み要求信号をイベント信号 (S12ADELC) として使用して、あらかじめ設定したモジュールに対してリンク動作が可能です。イベント信号は、イベントリンクコントロールビット (ADELCCR.ELCC[1:0] ビット) で設定した条件で発生します。

イベント信号は該当する割り込み要求許可ビットの設定に関係なく出力することができます。

12ビットA/Dコンバータは、A/D変換終了イベント (S12ADELC)、ウィンドウ機能コンペアマッチイベント (S12ADWMELC)、アンマッチイベント (S12ADWUMELC) を出力します。

ELC へのスキャン終了イベント出力 (S12ADELC) は、ADCSR.ADIE の設定によらず、割り込み出力 (S12ADI0) と同じ出力タイミングでイベントを出力します。

ELC へのコンペアマッチ/アンマッチイベント (S12ADWMELC/S12ADWUMELC) は、ADCSR.ADIE の設定によらず、割り込み出力 (S12ADI0) から 1 サイクル (PCLKB) 遅れたタイミングでイベントを出力します。

ELC へのコンペアマッチ/アンマッチイベント (S12ADWMELC/S12ADWUMELC) を使用する場合は、シングルスキャンモードに設定してください。

35.5.2 ELC からのイベントによる 12ビットA/Dコンバータの動作

12ビットA/DコンバータはELCのELSRnの設定により、あらかじめ設定したイベントによるA/D変換開始動作が可能です。

35.5.3 ELC からのイベントによる 12ビットA/Dコンバータの注意事項

A/D変換中にイベントが発生した場合は、イベントは無効になります。

35.6 基準電圧の選択方法

A/Dコンバータは高電位側基準電圧をVREFH0とAVCC0、低電位側基準電圧をVREFL0とAVSS0からそれぞれ選択することができます。A/D変換前に設定してください。設定の詳細は、「35.2.30 A/D高電位/低電位基準電圧コントロールレジスタ (ADHVREFCNT)」を参照してください。

35.7 許容信号源インピーダンスについて

図 35.28 にアナログ入力端子と外部センサの等価回路を示します。

A/D変換を正しく行うためには、内部コンデンサ (C_s) への充電がサンプリング時間内に終了することが必要です。信号源インピーダンス (R_0) が大きく C_s への充電に時間がかかるときは、ADSSTRn レジスタでサンプリング時間を延長してください。逆に R_0 が小さいときは、サンプリング時間を短縮することができます。電気的特性に各種動作条件下での許容信号源インピーダンスを記載していますので、参考にしてください。

シングルスキャンモードで1端子のみの変換を行う場合、外部に大容量のコンデンサ (C) を接続することにより、入力の負荷が実質的に内部入力抵抗 (R_s) だけになり、 R_0 の影響を無視できるようになります。ただし、 R_0 と C でローパスフィルタが形成されますので、変化の速いアナログ信号には追従できないことがあります。高速のアナログ信号を変換する場合や、スキャンモードで複数端子の変換を行う場合には、低インピーダンスのバッファを入れてください。

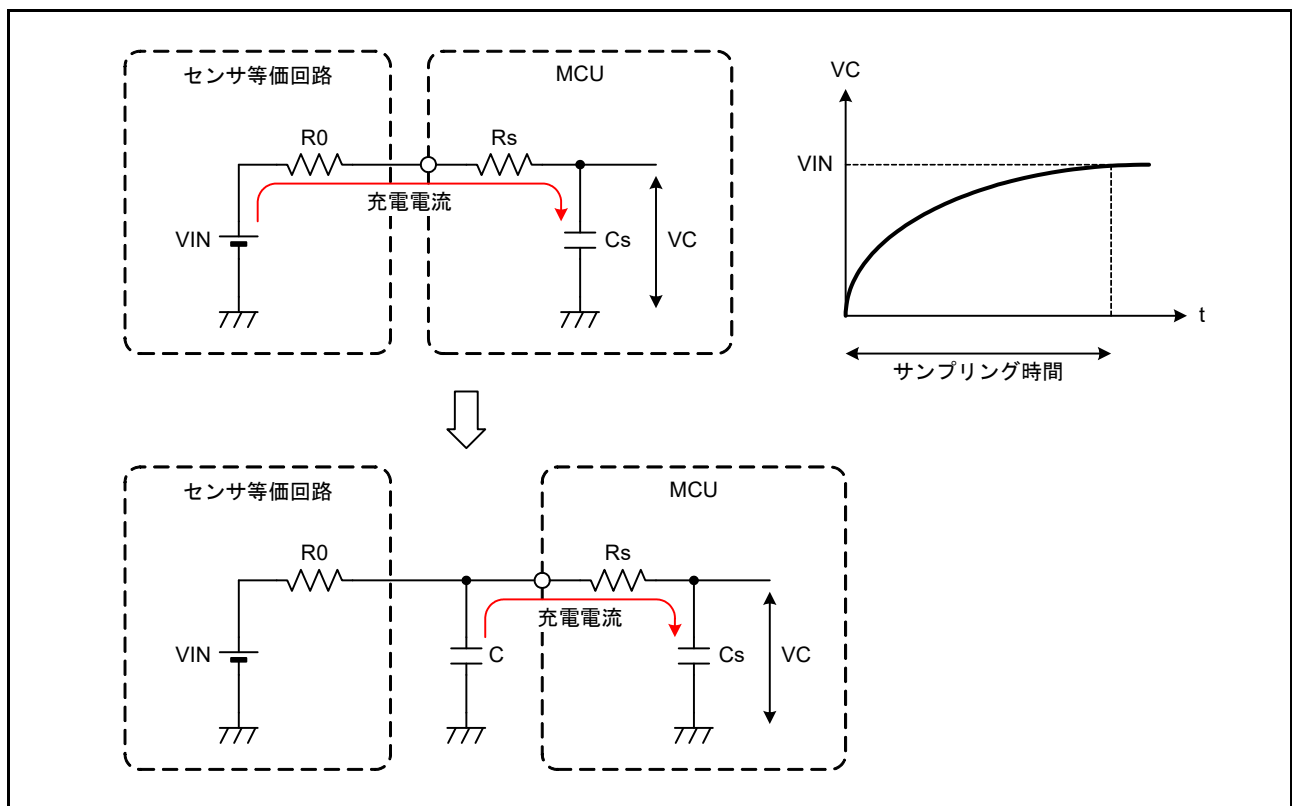


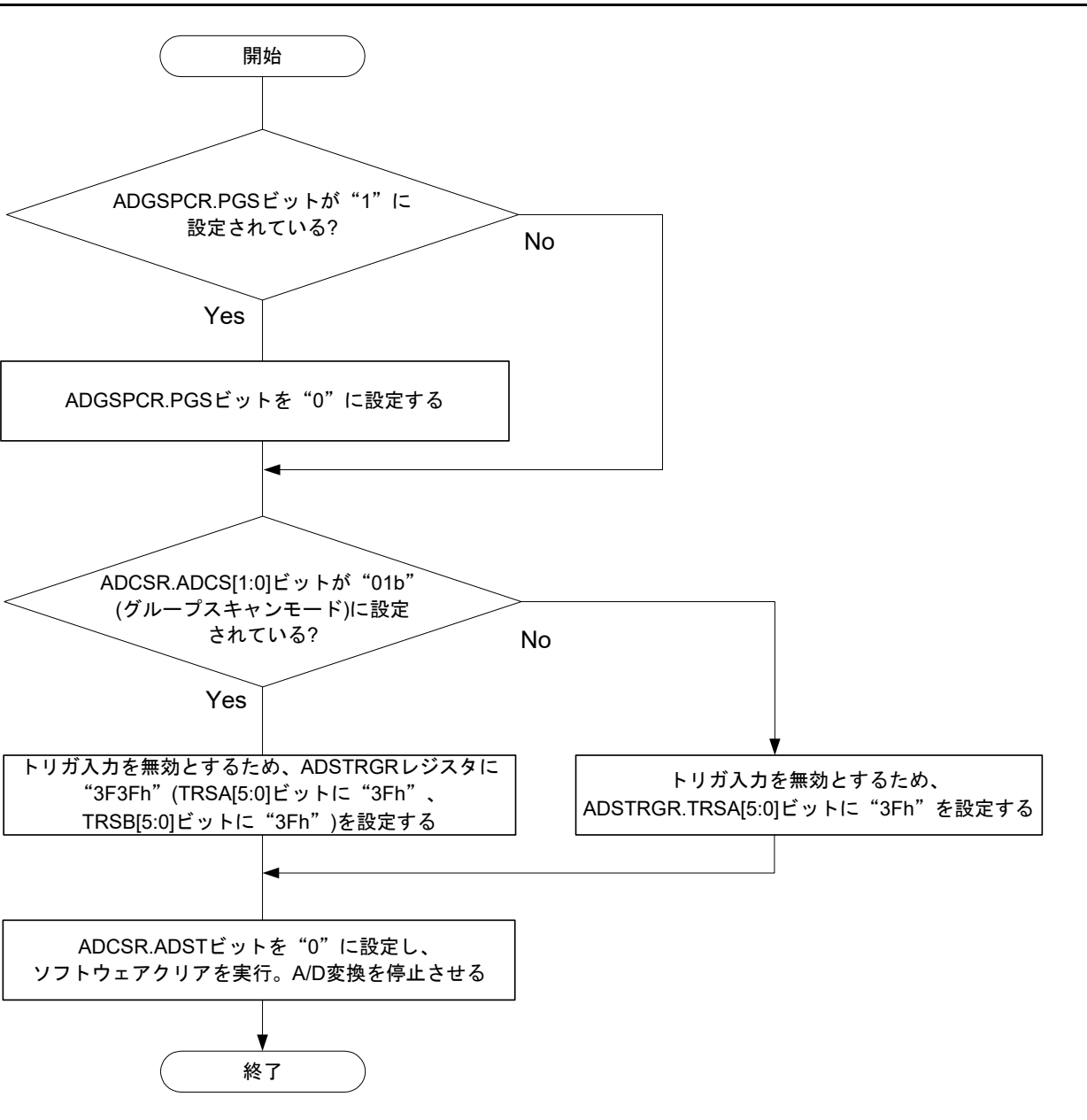
図 35.28 アナログ入力端子と外部センサの等価回路

35.8 使用上の注意事項

35.8.1 データレジスタの読出し注意事項

A/D データレジスタ、A/D データ二重化レジスタ、A/D データ二重化レジスタ A、A/D データ二重化レジスタ B、A/D 温度センサデータレジスタ、A/D 内部基準電圧データレジスタ、および A/D 自己診断データレジスタの読み出しは、ワード単位で行ってください。バイト単位で上位バイト/下位バイトの2回に分けて読み出すことにより、1回目に読み出した A/D 変換値と2回目に読み出した A/D 変換値が変化するため、バイト単位の読み出しは行わないでください。

35.8.2 A/D 変換停止時の注意事項

A/D 変換開始条件に非同期トリガ、または同期トリガを選択している場合、A/D 変換を停止させるためには、 のフローチャートの手順に従ってください。

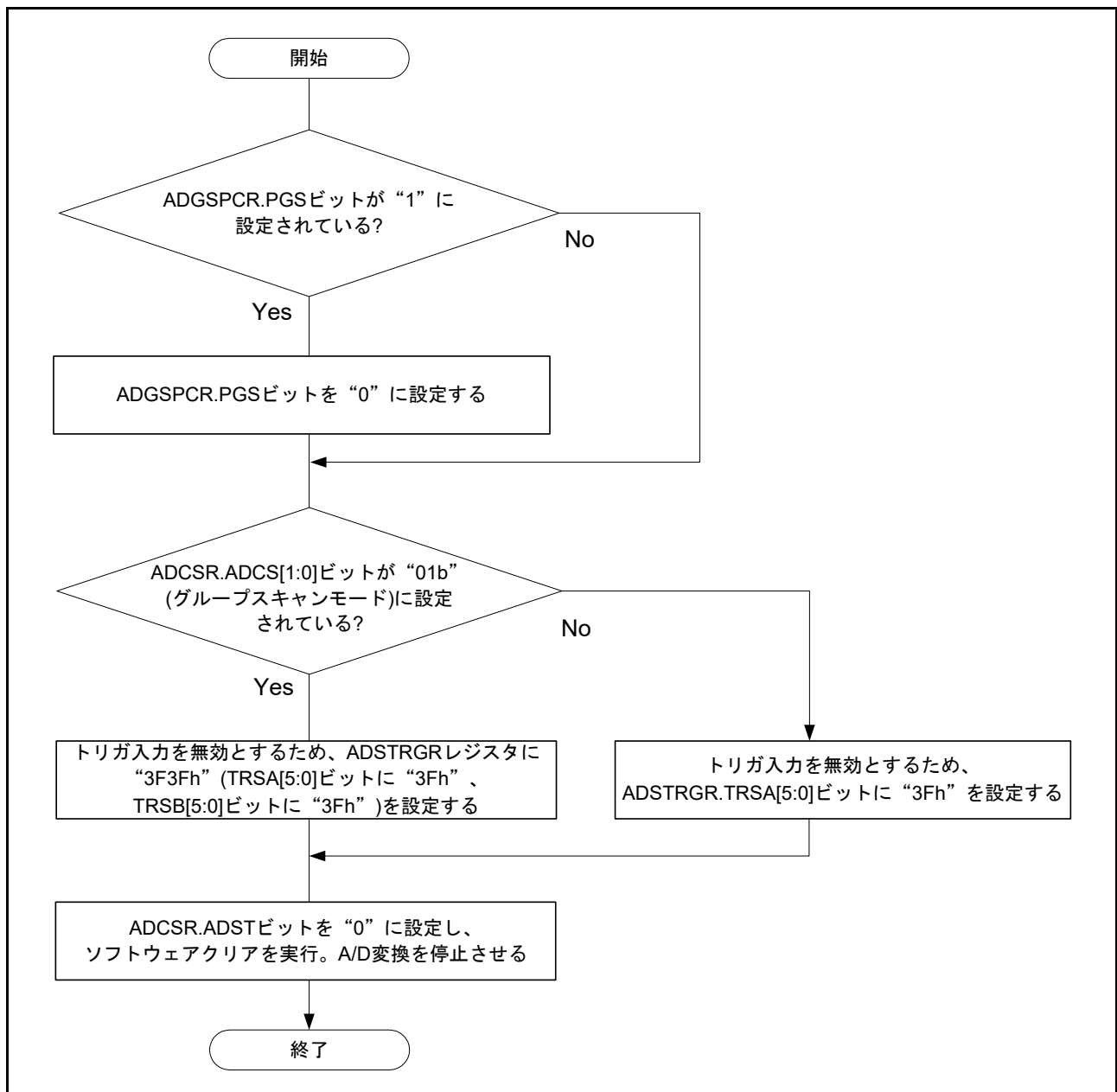


図 35.29 ADCSR.ADST ビットによるソフトウェアクリア実行の設定フロー

35.8.3 A/D変換強制停止と開始時の動作タイミング

12ビットA/Dコンバータのアナログ部が停止した状態で ADCSR.ADST ビットを“1”に設定し12ビットA/Dコンバータのアナログ部が動作を開始するのに ADCLK で最大6クロックの時間を必要とします。ADCSR.ADST ビットを“0”に設定してA/D変換を強制停止させると、12ビットA/Dコンバータのアナログ部が動作を停止するのに、ADCLK で最大3クロック (ADCLK が PCLKB より高速な場合 (PCLKB : ADCLK 周波数比 = 1 : 2 の設定) では、最大1 PCLKB + 2 ADCLK) の時間を必要とします。

35.8.4 スキャン終了割り込み処理の注意事項

トリガ起動による同一アナログ入力のスキャンを2回行う場合等で、1回目のスキャン終了割り込み発生から、2回目のスキャンによる最初のアナログ入力のA/D変換が終了するまでに、CPUがA/D変換データを読み出し終えていなければ、1回目のA/D変換データが2回目のA/D変換データで上書きされます。

35.8.5 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ A (MSTPCRA) により、12ビットA/Dコンバータの動作禁止/許可を設定することが可能です。初期値では、12ビットA/Dコンバータの動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。モジュールストップ状態を解除した後は、1μs 待ってからA/D変換を開始してください。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

35.8.6 低消費電力状態への遷移時の注意

モジュールストップモードやソフトウェアスタンバイモードへ移行する場合は、A/D変換を停止させてください。A/D変換を停止させる際、ADCSR.ADST ビットを“0”に設定後、12ビットA/Dコンバータのアナログ部が停止するまでの時間を確保する必要があります。この時間を確実に確保するために以下の手順で設定してください。

図 35.29 に示す、ADCSR.ADST ビットによるソフトウェアクリア実行の設定フローに従い、ADCSR.ADST ビットを“0”に設定してください。その後、ADCLK の2クロック期間待った後、モジュールストップモードやソフトウェアスタンバイモードへ移行させてください。

35.8.7 ソフトウェアスタンバイモード解除時の注意

ソフトウェアスタンバイモードを解除した後は、水晶発振安定時間またはPLL回路の安定時間経過後、さらに1μs以上待ってからA/D変換を開始してください。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

35.8.8 12ビットA/Dコンバータを使用する場合の端子の設定

12ビットA/Dコンバータを使用する場合は、ポート4の各端子を出力に設定しないでください。ポート4の回路の一部でアナログ電源を使用しているため、出力にするとA/D変換精度に影響することがあります。

35.8.9 断線検出アシスト機能使用時の絶対精度誤差

断線検出アシスト機能を使用する場合、アナログ入力端子にプルアップ/プルダウン抵抗 (R_p) と信号源抵抗 (R_s) の抵抗分圧分の誤差電圧が入力され、A/Dコンバータの絶対精度誤差が生じます。絶対精度の誤差は下式で表されます。

断線検出アシスト機能は、十分な評価の上、使用してください。

$$\text{最大絶対精度誤差 (LSB)} = 4095 \times R_s/R_p$$

35.8.10 ADHSC ビットの書き換え手順

A/D変換動作選択ビット (ADCSR.ADHSC) を書き換える場合 (“0” から “1” または “1” から “0” にする場合) は、12ビットA/Dコンバータをスタンバイ状態にする必要があります。ADCSR.ADHSCビットの書き換えは下記の1～3の手順で行ってください。また、スリープビット (ADHVREFCNT.ADSL P) を “0” にした後、1 μ s 以上待ってからA/D変換を開始してください。

【ADCSR.ADHSCビットの書き換え手順】

1. スリープビット (ADHVREFCNT.ADSL P) を “1” にする。
2. 0.2 μ s 以上待ってから、A/D変換動作選択ビット (ADCSR.ADHSC) を書き換える。
3. 4.8 μ s 以上待ってから、スリープビット (ADHVREFCNT.ADSL P) を “0” にする。

注. A/D変換動作選択ビット (ADCSR.ADHSC) の書き換え以外で、ADHVREFCNT.ADSL Pビットを “1” にすることは禁止です。

35.8.11 アナログ電源端子他の設定範囲

以下に示す電圧の設定範囲を超えてMCUを使用した場合は、MCUの信頼性に悪影響を及ぼすことがあります。

- アナログ入力電圧の設定範囲

アナログ入力端子 AN_n に印加する電圧は $AVSS0 \leq VAN \leq AVCC0$ の範囲としてください。また、 $VREFH0$ 端子、 $VREFL0$ 端子に印加するリファレンス電圧の設定範囲は、 $VREFH0 \leq AVCC0$ 、 $VREFL0 = AVSS0$ にしてください。アナログ入力端子 AN_n に印加する電圧が、 $VREFH0$ を超える場合は、正しく変換できません(図 35.30 参照)。

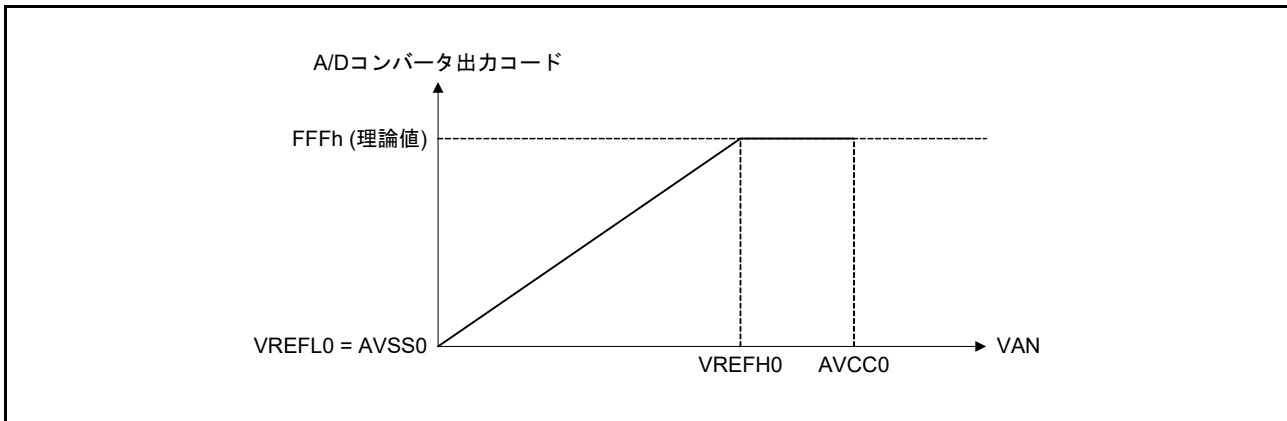


図 35.30 アナログ入力端子に印加する電圧と出力コードの関係

- 各電源端子 ($AVCC0 - AVSS0$, $VREFH0 - VREFL0$, $VCC - VSS$) の関係

$AVSS0$ と VSS との関係は $AVSS0 = VSS$ としてください。アナログ入力端子 $AN016 \sim AN021$ 、 $AN024 \sim AN026$ の A/D 変換を行う場合は、 $AVCC0 = VCC$ としてください。また、図 35.31 に示すように各々の電源間に最短で閉ループが形成できるように $0.1 \mu\text{F}$ のコンデンサを接続し、供給元で $VREFL0 = AVSS0 = VSS$ になるように接続してください。12ビットA/Dコンバータを使用しない場合は、 $AVCC0 = VCC$ 、 $AVSS0 = VSS$ としてください。

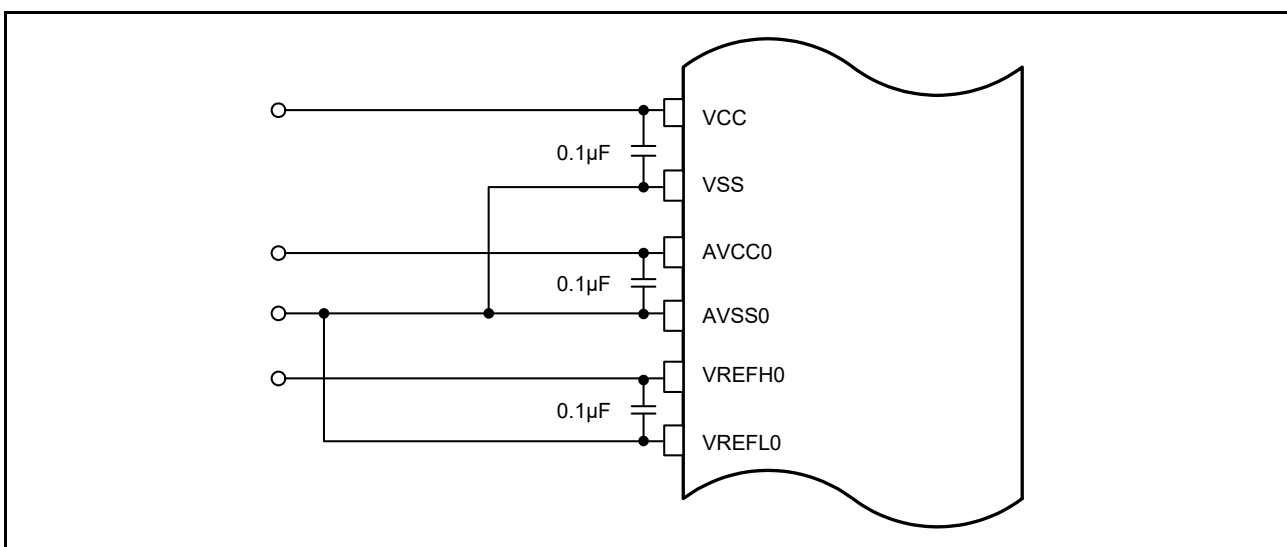


図 35.31 各電源端子の接続例

35.8.12 ボード設計上の注意

ボード設計時には、デジタル回路とアナログ回路をできるだけ分離してください。また、デジタル回路の信号線とアナログ回路の信号線を交差させたり、近接させたりしないでください。アナログ信号にノイズが乗って、A/D変換値の精度に悪影響を及ぼします。アナログ入力端子 (AN000 ~ AN007, AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026)、基準電源端子 (VREFH0)、基準グランド端子 (VREFL0)、アナログ電源 (AVCC0) は、アナロググランド (AVSS0) で、デジタル回路と分離してください。さらにアナロググランド (AVSS0) は、ボード上の安定したデジタルグランド (VSS) に一点接続してください。

35.8.13 ノイズ対策上の注意

過大なサージなど異常電圧によるアナログ入力端子 (AN000 ~ AN007, AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026) の破壊を防ぐために、図 35.32 に示すように AVCC0 と AVSS0 間、VREFH0 と VREFL0 間に容量を、またアナログ入力端子 (AN000 ~ AN007, AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026) を基準に保護回路を接続してください。

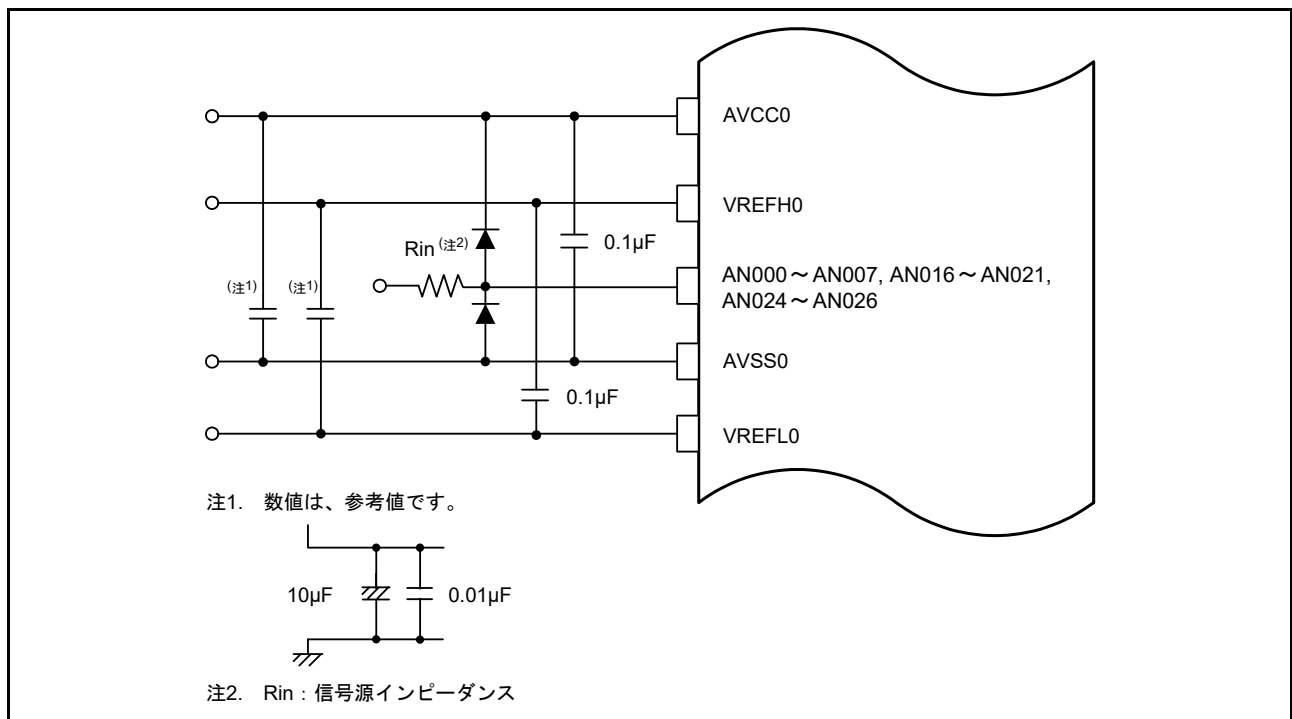


図 35.32 アナログ入力保護回路の例

36. D/Aコンバータ (DAa)

36.1 概要

本MCUは、8ビットD/Aコンバータを2チャンネル内蔵しています。

表36.1に8ビットD/Aコンバータの仕様を示します。図36.1に8ビットD/Aコンバータのブロック図を示します。

表36.1 8ビットD/Aコンバータの仕様

項目	内容
分解能	8ビット
出力チャンネル	2チャンネル
アナログモジュールの干渉対策	<ul style="list-style-type: none"> D/A変換とA/D変換の干渉対策 12ビットA/Dコンバータが出力する12ビットA/Dコンバータ同期D/A変換許可信号により、D/A変換データの更新タイミングを制御する。 これにより、8ビットD/Aコンバータのラッシュカレント発生タイミングを許可信号で制御し、干渉によるA/D変換精度劣化を低減する。
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能
イベントリンク機能(入力)	イベント信号の入力により、チャンネル0のD/A変換を開始可能

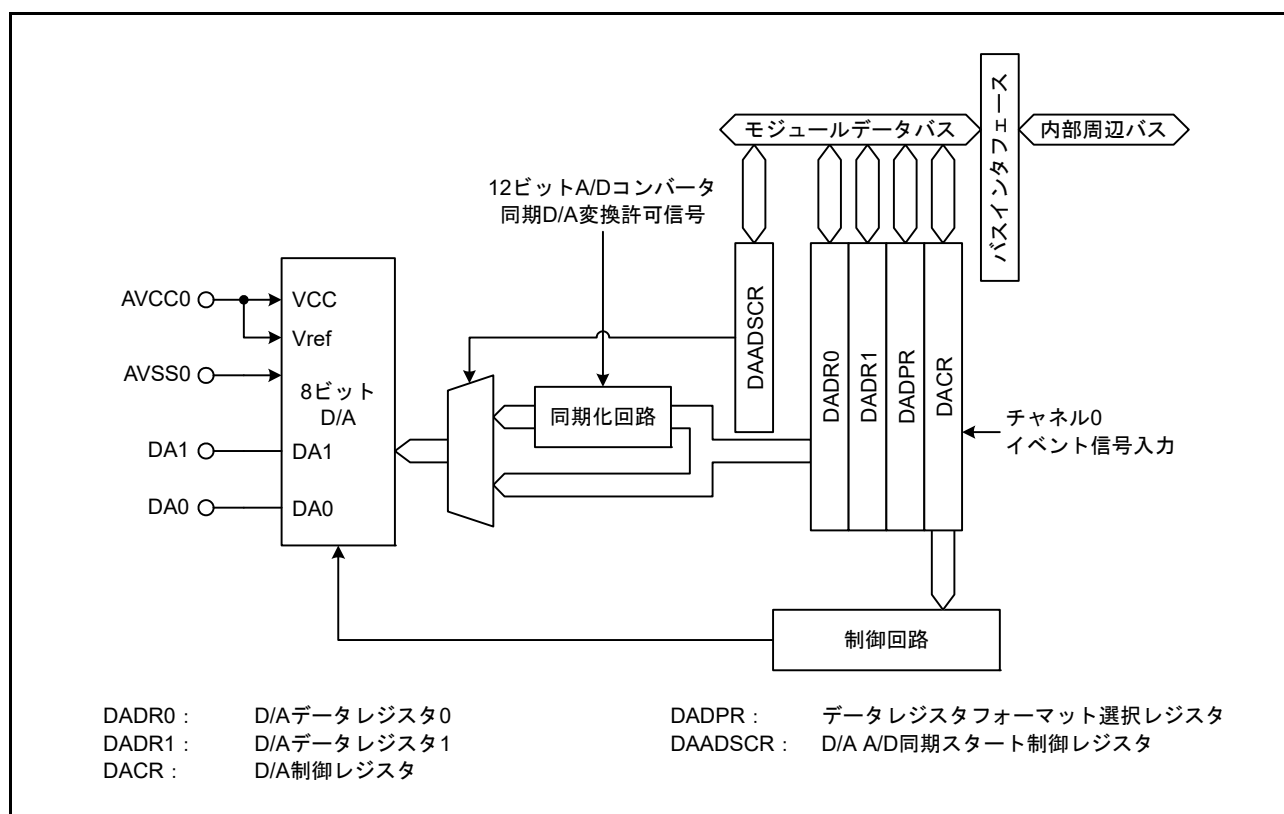


図36.1 8ビットD/Aコンバータのブロック図

表 36.2 に 8 ビット D/A コンバータで使用する入出力端子を示します。

表 36.2 8ビットD/Aコンバータの入出力端子

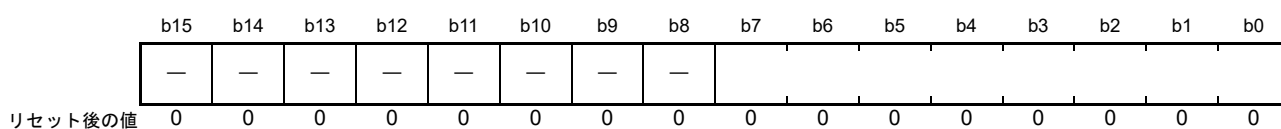
端子名	入出力	機能
AVCC0	入力	アナログ電源端子
AVSS0	入力	アナロググランド端子
DA0	出力	チャンネル0のアナログ出力
DA1	出力	チャンネル1のアナログ出力

36.2 レジスタの説明

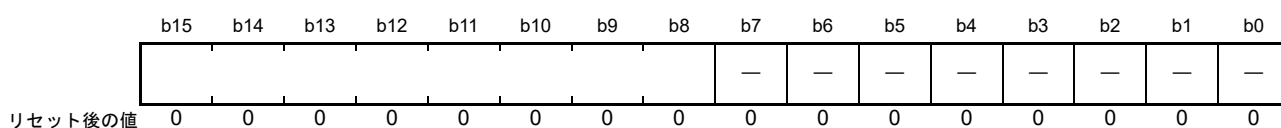
36.2.1 D/A データレジスタ m (DADRm) (m = 0, 1)

アドレス DA.DADR0 0008 80C0h, DA.DADR1 0008 80C2h

- ・ DADPR.DPSEL ビット=0 (データは右詰め)



- ・ DADPR.DPSEL ビット=1 (データは左詰め)



DADRm レジスタは、D/A 変換を行うデータを格納するための 16 ビットの読み出し / 書き込み可能なレジスタです。アナログ出力を許可すると、DADRm レジスタの値が変換され D/A コンバータから出力されます。

DADPR.DPSEL ビットの設定によって 8 ビットのデータの配置を変更できます。“—” のビットは、読むと“0” が読めます。書く場合、“0” としてください。

36.2.2 D/A 制御レジスタ (DACR)

アドレス DA.DACR 0008 80C4h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
DAOE1	DAOE0	—	—	—	—	—	—

リセット後の値 0 0 0 1 1 1 1 1

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b4-b0	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書く場合、“1”としてください	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R
b6	DAOE0	D/A出力許可0ビット	0 : チャネル0のアナログ出力(DA0)を禁止 1 : チャネル0のD/A変換を許可 チャネル0のアナログ出力(DA0)を許可	R/W
b7	DAOE1	D/A出力許可1ビット	0 : チャネル1のアナログ出力(DA1)を禁止 1 : チャネル1のD/A変換を許可 チャネル1のアナログ出力(DA1)を許可	R/W

このレジスタは、DAADSCR.DAADSTビットが“1”(D/A変換とA/D変換の干渉対策が有効)の場合、12ビットA/Dコンバータ停止中に設定してください(ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください)。このとき確実に12ビットA/Dコンバータを停止させるため、トリガ選択をソフトウェアトリガに設定してください。

DAOE0 ビット (D/A 出力許可 0 ビット)

D/A変換とアナログ出力を制御します。

イベントリンク機能により、DAOE0ビットを“1”にできます。ELCのELSR16レジスタで設定されたイベントが発生すると、DAOE0ビットが“1”になり、D/A変換出力を開始します。

DAOE1 ビット (D/A 出力許可 1 ビット)

D/A変換とアナログ出力を制御します。

36.2.3 データレジスタフォーマット選択レジスタ (DADPR)

アドレス DA.DADPR 0008 80C5h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
DPSEL	—	—	—	—	—	—	—

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	DPSEL	フォーマット選択ビット	0 : D/Aデータレジスタは右詰め 1 : D/Aデータレジスタは左詰め	R/W

36.2.4 D/A A/D 同期スタート制御レジスタ (DAADSCR)

アドレス DA.DAADSCR 0008 80C6h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	DAADST	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b6-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	DAADST	D/A A/D同期変換ビット	0: 8ビットD/Aコンバータは、12ビットA/Dコンバータと同期変換しない(D/A変換とA/D変換の干渉対策の無効) 1: 8ビットD/Aコンバータは、12ビットA/Dコンバータと同期変換する(D/A変換とA/D変換の干渉対策の有効)	R/W

DAADSCRレジスタは、D/A変換とA/D変換の干渉対策のために、8ビットD/Aコンバータの変換開始タイミングを12ビットA/Dコンバータからの12ビットA/Dコンバータ同期D/A変換許可信号に同期させるかさせないかを選択します。

このレジスタは、12ビットA/Dコンバータ停止中に設定してください(12ビットA/Dコンバータのトリガ選択をソフトウェアトリガに選択後、ADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください)。

DAADSTビット(D/A A/D同期変換ビット)

DAADSTビットを“0”にすると、随時DADR_mレジスタ(m=0,1)の値をD/A変換します。DAADSTビットを“1”にすると、12ビットA/Dコンバータからの同期D/A変換許可信号に同期してD/A変換が行われます。したがって、DADR_mレジスタの値を書き換えても、12ビットA/DコンバータのA/D変換が終了するまでD/A変換は行われません。

DAADSTビットの設定は12ビットA/DコンバータのADCSR.ADSTビットが“0”のときに設定してください。このとき確実に12ビットA/Dコンバータを停止させるため、トリガ選択をソフトウェアトリガに設定してください。

なお、DAADSTビットを“1”にした場合は、イベント機能は使用できません。ELCのELSR16でイベントリンク機能を停止に設定してください。DAADSTビットは、8ビットD/Aコンバータのチャンネル0,1の共通仕様です。

36.3 動作説明

2チャンネルの8ビットD/Aコンバータは、それぞれ独立して変換を行うことができます。

DACR.DA0Emビット(m=0,1)を“1”にすると、D/A変換が許可され変換結果が出力されます。

チャンネル0のD/A変換を行う場合の動作例を以下に示します。このときの動作タイミングを図36.2に示します。

- (1) DADPR.DPSELビットとDADR0レジスタにD/A変換を行うためのデータを設定します。
- (2) DACR.DA0E0ビットを“1”にすると、D/A変換が開始されます。変換時間 t_{DCONV} が経過すると、DA0出力が設定値に対応する電圧で安定します。DADR0レジスタを書き換えるか、DA0E0ビットを“0”にするまで、この電圧が出力され続けます。出力電圧(参考)は以下の式で計算します。

$$\frac{\text{DADRmレジスタ}}{256} \times \text{AVCC0}$$

- (3) DADR0レジスタを書き換えると変換が開始されます。変換時間 t_{DCONV} が経過すると、DA0出力が変更した電圧で安定します。DAADSCR.DAADSTビットが“1”(D/A変換とA/D変換の干渉対策が有効)の場合、D/A変換開始まで最大A/D変換1回分待たされます(ADCLKが周辺モジュールクロックよりも速い場合は、A/D変換1回分以上待たされる場合があります)。
- (4) DA0E0ビットを“0”にするとアナログ出力が禁止されます。

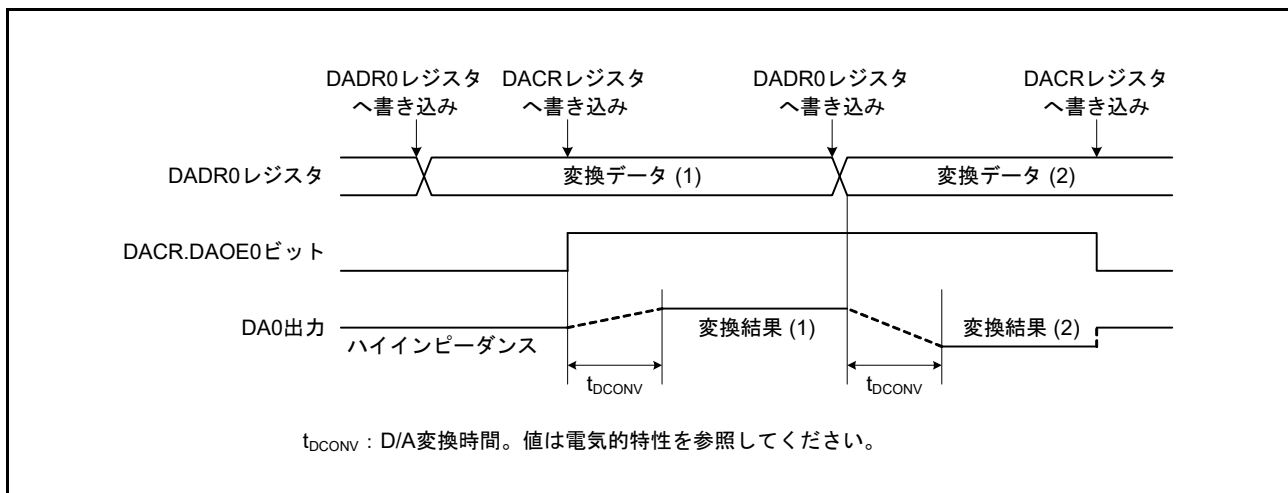


図 36.2 8ビットD/Aコンバータの動作例

36.3.1 D/A変換とA/D変換の干渉対策

D/A変換が始まると8ビットD/Aコンバータにはラッシュカレントが発生します。8ビットD/Aコンバータと12ビットA/Dコンバータのアナログ電源が共通のため、発生したラッシュカレントが12ビットA/Dコンバータの変換に干渉することがあります。

DAADSCR.DAADSTビットを“1”にしている場合、12ビットA/DコンバータがA/D変換中にDADR_mレジスタ ($m=0, 1$) にデータを書き換えても、すぐに変換されず、12ビットA/DコンバータのA/D変換終了タイミングに同期して変換を開始します。DADR_mレジスタへの書き込みからD/A変換回路の入力に反映するまで最大A/D変換1回分待たされます。その間DADR_mレジスタ値とアナログ出力値は一致しません。

本機能が有効なときに、DADR_mレジスタの値がD/A変換されたかどうかをソフトウェアで確認する手段はありません。

DAADSCR.DAADSTビットを“1”にしている場合であっても、12ビットA/DコンバータがADCSR.ADSTビットを“0”にして停止中であればDADR_mレジスタにデータを書き換えると、1PCLKB後にD/A変換を開始します。

図36.3に8ビットD/Aコンバータを12ビットA/Dコンバータに同期変換させる場合のチャンネル0のD/A変換の動作例を示します。

- (1) 12ビットA/Dコンバータが停止中であることを確認し、DAADSCR.DAADSTビットを“1”にする。
- (2) 12ビットA/Dコンバータが停止中であることを確認し、DACR.DA0E0ビットを“1”にする。
- (3) DADR0レジスタを設定する (ADCLKが周辺モジュールクロックよりも速い場合は、A/D変換1回分以上待たされる場合があります)。
 - DADR0レジスタを書き換えたとき、12ビットA/Dコンバータが停止していた場合 (ADCSR.ADSTビット=0)、1PCLKB後にD/A変換が開始されます。
 - DADR0レジスタを書き換えたとき、12ビットA/DコンバータがA/D変換中の場合 (ADCSR.ADSTビット=1)、A/D変換終了時にD/A変換が開始されます。A/D変換中に2回、DADR0レジスタを書き換えた場合、1回目の値は、D/A変換されないことがあります。

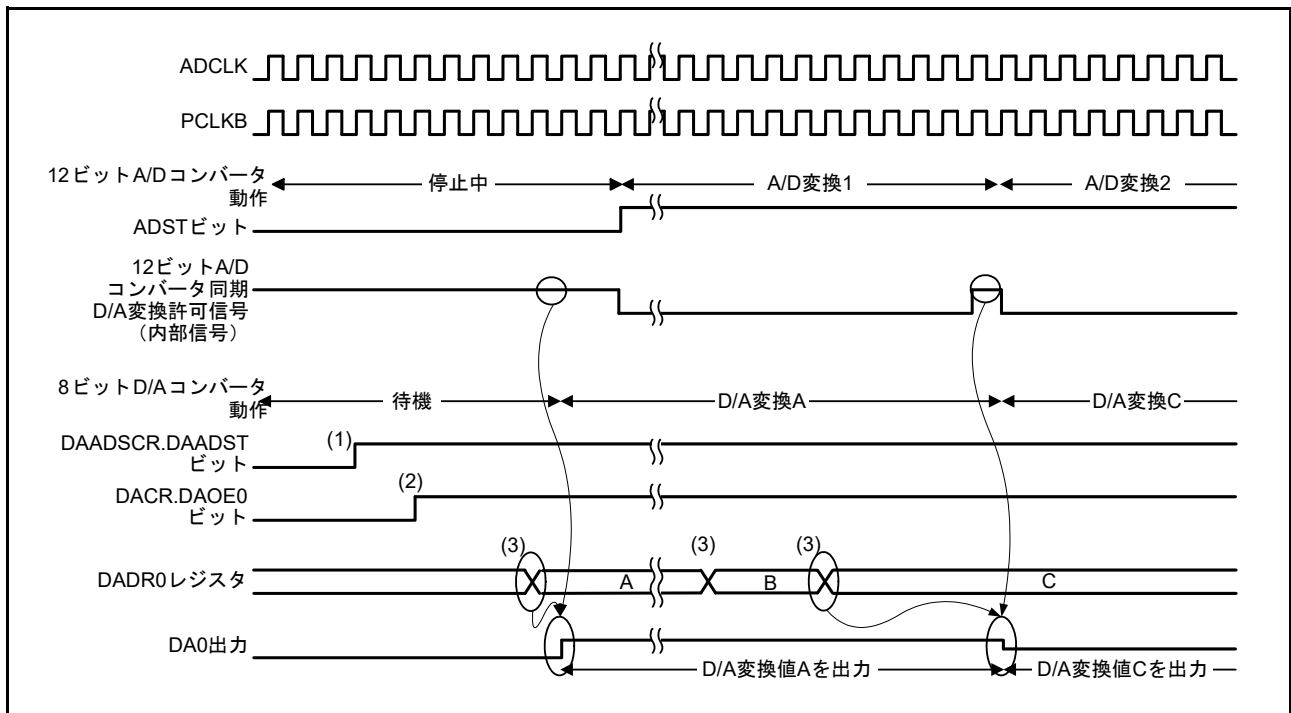


図 36.3 8ビットD/Aコンバータを12ビットA/Dコンバータに同期して変換する例

ADCLKがPCLKBよりも速い場合、A/D変換1とA/D変換2の間に出力されるADCLK1周期分の12ビットA/Dコンバータ同期D/A変換許可信号を8ビットD/Aコンバータが取り込めない可能性があります。図36.4に8ビットD/Aコンバータが12ビットA/Dコンバータ同期D/A変換許可信号を取り込めない例を示します。この場合、DA0出力はD/A変換値Aの出力を継続します。

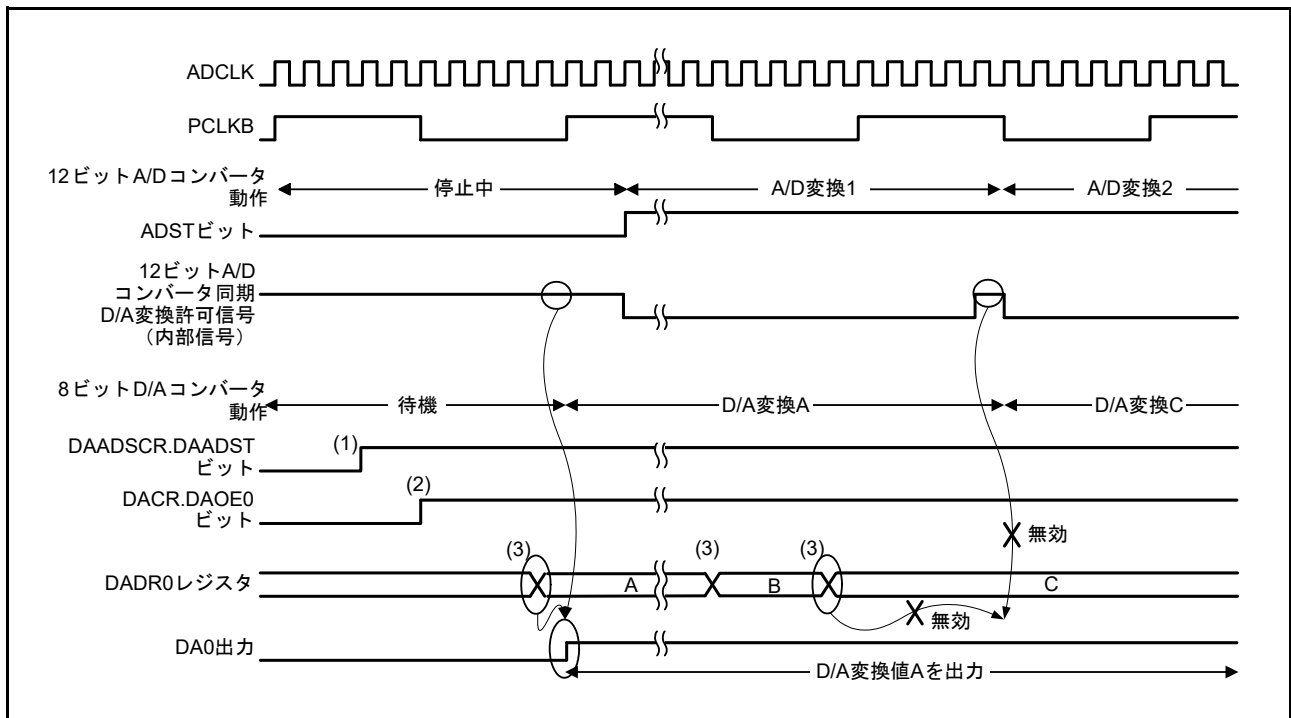


図 36.4 8ビットD/Aコンバータが12ビットA/Dコンバータ同期D/A変換許可信号を取り込めない例

36.4 イベントリンクの動作設定手順

以下にイベントリンク動作手順を示します。

- (1) DADPR.DPSEL ビットの設定と DADR0 レジスタに D/A 変換を行うためのデータを設定します。
- (2) ELC の ELSR16 レジスタにリンクする ELSR16 設定イベント信号のビットの値を設定します。
- (3) ELCR.ELCON ビットを“1”にします。これによりイベントリンクが設定されている全モジュールのイベントリンク動作が有効となります。
- (4) イベント出力元のモジュールを設定し、起動します。モジュールから出力されるイベントにより、DACR.DAOE0 ビットが“1”になり、チャンネル 0 の D/A 変換が開始されます。
- (5) 8 ビット D/A コンバータのチャンネル 0 のイベントリンク動作を停止するときは、ELSR16.ELS[7:0] ビットに“0000 0000b”を設定してください。また ELCR.ELCON ビットを“0”にすることにより、全モジュールのイベントリンク動作が停止します。

36.5 イベントリンク動作における注意事項

- (1) DACR.DAOE0 ビットへの書き込みサイクル中に ELSR16 レジスタで設定されたイベントが発生すると、DACR.DAOE0 ビットへの書き込みサイクルは行われず、イベント発生による“1”設定が優先されます。
- (2) D/A 変換と A/D 変換の干渉対策として、DAADSCR.DAADST ビットを“1”にする場合、イベントリンク機能は使用禁止です。

36.6 使用上の注意事項

36.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタにより、8ビットD/Aコンバータの動作禁止/許可を設定することが可能です。初期値では、8ビットD/Aコンバータの動作は停止します。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

36.6.2 モジュールストップ時のD/Aコンバータの動作

D/A変換を許可した状態でモジュールストップ状態になるとD/Aコンバータの出力は保持され、アナログ電源電流はD/A変換中と同等になります。モジュールストップ時にアナログ電源電流を低減する必要がある場合は、DACR.DAOE1, DAOE0ビットをすべて“0”にしてD/Aコンバータの出力を禁止してください。

36.6.3 ソフトウェアスタンバイモード時のD/Aコンバータの動作

D/A変換を許可した状態でソフトウェアスタンバイモードになるとD/Aコンバータの出力は保持され、アナログ電源電流はD/A変換中と同等になります。ソフトウェアスタンバイモードでアナログ電源電流を低減する必要がある場合は、DACR.DAOE1, DAOE0ビットをすべて“0”にしてD/Aコンバータの出力を禁止してください。

36.6.4 D/A変換とA/D変換の干渉対策有効時の注意事項

DAADSCR.DAADSTビットが“1”(D/A変換とA/D変換の干渉対策が有効)の場合、12ビットA/Dコンバータをモジュールストップ状態にしないでください。A/D変換が停止するだけでなく、D/A変換が停止する可能性があります。

37. 温度センサ (TEMPSA)

37.1 概要

本 MCU は、温度センサを内蔵しています。温度センサは温度に比例した電圧を出力します。温度センサの出力電圧を 12 ビット A/D コンバータでデジタル値に変換し、温度に換算することで、MCU 周辺の温度を求めることができます。

表 37.1 に温度センサの仕様を示します。図 37.1 に温度センサ周りのブロック図を示します。

表 37.1 温度センサの仕様

項目	内容
温度センサ電圧出力	12ビットA/Dコンバータへ出力

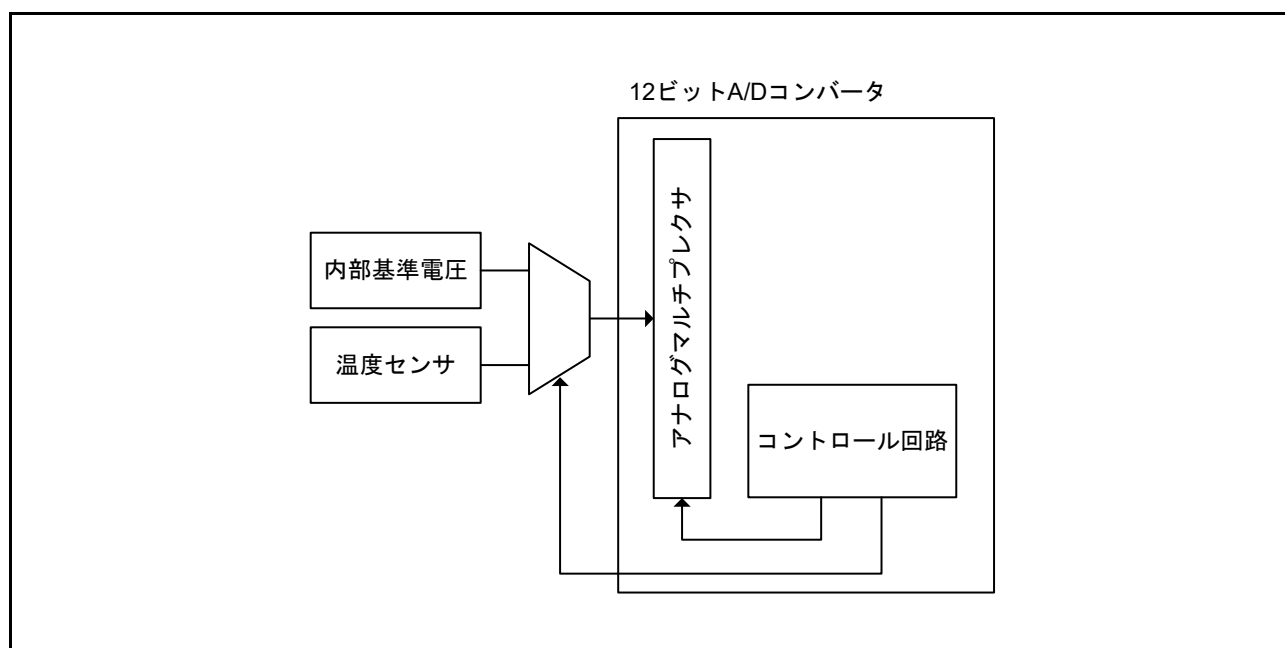


図 37.1 温度センサ周りのブロック図

37.2 レジスタの説明

37.2.1 温度センサ校正データレジスタ (TSCDR)

アドレス TEMPS.TSCDR 007F C228h



TSCDR レジスタには、工場出荷時に個々のチップごとに測定された温度センサ校正データが格納されています。

温度センサ校正データは、 $T_a = T_j = 125^\circ\text{C}$ 、 $AVCC0 = VREFH0 = 3.3\text{V}$ の条件における温度センサの出力電圧を、12ビット A/D コンバータでデジタル変換した値 (CAL_{125}) です。

この変換値 CAL_{125} から、 $T_a = T_j = 125^\circ\text{C}$ における温度センサの出力電圧 $V1$ は、

$$V1 = 3.3 \times CAL_{125} / 4096 \quad (\text{V})$$

と計算できます。なお、温度センサの出力電圧 $V1$ は、 $AVCC0$ や $VREFH0$ の電圧に依存しません。

37.3 温度センサの使用法

温度センサは、温度に比例する電圧を出力します。この電圧を 12 ビット A/D コンバータを用いてデジタル変換し、温度に換算することで MCU の周辺の温度を求めることができます。

37.3.1 使用前の準備

温度センサのキャリブレーションを実施します。温度センサ出力電圧は、温度変化と比例関係にあり、以下の式で表されます。

温度特性の式

$$T = (V_s - V_1) / \text{Slope} + T_1$$

T : 測定温度 (°C)

V_s : 温度測定時の温度センサの出力電圧 (V)

T₁ : 1 点目の試行測定時の温度 (°C)

V₁ : 1 点目の試行測定時の温度センサの出力電圧 (V)

T₂ : 2 点目の試行測定時の温度 (°C)

V₂ : 2 点目の試行測定時の温度センサの出力電圧 (V)

Slope : 温度センサの温度傾斜 (V/°C) Slope = (V₂ - V₁) / (T₂ - T₁)

温度センサには個体間ばらつきがあるため、以下のような異なる温度 2 点の試行測定を実施しておくことを推奨します。

まず、温度 T₁ のときの温度センサの出力電圧 V₁ を 12 ビット A/D コンバータで試行測定することで求めます。

次に、温度 T₁ と異なる温度 T₂ のときの温度センサの出力電圧 V₂ を 12 ビット A/D コンバータにて試行測定することで求めます。

両者の測定結果から、温度傾斜 (Slope = (V₂ - V₁) / (T₂ - T₁)) を求めます。

この Slope を温度特性の式に代入し、温度特性 T = (V_s - V₁) / Slope + T₁ を求めます。

また、「42. 電気的特性」に記載の温度傾斜を用いることで、温度 T₁ のときの温度センサの出力電圧 V₁ を、12 ビット A/D コンバータで試行測定することで求め、下記式により測定温度を算出します。なお、本測定温度精度は 2 点測定方法よりも劣ります。

$$T = (V_s - V_1) / \text{Slope} + T_1$$

また、本 MCU は、TSCDR レジスタに、T_a = T_j = 125°C、AVCC0 = VREFH0 = 3.3V の条件における温度センサの温度測定値 (CAL₁₂₅) を格納しています。この値を 1 点目の試行測定結果として使用することで、使用前の準備を省略することができます。

CAL₁₂₅ から V₁ を求めると、

$$V_1 = 3.3 \times \text{CAL}_{125} / 4096 \quad (\text{V})$$

となり、これを用いると、測定温度は下記の式にて算出できます。

$$T = (V_s - V_1) / \text{Slope} + 125 \quad (^\circ\text{C})$$

T : 測定温度 (°C)

V_s : 温度測定時の温度センサの出力電圧 (V)

V_1 : $T_a = T_j = 125^\circ\text{C}$ 、 $AVCC0 = VREFH0 = 3.3\text{V}$ 時の温度センサの出力電圧 (V)

Slope : 表 42.67 に記載の温度傾斜 $\div 1000$ ($\text{V}/^\circ\text{C}$)

なお、測定温度誤差 (ばらつき範囲は 3σ) は、図 37.2 のとおりです。

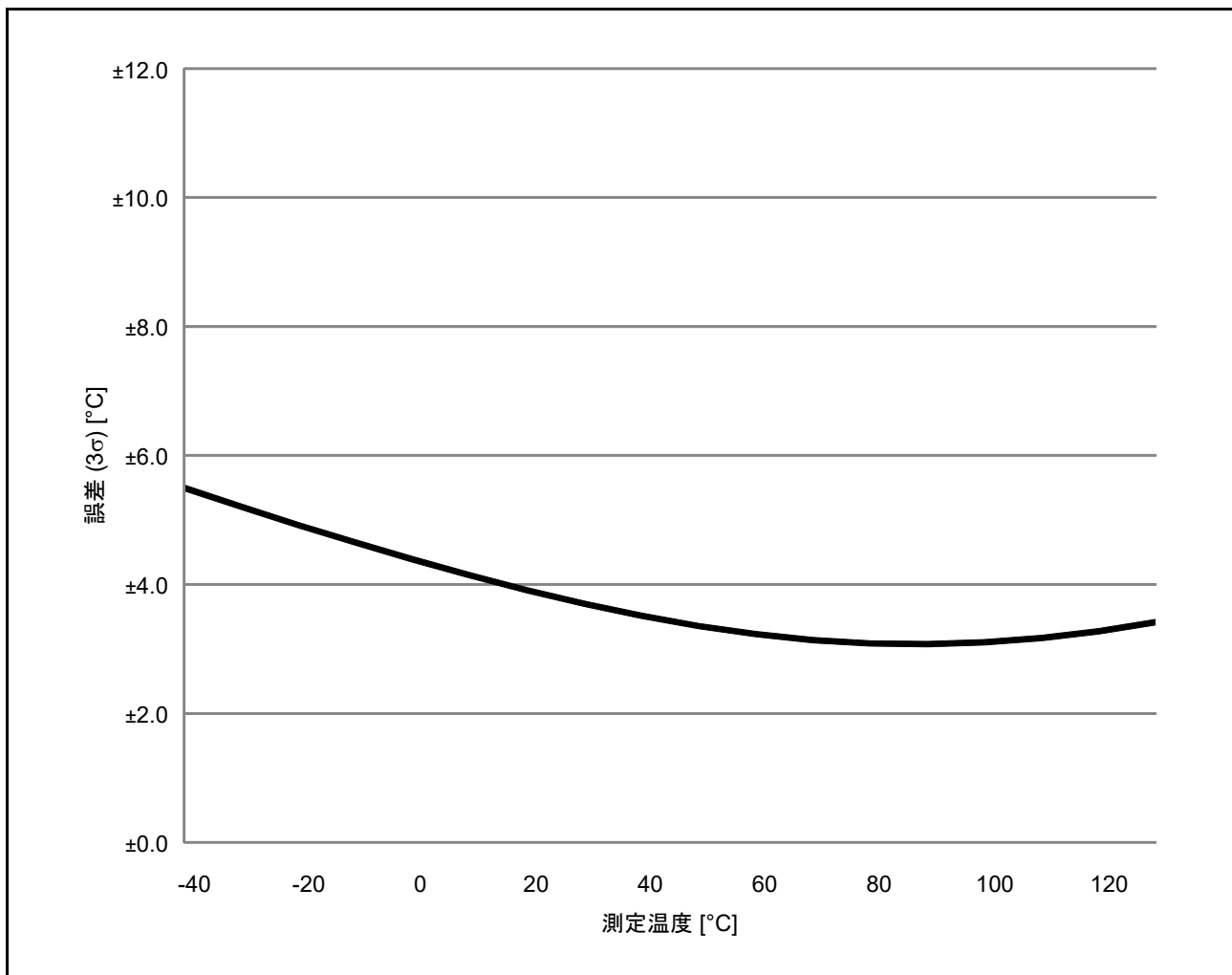


図 37.2 測定温度誤差 (設計値)

37.3.2 12 ビット A/D コンバータの設定

詳細は、「35. 12 ビット A/D コンバータ (S12ADE)」を参照してください。

38. コンパレータ B (CMPBa)

コンパレータ B はリファレンス入力電圧と、アナログ入力電圧を比較します。コンパレータ B0 とコンパレータ B1 の独立した 2 つのコンパレータです。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

38.1 概要

リファレンス入力電圧とアナログ入力電圧の比較結果を、ソフトウェアで読めます。また、比較結果を外部に出力することもできます。リファレンス入力電圧として CVREFBn 端子 (n = 0, 1) への入力、または MCU 内部で生成する内部基準電圧のいずれかを選択可能です。

動作開始前にコンパレータ B 応答速度を設定することができます。高速モードにすると応答遅延時間が小さくなりますが消費電流は大きくなります。低速モードにすると応答遅延時間が大きいですが、消費電流は小さくなります。

表 38.1 にコンパレータ B の仕様、図 38.1 にウィンドウ機能無効時のコンパレータ B0、B1 のブロック図、図 38.2 にウィンドウ機能有効時のコンパレータ B0、B1 のブロック図、表 38.2 にコンパレータ B の入出力端子を示します。

表 38.1 コンパレータ B の仕様 (n = 0, 1)

項目	内容
アナログ入力電圧	CMPBn 端子への入力電圧
リファレンス入力電圧	CVREFBn 端子への入力電圧または内部基準電圧
比較結果	CPBFLG.CPBnOUT フラグの読み出し 比較結果を CMPOBn 端子へ出力可能
割り込み要求発生タイミング	コンパレータ B0 の比較結果が変化するとき コンパレータ B1 の比較結果が変化するとき
ELC へのイベント発生タイミング	コンパレータ B0 の比較結果が変化するとき コンパレータ B0 または B1 の比較結果が変化するとき
選択機能	<ul style="list-style-type: none"> デジタルフィルタ機能 デジタルフィルタの有無、サンプリング周波数を選択可能 ウィンドウ機能 ウィンドウ機能 (VRFL < CMPBn < VRFH)^(注1)の有効/無効を選択可能 リファレンス入力電圧 CVREFBn 端子入力/内部基準電圧 (内部生成) を選択可能 コンパレータ B 応答速度 高速モード/低速モードを選択可能
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能

注1. VRFL: 低電位側リファレンス電圧、VRFH: 高電位側リファレンス電圧

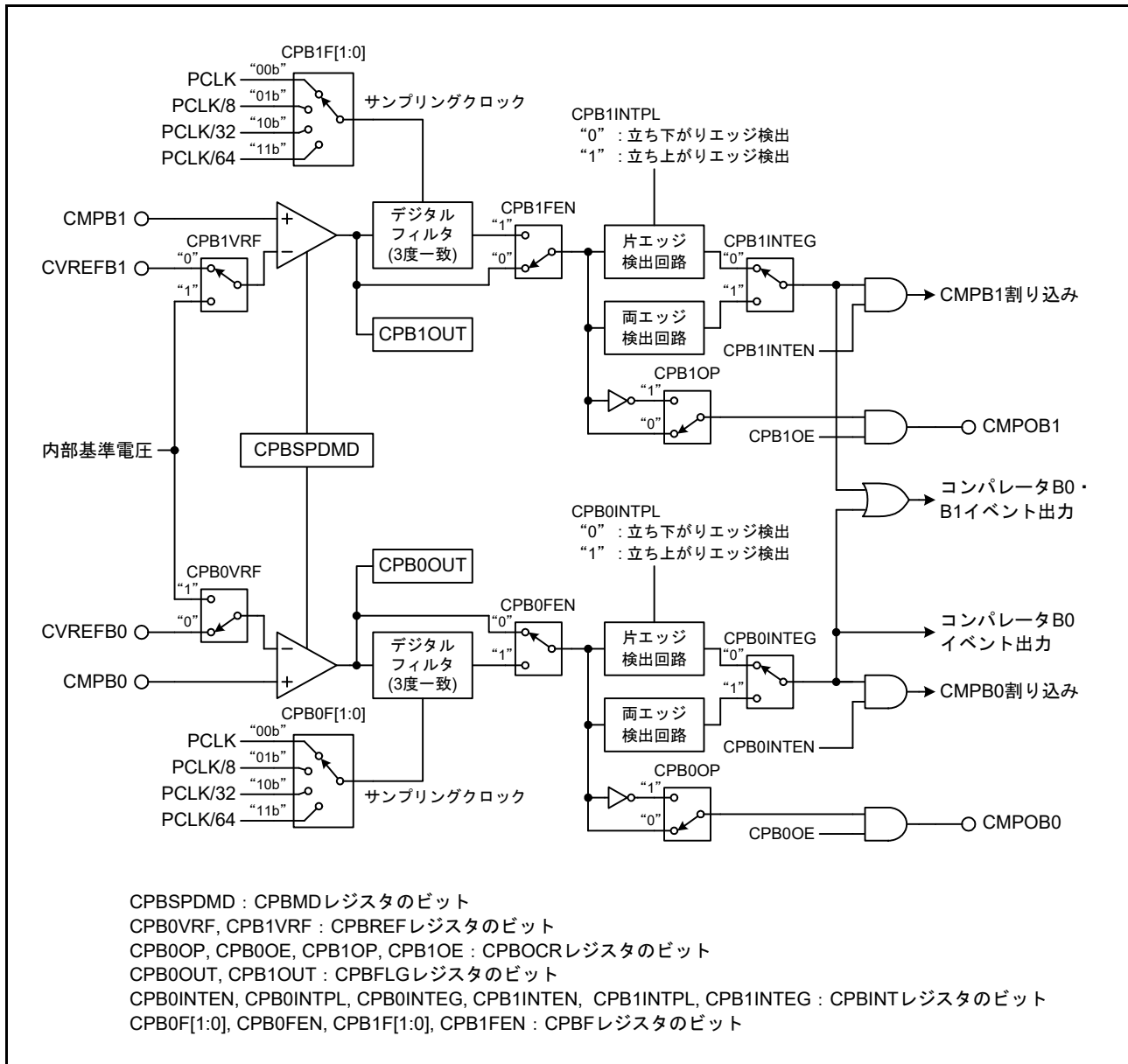


図 38.1 コンパレータ B0、B1 のブロック図 (ウィンドウ機能無効時)

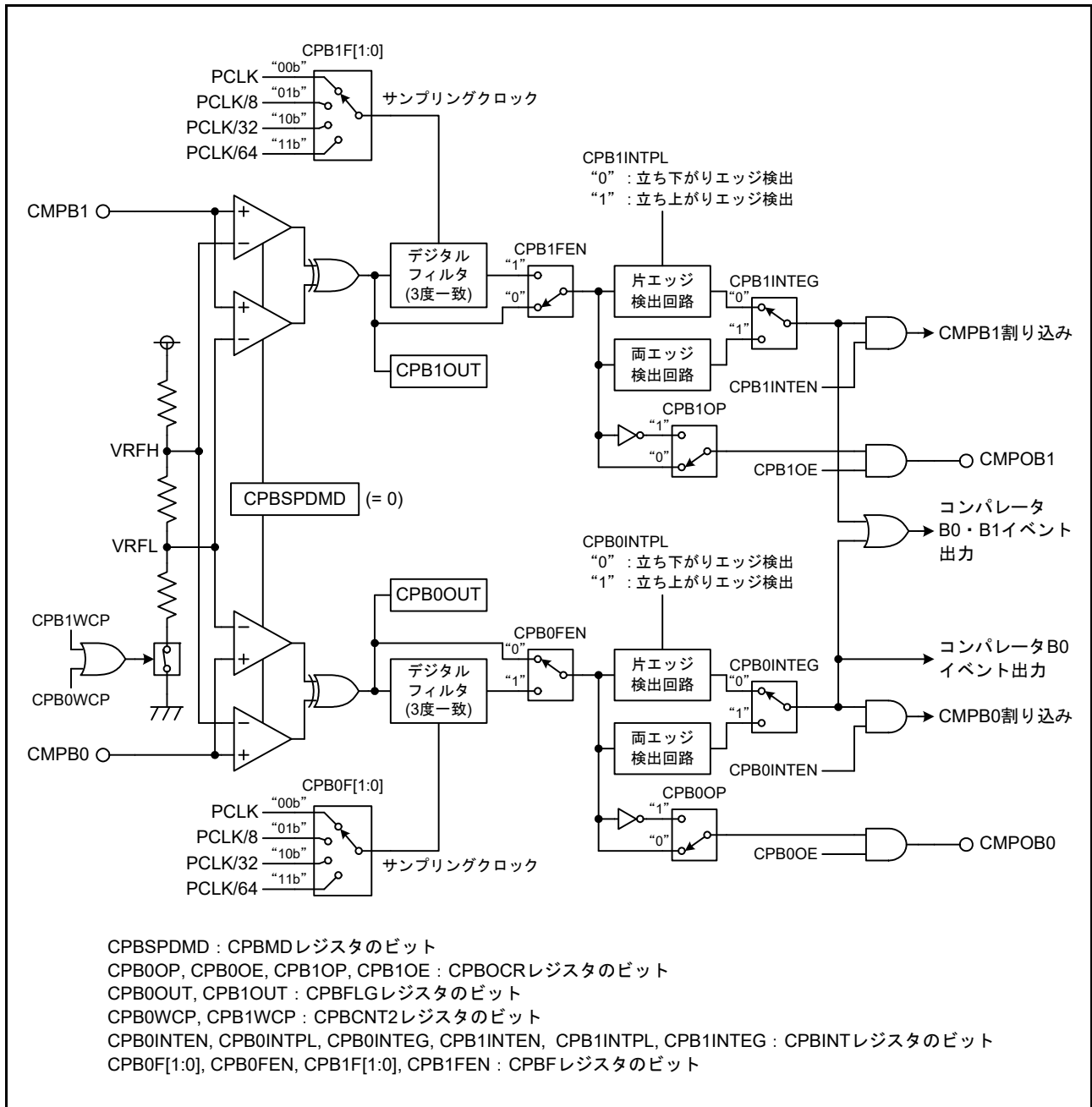


図 38.2 コンパレータ B0、B1 のブロック図 (ウィンドウ機能有効時)

表 38.2 コンパレータ B の入出力端子

端子名	入出力	機能
CMPB0	入力	コンパレータ B0 用アナログ端子
CVREFB0	入力	コンパレータ B0 用リファレンス入力電圧端子
CMPB1	入力	コンパレータ B1 用アナログ端子
CVREFB1	入力	コンパレータ B1 用リファレンス入力電圧端子
CMPOB0	出力	コンパレータ B0 出力端子
CMPOB1	出力	コンパレータ B1 出力端子

38.2 レジスタの説明

38.2.1 コンパレータ B 制御レジスタ 1 (CPBCNT1)

アドレス CMPB.CPBCNT1 0008 C580h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CPB1I NI	—	—	—	CPB0I NI
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0INI	コンパレータ B0 許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可 (コンパレータの電源 ON)	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	CPB1INI	コンパレータ B1 許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可 (コンパレータの電源 ON)	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

38.2.2 コンパレータ B 制御レジスタ 2 (CPBCNT2)

アドレス CMPB.CPBCNT2 0008 C581h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CPB1W CP	—	—	—	CPB0W CP
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0WCP	コンパレータ B0 ウィンドウ機能有効ビット	0 : 無効 1 : 有効(注1)	R/W
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	CPB1WCP	コンパレータ B1 ウィンドウ機能有効ビット	0 : 無効 1 : 有効(注1)	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. ウィンドウ機能を有効にする前に、CPBMD.CPBSPDMD ビットを“0”にしてください。

38.2.3 コンパレータ B フラグレジスタ (CPBFLG)

アドレス CMPB.CPBFLG 0008 C582h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CPB1OUT	—	—	—	CPB0OUT	—	—	—

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	CPB0OUT	コンパレータ B0 モニタフラグ	(ウィンドウ機能無効時) 0 : CMPB0 < CVREFB0 または CMPB0 < 内部基準電圧、 またはコンパレータ B0 動作禁止 1 : CMPB0 > CVREFB0 または CMPB0 > 内部基準電圧 (ウィンドウ機能有効時) 0 : CMPB0 < VRFL(注1) または CMPB0 > VRFH(注1)、 またはコンパレータ B0 動作禁止 1 : VRFL < CMPB0 < VRFH	R
b6-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	CPB1OUT	コンパレータ B1 モニタフラグ	(ウィンドウ機能無効時) 0 : CMPB1 < CVREFB1 または CMPB1 < 内部基準電圧、 またはコンパレータ B1 動作禁止 1 : CMPB1 > CVREFB1 または CMPB1 > 内部基準電圧 (ウィンドウ機能有効時) 0 : CMPB1 < VRFL(注1) または CMPB1 > VRFH(注1)、 またはコンパレータ B1 動作禁止 1 : VRFL < CMPB1 < VRFH	R

注1. VRFL: 低電位側リファレンス電圧、VRFH: 高電位側リファレンス電圧

38.2.4 コンパレータ B 割り込み制御レジスタ (CPBINT)

アドレス CMPB.CPBINT 0008 C583h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	CPB11 NTPL	CPB11 NTEG	CPB11 NTEN	—	CPB01 NTPL	CPB01 NTEG	CPB01 NTEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0INTEN	コンパレータ B0 割り込み許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可	R/W
b1	CPB0INTEG	コンパレータ B0 割り込み/イベント エッジ選択ビット(注1)	0 : 片エッジ 1 : 両エッジ	R/W
b2	CPB0INTPL	コンパレータ B0 割り込み/イベント エッジ極性選択ビット(注2)	0 : 立ち下がリエッジ 1 : 立ち上がりエッジ	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	CPB1INTEN	コンパレータ B1 割り込み許可ビット	0 : 禁止 1 : 許可	R/W
b5	CPB1INTEG	コンパレータ B1 割り込み/イベント エッジ選択ビット(注1)	0 : 片エッジ 1 : 両エッジ	R/W
b6	CPB1INTPL	コンパレータ B1 割り込み/イベント エッジ極性選択ビット(注2)	0 : 立ち下がリエッジ 1 : 立ち上がりエッジ	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. CPB0INTPL ビットを変更すると、IR058.IR フラグが“1” (割り込み要求あり) に、CPB1INTPL ビットを変更すると、IR059.IR フラグが“1” (割り込み要求あり) になることがあります。「14. 割り込みコントローラ (ICUb)」を参照してください。

注2. CPBnINTPL ビットは CPBnINTEG ビット = 0 (片エッジ) のときのみ有効です。

38.2.5 コンパレータ B フィルタ選択レジスタ (CPBF)

アドレス CMPB.CPBF 0008 C584h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
CPB1F[1:0]	—	CPB1F EN	CPB0F[1:0]	—	CPB0F EN	—	CPB0F EN

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0FEN	コンパレータ B0 フィルタ有効/無効 選択ビット(注1)	0 : フィルタ無効 1 : フィルタ有効	R/W
b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3-b2	CPB0F[1:0]	コンパレータ B0 フィルタ選択ビット (注1)	b3 b2 0 0 : PCLKでサンプリング 0 1 : PCLK/8でサンプリング 1 0 : PCLK/32でサンプリング 1 1 : PCLK/64でサンプリング	R/W
b4	CPB1FEN	コンパレータ B1 フィルタ有効/無効 選択ビット(注1)	0 : フィルタ無効 1 : フィルタ有効	R/W
b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7-b6	CPB1F[1:0]	コンパレータ B1 フィルタ選択ビット (注1)	b7 b6 0 0 : PCLKでサンプリング 0 1 : PCLK/8でサンプリング 1 0 : PCLK/32でサンプリング 1 1 : PCLK/64でサンプリング	R/W

注1. CPBnF[1:0]ビットはCPBnFENビット=1のとき(フィルタ有効を選択時)のみ有効です。

38.2.6 コンパレータ B モード選択レジスタ (CPBMD)

アドレス CMPB.CPBMD 0008 C585h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	CPBSP DMD

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPBSPDMD	コンパレータ B 速度選択ビット(注1)	0 : 高速モード 1 : 低速モード	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. CPBSPDMDビットを書き換える場合は、CPBCNT1レジスタのCPBnNIビット(n = 0, 1)を“0”にしてから書き換えてください。

38.2.7 コンパレータ B リファレンス入力電圧選択レジスタ (CPBREF)

アドレス CMPB.CPBREF 0008 C586h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	CPB1V RF	—	—	—	CPB0V RF
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0VRF	コンパレータ B0 リファレンス 入力電圧選択ビット	0 : コンパレータ B0 リファレンス入力電圧は CVREFB0 入力 1 : コンパレータ B0 リファレンス入力電圧は内部基準電圧(注 1、注2、注3)	R/W (注4)
b3-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	CPB1VRF	コンパレータ B1 リファレンス 入力電圧選択ビット	0 : コンパレータ B1 リファレンス入力電圧は CVREFB1 入力 1 : コンパレータ B1 リファレンス入力電圧は内部基準電圧(注 1、注2、注3)	R/W (注4)
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

- 注1. ウィンドウ機能無効時のみ有効です。ウィンドウ機能有効時には、本ビットの設定に関わらずコンパレータ B 内部のリファレンス入力電圧が選択されます。
- 注2. 内部基準電圧を選択している場合は、A/D コンバータに温度センサ出力は選択禁止です。
- 注3. 内部基準電圧を選択した場合は電圧発生回路が動作し、75 μ A 程度電流が増加します。内部基準電圧を選択したままソフトウェアスタンバイモードに遷移しても電圧発生回路は自動的に OFF しません。
- 注4. CPBnVRF ビットは、CPBCNT2.CPBnWCP = 0 のときは書き換え禁止です。

リファレンス入力電圧を変更する場合の注意点

- リファレンス入力電圧を CVREFBn (n = 0, 1) から内部基準電圧へ変更する場合、下記手順に従い、変更してください。
 - CPBCNT1.CPBnINI ビットを“1”にする。
 - CPBCNT2.CPBnWCP ビットを“1”にする。
 - CPBREF.CPBnVRF ビットを“1”にして、内部基準電圧を選択する。
 - CVREFBn 端子として使用しているポートの端子機能制御レジスタのアナログ選択ビット (ASEL) を“0”にする。
 - コンパレータの動作が安定するのを待つ (動作安定待ち時間 (Tcmp)(注1))。
 - CPBCNT2.CPBnWCP ビットを“0”にする。
- リファレンス入力電圧を内部基準電圧から CVREFBn (n = 0, 1) へ変更する場合、下記手順に従い、変更してください。
 - CPBCNT1.CPBnINI ビットを“1”にする。
 - CPBCNT2.CPBnWCP ビットを“1”にする。
 - CPBREF.CPBnVRF ビットを“0”にして、CVREFBn 端子入力を選択する。
 - CVREFBn 端子として使用しているポートの端子機能制御レジスタのアナログ選択ビット (ASEL) を“1”にする。
 - コンパレータの動作が安定するのを待つ (動作安定待ち時間 (Tcmp)(注1))。
 - CPBCNT2.CPBnWCP ビットを“0”にする。

注1. 動作安定待ち時間 (Tcmp) については電気的特性を参照してください。

38.2.8 コンパレータ B 出力制御レジスタ (CPBOCR)

アドレス CMPB.CPBOCR 0008 C587h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	CPB1O P	CPB1O E	—	—	CPB0O P	CPB0O E
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	CPB0OE	CMPOB0 端子出力許可ビット	0 : コンパレータ B0 の CMPOB0 端子出力禁止(注1) 1 : コンパレータ B0 の CMPOB0 端子出力許可	R/W
b1	CPB0OP	CMPOB0 出力極性選択ビット	0 : コンパレータ B0 出力を CMPOB0 端子に出力 1 : コンパレータ B0 出力の反転を CMPOB0 端子に出力	R/W
b3-b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	CPB1OE	CMPOB1 端子出力許可ビット	0 : コンパレータ B1 の CMPOB1 端子出力禁止(注1) 1 : コンパレータ B1 の CMPOB1 端子出力許可	R/W
b5	CPB1OP	CMPOB1 出力極性選択ビット	0 : コンパレータ B1 出力を CMPOB1 端子に出力 1 : コンパレータ B1 出力の反転を CMPOB1 端子に出力	R/W
b7-b6	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. CPBnOE ビット (n = 0, 1) を“0”にして、CMPOBn 端子の出力を禁止した場合、CPBnOP ビットの値に関わらず、CMPOBn 端子には Low を出力します。

38.3 動作説明

コンパレータ B0 とコンパレータ B1 はそれぞれ独立して動作できます。各チャンネルの動作は同じです。なお、比較中にレジスタの値を変更したときの動作は保証しません。

38.3.1 設定手順

表 38.3 にウィンドウ機能無効時のコンパレータ B 関連レジスタの設定手順を、表 38.4 にウィンドウ機能有効時のコンパレータ B 関連レジスタの設定手順を示します。

表 38.3 コンパレータ B 関連レジスタの設定手順(ウィンドウ機能無効時) (n = 0, 1)

順番	レジスタ	ビット	設定値
1	CMPBn 端子を割り当てているポートの PijPFS	ASEL	1
2	CPBMD	CPBSPDMD	コンパレータ応答速度の選択(0 : 高速モード/1 : 低速モード)
3	CPBCNT1	CPBnINI	電源 ON にする : 1
4	CPBCNT2	CPBnWCP	1(注1)
5	CPBREF	CPBnVRF	0 : リファレンス入力電圧 = CVREFBn 入力(注1) 1 : リファレンス入力電圧 = 内部基準電圧
6	CVREFBn 端子を割り当てているポートの PijPFS	ASEL	1 0
7	コンパレータの動作が安定するのを待つ(注1)(動作安定待ち時間(Tcmp)(注2))		
8	CPBCNT2	CPBnWCP	0(注1)
9	CPBF	フィルタ有無、サンプリングクロック選択	
10	コンパレータの動作が安定するのを待つ(動作安定待ち時間(Tcmp)(注2))		
11	CPBOCR	CPBnOP, CPBnOE	CMPOBn 出力の設定(極性選択、出力許可/禁止を設定)
12	CPBINT	CPBnINTEN	割り込みを使用する場合 : 1 (割り込み許可)
		CPBnINTEG	割り込みまたはイベント出力を使用する場合 : エッジを選択(1 = 両エッジ/0 = 片エッジ)
		CPBnINTPL	割り込みまたはイベント出力を使用する場合 : CPBnINTEG = 0 (片エッジ選択)の場合、エッジ極性を選択(1 = 立ち上がりエッジ/0 = 立ち下がりエッジ)
13	IPR058 (コンパレータ B0), IPR059 (コンパレータ B1)	IPR[3:0]	割り込みを使用する場合 : 割り込み優先レベル選択
	IR058 (コンパレータ B0), IR059 (コンパレータ B1)	IR	割り込みを使用する場合 : 0 (割り込み要求なし : 初期化)
	IER07	IEN2 (コンパレータ B0), IEN3 (コンパレータ B1)	割り込みを使用する場合 : 1 (割り込みコントローラ(ICU)側の割り込み許可)

注1. リファレンス入力電圧を CVREFBn 入力から内部基準電圧、もしくは内部基準電圧から CVREFBn 入力へ変更する場合、必要な設定です。リセット解除後で CVREFBn 入力を選択する場合であれば CPBREF.CPBnVRF ビットの初期値が“0”であるため、手順4、5、7、8は不要です。

注2. 動作安定待ち時間(Tcmp)については電気的特性を参照してください。

表 38.4 コンパレータ B 関連レジスタの設定手順(ウィンドウ機能有効時) (n = 0, 1)

順番	レジスタ	ビット	設定値
1	CMPBn 端子を割り当てているポートの PijPFS	ASEL	1
2	CPBMD	CPBSPDMD	0 (高速モードを指定)
3	CPBCNT1	CPBnINI	電源 ON にする : 1
4	CPBF	フィルタ有無、サンプリングクロック選択	
5	CPBCNT2	CPBnWCP	1 (動作許可)
6	コンパレータの動作が安定するのを待つ(動作安定待ち時間(Tcmp)(注1))		
7	CPBOCR	CPBnOP, CPBnOE	CMPOBn 出力の設定(極性選択、出力許可/禁止を設定)
8	CPBINT	CPBnINTEN	割り込みを使用する場合 : 1 (割り込み許可)
		CPBnINTEG	割り込みまたはイベント出力を使用する場合 : エッジを選択(1 = 両エッジ/0 = 片エッジ)
		CPBnINTPL	割り込みまたはイベント出力を使用する場合 : CPBnINTEG = 0 (片エッジ選択)の場合、エッジ極性を選択(1 = 立ち上がりエッジ/0 = 立ち下がりエッジ)
9	IPR058 (コンパレータ B0), IPR059 (コンパレータ B1)	IPR[3:0]	割り込みを使用する場合 : 割り込み優先レベル選択
	IR058 (コンパレータ B0), IR059 (コンパレータ B1)	IR	割り込みを使用する場合 : 0 (割り込み要求なし : 初期化)
	IER07	IEN2 (コンパレータ B0), IEN3 (コンパレータ B1)	割り込みを使用する場合 : 1 (割り込み許可)

注1. 動作安定待ち時間(Tcmp)については電気的特性を参照してください。

38.3.2 動作例

図 38.3 にウィンドウ機能無効時のコンパレータ B_n の動作例 (n = 0, 1) を示します。

リファレンス入力電圧 (CVREFB0/CVREFB1 または内部基準電圧) とアナログ入力電圧 (CMPB_n) の比較を行います。リファレンス入力よりアナログ入力の電圧が高い場合は、CPBFLG.CPB_nOUT ビットが“1”になり、リファレンス入力よりアナログ入力の電圧が低い場合は、CPB_nOUT ビットが“0”になります。

コンパレータ B_n 割り込みを使用する場合は、CPBINT.CPB_nINTEN ビットを“1” (割り込み許可) にしてください。このとき比較結果が変化すれば、コンパレータ B_n 割り込み要求が発生します。割り込みについては「38.4 割り込み」を参照してください。

コンパレータ B₀、B₁ は ELC へイベント信号を出力し、他のモジュールを動作させることができます。イベント信号については「38.5 イベントリンク出力機能」を参照してください。

比較中は、各レジスタの値を変更しないでください。

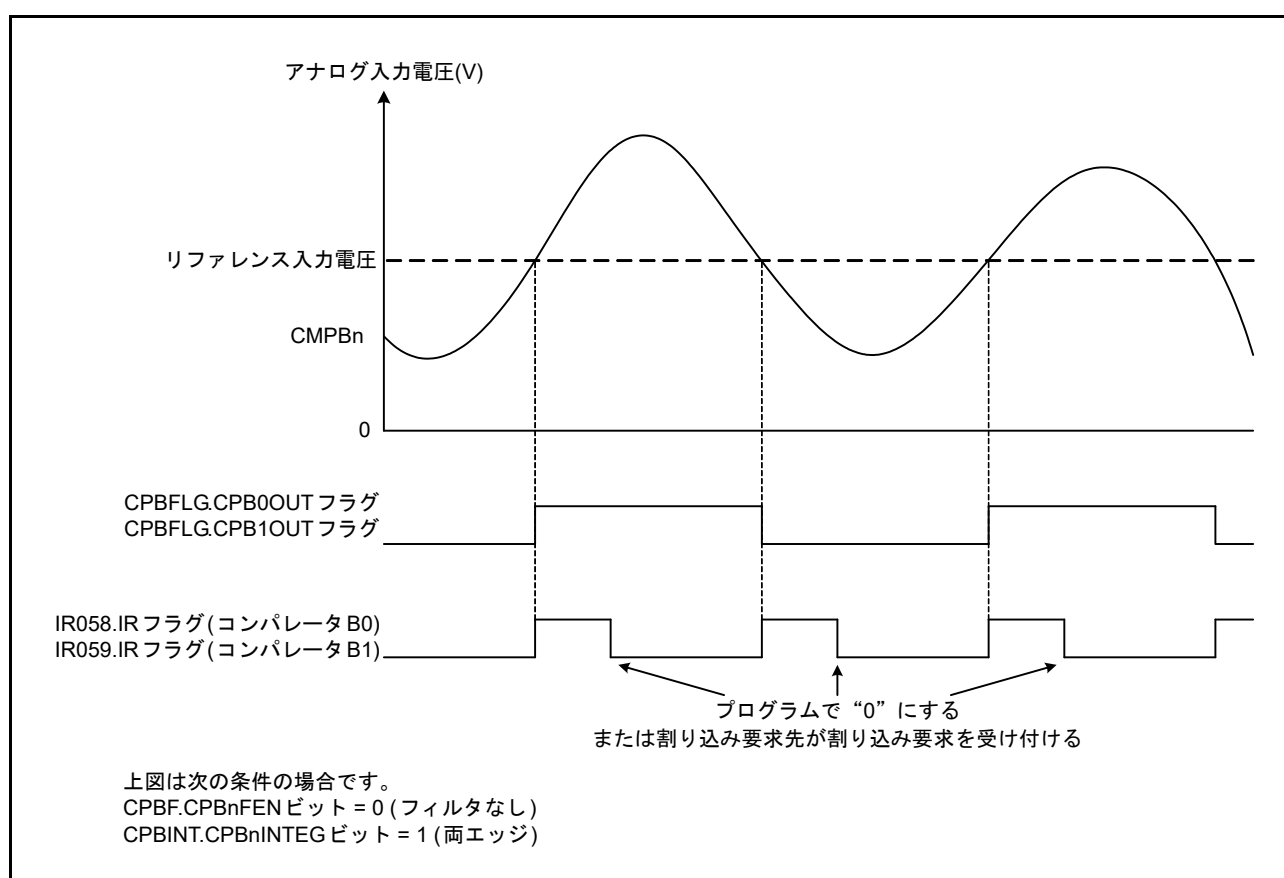


図 38.3 コンパレータ B_n の動作例 (ウィンドウ機能無効時) (n = 0, 1)

図 38.4 にウィンドウ機能有効時のコンパレータ B_n の動作例 (n = 0, 1) を示します。

ウィンドウ機能用内部基準電圧 (VRFH/VRFL) とアナログ入力電圧 (CMPB_n) の比較を行います。VRFL < アナログ入力電圧 < VRFH となる場合は、CPB_nOUT ビットが“1”になり、アナログ入力電圧 < VRFL または VRFH < アナログ入力電圧となる場合は CPB_nOUT ビットが“0”になります。

コンパレータ B_n 割り込みを使用する場合は、CPBINT.CPB_nINTEN ビットを“1” (割り込み許可) にしてください。このとき比較結果が変化すれば、コンパレータ B_n 割り込み要求が発生します。割り込みについては「38.4 割り込み」を参照してください。

コンパレータ B₀、B₁ は ELC へイベント信号を出力し、他のモジュールを動作させることができます。イベント信号については「38.5 イベントリンク出力機能」を参照してください。

比較中は、各レジスタの値を変更しないでください。

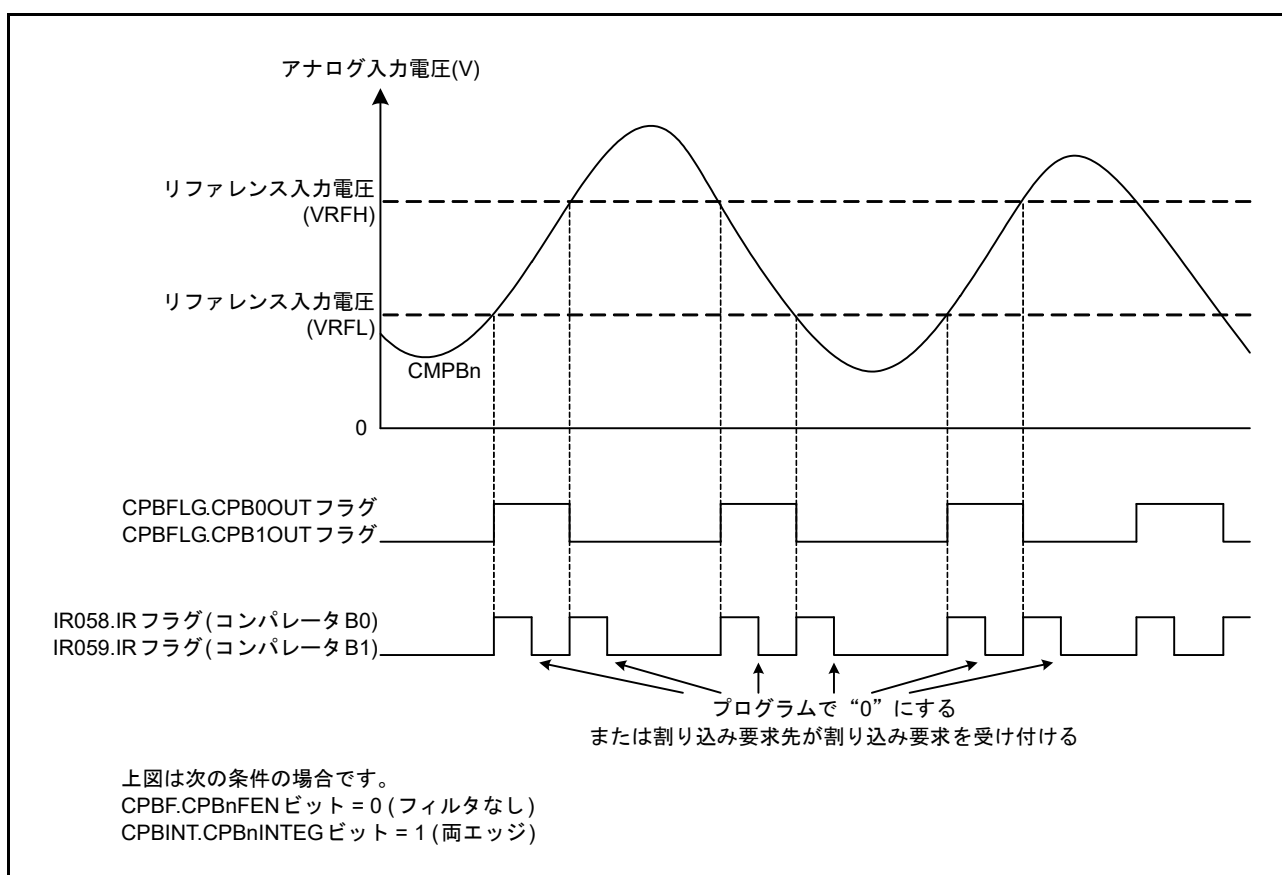


図 38.4 コンパレータ B_n の動作例 (ウィンドウ機能有効時) (n = 0, 1)

38.3.3 コンパレータ Bn デジタルフィルタ (n = 0, 1)

サンプリングクロックは、CPBF.CPBnF[1:0] ビットで選択できます。サンプリングクロックごとにコンパレータ Bn の CPBnOUT 出力信号 (内部信号) をサンプリングし、レベルが 3 度一致した次のクロックタイミングで、IR058.IR フラグ (コンパレータ B0 選択時)、IR059.IR フラグ (コンパレータ B1 選択時) が “1” (割り込み要求あり) になり、ELC へのイベント信号が出力されます。

図 38.5 にコンパレータ Bn デジタルフィルタの構成を、図 38.6 にコンパレータ Bn デジタルフィルタの動作例を示します。

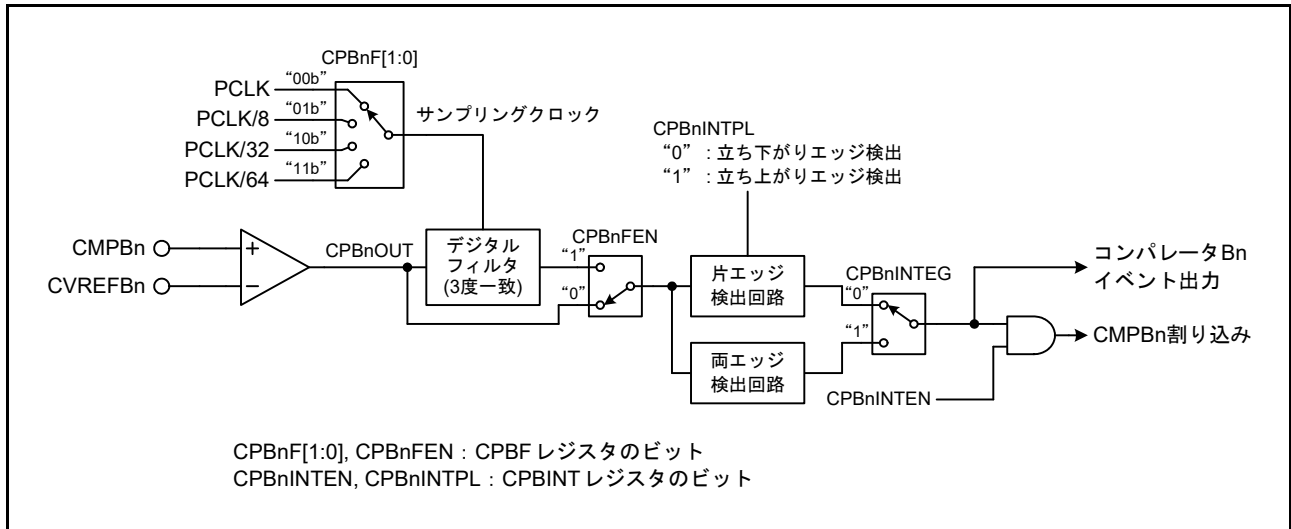


図 38.5 コンパレータ Bn デジタルフィルタの構成 (n = 0, 1)

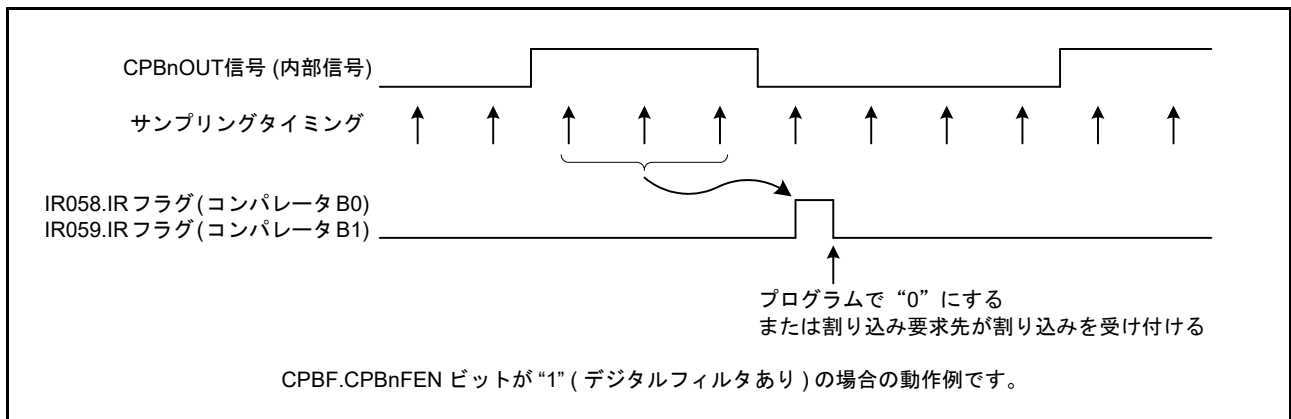


図 38.6 コンパレータ Bn デジタルフィルタの動作例 (n = 0, 1)

38.3.4 コンパレータ Bn 出力機能 (n = 0, 1)

コンパレータ B の比較結果を外部端子へ出力することができます。CPBOCR.CPBnOP ビット、CPBOCR.CPBnOE ビットにより出力極性 (そのまま出力 / 反転出力) および、出力許可 / 禁止を設定できます。レジスタ設定とコンパレータ出力の対応は、「38.2.8 コンパレータ B 出力制御レジスタ (CPBOCR)」を参照してください。

CMPOB0 端子または CMPOB1 端子にコンパレータ B 比較結果を出力する場合は、以下の手順に従ってポートを設定してください (リセット後、ポートは入力設定になっています)。

- (1) コンパレータ B のモード設定、入力設定をする (表 38.3 記載の順番 1 ~ 10 および、表 38.4 記載の順番 1 ~ 6)。
- (2) CMPOB0、CMPOB1 端子の出力極性を選択、出力を許可する (CPBOCR.CPBnOP ビット、CPBOCR.CPBnOE ビットを設定)。
- (3) CMPOB0、CMPOB1 端子に対応するポートモードレジスタ、端子機能制御レジスタの設定をする (端子から出力開始)。

38.3.5 コンパレータ B を使用したソフトウェアスタンバイモード復帰例

コンパレータ B1 出力を使用してソフトウェアスタンバイモードから復帰する例を示します。

この例では、ソフトウェアスタンバイモード移行前がリファレンス入力電圧 (CVREFB1) > アナログ入力電圧 (CMPB1) の場合を示します。

ソフトウェアスタンバイモード移行前に下記 (1) ~ (3) の設定を行ってください。

- (1) 「38.3 動作説明」に従ってコンパレータ B1 関連レジスタの設定を行ってください。
ただし、CPBF.CPB1FEN ビットはフィルタ無効、CPBOCR.CPB1OE ビットは出力許可、CPBOCR.CPB1OP ビットは「コンパレータ B1 出力を CMPOB1 端子に出力」に設定してください。
- (2) 「14.4.8 外部端子割り込み」に従って IRQ4 の割り込み設定を行ってください。
ただし、IRQFLTE0.FLTEN4 ビットは“0” (デジタルフィルタ無効)、IRQCR4.IRQMD[1:0] ビットはコンパレータ B1 出力と同じ極性を選択してください。
この例では立ち上がりエッジ選択となります。
- (3) マルチファンクションピンコントローラ (MPC) の設定で CMPOB1 機能選択と IRQ4 を有効にしてください。

ソフトウェアスタンバイモードから復帰する場合は、コンパレータ B1 用アナログ端子 (CMPB1) からリファレンス入力電圧 (CVREFB1) < アナログ入力電圧 (CMPB1) となる電圧を入力することで、コンパレータ B1 出力端子 (CMPOB1) を経由して IRQ4 割り込みが発生し、ソフトウェアスタンバイモードから復帰します。

38.4 割り込み

コンパレータ B はコンパレータ B0 割り込み (CMPB0 割り込み)、コンパレータ B1 割り込み (CMPB1 割り込み) の 2 つの割り込み要求を発生します。CMPBn 割り込み (n = 0, 1) は、IR058.IR、IR059.IR フラグ、IPR058.IPR[3:0]、IPR059.IPR[3:0] ビットと、それぞれ 1 つの割り込みベクタを持ちます。

CMPBn 割り込みを使用するときは、CPBINT.CPBnINTEN ビットを“1”(割り込み許可)にしてください。さらに片エッジ検出か両エッジ検出かを CPBINT.CPBnINTEG ビットで選択できます。片エッジ選択時は極性を CPBINT.CPBnINTPL ビットで選択できます。

また、4 種類のサンプリングクロックを持つデジタルフィルタを通して入力することも可能です。

38.5 イベントリンク出力機能

イベントリンクコントローラ (ELC) に対して以下のタイミングでイベント出力を行う機能を持っています。

- (1) コンパレータ B0 の比較結果が変化するとき
- (2) コンパレータ B0、B1 の比較結果が変化するとき (注 1)

注 1. コンパレータ B0、B1 からの結果が同時、あるいは 1 クロックだけずれて出力された場合、1 つのイベントとして出力されます。

38.5.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

コンパレータ B0、B1 はイベントリンクコントローラ (ELC) へイベントを出力し、あらかじめ設定したモジュールを動作させることができます。ELC へのイベント信号は CPBnINTEN ビットの値に関わらず出力されます。

コンパレータ Bn から ELC に出力するイベント信号は、割り込み要求信号と同様に片エッジ検出か両エッジ検出かを CPBINT.CPBnINTEG ビットで選択できます。片エッジ選択時は極性を CPBINT.CPBnINTPL ビットで選択できます。

38.6 使用上の注意事項

38.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) により、コンパレータ B の動作禁止 / 許可を設定することが可能です。リセット後、コンパレータ B の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

39. データ演算回路 (DOC)

39.1 概要

データ演算回路 (DOC) は、16 ビットのデータを比較、加算または減算する機能です。

表 39.1 にデータ演算回路 (DOC) の仕様、図 39.1 に DOC のブロック図を示します。

16 ビットのデータを比較し、選択した条件に合致した場合に割り込みを発生させることができます。

表 39.1 データ演算回路(DOC)の仕様

項目	内容
データ演算機能	16ビットデータの比較、加算、または減算
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への遷移が可能
割り込み	<ul style="list-style-type: none"> データ比較の結果が検出条件に合致したとき データ加算の結果が“FFFFh”より大きくなったとき(オーバフロー) データ減算の結果が“0000h”より小さくなったとき(アンダフロー)
イベントリンク機能(出力)	<ul style="list-style-type: none"> データ比較の結果が検出条件に合致したとき データ加算の結果が“FFFFh”より大きくなったとき(オーバフロー) データ減算の結果が“0000h”より小さくなったとき(アンダフロー)

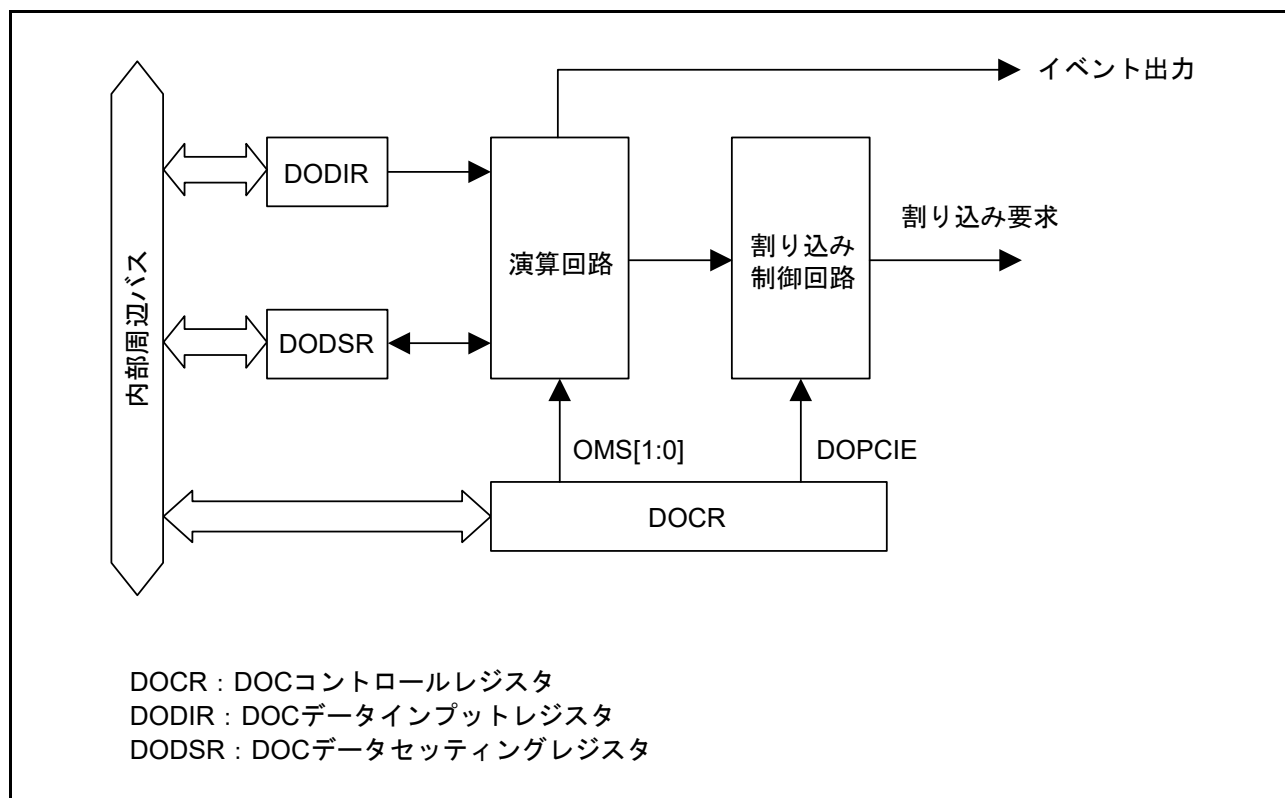


図 39.1 DOC のブロック図

39.2 レジスタの説明

39.2.1 DOC コントロールレジスタ (DOCR)

アドレス DOC.DOCR 0008 B080h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	DOPCF CL	DOPCF	DOPCI E	—	DCSEL	OMS[1:0]	
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	OMS[1:0]	動作モード選択ビット	b1 b0 0 0 : データ比較モード 0 1 : データ加算モード 1 0 : データ減算モード 1 1 : 設定禁止	R/W
b2	DCSEL	検出条件選択ビット(注1)	0 : 不一致を検出する 1 : 一致を検出する	R/W
b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b4	DOPCIE	データ演算回路割り込み許可ビット	0 : 割り込み禁止 1 : 割り込み許可	R/W
b5	DOPCF	データ演算結果フラグ	演算結果を示します	R
b6	DOPCFCL	データ演算結果クリアビット	0 : DOPCF フラグの値を保持 1 : DOPCF フラグをクリア	R/W
b7	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. データ比較モード選択時のみ有効

DOCR レジスタは、DOC の動作モードの設定や、割り込みの許可 / 禁止を設定するレジスタです。

OMS[1:0] ビット (動作モード選択ビット)

本ビットの設定により DOC の動作モードを選択します。

DCSEL ビット (検出条件選択ビット)

データ比較モード選択時のみ有効です。

本ビットの設定によりデータ比較モード時の結果の検出条件を選択します。

DOPCIE ビット (データ演算回路割り込み許可ビット)

本ビットが“1”の場合、データ演算回路割り込みを許可します。

DOPCF フラグ (データ演算結果フラグ)

[“1”になる条件]

- DCSEL ビットで選択した条件になったとき
- データ加算の結果が“FFFFh”より大きくなったとき
- データ減算の結果が“0000h”より小さくなったとき

[“0”になる条件]

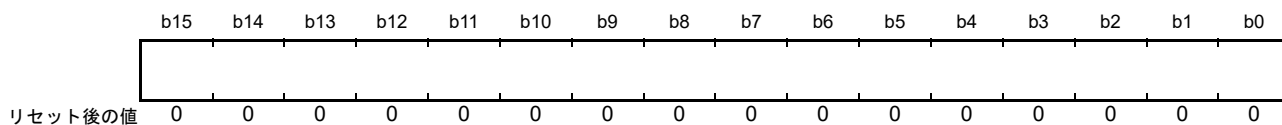
- DOPCFCL ビットに“1”を書き込んだとき

DOPCFCL ビット (データ演算結果クリアビット)

本ビットに“1”を書くと DOPCF フラグがクリアされます。
読むと“0”が読めます。

39.2.2 DOC データインプットレジスタ (DODIR)

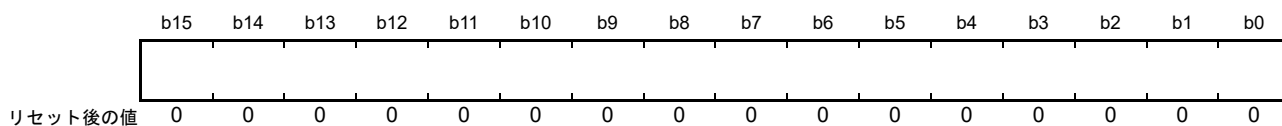
アドレス DOC.DODIR 0008 B082h



DODIR レジスタは、演算対象のデータを格納する読み書き可能なレジスタです。

39.2.3 DOC データセッティングレジスタ (DODSR)

アドレス DOC.DODSR 0008 B084h



DODSR レジスタは、比較対象のデータを格納する、または演算結果が格納される読み書き可能なレジスタです。

データ比較モードでは、比較の基準となるデータを格納してください。

データ加算モードおよびデータ減算モードでは、演算結果が格納されます。

39.3 動作説明

39.3.1 データ比較モード

図 39.2 にデータ比較モードの動作例を示します。

DOC は、データ比較モード時、以下のように動作します。

以下は DCSEL = 0 (データ比較の結果、不一致を検出) 設定時の動作例です。

- (1) DOCR.OMS[1:0] ビットに “00b” を書き込むと、データ比較モードになります。
- (2) DODSR レジスタに比較の基準となるデータを設定します。
- (3) DODIR レジスタに比較するデータを書き込みます。
- (4) すべてのデータの書き込みが完了するまで、DODIR レジスタに比較するデータを書き込みます。
- (5) DODIR レジスタに書き込まれたデータが DODSR レジスタに設定されているデータと一致しなかったとき DOCR.DOPCF フラグが “1” になります。また、DOCR.DOPCFCL ビットが “1” の場合は、データ演算回路割り込みが発生します。

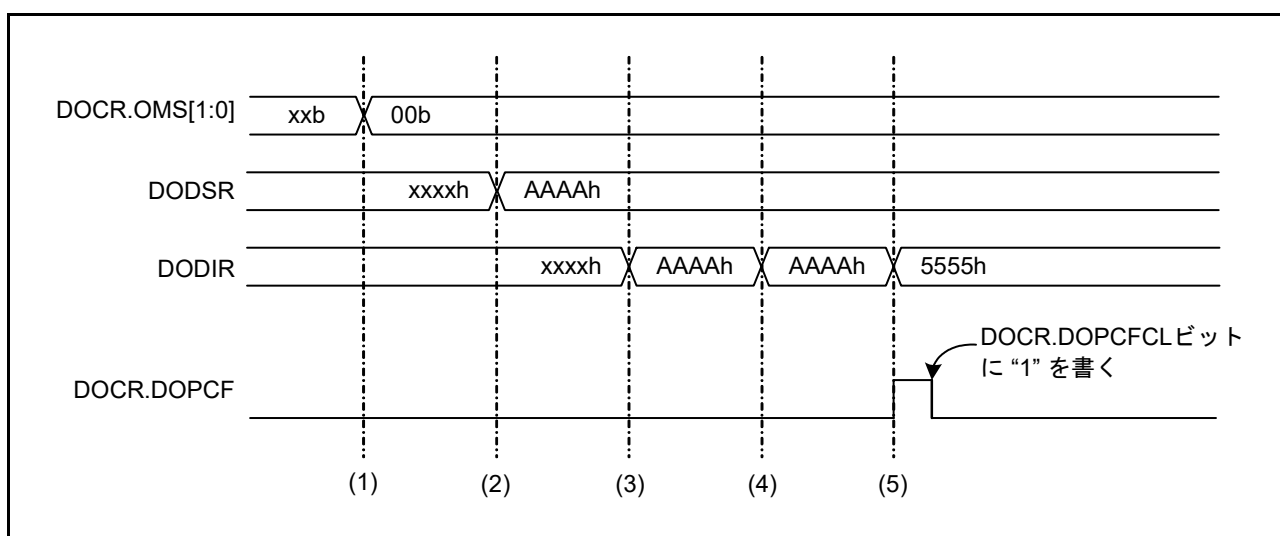


図 39.2 データ比較モードの動作例

39.3.2 データ加算モード

図 39.3 にデータ加算モードの動作例を示します。

DOC は、データ加算モード時、以下のように動作します。

- (1) DOCR.OMS[1:0] ビットに“01b”を書き込むと、データ加算モードになります。
- (2) DODSR レジスタに初期値を設定します。
- (3) DODIR レジスタに加算するデータを書き込みます。演算結果は DODSR レジスタに格納されます。
- (4) すべてのデータの書き込みが完了するまで、DODIR レジスタに加算するデータを書き込みます。
- (5) 演算結果が“FFFFh”よりも大きくなると DOCR.DOPCF フラグが“1”になります。また、DOCR.DOPCIE ビットが“1”の場合は、データ演算回路割り込みが発生します。

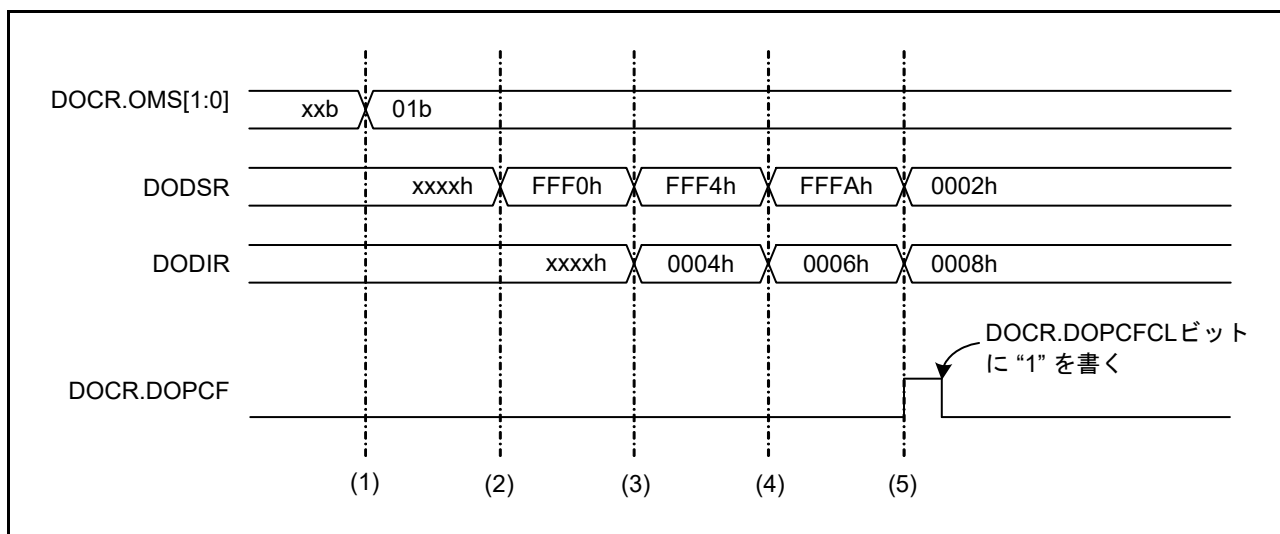


図 39.3 データ加算モードの動作例

39.3.3 データ減算モード

図 39.4 にデータ減算モードの動作例を示します。
 DOC は、データ減算モード時、以下のように動作します。

- (1) DOCR.OMS[1:0] ビットに“10b”を書き込むと、データ減算モードになります。
- (2) DODSR レジスタに初期値を設定します。
- (3) DODIR レジスタに減算するデータを書き込みます。演算結果は DODSR レジスタに格納されます。
- (4) すべてのデータの書き込みが完了するまで、DODIR レジスタに減算するデータを書き込みます。
- (5) 演算結果が“0000h”よりも小さくなると DOCR.DOPCF フラグが“1”になります。また、DOCR.DOPCFCL ビットが“1”の場合は、データ演算回路割り込みが発生します。

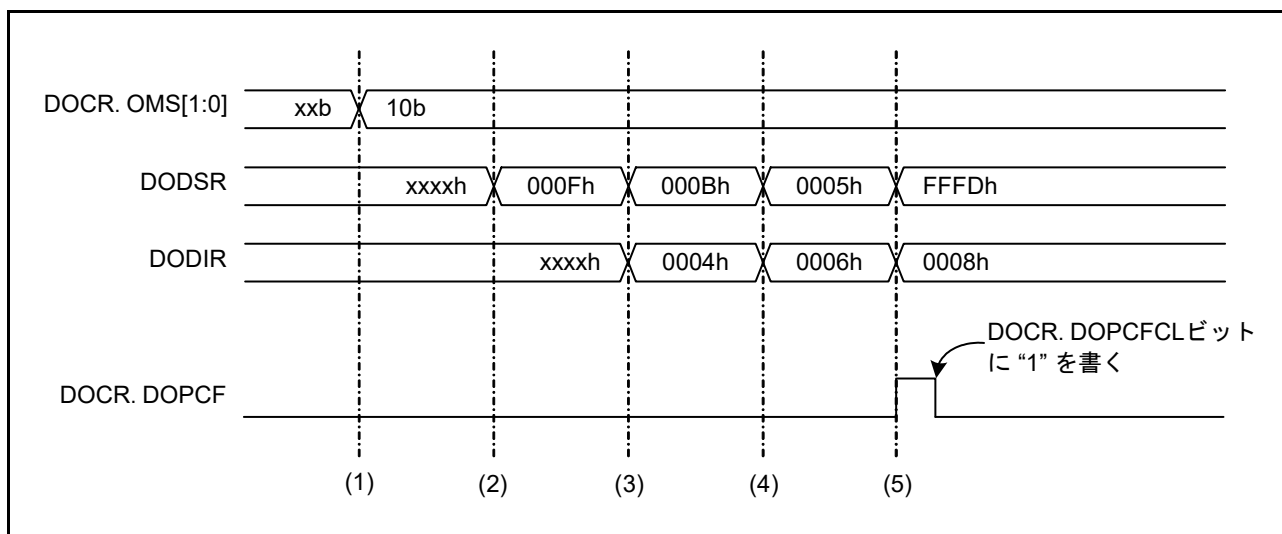


図 39.4 データ減算モードの動作例

39.4 割り込み要求

DOC が生成する割り込み要求には、データ演算回路割り込み (DOPCI) があります。割り込み要因が発生すると DOCR.DOPCF フラグが“1”になります。表 39.2 に割り込み要求の内容を示します。

表 39.2 DOCの割り込み要求

割り込み要求	データ演算結果フラグ	割り込み発生タイミング
データ演算回路割り込み (DOPCI)	DOPCF	<ul style="list-style-type: none"> • データ比較の結果が検出条件に合致したとき • データ加算の結果が“FFFFh”より大きくなったとき • データ減算の結果が“0000h”より小さくなったとき

39.5 イベントリンク出力機能

DOC はイベントリンクコントローラ (ELC) へ以下の条件でイベントを出力し、あらかじめ設定していたモジュールを動作させることができます。

- データ比較の結果が検出条件に合致したとき
- データ加算の結果が“FFFFh”より大きくなったとき
- データ減算の結果が“0000h”より小さくなったとき

39.5.1 割り込み処理とイベントリンクの関係

DOC には、割り込みを許可/禁止するビットがあります。割り込み要因が発生すると、割り込みが許可されている場合に CPU に対して割り込み要求信号を出力します。

これに対してイベントリンク出力信号は、割り込み要因が発生すると、割り込み許可ビットの値にかかわらず、ELC を介して他のモジュールにイベント信号として出力します。

39.6 使用上の注意事項

39.6.1 モジュールストップ機能の設定

モジュールストップコントロールレジスタ B (MSTPCRB) の MSTPB6 ビットにより、DOC の動作を禁止または許可することができます。リセット後、DOC の動作は停止しています。モジュールストップ状態を解除することにより、レジスタへのアクセスが可能になります。詳細は「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

40. RAM

本 MCU は、高速スタティック RAM を内蔵しています。

40.1 概要

表 40.1 に RAM の仕様を示します。

表 40.1 RAM の仕様

項目	内容
RAM容量	最大64Kバイト(注2)
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 読み出し、書き込みともに1サイクルで動作 RAM有効/無効選択可能(注1)
消費電力低減機能	モジュールストップ状態への設定が可能

注1. SYSCR1.RAMEビットにより選択可能です。SYSCR1レジスタについては、「3.2.2 システムコントロールレジスタ1 (SYSCR1)」を参照してください。

注2. 製品によってRAM容量が異なります。

RAM容量	RAMアドレス
64Kバイト	RAM0 : 0000 0000h ~ 0000 FFFFh
32Kバイト	RAM0 : 0000 0000h ~ 0000 7FFFh
16Kバイト	RAM0 : 0000 0000h ~ 0000 3FFFh

40.2 使用上の注意事項

40.2.1 消費電力低減機能

モジュールストップコントロールレジスタ C (MSTPCRC) の設定により、RAM へのクロック供給を停止させることで、消費電力を低減ができます。

MSTPCRC.MSTPC0 ビットを“1”にセットすると RAM0 に供給されるクロックが停止します。

クロック供給の停止により、RAM0 はモジュールストップ状態になります。リセット後の初期値では、RAM は動作状態です。

モジュールストップ状態になると、RAM へのアクセスができなくなります。RAM のアクセス中にモジュールストップ状態へ遷移しないでください。

MSTPCRC レジスタの詳細については、「11. 消費電力低減機能」を参照してください。

40.2.2 RAM の自己診断に関する注意事項

RAM にはライトバッファが搭載されているため、書き込みを行った後に同一アドレスから読み出しを行うと、RAM のメモリセルではなくライトバッファのデータが読み出されることがあります。RAM の自己診断を行う場合、ライトバッファのデータを読み出さないように、以下の手順で書いたデータの確認を実施してください。

- (1) 診断対象のアドレスにデータを書く
- (2) (1) のアドレスから 4 番地以上離れたアドレスにデータを書く
- (3) (1) のアドレスからデータを読む

41. フラッシュメモリ (FLASH)

本 MCU は、64K/128K/256K バイトのユーザ領域 (ROM) と 4K/8K バイトのデータ領域 (E2 データフラッシュ) を内蔵しています。

本章に記載している PCLK とは PCLKB を指します。

41.1 概要

表 41.1 にフラッシュメモリの仕様を示します。

表 41.8 にブートモードで使用する入出力端子を示します。

表41.1 フラッシュメモリの仕様

項目	内容
メモリ空間	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ領域：最大 256K バイト データ領域：最大 8K バイト エクストラ領域：スタートアップ領域情報、アクセスウィンドウ情報、ユニーク ID を格納
動作クロック	<ul style="list-style-type: none"> FCLK：1～48 MHz (ROM P/E モード時、E2 データフラッシュ P/E モード時) ～48 MHz (E2 データフラッシュリードモード時) HOCO クロック：24 MHz、32 MHz、または 48 MHz (ROM P/E モード時、E2 データフラッシュ P/E モード時)
ソフトウェアコマンド	<ul style="list-style-type: none"> 以下のソフトウェアコマンドを実装 プログラム、ブランクチェック、ブロックイレーズ、全ブロックイレーズ エクストラ領域のプログラム用に以下のコマンドを実装 スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウプロテクト、アクセスウィンドウ情報プログラム
イレーズ後の値	<ul style="list-style-type: none"> ROM：FFh E2 データフラッシュ：FFh
割り込み	ソフトウェアコマンド処理の完了、または強制停止処理の完了により割り込み (FRDYI) が発生
オンボードプログラミング	ブートモード (SCI インタフェース) (注1) <ul style="list-style-type: none"> シリアルコミュニケーションインタフェースのチャンネル 1 (SCI1) を調歩同期式モードで使用 ユーザ領域とデータ領域を書き換え可能 ブートモード (FINE インタフェース) (注1) <ul style="list-style-type: none"> FINE を使用 ユーザ領域とデータ領域を書き換え可能 セルフプログラミング (シングルチップモード) <ul style="list-style-type: none"> ユーザプログラム内のフラッシュ書き換えルーチンによるユーザ領域とデータ領域の書き換えが可能
オフボードプログラミング	本 MCU に対応したフラッシュプログラムを使用して、ユーザ領域とデータ領域の書き換えが可能
ID コードプロテクト	<ul style="list-style-type: none"> ブートモード時、シリアルプログラムとの接続の許可または禁止を、ID コードにより制御可能 オンチップデバッグエミュレータ接続時、ID コードにより制御可能
スタートアッププログラム保護機能	ブロック 0～7 の書き換えを安全に行うための機能
エリアプロテクション	セルフプログラミング時、ユーザ領域内の指定された範囲のみ書き換えを許可し、それ以外への書き換えを禁止することが可能
バックグラウンドオペレーション (BGO) 機能	E2 データフラッシュの書き換え中に、ROM 上に配置されたプログラムを実行可能

注1. 詳細については各シリアルプログラマのマニュアル、『Renesas Flash Programmer フラッシュ書き込みソフトウェア・ユーザズ・マニュアル』をご参照ください。

41.3 E2 データフラッシュの領域とブロックの構成

本 MCU の E2 データフラッシュは最大 8K バイトで構成されています。ブロックに分割されており、イレーズはこのブロック単位で行います。図 41.2 に E2 データフラッシュの領域とブロックの構成を示します。

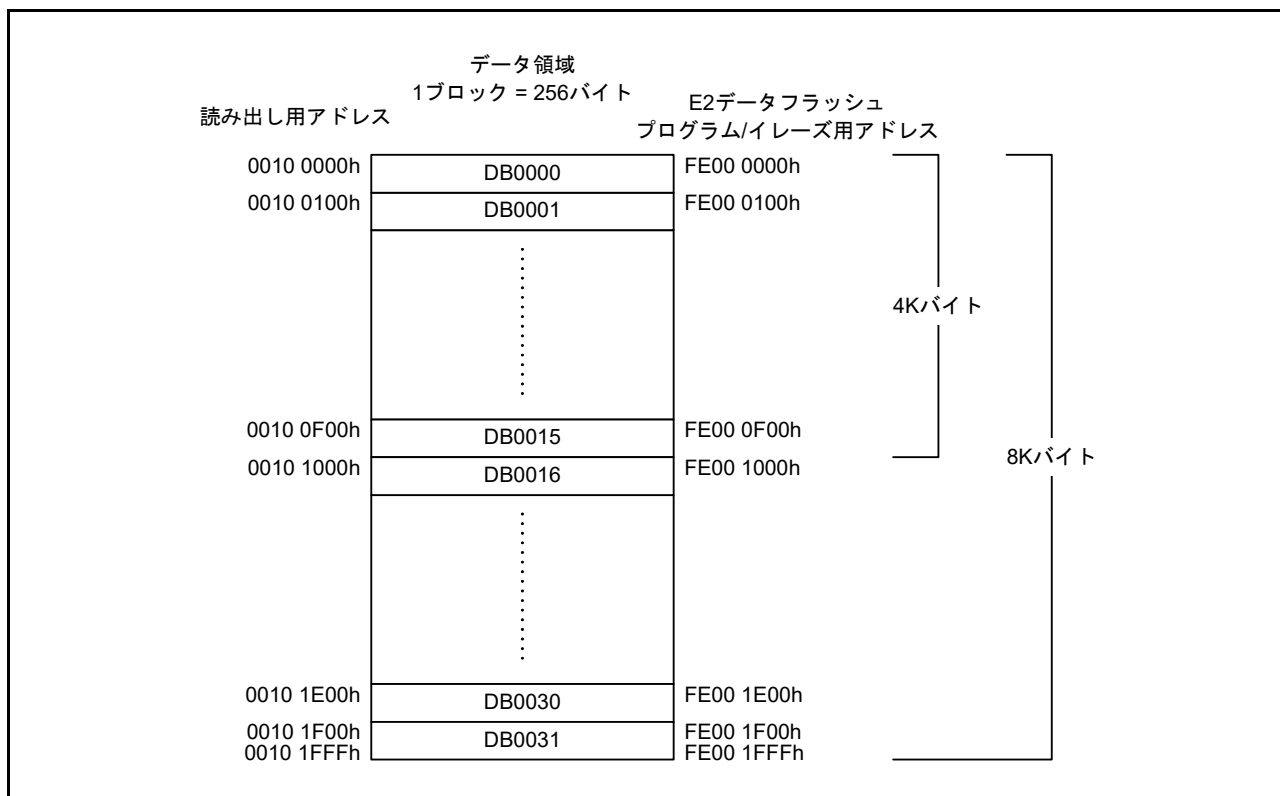


図 41.2 E2 データフラッシュの領域とブロックの構成

41.4 レジスタの説明

41.4.1 E2 データフラッシュ制御レジスタ (DFLCTL)

アドレス FLASH.DFLCTL 007F C090h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	DFLEN
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	DFLEN	E2データフラッシュアクセス許可ビット	0: E2データフラッシュへのアクセスおよびP/Eモード時におけるエクストラ領域へのアクセス(注1)禁止 1: E2データフラッシュへのアクセスおよびP/Eモード時におけるエクストラ領域へのアクセス(注1)許可	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

注1. スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウプロテクト、アクセスウィンドウ情報プログラム

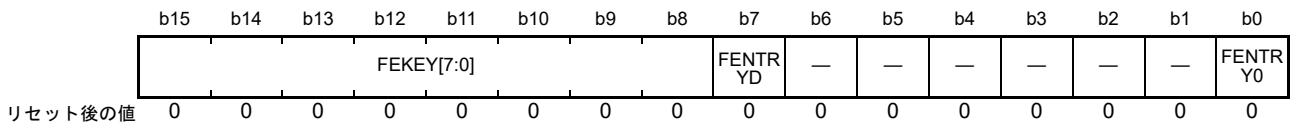
DFLCTL レジスタは、E2 データフラッシュへのアクセス (リード、プログラム、イレーズ) の許可 / 禁止および P/E モード時におけるエクストラ領域へのアクセス (スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウプロテクト、アクセスウィンドウ情報プログラム) を許可 / 禁止するためのレジスタです。

E2 データフラッシュのリード、プログラム、イレーズを行う場合は、DFLCTL.DFLEN ビットを“1”にして E2 データフラッシュ STOP 解除時間 (tDSTOP) 経過後に E2 データフラッシュの読み出しと E2 データフラッシュ P/E モードへの遷移を行ってください。E2 データフラッシュ STOP 解除時間 (tDSTOP) を経過するまでは E2 データフラッシュの読み出しと E2 データフラッシュ P/E モードへの遷移を行わないでください。

E2 データフラッシュ P/E モードについては、「41.7.1 シーケンサのモード」を、E2 データフラッシュ STOP 解除時間 (tDSTOP) については、「42. 電気的特性」を参照してください。

41.4.2 フラッシュ P/E モードエントリレジスタ (FENTRYR)

アドレス FLASH.FENTRYR 007F FFB0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FENTRY0	ROM P/Eモードエントリビット0	0 : ROMはリードモード 1 : ROMはP/Eモードエントリ可能	R/W
b6-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	FENTRYD	E2データフラッシュ P/Eモードエントリビット	0 : E2データフラッシュはリードモード 1 : E2データフラッシュはP/Eモードエントリ可能	R/W
b15-b8	FEKEY[7:0]	キーコード	FENTRYRレジスタの書き換えを制御します。 下位8ビットの値を書き換える場合、このビットを “AAh”にして16ビット単位で同時に書いてください。 読むと“00h”が読めます	R/W

ROM や E2 データフラッシュを書き換えるためには、HOCO を発振させた後、FENTRYD ビットと FENTRY0 ビットのいずれかを“1”にして P/E モードに移行させる必要があります。

リードモードに戻るときは、FENTRYR レジスタを設定した後、値が書き換わっていることを確認してから、ROM や E2 データフラッシュのリードを行ってください。

P/E モード、リードモードについては、「41.7.1 シーケンサのモード」を参照してください。

FENTRY0 ビット (ROM P/E モードエントリビット 0)

ROM を P/E モードに移行させるためのビットです。

[“1”になる条件]

- FENTRYR レジスタが“0000h”のときに、FENTRYR レジスタに“AA01h”を書いた場合

注． ROM P/E モードに遷移する場合、ROM に対する命令フェッチを実行させないため、命令フェッチ番地を ROM 以外の領域に移す必要があります。必要な命令コードを内蔵 RAM ヘコピーして内蔵 RAM ヘジャンプしてください。ただし、E2 データフラッシュは、ROM 上に配置されたプログラムで書き換え可能です。

[“0”になる条件]

- FENTRYR レジスタに“AA00h”を書いた場合

FENTRYD ビット (E2 データフラッシュ P/E モードエントリビット)

E2 データフラッシュを P/E モードに移行させるためのビットです。

[“1”になる条件]

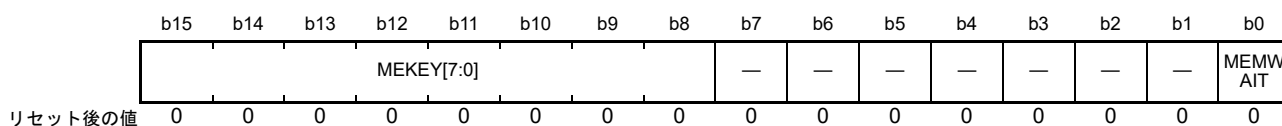
- FENTRYR レジスタが“0000h”のときに、FENTRYR レジスタに“AA80h”を書いた場合

[“0”になる条件]

- FENTRYR レジスタに“AA00h”を書いた場合

41.4.3 メモリウェイトサイクル設定レジスタ (MEMWAITR)

アドレス FLASH.MEMWAITR 007F FFC0h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	MEMWAIT	メモリウェイトサイクル設定ビット	0 : ウェイトなし 1 : ウェイトあり	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b15-b8	MEKEY[7:0]	キーコード	MEMWAITRレジスタの書き換えを制御します。 下位8ビットの値を書き換える場合、このビットを “AAh”にして16ビット単位で同時に書いてください。 読むと“00h”が読めます	R/W

MEMWAITR レジスタはROMのウェイトサイクルを制御するレジスタです。

MEMWAIT ビット (メモリウェイトサイクル設定ビット)

ROMのウェイトサイクルを指定するビットです。

システムクロック (ICLK) を 32 MHz より高い周波数にする場合、MEMWAIT ビットを“1”にしてください。また、中速動作モード、中速動作モード2、低速動作モードでは、MEMWAIT ビットを“0”にしてください。

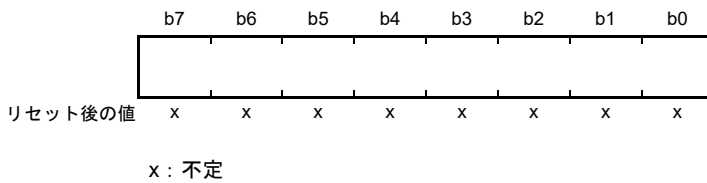
なお、MEMWAIT ビットの値は、高速動作モードでかつ ICLK の周波数が 32 MHz 以下のときに変更してください。

表41.3 MEMWAITビットの設定に関する制約

MEMWAITビット	高速動作モード		中速動作モード 中速動作モード2 低速動作モード
	ICLK > 32 MHz	ICLK ≤ 32 MHz	
0	設定禁止	設定可	設定可
1	設定可	設定可	設定禁止

41.4.4 プロテクト解除レジスタ (FPR)

アドレス FLASH.FPR 007F C180h



本レジスタは、CPU が暴走したときに備え、FPMCR レジスタが容易に書き換えられないように保護するためのライトオンリのレジスタです。以下に示す手順でレジスタをアクセスした場合のみ、FPMCR レジスタへの書き込みが有効になります。

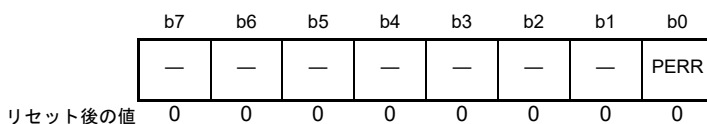
プロテクト解除手順

- (1) FPR レジスタに“A5h”を書き込む
- (2) FPMCR レジスタに設定したい値を書き込む
- (3) FPMCR レジスタに設定したい値の反転値を書き込む
- (4) FPMCR レジスタに再び設定したい値を書き込む

上記プロテクト解除手順以外で書き込みを行った場合、FPSR.PERR フラグが“1”になります。

41.4.5 プロテクト解除ステータスレジスタ (FPSR)

アドレス FLASH.FPSR 007F C184h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	PERR	プロテクトエラーフラグ	0 : エラーなし 1 : エラー発生	R
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R

PERR フラグ (プロテクトエラーフラグ)

FPMCR レジスタに対して、プロテクト解除手順どおりのアクセスを行わなかった場合、レジスタへの書き込みは行われず、このフラグが“1”になります。

[“1”になる条件]

- FPMCR レジスタに対して、プロテクト解除手順どおりのアクセスを行わなかった場合

[“0”になる条件]

- 「41.4.4 プロテクト解除レジスタ (FPR)」に記載のプロテクト解除手順でレジスタをアクセスした場合

41.4.6 フラッシュ P/E モード制御レジスタ (FPMCR)

アドレス FLASH.FPMCR 007F C100h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	FMS1	RPDIS	—	FMS0	—
リセット後の値	0	0	0	0	1	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b1	FMS0	フラッシュ動作モード選択ビット0	FMS1 FMS0 0 0: ROM/E2データフラッシュリードモード 0 1: ROM P/Eモード 1 0: E2データフラッシュ P/Eモード 1 1: 設定禁止	R/W
b2	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b3	RPDIS	ROM P/E 禁止ビット	0: ROMはプログラム/イレーズ可能 1: ROMはプログラム/イレーズ不可能	R/W
b4	FMS1	フラッシュ動作モード選択ビット1	FMS0ビットを参照してください	R/W
b7-b5	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

フラッシュメモリの動作モードを設定するレジスタです。

本レジスタはプロテクトされています。プロテクト解除手順を用いて値を設定してください(詳細は「41.4.4 プロテクト解除レジスタ (FPR)」を参照)。

ROM P/E モードに遷移する場合、もしくはROM P/E モード中はRAM上で命令を実行する必要があります。

FMS0, FMS1 ビット (フラッシュ動作モード選択ビット0、フラッシュ動作モード選択ビット1)

フラッシュの動作モードを設定します。

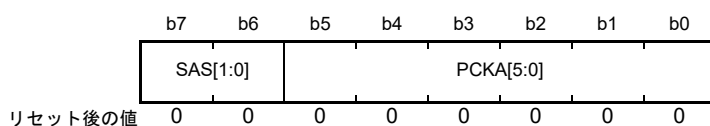
- リードモードから ROM P/E モードに遷移する場合
FMS1 ビット=0、FMS0 ビット=1、RPDIS ビット=0 に設定します。
- ROM P/E モードからリードモードに遷移する場合
FMS1 ビット=0、FMS0 ビット=0、RPDIS ビット=1 に設定します。
ROM モード遷移待ち時間 (tMS、「42. 電気的特性」を参照) 待ちます。
- リードモードから E2 データフラッシュ P/E モードに遷移する場合
FMS1 ビット=1、FMS0 ビット=0、RPDIS ビット=0 に設定します。
- E2 データフラッシュ P/E モードからリードモードに遷移する場合
FMS1 ビット=0、FMS0 ビット=0、RPDIS ビット=1 に設定します。
ROM モード遷移待ち時間 (tMS、「42. 電気的特性」を参照) 待ちます。

RPDIS ビット (ROM P/E 禁止ビット)

ROM のプログラム/イレーズ実行をソフトウェアによって禁止します。

41.4.7 フラッシュ初期設定レジスタ (FISR)

アドレス FLASH.FISR 007F C1D8h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b5-b0	PCKA[5:0]	周辺クロック通知ビット	FlashIFクロック (FCLK)の周波数を設定するためのビットです	R/W
b7-b6	SAS[1:0]	スタートアップ領域選択ビット	b7 b6 0 x : エクストラ領域内のスタートアップ領域設定に従う 1 0 : 一時的にスタートアップ領域をデフォルト領域に切り替える 1 1 : 一時的にスタートアップ領域を代替領域に切り替える	R/W

x : Don't care

FISR レジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

PCKA[5:0] ビット (周辺クロック通知ビット)

ROM/E2 データフラッシュのプログラム/イレーズ時に、FlashIF クロック (FCLK) の周波数を設定するためのビットです。

プログラム/イレーズを行う前に PCKA[5:0] ビットに FCLK の周波数を設定してください。ROM/E2 データフラッシュのプログラム/イレーズ中は、FCLK の周波数を変更しないでください。

- FCLK が 4 MHz より高い場合

小数部がある場合は切り上げて設定してください。

たとえば 31.5 MHz の場合は、32 MHz (PCKA[5:0] ビット = 011111b) に設定してください。

- FCLK が 4 MHz 以下の場合

小数部のある周波数は使用しないでください。

1 MHz、2 MHz、3 MHz または 4 MHz の周波数で使用してください。

注 . FCLK と異なる周波数を PCKA[5:0] ビットに設定した場合、ROM/E2 データフラッシュのデータが破壊される可能性があります。

表 41.4 FlashIF クロック周波数設定例

FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0] ビット設定値	FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0] ビット設定値	FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0] ビット設定値
48	100111b	46	100110b	44	100101b
42	100100b	40	100011b	38	100010b
36	100001b	34	100000b	32	011111b
31	011110b	30	011101b	29	011100b
28	011011b	27	011010b	26	011001b
25	011000b	24	010111b	23	010110b
22	010101b	21	010100b	20	010011b
19	010010b	18	010001b	17	010000b
16	001111b	15	001110b	14	001101b
13	001100b	12	001011b	11	001010b

表41.4 FlashIFクロック周波数設定例

FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0]ビット設定値	FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0]ビット設定値	FlashIFのクロック周波数 (MHz)	PCKA[5:0]ビット設定値
10	001001b	9	001000b	8	000111b
7	000110b	6	000101b	5	000100b
4	000011b	3	000010b	2	000001b
1	000000b	—	—	—	—

SAS[1:0] ビット (スタートアップ領域選択ビット)

スタートアップ領域を選択します。スタートアップ領域を変更するには、以下の3種類の方法があります。

- エクストラ領域のスタートアップ領域設定に従いスタートアップ領域を選択する場合
SAS[1:0] ビットが“00b”または“01b”の場合、エクストラ領域のスタートアップ領域設定に従ってスタートアップ領域が選択されます。スタートアップ領域情報プログラムコマンドを使用して、スタートアップ領域を変更してください。
- 一時的にスタートアップ領域をデフォルト領域に切り替える場合
SAS[1:0] ビットを“10b”にすると、エクストラ領域のスタートアップ領域設定に関わらず、スタートアップ領域をデフォルト領域に変更できます。
- 一時的にスタートアップ領域を代替領域に切り替える場合
SAS[1:0] ビットを“11b”にすると、エクストラ領域のスタートアップ領域設定に関わらず、スタートアップ領域を代替領域に変更できます。

41.4.8 フラッシュリセットレジスタ (FRESETR)

アドレス FLASH.FRESETR 007F C124h

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
—	—	—	—	—	—	—	FRESE T

リセット後の値 0 0 0 0 0 0 0 0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	FRESET	フラッシュリセットビット	0: フラッシュ制御回路のリセットを解除する 1: フラッシュ制御回路をリセットする	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

FRESET ビット (フラッシュリセットビット)

このビットを“1”にすると、FASR、FSARH、FSARL、FEARH、FEARL、FWB0、FWB1、FWB2、FWB3、FCR、FEXCR レジスタがリセットされます。また、FEAMH、FEAML レジスタの値が不定になります。リセット中はこれらのレジスタにアクセスしないでください。リセットを解除するときは、このビットを“0”にしてください。

なお、ソフトウェアコマンド実行中やエクストラ領域書き換え中は、本レジスタへ書き込まないでください。

41.4.9 フラッシュ領域選択レジスタ (FASR)

アドレス FLASH.FASR 007F C104h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	—	—	—	—	—	EXS
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	EXS	エクストラ領域選択ビット	0: ユーザ領域、データ領域 1: エクストラ領域	R/W
b7-b1	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W

FASR レジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

FASR レジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。

FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込みません。

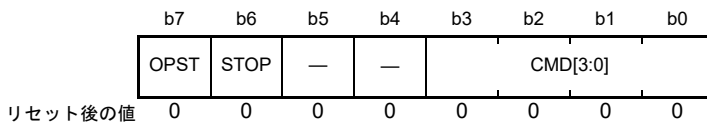
EXS ビット (エクストラ領域選択ビット)

エクストラ領域に対するソフトウェアコマンド (スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウプロテクト、アクセスウィンドウ情報プログラム) を発行する前に“1”にします。また、ユーザ領域に対するソフトウェアコマンド (プログラム、ブランクチェック、ブロックイレーズ、全ブロックイレーズ) を発行する前に“0”にします。

ソフトウェアコマンド発行後は、次のソフトウェアコマンドの発行まで値を変更しないでください。

41.4.10 フラッシュ制御レジスタ (FCR)

アドレス FLASH.FCR 007F C114h



ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b3-b0	CMD[3:0]	ソフトウェアコマンド設定ビット	b3 b0 0001: プログラム 0011: ブランクチェック 0100: ブロックイレーズ 0110: 全ブロックイレーズ 上記以外は設定しないでください(注1)	R/W
b5-b4	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b6	STOP	強制処理停止ビット	“1”にすると、実行中の処理を強制的に停止させることができます	R/W
b7	OPST	処理開始ビット	0: 処理停止 1: 処理開始	R/W

注1. FSTATR1.FRDRYフラグが“1”のとき、FCRレジスタを“00h”にする場合を除きます。

FCR レジスタは、ROM P/E モードでかつ ROM がプログラム / イレーズ可能時、または E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

FCR レジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込みできません。

ただし、ソフトウェアコマンド実行中は FRESETR.FRESET ビットによる初期化はできません。

CMD[3:0] ビット (ソフトウェアコマンド設定ビット)

ソフトウェアコマンド (プログラム、ブランクチェック、ブロックイレーズ、全ブロックイレーズ) を設定します。それぞれのコマンドの機能を以下に示します。

- プログラム

FSARH/FSARL レジスタに設定したアドレスに、FWB0/FWB1/FWB2/FWB3 レジスタに設定した値を書き込みます。

- ブランクチェック

FSARH/FSARL レジスタに設定したアドレスから、FEARH/FEARL レジスタに設定したアドレスまでのブランクチェックを行います。書き込みが行われていないことを確認します。消去状態の保持を保証するものではありません。

- ブロックイレーズ

フラッシュメモリ内の指定した任意の連続した領域をブロック単位で消去します。

消去したいブロックの先頭アドレスと最終アドレスを、それぞれ FSARH/FSARL レジスタと FEARH/FEARL レジスタに設定してください。それ以外の値を設定した場合、消去が正しく行えない場合があります。

- 全ブロックイレーズ

ROM または E2 データフラッシュを一括で消去します。

全ブロックイレーズは、ブロックイレーズに比べてより短時間でメモリを消去できます。

ROM を一括消去する場合は、ROM の先頭アドレスを FSARH/FSARL レジスタに、ROM の最終アドレスを FEARH/FEARL レジスタに設定してください。表 41.5 に全ブロックイレーズ時のアドレス設定値

を示します。

表41.5 全ブロックイレーズ時のアドレス設定値

対象	容量	FSARH/FSARL	FEARH/FEARL
ROM	256Kバイト	001C 0000h	001F FFF8h
	128Kバイト	001E 0000h	001F FFF8h
	64Kバイト	001F 0000h	001F FFF8h
E2データフラッシュ	8Kバイト	FE00 0000h	FE00 1FFFh
	4Kバイト	FE00 0000h	FE00 0FFFh

STOP ビット (強制処理停止ビット)

実行中の処理 (ブランクチェック、ブロックイレーズ、全ブロックイレーズ) を強制的に停止させるときに使用します。

このビットを“1”にした後は、FSTATR1.FRDY フラグが“1” (処理完了) になるのを待ってから OPST ビットを“0”にしてください。

OPST ビット (処理開始ビット)

CMD[3:0] ビットに設定したコマンドを実行するために使用します。

処理が完了しても“0”には戻りません。FSTATR1.FRDY フラグが“1” (処理完了) になったのを確認してから“0”に戻してください。また、その後 FSTATR1.FRDY フラグが“0”になったのを確認してから次の処理を実施してください。

41.4.11 フラッシュエクストラ領域制御レジスタ (FEXCR)

アドレス FLASH.FEXCR 007F C1DCh

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
OPST	—	—	—	—	CMD[2:0]		
リセット後の値	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b2-b0	CMD[2:0]	ソフトウェアコマンド設定ビット	b2 b0 001: スタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウプロテクト(注1) 010: アクセスウィンドウ情報プログラム 上記以外は設定しないでください(注2)	R/W
b6-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書く場合、“0”としてください	R/W
b7	OPST	処理開始ビット	0: 処理停止 1: 処理開始	R/W

注1. 一度プロテクトすると、解除できません。

注2. FSTATR1.EXRDYフラグが“1”のとき、FEXCRレジスタを“00h”にする場合を除きます。

FEXCR レジスタは、ROM P/E モードでかつ ROM がプログラム/イレーズ可能時に書き込みができます。FEXCR レジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込みません。

ただし、ソフトウェアコマンド実行中は FRESETR.FRESET ビットによる初期化はできません。

CMD[2:0] ビット (ソフトウェアコマンド設定ビット)

ソフトウェアコマンド(スタートアップ領域情報プログラム、アクセスウィンドウプロテクト、アクセスウィンドウ情報プログラム)を設定します。

各コマンドの詳細を以下に示します。

- スタートアップ領域情報プログラム

スタートアッププログラム保護機能で使用するスタートアップ領域切り替えに使用します。

スタートアップ領域をデフォルト領域に設定する場合、FWB1、FWB0 レジスタに“FFFFh”を設定してこのコマンドを実行します。

スタートアップ領域を代替領域に設定する場合、FWB1 レジスタに“FFFFh”、FWB0 レジスタに“FEFFh”を設定してこのコマンドを実行します。

なお、FWB1、FWB0 レジスタに上記以外の設定をした場合、スタートアップ領域情報プログラムを実行しないでください。

- アクセスウィンドウプロテクト

アクセスウィンドウの設定をプロテクトするために使用します。

FWB1 レジスタに“FFFFh”、FWB0 レジスタの b14 に“0”、b8 に FSCMR.SASMF フラグと同じ値、その他のビットに“1”を設定してこのコマンドを実行すると、アクセスウィンドウの設定がプロテクトされます。一度プロテクトすると、解除できません。

- アクセスウィンドウ情報プログラム

エリアプロテクションで使用するアクセスウィンドウを設定するために使用します。

アクセスウィンドウはブロック単位で設定します。

FWB0 レジスタにアクセスウィンドウの先頭アドレス(アクセスウィンドウ開始アドレス)を、FWB1 レジスタにアクセスウィンドウの最終アドレスの次のアドレス(アクセスウィンドウ終了アドレス)を指定してこのコマンドを発行します。各レジスタにはプログラム/イレーズ用アドレスの b21 ~ b11 を

設定してください。

なお、開始アドレスと終了アドレスに同じ値を指定した場合、全領域がアクセス可能になります。また、開始アドレスに終了アドレスより大きい値を指定しないでください。

OPST ビット (処理開始ビット)

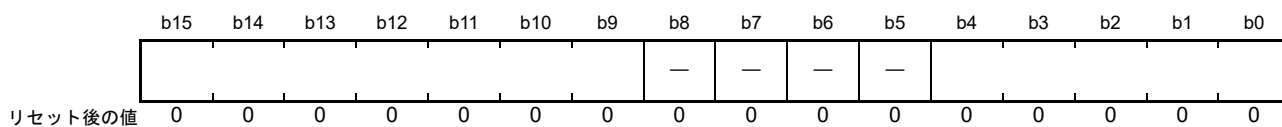
CMD[2:0] ビットに設定したコマンドを実行するために使用します。

処理が完了しても“0”には戻りません。FSTATR1.EXRDY フラグが“1” (処理完了) になったのを確認してから“0”に戻してください。また、その後 FSTATR1.EXRDY フラグが“0”になったのを確認してから次の処理を実施してください。

OPST ビットに“1”を書き込むことで、エクストラ領域へのプログラムが開始されます。ソフトウェアコマンド実行中は、CMD[2:0] ビットへの書き込みは禁止です。

41.4.12 フラッシュ処理開始アドレスレジスタ H (FSARH)

アドレス FLASH.FSARH 007F C110h



ソフトウェアコマンド実行時のフラッシュメモリの処理対象アドレス、または、フラッシュメモリの処理対象範囲の先頭アドレスを設定するためのレジスタです。

このレジスタにはフラッシュメモリのプログラム/イレーズ用アドレスの b31-b25、b20-b16 を設定します。

このレジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

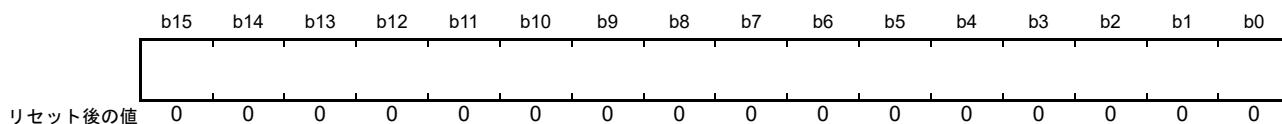
このレジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込めません。

また、FEXCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中にこのレジスタを読み出した場合、不定値が読み出されます。

フラッシュメモリのアドレスは、図 41.1、図 41.2 を参照してください。

41.4.13 フラッシュ処理開始アドレスレジスタ L (FSARL)

アドレス FLASH.FSARL 007F C108h



ソフトウェアコマンド実行時のフラッシュメモリの処理対象アドレス、または、フラッシュメモリの処理対象範囲の先頭アドレスを設定するためのレジスタです。

このレジスタにはフラッシュメモリのプログラム/イレーズ用アドレスの b15-b0 を設定します。

なお、対象が ROM の場合、b2-b0 には“000b”を設定してください。

このレジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

このレジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込めません。

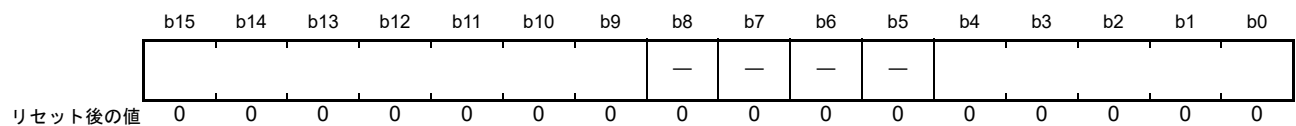
このレジスタはプログラムコマンド実行後、ROM を指定した場合、+8h、E2 データフラッシュを指定した場合、+1h インクリメントされます。そのため、連続してプログラムコマンドを実行する場合、このレジスタへのプログラム対象アドレスの設定は不要になります。

また、FEXCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中にこのレジスタを読み出した場合、不定値が読み出されます。

フラッシュメモリのアドレスは、図 41.1、図 41.2 を参照してください。

41.4.14 フラッシュ処理終了アドレスレジスタ H (FEARH)

アドレス FLASH.FEARH 007F C120h



ソフトウェアコマンド実行時のフラッシュメモリの処理対象範囲の最終アドレスを設定するためのレジスタです。

このレジスタにはフラッシュメモリのプログラム/イレーズ用アドレスの b31-b25、b20-b16 を設定します。

このレジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

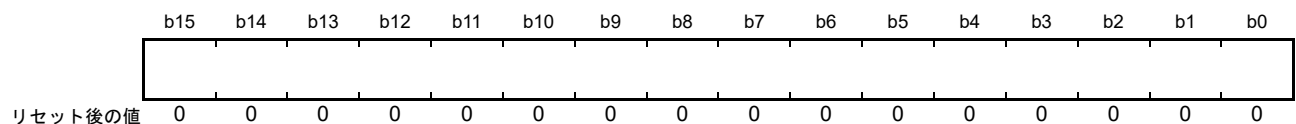
このレジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込めません。

また、FEXCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中にこのレジスタを読み出した場合、不定値が読み出されます。

フラッシュメモリのアドレスは、図 41.1、図 41.2 を参照してください。

41.4.15 フラッシュ処理終了アドレスレジスタ L (FEARL)

アドレス FLASH.FEARL 007F C118h



ソフトウェアコマンド実行時のフラッシュメモリの処理対象範囲の最終アドレスを設定するためのレジスタです。

このレジスタにはフラッシュメモリのプログラム/イレーズ用アドレスの b15-b0 を設定します。

なお、対象が ROM の場合、b2-b0 には“000b”を設定してください。

このレジスタは、ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

このレジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。

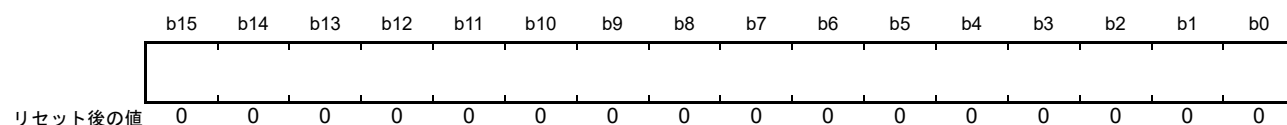
FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込みません。

また、FEXCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中にこのレジスタを読み出した場合、不定値が読み出されます。

フラッシュメモリのアドレスは、[図 41.1](#)、[図 41.2](#) を参照してください。

41.4.16 フラッシュライトバッファレジスタ n (FWBn) (n = 0 ~ 3)

アドレス FLASH.FWB0 007F C130h, FLASH.FWB1 007F C138h, FLASH.FWB2 007F C140h, FLASH.FWB3 007F C144h



FWBn レジスタは、ROM、E2 データフラッシュ、またはエクストラ領域にプログラムするデータを設定するレジスタです。ROM P/E モードまたは E2 データフラッシュ P/E モード時に書き込みができます。

FWBn レジスタは、リセットもしくは FRESETR.FRESET ビットを“1”にすることによって初期化されます。FRESETR.FRESET ビットが“1”の間中は書き込みません。

また、FCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中、または FEXCR レジスタによるソフトウェアコマンド実行中に FWBn レジスタを読み出した場合、その値は不定です。

エクストラ領域にプログラムする場合、プログラムする 4 バイトのデータは FWB0 レジスタと FWB1 レジスタに設定してください。

E2 データフラッシュにプログラムする場合、プログラムするデータは FWB0 レジスタの下位 8 ビットに設定してください。

ROM にプログラムする場合、プログラムする 8 バイトのデータは FWB0 レジスタから FWB3 レジスタに設定してください。[図 41.3](#) に FSARH/FSARL レジスタが示すアドレスと FWBn レジスタに設定されたデータの関係を示します。

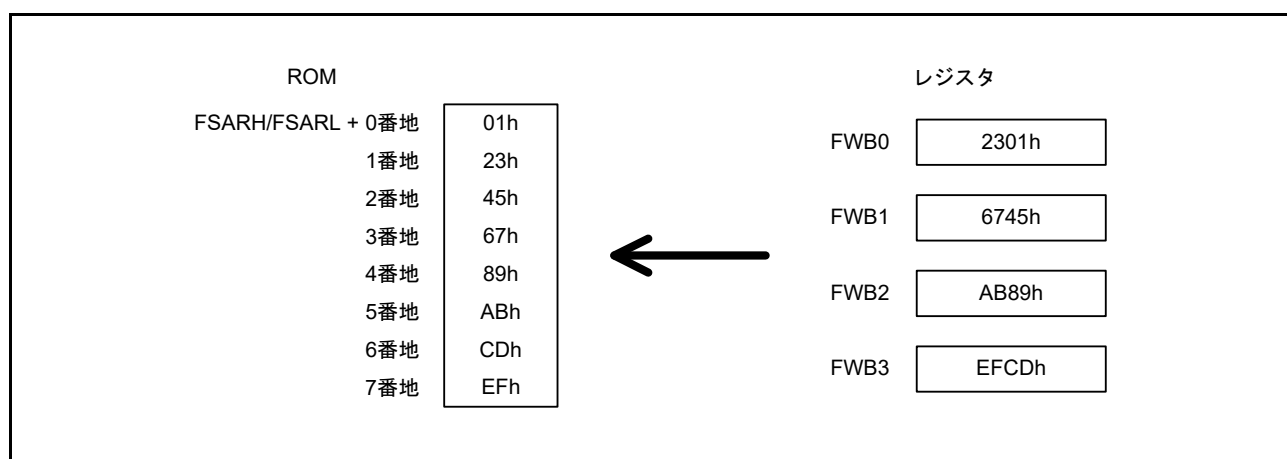


図 41.3 FWBn レジスタ設定値と ROM 上のデータ配置

41.4.17 フラッシュステータスレジスタ 0 (FSTATR0)

アドレス FLASH.FSTATR0 007F C128h

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	—	EILGLERR	ILGLERR	BCERR	—	PRGERR	ERERR
リセット後の値	x	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b0	ERERR	イレーズエラーフラグ	0: イレーズは正常終了 1: イレーズ中にエラー発生	R
b1	PRGERR	プログラムエラーフラグ	0: プログラムは正常終了 1: プログラム中にエラー発生	R
b2	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定	R
b3	BCERR	ブランクチェックエラーフラグ	0: ブランクチェックは正常終了 1: ブランクチェック中にエラー発生	R
b4	ILGLERR	イリーガルコマンドエラーフラグ	0: 不正なソフトウェアコマンドや、不正なアクセスを検出していない 1: 不正なソフトウェアコマンドや、不正なアクセスを検出	R
b5	EILGLERR	エクストラ領域イリーガルコマンドエラーフラグ	0: エクストラ領域に対し、不正なコマンドや、不正なアクセスを検出していない 1: エクストラ領域に対し、不正なコマンドや、不正なアクセスを検出	R
b7-b6	—	予約ビット	読んだ場合、その値は不定	R

ソフトウェアコマンドの実行結果を確認するためのステータスレジスタです。各エラーフラグは、次のソフトウェアコマンドを実行すると“0”になります。

ERERR フラグ (イレーズエラーフラグ)

ROM/E2 データフラッシュに対するイレーズ処理の結果を示すフラグです。

["1"]になる条件]

- イレーズ中にエラーが発生した

["0"]になる条件]

- 次のソフトウェアコマンドを実行した
イレーズ中に FCR.STOP ビットを“1”(強制処理停止)にするとフラグの値は不定になります。

PRGERR フラグ (プログラムエラーフラグ)

ROM/E2 データフラッシュに対するプログラム処理の結果を示すフラグです。

["1"]になる条件]

- プログラム中にエラーが発生した

["0"]になる条件]

- 次のソフトウェアコマンドを実行した

BCERR フラグ (ブランクチェックエラーフラグ)

ROM/E2 データフラッシュに対するブランクチェック処理の結果を示すフラグです。

["1"]になる条件]

- ブランクチェック中にエラーが発生した

["0" になる条件]

- 次のソフトウェアコマンドを実行した
ブランクチェック中に FCR.STOP ビットを "1" (強制処理停止) にするとフラグの値は不定になります。

ILGLERR フラグ (イリーガルコマンドエラーフラグ)

ソフトウェアコマンドの実行結果を示すフラグです。

["1" になる条件]

- アクセスウィンドウの範囲外の領域に対して、プログラム/イレーズを実行した
- FSARH/FSARL レジスタの設定値が FEARH/FEARL レジスタの設定値より大きいときに、ブランクチェック、ブロックイレーズのいずれかのコマンドを実行した
- FASR.EXS ビットが "1" のときに、プログラムコマンド、ブロックイレーズコマンドを実行した
- アクセスウィンドウを設定した状態で全ブロックイレーズを実行した
- FSARH/FSARL レジスタ、FEARH/FEARL レジスタの設定を正しく行わずに全ブロックイレーズコマンドを実行した
- ROM が P/E モードのときに FSARH/FSARL レジスタに E2 データフラッシュのアドレスを設定して、ソフトウェアコマンドを実行した
- E2 データフラッシュが P/E モードのときに FSARH/FSARL レジスタに ROM のアドレスを設定して、ソフトウェアコマンドを実行した
- ROM/E2 データフラッシュとも P/E モードに設定して、ソフトウェアコマンドを実行した

["0" になる条件]

- 次のソフトウェアコマンドを実行した

EILGLERR フラグ (エクストラ領域イリーガルコマンドエラーフラグ)

エクストラ領域に対するソフトウェアコマンドの実行結果を示すフラグです。

["1" になる条件]

- FASR.EXS ビットが "0" のときに、エクストラ領域に対するソフトウェアコマンドを実行した

["0" になる条件]

- 次のソフトウェアコマンドを実行した

41.4.18 フラッシュステータスレジスタ 1 (FSTATR1)

アドレス FLASH.FSTATR1 007F C12Ch

	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	EXRDY	FRDY	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	0	0	0	0	1	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b1-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b2	—	予約ビット	読むと“1”が読めます	R
b5-b3	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b6	FRDY	フラッシュレディフラグ	0: 下記以外 1: FCRレジスタに“00h”を書き込むこと(ソフトウェアコマンド終了処理)が可能	R
b7	EXRDY	エクストラ領域レディフラグ	0: 下記以外 1: FEXCRレジスタに“00h”を書き込むこと(ソフトウェアコマンド終了処理)が可能	R

ソフトウェアコマンドの実行結果を確認するためのステータスレジスタです。各フラグは、次のソフトウェアコマンドを実行すると“0”になります。

FRDY フラグ (フラッシュレディフラグ)

ソフトウェアコマンドの実行状態を確認するためのフラグです。

実行したソフトウェアコマンドの処理が完了するか、または強制停止処理が完了すると“1”になり、FCR.OPST ビットを“0”にすると、“0”になります。

また、FRDY フラグが“1”になると割り込み (FRDYI) が発生します。

EXRDY フラグ (エクストラ領域レディフラグ)

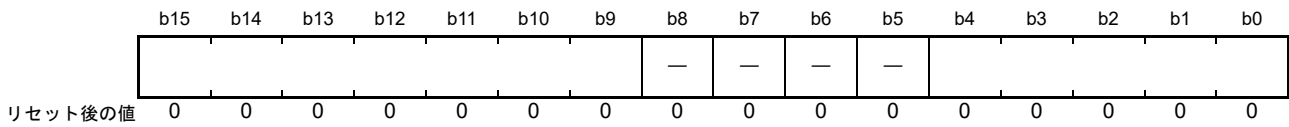
エクストラ領域に対するソフトウェアコマンドの実行状態を確認するためのフラグです。

実行したソフトウェアコマンドの処理が完了すると“1”になり、FEXCR.OPST ビットを“0”にすると、“0”になります。

また、EXRDY フラグが“1”になると割り込み (FRDYI) が発生します。

41.4.19 フラッシュエラーアドレスモニタレジスタ H (FEAMH)

アドレス FLASH.FEAMH 007F C1E8h



ソフトウェアコマンドの処理中にエラーが発生した場合、フラッシュメモリのエラー発生アドレスを確認するためのレジスタです。エラーが発生したアドレスの b31-b25、b20-b16 (プログラムコマンド、ブランクチェックコマンド)、または、エラーが発生した領域の先頭アドレスの b31-b25、b20-b16 (ブロックイレーズコマンド、全ブロックイレーズコマンド) が格納されます。

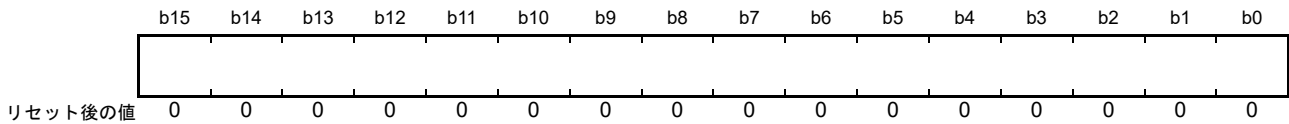
なお、FRESETR.FRESET ビットを“1”にすると不定になりますので、エラー処理を行う際はリセット前に値を読み出しておいてください。

ソフトウェアコマンドが正常に終了した場合は、コマンド実行時の最終アドレスの b31-b25、b20-b16 が格納されます。

フラッシュメモリのアドレスは、図 41.1、図 41.2 を参照してください。

41.4.20 フラッシュエラーアドレスモニタレジスタ L (FEAML)

アドレス FLASH.FEAML 007F C1E0h



ソフトウェアコマンドの処理中にエラーが発生した場合、フラッシュメモリのエラー発生アドレスを確認するためのレジスタです。エラーが発生したアドレスの b15-b0 (プログラムコマンド、ブランクチェックコマンド)、または、エラーが発生した領域の先頭アドレスの b15-b0 (ブロックイレーズコマンド、全ブロックイレーズコマンド) が格納されます。

なお、FRESETR.FRESET ビットを“1”にすると不定になりますので、エラー処理を行う際はリセット前に値を読み出しておいてください。

ソフトウェアコマンドが正常に終了した場合は、コマンド実行時の最終アドレスの b15-b0 が格納されます。

なお、ROM に対するソフトウェアコマンドを実行した場合下位 3 ビットは“000b”になります。

フラッシュメモリのアドレスは、図 41.1、図 41.2 を参照してください。

41.4.21 フラッシュスタートアップ設定モニタレジスタ (FSCMR)

アドレス FLASH.FSCMR 007F C1C0h

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
	—	AWPR	—	—	—	—	—	SASMF	—	—	—	—	—	—	—	—
リセット後の値	0	ユーザ の設定 値 (注1)	1	1	0	1	1	ユーザ の設定 値 (注2)	0	0	0	0	0	0	0	0

ビット	シンボル	ビット名	機能	R/W
b7-b0	—	予約ビット	読むと“0”が読めます	R
b8	SASMF	スタートアップ領域設定モニタフラグ	0: 代替領域から起動する設定になっています 1: デフォルト領域から起動する設定になっています	R
b10-b9	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書き込みは無効になります	R
b11	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R
b13-b12	—	予約ビット	読むと“1”が読めます。書き込みは無効になります	R
b14	AWPR	アクセスウィンドウプロテクトフラグ	0: アクセスウィンドウの設定を変更できません 1: アクセスウィンドウの設定を変更できます	R
b15	—	予約ビット	読むと“0”が読めます。書き込みは無効になります	R

注1. ブランク品は“1”です。アクセスウィンドウプロテクトコマンドを実行した後は、FWB0レジスタのb14に設定した値と同じ値になります。

注2. ブランク品は“1”です。スタートアップ領域情報プログラムコマンドを実行した後は、FWB0レジスタのb8に設定した値と同じ値になります。

SASMF フラグ (スタートアップ領域設定モニタフラグ)

スタートアップ領域の設定内容を確認するためのフラグです。

“0”の場合、ユーザプログラムは代替領域から起動する設定になっています。

“1”の場合、ユーザプログラムはデフォルト領域から起動する設定になっています。

AWPR フラグ (アクセスウィンドウプロテクトフラグ)

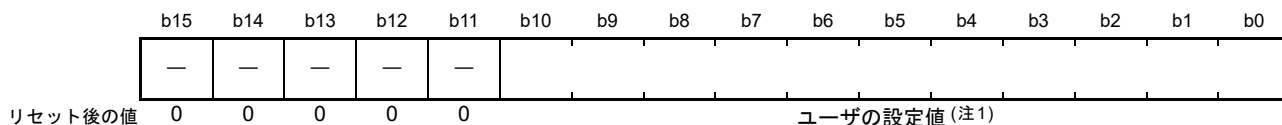
アクセスウィンドウの設定内容がプロテクトされているかどうかを確認するためのフラグです。

“0”の場合、アクセスウィンドウの開始/終了アドレスを変更することはできません。

“1”の場合、アクセスウィンドウの開始/終了アドレスを変更することができます。

41.4.22 フラッシュアクセスウィンドウ開始アドレスモニタレジスタ (FAWSMR)

アドレス FLASH.FAWSMR 007F C1C8h

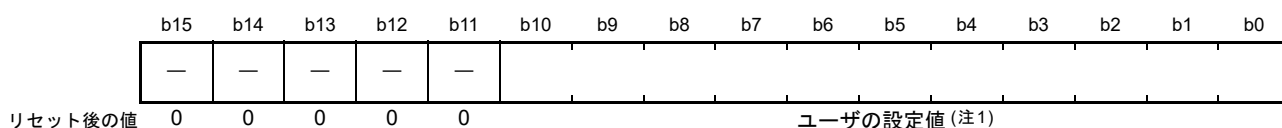


注1. ブランク品は“1”です。アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドを実行した後は、FWB0レジスタのb10-b0に設定した値と同じ値になります。

エリアプロテクションに使用するアクセスウィンドウの開始アドレス設定値を確認するためのレジスタです。

41.4.23 フラッシュアクセスウィンドウ終了アドレスモニタレジスタ (FAWEMR)

アドレス FLASH.FAWEMR 007F C1D0h

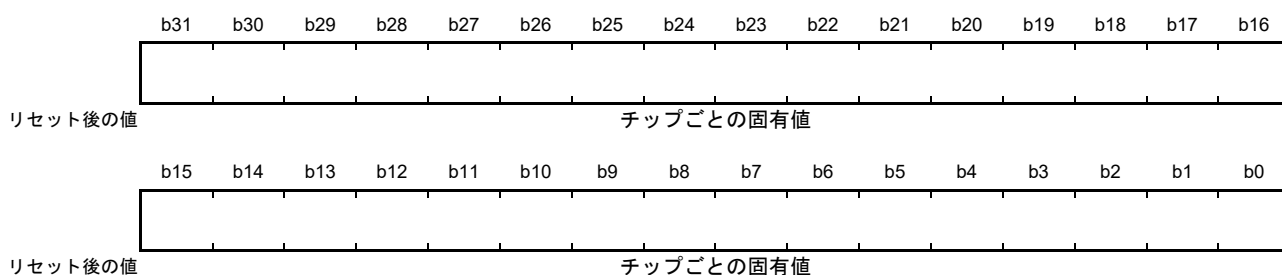


注1. ブランク品は“1”です。アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドを実行した後は、FWB1レジスタのb10-b0に設定した値と同じ値になります。

エリアプロテクションに使用するアクセスウィンドウの終了アドレス設定値を確認するためのレジスタです。

41.4.24 ユニーク ID レジスタ n (UIDRn) (n = 0 ~ 3)

アドレス FLASH.UIDR0 007F C350h, FLASH.UIDR1 007F C354h, FLASH.UIDR2 007F C358h, FLASH.UIDR3 007F C35Ch



UIDRn レジスタは、MCU の個体を識別するために用意された 16 バイト長の ID コード (ユニーク ID) を格納しているレジスタです。

ユニーク ID はフラッシュメモリのエクストラ領域に格納されており、ユーザが書き換えることはできません。

41.5 スタートアッププログラム保護機能

セルフプログラミングでスタートアッププログラム(注1)の書き換えを行うとき、電源の瞬断などで書き換えが中断すると、スタートアッププログラムが正しく書き込まれず、ユーザプログラムを正しく起動できなくなる可能性があります。

この機能を使用することで、スタートアッププログラムを消去せずに書き換えることができようになり、上記のような問題が回避できます。なお、この機能はROM容量が32Kバイト以上の製品で有効です。

図41.4にスタートアッププログラム保護機能の概念を示します。ここでは説明のため、ブロック0~7をデフォルト領域、ブロック8~15を代替領域と呼びます。

注1. ユーザプログラムを起動するための処理を行うプログラム。固定ベクタテーブルも含まれる。

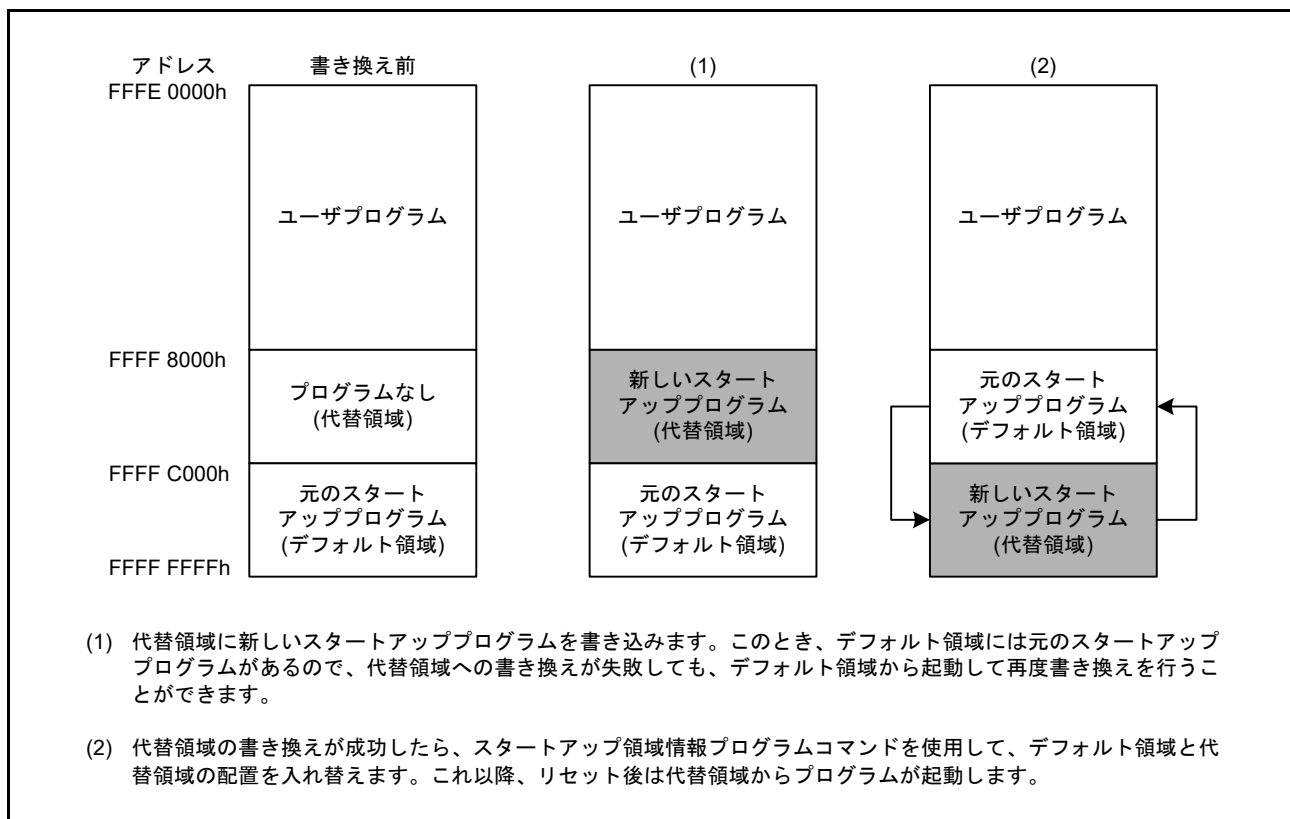


図 41.4 スタートアッププログラム保護機能の概念

41.6 エリアプロテクション

セルフプログラミング時に、ユーザ領域の指定された範囲 (アクセスウィンドウ) のみ書き換えを許可し、それ以外は書き換えを禁止する機能です。データ領域にアクセスウィンドウを設定することはできません。

アクセスウィンドウの範囲設定は、開始アドレスと終了アドレスを指定して行います。アクセスウィンドウの範囲は、ブートモードおよびセルフプログラミングのいずれでも設定できますが、エリアプロテクションが有効になるのはシングルチップモードでセルフプログラミングを行うときだけです。

図 41.5 にエリアプロテクションの概念を示します。

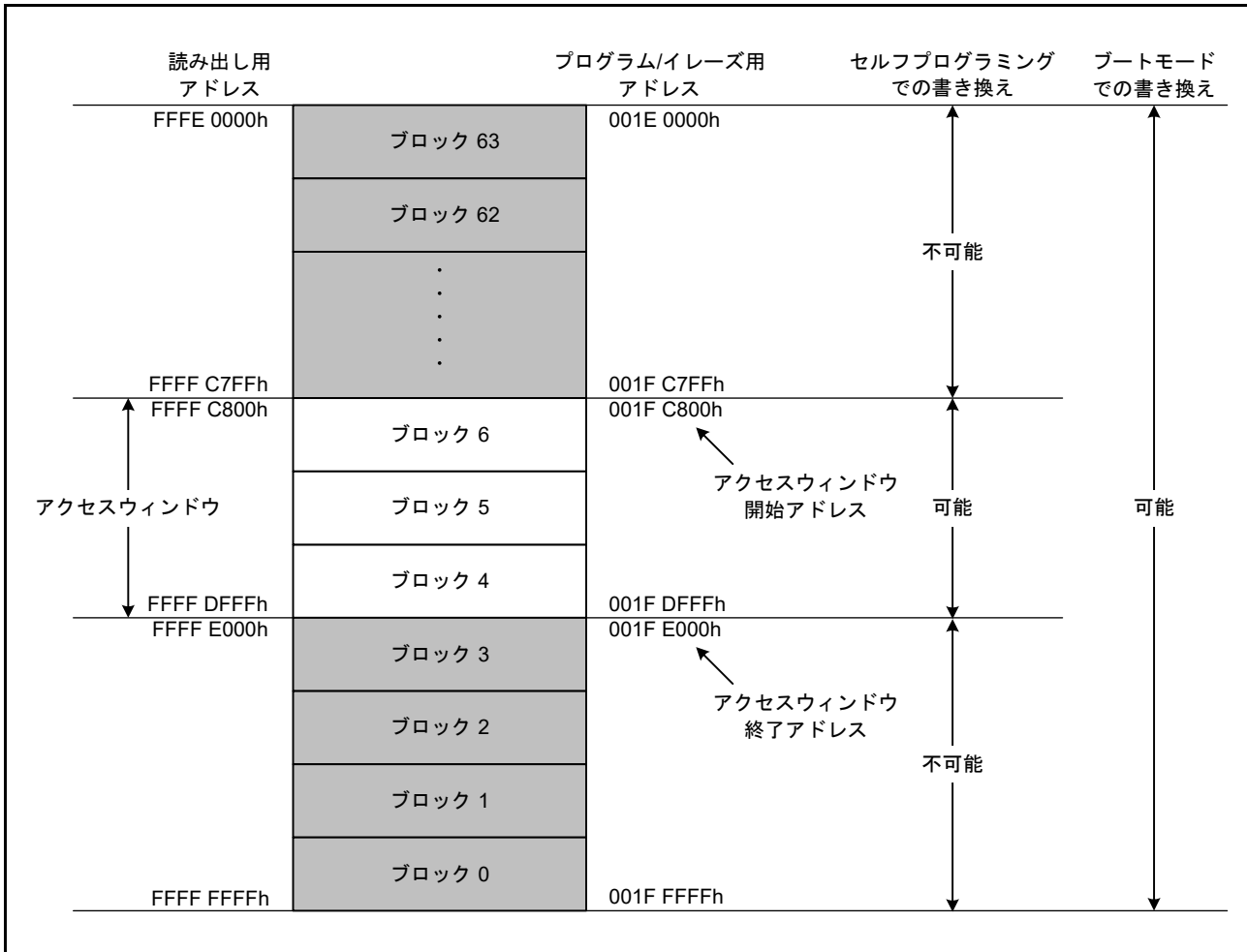


図 41.5 エリアプロテクションの概念 (ROM 容量が 128K バイトの製品で、ブロック 4 からブロック 6 をアクセスウィンドウに設定した場合)

41.7 プログラム/イレーズ

ROM や E2 データフラッシュへのプログラム/イレーズは、プログラム/イレーズ用の専用シーケンサのモードへ移行して、プログラム/イレーズ用のコマンドを発行することで行います。

ROM や E2 データフラッシュへのプログラム/イレーズに必要なモード移行とコマンドについて以下に説明します。これらはブートモード/シングルチップモードで共通です

41.7.1 シーケンサのモード

シーケンサには、4 種類のモードがあります。モードの移行は、DFLCTL レジスタ、FENTRYR レジスタへの書き込み、および FPMCR レジスタの設定で行います。図 41.6 にフラッシュメモリのモード移行図を示します。

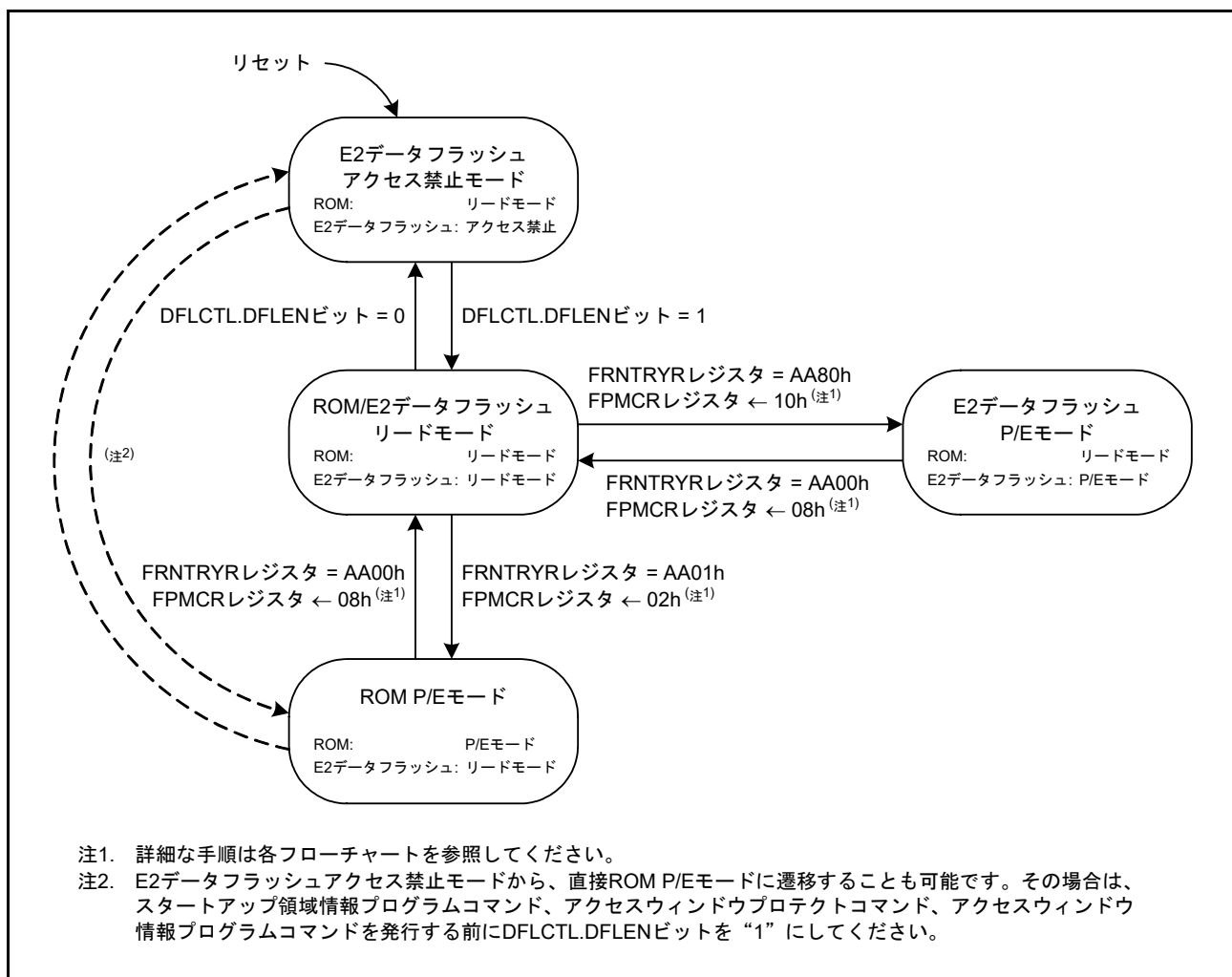


図 41.6 フラッシュメモリのモード移行図

41.7.1.1 E2 データフラッシュアクセス禁止モード

E2 データフラッシュアクセス禁止モードは、E2 データフラッシュのアクセスが禁止されているモードです。リセット直後はこのモードに遷移します。

DFLCTL.DFLEN ビットを“1”にすると、E2 データフラッシュはリードモードに遷移します。

41.7.1.2 リードモード

リードモードは、ROMまたはE2データフラッシュの高速読み出しを行うためのモードです。読み出し用アドレスに対してリードアクセスを実行した場合、1 ICLK クロックの高速読み出しが可能です。

(1) ROM/E2データフラッシュリードモード

ROM、E2データフラッシュともにリードモードになっているモードを、ROM/E2データフラッシュリードモードと言います。P/Eモードからは、FPMCRレジスタを“08h”、FENTRYR.FENTRYD ビットを“0”、FENTRYR.FENTRY0 ビットを“0”にした場合にこのモードに遷移します。

41.7.1.3 P/E モード

P/Eモードは、ROMまたはE2データフラッシュのプログラム/イレーズを行うモードです。

(1) ROM P/E モード

ROMがP/Eモード、E2データフラッシュがリードモードになっているモードを、ROM P/Eモードと言います。FENTRYR.FENTRYD ビットを“0”、FENTRYR.FENTRY0 ビットを“1”、FPMCRレジスタを“02h”にした場合にこのモードに遷移します。

(2) E2データフラッシュ P/E モード

ROMがリードモード、E2データフラッシュがP/Eモードになっているモードを、E2データフラッシュ P/Eモードと言います。FENTRYR.FENTRYD ビットを“1”、FENTRYR.FENTRY0 ビットを“0”、FPMCRレジスタを“10h”にした場合にこのモードに遷移します。

41.7.2 モード遷移

41.7.2.1 E2データフラッシュアクセス禁止モードからリードモードへの遷移

E2データフラッシュをリードするためには、E2データフラッシュアクセス禁止モードから、ROM/E2データフラッシュリードモードに遷移させる必要があります。

ROM/E2データフラッシュリードモードに遷移させるためには、DFLCTL.DFLEN ビットを“1”にします。

図 41.7 に E2データフラッシュアクセス禁止モードから ROM/E2データフラッシュリードモードへの遷移フローを示します。

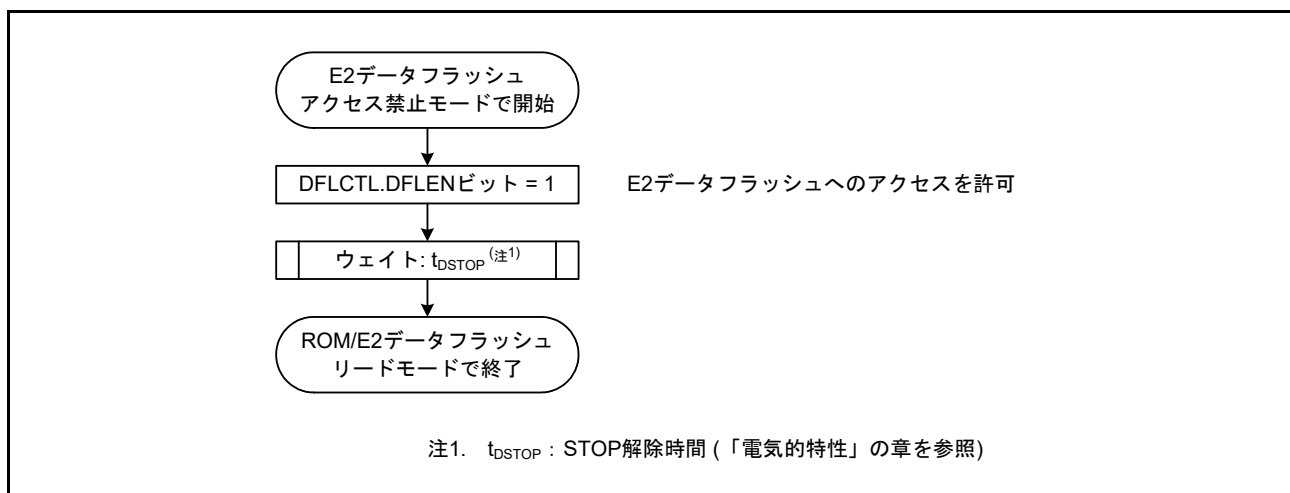


図 41.7 E2データフラッシュアクセス禁止モードからROM/E2データフラッシュリードモードへの遷移フロー

41.7.2.2 リードモードから P/E モードへの遷移

ROM 関連のソフトウェアコマンドを実行するためには、ROM P/E モードに遷移させる必要があります。

図 41.8 に ROM/E2 データフラッシュリードモードから ROM P/E モードへの遷移フローを、図 41.9 に ROM/E2 データフラッシュリードモードから E2 データフラッシュ P/E モードへの遷移フローを示します。

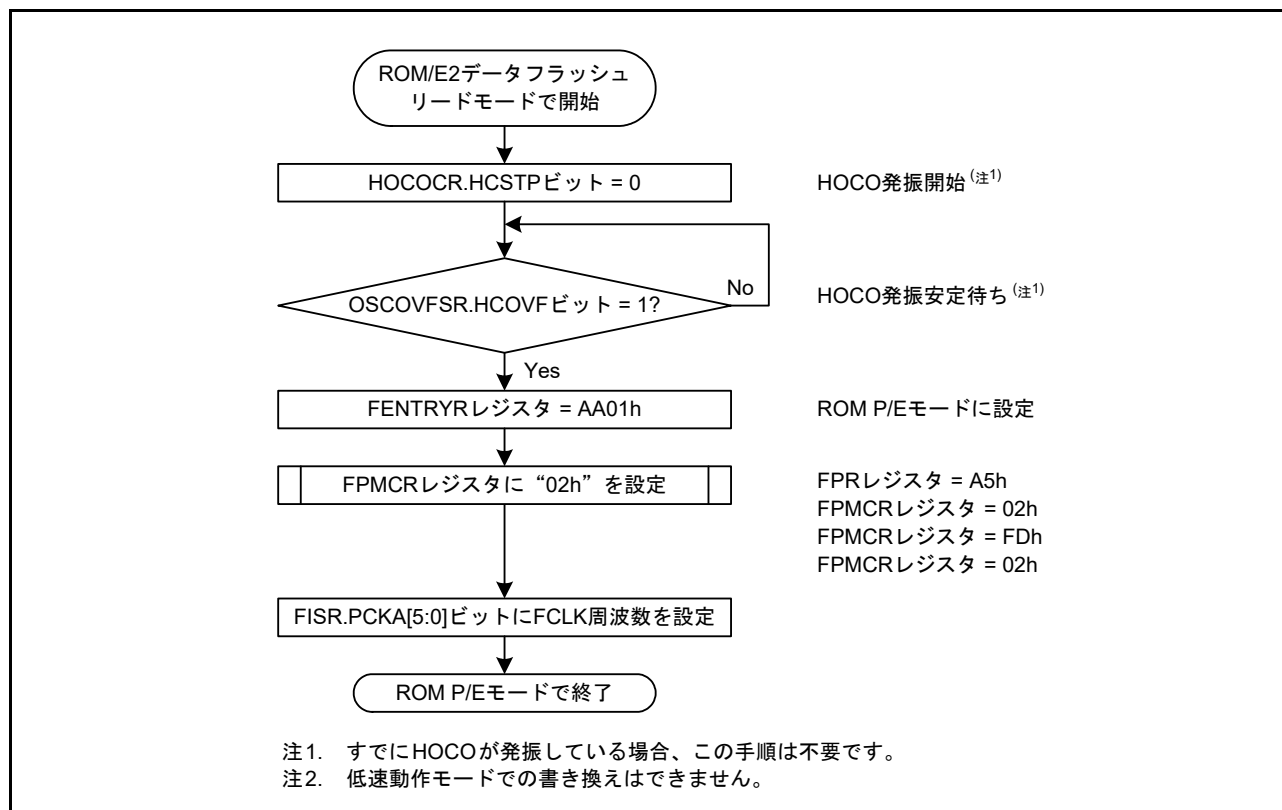


図 41.8 ROM/E2 データフラッシュリードモードから ROM P/E モードへの遷移フロー

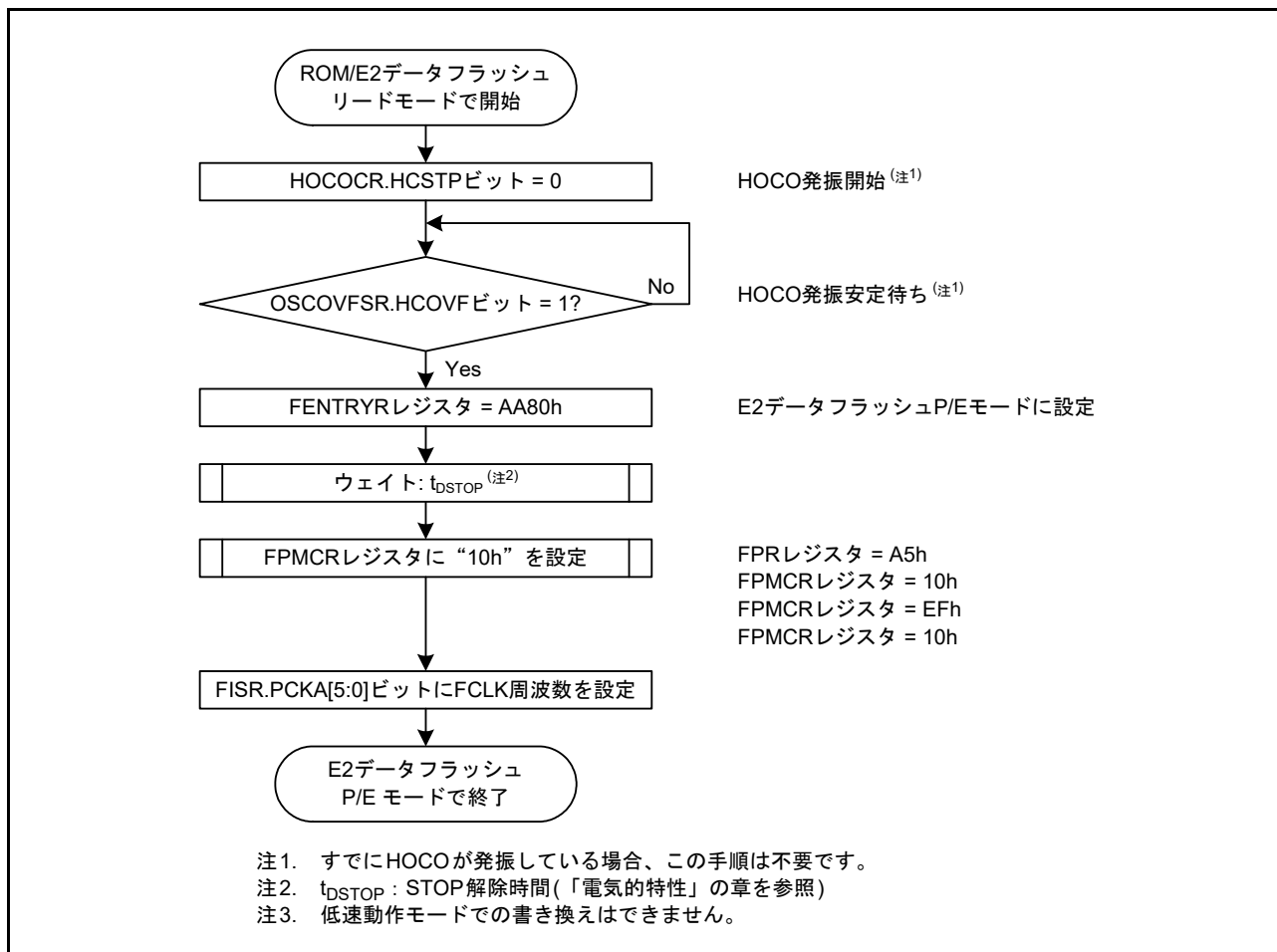


図 41.9 ROM/E2 データフラッシュリードモードから E2 データフラッシュ P/E モードへの遷移フロー

41.7.2.3 P/E モードからリードモードへの遷移

ROM の高速読み出しを行うためには、ROM/E2 データフラッシュリードモードに遷移させる必要があります。

図 41.10 に ROM P/E モードから ROM/E2 データフラッシュリードモードへの遷移フローを、図 41.11 に E2 データフラッシュ P/E モードから ROM/E2 データフラッシュリードモードへの遷移フローを示します。

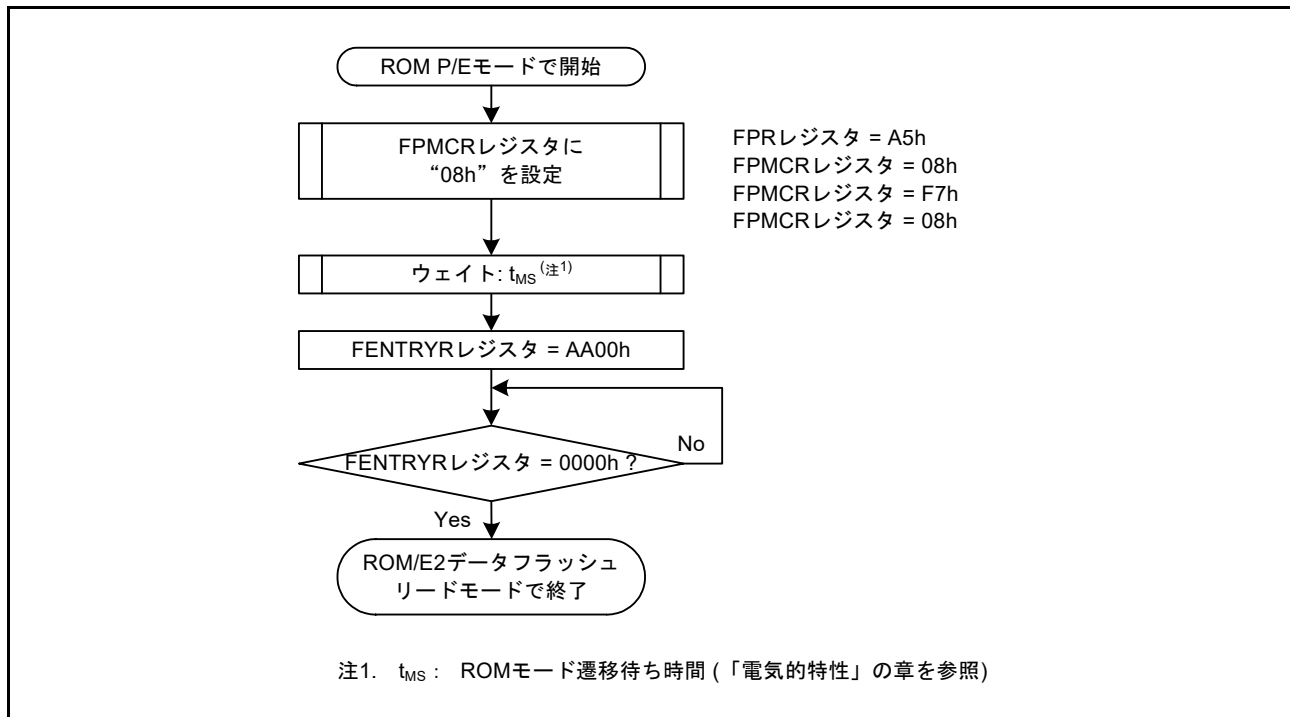


図 41.10 ROM P/E モードから ROM/E2 データフラッシュリードモードへの遷移フロー

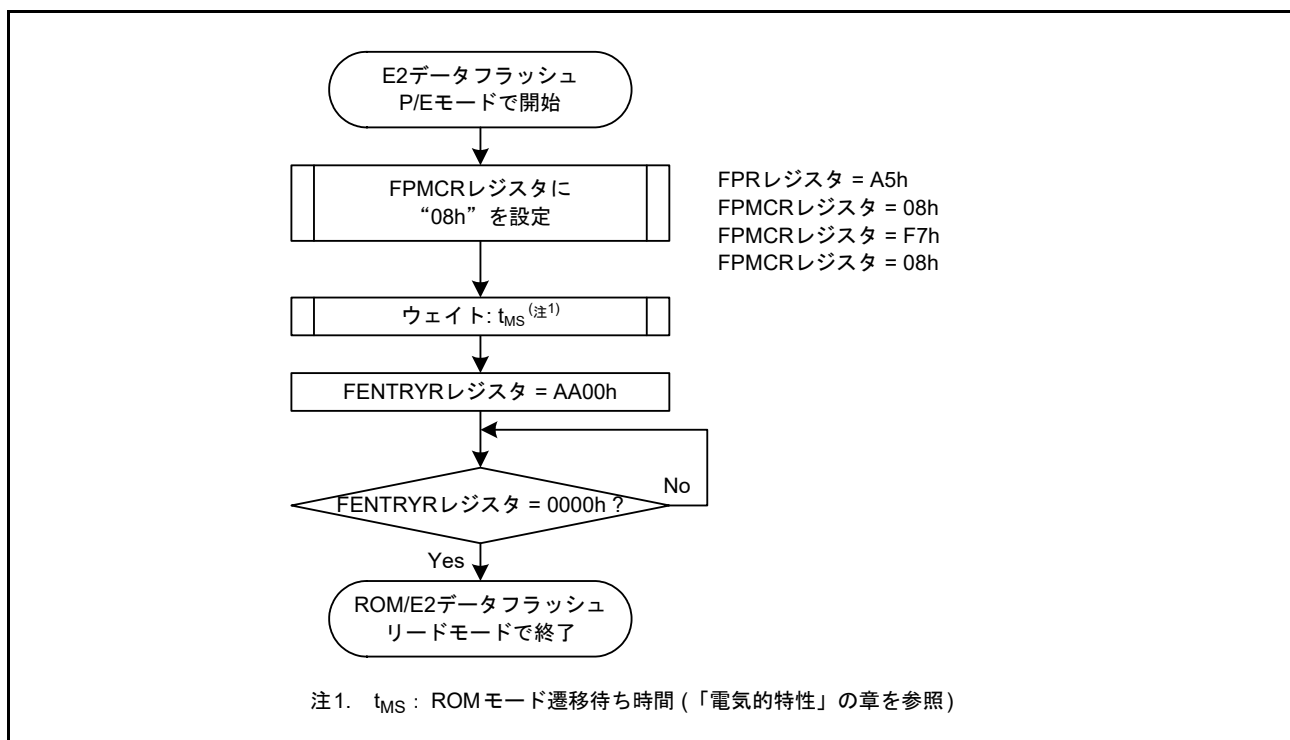


図 41.11 E2 データフラッシュ P/E モードから ROM/E2 データフラッシュリードモードへの遷移フロー

41.7.3 ソフトウェアコマンド一覧

ソフトウェアコマンドには、プログラム/イレーズを行うためのコマンドや、スタートアッププログラム領域情報のプログラムを行うコマンド、アクセスウィンドウ情報プログラムを行うコマンドなどがあります。表 41.6 にフラッシュメモリで使用可能なソフトウェアコマンドの一覧を示します。

表41.6 ソフトウェアコマンド一覧

コマンド	機能
プログラム	<ul style="list-style-type: none">ROMへの書き込み(8バイト)E2データフラッシュへの書き込み(1バイト)
ブロックイレーズ	ROM/E2データフラッシュの消去
全ブロックイレーズ	ROM/E2データフラッシュの一括消去
ブランクチェック	指定した領域内のブランクチェックを行います 書き込みが行われていないことを確認します。消去状態の保持を保証するものではありません
スタートアップ領域情報プログラム	スタートアッププログラム保護機能で使用するスタートアップ領域切り替え情報を書き換えます
アクセスウィンドウプロテクト	エリアプロテクションで使用するアクセスウィンドウの設定を書き換えられないようにプロテクトします
アクセスウィンドウ情報プログラム	エリアプロテクションで使用するアクセスウィンドウを設定します

41.7.4 ソフトウェアコマンド使用方法

ここでは各ソフトウェアコマンドの使用方法について、フローチャートを用いて説明します。

41.7.4.1 プログラム

図 41.12、図 41.13 にプログラムコマンドの発行フローを示します。

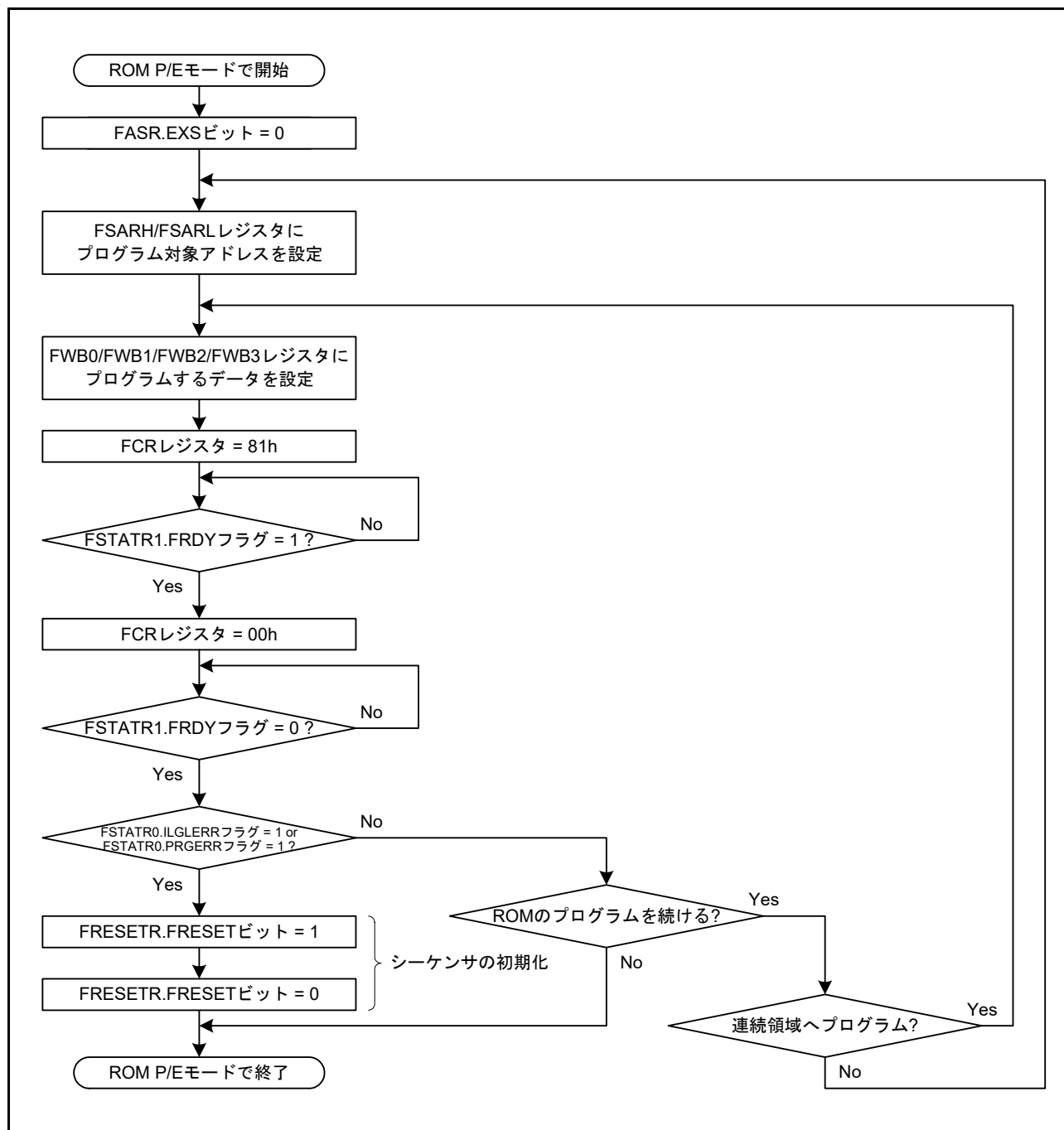


図 41.12 プログラムコマンドの発行フロー (ROM)

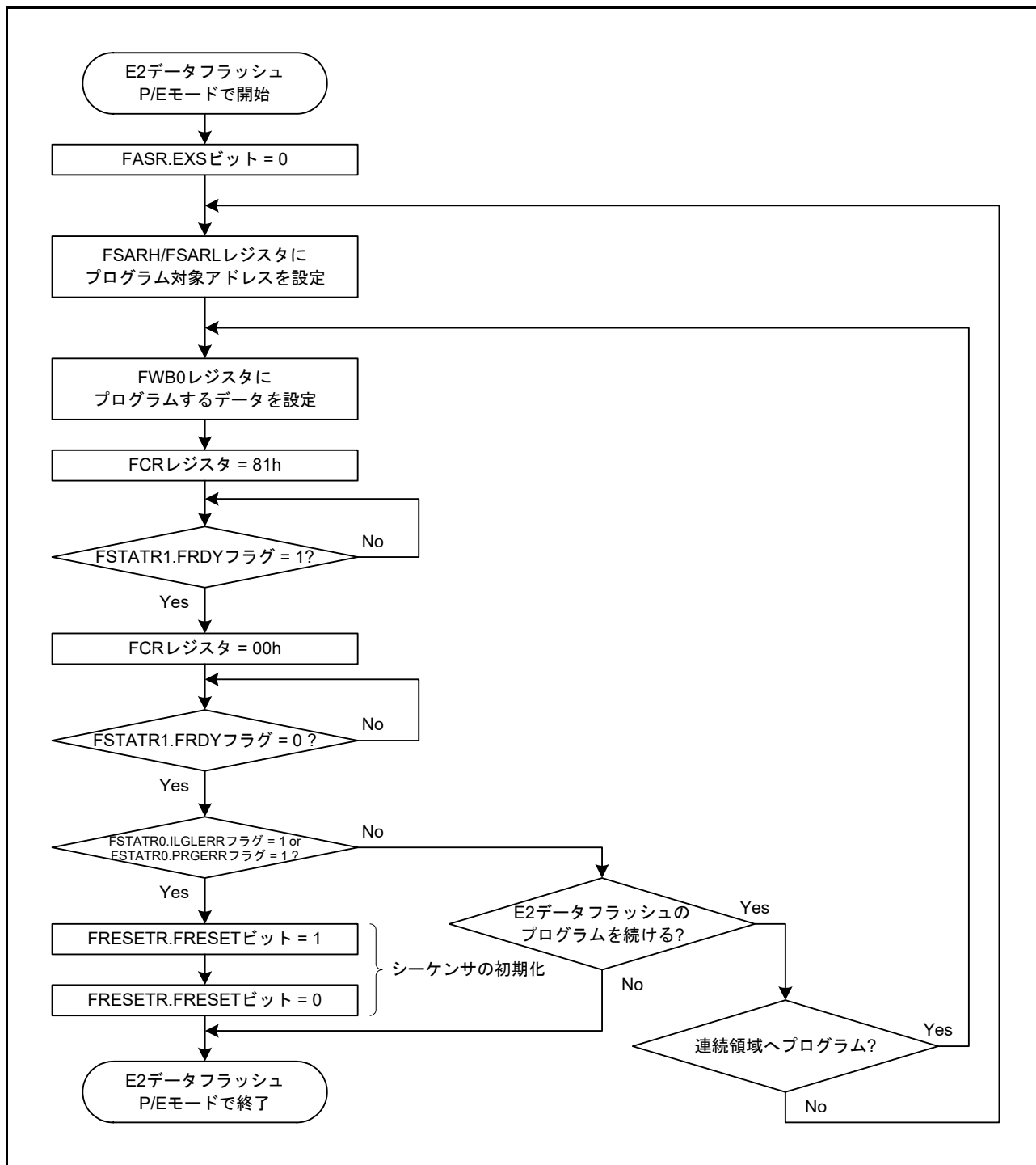


図 41.13 プログラムコマンドの発行フロー (E2 データフラッシュ)

41.7.4.2 ブロックイレーズ

図 41.14、図 41.15 にブロックイレーズコマンドの発行フローを示します。

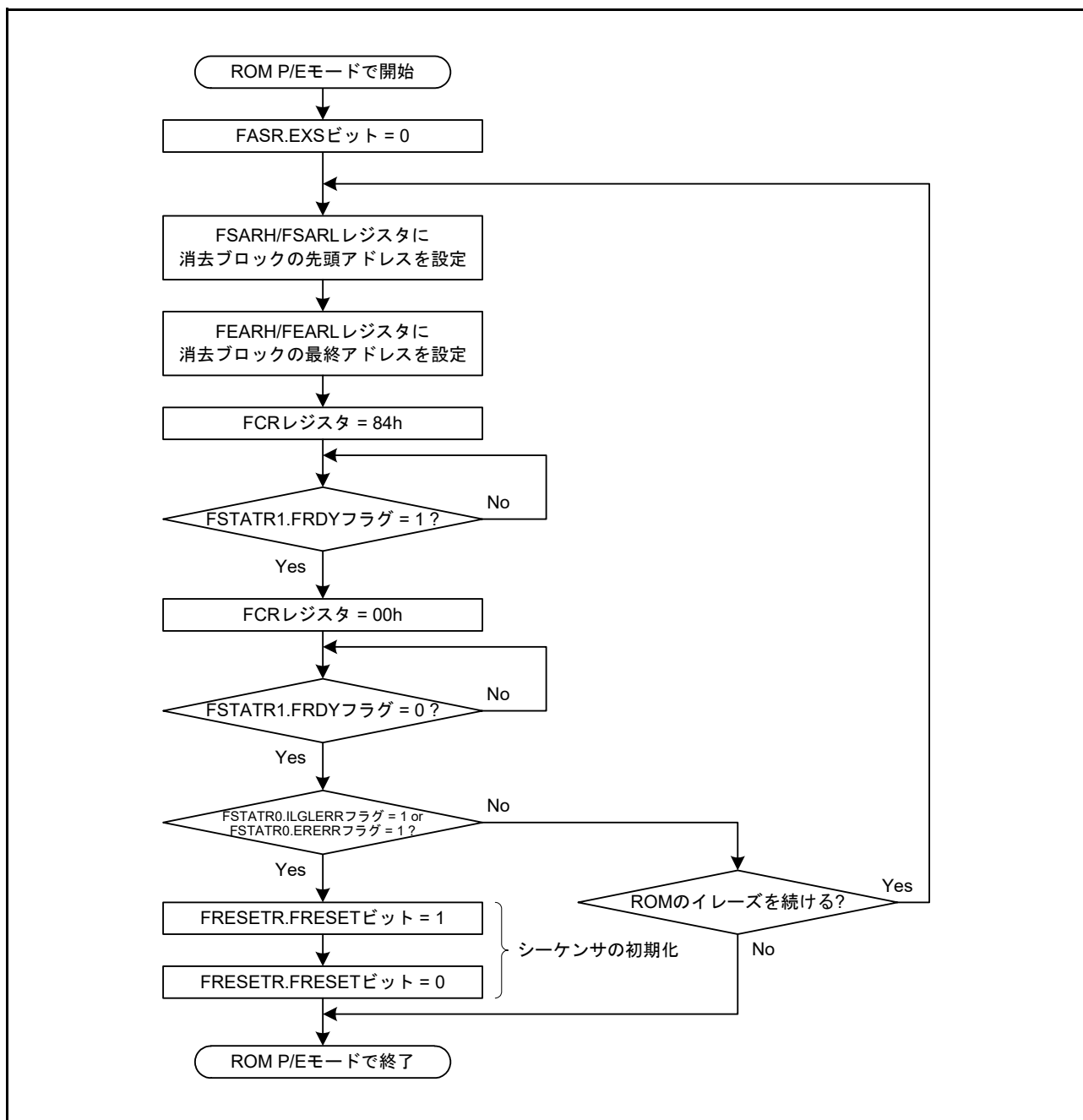


図 41.14 ブロックイレーズコマンドの発行フロー (ROM)

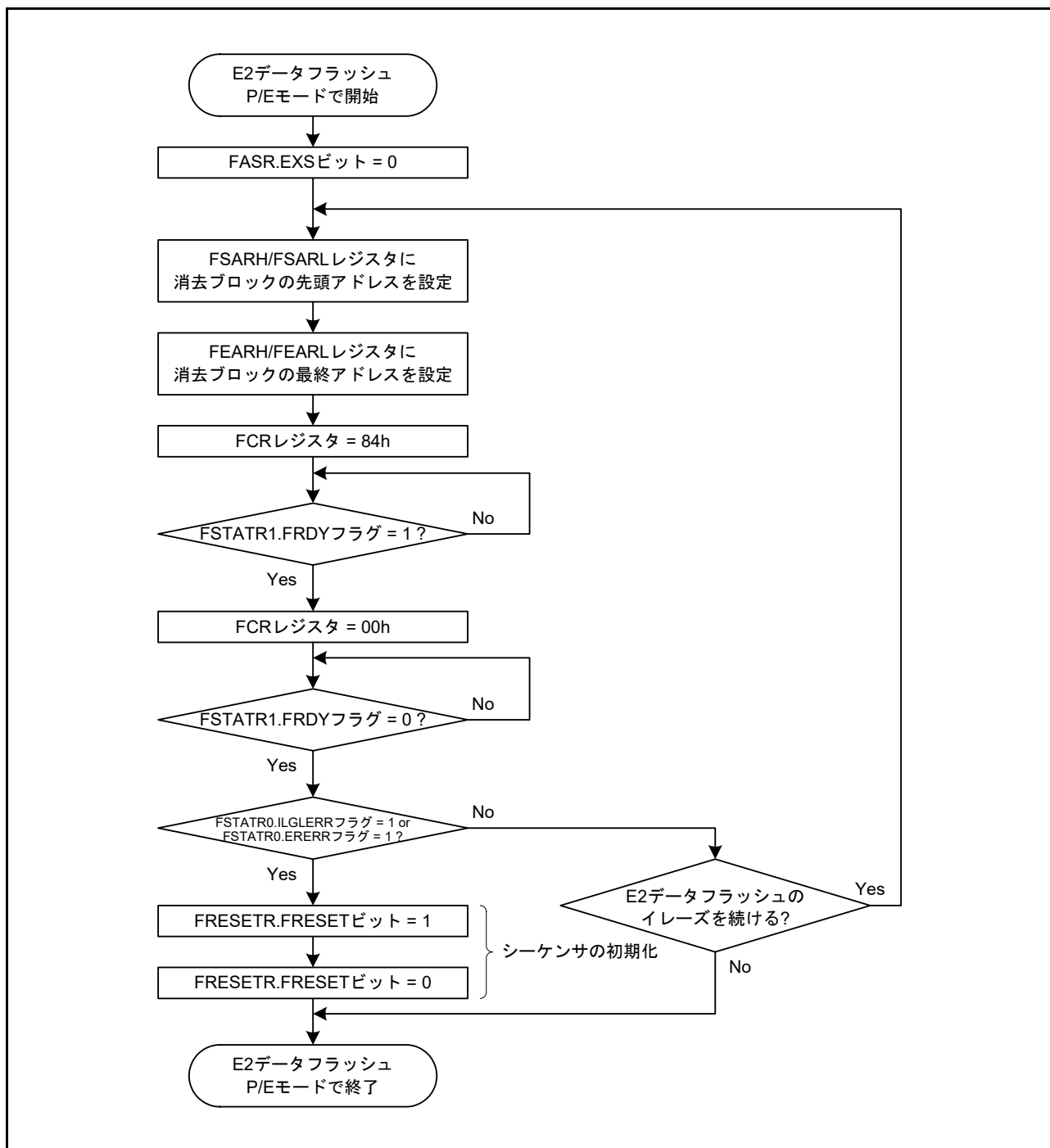


図 41.15 ブロックイレーズコマンドの発行フロー (E2 データフラッシュ)

41.7.4.3 全ブロックイレーズ

図 41.16、図 41.17 に全ブロックイレーズコマンドの発行フローを示します。

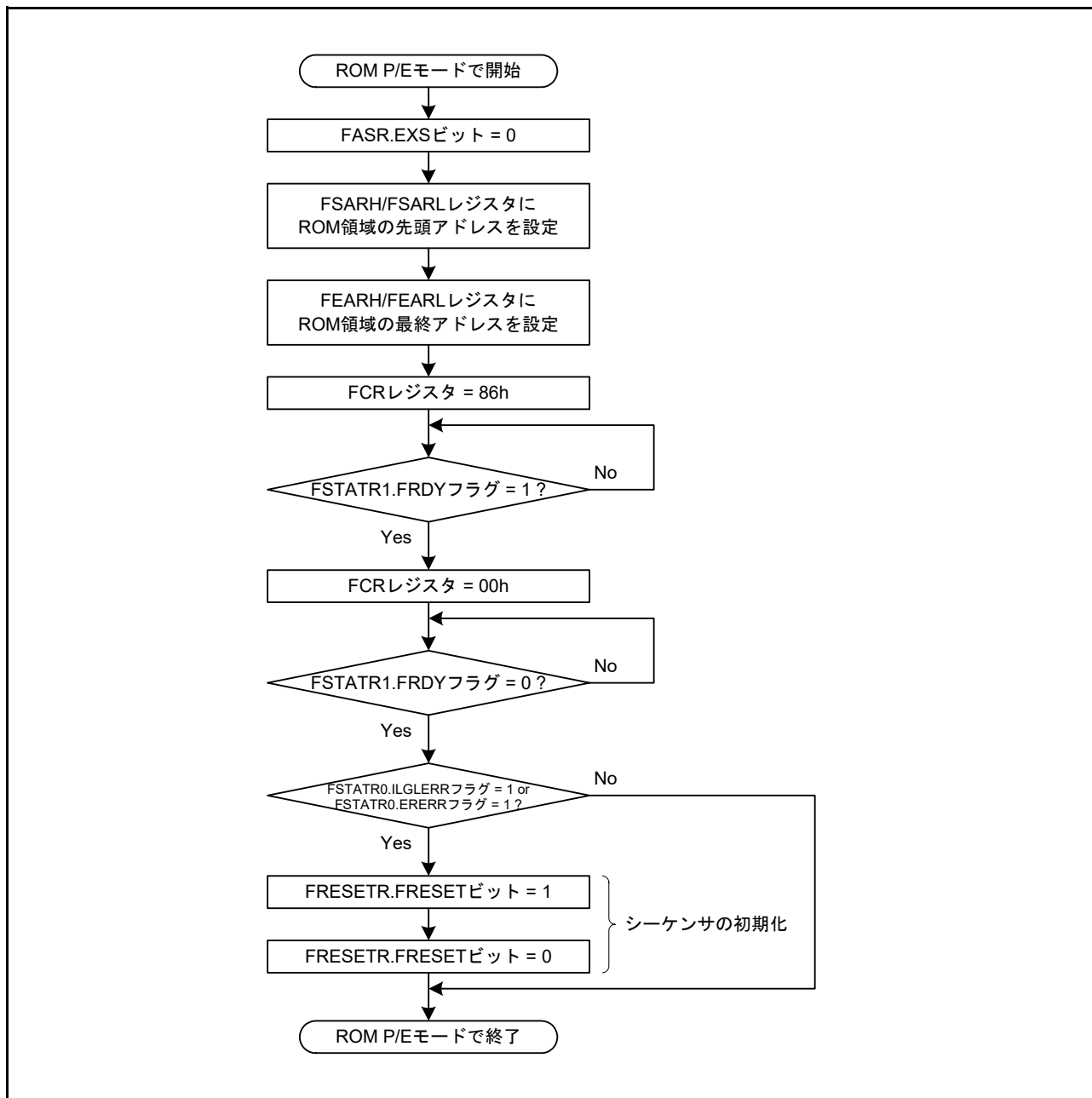


図 41.16 全ブロックイレーズコマンドの発行フロー (ROM)

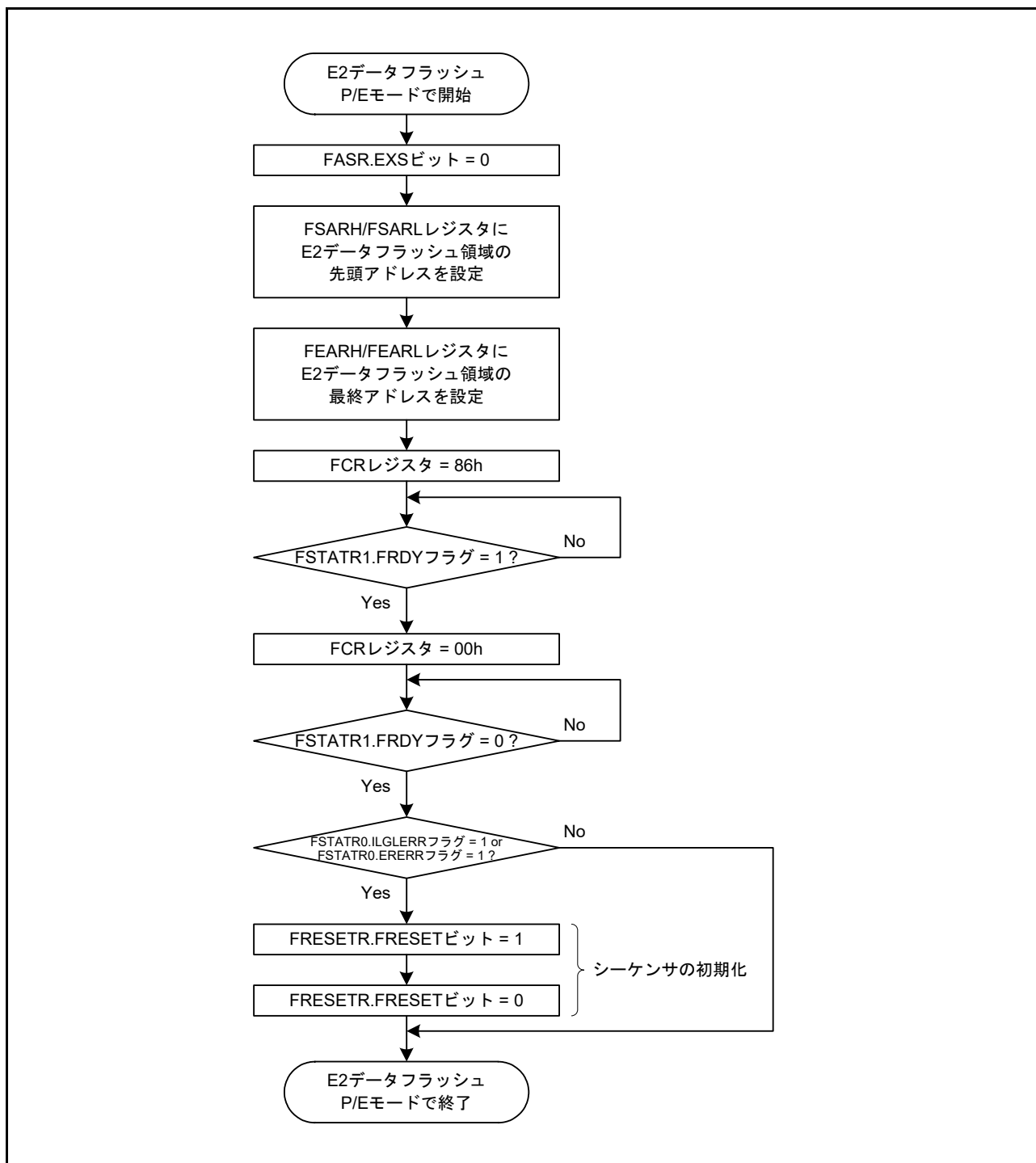


図 41.17 全ブロックイレースコマンドの発行フロー (E2 データフラッシュ)

41.7.4.4 ブランクチェック

図 41.18、図 41.19 にブランクチェックコマンドの発行フローを示します。

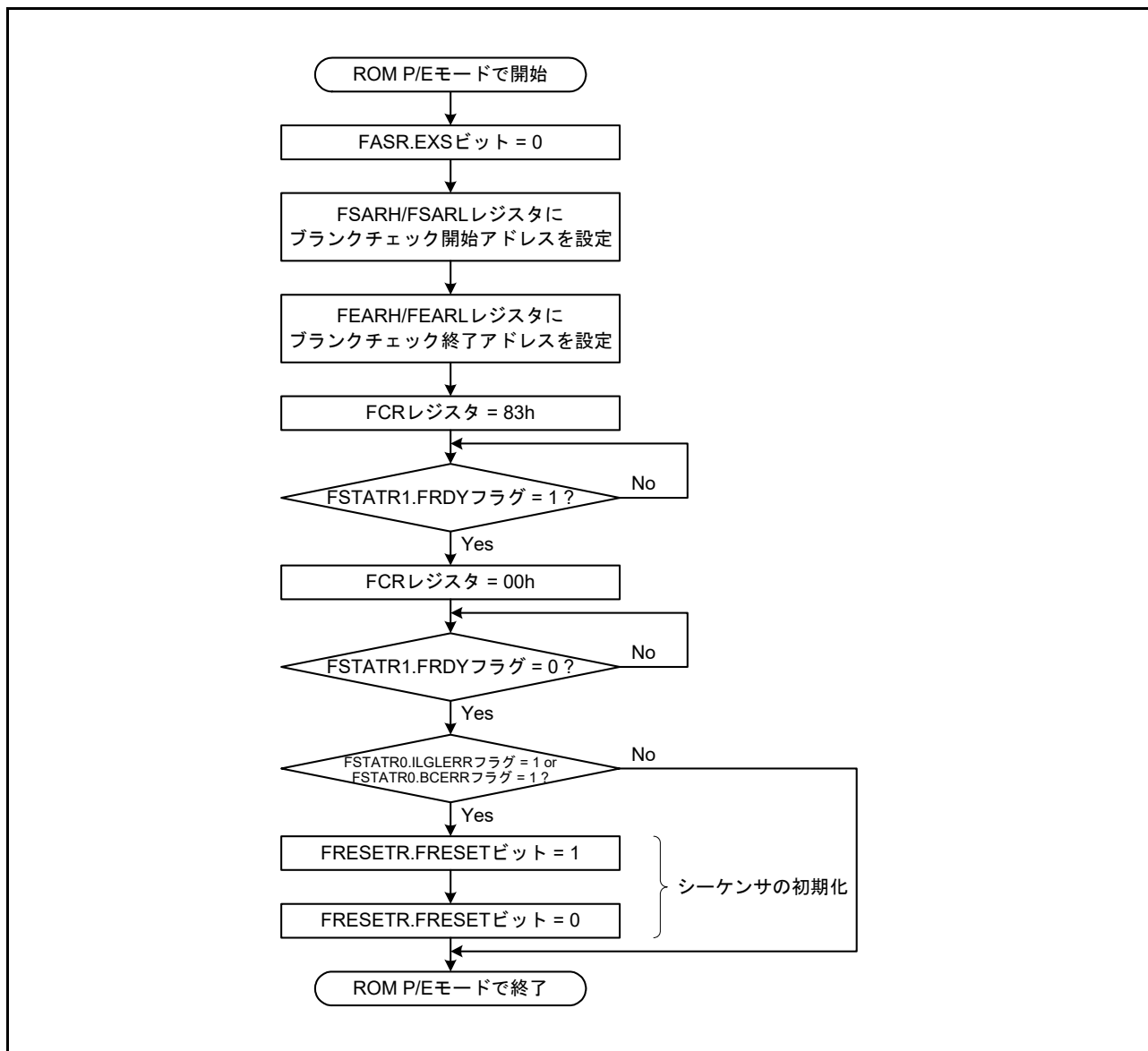


図 41.18 ブランクチェックコマンドの発行フロー (ROM)

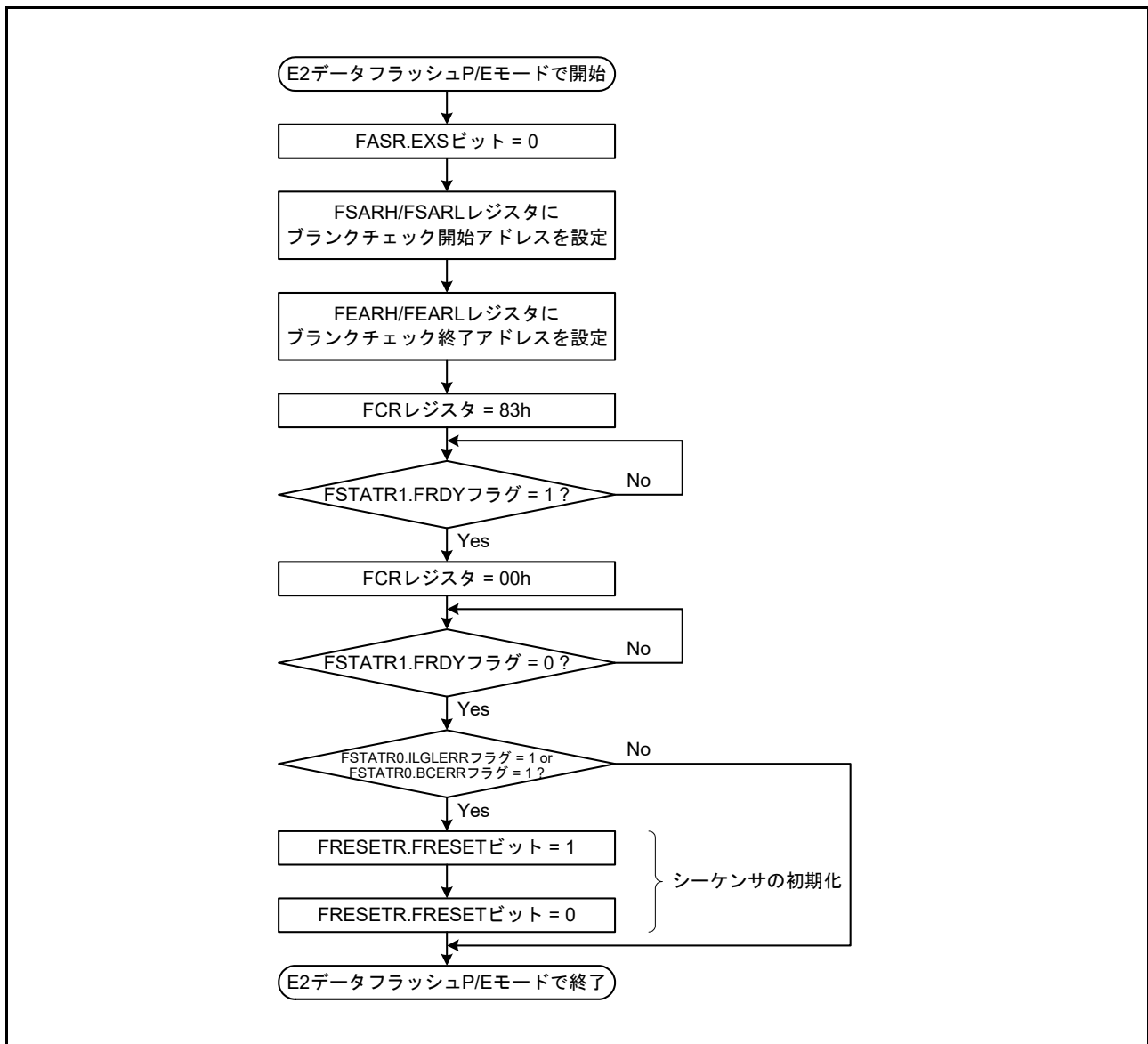


図 41.19 ブランクチェックコマンドの発行フロー (E2 データフラッシュ)

41.7.4.5 スタートアップ領域情報プログラム/アクセスウィンドウプロテクト/アクセスウィンドウ情報プログラム

図 41.20 にスタートアップ領域情報プログラムコマンド/アクセスウィンドウプロテクトコマンド/アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドの発行フローを示します。

なお、E2 データフラッシュアクセス禁止モードから直接 ROM P/E モードに遷移した場合は、フローの先頭で DFLCTL.DFLEN ビットを“1”にしてください。

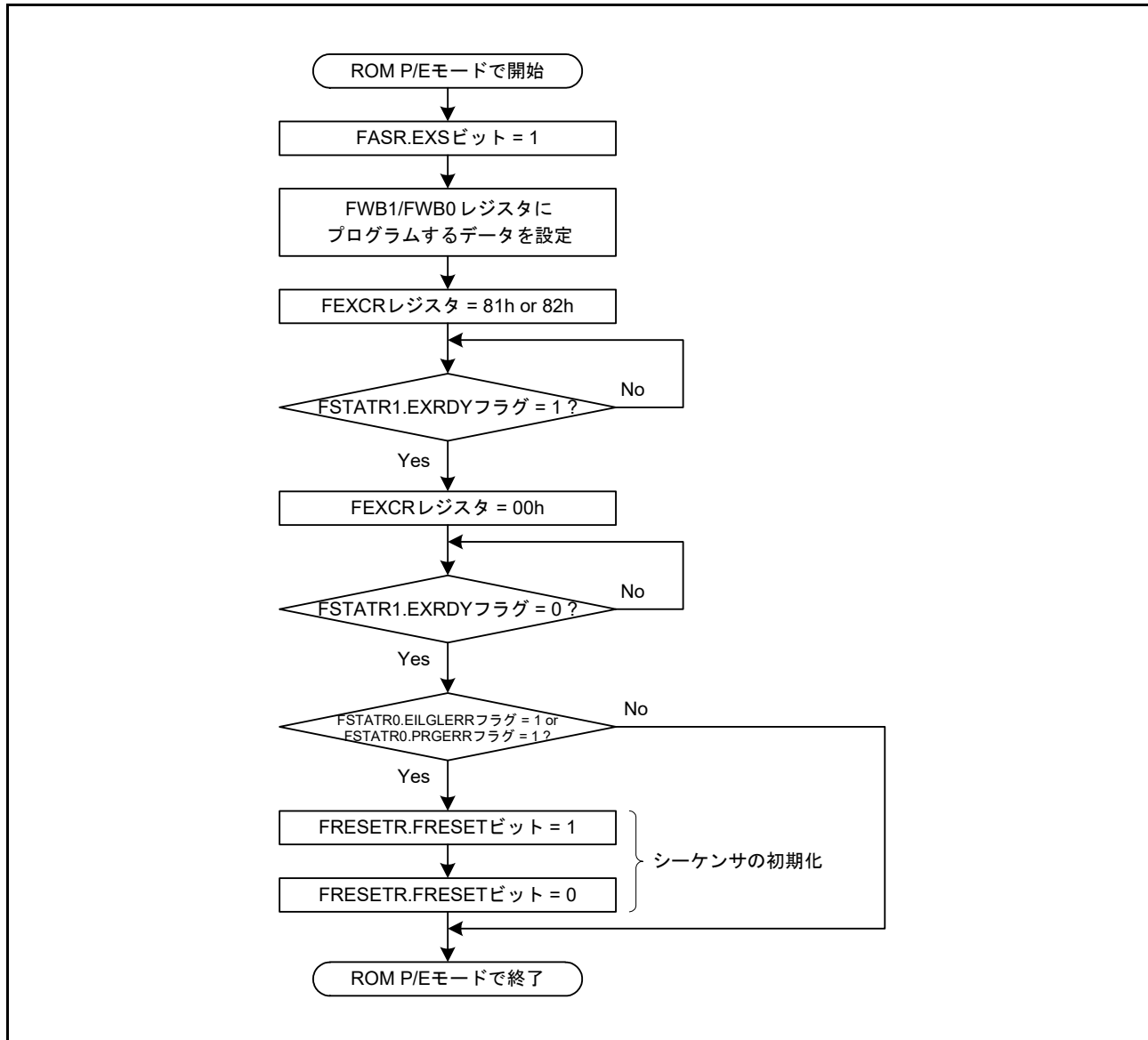


図 41.20 スタートアップ領域情報プログラムコマンド/アクセスウィンドウプロテクトコマンド/アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドの発行フロー

41.7.4.6 ソフトウェアコマンドの強制停止

ブランクチェックコマンド、ブロックイレーズコマンドを強制的に停止させるには、図 41.21 に従って実施してください。

強制停止を実行すると、FEAMH/FEAML レジスタに中断した時点のアドレスが格納されます。ブランクチェックの場合は、FEAMH/FEAML レジスタの値を FSARH/FSARL レジスタにコピーすることで、中断した処理を続きから再開させることができます。

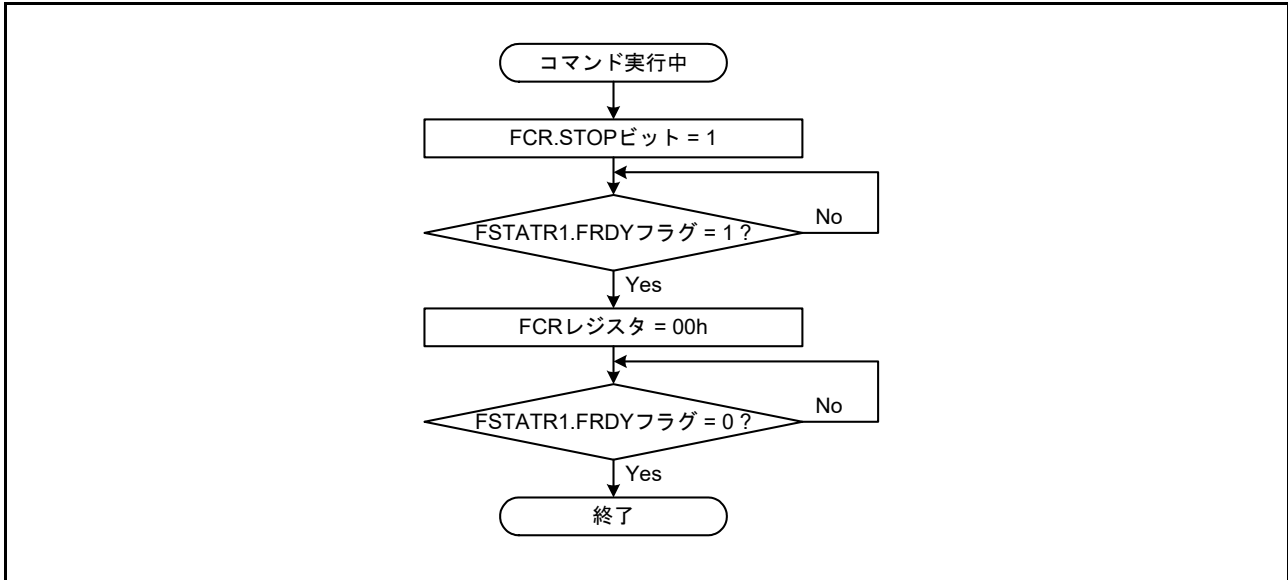


図 41.21 ソフトウェアコマンド強制停止の実行フロー

41.7.5 割り込み

ソフトウェアコマンド処理が完了するか、または強制停止処理が完了すると割り込み (FRDYI) が発生します。FCR.OPST ビットを“0”にすると FSTATR1.FRDY フラグが“0”に、また、FEXCR.OPST ビットを“0”にすると FSTATR1.EXRDY フラグが“0”になり、次の割り込み (FRDYI) を受け付けられるようになります。

本割り込みに対応する ICU の IERm.IENj ビットを“1”にする前に、IRn.IR フラグをクリアしてください。

41.8 ブートモード

ブートモードは、SCI インタフェース、または FINE インタフェースを使用します。

表 41.7 にブートモードでプログラム/イレーズ可能な領域と使用する周辺モジュールを、表 41.8 にブートモードで使用する入出力端子を示します。

表 41.7 ブートモードでプログラム/イレーズ可能な領域と使用する周辺モジュール

項目	ブートモード	
	SCI インタフェース	FINE インタフェース
プログラム/イレーズ可能な領域	ユーザ領域 データ領域	ユーザ領域 データ領域
使用する周辺モジュール	SCI1 (調歩同期式シリアル通信)	FINE

表 41.8 ブートモードで使用する入出力端子

端子名	入出力	使用するモード	用途
MD	入力	ブートモード	動作モードを選択(「3. 動作モード」参照)
MD/FINED	入出力	ブートモード (FINE インタフェース)	動作モードを選択、FINE データ入出力
P30/RXD1	入力	ブートモード (SCI インタフェース)	データ受信(注1)
P26/TXD1	出力		データ送信(注1)

注1. SCI インタフェースを使用する場合は、抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)してください。

41.8.1 ブートモード (SCI インタフェース)

ブートモード (SCI インタフェース) は、フラッシュメモリのプログラム / イレージに SCI の調歩同期式モードを用いるモードです。ユーザ領域とデータ領域を書き換えることができます。

MD 端子を Low にしてリセットを解除すると、MCU はブートモード (SCI インタフェース) で起動します。

シリアルプログラマについてはメーカーにお問い合わせください。

41.8.1.1 ブートモード (SCI インタフェース) の動作条件

ブートモード (SCI インタフェース) は、シリアルプログラマとの通信に、SCI1 を調歩同期式モードで使用します。図 41.22 にブートモード (SCI インタフェース) 時の端子接続例を、表 41.9 にブートモード (SCI インタフェース) 時に使用する端子の処理内容を示します。

なお、図 41.22 に記載した端子接続例は、一例です。すべてのシステムにおいて動作を保証するものではありません。

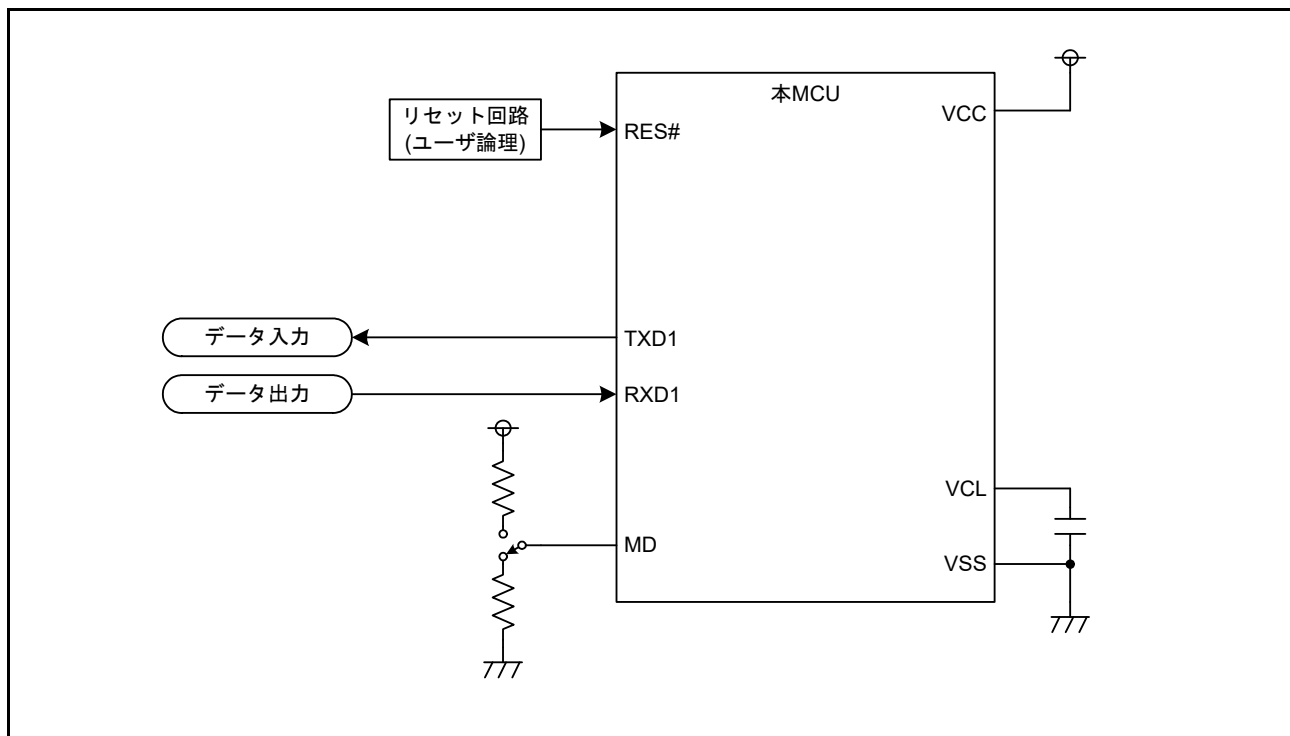


図 41.22 ブートモード (SCI インタフェース) 時の端子接続例

表 41.9 ブートモード (SCI インタフェース) 時に使用する端子の処理内容

端子名	名称	入出力	処理内容
VCC, VSS	電源	—	VCC端子には1.8V以上の電圧を、VSS端子には0Vを入力してください
VCL	平滑コンデンサ接続端子	—	内部電源安定用の平滑コンデンサを介してVSSに接続してください
MD	動作モードコントロール	入力	Lowを入力してください
RES#	リセット入力	入力	リセット端子です。リセット回路と接続してください
P30/RXD1	データ入力RXD	入力	シリアルデータの入力端子です
P26/TXD1	データ出力TXD	出力	シリアルデータの出力端子です

シリアルプログラマとの通信フォーマットは、**図 41.23** に示すとおり、8 ビットデータ、1 ストップビット、パリティなし、LSB ファーストです。

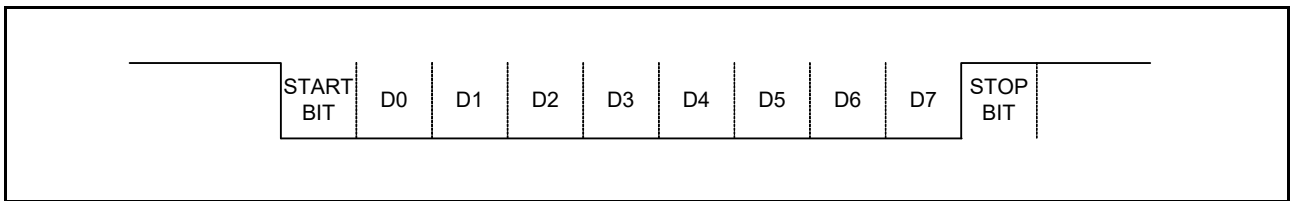


図 41.23 通信フォーマット

シリアルプログラマとの初期通信は、9,600 bps または 19,200 bps で行います。通信ビットレートは、接続後に変更できます。ブートモード (SCI インタフェース) で通信が可能な最大通信ビットレートは 2 Mbps です。

41.8.1.2 ブートモード (SCI インタフェース) の起動方法

ブートモード (SCI インタフェース) で起動するには、MD 端子を Low にして、リセットを解除 (RES# 端子を Low から High に) する必要があります。ブートモード (SCI インタフェース) で起動した後、400 ms 経過すると本 MCU との通信が可能になります。

図 41.24 に示すとおり、リセット解除後 400 ms の間は各端子の信号を変化させないでください。リセットに関しては、「**42.5.2 リセットタイミング**」に示す規格を守ってください。

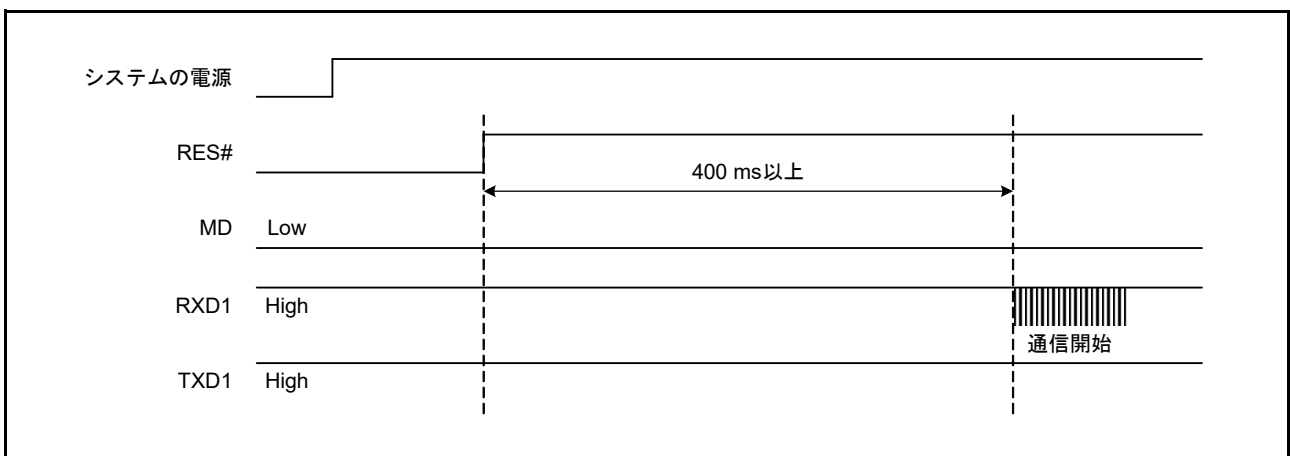


図 41.24 ブートモード (SCI インタフェース) で通信が可能になるまでの待ち時間

41.8.2 ブートモード (FINE インタフェース)

ブートモード (FINE インタフェース) は、フラッシュメモリのプログラム / イレーズに FINE を使用するモードです。ユーザ領域とデータ領域を書き換えることができます。

シリアルプログラマについてはメーカーにお問い合わせください。

41.8.2.1 ブートモード (FINE インタフェース) の動作条件

ブートモード (FINE インタフェース) は、シリアルプログラマとの通信に、FINE を使用します。

図 41.25 にブートモード (FINE インタフェース) 時の端子接続例を、表 41.10 にブートモード (FINE インタフェース) 時に使用する端子の処理内容を示します。

なお、図 41.25 に記載した端子接続例は、一例です。すべてのシステムにおいて動作を保証するものではありません。

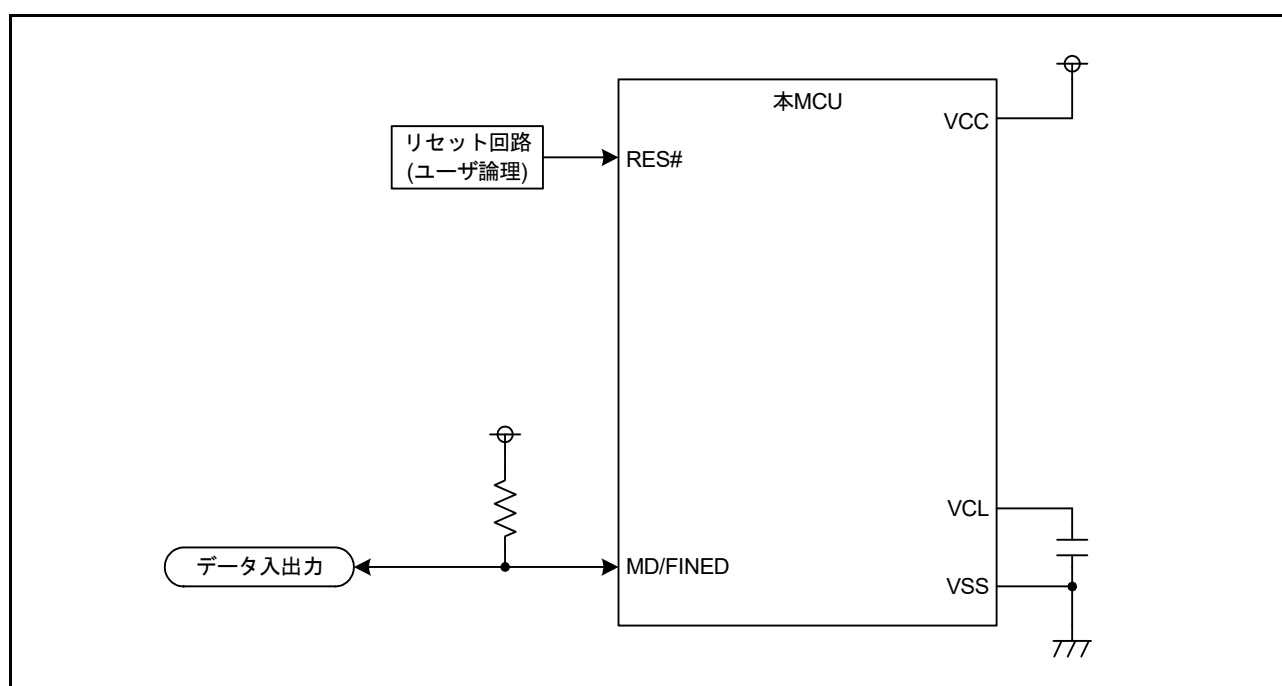


図 41.25 ブートモード (FINE インタフェース) 時の端子接続例

表 41.10 ブートモード (FINE インタフェース) 時に使用する端子の処理内容

端子名	名称	入出力	処理内容
VCC, VSS	電源	—	VCC端子には1.8V以上の電圧を、VSS端子には0Vを入力してください
VCL	平滑コンデンサ接続端子	—	内部電源安定用の平滑コンデンサを介してVSSに接続してください
MD/FINED	動作モードコントロール/ データ入出力	入出力	抵抗を介してVCCに接続(プルアップ)してください
RES#	リセット入力	入力	リセット端子です。リセット回路と接続してください

41.9 フラッシュメモリプロテクト機能

フラッシュメモリプロテクト機能は、第三者によるフラッシュメモリの読み出し、書き換えから保護する機能です。

シリアルプログラマ接続時にはブートモード ID コードプロテクト、オンチップデバ깅エミュレータ接続時にはオンチップデバ깅エミュレータ ID コードプロテクトがあります。

41.9.1 ID コードプロテクト

ID コードプロテクトには、シリアルプログラマを接続したときのブートモード ID コードプロテクト、オンチップデバ깅エミュレータを接続したときのオンチップデバ깅エミュレータ ID コードプロテクトの2つがあります。どちらも使用する ID コードは同じものですが、動作が異なります。

ID コードは、制御コード+ID コード1～ID コード15で構成されています。32ビット長4ワードのデータで、32ビット単位で設定してください。図 41.26 に ID コードの構成を示します。

	31	24 23	16 15	8 7	0
FFFF FFA0h	制御コード	IDコード1	IDコード2	IDコード3	
FFFF FFA4h	IDコード4	IDコード5	IDコード6	IDコード7	
FFFF FFA8h	IDコード8	IDコード9	IDコード10	IDコード11	
FFFF FFACH	IDコード12	IDコード13	IDコード14	IDコード15	

図 41.26 ID コードの構成

ID コードを設定するときのプログラムの記述例を以下に示します。

制御コード、ID コード1～ID コード15を順に“45h, 01h, 02h, 03h, 04h, 05h, 06h, 07h, 08h, 09h, 0Ah, 0Bh, 0Ch, 0Dh, 0Eh, 0Fh”に設定する場合

C 言語：

```
#pragma address ID_CODE = 0xFFFFFA0
const unsigned long ID_CODE [4] = {0x45010203, 0x04050607, 0x08090A0B, 0x0C0D0E0F};
```

アセンブリ言語：

```
.SECTION ID_CODE, CODE
.ORG 0xFFFFFA0h
.LWORD 45010203h
.LWORD 04050607h
.LWORD 08090A0Bh
.LWORD 0C0D0E0Fh
```

41.9.1.1 ブートモード ID コードプロテクト

ブートモード ID コードプロテクトは、第三者がシリアルプログラマを接続したときのユーザ領域とデータ領域の読み出し、書き換えを禁止する機能です。

制御コードが“45h”または“52h”(ブートモード ID コードプロテクト有効)の場合は、シリアルプログラマから送られてくる 16 バイトのコードと、ユーザ領域上にある ID コードを比較し、その結果に従って、ユーザ領域とデータ領域の読み出し、書き換えを許可します。

制御コードが“45h”、“52h”以外(ブートモード ID コードプロテクト無効)の場合、ユーザ領域とデータ領域のすべてのブロックを消去し、ユーザ領域とデータ領域の読み出し、書き込みを許可します。

制御コードは、プロテクトの有効もしくは無効を設定します。表 41.11 にブートモード ID コードプロテクトの仕様を、図 41.27 にブートモード ID コードプロテクトの認証フローを示します。

ID コード 1 ~ ID コード 15 は、任意の値が設定できます。

ただし、無条件にシリアルプログラマの接続を禁止する場合は、ID コード 1 ~ ID コード 15 に順に“50h, 72h, 6Fh, 74h, 65h, 63h, 74h, FFh, FFh, FFh, FFh, FFh, FFh, FFh, FFh”と設定してください。

表41.11 ブートモードIDコードプロテクトの仕様

IDコード		プロテクト	IDコードの 判定結果	動作
制御コード	IDコード1~ IDコード15			
45h	任意	有効	一致	ブートモードIDコード認証ステートを完了し、プログラム/イ レーズホストコマンド待ちステートに遷移する
			不一致	ブートモードIDコード認証ステートを継続する
			不一致 (3回連続)	ユーザ領域とデータ領域のすべてのブロックを消去し、ブート モードIDコード認証ステートを継続する
52h	50h, 72h, 6Fh, 74h, 65h, 63h, 74h, + FFh, ..., FFh (8バ イトすべてFFh)	有効	—	シリアルプログラマが送信したコードの値に関係なく、フラッ シュメモリの読み出し、書き換えを許可しない
			一致	ブートモードIDコード認証ステートを完了し、プログラム/イ レーズホストコマンド待ちステートに遷移する
	上記以外		不一致	ブートモードIDコード認証ステートを継続する
上記以外	任意	無効	—	ユーザ領域とデータ領域のすべてのブロックを消去する

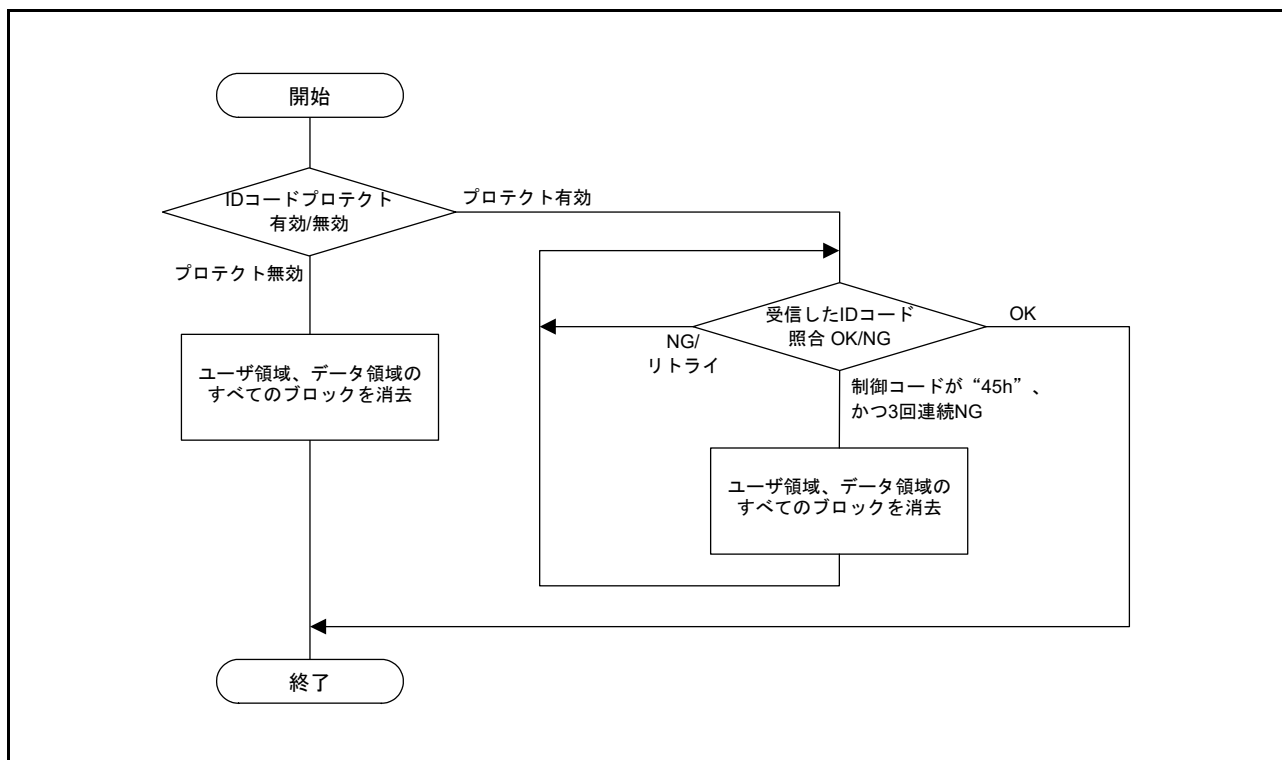


図 41.27 ブートモード ID コードプロテクトの認証フロー

41.9.1.2 オンチップデバッグエミュレータ ID コードプロテクト

オンチップデバッグエミュレータ ID コードプロテクトは、オンチップデバッグエミュレータとの接続を許可 / 禁止する機能です。

オンチップデバッグエミュレータ ID コードプロテクトが無効の場合もしくは、プロテクトが有効でオンチップデバッグエミュレータから送られてくる 16 バイトのコードとユーザ領域にある ID コードが一致した場合、オンチップデバッグエミュレータとの接続を許可します。

オンチップデバッグエミュレータ ID コードプロテクトの仕様を、表 41.12 に示します。

表41.12 オンチップデバッグエミュレータ ID コードプロテクトの仕様

IDコード		プロテクト	IDコードの判定結果	動作
制御コード	IDコード1～IDコード15			
FFh	FFh, ..., FFh (15バイトすべてFFh)	無効	—	オンチップデバッグエミュレータとの接続を許可する
52h	50h, 72h, 6Fh, 74h, 65h, 63h, 74h, + 任意の8バイト	有効	—	オンチップデバッグエミュレータが送信したコードの値に関係なく、オンチップデバッグエミュレータの接続を許可しない
上記以外	上記以外	有効	一致	オンチップデバッグエミュレータとの接続を許可する
			不一致	IDコード待ちを継続する

41.10 通信プロトコル

ここでは、ブートモードで使用するプロトコルについて説明します。シリアルプログラマを開発する場合には、この通信プロトコルに従って制御してください。

41.10.1 ブートモード (SCI インタフェース) の状態遷移

図 41.28 にブートモード (SCI インタフェース) の状態遷移図を示します。

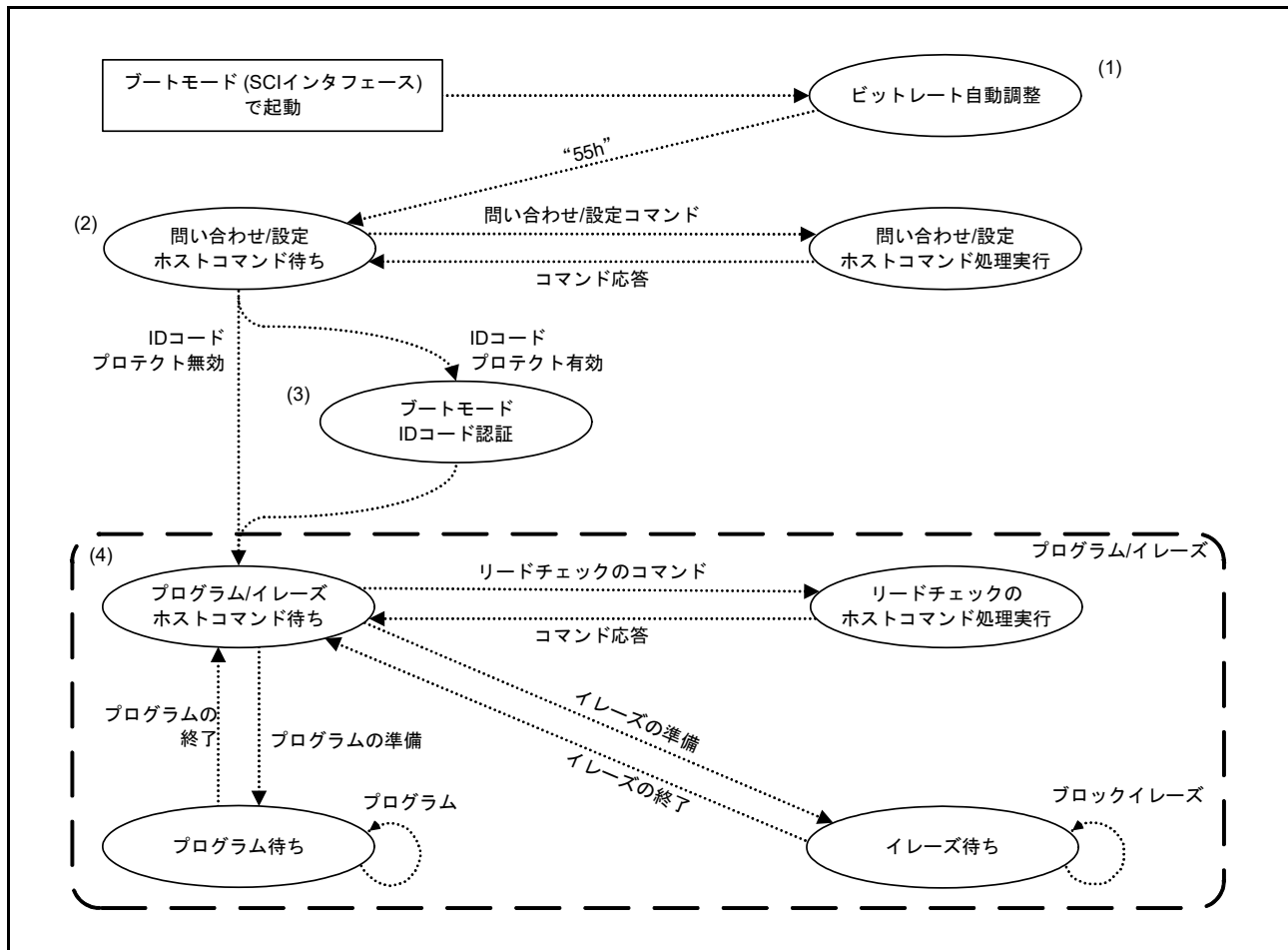


図 41.28 ブートモード (SCI インタフェース) の状態遷移図

(1) ビットレート自動調整ステート

ビットレート自動調整ステートでは、本 MCU とホスト間の通信ビットレートを 9,600 bps または 19,200 bps に自動調整します。ビットレート自動調整が終了すると、本 MCU はホストに “00h” を送信します。ホストは “00h” を受け取った後、“55h” を送信してください。“55h” を受信すると、本 MCU はホストに “E6h” を送信し、問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステートに遷移します。

なお、ホストは、本 MCU のリセットを解除した後、400 ms 以上経過するまではデータを送信しないでください。

(2) 問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステート

問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステートでは、ブロック構成、ブロックサイズ、ユーザ領域やデータ領域の配置アドレスなど本 MCU の情報問い合わせや、データのエンディアン、ビットレートの選択ができます。本 MCU はホストからプログラム / イレーズホストコマンド待ちステート遷移コマンドを受信すると、ブートモード ID コードプロテクトの有効、無効を判定します。ブートモード ID コー

ドプロテクトが無効の場合、プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します。ブートモード ID コードプロテクトが有効の場合、ブートモード ID コード認証ステートに遷移します。問い合わせ/設定コマンドに関する詳細は、「41.10.5 問い合わせコマンド」、「41.10.6 設定コマンド」を参照してください。

(3) ブートモード ID コード認証ステート

ブートモード ID コード認証ステートでは、ID コード認証コマンドを受け付けます。ブートモード ID コードが不一致の場合は、ブートモード ID コード認証ステートから他のステートに遷移することはありません。

ブートモード ID コードプロテクトに関する詳細は、「41.9.1.1 ブートモード ID コードプロテクト」を、ID コード認証コマンドに関する詳細は、「41.10.7 ID コード認証コマンド」を参照してください。

(4) プログラム/イレーズステート

プログラム/イレーズステートでは、ホストからのコマンドに従って、プログラムやイレーズやリードチェックのコマンド処理を実行します。

プログラム/イレーズコマンドに関する詳細は、「41.10.8 プログラム/イレーズコマンド」を、リードチェックコマンドに関する詳細は、「41.10.9 リードチェックコマンド」を参照してください。

41.10.2 コマンドとレスポンスの構成

通信プロトコルは、ホストから本 MCU に送信する“コマンド”と本 MCU からホストに送信する“レスポンス”で構成されています。コマンドには1バイトコマンドと複数バイトコマンドがあり、レスポンスには1バイトレスポンスと複数バイトレスポンス、エラーレスポンスがあります。

複数バイトコマンド、複数バイトレスポンスには、送受信データのバイト数を通知する“サイズ”と、通信異常を検出するための“SUM”があります。

“サイズ”はコマンドコード(先頭1バイト)、サイズ、SUM を除いた送受信データのバイト数を指します。

“SUM”は、コマンドもしくはレスポンスの各バイトを合計した値が、“00h”になるように計算されたバイトデータを指します。

プログラムコマンドで指定するプログラムアドレス、ブロックイレーズコマンドで指定するブロック先頭アドレス、アクセスウィンドウ情報プログラムコマンドで指定する AW 先頭アドレス、AW 最終アドレス、アクセスウィンドウリードコマンドで受信する AW 先頭アドレス、AW 最終アドレスはフラッシュメモリの読み出し用アドレスを使用します。

41.10.3 未定義コマンドに対するレスポンス

本 MCU は未定義のコマンドを受信した場合、コマンドエラーを意味するレスポンスを返します。コマンドエラーのレスポンスの内容は以下のとおりです。エラーレスポンスの返信データには、受信したコマンドのコマンドコードが格納されています。

エラーレスポンス

80h	コマンド コード
-----	-------------

41.10.4 ブートモードステータス問い合わせ

ブートプログラムの、現在のステータスと直前のコマンドを発行したときにどのようなエラーがあったか、確認するコマンドです。

本 MCU が応答するステータス、エラーの一覧を、表 41.13、表 41.14 に示します。

ブートモードステータス問い合わせコマンドは、問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステータスとプログラム / イレーズホストコマンド待ちステータスで使用することができます。

コマンド	4Fh				
レスポンス	5Fh	サイズ	ステータス	エラー	SUM
サイズ (1 バイト)	: ステータス、エラーのデータの総バイト数 (固定値で "02h")				
ステータス (1 バイト)	: 本 MCU の現在のステータス (表 41.13 を参照)				
エラー (1 バイト)	: 直前に発行したコマンドに対するエラー状況 (表 41.14 を参照)				
SUM (1 バイト)	: レスポンスデータを合計して "00h" になる値				

表 41.13 ステータスの内容

コード	ステータス (注1)	詳細
11h	問い合わせ/設定ホストコマンド待ちステータス	デバイス選択待ち
12h/13h		動作周波数選択待ち
1Fh		プログラム/イレーズホストコマンド待ちステータス遷移コマンド待ち
31h	ブートモード ID コード認証ステータス	ユーザ領域、データ領域のイレーズ中
3Fh	プログラム/イレーズホストコマンド待ちステータス	プログラム/イレーズコマンド待ち
4Fh		プログラムデータ受信待ち
5Fh		ブロックイレーズ指定待ち

注 1. 各ステータスについては、図 41.28 に記載しています。図の内容も併せて確認してください。

表 41.14 エラーの内容

コード	内容
00h	エラーなし
11h	SUMエラー
21h	デバイスコードエラー
24h	ビットレート選択エラー
29h	ブロック先頭アドレスエラー
2Ah	アドレスエラー
2Bh	データ長エラー
51h	イレーズエラー
52h	データあり (未消去エラー)
53h	プログラムエラー
61h	IDコード不一致
63h	IDコード不一致かつイレーズエラー
80h	コマンドエラー
FFh	ビットレート自動調整エラー

41.10.5 問い合わせコマンド

問い合わせコマンドは、設定コマンド、プログラム/イレーズコマンド、リードチェックコマンドを送信するために必要な基本情報を取得するコマンドです。表 41.15 に問い合わせコマンドの一覧を示します。一覧にあるコマンドは、問い合わせ/設定ホストコマンド待ち状態でのみ使用できます。

表41.15 問い合わせコマンド一覧

コマンド	問い合わせ内容
サポートデバイス問い合わせ	デバイスコードとシリーズ名
データ領域有無問い合わせ	データ領域の有無
ユーザ領域情報問い合わせ	ユーザ領域の個数、領域先頭/領域最終アドレス
データ領域情報問い合わせ	データ領域の個数、領域先頭/領域最終アドレス
ブロック情報問い合わせ	ユーザ領域、データ領域それぞれの先頭アドレス、1ブロックのブロックサイズ、ブロック数

41.10.5.1 サポートデバイス問い合わせ

開発したソフトウェアのエンディアンを識別するためのデバイス情報を取得するコマンドです。

このコマンドを受信すると、本MCUは開発したソフトウェアがリトルエンディアンで動作する場合のデバイス情報とビッグエンディアンで動作する場合のデバイス情報を順に送信します。

コマンド

20h

レスポンス

30h	サイズ	デバイス数
文字数	デバイスコード(リトルエンディアン)	シリーズ名(リトルエンディアン)
文字数	デバイスコード(ビッグエンディアン)	シリーズ名(ビッグエンディアン)
SUM		

- サイズ(1バイト) : デバイス数、文字数、デバイスコード、シリーズ名のデータの総バイト数
 デバイス数(1バイト) : MCUがサポートするエンディアンの種別数(固定値で“02h”)
 文字数(1バイト) : デバイスコードとシリーズ名の文字数
 デバイスコード(4バイト) : 開発したソフトウェアのエンディアンを認識するための認識コード
 シリーズ名(nバイト) : MCUのシリーズ名とリトルエンディアン/ビッグエンディアンの別(ASCIIコード)
 SUM(1バイト) : レスポンスデータを合計して“00h”になる値

41.10.5.2 データ領域有無問い合わせ

このコマンドを受信すると、本MCUは「データ領域あり、エリアプロテクションあり、データ領域プログラムコマンドあり、アクセスウィンドウプロテクトあり」という結果を送信します。

コマンド	2Ah			
レスポンス	3Ah	サイズ	領域有無	SUM
サイズ(1バイト)	: 領域有無の文字数(固定値で“01h”)			
領域有無(1バイト)	: データ領域の有無(固定値で“5Dh”) (データ領域あり、エリアプロテクションあり、データ領域プログラムコマンドあり、アクセスウィンドウプロテクトあり)			
SUM(1バイト)	: レスポンスデータを合計して“00h”になる値(固定値で“68h”)			

41.10.5.3 ユーザ領域情報問い合わせ

このコマンドを受信すると、本MCUはユーザ領域の領域数とアドレスの情報を送信します。

コマンド	25h		
レスポンス	35h	サイズ	領域数
	領域先頭アドレス		
	領域最終アドレス		
	SUM		
サイズ(1バイト)	: 領域数、領域先頭アドレス、領域最終アドレスのデータの総バイト数(固定値で“09h”)		
領域数(1バイト)	: ユーザ領域の領域数(固定値で“01h”)		
領域先頭アドレス(4バイト)	: ユーザ領域の先頭アドレス		
領域最終アドレス(4バイト)	: ユーザ領域の最終アドレス		
SUM(1バイト)	: レスポンスデータを合計して“00h”になる値		

41.10.5.4 データ領域情報問い合わせ

このコマンドを受信すると、本 MCU はデータ領域の領域数とアドレスの情報を送信します。

コマンド	2Bh		
レスポンス	3Bh	サイズ	領域数
	領域先頭アドレス		
	領域最終アドレス		
	SUM		

- サイズ (1 バイト) : 領域数、領域先頭アドレス、領域最終アドレスのデータの総バイト数 (固定値で "09h")
 領域数 (1 バイト) : データ領域の領域数 (固定値で "01h")
 領域先頭アドレス (4 バイト) : データ領域の先頭アドレス (固定値で "0010 0000h")
 領域最終アドレス (4 バイト) : データ領域の最終アドレス (固定値で "0010 0FFFh" または "0010 1FFFh")
 SUM (1 バイト) : レスポンスデータを合計して "00h" になる値 (固定値で "8Dh" または "7Dh")

41.10.5.5 ブロック情報問い合わせ

このコマンドを受信すると、本 MCU はユーザ領域の先頭アドレス、1 ブロックのブロックサイズ、ブロック数とデータ領域の先頭アドレス、1 ブロックのブロックサイズ、ブロック数を送信します。

コマンド	26h		
レスポンス	36h	サイズ	DDh
	ユーザ領域先頭アドレス		
	1ブロックブロックサイズ(ユーザ領域)		
	ユーザ領域ブロック数		
	データ領域先頭アドレス		
	1ブロックブロックサイズ(データ領域)		
	データ領域ブロック数		
	SUM		

- サイズ (2 バイト) : "DDh" からデータ領域ブロック数までのデータの総バイト数 (固定値で "00 19h")
 ユーザ領域先頭アドレス (4 バイト) : ユーザ領域の先頭アドレス
 1 ブロックブロックサイズ (ユーザ領域) (4 バイト) : 1 ブロックのメモリサイズ (固定値で "00 00 08 00h")
 ユーザ領域ブロック数 (4 バイト) : ユーザ領域を構成するブロックの数
 データ領域先頭アドレス (4 バイト) : データ領域の先頭アドレス (固定値で "00 10 00 00h")
 1 ブロックブロックサイズ (データ領域) (4 バイト) : 1 ブロックのメモリサイズ (固定値で "00 00 01 00h")
 データ領域ブロック数 (4 バイト) : データ領域を構成するブロックの数 (固定値で "00 00 00 10h" または "00 00 00 20h")
 SUM (1 バイト) : レスポンスデータを合計して "00h" になる値

41.10.6 設定コマンド

設定コマンドは、本MCUのプログラムやイレーズを実行するために必要な基本設定を行うためのコマンドです。

表 41.16 に設定コマンドの一覧を示します。一覧にあるコマンドは、問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステートでのみ使用できます。

表41.16 設定コマンド一覧

コマンド	機能
デバイス選択	デバイスコードの選択
動作周波数選択	通信のビットレートを変更
プログラム/イレーズホストコマンド待ちステート遷移	プログラム/イレーズホストコマンド待ちステート、またはブートモードIDコード認証ステートに遷移

41.10.6.1 デバイス選択

開発したソフトウェアのエンディアンを指定するコマンドです。コマンドに指定するデバイスコードは、サポートデバイス問い合わせコマンドで取得したデバイスコードの中から選択してください。

本MCUは受け取ったデバイスコードがサポートしているデバイスに一致した場合、レスポンス“46h”を送信します。サポートしていないデバイスであった場合や、受信したコマンドのSUM値が一致しなかった場合には、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	10h	サイズ	デバイスコード	SUM
------	-----	-----	---------	-----

サイズ (1バイト) : デバイスコードの文字数 (固定値で“04h”)

デバイスコード (4バイト) : 開発したソフトウェアのエンディアンを認識するための認識コード
(サポートデバイス問い合わせコマンドの応答と同一のデバイスコード)

SUM (1バイト) : コマンドデータを合計して“00h”になる値

レスポンス

46h

エラーレスポンス

90h	エラー
-----	-----

エラー (1バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

“21h” : デバイスコードエラー

41.10.6.2 動作周波数選択

MCUの動作周波数、フラッシュメモリプログラマとの通信ビットレートを指定するコマンドです。コマンドに指定するビットレートは、32 MHzを分周して得られるビットレートとの誤差が4%未満となるビットレートを設定してください。

本MCUは指定された設定内容がサポート可能である場合、レスポンス“06h”を送信します。ビットレート誤差が4%以上の場合や、受信したコマンドのSUM値が一致しなかった場合には、エラーレスポンスを送信します。

ホストはレスポンスを受信した後、旧ビットレートで1ビット期間以上待ってから新ビットレートで通信確認データを送信してください。

本MCUは通信確認データを正しく受信できた場合、レスポンス“06h”を送信します。正しく受信できなかった場合には、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	3Fh	サイズ	ビットレート	ダミーデータ
	クロック数	通倍率1	通倍率2	
	SUM			

サイズ(1バイト) : ビットレート、ダミーデータ、クロック数、通倍率のデータの総バイト数(固定値で“07h”)

ビットレート(2バイト) : 新ビットレート
ビットレート値を1/100した値を設定(例: 19200 bpsの場合、“00C0h”を設定)

ダミーデータ(2バイト) : 固定値で“0000h”を設定

クロック数(1バイト) : 通倍率を設定するクロックの種類(固定値: “02h”)

通倍率1(1バイト) : システムクロック(ICLK)の通倍率(固定値で“01h”)

通倍率2(1バイト) : 周辺モジュールクロック(PCLK)の通倍率(固定値で“01h”)

SUM(1バイト) : コマンドデータ(ダミーデータを含む)を合計して“00h”になる値

レスポンス

06h

エラーレスポンス

BFh

エラー

エラー(1バイト) : エラーコード

“11h” : SUMエラー

“24h” : ビットレート選択エラー

通信確認

06h

レスポンス

06h

エラーレスポンス

FFh

- ビットレート選択エラー

動作周波数選択コマンドで指定したビットレートを、本 MCU が誤差 4% 未満で生成できない場合にビットレート選択エラーが発生します。

動作周波数選択コマンドで指定した新ビットレートを B、32 (MHz) を Pφ とした場合のビットレート誤差は、以下の計算式で求められます。

$$\text{誤差 (\%)} = \left(\frac{P\phi \times 10^6}{B \times 16 \times N} - 1 \right) \times 100$$

$$N = \text{INT} \left(\frac{P\phi \times 10^6}{B \times 16} \right)$$

Pφ : 32 (MHz)

B : 新ビットレート (bps)

N : Pφ と新ビットレートの 16 倍との比 (ただし、 $1 \leq N \leq 256$)

41.10.6.3 プログラム / イレーズホストコマンド待ちステート遷移

問い合わせ / 設定ホストコマンド待ちステートからプログラム / イレーズホストコマンド待ちステートに遷移させるために使用するコマンドです。このコマンドを受信すると、本 MCU はブートモード ID コードプロテクトの有効 / 無効を判定します。

ブートモード ID コードプロテクトが無効の場合、ユーザ領域、データ領域のすべてのブロックをイレーズします。すべてのブロックのイレーズが完了するとレスポンス “06h” を送信し、プログラム / イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します。正しくすべてのブロックをイレーズできなかった場合には、エラーレスポンスを送信します。

ブートモード ID コードプロテクトが有効の場合、レスポンス “16h” を送信し、ブートモード ID コード認証ステートに遷移します。

コマンド	40h
レスポンス	ACK
ACK (1 バイト)	: ACK コード “06h” : ID コードプロテクト無効 “16h” : ID コードプロテクト有効
エラーレスポンス	C0h エラー
エラー (1 バイト)	: エラーコード “51h” : イレーズエラー

41.10.7 IDコード認証コマンド

IDコード認証コマンドは、ブートモードIDコードプロテクトが有効の場合に、IDコード認証を行うためのコマンドです。表41.17にIDコード認証コマンドの一覧を示します。一覧にあるコマンドは、ブートモードIDコード認証ステートでのみ使用できます。

表41.17 IDコード認証コマンド一覧

コマンド	機能
IDコードチェック	ホストから送信する16バイトのコードとIDコードとを比較する

41.10.7.1 IDコードチェック

ブートモードIDコードプロテクトを解除するために使用するコマンドです。コマンド中で指定する比較用IDコードは、ユーザ領域にプログラム済みの制御コード、IDコード1～IDコード15と同じ値にしてください。

ホストから送信した比較用IDコードと、ユーザ領域にプログラムされたIDコードが一致した場合、本MCUはレスポンス“06h”を送信し、プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します。一致しなかった場合や受信したコマンドのSUM値が一致しなかった場合、エラーレスポンスを送信します。

制御コードに“45h”がプログラムされているときに3回連続で不一致となった場合、ユーザ領域、データ領域のすべてのブロックをイレーズします。イレーズ中にエラーが発生すると、本MCUはエラーレスポンスを送信します。また、すべてのブロックのイレーズが正常に完了してもエラーレスポンスを送信し、ブートモードIDコード認証ステートを継続します。プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移するには、本MCUをリセットしてください。

コマンド

60h	サイズ
比較用IDコード(制御コード+IDコード1～IDコード15)	
SUM	

サイズ(1バイト) : IDコードのバイト数(固定値で“10h”)
 IDコード(16バイト) : 制御コード(1バイト)+IDコード1～IDコード15(15バイト)
 SUM(1バイト) : コマンドデータを合計して“00h”になる値

レスポンス

ACK

ACK(1バイト) : ACKコード
 “06h” : プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します

エラーレスポンス

E0h	エラー
-----	-----

エラー(1バイト) : エラーコード
 “11h” : SUMエラー
 “61h” : IDコード不一致
 “63h” : IDコード不一致かつイレーズエラー

41.10.8 プログラム/イレーズコマンド

プログラム/イレーズコマンドは、問い合わせコマンドのレスポンスをもとに、本MCUのユーザ領域やデータ領域に対してプログラムやイレーズを行うコマンドです。表 41.18 にプログラム/イレーズホストコマンド待ち、プログラム待ち、イレーズ待ちの各状態で使用可能なプログラム/イレーズコマンドの一覧を、表 41.19 に各状態で受け付けるコマンドを示します。

各状態で表 41.19 に記載されていないコマンドを受信するとコマンドエラーのレスポンスを送信します。

表41.18 プログラム/イレーズコマンド一覧

コマンド	機能
ユーザ/データ領域プログラム準備	ユーザ領域、データ領域にデータをプログラムするためのプログラム待ち状態に遷移
プログラム	ユーザ領域またはデータ領域の指定領域に指定したデータをプログラム。 またはプログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移(プログラムの終了)
データ領域プログラム	データ領域の指定領域に指定したサイズのデータをプログラム。 またはプログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移(データ領域プログラムの終了)
イレーズ準備	イレーズ待ち状態に遷移
ブロックイレーズ	指定ブロックのイレーズ、またはプログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移(イレーズの終了)

表41.19 ステート毎の受け付け可能なコマンド

ステート	受け付け可能なコマンド
プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態	ユーザ/データ領域プログラム準備コマンド、イレーズ準備コマンド
プログラム待ち状態	プログラムコマンド、データ領域プログラムコマンド
イレーズ待ち状態	ブロックイレーズコマンド

41.10.8.1 ユーザ/データ領域プログラム準備

プログラムコマンドとデータ領域プログラムコマンドの受け付け準備をさせるためのコマンドです。

このコマンドを受信すると、本MCUはプログラムの準備の指示がホストから行われたと判断し、プログラムコマンドとデータ領域プログラムコマンドのみ受け付ける、プログラム待ち状態に遷移し、レスポンス“06h”を送信します。

コマンド	43h
レスポンス	06h

41.10.8.2 プログラム

ユーザ領域、データ領域に指定のデータを書き込むためのコマンドです。コマンド中で指定するプログラムアドレスは、下位 8 ビットを“0”にしてください。プログラムデータ長が 256 バイトに満たないデータを書き込むことはできません。不足部分は“FFh”で埋めてください。

本 MCU は指定されたアドレスからのプログラムが正常に終了すると、レスポンス“06h”を送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合や、プログラム中にエラーが発生すると、本 MCU はエラーレスポンスを送信します。

プログラムを終了してプログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移する場合、ホストから“50h FFh FFh FFh FFh B4h”を送信してください。本 MCU はレスポンス“06h”を送信し、プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します。

コマンド	50h	プログラムアドレス
	プログラムデータ	
	SUM	

プログラムアドレス (4 バイト) : プログラム先のアドレス

下位 8 ビットを“0”に設定

プログラムを終了する場合は“FFFF FFFFh”を設定

プログラムデータ (n バイト) : プログラムデータ (n = 256 または 0 (終了時))

n バイトに満たない領域には“FFh”を設定

プログラムを終了する場合はプログラムデータなし

SUM (1 バイト)

: コマンドデータを合計して“00h”になる値

レスポンス

06h

エラーレスポンス

D0h	エラー
-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

“2Ah” : アドレスエラー (アドレスが指定の領域内でない)

“53h” : プログラムエラー (データが書き込めない)

41.10.8.3 データ領域プログラム

データ領域に指定のデータを書き込むためのコマンドです。コマンド中で指定するプログラムアドレスは、下位2ビットを“0”にしてください。プログラムデータ長が4バイトに満たないデータを書き込むことはできません。不足部分は“FFh”で埋めてください。

本MCUは指定されたアドレスからのプログラムが正常に終了すると、レスポンス“06h”を送信します。受信したコマンドのSUM値が一致しなかった場合や、プログラム中にエラーが発生すると、本MCUはエラーレスポンスを送信します。

プログラムを終了してプログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移する場合、ホストから“51h FFh FFh FFh FFh 00h B3h”を送信してください。本MCUはレスポンス“06h”を送信し、プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移します。

コマンド	51h	プログラムアドレス	プログラムデータ長
	プログラムデータ		
	SUM		

プログラムアドレス (4 バイト) : データ領域のプログラム先アドレス

指定するアドレスの下位2ビットは“0”に設定

データ領域プログラムを終了する場合は“FFFF FFFFh”を設定

プログラムデータ長 (1 バイト) : プログラムデータのサイズ

4バイト単位のデータを設定

データ領域プログラムを終了する場合は“00h”を設定

プログラムデータ (n バイト) : データ領域へのプログラムデータ (n = プログラムデータ長、“0” (終了時))

プログラムデータ長分のデータを設定

nバイトに満たない領域には“FFh”を設定

データ領域プログラムを終了する場合はプログラムデータなし

SUM (1 バイト)

: コマンドデータを合計して“00h”になる値

レスポンス	06h
-------	-----

エラーレスポンス	D1h	エラー
----------	-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

“2Ah” : アドレスエラー

“2Bh” : データ長エラー

“53h” : プログラムエラー (データが書き込めない)

41.10.8.4 イレーズ準備

ブロックイレーズコマンドの受け付け準備をさせるためのコマンドです。

このコマンドを受信すると、本 MCU はイレーズの準備の指示がホストから行われたと判断し、ブロックイレーズコマンドのみを受け付けるイレーズ待ちステートに遷移し、レスポンス“06h”を送信します。

コマンド	48h
レスポンス	06h

41.10.8.5 ブロックイレーズ

ユーザ領域、データ領域の指定のブロックを消去するためのコマンドです。

コマンド中で指定するブロック先頭アドレスは、ブロック情報問い合わせコマンドのレスポンスを元にアドレスを計算して指定してください。

本 MCU はブロック先頭アドレスで指定されたブロックのイレーズが正常に終了すると、レスポンス“06h”を送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合や、イレーズ中にエラーが発生すると、本 MCU はエラーレスポンスを送信します。

イレーズを終了してプログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移する場合、ホストから“59h 04h FFh FFh FFh FFh A7h”を送信してください。本 MCU はプログラム/イレーズホストコマンド待ちステートに遷移し、レスポンス“06h”を送信します。

コマンド	59h	サイズ
	ブロック先頭アドレス	
	SUM	

サイズ (1 バイト) : ブロック先頭アドレスのデータの総バイト数 (固定値で“04h”)
 ブロック先頭アドレス (4 バイト) : イレーズするブロックの先頭アドレス
 イレーズを終了する場合には“FFFF FFFFh”を設定
 SUM (1 バイト) : コマンドデータを合計して“00h”になる値

レスポンス	06h
-------	-----

エラーレスポンス	D9h	エラー
----------	-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード
 “11h” : SUM エラー
 “29h” : ブロック先頭アドレスエラー
 “51h” : イレーズエラー (指定ブロックがイレーズできない)

41.10.9 リードチェックコマンド

リードチェックコマンドは、問い合わせコマンドのレスポンスをもとに、本MCUのユーザ領域やデータ領域に対してデータリードやブランクチェックを行うコマンドです。表41.20にプログラム/イレーズホストコマンド待ち状態で使用可能なリードチェックコマンドの一覧を示します。

表41.20 リードチェックコマンド一覧

コマンド	機能
メモリリード	ユーザ領域、データ領域のデータ読み出し
ユーザ領域チェックサム	ユーザ領域全体のチェックサムを取得
データ領域チェックサム	データ領域全体のチェックサムを取得
ユーザ領域ブランクチェック	ユーザ領域のプログラム済みデータの有無をチェック
データ領域ブランクチェック	データ領域のプログラム済みデータの有無をチェック
アクセスウィンドウ情報プログラム	アクセスウィンドウの設定
アクセスウィンドウリード	アクセスウィンドウの設定読み出し

41.10.9.1 メモリリード

ユーザ領域、データ領域にプログラムされているデータを読み出すコマンドです。

コマンド中で指定する読み出し先頭アドレスは、ユーザ領域情報問い合わせコマンド、データ領域情報問い合わせコマンドのレスポンスで受信した領域先頭アドレスから領域最終アドレスまでの範囲内の値を設定してください。

コマンド中で指定する読み出しサイズは、読み出し先頭アドレスに読み出しサイズを加算したアドレスが、ユーザ領域情報問い合わせコマンド、データ領域情報問い合わせコマンドのレスポンスで受信した領域先頭アドレスから領域最終アドレスまでの範囲に入るように設定してください。

本MCUはデータを正常にリードできた場合、指定された範囲のデータを送信します。受信したコマンドのSUM値が一致しなかった場合や、リードを正常に実行できなかった場合、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	52h	サイズ	領域
	読み出し先頭アドレス		
	読み出しサイズ		
	SUM		

- サイズ (1 バイト) : 領域、読み出し先頭アドレス、読み出しサイズのデータの総バイト数
 領域 (1 バイト) : 読み出し対象の領域
 "01h" : ユーザ領域またはデータ領域
 読み出し先頭アドレス (4 バイト) : 読み出し対象範囲の先頭アドレス
 読み出しサイズ (4 バイト) : 読み出すデータのサイズ (バイト単位)
 SUM (1 バイト) : コマンドデータを合計して "00h" になる値

レスポンス	52h	読み出しサイズ
	読み出しデータ	
	SUM	

読み出しサイズ (4 バイト) : 読み出したデータのサイズ (バイト単位)
 読み出しデータ (n バイト) : 指定範囲から読み出したデータ (n = 読み出しサイズ)
 SUM (1 バイト) : レスポンスデータを合計して "00h" になる値

エラーレスポンス	D2h	エラー
----------	-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード
 "11h" : SUM エラー
 "2Ah" : アドレスエラー
 ・ コマンドの「領域」に "01h" 以外を指定した
 ・ コマンドの読み出し先頭アドレスが読み出し対象領域の範囲外である
 "2Bh" : サイズエラー
 ・ コマンドの読み出しサイズに "0000 0000h" が指定されている
 ・ コマンドの読み出しサイズが読み出し対象領域のサイズを超えている
 ・ コマンドの読み出し先頭アドレスと読み出しサイズを加算したアドレスが読み出し対象領域の範囲外である

41.10.9.2 ユーザ領域チェックサム

ユーザ領域全体のチェックサムを取得するコマンドです。

このコマンドを受信すると、本 MCU はユーザ領域の先頭アドレスから最終アドレスまでのデータをバイト単位で加算し、加算結果 (チェックサム) をレスポンスとして送信します。

コマンド	4Bh	
レスポンス	5Bh	サイズ
	ユーザ領域チェックサム	
	SUM	

サイズ (1 バイト) : ユーザ領域チェックサムのバイト数 (固定値で "04h")
 ユーザ領域チェックサム (4 バイト) : ユーザ領域のデータを 1 バイト単位で加算した結果
 SUM (1 バイト) : レスポンスデータを合計して "00h" になる値

41.10.9.3 データ領域チェックサム

データ領域全体のチェックサムを取得するコマンドです。

このコマンドを受信すると、本MCUはデータ領域の先頭アドレスから最終アドレスまでのデータをバイト単位で加算し、加算結果(チェックサム)をレスポンスとして送信します。



サイズ(1バイト) : データ領域チェックサムのバイト数(固定値で“04h”)

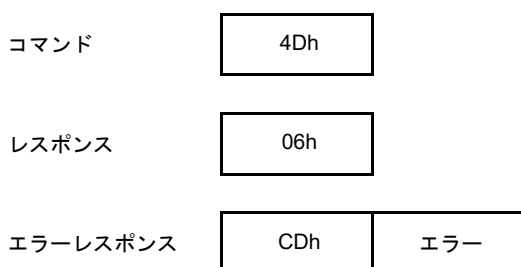
データ領域チェックサム(4バイト) : データ領域のデータを1バイト単位で加算した結果

SUM(1バイト) : レスポンスデータを合計して“00h”になる値

41.10.9.4 ユーザ領域ブランクチェック

ユーザ領域にデータがプログラムされているかどうかを確認するコマンドです。

このコマンドを受信すると、本MCUはユーザ領域全体のブランクチェックを行い、データがプログラムされていない場合、レスポンス“06h”を送信します。1バイトでもデータがプログラムされている場合には、エラーレスポンスを送信します。



エラー(1バイト) : エラーコード
 “52h” : データあり

41.10.9.5 データ領域ブランクチェック

データ領域にデータがプログラムされているかどうかを確認するコマンドです。

このコマンドを受信すると、本 MCU はデータ領域全体のブランクチェックを行い、データがプログラムされていない場合、レスポンス “06h” を送信します。1 バイトでもデータがプログラムされている場合には、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	62h	
レスポンス	06h	
エラーレスポンス	E2h	エラー

エラー (1 バイト) : エラーコード
 “52h” : データあり

41.10.9.6 アクセスウィンドウ情報プログラム

エリアプロテクションで使用するアクセスウィンドウを設定するコマンドです。

コマンド中で指定するアクセスウィンドウ先頭アドレスには、スタートブロックの先頭アドレスを指定してください。また、アクセスウィンドウ最終アドレスには、エンドブロックの最終アドレスを指定してください。

本 MCU は指定されたアクセスウィンドウの設定が正常に終了すると、レスポンス “06h” を送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合や、アクセスウィンドウの設定中にエラーが発生すると、エラーレスポンスを送信します。

アクセスウィンドウの詳細については、「41.6 エリアプロテクション」を参照してください。

コマンド	74h	05h	AW区分	
	AW先頭 アドレスLH	AW先頭 アドレスHL	AW最終 アドレスLH	AW最終 アドレスHL
	SUM			

AW 区分 (1 バイト)	: アクセスウィンドウの設定 / 解除 アクセスウィンドウを設定する場合には “00h” を設定 アクセスウィンドウを解除する場合には “FFh” を設定
AW 先頭アドレス LH (1 バイト)	: アクセスウィンドウ範囲の先頭アドレス (A15 ~ A8) スタートブロック先頭アドレスの A15 ~ A8 を設定 アクセスウィンドウを解除する場合には “FFh” を設定
AW 先頭アドレス HL (1 バイト)	: アクセスウィンドウ範囲の先頭アドレス (A23 ~ A16) スタートブロック先頭アドレスの A23 ~ A16 を設定 アクセスウィンドウを解除する場合には “FFh” を設定
AW 最終アドレス LH (1 バイト)	: アクセスウィンドウ範囲の最終アドレス (A15 ~ A8) エンドブロック最終アドレスの A15 ~ A8 を設定 アクセスウィンドウを解除する場合には “FFh” を設定
AW 最終アドレス HL (1 バイト)	: アクセスウィンドウ範囲の最終アドレス (A23 ~ A16) エンドブロック最終アドレスの A23 ~ A16 を設定 アクセスウィンドウを解除する場合には “FFh” を設定
SUM (1 バイト)	: コマンドデータを合計して “00h” になる値

レスポンス	06h
-------	-----

エラーレスポンス	F4h	エラー
----------	-----	-----

エラー (1バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

“2Ah” : アドレスエラー (指定されたアドレスが領域内がない)

“53h” : プログラムエラー (アクセスウィンドウの設定ができない)

41.10.9.7 アクセスウィンドウリード

設定されているアクセスウィンドウの範囲を確認するためのコマンドです。

本 MCU はアクセスウィンドウの範囲を正常に取得できた場合、読み出したアクセスウィンドウ先頭アドレスとアクセスウィンドウ最終アドレスを送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	73h	01h	FFh	8Dh
------	-----	-----	-----	-----

レスポンス	73h	05h		
	AW先頭 アドレスLH	AW先頭 アドレスHL	AW最終 アドレスLH	AW最終 アドレスHL
	FFh			
	SUM			

AW 先頭アドレス LH (1バイト) : アクセスウィンドウ範囲の先頭アドレス (A15 ~ A8)

AW 先頭アドレス HL (1バイト) : アクセスウィンドウ範囲の先頭アドレス (A23 ~ A16)

AW 最終アドレス LH (1バイト) : アクセスウィンドウ範囲の最終アドレス (A15 ~ A8)

AW 最終アドレス HL (1バイト) : アクセスウィンドウ範囲の最終アドレス (A23 ~ A16)

SUM (1バイト) : レスポンスデータを合計して “00h” になる値

エラーレスポンス	F3h	エラー
----------	-----	-----

エラー (1バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

41.10.9.8 アクセスウィンドウプロテクト

エリアプロテクションで使用するアクセスウィンドウの設定を保護するコマンドです。

プロテクトの設定が正常に終了すると、本 MCU はレスポンス “06h” を送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合や、プロテクトの設定中にエラーが発生すると、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	7Ch	01h	FFh	84h
------	-----	-----	-----	-----

レスポンス	06h
-------	-----

エラーレスポンス	FCh	エラー
----------	-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

“53h” : プログラムエラー (プロテクトの設定ができない)

41.10.9.9 アクセスウィンドウプロテクトフラグリード

アクセスウィンドウの設定が保護されているかどうかを確認するコマンドです。

プロテクトの設定が正常に取得できた場合、本 MCU は読み出したフラグの値を送信します。受信したコマンドの SUM 値が一致しなかった場合、エラーレスポンスを送信します。

コマンド	7Bh	01h	FFh	85h
------	-----	-----	-----	-----

レスポンス	7Bh	01h	ステータス	SUM
-------	-----	-----	-------	-----

ステータス (1 バイト) : プロテクトステータス

“01h” : プロテクト有効

“00h” : プロテクト無効

SUM (1 バイト) : レスポンスデータを合計して “00h” になる値

エラーレスポンス	FBh	エラー
----------	-----	-----

エラー (1 バイト) : エラーコード

“11h” : SUM エラー

41.11 ブートモード(SCI インタフェース)でのシリアルプログラマ動作説明

ブートモード(SCI インタフェース)を用いたシリアルプログラマで、ユーザ領域、データ領域のプログラム/イレーズを行う手順を説明します。

1. ビットレート自動調整
2. MCU の情報取得(注1)
3. デバイスの指定、ビットレートの変更
4. プログラム/イレーズホストコマンド待ちステートへの遷移
5. ブートモードID コードプロテクトの解除
6. ユーザ領域、データ領域のイレーズ(注2、注3)
7. ユーザ領域、データ領域のプログラム(注2、注3)
8. ユーザ領域のデータ確認(注2)
9. データ領域のデータ確認(注2)
10. ユーザ領域のアクセスウィンドウ設定(注2)
11. アクセスウィンドウの保護(注2)
12. MCU のリセット

注1. 2の処理は、取得する情報がすでにある場合、省略できます。

注2. 6～11の処理は、必要に応じて行ってください。また11の処理を除き、実行順を入れ替えても構いません。

注3. タイムアウトが発生した場合や無効な応答データを受信した場合は、処理を中断し、12の処理を行ってください。

上記2～11の処理で使用するコマンドの詳細は、「41.10.5 問い合わせコマンド」、「41.10.6 設定コマンド」、「41.10.7 IDコード認証コマンド」、「41.10.8 プログラム/イレーズコマンド」、「41.10.9 リードチェックコマンド」を参照してください。

41.11.1 ビットレート自動調整

MCUはシリアルプログラマから9,600 bpsまたは19,200 bpsで送信されるデータ“00h”のLow期間を測定してビットレートの自動調整を行います。

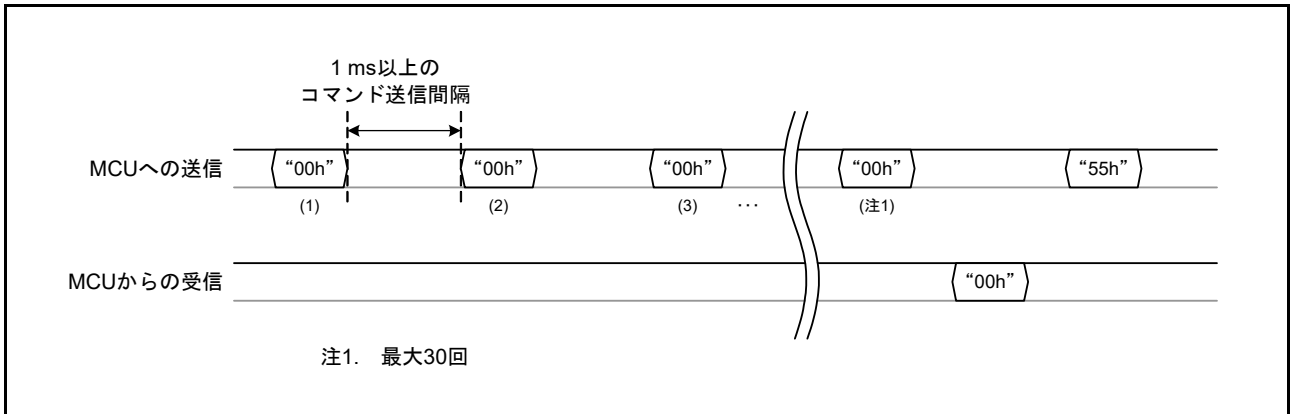


図 41.29 ビットレート自動調整時のデータフォーマット

ブートモードで起動して400 ms以上経過した後にシリアルプログラマから“00h”を送信してください。MCUはビットレート調整が終了すると“00h”をシリアルプログラマへ送信します。シリアルプログラマが“00h”を受信した場合には、シリアルプログラマから“55h”を送信してください。“00h”を受信できなかった場合は、1 ms以上置いて再度“00h”を送信してください。30回“00h”を送信しても“00h”を受信できなかった場合は、MCUをブートモードで再起動し、再度ビットレート自動調整をやり直してください。

MCUは“55h”を受信すると“E6h”を送信して問い合わせ/設定コマンド待ち状態になります。“55h”を受信できなかった場合には“FFh”を送信します。シリアルプログラマは“FFh”を受信したら、MCUをブートモードで再起動し、再度ビットレート自動調整からやり直してください。

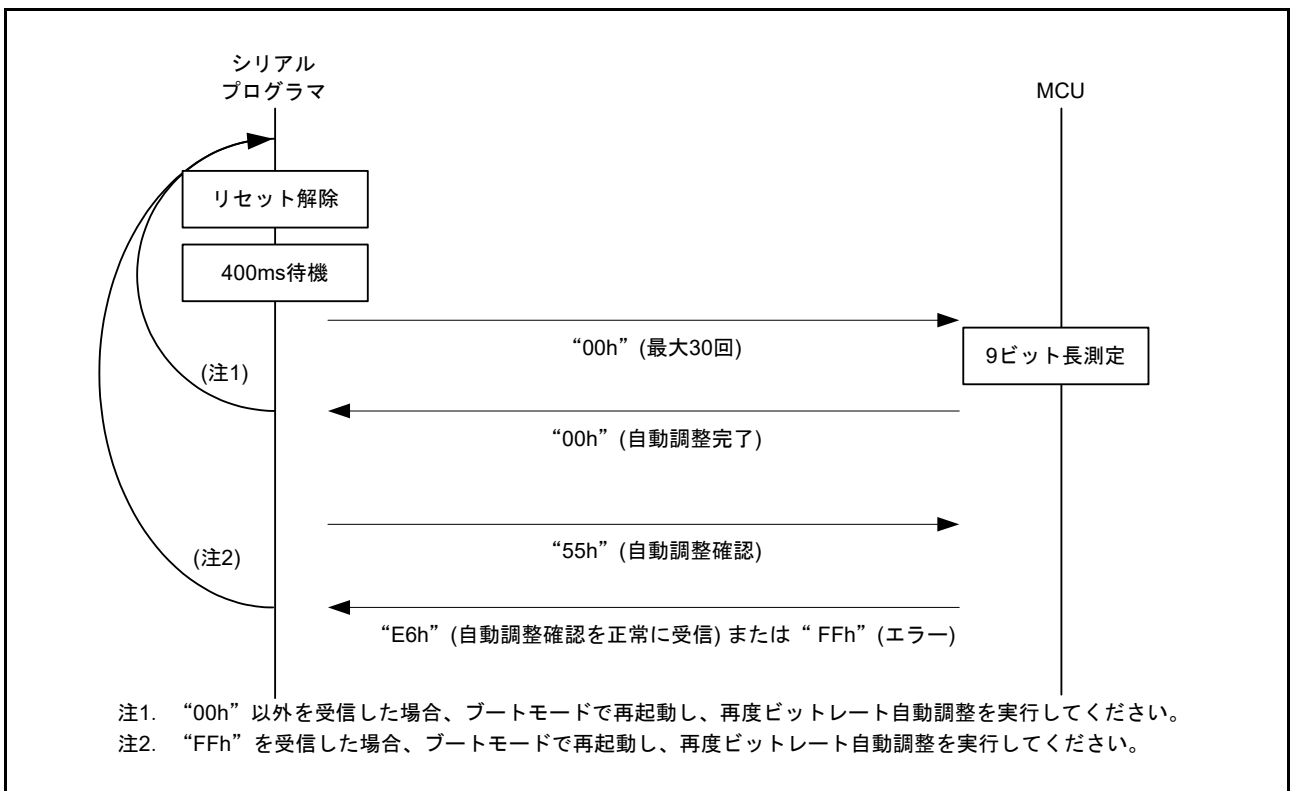


図 41.30 ビットレート自動調整の手順

41.11.2 MCU の情報取得

問い合わせコマンドを送信し、設定コマンド、プログラム/イレーズコマンド、リードチェックコマンドを送信するために必要な情報を取得します。

- (1) MCU がどのエンディアンをサポートしているのかを確認するため、サポートデバイス問い合わせコマンド“20h”を送信します。MCU はサポートしているすべてのデバイスコードとシリーズ名を応答します。
- (2) ユーザ領域の先頭アドレスと最終アドレスを確認するため、ユーザ領域情報問い合わせコマンド“25h”を送信します。MCU はユーザ領域の先頭アドレスと最終アドレスを応答します。
- (3) ブロックの構成を確認するため、ブロック情報問い合わせコマンド“26h”を送信します。MCU はユーザ領域の先頭アドレス、1ブロックのブロックサイズ、ブロック数とデータ領域の先頭アドレス、1ブロックのブロックサイズ、ブロック数を応答します。
- (4) データ領域の先頭アドレスと最終アドレスを確認するため、データ領域情報問い合わせコマンド“2Bh”を送信します。MCU はデータ領域の先頭アドレスと最終アドレスを応答します。

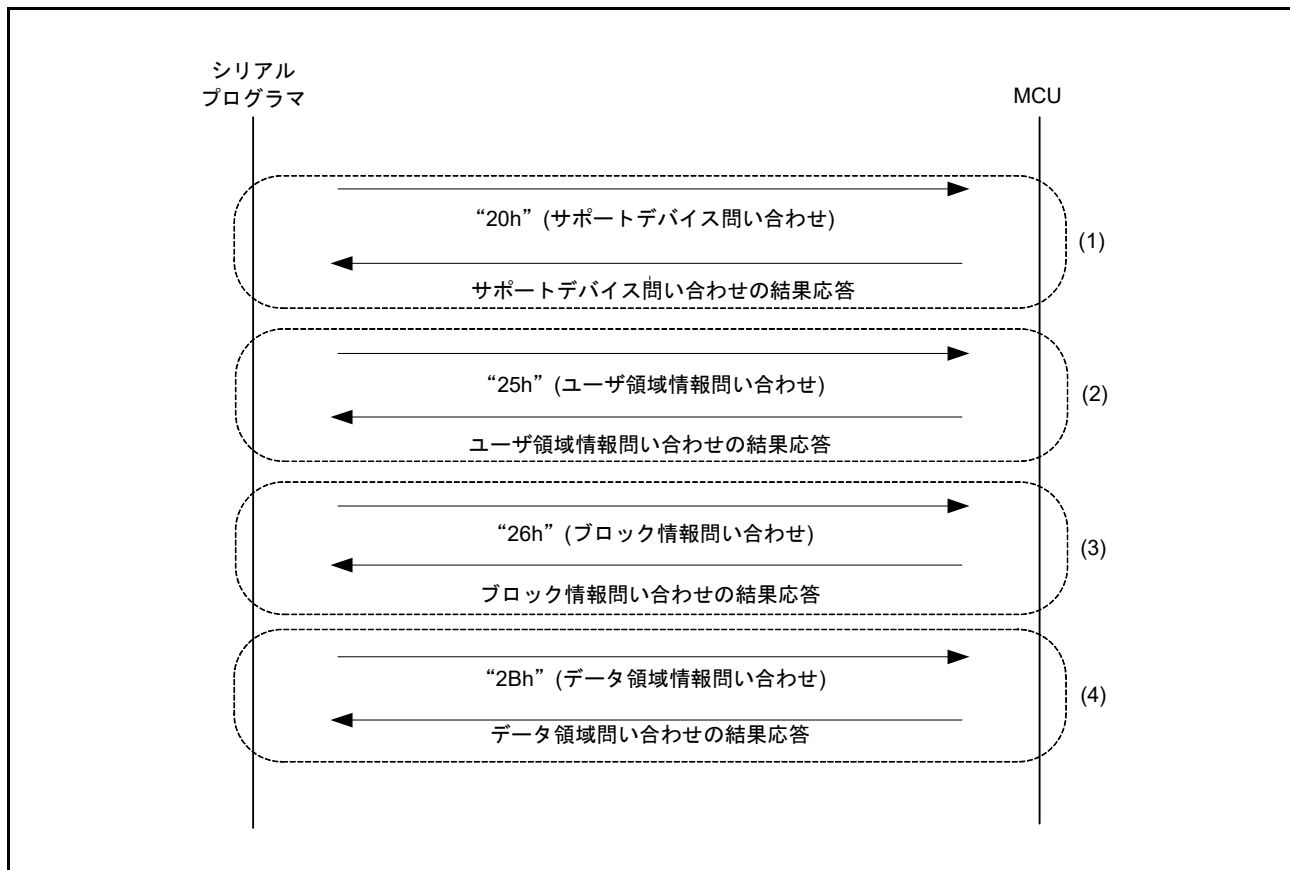


図 41.31 MCU の情報取得手順

41.11.3 デバイスの指定、ビットレートの変更

シリアルプログラマと接続するデバイスの指定と通信ビットレートの変更を行います。

- (1) デバイス選択コマンド“10h”を送信します。開発したソフトウェアのエンディアンに合わせて、デバイスコードを指定してください。
- (2) 通信ビットレートを 9,600 bps または 19,200 bps から変更するため、動作周波数選択コマンド“3Fh”を送信します。

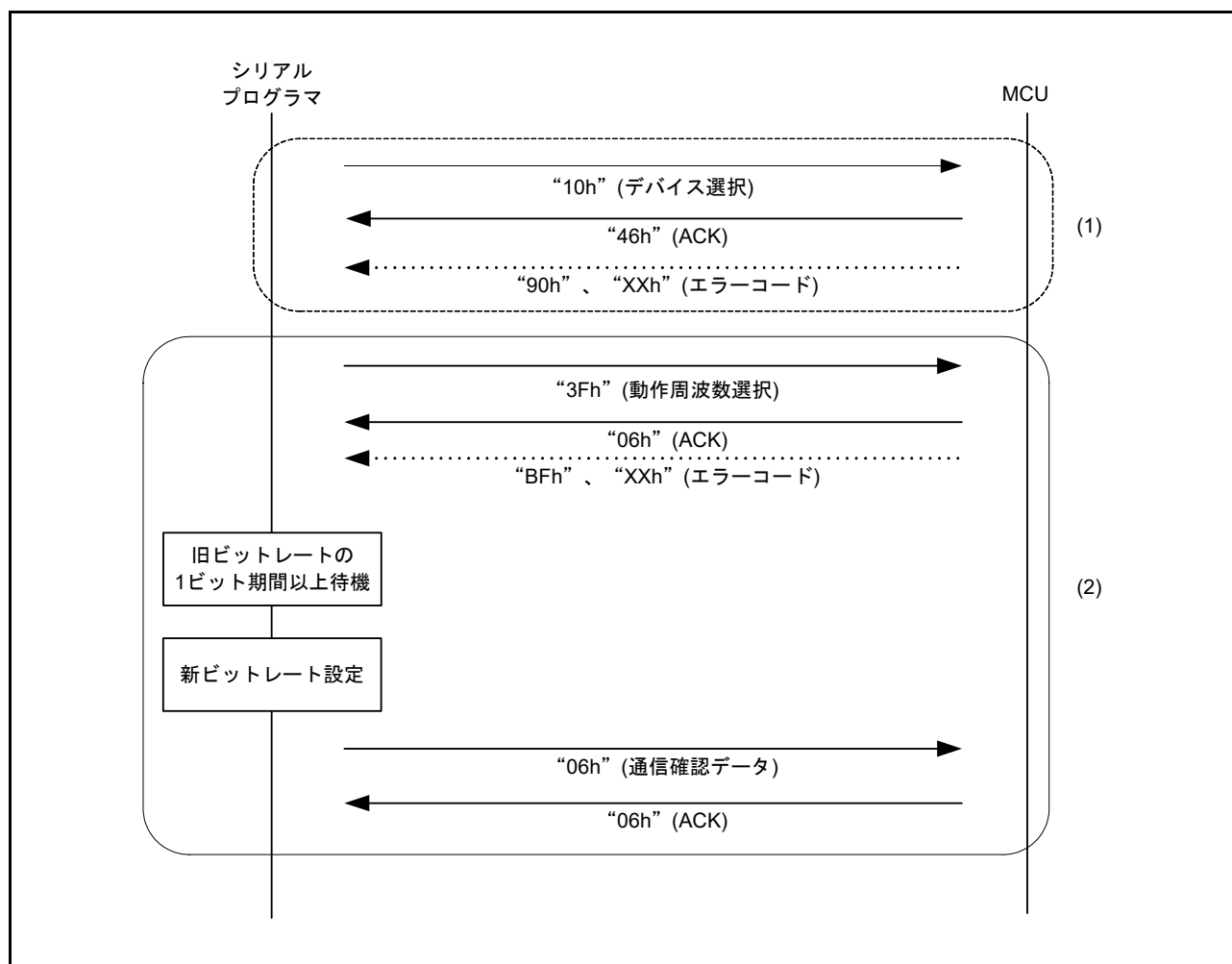


図 41.32 デバイス指定、ビットレート変更の手順

41.11.4 プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態への遷移

プログラム/イレーズを行うため、プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態遷移コマンドを送信します。MCUはブートモードIDコードプロテクトの有効/無効に応じてレスポンスを送信します。

- (1) ブートモードIDコードプロテクトが無効の場合、MCUはレスポンス“06h”を応答し、プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移します。シリアルプログラマは「41.11.6 ユーザ領域、データ領域のイレーズ」から実行してください。
- (2) ブートモードIDコードプロテクトが有効の場合、MCUはレスポンス“16h”を応答し、IDコード認証状態に遷移します。シリアルプログラマは「41.11.5 ブートモードIDコードプロテクトの解除」から実行してください。

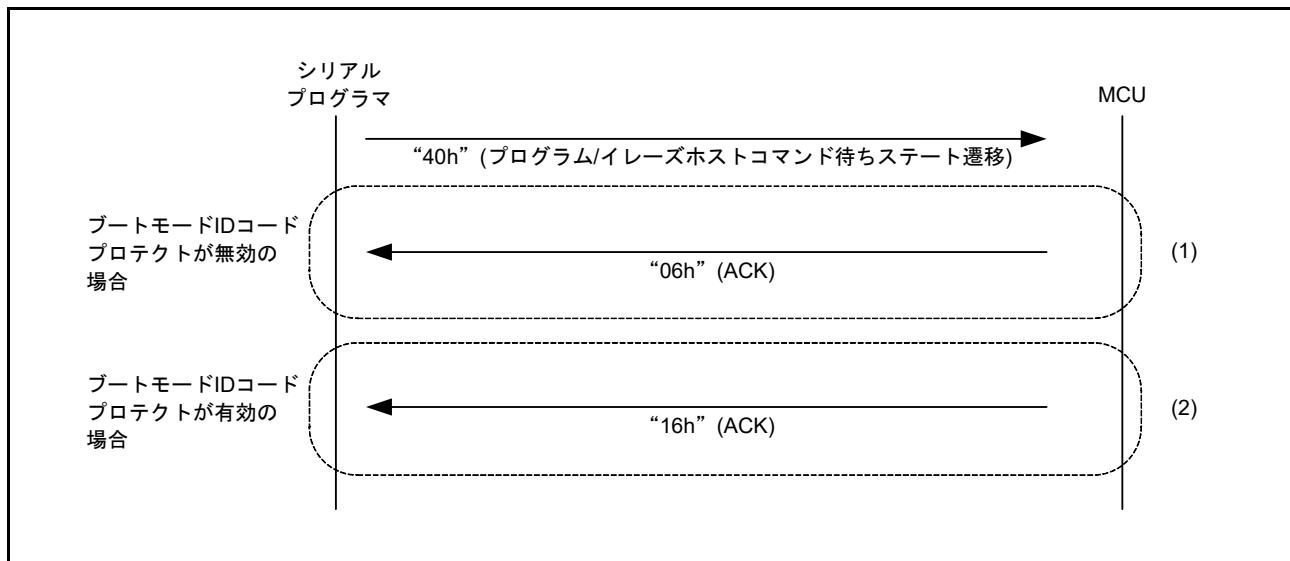


図 41.33 プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態への遷移手順

41.11.5 ブートモード ID コードプロテクトの解除

ブートモード ID コードプロテクトを解除するため、ID コードチェックコマンドを送信します。

- (1) ID コードが一致した場合、MCU はプログラム / イレーズホストコマンド待ちステートに遷移します。このとき、ユーザ領域、データ領域のデータは消去されません。シリアルプログラマは「41.11.6 ユーザ領域、データ領域のイレーズ」から実行してください。
- (2) ID コードが不一致の場合、MCU はブートモード ID コード認証ステートから遷移しません。シリアルプログラマは MCU をリセット後「41.11.1 ビットレート自動調整」から再実行してください。

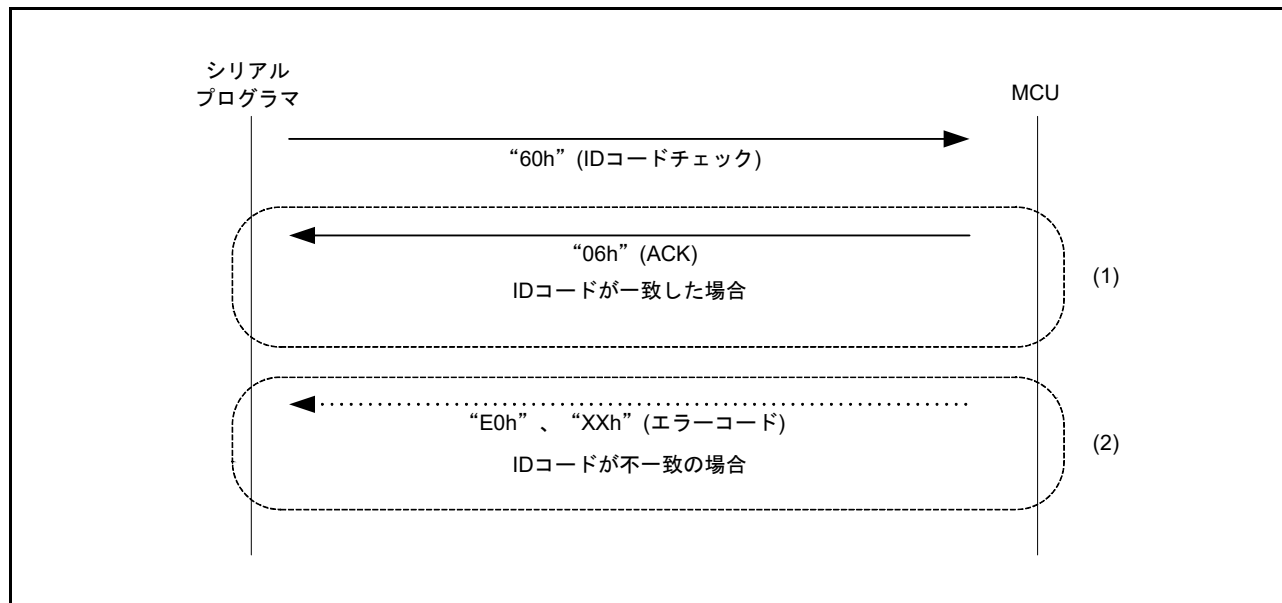


図 41.34 ブートモード ID コードプロテクトの解除手順

41.11.6 ユーザ領域、データ領域のイレーズ

ユーザプログラムやデータを書き込むために、ユーザ領域、データ領域を消去します。

- (1) イレーズ準備コマンド“48h”を送信します。
- (2) ブロックイレーズコマンド“59h”を送信します。
- (3) プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移するため、イレーズを終了するブロックイレーズコマンド“59h 04h FFh FFh FFh FFh A7h”を送信します。

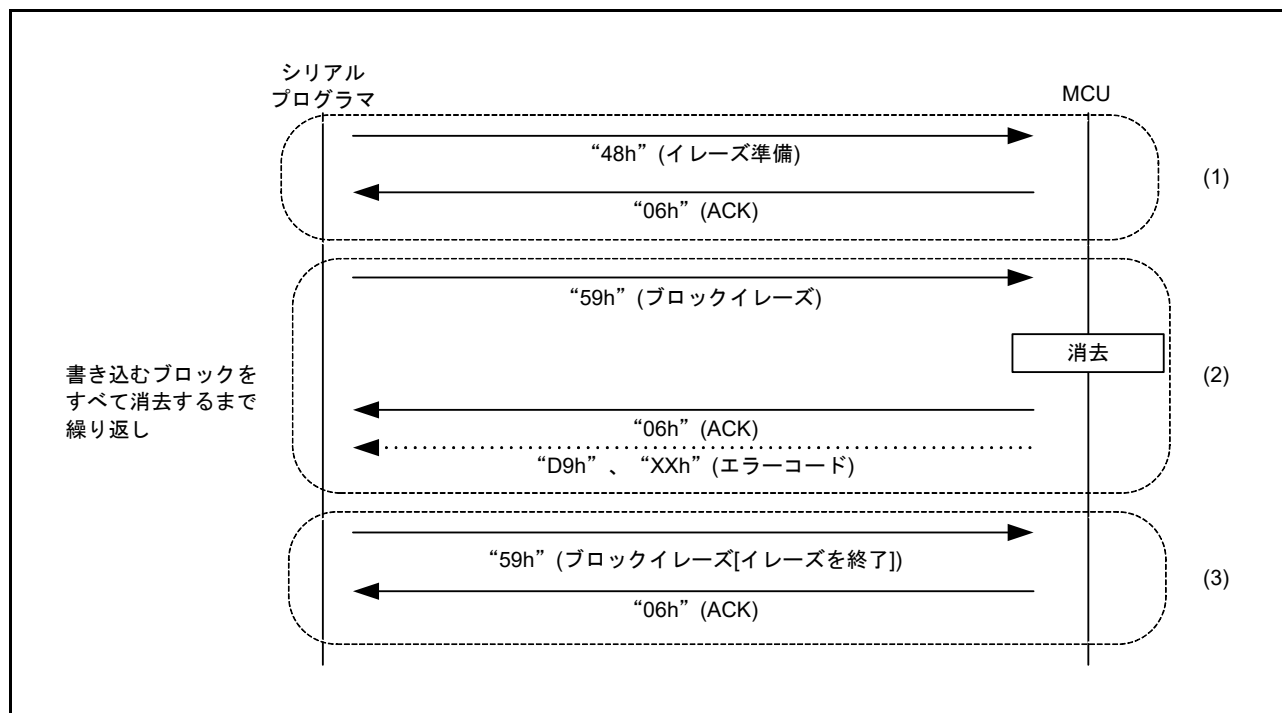


図 41.35 ユーザ領域、データ領域のイレーズ手順

41.11.7 ユーザ領域、データ領域のプログラム

ユーザ領域、データ領域にユーザプログラムやデータを書き込みます。

- (1) ユーザ/データ領域プログラム準備コマンド“43h”を送信します。
- (2) プログラムコマンド“50h”またはデータ領域プログラムコマンド“51h”を送信します。
- (3) プログラム/イレーズホストコマンド待ち状態に遷移するため、プログラムを終了するプログラムコマンド“50h FFh FFh FFh B4h”またはデータ領域プログラムコマンド“51h FFh FFh FFh 00h B3h”を送信します。

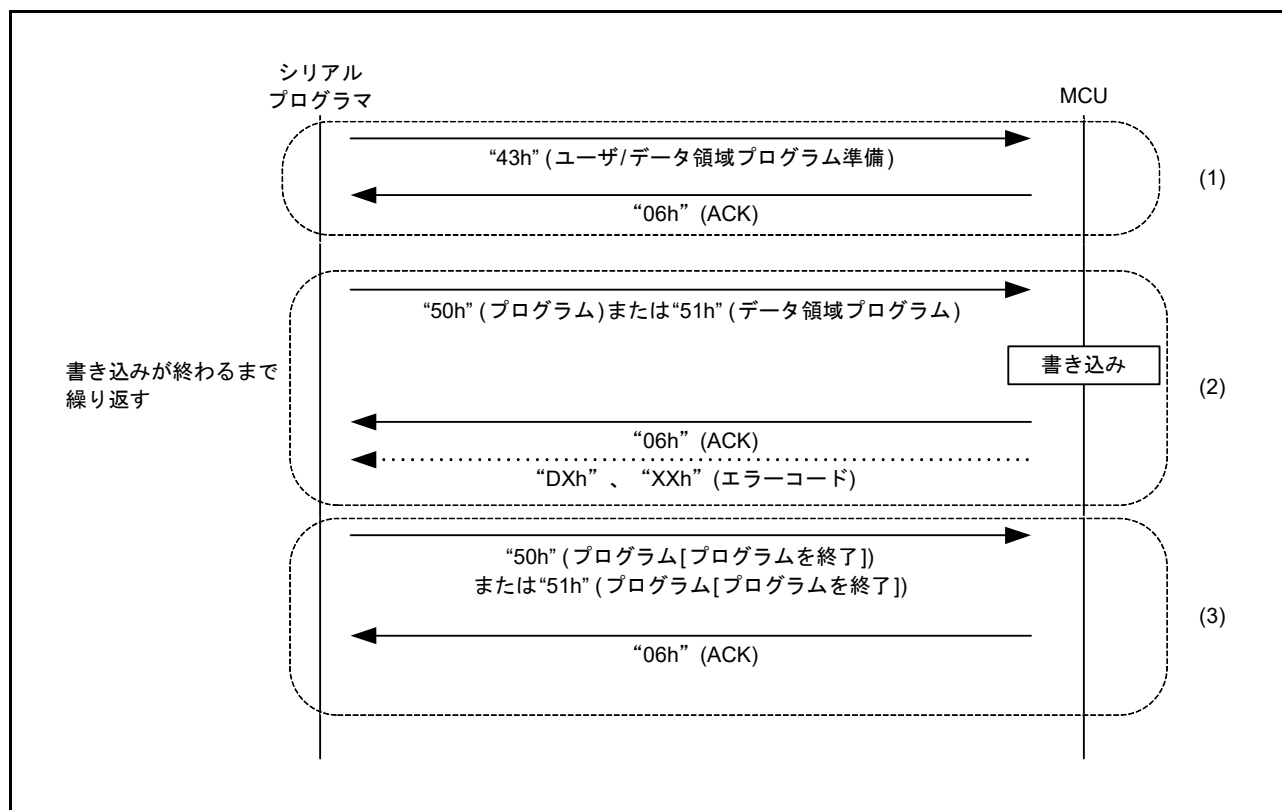


図 41.36 ユーザ領域、データ領域のプログラム手順

41.11.8 ユーザ領域のデータ確認

ユーザ領域に書き込まれたデータを確認するため、ユーザ領域のリードチェック、チェックサム、ブランクチェックを行います。

- (1) リードチェックは、ユーザ領域にあるデータを読み出して書き込んだ値と比較することで、プログラムが正常に行われたかを確認します。ユーザ領域にあるデータを読み出すために、メモリリードコマンド“52h”を送信します。
- (2) ユーザ領域のチェックサム値でプログラムデータを確認するため、ユーザ領域チェックサムコマンド“4Bh”を送信します。
- (3) ユーザ領域にデータがあるかないかを確認するため、ユーザ領域ブランクチェックコマンド“4Dh”を送信します。

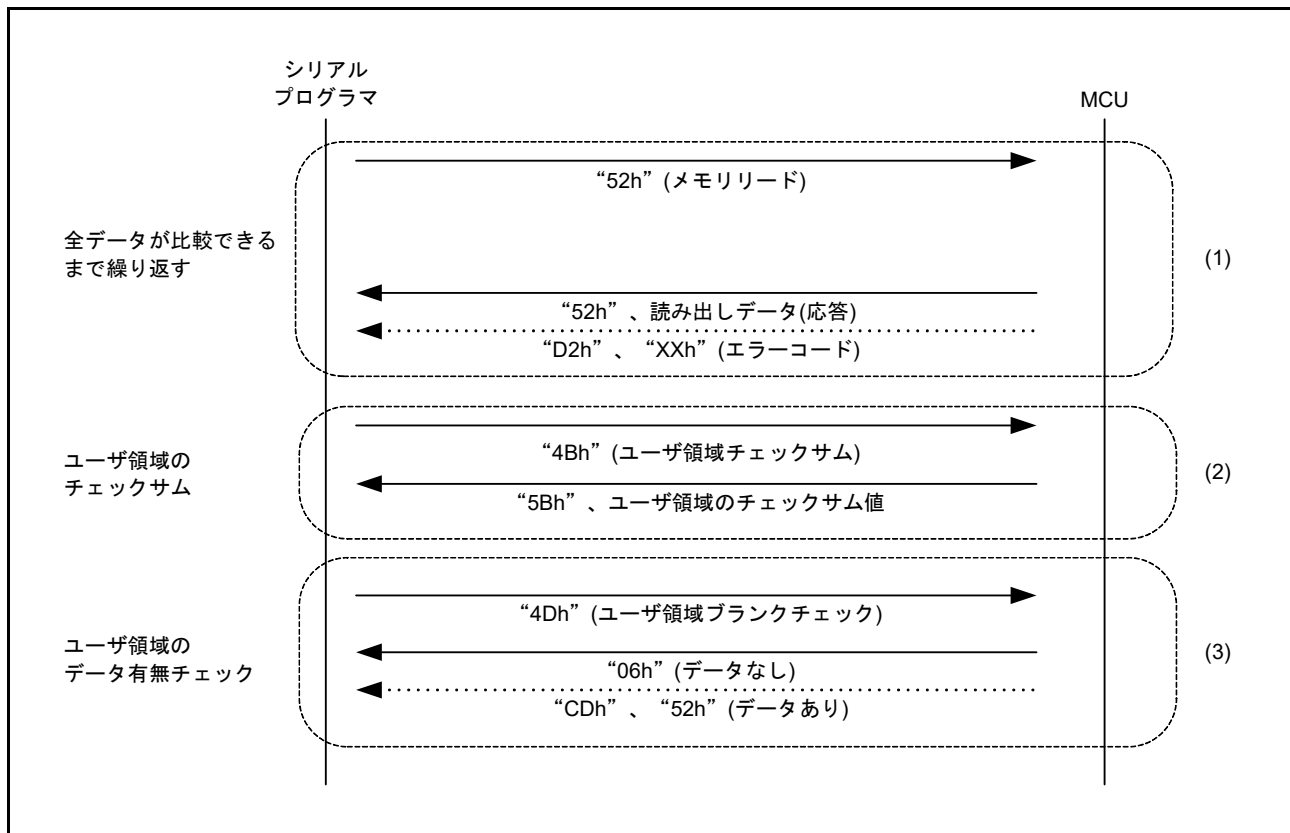


図 41.37 ユーザ領域のデータ確認手順

41.11.9 データ領域のデータ確認

データ領域に書き込まれたデータを確認するため、データ領域のリードチェック、チェックサム、ブランクチェックを行います。

- (1) リードチェックは、データ領域にあるデータを読み出して書き込んだ値と比較することで、プログラムが正常に行われたかを確認します。データ領域にあるデータを読み出すために、メモリリードコマンド“52h”を送信します。
- (2) データ領域のチェックサム値でプログラムデータを確認するため、データ領域チェックサムコマンド“61h”を送信します。
- (3) データ領域にデータがあるかないかを確認するため、データ領域ブランクチェックコマンド“62h”を送信します。

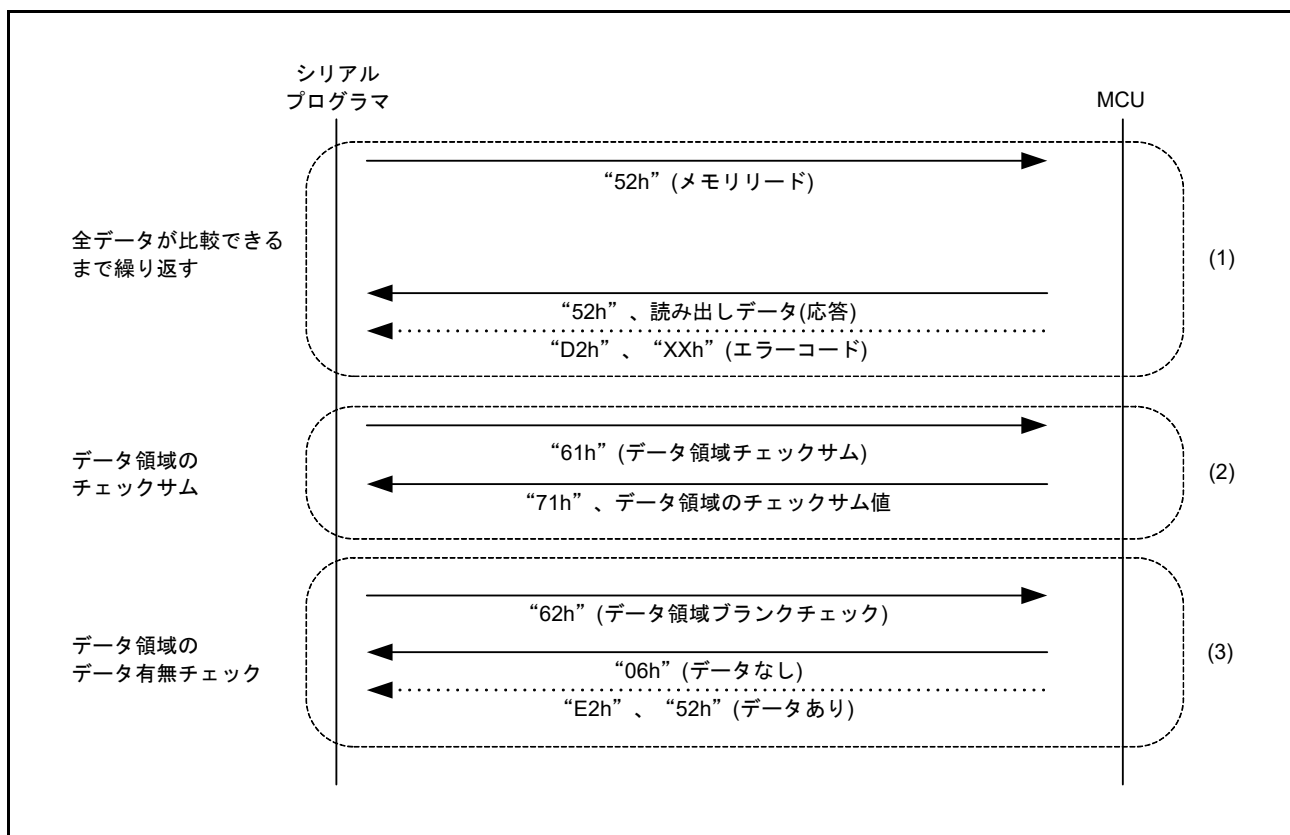


図 41.38 データ領域のデータ確認手順

41.11.10 ユーザ領域のアクセスウィンドウ設定

セルフプログラミングで、ユーザ領域の意図しない書き換えを防ぐため、アクセスウィンドウの設定を行います。

- (1) アクセスウィンドウの設定を行うため、アクセスウィンドウ情報プログラムコマンド“74h”を送信します。
- (2) アクセスウィンドウの設定を確認するため、アクセスウィンドウリードコマンド“73h”を送信します。

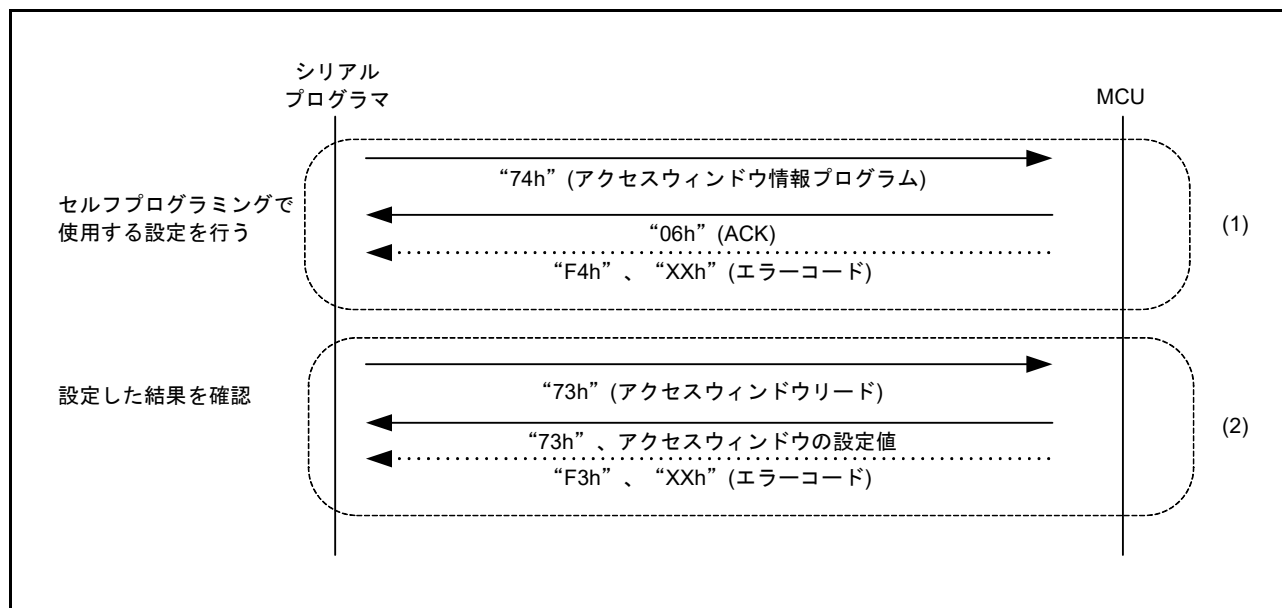


図 41.39 ユーザ領域のアクセスウィンドウ設定手順

41.11.11 アクセスウィンドウの保護

設定したアクセスウィンドウの位置を意図しない書き換えから保護するため、プロテクトを実施します。

- (1) アクセスウィンドウプロテクトコマンド“7Ch”を送信します。
- (2) プロテクトの設定を確認するため、アクセスウィンドウプロテクトフラグリードコマンド“7Bh”を送信します。

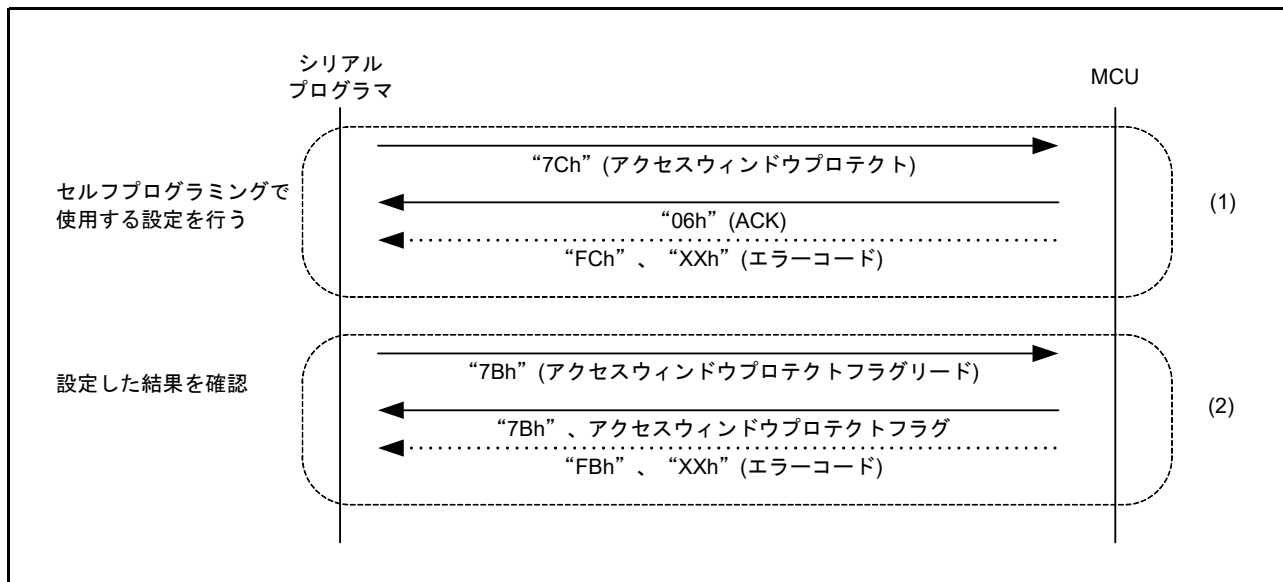


図 41.40 アクセスウィンドウの保護手順

41.12 セルフプログラミングでの書き換え

41.12.1 概要

本MCUは、ユーザプログラム自身によるフラッシュメモリの書き換えをサポートします。ユーザプログラム内にフラッシュ書き換えルーチンを用意することにより、ROMとE2データフラッシュを書き換えることができます。

E2データフラッシュは、BGO機能を利用してROM上でフラッシュ書き換えルーチンを実行して、書き換えることができます。また、あらかじめ内蔵RAMに転送したフラッシュ書き換えルーチンを実行して、E2データフラッシュを書き換えることもできます。

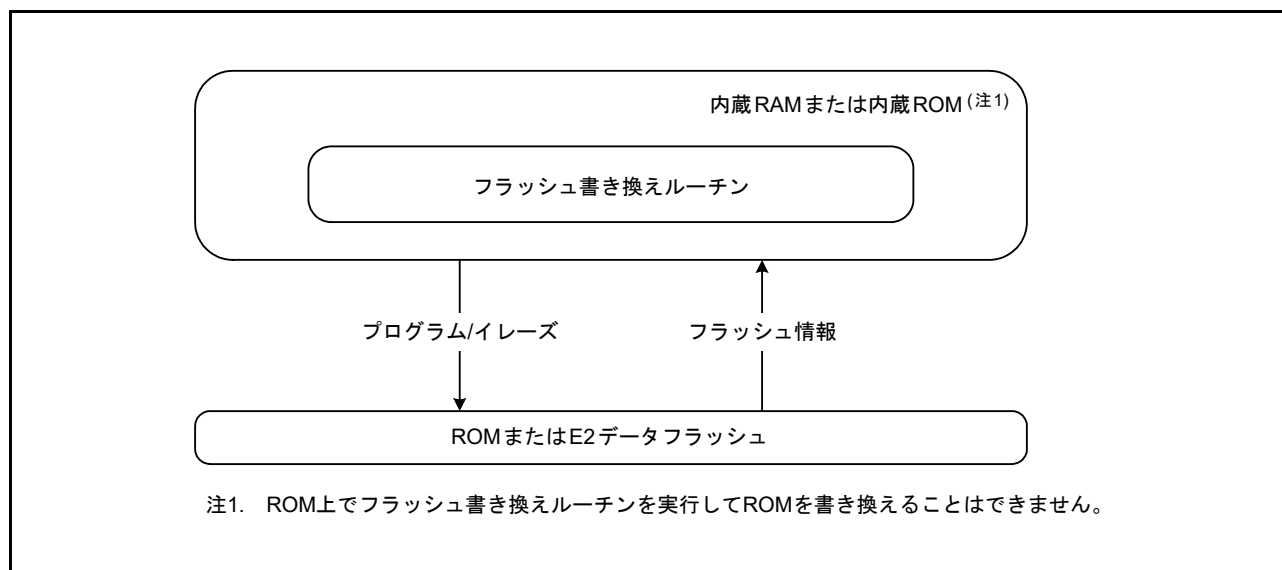


図 41.41 セルフプログラミングの概念

41.13 使用上の注意事項

- (1) イレーズ処理強制停止後の該当ブロックへのアクセス
イレーズ処理を強制停止した場合、処理が中断されたブロックの格納データは不定です。不定データの読み出しが原因で発生する誤動作を回避するために、当該ブロックでの命令実行や、データ読み出しが発生しないように注意してください。
- (2) イレーズ処理強制停止後の処理
イレーズ処理を強制停止した場合は、もう一度同一ブロックに対して、ブロックイレーズコマンドを発行してください。
- (3) 追加書き込み禁止
同一アドレスに2回以上のプログラムを行うことはできません。プログラム済みの領域を書き換えたい場合には、当該ブロックを消去してください。
- (4) プログラム/イレーズ中のリセット
プログラム/イレーズ中に RES# 端子リセットが発生させた場合には、電気的特性に定める動作電圧範囲内で、tRESW (「42. 電気的特性」を参照) 以上のリセット入力期間の後にリセットを解除してください。
プログラム/イレーズ中の IWDTR リセット、ソフトウェアリセットについては、上記の時間保持に関係なく使用できます。
- (5) プログラム/イレーズ中の割り込みベクタ、例外ベクタの配置
プログラム/イレーズ中に割り込みや例外が発生すると、ROM からのベクタフェッチが発生する場合があります。ROM からのベクタフェッチを回避するには、CPU の INTB レジスタおよび EXTB レジスタにより、割り込みベクタテーブル、例外ベクタテーブルを ROM 以外に配置してください。
- (6) 低速動作モードでの書き込み/消去
消費電力低減機能の SOPCCR レジスタで低速動作モードを選択した場合は、フラッシュへのプログラム/イレーズを行わないでください。
- (7) プログラム/イレーズ中の異常終了
プログラム/イレーズ中、動作電圧範囲を超える電圧変動、リセット、および事項(8)の禁止事項により、プログラム/イレーズが正常に終了しなかった場合、再度該当領域のイレーズを行ってください。
- (8) プログラム/イレーズ中の禁止事項
プログラム/イレーズ中は、フラッシュメモリへのダメージを防ぐため、以下の動作は行わないでください。
 - ・本 MCU の電源を動作電圧範囲外にする。
 - ・OPCCR.OPCM[2:0] ビットの値を更新する。
 - ・SOPCCR.SOPCM ビットの値を更新する。
 - ・SCKCR3 レジスタのクロックソース選択ビットを変更する。
 - ・RSTCKCR.RSTCKEN ビットの設定により、スリープモード復帰時のクロックソース切り替えを有効にする。
 - ・FlashIF クロック (FCLK) の分周比を変更する。
 - ・ディープスリープモード、ソフトウェアスタンバイモードに移行する。
 - ・ROM のプログラム/イレーズ中に E2 データフラッシュへアクセスする。
 - ・E2 データフラッシュのプログラム/イレーズ中に DFLCTL.DFLEN ビットの値を変更する。
- (9) プログラム/イレーズ時の FCLK について
セルフプログラミングでプログラム/イレーズを行う場合、FlashIF クロック (FCLK) の周波数を設定し、FISR.PCKA[5:0] ビットに FCLK 周波数を MHz 単位の整数値で設定してください。ただし、FCLK が 4 ~ 32 MHz の場合は、たとえば 12.5 MHz など整数値でない周波数を使用する場合には、小数点以下を切り上げて設定してください (12.5 MHz の場合は 13 MHz)。FCLK が 4 MHz 以下の場合には、1 MHz、2 MHz、3 MHz または 4 MHz 以外の周波数は使用できません。

41.14 使用上の注意事項 (ブートモード)

- (1) ブートモードで通信異常が発生した場合に関する注意事項
本 MCU と正常な通信ができなくなった場合、本 MCU をリセットして、再度ブートモードで起動させてください。
- (2) ブートモードでのオプション設定メモリに関する注意事項
ブートモードではオプション機能選択レジスタ 0 (OFS0)、オプション機能選択レジスタ 1 (OFS1)、エンディアン選択レジスタ (MDE) の設定は無効になります。
- (3) スタートアップ領域の切り替えに関する注意事項
スタートアップ領域の切り替えは、セルフプログラミングで実施してください。

42. 電気的特性

42.1 絶対最大定格

表 42.1 絶対最大定格

条件：VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V

項目		記号	定格値	単位
電源電圧		VCC	-0.3 ~ +6.5	V
入力電圧	5Vトレラント対応ポート： P12, P13, P16, P17	V_{in}	-0.3 ~ +6.5	V
	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7		-0.3 ~ AVCC0 + 0.3	V
	上記以外のポート		-0.3 ~ VCC + 0.3	V
リファレンス電源電圧		VREFH0	-0.3 ~ AVCC0 + 0.3	V
アナログ電源電圧		AVCC0	-0.3 ~ +6.5	V
アナログ入力電圧	AN000 ~ AN007使用時	V_{AN}	-0.3 ~ AVCC0 + 0.3	V
	AN016 ~ AN021, AN024 ~ AN026使用時		-0.3 ~ VCC + 0.3	
ジャンクション温度	Dバージョン	T_j	-40 ~ +105	°C
	Gバージョン		-40 ~ +112	
保存温度		T_{stg}	-55 ~ +125	°C

【使用上の注意】

絶対最大定格を超えてMCUを使用した場合、MCUの永久破壊となることがあります。

ノイズによる誤動作を防止するため、各VCC端子とVSS端子間、AVCC0端子とAVSS0間、VREFH0端子とVREFL0間には周波数特性の良いコンデンサを挿入してください。コンデンサは0.1μF程度の容量のものを、できる限り電源端子の近くに配置し、最短距離かつできる限り太いパターンを使用して接続してください。

VCL端子は、4.7μFのコンデンサを介してVSSに接続してください。コンデンサは端子の近くに配置してください。

詳細は、「42.15.1 VCLコンデンサ、バイパスコンデンサ接続方法」を参照してください。

当該デバイスの電源がOFF状態の時に、5Vトレラントポート以外のポートに入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップからの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。なお、5Vトレラントポートには-0.3 ~ +6.5Vの電圧を入力してもMCU破壊などの問題は発生しません。

42.2 推奨動作条件

表42.2 推奨動作条件(1)

項目		記号	min	typ	max	単位
電源電圧		VCC (注1、注2)	1.8	—	5.5	V
		VSS	—	0	—	
アナログ電源電圧		AVCC0 (注1)	1.8	—	5.5	V
		AVSS0	—	0	—	
		VREFH0	1.8	—	AVCC0	
		VREFL0	—	0	—	
入力電圧	5Vトレラント対応ポート： P12, P13, P16, P17	V_{in}	-0.3	—	5.8	V
	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7		-0.3	—	AVCC0 + 0.3	
	上記以外		-0.3	—	VCC + 0.3	
動作温度 (注3)	Dバージョン	T_{opr}	-40	—	85	°C
	Gバージョン		-40	—	105	

注1. VCC端子とAVCC0端子の電源投入順序は、同時もしくはVCC端子、AVCC0端子の順になるように投入してください。

注2. VCC < 2.4Vの場合、CTSUの通常動作モード機能が制限されます。詳細は「32. 静電容量式タッチセンサ(CTSUS2SL, CTSU2L)」を参照してください。

注3. 製品により動作温度の上限が85°Cの製品と105°Cの製品とあります。詳細は、「1.2 製品一覧」を参照してください。

表42.3 推奨動作条件(2)

項目	記号	規格値
内部電源安定用平滑コンデンサ容量	C_{VCL}	4.7 μ F \pm 30% (注1)

注1. 静電容量の公称値が4.7 μ F、静電容量許容差とコンデンサの使用条件下における静電容量変化率の合計が \pm 30%以内の積層セラミックコンデンサを使用してください。

42.3 DC 特性

表42.4 DC 特性(1)

条件：2.7V ≤ VCC ≤ 5.5V, 2.7V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件	
シュミット トリガ入力電圧	RIIC入力端子 (SMBusを除く)	V _{IH}	0.7 × VCC	—	—	V		
		V _{IL}	—	—	0.3 × VCC			
		ΔV _T	0.05 × VCC	—	—			
	IRQ入力端子、MTU2入力端子、 POE2入力端子、TMR入力端子、 SCI入力端子、RSPI入力端子、 CAC入力端子、CAN入力端子、 ADTRG0#入力端子(注1)、 RES#、NMI、MD	V _{IH}	0.8 × VCC	—	—			
		V _{IL}	—	—	0.2 × VCC			
		ΔV _T	0.1 × VCC	—	—			
	ADTRG0#入力端子(注2)	V _{IH}	0.8 × AVCC0	—	—			
		V _{IL}	—	—	0.2 × AVCC0			
		ΔV _T	0.1 × AVCC0	—	—			
入力レベル電圧 (シュミット トリガ入力端子 を除く)	EXTAL (外部クロック入力)	V _{IH}	0.8 × VCC	—	—	V		
		V _{IL}	—	—	0.2 × VCC			
	RIIC入力端子(SMBus)	V _{IH}	2.2	—	—			VCC = 3.6 ~ 5.5V
			2.0	—	—			VCC = 2.7 ~ 3.6V
		V _{IL}	—	—	0.8			VCC = 3.6 ~ 5.5V
			—	—	0.5			VCC = 2.7 ~ 3.6V
	P12 ~ P17, P20, P21, P26, P27, P30 ~ P32, P34 ~ P37, P54, P55, PA0 ~ PA6, PB0 ~ PB7, PC2 ~ PC7, PD0 ~ PD2, PE0 ~ PE5, PH0 ~ PH3, PH6(注3), PH7(注3), PJ1, PG7	V _{IH}	0.8 × VCC	—	—			
		V _{IL}	—	—	0.2 × VCC			
	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	V _{IH}	0.8 × AVCC	—	—			
		V _{IL}	—	—	0.2 × AVCC			

注1. P16に割り付けられているADTRG0#入力端子です。

注2. P07に割り付けられているADTRG0#入力端子です。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

表42.5 DC特性(2)

条件： $1.8V \leq VCC < 2.7V$, $1.8V \leq AVCC0 < 2.7V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
シュミット トリガ入力電圧	IRQ入力端子、MTU2入力端子、 POE2入力端子、TMR入力端子、 SCI入力端子、RSPI入力端子、 CAC入力端子、CAN入力端子、 ADTRG0#入力端子(注1)、 RES#、NMI、MD	V_{IH}	$0.8 \times VCC$	—	—	V	
		V_{IL}	—	—	$0.2 \times VCC$		
		ΔV_T	$0.01 \times VCC$	—	—		
	ADTRG0#入力端子(注2)	V_{IH}	$0.8 \times AVCC0$	—	—		
		V_{IL}	—	—	$0.2 \times AVCC0$		
		ΔV_T	$0.01 \times AVCC0$	—	—		
入力レベル電圧 (シュミット トリガ入力端子 を除く)	EXTAL (外部クロック入力)	V_{IH}	$0.8 \times VCC$	—	—	V	
		V_{IL}	—	—	$0.2 \times VCC$		
	P12~P17, P20, P21, P26, P27, P30~P32, P34~P37, P54, P55, PA0~PA6, PB0~PB7, PC2~PC7, PD0~PD2, PE0~PE5, PH0~PH3, PH6(注3), PH7(注3), PJ1, PG7	V_{IH}	$0.8 \times VCC$	—	—		
		V_{IL}	—	—	$0.2 \times VCC$		
	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7	V_{IH}	$0.8 \times AVCC$	—	—		
		V_{IL}	—	—	$0.2 \times AVCC$		

注1. P16に割り付けられているADTRG0#入力端子です。

注2. P07に割り付けられているADTRG0#入力端子です。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

表42.6 DC特性(3)

条件： $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
入力リーク電流	RES#, P35, PH6(注1), PH7(注1)	$ I_{in} $	—	—	1.0	μA	$V_{in} = 0V, VCC$
スリーステートリーク 電流(オフ状態)	5Vトレラント対応ポート	$ I_{TSL} $	—	—	1.0	μA	$V_{in} = 0V, 5.8V$
	PJ6, PJ7		—	—	1.0		$V_{in} = 0V, VCC$
	5Vトレラント対応ポート、 PJ6、PJ7以外		—	—	0.2		$V_{in} = 0V, VCC$
入力容量	全入力端子 (P35以外)	C_{in}	—	—	15	pF	$V_{in} = 0mV,$ $f = 1MHz,$ $T_a = 25^\circ C$
	P35		—	—	30		

注1. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

表42.7 DC特性(4)

条件： $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
入力プルアップ抵抗	全ポート (P35、PH6(注1)、PH7(注1)以外)	R_U	10	20	50	k Ω	$V_{in} = 0V$

注1. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

[ROM容量が64Kバイトの製品]

表42.8 DC特性(5)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40~+105°C

項目				記号	typ (注4)	max	単位	測定条件	
消費電流 (注1)	高速動作モード	通常動作モード	周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz	I _{CC}	2.5	—	mA	
				ICLK = 32MHz		1.8	—		
				ICLK = 16MHz		1.3	—		
				ICLK = 8MHz		1.0	—		
			全周辺動作 通常動作(注3)	ICLK = 48MHz		9.0	—		
				ICLK = 32MHz		7.4	—		
				ICLK = 16MHz		4.2	—		
				ICLK = 8MHz		2.5	—		
		全周辺動作 最大動作(注3)	ICLK = 48MHz	—		20.1			
		スリープモード	周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz		1.4	—		
				ICLK = 32MHz		1.1	—		
				ICLK = 16MHz		0.8	—		
				ICLK = 8MHz		0.7	—		
			全周辺動作 通常動作(注3)	ICLK = 48MHz		4.0	—		
				ICLK = 32MHz		4.0	—		
	ICLK = 16MHz			2.3	—				
	ICLK = 8MHz			1.5	—				
	ディープ スリープモード	周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz	1.0	—				
			ICLK = 32MHz	0.8	—				
			ICLK = 16MHz	0.7	—				
			ICLK = 8MHz	0.6	—				
		全周辺動作 通常動作(注3)	ICLK = 48MHz	3.1	—				
			ICLK = 32MHz	3.1	—				
			ICLK = 16MHz	1.9	—				
			ICLK = 8MHz	1.2	—				
	フラッシュメモリ書き換え時の増加分(注5)					2.1	—		
	中速動作モード	通常動作モード	周辺動作なし(注6)	ICLK = 24MHz	1.6	—			
ICLK = 8MHz				0.8	—				
ICLK = 4MHz				0.3	—				
ICLK = 1MHz				0.2	—				
全周辺動作 通常動作(注7)			ICLK = 24MHz	5.8	—				
			ICLK = 8MHz	2.3	—				
			ICLK = 4MHz	1.5	—				
			ICLK = 1MHz	0.8	—				
全周辺動作 最大動作(注7)		ICLK = 24MHz	—	13.1					
スリープモード		周辺動作なし(注6)	ICLK = 24MHz	1.1	—				
			ICLK = 8MHz	0.6	—				
	ICLK = 4MHz		0.2	—					
	ICLK = 1MHz		0.2	—					

項目					記号	typ (注4)	max	単位	測定条件
消費電流 (注1)	中速動作モード	スリープモード	全周辺動作 通常動作 (注7)	ICLK = 24MHz	I _{CC}	3.3	—	mA	
				ICLK = 8MHz		1.5	—		
				ICLK = 4MHz		1.0	—		
				ICLK = 1MHz		0.7	—		
		ディープ スリープモード	周辺動作なし (注6)	ICLK = 24MHz		0.8	—		
				ICLK = 8MHz		0.5	—		
				ICLK = 4MHz		0.1	—		
				ICLK = 1MHz		0.1	—		
		全周辺動作 通常動作 (注7)		ICLK = 24MHz		2.6	—		
				ICLK = 8MHz		1.3	—		
				ICLK = 4MHz		0.9	—		
				ICLK = 1MHz		0.7	—		
	フラッシュメモリ書き換え時の増加分 (注5)						2.1	—	
	中速動作モード2	通常動作モード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz		0.1	—		
				全周辺動作 通常動作 (注9)	ICLK = 1MHz	0.8	—		
					全周辺動作 最大動作 (注9)	—	3.0		
		スリープモード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz	0.1	—			
				全周辺動作 通常動作 (注9)	0.7	—			
		ディープ スリープモード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz	0.1	—			
				全周辺動作 通常動作 (注9)	0.7	—			
フラッシュメモリ書き換え時の増加分 (注5)						1.4	—		
低速動作モード		通常動作モード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz		2.4	—		
				全周辺動作 通常動作 (注11、注12)	ICLK = 32.768kHz	7.5	—		
	全周辺動作 最大動作 (注11、注12)				—	88.4			
	スリープモード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz	1.4	—				
			全周辺動作 通常動作 (注11)	3.8	—				
	ディープ スリープモード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz	1.0	—				
			全周辺動作 通常動作 (注11)	2.8	—				

- 注1. 消費電流値はすべての端子での出力充放電電流を含みません。さらに内蔵プルアップMOSをオフ状態にした場合の値です。
- 注2. 周辺機能はクロック停止状態。BGO動作は除きます。クロックソースはPLLです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注3. 周辺機能はクロック供給状態。BGO動作は除きます。クロックソースはPLLです。ICLK=48MHzの場合、FCLKはICLKと同じ周波数です。PCLKは2分周設定です。ICLK=32MHz以下の場合、FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注4. VCC = 3.3Vの値です。
- 注5. プログラム実行中に、ROM、またはデータ格納用フラッシュにデータをプログラム/イレーズを実行した場合の増加分です。
- 注6. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはICLK = 24MHzの時はPLL、ICLK = 8MHzの時はHOCO、その他はLOCOです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注7. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはICLK = 24MHzの時はPLL、ICLK = 8MHzの時はHOCO、その他はLOCOです。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注8. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはICLK = 1MHzの時はLOCOです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注9. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはICLK = 1MHzの時はLOCOです。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注10. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはサブ発振回路です。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注11. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはサブ発振回路です。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注12. MSTPCRA.MSTPA17 (12ビットA/Dコンバータモジュールストップ設定ビット)をモジュールストップ状態に設定した時の値です。

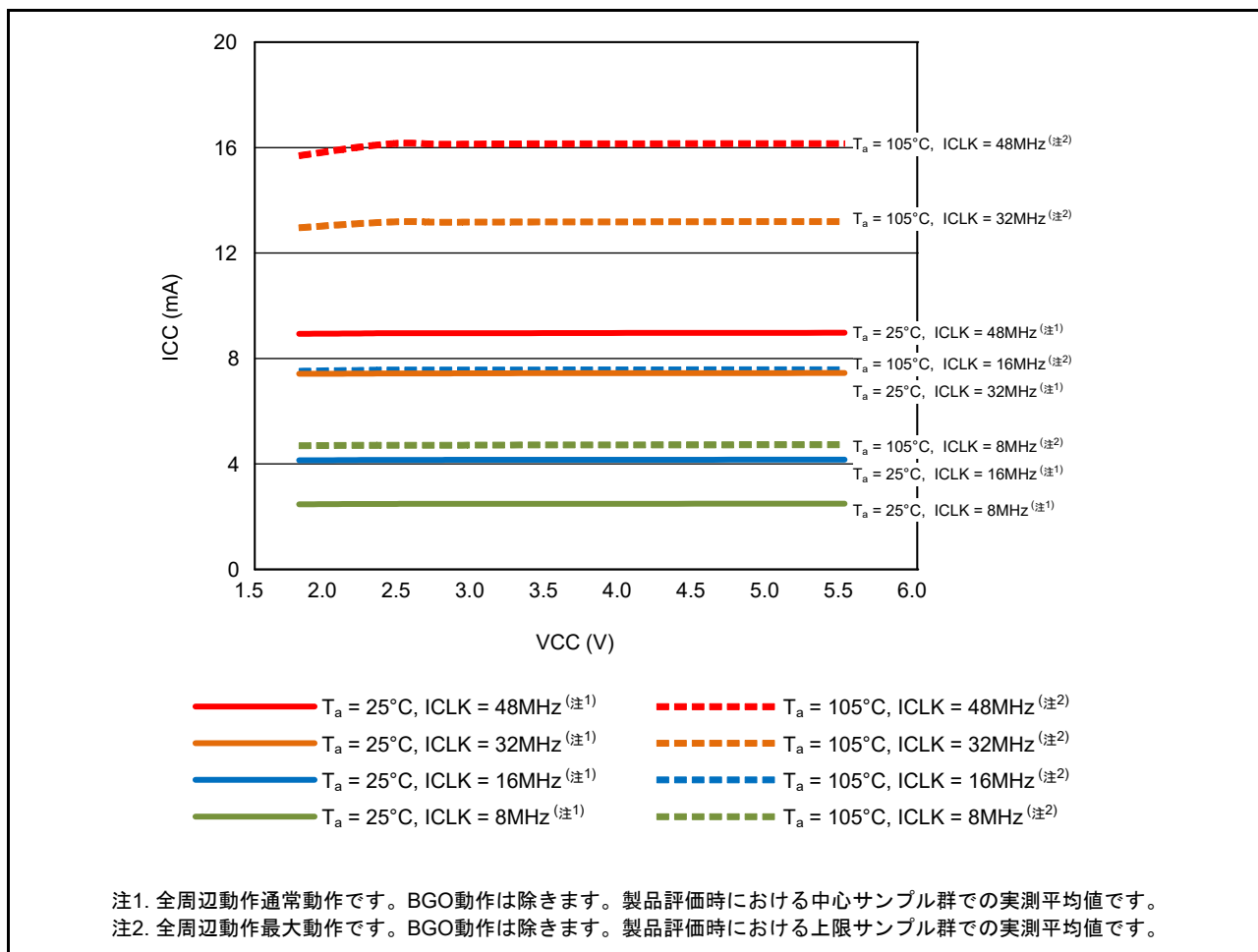


図 42.1 高速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 64K バイトの製品の参考データ)

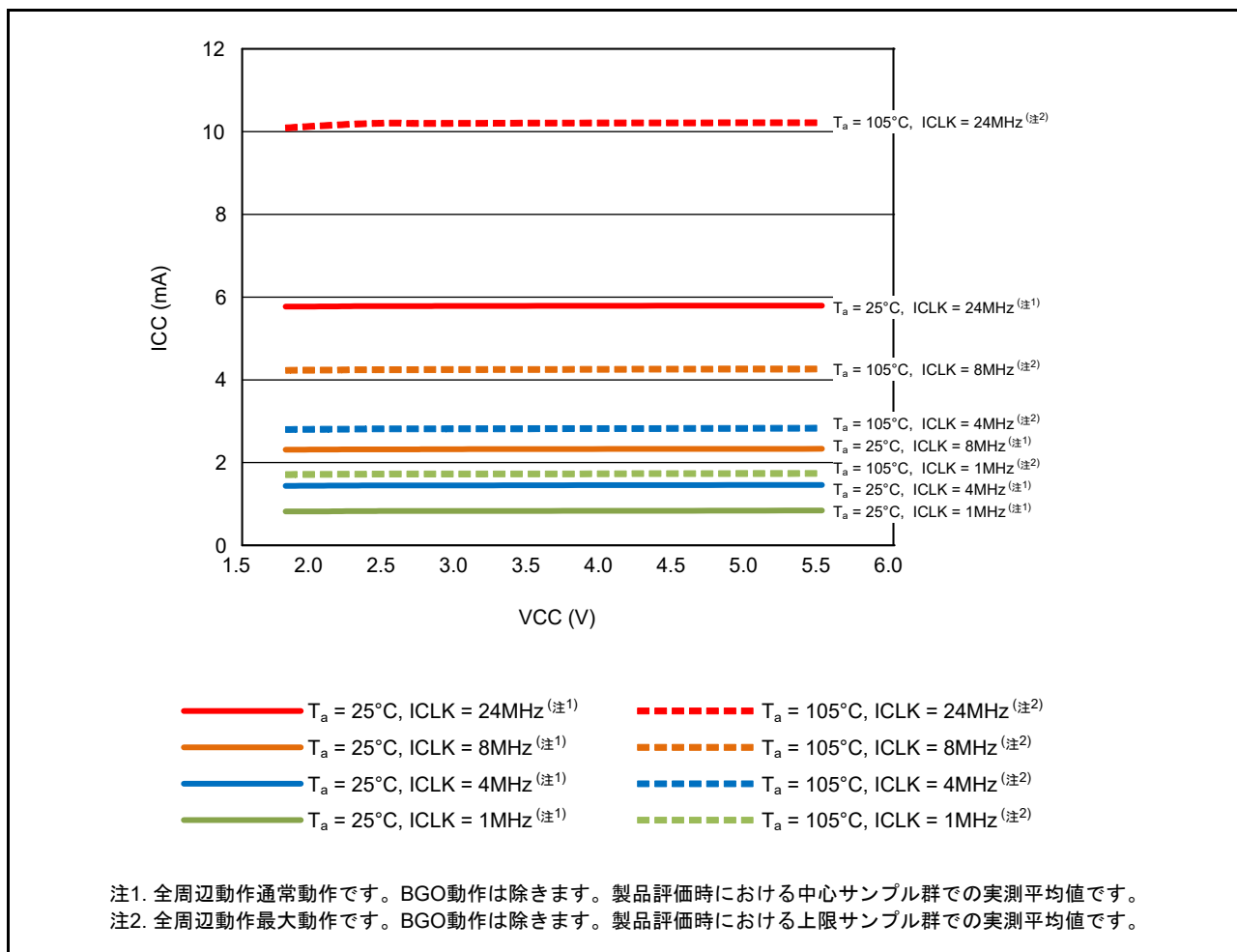


図 42.2 中速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 64K バイトの製品の参考データ)

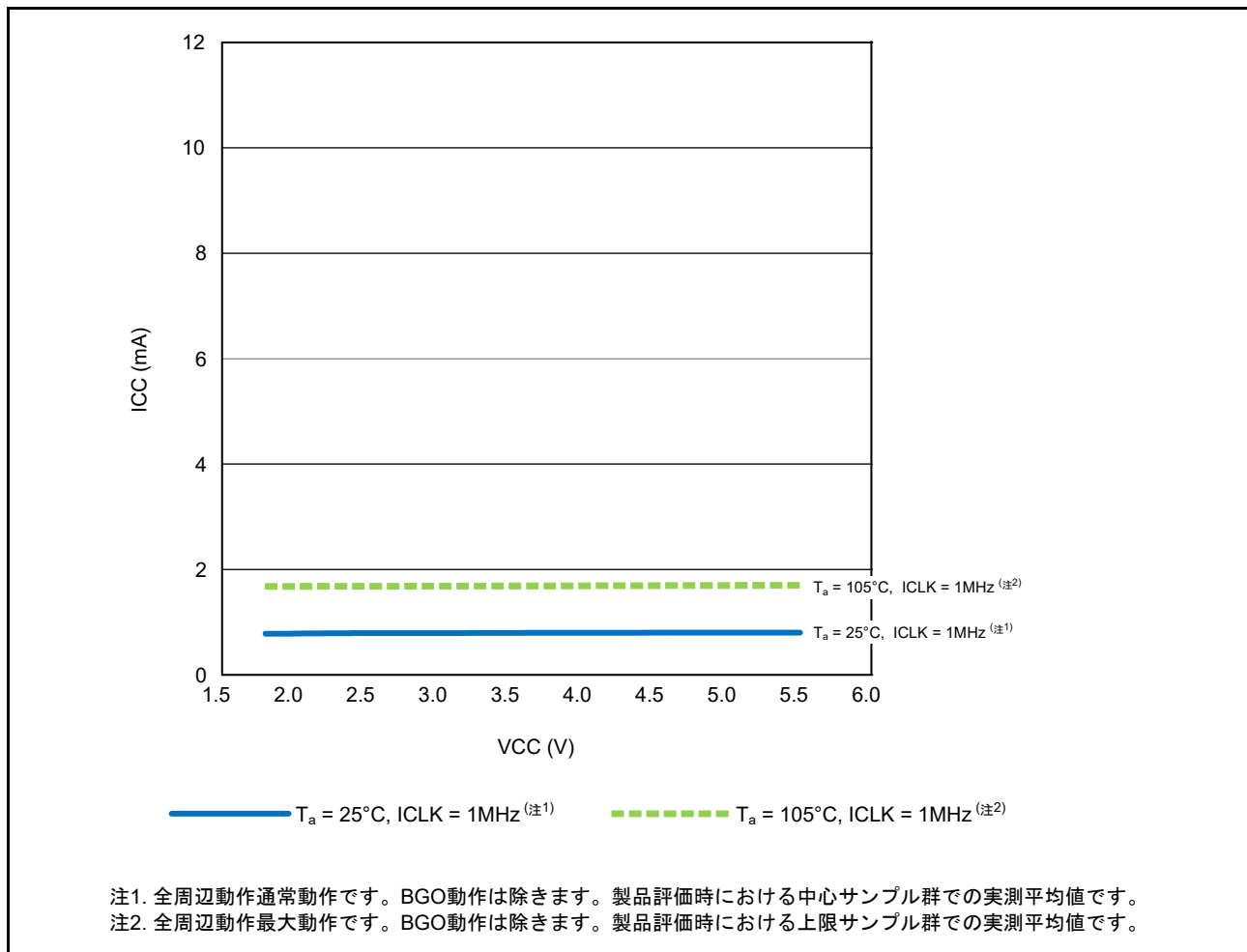


図 42.3 中速動作モード2の電圧依存性 (ROM容量が64Kバイトの製品の参考データ)

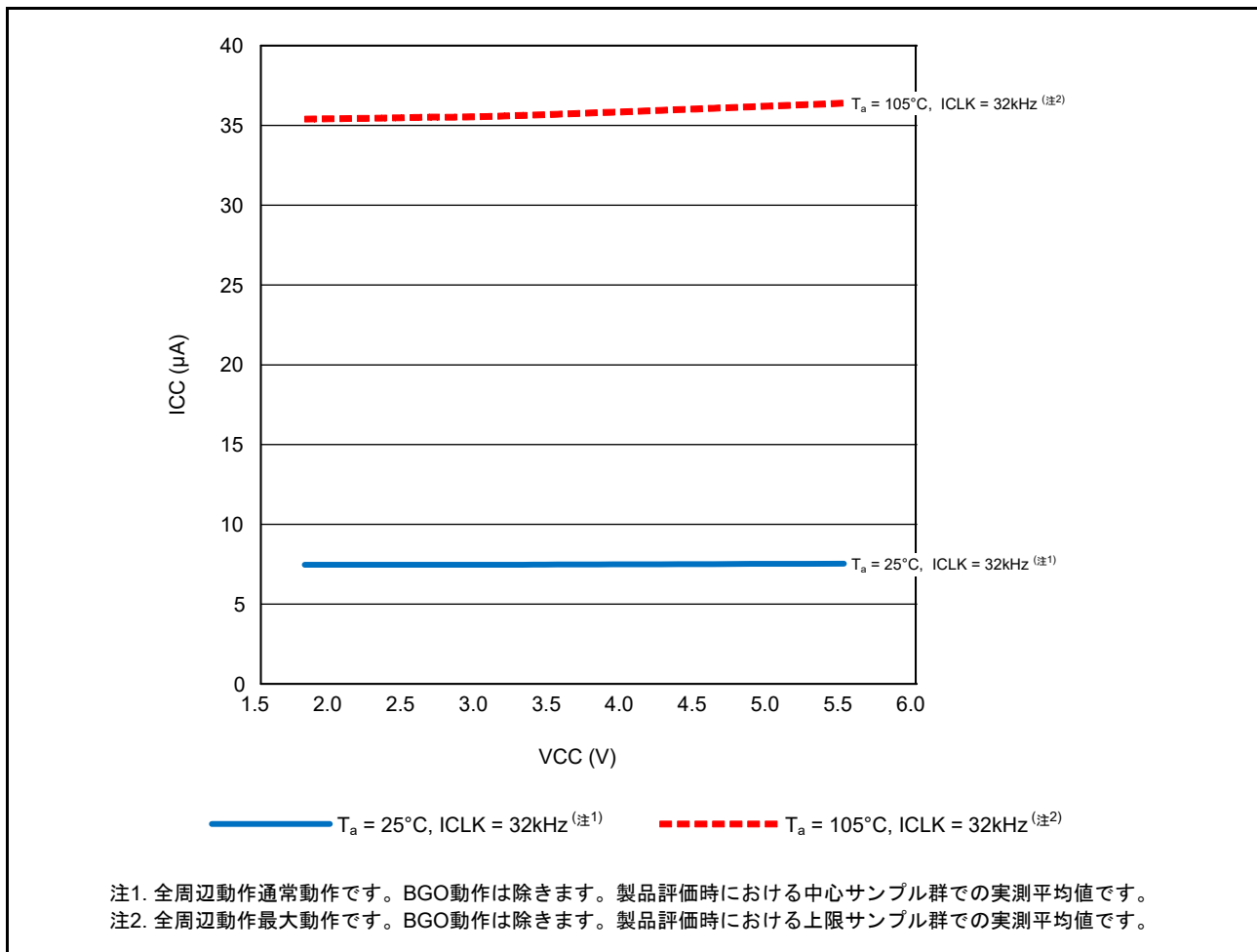


図 42.4 低速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 64K バイトの製品の参考データ)

[ROM容量が128Kバイト以上の製品]

表42.9 DC特性(5)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40~+105°C

項目				記号	typ (注4)	max	単位	測定条件				
消費電流 (注1)	高速動作モード	通常動作モード	周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz	I _{CC}	2.6	—	mA				
				ICLK = 32MHz		1.9	—					
				ICLK = 16MHz		1.3	—					
				ICLK = 8MHz		1.0	—					
			全周辺動作 通常動作(注3)	ICLK = 48MHz		10.4	—					
				ICLK = 32MHz		8.9	—					
				ICLK = 16MHz		4.9	—					
				ICLK = 8MHz		2.9	—					
		全周辺動作 最大動作(注3)	ICLK = 48MHz	—		22.8						
			スリープモード			周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz			1.4	—	
							ICLK = 32MHz			1.1	—	
							ICLK = 16MHz			0.8	—	
							ICLK = 8MHz			0.7	—	
							全周辺動作 通常動作(注3)			ICLK = 48MHz	4.7	—
										ICLK = 32MHz	4.9	—
										ICLK = 16MHz	2.8	—
				ICLK = 8MHz	1.7			—				
				ディープ スリープモード	周辺動作なし(注2)	ICLK = 48MHz	1.0	—				
						ICLK = 32MHz	0.8	—				
						ICLK = 16MHz	0.7	—				
						ICLK = 8MHz	0.6	—				
					全周辺動作 通常動作(注3)	ICLK = 48MHz	3.7	—				
						ICLK = 32MHz	3.9	—				
						ICLK = 16MHz	2.3	—				
						ICLK = 8MHz	1.4	—				
				フラッシュメモリ書き換え時の増加分(注5)		2.1	—					
				暗号機能動作時の増加分		—	3.9					
	中速動作モード	通常動作モード	周辺動作なし(注6)	ICLK = 24MHz	I _{CC}	1.7	—					
				ICLK = 8MHz		0.9	—					
				ICLK = 4MHz		0.3	—					
				ICLK = 1MHz		0.2	—					
			全周辺動作 通常動作(注7)	ICLK = 24MHz		6.9	—					
ICLK = 8MHz				2.8		—						
ICLK = 4MHz				1.7		—						
ICLK = 1MHz				0.9		—						
全周辺動作 最大動作(注7)		ICLK = 24MHz	—	15.4								
		スリープモード				周辺動作なし(注6)	ICLK = 24MHz		1.1	—		
							ICLK = 8MHz		0.7	—		
							ICLK = 4MHz		0.2	—		
			ICLK = 1MHz	0.2			—					

項目					記号	typ (注4)	max	単位	測定条件
消費電流 (注1)	中速動作モード	スリープモード	全周辺動作 通常動作 (注7)	ICLK = 24MHz	I _{CC}	4.0	—	mA	
				ICLK = 8MHz		1.8	—		
				ICLK = 4MHz		1.2	—		
				ICLK = 1MHz		0.8	—		
		ディープ スリープモード	周辺動作なし (注6)	ICLK = 24MHz		0.8	—		
				ICLK = 8MHz		0.6	—		
				ICLK = 4MHz		0.1	—		
				ICLK = 1MHz		0.1	—		
		全周辺動作 通常動作 (注7)		ICLK = 24MHz		3.2	—		
				ICLK = 8MHz		1.5	—		
				ICLK = 4MHz		1.0	—		
				ICLK = 1MHz		0.7	—		
	フラッシュメモリ書き換え時の増加分 (注5)						2.1	—	
	中速動作モード2	通常動作モード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz		0.1	—		
				全周辺動作 通常動作 (注9)	ICLK = 1MHz	0.9	—		
					全周辺動作 最大動作 (注9)	—	3.3		
		スリープモード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz	0.1	—			
				全周辺動作 通常動作 (注9)	0.7	—			
		ディープ スリープモード	周辺動作なし (注8)	ICLK = 1MHz	0.1	—			
				全周辺動作 通常動作 (注9)	0.7	—			
		フラッシュメモリ書き換え時の増加分 (注5)						1.4	
低速動作モード		通常動作モード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz		2.6	—		
				全周辺動作 通常動作 (注11、注12)	ICLK = 32.768kHz	9.4	—		
	全周辺動作 最大動作 (注11、注12)				—	175.4			
	スリープモード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz	1.5	—				
			全周辺動作 通常動作 (注11)	5.1	—				
	ディープ スリープモード	周辺動作なし (注10)	ICLK = 32.768kHz	1.3	—				
			全周辺動作 通常動作 (注11)	4.1	—				

- 注1. 消費電流値はすべての端子での出力充放電電流を含みません。さらに内蔵プルアップMOSをオフ状態にした場合の値です。
- 注2. 周辺機能はクロック停止状態。BGO動作は除きます。クロックソースはPLLです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注3. 周辺機能はクロック供給状態。BGO動作は除きます。クロックソースはPLLです。ICLK=48MHzの場合、FCLKはICLKと同じ周波数です。PCLKは2分周設定です。ICLK=32MHz以下の場合、FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注4. VCC = 3.3Vの値です。
- 注5. プログラム実行中に、ROM、またはデータ格納用フラッシュにデータをプログラム/イレーズを実行した場合の増加分です。
- 注6. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはICLK = 24MHzの時はPLL、ICLK = 8MHzの時はHOCO、その他はLOCOです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注7. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはICLK = 24MHzの時はPLL、ICLK = 8MHzの時はHOCO、その他はLOCOです。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注8. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはICLK = 1MHzの時はLOCOです。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注9. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはICLK = 1MHzの時はLOCOです。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注10. 周辺機能はクロック停止状態。クロックソースはサブ発振回路です。FCLK、PCLKは64分周設定です。
- 注11. 周辺機能はクロック供給状態。クロックソースはサブ発振回路です。FCLK、PCLKはICLKと同じ周波数です。
- 注12. MSTPCRA.MSTPA17 (12ビットA/Dコンバータモジュールストップ設定ビット)をモジュールストップ状態に設定した時の値です。

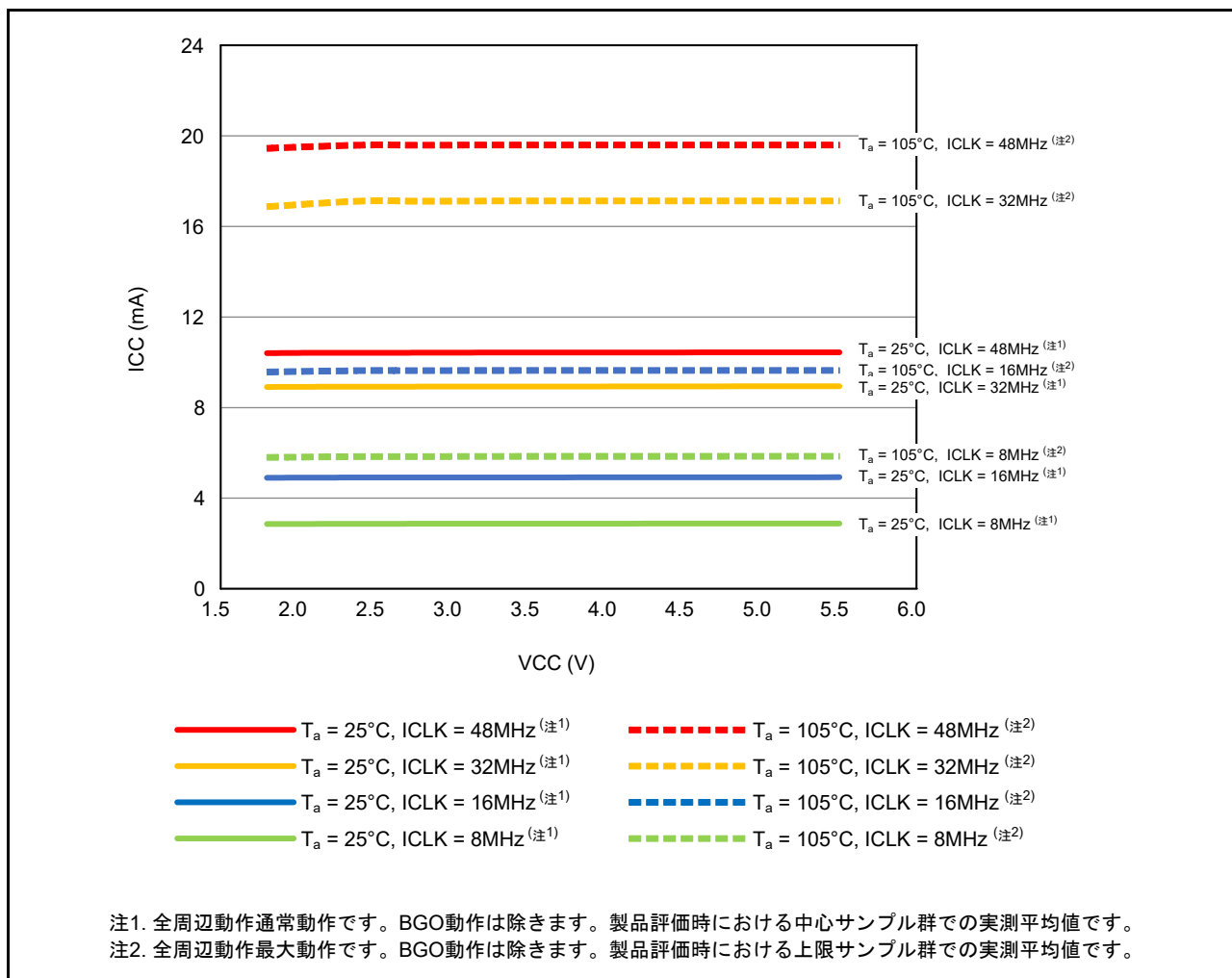


図 42.5 高速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 128K バイト以上の製品の参考データ)

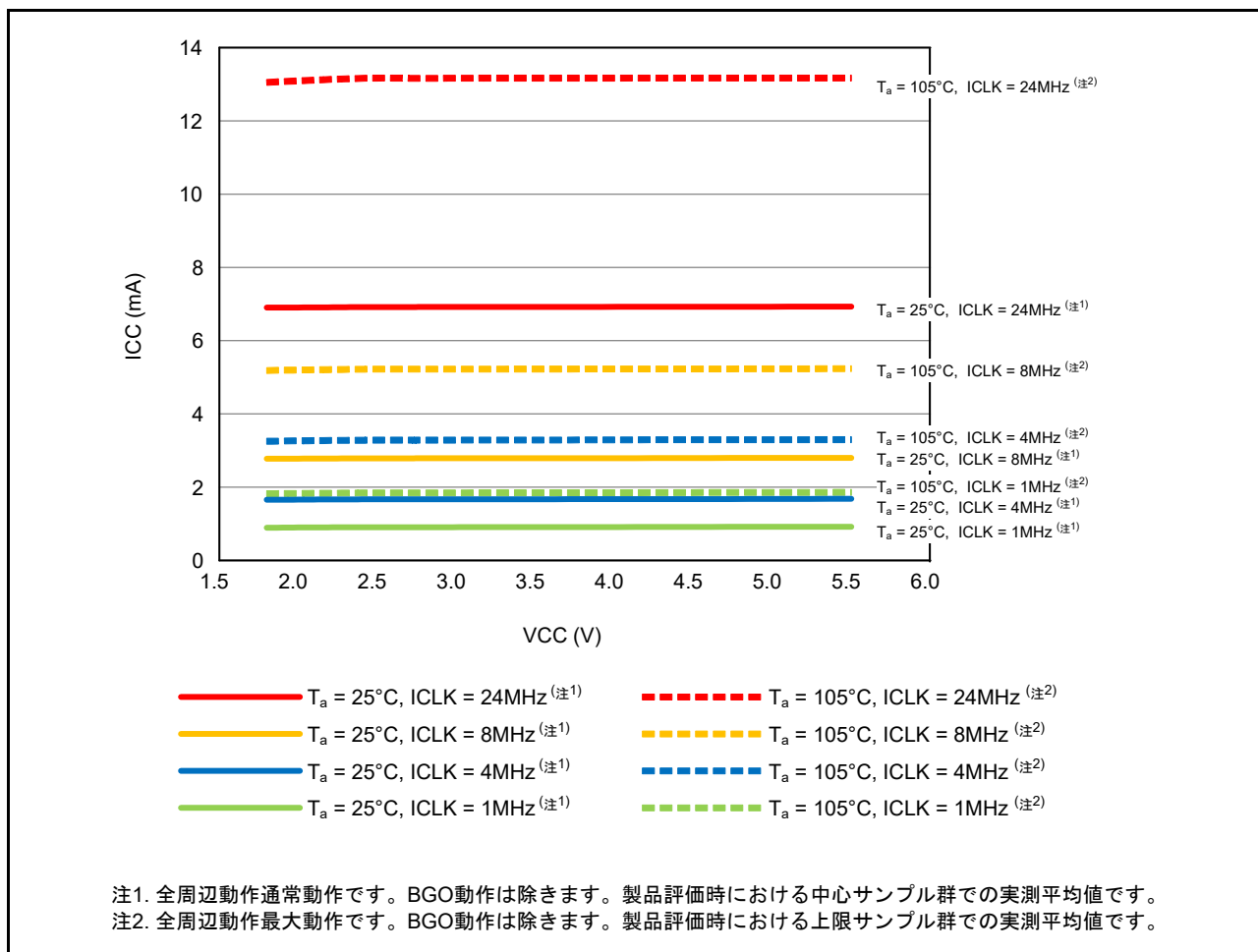


図 42.6 中速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 128K バイト以上の製品の参考データ)

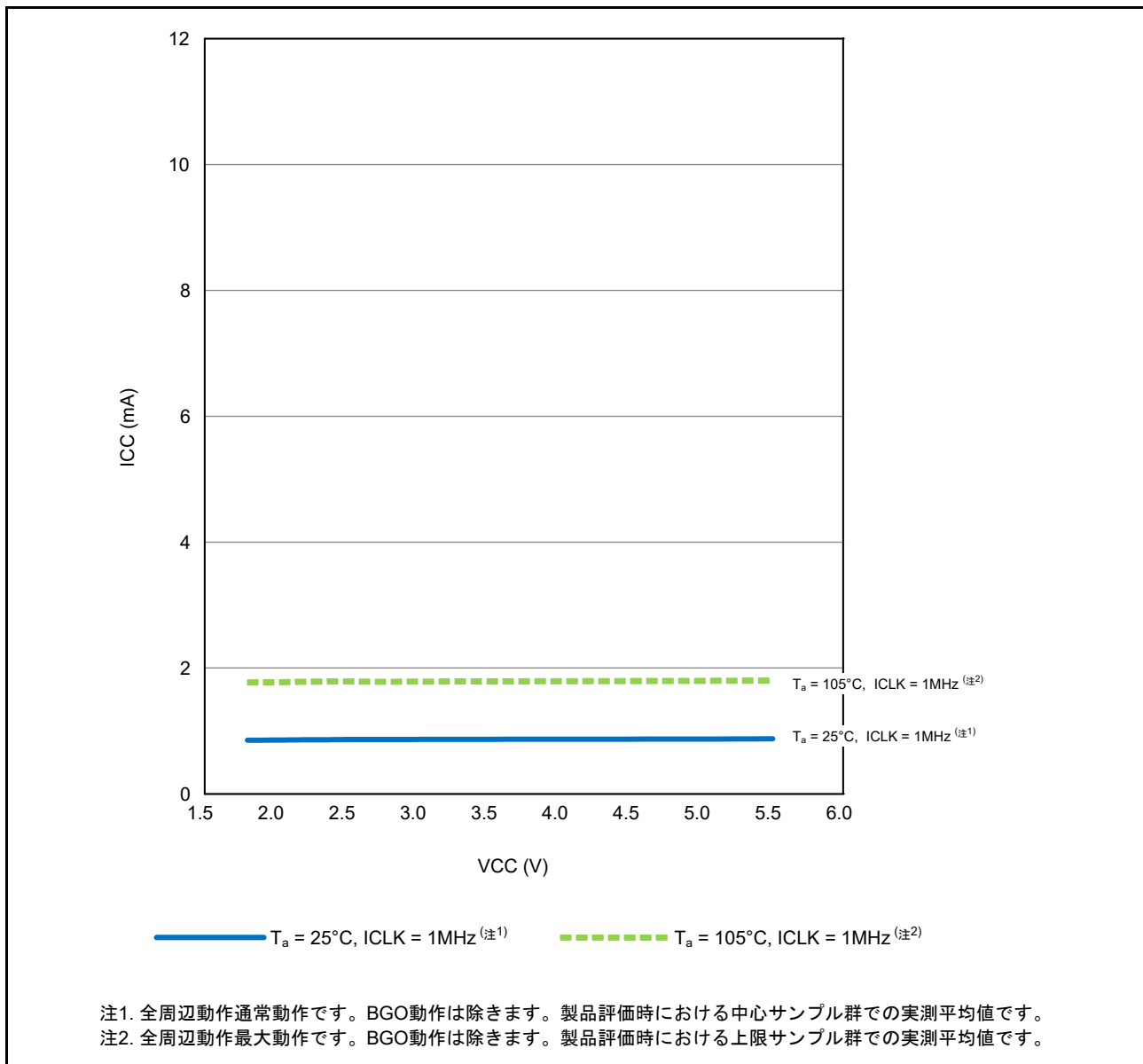


図 42.7 中速動作モード2の電圧依存性 (ROM容量が128Kバイト以上の製品の参考データ)

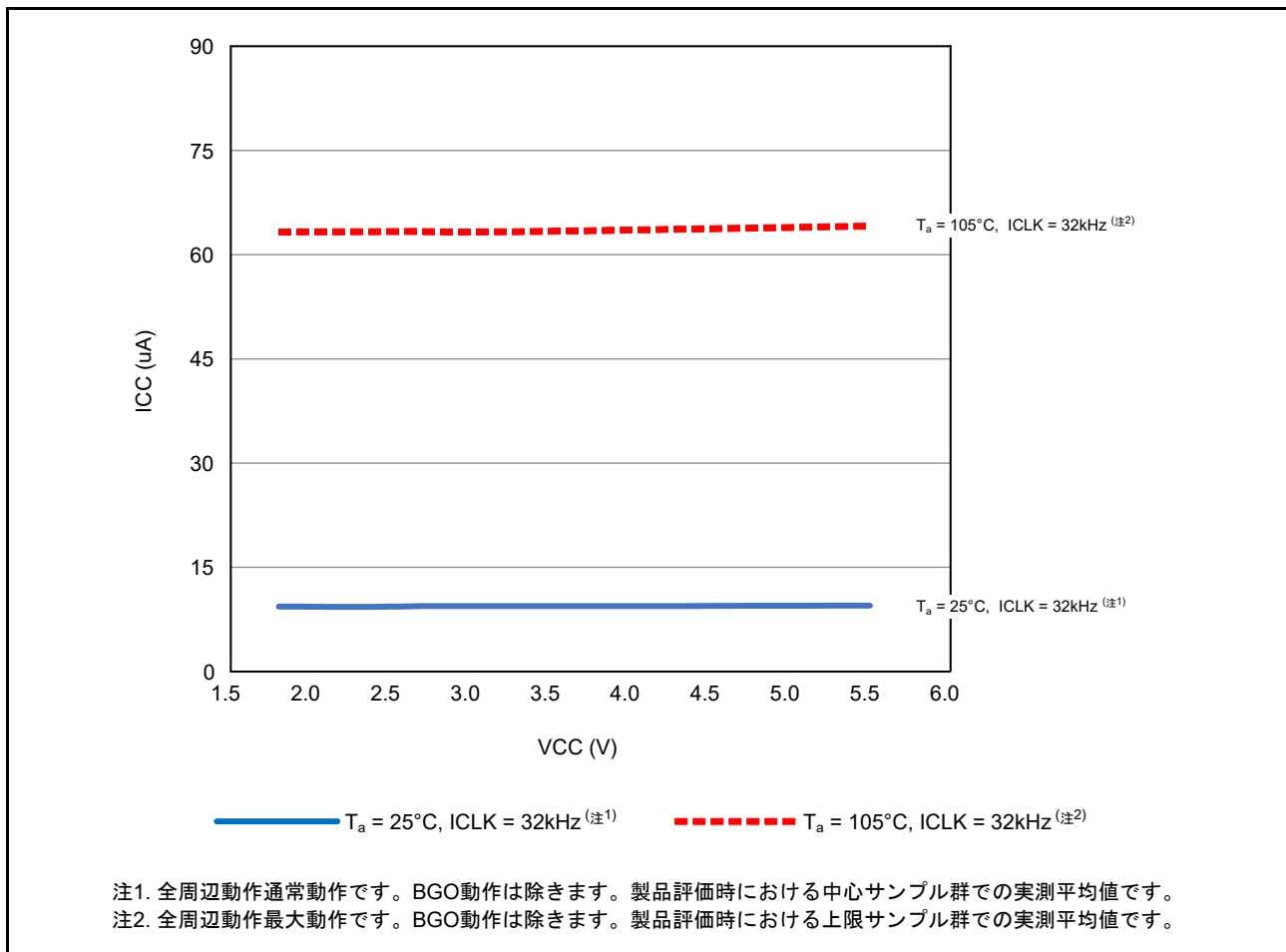


図 42.8 低速動作モードの電圧依存性 (ROM 容量が 128K バイト以上の製品の参考データ)

[ROM容量が64Kバイトの製品]

表 42.10 DC特性(6)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目			記号	typ (注3)	max	単位	測定条件		
消費電流 (注1)	ソフトウェア スタンバイモード (注2)	T _a = 25°C	I _{CC}	0.25	1.56	μA			
		T _a = 55°C		0.54	4.66				
		T _a = 85°C		1.86	18.09				
		T _a = 105°C		4.72	43.74				
	RTC動作の増加分 (注4)			0.97	—			SOMCR.SODRV[1:0]は標準CL用ドライブ能力設定	
				0.52	—			SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力高設定	
				0.27	—			SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力中設定	
				0.17	—			SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力低設定	
	ローパワータイマ動作の増加分			0.28	—			LPTCR1.LPCNTCKSELは、IWDT専用オンチップオシレータ選択時	
				15.97	—			LPTCR1.LPCNTCKSEL2は、低速オンチップオシレータ選択時	
	独立ウォッチドックタイマ動作の増加分			0.26	—				

注1. 消費電流値はすべての出力端子を無負荷状態にして、さらに内蔵プルアップMOSをオフ状態にした場合の値です。

注2. IWDTとLVD、CMPBは動作停止です。

注3. VCC = 3.3Vの場合です。

注4. 発振回路を含みます。

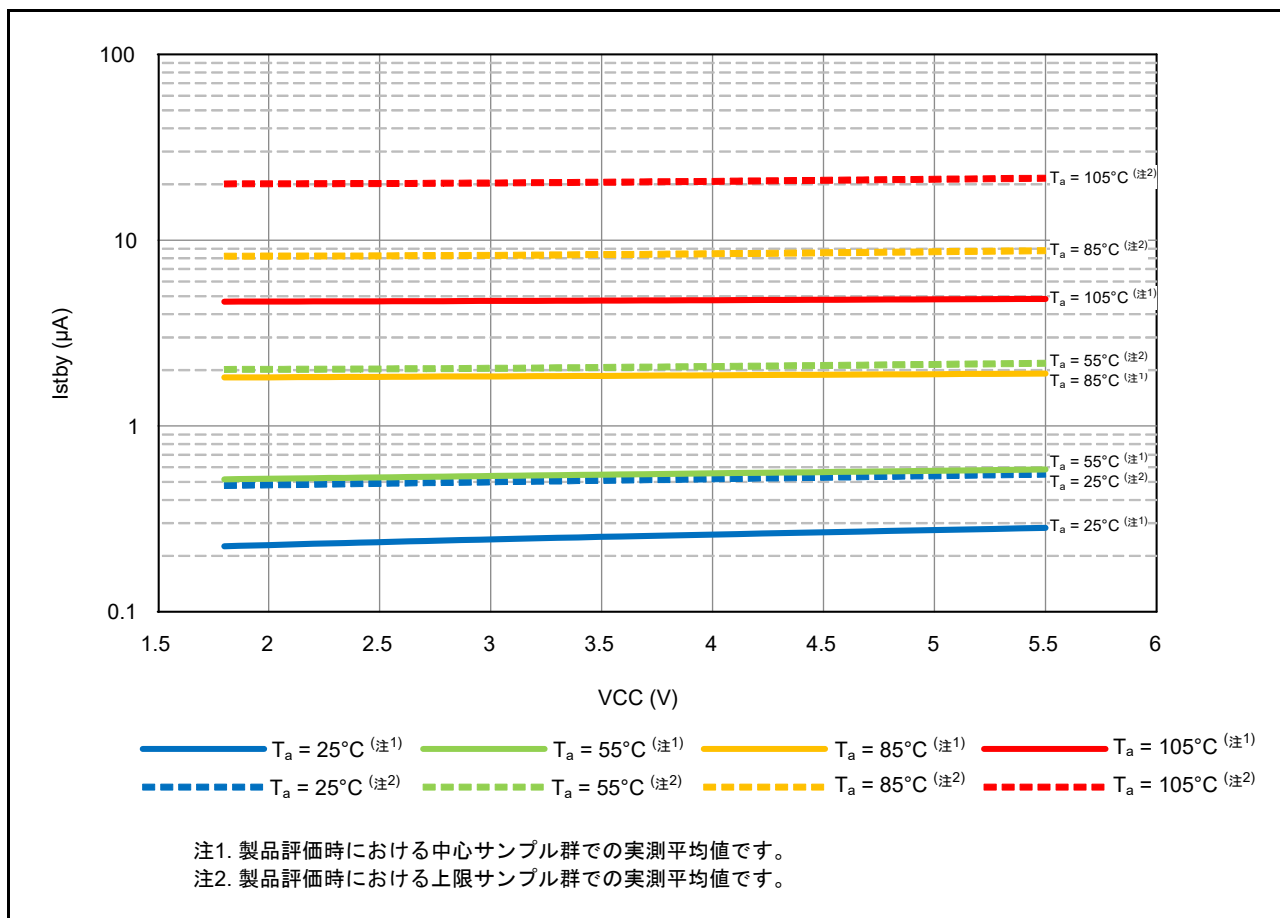


図 42.9 ソフトウェアスタンバイモード時の電圧依存性 (ROM 容量が 64K バイトの製品の参考データ)

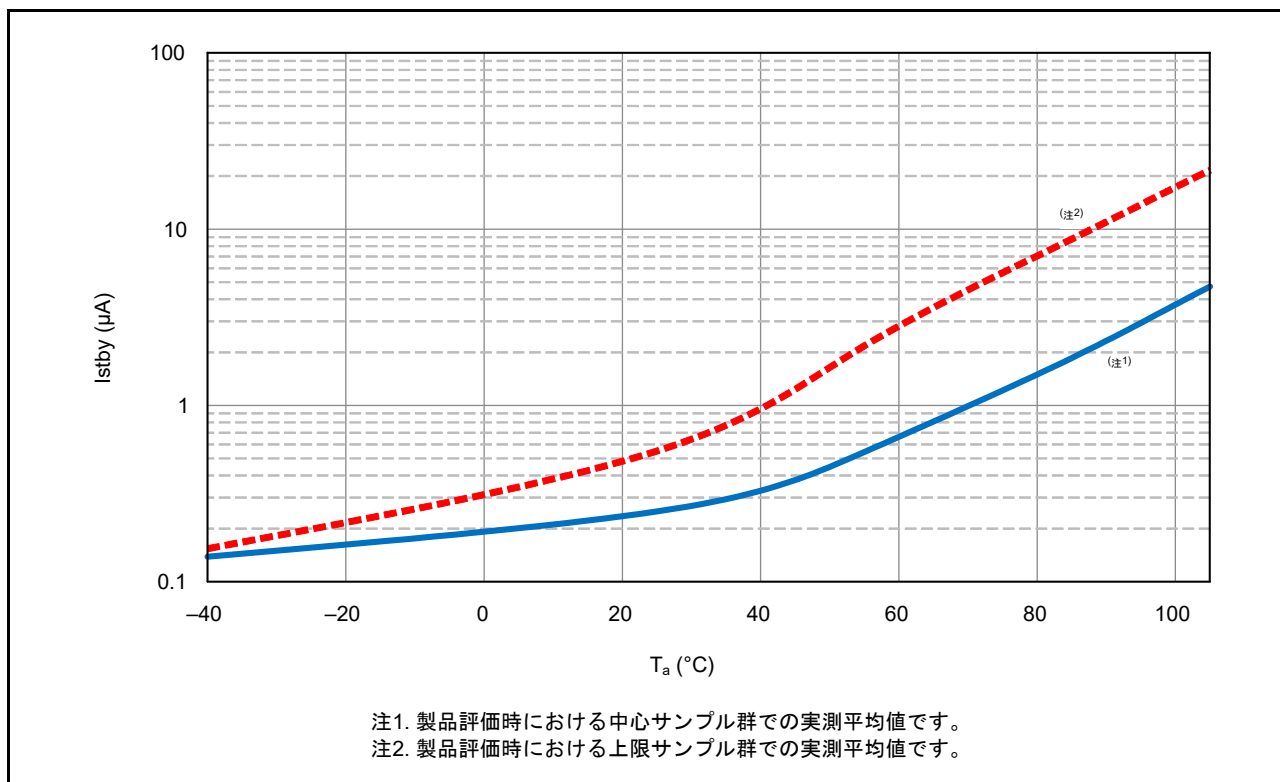


図 42.10 ソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性 (ROM 容量が 64K バイトの製品の参考データ)

[ROM容量が128Kバイト以上の製品]

表42.11 DC特性(6)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目			記号	typ (注3)	max	単位	測定条件		
消費電流 (注1)	ソフトウェア スタンバイモード (注2)	$T_a = 25^\circ C$	I_{CC}	0.43	2.07	μA			
		$T_a = 55^\circ C$		1.00	8.46				
		$T_a = 85^\circ C$		3.30	31.14				
		$T_a = 105^\circ C$		7.76	71.36				
	RTC動作の増加分 (注4)				0.99			—	SOMCR.SODRV[1:0]は標準CL用ドライブ能力設定
					0.55			—	SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力高設定
					0.32			—	SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力中設定
					0.22			—	SOMCR.SODRV[1:0]は低CL用ドライブ能力低設定
	ローパワータイマ動作の増加分				0.33			—	LPTCR1.LPCNTCKSELは、IWDT専用オンチップオシレータ選択時
					15.89			—	LPTCR1.LPCNTCKSEL2は、低速オンチップオシレータ選択時
	独立ウォッチドックタイマ動作の増加分				0.32			—	

注1. 消費電流値はすべての出力端子を無負荷状態にして、さらに内蔵プルアップMOSをオフ状態にした場合の値です。

注2. IWDTとLVD、CMPBは動作停止です。

注3. $VCC = 3.3V$ の場合です。

注4. 発振回路を含みます。

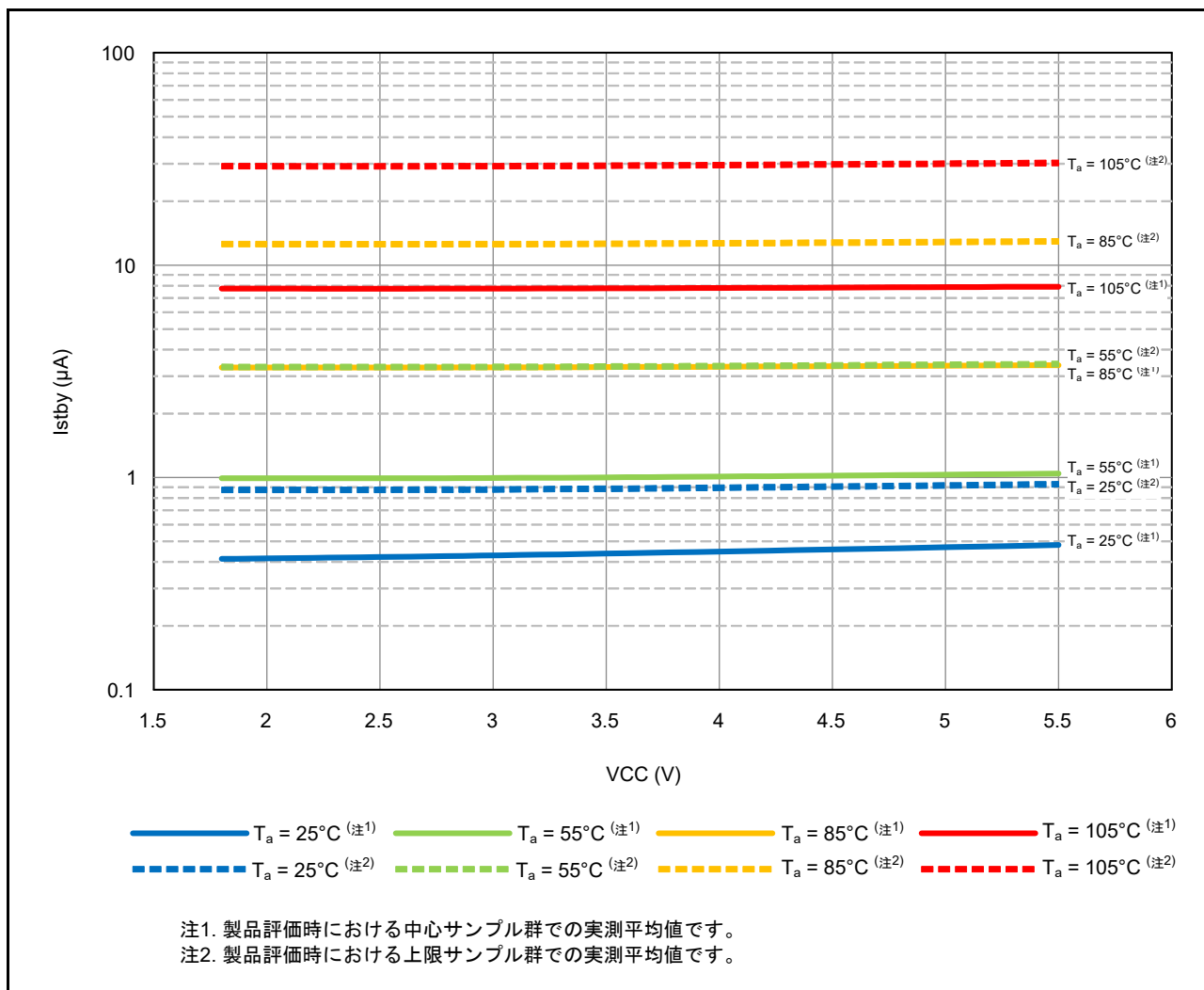


図 42.11 ソフトウェアスタンバイモード時の電圧依存性 (ROM 容量が 128K バイト以上の製品の参考データ)

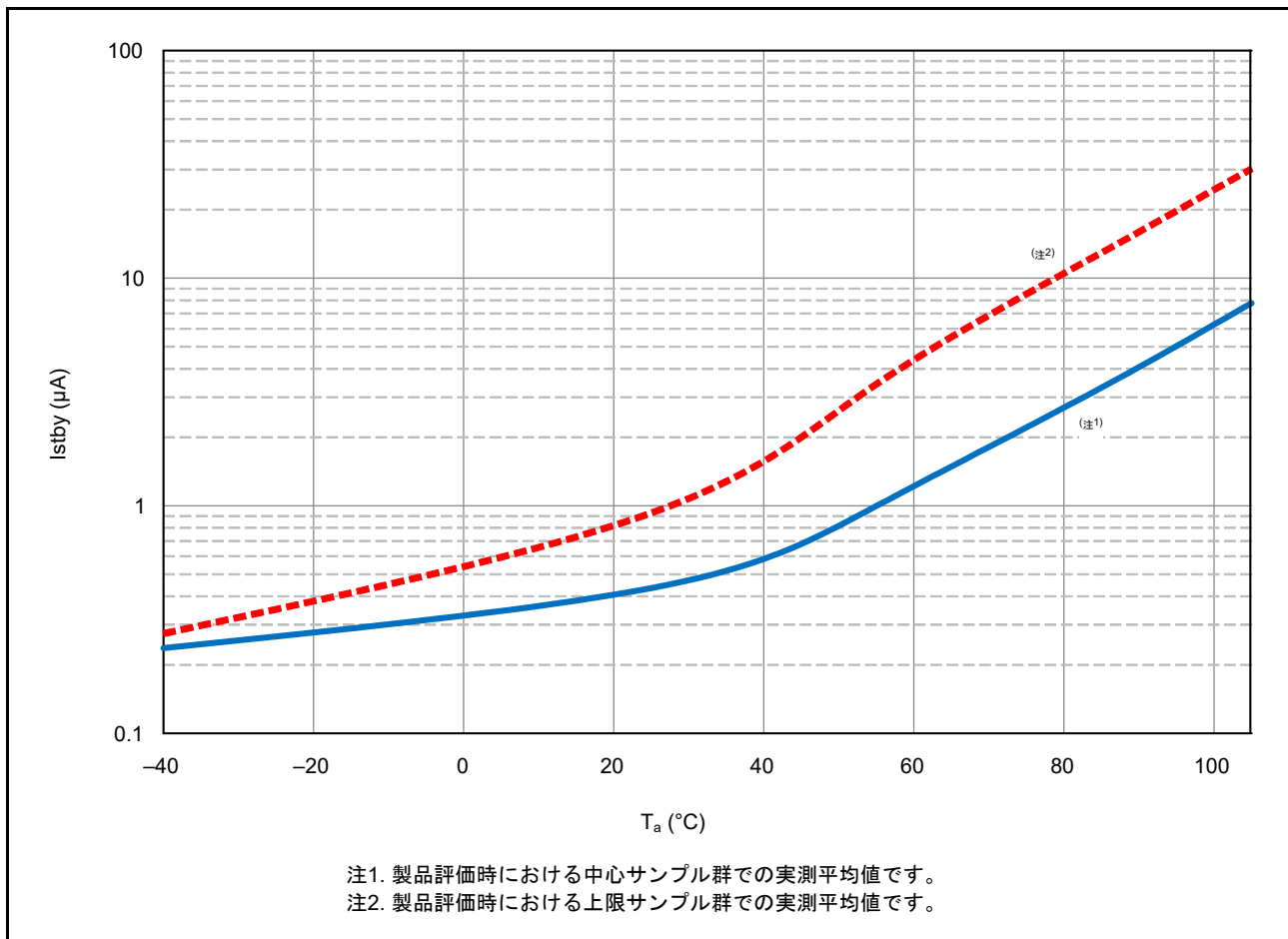


図 42.12 ソフトウェアスタンバイモード時の温度依存性 (ROM 容量が 128K バイト以上の製品の参考データ)

表 42.12 DC特性(7)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	typ (注4)	max	単位	測定条件
アナログ電源電流	A/D変換中(高速変換時)	I _{AVCC}	—	0.6	1.3	mA	
	A/D変換中(低電流モード)		—	0.3	0.7		
	D/A変換中(1チャンネル当り)(注1)		—	—	0.5		
	A/D、D/A変換待機時		—	—	2.0	μA	
リファレンス電源電流	A/D変換中(高速変換時)	I _{REFH0}	—	49.6	120	μA	
	A/D変換待機時		—	—	0.3	μA	
LVD0	—	I _{LVD}	—	0.04	—	μA	
LVD1, 2	1チャンネル当り		—	0.12	—	μA	
温度センサ(注3)	—	I _{TEMP}	—	120	—	μA	
コンパレータB動作電流(注3)	ウィンドウ機能有効	I _{CMP} (注2)	—	7.5	12.5	μA	
	コンパレータ高速モード(1チャンネル当り)		—	5.0	10.0	μA	
	コンパレータ低速モード(1チャンネル当り)		—	1.5	3.0	μA	

注1. D/Aコンバータは、電源電流にリファレンス電流も含む値です。

注2. コンパレータBモジュールのみの消費電流です。

注3. 電源(VCC)の消費電流です。

注4. VCC = AVCC0 = 3.3Vのとき。

表 42.13 DC特性(8)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
RAM保持電圧	V _{RAM}	1.8	—	—	V	

表 42.14 DC特性(9)

条件：0V ≤ VCC ≤ 5.5V, 0V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
電源投入時 VCC立ち上がり勾配	通常起動時(注1)	SrVCC	0.02	—	20	ms/V	
	起動時間短縮時(注2)		0.02	—	2		
	起動時電圧監視0リセット有効時(注3、注4)		0.02	—	—		

注1. OFS1.(FASTSTUP, LVDAS) = 11bを設定した場合です。

注2. OFS1.(FASTSTUP, LVDAS) = 01bを設定した場合です。

注3. OFS1.LVDAS = 0を設定した場合です。

注4. ブートモード時はOFS1にて設定したレジスタ設定は読み込まれませんので、通常起動時の立ち上げ勾配にて電源電圧を立ち上げてください。

表 42.15 DC特性(10)

条件： $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$ 電源リップルは、VCCの上限と下限は超えない範囲で許容電源リップル周波数 $f_r(VCC)$ を満たしてください。VCC変動が $VCC \pm 10\%$ を超える場合は、許容電源変動立ち上がり/立ち下がり勾配 $dt/dVCC$ を満たしてください。

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
許容電源リップル周波数	$f_r(VCC)$	—	—	10	kHz	図42.13 $V_r(VCC) \leq VCC \times 0.2$ の場合
		—	—	1	MHz	図42.13 $V_r(VCC) \leq VCC \times 0.08$ の場合
		—	—	10	MHz	図42.13 $V_r(VCC) \leq VCC \times 0.06$ の場合
許容電源変動立ち上がり/ 立ち下がり勾配	$dt/dVCC$	1.0	—	—	ms/V	VCC変動が $VCC \pm 10\%$ を超える場合

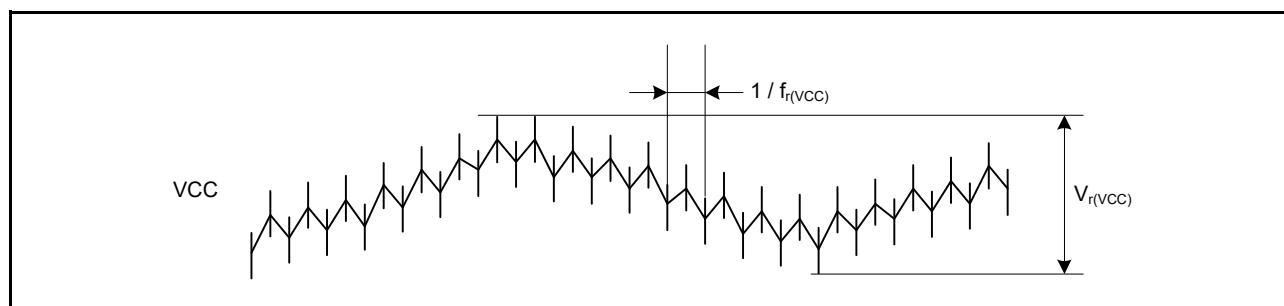


図 42.13 電源リップル波形

表 42.16 出力許容電流値(1)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +85°C

項目		記号	max	単位
出力Lowレベル許容電流 (1端子あたりの平均値)	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	I _{OL}	8.0	mA
	それ以外のポート		8.0	
出力Lowレベル許容電流 (1端子あたりの最大値)	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7		8.0	
	それ以外のポート		8.0	
出力Lowレベル許容電流	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7の合計	ΣI _{OL}	40	
	P12 ~ P17, P20, P21, P26 ~ P27, P30 ~ P32, P34 ~ P37, PG7, PH2, PH3, PJ1の合計		40	
	P54, P55, PB0 ~ PB7, PC2 ~ PC7, PH0, PH1の合計		40	
	PA0 ~ PA6, PD0 ~ PD2, PE0 ~ PE5の合計		40	
	全出力端子の総和		80	
出力Highレベル許容電流 (1端子あたりの平均値)	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	I _{OH}	-4.0	
	それ以外のポート		-4.0	
出力Highレベル許容電流 (1端子あたりの最大値)	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7		-4.0	
	それ以外のポート		-4.0	
出力Highレベル許容電流	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7の合計	ΣI _{OH}	-40	
	P12 ~ P17, P20, P21, P26 ~ P27, P30 ~ P32, P34 ~ P37, PG7, PH2, PH3, PJ1の合計		-40	
	P54, P55, PB0 ~ PB7, PC2 ~ PC7, PH0, PH1の合計		-40	
	PA0 ~ PA6, PD0 ~ PD2, PE0 ~ PE5の合計		-40	
	全出力端子の総和		-80	

注. 許容総消費電流は超えないようにしてください。

表 42.17 出力許容電流値(2)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	max	単位
出力Lowレベル許容電流 (1端子あたりの平均値)	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7	I _{OL}	8.0	mA
	それ以外のポート		8.0	
出力Lowレベル許容電流 (1端子あたりの最大値)	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7		8.0	
	それ以外のポート		8.0	
出力Lowレベル許容電流	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7の合計	ΣI _{OL}	30	
	P12~P17, P20, P21, P26~P27, P30~P32, P34~P37, PG7, PH2, PH3, PJ1の合計		30	
	P54, P55, PB0~PB7, PC2~PC7, PH0, PH1の合計		30	
	PA0~PA6, PD0~PD2, PE0~PE5の合計		30	
	全出力端子の総和		60	
出力Highレベル許容電流 (1端子あたりの平均値)	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7	I _{OH}	-4.0	
	それ以外のポート		-4.0	
出力Highレベル許容電流 (1端子あたりの最大値)	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7		-4.0	
	それ以外のポート		-4.0	
出力Highレベル許容電流	P03~P07, P40~P47, PJ6, PJ7の合計	ΣI _{OH}	-30	
	P12~P17, P20, P21, P26~P27, P30~P32, P34~P37, PG7, PH2, PH3, PJ1の合計		-30	
	P54, P55, PB0~PB7, PC2~PC7, PH0, PH1の合計		-30	
	PA0~PA6, PD0~PD2, PE0~PE5の合計		-30	
	全出力端子の総和		-60	

注. 許容総消費電流は超えないようにしてください。

表42.18 出力電圧値(1)

条件：1.8V ≤ VCC < 2.7V, 1.8V ≤ AVCC0 < 2.7V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	max	単位	測定条件	
出力Lowレベル	全出力端子(RIIC以外)	V _{OL}	—	0.3	V	I _{OL} = 1.0mA	
出力Highレベル	全出力端子	V _{OH}	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	AVCC0 - 0.3	—	V	I _{OH} = -0.5mA
	上記以外		VCC - 0.3	—			

表42.19 出力電圧値(2)

条件：2.7V ≤ VCC < 4.0V, 2.7V ≤ AVCC0 < 4.0V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	max	単位	測定条件	
出力Lowレベル	全出力端子(RIIC以外)	V _{OL}	—	0.5	V	I _{OL} = 2.0mA	
	RIIC端子		—	0.6		I _{OL} = 6.0mA	
出力Highレベル	全出力端子	V _{OH}	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	AVCC0 - 0.5	—	V	I _{OH} = -1.0mA
	上記以外		VCC - 0.5	—			

表42.20 出力電圧値(3)

条件：4.0V ≤ VCC ≤ 5.5V, 4.0V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	max	単位	測定条件	
出力Lowレベル	全出力端子(RIIC以外)	V _{OL}	—	0.8	V	I _{OL} = 4.0mA	
	RIIC端子		—	0.6		I _{OL} = 6.0mA	
出力Highレベル	全出力端子	V _{OH}	P03 ~ P07, P40 ~ P47, PJ6, PJ7	AVCC0 - 0.8	—	V	I _{OH} = -2.0mA
	上記以外		VCC - 0.8	—			

表42.21 熱抵抗値(参考値)

項目	パッケージ	記号	min	typ	max	単位	測定条件
熱抵抗	80ピンLFQFP (PLQP0080KB-B)	θ _{ja}	—	—	52.60	°C/W	JESD51-2およびJESD51-7準拠
	64ピンLFQFP (PLQP0064KB-C)		—	—	54.70		
	64ピンLQFP (PLQP0064GA-A)		—	—	54.30		
	48ピンLFQFP (PLQP0048KB-B)		—	—	63.50		
	48ピンHWQFN (PWQN0048KC-A)		—	—	21.20 (注1)		
	32ピンLQFP (PLQP0032GB-A)		—	—	62.20		
	32ピンHWQFN (PWQN0032KE-A)		—	—	23.60 (注1)		
	80ピンLFQFP (PLQP0080KB-B)	ψ _{jt}	—	—	1.54		
	64ピンLFQFP (PLQP0064KB-C)		—	—	2.29		
	64ピンLQFP (PLQP0064GA-A)		—	—	2.29		
	48ピンLFQFP (PLQP0048KB-B)		—	—	2.78		
	48ピンHWQFN (PWQN0048KC-A)		—	—	0.21 (注1)		
	32ピンLQFP (PLQP0032GB-A)		—	—	2.78		
	32ピンHWQFN (PWQN0032KE-A)		—	—	0.23 (注1)		

注. 数値は4層の実装ボードを想定した参考値です。熱抵抗は実装ボードの層数やサイズなどの環境に依存しますので、環境の詳細については、JEDEC規格を参照してください。

注1. exposed die padにVSSを接続したときの値です。

42.4 標準 I/O 端子出力特性

表 42.22 標準 I/O 端子 V_{OH} 電圧特性 (参考値)条件 : VCC = AVCC0 = 2.0V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
High レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OH}	—	VCC - 0.05	—	V	I _{OH} = -0.5mA
			—	VCC - 0.09	—		I _{OH} = -1.0mA
			—	VCC - 0.20	—		I _{OH} = -2.0mA
			—	VCC - 0.49	—		I _{OH} = -4.0mA

表 42.23 標準 I/O 端子 V_{OH} 電圧特性 (参考値)条件 : VCC = AVCC0 = 3.3V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
High レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OH}	—	VCC - 0.02	—	V	I _{OH} = -0.5mA
			—	VCC - 0.05	—		I _{OH} = -1.0mA
			—	VCC - 0.10	—		I _{OH} = -2.0mA
			—	VCC - 0.22	—		I _{OH} = -4.0mA

表 42.24 標準 I/O 端子 V_{OH} 電圧特性 (参考値)条件 : VCC = AVCC0 = 5.0V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
High レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OH}	—	VCC - 0.02	—	V	I _{OH} = -0.5mA
			—	VCC - 0.04	—		I _{OH} = -1.0mA
			—	VCC - 0.08	—		I _{OH} = -2.0mA
			—	VCC - 0.15	—		I _{OH} = -4.0mA

表 42.25 標準 I/O 端子 V_{OL} 電圧特性 (参考値)条件 : VCC = AVCC0 = 2.0V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
Low レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OL}	—	0.02	—	V	I _{OL} = 0.5mA
			—	0.04	—		I _{OL} = 1.0mA
			—	0.08	—		I _{OL} = 2.0mA
			—	0.17	—		I _{OL} = 4.0mA
			—	0.43	—		I _{OL} = 8.0mA

表 42.26 標準 I/O 端子 V_{OL} 電圧特性 (参考値)条件 : VCC = AVCC0 = 3.3V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
Low レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OL}	—	0.01	—	V	I _{OL} = 0.5mA
			—	0.02	—		I _{OL} = 1.0mA
			—	0.04	—		I _{OL} = 2.0mA
			—	0.08	—		I _{OL} = 4.0mA
			—	0.17	—		I _{OL} = 8.0mA

表 42.27 標準 I/O 端子 VOL 電圧特性 (参考値)

条件 : VCC = AVCC0 = 5.0V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = 25°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
Low レベル出力 電圧	全出力端子	V _{OL}	—	0.01	—	V	I _{OL} = 0.5mA
			—	0.01	—		I _{OL} = 1.0mA
			—	0.03	—		I _{OL} = 2.0mA
			—	0.06	—		I _{OL} = 4.0mA
			—	0.12	—		I _{OL} = 8.0mA

42.5 AC 特性

42.5.1 クロックタイミング

表 42.28 動作周波数 (高速動作モード)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位
最高動作周波数 (注4)	システムクロック (ICLK)	f	—	—	48	MHz
	FlashIFクロック (FCLK) (注1、注2)		—	—	48	
	周辺モジュールクロック (PCLKB)		—	—	32	
	周辺モジュールクロック (PCLKD) (注3)		—	—	48	

注1. フラッシュメモリP/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。

注2. FCLKの周波数精度は $\pm 3.5\%$ である必要があります。

注3. A/Dコンバータ使用時のPCLKDの下限周波数は1MHzです。

注4. 最高動作周波数には、HOCOの誤差、PLLジッタは含んでいません。「表42.35 HOCOクロックタイミング (ROM容量: 128Kバイト以上の製品)」、「表42.36 HOCOクロックタイミング (ROM容量: 64Kバイト以上の製品)」を参照してください。

表 42.29 動作周波数 (中速動作モード)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位
最高動作周波数 (注4)	システムクロック (ICLK)	f	—	—	24	MHz
	FlashIFクロック (FCLK) (注1、注2)		—	—	24	
	周辺モジュールクロック (PCLKB)		—	—	24	
	周辺モジュールクロック (PCLKD) (注3)		—	—	24	

注1. フラッシュメモリP/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。

注2. FCLKの周波数精度は $\pm 3.5\%$ である必要があります。

注3. A/Dコンバータ使用時のPCLKDの下限周波数は1MHzです。

注4. 最高動作周波数には、HOCOの誤差、PLLジッタは含んでいません。「表42.35 HOCOクロックタイミング (ROM容量: 128Kバイト以上の製品)」、「表42.36 HOCOクロックタイミング (ROM容量: 64Kバイト以上の製品)」を参照してください。

表 42.30 動作周波数 (中速動作モード2)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位
最高動作周波数	システムクロック (ICLK)	f	—	—	1	MHz
	FlashIFクロック (FCLK) (注1、注2)		—	—	1	
	周辺モジュールクロック (PCLKB)		—	—	1	
	周辺モジュールクロック (PCLKD) (注3)		—	—	1	

注1. フラッシュメモリP/E時、FCLKは1MHzです。

注2. FCLKの周波数精度は $\pm 3.5\%$ である必要があります。

注3. A/Dコンバータ使用時のPCLKDの周波数は1MHzです。

表42.31 動作周波数(低速動作モード)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位
最高動作周波数	システムクロック (ICLK)	—	—	32.768	kHz
	FlashIFクロック (FCLK) (注1)	—	—	32.768	
	周辺モジュールクロック (PCLKB)	—	—	32.768	
	周辺モジュールクロック (PCLKD) (注2)	—	—	32.768	

注1. フラッシュメモリのP/Eはできません。

注2. A/Dコンバータは使用できません。

表42.32 EXTERNALクロックタイミング

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
EXTAL外部クロック入力サイクル時間	t_{Xcyc}	50	—	—	ns	図42.14
EXTAL外部クロック入力Highパルス幅	t_{XH}	20	—	—	ns	
EXTAL外部クロック入力Lowパルス幅	t_{XL}	20	—	—	ns	
EXTAL外部クロック立ち上がり時間	t_{Xr}	—	—	5	ns	
EXTAL外部クロック立ち下がり時間	t_{Xf}	—	—	5	ns	
EXTAL外部クロック入力待機時間(注1)	t_{XWT}	0.5	—	—	μs	

注1. メインクロック発振器停止ビット(MOSCCR.MOSTP)を“0”(動作)にしてから、使用できるまでの時間です。

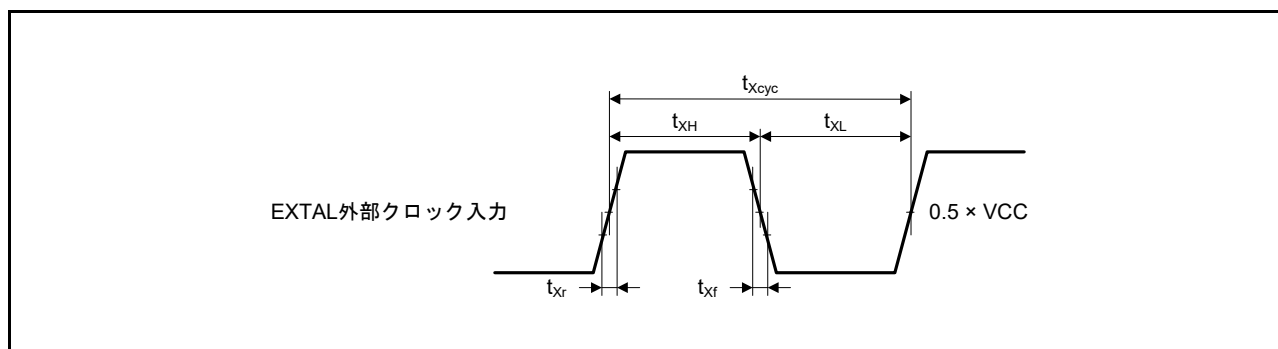


図42.14 EXTERNAL外部クロック入力タイミング

表 42.33 メインクロックタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
メインクロック発振器発振周波数	f _{MAIN}	1	—	20	MHz	
メインクロック発振安定時間(水晶振動子)(注1)	t _{MAINOSC}	—	3	—	ms	図 42.15
メインクロック発振安定時間(セラミック共振子)(注1)	t _{MAINOSC}	—	50	—	μs	

注1. 8MHzの発振子を使用した場合の参考値です。

メインクロック発振安定時間は、発振子メーカーが推奨する安定時間以上の値をMOSCWTCRレジスタに設定してください。
MOSCCR.MOSTPビットでメインクロック発振器を動作設定に変更後、OSCOVFSR.MOOVFフラグが“1”になっていることを確認してから、メインクロックの使用を開始してください。

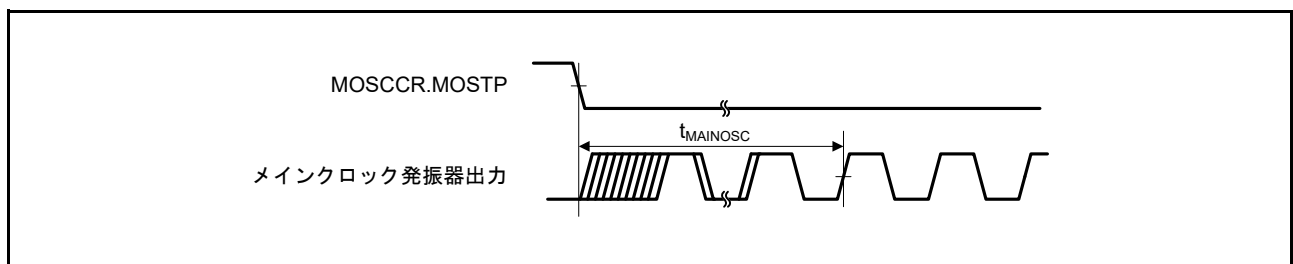


図 42.15 メインクロック発振開始タイミング

表 42.34 LOCO, IWDT専用低速クロックタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
LOCOクロック発振周波数	f _{LOCO}	3.44	4.0	4.56	MHz	
LOCOクロック発振周波数誤差	Δf _{LOCO}	—	—	±14	%	
LOCOクロック発振安定時間	t _{LOCO}	—	—	0.5	μs	図 42.16
IWDT専用クロック発振周波数	f _{ILOCO}	12.75	15	17.25	kHz	
IWDT専用クロック発振周波数誤差	Δf _{ILOCO}	—	—	±15	%	
IWDT専用クロック発振安定時間	t _{ILOCO}	—	—	80	μs	図 42.17

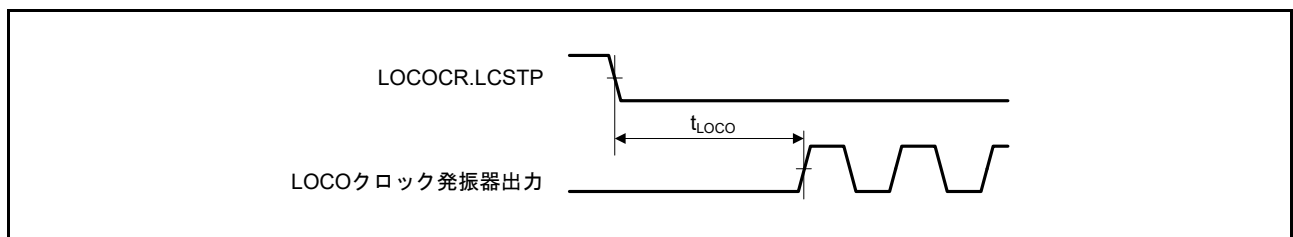


図 42.16 LOCO クロック発振開始タイミング

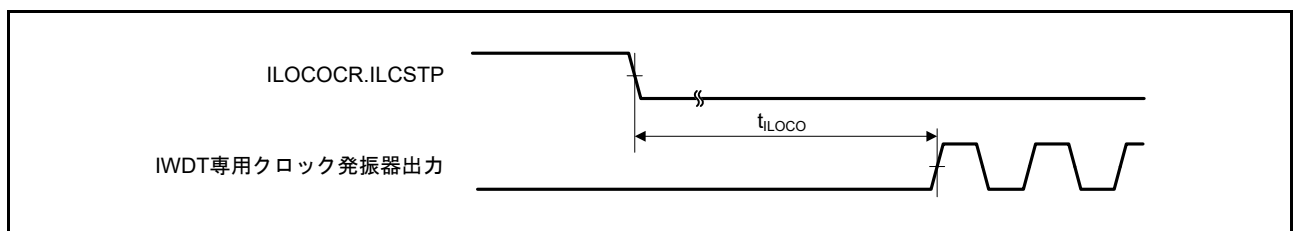


図 42.17 IWDT専用クロック発振開始タイミング

表42.35 HOCOクロックタイミング (ROM容量 : 128Kバイト以上の製品)
 条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
HOCO発振周波数 (注1)	f_{HOCO}	23.76	24	24.24	MHz	$T_a = -40 \sim +105^\circ C$
		31.68	32	32.32		
		47.52	48	48.48		
HOCO発振周波数誤差 (注1)	Δf_{HOCO}	—	—	± 1.0	%	$T_a = -40 \sim +105^\circ C$
HOCOクロック発振安定時間	t_{HOCO}	—	—	4.95	μs	図42.19

注1. 出荷テスト時の精度です。

表42.36 HOCOクロックタイミング (ROM容量 : 64Kバイト以上の製品)
 条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件	
HOCO発振周波数 (注1)	f_{HOCO}	23.64	24	24.36	MHz	$T_a = -40 \sim -20^\circ C$	
		23.76		24.24		$T_a = -20 \sim +85^\circ C$	
		23.52		24.48		$T_a = +85 \sim +105^\circ C$	
	f_{HOCO}	31.52	32	32.48	MHz	$T_a = -40 \sim -20^\circ C$	
				31.68		32.32	$T_a = -20 \sim +85^\circ C$
				31.36		32.64	$T_a = +85 \sim +105^\circ C$
	f_{HOCO}	47.28	48	48.72	MHz	$T_a = -40 \sim -20^\circ C$	
				47.52		48.48	$T_a = -20 \sim +85^\circ C$
				47.04		48.96	$T_a = +85 \sim +105^\circ C$
HOCO発振周波数誤差 (注1)	Δf_{HOCO}	—	—	± 1.5	%	$T_a = -40 \sim -20^\circ C$	
		—	—	± 1.0		$T_a = -20 \sim +85^\circ C$	
		—	—	± 2.0		$T_a = +85 \sim +105^\circ C$	
HOCOクロック発振安定時間	t_{HOCO}	—	—	4.95	μs	図42.19	

注1. 出荷テスト時の精度です。

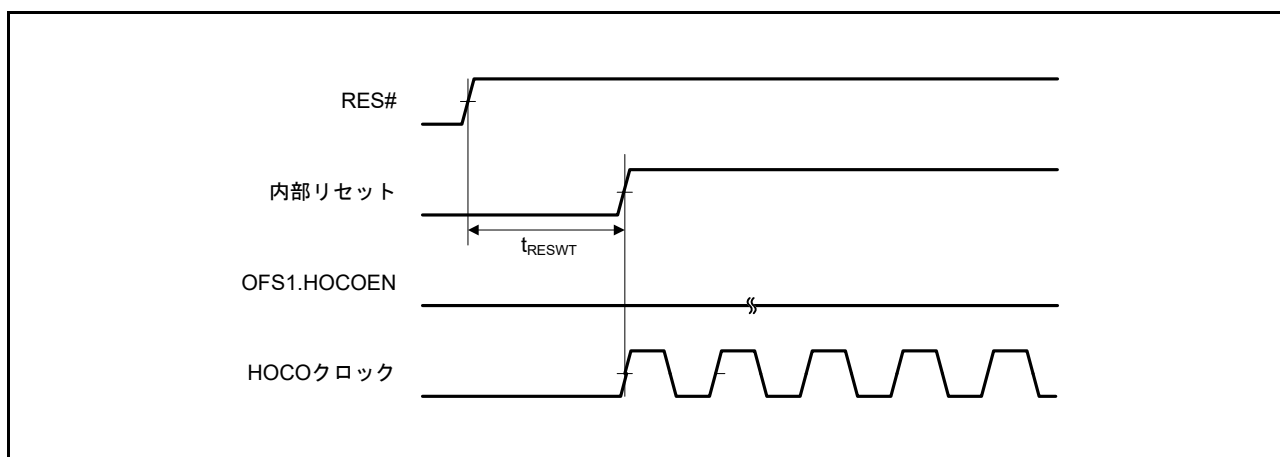


図 42.18 HOCO クロック発振開始タイミング (OFS1.HOCOEN ビット“0”設定時のリセット解除後)

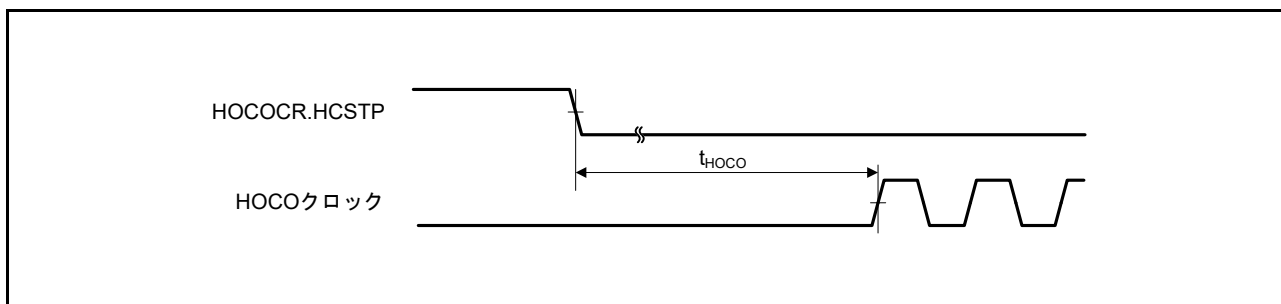


図 42.19 HOCO クロック発振開始タイミング (HOCOCR.HCSTP ビット設定による発振開始)

表 42.37 PLL クロックタイミング

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
PLL 入力周波数	f_{PLLIN}	4	—	12	MHz	
PLL クロック発振周波数	f_{PLL}	24	—	48	MHz	
PLL クロック発振安定時間	t_{PLL}	—	—	81.4	μs	図 42.20
PLL 自励発振周波数	f_{PLLFR}	—	9	—	MHz	

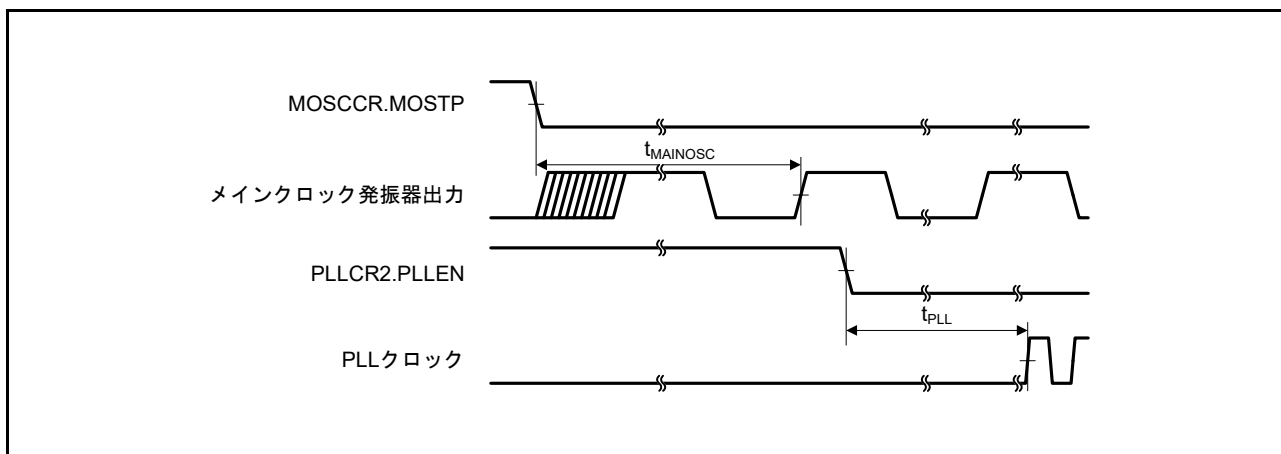


図 42.20 PLL クロック発振開始タイミング (メインクロック発振安定後に PLL を動作させたとき)

表42.38 サブクロックタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
サブクロック発振器発振周波数(注2)	f _{SUB}	—	32.768	—	kHz	
サブクロック発振安定時間(注1)	t _{SUBOSC}	—	0.5	—	s	図42.21

注1. 32.768kHzの発振子を使用した参考値です。

SOSCCR.SOSTPビットでサブクロック発振器を動作設定に変更後、サブクロック発振安定時間として発振子メーカーが推奨する安定時間以上の時間が経過した後、サブクロックの使用を開始してください。

注2. 32.768kHzのみ使用可能です。

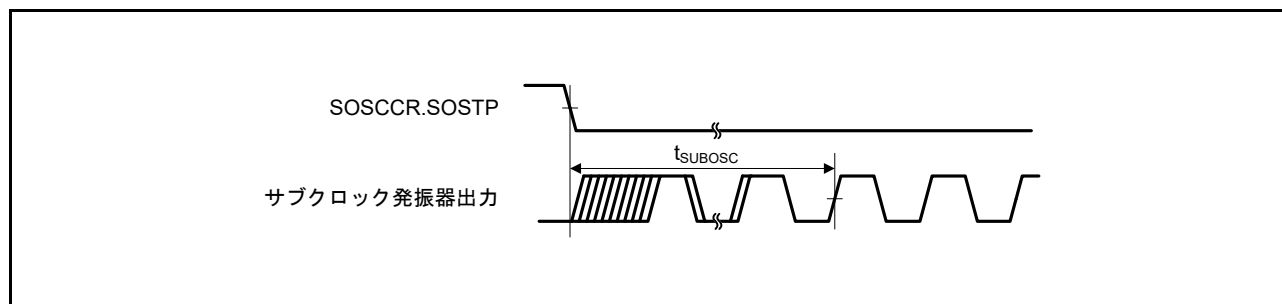


図 42.21 サブクロック発振開始タイミング

42.5.2 リセットタイミング

表42.39 リセットタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
RES#パルス幅	電源投入時	t _{RESWP}	10.5	—	—	ms	図42.22
	上記以外	t _{RESW}	30	—	—	μs	図42.23
RES#解除後待機時間(電源投入時)	通常起動時(注1)	t _{RESWT}	—	8.5	—	ms	図42.22
	起動時間短縮時(注2)	t _{RESWT}	—	850	—	μs	
RES#解除後待機時間(電源立ち上がった状態)	LVD0無効時(注3)	t _{RESWT}	—	120	—	μs	図42.23
	LVD0有効時(注4)		—	850	—	μs	
内部リセット時間(独立ウォッチドックタイマリセット、ソフトウェアリセット)	LVD0無効時(注3)	t _{RESWT2}	—	190	—	μs	
	LVD0有効時(注4)		—	890	—	μs	

注1. OFS1.(LVDAS, FASTSTUP) = 11bを設定した場合です。

注2. OFS1.(LVDAS, FASTSTUP) = 11b以外を設定した場合です。

注3. OFS1.LVDAS = 1bを設定した場合です。

注4. OFS1.LVDAS = 0bを設定した場合です。

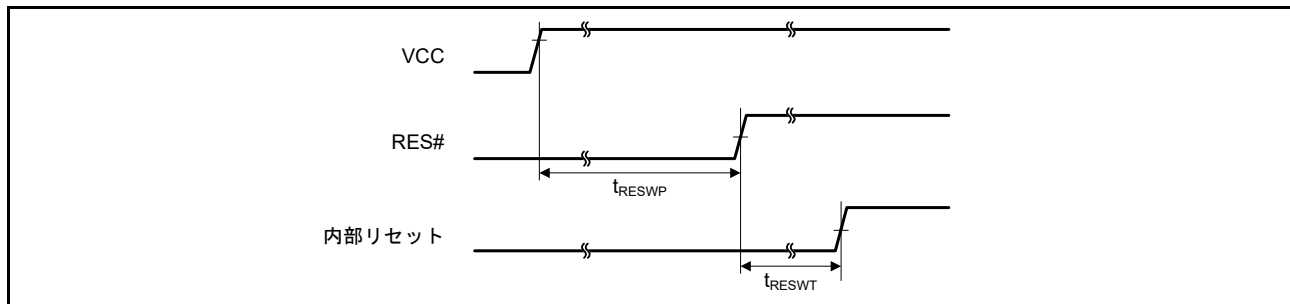


図 42.22 電源投入時リセット入力タイミング

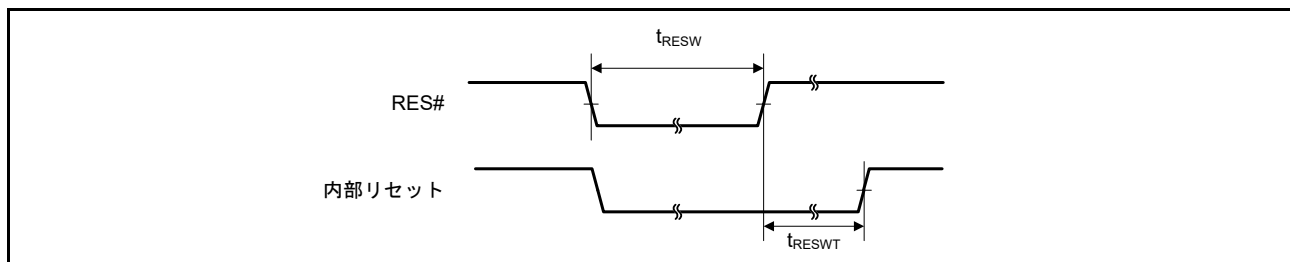


図 42.23 リセット入力タイミング (1)

42.5.3 低消費電力状態からの復帰タイミング

表42.40 低消費電力状態からの復帰タイミング(1)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目				記号	min	typ	max	単位	測定条件
発振安定待機時間(注1)	高速動作モード/ 中速動作モード	メインクロック 発振器動作	メインクロック発振器 動作	t _{SBYOSCWTMC}	—	—	t _{LOCO} + (16 + MOSCWTCR 設定のサイク ル数) / f _{LOCO} + 2 / f _{MOSC} + 1 / f _{ICLK}	μs	
			メインクロック発振 器、PLL回路動作	t _{SBYOSCWTPC}	—	—	t _{LOCO} + (288 + MOSCWTCR 設定のサイク ル数) / f _{LOCO} + 2 / f _{PLL} + 1 / f _{ICLK}		
		サブクロック発振器動作		t _{SBYOSCWTSC}	—	—	3 / f _{SOSC} + 1 / f _{ICLK}		
		高速オンチップオシレータ動作		t _{SBYOSCWTHO}	—	—	t _{LOCO} + 16 / f _{LOCO} + 2 / f _{HOCO} + 1 / f _{ICLK}		
		低速オンチップオシレータ動作		t _{SBYOSCWTLO}	—	—	t _{LOCO} + 1 / f _{ICLK}		
ソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間(注2)				t _{SBYSEQ}	—	—	4 / f _{LOCO} + 11 / f _{ICLK} + 3 / f _{PCLKB} + 3n / f _{ソース クロック}		
ソフトウェア スタンバイ モード解除後 復帰時間 (注3)	高速動作 モード/ 中速動作 モード	メイン クロック 発振器動作	メインクロック発振器 動作	t _{SBYMC}	—	—	t _{SBYOSCWTMC} + t _{SBYSEQ}		図 42.24
			メインクロック発振 器、PLL回路動作	t _{SBYPC}	—	—	t _{SBYOSCWTPC} + t _{SBYSEQ}		
		サブクロック発振器動作		t _{SBYSC}	—	—	t _{SBYOSCWTSC} + t _{SBYSEQ}		
		高速オンチップオシレータ動作		t _{SBYHO}	—	—	t _{SBYOSCWTHO} + t _{SBYSEQ}		
		低速オンチップオシレータ動作		t _{SBYLO}	—	—	t _{SBYOSCWTLO} + t _{SBYSEQ}		

注1. ソフトウェアスタンバイモード移行前に複数の発振器が動作している場合、発振安定待機時間は動作している発振器の内、最も大きな値が選択されます。

注2. nは内部クロックの分周設定の内、最も大きな値が選択されます。

注3. ソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間は、発振安定待機時間とソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間の加算値で決まります。

表42.41 低消費電力状態からの復帰タイミング(2)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目			記号	min	typ	max	単位	測定条件
発振安定待機時間(注1)	中速動作モード2	メインクロック発振器、PLL回路動作	t _{SBYOSCWTPC}	—	—	t _{LOCO} + (288 + MOSCWTCR 設定のサイクル数) / f _{LOCO} + 2 / f _{PLL} + 1 / f _{ICLK}	μs	
		サブクロック発振器動作	t _{SBYOSCWTSC}	—	—	3 / f _{SOSC} + 1 / f _{ICLK}		
		高速オンチップオシレータ動作	t _{SBYOSCWTHO}	—	—	t _{LOCO} + 16 / f _{LOCO} + 2 / f _{HOCO} + 1 / f _{ICLK}		
		低速オンチップオシレータ動作	t _{SBYOSCWTLO}	—	—	t _{LOCO} + 1 / f _{ICLK}		
ソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間(注2)			t _{SBYSEQ}	—	—	9 / f _{ICLK} + 3 / f _{PCLKB} + 3n / f _{ソースクロック}		
ソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間(注3)	中速動作モード2	メインクロック発振器、PLL回路動作	t _{SBYPC}	—	—	t _{SBYOSCWTPC} + t _{SBYSEQ}		図 42.24
		サブクロック発振器動作	t _{SBYSC}	—	—	t _{SBYOSCWTSC} + t _{SBYSEQ}		
		高速オンチップオシレータ動作	t _{SBYHO}	—	—	t _{SBYOSCWTHO} + t _{SBYSEQ}		
		低速オンチップオシレータ動作	t _{SBYLO}	—	—	t _{SBYOSCWTLO} + t _{SBYSEQ}		

注1. ソフトウェアスタンバイモード移行前に複数の発振器が動作している場合、発振安定待機時間は動作している発振器の内、最も大きな値が選択されます。

注2. nは内部クロックの分周設定の内、最も大きな値が選択されます。

注3. ソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間は、発振安定待機時間とソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間の加算値で決まります。

表 42.42 低消費電力状態からの復帰タイミング(3)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目			記号	min	typ	max	単位	測定条件
発振安定待機時間	低速動作モード	サブクロック発振器動作	t _{SBYOSCWTSC}	—	—	$3 / f_{SOSC} + 1 / f_{ICLK}$	μs	
ソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間(注1)			t _{SBYSEQ}	—	—	$9 / f_{ICLK} + 3 / f_{PCLKB} + 3n / f_{ソースクロック}$		
ソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間(注2)	低速動作モード	サブクロック発振器動作	t _{SBYSC}	—	—	t _{SBYOSCWTSC} + t _{SBYSEQ}		図 42.24

注1. nは内部クロックの分周設定の内、最も大きな値が選択されます。

注2. ソフトウェアスタンバイモード解除後復帰時間は、発振安定待機時間とソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間の加算値で決まります。

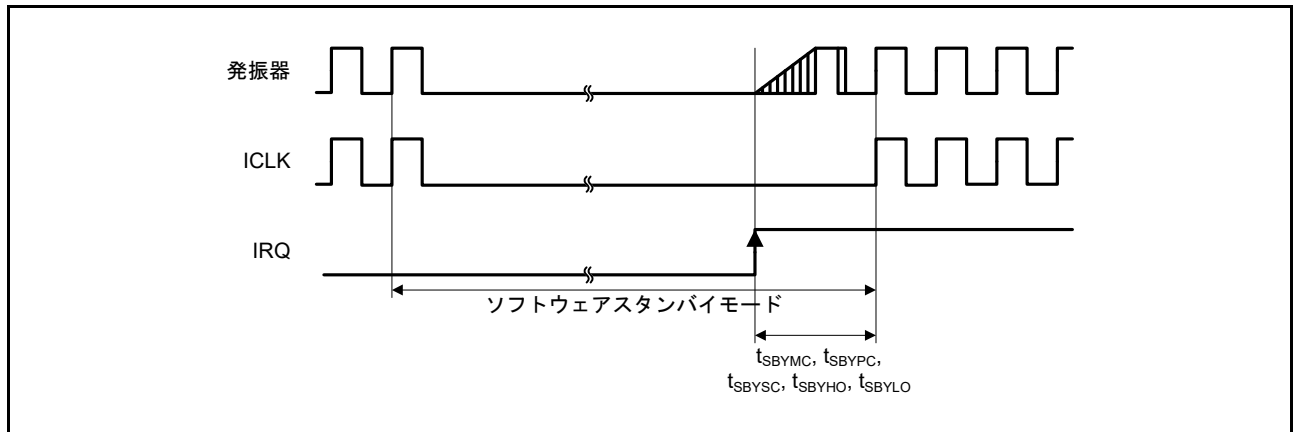


図 42.24 ソフトウェアスタンバイモード復帰タイミング

表 42.43 低消費電力状態からの復帰タイミング(4)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目			記号	min	typ	max	単位	測定条件
発振安定待機時間(注1)	メインクロック発振器動作	メインクロック発振器動作	$t_{SBYOSCWTMC}$	—	—	$t_{LOCO} + (16 + MOSCWTCR \text{ 設定のサイクル数}) / f_{LOCO} + 2 / f_{MOSC} + 1 / f_{ICLK}$	μs	
		メインクロック発振器、PLL回路動作	$t_{SBYOSCWTPC}$	—	—	$t_{LOCO} + (288 + MOSCWTCR \text{ 設定のサイクル数}) / f_{LOCO} + 2 / f_{PLL} + 1 / f_{ICLK}$		
	サブクロック発振器動作		$t_{SBYOSCWTSC}$	—	—	$3 / f_{SOSC} + 1 / f_{ICLK}$		
	高速オンチップオシレータ動作		$t_{SBYOSCWTTHO}$	—	—	$t_{LOCO} + 16 / f_{LOCO} + 2 / f_{HOCO} + 1 / f_{ICLK}$		
	低速オンチップオシレータ動作		$t_{SBYOSCWTLO}$	—	—	$t_{LOCO} + 1 / f_{ICLK}$		
ソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間(注2)			t_{SBYSEQ}	—	—	$3 / f_{ICLK} + 2n / f_{ソースクロック}$		
ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの遷移時間(注3)	メインクロック発振器動作	メインクロック発振器動作	t_{SNZMC}	—	—	$t_{SBYOSCWTMC} + t_{SBYSEQ}$		図 42.25
		メインクロック発振器、PLL回路動作	t_{SNZPC}	—	—	$t_{SBYOSCWTPC} + t_{SBYSEQ}$		
	サブクロック発振器動作		t_{SNZSC}	—	—	$t_{SBYOSCWTSC} + t_{SBYSEQ}$		
	高速オンチップオシレータ動作		t_{SNZH0}	—	—	$t_{SBYOSCWTTHO} + t_{SBYSEQ}$		
	低速オンチップオシレータ動作		t_{SNZLO}	—	—	$t_{SBYOSCWTLO} + t_{SBYSEQ}$		

注1. ソフトウェアスタンバイモード移行前に複数の発振器が動作している場合、発振安定待機時間は動作している発振器の内、最も大きな値が選択されます。

注2. nは内部クロックの分周設定の内、最も大きな値が選択されます。

注3. ソフトウェアスタンバイモードからスヌーズモードへの遷移時間は、発振安定待機時間とソフトウェアスタンバイモード解除シーケンサ動作時間の加算値で決まります。

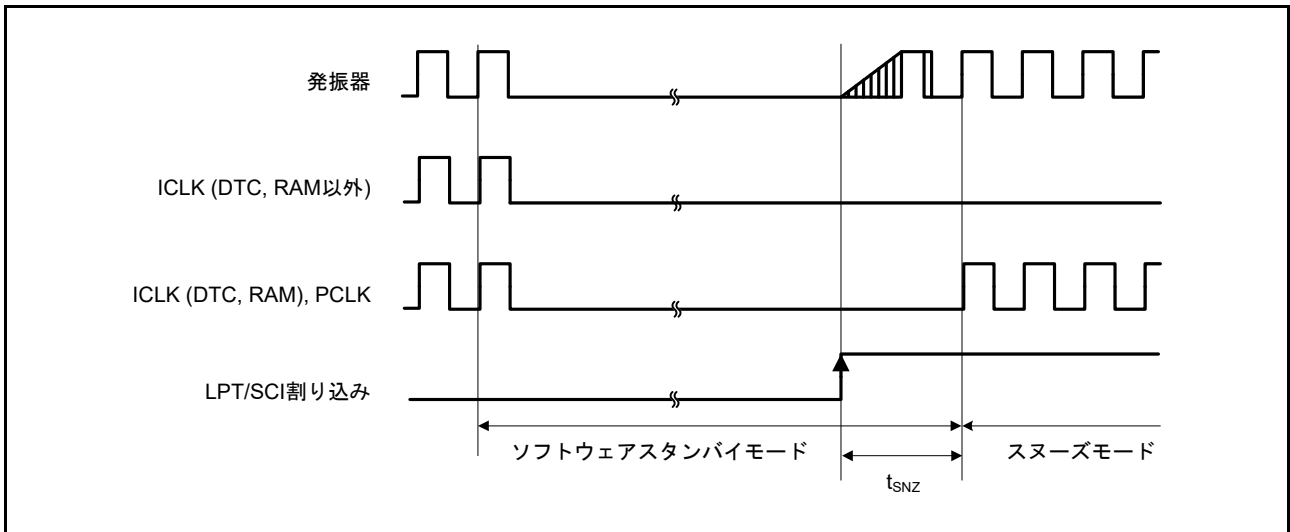


図 42.25 ソフトウェアスタンバイモードからスリープモードへの遷移タイミング

表 42.44 低消費電力状態からの復帰タイミング(5)

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max (注2)	単位	測定条件
ディープスリープモード解除後復帰時間(注1)	高速動作モード	$t_{DSL P}$	—	—	$4 / f_{L O C O} + 8 / f_{I C L K} + 2 / f_{P C L K B} + 3n / f_{ソースクロック}$	μs	図 42.26
	中速動作モード				$4 / f_{L O C O} + 8 / f_{I C L K} + 2 / f_{P C L K B} + 3n / f_{ソースクロック}$		
	中速動作モード2				$6 / f_{I C L K} + 2 / f_{P C L K B} + 3n / f_{ソースクロック}$		
	低速動作モード				$6 / f_{I C L K} + 2 / f_{P C L K B} + 3n / f_{ソースクロック}$		

注1. ディープスリープモードでは発振器は発振を継続します。

注2. nは内部クロックの分周設定の内、最も大きな値が選択されます。

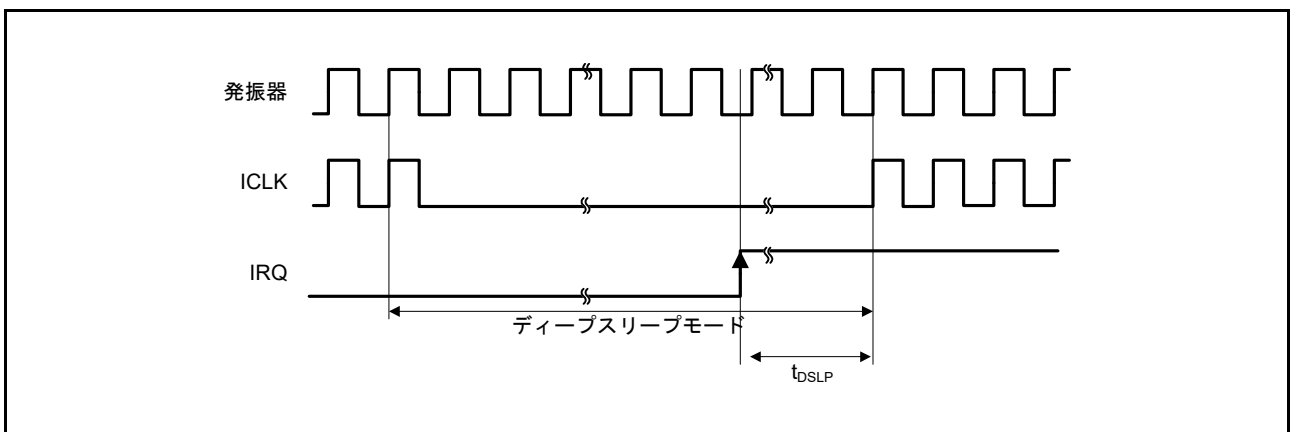


図 42.26 ディープスリープモード解除タイミング

表 42.45 動作モード遷移時間

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

遷移前モード	遷移後モード	ICLK周波数	遷移時間			単位
			min	typ	max	
高速動作モード	中速動作モード	24MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	μs
	中速動作モード2	1MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	低速動作モード	32.768kHz	—	$3 / f_{ICLK} + 2 / f_{FCLK}$	—	
中速動作モード	高速動作モード	24MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	中速動作モード2	1MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	低速動作モード	32.768kHz	—	$3 / f_{ICLK} + 2 / f_{FCLK}$	—	
中速動作モード2	高速動作モード	1MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	中速動作モード	1MHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	低速動作モード	32.768kHz	—	$3 / f_{ICLK} + 2 / f_{FCLK}$	—	
低速動作モード	高速動作モード	32.768kHz	—	$5 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	中速動作モード	32.768kHz	—	$3 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	
	中速動作モード2	32.768kHz	—	$3 / f_{ICLK} + 3 / f_{FCLK}$	—	

42.5.4 制御信号タイミング

表42.46 制御信号タイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件	
NMIパルス幅	t _{NMIW}	200	—	—	ns	NMI デジタルフィルタ無効設定時 (NMIFLTE.NFLTEN = 0)	t _{Pcyc} × 2 ≤ 200ns
		t _{Pcyc} × 2 (注1)	—	—			t _{Pcyc} × 2 > 200ns
		200	—	—		NMI デジタルフィルタ有効設定時 (NMIFLTE.NFLTEN = 1)	t _{NMICK} × 3 ≤ 200ns
		t _{NMICK} × 3.5 (注2)	—	—			t _{NMICK} × 3 > 200ns
IRQパルス幅	t _{IRQW}	200	—	—	ns	IRQ デジタルフィルタ無効設定時 (IRQFLTE0.FLTENi = 0)	t _{Pcyc} × 2 ≤ 200ns
		t _{Pcyc} × 2 (注1)	—	—			t _{Pcyc} × 2 > 200ns
		200	—	—		IRQ デジタルフィルタ有効設定時 (IRQFLTE0.FLTENi = 1)	t _{IRQCK} × 3 ≤ 200ns
		t _{IRQCK} × 3.5 (注3)	—	—			t _{IRQCK} × 3 > 200ns

注. ソフトウェアスタンバイモード時は最小200nsです。

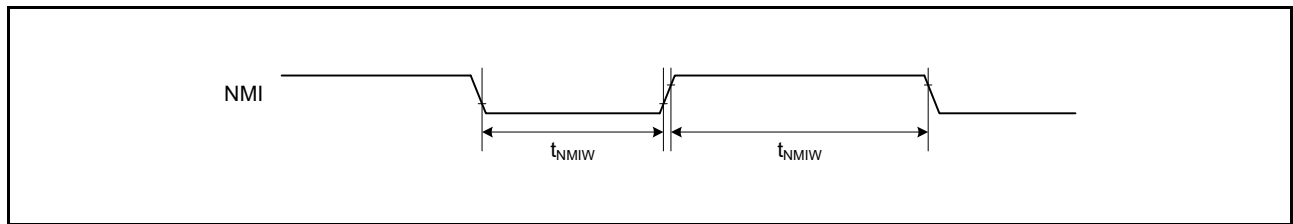
注1. t_{Pcyc}はPCLKBの周期を指します。注2. t_{NMICK}はNMIデジタルフィルタサンプリングクロックの周期です。注3. t_{IRQCK}はIRQ_iデジタルフィルタサンプリングクロック(i = 0~7)の周期を指します。

図 42.27 NMI 割り込み入力タイミング

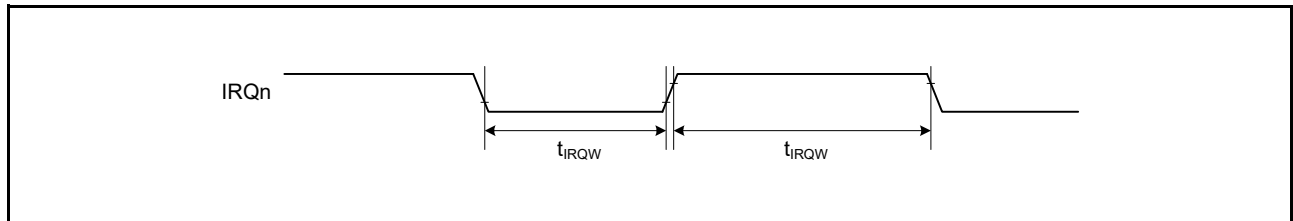


図 42.28 IRQ 割り込み入力タイミング

42.5.5 内蔵周辺モジュールタイミング

42.5.5.1 I/Oポート

表42.47 I/Oポートタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件
I/Oポート	入力データパルス幅	t _{PRW}	1.5	—	t _{Pcyc}	図42.29

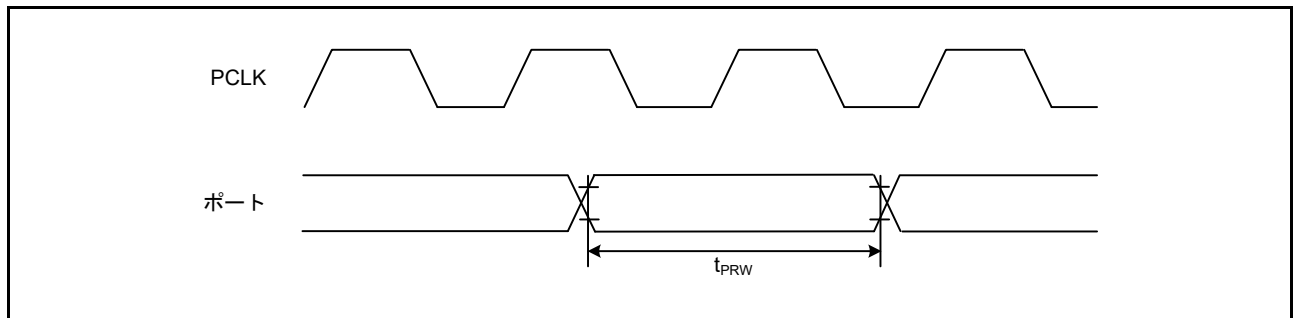
注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

図 42.29 I/Oポート入力タイミング

42.5.5.2 MTU2

表42.48 MTU2タイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件	
MTU2	インプットキャプチャ入力 パルス幅	単エッジ指定	t _{TICW}	1.5	—	t _{Pcyc}	図42.30
		両エッジ指定		2.5	—		
	インプットキャプチャ入力 立ち上がり/立ち下がり時間		t _{TICr} t _{TICf}	—	0.1	μs/V	
	タイマクロックパルス幅	単エッジ指定	t _{TCKWH} t _{TCKWL}	1.5	—	t _{Pcyc}	図42.31
両エッジ指定		2.5		—			
位相係数モード		2.5		—			
タイマクロック立ち上がり/立ち下がり時間		t _{TCKr} t _{TCKf}	—	0.1	μs/V		

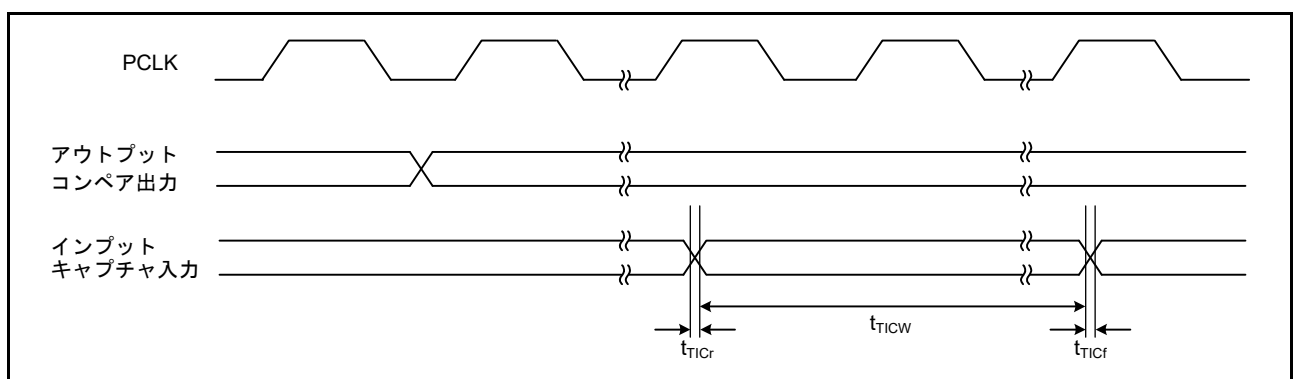
注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

図 42.30 MTU2 入出力タイミング

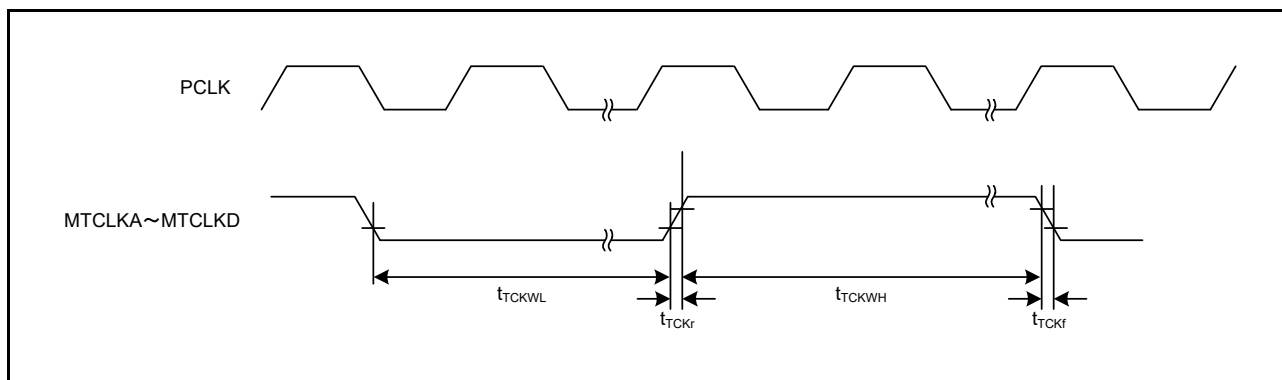


図 42.31 MTU2 クロック入力タイミング

42.5.5.3 POE2

表 42.49 POE2 タイミング

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

出力負荷条件 : $V_{OH} = 0.7 \times VCC$, $V_{OL} = 0.3 \times VCC$, $C = 30pF$

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件	
POE2	POE#入力パルス幅	t_{POEW}	1.5	—	t_{Pcyc}	図 42.32	
	POE#入力立ち上がり/立ち下がり時間	$t_{POE\uparrow}$ $t_{POE\downarrow}$	—	0.1	$\mu s/V$		
	出力ディセーブル時間	POE#端子の変化	t_{POEDI}	—	$5t_{Pcyc} + 0.24$	μs	図 42.33 立ち下がりエッジ検出時 (ICSRm.POE _n M[3:0] = 0000 (m = 1, 2; n = 0, 1, 2, 3, 8))
		出力端子の短絡	t_{POEDO}	—	$3t_{Pcyc} + 0.2$		図 42.34
		レジスタ設定	t_{POEDS}	—	$1t_{Pcyc} + 0.2$		図 42.35 レジスタアクセス時間は除く
発振停止検出		t_{POEDOS}	—	21		図 42.36	

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

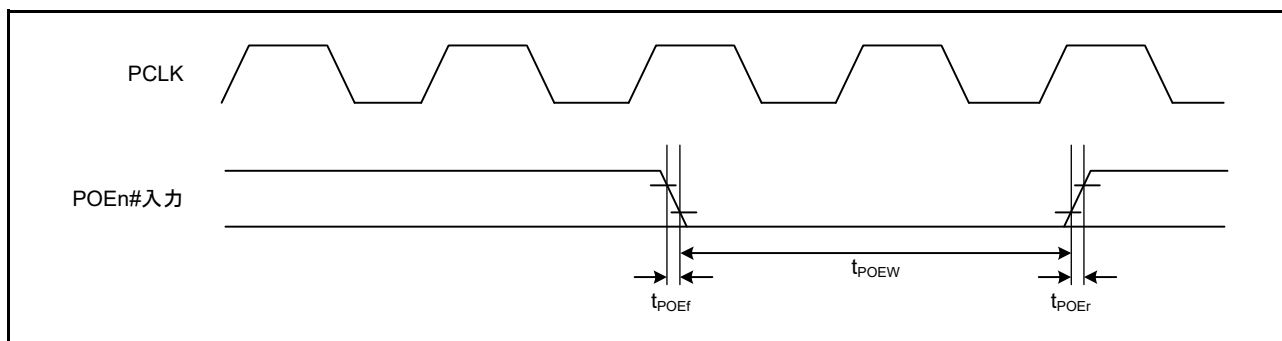


図 42.32 POE# 入力タイミング

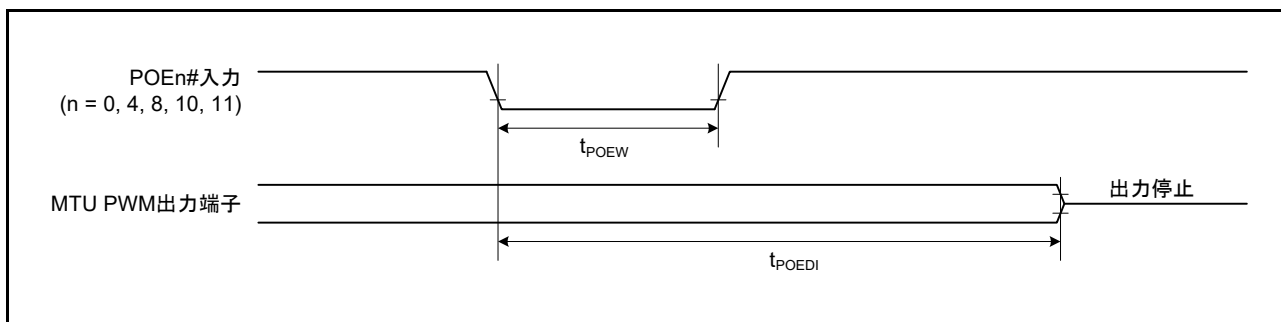


図 42.33 POE 出力ディセーブル時間 (POEn# 端子の変化)

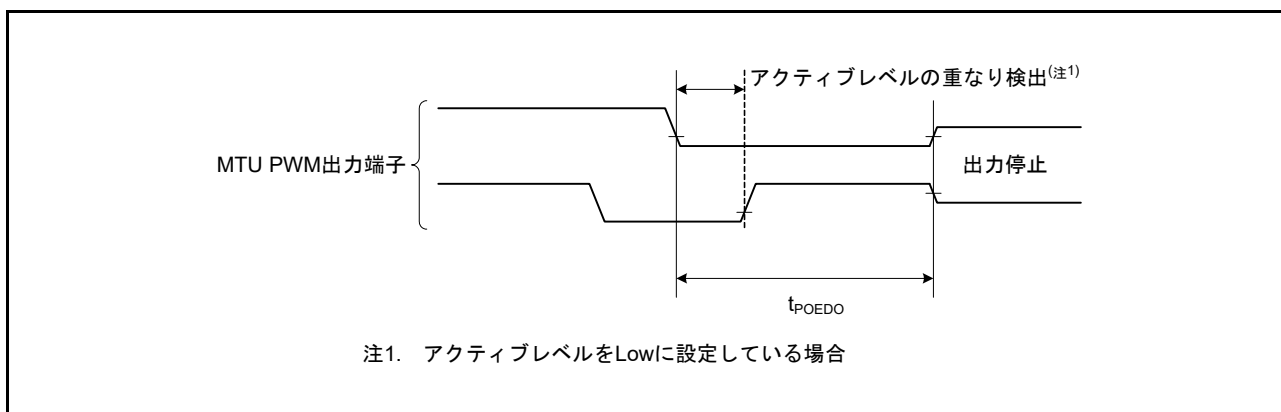


図 42.34 POE 出力ディセーブル時間 (出力端子の短絡)

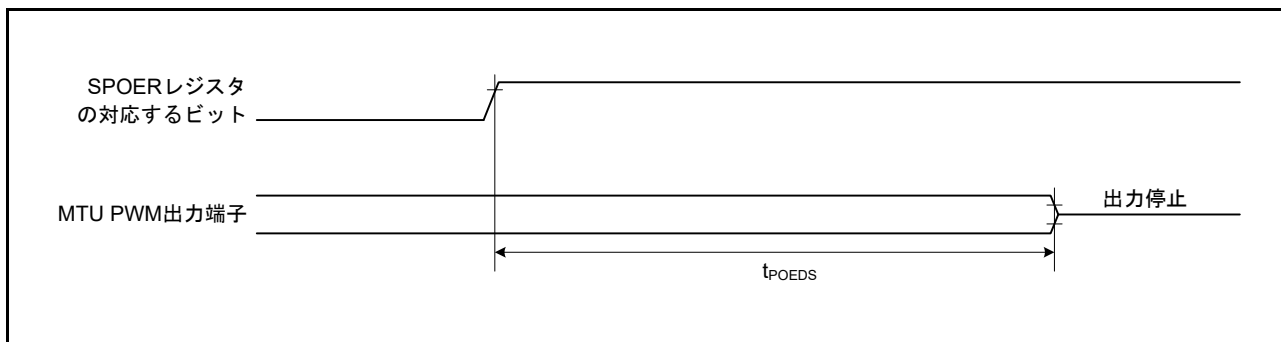


図 42.35 POE 出力ディセーブル時間 (レジスタ設定)

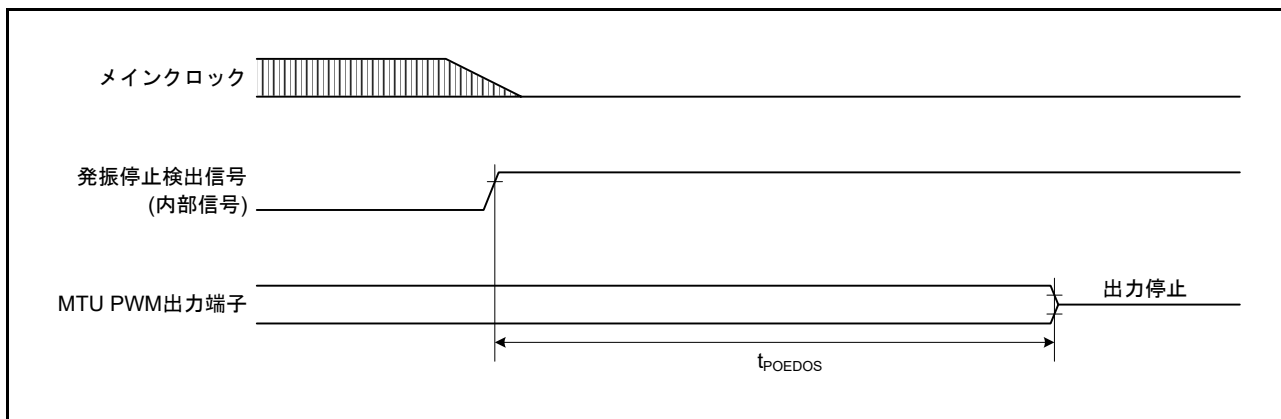


図 42.36 POE 出力ディセーブル時間 (発振停止検出)

42.5.5.4 TMR

表42.50 TMRタイミング

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

出力負荷条件 : $V_{OH} = 0.7 \times VCC$, $V_{OL} = 0.3 \times VCC$, $C = 30pF$

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件
TMR	タイマクロックパルス幅	単エッジ指定	t_{TMCWH}	1.5	—	t_{Pcyc} 図42.37
		両エッジ指定	t_{TMCWL}	2.5	—	
	タイマクロック立ち上がり/立ち下がり時間	t_{TMCr} t_{TMcf}	—	0.1	$\mu s/V$	

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

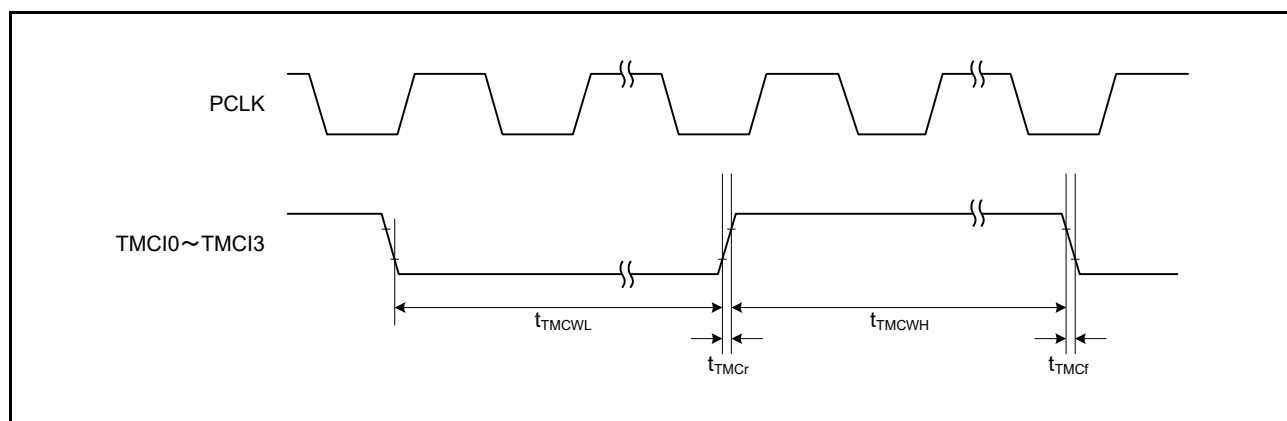


図 42.37 TMR クロック入力タイミング

42.5.5.5 SCI

表42.51 SCIタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

出力負荷条件：V_{OH} = 0.5 × VCC, V_{OL} = 0.5 × VCC, C = 30pF

項目				記号	min	max	単位 (注1)	測定条件		
SCI (チャンネル 1,5)	入力クロックサイクル時間		調歩同期	t _{Scyc}	4	—	t _{Pcyc}	図 42.38		
			クロック同期		6	—				
	入力クロックパルス幅			t _{SCKW}	0.4	0.6	t _{Scyc}			
	入力クロック立ち上がり時間			t _{SCKr}	—	20	ns			
	入力クロック立ち下がり時間			t _{SCKf}	—	20	ns			
	出カクロック サイクル時間	調歩同期		t _{Scyc}	6	—	t _{Pcyc}	図 42.39		
		クロック同期	2.4V ≤ VCC ≤ 5.5V		4	—				
			1.8V ≤ VCC < 2.4V		24MHz < PCLKB ≤ 32MHz				8	—
					PCLKB ≤ 24MHz				4	—
	出カクロックパルス幅			t _{SCKW}	0.4	0.6	t _{Scyc}			
	出カクロック立ち上がり時間			t _{SCKr}	—	20	ns			
	出カクロック立ち下がり時間			t _{SCKf}	—	20	ns			
	送信データ遅延時間(マスタ)		クロック同期	t _{TXD}	—	40	ns			
	送信データ遅延時間(スレーブ)	クロック同期	2.7V以上		—	55	ns			
2.4V以上			—		60	ns				
		1.8V以上	—	100	ns					
受信データセットアップ時間 (マスタ)	クロック同期	2.7V以上	t _{RXS}	45	—	ns				
		2.4V以上		55	—	ns				
		1.8V以上		90	—	ns				
受信データセットアップ時間 (スレーブ)		クロック同期	t _{RXS}	40	—	ns				
受信データホールド時間		クロック同期	t _{RXH}	40	—	ns				
SCI (チャンネル 6,8,9,12)	入力クロックサイクル時間		調歩同期	t _{Scyc}	4	—	t _{Pcyc}	図 42.38		
			クロック同期		6	—				
	入力クロックパルス幅			t _{SCKW}	0.4	0.6	t _{Scyc}			
	入力クロック立ち上がり時間			t _{SCKr}	—	20	ns			
	入力クロック立ち下がり時間			t _{SCKf}	—	20	ns			
	出カクロック サイクル時間	調歩同期		t _{Scyc}	8	—	t _{Pcyc}	図 42.39		
		クロック同期	2.4V ≤ VCC ≤ 5.5V		4	—				
			1.8V ≤ VCC < 2.4V		24MHz < PCLKB ≤ 32MHz				8	—
					PCLKB ≤ 24MHz				4	—
	出カクロックパルス幅			t _{SCKW}	0.4	0.6	t _{Scyc}			
	出カクロック立ち上がり時間			t _{SCKr}	—	20	ns			
	出カクロック立ち下がり時間			t _{SCKf}	—	20	ns			
	送信データ遅延時間(マスタ)		クロック同期	t _{TXD}	—	40	ns			
	送信データ遅延時間(スレーブ)	クロック同期	2.7V以上		—	65	ns			
1.8V以上			—		100	ns				
受信データセットアップ時間 (マスタ)	クロック同期	2.7V以上	t _{RXS}	65	—	ns				
		1.8V以上		90	—	ns				
		受信データセットアップ時間 (スレーブ)		クロック同期	t _{RXS}	40	—		ns	
受信データホールド時間		クロック同期	t _{RXH}	40	—	ns				

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

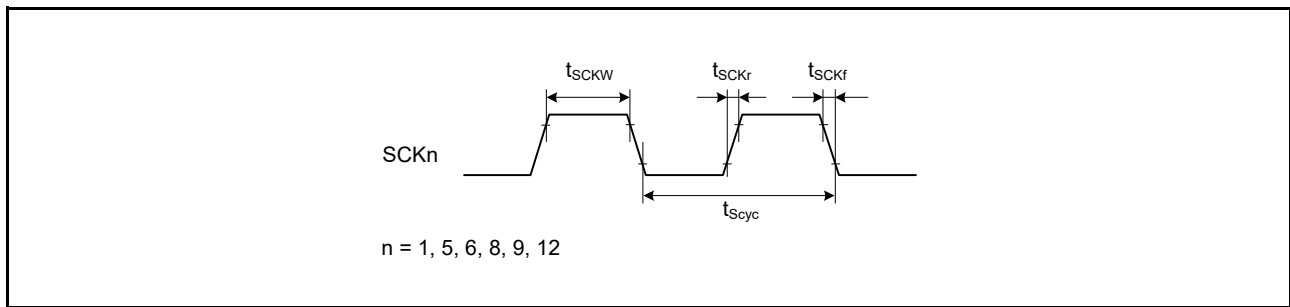


図 42.38 SCK クロック入力タイミング

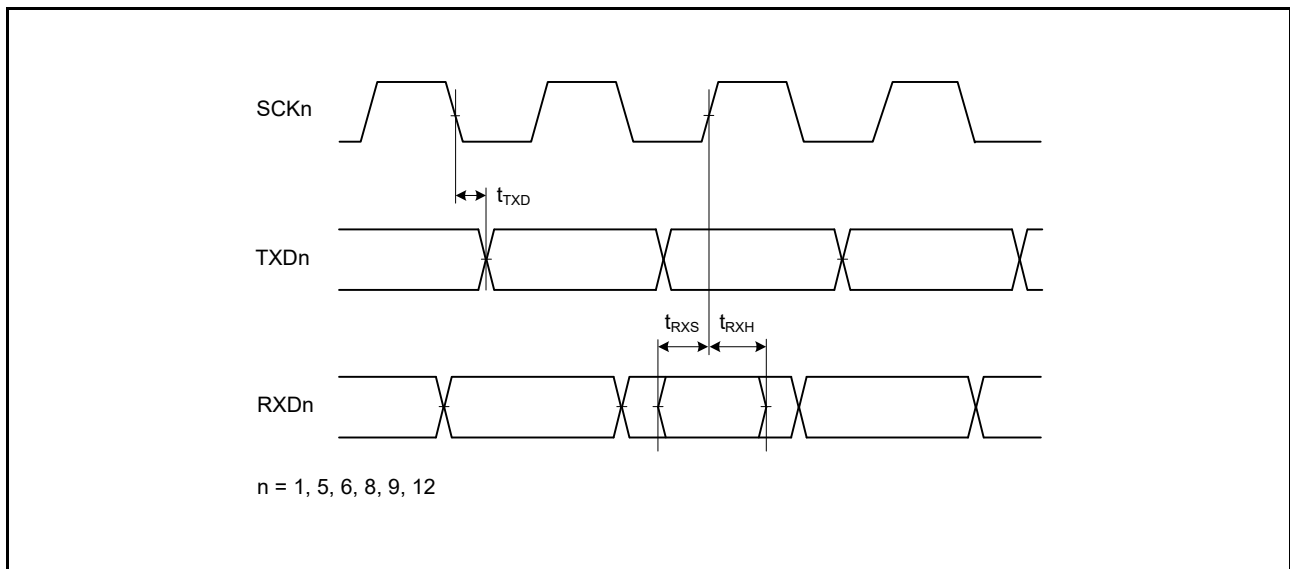


図 42.39 SCI 入出力タイミング/クロック同期式モード

表 42.52 簡易 I²C タイミング

条件 : $2.7V \leq VCC \leq 5.5V$, $2.7V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

出力負荷条件 : $V_{OH} = 0.7 \times VCC$, $V_{OL} = 0.3 \times VCC$, $C = 30pF$

項目		記号	min	max	単位	測定条件
簡易 I ² C (スタンダード モード)	SDA 立ち上がり時間	t_{Sr}	—	1000	ns	図 42.40
	SDA 立ち下がり時間	t_{Sf}	—	300	ns	
	SDA スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	$4 \times t_{Pcyc}$	ns	
	データセットアップ時間	t_{SDAS}	250	—	ns	
	データホールド時間	t_{SDAH}	0	—	ns	
	SCL、SDA の容量性負荷	C_b (注 1)	—	400	pF	
簡易 I ² C (ファストモード)	SDA 立ち上がり時間	t_{Sr}	—	300	ns	図 42.40
	SDA 立ち下がり時間	t_{Sf}	—	300	ns	
	SDA スパイクパルス除去時間	t_{SP}	0	$4 \times t_{Pcyc}$	ns	
	データセットアップ時間	t_{SDAS}	100	—	ns	
	データホールド時間	t_{SDAH}	0	—	ns	
	SCL、SDA の容量性負荷	C_b (注 1)	—	400	pF	

注. t_{Pcyc} : PCLK の周期

注 1. C_b はバスラインの容量総計です。

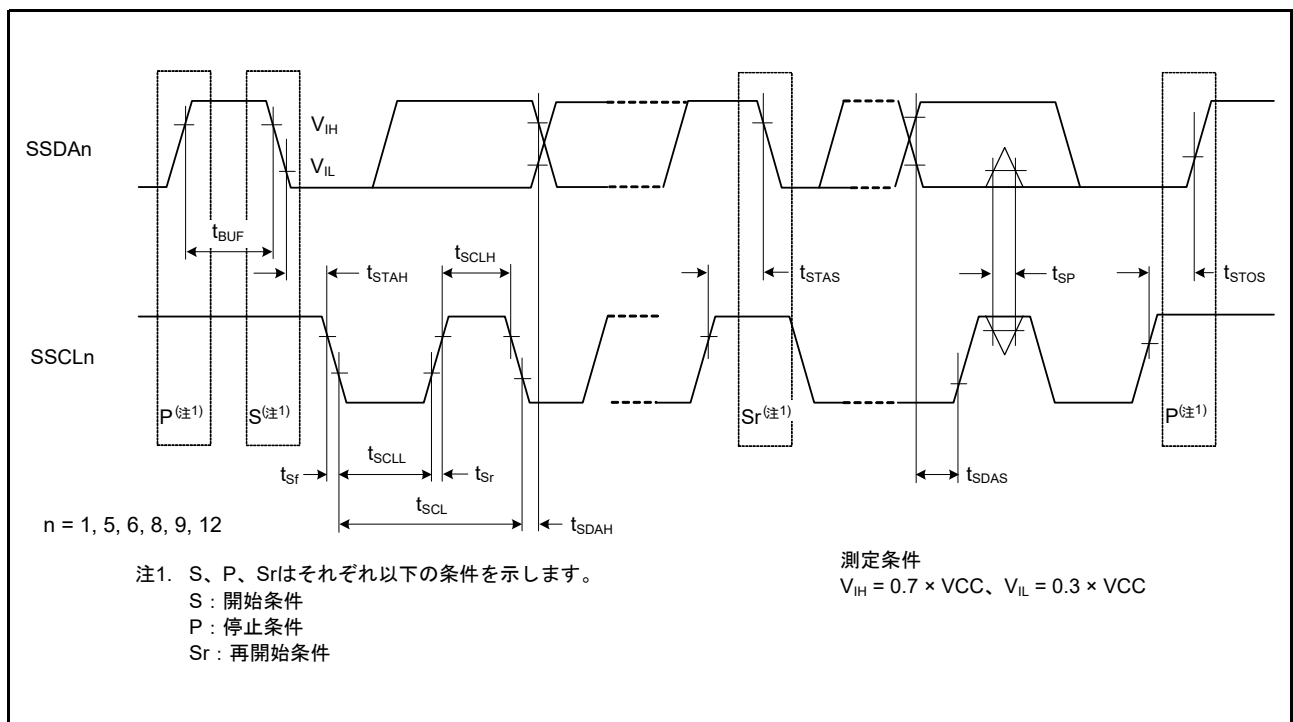


図 42.40 簡易 I²C バスインタフェース入出力タイミング

表42.53 簡易SPIタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目			記号	min	max	単位 (注1)	測定条件	
簡易SPI	SCKクロック サイクル出力 (マスタ)	2.4V ≤ VCC ≤ 5.5V	t _{SPcyc}	4	65536	t _{Pcyc}	図42.41	
		1.8V ≤ VCC < 2.4V		24MHz < PCLKB ≤ 32MHz	8			65536
				PCLKB ≤ 24MHz	4			65536
	SCKクロックサイクル入力(スレーブ)			6	—	t _{Pcyc}		
	SCKクロック High レベルパルス幅		t _{SPCKWH}	0.4	0.6	t _{SPcyc}		
	SCKクロック Low レベルパルス幅		t _{SPCKWL}	0.4	0.6	t _{SPcyc}		
	SCKクロック立ち上がり/立ち下がり時間		t _{SPCKr} t _{SPCKf}	—	20	ns		
	データ入力セットアップ時間 (マスタ)	2.7V以上	t _{SU}	45	—	ns		図42.42、 図42.43
		2.4V以上		55	—			
		1.8V以上		80	—			
	データ入力セットアップ時間(スレーブ)			40	—			
	データ入力ホールド時間		t _H	40	—	ns		
	SSL入力セットアップ時間		t _{LEAD}	1	—	t _{SPcyc}		
	SSL入力ホールド時間		t _{LAG}	1	—	t _{SPcyc}		
	データ出力遅延時間(マスタ)		t _{OD}	—	40	ns		
	データ出力遅延時間(スレーブ)	2.7V以上		—	65			
1.8V以上		—		100				
データ出力ホールド時間 (マスタ)	2.7V以上	t _{OH}	-10	—	ns			
	1.8V以上		-20	—				
データ出力ホールド時間(スレーブ)				-10		—		
データ立ち上がり/立ち下がり時間		t _{Dr} , t _{Df}	—	20	ns			
SSL入力立ち上がり/立ち下がり時間		t _{SSLr} , t _{SSLf}	—	20	ns			
スレーブアク セス時間	2.4V ≤ VCC ≤ 5.5V	t _{SA}	—	6	t _{Pcyc}	図42.44、 図42.45		
	1.8V ≤ VCC < 2.4V		24MHz < PCLKB ≤ 32MHz	—			7	
			PCLKB ≤ 24MHz	—			6	
スレーブ出力 開放時間	2.4V ≤ VCC ≤ 5.5V	t _{REL}	—	6	t _{Pcyc}			
	1.8V ≤ VCC < 2.4V		24MHz < PCLKB ≤ 32MHz	—		7		
			PCLKB ≤ 24MHz	—		6		

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

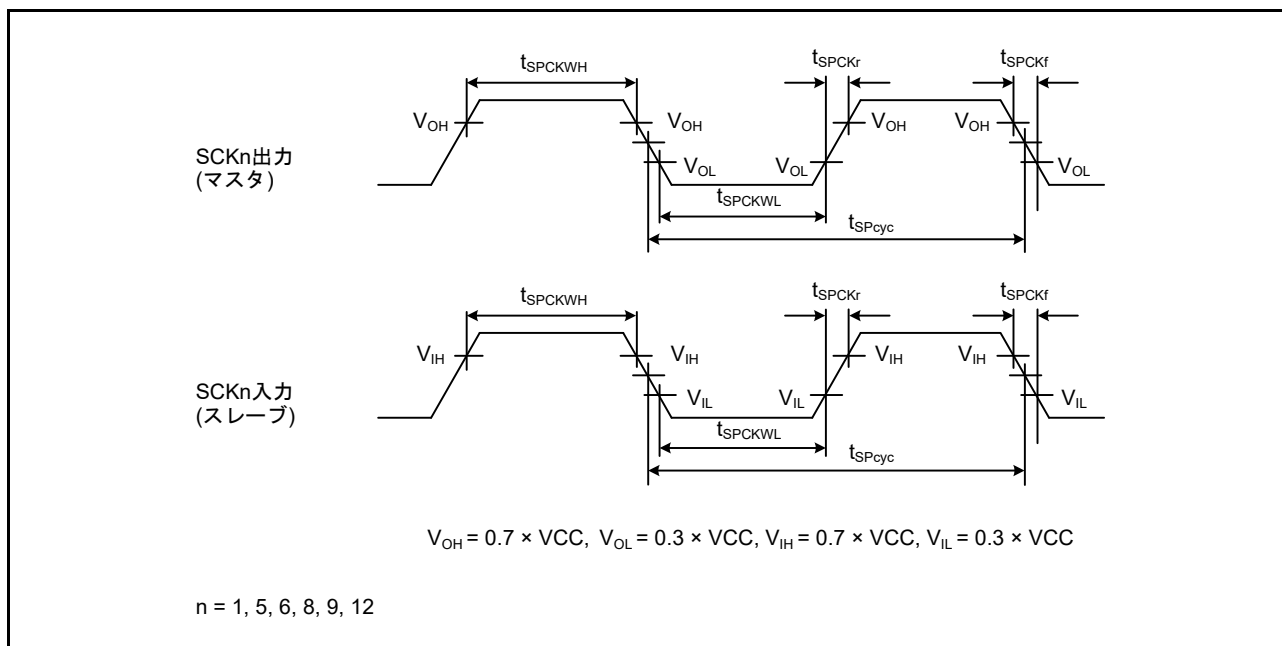


図 42.41 簡易 SPI クロックタイミング

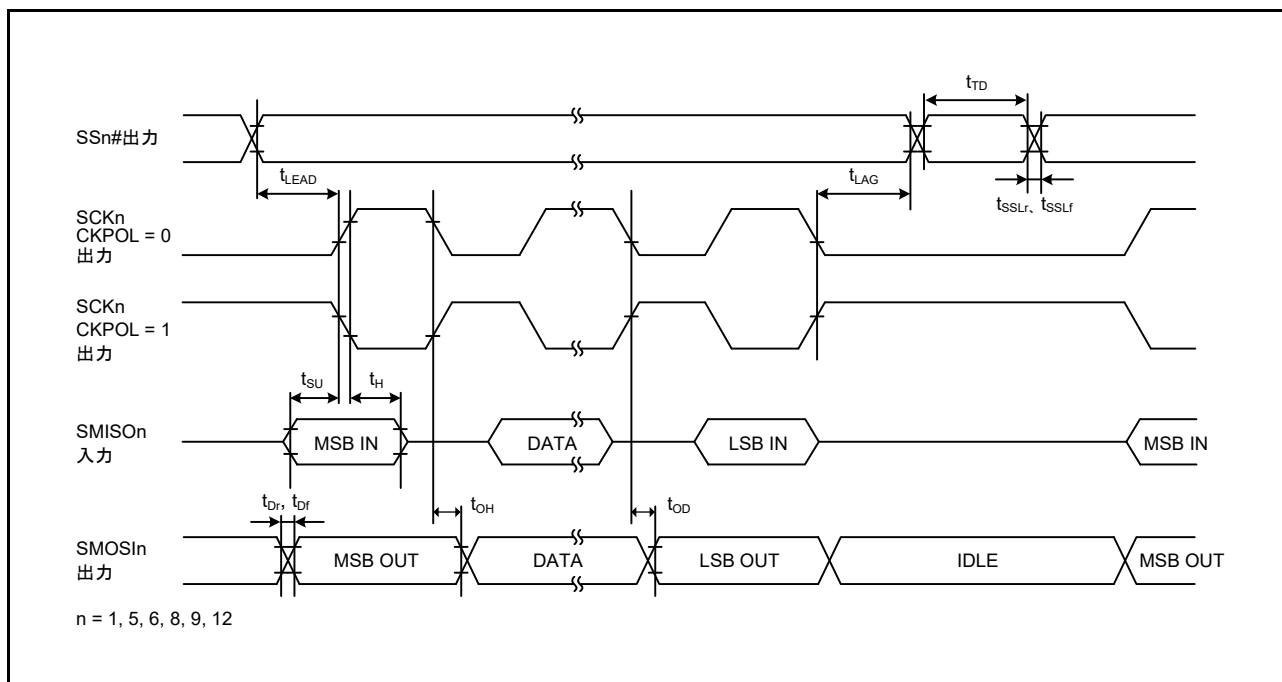


図 42.42 簡易 SPI クロックタイミング (マスタ、CKPH = 1)

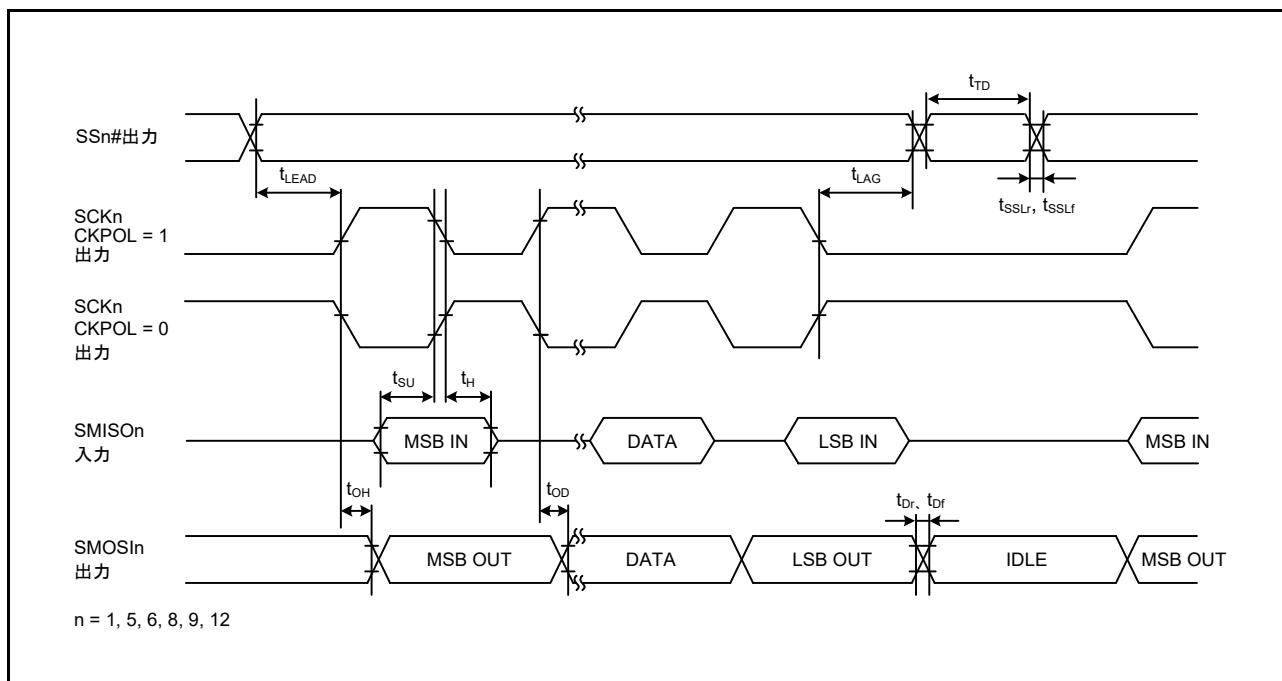


図 42.43 簡易 SPI クロックタイミング (マスタ、CKPH = 0)

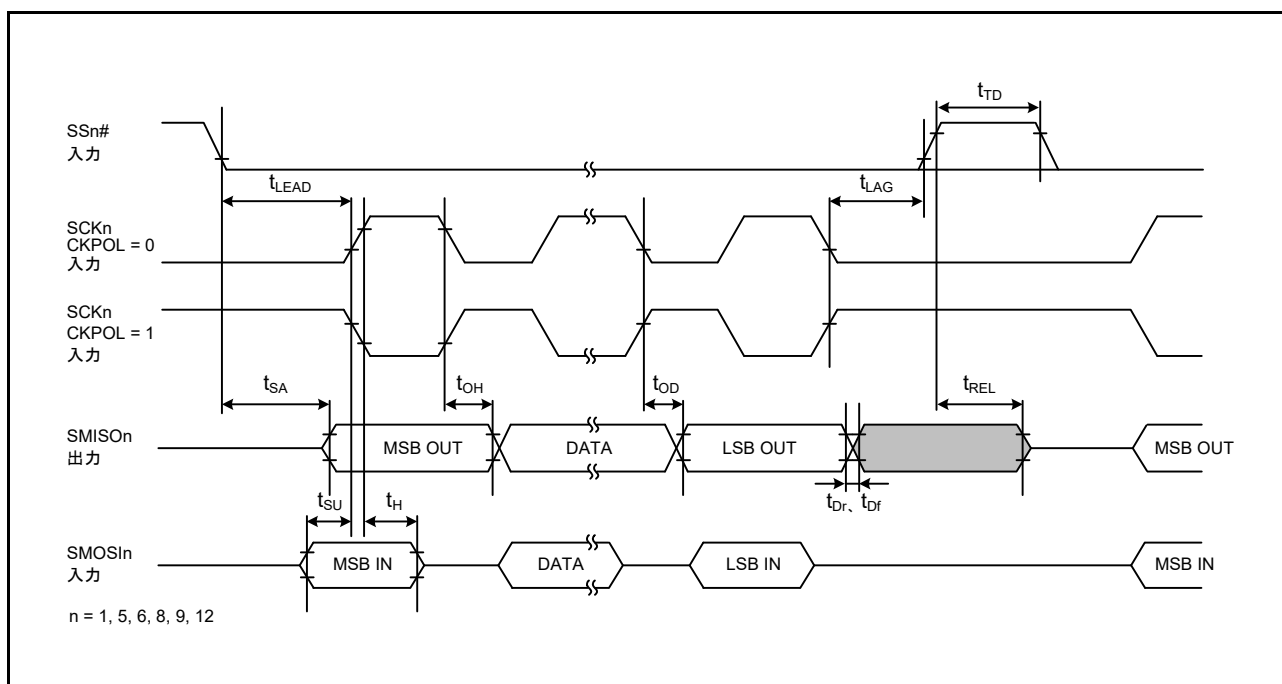


図 42.44 簡易 SPI クロックタイミング (スレーブ、CKPH = 1)

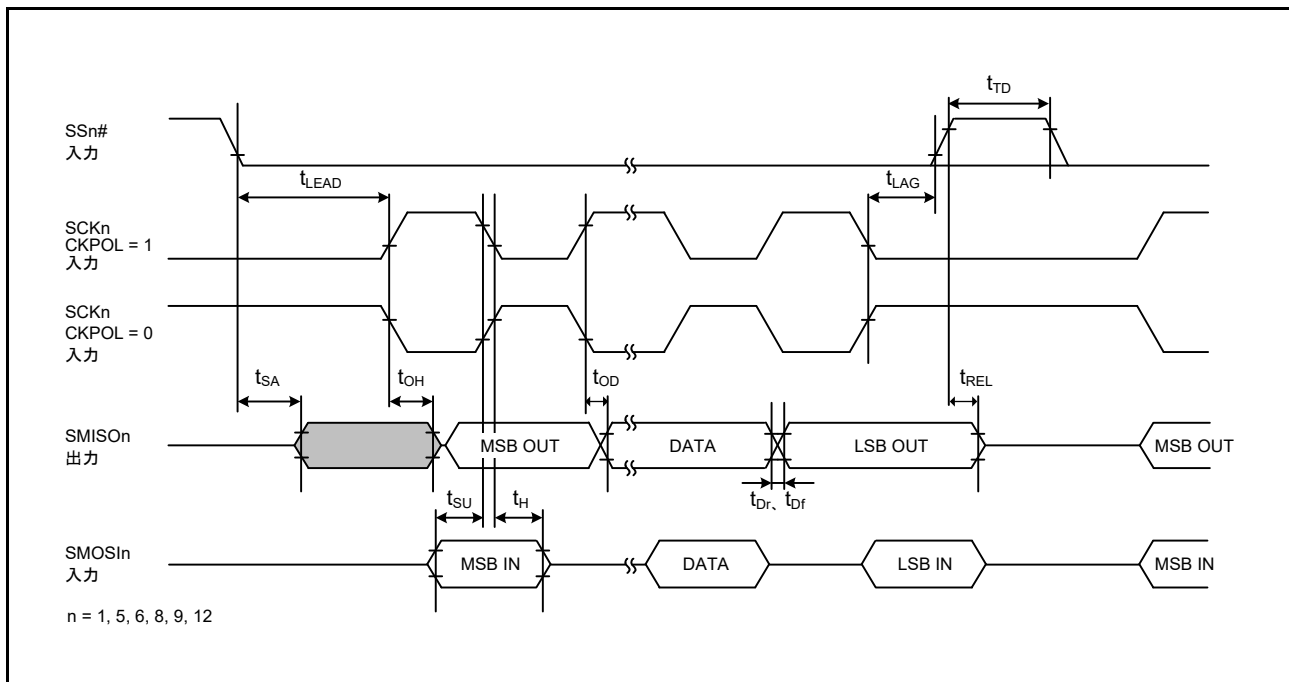


図 42.45 簡易 SPI クロックタイミング (スレーブ、CKPH = 0)

42.5.5.6 RIIC

表42.54 RIICタイミング

条件：2.7V ≤ VCC ≤ 5.5V, 2.7V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目		記号	min (注1)	max	単位	測定条件
RIIC (スタンダード モード、SMBus)	SCL サイクル時間	t _{SCL}	6 (12) × t _{IIcCyc} + 1300	—	ns	図42.46
	SCL Highパルス幅	t _{SCLH}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
	SCL Lowパルス幅	t _{SCLL}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
	SCL、SDA立ち上がり時間	t _{Sr}	—	1000	ns	
	SCL、SDA立ち下がり時間	t _{Sf}	—	300	ns	
	SCL、SDAスパイクパルス除去時間	t _{SP}	0	1 (4) × t _{IIcCyc}	ns	
	SDAバスマフリー時間	t _{BUF}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
	スタートコンディション入力ホールド時間	t _{STAH}	t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
	リスタートコンディション入力セットアップ時間	t _{STAS}	1000	—	ns	
	ストップコンディション入力セットアップ時間	t _{STOS}	1000	—	ns	
	データセットアップ時間	t _{SDAS}	t _{IIcCyc} + 50	—	ns	
	データホールド時間	t _{SDAH}	0	—	ns	
	SCL、SDAの容量性負荷	C _b (注2)	—	400	pF	
	RIIC (ファストモード)	SCL サイクル時間	t _{SCL}	6 (12) × t _{IIcCyc} + 600	—	
SCL Highパルス幅		t _{SCLH}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
SCL Lowパルス幅		t _{SCLL}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
SCL、SDA立ち上がり時間		t _{Sr}	—	300	ns	
SCL、SDA立ち下がり時間		t _{Sf}	—	300	ns	
SCL、SDAスパイクパルス除去時間		t _{SP}	0	1 (4) × t _{IIcCyc}	ns	
SDAバスマフリー時間		t _{BUF}	3 (6) × t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
スタートコンディション入力ホールド時間		t _{STAH}	t _{IIcCyc} + 300	—	ns	
リスタートコンディション入力セットアップ時間		t _{STAS}	300	—	ns	
ストップコンディション入力セットアップ時間		t _{STOS}	300	—	ns	
データセットアップ時間		t _{SDAS}	t _{IIcCyc} + 50	—	ns	
データホールド時間		t _{SDAH}	0	—	ns	
SCL、SDAの容量性負荷		C _b (注2)	—	400	pF	

注. t_{IIcCyc} : RIICの内部基準クロック (IICφ)の周期

注1. ()内の数値は、ICFER.NFE = 1でデジタルフィルタを有効にした状態でICMR3.NF[1:0] = 11bの場合を示します。

注2. C_bはバスラインの容量総計です。

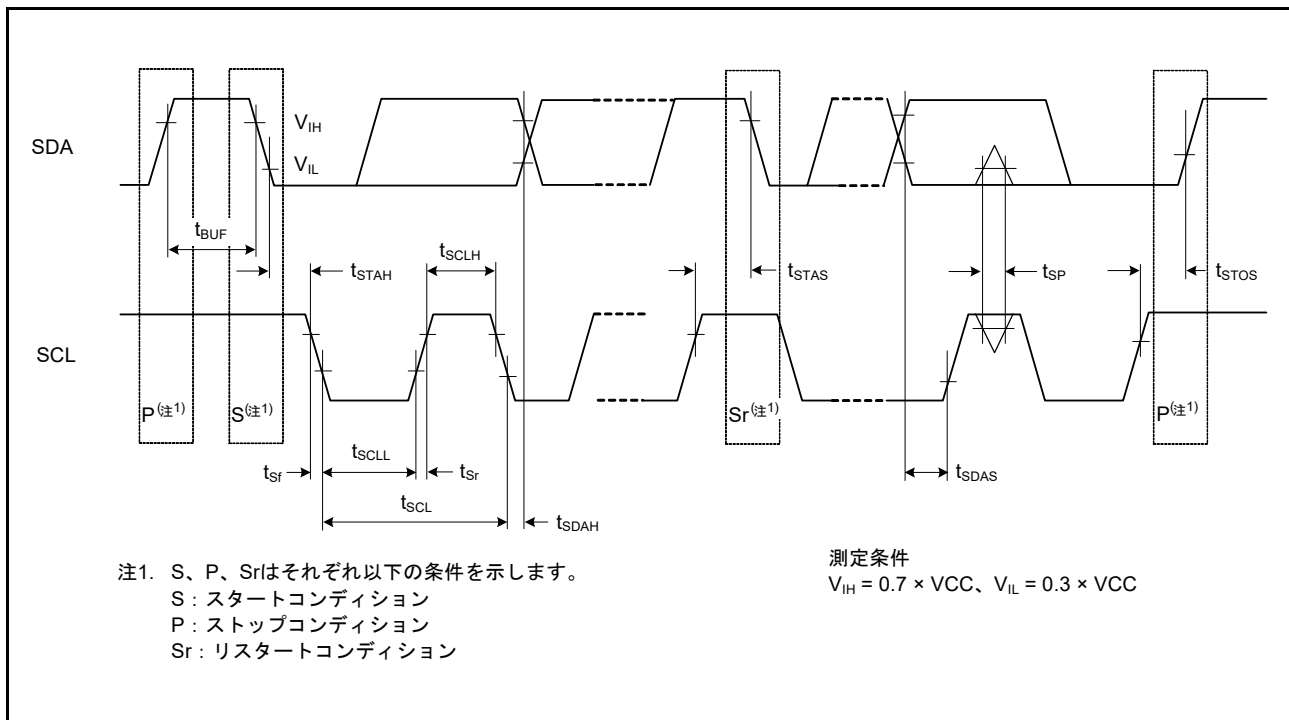


図 42.46 RIIC バスインタフェース入出力タイミング

42.5.5.7 RSPI

表42.55 RSPIタイミング (1/2)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C, C = 30pF出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目			記号	min	max	単位	測定条件	
RSPI	RSPCKクロック サイクル	マスタ	t _{SPcyc}	2	4096	t _{Pcyc} (注1)	図42.47	
		スレーブ		4	—			
	RSPCKクロック Highレベルパルス幅	マスタ	t _{SPCKWH}	$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf}) / 2 - 3$		—		ns
		スレーブ		$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf}) / 2$		—		
	RSPCKクロック Lowレベルパルス幅	マスタ	t _{SPCKWL}	$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf}) / 2 - 3$		—		ns
		スレーブ		$(t_{SPcyc} - t_{SPCKr} - t_{SPCKf}) / 2$		—		
	RSPCKクロック 立ち上がり/ 立ち下がり時間	出力	2.7V以上	t _{SPCKr} , t _{SPCKf}	—	10		ns
			2.4V以上		—	15		
			1.8V以上		—	20		
		入力	—	0.1	μs/V			
	データ入力セット アップ時間	マスタ	2.7V以上	t _{SU}	10	—		ns
			1.8V以上		30	—		
		スレーブ	2.4V以上		10	—		
			1.8V以上		15	—		
	データ入力ホールド 時間	マスタ	RSPCKをPCLKB の2分周以外に設定	t _H	t _{Pcyc}	—		ns
			RSPCKをPCLKB の2分周に設定	t _{HF}	0	—		
		スレーブ	t _H	20	—			
	SSLセットアップ 時間	マスタ	t _{LEAD}	-30 + N(注2) × t _{SPcyc}		—		ns
		スレーブ		6		—		
SSLホールド時間	マスタ	t _{LAG}	-30 + N(注3) × t _{SPcyc}		—	ns		
	スレーブ		6		—		t _{Pcyc}	
データ出力遅延時間	マスタ	2.7V以上	t _{OD}	—	14	ns		
		2.4V以上		—	20			
		1.8V以上		—	25			
	スレーブ	2.7V以上		—	50			
		2.4V以上		—	60			
		1.8V以上		—	85			
データ出力ホールド 時間	マスタ	t _{OH}	0		—	ns		
	スレーブ		0		—			
連続送信遅延時間	マスタ	t _{TD}	t _{SPcyc} + 2 × t _{Pcyc}		8 × t _{SPcyc} + 2 × t _{Pcyc}	ns		
	スレーブ		6 × t _{Pcyc}		—			
MOSI、MISO 立ち上がり/ 立ち下がり時間	出力	2.7V以上	t _{Dr} , t _{Df}	—	10	ns		
		2.4V以上		—	15			
		1.8V以上		—	20			
	入力	—		1	μs			

表 42.55 RSPI タイミング (2/2)

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, $C = 30pF$

出力負荷条件 : $V_{OH} = 0.7 \times VCC$, $V_{OL} = 0.3 \times VCC$, $C = 30pF$

項目			記号	min	max	単位	測定条件
RSPI	SSL 立ち上がり/ 立ち下がり時間	出力	t_{SSLr}	—	10	ns	図 42.48 ~ 図 42.51
			t_{SSLf}	—	15	ns	
				—	20	ns	
		入力		—	1	μs	
スレーブアクセス時間		t_{SA}	—	$2 \times t_{Pcyc} + 100$	ns	図 42.50、 図 42.51	
			—	$2 \times t_{Pcyc} + 140$	ns		
スレーブ出力開放時間		t_{REL}	—	$2 \times t_{Pcyc} + 100$	ns		
			—	$2 \times t_{Pcyc} + 140$	ns		

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

注2. N : RSPIクロック遅延レジスタ (SPCKD)にて設定可能な1~8の整数

注3. N : RSPIスレーブセレクトネゲート遅延レジスタ (SSLND)にて設定可能な1~8の整数

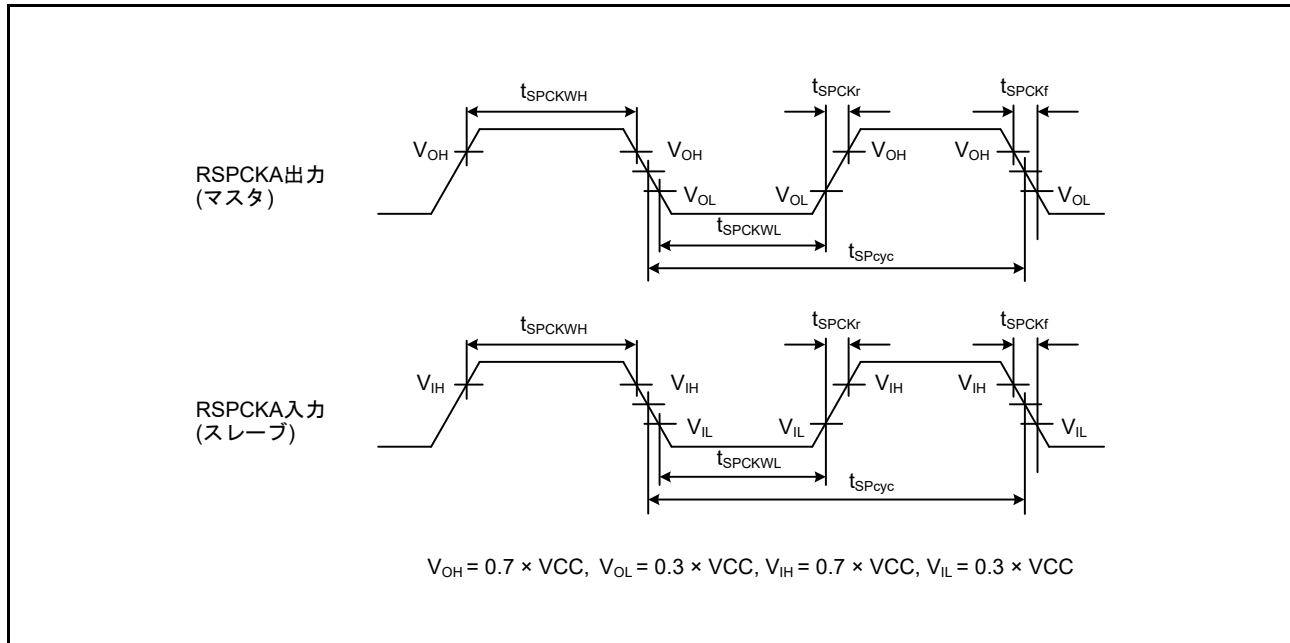


図 42.47 RSPI クロックタイミング

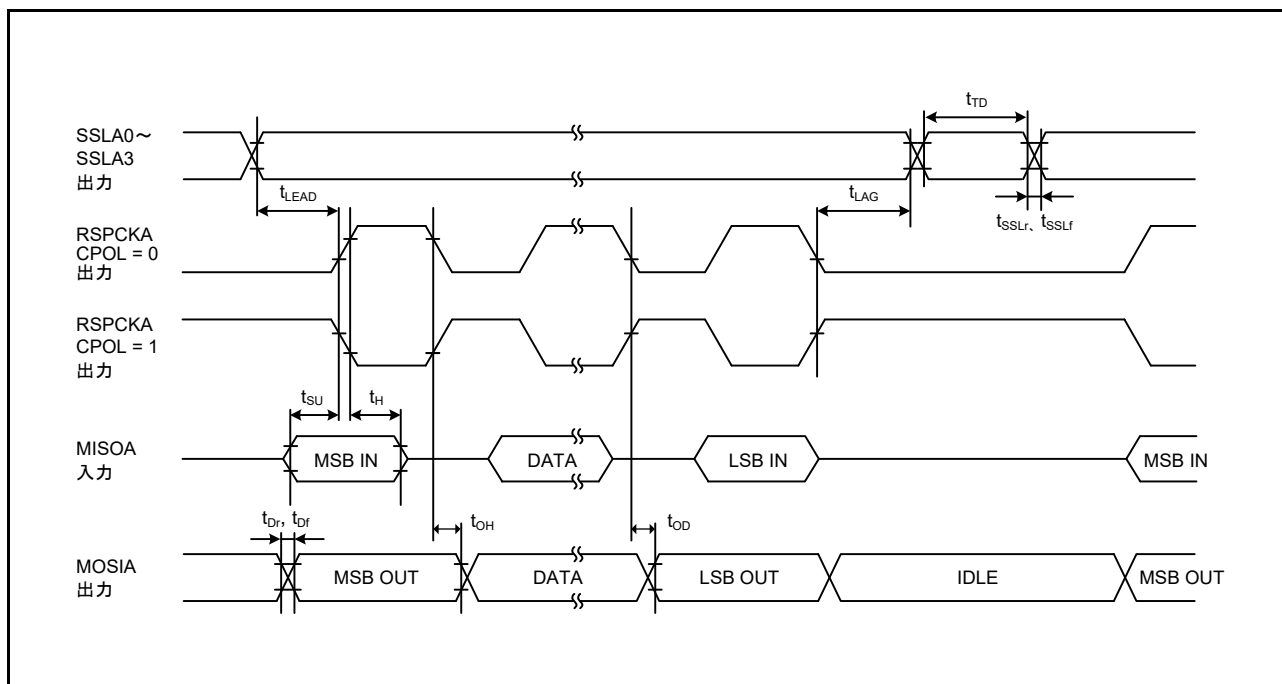


図 42.48 RSPI タイミング (マスタ、CPHA = 0)

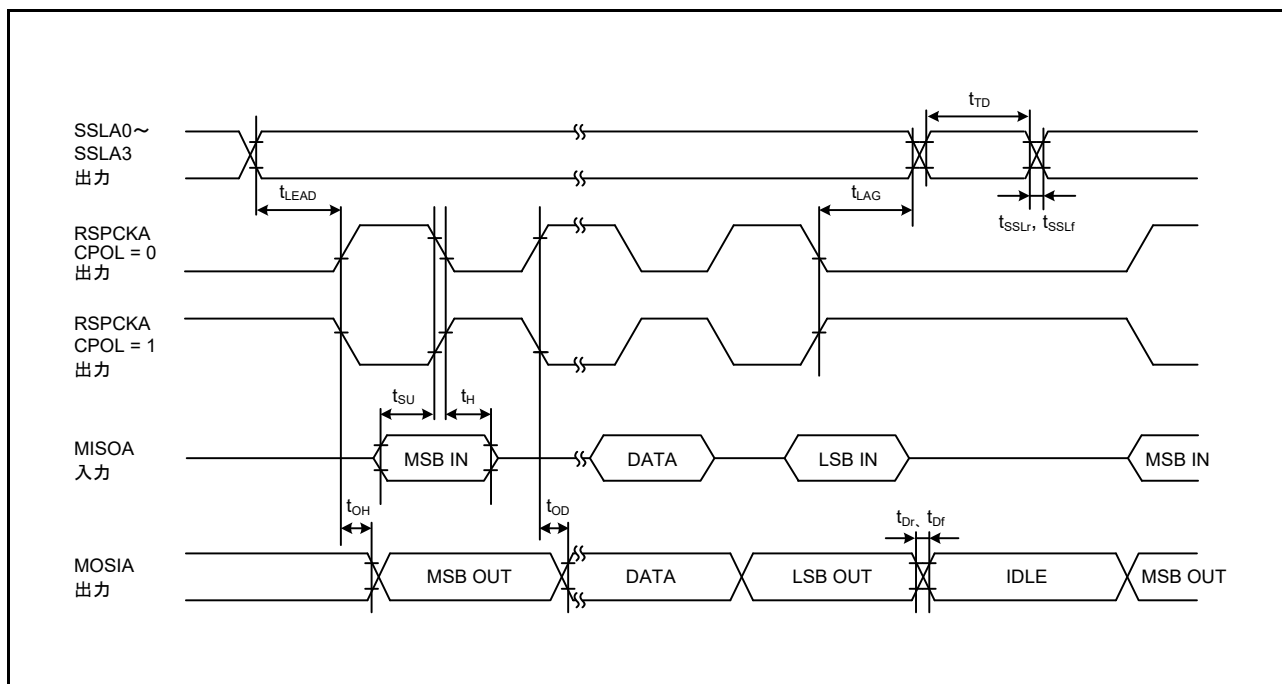


図 42.49 RSPI タイミング (マスタ、CPHA = 1)

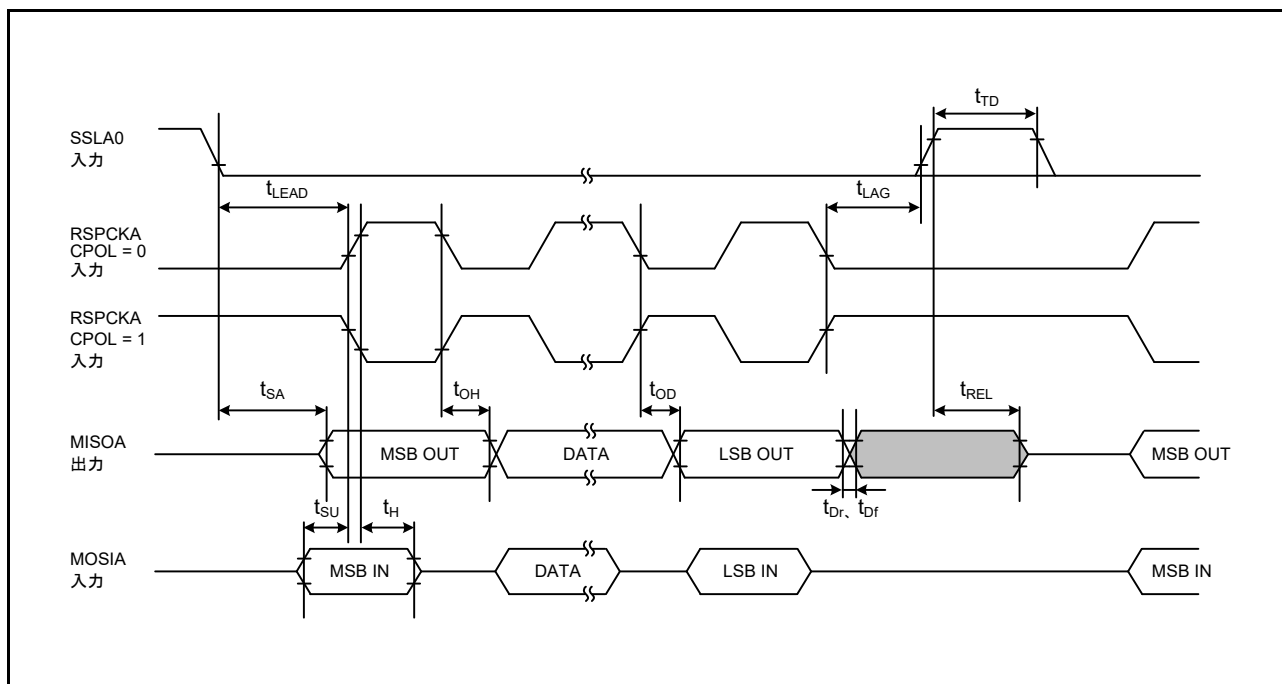


図 42.50 RSPi タイミング (スレーブ、CPHA = 0)

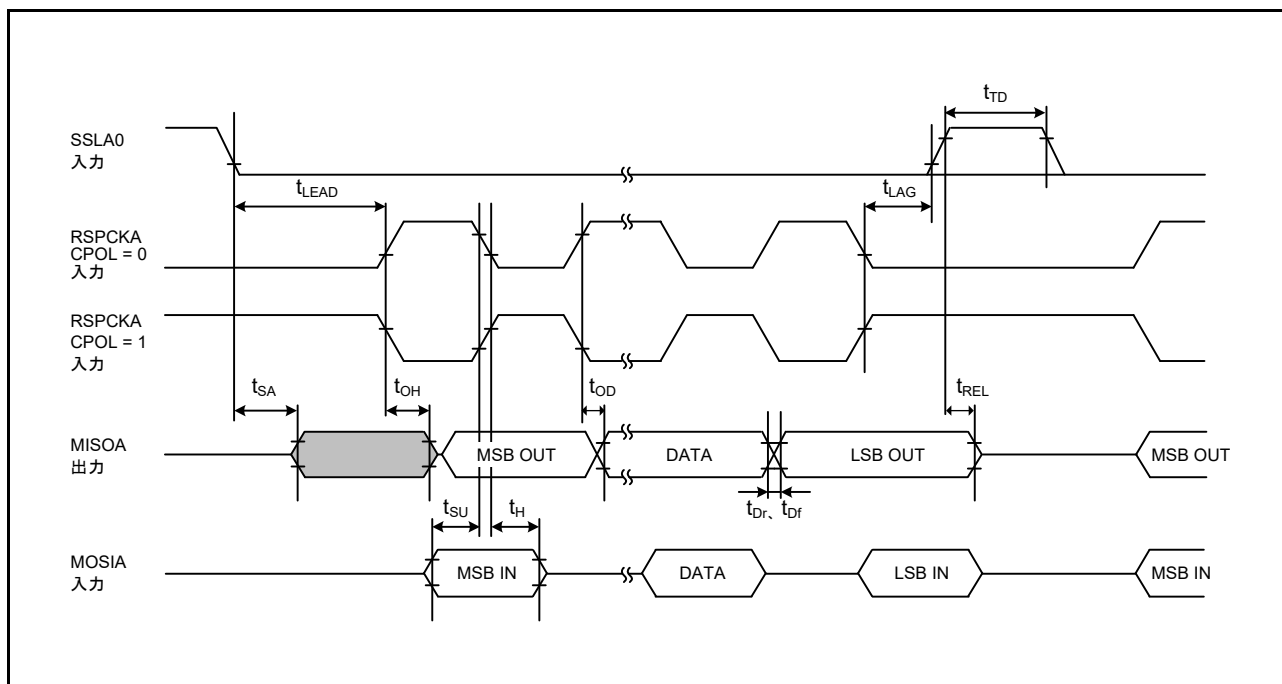


図 42.51 RSPi タイミング (スレーブ、CPHA = 1)

42.5.5.8 A/Dコンバータトリガ

表42.56 A/Dコンバータトリガタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件
A/Dコンバータ	トリガ入力パルス幅	t _{TRGW}	1.5	—	t _{Pcyc}	図42.52

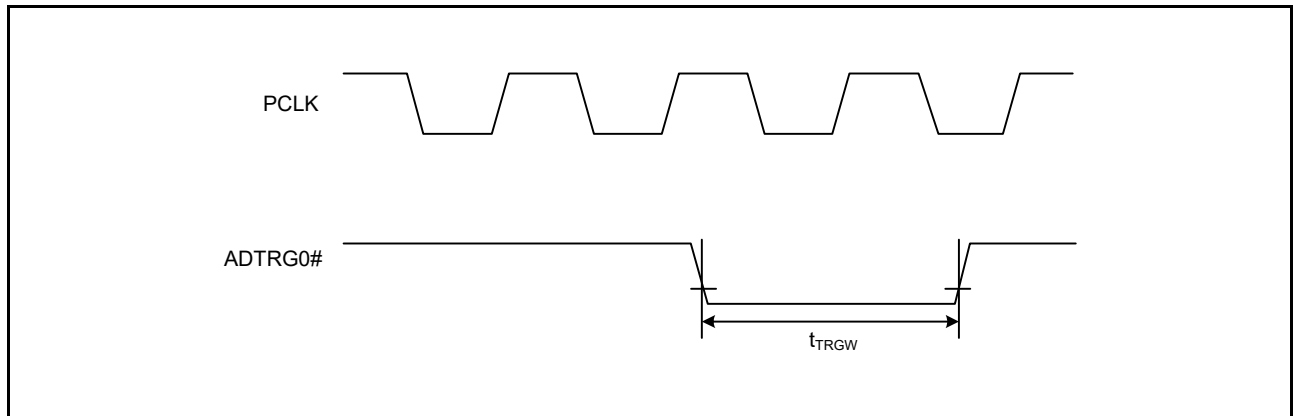
注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期

図 42.52 A/Dコンバータ外部トリガ入力タイミング

42.5.5.9 CAC

表42.57 CACタイミング

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C出力負荷条件：V_{OH} = 0.7 × VCC, V_{OL} = 0.3 × VCC, C = 30pF

項目		記号	min	max	単位 (注1)	測定条件
CAC	CACREF入力パルス幅	t _{Pcyc} ≤ t _{cac} (注2)	t _{CACREF}	4.5 t _{cac} + 3 t _{Pcyc}	—	ns
		t _{Pcyc} > t _{cac} (注2)		5 t _{cac} + 6.5 t _{Pcyc}		
	CACREF入力立ち上がり/立ち下がり時間	t _{CACREFr} , t _{CACREFf}	—	0.1	μs/V	

注1. t_{Pcyc} : PCLKの周期注2. t_{cac} : CACカウントクロックソースの周期

42.5.5.10 CLKOUT

表42.58 CLKOUT タイミング

条件： $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$ 出力負荷条件： $V_{OH} = 0.7 \times VCC$, $V_{OL} = 0.3 \times VCC$, $C = 30pF$

項目		記号	min	max	単位	測定条件	
CLKOUT	CLKOUT 端子出力サイクル (注2)	t_{Cyc}	$VCC = 2.7V$ 以上	62.5	—	ns	図42.53
			$VCC = 1.8V$ 以上	125			
CLKOUT 端子 High レベルパルス幅 (注1)	t_{CH}	$VCC = 2.7V$ 以上	15	—	ns		
		$VCC = 1.8V$ 以上	30				
CLKOUT 端子 Low レベルパルス幅 (注1)	t_{CL}	$VCC = 2.7V$ 以上	15	—	ns		
		$VCC = 1.8V$ 以上	30				
CLKOUT 端子出力立ち上がり時間	t_{Cr}	$VCC = 2.7V$ 以上	—	12	ns		
		$VCC = 1.8V$ 以上		25			
CLKOUT 端子出力立ち下がり時間	t_{Cf}	$VCC = 2.7V$ 以上	—	12	ns		
		$VCC = 1.8V$ 以上		25			

注1. クロック出力ソースに LOCO 選択 (CKOCR.CKOSSEL[3:0] ビット = 0000b) の場合は、クロック出力分周比選択を 2 分周 (CKOCR.CKODIV[2:0] ビット = 001b) に設定してください。

注2. XTAL 外部クロック入力または発振子を使用して 1 分周 (CKOCR.CKOSSEL[3:0] ビット = 0010b かつ CKOCR.CKODIV[2:0] ビット = 000b) を CLKOUT より出力する場合は、入力デューティ比 45 ~ 55% で上記を満たします。

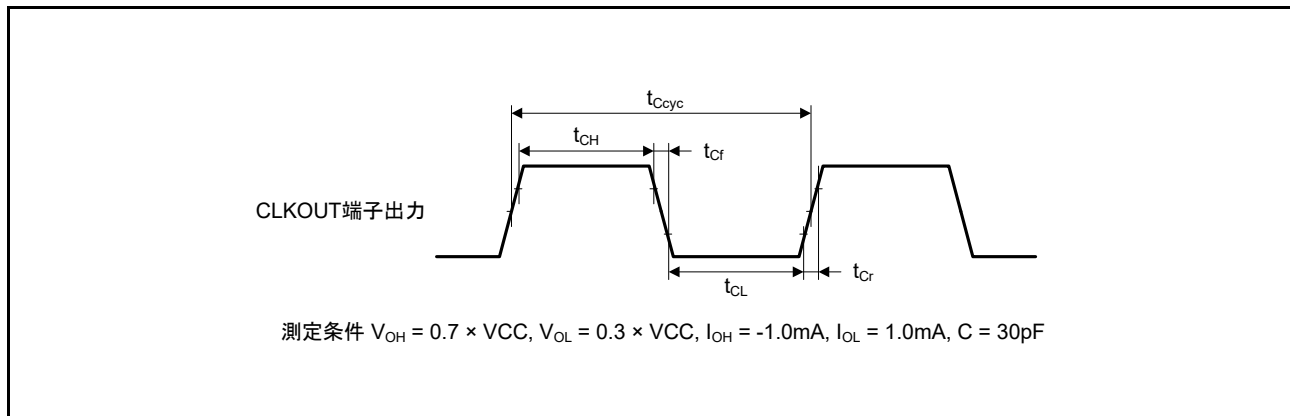


図 42.53 CLKOUT 出力タイミング

42.6 A/D 変換特性

表 42.59 A/D変換特性(1)

条件: $2.7V \leq VCC \leq 5.5V$, $2.7V \leq VREFH0 = AVCC0 \leq 5.5V$ (注1), $VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, 信号源インピーダンス = $0.3k\Omega$
 VREFH0を基準電圧にしたとき

項目	min	typ	max	単位	測定条件
周波数	1	—	48	MHz	
分解能	—	—	12	ビット	
変換時間(注2) (PCLKD = 48MHz時)	0.67 (0.208) (注3)	—	—	μs	高精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=0 ADSSTRn = 0Ah ADCCR.CCS = 1
	1.29 (0.833) (注3)	—	—		通常精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=0 ADSSTRn = 28h ADCCR.CCS = 1
アナログ入力容量	Cs	—	—	pF	高精度チャネル
		—	—		10(注4)
アナログ入力抵抗	Rs	—	—	k Ω	高精度チャネル
		—	—		6.0(注4)
アナログ入力電圧有効範囲	0	—	VREFH0	V	
オフセット誤差	—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
			± 6.0	LSB	上記以外
フルスケール誤差	—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
			± 6.0	LSB	上記以外
量子化誤差	—	± 0.5	—	LSB	
絶対精度	—	± 2.5	± 5.5	LSB	高精度チャネル
			± 8.5	LSB	上記以外
DNL微分非直線性誤差	—	± 1.0	—	LSB	
INL積分非直線性誤差	—	± 1.5	± 3.0	LSB	

注. A/Dコンバータ入力以外の端子機能を使用していない場合の特性です。絶対精度は、量子化誤差を含みます。オフセット誤差、フルスケール誤差、DNL微分非直線性誤差、INL積分非直線性誤差は、量子化誤差を含みません。

注1. 32ピンの製品ではVREFH0 = AVCC0になります。

注2. 変換時間はサンプリング時間と比較時間の合計です。各項目には、測定条件にサンプリングステート数を示します。

注3. ()はサンプリング時間を示します。

注4. 参考値

表 42.60 A/D変換特性(2)

条件: $2.4V \leq VCC \leq 5.5V$, $2.4V \leq VREFH0 = AVCC0 \leq 5.5V$ (注1), $VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, 信号源インピーダンス = $1.3k\Omega$
 VREFH0を基準電圧にしたとき

項目		min	typ	max	単位	測定条件
周波数		1	—	32	MHz	
分解能		—	—	12	ビット	
変換時間(注2) (PCLKD = 32MHz時)		1.00 (0.313) (注3)	—	—	μs	高精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=0 ADSSTRn = 0Ah ADCCR.CCS = 1
		1.94 (1.250) (注3)	—	—		通常精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=0 ADSSTRn = 28h ADCCR.CCS = 1
アナログ入力容量	Cs	—	—	9(注4)	pF	高精度チャネル
		—	—	10(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力抵抗	Rs	—	—	2.2(注4)	k Ω	高精度チャネル
		—	—	7.0(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力電圧有効範囲		0	—	VREFH0	V	
オフセット誤差		—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
フルスケール誤差		—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
量子化誤差		—	± 0.5	—	LSB	
絶対精度		—	± 2.5	± 5.5	LSB	高精度チャネル
				± 8.5	LSB	上記以外
DNL微分非直線性誤差		—	± 1.0	—	LSB	
INL積分非直線性誤差		—	± 1.5	± 3.0	LSB	

注. A/Dコンバータ入力以外の端子機能を使用していない場合の特性です。絶対精度は、量子化誤差を含みます。オフセット誤差、フルスケール誤差、DNL微分非直線性誤差、INL積分非直線性誤差は、量子化誤差を含みません。

注1. 32ピンの製品ではVREFH0 = AVCC0になります。

注2. 変換時間はサンプリング時間と比較時間の合計です。各項目には、測定条件にサンプリングステート数を示します。

注3. ()はサンプリング時間を示します。

注4. 参考値

表 42.61 A/D変換特性(3)

条件: $2.7V \leq VCC \leq 5.5V$, $2.7V \leq VREFH0 = AVCC0 \leq 5.5V$ (注1), $VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, 信号インピーダンス = $1.1k\Omega$
 $VREFH0$ を基準電圧にしたとき

項目		min	typ	max	単位	測定条件
周波数		1	—	24	MHz	
分解能		—	—	12	ビット	
変換時間(注2) (PCLKD = 24MHz時)		1.58 (0.417) (注3)	—	—	μs	高精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 0Ah ADCCR.CCS = 1
		2.00 (0.833) (注3)	—	—		通常精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 14h ADCCR.CCS = 1
アナログ入力容量	Cs	—	—	9(注4)	pF	高精度チャネル
		—	—	10(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力抵抗	Rs	—	—	1.9(注4)	k Ω	高精度チャネル
		—	—	6(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力電圧有効範囲		0	—	VREFH0	V	
オフセット誤差		—	± 1.25	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
フルスケール誤差		—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
量子化誤差		—	± 0.5	—	LSB	
絶対精度		—	± 2.5	± 5.5	LSB	高精度チャネル
				± 8.5	LSB	上記以外
DNL微分非直線性誤差		—	± 1.0	—	LSB	
INL積分非直線性誤差		—	± 1.5	± 3.0	LSB	

注. A/Dコンバータ入力以外の端子機能を使用していない場合の特性です。絶対精度は、量子化誤差を含みます。オフセット誤差、フルスケール誤差、DNL微分非直線性誤差、INL積分非直線性誤差は、量子化誤差を含みません。

注1. 32ピンの製品ではVREFH0 = AVCC0になります。

注2. 変換時間はサンプリング時間と比較時間の合計です。各項目には、測定条件にサンプリングステート数を示します。

注3. ()はサンプリング時間を示します。

注4. 参考値

表 42.62 A/D変換特性(4)

条件: $2.4V \leq VCC \leq 5.5V$, $2.4V \leq VREFH0 = AVCC0 \leq 5.5V$ (注1), $VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, 信号インピーダンス = $2.2k\Omega$
 VREFH0を基準電圧にしたとき

項目		min	typ	max	単位	測定条件
周波数		1	—	16	MHz	
分解能		—	—	12	ビット	
変換時間(注2) (PCLKD = 16MHz時)		2.38 (0.625) (注3)	—	—	μs	高精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 0Ah ADCCR.CCS = 1
		3.00 (1.250) (注3)	—	—		通常精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 14h ADCCR.CCS = 1
アナログ入力容量	Cs	—	—	9(注4)	pF	高精度チャネル
		—	—	10(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力抵抗	Rs	—	—	2.2(注4)	k Ω	高精度チャネル
		—	—	7(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力電圧有効範囲		0	—	VREFH0	V	
オフセット誤差		—	± 1.25	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
フルスケール誤差		—	± 1.0	± 4.5	LSB	高精度チャネル
				± 6.0	LSB	上記以外
量子化誤差		—	± 0.5	—	LSB	
絶対精度		—	± 2.5	± 5.5	LSB	高精度チャネル
				± 8.5	LSB	上記以外
DNL微分非直線性誤差		—	± 1.0	—	LSB	
INL積分非直線性誤差		—	± 1.5	± 3.0	LSB	

注. A/Dコンバータ入力以外の端子機能を使用していない場合の特性です。絶対精度は、量子化誤差を含みます。オフセット誤差、フルスケール誤差、DNL微分非直線性誤差、INL積分非直線性誤差は、量子化誤差を含みません。

注1. 32ピンの製品ではVREFH0 = AVCC0になります。

注2. 変換時間はサンプリング時間と比較時間の合計です。各項目には、測定条件にサンプリングステート数を示します。

注3. ()はサンプリング時間を示します。

注4. 参考値

表 42.63 A/D変換特性(5)

条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq VREFH0 = AVCC0 \leq 5.5V$ (注1), $VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$, 信号源インピーダンス = $5k\Omega$
 $VREFH0$ を基準電圧にしたとき

項目		min	typ	max	単位	測定条件
周波数		1	—	8	MHz	
分解能		—	—	12	ビット	
変換時間(注2) (PCLKD = 8MHz時)		4.75 (1.250) (注3)	—	—	μs	高精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 0Ah ADCCR.CCS = 1
		6.00 (2.500) (注3)	—	—		通常精度チャネル ADCSR.ADHSCビット=1 ADSSTRn = 14h ADCCR.CCS = 1
アナログ入力容量	Cs	—	—	9(注4)	pF	高精度チャネル
		—	—	10(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力抵抗	Rs	—	—	6(注4)	k Ω	高精度チャネル
		—	—	14(注4)		通常精度チャネル
アナログ入力電圧有効範囲		0	—	VREFH0	V	
オフセット誤差		—	± 1.25	± 7.5	LSB	高精度チャネル
				± 10.0	LSB	上記以外
フルスケール誤差		—	± 1.5	± 7.5	LSB	高精度チャネル
				± 10.0	LSB	上記以外
量子化誤差		—	± 0.5	—	LSB	
絶対精度		—	± 3.0	± 8.0	LSB	高精度チャネル
				± 11.0	LSB	上記以外
DNL微分非直線性誤差		—	± 1.25	—	LSB	
INL積分非直線性誤差		—	± 1.5	± 3.5	LSB	

注. A/Dコンバータ入力以外の端子機能を使用していない場合の特性です。絶対精度は、量子化誤差を含みます。オフセット誤差、フルスケール誤差、DNL微分非直線性誤差、INL積分非直線性誤差は、量子化誤差を含みません。

注1. 32ピンの製品ではVREFH0 = AVCC0になります。

注2. 変換時間はサンプリング時間と比較時間の合計です。各項目には、測定条件にサンプリングステート数を示します。

注3. ()はサンプリング時間を示します。

注4. 参考値

表42.64 A/Dコンバータチャネル分類表

分類	対象チャネル	条件	備考
高精度チャネル	AN000～AN007	AVCC0 = 1.8～5.5V	A/Dコンバータ使用時、AN000～AN007端子をデジタル出力として使用することはできません
通常精度チャネル	AN016～AN021, AN024～AN026		
内部基準電圧入力チャネル	内部基準電圧	AVCC0 = 1.8～5.5V	
温度センサ入力チャネル	温度センサ出力	AVCC0 = 1.8～5.5V	
CTSU入力チャネル	AN008	AVCC0 = 1.8～5.5V	

表42.65 A/D内部基準電圧特性

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ VREFH0 = AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = VREFL0 = 0V, T_a = -40～+105°C

項目	min	typ	max	単位	測定条件
内部基準電圧入力チャネル(注1)	1.42	1.48	1.54	V	

注1. A/D内部基準電圧は、内部基準電圧をA/Dコンバータへの入力する場合を示します。

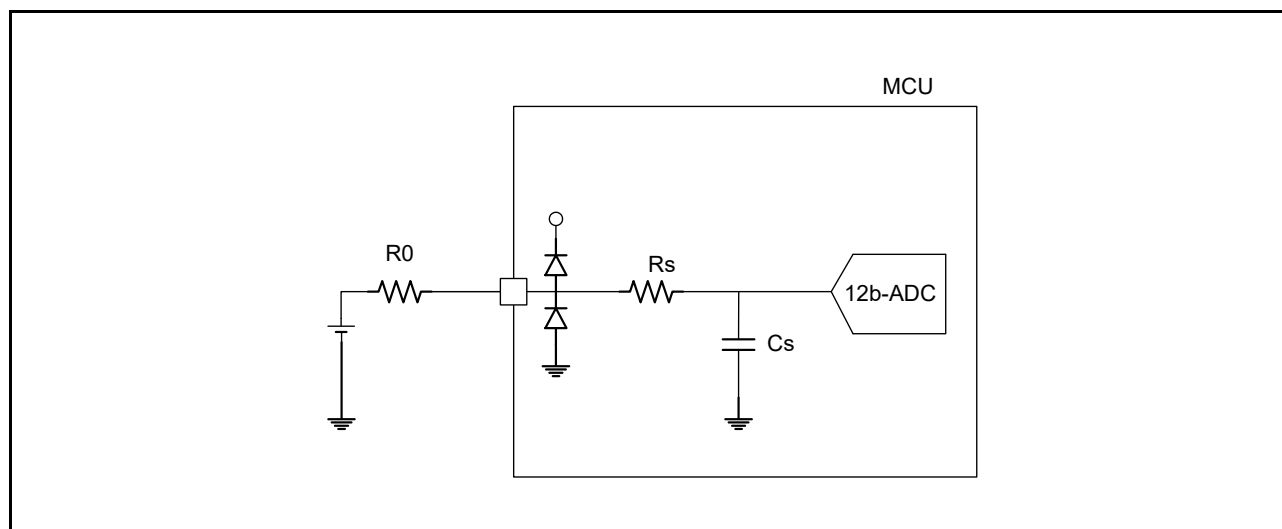


図 42.54 等価回路

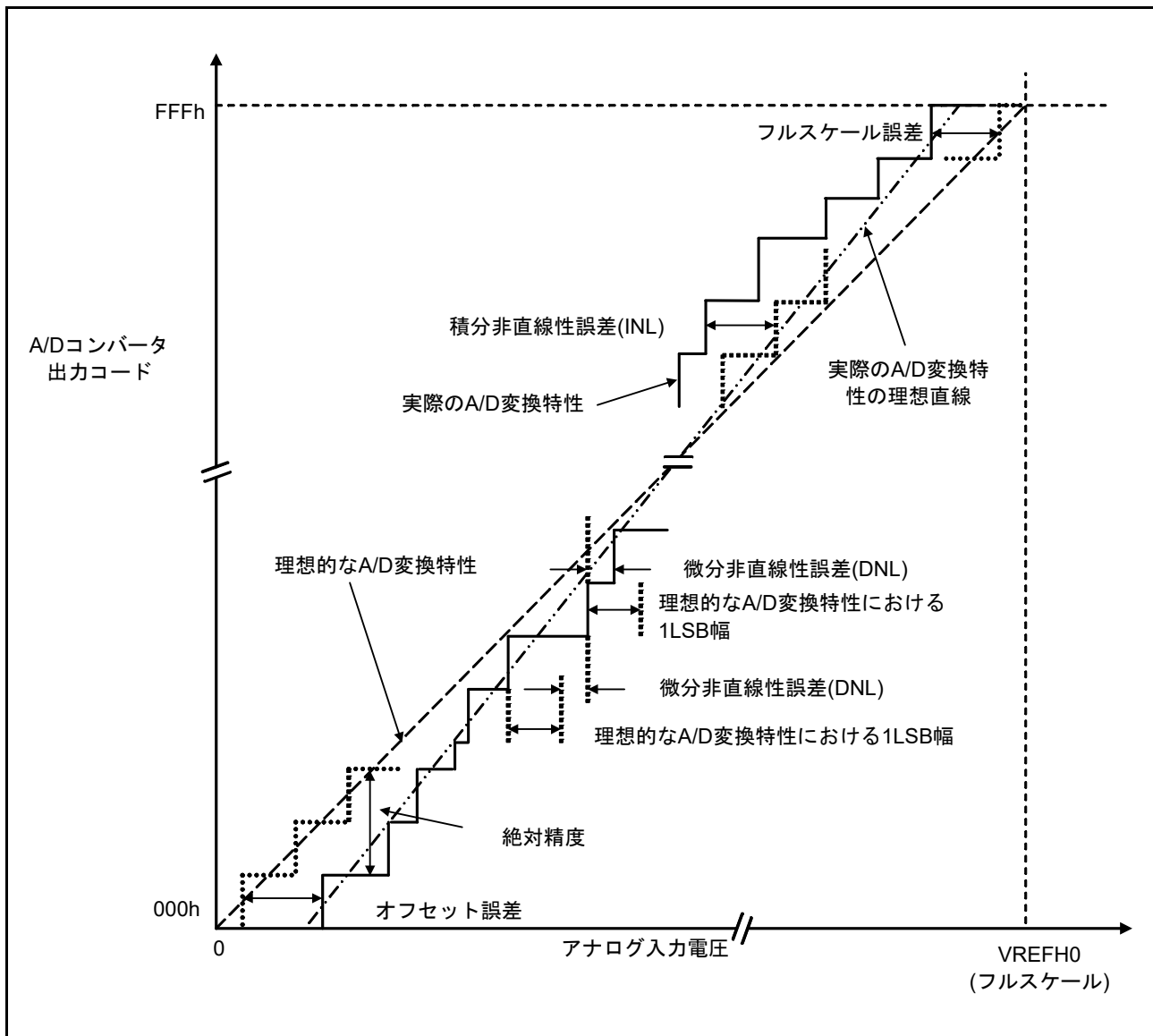


図 42.55 A/D コンバータ特性用語説明図

絶対精度

絶対精度とは、理論的な A/D 変換特性における出力コードと、実際の A/D 変換結果の差です。絶対精度の測定時は、理論的な A/D 変換特性において同じ出力コードを期待できるアナログ入力電圧の幅 (1LSB 幅) の中点の電圧を、アナログ入力電圧として使用します。例えば分解能 12 ビット、基準電圧 ($V_{REFH0} = 3.072V$) の場合、1LSB 幅は 0.75mV で、アナログ入力電圧には 0mV、0.75mV、1.5mV... を使用します。

絶対精度 $\pm 5LSB$ とは、アナログ入力電圧が 6mV の場合、理論的な A/D 変換特性では出力コード “008h” を期待できますが、実際の A/D 変換結果は “003h” ~ “00Dh” になることを意味します。

積分非直線性誤差 (INL)

積分非直線性誤差とは、測定されたオフセット誤差とフルスケール誤差をゼロにした場合の理想的な直線と実際の出力コードとの最大偏差です。

微分非直線性誤差 (DNL)

微分非直線性誤差とは、理想的な A/D 変換特性における 1LSB 幅と実際に出力された出力コード幅の差です。

オフセット誤差

オフセット誤差とは、理想的な最初の出力コードの変化点と実際の最初の出力コードとの差です。

フルスケール誤差

フルスケール誤差とは、理想的な最後の出力コードの変化点と実際の最後の出力コードとの差です。

42.7 D/A 変換特性

表 42.66 D/A 変換特性(1)

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
分解能		—	—	—	8	ビット	
変換時間	VCC = 1.8 ~ 5.5V	t_{DCONV}	—	—	3.0	μs	負荷容量 35pF
絶対精度	VCC = 2.4 ~ 5.5V	—	—	—	± 3.0	LSB	負荷抵抗 2M Ω
	VCC = 1.8 ~ 2.4V	—	—	—	± 3.5		
	VCC = 2.4 ~ 5.5V	—	—	—	± 2.0	LSB	負荷抵抗 4M Ω
	VCC = 1.8 ~ 2.4V	—	—	—	± 2.5		
RO出力抵抗		—	—	9.0	—	k Ω	

42.8 温度センサ特性

表42.67 温度センサ特性

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
相対精度	—	—	±1.5	—	°C	2.4V以上
		—	±2.0	—		2.4V未満
温度傾斜	—	—	-3.3	—	mV/°C	
出力電位(25°C)	—	—	1.05	—	V	VCC = 3.3V
温度センサ起動時間	t _{START}	—	—	5	μs	
サンプリング時間(注1)	—	5	—	—	μs	

注1. 12ビットA/Dコンバータのサンプリング時間が本規格を満たすようにS12AD.ADSSTRTレジスタを設定してください。

42.9 コンパレータ特性

表42.68 コンパレータ特性

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
CVREFB0 ~ CVREFB1入力基準電圧	VREF	0	—	VCC - 1.4	V	
CMPB0 ~ CMPB1入力電圧	VI	0	—	VCC	V	
内部基準電圧	—	1.34	1.44	1.54	V	
オフセット	コンパレータ高速モード	—	—	50	mV	
	コンパレータ高速モード ウィンドウ機能有効	—	—	60	mV	
	コンパレータ低速モード	—	—	40	mV	
コンパレータ 出力遅延時間	コンパレータ高速モード	Td	—	1.2	μs	VCC = 3V、 入力スルーレート ≥ 50mV/μs
	コンパレータ高速モード ウィンドウ機能有効	Tdw	—	2.0	μs	
	コンパレータ低速モード	Td	—	9.0	μs	
高電位側リファレンス電圧 (コンパレータ高速モード、ウィンドウ機能 有効)	VRFH	—	0.76 × VCC	—	V	
低電位側リファレンス電圧 (コンパレータ高速モード、ウィンドウ機能 有効)	VRFL	—	0.24 × VCC	—	V	
動作安定待ち時間	Tcmp	100	—	—	μs	

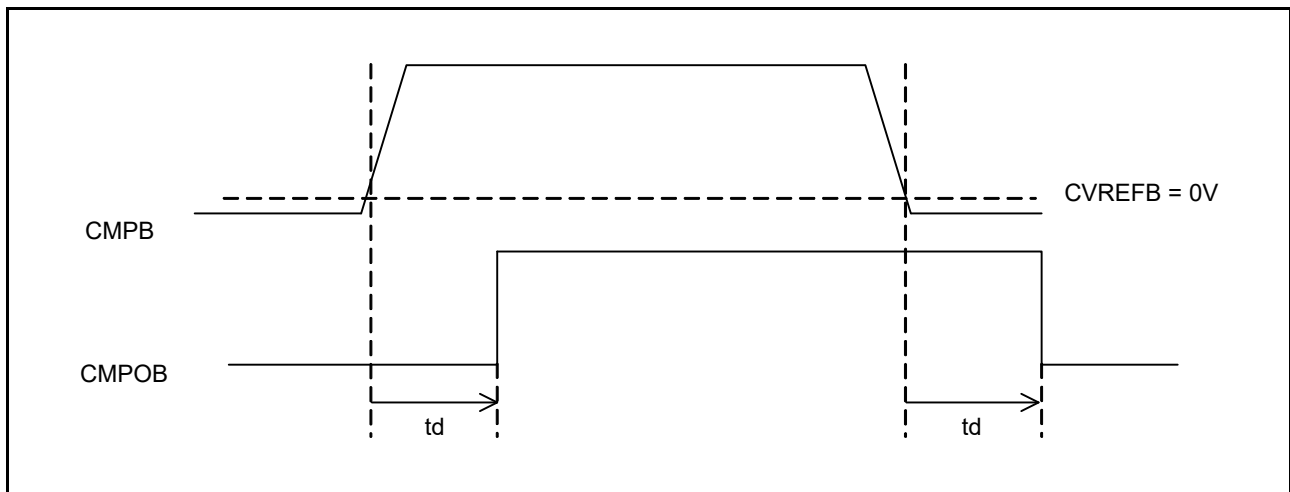


図 42.56 コンパレータ高速モード、低速モードのコンパレータ出力遅延時間

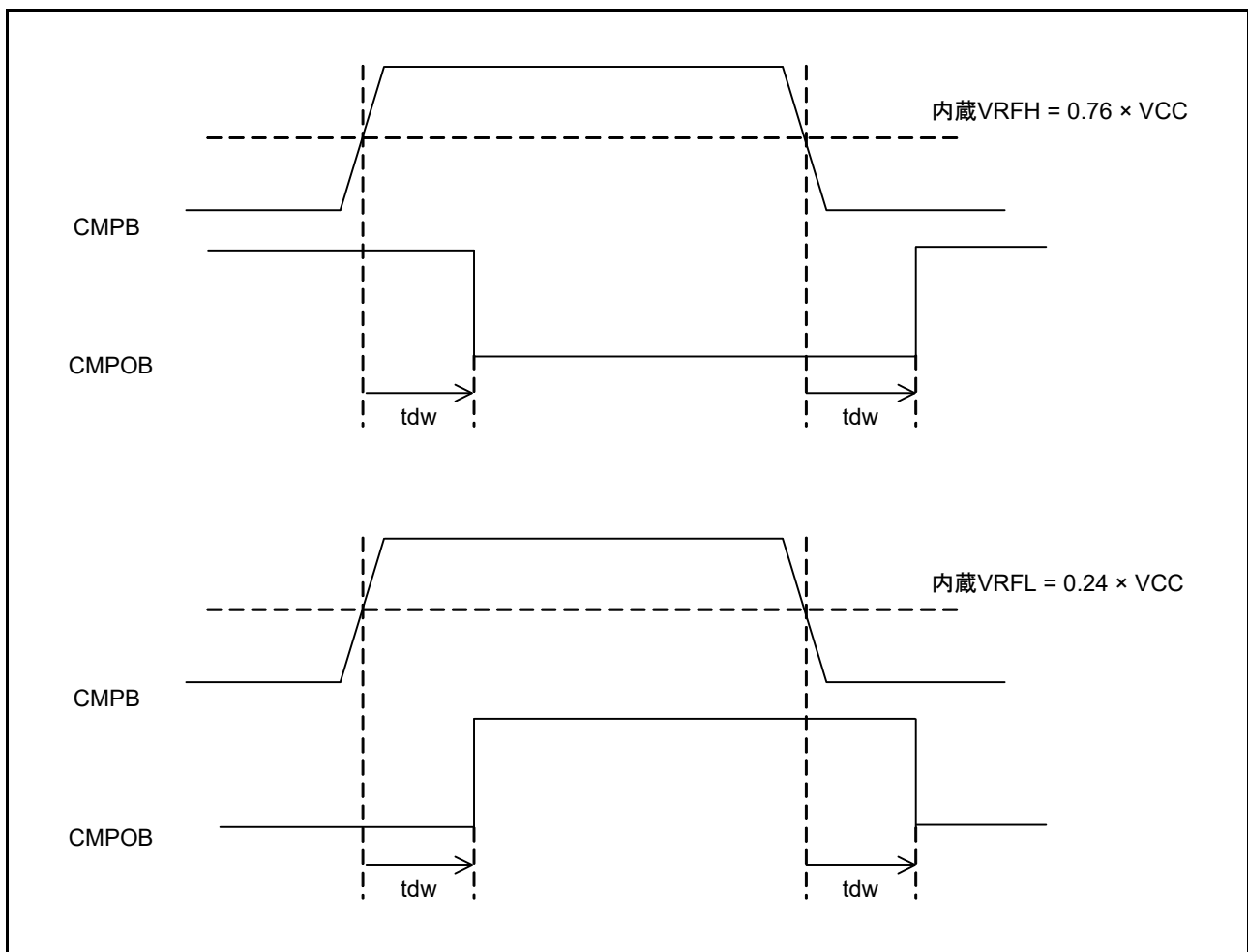


図 42.57 コンパレータ高速モードウィンドウ機能有効のコンパレータ出力遅延時間

42.10 CTSU 特性

表 42.69 CTSU 特性

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
TSCAP 端子外付け容量	C _{tscap}	9	10	11	nF	
出力 High/Low レベル許容電流	P12 ~ P17, P20, P21, P26, P27, P30 ~ P32, P34, P35, P54, P55, PB1 ~ PB7, PC2 ~ PC7, PH0 ~ PH3	—	—	24	mA	VXSEL = 0 の時
	PA0, PA1, PA3, PA4, PA6, PB0, PE0 ~ PE5	—	—	16	mA	フラッシュメモリの容量が64Kバイト以下の製品 VXSEL = 0 の時
	PA0 ~ PA6, PB0, PD0 ~ PD2, PE0 ~ PE5	—	—	16	mA	フラッシュメモリの容量が128Kバイト以上の製品 VXSEL = 0 の時

42.11 パワーオンリセット回路、電圧検出回路特性

表 42.70 パワーオンリセット回路、電圧検出回路特性(1)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件	
電圧検出レベル	パワーオンリセット (POR)	V _{POR}	1.35	1.50	1.65	V	図 42.58、図 42.59
	電圧検出回路 (LVD0) (注1)	V _{det0_0}	3.67	3.85	3.97	V	図 42.60 VCC 立ち下がり時
		V _{det0_1}	2.70	2.85	3.00		
		V _{det0_2}	2.37	2.53	2.67		
		V _{det0_3}	1.80	1.90	1.99		
	電圧検出回路 (LVD1) (注2)	V _{det1_0}	4.12	4.29	4.42	V	図 42.61 VCC 立ち下がり時
		V _{det1_1}	3.98	4.16	4.28		
		V _{det1_2}	3.86	4.03	4.16		
		V _{det1_3}	3.68	3.86	3.98		
		V _{det1_4}	2.99	3.10	3.29		
		V _{det1_5}	2.89	3.00	3.19		
		V _{det1_6}	2.79	2.90	3.09		
		V _{det1_7}	2.68	2.80	2.98		
		V _{det1_8}	2.57	2.68	2.87		
		V _{det1_9}	2.47	2.59	2.67		
		V _{det1_A}	2.37	2.48	2.57		
		V _{det1_B}	2.10	2.20	2.30		
	V _{det1_C}	1.86	1.96	2.06			
	V _{det1_D}	1.80	1.86	1.96			
	電圧検出回路 (LVD2) (注3)	V _{det2_0} (注4)	4.08	4.32	4.48	V	図 42.62 VCC 立ち下がり時
V _{det2_1}		3.95	4.17	4.35			
V _{det2_2}		3.82	4.03	4.22			
V _{det2_3}		3.62	3.84	4.02			

注. 電源にノイズが重畳されていない状態での特性です。電圧検出回路 (LVD2) の電圧検出レベルとオーバラップする設定を行っ

た場合、LVD1、LVD2のどちらで電圧検出動作するかは特定できません。

注1. 記号Vdet0_nのnは、VDSEL1[1:0]ビットの値です。

注2. 記号Vdet1_nのnは、LVDLVLRLVD1LVL[3:0]ビットの値です。

注3. 記号Vdet2_nのnは、LVDLVLRLVD2LVL[1:0]ビットの値です。

注4. Vdet2_0選択はCMPA2端子入力電圧選択時のみ使用可能で、電源電圧(VCC)選択時は使用できません。

表 42.71 パワーオンリセット回路、電圧検出回路特性(2)

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V, T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	min	typ	max	単位	測定条件
パワーオンリセット 解除後待機時間	通常起動時(注1)	t _{POR}	—	12.5	—	ms	図 42.59
	起動時間短縮時(注2)	t _{POR}	—	5.0	—		
電圧監視0リセット解除後待機時間		t _{LVD0}	—	860	—	μs	図 42.60
電圧監視1リセット 解除後待機時間	LVD0無効時(注4)	t _{LVD1}	—	160	—	μs	図 42.61
	LVD0有効時(注5)		—	860	—	μs	
電圧監視2リセット 解除後待機時間	LVD0無効時(注4)	t _{LVD2}	—	160	—	μs	図 42.62
	LVD0有効時(注5)		—	860	—	μs	
POR応答遅延時間		t _{det}	—	—	500	μs	図 42.58
LVD0応答遅延時間			—	—	500	μs	図 42.58
LVD1応答遅延時間			—	—	360	μs	図 42.58
LVD2応答遅延時間			—	—	600	μs	図 42.58
POR/LVD0最小VCC低下時間(注3)		t _{VOFF}	500	—	—	μs	図 42.58、VCC = 1.0V以上
LVD1最小VCC低下時間(注3)			300	—	—	μs	図 42.58、VCC = 1.0V以上
LVD2最小VCC低下時間(注3)			600	—	—	μs	図 42.58、VCC = 1.0V以上
パワーオンリセット有効時間		t _{w(POR)}	1	—	—	ms	図 42.59、VCC = 1.0V未満
LVD1動作安定時間(LVD有効切り替え時)		t _{d(E-A)}	—	—	300	μs	図 42.61
LVD2動作安定時間(LVD有効切り替え時)		t _{d(E-A)}	—	—	1200	μs	図 42.62
ヒステリシス幅(パワーオンリセット(POR))		V _{PORH}	—	110	—	mV	
ヒステリシス幅(電圧検出回路 (LVD0, LVD1, LVD2))		V _{LVH}	—	60	—	mV	Vdet0_0 ~ Vdet0_3選択時
			—	110	—		Vdet1_0 ~ Vdet1_2選択時
			—	70	—		Vdet1_3 ~ 9選択時
			—	60	—		Vdet1_A ~ B選択時
			—	50	—		Vdet1_C ~ D選択時
			—	90	—		LVD2選択時

注. 電源にノイズが重畳されていない状態での特性です。電圧検出回路(LVD1)の電圧検出レベルとオーバーラップする設定を行った場合、LVD1、LVD2のどちらで電圧検出動作するかは特定できません。

注1. OFS1.(LVDAS, FASTSTUP) = 11bを設定した場合です。

注2. OFS1.(LVDAS, FASTSTUP) = 11b以外を設定した場合です。

注3. 最小VCC低下時間は、VCCがPOR/LVDの電圧検出レベルV_{POR}、V_{det0}、V_{det1}、V_{det2}のmin値を下回っている時間です。

注4. OFS1.LVDAS = 1bを設定した場合です。

注5. OFS1.LVDAS = 0bを設定した場合です。

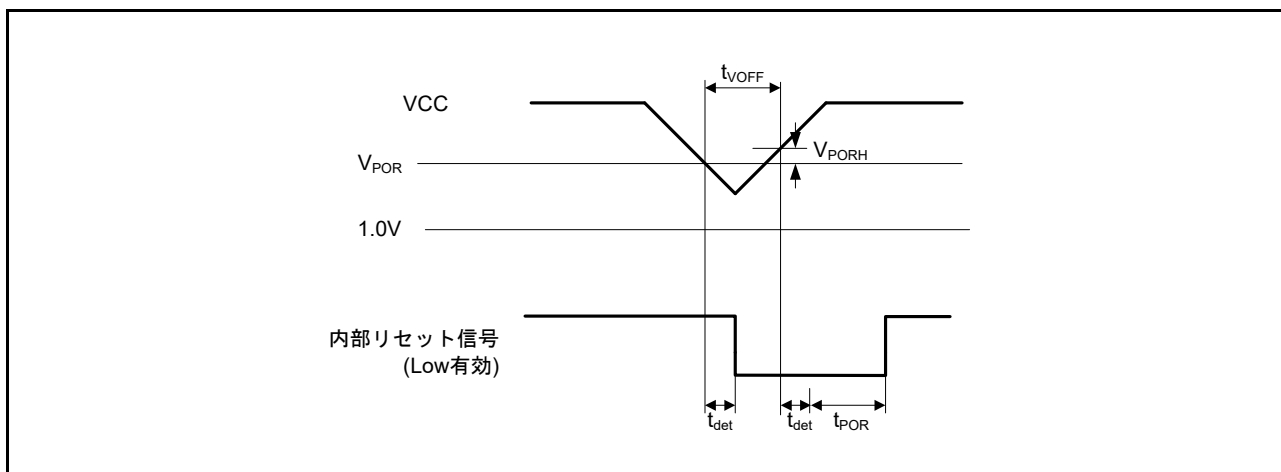


図 42.58 電圧検出リセットタイミング

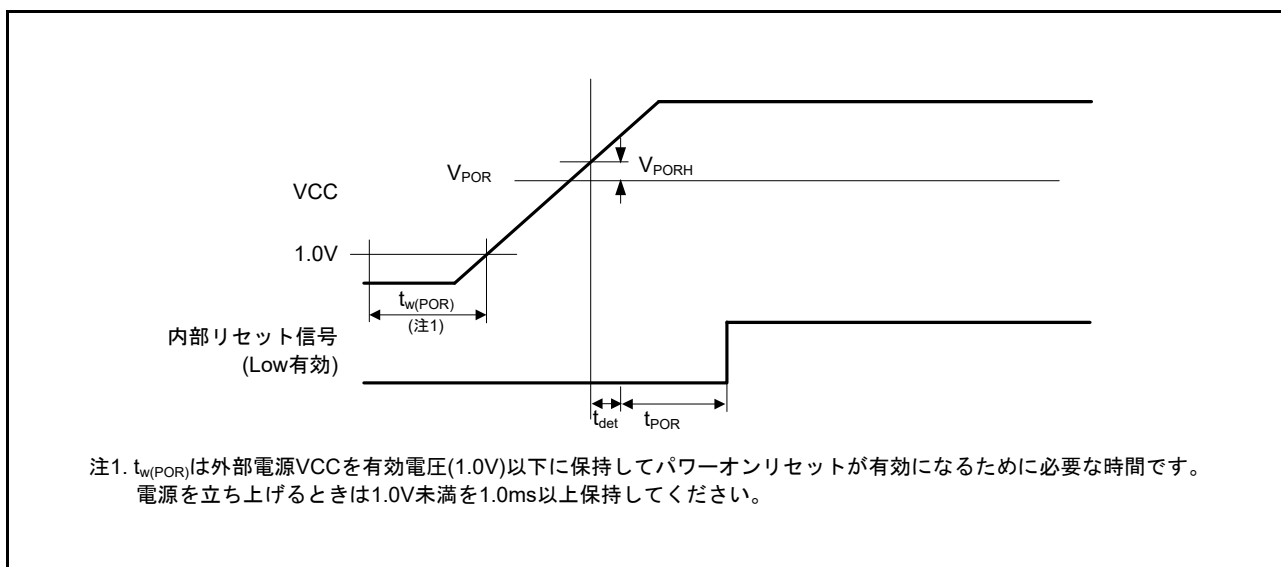


図 42.59 パワーオンリセットタイミング

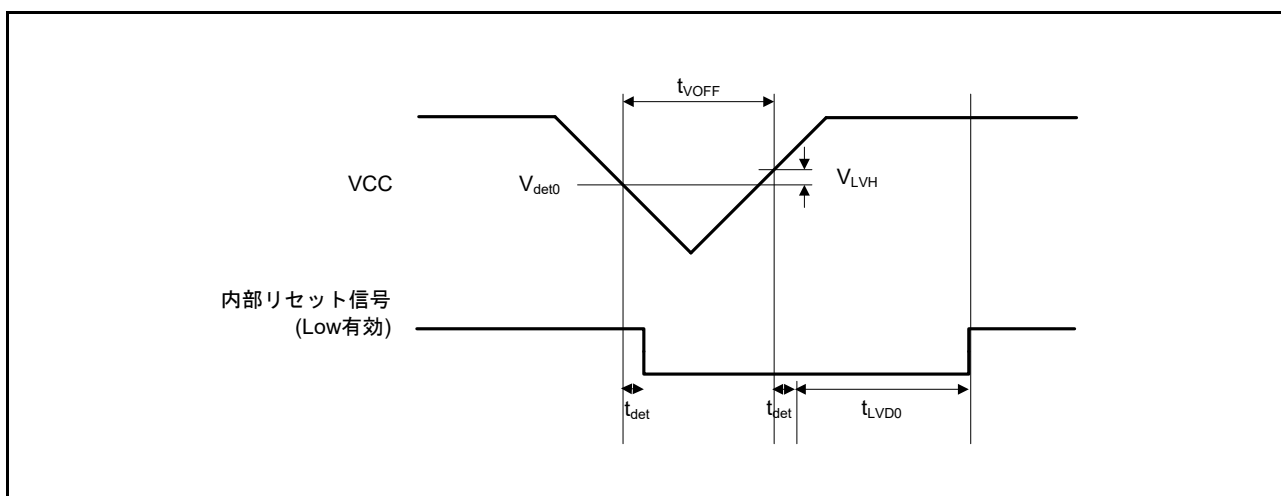


図 42.60 電圧検出回路タイミング (V_{det0})

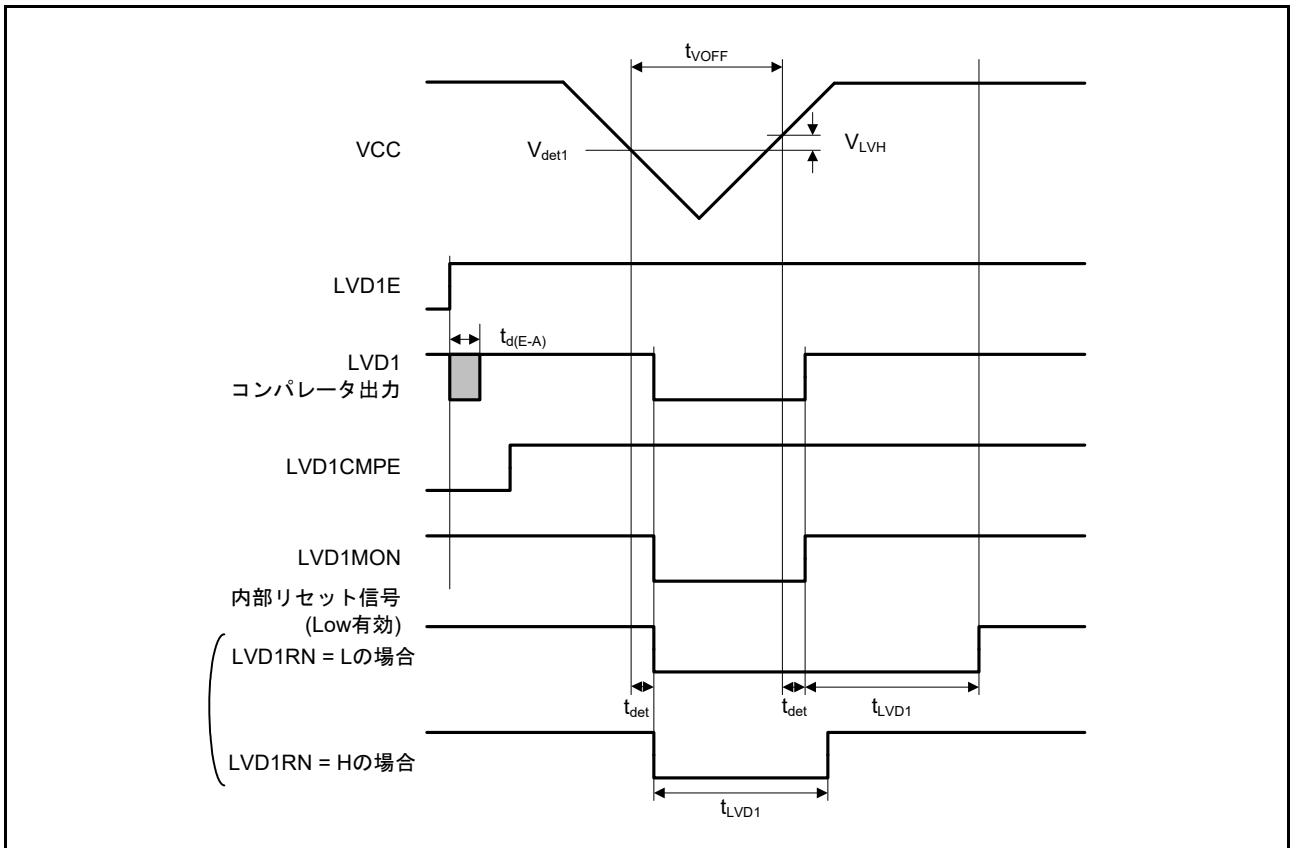


図 42.61 電圧検出回路タイミング (V_{det1})

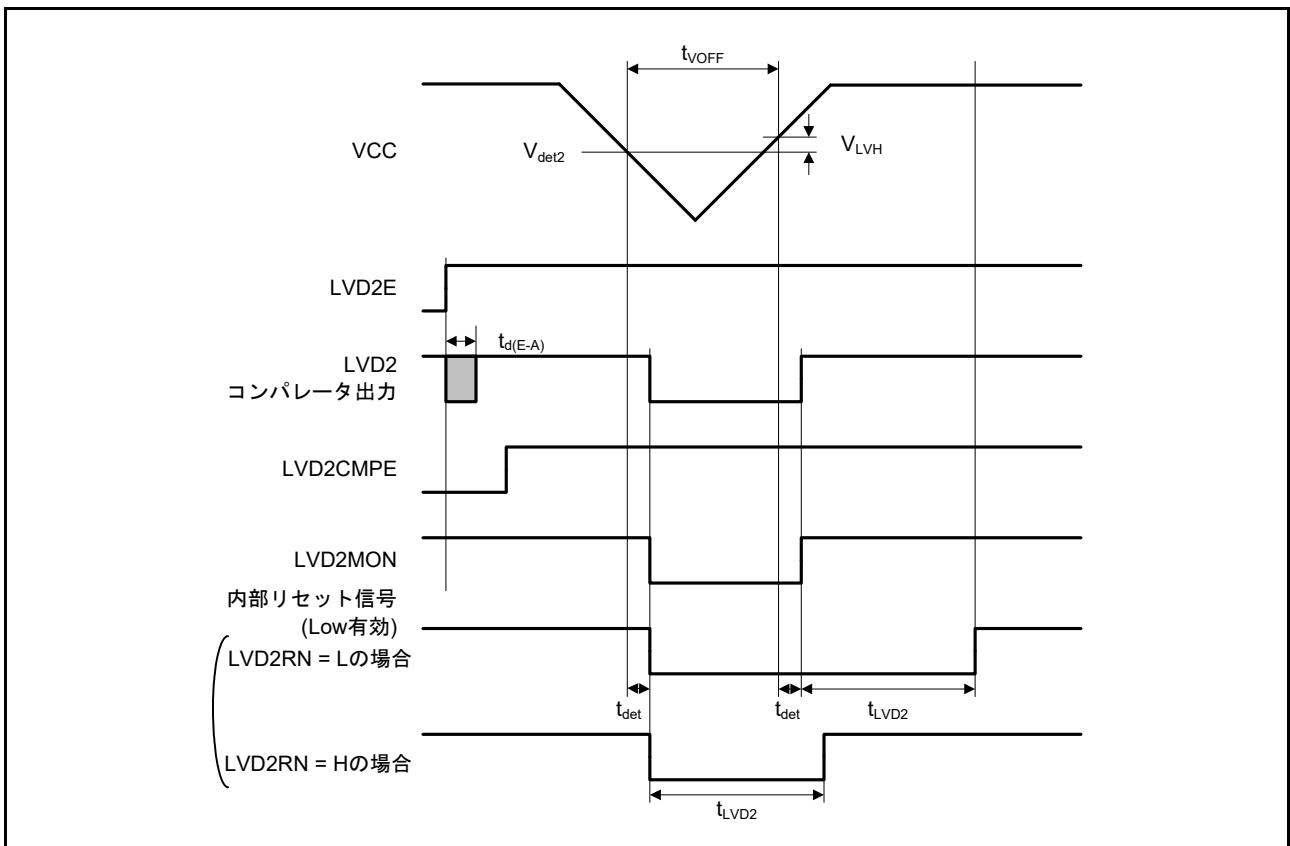


図 42.62 電圧検出回路タイミング (V_{det2})

42.12 発振停止検出タイミング

表42.72 発振停止検出回路特性

条件 : $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$, $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	min	typ	max	単位	測定条件
検出時間	t_{dr}	—	—	1	ms	図42.63

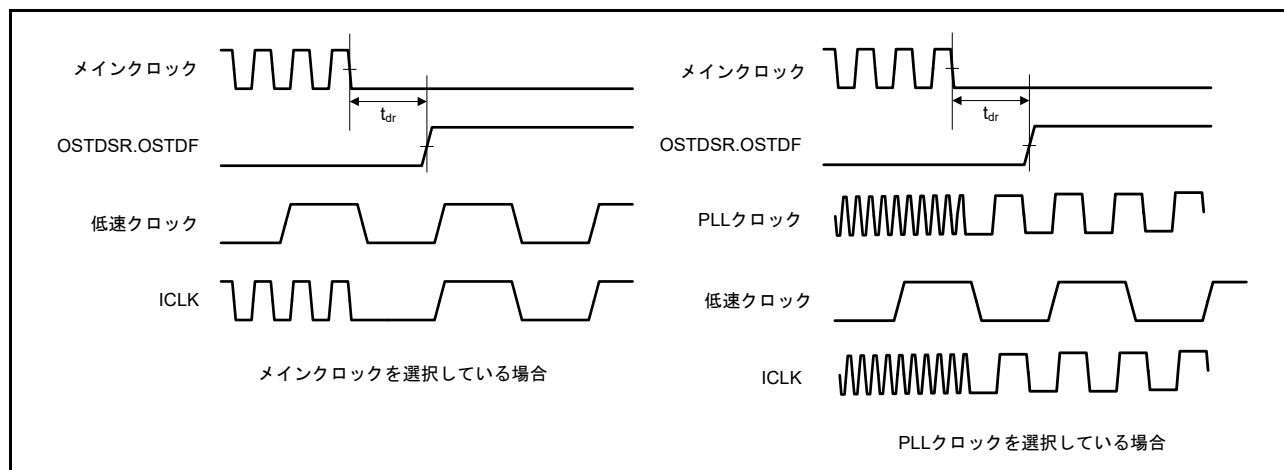


図 42.63 発振停止検出タイミング

42.13 ROM (コード格納用フラッシュメモリ) 特性

表42.73 ROM (コード格納用フラッシュメモリ) 特性(1)

項目	記号	min	typ	max	単位	条件
プログラム/イレーズ回数 (注1)	N_{PEC}	1K	—	—	回	
データ保持時間 (注2、注3)	N_{PEC} 1K回後 t_{DRP}	20	—	—	年	$T_a = +105^\circ\text{C}$

- 注1. プログラム/イレーズ回数の定義：プログラム/イレーズ回数は、ブロックごとのイレーズ回数です。プログラム/イレーズ回数がn回の場合、ブロックごとにそれぞれn回ずつイレーズすることができます。たとえば、2Kバイトのブロックについて、それぞれ異なる番地に8バイトプログラムを256回に分けて行った後に、そのブロックをイレーズした場合も、プログラム/イレーズ回数は1回と数えます。ただし、イレーズ1回に対して、同一アドレスに複数回のプログラムを行うことはできません(上書き禁止)。
- 注2. フラッシュメモリライタを使用時、および当社提供のセルフプログラミングライブラリ使用時の特性です。
- 注3. 信頼性試験から得られた結果です。

表42.74 ROM (コード格納用フラッシュメモリ) 特性(2) 高速動作モード

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V

プログラム/イレーズ時の動作温度範囲： $T_a = -40 \sim +105^\circ\text{C}$

項目	記号	FCLK = 1MHz			FCLK = 32MHz			FCLK = 48MHz			単位
		min	typ	max	min	typ	max	min	typ	max	
プログラム時間	8バイト t_{P8}	—	94	843.5	—	45.4	448.7	—	45.1	446.0	μs
イレーズ時間	2Kバイト t_{E2K}	—	8.3	282.0	—	5.4	220.4	—	5.4	220.1	ms
	64Kバイト t_{E64K}	—	105	2331	—	12.7	375.4	—	12.4	368.0	ms
ブランクチェック時間	8バイト t_{BC8}	—	—	45.0	—	—	8.9	—	—	8.7	μs
	2Kバイト t_{BC2K}	—	—	1573	—	—	120	—	—	115	μs
イレーズ処理強制停止時間	t_{SED}	—	—	22.8	—	—	11.1	—	—	11.0	μs
スタートアップ領域入れ替え設定時間	t_{SAS}	—	8.2	503.3	—	5.6	438.0	—	5.6	437.7	ms
アクセスウィンドウ設定時間	t_{AWS}	—	8.2	503.3	—	5.6	438.0	—	5.6	437.7	ms
ROMモード遷移待ち時間	t_{MS}	15	—	—	15	—	—	15	—	—	μs

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
- 注. フラッシュメモリP/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。
- 注. FCLKの周波数精度は±3.5%である必要があります。クロックソースの周波数精度をご確認ください。

表42.75 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(3) 中速動作モード
 条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$
 プログラム/イレーズ時の動作温度範囲: $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	FCLK = 1MHz			FCLK = 24MHz			単位	
		min	typ	max	min	typ	max		
プログラム時間	8バイト	t_{P8}	—	94.0	843.5	—	45.7	450.7	μs
イレーズ時間	2Kバイト	t_{E2K}	—	8.3	282.0	—	5.4	220.2	ms
	64Kバイト	t_{E64K}	—	105	2331	—	17.0	500.5	ms
ブランクチェック時間	8バイト	t_{BC8}	—	—	45	—	—	9	μs
	2Kバイト	t_{BC2K}	—	—	1573	—	—	115	μs
イレーズ処理強制停止時間		t_{SED}	—	—	22.8	—	—	11.2	μs
スタートアップ領域入れ替え設定時間		t_{SAS}	—	8.2	503.3	—	5.6	437.7	ms
アクセスウィンドウ設定時間		t_{AWS}	—	8.2	503.3	—	5.6	437.7	ms
ROMモード遷移待ち時間		t_{MS}	15	—	—	15	—	—	μs

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
 注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。
 注. FCLKの周波数精度は $\pm 3.5\%$ である必要があります。クロックソースの周波数精度をご確認ください。

表42.76 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(4) 中速動作モード2
 条件: $1.8V \leq VCC \leq 5.5V$, $1.8V \leq AVCC0 \leq 5.5V$, $VSS = AVSS0 = 0V$
 プログラム/イレーズ時の動作温度範囲: $T_a = -40 \sim +105^\circ C$

項目	記号	FCLK = 1MHz			単位	
		min	typ	max		
プログラム時間	8バイト	t_{P8}	—	94.0	843.5	μs
イレーズ時間	2Kバイト	t_{E2K}	—	8.3	282.0	ms
	64Kバイト	t_{E64K}	—	105	2331	ms
ブランクチェック時間	8バイト	t_{BC8}	—	—	45	μs
	2Kバイト	t_{BC2K}	—	—	1573	μs
イレーズ処理強制停止時間		t_{SED}	—	—	22.8	μs
スタートアップ領域入れ替え設定時間		t_{SAS}	—	8.2	503.3	ms
アクセスウィンドウ設定時間		t_{AWS}	—	8.2	503.3	ms
ROMモード遷移待ち時間		t_{MS}	15	—	—	μs

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
 注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。
 注. FCLKの周波数精度は $\pm 3.5\%$ である必要があります。クロックソースの周波数精度をご確認ください。

42.14 E2 データフラッシュ (データ格納用フラッシュメモリ) 特性

表42.77 E2データフラッシュ特性(1)

項目	記号	min	typ	max	単位	条件	
プログラム/イレーズ回数 (注1)	N _{DPEC}	100K	1000K	—	回		
データ保持時間	N _{DPEC} 10K回後	t _{DDRP}	20 (注2、注3)	—	—	年	T _a = +105°C
	N _{DPEC} 100K回後		5 (注2、注3)	—	—	年	
	N _{DPEC} 1000K回後	—	1 (注2、注3)	—	—	年	T _a = +25°C

- 注1. プログラム/イレーズ回数の定義：プログラム/イレーズ回数は、ブロックごとのイレーズ回数です。プログラム/イレーズ回数がn回の場合、ブロックごとにそれぞれn回ずつイレーズすることができます。たとえば、256バイトのブロックについて、それぞれ異なる番地に1バイトプログラムを256回に分けて行った後に、そのブロックをイレーズした場合も、プログラム/イレーズ回数は1回と数えます。ただし、イレーズ1回に対して、同一アドレスに複数回のプログラムを行うことはできません(上書き禁止)。
- 注2. フラッシュメモリライタを使用時、および当社提供のセルフプログラミングライブラリ使用時の特性です。
- 注3. 信頼性試験から得られた結果です。

表42.78 E2データフラッシュ特性(2) 高速動作モード

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V
 プログラム/イレーズ時の動作温度範囲：T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	FCLK = 1MHz			FCLK = 32MHz			FCLK = 48MHz			単位	
		min	typ	max	min	typ	max	min	typ	max		
プログラム時間	1バイト	t _{DP1}	—	83.0	729.5	—	35.1	341.2	—	34.8	338.8	μs
イレーズ時間	256バイト	t _{DE256}	—	8.3	282.0	—	5.4	220.4	—	5.4	220.1	ms
	4Kバイト	t _{DE4K}	—	55.0	1273.7	—	9.0	295.4	—	8.8	291.7	ms
ブランクチェック時間	1バイト	t _{DBC1}	—	—	44.6	—	—	8.9	—	—	8.2	μs
	256バイト	t _{DBC256}	—	—	1573	—	—	120	—	—	115	μs
イレーズ処理強制停止時間	t _{DSED}	—	—	22.8	—	—	11.1	—	—	11.0	μs	
データフラッシュ STOP解除時間	t _{DSTOP}	250	—	—	250	—	—	250	—	—	ns	

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
- 注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。
- 注. FCLKの周波数精度は±3.5%である必要があります。

表42.79 E2データフラッシュ特性(3) 中速動作モード

条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V
 プログラム/イレーズ時の動作温度範囲：T_a = -40 ~ +105°C

項目	記号	FCLK = 1MHz			FCLK = 8MHz			単位	
		min	typ	max	min	typ	max		
プログラム時間	1バイト	t _{DP1}	—	83.0	729.5	—	35.3	343.2	μs
イレーズ時間	256バイト	t _{DE256}	—	8.3	282.0	—	5.4	220.2	ms
	4Kバイト	t _{DE4K}	—	55.0	1273.7	—	8.8	291.8	ms
ブランクチェック時間	1バイト	t _{DBC1}	—	—	44.6	—	—	9.0	μs
	256バイト	t _{DBC256}	—	—	1573	—	—	115	ms
イレーズ処理強制停止時間	t _{DSED}	—	—	22.8	—	—	11.2	μs	
データフラッシュ STOP解除時間	t _{DSTOP}	250	—	—	250	—	—	ns	

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
- 注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。FCLKを4MHz未満で使用する場合は、設定可能な周波数は1MHz、2MHz、3MHzです。例えば1.5MHzのように整数値でない周波数は設定できません。
- 注. FCLKの周波数精度は±3.5%である必要があります。

表42.80 E2データフラッシュ特性(4) 中速動作モード2
 条件：1.8V ≤ VCC ≤ 5.5V, 1.8V ≤ AVCC0 ≤ 5.5V, VSS = AVSS0 = 0V
 プログラム/イレーズ時の動作温度範囲：T_a = -40 ~ +105°C

項目		記号	FCLK = 1MHz			単位
			min	typ	max	
プログラム時間	1バイト	t _{DP1}	—	83.0	729.5	μs
イレーズ時間	256バイト	t _{DE256}	—	8.3	282.0	ms
	4Kバイト	t _{DE4K}	—	55.0	1273.7	ms
ブランクチェック時間	1バイト	t _{DBC1}	—	—	44.6	μs
	256バイト	t _{DBC256}	—	—	1573	ms
イレーズ処理強制停止時間		t _{DSED}	—	—	22.8	μs
データフラッシュ STOP解除時間		t _{DSTOP}	250	—	—	ns

- 注. ソフトウェアの命令実行からFlashの各動作が起動するまでの時間は含みません。
 注. フラッシュメモリ P/E時、FCLKの下限周波数は1MHzです。
 注. FCLKの周波数精度は±3.5%である必要があります。

42.15 使用上の注意事項

42.15.1 VCL コンデンサ、バイパスコンデンサ接続方法

本 MCU では、マイコン内部の電源電圧を自動的に最適なレベルに電圧降下するための内部降圧回路を内蔵しています。この内部降圧電源 (VCL 端子) と VSS 端子間には、内部電圧安定用のコンデンサ $4.7\mu\text{F}$ を接続する必要があります。外付けコンデンサ接続方法を図 42.64 ~ 図 42.66 に示します。外付けコンデンサは端子の近くに配置してください。VCL 端子には、電源電圧を印加しないでください。

また、電源端子のペアごとに積層セラミックコンデンサをバイパスコンデンサとして入れてください。バイパスコンデンサはできるかぎり MCU の電源端子の近くに実装してください。コンデンサの容量値は $0.1\mu\text{F}$ (推奨値) を使用してください。水晶発振関連のコンデンサについては「9. クロック発生回路」も参照してください。アナログ関連のコンデンサについては「35. 12 ビット A/D コンバータ (S12ADE)」も参照してください。

基板設計の注意事項についてはアプリケーションノート「ハードウェアデザインガイド」(R01AN1411JJ) でも説明していますので、最新版をルネサスエレクトロニクスホームページから入手して参照ください。

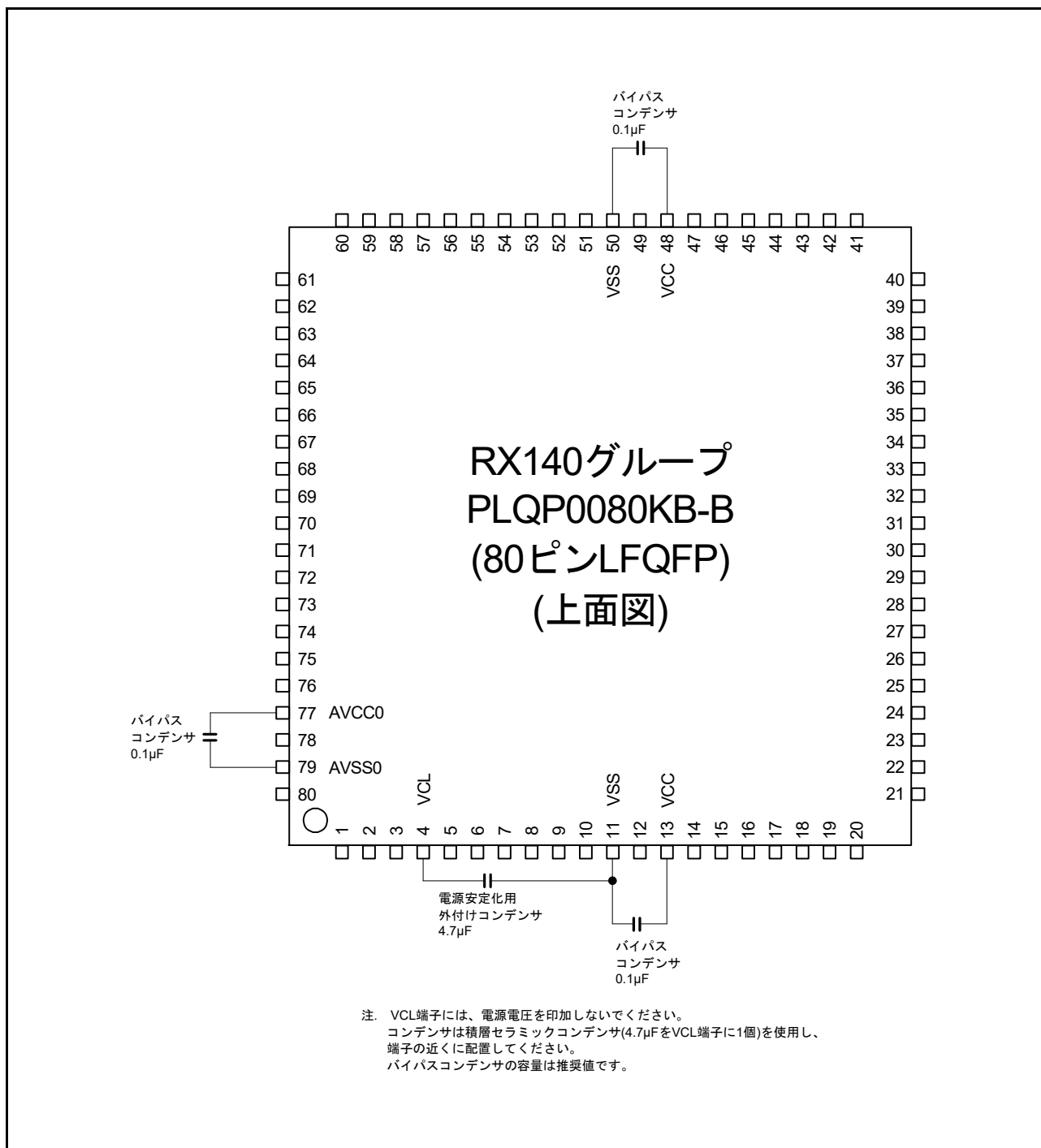


図 42.64 コンデンサ接続方法 (80ピン)

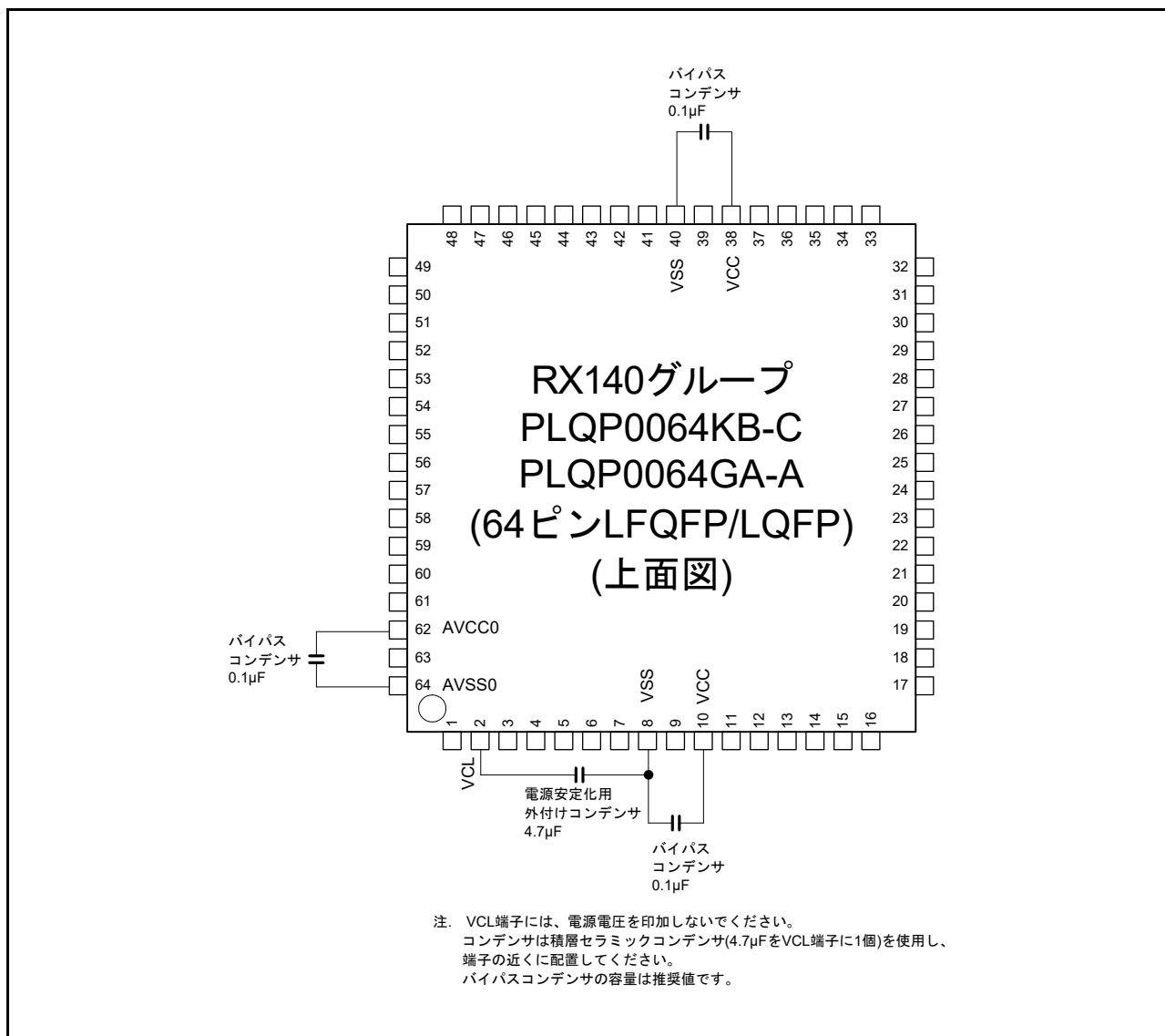


図 42.65 コンデンサ接続方法 (64 ピン)

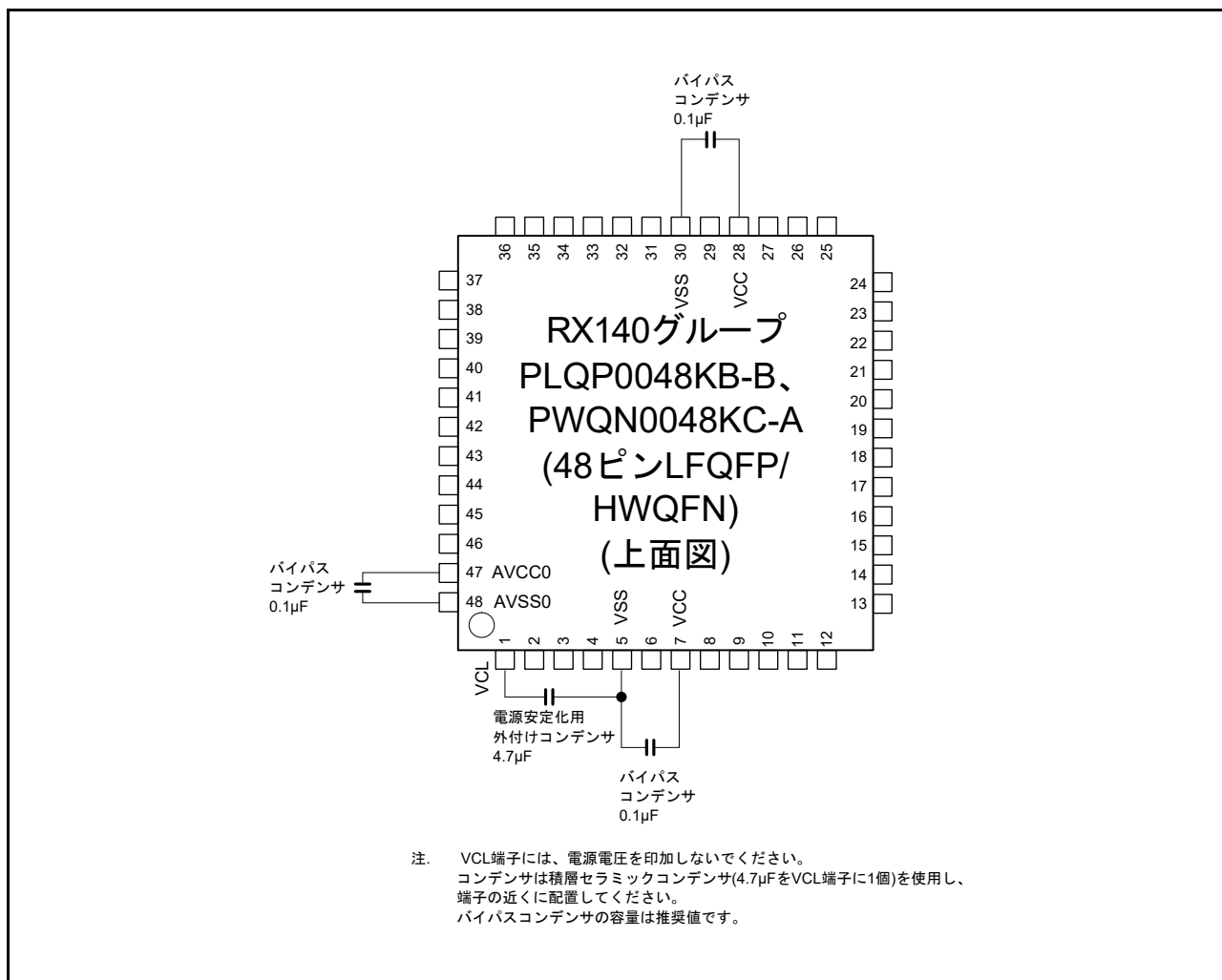


図 42.66 コンデンサ接続方法 (48 ピン)

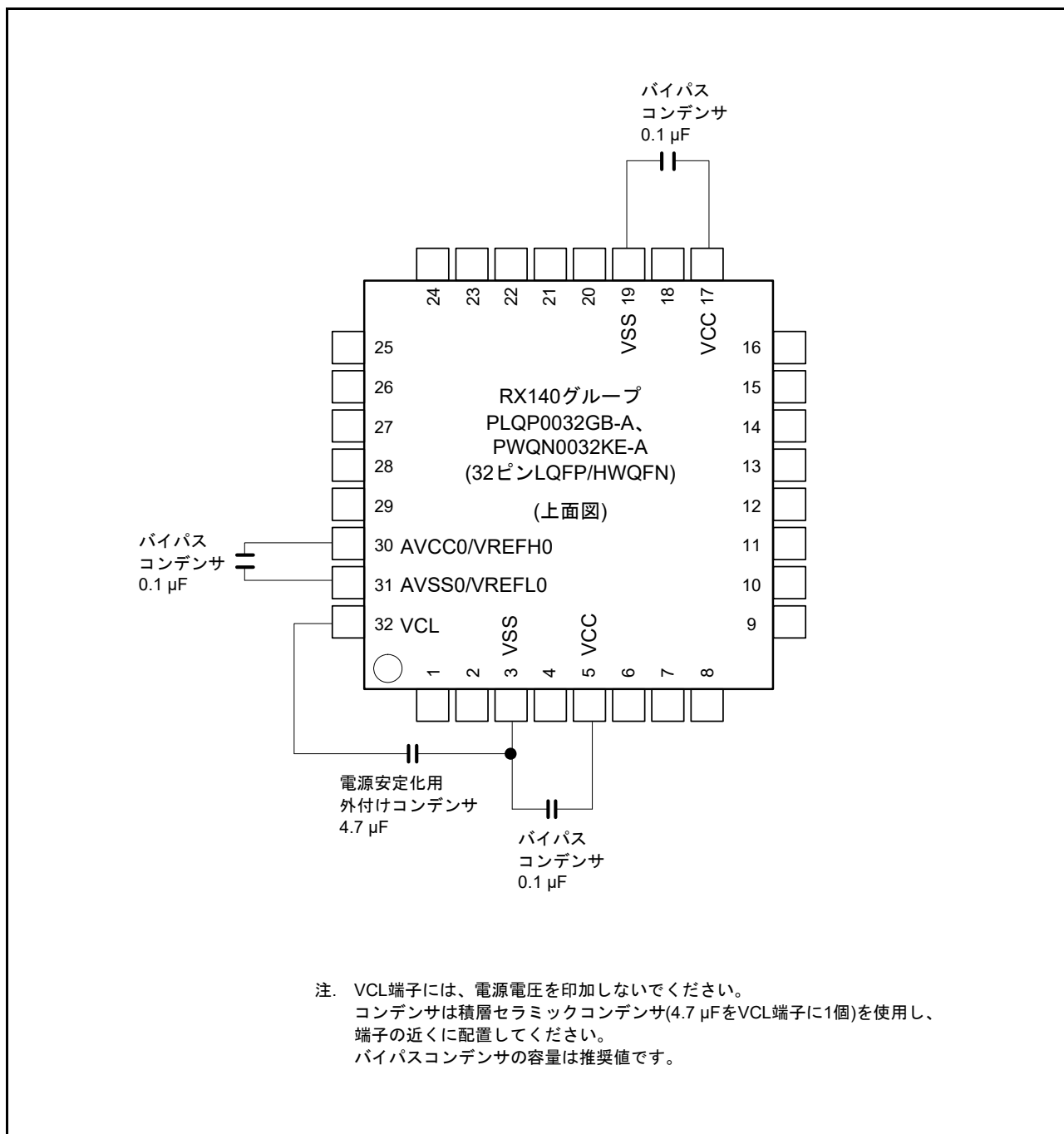


図 42.67 コンデンサ接続方法 (32 ピン)

付録1. 各処理状態におけるポートの状態

表 1.1 各処理状態におけるポートの状態 (1/2)

ポート名端子名	リセット	ソフトウェアスタンバイモード	
P03 (DA0)	Hi-z	DA0出力時(DAOE0 = 1)	DA出力保持
		上記以外(DAOE0 = 0)	Keep-O
P05 (DA1)	Hi-z	DA1出力時(DAOE1 = 1)	DA出力保持
		上記以外(DAOE1 = 0)	Keep-O
P04, P06, P07	Hi-z	Keep-O	
P12 (IRQ2)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P13 (IRQ3)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P14 (IRQ4)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P15 (IRQ5)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P16 (IRQ6/RTCOUT)	Hi-z	RTCOUT選択時	RTCOUT出力
		上記以外	Keep-O (注1)
P17 (IRQ7)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P20, P21	Hi-z	Keep-O	
P26 (CLKOUT)	Hi-z	CLKOUT選択時	CLKOUT出力
		上記以外	Keep-O
P27	Hi-z	Keep-O	
P30 (IRQ0)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P31 (IRQ1)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P32 (IRQ2/RTCOUT)	Hi-z	RTCOUT選択時	RTCOUT出力
		上記以外	Keep-O (注1)
P34 (IRQ4)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P35 (NMI)	Hi-z	Keep (注1)	
P36 (IRQ2)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P37 (IRQ4)	Hi-z	Keep-O (注1)	
P40 ~ P47	Hi-z	Keep-O	
P54, P55	Hi-z	Keep-O	
PA0, PA1, PA2	Hi-z	Keep-O	
PA3 (IRQ6/RXD5)	Hi-z	Keep-O (注1、注2)	
PA4 (IRQ5)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PA5, PA6	Hi-z	Keep-O	
PB0	Hi-z	Keep-O	
PB1 (IRQ4/CMPOB1)	Hi-z	CMPOB1選択時	CMPOB1出力
		上記以外	Keep-O (注1)
PB2 ~ PB7	Hi-z	Keep-O	
PC2(RXD5)	Hi-z	Keep-O (注2)	
PC3 ~ PC7	Hi-z	Keep-O	
PD0 (IRQ0)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PD1 (IRQ1)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PD2 (IRQ2)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PE0, PE1	Hi-z	Keep-O	
PE2 (IRQ7)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PE3, PE4 (CLKOUT)	Hi-z	CLKOUT選択時	CLKOUT出力
		上記以外	Keep-O

表 1.1 各処理状態におけるポートの状態 (2/2)

ポート名端子名	リセット	ソフトウェアスタンバイモード	
		CMPOB0 選択時	CMPOB0 出力
PE5 (IRQ5/CMPOB0)	Hi-z	上記以外	Keep-O (注1)
PH0	Hi-z	Keep-O	
PG7/MD	Pullup	Keep-O	
PH1 (IRQ0)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PH2 (IRQ1)	Hi-z	Keep-O (注1)	
PH3	Hi-z	Keep-O	
PH6 (注3) /XCOUT	Hi-z	サブクロック選択時	XCOUT 出力
		上記以外	Hi-z
PH7 (注3) /XCIN	Hi-z	サブクロック選択時	XCIN 入力
		上記以外	Hi-z
PJ1, PJ6, PJ7	Hi-z	Keep-O	

H : High レベル

L : Low レベル

Keep-O: 出力端子として使用時は直前値を保持、入力端子として使用時はハイインピーダンス

Keep : ソフトウェアスタンバイモードでの端子状態を保持 (プルアップ、オープンドレイン設定も保持されます)

Hi-z : ハイインピーダンス

注1. 外部端子割り込みとして使用時は、ソフトウェアスタンバイモード解除要因として設定されている場合、入力できます。

注2. SCI5のRXD端子として使用時は、ソフトウェアスタンバイモードでも入力できます。

注3. ROM容量が64Kバイトの製品にはありません。

付録2. 外形寸法図

外形寸法図の最新版や実装に関する情報は、ルネサス エレクトロニクスホームページの「パッケージ」に掲載されています。

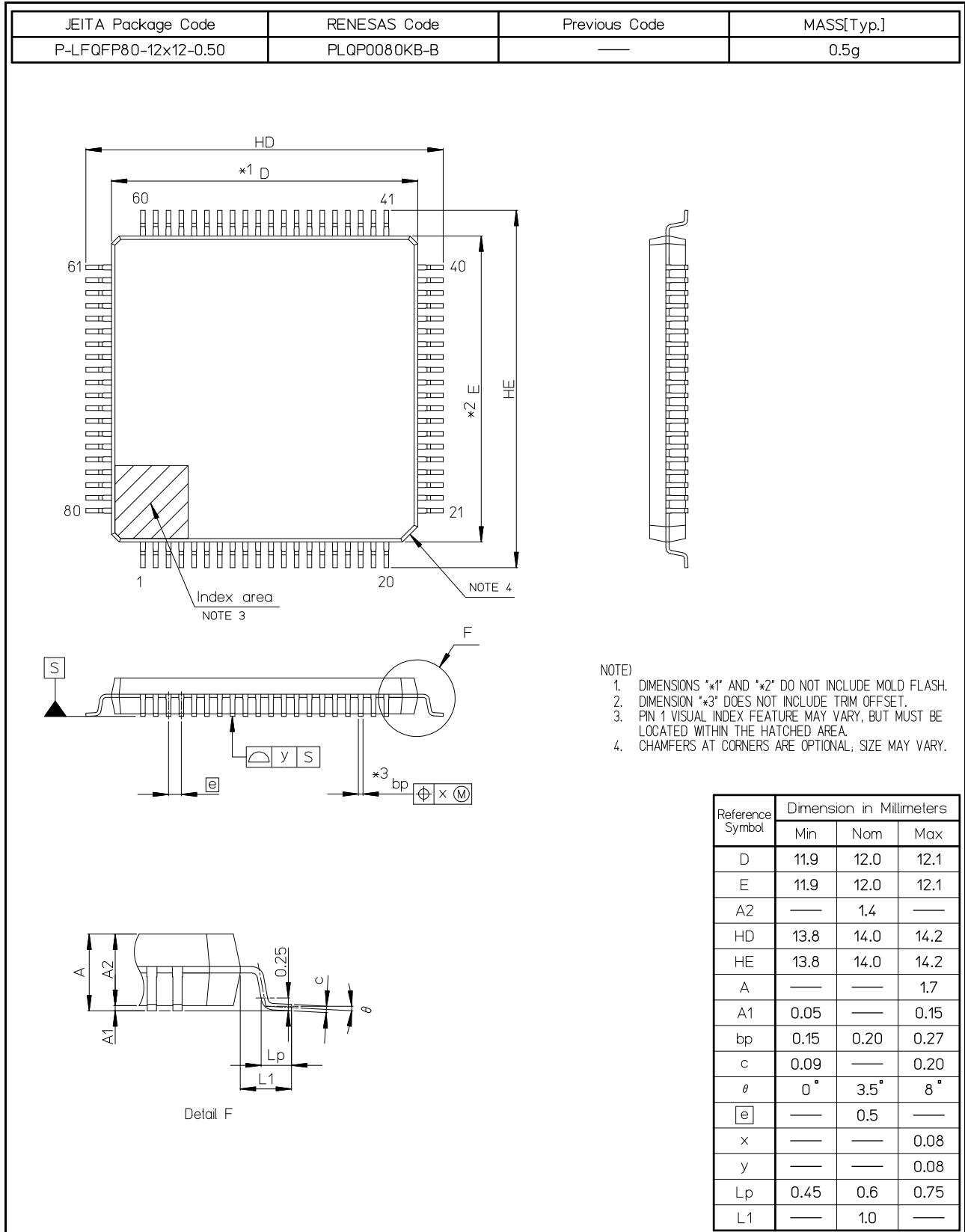


図 A. 80ピン LFQFP (PLQP0080KB-B)

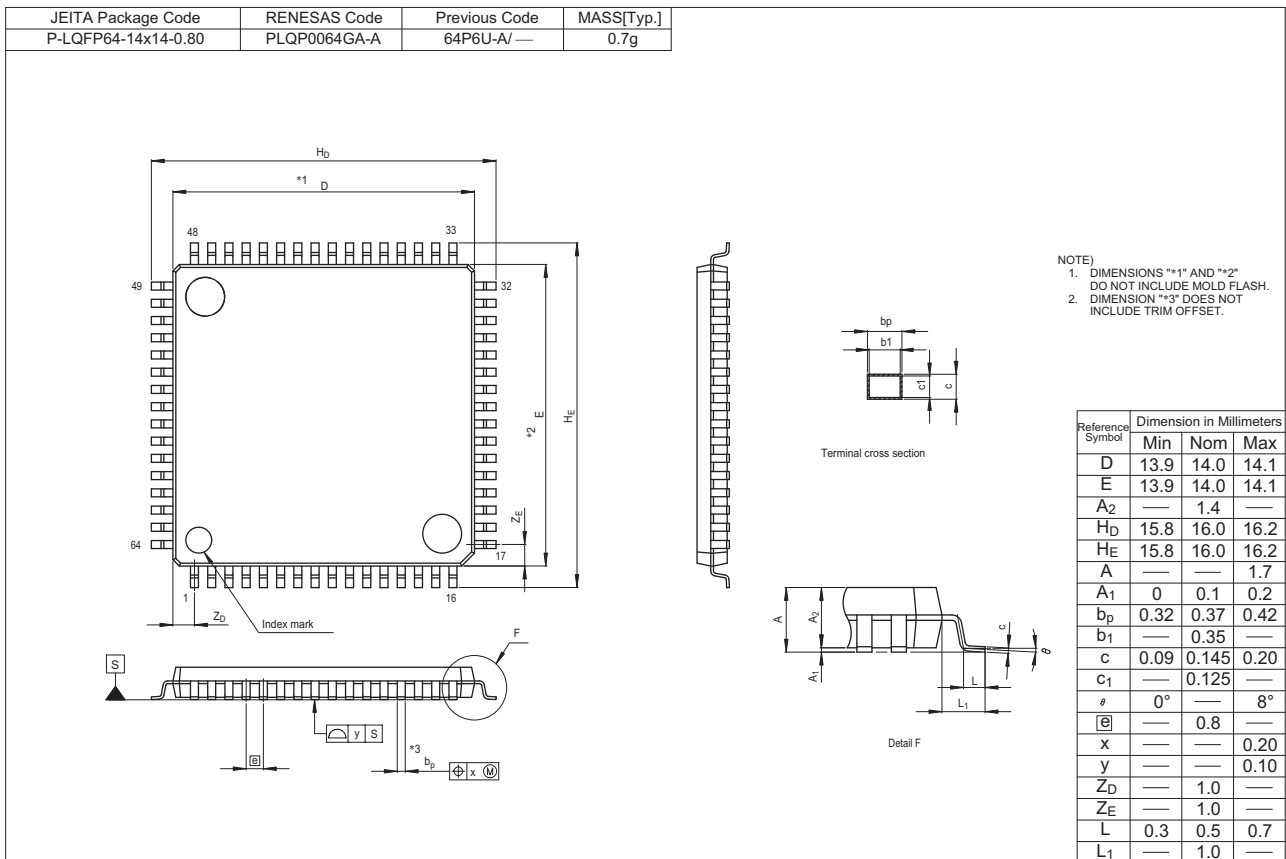


図 B. 64ピンLQFP (PLQP0064GA-A)

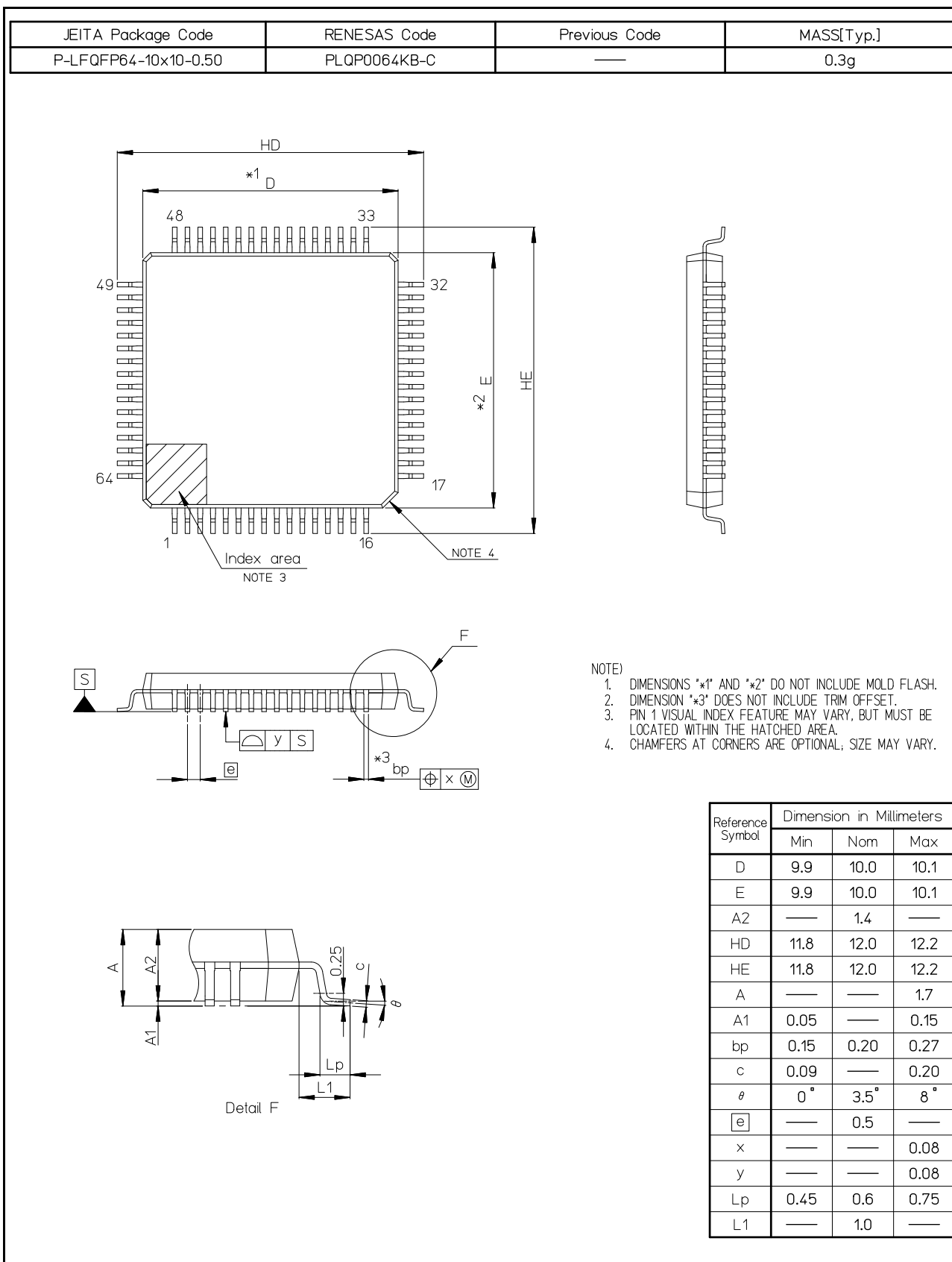
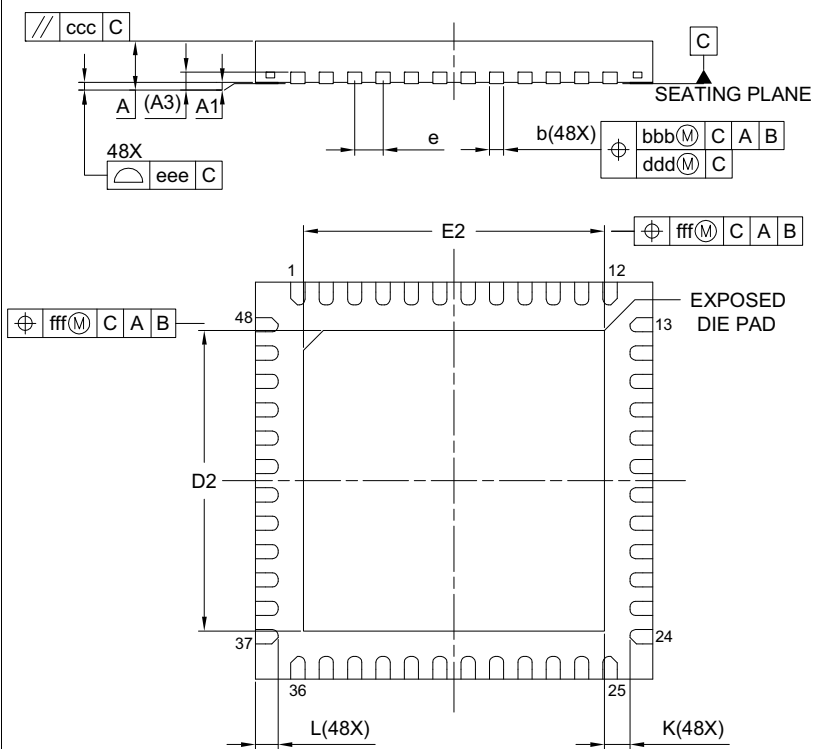
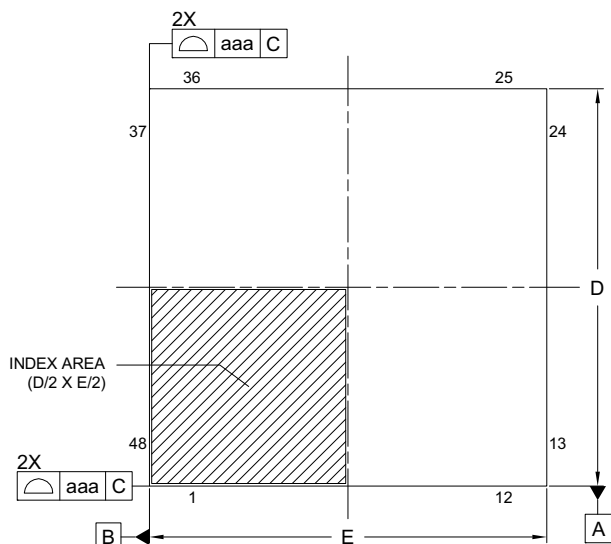


図 C. 64ピンLFQFP (PLQP0064KB-C)

JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-HWQFN048-7x7-0.50	PWQN0048KC-A	0.13 g



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	—	—	0.80
A ₁	0.00	0.02	0.05
A ₃	0.203 REF.		
b	0.20	0.25	0.30
D	7.00 BSC		
E	7.00 BSC		
e	0.50 BSC		
L	0.30	0.40	0.50
K	0.20	—	—
D ₂	5.25	5.30	5.35
E ₂	5.25	5.30	5.35
aaa	0.15		
bbb	0.10		
ccc	0.10		
ddd	0.05		
eee	0.08		
fff	0.10		

図 D. 48ピン HWQFN (PWQN0048KC-A)

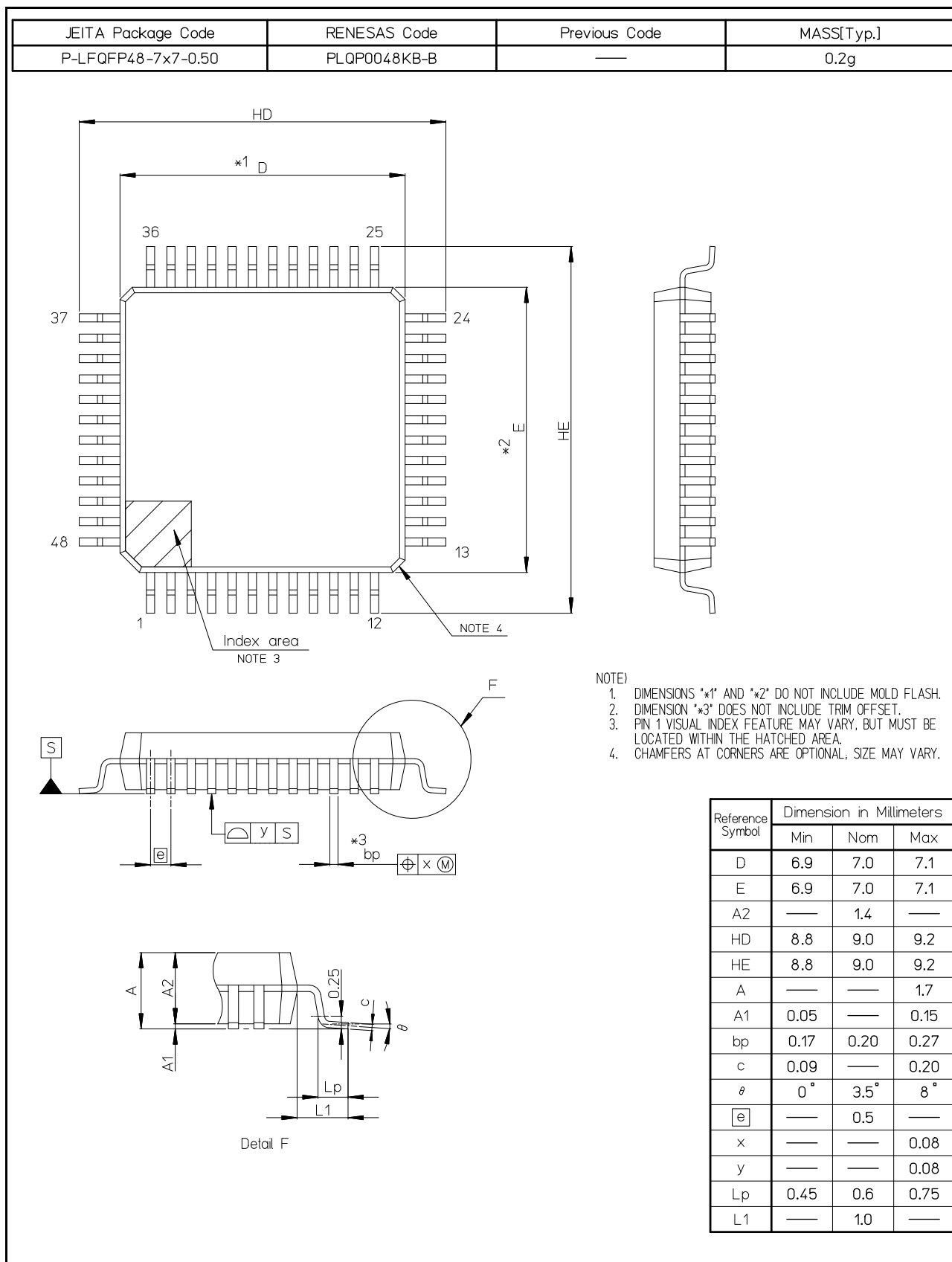
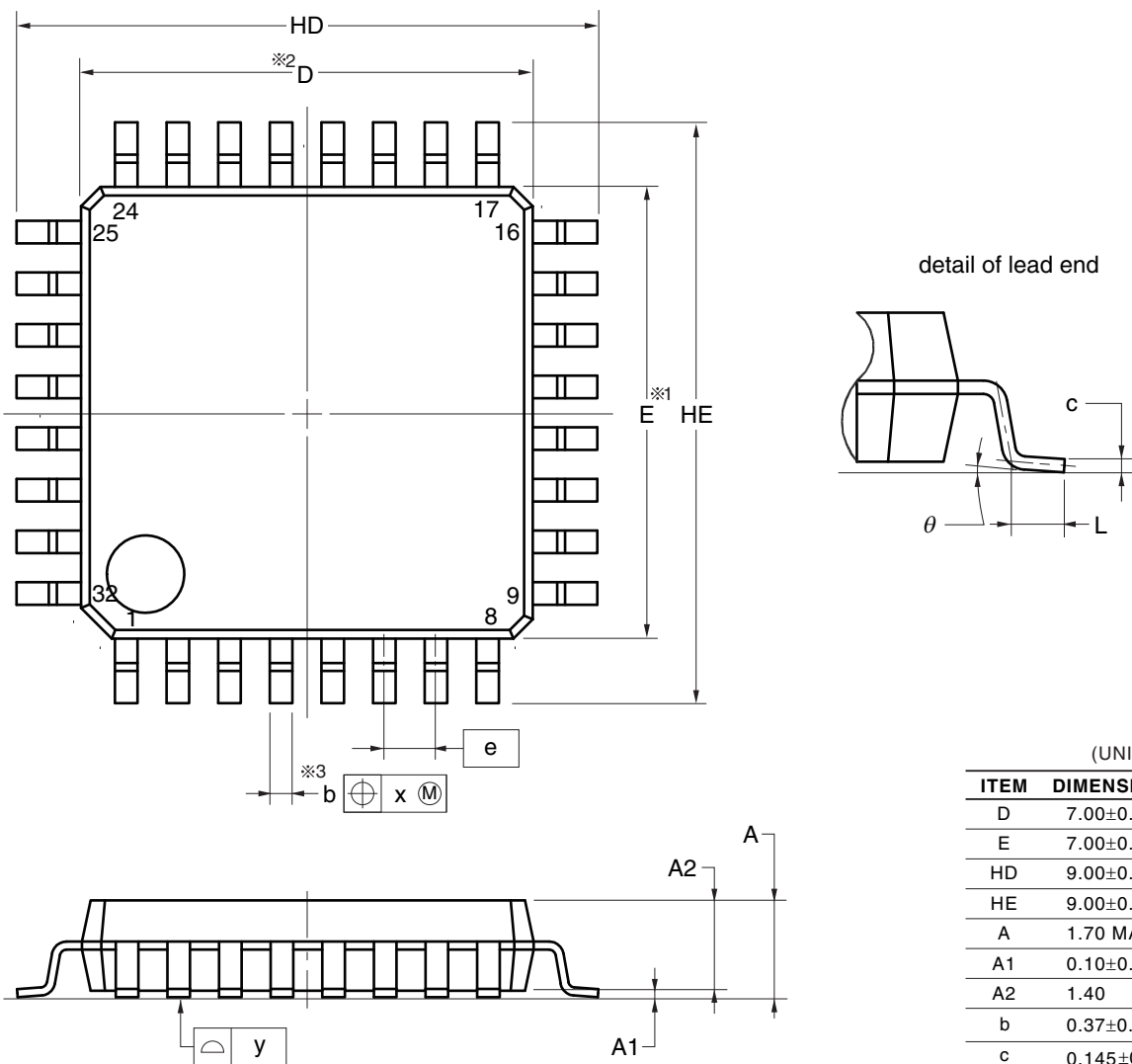


図 E. 48ピンLFQFP (PLQP0048KB-B)

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP32-7x7-0.80	PLQP0032GB-A	P32GA-80-GBT-1	0.2

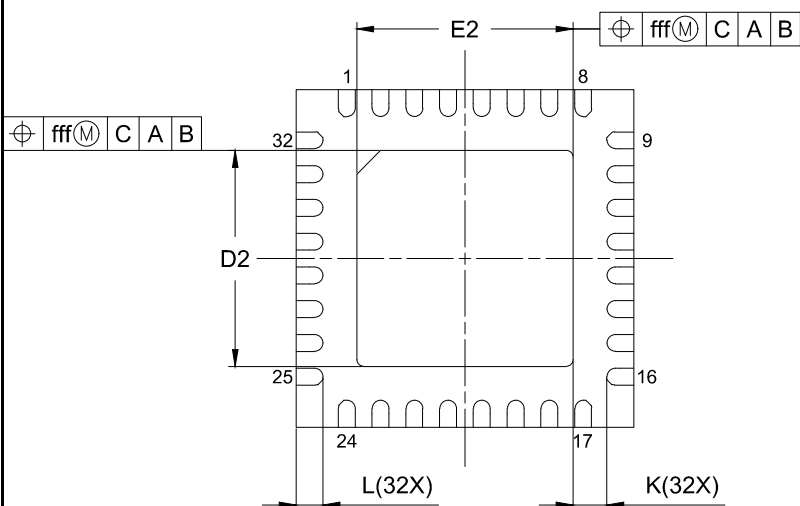
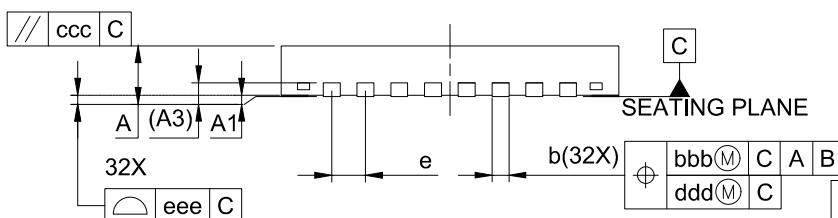
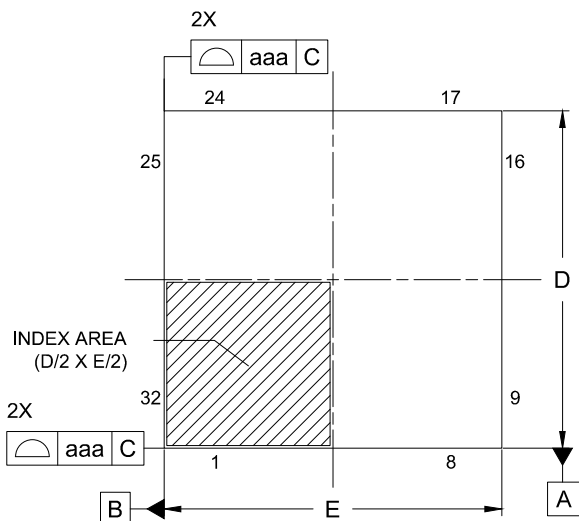


NOTE

1. Dimensions “ $\ast 1$ ” and “ $\ast 2$ ” do not include mold flash.
2. Dimension “ $\ast 3$ ” does not include trim offset.

図 F. 32 ピン LQFP (PLQP0032GB-A)

JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-HWQFN032-5x5-0.50	PWQN0032KE-A	0.06



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	—	—	0.80
A ₁	0.00	0.02	0.05
A ₃	0.203 REF.		
b	0.18	0.25	0.30
D	5.00 BSC		
E	5.00 BSC		
e	0.50 BSC		
L	0.35	0.40	0.45
K	0.20	—	—
D ₂	3.15	3.20	3.25
E ₂	3.15	3.20	3.25
aaa	0.15		
bbb	0.10		
ccc	0.10		
ddd	0.05		
eee	0.08		
fff	0.10		

図 G. 32ピン HWQFN (PWQN0032KE-A)

改訂記録	RX140 グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編
------	-------------------------------

改訂区分の説明

- テクニカルアップデート発行番号のある項目：発行済みの該当テクニカルアップデートを反映した変更
- テクニカルアップデート発行番号のない項目：テクニカルアップデートを発行しない軽微な変更

Rev.	発行日	改訂内容		改訂区分
		ページ	ポイント	
1.00	2021.08.05	—	初版発行	
1.10	2022.04.20	特長		
		44	■消費電流低減機能 変更	TN-RX*-A0258A/J
		1. 概要		
		46	表 1.1 仕様概要 (2/4) 変更	
		50, 51	表 1.3 製品一覧表 変更	
		52	図 1.1 型名とメモリサイズ・パッケージ 変更	
		56	表 1.4 端子機能一覧 (3/3) 変更	
		57	図 1.3 80ピンLQFPピン配置図 変更	
		58	図 1.4 64ピンLQFP、64ピンLQFPピン配置図 変更	
		59	図 1.5 48ピンLQFPピン配置図 変更	
		59	図 1.6 48ピンHWQFNピン配置図 変更	
		61	表 1.5 機能別端子一覧(80ピンLQFP) (1/2) 変更	
		63	表 1.6 機能別端子一覧(64ピンLQFP、64ピンLQFP) (1/2) 変更	
		67	表 1.8 機能別端子一覧(32ピンLQFP、32ピンHWQFN) 変更	
		5. I/Oレジスタ		
		119	表 5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (16/25) 変更	
		120	表 5.1 I/Oレジスタアドレス一覧 (17/25) 変更	
		6. リセット		
		130	表 6.2 リセット種別ごとの初期化対象 変更	
		9. クロック発生回路		
		184	9.2.15 CLKOUT出力コントロールレジスタ(CKOCR) 変更	TN-RX*-A0258A/J
		197	9.8.6 発振子接続端子に関する注意事項 変更	
		14. 割り込みコントローラ(ICUb)		
		284	表 14.3 割り込みのベクタテーブル (3/6) 変更	TN-RX*-A0258A/J
		18. I/Oポート		
		379	表 18.1 I/Oポートの仕様 変更	
		380	表 18.2 I/Oポートの機能 変更	
		389	図 18.9 入出力ポートの構成(9) 追加	
		391	18.3.2 ポート出力データレジスタ(PODR) 変更	
		392	18.3.3 ポート入力データレジスタ(PIDR) 変更	
		400	表 18.3 80ピンのPDRレジスタの設定値 変更	
		400	表 18.4 64ピンのPDRレジスタの設定値 変更	
		402	表 18.7 未使用端子の処理内容 変更	
		20. マルチファンクションタイマパルスユニット2 (MTU2a)		
		470, 471	20.2.18 タイマアウトプットコントロールレジスタ1 (TOCR1) 変更	
		518	表 20.54 相補PWMモード時の出力端子 変更	
		28. I ² Cバスインタフェース(RIICa)		
		907	28.1 概要 変更	
		—	図 28.2 入出力端子の外部回路接続例(I ² Cバス構成例) 削除	
		939~942	28.3.3 マスタ送信動作 変更	
		940	図 28.5 マスタ送信のフローチャート例 変更	
		32. 静電容量式タッチセンサ(CTS02SL, CTS02L)		
		全体	CTS02SL仕様公開	
		35. 12ビットA/Dコンバータ(S12ADE)		
		1249	35.2.7 A/Dチャンネル選択レジスタB1 (ADANSB1) 変更	
		1323	35.8.3 A/D変換強制停止と開始時の動作タイミング 変更	TN-RX*-A0258A/J
		41. フラッシュメモリ (FLASH)		
		1378, 1379	41.4.12 フラッシュエクストラ領域制御レジスタ (FEXCR) 変更	

Rev.	発行日	改訂内容		改訂区分
		ページ	ポイント	
1.10	2022.04.20	42. 電気的特性		
		全体	PH7、PH6の特性 追加	
		全体	ROM容量128Kバイト以上の製品の特性 追加	
		1469	表42.14 DC特性(9) 変更	TN-RX*-A0258A/J
		1472	表42.17 出力許容電流値(2) 変更	
		1473	表42.21 熱抵抗値(参考値) 注1 追加	
		1479	表42.36 HOCOクロックタイミング(ROM容量:64Kバイト以上の製品) 注1 追加	TN-RX*-A0258A/J
		1508	表42.59 A/D変換特性(2) 変更	
		1511	表42.62 A/D変換特性(5) 変更	
		1525	表42.77 E2データフラッシュ特性(2) 高速動作モード 変更	
		付録1. 各処理状態におけるポートの状態		
		1533	表1.1 各処理状態におけるポートの状態(2/2) 変更	
		付録2. 外形寸法図		
		1539	図F.32ピンLQFP(PLQP0032GB-A) 追加	
1.20	2024.11.22	3. 動作モード		
		96	3.1 動作モードの種類と選択 変更	TN-RX*-A0285A/J
		6. リセット		
		130	表6.2 リセット種別ごとの初期化対象 変更	TN-RX*-A0285A/J
		8. 電圧検出回路(LVDAb)		
		147	表8.1 電圧検出回路の仕様 変更	
		156	8.2.7 電圧監視1回路制御レジスタ0(LVD1CR0) 変更	
		157	8.2.8 電圧監視2回路制御レジスタ0(LVD2CR0) 変更	
		9. クロック発生回路		
		169	9.2.2 システムクロックコントロールレジスタ3(SCKCR3) 変更	
		195	9.8.1 クロック発生回路に関する注意事項(2) 変更	
		197	9.8.7 サブクロック発振器に関する注意事項 変更	
		10. クロック周波数精度測定回路(CAC)		
		198	本文変更	
		11. 消費電力低減機能		
		212	表11.3 各動作モードでの発振器の動作可否 変更	
		218	11.2.6 動作電力コントロールレジスタ(OPCCR) 変更	
		223	11.2.7 サブ動作電力コントロールレジスタ(SOPCCR) 変更	TN-RX*-A0285A/J
		225	11.2.8 スリープモード復帰クロックソース切り替えレジスタ(RSTCKCR) 変更	
		226	表11.5 スリープモードから高速動作モードおよび中速動作モードへ復帰する場合 変更	
		250	11.7.1 I/Oポートの状態 変更	
		14. 割り込みコントローラ(ICUb)		
		263	表14.1 割り込みコントローラの仕様 変更	
		288	本文 注1 変更	
		296	14.6.2 ソフトウェアスタンバイモードからの復帰 変更	
		297	14.6.3 スヌーズモードからの復帰 変更	
		17. イベントリンクコントローラ(ELC)		
		360	表17.2 ELSRnレジスタと周辺モジュールの対応 変更	
		376	17.3.6 I/Oポートのイベント信号入力時の動作とイベント生成(8) PODRレジスタ、PDBF1レジスタへの書き込み制限 変更	
		20. マルチファンクションタイマパルスユニット2(MTU2a)		
		469	20.2.18 タイマアウトプットコントロールレジスタ1(TOCR1) 変更	
		514	表20.52 リセット同期PWMモード時の出力端子 変更	
		24. リアルタイムクロック(RTCB)		
		696	図24.3 クロック、カウントモード設定手順 変更	
		697	図24.4 時刻設定手順 変更	
		698	図24.5 30秒調整手順 変更	
		699	図24.6 時刻読み出し手順 変更	
		700	図24.7 アラーム機能の使用法 変更	
		704	表24.3 RTCの割り込み要因 変更	
		704	図24.9 アラーム割り込みのタイミングチャート 変更	
		706	図24.11 周期割り込み機能の使用法 変更	

Rev.	発行日	改訂内容		改訂区分
		ページ	ポイント	
1.20	2024.11.22	707	24.5.5 レジスタの書き込み/読み出し時の注意事項 変更	
		708	図24.12 初期化手順 変更	
		25. ローパワータイマ(LPTa)		
		726	25.4 割り込み要因 変更	
		26. 独立ウォッチドッグタイマ(IWDTa)		
		727, 728	本文変更	
		727	表26.1 IWDTの仕様 変更	
		728	図26.1 IWDTのブロック図 変更	
		730	26.2.2 IWDTコントロールレジスタ(IWDTCR) 変更	
		733	26.2.3 IWDTステータスレジスタ(IWDTSR) 変更	
		734	26.2.4 IWDTリセットコントロールレジスタ(IWDTRCR) 変更	
		735	26.2.5 IWDTカウント停止コントロールレジスタ(IWDTCSTPR) 変更	
		736	26.3.1.1 レジスタスタートモード 変更	
		737	図26.3 レジスタスタートモード動作例 変更	
		738	26.3.1.2 オートスタートモード 変更	
		738	図26.4 オートスタートモード動作例 変更	
		—	26.3.2 IWDTCRレジスタ、IWDTRCRレジスタ、IWDTCSTPRレジスタ書き込み制御 削除	
		739, 740	26.3.2 リフレッシュ動作 変更	
		740	図26.5 IWDTリフレッシュ動作波形(IWDTCR.CKS[3:0] = 0000b、IWDTCR.TOPS[1:0] = 10b) 変更	
		742	26.3.6 カウンタ値の読み出し 変更	
		742	図26.6 IWDTカウンタ値の読み出し処理(IWDTCR.CKS[3:0] = 0000b、IWDTCR.TOPS[1:0] = 10b) 変更	
		743	26.3.7 オプション機能選択レジスタ0(OFS0)とIWDTレジスタの対応 変更	
		27. シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIg, SCIk, SCIlh)		
		781	表27.24 ビットレートに対するBRRの設定例(簡易I ² Cモード) 変更	
		781	表27.25 各ビットレート設定でのSCL High/Low幅最小値(簡易I ² Cモード) 変更	
		827	図27.17 調歩同期式モードのシリアル送信のフローチャート例 変更	
		833	図27.23 マルチプロセッサシリアル送信のフローチャートの例 変更	
		893	表27.37 SCI割り込み要因 変更	
		32. 静電容量式タッチセンサ(CTSU2SL, CTSU2L)		
		1187~1191	32.2.1 CTSU制御レジスタA(CTSUCRA) 変更	
		1205	32.2.9 CTSUセンサオフセットレジスタ(CTSUSO) 変更	
		1207~1209	32.2.11 CTSUキャリブレーションレジスタ(CTSUCALIB) 変更	
		1210	32.2.12 CTSUセンサユニットクロック制御レジスタA(CTSUSUCLKA) 変更	
		1211	32.2.13 CTSUセンサユニットクロック制御レジスタB(CTSUSUCLKB) 変更	
		1214	32.2.16 CTSUオプション設定レジスタ(CTSUOPT) 変更	
		1219	32.2.20 CTSU移動平均結果レジスタ(CTSUAJMMAR) 変更	
		1226	32.3.2 初期設定フロー 追加	
		1229	32.3.4.1 自己容量方式動作 追加	
		1230, 1231	32.3.4.2 相互容量方式動作 追加	
		1232	32.3.5 スキャンモード 追加	
		1232	32.3.6 マルチクロック計測 追加	
		1232~1238	32.3.7 自動判定機能 追加	
		1239	32.3.8 複数電極接続機能 追加	
		1241	32.4.3 測定終了割り込み(CTSUFN) 変更	
		1242	32.5 スヌーズ終了要求 追加	
		1242	32.6.1 モジュールストップ機能の設定 追加	
		35. 12ビットA/Dコンバータ(S12ADE)		
		1268	表35.6 TRSB[5:0]ビットでのA/D起動要因選択一覧 変更	
		1268	表35.7 TRSA[5:0]ビットでのA/D起動要因選択一覧 変更	
		1271	表35.8 A/Dサンプリングステートレジスタと対象チャネルの関係 変更	
		1281	図35.3 コンペア機能ウィンドウA コンペア条件説明 変更	
		1293	図35.4 コンペア機能ウィンドウB コンペア条件説明 変更	

Rev.	発行日	改訂内容		改訂区分
		ページ	ポイント	
1.20	2024.11.22	36. D/Aコンバータ (DAa)		
		1340	表36.2 8ビットD/Aコンバータの入出力端子 変更	
		38. コンパレータ B (CMPBa)		
		1353	図38.1 コンパレータ B0、B1のブロック図(ウィンドウ機能無効時) 変更	
		1354	図38.2 コンパレータ B0、B1のブロック図(ウィンドウ機能有効時) 変更	
		1355	38.2.2 コンパレータ B制御レジスタ 2 (CPBCNT2) 変更	
		1357	38.2.4 コンパレータ B割り込み制御レジスタ (CPBINT) 変更	
		1359	38.2.7 コンパレータ Bリファレンス入力電圧選択レジスタ (CPBREF) 変更	
		1361	38.3.1 設定手順 タイトル追加 変更	
		1361	表38.3 コンパレータ B関連レジスタの設定手順(ウィンドウ機能無効時) (n = 0, 1) 変更	
		1362	表38.4 コンパレータ B関連レジスタの設定手順(ウィンドウ機能有効時) (n = 0, 1) 変更	
		1363, 1364	38.3.2 動作例 タイトル追加、変更	
		1367	38.4 割り込み 変更	
		1367	38.5 イベントリンク出力機能 変更	
		40. RAM		
		1375	40.2.2 RAMの自己診断に関する注意事項 追加	TN-RX*-A0285A/J
		41. フラッシュメモリ (FLASH)		
		—	41.4.4 データフラッシュウェイトサイクル設定レジスタ (DFLWAITR) 削除	TN-RX*-A0285A/J
		42. 電気的特性		
		1460	表42.3 推奨動作条件(2) 変更	TN-RX*-A0269A/J
		1494	表42.40 低消費電力状態からの復帰タイミング(1) 変更	TN-RX*-A0285A/J
		1495	表42.41 低消費電力状態からの復帰タイミング(2) 変更	
		1496	表42.42 低消費電力状態からの復帰タイミング(3) 追加	
		1497	表42.43 低消費電力状態からの復帰タイミング(4) 変更	
		1498	表42.44 低消費電力状態からの復帰タイミング(5) 変更	
		1505	表42.51 SCIタイミング 変更	
		1529	表42.67 温度センサ特性 注1追加	
		1536	表42.73 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(1) 変更	
		1536	表42.74 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(2) 高速動作モード 変更	TN-RX*-A0285A/J
		1537	表42.75 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(3) 中速動作モード 変更	
		1537	表42.76 ROM (コード格納用フラッシュメモリ)特性(4) 中速動作モード 2 変更	
		1538	表42.77 E2データフラッシュ特性(1) 変更	

RX140グループ ユーザーズマニュアル
ハードウェア編

発行年月日 2021年8月5日 Rev.1.00
2024年11月22日 Rev.1.20

発行 ルネサス エレクトロニクス株式会社
〒135-0061 東京都江東区豊洲3-2-24 (豊洲フォレシア)

RX140 グループ